



## Cisco IOS XE 17.x セキュリティおよび VPN 設定ガイド

最終更新：2024 年 10 月 22 日

### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター  
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



## 目次

## Full Cisco Trademarks with Software License ?

はじめに :

## はじめに clv

はじめに clv

対象読者および適用範囲 clv

機能の互換性 clvi

表記法 clvi

通信、サービス、およびその他の情報 clviii

マニュアルに関するフィードバック clviii

トラブルシューティング clviii

第 1 部 :

## Authentication, Authorization, and Accounting (認証、許可、アカウントिंग) 159

第 1 章

## 認証の設定 1

認証の設定の前提条件 1

認証の設定に関する制約事項 1

認証の設定に関する情報 2

認証の名前付き方式リスト 2

方式リストとサーバグループ 2

方式リストの例 3

RADIUS 認可変更について 5

CoA 要求 5

CoA 要求応答コード 7

CoA 要求コマンド	7
ドメインストリッピング	9
AAA 認証方式を設定する方法	10
AAA を使用したログイン認証の設定	10
イネーブルパスワードによるログイン認証	13
Kerberos によるログイン認証	13
ラインパスワードによるログイン認証	13
ローカルパスワードによるログイン認証	14
group RADIUS によるログイン認証	14
アクセス要求での RADIUS 属性 8 の設定	14
group TACACS によるログイン認証	14
group group-name によるログイン認証	15
AAA を使用した PPP 認証の設定	15
Kerberos による PPP 認証	17
ローカルパスワードによる PPP 認証	18
group RADIUS による PPP 認証	18
アクセス要求での RADIUS 属性 44 の設定	18
group TACACS による PPP 認証	18
group group-name による PPP 認証	19
PPP 要求に対する AAA スケーラビリティの設定	19
AAA を使用した ARAP 認証の設定	20
認可済みゲスト ログインを許可する ARAP 認証	22
ゲスト ログインを許可する ARAP 認証	22
ラインパスワードによる ARAP 認証	22
ローカルパスワードによる ARAP 認証	23
group RADIUS による ARAP 認証	23
group TACACS による ARAP 認証	23
group group-name による ARAP 認証	23
AAA を使用した NASI 認証の設定	24
イネーブルパスワードによる NASI 認証	26
ラインパスワードによる NASI 認証	26

ローカルパスワードによる NASI 認証	26
group RADIUS による NASI 認証	26
group TACACS による NASI 認証	27
group group-name による NASI 認証	27
ログイン入力にかかる時間の指定	27
特権レベルでのパスワード保護のイネーブル化	28
パスワードプロンプトに表示するテキストの変更	29
ユーザー名が空のアクセス要求が RADIUS サーバーに送信されないようにする	29
AAA 認証のメッセージ バナーの設定	30
ログイン バナーの設定	31
Failed-Login バナーの設定	31
AAA パケット オブ ディスコネクトの設定	32
二重認証のイネーブル化	33
二重認証の機能	33
二重認証の設定	34
二重認証後のユーザー プロファイルへのアクセス	36
自動二重認証のイネーブル化	36
自動二重認証の設定	38
自動二重認証のトラブルシューティング	38
RADIUS CoA 用の動的認可サービスの設定	39
bounce および disable RADIUS CoA 要求を無視するためのデバイスの設定	41
サーバー グループ レベルでのドメイン ストリッピングの設定	42
非 AAA 認証方式	43
ラインパスワード保護の設定	43
ユーザー名認証の確立	45
CHAP 認証または PAP 認証の有効化	46
PPP カプセル化の有効化	48
PAP または CHAP のイネーブル化	48
着信認証と発信認証	49
発信 PAP 認証のイネーブル化	49
PAP 認証要求の拒否	50

共通 CHAP パスワードの作成	50
CHAP 認証要求の拒否	50
ピアが認証されるまで CHAP 認証を遅延する	51
MS-CHAP の使用	51
MS-CHAP を使用した PPP 認証の定義	52
認証の例	53
RADIUS 認証の例	53
TACACS 認証の例	55
Kerberos 認証の例	56
AAA スケーラビリティの例	56
例 : AAA 認証のログイン バナーおよび Failed-Login バナーの設定	58
AAA パケット オブ ディスコネクト サーバキーの例	58
二重認証の例	59
二重認証による AAA のローカル ホストの設定例	59
第 1 段階の PPP 認証と認可に関する AAA サーバの設定例	59
第 2 段階の Per-User 認証と認可に関する AAA サーバの設定例	60
TACACS による設定完了の例	61
自動二重認証の例	64
その他の参考資料	66
認証の設定に関する機能情報	68
第 2 章	<b>RADIUS 許可の変更</b>
	71
RADIUS 認可変更に関する情報	71
RADIUS 認可変更について	71
CoA 要求	72
CoA 要求応答コード	73
CoA 要求コマンド	74
RADIUS 認可変更の設定方法	76
RADIUS 認可変更の設定	76
bounce および disable RADIUS CoA 要求を無視するためのデバイスの設定	78
RADIUS CoA 用の動的認可サービスの設定	79

RADIUS 認可変更のモニタリングとトラブルシューティング	81
RADIUS 認可変更の設定例	81
例：RADIUS 認可変更の設定	81
例：bounce および disable RADIUS 要求を無視するためのデバイスの設定	82
例：RADIUS CoA 用の動的認可サービスの設定	82
RADIUS 認可変更に関する追加情報	82
RADIUS 認可変更の機能情報	84

---

**第 3 章**

<b>AAA 認証のメッセージ バナー</b>	<b>85</b>
AAA 認証のメッセージ バナーに関する情報	85
AAA 認証のログイン バナーおよび Failed-Login バナー	85
AAA 認証のメッセージ バナーの設定方法	86
AAA 認証のログイン バナーの設定	86
AAA 認証の Failed-Login バナーの設定	87
AAA 認証のメッセージ バナーの設定例	88
例：AAA 認証のログイン バナーおよび Failed-Login バナーの設定	88
AAA 認証のメッセージ バナーに関する追加情報	89
AAA 認証のメッセージ バナーの機能情報	90

---

**第 4 章**

<b>サーバグループ レベルでの AAA ドメイン ストリッピング</b>	<b>91</b>
サーバグループ レベルでの AAA ドメイン ストリッピングに関する情報	91
サーバ レベル グループでの AAA ドメイン ストリッピングの設定方法	92
サーバグループ レベルでのドメイン ストリッピングの設定	92
サーバグループ レベルでの AAA ドメイン ストリッピングの設定例	93
例：サーバグループ レベルでの AAA ドメイン ストリッピング	93
その他の参考資料	93
サーバグループ レベルでの AAA ドメイン ストリッピングの機能情報	95

---

**第 5 章**

<b>AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout</b>	<b>97</b>
AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の前提条件	97
AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の制約事項	98

AAA Double Authentication Secured by AbsoluteTimeout に関する情報	98
AAA 二重認証	98
AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の適用方法	98
AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の適用	98
AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の設定例	99
例 : RADIUS ユーザ プロファイル	99
例 : TACACS ユーザ プロファイル	100
その他の参考資料	102
AAA Double Authentication Secured by AbsoluteTimeout の機能情報	103

---

**第 6 章**

<b>AAA RADIUS レコードのスロットリング</b>	<b>105</b>
AAA RADIUS レコードのスロットリングに関する情報	105
AAA RADIUS レコードのスロットリング機能の利点	105
スロットリング アクセス要求とアカウントिंग レコード	106
AAA RADIUS レコードのスロットリングの設定方法	106
アカウントिंगおよびアクセス要求パケットのグローバルなスロットリング	107
サーバグループごとのアカウントिंगおよびアクセス要求パケットのスロットリング	108
AAA RADIUS レコードのスロットリングの設定例	109
アカウントINGおよびアクセス要求パケットのグローバルなスロットリングの例	109
サーバグループごとのアカウントINGおよびアクセス要求パケットのスロットリングの例	110
その他の参考資料	110
AAA RADIUS レコードのスロットリングの機能情報	111

---

**第 7 章**

<b>RADIUS パケット オブ ディスコネクト</b>	<b>113</b>
RADIUS パケット オブ ディスコネクトの前提条件	113
RADIUS パケット オブ ディスコネクトの制約事項	113
RADIUS パケット オブ ディスコネクトに関する情報	114
POD が必要な場合	114
POD パラメータ	114

RADIUS パケット オブ ディスコネクトの設定方法	115
RADIUS POD の設定	115
トラブルシューティングのヒント	117
RADIUS POD の設定の確認	117
その他の参考資料	117
RADIUS パケット オブ ディスコネクトの機能情報	119
用語集	120

## 第 8 章

<b>AAA 認可および AAA 認証のキャッシュ</b>	<b>121</b>
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装の前提条件	121
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装について	122
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能によるネットワークパフォーマンスの最適化	122
フェールオーバーメカニズムとしての認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能	122
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の方式リスト	123
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能に関するガイドライン	123
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能を実装するための一般的な設定手順	124
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装方法	124
キャッシュプロファイルグループの作成とキャッシュ処理ルールの定義	124
キャッシュプロファイルグループ情報を使用する RADIUS および TACACS サーバグループの定義	127
キャッシュ情報の使用方法を指定するための認可および認証の方式リストの更新	128
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能を実装するための設定例	130
ネットワークを最適化するための認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装例	130
フェールオーバーメカニズムとしての認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装例	131
RADIUS 認可変更に関する追加情報	133
認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装の機能情報	134



## 第 9 章

## 認可の設定 135

AAA 認可の前提条件 135

認可の設定の概要 136

認可の名前付き方式リスト 136

AAA 認可方式 137

認可方式 137

方式リストとサーバグループ 138

AAA 認可タイプ 139

承認タイプ 139

認可の属性値ペア 140

認可の設定方法 140

名前付き方式リストによる AAA 認可の設定 140

グローバル コンフィギュレーション コマンドの認可のディセーブル化 141

リバース Telnet の認可の設定 142

認可設定の例 143

TACACS 認可の例 143

RADIUS 認可の例 144

リバース Telnet 認可の例 144

その他の参考資料 146

認可の設定に関する機能情報 147

## 第 10 章

## アカウントिंगの設定 149

アカウントングを設定するための前提条件 149

アカウントングの設定の制約事項 150

アカウントングの設定に関する情報 150

アカウントングの名前付き方式リスト 150

方式リストとサーバグループ 151

AAA アカウントング方式 152

AAA アカウントングタイプ 154

ネットワーク アカウントング 155

EXEC アカウンティング	157
コマンド アカウンティング	159
接続 アカウンティング	159
システム アカウンティング	161
リソース アカウンティング	162
AAA アカウンティングの強化	164
AAA ブロードキャスト アカウンティング	164
AAA セッション MIB	164
アカウンティング属性と値のペア	166
AAA アカウンティングの設定方法	166
名前付き方式リストによる AAA アカウンティングの設定	166
スルユーザ名セッション時のアカウンティング レコード生成の抑制	167
中間アカウンティング レコードの生成	167
定期的アカウンティング レコードを有効化する代替手段の設定	168
中間サービス アカウンティング レコードの生成	169
失敗したログインまたはセッションに対するアカウンティング レコードの生成	170
EXEC-Stop レコードよりも前のアカウンティング NETWORK-Stop レコードの指定	170
スイッチオーバー上のシステム アカウンティング レコードの抑制	171
AAA リソース失敗終了アカウンティングの設定	171
開始 - 終了レコードの AAA リソース アカウンティングの設定	171
AAA ブロードキャスト アカウンティングの設定	172
DNIS による AAA ブロードキャスト アカウンティングの設定	172
AAA セッション MIB の設定	173
AAA サーバが到達不能な場合のルータとのセッションの確立	173
アカウンティングのモニタリング	174
アカウンティングのトラブルシューティング	174
AAA アカウンティングの設定例	174
方式指定リストの設定の例	174
AAA リソース アカウンティングの設定の例	177
AAA ブロードキャスト アカウンティングの設定の例	177
DNIS による AAA ブロードキャスト アカウンティングの設定の例	178

AAA セッション MIB の例	178
その他の参考資料	178
アカウントティングの設定に関する機能情報	180

---

**第 11 章**

<b>AAA-SERVER-MIB Set Operation</b>	<b>183</b>
AAA-SERVER-MIB Set Operation の前提条件	183
AAA-SERVER-MIB Set Operation の制約事項	183
AAA-SERVER-MIB Set Operation に関する情報	184
CISCO-AAA-SERVER-MIB	184
CISCO-AAA-SERVER-MIB Set Operation	184
Configure AAA-SERVER-MIB Set Operation の設定方法	184
RADIUS サーバの設定およびサーバの統計情報の確認	184
AAA-SERVER-MIB Set Operation の設定例	185
RADIUS サーバの設定およびサーバの統計情報の例	185
その他の参考資料	187
AAA-SERVER-MIB Set Operation の機能情報	188

---

**第 12 章**

<b>Per VRF AAA</b>	<b>189</b>
Per VRF AAA の前提条件	189
Per VRF AAA の制約事項	189
Per VRF AAA に関する情報	190
Per VRF AAA の機能	190
AAA アカウンティング レコード	191
新しいベンダー固有属性	191
VRF 認識 Framed-Route	195
Per VRF AAA の設定方法	195
Per VRF AAA の設定	195
AAA の設定	195
サーバ グループの設定	195
Per VRF AAA の認証、許可、アカウントティングの設定	197
Per VRF AAA の RADIUS 固有のコマンドの設定	199

Per VRF AAA のインターフェイス固有のコマンドの設定	200
ローカルカスタマーテンプレートを使用した Per VRF AAA の設定	201
AAA の設定	201
サーバグループの設定	201
Per VRF AAA の認証、許可、アカウンティングの設定	201
ローカルカスタマーテンプレートを使用した Per VRF AAA の認可の設定	201
ローカルカスタマーテンプレートの設定	202
リモートカスタマーテンプレートを使用した Per VRF AAA の設定	204
AAA の設定	204
サーバグループの設定	204
リモートカスタマープロファイルを使用した Per VRF AAA の認証の設定	204
リモートカスタマープロファイルを使用した Per VRF AAA の認可の設定	205
SP RADIUS サーバ上の RADIUS プロファイルの設定	206
VRF ルーティングの設定確認	206
Per VRF AAA 設定のトラブルシューティング	207
Per VRF AAA の設定例	208
Per VRF の設定の例	208
Per VRF AAA の例	208
ローカルで定義されたカスタマーテンプレートを使用した Per VRF AAA の例	208
リモート RADIUS カスタマーテンプレートを使用した Per VRF AAA の例	209
カスタマーテンプレートの例	209
RADIUS Attribute Screening およびブロードキャストアカウンティングを使用してローカルで設定されたカスタマーテンプレートの例	209
RADIUS Attribute Screening およびブロードキャストアカウンティングを使用してリモートで設定されたカスタマーテンプレートの例	210
AAA アカウンティング終了レコードの例	211
AAA アカウンティング終了レコードと拒否されたコールの例	211
AAA アカウンティング終了レコードと成功したコールの例	214
その他の参考資料	216
Per VRF AAA の機能情報	218
用語集	219

---

**第 13 章****AAA の IPv6 サポート 221**

AAA の IPv6 サポートに関する情報 221

AAA over IPv6 221

IPv6 RADIUS 属性の AAA サポート 221

IPv6 用の AAA サポートの設定方法 226

DHCPv6 AAA オプションの設定 226

AAA の IPv6 サポートの設定例 227

例 : DHCPv6 AAA オプションの設定 227

例 : RADIUS の設定 227

その他の参考資料 228

RADIUS over IPv6 の機能情報 229

---

**第 14 章****TACACS+ over IPv6 231**

TACACS+ over IPv6 に関する情報 231

AAA over IPv6 231

IPv6 トランスポートを介した TACACS+ 232

TACACS+ over IPv6 の設定方法 232

IPv6 を介した TACACS+ サーバの設定 232

TACACS+ パケットでの送信元アドレスの指定 233

TACACS+ サーバグループ オプションの設定 234

TACACS+ over IPv6 の設定例 235

例 : IPv6 を介した TACACS+ サーバの設定 235

その他の参考資料 235

TACACS+ over IPv6 の機能情報 237

---

**第 15 章****AAA Dead-Server Detection 239**

AAA Dead-Server Detection の前提条件 239

AAA Dead-Server Detection の制約事項 239

AAA Dead-Server Detection について 240

RADIUS サーバーをデッド状態と指定するための条件 240

AAA Dead-Server Detection の設定方法	240
AAA Dead-Server Detection の設定	240
トラブルシューティングのヒント	241
AAA Dead-Server Detection の確認	241
AAA Dead-Server Detection の設定例	242
AAA Dead-Server Detection の設定の例	242
debug aaa dead-criteria transactions コマンドの例	243
show aaa dead-criteria コマンドの例	243
その他の参考資料	243
AAA Dead-Server Detection の機能情報	245

---

**第 16 章**

<b>Login Password Retry Lockout</b>	<b>247</b>
Login Password Retry Lockout の前提条件	247
Login Password Retry Lockout の制約事項	247
Login Password Retry Lockout に関する情報	248
ローカル AAA ユーザ アカウントのロックアウト	248
Login Password Retry Lockout の設定方法	248
Login Password Retry Lockout の設定	248
ログインがロックアウトされたユーザのロック解除	249
ユーザの失敗したログイン試行のクリア	250
Login Password Retry Lockout のステータスのモニタおよびメンテナンス	251
Login Password Retry Lockout の設定例	252
Login Password Retry Lockout 設定の表示の例	252
その他の参考資料	252
Login Password Retry Lockout の機能情報	254
用語集	254

---

**第 17 章**

<b>MSCHAP バージョン 2</b>	<b>255</b>
MSCHAP バージョン 2 の前提条件	255
MSCHAP バージョン 2 の制約事項	256
MSCHAP バージョン 2 の概要	256

MSCHAP バージョン 2 の設定方法	257
MSCHAP V2 の認証の設定	257
MSCHAP V2 設定の確認	258
クリプトベースのクライアントのパスワードエージングの設定	259
設定例	260
ローカル認証の設定の例	260
RADIUS 認証の設定の例	261
クリプト認証を使用したパスワードエージングの設定の例	261
その他の参考資料	262
MSCHAP バージョン 2 の機能情報	263

---

**第 18 章**

<b>AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポート</b>	<b>265</b>
AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの前提条件	265
AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの制約事項	265
AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートに関する情報	266
AAA ブロードキャスト アカウンティング	266
ブロードキャスト アカウンティングと待機アカウンティングの同時使用	266
GGSN での AAA ブロードキャスト アカウンティングのサポート方法	268
GGSN でのブロードキャスト アカウンティングと待機アカウンティングの設定	268
AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの設定例	270
AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの例	270
その他の参考資料	271
AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの機能情報	273

---

**第 19 章**

<b>コモン クライテリアに準拠したパスワードの強度と管理</b>	<b>275</b>
コモン クライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の制約事項	275
コモン クライテリアに準拠したパスワードの強度と管理に関する情報	276
パスワード構成ポリシー	276
パスワード長ポリシー	276
パスワードライフタイム ポリシー	276
パスワード有効期限ポリシー	276

パスワード変更ポリシー	277
ユーザ再認証ポリシー	277
フレームド (非インタラクティブ) セッションのサポート	278
コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の設定方法	278
パスワードセキュリティポリシーの設定	278
コモンクライテリアポリシーの確認	280
トラブルシューティングのヒント	281
コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の機能の設定例	282
例: コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理	282
その他の参考資料	282
コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の機能情報	283

## 第 20 章

**AAA 用のセキュアな可逆パスワード 285**

AAA 用のセキュアな可逆パスワードの前提条件	285
AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する情報	285
セキュアな可逆パスワード	285
タイプ 6 暗号化の設定	286
AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する追加情報	287
AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する機能情報	288

## 第 II 部 :

**セキュア シェル 289**

## 第 21 章

**リバーズ SSH 拡張 291**

リバーズ SSH 拡張の前提条件	291
リバーズ SSH 拡張の制約事項	291
リバーズ SSH 拡張に関する情報	292
リバーズ Telnet	292
リバーズ SSH	292
リバーズ SSH 拡張の設定方法	292
コンソール アクセス用のリバーズ SSH の設定	292
モデム アクセス用のリバーズ SSH の設定	294



クライアント上でのリバース SSH のトラブルシューティング	296
サーバ上でのリバース SSH のトラブルシューティング	297
リバース SSH 拡張の設定例	297
リバース SSH コンソール アクセスの例	297
リバース SSH モデム アクセスの例	298
その他の参考資料	298
関連資料	298
シスコのテクニカル サポート	299
関連資料	299
標準	299
MIB	299
RFC	300
シスコのテクニカル サポート	300
リバース SSH 拡張の機能情報	300

## 第 22 章

セキュア コピー	301
セキュア コピーの前提条件	301
セキュア コピーのパフォーマンス向上に関する制限事項	301
Secure Copy に関する情報	302
SCP の機能	302
SCP の設定方法	302
SCP の設定	302
SCP の確認	303
SCP のトラブルシューティング	304
SCP ユーザー名とパスワードの設定	304
セキュア コピーの設定例	305
ローカル認証を使用した SCP サーバー側の設定例	305
ネットワークベース認証を使用した SCP サーバー側の設定例	306
その他の参考資料	306
セキュア コピーの機能情報	307
用語集	308

## 第 23 章

## セキュア シェルバージョン 2 サポート 309

- セキュア シェルバージョン 2 サポートの前提条件 309
- セキュア シェルバージョン 2 サポートの制約事項 310
- セキュア シェルバージョン 2 サポートに関する情報 310
  - SSH バージョン 2 310
    - セキュア シェルバージョン 2 の機能拡張 311
    - セキュア シェルバージョン 2 の RSA キーに関する機能拡張 312
  - SNMP トラップ生成 313
  - SSH キーボード インタラクティブ認証 313
- セキュア シェルバージョン 2 サポートの設定方法 314
  - ホスト名およびドメイン名を使用した SSH バージョン 2 のデバイス設定 314
  - RSA キーペアを使用した SSH バージョン 2 のデバイス設定 315
  - RSA ベースのユーザ認証を実行するための Cisco SSH サーバの設定 316
  - RSA ベースのサーバ認証を実行するための Cisco IOS SSH サーバの設定 318
  - リモートデバイスとの暗号化セッションの開始 321
    - トラブルシューティングのヒント 321
  - SSH サーバでの Secure Copy Protocol のイネーブル化 321
  - セキュア シェル接続のステータスの確認 323
  - セキュア シェル ステータスの確認 325
  - セキュア シェルバージョン 2 のモニタリングと維持 326
- セキュア シェルバージョン 2 サポートの設定例 329
  - 例：セキュア シェルバージョン 1 の設定 329
  - 例：セキュア シェルバージョン 2 の設定 329
  - 例：セキュア シェルバージョン 1 および 2 の設定 329
  - 例：リモート デバイスでの暗号化セッションの開始 330
  - 例：サーバ側 SCP の設定 330
  - 例：SNMP トラップの設定 330
  - 例：SSH キーボードインタラクティブ認証 330
    - 例：クライアント側のデバッグの有効化 330
    - 例：ブランク パスワードの変更による ChPass の有効化 331

例：ChPass の有効化および初回ログインでのパスワード変更	331
例：ChPass の有効化および 3 回ログインした後のパスワードの失効	332
例：SNMP のデバッグ	333
例：SSH のデバッグの強化	333
セキュア シェルバージョン 2 サポートの追加情報	334
セキュア シェルバージョン 2 サポートの機能情報	335

---

## 第 24 章

<b>セキュア シェル：ユーザー認証方式の設定</b>	<b>337</b>
セキュア シェルの制約事項：ユーザー認証方式の設定	337
セキュア シェルに関する情報：ユーザー認証方式の設定	337
セキュア シェル ユーザー認証の概要	337
セキュア シェルの設定方法：ユーザー認証方式の設定方法	338
SSH サーバーのユーザー認証の設定	338
トラブルシューティングのヒント	339
SSH サーバーのユーザー認証の確認	340
セキュア シェルの設定例：ユーザー認証方式の設定	341
例：ユーザー認証方式の無効化	341
例：ユーザー認証方式の有効化	341
例：デフォルトのユーザー認証方式の設定	341
セキュア シェルの追加情報：ユーザー認証方式の設定	342
セキュア シェルの機能情報：ユーザー認証方式の設定	343

---

## 第 25 章

<b>SSH 認証の X.509v3 証明書</b>	<b>345</b>
SSH 認証の X.509v3 証明書の前提条件	345
SSH 認証の X.509v3 証明書の制約事項	345
SSH 認証用の X.509v3 証明書に関する情報	346
デジタル証明書	346
X.509v3 を使用したサーバーおよびユーザー認証	346
SSH 認証用の X.509v3 証明書の設定方法	346
サーバー認証にデジタル証明書を使用するための IOS SSH サーバーの設定	346
ユーザー認証用のユーザのデジタル証明書を確認するための IOS SSH サーバの設定	348

デジタル証明書を使用したサーバーおよびユーザー認証の設定の確認	350
SSH 認証用の X.509v3 証明書の設定例	351
例：サーバー認証にデジタル証明書を使用するための IOS SSH サーバーの設定	351
例：ユーザ認証用のユーザのデジタル証明書を確認するための IOS SSH サーバの設定	351
SSH 認証用の X.509v3 証明書に関するその他の参考資料	352
SSH 認証用の X.509v3 証明書の機能情報	353

## 第 26 章

<b>コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム</b>	<b>355</b>
コモンクライテリア認証のための SSH アルゴリズムの制限	355
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムに関する情報	356
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム	356
Cisco IOS SSH サーバー アルゴリズム	356
Cisco IOS SSH クライアント アルゴリズム	357
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの設定方法	359
Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントの暗号キー アルゴリズムの設定	359
Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントの MAC アルゴリズムの設定	360
Cisco IOS SSH サーバーのホスト キー アルゴリズムの設定	361
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの確認	363
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの設定例	364
例：Cisco IOS SSH サーバーの暗号キー アルゴリズムの設定	364
例：Cisco IOS SSH クライアントの暗号キー アルゴリズムの設定	364
例：Cisco IOS SSH サーバーの MAC アルゴリズムの設定	364
例：Cisco IOS SSH サーバー用のキー交換 DH グループの設定	365
例：Cisco IOS SSH サーバーのホスト キー アルゴリズムの設定	365
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの追加情報	365
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの機能情報	366

## 第 27 章

<b>セキュアシェル：SFTP ユーザー名とパスワードの設定</b>	<b>369</b>
概要	369
SFTP ユーザー名とパスワードの設定	369

第 III 部 :	アクセスコントロール リスト 371
第 28 章	IP アクセス リストの概要 373
	IP アクセス リストに関する情報 373
	IP アクセス リストの利点 373
	アクセス リストを使用する必要がある境界ルータおよびファイアウォール ルータ 374
	アクセス リストの定義 375
	アクセス リストのルール 376
	ダイヤラリストのアクセスリストルール 377
	IP アクセス リストを作成する際に役立つヒント 377
	名前付きまたは番号付きアクセス リスト 378
	標準または拡張アクセス リスト 379
	アクセスを制御するためにフィルタできる IP パケット フィールド 380
	アクセス リストのアドレスに対するワイルドカードマスク 380
	アクセス リストのシーケンス番号 381
	アクセス リストのロギング 382
	アクセス リスト ロギングの代替方法 382
	その他の IP アクセス リスト機能 383
	RSP3 ポートの関連情報 383
	アクセス リストを適用する場所 383
	その他の参考資料 384
	IP アクセス リストに関する機能情報 385
第 29 章	IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用 387
	IP アクセス リストの作成およびインターフェイスへの適用の制限 387
	IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用に関する情報 388
	IP アクセス リストを作成する際に役立つヒント 388
	アクセス リストの注釈 389
	その他の IP アクセス リスト機能 389
	IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用方法 390

送信元アドレスに基づいてフィルタする標準アクセスリストの作成	390
送信元アドレスに基づいてフィルタする名前付きアクセスリストの作成	390
送信元アドレスに基づいてフィルタする番号付きアクセスリストの作成	393
拡張アクセスリストの作成	394
名前付き拡張アクセスリストの作成	394
番号付き拡張アクセスリストの作成	397
物理インターフェイスへのアクセスリストの適用	399
IP アクセスリストの作成と物理インターフェイスへの適用に関する設定例	401
例：ホスト送信元アドレスでのフィルタリング	401
例：サブネット送信元アドレスでのフィルタリング	401
例：送信元と宛先のアドレスおよび IP プロトコルでのフィルタリング	401
例：番号付きアクセスリストを使用した送信元アドレスでのフィルタリング	402
例：サブネットへの Telnet アクセスの防止	402
例：ポート番号を使用した TCP および ICMP に基づくフィルタリング	403
例：SMTP 電子メールと確立済み TCP 接続の許可	403
例：ポート名に基づくフィルタによる Web へのアクセス回避	403
例：送信元アドレスでのフィルタリングおよびパケットのロギング	404
例：デバッグ出力の制限	404
IP アクセスリストの作成とインターフェイスへの適用に関する追加参照資料	405
IP アクセスリストの作成とインターフェイスへの適用に関する機能情報	406
<hr/>	
第 30 章	<b>IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポート、をフィルタする IP アクセスリストの作成</b>
	407
IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセスリストの作成に関する前提条件	407
IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセスリストの作成に関する情報	408
IP オプション	408
IP オプションをフィルタする利点	408
TCP フラグに基づいてフィルタする利点	409
TCP フラグ	409
アクセスコントロールエントリ機能での非隣接ポートに関する名前付き ACL サポートを使用する利点	410

TTL 値のフィルタリング方法	410
TTL 値に基づいてフィルタする利点	411
IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセス リストの作成方法	412
IP オプションを含むパケットのフィルタリング	412
次の作業	414
TCP フラグを含むパケットのフィルタリング	414
次の作業	416
非隣接ポートを使用するアクセス コントロール エントリの設定	416
非隣接ポートを使用する複数アクセス リスト エントリの 1 つのアクセス リスト エントリへの統合	418
次の作業	420
TTL 値に基づいたパケットのフィルタリング	420
TTL 値 0 と 1 でフィルタリングするコントロールプレーン ポリシングの有効化	422
IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートのフィルタリングの設定例	425
例：IP オプションを含むパケットのフィルタリング	425
例：TCP フラグを含むパケットのフィルタリング	425
例：非隣接ポートを使用するアクセス リスト エントリの作成	425
例：既存の複数のアクセス リスト エントリと非隣接ポートを使用する 1 つのアクセス リスト エントリの統合	426
例：TTL 値のフィルタリング	426
例：TTL 値 0 と 1 でフィルタリングするコントロールプレーン ポリシング	427
その他の参考資料	427
フィルタするための IP アクセス リストの作成に関する機能情報	428

## 第 31 章

## FQDN ACL の設定 431

FQDN ACL の設定に関する制約事項	431
FQDN ACL の設定に関する情報	431
FQDN ACL の設定	431
FQDN ACL の設定方法	432
IP アクセス リストの設定	432
ドメイン名リストの設定	433

ドメイン名と FQDN ACL のマッピング	433
FQDN ACL のモニタリング	434
FQDN ACL の設定例	435
例：FQDN ACL の設定	435
FQDN ACL の設定に関するその他の参考資料	435
FQDN ACL の設定に関する機能情報	436

## 第 32 章

**IP アクセス リストの精緻化** 439

IP アクセス リストの精緻化に関する情報	439
アクセス リストのシーケンス番号	439
アクセス リスト シーケンス番号の利点	440
シーケンス番号の動作	440
時間範囲の利点	441
パケットの非初期フラグメントをフィルタリングする利点	441
フラグメントのアクセス リスト処理	442
IP アクセス リストを精緻化する方法	443
シーケンス番号を使用したアクセス リストの変更	443
日または週の特定の時間帯でのアクセス リスト エントリの制限	446
次の作業	448
IP アクセス リストの精緻化の設定例	449
例：アクセス リストのエントリの並べ替え	449
例：シーケンス番号を指定したエントリの追加	449
例：シーケンス番号を指定しないエントリの追加	450
例：IP アクセス リスト エントリに適用された時間範囲	450
例：IP パケット フラグメントのフィルタリング	451
その他の参考資料	451
IP アクセス リストの精緻化に関する機能情報	452

## 第 33 章

**IP 名前付きアクセス コントロール リスト** 455

IP 名前付きアクセス コントロール リストに関する情報	455
アクセス リストの定義	455



名前付きまたは番号付きアクセス リスト	456
IP アクセス リストの利点	457
アクセス リストのルール	458
IP アクセス リストを作成する際に役立つヒント	459
アクセス リストを適用する場所	460
IP 名前付きアクセス コントロール リストの設定方法	460
IP 名前付きアクセス リストの作成	460
物理インターフェイスへのアクセス リストの適用	463
IP 名前付きアクセス コントロール リストの設定例	464
例：IP 名前付きアクセス コントロール リストの作成	464
例：インターフェイスへのアクセス リストの適用	464
IP 名前付きアクセス コントロール リストの追加情報	465
IP 名前付きアクセス コントロール リストに関する機能情報	465

---

## 第 34 章

注釈付きの IP アクセス リスト エントリ	467
./トピック/注釈付き IP アクセス リスト エントリに関する情報	467
IP アクセス リストの利点	467
アクセス リストの注釈	468
注釈付き IP アクセス リスト エントリの設定方法	469
名前付きまたは番号付きアクセス リストへの注釈の書き込み	469
注釈付き IP アクセス リスト エントリの設定例	470
例：IP アクセス リストの備考の書き込み	470
注釈付き IP アクセス リスト エントリの追加情報	470
注釈付き IP アクセス リスト エントリに関する機能情報	471

---

## 第 35 章

標準 IP アクセス リストのロギング	473
標準 IP アクセス リストのロギングに関する制限事項	473
標準 IP アクセス リストのロギングに関する情報	473
標準 IP アクセス リストのロギング	473
標準 IP アクセス リストのロギングの設定方法	474
番号を使用した標準 IP アクセス リストの作成	474

名前を使用した標準 IP アクセス リストの作成	475
標準 IP アクセス リストのログインの設定例	476
例：数字を使用した標準 IP アクセス リストの作成	476
例：名前を使用した標準 IP アクセス リストの作成	476
例：デバッグ出力の制限	477
標準 IP アクセス リストのログインに関する追加情報	477
標準 IP アクセス リストのログインに関する機能情報	478

## 第 36 章

**IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号** 479

IP アクセス リストのエントリ シーケンス番号に関する制約事項	479
IP アクセス リストのエントリ シーケンス番号に関する情報	480
IP アクセス リストの目的	480
IP アクセス リストの機能	480
IP アクセス リストのプロセスとルール	480
IP アクセス リストを作成する際に役立つヒント	481
送信元アドレスと宛先アドレス	483
ワイルドカード マスクおよび暗黙のワイルドカード マスク	483
トランスポート層の情報	483
利点：IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号	483
シーケンス番号の動作	484
IP アクセス リストでのシーケンス番号の使用法	485
アクセス リスト エントリの順序付けとアクセス リストの変更	485
IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号の設定例	489
例：アクセス リストのエントリの並べ替え	489
例：シーケンス番号を持つエントリの追加	489
例：シーケンス番号のないエントリ	490
その他の参考資料	490
IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号に関する機能情報	492

## 第 37 章

**ロック アンド キー セキュリティの設定 (ダイナミックアクセス リスト)** 493

ロック アンド キーの設定の必須条件	493
--------------------	-----

ロックアンドキーセキュリティ（ダイナミック アクセス リスト）の設定に関する情報	494
ロック アンド キーについて	494
ロック アンド キーの利点	494
ロック アンド キーを使用するタイミング	495
ロック アンド キーの機能	495
Cisco IOS リリース 11.1 以前のリリースとの互換性	496
ロック アンド キーによるスプーフィングのリスク	496
ロック アンド キーによるルータのパフォーマンスへの影響	497
ロック アンド キーの保守	497
ダイナミック アクセス リスト	497
ロック アンド キー認証	498
autocommand コマンド	499
ロック アンド キーセキュリティ（ダイナミック アクセス リスト）の設定方法	500
ロック アンド キーの設定	500
ロック アンド キーの設定の確認	502
ダイナミック アクセス リスト エントリの表示	503
ダイナミック アクセス リスト エントリの手動削除	503
ロック アンド キーの設定例	503
ローカル認証を使用したロック アンド キーの例	503
TACACS+ 認証を使用したロック アンド キーの例	504
<hr/>	
第 38 章	<b>ACL IP オプションの選択的ドロップ</b> 507
	ACL IP オプションの選択的ドロップの制約事項 507
	ACL IP オプションの選択的ドロップに関する情報 507
	ACL IP オプションの選択的ドロップの使用 507
	ACL IP オプションの選択的ドロップを使用する利点 508
	ACL IP オプションの選択的ドロップの設定方法 508
	ACL IP オプションの選択的ドロップの設定 508
	ACL IP オプションの選択的ドロップの設定例 509
	例：ACL IP オプションの選択的ドロップの設定 509
	例：ACL IP オプションの選択的ドロップの確認 509

IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号の追加情報 510

ACL IP オプションの選択的ドロップに関する機能情報 511

---

第 39 章

**ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリア 513**

ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリアに関する情報 513

ACL 管理性の利点 513

インターフェイス レベルの ACL 統計情報のサポート 514

IP アクセス リスト データを表示およびクリアする方法 514

グローバル IP ACL 統計情報の表示 514

インターフェイス レベル IP ACL 統計情報の表示 515

アクセス リスト カウンタのクリア 516

ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリアのための設定例 517

グローバル IP ACL 統計情報を表示する例 517

入力統計情報を表示する例 517

出力統計情報を表示する例 517

入出力統計情報を表示する例 517

IP アクセス リスト用のグローバルおよびインターフェイス統計情報のクリアの例 518

すべての IP アクセス リスト用のグローバルおよびインターフェイス統計情報のクリアの例 518

その他の参考資料 518

IP アクセス リスト情報の表示およびカウンタのクリアに関する機能情報 519

---

第 40 章

**ACL Syslog 関連 521**

ACL Syslog 関連の前提条件 521

ACL Syslog 関連に関する情報 521

ACL Syslog 関連タグ 521

ACE Syslog メッセージ 522

ACL Syslog 関連の設定方法 522

デバイスでのハッシュ値生成の有効化 522

デバイスでのハッシュ値生成の無効化 524

ユーザー定義 Cookie を使用した ACL Syslog 関連の設定 525

ハッシュ値を使用した ACL Syslog 関連の設定	526
ACL Syslog 関連タグ値の変更	528
トラブルシューティングのヒント	529
ACL Syslog 関連の設定例	530
例：ユーザー定義 Cookie を使用した ACL Syslog 関連の設定	530
例：ハッシュ値を使用した ACL Syslog 関連の設定	530
例：ACL Syslog 関連タグ値の変更	530
IPv6 IOS ファイアウォールの追加情報	531
ACL Syslog 関連に関する機能情報	532

---

**第 41 章**

<b>IPv6 アクセス コントロール リスト</b>	<b>533</b>
RSP3 ポートの関連情報	533
IPv6 アクセス コントロール リストに関する情報	533
IPv6 トラフィック フィルタリングのアクセス コントロール リスト	533
IPv6 パケット インスペクション	534
IPv6 でのアクセス クラス フィルタリング	534
IPv6 アクセス コントロール リストの設定方法	534
IPv6 トラフィック フィルタリングの設定	534
トラフィック フィルタリング用の IPv6 ACL の作成および設定	534
インターフェイスへの IPv6 ACL の適用	536
vty へのアクセスの制御	537
IPv6 ACL の作成によるアクセス クラス フィルタリングの提供	537
仮想端末回線への IPv6 ACL の適用	538
IPv6 アクセス コントロール リストの設定例	539
例：IPv6 ACL 設定の確認	539
例：IPv6 ACL の作成と適用	540
例：vty へのアクセスの制御	540
IPv6 アクセス コントロール リストに関する機能情報	540

---

**第 42 章**

<b>IPv6 ACL 未決定トランスポートサポート</b>	<b>541</b>
IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの制約事項	541

IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートに関する情報	541
IPv6 ACL 未決定トランスポートサポート	541
IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの設定方法	542
IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの設定	542
例：IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの例	543
例：IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの例	543
IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートのその他の参考資料	543
ACL テンプレートに関する機能情報	544

---

**第 43 章****テンプレート ACL の設定 545**

テンプレート ACL の前提条件	545
テンプレート ACL の制約事項	545
テンプレート ACL の設定に関する情報	546
テンプレート ACL 機能設計	546
複数の ACL	547
VSA Cisco-AVPairs	548
RADIUS 属性 242	548
テンプレート ACL の設定方法	550
テンプレート ACL の最大サイズの設定	550
トラブルシューティングのヒント	551
テンプレート ACL の設定例	551
テンプレート ACL の最大サイズの例	551
ACL のテンプレートの概要情報を示す例	552
ACL のテンプレート ツリー情報を示す例	552
その他の参考資料	553
ACL テンプレートに関する機能情報	554

---

**第 44 章****IPv6 テンプレート ACL 555**

IPv6 ACL に関する情報：テンプレート ACL	556
IPv6 テンプレート ACL	556
IPv6 ACL を有効にする方法：テンプレート ACL	556

IPv6 テンプレートの処理の有効化	556
IPv6 ACL の設定例 : テンプレート ACL	557
例 : IPv6 テンプレート ACL の処理	557
その他の参考資料	558
IPv6 ACL - テンプレート ACL に関する機能情報	559

---

**第 45 章**

<b>IPv4 ACL チェーニング サポート</b>	<b>561</b>
IPv4 ACL チェーニング サポートの制限事項	561
IPv4 ACL チェーニング サポートに関する情報	562
ACL チェーニングの概要	562
IPv4 ACL チェーニング サポート	562
IPv4 ACL チェーニング サポートの設定方法	563
共通 ACL を受け入れるインターフェイスの設定	563
IPv4 ACL チェーニング サポートの設定例	564
例 : 共通 ACL を受け入れるインターフェイスの設定	564
IPv4 ACL チェーニング サポートの追加参考資料	565
IPv4 ACL チェーニング サポートに関する機能情報	566

---

**第 46 章**

<b>共通 ACL による IPv6 ACL チェーニング</b>	<b>567</b>
共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングに関する情報	567
ACL チェーニングの概要	567
共通 ACL による IPv6 ACL チェーニング	568
共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの設定方法	568
インターフェイスへの IPv6 ACL の設定	569
共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの設定例	569
例 : 共通 ACL を受け入れるインターフェイスの設定	570
共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの追加情報	571
共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングに関する機能情報	571

---

**第 47 章**

<b>ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張</b>	<b>573</b>
ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する情報	573

ACL およびトラフィック転送	573
ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張の設定方法	574
ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張の設定	574
ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張の設定例	575
例：ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張	575
その他の参考資料	576
ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する機能情報	577

## 第 48 章

## セキュリティ (ACL) の拡張機能 579

機能制限	579
セキュリティ (ACL) の拡張機能の設定	580
ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する機能情報	581

## 第 49 章

## ACL の IPv6 オブジェクトグループ 583

ACL の IPv6 オブジェクトグループに関する制約事項	583
ACL の IPv6 オブジェクトグループに関する情報	584
オブジェクトグループ	584
ネットワークオブジェクトグループで許可されるオブジェクト	585
サービスオブジェクトグループで許可されるオブジェクト	585
オブジェクトグループに基づく ACL	585
ACL のオブジェクトグループの設定方法	586
IPv6 オブジェクトグループの設定	586
IPv6 ネットワークオブジェクトグループの作成	587
IPv6 サービスオブジェクトグループの作成	587
ACL の IPv6 オブジェクトグループの確認	588
ACL 用オブジェクトグループの設定例	588
例：IPv6 ネットワークオブジェクトグループの作成	588
例：IPv6 サービスオブジェクトグループの作成	588
例：IPv6 オブジェクトグループベースの ACL の作成	589
例：ACL 用 IPv6 オブジェクトグループの確認	589
ACL 用オブジェクトグループに関する追加情報	590



ACL 用 IPv6 オブジェクトグループに関する機能情報 590

第 IV 部 :

**RADIUS 593**

第 50 章

**RADIUS の設定 595**

RADIUS の前提条件 595

RadSec の制限 (RADIUS セキュリティ) 596

RADIUS の概要 596

RADIUS ネットワーク環境 596

RADIUS の動作 597

RADIUS 属性 598

ベンダー独自の RADIUS 属性 598

RADIUS トンネル属性 598

RADIUS サーバー上の事前認証 598

DNIS または CLID 事前認証のための RADIUS プロファイル 599

コールタイプの事前認証のための RADIUS プロファイル 599

コールバック用の事前認証の機能拡張のための RADIUS プロファイル 600

大規模なダイヤルアウトに使用するリモートホスト名の RADIUS プロファイル 600

モデム管理用の RADIUS プロファイル 600

後続の認証のための RADIUS プロファイル 601

後続の認証タイプのための RADIUS プロファイル 602

ユーザー名を含めるための RADIUS プロファイル 602

双方向認証のための RADIUS プロファイル 603

認可をサポートするための RADIUS プロファイル 603

RADIUS 認証 604

RADIUS 許可 604

RADIUS アカウンティング 604

RADIUS Login-IP-Host 604

RADIUS Prompt 605

ベンダー固有の RADIUS 属性 605

RADIUS サーバーのスタティックルートと IP アドレス 606

RADIUS の設定方法	606
ベンダー独自の RADIUS サーバーとの通信に関するデバイス設定	606
ネットワーク アクセス サーバーのポート情報を拡張するためのデバイス設定	608
NAS-Port 属性の RADIUS 属性への置き換え	610
RADIUS のモニタリングとメンテナンス	611
RADIUS の設定例	612
例：RADIUS の認証と認可	612
例：RADIUS 認証、許可、アカウントティング	613
例：ベンダー固有の RADIUS 設定	613
例：同じサーバー IP アドレスを持つ複数の RADIUS サーバー エントリ	614
その他の参考資料	615
RADIUS の設定に関する機能情報	616

## 第 51 章

複数の UDP ポート用の RADIUS	619
複数の UDP ポート用の RADIUS の前提条件	619
複数の UDP ポート用の RADIUS に関する情報	620
デバイスと RADIUS サーバーの通信	620
複数の UDP ポート用の RADIUS を設定する方法	621
デバイスと RADIUS サーバーの通信の設定	621
複数の UDP ポート用の RADIUS の設定例	623
例：デバイスと RADIUS サーバーの通信	623
例：サーバー固有の値を指定した RADIUS サーバー	623
その他の参考資料	623
複数の UDP ポート用の RADIUS の機能情報	624

## 第 52 章

許可用の AAA Dialed Number Information Service (DNIS) マップ	627
許可用の AAA DNIS マップの前提条件	627
許可用の AAA DNIS マップに関する情報	628
DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択	628
AAA 事前認証	629
コール処理のガード タイマー	630

許可用の AAA DNIS マップの設定方法	630
AAA DNIS 事前認証の設定	630
DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択の設定	631
AAA 事前認証の設定	632
ガードタイマーの設定	634
許可用の AAA DNIS マップの設定例	635
例：DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択	635
例：AAA 事前認証	636
例：ISDN および CAS のガードタイマー	637
その他の参考資料	638
許可用の AAA DNIS マップの機能情報	638

---

 第 53 章

<b>AAA サーバグループ</b>	<b>641</b>
AAA サーバー グループに関する情報	641
AAA サーバグループ	641
AAA サーバー グループのデッドタイマー	642
AAA サーバー グループの設定方法	643
AAA サーバー グループの設定	643
AAA サーバー グループのデッドタイマーの設定	644
AAA サーバー グループの設定例	645
例：AAA サーバー グループ	645
例：AAA サーバー グループを使用する複数の RADIUS サーバー エントリ	646
その他の参考資料	646
AAA サーバー グループの機能情報	647

---

 第 54 章

<b>RADIUS アカウンティング内の Framed-Route</b>	<b>651</b>
RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の前提条件	651
RADIUS アカウンティング内の Framed-Route に関する情報	651
Framed-Route 属性 22	651
RADIUS アカウンティング パケット内の Framed-Route	652
RADIUS アカウンティング内の Framed-Route のモニター方法	652

RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の設定例	652
debug radius コマンドの出力例	652
その他の参考資料	653
RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の機能情報	655

---

**第 55 章**

<b>RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティング</b>	<b>657</b>
RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの制約事項	657
RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングに関する情報	657
RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの利点	657
RADIUS トンネル アカウンティングのための RADIUS 属性サポート	658
RADIUS トンネル アカウンティングの設定方法	662
トンネルタイプ アカウンティング レコードの有効化	662
次の作業	665
RADIUS トンネル アカウンティングの確認	665
RADIUS トンネル アカウンティングの設定例	666
LAC 上での RADIUS トンネル アカウンティングの設定例	666
LNS 上での RADIUS トンネル アカウンティングの設定例	667
その他の参考資料	668
RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの機能情報	670

---

**第 56 章**

<b>RADIUS 論理回線 ID</b>	<b>673</b>
RADIUS 論理回線 ID の前提条件	673
RADIUS 論理回線 ID の制約事項	673
RADIUS 論理回線 ID に関する情報	674
事前認可	674
RADIUS 論理回線 ID の設定方法	674
事前認可の設定	674
RADIUS ユーザー プロファイル内の LLID の設定	675
論理回線 ID の確認	676
RADIUS 論理回線 ID の設定例	677
事前認可用の LAC 設定例	677

LLID 用の RADIUS ユーザー プロファイルの例 678

その他の参考資料 678

RADIUS 論理回線 ID の機能情報 680

用語集 680

---

## 第 57 章

### RADIUS ルート ダウンロード 683

RADIUS ルート ダウンロードの前提条件 683

RADIUS ルート ダウンロードに関する情報 683

RADIUS ルート ダウンロードの設定方法 684

RADIUS ルート ダウンロードの設定 684

RADIUS ルート ダウンロードの確認 684

RADIUS ルート ダウンロードの設定例 685

RADIUS ルート ダウンロード設定例 685

その他の参考資料 685

RADIUS ルート ダウンロードの機能情報 686

---

## 第 58 章

### RADIUS サーバー ロード バランシング 689

RADIUS サーバ ロード バランシングの前提条件 689

RADIUS サーバ ロード バランシングの制約事項 689

RADIUS サーバ ロード バランシングに関する情報 690

RADIUS サーバ ロード バランシングの概要 690

RADIUS サーバ グループ全体のトランザクションのロード バランシング 690

RADIUS サーバー ステータスと自動テスト 691

RADIUS サーバ ロード バランシングの設定方法 692

名前付き RADIUS サーバ グループのロード バランシングの有効化 692

グローバル RADIUS サーバー グループのロード バランシングの有効化 693

RADIUS サーバ ロード バランシングのトラブルシューティング 695

RADIUS サーバ ロード バランシングの設定例 697

例：グローバル RADIUS サーバー グループのロード バランシングの有効化 697

例：サーバー設定とグローバル RADIUS サーバー グループに対するロード バランシングの有効化 699

例：グローバル RADIUS サーバー グループのデバッグ出力	699
例：グローバル RADIUS サーバー グループのサーバー ステータス情報	700
例：名前付き RADIUS サーバ グループのロード バランシングの有効化	701
例：サーバー設定と名前付き RADIUS サーバー グループに対するロード バランシングの有効化	703
例：名前付き RADIUS サーバー グループのデバッグ出力	704
例：名前付き RADIUS サーバー グループのサーバー ステータス情報	705
例：アイドル タイマーのモニタリング	706
例：サーバー設定とアイドル タイマー モニタリングに対するロード バランシングの有効化	706
例：アイドル タイマー モニタリングのデバッグ出力	707
例：認証サーバと認可サーバが同じ優先サーバの設定	707
例：認証サーバと認可サーバが別々の優先サーバの設定	708
例：認証サーバと認可サーバが重複している優先サーバの設定	708
例：認証サーバが認可サーバのサブセットである優先サーバの設定	708
例：認証サーバが認可サーバのスーパーセットである優先サーバの設定	709
RADIUS サーバ ロード バランシングのその他の参考資料	709
RADIUS サーバー ロード バランシングの機能情報	711

## 第 59 章

**RADIUS サーバー障害発生時順序変更 713**

RADIUS サーバー障害発生時順序変更の前提条件	713
RADIUS サーバー障害発生時順序変更の制約事項	714
RADIUS サーバー障害発生時順序変更に関する情報	714
RADIUS サーバーの障害	714
RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能の動作方法	714
RADIUS サーバーが停止中の場合	715
RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定方法	715
RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定	715
RADIUS サーバー障害発生時順序変更のモニタリング	717
RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定例	720
RADIUS サーバーで障害発生時の順序変更を設定する例	720

RADIUS サーバーが停止中の送信順序の決定	720
その他の参考資料	722
関連資料	722
標準	722
MIB	723
RFC	723
シスコのテクニカル サポート	723
RADIUS サーバー障害発生時順序変更の機能情報	723

---

**第 60 章**

<b>アカウントिंगの RADIUS 個別再送信カウンタ</b>	<b>725</b>
アカウントिंगの RADIUS 個別再送信カウンタの制約事項	725
アカウントिंगの RADIUS 個別再送信カウンタに関する情報	726
利点	726
アカウントिंगの RADIUS 個別再送信カウンタの設定方法	726
アカウントिंगの再送信カウンタのグローバル設定または RADIUS ホストごとの設定	726
アカウントिंगの再送信カウンタの RADIUS サーバー グループごとの設定	728
再送信設定の確認	728
アカウントिंगの RADIUS 個別再送信カウンタの設定例	729
アカウントिंगの再送信カウンタの包括的な設定例	729
サーバーごとの設定例	730
その他の参考資料	730
アカウントिंगの RADIUS 個別再送信カウンタの機能情報	732

---

**第 61 章**

<b>RADIUS VC ロギング</b>	<b>735</b>
RADIUS VC ロギングの設定方法	735
NSP での NME インターフェイス IP アドレスの設定	735
NME IP アドレスの設定	736
NRP での RADIUS VC ロギングの設定	737
NME インターフェイス IP アドレスの確認	738
NRP での RADIUS VC ロギングの確認	739

RADIUS VC ロギングの設定例	739
NSP での NME インターフェイス IP アドレスの設定例	739
NME IP アドレスの設定例	739
NRP での RADIUS VC ロギングの設定例	740
その他の参考資料	740
RADIUS VC ロギングの機能情報	741

---

**第 62 章**

<b>RADIUS 集中型フィルタ管理</b>	<b>743</b>
RADIUS 集中型フィルタ管理の前提条件	743
RADIUS 集中型フィルタ管理の制約事項	743
RADIUS 集中型フィルタ管理に関する情報	744
キャッシュ管理	744
新しいベンダー固有属性のサポート	745
RADIUS 用の集中型フィルタ管理の設定方法	745
RADIUS ACL フィルタ サーバーの設定	745
フィルタ キャッシュの設定	746
フィルタ キャッシュの確認	747
トラブルシューティングのヒント	748
フィルタ キャッシュのモニタリングと維持	748
RADIUS 集中型フィルタ管理の設定例	748
NAS の設定例	748
RADIUS サーバーの設定例	749
RADIUS ディクショナリとベンダー ファイルの例	749
デバッグ出力例	749
その他の参考資料	750
RADIUS 集中型フィルタ管理の機能情報	751

---

**第 63 章**

<b>RADIUS EAP サポート</b>	<b>753</b>
RADIUS EAP サポートの前提条件	753
RADIUS EAP サポートの制約事項	754
RADIUS EAP サポートに関する情報	754



EAP のしくみ	754
新しくサポートされた属性	754
RADIUS EAP サポートの設定方法	755
EAP の設定	755
EAP の確認	756
設定例	757
クライアント上の EAP ローカル設定例	757
NAS 用の EAP プロキシ設定例	757
その他の参考資料	758
RADIUS EAP サポートの機能情報	760
用語集	761

---

 第 64 章

コール接続時の RADIUS 暫定アップデート	763
コール接続時の RADIUS 暫定アップデートに関する情報	763
コール接続時の RADIUS 暫定アップデート機能を有効化する方法	763
その他の参考資料	764
コール接続時の RADIUS 暫定アップデートの機能情報	766

---

 第 65 章

ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンス	767
前提条件	767
機能制限	768
ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスに関する情報	768
独自の属性ではなく、業界標準の属性	768
マルチベンダー ネットワークにおけるロードバランシングとフェールオーバー	769
関連機能およびテクノロジー	770
ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスの設定方法	770
ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスの設定例	770
その他の参考資料	771

ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスの機能  
情報 772

用語集 773

---

第 V 部 :

**RADIUS 属性 775**

---

第 66 章

**『RADIUS Attributes Overview and RADIUS IETF Attributes』 777**

RADIUS 属性の概要 777

IETF 属性と VSA の比較 777

RADIUS パケットのフォーマット 778

RADIUS パケットタイプ 779

RADIUS ファイル 779

ディレクトリファイル 779

クライアントファイル 780

ユーザファイル 780

RADIUS IETF 属性 781

サポートされている RADIUS IETF 属性 781

RADIUS 属性解説の包括的リスト 785

その他の参考資料 804

RADIUS 属性の概要と RADIUS IETF 属性の機能情報 806

---

第 67 章

**RADIUS ベンダー固有属性 807**

サポートされるベンダー固有 RADIUS 属性 807

ベンダー固有 RADIUS 属性の説明に関する包括的なリスト 813

RADIUS ベンダー固有属性の機能情報 822

---

第 68 章

**RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値 823**

RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値に関する情報 823

RADIUS Disconnect-Cause 属性値 829

その他の参考資料 831

RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値の機能情報 833

## 第 69 章

<b>Connect-Info RADIUS 属性 77</b>	<b>835</b>
Connect-Info RADIUS 属性 77 の前提条件	836
Connect-Info RADIUS 属性 77 に関する情報	836
イーサネット接続での属性 77 のカスタマイズ	836
ATM 接続での属性 77 のカスタマイズ	837
Connect-Info RADIUS 属性 77 の確認方法	837
Connect-Info RADIUS 属性 77 の確認	837
Connect-Info RADIUS 属性 77 の設定例	839
AAA と着信モデム コール用の NAS の設定例	839
その他の参考資料	839
Connect-Info RADIUS 属性 77 の機能情報	841

## 第 70 章

<b>暗号化されたベンダー固有属性</b>	<b>843</b>
暗号化されたベンダー固有属性の前提条件	843
暗号化されたベンダー固有属性に関する情報	844
タグ付きの文字列 VSA	844
暗号化された文字列 VSA	844
タグ付きおよび暗号化された文字列 VSA	844
暗号化されたベンダー固有属性の確認方法	845
暗号化されたベンダー固有属性の設定例	845
NAS の設定例	845
タグ付きおよび暗号化 VSA がある RADIUS ユーザ プロファイルの例	845
その他の参考資料	846
暗号化されたベンダー固有属性の機能情報	847

## 第 71 章

<b>アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address</b>	<b>849</b>
アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の前提条件	849
アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address に関する情報	850
この機能の動作内容	850
利点	851

アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の設定方法	851
アクセス要求での RADIUS 属性 8 の設定	851
アクセス要求内の RADIUS 属性 8 の確認	852
アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の設定例	852
ダイヤルインホストの IP アドレスを送信する NAS の設定例	852
その他の参考資料	853
アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の機能情報	854

## 第 72 章

**RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID** 857

RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の前提条件	857
RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の制約事項	857
RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID に関する情報	857
RADIUS 属性 82 が LAC で使用されているかどうかの確認方法	858
RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の設定例	858
LAC の設定例	858
LNS の設定例	859
RADIUS の設定例	860
その他の参考資料	860
RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の機能情報	862

## 第 73 章

**RADIUS トンネル属性拡張** 863

前提条件	863
機能制限	863
RADIUS トンネル属性拡張に関する情報	864
RADIUS トンネル属性拡張の利点	864
RADIUS トンネル属性拡張の説明	864
RADIUS トンネル属性拡張の設定方法	865
RADIUS 属性 90 および RADIUS 属性 91 の確認	865
RADIUS トンネル属性拡張の設定例	865
L2TP ネットワーク サーバ設定の例	865
RADIUS トンネリング属性の 90 と 91 を含む RADIUS ユーザプロファイルの例	866

その他の参考資料	866
RADIUS トンネル属性拡張の機能情報	868
用語集	868

---

 第 74 章

<b>RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張</b>	<b>871</b>
RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の前提条件	871
RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の制約事項	871
RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張に関する情報	872
RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の使用方法	872
RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定方法	872
RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定例	872
RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張用の RADIUS プロファイルの設定	872
その他の参考資料	873
RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の機能情報	874
用語集	875

---

 第 75 章

<b>RADIUS 属性値スクリーニング</b>	<b>877</b>
RADIUS 属性値スクリーニングの前提条件	877
RADIUS 属性値スクリーニングの制約事項	878
RADIUS 属性値スクリーニングに関する情報	878
RADIUS 属性のスクリーン方法	879
RADIUS 属性値スクリーニングの設定	879
RADIUS 属性値スクリーニングの確認	881
RADIUS 属性値スクリーニングの設定例	881
認可許可の例	881
アカウント拒否の例	881
認可拒否とアカウント許可の例	882
必須属性の拒否の例	882
その他の参考資料	882
RADIUS 属性値スクリーニングの機能情報	884

## 第 76 章

**RADIUS 属性 55 Event-Timestamp 885**

- RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の前提条件 885
- RADIUS 属性 55 Event-Timestamp に関する情報 885
- RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の設定方法 886
  - RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の設定 886
  - RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の確認 887
- RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の設定例 890
  - 例：アカウンティングおよび認証パケットの RADIUS 属性 55 890
- RADIUS 属性 55 Event-Timestamp に関するその他の参考資料 890
- RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の機能情報 891

## 第 77 章

**RADIUS 属性 104 893**

- RADIUS 属性 104 の前提条件 893
- RADIUS 属性 104 の制約事項 894
- RADIUS 属性 104 に関する情報 894
  - ポリシーベース ルーティングの背景 894
  - 属性 104 とポリシーベース ルート マップ 894
    - RADIUS 属性 104 の概要 894
    - 許可ルート マップ 895
    - デフォルト プライベート ルート 895
    - ルート マップの順序 895
- RADIUS 属性 104 の適用方法 895
  - RADIUS 属性 104 のユーザ プロファイルへの適用 895
  - ルート マップの確認 896
  - RADIUS プロファイルのトラブルシューティング 897
- RADIUS 属性 104 の設定例 898
  - 属性 104 が適用された Route-Map 設定の例 898
- その他の参考資料 898
  - 関連資料 898
  - 標準 899

MIB	899
RFC	899
シスコのテクニカル サポート	899
RADIUS 属性 104 の機能情報	900

## 第 78 章

**RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性 901**

RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の前提条件	901
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の制約事項	901
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性に関する情報	902
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性機能の使用方法	903
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定方法	903
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定	903
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性のモニタリングとメンテナンス	904
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定例	905
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定例	905
その他の参考資料	905
関連資料	905
標準	905
MIB	906
RFC	906
シスコのテクニカル サポート	906
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の機能情報	906

## 第 79 章

**サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマット 909**

サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの前提条件	909
サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットに関する情報	910
RADIUS 属性 5 フォーマットのカスタマイズ	910
サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの設定方法	910
サーバ単位グループ レベルの RADIUS 属性 5 フォーマットの設定	910

サーバ単位グループ レベルの RADIUS 属性 5 フォーマットのモニタリングとメンテナンス	911
サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの設定例	912
サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 フォーマットの例	912
その他の参考資料	913
サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの機能情報	914

---

第 VI 部 : **TACACS** 917

---

第 80 章 **TACACS の設定** 919

TACACS に関する情報	919
TACACS の動作	920
TACACS の設定方法	922
TACACS サーバー ホストの指定	922
TACACS 認証キーの設定	923
AAA サーバー グループの設定	924
DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択の設定	925
TACACS 認証の指定	926
TACACS 認可の指定	926
TACACS アカウンティングの指定	927
TACACS の AV ペア	927
TACACS の設定例	927
TACACS 認証の例	927
TACACS 認可の例	929
TACACS アカウンティングの例	930
TACACS サーバー グループの例	931
DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択の設定例	931
TACACS デーモンの設定例	932
その他の参考資料	932
TACACS の設定に関する機能情報	933



---

第 81 章	<b>TACACS サーバーの Per VRF</b>	<b>935</b>
	TACACS サーバーの Per VRF の前提条件	935
	TACACS サーバーの Per VRF の制限事項	935
	TACACS サーバーの Per VRF に関する情報	936
	TACACS サーバーの Per VRF の概要	936
	TACACS サーバーの Per VRF の設定方法	936
	TACACS サーバ上の Per VRF の設定	936
	TACACS サーバーの Per VRF の確認	938
	TACACS サーバーの Per VRF の設定例	939
	TACACS サーバーの Per VRF の設定例	939
	その他の参考資料	940
	TACACS サーバーの Per VRF の機能情報	941

---

第 82 章	<b>TACACS の属性値ペア</b>	<b>943</b>
	TACACS の属性値ペアに関する情報	943
	TACACS+ 認証および認可の AV ペア	943
	TACACS アカウンティング AV ペア	952

---

第 VII 部 :	<b>Cisco TrustSec</b>	<b>967</b>
-----------	-----------------------	------------

---

第 83 章	<b>Cisco TrustSec の概要</b>	<b>969</b>
	SGT インライン タギング	970
	Protected Access Credential (PAC)	971
	PAC Provisioning	972
	ハイ アベイラビリティセットアップでのデバイスの展開	972
	CTS ログイン情報	973
	SGT インライン タギングの設定	973
	CTS ログイン情報の設定	975
	例 : SGT インライン タギングの設定	976

## 第 84 章

**Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 977**

- Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の制約事項 977
- Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 に関する情報 978
  - セキュリティ グループ タギング 978
  - CTS-SXP によるレガシー アクセス ネットワークへの SGT の伝播 978
  - VRF-Aware CTS-SXP 979
  - セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォール 980
- Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定方法 981
  - CTS-SXP の有効化 981
  - CTS-SXP ピア接続の設定 982
  - デフォルトの CTS-SXP パスワードの設定 984
  - デフォルトの CTS-SXP 送信元 IP アドレスの設定 985
  - CTS-SXP の復帰期間の設定 985
  - CTS-SXP 再試行期間の設定 986
  - IP と SGT のマッピング変更をキャプチャする Syslog の作成 987
  - セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォールのクラスマッピングの設定 988
  - セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォールのポリシーマップの作成 990
- Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定例 994
  - 例：CTS-SXP ピア接続のイネーブル化と設定 994
  - 例：セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定 995
- TrustSec SGT の処理：L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報 996
- Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の機能情報 997

## 第 85 章

**TrustSec SGT の処理：L2 SGT のインポジションと転送 999**

- TrustSec SGT の処理：L2 SGT のインポジションと転送の前提条件 999
- TrustSec SGT の処理：L2 SGT のインポジションと転送に関する情報 1000
  - セキュリティ グループおよび SGT 1000
- TrustSec SGT の処理：L2 SGT のインポジションと転送の設定方法 1000

TrustSec SGT の処理：インターフェイスでの L2 SGT のインポジションと転送の手動による有効化	1000
インターフェイスでの CTS SGT 伝達の無効化	1002
TrustSec SGT の処理：L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報	1004
TrustSec SGT の処理：L2 SGT のインポジションと転送の機能情報	1005
<hr/>	
<b>第 86 章</b>	<b>Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の前提条件 1007</b>
	Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の制約事項 1007
	Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 に関する情報 1008
	セキュリティグループ タギング 1008
	CTS-SXP によるレガシー アクセス ネットワークへの SGT の伝播 1008
	VRF-Aware CTS-SXP 1009
	セキュリティグループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォール 1010
	Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定方法 1011
	CTS-SXP の有効化 1011
	CTS-SXP ピア接続の設定 1012
	デフォルトの CTS-SXP パスワードの設定 1014
	デフォルトの CTS-SXP 送信元 IP アドレスの設定 1015
	CTS-SXP の復帰期間の設定 1015
	CTS-SXP 再試行期間の設定 1016
	IP と SGT のマッピング変更をキャプチャする Syslog の作成 1017
	セキュリティグループアクセスのゾーンベースポリシーファイアウォールのクラスマップの設定 1018
	セキュリティグループアクセスのゾーンベースポリシーファイアウォールのポリシーマップの作成 1020
	Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定例 1024
	例：CTS-SXP ピア接続のイネーブル化と設定 1024
	例：セキュリティグループアクセスのゾーンベースポリシーファイアウォールの設定 1025
	TrustSec SGT の処理：L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報 1026
	Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の機能情報 1027

---

第 87 章	<b>双方向 SXP サポートの有効化 1029</b>
	双方向 SXP サポートの前提条件 1029
	双方向 SXP サポートの制約事項 1030
	双方向 SXP サポートに関する情報 1030
	双方向 SXP サポートの概要 1030
	双方向 SXP サポートを有効化する方法 1030
	双方向 SXP サポートの設定 1030
	双方向 SXP サポート設定の確認 1033
	双方向 SXP サポートの設定例 1034
	例：双方向 SXP サポートの設定 1034
	双方向 SXP サポートに関する追加情報 1035
	双方向 SXP サポートの機能情報 1035
<hr/>	
第 88 章	<b>Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピング 1037</b>
	Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングに関する情報 1037
	インターフェイスと SGT のマッピング 1037
	バインディング送信元プライオリティ 1038
	Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの設定方法 1038
	レイヤ 3 インターフェイスと SGT のマッピングの設定 1038
	レイヤ 3 インターフェイスと SGT のマッピングの確認 1039
	Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの設定例 1040
	例：レイヤ 3 インターフェイスと SGT のマッピングの設定 1040
	Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングに関する追加情報 1041
	Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの機能情報 1042
<hr/>	
第 89 章	<b>Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピング 1043</b>
	Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの制約事項 1043
	Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングに関する情報 1043
	Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの設定方法 1044
	サブネットと SGT のマッピングの設定 1044

Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピング : 例	1046
その他の参考資料	1048
Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの機能情報	1049

---

**第 90 章**

<b>Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポート</b>	<b>1051</b>
Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの制約事項	1051
Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートに関する情報	1052
Flexible NetFlow の Cisco TrustSec フィールド	1052
Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの設定方法	1053
フロー レコードのキー フィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定	1053
フロー レコードの非キー フィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定	1055
フロー エクスポートの設定	1057
フロー モニタの設定	1058
インターフェイスへのフロー モニタの適用	1059
Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの確認	1061
Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの設定例	1064
例 : フロー レコードのキー フィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定	1064
例 : フロー レコードの非キー フィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定	1064
例 : フロー エクスポートの設定	1065
例 : フロー モニタの設定	1065
例 : インターフェイス上のフロー モニタの適用	1065
Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートに関する追加情報	1066
Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの機能情報	1067

---

**第 91 章**

<b>Cisco TrustSec SGT キャッシング</b>	<b>1069</b>
Cisco TrustSec SGT キャッシング の制約事項	1069
Cisco TrustSec SGT キャッシングの詳細	1070
SGT キャッシングを使用した SGT の特定と再適用	1070
IPv6 トラフィックの SGT キャッシング	1072
Cisco TrustSec SGT キャッシングの設定方法	1072
SGT キャッシングのグローバル設定	1072

インターフェイスでの SGT キャッシングの設定	1073
Cisco TrustSec SGT キャッシングの確認	1074
IP と SGT のバインドの確認	1077
設定例 Cisco TrustSec SGT キャッシング	1078
例：SGT キャッシングのグローバル設定	1078
例：インターフェイスの SGT キャッシングの設定	1078
例：インターフェイスでの SGT キャッシングの無効化	1078
に関する追加情報 Cisco TrustSec SGT キャッシング	1079
Cisco TrustSec SGT キャッシングの機能情報	1080

## 第 92 章

<b>CTS SGACL のサポート</b>	<b>1083</b>
CTS SGACL サポートの前提条件	1083
CTS SGACL サポートの制約事項	1083
CTS SGACL サポートに関する情報	1084
CTS SGACL のサポート	1084
SGACL モニター モード	1085
CTS SGACL サポートの設定方法	1085
SGACL ポリシーの適用のグローバルな有効化	1085
インターフェイスあたりの SGACL ポリシーの適用の有効化	1085
IPv6 SGACL アクセス制御エントリの設定	1086
権限マトリックスセルへの SGACL のアタッチ	1086
SGACL ポリシーの手動設定	1086
ダウンロードされた SGACL ポリシーのリフレッシュ	1086
SGACL モニター モードの設定	1087
IPv6 SGACL ACE の設定	1087
CTS SGACL サポートの設定例	1087
例：CTS SGACL のサポート	1087
例：SGACL モニターモードの設定	1089
例：ダウンロードされた SGACL ポリシーのリフレッシュ	1090
CTS SGACL サポートに関する追加情報	1090
CTS SGACL サポートの機能情報	1091

## 第 93 章

**TrustSec 動作データへの外部アクセス 1093**

Cisco TrustSec 動作データへの外部アクセスの前提条件 1093

Cisco TrustSec 動作データへの外部アクセスの制限 1094

Cisco TrustSec 動作データに関する情報 1094

外部デバイス YTOOL の設定方法 1099

動作データへのアクセス 1100

## 第 VIII 部 :

**Access Node Control Protocol 1105**

## 第 94 章

**Access Node Control Protocol 1107**

Access Node Control Protocol の前提条件 1107

Access Node Control Protocol に関する制約事項 1107

Access Node Control Protocol に関する情報 1108

レートアダプティブモード 1108

RADIUS インタラクション 1109

ポート マッピング 1109

非インタラクティブな運用、管理、保守 1110

インタラクティブな OAM 1110

General Switch Management Protocol および ANCP 1110

Access Node Control Protocol の設定方法 1111

イーサネット インターフェイスでの ANCP の有効化 1111

ATM インターフェイスでの ANCP のイネーブル化 1113

ブロードバンドリモートアクセス サーバー上の VLAN インターフェイスへの DSLAM  
ポートのマッピング 1114ブロードバンドリモートアクセス サーバー上の PVC インターフェイスへの DSLAM ポート  
のマッピング 1116

Access Node Control Protocol の設定例 1118

イーサネット インターフェイスでの Access Node Control Protocol の有効化の例 1118

ATM インターフェイスでの Access Node Control Protocol のイネーブル化の例 1118

BRAS での DSLAM ポートと VLAN インターフェイスのマッピングの例 1118

BRAS での DSLAM ポートと PVC インターフェイスのマッピングの例 1119

PVC または PVC-in-Range コンフィギュレーション モードの場合	1119
グローバル コンフィギュレーション モードの場合	1120
Access Node Control Protocol に関する追加情報	1120
Access Node Control Protocol に関する機能情報	1121

## 第 95 章

<b>Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化</b>	<b>1123</b>
Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する制約事項	1123
Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する情報	1124
Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化の概要	1124
VSA 250 の QoS ポリシー	1125
Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化の設定方法	1125
Access-Accept を使用したセッションサービスのアクティブ化	1125
Access-Accept メッセージでのマルチサービスの設定例	1125
VSA 250 を使用した QoS サービスのアクティブ化の例	1125
Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する追加情報	1126
Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する機能情報	1127

## 第 96 章

<b>CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化</b>	<b>1129</b>
CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する制約事項	1129
CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する情報	1130
CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化の概要	1130
VSA 252 の QoS ポリシー	1131
CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化を設定する方法	1131
CoA を使用したセッションサービスのアクティブ化	1131
CoA を使用したセッションサービスの非アクティブ化	1132
CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化の設定例	1132
VSA 252 を使用した QoS サービスのアクティブ化および非アクティブ化の例	1132
CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する追加情報	1133
CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する機能情報	1133



---

**第 IX 部 :**      **ファーストホップ セキュリティ 1135**

---

**第 97 章**      **IPv6 RA ガード 1137**

IPv6 RA ガードの制限 1137

IPv6 RA ガードに関する情報 1138

IPv6 グローバル ポリシー 1138

IPv6 RA ガード 1138

IPv6 RA ガードの設定方法 1138

デバイスでの IPv6 RA ガード ポリシーの設定 1138

インターフェイスの IPv6 RA ガードの設定 1141

IPv6 RA ガードの設定例 1142

例 : IPv6 RA ガードの設定 1142

例 : IPv6 ND インスペクションおよび RA ガードの設定 1142

その他の参考資料 1143

IPv6 RA ガードの機能情報 1144

---

**第 98 章**      **IPv6 スヌーピング 1145**

IPv6 スヌーピングの制限 1145

IPv6 スヌーピングに関する情報 1145

IPv6 スヌーピング 1145

IPv6 デバイス トラッキング 1146

IPv6 アドレス収集 1147

複数の IA\_NA および IA\_PD のサポート 1148

IPv6 スヌーピングの設定方法 1149

インターフェイスの IPv6 スヌーピングの設定 1149

IPv6 ND インスペクションの確認とトラブルシューティング 1150

IPv6 デバイス トラッキングの設定 1151

IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディング テーブルの内容の設定 1151

IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディング テーブルのリカバリ メカニズムの  
設定 1152

アドレス収集の設定およびリカバリ プロトコルとプレフィックス リストの関連付け	1155
IPv6 デバイス トラッキングの設定	1156
IPv6 プレフィックス収集の設定	1157
IPv6 スヌーピングの設定例	1158
例：インターフェイスの IPv6 ND インспекションの設定	1158
例：IPv6 バインディング テーブルの内容の設定	1158
例：IPv6 ファーストホップ セキュリティ バインディング テーブルのリカバリの設定	1158
例：アドレス収集の設定およびリカバリ プロトコルとプレフィックス リストの関連付け	1159
Cisco TrustSec の概要の機能情報	1159

## 第 99 章

<b>IPv6 DAD プロキシ</b>	<b>1161</b>
IPv6 DAD プロキシの制限	1161
IPv6 DAD プロキシに関する情報	1161
IPv6 DAD プロキシの概要	1161
IPv6 DAD プロキシの設定方法	1162
IPv6 DAD プロキシの設定	1162
IPv6 DAD プロキシの設定例	1163
例：IPv6 DAD プロキシの設定	1163
IPv6 DAD プロキシのその他の参考資料	1164
IPv6 DAD プロキシの機能情報	1164

## 第 100 章

<b>IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制</b>	<b>1167</b>
IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制に関する情報	1167
IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の概要	1167
IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の設定方法	1168
インターフェイスの IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の設定	1168
IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の設定例	1169
例：インターフェイスの IPv6 ネイバー探索抑制の設定	1169
IPv6 ネイバー探索マルチキャスト除去に関するその他の参考資料	1169
Cisco TrustSec の概要の機能情報	1170

---

**第 101 章****DHCP—DHCPv6 ガード 1173**

- DHCPv6 ガードの制限 1173
- DHCPv6 ガードに関する情報 1173
  - DHCPv6 ガードの概要 1173
- DHCPv6 ガードの設定方法 1174
  - DHCP—DHCPv6 ガードの設定 1174
- DHCPv6 ガードの設定例 1177
  - 例 : DHCP—DHCPv6 ガードの設定 1177
- その他の参考資料 1177
- DHCP—DHCPv6 ガードの機能情報 1178

---

**第 102 章****IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガード 1181**

- IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードに関する情報 1181
  - IPv6 ソース ガードの概要 1181
  - IPv6 プレフィックス ガードの概要 1182
- IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードの設定方法 1184
  - IPv6 ソース ガードの設定 1184
  - インターフェイスの IPv6 ソース ガードの設定 1185
  - IPv6 プレフィックス ガードの設定 1186
- IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードの設定例 1187
  - 例 : IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードの設定 1187
- Cisco TrustSec の概要の機能情報 1187

---

**第 103 章****IPv6 宛先ガード 1189**

- IPv6 宛先ガードの前提条件 1189
- IPv6 宛先ガードに関する情報 1189
  - IPv6 宛先ガードの概要 1189
- IPv6 宛先ガードの設定方法 1190
  - IPv6 宛先ガードの設定 1190
- IPv6 宛先ガードの設定例 1191

例：IPv6 宛先ガード ポリシーの設定	1191
その他の参考資料	1192
Cisco TrustSec の概要の機能情報	1192

---

第 104 章	<b>IPv6 の RFC</b>	1195
---------	-------------------	------

---

第 X 部：	<b>MACsec と MKA</b>	1203
--------	---------------------	------

---

第 105 章	<b>WAN MACSEC および MKA のサポートの機能強化</b>	1205
	WAN MACsec および MKA	1205
	WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の前提条件	1206
	WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の制約事項	1207
	WAN MACsec および MKA のサポートの機能強化に関する情報	1208
	MACsec および MKA の概要	1208
	WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の利点	1208
	WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の実装のベスト プラクティス	1209
	MKA ポリシーの継承	1209
	キー ライフタイムおよびヒットレス キー ロールオーバー	1210
	プロトコル パケットの暗号化アルゴリズム	1210
	スムーズな移行のためのアクセス制御オプション	1211
	Extensible Authentication Protocol over LAN 宛先アドレス	1212
	リプレイ保護ウィンドウ サイズ	1212
	WAN インターフェイス カード上の MACsec	1213
	Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータでの MACsec のパフォーマンス	1213
	Cisco ASR 1000 プラットフォーム上の MACsec のパフォーマンス	1214
	ASR 1000 および ISR 4400 プラットフォームの MACsec 互換性マトリックス	1215
	WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の設定方法	1216
	MKA の設定	1216
	インターフェイスでの MACsec および MKA の設定	1218
	MKA 事前共有キーの設定	1220
	MKA-PSK : CKN 動作の変更	1222

EAPoL イーサネット タイプを変更するオプションの設定	1223
インターフェイスおよびサブインターフェイスでの宛先 MAC アドレスの設定	1224
WAN MACsec および MKA の設定例	1226
例：EPL サービスを使用した CE から CE へのポイントツーポイント接続	1226
例：EVPL サービスを使用したハブとスポークのポイントツーポイント接続	1226
例：MACsec および非 MACsec スポークを使用したポイントツーポイントのハブアンド スポーク接続	1227
例：EP-LAN サービスを使用したハブとスポークのマルチポイントツーマルチポイント接 続	1228
例：EVP-LAN サービスを使用したハブとスポークのマルチポイントツーマルチポイント 接続	1229
例：トラフィックに影響を与えずにメンテナンス タスクを実行する	1230
例：メンテナンス タスクの実行（トラフィックに影響する）	1232
例：MACsec を使用したポートチャネルの設定	1233
その他の参考資料	1234

---

**第 106 章**

<b>MACsec スマート ライセンス</b>	<b>1237</b>
MACsec スマートライセンスの概要	1237
MACsec スマート ライセンスの機能情報	1237
MACsec スマート ライセンスに関する情報	1238
導入と移行の例	1239

---

**第 107 章**

<b>証明書ベースの MACsec 暗号化</b>	<b>1241</b>
証明書ベース MACsec 暗号化の機能情報	1241
証明書ベース MACsec 暗号化の前提条件	1242
証明書ベース MACsec 暗号化の制約事項	1242
証明書ベース MACsec 暗号化に関する情報	1242
リモート認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化のコールフロー	1243
ローカル認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化のコールフロー	1244
リモート認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化の設定	1245
証明書登録の設定	1245
鍵ペアの生成	1245

SCEP による登録の設定	1246
登録の手動設定	1247
802.1x 認証の有効化と AAA の設定	1249
EAP-TLS プロファイルと 802.1x クレデンシャルの設定	1250
インターフェイスでの 802.1x MKA MACsec 設定の適用	1251
ローカル認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化の設定	1252
ローカル認証を使用した EAP クレデンシャルの設定	1253
ローカル EAP-TLS 認証と認証プロファイルの設定	1253
SCEP による登録の設定	1254
登録の手動設定	1256
EAP-TLS プロファイルと 802.1x クレデンシャルの設定	1258
インターフェイスでの 802.1x MKA MACsec 設定の適用	1258
証明書ベース MACsec 暗号化の確認	1260
証明書ベース MACsec 暗号化の設定例	1261
例: : 証明書の登録	1261
例: 802.1x 認証の有効化と AAA の設定	1261
例: EAP-TLS プロファイルと 802.1x クレデンシャルの設定	1262
例: インターフェイスでの 802.1 X、PKI、および MACsec の設定の適用	1262
その他の参考資料	1263

## 第 108 章

**MACsec as a Service : 暗号化ソリューション** 1265

MACsec as a Service の機能情報	1265
MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの前提条件	1266
MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する制約事項	1266
MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する情報	1267
MACsec および MKA の概要	1267
シスコのイーサネット仮想回線	1267
イーサネット サービス インスタンスまたはイーサネットフローポイント	1268
Extensible Authentication Protocol over LAN 宛先アドレス	1268
イーサネット仮想回線を使用した MACsec および MKA の利点	1269
イーサネット仮想回線を使用した MACsec as a Service	1269

MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの設定方法	1271
キーチェーンの設定	1271
インターフェイスでの MKA および MACsec の設定	1272
カスタマーエッジ方向の入力ポートでのイーサネット仮想回線の設定	1273
サービス プロバイダー ネットワーク方向の出力ポートでの MACsec EVC の設定	1274
MACsec および MKA セッションに基づく事前共有キーの有効化の確認	1275
MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの設定例	1276
例：一般的なトラブルシューティング	1276
例：設定された show mka コマンド	1276
例：統計の表示	1276
例：show efp コマンド	1277
MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する追加情報	1277

---

 第 XI 部 :

**PKI 1279**


---

 第 109 章

**Cisco IOS XE PKI の概要 1281**

Cisco IOS XE PKI の情報	1281
Cisco IOS XE PKI とは	1281
RSA キーの概要	1282
CA とは	1283
階層型 PKI : 複数の CA	1283
証明書の登録 : 登録の動作	1284
Secure Device Provisioning による証明書登録	1285
証明書の失効 : 失効する理由	1285
PKI の計画	1285
次の作業	1286
その他の参考資料	1286
用語集	1288

---

 第 110 章

**PKI 内での RSA キーの展開 1289**

PKI での RSA キーの設定に関する前提条件	1289
--------------------------	------

RSA キーの設定に関する情報	1290
RSA キーの概要	1290
用途 RSA キーと汎用目的 RSA キー	1290
RSA キー ペアとトラストポイントとの連携方法	1290
ルータに複数の RSA キーを保管する理由	1291
エクスポート可能な RSA キーのメリット	1291
RSA キーのインポートおよびエクスポート時のパスフレーズ保護	1292
PKI 内で RSA キーを設定および展開する方法	1292
RSA キー ペアの生成	1292
次の作業	1294
RSA キー ペアとトラストポイントの証明書の管理	1294
RSA キーのエクスポートおよびインポート	1298
PKCS12 ファイルの RSA キーのエクスポートおよびインポート	1298
PEM 形式ファイルの RSA キーのエクスポートおよびインポート	1300
ルータの秘密キーの暗号化およびロック	1303
RSA キー ペア設定の削除	1306
RSA キー ペア展開での設定例	1308
RSA キーの生成および指定例	1308
RSA キーのエクスポートおよびインポート例	1308
PKCS12 ファイルの RSA キーのエクスポートおよびインポート例	1308
PEM ファイルの RSA キーのエクスポートおよびインポート例	1309
PEM ファイルからのルータ RSA キー ペアおよび証明書のエクスポート例	1310
PEM ファイルからのルータ RSA キー ペアおよび証明書のインポート例	1311
ルータの秘密キーの暗号化およびロック例	1312
暗号キーの設定および検証例	1312
ロックされたキーの設定および確認例	1313
その他の参考資料	1313
Cisco TrustSec の概要の機能情報	1314
第 111 章	
PKI での証明書の許可および失効の設定	1315
証明書の許可および失効に関する前提条件	1315



証明書の許可および失効に関する制約事項	1316
証明書の許可および失効に関する情報	1316
PKI の許可	1316
証明書ステータスのための PKI と AAA サーバーの統合	1317
RADIUS または TACACS+ : AAA サーバー プロトコルの選択	1317
PKI と AAA サーバー統合用の属性値ペア	1318
CRL または OCSP サーバー : 証明書失効メカニズムの選択	1319
CRL とは	1319
OCSP とは	1321
許可または失効用に証明書ベースの ACL を使用する場合	1322
証明書ベース ACL を使用した失効チェックの無視	1322
PKI 証明書チェーンの検証	1324
PKI に対して証明書の許可および失効を設定する方法	1325
AAA サーバーとの PKI 統合の設定	1325
トラブルシューティングのヒント	1329
PKI 証明書ステータス チェックの失効メカニズムの設定	1330
revocation-check コマンド	1330
OCSP サーバーとのナンスおよびピア通信	1330
証明書の許可および失効の設定	1333
失効チェックを無視するように証明書ベース ACL を設定	1333
証明書内の CDP の手動による上書き	1334
手動による証明書の OCSP サーバー設定の上書き	1334
CRL キャッシュ コントロールの設定	1334
証明書のシリアル番号セッション コントロールの設定	1334
トラブルシューティングのヒント	1342
証明書チェーンの設定	1342
CRL 自動ダウンロードの設定	1343
証明書の許可および失効の設定例	1346
PKI AAA 認可の設定および検証例	1346
ルータの設定例	1346
成功した PKI AAA 認可のデバッグ例	1348

失敗した PKI AAA 認可のデバッグ例	1349
失効メカニズムの設定例	1351
OCSP サーバの設定例	1351
CRL および OCSP サーバの指定例	1351
OCSP サーバの設定例	1351
OCSP サーバとの通信でのナンスのディセーブル例	1351
セントラル サイトにあるハブ ルータを証明書失効チェック用に設定する例	1351
証明書の許可および失効の設定例	1356
CRL キャッシュ コントロールの設定	1356
証明書のシリアル番号セッション コントロールの設定	1357
証明書チェーン検証の設定例	1358
ピアからルート CA への証明書チェーン検証の設定	1359
ピアから下位 CA への証明書チェーン検証の設定	1359
証明書チェーンの欠落確認の設定	1359
その他の参考資料	1360
Cisco TrustSec の概要の機能情報	1361
<hr/>	
第 112 章	<b>PKI の証明書登録の設定 1363</b>
	PKI 証明書登録の前提条件 1363
	PKI の証明書登録に関する情報 1364
	CA とは 1364
	複数の CA のためのフレームワーク 1364
	CA の認証 1365
	サポートされる証明書の登録方式 1365
	PKI の証明書登録のための Cisco IOS Suite-B サポート 1366
	登録局 1367
	自動証明書登録 1367
	証明書登録プロファイル 1368
	PKI の証明書登録を設定する方法 1369
	証明書登録または自動登録の設定 1369
	手動での証明書登録の設定 1376

証明書登録要求用の PEM 形式ファイル	1376
手動での証明書登録に関する制約事項	1376
カットアンドペーストによる証明書登録の設定	1377
TFTP による証明書登録の設定	1379
Trend Micro サーバとセキュアな通信を行うための URL リンクの認証	1382
登録用の永続的自己署名証明書の SSL による設定	1387
永続的自己署名証明書の概要	1387
機能制限	1387
トラストポイントの設定および自己署名証明書パラメータの指定	1388
HTTPS サーバのイネーブル化	1390
登録または再登録用の証明書登録プロファイルの設定	1391
次の作業	1395
2 階層 PKI 環境での証明書登録の設定	1395
複数のトラストポイントの有効化による証明書の更新の設定	1395
EKU 属性を追加するための PKI サーバの設定	1397
PKI 証明書登録要求の設定例	1399
証明書登録または自動登録の設定例	1399
自動登録の設定例	1399
証明書自動登録とキー再生の設定例	1400
カットアンドペーストによる証明書登録の設定例	1400
キー再生を使用した手動での証明書登録の設定例	1403
永続的自己署名の証明書の作成および検証例	1404
HTTPS サーバのイネーブル化の例	1404
自己署名証明書設定の検証例	1405
HTTP による直接登録の設定例	1406
2 階層 PKI 環境での証明書登録の設定例	1406
その他の参考資料	1407
Cisco TrustSec の概要の機能情報	1409
<b>第 113 章</b>	
<b>PKI への登録のための Secure Device Provisioning の設定</b>	<b>1411</b>
PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定の前提条件	1411

PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定に関する情報	1413
SDP の概要	1413
SDP の機能	1414
SDP 予備接続段階	1414
SDP 接続段階	1416
SDP スタティック段階	1418
SDP ようこそ段階	1419
SDP 紹介段階	1419
SDP 完了段階	1420
USB トークンを活用している SDP	1421
SDP を使用した USB トークンの設定	1422
設定された USB トークンの使用	1424
SDP による外部 AAA データベースの使用方法	1424
SDP の認証および認可リスト	1425
管理イントロデューサの認証リストと認可リスト	1425
カスタム テンプレートの SDP での動作	1426
カスタム テンプレート型変数の展開	1427
カスタム テンプレート型変数の展開ルール	1427
SDP トランザクション Web ページのデフォルト テンプレート	1431
設定ファイルのデフォルト テンプレート	1434
PKI で SDP が Apple iPhone を導入する方法	1434
PKI での SDP レジストラによる Apple iPhone の導入段階	1434
PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定方法	1440
SDP ペティショナのイネーブル化	1440
トラブルシューティングのヒント	1442
次の作業	1443
SDP レジストラのイネーブル化と AAA リストのサーバへの追加	1443
前提条件	1443
機能制限	1444
template config コマンド	1444
証明書を使用した認可のための SDP レジストラのイネーブル化	1447

Apple iPhone を導入するための SDP レジストラの設定	1449
Apple CA サーバーのトラストポイント証明書の設定	1452
管理イントロデューサの設定	1454
カスタム テンプレートの設定	1457
PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定例	1459
SDP レジストラの確認の例	1459
SDP ペティショナの確認の例	1462
AAA リストの RADIUS または TACACS+ サーバーへの追加の例	1465
TACACS+ AAA サーバーデータベースの例	1465
RADIUS AAA サーバーデータベースの例	1465
TACACS+ および RADIUS AAA サーバー上の AAA リストの例	1465
UsingaConfigurationTemplateFile の例	1466
CGI スクリプトの例	1466
証明書を使用した認証のペティショナとレジストラの設定の例	1468
認証リストおよび認可リストを使用した管理イントロデューサの設定例	1469
その他の参考資料	1469
PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定に関する機能情報	1470
<hr/>	
第 114 章	<b>PKI クレデンシャル失効アラート 1473</b>
	PKI クレデンシャル失効アラートの制約事項 1473
	PKI アラート通知の情報 1473
	アラート通知の概要 1473
	PKI トラップ 1475
	PKI クレデンシャル失効アラートの追加資料 1475
	Cisco TrustSec の概要の機能情報 1476
<hr/>	
第 115 章	<b>PKI 展開での 証明書サーバの設定および管理 1477</b>
	証明書サーバの設定に関する前提条件 1478
	証明書サーバの設定に関する制約事項 1478
	証明書サーバの情報 1479
	証明書サーバの RSA キー ペアと証明書 1479

CA 証明書および CA キーを自動的にアーカイブする方法	1480
証明書サーバ データベース	1480
証明書サーバ データベース ファイルの保管	1481
証明書サーバ データベース ファイルの公開	1482
証明書サーバのトラストポイント	1482
証明書失効リスト (CRL)	1483
証明書サーバのエラー状態	1484
証明書サーバを使用した証明書登録	1484
SCEP 登録	1485
CA サーバのタイプ：下位および登録局 (RA)	1485
自動 CA 証明書およびキー ロールオーバー	1486
自動 CA 証明書ロールオーバーの動作原理	1486
暗号化ハッシュ関数を指定するためのサポート	1488
証明書サーバの設定および展開方法	1488
証明書サーバの RSA キー ペアの生成	1488
証明書サーバの設定	1491
自動 CA 証明書ロールオーバーに関する前提条件	1491
自動 CA 証明書ロールオーバーに関する制約事項	1492
証明書サーバの設定	1492
下位証明書サーバの設定	1494
証明書サーバを RA モードで実行するように設定	1502
RA モード証明書サーバに登録作業を委任するためのルート証明書サーバの設定	1504
次の作業	1505
証明書サーバ機能の設定	1505
証明書サーバのデフォルト値および推奨値	1506
証明書サーバファイルの保管および公開場所	1506
自動 CA 証明書ロールオーバーでの作業	1510
自動 CA 証明書ロールオーバーをただちに開始する	1510
証明書サーバクライアントのロールオーバー証明書の要求	1510
CA ロールオーバー証明書のエクスポート	1511
証明書サーバ、証明書、CA の保守、検証、およびトラブルシューティング	1512

登録要求データベースの管理	1512
登録要求データベースからの要求の削除	1514
証明書サーバの削除	1515
証明書サーバと CA ステータスの検証およびトラブルシューティング	1515
CA 証明書情報の検証	1516
証明書サーバを使用するための設定例	1519
例：特定の保管および公開場所の設定	1519
例：登録要求データベースからの登録要求の削除	1520
例：証明書サーバのルート キーの自動アーカイブ化	1521
例：証明書サーババックアップ ファイルからの証明書サーバの復元	1523
例：下位証明書サーバ	1526
例：ルート証明書サーバの区別	1527
例：下位証明書サーバの出力表示	1527
例：RA モード証明書サーバ	1527
例：CA 証明書ロールオーバーを有効にしてただちに開始する	1530
次の作業	1530
PKI 展開での 証明書サーバの設定および管理に関する追加資料	1530
PKI 展開での 証明書サーバの設定および管理に関する機能情報	1532

## 第 116 章

## PKI クレデンシャルの保存 1533

PKI クレデンシャルを保存するための前提条件	1533
PKI クレデンシャルの保存に関する制約事項	1534
PKI クレデンシャルの保存について	1534
ローカルな保管場所への証明書の保存	1534
PKI クレデンシャルと USB トークン	1535
USB トークンの動作のしくみ	1535
USB トークンの応用上の利点	1536
PKI データの保管場所の設定方法	1537
証明書のローカル ストレージ場所の指定	1537
Cisco デバイスにおける USB トークンの設定と使用	1539
USB トークンによる設定の保存	1539

	USB トークンへのログインと USB トークンの設定	1539
	USB トークンの設定	1541
	USB トークンにおける管理機能の設定	1544
	USB トークンに関するトラブルシューティング	1548
	USB ポート接続のトラブルシューティング	1548
	シスコによりサポートされている USB トークンの特定	1549
	USB トークンのデバイス問題の特定	1549
	USB トークン情報の表示	1551
	PKI データの保存に関する設定例	1552
	例：特定のローカルな保管場所への証明書の保存	1552
	例：USB トークンへのログインと USB トークンへの RSA キーの保存	1553
	その他の参考資料	1554
	PKI クレデンシャルの保存に関する機能情報	1555
<hr/>		
第 117 章	<b>CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能</b>	<b>1557</b>
	CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能の詳細	1557
	エンティティを識別する証明書	1557
	トラストポイントに関連付けられた発信 TCP 接続の送信元インターフェイス	1558
	CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能の設定方法	1558
	トラストポイントに関連付けられたすべての発信 TCP 接続のインターフェイスの設定	1558
	トラブルシューティングのヒント	1560
	CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能の設定例	1561
	CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択の例	1561
	その他の参考資料	1561
	CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択の機能情報	1563
	用語集	1563
<hr/>		
第 118 章	<b>PKI トラストプール管理</b>	<b>1565</b>
	PKI トラストプール管理の前提条件	1566
	PKI トラストプール管理の制約事項	1566
	PKI トラストプール管理の情報	1566



PKI トラストプール内の CA 証明書の保管場所	1566
PKI トラストプールの更新	1566
PKI トラストプールとトラストポイントの両方での CA 処理	1567
PKI トラストプールの拡張機能	1567
PKI トラストプール管理の設定方法	1568
PKI トラストプールの証明書の手動更新	1568
オプション PKI トラストプール ポリシー パラメータの設定	1570
PKI トラストプール管理の設定例	1575
例 : PKI トラストプール管理の設定	1575
例 : アップグレード中の SSH 接続に PKI トラストプールを使用	1576
PKI トラストプール管理の追加資料	1579
PKI トラストプール管理の機能情報	1580

---

 第 119 章

<b>トラストポイントの PKI 分割 VRF</b>	<b>1581</b>
トラストポイントの PKI 分割 VRF に関する情報	1581
トラストポイントの PKI 分割 VRF の概要	1581
トラストポイントの PKI 分割 VRF の設定方法	1582
分割 VRF の設定	1582
トラストポイントの PKI 分割 VRF の設定例	1583
例 : トラストポイントの PKI 分割 VRF の設定	1583
トラストポイントの PKI 分割 VRF の追加資料	1584
Cisco TrustSec の概要の機能情報	1584

---

 第 120 章

<b>EST クライアント サポート</b>	<b>1587</b>
Cisco TrustSec の概要の機能情報	1587
EST クライアント サポートの情報	1588
EST クライアント サポートの概要	1588
EST クライアント サポートの前提条件	1588
EST クライアント サポートの制約事項	1588
EST クライアント サポートの設定方法	1588
EST を使用するためのトラストポイントの設定	1588

EST クライアントサポートの設定の確認	1590
EST クライアント サポートの設定例	1590
EST を使用するためのトラストポイントの設定	1590
EST クライアントサポートの確認	1590
EST クライアント サポートの追加資料	1592

## 第 121 章

**PKI の Route Processor Redundancy の設定 1595**

Route Processor Redundancy の設定の前提条件	1595
Route Processor Redundancy の設定に関する制約事項	1595
Route Processor Redundancy の設定方法	1596
Route Processor Redundancy SSO モードの設定	1596
Route Processor Redundancy の確認	1596
Route Processor Redundancy SSO モードの設定例	1596
Route Processor Redundancy SSO モードの確認例	1597

## 第 XII 部 :

**ゾーンベース ポリシー ファイアウォール 1601**

## 第 122 章

**ゾーンベース ポリシー ファイアウォール 1603**

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに関する機能情報	1603
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールについて	1605
トップレベル クラス マップとポリシー マップ	1605
ゾーンの概要	1605
セキュリティ ゾーン	1606
セキュリティ ゾーン ファイアウォール ポリシー	1608
セキュリティ ゾーンのメンバーとしての仮想インターフェイス	1608
ゾーン ペア	1609
ゾーンとインスペクション	1610
ゾーンと ACL	1611
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールのクラス マップとポリシー マップ	1611
レイヤ 3 およびレイヤ 4 クラス マップとポリシー マップ	1611
パラメータ マップ	1615

ファイアウォールとネットワーク アドレス変換	1616
Cisco ファイアウォールに対する WAAS サポート	1617
WAAS トラフィック フロー最適化展開シナリオ	1617
ゾーンベース ファイアウォールでの Out-of-Order パケット処理のサポート	1619
デバッグ メッセージのシミュレーション (重大度)	1620
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールのスマート ライセンスのサポート	1621
ゾーンベース ファイアウォールの再分類	1624
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの前提条件	1624
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの制約事項	1625
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定方法	1627
レイヤ3 およびレイヤ4 ファイアウォール ポリシーの設定	1627
レイヤ3 およびレイヤ4 のファイアウォール ポリシーのクラス マップの設定	1627
レイヤ3 およびレイヤ4 ファイアウォール ポリシーのポリシー マップの作成	1629
検査パラメータ マップの作成	1631
セキュリティゾーンとゾーンペアの作成、およびゾーンペアへのポリシーマップの付加	1633
NetFlow イベント ログの設定	1636
WAAS を使用したファイアウォールの設定	1638
ゾーンベース ファイアウォールの再分類の設定	1642
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定例	1643
例：レイヤ3 およびレイヤ4 ファイアウォール ポリシーの設定	1643
例：検査パラメータ マップの作成	1643
例：セキュリティゾーンとゾーンペアの作成とゾーンペアへのポリシーマップのアタッチ	1644
例：ゾーンベース ファイアウォールのフィルタごとの統計	1644
例：NetFlow イベント ログの設定	1646
例：WAAS を使用した Cisco ファイアウォールの設定	1646
例：同じゾーン内の FlexVPN と DVTI を使用したファイアウォールの設定	1648
例：別のゾーン内の FlexVPN と DVTI を使用したファイアウォールの設定	1649
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに関する追加情報	1652

---

第 123 章	<b>ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポート</b>	<b>1653</b>
	ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する制約事項	1653
	VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する情報	1654
	ファイアウォール機能の IPv6 サポート	1654
	デュアルスタック ファイアウォール	1655
	IPv6 ヘッダーのフィールドのファイアウォールアクション	1656
	IPv6 ファイアウォールセッション	1657
	フラグメント化されたパケットのファイアウォールインスペクション	1657
	ICMPv6 メッセージ	1658
	ステートフル NAT64 のファイアウォール サポート	1658
	ポートとアプリケーションのマッピング	1659
	ハイ アベイラビリティおよび ISSU	1659
	トラフィック クラスの pass アクション	1659
	ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートの設定方法	1660
	IPv6 ファイアウォールの設定	1660
	ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用	1663
	IPv6 ファイアウォールおよびステートフル NAT64 ポートアドレス変換の設定	1667
	ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートの設定例	1670
	例：IPv6 ファイアウォールの設定	1670
	例：ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用	1671
	例：IPv6 ファイアウォールとステートフル NAT64 ポートアドレス変換の設定	1671
	ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する追加情報	1672
	ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する機能情報	1673
第 124 章	<b>VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール</b>	<b>1675</b>
	VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの前提条件	1675
	VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する制約事項	1676
	VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールについて	1676
	VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール	1676

---

アドレス空間の重複	1677
VRF	1677
VRF-Lite	1678
MPLS VPN	1679
VRF 対応 NAT	1679
VRF 対応 ALG	1680
VRF 認識 IPSec	1680
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ	1681
セキュリティゾーン	1682
VRF 対応シスコ ファイアウォールの展開	1684
VRF 対応のシスコ ファイアウォールを擁する分散ネットワーク	1684
VRF 対応のシスコ ファイアウォールを擁するハブアンドスポーク ネットワーク	1685
VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの設定方法	1686
VRF、クラスマップ、およびポリシーマップの定義	1686
ゾーンとゾーン ペアの定義	1688
インターフェイスへのゾーンの適用とルートの定義	1690
VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの設定例	1692
例：VRF、クラス マップ、およびポリシー マップの定義	1692
例：ポリシー マップ、ゾーン、およびゾーン ペアの定義	1692
例：インターフェイスへのゾーンの適用とルートの定義	1693
VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する追加情報	1693
VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する機能情報	1694
用語集	1694

## 第 125 章

レイヤ 2 トランスペアレント ファイアウォール	1697
レイヤ 2 トランスペアレント ファイアウォールのサポートに関する制約事項	1697
レイヤ 2 トランスペアレント ファイアウォールについて	1698
レイヤ 2 トランスペアレント ファイアウォールのサポート	1698
レイヤ 2 トランスペアレント ファイアウォールの設定方法	1699
レイヤ 2 トランスペアレント ファイアウォールの設定例	1699
例：レイヤ 2 トランスペアレント ファイアウォールの設定	1699

レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールに関する追加情報 1701

レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールに関する機能情報 1702

---

第 126 章

**ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポート 1703**

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートに関する前提条件 1703

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートに関する情報 1704

ネストされたクラス マップ 1704

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートの設定方法 1705

2 レイヤ ネスト クラス マップの設定 1705

ネストされたクラス マップ用のポリシー マップの設定 1706

ゾーン ペアへのポリシー マップのアタッチ 1707

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートの設定例 1709

例：2 レイヤ ネストされたクラス マップの設定 1709

例：ネストされたクラス マップのポリシー マップの設定 1710

例：ゾーン ペアへのポリシー マップのアタッチ 1710

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートに関する追加情報 1710

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートに関する機能情報 1711

---

第 127 章

**ゾーン不一致処理 1713**

ゾーン不一致処理に関する制約事項 1713

ゾーン不一致処理に関する情報 1713

ゾーン不一致処理の概要 1713

ゾーン不一致処理機能の導入シナリオ 1714

ゾーン不一致処理の設定方法 1715

ゾーン不一致処理の設定 1715

ゾーン不一致処理の設定例 1717

例：ゾーン不一致処理の設定	1717
ゾーン不一致処理に関する追加情報	1718
ゾーン不一致処理に関する機能情報	1718

## 第 128 章

<b>ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の設定</b>	<b>1721</b>
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の前提条件	1721
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する制約事項	1722
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性について	1722
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の機能	1722
排他的仮想 IP アドレスと排他的仮想 MAC アドレス	1725
サポートされるトポロジ	1726
LAN/LAN	1726
ゾーンベース ファイアウォールでの VRF 対応シャーシ間冗長性	1726
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の設定方法	1727
冗長アプリケーショングループの設定	1727
冗長グループプロトコルの設定	1728
仮想 IP アドレスおよび冗長インターフェイス識別子の設定	1730
コントロールインターフェイスおよびデータ インターフェイスの設定	1731
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の管理とモニタリング	1732
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の設定例	1735
例：冗長アプリケーショングループの設定	1735
例：冗長グループプロトコルの設定	1735
例：仮想 IP アドレスと冗長インターフェイス識別子の設定	1736
例：コントロールインターフェイスとデータ インターフェイスの設定	1736
例：LAN-LAN トポロジの設定	1736
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する追加情報	1739
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する機能情報	1740

## 第 129 章

<b>Cisco CSR1000v ルータに対するファイアウォール ボックスツーマルティ ハイ アベイラビリティ サポート</b>	<b>1743</b>
---	-------------

Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートの前提条件	1743
Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートに関する制約事項	1744
Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックス高可用性サポートについて	1744
Cisco CSR1000v でのファイアウォールボックスツーボックス高可用性サポートの機能	1744
Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートの設定例	1747
例：Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティの設定	1747
Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティに関する追加情報	1748
Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティに関する機能情報	1749
<hr/>	
第 130 章	ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポート 1751
	ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティングサポートに関する制約事項 1751
	ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティングサポートに関する情報 1752
	非対称ルーティングの概要 1752
	ファイアウォールでの非対称ルーティング サポート 1754
	NAT での非対称ルーティング 1754
	WAN-LAN トポロジでの非対称ルーティング 1755
	ゾーンベース ファイアウォールでの VRF 対応非対称ルーティング 1756
	NAT での VRF 対応非対称ルーティング 1757
	ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティングサポートの設定方法 1757
	冗長アプリケーショングループおよび冗長グループプロトコルの設定 1757
	データ、コントロール、および非対称ルーティング インターフェイスの設定 1760
	インターフェイスでの冗長インターフェイス識別子および非対称ルーティングの設定 1762
	非対称ルーティングを使用したダイナミック内部送信元変換の設定 1763



ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートの 設定例	1766
例：冗長アプリケーショングループと冗長グループプロトコルの設定	1766
例：データ、コントロール、および非対称ルーティング インターフェイスの設定	1766
例：インターフェイスでの冗長インターフェイス識別子と非対称ルーティングの設定	1767
例：非対称ルーティングを使用したダイナミック内部送信元変換の設定	1767
例：対称ルーティング ボックスツーボックス冗長性を使用した WAN-WAN トポロジ用の VRF 対応 NAT の設定	1767
例：VRF を使用した非対称ルーティングの設定	1770
ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートに 関する追加情報	1770
ゾーンベース ファイアウォールおよび NAT のシャーシ間非対称ルーティング サポートの機 能情報	1771

## 第 131 章

IPv6 ゾーンベース ファイアウォールのボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポート  
1773

IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する前提条件	1774
IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する制約事項	1774
IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する情報	1775
ゾーンベース ポリシー ファイアウォール ハイ アベイラビリティの概要	1775
ボックスツーボックス ハイアベイラビリティの動作	1775
アクティブ/アクティブ フェールオーバー	1778
アクティブ/スタンバイ フェールオーバー	1778
NAT ボックスツーボックス高可用性 LAN/LAN トポロジ	1778
WAN-LAN トポロジ	1779
排他的仮想 IP アドレスと排他的仮想 MAC アドレス	1780
FTP66 ALG サポートの概要	1780
IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートの設定方法	1781
冗長グループ プロトコルの設定	1781

冗長アプリケーショングループの設定	1782
コントロールインターフェイスおよびデータ インターフェイスの設定	1784
LAN トラフィック インターフェイスの設定	1785
WAN トラフィック インターフェイスの設定	1787
IPv6 ファイアウォールの設定	1789
ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用	1792
IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートの設定例	1795
例：冗長グループ プロトコルの設定	1795
例：冗長アプリケーショングループの設定	1796
例：コントロールインターフェイスとデータ インターフェイスの設定	1796
例：LAN トラフィック インターフェイスの設定	1796
例：WAN トラフィック インターフェイスの設定	1796
例：IPv6 ファイアウォールの設定	1797
例：ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用	1797
IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する追加情報	1798
IPv6 ゾーンベース ファイアウォールのボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートの機能情報	1798

## 第 132 章

<b>ICMP のファイアウォール ステートフル インспекション</b>	<b>1801</b>
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの前提条件	1801
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの制約事項	1802
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションについて	1802
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの概要	1802
ICMP インспекション チェック	1804
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの設定方法	1804
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの設定	1804
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの確認	1807
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの設定例	1809
例：ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの設定	1809
ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションに関する追加情報	1810

ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションに関する機能情報 1811

## 第 133 章

### LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性 1813

LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する機能情報 1813

LISP およびゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の前提条件 1814

LISP およびゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する制約事項 1815

LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する情報 1815

LISP の概要 1815

ゾーンベース ファイアウォールと LISP の相互運用性の概要 1816

LISP 機能の相互運用性 1817

ゾーンベース ファイアウォールおよび LISP 統合のシャーシ内およびシャーシ間ハイ アベイラビリティ 1817

LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の設定方法 1818

LISP 内部パケット インспекションの有効化 1818

LISP 内部パケット インспекションのシャーシ間ハイ アベイラビリティの設定 1820

シャーシ間ハイ アベイラビリティのための xTR サウスバウンドインターフェイスの設定 1820

LISP 内部パケット インспекションのための xTR ノースバウンドインターフェイスの設定 1822

LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の設定例 1825

例 : LISP 内部パケット インспекションの有効化 1825

LISP 内部パケット インспекションのシャーシ間ハイ アベイラビリティの設定 1827

LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する追加情報 1827

## 第 134 章

### アプリケーション認識型ファイアウォール 1829

アプリケーション認識型ファイアウォールに関する機能情報 1829

ゾーンベース FW でのアプリケーション認識に関する情報 1830

アプリケーション認識型ファイアウォールの前提条件 1830

アプリケーション認識型ゾーンベース FW に関する制約事項 1830

ネットワークレイヤ L3/L4 に基づくポリシー 1831

ZBFW での NBAR ベースアプリケーション認識の設定方法 1831

レイヤ 4 ゾーンベース ファイアウォールの設定 1831

アプリケーション認識型ファイアウォールの L7 サービスポリシー	1832
例：アプリケーション認識型 show コマンド	1833
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する追加情報	1834

## 第 135 章

**Skippy Client Control Protocol のファイアウォール サポート 1837**

Skippy Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する前提条件	1837
Skippy Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する制約事項	1838
Skippy Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する情報	1838
アプリケーション レベル ゲートウェイ	1838
SCCP インспекションの概要	1839
ALG--SCCP バージョン 17 サポート	1840
Skippy Client Control Protocol のファイアウォール サポートの設定方法	1841
Skippy クラス マップとポリシー マップの設定	1841
ゾーン ペアの設定および SCCP ポリシー マップのアタッチ	1843
Skippy Control Protocol のファイアウォール サポートの設定例	1845
例：SCCP クラス マップとポリシー マップの設定	1845
例：ゾーン ペアの設定と SCCP ポリシー マップのアタッチ	1846
Skippy Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する追加情報	1846
Skippy Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する機能情報	1847

## 第 136 章

**VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポート 1851**

VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する制約事項	1851
VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する情報	1852
VASI の概要	1852
VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートの設定方法	1854
VRF とアドレス ファミリ セッションの設定	1854
VASI サポート用のクラス マップとポリシー マップの設定	1855
VASI サポートのゾーンおよびゾーン ペアの設定	1857
VASI インターフェイスの設定	1860

VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートの設定例	1862
例：VRF とアドレス ファミリ セッションの設定	1862
例：VASI サポート用のクラス マップとポリシー マップの設定	1862
例：VASI サポート用のゾーンとゾーン ペアの設定	1863
例：VASI インターフェイスの設定	1863
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する追加情報	1864
VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する機能情報	1864

---

**第 137 章**

<b>VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定</b>	<b>1867</b>
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャに関する制約事項	1867
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定について	1868
VASI の概要	1868
VASI でのマルチキャストおよびマルチキャスト VPN	1870
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定方法	1870
VASI インターフェイス ペアの設定	1870
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定例	1873
例：VASI インターフェイス ペアの設定	1873
例：VASI 上のマルチキャストと MVPN の設定	1873
マルチキャスト VASI 設定の確認	1879
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定に関する追加情報	1880
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定に関する機能情報	1881

---

**第 138 章**

<b>IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポート</b>	<b>1885</b>
IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する制約事項	1885
IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する情報	1886
アプリケーション レベル ゲートウェイ	1886
FTP66 ALG サポートの概要	1886
FTP66 ALG でサポートされる FTP コマンド	1887
IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートの設定方法	1889
FTP66 ALG サポート用のファイアウォールの設定	1889

FTP66 ALG サポート用の NAT の設定	1893
FTP66 ALG サポート用 NAT64 の設定	1896
IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートの設定例	1899
例：FTP66 ALG サポート用の IPv6 ファイアウォールの設定	1899
例：FTP66 ALG サポート用の NAT の設定	1900
例：FTP66 ALG サポート用の NAT64 の設定	1900
IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する追加情報	1901
IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する機能情報	1902

## 第 139 章

## 分散型サービス妨害攻撃に対する保護 1903

分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する情報	1903
ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージング	1903
イベント レート モニタリング機能	1904
ハーフオープン接続の制限	1906
TCP SYN フラッド攻撃	1906
分散型サービス妨害攻撃に対する防御の設定方法	1907
ファイアウォールの設定	1907
ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングの設定	1911
ボックス単位のアグレッシブ エージングの設定	1911
デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定	1913
ファイアウォールセッションのエージングアウトの設定	1916
VRF 単位のアグレッシブ エージングの設定	1919
ファイアウォール イベント レート モニタリングの設定	1923
ボックス単位のハーフオープンセッション制限の設定	1925
VRF 検査パラメータ マップ用のハーフオープンセッション制限の設定	1927
グローバル TCP SYN フラッド制限の設定	1929
分散型サービス妨害攻撃に対する保護の設定例	1931
例：ファイアウォールの設定	1931
例：ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングの設定	1932
例：ボックス単位のアグレッシブ エージングの設定	1932
例：デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定	1932

例：ファイアウォールセッションのエージングアウトの設定	1932
例：VRF 単位のアグレッシブ エージングの設定	1932
例：ファイアウォール イベント レート モニタリングの設定	1933
例：ボックス単位のハーフオープンセッション制限の設定	1933
例：検査 VRF パラメータ マップに対するハーフオープンセッション制限の設定	1934
例：グローバル TCP SYN フラッド制限の設定	1934
分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する追加情報	1934
分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する機能情報	1935

---

**第 140 章**
**ファイアウォール リソース管理の設定 1937**

ファイアウォール リソース管理の設定に関する制約事項	1937
ファイアウォール リソース管理の設定について	1937
ファイアウォール リソース管理	1937
VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール	1938
ファイアウォールセッション	1938
セッション定義	1938
セッションレート	1939
未完了またはハーフオープンセッション	1939
ファイアウォール リソース管理セッション	1939
ファイアウォール リソース管理の設定方法	1940
ファイアウォール リソース管理の設定	1940
ファイアウォール リソース管理の設定例	1942
例：ファイアウォール リソース管理の設定	1942
その他の参考資料	1942
ファイアウォール リソース管理の設定に関する機能情報	1943

---

**第 141 章**
**IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポート 1945**

IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃からの保護およびリソース管理のサポートの制約事項	1946
IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートに関する情報	1946

ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージング	1946
イベント レート モニタリング機能	1947
ハーフオープン接続の制限	1948
TCP SYN フラッド攻撃	1949
ファイアウォール リソース管理	1949
ファイアウォールセッション	1950
セッション定義	1950
セッション レート	1951
未完了またはハーフオープンセッション	1951
ファイアウォール リソース管理セッション	1951
IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの 設定方法	1951
IPv6 ファイアウォールの設定	1951
ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングの設定	1954
ボックス単位のアグレッシブ エージングの設定	1955
デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定	1957
VRF 単位のアグレッシブ エージングの設定	1959
ファイアウォールセッションのエージングアウトの設定	1963
ファイアウォール イベント レート モニタリングの設定	1967
ボックス単位のハーフオープンセッション制限の設定	1969
VRF 検査パラメータ マップ用のハーフオープンセッション制限の設定	1971
グローバル TCP SYN フラッド制限の設定	1973
ファイアウォール リソース管理の設定	1975
IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの 設定例	1977
例：IPv6 ファイアウォールの設定	1977
例：ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングの設定	1977
例：ボックス単位のアグレッシブ エージングの設定	1977
例：デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定	1978
例：VRF 単位のアグレッシブ エージングの設定	1978
例：ファイアウォールセッションのエージングアウトの設定	1978



- 例：ファイアウォール イベント レート モニタリングの設定 1979
- 例：ボックス単位のハーフオープンセッション制限の設定 1979
- 例：検査 VRF パラメータ マップに対するハーフオープンセッション制限の設定 1979
- 例：グローバル TCP SYN フラッド制限の設定 1980
- 例：ファイアウォール リソース管理の設定 1980
- IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートに関する追加情報 1980
- IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの機能情報 1981

---

## 第 142 章

### フローあたりの同時パケットの設定可能数 1983

- フローあたりの同期パケットの設定可能数に関する制約事項 1983
- フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する情報 1984
  - 設定可能なフローごとの同時パケット数の概要 1984
- フローあたりの同時パケット数の設定方法 1985
  - フローあたりの同時パケットのクラス マップとポリシー マップの設定 1985
  - フローあたりの同時パケット数の設定 1986
  - フローあたりの同時パケットのゾーンの設定 1988
- フローあたりの同時パケットの設定可能数の設定例 1990
  - 例：フローあたりの同時パケットのクラス マップとポリシー マップの設定 1990
  - 例：フローあたりの同時パケット数の設定 1991
  - 例：フローあたりの同時パケットのゾーンの設定 1991
- フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する追加情報 1992
- フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する機能情報 1992

---

## 第 143 章

### ファイアウォール高速ロギング 1995

- ファイアウォール高速ロギングに関する機能情報 1995
- ファイアウォール高速ロギングに関する情報 1996
  - ファイアウォール高速ロギングの概要 1996
- NetFlow フィールド ID の説明 1997
- HSL メッセージ 2002

ファイアウォール拡張イベント	2009
ファイアウォール高速ロギングの設定方法	2020
グローバルパラメータマップの高速ロギングの有効化	2020
ファイアウォールアクションの高速ロギングの有効化	2021
ファイアウォール高速ロギングの設定例	2023
例：グローバルパラメータマップの高速ロギングの有効化	2023
例：ファイアウォールアクションの高速ロギングの有効化	2024
ファイアウォール高速ロギングに関する追加情報	2024

## 第 144 章

**TCP リセット セグメント制御 2025**

TCP リセット セグメント制御について	2025
TCP リセット セグメント制御	2025
TCP リセット セグメント制御の設定方法	2026
ハーフオープンセッションの TCP リセットの設定	2026
ハーフクローズセッションの TCP リセットの設定	2027
アイドルセッションの TCP リセットの設定	2029
TCP リセット セグメント制御の設定例	2030
例：ハーフオープンセッションの TCP リセットの設定	2030
例：ハーフクローズセッションの TCP リセットの設定	2030
例：アイドルセッションの TCP リセットの設定	2030
TCP リセット セグメント制御に関する追加情報	2031
TCP リセット セグメント制御に関する機能情報	2032

## 第 145 章

**ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプション 2033**

ゾーンベース ポリシーファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションに関する情報	2033
TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションの概要	2033
ゾーンベース ポリシーファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションの設定方法	2034
ファイアウォールの TCP ウィンドウ スケーリング オプションの設定	2034
TCP ウィンドウ スケーリングのゾーンとゾーン ペアの設定	2036

TCP ウィンドウ スケーリングの設定例	2038
例：ファイアウォールの TCP ウィンドウ スケーリング オプションの設定	2038
例：TCP ウィンドウ スケーリングのゾーンとゾーン ペアの設定	2038
ゾーンベース ポリシーファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズチェック オプションに関する機能情報	2038

## 第 146 章

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化	2041
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する情報	2042
アプリケーション レベル ゲートウェイ	2042
レイヤ 7 アプリケーション プロトコル インспекションの有効化の概要	2042
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化方法	2043
ファイアウォールのレイヤ 7 アプリケーション プロトコル インспекションの有効化	2043
レイヤ 7 アプリケーション プロトコル インспекションを有効にするためのゾーンの設定	2046
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化の設定例	2048
例：ファイアウォールでのレイヤ 7 アプリケーション プロトコル インспекションの有効化	2048
例：レイヤ 7 アプリケーション プロトコル インспекションを有効化するゾーンの設定	2049
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する追加情報	2049
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する機能情報	2050

## 第 147 章

ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定	2053
ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定に関する制約事項	2053
ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定について	2054
TCP SYN フラッド攻撃	2054
ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定方法	2055
ファイアウォール ホスト保護の設定	2055
ファイアウォール セッション テーブル保護の設定	2057
グローバルルーティング ドメインでのファイアウォールセッションテーブル保護の設定	2057
VRF ドメインでのファイアウォールセッションテーブル保護の設定	2058

ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定例	2060
ファイアウォール ホスト保護の設定例	2060
ファイアウォール セッション テーブル保護の設定例	2061
ファイアウォール TCP SYN Cookie に関する追加情報	2061
ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定に関する機能情報	2062

## 第 148 章

**ACL のオブジェクト グループ 2065**

機能情報の確認	2065
ACL のオブジェクト グループに関する制約事項	2066
ACL のオブジェクト グループに関する情報	2066
ACL のオブジェクト グループの概要	2066
ゾーンベース ファイアウォールとオブジェクト グループの統合	2066
ネットワーク オブジェクト グループで許可されるオブジェクト	2067
サービス オブジェクト グループで許可されるオブジェクト	2067
オブジェクト グループに基づく ACL	2067
オブジェクト グループ ACL のガイドライン	2068
ACL のオブジェクト グループの設定方法	2068
ネットワーク オブジェクト グループの作成	2069
サービス オブジェクト グループの作成	2071
オブジェクト グループ ベース ACL の作成	2073
オブジェクト グループのクラス マップとポリシー マップの設定	2077
オブジェクト グループのゾーンの設定	2078
オブジェクト グループのゾーン ペアへのポリシー マップの適用	2080
ACL のオブジェクト グループの確認	2080
ACL 用オブジェクト グループの設定例	2081
例：IPv6 ネットワーク オブジェクト グループの作成	2081
例：IPv6 サービス オブジェクト グループの作成	2082
例：IPv6 オブジェクトグループベースの ACL の作成	2082
例：オブジェクト グループのクラス マップとポリシー マップの設定	2082
例：オブジェクト グループのゾーンの設定	2083
例：オブジェクト グループのゾーン ペアへのポリシー マップの適用	2083

例 : ACL 用 IPv6 オブジェクトグループの確認	2083
ACL 用オブジェクト グループに関する追加情報	2084
ACL 用 IPv6 オブジェクトグループに関する機能情報	2084

---

**第 149 章**
**Cisco ファイアウォール SIP 機能拡張 ALG 2087**

Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG の前提条件	2087
Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG に関する制約事項	2087
Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG について	2088
SIP の概要	2088
SIP 用ファイアウォールの機能の説明	2088
SIP インスペクション	2089
ALG--SIP Over TCP の拡張機能	2090
Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG の設定方法	2090
SIP インスペクションの有効化	2090
トラブルシューティングのヒント	2092
ゾーン ペアの設定と SIP ポリシー マップのアタッチ	2092
シスコ ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG の設定例	2094
例 : SIP インスペクションの有効化	2094
例 : ゾーン ペアの設定と SIP ポリシー マップのアタッチ	2095
シスコ ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG に関する追加情報	2095
Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG に関する機能情報	2096

---

**第 150 章**
**ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポート 2099**

ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する前提条件	2099
ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する制約事項	2100
ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する情報	2100
アプリケーション レベル ゲートウェイ	2100
MSRPC	2101
ファイアウォールでの MSRPC ALG	2101
NAT での MSRPC ALG	2102
MSRPC ステートフル パーサー	2102

ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートの設定方法	2103
レイヤ 4 MSRPC クラス マップおよびポリシー マップの設定	2103
ゾーン ペアの設定および MSRPC ポリシー マップのアタッチ	2104
MSRPC ALG の vTCP サポートの有効化	2106
MSRPC ALG の vTCP サポートの無効化	2107
ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートの設定例	2108
例：レイヤ 4 MSRPC クラス マップとポリシー マップの設定	2108
例：ゾーン ペアの設定と MSRPC ポリシー マップのアタッチ	2108
例：MSRPC ALG に対する vTCP サポートの有効化	2108
例：MSRPC ALG に対する vTCP サポートの無効化	2109
ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する機能情報	2109

## 第 151 章

## ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポート 2111

ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートに関する制約事項	2111
ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートについて	2112
アプリケーション レベル ゲートウェイ	2112
Sun RPC	2112
ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートの設定方法	2113
Sun RPC ALG 用のファイアウォールの設定	2113
ファイアウォール ポリシー用のレイヤ 4 クラス マップの設定	2113
ファイアウォール ポリシー用のレイヤ 7 クラス マップの設定	2115
Sun RPC ファイアウォール ポリシー マップの設定	2116
レイヤ 7 ポリシー マップをレイヤ 4 ポリシー マップにアタッチする	2117
セキュリティゾーンとゾーン ペアの作成、およびゾーン ペアへのポリシー マップの付加	2118
ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートの設定例	2121
例：ファイアウォール ポリシー用のレイヤ 4 クラス マップの設定	2121
例：ファイアウォール ポリシー用のレイヤ 7 クラス マップの設定	2121
例：Sun RPC ファイアウォール ポリシー マップの設定	2122
例：レイヤ 4 ポリシー マップへのレイヤ 7 ポリシー マップのアタッチ	2122

例：セキュリティゾーンとゾーンペアの作成とゾーンペアへのポリシーマップのアタッチ **2122**

例：Sun RPC ALG 用のファイアウォールの設定 **2122**

ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートに関する追加情報 **2123**

ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートに関する機能情報 **2124**

## 第 152 章

### ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポート **2125**

ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する情報 **2125**

パケットトレース **2125**

条件付きデバッグ **2126**

デバッグログ **2126**

ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する追加情報 **2127**

ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する機能情報 **2128**

## 第 153 章

### ファイアウォールと NAT に対するハイアベイラビリティサポートを使用した ALG - H.323 vTCP **2129**

ファイアウォールと NAT に対するハイアベイラビリティサポートを使用した ALG - H.323 vTCP に関する制約事項 **2130**

ファイアウォールと NAT に対するハイアベイラビリティサポートを使用した ALG - H.323 vTCP に関する情報 **2130**

アプリケーションレベルゲートウェイ **2130**

基本 H.323 ALG サポート **2131**

vTCP for ALG サポートの概要 **2131**

NAT ALG とファイアウォール ALG を使用した vTCP **2132**

ALG の概要：高可用性をサポートする H.323 vTCP **2132**

ファイアウォールと NAT に対するハイアベイラビリティサポートを使用した ALG - H.323 vTCP の設定方法 **2133**

ALG の設定：ファイアウォール用のハイアベイラビリティサポートを備えた H.323 vTCP **2133**

ファイアウォールおよび NAT 対応のハイ アベイラビリティ サポートを備えた ALG—H.323 vTCP の設定例	2136
例：ファイアウォールに対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP の設定	2136
ファイアウォールおよび NAT 対応のハイ アベイラビリティ サポートを備えた ALG-H.323 vTCP に関する追加情報	2137
ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP に関する機能情報	2138

## 第 154 章

**NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化** 2139

NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する制約事項	2139
NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する情報	2140
SIP の概要	2140
アプリケーション レベル ゲートウェイ	2140
SIP ALG ローカル データベース管理	2141
SIP ALG Via ヘッダーのサポート	2142
SIP ALG メソッド ロギングのサポート	2142
SIP ALG PRACK コール フローのサポート	2142
SIP ALG Record-Route ヘッダーのサポート	2143
NAT とファイアウォールに対する SIP ALG 強化の設定方法	2143
SIP の NAT サポートの有効化	2143
SIP インспекションの有効化	2144
ゾーン ペアの設定と SIP ポリシー マップのアタッチ	2145
NAT とファイアウォールに対する SIP ALG 強化の設定例	2148
例：SIP サポート用の NAT の有効化	2148
例：SIP インспекションの有効化	2148
例：ゾーン ペアの設定と SIP ポリシー マップのアタッチ	2148
NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する追加情報	2149
NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する機能情報	2150

## 第 155 章

**DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンス** 2151

DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスに関する情報	2151
---------------------------------	------



DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの概要	2151
SIP ALG 動的ブラックリスト	2152
SIP ALG ロック制限	2152
SIP ALG タイマー	2153
DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定方法	2153
DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定	2153
DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの確認	2155
DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定例	2157
例 : DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定	2157
DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスに関する追加情報	2157

---

第 XIII 部 :	「Security for VPNs with IPsec」	2159
------------	--------------------------------	------

---

第 156 章	IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定	2161
	IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する前提条件	2161
	IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する制約事項	2162
	IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する情報	2163
	Supported Standards	2163
	サポートされるカプセル化	2166
	IPsec 機能の概要	2166
	IKEv1 トランスフォーム セット	2166
	IKEv2 トランスフォーム セット	2167
	トランスフォーム セット : セキュリティ プロトコルとアルゴリズムの組み合わせ	2167
	トランスフォーム セットの概要	2167
	IKE および IPsec 暗号化アルゴリズムのための Cisco IOS Suite-B のサポート	2169
	Suite-B の要件	2169
	Suite-B の設定情報の入手先	2170
	IPsec VPN の設定方法	2171
	クリプト アクセス リストの作成	2171
	次の作業	2172
	IKEv1 および IKEv2 プロポーザルのトランスフォーム セットの設定	2172

機能制限	2172
IKEv1 のトランスフォーム セットの設定	2173
IKEv2 のトランスフォーム セットの設定	2174
セキュリティ アソシエーションの強度適用の有効化	2177
セキュリティ アソシエーションの強度適用について	2177
セキュリティ アソシエーションの強度適用の設定方法	2179
セキュリティ アソシエーションの強度適用の設定例	2180
セキュリティ アソシエーションの強度適用の確認	2180
クリプト マップ セットの作成	2180
スタティック クリプト マップの作成	2181
ダイナミック クリプト マップの作成	2184
手動による SA を確立するためのクリプト マップ エントリの作成	2189
インターフェイスへのクリプト マップ セットの適用	2191
IPsec VPN の設定例	2193
例 : AES ベースのスタティック暗号マップの設定	2193
IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する追加のリファレンス	2194
IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する機能情報	2196
用語集	2197

## 第 157 章

<b>IPsec 仮想トンネル インターフェイス</b>	<b>2199</b>
IPsec 仮想トンネル インターフェイスの制約事項	2199
IPsec 仮想トンネル インターフェイスに関する情報	2200
IPsec 仮想トンネル インターフェイスを使用するメリット	2201
スタティック仮想トンネル インターフェイス	2201
SVTI のマルチ SA サポート	2201
SVTI に対するデュアルスタックのサポート	2203
ダイナミック仮想トンネル インターフェイス	2203
IPsec 仮想トンネル インターフェイスを使用したトラフィックの暗号化	2205
ダイナミック仮想トンネル インターフェイスのライフ サイクル	2206
IPsec 仮想トンネル インターフェイスを使用したルーティング	2206
FlexVPN 混合モードのサポート	2206

IPsec での自動トンネル モードのサポート	2207
VTI に対する IPsec 混合モードのサポート	2207
IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定方法	2207
スタティック IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定	2207
IPsec 仮想トンネルインターフェイスを介した BGP の設定	2209
ダイナミック IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定	2211
IKEv1 を使用したダイナミック仮想トンネルインターフェイスのマルチ SA サポートの設定	2213
SVTI に対する IPsec 混合モードのサポートの設定	2217
ダイナミック VTI に対する IPsec 混合モードのサポートの設定	2219
スタティック IPsec 仮想トンネルインターフェイスのマルチ SA サポートの設定	2221
デュアルオーバーレイとしてのトンネルモードの設定	2223
IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定例	2225
例：IPsec を使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス	2225
例：IPsec スタティック仮想トンネルインターフェイスの結果の確認	2226
例：VRF 認識スタティック仮想トンネル インターフェイス	2227
例：QoS を使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス	2228
例：仮想ファイアウォールを使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス	2229
例：ダイナミック仮想トンネル インターフェイス Easy VPN サーバ	2230
例：ダイナミック仮想トンネルインターフェイス Easy VPN サーバの結果の確認	2231
例：VRF が仮想テンプレートに基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec	2232
例：VRF が仮想テンプレートと IPsec プロファイル内のゲートウェイ オプションに基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec	2233
例：VRF が ISAKMP プロファイルに基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec	2234
例：VRF が ISAKMP プロファイルと IPsec プロファイル内のゲートウェイ オプションに基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec	2234
例：VRF が仮想テンプレートと ISAKMP プロファイルの両方に基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec	2235
例：仮想ファイアウォールを使用したダイナミック仮想トンネル インターフェイス	2236
例：QoS を使用したダイナミック仮想トンネルインターフェイス	2237

例：複数の IPsec SA を使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス	2238
例：デュアルオーバーレイとしてのトンネルモードの設定	2240
IPsec 仮想トンネルインターフェイスに関する追加のリファレンス	2243
IPsec 仮想トンネルインターフェイスに関する機能情報	2244

## 第 158 章

**Session Initiation Protocol トリガー VPN 2249**

VPN SIP の機能情報	2250
VPN SIP の情報	2250
VPN SIP ソリューションのコンポーネント	2250
Session Initiation Protocol	2250
VPN SIP のソリューション	2251
機能一覧	2251
SIP コールフロー	2252
IKEv2 ネゴシエーション	2254
VPN SIP の前提条件	2255
VPN SIP の制約事項	2255
VPN SIP の設定方法	2256
VPN SIP の設定	2256
ローカル ルータの VPN SIP の確認	2260
VPN SIP の設定例	2262
VPN SIP の DHCP の設定	2263
ホームゲートウェイ配下での接続	2263
ホームゲートウェイ配下での接続	2264
DHCP クライアントの有効化	2264
DHCP クライアントを有効にする設定例	2266
トンネリング認証の設定	2266
証明書を使用したトンネル認証の設定	2266
例：証明書を使用したトンネル認証の設定	2268
自己署名証明書を使用したトンネル認証の設定	2268
事前共有キーを使用したトンネル認証の設定	2268
例：事前共有キーを使用したトンネル認証の設定	2270

証明書の IKEv2 プロファイルの設定	2270
IPsec プロファイルの設定	2270
VPN SIP を有効化します。	2271
LAN 側インターフェイスの設定	2271
ループバック インターフェイスの設定	2271
トンネルインターフェイスの設定	2271
例：トンネルインターフェイスの設定	2273
VPN-SIP での DHCP 設定の確認	2273
VPN SIP のトラブルシューティング	2275
VPN SIP に関する追加情報	2283

## 第 159 章

<b>失効したピア証明書の暗号セッションの削除</b>	<b>2285</b>
失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する制約事項	2285
失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する情報	2286
暗号セッションの削除方法	2286
失効したピア証明書の暗号セッションの削除のイネーブル化方法	2286
暗号セッションの削除の有効化	2286
失効したピア証明書の暗号セッションの削除機能の確認	2288
失効したピア証明書の暗号セッションを削除する設定例	2288
例：IKE セッションの暗号セッションの削除のイネーブル化	2288
例：IKEv2 セッションの暗号セッションの削除のイネーブル化	2289
失効したピアの暗号セッションの削除に関する追加のリファレンス	2289
失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する機能情報	2290

## 第 160 章

<b>暗号条件付きデバッグ サポート</b>	<b>2293</b>
暗号条件付きデバッグ サポートの前提条件	2293
暗号条件付きデバッグ サポートの制約事項	2293
暗号条件付きデバッグ サポートに関する情報	2294
サポートされる条件タイプ	2294
暗号条件付きデバッグ サポートのイネーブル化方法	2295
暗号条件付きデバッグ メッセージのイネーブル化	2295

パフォーマンス上の考慮事項	2295
暗号条件付きデバッグのディセーブル化	2296
暗号エラー デバッグ メッセージのイネーブル化	2297
デバッグ暗号エラー CLI	2298
暗号条件付きデバッグ CLI の設定例	2298
暗号条件付きデバッグのイネーブル化の例	2298
暗号条件付きデバッグのディセーブル化の例	2299
その他の参考資料	2299
暗号条件付きデバッグ サポートに関する機能情報	2301

---

**第 161 章****IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 2303**

IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の前提条件	2303
IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の制約事項	2303
IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 に関する情報	2304
IPsec を使用した GRE トンネル	2304
IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の設定方法	2305
クリプト マップを使用した IPv4 GRE 暗号化経由の IPv6 の設定	2305
トンネル保護を使用した IPv4 GRE 暗号化経由の IPv6 の設定	2309
IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の設定例	2313
クリプト マップを使用した IPv4 GRE 暗号化経由の IPv6 の設定例	2313
トンネル保護を使用した IPv4 GRE 暗号化経由の IPv6 の設定例	2313
その他の参考資料	2314
IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 に関する機能情報	2315

---

**第 162 章****RFC 430x IPsec サポート 2317**

RFC 430x IPsec サポートに関する情報	2317
RFC 430x IPsec サポート フェーズ 1	2317
RFC 430x IPsec サポート フェーズ 2	2318
RFC 430x IPsec サポートの設定方法	2318
RFC 430x IPsec サポートのグローバル設定	2318
クリプト マップ単位の RFC 430x IPsec サポートの設定	2319

RFC 430x IPsec サポートの設定例	2322
例：RFC 430x IPsec サポートのグローバル設定	2322
例：クリプト マップ単位の RFC 430x IPsec サポートの設定	2322
RFC 430x IPsec サポートに関する追加のリファレンス	2323
RFC 430x IPsec サポートに関する機能情報	2324

## 第 XIV 部：

## 統合脅威防御 2325

## 第 163 章

## Cisco Firepower Threat Defense for ISR 2327

Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関する制限事項	2327
Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関する情報	2327
Cisco FirePOWER Threat Defense for ISR の概要	2327
UCS ベースのホスティング	2329
Cisco Firepower Threat Defense における IDS パケットフロー	2329
Firepower センサーのインターフェイス	2330
Cisco FirePOWER Threat Defense の相互運用性	2330
Cisco Firepower Threat Defense のハードウェアおよびソフトウェア要件	2331
Cisco Firepower Threat Defense ライセンスの取得	2331
Cisco Firepower Threat Defense for ISR の導入方法	2331
Firepower センサーパッケージの入手	2332
Firepower センサー OVA ファイルのインストール	2332
UCS E シリーズブレードへの Firepower センサーの取り付け	2332
Cisco UCS E シリーズブレードにおけるトラフィックのリダイレクトの設定	2333
Firepower センサーのブートストラップ	2335
IDS 検査のグローバルな有効化	2337
インターフェイスごとの IDS 検査の有効化	2339
ISR での Cisco Firepower Threat Defense の設定例	2341
例：Cisco UCS E シリーズブレードでのトラフィックリダイレクトの設定	2341
例：Firepower センサーのブートストラップ	2342
例：IDS 検査のグローバルな有効化	2342
例：インターフェイスごとの IDS 検査の有効化	2343

IDS 検査の確認とモニタリング	2343
Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関するその他の参考資料	2345
Cisco FirePOWER Threat Defense for ISR の機能に関する情報	2346

## 第 164 章

**Snort IPS 2347**

Snort IPS の制約事項	2347
Snort IPS に関する情報	2348
Snort IPS の概要	2348
Snort IPS 署名パッケージ	2349
署名更新でサポートされる Cisco IOS XE のリリースおよび UTD パッケージの最小バージョン	2349
Snort IPS ソリューション	2350
Snort 仮想サービスインターフェイスの概要	2351
仮想サービスのリソースプロファイル	2352
Snort IPS の導入	2354
Snort IPS の導入方法	2355
Snort OVA ファイルのインストール	2356
VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定	2357
Snort IPS のグローバル設定	2362
Snort IDS 検知のグローバル設定	2365
アクティブな署名のリストの表示	2369
コンテナの正常性をモニタリングするための Quality of Service (QoS) ポリシーの設定	2369
Snort IPS の設定例	2371
例：VirtualPortGroup インターフェイスおよび仮想サービスの設定	2371
例：異なるリソースプロファイルの設定	2372
例：Snort IPS のグローバル設定	2372
例：インターフェイスごとの Snort IPS 検査の設定	2372
例：インバウンドインターフェイスとアウトバウンドインターフェイスの両方での VRF を使用した UTD の設定	2373
例：IOS Syslog のロギングの設定	2374
例：中央集中型ログサーバへのロギングの設定	2375



例：Cisco サーバからの署名更新の設定	2375
例：ローカルサーバからの署名更新の設定	2375
例：自動署名更新の設定	2376
例：手動による署名の更新の実行	2376
例：署名許可リストの設定	2377
アクティブな署名の表示例	2377
例：接続ポリシーを使用したアクティブな署名の表示	2377
例：バランスの取れたポリシーを使用したアクティブな署名の表示	2377
例：セキュリティポリシーを使用したアクティブな署名の表示	2378
統合型 Snort IPS 設定の確認	2378
Cisco Prime CLI テンプレートを使用した Snort IPS の導入	2386
IOx コンテナへの移行	2387
Cisco IOx について	2387
仮想サービスコンテナから IOx へのアップグレード	2388
IOx の設定例	2390
Snort IPS のトラブルシューティング	2391
トラフィックが転送されない	2391
署名の更新が機能しない	2394
ローカルサーバからの署名の更新が機能しない	2395
IOSd Syslog へのロギングが機能しない	2396
外部サーバへのロギングが機能しない	2397
UTD 条件付きデバッグ	2397
Snort IPS に関するその他の参考資料	2397
Snort IPS の機能情報	2398
<hr/>	
第 165 章	<b>Web フィルタリング</b> 2401
	Web フィルタリング 2402
	ドメインベースのフィルタリング 2402
	許可リストフィルタを使用したドメインベースのフィルタリング 2402
	ブロックリストフィルタを使用したドメインベースのフィルタリング 2402
	URL ベースのフィルタリング 2403

クラウドロックアップ	2405
Web フィルタリングの利点	2406
Web フィルタリングの前提条件	2406
Web フィルタリングの制約事項	2406
Web フィルタリングの導入方法	2407
仮想コンテナサービスのインストールおよびアクティブ化の方法	2408
UTD OVA ファイルのインストール	2408
VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定	2409
外部ブロックサーバを使用したドメインベースの Web フィルタリングの設定	2410
ローカルブロックサーバを使用したドメインベースの Web フィルタリングの設定	2411
ローカルブロックサーバを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定	2413
インラインブロックページを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定	2415
ドメインおよび URL ベースの Web フィルタリングと Snort IPS の設定	2417
Web フィルタ設定の確認	2417
Web フィルタリングのトラブルシューティング	2418
設定例	2419
例：Web フィルタのドメインプロファイルの設定	2420
Web フィルタの URL プロファイルの設定	2420
UTD Snort IPS または IDS の許可リスト署名の設定	2420
例：Web フィルタプロファイルの設定	2420
例：Web フィルタリングイベントのアラートメッセージ	2421
例：クラウドロックアップの設定解除	2421
Cisco Web フィルタリングに関する追加の参考資料	2421
Cisco Web フィルタリングに関する機能情報	2422
<b>統合脅威防御（UTD）のマルチテナントの設定</b>	<b>2425</b>
統合脅威防御（UTD）のマルチテナントに関する情報	2425
Web フィルタリングの概要	2426
Snort IPS の概要	2426
Snort IPS ソリューション	2427
Snort 仮想サービスインターフェイスの概要	2428

統合脅威防御 (UTD) のマルチテナントの設定に関する制約事項	2429
統合脅威防御 (UTD) のマルチテナントの設定方法	2429
マルチテナント用の UTD OVA ファイルのインストール	2430
マルチテナント用の VirtualPortGroup インターフェイスと仮想サービスの設定方法	2431
マルチテナント用の VRF の設定方法	2434
マルチテナント Web フィルタリングおよび脅威検知の設定方法	2435
設定例：統合脅威防御 (UTD) のマルチテナント	2444
統合脅威防御エンジンの標準設定の確認	2446
統合脅威防御 (UTD) のマルチテナントに関するトラブルシューティング	2458
トラフィックが転送されない	2458
署名の更新が機能しない	2463
ローカルサーバからの署名の更新が機能しない	2464
IOSd Syslog へのロギングが機能しない	2464
外部サーバへのロギングが機能しない	2465
UTD 条件付きデバッグ	2466

---

 第 XV 部 :

**Umbrella 2467**


---

 第 167 章

**Cisco Umbrella 統合 2469**

Cisco Umbrella 統合の制限	2469
Cisco Umbrella 統合の前提条件	2470
Cisco Umbrella Integration を使用したクラウドベースのセキュリティサービス	2471
DNS パケットの暗号化	2471
Cisco Umbrella 統合のメリット	2472
Cisco Umbrella Connector の設定	2472
Cisco Umbrella タグの登録	2473
Cisco デバイスをパススルーサーバーとして設定	2474
DNSCrypt、リゾルバ、および公開キー	2474
Cisco Umbrella Connector の設定の確認	2475
Cisco Umbrella 統合のトラブルシューティング	2477
設定例	2477

Cisco Prime CLI テンプレートをを使用した Cisco Umbrella Integration の展開	2477
Cisco Umbrella 統合の追加情報	2478
Cisco Umbrella 統合の機能情報	2479

---

第 XVI 部 : ユーザーセキュリティ 2481

---

第 168 章	<b>Cisco IOS Login Enhancements (Login Block)</b>	<b>2483</b>
	機能情報の確認	2483
	Cisco IOS Login Enhancements について	2484
	サービス拒絶攻撃および辞書ログイン攻撃からの保護	2484
	Login Enhancements 機能の概要	2484
	連続するログイン試行間の遅延	2484
	DoS 攻撃が疑われる場合のログインシャットダウン	2485
	Cisco IOS Login Enhancement の設定方法	2485
	ログインパラメータの設定	2485
	次の作業	2487
	ログインパラメータの確認	2487
	ログインパラメータの設定例	2489
	ログインパラメータの設定例	2489
	その他の参考資料	2489
	Cisco IOS Login Enhancements (Login Block) に関する機能情報	2490

---

第 169 章	<b>パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定</b>	<b>2493</b>
	パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定の制約事項	2494
	可逆的パスワードタイプの制約事項とガイドライン	2494
	不可逆的パスワードタイプの制約事項とガイドライン	2494
	パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定について	2494
	セキュリティスキームを作成する利点	2494
	Cisco IOS XE CLI モード	2495
	ユーザ EXEC モード	2496
	特権 EXEC モード	2498

グローバル コンフィギュレーション モード	2500
インターフェイス コンフィギュレーション モード	2501
サブインターフェイス コンフィギュレーション モード	2502
Cisco IOS XE CLI セッション	2503
ローカル CLI セッション	2503
リモート CLI セッション	2503
端末回線はローカルおよびリモート CLI セッションに使用される	2504
Cisco IOS XE EXEC モードへのアクセスの保護	2504
ユーザ EXEC モードへのアクセスの保護	2504
特権 EXEC モードへのアクセスの保護	2505
Cisco IOS XE のパスワード暗号化レベル	2505
Cisco IOS XE CLI セッションのユーザ名	2507
Cisco IOS XE の特権レベル	2507
Cisco IOS XE のパスワード設定	2508
AES パスワード暗号化およびマスター暗号キー	2509
パスワード、特権、およびログインによるセキュリティの設定方法	2509
ユーザ EXEC モードへのアクセスの保護	2509
リモート CLI セッションのパスワードの設定と確認	2509
ローカル CLI セッションのパスワードの設定と確認	2512
特権 EXEC モードへのアクセスの保護	2514
イネーブルパスワードの設定と確認	2514
クリア テキスト パスワードのパスワード暗号化の設定	2516
イネーブル シークレット パスワードの設定と確認	2517
ユーザが実行コンフィギュレーションを表示可能にするデバイスの設定	2519
CLI セッションとコマンドへのアクセスを管理するセキュリティ オプションの設定	2521
窓口のテクニカル サポート スタッフ用のネットワーク デバイスの設定	2522
窓口のテクニカル サポート スタッフ用の設定の確認	2524
窓口のテクニカル サポート スタッフのユーザ名を必須にするデバイスの設定	2527
ローカルセッションの忘失パスワードおよび誤設定パスワードの復元	2530
ネットワーク デバイスがリモート CLI セッションを許可するように設定されている	2530

ネットワーク デバイスがリモート CLI セッションを許可するように設定されていない	2530
リモート セッションの忘失パスワードおよび誤設定パスワードの復元	2531
ネットワーク デバイスがローカル CLI セッションを許可するように設定されている	2531
ネットワーク デバイスがローカル CLI セッションを許可するように設定されていない	2531
特権 EXEC モードの忘失パスワードまたは誤設定パスワードの復元	2531
誤設定された特権 EXEC モードのパスワードが保存されていない	2531
パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定の設定例	2532
例：暗号化事前共有キーの設定	2532
例：ユーザがリモートセッションをクリア可能にするデバイスの設定	2532
例：ユーザが実行コンフィギュレーションを表示可能にするデバイスの設定	2533
例：ユーザがインターフェイスをシャットダウンおよびイネーブル化することを可能にするデバイスの設定	2535
次の作業	2536
その他の参考資料	2536
パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定に関する機能情報	2538

## 第 170 章

<b>ロールベースの CLI アクセス</b>	<b>2539</b>
ロールベースの CLI アクセスの前提条件	2539
ロールベースの CLI アクセスの制約事項	2539
ロールベースの CLI アクセスに関する情報	2540
CLI ビューを使用するメリット	2540
ルート ビュー	2540
合法的傍受ビュー	2541
スーパービュー	2541
ビュー認証と新しい AAA 属性	2541
ロールベースの CLI アクセスの使用方法	2542
CLI ビューの設定	2542
トラブルシューティングのヒント	2544
合法的傍受ビューの設定	2544
トラブルシューティングのヒント	2546

スーパービューの設定	2546
ビューとビュー ユーザのモニタリング	2547
ロールベースの CLI アクセスの設定例	2548
例：CLI ビューの設定	2548
例：CLI ビューの確認	2548
例：合法的傍受ビューの設定	2549
例：スーパービューの設定	2550
ロールベースの CLI アクセスに関する追加情報	2550
ロールベースの CLI アクセスに関する機能情報	2551

---

**第 171 章**

<b>セキュアストレージについて</b>	<b>2553</b>
サポートされるプラットフォーム	2553
セキュアストレージの有効化	2556
セキュアストレージの無効化	2557
暗号化のステータスの確認	2558
プラットフォーム イメージの旧バージョンへのダウングレード	2559
セキュアストレージの概要の機能情報	2559

---

**第 172 章**

<b>AutoSecure</b>	<b>2561</b>
AutoSecure の制約事項	2561
AutoSecure について	2562
管理プレーンのセキュリティ保護	2562
グローバル サービスのディセーブル化	2562
サービスのインターフェイス単位のディセーブル化	2563
グローバル サービスのイネーブル化	2564
ルータへのアクセスの保護	2564
セキュリティ ログイン	2565
フォワーディング プレーンのセキュリティ保護	2565
AutoSecure の設定方法	2566
AutoSecure の設定	2566
強化されたルータへのセキュリティ アクセスの設定	2567

AutoSecure の設定例	2568
その他の参考資料	2571
AutoSecure に関する機能情報	2572

## 第 173 章

**Kerberos の設定 2575**

Kerberos に関する情報	2575
Kerberos クライアントのサポート操作	2577
境界ルータに対する認証	2577
KDC からの TGT の取得	2578
ネットワーク サービスに対する認証の取得	2579
Kerberos を設定する方法	2580
Kerberos コマンドによる KDC の設定	2580
KDC データベースへのユーザーの追加	2580
KDC での SRVTAB の作成	2581
SRVTAB の抽出	2582
Kerberos プロトコルを使用するルータの設定	2582
Kerberos レルムの定義	2582
SRVTAB ファイルのコピー	2584
Kerberos 認証の指定	2584
認定証転送の有効化	2585
ルータに対する Telnet セッションの開始	2585
暗号化された Kerberos 対応 Telnet セッションの確立	2585
必須の Kerberos 認証の有効化	2587
Kerberos インスタンス マッピングの有効化	2587
Kerberos の監視とメンテナンス	2588
Kerberos 設定の例	2588
Kerberos レルムの定義例	2588
SRVTAB ファイルのコピー例	2589
暗号化された Telnet セッションの例	2589
その他の参考資料	2589
Kerberos の設定に関する機能情報	2591



## 第 174 章

合法的傍受アーキテクチャ	2593
合法的傍受の前提条件	2594
合法的傍受の制約事項	2594
合法的傍受に関する情報	2595
合法的傍受の概要	2595
Cisco Service Independent Intercept アーキテクチャ	2595
PacketCable 合法的傍受アーキテクチャ	2596
CISCO ASR 1000 シリーズ ルータ	2596
VRF 対応 LI	2597
合法的傍受 MIB	2598
合法的傍受 MIB へのアクセスの制限	2598
RADIUS ベースの合法的傍受	2598
傍受の動作	2599
Service Independent Intercept (SII)	2600
信頼できるホストへのアクセス制限 (暗号化なし)	2600
合法的傍受をするトラフィックの暗号化および信頼できるホストへのアクセス制限	2601
合法的傍受の設定方法	2602
合法的傍受 MIB の制限付き SNMP ビューの作成	2602
次の作業	2604
合法的傍受のための SNMP 通知のイネーブル化	2604
SNMP 通知のディセーブル	2606
RADIUS セッション傍受のイネーブル化	2607
回線 ID ベースのタッピングの設定	2610
合法的傍受の設定例	2612
例：メディエーションデバイス アクセスの合法的傍受 MIB の有効化	2612
例：RADIUS セッションの合法的傍受のイネーブル化	2612
その他の参考資料	2613
合法的傍受に関する機能情報	2615

## 第 175 章

IPoE セッションの LI サポート	2617
---------------------	------

IPoE セッションの LI サポートの制約事項	2617
IPoE セッションの LI サポートに関する追加情報	2618
IPoE セッションの LI サポートに関する機能情報	2619

## 第 176 章

**イメージ検証 2621**

イメージ検証の制約事項	2621
イメージ検証について	2621
イメージ検証の利点	2622
イメージ検証の動作	2622
イメージ検証の使用方法	2622
イメージの完全性のグローバルな検証	2622
次の作業	2623
コピーしようとしているイメージの完全性の検証	2623
リロードしようとしているイメージの完全性の検証	2624
イメージ検証の設定例	2626
グローバルイメージ検証の例	2626
copy コマンドを使用したイメージ検証の例	2626
reload コマンドを使用したイメージ検証の例	2626
verify コマンドの出力例	2627
その他の参考資料	2627
イメージ検証に関する機能情報	2628

## 第 XVII 部 :

**IPsec データ プレーン 2631**

## 第 177 章

**IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化 2633**

IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化の前提条件	2633
IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化に関する情報	2634
IPsec アンチリプレイ ウィンドウ	2634
IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化機能の設定方法	2634
IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化のグローバル設定	2634
クリプトマップ上における IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化の設定	2635

トラブルシューティングのヒント	2637
IPsec アンチ リプレイ ウィンドウの拡張と無効化の設定例	2637
アンチ リプレイ ウィンドウのグローバル拡張と無効化：例	2637
暗号マップまたは暗号プロファイルのアンチ リプレイ ウィンドウの拡張および無効化： 例	2638
QoS のための IPsec アンチリプレイのメカニズム	2639
IPsec アンチリプレイパケット損失の回避	2641
QoS のための IPsec アンチリプレイの設定	2642
コマンドの表示	2642
show platform hardware qfp active feature ipsec datapath crypto-sa	2642
show platform hardware qfp active feature ipsec sa	2643
show platform software ipsec fp active flow	2643
show crypto ipsec sa <ip> peer	2644
その他の参考資料	2645
IPsec アンチ リプレイ ウィンドウの拡張と無効化の機能情報	2647

## 第 178 章

<b>IPsec VPN の Pre-fragmentation</b>	<b>2649</b>
IPsec VPN の Pre-fragmentation の制約事項	2649
IPsec VPN の Pre-fragmentation に関する情報	2651
IPsec VPN の Pre-fragmentation	2651
IPsec VPN の Pre-fragmentation の設定方法	2652
IPsec VPN の Pre-fragmentation の設定	2652
その他の参考資料	2653
IPsec VPN の Pre-fragmentation の機能情報	2653

## 第 179 章

<b>Invalid Security Parameter Index Recovery</b>	<b>2655</b>
Invalid Security Parameter Index Recovery の前提条件	2655
Invalid Security Parameter Index Recovery の制約事項	2655
Invalid Security Parameter Index Recovery に関する情報	2656
機能の動作	2656
Invalid Security Parameter Index Recovery の設定方法	2656
Invalid Security Parameter Index Recovery の設定	2656

事前共有設定の確認	2657
Invalid Security Parameter Index Recovery の設定例	2663
Invalid Security Parameter Index Recovery : 例	2663
その他の参考資料	2668
関連資料	2668
標準	2668
MIB	2669
RFC	2669
シスコのテクニカル サポート	2669
Invalid Security Parameter Index Recovery の機能情報	2669

## 第 180 章

<b>「IPsec Dead Peer Detection Periodic Message Option」</b>	<b>2671</b>
IPSec デッド ピア検出定期メッセージ オプションの前提条件	2671
IPSec デッド ピア検出定期メッセージ オプションの制約事項	2672
IPSec デッド ピア検出定期メッセージ オプションに関する情報	2672
DPD および Cisco IOS XE キープアライブ機能の動作	2672
IPSec デッド ピア検出定期メッセージ オプションの使用	2672
暗号マップ内の複数のピアとの DPD および Cisco IOS XE キープアライブ機能の使用	2673
IPSec デッド ピア検出定期メッセージ オプションの設定方法	2673
定期的な DPD メッセージの設定	2673
暗号マップ内の複数のピアとの DPD および Cisco IOS XE キープアライブの設定	2675
DPD が有効化されていることの確認	2676
IPSec デッド ピア検出定期メッセージ オプションの設定例	2677
定期的な DPD を有効化したサイト間設定の例	2677
debug crypto isakmp コマンドを使用した DPD 設定の確認の例	2678
暗号マップ内の複数のピアとの組み合わせで使用される DPD および Cisco IOS XE キープアライブ : 例	2680
その他の参考資料	2680
関連資料	2681
標準	2681
MIB	2681
RFC	2681

シスコのテクニカルサポート	2682
デッドピア検出定期メッセージオプションの機能情報	2682

## 第 181 章

**IPsec NAT 透過性 2683**

IPsec NAT 透過性の制約事項	2683
IPsec NAT 透過性に関する情報	2684
IPsec NAT 透過性の利点	2684
IPsec NAT Traversal の機能設計	2684
IKE フェーズ 1 ネゴシエーション : NAT 検出	2684
IKE フェーズ 2 ネゴシエーション : NAT トラバーサル決定	2685
NAT Traversal 用 IPsec パケットの UDP カプセル化	2685
ソフトウェアエンジン用 UDP カプセル化処理 : トランスポートモードおよびトンネルモード EDP カプセル化	2687
NAT キープアライブ	2687
NAT および IPsec の設定方法	2688
NAT Traversal の設定	2688
NAT Traversal の無効化	2688
NAT キープアライブの設定	2689
IPsec 設定の確認	2690
IPsec および NAT の設定例	2690
NAT キープアライブの設定例	2690
その他の参考資料	2691
IPsec NAT 透過性の機能情報	2692
用語集	2693

## 第 182 章

**IPsec 拡張シーケンス番号 2695**

IPsec 拡張シーケンス番号の前提条件	2695
IPsec 拡張シーケンス番号に関する制約事項	2695
IPsec 拡張シーケンス番号に関する情報	2696
IPsec 拡張シーケンス番号	2696
IPsec 拡張シーケンス番号の設定方法	2696

IPsec 拡張シーケンス番号の設定 2696

その他の参考資料 2697

IPsec ESN サポートに関する機能情報 2697

---

第 183 章

**IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能 2699**

IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の前提条件 2699

IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の制約事項 2699

IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能に関する情報 2700

機能の概要 2700

IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の設定方法 2701

トンネル モードでのカプセル化ヘッダーへの DF ビットの設定 2701

DF ビット設定の確認 2702

IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の設定例 2702

DF ビットの設定例 2702

その他の参考資料 2703

関連資料 2703

標準 2703

MIB 2703

RFC 2704

シスコのテクニカル サポート 2704

IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の機能情報 2704

---

第 184 章

**IPsec SA アイドル タイマー 2707**

IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマーの前提条件 2707

IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマーに関する情報 2708

IPsec セキュリティ アソシエーションのライフタイム 2708

IPsec SA アイドル タイマー 2708

IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマーの設定方法 2708

IPsec SA アイドル タイマーのグローバルな設定 2708

IPsec SA アイドル タイマーのクリプト マップ単位での設定 2709

IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマーの設定例 2710

IPsec SA アイドル タイマー のグローバル設定例	2710
暗号マップごとの IPsec SA アイドル タイマーの設定例	2710
その他の参考資料	2710
IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマーの機能仕様	2712

---

 第 185 章

**IPv6 IPsec の QoS 2715**

IPv6 IPsec QoS に関する情報	2715
IPv6 IPsec QoS の概要	2715
IPv6 IPsec QoS の設定方法	2716
Crypto LLQ QoS の設定	2716
QoS Pre-classify の設定	2717
暗号マップ上での Pre-classify の設定	2717
トンネル インターフェイス上での Pre-classify の設定	2718
LLQ QoS グループの設定	2719
QoS の設定例	2720
例 : Crypto LLQ QoS の設定	2720
例 : 暗号マップ上での Pre-classify の設定	2721
例 : トンネル インターフェイス上での Pre-classify の設定	2721
例 : LLQ QoS グループの設定	2721
IPv6 IPsec QoS の追加情報	2723
IPv6 IPsec QoS の機能情報	2723

---

 第 186 章

**IPv6 仮想トンネル インターフェイス 2725**

IPv6 仮想トンネル インターフェイスに関する情報	2725
IPsec for IPv6	2725
仮想トンネル インターフェイスを使用する IPv6 IPsec サイト間保護	2726
IPv6 仮想トンネル インターフェイスの設定方法	2727
サイト間 IPv6 IPsec 保護用の VTI の設定	2727
IPv6 での IKE ポリシーおよび事前共有キーの定義	2727
ISAKMP アグレッシブ モードの設定	2731
IPsec トランスフォーム セットおよび IPsec プロファイルの定義	2732

IPv6 での ISAKMP プロファイルの定義	2733
IPv6 IPsec VTI の設定	2734
IPsec トンネル モード設定の確認	2736
IPsec for IPv6 の設定と動作のトラブルシューティング	2738
IPv6 仮想トンネル インターフェイスの設定例	2739
例：サイト間 IPv6 IPsec 保護用の VTI の設定	2739
その他の参考資料	2739
IPv6 仮想トンネル インターフェイスの機能情報	2740

---

第 XVIII 部： **IPsec 管理プレーン** 2743

---

第 187 章 **IPsec VPN モニタリング** 2745

IP Security VPN モニタリングの前提条件	2745
IP Security VPN モニタリングの制限事項	2746
IPsec VPN モニタリングに関する情報	2746
暗号セッションの背景知識	2746
Per-IKE ピアの説明	2746
暗号化セッション ステータスのサマリー リスト	2746
暗号化セッションのアップまたはダウン ステータスに関する Syslog 通知	2747
IKE および IPsec セキュリティ交換のクリア コマンド	2747
IP Security VPN モニタリングの設定方法	2748
IKE ピアの説明の追加	2748
ピアの記述の確認	2748
暗号化セッションのクリア	2750
IP Security VPN モニタリングの設定例	2750
show crypto session コマンドの出力例	2750
その他の参考資料	2751
関連資料	2751
標準	2751
MIB	2751
RFC	2752



シスコのテクニカルサポート 2752

IP Security VPN モニタリングの機能履歴 2752

## 第 188 章

### Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポート 2755

Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する前提条件 2755

Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する情報 2755

Cisco VRF 対応 IPsec の IPsec および IKE MIB サポート機能でサポートされる MIB 2755

Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポート機能によってサポートされる  
SNMP トラップ 2756

Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートの設定方法 2756

Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポート機能のトラブルシューティング  
方法 2757

Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートの設定例 2758

2 つの VRF を持つ設定の例 2758

その他の参考資料 2770

Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する機能情報 2771

## 第 189 章

### IPsec SNMP サポート 2773

IPsec SNMP サポートの制限事項 2773

IPsec SNMP サポートの情報 2774

関連機能およびテクノロジー 2774

IPsec SNMP サポートの設定方法 2775

IPsec SNMP 通知のイネーブル化 2775

IPsec エラー履歴テーブルのサイズの設定 2776

IPsec トンネル履歴テーブルのサイズの設定 2777

IPsec MIB 設定の確認 2777

IPsec MIB のモニタおよびメンテナンス 2778

IPsec SNMP サポートの設定例 2779

IPsec 通知のイネーブル化の例 2779

履歴テーブルのサイズの指定例 2779

その他の参考資料 2779

IPsec SNMP サポートの機能情報 2780

用語集 2781

---

第 190 章

**IPsec VPN アカウンティング 2783**

IPsec VPN アカウンティングの前提条件 2783

IPsec VPN アカウンティングに関する情報 2784

RADIUS アカウンティング 2784

RADIUS 開始アカウンティング 2784

RADIUS 終了アカウンティング 2785

RADIUS 更新アカウンティング 2786

IKE および IPsec サブシステムの相互作用 2786

Accounting Start 2786

アカウンティング終了 2786

アカウンティング更新 2787

IPsec VPN アカウンティングの設定方法 2788

IPsec VPN アカウンティングの設定 2788

アカウンティング更新の設定 2792

IPsec VPN アカウンティングのトラブルシューティング 2793

IPsec VPN アカウンティングの設定例 2794

アカウンティングおよび ISAKMP プロファイル例 2794

ISAKMP プロファイルなしのアカウンティング例 2796

その他の参考資料 2798

関連資料 2798

標準 2798

MIB 2799

RFC 2799

シスコのテクニカル サポート 2799

IPsec VPN アカウンティングの機能情報 2799

用語集 2800

---

第 191 章

**IPsec Usability Enhancements 2803**

IPsec Usability Enhancements の前提条件	2803
IPsec Usability Enhancements に関する情報	2803
IPsec の概要	2803
IPsec の動作	2804
IPsec Usability Enhancements の活用方法	2805
IKE フェーズ 1 ISAKMP デフォルト ポリシーの確認	2805
デフォルト IKE フェーズ 1 ポリシー	2805
ユーザ設定 IKE ポリシー	2807
Easy VPN ISAKMP ポリシー	2807
デフォルト IPsec トランスフォーム セットの確認	2809
デフォルト トランスフォーム セット	2809
IPsec VPN 確認および IPsec VPN のトラブルシューティング	2811
IKE フェーズ 1 ISAKMP の確認	2811
IKE フェーズ 2 の確認	2815
IPsec VPN のトラブルシューティング	2819
IPsec Usability Enhancements の設定例	2821
IKE デフォルト ポリシーの例	2821
デフォルト トランスフォーム セットの例	2823
その他の参考資料	2824
IPsec Usability Enhancements の機能情報	2826
用語集	2826

---

第 XIX 部 :           **VPN のアベイラビリティ**   2829

---

第 192 章	<b>Reverse Route Injection</b>	2831
	逆ルート注入の前提条件	2831
	逆ルート注入の制約事項	2831
	逆ルート注入に関する情報	2832
	Reverse Route Injection	2832
	RRI の設定方法	2833
	スタティック クリプトマップを使用した RRI の設定	2833

ダイナミック マップ テンプレートでの RRI の設定	2834
RRI の設定例	2835
Crypto ACL が存在する場合の RRI の設定例	2835
2つのルート（リモートエンドポイント用とルート再帰用）を作成する場合の RRI の設定例	2835
その他の参考資料	2835
RRI の機能情報	2836

## 第 193 章

**IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能** 2839

IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能に関する情報	2839
Reverse Route Injection	2839
ホットスタンバイ ルータ プロトコルおよび IPsec	2841
IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の設定方法	2842
ダイナミック クリプト マップでの逆ルート注入の設定	2842
スタティック クリプト マップでの逆ルート注入の設定	2843
IPsec を使用した HSRP の設定	2845
VPN IPsec 暗号設定の確認	2846
HSRP を使用した仮想トンネルインターフェイスでのハイアベイラビリティ冗長性 の設定	2847
デバイス A および B の IPsec 仮想トンネルインターフェイスでの HA の設定	2848
リモートデバイスでの IPsec 仮想トンネルインターフェイスの設定	2853
IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の設定例	2855
例：ダイナミック クリプト マップでの逆ルート注入の設定	2855
例：スタティック クリプト マップでの逆ルート注入の設定	2856
例：IPsec を使用した HSRP の設定	2856
例：HSRP を使用した VTI での HA 冗長性 の設定	2857
その他の参考資料	2858
IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の機能情報	2859

## 第 194 章

**IPSEC 優先ピア** 2861

IPsec 優先ピアの前提条件	2861
IPsec 優先ピアの制約事項	2861

IPsec 優先ピアに関する情報	2862
IPsec	2862
Dead Peer Detection	2863
デフォルト ピア設定	2863
アイドルタイマー	2864
デフォルト ピアでの IPsec アイドル タイマーの使用	2864
クリプト マップ上のピア	2864
IPsec 優先ピアの設定方法	2865
デフォルト ピアの設定	2865
アイドルタイマーの設定	2866
IPsec 優先ピアの設定例	2867
デフォルト ピアの設定例	2867
IPsec アイドルタイマーの設定例	2867
その他の参考資料	2867
IPsec 優先ピアの機能情報	2868
用語集	2869

---

 第 195 章

<b>IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution</b>	<b>2871</b>
IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution の制約事項	2871
IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution に関する情報	2872
セキュア DNS による Real-Time Resolution	2872
Real-Time Resolution の設定方法	2872
IPsec ピアの Real-Time Resolution の設定	2872
トラブルシューティングのヒント	2874
次の作業	2874
Real-Time Resolution の設定例	2874
IPsec ピアの Real-Time Resolution の設定例	2874
その他の参考資料	2875
IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution の機能情報	2876

---

 第 XX 部 :

<b>インターネット キー エクスチェンジ</b>	<b>2879</b>
---------------------------	-------------

---

第 196 章	<b>「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」</b>	<b>2881</b>
	IKE 設定の前提条件	2882
	IKE 設定の制約事項	2882
	IPsec VPN の IKE 設定に関する情報	2883
	IKE での使用でサポート対象となる標準	2883
	IKE の利点	2885
	IKE のメインモードとアグレッシブモード	2885
	IKE ネゴシエーション用 IKE ポリシーセキュリティパラメータ	2886
	IKE ポリシーについて	2886
	一致する IKE ポリシーでの IKE ピアの合意	2886
	IKE 認証	2887
	RSA シグニチャ	2887
	RSA 暗号化ナンス	2887
	事前共有キー	2888
	IKE モード設定	2889
	IPsec VPN 用 IKE の設定方法	2890
	トラブルシューティングのヒント	2890
	次の作業	2891
	IKE 認証の設定	2891
	前提条件	2891
	RSA 暗号化ナンスの RSA キーの手動設定	2891
	事前共有キーの設定	2894
	IKE モードコンフィギュレーションの設定	2897
	IPsec SA ネゴシエーションのための IKE 暗号マップの設定	2898
	IKE コンフィギュレーションの設定例	2899
	例：IKE ポリシーの作成	2899
	例：3DES IKE ポリシーの作成	2900
	例：AES IKE ポリシーの作成	2900
	例：IKE 認証の設定	2901
	次の作業	2902

その他の参考資料	2902
IPsec VPN の IKE 設定の機能情報	2904

## 第 197 章

<b>「Call Admission Control for IKE」</b>	<b>2907</b>
IKE 用コールアドミッション制御に関する前提条件	2907
IKE 用コールアドミッション制御に関する情報	2907
IKE セッション	2907
セキュリティアソシエーション制限	2908
ネゴシエーション時の IKE 接続数の制限	2908
システムリソースの使用状況	2908
IKE 用コールアドミッション制御の設定方法	2909
IKE セキュリティアソシエーション制限の設定	2909
IKEv2 セキュリティアソシエーション制限の設定	2910
システムリソース制限の設定	2911
IKE の CAC の設定確認	2912
IKE 用コールアドミッション制御の設定例	2913
IKE セキュリティアソシエーション制限値の設定例	2913
システムリソース制限値の設定例	2913
その他の参考資料	2913
IKE 用コールアドミッション制御の機能情報	2914

## 第 198 章

<b>証明書/ISAKMP プロファイルマッピング</b>	<b>2917</b>
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの前提条件	2917
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの制約事項	2917
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングに関する情報	2918
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの概要	2918
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングのしくみ	2918
ピアへの ISAKMP プロファイルおよびグループ名の割り当て	2919
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの設定方法	2919
証明書/ISAKMP プロファイルマッピング	2919
証明書がマッピングされたことの確認	2920

ピアへのグループ名の割り当て	2921
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングのモニタおよびメンテナンス	2921
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの設定例	2922
任意のフィールドに基づいた ISAKMP プロファイルへの証明書のマッピング：例	2922
ISAKMP プロファイルに関連付けられたピアに割り当てられるグループ名の例	2922
ISAKMP プロファイルへの証明書のマッピング検証例	2923
ピアに割り当てられたグループ名の検証例	2924
その他の参考資料	2925
証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの機能情報	2926

## 第 199 章

<b>「Encrypted Preshared Key」</b>	<b>2929</b>
暗号化事前共有キーの制約事項	2929
暗号化事前共有キーに関する情報	2929
暗号化事前共有キーの使用によるパスワードのセキュアな保存	2929
パスワードの変更	2930
パスワードの削除	2930
パスワード暗号化の設定解除	2930
パスワードの保存	2930
新規パスワードまたは不明パスワードの設定	2931
暗号化事前共有キーのイネーブル化	2931
暗号化事前共有キーの設定方法	2931
暗号化事前共有キーの設定	2931
トラブルシューティングのヒント	2932
暗号化事前共有キーのモニタリング	2932
次の作業	2933
ISAKMP 事前共有キーの設定	2934
ISAKMP キーリングの ISAKMP 事前共有キーの設定	2935
ISAKMP アグレッシブ モードの設定	2936
Unity サーバグループ ポリシーの設定	2937
Easy VPN クライアントの設定	2938
暗号化事前共有キーの設定例	2940



暗号化事前共有キー：例	2940
キーが存在しない場合の例	2940
キーが存在する場合の例	2940
キーが存在する状況でユーザがインタラクティブにキーを入力する場合の例	2941
キーが存在しない状況でユーザがインタラクティブにキーを入力する場合の例	2941
パスワード暗号化の設定解除の例	2941
次の作業	2941
その他の参考資料	2942
関連資料	2942
標準	2942
MIB	2942
RFC	2942
シスコのテクニカルサポート	2943

---

**第 200 章**
**識別名ベースのクリプト マップ 2945**

機能の概要	2945
利点	2946
機能制限	2946
関連資料	2946
サポートされるプラットフォーム	2946
サポートされている規格 MIB および RFC	2947
前提条件	2947
設定作業	2947
(DN によって認証された) DN ベースの暗号マップの設定	2948
(ホスト名によって認証された) DN ベースの暗号マップの設定	2948
DN ベースの暗号マップへの ID の適用	2949
DN ベースの暗号マップの確認	2950
トラブルシューティングのヒント	2950
設定例	2950
DN ベースの暗号マップの設定例	2950

## 第 201 章

**IPsec と Quality of Service 2953**

- IPsec と Quality of Service の前提条件 2953
- IPsec と Quality of Service の制約事項 2954
- IPsec と Quality of Service に関する情報 2954
  - IPsec と Quality of Service の概要 2954
  - IPsec と Quality of Service の設定方法 2954
    - IPsec と Quality of Service の設定 2954
    - IPsec と Quality of Service セッションの確認 2955
    - トラブルシューティングのヒント 2956
- IPsec と Quality of Service の設定例 2956
  - リモート ユーザの 2 つのグループに適用された QoS ポリシーの例 2956
  - show crypto isakmp profile コマンドの例 2958
  - show crypto ipsec sa コマンドの例 2958
- その他の参考資料 2959
  - 関連資料 2959
  - 標準 2959
  - MIB 2960
  - RFC 2960
  - シスコのテクニカル サポート 2960
- IPsec と Quality of Service の機能情報 2960

## 第 202 章

**VRF 認識 IPsec 2963**

- VRF-Aware IPsec に関する制約事項 2963
- VRF-Aware IPsec に関する情報 2964
  - VRF インスタンス 2964
  - MPLS 配信プロトコル 2964
  - VRF-Aware IPsec 機能の概要 2964
    - IPsec トンネルへのパケットフロー 2965
    - IPsec トンネルからのパケットフロー 2965
- VRF-Aware IPsec の設定方法 2966

暗号化キーリングの設定	2966
ISAKMP プロファイルの設定	2968
次の作業	2972
暗号マップ上における ISAKMP プロファイルの設定	2972
IKE フェーズ 1 ネゴシエーション中に拡張認証を無視する設定	2973
VRF-Aware IPsec の確認	2974
セキュリティ アソシエーションのクリア	2975
VRF-Aware IPsec のトラブルシューティング	2976
VRF-Aware IPsec のデバッグ例	2977
VRF-Aware IPsec の設定例	2984
例：静的 IPsec-to-MPLS VPN	2984
例：RSA 暗号化を使用した IPsec-to-MPLS VPN	2986
例：RSA シグニチャを使用した IPsec-to-MPLS VPN	2988
例：IPsec Remote Access-to-MPLS VPN	2989
Cisco Network-Based IPsec VPN Solution の旧バージョンからのアップデート	2990
Site-to-Site 設定のアップグレード	2990
リモートアクセス設定のアップグレード	2992
Site-to-Site とリモートアクセスの設定の組み合わせのアップグレード	2994
その他の参考資料	2996
VRF-Aware IPsec の機能情報	2997
用語集	2998

---

 第 203 章

<b>IKE アグレッシブ モードの開始</b>	<b>3001</b>
IKE アグレッシブ モードの開始の前提条件	3001
IKE アグレッシブ モードの開始の制約事項	3002
IKE アグレッシブ モードの開始に関する情報	3002
概要	3002
RADIUS トンネル属性	3002
IKE アグレッシブ モードの開始の設定方法	3003
RADIUS トンネル属性の設定	3003
RADIUS トンネル属性設定の確認	3004

トラブルシューティングのヒント	3004
IKE アグレッシブ モードの開始の設定例	3005
ハブの設定例	3005
スポークの設定例	3006
RADIUS ユーザ プロファイルの例	3006
その他の参考資料	3006
IKE アグレッシブ モードの開始の機能情報	3008

---

第 XXI 部 : **FlexVPN およびインターネット キー エクスチェンジ** 3009

---

第 204 章 **FlexVPN の概要** 3011

インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) および FlexVPN リモートアクセスの設定	3011
FlexVPN サーバーの設定	3012
FlexVPN クライアントの設定	3012
IKEv2 ロード バランサの設定	3012
IKEv2 フラグメンテーションの設定	3012
IKEv2 再接続の設定	3012
IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定	3012
IKEv2 認可変更のサポートの設定	3013
集約認証の設定	3013
付録 : FlexVPN の RADIUS 属性	3013
付録 : IKEv2 VPN および レガシー VPN	3013

---

第 205 章 **インターネット キー エクスチェンジバージョン 2** 3015

インターネット キー交換バージョン 2 の設定に関する前提条件	3016
インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 の設定に関する制約事項	3016
インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 に関する情報	3016
IKEv2 のサポート対象規格	3016
IKEv2 の利点	3017
インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 CLI の構成	3018

IKEv2 プロポーザル	3018
IKEv2 ポリシー	3018
IKEv2 プロファイル	3018
IKEv2 キーリング	3018
IKEv2 スマート デフォルト	3019
IKEv2 Suite-B サポート	3020
AES-GCM のサポート	3021
IKEv2 での自動トンネル モードのサポート	3021
インターネット キー交換バージョン 2 の設定方法	3022
基本のインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 CLI 構造の設定	3022
IKEv2 キーリングの設定	3022
IKEv2 プロファイルの設定 (基本)	3025
高度なインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 CLI 構造の設定	3030
グローバル IKEv2 オプションの設定	3030
IKEv2 フラグメンテーションの設定	3033
IKEv2 プロポーザルの設定	3033
IKEv2 ポリシーの設定	3037
インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 の設定例	3039
基本のインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 CLI 構造の設定例	3039
例: IKEv2 キーリングの設定	3039
例: プロファイルの設定	3042
例: 証明書および IKEv2 スマート デフォルトを使用するダイナミック ルーティングによる FlexVPN の設定	3042
高度なインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 CLI 構造の設定例	3044
例: プロポーザルの設定	3044
例: ポリシーの設定	3045
次の作業	3046
インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) のその他の関連資料	3046
インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) の設定に関する機能情報	3048
第 206 章	ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定 3051

ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する制約事項	3051
サポートされるプラットフォーム	3051
ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する情報	3052
量子コンピュータが暗号に与える影響	3052
ポスト量子事前共有キー	3052
手動ポスト量子事前共有キー	3053
Cisco Secure Key Integration Protocol およびダイナミックポスト量子事前共有キー	3054
ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定方法	3055
手動ポスト量子事前共有キーの設定	3055
IKEv2 キーリングでの手動ポスト量子事前共有キーの設定	3055
IKEv2 プロファイルでの IKEv2 キーリングの設定	3057
ダイナミックポスト量子事前共有キーの設定	3058
Secure Key Integration Protocol クライアントの設定	3058
IKEv2 キーリングの Secure Key Integration Protocol クライアントの設定	3059
IKEv2 プロファイルでの IKEv2 キーリングの設定	3060
ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定例	3061
例：手動ポスト量子事前共有キーの設定	3061
例：イニシエータの設定	3061
例：応答側の設定	3062
例：ダイナミックポスト量子事前共有キーの設定	3062
例：イニシエータの設定	3062
例：応答側の設定	3063
ポスト量子事前共有キーの設定の確認	3064
ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する追加情報	3064
ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する機能情報	3065

## 第 207 章

**FlexVPN サーバーの設定** 3067

FlexVPN サーバーの制限事項	3067
デュアルスタック トンネルインターフェイスおよび VRF 認識 IPsec	3067
FlexVPN 用仮想テンプレート インターフェイス設定時の IP アドレス割り当て	3068
FlexVPN サーバーに関する情報	3068

EAP を使用するピア認証	3068
IKEv2 コンフィギュレーション モード	3070
IKEv2 認証	3073
IKEv2 認証ポリシー	3074
IKEv2 名前分割	3075
IKEv2 マルチ SA	3075
AnyConnect プロファイルのダウンロード	3075
サポートされる RADIUS 属性	3076
サポートされるリモート アクセス クライアント	3078
Microsoft Windows 7 IKEv2 クライアント	3078
Cisco IKEv2 AnyConnect クライアント	3079
FlexVPN サーバーの設定方法	3079
FlexVPN サーバーの IKEv2 プロファイルの設定	3079
IKEv2 名前分割の設定	3083
IKEv2 認証ポリシーの設定	3085
FlexVPN サーバーの構成例	3091
例 : FlexVPN サーバーの設定	3091
例 : EAP を使用してピアを認証するための FlexVPN サーバーの設定	3091
例 : グループ認証のための FlexVPN サーバーの設定 (外部 AAA)	3091
例 : グループ認証のための FlexVPN サーバーの設定 (ローカル AAA)	3092
例 : ユーザー認証のための FlexVPN サーバーの設定	3093
例 : IPv6 設定属性による IPv6 セッション用の FlexVPN サーバーの設定	3094
例 : AnyConnect プロファイルのダウンロードの設定	3095
FlexVPN サーバーの設定に関する追加情報	3096
FlexVPN サーバーの設定の機能情報	3096

## 第 208 章

**FlexVPN クライアントの設定** 3099

FlexVPN クライアントの制限事項	3099
ローカル認証方式としての EAP	3099
デュアルスタック トンネル インターフェイスおよび VRF 認識 IPsec	3100
FlexVPN クライアントに関する情報	3100

IKEv2 FlexVPN クライアント	3100
トンネル有効化	3102
バックアップ機能	3102
デュアル FlexVPN のサポート	3105
スプリット DNS のサポート	3105
NAT	3105
FlexVPN クライアントのネットワーク リストの学習方法	3106
WINS NBNS およびドメイン名	3106
イベント トレース	3107
ローカル認証方式としての Extensible Authentication Protocol	3107
FlexVPN クライアントの設定方法	3107
IKEv2 VPN クライアント プロファイルの設定	3107
トンネル インターフェイスの設定	3108
FlexVPN クライアントの設定	3109
ローカル認証方式としての EAP の設定	3111
FlexVPN クライアントの構成例	3112
例：IKEv2 FlexVPN クライアント プロファイルの設定	3112
例：ローカル認証方式としての EAP の設定	3113
FlexVPN クライアントの設定に関する追加情報	3114
FlexVPN クライアントの設定の機能情報	3114

---

第 209 章	<b>FlexVPN スポーク間の設定</b>	3117
	FlexVPN スポーク間の前提条件	3117
	FlexVPN スポーク間に関する情報	3117
	FlexVPN および NHRP	3117
	NHRP 解決要求と FlexVPN の応答	3118
	FlexVPN スポークツースポークの設定方法	3120
	FlexVPN サーバーの仮想トンネル インターフェイスの設定	3120
	FlexVPN スポークの NHRP ショートカットの設定	3121
	FlexVPN スポークの仮想トンネル インターフェイスの設定	3122
	FlexVPN スポーク設定の確認	3124



FlexVPN スポーク設定のトラブルシューティングのヒント	3126
FlexVPN スポークツースポークの設定例	3130
例：FlexVPN スポーク間のスタティック ルーティングの設定	3130
例：FlexVPN スポーク間の BGP を使用するダイナミック ルーティングの設定	3132
FlexVPN スポーク間の設定に関する追加情報	3135
FlexVPN スポーク間の機能情報	3135

## 第 210 章

<b>IKEv2 ロード バランサの設定</b>	<b>3137</b>
IKEv2 ロード バランサの前提条件	3137
IKEv2 ロードバランサに関する制約事項	3137
IKEv2 ロード バランサに関する情報	3138
IKEv2 ロード バランサの概要	3138
IKEv2 ロード バランサの利点	3141
IKEv2 リダイレクト メカニズム	3141
IKEv2 初期交換中のリダイレクト (SA 初期化)	3141
IKE_AUTH 交換中のリダイレクト (SA 認証)	3142
互換性および相互運用性	3143
リダイレクト ループ処理	3143
IKEv2 クラスタの再接続	3143
IPv4 展開の IKEv2 ロードバランサの設定方法	3144
ロード バランシングに対する HSRP グループの設定	3144
負荷管理メカニズムの設定	3145
サーバーでの IKEv2 リダイレクト メカニズムの有効化	3148
クライアントでの IKEv2 リダイレクト メカニズムの有効化	3149
デッドピア検出の設定	3149
IPv4 展開の IKEv2 ロードバランサの設定例	3151
例：ロード バランシングに対する HSRP グループの設定	3151
例：負荷管理メカニズムの設定	3151
例：リダイレクト メカニズムの設定	3151
例：クラスタ再接続キーの設定	3151
IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの設定方法	3152

ロードバランシングに対する HSRP グループの設定	3152
負荷管理メカニズムの設定	3153
サーバーでの IKEv2 リダイレクトメカニズムの有効化	3156
クライアントでの IKEv2 リダイレクトメカニズムの有効化	3156
IKEv2 ロードバランササポートのオプションパラメータの設定	3157
アイドルタイマーの設定	3157
デッドピア検出の設定	3158
IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの設定例	3159
例：ロードバランシングに対する HSRP グループの設定	3159
例：負荷管理メカニズムの設定	3160
例：リダイレクトメカニズムの設定	3160
IKEv2 ロードバランサ設定の確認	3160
その他の参考資料	3162
IPv4 および IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの機能情報	3163

## 第 211 章

**IKEv2 フラグメンテーションの設定** 3165

IKEv2 フラグメンテーションの設定に関する情報	3165
IKEv2 フラグメンテーション	3165
ピア間のネゴシエーション	3166
以前のリリースのフラグメンテーションサポート	3166
フラグメントの暗号化、複合化、および再送信	3167
フラグメンテーションおよび暗号化	3167
復号と最適化	3168
再送信	3168
フラグメンテーションの有効化	3168
IPv6 のサポート	3169
IKEv2 フラグメンテーションの設定方法	3169
IKEv2 フラグメンテーションの設定	3169
IKEv2 フラグメンテーションの設定例	3170
例：設定された MTU の表示が有効な IETF フラグメンテーション	3170
例：発信側で設定される IETF 標準フラグメンテーション方式	3171

例：発信側で設定されない IETF 標準フラグメンテーション方式 3173

例：フラグメンテーションの IPv6 サポート 3173

IKEv2 フラグメンテーションの設定に関する追加情報 3174

IKEv2 フラグメンテーションの機能情報 3175

---

## 第 212 章

### IKEv2 再接続の設定 3177

IKEv2 再接続設定の前提条件 3177

IKEv2 再接続設定の制限事項 3177

設定された IKEv2 フラグメンテーションに関する情報 3178

IKEv2 および Cisco AnyConnect クライアントの再接続機能 3178

Cisco IOS ゲートウェイと Cisco AnyConnect 間のメッセージ交換 3179

IKEv2 再接続の設定方法 3179

IKEv2 再接続の有効化 3179

IKEv2 再接続設定のトラブルシューティング 3180

IKEv2 再接続の設定例 3181

例：IKEv2 再接続の有効化 3181

IKEv2 再接続の設定に関する追加情報 3181

IKEv2 再接続の機能情報 3182

---

## 第 213 章

### MPLS over FlexVPN の設定 3185

MPLS over FlexVPN の前提条件 3185

MPLS over FlexVPN の設定に関する情報 3185

MPLS と FlexVPN 3185

MPLS over FlexVPN の作業 3187

FlexVPN の IVRF サポート 3189

MPLS over FlexVPN の設定方法 3189

MPLS over FlexVPN の設定 3189

MPLS over FlexVPN の設定例 3190

例：MPLS over FlexVPN の設定 3190

MPLS over FlexVPN の設定に関する追加情報 3198

MPLS over FlexVPN の設定の機能情報 3199

---

第 214 章	<b>IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定</b>	<b>3201</b>
	IKEv2 パケット オブ ディスコネクトに関する情報	<b>3201</b>
	切断要求	<b>3201</b>
	IKEv2 パケット オブ ディスコネクト	<b>3202</b>
	IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定方法	<b>3202</b>
	FlexVPN サーバーでの AAA の設定	<b>3202</b>
	IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定例	<b>3204</b>
	例：IKEv2 セッションの終了	<b>3204</b>
	IKEv2 パケット オブ ディスコネクトに関する追加情報	<b>3208</b>
	IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの機能情報	<b>3209</b>

---

第 215 章	<b>IKEv2 認可変更のサポートの設定</b>	<b>3211</b>
	IKEv2 認可変更のサポートの前提条件	<b>3211</b>
	IKEv2 認可変更サポートの制限事項	<b>3211</b>
	IKEv2 認可変更サポートに関する情報	<b>3211</b>
	RADIUS 許可の変更	<b>3211</b>
	IKEv2 認可変更の作業	<b>3212</b>
	IKEv2 認可変更でサポートされる AV ペア	<b>3212</b>
	IKEv2 認可変更サポートの設定方法	<b>3213</b>
	FlexVPN サーバーでの認可変更の設定	<b>3213</b>
	IKEv2 認可変更サポートの確認	<b>3214</b>
	IKEv2 認可変更サポートの設定例	<b>3217</b>
	例：認可変更のトリガー	<b>3217</b>
	IKEv2 認可変更サポートに関する追加情報	<b>3217</b>
	IKEv2 認可変更のサポートの機能情報	<b>3218</b>

---

第 216 章	<b>集約認証の設定</b>	<b>3221</b>
	集約認証の設定の前提条件	<b>3221</b>
	集約認証の設定に関する情報	<b>3221</b>
	Cisco AnyConnect および FlexVPN	<b>3221</b>

集約認証の動作	3222
Cisco AnyConnect EAP を使用する IKE 交換	3223
IKEv2 でのデュアルファクタ認証のサポート	3225
集約認証の設定方法	3225
集約認証用の FlexVPN サーバーの設定	3225
集約認証の設定例	3227
例：集約認証の設定	3227
集約認証の設定に関する追加情報	3228
集約認証の設定に関する機能情報	3228

---

 第 217 章

**付録：FlexVPN の RADIUS 属性** 3231

FlexVPN RADIUS 属性	3231
-------------------	------

---

 第 218 章

**付録：IKEv2 VPN および レガシー VPN** 3245

例：事前共有キー認証方式を使用する暗号マップベースの IKEv2 ピアの設定	3245
例：証明書認証方式を使用する暗号マップベースの IKEv2 ピアの設定	3248
例：暗号マップベースおよび dVTI ベースの IKEv2 ピアの設定	3252
例：sVTI ベース IKEv2 ピアを使用した IPSec の設定	3254
例：DMVPN ネットワークでの IKEv2 の設定	3257

---

 第 XXII 部：

**Cisco Group Encrypted Transport VPN** 3259

---

 第 219 章

**Cisco Group Encrypted Transport VPN** 3261

Cisco Group Encrypted Transport VPN の前提条件	3262
Cisco Group Encrypted Transport VPN の制約事項	3262
Cisco Group Encrypted Transport VPN に関する情報	3266
Cisco Group Encrypted Transport VPN の概要	3266
Cisco Group Encrypted Transport VPN のアーキテクチャ	3267
キー配布グループ ドメイン オブ インタープリテーション (GDOI)	3267
アドレス保存	3272
セキュア データ プレーン マルチキャスト	3273

セキュア データ プレーン ユニキャスト	3273
Cisco Group Encrypted Transport VPN の機能	3274
キー再生成	3274
グループ メンバー アクセス コントロール リスト	3288
時間ベースのアンチリプレイ	3291
連携キー サーバ	3295
キー サーバのロールの変更	3297
受信専用 SA	3298
パッシブ SA	3299
拡張ソリューションの管理性	3299
VRF-Lite インターフェイスによるサポート	3299
GM 登録の認証ポリシー	3300
Protocol Independent Multicast-Sparse Mode でのキー再生成機能	3301
Fail-Close モード	3301
フェールクローズ復帰	3303
GDOI 登録成功を追跡する MIB オブジェクトの作成	3303
BGP の GET VPN ルーティング認識	3304
Cisco Group Encrypted Transport VPN システム ロギング メッセージ	3306
Cisco Group Encrypted Transport VPN の設定方法	3312
キー サーバの設定	3312
前提条件	3312
キー再生成メッセージに署名するための RSA キーの設定	3312
グループ ID、サーバ タイプ、および SA タイプの設定	3313
キー再生成の設定	3314
グループ メンバー ACL の設定	3320
IPsec ライフタイム タイマーの設定	3321
ISAKMP ライフタイム タイマーの設定	3322
IPsec SA の設定	3323
GDOI グループ用の時間ベースのアンチリプレイの設定	3326
パッシブ SA の設定	3328
キー サーバのロールのリセット	3329

グループメンバーの設定	3329
グループ名、ID、キーサーバIPアドレス、およびグループメンバー登録の設定	3329
暗号マップエントリの作成	3331
トラフィックを暗号化する必要があるインターフェイスへの暗号マップの適用	3331
Fail-Closeモードのアクティブ化	3332
フェールクローズ復帰の設定	3333
KEKの許容可能な暗号化アルゴリズムまたはハッシュアルゴリズムの設定	3335
TEKの受け入れ可能トランスフォームセットの設定	3336
グループメンバーの暗号状態の追跡	3338
GET VPN GM 認証の設定	3339
事前共有キーを使用するGM認証の設定	3339
PKIを使用するGM認証の設定	3341
Cisco Group Encrypted Transport VPN 設定の確認とトラブルシューティング	3343
キーサーバ上のアクティブなグループメンバーの確認	3344
キー再生成関連統計情報の確認	3344
グループメンバー上でGDOIによって作成されたIPsec SAの確認	3346
キーサーバ上でGDOIによって作成されたIPsec SAの確認	3347
グループメンバーが最後にキーサーバから受信したTEKの確認	3347
連携キーサーバの状態と統計情報の確認	3348
アンチリプレイ疑似時間関連の統計情報の確認	3349
暗号マップのFail-Closeモードの状態の確認	3350
Cisco Group Encrypted Transport VPN の設定例	3350
例：キーサーバとグループメンバーのケーススタディ	3350
キーサーバ1の例	3351
キーサーバ2の例	3352
例：グループメンバー1の設定	3353
例：グループメンバー2の設定	3354
例：グループメンバー3の設定	3355
例：グループメンバー4の設定	3356
例：グループメンバー5の設定	3357
例：グループメンバーが最後にキーサーバから受信したTEKの確認	3357

パッシブ SA の例	3358
Fail-Close モードの例	3359
例：フェールクローズ復帰の確認	3359
Cisco Group Encrypted Transport VPN の追加の制約事項	3360
標準	3360
MIB	3360
RFC	3360
シスコのテクニカル サポート	3360
Cisco Group Encrypted Transport VPN の機能情報	3361
用語集	3364

## 第 220 章

<b>GET VPN GM の削除とポリシー トリガー</b>	<b>3367</b>
GM の削除とポリシー トリガーに関する情報	3367
GET VPN のソフトウェア バージョン	3367
GM の削除	3368
他の GET VPN ソフトウェア バージョンとの GM 削除の互換性	3368
一時的な IPsec SA による GM の削除	3369
即時の IPsec SA 削除による GM の削除	3369
ポリシーの交換とキー再生成のトリガー	3369
キー再生成をトリガーする TEK および KEK ポリシー変更に関する不整合	3369
ポリシーの交換およびキー再生成のトリガーの他の GET VPN ソフトウェア バージョンとの互換性	3372
GET VPN GM 削除およびポリシー トリガーの設定方法	3372
GM の削除をサポートするソフトウェア バージョンを GM が実行していることを確認する	3372
一時的な IPsec SA による GM の削除	3373
GM の削除と IPsec SA の即時削除	3374
GM がポリシーの交換をサポートするソフトウェア バージョンを実行していることを確認する	3376
キー再生成のトリガー	3377
GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーの設定例	3378
例：GET VPN ネットワークからの GM の削除	3378



例：グループメンバーのキー再生成のトリガー	3379
GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーのその他の参考資料	3381
GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーの機能情報	3382

---

 第 221 章

**GET VPN の GDOI MIB サポート 3383**

GET VPN の GDOI MIB サポートに関する情報	3383
他の GET VPN ソフトウェアバージョンとの GDOI MIB の互換性	3383
GDOI MIB テーブル階層	3384
GDOI MIB テーブルオブジェクト	3384
GDOI MIB 通知	3388
GDOI MIB の制限	3389
GET VPN の GDOI MIB サポートの設定方法	3389
GDOI MIB をサポートするソフトウェアバージョンを GM が実行していることを確認する	3389
SNMP コミュニティのアクセスコントロールの作成	3390
SNMP マネージャとの通信の有効化	3391
GDOI MIB 通知の有効化	3392
GET VPN 用の GDOI MIB サポートの設定例	3394
例：GDOI MIB をサポートするソフトウェアバージョンを GM が実行していることを確認する	3394
例：SNMP コミュニティのアクセスコントロールの作成	3394
例：SNMP マネージャとの通信の有効化	3395
例：GDOI MIB 通知の有効化	3395
GET VPN 用の GDOI MIB サポートのその他の参考資料	3395
GET VPN 用の GDOI MIB サポートの機能情報	3396

---

 第 222 章

**GET VPN の復元力 3399**

GET VPN の復元力の前提条件	3399
GET VPN の復元力の制約事項	3399
GET VPN の復元力に関する情報	3400
長い SA ライフタイム	3400

クロック スキューの軽減	3401
定期的なリマインダ同期キー再生成	3401
事前配置されたキー再生成	3402
GET VPN の復元力の設定方法	3402
GM が長い SA ライフタイムをサポートするソフトウェア バージョンを実行していることを確認する	3402
長い SA ライフタイムの設定	3403
TEK の長い SA ライフタイムの設定	3403
KEK の長い SA ライフタイムの設定	3404
定期的なリマインダ同期キー再生成の設定	3405
GET VPN の復元力の確認とトラブルシューティング	3406
キー サーバの GET VPN の復元力の確認とトラブルシューティング	3406
グループ メンバーの GET VPN の復元力の確認とトラブルシューティング	3407
GET VPN 復元力の設定例	3407
例：GM が長い SA ライフタイムをサポートするソフトウェア バージョンを実行していることを確認する	3407
例：長い SA ライフタイムの設定	3408
例：定期的なリマインダ同期キー再生成の設定	3408
GET VPN の復元力のその他の参考資料	3409
GET VPN の復元力の機能情報	3410
第 223 章	<b>GETVPN 復元力 GM - エラー検出</b> 3411
GETVPN の復元力：GM のエラー検出に関する情報	3411
エラー処理	3411
GETVPN の復元力：GM のエラー検出の設定方法	3412
GETVPN の復元力：GM のエラー検出の設定	3412
GETVPN の復元力：GM のエラー検出の設定例	3413
例：GETVPN の復元力：GM のエラー検出の設定	3413
GETVPN の復元力：GM のエラー検出その他の参考資料	3414
GETVPN の復元力：GM のエラー検出の機能情報	3414

## 第 224 章

**GETVPN CRL チェック 3417**

- GETVPN CRL チェックに関する情報 3417
  - 連携キー サーバのプロトコル統合 3417
- GETVPN CRL チェックの設定方法 3418
  - GETVPN CRL チェックのためのキー サーバの設定 3419
  - グループ メンバーでの CRL チェックの無効化 3421
  - 証明書の IKE 認証の設定 3422
  - キー サーバでの GETVPN CRL チェックの有効化 3423
- GETVPN CRL チェックの設定例 3424
  - 例 : GETVPN CRL チェックの有効化 3424
- GETVPN CRL チェックに関する追加情報 3425
- GETVPN CRL チェックに関する機能情報 3426

## 第 225 章

**スイート B での GET VPN のサポート 3427**

- スイート B での GET VPN のサポートの前提条件 3427
- スイート B での GET VPN のサポートの制約事項 3428
- Suite B での GET VPN サポートに関してサポートされるプラットフォーム 3428
- スイート B での GET VPN のサポートに関する情報 3430
  - スイート B 3430
    - SHA-2 および HMAC-SHA-2 3430
    - AES-GCM と AEC-GMAC 3431
    - スイート B に準拠する暗号化アルゴリズムのセット 3431
  - SID 管理 3431
    - グループ サイズ 3432
    - 連携キー サーバへの KSSID 割り当て 3433
    - グループの再初期化 3435
    - スイート B の Cisco GET VPN システム ロギング メッセージ 3435
- スイート B での GET VPN のサポートの設定方法 3438
  - GM がスイート B をサポートするソフトウェア バージョンを実行していることを確認する 3438

GET VPN スイート B でのキー サーバの設定	3439
KEK の署名ハッシュ アルゴリズムの設定	3439
グループ サイズの設定	3441
キー サーバ識別子の設定	3442
スイート B の IPsec SA の設定	3444
GET VPN スイート B でのグループ メンバーの設定	3447
スイート B の KEK の許容可能な暗号化アルゴリズムまたはハッシュ アルゴリズムの設 定	3447
スイート B の TEK の受け入れ可能トランスフォーム セットの設定	3449
スイート B での GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング	3451
キーサーバ上のスイート B での GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング	3451
GM 上のスイート B での GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング	3454
スイート B での GET VPN のサポートの設定例	3457
例：GM がスイート B をサポートするソフトウェア バージョンを実行していることを確 認する	3457
例：GET VPN スイート B のキー サーバの設定	3457
例：GET VPN スイート B のグループ メンバーの設定	3459
その他の参考資料	3459
スイート B での GET VPN のサポートの機能情報	3460

## 第 226 章

**Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポート** 3465

Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの前提条件	3466
Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの制約事項	3466
Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートに関する情報	3466
セキュリティ グループ タギング機能のグループ メンバー登録	3466
セキュリティ グループ タギングが有効な SA の作成	3467
グループ メンバー データ プレーンのセキュリティ グループ タグの処理	3467
セキュリティグループタギング使用時のパケットのオーバーヘッドとフラグメンテーショ ン	3468
Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートの設定方法	3468

GM が Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する	3468
Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの設定	3469
キー再生成のトリガー	3471
Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング	3472
Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートの設定例	3473
例 : GM が Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する	3473
例 : Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの設定	3473
例 : グループ メンバーのキー再生成のトリガー	3475
Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートのその他の参考資料	3476
Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの機能情報	3477

## 第 227 章

**GETVPN GDOI バイパス 3481**

GETVPN GDOI バイパスの制約事項	3481
GETVPN GDOI バイパスに関する情報	3481
GDOI バイパス暗号化ポリシー	3481
デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効化と無効化	3482
デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの強化	3482
GETVPN GDOI バイパスの設定方法	3483
デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効化	3483
デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの無効化	3484
デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効性と無効性の確認	3484
GETVPN GDOI バイパスの設定例	3486
例 : デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効化	3486
例 : デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの無効化	3486
GETVPN GDOI バイパスのその他の参考資料	3486
GETVPN GDOI バイパスの機能情報	3487

## 第 228 章

**GETVPN G-IKEv2 3489**

GETVPN G-IKEv2 の制約事項	3489
GETVPN G-IKEv2 に関する情報	3490
GETVPN G-IKEv2 の概要	3490
インターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 (IKEv2)	3490
GETVPN G-IKEv2 の交換	3492
サポートされる機能と GKM のバージョン	3493
GDOI から G-IKEv2 への移行	3494
GETVPN G-IKEv2 の設定	3497
GETVPN G-IKEv2 の設定方法	3497
IKEv2 プロファイルの設定	3497
キーサーバーでの GKM ポリシーの設定	3500
グループメンバーでの GKM ポリシーの設定	3501
GETVPN G-IKEv2 のその他の参考資料	3502
GETVPN G-IKEv2 の機能情報	3503

## 第 229 章

**8K GM スケールの改善** 3505

8K GM スケールの改善の前提条件	3505
8K GM スケールの改善に関する情報	3505
8K GM スケールの改善	3505
8K GM スケールの改善の設定方法	3506
グループメンバーヘッダーのプロトコルバージョンのアップグレードとダウングレード	3506
8K GM スケールの改善の設定例	3507
例：グループメンバーヘッダーのプロトコルバージョンのアップグレード	3507
例：グループメンバーヘッダーのプロトコルバージョンのダウングレード	3507
GETVPN での IPSEC 暗号化および復号	3508
8K GM スケールの改善のその他の参考資料	3509
機能情報	3510

## 第 230 章

**GET VPN 相互運用性** 3511

GET VPN 相互運用性の前提条件	3511
--------------------	------

GET VPN 相互運用性に関する制約事項	3511
GET VPN 相互運用性に関する情報	3512
IP 配信遅延検出プロトコル (IP-D3P) の概要	3512
キーサーバーの IP-D3P サポート	3512
グループメンバーの IP-D3P サポート	3513
アクティブ化時間遅延	3513
キー再生成確認応答	3514
シスコのユニキャストキー再生成確認応答メッセージ	3514
GDOI I-D キー再生成確認応答メッセージ	3514
キーサーバーの GDOI I-D キー再生成 ACK サポート	3514
グループメンバーの GDOI I-D キー再生成サポート	3515
キーサーバーとグループメンバーの通信	3515
GET VPN 相互運用性の設定方法	3517
キーサーバー上の正しい GDOI バージョンの確認	3517
グループメンバー上の正しい GDOI バージョンの確認	3518
キーサーバーでの IP-D3P の有効化	3519
グループメンバーでの IP-D3P の有効化	3520
キー再生成確認応答の有効化	3521
GET VPN 相互運用性の設定例	3524
例：キーサーバーでの IP-D3P の有効化	3524
例：グループメンバーでの IP-D3P の有効化	3524
例：キー再生成確認応答の有効化	3524
GET VPN の相互運用性に関する追加情報	3525
GET VPN 相互運用性の機能情報	3526
第 231 章	<b>GETVPN の Perfect Forward Secrecy</b>
	3529
GETVPN の PFS に関する機能情報	3529
GETVPN の PFS に関する情報	3530
GETVPN の PFS の概要	3530
GETVPN の PFS に関する制約事項	3530
変更されたキー再生成プロセス	3531

GETVPN の PFS の KS バージョンおよび GM バージョン 3533  
GETVPN の PFS の KS および GM の更新 3534



【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at [www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices).

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on standards documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2022 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.





## はじめに

---

ここでは、このマニュアルの対象読者、構成、および表記法について説明します。また、他のマニュアルの入手方法についても説明します。

この前書きは、次の項で構成されています。

- [はじめに \(clv ページ\)](#)
- [対象読者および適用範囲 \(clv ページ\)](#)
- [機能の互換性 \(clvi ページ\)](#)
- [表記法 \(clvi ページ\)](#)
- [通信、サービス、およびその他の情報, on page clviii](#)
- [マニュアルに関するフィードバック \(clviii ページ\)](#)
- [トラブルシューティング \(clviii ページ\)](#)

## はじめに

ここでは、このマニュアルの対象読者、構成、および表記法について説明します。また、他のマニュアルの入手方法についても説明します。

この前書きは、次の項で構成されています。

## 対象読者および適用範囲

このドキュメントは、Cisco Enterprise ルータの設定担当者を対象としています。このドキュメントの対象者は、主に次のとおりです。

- ネットワーキングに関する技術的な背景知識と経験を持つお客様。
- ルータベースのインターネットワーキングに関する基本的な知識に精通しているが、Cisco IOS ソフトウェアについては経験の浅いシステム管理者。
- インターネットワーキング装置のインストールと設定を担当しているシステム管理者、および Cisco IOS ソフトウェアに精通しているシステム管理者。

## 機能の互換性

コンフィギュレーションガイドで説明されているデバイスで使用可能な機能などの Cisco IOS XE ソフトウェアの詳細については、それぞれのルータのドキュメントセットを参照してください。

特定の機能のサポートを確認するには、[Cisco Feature Navigator](#) ツールを使用します。これは、特定のソフトウェアリリース、フィーチャセット、またはプラットフォームをサポートする Cisco IOS XE のソフトウェアイメージを判別できるツールです。

## 表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
^ または <b>Ctrl</b>	^ および <b>Ctrl</b> シンボルは、 <b>Ctrl</b> キーを表します。たとえば、 <b>^D</b> または <b>Ctrl+D</b> というキーの組み合わせは、 <b>Ctrl</b> キーを押しながら <b>D</b> キーを押すことを意味します。キーは大文字で表記されていますが、大文字と小文字の区別はありません。
<i>string</i>	ストリングは、イタリックで示される引用符を付けない一組の文字です。たとえば、SNMP コミュニティストリングとして <b>public</b> を設定する場合、ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。

コマンドシンタックスの説明には、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
ボールド	ユーザが入力するコマンドおよびキーワードを示します。
イタリック体	イタリック体の文字は、ユーザが値を指定する引数です。
[x]	省略可能な要素（キーワードまたは引数）は、角かっこで囲んで示しています。
	縦棒で区切られている場合、複数の任意または必須のキーワードまたは引数から、1つを選択します。

表記法	説明
[x   y]	角カッコで囲まれ、縦棒で区切られたキーワードまたは引数は、任意の選択肢です。
{x   y}	波カッコで囲まれ、縦棒で区切られたキーワードまたは引数は、必須の選択肢です。

省略可能または必須の要素内に、さらに省略可能または必須の選択肢を含める場合は、角カッコや波カッコを入れ子にして示しています。たとえば、次の表を参照してください。

表記法	説明
[x {y   z}]	角カッコ内の波カッコおよび縦棒は、任意の要素内の必須の選択肢です。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen	画面に表示される情報の例は、Courier フォントで表します。
<b>bold screen</b>	ユーザの入力が必要なテキストの例は、太字の Courier フォントで表します。
<>	山カッコで囲まれたテキストは、パスワードなど、画面に出力されないテキストを表します。
!	行の先頭にある感嘆符 (!) は、コメント行を表します。また、いくつかのプロセスでも、Cisco IOS XE ソフトウェアにより感嘆符が表示されることがあります。
[]	角カッコは、システム プロンプトに対するデフォルトの応答です。



**注意** 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

## 通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[Cisco Services](#) [英語] にアクセスしてください。
- サービス リクエストを送信するには、[Cisco Support](#) [英語] にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco Marketplace](#) にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

### Cisco バグ検索ツール

[Cisco バグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理する Cisco バグ追跡システムへのゲートウェイとして機能する、Web ベースのツールです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

## マニュアルに関するフィードバック

シスコのテクニカルドキュメントに関するフィードバックを提供するには、それぞれのオンラインドキュメントの右側のペインにあるフィードバックフォームを使用してください。

## トラブルシューティング

トラブルシューティングの最新の詳細情報については、[https://www.cisco.com/c/ja\\_jp/support/index.html](https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/index.html) にある Cisco TAC Web サイトを参照してください。

製品カテゴリに移動し、リストから製品を選択するか、製品の名前を入力します。発生している問題に関する情報を見つけるには、[トラブルシューティング](#) および [アラート](#) を参照してください。



## 第 1 部

# Authentication, Authorization, and Accounting (認証、許可、アカウントイング)

- 認証の設定, on page 1
- RADIUS 許可の変更, on page 71
- AAA 認証のメッセージバナー, on page 85
- サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピング, on page 91
- AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout, on page 97
- AAA RADIUS レコードのスロットリング, on page 105
- RADIUS パケットオブディスコネクト, on page 113
- AAA 認可および AAA 認証のキャッシュ, on page 121
- 認可の設定, on page 135
- アカウントイングの設定, on page 149
- AAA-SERVER-MIB Set Operation, on page 183
- Per VRF AAA, on page 189
- AAA の IPv6 サポート, on page 221
- TACACS+ over IPv6, on page 231
- AAA Dead-Server Detection, on page 239
- Login Password Retry Lockout, on page 247
- MSCHAP バージョン 2, on page 255
- AAA ブロードキャストアカウントイング - 必須応答サポート, on page 265
- コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理, on page 275
- AAA 用のセキュアな可逆パスワード (285 ページ)







# CHAPTER 1

## 認証の設定

認証は、選択したセキュリティプロトコルに応じてログイン/パスワードダイアログ、チャレンジ/レスポンス、メッセージングサポート、および暗号化などのユーザーの識別方法を提供します。認証は、ユーザーに対してネットワークとネットワークサービスへのアクセスを許可する前に、ユーザーの識別を行う方法です。

- [認証の設定の前提条件, on page 1](#)
- [認証の設定に関する制約事項, on page 1](#)
- [認証の設定に関する情報, on page 2](#)
- [AAA 認証方式を設定する方法, on page 10](#)
- [非 AAA 認証方式, on page 43](#)
- [認証の例, on page 53](#)
- [その他の参考資料, on page 66](#)
- [認証の設定に関する機能情報, on page 68](#)

## 認証の設定の前提条件

認証の Cisco IOS XE ソフトウェア実装は、AAA 認証方式と非認証方式に分かれています。シスコでは、可能であれば AAA セキュリティサービスを試用して認証を実装することを推奨します。

## 認証の設定に関する制約事項

- 設定できる AAA 方式リストの数は 250 です。
- Web 認証は、Cisco IOS XE ソフトウェアではサポートされていません。

## 認証の設定に関する情報

ここでは、認証方式の名前リストを定義し、このリストをさまざまなインターフェイスに適用して、AAA 認証を設定する方法について説明します。ここでは、RADIUS 認可変更 (CoA) を使用した AAA 認証の処理方法についても説明します。

### 認証の名前付き方式リスト

AAA 認証を設定するには、まず認証方式の名前付きリストを定義し、そのリストを各種のインターフェイスに適用します。方式リストには、実行する認証の種類と、実行するシーケンスを定義します。方式リストは特定のインターフェイスに適用され、定義済みの認証方式のいずれかが実行されます。唯一の例外は、デフォルトの方式リスト (「default」という名前) です。デフォルトの方式リストは、明示的に定義された名前付きの方式リストを持つインターフェイスを除くすべてのインターフェイスに自動的に適用されます。定義済みの方式リストは、デフォルトの方式リストに優先します。

方式リストとは、ユーザ認証のために照会される認証方式を記載したシーケンシャルリストです。方式リストを使用すると、認証に使用するセキュリティプロトコルを1つまたは複数指定できるため、最初の方式が失敗した場合に備えて認証のバックアップシステムを確保できます。Cisco IOS XE ソフトウェアは、ユーザを認証するため、リストに掲載されている最初の方式が使用されます。その方式で応答に失敗した場合、Cisco IOS XE ソフトウェアは、方式リストに掲載されている次の認証方式を選択します。このプロセスは、方式リストのいずれかの認証方式と通信に成功するか、定義されているすべての方式が試行されるまで継続されます。

Cisco IOS XE ソフトウェアでは、前の方式からの応答がない場合にだけ、リストの次の認証方式で認証が試行される、という点が重要です。このサイクルの任意の時点で認証が失敗した場合 (つまり、セキュリティ サーバまたはローカル ユーザ名データベースからユーザアクセスの拒否応答が返される場合)、認証プロセスは停止し、その他の認証方式は試行されません。

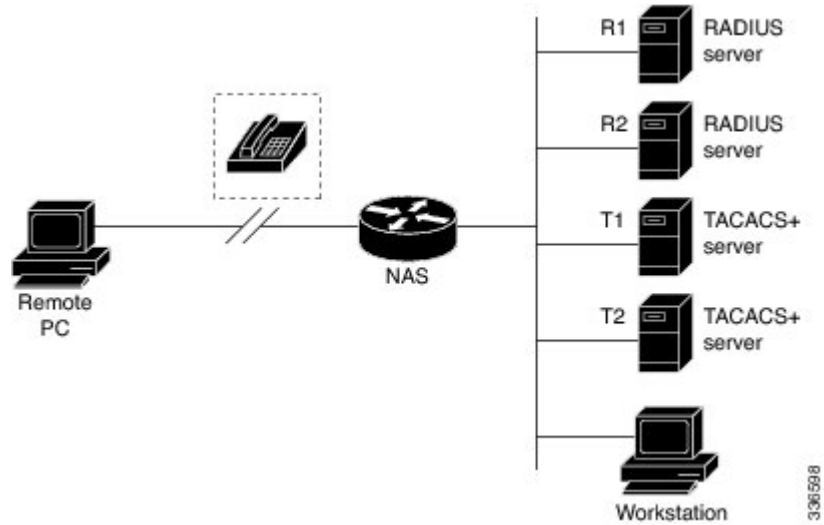


**Note** 設定できる AAA 方式リストの数は 250 です。

### 方式リストとサーバグループ

サーバ グループは、方式リストに使用する既存の RADIUS または TACACS+ サーバ ホストをグループ化する方法の1つです。次の図に、4 台のセキュリティ サーバ (R1 と R2 は RADIUS サーバ、T1 と T2 は TACACS+ サーバ) が設置された一般的な AAA ネットワーク設定を示します。R1 と R2 で RADIUS サーバのグループを構成します。T1 と T2 で TACACS+ サーバのグループを構成します。

Figure 1: 一般的な AAA ネットワーク設定



サーバーグループを使用して、設定したサーバーホストのサブセットを指定し、特定のサービスに使用します。たとえば、サーバーグループを使用すると、R1 および R2 を 1 つのサーバーグループとして定義し、T1 および T2 を別のサーバーグループとして定義できます。また、認証ログインの方式リストに R1 および T1 を指定し、PPP 認証の方式リストに R2 および T2 を指定することもできます。

サーバグループには、1 台のサーバに対して複数のホストエントリを含めることができます。エントリごとに固有の識別情報を設定します。固有の識別情報は、IP アドレスと UDP ポート番号の組み合わせで構成されます。これにより、RADIUS ホストとして定義されているさまざまなポートが、固有の AAA サービスを提供できるようになります。つまり、この固有識別情報を使用して、ある IP アドレスに位置する 1 台のサーバ上に複数の UDP ポートが存在する場合、それぞれの UDP ポートに対して RADIUS 要求を送信できます。1 台の RADIUS サーバ上にある異なる 2 つのホストエントリが 1 つのサービス（認証など）に設定されている場合、設定されている 2 番目のホストエントリは最初のホストエントリのフェールオーバーバックアップとして動作します。この例の場合、最初のホストエントリがアカウントングサービスの提供に失敗すると、同じデバイスに設定されている 2 番目のホストエントリを使用してアカウントングサービスを提供するように、ネットワークアクセスサーバが試行します（試行される RADIUS ホストエントリの順番は、設定されている順序に従います）。

サーバグループの設定および着信番号識別サービス（DNIS）番号に基づくサーバグループの設定の詳細については、「Configuring RADIUS」または「Configuring TACACS+」の章を参照してください。

## 方式リストの例

たとえば、システム管理者が、すべてのインターフェイスに同じ認証方式を使用して PPP 接続を認証する、というセキュリティソリューションを決定したとします。RADIUS グループでは、まず認証情報のために R1 に接続し、応答がない場合、R2 に接続します。R2 が応答しない場合、TACACS+ グループの T1 に接続し、T1 が応答しない場合、T2 に接続します。すべての指定したサーバーが応答しなかった場合、認証はアクセスサーバ自体のローカルユーザー

名データベースで行われます。このソリューションを実装するには、システム管理者が次のコマンドを入力してデフォルトの方式リストを作成します。

```
aaa authentication ppp default group radius group tacacs+ local
```

この例では、「default」が方式リストの名前です。この方式リストにプロトコルを含める場合、名前の後に、照会される順で指定します。デフォルトのリストは、すべてのインターフェイスに自動的に適用されます。

リモートユーザーがネットワークにダイヤルインしようとする、ネットワークアクセスサーバーは、まず R1 に認証情報を照会します。ユーザーが R1 から認証されると、R1 からネットワーク アクセス サーバーに対して PASS 応答が発行され、ユーザーはネットワークにアクセスできるようになります。R1 から FAIL 応答が返されると、ユーザーはアクセスを拒否され、セッションは終了します。R1 が応答しない場合、ネットワークアクセスサーバーでは ERROR として処理され、認証情報について R2 に照会されます。このパターンは、ユーザーが認証または拒否されるか、セッションが終了するまで、残りの指定した方式について続行されます。

FAIL 応答は ERROR とまったく異なる点に注意してください。FAIL とは、適用可能な認証データベースに含まれる、認証の成功に必要な基準をユーザーが満たしていないことを示します。認証は FAIL 応答で終了します。ERROR とは、認証の照会に対してサーバーが応答しなかったことを示します。そのため、認証は試行されません。ERROR が検出された場合にだけ、認証方式リストに定義されている次の認証方式が AAA によって選択されます。

たとえば、システム管理者が、1つのインターフェイス、または一部のインターフェイスにだけ方式リストを適用するとします。この場合、システム管理者は名前付き方式リストを作成し、その名前付きリストを対象のインターフェイスに適用します。次に、システム管理者が、インターフェイス 3 にだけ適用する認証方式を実装する場合の例を示します。

```
aaa authentication ppp default group radius group tacacs+ local
aaa authentication ppp apple group radius group tacacs+ local none
interface async 3
 ppp authentication chap apple
```

この例では、「apple」が方式リストの名前です。また、この方式リストに含まれるプロトコルは、名前の後に、実行する順で指定されています。方式リストを作成すると、該当するインターフェイスに適用されます。AAA および PPP 認証コマンド両方の方式リスト名 (apple) は一致する必要があります。

次の例では、システム管理者がサーバー グループを使用し、PPP 認証の場合は R2 および T2 だけが有効であることを指定します。この場合、管理者は、メンバがそれぞれ R2 (172.16.2.7) と T2 (172.16.2.77) であるサーバーグループを定義する必要があります。この例では、RADIUS サーバーグループ「rad2only」は **aaa group server** コマンドを使用して次のように定義されます。

```
aaa group server radius rad2only
 server 172.16.2.7
```

TACACS+ サーバーグループ「tac2only」は、**aaa group server** コマンドを使用して次のように定義されます。

```
aaa group server tacacs+ tac2only
server 172.16.2.77
```

次に、管理者はサーバー グループを使用して PPP 認証を適用します。この例では、PPP 認証用のデフォルト方式リストは **group rad2only**、**group tac2only**、**local** の順序に従います。

```
aaa authentication ppp default group rad2only group tac2only local
```

## RADIUS 認可変更について

標準RADIUSインターフェイスは通常、ネットワークに接続しているデバイスから要求が送信され、クエリーが送信されたサーバが応答するプル モデルで使用されます。シスコのソフトウェアは、プッシュ モデルで使用される RFC 5176 で定義された RADIUS CoA 要求をサポートしています。このモデルでは、要求は外部サーバからネットワークに接続されたデバイスへ発信され、外部の認証、許可、アカウントिंग (AAA) またはポリシー サーバからの動的なセッション再設定が可能になります。

次のセッション単位の CoA 要求を使用します。

- セッション再認証
- セッションの終了
- ポート シャットダウンでのセッション終了
- ポート バウンスでのセッション終了
- セキュリティとパスワード
- アカウントिंग

## CoA 要求

CoA 要求は、RFC 5176 に記載されているように、プッシュ モデルで使用するによって、セッション識別、ホスト再認証、およびセッション終了を行うことができます。モデルは、次のように、1つの要求 (CoA-Request) と2つの考えられる応答コードで構成されます。

- CoA acknowledgment (ACK) [CoA-ACK]
- CoA non-acknowledgment (NAK) [CoA-NAK]

要求は CoA クライアント (通常は RADIUS またはポリシー サーバ) から開始されて、リスナーとして動作するデバイスに転送されます。

## RFC 5176 規定

Disconnect Request メッセージは Packet of Disconnect (POD) とも呼ばれますが、セッション終了に対してデバイスでサポートされています。

次の表に、RADIUS 認可変更 (CoA) 機能でサポートされている IETF 属性を示します。

Table 1: サポートされている IETF 属性

属性番号	属性名
24	State
31	Calling-Station-ID
44	Acct-Session-ID
80	Message-Authenticator
101	Error-Cause

次の表に、Error-Cause 属性で取ることができる値を示します。

Table 2: Error-Cause の値

値	説明
201	削除された残留セッション コンテキスト
202	無効な EAP パケット (無視)
401	サポートされていない属性
402	見つからない属性
403	NAS 識別情報のミスマッチ
404	無効な要求
405	サポートされていないサービス
406	サポートされていない拡張機能
407	無効な属性値
501	管理上の禁止
502	ルート不可能な要求 (プロキシ)
503	セッション コンテキストが検出されない
504	セッション コンテキストが削除できない
505	その他のプロキシ処理エラー
506	リソースが使用不可能
507	要求が発信された
508	マルチセッションの選択がサポートされていない

## CoA 要求応答コード

CoA 要求の応答コードは、デバイスへコマンドを発行するために使用されます。サポートされているコマンドを「CoA 要求コマンド」に示します。

RFC 5176 で定義されている CoA 要求応答コードのパケットの形式は、コード、ID、長さ、オーセンティケータ、およびタイプ、長さ、値 (TLV) 形式の属性から構成されます。

属性フィールドは、Cisco ベンダー固有属性 (VSA) を送信するために使用します。

### セッションの識別

特定のセッションに対する接続解除および CoA 要求の場合、デバイスは次の 1 つまたは複数の属性に基づいてセッションを検出します。

- Acct-Session-Id (IETF 属性 #44)
- Audit-Session-Id (シスコのベンダー固有属性 (VSA) )
- Calling-Station-Id (ホスト MAC アドレスを含む IETF 属性 #31)

CoA メッセージに含まれるすべてのセッション ID 属性がそのセッションと一致しない限り、デバイスは「Invalid Attribute Value」エラーコード属性を含む Disconnect-NAK または CoA-NAK を返します。



**Note** CoA NAK メッセージは、キーの不一致があるすべての CoA 要求に送信されるわけではありません。メッセージは、クライアントの最初の 3 つの要求にのみ送信されます。その後、そのクライアントからのすべてのパケットがドロップされます。キーの不一致が見つかり、CoA NAK メッセージで送信される応答オーセンティケータはダミーのキー値から計算されます。

### CoA ACK 応答コード

許可ステートの変更に成功した場合は、肯定確認応答 (ACK) が送信されます。CoA ACK 内で返される属性は CoA 要求によって異なります。

### CoA NAK 応答コード

否定応答 (NAK) は許可ステートの変更に失敗したことを示し、エラーの理由を示す属性を含めることができます。

## CoA 要求コマンド

デバイスでサポートされているコマンドを次の表に示します。すべての CoA コマンドには、デバイスと CoA クライアント間のセッション ID が含まれている必要があります。

Table 3: デバイスでサポートされる CoA 要求コマンド

コマンド	シスコの VSA
Bounce host port	Cisco:Avpair="subscriber:command=bounce-host-port"
Disable host port	Cisco:Avpair="subscriber:command=disable-host-port"
Reauthenticate host	Cisco:Avpair="subscriber:command=reauthenticate"
Terminate session	VSA を必要としない標準の接続解除要求です

## セッション再認証

セッション認証を開始するために、認証、許可、アカウントिंग (AAA) サーバは、Cisco VSA と 1 つ以上のセッション ID 属性を含む標準 CoA 要求メッセージを送信します。Cisco VSA は、Cisco:Avpair="subscriber:command=reauthenticate" の形式です。

次のシナリオでは、現在のセッション状態によって、メッセージに対するデバイスの応答が決まります。

- セッションが現在、IEEE 802.1x によって認証されている場合、デバイスは Extensible Authentication Protocol over LAN (EAPoL) -RequestId メッセージをサーバに送信することで応答します。
- セッションが現在 MAC 認証バイパス (MAB) によって認証されている場合、デバイスはアクセス要求をサーバに送信し、最初に成功した認証で使用したのと同じ ID 属性を渡します。
- デバイスがコマンドを受信した際にセッション認証が実行中である場合は、デバイスはプロセスを終了し、認証シーケンスを再開し、最初に試行されるように設定された方式で開始します。

## セッションの終了

CoA 接続解除要求は、ホストポートをディセーブルにせずにセッションを終了します。CoA 接続解除要求終了によって、指定したホストのオーセンティケータ ステートマシンが再初期化されますが、ホストのネットワークへのアクセスは制限されません。セッションが見つからない場合、デバイスは「Session Context Not Found」エラーコード属性を使用して Disconnect-NAK メッセージを返します。セッションが見つかった場合、デバイスはセッションを終了します。セッションが完全に削除されると、デバイスは Disconnect-ACK メッセージを返します。

ホストのネットワークへのアクセスを制限するには、

Cisco:Avpair="subscriber:command=disable-host-port" VSA を含む CoA 要求を使用します。このコマンドは、ホストがネットワーク上で問題を起こしていることを把握し、ホストのネットワークアクセスを即座にブロックする必要がある場合に便利です。ポートのネットワークアクセスを復元する場合は、非 RADIUS メカニズムを使用して再びイネーブルにします。



## CoA 要求の disable host port

RADIUS サーバーの CoA disable port コマンドを実行すると、セッションをホストしている認証ポートが管理的にシャットダウンされます。その結果、セッションは終了します。このコマンドは、ホストがネットワーク上で問題を起こしていることを把握し、ホストのネットワークアクセスを即座にブロックする必要がある場合に便利です。ポートのネットワークアクセスを復元する場合は、非 RADIUS メカニズムを使用して再びイネーブルにします。このコマンドは、次の VSA を含む標準の CoA-Request メッセージで伝達されます。

```
Cisco:Avpair="subscriber:command=disable-host-port"
```

このコマンドはセッション指向であるため、「セッション ID」セクションに示されている 1 つ以上のセッション ID 属性とともに使用する必要があります。セッションを検出できない場合、デバイスは「Session Context Not Found」エラーコード属性を含む CoA-NAK メッセージを返します。デバイスは、セッションを検出すると、ホスティングポートを無効にし、CoA-ACK メッセージを返します。

デバイスが CoA-ACK をクライアントに返す前にデバイスに障害が発生した場合、クライアントから要求が再送信されると、新しいアクティブデバイス上でそのプロセスが繰り返されます。デバイスが CoA-ACK メッセージをクライアントに返した後でデバイスに障害が発生したが、操作が完了していない場合、その操作は新しいアクティブデバイスで再開されます。

RADIUS サーバの CoA disable port コマンドを無視するには、「bounce および disable RADIUS CoA 要求を無視するためのデバイスの設定」を参照してください。

## CoA 要求の bounce port

RADIUS サーバーの CoA bounce port が RADIUS サーバーから送信されると、認証ポートでリンクのフラップが発生します。その結果、このポートに接続している 1 つまたは複数のホストから、DHCP の再ネゴシエーションが開始されます。この状況は、VLAN の変更があり、この認証ポートに関する変化を検出するメカニズムがないデバイス（プリンタなど）がエンドポイントの場合に発生する可能性があります。CoA bounce port は、次の新しい VSA を含む標準の CoA-Request メッセージで伝達されます。

```
Cisco:Avpair="subscriber:command=bounce-host-port"
```

このコマンドはセッション指向であるため、「セッション ID」に示されている 1 つ以上のセッション ID 属性とともに使用する必要があります。セッションが見つからない場合、デバイスは「Session Context Not Found」エラーコード属性を使用して CoA-NAK メッセージを返します。このセッションがある場合は、デバイスはホストポートを 10 秒間ディセーブルし、再びイネーブルにし（ポートバウンス）、CoA-ACK を返します。

RADIUS サーバの CoA bounce port を無視するには、「bounce および disable RADIUS CoA 要求を無視するためのデバイスの設定」を参照してください。

## ドメインストリッピング

**radius-server domain-stripping** コマンドを使用して、グローバルレベルで受信したユーザー名からドメイン名を削除できます。**radius-server domain-stripping** コマンドを設定すると、

「user@example.com」を含むすべての AAA 要求のユーザー名が「user」に再フォーマットされてリモート RADIUS サーバーに送信されます。ドメイン名は要求から削除されます。



**Note** ドメインストリッピングは TACACS 設定では行われません。

AAA ブロードキャスト アカウンティング機能を有効にすると、アカウンティング情報を複数の AAA サーバーに同時に送信できます。つまり、アカウンティング情報を 1 つまた複数の AAA サーバーに同時にブロードキャストすることが可能です。この機能を使用すると、プライベートおよびパブリック AAA サーバーにアカウント情報を送信できます。この機能では、音声アプリケーションによる課金情報も提供されます。

ドメインストリッピング機能を使用すると、ドメインストリッピングをサーバーグループレベルで設定できます。

サーバー単位のグループ コンフィギュレーションはグローバル コンフィギュレーションを上書きします。ドメインストリッピングが、グローバルではイネーブルではないがサーバーグループでイネーブルになっている場合、そのサーバーグループに対してのみイネーブルになります。また、Virtual Routing and Forwarding (VRF) 固有のドメインストリッピングがグローバルで設定されていて、別の VRF のドメインストリッピングがサーバーグループで設定されている場合、ドメインストリッピングは両方の VRF でイネーブルになります。VRF の設定は、サーバーグループ コンフィギュレーション モードから取得されます。サーバーグループ コンフィギュレーションがグローバル コンフィギュレーション モードでディセーブルになっているが、サーバーグループ コンフィギュレーション モードで使用可能である場合、サーバーグループ コンフィギュレーション モードでのすべての設定が適用可能です。

ドメインストリッピングおよびブロードキャスト アカウンティングを設定した後で、設定ごとに別個のアカウントング レコードを作成できます。

## AAA 認証方式を設定する方法



**Note** `aaa new-model` コマンドを使用して AAA をグローバルに有効にするまで、AAA 機能は使用できません。

この章のコマンドを使用した認証の設定例については、「認証の例」を参照してください。

## AAA を使用したログイン認証の設定

AAA セキュリティ サービスにより、さまざまなログイン認証方式を容易に実行できるようになります。`aaa authentication login` コマンドを使用すると、サポートされているログイン認証方式のいずれを使用するかに関係なく、AAA 認証が有効になります。`aaa authentication login` コマンドを使用すると、ログイン時に試行する認証方式リストを 1 つまたは複数作成できま

す。これらのリストは、**login authentication** ライン コンフィギュレーション コマンドによって適用されます。

AAA を使用してログイン認証を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **aaa new-model**
2. Router(config)# **aaa authentication login**{default | list-name} method1[method2...]
3. Router(config)# **line** [aux | console | tty | vty] line-number [ending-line-number]
4. Router(config-line)# **login authentication**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>aaa new-model</b>	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 2	Router(config)# <b>aaa authentication login</b> {default   list-name} method1[method2...]	ローカルな認証リストを作成します。
ステップ 3	Router(config)# <b>line</b> [aux   console   tty   vty] line-number [ending-line-number]	認証リストを適用する回線について、ライン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router(config-line)# <b>login authentication</b>  <b>Example:</b>  {default   list-name}	1つの回線または複数回線に認証リストを適用します。

### What to do next

*list-name* は、作成するリストを指定するときを使用される名前です。文字列を使用できます。*method* 引数は、認証アルゴリズムが試行する実際の方式を指します。追加の認証方式は、その前の方式でエラーが返された場合に限り使用されます。前の方式が失敗した場合は使用されません。すべての方式でエラーが返されても引き続き認証を行うように指定するには、コマンドラインの最後の方式として **none** を指定します。

たとえば、（この例では）TACACS+ サーバーでエラーが返されても引き続き認証を行うように指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default group tacacs+ none
```



**Note** **none** キーワードを指定すると、すべてのユーザーがログイン認証に成功するため、認証のバックアップ方式としてだけ使用してください。

**login authentication** コマンドにリストが指定されていない場合に使用するデフォルトのリストを作成するには、**default** キーワードの後ろにデフォルト状態で使用される方式を指定します。デフォルト認証方式リストは、自動的にすべてのインターフェイスに適用されます。

たとえば、ログイン時のユーザー認証のデフォルト方式として RADIUS を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default group radius
```

次の表に、サポートされるログイン認証方式を示します。

**Table 4: AAA 認証ログイン方式**

キーワード	説明
<b>enable</b>	認証に有効化パスワードを使用します。
<b>krb5</b>	Kerberos 5 を認証に使用します。
<b>krb5-telnet</b>	ルータへの接続に Telnet を使用する場合、Kerberos 5 Telnet 認証プロトコルを使用します。このキーワードを選択する場合、方式リストの最初の方式としてこのキーワードを指定する必要があります。
<b>line</b>	認証にラインパスワードを使用します。
<b>local</b>	認証にローカルなユーザ名データベースを使用します。
<b>local-case</b>	認証に大文字と小文字が区別されるローカルなユーザ名を使用します。
<b>none</b>	認証を使用しません。
<b>group radius</b>	認証にすべての RADIUS サーバのリストを使用します。
<b>group tacacs+</b>	認証にすべての TACACS+ サーバのリストを使用します。
<b>group</b> <i>group-name</i>	<b>aaa group server radius</b> または <b>aaa group server tacacs+</b> コマンドで定義されているように、認証に RADIUS または TACACS+ サーバのサブセットを使用します。



**Note** **login** コマンドによって変更されるのはユーザー名および特権レベルだけであり、シェルは実行されません。したがって、**autocommand** は実行されません。この状況で **autocommand** を実行するには、Telnet セッションをルータに復帰 (ループバック) させる必要があります。この方法で **autocommand** 機能を実装する場合は、ルータがセキュアな Telnet セッションを使用するように設定されていることを確認してください。

## イネーブルパスワードによるログイン認証

認証方式としてイネーブルパスワードを指定するには、**enable** 方式キーワードを指定して **aaa authentication login** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式としてイネーブルパスワードを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default enable
```

ログイン認証方式としてイネーブルパスワードを使用するには、イネーブルパスワードを定義しておく必要があります。イネーブルパスワードの定義の詳細については、「Configuring Passwords and Privileges」を参照してください。

## Kerberos によるログイン認証

Kerberos による認証は、他のほとんどの認証方式とは異なり、ユーザーのパスワードはリモート アクセス サーバーに送信されません。ネットワークにログインするリモート ユーザーは、ユーザー名の指定を求められます。ユーザのエントリがキー発行局 (KDC) に存在する場合は、そのユーザのパスワードを含む暗号化されたチケット認可チケット (TGT) が作成され、ルータに送信されます。次に、ユーザにパスワードの入力が求められ、ルータではそのパスワードを含む TGT の復号化が試行されます。復号化に成功すると、ユーザは認証され、ルータ上にあるユーザのクレデンシャル キャッシュに TGT が保存されます。

krb5 は KINIT プログラムを使用しませんが、ルータに対して認証するために、ユーザが KINIT プログラムを実行して TGT を取得する必要はありません。これは、Cisco IOS XE の Kerberos 実装のログイン手順に KINIT が統合されているためです。

ログイン認証方式として Kerberos を指定するには、**krb5** 方式 キーワードを指定して **aaa authentication login** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として Kerberos を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default krb5
```

ログイン認証方式として Kerberos を使用するには、Kerberos セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。Kerberos サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「Kerberos の設定」の章を参照してください。

## ラインパスワードによるログイン認証

ログイン認証方式としてラインパスワードを指定するには、**line** 方式キーワードを指定して **aaa authentication login** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式としてラインパスワードを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default line
```

ログイン認証方式としてラインパスワードを使用するには、ラインパスワードを定義しておく必要があります。ラインパスワードの定義の詳細については、「ラインパスワード保護の設定」を参照してください。

## ローカルパスワードによるログイン認証

Cisco ルータまたはアクセスサーバーが認証にローカルユーザ名データベースを使用するように指定するには、**local** 方式キーワードを指定して **aaa authentication login** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザ認証方式としてローカルユーザ名データベースを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default local
```

ローカルユーザ名データベースにユーザを追加する方法については、「ユーザ名認証の確立」を参照してください。

## group RADIUS によるログイン認証

ログイン認証方式として RADIUS を指定するには、**group radius** 方式を指定して **aaa authentication login** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として RADIUS を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default group radius
```

ログイン認証方式として RADIUS を使用するには、RADIUS セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。RADIUS サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。

## アクセス要求での RADIUS 属性 8 の設定

**aaa authentication login** コマンドを使用して RADIUS を指定し、NAS から IP アドレスを要求するようにログインホストを設定すると、グローバル コンフィギュレーション モードで **radius-server attribute 8 include-in-access-req** コマンドを使用して、**access-request** パケットで属性 8 (Framed-IP-Address) を送信できます。このコマンドによって、ユーザー認証の前に、NAS から RADIUS サーバーに対してユーザー IP アドレスのヒントを提供できます。属性 8 の詳細については、巻末の付録「RADIUS 属性」を参照してください。

## group TACACS によるログイン認証

ログイン認証方式として TACACS+ を指定するには、**group tacacs+** 方式を指定して、**aaa authentication login** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として TACACS+ を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default group tacacs+
```

ログイン認証方式として TACACS+ を使用するには、TACACS+ セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。TACACS+ サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## group group-name によるログイン認証

ログイン認証方式として使用する RADIUS または TACACS+ サーバーのサブセットを指定するには、**group group-name** 方式を指定して **aaa authentication login** コマンドを使用します。グループ名とそのグループのメンバを指定して定義するには、**aaa group server** コマンドを使用します。たとえば、**aaa group server** コマンドを使用して、**group loginrad** のメンバを最初に定義します。

```
aaa group server radius loginrad
server 172.16.2.3
server 172.16.2 17
server 172.16.2.32
```

このコマンドにより、172.16.2.3、172.16.2.17、172.16.2.32 の RADIUS サーバーがグループ **loginrad** のメンバとして指定されます。

他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として **group loginrad** を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication login default group loginrad
```

ログイン認証方式としてグループ名を使用するには、RADIUS または TACACS+ セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。RADIUS サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。TACACS+ サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## AAA を使用した PPP 認証の設定

多くのユーザは、async または ISDN を介したダイヤルアップでネットワーク アクセス サーバにアクセスします。async または ISDN を介したダイヤルアップは、CLI を完全にバイパスします。その代わりに、接続が確立するとすぐにネットワーク プロトコル (PPP や ARA など) が開始されます。

AAA セキュリティ サービスにより、PPP を実行するシリアルインターフェイスに使用できるさまざまな認証方式の実行が容易になります。**aaa authentication ppp** コマンドを使用すると、サポートされている PPP 認証方式のいずれを使用するかに関係なく、AAA 認証が有効になります。

PPP を使用してシリアル回線に AAA 認証方式を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **aaa new-model**
2. Router(config)# **aaa authentication ppp**{default | list-name} method1[method2... ]
3. Router(config)# **interface** interface-type interface-number

4. Router(config-if)# **ppp authentication** {*protocol1* [*protocol2...* ]} [**if-needed**] {**default** | *list-name*} [**callin**] [**one-time**][**optional**]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>aaa new-model</b>	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 2	Router(config)# <b>aaa authentication ppp</b> { <b>default</b>   <i>list-name</i> } <i>method1</i> [ <i>method2... </i> ]	ローカルな認証リストを作成します。
ステップ 3	Router(config)# <b>interface</b> <i>interface-type interface-number</i>	認証リストを適用するインターフェイスについて、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router(config-if)# <b>ppp authentication</b> { <i>protocol1</i> [ <i>protocol2... </i> ]} [ <b>if-needed</b> ] { <b>default</b>   <i>list-name</i> } [ <b>callin</b> ] [ <b>one-time</b> ][ <b>optional</b> ]	1つの回線または複数回線に認証リストを適用します。このコマンドの <i>protocol1</i> と <i>protocol2</i> は、CHAP、MS-CHAP、および PAP のプロトコルを示します。PPP 認証は、まず <i>protocol1</i> に指定された最初の認証方式を使用して試行されます。認証に <i>protocol1</i> を使用できない場合は、次に設定されているプロトコルを使用して認証のネゴシエーションを行います。

### What to do next

**aaa authentication ppp** コマンドを使用して、PPP を介して認証を試行するときに使用する認証方式のリストを 1 つまたは複数作成します。これらのリストは、**ppp authentication** ライン コンフィギュレーション コマンドによって適用されます。

名前付きリストが **ppp authentication** コマンドに指定されていない場合に使用するデフォルトのリストを作成するには、**default** キーワードの後ろにデフォルト状況で使用される方式を指定します。

たとえば、ユーザー認証のデフォルト方式としてローカルユーザー名データベースを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication ppp default local
```

*list-name* は、作成するリストを指定するときに使用される名前で、任意の文字列を使用できます。*method* 引数は、認証アルゴリズムが試行する実際の方式を指します。追加の認証方式は、その前の方式でエラーが返された場合に限り使用されます。前の方式が失敗した場合は使用されません。すべての方式でエラーが返されても引き続き認証を行うように指定するには、コマンドラインの最後の方式として **none** を指定します。

たとえば、（この例では）TACACS+ サーバーでエラーが返されても引き続き認証を行うように指定するには、次のコマンドを入力します。



```
aaa authentication ppp default group tacacs+ none
```



**Note** **none** を指定するとすべてのユーザーが認証に成功してログインできるようになるため、認証のバックアップ方式として使用する必要があります。

次の表に、サポートされるログイン認証方式を示します。

**Table 5: AAA 認証 PPP 方式**

キーワード	説明
<b>if-needed</b>	ユーザが TTY 回線で認証済みの場合、認証しません。
<b>krb5</b>	認証に Kerberos 5 を使用します (PAP 認証にだけ使用できます)。
<b>local</b>	認証にローカルなユーザ名データベースを使用します。
<b>local-case</b>	認証に大文字と小文字が区別されるローカルなユーザ名を使用します。
<b>none</b>	認証を使用しません。
<b>group radius</b>	認証にすべての RADIUS サーバのリストを使用します。
<b>group tacacs+</b>	認証にすべての TACACS+ サーバのリストを使用します。
<b>group group-name</b>	<b>aaa group server radius</b> または <b>aaa group server tacacs+</b> コマンドで定義されているように、認証に RADIUS または TACACS+ サーバのサブセットを使用します。

## Kerberos による PPP 認証

PPP を実行するインターフェイスで使用する認証方式として Kerberos を指定するには、**krb5** 方式キーワードを指定して **aaa authentication ppp** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にユーザー認証方式として Kerberos を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication ppp default krb5
```

PPP 認証方式として Kerberos を使用するには、Kerberos セキュリティ サーバとの通信をイネーブルにしておく必要があります。Kerberos サーバとの通信を確立する方法の詳細については、「Kerberos の設定」の章を参照してください。



**Note** Kerberos ログイン認証は、PPP PAP 認証とだけ連携します。

## ローカルパスワードによる PPP 認証

Cisco ルータまたはアクセスサーバーが認証にローカルユーザー名データベースを使用するように指定するには、方式キーワード **local** を指定して **aaa authentication ppp** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合に、PPP を実行する回線に使用するユーザ認証方式としてローカルユーザー名データベースを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication ppp default local
```

ローカルユーザー名データベースにユーザを追加する方法については、「ユーザー名認証の確立」を参照してください。

## group RADIUS による PPP 認証

ログイン認証方式として RADIUS を指定するには、**group radius** 方式を指定して **aaa authentication ppp** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として RADIUS を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication ppp default group radius
```

PPP 認証方式として RADIUS を使用するには、RADIUS セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。RADIUS サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。

## アクセス要求での RADIUS 属性 44 の設定

**group radius** 方式で **aaa authentication ppp** コマンドを使用して、ログイン認証方式として RADIUS を指定した後、グローバル コンフィギュレーションモードで **radius-server attribute 44 include-in-access-req** コマンドを使用して、アクセス要求パケットで属性 44 (Acct-Session-ID) を送信するようにデバイスを設定できます。このコマンドによって、RADIUS デーモンはコールを開始から終了まで追跡できます。

## group TACACS による PPP 認証

ログイン認証方式として TACACS+ を指定するには、**group tacacs+** 方式を指定して、**aaa authentication ppp** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として TACACS+ を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication ppp default group tacacs+
```

PPP 認証方式として TACACS+ を使用するには、TACACS+ セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。TACACS+ サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## group group-name による PPP 認証

ログイン認証方式として使用する RADIUS または TACACS+ サーバーのサブセットを指定するには、**group group-name** 方式を指定して **aaa authentication ppp** コマンドを使用します。グループ名とそのグループのメンバを指定して定義するには、**aaa group server** コマンドを使用します。たとえば、**aaa group server** コマンドを使用して、**group ppprad** のメンバを最初に定義します。

```
aaa group server radius ppprad
server 172.16.2.3
server 172.16.2.17
server 172.16.2.32
```

このコマンドにより、172.16.2.3、172.16.2.17、172.16.2.32 の RADIUS サーバーがグループ **ppprad** のメンバとして指定されます。

他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として **group ppprad** を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication ppp default group ppprad
```

PPP 認証方式としてグループ名を使用するには、RADIUS または TACACS+ セキュリティサーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。RADIUS サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。TACACS+ サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## PPP 要求に対する AAA スケーラビリティの設定

ネットワークアクセスサーバー (NAS) の PPP マネージャによって割り当てられた複数のバックグラウンドプロセスを設定およびモニターして、AAA 認証要求と認可要求に対応できます。AAA スケーラビリティ機能によって、PPP に対する AAA 要求を処理するために使用される複数のプロセスを設定できるようになります。つまり、同時に認証または認可できるユーザー数が増えます。

PPP に対する AAA 要求を処理するために、特定の数のバックグラウンドプロセスを割り当てるには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router (config) # <b>aaa processes</b> <i>number</i>	PPP に対する AAA 認証要求および認可要求を処理するために、特定の数のバックグラウンドプロセスを割り当てます。

引数 *number* には、PPP に対する AAA 認証要求と認可要求を処理するために確保するバックグラウンドプロセス数を定義します。また、1 ~ 2147483647 の任意の値を設定できます。PPP マネージャが PPP に対する要求を処理する方法のため、この引数には、同時に認証できる新規ユーザーの数も定義します。この引数は、いつでも増減できます。



**Note** 追加バックグラウンドプロセスの割り当ては、コストが高くなる可能性があります。PPP に対する AAA 要求を処理できるバックグラウンドプロセスの最小数を設定してください。

## AAA を使用した ARAP 認証の設定

**aaa authentication arap** コマンドを使用して、AppleTalk Remote Access Protocol (ARAP) ユーザーがデバイスにログインを試行するときに使用する認証方式のリストを1つまたは複数作成できます。これらのリストは、**arap authentication** ラインコンフィギュレーションコマンドで使用されます。

グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Device(config)# **aaa new-model**
2. Device(config)# **aaa authentication arap**
3. Device(config)# **line number**
4. Device(config-line)# **autoselect arap**
5. Device(config-line)# **autoselect during-login**
6. Device(config-line)# **arap authentication list-name**
7. Device(config-line)# **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Device(config)# <b>aaa new-model</b>	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 2	Device(config)# <b>aaa authentication arap</b> <b>Example:</b> ARAP ユーザーに対する認証をイネーブルにします。	
ステップ 3	Device(config)# <b>line number</b>	(任意) ライン コンフィギュレーション モードに変更します。
ステップ 4	Device(config-line)# <b>autoselect arap</b>	(任意) ARAP の自動選択をイネーブルにします。
ステップ 5	Device(config-line)# <b>autoselect during-login</b>	(任意) ユーザーログイン時に ARAP セッションを自動的に開始します。
ステップ 6	Device(config-line)# <b>arap authentication list-name</b>	(任意 : <b>default</b> が <b>aaa authentication arap</b> コマンドで使用されている場合は不要) 回線上の ARAP に対する TACACS+ 認証を有効にします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	Device(config-line)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

### What to do next

*list-name* は、作成するリストを指定するときに使用される名前です。任意の文字列を使用できます。*method* 引数は、認証アルゴリズムが試行する方式の実際のリストを指します。試行は入力されている順序で行われます。

名前付きリストが **arap authentication** コマンドに指定されていない場合に使用するデフォルトのリストを作成するには、**default** キーワードの後ろにデフォルト状況で使用される方式を指定します。

追加の認証方式は、その前の方式でエラーが返された場合に限り使用されます。前の方式が失敗した場合は使用されません。すべての方式でエラーが返されても引き続き認証を行うように指定するには、コマンドラインの最後の方式として **none** を指定します。



**Note** **none** を指定するとすべてのユーザーのログインが認証されるようになるため、認証のバックアップ方式として使用する必要があります。

次の表に、サポートされるログイン認証方式を示します。

Table 6: AAA 認証 ARAP 方式

キーワード	説明
<b>auth-guest</b>	ユーザが EXEC モードにログイン済みの場合にだけ、ゲストログインを許可します。
<b>guest</b>	ゲストログインを許可します。
<b>line</b>	認証にラインパスワードを使用します。
<b>local</b>	認証にローカルなユーザ名データベースを使用します。
<b>local-case</b>	認証に大文字と小文字が区別されるローカルなユーザ名を使用します。
<b>group radius</b>	認証にすべての RADIUS サーバのリストを使用します。
<b>group tacacs+</b>	認証にすべての TACACS+ サーバのリストを使用します。
<b>group group-name</b>	<b>aaa group server radius</b> または <b>aaa group server tacacs+</b> コマンドで定義されているように、認証に RADIUS または TACACS+ サーバのサブセットを使用します。

たとえば、ARAP とともに使用するデフォルトの AAA 認証方式リストを作成するには、次のコマンドを使用します。

```
aaa authentication arap default if-needed none
```

ARAP に同じ認証方式リストを作成し、リストに *MIS-access* と名前を付けるには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication arap MIS-access if-needed none
```

ここでは、次の内容について説明します。

## 認可済みゲスト ログインを許可する ARAP 認証

ユーザーが EXEC に正常にログイン済みの場合にだけ、ゲストログインを許可するには、**auth-guest** キーワードを指定して **aaa authentication arap** コマンドを使用します。この方式は ARAP 認証方式リストの先頭に指定する必要がありますが、この方式が成功しなかった場合は引き続き他の方式を試行できます。たとえば、認証のデフォルト方式として、すべての認可済みゲストログイン（つまり、EXEC にログイン済みのユーザーによるログイン）を許可し、その方式が失敗した場合にだけ RADIUS を使用するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication arap default auth-guest group radius
```



**Note** AAA を初期化すると、デフォルトで ARAP によるゲストログインはディセーブルになります。ゲストログインを許可するには、**guest** キーワードまたは **auth-guest** キーワードを指定して **aaa authentication arap** コマンドを使用する必要があります。

## ゲスト ログインを許可する ARAP 認証

ゲストログインを許可するには、**guest** キーワードを指定して **aaa authentication arap** コマンドを使用します。この方式は ARAP 認証方式リストの先頭に指定する必要がありますが、この方式が成功しなかった場合は引き続き他の方式を試行できます。たとえば、認証のデフォルト方式としてすべてのゲストログインを許可し、その方式が失敗した場合にだけ RADIUS を使用するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication arap default guest group radius
```

## ラインパスワードによる ARAP 認証

認証方式としてラインパスワードを指定するには、方式キーワード **line** を指定して **aaa authentication arap** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合に、ARAP ユーザー認証方式としてラインパスワードを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication arap default line
```

ARAP 認証方式としてラインパスワードを使用するには、ラインパスワードを定義しておく必要があります。ラインパスワードの定義の詳細については、この章の「ラインパスワード保護の設定」を参照してください。

## ローカルパスワードによる ARAP 認証

Cisco ルータまたはアクセスサーバーが認証にローカルユーザー名データベースを使用するように指定するには、方式キーワード **local** を指定して **aaa authentication arap** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合に、ARAP ユーザー認証方式としてローカルユーザー名データベースを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication arap default local
```

ローカルユーザー名データベースにユーザーを追加する方法については、「ユーザー名認証の確立」を参照してください。

## group RADIUS による ARAP 認証

NAS 認証方式として RADIUS を指定するには、**group radius** 方式を指定して **aaa authentication arap** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として RADIUS を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication arap default group radius
```

ARAP 認証方式として RADIUS を使用する前に、RADIUS セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。RADIUS サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。

## group TACACS による ARAP 認証

ARAP 認証方式として TACACS+ を指定するには、**group tacacs+** 方式を指定して、**aaa authentication arap** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として TACACS+ を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication arap default group tacacs+
```

ARAP 認証方式として TACACS+ を使用するには、TACACS+ セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。TACACS+ サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## group group-name による ARAP 認証

ARAP 認証方式として使用する RADIUS または TACACS+ サーバーのサブセットを指定するには、**group group-name** 方式を指定して **aaa authentication arap** コマンドを使用します。グループ名とそのグループのメンバを指定して定義するには、**aaa group server** コマンドを使用します。たとえば、**aaa group server** コマンドを使用して、**group araprad** のメンバを最初に定義します。

```
aaa group server radius araprad
server 172.16.2.3
server 172.16.2.17
server 172.16.2.32
```

このコマンドにより、172.16.2.3、172.16.2.17、172.16.2.32 の RADIUS サーバーがグループ *araprad* のメンバとして指定されます。

他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として **group araprad** を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication arap default group araprad
```

ARAP 認証方式としてグループ名を使用するには、RADIUS または TACACS+ セキュリティサーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。RADIUS サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。TACACS+ サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## AAA を使用した NASI 認証の設定

**aaa authentication nasi** コマンドを使用して、NetWare Asynchronous Services Interface (NASI) ユーザーがデバイスにログインを試行するときに使用する認証方式のリストを1つまたは複数作成できます。これらのリストは、**nasi authentication line** コンフィギュレーション コマンドで使用されます。

AAA を使用して NASI 認証を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Device(config)# **aaa new-model**
2. Device(config)# **aaa authentication nasi**
3. Device(config)# **line number**
4. Device(config-line)# **nasi authentication list-name**
5. Device(config-line)# **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Device(config)# <b>aaa new-model</b>	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 2	Device(config)# <b>aaa authentication nasi</b> <b>Example:</b>	NASI ユーザーに対する認証をイネーブルにします。
ステップ 3	Device(config)# <b>line number</b>	(任意 : <b>default</b> が <b>aaa authentication nasi</b> コマンドで使用されている場合は不要) ラインコンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 4	Device(config-line)# <b>nasi authentication</b> <i>list-name</i>	(任意 : <b>default</b> が <b>aaa authentication nasi</b> コマンドに使用されている場合は不要) 回線上の NASI に対する TACACS+ 認証を有効にします。
ステップ 5	Device(config-line)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

### What to do next

*list-name* は、作成するリストを指定するときに使用される名前で、任意の文字列を使用できます。*method* 引数は、認証アルゴリズムが試行する方式の実際のリストを指します。試行は入力されている順序で行われます。

**aaa authentication nasi** コマンドに名前付きリストが指定されていない場合に使用するデフォルトのリストを作成するには、**default** キーワードの後ろにデフォルト状況で使用される方式を指定します。

追加の認証方式は、その前の方式でエラーが返された場合に限り使用されます。前の方式が失敗した場合は使用されません。すべての方式でエラーが返されても引き続き認証を行うように指定するには、コマンドラインの最後の方式として **none** を指定します。



**Note** **none** を指定するとすべてのユーザーのログインが認証されるようになるため、認証のバックアップ方式として使用する必要があります。

次の表に、サポートされる NASI 認証方式を示します。

Table 7: AAA 認証 NASI 方式

キーワード	説明
<b>enable</b>	認証に有効化パスワードを使用します。
<b>line</b>	認証にラインパスワードを使用します。
<b>local</b>	認証にローカルなユーザ名データベースを使用します。
<b>local-case</b>	認証に大文字と小文字が区別されるローカルなユーザ名を使用します。
<b>none</b>	認証を使用しません。
<b>group radius</b>	認証にすべての RADIUS サーバのリストを使用します。
<b>group tacacs+</b>	認証にすべての TACACS+ サーバのリストを使用します。
<b>group</b> <i>group-name</i>	<b>aaa group server radius</b> または <b>aaa group server tacacs+</b> コマンドで定義されているように、認証に RADIUS または TACACS+ サーバのサブセットを使用します。

## イネーブルパスワードによる NASI 認証

認証方式としてイネーブルパスワードを指定するには、キーワード **enable** を指定して **aaa authentication nasi** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合に、NASI ユーザー認証方式としてイネーブルパスワードを指定するには、次のコマンドを使用します。

```
aaa authentication nasi default enable
```

認証方式としてイネーブルパスワードを使用するには、イネーブルパスワードを定義しておく必要があります。イネーブルパスワードの定義の詳細については、「Configuring Passwords and Privileges」を参照してください。

## ラインパスワードによる NASI 認証

認証方式としてラインパスワードを指定するには、方式キーワード **line** を指定して **aaa authentication nasi** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合に、NASI ユーザー認証方式としてラインパスワードを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication nasi default line
```

NASI 認証方式としてラインパスワードを使用するには、ラインパスワードを定義しておく必要があります。ラインパスワードの定義の詳細については、「ラインパスワード保護の設定」を参照してください。

## ローカルパスワードによる NASI 認証

Cisco ルータまたはアクセスサーバーが認証情報にローカルユーザー名データベースを使用するように指定するには、方式キーワード **local** を指定して **aaa authentication nasi** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合に、NASI ユーザー認証方式としてローカルユーザー名データベースを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication nasi default local
```

ローカルユーザー名データベースにユーザを追加する方法については、「ユーザ名認証の確立」を参照してください。

## group RADIUS による NASI 認証

NASI 認証方式として RADIUS を指定するには **group radius** 方式を指定して **aaa authentication nasi** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合に、NASI ユーザー認証方式として RADIUS を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication nasi default group radius
```

NASI 認証方式として RADIUS を使用するには、RADIUS セキュリティサーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。RADIUS サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。

## group TACACS による NASI 認証

NASI 認証方式として TACACS+ を指定するには、**group tacacs+** 方式キーワードを指定して **aaa authentication nasi** コマンドを使用します。たとえば、他の方式リストが定義されていない場合に、NASI ユーザー認証方式として TACACS+ を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication nasi default group tacacs+
```

認証方式として TACACS+ を使用するには、TACACS+ セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。TACACS+ サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## group group-name による NASI 認証

NASI 認証方式として使用する RADIUS または TACACS+ サーバーのサブセットを指定するには、**group group-name** 方式を指定して **aaa authentication nasi** コマンドを使用します。グループ名とそのグループのメンバを指定して定義するには、**aaa group server** コマンドを使用します。たとえば、**aaa group server** コマンドを使用して、**group nasirad** のメンバを最初に定義します。

```
aaa group server radius nasirad
server 172.16.2.3
server 172.16.2.17
server 172.16.2.32
```

このコマンドにより、172.16.2.3、172.16.2.17、172.16.2.32 の RADIUS サーバーがグループ **nasirad** のメンバとして指定されます。

他の方式リストが定義されていない場合にログイン時のユーザー認証方式として **group nasirad** を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa authentication nasi default group nasirad
```

NASI 認証方式としてグループ名を使用するには、RADIUS または TACACS+ セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにしておく必要があります。RADIUS サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。TACACS+ サーバーとの通信を確立する方法の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## ログイン入力にかかる時間の指定

**timeout login response** コマンドを使用すると、ログイン入力（ユーザー名やパスワードなど）がタイムアウトするまでの待機時間を指定できます。デフォルトのログイン値は 30 秒です。**timeout login response** コマンドを使用して、1 ~ 300 秒のタイムアウト値を指定できます。30 秒というデフォルトのログインタイムアウト値を変更するには、ラインコンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-line)# <b>timeout login response</b> <i>seconds</i>	タイムアウトまでログイン情報を待機する時間を指定します。

## 特権レベルでのパスワード保護のイネーブル化

ユーザーが特権 EXEC コマンドレベルにアクセスできるかどうかを判断するときに使用する一連の認証方式を作成するには、**aaa authentication enable default** コマンドを使用します。最大 4 つの認証方式を指定できます。追加の認証方式は、その前の方式でエラーが返された場合に限り使用されます。前の方式が失敗した場合は使用されません。すべての方式でエラーが返されても引き続き認証を行うように指定するには、コマンドラインの最後の方式として **none** を指定します。

グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# <b>aaa authentication enable default</b> <i>method1</i> [ <i>method2...</i> ]	特権 EXEC レベルを要求するユーザに対して、ユーザ ID とパスワードのチェックをイネーブルにします。 <b>Note</b> ルータから RADIUS サーバーに送信されたすべての <b>aaa authentication enable default</b> 要求には、ユーザー名「\$enab15\$」が含まれます。TACACS+ サーバに送信された要求にはログイン認証用に入力されたユーザ名が含まれます。

メソッド引数は、認証アルゴリズムが試行した方式の実際のリストを入力された順に参照します。次の表は、サポートされているイネーブル認証方式を示します。

Table 8: AAA 認証イネーブル デフォルト方式

キーワード	説明
<b>enable</b>	認証に有効化パスワードを使用します。
<b>line</b>	認証にラインパスワードを使用します。
<b>none</b>	認証を使用しません。
<b>group radius</b>	認証にすべての RADIUS ホストのリストを使用します。 <b>Note</b> RADIUS 方式は、ユーザ名別では機能しません。
<b>group tacacs+</b>	認証にすべての TACACS+ ホストのリストを使用します。

キーワード	説明
<b>group</b> <i>group-name</i>	<b>aaa group server radius</b> または <b>aaa group server tacacs+</b> コマンドで定義されているように、認証に RADIUS または TACACS+ サーバーのサブセットを使用します。

## パスワードプロンプトに表示するテキストの変更

Cisco IOS XE ソフトウェアからユーザーに対してパスワードの入力を求めるときに表示されるデフォルトテキストを変更するには、**aaa authentication password-prompt** コマンドを使用します。このコマンドによって、イネーブルパスワードと、リモートセキュリティサーバーから提供されていないログインパスワードのパスワードプロンプトが変更されます。このコマンドの **no** 形式を使用すると、パスワードプロンプトが次のデフォルト値に戻ります。

Password:

**aaa authentication password-prompt** コマンドでは、リモートの TACACS+ サーバーまたは RADIUS サーバーから提供されるダイアログは変更されません。

**aaa authentication password-prompt** コマンドは、RADIUS をログイン方式として使用するときには機能します。RADIUS サーバに到達不能の場合でも、コマンドで定義されたパスワードプロンプトが表示されます。**aaa authentication password-prompt** コマンドは、TACACS+ と併用できません。TACACS+ は、NAS に対して、ユーザに表示するパスワードプロンプトを提供します。TACACS+ サーバが到達可能な場合、NAS はそのサーバからパスワードプロンプトを受け取り、**aaa authentication password-prompt** コマンドで定義したプロンプトではなく、受け取ったプロンプトを使用します。TACACS+ サーバが到達不能の場合、**aaa authentication password-prompt** コマンドで定義したパスワードプロンプトが使用される可能性があります。

グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router (config) # <b>aaa authentication password-prompt</b> <i>text-string</i>	ユーザにパスワードの入力を求めるときに表示するデフォルトテキストを変更します。

## ユーザー名が空のアクセス要求が RADIUS サーバーに送信されないようにする

次の設定手順では、ユーザー名が空のアクセス要求が RADIUS サーバーに送信されないようにする方法について説明します。この機能により、RADIUS サーバーとの不要なやりとりを回避でき、RADIUS ログの量を少なくすることができます。



**Note** `aaa authentication suppress null-username` コマンドを開始できるのは、Cisco IOS XE Release 2.4 です。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `aaa new-model`
4. `aaa authentication suppress null-username`

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b>  Router(config)# configure terminal	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 4	<b>aaa authentication suppress null-username</b> <b>Example:</b>  Router(config)# aaa authentication suppress null-username	ユーザー名が空のアクセス要求が RADIUS サーバーに送信されないようにします。

## AAA 認証のメッセージバナーの設定

AAA は、設定可能でパーソナライズされたログインおよび failed-login バナーの使用をサポートします。ユーザーが AAA を使用して認証を受けるシステムにログインする場合、および何らかの理由で認証が失敗した場合に表示されるメッセージバナーを設定できます。

## ログインバナーの設定

ユーザーがログインするときに表示されるメッセージを設定する（デフォルトのログインメッセージを置き換える）には、次のタスクを実行します。

### Before you begin

ログインバナーを作成するには、デリミタを設定する必要があります。設定することで、続くテキスト文字列をバナーとして表示する必要があることがシステムに通知されます。次に、テキスト文字列自体を設定する必要があります。デリミタは、バナーの末尾を示すために、テキストストリングの末尾で繰り返されます。デリミタには、拡張 ASCII 文字セットの任意の 1 文字を使用できます。ただし、デリミタとして定義した文字は、バナー用のテキスト文字列には使用できません。

### SUMMARY STEPS

1. **aaa new-model** Device(config)# **aaa new-model**
2. Device(config)# **aaa authentication banner delimiter string delimiter**
3. Device(config)# **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>aaa new-model</b> Device(config)# <b>aaa new-model</b>	AAA をイネーブルにします。
ステップ 2	Device(config)# <b>aaa authentication banner delimiter string delimiter</b>	パーソナライズされたログインバナーを作成します。
ステップ 3	Device(config)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

### What to do next

ログインバナーの設定後、まだ実行していない場合は、AAA を使用した認証の基本設定を完了する必要があります。さまざまな、使用可能な AAA 認証の詳細については、『認証、許可、アカウントング コンフィギュレーションガイド』の「認証の設定」を参照してください。

## Failed-Login バナーの設定

ユーザーログインが失敗したときに表示されるメッセージを設定する（デフォルトの failed-login メッセージを置き換える）には、次のタスクを実行します。

### Before you begin

failed-login バナーを作成するには、デリミタを設定する必要があります。設定することで、続くテキスト文字列をバナーとして表示する必要があることがシステムに通知されます。次に、テキスト文字列自体を設定する必要があります。デリミタは、failed-login バナーの末尾を示す

ために、テキスト スtringの末尾で繰り返されます。デリミタには、拡張 ASCII 文字セットの任意の1文字を使用できます。ただし、デリミタとして定義した文字は、バナーを構成するテキスト スtringには使用できません。

## SUMMARY STEPS

1. Device(config)# **aaa new-model**
2. Device(config)# **aaa authentication fail-message delimiter string delimiter**
3. Device(config)# **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Device(config)# <b>aaa new-model</b>	AAA をイネーブルにします。
ステップ 2	Device(config)# <b>aaa authentication fail-message delimiter string delimiter</b>	ユーザーログインが失敗したときに表示されるメッセージを作成します。
ステップ 3	Device(config)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

### What to do next

failed-login バナーの設定後、まだ実行していない場合は、AAA を使用した認証の基本設定を完了する必要があります。さまざまな、使用可能な AAA 認証の詳細については、『認証、許可、アカウントिंग コンフィギュレーションガイド』の「認証の設定」を参照してください。

## AAA パケットオブディスコネクトの設定

特定のセッション属性が指定された場合、パケットオブディスコネクト (POD) によってネットワークアクセスサーバー (NAS) の接続が終了されます。UNIX ワークステーション上にある POD クライアントでは、AAA から取得したセッション情報を使用して、ネットワークアクセスサーバーで実行されている POD サーバーに接続解除パケットを送信します。NAS では、1つまたは複数の一致するキー属性を含む任意の着信ユーザーセッションを終了します。必要なフィールドがない場合、または完全一致が見つからない場合、要求は拒否されます。

PODを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のタスクを実行します。

## SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **aaa accounting network default**
2. Router(config)# **aaa accounting delay-start**
3. Router(config)# **aaa pod server server-keystring**
4. Router(config)# **radius-server host IP addressnon-standard**



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>aaa accounting network default</b>  Example:  <b>start-stop radius</b>	AAA アカウンティング レコードをイネーブルにします。
ステップ 2	Router(config)# <b>aaa accounting delay-start</b>	(任意) POD パケットで使用できるように、Framed-IP-Address が割り当てられるまで、開始アカウンティング レコードの生成を遅延します。
ステップ 3	Router(config)# <b>aaa pod server server-keystring</b>	POD の受信イネーブルにします。
ステップ 4	Router(config)# <b>radius-server host IP addressnon-standard</b>	RADIUS のベンダー固有バージョンを使用する RADIUS ホストを宣言します。

## 二重認証のイネーブル化

シスコのリリースによっては、PPP セッションの認証には、PAP または CHAP のどちらか 1 つの認証方法しか使用できないことがあります。二重認証方式の場合、ネットワークアクセス権を得るには、リモートユーザーが (CHAP または PAP 認証後に) 認証の第 2 段階に合格する必要があります。

この第 2 段階 (「二重」) の認証には、ユーザーがパスワードを知っている必要がありますが、ユーザーのリモートホストにパスワードは保存されません。そのため、第 2 段階の認証は、ホストではなくユーザーに固有です。その結果、リモートホストから情報が盗まれた場合でも有効な、追加のセキュリティレベルが実現します。さらに、ユーザー別にネットワーク特権をカスタマイズできるため、柔軟性も高くなります。

第 2 段階の認証には、CHAP ではサポートされないトークンカードなど、ワンタイムパスワードを使用できます。ワンタイムパスワードを使用している場合、ユーザーパスワードが盗まれても盗用者の役に立ちません。

## 二重認証の機能

二重認証を使用する場合、2 つの認証/認可段階があります。この 2 つの段階は、リモートユーザーがダイヤルインした後、および PPP セッションが開始された後に発生します。

第 1 段階では、ユーザーがリモートホスト名を使用してログインして CHAP (または PAP) がリモートホストを認証し、次に PPP が AAA とネゴシエートしてリモートホストを認可します。このプロセスで、リモートホストに関連付けられたネットワークアクセス特権は、そのユーザーに関連付けられます。



**Note** ローカル ホストに対して Telnet 接続だけを許可するように、この第 1 段階ではネットワーク管理者が認可を制限することを推奨します。

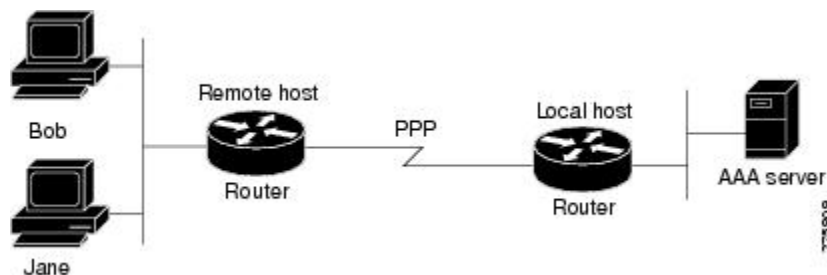
第 2 段階では、リモート ユーザーが、認証を受けるネットワーク アクセス サーバーに対して Telnet を送信する必要があります。リモート ユーザーがログインする場合、AAA ログイン認証を使用してユーザーを認証する必要があります。次に、AAA を使用して再度許可を受けるために、**access-profile** コマンドを入力する必要があります。この認可が完了すると、ユーザーは二重に認証され、ユーザー別のネットワーク特権に従ってネットワークにアクセスできるようになります。

システム管理者は、セキュリティサーバーで適切なパラメータを設定することで、各認証段階の後にリモート ユーザーが保持するネットワーク特権を決定します。二重認証を使用するには、**access-profile** コマンドを発行してアクティブ化する必要があります。



**Caution** 複数のホストがネットワーク アクセス サーバーに対して PPP 接続を共有する場合、二重認証によって望ましくない状況が発生することがあります (次の図を参照)。まず、ユーザー Bob が PPP セッションを開始し、ネットワーク アクセス サーバーで二重認証をアクティブにした場合 (次の図を参照)、Bob の PPP セッションが期限切れになるまで、他のすべてのユーザーは Bob と同じネットワーク特権を持つこととなります。この問題が発生するのは、PPP セッション時に Bob の認可プロファイルがネットワーク アクセス サーバーのインターフェイスに適用され、他のユーザーからの PPP トラフィックに Bob が確立した PPP セッションが使用されるためです。第 2 に、Bob が PPP セッションを開始して二重認証をアクティブにし、(Bob の PPP セッションが期限切れになる前に) 別のユーザー Jane が **access-profile** コマンドを実行する場合 (または、Jane がネットワーク アクセス サーバーに Telnet を送信し、**autocommand access-profile** が実行された場合)、再度許可が発生し、Jane の許可プロファイルがインターフェイスに適用され、Bob のプロファイルは置換されます。その結果、Bob の PPP トラフィックの不通や中止が発生することや、Bob が本来は持っていないレベルの特権が Bob に付与されることがあります。

Figure 2: 危険性を伴うトポロジ: 複数のホストがネットワーク アクセス サーバーに対する PPP 接続を共有



## 二重認証の設定

二重認証を設定するには、次の手順を実行します。

1. **aaa-new model** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、AAA を有効にします。AAA をイネーブルにする方法の詳細については、「AAA Overview」を参照してください。
2. **aaa authentication** コマンドを使用して、ログインおよびPPP 認証方式リストを使用するようにネットワークアクセスサーバーを設定します。次に、これらの方式リストを適切な回線やインターフェイスに適用します。
3. **aaa authorization** コマンドを使用して、ログイン時の AAA ネットワーク許可を設定します。ネットワーク認可の設定の詳細については、「認可の設定」の章を参照してください。
4. セキュリティプロトコルパラメータ（たとえば、RADIUS または TACACS+）を設定します。RADIUS の詳細については、「Configuring RADIUS」の章を参照してください。TACACS+ の詳細については、「Configuring TACACS+」の章を参照してください。
5. セキュリティサーバーで、ユーザーがローカルホストに接続できるアクセスコントロールリストの AV ペアを使用するには、Telnet 接続を確立する必要があります。
6. （任意）autocommand として **access-profile** コマンドを設定します。autocommand を設定すると、リモートユーザーは、個人のユーザープロファイルに関連付けられた許可済み権限にアクセスするために、手動で **access-profile** コマンドを入力する必要はなくなります。



**Note** **access-profile** コマンドが autocommand として設定されている場合でも、二重認証を完了するには、ユーザーがローカルホストに Telnet を送信し、ログインする必要があります。

ユーザー固有の許可ステートメントを作成する場合、次の規則に従います（これらの規則は、**access-profile** コマンドのデフォルトの動作に関連します）。

- セキュリティサーバーでアクセスコントロールリストの AV ペアを設定する場合、有効な AV ペアを使用します。
- リモートユーザーがインターフェイスの既存の認可（第2段階の認証/認可の前に存在する認可）を使用し、異なるアクセスコントロールリスト（ACL）を持つようにするには、ユーザー固有の認可定義で ACL AV ペアだけを指定します。この方法は、デフォルトの認可プロファイルを設定してリモートホストに適用し、ACL はユーザー別に適用する場合などに有効です。
- これらのユーザー固有の許可ステートメントを後でインターフェイスに適用すると、ユーザーの許可に使用する **access-profile** コマンドの実行形式によって、既存のインターフェイス設定に追加することや、既存のインターフェイス設定を置き換えることができます。許可ステートメントを設定する前に、**access-profile** コマンドの機能について理解する必要があります。
- ISDN または Multilink PPP を使用する予定がある場合、ローカルホストで仮想テンプレートも設定する必要があります。

二重認証に関する問題を解決するには、**debug aaa per-user** デバッグコマンドを使用します。このコマンドの詳細については、『*Cisco IOS Debug Command Reference*』を参照してください。

## 二重認証後のユーザー プロファイルへのアクセス

二重認証で、リモートユーザーがローカルホスト名を使用してローカルホストに対する PPP リンクを確立すると、リモートホストは CHAP (または PAP) 認証されます。CHAP (または PAP) 認証後、PPP は AAA とネゴシエートして、リモートホストに関連付けられたネットワークアクセス特権をユーザーに割り当てます (この段階の特権では、ユーザーがローカルホストに接続するには Telnet 接続を必須にするという制限を付けることを推奨します)。

ユーザーが二重認証の第 2 段階を開始する必要があるため、ローカルホストに対して Telnet 接続を確立する場合、ユーザーは個人のユーザー名とパスワード (CHAP または PAP のユーザー名とパスワードとは異なります) を入力します。この処理の結果、個人のユーザー名/パスワードに従って AAA 認証が発生します。ただし、ローカルホストに関連付けられた初期の権限が有効です。ローカルホストに関連付けられた権限は、**access-profile** コマンドを使用して、ユーザープロファイルのユーザー用に定義されている権限で置き換えられるか、結合されます。

二重認証後にユーザープロファイルにアクセスするには、EXEC コンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router> <b>access-profile</b> [merge   replace] [ignore-sanity-checks]	二重認証後に、ユーザに関連付けられた権限にアクセスします。

autocommand として実行するように **access-profile** コマンドを設定した場合、リモートユーザーのログイン後に自動的に実行されます。

## 自動二重認証のイネーブル化

自動二重認証を実装することで、ユーザーにとって二重認証プロセスが容易になります。自動二重認証は、二重認証が持つセキュリティ上の利点をすべて備えています。リモートユーザーにとってよりシンプルでユーザーフレンドリなインターフェイスです。二重認証の場合、ユーザー認証の第 2 レベルは、ユーザーがネットワークアクセスサーバーまたはルータに Telnet に送信し、ユーザー名とパスワードを入力したときに完了します。自動二重認証の場合、ユーザーがネットワークアクセスサーバーに Telnet を送信する必要はありません。その代わりに、ユーザー名とパスワードまたは Personal Identification Number (PIN) の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。自動二重認証機能を使用するには、対応するクライアントアプリケーションがリモートユーザーホストで実行されている必要があります。



**Note** 自動二重認証は、既存の二重認証機能と同様に、Multilink PPP ISDN 接続専用です。自動二重認証は、X.25 や SLIP など他のプロトコルとは併用できません。

自動二重認証は、既存の二重認証機能の強化です。自動二重認証を設定するには、まず次の手順を実行して二重認証を設定する必要があります。

1. **aaa-new model** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、AAA を有効にします。
2. **aaa authentication** コマンドを使用して、ログインおよび PPP 認証方式リストを使用するようにネットワークアクセスサーバーを設定します。次に、これらの方式リストを適切な回線やインターフェイスに適用します。
3. **aaa authorization** コマンドを使用して、ログイン時の AAA ネットワーク許可を設定します。ネットワーク認可の設定の詳細については、「認可の設定」の章を参照してください。
4. セキュリティプロトコルパラメータ（たとえば、RADIUS または TACACS+）を設定します。RADIUS の詳細については、「Configuring RADIUS」の章を参照してください。TACACS+ の詳細については、「Configuring TACACS+」の章を参照してください。
5. セキュリティサーバーで、ユーザーがローカルホストに接続できるアクセスコントロールリストの AV ペアを使用するには、Telnet 接続を確立する必要があります。
6. autocommand として **access-profile** コマンドを設定します。autocommand を設定すると、リモートユーザーは、個人のユーザープロファイルに関連付けられた許可済み権限にアクセスするために、手動で **access-profile** コマンドを入力する必要はなくなります。autocommand の設定方法については、『CiscoIOS Dial Technologies Command Reference , Release 12.2.』の **autocommand** コマンドを参照してください。



**Note** **access-profile** コマンドが autocommand として設定されている場合でも、二重認証を完了するには、ユーザーがローカルホストに Telnet を送信し、ログインする必要があります。

ユーザー固有の許可ステートメントを作成する場合、次の規則に従います（これらの規則は、**access-profile** コマンドのデフォルトの動作に関連します）。

- セキュリティサーバーでアクセスコントロールリストの AV ペアを設定する場合、有効な AV ペアを使用します。
- リモートユーザーがインターフェイスの既存の認可（第2段階の認証/認可の前に存在する認可）を使用し、異なるアクセスコントロールリスト（ACL）を持つようにするには、ユーザー固有の認可定義で ACL AV ペアだけを指定します。この方法は、デフォルトの認可プロファイルを設定してリモートホストに適用し、ACL はユーザー別に適用する場合などに有効です。
- これらのユーザー固有の許可ステートメントを後でインターフェイスに適用すると、ユーザーの許可に使用する **access-profile** コマンドの実行方法によって、既存のインターフェイス設定に追加することや、既存のインターフェイス設定を置き換えることができます。許可ステートメントを設定する前に、**access-profile** コマンドの機能について理解する必要があります。

- ISDN または Multilink PPP を使用する予定がある場合、ローカルホストで仮想テンプレートも設定する必要があります。

二重認証に関する問題を解決するには、**debug aaa per-user** デバッグコマンドを使用します。このコマンドの詳細については、『Cisco IOS Debug Command Reference』を参照してください。

二重認証を設定したら、自動機能を追加できます。

## 自動二重認証の設定

自動ダブル認証を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **ip trigger-authentication**
2. 次のいずれかを実行します。
  - Router(config)# **interface bri number**
  - 
  - Router(config)# **interface serial number :23**
3. Router(config-if)#**ip trigger-authentication**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>ip trigger-authentication</b> <b>Example:</b> [ <b>timeout seconds</b> ] [ <b>port number</b> ]	二重認証の自動化をイネーブルにします。
ステップ 2	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Router(config)# <b>interface bri number</b></li> <li>•</li> <li>• Router(config)# <b>interface serial number :23</b></li> </ul>	ISDN BRI インターフェイスまたは ISDN PRI インターフェイスを選択し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	Router(config-if)# <b>ip trigger-authentication</b>	自動二重認証をインターフェイスに適用します。

## 自動二重認証のトラブルシューティング

自動二重認証の問題を解決するには、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. Router# **show ip trigger-authentication**
2. Router# **clear ip trigger-authentication**
3. Router# **debug ip trigger-authentication**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router# <b>show ip trigger-authentication</b>	自動二重認証が試行され、成功または失敗したリモートホストのリストが表示されます。
ステップ 2	Router# <b>clear ip trigger-authentication</b>	自動二重認証が試行されたリモートホストのリストをクリアします (これは、 <b>show ip trigger-authentication</b> コマンドで表示されるテーブルをクリアします)。
ステップ 3	Router# <b>debug ip trigger-authentication</b>	自動二重認証に関する <b>debug</b> の出力が表示されます。

## RADIUS CoA 用の動的認可サービスの設定

次の手順を実行して、動的許可サービスの認証、許可、アカウントिंग (AAA) サーバとしてデバイスを有効にします。このサービスは、入力方向と出力方向でポリシー マップをプッシュする認可変更 (CoA) 機能をサポートします。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa server radius dynamic-author**
5. **client** {*ip-addr* | *hostname*} [**server-key** [0 | 7] *string*]
6. **domain** {*delimiter character* | **stripping** | [**right-to-left**]}
7. **port** *port-num*
8. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 4	<b>aaa server radius dynamic-author</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa server radius dynamic-author	ローカル AAA サーバを動的認可サービス用にセットアップして、動的認可ローカル サーバコンフィギュレーション モードに入ります。このサービスは、ポリシー マップを入力方向と出力方向にプッシュする CoA 機能をサポートするように有効にする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>このモードでは、RADIUS アプリケーション コマンドが設定されます。</li></ul>
ステップ 5	<b>client {ip-addr   hostname} [server-key [0   7] string]</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# client 192.168.0.5 server-key cisco1	AAA サーバー クライアントの IP アドレスまたはホスト名を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>オプションの <b>server-key</b> キーワードと <i>string</i> 引数を使用して、クライアントレベルのサーバー キーを設定します。</li></ul> <b>Note</b> クライアント レベルでサーバー キーを設定すると、グローバルレベルで設定されたサーバー キーが上書きされます。
ステップ 6	<b>domain {delimiter character   stripping   [right-to-left]}</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# domain stripping right-to-left	(任意) RADIUS アプリケーションについてユーザ名のドメイン オプションを設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>delimiter</b> キーワードで、ドメインデリミタを指定します。次のいずれかのオプションを <i>character</i> 引数に指定できます。@、/、\$、%、\、#、または -。</li></ul>



	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>stripping</b> キーワードは、着信のユーザー名と、@ ドメインデリミタの左側にある名前を比較します。</li> <li>• The <b>right-to-left</b> キーワードは、右から左方向に見て最初のデリミタで文字列を終了します。</li> </ul>
ステップ 7	<b>port port-num</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# port 3799	CoA 要求に UDP ポートを設定します。
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## bounce および disable RADIUS CoA 要求を無視するためのデバイスの設定

複数のホストを使用して認証ポートを認証していて、このポートで1つのホストに対してフラップする認可変更 (CoA) 要求があるか、このポートで終了するホストセッションがある場合、このポート上のその他のホストにも影響があります。したがって、複数のホストを使用して認証されたポートは、フラップの場合に1つまたは複数のホストから DHCP の再ネゴシエーションをトリガーします。または、1つまたは複数のホストについて、セッションをホストする認証ポートを管理的にシャットダウンします。

次の手順を使用して、`bounce port` コマンドまたは `disable port` コマンドの形式で RADIUS サーバの認可変更 (CoA) 要求を無視するようにデバイスを設定します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `aaa new-model`
4. `authentication command bounce-port ignore`
5. `authentication command disable-port ignore`
6. `end`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	認証、認可、アカウントिंग (AAA) をグローバルに有効化します。
ステップ 4	<b>authentication command bounce-port ignore</b> <b>Example:</b> Device(config)# authentication command bounce-port ignore	(任意) RADIUS サーバの bounce port コマンドを無視するようにデバイスを設定します。無視しない場合、認証ポート上でホストがフラップをリンクし、結果として、そのポートに接続する 1 つまたは複数のホストから DHCP 再ネゴシエーションが発生します。
ステップ 5	<b>authentication command disable-port ignore</b> <b>Example:</b> Device(config)# authentication command disable-port ignore	(任意) RADIUS サーバの CoA disable port コマンドを無視するようにデバイスを設定します。無視しない場合、1 または複数のホストセッションをホストする認証ポートが管理的にシャットダウンされます。 <ul style="list-style-type: none"><li>ポートがシャットダウンされると、セッションも終了します。</li></ul>
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## サーバーグループレベルでのドメインストリッピングの設定

## SUMMARY STEPS

1. enable

2. **configure terminal**
3. **aaa group server radius *server-name***
4. **domain-stripping [strip-suffix *word*] [right-to-left] [prefix-delimiter *word*] [delimiter *word*]**
5. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa group server radius <i>server-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa group server radius radl	RADIUS サーバを追加し、サーバグループ RADIUS コンフィギュレーション モードを開始します。  • <i>server-name</i> 引数には、RADIUS サーバー グループ名を指定します。
ステップ 4	<b>domain-stripping [strip-suffix <i>word</i>] [right-to-left] [prefix-delimiter <i>word</i>] [delimiter <i>word</i>]</b> <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# domain-stripping delimiter username@example.com	サーバー グループ レベルでドメイン ストリッピングを設定します。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# end	サーバー グループ RADIUS コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 非 AAA 認証方式

### ラインパスワード保護の設定

このタスクは、パスワードを入力し、パスワードチェック処理を確立することで、端末回線にアクセス コントロールを提供するために使用します。



**Note** ラインパスワード保護を設定し、TACACS または拡張 TACACS を設定する場合、TACACS のユーザー名とパスワードの方が、ラインパスワードよりも優先されます。まだセキュリティポリシーを実装していない場合、AAA を使用することを推奨します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **line [aux | console | tty | vty] line-number [ending-line-number]**
4. **password password**
5. **login**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line [aux   console   tty   vty] line-number [ending-line-number]</b> <b>Example:</b> Router(config)# line console 0	ライン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>password password</b> <b>Example:</b> Router(config-line)# secret word	回線の端末または他のデバイスにパスワードを割り当てます。パスワードチェッカでは大文字と小文字が区別され、スペースを使用できます。たとえば、パスワード「Secret」とパスワード「secret」は異なるパスワードです。また、「two words」は有効なパスワードです。
ステップ 5	<b>login</b> <b>Example:</b>	ログイン時のパスワードチェックをイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
	Router(config-line)# login	<p>このコマンドの <b>no</b> 形式を使用してパスワードチェックを無効にすると、ラインパスワード検証を無効にできます。</p> <p><b>Note login</b> コマンドによって変更されるのはユーザー名および特権レベルだけであり、シェルは実行されません。したがって、<b>autocommand</b> は実行されません。この状況で <b>autocommand</b> を実行するには、Telnetセッションをルータに復帰（ループバック）させる必要があります。この方法で <b>autocommand</b> 機能を実装する場合は、ルータがセキュアな Telnetセッションを使用するように設定されていることを確認してください。</p>

## ユーザー名認証の確立

ユーザー名ベースの認証システムを作成できます。これは、次のような場合に役立ちます。

- TACACS をサポートしないネットワークに、TACACS のようなユーザー名と暗号化されたパスワード認証システムを提供する場合
- 特殊なケース（たとえば、アクセスリストの確認、パスワードの確認なし、ログイン時の **autocommand** の実行、「エスケープなし」の状況など）に備えたログインを提供する場合

ユーザ名の認証を確立するには、システム設定の必要に応じて、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. 次のいずれかを実行します。
  - Router(config)# **username name** [**nopassword** | **password password** | **password encryption-type encrypted password**]
  - 
  - Router(config)# **username name** [**access-class number**]
2. Router(config)# **username name** [**privilege level**]
3. Router(config)# **username name** [**autocommand command**]
4. Router(config)# **username name** [**noescape**] [**nohangup**]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Router(config)# <b>username</b> <i>name</i> [<b>nopassword</b>   <b>password</b> <i>password</i>   <b>password</b> <i>encryption-type</i> <i>encrypted password</i>]</li> <li>•</li> <li>• Router(config)# <b>username</b> <i>name</i> [<b>access-class</b> <i>number</i>]</li> </ul>	暗号化されたパスワードを使用してユーザー名認証を確立します。 または (任意) アクセスリストによるユーザー名認証を確立します。
ステップ 2	Router(config)# <b>username</b> <i>name</i> [ <b>privilege level</b> ]	(任意) ユーザーの特権レベルを設定します。
ステップ 3	Router(config)# <b>username</b> <i>name</i> [ <b>autocommand</b> <i>command</i> ]	(任意) 自動実行されるコマンドを指定します。
ステップ 4	Router(config)# <b>username</b> <i>name</i> [ <b>noescape</b> ] [ <b>nohangup</b> ]	(任意) 「エスケープなし」のログイン環境を設定します。

## What to do next

キーワード **noescape** を指定すると、ユーザーは接続先のホストでエスケープ文字を使用できなくなります。**nohangup** 機能を使用すると、**autocommand** の使用後に接続が解除されません。



## Caution

**service password-encryption** コマンドを有効にしない限り、設定のパスワードはクリアテキストで表示されます。**service password-encryption** コマンドに関する詳細情報については、『Cisco IOS Security Command Reference』を参照してください。

## CHAP 認証または PAP 認証の有効化

インターネットサービスプロバイダー (ISP) のダイヤルソリューションに使用されている最も一般的なトランスポートプロトコルの 1 つは、ポイントツーポイントプロトコル (PPP) です。従来、リモートユーザーはアクセスサーバーにダイヤルインして、PPP セッションを開始していました。PPP のネゴシエート後は、リモートユーザーは ISP ネットワークに接続され、そしてインターネットに接続されます。

ISP はアクセスサーバーへの接続を顧客に限定したいため、リモートユーザーはアクセスサーバーに対して認証を受けてから、PPP セッションを開始する必要があります。通常、リモートユーザーは、アクセスサーバーからのプロンプトに応じてユーザー名とパスワードを入力して、認証を受けます。これは実行可能なソリューションですが、管理が困難で、リモートユーザーにとっても面倒です。

よりよいソリューションは、PPPに組み込まれた認証プロトコルを使用することです。この場合、リモートユーザーはアクセスサーバーにダイヤルインし、アクセスサーバーとPPPの最小サブセットを開始します。この操作で、ISPのネットワークに対するアクセス権はリモートユーザーに付与されません。単に、アクセスサーバーがリモートデバイスと通話できるだけです。

現在、PPPは2つの認証プロトコルをサポートします。パスワード認証プロトコル(PAP)およびチャレンジハンドシェイク認証プロトコル(CHAP)の2つです。いずれもRFC 1334で規定され、同期インターフェイスと非同期インターフェイスでサポートされます。PAPまたはCHAPを介する認証は、サーバーからのプロンプトを受けてユーザー名とパスワードを入力する方法と同等です。CHAPの場合、接続の間にリモートユーザーのパスワードは送信されないため、より安全性が高いと考えられます。

(PAP認証またはCHAP認証の有無に関係なく)PPPはダイヤルアウトソリューションでもサポートされます。アクセスサーバーがダイヤルアウト機能を使用するのは、アクセスサーバーからリモートデバイスに対してコールを開始し、PPPなどのトランスポートプロトコルを起動しようとするときです。

CHAPとPAPに関する詳細については、『Cisco IOS XE Dial Technologies Configuration Guide, Release 2』を参照してください。



**Note** CHAP または PAP を使用するには、PPP カプセル化を実行する必要があります。

インターフェイスでCHAPをイネーブルにし、リモートデバイスがそのインターフェイスに接続しようとする、アクセスサーバーからリモートデバイスにCHAPパケットが送信されます。CHAPパケットは、リモートデバイスに応答するように要求または「チャレンジ」します。チャレンジパケットは、ローカルルータのID、ランダム番号、およびホスト名から構成されます。

リモートデバイスは、チャレンジパケットを受信すると、ID、リモートデバイスのパスワード、およびランダム番号を連結し、リモートデバイスのパスワードを使用してすべてを暗号化します。リモートデバイスは、その結果を、暗号化プロセスで使用されたパスワードに関連付けられた名前とともにアクセスサーバーに返信します。

アクセスサーバーがその応答を受信すると、受信した名前を使用して、ユーザーデータベースに保存されているパスワードを取得します。取得したパスワードは、暗号化プロセスで使用されたリモートデバイスと同じパスワードです。アクセスサーバーは、新しく取得したパスワードを使用して、連結された情報を暗号化します。その結果が応答パケットで送信された結果と一致する場合、認証は成功です。

CHAP認証を使用する利点は、リモートデバイスのパスワードがクリアテキストで送信されないことです。結果として、他のデバイスによるパスワード盗用や、ISPのネットワークに対する不正アクセスの取得を回避できます。

CHAPトランザクションが発生するのは、リンクが確立したときだけです。アクセスサーバーは、以降のコール中にパスワードを要求しません(ただし、ローカルデバイスは、コール中に他のデバイスからこのような要求があった場合、応答する可能性があります)。

PAP をイネーブルにすると、アクセス サーバに接続しようとするリモート ルータは、認証要求を送信する必要があります。認証要求に指定されているユーザー名とパスワードが受け入れられた場合、Cisco IOS XE ソフトウェアから認証の確認応答が送信されます。

CHAP または PAP をイネーブルにすると、アクセス サーバーは、ダイヤルインするリモート デバイスからの認証を必須にするようになります。イネーブルにしたプロトコルをリモート デバイスがサポートしていない場合、コールはドロップされます。

CHAP または PAP を使用するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. PPP カプセル化をイネーブルにします。
2. インターフェイスで CHAP または PAP をイネーブルにします。
3. CHAP の場合、認証が必須の各リモート システムについて、ホスト名の認証および秘密 (パスワード) を設定します。

## PPP カプセル化の有効化

PPP カプセル化をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-if)# <b>encapsulation ppp</b>	インターフェイスで PPP をイネーブルにします。

## PAP または CHAP のイネーブル化

PPP カプセル化として設定されているインターフェイスで、CHAP 認証または PAP 認証をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-if)# <b>PPP authentication</b> { <i>protocol1</i> [ <i>protocol2...</i> ] [ <b>if-needed</b> ] { <b>default</b>   <i>list-name</i> } [ <b>callin</b> ] [ <b>one-time</b> ]	サポートされる認証プロトコルと、使用順序を定義します。このコマンドの <i>protocol1</i> と <i>protocol2</i> は、CHAP、MS-CHAP、および PAP のプロトコルを示します。PPP 認証は、まず <i>protocol1</i> に指定された最初の認証方式を使用して試行されます。認証に <i>protocol1</i> を使用できない場合は、次に設定されているプロトコルを使用して認証のネゴシエーションを行います。

インターフェイスで **ppp authentication chap** を設定する場合、そのインターフェイスで PPP 接続を開始するすべての受信コールは、CHAP を使用して認証される必要があります。同様に、**ppp authentication pap** を設定する場合、PPP 接続を開始するすべての受信コールは、PAP を使用して認証される必要があります。**ppp authentication chap pap** を設定する場合、アクセスサーバーは、CHAP を使用して PPP セッションを開始するすべての受信コールを認証しようとします。リモート デバイスが CHAP をサポートしない場合、アクセス サーバーは PAP を使用して



コールを認証しようとします。リモートデバイスが CHAP も PAP もサポートしない場合、認証は失敗し、コールはドロップされます。**ppp authentication pap chap** を設定する場合、アクセスサーバーは、PAP を使用して PPP セッションを開始するすべての受信コールを認証しようとします。リモートデバイスが PAP をサポートしない場合、アクセスサーバーは CHAP を使用してコールを認証しようとします。リモートデバイスがいずれのプロトコルもサポートしない場合、認証は失敗し、コールはドロップされます。**callin** キーワードを指定して **ppp authentication** コマンドを設定すると、アクセスサーバーは、リモートデバイスがコールを開始した場合にだけ、リモートデバイスの認証を行います。

認証方式リストと **one-time** キーワードを使用できるのは、AAA を有効にした場合だけです。TACACS または拡張 TACACS を有効にしている場合は、使用できません。**ppp authentication** コマンドを使用して認証方式リストの名前を指定すると、PPP は、指定した方式リストに定義されている方式を使用して、接続を認証しようとします。AAA をイネーブルにし、名前で定義されている方式リストがない場合、PPP は、デフォルトに定義されている方式を使用して接続を認証しようとします。**one-time** キーワードを指定して **ppp authentication** コマンドを使用すると、認証中にワンタイムパスワードをサポートできます。

**if-needed** キーワードを使用できるのは、TACACS または拡張 TACACS を使用している場合だけです。**if-needed** キーワードを指定して **ppp authentication** コマンドを使用することは、現在のコール期間中にリモートデバイスがまだ認証されていない場合にだけ、PPP が PAP または CHAP を介してリモートデバイスを認証することを示します。リモートデバイスが、標準のログイン手順で認証を受け、EXEC プロンプトから PPP を開始した場合、**ppp authentication chap if-needed** がインターフェイスで設定されていれば、PPP は CHAP を介して認証しません。



**Caution** **aaa authentication ppp** コマンドを使用して設定されていない *list-name* を使用する場合、その回線での PPP は無効になります。

ローカルルータまたはアクセスサーバーが認証を必須とする各リモートシステムについて、**username** エントリを追加する方法については、「[ユーザー名認証の確立, on page 45](#)」を参照してください。

## 着信認証と発信認証

PPP は双方向の認証をサポートしています。通常、リモートデバイスがアクセスサーバーにダイヤルインするときは、それが許可されているアクセスであることをリモートデバイスが証明するように、アクセスサーバーから要求されます。これは着信認証と呼ばれます。同時に、リモートデバイスは、身元を証明するようにアクセスサーバーに要求することもできます。これは発信認証と呼ばれます。また、アクセスサーバーは、リモートデバイスに対してコールを開始するときにも、発信認証を実行します。

## 発信 PAP 認証のイネーブル化

発信 PAP 認証をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-if)# <b>ppp pap sent-username</b> <i>username password password</i>	発信 PAP 認証をイネーブルにします。

アクセスサーバーからリモートデバイスに対してコールを開始する場合は常に、またはアウトバウンド認証のためにリモートデバイスの要求に応答する必要がある場合は、**ppp pap sent-username** コマンドで指定されたユーザー名とパスワードを使用して自身を認証します。

## PAP 認証要求の拒否

ピアからの PAP 認証要求を拒否するには（つまり、すべてのコールで PAP 認証をディセーブルにするには）、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-if)# <b>ppp pap refuse</b>	PAP 認証を要求するピアからの PAP 認証を拒否します。

**refuse** キーワードが使用されない場合、ルータはピアから受信した PAP 認証チャレンジを拒否しません。

## 共通 CHAP パスワードの作成

リモート CHAP 認証だけの場合、不明なピアからのチャレンジに対して使用する共通 CHAP シークレットパスワードを作成するように、ルータを設定できます。たとえば、ルータが、新しい（つまり不明な）ルータが追加された、ルータのロータリー（別ベンダー製のルータ、または古いバージョンの Cisco IOS ソフトウェアを実行するルータ）に発信する場合などです。**ppp chap password** コマンドを使用すると、任意のダイヤライナーフェイスまたは非同期グループインターフェイスで、複数のユーザー名およびパスワード コンフィギュレーション コマンドをこのコマンドの単一のコピーで置換できます。

ルータのコレクションに発信するルータが、共通の CHAP シークレットパスワードを設定できるようにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-if)# <b>ppp chap password</b> <i>secret</i>	ルータのコレクションに発信するルータが、共通の CHAP シークレットパスワードを設定できるようにします。

## CHAP 認証要求の拒否

ピアからの CHAP 認証要求を拒否するには（つまり、すべてのコールで CHAP 認証をディセーブルにするには）、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-if)# <b>ppp chap refuse</b> [ <b>callin</b> ]	CHAP 認証を要求するピアからの CHAP 認証を拒否します。

**callin** キーワードが使用されると、ルータは、ピアから受信した CHAP 認証チャレンジへの応答を拒否します。ただし、ルータが送信する CHAP チャレンジに対しては、ピアが応答することを必須とします。

(**ppp pap sent-username** コマンドを使用して) 発信 PAP がイネーブルの場合、拒否パケットの認証方式として、PAP が提案されます。

## ピアが認証されるまで CHAP 認証を遅延する

ピアがルータから認証を受けるまで、CHAP 認証を要求するピアに対してルータを認証しないように指定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-if)# <b>ppp chap wait</b> <b>secret</b>	ピアがルータから認証を受けるまで、CHAP 認証を遅延するようにルータを設定します。

このコマンド (デフォルト) により、CHAP 認証を要求するピアがルータの認証を受けてから、ルータがピアの認証を受けるように指定します。 **no ppp chap wait** コマンドにより、ルータが認証チャレンジに即座に応答するように指定されます。

## MS-CHAP の使用

マイクロソフト チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (MS-CHAP) は、Microsoft バージョンの CHAP であり、RFC 1994 の拡張です。標準バージョンの CHAP と同様に、MS-CHAP は PPP 認証に使用されます。この場合、Microsoft Windows NT または Microsoft Windows 95 を使用する PC と、ネットワーク アクセス サーバーとして動作する Cisco デバイスまたはアクセス サーバーとの間に認証が発生します。

MS-CHAP と標準の CHAP の違いは次のとおりです。

- MS-CHAP をイネーブルにするには、LCP オプション 3 の Authentication Protocol で、CHAP Algorithm 0x80 をネゴシエートします。
- MS-CHAP 応答パケットは、Microsoft Windows NT 3.5 および 3.51、Microsoft Windows 95、および Microsoft LAN Manager 2.x と互換性を持つように設計されたフォーマットです。このフォーマットを使用する場合、オーセンティケータは、クリアパスワードまたは可逆的に暗号化されたパスワードを保存する必要はありません。
- MS-CHAP には、オーセンティケータが制御する認証リトライ メカニズムがあります。

- MS-CHAPには、オーセンティケータが制御するチャレンジパスワードメカニズムがあります。
- MS-CHAPには、Failure パケットメッセージフィールドで返される「reason-for failure」コードセットが定義されています。

実装したセキュリティプロトコルに応じて、AAA セキュリティサービスの有無にかかわらず、MS-CHAPによるPPP認証を使用できます。AAAをイネーブルにしている場合、MS-CHAPを使用するPPP認証は、TACACS+およびRADIUSの両方と併用できます。次の表に、RADIUSがMS-CHAPをサポートできるベンダー固有RADIUS属性(IETF Attribute 26)を示します。

Table 9: MS-CHAP用のベンダー固有 RADIUS 属性

ベンダーID 番号	ベンダータイプ 番号	ベンダー固有属性	説明
311	11	MSCHAP-Challenge	ネットワークアクセスサーバがMS-CHAPユーザに送信するチャレンジが含まれます。これは、Access-RequestパケットとAccess-Challengeパケットの両方で使用できます。
211	11	MSCHAP-Response	PPP MS-CHAP ユーザがチャレンジに対する応答で提供するレスポンス値が含まれます。Access-Requestパケットでしか使用されません。この属性は、PPP CHAP ID と同じです

## MS-CHAP を使用した PPP 認証の定義

MS-CHAP を使用して PPP 認証を定義するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router(config-if)#**encapsulation ppp**
2. Router(config-if)#**ppp authentication ms-chap [if-needed] [list-name | default] [callin] [one-time]**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config-if)# <b>encapsulation ppp</b>	PPP カプセル化をイネーブルにします。
ステップ 2	Router(config-if)# <b>ppp authentication ms-chap [if-needed] [list-name   default] [callin] [one-time]</b>	MS-CHAP を使用して PPP 認証を定義します。

### What to do next

あるインターフェイスで **ppp authentication ms-chap** を設定する場合、PPP 接続を開始するそのインターフェイスに着信するすべてのコールは、MS-CHAP を使用して認証する必要があります。**callin** キーワードを指定して **ppp authentication** コマンドを設定すると、アクセスサーバーは、リモートデバイスがコールを開始した場合にだけ、リモートデバイスの認証を行います。

認証方式リストと **one-time** キーワードを使用できるのは、AAA を有効にした場合だけです。TACACS または拡張 TACACS を有効にしている場合は、使用できません。**ppp authentication** コマンドを使用して認証方式リストの名前を指定すると、PPP は、指定した方式リストに定義されている方式を使用して、接続を認証しようとします。AAA をイネーブルにし、名前で定義されている方式リストがない場合、PPP は、デフォルトに定義されている方式を使用して接続を認証しようとします。**one-time** キーワードを指定して **ppp authentication** コマンドを使用すると、認証中にワンタイムパスワードをサポートできます。

**if-needed** キーワードを使用できるのは、TACACS または拡張 TACACS を使用している場合だけです。**if-needed** キーワードを指定して **ppp authentication** コマンドを使用することは、現在のコール期間中にリモートデバイスがまだ認証されていない場合にだけ、PPP が MS-CHAP を介してリモートデバイスを認証することを示します。リモートデバイスが、標準のログイン手順で認証を受け、EXEC プロンプトから PPP を開始した場合、**ppp authentication chap if-needed** が設定されていれば、PPP は MS-CHAP を介して認証しません。



**Note** MS-CHAP を使用する PPP 認証と、ユーザー名認証を併用する場合、ローカルユーザー名/パスワードデータベースに MS-CHAP シークレットを含める必要があります。ユーザー名認証の詳細については、「ユーザー名認証の確立」の項を参照してください。

## 認証の例

### RADIUS 認証の例

ここでは、RADIUS を使用する 2 つの設定例を紹介します。

次に、RADIUS を使用して認証および認可を行うようにルータを設定する例を示します。

```
aaa authentication login radius-login group radius local
aaa authentication ppp radius-ppp if-needed group radius
aaa authorization exec default group radius if-authenticated
aaa authorization network default group radius
line 3
login authentication radius-login
interface serial 0
ppp authentication radius-ppp
```

この RADIUS 認証および認可設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- `aaa authentication login radius-login group radius local` コマンドを実行すると、ルータは、ログインプロンプトで認証に RADIUS を使用するように設定されます。RADIUS がエラーを返すと、ユーザーはローカル データベースを使用して認証されます。
- `aaa authentication ppp radius-ppp if-needed group radius` コマンドを実行すると、ユーザーがまだログインしていない場合、Cisco IOS XE ソフトウェアは CHAP または PAP による PPP 認証を使用するように設定されます。EXEC 施設がユーザーを認証すると、PPP 認証は実行されません。
- `aaa authorization exec default group radius if-authenticated` コマンドを実行すると、`autocommand` や特権レベルなど、EXEC 認可時に使用される情報について、RADIUS データベースに照会されます。ただし、ユーザーの認証が成功した場合にだけ、権限が付与されます。
- `aaa authorization network default group radius` コマンドを実行すると、ネットワーク認可、アドレス割り当て、および他のアクセス リストについて RADIUS に照会されます。
- `login authentication radius-login` コマンドを使用すると、ライン 3 について `radius-login` 方式リストが有効になります。
- `ppp authentication radius-ppp` コマンドを使用すると、シリアルインターフェイス 0 について `radius-ppp` 方式リストが有効になります。

次に、ユーザー名とパスワードの入力を求め、その内容を確認し、ユーザーの EXEC レベルを認可し、特権レベル 2 の認可方式として指定するように、ルータを設定する例を示します。この例では、ユーザー名プロンプトにローカルユーザー名を入力すると、そのユーザー名が認証に使用されます。

ローカルデータベースを使用してユーザーが認証されると、RADIUS 認証からのデータは保存されないため、RADIUS を使用する EXEC 認可は失敗します。また、この方式リストではローカルデータベースを使用して `autocommand` を検索します。`autocommand` がない場合、ユーザーは EXEC ユーザーになります。次に、ユーザーが特権レベル 2 に設定されているコマンドを発行しようとする、TACACS+ を使用してコマンドの認可が試行されます。

```
aaa authentication login default group radius local
aaa authorization exec default group radius local
aaa authorization command 2 default group tacacs+ if-authenticated
radius-server host 172.16.71.146 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server attribute 44 include-in-access-req
radius-server attribute 8 include-in-access-req
```

この RADIUS 認証および認可設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- `aaa authentication login default group radius local` コマンドにより、RADIUS (RADIUS が応答しない場合はルータのローカル ユーザー データベース) がユーザー名およびパスワードを確認するように指定します。
- `aaa authorization exec default group radius local` コマンドにより、RADIUS を使用してユーザーが認証される場合、ユーザーの EXEC レベルの設定に RADIUS 認証情報を使用するように指定します。RADIUS 情報が使用されない場合、このコマンドにより、EXEC 認可にローカル ユーザー データベースが使用されるように指定します。

- `aaa authorization command 2 default group tacacs+ if-authenticated` コマンドにより、すでにユーザーの認証が成功している場合、特権レベル 2 に設定されているコマンドに TACACS+ 認可を指定します。
- `radius-server host 172.16.71.146 auth-port 1645 acct-port 1646` コマンドにより、RADIUS サーバーホストの IP アドレス、認証要求の UDP 宛先ポート、およびアカウントング要求の UDP 宛先ポートを指定します。
- `radius-server attribute 44 include-in-access-req` コマンドにより、`access-request` パケットで RADIUS 属性 44 (Acct-Session-ID) を送信します。
- `radius-server attribute 8 include-in-access-req` コマンドにより、`access-request` パケットで RADIUS 属性 8 (Framed-IP-Address) を送信します。

## TACACS 認証の例

次に、PPP 認証に使用するセキュリティプロトコルとして TACACS+ を設定する例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp test group tacacs+ local
interface serial 0
ppp authentication chap pap test
tacacs-server host 192.0.2.3
tacacs-server key goaway
```

この TACACS+ 認証設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA セキュリティサービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication** コマンドにより、PPP を実行するシリアルインターフェイスに使用する方式リスト「test」を定義します。キーワード **group tacacs+** は、TACACS+ を介して認証を実行することを示します。認証中に TACACS+ から何らかのエラーが返される場合、キーワード **local** は、ネットワークアクセスサーバー上のローカルデータベースを使用して認証が試行されることを示します。
- **interface** コマンドにより、回線を選択します。
- **ppp authentication** コマンドにより、この回線に test 方式リストを適用します。
- **tacacs-server host** コマンドにより、TACACS+ デーモンが 192.0.2.3 という IP アドレスを持っていると指定します。
- **tacacs-server key** コマンドにより、共有暗号キーを「goaway」に定義します。

次に、PPP に AAA 認証を設定する例を示します。

```
aaa authentication ppp default if-needed group tacacs+ local
```

この例のキーワード **default** は、デフォルトですべてのインターフェイスに PPP 認証が適用されることを示します。**if-needed** キーワードは、ユーザーが ASCII ログイン手順を介してす

に認証済みの場合、PPPは不要なので、スキップできることを示します。認証が必要な場合、**group tacacs+** キーワードは、TACACS+ を介して認証が実行されることを示します。認証中に TACACS+ から何らかのエラーが返される場合、キーワード **local** は、ネットワーク アクセス サーバー上のローカル データベースを使用して認証が試行されることを示します。

次に、PAP に同じ認証アルゴリズムを作成し、「default」ではなく「MIS-access」の方式リストを呼び出す例を示します。

```
aaa authentication ppp MIS-access if-needed group tacacs+ local
interface serial 0
ppp authentication pap MIS-access
```

この例では、リストはどのインターフェイスにも適用されないため（自動的にすべてのインターフェイスに適用されるデフォルトリストとは異なります）、管理者は **interface** コマンドを使用して、この認証スキームを適用するインターフェイスを選択する必要があります。次に、管理者は **ppp authentication** コマンドを使用して、選択したインターフェイスにこの方式リストを適用する必要があります。

## Kerberos 認証の例

ログイン認証方式として Kerberos を指定するには、次のコマンドを使用します。

```
aaa authentication login default krb5
```

PPP に Kerberos 認証を指定するには、次のコマンドを使用します。

```
aaa authentication ppp default krb5
```

## AAA スケーラビリティの例

次に、セキュリティプロトコルとして RADIUS による AAA を使用する一般的なセキュリティ設定例を示します。この例では、ネットワーク アクセス サーバーは、16 バックアッププロセスを割り当てて PPP に対する AAA 要求を処理するように設定されています。

```
aaa new-model
radius-server host alcatraz
radius-server key myRaDiUSpassWoRd
radius-server configure-nas
username root password ALongPassword
aaa authentication ppp dialins group radius local
aaa authentication login admins local
aaa authorization network default group radius local
aaa accounting network default start-stop group radius
aaa processes 16
line 1 16
  autoselect ppp
  autoselect during-login
  login authentication admins
  modem dialin
interface group-async 1
  group-range 1 16
  encapsulation ppp
  ppp authentication pap dialins
```



この RADIUS AAA 設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA ネットワーク セキュリティ サービスをイネーブルにします。
- **radius-server host** コマンドは RADIUS サーバー ホストの名前を定義します。
- **radius-server key** コマンドは、ネットワーク アクセス サーバーと RADIUS サーバー ホストの間の共有秘密テキスト文字列を定義します。
- **radius-server configure-nas** コマンドは、デバイスが最初に起動したときに、シスコ ルータまたはアクセスサーバーがスタティックルートと IP プール定義について RADIUS サーバーに照会するように定義します。
- **username** コマンドはユーザー名とパスワードを定義します。これらの情報は、PPP パスワード認証プロトコル (PAP) の発信元身元確認に使用されます。
- **aaa authentication ppp dialins group radius local** コマンドで、まず RADIUS 認証を指定する認証方式リスト「dialins」を定義します。次に、(RADIUS サーバーが応答しない場合) PPP を使用するシリアル回線でローカル認証が使用されます。
- **aaa authentication login admins local** コマンドは、ログイン認証に別の方式リスト「admins」を定義します。
- **aaa authorization network default group radius local** コマンドは、アドレスと他のネットワーク パラメータを RADIUS ユーザーに割り当てるために使用されます。
- **aaa accounting network default start-stop group radius** コマンドは、PPP の使用状況を追跡します。
- **aaa processes** コマンドにより、PPP に対する AAA 要求を処理するために 16 個のバックグラウンドプロセスを割り当てます。
- **line** コマンドはコンフィギュレーション モードをグローバル コンフィギュレーションからライン コンフィギュレーションに切り替え、設定対象の回線を指定します。
- **autoselect ppp** コマンドは、選択した回線上で PPP セッションを自動的に開始できるようにします。
- **autoselect during-login** コマンドを使用すると、Return キーを押さずにユーザ名およびパスワードのプロンプトが表示されます。ユーザがログインすると、autoselect機能 (この場合は PPP) が開始します。
- **login authentication admins** コマンドは、ログイン認証に「admins」方式リストを適用します。
- **modem dialin** コマンドは、選択した回線に接続されているモデムを設定し、着信コールだけを受け入れるようにします。
- **interface group-async** コマンドは、非同期インターフェイス グループを選択して定義します。

- **group-range** コマンドは、インターフェイス グループ内のメンバ非同期インターフェイスを定義します。
- **encapsulation ppp** コマンドは、指定のインターフェイスに使用されるカプセル化方式として PPP を設定します。
- **ppp authentication pap dialins** コマンドは「dialins」方式リストを指定したインターフェイスに適用します。

## 例：AAA 認証のログインバナーおよび Failed-Login バナーの設定

次に、ユーザーがシステムにログインするときに表示されるログインバナー（この場合、「Unauthorized Access Prohibited」というフレーズ）を設定する例を示します。アスタリスク (\*) はデリミタとして使用されます。RADIUS はデフォルト ログイン認証方式として指定されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa authentication banner *Unauthorized Access Prohibited*
Device(config)# aaa authentication login default group radius
```

この設定によって、次のログインバナーが表示されます。

```
Unauthorized Access Prohibited
Username:
```

次の例では、ユーザーがシステムにログインしようとして失敗すると表示される Failed-Login バナー（この場合、「Failed login. Try again」というフレーズ）を設定する方法を示します。アスタリスク (\*) はデリミタとして使用されます。RADIUS はデフォルト ログイン認証方式として指定されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa authentication banner *Unauthorized Access Prohibited*
Device(config)# aaa authentication fail-message *Failed login. Try again.*
Device(config)# aaa authentication login default group radius
```

この設定によって、次のログインバナーおよび Failed-Login バナーが表示されます。

```
Unauthorized Access Prohibited
Username:
Password:
Failed login. Try again.
```

## AAA パケット オブ ディスコネクト サーバキーの例

次に、パケットオブディスコネクト (POD) を設定する例を示します。その結果、特定のセッション属性が指定されると、ネットワーク アクセス サーバー (NAS) の接続が終了します。

```
aaa new-model
```

```
aaa authentication ppp default radius
aaa accounting network default start-stop radius
aaa accounting delay-start
aaa pod server server-key xyz123
radius-server host 192.0.2.3 non-standard
radius-server key rad123
```

## 二重認証の例

ここでは、二重認証に使用できる設定例を示します。実際のネットワークおよびセキュリティ要件によっては、この例とは大幅に異なる可能性があります。



**Note** 設定例には、特定の IP アドレスと他の特定の情報が含まれます。この情報は説明のための例であり、実際の設定には異なる IP アドレス、異なるユーザー名とパスワード、異なる認可ステートメントを使用します。

## 二重認証による AAA のローカルホストの設定例

次の 2 つの例では、PPP とログイン認証、およびネットワークと EXEC 認可に AAA を使用するようにローカルホストを設定する方法を示します。例はそれぞれ RADIUS の例と TACACS+ の例です。

いずれの例でも、先頭の 3 行で AAA を設定し、特定のサーバーを AAA サーバーとして設定しています。続く 2 行で PPP およびログイン認証に AAA を設定し、最後の 2 行でネットワークおよび EXEC 認可を設定します。最後の行が必要なのは、**access-profile** コマンドを **autocommand** として実行する場合だけです。

次に、RADIUS AAA サーバーを使用するデバイス設定の例を示します。

```
aaa new-model
radius-server host secureserver
radius-server key myradiuskey
aaa authentication ppp default group radius
aaa authentication login default group radius
aaa authorization network default group radius
aaa authorization exec default group radius
```

次に、TACACS+ サーバーを使用するデバイス設定の例を示します。

```
aaa new-model
tacacs-server host security
tacacs-server key mytacacskey
aaa authentication ppp default group tacacs+
aaa authentication login default group tacacs+
aaa authorization network default group tacacs+
aaa authorization exec default group tacacs+
```

## 第 1 段階の PPP 認証と認可に関する AAA サーバの設定例

次に、AAA サーバーでの設定例を示します。また、RADIUS 用の AAA 設定例の一部を示します。

TACACS+ サーバーも同様に設定できます（「TACACS による設定完了の例」を参照してください）。

この例では、二重認証の第1段階で CHAP によって認証される「hostx」というリモートホストに関する認証/認可を定義します。ACL AV ペアは、リモートホストによる Telnet 接続をローカルホストに制限しています。ローカルホストの IP アドレスは 10.0.0.2 です。

次に、RADIUS 用の AAA サーバーの設定例を一部示します。

```
hostx Password = "welcome"
      User-Service-Type = Framed-User,
      Framed-Protocol = PPP,
      cisco-avpair = "lcp:interface-config=ip unnumbered fastethernet 0",
      cisco-avpair = "ip:inacl#3=permit tcp any 172.21.114.0 0.0.0.255 eq telnet",
      cisco-avpair = "ip:inacl#4=deny icmp any any",
      cisco-avpair = "ip:route#5=10.0.0.0 255.0.0.0",
      cisco-avpair = "ip:route#6=10.10.0.0 255.0.0.0",
      cisco-avpair = "ipx:inacl#3=deny any"
```

## 第2段階の Per-User 認証と認可に関する AAA サーバの設定例

ここでは、RADIUS サーバーでの AAA 設定例の一部を示します。これらの設定では、ユーザ名が「patuser」のユーザ (Pat) の認証と認可を定義します。このユーザは、二重認証の第2段階でユーザ認証されます。

TACACS+ サーバーも同様に設定できます（「TACACS による設定完了の例」を参照してください）。

3つの例は、**access-profile** コマンドの3つの各形式で使用できる RADIUS AAA 設定の例を示します。

最初の例は、**access-profile** コマンドのデフォルトの形式（キーワードなし）で機能する AAA 設定例の一部を示します。1つの ACL AV ペアのみが定義されます。また、この例では **autocommand** として **access-profile** コマンドも設定します。

```
patuser Password = "welcome"
       User-Service-Type = Shell-User,
       cisco-avpair = "shell:autocmd=access-profile"
       User-Service-Type = Framed-User,
       Framed-Protocol = PPP,
       cisco-avpair = "ip:inacl#3=permit tcp any host 10.0.0.2 eq telnet",
       cisco-avpair = "ip:inacl#4=deny icmp any any"
```

2番目の例は、**access-profile** コマンドの **access-profile merge** 形式で機能する AAA 設定例の一部を示します。また、この例では **autocommand** として **access-profile merge** コマンドも設定します。

```
patuser Password = "welcome"
       User-Service-Type = Shell-User,
       cisco-avpair = "shell:autocmd=access-profile merge"
       User-Service-Type = Framed-User,
       Framed-Protocol = PPP,
       cisco-avpair = "ip:inacl#3=permit tcp any any"
       cisco-avpair = "ip:route=10.0.0.0 255.255.0.0",
       cisco-avpair = "ip:route=10.1.0.0 255.255.0.0",
       cisco-avpair = "ip:route=10.2.0.0 255.255.0.0"
```

3番目の例は、**access-profile** コマンドの **access-profile replace** 形式で機能する AAA 設定例の一部を示します。また、この例では autocommand として **access-profile replace** コマンドも設定します。

```
patuser Password = "welcome"
User-Service-Type = Shell-User,
cisco-avpair = "shell:autocmd=access-profile replace"
User-Service-Type = Framed-User,
Framed-Protocol = PPP,
cisco-avpair = "ip:inacl#3=permit tcp any any",
cisco-avpair = "ip:inacl#4=permit icmp any any",
cisco-avpair = "ip:route=10.10.0.0 255.255.0.0",
cisco-avpair = "ip:route=10.11.0.0 255.255.0.0",
cisco-avpair = "ip:route=10.12.0.0 255.255.0.0"
```

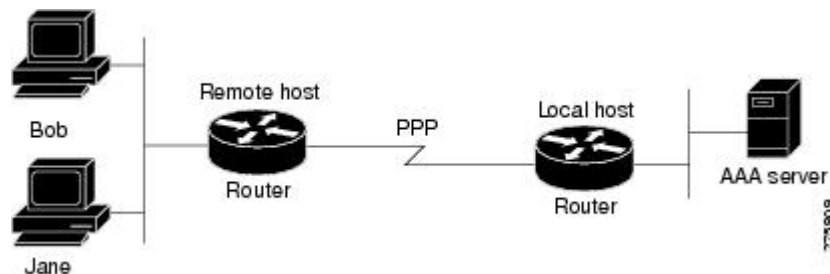
## TACACS による設定完了の例

この例では、リモートホスト（二重認証の第1段階で使用）および特定のユーザー（二重認証の第2段階で使用）の両方向けの、TACACS+ 認可プロファイルの設定を示します。この TACACS+ の例には、前の RADIUS の例とほぼ同じ設定情報が使用されます。

この設定例は、リモートホスト「hostx」および3ユーザー（ユーザー名が「pat\_default」、 「pat\_merge」、および「pat\_replace」）の TACACS+ サーバ上にある認証/認可プロファイルを示します。これら3つのユーザー名の設定は、**access-profile** コマンドの3種類のフォームに対応する異なる設定を示しています。また、3つのユーザー設定は、**access-profile** コマンドの各形式について autocommand の設定方法も示しています。

次の図に、トポロジを示します。図の後に、TACACS+ 設定ファイルの例を示します。

Figure 3: 二重認証のトポロジ例



この設定例は、リモートホスト「hostx」および3ユーザー（ユーザー名が「pat\_default」、 「pat\_merge」、および「pat\_replace」）の TACACS+ サーバ上にある認証/認可プロファイルを示します。

```
key = "mytacacskey"
default authorization = permit
#-----Remote Host (BRI)-----
#
# This allows the remote host to be authenticated by the local host
# during fist-stage authentication, and provides the remote host
# authorization profile.
#
#-----
user = hostx
```

```

{
  login = cleartext "welcome"
  chap = cleartext "welcome"
  service = ppp protocol = lcp {
    interface-config="ip unnumbered fastethernet 0"
  }
  service = ppp protocol = ip {
    # It is important to have the hash sign and some string after
    # it. This indicates to the NAS that you have a per-user
    # config.
    inacl#3="permit tcp any 172.21.114.0 0.0.0.255 eq telnet"
    inacl#4="deny icmp any any"
    route#5="10.0.0.0 255.0.0.0"
    route#6="10.10.0.0 255.0.0.0"
  }
  service = ppp protocol = ipx {
    # see previous comment about the hash sign and string, in protocol = ip
    inacl#3="deny any"
  }
}

#----- "access-profile" default user "only acfs" -----
#
# Without arguments, access-profile removes any access-lists it can find
# in the old configuration (both per-user and per-interface), and makes sure
# that the new profile contains ONLY access-list definitions.
#
#-----
user = pat_default
{
  login = cleartext "welcome"
  chap = cleartext "welcome"
  service = exec
  {
    # This is the autocommand that executes when pat_default logs in.
    autocmd = "access-profile"
  }
  service = ppp protocol = ip {
    # Put whatever access-lists, static routes, whatever
    # here.
    # If you leave this blank, the user will have NO IP
    # access-lists (not even the ones installed prior to
    # this)!
    inacl#3="permit tcp any host 10.0.0.2 eq telnet"
    inacl#4="deny icmp any any"
  }
  service = ppp protocol = ipx {
    # Put whatever access-lists, static routes, whatever
    # here.
    # If you leave this blank, the user will have NO IPX
    # access-lists (not even the ones installed prior to
    # this)!
  }
}

#----- "access-profile merge" user -----
#
# With the 'merge' option, first all old access-lists are removed (as before),
# but then (almost) all AV pairs are uploaded and installed. This will allow
# for uploading any custom static routes, sap-filters, and so on, that the user
# may need in his or her profile. This needs to be used with care, as it leaves
# open the possibility of conflicting configurations.
#
#-----
user = pat_merge
{

```

```

login = cleartext "welcome"
chap = cleartext "welcome"
service = exec
{
    # This is the autocommand that executes when pat_merge logs in.
    autocmd = "access-profile merge"
}
service = ppp protocol = ip
{
    # Put whatever access-lists, static routes, whatever
    # here.
    # If you leave this blank, the user will have NO IP
    # access-lists (not even the ones installed prior to
    # this)!
    inacl#3="permit tcp any any"
    route#2="10.0.0.0 255.255.0.0"
    route#3="10.1.0.0 255.255.0.0"
    route#4="10.2.0.0 255.255.0.0"
}
service = ppp protocol = ipx
{
    # Put whatever access-lists, static routes, whatever
    # here.
    # If you leave this blank, the user will have NO IPX
    # access-lists (not even the ones installed prior to
    # this)!
}
}
#----- "access-profile replace" user -----
#
# With the 'replace' option, ALL old configuration is removed and ALL new
# configuration is installed.
#
# One caveat: access-profile checks the new configuration for address-pool and
# address AV pairs. As addresses cannot be renegotiated at this point, the
# command will fail (and complain) when it encounters such an AV pair.
# Such AV pairs are considered to be "invalid" for this context.
#-----
user = pat_replace
{
    login = cleartex
t
"
welcome
"

    chap = cleartext "welcome"
    service = exec
    {
        # This is the autocommand that executes when pat_replace logs in.
        autocmd = "access-profile replace"
    }
    service = ppp protocol = ip
    {
        # Put whatever access-lists, static routes, whatever
        # here.
        # If you leave this blank, the user will have NO IP
        # access-lists (not even the ones installed prior to
        # this)!
        inacl#3="permit tcp any any"
        inacl#4="permit icmp any any"
        route#2="10.10.0.0 255.255.0.0"
        route#3="10.11.0.0 255.255.0.0"
        route#4="10.12.0.0 255.255.0.0"
    }
}

```

```

service = ppp protocol = ipx
{
    # put whatever access-lists, static routes, whatever
    # here.
    # If you leave this blank, the user will have NO IPX
    # access-lists (not even the ones installed prior to
    # this)!
}
}

```

## 自動二重認証の例

次に、自動二重認証が設定された設定ファイル全体の例を示します。自動二重認証に適用されるコンフィギュレーションコマンドは、2つのアスタリスク (\*\*) を使用した記述よりも優先されます。

```

Current configuration:
!
version 11.3
no service password-encryption
!
hostname myrouter
!
!
! **The following AAA commands are used to configure double authentication:
!
! **The following command enables AAA:
aaa new-model
! **The following command enables user authentication via the RADIUS AAA server:
!
aaa authentication login default none
aaa authentication ppp default group radius
! **The following command causes the remote user's authorization profile to be
! downloaded from the AAA server to the router when required:
!
aaa authorization network default group radius
!
enable password mypassword
!
ip host blue 172.21.127.226
ip host green 172.21.127.218
ip host red 172.21.127.114
ip domain-name example.com
ip name-server 172.16.2.75
!
!
interface FastEthernet0/0/0
 ip address 172.21.127.186 255.255.255.248
 no ip route-cache
 no ip mroute-cache
 no keepalive
 ntp disable
 no cdp enable
!
interface Virtual-Template1
 ip unnumbered loopback0
 no ip route-cache
 no ip mroute-cache
!
! **The following command specifies that device authentication occurs via PPP CHAP:
ppp authentication chap

```



```
!  
router eigrp 109  
  network 172.21.0.0  
  no auto-summary  
!  
ip default-gateway 172.21.127.185  
no ip classless  
ip route 172.21.127.114 255.255.255.255 172.21.127.113  
! **Virtual profiles are required for double authentication to work:  
virtual-profile virtual-template 1  
dialer-list 1 protocol ip permit  
no cdp run  
! **The following command defines where the TACACS+ AAA server is:  
tacacs-server host 172.16.57.35 port 1049  
tacacs-server timeout 90  
! **The following command defines the key to use with TACACS+ traffic (required):  
tacacs-server key mytacacskey  
snmp-server community public RO  
!  
line con 0  
  exec-timeout 0 0  
  login authentication console  
line aux 0  
  transport input all  
line vty 0 4  
  exec-timeout 0 0  
  password lab  
!  
end
```

この RADIUS AAA 設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA ネットワーク セキュリティ サービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication login admins local** コマンドは、ログイン認証に別の方式リスト「admins」を定義します。
- **aaa authentication ppp dialins group radius local** コマンドで、まず RADIUS 認証を指定する認証方式リスト「dialins」を定義します。次に、(RADIUS サーバーが応答しない場合) PPP を使用するシリアル回線でローカル認証が使用されます。
- **aaa authorization network default group radius local** コマンドは、アドレスと他のネットワーク パラメータを RADIUS ユーザーに割り当てるために使用されます。
- **aaa accounting network default start-stop group radius** コマンドは、PPP の使用状況を追跡します。
- **username** コマンドはユーザー名とパスワードを定義します。これらの情報は、PPP パスワード認証プロトコル (PAP) の発信元身元確認に使用されます。
- **radius-server host** コマンドは RADIUS サーバー ホストの名前を定義します。
- **radius-server key** コマンドは、ネットワーク アクセス サーバーと RADIUS サーバー ホストの間の共有秘密テキスト文字列を定義します。
- **interface group-async** コマンドは、非同期インターフェイス グループを選択して定義します。

- **group-range** コマンドは、インターフェイス グループ内のメンバ非同期インターフェイスを定義します。
- **encapsulation ppp** コマンドは、指定のインターフェイスに使用されるカプセル化方式として PPP を設定します。
- **ppp authentication ms-chap dialins** コマンドは PPP 認証方式として MS-CHAP を選択し、特定のインターフェイスに「dialins」方式リストを適用します。
- **line** コマンドはコンフィギュレーション モードをグローバル コンフィギュレーションからライン コンフィギュレーションに切り替え、設定対象の回線を指定します。
- **autoselect ppp** コマンドは、選択した回線上で PPP セッションを自動的に開始できるようにします。
- **autoselect during-login** コマンドを使用すると、Return キーを押さずにユーザ名およびパスワードのプロンプトが表示されます。ユーザがログインすると、autoselect 機能（この場合は PPP）が開始します。
- **login authentication admins** コマンドは、ログイン認証に「admins」方式リストを適用します。
- **modem dialin** コマンドは、選択した回線に接続されているモデムを設定し、着信コールだけを受け入れるようにします。

## その他の参考資料

ここでは、認証の設定機能に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
許可	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』の「Configuring Authorization」
アカウントिंग	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Service, Release 2』の「Configuring Accounting」
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 1334	PPP 認証プロトコル
RFC 2433	「Microsoft PPP CHAP Extensions」
RFC 2903	「Generic AAA Architecture」
RFC 2904	「AAA Authorization Framework」
RFC 2906	「AAA Authorization Requirements」
RFC 2989	「Criteria for Evaluating AAA Protocols for Network Access」

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## 認証の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 10: 認証の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA 方式リストの拡張	Cisco IOS XE Release 2.1	この機能を使用すると、認証、許可、アカウントिंगのフォールバック方式を有効にすることができます。フォールバック方式では、RADIUS または TACACS+ サーバまたは、場合によってはローカル データベースのグループ化の試行が行われます。  Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa authentication ppp</b> 。
AAA のユーザー別スケーラビリティ	Cisco IOS XE Release 2.3	AAA のユーザー別スケーラビリティ機能では、 <b>ip vrf</b> および <b>ip unnumbered</b> コマンド向けに 2 つの RADIUS VSA がサポートされています。優れた拡張性を達成するために完全な VA インターフェイスの代わりに指定されている場合は、サブバーチャル アクセス インターフェイスを作成します。  Cisco IOS XE Release 2.3 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。

機能名	リリース	機能情報
チャレンジハンドシェイク認証 プロトコル (CHAP)	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>現在、PPP は2つの認証プロトコルをサポートします。パスワード認証プロトコル (PAP) およびチャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) の2つです。いずれも RFC 1334 で規定され、同期インターフェイスと非同期インターフェイスでサポートされます。PAP または CHAP を介する認証は、サーバーからのプロンプトを受けてユーザー名とパスワードを入力する方法と同等です。CHAP の場合、接続の間にリモートユーザーのパスワードは送信されないため、より安全性が高いと考えられます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ppp authentication</b>、 <b>ppp chap password</b>、 <b>ppp chap refuse</b>。</p>
サーバーグループ レベルでのドメイン ストリッピング	Cisco IOS XE Release 3.4S	<p>ドメインストリッピング機能を使用すると、ドメインストリッピングをサーバーグループレベルで設定できます。サーバー単位のグループ コンフィギュレーションはグローバル コンフィギュレーションを上書きします。</p> <p>この機能に関する詳細については、次の各項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドメインストリッピング</li> <li>サーバーグループレベルでのドメインストリッピングの設定</li> </ul> <p>次のコマンドが導入されました： <b>domain-stripping</b></p>
二重認証	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa authentication</b>、 <b>aaa authorization</b>、 <b>access-profile</b>。</p>
AAA 認証のメッ セージ バナー	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入されました。 <b>aaa authentication banner</b>。</p>

機能名	リリース	機能情報
MS-CHAP バージョン 1	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>マイクロソフト チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (MS-CHAP) は、Microsoft バージョンの CHAP であり、RFC 1994 の拡張です。標準バージョンの CHAP と同様に、MS-CHAP は PPP 認証に使用されます。この場合、Microsoft Windows NT または Microsoft Windows 95 を使用する PC と、ネットワーク アクセス サーバとして動作する Cisco ルータまたはアクセス サーバとの間に認証が発生します。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ppp authentication</b>。</p>
Password Authentication Protocol (PAP)	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>現在、PPP は 2 つの認証プロトコルをサポートします。パスワード認証プロトコル (PAP) およびチャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) の 2 つです。いずれも RFC 1334 で規定され、同期インターフェイスと非同期インターフェイスでサポートされます。PAP または CHAP を介する認証は、サーバーからのプロンプトを受けてユーザー名とパスワードを入力する方法と同等です。CHAP の場合、接続の間にリモート ユーザーのパスワードは送信されないため、より安全性が高いと考えられます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ppp authentication</b>、<b>ppp pap sent-username</b>、<b>ppp pap refuse</b>。</p>
RADIUS : ユーザ名が空のアクセス要求を送信しないようにする CLI	Cisco IOS XE Release 2.4	<p>この認証機能によって、ユーザ名が空のアクセス要求が RADIUS サーバに送信されないようにします。この機能により、RADIUS サーバとの不要なやりとりを回避でき、RADIUS ログの量を少なくすることができます。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.4 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入されました。 <b>aaa authentication suppress null-username</b>。</p>



## CHAPTER 2

# RADIUS 許可の変更

RADIUS 認可変更 (CoA) 機能は、認証、許可、アカウントिंग (AAA) セッションの属性を、セッション認証後に変更するためのメカニズムを提供します。AAA でユーザ、またはユーザグループのポリシーに変更がある場合、管理者は Cisco Secure Access Control Server (ACS) などの AAA サーバから RADIUS CoA パケットを送信して認証を再初期化し、新しいポリシーを適用することができます。

- [RADIUS 認可変更に関する情報, on page 71](#)
- [RADIUS 認可変更の設定方法, on page 76](#)
- [RADIUS 認可変更の設定例, on page 81](#)
- [RADIUS 認可変更に関する追加情報, on page 82](#)
- [RADIUS 認可変更の機能情報, on page 84](#)

## RADIUS 認可変更に関する情報

### RADIUS 認可変更について

標準 RADIUS インターフェイスは通常、ネットワークに接続しているデバイスから要求が送信され、クエリーが送信されたサーバが応答するプル モデルで使用されます。シスコのソフトウェアは、プッシュ モデルで使用される RFC 5176 で定義された RADIUS CoA 要求をサポートしています。このモデルでは、要求は外部サーバからネットワークに接続されたデバイスへ発信され、外部の認証、許可、アカウントング (AAA) またはポリシー サーバからの動的なセッション再設定が可能になります。

次のセッション単位の CoA 要求を使用します。

- セッション再認証
- セッションの終了
- ポート シャットダウンでのセッション終了
- ポート バウンスでのセッション終了
- セキュリティとパスワード

- アカウンティング

## CoA 要求

CoA 要求は、RFC 5176 に記載されているように、プッシュ モデルで使用するによって、セッション識別、ホスト再認証、およびセッション終了を行うことができます。モデルは、次のように、1 つの要求 (CoA-Request) と 2 つの考えられる応答コードで構成されます。

- CoA acknowledgment (ACK) [CoA-ACK]
- CoA non-acknowledgment (NAK) [CoA-NAK]

要求は CoA クライアント (通常は RADIUS またはポリシー サーバ) から開始されて、リッスナーとして動作するデバイスに転送されます。

## RFC 5176 規定

Disconnect Request メッセージは Packet of Disconnect (POD) とも呼ばれますが、セッション終了に対してデバイスでサポートされています。

次の表に、RADIUS 認可変更 (CoA) 機能でサポートされている IETF 属性を示します。

**Table 11:** サポートされている IETF 属性

属性番号	属性名
24	State
31	Calling-Station-ID
44	Acct-Session-ID
80	Message-Authenticator
101	Error-Cause

次の表に、Error-Cause 属性で取ることができる値を示します。

**Table 12:** Error-Cause の値

値	説明
201	削除された残留セッション コンテキスト
202	無効な EAP パケット (無視)
401	サポートされていない属性
402	見つからない属性
403	NAS 識別情報のミスマッチ



値	説明
404	無効な要求
405	サポートされていないサービス
406	サポートされていない拡張機能
407	無効な属性値
501	管理上の禁止
502	ルート不可能な要求 (プロキシ)
503	セッション コンテキストが検出されない
504	セッション コンテキストが削除できない
505	その他のプロキシ処理エラー
506	リソースが使用不可能
507	要求が発信された
508	マルチセッションの選択がサポートされていない

## CoA 要求応答コード

CoA 要求の応答コードは、デバイスへコマンドを発行するために使用されます。サポートされているコマンドを「CoA 要求コマンド」に示します。

RFC 5176 で定義されている CoA 要求応答コードのパケットの形式は、コード、ID、長さ、オーセンティケータ、およびタイプ、長さ、値 (TLV) 形式の属性から構成されます。

属性フィールドは、Cisco ベンダー固有属性 (VSA) を送信するために使用します。

### セッションの識別

特定のセッションに対する接続解除および CoA 要求の場合、デバイスは次の 1 つまたは複数の属性に基づいてセッションを検出します。

- Acct-Session-Id (IETF 属性 #44)
- Audit-Session-Id (シスコのベンダー固有属性 (VSA) )
- Calling-Station-Id (ホスト MAC アドレスを含む IETF 属性 #31)

CoA メッセージに含まれるすべてのセッション ID 属性がそのセッションと一致しない限り、デバイスは「Invalid Attribute Value」エラーコード属性を含む Disconnect-NAK または CoA-NAK を返します。



**Note** CoA NAK メッセージは、キーの不一致があるすべての CoA 要求に送信されるわけではありません。メッセージは、クライアントの最初の 3 つの要求にのみ送信されます。その後、そのクライアントからのすべてのパケットがドロップされます。キーの不一致が見つかったら、CoA NAK メッセージで送信される応答オーセンティケータはダミーのキー値から計算されます。

## CoA ACK 応答コード

許可ステートの変更に成功した場合は、肯定確認応答 (ACK) が送信されます。CoA ACK 内で返される属性は CoA 要求によって異なります。

## CoA NAK 応答コード

否定応答 (NAK) は許可ステートの変更に失敗したことを示し、エラーの理由を示す属性を含めることができます。

## CoA 要求コマンド

デバイスでサポートされているコマンドを次の表に示します。すべての CoA コマンドには、デバイスと CoA クライアント間のセッション ID が含まれている必要があります。

**Table 13:** デバイスでサポートされる CoA 要求コマンド

コマンド	シスコの VSA
Bounce host port	Cisco:Avpair="subscriber:command=bounce-host-port"
Disable host port	Cisco:Avpair="subscriber:command=disable-host-port"
Reauthenticate host	Cisco:Avpair="subscriber:command=reauthenticate"
Terminate session	VSA を必要としない標準の接続解除要求です

## セッション再認証

セッション認証を開始するために、認証、許可、アカウントिंग (AAA) サーバは、Cisco VSA と 1 つ以上のセッション ID 属性を含む標準 CoA 要求メッセージを送信します。Cisco VSA は、Cisco:Avpair="subscriber:command=reauthenticate" の形式です。

次のシナリオでは、現在のセッション状態によって、メッセージに対するデバイスの応答が決まります。

- セッションが現在、IEEE 802.1x によって認証されている場合、デバイスは Extensible Authentication Protocol over LAN (EAPoL) -RequestId メッセージをサーバに送信することで応答します。
- セッションが現在 MAC 認証バイパス (MAB) によって認証されている場合、デバイスはアクセス要求をサーバに送信し、最初に成功した認証で使用したのと同じ ID 属性を渡します。

- デバイスがコマンドを受信した際にセッション認証が実行中である場合は、デバイスはプロセスを終了し、認証シーケンスを再開し、最初に試行されるように設定された方式で開始します。

## セッションの終了

CoA 接続解除要求は、ホストポートをディセーブルにせずにセッションを終了します。CoA 接続解除要求終了によって、指定したホストのオーセンティケータステートマシンが再初期化されますが、ホストのネットワークへのアクセスは制限されません。セッションが見つからない場合、デバイスは「Session Context Not Found」エラーコード属性を使用して Disconnect-NAK メッセージを返します。セッションが見つかった場合、デバイスはセッションを終了します。セッションが完全に削除されると、デバイスは Disconnect-ACK メッセージを返します。

ホストのネットワークへのアクセスを制限するには、

Cisco:Avpair="subscriber:command=disable-host-port" VSA を含む CoA 要求を使用します。このコマンドは、ホストがネットワーク上で問題を起きていることを把握し、ホストのネットワークアクセスを即座にブロックする必要がある場合に便利です。ポートのネットワークアクセスを復元する場合は、非 RADIUS メカニズムを使用して再びイネーブルにします。

## CoA 要求の disable host port

RADIUS サーバーの CoA disable port コマンドを実行すると、セッションをホストしている認証ポートが管理的にシャットダウンされます。その結果、セッションは終了します。このコマンドは、ホストがネットワーク上で問題を起きていることを把握し、ホストのネットワークアクセスを即座にブロックする必要がある場合に便利です。ポートのネットワークアクセスを復元する場合は、非 RADIUS メカニズムを使用して再びイネーブルにします。このコマンドは、次の VSA を含む標準の CoA-Request メッセージで伝達されます。

```
Cisco:Avpair="subscriber:command=disable-host-port"
```

このコマンドはセッション指向であるため、「セッション ID」セクションに示されている 1 つ以上のセッション ID 属性とともに使用する必要があります。セッションを検出できない場合、デバイスは「Session Context Not Found」エラーコード属性を含む CoA-NAK メッセージを返します。デバイスは、セッションを検出すると、ホスティングポートを無効にし、CoA-ACK メッセージを返します。

デバイスが CoA-ACK をクライアントに返す前にデバイスに障害が発生した場合、クライアントから要求が再送信されると、新しいアクティブデバイス上でそのプロセスが繰り返されます。デバイスが CoA-ACK メッセージをクライアントに返した後でデバイスに障害が発生したが、操作が完了していない場合、その操作は新しいアクティブデバイスで再開されます。

RADIUS サーバの CoA disable port コマンドを無視するには、「bounce および disable RADIUS CoA 要求を無視するためのデバイスの設定」を参照してください。

## CoA 要求の bounce port

RADIUS サーバーの CoA bounce port が RADIUS サーバーから送信されると、認証ポートでリンクのフラップが発生します。その結果、このポートに接続している 1 つまたは複数のホストから、DHCP の再ネゴシエーションが開始されます。この状況は、VLAN の変更があり、この認証ポートに関する変化を検出するメカニズムがないデバイス（プリンタなど）がエンドポイ

ントの場合に発生する可能性があります。CoA bounce port は、次の新しい VSA を含む標準の CoA-Request メッセージで伝達されます。

```
Cisco:Avpair="subscriber:command=bounce-host-port"
```

このコマンドはセッション指向であるため、「セッションID」に示されている1つ以上のセッション ID 属性とともに使用する必要があります。セッションが見つからない場合、デバイスは「Session Context Not Found」エラーコード属性を使用して CoA-NAK メッセージを返します。このセッションがある場合は、デバイスはホストポートを 10 秒間ディセーブルし、再びイネーブルにし（ポートバウンス）、CoA-ACK を返します。

RADIUS サーバの CoA bounce port を無視するには、「bounce および disable RADIUS CoA 要求を無視するためのデバイスの設定」を参照してください。

## RADIUS 認可変更の設定方法

### RADIUS 認可変更の設定

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa server radius dynamic-author**
5. **client {ip-address | name [ vrf vrf-name]} server-key [0 | 7] string**
6. **port port-number**
7. **auth-type {any | all | session-key}**
8. **ignore session-key**
9. **ignore server-key**
10. **exit**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	認証、認可、アカウントング (AAA) をグローバルに有効化します。
ステップ 4	<b>aaa server radius dynamic-author</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa server radius dynamic-author	ダイナミック認可ローカル サーバー コンフィギュレーションモードを開始し、デバイスが認可変更 (CoA) を受け入れ、要求を取り外す RADIUS クライアントを指定します。デバイスを AAA サーバーとして設定し、外部ポリシー サーバーとの連携を可能にする。
ステップ 5	<b>client {ip-address   name [ vrf vrf-name]} server-key [0   7] string</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# client 10.0.0.1	RADIUS 鍵をデバイスと RADIUS クライアントとの間で共有されるように設定します。
ステップ 6	<b>port port-number</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# port 3799	設定された RADIUS クライアントから RADIUS 要求をデバイスが受信するポートを指定します。 <b>Note</b> パケットオブディスコネクトのデフォルトポートは 1700 です。ACS 5.1 と相互運用するためには、ポート 3799 が必要です。
ステップ 7	<b>auth-type {any   all   session-key}</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# auth-type all	デバイスが RADIUS クライアントに使用する認可のタイプを指定します。クライアントは、認可用に設定された属性と一致していなければなりません。
ステップ 8	<b>ignore session-key</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# ignore session-key	(オプション) セッション キーを無視するようにデバイスを設定します。
ステップ 9	<b>ignore server-key</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# ignore server-key	(オプション) サーバー キーを無視するようにデバイスを設定します。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## bounce および disable RADIUS CoA 要求を無視するためのデバイスの設定

複数のホストを使用して認証ポートを認証していて、このポートで1つのホストに対してフラップする認可変更 (CoA) 要求があるか、このポートで終了するホストセッションがある場合、このポート上のその他のホストにも影響があります。したがって、複数のホストを使用して認証されたポートは、フラップの場合に1つまたは複数のホストからDHCPの再ネゴシエーションをトリガーします。または、1つまたは複数のホストについて、セッションをホストする認証ポートを管理的にシャットダウンします。

次の手順を使用して、`bounce port` コマンドまたは `disable port` コマンドの形式で RADIUS サーバの認可変更 (CoA) 要求を無視するようにデバイスを設定します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `aaa new-model`
4. `authentication command bounce-port ignore`
5. `authentication command disable-port ignore`
6. `end`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b>  Device> <code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b>  Device# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>aaa new-model</code> <b>Example:</b>  Device(config)# <code>aaa new-model</code>	認証、認可、アカウントिंग (AAA) をグローバルに有効化します。
ステップ 4	<code>authentication command bounce-port ignore</code> <b>Example:</b>  Device(config)# <code>authentication command bounce-port ignore</code>	(任意) RADIUS サーバの <code>bounce port</code> コマンドを無視するようにデバイスを設定します。無視しない場合、認証ポート上でホストがフラップをリンクし、結果として、そのポートに接続する1つまたは複数の

	Command or Action	Purpose
		のホストから DHCP 再ネゴシエーションが発生します。
ステップ 5	<b>authentication command disable-port ignore</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# authentication command disable-port ignore</pre>	(任意) RADIUS サーバの CoA disable port コマンドを無視するようにデバイスを設定します。無視しない場合、1 または複数のホストセッションをホストする認証ポートが管理的にシャットダウンされます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ポートがシャットダウンされると、セッションも終了します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

## RADIUS CoA 用の動的認可サービスの設定

次の手順を実行して、動的許可サービスの認証、許可、アカウントिंग (AAA) サーバとしてデバイスを有効にします。このサービスは、入力方向と出力方向でポリシー マップをプッシュする認可変更 (CoA) 機能をサポートします。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa server radius dynamic-author**
5. **client** *{ip-addr | hostname}* [**server-key** **[0 | 7]** *string*]
6. **domain** *{delimiter character | stripping | [right-to-left]}*
7. **port** *port-num*
8. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 4	<b>aaa server radius dynamic-author</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa server radius dynamic-author	ローカル AAA サーバを動的認可サービス用にセットアップして、動的認可ローカルサーバ コンフィギュレーション モードに入ります。このサービスは、ポリシー マップを入力方向と出力方向にプッシュする CoA 機能をサポートするように有効にする必要があります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>このモードでは、RADIUS アプリケーション コマンドが設定されます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>client {ip-addr   hostname} [server-key [0   7] string]</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# client 192.168.0.5 server-key cisco1	AAA サーバ クライアントの IP アドレスまたはホスト名を設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>オプションの <b>server-key</b> キーワードと <i>string</i> 引数を使用して、クライアントレベルのサーバ キーを設定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> クライアント レベルでサーバ キーを設定すると、グローバルレベルで設定されたサーバ キーが上書きされます。</p>
ステップ 6	<b>domain {delimiter character   stripping   [right-to-left]}</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# domain stripping right-to-left	(任意) RADIUS アプリケーションについてユーザ名のドメイン オプションを設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li><b>delimiter</b> キーワードで、ドメインデリミタを指定します。次のいずれかのオプションを <i>character</i> 引数に指定できます。@、/、\$、%、\、#、または -。</li> <li><b>stripping</b> キーワードは、着信のユーザー名と、@ ドメインデリミタの左側にある名前を比較します。</li> <li>The <b>right-to-left</b> キーワードは、右から左方向に見て最初のデリミタで文字列を終了します。</li> </ul>
ステップ 7	<b>port port-num</b> <b>Example:</b>	CoA 要求に UDP ポートを設定します。



	Command or Action	Purpose
	Device(config-locsvr-da-radius)# port 3799	
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## RADIUS 認可変更のモニタリングとトラブルシューティング

RADIUS 認可変更機能のモニタリングおよび問題を解決するために、次のコマンドを使用できます。

Table 14: RADIUS 認可変更のモニタリングとトラブルシューティング

コマンド	目的
<b>debug aaa coa</b>	CoA 処理のデバッグ情報を表示します。
<b>debug aaa pod</b>	パケットオブディスコネクト (POD) パケットに関連するデバッグメッセージを表示します。
<b>debug radius</b>	RADIUS 関連の情報を表示します。
<b>show aaa attributes protocol radius</b>	認証、許可、アカウントिंग (AAA) 属性番号と対応する AAA 属性名のマッピングを表示します。

## RADIUS 認可変更の設定例

### 例 : RADIUS 認可変更の設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa server radius dynamic-author
Device(config-locsvr-da-radius)# client 10.0.0.1
Device(config-locsvr-da-radius)# server-key cisco123
Device(config-locsvr-da-radius)# port 3799
Device(config-locsvr-da-radius)# auth-type all
Device(config-locsvr-da-radius)# ignore session-key
```

例：bounce および disable RADIUS 要求を無視するためのデバイスの設定

```
Device(config-locsvr-da-radius)# ignore server-key
Device(config-locsvr-da-radius)# end
```

## 例：bounce および disable RADIUS 要求を無視するためのデバイスの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# authentication command bounce-port ignore
Device(config)# authentication command disable-port ignore
Device(config)# end
```

## 例：RADIUS CoA 用の動的認可サービスの設定

次に、認証、許可、アカウントिंग (AAA) サーバとしてのデバイスが、入力方向と出力方向でポリシー マップをプッシュする認可変更 (CoA) 機能をサポートするように設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa server radius dynamic-author
Device(config-locsvr-da-radius)# client 192.168.0.5 server-key cisco1
Device(config-locsvr-da-radius)# domain delimiter @
Device(config-locsvr-da-radius)# port 3799
Device(config-locsvr-da-radius)# end
```

## RADIUS 認可変更に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
AAA の設定	『Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide』

## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2903	『Generic AAA Architecture』
RFC 5176	『Dynamic Authorization Extensions to Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS 認可変更の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 15: RADIUS 認可変更の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 許可の変更		<p>RADIUS 認可変更 (CoA) 機能は、AAA セッションの属性をセッション認証後に変更するためのメカニズムを提供します。AAA でユーザ、またはユーザ グループのポリシーに変更がある場合、管理者は Cisco Secure Access Control Server (ACS) などの AAA サーバから RADIUS CoA パケットを送信して認証を再初期化し、新しいポリシーを適用することができます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa server radius dynamic-author authentication command bounce-port ignore authentication command disable-port ignore</b></p>



## CHAPTER 3

# AAA 認証のメッセージバナー

AAA 認証のメッセージバナー機能は、ユーザ認証のためにパーソナライズされたログインバナーおよび failed-login バナーを設定するために使用されます。ユーザが認証、許可、アカウントティング (AAA) を使用して認証を受けるシステムにログインする場合に認証が失敗すると、メッセージバナーが表示されます。

- [AAA 認証のメッセージバナーに関する情報, on page 85](#)
- [AAA 認証のメッセージバナーの設定方法, on page 86](#)
- [AAA 認証のメッセージバナーの設定例, on page 88](#)
- [AAA 認証のメッセージバナーに関する追加情報, on page 89](#)
- [AAA 認証のメッセージバナーの機能情報, on page 90](#)

## AAA 認証のメッセージバナーに関する情報

### AAA 認証のログインバナーおよび Failed-Login バナー

ログインバナーおよび failed-login バナーは、認証、許可、およびアカウントティング (AAA) 認証用のバナーとして表示する必要があるテキスト文字列そのものをシステムに通知するデリミタを使用します。デリミタは、ログインバナーまたは failed-login バナーの末尾を示すために、テキスト文字列の末尾で繰り返されます。デリミタには、拡張 ASCII 文字セットの任意の 1 文字を使用できます。ただし、デリミタとして定義した文字は、バナー用のテキスト文字列には使用できません。

ログインバナーまたは failed-login バナーには、最大 2996 文字を表示できます。

# AAA 認証のメッセージバナーの設定方法

## AAA 認証のログインバナーの設定

次の作業を行って、ユーザがログインするときに表示されるバナーを設定します（デフォルトのログインメッセージを置き換えます）。ログインバナーを無効にするには、**no aaa authentication banner** コマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authentication banner** *delimiter-string delimiter*
5. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 4	<b>aaa authentication banner</b> <i>delimiter-string delimiter</i> <b>Example:</b> Device(config)# aaa authentication banner *Unauthorized Access Prohibited*	パーソナライズされたログインバナーを作成します。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# end	

## AAA 認証の Failed-Login バナーの設定

次の作業を行って、ユーザログインが失敗したときに表示される failed-login バナーを設定します (デフォルトのメッセージを failed-login に置き換えます)。failed-login バナーをディセーブルにするには、**no aaa authentication fail-message** コマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authentication banner** *delimiter-string delimiter*
5. **aaa authentication fail-message** *delimiter-string delimiter*
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに開始します。
ステップ 4	<b>aaa authentication banner</b> <i>delimiter-string delimiter</i> <b>Example:</b> Device(config)# aaa authentication banner *Unauthorized Access Prohibited*	パーソナライズされたログイン バナーを作成します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>aaa authentication fail-message</b> <i>delimiter-string</i> <i>delimiter</i> <b>Example:</b> Device(config)# aaa authentication fail-message *Failed login. Try again*	ユーザーログインが失敗したときに表示されるメッセージを作成します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## AAA 認証のメッセージバナーの設定例

### 例：AAA 認証のログインバナーおよび Failed-Login バナーの設定

次に、ユーザーがシステムにログインするときに表示されるログインバナー（この場合、「Unauthorized Access Prohibited」というフレーズ）を設定する例を示します。アスタリスク (\*) はデリミタとして使用されます。RADIUS はデフォルトログイン認証方式として指定されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa authentication banner *Unauthorized Access Prohibited*
Device(config)# aaa authentication login default group radius
```

この設定によって、次のログインバナーが表示されます。

```
Unauthorized Access Prohibited
Username:
```

次の例では、ユーザーがシステムにログインしようとして失敗すると表示される Failed-Login バナー（この場合、「Failed login. Try again」というフレーズ）を設定する方法を示します。アスタリスク (\*) はデリミタとして使用されます。RADIUS はデフォルトログイン認証方式として指定されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa authentication banner *Unauthorized Access Prohibited*
Device(config)# aaa authentication fail-message *Failed login. Try again.*
Device(config)# aaa authentication login default group radius
```

この設定によって、次のログインバナーおよび Failed-Login バナーが表示されます。



```

Unauthorized Access Prohibited
Username:
Password:
Failed login. Try again.

```

## AAA 認証のメッセージバナーに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
AAA の設定	『Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## AAA 認証のメッセージバナーの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 16: AAA 認証のメッセージバナーの機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA 認証のメッセージバナー		<p>AAA 認証のメッセージバナー機能により、ユーザ認証のためにパーソナライズされたログインバナーおよび failed-login バナーを設定できます。ユーザが認証、許可、アカウントिंग (AAA) を使用して認証を受けるシステムにログインする場合に認証が失敗すると、メッセージバナーが表示されます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。aaa authentication banner、aaa authentication fail-message、および aaa new-model。</p>



## CHAPTER 4

# サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピング

サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピング機能を使用すると、ドメインストリッピングをサーバグループレベルで設定できます。

- サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピングに関する情報, on page 91
- サーバレベルグループでの AAA ドメインストリッピングの設定方法, on page 92
- サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピングの設定例, on page 93
- その他の参考資料, on page 93
- サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピングの機能情報, on page 95

## サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピングに関する情報

**radius-server domain-stripping** コマンドを使用して、グローバルレベルで受信したユーザー名からドメイン名を削除できます。**radius-server domain-stripping** コマンドを設定すると、「user@example.com」を含むすべての AAA 要求のユーザー名が「user」に再フォーマットされてリモート RADIUS サーバーに送信されます。ドメイン名は要求から削除されます。



**Note** ドメインストリッピングは TACACS 設定では行われません。

AAA ブロードキャストアカウントリング機能を有効にすると、アカウントリング情報を複数の AAA サーバーに同時に送信できます。つまり、アカウントリング情報を 1 つまたは複数の AAA サーバーに同時にブロードキャストすることが可能です。この機能を使用すると、プライベートおよびパブリック AAA サーバーにアカウント情報を送信できます。この機能では、音声アプリケーションによる課金情報も提供されます。

サーバグループ RADIUS コンフィギュレーションモードで **domain-stripping** コマンドを使用すると、ドメインストリッピングをサーバグループレベルで設定できます。サーバー単位のグループコンフィギュレーションはグローバルコンフィギュレーションを上書きします。

ドメインstrippingが、グローバルではイネーブルではないがサーバグループでイネーブルになっている場合、そのサーバグループに対してのみイネーブルになります。また、Virtual Routing and Forwarding (VRF) 固有のドメインstrippingがグローバルで設定されていて、別のVRFのドメインstrippingがサーバグループで設定されている場合、ドメインstrippingは両方のVRFでイネーブルになります。VRFの設定は、サーバグループコンフィギュレーションモードから取得されます。サーバグループコンフィギュレーションがグローバルコンフィギュレーションモードでディセーブルになっているが、サーバグループコンフィギュレーションモードで使用可能である場合、サーバグループコンフィギュレーションモードでのすべての設定が適用可能です。

ドメインstrippingおよびブロードキャストアカウントिंगを設定した後で、設定ごとに別個のアカウントिंगレコードを作成できます。

## サーバレベルグループでの AAA ドメインstrippingの設定方法

### サーバグループレベルでのドメインstrippingの設定

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `aaa new-model`
4. `aaa group server radius server-name`
5. `domain-stripping [strip-suffix word] [right-to-left] [prefix-delimiter word] [delimiter word]`
6. `end`

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>aaa new-model</code> <b>Example:</b>	AAA を有効にします。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# aaa new-model	
ステップ 4	<b>aaa group server radius server-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa group server radius rad1	RADIUS サーバを追加し、サーバグループ RADIUS コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>server-name</i> 引数には、RADIUS サーバー グループ名を指定します。
ステップ 5	<b>domain-stripping [strip-suffix word] [right-to-left] [prefix-delimiter word] [delimiter word]</b> <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# domain-stripping delimiter username@example.com	サーバー グループ レベルでドメイン ストリッピングを設定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# end	サーバー グループ RADIUS コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピングの設定例

### 例：サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピング

次に、サーバグループレベルでのドメインストリッピング設定の例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa group server radius rad1
Device(config-sg-radius)# domain-stripping right-to-left delimiter @$/
Device(config-sg-radius)# end
```

## その他の参考資料

ここでは、認証の設定機能に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
許可	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』の「Configuring Authorization」

関連項目	マニュアルタイトル
アカウントिंग	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Service , Release 2』の「Configuring Accounting」
セキュリティコマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 1334	PPP 認証プロトコル
RFC 2433	「Microsoft PPP CHAP Extensions」
RFC 2903	「Generic AAA Architecture」
RFC 2904	「AAA Authorization Framework」
RFC 2906	「AAA Authorization Requirements」
RFC 2989	「Criteria for Evaluating AAA Protocols for Network Access」

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 17:** サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピング	Cisco IOS XE Release 3.4S	<p>サーバグループレベルでの AAA ドメインストリッピング機能を使用すると、ドメインストリッピングをサーバグループレベルで設定できます。</p> <p>次のコマンドが導入されました： <b>domain-stripping</b></p>







## CHAPTER 5

# AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout

AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout 機能により、ユーザ単位のセッションタイムアウトを使用して保護することで、二重の認証メカニズムが確保されます。この機能は、サービスプロバイダーにより認可されたネットワークへの接続を最適化し、不要なセッションが接続されないようにすることで、ネットワークへのアクセス全体のセキュリティを高めます。

- [AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の前提条件, on page 97](#)
- [AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の制約事項, on page 98](#)
- [AAA Double Authentication Secured by AbsoluteTimeout に関する情報, on page 98](#)
- [AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の適用方法, on page 98](#)
- [AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の設定例, on page 99](#)
- [その他の参考資料, on page 102](#)
- [AAA Double Authentication Secured by AbsoluteTimeout の機能情報, on page 103](#)

## AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の前提条件

- Cisco RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバにアクセスできる必要があります。また、RADIUS または TACACS+ の設定方法を十分に理解していることが必要です。
- 認証、許可、アカウントिंग（AAA）の設定方法および AAA 自動二重認証の有効化方法を十分に理解していることが必要です。

## AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の制約事項

- AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout 機能は、PPP 接続専用です。自動二重認証は、X.25 やシリアルラインインターネットプロトコル (SLIP) などの他のプロトコルとともに使用することはできません。
- TACACS+ サーバが使用されている場合、パフォーマンスにわずかに影響することがあります。ただし、RADIUS サーバが使用されている場合は、パフォーマンスへの影響はありません。

## AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout に関する情報

### AAA 二重認証

ホストのユーザ名とパスワードを使用して最初の認証を渡すために、AAA 二重認証メカニズムを使用します。2 回目の認証は、チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) またはパスワード認証プロトコル (PAP) 認証の後で行われますが、このときはログインユーザ名とそのパスワードが使用されます。最初の認証では、PPP セッションタイムアウトがローカルまたはリモートで設定されていれば、PPP セッションタイムアウトがバーチャルアクセスインターフェイスに適用されます。

AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout 機能により、ユーザ単位のセッションタイムアウトを使用して保護することで、二重の認証メカニズムが確保されます。ユーザ単位のセッションタイムアウトは、一般的な絶対タイムアウト値よりも優先されるほか、カスタマイズすることが可能です。このメカニズムの動作原理は、二重認証のユーザ単位のアクセスコントロールリスト (ACL) と同じです。

## AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の適用方法

### AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の適用

絶対タイムアウトを適用するために、リンク コントロールプロトコル (LCP) のユーザ単位の属性としてログインユーザプロファイルでセッションタイムアウトを設定する必要があります。AAA 二重認証を有効にするには、**access-profile** コマンドを使用します。このコマンド

は、PPPセッション中にインターフェイスにユーザ単位の認可属性を適用するために使用されます。**access-profile** コマンドを使用する前に、LCPのユーザ単位の属性（セッションタイムアウトなど）を再度認可してから、ネットワーク制御プロトコル（NCP）を再度認可して、ACL やルートなどの他の必要な条件を適用します。「AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の例」を参照してください。



**Note** TACACS+ユーザプロファイルのタイムアウト設定は、RADIUSユーザプロファイルの設定とは異なります。RADIUSプロファイルでは、**autocommand** の **access-profile** とともに1つのセッションタイムアウトだけが設定されています。このタイムアウトはEXECセッションおよびPPPセッションにそれぞれ適用されます。TACACS+では、タイムアウトはサービスタイプ「exec」および「ppp」（LCP）下で設定し、EXECセッションとPPPセッションに適用する必要があります。タイムアウトをサービスタイプ「ppp」下でのみ設定すると、そのタイムアウト値はEXEC認可で使用できず、EXECセッションに適用されません。

## AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout の設定例

### 例：RADIUS ユーザ プロファイル

次の出力例は、RADIUS ユーザ プロファイルが適用されていることと、AAA 二重認証が絶対タイムアウトによって保護されていることを示しています。

```
aaapbx2 Password = "password1",
  Service-Type = Framed,
  Framed-Protocol = PPP,
  Session-Timeout = 180,
  Idle-Timeout = 180000,
  cisco-avpair = "ip:inacl#1=permit tcp any any eq telnet"
  cisco-avpair = "ip:inacl#2=permit icmp any any"
broker_default Password = "password1",
  Service-Type = Administrative,
  cisco-avpair = "shell:autocmd=access-profile",
  Session-Timeout = 360,
  cisco-avpair = "ip:inacl#1=permit tcp any any"
  cisco-avpair = "ip:inacl#2=permit icmp any any"
broker_merge Password = "password1",
  Service-Type = Administrative,
  cisco-avpair = "shell:autocmd=access-profile merge",
  Session-Timeout = 360,
  cisco-avpair = "ip:inacl#1=permit tcp any any"
  cisco-avpair = "ip:inacl#2=permit icmp any any"
  cisco-avpair = "ip:route#3=10.4.0.0 255.0.0.0"
  cisco-avpair = "ip:route#4=10.5.0.0 255.0.0.0"
  cisco-avpair = "ip:route#5=10.6.0.0 255.0.0.0"
broker_replace Password = "password1",
  Service-Type = Administrative,
  cisco-avpair = "shell:autocmd=access-profile replace",
  Session-Timeout = 360,
```

```
cisco-avpair = "ip:inacl#1=permit tcp any any"
cisco-avpair = "ip:inacl#2=permit icmp any any"
cisco-avpair = "ip:route#3=10.4.0.0 255.0.0.0"
cisco-avpair = "ip:route#4=10.5.0.0 255.0.0.0"
cisco-avpair = "ip:route#5=10.6.0.0 255.0.0.0"
```

## 例 : TACACS ユーザ プロファイル

次の出力例は、TACACS+ ユーザ プロファイルが適用されていることと、AAA 二重認証が絶対タイムアウトによって保護されていることを示しています。

### リモート ホスト認証

次に、最初の段階の認証でリモート ホストがローカル ホストによって認証され、リモート ホストの認可プロファイルが提供される例を示します。

```
user = aaapbx2
  chap = cleartext Cisco
  pap = cleartext cisco
  login = cleartext cisco
  service = ppp protocol = lcp
  idletime = 3000
  timeout = 3
  service = ppp protocol = ip
  inacl#1="permit tcp any any eq telnet"
  service = ppp protocol = ipx
```

### 引数のない **access-profile** コマンドの使用

引数を何も付けずに **access-profile** コマンドを実行すると、古い設定（ユーザー単位およびインターフェイス単位）で見つかったアクセスリストがすべて削除され、アクセスリストの定義のみが新しいプロファイルに存在する状態になります。

```
user = broker_default
  login = cleartext Cisco
  chap = cleartext "cisco"
  service = exec
  autocmd = "access-profile"
! This is the autocommand that executes when broker_default logs in.
  timeout = 6
  service = ppp protocol = lcp
  timeout = 6
  service = ppp protocol = ip
! Put access lists, static routes, and other requirements that are
! needed here. Read the software specifications for details. If you leave
! this blank, the user will have no access lists (not even the ones that were
! installed prior to the creation of this user profile)!
  inacl#1="permit tcp any any"
  inacl#2="permit icmp host 10.0.0.0 any"
  service = ppp protocol = ipx
! Put access lists, static routes, and other requirements that are
! needed here. Read the software specifications for details. If you leave
! this blank, the user will have no access lists (not even the ones that were
! installed prior to the creation of this user profile)!
```

### merge キーワードを指定した access-profile コマンドの使用

**access-profile** コマンドの **merge** キーワードを使用して、すべての古いアクセスリストを削除すると、属性と値 (AV) のペアのアップロードおよびインストールが許可されます。**merge** キーワードを使用すると、カスタムのスタティックルート、Service Advertisement Protocol (SAP) フィルタ、プロファイルに必要なことがある他の要件をアップロードできます。**merge** キーワードは競合する設定のあらゆる要素を未処理のままにするため、注意して設定してください。

```
user = broker_merge
login = cleartext Cisco
chap = cleartext "cisco"
service = exec
  autocmd = "access-profile merge"
! This is the autocommand that executes when broker_merge logs in.
  timeout = 6
service = ppp protocol = lcp
  timeout = 6
service = ppp protocol = ip
! Put access lists, static routes, and other requirements that are
! needed here. Read the software specifications for details. If you leave
! this blank, the user will have no access lists (not even the ones that were
! installed prior to the creation of this user profile)!
  route#1="10.4.0.0 255.0.0.0"
  route#2="10.5.0.0 255.0.0.0"
  route#3="10.6.0.0 255.0.0.0"
  inacl#5="permit tcp any any"
  inacl#6="permit icmp host 10.60.0.0 any"
service = ppp protocol = ipx
! Put access lists, static routes, and other requirements that are
! needed here. Read the software specifications for details. If you leave
! this blank, the user will have no access lists (not even the ones that were
! installed prior to the creation of this user profile)!
```

### replace キーワードを指定した access-profile コマンドの使用

**access-profile** コマンドに **replace** キーワードを指定して実行すると、古い設定がすべて削除され、新しい設定がインストールされます。



**Note** **access-profile** コマンドを設定すると、アドレスプールとアドレスと AV のペアについて新しい設定がチェックされます。この時点でアドレスは再ネゴシエートできないため、このコマンドはそのようなアドレスと AV のペアを検出すると正常に動作しません。

```
user = broker_replace
login = cleartext Cisco
chap = cleartext "cisco"
service = exec
  autocmd = "access-profile replace"
! This is the autocommand that executes when broker_replace logs in.
  timeout = 6
service = ppp protocol = lcp
  timeout = 6
service = ppp protocol = ip
! Put access lists, static routes, and other requirements that are
! needed here. Read the software specifications for details. If you leave
```

```

! this blank, the user will have no access lists (not even the ones that were
! installed prior to the creation of this user profile)!
route#1="10.7.0.0 255.0.0.0"
route#2="10.8.0.0 255.0.0.0"
route#3="10.9.0.0 255.0.0.0"
inacl#4="permit tcp any any"
service = ppp protocol = ipx
! Put access lists, static routes, and other requirements that are
! needed here. Read the software specifications for details. If you leave
! this blank, the user will have no access lists (not even the ones that were
! installed prior to the creation of this user profile)!

```



**Note** TACACS+ ユーザプロファイルのタイムアウト設定は、RADIUS ユーザプロファイルの設定とは異なります。RADIUS プロファイルでは、autocommand の **access-profile** とともに1つのセッションタイムアウトだけが設定されています。このタイムアウトはEXECセッションおよびPPPセッションに適用されます。TACACS+ ユーザプロファイルでは、タイムアウトはサービスタイプ「exec」および「ppp」（LCP）下で設定し、EXECセッションとPPPセッションにそれぞれ適用する必要があります。タイムアウトをサービスタイプ「ppp」下でのみ設定すると、そのタイムアウト値はEXEC認可で使用できず、EXECセッションに適用されません。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## AAA Double Authentication Secured by AbsoluteTimeout の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 18: AAA Double Authentication Secured by AbsoluteTimeout の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout		AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout 機能により、ユーザ単位のセッション タイムアウトを使用して保護することで、二重の認証メカニズムが確保されます。この機能では、サービス プロバイダーによるネットワークへの接続を認可された接続のみに最適化し、不要なセッションが接続されないようにすることで、ネットワークへのアクセス全体のセキュリティを高めます。







## CHAPTER 6

# AAA RADIUS レコードのロットリング

Throttling of AAA (RADIUS) Records 機能は、RADIUS サーバに送信されるアクセス（認証および認可）およびアカウントングレコードのロットリングをサポートします。この機能により、ユーザーはルータから RADIUS サーバに対して生成されるレコードの突然のバーストへの対応に十分な帯域幅がない場合などに、適切なロットリングレートを設定して、ネットワークの輻輳や不安定さを防ぐことができます。

- [AAA RADIUS レコードのロットリングに関する情報, on page 105](#)
- [AAA RADIUS レコードのロットリングの設定方法, on page 106](#)
- [AAA RADIUS レコードのロットリングの設定例, on page 109](#)
- [その他の参考資料, on page 110](#)
- [AAA RADIUS レコードのロットリングの機能情報, on page 111](#)

## AAA RADIUS レコードのロットリングに関する情報

### AAA RADIUS レコードのロットリング機能の利点

RADIUS クライアントとして機能するネットワークアクセスサーバ (NAS) は、アカウントングまたはアクセス要求のバーストを生成し、重大なネットワーク輻輳を生じさせたり、RADIUS サーバに RADIUS トラフィックのバーストによる過負荷を生じさせる場合があります。複数の NAS で RADIUS サーバとのやり取りがあると、この問題が悪化する可能性があります。

次の条件は、RADIUS トラフィックの突然のバーストをトリガーします。

- すべての加入者セッションを順にダウン状態にし、各加入者へのアカウントング要求を生成するインターフェイスフラップ。
- 前項で説明されているシナリオなど、スイッチオーバーで停止しなかったすべてのセッションに開始レコードを生成するハイアベイラビリティ (HA) プログラム。

帯域幅が不十分であったり、RADIUS サーバの応答が遅い場合に、多数の要求が生成されると、ネットワークが不安定になる場合があります。ユーザデータグラムプロトコル (UDP) トランスポート層および RADIUS プロトコルには、フロー制御メカニズムがありません。この

機能で提供されるスロットリングメカニズムは、これらの問題へのソリューションを提供します。

## スロットリング アクセス要求とアカウントング レコード

Throttling of AAA (RADIUS) Records 機能には、NAS レベルでパケットを制御するメカニズム（フロー制御）が導入されています。これにより、RADIUS サーバのパフォーマンスが向上しました。

特定の用途があるため、アクセス要求とアカウントングレコードは別々に処理する必要があります。アクセス要求パケットは時間依存ですが、アカウントングレコードパケットは時間依存ではありません。

- アクセス要求への応答が適切なタイミングでクライアントに返されない場合、プロトコルまたはユーザはタイムアウトし、デバイスの伝送レートが影響を受けます。
- アカウントングレコードパケットは、リアルタイムクリティカルではありません。

同じサーバでしきい値を設定する場合、時間依存のアクセス要求パケットを扱うしきい値を優先し、アカウントングレコードパケットにはより低次のしきい値を配置することが重要です。

インターネットサービスプロバイダー（ISP）がアクセス要求とアカウントングレコードに個別の RADIUS サーバを使用していて、アカウントングレコードのスロットリングのみが必要な場合もあります。

### 変更点

- Throttling of AAA (RADIUS) Records は、デフォルトではディセーブルです。
- スロットリング機能は、グローバルにまたはサーバグループレベルで設定できます。

## AAA RADIUS レコードのスロットリングの設定方法

ここでは、グローバルおよびサーバグループの両方の RADIUS サーバに送信されるアクセス（認証および認可）およびアカウントングレコードのスロットリングを設定する方法について説明します。

server-group コンフィギュレーションは、特定のサーバグループのスロットリングのイネーブル化またはディセーブル化、およびそのサーバグループのしきい値の指定に使用されます。



**Note** server-group コンフィギュレーションは、設定された任意のグローバル コンフィギュレーションを上書きします。

# アカウントングおよびアクセス要求パケットのグローバルなスロットリング

アカウントングおよびアクセス要求パケットのグローバルなスロットリングを設定するには、次のタスクを実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius-server throttle { accounting threshold } [access threshold [access-timeout number-of-timeouts]]**
4. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius-server throttle { accounting threshold } [access threshold [access-timeout number-of-timeouts]]</b> <b>Example:</b>  Router(config)# radius-server throttle accounting 100 access 200 access-timeout 2	アカウントングおよびアクセス要求パケットにグローバルなスロットリングを設定します。  この例では次のようになります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• アカウントングのしきい値 (範囲は 0 ~ 65536) を 100 に、アクセスのしきい値を 200 に設定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> デフォルトのしきい値は 0 です (スロットリングはディセーブル)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• トランザクションごとのタイムアウト回数の値 (範囲は 1 ~ 10) を 2 に設定します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
	Router (config)# exit	

## サーバグループごとのアカウントिंगおよびアクセス要求パケットのスロットリング

次の server-group コンフィギュレーションは、指定されたサーバグループのイネーブル化またはディセーブル化、およびそのサーバグループへのしきい値の指定に使用できます。

server-group アカウントिंगおよびアクセス要求パケットのスロットリングを設定するには、次のタスクを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa group server radius** *server-group-name*
4. **throttle** {[*accounting threshold*] [*access threshold*] [*access-timeout number-of-timeouts*]}
5. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa group server radius</b> <i>server-group-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# aaa group server radius myservergroup	server-group コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>throttle</b> {[ <i>accounting threshold</i> ] [ <i>access threshold</i> ] [ <i>access-timeout number-of-timeouts</i> ]} <b>Example:</b>	アカウントINGおよびアクセス要求パケットに指定された server-group のスロットリング値を設定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Device(config-sg-radius)# throttle accounting 100 access 200 access-timeout 2</pre>	<p>この例では次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アカウントिंगのしきい値（範囲は0～65536）を100に、アクセスのしきい値を200に設定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> デフォルトのしきい値は0です（スロットリングはディセーブル）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トランザクションごとのタイムアウト回数の値（範囲は1～10）を2に設定します。</li> </ul>
ステップ 5	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-sg-radius)# exit</pre>	server-group コンフィギュレーション モードを終了します。

## AAA RADIUS レコードのスロットリングの設定例

### アカウントングおよびアクセス要求パケットのグローバルなスロットリングの例

次に、サーバに送信するアカウントング要求の回数を100に制限する方法の例を示します。

```
enable
configure terminal
radius-server throttle accounting 100
```

次に、サーバに送信するアクセス要求パケットの回数を200に制限し、トランザクションごとに許可されるタイムアウトの回数を2に設定する方法の例を示します。

```
enable
configure terminal
radius-server throttle access 200
radius-server throttle access 200 access-timeout 2
```

次に、アカウントングおよびアクセス要求パケットの両方のスロットリングを設定する例を示します。

```
enable
configure terminal
radius-server throttle accounting 100 access 200
```

## サーバグループごとのアカウントिंगおよびアクセス要求パケットのスロットリングの例

次に、server-group-A に送信するアカウントिंग要求の回数を 100 に制限する方法の例を示します。

```
enable
configure terminal
aaa group server radius server-group-A
throttle accounting 100
```

次に、server-group-A に送信するアクセス要求パケットの回数を 200 に制限し、トランザクションごとに許可されるタイムアウトの回数を 2 に設定する方法の例を示します。

```
enable
configure terminal
aaa group server radius server-group-A
throttle access 200 access-timeout 2
```

次に、server-group-A のアカウントिंगおよびアクセス要求パケットの両方のスロットリングを設定する例を示します。

```
enable
configure terminal
aaa group server radius server-group-A
throttle accounting 100 access 200
```

## その他の参考資料

ここでは、Throttling of AAA (RADIUS) Records 機能に関する参考資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ機能	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## AAA RADIUS レコードのスロットリングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 19: AAA (RADIUS) レコードのスロットリングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA (RADIUS) レコードのスロットリング	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>Throttling of AAA (RADIUS) Records 機能は、RADIUS サーバに送信されるアクセス（認証および認可）およびアカウント記録のスロットリングをサポートします。この機能により、ユーザは Cisco IOS XE ルータから RADIUS サーバに対して生成されるレコードの突然のバーストへの対応に十分な帯域幅がない場合などに、適切なスロットリングレートを設定して、ネットワークの輻輳や不安定さを防ぐことができます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で、Cisco ASR 1000 シリーズアグリゲーションサービスルータに導入されました。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。<b>radius-server throttle, throttle</b></p>





## CHAPTER 7

# RADIUS パケット オブ ディスコネクト

RADIUS パケット オブ ディスコネクト機能は、接続された音声コールを終了させるために使用します。

- [RADIUS パケット オブ ディスコネクトの前提条件, on page 113](#)
- [RADIUS パケット オブ ディスコネクトの制約事項, on page 113](#)
- [RADIUS パケット オブ ディスコネクトに関する情報, on page 114](#)
- [RADIUS パケット オブ ディスコネクトの設定方法, on page 115](#)
- [その他の参考資料, on page 117](#)
- [RADIUS パケット オブ ディスコネクトの機能情報, on page 119](#)
- [用語集, on page 120](#)

## RADIUS パケット オブ ディスコネクトの前提条件

『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』で説明されているように、AAA を設定します。

## RADIUS パケット オブ ディスコネクトの制約事項

以下により、適切に一致する識別情報の通知が行われる必要があります。

- 課金サーバとゲートウェイの設定
- ゲートウェイのオリジナル アカウンティング開始要求
- サーバの POD 要求

## RADIUS パケット オブ ディスコネクトに関する情報

パケット オブ ディスコネクト (PoD) は RADIUS `access_request` パケットであり、RADIUS `access_accept` パケットによりセッションが承認された後、認証するエージェントサーバがユーザを接続解除するときに使用されるようになっています。

### POD が必要な場合

POD が必要な場合としては、少なくとも次の 2 つの状況が考えられます。

- 不正使用の検出。これは、コールを承認後でなければ実行できません。価格構造が複雑でコールを受け入れる前に最大セッション期間を推定できない。ある種のディスカウントが適用されるか、複数のユーザが同じサブスクリプションを同時に使用している場合、これに当てはまります。
- 認可されていないサーバからユーザが切断されるのを防ぐには、POD パケットを発行する認可エージェントがパケット オブ ディスコネクト要求に 3 つのパラメータを含める必要があります。接続解除されるコールに対して、すべてのパラメータは、ゲートウェイの期待値と一致している必要があります。パラメータが一致しないと、ゲートウェイはパケット オブ ディスコネクトのパケットを破棄し、エージェントに NACK (否定応答) メッセージを送信します。

### POD パラメータ

POD には次のパラメータがあります。

- このコールに対してゲートウェイから受信されたものと同じ内容の `h323-conf-id` ベンダー固有属性 (VSA)
- 対象の区間に対してゲートウェイから受信されたものと同じ内容の `h323-call-origin` VSA。
- POD 要求の `authentication` フィールドで伝送される 16 バイトの MD5 ハッシュ値。
- Cisco IOS XE ソフトウェアは、RFC 3576 の『*Dynamic Authorization Extensions to RADIUS*』(POD を介してサポートされるディスコネクトメッセージ (DM) および認可変更 (CoA) の両方を公式にサポートするために RADIUS 標準を拡張) に基づいて POD コード 50 を音声 POD 要求のコード値として割り当てます。

RFC 3576 では、以下の POD コードを指定します。

- 40 : 切断要求
- 41 : 切断 ACK
- 42 : 切断 NAK
- 43 : CoA 要求
- 44 : CoA-ACK
- 45 : CoA-NAK

# RADIUS パケットオブディスコネクトの設定方法

## RADIUS POD の設定

次のタスクを使用して、RADIUS POD を設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. Router (config)# **aaa pod server** [**port port-number**] [**auth-type {any|all|session-key}**] **server-key** [*encryption-type*] *string*
4. Router# **end**
5. Router# **show running-configuration**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router (config)# <b>aaa pod server</b> [ <b>port port-number</b> ] [ <b>auth-type {any all session-key}</b> ] <b>server-key</b> [ <i>encryption-type</i> ] <i>string</i> <b>Example:</b> Router (config)# <b>aaa pod server server-key xyz123</b>	次のような特定のセッション属性が提供されると、インバウンド ユーザ セッションを切断できます。  • <b>port port-number</b> : (任意) POD 要求に使用されるネットワークアクセスサーバーのユーザー データグラム プロトコル (UDP) ポート。デフォルト値は 1700 です。  • <b>auth-type</b> : (任意) セッションの切断に必要な認証の種類。  • <b>any</b> : POD パケット内で送信されたすべての属性と一致するセッションが切断されます。POD パケットには、4 つのキー属性 (user-name、framed-IP-address、session-ID、

	Command or Action	Purpose
		<p>session-key) の 1 つまたは複数が含まれることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : 4つの主要属性のすべてに一致するセッションだけが切断されます。 <b>All</b> がデフォルトです。</li> <li>• <b>session-key</b> : 一致する session-key 属性を持つセッションが切断されます。他のすべての属性は無視されます。</li> <li>• <b>server-key</b>-- 共有秘密テキスト文字列を設定します。</li> <li>• <b>encryption-type</b> : (任意) 直後のテキストが暗号化されるかどうか、および暗号化される場合は使用される暗号化タイプを定義する 1桁の数字。定義されている暗号化タイプは、0 (直後のテキストは暗号化されない) および 7 (テキストはシスコが定義した暗号化アルゴリズムを使用して暗号化される) です。</li> <li>• <b>string</b> : ネットワーク アクセス サーバーとクライアントワークステーションの間で共有される共有秘密テキスト文字列。この事前共有キーは、両方のシステムで同じである必要があります。</li> </ul>
ステップ 4	Router# <b>end</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<p>Router# <b>show running-configuration</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show running-configuration</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>!</pre> <p><b>Example:</b> <pre>aaa authentication login h323 group radius</pre> <p><b>Example:</b> <pre>aaa authorization exec h323 group radius</pre> <p><b>Example:</b> <pre>aaa accounting update newinfo</pre> </p></p></p>	ゲートウェイが特権 EXEC モードで正しく設定されていることを確認します。

Command or Action	Purpose
<p><b>Example:</b></p> <pre>aaa accounting connection h323 start-stop group radius</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>aaa pod server server-key cisco</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>aaa session-id common</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>!</pre>	

## トラブルシューティングのヒント

AAA Dead-Server Detection を設定したら、**show running-config** コマンドを使用して、その設定を確認してください。この確認が特に重要になるのは、**no** 形式の **radius-server dead-criteria** コマンドを使用している場合です。**show running-config** コマンドの出力は、**radius-server dead-criteria** コマンドを使用して設定した「Dead Criteria Details」フィールドと同じ値を示している必要があります。

## RADIUS POD の設定の確認

RADIUS POD 設定を確認するには、次の例に示すように **show running configuration** 特権 EXEC コマンドを使用します。

```
Router# show running-configuration
!
aaa authentication login h323 group radius
aaa authorization exec h323 group radius
aaa accounting update newinfo
aaa accounting connection h323 start-stop group radius
aaa pod server server-key cisco
aaa session-id common
.
.
```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS パケット オブ ディスコネクト機能に関する参考資料を紹介します。

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
AAA	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide, Securing User Services, Release 2』の「Authentication, Authorization, and Accounting (AAA)」
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
CLI 設定	『Cisco IOS XE Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 2』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2865	『Remote Authentication Dial-in User Service』
RFC 3576	『Dynamic Authorization Extensions to RADIUS』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## RADIUS パケットオブディスコネクトの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 20: RADIUS パケットオブディスコネクトの機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS パケットオブディスコネクト	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>RADIUS パケットオブディスコネクト機能は、接続された音声コールを終了させるために使用します。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa pod server, debug aaa pod</b></p>

## 用語集

**AAA** : 認証、許可、およびアカウントिंगセキュリティサービスのフレームワークであり、ユーザーの身元確認 (認証)、リモートアクセス コントロール (許可)、課金、監査、およびレポートに使用するセキュリティサーバー情報の収集と送信 (アカウントिंग) の方式を定めています。

**L2TP** : レイヤ 2 トンネル プロトコル。レイヤ 2 トンネル プロトコルを使用すると、ISP などのアクセス サービスが仮想トンネルを作成し、顧客のリモート サイトやリモート ユーザを企業のホームネットワークにリンクさせることができます。具体的には、ISP アクセスポイント (POP) にあるネットワーク アクセス サーバ (NAS) がリモート ユーザと PPP メッセージを交換し、L2F または L2TP の要求や応答を使用して顧客のトンネルサーバと通信し、トンネルのセットアップを行います。

**PE** : Provider Edge (プロバイダーエッジ)。サービス プロバイダー ネットワークのエッジ上のネットワークング デバイス。

**RADIUS** : リモート認証ダイヤルイン ユーザー サービス。RADIUS は、不正なアクセスからネットワークのセキュリティを保護する分散クライアント/サーバシステムです。シスコの実装では RADIUS クライアントは Cisco ルータ上で稼働します。認証要求は、すべてのユーザ認証情報とネットワーク サービス アクセス情報が格納されている中央の RADIUS サーバに送信されます。

**VPN** : Virtual Private Network (仮想プライベートネットワーク)。リモートでダイヤルイン ネットワークをホーム ネットワークに存在させ、あたかも直接接続されているかのように見せるシステム。VPN は、L2TP および L2F を使用し、LAC ではなく、LNS でレイヤ 2 およびより高次のネットワーク接続を終了させます。

**VRF** : Virtual Route Forwarding (仮想ルーティングおよびフォワーディング)。最初は、ルータにグローバルのデフォルト ルーティング/フォワーディング テーブルは 1 つしかありません。VRF は、複数の分離されたルーティング/フォワーディング テーブルとして表示でき、ユーザのルートには別のユーザのルートとの相互関係はありません。





## CHAPTER 8

# AAA 認可および AAA 認証のキャッシュ

AAA 認可キャッシュ機能および AAA 認証のキャッシュ機能を使用すると、設定した一連のユーザ プロファイルまたはサービス プロファイルの認可応答と認証応答をキャッシュに格納することができます。このため、認可応答および認証応答から返されるユーザプロファイルとサービス プロファイルを複数のソースから照会できるようになり、オフロードサーバだけに依存する必要がなくなるので、パフォーマンスとネットワークの信頼性レベルが向上します。また、この機能のフェールオーバー メカニズムにより、ネットワークの RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバが認可応答や認証応答を返せなくなっても、ネットワークのユーザや管理者は引き続きネットワークにアクセスできます。

- [認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装の前提条件, on page 121](#)
- [認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装について, on page 122](#)
- [認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装方法, on page 124](#)
- [認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能を実装するための設定例, on page 130](#)
- [RADIUS 認可変更に関する追加情報, on page 133](#)
- [認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装の機能情報, on page 134](#)

## 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装の前提条件

認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装には、次の前提条件が適用されます。

- プロファイルキャッシュ機能の実装方法を理解する必要があります。つまり、ネットワークのパフォーマンスを向上させたり、ネットワークの認証 (RADIUS) サーバや認可 (TACACS+) サーバが使用できなくなった場合にフェールオーバーを実行したりするためにプロファイルがどのようにキャッシュされるかを理解する必要があります。
- RADIUS サーバグループと TACACS+ サーバグループがすでに設定されている必要があります。

## 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装について

### 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能によるネットワークパフォーマンスの最適化

RADIUS クライアントおよび TACACS+ クライアントは Cisco ルータ上で稼働し、ユーザ認証およびネットワーク サービス アクセスに関するすべての情報を保持する中央の RADIUS サーバまたは TACACS+サーバへ認証要求を送信します。ルータはオフロードの RADIUS サーバまたは TACACS+サーバと通信してコールを認証した後、ポリシーまたはサービスをそのコールに適用する必要があります。認証、許可、アカウントिंग (AAA) アカウントिंगと異なり、AAA 認証および AAA 認可はブロッキング手順です。つまり、コールの認証中および認可中は、コールセットアップは進行しません。したがって、そのような認証要求または認可要求が、ルータから RADIUS オフロードサーバまたは TACACS+ サーバに渡されて処理される時間と、そのサーバからルータに渡されて処理される時間は、コールセットアップの処理に必要な時間に直に影響します。転送中の通信の問題、オフロードサーバの利用率、その他のさまざまな要因が、コールセットアップのパフォーマンスを大幅に低下させるのは、AAA 認証および AAA 認可の手順に原因があります。この問題がさらに顕著になるのは、複数の AAA 認証および AAA 認可が 1 つのコールまたはセッションに必要なときです。

この問題の解決策は、そのような認証要求の影響を最小限にすることです。そのために、ルータで特定のユーザの認証応答および認可応答をキャッシュに格納して、要求をオフロードサーバに何度も送信する必要をなくします。このプロファイルキャッシュ機能により、コールセットアップ時間が大幅に短縮されます。また、プロファイルキャッシュ機能によってネットワークの信頼性レベルが上がります。これは、認証応答および認可応答から返されるユーザプロファイルやサービスプロファイルを複数のソースから照会できるようになり、オフロードサーバだけに依存する必要がなくなるためです。

このようにパフォーマンスを最適化するためには、ユーザがルータから認証される時に AAA キャッシュプロファイルが最初に照会されるように認証方式リストを設定する必要があります。詳細については、「認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の方式リスト」を参照してください。

### フェールオーバーメカニズムとしての認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能

何らかの理由で、RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバが認証応答および認可応答を返せない場合、ネットワークのユーザおよび管理者はネットワークから締め出されることがあります。プロファイルのキャッシング機能により、認証フェーズを完了しなくてもユーザ名の承認が可能になります。たとえば、ユーザ名が `user100@example.com` でパスワードが `secretpassword1` のユーザは、正規表現 `.*@example.com` を使用してプロファイルキャッシュに格納されま

す。ユーザ名が `user101@example.com` で、パスワードが `secretpassword2` である別のユーザもまた、同じ正規表現を使用して格納できます。「`.*@example.com`」プロファイルのユーザの数が何千にもなる可能性があるため、個人のパスワードを使用して各ユーザの認証を行うのは現実的ではありません。このため、認証はディセーブル化され、各ユーザは単にキャッシュに格納されている共通のアクセス応答の認証プロファイルにアクセスします。

Challenge Handshake Authentication Protocol (CHAP)、Microsoft チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (MS-CHAP)、または拡張認証プロトコル (EAP) などの、クライアントと AAA オフロード サーバの間で暗号化されたパスワードを使用する高度なセキュリティメカニズムを使用する場合に、同じ理論が当てはまります。認証プロファイルを処理するために、これらの一意で、安全なユーザ名とパスワードのプロファイルを許可するには、認証をバイパスします。

このフェールオーバー機能を利用するためには、ユーザがルータから認証されるときにキャッシュ サーバグループが最後に照会されるように認証および認可の方式リストを設定する必要があります。詳細については、「認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の方式リスト」を参照してください。

## 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の方式リスト

方式リストとは、ユーザ認証のために照会される認証方式を記載したシーケンシャルリストです。サポートされているのは、ローカル（ローカルのデータベースを使用）、なし（なにも実行しない）、RADIUS サーバグループ、または TACACS+ サーバグループなどの方式です。通常は、複数の方式を方式リストに設定できます。ソフトウェアは、ユーザーを認証するため、リストに記載されている最初の方式が使用されます。その方式で応答に失敗した場合、ソフトウェアは、方式リストに記載されている次の認証方式を選択します。この処理は、リストのいずれかの認証方式で正常に通信できるか、方式リストで定義されているすべての方式を試行するまで続行されます。

ネットワークのパフォーマンスを最適化したり、プロファイル キャッシング機能を使用してフェールオーバー機能を有効にするには、方式リストの認証および認可の方式の順序を変更します。ネットワーク パフォーマンスを最適化するためには、キャッシュ サーバグループが方式リストで最初に検出されるようにします。フェールオーバー機能を有効にするためには、キャッシュ サーバグループが方式リストで最後に検出されるようにします。

## 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能に関するガイドライン

特定のアクセスポイント (POP) の特定のルータで、認証および認可を要求できるユーザ名とプロファイルの数は相当な数になることがあるため、ユーザ名とプロファイルすべてをキャッシュするのは現実的ではありません。このため、ユーザ名およびプロファイルのうち、一般的に使用されるものや、一般的な認証応答や認可応答を共有するものだけをキャッシングに使用するように設定する必要があります。ドメインベースのサービスプロファイルに加え、America Online (AOL) のコールに使用される `aolip` や `aolnet` などの一般的に使用されるユーザ名や、公

衆電話交換網 (PSTN) のコールを、ネットワークに接続されたストレージデバイスに接続するのに使用される事前認証の着信番号識別サービス (DNIS) 番号は、いずれも、認証および認可のキャッシュ機能の効果が現れるユーザ名とプロファイルの例です。

## 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能を実装するための一般的な設定手順

認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能を実装するには、次の手順を行います。

1. キャッシュ プロファイル グループを作成し、各グループのキャッシュに格納する情報についてのルールを定義します。

ユーザ名に正確に一致するエントリ、正規表現に一致するエントリ、またはすべての認証要求および認可要求をキャッシュに格納することを指定します。

1. 新しく定義したキャッシュ グループを参照するようにサーバグループを更新します。
2. キャッシュに格納された情報を使用してネットワークのパフォーマンスを最適化したり、フェールオーバーメカニズムを有効にしたりするように認証または認可の方式リストを更新します。

## 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装方法

### キャッシュ プロファイル グループの作成とキャッシュ処理ルールの定義

次の作業を行って、キャッシュ プロファイル グループを作成し、そのグループのキャッシュに格納する情報についてのルールを定義して、キャッシュプロファイルのエントリの確認と管理を行います。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa cache profile *group-name***
5. **profile *name* [no-auth]**
6. 手順4のプロファイルグループに追加する各ユーザ名に対して手順5を繰り返します。
7. **regex *matchexpression* {any|only}[no-auth]**

8. 手順4で定義されたキャッシュプロファイルグループに追加する各正規表現に対して手順7を繰り返します。
9. **all** [no-auth]
10. **end**
11. **show aaa cache group** *name*
12. **clear aaa cache group** *name* {**profile name**| **all**}
13. **debug aaa cache group**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa new-model	AAA アクセスコントロールモデルをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>aaa cache profile</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# aaa cache profile networkusers@companyname	認証および認可のキャッシュ プロファイル サーバグループを定義し、プロファイル マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>profile</b> <i>name</i> [no-auth] <b>Example:</b> Router(config-profile-map# profile networkuser1 no-auth	ユーザ名の一致に基づいて個々の認証および認可プロファイルのキャッシュを作成します。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>name</b> 引数は、認証または認可のサービス要求によって照会されるユーザ名と正確に一致する必要があります。</li><li><b>no-auth</b> キーワードを使用して、このユーザーの認証をバイパスします。</li></ul>
ステップ 6	手順4のプロファイルグループに追加する各ユーザ名に対して手順5を繰り返します。	--

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<p><b>regex</b> <i>matchexpression</i> {<b>any</b>  <b>only</b>} [<b>no-auth</b>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-profile-map)# regex .*@example.com any no-auth</pre>	<p>(任意) 正規表現に基づいて、一致するエントリをキャッシュ プロファイル グループに作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>any</b> キーワードを使用すると、正規表現に一致する一意のユーザー名がすべて保存されます。</li> <li>• <b>only</b> キーワードを使用すると、正規表現に一致するすべてのユーザー名に対して1つのプロファイルエントリのみがキャッシュされます。</li> <li>• <b>no-auth</b> キーワードを使用して、このユーザーまたは一連のユーザーの認証をバイパスします。</li> <li>• 正規表現のプロファイル グループ内のエントリの数が何千にもなる可能性があるため、そして各要求の検証を正規表現に対して行うと時間がかかる場合があるため、キャッシュ プロファイル グループで正規表現を使用することは推奨されません。</li> </ul>
ステップ 8	手順 4 で定義されたキャッシュ プロファイル グループに追加する各正規表現に対して手順 7 を繰り返します。	--
ステップ 9	<p><b>all</b> [<b>no-auth</b>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-profile-map)# all no-auth</pre>	<p>(任意) 認証要求および認可要求をすべてキャッシュに格納することを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> コマンドは、特定のサービス認可要求に対して使用しますが、認証要求を処理するときは使用しないでください。</li> </ul>
ステップ 10	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-profile-map)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	<p><b>show aaa cache group</b> <i>name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show aaa cache group networkusers@companyname</pre>	(任意) 指定したグループのすべてのキャッシュ エントリを表示します。
ステップ 12	<p><b>clear aaa cache group</b> <i>name</i> {<b>profile name</b>  <b>all</b>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# clear aaa cache group networkusers@companyname profile networkuser1</pre>	(任意) キャッシュの1つまたはすべてのエントリをクリアします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 13	<b>debug aaa cache group</b> <b>Example:</b> <pre>Router# debug aaa cache group</pre>	(任意) キャッシュに格納されているエントリのデバッグ情報を表示します。

## キャッシュ プロファイルグループ情報を使用する RADIUS および TACACS サーバグループの定義

このタスクを実行して、RADIUS および TACACS+ サーバグループが各キャッシュ プロファイルグループに保存されている情報をどのように使用するかを定義します。

### Before you begin

RADIUS サーバグループと TACACS+ サーバグループが作成されている必要があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa group server radius** *group-name* **oraaa group server tacacs+** *group-name*
5. **cache authorization profile** *name*
6. **cache authentication profile** *name*
7. **cache expiry** *hours* **{enforce failover}**
8. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b>	AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
	Router(config)# aaa new-model	
ステップ 4	<b>aaa group server radius</b> <i>group-name</i> or <b>aaa group server tacacs+</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# aaa group server radius networkusers@companyname	RADIUS サーバグループ コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• TACACS+ サーバグループ コンフィギュレーションモードを開始するには、<b>aaa group server tacacs+ group-name</b> コマンドを使用します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>cache authorization profile</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router(config-sg-radius)# cache authorization profile networkusers@companyname	この RADIUS または TACACS+ サーバグループのプロファイルのネットワークユーザで認可のキャッシュ処理ルールをアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドの <i>name</i> 引数は、AAA キャッシュプロファイルグループ名です。</li> </ul>
ステップ 6	<b>cache authentication profile</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router(config-sq-radius)# cache authentication profile networkusers@companyname	この RADIUS または TACACS+ サーバグループのプロファイルのネットワークユーザで認証のキャッシュ処理ルールをアクティブにします。
ステップ 7	<b>cache expiry</b> <i>hours</i> { <b>enforce failover</b> } <b>Example:</b> Router(config-sq-radius)# cache expiry 240 failover	(オプション) キャッシュプロファイルのエントリが期限切れになる (古くなる) までの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>enforce</b> キーワードは、期限切れになったキャッシュプロファイルのエントリを再使用しないことを指定するときに使用します。</li> <li>• <b>failover</b> キーワードは、他のすべての方式でユーザーを認証および認可できなかった場合にキャッシュプロファイルの期限切れのエントリを使用することを指定するときに使用します。</li> </ul>
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-sg-radius)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## キャッシュ情報の使用方法を指定するための認可および認証の方式リストの更新

次の作業を行って、認可および認証のキャッシュ情報を使用するように認可および認証の方式リストを更新します。



**Before you begin**

方式リストをすでに定義している必要があります。

**SUMMARY STEPS**

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authorization** {network | exec | commands *level* | reverse-access| configuration} {default | list-name} [*method1* [*method2*... ]]
5. **aaa authentication ppp** {default | list-name} *method1* [*method2*... ]
6. **aaa authentication login** {default | list-name} *method1* [*method2*... ]
7. **end**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b>  Router(config)# aaa new-model	AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>aaa authorization</b> {network   exec   commands <i>level</i>   reverse-access  configuration} {default   list-name} [ <i>method1</i> [ <i>method2</i> ... ]] <b>Example:</b>  Router(config)# aaa authorization network default cache networkusers@companyname group networkusers@companyname	AAA 認可を有効にし、指定した機能にユーザがアクセスしたときに使用される認可方式を定義する方式リストを作成します。
ステップ 5	<b>aaa authentication ppp</b> {default   list-name} <i>method1</i> [ <i>method2</i> ... ] <b>Example:</b>  Router(config)# aaa authentication ppp default	PPP が実行されているシリアルインターフェイスで使用する 1 つまたは複数の認証方式を指定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>cache networkusers@companyname group networkusers@companyname</pre>	
ステップ 6	<p><b>aaa authentication login</b> {default   list-name} method1 [method2... ]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# aaa authentication login default cache adminusers group adminusers</pre>	ログイン時の認証を設定します。
ステップ 7	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

## 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能を実装するための設定例

### ネットワークを最適化するための認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装例

次の設定例について説明します。

- ネットワーク上のすべての管理者名を含むキャッシュ プロファイル グループ `adminusers` を定義し、すべてのログインセッションと `exec` セッションに使用するデフォルトのリストとして設定します。
- RADIUS サーバグループの新しいキャッシュ処理ルールをアクティブにします。
- 新しいキャッシュ プロファイル グループを認証および認可の方式リストに追加し、このキャッシュ プロファイル グループが最初に照会されるように方式の順序を変更します。

```
configure terminal

aaa new-model

! Define aaa cache profile groups and the rules for what information is saved to cache.

aaa cache profile admin_users

profile adminuser1

profile adminuser2
```

```
profile adminuser3

profile adminuser4

profile adminuser5

exit

! Define server groups that use the cache information in each profile group.

aaa group server radius admins@companyname.com

cache authorization profile admin_users

cache authentication profile admin_users

! Update authentication and authorization method lists to specify how profile groups
and server groups are used.

aaa authentication login default cache admins@companyname.com group admins@companyname.com

aaa authorization exec default cache admins@companyname.com group admins@companyname.com

end
```

## フェールオーバーメカニズムとしての認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装例

次の設定例について説明します。

- RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバが万一使用できなくなった場合でも、管理者が引き続きネットワークにアクセスできるように、ネットワーク上のすべての管理者を含むキャッシュプロファイルグループ `admin_users` を作成します。
- RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバが万一使用できなくなった場合でも、ABC という会社のユーザがネットワークの使用を認可されるように、ネットワーク上のこれらのユーザをすべて含むキャッシュプロファイルグループ `abc_users` を作成します。
- RADIUS サーバの各プロファイルグループの新しいキャッシュ処理ルールをアクティブにします。
- 新しいキャッシュプロファイルグループを認証および認可の方式リストに追加し、このキャッシュプロファイルグループが最後に照会されるように方式の順序を変更します。

```
configure terminal
```

```
aaa new-model
```

```
! Define aaa cache profile groups and the rules for what information is saved to cache.

aaa cache profile admin_users

profile admin1

profile admin2

profile admin3

exit

aaa cache profile abcusers

profile .*@example.com only no-auth

exit

! Define server groups that use the cache information in each cache profile group.

aaa group server tacacs+ admins@companyname.com

server 10.1.1.1

server 10.20.1.1

cache authentication profile admin_users

cache authorization profile admin_users

exit

aaa group server radius abcusers@example.com

server 172.16.1.1

server 172.20.1.1

cache authentication profile abcusers

cache authorization profile abcusers

exit

! Update authentication and authorization method lists to specify how cache is used.

aaa authentication login default cache admins@companyname.com group admins@companyname.com
```

```

aaa authorization exec default cache admins@companyname.com group admins@companyname.com

aaa authentication ppp default group abcusers@example.com cache abcusers@example.com

aaa authorization network default group abcusers@example.com cache abcusers@example.com

end

```

## RADIUS 認可変更に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
AAA の設定	『Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2903	『Generic AAA Architecture』
RFC 5176	『Dynamic Authorization Extensions to Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 認可プロファイルおよび認証プロファイルのキャッシュ機能の実装の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 21:** 認証プロファイルおよび認可プロファイルのキャッシュ機能の実装の機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA 認可および AAA 認証のキャッシュ	Cisco IOS XE Release 2.3	<p>この機能により、ネットワークのパフォーマンスが最適化されるほか、RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバが何らかの理由で使用できなくなった場合のフェールオーバー メカニズムが確立されます。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.3 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa authentication login</b>、 <b>aaa authentication ppp</b>、 <b>aaa authorization</b>、 <b>aaa cache profile</b>、 <b>all (profile map configuration)</b>、 <b>cache authentication profile (server group configuration)</b>、 <b>cache authorization profile (server group configuration)</b>、 <b>cache expiry (server group configuration)</b>、 <b>clear aaa cache group</b>、 <b>debug aaa cache group</b>、 <b>profile (profile map configuration)</b>、 <b>regexp (profile map configuration)</b>、 <b>show aaa cache group</b>。</p>



## CHAPTER 9

# 認可の設定

AAA 認可を使用すると、ユーザーが利用できるサービスを制限できます。AAA 認可をイネーブルにすると、ネットワーク アクセス サーバーはユーザーのプロファイルから取得した情報を使用して、ユーザーの設定を設定します。このプロファイルは、ローカル ユーザー データベースまたはセキュリティ サーバーにあります。認可が完了すると、ユーザー プロファイルの情報で許可されているサービスであれば、ユーザーは要求したサービスに対するアクセス権を付与されます。

- [AAA 認可の前提条件, on page 135](#)
- [認可の設定の概要, on page 136](#)
- [認可の設定方法, on page 140](#)
- [認可設定の例, on page 143](#)
- [その他の参考資料, on page 146](#)
- [認可の設定に関する機能情報, on page 147](#)

## AAA 認可の前提条件

名前付き方式リストを使用して認証を設定する前に、まず、次のタスクを実行する必要があります。

- ネットワーク アクセス サーバで AAA をイネーブルにします。
- AAA 認証を設定します。一般的に、認可は認証後に実行し、認証が適切に動作することに依存します。AAA 認証の設定方法については、「[認証の設定](#)」モジュールを参照してください。
- RADIUS または TACACS+ 認可を発行している場合、RADIUS または TACACS+ セキュリティ サーバーの特性を定義します。シスコのネットワーク アクセス サーバーを設定して RADIUS セキュリティサーバーと通信する方法の詳細については、「[RADIUS の設定](#)」の章を参照してください。シスコのネットワーク アクセス サーバーを設定して TACACS+ セキュリティサーバーと通信する方法の詳細については、「[TACACS+ の設定](#)」モジュールを参照してください。

- ローカル認可を発行している場合、**username** コマンドを使用して、特定のユーザーに関連付けられている権限を定義します。**username** コマンドの詳細については、『Cisco IOS Security Command Reference』を参照してください。

## 認可の設定の概要

### 認可の名前付き方式リスト

許可方式リストによって、許可の実行方法とこれらの方式の実行順序が定義されます。方式リストは、順に照会する認可方式 (RADIUS または TACACS+ など) を記述した指定リストです。方式リストを使用すると、許可に使用するセキュリティプロトコルを1つ以上指定できるため、最初の方式が失敗した場合のバックアップシステムを確保できます。Cisco IOS XE ソフトウェアでは、特定のネットワークサービスについてユーザーを許可するために最初の方式が使用されます。その方式が応答しない場合、リストの次の方式が選択されます。このプロセスは、リストのいずれかの認可方式と通信に成功するか、定義されているすべての方式が試行されるまで継続されます。



**Note** Cisco IOS XE ソフトウェアでは、前の方式からの応答がない場合にのみ、リストの次の許可方式が試行されます。このサイクルの任意の時点で許可が失敗した場合 (つまり、セキュリティサーバーまたはローカル ユーザー名データベースからユーザー サービスの拒否応答が返される場合)、許可プロセスは停止し、その他の許可方式は試行されません。

方式リストは、要求した認可タイプに固有です。

- Commands** : ユーザが実行する EXEC モード コマンドに適用されます。コマンドの認可は、特定の特権レベルに関連付けられた、グローバル コンフィギュレーション コマンドなどのすべての EXEC モード コマンドについて、認可を試行します。
- EXEC** : ユーザ EXEC ターミナルセッションに関連付けられた属性に適用されます。
- Network** : ネットワーク接続に適用されます。これには、PPP、SLIP、または ARAP 接続が含まれます。
- Reverse Access** : リバース Telnet セッションに適用されます。

方式の指定リストを作成すると、指定した許可タイプに対して特定の許可方式リストが定義されます。

定義されると、方式リストを特定の回線またはインターフェイスに適用してから、定義済み方式のいずれかを実行する必要があります。唯一の例外は、デフォルトの方式リスト (「default」という名前) です。名前付き方式リストを指定せずに、特定の許可タイプ用の **aaa authorization** コマンドが発行されると、名前付き方式リストが明示的に定義されている場合を除いて、すべてのインターフェイスまたは回線にデフォルトの方式リストが自動的に適用されます。(定義



済みの方式リストは、デフォルトの方式リストに優先します)。デフォルトの方式リストが定義されていない場合、デフォルトでローカル認可が実行されます。

## AAA 認可方式

AAA は 5 種類の認可方式をサポートしています。

- **TACACS+** : ネットワーク アクセス サーバは、TACACS+ セキュリティ デーモンと認可情報を交換します。TACACS+ 認可は、属性値ペアを関連付けることでユーザに特定の権限を定義します。属性ペアは適切なユーザとともに TACACS+ セキュリティ サーバのデータベースに保存されます。
- **If-Authenticated** : ユーザが認証に成功した場合、ユーザは要求した機能にアクセスできません。
- **None** : ネットワーク アクセス サーバは、認可情報を要求しません。認可は、この回線/インターフェイスで実行されません。
- **Local** : ルータまたはアクセスサーバは、**username** コマンドの定義に従って、ローカルデータベースに問い合わせ、たとえばユーザーに固有の権限を許可します。ローカルデータベースを介して制御できるのは、一部の機能だけです。
- **RADIUS** : ネットワーク アクセス サーバは RADIUS セキュリティ サーバからの認可情報を要求します。RADIUS 認可では、属性を関連付けることでユーザーに固有の権限を定義します。属性は適切なユーザーとともに RADIUS サーバ上のデータベースに保存されます。



**Note** CSCuc32663 では、パスワードおよび認可ログは、TACACS+、LDAP、または RADIUS セキュリティ サーバへ送信される前にマスクされます。マスクされていない情報を TACACS+、LDAP または RADIUS セキュリティサーバに送信するには、**aaa authorization commands visible-keys** コマンドを使用します。

## 認可方式

ネットワークアクセスサーバから TACACS+ セキュリティサーバを介して認可情報を要求するには、**group tacacs+ method** キーワードを指定して **aaa authorization** コマンドを使用します。TACACS+ セキュリティサーバを使用して認可を設定する詳細な方法については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。TACACS+ サーバが、PPP や ARA などのネットワークサービスの使用を認可できるようにする例については、「TACACS 認可の例」を参照してください。

ユーザーが認証済みであれば、要求した機能へのアクセスを許可するには、**if-authenticated method** キーワードを指定して **aaa authorization** コマンドを使用します。この方式を選択する場合、すべての要求した機能は、認証済みユーザーに自動的に許可されます。

特定のインターフェイスまたは回線から認可を実行したくない場合があります。指定した回線またはインターフェイスで許可動作を停止するには、**none method** キーワードを使用します。この方式を選択すると、すべてのアクションについて認可はディセーブルになります。

ローカル許可を選択するには（つまり、ルータまたはアクセスサーバがローカルユーザーデータベースに問い合わせ、ユーザーが使用可能な機能を決定する場合）、**local method** キーワードを指定して **aaa authorization** コマンドを使用します。ローカル許可に関連する機能は、**username** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して定義します。許可されている機能のリストについては、「認証の設定」の章を参照してください。

ネットワークアクセスサーバから RADIUS セキュリティサーバを介して許可を要求するには、**radius method** キーワードを使用します。RADIUS セキュリティサーバを使用して認可を設定する詳細な方法については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。

ネットワークアクセスサーバから RADIUS セキュリティサーバを介して許可を要求するには、**group radius method** キーワードを指定して **aaa authorization** コマンドを使用します。RADIUS セキュリティサーバを使用して認可を設定する詳細な方法については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。RADIUS サーバがサービスを認可できるようにする例については、「RADIUS 認可の例」を参照してください。



**Note** SLIP の認可方式リストは、関連インターフェイスで PPP に設定されているすべての方式に従います。特定のインターフェイスに定義および適用されるリストがない場合（または PPP 設定が指定されていない場合）、認可のデフォルト設定が適用されます。

## 方式リストとサーバグループ

サーバグループは、方式リストに使用する既存の RADIUS または TACACS+ サーバ ホストをグループ化する方法の 1 つです。次の図に、4 台のセキュリティサーバ（R1 と R2 は RADIUS サーバ、T1 と T2 は TACACS+ サーバ）が設置された一般的な AAA ネットワーク設定を示します。R1 と R2 で RADIUS サーバのグループを構成します。T1 と T2 で TACACS+ サーバのグループを構成します。

サーバグループを使用して、設定したサーバホストのサブセットを指定し、特定のサービスに使用します。たとえば、サーバグループを使用すると、R1 および R2 を別のサーバグループとして定義し、T1 および T2 を別のサーバグループとして定義できます。つまり、R1 と T1 を方式リストに指定できるか、または R2 と T2 を方式リストに指定できます。そのため、RADIUS および TACACS+ のリソースを割り当てる場合の柔軟性が高くなります。

サーバグループには、1 台のサーバに対して複数のホストエントリを含めることができます。エントリごとに固有の識別情報を設定します。固有の識別情報は、IP アドレスと UDP ポート番号の組み合わせで構成されます。これにより、RADIUS ホストとして定義されているさまざまなポートが、固有の AAA サービスを提供できるようになります。つまり、この固有識別情報を使用して、ある IP アドレスに位置する 1 台のサーバ上に複数の UDP ポートが存在する場合、それぞれの UDP ポートに対して RADIUS 要求を送信できます。1 台の RADIUS サーバ上にある異なる 2 つのホストエントリが 1 つのサービス（認可など）に設定されている場合、設定されている 2 番目のホストエントリは最初のホストエントリのフェールオーバー バック

アップとして動作します。この例の場合、最初のホスト エントリがアカウントングサービスの提供に失敗すると、同じデバイスに設定されている2番目のホスト エントリを使用してアカウントングサービスを提供するように、ネットワークアクセスサーバーが試行します（試行される RADIUS ホスト エントリの順番は、設定されている順序に従います）。

サーバー グループの設定および DNIS 番号に基づくサーバー グループの設定の詳細については、「RADIUS の設定」または「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## AAA 認可タイプ

Cisco IOS XE ソフトウェアは、5 種類の認可をサポートしています。

- **Commands** : ユーザが実行する EXEC モード コマンドに適用されます。コマンドの認可は、特定の特権レベルに関連付けられた、グローバル コンフィギュレーション コマンドなどのすべての EXEC モード コマンドについて、認可を試行します。
- **EXEC** : ユーザ EXEC ターミナルセッションに関連付けられた属性に適用されます。
- **Network** : ネットワーク接続に適用されます。これには、PPP、SLIP、または ARAP 接続が含まれます。
- **Reverse Access** : リバース Telnet セッションに適用されます。
- **Configuration** : AAA サーバからのコンフィギュレーションのダウンロードに適用されません。
- **IP Mobile** : IP モバイル サービスの認可に適用されます。

## 承認タイプ

名前付き認可方式リストは、指定される認可の種類によって変わります。

ユーザー別に固有のセキュリティポリシーを適用する認可をイネーブルにする方式リストを作成するには、**auth-proxy** キーワードを使用します。認証プロキシ機能の詳細については、このガイドの「Traffic Filtering and Firewalls」の部の「Configuring Authentication Proxy」を参照してください。

すべてのネットワーク関連サービス要求（SLIP、PPP、PPP NCP、ARAP など）について認可を有効にする方式リストを作成するには、**network** キーワードを使用します。

ユーザーが EXEC シェルを実行できるかどうかを認可で決定できるように方式リストを作成するには、**exec** キーワードを使用します。

特定の特権レベルに関連付けられた個々の EXEC コマンドについて認可を有効にする方式リストを作成するには、**commands** キーワードを使用します。これにより、指定されたコマンドレベル（0～15）に関連付けられているすべてのコマンドを認可できます。

リバース Telnet 機能について認可を有効にする方式リストを作成するには、**reverse-access** キーワードを使用します。

Cisco IOS XE ソフトウェアでサポートされている認可のタイプの詳細については、「AAA 認可タイプ」を参照してください。

## 認可の属性値ペア

RADIUS および TACACS+ の認可はいずれも、セキュリティサーバーのデータベースに保存されている属性を処理することで、ユーザーに固有の権限を定義します。RADIUS と TACACS+ のいずれも、属性はセキュリティサーバーに定義され、ユーザーに関連付けられ、ユーザーの接続に適用されるネットワーク アクセス サーバーに送信されます。

サポートされる RADIUS 属性のリストについては、「RADIUS 属性の概要および RADIUS IETF 属性」の章を参照してください。サポートされる TACACS+ の AV ペアのリストについては、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。

## 認可の設定方法

この章のコマンドを使用した認可の設定例については、「認可の設定例」を参照してください。

## 名前付き方式リストによる AAA 認可の設定

名前付き方式リストを使用して AAA 認可を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **aaa authorization** {auth-proxy | network | exec | commands level | reverse-access | configuration | ipmobile} {default | list-name} [method1 [method2...]]
2. 次のいずれかを実行します。
  - Router(config)# **line** [aux | console | tty | vty] line-number [ending-line-number]
  - 
  - Router(config)# **interface** interface-type interface-number
3. 次のいずれかを実行します。
  - Router(config-line)# **authorization** {arap | commands level | exec | reverse-access} {default | list-name}
  - 
  - Router(config-line)# **ppp authorization** {default | list-name}

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>aaa authorization</b> { <b>auth-proxy</b>   <b>network exec</b>   <b>commands level</b>   <b>reverse-access</b>   <b>configuration ipmobile</b> } { <b>default</b>   <i>list-name</i> } [ <i>method1</i> [ <i>method2...</i> ]]	特定の認可タイプの認可方式リストを作成し、認可をイネーブルにします。
ステップ 2	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Router(config)# <b>line</b> [<b>aux</b>   <b>console</b>   <b>tty</b>   <b>vty</b>] <i>line-number</i> [<i>ending-line-number</i>]</li> <li>.</li> <li>.</li> <li>Router(config)# <b>interface</b> <i>interface-type</i> <i>interface-number</i></li> </ul>	認可方式リストを適用する回線について、ライン コンフィギュレーション モードを開始します。 または、認可方式リストを適用するインターフェイスについて、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Router(config-line)# <b>authorization</b> {<b>arap</b>   <b>commands level</b>   <b>exec</b>   <b>reverse-access</b>} {<b>default</b>   <i>list-name</i>}</li> <li>.</li> <li>.</li> <li>Router(config-line)# <b>ppp authorization</b> {<b>default</b>   <i>list-name</i>}</li> </ul>	1つの回線または複数回線に認可リストを適用します。 または、1つのインターフェイスまたは複数インターフェイスに認可リストを適用します。

## グローバル コンフィギュレーション コマンドの認可のディセーブル化

**commands** キーワードを指定して **aaa authorization** コマンドを使用すると、その特権レベルに関連付けられているすべての EXEC モードコマンド（グローバル コンフィギュレーション コマンドを含む）に対して許可が試行されます。一部の EXEC レベル コマンドと同じコンフィギュレーション コマンドもあるため、認可プロセスが混乱する可能性があります。**no aaa authorization config-commands** を使用すると、ネットワーク アクセス サーバーがコンフィギュレーション コマンド認可の試行を停止します。

すべてのグローバル コンフィギュレーション コマンドについて AAA 認可をディセーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Device (config) # <b>no aaa authorization config-commands</b>	すべてのグローバル コンフィギュレーション コマンドについて認可をディセーブルにします。

コンソール上で AAA 認可をディセーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。



**Note** デフォルトでコンソールの AAA 認可はディセーブルです。コンソールで AAA 許可が有効になっている場合は、AAA の設定段階で **no aaa authorization console** コマンドを設定して無効にします。ユーザー認証用のコンソールでは AAA をディセーブルにする必要があります。

コマンド	目的
Device(config)# <b>no aaa authorization console</b>	コンソールでの認証を無効にします。

## リバース Telnet の認可の設定

Telnet は、リモート ターミナル接続に使用される標準ターミナルエミュレーションプロトコルです。通常、ネットワーク アクセス サーバーに（主にダイヤルアップ接続経由で）ログインし、Telnet を使用してそのネットワーク アクセス サーバーから他のネットワーク デバイスにアクセスします。ただし、場合によっては、リバース Telnet セッションを確立する必要があります。リバース Telnet セッションでは、反対方向の Telnet 接続（つまり、ネットワーク内部から、ネットワーク周辺にあるネットワーク アクセス サーバーに対する接続）が確立されます。その接続によって、ネットワーク アクセス サーバーに接続しているモデムや他のデバイスへのアクセスを取得します。リバース Telnet は、ユーザーがネットワーク アクセス サーバーに接続されているモデム ポートに Telnet を送信できるようにすることで、ユーザーにダイヤルアウト機能を提供します。

リバース Telnet を介してアクセスできるポートのアクセス権を制御することが重要です。適切に制御しないと、たとえば、不正ユーザーがモデムに自由にアクセスし、着信コールをトラップして迂回させたり、不正な宛先にコールを送信したりする可能性があります。

リバース Telnet 時の認証は、Telnet 用の標準の AAA ログイン手順を介して実行されます。通常、Telnet またはリバース Telnet セッションを確立するには、ユーザーはユーザー名とパスワードを指定する必要があります。リバース Telnet 認可は、認証に加えて認可を必須にすることで、追加（任意）レベルのセキュリティを提供します。リバース Telnet 認可をイネーブルにすることで、標準の Telnet ログイン手順を介してユーザー認証を完了した後に、RADIUS または TACACS+ を使用して、そのユーザーが非同期ポートにリバース Telnet アクセスを実行できるかどうかを認可できます。

リバース Telnet 認可には次の利点があります。

- リバース Telnet アクティビティを実行しているユーザーに、リバース Telnet を使用して特定の非同期ポートにアクセスする権限を付与することで、追加レベルの保護を実現しています。
- リバース Telnet 認可を管理できる（アクセス リスト以外の）代替方式があります。

ネットワーク アクセス サーバーが TACACS+ または RADIUS サーバーからの認可情報を要求するように設定してから、ユーザーによるリバース Telnet セッションの確立を許可するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# <b>aaa authorization reverse-access</b> <i>method1</i> [ <i>method2</i> ...]	ネットワーク アクセス サーバーが認可情報を要求するように設定してから、ユーザーによるリバース Telnet セッションの確立を許可します。

この機能によって、ネットワーク アクセス サーバーは、セキュリティ サーバー (RADIUS または TACACS+) からリバース Telnet 認可情報を要求できます。セキュリティ サーバー上のユーザーに固有のリバース Telnet 特権を設定する必要があります。

## 認可設定の例

### TACACS 認可の例

次に、TACACS+ サーバーを使用して、PPP や ARA などのネットワーク サービスの使用を認可する例を示します。TACACS+ サーバーが使用不能の場合、または認可プロセス中にエラーが発生した場合、フォールバック方式 (none) はすべての認可要求を許可することです。

```
aaa authorization network default group tacacs+ none
```

次に、TACACS+ を使用してネットワークの認可を許可する例を示します。

```
aaa authorization network default group tacacs+
```

次に、同じ認可を提供し、「mci」と「att」というアドレス プールも作成する例を示します。

```
aaa authorization network default group tacacs+
ip address-pool local
ip local-pool mci 172.16.0.1 172.16.0.255
ip local-pool att 172.17.0.1 172.17.0.255
```

これらのアドレス プールは、TACACS デーモンによって選択できます。デーモンの設定例を次に示します。

```
user = mci_customer1 {
  login = cleartext "some password"
  service = ppp protocol = ip {
    addr-pool=mci
  }
}
user = att_customer1 {
  login = cleartext "some other password"
  service = ppp protocol = ip {
    addr-pool=att
  }
}
```

## RADIUS 認可の例

次に、RADIUS を使用して認可を行うようにルータを設定する方法の例を示します。

```
aaa new-model
aaa authorization exec default group radius if-authenticated
aaa authorization network default group radius
radius-server host ip
radius-server key
```

この RADIUS 認可設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- **aaa authorization exec default group radius if-authenticated** コマンドで、ネットワークアクセスサーバーが RADIUS サーバーに接続して、ユーザーのログイン時にユーザーが EXEC シェルを起動する権限があるかどうかを決定するように設定します。ネットワークアクセスサーバーが RADIUS サーバーに接続するときにエラーが発生した場合、フォールバック方式は、ユーザーが適切に認証されていると CLI の起動を許可します。

返される RADIUS 情報を使用して、その接続に適用される autocommand または接続アクセスリストを指定できます。

- **aaa authorization network default group radius** コマンドにより、RADIUS を介するネットワーク許可を設定します。この操作は、アドレス割り当ての管理、アクセスリストのアプリケーション、および他の多様なユーザー別の数量に使用できます。




---

**Note** この例ではフォールバック方式を指定していないため、何らかの理由で認可に失敗すると、RADIUS サーバーからの応答はありません。

---

## リバース Telnet 認可の例

次に、ネットワーク アクセス サーバーが TACACS+ セキュリティ サーバーから認可情報を要求してから、ユーザーによるリバース Telnet セッションの確立を許可する例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication login default group tacacs+
aaa authorization reverse-access default group tacacs+
!
tacacs-server host 172.31.255.0
tacacs-server timeout 90
tacacs-server key goaway
```

この TACACS+ リバース Telnet 認可設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは AAA を有効にします。
- **aaa authentication login default group tacacs+** コマンドで、ログイン時のユーザー認証のデフォルト方式として TACACS+ を指定します。



- リバース Telnet セッションを確立しようとしているときに、**aaa authorization reverse-access default group tacacs+** コマンドで、ユーザー認可の方式として TACACS+ を指定します。
- **tacacs-server host** コマンドで、TACACS+ サーバーを指定します。
- **tacacs-server timeout** コマンドで、ネットワークアクセスサーバーが TACACS+ サーバーの応答を待機する期間を設定します。
- **tacacs-server key** コマンドで、ネットワークアクセスサーバーと TACACS+ デーモン間のすべての TACACS+ 通信に使用される暗号キーを定義します。

次に、ネットワークアクセスサーバー「maple」上のポート tty2、およびネットワークアクセスサーバー「oak」上のポート tty5 に対するリバース Telnet アクセス権をユーザー pat に付与する汎用の TACACS+ サーバーを設定する例を示します。

```
user = pat
login = cleartext lab
service = raccess {
  port#1 = maple/tty2
  port#2 = oak/tty5
```



**Note** この例では、「maple」と「oak」には、DNS 名またはエイリアスではなく、ネットワークアクセスサーバーのホスト名が設定されています。

次に、TACACS+ サーバー (CiscoSecure) を設定して、ユーザー pat にリバース Telnet アクセス権を付与する例を示します。

```
user = pat
profile_id = 90
profile_cycle = 1
member = Tacacs_Users
service=shell {
  default cmd=permit
}
service=raccess {
  allow "c2511e0" "tty1" \.*"
  refuse \.*" \.*" \.*"
  password = clear "goaway"
```



**Note** CiscoSecure は、バージョン 2.1(x)～バージョン 2.2(1) のコマンドライン インターフェイスを使用して、リバース Telnet だけをサポートしています。

空の「service=raccess {}」句は、リバース Telnet のネットワークアクセスサーバーポートに対して無条件のアクセス権をユーザーに許可しています。「service=raccess」句が存在しない場合、ユーザーはリバース Telnet のすべてのポートに対してアクセスを拒否されます。

TACACS+ の設定の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。CiscoSecure の設定の詳細については、『CiscoSecure Access Control Server User Guide』の version 2.1(2) 以降を参照してください。

次に、ネットワークアクセスサーバーが RADIUS セキュリティサーバーから認可を要求してから、ユーザーによるリバース Telnet セッションの確立を許可する例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication login default group radius
aaa authorization reverse-access default group radius
!
radius-server host 172.31.255.0
radius-server key go away
auth-port 1645 acct-port 1646
```

この RADIUS リバース Telnet 認可設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは AAA を有効にします。
- **aaa authentication login default group radius** コマンドで、ログイン時のユーザー認証のデフォルト方式として RADIUS を指定します。
- リバース Telnet セッションを確立しようとしているときに、**aaa authorization reverse-access default group radius** コマンドで、ユーザー認可の方式として RADIUS を指定します。
- **radius-server host** コマンドで、RADIUS サーバーを指定します。
- **radius-server key** コマンドで、ネットワークアクセスサーバーと RADIUS デーモン間のすべての RADIUS 通信に使用される暗号キーを定義します。

次に、ネットワークアクセスサーバー「maple」上のポート tty2 で、ユーザー「pat」にリバース Telnet アクセス権を付与する RADIUS サーバーに要求を送信する例を示します。

```
Username = "pat"
Password = "goaway"
User-Service-Type = Shell-User
cisco-avpair = "raccess:port#1=maple/tty2"
```

構文「raccess:port=any/any」で、リバース Telnet のネットワークアクセスサーバーポートに対して無条件のアクセス権をユーザーに許可します。「raccess:port={nasname }/{tty number }」句がユーザー プロファイルにない場合、ユーザーはすべてのポートでリバース Telnet へのアクセスを拒否されます。

RADIUS の設定の詳細については、「RADIUS の設定」の章を参照してください。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
IPSec	IPsec 仮想トンネルインターフェイス機能のドキュメント

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## 認可の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 22: 認可の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA 認可およびアカウントिंगの名前付き方式リスト	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>許可方式リストによって、許可の実行方法とこれらの方式の実行順序が定義されます。方式リストは、順に照会する認可方式 (RADIUS または TACACS+) を記述した指定リストです。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p>





## CHAPTER 10

# アカウントティングの設定

AAA アカウントティング機能を使用すると、ユーザーがアクセスするサービス、およびユーザーが消費するネットワーク リソース量を追跡できます。AAA アカウントティングをイネーブルにすると、ネットワーク アクセス サーバーから TACACS+ または RADIUS セキュリティ サーバー（実装しているセキュリティ手法によって異なります）に対して、アカウントティング レコードの形式でユーザー アクティビティがレポートされます。各アカウントティング レコードにはアカウントティングの Attribute-Value (AV) ペアが含まれ、レコードはセキュリティ サーバーに格納されます。このデータを分析して、ネットワーク管理、クライアント課金、および監査に利用できます。

- [アカウントティングを設定するための前提条件, on page 149](#)
- [アカウントティングの設定の制約事項, on page 150](#)
- [アカウントティングの設定に関する情報, on page 150](#)
- [AAA アカウントティングの設定方法, on page 166](#)
- [AAA アカウントティングの設定例, on page 174](#)
- [その他の参考資料, on page 178](#)
- [アカウントティングの設定に関する機能情報, on page 180](#)

## アカウントティングを設定するための前提条件

次のタスクを実行してから、名前付き方式リストを使用してアカウントティングを設定します。

- ネットワーク アクセス サーバで AAA をイネーブルにします。
- RADIUS または TACACS+ 認可が発行されている場合、RADIUS または TACACS+ セキュリティ サーバの特性を定義します。シスコのネットワーク アクセス サーバを設定して RADIUS セキュリティ サーバと通信する方法の詳細については、「[Configuring RADIUS](#)」の章を参照してください。シスコのネットワーク アクセス サーバを設定して TACACS+ セキュリティ サーバと通信する方法の詳細については、「[Configuring TACACS+](#)」の章を参照してください。

## アカウントिंगの設定の制約事項

AAA アカウントング機能には次の制限があります。

- アカウントング情報は、最大 4 台の AAA サーバに同時送信できます。
- Service Selection Gateway (SSG) 制限 : SSG システムの場合、**aaa accounting network broadcast** コマンドを実行すると、**start-stop** アカウントングレコードのみがブロードキャストされます。**ssg accounting interval** コマンドを使用して中間アカウントングレコードを設定する場合、中間アカウントングレコードは、設定したデフォルト RADIUS サーバにのみ送信されます。

## アカウントングの設定に関する情報

### アカウントングの名前付き方式リスト

認証および認可方式リストと同様に、アカウントングの方式リストには、アカウントングの実行方法とその方式を実行するシーケンスが定義されています。

アカウントングの方式指定リストには、特定のセキュリティプロトコルを指定し、アカウントングサービスの特定の行またはインターフェイスに使用できます。唯一の例外はデフォルトの方式リスト（偶然に「default」と名前が付けられている）です。デフォルトの方式リストは、明示的に定義された名前付きの方式リストを持つインターフェイスを除くすべてのインターフェイスに自動的に適用されます。定義済みの方式リストは、デフォルトの方式リストに優先します。

方式リストは、順に照会するアカウントング方式 (RADIUS、TACACS+ など) を記述する指定リストです。方式リストでは、アカウントングに1つまたは複数のセキュリティプロトコルを指定できます。そのため、最初の方式が失敗した場合にアカウントングのバックアップシステムを確保できます。Cisco IOS XE ソフトウェアでは、方式リストのうち、アカウントングをサポートする最初の方式が使用されます。その方式が応答しない場合、方式リストの次のアカウントング方式が選択されます。このプロセスは、リストのいずれかのアカウントング方式と通信に成功するか、定義されているすべての方式が試行されるまで継続されます。



**Note** Cisco IOS XE ソフトウェアでは、前の方式からの応答がない場合にのみ、リストの次のアカウントング方式でアカウントングが試行されます。このサイクルの任意の時点でアカウントングが失敗した場合（つまり、セキュリティ サーバからユーザー アクセスの拒否応答が返される場合）、アカウントングプロセスは停止し、その他のアカウントング方式は試行されません。

アカウントング方式リストは、要求されるアカウントングの種類によって変わります。AAA は、次の 6 種類のアカウントングをサポートしています。

- **Network** : パケットやバイトカウントなど、すべての PPP、SLIP、または ARAP セッションに関する情報を提供します。
- **EXEC** : ネットワーク アクセス サーバのユーザ EXEC ターミナルセッションに関する情報を提供します。
- **Command** : ユーザが発行する EXEC モード コマンドに関する情報を提供します。コマンドアカウントングは、特定の特権レベルに関連付けられた、グローバル コンフィギュレーション コマンドなどのすべての EXEC モード コマンドについて、アカウントング レコードを生成します。
- **Connection** : Telnet、ローカルエリア トランスポート (LAT)、TN3270、パケット アセンブラ/ディスクアセンブラ (PAD)、rlogin などのネットワーク アクセス サーバから行われたすべてのアウトバンド接続に関する情報を出力します。
- **System** : システムレベルのイベントに関する情報を提供します。
- **Resource** : ユーザ認証に成功したコールの「開始」および「終了」レコードを提供します。また、認証に失敗したコールの「終了」レコードを提供します。



**Note** システム アカウントングは、名前付きアカウントング リストを使用しません。システム アカウントングのデフォルト リストだけを定義できます。

方式指定リストが作成されると、指定したアカウントングタイプのアカウントング方式のリストが定義されます。

アカウントング方式リストを特定の回線またはインターフェイスに適用してから、定義済み方式のいずれかを実行する必要があります。唯一の例外は、デフォルトの方式リスト (「default」という名前) です。特定のアカウントングの種類 **aaa accounting** コマンドを、名前付き方式リストを指定しないで発行した場合、名前付き方式リストが明示的に定義されているものを除いて、すべてのインターフェイスまたは回線にデフォルトの方式リストが自動的に適用されます (定義済みの方式リストは、デフォルトの方式リストに優先します)。デフォルトの方式リストが定義されていない場合、アカウントングは実行されません。

ここでは、次の内容について説明します。

## 方式リストとサーバグループ

サーバ グループは、方式リストに使用する既存の RADIUS または TACACS+ サーバ ホストをグループ化する方法の 1 つです。次の図に、4 台のセキュリティ サーバ (R1 と R2 は RADIUS サーバ、T1 と T2 は TACACS+ サーバ) が設置された一般的な AAA ネットワーク設定を示します。R1 と R2 は RADIUS サーバのグループから構成されます。T1 と T2 は TACACS+ サーバのグループから構成されます。

Cisco IOS XE ソフトウェアでは、RADIUS および TACACS+ サーバ設定はグローバルです。サーバー グループを使用して、設定済みのサーバー ホストのサブセットを指定できます。このようなサーバー グループは、特定のサービスに使用できます。たとえば、サーバー グループを使用すると、R1 と R2 を個別のサーバー グループ (SG1 と SG2) として定義し、T1 と T2 を個別のサーバー グループ (SG3 と SG4) として定義できます。つまり、R1 と T1 (SG1 と SG3) を方式リストに指定できるか、または R2 と T2 (SG2 と SG4) を方式リストに指定できます。そのため、RADIUS および TACACS+ のリソースを割り当てる場合の柔軟性が高くなります。

サーバグループには、1 台のサーバに対して複数のホストエントリを含めることができます。エントリごとに固有の識別情報を設定します。固有の識別情報は、IP アドレスと UDP ポート番号の組み合わせで構成されます。これにより、RADIUS ホストとして定義されているさまざまなポートが、固有の AAA サービスを提供できるようになります。つまり、この固有識別情報を使用して、ある IP アドレスに位置する 1 台のサーバ上に複数の UDP ポートが存在する場合、それぞれの UDP ポートに対して RADIUS 要求を送信できます。1 台の RADIUS サーバ上にある異なる 2 つのホストエントリが 1 つのサービス (アカウントングなど) に設定されている場合、設定されている 2 番目のホストエントリは最初のホストエントリのフェールオーバー バックアップとして動作します。この場合、最初のホストエントリがアカウントング サービスを提供できなかった場合、ネットワークアクセスサーバは同じ装置上でアカウントング サービス用に設定されている 2 番目のホストエントリを試行します (試行される RADIUS ホストエントリの順番は、設定されている順序に従います)。

DNIS 番号に基づくサーバグループの設定およびサーバグループの設定の詳細については、『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services Release 2』の「Configuring RADIUS」または「Configuring TACACS+」を参照してください。

## AAA アカウンティング方式

Cisco IOS XE はアカウントングについて次の 2 つの方式をサポートします。

- TACACS+ : ネットワークアクセスサーバは、アカウントングレコードの形式で TACACS+ セキュリティサーバに対してユーザアクティビティを報告します。各アカウントングレコードにはアカウントングの Attribute-Value (AV) ペアが含まれ、レコードはセキュリティサーバに格納されます。
- RADIUS : ネットワークアクセスサーバは、アカウントングレコードの形式で RADIUS セキュリティサーバに対してユーザアクティビティを報告します。各アカウントングレコードにはアカウントングの Attribute-Value (AV) ペアが含まれ、レコードはセキュリティサーバに格納されます。



### Note

CSCuc32663 では、パスワードおよびアカウントング ログは、TACACS+ または RADIUS セキュリティサーバへ送信される前にマスクされます。マスクされていない情報を TACACS+ または RADIUS セキュリティサーバに送信するには、**aaa accounting commands visible-keys** コマンドを使用します。



## アカウントングレコードの種類

最小限のアカウントングの場合、**stop-only** キーワードを使用します。このキーワードによって、要求されたユーザープロセスの終了時に、終了レコードアカウントング通知を送信するよう、指定した方式 (RADIUS または TACACS+) に指示します。詳細なアカウントング情報が必要な場合、**start-stop** キーワードを使用して、要求されたイベントの開始時には開始アカウントング通知、そのイベントの終了時には修理用アカウントング通知を送信します。この回線またはインターフェイスですべてのアカウントング アクティビティを終了するには、**none** キーワードを使用します。

## アカウントング方式

次の表に、サポートされるアカウントング キーワードを示します。

**Table 23: AAA アカウントング方式**

キーワード	説明
<b>group radius</b>	アカウントングにすべての RADIUS サーバーのリストを使用します。
<b>group tacacs+</b>	アカウントングにすべての TACACS+ サーバーのリストを使用します。
<b>group group-name</b>	<i>group-name</i> サーバー グループで定義したように、アカウントングのための RADIUS サーバーまたは TACACS+ サーバーのサブセットを使用します。

`method` 引数は、認証アルゴリズムが試行する実際の方式を指します。追加の認証方式は、直前の方式で (失敗した場合ではなく) エラーが返された場合にのみ使用されます。他のすべての方式がエラーを返しても、認証に成功したことを指定するには、コマンドで追加の方式を指定します。たとえば、TACACS+ 認証がエラーを返す場合に認証のバックアップ方式として RADIUS を指定する `acct_tac1` という方式リストを作成するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa accounting network acct_tac1 stop-only group tacacs+ group radius
```

**aaa accounting** コマンドで名前付きリストが指定されて「いない」場合に使用するデフォルトのリストを作成するには、**default** キーワードの後ろにデフォルト状況で使用される方式を指定します。デフォルト認証方式リストは、自動的にすべてのインターフェイスに適用されます。

たとえば、ログイン時のユーザー認証のデフォルト方式として RADIUS を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa accounting network default stop-only group radius
```

AAA アカウントングは、次の方式をサポートします。

- **group tacacs** : ネットワーク アクセス サーバーからアカウントング情報を TACACS+ セキュリティサーバーに送信するようにするには、**group tacacs+** 方式キーワードを使用します。

- **group radius** : ネットワーク アクセス サーバーからアカウントング情報を RADIUS セキュリティサーバーに送信するようにするには、**group radius** 方式キーワードを使用します。



**Note** SLIP のアカウントング方式リストは、関連インターフェイスで PPP に設定されているすべての方式に従います。特定のインターフェイスに定義および適用されるリストがない場合（または PPP 設定が指定されていない場合）、アカウントングのデフォルト設定が適用されます。

- **group group-name** : RADIUS または TACACS+ サーバーのサブセットを指定して、アカウントング方式として使用するには、**group group-name** 方式を指定して **aaa accounting** コマンドを使用します。グループ名とそのグループのメンバを指定して定義するには、**aaa group server** コマンドを使用します。たとえば、**aaa group server** コマンドを使用して、**group loginrad** のメンバを最初に定義します。

```
aaa group server radius loginrad
server 172.16.2.3
server 172.16.2.17
server 172.16.2.32
```

このコマンドにより、172.16.2.3、172.16.2.17、172.16.2.32 の RADIUS サーバーがグループ **loginrad** のメンバとして指定されます。

他の方式リストが定義されていない場合、ネットワークアカウントングの方式として **group loginrad** を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
aaa accounting network default start-stop group loginrad
```

アカウントング方式としてグループ名を使用するには、事前に RADIUS または TACACS+ セキュリティ サーバーとの通信をイネーブルにする必要があります。

## AAA アカウンティング タイプ

名前付きアカウントング方式リストは、指定したタイプのアカウントングに固有です。

- **network** : すべてのネットワーク関連サービス要求 (SLIP、PPP、PPP NCP、ARAP などのプロトコル) について認可をイネーブルにする方式リストを作成するには、**aaa accounting** コマンドで **network** キーワードを使用します。たとえば、ARAP (ネットワーク) セッションにアカウント情報を提供する方式リストを作成するには、**accounting** コマンドで **arap** キーワードを使用します。
- **exec** : ネットワーク アクセス サーバー上のユーザー EXEC ターミナルセッションに関するアカウントングレコード (ユーザー名、日付、開始時刻、終了時刻など) を提供する方式リストを作成するには、**exec** キーワードを使用します。

- **commands** : 特定の特権レベルに関連付けられた特定の EXEC コマンドに関するアカウントング情報を提供する方式リストを作成するには、**commands** キーワードを使用します。
- **connection** : ネットワーク アクセス サーバーから開始されるすべての発信接続に関するアカウントング情報を提供する方式リストを作成するには、**connection** キーワードを使用します。
- **resource** : ユーザ認証に成功したコールまたは認証に失敗したコールのアカウントングレコードを提供する方式リストを作成します。



**Note** システム アカウンティングは、名前付き方式リストをサポートしません。

## ネットワーク アカウンティング

ネットワーク アカウンティングは、パケットやバイト カウントなど、すべての PPP、SLIP、または ARAP セッションに関する情報を提供します。

次に、EXEC セッションを介して着信する PPP ユーザの RADIUS ネットワーク アカウンティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```
Wed Jun 27 04:44:45 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 5
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "562"
Acct-Status-Type = Start
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Exec-User
Acct-Session-Id = "0000000D"
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"
```

```
Wed Jun 27 04:45:00 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 5
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "562"
Acct-Status-Type = Start
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Framed
Acct-Session-Id = "0000000E"
Framed-IP-Address = "10.1.1.2"
Framed-Protocol = PPP
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"
```

```
Wed Jun 27 04:47:46 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 5
User-Name = "username1"
```

```

Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "562"
Acct-Status-Type = Stop
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Framed
Acct-Session-Id = "0000000E"
Framed-IP-Address = "10.1.1.2"
Framed-Protocol = PPP
Acct-Input-Octets = 3075
Acct-Output-Octets = 167
Acct-Input-Packets = 39
Acct-Output-Packets = 9
Acct-Session-Time = 171
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"
Wed Jun 27 04:48:45 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 5
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "408"
Acct-Status-Type = Stop
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Exec-User
Acct-Session-Id = "0000000D"
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"

```

次に、最初に EXEC セッションを開始した PPP ユーザの TACACS+ ネットワーク アカウンティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 04:00:35 2001 172.16.25.15  username1  tty4  562/4327528
starttask_id=28  service=shell
Wed Jun 27 04:00:46 2001 172.16.25.15  username1  tty4  562/4327528  starttask_id=30
addr=10.1.1.1  service=ppp
Wed Jun 27 04:00:49 2001 172.16.25.15  username1  tty4  408/4327528  update
task_id=30  addr=10.1.1.1  service=ppp  protocol=ip  addr=10.1.1.1
Wed Jun 27 04:01:31 2001 172.16.25.15  username1  tty4  562/4327528  stoptask_id=30
addr=10.1.1.1  service=ppp  protocol=ip  addr=10.1.1.1  bytes_in=2844
bytes_out=1682  paks_in=36  paks_out=24  elapsed_time=51
Wed Jun 27 04:01:32 2001 172.16.25.15  username1  tty4  562/4327528  stoptask_id=28
service=shell  elapsed_time=57

```



**Note** アカウンティング パケット レコードの正確なフォーマットは、セキュリティ サーバデーモンに応じて変わります。

次に、`autoselect` を介して着信する PPP ユーザの RADIUS ネットワーク アカウンティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 04:30:52 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 3
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "562"
Acct-Status-Type = Start

```

```

Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Framed
Acct-Session-Id = "0000000B"
Framed-Protocol = PPP
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identififier = "172.16.25.15"

Wed Jun 27 04:36:49 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 3
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "562"
Acct-Status-Type = Stop
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Framed
Acct-Session-Id = "0000000B"
Framed-Protocol = PPP
Framed-IP-Address = "10.1.1.1"
Acct-Input-Octets = 8630
Acct-Output-Octets = 5722
Acct-Input-Packets = 94
Acct-Output-Packets = 64
Acct-Session-Time = 357
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identififier = "172.16.25.15"

```

次に、`autoselect` を介して着信する PPP ユーザの TACACS+ ネットワーク アカウンティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 04:02:19 2001 172.16.25.15 username1 Async5 562/4327528
starttask_id=35 service=ppp
Wed Jun 27 04:02:25 2001 172.16.25.15 username1 Async5 562/4327528 update
task_id=35 service=ppp protocol=ip addr=10.1.1.2
Wed Jun 27 04:05:03 2001 172.16.25.15 username1 Async5 562/4327528 stoptask_id=35
service=ppp protocol=ip addr=10.1.1.2 bytes_in=3366 bytes_out=2149
paks_in=42 paks_out=28 elapsed_time=164

```

## EXEC アカウンティング

EXEC アカウンティングは、ネットワーク アクセス サーバ上にあるユーザ EXEC ターミナル セッション (ユーザシェル) に関する情報を提供します。たとえば、ユーザ名、日付、開始時刻と終了時刻、アクセス サーバの IP アドレス、および (ダイヤルイン ユーザの場合) 発信元の電話番号などです。

次に、ダイヤルイン ユーザの RADIUS EXEC アカウンティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 04:26:23 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 1
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "5622329483"
Acct-Status-Type = Start
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Exec-User
Acct-Session-Id = "00000006"

```

```

Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"
Wed Jun 27 04:27:25 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 1
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "5622329483"
Acct-Status-Type = Stop
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Exec-User
Acct-Session-Id = "00000006"
Acct-Session-Time = 62
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"

```

次に、ダイヤルインユーザの TACACS+ EXEC アカウンティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 03:46:21 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
start      task_id=2      service=shell
Wed Jun 27 04:08:55 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
stop      task_id=2      service=shell      elapsed_time=1354

```

次に、Telnet ユーザの RADIUS EXEC アカウンティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 04:48:32 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 26
User-Name = "username1"
Caller-ID = "10.68.202.158"
Acct-Status-Type = Start
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Exec-User
Acct-Session-Id = "00000010"
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"

```

```

Wed Jun 27 04:48:46 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 26
User-Name = "username1"
Caller-ID = "10.68.202.158"
Acct-Status-Type = Stop
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Exec-User
Acct-Session-Id = "00000010"
Acct-Session-Time = 14
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"

```

次に、Telnet ユーザの TACACS+ EXEC アカウンティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 04:06:53 2001      172.16.25.15      username1      tty26      10.68.202.158
starttask_id=41      service=shell

```

```
Wed Jun 27 04:07:02 2001      172.16.25.15      username1      tty26      10.68.202.158
stoptask_id=41      service=shell      elapsed_time=9
```

## コマンドアカウントिंग

コマンドアカウントINGは、ネットワーク アクセス サーバで実行される各特権レベルの EXEC シェル コマンドに関する情報を提供します。各コマンドアカウントING レコードには、その特権レベルで実行されるコマンド、各コマンドが実行された日時、および実行したユーザのリストが含まれます。

次に、特権レベル 1 の TACACS+ コマンドアカウントING レコードに含まれる情報の例を示します。

```
Wed Jun 27 03:46:47 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
stop      task_id=3      service=shell      priv-lvl=1      cmd=show version <cr>
Wed Jun 27 03:46:58 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
stop      task_id=4      service=shell      priv-lvl=1      cmd=show interfaces <cr>
Wed Jun 27 03:47:03 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
stop      task_id=5      service=shell      priv-lvl=1      cmd=show ip route <cr>
```

次に、特権レベル 15 の TACACS+ コマンドアカウントING レコードに含まれる情報の例を示します。

```
Wed Jun 27 03:47:17 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
stop      task_id=6      service=shell      priv-lvl=15      cmd=configure terminal <cr>
Wed Jun 27 03:47:21 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
stop      task_id=7      service=shell      priv-lvl=15      cmd=interface
GigabitEthernet0/0/0 <cr>
Wed Jun 27 03:47:29 2001      172.16.25.15      username1      tty3      56223294304327528
stop      task_id=8      service=shell      priv-lvl=15      cmd=ip address 10.1.1.1
255.255.255.0 <cr>
```



**Note** シスコの RADIUS 実装は、コマンドアカウントINGをサポートしていません。

## 接続アカウントING

接続アカウントINGは、Telnet、LAT、TN3270、PAD、rlogin などのネットワーク アクセス サーバから行われるすべての発信接続に関する情報を提供します。

次に、発信 Telnet 接続の RADIUS 接続アカウントING レコードに含まれる情報の例を示します。

```
Wed Jun 27 04:28:00 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 2
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "5622329477"
Acct-Status-Type = Start
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Login
Acct-Session-Id = "00000008"
Login-Service = Telnet
```

```

Login-IP-Host = "10.68.202.158"
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"

```

```

Wed Jun 27 04:28:39 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 2
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "5622329477"
Acct-Status-Type = Stop
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Login
Acct-Session-Id = "00000008"
Login-Service = Telnet
Login-IP-Host = "10.68.202.158"
Acct-Input-Octets = 10774
Acct-Output-Octets = 112
Acct-Input-Packets = 91
Acct-Output-Packets = 99
Acct-Session-Time = 39
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"

```

次に、発信 Telnet 接続の TACACS+ 接続アカウントティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 03:47:43 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
start      task_id=10      service=connection      protocol=telnet      addr=10.68.202.158
cmd=telnet      username1-sun
Wed Jun 27 03:48:38 2001      172.16.25.15      username1      tty3      5622329430/4327528
stop      task_id=10      service=connection      protocol=telnet      addr=10.68.202.158
cmd=telnet      username1-sun      bytes_in=4467      bytes_out=96      paks_in=61      paks_out=72
elapsed_time=55

```

次に、発信 rlogin 接続の RADIUS 接続アカウントティング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 04:29:48 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 2
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "5622329477"
Acct-Status-Type = Start
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Login
Acct-Session-Id = "0000000A"
Login-Service = Rlogin
Login-IP-Host = "10.68.202.158"
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"

Wed Jun 27 04:30:09 2001
NAS-IP-Address = "172.16.25.15"
NAS-Port = 2
User-Name = "username1"
Client-Port-DNIS = "4327528"
Caller-ID = "5622329477"

```



```

Acct-Status-Type = Stop
Acct-Authentic = RADIUS
Service-Type = Login
Acct-Session-Id = "0000000A"
Login-Service = Rlogin
Login-IP-Host = "10.68.202.158"
Acct-Input-Octets = 18686
Acct-Output-Octets = 86
Acct-Input-Packets = 90
Acct-Output-Packets = 68
Acct-Session-Time = 22
Acct-Delay-Time = 0
User-Id = "username1"
NAS-Identifier = "172.16.25.15"

```

次に、発信 rlogin 接続の TACACS+ 接続アカウントング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 03:48:46 2001      172.16.25.15      username1  tty3      5622329430/4327528
  start   task_id=12      service=connection  protocol=rlogin addr=10.68.202.158
cmd=rlogin username1-sun /user username1
Wed Jun 27 03:51:37 2001      172.16.25.15      username1  tty3      5622329430/4327528
  stop    task_id=12      service=connection  protocol=rlogin addr=10.68.202.158
cmd=rlogin username1-sun /user username1 bytes_in=659926 bytes_out=138  paks_in=2378
  paks_
out=1251      elapsed_time=171

```

次に、発信 LAT 接続の TACACS+ 接続アカウントング レコードに含まれる情報の例を示します。

```

Wed Jun 27 03:53:06 2001      172.16.25.15      username1  tty3      5622329430/4327528
  start   task_id=18      service=connection  protocol=lat   addr=VAX      cmd=lat
VAX
Wed Jun 27 03:54:15 2001      172.16.25.15      username1  tty3      5622329430/4327528
  stop    task_id=18      service=connection  protocol=lat   addr=VAX      cmd=lat
VAX bytes_in=0      bytes_out=0      paks_in=0      paks_out=0      elapsed_time=6

```

## システム アカウントング

システムアカウントングは、すべてのシステムレベル イベント（たとえば、システムのリブート時やアカウントングのオン/オフ時）に関する情報を提供します。

次のアカウントング レコードは、AAA アカウントングがオフになったことを示す一般的な TACACS+ システム アカウントング レコード サーバを示します。

```

Wed Jun 27 03:55:32 2001      172.16.25.15      unknown unknown unknown start  task_id=25
  service=system event=sys_acct  reason=reconfigure

```



**Note** アカウントング パケット レコードの正確なフォーマットは、TACACS+ デーモンに応じて変わります。

次のアカウントング レコードは、AAA アカウントングがオンになったことを示す TACACS+ システム アカウントング レコードを示します。

```
Wed Jun 27 03:55:22 2001      172.16.25.15      unknown unknown unknown stop      task_id=23
service=system event=sys_acct reason=reconfigure
```

システム リソースを測定する追加のタスクについては、他の Cisco IOS XE ソフトウェア コンフィギュレーションガイドを参照してください。たとえば、IP アカウンティング タスクについては、『CiscoIOS XE Application Services Configuration Guide, Release 2』の「Configuring IP Services」を参照してください。

## リソース アカウンティング

シスコが採用している AAA アカウンティングでは、ユーザー認証を通過したコールに対する「開始」レコードと「終了」レコードがサポートされます。ユーザー認証の一部として認証に失敗したコールの「終了」レコードを生成する追加機能もサポートされます。このようなレコードは、ネットワークを管理およびモニタするアカウンティングレコードを採用する場合に必要です。

ここでは、次の内容について説明します。

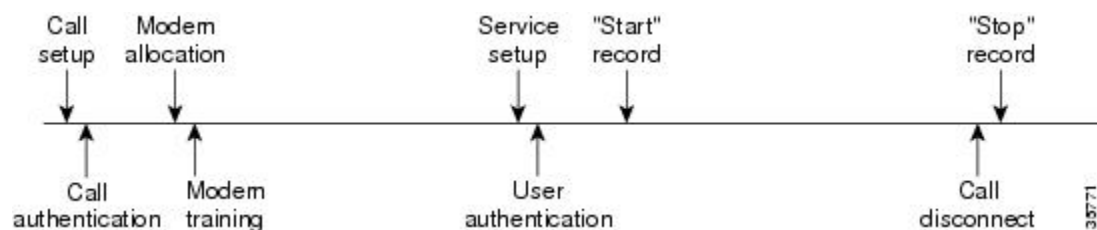
### AAA リソース失敗終了アカウンティング

AAA リソース失敗終了アカウンティングの前には、コール設定シーケンスのユーザー認証段階に到達できなかったコールについて、アカウンティングレコードを提供する方式がありました。このようなレコードは、ネットワークおよびその卸売りの顧客を管理およびモニターするアカウンティングレコードを採用する場合に必要です。

この機能によって、ユーザー認証に到達しなかったコールの「終了」アカウンティングレコードが生成されます。「終了」レコードは、コール設定の時点から生成されます。ユーザー認証に成功したすべてのコールは、従来と同様に動作します。つまり、追加のアカウンティングレコードは確認されません。

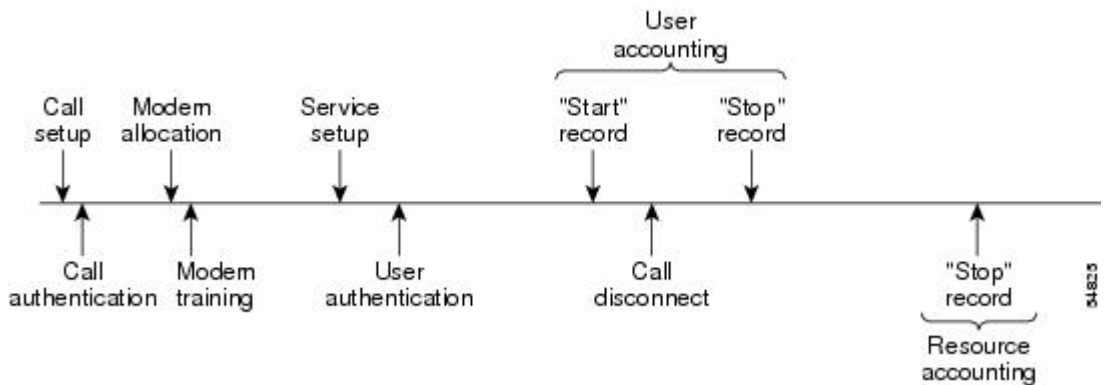
次の図に、通常のコールフローで、AAA リソース失敗終了アカウンティングを有効にしていないコールシーケンスを示します。

**Figure 4:** 通常のフローで AAA リソース失敗終了アカウンティングをイネーブルにしていないモデムダイヤルインコール設定シーケンス



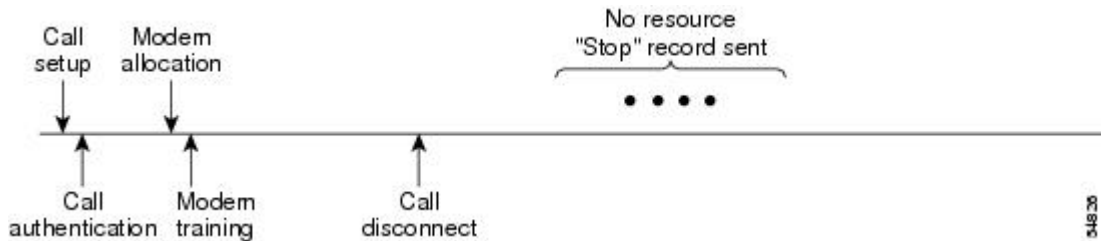
次の図に、通常のコールフローで、AAA リソース失敗終了アカウンティングをイネーブルにしたコールシーケンスを示します。

**Figure 5:** 通常のフローで AAA リソース失敗終了アカウントングをイネーブルにしたモデムダイヤルインコール設定シーケンス



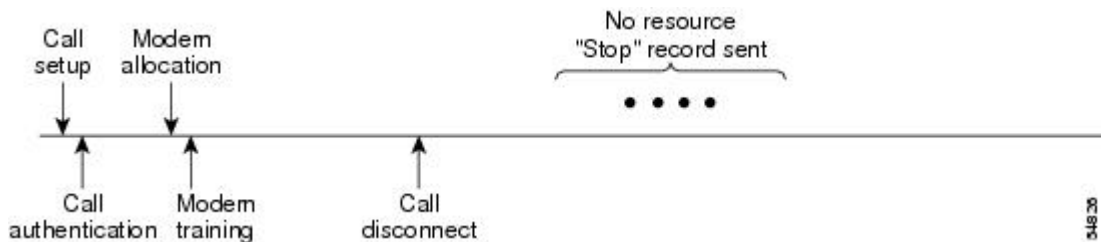
次の図に、ユーザ認証前にコールの接続解除が発生し、AAA リソース失敗終了アカウントングをイネーブルにしたコール設定シーケンスを示します。

**Figure 6:** ユーザ認証前にコールの接続解除が発生し、AAA リソース失敗終了アカウントングをイネーブルにしたモデムダイヤルインコール設定シーケンス



次の図に、ユーザ認証前にコールの接続解除が発生し、AAA リソース失敗終了アカウントングをイネーブルにしていないコール設定シーケンスを示します。

**Figure 7:** ユーザ認証前にコールの接続解除が発生し、AAA リソース失敗終了アカウントングをイネーブルにしていないモデムダイヤルインコール設定シーケンス



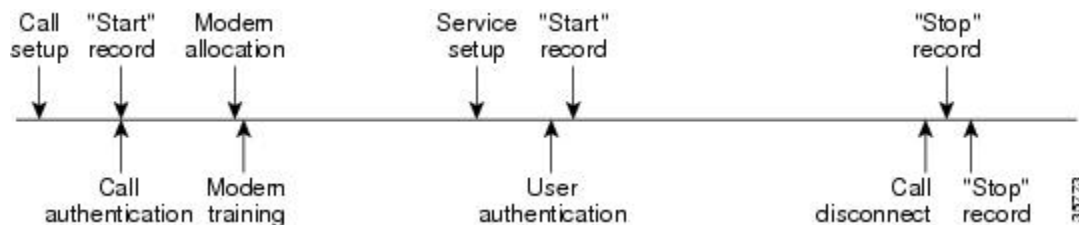
## 開始 - 終了レコードの AAA リソース アカウンティング

開始 - 終了レコードの AAA リソース アカウンティングは、各コール設定時に「開始」レコードを送信し、コールの接続解除時に対応する「終了」レコードを送信する機能をサポートしています。この機能は、アカウントングレコードなどを報告するデータの発信元の1つから、卸売りの顧客を管理およびモニターするために使用できます。

この機能を使用すると、コール設定およびコールの接続解除の「開始-終了」アカウントングレコードは、デバイスに対するリソース接続の進行状況を追跡します。個別のユーザー認証「開始-終了」アカウントングレコードが、ユーザー管理の進行状況を追跡します。これら2セットのアカウントングレコードは、そのコールで固有のセッションIDを使用して相互リンクされます。

次の図は、AAAリソース開始-終了アカウントングを有効にしたコール設定シーケンスを示します。

Figure 8: リソース開始 - 終了アカウントングをイネーブルにしたモデムダイヤルインコール設定シーケンス



## AAA アカウントिंगの強化

### AAA ブロードキャスト アカウントング

AAAブロードキャストアカウントングを有効にすると、アカウントング情報を複数のAAAサーバに同時に送信できます。つまり、アカウントング情報を1つまた複数のAAAサーバに同時にブロードキャストすることが可能です。この機能を使用すると、サービスプロバイダーは自社使用のプライベートAAAサーバやエンドユーザのAAAサーバにアカウントング情報を送信できるようになります。この機能では、音声アプリケーションによる課金情報も提供されます。

ブロードキャストは、RADIUSまたはTACACS+サーバのグループに使用できます。また、各サーバグループは、他のグループとは関係なく、フェールオーバーの場合のバックアップサーバを定義できます。

したがって、サービスプロバイダーとそのエンドユーザは、アカウントングサーバに異なるプロトコル（RADIUSまたはTACACS+）を使用できます。また、サービスプロバイダーとそのエンドユーザは、それぞれ単独でバックアップサーバを指定することもできます。音声アプリケーションについては、独自のフェールオーバーシーケンスを持つ個別のグループを介して、冗長的なアカウントング情報を単独で管理できます。

### AAA セッション MIB

ユーザがAAAセッションMIB機能を使用すると、簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）を使用して自身の認証済みクライアント接続をモニタおよび終了できます。そのクライアントのデータが提示されるため、RADIUSまたはTACACS+サーバから報告されるAAAアカウントング情報に直接関連付けることができます。AAAセッションMIBは、次の情報を提供します。

- 各AAA機能の統計情報（show radius statistics コマンドと併用する場合）

- AAA 機能を提供するサーバのステータス
- 外部 AAA サーバの ID
- (アイドル時間などの) リアルタイム情報 (アクティブコールを終了するかどうかを評価する SNMP ネットワークが使用する追加基準を提供します)

次の表に、認証済みクライアントと AAA セッション MIB 機能との接続をモニタおよび終了するために使用できる SNMP ユーザエンドデータ オブジェクトを示します。

**Table 24: SNMP エンドユーザデータ オブジェクト**

Field	Descriptions
SessionId	AAA アカウンティング プロトコルに使用されるセッション ID (RADIUS 属性 44 (Acct-Session-ID) から報告される値と同じ)
UserId	ユーザ ログイン ID または (ログインが使用できない場合) 長さがゼロの文字列
IpAddr	セッションの IP アドレスまたは (IP アドレスが適用されない場合、または使用できない場合) 0.0.0.0
IdleTime	セッションがアイドルになってからの経過時間
Disconnect	そのクライアントとの接続を解除するために使用されるセッション終了オブジェクト
CallId	コールトラッカー レコードが保存した、このアカウンティングセッションに対応するエントリ インデックス

次の表に、システム別に SNMP を使用する AAA セッション MIB 機能から提供される AAA の概要情報を示します。

**Table 25: SNMP AAA セッションの概要**

Field	Descriptions
ActiveTableEntries	現在アクティブなセッションの数
ActiveTableHighWaterMark	システムが最後に再インストールされてからの接続セッションの最大数
TotalSessions	システムが最後に再インストールされてからのセッションの合計数
DisconnectedSessions	システムが最後に再インストールされてから接続解除されたセッションの合計数

## アカウントング属性と値のペア

ネットワーク アクセス サーバは、TACACS+ 属性と値 (AV) のペアまたは RADIUS 属性 (実装しているセキュリティ方式によって異なります) に定義されたアカウントング機能を監視します。

# AAA アカウントングの設定方法

## 名前付き方式リストによる AAA アカウントングの設定

名前付き方式リストを使用して AAA アカウントングを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. `aaa accounting {system | network | exec | connection | commands level} {default | list-name} {start-stop | stop-only | none} [method1 [method2... ]]`
2. `line [aux | console | tty | vty] line-number [ending-line-number]`
3. `accounting {arap | commands level | connection | exec} {default | list-name}`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>aaa accounting {system   network   exec   connection   commands level} {default   list-name} {start-stop   stop-only   none} [method1 [method2... ]]</code>	アカウントング方式リストを作成し、アカウントングを有効にします。引数 <i>list-name</i> は、作成したリストに名前を付けるときに使用される文字列です。
ステップ 2	<code>line [aux   console   tty   vty] line-number [ending-line-number]</code>  <b>Example:</b> Router(config)# <b>interface</b> <i>interface-type</i> <i>interface-number</i>	アカウントング方式リストを適用する回線のライン コンフィギュレーション モードを開始するか、アカウントング方式リストを適用するインターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>accounting {arap   commands level   connection   exec} {default   list-name}</code>  <b>Example:</b> Router(config-if)# <b>ppp accounting</b> {default   <i>list-name</i> }	1つの回線または回線セットにアカウントング方式リストを適用するか、1つのインターフェイスまたはインターフェイスセットにアカウントング方式リストを適用します。

### What to do next



**Note** システム アカウントングは、名前付き方式リストを使用しません。システム アカウントングの場合、デフォルトの方式リストだけを定義します。

## ヌルユーザ名セッション時のアカウントングレコード生成の抑制

AAA アカウントングをアクティブにすると、Cisco IOS XE ソフトウェアは、システム上にあるすべてのユーザにアカウントングレコードを発行します。このとき、プロトコル変換のためにユーザ名文字列がヌルのユーザも含まれます。この例では、**aaa authentication login method-list none** コマンドが適用される回線に着信するユーザがそれに該当します。関連付けられているユーザ名がないセッションについて、アカウントングレコードが生成されないようにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
Router (config) # <b>aaa accounting suppress null-username</b>	ユーザ名文字列がヌルのユーザについて、アカウントングレコードが生成されないようにします。

## 中間アカウントングレコードの生成

アカウントング サーバに定期的な中間アカウントングレコードを送信できるようにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
Router (config) # <b>aaa accounting update [newinfo] [periodic] number</b>	アカウントング サーバに送信される定期的な中間アカウントングレコードをイネーブルにします。

**aaa accounting update** コマンドをアクティブにすると、Cisco IOS XE ソフトウェアによってシステム上のすべてのユーザーの中間アカウントングレコードが発行されます。**newinfo** キーワードを使用した場合は、レポートする新しいアカウントング情報が発生するたびに、中間アカウントングレコードがアカウントングサーバーに送信されます。たとえば、インターネット プロトコル コントロール プロトコル (IPCP) がリモートピアとの IP アドレスのネゴシエーションを完了したときにこれが発生します。中間アカウントングレコードには、リモートピアに使用されるネゴシエーション済み IP アドレスが含まれます。

**aaa accounting update** コマンドを **periodic** キーワードとともに使用すると、中間アカウントングレコードは引数の数字で定義されたとおりに定期的送信されます。中間アカウントングレコードには、中間アカウントングレコードが送信される時間までに、そのユーザについて記録されたすべてのアカウントング情報が含まれます。



**Caution** 多数のユーザがネットワークにログインしている場合には、**aaa accounting update periodic** コマンドを使用すると、重度の輻輳が発生する可能性があります。

## 定期的アカウントングレコードを有効化する代替手段の設定

次の代替手段を使用して、アカウントングサーバーに送信される定期的中間アカウントングレコードをイネーブルにできます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa accounting network default**
4. **action-type {none | start-stop [periodic {disable | interval *minutes*}] | stop-only}**
5. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa accounting network default</b> <b>Example:</b>  Router(config)# aaa accounting network default	すべてのネットワーク関連のサービス要求のデフォルトのアカウントングを設定し、アカウントング方式リストのコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>action-type {none   start-stop [periodic {disable   interval <i>minutes</i>}]   stop-only}</b> <b>Example:</b>  Router(cfg-acct-mlist)# action-type start-stop  <b>Example:</b>  periodic interval 5	アカウントングレコードに対して実行されるアクションのタイプを指定します。  • (任意) <b>periodic</b> キーワードは、定期的なアカウントングアクションを示します。  • <b>interval</b> キーワードは、定期的なアカウントング間隔を指定します。



	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• value 引数は、アカウントング更新レコードの間隔を指定します (分単位)。</li> <li>• disable キーワードは、定期的なアカウントングをディセーブルにします。</li> </ul>
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(cfg-acct-mlist)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## 中間サービス アカウンティング レコードの生成

このタスクを実行して、サブスクライバに対する定期的な間隔での中間サービス アカウンティング レコードの生成をイネーブルにします。

### Before you begin

ユーザー サービス プロファイルの RADIUS 属性 85 は設定済みの中間の間隔値よりも常に優先されます。RADIUS 属性 85 は、ユーザー サービス プロファイル内にある必要があります。詳細については、RADIUS 属性の概要および RADIUS IETF 属性の機能のドキュメントを参照してください。



**Note** RADIUS 属性 85 がユーザー サービス プロファイル内にない場合、中間アカウントング レコードの生成で設定された中間の間隔値がサービスの中間アカウントングレコードに使用されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **subscriber service accounting interim-interval *minutes***

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>subscriber service accounting interim-interval minutes</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# subscriber service accounting interim-interval 10</pre>	サブスクリバに対する定期的な間隔での中間サービス アカウントिंग レコードの生成をイネーブルにします。 <i>minutes</i> 引数は、アカウントिंग更新レコードを送信する定期的な間隔を 1 ~ 71582 分で示します。

## 失敗したログインまたはセッションに対するアカウントिंगレコードの生成

AAA アカウントिंगをアクティブにすると、Cisco IOS XE ソフトウェアは、ログイン認証に失敗したシステム ユーザー、またはログイン認証には成功しても何らかの理由で PPP ネゴシエーションに失敗したユーザーのアカウントिंग レコードを生成しません。

ログイン時またはセッションネゴシエーション中の認証に失敗したユーザーについて、アカウントिंग終了レコードを生成するように指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<b>aaa accounting send stop-record authentication failure</b>	ログイン時またはセッションネゴシエーション中の認証に失敗したユーザーについて、「終了」レコードを生成します。

## EXEC-Stop レコードよりも前のアカウントING NETWORK-Stop レコードの指定

EXEC 終了セッションを開始する PPP ユーザーの場合、EXEC-stop レコードの前に、NETWORK レコードを生成するように指定できます。特定のサービスについて顧客に課金する場合など、状況によっては、ネットワークの開始レコードと終了レコードを一緒に保持する方が望ましいことがあります。その際、基本的に、EXEC の開始メッセージと終了メッセージのフレームワーク内に「ネスト」にします。たとえば、PPP を使用するユーザーダイヤルインによって、EXEC-start、NETWORK-start、EXEC-stop、NETWORK-stop というレコードを作成できます。ネットワーク アカウントING レコードをネストにすることで、NETWORK-stop レコードは NETWORK-start メッセージ (EXEC-start、NETWORK-start、NETWORK-stop、EXEC-stop) に従います。

ユーザーセッションのアカウントINGレコードをネストするには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<code>aaa accounting nested</code>	ネットワーク アカウンティング レコードをネストします。

## スイッチオーバー上のシステム アカウンティング レコードの抑制

スイッチオーバー中のシステム アカウンティング オンおよびアカウンティング オフ メッセージを抑制するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<code>aaa accounting redundancy suppress system-records</code>	スイッチオーバー中のシステム アカウンティング レコードを抑制します。

## AAA リソース 失敗 終了 アカウンティング の設定

リソース 失敗 終了 アカウンティング をイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<code>aaa accounting resource method-list stop-failure group server-group</code>	<p>ユーザー 認証 に到達しないコールについて、「終了」レコードを生成します。</p> <p><b>Note</b> AAA リソース 失敗 終了 アカウンティング 機能を設定する前に、<a href="#">アカウントングを設定するための前提条件, on page 149</a> のセクションに記載されている作業を実行し、ネットワーク アクセス サーバー上で SNMP を有効にしてください。Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ上で SNMP をイネーブルにする方法の詳細については、『Cisco IOS XE Network Management Configuration Guide』の「Configuring SNMP Support」の章を参照してください。</p>

## 開始 - 終了 レコードの AAA リソース アカウンティング の設定

開始 - 終了 レコードのフル リソース アカウンティング をイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<b>aaa accounting resource method-list start-stop group server-group</b>	<p>各コール設定時に「開始」レコードを送信し、コールの接続解除時に対応する「終了」レコードを送信する機能をサポートします。</p> <p><b>Note</b> この機能を設定する前に、<a href="#">アカウントिंगを設定するための前提条件, on page 149</a>に記載されている作業を実行し、ネットワーク アクセス サーバ上で SNMP をイネーブルにしてください。Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ上で SNMP をイネーブルにする方法の詳細については、『Cisco IOS XE Network Management Configuration Guide, Release 2』の「Configuring SNMP Support」の章を参照してください。</p>

## AAA ブロードキャスト アカウンティングの設定

AAA ブロードキャスト アカウンティングを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **aaa accounting** コマンドを使用します。このコマンドは、**broadcast** キーワードを使用できるように変更されました。

コマンドまたはアクション	目的
<b>aaa accounting {system   network   exec   connection   commands level} {default   list-name} {start-stop   stop-only   none} [broadcast] method1 [method2...]</b>	複数の AAA サーバに対するアカウントिंग レコードの送信をイネーブルにします。各グループの最初のサーバに対し、アカウントिंग レコードを同時に送信します。最初のサーバが使用できない場合はフェールオーバーが発生し、そのグループ内に定義されているバックアップサーバが使用されません。

## DNIS による AAA ブロードキャスト アカウンティングの設定

AAA ブロードキャスト アカウンティングを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **aaa dnis map accounting network** コマンドを使用します。このコマンドは、**broadcast** キーワードおよび複数のサーバグループを使用できるように変更されました。

コマンドまたはアクション	目的
<b>aaa dnis map dnis-number accounting network [start-stop   stop-only   none] [broadcast] method1 [method2...]</b>	<p>DNIS によるアカウントिंगの設定を許可します。このコマンドは、グローバルの <b>aaa accounting</b> コマンドよりも優先されます。</p> <p>複数の AAA サーバに対するアカウントングレコードの送信をイネーブルにします。各グループの最初のサーバに対し、アカウントングレコードを同時に送信します。最初のサーバが使用できない場合はフェールオーバーが発生し、そのグループ内に定義されているバックアップサーバが使用されます。</p>

## AAA セッション MIB の設定

次のタスクは、次の AAA セッション MIB 機能の設定よりも前に実行する必要があります。

- SNMP を設定します。SNMP については、『Cisco IOS XE Network Management Configuration Guide』の「Configuring SNMP Support」の章を参照してください。
- AAA を設定します。
- RADIUS または TACACS+ サーバの特性を定義します。



**Note** SNMP を多用すると、全体のシステムパフォーマンスに影響が出る可能性があります。そのため、この機能を使用するときに、通常のネットワーク管理パフォーマンスを考慮する必要があります。

AAA セッション MIB を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<b>aaa session-mib disconnect</b>	<p>SNMP を使用して、認証済みクライアント接続をモニタおよび終了します。</p> <p>コールを終了するには、<b>disconnect</b> キーワードを使用します。</p>

## AAA サーバが到達不能な場合のルータとのセッションの確立

AAA サーバが到達不能の場合に、ルータとの間にコンソールセッションを確立するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<b>no aaa accounting system guarantee-first</b>	<p><b>aaa accounting system guarantee-first</b> コマンドは、システムアカウントを最初のレコードとして保証します。これは、デフォルトの条件です。</p> <p>状況によっては、システムの再ロードが完了するまで（3分よりも長くかかる可能性があります）、ユーザーがコンソールまたは Telnet 接続でセッションを開始できない可能性があります。この問題を解決するには、<b>no aaa accounting system guarantee-first</b> コマンドを使用します。</p>

## アカウントINGのモニタリング

RADIUS または TACACS+ アカウントINGの場合、特定の **show** コマンドは存在しません。ログインしているユーザーに関する情報を表示するアカウントINGレコードを取得するには、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<b>show accounting</b>	ネットワークでアクティブなアカウント可能なイベントの表示を許可し、アカウントINGサーバでデータが損失した場合に情報を収集できます。

## アカウントINGのトラブルシューティング

アカウントING情報の問題を解決するには、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンドまたはアクション	目的
<b>debug aaa accounting</b>	説明の義務があるイベントが発生したときに、その情報を表示します。

## AAA アカウントINGの設定例

### 方式指定リストの設定の例

次に、RADIUS サーバーから AAA サービスを提供するために Cisco AS5200（AAA および RADIUS セキュリティサーバーとの通信で有効）を設定する例を示します。RADIUS サーバーが応答に失敗すると、認証情報と認可情報についてローカルデータベースへの照会が行われ、アカウントING サービスは TACACS+ サーバーによって処理されます。

```
aaa new-model
aaa authentication login admins local
aaa authentication ppp dialins group radius local
aaa authorization network network1 group radius local
aaa accounting network network2 start-stop group radius group tacacs+
username root password ALongPassword
tacacs-server host 172.31.255.0
tacacs-server key goaway
radius-server host 172.16.2.7
radius-server key myRaDiUspassWoRd
interface group-async 1
  group-range 1 16
  encapsulation ppp
  ppp authentication chap dialins
  ppp authorization network1
  ppp accounting network2
line 1 16
  autoselect ppp
  autoselect during-login
  login authentication admins
  modem dialin
```

この RADIUS AAA 設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA ネットワーク セキュリティ サービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication login admins local** コマンドは、ログイン認証に方式リスト「admins」を定義します。
- **aaa authentication ppp dialins group radius local** コマンドで、認証方式リスト「dialins」を定義します。このリストは、最初に RADIUS 認証を指定して、次に（RADIUS サーバーが応答しない場合）PPP を使用してシリアル回線上でローカル認証が使用されます。
- **aaa authorization network network1 group radius local** コマンドで、「network1」というネットワーク許可方式リストを定義します。これにより、PPP を使用してシリアル回線上で RADIUS 許可を使用するよう指定されます。RADIUS サーバーが応答に失敗すると、ローカル ネットワークの認可が実行されます。
- **aaa accounting network network2 start-stop group radius group tacacs+** コマンドで、「network2」というネットワーク アカウンティング方式リストを定義します。これにより、PPP を使用してシリアル回線上で RADIUS アカウンティングサービス（この場合、特定のイベントに対する開始レコードと終了レコード）を使用するよう指定されます。RADIUS サーバが応答に失敗すると、アカウンティングサービスは TACACS+ サーバによって処理されます。
- **username** コマンドはユーザ名とパスワードを定義します。これらの情報は、PPP パスワード認証プロトコル（PAP）の発信元身元確認に使用されます。
- **tacacs-server host** コマンドは TACACS+ サーバー ホストの名前を定義します。
- **tacacs-server key** コマンドは、ネットワーク アクセス サーバーと TACACS+ サーバー ホストの間の共有秘密テキスト文字列を定義します。
- **radius-server host** コマンドは RADIUS サーバー ホストの名前を定義します。

- **radius-server key** コマンドは、ネットワーク アクセス サーバーと RADIUS サーバー ホストの間の共有秘密テキスト文字列を定義します。
- **interface group-async** コマンドは、非同期インターフェイス グループを選択して定義します。
- **group-range** コマンドは、インターフェイス グループ内のメンバ非同期インターフェイスを定義します。
- **encapsulation ppp** コマンドは、指定のインターフェイスに使用されるカプセル化方式として PPP を設定します。
- **ppp authentication chap dialins** コマンドは、PPP 認証方式としてチャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) を選択し、指定したインターフェイスに「dialins」方式リストを適用します。
- **ppp authorization network1** コマンドによって、blue1 ネットワーク許可方式リストが、指定したインターフェイスに適用されます。
- **ppp accounting network2** コマンドによって、red1 ネットワーク アカウンティング方式リストが、指定したインターフェイスに適用されます。
- **line** コマンドはコンフィギュレーション モードをグローバル コンフィギュレーションからライン コンフィギュレーションに切り替え、設定対象の回線を指定します。
- **autoselect ppp** コマンドは、選択した回線上で PPP セッションを自動的に開始できるように Cisco IOS XE ソフトウェアを設定します。
- **autoselect during-login** コマンドを使用すると、Return キーを押さずにユーザ名およびパスワードのプロンプトが表示されます。ユーザがログインすると、autoselect 機能 (この場合は PPP) が開始します。
- **login authentication admins** コマンドは、ログイン認証に admins 方式リストを適用します。
- **modem dialin** コマンドは、選択した回線に接続されているモデムを設定し、着信コールだけを受け入れるようにします。

**show accounting** コマンドを使用すると、前述の設定に関する出力が次のように生成されます。

```
Active Accounted actions on tty1, User username2 Priv 1
Task ID 5, Network Accounting record, 00:00:52 Elapsed
task_id=5 service=ppp protocol=ip address=10.0.0.98
```

次の表に、前述の出力に含まれるフィールドについて説明します。

**Table 26: show accounting のフィールドの説明**

フィールド	説明
Active Accounted actions on	ユーザがログインに使用する端末回線またはインターフェイス名
User	ユーザの ID。



フィールド	説明
Priv	ユーザの特権レベル。
Task ID	各アカウントングセッションの固有識別情報
Accounting Record	アカウントングセッションタイプ
Elapsed	このセッションタイプの期間 (hh:mm:ss)
attribute=value	このアカウントングセッションに関連付けられている AV ペア

## AAA リソース アカウントングの設定の例

次に、リソース失敗終了アカウントング、および開始 - 終了レコード機能のリソースアカウントングを設定する例を示します。

```
!Enable AAA on your network access server.
aaa new-model
!Enable authentication at login and list the AOL string name to use for login
authentication.
aaa authentication login AOL group radius local
!Enable authentication for ppp and list the default method to use for PPP authentication.
aaa authentication ppp default group radius local
!Enable authorization for all exec sessions and list the AOL string name to use for
authorization.
aaa authorization exec AOL group radius if-authenticated
!Enable authorization for all network-related service requests and list the default
method to use for all network-related authorizations.
aaa authorization network default group radius if-authenticated
!Enable accounting for all exec sessions and list the default method to use for all
start-stop accounting services.
aaa accounting exec default start-stop group radius
!Enable accounting for all network-related service requests and list the default method
to use for all start-stop accounting services.
aaa accounting network default start-stop group radius
!Enable failure stop accounting.
aaa accounting resource default stop-failure group radius
!Enable resource accounting for start-stop records.
aaa accounting resource default start-stop group radius
```

## AAA ブロードキャスト アカウントングの設定の例

次に、グローバル **aaa accounting** コマンドを使用して、ブロードキャストアカウントングを有効にする例を示します。

```
aaa group server radius isp
 server 10.0.0.1
 server 10.0.0.2
aaa group server tacacs+ isp_customer
 server 172.0.0.1
aaa accounting network default start-stop broadcast group isp group isp_customer
radius-server host 10.0.0.1
radius-server host 10.0.0.2
```

```
radius-server key key1
tacacs-server host 172.0.0.1 key key2
```

**broadcast** キーワードによって、ネットワーク接続に関する「開始」および「終了」アカウント記録が、グループ `isp` ではサーバー 10.0.0.1 に、グループ `isp_customer` ではサーバー 172.0.0.1 に同時送信されます。サーバ 10.0.0.1 が使用できなくなると、サーバ 10.0.0.2 へのフェールオーバーが行われます。サーバ 172.0.0.1 が使用できなくなっても、グループ `isp_customer` にはバックアップサーバが設定されていないため、フェールオーバーは行われません。

## DNIS による AAA ブロードキャスト アカウンティングの設定の例

次に、グローバル `aaa dnis map accounting network` コマンドを使用して、DNIS によるブロードキャスト アカウンティングを有効にする例を示します。

```
aaa group server radius isp
  server 10.0.0.1
  server 10.0.0.2
aaa group server tacacs+ isp_customer
  server 172.0.0.1
aaa dnis map enable
aaa dnis map 7777 accounting network start-stop broadcast group isp group isp_customer
radius-server host 10.0.0.1
radius-server host 10.0.0.2
radius-server key key_1
tacacs-server host 172.0.0.1 key key_2
```

**broadcast** キーワードによって、DNIS 番号 7777 のネットワーク接続コールに関する「開始」および「終了」アカウント記録が、グループ `isp` ではサーバー 10.0.0.1 に、グループ `isp_customer` ではサーバー 172.0.0.1 に同時送信されます。サーバ 10.0.0.1 が使用できなくなると、サーバ 10.0.0.2 へのフェールオーバーが行われます。サーバ 172.0.0.1 が使用できなくなっても、グループ `isp_customer` にはバックアップサーバが設定されていないため、フェールオーバーは行われません。

## AAA セッション MIB の例

次に、AAA セッション MIB 機能を設定して、PPP ユーザの認証済みクライアント接続を解除する例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default group radius
aaa accounting network default start-stop group radius
aaa session-mib disconnect
```

## その他の参考資料

ここでは、アカウントングの設定機能に関する関連資料について説明します。

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
SNMP の設定	『Cisco IOS XE Network Management Configuration Guide』
SNMP コマンド	『Cisco IOS Network Management Command Reference』
セキュリティコマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
RADIUS の設定	RADIUS の設定
TACACS+ の設定	TACACS+ の設定
IP サービスの設定	『Cisco IOS XE Application Services Configuration Guide』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>CISCO-AAA-SESSION-MIB</li> </ul>	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、および機能セットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## アカウントिंगの設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 27: アカウントिंगの設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA ブロードキャストアカウントング	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>AAAブロードキャストアカウントングを有効にすると、アカウントング情報を複数のAAAサーバに同時に送信できます。つまり、アカウントング情報を1つまた複数のAAAサーバに同時にブロードキャストすることが可能です。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa accounting</b>。</p>

機能名	リリース	機能情報
AAA セッション MIB	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>ユーザが AAA セッション MIB 機能を使用すると、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) を使用して自身の認証済みクライアント接続をモニタおよび終了できます。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa session-mib disconnect</b>。</p>
接続アカウントिंग	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>接続アカウントिंगは、Telnet、ローカルエリアトランスポート (LAT)、TN3270、Packet Assembler/disassembler (PAD)、rlogin など、ネットワーク アクセス サーバからの発信接続すべてに関する情報を提供します。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p>
AAA 中間アカウントिंग	Cisco IOS XE Release 2.4	<p>AAA 中間アカウントングにより、レポートする必要がある新しいアカウントング情報が発生するたびに、または定期的に、アカウントング サーバに中間アカウントング レコードを送信できます。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.4 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa accounting update</b> および <b>subscriber service accounting interim-interval</b>。</p>





## CHAPTER 11

# AAA-SERVER-MIB Set Operation

AAA-SERVER-MIB Set Operation 機能により、CISCO-AAA-SERVER-MIB を使用して認証、許可、アカウントिंग（AAA）サーバを設定する機能を拡張できます。この機能を使用すると、次のことができます。

- 新しい AAA サーバを作成または追加する。
- CISCO-AAA-SERVER-MIB で「KEY」を修正する。
- AAA サーバの設定を削除する。
- [AAA-SERVER-MIB Set Operation の前提条件, on page 183](#)
- [AAA-SERVER-MIB Set Operation の制約事項, on page 183](#)
- [AAA-SERVER-MIB Set Operation に関する情報, on page 184](#)
- [Configure AAA-SERVER-MIB Set Operation の設定方法, on page 184](#)
- [AAA-SERVER-MIB Set Operation の設定例, on page 185](#)
- [その他の参考資料, on page 187](#)
- [AAA-SERVER-MIB Set Operation の機能情報, on page 188](#)

## AAA-SERVER-MIB Set Operation の前提条件

AAA がルータで有効になっている必要があります。つまり、**aaa new-model** コマンドが設定されている必要があります。この設定が行われていない場合、SET 操作は失敗します。

## AAA-SERVER-MIB Set Operation の制約事項

現時点では、CISCO SNMP SET 操作は RADIUS プロトコルに対してのみサポートされています。このため、追加、修正、削除できるのはグローバル コンフィギュレーション モードの RADIUS サーバだけです。

# AAA-SERVER-MIB Set Operation に関する情報

## CISCO-AAA-SERVER-MIB

CISCO-AAA-SERVER-MIB により、サーバ自体と AAA サーバの動作、および外部サーバとの AAA 通信の両方の状態が統計情報に反映されます。CISCO-AAA-SERVER-MIB からは次の情報が得られます。

- 各 AAA 動作の統計情報
- AAA 機能を使用できるようになっているサーバのステータス
- 外部 AAA サーバの ID

## CISCO-AAA-SERVER-MIB Set Operation

Cisco IOS XE Release 2.1 では、CISCO-AAA-SERVER-MIB は GET と SET 両方の操作をサポートしています。SET 操作を使用すると、次の作業を行うことができます。

- 新しい AAA サーバを作成または追加する。
- CISCO-AAA-SERVER-MIB でキーを修正する。この「秘密キー」は、ネットワーク アクセス サーバ (NAS) および AAA サーバに存在する AAA サーバへの接続をセキュリティ保護するために使用されます。
- AAA サーバの設定を削除する。

## Configure AAA-SERVER-MIB Set Operation の設定方法

この機能を使用するに当たって、特別な設定は必要ありません。簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) フレームワークを使用して MIB を管理できます。SNMP の設定については、「追加情報」を参照してください。

## RADIUS サーバの設定およびサーバの統計情報の確認

RADIUS サーバの設定やサーバの統計情報は、次の手順を実行することで確認できます。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `show running-config | include radius-server host`
3. `show aaa servers`



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>show running-config   include radius-server host</b> <b>Example:</b> Router# show running-config   include radius-server host	グローバル コンフィギュレーション モードで設定されている RADIUS サーバーをすべて表示します。
ステップ 3	<b>show aaa servers</b> <b>Example:</b> Router# show aaa servers	認証、許可、およびアカウントング (AAA) サーバとの間で送受信された要求の数に関するデータを表示します。

## AAA-SERVER-MIB Set Operation の設定例

## RADIUS サーバの設定およびサーバの統計情報の例

次の出力例は、SET 操作の前と後の RADIUS サーバの設定およびサーバの統計情報を示しています。

## SET 操作の前

```
Router# show running-config | include radius-server host
! The following line is for server 1.
radius-server host 172.19.192.238 auth-port 2095 acct-port 2096 key cisco2
! The following line is for server 2.
radius-server host 172.19.192.238 auth-port 1645 acct-port 1646
```

## サーバの統計情報

```
Router# show aaa servers
RADIUS: id 2, priority 1, host 172.19.192.238, auth-port 2095, acct-port 2096
State: current UP, duration 25s, previous duration 0s
  Dead: total time 0s, count 7
Authen: request 8, timeouts 8
  Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
  Transaction: success 0, failure 2
Author: request 0, timeouts 0
  Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
```

```

Transaction: success 0, failure 0
Account: request 0, timeouts 0
Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
Transaction: success 0, failure 0
Elapsed time since counters last cleared: 5m
RADIUS: id 3, priority 2, host 172.19.192.238, auth-port 1645, acct-port 1646
State: current UP, duration 5s, previous duration 0s
Dead: total time 0s, count 2
Authen: request 8, timeouts 8
Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
Transaction: success 0, failure 4
Author: request 0, timeouts 0
Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
Transaction: success 0, failure 0
Account: request 0, timeouts 0
Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
Transaction: success 0, failure 0
Elapsed time since counters last cleared: 3m

```

### RADIUS サーバの設定と統計情報をチェックする SNMP GET 操作

```

aaa-server5:/users/smetri> getmany 10.0.1.42 casConfigTable
casAddress.2.2 = 172.19.192.238
casAddress.2.3 = 172.19.192.238
casAuthenPort.2.2 = 2095
casAuthenPort.2.3 = 1645
casAcctPort.2.2 = 2096
casAcctPort.2.3 = 1646
casKey.2.2 =
casKey.2.3 =
! The following line shows priority for server 1.
casPriority.2.2 = 1
! The following line shows priority for server 2.
casPriority.2.3 = 2
casConfigRowStatus.2.2 = active(1)
casConfigRowStatus.2.3 = active(1)
aaa-server5:/users/smetri>

```

### SNMP SET 操作

RADIUS サーバのキーが変更されています。また、インデックス「1」が使用されています。このインデックスは、エントリの追加、削除、修正に使用されるワイルドカードとして機能します。

```

Change the key for server 1:=>
aaa-server5:/users/smetri> setany -v2c 10.0.1.42 public casAddress.2.1 -a 172.19.192.238
casAuthenPort.2.1 -i 2095 casAcctPort.2.1 -i 2096 casKey.2.1 -o king
casAddress.2.1 = 172.19.192.238
casAuthenPort.2.1 = 2095
casAcctPort.2.1 = 2096
casKey.2.1 = king
aaa-server5:/users/smetri>

```

### SET 操作の後

上記の SNMPSET 操作後、ルータの設定が変更されます。SET 操作後の出力を次に示します。

```

Router# show running-config | include radius-server host
radius-server host 172.19.192.238 auth-port 1645 acct-port 1646

```

```
! The following line shows a change in the key value to "king."
radius-server host 172.19.192.238 auth-port 2095 acct-port 2096 key king
```

```
Router# show aaa servers
RADIUS: id 3, priority 1, host 172.19.192.238, auth-port 1645, acct-port 1646
State: current UP, duration 189s, previous duration 0s
  Dead: total time 0s, count 2
Authen: request 8, timeouts 8
  Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
  Transaction: success 0, failure 4
Author: request 0, timeouts 0
  Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
  Transaction: success 0, failure 0
Account: request 0, timeouts 0
  Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
  Transaction: success 0, failure 0
Elapsed time since counters last cleared: 6m
```

```
! The following line shows a new server with new statistics.
RADIUS: id 4, priority 2, host 172.19.192.238, auth-port 2095, acct-port 2096
State: current UP, duration 209s, previous duration 0s
  Dead: total time 0s, count 7
Authen: request 0, timeouts 0
  Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
  Transaction: success 0, failure 0
Author: request 0, timeouts 0
  Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
  Transaction: success 0, failure 0
Account: request 0, timeouts 0
  Response: unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
認証コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Security Command Reference</a> 』
IEEE 802.1x-Flexible Authentication	『 <a href="#">Securing User Services Configuration Library</a> 』

### MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>• CISCO-AUTH-FRAMEWORK-MIB</li> <li>• CISCO-MAC-AUTH-BYPASS-MIB</li> <li>• CISCO-PAE-MIB</li> <li>• IEEE8021-PAE-MIB</li> </ul>	選択したプラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。  <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 3580	『IEEE 802.1x Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## AAA-SERVER-MIB Set Operation の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 28: AAA-SERVER-MIB Set Operation の機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA-SERVER-MIB Set Operation	Cisco IOS XE リリース 2.1	この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズの アグリゲーション サービス ルータで導入されました。



## CHAPTER 12

### Per VRF AAA

Per VRF AAA 機能により、ISP は、認証、許可、アカウントिंग (AAA) サービスをバーチャルプライベート ネットワーク (VPN) ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに基づいて区分して、カスタマーに独自の AAA サービスの一部を制御させることができます。

サーバグループのサーバリストは、グローバル コンフィギュレーションでのホストへの参照に加えて、プライベートサーバの定義を含めるために拡張されています。このため、カスタマーサーバとグローバル サービス プロバイダーのサーバに同時にアクセスできます。

Cisco IOS XE Release 2.4 以降のリリースでは、ローカルまたはリモートで保存したカスタマー テンプレートを使用し、カスタマー テンプレートに保存された情報に基づいて、AAA サービスを実行できます。この機能は、Dynamic Per VRF AAA 機能と呼ばれています。

- [Per VRF AAA の前提条件, on page 189](#)
- [Per VRF AAA の制約事項, on page 189](#)
- [Per VRF AAA に関する情報, on page 190](#)
- [Per VRF AAA の設定方法, on page 195](#)
- [Per VRF AAA の設定例, on page 208](#)
- [その他の参考資料, on page 216](#)
- [Per VRF AAA の機能情報, on page 218](#)
- [用語集, on page 219](#)

### Per VRF AAA の前提条件

Per VRF AAA 機能を設定する前に、AAA をイネーブルにする必要があります。詳細については、6 ページの「Per VRF AAA の設定方法」を参照してください。

### Per VRF AAA の制約事項

- この機能は、RADIUS サーバについてのみサポートされています。

- すべての機能について、ネットワークアクセスサーバ (NAS) と AAA サーバとの間で一貫性が必要なため、サーバグループごとの設定ではなく、Per VRF を設定したら、動作パラメータを定義する必要があります。
- ローカルまたはリモートでカスタマーテンプレートを設定する機能は、Cisco IOS XE Release 2.4 以降のリリースでのみ使用できます。

## Per VRF AAA に関する情報

Per VRF AAA 機能を使用する場合、AAA サービスを VRF インスタンスに基づいたものになります。この機能により、プロバイダーエッジ (PE) または仮想ホーム ゲートウェイ (VHG) で、カスタマーのバーチャルプライベートネットワーク (VPN) に関連付けられたカスタマーの RADIUS サーバと RADIUS プロキシを経由せずに直接通信できます。RADIUS プロキシを使用する必要がないため、ISP は、VPN による提供サービスをより効率的に拡張でき、カスタマーにさらに柔軟性を提供できます。

## Per VRF AAA の機能

カスタマーごとに AAA をサポートするには、一部の AAA 機能を VRF を認識させる必要があります。つまり、ISP は、AAA サーバグループ、方式リスト、システムアカウントिंग、およびプロトコル固有のパラメータなどの動作パラメータを定義し、これらのパラメータを特定の VRF インスタンスにバインドできる必要があります。動作パラメータの定義とバインディングには、次の 1 つ以上の方式が使用できます。

- バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク (VPDN) : 特定のカスタマーに設定された仮想テンプレートまたはダイヤラ インターフェイス。
- ローカルで定義されたカスタマーテンプレート : カスタマーの定義による Per VPN。カスタマーテンプレートは、ローカルで VHG に保存されます。この方式は、ドメイン名または着信番号識別サービス (DNIS) に基づいて、リモートユーザを特定の VPN に関連付け、カスタマーの AAA サーバに対する仮想アクセスインターフェイスおよびすべての動作パラメータに VPN 固有の設定を提供する場合に使用できます。
- リモートで定義されたカスタマーテンプレート : RADIUS プロファイルでサービスプロバイダーの AAA サーバに保存された、カスタマーの定義による Per VPN。この方式は、ドメイン名または DNIS に基づいて、リモートユーザを特定の VPN に関連付け、カスタマーの AAA サーバに対する仮想アクセスインターフェイスおよびすべての動作パラメータに VPN 固有の設定を提供する場合に使用できます。



### Note

ローカルまたはリモートで定義されたカスタマーテンプレートを設定する機能は、Cisco IOS XE Release 2.4 以降のリリースでのみ使用できます。

## AAA アカウンティング レコード

シスコが採用している AAA アカウンティングでは、ユーザー認証を通過したコールに対する「開始」レコードと「終了」レコードがサポートされます。開始レコードと終了レコードは、ユーザがアカウンティングレコードを使用してネットワークを管理およびモニタするために必要です。

## 新しいベンダー固有属性

インターネット技術特別調査委員会 (IETF) ドラフト標準には、ネットワーク アクセス サーバと RADIUS サーバの間でベンダー固有属性 (VSA) 属性 26 を使用してベンダー固有の情報を伝達する方法が規定されています。属性 26 は VSA をカプセル化します。このため、ベンダーは一般的な用途に適さない独自の拡張属性をサポートできます。

シスコの RADIUS 実装は、この仕様で推奨される形式を使用して、1 つのベンダー固有オプションをサポートしています。シスコのベンダー ID は 9 であり、サポート対象のオプションはベンダータイプ 1 (名前は「cisco-avpair」) です。値は、次の形式のストリングです。

protocol : attribute sep value \*

「protocol」は、特定の認可タイプに使用するシスコの「protocol」属性の値です。「attribute」および「value」は、シスコの TACACS+ 仕様で定義されている適切な属性値 (AV) ペアです。

「sep」は、必須の属性の場合は「=」、任意指定の属性の場合は「\*」です。これにより、TACACS+ 認可で使用できるすべての機能を RADIUS にも使用できるようになります。

次の表に、現在 Per VRF AAA でサポートされている VSA の概要を示します。

**Table 29: Per VRF AAA でサポートされる VSA**

VSA 名	値の種類	説明
<b>Note</b> 別の拡張子が明示的に記述されている場合を除き、各 VSA には VSA 名の前に拡張子「template:」が必要です。		
account-delay	string	この VSA は「on」にする必要があります。この VSA の機能は、カスタマーテンプレートの <b>aaa accounting delay-start</b> コマンドと同じです。
account-send-stop	string	この VSA は「on」にする必要があります。この VSA の機能は、 <b>failure</b> キーワードを指定した <b>aaa accounting send stop-record authentication</b> コマンドと同じです。

VSA 名	値の種類	説明
account-send-success-remote	string	この VSA は「on」にする必要があります。この VSA の機能は、 <b>success</b> キーワードを指定した <b>aaa accounting send stop-record authentication</b> コマンドと同じです。
attr-44	string	この VSA は「access-req」にする必要があります。この VSA の機能は、 <b>radius-server attribute 44 include-in-access-req</b> コマンドと同じです。
ip-addr	string	この VSA は、IP アドレスを指定します。その後、ルータが独自の IP アドレスを示すために使用するマスク、およびクライアントとのネゴシエーションのマスクが続きます。例：ip-addr=192.168.202.169 255.255.255.255。
ip-unnumbered	string	この VSA は、ルータ上のインターフェイスの名前を指定します。この VSA の機能は、「Loopback 0」などのインターフェイス名を指定する <b>ip unnumbered</b> コマンドと同じです。
ip-vrf	string	この VSA は、エンドユーザの packets に使用する VRF を指定します。この VRF 名は、 <b>ip vrf forwarding</b> コマンドを使用してルータに使用する名前に一致させる必要があります。
peer-ip-pool	string	この VSA は、ピアに割り当てられるアドレスの IP アドレス プールの名前を指定します。このプールは、 <b>ip local pool</b> コマンドを使用して設定するか、RADIUS 経由で自動的にダウンロード可能にする必要があります。
ppp-acct-list	string	この VSA は、PPP セッションに使用するアカウントング方式リストを定義します。  VSA 構文は次のとおりです。「 <b>ppp-acct-list=[start-stop   stop-only   none] group X [group Y] [broadcast]</b> 」これは、 <b>aaa accounting network mylist</b> コマンド機能と等しくなります。  ユーザは、start-stop、stop-only、または none オプションを少なくとも 1 つ指定する必要があります。start-stop または stop-only を指定した場合、ユーザは少なくとも 1 つ、ただし 4 つ以内のグループ引数を指定する必要があります。各グループ名は、整数で構成する必要があります。グループ内のサーバは、VSA 「rad-serv」を経由して、 <b>access-accept</b> で識別されている必要があります。各グループが指定されると、ユーザはブロードキャスト オプションを指定できます。



VSA 名	値の種類	説明
ppp-authen-list	string	<p>この VSA は、PPP セッションで使用する認証方式リスト、および複数の方式が指定されている場合は、方式を使用する順序を定義します。</p> <p>VSA 構文は次のとおりです。「ppp-authen-list=[groupX   local   local-case   none   if-needed]」これは、<b>aaa authentication ppp mylist</b> コマンド機能と等しくなります。</p> <p>ユーザは少なくとも 1 つ、ただし 4 つ以内の認証方式を指定する必要があります。サーバグループが指定されている場合、グループ名は整数である必要があります。グループ内のサーバは、VSA「rad-serv」を経由して、<b>access-accept</b> で識別されている必要があります。</p>
ppp-authen-type	string	<p>この VSA を使用すると、エンドユーザは、pap、chap、eap、ms-chap、ms-chap-v2、any のいずれかの認証タイプ、または使用可能なタイプをスペースで区切って、少なくとも 1 つの認証タイプを指定できます。</p> <p>エンドユーザは、この VSA で指定された方式のみを使用して、ログインが許可されます。</p> <p>PPP は属性で提示された順序で、これらの認証方式を試行します。</p>
ppp-author-list	string	<p>この VSA は、PPP セッションに使用する認可方式リストを定義します。使用する方式と順序を示します。</p> <p>VSA 構文は次のとおりです。「ppp-author-list=[groupX] [local] [if-authenticated] [none]」これは、<b>aaa authorization network mylist</b> コマンド機能に等しくなります。</p> <p>ユーザは少なくとも 1 つ、ただし 4 つ以内の認可方式を指定する必要があります。サーバグループが指定されている場合、グループ名は整数である必要があります。グループ内のサーバは、VSA「rad-serv」を経由して、<b>access-accept</b> で識別されている必要があります。</p>

VSA 名	値の種類	説明
<p><b>Note</b> RADIUS VSA (rad-serv、rad-serv-filter、rad-serv-source-if、および rad-serv-vrf) は、VSA 名の前にプレフィックス「aaa:」が必要です。</p>		
rad-serv	string	<p>この VSA は、サーバのグループとともに、IP アドレス、キー、タイムアウト、およびサーバの再送信回数を示します。</p> <p>VSA 構文は次のとおりです。「rad-serv=a.b.c.d [key SomeKey] [auth-port X] [acct-port Y] [retransmit V] [timeout W]」 IP アドレス以外、すべてのパラメータはオプションで、任意の順序で発行できます。オプションのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値が使用されます。</p> <p>キーには、スペースを含めることはできません。「retransmit V」の「V」は、1～100 の値で、「timeout W」の「W」は 1～1000 の値です。</p>
rad-serv-filter	string	<p>VSA 構文は次のとおりです。「rad-serv-filter=authorization accounting-request reply-accept reject-filtername」 filtername は <b>radius-server attribute list filtername</b> コマンドを使用して定義する必要があります。</p> <p><b>Note</b> この VSA は、Cisco IOS XE Release 2.3 以降のリリースでサポートされています。</p>
rad-serv-source-if	string	<p>この VSA は、RADIUS パケットの送信に使用するインターフェイスの名前を指定します。指定されたインターフェイスは、ルータ上に設定されたインターフェイスと一致する必要があります。</p>
rad-serv-vrf	string	<p>この VSA は、RADIUS パケットの送信に使用する VRF の名前を指定します。VRF 名は、<b>ip vrf forwarding</b> コマンドを使用して指定された名前と一致する必要があります。</p>

## VRF 認識 Framed-Route

Cisco IOS XE Release 2.3 以降では、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータは、VRF 認識 framed-route をサポートしています。この機能のサポートを有効にするために必要な設定はありません。framed-route は自動的に検出されます。framed-route がインターフェイスに関連付けられた VRF の一部である場合、ルートは適宜適用されます。

## Per VRF AAA の設定方法

### Per VRF AAA の設定

#### AAA の設定

AAA をイネーブルにするには、次の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。

#### サーバグループの設定

サーバグループを設定するには、次の手順を実行する必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa group server radius** *groupname*
5. **server-private** *ip-address* [**auth-port** *port-number* | **acct-port** *port-number*] [**non-standard**] [**timeout** *seconds*] [**retransmit** *retries*] [**key** *string*]
6. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 4	<b>aaa group server radius</b> <i>groupname</i> <b>Example:</b> Router(config)# aaa group server radius v2.44.com	複数の RADIUS サーバホストを別々のリストと別々の方式にグループ分けします。server-group コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>server-private</b> <i>ip-address</i> [ <b>auth-port</b> <i>port-number</i>   <b>acct-port</b> <i>port-number</i> ] [ <b>non-standard</b> ] [ <b>timeout</b> <i>seconds</i> ] [ <b>retransmit</b> <i>retries</i> ] [ <b>key</b> <i>string</i> ] <b>Example:</b> Router(config-sg-radius)# server-private 10.10.130.2 auth-port 1600 key ww	グループサーバに対するプライベート RADIUS サーバの IP アドレスを設定します。  <b>Note</b> プライベートサーバパラメータが指定されていない場合、グローバル コンフィギュレーションが使用されます。グローバル コンフィギュレーションが指定されていない場合、デフォルト値が使用されます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sg-radius)# exit	server-group コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## Per VRF AAA の認証、許可、アカウントिंगの設定

Per VRF AAA の認証、許可、アカウントिंगを設定するには、次の手順を実行する必要があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authentication ppp** {default | list-name} method1 [method2...]
5. **aaa authorization** {network | exec | commands level | reverse-access | configuration} {default | list-name} method1 [method2...]
6. **aaa accounting system default** [vrf vrf-name] {start-stop | stop-only | none} [broadcast] group groupname
7. **aaa accounting delay-start** [vrf vrf-name]
8. **aaa accounting send stop-record authentication** {failure | success remote-server} [vrf vrf-name]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>aaa authentication ppp</b> {default   list-name} method1 [method2...] <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa authentication ppp method_list_v2.44.com group v2.44.com</pre>	PPP を実行しているシリアルインターフェイス上で使用する 1 つ以上の AAA 認証方式を指定します。
ステップ 5	<b>aaa authorization</b> {network   exec   commands level   reverse-access   configuration} {default   list-name} method1 [method2...] <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa authorization network method_list_v2.44.com group v2.44.com</pre>	ネットワークへのユーザアクセスを制限するパラメータを設定します。
ステップ 6	<b>aaa accounting system default</b> [vrf vrf-name] {start-stop   stop-only   none} [broadcast] group groupname <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa accounting system default vrf v2.44.com start-stop group v2.44.com</pre>	課金、または RADIUS を使用する際のセキュリティのために、要求されたサービスの AAA アカウントिंगをイネーブルにします。
ステップ 7	<b>aaa accounting delay-start</b> [vrf vrf-name] <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa accounting delay-start vrf v2.44.com</pre>	ユーザの IP アドレスが確立されるまで、アカウントING開始レコードの生成を表示します。
ステップ 8	<b>aaa accounting send stop-record authentication</b> {failure   success remote-server} [vrf vrf-name] <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa accounting send stop-record authentication failure vrf v2.44.com</pre>	<p>アカウントING終了レコードを生成します。</p> <p><b>failure</b> キーワードを使用すると、認証中に拒否されたコールに対する「終了」レコードが送信されません。</p> <p><b>success</b> キーワードを使用すると、次のいずれかの基準を満たすコールに対して、「終了」レコードが送信されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コールが終了したときに、リモート AAA サーバによって認証されるコール。</li> <li>• リモート AAA サーバによって認証されず、開始レコードが送信されたコール。</li> <li>• 正常に確立され、「stop-only」aaa accounting 設定で終了したコール。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> <b>success</b> および <b>remote-server</b> キーワードは、Cisco IOS XE Release 2.4 以降のリリースで使用できます。

## Per VRF AAA の RADIUS 固有のコマンドの設定

Per VRF AAA の RADIUS 固有のコマンドを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip radius source-interface** *subinterface-name* [**vrf** *vrf-name*]
4. **radius-server attribute 44 include-in-access-req** [**vrf** *vrf-name*]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip radius source-interface</b> <i>subinterface-name</i> [ <b>vrf</b> <i>vrf-name</i> ] <b>Example:</b>  Router(config)# ip radius source-interface loopback55	すべての発信 RADIUS パケットに対して、RADIUS に指定されたインターフェイスの IP アドレスを強制的に使用させ、Per VRF に基づいて仕様をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>radius-server attribute 44 include-in-access-req</b> [ <b>vrf</b> <i>vrf-name</i> ] <b>Example:</b>  Router(config)# radius-server attribute 44 include-in-access-req vrf v2.44.com	ユーザ認証前に、アクセス要求パケットで、RADIUS 属性 44 を送信し、Per VRF に基づいて仕様を有効にします。

## Per VRF AAA のインターフェイス固有のコマンドの設定

Per VRF AAA のインターフェイス固有のコマンドを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number* [*name-tag*]
4. **ip vrf forwarding** *vrf-name*
5. **ppp authentication** *{protocol1 [protocol2...]} listname*
6. **ppp authorization** *list-name*
7. **ppp accounting default**
8. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> [ <i>name-tag</i> ] <b>Example:</b> Router(config)# interface loopback11	インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip vrf forwarding</b> <i>vrf-name</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# ip vrf forwarding v2.44.com	インターフェイスと VRF を関連付けます。
ステップ 5	<b>ppp authentication</b> <i>{protocol1 [protocol2...]} listname</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# ppp authentication chap callin V2_44_com	チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) およびパスワード認証プロトコル (PAP) のいずれかまたは両方をイネーブルにし、CHAP および PAP 認証がインターフェイスで選択される順序を指定します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>ppp authorization</b> <i>list-name</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# ppp authorization V2_44_com	選択したインターフェイスで、AAA 認可をイネーブルにします。
ステップ 7	<b>ppp accounting default</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# ppp accounting default	選択したインターフェイスで、AAA アカウンティング サービスをイネーブルにします。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

## ローカルカスタマーテンプレートを使用した Per VRF AAA の設定

### AAA の設定

「Per VRF AAA の設定」で説明する作業を実行します。

### サーバグループの設定

「サーバグループの設定」で説明する作業を実行します。

### Per VRF AAA の認証、許可、アカウントिंगの設定

「Per VRF AAA の認証、許可、アカウントिंगの設定」で説明する作業を実行します。

### ローカルカスタマーテンプレートを使用した Per VRF AAA の認可の設定

ローカルテンプレートを使用した Per VRF AAA の認可を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa authorization template**
4. **aaa authorization network default local**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa authorization template</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa authorization template	ローカルまたはリモートテンプレートの使用をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>aaa authorization network default local</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa authorization network default local	ローカルを認可のデフォルト方式として指定します。

## ローカルカスタマーテンプレートの設定

ローカルカスタマーテンプレートを設定するには、次の手順を実行する必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **vpdn search-order domain**
4. **template name [default | exit | multilink | no | peer | ppp]**
5. **peer default ip address pool pool-name**
6. **ppp authentication {protocol1 [protocol2...]} [if-needed] [list-name | default] [callin] [one-time]**
7. **ppp authorization [default | list-name]**
8. **aaa accounting {auth-proxy | system | network | exec | connection | commands level} {default | list-name} [vrf vrf-name] {start-stop | stop-only | none} [broadcast] group groupname**
9. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>vpdn search-order domain</b> <b>Example:</b> Router (config)# vpdn search-order domain	ドメインに基づいてプロファイルを検索します。
ステップ 4	<b>template name [default   exit   multilink   no   peer   ppp]</b> <b>Example:</b> Router (config)# template v2.44.com	カスタマー プロファイル テンプレートを作成し、受信先のカスタマーに関連する一意の名前を割り当てます。 テンプレート コンフィギュレーション モードを開始します。 <b>Note</b> ステップ 5、6、および 7 はオプションです。カスタマー アプリケーション 要件に適した <b>multilink</b> 、 <b>peer</b> 、および <b>ppp</b> キーワードを入力します。
ステップ 5	<b>peer default ip address pool pool-name</b> <b>Example:</b> Router(config-template)# peer default ip address pool v2_44_com_pool	(任意) このテンプレートの添付先のカスタマー プロファイルが、指定した名前のローカル IP アドレス プールを使用するように指定します。
ステップ 6	<b>ppp authentication {protocol1 [protocol2...]} [if-needed] [list-name   default] [callin] [one-time]</b> <b>Example:</b> Router(config-template)# ppp authentication chap	(任意) PPP リンク 認証方式を設定します。
ステップ 7	<b>ppp authorization [default   list-name]</b> <b>Example:</b>	(任意) PPP リンク 認可方式を設定します。

	Command or Action	Purpose
	Router(config-template)# ppp authorization v2_44_com	
ステップ 8	<b>aaa accounting</b> {auth-proxy   system   network   exec   connection   commands level} {default   list-name} [vrf vrf-name] {start-stop   stop-only   none} [broadcast] group groupname <b>Example:</b> Router(config-template)# aaa accounting v2_44_com	(任意) 指定したカスタマープロファイルで、AAA 動作パラメータをイネーブルにします。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-template)# exit	テンプレート コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## リモート カスタマー テンプレートを使用した Per VRF AAA の設定

### AAA の設定

「Per VRF AAA の設定」で説明する作業を実行します。

### サーバグループの設定

「サーバグループの設定」で説明する作業を実行します。

### リモート カスタマー プロファイルを使用した Per VRF AAA の認証の設定

リモートカスタマープロファイルを使用した Per VRF AAA の認証を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa authentication ppp** {default | list-name} method1 [method2...]
4. **aaa authorization** {network | exec | commands level | reverse-access | configuration} {default | list-name} [[method1 [method2...]]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa authentication ppp {default   list-name} method1 [method2...]</b> <b>Example:</b> Router(config)# ppp authentication ppp default group radius	PPP を実行するシリアルインターフェイス上で使用する 1 つ以上の認証、許可、アカウントिंग (AAA) 認証方式を指定します。
ステップ 4	<b>aaa authorization {network   exec   commands level   reverse-access   configuration} {default   list-name} [[method1 [method2...]]</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa authorization network default group sp	ネットワークへのユーザアクセスを制限するパラメータを設定します。

## リモートカスタマープロファイルを使用した Per VRF AAA の認可の設定

リモートカスタマープロファイルを使用した Per VRF AAA の認可を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa authorization template**
4. **aaa authorization {network | exec | commands level | reverse-access | configuration} {default | list-name} [[method1 [method2...]]**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa authorization template</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa authorization template	ローカルまたはリモート テンプレートの使用をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>aaa authorization {network   exec   commands level   reverse-access   configuration} {default   list-name} [[method1 [method2...]]</b> <b>Example:</b> Router(config)# aaa authorization network default sp	認可のデフォルト方式として指定されたサーバグループを指定します。

## SP RADIUS サーバ上の RADIUS プロファイルの設定

サービスプロバイダー (SP) RADIUS サーバ上で RADIUS プロファイルを設定します。RADIUS プロファイルを更新する方法の例については、「リモート RADIUS カスタマー テンプレートを使用した Per VRF AAA の例」を参照してください。

## VRF ルーティングの設定確認

VRF のルーティング設定を確認するには、次の手順を実行する必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **show ip route vrf vrf-name**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>show ip route vrf vrf-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# show ip route vrf northvrf	VRF に関連付けられた IP ルーティング テーブルを表示します。

## Per VRF AAA 設定のトラブルシューティング

Per VRF AAA 機能の問題を解決するには、EXEC モードで次のコマンドを少なくとも 1 つ使用します。

コマンド	目的
Router# <b>debug aaa accounting</b>	説明の義務があるイベントが発生したときに、その情報を表示します。
Router# <b>debug aaa authentication</b>	AAA 認証に関する情報を表示します。
Router# <b>debug aaa authorization</b>	AAA 認可に関する情報を表示します。
Router# <b>debug ppp negotiation</b>	PPP を実装するインターネットワークでのトラフィックおよび交換に関する情報を表示します。
Router# <b>debug radius</b>	RADIUS 関連の情報を表示します。
Router# <b>debug vpdn event</b>	VPN の通常のトンネルの確立、またはシャットダウンの一部であるレイヤ 2 プロトコル (L2TP) のエラーおよびイベントを表示します。

コマンド	目的
Router# <b>debug vpdn error</b>	VPN のデバッグ トレースを表示します。

## Per VRF AAA の設定例

### Per VRF の設定の例

#### Per VRF AAA の例

次に、関連付けられたプライベート サーバで AAA サーバグループを使用して Per VRF AAA 機能を設定する方法の例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp method_list_v1.55.com group v1.55.com
aaa authorization network method_list_v1.55.com group v1.55.com
aaa accounting network method_list_v1.55.com start-stop group v1.55.com
aaa accounting system default vrf v1.55.com start-stop group v1.55.com
aaa accounting delay-start vrf v1.55.com
aaa accounting send stop-record authentication failure vrf v1.55.com
aaa group server radius v1.55.com
    server-private 10.10.132.4 auth-port 1645 acct-port 1646 key ww
    ip vrf forwarding v1.55.com
ip radius source-interface loopback55
radius-server attribute 44 include-in-access-req vrf v1.55.com
```

#### ローカルで定義されたカスタマー テンプレートを使用した Per VRF AAA の例

次に、関連付けられたプライベートサーバのある AAA サーバグループで、ローカルで定義されたカスタマー テンプレートを使用して Per VRF AAA 機能を設定する方法の例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp method_list_v1.55.com group v1.55.com
aaa authorization network method_list_v1.55.com group v1.55.com
aaa authorization network default local
aaa authorization template
aaa accounting network method_list_v1.55.com start-stop group v1.55.com
aaa accounting system default vrf v1.55.com start-stop group v1.55.com
aaa group server radius V1_55_com
    server-private 10.10.132.4 auth-port 1645 acct-port 1646 key ww
    ip vrf forwarding V1.55.com
template V1.55.com
    peer default ip address pool V1_55_com_pool
    ppp authentication chap callin V1_55_com
    ppp authorization V1_55_com
    ppp accounting V1_55_com
    aaa accounting delay-start
    aaa accounting send stop-record authentication failure
    radius-server attribute 44 include-in-access-req
    ip vrf forwarding v1.55.com
    ip radius source-interface Loopback55
```



## リモート RADIUS カスタマー テンプレートをを使用した Per VRF AAA の例

次に、関連付けられたプライベート サーバのある AAA サーバグループで、SP RADIUS サーバ上にリモートで定義したカスタマー テンプレートをを使用して Per VRF AAA 機能を設定する方法の例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization template
aaa authorization network default group sp
aaa group server radius sp
    server 10.3.3.3
radius-server host 10.3.3.3 auth-port 1645 acct-port 1646 key sp_key
```

次の RADIUS サーバ プロファイルは、SP RADIUS サーバ上で設定されます。

```
cisco-avpair = "aaa:rad-serv#1=10.10.132.4 key ww"
cisco-avpair = "aaa:rad-serv-vrf#1=V1.55.com"
cisco-avpair = "aaa:rad-serv-source-if#1=Loopback 55"
cisco-avpair = "template:ppp-authen-list=group 1"
cisco-avpair = "template:ppp-author-list=group 1"
cisco-avpair = "template:ppp-acct-list= start-stop group 1"
cisco-avpair = "template:account-delay=on"
cisco-avpair = "template:account-send-stop=on"
cisco-avpair = "template:rad-attr44=access-req"
cisco-avpair = "template:peer-ip-pool=V1.55-pool"
cisco-avpair = "template:ip-vrf=V1.55.com"
cisco-avpair = "template:ip-unnumbered=Loopback 55"
framed-protocol = ppp
service-type = framed
```

## カスタマー テンプレートの例

### RADIUS Attribute Screening およびブロードキャスト アカウンティングを使用してローカルで設定されたカスタマー テンプレートの例

次に、RADIUS Attribute Screening およびブロードキャスト アカウンティングを含む追加機能を設定する、単一のカスタマー向けにローカルで設定されたテンプレートを作成する方法の例を示します。

```
aaa authentication ppp default local group radius
aaa authentication ppp V1_55_com group V1_55_com
aaa authorization template
aaa authorization network default local group radius
aaa authorization network V1_55_com group V1_55_com
aaa accounting network V1_55_com start-stop broadcast group V1_55_com group SP_AAA_server
aaa group server radius SP_AAA_server
    server 10.10.100.7 auth-port 1645 acct-port 1646
aaa group server radius V1_55_com
    server-private 10.10.132.4 auth-port 1645 acct-port 1646
    authorization accept min-author
    accounting accept usage-only
ip vrf forwarding V1.55.com
ip vrf V1.55.com
rd 1:55
route-target export 1:55
```

```

route-target import 1:55
template V1.55.com
peer default ip address pool V1.55-pool
ppp authentication chap callin V1_55_com
ppp authorization V1_55_com
ppp accounting V1_55_com
aaa accounting delay-start
aaa accounting send stop-record authentication failure
radius-server attribute 44 include-in-access-req
vpdn-group V1.55
accept-dialin
  protocol l2tp
  virtual-template 13
terminate-from hostname lac-lb-V1.55
source-ip 10.10.104.12
lcp renegotiation always
l2tp tunnel password 7 060506324F41
interface Virtual-Template13
ip vrf forwarding V1.55.com
ip unnumbered Loopback55
ppp authentication chap callin
ppp multilink
ip local pool V1.55-pool 10.1.55.10 10.1.55.19 group V1.55-group
ip radius source-interface Loopback0
ip radius source-interface Loopback55 vrf V1.55.com
radius-server attribute list min-author
  attribute 6-7,22,27-28,242
radius-server attribute list usage-only
  attribute 1,40,42-43,46
radius-server host 10.10.100.7 auth-port 1645 acct-port 1646 key ww
radius-server host 10.10.132.4 auth-port 1645 acct-port 1646 key ww

```

## RADIUS Attribute Screening およびブロードキャストアカウントングを使用してリモートで設定されたカスタマーテンプレートの例

次に、RADIUS Attribute Screening およびブロードキャストアカウントングを含む追加機能を設定する、単一のカスタマー向けにリモートで設定されたテンプレートを作成する方法の例を示します。

```

aaa authentication ppp default local group radius
aaa authorization template
aaa authorization network default local group radius
ip vrf V1.55.com
  rd 1:55
  route-target export 1:55
  route-target import 1:55
vpdn-group V1.55
accept-dialin
  protocol l2tp
  virtual-template 13
terminate-from hostname lac-lb-V1.55
source-ip 10.10.104.12
lcp renegotiation always
l2tp tunnel password 7 060506324F41
interface Virtual-Template13
no ip address
ppp authentication chap callin
ppp multilink
ip local pool V1.55-pool 10.1.55.10 10.1.55.19 group V1.55-group
radius-server attribute list min-author
  attribute 6-7,22,27-28,242

```

```
radius-server attribute list usage-only
attribute 1,40,42-43,46
```

カスタマーテンプレートは、v1.55.com の RADIUS サーバプロファイルとして保存されます。

```
cisco-avpair = "aaa:rad-serv#1=10.10.132.4 key ww"
cisco-avpair = "aaa:rad-serv-vrf#1=V1.55.com"
cisco-avpair = "aaa:rad-serv-source-if#1=Loopback 55"
cisco-avpair = "aaa:rad-serv#2=10.10.100.7 key ww"
cisco-avpair = "aaa:rad-serv-source-if#2=Loopback 0"
cisco-avpair = "template:ppp-authen-list=group 1"
cisco-avpair = "template:ppp-author-list=group 1"
cisco-avpair = "template:ppp-acct-list= start-stop group 1 group 2 broadcast"
cisco-avpair = "template:account-delay=on"
cisco-avpair = "template:account-send-stop=on"
cisco-avpair = "template:rad-attr44=access-req"
cisco-avpair = "aaa:rad-serv-filter#1=authorization accept min-author"
cisco-avpair = "aaa:rad-serv-filter#1=accounting accept usage-only"
cisco-avpair = "template:peer-ip-pool=V1.55-pool"
cisco-avpair = "template:ip-vrf=V1.55.com"
cisco-avpair = "template:ip-unnumbered=Loopback 55"
framed-protocol = ppp
service-type = framed
```

## AAA アカウンティング終了レコードの例

次に、**start-stop** または **stop-only** キーワードを指定して **aaa accounting** コマンドを発行したときに、「終了」レコードの生成を制御する **aaa accounting send stop-record authentication** コマンドを設定する方法を示す、AAA アカウンティング終了レコードの例を示します。



**Note** **success** および **remote-server** キーワードは、Cisco IOS XE Release 2.4 以降のリリースで使用できます。

## AAA アカウンティング終了レコードと拒否されたコールの例

次に、**aaa accounting send stop-record authentication** コマンドを **success** キーワードを指定して発行した場合に、認証中に拒否されたコールに関する「終了」レコードが送信されている例を示します。

```
Router# show running-config | include aaa
.
.
.
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default local
aaa accounting send stop-record authentication success remote-server
aaa accounting network default start-stop group radius
Router#
*Jul 7 03:39:40.199: AAA/BIND(00000026): Bind i/f Virtual-Template2
*Jul 7 03:39:40.199: ppp21 AAA/AUTHOR/LCP: Authorization succeeds trivially
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS/ENCODE(00000026):Orig. component type = PPOE
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: AAA Unsupported [156] 7
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: 30 2F 30 2F
```

## AAA アカウンティング終了レコードと拒否されたコールの例

```

30                                     [0/0/0]
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS(00000026): Config NAS IP: 10.0.0.0
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS/ENCODE(00000026): acct_session_id: 55
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS(00000026): sending
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.123 for
Radius-Server 172.19.192.238
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS(00000026): Send Access-Request to
172.19.192.238:2195 id 1645/14, len 94
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: authenticator A6 D1 6B A4 76 9D 52 CF - 33 5D
16 BE AC 7E 5F A6
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6
PPP [1]
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: User-Name [1] 16 "user@example.com"
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: CHAP-Password [3] 19 *
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: NAS-Port-Type [61] 6
Virtual [5]
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: NAS-Port [5] 6
0
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: NAS-Port-Id [87] 9 "0/0/0/0"
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: Service-Type [6] 6
Framed [2]
*Jul 7 03:39:42.199: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6
10.0.1.123
*Jul 7 03:39:42.271: RADIUS: Received from id 1645/14 172.19.192.238:2195,
Access-Accept, len 194
*Jul 7 03:39:42.271: RADIUS: authenticator 30 AD FF 8E 59 0C E4 6C - BA 11
23 63 81 DE 6F D7
*Jul 7 03:39:42.271: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6
PPP [1]
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Service-Type [6] 6
Framed [2]
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 26
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Cisco AVpair [1] 20 "vpdn:tunnel-
id=lac"
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 29
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Cisco AVpair [1] 23 "vpdn:tunnel-
type=l2tp"
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 30
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Cisco AVpair [1] 24 "vpdn:gw-
password=cisco"
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 31
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Cisco AVpair [1] 25 "vpdn:nas-
password=cisco"
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 34
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Cisco AVpair [1] 28 "vpdn:ip-
addresses=10.0.0.2"
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Service-Type [6] 6
Framed [2]
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6
PPP [1]
*Jul 7 03:39:42.275: RADIUS(00000026): Received from id 1645/14
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: Framed-Protocol
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: service-type
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: tunnel-id
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: tunnel-type
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: gw-password
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: nas-password
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: ip-addresses
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: service-type
*Jul 7 03:39:42.275: ppp21 PPP/AAA: Check Attr: Framed-Protocol
*Jul 7 03:39:42.279: AAA/BIND(00000027): Bind i/f
*Jul 7 03:39:42.279: Tnl 21407 L2TP: O SCCRQ
*Jul 7 03:39:42.279: Tnl 21407 L2TP: O SCCRQ, flg TLS, ver 2, len 134, tnl
0, ns 0, nr 0

```

```

C8 02 00 86 00 00 00 00 00 00 00 80 08 00 00
00 00 00 01 80 08 00 00 00 02 01 00 00 08 00 00
00 06 11 30 80 09 00 00 00 07 6C 61 63 00 19 00
00 00 08 43 69 73 63 6F 20 53 79 73 74 65 6D 73
2C 20 49 6E 63 2E 80 ...
*Jul 7 03:39:49.279: Tnl 21407 L2TP: O StopCCN
*Jul 7 03:39:49.279: Tnl 21407 L2TP: O StopCCN, flg TLS, ver 2, len 66, tnl
0, ns 1, nr 0
C8 02 00 42 00 00 00 00 01 00 00 80 08 00 00
00 00 00 04 80 1E 00 00 01 00 02 00 06 54 6F
6F 20 6D 61 6E 79 20 72 65 74 72 61 6E 73 6D 69
74 73 00 08 00 09 00 69 00 01 80 08 00 00 00 09
53 9F
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS/ENCODE(00000026):Orig. component type = PPoE
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS(00000026): Config NAS IP: 10.0.0.0
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS(00000026): sending
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.123 for
Radius-Server 172.19.192.238
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS(00000026): Send Accounting-Request to
172.19.192.238:2196 id 1646/32, len 179
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS: authenticator 0A 85 2F F0 65 6F 25 E1 - 97 54
CC BF EA F7 62 89
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS: Acct-Session-Id [44] 10 "00000037"
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6
PPP [1]
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS: Tunnel-Medium-Type [65] 6
00:IPv4 [1]
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS: Tunnel-Client-Endpoi[66] 10 "10.0.0.1"
*Jul 7 03:39:49.279: RADIUS: Tunnel-Server-Endpoi[67] 10 "10.0.0.2"
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Tunnel-Type [64] 6
00:L2TP [3]
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Tunnel-Connecti[68] 3 "0"
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Tunnel-Client-Auth-I[90] 5 "lac"
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: User-Name [1] 16 "user@example.com"
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Authentic [45] 6
RADIUS [1]
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Session-Time [46] 6
0
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Input-Octets [42] 6
0
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Output-Octets [43] 6
0
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Input-Packets [47] 6
0
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Output-Packets [48] 6
0
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Terminate-Cause[49] 6 nas-
error [9]
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Status-Type [40] 6
Stop [2]
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: NAS-Port-Type [61] 6
Virtual [5]
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: NAS-Port [5] 6
0
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: NAS-Port-Id [87] 9 "0/0/0/0"
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Service-Type [6] 6
Framed [2]
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6
10.0.1.123
*Jul 7 03:39:49.283: RADIUS: Acct-Delay-Time [41] 6
0
*Jul 7 03:39:49.335: RADIUS: Received from id 1646/32 172.19.192.238:2196,
Accounting-response, len 20

```

```
*Jul 7 03:39:49.335: RADIUS: authenticator C8 C4 61 AF 4D 9F 78 07 - 94 2B
44 44 17 56 EC 03
```

## AAA アカウンティング終了レコードと成功したコールの例

次に、`aaa accounting send stop-record authentication` コマンドを `failure` キーワードを指定して発行した場合に、成功したコールに関する「開始」および「終了」レコードが送信されている例を示します。

```
Router# show running-config | include aaa
.
.
.
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default local
aaa accounting send stop-record authentication failure
aaa accounting network default start-stop group radius
.
.
.
*Jul 7 03:28:31.543: AAA/BIND(00000018): Bind i/f Virtual-Template2
*Jul 7 03:28:31.547: ppp14 AAA/AUTHOR/LCP: Authorization succeeds trivially
*Jul 7 03:28:33.555: AAA/AUTHOR (0x18): Pick method list 'default'
*Jul 7 03:28:33.555: AAA/BIND(00000019): Bind i/f
*Jul 7 03:28:33.555: Tnl 5192 L2TP: O SCCRQ
*Jul 7 03:28:33.555: Tnl 5192 L2TP: O SCCRQ, flg TLS, ver 2, len 141, tnl 0,
ns 0, nr 0
      C8 02 00 8D 00 00 00 00 00 00 00 00 80 08 00 00
      00 00 00 01 80 08 00 00 00 02 01 00 00 08 00 00
      00 06 11 30 80 10 00 00 00 07 4C 41 43 2D 74 75
      6E 6E 65 6C 00 19 00 00 00 08 43 69 73 63 6F 20
      53 79 73 74 65 6D 73 ...
*Jul 7 03:28:33.563: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 0, len 8, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.563: Tnl 5192 L2TP: Parse SCCRQ
*Jul 7 03:28:33.563: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 2, len 8, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.563: Tnl 5192 L2TP: Protocol Ver 256
*Jul 7 03:28:33.563: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 3, len 10, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.563: Tnl 5192 L2TP: Framing Cap 0x0
*Jul 7 03:28:33.563: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 4, len 10, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Bearer Cap 0x0
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 6, len 8, flag 0x0
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Firmware Ver 0x1120
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 7, len 16, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Hostname LNS-tunnel
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 8, len 25, flag 0x0
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Vendor Name Cisco Systems, Inc.
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 9, len 8, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Assigned Tunnel ID 6897
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 10, len 8, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Rx Window Size 20050
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 11, len 22, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Chlng
      81 13 03 F6 A8 E4 1D DD 25 18 25 6E 67 8C 7C 39
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Parse AVP 13, len 22, flag 0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.567: Tnl 5192 L2TP: Chlng Resp
      4D 52 91 DC 1A 43 B3 31 B4 F5 B8 E1 88 22 4F 41
*Jul 7 03:28:33.571: Tnl 5192 L2TP: No missing AVPs in SCCRQ
*Jul 7 03:28:33.571: Tnl 5192 L2TP: I SCCRQ, flg TLS, ver 2, len 157, tnl
5192, ns 0, nr 1
contiguous pak, size 157
```

```

C8 02 00 9D 14 48 00 00 00 00 01 80 08 00 00
00 00 00 02 80 08 00 00 02 01 00 80 0A 00 00
00 03 00 00 00 00 80 0A 00 00 04 00 00 00 00
00 08 00 00 00 06 11 20 80 10 00 00 00 07 4C 4E
53 2D 74 75 6E 6E 65 6C ...
*Jul 7 03:28:33.571: Tnl 5192 L2TP: I SCCRP from LNS-tunnel
*Jul 7 03:28:33.571: Tnl 5192 L2TP: O SCCCN to LNS-tunnel tnlid 6897
*Jul 7 03:28:33.571: Tnl 5192 L2TP: O SCCCN, flg TLS, ver 2, len 42, tnl
6897, ns 1, nr 1
C8 02 00 2A 1A F1 00 00 01 00 01 80 08 00 00
00 00 00 03 80 16 00 00 0D 32 24 17 BC 6A 19
B1 79 F3 F9 A9 D4 67 7D 9A DB
*Jul 7 03:28:33.571: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: O ICRQ to LNS-tunnel 6897/0
*Jul 7 03:28:33.571: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: O ICRQ, flg TLS, ver 2, len
63, tnl 6897, lsid 11, rsid 0, ns 2, nr 1
C8 02 00 3F 1A F1 00 00 02 00 01 80 08 00 00
00 00 00 0A 80 0A 00 00 0F C8 14 B4 03 80 08
00 00 00 0E 00 0B 80 0A 00 00 12 00 00 00 00
00 0F 00 09 00 64 0F 10 09 02 02 00 1B 00 00
*Jul 7 03:28:33.575: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: Parse AVP 0, len 8, flag
0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.575: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: Parse ICRP
*Jul 7 03:28:33.575: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: Parse AVP 14, len 8, flag
0x8000 (M)
*Jul 7 03:28:33.575: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: Assigned Call ID 5
*Jul 7 03:28:33.575: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: No missing AVPs in ICRP
*Jul 7 03:28:33.575: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: I ICRP, flg TLS, ver 2, len
28, tnl 5192, lsid 11, rsid 0, ns 1, nr 3
contiguous pak, size 28
C8 02 00 1C 14 48 00 0B 00 01 00 03 80 08 00 00
00 00 00 0B 80 08 00 00 0E 00 05
*Jul 7 03:28:33.579: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: O ICCN to LNS-tunnel 6897/5
*Jul 7 03:28:33.579: uid:14 Tnl/Sn 5192/11 L2TP: O ICCN, flg TLS, ver 2, len
167, tnl 6897, lsid 11, rsid 5, ns 3, nr 2
C8 02 00 A7 1A F1 00 05 00 03 00 02 80 08 00 00
00 00 00 0C 80 0A 00 00 18 06 1A 80 00 00 0A
00 00 00 26 06 1A 80 00 80 0A 00 00 13 00 00
00 01 00 15 00 00 1B 01 04 05 D4 03 05 C2 23
05 05 06 0A 0B E2 7A ...
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS/ENCODE(00000018):Orig. component type = PPoE
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS(00000018): Config NAS IP: 10.0.0.0
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS(00000018): sending
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.123 for
Radius-Server 172.19.192.238
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS(00000018): Send Accounting-Request to
172.19.192.238:2196 id 1646/23, len 176
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS: authenticator 3C 81 D6 C5 2B 6D 21 8E - 19 FF
43 B5 41 86 A8 A5
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS: Acct-Session-Id [44] 10 "00000023"
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6
PPP [1]
*Jul 7 03:28:33.579: RADIUS: Tunnel-Medium-Type [65] 6
00:IPv4 [1]
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Tunnel-Client-Endpoi[66] 10 "10.0.0.1"
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Tunnel-Server-Endpoi[67] 10 "10.0.0.2"
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Tunnel-Assignment-Id[82] 5 "lac"
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Tunnel-Type [64] 6
00:L2TP [3]
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Acct-Tunnel-Connecti[68] 12 "3356800003"
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Tunnel-Client-Auth-I[90] 12 "LAC-tunnel"
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Tunnel-Server-Auth-I[91] 12 "LNS-tunnel"
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: User-Name [1] 16 "user@example.com"
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Acct-Authentic [45] 6
Local [2]

```

```

*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Acct-Status-Type [40] 6
Start [1]
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: NAS-Port-Type [61] 6
Virtual [5]
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: NAS-Port [5] 6
0
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: NAS-Port-Id [87] 9 "0/0/0/0"
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Service-Type [6] 6
Framed [2]
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6
10.0.1.123
*Jul 7 03:28:33.583: RADIUS: Acct-Delay-Time [41] 6
0
*Jul 7 03:28:33.683: RADIUS: Received from id 1646/23 172.19.192.238:2196,
Accounting-response, len 20
*Jul 7 03:28:33.683: RADIUS: authenticator 1C E9 53 42 A2 8A 58 9A - C3 CC
1D 79 9F A4 6F 3A

```

## その他の参考資料

ここでは、Per VRF AAA に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
サーバグループの設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』の「Configuring RADIUS」の章
RADIUS 属性スクリーニング	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』の「RADIUS Attribute Value Screening」の章
ブロードキャストアカウントिंगの設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』の「Configuring Accounting」の章
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
Cisco IOS Switching Services コマンド	『Cisco IOS IP Switching Command Reference』
マルチプロトコルラベルスイッチングの設定	『Cisco IOS XE Multiprotocol Label Switching Configuration Guide, Release 2』
仮想テンプレートの設定	『Cisco IOS XE Dial Technologies Configuration Guide, Release 2』の「Virtual Templates and Profiles」



## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能でサポートが追加または変更された RFC はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## Per VRF AAA の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 30: Per VRF AAA の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Per VRF AAA	Cisco IOS XE Release 2.1	Per VRF AAA 機能により、バーチャルプライベートネットワーク (VPN) ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに基づいた、認証、許可、アカウントिंग (AAA) が行えます。  Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa accounting</b> , <b>aaa accounting delay-start</b> , <b>ip radius source-interface</b> , <b>server-private (RADIUS)</b> , <b>ip vrf forwarding (server-group)</b> , <b>radius-server domain-stripping</b> , <b>aaa authorization template</b> 。
RADIUS Per-VRF サーバグループ	Cisco IOS XE Release 2.1	RADIUS Per-VRF サーバグループ機能を使用して、インターネットサービスプロバイダー (ISP) は、Virtual Route Forwarding (VRF) に基づいて RADIUS サーバグループを分割できます。つまり、VRF に属する RADIUS サーバグループを定義することができます。この機能は、「aaa: rad-serv-vrf」の VSA によってサポートされています。  Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ip vrf forwarding</b> 。
Attribute Filtering Per-Domain and VRF Aware Framed-Routes	Cisco IOS XE Release 2.3	Attribute Filtering Per-Domain and VRF Aware Framed-Routes 機能により、ドメイン単位の属性フィルタリングおよび VRF 認識 Framed-Route が可能です。これにより「aaa:rad-serv-filter」の VSA のサポートが追加されます。  Cisco IOS XE Release 2.3 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。

機能名	リリース	機能情報
AAA CLI レコード停止機能拡張	Cisco IOS XE Release 2.4	AAA CLI レコード停止機能拡張機能により、AAA サーバから Access Accept を受信する場合にのみアカウントング終了レコードが送信されます。  Cisco IOS XE Release 2.4 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa accounting send stop-record authentication</b> 。
Dynamic Per VRF AAA	Cisco IOS XE Release 2.4	Dynamic Per VRF AAA 機能により、ローカルまたはリモートで保存したカスタマーテンプレートを使用し、カスタマーテンプレートに保存された情報に基づいて、AAA サービスを実行できます。  Cisco IOS XE Release 2.4 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。

## 用語集

**AAA** : 認証、許可、アカウントング。セキュリティサービスのフレームワークであり、ユーザの身元確認 (認証)、リモートアクセスコントロール (許可)、課金、監査、およびレポートに使用するセキュリティサーバ情報の収集と送信 (アカウントング) の方式を定めています。

**L2TP** : Layer 2 Tunnel Protocol。レイヤ 2 トンネルプロトコルを使用すると、ISP などのアクセス サービスが仮想トンネルを作成し、顧客のリモートサイトやリモートユーザを企業のホームネットワークにリンクさせることができます。具体的には、ISP アクセスポイント (POP) にあるネットワークアクセスサーバ (NAS) がリモートユーザと PPP メッセージを交換し、L2F または L2TP の要求や応答を使用して顧客のトンネルサーバと通信し、トンネルのセットアップを行います。

**PE** : プロバイダーエッジ。サービスプロバイダーネットワークのエッジ上のネットワークングデバイス。

**RADIUS** : リモート認証ダイヤルインユーザサービス。RADIUS は、不正なアクセスからネットワークのセキュリティを保護する分散クライアント/サーバシステムです。シスコの実装では RADIUS クライアントは Cisco ルータ上で稼働します。認証要求は、すべてのユーザ認証情報とネットワークサービスアクセス情報が格納されている中央の RADIUS サーバに送信されます。

**VPN** : Virtual Private Network (仮想プライベートネットワーク)。リモートでダイヤルインネットワークをホームネットワークに存在させ、あたかも直接接続されているかのように見せるシステム。VPN は、L2TP および L2F を使用し、LAC ではなく、LNS でレイヤ 2 およびより高次のネットワーク接続を終了させます。

**VRF** : Virtual Route Forwarding (仮想ルーティングおよびフォワーディング)。最初は、ルータにグローバルのデフォルト ルーティング/フォワーディング テーブルは1つしかありません。VRFは、複数の分離されたルーティング/フォワーディングテーブルとして表示でき、ユーザのルートには別のユーザのルートとの相互関係はありません。



## CHAPTER 13

# AAA の IPv6 サポート

IPv6 用の認証、許可、アカウントिंग (AAA) サポートは RFC 3162 に準拠しています。このモジュールでは、IPv6 用の AAA オプションの設定方法を示します。

- [AAA の IPv6 サポートに関する情報, on page 221](#)
- [IPv6 用の AAA サポートの設定方法, on page 226](#)
- [AAA の IPv6 サポートの設定例, on page 227](#)
- [その他の参考資料, on page 228](#)
- [RADIUS over IPv6 の機能情報, on page 229](#)

## AAA の IPv6 サポートに関する情報

### AAA over IPv6

ベンダー固有属性 (VSA) を使用して、IPv6 を介して認証、許可、アカウントング (AAA) をサポートします。Cisco VSA は、`inacl`、`outacl`、`prefix`、および `route` です。

AAA プロトコルを使用して、プレフィックス プールおよびプール名を設定できます。お客様は、シスコ デバイスと通信するために IPv6 RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバを導入できます。

### IPv6 RADIUS 属性の AAA サポート

RFC 3162 で説明されているように、IPv6 では次の RADIUS 属性がサポートされます。

- Framed-Interface-Id
- Framed-IPv6-Pool
- Framed-IPv6-Prefix
- Framed-IPv6-Route
- Login-IPv6-Host

IPv6 では、次の RADIUS 属性がサポートされます。

**IPv6 の AAA 属性を使用するための前提条件**

- Delegated-IPv6-Prefix (RFC 4818)
- Delegated-IPv6-Prefix-Pool
- DNS-Server-IPv6-Address
- IPv6 ACL
- IPv6\_DNS\_Servers
- IPv6 Pool
- IPv6 Prefix#
- IPv6 Route

上記の属性は、RADIUS サーバで設定して、アクセスサーバにダウンロードして、ここでアクセス接続に適用できます。

**IPv6 の AAA 属性を使用するための前提条件**

IPv6 の AAA 属性は RFC 3162 に準拠しており、RFC 3162 をサポートできる RADIUS サーバを必要とします。

**IPv6 環境での仮想アクセス用の RADIUS ユーザ単位属性**

仮想アクセスでは次の IPv6 RADIUS 属性がサポートされ、属性と値 (AV) のペアとして使用できます。

- Delegated-IPv6-Prefix
- Delegated-IPv6-Prefix-Pool
- DNS-Server-IPv6-Address
- Framed-Interface-Id
- Framed-IPv6-Pool
- Framed-IPv6-Prefix
- Framed-IPv6-Route
- IPv6 ACL
- IPv6\_DNS\_Servers
- IPv6 Pool
- IPv6 Prefix#
- IPv6 Route
- Login-IPv6-Host

### Delegated-IPv6-Prefix

Delegated-IPv6-Prefix 属性は、ネットワークで使用されるユーザに委任される IPv6 プレフィックスを示します。この属性は、RADIUS サーバと委託デバイスの間の DHCP プレフィックス委任中に使用されます。DHCP バージョン 6 (DHCPv6) サーバをホストするネットワーク アクセス サーバ (NAS) は、委託デバイスとして動作できます。

次に、Delegated-IPv6-Prefix 属性を使用する例を示します。

```
ipv6:delegated-prefix=2001:DB8::/64
```



**Note** この属性では Cisco VSA 形式はサポートされません。この属性を Cisco VSA 形式でユーザ プロファイルに追加しようとすると、RADIUS サーバの応答に失敗します。この属性に使用するのは IETF 属性形式のみです。

### Delegated-IPv6-Prefix-Pool

Delegated-IPv6-Prefix-Pool 属性は、プレフィックスが選択され、デバイスに委任されるプレフィックス プールの名前を示します。

プレフィックス委任は IPv6 プレフィックスを委任するための DHCPv6 オプションです。プレフィックス委任には、プレフィックスを選択し、それを要求側のデバイスに一時的に割り当てる委託デバイスが関与します。委任デバイスは、プレフィックスを選択するために多くの戦略を使用します。1つの方法では、デバイス上でローカルに定義されている名前のプレフィックス プールからプレフィックスを選択します。

Delegated-IPv6-Prefix-Pool 属性は、割り当てられたプレフィックス プールの名前を示します。RADIUS サーバは、この属性を使用して、DHCPv6 サーバをホスティングして、委託デバイスとして動作する NAS にプレフィックス プールの名前を知らせます。

ネットワークで、DHCPv6 プレフィックス委任と ICMPv6 ステートレスアドレス自動設定を共に使用してもかまいません。この場合、Delegated-IPv6-Prefix-Pool 属性と Framed-IPv6-Pool 属性の両方を同じパケット内に含めることができます。曖昧さを回避するために、Delegated-IPv6-Prefix-Pool を DHCPv6 委任で使用されるプレフィックス プールの認可およびアカウントングに制限して、Framed-IPv6-Pool 属性を SLAAC で使用されるプレフィックス プールの認可およびアカウントングに使用する必要があります。

次に、アドレスプレフィックスが pool1 という名前のプールから選択される例を示します。プレフィックス プール pool1 は、Delegated-IPv6-Prefix-Pool 属性を使用して、RADIUS サーバから委託デバイスにダウンロードされます。次にデバイスは、このプレフィックス プールからアドレス プレフィックス 2001:DB8::/64 を選択します。

```
Cisco:Cisco-AVpair = "ipv6:delegated-ipv6-pool = pool1"
!
ipv6 dhcp pool pool1
address prefix 2001:DB8::/64
!
```

### DNS-Server-IPv6-Address

DNS-Server-IPv6-Address 属性は、ドメイン ネーム システム (DNS) サーバの IPv6 アドレスを示します。DHCPv6 サーバは、DNS サーバの IPv6 アドレスを持つホストを設定できます。DNS サーバの IPv6 アドレスを、ICMPv6 デバイスからルータ アドバタイズメント メッセージを使用してホストに伝送することもできます。

NAS は、ホストからの DHCPv6 要求を処理する DHCPv6 サーバをホストすることがあります。また NAS は、ルータ アドバタイズメント メッセージを提供するデバイスとして機能することもあります。したがって、この属性は DNS サーバの IPv6 アドレスを NAS に提供するために使用されます。

NAS がホストに複数の再帰 DNS サーバを通知する必要がある場合、この属性を NAS からホストに送信される Access-Accept パケットに複数回含めることができます。

次に、DNS-Server-IPv6-Address 属性を使用して DNS サーバの IPv6 アドレスを定義する例を示します。

```
Cisco: Cisco-AVpair = "ipv6:ipv6-dns-servers-addr=2001:DB8::"
```

### Framed-Interface-Id

Framed-Interface-Id 属性は、ユーザ用に設定する IPv6 インターフェイス ID を示します。

この属性は、Interface-Identifier オプションの IPv6 制御プロトコル (IPv6CP) ネゴシエーション中に使用されます。ネゴシエーションに成功すると、NAS はこの属性を使用して、推奨される IPv6 インターフェイス識別子を Access-Request パケットを使用して RADIUS サーバに知らせます。この属性は、Access-Accept パケットで使用されることもあります。

### Framed-IPv6-Pool

Framed-IPv6-Pool 属性は、ユーザに IPv6 プレフィックスを割り当てるために使用するプールの名前を示します。このプールは、デバイスでローカルに定義するか、プールをダウンロードできる RADIUS サーバで定義する必要があります。

### Framed-IPv6-Prefix

Framed-IPv6-Prefix 属性は、ユーザ用に設定する IPv6 プレフィックス (および対応するルート) を示します。そのため、この属性は Cisco VSA と同じ機能を実行し、仮想アクセスのみに使用されます。NAS はこの属性を使用して、推奨される IPv6 プレフィックスを Access-Request パケットを使用して RADIUS サーバに知らせます。この属性は Access-Accept で使用されることもあり、これらのパケットで複数回出現することがあります。NAS では、プレフィックスの対応ルートが作成されます。

この属性は、Neighbor Discovery Protocol のルータ アドバタイズメント メッセージでアドバタイズするプレフィックスを指定するために、ユーザによって使用されます。

この属性は DHCPv6 プレフィックス委任にも使用でき、RADIUS サーバのユーザ用には別のプロファイルを作成する必要があります。この別のプロファイルに関連付けられたユーザ名には、サフィックス「-dhcpv6」が付いています。



Framed-IPv6-Prefix 属性の処理は、この別のプロファイルとユーザの通常のプロファイルでは異なります。NAS がルータ アドバタイズメント メッセージを使用してプレフィックスを送信する必要がある場合、プレフィックスは、ユーザの通常のプロファイルの Framed-IPv6-Prefix 属性に配置されます。NAS がリモート ユーザのネットワークにプレフィックスを委任する必要がある場合、プレフィックスはユーザの別のプロファイルの Framed-IPv6-Prefix 属性に配置されます。



**Note** この属性では、RADIUS IETF 属性形式と Cisco VSA 形式がサポートされます。

### Framed-IPv6-Route

Framed-IPv6-Route 属性は、NAS のユーザ用に設定されるルーティング情報を示します。この属性は Cisco VSA と同じ機能を実行します。属性の値は文字列であり、**ipv6 route** コマンドを使用して指定します。

### IPv6 ACL

IPv6 ACL 属性は、完全な IPv6 アクセス リストを指定するために使用されます。アクセス リストの一意の名前が自動的に生成されます。アクセス リストは、各ユーザがログアウトしたときに削除されます。インターフェイス上の以前のアクセス リストが再適用されます。

inac1 属性と outac1 属性を使用すると、デバイスに特定の既存のアクセス リストを設定できます。次に、番号 1 で識別されるアクセス リストを定義する例を示します。

```
cisco-avpair = "ipv6:inac1#1=permit 2001:DB8:cc00:1::/48",  
cisco-avpair = "ipv6:outac1#1=deny 2001:DB8::/10",
```

### IPv6\_DNS\_Servers

IPv6\_DNS\_Servers 属性は、最大 2 つの DNS サーバアドレスを DHCPv6 サーバに送信するために使用されます。DNS サーバアドレスは、インターフェイス DHCPv6 サブブロックに保存され、DHCPv6 プールの他の設定よりも優先されます。この属性は、AAA の開始および終了通知に対して返される属性にも含まれます。

### IPv6 Pool

IPv6 Pool 属性は、RADIUS 認証の IPv6 プロトコルをサポートするために IPv4 アドレス プール属性を拡張します。この属性は、プレフィックスの選択元の NAS 上のローカルプールの名前を指定します。そして PPP を設定するときとプロトコルを IPv6 と指定するときに使用されます。アドレス プールはローカルプーリングで使用でき、NAS 上に事前に設定されたローカルプールの名前を指定します。

### IPv6 Prefix#

IPv6 Prefix# 属性は、Neighbor Discovery Protocol のルータ アドバタイズメント メッセージでアドバタイズするプレフィックスを示します。この属性が使用されている場合は、対応するルー

ト (ユーザ単位のスタティックルートとしてマークされています) が、特定のプレフィックスのルーティング情報ベース (RIB) テーブルにインストールされます。

次に、アドバタイズするプレフィックスを指定する例を示します。

```
cisco-avpair = "ipv6:prefix#1=2001:DB8::/64",
cisco-avpair = "ipv6:prefix#2=2001:DB8::/64",
```

### IPv6 Route

IPv6Route 属性は、ユーザ用のスタティックルートを指定するために使用されます。スタティックルートが適切なのは、シスコのソフトウェアが宛先へのルートを動的に作成できない場合です。スタティックルートの作成の詳細については、**ipv6 route** コマンドを参照してください。

次に、スタティックルートの定義で IPv6 route 属性を使用する例を示します。

```
cisco-avpair = "ipv6:route#1=2001:DB8:cc00:1::/48",
cisco-avpair = "ipv6:route#2=2001:DB8:cc00:2::/48",
```

### Login-IPv6-Host

Login-IPv6-Host 属性は、Login-Service 属性が含まれている場合のユーザの接続先のホストの IPv6 アドレスを示します。NAS は、あるホストの使用を推奨する RADIUS サーバとの通信のために、Access-Request パケット内の Login-IPv6-Host 属性を使用します。

## IPv6 用の AAA サポートの設定方法

### DHCPv6 AAA オプションの設定

次のタスクを実行して、AAA サーバからプレフィックスを取得するオプションを設定します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 dhcp pool** *pool-name*
4. **prefix-delegation aaa** [*method-list method-list*] [*lifetime*]
5. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。

	Command or Action	Purpose
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 dhcp pool pool-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 dhcp pool pool1	DHCPv6 設定情報プールを設定し、IPv6 DHCP プール コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>prefix-delegation aaa [method-list method-list] [lifetime]</b> <b>Example:</b> Device(config-dhcpv6)# prefix-delegation aaa method-list list1	プレフィックスを AAA サーバから取得することを指定します。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-dhcpv6)# end	IPv6 DHCP プール コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## AAA の IPv6 サポートの設定例

### 例 : DHCPv6 AAA オプションの設定

次に、AAA サーバからプレフィックスを取得する DHCPv6 オプションを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 dhcp pool pool1
Device(config-dhcpv6)# prefix-delegation aaa method-list list1
Device(config-dhcpv6)# end
```

### 例 : RADIUS の設定

次の RADIUS 設定例は、スタティック ルートを確立するための AV ペアの定義を示します。

```
campus1 Auth-Type = Local, Password = "mypassword"
User-Service-Type = Framed-User,
Framed-Protocol = PPP,
cisco-avpair = "ipv6:inacl#1=permit 2001:DB8:1::/64 any",
cisco-avpair = "ipv6:route=2001:DB8:2::/64",
cisco-avpair = "ipv6:route=2001:DB8:3::/64",
cisco-avpair = "ipv6:prefix=2001:DB8:2::/64 0 0 onlink autoconfig",
```

```
cisco-avpair = "ipv6:prefix=2001:DB8:3::/64 0 0 onlink autoconfig",
cisco-avpair = "ip:route=10.0.0.0 255.0.0.0",
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
<b>time-range</b> コマンドを使用した時間範囲の指定	『Cisco IOS XE Network Management Configuration Guide』の「Performing Basic System Management」章
ネットワーク管理コマンドの説明	『Cisco IOS Network Management Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

### RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS over IPv6 の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 31: RADIUS over IPv6 の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS over IPv6	15.1(1)SY	RFC 3162 に定義されている RADIUS 属性。





## CHAPTER 14

# TACACS+ over IPv6

IPv6 サーバは、TACACS+ と共に使用するよう設定できます。

- [TACACS+ over IPv6 に関する情報, on page 231](#)
- [TACACS+ over IPv6 の設定方法, on page 232](#)
- [TACACS+ over IPv6 の設定例, on page 235](#)
- [その他の参考資料, on page 235](#)
- [TACACS+ over IPv6 の機能情報, on page 237](#)

## TACACS+ over IPv6 に関する情報

Terminal Access Controller Access Control System (TACACS+) セキュリティプロトコルはユーザの検証を集中的に行います。TACACS+ サービスは、通常 UNIX または Windows NT ワークステーション上で稼働する TACACS+ デーモンのデータベースで管理されます。デバイスに設定した TACACS+ 機能を有効にするには、その前に、TACACS+ サーバにアクセスして TACACS+ サーバを設定する必要があります。

TACACS+ では、認証、許可、アカウンティングの各ファシリティを個別に提供します。TACACS+ を使用すると、単一のアクセスコントロールサーバー (TACACS+ デーモン) で、各サービス (認証、許可、アカウンティング) を個別に提供できます。各サービスは固有のデータベースにアソシエートされており、デーモンの機能に応じて、そのサーバーまたはネットワーク上で使用可能な他のサービスを利用できます。

## AAA over IPv6

ベンダー固有属性 (VSA) を使用して、IPv6 を介して認証、許可、アカウンティング (AAA) をサポートします。Cisco VSA は、`inACL`、`outACL`、`prefix`、および `route` です。

AAA プロトコルを使用して、プレフィックスプールおよびプール名を設定できます。お客様は、シスコデバイスと通信するために IPv6 RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバを導入できます。

## IPv6 トランスポートを介した TACACS+

IPv6 サーバは、TACACS+ を使用するよう設定できます。IPv4 または IPv6 アドレスの代わりに名前を使用して、TACACS+ を使用するよう IPv6 と IPv4 の両方のサーバを設定できます。

# TACACS+ over IPv6 の設定方法

## IPv6 を介した TACACS+ サーバの設定

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `tacacs server name`
4. `address ipv6 ipv6-address`
5. `key [0 | 7] key-string`
6. `port [number]`
7. `send-nat-address`
8. `single-connection`
9. `timeout seconds`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>tacacs server name</code> <b>Example:</b> Device(config)# tacacs server server1	IPv6 に対して TACACS+ サーバを設定して、TACACS+ サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>address ipv6 ipv6-address</code> <b>Example:</b>	TACACS+ サーバの IPv6 アドレスを設定します。



	Command or Action	Purpose
	Device(config-server-tacacs)# address ipv6 2001:DB8:3333:4::5	
ステップ 5	<b>key</b> [0   7] <i>key-string</i> <b>Example:</b> Device(config-server-tacacs)# key 0 key1	TACACS+ サーバでサーバ単位の暗号キーを設定します。
ステップ 6	<b>port</b> [ <i>number</i> ] <b>Example:</b> Device(config-server-tacacs)# port 12	TACACS+ 接続に使用する TCP ポートを指定します。
ステップ 7	<b>send-nat-address</b> <b>Example:</b> Device(config-server-tacacs)# send-nat-address	クライアントの NAT 後のアドレスを TACACS+ サーバに送信します。
ステップ 8	<b>single-connection</b> <b>Example:</b> Device(config-server-tacacs)# single-connection	単一の TCP 接続を使用してすべての TACACS パケットを同じサーバに送信できるようにします。
ステップ 9	<b>timeout</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> Device(config-server-tacacs)# timeout 10	指定された TACACS サーバからの応答を待機する時間を設定します。

## TACACS+ パケットでの送信元アドレスの指定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 tacacs source-interface** *type number*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	Router> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 tacacs source-interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Router(config)# ipv6 tacacs source-interface GigabitEthernet 0/0/0	TACACS+ パケットで送信元アドレスに使用するインターフェイスを指定します。

## TACACS+ サーバグループオプションの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa group server tacacs+** *group-name*
4. **server name** *server-name*
5. **server-private** {*ip-address* | *name* | *ipv6-address*} [**nat**] [**single-connection**] [**port** *port-number*] [**timeout** *seconds*] [**key** [**0** | **7**] *string*]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa group server tacacs+</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# aaa group server tacacs+ group1	各種の TACACS+ サーバホストを別個のリストと別個の方式にグループ化します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>server name</b> <i>server-name</i> <b>Example:</b> Device(config-sg-tacacs+)# server name server1	IPv6 TACACS+ サーバを指定します。
ステップ 5	<b>server-private</b> { <i>ip-address</i>   <i>name</i>   <i>ipv6-address</i> } [ <b>nat</b> ] [ <b>single-connection</b> ] [ <b>port</b> <i>port-number</i> ] [ <b>timeout</b> <i>seconds</i> ] [ <b>key</b> [ <b>0</b>   <b>7</b> ] <i>string</i> ] <b>Example:</b> Device(config-sg-tacacs+)# server-private 2001:DB8:3333:4::5 port 19 key key1	グループ サーバに対するプライベート TACACS+ サーバの IPv6 アドレスを設定します。

## TACACS+ over IPv6 の設定例

### 例：IPv6 を介した TACACS+ サーバの設定

```
Device# show tacacs
Tacacs+ Server:          server1
Server Address:         FE80::200:F8FF:FE21:67CF
Socket opens:           0
Socket closes:          0
Socket aborts:          0
Socket errors:          0
Socket Timeouts:        0
Failed Connect Attempts: 0
Total Packets Sent:     0
Total Packets Recv:     0
```

## その他の参考資料

ここでは、MSCHAP バージョン 2 の機能に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
PPP インターフェイスの設定	『Cisco IOS Dial Technologies Configuration Guide , Release 12.4T』の「PPP Configuration」
シスコのネットワーク装置の設定および管理に必要なタスクとコマンドの説明	『Cisco IOS Dial Technologies Command Reference』

関連項目	マニュアル タイトル
IOS セキュリティ コマンドの一覧	『Cisco IOS Security Command Reference』
AAA を使用した PPP 認証の設定	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 12.4T』の「Configuring Authentication」モジュールの「Configuring PPP Authentication Using AAA」
RADIUS 認証の設定	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 12.4T』の「Configuring RADIUS」モジュール

## 標準

標準	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 1661	ポイントツーポイントプロトコル (PPP)
RFC 2548	『Microsoft Vendor-specific RADIUS Attributes』
RFC 2759	『Microsoft PPP CHAP Extensions, Version 2』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## TACACS+ over IPv6 の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 32: TACACS+ over IPv6 の機能情報

機能名	リリース	機能情報
TACACS+ over IPv6	Cisco IOS XE Release 3.2S	<p>TACACS+ over IPv6 がサポートされます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa group server tacacs+</b>、 <b>address ipv6 (TACACS+)</b>、 <b>ipv6 tacacs source-interface</b>、 <b>key (TACACS+)</b>、 <b>port (TACACS+)</b>、 <b>send-nat-address</b>、 <b>server name (IPv6 TACACS+)</b>、 <b>server-private (TACACS+)</b>、 <b>single-connection</b>、 <b>tacacs server</b>、 <b>timeout (TACACS+)</b>。</p>



## CHAPTER 15

# AAA Dead-Server Detection

AAA Dead-Server Detection 機能を使用すると、RADIUS サーバーをデッド状態と指定するための条件を設定できます。条件が明示的に設定されていない場合は、条件は未処理のトランザクションの数に基づいて動的に計算されます。この機能を使用すると、デッドタイムが短くなり、パケット処理が高速になります。

- [AAA Dead-Server Detection の前提条件, on page 239](#)
- [AAA Dead-Server Detection の制約事項, on page 239](#)
- [AAA Dead-Server Detection について, on page 240](#)
- [AAA Dead-Server Detection の設定方法, on page 240](#)
- [AAA Dead-Server Detection の設定例, on page 242](#)
- [その他の参考資料, on page 243](#)
- [AAA Dead-Server Detection の機能情報, on page 245](#)

## AAA Dead-Server Detection の前提条件

- RADIUS サーバーにアクセスできる必要があります。
- RADIUS サーバーの設定方法を十分理解していることが必要です。
- 認証、許可、アカウンティング（AAA）の設定方法を十分理解していることが必要です。
- あるサーバーをデッド状態と指定するためには、まず **radius-server deadtime** コマンドを設定する必要があります。このコマンドを設定していない場合は、サーバをデッド状態と指定するための条件に適合していても、サーバは「アップ」状態になります。

## AAA Dead-Server Detection の制約事項

- サーバがデッド状態と指定されるまでにルータで発生する必要がある連続タイムアウト回数には、最初の転送は含まれません。つまり、再転送の回数のみがカウントされます。

# AAA Dead-Server Detection について

## RADIUS サーバーをデッド状態と指定するための条件

AAA Dead-Server Detection 機能を使用すると、RADIUS サーバをデッド状態と指定するための条件を決定できます。つまり、ルータがRADIUSサーバから有効なパケットを最後に受け取ってからRADIUSサーバがデッド状態と指定されるまでに経過する必要がある最低時間を秒単位で設定することができます。ルータの起動後にパケットを受信せずにタイムアウトになった場合は、この時間の条件は満たされたものとして処理されます。

さらに、RADIUS サーバーがデッド状態と指定されるまでにルータで発生する必要がある連続タイムアウト回数を設定することもできます。サーバーが認証とアカウントングの両方を実行する場合、両方の種類のパケットがこの回数に含まれます。正しく作成されていないパケットは、タイムアウトになっているものとしてカウントされます。カウントされるのは再転送だけで、最初の転送はカウントされません。(タイムアウトになるたびに再転送が1回行われることとなります)。



**Note** 時間の条件と試行回数の条件の両方を満たしていないと、サーバーはデッド状態と指定されません。

RADIUS Dead-Server Detection を設定すると、応答を停止している RADIUS サーバーが即時検出されます。また、サーバが「動きが鈍い」(応答が遅い)状態になっているときに誤ってデッド状態と指定されなくなるほか、デッド状態からライブ状態になってすぐにまたデッド状態になる現象を回避できます。この未応答 RADIUS サーバの即時検出、動きが鈍いサーバの誤検出の回避、デッド状態とライブ状態を繰り返す現象の回避が有効になると、デッドタイムが短くなり、パケット処理が高速になります。

## AAA Dead-Server Detection の設定方法

### AAA Dead-Server Detection の設定

AAA Dead-Server Detection を設定する手順は、次のとおりです。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `aaa new-model`
4. `radius-server deadtime minutes`
5. `radius-server dead-criteria [time seconds] [tries number-of-tries]`



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Router (config)# aaa new-model	AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>radius-server deadtime <i>minutes</i></b> <b>Example:</b> Router (config)# radius-server deadtime 5	いくつかのサーバーが使用不能になったときの RADIUS サーバーの応答時間を短くし、使用不能になったサーバーがすぐにスキップされるようにします。
ステップ 5	<b>radius-server dead-criteria [time <i>seconds</i>] [tries <i>number-of-tries</i>]</b> <b>Example:</b> Router (config)# radius-server dead-criteria time 5 tries 4	RADIUS サーバをデッド状態と指定するための条件のいずれかまたは両方を、指定した定数で適用します。

## トラブルシューティングのヒント

AAA Dead-Server Detection を設定したら、**show running-config** コマンドを使用して、その設定を確認してください。この確認が特に重要になるのは、**no** 形式の **radius-server dead-criteria** コマンドを使用している場合です。**show running-config** コマンドの出力は、**radius-server dead-criteria** コマンドを使用して設定した「Dead Criteria Details」フィールドと同じ値を示している必要があります。

## AAA Dead-Server Detection の確認

AAA Dead-Server Detection の設定を確認する手順は、次のとおりです。**show** および **debug** コマンドは、任意の順番で使用できます。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `debug aaa dead-criteria transactions`
3. `show aaa dead-criteria`
4. `show aaa servers [private | public]`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug aaa dead-criteria transactions</b> <b>Example:</b> <pre>Router# debug aaa dead-criteria transactions</pre>	デッド条件の AAA トランザクションの値を表示します。
ステップ 3	<b>show aaa dead-criteria</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show aaa dead-criteria</pre>	AAA サーバのデッド条件に関する情報を表示します。
ステップ 4	<b>show aaa servers [private   public]</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show aaa server private</pre>	パブリックおよびプライベートのすべての認証、許可、アカウントिंग (AAA) RADIUS サーバーとの間で送受信されたパケットのステータスと数を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>private</b> キーワードを付けると、パブリック AAA サーバーのみについて表示されます。</li> <li>• <b>public</b> キーワードを付けると、パブリック AAA サーバーのみについて表示されます。</li> </ul>

## AAA Dead-Server Detection の設定例

### AAA Dead-Server Detection の設定の例

次の例では、5 秒後および 4 回の試行後にルータがデッド状態と見なされます。

```
Router (config)# aaa new-model
```

```
Router (config)# radius-server deadtime 5
Router (config)# radius-server dead-criteria time 5 tries 4
```

## debug aaa dead-criteria transactions コマンドの例

次の出力例は、特定のサーバグループのデッド条件のトランザクションに関する情報を示しています。

```
Router# debug aaa dead-criteria transactions
AAA Transaction debugs debugging is on
*Nov 14 23:44:17.403: AAA/SG/TRANSAC: Computed Retransmit Tries: 22, Current Max Tries:
 22
*Nov 14 23:44:17.403: AAA/SG/TRANSAC: Computed Dead Detect Interval: 25s, Current Max
Interval: 25s
*Nov 14 23:44:17.403: AAA/SG/TRANSAC: Estimated Outstanding Transactions: 6, Current Max
Transactions: 6
```

## show aaa dead-criteria コマンドの例

次の出力例は、IP アドレス 172.19.192.80 の RADIUS サーバーに対してデッドサーバー検出に関する情報が要求されたことを示しています。

```
Router# show aaa dead-criteria radius 172.19.192.80 radius
RADIUS Server Dead Criteria:
=====
Server Details:
  Address : 172.19.192.80
  Auth Port : 1645
  Acct Port : 1646
Server Group : radius
Dead Criteria Details:
  Configured Retransmits : 62
  Configured Timeout : 27
  Estimated Outstanding Transactions: 5
  Dead Detect Time : 25s
  Computed Retransmit Tries: 22
  Statistics Gathered Since Last Successful Transaction
=====
Max Computed Outstanding Transactions: 5
Max Computed Dead Detect Time: 25s
Max Computed Retransmits : 22
```

## その他の参考資料

ここでは、AAA Dead-Server Detection 機能の関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
RADIUS の設定	「RADIUS の設定」機能モジュール。

関連項目	マニュアルタイトル
AAA の設定	認証の設定
	認可の設定
	アカウントिंगの設定
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2865	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## AAA Dead-Server Detection の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 33: AAA Dead-Server Detection の機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA Dead-Server Detection	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>RADIUS サーバをデッド状態と指定するための条件を設定できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>debug aaa dead-criteria transactions</b>、<b>radius-server dead-criteria</b>、<b>show aaa dead-criteria</b>、<b>show aaa servers</b>。</p>





## CHAPTER 16

# Login Password Retry Lockout

Login Password Retry Lockout 機能により、システム管理者はユーザによるログイン試行が設定した回数失敗すると、ローカルの認証、許可、アカウントティング (AAA) ユーザアカウントをロックアウトできます。

- [Login Password Retry Lockout の前提条件, on page 247](#)
- [Login Password Retry Lockout の制約事項, on page 247](#)
- [Login Password Retry Lockout に関する情報, on page 248](#)
- [Login Password Retry Lockout の設定方法, on page 248](#)
- [Login Password Retry Lockout の設定例, on page 252](#)
- [その他の参考資料, on page 252](#)
- [Login Password Retry Lockout の機能情報, on page 254](#)
- [用語集, on page 254](#)

## Login Password Retry Lockout の前提条件

- AAA コンポーネントを含む Cisco IOS イメージを実行する必要があります。

## Login Password Retry Lockout の制約事項

- パスワードを推測している攻撃者とパスワードを誤って複数回入力している認証されたユーザとの区別はされないため、認証されたユーザもロックアウトされます。
- サービス拒絶 (DoS) 攻撃もあり得ます。つまり、認証されたユーザのユーザ名が攻撃者に知られた場合、認証されたユーザがロックアウトされる可能性もあります。

# Login Password Retry Lockout に関する情報

## ローカル AAA ユーザ アカウントのロックアウト

Login Password Retry Lockout 機能により、システム管理者は、AAA ユーザ アカウントに一致するユーザ名を使用したユーザによるログインが指定した回数失敗すると、ローカル AAA ユーザ アカウントをロックアウトできます。ロックアウトされたユーザは、ユーザ アカウントが管理者によってロック解除されるまで、再度正常にログインすることはできなくなります。

ユーザがシステムによってロックされるか、システム管理者によってロック解除されると、システムメッセージが生成されます。次に示すのは、このようなシステムメッセージの例です。

```
%AAA-5-USER_LOCKED: User user1 locked out on authentication failure.
```

システム管理者はロックアウトできません。



**Note** システム管理者は特殊なユーザで、最大の特権レベル（ルート権限-レベル15）を使用して設定されています。これより低い特権レベルを使用して設定されたユーザーは、**enable** コマンドを使用して特権レベルを変更できます。ルート権限（レベル15）に変更可能なユーザは、システム管理者として機能できます。

この機能は、ASCII、チャレンジハンドシェイク認証プロトコル（CHAP）およびパスワード認証プロトコル（PAP）など、任意のログイン認証方式に適用できます。



**Note** ロックされたステータスによる認証エラー後、ユーザにメッセージは表示されません（つまり、通常の認証エラーとユーザのロックされたステータスによる認証エラーは区別されません）。

## Login Password Retry Lockout の設定方法

### Login Password Retry Lockout の設定

Login Password Retry Lockout 機能を設定するには、次の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **username name [privilege level] password encryption-type password**



4. `aaa new-model`
5. `aaa local authentication attempts max-fail` *number-of-unsuccessful-attempts*
6. `aaa authentication login default` *method*

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>username</b> <i>name</i> [ <b>privilege level</b> ] <b>password</b> <i>encryption-type password</i> <b>Example:</b> Device(config)# username user1 privilege 15 password 0 cisco	ユーザ名をベースとした認証システムを構築します。
ステップ 4	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
ステップ 5	<b>aaa local authentication attempts max-fail</b> <i>number-of-unsuccessful-attempts</i> <b>Example:</b> Device(config)# aaa local authentication attempts max-fail 3	ユーザがロックアウトされるまでの試行の失敗回数 の上限を指定します。
ステップ 6	<b>aaa authentication login default</b> <i>method</i> <b>Example:</b> Device(config)# aaa authentication login default local	ログイン時の認証、許可、アカウントिंग (AAA) 認証方式を設定します。たとえば、 <b>aaa            authentication login default local</b> はローカル AAA ユー ザーデータベースを指定します。

## ログインがロックアウトされたユーザのロック解除

ログインがロックアウトされたユーザをロック解除するには、次の手順を実行します。



**Note** この作業を実行できるのは、ルート権限（レベル 15）を持つユーザだけです。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear aaa local user lockout {username *username* | all}**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>clear aaa local user lockout {username <i>username</i>   all}</b> <b>Example:</b> Device# clear aaa local user lockout username user1	ロックアウトされたユーザをロック解除します。

## ユーザの失敗したログイン試行のクリア

この作業は、ユーザ設定が変更され、すでに記録されている、失敗したユーザのログイン試行をクリアする必要がある場合に役立ちます。

すでに記録されている、失敗したユーザのログイン試行をクリアするには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear aaa local user fail-attempts {username *username* | all}**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	Device> enable	
ステップ 2	<b>clear aaa local user fail-attempts {username username   all}</b> <b>Example:</b> Device# clear aaa local user fail-attempts username user1	失敗したユーザの試行をクリアします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドは、ユーザ設定が変更され、すでに記録されている失敗した試行をクリアする必要がある場合に役立ちます。</li> </ul>

## Login Password Retry Lockout のステータスのモニタおよびメンテナンス

Login Password Retry Lockout 設定ステータスのモニタとメンテナンスを行うには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. show aaa local user lockout

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show aaa local user lockout</b> <b>Example:</b> Device# show aaa local user lockout	現在の Login Password Retry Lockout 設定でロックアウトされているユーザのリストを表示します。

#### 例

次の出力は、user1 がロックアウトされていることを示しています。

```
Device# show aaa local user lockout
      Local-user          Lock time
      user1              04:28:49 UTC Sat Jun 19 2004
```

# Login Password Retry Lockout の設定例

## Login Password Retry Lockout 設定の表示の例

次の `show running-config` コマンド出力は、Login Password Retry Lockout 設定で、ユーザーの試行の失敗回数の上限が 2 に設定されていることを示します。

```
Device # show running-config
Building configuration...
Current configuration : 1214 bytes
!
version 12.3
no service pad
service timestamps debug uptime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
!
hostname LAC-2
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
!
username sysadmin
username sysad privilege 15 password 0 cisco
username user1 password 0 cisco
aaa new-model
aaa local authentication attempts max-fail 2
!
!
aaa authentication login default local
aaa dnis map enable
aaa session-id common
```

## その他の参考資料

ここでは、Login Password Retry Lockout に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入力するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## Login Password Retry Lockout の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 34: Login Password Retry Lockout の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Login Password Retry Lockout	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>Login Password Retry Lockout 機能により、システム管理者はユーザによるログイン試行が設定した回数失敗すると、ローカルAAAユーザアカウントをロックアウトできます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>aaa local authentication attempts max-fail</b>、<b>clear aaa local user fail-attempts</b>、<b>clear aaa local user lockout</b>。</p>

## 用語集

- **local AAA method** : ルータ上にローカルユーザーデータベースを設定し、そのデータベースから、AAA にユーザーの認証または認可を提供させる方式。
- **local AAA user** : ローカル AAA 方式を使用して認証されたユーザー。



## CHAPTER 17

# MSCHAP バージョン 2

Cisco IOS リリース 12.2(2)XB5 で導入された MSCHAP バージョン 2 機能を使用すると、Cisco ルータは、Microsoft Windows オペレーティングシステムを使用するコンピュータとネットワーク アクセスサーバ (NAS) 間の PPP 接続にマイクロソフト チャレンジハンドシェイク 認証プロトコル バージョン 2 (MSCHAP V2) の認証を使用できます。

Cisco IOS リリース 12.4(6)T では、MSCHAP V2 が新機能をサポートするようになりました。これを MSCHAPv2 のパスワード エージングの AAA でのサポートと呼びます。Cisco IOS リリース 12.4(6)T よりも前のバージョンでは、パスワード 認証プロトコル (PAP) ベースのクライアントが認証、許可、アカウントリング (AAA) サブシステムにユーザ名とパスワードの値を送信すると、AAA が RADIUS サーバへの認証要求を生成していました。パスワードが失効している場合は、RADIUS サーバにより認証失敗のメッセージが返信されますが、認証が失敗した理由は AAA サブシステムには渡されていませんでした。そのため、認証が失敗したためにユーザはアクセスを拒否されますが、アクセスが拒否された理由は通知されませんでした。

Cisco IOS リリース 12.4(6)T で使用可能になったパスワード エージング機能は、パスワードが失効したことをクリプトベースのクライアントに通知し、ユーザがパスワードを変更するための一般的な方法を提供します。パスワード エージング機能では、クリプトベースのクライアントのみをサポートします。

- [MSCHAP バージョン 2 の前提条件, on page 255](#)
- [MSCHAP バージョン 2 の制約事項, on page 256](#)
- [MSCHAP バージョン 2 の概要, on page 256](#)
- [MSCHAP バージョン 2 の設定方法, on page 257](#)
- [設定例, on page 260](#)
- [その他の参考資料, on page 262](#)
- [MSCHAP バージョン 2 の機能情報, on page 263](#)

## MSCHAP バージョン 2 の前提条件

- **interface** コマンドを使用してインターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

- **encapsulation** コマンドを使用して、PPP をカプセル化するためのインターフェイスを設定します。
- クライアントのオペレーティング システムが MSCHAP V2 のすべての機能をサポートしていることを確認してください。
- Cisco IOS リリース 12.4(6)T のパスワードエージング機能は、クリプトベースのクライアントの RADIUS 認証のみをサポートします。
- RADIUS サーバーが送信する認証失敗属性を MSCHAP バージョン 2 機能が正しく解釈していることを確認するには、**ppp max-bad-auth** コマンドを設定し、認証のリトライ回数を 2 回以上に設定する必要があります。

また、**radius server vsa send authentication** コマンドを設定し、RADIUS クライアントがベンダー固有属性を RADIUS サーバーに送信できるようにする必要があります。パスワード変更機能は、RADIUS 認証のみでサポートされています。

- Microsoft Windows 2000、Microsoft Windows XP、および Microsoft Windows NT のオペレーティングシステムには、パスワード変更機能の動作を妨げる既知の注意事項があります。次の URL で Microsoft のパッチをダウンロードする必要があります。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q326770>

これらのタスクの実行の詳細については、『Cisco IOS Dial Technologies Configuration Guide, Release 12.4T』の「PPP Configuration」を参照してください。RADIUS サーバで認証を設定する必要があります。RADIUS サーバでの RADIUS 認証の設定の詳細については、ベンダー固有のマニュアルを参照してください。

## MSCHAP バージョン 2 の制約事項

- MSCHAP V2 の認証は、MSCHAP V1 の認証と互換性がありません。
- パスワード変更オプションは RADIUS 認証のみでサポートされており、ローカル認証では使用できません。

## MSCHAP バージョン 2 の概要

MSCHAP V2 の認証は、Microsoft Windows 2000 オペレーティングシステムが使用するデフォルトの認証方式です。この認証方式をサポートする Cisco ルータを使用すると、Microsoft Windows 2000 オペレーティングシステムのユーザは、クライアントで認証方式を設定せずにリモートの PPP セッションを確立できます。

MSCHAP V2 の認証では、MSCHAP V1 または標準の CHAP 認証では使用できない追加機能が導入されました。それは、パスワードの変更機能です。パスワード変更機能を使用すると、パスワードが失効したことを RADIUS サーバがレポートした場合に、クライアントがアカウントのパスワードを変更できます。





**Note** MSCHAP V2 の認証は更新バージョンの MSCHAP です。これは、MSCHAP バージョン 1 (V1) と似ていますが、互換性はありません。MSCHAP V2 では、ピアとパスワード変更機能の間の相互認証が導入されました。

## MSCHAP バージョン 2 の設定方法

### MSCHAP V2 の認証の設定

ローカル認証または RADIUS 認証で MSCHAP V2 認証を受け入れるように NAS を設定し、RADIUS 認証の認証失敗属性およびベンダー固有の RADIUS 属性を適切に解釈できるようにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius-server vsa send authentication**
4. **interface** *type number*
5. **ppp max-bad-auth** *number*
6. **ppp authentication ms-chap-v2**
7. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius-server vsa send authentication</b> <b>Example:</b>  Device(config)# radius-server vsa send authentication	ベンダー固有属性を認識して使用するよう NAS を設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet 1/0/1	インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>ppp max-bad-auth</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# ppp max-bad-auth 2	認証が失敗した直後、または指定された認証のリトライ回数の範囲内である場合にはリセットするように、ポイントツーポイントインターフェイスを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>number</i> 引数のデフォルト値は 0 秒（即座に実行）です。</li> <li>• 範囲は 0 ～ 255 です。</li> </ul> <b>Note</b> NAS が認証失敗属性を解釈できるように、 <i>number</i> 引数の値には最低でも 2 を設定する必要があります。
ステップ 6	<b>ppp authentication ms-chap-v2</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ppp authentication ms-chap-v2	NAS で MSCHAP V2 認証をイネーブルにします。
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## MSCHAP V2 設定の確認

MSCHAP バージョン 2 機能が正しく設定されているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **show running-config interface** *type number*
2. **debug ppp negotiation**
3. **debug ppp authentication**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>show running-config interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device# show running-config interface Async65	MSCHAP V2 の設定が、指定されたインターフェイスの認証方式であることを確認します。
ステップ 2	<b>debug ppp negotiation</b> <b>Example:</b> Device# debug ppp negotiation	MSCHAP V2 のネゴシエーションが成功していることを確認します。
ステップ 3	<b>debug ppp authentication</b> <b>Example:</b> Device# debug ppp authentication	MSCHAP V2 認証が成功していることを確認します。

## クリプトベースのクライアントのパスワード エージングの設定

AAA セキュリティ サービスにより、さまざまなログイン認証方式を容易に実行できるようになります。 **aaa authentication login** コマンドを使用すると、サポートされているログイン認証方式のいずれを使用するかに関係なく、AAA 認証が有効になります。 **aaa authentication login** コマンドを使用すると、ログイン時に試行する認証方式リストを 1 つまたは複数作成できます。これらのリストは、**login authentication** ライン コンフィギュレーション コマンドによって適用されます。

RADIUS サーバが新しいパスワードを要求すると、AAA はクリプトクライアントにクエリーを実行し、今度はユーザに新しいパスワードを入力するように求めます。

クリプトベースのクライアントにログイン認証とパスワード エージングを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。



**Note** AAA のパスワード失効インフラストラクチャは、パスワードが失効したことを Easy VPN に通知し、ユーザがパスワードを変更するための一般的な方法を提供します。RADIUS サーバのドメイン削除機能と AAA のパスワード失効のサポートをうまく組み合わせて使用してください。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authentication login** {default | *list-name*} **passwd-expiry** *method1* [*method2*...]

5. `crypto map map-name client authentication list list-name`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 4	<b>aaa authentication login {default   list-name} passwd-expiry method1 [method2... ]</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa authentication login userauthen passwd-expiry group radius	ローカルの認証リストでクリプトベースのクライアントのパスワードエージングをイネーブルにします。
ステップ 5	<b>crypto map map-name client authentication list list-name</b> <b>Example:</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto map clientmap client authentication list userauthen	既存のクリプトマップで、ユーザ認証 (認証方式のリスト) を設定します。

## 設定例

## ローカル認証の設定の例

次の例では、非同期インターフェイスに PPP を設定し、ローカルで MSCHAP V2 認証をイネーブルにします。

```
interface Async65
 ip address 10.0.0.2 255.0.0.0
 encapsulation ppp
 async mode dedicated
 no peer default ip address
 ppp max-bad-auth 3
 ppp authentication ms-chap-v2
 username client password secret
```

## RADIUS 認証の設定の例

次の例では、非同期インターフェイスに PPP を設定し、RADIUS を使用して MSCHAP V2 認証をイネーブルにします。

```
interface Async65
 ip address 10.0.0.2 255.0.0.0
 encapsulation ppp
 async mode dedicated
 no peer default ip address
 ppp max-bad-auth 3
 ppp authentication ms-chap-v2
 exit
aaa authentication ppp default group radius
 radius-server host 10.0.0.2 255.0.0.0
 radius-server key secret
 radius-server vsa send authentication
```

## クリプト認証を使用したパスワード エージングの設定の例

次の例では、クリプトベースのクライアントを持つ AAA を使用して、パスワード エージングを設定します。

```
aaa authentication login userauthen passwd-expiry group radius
!
aaa session-id common
!
crypto isakmp policy 3
 encr 3des
 authentication pre-share
 group 2
!
crypto isakmp client configuration group 3000client
 key cisco123
 dns 10.1.1.10
 wins 10.1.1.20
 domain cisco.com
 pool ippool
 acl 153
!
crypto ipsec transform-set myset esp-3des esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map dynmap 10
 set transform-set myset
!
crypto map clientmap client authentication list userauthen
!
radius-server host 10.140.15.203 auth-port 1645 acct-port 1646
```

```
radius-server domain-stripping prefix-delimiter $
radius-server key cisco123
radius-server vsa send authentication
radius-server vsa send authentication 3gpp2
!
end
```

## その他の参考資料

ここでは、MSCHAP バージョン 2 の機能に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
PPP インターフェイスの設定	『Cisco IOS Dial Technologies Configuration Guide , Release 12.4T』の「PPP Configuration」
シスコのネットワーキング装置の設定および管理に必要なタスクとコマンドの説明	『Cisco IOS Dial Technologies Command Reference』
IOS セキュリティ コマンドの一覧	『Cisco IOS Security Command Reference』
AAA を使用した PPP 認証の設定	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Securing User Services , Release 12.4T』の「Configuring Authentication」モジュールの「Configuring PPP Authentication Using AAA」
RADIUS 認証の設定	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 12.4T』の「Configuring RADIUS」モジュール

### 標準

標準	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 1661	ポイントツーポイント プロトコル (PPP)
RFC 2548	『Microsoft Vendor-specific RADIUS Attributes』
RFC 2759	『Microsoft PPP CHAP Extensions, Version 2』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## MSCHAP バージョン 2 の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 35: MSCHAP バージョン 2 の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
MSCHAP バージョン 2	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>MSCHAP バージョン 2 機能を使用すると、Cisco ルータは、Microsoft Windows オペレーティング システムを使用するコンピュータとネットワーク アクセス サーバ (NAS) 間の PPP 接続にマイクロソフト チャレンジ ハンドシェイク 認証 プロトコル バージョン 2 (MSCHAP V2) の認証を使用できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>aaa authentication login</b> および <b>ppp authentication ms-chap-v2</b>。</p>





## CHAPTER 18

# AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポート

AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポート機能は、ゲートウェイ GPRS サポート ノード (GGSN) を介して各サーバグループでのブロードキャスト アカウンティングをサポートするメカニズムを実現します。GGSN は、General Packet Radio Service (GPRS) のワイヤレス データ ネットワークと、インターネットやプライベート ネットワークなどその他のネットワーク間のゲートウェイとして動作します。

- [AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの前提条件, on page 265](#)
- [AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの制約事項, on page 265](#)
- [AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートに関する情報, on page 266](#)
- [GGSN での AAA ブロードキャスト アカウンティングのサポート方法, on page 268](#)
- [AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの設定例, on page 270](#)
- [その他の参考資料, on page 271](#)
- [AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの機能情報, on page 273](#)

## AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サ ポートの前提条件

GGSN を設定するための準備作業の詳細については、『Cisco GGSN Release 8.0 Configuration Guide』を参照してください。

## AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サ ポートの制約事項

アカウンティング情報は、最大 10 台の AAA サーバに同時に送信することができます。

# AAA ブロードキャスト アカウントिंग - 必須応答サポートに関する情報

AAA ブロードキャスト アカウントिंग - 必須応答サポート機能により、最大 10 個のサーバグループ（方式）を方式リストで設定することができます。次の項では、GGSN をサポートするために使用される AAA アカウントिंगの種類について説明します。

## AAA ブロードキャスト アカウントिंग

AAA ブロードキャスト アカウントिंगを有効にすると、アカウントング情報を複数の認証、許可、アカウントング（AAA）サーバに同時に送信できます。つまり、アカウントング情報を 1 つまた複数の AAA サーバに同時にブロードキャストすることが可能です。この機能を使用すると、サービスプロバイダーは自社使用のプライベート AAA サーバやエンドユーザの AAA サーバにアカウントング情報を送信できるようになります。この機能では、音声アプリケーションによる課金情報も提供されます。

RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバのサーバグループ間でブロードキャストを実行できるほか、他のグループと関係なく、サーバグループごとにフェールオーバー用のバックアップサーバを定義できます。フェールオーバーは、複数のサーバがサーバグループで定義されているときに発生する可能性のある処理で、サーバグループの 1 番目のサーバに情報が送信されたとき、このサーバが使用できなくなっていれば、サーバグループの次のサーバに情報が送信されるプロセスを指しています。このプロセスは、情報がサーバグループ内の 1 つのサーバに正常に送信されるまで、またはサーバグループ内の使用可能なサーバのリストがなくなるまで続きます。

## ブロードキャストアカウントングと待機アカウントングの同時使用

Cisco GGSN リリース 8.0 以降では、ブロードキャストアカウントングと待機アカウントングが一緒に動作するように設定できます。待機アカウントング機能はアクセスポイントネーム（APN）レベルで設定されるのに対し、ブロードキャストアカウントングは AAA 方式レベルで指定されます。

ブロードキャストアカウントングでは、開始、停止、中間の各アカウントングレコードが方式リストで設定されているすべてのサーバグループに送信されます。サーバグループ内では、アカウントングレコードは最初のアクティブなサーバに送信されます。アクティブサーバに到達できない場合、アカウントングレコードはグループの次のサーバに送信されます。

さらに、方式リストの 1 つまたは複数のサーバグループを「必須」と設定することができます。これは、そのサーバグループのサーバがアカウントング開始メッセージに応答する必要があるということです。APN レベルの待機アカウントングを有効にすると、パケットデー

タ プロトコル (PDP) コンテキストが確立される前に、すべての必須サーバグループからのアカウントング応答が受信されるようになります。

ブロードキャストアカウントングと待機アカウントングを同時に使用することの利点は、次のとおりです。

- アカウントング レコードが複数のサーバに送信されます。エントリが作成されると、ユーザはさまざまなサービスの使用を開始できます。
- 冗長性を確保するため、複数の AAA サーバにレコードが送信されます。
- PDP コンテキストの確立は、すべての必須サーバが有効なアカウントング開始レコードを受信したときにのみ確立され、情報の損失が防止されます。
- ブロードキャスト レコードは、方式リストの最大 10 個のサーバグループに送信できます。

ブロードキャストアカウントングと待機アカウントングを同時に設定する場合は、次の点に注意してください。

- 方式リストの設定では、**mandatory** キーワードはブロードキャストアカウントングが設定されている場合にだけ使用できます。
- 待機アカウントングが必要ない場合、すべてのサーバグループへのブロードキャストアカウントングは、必須グループを定義しないで使用できます。
- ブロードキャストアカウントングの設定時に必須サーバグループを指定しない場合は、待機アカウントングの機能は Cisco GGSN リリース 7.0 以前と同じになります。
- 待機アカウントングは PPP PDP コンテキストには適用されません。
- PDP は、すべての必須サーバからアカウントング応答が受信された場合にだけ作成されます。
- 定期的なタイマーは、アカウントング応答 (PDP 作成) が受信されたときに開始されます。



---

**Note** 複数のサーバグループを必須サーバグループとして方式リストで定義できます。

---

# GGSN での AAA ブロードキャスト アカウンティングのサポート方法

## GGSN でのブロードキャスト アカウンティングと待機アカウンティングの設定

この項の作業では、GGSNでブロードキャストアカウンティングと待機アカウンティングを設定する方法を説明します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa accounting network** {*method-list-name* | **default**}
5. **action-type** {**start-stop** | **stop-only** | **none**}
6. **broadcast**
7. **group** *server-group* [**mandatory**]
8. **exit**
9. **gprs access-point-list** *list-name*
10. **access-point** *access-point-index*
11. **aaa-group accounting** *method-list name*
12. **gtp-response-message wait-accounting**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> <pre>Router# aaa new-model</pre>	<p>アクセス コントロールの新しいコマンドおよび機能を有効にします (以前のコマンドを無効にします)。</p>
ステップ 4	<b>aaa accounting network {method-list-name   default}</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa accounting network net1</pre>	<p>RADIUS 使用時の課金またはセキュリティ用に、要求されたサービスの認証、許可、アカウントिंग (AAA) アカウンティングを有効にし、アカウントिंग方式リスト モードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>method-list-name</b> 引数は、最大 31 文字の名前付きアカウントング リストです。最大数を超える文字は、いずれも却下されます。</li> <li>• <b>default</b> キーワードでは、デフォルトのアカウントングリストを指定します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>action-type {start-stop   stop-only   none}</b> <b>Example:</b> <pre>Router(cfg-acct-mlist)#action-type start-stop</pre>	<p>ある種のアクションをアカウントング レコードで実行します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>start-stop</b> : プロセスの開始時に "start" accounting 通知を送信し、プロセスの終了時に "stop" accounting 通知を送信します。</li> <li>• <b>stop-only</b> : 要求されたユーザープロセスの終了時に、"stop" アカウンティング通知を送信します。</li> <li>• <b>none</b> : この回線またはインターフェイスでアカウントングサービスをディセーブルにします。</li> </ul>
ステップ 6	<b>broadcast</b> <b>Example:</b> <pre>Router(cfg-acct-mlist)#broadcast</pre>	<p>(任意) 複数の AAA サーバへのアカウントング レコードの送信をイネーブルにします。各グループの最初のサーバに対し、アカウントング レコードを同時に送信します。最初のサーバが使用できない場合はフェールオーバーが発生し、そのグループ内に定義されているバックアップサーバが使用されます。</p>
ステップ 7	<b>group server-group [mandatory]</b> <b>Example:</b> <pre>Router(cfg-acct-mlist)#group server1</pre>	<p>サーバグループを指定します。必要に応じて、<b>mandatory</b> キーワードを指定して、サーバグループを必須と定義します。サーバグループが必須である場合、そのサーバグループのサーバがアカウントング開始メッセージに応答する必要があります。</p>

	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> 最大 10 個のサーバグループを 1 つの方式リストで定義できます。
ステップ 8	<b>exit</b>	アカウントング方式リストのコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 9	<b>gprs access-point-list</b> <i>list-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# gprs access-point-list public1	GGSN でパブリック データ ネットワーク (PDN) のアクセス ポイントを定義するためのアクセス ポイントリストを設定し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>access-point</b> <i>access-point-index</i> <b>Example:</b> Router(config-ap-list)# access-point 11	アクセス ポイント番号を指定し、アクセス ポイント コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>aaa-group accounting</b> <i>method-list name</i> <b>Example:</b> Router(config-access-point)#aaa-group accounting net1	アカウントング サーバグループを指定します。
ステップ 12	<b>gtp-response-message wait-accounting</b> <b>Example:</b> Router(config-access-point)# gtp-response-message wait-accounting	サービング GPRS サポート ノード (SGSN) に Create PDP Context Response を送信する前に、RADIUS アカウントング応答を待機するように APN を設定します。

## AAA ブロードキャスト アカウントング - 必須応答サポートの設定例

### AAA ブロードキャスト アカウントング - 必須応答サポートの例

次の例では、SGSN に Create PDP Context Response を送信する前に、RADIUS サーバからの RADIUS アカウントング応答を待機するように GGSN がグローバルに設定されます。GGSN は、`access-point 1` を除くすべてのアクセス ポイントで受信された PDP コンテキスト要求の応答を待機します。RADIUS 応答メッセージの待機は、**no gtp response-message wait-accounting** コマンドを使用して `access-point 1` で無効化されています。

```
! Enables AAA globally
!
aaa new-model
!
```

```

! Defines AAA server group
!
aaa group server radius abc
  server 10.2.3.4 auth-port 1645 acct-port 1646
  server 10.6.7.8 auth-port 1645 acct-port 1646
!
! Configures AAA authentication and authorization
!
aaa authentication ppp abc group abc
aaa authorization network abc group abc
aaa accounting network abc
  action-type start-stop
  broadcast
  group SG1 mandatory
  group SG2
  group SG3 mandatory
!
gprs access-point-list gprs
  access-point 1
    access-mode non-transparent
    access-point-name www.pdn1.com
    aaa-group authentication abc
!
! Disables waiting for RADIUS response
! message at APN 1
!
  no gtp response-message wait-accounting
  exit
access-point 2
  access-mode non-transparent
  access-point-name www.pdn2.com
  aaa-group authentication abc
!
! Enables waiting for RADIUS response
! messages across all APNs (except APN 1)
!
gprs gtp response-message wait-accounting
!
! Configures global RADIUS server hosts
! and specifies destination ports for
! authentication and accounting requests
!
radius-server host 10.2.3.4 auth-port 1645 acct-port 1646 non-standard
radius-server host 10.6.7.8 auth-port 1645 acct-port 1646 non-standard
radius-server key ggsntel

```

## その他の参考資料

ここでは、AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポート機能に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
GGSN の設定の準備作業	『Cisco GGSN Release 8.0 Configuration Guide』
AAA コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference Guide』

関連項目	マニュアル タイトル
AAA 機能	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Securing User Services』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャ セットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--



## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 36: AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポート	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>AAA ブロードキャスト アカウンティング - 必須応答サポート機能は、ゲートウェイ GPRS サポート ノード (GGSN) を介して各サーバグループでのブロードキャスト アカウンティングをサポートするメカニズムを実現します。GGSN は、General Packet Radio Service (GPRS) のワイヤレスデータ ネットワークと、インターネットやプライベート ネットワークなどその他のネットワーク間のゲートウェイとして動作します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa accounting network</b>、<b>aaa-group accounting</b>、<b>access-point</b>、<b>action-type</b>、<b>broadcast</b>、<b>gprs access-point-list</b>、<b>group</b>、<b>gtp-response-message wait-accounting</b></p>



## CHAPTER 19

# コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理

コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理機能は、ユーザパスワードを指定するルール、保存、検索、提供のためのパスワードポリシーおよびセキュリティメカニズムを指定するために使用されます。

ローカルユーザについては、ユーザのプロファイルとパスワード情報が重要なパラメータとともにシスコデバイスに保存され、このプロファイルを使用して、ユーザのローカル認証が行われます。このユーザになり得るのは、管理者（ターミナルアクセス）またはネットワークユーザ（たとえば、ネットワークアクセスのために認証された PPP ユーザ）です。

リモートユーザについては、ユーザプロファイル情報がリモートサーバに保存されている場合、管理アクセスとネットワークアクセスの双方にサードパーティの認証、許可、およびアカウントリング（AAA）サーバを使って AAA サービスが提供される可能性があります。

- [コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の制約事項, on page 275](#)
- [コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理に関する情報, on page 276](#)
- [コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の設定方法, on page 278](#)
- [コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の機能の設定例, on page 282](#)
- [その他の参考資料, on page 282](#)
- [コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の機能情報, on page 283](#)

## コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の制約事項

- `vtv` を使用して同時にシステムにログインできるユーザは 4 人までです。

# コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理に関する情報

## パスワード構成ポリシー

パスワード構成ポリシーでは、パスワードを作成するために、英字の大文字小文字、数字、特殊文字（「!」、「@」、「#」、「\$」、「%」、「^」、「&」、「\*」、「(」、「)」など）を自由に組み合わせて使用できます。

## パスワード長ポリシー

パスワードの最小長と最大長は、管理者により柔軟に設定することが可能です。推奨されるパスワードの最小長は8文字です。管理者は、パスワードの最小長（1）も最大長（64）も指定できます。

## パスワードライフタイムポリシー

セキュリティ管理者は、パスワードのライフタイムを最大限にするための設定可能オプションを提供できます。ライフタイムパラメータが設定されていない場合、設定済みのパスワードは無限に有効です。最大ライフタイムは、設定可能な値を年、月、日、時間、分、および秒単位で入力することにより設定できます。ライフタイム設定は設定の一部であるためリロード後も有効ですが、パスワード作成時刻はシステムがリブートするたびに新しい時刻に更新されます。たとえば、パスワードに1カ月のライフタイムが設定されており、29日目にシステムがリブートした場合、そのパスワードはシステムリブート後1ヵ月間有効になります。

月数を使用してライフタイムを設定すると、ポリシーは、指定された月の日数に関係なくライフタイムを30日に設定します。

## パスワード有効期限ポリシー

ユーザがログインを試みたときにこのユーザのパスワードクレデンシャルが期限切れになっていた場合、次の処理が行われます。

1. ユーザは、期限切れのパスワードの入力に成功した後、新しいパスワードを設定するよう求められます。
2. ユーザが新しいパスワードを入力すると、パスワードセキュリティポリシーに照らしてそのパスワードが検証されます。
3. 新しいパスワードがパスワードセキュリティポリシーに適合していれば、AAAデータベースが更新され、ユーザーは新しいパスワードで認証されます。

4. 新しいパスワードがパスワードセキュリティポリシーに適合していない場合、ユーザは再度パスワードの入力を求められます。再試行数は、AAAでは制限されていません。認証失敗の場合のパスワードプロンプトの再試行数は、それぞれのターミナルアクセスインタラクティブモジュールによって制御されます。たとえばTelnetでは、3回失敗するとセッションが終了します。

パスワードのライフタイムを設定されていないユーザがすでにログインしているときに、セキュリティ管理者がそのユーザのライフタイムを設定すると、ライフタイムがデータベースに設定されます。同じユーザが次回に認証されるときに、システムがパスワードの期限を確認します。パスワード期限がチェックされるのは認証フェーズの間のみです。

すでに認証済みかつシステムにログイン中のユーザのパスワードが期限切れになっても、何のアクションも起こりません。同じユーザが次に認証されるときに初めて、ユーザにパスワード変更が求められます。

## パスワード変更ポリシー

新しいパスワードは、前のパスワードから4文字以上変更されている必要があります。パスワード変更のきっかけとなるシナリオとしては、次のようなものが考えられます。

- セキュリティ管理者がパスワードの変更を求める場合。
- ユーザがプロファイル使用による認証を試みたが、そのプロファイルのパスワードが期限切れになっている場合。

セキュリティ管理者がパスワードセキュリティポリシーを変更し、既存のプロファイルがそのパスワードセキュリティポリシールールに適合しなくなっても、ユーザがすでにシステムにログインしている場合には、何のアクションも起こりません。ユーザは、パスワードセキュリティ制限に適合しないプロファイルを使用して認証を試みたときに初めて、パスワードを変更するよう求められます。

ユーザがパスワードを変更すると、セキュリティ管理者によって古いプロファイルに設定されているライフタイムパラメータが、新しいパスワードのライフタイムパラメータとして引き継がれます。

dot1xなどの非インタラクティブクライアントでは、パスワードの期限が切れると、適切なエラーメッセージがクライアントに送られます。クライアントは、セキュリティ管理者に連絡してパスワードを更新する必要があります。

## ユーザ再認証ポリシー

ユーザがパスワードを変更すると、ユーザの再認証が行われます。

期限満了時にパスワードを変更すると、新しいパスワードに対してユーザ認証が行われます。このような場合、実際には、以前のクレデンシャルに基づいて認証が行われ、データベースで新しいパスワードが更新されます。



**Note** ユーザがパスワードを変更できるのは、ログイン中かつ古いパスワードの期限が切れた後のみです。ただし、セキュリティ管理者はこのユーザのパスワードをいつでも変更できます。

## フレームド (非インタラクティブ) セッションのサポート

dot1xなどのクライアントがローカルデータベースを使用して認証を行うときには、コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理機能が適用されます。ただし、パスワードの期限が切れると、クライアントによるパスワード変更はできなくなります。そのようなクライアントには適切なエラーメッセージが送られます。そのユーザは、セキュリティ管理者にパスワードの変更を要求する必要があります。

## コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の設定方法

### パスワードセキュリティポリシーの設定

パスワードセキュリティポリシーを作成し、そのポリシーを特定のユーザープロファイルに適用するには、次の作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa common-criteria policy *policy-name***
5. **char-changes *number***
6. **max-length *number***
7. **min-length *number***
8. **numeric-count *number***
9. **special-case *number***
10. **exit**
11. **username *username* common-criteria-policy *policy-name* password *password***
12. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 4	<b>aaa common-criteria policy <i>policy-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa common-criteria policy policy1	AAA セキュリティパスワードポリシーを作成し、 コモンクライテリア設定ポリシーモードを開始し ます。
ステップ 5	<b>char-changes <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-cc-policy)# char-changes 4	(任意) 古いパスワードから新規のパスワードへの 変更文字数を指定します。
ステップ 6	<b>max-length <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-cc-policy)# max-length 25	(任意) パスワードの最大長を指定します。
ステップ 7	<b>min-length <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-cc-policy)# min-length 8	(任意) パスワードの最小長を指定します。
ステップ 8	<b>numeric-count <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-cc-policy)# numeric-count 4	(任意) パスワード内の数字の数を指定します。
ステップ 9	<b>special-case <i>number</i></b> <b>Example:</b>	(任意) パスワード内の特殊文字の数を指定しま す。

	Command or Action	Purpose
	<code>Device(config-cc-policy)# special-case 3</code>	
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> <code>Device(config-cc-policy)# exit</code>	(任意) コモンクライテリア設定ポリシー モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 11	<b>username username common-criteria-policy policy-name password password</b> <b>Example:</b> <code>Device(config)# username user1 common-criteria-policy policy1 password password1</code>	(任意) ユーザプロファイルに特定のポリシーとパスワードを適用します。
ステップ 12	<b>end</b> <b>Example:</b> <code>Device(config)# end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

## コモンクライテリアポリシーの確認

すべてのコモンクライテリアセキュリティポリシーを確認するには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show aaa common-criteria policy name *policy-name***
3. **show aaa common-criteria policy all**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

##### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードをイネーブルにします。

**Example:**

```
Device> enable
```

##### ステップ 2 show aaa common-criteria policy name *policy-name*

特定のポリシーのパスワードセキュリティポリシー情報を表示します。

**Example:**



```
Device# show aaa common-criteria policy name policy1

Policy name: policy1
Minimum length: 1
Maximum length: 64
Upper Count: 20
Lower Count: 20
Numeric Count: 5
Special Count: 2
Number of character changes 4
Valid forever. User tied to this policy will not expire.
```

### ステップ3 show aaa common-criteria policy all

設定されたすべてのポリシーのパスワードセキュリティポリシー情報を表示します。

#### Example:

```
Device# show aaa common-criteria policy all
=====
Policy name: policy1
Minimum length: 1
Maximum length: 64
Upper Count: 20
Lower Count: 20
Numeric Count: 5
Special Count: 2
Number of character changes 4
Valid forever. User tied to this policy will not expire.
=====
Policy name: policy2
Minimum length: 1
Maximum length: 34
Upper Count: 10
Lower Count: 5
Numeric Count: 4
Special Count: 2
Number of character changes 2
Valid forever. User tied to this policy will not expire.
=====
```

## トラブルシューティングのヒント

**debug aaa common-criteria** コマンドを使用して、AAA コモンクライテリアをトラブルシューティングします。

## コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の機能の設定例

### 例：コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理

次の例は、コモンクライテリアセキュリティポリシーを作成し、特定のポリシーをユーザプロファイルに適用する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa common-criteria policy policy1
Device(config-cc-policy)# char-changes 4
Device(config-cc-policy)# max-length 20
Device(config-cc-policy)# min-length 6
Device(config-cc-policy)# numeric-count 2
Device(config-cc-policy)# special-case 2
Device(config-cc-policy)# exit
Device(config)# username user1 common-criteria-policy policy1 password password1
Device(config)# end
```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS パケット オブ ディスコネクト機能に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
AAA	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide, Securing User Services, Release 2』の「Authentication, Authorization, and Accounting (AAA)」
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
CLI 設定	『Cisco IOS XE Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 2』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2865	『Remote Authentication Dial-in User Service』
RFC 3576	『Dynamic Authorization Extensions to RADIUS』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入力するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 37: コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理の機能情報

機能名	リリース	機能情報
コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理		<p>コモンクライテリアに準拠したパスワードの強度と管理機能は、ユーザーパスワードを指定するルールの保存、検索、提供のためのパスワードポリシーおよびセキュリティメカニズムを指定するために使用されます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>aaa common-criteria policy</b>、<b>debug aaa common-criteria</b>、および<b>show aaa common-criteria policy</b>。</p>



## 第 20 章

# AAA 用のセキュアな可逆パスワード

AAA 用のセキュアな可逆パスワードの機能は、タイプ 6 の AES (Advanced Encryption Scheme) パスワードによる認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) 設定のセキュアな可逆暗号化を可能にします。

- [AAA 用のセキュアな可逆パスワードの前提条件 \(285 ページ\)](#)
- [AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する情報 \(285 ページ\)](#)
- [AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する追加情報 \(287 ページ\)](#)
- [AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する機能情報 \(288 ページ\)](#)

## AAA 用のセキュアな可逆パスワードの前提条件

タイプ 6 パスワード暗号化では、次のコマンドを有効にする必要があります。

- `password encryption aes`
- `key config-key password-encrypt [password]`
- `aaa new-model`

## AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する情報

### セキュアな可逆パスワード

Cisco IOS 設定のパスワードには、セキュアなストレージが必要です。これにより、必要なときにいつでも認証方式がユーザーログイン情報にアクセスできるように、可逆暗号化のキーを保存できます。

可逆暗号化は、可逆的な対称暗号化アルゴリズムを使用してパスワードを暗号化するプロセスです。ユーザーが入力したパスワードが有効かどうかを確認するために、パスワードが復号され、ユーザーが入力したパスワードと比較されます。この暗号化を実行するには、対称暗号化アルゴリズムにキーが必要です。

タイプ6の高度暗号化方式 (AES) で暗号化されたパスワードは、認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) 機能の可逆パスワードを保護するために役立ちます。このタイプ6の暗号キーは、プライベート NVRAM に保存され、保護されます。

AAA ネットワーク設定では、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)、RADIUS、またはTACACS+サーバーホストが使用されます。RADIUS、TACACS+、またはLDAPホストサーバーを設定するには、それぞれ **radius server host** コマンド、**tacacs-server host** コマンド、および **ldap server** コマンドを使用します。

## タイプ6暗号化の設定

次のコマンドが、認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) 機能を設定するためのセキュアな可逆パスワードを有効にする **type 6** キーワードで更新されました。セキュリティコマンドの詳細については、『*Cisco IOS Security Command Reference*』を参照してください。AAA 設定の詳細については、『*Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide*』を参照してください。

- **aaa configuration**
  - **aaa configuration** {**config-username username** *username* [**password** [0 | 7] *password*] | {**pool** | **route**} **username** *username* [**password** [0 | 6 | 7] *password*]}
- **bind authenticate root-dn (config-ldap-server)**
  - **bind authenticate root-dn** *username password* {0 *string* | 6 *string* | 7 *string*} *string*
- **client (config-locsvr-da-radius)**
  - **client** *ip-address server-key* [0 | 6 | 7] *word*
- **key (config-radius-server)**
  - **key** {0 *string* | 6 *string* | 7 *string*} *string*
- **key (config-server-tacacs)**
  - **key** {0 *string* | 6 *string* | 7 *string*} *string*
- **pac key (config-radius-server)**
  - **pac key** {0 *string* | 6 *string* | 7 *string*} *string*
- **password (config-filter)**
  - **password** [0 | 6 | 7] *password*
- **server-private (RADIUS)**
  - **server-private** *ip-address* [**auth-port** *port-number* | **acct-port** *port-number*] [**non-standard**] [**timeout** *seconds*] [**retransmit** *retries*] [**key** [0 | 6 | 7] *string*]
- **server-private (TACACS+)**

• **server-private** {*ip-address* | *name* | *ipv6-address*} [**nat**] [**single-connection**] [**port** *port-number*] [**timeout** *seconds*] [**key** {**0** | **6** | **7**} *string*]

• **tacacs-server host**

• **tacacs-server host** {*host-name* | *host-ip-address*} [**key** {**0** *string* | **6** *string* | **7** *string*} *string*] [[**nat**] [**port** [*integer*]] [**single-connection**] [**timeout** [*integer*]]]

• **tacacs-server key**

• **tacacs-server key** {**0** *string* | **6** *string* | **7** *string*} *string*

## AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C</a>』 [英語]</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L</a>』 [英語]</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R</a>』 [英語]</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z</a>』 [英語]</li> </ul>
AAA の設定	『 <a href="#">Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide</a> 』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 38: AAA 用のセキュアな可逆パスワードに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA 用のセキュアな可逆パスワード	15.4(1)T	<p>AAA 用のセキュアな可逆パスワードの機能は、タイプ 6 の AES (Advanced Encryption Scheme) パスワードによる認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) 設定のセキュアな可逆暗号化を可能にします。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa configuration</b>、<b>bind authenticate root-dn (config-ldap-server)</b>、<b>client (config-locsvr-da-radius)</b>、<b>key (config-radius-server)</b>、<b>key (config-server-tacacs)</b>、<b>pac key (config-radius-server)</b>、<b>password (config-filter)</b>、<b>server-private (RADIUS)</b>、<b>server-private (TACACS+)</b>、<b>tacacs-server host</b>、および <b>tacacs-server key</b>。</p>





## 第 II 部

# セキュア シェル

- [リバース SSH 拡張, on page 291](#)
- [セキュア コピー, on page 301](#)
- [セキュア シェルバージョン 2 サポート, on page 309](#)
- [セキュア シェル：ユーザー認証方式の設定 \(337 ページ\)](#)
- [SSH 認証の X.509v3 証明書 \(345 ページ\)](#)
- [コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム \(355 ページ\)](#)
- [セキュアシェル：SFTP ユーザー名とパスワードの設定 \(369 ページ\)](#)





## CHAPTER 21

# リバース SSH 拡張

セキュア シェル (SSH) のバージョン 1 と 2 に対してサポートされているリバース SSH 拡張機能は、SSH を有効にしなければならない端末または補助回線ごとに別々の回線を設定する必要がないようにリバース SSH を設定する代替手段を提供します。この機能は、ロータリーグループの制限も排除します。

- [リバース SSH 拡張の前提条件, on page 291](#)
- [リバース SSH 拡張の制約事項, on page 291](#)
- [リバース SSH 拡張に関する情報, on page 292](#)
- [リバース SSH 拡張の設定方法, on page 292](#)
- [リバース SSH 拡張の設定例, on page 297](#)
- [その他の参考資料, on page 298](#)
- [リバース SSH 拡張の機能情報, on page 300](#)

## リバース SSH 拡張の前提条件

- SSH を有効にする必要があります。
- SSH クライアントとサーバーで同じバージョンの SSH が動作している必要があります。

## リバース SSH 拡張の制約事項

- リバース SSH の代替手段をコンソールアクセス用に設定する場合、**-I** キーワード、*userid* :*{number}* *{ip-address}* デリミタ、および引数が必須です。

# リバーズ SSH 拡張に関する情報

## リバーズ Telnet

リバーズ Telnet を使用すると、特定のポート範囲に Telnet を実行したり、端末または補助回線に接続することができます。リバーズ Telnet は、他のシスコ デバイスのコンソールへの端末回線を複数内蔵したシスコ デバイスとの接続によく使用されていました。Telnet を使用すると、特定の回線上のターミナル サーバに Telnet することによって、どの場所からでも簡単にデバイス コンソールに到達できます。この Telnet アプローチは、デバイスへのすべてのネットワーク接続が切断されている場合でも、そのデバイスの設定に使用できます。また、リバーズ Telnet は、シスコ デバイスに接続されたモデムをダイヤルアウトに使用することもできます（通常は、ロータリー デバイスと一緒に使用します）。

## リバーズ SSH

リバーズ Telnet は SSH を使用して実現できます。リバーズ Telnet と違って、SSH はセキュアな接続を提供します。リバーズ SSH 拡張機能は、SSH の設定を容易にします。この機能を使用すれば、SSH を有効にする端末または補助回線ごとに別々の回線を設定する必要がなくなります。以前のリバーズ SSH 設定方法では、アクセスできるポートの数が 100 に制限されていました。リバーズ SSH 拡張機能では、ポートの数に制限がありません。リバーズ SSH 設定の代替手段については、[リバーズ SSH 拡張の設定方法, on page 292](#)を参照してください。

# リバーズ SSH 拡張の設定方法

## コンソール アクセス用のリバーズ SSH の設定

SSH サーバ上でリバーズ SSH コンソール アクセスを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **line** *line-number* *ending-line-number*
4. **no exec**
5. **login authentication** *listname*
6. **transport input ssh**
7. **exit**
8. **exit**
9. **ssh -l** *userid* : {*number*} {*ip-address*}

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line line-number ending-line-number</b> <b>Example:</b> Device# line 1 3	設定用の回線を特定して、ラインコンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 4	<b>no exec</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# no exec	回線上の EXEC 処理を無効にします。
ステップ 5	<b>login authentication listname</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# login authentication default	回線のログイン認証メカニズムを定義します。 <b>Note</b> 認証方式はユーザ名とパスワードを使用する必要があります。
ステップ 6	<b>transport input ssh</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# transport input ssh	デバイスの特定の回線への接続に使用されるプロトコルを定義します。 <ul style="list-style-type: none"><li>リバース SSH 拡張機能の場合は、<b>ssh</b> キーワードを使用する必要があります。</li></ul>
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# exit	ライン コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>ssh -l userid :{number} {ip-address}</b> <b>Example:</b> <pre>Device# ssh -l lab:1 router.example.com</pre>	<p>SSH サーバを実行しているリモートネットワークキングデバイスにログインするときに使用されるユーザ ID を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>userid</i> : ユーザー ID。</li> <li>• <i>::</i> : ポート番号と端末 IP アドレスが <i>userid</i> 引数に続くことを示します。</li> <li>• <i>number</i> : 端末番号または補助回線番号。</li> <li>• <i>ip-address</i> : ターミナルサーバーの IP アドレス。</li> </ul> <p><b>Note</b> リバース SSH の代替手段をモデム アクセス用に設定する場合は、<i>userid</i> 引数、<b>:rotary {number} {ip-address}</b> デリミタ、および引数が必須です。</p>

## モデム アクセス用のリバース SSH の設定

リバース SSH をモデム アクセス用に設定するには、後述の「手順の概要」で示す手順を実行します。

この設定では、リバース SSH がダイヤルアウト回線に使用されるモデム上で設定されます。ダイヤルアウト モデムのいずれかに到達するには、下のステップ 10 に示すように、任意の SSH クライアントを使用して SSH セッションを開始し、ロータリー デバイスから次に使用可能なモデムに到達します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **line line-number ending-line-number**
4. **no exec**
5. **login authentication listname**
6. **rotary group**
7. **transport input ssh**
8. **exit**
9. **exit**
10. **ssh -l userid :rotary {number} {ip-address}**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line line-number ending-line-number</b> <b>Example:</b> Device# line 1 200	設定用の回線を特定して、ラインコンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 4	<b>no exec</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# no exec	回線上の EXEC 処理を無効にします。
ステップ 5	<b>login authentication listname</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# login authentication default	回線のログイン認証メカニズムを定義します。 <b>Note</b> 認証方式はユーザ名とパスワードを使用する必要があります。
ステップ 6	<b>rotary group</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# rotary 1	1つ以上の仮想端末回線または1つの補助ポート回線からなる回線グループを定義します。
ステップ 7	<b>transport input ssh</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# transport input ssh	デバイスの特定の回線への接続に使用されるプロトコルを定義します。 <ul style="list-style-type: none"><li>リバース SSH 拡張機能の場合は、<b>ssh</b> キーワードを使用する必要があります。</li></ul>
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# exit	ライン コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# exit	
ステップ 10	<b>ssh -l userid :rotary {number} {ip-address}</b> <b>Example:</b> Device# ssh -l lab:rotary1 router.example.com	SSH サーバを実行しているリモート ネットワーキングデバイスにログインするときに使用されるユーザ ID を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>userid</i> : ユーザー ID。</li> <li>• <i>:</i> : ポート番号と端末 IP アドレスが <i>userid</i> 引数に続くことを示します。</li> <li>• <i>number</i> : 端末番号または補助回線番号。</li> <li>• <i>ip-address</i> : ターミナル サーバーの IP アドレス。</li> </ul> <b>Note</b> リバース SSH の代替手段をモデムアクセス用に設定する場合は、 <i>userid</i> 引数、 <b>:rotary {number} {ip-address}</b> デリミタ、および引数が必須です。

## クライアント上でのリバース SSH のトラブルシューティング

クライアント（リモート デバイス）上でリバース SSH 設定の問題を解決するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug ip ssh client**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug ip ssh client</b> <b>Example:</b> Device# debug ip ssh client	SSH クライアントに関するデバッグメッセージを表示します。



## サーバ上でのリバース SSH のトラブルシューティング

ターミナルサーバ上でリバース SSH 設定の問題を解決するには、次の手順を実行します。各ステップは、互いに独立しているため、任意の順序で設定できます。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `debug ip ssh`
3. `show ssh`
4. `show line`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug ip ssh</b> <b>Example:</b> Device# debug ip ssh	SSH サーバに関するデバッグメッセージを表示します。
ステップ 3	<b>show ssh</b> <b>Example:</b> Device# show ssh	SSH サーバ接続のステータスを表示します。
ステップ 4	<b>show line</b> <b>Example:</b> Device# show line	端末回線のパラメータを表示します。

## リバース SSH 拡張の設定例

### リバース SSH コンソール アクセスの例

次の設定例は、リバース SSH が端末回線 1～3 のコンソール アクセス用に設定されていることを示しています。

## ターミナル サーバーの設定

```
line 1 3
  no exec
  login authentication default
  transport input ssh
```

## クライアント設定

SSHクライアント上で設定された次のコマンドは、それぞれ、回線1、2、および3とのリバース SSH セッションを形成します。

```
ssh -l lab:1 router.example.com
ssh -l lab:2 router.example.com
ssh -l lab:3 router.example.com
```

## リバース SSH モデム アクセスの例

次の設定例では、ダイヤルアウト回線の 1 ~ 200 がモデム アクセス用のロータリー グループ 1 にグループ分けされています。

```
line 1 200
  no exec
  login authentication default
  rotary 1
  transport input ssh
  exit
```

次のコマンドは、リバース SSH がロータリー グループの最初の空き回線に接続されることを表示します。

```
ssh -l lab:rotary1 router.example.com
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>
セキュア シェルの設定	<a href="#">『セキュア シェル コンフィギュレーション ガイド』</a>
セキュリティ コマンド	<a href="#">『Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス』</a>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
セキュア シェルの設定	『セキュア シェル コンフィギュレーション ガイド』
セキュリティ コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス</a> 』

## 標準

標準	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## リバーズ SSH 拡張の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 39: リバーズ SSH 拡張の機能情報

機能名	リリース	機能情報
リバーズ SSH 拡張		セキュア シェル (SSH) のバージョン 1 と 2 に対してサポートされているリバーズ SSH 拡張機能は、SSH を有効にしなければならない端末または補助回線ごとに別々の回線を設定する必要があるようにリバーズ SSH を設定する代替手段を提供します。この機能は、ロータリー グループの制限も排除します。  次のコマンドが導入されました : <b>ssh</b>



## CHAPTER 22

# セキュアコピー

セキュアコピー（SCP）機能は、ルータ設定またはルータイメージファイルをコピーするセキュアで認証された方法を提供します。SCP は、セキュアシェル（SSH）、アプリケーション、および Berkeley r ツールのセキュアな代替手段を提供するプロトコルに依存します。

- [セキュアコピーの前提条件, on page 301](#)
- [セキュアコピーのパフォーマンス向上に関する制限事項, on page 301](#)
- [Secure Copy に関する情報, on page 302](#)
- [SCP の設定方法, on page 302](#)
- [セキュアコピーの設定例, on page 305](#)
- [その他の参考資料, on page 306](#)
- [セキュアコピーの機能情報, on page 307](#)
- [用語集, on page 308](#)

## セキュアコピーの前提条件

- SCP を有効にする前に、ルータ上で SSH、認証、および認可を正しく設定する必要があります。
- SCP は SSH を使用してセキュアな転送を実行するため、ルータには RSA キーのペアが必要です。

## セキュアコピーのパフォーマンス向上に関する制限事項

- ウィンドウサイズの増加は、主に SCP 操作に対してのみ使用する必要があります。
- プラットフォームのタイプによっては、ウィンドウサイズが最大の場合に CPU 使用率が高くなることがあります。
- 万一に備えて、デフォルトサイズの 4 倍まで増やすことができます。

# Secure Copy に関する情報

## SCP の機能

SCPは一連の Berkeley の r-tools に基づいて設計されているため、その動作内容は、SCP が SSH のセキュリティに対応している点を除けば、Remote Copy Protocol (RCP) と類似しています。加えて、SCPは、ユーザーが正しい権限レベルを持っていることをルータ上で判断できるように、認証、許可、アカウントिंग (AAA) 許可を設定する必要があります。

SCPを使用すると、適切な許可を得たユーザーは、**copy** コマンドを使用して、Cisco IOS XE ファイルシステム (IFS) 内に存在する任意のファイルをルータとやり取りすることができます。許可された管理者はワークステーションからこの操作を実行することもできます。

## SCP の設定方法

### SCP の設定

Cisco ルータを有効にして、SCP サーバー側機能用に設定するには、次の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authentication login {default | list-name} method1[method2... ]**
5. **aaa authorization {network | exec | commands level | reverse-access | configuration} {default | list-name} [method1 [method2... ]]**
6. **username name [privilege level]{ password encryption-type encrypted-password}**
7. **ip scp server enable**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Router# configure terminal	
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> Router (config)# aaa new-model	ログイン時の AAA 認証を設定します。
ステップ 4	<b>aaa authentication login {default   list-name} method1[method2... ]</b> <b>Example:</b> Router (config)# aaa authentication login default group tacacs+	AAA アクセス コントロール システムをイネーブリングにします。
ステップ 5	<b>aaa authorization {network   exec   commands level   reverse-access   configuration} {default   list-name} [method1 [method2... ]]</b> <b>Example:</b> Router (config)# aaa authorization exec default group tacacs+	ネットワークへのユーザ アクセスを制限するパラメータを設定します。 <b>Note</b> The <b>exec</b> キーワードは、認可を実行してユーザが EXEC シェルの実行を許可されているかどうかを判断します。したがって、SCP を設定するときにこのキーワードを使用する必要があります。
ステップ 6	<b>username name [privilege level]{ password encryption-type encrypted-password}</b> <b>Example:</b> Router (config)# username superuser privilege 2 password 0 superpassword	ユーザー名をベースとした認証システムを構築します。 <b>Note</b> TACACS+ や RADIUS などのネットワークベースの認証メカニズムが設定されている場合は、この手順を省略できます。
ステップ 7	<b>ip scp server enable</b> <b>Example:</b> Router (config)# ip scp server enable	SCP サーバー側機能を有効にします。

## SCP の確認

SCP サーバー側機能を確認するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show running-config**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show running-config</b> <b>Example:</b> Router# show running-config	SCP サーバー側機能を確認します。

## SCP のトラブルシューティング

## SUMMARY STEPS

1. enable
2. debug ip scp

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>debug ip scp</b> <b>Example:</b> Router# debug ip scp	SCP 認証問題を解決します。

## SCP ユーザー名とパスワードの設定

SCP のユーザー名と暗号化パスワードを設定するには、次の手順を実行します。

## 手順の概要

1. enable



2. **configureterminal**
3. **ip scpusernameusername**
4. **ip sccpassword encryption level {0| 7| LINE} password**
5. **exit**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configureterminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip scpusernameusername</b> 例： Device(config)# ip scp username cisco	ユーザー名を設定します。
ステップ 4	<b>ip sccpassword encryption level {0  7  LINE} password</b> 例： Device(config)# ip scp password 0 cisco123	パスワードを設定します。暗号化レベルを指定します。  • 0 : 暗号化されないパスワード。 • 7 : 暗号化されるパスワード。 • Line : クリアテキストのパスワード。
ステップ 5	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## セキュア コピーの設定例

### ローカル認証を使用した SCP サーバー側の設定例

次の例は、SCPのサーバー側機能の設定方法を示しています。この例では、ローカルに定義されたユーザ名とパスワードを使用します。

```
! AAA authentication and authorization must be configured properly for SCP to work.
aaa new-model
aaa authentication login default local
```

```

aaa authorization exec default local
username tiger privilege 15 password 0 lab
! SSH must be configured and functioning properly.
ip ssh time-out 120
ip ssh authentication-retries 3
ip scp server enable

```

## ネットワークベース認証を使用した SCP サーバー側の設定例

次の例は、ネットワークベースの認証メカニズムを使用した SCP のサーバ側機能の設定方法を示しています。

```

! AAA authentication and authorization must be configured properly for SCP to work.
aaa new-model
aaa authentication login default group tacacs+
aaa authorization exec default group tacacs+
! SSH must be configured and functioning properly.
ip ssh time-out 120
ip ssh authentication-retries 3
ip scp server enable

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
セキュリティコマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上のガイドライン、および例	『 <i>Cisco IOS Security Command Reference</i> 』
セキュア シェル	セキュア シェルおよびセキュア シェルバージョン 2 サポート設定の機能モジュール。
認証と認可の設定	認証設定、認可設定、およびアカウントिंग設定の機能モジュール。

### 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## セキュア コピーの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 40: セキュア コピーの機能情報

機能名	リリース	機能の設定情報
セキュア コピー	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>セキュア コピー (SCP) 機能は、ルータ設定またはルータ イメージ ファイルをコピーするセキュアで認証された方法を提供します。SCP は、セキュア シェル (SSH)、アプリケーション、および Berkeley r ツールのセキュアな代替手段を提供するプロトコルに依存します。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました：<b>debug ip scp</b>、<b>ip scp server enable</b>。</p>

## 用語集

**AAA**：認証、許可、およびアカウントिंगセキュリティサービスのフレームワークであり、ユーザーの身元確認（認証）、リモート アクセス コントロール（許可）、課金、監査、およびレポートに使用するセキュリティ サーバー情報の収集と送信（アカウントिंग）の方式を定めています。

**rcp**：リモート コピーセキュリティをリモート シェル (Berkeley r ツールスイート) に依存している rcp は、ルータ イメージやスタートアップ コンフィギュレーションなどのファイルをルータとやり取りします。

**SCP**：セキュア コピーセキュリティを SSH に依存している SCP サポートは、Cisco IOS XE ファイル システム内のあらゆるもののセキュアで認証されたコピーを可能にします。SCP は rcp から派生したものです。

**SSH**：セキュア シェル Berkeley r ツールのセキュアな代替手段を提供するアプリケーションとプロトコル。プロトコルは標準の暗号メカニズムを使用してセッションの安全を確保します。アプリケーションは Berkeley の rexec および rsh ツールと同様に使用できます。SSH バージョン 1 は Cisco IOS XE ソフトウェアに実装されています。



## CHAPTER 23

# セキュア シェルバージョン2 サポート

セキュア シェルバージョン2 サポート機能で、セキュア シェル (SSH) バージョン2 を設定できます (SSH バージョン1 サポートは、以前のシスコ ソフトウェア リリースに実装されていました)。SSHは、信頼性の高いトランスポート層の上部で実行され、強力な認証機能と暗号化機能を提供します。SSHでは、信頼できる転送として定義されているのはTCPのみです。SSHで、ネットワーク上の他のコンピュータに安全にアクセスしたり、コマンドを安全に実行できます。SSH とともに提供されるセキュア コピー プロトコル (SCP) 機能で、ファイルを安全に転送できます。

- [セキュア シェルバージョン2 サポートの前提条件, on page 309](#)
- [セキュア シェルバージョン2 サポートの制約事項, on page 310](#)
- [セキュア シェルバージョン2 サポートに関する情報, on page 310](#)
- [セキュア シェルバージョン2 サポートの設定方法, on page 314](#)
- [セキュア シェルバージョン2 サポートの設定例, on page 329](#)
- [セキュア シェルバージョン2 サポートの追加情報, on page 334](#)
- [セキュア シェルバージョン2 サポートの機能情報, on page 335](#)

## セキュア シェルバージョン2 サポートの前提条件

- SSHを設定する前に、ご使用のデバイスに必要なイメージがロードされていることを確認します。SSH サーバーには、ご使用のリリースに応じた k9 (Triple Data Encryption Standard [3DES]) ソフトウェア イメージが必要です。
- SSH バージョン2 をサポートする SSH リモート デバイスを使用する必要があります。また、シスコ デバイスに接続する必要があります。
- SCPは、認証、認可、およびアカウンティング (AAA) によって正しく機能します。そのため、SSH サーバーで Secure Copy Protocol が有効になるようにデバイスで AAA を設定する必要があります。



**Note** SSH バージョン2 サーバーと SSH バージョン2 クライアントは、ご使用のリリースに応じてシスコ ソフトウェアでサポートされます (SSH クライアントは SSH バージョン1 プロトコルと SSH バージョン2 プロトコルの両方を実行します。SSH クライアントは、ご使用のリリースに応じて k8 および k9 イメージの両方でサポートされます)。

ソフトウェア イメージのダウンロードに関する情報については、『*Cisco IOS Configuration Fundamentals* コンフィギュレーション ガイド』を参照してください。

## セキュア シェルバージョン2 サポートの制約事項

- Cisco IOS XE リリース 17.10 以降、セキュアシェルバージョン 1.99 はサポートされていません。
- セキュア シェル (SSH) サーバーと SSH クライアントは、Triple Data Encryption Standard (3DES) ソフトウェア イメージでサポートされます。
- サポートされるアプリケーションは、実行シェル、remote コマンドの実行、Secure Copy Protocol (SCP) のみです。
- Rivest、Shamir、および Adleman (RSA) キー生成は SSH サーバー側の要件です。SSH クライアントとして動作するデバイスは、RSA キーを生成する必要がありません。
- Cisco IOS XE リリース 17.10 以降、RSA キーペアの最小サイズは 2048 ビットである必要があります。

Cisco IOS XE リリース 17.11 以降では、弱い RSA キーを引き続き使用する場合、**crypto engine compliance shield disable** コマンドを使用してデバイスで CSDL コンプライアンスを無効にし、再起動してください。

- 次の機能はサポートされていません。
  - ポート フォワーディング。
  - Compression

## セキュア シェルバージョン2 サポートに関する情報

### SSH バージョン2

セキュア シェルバージョン2 サポート機能で、SSH バージョン2 を設定できます。

SSH バージョン2 サーバの設定は、SSH バージョン1 の設定と同様です。ip ssh version コマンドは、設定する SSH バージョンを定義します。このコマンドを設定しない場合、デフォルト

で SSH は互換モードで実行されます。バージョン1とバージョン2両方の接続が利用できます。



**Note** SSHバージョン1は、標準として定義されていないプロトコルです。未定義のプロトコル（バージョン1）にデバイスがフォールバックしないようにするには、**ip ssh version** コマンドを使用してバージョン2を指定する必要があります。

**ip ssh rsa keypair-name** コマンドを使用すると、設定した Rivest、Shamir、および Adleman（RSA）キーを使用して SSH 接続を実行できます。すでに、SSH は生成済みの最初の RSA キーにリンクされています（つまり、最初の RSA キーペアが生成された時点で SSH はイネーブルになっています）。この動作は存在していますが、**ip ssh rsa keypair-name** コマンドを使用してこの動作を行わないようにすることができます。**ip ssh rsa keypair-name** コマンドをキーペアの名前を指定して設定すると、SSH は、キーペアが存在する場合に有効になるか、キーペアを後で作成する場合は後から有効になります。このコマンドを使用して SSH をイネーブルにする場合、Cisco ソフトウェアの SSH バージョン1では必要な、ホスト名とドメイン名を設定を設定する必要はありません。



**Note** ログインバナーは SSH バージョン2でサポートされますが、セキュア シェルバージョン1ではサポートされません。

## セキュア シェルバージョン2の機能拡張

SSH バージョン2の機能拡張には、Virtual Routing and Forwarding (VRF) -Aware SSH、SSH デバッグ機能拡張、および Diffie-Hellman (DH) グループ交換のサポートなどの追加機能がいくつか含まれています。



**Note** VRF-Aware SSH 機能は、ご使用のリリースに応じてサポートされます。

Cisco SSH 実装では従来、768 ビット絶対値が使用されていましたが、DH グループ 14 (2048 ビット) およびグループ 16 (4096 ビット) 暗号化アプリケーションに対応するため、より大きなキーサイズの必要性が高まり、優先 DH グループを確立するクライアントとサーバー間のメッセージ交換が必要になっています。**ip ssh dh min size** コマンドは、SSH サーバー上のモジュラスサイズを設定します。これに加え、**ssh** コマンドが拡張され、SSH クライアント側のクライアントの VRF インスタンス名を IP アドレスとともに使用して、正しいルーティングテーブルを検索し、接続を確立する機能に、VRF 認識が追加されました。

SSH debug コマンドが修正され、デバッグが拡張されました。**debug ip ssh** コマンドは、デバッグプロセスを簡素化するために拡張されました。デバッグプロセスを簡素化する前、このコマンドでは、明確に必要なかどうかに関係なく SSH に関連するすべてのデバッグメッセージが

印刷されました。この動作は依然として存在しますが、**debug ip ssh** コマンドをキーワードを指定して設定した場合、メッセージはキーワードで指定した情報に制限されます。

## セキュア シェルバージョン2のRSA キーに関する機能拡張

Cisco SSH バージョン2は、キーボードインタラクティブ認証方式およびパスワードベースの認証方式をサポートしています。RSA キーのSSH バージョン2 拡張機能は、クライアントとサーバ向けのRSA ベースの公開キー認証もサポートしています。

**ユーザ認証：**RSA ベースのユーザ認証では、各ユーザに関連付けられている秘密キー/公開キーのペアを認証に使用します。ユーザは秘密キー/公開キーのペアをクライアントで生成し、公開キーをCisco SSH サーバで設定して、認証を完了します。

クレデンシャルの確立を試行するSSH ユーザは、秘密キーを使用して暗号化された署名を提示します。署名とユーザの公開キーは、認証のためにSSH サーバに送信されます。SSH サーバでは、ユーザから提示された公開キーに対してハッシュを計算します。ハッシュは、サーバに一致するエントリがあるかどうかを判断するために使用されます。一致が見つかった場合、RSA ベースのメッセージ検証が公開キーを使用して実行されます。その結果、暗号化されたシグニチャに基づいて、ユーザのアクセスは認証されるか拒否されます。

**サーバ認証：**SSH セッションの確立中に、Cisco SSH クライアントは、キー交換フェーズ中に使用できるサーバホストキーを使用して、SSH サーバを認証します。SSH サーバキーは、SSH サーバの識別に使用されます。これらのキーはSSH がイネーブルになるときに作成され、クライアント側で設定する必要があります。

サーバ認証の場合、Cisco SSH クライアントが各サーバにホストキーを割り当てる必要があります。クライアントがサーバとの間でSSH セッションを確立しようとする時、クライアントはキー交換メッセージの一部として、サーバの署名を受信します。厳密なホストキーのチェックフラグがクライアント側でイネーブルの場合、そのサーバに対応するホストキーエントリがあるかどうかをクライアントで確認されます。一致が見つかり、クライアントはサーバホストキーを使用して署名の検証を試行します。サーバの認証に成功すると、セッションの確立処理は続行します。失敗すると、処理は終了し、「Server Authentication Failed」というメッセージが表示されます。



**Note** 公開キーをサーバで格納する際、メモリを使用します。したがって、SSH サーバで設定できる公開キーの数は、1 ユーザに最大2つの公開キーを作成した場合10 ユーザ分に限られます。



**Note** シスコサーバはRSA ベースのユーザ認証をサポートしていますが、シスコクライアントは認証方式として公開キーを提案できません。RSA ベースの認証に対するオープンなSSH クライアントからの要求をCisco サーバが受信した場合、サーバは認証要求を受け入れます。





**Note** サーバ認証の場合、サーバの RSA 公開キーを手動で設定し、Cisco SSH クライアント側で **ip ssh stricthostkeycheck** コマンドを設定します。

## SNMP トラップ生成

ご使用のリリースに応じて、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップは、トラップが有効で SNMP デバッグがオンになっている場合、SSH セッションが終了した際に自動的に生成されます。SNMP トラップの有効化に関する情報については、『SNMP Configuration Guide』の「Configuring SNMP Support」モジュールを参照してください。



**Note** **snmp-server host** コマンドを設定する場合、IP アドレスは、SSH (telnet) クライアントがあり、SSH サーバへの IP 接続が可能な PC のアドレスにする必要があります。

また、**debug snmp packet** コマンドを使用して SNMP デバッグを有効にし、トラップを表示する必要があります。トラップ情報には、送信バイト数や SSH セッションで使用されたプロトコルなどの情報が含まれます。

## SSH キーボードインタラクティブ認証

SSH キーボードインタラクティブ認証機能は、SSH での汎用メッセージ認証とも呼ばれ、異なる種類の認証メカニズムを実装するために使用できる方式です。基本的に、現在サポートされている、ユーザの入力のみが必要な認証方式はすべて、この機能で実行することができます。この機能は自動的にイネーブルになります。

次の方式がサポートされています。

- パスワード
- サーバが送信するチャレンジに応答する番号またはストリングを印刷する SecurID およびハードウェア トークン
- プラグイン可能な認証モジュール (PAM)
- S/KEY (およびその他の使い捨てキー)

自動的にイネーブルにされた SSH キーボードインタラクティブ認証機能のさまざまなシナリオの例については、[例：SSH キーボードインタラクティブ認証, on page 330](#) を参照してください。

# セキュア シェルバージョン2 サポートの設定方法

## ホスト名およびドメイン名を使用した SSH バージョン2 のデバイス設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **hostname *name***
4. **ip domain-name *name***
5. **crypto key generate rsa**
6. **ip ssh [time-out *seconds* | authentication-retries *integer*]**
7. **ip ssh version [1 | 2]**
8. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>hostname <i>name</i></b> <b>Example:</b>  Device(config)# hostname cisco7200	デバイスのホスト名を設定します。
ステップ 4	<b>ip domain-name <i>name</i></b> <b>Example:</b>  cisco7200(config)# ip domain-name example.com	デバイスのドメイン名を設定します。
ステップ 5	<b>crypto key generate rsa</b> <b>Example:</b>	ローカルおよびリモート認証用に SSH サーバをイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
	<code>cisco7200(config)# crypto key generate rsa</code>	
ステップ 6	<b>ip ssh [time-out seconds   authentication-retries integer]</b> <b>Example:</b> <code>cisco7200(config)# ip ssh time-out 120</code>	(任意) デバイス上で SSH 制御変数を設定します。
ステップ 7	<b>ip ssh version [1   2]</b> <b>Example:</b> <code>cisco7200(config)# ip ssh version 1</code>	(任意) デバイスで実行する SSH のバージョンを指定します。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> <code>cisco7200(config)# exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。  • デフォルトホストに戻るには、 <b>no hostname</b> コマンドを使用します。

## RSA キー ペアを使用した SSH バージョン 2 のデバイス設定

### Procedure

#### ステップ 1 enable

##### Example:

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

#### ステップ 2 configure terminal

##### Example:

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

#### ステップ 3 ip ssh rsa keypair-name keypair-name

##### Example:

```
Device(config)# ip ssh rsa keypair-name sshkeys
```

SSH に使用する RSA キー ペアを指定します。

**Note** シスコ デバイスには複数の RSA キー ペアを設定できます。

#### ステップ 4 **crypto key generate rsa usage-keys label key-label modulus modulus-size**

**Example:**

```
Device(config)# crypto key generate rsa usage-keys label sshkeys modulus 768
```

デバイスでローカルおよびリモート認証を行う SSH サーバを有効にします。

- SSH バージョン 2 では、絶対サイズは 768 ビット以上である必要があります。

**Note** RSA キー ペアを削除するには、**crypto key zeroize rsa** コマンドを使用します。RSA キー ペアを削除すると、SSH サーバは自動的に無効になります。

#### ステップ 5 **ip ssh [time-out seconds | authentication-retries integer]**

**Example:**

```
Device(config)# ip ssh time-out 12
```

デバイス上で SSH 制御変数を設定します。

#### ステップ 6 **ip ssh version 2**

**Example:**

```
Device(config)# ip ssh version 2
```

デバイスで実行する SSH のバージョンを指定します。

#### ステップ 7 **exit**

**Example:**

```
Device(config)# exit
```

グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

---

## RSA ベースのユーザ認証を実行するための Cisco SSH サーバの設定

### Procedure

---

#### ステップ 1 **enable**

**Example:**

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

## ステップ 2 **configure terminal**

### Example:

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 3 **hostname name**

### Example:

```
Device(config)# hostname host1
```

ホスト名を指定します。

## ステップ 4 **ip domain-name name**

### Example:

```
host1(config)# ip domain-name name1
```

Cisco ソフトウェアで使用するデフォルトのドメイン名を定義し、不完全なホスト名のドメインを補完します。

## ステップ 5 **crypto key generate rsa**

### Example:

```
host1(config)# crypto key generate rsa
```

RSA キー ペアを生成します。

## ステップ 6 **ip ssh pubkey-chain**

### Example:

```
host1(config)# ip ssh pubkey-chain
```

SSH サーバ上のユーザおよびサーバ認証用に SSH-RSA キーを設定し、公開キー コンフィギュレーション モードを開始します。

- サーバに保存されている RSA 公開キーが、クライアントに保存されている公開キーと秘密キーのペアを使用して検証されると、ユーザ認証は成功です。

## ステップ 7 **username username**

### Example:

```
host1(conf-ssh-pubkey)# username user1
```

SSH ユーザ名を設定し、公開キー ユーザ コンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 8 **key-string**

**Example:**

```
host1(conf-ssh-pubkey-user)# key-string
```

リモートピアの RSA 公開キーを指定し、公開キー データ コンフィギュレーション モードを開始します。

**Note** オープン SSH クライアントから（言い換えると `.ssh/id_rsa.pub` ファイルから）公開キー値を取得できます。

**ステップ 9** `key-hash key-type key-name`**Example:**

```
host1(conf-ssh-pubkey-data)# key-hash ssh-rsa key1
```

（任意）SSH キー タイプとバージョンを指定します。

- 秘密キー/公開キー ペアの設定では、キー タイプを `ssh-rsa` にする必要があります。
- `key-string` コマンドが設定されている場合に限りこの手順は任意です。
- `key-string` コマンドと `key-hash` コマンドのいずれかを設定する必要があります。

**Note** 公開キースtringのハッシュを計算するには、ハッシュ処理ソフトウェアを使用します。また、別のシスコ デバイスからハッシュ値をコピーすることもできます。初めて公開キー データを入力する場合、`key-string` コマンドを使用して公開キー データを入力することを推奨します。

**ステップ 10** `end`**Example:**

```
host1(conf-ssh-pubkey-data)# end
```

公開キー データ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

- デフォルト ホストに戻るには、`no hostname` コマンドを使用します。

## RSA ベースのサーバ認証を実行するための Cisco IOS SSH サーバの設定

### Procedure

**ステップ 1** `enable`**Example:**

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

## ステップ 2 **configure terminal**

### **Example:**

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 3 **hostname name**

### **Example:**

```
Device(config)# hostname host1
```

ホスト名を指定します。

## ステップ 4 **ip domain-name name**

### **Example:**

```
host1(config)# ip domain-name name1
```

Cisco ソフトウェアで使用するデフォルトのドメイン名を定義し、不完全なホスト名のドメインを補完します。

## ステップ 5 **crypto key generate rsa**

### **Example:**

```
host1(config)# crypto key generate rsa
```

RSA キー ペアを生成します。

## ステップ 6 **ip ssh pubkey-chain**

### **Example:**

```
host1(config)# ip ssh pubkey-chain
```

SSH サーバ上のユーザおよびサーバ認証用に SSH-RSA キーを設定し、公開キー コンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 7 **server server-name**

### **Example:**

```
host1(conf-ssh-pubkey)# server server1
```

デバイスでの公開キー認証について SSH サーバを有効にし、公開キー サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 8 **key-string**

### **Example:**

```
host1(conf-ssh-pubkey-server)# key-string
```

リモート ピアの RSA 公開キーを指定し、公開キー データ コンフィギュレーション モードを開始します。

**Note** オープン SSH クライアントから（言い換えると `.ssh/id_rsa.pub` ファイルから）公開キー値を取得できます。

#### ステップ 9 **exit**

##### **Example:**

```
host1(conf-ssh-pubkey-data)# exit
```

公開キー データ コンフィギュレーション モードを終了し、公開キー サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。

#### ステップ 10 **key-hash key-type key-name**

##### **Example:**

```
host1(conf-ssh-pubkey-server)# key-hash ssh-rsa key1
```

（任意）SSH キー タイプとバージョンを指定します。

- 秘密キー/公開キー ペアの設定では、キー タイプを `ssh-rsa` にする必要があります。
- **key-string** コマンドが設定されている場合に限りこの手順は任意です。
- **key-string** コマンドと **key-hash** コマンドのいずれかを設定する必要があります。

**Note** 公開キー スtring のハッシュを計算するには、ハッシュ処理ソフトウェアを使用します。また、別のシスコ デバイスからハッシュ値をコピーすることもできます。初めて公開キー データを入力する場合、**key-string** コマンドを使用して公開キー データを入力することを推奨します。

#### ステップ 11 **end**

##### **Example:**

```
host1(conf-ssh-pubkey-server)# end
```

公開キー サーバ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

#### ステップ 12 **configure terminal**

##### **Example:**

```
host1# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

#### ステップ 13 **ip ssh stricthostkeycheck**

##### **Example:**



```
host1(config)# ip ssh stricthostkeycheck
```

サーバ認証が実行されることを確認します。

- 障害が発生すると、接続は終了します。
- デフォルト ホストに戻るには、 **no hostname** コマンドを使用します。

## リモート デバイスとの暗号化セッションの開始



**Note** 接続するデバイスは、シスコ ソフトウェアでサポートされる暗号化アルゴリズムを備えたセキュアシェル (SSH) サーバをサポートする必要があります。また、デバイスを有効にする必要はありません。SSH はディセーブル モードで実行できます。

### Procedure

```
ssh [-v {1 | 2}] [-c {aes128-ctr | aes192-ctr | aes256-ctr | aes128-cbc | 3des | aes192-cbc | aes256-cbc}] [-l user-id |  
-l user-id:vrf-name number ip-address ip-address] [-l user-id:rotary number ip-address] [-m {hmac-md5-128 |  
hmac-md5-96 | hmac-sha1-160 | hmac-sha1-96}] [-o numberofpasswordprompts n] [-p port-num] {ip-addr |  
hostname} [command] [-vrf]
```

#### Example:

```
Device# ssh -v 2 -c aes256-ctr -m hmac-sha1-96 -l user2 10.76.82.24
```

リモート ネットワーク デバイスとの暗号化されたセッションを開始します。

## トラブルシューティングのヒント

**ip ssh version** コマンドは、SSH の設定のトラブルシューティングに使用できます。バージョンを変更することによって、問題がある SSH バージョンを特定できます。

## SSH サーバでの Secure Copy Protocol のイネーブル化



**Note** 次のタスクでは、SCP のサーバ側機能を設定します。このタスクは、デバイスでリモートのワークステーションからファイルを安全にコピーできる一般的な設定を示しています。

## Procedure

### ステップ 1 enable

**Example:**

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

### ステップ 2 configure terminal

**Example:**

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

### ステップ 3 aaa new-model

**Example:**

```
Device(config)# aaa new-model
```

AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。

### ステップ 4 aaa authentication login default local

**Example:**

```
Device(config)# aaa authentication login default local
```

認証時にローカルのユーザ名データベースを使用するように、ログイン時の AAA 認証を設定します。

### ステップ 5 aaa authorization exec defaultlocal

**Example:**

```
Device(config)# aaa authorization exec default local
```

ユーザアクセスを制限するパラメータをネットワークに設定します。許可を実行し、ユーザ ID で EXEC シェルの実行を許可するかどうかを定義します。その後、システムで許可にローカル データベースを使用する必要があることを指定します。

### ステップ 6 username *name* privilege *privilege-level* password *password*

**Example:**

```
Device(config)# username samplename privilege 15 password password1
```

ユーザ名ベースの認証システムを確立し、ユーザ名、権限レベル、および非暗号化パスワードを指定します。

**Note** *privilege-level* 引数の最小値は 15 です。権限レベルが 15 未満の場合、接続が切断されます。

**ステップ 7** **ip ssh time-outseconds**

**Example:**

```
Device(config)# ip ssh time-out 120
```

デバイスが SSH クライアントの応答を待つ時間間隔を、秒単位で設定します。

**ステップ 8** **ip ssh authentication-retries** 整数

**Example:**

```
Device(config)# ip ssh authentication-retries 3
```

インターフェイスのリセット後、認証を試行する回数を設定します。

**ステップ 9** **ip scpserverenable**

**Example:**

```
Device(config)# ip scp server enable
```

デバイスで、リモートワークステーションから安全にファイルをコピーできるようにします。

**ステップ 10** **exit**

**Example:**

```
Device(config)# exit
```

グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

**ステップ 11** **debug ip scp**

**Example:**

```
Device# debug ip scp
```

(任意) SCP 認証の問題に関する診断情報を提供します。

---

## セキュア シェル接続のステータスの確認

### Procedure

---

**ステップ 1** **enable**

**Example:**

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

## ステップ 2 show ssh

### Example:

```
Device# show ssh
```

SSH サーバ接続のステータスを表示します。

## ステップ 3 exit

### Example:

```
Device# exit
```

特権 EXEC モードを終了し、ユーザ EXEC モードに戻ります。

## 例

次の **show ssh** コマンドの出力例には、バージョン 1 およびバージョン 2 接続の複数の SSH バージョン 1 およびバージョン 2 接続のステータスが表示されています。

```
-----
Device# show ssh

Connection      Version Encryption      State      Username
0               1.5      3DES              Session started lab
Connection Version Mode Encryption Hmac      State
Username
1               2.0      IN aes128-cbc hmac-md5   Session started lab
1               2.0      OUT aes128-cbc hmac-md5   Session started lab
-----
```

次の **show ssh** コマンドの出力例には、バージョン 2 接続（バージョン 1 接続なし）の複数の SSH バージョン 2 およびバージョン 1 接続のステータスが表示されています。

```
-----
Device# show ssh

Connection Version Mode Encryption Hmac      State
Username
1               2.0      IN aes128-cbc hmac-md5   Session started lab
1               2.0      OUT aes128-cbc hmac-md5   Session started lab
%No SSHv1 server connections running.
-----
```

次の **show ssh** コマンドの出力例には、バージョン 2 接続（バージョン 1 接続なし）の複数の SSH バージョン 1 およびバージョン 2 接続のステータスが表示されています。

```
-----  
Device# show ssh  
  
Connection      Version Encryption      State                Username  
0                1.5      3DES                Session started     lab  
%No SSHv2 server connections running.  
-----
```

## セキュア シェル ステータスの確認

### Procedure

---

#### ステップ 1 enable

##### Example:

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

#### ステップ 2 show ip ssh

##### Example:

```
Device# show ip ssh
```

SSH のバージョンおよび設定データを表示します。

#### ステップ 3 exit

##### Example:

```
Device# exit
```

特権 EXEC モードを終了し、ユーザ EXEC モードに戻ります。

---

### 例

次の **show ip ssh** コマンドの出力例には、有効な SSH のバージョン、認証タイムアウト値、およびバージョン 1 およびバージョン 2 接続の認証の再試行回数が表示されています。

```
-----  
Device# show ip ssh  
  
SSH Enabled - version 1.99
```

```
Authentication timeout: 120 secs; Authentication retries: 3
```

次の **show ip ssh** コマンドの出力例には、有効な SSH のバージョン、認証タイムアウト値、およびバージョン 2 接続（バージョン 1 接続なし）の認証の再試行回数が表示されています。

```
Device# show ip ssh
```

```
SSH Enabled - version 2.0
Authentication timeout: 120 secs; Authentication retries: 3
```

次の **show ip ssh** コマンドの出力例には、有効な SSH のバージョン、認証タイムアウト値、およびバージョン 1 接続（バージョン 2 接続なし）の認証の再試行回数が表示されています。

```
Device# show ip ssh
```

```
3d06h: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
SSH Enabled - version 1.5
Authentication timeout: 120 secs; Authentication retries: 3
```

## セキュア シェル バージョン 2 のモニタリングと維持

### Procedure

#### ステップ 1 enable

##### Example:

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

#### ステップ 2 debug ip ssh

##### Example:

```
Device# debug ip ssh
```

SSH のデバッグを有効にします。

#### ステップ 3 debug snmp packet

##### Example:

```
Device# debug snmp packet
```

デバイスによって送受信されたすべての SNMP パケットのデバッグを有効にします。

## 例

次の `debug ip ssh` コマンドの出力例は、接続が SSH バージョン 2 接続であることを示します。

```
Device# debug ip ssh

00:33:55: SSH1: starting SSH control process
00:33:55: SSH1: sent protocol version id SSH-1.99-Cisco-1.25
00:33:55: SSH1: protocol version id is - SSH-2.0-OpenSSH_2.5.2p2
00:33:55: SSH2 1: send: len 280 (includes padlen 4)
00:33:55: SSH2 1: SSH2_MSG_KEXINIT sent
00:33:55: SSH2 1: ssh_receive: 536 bytes received
00:33:55: SSH2 1: input: packet len 632
00:33:55: SSH2 1: partial packet 8, need 624, maclen 0
00:33:55: SSH2 1: ssh_receive: 96 bytes received
00:33:55: SSH2 1: partial packet 8, need 624, maclen 0
00:33:55: SSH2 1: input: padlen 11
00:33:55: SSH2 1: received packet type 20
00:33:55: SSH2 1: SSH2_MSG_KEXINIT received
00:33:55: SSH2: kex: client->server aes128-cbc hmac-md5 none
00:33:55: SSH2: kex: server->client aes128-cbc hmac-md5 none
00:33:55: SSH2 1: expecting SSH2_MSG_KEXDH_INIT
00:33:55: SSH2 1: ssh_receive: 144 bytes received
00:33:55: SSH2 1: input: packet len 144
00:33:55: SSH2 1: partial packet 8, need 136, maclen 0
00:33:55: SSH2 1: input: padlen 5
00:33:55: SSH2 1: received packet type 30
00:33:55: SSH2 1: SSH2_MSG_KEXDH_INIT received
00:33:55: SSH2 1: signature length 111
00:33:55: SSH2 1: send: len 384 (includes padlen 7)
00:33:55: SSH2: kex_derive_keys complete
00:33:55: SSH2 1: send: len 16 (includes padlen 10)
00:33:55: SSH2 1: newkeys: mode 1
00:33:55: SSH2 1: SSH2_MSG_NEWKEYS sent
00:33:55: SSH2 1: waiting for SSH2_MSG_NEWKEYS
00:33:55: SSH2 1: ssh_receive: 16 bytes received
00:33:55: SSH2 1: input: packet len 16
00:33:55: SSH2 1: partial packet 8, need 8, maclen 0
00:33:55: SSH2 1: input: padlen 10
00:33:55: SSH2 1: newkeys: mode 0
00:33:55: SSH2 1: received packet type 2100:33:55: SSH2 1: SSH2_MSG_NEWKEYS received
00:33:56: SSH2 1: ssh_receive: 48 bytes received
00:33:56: SSH2 1: input: packet len 32
00:33:56: SSH2 1: partial packet 16, need 16, maclen 16
00:33:56: SSH2 1: MAC #3 ok
00:33:56: SSH2 1: input: padlen 10
00:33:56: SSH2 1: received packet type 5
00:33:56: SSH2 1: send: len 32 (includes padlen 10)
00:33:56: SSH2 1: done calc MAC out #3
00:33:56: SSH2 1: ssh_receive: 64 bytes received
00:33:56: SSH2 1: input: packet len 48
00:33:56: SSH2 1: partial packet 16, need 32, maclen 16
00:33:56: SSH2 1: MAC #4 ok
00:33:56: SSH2 1: input: padlen 9
00:33:56: SSH2 1: received packet type 50
00:33:56: SSH2 1: send: len 32 (includes padlen 13)
```

```
00:33:56: SSH2 1: done calc MAC out #4
00:34:04: SSH2 1: ssh_receive: 160 bytes received
00:34:04: SSH2 1: input: packet len 64
00:34:04: SSH2 1: partial packet 16, need 48, maclen 16
00:34:04: SSH2 1: MAC #5 ok
00:34:04: SSH2 1: input: padlen 13
00:34:04: SSH2 1: received packet type 50
00:34:04: SSH2 1: send: len 16 (includes padlen 10)
00:34:04: SSH2 1: done calc MAC out #5
00:34:04: SSH2 1: authentication successful for lab
00:34:04: SSH2 1: input: packet len 64
00:34:04: SSH2 1: partial packet 16, need 48, maclen 16
00:34:04: SSH2 1: MAC #6 ok
00:34:04: SSH2 1: input: padlen 6
00:34:04: SSH2 1: received packet type 2
00:34:04: SSH2 1: ssh_receive: 64 bytes received
00:34:04: SSH2 1: input: packet len 48
00:34:04: SSH2 1: partial packet 16, need 32, maclen 16
00:34:04: SSH2 1: MAC #7 ok
00:34:04: SSH2 1: input: padlen 19
00:34:04: SSH2 1: received packet type 90
00:34:04: SSH2 1: channel open request
00:34:04: SSH2 1: send: len 32 (includes padlen 10)
00:34:04: SSH2 1: done calc MAC out #6
00:34:04: SSH2 1: ssh_receive: 192 bytes received
00:34:04: SSH2 1: input: packet len 64
00:34:04: SSH2 1: partial packet 16, need 48, maclen 16
00:34:04: SSH2 1: MAC #8 ok
00:34:04: SSH2 1: input: padlen 13
00:34:04: SSH2 1: received packet type 98
00:34:04: SSH2 1: pty-req request
00:34:04: SSH2 1: setting TTY - requested: height 24, width 80; set: height 24,
width 80
00:34:04: SSH2 1: input: packet len 96
00:34:04: SSH2 1: partial packet 16, need 80, maclen 16
00:34:04: SSH2 1: MAC #9 ok
00:34:04: SSH2 1: input: padlen 11
00:34:04: SSH2 1: received packet type 98
00:34:04: SSH2 1: x11-req request
00:34:04: SSH2 1: ssh_receive: 48 bytes received
00:34:04: SSH2 1: input: packet len 32
00:34:04: SSH2 1: partial packet 16, need 16, maclen 16
00:34:04: SSH2 1: MAC #10 ok
00:34:04: SSH2 1: input: padlen 12
00:34:04: SSH2 1: received packet type 98
00:34:04: SSH2 1: shell request
00:34:04: SSH2 1: shell message received
00:34:04: SSH2 1: starting shell for vty
00:34:04: SSH2 1: send: len 48 (includes padlen 18)
00:34:04: SSH2 1: done calc MAC out #7
00:34:07: SSH2 1: ssh_receive: 48 bytes received
00:34:07: SSH2 1: input: packet len 32
00:34:07: SSH2 1: partial packet 16, need 16, maclen 16
00:34:07: SSH2 1: MAC #11 ok
00:34:07: SSH2 1: input: padlen 17
00:34:07: SSH2 1: received packet type 94
00:34:07: SSH2 1: send: len 32 (includes padlen 17)
00:34:07: SSH2 1: done calc MAC out #8
00:34:07: SSH2 1: ssh_receive: 48 bytes received
00:34:07: SSH2 1: input: packet len 32
00:34:07: SSH2 1: partial packet 16, need 16, maclen 16
00:34:07: SSH2 1: MAC #12 ok
00:34:07: SSH2 1: input: padlen 17
00:34:07: SSH2 1: received packet type 94
```



```
00:34:07: SSH2 1: send: len 32 (includes padlen 17)
00:34:07: SSH2 1: done calc MAC out #9
00:34:07: SSH2 1: ssh_receive: 48 bytes received
00:34:07: SSH2 1: input: packet len 32
00:34:07: SSH2 1: partial packet 16, need 16, maclen 16
00:34:07: SSH2 1: MAC #13 ok
00:34:07: SSH2 1: input: padlen 17
00:34:07: SSH2 1: received packet type 94
00:34:07: SSH2 1: send: len 32 (includes padlen 17)
00:34:07: SSH2 1: done calc MAC out #10
00:34:08: SSH2 1: ssh_receive: 48 bytes received
00:34:08: SSH2 1: input: packet len 32
00:34:08: SSH2 1: partial packet 16, need 16, maclen 16
00:34:08: SSH2 1: MAC #14 ok
00:34:08: SSH2 1: input: padlen 17
00:34:08: SSH2 1: received packet type 94
00:34:08: SSH2 1: send: len 32 (includes padlen 17)
00:34:08: SSH2 1: done calc MAC out #11
00:34:08: SSH2 1: ssh_receive: 48 bytes received
00:34:08: SSH2 1: input: packet len 32
00:34:08: SSH2 1: partial packet 16, need 16, maclen 16
00:34:08: SSH2 1: MAC #15 ok
00:34:08: SSH2 1: input: padlen 17
00:34:08: SSH2 1: received packet type 94
00:34:08: SSH2 1: send: len 32 (includes padlen 16)
00:34:08: SSH2 1: done calc MAC out #12
00:34:08: SSH2 1: send: len 48 (includes padlen 18)
00:34:08: SSH2 1: done calc MAC out #13
00:34:08: SSH2 1: send: len 16 (includes padlen 6)
00:34:08: SSH2 1: done calc MAC out #14
00:34:08: SSH2 1: send: len 16 (includes padlen 6)
00:34:08: SSH2 1: done calc MAC out #15
00:34:08: SSH1: Session terminated normally
```

## セキュア シェルバージョン2 サポートの設定例

### 例：セキュア シェルバージョン1の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh version 1 ip ssh version 2
```

### 例：セキュア シェルバージョン2の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh version 2
```

### 例：セキュア シェルバージョン1および2の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# no ip ssh version
```

## 例：リモート デバイスでの暗号化セッションの開始

```
Device# ssh -v 2 -c aes256-cbc -m hmac-sha1-160 -l shaship 10.76.82.24
```

## 例：サーバ側 SCP の設定

次の例では、SCP のサーバ側機能の設定方法を示します。この例では、デバイスでの AAA 認証および許可も設定しています。この例では、ローカルに定義されたユーザ名とパスワードを使用します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa authentication login default local
Device(config)# aaa authorization exec default local
Device(config)# username samplename privilege 15 password password1
Device(config)# ip ssh time-out 120
Device(config)# ip ssh authentication-retries 3
Device(config)# ip scp server enable
```

## 例：SNMP トラップの設定

次の例では、設定済みの SNMP トラップを示します。トラップ通知は、SSH セッションが終了すると自動的に生成されます。この例の a、b、c、d は SSH クライアントの IP アドレスです。SNMP トラップデバッグ出力の例については、「[例：SNMP のデバッグ, on page 333](#)」を参照してください。

```
snmp-server
snmp-server host a.b.c.d public tty
```

## 例：SSH キーボード インタラクティブ認証

### 例：クライアント側のデバッグの有効化

次の例では、クライアント側のデバッグがオンになっており、プロンプトの最大数が 6（SSH キーボード インタラクティブ認証方式のために 3 つ、パスワード認証方式のために 3 つ）になっています。

```
Password:
Password:
Password:
Password:
Password:
Password: cisco123
Last login: Tue Dec 6 13:15:21 2005 from 10.76.248.213
user1@courier:~> exit
logout
[Connection to 10.76.248.200 closed by foreign host]
Device1# debug ip ssh client
```

```
SSH Client debugging is on

Device1# ssh -l lab 10.1.1.3

Password:
*Nov 17 12:50:53.199: SSH0: sent protocol version id SSH-1.99-Cisco-1.25
*Nov 17 12:50:53.199: SSH CLIENT0: protocol version id is - SSH-1.99-Cisco-1.25
*Nov 17 12:50:53.199: SSH CLIENT0: sent protocol version id SSH-1.99-Cisco-1.25
*Nov 17 12:50:53.199: SSH CLIENT0: protocol version exchange successful
*Nov 17 12:50:53.203: SSH0: protocol version id is - SSH-1.99-Cisco-1.25
*Nov 17 12:50:53.335: SSH CLIENT0: key exchange successful and encryption on
*Nov 17 12:50:53.335: SSH2 CLIENT 0: using method keyboard-interactive
Password:
Password:
Password:
*Nov 17 12:51:01.887: SSH2 CLIENT 0: using method password authentication
Password:
Password: lab
Device2>

*Nov 17 12:51:11.407: SSH2 CLIENT 0: SSH2_MSG_USERAUTH_SUCCESS message received
*Nov 17 12:51:11.407: SSH CLIENT0: user authenticated
*Nov 17 12:51:11.407: SSH2 CLIENT 0: pty-req request sent
*Nov 17 12:51:11.411: SSH2 CLIENT 0: shell request sent
*Nov 17 12:51:11.411: SSH CLIENT0: session open
```

## 例：ブランクパスワードの変更による ChPass の有効化

次の例では、ChPass 機能が有効になっており、SSH キーボードインタラクティブ認証方式を使用してブランクパスワードが変更されています。TACACS+ アクセスコントロールサーバ (ACS) は、バックエンド AAA サーバとして使用されています。

```
Device1# ssh -l cisco 10.1.1.3

Password:
Old Password: cisco
New Password: cisco123
Re-enter New password: cisco123

Device2> exit

[Connection to 10.1.1.3 closed by foreign host]
```

## 例：ChPass の有効化および初回ログインでのパスワード変更

次の例では、ChPass 機能が有効になっており、TACACS+ ACS はバックエンドサーバとして使用されています。パスワードは、SSH キーボードインタラクティブ認証方式を使用して最初のログインで変更されています。

```
Device1# ssh -l cisco 10.1.1.3

Password: cisco
Your password has expired.
Enter a new one now.
New Password: cisco123
Re-enter New password: cisco123

Device2> exit
```

## 例 : ChPass の有効化および 3 回ログインした後のパスワードの失効

```
[Connection to 10.1.1.3 closed by foreign host]

Device1# ssh -l cisco 10.1.1.3

Password:cisco1
Your password has expired.
Enter a new one now.
New Password: cisco
Re-enter New password: cisco12
The New and Re-entered passwords have to be the same.
Try again.
New Password: cisco
Re-enter New password: cisco

Device2>
```

## 例 : ChPass の有効化および 3 回ログインした後のパスワードの失効

次の例では、ChPass 機能が有効になっており、TACACS+ ACS はバックエンド AAA サーバとして使用されています。パスワードは、SSH キーボードインタラクティブ認証方式を使用して 3 回ログインした後に期限切れになります。

```
Device# ssh -l cisco. 10.1.1.3

Password: cisco

Device2> exit

[Connection to 10.1.1.3 closed by foreign host]

Device1# ssh -l cisco 10.1.1.3

Password: cisco

Device2> exit

Device1# ssh -l cisco 10.1.1.3

Password: cisco

Device2> exit

[Connection to 10.1.1.3 closed by foreign host]

Device1# ssh -l cisco 10.1.1.3

Password: cisco
Your password has expired.
Enter a new one now.
New Password: cisco123
Re-enter New password: cisco123

Device2>
```

## 例 : SNMP のデバッグ

次に、**debug snmp packet** コマンドの出力例を示します。出力には、SSH セッションの SNMP トラップ情報が含まれます。

```
Device1# debug snmp packet

SNMP packet debugging is on
Device1# ssh -l lab 10.0.0.2
Password:

Device2# exit

[Connection to 10.0.0.2 closed by foreign host]
Device1#
*Jul 18 10:18:42.619: SNMP: Queuing packet to 10.0.0.2
*Jul 18 10:18:42.619: SNMP: V1 Trap, ent cisco, addr 10.0.0.1, gentrap 6, spectrap 1
local.9.3.1.1.2.1 = 6
tcpConnEntry.1.10.0.0.1.22.10.0.0.2.55246 = 4
ltcpConnEntry.5.10.0.0.1.22.10.0.0.2.55246 = 1015
ltcpConnEntry.1.10.0.0.1.22.10.0.0.2.55246 = 1056
ltcpConnEntry.2.10.0.0.1.22.10.0.0.2.55246 = 1392
local.9.2.1.18.2 = lab
*Jul 18 10:18:42.879: SNMP: Packet sent via UDP to 10.0.0.2

Device1#
```

## 例 : SSH のデバッグの強化

次に、**debug ip ssh detail** コマンドの出力例を示します。出力には、SSH プロトコルとチャネル要求に関するデバッグ情報が含まれます。

```
Device# debug ip ssh detail

00:04:22: SSH0: starting SSH control process
00:04:22: SSH0: sent protocol version id SSH-1.99-Cisco-1.25
00:04:22: SSH0: protocol version id is - SSH-1.99-Cisco-1.25
00:04:22: SSH2 0: SSH2_MSG_KEXINIT sent
00:04:22: SSH2 0: SSH2_MSG_KEXINIT received
00:04:22: SSH2:kex: client->server enc:aes128-cbc mac:hmac-sha1
00:04:22: SSH2:kex: server->client enc:aes128-cbc mac:hmac-sha1
00:04:22: SSH2 0: expecting SSH2_MSG_KEXDH_INIT
00:04:22: SSH2 0: SSH2_MSG_KEXDH_INIT received
00:04:22: SSH2: kex_derive_keys complete
00:04:22: SSH2 0: SSH2_MSG_NEWKEYS sent
00:04:22: SSH2 0: waiting for SSH2_MSG_NEWKEYS
00:04:22: SSH2 0: SSH2_MSG_NEWKEYS received
00:04:24: SSH2 0: authentication successful for lab
00:04:24: SSH2 0: channel open request
00:04:24: SSH2 0: pty-req request
00:04:24: SSH2 0: setting TTY - requested: height 24, width 80; set: height 24, width
80
00:04:24: SSH2 0: shell request
00:04:24: SSH2 0: shell message received
00:04:24: SSH2 0: starting shell for vty
00:04:38: SSH0: Session terminated normally
```

次に、**debug ip ssh packet** コマンドの出力例を示します。出力には、SSH パケットに関するデバッグ情報が含まれます。

```
Device# debug ip ssh packet

00:05:43: SSH2 0: send:packet of length 280 (length also includes padlen of 4)
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 64 bytes received
00:05:43: SSH2 0: input: total packet length of 280 bytes
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 272 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 64 bytes received
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 272 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 64 bytes received
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 272 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 64 bytes received
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 272 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 24 bytes received
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 272 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: input: padlength 4 bytes
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 64 bytes received
00:05:43: SSH2 0: input: total packet length of 144 bytes
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 136 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 64 bytes received
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 136 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 16 bytes received
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 136 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: input: padlength 6 bytes
00:05:43: SSH2 0: signature length 143
00:05:43: SSH2 0: send:packet of length 448 (length also includes padlen of 7)
00:05:43: SSH2 0: send:packet of length 16 (length also includes padlen of 10)
00:05:43: SSH2 0: newkeys: mode 1
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 16 bytes received
00:05:43: SSH2 0: input: total packet length of 16 bytes
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)8 bytes,needed 8 bytes, maclen 0
00:05:43: SSH2 0: input: padlength 10 bytes
00:05:43: SSH2 0: newkeys: mode 0
00:05:43: SSH2 0: ssh_receive: 52 bytes received
00:05:43: SSH2 0: input: total packet length of 32 bytes
00:05:43: SSH2 0: partial packet length(block size)16 bytes,needed 16 bytes, maclen 20
00:05:43: SSH2 0: MAC compared for #3 :ok
```

## セキュア シェルバージョン2サポートの追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>
AAA ホスト名およびホスト ドメインの設定タスク セキュア シェルの設定タスク	<a href="#">『Security Configuration Guide : Securing User Services』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
ソフトウェア イメージのダウンロード 設定の基礎	『Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide』
IPsec の設定作業	『Security Configuration Guide : Secure Connectivity』
SNMP トラップの設定タスク	『SNMP Configuration Guide』

## 標準

標準	タイトル
IETF Secure Shell Version 2 Draft 規格	<a href="#">Internet Engineering Task Force の Web サイト</a>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## セキュア シェルバージョン2 サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 41: セキュア シェルバージョン2サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
セキュアシェルバージョン2サポート		<p>セキュア シェルバージョン2サポート機能を使用して、セキュア シェル (SSH) バージョン2を設定できます (SSHバージョン1のサポートは、以前の Cisco IOS ソフトウェアリリースで実装されていました)。SSHは、信頼性の高いトランスポート層の上部で実行され、強力な認証機能と暗号化機能を提供します。SSHバージョン2は、AES カウンタベース暗号化モードもサポートします。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました：<b>debug ip ssh</b>、<b>ip ssh min dh size</b>、<b>ip ssh rsa keypair-name</b>、<b>ip ssh version</b>、<b>ssh</b>。</p>
セキュアシェルバージョン2クライアントおよびサーバーサポート		Cisco IOS イメージが、SSHセッション終了時にSNMPトラップを自動的に生成するよう更新されました。
SSH キーボードインタラクティブ認証		SSH キーボードインタラクティブ認証機能は、SSHでの汎用メッセージ認証とも呼ばれ、異なる種類の認証メカニズムを実装するために使用できる方式です。基本的に、現在サポートされている、ユーザの入力のみが必要な認証方式はすべて、この機能で実行することができます。
セキュアシェルバージョン2の機能拡張		<p>セキュア シェルバージョン2の機能拡張には、VRF aware SSH、SSHデバッグ機能拡張、およびDHグループ14および16交換のサポートなどの、追加機能がいくつか含まれています。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました：<b>debug ip ssh</b>、<b>ip ssh dh min size</b>。</p>
セキュアシェルバージョン2のRSAキーに関する機能拡張		<p>RSAキーのセキュアシェルバージョン2機能拡張には、SSH向けRSAキーベースのユーザー認証や、SSHサーバーホストキーの保存や検証のサポートなどの、追加機能がいくつか含まれています。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました：<b>ip ssh pubkey-chain</b>、<b>ip ssh stricthostkeycheck</b>。</p>





## 第 24 章

# セキュア シェル：ユーザー認証方式の設定

セキュア シェル：ユーザー認証方式の設定機能によって、セキュア シェル (SSH) サーバーで使用可能なユーザー認証方式を設定できます。

- [セキュア シェルの制約事項：ユーザー認証方式の設定 \(337 ページ\)](#)
- [セキュア シェルに関する情報：ユーザー認証方式の設定 \(337 ページ\)](#)
- [セキュア シェルの設定方法：ユーザー認証方式の設定方法 \(338 ページ\)](#)
- [セキュア シェルの設定例：ユーザー認証方式の設定 \(341 ページ\)](#)
- [セキュア シェルの追加情報：ユーザー認証方式の設定 \(342 ページ\)](#)
- [セキュア シェルの機能情報：ユーザー認証方式の設定 \(343 ページ\)](#)

## セキュア シェルの制約事項：ユーザー認証方式の設定

セキュア シェル (SSH) サーバーと SSH クライアントは、データ暗号化ソフトウェア (DES) (56 ビット) および 3DES (168 ビット) イメージでのみサポートされます。

## セキュア シェルに関する情報：ユーザー認証方式の設定

### セキュア シェル ユーザー認証の概要

セキュア シェル (SSH) を使用することによって、SSH クライアントはシスコデバイス (Cisco IOS SSH サーバー) に対してセキュアで暗号化された接続を確立できます。SSH クライアントは SSH プロトコルを使用して、デバイス認証と暗号化を実行します。

SSH サーバーは、3 種類のユーザー認証方式をサポートし、これらの認証方式を事前に定義された次の順序で SSH クライアントに送信します。

- 公開キー認証方式

- キーボードインタラクティブ認証方式
- パスワード認証方式

デフォルトでは、すべてのユーザー認証方式が有効になっています。無効な方式が SSH ユーザー認証プロトコルでネゴシエートされないように特定のユーザー認証を無効にするには、**no ip ssh server authenticate user {publickey | keyboard | password}** コマンドを使用します。この機能によって、SSH サーバーは、事前に定義された順序とは異なる順序で希望のユーザー認証方式を指定できます。**ip ssh server authenticate user {publickey | keyboard | password}** コマンドを使用すると、無効になっているユーザー認証方式を有効にできます。

RFC 4252（セキュア シェル（SSH）認証プロトコル）のとおり、公開キー認証方式は必須です。この機能によって、SSH サーバーで RFC の動作をオーバーライドして、公開キー認証を含む任意の SSH ユーザー認証方式を無効にすることができます。

たとえば、SSH サーバーでパスワード認証方式を希望する場合、SSH サーバーで公開キー認証方式とキーボードインタラクティブ認証方式を無効にすることができます。

# セキュア シェルの設定方法：ユーザー認証方式の設定方法

## SSH サーバーのユーザー認証の設定

このタスクを実行して、セキュア シェル（SSH）サーバーでのユーザー認証方式を設定します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **no ip ssh server authenticate user {publickey | keyboard | password}**
4. **ip ssh server authenticate user {publickey | keyboard | password}**
5. **default ip ssh server authenticate user**
6. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例：	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no ip ssh server authenticate user {publickey   keyboard   password}</b> 例： Device(config)# no ip ssh server authenticate user publickey %SSH:Publickey disabled.Overriding RFC	セキュアシェル (SSH) サーバーでユーザー認証方式を無効にします。  (注) <b>no ip ssh server authenticate user publickey</b> コマンドを使用して公開キー認証を無効にすると、警告メッセージが表示されます。このコマンドは、公開キー認証が必須であることが明記されている RFC 4252 (セキュア シェル (SSH) 認証プロトコル) の動作をオーバーライドします。
ステップ 4	<b>ip ssh server authenticate user {publickey   keyboard   password}</b> 例： Device(config)# ip ssh server authenticate user publickey	SSHサーバーで無効になっているユーザー認証方法を有効にします。
ステップ 5	<b>default ip ssh server authenticate user</b> 例： Device(config)# default ip ssh server authenticate user	すべてのユーザー認証方式が事前に定義された順序で有効になっているデフォルトの動作に戻ります。
ステップ 6	<b>end</b> 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## トラブルシューティングのヒント

- **no ip ssh server authenticate user publickey** コマンドを使用して公開キーベースの認証方式を無効にすると、公開キー認証が必須の RFC 4252 (セキュア シェル (SSH) 認証プロトコル) の動作がオーバーライドされ、次の警告メッセージが表示されます。

```
%SSH:Publickey disabled.Overriding RFC
```

- 3 つすべての認証方式が無効になっている場合、次の警告メッセージが表示されます。

```
%SSH:No auth method configured.Incoming connection will be dropped
```

- 3 つすべての認証方式が SSH サーバーで無効になっているときに SSH クライアントから SSH セッション要求を受信した場合、接続要求は SSH サーバーでドロップされ、次の形式でシステム ログ メッセージが表示されます。

```
%SSH-3-NO_USERAUTH: No auth method configured for SSH Server. Incoming connection from <ip address> (tty = <ttynum>) dropped
```

## SSH サーバーのユーザー認証の確認

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show ip ssh**

### 手順の詳細

#### 手順

---

#### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

例：

```
Device> enable
```

#### ステップ 2 show ip ssh

セキュア シェル (SSH) のバージョンおよび設定データを表示します。

例：

次の **show ip ssh** コマンドの出力例では、3 つすべてのユーザー認証方式が SSH サーバーで有効になっていることを確認します。

```
Device# show ip ssh
```

```
Authentication methods:publickey,keyboard-interactive,password
```

次の **show ip ssh** コマンドの出力例では、3 つすべてのユーザー認証方式が SSH サーバーで無効になっていることを確認します。

```
Device# show ip ssh
```

```
Authentication methods:NONE
```

## セキュア シェルの設定例：ユーザー認証方式の設定

### 例：ユーザー認証方式の無効化

次の例では、公開キーベースの認証方式およびキーボードベースの認証方式を無効にし、パスワードベースの認証方式を使用して SSH クライアントが SSH サーバーに接続できるようにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# no ip ssh server authenticate user publickey
%SSH:Publickey disabled.Overriding RFC
Device(config)# no ip ssh server authenticate user keyboard
Device(config)# exit
```

### 例：ユーザー認証方式の有効化

次の例では、公開キーベースの認証方式およびキーボードベースの認証方式を有効にする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh server authenticate user publickey
Device(config)# ip ssh server authenticate user keyboard
Device(config)# exit
```

### 例：デフォルトのユーザー認証方式の設定

次の例では、3 つすべてのユーザー認証方式が事前に定義された順序で有効になっているデフォルトの動作に戻す方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# default ip ssh server authenticate user
Device(config)# exit
```

## セキュア シェルの追加情報：ユーザー認証方式の設定

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
SSH の設定	『セキュア シェル コンフィギュレーション ガイド』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 4252	『セキュア シェル (SSH) 認証プロトコル』
RFC 4253	『セキュア シェル (SSH) トランスポート層プロトコル』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## セキュア シェルの機能情報：ユーザー認証方式の設定

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 42: セキュア シェルの機能情報：ユーザー認証方式の設定

機能名	リリース	機能情報
セキュア シェル： ユーザー認証方式の 設定	Cisco IOS XE Release 3.10S	セキュアシェル：ユーザー認証方式の設定機能によって、セキュア シェル（SSH）サーバーで使用可能なユーザー認証方式を設定できます。  次のコマンドが導入されました： <b>ip ssh server authenticate user</b> 。  この機能は、Cisco IOS XE Release3.10 で、Cisco ASR 1000 シリーズアグリゲーションサービスルータに導入されました。







## 第 25 章

# SSH 認証の X.509v3 証明書

SSH 認証の X.509v3 証明書機能は、サーバー内で X.509v3 デジタル証明書を使用し、セキュアシェル（SSH）サーバー側でユーザー認証を使用します。

このモジュールでは、デジタル証明書用のサーバおよびユーザ証明書プロファイルを設定する方法について説明します。

- [SSH 認証の X.509v3 証明書の前提条件](#) (345 ページ)
- [SSH 認証の X.509v3 証明書の制約事項](#) (345 ページ)
- [SSH 認証用の X.509v3 証明書に関する情報](#) (346 ページ)
- [SSH 認証用の X.509v3 証明書の設定方法](#) (346 ページ)
- [SSH 認証用の X.509v3 証明書の設定例](#) (351 ページ)
- [SSH 認証用の X.509v3 証明書に関するその他の参考資料](#) (352 ページ)
- [SSH 認証用の X.509v3 証明書の機能情報](#) (353 ページ)

## SSH 認証の X.509v3 証明書の前提条件

- SSH 認証の X.509v3 証明書機能では、**ip ssh server authenticate user** コマンドの代わりに **ip ssh server algorithm authentication** コマンドが導入されます。**ip ssh server authenticate user** コマンドを使用すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
Warning: SSH command accepted but this CLI will be deprecated soon. Please move to new CLI "ip ssh server algorithm authentication". Please configure "default ip ssh server authenticate user" to make CLI ineffective.
```

- **default ip ssh server authenticate user** コマンドを使用して、**ip ssh server authenticate user** コマンドを無効にします。その後、IOS セキュアシェル（SSH）サーバーは **ip ssh server algorithm authentication** コマンドを使用して起動します。

## SSH 認証の X.509v3 証明書の制約事項

- SSH 認証の X.509v3 証明書機能の実装は、IOS セキュアシェル（SSH）サーバー側にのみ適用できます。

- IOS SSH サーバーは、IOS SSH サーバー側のサーバーおよびユーザー認証について、x509v3-ssh-rsa アルゴリズム ベースの証明書のみをサポートします。

## SSH 認証用の X.509v3 証明書に関する情報

### デジタル証明書

認証の有効性は、公開署名キーとその署名者のアイデンティティとの関連の強さに依存します。X.509v3 形式 (RFC5280) のデジタル証明書は、アイデンティティの管理を実行するために使用されます。信頼できるルート証明機関とその中間証明機関による署名の連鎖によって、指定の公開署名キーと指定のデジタルアイデンティティがバインドされます。

公開キーインフラストラクチャ (PKI) のトラストポイントは、デジタル証明書の管理に役立ちます。証明書とトラストポイントを関連付けることによって、証明書を追跡できます。トラストポイントには、認証局 (CA)、さまざまなアイデンティティ パラメータ、およびデジタル証明書に関する情報が含まれています。複数のトラストポイントを作成して、異なる証明書に関連付けることができます。

### X.509v3 を使用したサーバーおよびユーザー認証

サーバー認証の場合、IOS セキュア シェル (SSH) が確認のためにそれ自体の証明書を SSH クライアントに送信します。このサーバ証明書は、サーバ証明書プロファイル (ssh-server-cert-profile-server コンフィギュレーションモード) で設定されたトラストポイントに関連付けられます。

ユーザ認証の場合、SSH クライアントが確認のためにユーザの証明書を IOS SSH サーバに送信します。SSH サーバは、サーバ証明書プロファイル (ssh-server-cert-profile-user コンフィギュレーションモード) で設定された公開キーインフラストラクチャ (PKI) トラストポイントを使用して、受信したユーザ証明書を確認します。

デフォルトでは、証明書ベースの認証が、IOS SSH サーバ端末でサーバおよびユーザに対して有効になっています。

## SSH 認証用の X.509v3 証明書の設定方法

### サーバー認証にデジタル証明書を使用するための IOS SSH サーバーの設定

#### 手順の概要

1. enable

2. **configure terminal**
3. **ip ssh server algorithm hostkey {x509v3-ssh-rsa [ssh-rsa] | ssh-rsa [x509v3-ssh-rsa]}**
4. **ip ssh server certificate profile**
5. **server**
6. **trustpoint sign *PKI-trustpoint-name***
7. **ocsp-response include**
8. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip ssh server algorithm hostkey {x509v3-ssh-rsa [ssh-rsa]   ssh-rsa [x509v3-ssh-rsa]}</b> 例： Device(config)# ip ssh server algorithm hostkey x509v3-ssh-rsa	ホスト キー アルゴリズムの順序を定義します。セキュアシェル (SSH) クライアントとネゴシエートされるのは、設定済みのアルゴリズムのみです。  (注) IOS SSH サーバーには、1 つ以上の設定済みホスト キー アルゴリズムが必要です。  • ssh-rsa : 公開キーベース認証  • x509v3-ssh-rsa : 証明書ベース認証
ステップ 4	<b>ip ssh server certificate profile</b> 例： Device(config)# ip ssh server certificate profile	サーバー証明書プロファイルおよびユーザー証明書プロファイルを設定し、SSH 証明書プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>server</b> 例： Device(ssh-server-cert-profile)# server	サーバー証明書プロファイルを設定し、SSH サーバー証明書プロファイルのユーザー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>trustpoint sign <i>PKI-trustpoint-name</i></b> 例：	公開キー インフラストラクチャ (PKI) トラストポイントにサーバー証明書プロファイルにアタッチしま

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(ssh-server-cert-profile-server)# trustpoint sign trust1	す。SSH サーバは、この PKI トラストポイントに関連付けられた証明書をサーバ認証に使用します。
ステップ 7	<b>ocsp-response include</b>  例：  Device(ssh-server-cert-profile-server)# ocsp-response include	(任意) Online Certificate Status Protocol (OCSP) の応答または OCSP ステープリングをサーバ証明書と一緒に送信します。  (注) デフォルトではこのコマンドの「no」形式が設定されており、OCSP 応答はサーバ証明書と一緒に送信されません。
ステップ 8	<b>end</b>  例：  Device(ssh-server-cert-profile-server)# end	SSH サーバ証明書プロファイルのサーバ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ユーザ認証用のユーザのデジタル証明書を確認するための IOS SSH サーバの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip ssh server algorithm authentication {publickey | keyboard | password}**
4. **ip ssh server algorithm publickey {x509v3-ssh-rsa [ssh-rsa] | ssh-rsa [x509v3-ssh-rsa]}**
5. **ip ssh server certificate profile**
6. **user**
7. **trustpoint verify PKI-trustpoint-name**
8. **ocsp-response required**
9. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例：  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip ssh server algorithm authentication {publickey   keyboard   password}</b> 例 : <pre>Device(config)# ip ssh server algorithm authentication publickey</pre>	ユーザ認証アルゴリズムの順序を定義します。セキュアシェル (SSH) クライアントとネゴシエートされるのは、設定済みのアルゴリズムのみです。 (注) IOS SSH サーバには、1 つ以上の設定済みユーザ認証アルゴリズムが必要です。 (注) ユーザー認証に証明書方式を使用するには、 <b>publickey</b> キーワードを設定する必要があります。 (注) <b>ip ssh server algorithm authentication</b> コマンドは <b>ip ssh server authenticate user</b> コマンドの代わりに使用します。
ステップ 4	<b>ip ssh server algorithm publickey {x509v3-ssh-rsa [ssh-rsa]   ssh-rsa [x509v3-ssh-rsa]}</b> 例 : <pre>Device(config)# ip ssh server algorithm publickey x509v3-ssh-rsa</pre>	公開キーアルゴリズムの順序を定義します。SSH クライアントによってユーザ認証に許可されるのは、設定済みのアルゴリズムのみです。 (注) IOS SSH クライアントには、1 つ以上の設定済み公開キーアルゴリズムが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ssh-rsa : 公開キーベース認証</li> <li>• x509v3-ssh-rsa : 証明書ベース認証</li> </ul>
ステップ 5	<b>ip ssh server certificate profile</b> 例 : <pre>Device(config)# ip ssh server certificate profile</pre>	サーバー証明書プロファイルおよびユーザー証明書プロファイルを設定し、SSH 証明書プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>user</b> 例 : <pre>Device(ssh-server-cert-profile)# user</pre>	ユーザ証明書プロファイルを設定し、SSH サーバ証明書プロファイルのユーザ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>trustpoint verify PKI-trustpoint-name</b> 例 : <pre>Device(ssh-server-cert-profile-user)# trustpoint verify trust2</pre>	受信したユーザ証明書の確認に使用される公開キー インフラストラクチャ (PKI) トラストポイントを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 同じコマンドを複数回実行することで、複数のトラストポイントを設定します。最大 10 のトラストポイントを設定できます。
ステップ 8	<b>ocsp-response required</b> 例 :  Device(ssh-server-cert-profile-user)# ocsp-response required	(任意) 受信したユーザ証明書による Online Certificate Status Protocol (OCSP) の応答の有無を要求します。  (注) デフォルトではこのコマンドの「no」形式が設定されており、ユーザー証明書は OCSP 応答なしで受け入れられます。
ステップ 9	<b>end</b> 例 :  Device(ssh-server-cert-profile-user)# end	SSH サーバー証明書プロファイルのユーザー コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## デジタル証明書を使用したサーバーおよびユーザー認証の設定の確認

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show ip ssh**

### 手順の詳細

#### 手順

#### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

例 :

```
Device> enable
```

#### ステップ 2 show ip ssh

現在設定されている認証方式を表示します。証明書ベース認証の使用を確認するには、x509v3-ssh-rsa アルゴリズムが設定済みのホスト キー アルゴリズムであることを確認します。

例 :

```
Device# show ip ssh

SSH Enabled - version 1.99
Authentication methods:publickey,keyboard-interactive,password
Authentication Publickey Algorithms:x509v3-ssh-rsa,ssh-rsa
Hostkey Algorithms:x509v3-ssh-rsa,ssh-rsa
Authentication timeout: 120 secs; Authentication retries: 3
Minimum expected Diffie Hellman key size : 1024 bits
```

## SSH 認証用の X.509v3 証明書の設定例

例：サーバー認証にデジタル証明書を使用するためのIOSSHサーバーの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh server algorithm hostkey x509v3-ssh-rsa
Device(config)# ip ssh server certificate profile
Device(ssh-server-cert-profile)# server
Device(ssh-server-cert-profile-server)# trustpoint sign trust1
Device(ssh-server-cert-profile-server)# exit
```

例：ユーザ認証用のユーザのデジタル証明書を確認するためのIOSSHサーバーの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh server algorithm authentication publickey
Device(config)# ip ssh server algorithm publickey x509v3-ssh-rsa
Device(config)# ip ssh server certificate profile
Device(ssh-server-cert-profile)# user
Device(ssh-server-cert-profile-user)# trustpoint verify trust2
Device(ssh-server-cert-profile-user)# end
```

## SSH 認証用の X.509v3 証明書に関するその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>
SSH 認証	『セキュア シェル コンフィギュレーション ガイド』の「セキュア シェル：ユーザー認証方式の設定」の章
公開キー インフラストラクチャ (PKI) のトラストポイント	『Public Key Infrastructure Configuration Guide』の「Configuring and Managing a Cisco IOS Certificate Server for PKI Deployment」の章

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>



## SSH 認証用の X.509v3 証明書の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 43: SSH 認証の X.509v3 証明書の機能情報

機能名	リリース	機能情報
SSH 認証の X.509v3 証明書		SSH 認証の X.509v3 証明書機能は、サーバー内で X.509v3 デジタル証明書を使用し、セキュア シェル (SSH) サーバー側でユーザー認証を使用します。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ip ssh server algorithm hostkey</b> 、 <b>ip ssh server algorithm authentication</b> 、 <b>ip ssh server certificate profile</b>





## 第 26 章

# コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム

コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム機能によって、コモンクライテリア認定を取得したアルゴリズムのリストおよび順序が提供されます。このモジュールでは、認定されたアルゴリズムのリストに基づいて SSH 接続を制限できるように、セキュアシェル (SSH) サーバーおよびクライアントの暗号化、メッセージ認証コード (MAC)、およびホストキーアルゴリズムの設定方法について説明します。

- [コモンクライテリア認証のための SSH アルゴリズムの制限 \(355 ページ\)](#)
- [コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムに関する情報 \(356 ページ\)](#)
- [コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの設定方法 \(359 ページ\)](#)
- [コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの設定例 \(364 ページ\)](#)
- [コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの追加情報 \(365 ページ\)](#)
- [コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの機能情報 \(366 ページ\)](#)

## コモンクライテリア認証のための SSH アルゴリズムの制限

- Cisco IOS XE リリース 17.10 以降、次のキー交換および MAC アルゴリズムがデフォルトのリストから削除されました。

キー交換アルゴリズム :

- diffie-hellman-group14-sha1

MAC アルゴリズム :

- hmac-sha1
- hmac-sha2-256
- hmac-sha2-512



- (注) **ip ssh server algorithm kex** コマンドを使用するとキー交換アルゴリズムを設定でき、**ip ssh server algorithm mac** コマンドを使用すると MAC アルゴリズムを設定できます。

## コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムに関する情報

### コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム

セキュア シェル (SSH) 設定によって、Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントは、許可リストから設定されたアルゴリズムのネゴシエーションのみを許可することができます。リモートパーティが許可リストに含まれていないアルゴリズムのみを使用してネゴシエートしようとする、要求は拒否され、セッションは確立されません。

### Cisco IOS SSH サーバー アルゴリズム

Cisco IOS セキュアシェル (SSH) サーバーは、次の順序で暗号化アルゴリズム (Advanced Encryption Standard カウンタモード [AES-CTR]、AES 暗号ブロック連鎖 [AES-CBC]、Triple Data Encryption Standard [3DES]、Galois/Counter Mode [GCM])、メッセージ認証コード (MAC) アルゴリズム、ホストキーアルゴリズム、キー交換 (KEX) DH グループアルゴリズム、および公開キーアルゴリズムをサポートします。

表 44: サポートされるデフォルトおよびデフォルト以外の **IOS SSH** サーバーアルゴリズム

サポートされるアルゴリズム	デフォルト	非デフォルト
暗号化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. chacha20-poly1305@openssh.com</li> <li>2. aes128-gcm@openssh.com</li> <li>3. aes256-gcm@openssh.com</li> <li>4. aes128-gcm</li> <li>5. aes256-gcm</li> <li>6. aes128-ctr</li> <li>7. aes192-ctr</li> <li>8. aes256-ctr</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• aes128-cbc</li> <li>• aes192-cbc</li> <li>• aes256-cbc</li> <li>• 3des-cbc</li> </ul>

サポートされるアルゴリズム	デフォルト	非デフォルト
HMAC	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. hmac-sha2-256-etm@openssh.com</li> <li>2. hmac-sha2-512-etm@openssh.com</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• hmac-sha1</li> <li>• hmac-sha2-256</li> <li>• hmac-sha2-512</li> </ul>
ホストキー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. rsa-sha2-512</li> <li>2. rsa-sha2-256</li> <li>3. ssh-rsa</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• x509v3-ssh-rsa</li> </ul>
KEX DH グループ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. curve25519-sha256</li> <li>2. curve25519-sha256@libssh.org</li> <li>3. ecdh-sha2-nistp256</li> <li>4. ecdh-sha2-nistp384</li> <li>5. ecdh-sha2-nistp521</li> <li>6. diffie-hellman-group14-sha256</li> <li>7. diffie-hellman-group16-sha512</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• diffie-hellman-group14-sha1</li> </ul>
公開キー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ssh-rsa</li> <li>2. ecdsa-sha2-nistp256</li> <li>3. ecdsa-sha2-nistp384</li> <li>4. ecdsa-sha2-nistp521</li> <li>5. ssh-ed25519</li> <li>6. x509v3-ecdsa-sha2-nistp256</li> <li>7. x509v3-ecdsa-sha2-nistp384</li> <li>8. x509v3-ecdsa-sha2-nistp521</li> <li>9. rsa-sha2-256</li> <li>10. rsa-sha2-512</li> <li>11. x509v3-rsa2048-sha256</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• x509v3-ssh-rsa</li> </ul>

## Cisco IOS SSH クライアント アルゴリズム

Cisco IOS セキュアシェル (SSH) クライアントは、次の順序で暗号化アルゴリズム (Advanced Encryption Standard カウンタモード [AES-CTR]、AES 暗号ブロック連鎖 [AES-CBC]、Triple Data

Encryption Standard [3DES]、Galois/Counter Mode (GCM) 、MAC アルゴリズム、および KEX DH グループアルゴリズムをサポートします。

表 45: サポートされるデフォルトおよびデフォルト以外の **IOS SSH** サーバーアルゴリズム

サポートされるアルゴリズム	デフォルト	非デフォルト
暗号化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. chacha20-poly1305@openssh.com</li> <li>2. aes128-gcm@openssh.com</li> <li>3. aes256-gcm@openssh.com</li> <li>4. aes128-gcm</li> <li>5. aes256-gcm</li> <li>6. aes128-ctr</li> <li>7. aes192-ctr</li> <li>8. aes256-ctr</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• aes128-cbc</li> <li>• aes192-cbc</li> <li>• aes256-cbc</li> <li>• 3des-cbc</li> </ul>
HMAC	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. hmac-sha2-256-etm@openssh.com</li> <li>2. hmac-sha2-512-etm@openssh.com</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• hmac-sha1</li> <li>• hmac-sha2-256</li> <li>• hmac-sha2-512</li> </ul>
KEX DH グループ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. curve25519-sha256</li> <li>2. curve25519-sha256@libssh.org</li> <li>3. ecdh-sha2-nistp256</li> <li>4. ecdh-sha2-nistp384</li> <li>5. ecdh-sha2-nistp521</li> <li>6. diffie-hellman-group14-sha256</li> <li>7. diffie-hellman-group16-sha512</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• diffie-hellman-group14-sha1</li> </ul>

# コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの設定方法

## Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントの暗号キーアルゴリズムの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip ssh {server | client} algorithm encryption {aes128-ctr | aes192-ctr | aes256-ctr | aes128-cbc | 3des-cbc | aes192-cbc | aes256-cbc}**
4. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip ssh {server   client} algorithm encryption {aes128-ctr   aes192-ctr   aes256-ctr   aes128-cbc   3des-cbc   aes192-cbc   aes256-cbc}</b> 例： Device(config)# ip ssh server algorithm encryption aes128-ctr aes192-ctr aes256-ctr aes128-cbc 3des-cbc aes192-cbc aes256-cbc	SSH サーバーおよびクライアントでの暗号化アルゴリズムの順序を定義します。この順序は、アルゴリズムのネゴシエーション時に指定されます。 (注) Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントには、1つ以上の設定済み暗号化アルゴリズムが必要です。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>Device(config)# ip ssh client algorithm encryption aes128-ctr aes192-ctr aes256-ctr aes128-cbc 3des-cbc aes192-cbc aes256-cbc</pre>	<p>(注) 以前設定したアルゴリズムのリストから1つのアルゴリズムを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。複数のアルゴリズムを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を異なるアルゴリズム名で複数回使用します。</p> <p>(注) デフォルト設定では、次に示すようにこのコマンドのデフォルト形式を使用します。</p> <pre>Device(config)# ip ssh server algorithm encryption aes128-ctr aes192-ctr aes256-ctr aes128-cbc 3des-cbc aes192-cbc aes256-cbc</pre>
ステップ 4	<p><b>end</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# end</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

#### トラブルシューティングのヒント

設定で最後の暗号化アルゴリズムを無効にしようとする、次のメッセージが表示されてコマンドが拒否されます。

```
% SSH command rejected: All encryption algorithms cannot be disabled
```

## Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントの MAC アルゴリズムの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>enable</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device&gt; enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<p><b>configure terminal</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<p><b>ip ssh {server   client} algorithm mac {hmac-sha2   hmac-sha2-96}</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# ip ssh server algorithm mac hmac-sha2 hmac-sha2-96</pre> <pre>Device(config)# ip ssh client algorithm mac hmac-sha2 hmac-sha2-96</pre>	<p>SSH サーバーおよびクライアントでの MAC (メッセージ認証コード) アルゴリズムの順序を定義します。この順序は、アルゴリズムのネゴシエーション時に指定されます。</p> <p>(注) Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントには、1つ以上の設定済みハッシュメッセージ認証コード (HMAC) アルゴリズムが必要です。</p> <p>(注) 以前設定したアルゴリズムのリストから1つのアルゴリズムを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。複数のアルゴリズムを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を異なるアルゴリズム名で複数回使用します。</p> <p>(注) デフォルト設定では、次に示すようにこのコマンドのデフォルト形式を使用します。</p> <pre>Device(config)# ip ssh server algorithm mac hmac-sha2 hmac-sha2-96</pre>
ステップ 4	<p><b>end</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# end</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。</p>

#### トラブルシューティングのヒント

設定で最後の MAC アルゴリズムを無効にしようとすると、次のメッセージが表示されてコマンドが拒否されます。

```
% SSH command rejected: All mac algorithms cannot be disabled
```

## Cisco IOS SSH サーバーのホスト キー アルゴリズムの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip ssh server algorithm hostkey {x509v3-ssh-rsa | ssh-rsa}**
4. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip ssh server algorithm hostkey {x509v3-ssh-rsa   ssh-rsa}</b> 例 : Device(config)# ip ssh server algorithm hostkey x509v3-ssh-rsa ssh-rsa	ホストキーアルゴリズムの順序を定義します。Cisco IOS セキュア シェル (SSH) クライアントとネゴシエートされるのは、設定済みのアルゴリズムのみです。 (注) Cisco IOS SSH サーバーには、1 つ以上の設定済みホスト キー アルゴリズムが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>x509v3-ssh-rsa : X.509v3 証明書ベース認証</li> <li>ssh-rsa : 公開キーベース認証</li> </ul> (注) 以前設定したアルゴリズムのリストから1つのアルゴリズムを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。複数のアルゴリズムを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を異なるアルゴリズム名で複数回使用します。 (注) デフォルト設定では、次に示すようにこのコマンドのデフォルト形式を使用します。 Device(config)# ip ssh server algorithm hostkey x509v3-ssh-rsa ssh-rsa
ステップ 4	<b>end</b> 例 : Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## トラブルシューティングのヒント

設定で最後のホスト キー アルゴリズムを無効にしようとする、次のメッセージが表示されてコマンドが拒否されます。

```
% SSH command rejected: All hostkey algorithms cannot be disabled
```

## コモン クライテリア認定用の SSH アルゴリズムの確認

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show ip ssh**

### 手順の詳細

### 手順

#### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

例：

```
Device> enable
```

#### ステップ 2 show ip ssh

設定済みのセキュア シェル (SSH) 暗号化、ホストキー、およびメッセージ認証コード (MAC) アルゴリズムを表示します。

例：

次の **show ip ssh** コマンドの出力例は、デフォルトの順序で設定された暗号化アルゴリズムを示しています。

```
Device# show ip ssh
```

```
Encryption Algorithms: aes128-ctr, aes192-ctr, aes256-ctr, aes128-cbc, 3des-cbc, aes192-cbc, aes256-cbc
```

次の **show ip ssh** コマンドの出力例は、デフォルトの順序で設定された MAC アルゴリズムを示しています。

```
Device# show ip ssh
```

```
MAC Algorithms: hmac-sha1 hmac-sha1-96
```

次の **show ip ssh** コマンドの出力例は、デフォルトの順序で設定されたホスト キー アルゴリズムを示しています。

```
Device# show ip ssh  
  
Hostkey Algorithms: x509v3-ssh-rsa, ssh-rsa
```

---

## コモンクラテリア認定用の SSH アルゴリズムの設定例

### 例 : Cisco IOS SSH サーバーの暗号キー アルゴリズムの設定

```
Device> enable  
Device# configure terminal  
Device(config)# ip ssh server algorithm encryption aes128-ctr aes192-ctr aes256-ctr  
aes128-cbc 3des-cbc aes192-cbc aes256-cbc  
Device(config)# end
```

### 例 : Cisco IOS SSH クライアントの暗号キー アルゴリズムの設定

```
Device> enable  
Device# configure terminal  
Device(config)# ip ssh client algorithm encryption aes128-ctr aes192-ctr aes256-ctr  
aes128-cbc 3des-cbc aes192-cbc aes256-cbc  
Device(config)# end
```

### 例 : Cisco IOS SSH サーバーの MAC アルゴリズムの設定

```
Device> enable  
Device# configure terminal  
Device(config)# ip ssh server algorithm mac hmac-sha1 hmac-sha1-96  
Device(config)# end
```

## 例 : Cisco IOS SSH サーバー用のキー交換 DH グループの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh server algorithm kex diffie-hellman-group-exchange-sha1
Device(config)# end
```

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh server algorithm kex diffie-hellman-group14-sha1
Device(config)# end
```

## 例 : Cisco IOS SSH サーバーのホスト キー アルゴリズムの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh server algorithm hostkey x509v3-ssh-rsa ssh-rsa
Device(config)# end
```

## コモンクライテリア認定用のSSHアルゴリズムの追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>
SSH 認証	『セキュア シェル コンフィギュレーションガイド』の「セキュア シェル : ユーザー認証方式の設定」の章

関連項目	マニュアル タイトル
サーバーおよびユーザー認証での X.509v3 デジタル証明書	『セキュア シェル コンフィギュレーション ガイド』の「SSH 認証の X.509v3 証明書」の章

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 46: コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズムの機能情報

機能名	リリース	機能情報
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム機能によって、コモンクライテリア認定を取得したアルゴリズムのリストおよび順序が提供されます。このモジュールでは、認定されたアルゴリズムのリストに基づいて SSH 接続を制限できるように、セキュアシェル (SSH) サーバーおよびクライアントの暗号化、メッセージ認証コード (MAC)、およびホストキー アルゴリズムの設定方法について説明します。  この機能により、次のコマンドが導入されました： <b>ip ssh {server   client} algorithm encryption</b> 、 <b>ip ssh {server   client} algorithm mac</b> 。
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム	Cisco IOS XE Cupertino 17.8.1	次のアルゴリズムに対する Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントのサポートが導入されました。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• chacha20-poly1305@openssh.com</li> <li>• ssh-ed25519</li> <li>• curve25519-sha256@libssh.org</li> </ul>
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム	Cisco IOS XE Cupertino 17.9.1	次のアルゴリズムに対する Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントのサポートが導入されました。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• aes128-gcm@openssh.com</li> <li>• aes256-gcm@openssh.com</li> </ul>
弱い暗号の廃止	Cisco IOS XE リリース 17.10	次の変更が導入されました。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• セキュアシェルバージョン 1.99 は、サポートされません。</li> <li>• 次の弱いキー交換および MAC アルゴリズムは、アルゴリズムのデフォルトリストから削除されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• diffie-hellman-group14-sha1</li> <li>• hmac-sha1</li> <li>• hmac-sha2-256</li> <li>• hmac-sha2-512</li> </ul> </li> </ul>

機能名	リリース	機能情報
コモンクライテリア認定用の SSH アルゴリズム	Cisco IOS XE リリース 17.11.1a	次のアルゴリズムに対する Cisco IOS SSH サーバーおよびクライアントのサポートが導入されました。 <ul style="list-style-type: none"><li>• curve25519-sha256</li><li>• diffie-hellman-group14-sha256</li><li>• diffie-hellman-group16-sha512</li><li>• x509v3-rsa2048-sha256</li></ul>





## 第 27 章

# セキュアシェル：SFTP ユーザー名とパスワードの設定

- [概要 \(369 ページ\)](#)
- [SFTP ユーザー名とパスワードの設定 \(369 ページ\)](#)

## 概要

Secure File Transfer Protocol (SFTP) は、ネットワークセキュリティの重要なコンポーネントであり、ネットワークシステム全体でのセキュアなファイル転送の機能を確保します。

SFTP は、SSH プロトコルによって提供されるセキュリティフレームワークを活用することで、堅牢な暗号化および認証メカニズムでファイル操作の機能を拡張します。

セキュアなファイル交換のための SFTP 展開の重要な手順には、ユーザー名とパスワードの設定が含まれます。このプロセスにより、ユーザーが認証され、許可された個人だけがシスコデバイス上のファイルにアクセスおよび管理できる状態が確保されます。

このドキュメントは、シスコデバイスでのファイル転送を保護するために SFTP のユーザー名とパスワードを設定するプロセスを、ネットワーク管理者に順番に説明することを目的としています。

## SFTP ユーザー名とパスワードの設定

SFTP のユーザー名とパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configureterminal`
3. `ip sftpusername username`
4. `ip sftppassword encryption level {0| 7| LINE} password`
5. `exit`

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configureterminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip sftpusernameusername</b> 例： Device(config)# ip sftp username cisco	ユーザー名を定義します。
ステップ 4	<b>ip sftppassword encryption level {0  7  LINE} password</b> 例： Device(config)# ip sftp password 0 cisco123	パスワードを定義します。暗号化レベルを指定します。 • 0：暗号化されないパスワード。 • 7：暗号化されるパスワード。 • Line：クリアテキストのパスワード。
ステップ 5	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。



## 第 III 部

# アクセスコントロールリスト

- [IP アクセス リストの概要, on page 373](#)
- [IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用, on page 387](#)
- [IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポート、をフィルタする IP アクセス リストの作成, on page 407](#)
- [FQDN ACL の設定 \(431 ページ\)](#)
- [IP アクセス リストの精緻化, on page 439](#)
- [IP 名前付きアクセス コントロール リスト, on page 455](#)
- [注釈付きの IP アクセス リスト エントリ, on page 467](#)
- [標準 IP アクセス リストのロギング, on page 473](#)
- [IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号, on page 479](#)
- [ロック アンドキーセキュリティの設定 \(ダイナミックアクセス リスト\) , on page 493](#)
- [ACL IP オプションの選択的ドロップ, on page 507](#)
- [ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリア, on page 513](#)
- [ACL Syslog 関連, on page 521](#)
- [IPv6 アクセス コントロール リスト, on page 533](#)
- [IPv6 ACL 未決定トランスポートサポート \(541 ページ\)](#)
- [テンプレート ACL の設定, on page 545](#)
- [IPv6 テンプレート ACL, on page 555](#)
- [IPv4 ACL チェーニング サポート \(561 ページ\)](#)
- [共通 ACL による IPv6 ACL チェーニング \(567 ページ\)](#)
- [ホップ バイ ホップ フィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張, on page 573](#)

- [セキュリティ \(ACL\) の拡張機能 \(579 ページ\)](#)
- [ACL の IPv6 オブジェクトグループ, on page 583](#)



## CHAPTER 28

# IP アクセス リストの概要

アクセス コントロール リスト (ACL) は、パケット フィルタリング を実行して、ネットワーク を介して移動するパケットと移動先を制御します。パケット フィルタリング によって、ネットワーク トラフィック を制限し、ユーザー および デバイスのネットワーク に対するアクセス を制限し、トラフィック がネットワーク から外部に送信されるのを防ぐことで、セキュリティ を実現します。IP アクセス リストによって、スプーフィング や サービス妨害攻撃 の可能性を軽減し、ファイアウォール を介した動的で一時的なユーザー アクセス が可能になります。

また、IP アクセス リストは、セキュリティ 以外の用途にも使用できます。たとえば、帯域幅 制御、ルーティング アップデート のコンテンツの制限、ルートの再配布、ダイヤル オンデマンド (DDR) 呼び出しのトリガー、デバッグ出力の制限、Quality of Service (QoS) 機能のトラフィックの識別と分類などです。このモジュールでは、IP アクセス リストの概要について説明します。

- [IP アクセス リストに関する情報, on page 373](#)
- [その他の参考資料, on page 384](#)
- [IP アクセス リストに関する機能情報, on page 385](#)

## IP アクセス リストに関する情報

### IP アクセス リストの利点

アクセス コントロール リスト (ACL) は、ネットワーク を通過するパケットのフローを制御するためにパケット フィルタリング を実行します。パケット フィルタリング によってユーザー および デバイスのネットワーク に対するアクセス を制限し、セキュリティ の手段として利用できます。アクセス リストによってトラフィック 数を減らすことで、ネットワーク リソース を節約できます。アクセス リストを使用した場合の利点は次のとおりです。

- 着信 rsh および rcp 要求を認証する：アクセス リストは、デバイスへのアクセスを制御するように構成された認証データベース内のローカル ユーザー、リモート ホスト、およびリモート ユーザーの識別を簡素化できます。Cisco ソフトウェアは認証データベースを使用して、リモート シェル (rsh) およびリモート コピー (rcp) プロトコルの着信要求を受け取ることができます。

- 不要なトラフィックまたはユーザーをブロックする：アクセスリストを使用すると、インターフェイス上の着信パケットまたは発信パケットをフィルタできるため、送信元アドレス、宛先アドレス、またはユーザー認証に基づいてネットワークへのアクセスを制御できます。また、アクセスリストを使用して、デバイスインターフェイスで転送またはブロックするトラフィックの種類を決定することもできます。たとえば、電子メールトラフィックはネットワークでルーティングすることを許可し、すべての Telnet トラフィックはネットワークに入ることをブロックするようにアクセスリストを使用できます。
- vty へのアクセスを制御する：インバウンド vty (Telnet) でのアクセスリストは、デバイスへの回線にアクセスできるユーザーを制御できます。アウトバウンド vty でのアクセスリストは、デバイスからの回線が到達可能な宛先を制御できます。
- QoS 機能のトラフィックを特定または分類する：アクセスリストは、Weighted Random Early Detection (WRED) および専用アクセスレート (CAR) の IP プレシデンスを設定することで、輻輳回避を提供します。また、クラスベース均等化キューイング (CBWFQ)、プライオリティ キューイング、カスタム キューイングのために輻輳管理を提供します。
- debug コマンド出力を制限する：アクセスリストは、IP アドレスやプロトコルに基づいて debug 出力を制限できます。
- 帯域幅制御を提供する：低速リンクでのアクセスリストはネットワークでの過剰なトラフィックを防止できます。
- NAT 制御を提供する：アクセスリストによって、ネットワーク アドレス変換 (NAT) が変換するアドレスを制御できます。
- DoS 攻撃の可能性を低減する：アクセスリストは、サービス妨害 (DoS) 攻撃の可能性を低減させます。ホストからのトラフィック、ネットワーク、またはネットワークにアクセスするユーザーを制御するように IP 発信元アドレスを指定します。TCP インターセプト機能を設定することで、接続に関する要求でサーバーにフラッドが発生しないようにすることができます。
- ルーティングアップデートの内容を制限する：アクセスリストによって、ネットワーク内で送信、受信、または再配布されるルーティングアップデートを制御できます。
- ダイアルオンデマンドコールをトリガーする：アクセスリストによって、ダイアルおよび切断条件を適用できます。

## アクセスリストを使用する必要がある境界ルータおよびファイアウォールルータ

アクセスリストを設定する理由は多数あります。たとえば、アクセスリストを使用して、ルーティングアップデートのコンテンツを制限したり、トラフィックフローを制御したりできます。アクセスリストを設定する最も重要な理由の1つは、ネットワークに対するアクセスを制御することで、ネットワークに基本レベルのセキュリティを提供することです。ルータでアクセスリストを設定しない場合、ルータを通過するすべてのパケットは、ネットワークのすべての部分で許可される可能性があります。

アクセスリストで、ネットワークの一部に対してアクセスを許可するホストと、同じ領域に対してアクセスを禁止するホストを設定できます。以下の図では、適切なアクセスリストをルータのインターフェイスに適用することで、ホスト A は **Human Resources** ネットワークに対するアクセスが許可され、ホスト B は **Human Resources** ネットワークに対するアクセスが禁止されます。

ファイアウォールルータにはアクセスリストを使用する必要があります。多くの場合、ファイアウォールルータは内部ネットワークと外部ネットワーク（インターネット）の間に配置されます。また、ネットワークの2つの部分の間に配置されたルータにアクセスリストを使用し、内部ネットワークの特定の部分に発着信するトラフィックを制御できます。

アクセスリストのセキュリティ上の利点を実現するために、場合によっては、少なくとも境界ルータでアクセスリストを設定する必要があります。境界ルータとは、ネットワークのエッジにあるルータです。このようなアクセスリストは、外部ネットワークから、または内部ネットワークのあまり制御されていない領域から、内部ネットワークの機密性が高い領域に対する基本的なバッファとして機能します。このような境界ルータでは、ルータインターフェイスに設定されている各ネットワークプロトコルに合わせてアクセスリストを設定する必要があります。着信トラフィック、発信トラフィック、またはその両方がインターフェイスでフィルタされるように、アクセスリストを設定できます。

アクセスリストは個々のプロトコルベースで定義されます。つまり、各プロトコルのトラフィックフローを制御する場合、インターフェイスでイネーブルにするプロトコルごとにアクセスリストを定義する必要があります。

## アクセスリストの定義

アクセスコントロールリスト（ACL）は、ネットワークを通過するパケットの動きを制御するためにパケットフィルタリングを実行します。パケットフィルタリングは、ネットワークへのトラフィックのアクセスを限定し、ユーザーおよびデバイスのネットワークに対するアクセスを制限し、トラフィックがネットワークから流出するのを防ぐことで、セキュリティを提供します。IP アクセスリストによって、スプーフィングやサービス妨害攻撃の可能性を軽減し、ファイアウォールを介した動的で一時的なユーザーアクセスが可能になります。

また、IP アクセスリストは、セキュリティ以外の用途にも使用できます。たとえば、帯域幅制御、ルーティングアップデートのコンテンツの制限、ルートの再配布、ダイヤルオンデマンド（DDR）呼び出しのトリガー、デバッグ出力の制限、Quality of Service（QoS）機能のトラフィックの識別と分類などです。

アクセスリストは、少なくとも1つの **permit** ステートメント、および任意の1つまたは複数の **deny** ステートメントで構成される順次リストです。IP アクセスリストの場合、これらのステートメントはIPアドレス、上位層のIPプロトコルなどのIPパケットのフィールドに適用できます。

アクセスリストは名前または番号で識別および参照されます。アクセスリストはパケットフィルタとして動作し、各アクセスリストに定義されている条件に基づいてパケットがフィルタされます。

アクセスリストを構成した後でアクセスリストを有効にするには、アクセスリストをインターフェイスに適用するか（**ip access-group** コマンドを使用）、vty に適用するか（**access-class** コ

マンドを使用)、またはアクセスリストを許容するあらゆるコマンドでアクセスリストを参照する必要があります。複数のコマンドから同じアクセスリストを参照できます。

次の構成では、**branchoffices** という名前の IP アクセスリストがファストイーサネットインターフェイス 0/1/0 上で構成され、着信パケットに適用されます。発信元アドレスとマスクのペアで指定されているネットワーク以外は、ファストイーサネットインターフェイス 0/1/0 にアクセスできません。ネットワーク 172.16.7.0 上の送信元から発信されるパケットの宛先に、制限はありません。ネットワーク 172.16.2.0 上の送信元から発信されるパケットの宛先は、172.31.5.4 にする必要があります。

```
ip access-list extended branchoffices
 10 permit 172.16.7.0 0.0.0.3 any
 20 permit 172.16.2.0 0.0.0.255 host 172.31.5.4
!
interface fastethernet 0/1/0
 ip access-group branchoffices in
```

## アクセスリストのルール

アクセスリストには、次のルールが適用されます。

- 1つのインターフェイス、1つのプロトコル、1つの方向につき、許可されるアクセスリストは1つだけです。
- アクセスリストには少なくとも1つの **permit** ステートメントが含まれる必要があります。そうしないと、ネットワークに入るすべてのパケットが拒否されます。
- アクセスリスト条件または一致基準の構成順序は重要です。パケットを転送するかブロックするかを決定するときに、シスコソフトウェアは、それぞれの条件ステートメントに対してステートメントの作成順にパケットをテストします。一致が見つかり、条件ステートメントはそれ以上チェックされません。同じ **permit** ステートメントまたは **deny** ステートメントでも、順序が異なる場合、ある状況では通過し、別の状況では拒否されるパケットが生じる可能性があります。
- アクセスリストを名前によって参照したときに、そのアクセスリストが存在しない場合は、すべてのパケットが通過します。インターフェイスまたはコマンドに空のアクセスリストを適用すると、ネットワークに対するすべてのトラフィックが許可されます。
- 標準のアクセスリストと拡張のアクセスリストの名前は同じにできません。
- パケットが発信インターフェイスにルーティングされる前に、着信アクセスリストがパケットを処理します。ネットワークへのパケットアクセスを拒否するフィルタ条件がある着信アクセスリストは、ルーティングルックアップ時のオーバーヘッドを削減します。構成されたフィルタ基準に基づいてネットワークへのアクセスを許可されたパケットはルーティング処理されます。インバウンドアクセスリストの場合、**permit** ステートメントを構成するとパケットは受信後に処理され、**deny** ステートメントを構成するとパケットは破棄されます。
- アウトバウンドアクセスリストの場合、パケットの処理後にデバイスから送信されます。着信パケットはアウトバウンドインターフェイスにルーティングされてから、アウトバウ



ンドアクセスリストで処理されます。アウトバウンドアクセスリストの場合、**permit** ステートメントを構成するとパケットは出力バッファに送信され、**deny** ステートメントを構成するとパケットは破棄されます。

- アクセスリストで、デバイスに到達するトラフィック、またはデバイス経由で送信されるトラフィックは制御できますが、デバイスが送信元のトラフィックは制御できません。

## ダイヤラリストのアクセスリストルール

次のアクセスリストルールは、Cisco ISR 4000 シリーズ プラットフォームにのみ適用されま  
す。

- シリアルインターフェイス (BRI/PRI) のダイヤラインターフェイスは、出力 ACL を使用してダイヤルアウトします。そのため、ダイヤラリストの ACL 設定は出力 ACL である必要があります。
- ダイヤラのアイドルタイムアウトは、アウトバウンド方向で設定する必要があります。ダイヤラリストの入力 ACL リストを使用したインバウンドダイヤラアイドルタイムアウト設定により、セッションがアイドルタイムアウトになります。

## IP アクセス リストを作成する際に役立つヒント

意図しない結果を回避し、より効率的で有効なアクセスリストを作成するために役立つヒントを紹介します。

- アクセスリストを作成してから、インターフェイス (または別の対象) に適用します。その理由は、存在しないアクセス リストをインターフェイスに適用してから、アクセス リストを設定すると、最初のステートメントが有効になり、それに続く暗黙的な **deny** ステートメントによってアクセスに緊急の問題が発生するおそれがあるためです。
- アクセス リストを設定してから適用するもう 1 つの理由は、空のアクセス リストが適用されたインターフェイスはすべてのトラフィックを許可するためです。
- すべてのアクセス リストには、少なくとも 1 つの **permit** ステートメントが必要です。**permit** がないと、すべてのパケットは拒否され、トラフィックはまったく通過しません。
- まだ拒否されていないその他のパケットすべてを許可する場合、ステートメント **permit any any** を使用します。ステートメント **permit any any** を使用すると、実質的に、アクセス リストの末尾にある暗黙的な **deny** ステートメントでその他すべてのパケットが拒否されることを防ぎます。最初のアクセス リスト エントリは **permit any any** にしないでください。すべてのトラフィックが通過し、以降のテストに到達するパケットがなくなります。**permit any any** を指定すると、まだ拒否されていないすべてのトラフィックが通過します。
- すべてのアクセス リストは暗黙的な **deny** ステートメントで終了しますが、明示的な **deny** ステートメント (たとえば **deny ip any any**) の使用を推奨します。ほとんどのプラットフォームでは、**show access-list** コマンドを発行して拒否されるパケット数を表示し、アクセス リストが許可していないパケットに関する詳細情報を調査できます。明示的な **deny**

ステートメントで拒否されたパケットのみがカウントされます。これは、明示的な **deny** ステートメントによって、より詳細なデータが生成されるためです。

- アクセスリストの作成中、または作成後に、エントリを削除する場合があります。
  - 番号付きアクセスリストからはエントリを削除できません。削除しようとする、アクセスリスト全体が削除されます。エントリを削除する必要がある場合、アクセスリスト全体を削除してから最初から作り直す必要があります。
  - 名前付きアクセスリストからはエントリを削除できます。 **no permit** または **no deny** コマンドを使用すると、適切なエントリが削除されます。
- 個々のステートメントの用途をひと目で確認および理解しやすくするために、 **remark** コマンドを使用して、ステートメントの前後に役立つ注記を書き込むことができます。
- 特定のホストまたはネットワークに対するアクセスを拒否し、そのネットワークまたはホストの誰かがアクセスしようとしたかどうかを検出する場合、対応する **deny** ステートメントを指定した **log** キーワードを含めます。それによって、その送信元からの拒否されたパケットがログに記録されます。
- このヒントは、アクセスリストの配置に適用されます。リソースを保存しようとする、インバウンドアクセスリストでは常にフィルタ条件を適用した後に、ルーティングテーブルの検索を行います。アウトバウンドアクセスリストではフィルタ条件を適用する前に、ルーティングテーブルの検索を行います。

## 名前付きまたは番号付きアクセスリスト

すべてのアクセスリストは、名前または番号で識別されます。名前付きアクセスリストは、番号付きアクセスリストよりも便利です。タスクを思いだしやすく関連性がある、わかりやすい名前を指定できるためです。名前付きアクセスリストでは、ステートメントの順序を変更したり、ステートメントを追加したりできます。

名前付きアクセスリストは、番号付きアクセスリストではサポートされない次の機能をサポートします。

- IP オプションのフィルタリング
- 非隣接ポート
- TCP フラグ フィルタリング
- **no permit** または **no deny** コマンドによるエントリの削除



### Note

番号付きアクセスリストを受け入れるコマンドの中には、名前付きアクセスリストを受け入れないコマンドがあります。たとえば、**vty** には番号付きアクセスリストだけを使用します。

## 標準または拡張アクセス リスト

すべてのアクセス リストは、標準または、拡張アクセス リストのいずれかになります。送信元アドレスでフィルタする場合、より簡易な標準アクセスリストで十分です。送信元アドレス以外のアドレスをフィルタする場合、拡張アクセス リストが必要です。

- 名前付きアクセス リストは、**ip access-list** コマンド構文のキーワード **standard** または **extended** に基づいて標準か拡張かが決まります。
- 番号付きアクセス リストは、**access-list** コマンド構文の番号に基づいて標準か拡張かが決まります。標準 IP アクセス リストには 1 ~ 99 または 1300 ~ 1999 の番号が付けられ、拡張 IP アクセス リストには 100 ~ 199 または 2000 ~ 2699 の番号が付けられます。標準 IP アクセス リストの範囲は、当初は 1 ~ 99 のみでしたが、1300 ~ 1999 の範囲に拡張されました（間の番号は、他のプロトコルに割り当てられました）。拡張アクセス リストの範囲も同様に拡張されました。



**Note** Cisco IOS XE 16.9.4 以降、オブジェクトグループベースの番号付き ACL を設定するには、**ip access-list** コマンドを使用します。

### 標準アクセス リスト

標準アクセスリストは、パケットの送信元アドレスのみをテストします（ただし2つの例外があります）。標準アクセスリストは送信元アドレスをテストするため、宛先の近くでトラフィックをブロックする際には効率的です。標準アクセスリストのアドレスが送信元アドレスではない例外が2つあります。

- アウトバウンド VTY アクセス リストでは、誰かが Telnet を実行しようとする時、アクセス リスト エントリのアドレスは、送信元アドレスではなく宛先アドレスとして使用されます。
- ルートをフィルタする場合、送信元アドレスではなくアドバタイズされたネットワークがフィルタされます。

### 拡張アクセス リスト

拡張アクセスリストは、任意の場所のトラフィックをブロックするために適しています。拡張アクセス リストは、送信元アドレス、宛先アドレス、およびその他の IP パケット データをテストします。たとえば、プロトコル、TCP または UDP ポート番号、タイプ オブ サービス (ToS)、優先順位、TCP フラグ、IP オプションなどです。また、拡張アクセス リストには、次のように標準アクセス リストにはない機能があります。

- IP オプションのフィルタリング
- TCP フラグのフィルタリング
- パケットの非初期フラグメントのフィルタリング（「[Refining an IP Access List](#)」モジュールを参照してください）



**Note** 拡張アクセスリストの対象となるパケットは、自律的に切り替えられません。

## アクセスを制御するためにフィルタできる IP パケット フィールド

拡張アクセスリストを使用すると、IP パケットに含まれる次の任意のフィールドについてフィルタできます。送信元アドレスおよび宛先アドレスは、アクセスリストの基礎として最もよく指定される 2 つのフィールドです。

- 送信元アドレス - 特定のネットワーキングデバイスまたはホストから送信されるパケットを制御するために、送信元アドレスを指定します。
- 宛先アドレス - 特定のネットワーキングデバイスまたはホストに対して送信されるパケットを制御するために、宛先アドレスを指定します。
- プロトコル - キーワード **eigrp**、**gre**、**icmp**、**igmp**、**ip**、**ipinip**、**nos**、**ospf**、**tcp**、または **udp** で示される IP プロトコル、あるいは 0 ~ 255 の範囲の整数（インターネットプロトコルを示す）で示される IP プロトコルを指定します。トランスポート層プロトコル (**icmp**、**igmp**、**tcp**、または **udp**) を指定すると、コマンドは固有の構文になります。
  - ポートおよび非隣接ポート - ポート名またはポート番号で TCP または UDP ポートを指定します。ポート番号に非隣接ポート番号は指定できません。ポート番号は、Telnet トラフィックや HTTP トラフィックなどをフィルタする際に有効です。
  - TCP フラグ - TCP パケットに設定された任意のフラグまたはすべてのフラグにパケットが一致することを指定します。特定のフラグについてフィルタすることで、不正な同期パケットを回避できます。
- IP オプション - IP オプションを指定します。IP オプションに基づいてフィルタする理由の 1 つは、IP オプションを含む偽造パケットでルータが飽和状態にならないようにするためです。

## アクセス リストのアドレスに対するワイルドカード マスク

アドレスフィルタリングでは、アクセスリストエン트리内のアドレスビットとアクセスリストに送信されるパケットを比較するとき、対応する IP アドレスを確認するか無視するかをソフトウェアに示すために、ワイルドカードマスクを使用します。注意してワイルドカードマスクを設定することで、許可または拒否テストのために 1 つまたは複数の IP アドレスを指定できます。

IP アドレス ビット用のワイルドカードマスクでは、数値 1 と数値 0 を使用して、対応する IP アドレス ビットをどのように扱うかを指定します。1 と 0 は、サブネット（ネットワーク）マスクで意味する内容が対照的なため、ワイルドカードマスクは逆マスクとも呼ばれます。

- ワイルドカードマスク ビット 0 は、対応するビット値を確認することを示します。ビット値は一致する必要があります。

- ワイルドカード マスク ビット 1 は、対応するビット値を無視することを示します。ビット値が一致する必要はありません。

アクセスリスト ステートメントの送信元アドレスまたは宛先アドレスでワイルドカード マスクを指定しない場合、0.0.0.0（すべての値が一致する必要があることを示します）という暗黙的なワイルドカード マスクが想定されます。

サブネットマスクでは、ネットワークとサブネットを示す隣接ビットをマスクにする必要がありますが、それとは異なり、ワイルドカード マスクではマスクに非隣接ビットを使用できます。

次の表に、アクセスリストの IP アドレスおよびマスクと、それに一致すると見なされる対応するアドレスの例を示します。

**Table 47: IP アドレス、ワイルドカード マスク、および一致する結果の例**

アドレス	ワイルドカード マスク	一致する結果
0.0.0.0	255.255.255.255	すべてのアドレスはアクセス リスト条件に一致します
172.18.0.0/16	0.0.255.255	ネットワーク 172.18.0.0
172.18.5.2/16	0.0.0.0	ホスト 172.18.5.2 のみが一致します
172.18.8.0	0.0.0.7	サブネット 172.18.8.0/29 のみが一致します
172.18.8.8	0.0.0.7	サブネット 172.18.8.8/29 のみが一致します
172.18.8.15	0.0.0.3	サブネット 172.18.8.15/30 のみが一致します
10.1.2.0	0.0.252.255 (マスクの非隣接ビット)	10.1.2.0 ~ 10.1.254.0 に含まれる偶数のネットワークに一致します

## アクセスリストのシーケンス番号

IP アクセスリスト エントリにシーケンス番号を適用する機能によって、アクセスリストの変更が簡易になります。IP アクセスリスト エントリ シーケンス番号機能の前には、アクセスリスト内のエントリの位置を指定する方法はありませんでした。以前は、既存のリストの途中にエントリを挿入する場合、目的の位置の後にあるすべてのエントリを削除してから、新しいエントリを追加し、削除したすべてのエントリを再入力する必要がありました。これは手間がかかり、エラーが起こりやすい方法です。

この新しい機能を使用すると、アクセスリスト エントリにシーケンス番号を追加し、順序を変更することができます。新しいエントリを追加する場合、アクセスリストの目的の位置に挿入されるようにシーケンス番号を指定します。必要に応じて、アクセスリストの現在のエントリを並べ替えて、新しいエントリを挿入できる場所を作成できます。

## アクセスリストのロギング

Cisco IOS ソフトウェアには、単一の標準または拡張 IP アクセスリスト エントリで許可または拒否されたパケットに関するロギングメッセージ機能があります。つまり、パケットがエントリに一致する場合は常に、パケットに関する情報を提供するロギングメッセージがコンソールに送信されます。コンソールにロギングするメッセージのレベルは、**logging console** グローバル コンフィギュレーション コマンドで制御します。

アクセスリスト エントリをトリガーする最初のパケットによって、即時にロギングメッセージが作成され、表示またはロギングされるまで、以降のパケットは5分間隔で収集されます。ログメッセージにはアクセスリスト番号、パケットの許可または拒否に関する状況、パケットの送信元 IP アドレス、および直前の5分間に許可または拒否された送信元からのパケット数が示されます。

ただし、**ip access-list log-update** コマンドを使用して、アクセスリストに一致する場合（さらに許可または拒否される場合）に、システムでログメッセージを生成するパケットの数を設定できます。この手順を実行するのは、5分間隔よりも短い頻度でログメッセージを受信する場合です。



**Caution** *number-of-matches* 引数を 1 に設定すると、ログメッセージはキャッシングされずにただちに送信されます。この場合、アクセスリストに一致するパケットごとにログメッセージが発生します。大量のログメッセージでシステムが過負荷になる可能性があるため、1 に設定することは推奨されません。

**ip access-list log-update** コマンドを使用する場合でも、5分タイマーは有効なままなので、各キャッシュのメッセージ数に関係なく、5分が経過すると各キャッシュは空になります。ログメッセージを送信するタイミングに関係なく、しきい値が指定されていない場合と同様に、ログメッセージのキャッシュは消去され、カウントは 0 にリセットされます。



**Note** ロギングメッセージが多すぎて処理できない場合、または1秒以内に処理する必要があるロギングメッセージが複数ある場合、ロギング設備ではロギングメッセージパケットの一部をドロップすることがあります。この動作によって、ロギングパケットが多すぎてルータがクラッシュすることを回避します。そのため、課金ツールや、アクセスリストと一致する数の正確な情報源としてロギング設備を使用しないでください。

## アクセスリスト ロギングの代替方法

ログ オプションを使用した ACL 内のエントリのパケット マッチングは代替のプロセスです。ACL でログ オプションを使用することは推奨されません。Null0 の宛先インターフェイスで NetFlow エクスポートおよびマッチングを使用することを推奨します。これは CEF パスで実行されます。Null0 の宛先インターフェイスは、ACL によってドロップされるすべてのパケット用に設定されます。

## その他の IP アクセス リスト機能

標準または拡張アクセス リストを作成する基本手順以外に、次のようにアクセス リストを強化できます。これらの各方法の詳細については、「[Refining an Access List](#)」モジュールを参照してください。

- 拡張アクセス リストの **permit** ステートメントまたは **deny** ステートメントを有効にする日時を指定し、アクセス リストを細かくし、絶対的または定期的な期間に限定することができます。
- 名前付きアクセス リストの作成後は、エントリを追加したり、エントリの順序を変更したりできます（これはアクセス リストのシーケンス番号再割り当てとも呼ばれます）。
- パケットの非初期フラグメントについてフィルタすることで、パケットをフィルタするときにより細かい精度を達成できます。

## RSP3 ポートの関連情報

発信アクセス リストは、RSP3 ではサポートされていません。

## アクセス リストを適用する場所

アクセス リストは、デバイスの着信または発信インターフェイスに適用できます。アクセス リストを着信インターフェイスに適用すると、インターフェイスで着信するトラフィックが制御され、アクセス リストを発信インターフェイスに適用すると、インターフェイスから発信されるトラフィックが制御されます。

ソフトウェアは、着信インターフェイスでパケットを受信すると、アクセス リストで設定されているステートメントに対してパケットを検査します。アクセス リストがアドレスを許可している場合は、ソフトウェアはパケットを処理します。着信パケットをフィルタリングするためにアクセス リストを適用すると、フィルタリングされたパケットはデバイスに到達する前に廃棄されるため、デバイスのリソースを節約できます。

発信インターフェイスでは、アクセス リストはインターフェイスから転送（送信）されたパケットをフィルタリングします。発信インターフェイスで **Rate-Based Satellite Control Protocol (RBSCP)** の TCP アクセス コントロール リスト (ACL) を使用して、発信インターフェイスで TCP 確認応答 (ACK) を受けるパケットの種類を制御できます。

**debug** コマンドを使用してアクセス リストを参照し、デバッグ ログの量を制限できます。たとえば、アクセス リストのフィルタリング基準または一致基準に基づいて、デバッグ ログを送信元または宛先のアドレスまたはプロトコルに制限できます。

アクセス リストを使用して、ルーティング アップデート、ダイヤルオンデマンド (DDR)、および Quality of Service (QoS) 機能を制御することができます。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IP アクセス リスト コマンド：コマンド構文、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用に関する注意事項および例	『Cisco IOS IP Addressing Services Command Reference』
送信元アドレス、宛先アドレス、またはプロトコルに基づくフィルタリング	『Creating an IP Access List and Applying It to an Interface』 モジュール
IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポート、または TTL に基づくフィルタリング	『Creating an IP Access List to Filter IP Options, TCP Flags, or Noncontiguous Ports』 モジュール

### 標準

標準と RFC	タイトル
なし	—

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>



## IP アクセス リストに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 48:** IP アクセス リストに関する機能情報

機能名	リリース	機能の設定情報
ACL - IP プロトコル	Cisco IOS XE リリース 3.16	Cisco IOS XE リリース 3.16 では、Cisco ASR 903 ルータのサポートが追加されました。





## CHAPTER 29

# IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用

IP アクセスリストには、ネットワークを保護し、Quality of Service (QoS) 係数の設定や **debug** コマンド出力の制限などのセキュリティ以外の目標を達成する際に多数の利点があります。ここでは、標準、拡張、名前付き、および番号付き IP アクセスリストの作成方法について説明します。アクセスリストは、名前または番号で参照できます。標準アクセスリストは、IP パケットの送信元アドレスのみに基づいてフィルタできます。拡張アクセスリストは、IP パケットの送信元アドレス、宛先アドレス、および他のフィールドに基づいてフィルタできます。

アクセスリストの作成後に有効にするには、何かに適用する必要があります。このモジュールでは、アクセスリストをインターフェイスに適用する方法について説明します。ただし、アクセスリストにはその他にも多数の用途があり、このモジュールで言及していますが、他のモジュールでも説明しています。多様なテクノロジーについては、他のコンフィギュレーションガイドを参照してください。

- [IP アクセスリストの作成およびインターフェイスへの適用の制限 \(387 ページ\)](#)
- [IP アクセスリストの作成とインターフェイスへの適用に関する情報, on page 388](#)
- [IP アクセスリストの作成とインターフェイスへの適用方法, on page 390](#)
- [IP アクセスリストの作成と物理インターフェイスへの適用に関する設定例, on page 401](#)
- [IP アクセスリストの作成とインターフェイスへの適用に関する追加参照資料, on page 405](#)
- [IP アクセスリストの作成とインターフェイスへの適用に関する機能情報, on page 406](#)

## IP アクセス リストの作成およびインターフェイスへの適用の制限

IPv4 および IPv6 アクセス コントロール リスト (ACL) を設定する場合、次の制限事項が適用されます。

- Application Control Engine (ACE) 固有のカウンタは、サポートされていません。
- レイヤ 3 IPv4 および Ipv6 ACL は、同じインターフェイスではサポートされません。

- レイヤ 3 IPv4 または IPv6 ACL が適用されているイーサネット フローポイント (EFP) または トランク EFP インターフェイスでは、MAC ACL はサポートされていません。
- IPv4 および IPv6 ACL は、EFP インターフェイスでは現在サポートされていません。IPv4 および IPv6 ACL は、物理インターフェイス、ブリッジドメインインターフェイスおよび ポート チャネル インターフェイスでサポートされています。
- レイヤ 4 ポートの範囲と機能は、Ternary Content Addressable Memory (TCAM) に展開されます。IPv4 ACL によって、レイヤ 1K TCAM に制限され、レイヤ 2 ACL スケールは、1K TCAM エントリに制限されます。
- オブジェクトグループ ACL (IPv4 および IPv6 ACL) は、Cisco ISR プラットフォームでサポートされています。
- **any options** コマンドはサポートされていません。
- Cisco IOS XE Cupertino リリース 17.7.1 以降、ACL は、管理インターフェイス Gigabit 0 でサポートされています。

## IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用に関する情報

### IP アクセス リストを作成する際に役立つヒント

- アクセスリストを作成してから、インターフェイス (または別の対象) に適用します。その理由は、存在しないアクセス リストをインターフェイスに適用してから、アクセス リストを設定すると、最初のステートメントが有効になり、それに続く暗黙的な **deny** ステートメントによってアクセスに緊急の問題が発生するおそれがあるためです。
- アクセス リストを設定してから適用するもう 1 つの理由は、空のアクセス リストが適用されたインターフェイスはすべてのトラフィックを許可するためです。
- すべてのアクセス リストには、少なくとも 1 つの **permit** ステートメントが必要です。permit がないと、すべてのパケットは拒否され、トラフィックはまったく通過しません。
- ネットワークまたはサブネットのより具体的な参照が、より全般的な参照よりも前に出現するように、アクセス リストを構成します。
- パケットは、ACL の最初の ACE に一致します。したがって、**permit ip any any** はすべてのパケットに一致し、以降の ACE はすべて無視されます。
- すべてのアクセス リストは暗黙的な **deny** ステートメントで終了しますが、明示的な **deny** ステートメント (たとえば **deny ip any any**) の使用を推奨します。ほとんどのプラットフォームでは、**show access-list** コマンドを発行して拒否されるパケット数を表示し、アクセス リストが許可していないパケットに関する詳細情報を調査できます。明示的な **deny**

ステートメントで拒否されたパケットのみがカウントされます。これは、明示的な **deny** ステートメントによって、より詳細なデータが生成されるためです。

- アクセスリストの作成中、または作成後に、エントリを削除場合があります。名前付きアクセスリストからはエントリを削除できます。 **no permit** または **no deny** コマンドを使用すると、適切なエントリが削除されます。
- 個々のステートメントの用途をひと目で確認および理解しやすくするために、 **remark** コマンドを使用して、ステートメントの前後に役立つ注記を書き込むことができます。
- 特定のホストまたはネットワークに対するアクセスを拒否し、そのネットワークまたはホストの誰かがアクセスしようとしたかどうかを検出する場合、対応する **deny** ステートメントを指定した **log** キーワードを含めます。それによって、その送信元からの拒否されたパケットがログに記録されます。
- このヒントは、アクセスリストの配置に適用されます。リソースを保存しようとする、インバウンドアクセスリストでは常にフィルタ条件を適用した後に、ルーティングテーブルの検索を行います。アウトバウンドアクセスリストではフィルタ条件を適用する前に、ルーティングテーブルの検索を行います。

## アクセス リストの注釈

任意の IP アクセスリストのエントリについて、コメントまたは注釈を含めることができます。アクセスリストの注釈は、アクセスリストエントリの前後にあるオプションの注釈です。エントリの内容がわかるので、エントリの目的を解釈する必要はありません。各注釈の長さは 100 文字に制限されます。

コメントは、 **permit** ステートメントまたは **deny** ステートメントの前後どちらにでも配置できます。注釈を追加する場所には一貫性があるようにしてください。注釈が関連する **permit** ステートメントや **deny** ステートメントの前にある場合と後にある場合とが混在すると、ユーザーが混乱する可能性があります。

後続の **deny** ステートメントの機能を説明する注釈の例を次に示します。

```
ip access-list extended telnetting
remark Do not allow host1 subnet to telnet out
deny tcp host 172.16.2.88 any eq telnet
```

## その他の IP アクセス リスト機能

標準または拡張アクセス リストを作成する基本手順以外に、次のようにアクセス リストを強化できます。これらの各方法の詳細については、『*Refining an IP Access List module*』を参照してください。

- 拡張アクセスリストの **permit** ステートメントまたは **deny** ステートメントを有効にする日時を指定し、アクセスリストを細かくし、絶対的または定期的な期間に限定することができます。

- 名前付きまたは番号付きアクセスリストの作成後は、エントリを追加したり、エントリの順序を変更したりできます（これはアクセスリストのシーケンス番号再割り当てとも呼ばれます）。
- パケットの非初期フラグメントについてフィルタすることで、パケットをフィルタするときにより細かい精度を達成できます。

## IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用方法

ここでは、名前または番号を使用して、標準または拡張アクセスリストを作成する一般的な方法について説明します。アクセスリストには高い柔軟性があります。この作業では、単純に1つの **permit** コマンドと1つの **deny** コマンドを使用して、それぞれのコマンド構文を指定します。あとは、必要な **permit** および **deny** コマンドの数とその順序を決めるだけです。



**Note** このモジュールの最初の2つの作業として、1つのアクセスリストを作成します。適切に機能するように、アクセス リストを適用する必要があります。インターフェイスにアクセス リストを適用する場合は、「インターフェイスへのアクセスリストの適用」タスクを実行します。

### 送信元アドレスに基づいてフィルタする標準アクセス リストの作成

送信元アドレスのみに基づいてフィルタする場合、簡易な標準アクセスリストで十分です。標準アクセス リストには名前付きと番号付きという2種類があります。名前付きアクセス リストを使用すると、番号よりも直感的な名前を使用してアクセスリストを特定できます。また、番号付きアクセス リストよりもサポートする機能が多数です。

### 送信元アドレスに基づいてフィルタする名前付きアクセス リストの作成

送信元アドレスのみに基づいてフィルタする必要がある場合、標準の名前付きアクセスリストを使用します。この作業では、1つの **permit** ステートメントと1つの **deny** ステートメントを使用しますが、使用する実際のステートメントとその順序は、フィルタまたは許可する内容によって変わります。フィルタリングの目標を達成するように、**permit** および **deny** ステートメントを定義します。

#### Procedure

ステップ1 **enable**

**Example:**

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

## ステップ2 **configure terminal**

### Example:

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ3 **ip access-list standard name**

### Example:

```
Device(config)# ip access-list standard R&D
```

名前を使用して標準IPアクセスリストを定義し、標準名前付きアクセスリストのコンフィギュレーションモードを開始します。

## ステップ4 **remark remark**

### Example:

```
Device(config-std-nacl)# remark deny Sales network
```

(任意) アクセス リスト エントリに関してユーザーにわかりやすいコメントを追加します。

- 注釈はアクセス リスト エントリの前または後に指定できます。
- この例の注釈では、後続のエントリがインターフェイスに対する Sales ネットワークのアクセスを拒否することをネットワーク管理者に示しています（このアクセス リストは後でインターフェイスに適用される想定です）。

## ステップ5 **deny {source [source-wildcard] | any} [log]**

### Example:

```
Device(config-std-nacl)# deny 172.16.0.0 0.0.255.255 log
```

(任意) 送信元アドレスおよびワイルドカード マスクに基づいて、指定した送信元を拒否します。

- *source-wildcard* を省略すると、0.0.0.0 というワイルドカード マスクが想定されます（つまり、すべての送信元アドレスに一致します）。
- 必要に応じて、*source source-wildcard* の代わりに、キーワード **any** を使用して、送信元と 0.0.0.0 255.255.255.255 の送信元ワイルドカードを指定できます。
- この例では、ネットワーク 172.16.0.0 のすべてのホストは、アクセス リストへの合格が拒否されます。
- この例では、送信元アドレスを明示的に拒否し、**log** キーワードを指定しているため、その送信元からのパケットが拒否されるとロギングされます。これは、ネットワークまたはホスト上の誰かがアクセスしようとしたことを通知する方法の1つです。

**ステップ 6** **remark** *remark***Example:**

```
Device(config-std-nacl)# remark Give access to Tester's host
```

(任意) アクセス リスト エントリに関してユーザーにわかりやすいコメントを追加します。

- 注釈はアクセス リスト エントリの前または後に指定できます。
- この注釈は、後続のエントリがインターフェイスに対する **Tester** のホスト アクセスを許可することをネットワーク管理者に示します。

**ステップ 7** **permit** {*source* [*source-wildcard*] | **any**} [**log**]**Example:**

```
Device(config-std-nacl)# permit 172.18.5.22 0.0.0.0
```

送信元アドレスおよびワイルドカードマスクに基づいて、指定した送信元を許可します。

- 各アクセス リストには、少なくとも1つの **permit** ステートメントが必要です。ただし、最初のエントリにする必要はありません。
- *source-wildcard* を省略すると、**0.0.0.0** というワイルドカードマスクが想定されます (つまり、すべての送信元アドレスに一致します)。
- 必要に応じて、*source source-wildcard* の代わりに、キーワード **any** を使用して、送信元と **0.0.0.0 255.255.255.255** の送信元ワイルドカードを指定できます。
- この例では、ホスト **172.18.5.22** がアクセス リストに合格できます。

**ステップ 8** アクセス リストの基礎とする送信元の指定が完了するまで、ステップ 4～7 の手順を繰り返します。

明示的に許可されていないすべての送信元は、アクセス リストの末尾にある暗黙的な **deny** ステートメントで拒否されます。

**ステップ 9** **end****Example:**

```
Device(config-std-nacl)# end
```

標準の名前付きアクセス リスト コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

**ステップ 10** **show ip access-list****Example:**

```
Device# show ip access-list
```

(任意) 現在の IP アクセス リストすべてのコンテンツが表示されます。



## 送信元アドレスに基づいてフィルタする番号付きアクセスリストの作成

送信元アドレスのみに基づいてフィルタする必要がある、名前付きアクセスリストを使用しない場合、標準の番号付きアクセスリストを設定します。

IP 標準アクセスリストには、1～99 または 1300～1999 の番号を付けます。この作業では、1つの **permit** ステートメントと1つの **deny** ステートメントを使用しますが、使用する実際のステートメントとその順序は、フィルタまたは許可する内容によって変わります。フィルタリングの目標を達成するように、**permit** および **deny** ステートメントを定義します。

### Procedure

#### ステップ 1 **enable**

##### Example:

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

#### ステップ 2 **configure terminal**

##### Example:

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

#### ステップ 3 **access-list access-list-number permit {source [source-wildcard]} [any] [log]**

##### Example:

```
Device(config)# access-list 1 permit 172.16.5.22 0.0.0.0
```

送信元アドレスおよびワイルドカードマスクに基づいて、指定した送信元を許可します。

- 各アクセスリストには、少なくとも1つの **permit** ステートメントが必要です。ただし、最初のエントリにする必要はありません。
- 標準 IP アクセスリストには、1～99 または 1300～1999 の番号を付けます。
- **source-wildcard** を省略すると、**0.0.0.0** というワイルドカードマスクが想定されます（つまり、すべての送信元アドレスに一致します）。
- 必要に応じて、**source source-wildcard** の代わりに、キーワード **any** を使用して、送信元と **0.0.0.0 255.255.255.255** の送信元ワイルドカードを指定できます。
- この例では、ホスト **172.16.5.22** がアクセスリストに合格できます。

#### ステップ 4 **access-list access-list-number deny {source [source-wildcard]} [any] [log]**

**Example:**

```
Device(config)# access-list 1 deny 172.16.7.34 0.0.0.0
```

送信元アドレスおよびワイルドカードマスクに基づいて、指定した送信元を拒否します。

- *source-wildcard* を省略すると、**0.0.0.0** というワイルドカードマスクが想定されます（つまり、すべての送信元アドレスに一致します）。
- 必要に応じて、*source source-wildcard* の代わりに、省略形 **any** を使用して、送信元と **0.0.0.0 255.255.255.255** の送信元ワイルドカードを指定できます。
- この例では、ホスト **172.16.7.34** はアクセスリストへの合格が拒否されます。

**ステップ 5** アクセスリストの基礎とする送信元の指定が完了するまで、ステップ 3～6 の手順を繰り返します。

明示的に許可されていないすべての送信元は、アクセスリストの末尾にある暗黙的な **deny** ステートメントで拒否されます。

**ステップ 6 end**

**Example:**

```
Device(config)# end
```

グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

**ステップ 7 show ip access-list**

**Example:**

```
Device# show ip access-list
```

(任意) 現在の IP アクセスリストすべてのコンテンツが表示されます。

## 拡張アクセスリストの作成

送信元アドレス以外の要素に基づいてフィルタする場合、拡張アクセスリストを作成する必要があります。拡張アクセスリストには名前付きと番号付きという2種類があります。名前付きアクセスリストを使用すると、番号よりも直感的な名前を使用してアクセスリストを特定できます。また、サポートする機能が多数です。

送信元アドレスまたは宛先アドレス以外の要素をフィルタする方法の詳細については、コマンドリファレンスマニュアルの構文の説明を参照してください。

### 名前付き拡張アクセスリストの作成

送信元アドレス、宛先アドレス、またはアドレスと他の IP フィールドの組み合わせをフィルタする場合、名前付き拡張アクセスリストを作成します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list extended name**
4. **deny protocol source [source-wildcard] destination [destination-wildcard] [option option-name] [precedence precedence] [tos tos] [established] [log | log-input] [time-range time-range-name] [fragments]**
5. **permit protocol source [source-wildcard] destination [destination-wildcard] [option option-name] [precedence precedence] [tos tos] [established] [log | log-input] [time-range time-range-name] [fragments]**
6. アクセス リストの基礎とするフィールドと値の指定が完了するまで、ステップ 4～7 の手順を繰り返します。
7. **end**
8. **show ip access-list**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list extended name</b> <b>Example:</b>  Device(config)# ip access-list extended acl1	名前を使用して拡張 IP アクセス リストを定義し、拡張名前付きアクセス リストのコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>deny protocol source [source-wildcard] destination [destination-wildcard] [option option-name] [precedence precedence] [tos tos] [established] [log   log-input] [time-range time-range-name] [fragments]</b> <b>Example:</b>  Device(config-ext-nacl)# deny ip 172.18.0.0 0.0.255.255 host 172.16.40.10 log	(任意) ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを拒否します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>source-wildcard</i> または <i>destination-wildcard</i> を省略すると、0.0.0.0 のワイルドカードマスクが想定されます。つまり、それぞれ送信元アドレスまたは宛先アドレスの全ビットへの一致を意味します。</li> <li>• 必要に応じて、<i>source source-wildcard</i> または <i>destination destination-wildcard</i> の代わりに、キーワード <b>any</b> を使用して、アドレスと 0.0.0.0</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p>255.255.255.255 の送信元ワイルドカードを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 必要に応じて、キーワード <b>host source</b> を使用し、<i>source</i> 0.0.0.0 の送信元と送信元ワイルドカードを表示して、省略形 <b>host destination</b> を使用し、<i>destination</i> 0.0.0.0 の宛先と宛先ワイルドカードを表示します。</li> <li>• この例では、すべての送信元のパケットは、宛先ネットワーク 172.18.0.0 へのアクセスが拒否されます。アクセスリストによって許可または拒否されるパケットに関するロギングメッセージは、<b>logging facility</b> コマンドに設定された設備に送信されます（たとえば、コンソール、端末、syslog）。つまり、パケットがアクセスリストに一致する場合は常に、パケットに関する情報を提供するロギングメッセージが設定された設備に送信されます。コンソールにロギングするメッセージのレベルは、<b>logging console</b> コマンドで制御します。</li> </ul>
ステップ 5	<p><b>permit</b> <i>protocol source</i> [<i>source-wildcard</i>] <i>destination</i> [<i>destination-wildcard</i>] [<b>option</b> <i>option-name</i>] [<b>precedence</b> <i>precedence</i>] [<b>tos</b> <i>tos</i>] [<b>established</b>] [<b>log</b>   <b>log-input</b>] [<b>time-range</b> <i>time-range-name</i>] [<b>fragments</b>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ext-nacl)# permit tcp any any</pre>	<p>ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを許可します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各アクセスリストには、少なくとも1つの permit ステートメントが必要です。</li> <li>• <i>source-wildcard</i> または <i>destination-wildcard</i> を省略すると、0.0.0.0 のワイルドカードマスクが想定されます。つまり、それぞれ送信元アドレスまたは宛先アドレスの全ビットへの一致を意味します。</li> <li>• 必要に応じて、<i>source source-wildcard</i> または <i>destination destination-wildcard</i> の代わりに、キーワード <b>any</b> を使用して、アドレスと 0.0.0.0 255.255.255.255 の送信元ワイルドカードを指定できます。</li> <li>• この例では、任意の送信元から任意の宛先への TCP パケットが許可されています。</li> <li>• <b>log-input</b> キーワードを使用して、ロギング出力に入力インターフェイス、送信元 MAC アドレス、または仮想回線を含めます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	アクセスリストの基礎とするフィールドと値の指定が完了するまで、ステップ 4～7 の手順を繰り返します。	明示的に許可されていないすべての送信元は、アクセスリストの末尾にある暗黙的な <b>deny</b> ステートメントで拒否されます。
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device(config-ext-nacl)# end	標準の名前付きアクセスリストコンフィギュレーションモードを終了し、特権EXECモードを開始します。
ステップ 8	<b>show ip access-list</b> <b>Example:</b>  Device# show ip access-list	(任意) 現在の IP アクセスリストすべてのコンテンツが表示されます。

### RSP3 ポートの関連情報

ACL は、フラグメント化されたパケットに対してはサポートされていません。

## 番号付き拡張アクセスリストの作成

送信元アドレス、宛先アドレス、またはアドレスと他の IP フィールドの組み合わせに基づいてフィルタし、名前を使用しない場合、番号付き拡張アクセスリストを作成します。拡張 IP アクセスリストには、100～199 または 2000～2699 の番号を付けます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **access-list** *access-list-number* **remark** *remark*
4. **access-list** *access-list-number* **permit** *protocol* {*source* [*source-wildcard*] | **any**} {*destination* [*destination-wildcard*] | **any**} [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**established**] [**log** | **log-input**] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**]
5. **access-list** *access-list-number* **remark** *remark*
6. **access-list** *access-list-number* **deny** *protocol* {*source* [*source-wildcard*] | **any**} {*destination* [*destination-wildcard*] | **any**} [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**established**] [**log** | **log-input**] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**]
7. アクセスリストの基礎とするフィールドと値の指定が完了するまで、ステップ 3～6 の手順を繰り返します。
8. **end**
9. **show ip access-list**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>access-list access-list-number remark remark</b> <b>Example:</b> Device(config)# access-list 107 remark allow Telnet packets from any source to network 172.69.0.0 (headquarters)	(任意) アクセスリストエントリに関してユーザーにわかりやすいコメントを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>最大 100 文字の注釈をアクセスリストエントリの前または後に指定できます。</li> </ul>
ステップ 4	<b>access-list access-list-number permit protocol {source [source-wildcard]   any} {destination [destination-wildcard]   any} [precedence precedence] [tos tos] [established] [log   log-input] [time-range time-range-name] [fragments]</b> <b>Example:</b> Device(config)# access-list 107 permit tcp any 172.69.0.0 0.0.255.255 eq telnet	ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを許可します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>各アクセスリストには、少なくとも 1 つの <b>permit</b> ステートメントが必要です。ただし、最初のエントリにする必要はありません。</li> <li>拡張 IP アクセスリストには、100 ~ 199 または 2000 ~ 2699 の番号を付けます。</li> <li><i>source-wildcard</i> または <i>destination-wildcard</i> を省略すると、0.0.0.0 のワイルドカードマスクが想定されます。つまり、それぞれ送信元アドレスまたは宛先アドレスの全ビットへの一致を意味します。</li> <li>必要に応じて、<i>source source-wildcard</i> または <i>destination destination-wildcard</i> の代わりに、キーワード <b>any</b> を使用して、アドレスと 0.0.0.0 255.255.255.255 の送信元ワイルドカードを指定できます。</li> <li>TCP と他のプロトコルでは、その他の構文も使用できます。複雑な構文の場合、コマンドリファレンスの <b>access-list</b> コマンドを参照してください。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<p><b>access-list</b> <i>access-list-number</i> <b>remark</b> <i>remark</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# access-list 107 remark deny all other TCP packets</pre>	<p>(任意) アクセスリストエン트리に関してユーザーにわかりやすいコメントを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大 100 文字の注釈をアクセス リスト エントリーの前または後に指定できます。</li> </ul>
ステップ 6	<p><b>access-list</b> <i>access-list-number</i> <b>deny</b> <i>protocol</i> {<i>source</i> [<i>source-wildcard</i>]   <b>any</b>} {<i>destination</i> [<i>destination-wildcard</i>]   <b>any</b>} [<b>precedence</b> <i>precedence</i>] [<b>tos</b> <i>tos</i>] [<b>established</b>] [<b>log</b>   <b>log-input</b>] [<b>time-range</b> <i>time-range-name</i>] [<b>fragments</b>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# access-list 107 deny tcp any any</pre>	<p>ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを拒否します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>source-wildcard</i> または <i>destination-wildcard</i> を省略すると、0.0.0.0 のワイルドカードマスクが想定されます。つまり、それぞれ送信元アドレスまたは宛先アドレスの全ビットへの一致を意味します。</li> <li>必要に応じて、<i>source source-wildcard</i> または <i>destination destination-wildcard</i> の代わりに、キーワード <b>any</b> を使用して、アドレスと 0.0.0.0 255.255.255.255 の送信元ワイルドカードを指定できます。</li> </ul>
ステップ 7	<p>アクセスリストの基礎とするフィールドと値の指定が完了するまで、ステップ 3 ~ 6 の手順を繰り返します。</p>	<p>明示的に許可されていないすべての送信元は、アクセスリストの末尾にある暗黙的な <b>deny</b> ステートメントで拒否されます。</p>
ステップ 8	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# end</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。</p>
ステップ 9	<p><b>show ip access-list</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# show ip access-list</pre>	<p>(任意) 現在の IP アクセス リストすべてのコンテンツが表示されます。</p>

## 物理インターフェイスへのアクセスリストの適用

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **ip access-group** {*access-list-number* | *access-list-name*} {**in** | **out**}
5. **ip access-list extended** *acl-name* *acl-number*
6. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> <b>Example:</b>	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip access-group {access-list-number   access-list-name} {in   out}</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip access-group acl1 in	指定したアクセス リストをインバウンド インターフェイスに適用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>送信元アドレスをフィルタリングするには、インバウンド インターフェイスにアクセス リストを適用します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>ip access-list extended acl-name acl-number</b> <b>Example:</b>	拡張 ACL コンフィギュレーション モードを有効にします。CLI は拡張 ACL コンフィギュレーション モードを開始します。このモードでは、後続のすべてのコマンドが現在の拡張アクセスリストに適用されます。 拡張 ACL コンフィギュレーション モードを有効にします。CLI は拡張 ACL コンフィギュレーション モードを開始します。このモードでは、後続のすべてのコマンドが現在の拡張アクセスリストに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ACL コンフィギュレーション モードから入力されたすべてのコマンドが適用されるアクセス リスト。英字で始まる最大 30 文字の英数字文字列を使用します。</li> <li>アクセス リスト コンフィギュレーション モードから入力されたすべてのコマンドが適用されるアクセスリスト。数字の識別子を使用します。拡張アクセスリストでは、有効範囲は 100 ~ 199 です。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>end</b>  <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IP アクセスリストの作成と物理インターフェイスへの適用に関する設定例

### 例：ホスト送信元アドレスでのフィルタリング

次の例では、**user1** に属するワークステーションがギガビットイーサネット 0/0/0 へのアクセスを許可され、**user2** に属するワークステーションはアクセスを許可されていません。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
 ip access-group workstations in
 !
 ip access-list standard workstations
 remark Permit only user1 workstation through
 permit 172.16.2.88
 remark Do not allow user2 workstation through
 deny 172.16.3.13
```

### 例：サブネット送信元アドレスでのフィルタリング

次の例では、**user1** サブネットは、**gigabitethernet** インターフェイス 0/0/0 へのアクセスが許可されていませんが、**Main** サブネットは、アクセスが許可されています。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
 ip access-group prevention in
 !
 ip access-list standard prevention
 remark Do not allow user1 subnet through
 deny 172.22.0.0 0.0.255.255
 remark Allow Main subnet
 permit 172.25.0.0 0.0.255.255
```

### 例：送信元と宛先のアドレスおよびIPプロトコルでのフィルタリング

次の設定例は、2つのアクセスリストを持つインターフェイスを示します。一方のリストは発信パケット、もう一方のリストは着信パケットに適用されます。**Internet-filter** という標準アクセスリストは、送信元アドレスに基づいて発信パケットをフィルタします。インターフェイスから発信が許可されるパケットは、送信元が 172.16.3.4 である必要があります。

**marketing-group** という拡張アクセスリストは、着信パケットをフィルタします。このアクセスリストは、任意の送信元からネットワーク 172.26.0.0 への Telnet パケットを許可し、その他す

## 例：番号付きアクセスリストを使用した送信元アドレスでのフィルタリング

すべての TCP パケットを拒否します。また、ICMP パケットはすべて許可します。1024 未満のポート番号を使用する、任意の送信元からネットワーク 172.26.0.0 への UDP パケットは拒否します。最後に、このアクセスリストはその他すべての IP パケットを拒否し、そのエントリによって許可または拒否されるパケットのロギングを実行します。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
 ip address 172.20.5.1 255.255.255.0
 ip access-group Internet-filter out
 ip access-group marketing-group in
!
ip access-list standard Internet-filter
 permit 172.16.3.4
ip access-list extended marketing-group
 permit tcp any 172.26.0.0 0.0.255.255 eq telnet
 deny tcp any any
 permit icmp any any
 deny udp any 172.26.0.0 0.0.255.255 lt 1024
 deny ip any any
```

## 例：番号付きアクセスリストを使用した送信元アドレスでのフィルタリング

次の例では、ネットワーク 10.0.0.0 は、クラス A ネットワークで、2 番目のオクテットでサブネットを指定します。つまり、サブネットマスクは 255.255.0.0 です。ネットワーク 10.0.0.0 アドレスの 3 番目および 4 番目のオクテットで特定のホストを指定します。Cisco IOS XE ソフトウェアは、アクセスリスト 2 を使用して、サブネット 48 上の 1 つのアドレスを受け入れ、そのサブネット上のその他のアドレスはすべて拒否します。最後の行は、その他すべてのネットワーク 10.0.0.0 サブネット上のアドレスを受け入れることを示します。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
 ip access-group 2 in
!
access-list 2 permit 10.48.0.3
access-list 2 deny 10.48.0.0 0.0.255.255
access-list 2 permit 10.0.0.0 0.255.255.255
```

## 例：サブネットへの Telnet アクセスの防止

次の例では、user1 サブネットは、ギガビットイーサネットインターフェイス 0/0/0 から Telnet にアクセスできません。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
 ip access-group telnetting out
!
ip access-list extended telnetting
 remark Do not allow user1 subnet to telnet out
 deny tcp 172.20.0.0 0.0.255.255 any eq telnet
 remark Allow Top subnet to telnet out
 permit tcp 172.33.0.0 0.0.255.255 any eq telnet
```

## 例：ポート番号を使用した TCP および ICMP に基づくフィルタリング

次の例では、`acl1` という名前の拡張アクセスリストの最初の行で、1023 よりも大きい宛先ポートを持つ着信 TCP 接続を許可しています。2 行目で、ホスト 172.28.1.2 の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) ポートへの着信 TCP 接続を許可しています。最後の行では、エラーフィードバックのための着信 ICMP メッセージを許可しています。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
 ip access-group acl1 in
!
ip access-list extended acl1
 permit tcp any 172.28.0.0 0.0.255.255 gt 1023
 permit tcp any host 172.28.1.2 eq 25
 permit icmp any 172.28.0.0 255.255.255.255
```

## 例：SMTP 電子メールと確立済み TCP 接続の許可

インターネットに接続されているネットワークがあり、イーサネット上のホストでインターネット上の任意のホストに対して TCP 接続を構成するとします。ただし、専用のメールホストのメール (SMTP) ポートを除き、IP ホストから `gigabitethernet` 上のホストに対する TCP 接続を構成できないようにします。

SMTP は、接続の一端では TCP ポート 25、もう一端ではランダムなポート番号を使用します。接続の存続中は、この同じ 2 つのポート番号が使用されます。インターネットから着信するメールパケットは、25 という宛先ポートを持ちます。発信パケットは、ポート番号が予約されています。ルータの背後にあるセキュアシステムは、ポート 25 でメール接続を常に受け入れるため、着信および発信サービスを個別に制御できます。発信インターフェイスまたは着信インターフェイスで、アクセスリストを設定できます。

次の例で、`gigabitethernet` ネットワークはアドレスが 172.18.0.0 のクラス B ネットワークで、メールホストのアドレスは 172.18.1.2 です。`established` キーワードを使用するのは、TCP プロトコルで確立済み接続を指定する場合のみです。TCP データグラムに ACK または RST ビットが設定されている場合に一致が発生します。これは、パケットが既存の接続に属することを示します。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
 ip access-group 102 in
!
access-list 102 permit tcp any 172.18.0.0 0.0.255.255 established
access-list 102 permit tcp any host 172.18.1.2 eq 25
```

## 例：ポート名に基づくフィルタによる Web へのアクセス回避

次の例では、`w1` および `w2` ワークステーションは Web アクセスが許可されていません。ネットワーク 172.20.0.0 上のその他のホストは Web アクセスが許可されています。

```
interface gigabitethernet0/0/0
 ip access-group no-web out
!
ip access-list extended no-web
```

## 例：送信元アドレスでのフィルタリングおよびパケットのロギング

```

remark Do not allow w1 to browse the web
deny host 172.20.3.85 any eq http
remark Do not allow w2 to browse the web
deny host 172.20.3.13 any eq http
remark Allow others on our network to browse the web
permit 172.20.0.0 0.0.255.255 any eq http

```

## 例：送信元アドレスでのフィルタリングおよびパケットのロギング

次の例では、アクセスリスト1および2を定義します。いずれのリストもロギングが有効です。

```

interface gigabitethernet 0/0/0
 ip address 172.16.1.1 255.0.0.0
 ip access-group 1 in

!
access-list 1 permit 172.25.0.0 0.0.255.255 log
access-list 1 deny 172.30.0.0 0.0.255.255 log
!
access-list 2 permit 172.27.3.4 log
access-list 2 deny 172.17.0.0 0.0.255.255 log

```

インターフェイスが172.25.7.7から10パケットを受信し、172.17.23.21から14パケットを受信する場合、最初のログは次のようになります。

```

list 1 permit 172.25.7.7 1 packet
list 2 deny 172.17.23.21 1 packet

```

5分後、コンソールは、次のログを受信します。

```

list 1 permit 172.25.7.7 9 packets
list 2 deny 172.17.23.21 13 packets

```

## 例：デバッグ出力の制限

次の設定例では、アクセスリストを使用して、**debug** コマンドの出力を制限します。**debug** の出力を制限すると、データ量が絞られ、目的のデータを探しやすくなるため、時間とリソースを節約できます。

```

Device(config)# ip access-list acl1
Device(config-std-nacl)# remark Displays only advertisements for LDP peer in acl1
Device(config-std-nacl)# permit host 10.0.0.44

```

```

Device# debug mpls ldp advertisements peer-acl acl1

```

```

tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 172.17.0.33
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 172.16.0.31
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 172.22.0.33
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 192.168.0.1
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 192.168.0.3
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 192.168.1.33

```

# IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用に関する追加参照資料

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセス リスト エントリの順序</li> <li>日または週の時刻に基づくアクセス リスト エントリ</li> <li>非初期フラグメントを使用するパケット</li> </ul>	『Refining an IP Access List』
IP オプション、TCP フラグ、または非隣接ポートに基づくフィルタリング	『Creating an IP Access List for Filtering』
ロギング関連のパラメータの制御	『Understanding Access Control List Logging』

## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
この機能によりサポートされる新規または変更された標準や RFC はありません。またこの機能による既存の標準や RFC のサポートに変更はありません。	—

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 49: IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用に関する機能情報**

機能名	リリース	機能の設定情報
ACL-アクセスコントロール リスト内の送信元アドレスと宛先アドレスの一致	Cisco IOS XE リリース 3.5S	Cisco IOS XE リリース 3.5S では、Cisco ASR 903 ルータのサポートが追加されました。
ACL - ICMP コード	Cisco IOS XE リリース 3.5S	Cisco IOS XE リリース 3.5S では、Cisco ASR 903 ルータのサポートが追加されました。
ACL パフォーマンスの強化	Cisco IOS XE リリース 2.1	この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズのアグリゲーション サービス ルータで導入されました。  この機能について導入または変更されたコマンドはありません。



## CHAPTER 30

# IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポート、をフィルタする IP アクセス リストの作成

このモジュールは、特定の IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポート、を含む IP パケットをフィルタする IP アクセス リストの使用方法について説明します。

- [IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセス リストの作成に関する前提条件, on page 407](#)
- [IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセス リストの作成に関する情報, on page 408](#)
- [IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセス リストの作成方法, on page 412](#)
- [IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートのフィルタリングの設定例, on page 425](#)
- [その他の参考資料, on page 427](#)
- [フィルタするための IP アクセス リストの作成に関する機能情報, on page 428](#)

## IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセス リストの作成に関する前提条件

このモジュールのいずれかのタスクを実行する前に、次のモジュールの情報を把握しておく必要があります。

- 『IP アクセス リストの概要』
- 『IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用』

# IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセス リストの作成に関する情報

## IP オプション

IP は、サービスを提供するときに、タイプ オブ サービス、存続可能時間、オプション、およびヘッダー チェックサムという 4 つの主要メカニズムを使用します。

オプションは一般的に IP オプションと呼ばれ、一部の状況で必要な制御機能のために用意されていますが、ほとんどの一般的な通信では不要です。IP オプションには、タイムスタンプ、セキュリティ、および特殊なルーティングに関する条件が含まれます。

IP オプションはデータグラムに含まれる場合と含まれない場合があります。IP オプションはすべての IP モジュール（ホストとゲートウェイ）で実装する必要があります。オプションというのは、実装ではなく、任意の指定したデータグラムでの送信を指します。環境によっては、セキュリティ オプションがすべてのデータグラムで必要です。

オプション フィールドは長さが可変です。オプションの個数はゼロ個以上です。IP オプションには、次の 2 つの形式のいずれかを使用できます。

- 形式 1：単一オクテットの option-type
- 形式 2：1 つの option-type オクテット、option-length オクテット、および実際の option-data オクテット

option-length オクテットは、option-type オクテット、option-length オクテット、および option-data オクテットの数をカウントします。

option-type オクテットには、1 ビットのコピー済みフラグ、2 ビットのオプション クラス、および 5 ビットのオプション番号という 3 つのフィールドがあります。これらのフィールドは、オプション タイプ フィールドの 8 ビット値を構成します。IP オプションは、一般的にその 8 ビット値で参照されます。

IP オプションの詳細な一覧と説明については、次の URL の RFC 791 『*Internet Protocol*』を参照してください。<http://www.faqs.org/rfcs/rfc791.html>

## IP オプションをフィルタする利点

- ネットワークからの IP オプションを含むパケットをフィルタすることで、ダウンストリームのデバイスとホストにかかるオプション パケットの負荷が軽減されます。
- また、この機能によって、分散型システムでルート プロセッサ（RP）処理が必要な IP オプションを含むパケットについて、RP への負荷が最小限になります。以前は、パケットは常に RP CPU でルーティングまたは処理されていました。パケットをフィルタすることで、パケットの RP への影響を回避できます。



## TCP フラグに基づいてフィルタする利点

ACL TCP フラグ フィルタリング機能には、TCP フラグに基づいてフィルタする柔軟なメカニズムが用意されています。以前は、パケットのいずれかの TCP フラグがアクセスコントロールエントリ (ACE) で指定されたフラグに一致する限り、着信パケットは一致していました。すべてのフラグが設定されたパケットがアクセスコントロールリスト (ACL) を通過する可能性があるため、この動作ではセキュリティの抜け穴を考慮しています。ACL TCP フラグ フィルタリング機能では、フィルタするフラグの任意の組み合わせを選択できます。設定されているフラグ、および設定されていないフラグに基づいてマッチングする機能によって、TCP フラグに基づくフィルタリングの制御性が向上するため、セキュリティが強化されます。

TCP パケットは偽造の同期パケットとして送信され、それがリスニングポートで受け入れられる可能性があるため、ファイアウォールデバイスの管理者は、偽造の TCP パケットをドロップするフィルタリングルールを設定することを推奨します。

アクセスリストを構成する ACE を設定し、特定のグループの TCP フラグが設定されているパケットのみ、または設定されていないパケットのみを許可することで、不正な TCP パケットを検出およびドロップできます。ACL TCP フラグ フィルタリング機能によって、次のようにパケット フィルタリングの制御性が向上します。

- フィルタする TCP パケットについて、TCP フラグの任意の組み合わせを選択できます。
- 設定されているフラグと設定されていないフラグに基づいてマッチングできるように、ACE を設定できます。

## TCP フラグ

次の表は TCP フラグの一覧です。詳細については、RFC 793 『*Transmission Control Protocol*』を参照してください。

Table 50: TCP フラグ

TCP フラグ	目的
ACK	Acknowledge フラグ：セグメントの acknowledgment フィールドが、このセグメントの送信元が受信を予測している番号の次のシーケンス番号を指定することを示します。
FIN	Finish フラグ：接続をクリアするために使用されます。
PSH	Push フラグ：呼び出しのデータを受信ユーザーに対してただちにプッシュする必要があることを示します。
RST	Reset フラグ：受信者が以降のやり取りなしで接続を削除する必要があることを示します。

TCP フラグ	目的
SYN	Synchronize フラグ：接続の確立に使用されます。
URG	Urgent フラグ：urgent フィールドが重要で、セグメントシーケンス番号に追加する必要があることを示します。

## アクセスコントロール エントリ機能での非隣接ポートに関する名前付き ACL サポートを使用する利点

この機能によって、同じ送信元アドレス、宛先アドレス、およびプロトコルに関して複数のエントリを処理するために、アクセスコントロールリストで必要なアクセスコントロールエントリ (ACE) の数が大幅に削減されます。大量の ACE を保守している場合、可能な限り、新しいアクセスリストエントリを作成するときは、この機能を使用して既存のアクセスリストエントリのグループを統合します。非隣接ポートを使用するアクセスリストエントリを設定すると、保守するアクセスリストエントリ数が少なくなります。

## TTL 値のフィルタリング方法

IP は、拡張名前付きおよび番号付きアクセスリストは、インターフェイスを発着信するパケットの TTL 値でフィルタリングできます。有効な TTL 値 0 ~ 255 のパケットを許可または拒否できます (フィルタリング)。その他のフィールド (送信元または宛先アドレスなど) でのフィルタリングと同様に、**ip access-group** コマンドは **in** または **out** を指定します。これにより、アクセスリストの入力または出力が行われ、それぞれ着信または発信パケットに適用されます。TTL 値は、アクセスリストエントリで指定したプロトコル、アプリケーション、およびその他の設定とともにチェックされ、すべての条件を満たす必要があります。

### 入力インターフェイスに到達した TTL 値 0 または 1 のパケットに対する特別な処理

分散型シスコエクスプレスフォワーディング (dCEF)、CEF、ファストスイッチング、プロセススイッチングなどのソフトウェアスイッチングパスは、通常、アクセスリストステートメントに基づいてパケットを許可または廃棄します。ただし、入力インターフェイスに到達したパケットの TTL 値が 0 または 1 であるときには、特別な処理が必要です。TTL 値が 0 または 1 のパケットは、CEF、dCEF、またはファストスイッチングパスで入力アクセスリストがチェックされる前に、プロセスレベルに送信されます。入力アクセスリストは、TTL 値が 2 ~ 255 であるパケットに適用され、許可または拒否の決定が行われます。

TTL 値が 0 または 1 のパケットは、デバイスから外部に転送されることがないため、プロセスレベルに送信されます。プロセスレベルでは、各パケットがそのデバイス宛であるかどうか、および Internet Control Message Protocol (ICMP) TTL 値期限切れメッセージを返送する必要があるかどうかをチェックする必要があります。つまり、TTL が 0 または 1 のパケットをドロップする意図で TTL 値 0 または 1 のフィルタリングを設定した ACL が入力インターフェイスで設定されている場合でも、高速なパスではパケットのドロップが発生しないということです。代わりに、プロセスが ACL を適用するときに、プロセスレベルで発生します。これはハード

ウェア スイッチング プラットフォームについてもあてはまります。TTL 値が 0 または 1 のパケットはルート プロセッサ (RP) またはマルチレイヤ スイッチ フィーチャカード (MSFC) のプロセス レベルに送信されます。

出力インターフェイスでは、TTL 値でのアクセス リスト フィルタリングは、その他のアクセス リスト機能と同じように動作します。チェックはデバイスで有効な最も高速なスイッチング パスで行われます。これは、より高速なスイッチング パスは出力インターフェイスですべての TTL 値 (0 ~ 255) を均等に処理するためです。

### TTL 値 0 と 1 でフィルタリングするためのコントロール プレーン ポリシング

TTL 値が 0 または 1 のパケットに対する特別な動作によって、デバイスの CPU 使用率が高くなります。0 または 1 の TTL 値 でフィルタリングする場合は、CPU が過負荷になることを防ぐためにコントロール プレーン ポリシング (CPP) を使用してください。CPP を活用するには、TTL 値 0 および 1 をフィルタリングすることに特化したアクセス リストを設定し、CPP を通じてそのアクセス リストを適用する必要があります。このアクセス リストは、その他のインターフェイス アクセス リストとは別のアクセス リストにします。CPP は個々のインターフェイスにおいてではなくシステム全体に対して機能するため、そのようなアクセス リストはデバイス全体に対して 1 つのみ設定する必要があります。このタスクは、セクション「TTL 値 0 と 1 でフィルタリングするコントロール プレーン ポリシングの有効化」で説明しています。

## TTL 値に基づいてフィルタする利点

- 存続可能時間 (TTL) 値でのフィルタリングは、デバイスに到達できるパケット、またはデバイスに到達できないパケットを制御する方法を提供します。ネットワーク レイアウトを確認することで、特定のデバイスからのパケットをホップ数に基づいて許可するか拒否するかを選択できます。たとえば、小規模ネットワークでは、ホップ数が 3 より大きい場所からのパケットを拒否する可能性があります。TTL 値でのフィルタリングでは、トラフィックがネイバーデバイスから発信されたかどうかを検証できます。たとえば特定プロトコルの初期 TTL 値より 1 小さい TTL 値のパケットのみを受け入れることで、1 ホップで自分に到達するパケットのみを受け入れることができます。
- 多くのコントロール プレーン プロトコルはネイバーのみと通信しますが、パケットを誰からも受信します。TTL でフィルタリングするアクセス リストを受信側ルータに適用すると、不要なパケットをブロックできます。
- Cisco ソフトウェアが送信するすべてのパケットは、プロセス レベルに対して TTL 値が 0 または 1 です。デバイスは、Internet Control Message Protocol (ICMP) TTL 値期限切れメッセージを送信元に送信する必要があります。TTL 値が 0 ~ 2 であるパケットをフィルタリングすることで、プロセス レベルでの負荷を削減できます。

# IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートをフィルタする IP アクセス リストの作成方法

## IP オプションを含むパケットのフィルタリング

アクセスリストを設定して、IP オプションを含むパケットをフィルタし、アクセスリストが適切に設定されていることを確認するには、次の手順を完了します。



### Note

- IP オプションのフィルタリングに関する ACL のサポート機能は、名前付きの拡張 ACL のみ使用できます。
- この機能を設定する場合、リソース予約プロトコル (RSVP) マルチプロトコルラベルスイッチングトラフィックエンジニアリング (MPLS TE)、Internet Group Management Protocol バージョン 2 (IGMPV2)、および IP オプションパケットを使用するその他のプロトコルは、ドロップまたは無視モードでは機能しない可能性があります。
- ほとんどの Cisco デバイスでは、IP オプションを含むパケットはハードウェアではスイッチされませんが、処理するコントロールプレーンソフトウェアが必要です（主に、オプションを処理し、IP ヘッダーを書き直す必要があるため）。結果として、IP オプションを含むすべての IP パケットは、ソフトウェアでフィルタとスイッチが行われます。

## Procedure

### ステップ 1 enable

#### Example:

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

### ステップ 2 configure terminal

#### Example:

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

### ステップ 3 ip access-list extended access-list-name

#### Example:

```
Device(config)# ip access-list extended mylist1
```

名前で IP アクセス リストを指定し、名前付きアクセス リストのコンフィギュレーション モードを開始します。

**ステップ 4** `[sequence-number] deny protocol source source-wildcard destination destination-wildcard [option option-value] [precedence precedence] [tos tos] [log] [time-range time-range-name] [fragments]`

**Example:**

```
Device(config-ext-nacl)# deny ip any any option traceroute
```

(任意) 名前付き IP アクセス リスト モードで **deny** ステートメントを指定します。

- このアクセス リストでは **deny** ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、**permit** ステートメントが最初に使用される可能性もあります。
- **option** キーワードおよび *option-value* 引数を使用して、特定の IP オプションを含むパケットをフィルタします。
- この例では、**traceroute** IP オプションを含むすべてのパケットが除外されます。
- エントリを削除するには、このコマンドの **no sequence-number** 形式を使用します。

**ステップ 5** `[sequence-number] permit protocol source source-wildcard destination destination-wildcard [option option-value] [precedence precedence] [tos tos] [log] [time-range time-range-name] [fragments]`

**Example:**

```
Device(config-ext-nacl)# permit ip any any option security
```

名前付き IP アクセス リスト モードで **permit** ステートメントを指定します。

- この例では、セキュリティ IP オプションを含むすべてのパケット（まだフィルタされていないパケット）が許可されます。
- エントリを削除するには、このコマンドの **no sequence-number** 形式を使用します。

**ステップ 6** 必要に応じて、ステップ 4 またはステップ 5 を繰り返します。

アクセス リストは変更できます。

**ステップ 7** **end**

**Example:**

```
Device(config-ext-nacl)# end
```

(任意) 名前付きアクセス リスト コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

**ステップ 8** **show ip access-lists** *access-list-name*

**Example:**

```
Device# show ip access-lists mylist1
```

(任意) IP アクセス リストの内容を表示します。

## 次の作業

アクセスリストをインターフェイスに適用するか、アクセスリストを受け入れるコマンドから参照します。



**Note** IP オプションを含むすべてのパケットを効率的に除去するには、**ip options drop** グローバルコマンドを設定することを推奨します。

## TCP フラグを含むパケットのフィルタリング

この作業では、アクセスリストを設定して、TCP フラグを含むパケットをフィルタし、アクセスリストが適切に設定されていることを確認します。



**Note**

- TCP フラグのフィルタリングを使用できるのは、名前付きの拡張 ACL のみです。
- ACL TCP フラグ フィルタリング機能は、Cisco ACL の場合にのみサポートされます。
- 事前に、次のコマンドラインインターフェイス (CLI) 形式を使用して、TCP フラグチェックメカニズムを設定できます。

**permit tcp any any rst** 同じ ACE を示す次の形式を使用できるようになりました。 **permit tcp any any match-any +rst** いずれの CLI 形式も使用できますが、新しいキーワード **match-all** または **match-any** を選択する場合、プレフィックスに「+」または「-」を付けた新しいフラグを次に指定する必要があります。単一の ACL では、古い形式のみ、または新しい形式のみを使用することを推奨します。CLI の古い形式と新しい形式の混在やマッチングを行うことはできません。



**Caution** 新しい構文形式の ACE を持つデバイスを、ACL TCP フラグ フィルタリング機能をサポートしないシスコ ソフトウェアの以前のバージョンでリロードすると、ACE は適用されないため、セキュリティの抜け穴が発生する可能性があります。

## Procedure

### ステップ 1 enable

#### Example:

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

## ステップ 2 `configure terminal`

### Example:

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 3 `ip access-list extended access-list-name`

### Example:

```
Device(config)# ip access-list extended kmd1
```

名前付き IP アクセス リストを指定し、名前付きアクセス リストのコンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 4 `[sequence-number] permit tcp source source-wildcard [operator [port]] destination destination-wildcard [operator [port]] [established] {match-any | match-all} {+ | -} flag-name [precedence precedence] [tos tos] [log] [time-range time-range-name] [fragments]`

### Example:

```
Device(config-ext-nacl)# permit tcp any any match-any +rst
```

名前付き IP アクセス リスト モードで **permit** ステートメントを指定します。

- このアクセスリストでは **permit** ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、**deny** ステートメントが最初に使用される可能性もあります。
- **permit** コマンドの TCP コマンド構文を使用します。
- RST TCP ヘッダーフラグが設定されたすべてのパケットは一致し、ステップ 3 で名前付きアクセス リスト `kmd1` に合格できます。

## ステップ 5 `[sequence-number] deny tcp source source-wildcard [operator [port]] destination destination-wildcard [operator [port]] [established] {match-any | match-all} {+ | -} flag-name [precedence precedence] [tos tos] [log] [time-range time-range-name] [fragments]`

### Example:

```
Device(config-ext-nacl)# deny tcp any any match-all -ack -fin
```

(任意) 名前付き IP アクセス リスト モードで **deny** ステートメントを指定します。

- このアクセスリストでは **permit** ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、**deny** ステートメントが最初に使用される可能性もあります。
- **deny** コマンドの TCP コマンド構文を使用します。
- ACK フラグが設定されず、FIN フラグも設定されていないパケットは、ステップ 3 で名前付きアクセス リスト `kmd1` に合格しません。
- 上位層プロトコル (ICMP、IGMP、TCP、およびUDP) を許可するその他のコマンド構文については、**deny** (IP) コマンドを参照してください。

## 次の作業

**ステップ 6** 必要に応じてステップ 4 またはステップ 5 を繰り返し、計画したシーケンス番号でステートメントを追加します。エントリを削除するには、**no sequence-number** コマンドを使用します。

アクセス リストは変更できます。

**ステップ 7 end**

**Example:**

```
Device(config-ext-nacl)# end
```

(任意) コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

**ステップ 8 show ip access-lists access-list-name**

**Example:**

```
Device# show ip access-lists kmdl
```

(任意) IP アクセス リストの内容を表示します。

- 出力を見直して、アクセス リストに新しいエントリが含まれることを確認します。

## 次の作業

アクセス リストをインターフェイスに適用するか、アクセス リストを受け入れるコマンドから参照します。

## 非隣接ポートを使用するアクセスコントロール エントリの設定

非隣接 TCP または UDP ポート番号を使用するアクセス リスト エントリを作成するには、次の作業を実行します。この作業では TCP ポートを使用しますが、**permit** および **deny** コマンドの UDP 構文を使用して、非隣接 UDP ポートをフィルタすることもできます。

この作業では **permit** コマンドを最初に使用していますが、フィルタリングの目標に合わせた順序で、**permit** および **deny** コマンドを使用できます。



**Note** ACL : アクセスコントロール エントリでの非隣接ポートに関する名前付き ACL サポート機能を使用できるのは、名前付きの拡張 ACL のみです。

## Procedure

**ステップ 1 enable**

**Example:**

```
Device> enable
```



特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

## ステップ 2 `configure terminal`

### Example:

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 3 `ip access-list extended access-list-name`

### Example:

```
Device(config)# ip access-list extended acl-extd-1
```

名前付き IP アクセス リストを指定し、名前付きアクセス リストのコンフィギュレーション モードを開始します。

## ステップ 4 `[sequence-number] permit tcp source source-wildcard [operator port [port]] destination destination-wildcard [operator [port]] [established {match-any | match-all} {+ | -} flag-name] [precedence precedence] [tos tos] [log] [time-range time-range-name] [fragments]`

### Example:

```
Device(config-ext-nacl)# permit tcp any eq telnet ftp any eq 450 679
```

名前付き IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードで **permit** ステートメントを指定します。

- 演算子には、**lt**（次の値より小さい）、**gt**（次の値より大きい）、**eq**（次の値に等しい）、**neq**（次の値に等しくない）**range**（次の範囲）があります。
- 演算子が **source** および **source-wildcard** 引数の後にある場合、送信元ポートに一致する必要があります。演算子が **destination** および **destination-wildcard** 引数の後にある場合、宛先ポートに一致する必要があります。
- **range** 演算子には 2 つのポート番号が必要です。**eq** および **neq** 演算子の後には、最大 10 個のポートを設定できます。他のすべての演算子は 1 つのポート番号が必要です。
- UDP ポートをフィルタするには、このコマンドの UDP 構文を使用します。

## ステップ 5 `[sequence-number] deny tcp source source-wildcard [operator port [port]] destination destination-wildcard [operator [port]] [established {match-any | match-all} {+ | -} flag-name] [precedence precedence] [tos tos] [log] [time-range time-range-name] [fragments]`

### Example:

```
Device(config-ext-nacl)# deny tcp any neq 45 565 632 any
```

(任意) 名前付きアクセス リスト コンフィギュレーション モードで **deny** ステートメントを指定します。

- 演算子には、**lt**（次の値より小さい）、**gt**（次の値より大きい）、**eq**（次の値に等しい）、**neq**（次の値に等しくない）**range**（次の範囲）があります。
- 演算子が **source** および **source-wildcard** 引数の後にある場合、送信元ポートに一致する必要があります。演算子が **destination** および **destination-wildcard** 引数の後にある場合、宛先ポートに一致する必要があります。

- **range** 演算子には2つのポート番号が必要です。**eq** および **neq** 演算子の後には、最大10個のポートを設定できます。他のすべての演算子は1つのポート番号が必要です。
- UDP ポートをフィルタするには、このコマンドの UDP 構文を使用します。

**ステップ 6** 必要に応じてステップ 4 またはステップ 5 を繰り返し、計画したシーケンス番号でステートメントを追加します。エントリを削除するには、**no sequence-number** コマンドを使用します。

アクセスリストは変更できます。

#### ステップ 7 end

##### Example:

```
Device(config-ext-nacl)# end
```

(任意) 名前付きアクセスリスト コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

#### ステップ 8 show ip access-lists access-list-name

##### Example:

```
Device# show ip access-lists kmdl
```

(任意) アクセスリストの内容を表示します。

## 非隣接ポートを使用する複数アクセスリストエントリの1つのアクセスリストエントリへの統合

非隣接ポートを使用するアクセスリストエントリグループを1つのアクセスリストエントリに統合するには、次の作業を実行します。

この作業では TCP ポートを使用しますが、**permit** および **deny** コマンドの UDP 構文を使用して、非隣接 UDP ポートをフィルタすることもできます。

この作業では **permit** コマンドを最初に使用していますが、フィルタリングの目標に合わせた順序で、**permit** および **deny** コマンドを使用できます。

### Procedure

#### ステップ 1 enable

##### Example:

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

**ステップ 2** `show ip access-lists` *access-list-name***Example:**

```
Device# show ip access-lists mylist1
```

(任意) IP アクセス リストの内容を表示します。

- 出力を見直して、アクセス リスト エントリを統合できるかどうかを確認します。

**ステップ 3** `configure terminal`**Example:**

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

**ステップ 4** `ip access-list extended` *access-list-name***Example:**

```
Device(config)# ip access-list extended mylist1
```

名前付き IP アクセス リストを指定し、名前付きアクセス リストのコンフィギュレーション モードを開始します。

**ステップ 5** `no` [*sequence-number*] `permit` *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [**option** *option-name*] [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**log**] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**]**Example:**

```
Device(config-ext-nacl)# no 10
```

統合できる重複するアクセス リスト エントリを削除します。

- このステップを繰り返して、ポート番号のみが異なるために統合できるエントリを削除します。
- このステップを繰り返して、たとえばアクセス リスト エントリ 20、30、および 40 を削除した後は、1つの **permit** ステートメントに統合されるため、これらのエントリは削除されます。
- *sequence-number* が指定された場合、その他のコマンド構文は任意です。

**ステップ 6** [*sequence-number*] `permit` *protocol source source-wildcard* [*operator port* [*port*]] *destination destination-wildcard* [*operator port* [*port*]] [**option** *option-name*] [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**log**] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**]**Example:**

```
Device(config-ext-nacl)# permit tcp any neq 45 565 632 any eq 23 45 34 43
```

名前付きアクセス リスト コンフィギュレーション モードで **permit** ステートメントを指定します。

- このインスタンスでは、非隣接ポートを使用するアクセス リスト エントリ グループは、1つの **permit** ステートメントに統合されました。
- **eq** および **neq** 演算子の後には、最大 10 個のポートを設定できます。

**ステップ 7** 必要に応じてステップ 5 と 6 を繰り返し、**permit** または **deny** ステートメントを追加して、可能な場合はアクセスリストエントリを統合します。エントリを削除するには、**no sequence-number** コマンドを使用します。

アクセスリストは変更できます。

**ステップ 8** **end**

**Example:**

```
Device(config-std-nacl)# end
```

(任意) 名前付きアクセスリストコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

**ステップ 9** **show ip access-lists** *access-list-name*

**Example:**

```
Device# show ip access-lists mylist1
```

(任意) アクセスリストの内容を表示します。

## 次の作業

アクセスリストをインターフェイスに適用するか、アクセスリストを受け入れるコマンドから参照します。

## TTL 値に基づいたパケットのフィルタリング

アクセスリストは柔軟性に優れているため、TTL 値に基づいてパケットをフィルタリングする **permit** と **deny** コマンドの組み合わせ 1 つだけでは定義することができません。次のタスクでは、TTL フィルタリングを実行する例を 1 つだけ示します。独自のフィルタリングプランを満たす **permit** と **deny** ステートメントを適切に設定します。



**Note** デバイスで使用する Cisco のソフトウェアリリースに応じて、アクセスリストで演算子 EQ または NEQ を指定する場合、アクセスリストでは最大 10 個の TTL 値を指定できます。TTL 値の数は、シスコのソフトウェアリリースによって異なります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list extended** *access-list-name*
4. [*sequence-number*] **permit** *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [*option option-name*] [*precedence precedence*] [*tos tos*] [*tll operator value*] [**log**] [*time-range time-range-name*] [**fragments**]
5. **permit** または **deny** ステートメントを続けて追加し、必要なフィルタリングを実現します。

6. **exit**
7. **interface** *type number*
8. **ip access-group** *access-list-name* {**in** | **out**}

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list extended</b> <i>access-list-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# ip access-list extended ttlfilter	IP アクセス リストを名前 で定義します。 <ul style="list-style-type: none"><li>TTL 値でフィルタリングするアクセス リストは、拡張アクセス リストである必要があります。</li></ul>
ステップ 4	[ <i>sequence-number</i> ] <b>permit</b> <i>protocol source source-wildcard destination destination-wildcard</i> [ <b>option option-name</b> ] [ <b>precedence precedence</b> ] [ <b>tos tos</b> ] [ <b>tll operator value</b> ] [ <b>log</b> ] [ <b>time-range time-range-name</b> ] [ <b>fragments</b> ] <b>Example:</b> Device (config-ext-nacl)# permit ip host 172.16.1.1 any ttl lt 2	パケットが名前付き IP アクセス リストを通過できる条件を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>すべてのアクセス リストには、<b>permit</b> ステートメントが 1 つ以上必要です。</li><li>この例では、送信元 172.16.1.1 から TTL 値が 2 未満の接続先へのパケットが許可されています。</li></ul>
ステップ 5	<b>permit</b> または <b>deny</b> ステートメントを続けて追加し、必要なフィルタリングを実現します。	--
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device (config-ext-nacl)# exit	コンフィギュレーションモードを終了して、コマンドライン インターフェイス (CLI) モード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 7	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device (config)# interface ethernet 0	インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>ip access-group</b> <i>access-list-name</i> { <b>in</b>   <b>out</b> } <b>Example:</b> Device(config-if)# ip access-group ttlfilter in	アクセスリストをインターフェイスに適用します。

## TTL 値 0 と 1 でフィルタリングするコントロールプレーンポリシーの有効化

TTL 値 0 または 1 に基づいて IP パケットをフィルタリングしたり、CPU の過負荷を防止したりするには、次のタスクを実行します。このタスクでは、TTL 値 0 と 1 で分類用のアクセスリストを設定し、モジュラ QoS コマンドラインインターフェイス (CLI) (MQC) を設定して、ポリシーマップをコントロールプレーンに適用します。アクセスリストを通過するパケットはドロップされます。この特別なアクセスリストは、他のインターフェイスアクセスリストとは異なります。

アクセスリストは柔軟性に優れているため、TTL 値に基づいてパケットをフィルタリングする **permit** と **deny** コマンドの組み合わせ 1 つだけでは定義することができません。次のタスクでは、TTL フィルタリングを実行する例を 1 つだけ示します。独自のフィルタリングプランを満たす **permit** と **deny** ステートメントを適切に設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list extended** *access-list-name*
4. [*sequence-number*] **permit** *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard ttl operator value*
5. **permit** または **deny** ステートメントを続けて追加し、必要なフィルタリングを実現します。
6. **exit**
7. **class-map** *class-map-name* [**match-all** | **match-any**]
8. **match access-group** {*access-group* | **name** *access-group-name*}
9. **exit**
10. **policy-map** *policy-map-name*
11. **class** {*class-name* | **class-default**}
12. **drop**
13. **exit**
14. **exit**
15. **control-plane**
16. **service-policy** {**input** | **output**} *policy-map-name*

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list extended access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip access-list extended ttlfilter	IP アクセス リストを名前で定義します。 <ul style="list-style-type: none"><li>TTL 値でフィルタリングするアクセス リストは、拡張アクセス リストである必要があります。</li></ul>
ステップ 4	<b>[sequence-number] permit protocol source source-wildcard destination destination-wildcard ttl operator value</b> <b>Example:</b> Device(config-ext-nacl)# permit ip host 172.16.1.1 any ttl lt 2	パケットが名前付き IP アクセス リストを通過できる条件を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>すべてのアクセス リストには、<b>permit</b> ステートメントが 1 つ以上必要です。</li><li>この例では、送信元 172.16.1.1 から TTL 値が 2 未満の接続先へのパケットが許可されています。</li></ul>
ステップ 5	<b>permit</b> または <b>deny</b> ステートメントを続けて追加し、必要なフィルタリングを実現します。	アクセス リストを通過するパケットはドロップされます。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ext-nacl)# exit	コンフィギュレーション モードを終了して、CLI モード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 7	<b>class-map class-map-name [match-all   match-any]</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map acl-filtering	指定したクラスへのパケットのマッチングに使用するクラス マップを作成します。
ステップ 8	<b>match access-group {access-group   name access-group-name}</b> <b>Example:</b>	指定したアクセスコントロールリストに基づいて、クラス マップの一致基準を設定します

## TTL 値 0 と 1 でフィルタリングするコントロールプレーンポリシーの有効化

	Command or Action	Purpose
	Device(config-cmap)# match access-group name ttlfilter	
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	コンフィギュレーション モードを終了して、CLI モード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 10	<b>policy-map</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map acl-filter	1つ以上のインターフェイスに付加できるポリシーマップを作成または変更し、サービス ポリシーを指定します。
ステップ 11	<b>class</b> { <i>class-name</i>   <b>class-default</b> } <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class acl-filter-class	作成または変更するポリシーのクラス名を指定するか、ポリシーを指定する前にデフォルトクラス（一般に <b>class-default</b> クラスといいます）を指定します。
ステップ 12	<b>drop</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# drop	特定のクラスに属するパケットを廃棄するトラフィック クラスを設定します。
ステップ 13	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	コンフィギュレーション モードを終了して、CLI モード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# exit	コンフィギュレーション モードを終了して、CLI モード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 15	<b>control-plane</b> <b>Example:</b> Device(config)# control-plane	デバイスのコントロールプレーンに関連する属性またはパラメータを関連付けたり、変更したりします。
ステップ 16	<b>service-policy</b> { <b>input</b>   <b>output</b> } <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-cp)# service-policy input acl-filter	集約コントロールプレーン サービスのためにポリシーマップをコントロールプレーンに適用します。



## IP オプション、TCP フラグ、非隣接ポートのフィルタリングの設定例

### 例：IP オプションを含むパケットのフィルタリング

次の例は、アクセスリストエントリ（ACE）に指定されている IP オプションが含まれる場合にのみ、TCP パケットを許可するように設定された ACE を含む、mylist2 という拡張アクセスリストを示します。

```
ip access-list extended mylist2
 10 permit ip any any option eool
 20 permit ip any any option record-route
 30 permit ip any any option zsu
 40 permit ip any any option mtup
```

一致し、それによって許可されたパケットの数を示すため、**show access-list** コマンドが入力されました。

```
Device# show ip access-list mylist2
Extended IP access list test
10 permit ip any any option eool (1 match)
20 permit ip any any option record-route (1 match)
30 permit ip any any option zsu (1 match)
40 permit ip any any option mtup (1 match)
```

### 例：TCP フラグを含むパケットのフィルタリング

次のアクセスリストでは、TCP フラグ ACK および SYN が設定され、FIN フラグが設定されていない場合にのみ、TCP パケットを許可します。

```
ip access-list extended aaa
 permit tcp any any match-all +ack +syn -fin
end
```

**show access-list** コマンドは、ACL を表示するために入力しました。

```
Device# show access-list aaa
Extended IP access list aaa
 10 permit tcp any any match-all +ack +syn -fin
```

### 例：非隣接ポートを使用するアクセスリストエントリの作成

**eq** および **neq** 演算子の後に最大 10 ポートを入力できるため、次のアクセスリストエントリを作成できます。

```
ip access-list extended aaa
```

例：既存の複数のアクセスリストエントリと非隣接ポートを使用する1つのアクセスリストエントリの統合

```
permit tcp any eq telnet ftp any eq 23 45 34
end
```

**show access-lists** コマンドを入力して、新しく作成されたアクセスリストエントリを表示します。

```
Device# show access-lists aaa
Extended IP access list aaa
 10 permit tcp any eq telnet ftp any eq 23 45 34
```

## 例：既存の複数のアクセスリストエントリと非隣接ポートを使用する1つのアクセスリストエントリの統合

**show access-lists** コマンドは、abc というアクセスリストについて、アクセスリストエントリグループを表示するために使用されます。

```
Device# show access-lists abc
Extended IP access list abc
 10 permit tcp any eq telnet any eq 450
 20 permit tcp any eq telnet any eq 679
 30 permit tcp any eq ftp any eq 450
 40 permit tcp any eq ftp any eq 679
```

エントリはすべて同じ **permit** ステートメント用であり、ポートのみが異なるため、1つの新しいアクセスリストエントリに統合できます。次の例では、重複するアクセスリストエントリを削除し、以前に表示されていたアクセスリストエントリグループを統合する新しいアクセスリストエントリを作成します。

```
ip access-list extended abc
no 10
no 20
no 30
no 40
permit tcp any eq telnet ftp any eq 450 679
end
```

**show access-lists** コマンドを再入力すると、統合されたアクセスリストエントリが表示されます。

```
Device# show access-lists abc
Extended IP access list abc
 10 permit tcp any eq telnet ftp any eq 450 679
```

## 例：TTL 値のフィルタリング

次のアクセスリストは、存続可能時間 (TTL) の値が 10 と 20 でタイプオブサービス (ToS) レベルが 3 の IP パケットをフィルタリングします。また、TTL が 154 を超える IP パケットをフィルタリングし、その規則を先頭以外のフラグメントにも適用します。フラッシュの優先レベルと 1 以外の TTL 値を持つ IP パケットを許可し、そのようなパケットのログメッセージをコンソールに送信します。他のすべてのパケットは拒否されます。

```
ip access-list extended incomingfilter
deny ip any any tos 3 ttl eq 10 20
deny ip any any ttl gt 154 fragments
permit ip any any precedence flash ttl neq 1 log
!
interface ethernet 0

ip access-group incomingfilter in
```

## 例：TTL 値 0 と 1 でフィルタリングするコントロールプレーンポリシー

次の例では、**acl-filter** と呼ばれるポリシーマップで使用するために、**acl-filter-class** と呼ばれるトラフィッククラスを設定します。アクセスリストは、存続可能時間 (TTL) 値が 0 または 1 の送信元からの IP パケットを許可します。アクセスリストに一致するパケットがドロップされます。ポリシーマップはコントロールプレーンに結合されます。

```
ip access-list extended ttlfilter

permit ip any any ttl eq 0 1

class-map acl-filter-class

match access-group name ttlfilter

policy-map acl-filter

class acl-filter-class

drop

control-plane

service-policy input acl-filter
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
<b>no ip options</b> コマンドを使用した、IP オプションを含むパケットをドロップまたは無視するためのデバイスの設定。	ACLIP オプションの選択的ドロップ

関連項目	マニュアル タイトル
アクセス リストに関する概要情報	<i>IP</i> アクセス リストの概要
IP アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用に関する情報	<i>IP</i> アクセス リストの作成とインターフェイスへの適用
QoS コマンド	『 <i>Cisco IOS Quality of Service Solutions Command Reference</i> 』

## RFC

RFC	タイトル
RFC 791	<i>Internet Protocol</i> (インターネットプロトコル) <a href="http://www.faqs.org/rfcs/rfc791.html">http://www.faqs.org/rfcs/rfc791.html</a>
RFC 793	伝送制御プロトコル ( <i>TCP</i> )
RFC 1393	『 <i>Traceroute Using an IP Option</i> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## フィルタするための IP アクセス リストの作成に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 51:** フィルタするための IP アクセス リストの作成に関する機能情報

機能名	リリース	機能の設定情報
ACL -- アクセス コントロールエントリでの非隣接ポートに関する名前付き ACL サポート	12.3(7)T 12.2(25)S	この機能を使用すると、1つのアクセスコントロールエントリで非隣接ポートを指定できるため、複数のエントリが同じ送信元アドレス、宛先アドレス、およびプロトコルを持ち、ポートのみが異なる場合に、アクセスコントロールリストで必要なエントリ数を大幅に減らすことができます。
IP オプションのフィルタリングに関する ACL のサポート	12.3(4)T 12.2(25)S 15.2(2)S 15.4(1)S	この機能を使用すると、IP オプションを含むパケットをフィルタできます。その結果、ルータが偽造パケットで飽和状態にならないように防ぎます。  Cisco IOS リリース 15.4(1)S では、Cisco ASR 901S ルータのサポートが追加されました。
ACL TCP フラグ フィルタリング	12.3(4)T 12.2(25)S	この機能は、TCP フラグに基づくフィルタリングに柔軟なメカニズムを提供します。Cisco IOS リリース 12.3(4)T 以前は、パケット内のいずれかの TCP フラグがアクセスコントロールエントリ (ACE) で指定されたフラグに一致する限り、着信パケットは一致していました。すべてのフラグが設定されたパケットがアクセスコントロールリスト (ACL) を通過する可能性があるため、この動作ではセキュリティの抜け穴を考慮しています。ACL TCP フラグフィルタリング機能では、フィルタするフラグの任意の組み合わせを選択できます。設定されているフラグ、および設定されていないフラグに基づいてマッチングする機能によって、TCP フラグに基づくフィルタリングの制御性が向上するため、セキュリティが強化されます。





## 第 31 章

# FQDN ACL の設定

このドキュメントでは、完全修飾ドメイン名（FQDN）を使用したアクセスコントロールリスト（ACL）を設定する方法について説明します。FQDN ACL 機能を設定することによって、ドメイン名システム（DNS）に基づいて、ワイヤレスセッションに ACL を設定および適用することができます。ドメイン名を IP アドレスに解決されます。IP アドレスは、DNS 応答の一部としてクライアントに提供され、FQDN は、IP アドレスに基づいて、ACL にマッピングされます。

- [FQDN ACL の設定に関する制約事項（431 ページ）](#)
- [FQDN ACL の設定に関する情報（431 ページ）](#)
- [FQDN ACL の設定方法（432 ページ）](#)
- [FQDN ACL のモニタリング（434 ページ）](#)
- [FQDN ACL の設定例（435 ページ）](#)
- [FQDN ACL の設定に関するその他の参考資料, on page 435](#)
- [FQDN ACL の設定に関する機能情報（436 ページ）](#)

## FQDN ACL の設定に関する制約事項

FQDN ACL 機能の設定は、IPv4 ワイヤレスセッションでのみサポートされます。

## FQDN ACL の設定に関する情報

### FQDN ACL の設定

アクセスコントロールリスト（ACL）が、完全修飾ドメイン名（FQDN）を使用して設定されている場合、宛先ドメイン名に基づいて ACL を適用できます。宛先のドメイン名はその後、DNS 応答の一部としてクライアントに提供される IP アドレスに解決されます。

ゲスト ユーザーは、FQDN ACL 名で構成されるパラメータ マップでネットワーク認証を使用してログインできます。

FQDN ACL を設定する前に、次の作業を実行してください。

- IP アクセス リストを設定します。
- IP ドメイン名のリストを設定します。
- ドメイン名と FQDN ACL をマッピングします。

コントローラに **fqdn-acl-name AAA** 属性を送信するように RADIUS サーバーを設定して、アクセス リストを特定のドメインに適用できます。オペレーティング システムは、パススルー ドメイン リストとそのマッピングを確認し、FQDN を許可します。FQDN ACL により、クライアントは認証なしで設定されたドメインのみにアクセスできます。



(注) デフォルトでは、IP アクセスリスト名は、パススルー ドメイン名と同じ名前を設定されます。デフォルト名を上書きするために、グローバルコンフィギュレーションモードで **access-session passthrou-access-group access-group-name passthrou-domain-list domain-list-name** コマンドを使用できます。

## FQDN ACL の設定方法

### IP アクセス リストの設定

#### 手順の概要

1. **ip access-list extended name**
2. **permit ip any any**

#### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>ip access-list extended name</b> 例 : Device (config)# ip access-list extended ABC	IP アクセス リストを作成します。
ステップ 2	<b>permit ip any any</b> 例 : Device (config-ext-nacl)# permit ip any any	ワイヤレスクライアントに許可されるドメインを指定します。ドメインはドメイン名リストで指定されます。



## ドメイン名リストの設定

アクセス ポイントによる DNS スヌーピングが許可されたドメイン名のリストを含むドメイン名リストを設定できます。DNS ドメイン リスト名の文字列は、拡張アクセス リスト名と一致している必要があります。

### 手順の概要

1. **passthrou-domain-list** *name*
2. **match** *word*

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>passthrou-domain-list</b> <i>name</i> 例 : <pre>Device (config)# passthrou-domain-list abc Device (config-fqdn-acl-domains)#</pre>	パススルー ドメイン名リストを設定します。
ステップ 2	<b>match</b> <i>word</i> 例 : <pre>Device (config-fqdn-acl-domains)# match play.google.com Device (config-fqdn-acl-domains)# match www.yahoo.com</pre>	パススルー ドメイン リストを設定します。クライアントが RADIUS サーバーを介して認証されることなくアクセスの照会が許可される Web サイトのリストを追加します。

## ドメイン名と FQDN ACL のマッピング

### 手順の概要

1. **access-session passthrou-access-group** *access-group-name* **passthrou-domain-list** *domain-list-name*
2. **parameter-map type webauth** *domain-list-name* and **login-auth-bypass fqdn-acl-name** *acl-name* **domain-name** *domain-name*

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>access-session passthrou-access-group</b> <i>access-group-name passthrou-domain-list</i> <i>domain-list-name</i>  例 : <pre>Device (config)# access-session passthrou-access-group abc passthrou-domain-list abc</pre>	ドメイン名リストと FQDN ACL AAA 属性名をマッピングします。中央 Web 認証を設定する場合、このコマンドを使用します。
ステップ 2	<b>parameter-map type webauth domain-list-name and</b> <b>login-auth-bypass fqdn-acl-name acl-name</b> <b>domain-name domain-name</b>  例 : <pre>Device (config)# parameter-map type webauth abc SwitchControllerDevice (config-params-parameter-map)# login-auth-bypass fqdn-acl-name abc domain-name abc</pre>	<p>ドメイン名リストと FQDN ACL 名をマッピングします。コントローラでローカル認証を設定する場合、このコマンドを使用します。</p> <p>RADIUS サーバーは、認証されたユーザープロファイルの一部として FQDN ACL 名を返すように設定できます。FQDN ACL がコントローラで定義される場合、コントローラは FQDN ACL をユーザーに動的に適用します。</p>

## FQDN ACL のモニタリング

次のコマンドを使用して FQDN ACL をモニターできます。

コマンド	目的
<b>show access-session interface</b> <i>interface-name</i> <b>details</b>	インターフェイスに設定された FQDN ACL 情報を表示します。
<b>show access-session fqdn fqdn-maps</b>	ドメイン名リストにマッピングされた FQDN ACL を表示します。
<b>show access-session fqdn list-domain</b> <i>domain-name</i>	ドメイン名を表示します。
<b>show access-session fqdn passthru-domain-list</b>	設定されているドメインを表示します。

## FQDN ACL の設定例

### 例 : FQDN ACL の設定

次に、IP アクセス リストを作成する例を示します。

```
# config terminal
(config)# ip access-list extended abc
(config-ext-nacl)# permit ip any any
(config-ext-nacl)# end
# show ip access-list abc
```

次に、ドメイン名のリストを設定する例を示します。

```
# config terminal
(config)# passthrou-domain-list abc
(config-fqdn-acl-domains)# match play.google.com
(config-fqdn-acl-domains)# end
# show access-session fqdn fqdn-maps
```

次に、中央集中型 Web 認証を使用してドメイン名と FQDN ACL をマッピングする例を示します。

```
# config terminal
(config)# access-session passthrou-access-group abc passthrou-domain-list abc
(config)# end
# show access-session interface vlan 20
```

次に、ローカル認証を使用してドメイン名と FQDN ACL をマッピングする例を示します。

```
# config terminal
(config)# parameter-map type webauth abc
(config-params-parameter-map)# login-auth-bypass fqdn-acl-name abc domain-name abc
(config-params-parameter-map)# end
# show access-session fqdn fqdn-maps
```

## FQDN ACL の設定に関するその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>
ACL 設定ガイド	『セキュリティコンフィギュレーションガイド』の「アクセスコントロールリスト」

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## FQDN ACL の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 52: FQDN ACL の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
FQDN ACL の設定		<p>FQDN ACL 機能を設定することで、ドメイン名システム (DNS) に基づいてワイヤレスセッションにアクセスコントロールリスト (ACL) を設定、適用することができます。ドメイン名が IP アドレスが DNS 応答の一部として、クライアントに割り当てられる IP アドレスに解決されます。次に FQDN が IP アドレスに基づいて ACL にマッピングされます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>access session passthru access group、login-auth-bypass、parameter-map type webauth global、pass thru domain list name、show access-session fqdn</b></p>





## CHAPTER 32

# IP アクセス リストの精緻化

アクセス リストを作成している間、または作成した後に、アクセス リストを精緻化するにはいくつかの方法があります。アクセス リストのエントリの順序を変更したり、アクセス リストにエントリを追加したりできます。また、アクセス リスト エントリを日または週の特定の時間帯に制限したり、パケットの非初期フラグメントをフィルタリングすることでパケットをフィルタリングするときにより細かく設定することができます。

- [IP アクセス リストの精緻化に関する情報, on page 439](#)
- [IP アクセス リストを精緻化する方法, on page 443](#)
- [IP アクセス リストの精緻化の設定例, on page 449](#)
- [その他の参考資料, on page 451](#)
- [IP アクセス リストの精緻化に関する機能情報, on page 452](#)

## IP アクセス リストの精緻化に関する情報

### アクセス リストのシーケンス番号

IP アクセス リスト エントリにシーケンス番号を適用する機能によって、アクセス リストの変更が簡易になります。IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号機能の前には、アクセス リスト内のエントリの位置を指定する方法はありませんでした。以前は、既存のリストの途中にエントリを挿入する場合、目的の位置の後にあるすべてのエントリを削除してから、新しいエントリを追加し、削除したすべてのエントリを再入力する必要がありました。これは手間がかかり、エラーが起こりやすい方法です。

シーケンス番号を使用して、ユーザーはアクセス リスト エントリを追加し、それを並べ替えることができるようになりました。新しいエントリを追加する場合、アクセス リストの目的の位置に挿入されるようにシーケンス番号を指定します。必要に応じて、アクセス リストの現在のエントリを並べ替えて、新しいエントリを挿入できる場所を作成できます。

## アクセスリストシーケンス番号の利点

アクセスリストシーケンス番号は、アクセスリストで **permit** または **deny** コマンドを開始する番号です。シーケンス番号により、エントリがアクセスリストに表示される順序が決定されます。IP アクセスリストエントリにシーケンス番号を適用する機能によって、アクセスリストの変更が簡易になります。

シーケンス番号を設定する前に、アクセスリストの末尾にアクセスリストエントリを追加できるため、アクセスリスト全体の再設定が必要になるリストの末尾以外の位置では、ステートメントの追加が必要になります。アクセスリスト内でのエントリの位置を指定する方法はありません。以前は、既存のリストの途中にエントリ（ステートメント）を挿入する場合、目的の位置の後にあるすべてのエントリを削除してから、新しいエントリを追加し、削除したすべてのエントリを再入力する必要がありました。これは手間がかかり、エラーが起こりやすい方法です。

この新しい機能を使用すると、アクセスリストエントリにシーケンス番号を追加し、順序を変更することができます。新しいエントリを追加するとき、アクセスリストの目的の位置に配置されるように、シーケンス番号を選択します。必要に応じて、アクセスリストの現在のエントリを並べ替えて、新しいエントリを挿入できる場所を作成できます。シーケンス番号により、アクセスリストの変更を簡単に実行できるようになりました。

## シーケンス番号の動作

- 以前のリリースとの下位互換性を保つため、シーケンス番号のないエントリが適用された場合には、最初のエントリにはシーケンス番号 10 が割り当てられます。連続してエントリを追加すると、シーケンス番号は 10 ずつ増分されます。最大シーケンス番号は 2147483647 です。生成したシーケンス番号がこの最大値を超えると、次のメッセージが表示されます。

Exceeded maximum sequence number.

- シーケンス番号のないエントリを入力すると、アクセスリストの最後のシーケンス番号に 10 を加えたシーケンス番号が割り当てられ、リストの末尾に配置されます。
- (シーケンス番号以外が) 既存のエントリに一致するエントリを入力すると、何も変更されません。
- 既存のシーケンス番号を入力すると、次のエラーメッセージが表示されます。

Duplicate sequence number.

- グローバル コンフィギュレーション モードで新しいアクセスリストを入力すると、そのアクセスリストのシーケンス番号が自動的に生成されます。
- シーケンス番号が不揮発性生成 (NVGEN) されることはありません。つまり、シーケンス番号自体は保存されません。システムのリロード時には、設定されたシーケンス番号はデフォルトのシーケンス開始番号と増分に戻されます。この機能は、シーケンス番号をサポートしないソフトウェア リリースとの下位互換性を保つために提供されています。



- この機能は、名前付きおよび番号付きの標準および拡張IPアクセスリストと連動します。

## 時間範囲の利点

時間範囲の利点および可能な使用方法として、次のことが挙げられます。

- ネットワーク管理者は、リソースへのユーザーアクセスの許可または拒否の制御をより強化できます。これらのリソースとして、アプリケーション（IPアドレス/マスクペアとポート番号によって特定されます）、ポリシールーティング、またはオンデマンドリンク（ダイヤラへの関連トラフィックとして認識されます）があります。
- ネットワーク管理者は、次に示すような、時刻ベースのセキュリティポリシーを設定できます。
  - アクセスリストを使用した境界セキュリティ
  - IPセキュリティプロトコル（IPsec）を使用したデータの機密性保持
- プロバイダーのアクセスレートが一日の時間帯によって異なるときは、トラフィックは自動的にコスト効率よく再ルーティングすることが可能です。
- ネットワーク管理者は、ロギングメッセージを制御できます。アクセスリストエントリは、一日の特定の時間帯にトラフィックをロギングすることはできますが、常にロギングすることはできません。したがって、管理者はピーク時間中に生成された多くのログを分析することなく、単にアクセスを拒否できます。

## パケットの非初期フラグメントをフィルタリングする利点

パケットの初期フラグメントにとどまらず、より多くのトラフィックをブロックするには、拡張アクセスリストを使用してパケットの非初期フラグメントをフィルタリングします。まず、次の概念を理解しておく必要があります。

フラグメントを拒否する追加のIPアクセスリストエントリで **fragments** キーワードが使用されている場合、フラグメント制御機能を使用すると、次のような利点があります。

### 追加のセキュリティ

パケットの初期フラグメントにとどまらず、より多くのトラフィックをブロックできます。不要なフラグメントは、受信側にリアセンブリタイムアウトになるまで残りません。これは、このようなフラグメントは受信側に送信される前にブロックされるためです。不要なトラフィックを大量にブロックすることで、セキュリティが高まり、ハッカーから攻撃を受けるリスクが軽減されます。

### コスト削減

パケットの不要な非初期フラグメントをブロックすると、ブロックしたいトラフィックに注意を払う必要がなくなります。

### 使用ストレージの削減

パケットの不要な非初期フラグメントが受信側に届かないようにブロックすることで、宛先はリアセンブリ タイムアウトになるまでフラグメントを保存する必要がなくなります。

### 予期される動作

非初期フラグメントは、初期フラグメントと同様に扱われます。予期されないポリシー ルーティング結果や、ルーティングされるべきでないパケットのフラグメントが生じる可能性も低くなります。

## フラグメントのアクセス リスト処理

**fragments** キーワードを指定するかどうかによるアクセスリストエントリの動作は、次のようにまとめることができます。

アクセス リスト エントリ の状態...	結果
<p>...<b>fragments</b> キーワードが指定されず（デフォルト）、すべてのアクセス リストエントリ情報が一致する</p>	<p>レイヤ 3 情報のみを含むアクセス リスト エントリの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• エントリは、非フラグメントパケット、先頭フラグメント、先頭以外のフラグメントに適用されます。</li> </ul> <p>レイヤ 3 およびレイヤ 4 情報を含むアクセス リスト エントリの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• エントリは、非フラグメント パケットと先頭フラグメントに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• エントリが <b>permit</b> ステートメントであると、パケットまたはフラグメントは許可されます。</li> <li>• エントリが <b>deny</b> ステートメントであると、パケットまたはフラグメントは拒否されます。</li> </ul> </li> <li>• エントリは、次の方法で先頭以外のフラグメントにも適用されます。非初期フラグメントにはレイヤ 3 情報のみが含まれているため、アクセス リスト エントリのレイヤ 3 の部分のみが適用されます。アクセス リスト エントリのレイヤ 3 の部分が一致し、 <ul style="list-style-type: none"> <li>• エントリが <b>permit</b> ステートメントであると、非初期フラグメントは許可されます。</li> <li>• エントリが <b>deny</b> ステートメントであると、次のアクセス リスト エントリが処理されます。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>Note</b> 非初期フラグメントと、非フラグメントまたは初期フラグメントの場合では、<b>deny</b> ステートメントの処理方法は異なります。</p>

アクセス リスト エントリ の状態...	結果
... <b>fragments</b> キーワードが指 定され、すべてのアクセス リスト エントリ 情報が一致 する	アクセス リスト エントリは、非初期フラグメントにのみ適用さ れます。  レイヤ 4 情報を含むアクセス リスト エントリに <b>fragments</b> キー ワードは設定できません。

すべてのアクセス リスト エントリに **fragments** キーワードを追加することはできません。IP パケットの最初のフラグメントは非フラグメントとして見なされ、以降のフラグメントとは独立して扱われるためです。初期フラグメントは、アクセス リストの **fragments** キーワードが設定された **permit** または **deny** エントリとは一致しません。パケットは、**fragments** キーワードが設定されていないアクセス リスト エントリによって許可または拒否されるまで、次のアクセス リスト エントリと比較されます。したがって、**deny** エントリごとに、2つのアクセス リスト エントリが必要になる場合があります。ペアの最初の **deny** エントリには **fragments** キーワードは含まれず、初期フラグメントに適用されます。ペアの 2 番目の **deny** エントリには **fragments** キーワードは含まれ、以降のフラグメントに適用されます。同じホストに複数の **deny** エントリがあり、レイヤ 4 ポートが異なる場合は、そのホストで **fragments** キーワードが設定された 1つの **deny** アクセス リスト エントリを追加する必要があります。このように、パケットのすべてのフラグメントは、アクセス リストによって同様に扱われます。

IP データグラムのパケット フラグメントは個々のパケットと見なされ、それぞれ、アクセス リスト アカウンティングとアクセス リストの違反カウン트의 1つのパケットとして個別にカウントされます。

## IP アクセス リストを精緻化する方法

このモジュールで説明する作業では、アクセス リストを精緻化するためのさまざまな方法を示します（アクセス リストを作成するときに精緻化しなかった場合に利用できます）。アクセス リスト エントリの順序変更、アクセス リストへのエントリの追加、日または週の特定の時間帯でのアクセス リスト エントリの制限などを実行できます。また、パケットの非初期フラグメントをフィルタリングすることでパケットをフィルタリングするときにより細かく設定することができます。

## シーケンス番号を使用したアクセス リストの変更

既存のアクセス リストへのエントリの追加、エントリの順序変更、または（将来の変更に対応するための）アクセス リストのエントリの番号付けを行うには、次の手順を実行します。



**Note** アクセス リストからエントリを削除する場合は、コマンドの **no deny** または **no permit** 形式を使用するか、あるいはステートメントにシーケンス番号がすでに指定されている場合は **no sequence-number** コマンドを使用するだけです。

**Note**

- アクセスリストシーケンス番号は、ダイナミック、リフレクシブ、またはファイアウォールのアクセス リストをサポートしていません。

**SUMMARY STEPS**

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list resequence** *access-list-name starting-sequence-number increment*
4. **ip access-list** {**standard**|**extended**} *access-list-name*
5. 次のいずれかを実行します。
  - *sequence-number* **permit** *source source-wildcard*
  - *sequence-number* **permit** *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [**precedence** *precedence*][**tos** *tos*][**log**] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**]
6. 次のいずれかを実行します。
  - *sequence-number* **deny** *source source-wildcard*
  - *sequence-number* **deny** *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [**precedence** *precedence*][**tos** *tos*][**log**] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**]
7. 必要に応じてステップ 5 とステップ 6 を繰り返し、目的とするシーケンス番号順にステートメントを追加します。エントリを削除するには、**no sequence-number** コマンドを使用します。
8. **end**
9. **show ip access-lists** *access-list-name*

**DETAILED STEPS****Procedure**

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list resequence</b> <i>access-list-name starting-sequence-number increment</i> <b>Example:</b>	開始シーケンス番号と、シーケンス番号の増分を使用して、指定した IP アクセス リストを並べ替えます。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Router(config)# ip access-list resequence kmd1 100 15</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この例では、<b>kmd1</b> という名前のアクセス リストを並べ替えます。開始シーケンス番号は100、増分は15 です。</li> </ul>
<p>ステップ 4</p>	<p><b>ip access-list {standard  extended} access-list-name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# ip access-list standard xyz123</pre>	<p>名前付き IP アクセス リストを指定し、名前付きアクセス リストのコンフィギュレーション モードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>standard</b> を指定する場合は、その後に、標準アクセス リスト構文を使用して <b>permit</b> ステートメントまたは <b>deny</b> ステートメントを指定します。</li> <li><b>extended</b> を指定する場合は、その後に、拡張アクセス リスト構文を使用して <b>permit</b> ステートメントまたは <b>deny</b> ステートメントを指定します。</li> </ul>
<p>ステップ 5</p>	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>sequence-number</i> <b>permit</b> <i>source source-wildcard</i></li> <li><i>sequence-number</i> <b>permit</b> <i>protocol source source-wildcard destination destination-wildcard [precedence precedence][ tos tos] [log] [ time-range time-range-name] [fragments]</i></li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-std-nacl)# 105 permit 10.5.5.5 0.0.0.255</pre>	<p>名前付き IP アクセス リストモードで <b>permit</b> ステートメントを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このアクセス リストでは <b>permit</b> ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、<b>deny</b> ステートメントが最初に使用される可能性もあります。</li> <li>上位層プロトコル (ICMP、IGMP、TCP、およびUDP) を許可するその他のコマンド構文については、<b>permit</b> (IP) コマンドを参照してください。</li> <li>エントリを削除するには、<b>no sequence-number</b> コマンドを使用します。</li> <li>プロンプトに示されるとおり、このアクセス リストは標準アクセス リストでした。ステップ 4 で <b>extended</b> を指定した場合は、このステップのプロンプトは <b>Router(config-ext-nacl)#</b> となり、拡張 <b>permit</b> コマンド構文を使用します。</li> </ul>
<p>ステップ 6</p>	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>sequence-number</i> <b>deny</b> <i>source source-wildcard</i></li> <li><i>sequence-number</i> <b>deny</b> <i>protocol source source-wildcard destination destination-wildcard [precedence precedence][ tos tos] [log] [ time-range time-range-name] [fragments]</i></li> </ul>	<p>(任意) 名前付き IP アクセス リストモードで <b>deny</b> ステートメントを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このアクセス リストでは <b>permit</b> ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、<b>deny</b> ステートメントが最初に使用される可能性もあります。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	<p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-std-nacl)# 110 deny 10.6.6.7 0.0.0.255</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上位層プロトコル (ICMP、IGMP、TCP、およびUDP) を許可するその他のコマンド構文については、<b>deny</b> (IP) コマンドを参照してください。</li> <li>• エントリを削除するには、<b>no sequence-number</b> コマンドを使用します。</li> <li>• プロンプトに示されるとおり、このアクセスリストは標準アクセスリストでした。ステップ 4 で <b>extended</b> を指定した場合は、このステップのプロンプトは Router(config-ext-nacl)# となり、拡張 <b>deny</b> コマンド構文を使用します。</li> </ul>
ステップ 7	必要に応じてステップ 5 とステップ 6 を繰り返し、目的とするシーケンス番号順にステートメントを追加します。エントリを削除するには、 <b>no sequence-number</b> コマンドを使用します。	アクセス リストは変更できます。
ステップ 8	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-std-nacl)# end</pre>	(任意) コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	<p><b>show ip access-lists access-list-name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show ip access-lists xyz123</pre>	<p>(任意) IP アクセス リストの内容を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 出力を見直して、アクセスリストに新しいエントリが含まれることを確認します。</li> </ul>

### 例

次に、**xyz123** アクセス リストを指定した場合の **show ip access-lists** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show ip access-lists xyz123
Standard IP access list xyz123
100 permit 10.4.4.0, wildcard bits 0.0.0.255
105 permit 10.5.5.5, wildcard bits 0.0.0.255
115 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
130 permit 10.5.5.0, wildcard bits 0.0.0.255
145 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
```

## 日または週の特定の時間帯でのアクセス リスト エントリの制限

デフォルトで、アクセス リスト ステートメントは適用されたときに実行されます。ただし、時間範囲を定義し、各アクセス リスト ステートメントにおいて名前ごとに時間範囲を参照す

ることで、**permit** ステートメントまたは **deny** ステートメントが有効になる日または週の時間帯を定義できます。IP および Internetwork Packet exchange (IPX) 名前付きまたは番号付きの拡張アクセス リストは、時間範囲に対応します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list extended name**
4. *[sequence-number] deny protocol source[source-wildcard] [operator port[port]] destination[destination-wildcard] [operator port[port]]*
5. *[sequence-number] deny protocol source[source-wildcard][operator port[port]] destination[destination-wildcard] [operator port[port]] fragments*
6. *[sequence-number] permit protocol source[source-wildcard] [operator port[port]] destination[destination-wildcard] [operator port[port]]*
7. アクセス リストの基本となる値を指定するまで、ステップ 4～6 を適宜組み合わせて繰り返します。
8. **end**
9. **show ip access-list**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list extended name</b> <b>Example:</b> Router(config)# ip access-list extended rstrct4	名前を使用して拡張 IP アクセス リストを定義し、拡張名前付きアクセス リストのコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<i>[sequence-number] deny protocol source[source-wildcard] [operator port[port]] destination[destination-wildcard] [operator port[port]]</i> <b>Example:</b> Router(config-ext-nacl)# deny ip any 172.20.1.1	(任意) ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを拒否します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このステートメントは、非フラグメントパケットと初期フラグメントに適用されます。</li> </ul>

## 次の作業

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<p><i>[sequence-number]</i> <b>deny</b> <i>protocol</i>  <i>source[source-wildcard][operator port[port]]</i>  <i>destination[destination-wildcard] [operator port[port]]</i>  <b>fragments</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-ext-nacl)# deny ip any 172.20.1.1 fragments</pre>	<p>(任意) ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを拒否します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このステートメントは、非初期フラグメントに適用されます。</li> </ul>
ステップ 6	<p><i>[sequence-number]</i> <b>permit</b> <i>protocol</i>  <i>source[source-wildcard] [operator port[port]]</i>  <i>destination[destination-wildcard] [operator port[port]]</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-ext-nacl)# permit tcp any any</pre>	<p>ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを許可します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各アクセスリストには、少なくとも1つの <b>permit</b> ステートメントが必要です。</li> <li><i>source-wildcard</i> または <i>destination-wildcard</i> を省略すると、0.0.0.0のワイルドカードマスクが想定されます。つまり、それぞれ送信元アドレスまたは宛先アドレスの全ビットへの一致を意味します。</li> <li>必要に応じて、<i>source source-wildcard</i> または <i>destination destination-wildcard</i> の代わりに、キーワード <b>any</b> を使用して、アドレスと 0.0.0.0 255.255.255.255 の送信元ワイルドカードを指定できます。</li> </ul>
ステップ 7	アクセスリストの基本となる値を指定するまで、ステップ 4～6 を適宜組み合わせ合わせて繰り返します。	明示的に許可されていないすべての送信元は、アクセスリストの末尾にある暗黙的な <b>deny</b> ステートメントで拒否されます。
ステップ 8	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-ext-nacl)# end</pre>	コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	<p><b>show ip access-list</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show ip access-list</pre>	(任意) 現在の IP アクセスリストすべてのコンテンツが表示されます。

## 次の作業

アクセスリストをインターフェイスに適用するか、アクセスリストを受け入れるコマンドから参照します。





**Note** IP オプションを含むすべてのパケットを効率的に除去するには、**ip options drop** グローバルコマンドを設定することを推奨します。

## IP アクセス リストの精緻化の設定例

### 例：アクセス リストのエントリの並べ替え

次に、並べ替える前と後のアクセスリストの例を示します。開始値は1、増分値は2です。後続のエントリはユーザ指定の増分値に基づいて並べられています。範囲は1～2147483647です。

シーケンス番号のないエントリが入力されると、デフォルトで、アクセスリストの最後のエントリのシーケンス番号に10を加えたシーケンス番号が割り当てられます。

```
Router# show access-list carls
Extended IP access list carls
 10 permit ip host 10.3.3.3 host 172.16.5.34
 20 permit icmp any any
 30 permit tcp any host 10.3.3.3
 40 permit ip host 10.4.4.4 any
 50 Dynamic test permit ip any any
 60 permit ip host 172.16.2.2 host 10.3.3.12
 70 permit ip host 10.3.3.3 any log
 80 permit tcp host 10.3.3.3 host 10.1.2.2
 90 permit ip host 10.3.3.3 any
100 permit ip any any
Router(config)# ip access-list extended carls
Router(config)# ip access-list resequence carls 1 2
Router(config)# end
Router# show access-list carls
Extended IP access list carls
 1 permit ip host 10.3.3.3 host 172.16.5.34
 3 permit icmp any any
 5 permit tcp any host 10.3.3.3
 7 permit ip host 10.4.4.4 any
 9 Dynamic test permit ip any any
11 permit ip host 172.16.2.2 host 10.3.3.12
13 permit ip host 10.3.3.3 any log
15 permit tcp host 10.3.3.3 host 10.1.2.2
17 permit ip host 10.3.3.3 any
19 permit ip any any
```

### 例：シーケンス番号を指定したエントリの追加

次の例では、新しいエントリ（シーケンス番号15）がアクセスリストに追加されます。

```
Router# show ip access-list
Standard IP access list tryon
2 permit 10.4.4.2, wildcard bits 0.0.255.255
```

## 例：シーケンス番号を指定しないエントリの追加

```

5 permit 10.0.0.44, wildcard bits 0.0.0.255
10 permit 10.0.0.1, wildcard bits 0.0.0.255
20 permit 10.0.0.2, wildcard bits 0.0.0.255
Router(config)# ip access-list standard tryon
Router(config-std-nacl)# 15 permit 10.5.5.5 0.0.0.255
Router# show ip access-list
Standard IP access list tryon
2 permit 10.4.0.0, wildcard bits 0.0.255.255
5 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
10 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
15 permit 10.5.5.0, wildcard bits 0.0.0.255
20 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255

```

## 例：シーケンス番号を指定しないエントリの追加

次に、シーケンス番号が指定されていないエントリをアクセスリストの末尾に追加する方法を示します。シーケンス番号のないエントリを追加すると、自動的にシーケンス番号が割り当てられ、アクセスリストの末尾に配置されます。デフォルトの増分値は 10 であるため、エントリには、既存のアクセスリストの最後のエントリのシーケンス番号に 10 を加えたシーケンス番号が割り当てられます。

```

Router(config)# ip access-list standard resources
Router(config-std-nacl)# permit 10.1.1.1 0.0.0.255
Router(config-std-nacl)# permit 10.2.2.2 0.0.0.255
Router(config-std-nacl)# permit 10.3.3.3 0.0.0.255
Router# show access-list
Standard IP access list resources
10 permit 10.1.1.1, wildcard bits 0.0.0.255
20 permit 10.2.2.2, wildcard bits 0.0.0.255
30 permit 10.3.3.3, wildcard bits 0.0.0.255
Router(config)# ip access-list standard resources
Router(config-std-nacl)# permit 10.4.4.4 0.0.0.255
Router(config-std-nacl)# end
Router# show access-list
Standard IP access list resources
10 permit 10.1.1.1, wildcard bits 0.0.0.255
20 permit 10.2.2.2, wildcard bits 0.0.0.255
30 permit 10.3.3.3, wildcard bits 0.0.0.255
40 permit 10.4.4.4, wildcard bits 0.0.0.255

```

## 例：IP アクセス リスト エントリに適用された時間範囲

次の例では、月曜日～金曜日の 8:00 am～6:00 p.m に延長した、no-http と呼ばれる時間範囲を作成します。この時間帯は deny ステートメントに適用されるため、月曜日～金曜日の 8:00 am～6:00 p.m の HTTP トラフィックが拒否されます。

udp-yes と呼ばれる時間範囲は、正午から 8:00 p.m までの週末を定義します。この時間範囲は permit ステートメントに適用されるため、土曜日～日曜日の正午から 8:00 p.m の UDP トラフィックのみが許可されます。両方のステートメントを含むアクセスリストは、ファストイーサネット インターフェイス 0/0/0 のインバウンドパケットに適用されます。

```

time-range no-http
 periodic weekdays 8:00 to 18:00
 !

```

```
time-range udp-yes
 periodic weekend 12:00 to 20:00
!
ip access-list extended strict
 deny tcp any any eq http time-range no-http
 permit udp any any time-range udp-yes
!
interface fastethernet 0/0/0
 ip access-group strict in
```

## 例：IP パケット フラグメントのフィルタリング

次のアクセスリストでは、最初のステートメントはホスト 172.16.1.1 を宛先とする非初期フラグメントのみを拒否します。2 番目のステートメントは、ホスト 172.16.1.1 の TCP ポート 80 を宛先とする残りの非フラグメントと初期フラグメントのみを許可します。3 番目のステートメントは、その他のすべてのトラフィックを拒否します。すべての TCP ポートで非初期フラグメントをブロックするため、ホスト 172.16.1.1 のポート 80 をはじめとするすべての TCP ポートで非初期フラグメントをブロックする必要があります。つまり、非初期フラグメントにはレイヤ4ポート情報は含まれないため、指定のポートで該当するトラフィックをブロックするには、すべてのポートのフラグメントをブロックする必要があります。

```
access-list 101 deny ip any host 172.16.1.1 fragments
access-list 101 permit tcp any host 172.16.1.1 eq 80
access-list 101 deny ip any any
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
<b>time-range</b> コマンドを使用した時間範囲の指定	『Cisco IOS XE Network Management Configuration Guide』の「Performing Basic System Management」章
ネットワーク管理コマンドの説明	『Cisco IOS Network Management Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

**MIB**

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

**RFC**

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IP アクセス リストの精緻化に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 53:** IP アクセス リストの精緻化に関する機能情報

機能名	リリース	機能の設定情報
時刻ベースのアクセス リスト	Cisco IOS XE リリー ス 2.1	この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズのアグリ ゲーションサービスルータで導入されました。 この機能について導入または変更されたコマン ドはありません。





## CHAPTER 33

# IP 名前付きアクセス コントロール リスト

アクセス コントロール リスト (ACL) は、ネットワークを通過するパケットの動きを制御するためにパケット フィルタリングを実行します。パケット フィルタリングは、ネットワークへのトラフィックのアクセスを限定し、ユーザーおよびデバイスのネットワークに対するアクセスを制限し、トラフィックがネットワークから流出するのを防ぐことで、セキュリティを提供します。IP アクセス リストによって、スプーフィングやサービス妨害攻撃の可能性を軽減し、ファイアウォールを介した動的で一時的なユーザー アクセスが可能になります。

IP 名前付きアクセス コントロール リスト機能により、ネットワーク管理者は、管理するアクセス リストを識別するための名前を使用することができます。

このモジュールでは、IP 名前付きアクセス コントロール リスト、およびその設定方法について説明します。

- [IP 名前付きアクセス コントロール リストに関する情報, on page 455](#)
- [IP 名前付きアクセス コントロール リストの設定方法, on page 460](#)
- [IP 名前付きアクセス コントロール リストの設定例, on page 464](#)
- [IP 名前付きアクセス コントロール リストの追加情報, on page 465](#)
- [IP 名前付きアクセス コントロール リストに関する機能情報, on page 465](#)

## IP 名前付きアクセス コントロール リストに関する情報

### アクセス リストの定義

アクセス コントロール リスト (ACL) は、ネットワークを通過するパケットの動きを制御するためにパケット フィルタリングを実行します。パケット フィルタリングは、ネットワークへのトラフィックのアクセスを限定し、ユーザーおよびデバイスのネットワークに対するアクセスを制限し、トラフィックがネットワークから流出するのを防ぐことで、セキュリティを提供します。IP アクセス リストによって、スプーフィングやサービス妨害攻撃の可能性を軽減し、ファイアウォールを介した動的で一時的なユーザー アクセスが可能になります。

また、IP アクセス リストは、セキュリティ以外の用途にも使用できます。たとえば、帯域幅制御、ルーティングアップデートのコンテンツの制限、ルートへの再配布、ダイヤルオンデマンド

ド (DDR) 呼び出しのトリガー、デバッグ出力の制限、Quality of Service (QoS) 機能のトラフィックの識別と分類などです。

アクセスリストは、少なくとも1つの **permit** ステートメント、および任意の1つまたは複数の **deny** ステートメントで構成される順次リストです。IP アクセスリストの場合、これらのステートメントはIPアドレス、上位層のIPプロトコルなどのIPパケットのフィールドに適用できます。

アクセスリストは名前または番号で識別および参照されます。アクセスリストはパケットフィルタとして動作し、各アクセスリストに定義されている条件に基づいてパケットがフィルタされます。

アクセスリストを構成した後でアクセスリストを有効にするには、アクセスリストをインターフェイスに適用するか (**ip access-group** コマンドを使用)、**vty** に適用するか (**access-class** コマンドを使用)、またはアクセスリストを許容するあらゆるコマンドでアクセスリストを参照する必要があります。複数のコマンドから同じアクセスリストを参照できます。

次の構成では、**branchoffices** という名前のIPアクセスリストがファストイーサネットインターフェイス **0/1/0** 上で構成され、着信パケットに適用されます。発信元アドレスとマスクのペアで指定されているネットワーク以外は、ファストイーサネットインターフェイス **0/1/0** にアクセスできません。ネットワーク **172.16.7.0** 上の送信元から発信されるパケットの宛先に、制限はありません。ネットワーク **172.16.2.0** 上の送信元から発信されるパケットの宛先は、**172.31.5.4** にする必要があります。

```
ip access-list extended branchoffices
 10 permit 172.16.7.0 0.0.0.3 any
 20 permit 172.16.2.0 0.0.0.255 host 172.31.5.4
!
interface fastethernet 0/1/0
 ip access-group branchoffices in
```

## 名前付きまたは番号付きアクセスリスト

すべてのアクセスリストは、名前または番号で識別されます。名前付きアクセスリストは、番号付きアクセスリストよりも便利です。タスクを思いだしやすく関連性がある、わかりやすい名前を指定できるためです。名前付きアクセスリストでは、ステートメントの順序を変更したり、ステートメントを追加したりできます。

名前付きアクセスリストは、番号付きアクセスリストではサポートされない次の機能をサポートします。

- IP オプションのフィルタリング
- 非隣接ポート
- TCP フラグ フィルタリング
- **no permit** または **no deny** コマンドによるエントリの削除





**Note** 番号付きアクセス リストを受け入れるコマンドの中には、名前付きアクセス リストを受け入れられないコマンドがあります。たとえば、`vty` には番号付きアクセス リストだけを使用します。

## IP アクセス リストの利点

アクセス コントロール リスト (ACL) は、ネットワークを通過するパケットのフローを制御するためにパケットフィルタリングを実行します。パケットフィルタリングによってユーザーおよびデバイスのネットワークに対するアクセスを制限し、セキュリティの手段として利用できます。アクセス リストによってトラフィック数を減らすことで、ネットワーク リソースを節約できます。アクセス リストを使用した場合の利点は次のとおりです。

- 着信 `rsh` および `rcp` 要求を認証する：アクセス リストは、デバイスへのアクセスを制御するように構成された認証データベース内のローカルユーザー、リモート ホスト、およびリモート ユーザーの識別を簡素化できます。Cisco ソフトウェアは認証データベースを使用して、リモートシェル (`rsh`) およびリモートコピー (`rcp`) プロトコルの着信要求を受け取ることができます。
- 不要なトラフィックまたはユーザーをブロックする：アクセスリストを使用すると、インターフェイス上の着信パケットまたは発信パケットをフィルタできるため、送信元アドレス、宛先アドレス、またはユーザー認証に基づいてネットワークへのアクセスを制御できます。また、アクセスリストを使用して、デバイスインターフェイスで転送またはブロックするトラフィックの種類を決定することもできます。たとえば、電子メールトラフィックはネットワークでルーティングすることを許可し、すべての Telnet トラフィックはネットワークに入ることをブロックするようにアクセス リストを使用できます。
- `vty` へのアクセスを制御する：インバウンド `vty` (Telnet) でのアクセス リストは、デバイスへの回線にアクセスできるユーザーを制御できます。アウトバウンド `vty` でのアクセス リストは、デバイスからの回線が到達可能な宛先を制御できます。
- QoS 機能のトラフィックを特定または分類する：アクセス リストは、Weighted Random Early Detection (WRED) および専用アクセス レート (CAR) の IP プレシデンスを設定することで、輻輳回避を提供します。また、クラスベース均等化キューイング (CBWFQ)、プライオリティ キューイング、カスタム キューイングのために輻輳管理を提供します。
- `debug` コマンド出力を制限する：アクセス リストは、IP アドレスやプロトコルに基づいて `debug` 出力を制限できます。
- 帯域幅制御を提供する：低速リンクでのアクセス リストはネットワークでの過剰なトラフィックを防止できます。
- NAT 制御を提供する：アクセス リストによって、ネットワーク アドレス変換 (NAT) が変換するアドレスを制御できます。
- DoS 攻撃の可能性を低減する：アクセスリストは、サービス妨害 (DoS) 攻撃の可能性を低減させます。ホストからのトラフィック、ネットワーク、またはネットワークにアクセスするユーザーを制御するように IP 発信元アドレスを指定します。TCP インターセプト

機能を設定することで、接続に関する要求でサーバーにフラッディングが発生しないようにすることができます。

- ルーティングアップデートの内容を制限する：アクセスリストによって、ネットワーク内で送信、受信、または再配布されるルーティングアップデートを制御できます。
- ダイヤルオンデマンドコールをトリガーする：アクセスリストによって、ダイヤルおよび切断条件を適用できます。

## アクセスリストのルール

アクセスリストには、次のルールが適用されます。

- 1つのインターフェイス、1つのプロトコル、1つの方向につき、許可されるアクセスリストは1つだけです。
- アクセスリストには少なくとも1つの **permit** ステートメントが含まれる必要があります。そうしないと、ネットワークに入るすべてのパケットが拒否されます。
- アクセスリスト条件または一致基準の構成順序は重要です。パケットを転送するかブロックするかを決定するときに、シスコソフトウェアは、それぞれの条件ステートメントに対してステートメントの作成順にパケットをテストします。一致が見つかり、条件ステートメントはそれ以上チェックされません。同じ **permit** ステートメントまたは **deny** ステートメントでも、順序が異なる場合、ある状況では通過し、別の状況では拒否されるパケットが生じる可能性があります。
- アクセスリストを名前によって参照したときに、そのアクセスリストが存在しない場合は、すべてのパケットが通過します。インターフェイスまたはコマンドに空のアクセスリストを適用すると、ネットワークに対するすべてのトラフィックが許可されます。
- 標準のアクセスリストと拡張のアクセスリストの名前は同じにできません。
- パケットが発信インターフェイスにルーティングされる前に、着信アクセスリストがパケットを処理します。ネットワークへのパケットアクセスを拒否するフィルタ条件がある着信アクセスリストは、ルーティングルックアップ時のオーバーヘッドを削減します。構成されたフィルタ基準に基づいてネットワークへのアクセスを許可されたパケットはルーティング処理されます。インバウンドアクセスリストの場合、**permit** ステートメントを構成するとパケットは受信後に処理され、**deny** ステートメントを構成するとパケットは破棄されます。
- アウトバウンドアクセスリストの場合、パケットの処理後にデバイスから送信されます。着信パケットはアウトバウンドインターフェイスにルーティングされてから、アウトバウンドアクセスリストで処理されます。アウトバウンドアクセスリストの場合、**permit** ステートメントを構成するとパケットは出力バッファに送信され、**deny** ステートメントを構成するとパケットは破棄されます。
- アクセスリストで、デバイスに到達するトラフィック、またはデバイス経由で送信されるトラフィックは制御できますが、デバイスが送信元のトラフィックは制御できません。

## IP アクセス リストを作成する際に役立つヒント

意図しない結果を回避し、より効率的で有効なアクセスリストを作成するために役立つヒントを紹介します。

- アクセスリストを作成してから、インターフェイス（または別の対象）に適用します。その理由は、存在しないアクセスリストをインターフェイスに適用してから、アクセスリストを設定すると、最初のステートメントが有効になり、それに続く暗黙的な **deny** ステートメントによってアクセスに緊急の問題が発生するおそれがあるためです。
- アクセスリストを設定してから適用するもう 1 つの理由は、空のアクセスリストが適用されたインターフェイスはすべてのトラフィックを許可するためです。
- すべてのアクセスリストには、少なくとも 1 つの **permit** ステートメントが必要です。**permit** がないと、すべてのパケットは拒否され、トラフィックはまったく通過しません。
- 最初に (**permit** または **deny** ステートメントに対する) 一致が見つかった後は条件のテストが終了するため、パケットが一致する可能性の高いステートメントをアクセスリストの先頭に配置すると処理にかかる時間とリソースが削減されます。最も頻繁に発生する条件を発生頻度の低い条件より前に配置します。
- ネットワークまたはサブネットのより具体的な参照が、より全般的な参照よりも前に出現するように、アクセスリストを構成します。
- まだ拒否されていないその他のパケットすべてを許可する場合、ステートメント **permit any any** を使用します。ステートメント **permit any any** を使用すると、実質的に、アクセスリストの末尾にある暗黙的な **deny** ステートメントでその他すべてのパケットが拒否されることを防ぎます。最初のアクセスリストエントリは **permit any any** にしないでください。すべてのトラフィックが通過し、以降のテストに到達するパケットがなくなります。**permit any any** を指定すると、まだ拒否されていないすべてのトラフィックが通過します。
- すべてのアクセスリストは暗黙的な **deny** ステートメントで終了しますが、明示的な **deny** ステートメント（たとえば **deny ip any any**）の使用を推奨します。ほとんどのプラットフォームでは、**show access-list** コマンドを発行して拒否されるパケット数を表示し、アクセスリストが許可していないパケットに関する詳細情報を調査できます。明示的な **deny** ステートメントで拒否されたパケットのみがカウントされます。これは、明示的な **deny** ステートメントによって、より詳細なデータが生成されるためです。
- アクセスリストの作成中、または作成後に、エントリを削除する場合があります。
  - 番号付きアクセスリストからはエントリを削除できません。削除しようとすると、アクセスリスト全体が削除されます。エントリを削除する必要がある場合、アクセスリスト全体を削除してから最初から作り直す必要があります。
  - 名前付きアクセスリストからはエントリを削除できます。**no permit** または **no deny** コマンドを使用すると、適切なエントリが削除されます。
- 個々のステートメントの用途をひと目で確認および理解しやすくするために、**remark** コマンドを使用して、ステートメントの前後に役立つ注記を書き込むことができます。

- 特定のホストまたはネットワークに対するアクセスを拒否し、そのネットワークまたはホストの誰かがアクセスしようとしたかどうかを検出する場合、対応する **deny** ステートメントを指定した **log** キーワードを含めます。それによって、その送信元からの拒否されたパケットがログに記録されます。
- このヒントは、アクセスリストの配置に適用されます。リソースを保存しようとする、インバウンドアクセスリストでは常にフィルタ条件を適用した後に、ルーティングテーブルの検索を行います。アウトバウンドアクセスリストではフィルタ条件を適用する前に、ルーティングテーブルの検索を行います。
- 新しい ACL ステートメントを追加する前に、パーサーが削除をクリーンアップする時間を確保します。

## アクセス リストを適用する場所

アクセス リストは、デバイスの着信または発信インターフェイスに適用できます。アクセス リストを着信インターフェイスに適用すると、インターフェイスで着信するトラフィックが制御され、アクセス リストを発信インターフェイスに適用すると、インターフェイスから発信されるトラフィックが制御されます。

ソフトウェアは、着信インターフェイスでパケットを受信すると、アクセス リストで設定されているステートメントに対してパケットを検査します。アクセス リストがアドレスを許可している場合は、ソフトウェアはパケットを処理します。着信パケットをフィルタリングするためにアクセス リストを適用すると、フィルタリングされたパケットはデバイスに到達する前に廃棄されるため、デバイスのリソースを節約できます。

発信インターフェイスでは、アクセス リストはインターフェイスから転送（送信）されたパケットをフィルタリングします。発信インターフェイスで **Rate-Based Satellite Control Protocol (RBSCP)** の TCP アクセス コントロール リスト (ACL) を使用して、発信インターフェイスで TCP 確認応答 (ACK) を受けるパケットの種類を制御できます。

**debug** コマンドを使用してアクセス リストを参照し、デバッグ ログの量を制限できます。たとえば、アクセス リストのフィルタリング基準または一致基準に基づいて、デバッグ ログを送信元または宛先のアドレスまたはプロトコルに制限できます。

アクセス リストを使用して、ルーティング アップデート、ダイヤルオンデマンド (DDR)、および Quality of Service (QoS) 機能を制御することができます。

## IP 名前付きアクセス コントロール リストの設定方法

### IP 名前付きアクセス リストの作成

IP 名前付きアクセス リストを作成すると、発信元アドレスと宛先アドレス、またはアドレスと他の IP フィールドの組み合わせをフィルタリングすることができます。名前付きアクセス リストにより、分かりやすい名前の付いたアクセス リストを特定できます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list extended name**
4. **remark remark**
5. **deny protocol [source source-wildcard] {any | host {address | name}} {destination [destination-wildcard] {any | host {address | name}} [log]**
6. **remark remark**
7. **permit protocol [source source-wildcard] {any | host {address | name}} {destination [destination-wildcard] {any | host {address | name}} [log]**
8. アクセスリストにステートメントをさらに指定するには、ステップ 4～7 を繰り返します。
9. **end**
10. **show ip access-lists**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list extended name</b> 例： Device(config)# ip access-list extended acl1	名前を使用して拡張 IP アクセスリストを定義し、拡張名前付きアクセスリストのコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>remark remark</b> 例： Device(config-ext-nacl)# remark protect server by denying sales access to the acl1 network	(任意) アクセスリスト ステートメントに説明を追加します。  • 注釈は IP アクセスリスト エントリの前または後に指定できます。  • この例では、 <b>remark</b> コマンドによって、ステップ 5 で設定した <b>deny</b> コマンドがインターフェイスに対する Sales ネットワーク アクセスを拒否することをネットワーク管理者に示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>deny protocol [source source-wildcard] {any   host {address   name} {destination [destination-wildcard] {any   host {address   name} [log]</b>  例： Device(config-ext-nacl)# deny ip 192.0.2.0 0.0.255.255 host 192.0.2.10 log	(任意) 注釈で指定されたすべての条件に一致するパケットをすべて拒否します。
ステップ 6	<b>remark remark</b>  例： Device(config-ext-nacl)# remark allow TCP from any source to any destination	(任意) アクセスリストステートメントに説明を追加します。  • 注釈はIPアクセスリストエントリの前または後に指定できます。
ステップ 7	<b>permit protocol [source source-wildcard] {any   host {address   name} {destination [destination-wildcard] {any   host {address   name} [log]</b>  例： Device(config-ext-nacl)# permit tcp any any	ステートメントで指定されたすべての条件に一致するパケットをすべて許可します。
ステップ 8	アクセスリストにステートメントをさらに指定するには、ステップ 4～7を繰り返します。	(注) ステートメントによって明示的に許可されていないすべての送信元アドレスは、アクセスリストの末尾にある暗黙的な deny ステートメントで拒否されます。
ステップ 9	<b>end</b>  例： Device(config-ext-nacl)# end	拡張名前付きアクセスリストのコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 10	<b>show ip access-lists</b>  例： Device# show ip access-lists	現在のすべての IP アクセスリストの内容を表示します。

例：

次に、**show ip access-lists** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show ip access-lists acl1

Extended IP access list acl1
 permit tcp any 192.0.2.0 255.255.255.255 eq telnet
 deny tcp any any
 deny udp any 192.0.2.0 255.255.255.255 lt 1024
 deny ip any any log
```

## 物理インターフェイスへのアクセスリストの適用

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **ip access-group** {*access-list-number* | *access-list-name*} {**in** | **out**}
5. **ip access-list extended** *acl-name* *acl-number*
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i>  <b>Example:</b>	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip access-group</b> { <i>access-list-number</i>   <i>access-list-name</i> } { <b>in</b>   <b>out</b> }  <b>Example:</b> Device(config-if)# ip access-group acl1 in	指定したアクセス リストをインバウンド インターフェイスに適用します。  • 送信元アドレスをフィルタリングするには、インバウンド インターフェイスにアクセス リストを適用します。
ステップ 5	<b>ip access-list extended</b> <i>acl-name</i> <i>acl-number</i>  <b>Example:</b>	拡張 ACL コンフィギュレーション モードを有効にします。CLI は拡張 ACL コンフィギュレーション モードを開始します。このモードでは、後続のすべてのコマンドが現在の拡張アクセスリストに適用されます。  拡張 ACL コンフィギュレーション モードを有効にします。CLI は拡張 ACL コンフィギュレーション モードを開始します。このモードでは、後続のすべてのコマンドが現在の拡張アクセスリストに適用されます。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ACL コンフィギュレーション モードから入力されたすべてのコマンドが適用されるアクセスリスト。英字で始まる最大 30 文字の英数字文字列を使用します。</li> <li>• アクセス リスト コンフィギュレーション モードから入力されたすべてのコマンドが適用されるアクセスリスト。数字の識別子を使用します。拡張アクセスリストでは、有効範囲は 100 ~ 199 です。</li> </ul>
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IP 名前付きアクセスコントロール リストの設定例

### 例：IP 名前付きアクセスコントロール リストの作成

```
Device# configure terminal
Device(config)# ip access-list extended acl1
Device(config-ext-nacl)# remark protect server by denying sales access to the acl1 network
Device(config-ext-nacl)# deny ip 192.0.2.0 0.0.255.255 host 192.0.2.10 log
Device(config-ext-nacl)# remark allow TCP from any source to any destination
Device(config-ext-nacl)# permit tcp any any
```

### 例：インターフェイスへのアクセス リストの適用

```
Device# configure terminal
Device(config-if)# ip access-group acl1 in
```



## IP 名前付きアクセス コントロール リストの追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IP 名前付きアクセス コントロール リストに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 54: IP 名前付きアクセスコントロールリストに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IP 名前付きアクセスコントロールリスト		アクセスコントロールリスト (ACL) は、ネットワークを通過するパケットの動きを制御するためにパケットフィルタリングを実行します。パケットフィルタリングは、ネットワークへのトラフィックを限定し、ユーザーおよびデバイスのネットワークに対するアクセスを制限し、トラフィックがネットワークから流出するのを防ぐことで、セキュリティを提供します。IP アクセスリストによって、スプーフィングやサービス妨害攻撃の可能性を軽減し、ファイアウォールを介した動的で一時的なユーザーアクセスが可能になります。



## CHAPTER 34

# 注釈付きの IP アクセス リスト エントリ

注釈付きの IP アクセス リスト エントリ機能により、**deny** または **permit** 条件に関するコメントや注釈を IP アクセス リストに含めることができます。これらの注釈は、ネットワーク管理者がアクセスリストを理解するのを容易にします。各注釈の長さは100文字に制限されます。

このモジュールは、注釈付きの IP アクセス リスト エントリ機能に関する情報を提供します。

- [./トピック/注釈付き IP アクセスリストエントリに関する情報, on page 467](#)
- [注釈付き IP アクセス リスト エントリ の設定方法, on page 469](#)
- [注釈付き IP アクセス リスト エントリ の設定例, on page 470](#)
- [注釈付き IP アクセス リスト エントリ の追加情報, on page 470](#)
- [注釈付き IP アクセス リスト エントリ に関する機能情報, on page 471](#)

## ./トピック/注釈付き IP アクセスリストエントリに関する情報

### IP アクセス リストの利点

アクセス コントロール リスト (ACL) は、ネットワークを通過するパケットのフローを制御するためにパケットフィルタリングを実行します。パケットフィルタリングによってユーザーおよびデバイスのネットワークに対するアクセスを制限し、セキュリティの手段として利用できます。アクセスリストによってトラフィック数を減らすことで、ネットワーク リソースを節約できます。アクセスリストを使用した場合の利点は次のとおりです。

- 着信 **rsh** および **rcp** 要求を認証する：アクセスリストは、デバイスへのアクセスを制御するように構成された認証データベース内のローカルユーザー、リモート ホスト、およびリモート ユーザーの識別を簡素化できます。Cisco ソフトウェアは認証データベースを使用して、リモートシェル (**rsh**) およびリモートコピー (**rcp**) プロトコルの着信要求を受け取ることができます。
- 不要なトラフィックまたはユーザーをブロックする：アクセスリストを使用すると、インターフェイス上の着信パケットまたは発信パケットをフィルタできるため、送信元アドレ

ス、宛先アドレス、またはユーザー認証に基づいてネットワークへのアクセスを制御できます。また、アクセスリストを使用して、デバイスインターフェイスで転送またはブロックするトラフィックの種類を決定することもできます。たとえば、電子メールトラフィックはネットワークでルーティングすることを許可し、すべての Telnet トラフィックはネットワークに入ることをブロックするようにアクセスリストを使用できます。

- vty へのアクセスを制御する：インバウンド vty (Telnet) でのアクセスリストは、デバイスへの回線にアクセスできるユーザーを制御できます。アウトバウンド vty でのアクセスリストは、デバイスからの回線が到達可能な宛先を制御できます。
- QoS 機能のトラフィックを特定または分類する：アクセスリストは、Weighted Random Early Detection (WRED) および専用アクセスレート (CAR) の IP プレシデンスを設定することで、輻輳回避を提供します。また、クラスベース均等化キューイング (CBWFQ)、プライオリティ キューイング、カスタム キューイングのために輻輳管理を提供します。
- debug コマンド出力を制限する：アクセスリストは、IP アドレスやプロトコルに基づいて debug 出力を制限できます。
- 帯域幅制御を提供する：低速リンクでのアクセスリストはネットワークでの過剰なトラフィックを防止できます。
- NAT 制御を提供する：アクセスリストによって、ネットワーク アドレス変換 (NAT) が変換するアドレスを制御できます。
- DoS 攻撃の可能性を低減する：アクセスリストは、サービス妨害 (DoS) 攻撃の可能性を低減させます。ホストからのトラフィック、ネットワーク、またはネットワークにアクセスするユーザーを制御するように IP 発信元アドレスを指定します。TCP インターセプト機能を設定することで、接続に関する要求でサーバーにフラッドが発生しないようにすることができます。
- ルーティングアップデートの内容を制限する：アクセスリストによって、ネットワーク内で送信、受信、または再配布されるルーティングアップデートを制御できます。
- ダイヤルオンデマンド コールをトリガーする：アクセスリストによって、ダイヤルおよび切断条件を適用できます。

## アクセスリストの注釈

任意の IP アクセスリストのエントリについて、コメントまたは注釈を含めることができます。アクセスリストの注釈は、アクセスリスト エントリの前後にあるオプションの注釈です。エントリの内容がわかるので、エントリの目的を解釈する必要はありません。各注釈の長さは 100 文字に制限されます。

コメントは、**permit** ステートメントまたは **deny** ステートメントの前後どちらにでも配置できます。注釈を追加する場所には一貫性があるようにしてください。注釈が関連する **permit** ステートメントや **deny** ステートメントの前にある場合と後にある場合とが混在すると、ユーザーが混乱する可能性があります。

後続の **deny** ステートメントの機能を説明する注釈の例を次に示します。

```
ip access-list extended telnetting
remark Do not allow host1 subnet to telnet out
deny tcp host 172.16.2.88 any eq telnet
```

## 注釈付き IP アクセス リスト エントリの設定方法

### 名前付きまたは番号付きアクセス リストへの注釈の書き込み

名前付きまたは番号付きアクセス リスト設定を使用できます。作業する設定用にアクセス リストを作成したら、アクセスリストをインターフェイスまたは端末回線に適用する必要があります。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list {standard | extended} {name | number}**
4. **remark remark**
5. **deny protocol host host-address any eq port**
6. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list {standard   extended} {name   number}</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip access-list extended telnetting	名前または番号でアクセスリストを特定し、拡張名前付きアクセスリストコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>remark remark</b> <b>Example:</b> Device(config-ext-nacl)# remark Do not allow host1 subnet to telnet out	名前付き IP アクセス リストのエントリに注釈を追加します。  • 注釈は、 <b>permit</b> または <b>deny</b> ステートメントの目的を示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>deny protocol host host-address any eq port</b> <b>Example:</b> Device(config-ext-nacl)# deny tcp host 172.16.2.88 any eq telnet	パケットを拒否する名前付き IP アクセス リストの条件を設定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ext-nacl)# end	拡張名前付きアクセスリストコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## 注釈付き IP アクセス リスト エントリの設定例

### 例：IP アクセス リストの備考の書き込み

```
Device# configure terminal
Device(config)# ip access-list extended telnetting
Device(config-ext-nacl)# remark Do not allow host1 subnet to telnet out
Device(config-ext-nacl)# deny tcp host 172.16.2.88 any eq telnet
Device(config-ext-nacl)# end
```

## 注釈付き IP アクセス リスト エントリの追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 注釈付き IP アクセス リスト エントリに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 55:** 注釈付き IP アクセス リスト エントリに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
注釈付きの IP アクセス リスト エントリ		注釈付きの IP アクセス リスト エントリ機能により、[deny] または [permit] 条件に関するコメントや備考をどの IP アクセスリストにも含めることができます。これらの注釈は、ネットワーク管理者がアクセスリストを理解するのを容易にします。各注釈の長さは 100 文字に制限されます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>remark</b>







## CHAPTER 35

# 標準 IP アクセス リストのロギング

標準 IP アクセス リストのロギング機能は、標準 IP アクセス リストによって許可または拒否されるパケットに関するメッセージをロギングする機能を提供します。アクセスリストに一致するパケットによって、デバイスコンソールにあるパケットに関する情報メッセージがロギングされます。

このモジュールは、標準 IP アクセス リスト ロギングに関する情報を提供します。

- [標準 IP アクセス リストのロギングに関する制限事項, on page 473](#)
- [標準 IP アクセス リストのロギングに関する情報, on page 473](#)
- [標準 IP アクセス リストのロギングの設定方法, on page 474](#)
- [標準 IP アクセス リストのロギングの設定例, on page 476](#)
- [標準 IP アクセス リストのロギングに関する追加情報, on page 477](#)
- [標準 IP アクセス リストのロギングに関する機能情報, on page 478](#)

## 標準 IP アクセス リストのロギングに関する制限事項

IP アクセス リスト ロギングは、ルーティング インターフェイスまたはルータ アクセス コントロール リスト (ACL) でのみサポートされます。

## 標準 IP アクセス リストのロギングに関する情報

### 標準 IP アクセス リストのロギング

標準 IP アクセス リストのロギング機能は、標準 IP アクセス リストによって許可または拒否されるパケットに関するメッセージをロギングする機能を提供します。アクセスリストに一致するパケットによって、デバイスコンソールに送信されるパケットに関する情報ロギングメッセージが生成されます。デバイスコンソールに記録されるメッセージのログレベルは、**logging console** コマンドによって制御されます。

アクセスリストが最初に検査したパケットがアクセスリストをトリガーし、デバイスコンソールにメッセージをロギングします。後続のパケットは、5 分間隔で収集された後、表示または

ロギングされます。ログメッセージには、アクセスリスト番号、パケットの送信元 IP アドレス、その送信元からの、直前の5分間隔に許可または拒否されたパケットの数、およびパケットが許可されたか拒否されたかに関する情報が含まれます。特定のアクセスリストによって許可または拒否された複数のパケットについて、各パケットの送信元アドレスなどをモニターすることができます。

## 標準 IP アクセス リストのロギングの設定方法

### 番号を使用した標準 IP アクセス リストの作成

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **access-list access-list-number {deny | permit} host address [log]**
4. **access-list access-list-number {deny | permit} any [log]**
5. **interface type number**
6. **ip access-group access-list-number {in | out}**
7. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>access-list access-list-number {deny   permit} host address [log]</b> <b>Example:</b> Device(config)# access-list 1 permit host 10.1.1.1 log	送信元アドレスとワイルドカードを使用して、標準の名前付き IP アクセス リストを定義し、デバイス コンソールでアクセス リスト エントリと一致したパケットに関する情報メッセージのロギングを設定します。
ステップ 4	<b>access-list access-list-number {deny   permit} any [log]</b> <b>Example:</b> Device(config)# access-list 1 permit any log	送信元の省略形および送信元マスク 0.0.0.0 255.255.255.255 を使用して、標準の名前付き IP アクセス リストを定義します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip access-group 1 in	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>ip access-group</b> <i>access-list-number</i> {in   out} <b>Example:</b> Device(config-if)# ip access-group 1 in	指定した番号付きアクセスリストを着信または発信 インターフェイスに適用します。 <ul style="list-style-type: none"><li>送信元アドレスに基づいてフィルタする場合、一般的に、着信インターフェイスにアクセス リストを適用します。</li></ul>
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## 名前を使用した標準 IP アクセス リストの作成

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list standard** *name*
4. {deny | permit} {host *address* | any} log
5. **exit**
6. **interface** *type number*
7. **ip access-group** *access-list-name* {in | out}
8. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list standard</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Device(config)# ip access-list standard acl1	標準の IP アクセス リストを定義して、標準の名前付きアクセスリスト コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>{deny   permit} {host address   any} log</b> <b>Example:</b> Device(config-std-nacl)# permit host 10.1.1.1 log	パケットがネットワークに入らないように拒否したり、パケットがネットワークに入ることを許可したりする名前付き IP アクセスリストで条件を設定し、デバイス コンソールでアクセス リスト エントリと一致するパケットに関する情報メッセージのロギングを設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-std-nacl)# exit	標準の名前付きアクセス リスト コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>interface type number</b> <b>Example:</b>	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>ip access-group access-list-name {in   out}</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip access-group acl1 in	指定したアクセスリストを着信または発信インターフェイスに適用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>送信元アドレスに基づいてフィルタする場合、一般的に、着信インターフェイスにアクセスリストを適用します。</li> </ul>
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## 標準 IP アクセス リストのロギングの設定例

### 例：数字を使用した標準 IP アクセス リストの作成

```

Device# configure terminal
Device(config)# access-list 1 permit host 10.1.1.1 log
Device(config)# access-list 1 permit any log

Device(config-if)# ip access-group 1 in

```

### 例：名前を使用した標準 IP アクセス リストの作成

```

Device# configure terminal
Device(config)# ip access-list standard acl1
Device(config-std-nacl)# permit host 10.1.1.1 log
Device(config-std-nacl)# exit

Device(config-if)# ip access-group acl1 in

```

## 例：デバッグ出力の制限

次の設定例では、アクセスリストを使用して、**debug** コマンドの出力を制限します。**debug** の出力を制限すると、データ量が絞られ、目的のデータを探しやすくなるため、時間とリソースを節約できます。

```
Device(config)# ip access-list acl1
Device(config-std-nacl)# remark Displays only advertisements for LDP peer in acl1
Device(config-std-nacl)# permit host 10.0.0.44
```

```
Device# debug mpls ldp advertisements peer-acl acl1

tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 172.17.0.33
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 172.16.0.31
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 172.22.0.33
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 192.168.0.1
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 192.168.0.3
tagcon: peer 10.0.0.44:0 (pp 0x60E105BC): advertise 192.168.1.33
```

## 標準 IP アクセス リストのロギングに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 標準 IP アクセス リストのロギングに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 56: 標準 IP アクセス リストのロギングに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
標準 IP アクセス リストのロギング		標準 IP アクセス リストのロギング機能は、標準 IP アクセス リストによって許可または拒否されるパケットに関するメッセージをロギングする機能を提供します。アクセス リストに一致するパケットによって、デバイス コンソールにあるパケットに関する情報メッセージがロギングされます。



## CHAPTER 36

# IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号

IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号機能により、**permit** または **deny** ステートメントにシーケンス番号を適用したり、名前付き IP アクセス リストでそのようなステートメントを順序変更、追加、削除することができます。IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号機能を使用すると、IP アクセス リストを非常に簡単に変更することができます。この機能以前は、アクセス リストの末尾にしかアクセス リスト エントリを追加できませんでした。そのため、名前付き IP アクセス リストの末尾以外のどこかにステートメントを追加する必要がある場合、アクセス リスト全体の再設定が必要でした。

- [IP アクセス リストのエントリ シーケンス番号に関する制約事項, on page 479](#)
- [IP アクセス リストのエントリ シーケンス番号に関する情報, on page 480](#)
- [IP アクセス リストでのシーケンス番号の使用法, on page 485](#)
- [IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号の設定例, on page 489](#)
- [その他の参考資料, on page 490](#)
- [IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号に関する機能情報, on page 492](#)

## IP アクセス リストのエントリ シーケンス番号に関する制約事項

- この機能は、ダイナミックアクセスリスト、再帰アクセスリスト、またはファイアウォールアクセス リストをサポートしていません。
- また、名前付きアクセスリストよりも古くから存在する、旧式のスタイルで番号付けされたアクセス リストもサポートしていません。アクセス リストは番号で指定できるため、標準または拡張名前付きアクセスリスト (NACL) コンフィギュレーションモードでは番号を入力することができます。

# IP アクセス リストのエントリ シーケンス番号に関する情報

## IP アクセス リストの目的

アクセス リストは、パケット フィルタリングを実行して、ネットワークを介して移動するパケットとその場所を制御します。この処理は、ネットワークトラフィックを制限し、ユーザやデバイスによるネットワークへのアクセスを制限するのに役立ちます。アクセスリストの用途は多様なので、多くのコマンドシンタックスでアクセス リストが参照されます。アクセス リストを使用して、次のようなことを実行できます。

- インターフェイスでの着信パケットのフィルタリング
- インターフェイスでの発信パケットのフィルタリング
- ルーティング アップデートの内容の制限
- アドレスまたはプロトコルに基づくデバッグ出力の制限
- 仮想端末回線アクセスの制御
- 輻輳回避、輻輳管理、プライオリティおよびカスタムキューイングなどの高度な機能に使用されるトラフィックの特定または分類
- ダイアルオンデマンドルーティング (DDR) 呼び出しのトリガー

## IP アクセス リストの機能

アクセス リストは、`permit` ステートメントと `deny` ステートメントで構成される順次リストです。これらのステートメントは、IP アドレス、場合によっては上位層 IP プロトコルに適用されます。アクセス リストには、参照に使用される名前があります。多くのソフトウェア コマンドは、構文の一部としてアクセス リストを受け取ります。

アクセス リストを設定して名前を付けることは可能ですが、アクセス リストを受け取るコマンドによってアクセスリストが参照されるまで、有効にはなりません。複数のコマンドから同じアクセス リストを参照できます。アクセス リストで、デバイスに到達するトラフィック、またはデバイス経由で送信されるトラフィックは制御できますが、デバイスが送信元のトラフィックは制御できません。

## IP アクセス リストのプロセスとルール

- アクセスリストの条件に対してフィルタリングされる各パケットの送信元アドレスや宛先アドレス、またはプロトコルがテストされます。一度に1つの条件 (`permit` ステートメントまたは `deny` ステートメント) がテストされます。



- パケットがアクセスリストのステートメントに一致しないと、そのパケットはリスト内の次のステートメントに対してテストされます。
- パケットとアクセス リスト ステートメントが一致すると、リスト内の残りのステートメントはスキップされ、パケットは一致したステートメントに指定されたとおりに許可または拒否されます。パケットが許可されるか拒否されるかは、パケットが一致する最初のエントリによって決まります。つまり、一致すると、それ以降のエントリは考慮されません。
- アクセスリストでアドレスまたはプロトコルが拒否されると、パケットは廃棄され、インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) ホスト到達不能メッセージが返されます。
- 一致する条件がない場合は、パケットはドロップされます。これは、各アクセスリストは暗黙の **deny** ステートメントで終了するためです。言い換えると、パケットが各ステートメントに対してテストされたときまでに許可されないと、このパケットは拒否されます。
- 最初に一致が見つかった後は条件のテストが終了するため、条件の順序は重要です。同じ **permit** ステートメントまたは **deny** ステートメントでも、順序が異なる場合、ある状況では通過し、別の状況では拒否されるパケットが生じる可能性があります。
- コマンドでアクセス リストを名前によって参照したときに、そのアクセス リストが存在しない場合は、すべてのパケットが通過します。
- 1つのインターフェイス、1つのプロトコル、1つの方向につき、許可されるアクセス リストは1つだけです。
- インバウンドアクセスリストは、デバイスに到達するパケットを処理します。着信パケットの処理後に、アウトバウンドインターフェイスへのルーティングが行われます。インバウンドアクセスリストが効率的なのは、フィルタリングテストで拒否されたことでパケットが廃棄される場合、ルーティング検索のオーバーヘッドが抑えられるためです。パケットがテストで許可されると、そのパケットに対してルーティングの処理が実施されます。インバウンドリストの場合、**permit** とは、インバウンドインターフェイスでパケットの受信後に処理が続行されることを示します。**deny** とは、パケットが廃棄されることを示します。
- 発信アクセスリストの場合、パケットの処理後にデバイスから送信されます。着信パケットはアウトバウンドインターフェイスにルーティングされてから、アウトバウンドアクセス リストで処理されます。アウトバウンドリストの場合、**permit** とは、出力バッファに対して送信されることを示し、**deny** とは、パケットが廃棄されることを示します。

## IP アクセス リストを作成する際に役立つヒント

意図しない結果を回避し、より効率的で有効なアクセスリストを作成するために役立つヒントを紹介します。

- アクセスリストを作成してから、インターフェイス（または別の対象）に適用します。その理由は、存在しないアクセスリストをインターフェイスに適用してから、アクセスリ

- ストを設定すると、最初のステートメントが有効になり、それに続く暗黙的な **deny** ステートメントによってアクセスに緊急の問題が発生するおそれがあるためです。
- アクセス リストを設定してから適用するもう 1 つの理由は、空のアクセス リストが適用されたインターフェイスはすべてのトラフィックを許可するためです。
  - すべてのアクセス リストには、少なくとも 1 つの **permit** ステートメントが必要です。**permit** がないと、すべてのパケットは拒否され、トラフィックはまったく通過しません。
  - 最初に (**permit** または **deny** ステートメントに対する) 一致が見つかった後は条件のテストが終了するため、パケットが一致する可能性の高いステートメントをアクセスリストの先頭に配置すると処理にかかる時間とリソースが削減されます。最も頻繁に発生する条件を発生頻度の低い条件より前に配置します。
  - ネットワークまたはサブネットのより具体的な参照が、より全般的な参照よりも前に出現するように、アクセス リストを構成します。
  - まだ拒否されていないその他のパケットすべてを許可する場合、ステートメント **permit any any** を使用します。ステートメント **permit any any** を使用すると、実質的に、アクセスリストの末尾にある暗黙的な **deny** ステートメントでその他すべてのパケットが拒否されることを防ぎます。最初のアクセス リストエントリは **permit any any** にしないでください。すべてのトラフィックが通過し、以降のテストに到達するパケットがなくなります。**permit any any** を指定すると、まだ拒否されていないすべてのトラフィックが通過します。
  - すべてのアクセス リストは暗黙的な **deny** ステートメントで終了しますが、明示的な **deny** ステートメント (たとえば **deny ip any any**) の使用を推奨します。ほとんどのプラットフォームでは、**show access-list** コマンドを発行して拒否されるパケット数を表示し、アクセス リストが許可していないパケットに関する詳細情報を調査できます。明示的な **deny** ステートメントで拒否されたパケットのみがカウントされます。これは、明示的な **deny** ステートメントによって、より詳細なデータが生成されるためです。
  - アクセス リストの作成中、または作成後に、エントリを削除する場合があります。
    - 番号付きアクセスリストからはエントリを削除できません。削除しようとする、アクセス リスト全体が削除されます。エントリを削除する必要がある場合、アクセス リスト全体を削除してから最初から作り直す必要があります。
    - 名前付きアクセス リストからはエントリを削除できます。**no permit** または **no deny** コマンドを使用すると、適切なエントリが削除されます。
  - 個々のステートメントの用途をひと目で確認および理解しやすくするために、**remark** コマンドを使用して、ステートメントの前後に役立つ注記を書き込むことができます。
  - 特定のホストまたはネットワークに対するアクセスを拒否し、そのネットワークまたはホストの誰かがアクセスしようとしたかどうかを検出する場合、対応する **deny** ステートメントを指定した **log** キーワードを含めます。それによって、その送信元からの拒否されたパケットがログに記録されます。
  - このヒントは、アクセスリストの配置に適用されます。リソースを保存しようとする、インバウンドアクセスリストでは常にフィルタ条件を適用した後に、ルーティングテーブ

ルの検索を行います。アウトバウンドアクセスリストではフィルタ条件を適用する前に、ルーティングテーブルの検索を行います。

- 新しい ACL ステートメントを追加する前に、パーサーが削除をクリーンアップする時間を確保します。

## 送信元アドレスと宛先アドレス

IP パケットの送信元アドレスと宛先アドレスのフィールドは、アクセスリストの基礎となる典型的な2つのフィールドです。送信元アドレスを指定して、特定のネットワークングデバイスまたはホストから送信されるパケットを制御します。宛先アドレスを指定して、特定のネットワークングデバイスまたはホストに送信されるパケットを制御します。

## ワイルドカードマスクおよび暗黙のワイルドカードマスク

アドレスフィルタリングでは、アクセスリストエン트리内のアドレスビットとアクセスリストに送信されるパケットを比較する際、対応する IP アドレス ビットを確認するか無視するかを決定するために、ワイルドカードマスクが使用されます。管理者は、ワイルドカードマスクを慎重に設定することにより、許可または拒否のテストに1つまたは複数の IP アドレスを選択できます。

IP アドレス ビット用のワイルドカードマスクでは、数値 1 と数値 0 を使用して、対応する IP アドレス ビットをどのように扱うかを指定します。1 と 0 は、サブネット（ネットワーク）マスクで意味する内容が対照的なため、ワイルドカードマスクは逆マスクとも呼ばれます。

- ワイルドカードマスク ビット 0 は、対応するビット値を確認することを示します。
- ワイルドカードマスク ビット 1 は、対応するビット値を無視することを示します。

アクセスリストステートメントの送信元アドレスまたは宛先アドレスでワイルドカードマスクを指定しない場合、0.0.0.0 というデフォルトのワイルドカードマスクが想定されます。

サブネットマスクでは、ネットワークとサブネットを示す隣接ビットをマスクにする必要がありますが、それとは異なり、ワイルドカードマスクではマスクに非隣接ビットを使用できます。

## トランスポート層の情報

トランスポート層の情報（パケットが TCP、UDP、Internet Control Message Protocol（ICMP）または Internet Group Management Protocol（IGMP）パケットであるか、などの情報）に基づいてパケットをフィルタできます。

## 利点：IP アクセスリスト エントリ シーケンス番号

IP アクセスリスト エントリにシーケンス番号を適用する機能によって、アクセスリストの変更が簡易になります。IP アクセスリスト エントリ シーケンス番号機能の前には、アクセスリ

リスト内のエントリの位置を指定する方法はありませんでした。既存のリストの途中にエントリ（ステートメント）を挿入するには、目的の位置の後ろにあるすべてのエントリを削除する必要があります。次に、新しいエントリを追加したら、先に削除したすべてのエントリを再入力する必要があります。これは手間がかかり、エラーが起りやすい方法です。

IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号機能を使用すると、アクセス リスト エントリにシーケンス番号を追加し、リスト内のエントリを並べ替えることができます。新しいエントリを追加する場合、アクセス リストの目的の位置にエントリが挿入されるようにシーケンス番号を選択できます。必要に応じて、アクセス リストの現在のエントリを並べ替えて、新しいエントリを挿入できる場所を作成できます。

## シーケンス番号の動作

- 以前のリリースとの下位互換性を保つため、シーケンス番号のないエントリが適用された場合には、最初のエントリにはシーケンス番号 10 が割り当てられます。連続してエントリを追加すると、シーケンス番号は10ずつ増分されます。最大シーケンス番号は2147483647です。生成したシーケンス番号がこの最大値を超えると、次のメッセージが表示されません。

Exceeded maximum sequence number.

- シーケンス番号のないエントリを1つ入力すると、アクセス リストの最後のシーケンス番号に 10 を加えたシーケンス番号が割り当てられ、リストの末尾に配置されます。
- (シーケンス番号以外が) 既存のエントリに一致するエントリを入力すると、何も変更されません。
- 既存のシーケンス番号を入力すると、次のエラー メッセージが表示されます。

Duplicate sequence number.

- グローバル コンフィギュレーション モードで新しいアクセス リストを入力すると、そのアクセス リストのシーケンス番号が自動的に生成されます。
- 完全修飾32ビットホストアドレスを含むエントリは、リンクされずにハッシュされます。また、サブネットを定義するエントリは、ACL分類の迅速化のために、シーケンス番号でソートされたリンクリストで維持されます。パケットが標準 ACL と照合されると、送信元アドレスがハッシュされ、ハッシュテーブルと照合されます。一致するものが見つからない場合は、リンクリストで一致する可能性のあるものが検索されます。
- ルート プロセッサ (RP) のエントリとラインカード (LC) のエントリのシーケンス番号を常に同期できるように、分散機能がサポートされています。
- シーケンス番号が不揮発性生成 (NVGEN) されることはありません。つまり、シーケンス番号自体は保存されません。システムのリロード時には、設定されたシーケンス番号はデフォルトのシーケンス開始番号とその番号からの増分に戻されます。この機能は、シーケンス番号をサポートしないソフトウェアリリースとの下位互換性を保つために提供されています。

- IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号機能では、名前付き標準アクセスリストと拡張 IP アクセス リストが使用されます。アクセス リストの名前を番号として指定できるため、番号も使用できます。

## IP アクセス リストでのシーケンス番号の使用法

### アクセス リスト エントリの順序付けとアクセス リストの変更

ここでは、名前付き IP アクセス リストのエントリにシーケンス番号を割り当てる方法と、アクセスリストに対するエントリの追加または削除を行う方法を説明します。この作業を実行する場合は、次の点に注意してください。

- アクセス リスト エントリの並べ替えは任意です。この作業での並べ替えのステップは、機能の目的の1つであり、またその機能の説明が必要と思われることから、必要に応じて説明します。
- 次の手順で、**permit** コマンドはステップ 5 に、**deny** コマンドはステップ 6 に記載されています。ただし、その順番を入れ替えることもできます。設定のニーズに合わせた順番を使用します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list resequence** *access-list-name starting-sequence-number increment*
4. **ip access-list** {**standard**| **extended**} *access-list-name*
5. 次のいずれかを実行します。
  - *sequence-number* **permit** *source source-wildcard*
  - *sequence-number* **permit** *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [ **precedence** *precedence* ] [ **tos** *tos* ] [ **log** ] [ **time-range** *time-range-name* ] [ **fragments** ]
6. 次のいずれかを実行します。
  - *sequence-number* **deny** *source source-wildcard*
  - *sequence-number* **deny** *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [ **precedence** *precedence* ] [ **tos** *tos* ] [ **log** ] [ **time-range** *time-range-name* ] [ **fragments** ]
7. 次のいずれかを実行します。
  - *sequence-number* **permit** *source source-wildcard*
  - *sequence-number* **permit** *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [ **precedence** *precedence* ] [ **tos** *tos* ] [ **log** ] [ **time-range** *time-range-name* ] [ **fragments** ]
8. 次のいずれかを実行します。
  - *sequence-number* **deny** *source source-wildcard*

• *sequence-number deny protocol source source-wildcard destination destination-wildcard*  
 [ *precedence precedence*][ *tos tos*] [log] [ *time-range time-range-name*] [fragments]

9. 必要に応じてシーケンス番号ステートメントを追加するには、ステップ 5 とステップ 6 を繰り返します。
10. **end**
11. **show ip access-lists** *access-list-name*

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list resequence</b> <i>access-list-name</i> <i>starting-sequence-number increment</i> <b>Example:</b>  Device(config)# ip access-list resequence kmd1 100 15	開始シーケンス番号と、シーケンス番号の増分を使用して、指定した IP アクセスリストを並べ替えます。
ステップ 4	<b>ip access-list</b> { <b>standard</b>   <b>extended</b> } <i>access-list-name</i> <b>Example:</b>  Device(config)# ip access-list standard kmd1	名前前で IP アクセスリストを指定し、名前付きアクセスリストのコンフィギュレーションモードを開始します。  • <b>standard</b> を指定する場合は、その後に、標準アクセスリスト構文を使用して <b>permit</b> ステートメントまたは <b>deny</b> ステートメントを指定します。  • <b>extended</b> を指定する場合は、その後に、拡張アクセスリスト構文を使用して <b>permit</b> ステートメントまたは <b>deny</b> ステートメントを指定します。
ステップ 5	次のいずれかを実行します。  • <i>sequence-number permit source</i> <i>source-wildcard</i>	名前付き IP アクセスリストモードで <b>permit</b> ステートメントを指定します。

	Command or Action	Purpose
	<ul style="list-style-type: none"> <li><i>sequence-number</i> <b>permit</b> <i>protocol source source-wildcard destination destination-wildcard</i> [<b>precedence</b> <i>precedence</i>][<b>tos</b> <i>tos</i>] [<b>log</b>] [<b>time-range</b> <i>time-range-name</i>] [<b>fragments</b>]</li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-std-nacl)# 105 permit 10.5.5.5 0.0.0 255</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このアクセス リストでは <b>permit</b> ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、<b>deny</b> ステートメントが最初に使用される可能性もあります。</li> <li>プロンプトに示されるとおり、このアクセス リストは標準アクセス リストでした。ステップ4で <b>extended</b> を指定した場合は、このステップのプロンプトは Device(config-ext-nacl) となり、拡張 <b>permit</b> コマンドシンタックスを使用します。</li> </ul>
<p><b>ステップ 6</b></p>	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>sequence-number</i> <b>deny</b> <i>source source-wildcard</i></li> <li><i>sequence-number</i> <b>deny</b> <i>protocol source source-wildcard destination destination-wildcard</i> [<b>precedence</b> <i>precedence</i>][<b>tos</b> <i>tos</i>] [<b>log</b>] [<b>time-range</b> <i>time-range-name</i>] [<b>fragments</b>]</li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-std-nacl)# 105 deny 10.6.6.7 0.0.0 255</pre>	<p>(任意) 名前付き IP アクセスリストモードで <b>deny</b> ステートメントを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このアクセス リストでは <b>permit</b> ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、<b>deny</b> ステートメントが最初に使用される可能性もあります。</li> <li>プロンプトに示されるとおり、このアクセス リストは標準アクセス リストでした。ステップ4で <b>extended</b> を指定した場合は、このステップのプロンプトは Device(config-ext-nacl) となり、拡張 <b>deny</b> コマンドシンタックスを使用します。</li> </ul>
<p><b>ステップ 7</b></p>	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>sequence-number</i> <b>permit</b> <i>source source-wildcard</i></li> <li><i>sequence-number</i> <b>permit</b> <i>protocol source source-wildcard destination destination-wildcard</i> [<b>precedence</b> <i>precedence</i>][<b>tos</b> <i>tos</i>] [<b>log</b>] [<b>time-range</b> <i>time-range-name</i>] [<b>fragments</b>]</li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ext-nacl)# 150 permit tcp any any log</pre>	<p>名前付き IP アクセスリストモードで <b>permit</b> ステートメントを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このアクセス リストでは <b>permit</b> ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、<b>deny</b> ステートメントが最初に使用される可能性もあります。</li> <li>上位層プロトコル (ICMP、IGMP、TCP、およびUDP) を許可するその他のコマンドシンタックスについては、<b>permit</b> (IP) コマンドを参照してください。</li> <li>エントリを削除するには、<b>no sequence-number</b> コマンドを使用します。</li> </ul>
<p><b>ステップ 8</b></p>	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>sequence-number</i> <b>deny</b> <i>source source-wildcard</i></li> </ul>	<p>(任意) 名前付き IP アクセスリストモードで <b>deny</b> ステートメントを指定します。</p>

	Command or Action	Purpose
	<ul style="list-style-type: none"> <li><code>sequence-number deny protocol source source-wildcard destination destination-wildcard [ precedence precedence][ tos tos] [log] [ time-range time-range-name] [fragments]</code></li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ext-nacl)# 150 deny tcp any any log</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このアクセスリストでは <b>permit</b> ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、<b>deny</b> ステートメントが最初に使用される可能性もあります。</li> <li>上位層プロトコル (ICMP、IGMP、TCP、およびUDP) を許可するその他のコマンドシンタックスについては、<b>deny (IP)</b> コマンドを参照してください。</li> <li>エントリを削除するには、<b>no sequence-number</b> コマンドを使用します。</li> </ul>
ステップ 9	必要に応じてシーケンス番号ステートメントを追加するには、ステップ 5 とステップ 6 を繰り返します。	アクセスリストは変更できます。
ステップ 10	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-std-nacl)# end</pre>	(任意) コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	<p><b>show ip access-lists access-list-name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# show ip access-lists kmdl</pre>	(任意) IP アクセスリストの内容を表示します。

### 例

アクセスリストに新しいエントリが含まれていることを確認するには、**show ip access-lists** コマンドの出力を確認します。

```
Device# show ip access-lists kmdl

Standard IP access list kmdl
100 permit 10.4.4.0, wildcard bits 0.0.0.255
105 permit 10.5.5.0, wildcard bits 0.0.0.255
115 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
130 permit 10.5.5.0, wildcard bits 0.0.0.255
145 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
```



## IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号の設定例

### 例：アクセス リストのエントリの並べ替え

次に、アクセスリストを並べ替える例を示します。開始値は1、増分値は2です。後続のエントリは指定の増分値に基づいて並べられています。範囲は1～2147483647です。

シーケンス番号のないエントリが入力されると、デフォルトで、アクセスリストの最後のエントリのシーケンス番号に10を加えたシーケンス番号が割り当てられます。

```
Device# show access-list 150

Extended IP access list 150
 10 permit ip host 10.3.3.3 host 172.16.5.34
 20 permit icmp any any
 30 permit tcp any host 10.3.3.3
 40 permit ip host 10.4.4.4 any
 50 Dynamic test permit ip any any
 60 permit ip host 172.16.2.2 host 10.3.3.12
 70 permit ip host 10.3.3.3 any log
 80 permit tcp host 10.3.3.3 host 10.1.2.2
 90 permit ip host 10.3.3.3 any
100 permit ip any any

Device(config)# ip access-list extended 150
Device(config)# ip access-list resequence 150 1 2
Device(config)# exit
```

```
Device# show access-list 150

Extended IP access list 150
 1 permit ip host 10.3.3.3 host 172.16.5.34
 3 permit icmp any any
10 permit tcp any any eq 22 log
 5 permit tcp any host 10.3.3.3
 7 permit ip host 10.4.4.4 any
 9 Dynamic test permit ip any any
11 permit ip host 172.16.2.2 host 10.3.3.12
13 permit ip host 10.3.3.3 any log
15 permit tcp host 10.3.3.3 host 10.1.2.2
17 permit ip host 10.3.3.3 any
19 permit ip any any
```

### 例：シーケンス番号を持つエントリの追加

次に、指定のアクセスリストに新しいエントリを追加する例を示します。

```
Device# show ip access-list

Standard IP access list tryon
 2 permit 10.4.4.2, wildcard bits 0.0.255.255
 5 permit 10.0.0.44, wildcard bits 0.0.0.255
10 permit 10.0.0.1, wildcard bits 0.0.0.255
20 permit 10.0.0.2, wildcard bits 0.0.0.255
```

例：シーケンス番号のないエントリ

```

Device(config)# ip access-list standard tryon
Device(config-std-nacl)# 15 permit 10.5.5.5 0.0.0.255
Device(config-std-nacl)# exit
Device(config)# exit
Device# show ip access-list

Standard IP access list tryon
2 permit 10.4.0.0, wildcard bits 0.0.255.255
5 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
10 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
15 permit 10.5.5.0, wildcard bits 0.0.0.255
20 permit 10.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255

```

## 例：シーケンス番号のないエントリ

次に、シーケンス番号が指定されていないエントリをアクセスリストの末尾に追加する方法を示します。シーケンス番号のないエントリを追加すると、自動的にシーケンス番号が割り当てられ、アクセスリストの末尾に配置されます。デフォルトの増分値は 10 であるため、エントリには、既存のアクセスリストの最後のエントリのシーケンス番号に 10 を加えたシーケンス番号が割り当てられます。

```

Device(config)# ip access-list standard 1
Device(config-std-nacl)# permit 10.1.1.1 0.0.0.255
Device(config-std-nacl)# permit 10.2.2.2 0.0.0.255
Device(config-std-nacl)# permit 10.3.3.3 0.0.0.255
Device(config-std-nacl)## exit
Device# show access-list

Standard IP access list 1
10 permit 0.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
20 permit 0.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
30 permit 0.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255

Device(config)# ip access-list standard 1
Device(config-std-nacl)# permit 10.4.4.4 0.0.0.255
Device(config-std-nacl)# end
Device(config-std-nacl)## exit
Device# show access-list

Standard IP access list 1
10 permit 0.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
20 permit 0.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
30 permit 0.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255
40 permit 0.0.0.0, wildcard bits 0.0.0.255

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティコマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上のガイドライン、および例	『Cisco IOS Security Command Reference』
セキュア シェル	セキュア シェルおよびセキュア シェルバージョン 2 サポート設定の機能モジュール。
認証と認可の設定	認証設定、認可設定、およびアカウンティング設定の機能モジュール。

**標準**

標準	タイトル
なし	--

**MIB**

MIB	MIB のリンク
なし	選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

**RFC**

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 57: IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号		<p><b>permit</b> または <b>deny</b> ステートメントにシーケンス番号を適用し、名前付き IP アクセス リストで、該当するステートメントの再整理、追加、または削除を行うことができます。この機能により、IP アクセス リストを簡単に変更できるようになります。この機能が実装される前は、アクセスリストの最後にエントリを追加することしかできませんでした。そのため、末尾以外の任意の場所にステートメントを追加する必要があるときは、アクセスリスト全体を再設定する必要がありました。</p> <p>では、Cisco Catalyst 3850 シリーズ スイッチのサポートが追加されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>deny (IP)</b>、<b>ip access-list resequence deny (IP)</b>、<b>permit (IP)</b></p>



## CHAPTER 37

# ロックアンドキーセキュリティの設定 (ダイナミックアクセスリスト)

### 機能の履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS	Cisco IOS ソフトウェアの機能サポートに関する情報については、Cisco Feature Navigator を使用してください。

この章では、ルータでロックアンドキーセキュリティを設定する方法について説明します。ロックアンドキーは、IPプロトコルで使用可能なトラフィックフィルタリングセキュリティ機能です。

ロックアンドキーコマンドの詳細な説明については、『Cisco IOS セキュリティ コマンドリファレンス』を参照してください。この章で使用されたその他のコマンドの詳細については、コマンドリファレンスマスタインデックスを使用するか、オンラインで検索してください。

機能に関連付けられたハードウェアプラットフォームまたはソフトウェアイメージの情報を識別するには、Cisco.com の Feature Navigator を使用して機能についての情報を検索するか、特定のリリースのソフトウェアリリースノートを参照してください。

- [ロックアンドキーの設定の必須条件, on page 493](#)
- [ロックアンドキーセキュリティ \(ダイナミックアクセスリスト\) の設定に関する情報, on page 494](#)
- [ロックアンドキーセキュリティ \(ダイナミックアクセスリスト\) の設定方法, on page 500](#)
- [ロックアンドキーの設定例, on page 503](#)

## ロックアンドキーの設定の必須条件

ロックアンドキーは、IP 拡張アクセスリストを使用します。ロックアンドキーを設定しようとする前に、アクセスリストを使用してトラフィックをフィルタする方法について確実に理解する必要があります。アクセスリストについては、「アクセスコントロールリスト：概要および指針」を参照してください。

ロックアンドキーは、Ciscoの認証、許可、アカウントिंग（AAA）の枠組みで実装されているように、ユーザー認証と認可を使用します。ロックアンドキーを設定する前に、AAAユーザー認証、許可、アカウントングの設定方法について理解する必要があります。ユーザー認証および認可は、本書の「認証、認可、アカウントング（AAA）」のセクションで説明します。

ロックアンドキーは、理解する必要のある **autocommand** コマンドを使用します。このコマンドは、『Cisco IOS Terminal Services コマンドリファレンス』を参照してください。

## ロックアンドキーセキュリティ（ダイナミックアクセスリスト）の設定に関する情報

### ロックアンドキーについて

ロックアンドキーは、IPプロトコルトラフィックを動的にフィルタするトラフィックフィルタリングセキュリティ機能です。ロックアンドキーは、IPダイナミック拡張アクセスリストを使用して設定されます。ロックアンドキーは、その他の標準アクセスリストとスタティック拡張アクセスリストと共に使用できます。

ロックアンドキーが設定されると、IPトラフィックが通常ルータではブロックされる指定されたユーザーは、ルータ経由で一時的なアクセスを得ることができます。起動されると、ロックアンドキーは、指定されたユーザーに指定されたホストに到達することを許可するよう、インターフェイスの既存のIPアクセスリストを再設定します。その後、ロックアンドキーは、インターフェイスを元の状態に戻すよう、再設定します。

ユーザーがロックアンドキーが設定されたルータを介してホストへのアクセスできるようにするため、ユーザーは、最初にルータにTelnetセッションを開く必要があります。ユーザーがルータに標準Telnetセッションを開始すると、ロックアンドキーは、自動的にユーザーを認証しようとします。ユーザーが認証されると、ルータを通じて、一時的なアクセスを取得し、宛先ホストに到達できます。

### ロックアンドキーの利点

ロックアンドキーは、標準およびスタティック拡張アクセスリストと同じ利点があります（これらの利点については、「アクセスコントロールリスト：概要および指針」で説明します）。ただし、ロックアンドキーには、標準およびスタティック拡張アクセスリストに比べ、次の利点もあります。

- ロックアンドキーは、個々のユーザーを認証するために実験機能を使用します。
- ロックアンドキーは、より大きなインターネットワークにおけるより簡素な管理を提供します。
- 多くの場合、ロックアンドキーは、アクセスリストに必要なルータ処理の量を減らします。

- ロックアンドキーは、ネットワークハッカーが、ネットワークへの侵入する可能性を減らします。

ロックアンドキーを使用すると、送信元および宛先がホストとなるアクセスをどのユーザーに許可するかを指定できます。これらのユーザーは、指定されたホストへのアクセスが許可される前に、ユーザー認証プロセスをパスする必要があります。ロックアンドキーは、その他の設定されたセキュリティ制約事項を損なうことなく、ファイアウォールを通じてダイナミックユーザーアクセスを作成します。

## ロックアンドキーを使用するタイミング

ロックアンドキーを使用するタイミングの2つの例を以下に示します。

- 特定のリモートユーザー（またはリモートユーザーのグループに）が、インターネットを介して、そのリモートホストから接続して、ネットワーク内のホストへのアクセスを必要とする場合。ロックアンドキーは、ユーザーを認証し、次に、個々のホストまたはサブネットに対して、限られた時間の間、ファイアウォールを介した限られたアクセスを許可します。
- ローカルネットワーク上のホストのサブセットがファイアウォールによって保護されたリモートネットワーク上のホストにアクセスする必要がある場合。ロックアンドキーを使用すると、ローカルユーザーが必要とするホストのセットに対してのみリモートホストへのアクセスを有効にすることができます。ロックアンドキーは、ホストがリモートホストリモートへアクセスすることを許可する前に、ユーザーがTACACS+サーバー、もしくはその他のサーバーを通じて、認証を行うことを必要とします。

## ロックアンドキーの機能

次のプロセスは、ロックアンドキーアクセスの動作を説明します。

1. ユーザーは、ロックアンドキー用に設定された境界（ファイアウォール）ルータへのTelnetセッションを開きます。ユーザーは、ルータ上の仮想端末ポートを介して接続します。
2. Cisco IOS ソフトウェアは、Telnet パケットを受信し、Telnet セッションを開いてパスワードを要求し、ユーザー認証プロセスを実行します。ユーザーは、ルータを介したアクセスが許可される前に、認証をパスする必要があります。認証プロセスは、ルータ、またはTACACS+またはRADIUSサーバーなどの中央アクセスセキュリティサーバーでも実行することもできます。
3. ユーザーが認証をパスすると、Telnetセッションからログアウトし、ソフトウェアがダイナミックアクセスリストに一時的なエントリを作成します。（設定ごとに、この一時エントリは、ユーザーが一時的なアクセスを与えられるネットワークの範囲を制限できます。）
4. ユーザーは、ファイアウォール経由でのデータを交換します。

5. ソフトウェアは、設定されているタイムアウトに到達するか、システム管理者が手動でクリアした場合に、一時的なアクセスリスト エントリを削除します。設定されているタイムアウトは、アイドルタイムアウトまたは絶対タイムアウトのいずれかになることがあります。



**Note** ユーザーがセッションを終了させた場合、一時アクセスリスト エントリは、自動的に削除されません。一時アクセスリストのエントリは、設定されているタイムアウトに到達するか、システム管理者がクリアされるまで保持されます。

## Cisco IOS リリース 11.1 以前のリリースとの互換性

**access-list** コマンドの拡張機能は、ロック アンド キーに使用されます。これらの機能拡張は、下位互換性があります。Cisco IOS リリース 11.1 以前のリリースから新しいリリースに移行する場合、アクセスリストは、機能拡張を反映するために、自動的に変換されます。ただし、次の注意の項で説明されているように、Cisco IOS リリース 11.1 以前のリリースでロック アンド キーを使用しようとする、問題が発生する可能性があります。



**Caution** Cisco IOS リリース 11.1 以前のリリースは、ロック アンド キー アクセス リスト拡張機能と互換性がありません。そのため、リリース 11.1 以前のソフトウェアでアクセスリストを保存し、このソフトウェアを使用する場合、作成されたアクセスリストは、正しく解釈されません。これによって、深刻なセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。これらのファイルと共に画像をブートする前に、Cisco IOS リリース 11.1 以降のソフトウェアを使用して、古い設定ファイルを保存する必要があります。

## ロック アンド キーによるスプーフィングのリスク



**Caution** ロック アンド キー アクセスを使用すると、外部イベント (Telnet セッション) がファイアウォールに穴を開けることができます。この穴がある間、ルータは、送信元アドレスのスプーフィングを受ける可能性があります。

ロック アンド キー が起動されると、ユーザー アクセスを許可するインターフェイスを一時的に再設定することで、ファイアウォール内に動的な穴が作成されます。この穴がある間は、別のホストが認証済みのユーザーのアドレスを偽装し、ファイアウォールの裏でのアクセスを獲得する可能性があります。ロック アンド キーは、アドレス スプーフィングの問題を発生させません。この問題は、ユーザーの関心事としてここに特定されるだけです。スプーフィングは、すべてのアクセス リストに伴う問題であり、ロック アンド キーは、この問題に具体的に対処していません。



スプーフィングを防ぐには、リモートホストからのトラフィックがセキュアなリモートルータで暗号化され、ロックアンドキーを提供するルータインターフェイス上でローカルで復号化されるように暗号化を設定します。ルータの入力時に、ロックアンドキーを使用して、すべてのトラフィックを暗号化したい場合、ハッカーは、それらが暗号化を複製できないか、暗号化のセットアッププロセスの必要な部分として認証できないため、送信元アドレスをスプーフィングすることはできません。

## ロックアンドキーによるルータのパフォーマンスへの影響

ロックアンドキーを設定すると、ルータのパフォーマンスは、次のように影響を受ける場合があります。

- ロックアンドキーが起動されると、ダイナミックアクセスリストは、シリコンスイッチングエンジン（SSE）上でのアクセスリストの再構成が強制されます。これによって、SSEスイッチングパスが一瞬低速になります。
- ダイナミックアクセスリストは、アイドルタイムアウト機能（タイムアウトがデフォルトになったとしても）を必要とし、SSEスイッチングにすることはできません。これらのエントリは、プロトコルファストスイッチングパスで処理する必要があります。
- リモートユーザーが境界ルータでロックアンドキーを起動すると、追加のアクセスリストエントリが境界ルータインターフェイスで作成されます。インターフェイスのアクセスリストが動的に拡大および縮小します。エントリは、アイドルタイムアウトまたは最大タイムアウト期間が経過すると、動的に削除されます。アクセスリストが大きくなると、パケット交換のパフォーマンスが低下し、パフォーマンスの問題の劣化を通知する場合、ロックアンドキーによって生成された一時アクセスリストエントリを削除するかどうかを確認するために、境界ルータの設定を確認する必要があります。

## ロックアンドキーの保守

ロックアンドキーを使用中の場合、ダイナミックアクセスリストは、認証エントリの追加および削除に伴って動的に増減します。エントリが存在しても、スプーフィング攻撃のリスクがあるため、タイムリーにエントリが削除されていることを確認する必要があります。また、エントリの数が増えれば、ルータのパフォーマンスへの影響も大きくなります。

アイドルまたは絶対タイムアウトを設定していない場合、エントリは、ダイナミックアクセスリストエントリを手動で削除するまで維持されます。この場合、エントリの削除について配慮してください。

## ダイナミックアクセスリスト

ダイナミックアクセスリストを設定する場合は、次のガイドラインを参照してください。

- いずれか1つのアクセスリストに対して複数のダイナミックアクセスリストを作成しないで下さい。ソフトウェアは、定義された最初のダイナミックアクセスリストだけを参照します。

- 別のアクセスリストに同じ名前を割り当てないで下さい。そうすることで、既存のリストを再利用するように、ソフトウェアに指示します。すべての名前付きエントリーは、設定内でグローバルに一意である必要があります。
- スタティック アクセス リストに属性を割り当てるのと同じ方法で、ダイナミック アクセス リストに属性を割り当てます。一時アクセス リスト エントリーは、このリストに割り当てられているアトリビュートを継承します。
- ルータ経由でのアクセスが許可される前に、ユーザーが認証する必要があるルータに対する Telnet セッションを開く必要があるよう、プロトコルとして Telnet を設定します。
- 今度は、**autocommand** 内の **access-enable** コマンド内の **timeout** キーワードで、アイドルタイムアウトを定義するか、後で、**access-list** コマンドで絶対タイムアウト値を定義します。アイドルタイムアウトまたは絶対タイムアウトを定義する必要があります。そうしないと、一時的なアクセス リスト エントリーは、管理者が手動でエントリーを削除するまで（ユーザーがセッションを終了した後でも）、インターフェイスで永久に設定されたままになります。（必要に応じて、アイドルタイムアウトと絶対タイムアウトの両方を設定することもできます）。
- アイドルタイムアウトを設定する場合、アイドルタイムアウト値は、WAN アイドルタイムアウト値と等しくなる必要があります。
- アイドルタイムアウトと絶対タイムアウトの両方を設定する場合、アイドルタイムアウト値は、絶対タイムアウト値未満である必要があります。
- ジョブが ACL の絶対タイマーを超えて動作していることを認識した場合、**access-list dynamic-extend** コマンドを使用して、6 分ほどダイナミック ACL の絶対タイマーを拡張します。このコマンドにより、ロック アンド キーを使用して、自身を再認証するため、ルータに新しい Telnet セッションを開くことができます。
- 一時的なエントリーで置換される唯一の値は、入力アクセス リストまたは出力アクセス リスト内にアクセスリストがあったかどうかに応じて、送信元または宛先アドレスになります。ポートなどの他の属性はすべて、メインのダイナミック アクセス リストから引き継がれます。
- ダイナミック リストへの追加はそれぞれ、ダイナミック リストの先頭に常に配置されます。一時アクセス リスト エントリーの順序を指定することはできません。
- 一時アクセス リスト エントリーが NVRAM には書き込まれません。
- ダイナミック アクセス リストを手動でクリアまたは表示するには、この章で後述される「ロック アンド キーの維持」を参照して下さい。

## ロック アンド キー認証

認証問い合わせプロセスを設定するには、3つの方法があります。この項では、これら3つの方法について説明します。



**Note** Cisco は、認証問い合わせプロセスには、TACACS+ サーバーを使用することを推奨します。TACACS+ は、認証、許可、アカウントिंग サービスを提供します。また、プロトコル サポート、プロトコル仕様、および中央集中型セキュリティデータベースも提供します。TACACS+ サーバーの使用については、次項「方法 1 -- セキュリティ サーバーの設定」で説明します。

TACACS+ サーバーなどのネットワーク アクセス セキュリティ サーバーを使用します。この方法には、TACACS+ サーバーでの追加設定手順が必要になりますが、より厳しい認証問い合わせとより高度な追跡機能が可能になります。

```
Router(config-line)# login tacacs
```

**username** コマンドを使用します。この方法では、認証はユーザー単位で決定するため、効果的です。

```
Router(config)# username
```

```
name
 {nopassword
 |
 password
 {
 mutual-password
 |
 encryption-type

 encryption-password
 }}
```

**password** および **login** コマンドを使用します。この方法は、パスワードがユーザーではなく、このポートに設定されているため、有効ではありません。そのため、パスワードを知っているすべてのユーザーが正常に認証できます。

```
R
outer(config-line)# password

password
Router(config-line)# login local
```

## autocommand コマンド

**autocommand** コマンドは、ユーザーが特定の回線に接続する際に、システムが指定されている特権 EXEC コマンドを自動的に実行するように設定します。**autocommand** コマンドの設定のための次のガイドラインを使用します。

- ユーザーを認証するために TACACS+ サーバーを使用する場合、TACACS+ サーバー上で、ユーザーごとの **autocommand** として、**autocommand** コマンドを設定する必要があります。ローカル認証を使用する場合、回線上で **autocommand** コマンドを使用します。
- 同じ **autocommand** コマンドで、すべての仮想端末 (VTY) ポートを設定します。VYT ポートで **autocommand** コマンドを省略すると、任意のホストがルータの特権 EXEC モー

ドへのアクセスを許可し、ダイナミックアクセスリスト内の一時アクセスリストエントリを作成しません。

- **autocommand access-enable** コマンドでアイドルタイムアウトを定義しない場合、**access-list** コマンドで絶対タイムアウトを定義する必要があります。アイドルタイムアウトまたは絶対タイムアウトを定義する必要があります。そうしないと、一時的なアクセスリストエントリは、エントリが管理者によって手動で削除されるまで（ユーザーがセッションを終了した後も）インターフェイスで永久に設定されたままになります。（必要に応じて、アイドルタイムアウトと絶対タイムアウトの両方を設定することもできます）。
- アイドルタイムアウトと絶対タイムアウトの両方を設定する場合、絶対タイムアウト値は、アイドルタイムアウト値よりも大きくする必要があります。

## ロックアンドキーセキュリティ（ダイナミックアクセスリスト）の設定方法

### ロックアンドキーの設定

ロックアンドキーを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。次の手順を実行する際、この章の「ロックアンドキー設定のガイドライン」に記載されているガイドラインに従っていることを確認します。

#### SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **access-list** *access-list-number* [**dynamic** *dynamic-name* [**timeout** *minutes*]] {**deny** | **permit**} **telnet** *source source-wildcard destination destination-wildcard* [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**established**] [**log**]
2. Router(config)# **access-list dynamic-extend**
3. Router(config)# **interface** *type number*
4. Router(config-if)# **ip access-group** *access-list-number*
5. Router(config-if)# **exit**
6. Router(config)# **line vty** *line-number* [*ending-line-number*]
7. 次のいずれかを実行します。
  - Router(config-line)# **login tacacs**
  - 
  - Router(config-line)# **password** *password*
8. 次のいずれかを実行します。
  - Router(config-line)# **autocommand access-enable** [**host**] [**timeout** *minutes*]
  - 
  - Router# **access-enable** [**host**] [**timeout** *minutes*]

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>access-list</b> <i>access-list-number</i> [ <b>dynamic</b> <i>dynamic-name</i> [ <b>timeout</b> <i>minutes</i> ]] { <b>deny</b>   <b>permit</b> } <b>telnet</b> <i>source source-wildcard destination destination-wildcard</i> [ <b>precedence</b> <i>precedence</i> ] [ <b>tos</b> <i>tos</i> ] [ <b>established</b> ] [ <b>log</b> ]	一時アクセスリストエントリのテンプレートとプレースホルダとして動作するダイナミックアクセスリストを設定します。
ステップ 2	Router(config)# <b>access-list dynamic-extend</b>	(任意) ロックアンドキーを使用して、自分の再認証を実行するようにルータに別の Telnet セッションを開く際に、6分ごとのダイナミック ACL の絶対タイマーを拡張します。ジョブが ACL の絶対タイマー前を実行する場合に、このコマンドを使用します。
ステップ 3	Router(config)# <b>interface</b> <i>type number</i>	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	Router(config-if)# <b>ip access-group</b> <i>access-list-number</i>	アクセスリストをインターフェイスに適用します。
ステップ 5	Router(config-if)# <b>exit</b>	インターフェイスコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 6	Router(config)# <b>line vty</b> <i>line-number</i> [ <i>ending-line-number</i> ]	1つ以上の仮想端末 (VTY) ポートを定義し、ラインコンフィギュレーションモードを開始します。複数の VTY ポートを指定する場合、ソフトウェアがラウンドロビンベースで使用可能な VTY ポートをハントするため、個別に設定する必要があります。ロックアンドキーアクセスに対して、すべての VTY ポートを設定しない場合、ロックアンドキーサポートに対してのみ、VTY ポートのグループを指定できます。
ステップ 7	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Router(config-line)# <b>login tacacs</b></li> <li>•</li> <li>• Router(config-line)# <b>password</b> <i>password</i></li> </ul> <b>Example:</b>  Router (config-line)# <b>login local</b>  <b>Example:</b>  Router (config-line)# <b>exit</b>	回線またはグローバルコンフィギュレーションモードでユーザー認証を設定します。

	Command or Action	Purpose
	<p><b>Example:</b></p> <pre>then</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# <b>username</b> name <b>password</b> secret</pre>	
ステップ 8	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Router(config-line)# <b>autocommand</b> access-enable [host] [timeout minutes]</li> <li>•</li> <li>• Router# <b>access-enable</b> [host] [timeout minutes]</li> </ul>	<p>回線設定または特権EXECモードの一時アクセスリスト エントリを作成できます。</p> <p>回線設定モードで <b>access-enable</b> コマンドとともに <b>autocommand</b> を使用して、回線が接続されたときに、自動的にダイナミック アクセス リスト上の一時アクセス リスト エントリを作成するようシステムを設定します。</p> <p>任意の <b>host</b> キーワードを指定しないと、ネットワーク全体のすべてのホストが一時アクセス リスト エントリを設定できます。ダイナミック アクセス リストには、新しいネットワーク接続を許可するためのネットワーク マスクが含まれます。</p> <p>任意の <b>timeout</b> キーワードを指定すると、一時アクセス リストに対するアイドルタイムアウトを定義します。</p> <p>有効値の範囲は 1 ～ 9999 (分) です。</p>

## ロック アンド キーの設定の確認

ユーザーに接続をテストするように求めることで、ロック アンド キーがルータで正しく設定されていることを確認できます。ユーザーは、ダイナミック アクセス リストで許可されるホストである必要があります、ユーザーは、AAA 認証および許可を設定する必要があります。

接続をテストするには、ユーザーは、ルータへの Telnet 接続を行い、Telnet セッションを閉じる許可をし、ルータの反対側のホストへのアクセスを試みる必要があります。このホストは、ダイナミック アクセス リストによって許可されているものである必要があります。ユーザーは、IP プロトコルを使用するアプリケーションのあるホストにアクセスする必要があります。

次の例は、エンドユーザーが正常に認証された場合に、何が見えるかを示しています。パスワードが入力され、認証された後に、Telnet 接続は閉じられます。一時アクセス リスト エントリが作成され、Telnet セッションを開始したホストがファイアウォールの内側のホストにアクセスします。

```
Router% telnet corporate
Trying 172.21.52.1 ...
Connected to corporate.example.com.
Escape character is '^]'.

```

```
User Access Verification
Password:Connection closed by foreign host.
```

ユーザーは、ルータで **show access-lists** コマンドを使用して、ルータを介して、ユーザーのアクセスを許可する別のエントリを含む、ダイナミック アクセス リストを表示できます。

## ダイナミック アクセス リスト エントリの表示

一時アクセス リスト エントリは、使用中に表示できます。一時アクセス リスト エントリがユーザーまたは絶対またはアイドル タイムアウト パラメータによってクリアされた後は表示されなくなります。表示される一致の数は、アクセス リスト エントリがヒットした回数を示します。

現在確立されているダイナミック アクセス リスト エントリ リストおよび一時アクセス リスト エントリ リストを表示するには、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>show access-lists</b> [access-list-number]	ダイナミック アクセス リストおよび一時アクセス リスト エントリを表示します。

## ダイナミック アクセス リスト エントリの手動削除

一時アクセス リスト エントリを手動で削除するには、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>clear access-template</b> [access-list-number   name] [dynamic-name] [source] [destination]	ダイナミック アクセス リストを削除します。

## ロック アンド キーの設定例

### ローカル認証を使用したロック アンド キーの例

この例は、ルータで局所的に生じた認証を使って、ロック アンド キー アクセスを設定する方法を示しています。ロック アンド キーは、Ethernet 0 インターフェイスとして設定されます。

```
interface ethernet0
 ip address 172.18.23.9 255.255.255.0
 ip access-group 101 in
 access-list 101 permit tcp any host 172.18.21.2 eq telnet
 access-list 101 dynamic mytestlist timeout 120 permit ip any any
 line vty 0
```

```
login local
autocommand access-enable timeout 5
```

最初の **access-list** エントリは、ルータに Telnet だけを許可します。2 番目のアクセスリストエントリは、ロックアンドキーがトリガーされるまで常に無視されます。

**access-list** コマンドでは、タイムアウトは絶対タイムアウトです。この例では、**mytestlist** ACL の有効期間は、120 分です。つまり、ユーザーがログインし、**access-enable** コマンドを有効にすると、120 分間（最大絶対時間）有効なダイナミック ACL が作成されます。セッションは使用者の有無に関係なく、120 分後に閉じられます。

**access-enable** コマンドでは、タイムアウトは、アイドルタイムアウトです。この例では、ユーザーがログインまたは認証するたびに 5 分間セッションがあります。アクティビティがないと、セッションは 5 分後に終了し、ユーザーを再認証する必要があります。ユーザーが接続を使用すると、絶対時間が作用し、セッションは 120 分後に終了します。

ユーザーがルータへの Telnet セッションを開いた後、ルータはユーザーを認証しようとしません。認証に成功すると、**autocommand** が実行され、Telnet セッションが終了します。

**autocommand** は、2 番目のアクセスリストエントリ (**mytestlist**) に基づいて、イーサネット 0 インターフェイスで一時的な着信アクセスリストエントリを作成します。アクティビティがない場合、タイムアウトで規定されているように、この一時エントリは 5 分後に無効となります。

## TACACS+ 認証を使用したロックアンドキーの例

Cisco は、認証に TACACS+ サーバーを使用することを推奨します。以下の例を参照して下さい。

以下の例は、TACACS+ サーバーでの認証を使用して、ロックアンドキーを設定する方法について説明しています。ロックアンドキーアクセスは、**BRI0** インターフェイスで設定されません。4 つのポートは、VTY パスワード「**password1**」として定義されています。

```
aaa authentication login default group tacacs+ enable
aaa accounting exec stop-only group tacacs+
aaa accounting network stop-only group tacacs+
enable password ciscotac
!
isdn switch-type basic-dms100
!
interface ethernet0
ip address 172.18.23.9 255.255.255.0
!
interface BRI0
ip address 172.18.21.1 255.255.255.0
encapsulation ppp
dialer idle-timeout 3600
dialer wait-for-carrier-time 100
dialer map ip 172.18.21.2 name dialermapname
dialer-group 1
isdn spid1 2036333715291
isdn spid2 2036339371566
ppp authentication chap
ip access-group 102 in
!
access-list 102 permit tcp any host 172.18.21.2 eq telnet
```



```
access-list 102 dynamic testlist timeout 5 permit ip any any
!
!
ip route 172.18.250.0 255.255.255.0 172.18.21.2
priority-list 1 interface BRI0 high
tacacs-server host 172.18.23.21
tacacs-server host 172.18.23.14
tacacs-server key test1
tftp-server rom alias all
!
dialer-list 1 protocol ip permit
!
line con 0
  password password1
line aux 0
  line VTY 0 4
  autocommand access-enable timeout 5
  password password1
!
```





## CHAPTER 38

# ACL IP オプションの選択的ドロップ

ACL IP オプションの選択的ドロップ機能を使用すると、Cisco ルータが IP オプションが設定されたパケットをフィルタしたり、ルータまたはダウンストリーム ルータ上での IP オプションの影響を軽減したりすることができますようになります。これは、これらのパケットをドロップするか、IP オプションの処理を無視することによって行われます。

- [ACL IP オプションの選択的ドロップの制約事項, on page 507](#)
- [ACL IP オプションの選択的ドロップに関する情報, on page 507](#)
- [ACL IP オプションの選択的ドロップの設定方法, on page 508](#)
- [ACL IP オプションの選択的ドロップの設定例, on page 509](#)
- [IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号の追加情報, on page 510](#)
- [ACL IP オプションの選択的ドロップに関する機能情報, on page 511](#)

## ACL IP オプションの選択的ドロップの制約事項

リソース予約プロトコル (RSVP) (マルチプロトコル ラベル スイッチング トラフィック エンジニアリング (MPLS TE))、Internet Group Management Protocol バージョン 2 (IGMPv2)、および IP オプション パケットを使用するその他のプロトコルは、ドロップまたは無視モードでは機能しない可能性があります。

## ACL IP オプションの選択的ドロップに関する情報

### ACL IP オプションの選択的ドロップの使用

ACL IP オプションの選択的ドロップ機能を使用すると、IP オプションが設定されたパケットをルータでフィルタできるようになります。これにより、これらのパケットのルータまたはダウンストリーム ルータへの影響を軽減し、次の手順を実行できます。

- 受信した IP オプション パケットをすべてドロップし、オプションがネットワークの奥深くまで入り込まないようにします。

- そのルータ宛での IP オプション パケットを無視し、IP オプションが設定されていないものとして扱います。

多くのユーザーにとっては、パケットのドロップが最善策であると言えます。ただし、正規の IP オプションが存在する可能性のある環境では、ルータ上のパケットのロード処理を減らすだけで十分です。したがって、ルータ上のオプション処理をスキップしたうえで、ピュア IP であるかのようにパケットを転送することができます。

## ACL IP オプションの選択的ドロップを使用する利点

- ドロップモードでは、ネットワークからのパケットをフィルタすることで、オプションパケットからロードするというダウンストリームルータおよびホストの負荷を軽減できます。
- ドロップモードでは、分散システム上でのルートプロセッサ（RP）処理が必要となるオプションの RP へのロードが最小限に抑えられます。以前は、パケットは常に RP CPU でルーティングまたは処理されていました。現在は、無視またはドロップすることで、パケットが RP パフォーマンスに影響を及ぼすことを回避できます。

## ACL IP オプションの選択的ドロップの設定方法

### ACL IP オプションの選択的ドロップの設定

ここでは、ACL IP オプションの選択的ドロップ機能を設定する方法について説明します。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `ip options {drop | ignore}`
4. `exit`
5. `show ip traffic`

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip options {drop   ignore}</b> <b>Example:</b>  Router(config)# ip options drop	ルータに送信された IP オプション パケットをドロップまたは無視します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router(config)# exit	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>show ip traffic</b> <b>Example:</b>  Router# show ip traffic	(任意) IP トラフィックの統計情報を表示します。

## ACL IP オプションの選択的ドロップの設定例

### 例 : ACL IP オプションの選択的ドロップの設定

次に、ネットワークに入ったすべてのオプションパケットをドロップするように、ルータ（およびダウンストリーム ルータ）を設定する例を示します。

```
Router(config)# ip options drop
% Warning:RSVP and other protocols that use IP Options packets may not function in drop
or ignore modes.
end
```

### 例 : ACL IP オプションの選択的ドロップの確認

この出力例は、**ip options drop** コマンドを使用した後に表示されます。

```
Router# show ip traffic
IP statistics:
  Rcvd:  428 total, 323 local destination
         0 format errors, 0 checksum errors, 0 bad hop count
         0 unknown protocol, 0 not a gateway
         0 security failures, 0 bad options, 0 with options
  Opts:  0 end, 0 nop, 0 basic security, 0 loose source route
         0 timestamp, 0 extended security, 0 record route
         0 stream ID, 0 strict source route, 0 alert, 0 cipso, 0 ump
         0 other, 30 ignored
```

```

Frag: 0 reassembled, 0 timeouts, 0 couldn't reassemble
      0 fragmented, 0 fragments, 0 couldn't fragment
Bcast: 0 received, 0 sent
Mcast: 323 received, 809 sent
Sent: 809 generated, 591 forwarded
Drop: 0 encapsulation failed, 0 unresolved, 0 no adjacency
      0 no route, 0 unicast RPF, 0 forced drop, 0 unsupported-addr
      0 options denied, 0 source IP address zero

```

## IP アクセス リスト エントリ シーケンス番号の追加情報

ここでは、IP アクセス リストに関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IP アクセス リストの設定	『Creating an IP Access List and Applying It to an Interface』
IP アクセス リスト コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## ACL IP オプションの選択的ドロップに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 58: ACL IP オプションの選択的ドロップに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ACL IP オプションの選択的ドロップ	Cisco IOS XE リリース 2.1	<p>ACL IP オプションの選択的ドロップ機能を使用すると、Cisco ルータが IP オプションが設定されたパケットをフィルタしたり、ルータまたはダウンストリームルータ上での IP オプションの影響を軽減したりすることができるようになります。これは、これらのパケットをドロップするか、IP オプションの処理を無視することによって行われます。</p> <p>この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズのアグリゲーションサービス ルータで導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入されました。 <b>ip options</b></p>







## CHAPTER 39

# ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリア

このモジュールでは、IP アクセス リスト内のエントリおよび各エントリに一致したパケットの数の表示方法について説明します。ユーザーは、ACL 管理性機能を使用して、グローバルに、または、インターフェイスごとのおよび着信または発信トラフィック方向ごとにこれらの統計情報を取得できます。ネットワークデバイスのさまざまなインターフェイス上の着信または発信トラフィックパターンの詳細表示は、特定のインターフェイスへの攻撃に対してデバイスの保護に役立ちます。このモジュールでは、また、アクセス リスト エントリに一致するパケットの数が 0 から再開されるカウンタをクリアする方法について説明します。

- [ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリアに関する情報, on page 513](#)
- [IP アクセス リスト データを表示およびクリアする方法, on page 514](#)
- [ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリアのための設定例, on page 517](#)
- [その他の参考資料, on page 518](#)
- [IP アクセス リスト情報の表示およびカウンタのクリアに関する機能情報, on page 519](#)

## ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリアに関する情報

### ACL 管理性の利点

Cisco IOS リリース 12.4(6)T 以前では、Cisco IOS ソフトウェア内の ACL インフラストラクチャは、ACL 内の各 ACE に対するグローバル統計情報を維持するだけでした。この方法によって、1 つの ACL が複数のインターフェイスに適用される場合、維持された ACE 統計情報は、その ACL が適用されるすべてのインターフェイス上で一致（ヒット）する着信および発信パケットの合計数となります。

ただし、ACEの統計情報がインターフェイスごとおよび着信または発信トラフィック方向ごとに維持される場合、ネットワークデバイスの様々なインターフェイスにおける着信および発信トラフィックパターンの特定の詳細およびACEの効率性を表示できます。このような情報は、特定のインターフェイス上に着信する攻撃に対するデバイスの保護に役立ちます。

## インターフェイス レベルの ACL 統計情報のサポート

Cisco IOS リリース 12.4(6)T により、Cisco IOS ソフトウェア内の ACL インフラストラクチャは、インターフェイスごとの、および ACL に対する着信または発信トラフィック方向ごとの ACE 統計情報の保守、表示、およびクリアをサポートするよう、拡張されます。このサポートは、『インターフェイス レベルの統計情報のサポート』と呼ばれます。



**Note** 同じアクセス グループ ACL が他の機能によっても使用された場合、保持されているインターフェイス統計情報は、パケット一致が他の機能によって検出される際に、更新されません。この例では、ACL のために維持される、すべてのインターフェイス レベル統計情報の合計は、その ACL に対するグローバル統計情報を集約していない場合があります。

## IP アクセス リスト データを表示およびクリアする方法

この項には、IP アクセスリストおよび各リストに一致（ヒット）するパケットの数を表示し、IP アクセス リスト カウンタをクリアするための次の手順が含まれます。



**Note** 特定のホストまたはネットワークに対するアクセスを拒否し、そのネットワークまたはホストの誰かがアクセスしようとしたかどうかを検出する場合、対応する **deny** ステートメントを指定した **log** キーワードを含めます。それによって、その送信元からの拒否されたパケットがログに記録されます。詳細については、「IP アクセスリストの概要」の「IP アクセスリストロギング」を参照して下さい。

## グローバル IP ACL 統計情報の表示

ルータ上のすべての IP アクセス リストと一致したパケット数を表示するには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show ip access-list** [*access-list-number* | *access-list-name*]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show ip access-list</b> [ <i>access-list-number</i>   <i>access-list-name</i> ] <b>Example:</b> Router# show ip access-list limited	IP アクセス リスト情報を表示します。 • この例では、「名前付きアクセスリストを指定します」を使用するすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。

## インターフェイス レベル IP ACL 統計情報の表示

このセクションでは、インターフェイスに ACL 用の着信または発信トラフィック方向ごとの IP ACE の統計情報を表示する方法について説明します。この機能は、ACL 管理性と呼ばれています。



## Note

- ACL 管理性サポート対象：
  - 非分散型プラットフォーム ソフトウェアでスイッチングされるだけです。
  - 標準と拡張の静的に設定された ACL と脅威緩和サービス (TMS) ダイナミック ACE です。
- ACL 管理性サポート対象外：
  - ファイアウォールおよび認証プロキシなど、再帰かつユーザー設定のダイナミック ACL およびダイナミック ACE ブロック。
  - 仮想テンプレートおよび仮想アクセス インターフェイス。

&gt;

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show ip access-list interface** *interface-name* [*in* | *out*]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show ip access-list interface interface-name [in out]</b> <b>Example:</b> Router# show ip access-list interface FastEthernet 0/0 in	IP アクセスリスト情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>この例では、FastEthernet インターフェイスに着信するトラフィックに関する統計情報を表示します。</li> <li>ACL のインターフェイス レベルの統計情報に関するデバッグ情報を表示するには、<b>debug ip access-list intstats</b> コマンドを使用します。</li> </ul>

## アクセスリストカウンタのクリア

システムは、アクセスリストの各行に一致（ヒット）するパケットの数を数えます。カウンタは、**show access-lists EXEC** コマンドで表示されます。この作業を行い、アクセスリストのカウンタをクリアします。アクセスリストに一致するゼロから始まるパケットの数を決定しようとする場合に、これを行うことができます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear ip access-list counters {access-list-number | access-list-name}**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>clear ip access-list counters {access-list-number   access-list-name}</b> <b>Example:</b>	IP アクセスリストのカウンタをクリアします。

	Command or Action	Purpose
	Router# clear access-list counters corpmark	

## ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリアのための設定例

### グローバル IP ACL 統計情報を表示する例

次に、ACL 150 のグローバル統計情報を表示する例を示します。

```
Router# show ip access-list 150

Extended IP access list 150
 10 permit ip host 10.1.1.1 any (3 matches)
 30 permit ip host 10.2.2.2 any (27 matches)
```

### 入力統計情報を表示する例

次の例は、アクセスリスト 150 (ACL 番号) に関連付けられているインターフェイス FastEthernet 0/1 から集めた着信パケットの統計情報を示しています。

```
Router#
 show ip access-list interface FastEthernet 0/1 in
Extended IP access list 150 in
 10 permit ip host 10.1.1.1 any (3 matches)
 30 permit ip host 10.2.2.2 any (12 matches)
```

### 出力統計情報を表示する例

次の例は、FastEthernet 0/0 インターフェイスから集めた出力パケットに関する統計情報を示しています。

```
Router#
 show ip access-list interface FastEthernet 0/0 out
Extended IP access list myacl out
 5 deny ip any 10.1.0.0 0.0.255.255
 10 permit udp any any eq snmp (6 matches)
```

### 入出力統計情報を表示する例



**Note** 方向を指定しないと、そのインターフェイスに適用された入出力 ACL が表示されます。

次の例の表示から集めた入出力統計情報は、FastEthernet 0/0 を実行します。

```
Router#
  show ip access-list interface FastEthernet 0/0
Extended IP access list 150 in
  10 permit ip host 10.1.1.1 any
  30 permit ip host 10.2.2.2 any (15 matches)
Extended IP access list myacl out
  5 deny ip any 10.1.0.0 0.0.255.255
  10 permit udp any any eq snmp (6 matches)
```

## IPアクセスリスト用のグローバルおよびインターフェイス統計情報のクリアの例

次の例では、IP ACL 150 のグローバルおよびインターフェイスの統計情報をクリアします。

```
Router#
  clear ip access-list counters 150
```

## すべての IP アクセス リスト用のグローバルおよびインターフェイス統計情報のクリアの例

次の例では、すべての IP ACL のグローバルおよびインターフェイスの統計情報をクリアします。

```
Router#
  clear ip access-list counters
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>
セキュリティ コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Security Command Reference』</a>

### 標準

標準	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。	--

**MIB**

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

**RFC**

RFC	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

**シスコのテクニカル サポート**

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IP アクセス リスト情報の表示およびカウンタのクリアに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 59: ACL 管理性を使用した IP アクセス リスト データの表示及びクリアのための機能情報

機能名	リリース	機能情報
ACL 管理性	Cisco IOS XE Release 3.9S	ACL 管理性機能により、ユーザーは、インターフェイスおよびアクセスコントロールリスト (ACL) に対する入力や出力トラフィック方向ごとのアクセスコントロールエントリ (ACE) の統計情報を表示およびクリアすることができます。





## CHAPTER 40

# ACL Syslog 関連

アクセスコントロールリスト (ACL) Syslog 関連機能では、アクセスコントロールエントリ (ACE) Syslog エントリにタグ (ユーザー定義の Cookie またはデバイスが生成した MD5 ハッシュ値) を追加します。このタグは Syslog エントリを生成した ACL 内で ACE を一意に特定します。

- [ACL Syslog 関連の前提条件, on page 521](#)
- [ACL Syslog 関連に関する情報, on page 521](#)
- [ACL Syslog 関連の設定方法, on page 522](#)
- [ACL Syslog 関連の設定例, on page 530](#)
- [IPv6 IOS ファイアウォールの追加情報, on page 531](#)
- [ACL Syslog 関連に関する機能情報, on page 532](#)

## ACL Syslog 関連の前提条件

ACL Syslog 関連機能を設定する前に、「IP アクセスリストの概要」モジュールでその概念を理解する必要があります。

ACL Syslog 関連機能は、ユーザー定義の cookie またはデバイスで生成されるハッシュ値を syslog 内の ACE メッセージに追加します。ログ オプションが ACE に対してイネーブルになっている場合、これらの値は ACE メッセージにのみ追加されます。

## ACL Syslog 関連に関する情報

### ACL Syslog 関連タグ

ACL Syslog 関連機能では、アクセスコントロールエントリ (ACE) Syslog エントリにタグ (ユーザー定義の Cookie またはデバイスが生成した MD5 ハッシュ値) を追加します。このタグは Syslog エントリを生成した ACE を一意に特定します。

ネットワーク管理ソフトウェアでは、どの ACE が特定の Syslog イベントを生成したかを特定するためにタグを使用できます。たとえば、ネットワーク管理者はネットワーク管理アプリ

ケーションで ACE 規則を選択し、次にその ACE ルールに対応する Syslog イベントを表示できます。

Syslog メッセージにタグを追加するには、Syslog イベントを生成する ACE でログ オプションが有効になっている必要があります。システムは各メッセージに 1 つのタイプのタグ（ユーザー定義の Cookie またはデバイスで生成した MD5 ハッシュ値）のみを追加します。

ユーザー定義の Cookie タグを指定するには、ユーザーは ACE ログ オプションを構成する際に Cookie 値を入力する必要があります。Cookie は英数字形式である必要があります。64 文字以上にはできず、16 進数表記（0x など）で始めることはできません。

デバイスで生成した MD5 ハッシュ値タグを指定するには、ハッシュ生成機能をデバイスで有効にする必要があります。また、ACE ログ オプションを構成するときにユーザーは Cookie 値を入力してはいけません。

## ACE Syslog メッセージ

パケットが ACL 内のアクセスコントロールエントリ（ACE）と一致すると、そのイベントのログ オプションが有効になっているかどうかシステムでチェックされます。ログ オプションが有効な場合、ACL Syslog 関連機能がデバイスで構成されていると、システムは syslog メッセージにタグを付けます。タグは、標準情報に加えて syslog メッセージの最後に表示されます。

次は、ユーザー定義の Cookie タグを示すサンプル syslog メッセージです。

```
Jun 5 12:55:44.359: %SEC-6-IPACCESSLOGP: list logacl permitted tcp 192.168.16.1(38402)
-> 192.168.16.2(23), 1 packet [User_permitted_ACE]
```

次は、ハッシュ値タグを示すサンプル syslog メッセージです。

```
Jun 5 12:55:44.359: %SEC-6-IPACCESSLOGP: list logacl permitted tcp 192.168.16.1(38402)
-> 192.168.16.2(23), 1 packet [0x723E6E12]
```

## ACL Syslog 関連の設定方法

### デバイスでのハッシュ値生成の有効化

ユーザー定義 Cookie を使用して設定されていないシステム内でログをイネーブルにした各アクセスコントロールエントリ（ACE）の MD5 ハッシュ値を生成するデバイスを設定するには、このタスクを実行します。

ハッシュ値生成設定をイネーブルにすると、システムは既存のすべての ACE をチェックし、ハッシュ値を必要とする各 ACE のハッシュ値を生成します。ハッシュ値生成の設定をディセーブルにすると、これまでに生成されたすべてのハッシュ値がシステムから削除されます。

#### SUMMARY STEPS

1. enable

2. **configure terminal**
3. **ip access-list logging hash-generation**
4. **end**
5. 次のいずれかを実行します。
  - **show ip access-list** *access-list-number*
  - **show ip access-list** *access-list-name*

**DETAILED STEPS**

**Procedure**

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list logging hash-generation</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip access-list logging hash-generation	デバイスでハッシュ値生成を有効にします。 • ログを有効にした ACE があり、ハッシュ値を必要とする場合、デバイスは自動的に値を生成し、コンソールでその値を表示します。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	次のいずれかを実行します。 • <b>show ip access-list</b> <i>access-list-number</i> • <b>show ip access-list</b> <i>access-list-name</i> <b>Example:</b> Device# show ip access-list 101 <b>Example:</b> Device# show ip access-list acl	(任意) 番号付きまたは名前付き IP アクセスリストの内容を表示します。 • ログをイネーブルにした ACE のアクセスリストに生成したハッシュ値が含まれることを確認するには、出力を見直します。

## デバイスでのハッシュ値生成の無効化

デバイスでのハッシュ値生成をディセーブルにするには、このタスクを実行します。ハッシュ値生成の設定をディセーブルにすると、これまでに生成されたすべてのハッシュ値がシステムから削除されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **no ip access-list logging hash-generation**
4. **end**
5. 次のいずれかを実行します。
  - **show ip access-list** *access-list-number*
  - **show ip access-list** *access-list-name*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no ip access-list logging hash-generation</b> <b>Example:</b>  Device(config)# no ip access-list logging hash-generation	デバイスでのハッシュ値生成をディセーブルにします。  • これまでに作成されたハッシュ値がシステムから削除されます。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device(config)# end	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	次のいずれかを実行します。	(任意) IP アクセス リストの内容を表示します。

Command or Action	Purpose
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>show ip access-list access-list-number</code></li> <li>• <code>show ip access-list access-list-name</code></li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# show ip access-list 101</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# show ip access-list acl</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ログをイネーブルにした ACE のアクセス リストに生成したハッシュ値が含まれないことを確認するには、出力を見直します。</li> </ul>

## ユーザー定義 Cookie を使用した ACL Syslog 関連の設定

syslog メッセージ タグとしてユーザー定義の Cookie クッキーを使用し、特定のアクセス リストのデバイス上の ACL syslog 関連機能を設定するには、このタスクを実行します。

このセクションでは、番号付きアクセス リストのユーザー定義の Cookie を使用して、ACL Syslog 関連機能を設定する方法について例を示します。ただし、番号付きおよび名前付きアクセス リストの両方、標準および拡張アクセス リストの両方について、ユーザー定義の Cookie を使用し、ACL Syslog 関連機能を設定できます。



**Note** 次の制限事項は、ユーザー定義の Cookie 値を選択する場合に適用されます。

- 最大文字数は 64 です。
- Cookie は 16 進表記 (0x など) で始めることはできません。
- Cookie は、**reflect**、**fragment**、**time-range** といったキーワードと同じまたはその一部を使用することはできません。たとえば、**reflect** と **ref** は無効な値です。ただし、これらのキーワードを先頭に使用することはできます。たとえば、**reflectedACE** と **fragment\_33** は有効な値です。
- Cookie に設定できるのは英数字のみです。

>

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `access-list access-list-number permit protocol source destination log word`
4. `end`
5. `show ip access-list access-list-number`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>access-list access-list-number permit protocol source destination log word</b> <b>Example:</b> Device(config)# access-list 101 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log UserDefinedValue	拡張 IP アクセス リストとユーザー定義の Cookie 値を定義します。 <ul style="list-style-type: none"><li>Cookie 値の引数として <i>word</i> を入力します。</li></ul>
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>show ip access-list access-list-number</b> <b>Example:</b> Device# show ip access-list 101	(任意) IP アクセス リストの内容を表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>出力を見直して、アクセスリストにユーザー定義の Cookie 値が含まれることを確認します。</li></ul>

## 例

次に、ユーザー定義の Cookie 値を使用したアクセス リストに **show ip access-list** コマンドを使用した際の出力例を示します。

```
Device# show ip access-list
101
Extended IP access list 101
30 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log (tag = UserDefinedValue)
```

## ハッシュ値を使用した ACL Syslog 関連の設定

syslog メッセージ タグとしてデバイスで生成されたハッシュ値を使用し、特定のアクセス リストのデバイス上の ACL Syslog 関連機能を設定するには、このタスクを実行します。

このセクションでは、番号付きアクセスリストのデバイスで生成されたハッシュ値を使用して、ACL Syslog 関連機能を設定する方法についてステップを示します。ただし、番号付きおよび名前付きアクセスリストの両方、標準および拡張アクセスリストの両方について、デバイスで生成されたハッシュ値を使用し、ACL Syslog 関連機能を設定できます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list logging hash-generation**
4. **access-list access-list-number permit protocol source destination log**
5. **end**
6. **show ip access-list access-list-number**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list logging hash-generation</b> <b>Example:</b>  Device(config)# ip access-list logging hash-generation	デバイスでハッシュ値生成を有効にします。  • ログを有効にした ACE があり、ハッシュ値を必要とする場合、デバイスは自動的に値を生成し、コンソールでその値を表示します。
ステップ 4	<b>access-list access-list-number permit protocol source destination log</b> <b>Example:</b>  Device(config)# access-list 102 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log	拡張 IP アクセス リストを定義します。  • アクセスリストのログ オプションを有効にしますが、Cookie 値は指定しないでください。  • デバイスが、新たに定義したアクセスリストのハッシュ値を自動的に生成します。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device(config)# end	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>show ip access-list</b> <i>access-list-number</i> <b>Example:</b> Device# show ip access-list 102	(任意) IP アクセス リストの内容を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>出力を見直して、アクセスリストにルータが生成したハッシュ値が含まれることを確認します。</li> </ul>

### 例

次に、デバイスで生成されたハッシュ値を使用したアクセスリストに **show ip access-list** コマンドを使用した際の実出力例を示します。

```
Device# show ip access-list
102
Extended IP access list 102
10 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log (hash = 0x7F9CF6B9)
```

## ACL Syslog 関連タグ値の変更

ユーザー定義の Cookie の値を変更したり、ユーザー定義の Cookie とデバイスで生成したハッシュ値を置き換えたりするには、このタスクを実行します。

この手順は、番号付きアクセスリストの ACL Syslog 関連タグ値を変更する方法について示しています。ただし、番号付きおよび名前付きアクセスリストの両方と、標準および拡張アクセスリストの両方について、ACL Syslog 関連タグ値を変更できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show access-list**
3. **configure terminal**
4. **access-list** *access-list-number* **permit** *protocol source destination log word*
5. **end**
6. **show ip access-list** *access-list-number*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<p><b>show access-list</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# show access-list</pre>	(任意) アクセス リストの内容を表示します。
ステップ 3	<p><b>configure terminal</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<p><b>access-list access-list-number permit protocol source destination log word</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# access-list 101 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log NewUDV</pre> <p><b>Example:</b></p> <p>OR</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# access-list 101 permit tcp any any log replacehash</pre>	<p>Cookie を修正したり、ハッシュ値を Cookie に変更したりします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アクセス リスト コンフィギュレーション コマンド全体を入力し、前のタグ値を新しいタグ値で置き換える必要があります。</li> </ul>
ステップ 5	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# end</pre>	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<p><b>show ip access-list access-list-number</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# show ip access-list 101</pre>	<p>(任意) IP アクセス リストの内容を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変更を確認するために出力結果を見直します。</li> </ul>

## トラブルシューティングのヒント

アクセス リストのデバッグ情報を表示するには、**debug ip access-list hash-generation** コマンドを使用します。**debug** コマンドの出力例を次に示します。

```
Device# debug ip access-list hash-generation
 Syslog hash code generation debugging is on
Device# show debug
IP ACL:
 Syslog hash code generation debugging is on
Device# no debug ip access-list hash-generation
```

```

Syslog hash code generation debugging is off
Device# show debug
Device#

```

## ACL Syslog 関連の設定例

### 例：ユーザー定義 Cookie を使用した ACL Syslog 関連の設定

次に、ユーザー定義 Cookie を使用して、デバイス上で ACL Syslog 関連機能を設定する方法について説明します。

```

Device#
Device# debug ip access-list hash-generation
Syslog MD5 hash code generation debugging is on
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# access-list 33 permit 10.10.10.6 log cook_33_std
Device(config)# do show ip access 33
Standard IP access list 33
10 permit 10.10.10.6 log (tag = cook_33_std)
Device(config)# end

```

### 例：ハッシュ値を使用した ACL Syslog 関連の設定

次の例では、デバイスで生成されたハッシュ値を使用して、デバイス上で ACL Syslog 関連機能を設定する方法について説明します。

```

Device# debug ip access-list hash-generation
Syslog MD5 hash code generation debugging is on
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# access-list 33 permit 10.10.10.7 log
Device(config)#
*Nov 7 13:51:23.615: %IPACL-HASHGEN: Hash Input: 33 standard permit 10.10.10.7
Hash Output: 0xCE87F535
Device(config)#
do show ip access 33

Standard IP access list 33
 10 permit 10.10.10.6 log (tag = cook_33_std)
 20 permit 10.10.10.7 log (hash = 0xCE87F535)

```

### 例：ACL Syslog 関連タグ値の変更

次に、既存のアクセスリストのユーザー定義 Cookie と新しい Cookie 値を交換する方法と、デバイス生成ハッシュ値とユーザー定義 Cookie 値を交換する方法について示します。

```

Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# do show ip access-list 101

```

```

Extended IP access list 101
 10 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log (tag = MyCookie)
 20 permit tcp any any log (hash = 0x75F078B9)
Device(config)# access-list 101 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log NewUDV
Device(config)# do show access-list
Extended IP access list 101
 10 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log (tag = NewUDV)
 20 permit tcp any any log (hash = 0x75F078B9)
Device(config)# access-list 101 permit tcp any any log replacehash
Device(config)# do show access-list
Extended IP access list 101
 10 permit tcp host 10.1.1.1 host 10.1.1.2 log (tag = NewUDV)
 20 permit tcp any any log (tag = replacehash)
    
```

## IPv6 IOS ファイアウォールの追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C</a>』 [英語]</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L</a>』 [英語]</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R</a>』 [英語]</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z</a>』 [英語]</li> </ul>
IPv6 コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS IPv6 Command Reference</a> 』
IPv6 アドレッシングと接続	『 <a href="#">IPv6 Configuration Guide</a> 』
Cisco IOS IPv6 機能	『 <a href="#">Cisco IOS IPv6 Feature Mapping</a> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
IPv6 に関する RFC	<i>IPv6 RFCs</i>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ACL Syslog に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 60: ACL Syslog に関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
ACL Syslog 関連	Cisco IOS XE リリース 3.6S	ACL Syslog 関連機能は、ACE Syslog エントリにタグ（ユーザー定義の Cookie またはデバイスが生成した MD5 ハッシュ値）を追加します。このタグは Syslog エントリを生成した ACL 内で ACE を一意に特定します。



## CHAPTER 41

# IPv6 アクセスコントロールリスト

アクセスリストによって、デバイスインターフェイスでブロックされるトラフィックおよび転送されるトラフィックが決定され、送信元アドレスと宛先アドレスに基づくトラフィックのフィルタリング、および特定のインターフェイスへの着信および発信トラフィックのフィルタリングを行うことができます。標準の IPv6 ACL 機能が拡張されて、IPv6 オプションヘッダー、および任意でより細かい制御を行うための上位層プロトコルタイプ情報に基づくトラフィックフィルタリングがサポートされています。標準の IPv6 ACL 機能が拡張されて、IPv6 オプションヘッダー、および任意でより細かい制御を行うための上位層プロトコルタイプ情報に基づくトラフィックフィルタリングがサポートされています。

このモジュールは、仮想端末回線へのアクセスを制御する IPv6 トラフィック フィルタリングの設定方法について説明します。

- [RSP3 ポートの関連情報 \(533 ページ\)](#)
- [IPv6 アクセスコントロールリストに関する情報, on page 533](#)
- [IPv6 アクセスコントロールリストの設定方法, on page 534](#)
- [IPv6 アクセスコントロールリストの設定例, on page 539](#)
- [IPv6 アクセスコントロールリストに関する機能情報, on page 540](#)

## RSP3 ポートの関連情報

IPv6 ACL は、RSP3 ではサポートされていません

## IPv6 アクセスコントロールリストに関する情報

### IPv6 トラフィック フィルタリングのアクセスコントロールリスト

IPv6 での標準 ACL 機能は、IPv4 での標準 ACL に似ています。アクセスリストによって、デバイスインターフェイスでブロックされるトラフィックおよび転送されるトラフィックが決定され、送信元アドレスと宛先アドレスに基づいて、特定のインターフェイスへの着信と発信をフィルタリングできます。各アクセスリストの末尾には、暗黙的な deny 文があります。IPv6

ACLを定義し、拒否条件と許可条件を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **deny** キーワードと **permit** キーワードを指定して **ipv6 access-list** コマンドを使用します。

IPv6 で拡張された ACL では標準 IPv6 ACL 機能を強化して、IPv6 オプションヘッダー、および任意でより細かい制御を行うための上位層プロトコルタイプ情報に基づくトラフィックフィルタリングがサポートされています (IPv4 における拡張 ACL に類似した機能です)。

## IPv6 パケット インスペクション

ヘッダーフィールド (トラフィッククラス、フローラベル、ペイロード長、次ヘッダー、ホップリミット、および送信元 IP アドレスや宛先 IP アドレス) は、IPv6 インスペクション用に使用されます。IPv6 ヘッダー フィールドの詳細および説明については、RFC 2474 を参照してください。

## IPv6 でのアクセス クラス フィルタリング

IPv6 ACL に基づく、デバイスとの間の着信接続と発信接続のフィルタリングは、ライン コンフィギュレーションモードで **ipv6 access-class** コマンドを使用して実行します。 **ipv6 access-class** コマンドは、IPv6 ACL が名前で定義される点を除き、**access-class** コマンドに似ています。 IPv6 ACL が着信トラフィックに適用される場合、ACL 内の送信元アドレスは、着信接続の送信元アドレスと照合され、ACL 内の宛先アドレスは、インターフェイス上のローカルデバイスアドレスと照合されます。 IPv6 ACL が発信トラフィックに適用される場合、ACL 内の送信元アドレスは、インターフェイス上のローカルデバイスアドレスと照合され、ACL 内の宛先アドレスは、発信接続の送信元アドレスと照合されます。ユーザーが任意の接続を試行できるように、すべての仮想端末回線で同じ制限を設定することを推奨します。

# IPv6 アクセス コントロール リストの設定方法

## IPv6 トラフィック フィルタリングの設定

### トラフィック フィルタリング用の IPv6 ACL の作成および設定

**Note**

Cisco ASR 1000 プラットフォームの IPv6 ACL には、暗黙の許可ルールは含まれません。IPv6 ネイバー探索プロセスでは、IPv6 ネットワーク層サービスを使用します。したがって、IPv6 ネイバー探索をイネーブルにするには、IPv6 ネイバー探索パケットのインターフェイス上での送受信が許可されるように IPv6 ACL を追加する必要があります。IPv4 では、IPv6 ネイバー探索プロセスと同等のアドレス解決プロトコル (ARP) は、別のデータリンク層プロトコルを使用します。したがってデフォルトでは、IPv4 ACL により、ARP パケットのインターフェイス上での送受信が暗黙的に許可されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 access-list *access-list-name***
4. 次のいずれかを実行します。
  - **permit protocol** {*source-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *source-ipv6-address*} [*operator* [*port-number*]] {*destination-ipv6-prefix / prefix-length* | **any** | **host** *destination-ipv6-address*} [*operator* [*port-number*]] [**dest-option-type** [*doh-number* | *doh-type*]] [**dscp** *value*] [**flow-label** *value*] [**fragments**] [**log**] [**log-input**] [**mobility**] [**mobility-type** [*mh-number* | *mh-type*]] [**routing**] [**routing-type** *routing-number*] [**sequence** *value*] [**time-range** *name*]
  - **deny protocol** {*source-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *source-ipv6-address*} [*operator* [*port-number*]] {*destination-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *destination-ipv6-address*} [*operator* [*port-number*]] [**dest-option-type** [*doh-number* | *doh-type*]] [**dscp** *value*] [**flow-label** *value*] [**fragments**] [**log**] [**log-input**] [**mobility**] [**mobility-type** [*mh-number* | *mh-type*]] [**routing**] [**routing-type** *routing-number*] [**sequence** *value*] [**time-range** *name*] [**undetermined-transport**]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 access-list <i>access-list-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 access-list inbound	IPv6 ACL を定義し、IPv6 アクセスリスト コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>access-listname</i> 引数は、IPv6 ACL の名前を指定します。IPv6 ACL の名前にスペースまたは引用符を含めることはできません。また、先頭を数字にすることはできません。
ステップ 4	次のいずれかを実行します。 • <b>permit protocol</b> { <i>source-ipv6-prefix/prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>source-ipv6-address</i> } [ <i>operator</i> [ <i>port-number</i> ]] { <i>destination-ipv6-prefix / prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>destination-ipv6-address</i> } [ <i>operator</i> [ <i>port-number</i> ]] [ <b>dest-option-type</b> [ <i>doh-number</i>   <i>doh-type</i> ]] [ <b>dscp</b> <i>value</i> ] [ <b>flow-label</b> <i>value</i> ]	IPv6 ACL の許可条件または拒否条件を指定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>[fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] • deny protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address} [operator port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ipv6-acl)# permit tcp 2001:DB8:0300:0201::/32 eq telnet any</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ipv6-acl)# deny tcp host 2001:DB8:1::1 any log-input</pre>	

## インターフェイスへの IPv6 ACL の適用

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface type number**
4. **ipv6 traffic-filter access-list-name {in| out}**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<pre>enable</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<pre>configure terminal</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスのタイプおよび番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ipv6 traffic-filter</b> <i>access-list-name {in out}</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 traffic-filter inbound in	指定した IPv6 アクセス リストを、前のステップで指定したインターフェイスに適用します。

## vty へのアクセスの制御

### IPv6 ACL の作成によるアクセス クラス フィルタリングの提供

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 access-list** *access-list-name*
4. 次のいずれかを実行します。
  - **permit protocol** {*source-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *source-ipv6-address*} [*operator* [*port-number*]] {*destination-ipv6-prefix / prefix-length* | **any** | **host** *destination-ipv6-address*} [*operator* [*port-number*]] [**dest-option-type** [*doh-number* | *doh-type*]] [**dscp** *value*] [**flow-label** *value*] [**fragments**] [**log**] [**log-input**] [**mobility**] [**mobility-type** [*mh-number* | *mh-type*]] [**routing**] [**routing-type** *routing-number*] [**sequence** *value*] [**time-range** *name*
  - **deny protocol** {*source-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *source-ipv6-address*} [*operator* [*port-number*]] {*destination-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *destination-ipv6-address*} [*operator* [*port-number*]] [**dest-option-type** [*doh-number* | *doh-type*]] [**dscp** *value*] [**flow-label** *value*] [**fragments**] [**log**] [**log-input**] [**mobility**] [**mobility-type** [*mh-number* | *mh-type*]] [**routing**] [**routing-type** *routing-number*] [**sequence** *value*] [**time-range** *name*] [**undetermined-transport**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 3	<b>ipv6 access-list</b> <i>access-list-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 access-list cisco	IPv6 ACL を定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>permit protocol</b> {<i>source-ipv6-prefix/prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>source-ipv6-address</i>} [<i>operator</i> [<i>port-number</i>]] {<i>destination-ipv6-prefix / prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>destination-ipv6-address</i>} [<i>operator</i> [<i>port-number</i>]] [<b>dest-option-type</b> [<i>doh-number</i>   <i>doh-type</i>]] [<b>dscp</b> <i>value</i>] [<b>flow-label</b> <i>value</i>] [<b>fragments</b>] [<b>log</b>] [<b>log-input</b>] [<b>mobility</b>] [<b>mobility-type</b> [<i>mh-number</i>   <i>mh-type</i>]] [<b>routing</b>] [<b>routing-type</b> <i>routing-number</i>] [<b>sequence</b> <i>value</i>] [<b>time-range</b> <i>name</i>]</li> <li>• <b>deny protocol</b> {<i>source-ipv6-prefix/prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>source-ipv6-address</i>} [<i>operator</i> <i>port-number</i>]] {<i>destination-ipv6-prefix/prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>destination-ipv6-address</i>} [<i>operator</i> [<i>port-number</i>]] [<b>dest-option-type</b> [<i>doh-number</i>   <i>doh-type</i>]] [<b>dscp</b> <i>value</i>] [<b>flow-label</b> <i>value</i>] [<b>fragments</b>] [<b>log</b>] [<b>log-input</b>] [<b>mobility</b>] [<b>mobility-type</b> [<i>mh-number</i>   <i>mh-type</i>]] [<b>routing</b>] [<b>routing-type</b> <i>routing-number</i>] [<b>sequence</b> <i>value</i>] [<b>time-range</b> <i>name</i>] [<b>undetermined-transport</b>]</li> </ul> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 host 2001:DB8:0:4::32 any <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# deny ipv6 host 2001:DB8:0:6::6 any	IPv6 ACL の許可条件または拒否条件を指定します。

## 仮想端末回線への IPv6 ACL の適用

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. line [aux| console| tty| vty] *line-number*[*ending-line-number*]
4. ipv6 access-class *ipv6-access-list-name* {in| out}

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line [aux  console  tty  vty]</b> <i>line-number[ending-line-number]</i> <b>Example:</b> Device(config)# line vty 0 4	設定する特定の回線を識別し、ラインコンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>この例では、<b>vtty</b> キーワードを使用して、リモート コンソール アクセス用の仮想端末回線を指定します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>ipv6 access-class ipv6-access-list-name {in  out}</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# ipv6 access-class cisco in	IPv6 ACL に基づいて、デバイスとの間の着信接続と発信接続をフィルタリングします。

## IPv6 アクセスコントロール リストの設定例

## 例：IPv6 ACL 設定の確認

次の例では、**show ipv6 access-list** コマンドを使用して、IPv6 ACL が正しく設定されていることを確認します。

```
Device> show ipv6 access-list

IPv6 access list inbound
  permit tcp any any eq bgp (8 matches) sequence 10
  permit tcp any any eq telnet (15 matches) sequence 20
  permit udp any any sequence 30

IPv6 access list Virtual-Access2.1#427819008151 (per-user)
  permit tcp host 2001:DB8:1::32 eq bgp host 2001:DB8:2::32 eq 11000 sequence 1
  permit tcp host 2001:DB8:1::32 eq telnet host 2001:DB8:2::32 eq 11001 sequence 2
```

## 例：IPv6 ACL の作成と適用

次に、HTTP アクセスを日中の特定の時間に制限し、許可されていない時間のアクティビティを記録する方法について例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# time-range lunchtime
Device(config-time-range)# periodic weekdays 12:00 to 13:00
Device(config-time-range)# exit
Device(config)# ipv6 access-list INBOUND
Device(config-ipv6-acl)# permit tcp any any eq www time-range lunchtime
Device(config-ipv6-acl)# deny tcp any any eq www log-input
Device(config-ipv6-acl)# permit tcp 2001:DB8::/32 any
Device(config-ipv6-acl)# permit udp 2001:DB8::/32 any
Device(config-ipv6-acl)# end
```

## 例：vty へのアクセスの制御

次の例では、仮想端末回線 0～4 に着信する接続は、acl1 という名前の IPv6 アクセスリストに基づいてフィルタリングされます。

```
ipv6 access-list acl1
 permit ipv6 host 2001:DB8:0:4::2/32 any
 !
line vty 0 4
 ipv6 access-class acl1 in
```

## IPv6 アクセスコントロールリストに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 61: IPv6 アクセスコントロールリストに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 サービス：拡張アクセスコントロールリスト	Cisco IOS XE リリース 2.1	標準の IPv6 ACL 機能が拡張されて、IPv6 オプション ヘッダー、および任意でより細かい制御を行うための上位層プロトコルタイプ情報に基づくトラフィック フィルタリングがサポートされています。



## 第 42 章

# IPv6 ACL 未決定トランスポートサポート

IPv6 ACL 未決定トランスポートサポート機能は、完全な上位層ヘッダーが存在しない、誤設定されたパケットをドロップするのに役立ちます。

- [IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの制約事項 \(541 ページ\)](#)
- [IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートに関する情報 \(541 ページ\)](#)
- [IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの設定方法 \(542 ページ\)](#)
- [例：IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの例 \(543 ページ\)](#)
- [IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートのその他の参考資料, on page 543](#)
- [ACL テンプレートに関する機能情報, on page 544](#)

## IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの制約事項

- 未決定トランスポート オプションは拒否アクションと IPv6 プロトコルの Cisco Application Control Engine (ACE) でのみサポートされています。
- 未決定トランスポートが nonfirst パケットのフラグメントには適用されません。

## IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートに関する情報

### IPv6 ACL 未決定トランスポートサポート

ユーザーによる意図しない設定ミスまたはネットワーク上の悪意のある攻撃によって、ネットワーク上のホストに対する運用上の問題が発生する可能性があります。

上位層ヘッダーは、RFC 2460 に説明されているように、IPv6 パケット内の拡張ヘッダー (EH) チェーンの拡張の最後に置かれます。完全な上位層ヘッダーが IPv6 パケット内にない場合、ルータは、パケットを処理できません。これらのパケットは、誤設定、破損または悪意がある可能性があります。

未決定トランスポートオプションのある IPv6 ACL を使用して、これらのパケットをドロップするよう選択できます。

# IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの設定方法

## IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 access-list *acl-name***
4. **deny ipv6 {*src-addr* | any} {*dest-addr* | any} [undetermined-transport]**
5. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 access-list <i>acl-name</i></b> 例： Device(config)# ipv6 access-list acl1	IPv6 アクセス リストを設定します。
ステップ 4	<b>deny ipv6 {<i>src-addr</i>   any} {<i>dest-addr</i>   any} [undetermined-transport]</b> 例： Device(config-ipv6-acl)# deny ipv6 2001:DB8:0300:0201::/32 2001:DB8:1:1::/64 undetermined-transport	未決定トランスポートとして、IPv6 アクセスリストに対して、拒否状態を設定します。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-ipv6-acl)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## 例：IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの例

### 例：IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートの例

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 access-list acl1
Device(config-ipv6-acl)# deny ipv6 2001:DB8:0300:0201::/32 2001:DB8:1:1::/64
undetermined-transport
Device(config-ipv6-acl)# end
```

## IPv6 ACL 未決定トランスポートサポートのその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
IP アクセス リスト コマンド	『 <i>Cisco IOS Security Command Reference</i> 』
IP アクセス リストの設定	『Creating an IP Access List and Applying It to an Interface』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2460	インターネットプロトコル、バージョン 6 (IPv6) 仕様

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ACL テンプレートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 62: ACL テンプレートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 ACL 未決定トランスポートサポート	Cisco IOS XE リリース 3.15	IPv6 ACL 未決定トランスポートサポート機能は、完全な上位層ヘッダーが存在していない誤って設定されたパケットをドロップするのに役立ちます。  追加または変更されたコマンドはありません。





## CHAPTER 43

# テンプレート ACL の設定

ユーザー プロファイルが RADIUS 属性 242 またはベンダー固有属性 (VSA) Cisco AVPairs を使用して設定されると、同様のユーザーごとのアクセス コントロール リスト (ACL) は、単一のテンプレート ACL に置き換えられることがあります。つまり、1 つの ACL で多数の類似した ACL を表します。IPv6 テンプレート ACL を使用することで、ACL をサポートするために必要なメモリおよび Ternary Content Addressable Memory (TCAM) リソースを最小限に抑えながら、1 ユーザーあたりの ACL の合計数を増やすことができます。

各サブスクリバが独自の ACL を所有するネットワークでは、ユーザーの IP アドレスを除いて、ACL をユーザーごとに同じとするのが普通です。テンプレート ACL 機能は、システム リソースを節約する 1 つの ACL に多くの一般的なアクセス コントロール 要素 (ACE) で ACL をグループ化します。

- [テンプレート ACL の前提条件, on page 545](#)
- [テンプレート ACL の制約事項, on page 545](#)
- [テンプレート ACL の設定に関する情報, on page 546](#)
- [テンプレート ACL の設定方法, on page 550](#)
- [テンプレート ACL の設定例, on page 551](#)
- [その他の参考資料, on page 553](#)
- [ACL テンプレートに関する機能情報, on page 554](#)

## テンプレート ACL の前提条件

- Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ
- Cisco IOS XE リリース 2.4 以降のリリース

## テンプレート ACL の制約事項

テンプレート ACL は、RADIUS 属性 242 または VSA Cisco-AVPairs (ip:inacl/outacl) を通じて設定されたユーザーごとの ACL に対してのみ有効になります。その他のタイプの ACL は、テンプレート ACL 機能によって処理されません。

テンプレート ACL 機能は、IPv4 ACL でのみ使用できます。

テンプレート ACL 機能は、ユーザーごとの ACL の次のタイプには利用はできません。

- 時間ベース ACL
- ダイナミック ACL
- 評価 ACL
- 再帰 ACL
- ISG IP セッションで設定された ACL
- IPv6 ACL

#### テンプレート ACL 機能の無効化

テンプレート ACL 機能を無効にすると、システムは、すべての既存のテンプレート ACL インスタンスを ACL と置き換えます。システムに必要な数の ACL を設定するための十分なリソース（具体的には、TCAM リソース）がない場合、システムは、エラーメッセージを生成し、テンプレート ACL 機能を無効にする要求は失敗します。

## テンプレート ACL の設定に関する情報

### テンプレート ACL 機能設計

サービスプロバイダーが、AAA サーバーを使用して、RADIUS 属性 242 または Cisco VSA AVPairs を使用する、権限のあるセッションに対する ACL を設定する場合、セッション数は、システムで許容される最大の ACL 数を簡単に上回ります。

各サブスクライバが ACL を有するネットワークでは、ユーザーの IP アドレスを除いて、ACL が各ユーザーに対して同じになることは普通です。テンプレート ACL は、システムリソースを高速で編集し、多くの共通 ACE を持つ ACL を節約する 1 つの ACL にグループ化することで、この問題を軽減します。

テンプレート ACL 機能は、デフォルトで有効になっており、RADIUS 属性 242 または Cisco VSA AVPairs VSA を使用した ACL 設定は、テンプレートステータスの対象となります。

テンプレート ACL 機能を有効にすると、システムは、すべての設定済みセッション単位の ACL をスキャンおよび評価して、必要なテンプレート ACL を作成します。

#### テンプレート ACL の無効化

テンプレート ACL 機能を無効にすると、システムは、すべての既存のテンプレート ACL インスタンスを ACL と置き換えます。システムに必要な数の ACL を設定するための十分なリソース（特に TCAM リソース）がない場合、システムは、エラーメッセージを生成し、テンプレート ACL 機能を無効にする要求が失敗します。

そのため、テンプレート ACL 機能を無効にする前に、**show access-list template summary** コマンドを使用して、システム内のテンプレート ACL の数を表示し、この数がシステムの制限を超えているかを確認します。

テンプレート ACL 機能を無効にすると、新しい ACL は、テンプレートの対象にはなりません。

## 複数の ACL

テンプレート ACL 機能を有効にすると、システムは、2 ユーザーごとの ACL が類似している場合を特定し、2 つのユーザーごとの ACL を 1 つのテンプレート ACL に統合します。

たとえば、次の例は、2 人の個別のユーザーに対する 2 つの ACL を示します。

```
ip access-list extended Virtual-Access1.1#1 (PeerIP: 10.1.1.1)
permit igmp any host 10.1.1.1
permit icmp host 10.1.1.1 any
deny ip host 10.31.66.36 host 10.1.1.1
deny tcp host 10.1.1.1 host 10.31.66.36
permit udp any host 10.1.1.1
permit udp host 10.1.1.1 any
permit udp any host 192.168.2.1
permit udp any host 192.168.222.1
permit icmp host 10.55.15.4 host 192.168.2.1
permit udp 10.22.11.0 0.0.0.255 host 192.168.211.2
permit tcp any host 192.168.222.1
permit ip host 10.55.15.4 host 192.168.2.1
permit tcp 10.22.11.0 0.0.0.255 host 192.168.211.2
ip access-list extended Virtual-Access1.1#2 (PeerIP: 10.13.11.2)
permit igmp any host 10.13.11.2
permit icmp host 10.13.11.2 any
deny ip host 10.31.66.36 host 10.13.11.2
deny tcp host 10.13.11.2 host 10.31.66.36
permit udp any host 10.13.11.2
permit udp host 10.13.11.2 any
permit udp any host 192.168.2.1
permit udp any host 192.168.222.1
permit icmp host 10.55.15.4 host 192.168.2.1
permit udp 10.22.11.0 0.0.0.255 host 192.168.211.2
permit tcp any host 192.168.222.1
permit ip host 10.55.15.4 host 192.168.2.1
permit tcp 10.22.11.0 0.0.0.255 host 192.168.211.2
```

テンプレート ACL 機能を有効にすると、システムは、これら 2 つの ACL が類似していることを認識し、次のように、テンプレート ACL を作成します。

```
ip access-list extended Template_1
permit igmp any host <PeerIP>
permit icmp host <PeerIP> any
deny ip host 10.31.66.36 host <PeerIP>
deny tcp host <PeerIP> 10.31.66.36
permit udp any host <PeerIP>
permit udp host <PeerIP> any
permit udp any host 192.168.2.1
permit udp any host 192.168.222.1
permit icmp host 10.55.15.4 host 192.168.2.1
permit udp 10.22.11.0 0.0.0.255 host 192.168.211.2
permit tcp any host 192.168.222.1
```

```
permit ip host 10.55.15.4 host 192.168.2.1
permit tcp 10.22.11.0 0.0.0.255 host 192.168.211.2
```

この例では、ピアの IP アドレスは次のように関連付けられています。

- Virtual-Access1.1#1 10.1.1.1
- Virtual-Access1.1#2 10.13.11.2

2 つの ACL は、1 つのテンプレート ACL に統合され、次のように参照されます。

Template\_1(10.1.1.1) への Virtual-Access1.1#1 マップ

Template\_1(10.13.11.2) への Virtual-Access1.1#2 マップ

## VSA Cisco-AVPairs

テンプレート ACL 処理は、Cisco-AVPairs を使用して設定される ACL に対して発生します。ACL 番号を使用して定義される AVPairs のみが、テンプレティングプロセスの対象になります。

テンプレティングの対象となるために、入力 ACL のための AVPairs は、次の形式に従う必要があります。

```
ip:inacl#number={standard-access-control-list | extended-access-control-list}
```

例 : ip:inacl#10=deny ip any 10.13.16.0 0.0.0.255

テンプレティングの対象になるためには、出力 ACL のための AVPairs は、次の形式に従う必要があります:

```
ip:outacl#number={standard-access-control-list | extended-access-control-list}
```

例 : ip:outacl#200=permit ip any any

Cisco-AVPairs の詳細については、『Cisco IOS ISG RADIUS CoA インターフェイス ガイド』の「Cisco ベンダー固有 AVPair Attributes」のセクションを参照してください。

## RADIUS 属性 242

RADIUS 属性 242 を使用して設定される ACL に対して、テンプレート ACL 処理が発生します。属性 242 は、IP データ フィルタに対して、次の形式があります。

```
Ascend-Data-Filter = "ip <dir> <action> [dstip <dest_ipaddr\subnet_mask>] [srcp  
<src_ipaddr\subnet_mask>] [<proto> [dstport <cmp> <value>] [srcport <cmp> <value>] [<est>]]"
```

次の表で、IP データ フィルタの属性 242 エントリ内の要素について説明します。

Table 63: IP データ フィルタ構文要素

要素	説明
ip	IP アドレスを指定します。

要素	説明
<dir>	フィルタの方向を指定します。有効値は、 <b>in</b> （ルータに着信するパケットのフィルタリング）または、 <b>out</b> （ルータから発信するパケットのフィルタリング）です。
<action>	ルータがフィルタに一致したパケットに取るべきアクションを指定します。有効な値は <b>forward</b> または <b>drop</b> です。
<b>dstip</b> <dest_ipaddr\subnet_mask>	宛先 IP アドレス フィルタリングを有効にします。宛先アドレスが <dest_ipaddr> の値に一致するパケットに適用されます。アドレスのサブネットマスクの部分が存在する場合、ルータはマスクされたビットのみを比較します。0.0.0.0に<dest_ipaddr>を設定するか、またはこのキーワードがなければ、フィルタは、すべての IP パケットに一致します。
<b>srcip</b> <src_ipaddr\subnet_mask>	送信元 IP アドレス フィルタリングを有効にします。送信元アドレスが <src_ipaddr> の値に一致するパケットに適用されます。アドレスのサブネットマスクの部分が存在する場合、ルータはマスクされたビットのみを比較します。0.0.0.0に<src_ipaddr>を設定するか、またはこのキーワードがなければ、フィルタは、すべての IP パケットに一致します。
<proto>	名前または番号として指定するプロトコルを指定します。プロトコルフィールドがこの値に一致するパケットに適用されます。使用できる名前と番号は <b>icmp (1)</b> 、 <b>tcp (6)</b> 、 <b>udp (17)</b> 、および <b>ospf (89)</b> です。この値をゼロ (0) に設定すると、フィルタは、一切のプロトコルに一致します。
<b>dstport</b> <cmp> <value>	宛先ポートフィルタリングを有効にします。このキーワードは、<proto> が <b>tcp (6)</b> または <b>udp (17)</b> に設定されている場合に限り有効です。宛先ポートを指定しないと、フィルタは、一切のポートと一致します。  <cmp> は、指定された <value> と実際の宛先ポートとを比較する方法を定義します。この値として <、=、>、または ! を使用できます。  <value> 名前も番号も使用可能です。使用できる名前と番号は <b>ftp-data (20)</b> 、 <b>ftp (21)</b> 、 <b>telnet (23)</b> 、 <b>nameserver (42)</b> 、 <b>domain (53)</b> 、 <b>tftp (69)</b> 、 <b>gopher (70)</b> 、 <b>finger (79)</b> 、 <b>www (80)</b> 、 <b>kerberos (88)</b> 、 <b>hostname (101)</b> 、 <b>nntp (119)</b> 、 <b>ntp (123)</b> 、 <b>exec (512)</b> 、 <b>login (513)</b> 、 <b>cmd (514)</b> 、および <b>talk (517)</b> です。
<b>srcport</b> <cmp> <value>	送信元ポートフィルタリングを有効にします。このキーワードは、<proto> が <b>tcp (6)</b> または <b>udp (17)</b> に設定されている場合に限り有効です。送信元ポートを指定しないと、フィルタは、一切のポートと一致します。  <cmp> は、指定された <value> と実際の宛先ポートとを比較する方法を定義します。この値として <、=、>、または ! を使用できます。  <value> 名前も番号も使用可能です。使用できる名前と番号は <b>ftp-data (20)</b> 、 <b>ftp (21)</b> 、 <b>telnet (23)</b> 、 <b>nameserver (42)</b> 、 <b>domain (53)</b> 、 <b>tftp (69)</b> 、 <b>gopher (70)</b> 、 <b>finger (79)</b> 、 <b>www (80)</b> 、 <b>kerberos (88)</b> 、 <b>hostname (101)</b> 、 <b>nntp (119)</b> 、 <b>ntp (123)</b> 、 <b>exec (512)</b> 、 <b>login (513)</b> 、 <b>cmd (514)</b> 、および <b>talk (517)</b> です。

要素	説明
<est>	1 に設定すると、TCP セッションがすでに確立されている場合にのみ、パケットフィルタと一致していると指定します。この引数は、<proto> が tcp (6) に設定されている場合に限り有効です。

「RADIUS 属性 242 IP データ フィルタ エントリ」は、4 つの属性 242 IP データフィルタエントリを示します。

#### RADIUS 属性 242 IP データフィルタエントリ

```
Ascend-Data-Filter="ip in drop"
Ascend-Data-Filter="ip out forward tcp"
Ascend-Data-Filter="ip out forward tcp dstip 10.0.200.3/16 srcip 10.0.200.25/16
dstport!=telnet"
Ascend-Data-Filter="ip out forward tcp dstip 10.0.200.3/16 srcip 10.0.200.25/16 icmp"
```

## テンプレート ACL の設定方法

ACL が RADIUS 属性 242 または VSA Cisco-AVPairs を使用して設定されると、ACL は、デフォルトでは有効になりません。

## テンプレート ACL の最大サイズの設定

デフォルトでは、テンプレートの ACL ステータスは 100 台以下のルールの ACL に限定されます。ただし、この制限を低い値に設定できます。テンプレート ACL とみなされるため、既存の ACL は、以下のようなルールの最大数を設定するには、このセクションの手順を実行してください:

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **access-list template *number***
4. **exit**
5. **show access-list template summary**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。

	Command or Action	Purpose
	Router> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>access-list template number</b> <b>Example:</b> Router(config)# access-list template 50	テンプレート ACL の処理をイネーブルにします。 指定された数のルール（またはより少ないルール）の ACL だけがテンプレートのステータスの対象となります。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>show access-list template summary</b> <b>Example:</b> Router# show access-list template summary	(任意) ACL テンプレートに関する要約情報が表示されます。

## トラブルシューティングのヒント

次のコマンドを使用すると、テンプレート ACL をトラブルシューティングできます。

- **show access-list template**
- **show platform hardware qfp active classification class-group-manager class-group client acl all**
- **show platform hardware qfp active feature acl {control | node acl-node-id}**
- **show platform software access-list**

## テンプレート ACL の設定例

### テンプレート ACL の最大サイズの例

次の例では、テンプレートのステータスを 50 と対象するために ACL が含むことができるルールの最大数の設定方法を示しています。ルールの数は同じか、または 50 よりも少ない ACL のみがテンプレート ステータスの対象となります。

```
Router> enable
```

```
Router# configure terminal

Router(config)# access-list template 50
Router(config)# exit
```

## ACL のテンプレートの概要情報を示す例

以下の例は、システム内の全 ACL 用の要約情報を表示する方法を示しています。このコマンドからの出力には、次の情報が含まれています。

- テンプレート ACL ごとのルールの最大数
- 発見されたアクティブなテンプレート数
- これらのテンプレートによって置き換えられた ACL 数
- レッドブラックツリー内の要素数

```
Router# show access-list template summary
Maximum rules per template ACL = 100
Templates active = 9
Number of ACLs those templates represent = 14769
Number of tree elements = 13
```

### レッドブラックツリー要素

ツリー要素の数は、レッドブラックツリー内の要素の数です。各テンプレートは、レッドブラックツリー内の一意のエントリを1つ含みます。システムは、ピア IP アドレスをマスクする各 ACL 上の巡回冗長検査 (CRC) を計算し、レッドブラックツリーに CRC を送信します。次に例を示します。

システムに9つのテンプレート (14769 個の ACL を表す)、および13のツリーの要素があります。レッドブラックツリー内で各テンプレートに一意のエントリが1つしかない場合、その他4つのツリー要素は、システムには、テンプレート化されていない4個のユーザーあたりの ACL が含まれているということです。

## ACL のテンプレート ツリー情報を示す例

以下の例は、システム内の全 ACL 用のレッドブラックツリー情報を表示する方法を示しています。

このコマンドからの出力には、次の情報が含まれています。

- レッドブラックツリー上の ACL 名
- 元の CRC32 値
- ACL のユーザー数
- 計算された CRC32 値



```
Router# show access-list template tree
ACL name      OrigCRC      Count      CalcCRC
4Temp_1073741891108    59DAB725    98    59DAB725
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
セキュリティコマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上のガイドライン、および例	『 <a href="#">Cisco IOS Security Command Reference</a> 』
セキュア シェル	セキュア シェルおよびセキュア シェルバージョン 2 サポート設定の機能モジュール。
認証と認可の設定	認証設定、認可設定、およびアカウントिंग設定の機能モジュール。

### 標準

標準	タイトル
なし	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ACL テンプレートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 64: ACL テンプレートに関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
ACL テンプレート	12.2(28) SB 12.2(31) SB2 Cisco IOS XE リリース 2.4	12.2(28)SB では、この機能が Cisco 10000 シリーズ ルータで追加されました。 12.2(31)SB2 では、PRE3 のサポートが追加されました。 この機能は、Cisco IOS XE Release 2.4 で、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに実装されました。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>access-list template, show access-list template</b>



## CHAPTER 44

# IPv6 テンプレート ACL

ベンダー固有属性（VSA）の Cisco AV ペアを使用してユーザー プロファイルが設定されている場合は、類似した 1 ユーザー単位の IPv6 ACL を 1 つのテンプレート ACL で置き換えることができます。つまり、1 つの ACL で多数の類似した ACL を表します。IPv6 テンプレート ACL を使用することで、ACL をサポートするために必要なメモリおよび Ternary Content Addressable Memory（TCAM）リソースを最小限に抑えながら、1 ユーザーあたりの ACL の合計数を増やすことができます。

IPv6 テンプレート ACL 機能では、次の ACL フィールドを使用してテンプレートを作成します。

- IPv6 の送信元アドレスおよび宛先アドレス
- すべての関連ポート（0 ～ 65535）を含む TCP および UDP
- ICMP ネイバー探索アドバタイズメントおよび要請
- 指定した DSCP 値による IPv6 DSCP

この機能により、ACL の名前はたとえば次のように動的に生成されます。

- 6Temp\_#152875854573 - 親 ACL のテンプレートとして動的に生成されたテンプレート名の例
- Virtual-Access2.32135#152875854573 - 子 ACL またはテンプレートの一部とされていない ACL の例。
- [IPv6 ACL に関する情報：テンプレート ACL, on page 556](#)
- [IPv6 ACL を有効にする方法：テンプレート ACL, on page 556](#)
- [IPv6 ACL の設定例：テンプレート ACL, on page 557](#)
- [その他の参考資料, on page 558](#)
- [IPv6 ACL - テンプレート ACL に関する機能情報, on page 559](#)

# IPv6 ACL に関する情報 : テンプレート ACL

## IPv6 テンプレート ACL

ベンダー固有属性 (VSA) の Cisco AV ペアを使用してユーザー プロファイルが設定されている場合は、類似した 1 ユーザー単位の IPv6 ACL を 1 つのテンプレート ACL で置き換えることができます。つまり、1 つの ACL で多数の類似した ACL を表します。IPv6 テンプレート ACL を使用することで、ACL をサポートするために必要なメモリおよび Ternary Content Addressable Memory (TCAM) リソースを最小限に抑えながら、1 ユーザーあたりの ACL の合計数を増やすことができます。

IPv6 テンプレート ACL 機能では、次の ACL フィールドを使用してテンプレートを作成します。

- IPv6 の送信元アドレスおよび宛先アドレス
- すべての関連ポート (0 ~ 65535) を含む TCP および UDP
- ICMP ネイバー探索アドバタイズメントおよび要請
- 指定した DSCP 値による IPv6 DSCP

この機能により、ACL の名前はたとえば次のように動的に生成されます。

- 6Temp\_#152875854573 - 親 ACL のテンプレートとして動的に生成されたテンプレート名の例
- Virtual-Access2.32135#152875854573 - 子 ACL またはテンプレートの一部とされていない ACL の例。

# IPv6 ACL を有効にする方法 : テンプレート ACL

## IPv6 テンプレートの処理の有効化

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **access-list template** [*number-of-rules*]
4. **exit**
5. **show access-list template** {**summary** | *aclname* | **exceed** *number* | **tree**}

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>access-list template</b> [number-of-rules] <b>Example:</b> Router(config)# access-list template 50	テンプレート ACL の処理をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このタスクの例では、50以下のルールを設定した ACL がテンプレート ACL ステータスとして見なされるように指定しています。</li> <li>number-of-rules 引数のデフォルトは 100 です。</li> </ul>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了して、ルータを特権 EXEC モードにします。
ステップ 5	<b>show access-list template</b> {summary   aclname   exceed number   tree} <b>Example:</b> Router# show access-list template summary	ACL テンプレートの情報を表示します。

## IPv6 ACL の設定例 : テンプレート ACL

### 例 : IPv6 テンプレート ACL の処理

この例では、内容は同じでも、名前が ACL1 と ACL2 で異なります。

```
ipv6 access-list extended ACL1 (PeerIP: 2001:1::1/64)
permit igmp any                2003:1::1/64
permit icmp 2002:5::B/64      any
permit udp any                 host 2004:1::5
permit udp any                 host 2002:2BC::a
permit icmp host 2001:BC::7    host 2003:3::7
```

```

ipv6 access-list extended ACL2 (PeerIP: 2007:2::7/64)
permit igmp any 2003:1::1/64
permit icmp 2002:5::B/64 any
permit udp any host 2004:1::5
permit udp any host 2002:2BC::a
permit icmp host 2001:BC::7 host 2003:3::7

```

これらの ACL のテンプレートは次のとおりです。

```

ipv6 access-list extended Template_1
permit igmp any 2003:1::1/64
permit icmp 2002:5::B/64 any
permit udp any host 2004:1::5
permit udp any host 2002:2BC::a
permit icmp host 2001:BC::7 host 2003:3::7

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IPv6 アドレッシングと接続	『 <i>IPv6 Configuration Guide</i> 』
IPv6 コマンド	『 <i>Cisco IOS IPv6 Command Reference</i> 』
Cisco IOS IPv6 機能	『 <i>Cisco IOS IPv6 Feature Mapping</i> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
IPv6 に関する RFC	<i>IPv6 RFCs</i>

### MIB

選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。

<http://www.cisco.com/go/mibs>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPv6 ACL - テンプレート ACL に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 65: IPv6 ACL - テンプレート ACL に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 ACL - テンプレート ACL	Cisco IOS XE リリース 3.2S	この機能により、類似のユーザーごとの IPv6 ACL を単一のテンプレート ACL に置き換えることができます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>access-list template</b> 、 <b>show access-list template</b>







## 第 45 章

# IPv4 ACL チェーニング サポート

マルチアクセスコントロールリストとも呼ばれる ACL チェーニングにより、アクセスコントロールリスト (ACL) を分割することができます。このモジュールでは、IPv4 ACL チェーニング サポートによって ACL を共通 ACL とユーザー専用 ACL に明示的に分割する方法、および両 ACL をデバイスでのトラフィック フィルタリングのためにバインドする方法について説明します。この方法では、Ternary Content Addressable Memory (TCAM) 内の共通 ACL は複数のターゲットにより共有され、これによりリソース使用量が削減されます。

- [IPv4 ACL チェーニング サポートの制限事項 \(561 ページ\)](#)
- [IPv4 ACL チェーニング サポートに関する情報 \(562 ページ\)](#)
- [IPv4 ACL チェーニング サポートの設定方法 \(563 ページ\)](#)
- [IPv4 ACL チェーニング サポートの設定例 \(564 ページ\)](#)
- [IPv4 ACL チェーニング サポートの追加参考資料 \(565 ページ\)](#)
- [IPv4 ACL チェーニング サポートに関する機能情報 \(566 ページ\)](#)

## IPv4 ACL チェーニング サポートの制限事項

- 単一のアクセスコントロールリスト (ACL) を、同じ方向の同じターゲットに対する共通、標準の両 ACL に使用することはできません。
- ACL チェーニングはセキュリティ ACL にのみ適用されます。サービス品質 (QoS)、ファイアウォールサービスモジュール (FW)、ポリシーベースルーティング (PBR) などのフィーチャ ポリシーではサポートされません。
- 共通 ACL ではターゲットごとの統計情報はサポートされません。

# IPv4 ACL チェーニング サポートに関する情報

## ACL チェーニングの概要

パケットフィルタリングプロセスは、1つのインターフェイスの1つの方向および1つのプロトコルごとに適用される単一のアクセスコントロールリスト（ACL）のみをサポートします。そのため、多数のインターフェイスに共通 ACL エントリが必要な場合、管理性と拡張性の問題が生じます。そのようなインターフェイスにはすべて重複アクセス コントロール エントリ（ACE）が設定されており、共通 ACE の変更はすべての ACL で行われる必要があります。

インターネット サービス プロバイダー（ISP）のエッジボックスの典型的な ACL には次の 2 組の ACE が含まれます。

- 共通 ISP 専用 ACE
- 顧客/インターフェイス専用 ACE

これらのアドレスブロックは、ISPの保護されたインフラストラクチャネットワークへのアクセスを拒否するため、および顧客の送信元アドレスブロックのみを許可することでスプーフィングを防ぐために行われます。この結果、インターフェイスごとに一意の ACL が設定され、ほとんどの ACE がデバイス上のすべての ACL で共通になります。ACL をプロビジョニングし、変更するのは非常に面倒ですが、ACE を変更すれば全ターゲットに影響を及ぼすことができます。

## IPv4 ACL チェーニング サポート

IPv4 ACL チェーニング サポートを使用して、アクセス コントロール リスト（ACL）を共通 ACL と顧客専用 ACL に分割したり、両 ACL を共通セッションにアタッチすることができます。この方法では、共通 ACL を 1 コピーのみ Ternary Content Addressable Memory（TCAM）にアタッチしこれを全ユーザーで共有することで、共通 ACE の維持が簡略化されます。

IPv4 ACL チェーニング機能により、次の 2 つの IPv4 ACL を 1 方向ごとに 1 つのインターフェイスでアクティブにできます。

- 共通
- 標準
- 共通と標準



---

(注) 1つのインターフェイスで共通と標準の両 ACL を設定している場合、共通 ACL が標準 ACL に優先されます。

---

# IPv4 ACL チェーニング サポートの設定方法

ACL チェーニングは、**ip traffic filter** コマンドの拡張によりサポートされます。

**ip traffic filter** コマンドは追加式ではありません。このコマンドを使用すると、このコマンドの以前のインスタンスが置き換えられます。

詳細については、『Security Configuration Guide: Access Control Lists Configuration Guide』の「IPv6 ACL Chaining with a Common ACL」セクションを参照してください。

## 共通 ACL を受け入れるインターフェイスの設定

このタスクを実行すると、インターフェイス固有の ACL とともに、共通のアクセスコントロール リスト (ACL) を受け入れるようにインターフェイスを設定できます。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface type number**
4. **ip access-group {common {common-access-list-name {regular-access-list | acl}} {in | out}}**
5. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイス（この場合、gigabitethernet interface）を設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip access-group {common {common-access-list-name {regular-access-list   acl}} {in   out}}</b> 例：	インターフェイス固有の ACL とともに、共通 ACL を受け入れるようにインターフェイスを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config)# ipv4 access-group common acl-p acl1 in	
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	(任意) コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPv4 ACL チェーニング サポートの設定例

ここでは、共通アクセスコントロールリスト (ACL) の設定例を示します。

### 例：共通 ACL を受け入れるインターフェイスの設定

次に、ACL を明示的に削除しないでインターフェイスで設定したアクセスコントロールリスト (ACL) を交換する方法例を示します。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv4 access-group common C_acl ACL1 in
end
replace interface acl ACL1 by ACL2
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv4 access-group common C_acl ACL2 in
end
```

次に、インターフェイスから共通 ACL を明示的に削除しないと、共通 ACL をインターフェイスで交換できない方法例を示します。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv4 access-group common C_acl1 ACL1 in
end
change the common acl to C_acl2
interface gigabitethernet 0/0/0
no ipv4 access-group common C_acl1 ACL1 in
end
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv4 access-group common C_acl2 ACL1 in
end
```



(注) 共通 ACL を再設定する際、ラインカードの他のインターフェイスが共通 ACL に取り付けられないことを確認する必要があります。



(注) 共通 ACL とインターフェイス ACL の両方をインターフェイスに取り付け、その一方をインターフェイスで再構成すると、他は自動的に削除されます。

次に、インターフェイス ACL の削除方法を示します。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv4 access-group common C_acl1 ACL1 in
end
```

## IPv4 ACL チェーニング サポートの追加参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IPv6 ACL チェーニング サポート	
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a></p>

## IPv4 ACL チェーニング サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 66: IPv4 ACL チェーニング サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv4 ACL チェーニング サポート	Cisco IOS XE リリース 3.11S Cisco IOS XE リリース 3.6E	IPv4 ACL チェーニング サポートは、アクセス コントロール リスト (ACL) を明示的に共通およびユーザー固有の ACL に分割して、両方の ACL をデバイス上でのトラフィック フィルタリングのためのセッションにバインドする方法について説明します。この方法では、Ternary Content Addressable Memory (TCAM) 内の共通 ACL は複数のターゲットにより共有され、これによりリソース使用量が削減されます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ip access-group command</b>



## 第 46 章

# 共通 ACL による IPv6 ACL チェーニング

マルチアクセスコントロールリストとも呼ばれる ACL チェーニングにより、ACL を分割することができます。このマニュアルでは、IPv6 ACL チェーニングサポートによって ACL を共通 ACL とユーザー専用 ACL に明示的に分割する方法、および両 ACL をデバイスでのトラフィックフィルタリングのためにバインドする方法について説明します。この方法では、Ternary Content Addressable Memory (TCAM) 内の共通 ACL は複数のターゲットにより共有され、これによりリソース使用量が削減されます。

- [共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングに関する情報 \(567 ページ\)](#)
- [共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの設定方法 \(568 ページ\)](#)
- [共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの設定例 \(569 ページ\)](#)
- [共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの追加情報 \(571 ページ\)](#)
- [共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングに関する機能情報 \(571 ページ\)](#)

## 共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングに関する情報

### ACL チェーニングの概要

パケットフィルタリングプロセスは、1つのインターフェイスの1つの方向および1つのプロトコルごとに適用される単一のアクセスコントロールリスト (ACL) のみをサポートします。そのため、多数のインターフェイスに共通 ACL エントリが必要な場合、管理性と拡張性の問題が生じます。そのようなインターフェイスにはすべて重複アクセス コントロール エントリ (ACE) が設定されており、共通 ACE の変更はすべての ACL で行われる必要があります。

インターネット サービス プロバイダー (ISP) のエッジボックスの典型的な ACL には次の 2 組の ACE が含まれます。

- 共通 ISP 専用 ACE
- 顧客/インターフェイス専用 ACE

これらのアドレスブロックは、ISP の保護されたインフラストラクチャネットワークへのアクセスを拒否するため、および顧客の送信元アドレスブロックのみを許可することでスプーフィングを防ぐために行われます。この結果、インターフェイスごとに一意の ACL が設定され、

ほとんどの ACE がデバイス上のすべての ACL で共通になります。ACL をプロビジョニングし、変更するのは非常に面倒ですが、ACE を変更すれば全ターゲットに影響を及ぼすことができます。

## 共通 ACL による IPv6 ACL チェーニング

IPv6 ACL チェーニングを使用して、トラフィック フィルタを次の ACL とチェーニングできます。

- 共通 ACL
- 専用 ACL
- 共通 ACL と専用 ACL

各アクセス コントロール リスト (ACL) は順に照合されます。たとえば、共通 ACL と専用 ACL の両方を指定している場合、パケットはまず共通 ACL に対して照合され、一致が見つからなければ専用 ACL に対して照合されます。



(注) 任意の IPv6 ACL を共通または専用 ACL としてトラフィック フィルタで設定できます。ただし、同じ ACL を同じトラフィック フィルタで共通と専用の両方として指定することはできません。

## 共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの設定方法

始める前に

IPv6 ACL チェーニングは、既存の IPv6 トラフィック フィルタ コマンド `ipv6 traffic-filter [common common-acl] [specific-acl] [in | out]` の拡張機能を使用して、インターフェイス上で設定します。



(注) 次のいずれかを設定できます。

- 共通 ACL のみ。例 : `ipv6 traffic-filter common common-acl`
- 特定の ACL のみ。例 : `ipv6 traffic-filter common-acl`
- 両方の ACL。例 : `ipv6 traffic-filter common common-acl specific-acl`

`ipv6 traffic-filter` コマンドは追加式ではありません。このコマンドを使用すると、このコマンドの以前のインスタンスが置き換えられます。たとえば、コマンド シーケンス `ipv6 traffic-filter [common common-acl] [specific-acl] in` `ipv6 traffic-filter [specific-acl] in` は、共通 ACL とトラフィック フィルタをバインディングし、共通 ACL を削除してから、特定の ACL をバインディングします。



## インターフェイスへの IPv6 ACL の設定

このタスクを実行すると、インターフェイス固有の ACL とともに、共通のアクセスコントロール リスト (ACL) を受け入れるようにインターフェイスを設定できます。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*}
4. **ipv6 traffic filter** {*common-access-list-name* {**in** | **out**}}
5. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> } 例： Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスのタイプおよび番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ipv6 traffic filter</b> { <i>common-access-list-name</i> { <b>in</b>   <b>out</b> }} 例： Device(config)# ipv6 traffic-filter outbound out	指定した IPv6 アクセス リストを、前のステップで指定したインターフェイスに適用します。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	(任意) コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの設定例

特定の順序でなくても、次の組み合わせを設定できます。

- 共通 ACL。例： **ipv6 traffic-filter common common-acl in**
- 特定の ACL。例： **ipv6 traffic-filter specific-acl in**
- 両方の ACL。例： **ipv6 traffic-filter common common-acl specific-acl in**

## 例：共通 ACL を受け入れるインターフェイスの設定

次に、ACL を明示的に削除しないでインターフェイスで設定したアクセスコントロールリスト (ACL) を交換する方法例を示します。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv6 access-group common C_acl ACL1 in
end
replace interface acl ACL1 by ACL2
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv6 access-group common C_acl ACL2 in
end
```

次の例では、共通 ACL をインターフェイスから削除する方法を示します。インターフェイスから共通 ACL を明示的に削除しないと、共通 ACL をインターフェイスで交換できません。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv6 access-group common C_acl1 ACL1 in
end
change the common acl to C_acl2
interface gigabitethernet 0/0/0
no ipv6 access-group common C_acl1 ACL1 in
end
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv6 access-group common C_acl2 ACL1 in
end
```



- 
- (注) 共通 ACL を再設定する際、ラインカードの他のインターフェイスが共通 ACL に取り付けられないことを確認する必要があります。
- 



- 
- (注) 共通 ACL とインターフェイス ACL の両方をインターフェイスに取り付け、その一方をインターフェイスで再構成すると、他は自動的に削除されます。
- 

次に、インターフェイス ACL を削除する方法を示します。

```
interface gigabitethernet 0/0/0
ipv6 access-group common C_acl1 ACL1 in
end
```

## 共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングの追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IPv4 ACL チェーニング サポート	『Security Configuration Guide: Access Control Lists, Cisco IOS XE Release 3S』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## 共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 67: 共通 ACL による IPv6 ACL チェーニングに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
共通 ACL による IPv6 ACL チェーニング	Cisco IOS XE リリース 3.11S Cisco IOS XE リリース 3.6E	<p>ACL チェーニング機能（別名、マルチ ACL）により、IPv6 トラフィック フィルタのアクセスコントロールリスト（ACL）を明示的にコモンおよびセッション単位の ACL に分割できます。このように、使用される共通のアクセスコントロール エントリ（ACE）は、Ternary Content Addressable Memory（TCAM）内のセッションごとに各 ACL エントリのリソース使用量を減らします。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>ip access-group common</b></p>



## CHAPTER 47

# ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張

ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張機能により、ホップバイホップ拡張ヘッダーを含む可能性がある IPv6 トラフィックを制御することができます。アクセスコントロールリスト (ACL) を設定して、すべてのホップバイホップトラフィックを拒否するか、またはプロトコルに基づいて選択的にトラフィックを許可することができます。

- ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する情報, on page 573
- ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張の設定方法, on page 574
- ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張の設定例, on page 575
- その他の参考資料, on page 576
- ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する機能情報, on page 577

## ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する情報

### ACL およびトラフィック転送

IPv6 アクセスコントロールリスト (ACL) は、デバイスインターフェイスでブロックされるトラフィックと転送されるトラフィックを決定します。ACL を使用すると、特定のインターフェイスへの着信および発信を、送信元アドレスと宛先アドレスに基づいてフィルタリングできます。 **ipv6 access-list** コマンドを使用して IPv6 ACL を定義し、 **deny** および **permit** コマンドを使用してその条件を構成します。

ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張機能は、上位層プロトコルタイプでのトラフィックフィルタリングをサポートするために RFC 2460 を実装します。

# ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張の設定方法

## ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 access-list** *access-list-name*
4. **permit** *protocol* {*source-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *source-ipv6-address* | **auth**} [*operator* [*port-number*]] {*destination-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *destination-ipv6-address* | **auth**} [*operator* [*port-number*]] [**dest-option-type** [*header-number* | *header-type*]] [**dscp** *value*] [**flow-label** *value*] [**fragments**] [**hbh**] [**log**] [**log-input**] [**mobility**] [**mobility-type** [*mh-number* | *mh-type*]] [**reflect** *name* [*timeout* *value*]] [**routing**] [**routing-type** *routing-number*] [**sequence** *value*] [**time-range** *name*]
5. **deny** *protocol* {*source-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *source-ipv6-address* / **auth**} [*operator* [*port-number*]] {*destination-ipv6-prefix/prefix-length* | **any** | **host** *destination-ipv6-address* | **auth**} [*operator* [*port-number*]] [**dest-option-type** [*header-number* | *header-type*]] [**dscp** *value*] [**flow-label** *value*] [**fragments**] [**hbh**] [**log**] [**log-input**] [**mobility**] [**mobility-type** [*mh-number* | *mh-type*]] [**routing**] [**routing-type** *routing-number*] [**sequence** *value*] [**time-range** *name*] [**undetermined-transport**]
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 access-list</b> <i>access-list-name</i>  <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 access-list hbh-acl	IPv6 ACL を定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<p><b>permit</b> <i>protocol</i> {<i>source-ipv6-prefix/prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>source-ipv6-address</i>   <b>auth</b>} [<i>operator</i> [<i>port-number</i>]] {<i>destination-ipv6-prefix/prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>destination-ipv6-address</i>   <b>auth</b>} [<i>operator</i> [<i>port-number</i>]] [<b>dest-option-type</b> [<i>header-number</i>   <i>header-type</i>]] [<b>dscp</b> <i>value</i>] [<b>flow-label</b> <i>value</i>] [<b>fragments</b>] [<b>hbh</b>] [<b>log</b>] [<b>log-input</b>] [<b>mobility</b>] [<b>mobility-type</b> [<i>mh-number</i>   <i>mh-type</i>]] [<b>reflect</b> <i>name</i> [<b>timeout</b> <i>value</i>]] [<b>routing</b>] [<b>routing-type</b> <i>routing-number</i>] [<b>sequence</b> <i>value</i>] [<b>time-range</b> <i>name</i>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ipv6-acl)# permit icmp any any dest-option-type</pre>	IPv6 ACL の許可条件を設定します。
ステップ 5	<p><b>deny</b> <i>protocol</i> {<i>source-ipv6-prefix/prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>source-ipv6-address</i>   <b>auth</b>} [<i>operator</i> [<i>port-number</i>]] {<i>destination-ipv6-prefix/prefix-length</i>   <b>any</b>   <b>host</b> <i>destination-ipv6-address</i>   <b>auth</b>} [<i>operator</i> [<i>port-number</i>]] [<b>dest-option-type</b> [<i>header-number</i>   <i>header-type</i>]] [<b>dscp</b> <i>value</i>] [<b>flow-label</b> <i>value</i>] [<b>fragments</b>] [<b>hbh</b>] [<b>log</b>] [<b>log-input</b>] [<b>mobility</b>] [<b>mobility-type</b> [<i>mh-number</i>   <i>mh-type</i>]] [<b>routing</b>] [<b>routing-type</b> <i>routing-number</i>] [<b>sequence</b> <i>value</i>] [<b>time-range</b> <i>name</i>] [<b>undetermined-transport</b>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ipv6-acl)# deny icmp any any dest-option-type</pre>	IPv6 ACL の拒否条件を設定します。
ステップ 6	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device (config-ipv6-acl)# end</pre>	特権 EXEC コンフィギュレーションモードに戻ります。

## ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張の設定例

例：ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張

```
Device(config)# ipv6 access-list hbh_acl
Device(config-ipv6-acl)# permit tcp any any hbh
Device(config-ipv6-acl)# permit tcp any any
Device(config-ipv6-acl)# permit udp any any
```

```

Device(config-ipv6-acl)# permit udp any any hbh
Device(config-ipv6-acl)# permit hbh any any
Device(config-ipv6-acl)# permit any any
Device(config-ipv6-acl)# hardware statistics
Device(config-ipv6-acl)# exit

! Assign an IP address and add the ACL on the interface.

Device(config)# interface FastEthernet3/1
Device(config-if)# ipv6 address 1001::1/64
Device(config-if)# ipv6 traffic-filter hbh_acl in
Device(config-if)# exit
Device(config)# exit
Device# clear counters
Clear "show interface" counters on all interfaces [confirm]
Device#

! Verify the configurations.

Device# show running-config interface FastEthernet3/1

Building configuration...

Current configuration : 114 bytes
!
interface FastEthernet3/1
no switchport
ipv6 address 1001::1/64
ipv6 traffic-filter hbh_acl
end

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IPv6 アドレッシングと接続	『 <a href="#">IPv6 Configuration Guide</a> 』
IPv6 コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS IPv6 Command Reference</a> 』
Cisco IOS IPv6 機能	『 <a href="#">Cisco IOS IPv6 Feature Mapping</a> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
IPv6 に関する RFC	<i>IPv6 RFCs</i>



## MIB

選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。

<http://www.cisco.com/go/mibs>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

# ホップバイ ホップ フィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 68:** ホップバイ ホップ フィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ホップバイ ホップ フィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張	Cisco IOS リリース XE 3.4S Cisco IOS リリース XE 3.5S Cisco IOS リリース XE 3.6S Cisco IOS リリース XE 3.3SG	これによって、ホップバイホップ拡張ヘッダーを含む IPv6 トラフィックを制御できます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>deny</b> (IPv6)、 <b>permit</b> (IPv6)。





## 第 48 章

# セキュリティ（ACL）の拡張機能

セキュリティ（ACL）の拡張機能では、1つのボックスで設定できる ACL、ACE、またはこれらの両方の数を制限するオプションが用意されています。ボックスで ACL または ACE の数を制限することにより、ボックスのパフォーマンスに悪影響を与える可能性のある TCAM スペースの枯渇または過使用を防ぐことができます。

- [機能制限（579 ページ）](#)
- [セキュリティ（ACL）の拡張機能の設定（580 ページ）](#)
- [ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する機能情報, on page 581](#)

## 機能制限

- `acl-ace-limit` の設定は、ACL ごとであり、ボックスのすべての ACL に適用されます。
- `acl-limit` および `acl-ace-limit` は、`global-ace-limit` と同時に使用できません。`acl-limit` と `acl-ace-limit` が設定されている場合、`global-ace-limit` は設定できず、`global-ace-limit` が設定されている場合、`acl-limit` と `acl-ace-limit` は設定できません。  
設定する制限は、ボックスの既存の ACL/ACE の数未満にはできません。
- `acl-limit`、`acl-ace-limit`、または `global-ace-limit` 設定は、デバイスの起動中に内部で作成された ACL/ACE に適用されます。
- オブジェクトグループ ACE (ogace) 拡張を備えた ACL は、このリリースではサポートされていません。お客様の要件に基づいて、これは詳しく調査できます。各 ogace は 1 つの ace としてカウントされます。
- `acl-limit`、`acl-ace-limit`、または `global-ace-limit` 設定は、すべての静的 ACL および動的に作成されたすべての ACL に適用されます（ただし、テンプレート ACL は除きます）。
- 設定可能な `acl-limit`、`acl-ace-limit`、または `global-ace-limit` によって、TCAM スペースの過使用や枯渇が発生しなくなるという訳ではありません。ラボでの事前テストから、ボックスでサポートできる正確な設定可能制限を認知しておく必要があります。

- ボックスで設定されているすべての ACL がインターフェイスに適用されるということが前提であり、これは TCAM スペースに影響します。
- ボックスが設定可能な `acl-limit`、`acl-ace-limit`、または `global-ace-limit` に到達し、かつクライアントが動的 ACL/ACE を作成しようとする、その要求は拒否され、`syslog` エラーメッセージが出力されます。これに応じて障害を処理するのはユーザーの責任です。

## セキュリティ (ACL) の拡張機能の設定

V4 および V6 に対して ACL および ACE 制限を設定するには：

```
enable
configure terminal
access-list acl-limit 10
access-list acl-ace-limit 12
access-list global-ace-limit 14
end
```



(注) `acl-limit` および `acl-ace-limit` は、`global-ace-limit` と同時に使用できません。

### 特記事項

- 設定可能な最大 ACL 制限の範囲は  $1 \sim 2^{16}$  です。
- 設定可能な ACL あたりの最大 ACE 制限の範囲は  $1 \sim 2^{32}$  です。
- 設定可能な最大グローバル ACE 制限の範囲は  $1 \sim 2^{32}$  です。
- `acl-ace-limit` 設定は、すでに設定されているすべての ACL、およびこれから設定されるすべての ACL に適用されます。

### セキュリティ (ACL) の拡張機能の設定の確認

`show access-list acl-limit` コマンドを使用すると、設定されている ACL と ACE の数を表示できます。

```
Device# show access-list acl-limit
Max ACLs configurable:      50
Number of ACLs configured:  10

Max aces/ACL configurable:  10

Max aces configurable:     100
Number of aces configured:  67
```

## ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 69:** ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ホップバイホップフィルタリングに対応するための IPv6 ACL の拡張	Cisco IOS リリース XE 3.4S Cisco IOS リリース XE 3.5S Cisco IOS リリース XE 3.6S Cisco IOS リリース XE 3.3SG	これによって、ホップバイホップ拡張ヘッダーを含む IPv6 トラフィックを制御できます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>deny</b> (IPv6)、 <b>permit</b> (IPv6)。





## CHAPTER 49

# ACL の IPv6 オブジェクトグループ

ACL の IPv6 オブジェクトグループ機能を使用して、ユーザー、デバイス、またはプロトコルをグループに分類し、これらのグループをアクセスコントロールリスト（ACL）に適用してグループのアクセスコントロールポリシーを作成できます。この機能により、従来の ACL で使用される個々の IP アドレス、プロトコル、ポートではなく、オブジェクトグループを使用できるようになります。この機能は、複数のアクセスコントロールエントリ（ACE）を許可しますが、各 ACE を使用して、ユーザーのグループ全体に対してサーバーまたはサービスのグループへのアクセスを許可または禁止できます。

大規模なネットワークでは、ACL の行数が大量（数百行）になり、特に ACL が頻繁に変更される場合は ACL の設定および管理が困難になります。オブジェクトグループベースの ACL は、従来の ACL よりも小さく、読みやすく、設定と管理が容易であるため、Cisco IOS ルータでの大規模なユーザーアクセス環境での静的および動的な ACL の導入が簡素化されます。

Cisco IOS ファイアウォールでは、オブジェクトグループはポリシーの作成を簡素化することから（たとえば、グループ A にグループ A サービスへのアクセスを許可するなど）オブジェクトグループによるメリットが得られます。

- [ACL の IPv6 オブジェクトグループに関する制約事項, on page 583](#)
- [ACL の IPv6 オブジェクトグループに関する情報, on page 584](#)
- [ACL のオブジェクトグループの設定方法, on page 586](#)
- [ACL 用オブジェクトグループの設定例, on page 588](#)
- [ACL 用オブジェクトグループに関する追加情報, on page 590](#)
- [ACL 用 IPv6 オブジェクトグループに関する機能情報, on page 590](#)

## ACL の IPv6 オブジェクトグループに関する制約事項

- オブジェクトグループベースの ACL は、レイヤ 3 インターフェイス（ルーテッドインターフェイスや VLAN インターフェイスなど）のみをサポートします。オブジェクトグループベースの ACL は、VLAN ACL（VAACL）やポート ACL（PACL）などのレイヤ 2 機能をサポートしません。
- オブジェクトグループベースの ACL は、IPsec ではサポートされていません。
- ACL でサポートされるオブジェクトグループベースの ACE の最大数は 2048 です。

- 空のオブジェクトグループは自動的に削除されます。
- オブジェクトグループは、アクセスリストで参照する前に作成する必要があります。オブジェクトグループは、アクセスリストなどの他の機能によって参照されている場合は削除できません。
- パケットフローに対して ACL 照合が実行される場合、ACL エントリを含むオブジェクトグループはスキップされます。

## ACL の IPv6 オブジェクトグループに関する情報

従来型のアクセス制御エントリ (ACE) を設定し、複数の ACE が同じ ACL 内のオブジェクトグループを参照するように設定できます。

オブジェクトグループベースの ACL は、Quality of Service (QoS) 一致基準、Cisco IOS ファイアウォール、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)、およびその他の拡張 ACL を使用する機能で使用できます。さらに、マルチキャストトラフィックでオブジェクトグループベースの ACL を使用することもできます。

大規模な設定では、ACE でオブジェクトグループを使用する場合、アドレスとプロトコルのペアごとに個別の ACE を定義する必要がなくなるため、NVRAM に必要なストレージを削減できます。

## オブジェクトグループ

オブジェクトグループには、単一のオブジェクト (単一の IP アドレス、ネットワーク、またはサブネットなど) または複数のオブジェクト (複数の IP アドレスの組み合わせ、ネットワーク、またはサブネットなど) を含めることができます。

一般的なアクセスコントロールエントリ (ACE) では、ユーザーのグループが特定のサーバーグループにのみアクセスできます。オブジェクトグループベースのアクセスコントロールリスト (ACL) では、多数の ACE を作成する (各 ACE に異なる IP アドレスが必要) 代わりに、オブジェクトグループ名を使用する単一の ACE を作成できます。同様のオブジェクトグループ (プロトコルポートグループなど) を拡張して、ユーザーグループの一連のアプリケーションのみアクセス可能にできます。ACE には、送信元のみ、宛先のみ、なし、または両方のオブジェクトグループを含めることができます。

オブジェクトグループを使用して、ACE のコンポーネントの所有権を分離できます。たとえば、組織内の各部門がそのグループメンバーシップを制御し、管理者が ACE 自体を所有して、どの部門が相互に通信できるかを制御します。

IPv6 アドレスおよびサービス (プロトコル) はオブジェクトとして扱われ、その後、必要に応じてさまざまなオブジェクトグループにグループ化されます。オブジェクトグループには、**v6-network** オブジェクトグループ (アドレス用) と **v6-service** オブジェクトグループ (プロトコル用) の 2 種類があります。必要に応じて、オブジェクトグループをネストできます。



オブジェクトグループは、IPv6 ACE の設定時に、プロトコルや送信元アドレスまたは宛先アドレスの代わりに参照できます。オブジェクトグループを含む ACE は、個別の ACE（各オブジェクトの）に展開され、ハードウェアにプログラムされます。

IPv6 ネットワークおよびサービス オブジェクト グループには、オブジェクトが追加される独自のコンフィギュレーション サブモードがあります。

Cisco Policy Language (CPL) クラスマップを使用する機能でオブジェクトグループを使用できます。

この機能は、ACL パラメータをグループ化するために、ネットワーク オブジェクトグループとサービス オブジェクトグループの 2 種類のオブジェクトグループをサポートします。これらのオブジェクトグループを使用して、IP アドレス、プロトコル、プロトコルサービス（ポート）、および Internet Control Message Protocol (ICMP) タイプをグループ化します。

## ネットワーク オブジェクト グループで許可されるオブジェクト

ネットワーク オブジェクト グループは、次のいずれかのオブジェクトのグループです。

- IPv6 アドレス
- ホスト IPv6 アドレス
- その他のネットワーク オブジェクト グループ
- サブネット

## サービス オブジェクト グループで許可されるオブジェクト

サービス オブジェクト グループは、次のいずれかのオブジェクトのグループです。

- 送信元および宛先プロトコルポート (Telnet や Simple Network Management Protocol (SNMP) など)
- Internet Control Message Protocol (ICMP) タイプ (エコー、エコー応答、到達不能など)
- トップレベルプロトコル (Encapsulating Security Payload (ESP)、TCP、UDP など)
- その他のサービス オブジェクト グループ

## オブジェクト グループに基づく ACL

従来のアクセス コントロール リスト (ACL) を使用または参照する機能はすべて、オブジェクトグループベースの ACL と互換性があり、従来の ACL の機能インタラクションはオブジェクトグループベース ACL と同じです。この機能により、オブジェクトグループベースの ACL をサポートできるように従来の ACL が拡張され、新しいキーワードと、送信元アドレス、宛先アドレス、送信元ポート、および宛先ポートが追加されます。

オブジェクトグループメンバーシップリストでは、(オブジェクトグループを削除および再定義せずに) オブジェクトを動的に追加、削除、または変更できます。また、オブジェクトグループメンバーシップリストでは、オブジェクトグループを使用する ACL アクセス コント

ルールエントリ (ACE) を再定義せずに、オブジェクトを追加、削除、または変更できます。グループにオブジェクトを追加してから、グループからオブジェクトを削除することで、ACL をインターフェイスに再適用せずに、オブジェクトグループベースの ACL 内で変更が正しく機能することを確認できます。

ソースグループのみ、宛先グループのみ、またはソースグループと宛先グループの両方を使用して、オブジェクトグループベースの ACL を複数回設定できます。

ACL 内またはクラスベースポリシー言語 (CPL) ポリシー内で使用されているオブジェクトグループは削除できません。

## ACL のオブジェクトグループの設定方法

ACL のオブジェクトグループを設定するには、最初に 1 つ以上のオブジェクトグループを作成します。作成するオブジェクトグループは、ネットワークオブジェクトグループ (ホストアドレスやネットワークアドレスなどのオブジェクトが含まれるグループ) またはサービスオブジェクトグループ (ポート番号に **lt**、**eq**、**gt**、**neq**、**range** などの演算子を使用するグループ) を任意に組み合わせることができます。オブジェクトグループを作成した後、それらのグループにポリシー (**permit** または **deny** など) を適用するアクセスコントロールエントリ (ACE) を作成します。

## IPv6 オブジェクトグループの設定

### オブジェクトグループ

次のオブジェクトグループが追加されています。

```
Device# enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group ?
network      network group
security     security group
service      service group
v6-network   IPv6 network group
v6-service   IPv6 service group
```

### IPv6 ACL でのオブジェクトグループの使用

オブジェクトグループは、プロトコル、送信元 IPv6 アドレス、および宛先 IPv6 アドレスの 3 つの位置にあるアクセスリストで使用できます。

次のオブジェクトグループオプションが既存のプロトコル/アドレスオプションに追加されています。

```
Device(config-v6network-group)#?

Device(config-ipv6-acl)# [no] { permit | deny } [ <protocol options> | object-group
<v6service og name> ] { <source address options> | object-group <v6network OG
name> } { <destination address options> | object-group <v6network OG name> }
```

## IPv6 ネットワーク オブジェクト グループの作成

単一のオブジェクト（単一の IP アドレス、ホスト名、別のネットワーク オブジェクト グループ、またはサブネットなど）または複数のオブジェクトを含むネットワーク オブジェクト グループには、オブジェクトのアクセス制御ポリシーを作成するための、ネットワーク オブジェクト グループ ベース ACL が関連付けられています。

IPv6 ネットワーク オブジェクト グループを作成するには、次の手順を実行します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group v6-network name
Device(config-v6network-group)# [no] { description <desc> | <x.x.x.x::x/prefix_len> |
host <x.x.x.x::x> | group-object <nested OG name> }
```

```
Device(config)#object-group v6-net oget1
Device(config-v6network-group)#?
```

```
V6-Network object group configuration commands:
X:X:X:X/X/<0-128> - IPv6 network address/prefix length
description      - Network object group description
exit             - Exit from object group configuration mode
group-object     - Nested object group
host             - Host address of group member
no               - Negate or set default values of a command
```

## IPv6 サービス オブジェクト グループの作成

TCP または UDP ポートまたはポート範囲を指定するにはサービス オブジェクト グループを使用します。サービス オブジェクト グループがアクセスコントロールリスト (ACL) に関連付けられると、このサービス オブジェクト グループ ベースの ACL はポートへのアクセスを制御できます。

IPv6 サービス オブジェクト グループを作成するには、次の手順を実行します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group v6-service <name>
Device(config-v6service-group)# [no] {description <desc> | <0-255> | ahp | esp | hbh
| icmp [<message type>]
| ipv6 | pcp | { <sctp | tcp | udp | tcp-udp> [source <src port options>]}
[<dest port options>] | group-object <nested OG name> }
Device(config-service-group)# end
```

```
Device# (config-v6service-group)#?
IPv6 Service object group configuration commands:
<0-255>          - An IP protocol number
ahp              - Authentication Header Protocol
description     - Service object group description
esp              - Encapsulation Security Payload
exit            - Exit from object-group configuration mode
group-object    - Nested object group
hbh             - Hop by Hop options header
icmp            - Internet Control Message Protocol
ipv6            - Any Internet Protocol (v6)
no              - Negate or set default values of a command
pcp             - Payload Compression Protocol
sctp            - Streams Control Transmission Protocol
```

```

tcp          - Transmission Control Protocol
tcp-udp     - TCP or UDP protocol
udp         - User Datagram Protocol

```

## ACL の IPv6 オブジェクトグループの確認

ACL の IPv6 オブジェクトグループを確認するには、次の手順を実行します。

```

Device# enable
Device# show running int <name>-----to check if ACL is applied on the interface
Device# show object-group object-group-name -----to check if configured object groups
are referenced
Device# show ipv6 access-list -----to check the configured ACL

```

上記の show コマンドは、名前付きまたは番号付きアクセスリストまたはオブジェクトグループベース ACL（名前が入力されていない場合はすべてのアクセスリストおよびオブジェクトグループベース ACL）の内容を表示します。

## ACL 用オブジェクトグループの設定例

### 例：IPv6 ネットワーク オブジェクトグループの作成

次に、v6-network oghnet1 という名前の IPv6 ネットワーク オブジェクトグループを作成する例を示します。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group v6-network oghnet1
Device(config-v6-network-group)# 1:1:2::0/32
Device(config-v6-network-group)# host AB:233::23D5
Device(config-v6-network-group)# exit

```

次に、1つのホスト、1つのサブネット、および既存のオブジェクトグループ（子）をオブジェクトとして含む、v6-network oghnet2 という名前のネットワーク オブジェクトグループを作成する例を示します。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group network v6-network oghnet2
Device(config-v6network-group)# 1:2:3::4/36
Device(config-v6network-group)# host AAB::CCDD
Device(config-v6network-group)# group-object oghnet1
Device(config-v6network-group)# exit

```

### 例：IPv6 サービス オブジェクトグループの作成

次に、複数の ICMP、TCP、UDP、および TCP-UDP プロトコルをオブジェクトとして含む、v6-service ogserv1 という名前のサービス オブジェクトグループを作成する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group service v6-service ogserv1
Device(config-v6service-group)# icmp unreachable
Device(config-v6service-group)# tcp smtp
Device(config-v6service-group)# tcp telnet
Device(config-v6service-group)# tcp source range 3000 4000 telnet
Device(config-v6service-group)# pcp
Device(config-v6service-group)# udp domain
Device(config-v6service-group)# hph
Device(config-v6service-group)# exit
```

## 例：IPv6 オブジェクトグループベースの ACL の作成

次に、パケットを許可する IPv6 オブジェクトグループベース ACL を作成する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 access-list ogacl1
Device(config-ipv6-acl)# permit object-group ogserv1 5:6:7::5/56 object-group oget1
Device(config-ipv6-acl)# deny ip object-group oget2 object-group oget3
Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 any any
Device(config-ipv6-acl)# exit
```

## 例：ACL 用 IPv6 オブジェクトグループの確認

次に、すべてのオブジェクトグループを表示する例を示します。

```
Device# show object-group

V6-Network object group oget1
1:1:2::/32
host AB:233::23D5
V6-Network object group oget2
1:2:3::4/36
host AABB::CCDD
group-object oget1
V6-Network object group oget3
host 1::1
host 1::2
host 1::3
V6-Service object group ogserv1
icmp unreachable
tcp source range 3000 4000 eq telnet
pcp
hbh
```

次に、IPv6 オブジェクトグループベース ACL に関する情報を表示する例を示します。

```
Device# show ipv6 access-list
IPv6 access list ogacl1
  permit object-group ogserv1 5:6:7::5/56 object-group oget1 sequence 10
  deny ipv6 object-group oget2 object-group oget3 sequence 20
```

```
permit ipv6 any any sequence 30
```

## ACL用オブジェクトグループに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>
ACL 設定ガイド	『セキュリティコンフィギュレーションガイド』の「アクセスコントロールリスト」

### シスコのテクニカルサポート

説明	リンク
<p>右のURLにアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。このWebサイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.comのログインIDおよびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ACL用IPv6オブジェクトグループに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 70: ACL 用オブジェクトグループに関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
ACL の IPv6 オブジェクトグループ	Cisco IOS XE リリース 16.11.1	ACL 用 IPv6 オブジェクトグループ機能を使用すれば、ユーザー、デバイス、またはプロトコルをグループに分類して、それらをアクセス制御リスト (ACL) に適用し、そのグループ用のアクセス制御ポリシーを作成することができます。この機能により、従来の ACL で使用される個々の IP アドレス、プロトコル、ポートではなく、オブジェクトグループを使用できるようになります。この機能は、複数のアクセスコントロールエントリ (ACE) を許可しますが、各 ACE を使用して、ユーザーのグループ全体に対してサーバーまたはサービスのグループへのアクセスを許可または禁止できます。







## 第 **IV** 部

# RADIUS

- [RADIUS の設定, on page 595](#)
- [複数の UDP ポート用の RADIUS, on page 619](#)
- [許可用の AAA Dialed Number Information Service \(DNIS\) マップ, on page 627](#)
- [AAA サーバグループ, on page 641](#)
- [RADIUS アカウンティング内の Framed-Route, on page 651](#)
- [RFC-2867 RADIUS トンネルアカウンティング, on page 657](#)
- [RADIUS 論理回線 ID, on page 673](#)
- [RADIUS ルートダウンロード, on page 683](#)
- [RADIUS サーバロードバランシング, on page 689](#)
- [RADIUS サーバ障害発生時順序変更, on page 713](#)
- [アカウンティングの RADIUS 個別再送信カウンタ, on page 725](#)
- [RADIUS VC ログイン, on page 735](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理, on page 743](#)
- [RADIUS EAP サポート, on page 753](#)
- [コール接続時の RADIUS 暫定アップデート, on page 763](#)
- [ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンス, on page 767](#)





## CHAPTER 50

# RADIUS の設定

RADIUS セキュリティシステムは、不正なアクセスからネットワークのセキュリティを保護する分散クライアント/サーバシステムです。シスコの実装では、RADIUS クライアントはシスコデバイス上で実行され、すべてのユーザ認証およびネットワーク サービス アクセス情報を持つ中央の RADIUS サーバに認証要求を送信します。

- [RADIUS の前提条件, on page 595](#)
- [RadSec の制限 \(RADIUS セキュリティ\) \(596 ページ\)](#)
- [RADIUS の概要, on page 596](#)
- [RADIUS の設定方法, on page 606](#)
- [RADIUS の設定例, on page 612](#)
- [その他の参考資料, on page 615](#)
- [RADIUS の設定に関する機能情報, on page 616](#)

## RADIUS の前提条件

シスコ デバイスまたはアクセス サーバーで RADIUS を設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

- **aaa new-model** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) をイネーブルにします。RADIUS を使用する予定がある場合、AAA を設定する必要があります。
- **aaa authentication** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、RADIUS 認証の方式リストを定義します。
- **line** および **interface** コマンドを使用して、使用する定義済みの方式リストを有効にします。

## RadSec の制限 (RADIUS セキュリティ)

RadSec は、シスコエンタープライズルーティングプラットフォームではサポートされていません。

## RADIUS の概要

### RADIUS ネットワーク環境

シスコは、認証、認可、およびアカウントリング (AAA) セキュリティ パラダイムに基づいて RADIUS をサポートします。RADIUS は、TACACS+、Kerberos、ローカルユーザー名の検索など、他の AAA セキュリティ プロトコルと併用できます。RADIUS はすべての Cisco プラットフォームでサポートされますが、RADIUS でサポートされる一部の機能は、指定されたプラットフォームだけで実行されます。

RADIUS は、リモートユーザーのネットワークアクセスを維持すると同時に高度なレベルのセキュリティを必要とするさまざまなネットワーク環境に実装されています。

RADIUS は、アクセスのセキュリティが必要な次のネットワーク環境で使用できます。

- それぞれが RADIUS をサポートする、マルチベンダー アクセス サーバによるネットワーク。たとえば、複数のベンダーのアクセスサーバが、1つの RADIUS サーバベースセキュリティ データベースを使用します。複数ベンダーのアクセスサーバからなる IP ベースのネットワークでは、ダイヤルインユーザは RADIUS サーバを通じて認証されます。RADIUS サーバは、Kerberos セキュリティ システムで動作するようにカスタマイズされています。
- アプリケーションが RADIUS プロトコルをサポートするターンキー ネットワーク セキュリティ環境。たとえば、スマートカードアクセスコントロールシステムを使用するアクセス環境。その例として、ユーザーの検証とネットワークリソースへのアクセス許可に、RADIUS が Enigma のセキュリティカードとともに使用されています。
- すでに RADIUS を使用中のネットワーク。RADIUS 機能を持つ Cisco デバイスをネットワークに追加できます。これが TACACS+ サーバへの移行の最初のステップとなることもあります。
- ユーザーが単一のサービスにだけアクセスする必要があるネットワーク。RADIUS を使用すると、単一ホスト、単一ユーティリティ (Telnet など)、または単一プロトコル (PPP など) に対するユーザーアクセスを制御できます。たとえば、ユーザーがログインすると、RADIUS は、IP アドレス 10.2.3.4 を使用してそのユーザーが PPP を実行する権限を持っていることを識別し、定義済みのアクセスリストが開始されます。
- リソースアカウントリングが必要なネットワーク。RADIUS アカウントリングは、RADIUS 認証または RADIUS 認可とは個別に使用できます。RADIUS アカウントリング機能を使用すると、サービスの開始および終了時に、セッション中に使用したリソース (時間、パケット、バイトなど) の量を示すデータを送信できます。ISP は、RADIUS アクセスコン

トロールおよびアカウントリング ソフトウェアのフリーウェア バージョンを使用して、特殊なセキュリティおよび課金に対するニーズを満たすこともできます。

- 事前認証をサポートしているネットワーク。ネットワークに RADIUS サーバーを導入すると、AAA 事前認証を設定し、事前認証のプロファイルを設定できます。サービス プロバイダーが事前認証を使用すると、既存の RADIUS ソリューションを使用するポートの管理性が向上し、共有リソースを効率的に管理して、各種のサービスレベル契約を提供できるようになります。

RADIUS は、次のようなネットワーク セキュリティ状況には適していません。

- マルチプロトコル アクセス環境。RADIUS は次のプロトコルをサポートしていません。
  - AppleTalk Remote Access (ARA)
  - NetBIOS Frame Control Protocol (NBFCP)
  - NetWare Asynchronous Services Interface (NASI)
  - X.25 Packet Assemblers/Disassemblers (PAD) 接続
- デバイスからデバイスへの状況。RADIUS は、双方向認証を行いません。RADIUS は、他社製のデバイスが RADIUS 認証を必要とする場合に、あるデバイスから他社製のデバイスへの認証に使用できます。
- 各種のサービスを使用するネットワーク。RADIUS は、一般に 1 人のユーザを 1 つのサービス モデルにバインドします。

## RADIUS の動作

ユーザーがログインを試行し、RADIUS を使用してアクセスサーバーから認証を受ける場合、次の手順が発生します。

1. ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。
2. ユーザー名および暗号化されたパスワードが、ネットワーク経由で RADIUS サーバに送信されます。
3. ユーザーは、RADIUS サーバから次のいずれかの応答を受信します。
  - a. ACCEPT : ユーザーが認証されたことを表します。
  - b. CHALLENGE : RADIUS サーバによってチャレンジが発行されます。チャレンジは、ユーザーから追加データを収集します。
  - c. CHANGE PASSWORD : RADIUS サーバからユーザーに対して新しいパスワードの選択を求める要求が発行されます。
  - d. REJECT : ユーザーは認証されず、ユーザー名とパスワードの再入力を求められるか、アクセスを拒否されます。

ACCEPT 応答または REJECT 応答には、EXEC 許可またはネットワーク許可に使用される追加データが含まれています。RADIUS 認可を使用するには、まず RADIUS 認証を完了する必要があります。ACCEPT または REJECT パケットに含まれる追加データの内容は次のとおりです。

- ユーザーがアクセスできるサービス。Telnet、rlogin、またはローカルエリアトランスポート (LAT) などの接続や、PPP、Serial Line Internet Protocol (SLIP)、または EXEC サービスなどのサービスを含む。
- ホストまたはクライアントの IP アドレス、アクセスリスト、ユーザータイムアウトなどの接続パラメータ。

## RADIUS 属性

ネットワーク アクセス サーバーは、各ユーザー プロファイルで RADIUS 属性で定義されている RADIUS 認可機能およびアカウントिंग機能をモニターします。

### ベンダー独自の RADIUS 属性

RADIUS の Internet Engineering Task Force (IETF) 標準規格には、ネットワーク アクセス サーバーと RADIUS サーバーの間でベンダー独自の情報を伝達する際の方式が規定されています。さらに、一部のベンダーが固有の方法で RADIUS 属性を拡張しています。Cisco ソフトウェアは、ベンダー独自仕様の RADIUS 属性のサブセットをサポートしています。

### RADIUS トンネル属性

RADIUS は、元は Livingston, Inc. が開発したセキュリティ サーバーの AAA プロトコルです。RADIUS は属性値 (AV) ペアを使用して、セキュリティ サーバーとネットワーク アクセス サーバーの間で通信します。

RFC 2138 と RFC 2139 では、RADIUS の基本機能と、AAA 情報の送信に使用される IETF 標準規格の AV ペアの初期セットについて説明しています。「RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support」および「RADIUS Accounting Modifications for Tunnel Protocol Support」という 2 つの IETF 標準規格は、VPN 固有の属性を含むように IETF が定義した AV ペアセットを拡張します。これらの属性は、RADIUS サーバーとトンネルイニシエータの間でトンネリング情報を伝送するために使用されます。

RFC 2865 と RFC 2868 は IETF が定義した AV ペアセットを拡張して、VPN の強制トンネリングに固有の属性を追加しています。この属性を使用して、ユーザーはネットワーク アクセス サーバーおよび RADIUS サーバーの認証名を指定できます。

シスコデバイスとアクセス サーバーでは、新しい RADIUS IETF 標準規格の仮想プライベートダイヤルアップ ネットワーク (VPDN) トンネル属性がサポートされています。

## RADIUS サーバー上の事前認証

RADIUS 属性は、事前認証の動作を指定するために RADIUS 事前認証プロファイルで設定されています。シスコデバイスで事前認証を設定するだけでなく、RADIUS サーバーでも事前認証プロファイルを設定する必要があります。

## DNIS または CLID 事前認証のための RADIUS プロファイル

RADIUS 事前認証プロファイルを設定するには、着信番号識別サービス (DNIS) または発信側回線 ID (CLID) の番号をユーザー名として使用し、**dnis** または **clid** コマンドで定義されたパスワードをパスワードとして使用します。



**Note** 事前認証プロファイルのサービスタイプは常に「outbound」になります。これは、パスワードがネットワーク アクセス サーバー (NAS) で事前定義されているためです。この方法で事前認証プロファイルを設定することで、DNIS 番号、CLID 番号、またはコールタイプのユーザー名と、わかりやすいパスワードを使用してユーザーが NAS にログインする操作を回避できます。「outbound」サービスタイプは、RADIUS サーバーに送信される Access-Request パケットにも含まれます。

## コールタイプの事前認証のための RADIUS プロファイル

RADIUS 事前認証プロファイルを設定するには、コールタイプ文字列をユーザー名として使用し、**ctype** コマンドで定義したパスワードをパスワードとして使用します。以下の表に、事前認証プロファイルで使用できるコールタイプ文字列の一覧を示します。

**Table 71:** 事前認証で使用されるコールタイプ文字列

コールタイプストリング	ISDN ベアラ機能
digital	無制限のデジタル、制限付きのデジタル。
speech	音声、3.1 kHz オーディオ、7 kHz オーディオ。 <b>Note</b> これは個別線信号方式 (CAS) で使用できる唯一のコールタイプです。
v.110	V.110 ユーザー情報レイヤがある任意のコール。
v.120	V.120 ユーザー情報レイヤがある任意のコール。



**Note** 事前認証プロファイルのサービスタイプは必ず「outbound」になります。これは、パスワードが NAS で事前定義されているためです。この方法で事前認証プロファイルを設定することで、DNIS 番号、CLID 番号、またはコールタイプのユーザー名と、わかりやすいパスワードを使用してユーザーが NAS にログインする操作を回避できます。「outbound」サービスタイプは、RADIUS サーバーに送信された Access-Request パケットにも含まれます。また、RADIUS サーバーがチェックインアイテムをサポートする場合、チェックインアイテムにする必要があります。

## コールバック用の事前認証の機能拡張のための RADIUS プロファイル

在宅勤務者などのリモート ネットワーク ユーザーは、コールバックを使用すると課金を受けずに NAS にダイヤルインできます。コールバックが必要な場合、NAS は現在の通話を終了し、呼び出し元にダイヤルします。NAS がコールバックを実行する場合は、発信接続の情報だけが適用されます。事前認証 access-accept メッセージからの残りの属性は廃棄されます。



**Note** RADIUS サーバーからのコールバックに宛先の IP アドレスは必要ありません。

次に、コールバック番号が 555-0101 でサービス タイプが outbound に設定された RADIUS プロファイル設定の例を示します。cisco-avpair = "preauth:send-name=<string>" では文字列 "user1" を使用し、cisco-avpair = "preauth:send-secret=<string>" ではパスワード "cisco" を使用します。

```
5550101 password = "cisco", Service-Type = Outbound
Service-Type = Callback-Framed
Framed-Protocol = PPP,
Dialback-No = "5550119"
Class = "ISP12"
cisco-avpair = "preauth:send-name=user1"
cisco-avpair = "preauth:send-secret=cisco"
```

## 大規模なダイヤルアウトに使用するリモート ホスト名の RADIUS プロファイル

次の例では、正しい電話番号をコールして誤ったデバイスにアクセスするアクシデントを防ぐために、大規模なダイヤルアウトで使用するリモート デバイスの名前を指定しています。

```
5550101 password = "PASSWORD1", Service-Type = Outbound
Service-Type = Callback-Framed
Framed-Protocol = PPP,
Dialback-No = "5550190"
Class = "ISP12"
cisco-avpair = "preauth:send-name=user1"
cisco-avpair = "preauth:send-secret=PASSWORD1"
cisco-avpair = "preauth:remote-name=Device2"
```

## モデム管理用の RADIUS プロファイル

DNIS、CLID、またはコール タイプの事前認証を使用する場合、NAS の RADIUS サーバーからの肯定応答には、ベンダー固有属性 (VSA) 26 を介して、モデム管理用のモデム文字列を含めることができます。モデム管理 VSA の構文は次のとおりです。

```
cisco-avpair = "preauth:modem-service=modem min-speed <
x
> max-speed <
y
>
modulation <
z
> error-correction <
a
> compression <
```



b  
>"

以下の表に、VSA 内のモデム管理文字列要素の一覧を示します。

**Table 72:** モデム管理文字列

コマンド	引数
min-speed	300 ~ 56000、any
max-speed	300 ~ 56000、any
modulation	K56Flex、v22bis、v32bis、v34、v90、any
error-correction	lapm、mnp4
compression	mnp5、v42bis

VSA の形式で RADIUS サーバーからモデム管理文字列を受信すると、その情報は Cisco ソフトウェアに渡され、コールごとに適用されます。Modem ISDN Channel Aggregation (MICA) モデムには、コール設定時にメッセージを送信できるコントロールチャンネルがあります。そのため、このモデム管理機能をサポートするのは、MICA モデムだけです。この機能は Microcom モデムではサポートされません。

## 後続の認証のための RADIUS プロファイル

事前認証に成功すると、事前認証プロファイルのベンダー独自の RADIUS 属性 201

(Require-Auth) を使用して、後続の認証を実行するかどうかを決定できます。access-accept メッセージで返される属性 201 の値が 0 の場合、後続の認証は実行されません。属性 201 の値が 1 の場合、後続の認証は通常どおり実行されます。

属性 201 の構文は次のとおりです。

```
cisco-avpair = "preauth:auth-required=<
n
>"
```

ここで、<n> は、属性 201 と同じ値の範囲です (つまり、0 または 1)。

事前認証プロファイルに属性 201 が含まれない場合、値 1 と仮定され、後続の認証が実行されます。



**Note** 後続の認証を実行する前に、事前認証プロファイルに加えて、通常ユーザープロファイルを設定する必要があります。

## 後続の認証タイプのための RADIUS プロファイル

事前認証プロファイルに後続の認証を指定した場合、後続の認証に使用する認証タイプも指定する必要があります。後続の認証で使用できる認証タイプを指定するには、次の VSA を使用します。

```
cisco-avpair = "preauth:auth-type=<string>"
```

以下の表に、<string> 要素で使用できる値の一覧を示します。

Table 73: <string> 要素の値

文字列	説明
chap	PPP 認証の Challenge Handshake Authentication Protocol (CHAP) のユーザー名とパスワードが必要です。
ms-chap	PPP 認証の MS-CHAP のユーザー名とパスワードが必要です。
pap	PPP 認証の Password Authentication Protocol (PAP) のユーザー名とパスワードが必要です。

複数の認証タイプを許可するように指定するには、事前認証プロファイルでこの VSA の複数インスタンスを設定できます。事前認証プロファイルに指定する認証タイプ VSA の順序は、PPP ネゴシエーションに使用する認証タイプの順序にもなるため、重要です。

この VSA はユーザー別の属性であり、**ppp authentication** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドで指定された認証タイプ リストを置き換えます。



**Note** これは後続の認証用の認証タイプを指定する VSA なので、後続の認証が必要な場合にだけ使用してください。

## ユーザー名を含めるための RADIUS プロファイル

コールの認証に事前認証のみを使用する場合、発信するときに NAS がユーザー名を見つけられない可能性があります。RADIUS は、NAS が RADIUS 属性 1 (User-Name) または Access-Accept パケットで返される VSA を介して使用するユーザー名を提供できます。ユーザー名を指定する VSA の構文は次のとおりです。

```
cisco-avpair = "preauth:username=<string>"
```

ユーザー名を指定しない場合、DNIS 番号、CLID 番号、またはコールタイプが使用されます。これは、設定した最後の事前認証コマンドによって変わります (たとえば、**clid** が最後に設定された事前認証コマンドの場合、CLID 番号がユーザー名として使用されます)。

後続の認証を使用してコールを認証する場合、2つのユーザー名が存在する可能性があります。RADIUS から提供されたユーザー名と、ユーザーが指定したユーザー名です。この場合、ユーザーが指定したユーザー名は、RADIUS 事前認証プロファイルに含まれているユーザー名を上書きします。ユーザーが指定したユーザー名は、認証およびアカウントリングの両方に使用されます。

## 双方向認証のための RADIUS プロファイル

双方向認証の場合、発信側のネットワーク デバイスは NAS を認証する必要があります。PAP のユーザー名とパスワードや CHAP のユーザー名とパスワードを NAS 上でローカルに設定する必要はありません。代わりに、事前認証の Access-Accept メッセージにユーザー名とパスワードを含めることができます。



**Note** radius コマンドを使用する場合、**ppp authentication** コマンドは設定しないでください。

PAP をセットアップする場合、インターフェイスで **ppp pap sent-name password** コマンドは設定しないでください。VSA 「preauth:send-name」および 「preauth:send-secret」は、アウトバウンド認証の PAP ユーザー名と PAP パスワードとして使用されます。

CHAP の場合、「preauth:send-name」はアウトバウンド認証だけでなく、インバウンド認証にも使用されます。CHAP インバウンドの場合、NAS は、発信側のネットワーク デバイスに対するチャレンジパケットで 「preauth:send-name」 に定義されている名前を使用します。CHAP アウトバウンドの場合、「preauth:send-name」と 「preauth:send-secret」の両方が応答パケットで使用されます。

次に、双方向認証を指定する設定の例を示します。

```
5550101 password = "PASSWORD2", Service-Type = Outbound
Service-Type = Framed-User
cisco-avpair = "preauth:auth-required=1"
cisco-avpair = "preauth:auth-type=pap"
cisco-avpair = "preauth:send-name=user1"
cisco-avpair = "preauth:send-secret=PASSWORD2"
class = "<some class>"
```



**Note** リソース プーリングをイネーブルにする場合、双方向認証は機能しません。

## 認可をサポートするための RADIUS プロファイル

事前認証のみが設定されている場合、後続の認証はバイパスされます。ユーザー名とパスワードを使用できないため、認可もバイパスされます。ただし、事前認証プロファイルに authorization 属性を含めてユーザー別の属性を適用することで、認可のために後で RADIUS に処理を戻す必要がなくなります。認可プロセスを開始するには、NAS で **aaa authorization network** コマンドも設定する必要があります。

事前認証プロファイルに `authorization` 属性を設定できますが、`service-type` 属性（属性 6）という 1 つの例外があります。`service-type` 属性は、事前認証プロファイルで VSA に変換する必要があります。この VSA の構文は次のとおりです。

```
cisco-avpair = "preauth:service-type=<
n
>"
```

ここで、`<n>` は、属性 6 に関する標準の RFC 2865 値の 1 つです。



**Note** 後続の認証が必要な場合、事前認証プロファイルの `authorization` 属性は適用されません。

## RADIUS 認証

RADIUS サーバーを指定し、RADIUS 認証キーを定義した後は、RADIUS 認証の方式リストを定義する必要があります。AAA によって RADIUS 認証が容易になるため、`aaa authentication` コマンドを入力し、認証方式として RADIUS を指定する必要があります。

## RADIUS 許可

AAA 許可を使用すると、ユーザーのアクセスをそのネットワークに制限するパラメータを設定できます。RADIUS を使用する許可は、1 回限りの許可や各サービスに対する許可、各ユーザーに対するアカウントリストおよびプロファイル、ユーザーグループのサポート、IP、IPX、AppleTalk Remote Access (ARA)、および Telnet のサポートなど、リモートアクセスをコントロールするための方法を提供します。AAA によって RADIUS 許可は容易になるため、許可方式として RADIUS を指定して、`aaa authorization` コマンドを入力する必要があります。

## RADIUS アカウンティング

AAA アカウンティング機能を使用すると、ユーザーがアクセスしているサービスや、ユーザーが消費しているネットワーク リソース量を追跡できます。AAA によって RADIUS アカウンティングは容易になるため、アカウンティング方式として RADIUS を指定して、`aaa accounting` コマンドを入力する必要があります。

## RADIUS Login-IP-Host

ネットワーク アクセス サーバー (NAS) が、ダイヤルインユーザーに対する接続を試行するときに複数のログインホストを試行できるようにするため、RADIUS サーバーのユーザープロファイルに 3 つの Login-IP-Host エントリを入力できます。次に、ユーザー `user1` 用に 3 つの Login-IP-Host インスタンスを設定し、接続に TCP-Clear を使用する例を示します。

```
user1 Password = xyz
  Service-Type = Login,
  Login-Service = TCP-Clear,
```

```

Login-IP-Host = 10.0.0.0,
Login-IP-Host = 10.2.2.2,
Login-IP-Host = 10.255.255.255,
Login-TCP-Port = 23

```

ホストの入力順は、試行される順序になります。 **ip tcp synwait-time** コマンドを使用して、NAS がリストの次のホストに対して接続を試行するまでに待機する秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。

使用している RADIUS サーバーが 4 つ以上の Login-IP-Host エントリを許可していても、NAS が Access-Accept パケットでサポートするのは 3 つのホストだけです。

## RADIUS Prompt

Access-Challenge パケットに対するユーザーの応答を画面にエコーするかどうかを制御するには、RADIUS サーバーのユーザー プロファイルで Prompt 属性を設定します。この属性は、Access-Challenge パケットにだけ含まれます。次に、No-Echo に設定された Prompt 属性の例を示します。この設定で、ユーザーの応答はエコーされません。

```

user1 Password = xyz
Service-Type = Login,
Login-Service = Telnet,
Prompt = No-Echo,
Login-IP-Host = 172.31.255.255

```

ユーザーの応答をエコーするには、この属性を Echo に設定します。Prompt 属性をユーザー プロファイルに含めない場合、デフォルトで応答はエコーされます。

この属性は、アクセスサーバーに設定されている **radius-server challenge-noecho** コマンドの動作よりも優先されます。たとえば、アクセスサーバーがエコーを表示しないように設定され、個人のユーザー プロファイルではエコーを許可している場合、ユーザー応答はエコーされません。



**Note** Prompt 属性を使用する場合、Access-Challenge パケットをサポートするように RADIUS サーバーを設定する必要があります。

## ベンダー固有の RADIUS 属性

IETF 標準規格では、ネットワーク アクセスサーバーと RADIUS サーバーの間で、ベンダー固有属性（属性 26）を使用してベンダー固有の情報を伝達する方法を指定しています。各ベンダーは、Vendor-Specific Attribute（VSA）を使用することによって、一般的な用途には適さない独自の拡張属性をサポートできます。シスコの RADIUS 実装は、この仕様で推奨される形式を使用して、1 つのベンダー固有オプションをサポートしています。シスコのベンダー ID は 9 で、サポートされるオプションはベンダータイプ 1、名前は「cisco-avpair」です。この値は、次のフォーマットのストリングです。

```
protocol : attribute sep value *
```

「protocol」は、特定の認可タイプに対するシスコの「protocol」属性の値です。使用可能なプロトコルには、IP、Internetwork Packet Exchange (IPX)、VPDN、VoIP、セキュア シェル (SSH)、Resource Reservation Protocol (RSVP)、シリアルインターフェイス プロセッサ (SIP)、AirNet、およびアウトバウンドなどがあります。「attribute」と「value」は、Cisco TACACS+ 仕様で定義されている適切な AV ペアで、「sep」は、必須属性では「=」、省略可能な属性では「\*」です。この設定により、TACACS+ 認可で使用できる機能一式を RADIUS でも使用できるようになります。

たとえば、次の AV ペアにより、シスコの「複数の名前付き IP アドレス プール」機能が、IP 認可中 (PPP のインターネットプロトコル制御プロトコル (IPCP) アドレスの割り当て中) に有効化されます。

```
cisco-avpair= "ip:addr-pool=first"
```

「\*」を挿入すると、AV ペア「ip:addr-pool=first」は省略可能になります。任意の AV ペアを省略可能にすることができます。

```
cisco-avpair= "ip:addr-pool*first"
```

次に、ネットワーク アクセス サーバからユーザがログインしたときに、すぐに EXEC コマンドを実行する方法の例を示します。

```
cisco-avpair= "shell:priv-lvl=15"
```

他のベンダーには、そのベンダー固有の ID、オプション、関連 VSA があります。

## RADIUS サーバーのスタティック ルートと IP アドレス

RADIUS のベンダー固有実装の一部では、ネットワーク内にある個々のネットワーク アクセス サーバーの代わりに、ユーザが RADIUS サーバーのスタティック ルートおよび IP プールを定義できます。各ネットワーク アクセス サーバーは、スタティック ルートと IP プール情報について RADIUS サーバーに照会します。

シスコデバイスが起動したときに、そのデバイスまたはアクセスサーバーがスタティック ルートと IP プール定義を RADIUS サーバーに照会するには、**radius-server configure-nas** コマンドを使用します。

**radius-server configure-nas** コマンドは、シスコ デバイスの起動時に実行されるため、**copy system:running-config nvram:startup-config** コマンドを入力するまで有効になりません。

## RADIUS の設定方法

### ベンダー独自の RADIUS サーバーとの通信に関するデバイス設定

IETF の RADIUS 標準規格では、ネットワーク アクセス サーバーと RADIUS サーバーの間でベンダー独自の情報を受け渡す方法を指定していますが、一部のベンダーは RADIUS 属性セッ

トを独自の方法で拡張しています。Cisco ソフトウェアは、ベンダー独自仕様の RADIUS 属性のサブセットをサポートしています。

RADIUS を設定するには（ベンダー独自または IETF 準拠のいずれの場合も）、**radius-server** コマンドを使用して、RADIUS サーバーデーモンを実行しているホストと、そのホストがシスコ デバイスと共有する秘密テキスト文字列を指定する必要があります。RADIUS サーバーが RADIUS のベンダー独自実装を使用していることを示すには、**radius-server host non-standard** コマンドを使用します。**radius-server host non-standard** コマンドを使用しないと、ベンダー独自の属性はサポートされません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius-server vsa send [accounting | authentication]**
4. **radius server server-name**
5. **address ipv4 ip-address**
6. **non-standard**
7. **key {0 string | 7 string | string}**
8. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius-server vsa send [accounting   authentication]</b> <b>Example:</b>  Device(config)# radius-server vsa send	RADIUS IETF 属性 26 の定義に従って、ネットワーク アクセス サーバーが VSA を認識および使用できるようにします。
ステップ 4	<b>radius server server-name</b> <b>Example:</b>	RADIUS サーバーの名前を指定します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# radius server rad1	<b>Note</b> <b>radius-server host</b> コマンドは、Cisco IOS リリース 15.4(2)S 以降では廃止されています。IPv4 または IPv6 RADIUS サーバーを設定するには、 <b>radius server name</b> コマンドを使用します。 <b>radius server</b> コマンドの詳細については、『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』を参照してください。
ステップ 5	<b>address ipv4 ip-address</b> <b>Example:</b> Device(config-radius-server)# address ipv4 10.45.1.2	RADIUS サーバーに IP アドレスを割り当てます。
ステップ 6	<b>non-standard</b> <b>Example:</b> Device(config-radius-server)# non-standard	セキュリティ サーバーが RADIUS のベンダー独自の実装を使用していることを示します。
ステップ 7	<b>key {0 string   7 string   string}</b> <b>Example:</b> Device(config-radius-server)# key myRaDIUSpassword	デバイスとベンダー独自仕様の RADIUS サーバーとの間で使用される共有秘密テキスト文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>デバイスと RADIUS サーバーはこのテキスト文字列を使用してパスワードを暗号化し、応答を交換します。</li></ul>
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	特権 EXEC モードに戻ります。

## ネットワーク アクセス サーバーのポート情報を拡張するためのデバイス設定

コール自体が着信したインターフェイスとは別のインターフェイスで PPP 認証またはログイン認証が発生する場合があります。たとえば、V.120 ISDN コールでは、ログイン認証または PPP 認証は仮想非同期インターフェイス「`ttt`」で発生しますが、コール自体は ISDN インターフェイスのチャンネルの 1 つで発生します。

**radius-server attribute nas-port extended** コマンドは、RADIUS を設定して NAS-Port 属性 (RADIUS IETF 属性 5) フィールドのサイズを 32 ビットに拡張します。NAS-Port 属性の上位 16 ビットは、制御インターフェイスの種類と番号を示します。下位 16 ビットは、インターフェイスで実行中の認証を示します。





**Note** `radius-server attribute nas-port format` コマンドは、`radius-server extended-portnames` コマンドおよび `radius-server attribute nas-port extended` コマンドの代わりに使用します。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `radius-server configure-nas`
4. `radius-server attribute nas-port format`
5. `exit`

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius-server configure-nas</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# radius-server configure-nas</pre>	（任意）シスコ デバイスまたはアクセス サーバーが、そのドメイン内で使用するスタティックルートと IP プール定義について RADIUS サーバーに照会するように指定します。 <b>Note</b> <code>radius-server configure-nas</code> コマンドは、シスコ デバイスの起動時に使用されるため、 <code>copy system:running-config nvram:startup-config</code> コマンドを発行するまで有効になりません。
ステップ 4	<b>radius-server attribute nas-port format</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# radius-server attribute nas-port format</pre>	NAS-Port 属性のサイズを 16 ビットから 32 ビットに拡張して、拡張インターフェイス情報を表示できるようにします。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# exit	

## NAS-Port 属性の RADIUS 属性への置き換え

各スロットに複数のインターフェイス（ポート）があるプラットフォームの場合、シスコの RADIUS 実装では、インターフェイスを区別できる固有の NAS-Port 属性を提供しません。たとえば、スロット 1 にデュアル PRI がある場合、RADIUS IETF NAS-Port 属性に関連付けられた 16 ビットフィールドサイズ制限により、Serial1/0:1 と Serial1/1:1 の両方でのコールが NAS-Port = 20101 として表示されます。この場合、NAS-Port 属性を VSA（RADIUS IETF 属性 26）に置き換えることができます。シスコのベンダー ID は 9 で、Cisco-NAS-Port 属性はサブタイプ 2 です。VSA を有効にするには、**radius-server vsa send** コマンドを入力します。ベンダー固有属性のポート情報を提供および設定するには、**aaa nas port extended** コマンドを使用します。

標準の NAS-Port 属性（RADIUS IETF 属性 5）が送信されます。この情報を送信しない場合、**no radius-server attribute nas-port** コマンドを使用して停止できます。このコマンドを設定すると、標準の NAS-Port 属性は送信されなくなります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius-server vsa send [accounting | authentication]**
4. **aaa nas port extended**
5. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>radius-server vsa send [accounting   authentication]</b> <b>Example:</b>  Device(config)# radius-server vsa send	RADIUS IETF 属性 26 の定義に従って、ネットワーク アクセス サーバーがベンダー固有属性を認識および使用できるようにします。
ステップ 4	<b>aaa nas port extended</b> <b>Example:</b>  Device(config)# aaa nas port extended	VSA NAS-Port フィールドのサイズを 16 ビットから 32 ビットに拡張して、拡張インターフェイス情報を表示できるようにします。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config)# exit	特権 EXEC モードに戻ります。

## RADIUS のモニタリングとメンテナンス

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. debug radius
3. show radius statistics
4. show aaa servers
5. exit

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>debug radius</b> <b>Example:</b>  Device# debug radius	RADIUS 関連の情報を表示します。
ステップ 3	<b>show radius statistics</b> <b>Example:</b>	アカウントリングパケットと認証パケットについての RADIUS 統計情報を示します。

	Command or Action	Purpose
	Device# show radius statistics	<b>Note</b> RADIUS にエフェメラル送信元ポートを使用する IOS プロセスはほとんどなく、ポート番号は毎回異なる場合があります。
ステップ 4	<b>show aaa servers</b> <b>Example:</b> Device# show aaa servers	AAA サーバー MIB によって解釈される、すべてのパブリックおよびプライベート AAA RADIUS サーバーとの間で送受信されるパケットのステータスと数を表示します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	デバイス セッションを終了します。

## RADIUS の設定例

### 例：RADIUS の認証と認可

次に、RADIUS を使用して認証および認可を行うようにデバイスを設定する例を示します。

```
aaa authentication login use-radius group radius local
aaa authentication ppp user-radius if-needed group radius
aaa authorization exec default group radius
aaa authorization network default group radius
```

この RADIUS 認証および認可設定のサンプル行は、次のように定義されます。

- **aaa authentication login use-radius group radius local** コマンドを実行すると、デバイスは、ログインプロンプトで認証に RADIUS を使用するよう設定されます。RADIUS がエラーを返すと、ユーザーはローカル データベースを使用して認証されます。この例では、**use-radius** は方式リストの名前であり、RADIUS を指定し、次にローカル認証を指定します。
- **aaa authentication ppp user-radius if-needed group radius** コマンドで、ユーザーがまだ認可されていない場合に、CHAP または PAP による PPP を使用する回線に RADIUS 認証を使用するように Cisco ソフトウェアを設定します。EXEC ファシリティによってユーザーが認証済みの場合、RADIUS 認証は実行されません。この例では、**user-radius** は、if-needed 認証方式として RADIUS を定義する方式リストの名前です。
- **aaa authorization exec default group radius** コマンドで、EXEC 認可、autocommand、およびアクセス リストに使用する RADIUS 情報を設定します。
- **aaa authorization network default group radius** コマンドを実行すると、ネットワーク認可、アドレス割り当て、アクセス リストに RADIUS が設定されます。

## 例：RADIUS 認証、許可、アカウントिंग

次に、AAA コマンドを設定して RADIUS を使用する一般的な設定例を示します。

```
radius-server host 10.45.1.2
radius-server key myRaDiUSpassWoRd
username root password ALongPassword
aaa authentication ppp dialins group radius local
aaa authorization network default group radius local
aaa accounting network default start-stop group radius
aaa authentication login admins local
aaa authorization exec default local
line 1 16
  autoselect ppp
  autoselect during-login
  login authentication admins
  modem ri-is-cd
interface group-async 1
  encaps ppp
  ppp authentication pap dialins
```

この例の RADIUS 認証、許可、アカウントिंगの回線は、次のように定義されます。

- **radius-server host** コマンドは、RADIUS サーバー ホストの IP アドレスを定義します。
- **radius-server key** コマンドは、ネットワーク アクセス サーバーと RADIUS サーバー ホストの間の共有秘密テキスト文字列を定義します。
- **aaa authentication ppp dialins group radius local** コマンドで、まず RADIUS 認証を指定する認証方式リスト「dialins」を定義します。次に、(RADIUS サーバーが応答しない場合) PPP を使用するシリアル回線でローカル認証が使用されます。
- **aaa authorization network default group radius local** コマンドは、アドレスと他のネットワーク パラメータを RADIUS ユーザーに割り当てるために使用されます。
- **aaa accounting network default start-stop group radius** コマンドは、PPP の使用状況を追跡します。
- **aaa authentication login admins local** コマンドは、ログイン認証に別の方式リスト「admins」を定義します。
- **login authentication admins** コマンドは、ログイン認証に「admins」方式リストを適用します。
- **ppp authentication pap dialins** コマンドは「dialins」方式リストを指定した回線に適用します。

## 例：ベンダー固有の RADIUS 設定

次に、AAA コマンドを設定してベンダー固有の RADIUS を使用する一般的な設定例を示します。



**Note** **radius-server host** コマンドは、Cisco IOS リリース 15.4(2)S 以降では廃止されています。IPv4 または IPv6 RADIUS サーバーを設定するには、**radius server name** コマンドを使用します。**radius server** コマンドの詳細については、『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』を参照してください。

```
radius server myserver
radius server address ipv4 192.0.2.2
non-standard
key 7 any key
radius-server configure-nas
username root password ALongPassword
aaa authentication ppp dialins group radius local
aaa authorization network default group radius local
aaa accounting network default start-stop group radius
aaa authentication login admins local
aaa authorization exec default local
```

この RADIUS 認証、認可、アカウント設定例の行は、次のように定義されます。

- **non-standard** コマンドは、RADIUS サーバー ホストの名前を定義し、この RADIUS ホストがベンダー独自バージョンの RADIUS を使用することを指定します。
- **key** コマンドは、ネットワーク アクセス サーバーと RADIUS サーバー ホストの間の共有秘密テキスト文字列を定義します。
- **configure-nas** コマンドは、シスコ デバイスが最初に起動したときに、そのデバイスまたはアクセス サーバーがスタティック ルートと IP プール定義について RADIUS サーバーに照会するように定義します。
- **aaa authentication ppp dialins group radius local** コマンドで、まず RADIUS 認証を指定する認証方式リスト「dialins」を定義します。次に、(RADIUS サーバーが応答しない場合) PPP を使用するシリアル回線でローカル認証が使用されます。
- **aaa authorization network default group radius local** コマンドは、アドレスと他のネットワーク パラメータを RADIUS ユーザーに割り当てます。
- **aaa accounting network default start-stop group radius** コマンドは、PPP の使用状況を追跡します。
- **aaa authentication login admins local** コマンドは、ログイン認証に別の方式リスト「admins」を定義します。

## 例：同じサーバー IP アドレスを持つ複数の RADIUS サーバー エントリ

次に、同じ IP アドレスを持つ複数の RADIUS ホスト エントリを認識するように、ネットワーク アクセス サーバーを設定する例を示します。同じ RADIUS サーバー上にある 2 つのホスト エントリは、同じサービス (認証とアカウント) のために設定されています。設定されている 2 番目のホスト エントリは、1 番目のエントリのフェールオーバーバックアップとして

動作します（試行される RADIUS ホスト エントリの順番は、設定されている順序に従います）。

```
! This command enables AAA.
aaa new-model
! The next command configures default RADIUS parameters.
aaa authentication ppp default group radius
! The next set of commands configures multiple host entries for the same IP address.
radius-server host 172.20.0.1 auth-port 1000 acct-port 1001
radius-server host 172.20.0.1 auth-port 2000 acct-port 2001
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
AAA コマンドと RADIUS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Security Command Reference</a> 』
RADIUS 属性	『 <a href="#">RADIUS Attributes Configuration Guide</a> 』 (Securing User Services Configuration Library の一部)
AAA	『 <a href="#">Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide</a> 』 (Securing User Services Configuration Library の一部)
L2TP、VPN、または VPDN	『 <a href="#">Dial Technologies Configuration Guide</a> 』 および 『 <a href="#">VPDN Configuration Guide</a> 』
モデムの設定と管理	『 <a href="#">Dial Technologies Configuration Guide</a> 』
PPP の RADIUS ポートの識別	『 <a href="#">Wide-Area Networking Configuration Guide</a> 』

### RFC

RFC	タイトル
<a href="#">RFC 2138</a>	『 <a href="#">Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)</a> 』
<a href="#">RFC 2139</a>	『 <a href="#">RADIUS Accounting</a> 』
<a href="#">RFC 2865</a>	『 <a href="#">RADIUS</a> 』
<a href="#">RFC 2867</a>	『 <a href="#">RADIUS Accounting Modifications for Tunnel Protocol Support</a> 』
<a href="#">RFC 2868</a>	『 <a href="#">RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 74: RADIUS の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS の設定		<p>RADIUS セキュリティ システムは、不正なアクセスからネットワークのセキュリティを保護する分散クライアント/サーバシステムです。シスコの実装では、RADIUS クライアントはシスコデバイス上で実行され、すべてのユーザ認証およびネットワーク サービス アクセス情報を持つ中央の RADIUS サーバに認証要求を送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco 5760 Wireless LAN Controller</li> <li>• Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li> </ul>



機能名	リリース	機能情報
SNMP を介する RADIUS 統計情報		<p>この機能は、RADIUS トラフィックおよびプライベート RADIUS サーバーに関連する統計情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li><li>• Cisco 5760 Wireless LAN Controller</li><li>• Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li></ul> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>show aaa servers</b>、<b>show radius statistics</b></p>





## CHAPTER 51

# 複数の UDP ポート用の RADIUS

RADIUS セキュリティ サーバーは、ホスト名または IP アドレス、ホスト名と特定の UDP ポート番号、または IP アドレスと特定の UDP ポート番号により識別されます。IP アドレスと UDP ポート番号を組み合わせることによって、異なるポートを特定の認証、認可、およびアカウントティング (AAA) サービスを提供する RADIUS ホストとして個別に定義できます。この一意の ID を使用することによって、同じ IP アドレスにあるサーバー上の複数の UDP ポートに、RADIUS 要求を送信できます。同じ RADIUS サーバー上の異なる 2 つのホスト エントリに同じサービス (たとえば認証など) を設定した場合、2 番めに設定されたホスト エントリは、最初に設定されたホスト エントリのフェールオーバー バックアップとして動作します。最初のホスト エントリがアカウントティング サービスの提供に失敗すると、ネットワーク アクセス サーバーは同じデバイスに設定されている 2 番めのホスト エントリを使用してアカウントティング サービスを提供するように試行します。

- [複数の UDP ポート用の RADIUS の前提条件, on page 619](#)
- [複数の UDP ポート用の RADIUS に関する情報, on page 620](#)
- [複数の UDP ポート用の RADIUS を設定する方法, on page 621](#)
- [複数の UDP ポート用の RADIUS の設定例, on page 623](#)
- [その他の参考資料, on page 623](#)
- [複数の UDP ポート用の RADIUS の機能情報, on page 624](#)

## 複数の UDP ポート用の RADIUS の前提条件

シスコ デバイスまたはアクセス サーバーで RADIUS を設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

- **aaa new-model** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、AAA をイネーブルにします。RADIUS を使用する予定がある場合、AAA を設定する必要があります。
- **aaa authentication** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、RADIUS 認証の方式リストを定義します。
- **line** および **interface** コマンドを使用して、使用する定義済みの方式リストを有効にします。

# 複数の UDP ポート用の RADIUS に関する情報

## デバイスと RADIUS サーバーの通信

通常、RADIUS ホストは、シスコ（CiscoSecure ACS）、Livingston、Merit、Microsoft、または他のソフトウェア プロバイダーの RADIUS サーバー ソフトウェアを実行するマルチユーザー システムです。RADIUS サーバーとの通信のためにデバイスを設定するには、次のような要素があります。

- ホスト名または IP アドレス
- 認証の宛先ポート
- アカウンティングの宛先ポート
- タイムアウト時間
- 再送信回数
- キー文字列

RADIUS セキュリティ サーバーは、ホスト名または IP アドレス、ホスト名と特定の UDP ポート番号、または IP アドレスと特定の UDP ポート番号により識別されます。固有の識別情報は、IP アドレスと UDP ポート番号の組み合わせで構成されます。これにより、RADIUS ホストとして定義されているさまざまなポートが、固有の AAA サービスを提供できるようになります。この一意の ID を使用することによって、同じ IP アドレスにあるサーバー上の複数の UDP ポートに、RADIUS 要求を送信できます。同じ RADIUS サーバー上の異なる 2 つのホスト エントリに同じサービス（たとえば認証など）を設定した場合、2 番めに設定されたホスト エントリは、最初に設定されたホスト エントリのフェールオーバー バックアップとして動作します。最初のホスト エントリがアカウンティングサービスの提供に失敗すると、ネットワーク アクセス サーバーは同じデバイスに設定されている 2 番目のホスト エントリを使用してアカウンティング サービスを提供するように試行します。（試行される RADIUS ホスト エントリの順番は、設定されている順序に従います）。

RADIUS サーバーとシスコ デバイスは、共有秘密テキスト文字列を使用して、パスワードの暗号化および応答の交換を行います。RADIUS で AAA セキュリティ コマンドを使用するように設定するには、RADIUS サーバー デモンが稼働するホストと、そのホストがデバイスと共有する秘密テキスト（キー）文字列を指定する必要があります。

タイムアウト値、再送信値、および暗号キー値には、すべての RADIUS サーバーを対象にしたグローバル設定、サーバー別設定、またはグローバル設定とサーバー別設定の組み合わせを使用できます。デバイスと通信するすべての RADIUS サーバーにこのような設定をグローバルに適用するには、**radius-server timeout**、**radius-server retransmit**、および **radius-server key** という 3 つの固有なグローバル コマンドを使用します。特定の RADIUS サーバーにこれらの値を適用するには、**radius-server host** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで使用します。



**Note** 同じシスコ製ネットワーク アクセス サーバーで、タイムアウト、再送信、およびキー値のコマンドを同時に設定（グローバル設定およびサーバー別設定）できます。デバイスにグローバル機能とサーバー別機能の両方を設定する場合、サーバー別のタイマー、再送信、およびキー値のコマンドが、グローバルのタイマー、再送信、およびキー値のコマンドよりも優先されません。

## 複数の UDP ポート用の RADIUS を設定する方法

### デバイスと RADIUS サーバーの通信の設定

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius server** *server-name*
4. **address ipv4** *ip-address*
5. **key** {**0** *string* | **7** *string* | *string*}
6. **retransmit** *retries*
7. **timeout** *seconds*
8. **exit**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius server</b> <i>server-name</i> <b>Example:</b>  Device(config)# radius server rad1	RADIUS サーバーの名前を指定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>address ipv4 ip-address</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-radius-server)# address ipv4 10.45.1.2</pre>	RADIUS サーバーに IP アドレスを割り当てます。
ステップ 5	<b>key {0 string   7 string   string}</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-radius-server)# key myRaDIUSpassword</pre>	デバイスと RADIUS サーバーの間で使用する共有秘密テキスト文字列を指定します。 <b>Note</b> この手順では、暗号キーの値は、すべての RADIUS サーバーに対してグローバルに設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0 string</b> オプションを使用して、暗号化されていない共有秘密を設定します。</li> <li>• <b>7 string</b> オプションを使用して、暗号化された共有秘密を設定します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>retransmit retries</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-radius-server)# retransmit 25</pre>	デバイスからサーバーに対して各 RADIUS 要求を送信する回数の上限を指定します（デフォルトは 3 です）。 <b>Note</b> この手順では、再送信の値は、すべての RADIUS サーバーに対してグローバルに設定されます。
ステップ 7	<b>timeout seconds</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-radius-server)# timeout 6</pre>	デバイスが RADIUS 要求に対する応答を待機して、要求を再送信するまでの時間（秒数）を指定します。 <b>Note</b> この手順では、タイムアウト値は、すべての RADIUS サーバーに対してグローバルに設定されます。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# exit</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

## 複数の UDP ポート用の RADIUS の設定例

### 例：デバイスと RADIUS サーバーの通信

次に、固有のタイムアウト、再送信、およびキー値を指定した2つのRADIUSサーバーを設定する例を示します。この例では、**aaa new-model** コマンドを使用してデバイス上の AAA サービスを有効化し、特定の AAA コマンドで AAA サービスを定義します。**retransmit** コマンドで、すべてのRADIUSサーバーについて、グローバル再送信値を4に変更します。**host** コマンドで、IPアドレスが172.16.1.1と172.29.39.46のRADIUSサーバーホストについて、特定のタイムアウト、再送信、およびキーの値を設定します。

```
! Enable AAA services on the device and define those services.
aaa new-model
aaa authentication login default group radius
aaa authentication login console-login none
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default group radius
aaa accounting exec default start-stop group radius
aaa accounting network default start-stop group radius
enable password tryit1
!
Device(config)# radius server rad1
Device(config-radius-server)# address ipv4 10.45.1.2
Device(config-radius-server)# key myRaDIUSpassword
Device(config-radius-server)# retransmit 25
Device(config-radius-server)# timeout 6
Device(config)# exit
```

### 例：サーバー固有の値を指定した RADIUS サーバー

次に、172.31.39.46というIPアドレスのRADIUSサーバーについて、サーバー固有のタイムアウト、再送信、およびキー値を設定する例を示します。

```
radius-server host 172.31.39.46 timeout 6 retransmit 5 key rad123
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>
AAA	『Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide』 (Securing User Services Configuration Library の一部)

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 複数の UDP ポート用の RADIUS の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



Table 75: 複数の UDP ポート用の RADIUS の機能情報

機能名	リリース	機能情報
複数の UDP ポート用の RADIUS		<p>RADIUS セキュリティ サーバーは、ホスト名または IP アドレス、ホスト名と特定の UDP ポート番号、または IP アドレスと特定の UDP ポート番号により識別されます。固有の識別情報は、IP アドレスと UDP ポート番号の組み合わせで構成されます。これにより、RADIUS ホストとして定義されているさまざまなポートが、固有の AAA サービスを提供できるようになります。この一意の ID を使用することによって、同じ IP アドレスにあるサーバー上の複数の UDP ポートに、RADIUS 要求を送信できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li> <li>• Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li> </ul> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>radius-server host</b></p>





## CHAPTER 52

# 許可用の AAA Dialed Number Information Service (DNIS) マップ

許可用の AAA DNIS マップ機能を使用すると、着信番号識別サービス (DNIS) 番号を特定の認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) サーバー グループに割り当てることができます。これによって、サーバーグループは、その DNIS を使用して、ネットワークにダイヤルインするユーザーの認証、許可、アカウントINGの要求を処理できます。すべての電話回線 (通常の自宅電話または商用の T1/PRI 回線) を、複数の電話番号と関連付けることができます。DNIS 番号は、ユーザー宛てに発信された番号を示します。

- 許可用の AAA DNIS マップの前提条件, [on page 627](#)
- 許可用の AAA DNIS マップに関する情報, [on page 628](#)
- 許可用の AAA DNIS マップの設定方法, [on page 630](#)
- 許可用の AAA DNIS マップの設定例, [on page 635](#)
- その他の参考資料, [on page 638](#)
- 許可用の AAA DNIS マップの機能情報, [on page 638](#)

## 許可用の AAA DNIS マップの前提条件

- サーバーグループの DNIS に基づいて特定の AAA サーバーグループを選択するようにデバイスを設定する前に、RADIUS サーバーホストと AAA サーバーグループの一覧を設定する必要があります。
- AAA 事前認証を設定する前に、**aaa new-model** コマンドを設定して、サポートする事前認証アプリケーションが使用中のネットワークの RADIUS サーバーで実行されていることを確認する必要があります。

# 許可用の AAA DNIS マップに関する情報

## DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択

Cisco ソフトウェアを使用すると、DNIS 番号を特定の AAA サーバグループに割り当てることができます。これによって、サーバグループは、その DNIS を使用して、ネットワークにダイヤルインするユーザの認証、認可、アカウンティングの要求を処理できます。すべての電話回線（通常の自宅電話または商用の T1/PRI 回線）を、複数の電話番号と関連付けることができます。DNIS 番号は、ユーザー宛てに発信された番号を示します。

たとえば、複数の顧客で同じ電話番号を共有する場合に、電話を受ける前に発信元を知りたいことがあります。DNIS を使用すると、応答するときに発信元の顧客がわかるため、電話に回答する方法をカスタマイズできます。

ISDN または内部モデムと接続するシスコ デバイスは、DNIS 番号を受信できます。この機能を使用すると、顧客ごとに異なる RADIUS サーバグループを割り当て可能です（つまり、DNIS 番号ごとに異なる RADIUS サーバ）。さらに、サーバグループを使用して、複数の AAA サービスに同じサーバグループを指定できます。また、各 AAA サービスに個別のサーバグループを指定できます。

Cisco ソフトウェアには、認証サービスとアカウンティングサービスを複数の方法で実装できる柔軟性があります。

- **グローバル**：AAA サービスは、グローバル コンフィギュレーション アクセス リスト コマンドを使用して定義され、特定のネットワーク アクセス サーバ上のすべてのインターフェイスに、一般的に適用されます。
- **インターフェイス別**：AAA サービスは、インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して定義され、特定のネットワーク アクセス サーバに設定されているインターフェイスにだけ適用されます。
- **DNIS マッピング**：DNIS を使用して、AAA サーバが AAA サービスを提供するように指定します。

このような複数の AAA コンフィギュレーション方式を同時に設定できるため、シスコでは、AAA サービスを提供するサーバまたはサーバグループを決定するために、優先順位を設定しました。優先順位は次のとおりです。

- **DNIS 別**：DNIS を使用し、AAA サービスを提供するサーバグループを指定または決定するようにネットワーク アクセス サーバを設定している場合、この方式がその他の AAA 選択方式よりも優先されます。
- **インターフェイス別**：サーバから AAA サービスを提供する方法を決定するために、インターフェイス別にネットワーク アクセス サーバを設定してアクセス リストを使用する場合、この方式は、他のグローバル コンフィギュレーション AAA アクセス リストよりも優先されます。

- グローバル：セキュリティ サーバーが AAA サービスを提供する方法を決定するために、グローバル AAA アクセス リストを使用してネットワーク アクセス サーバーを設定する場合、この方式には最も低い優先度が使用されます。

## AAA 事前認証

ISDN PRI または個別線信号方式 (CAS) による AAA 事前認証を設定すると、サービス プロバイダーは、既存の RADIUS ソリューションを使用するポートの管理性を改善し、共有リソースの使用を効率的に管理して、各種のサービスレベル契約を提供できるようになります。ISDN PRI または CAS によって、着信コールに関する情報をネットワーク アクセス サーバー (NAS) で使用してから、コールを接続できます。使用できるコール情報は次のとおりです。

- 着信番号識別サービス (DNIS) 番号 (着信者番号とも呼ばれます)
- 発呼回線 ID (CLID) 番号 (発番号とも呼ばれます)
- コール タイプ (ベアラ機能とも呼ばれます)

AAA 事前認証の機能を使用すると、Cisco NAS で、DNIS 番号、CLID 番号、またはコール タイプに基づいて着信コールを接続するかどうかを決定することができます。(ISDN PRI を使用する場合、ユーザーの認証と認可を行ってから、コールに応答できます。CAS を使用する場合、コールに応答する必要はありますが、事前認証に失敗した場合、コールをドロップできません)。

パブリック ネットワーク スイッチからコールを着信し、まだ接続前の場合、AAA 事前認証によって、NAS から DNIS 番号、CLID 番号、およびコール タイプを RADIUS サーバーに送信し、認可を受けることができます。サーバーがコールを認可すると、NAS はコールを許可します。サーバーがコールを認可しない場合、NAS からパブリック ネットワーク スイッチに接続解除メッセージが送信され、コールが拒否されます。

RADIUS サーバー アプリケーションが使用不能になった場合、または応答が遅くなった場合、NAS でガード タイマーを設定できます。タイマーが期限切れになると、NAS は設定可能なパラメータを使用して、認可されなかった着信コールを許可または拒否します。

AAA 事前認証の機能では、事前認証の動作を指定するために、RADIUS サーバー アプリケーションによる属性 44 の使用、および RADIUS 事前認証 プロファイルに設定されている RADIUS 属性の使用がサポートされています。また、これらの属性は、たとえば、以降の認証を実行するかどうか、また実行する場合、どの認証方式を使用するかを指定するためにも使用できます。

ISDN PRI および CAS による AAA 事前認証には、次の制約事項が適用されます。

- 属性 44 は、事前認証またはリソース プーリングをイネーブルにした CAS コールにだけ使用できます。
- マルチシャーシ マルチリンク PPP (MMP) は、ISDN PRI では使用できません。
- AAA 事前認証は、一部のハードウェア プラットフォームでのみ使用できます。
- ISDN PRI は、一部のハードウェア プラットフォームでのみサポートされています。

## コール処理のガードタイマー

事前認証要求および認可要求の応答時間はさまざまなので、ガードタイマーを使用してコールの処理を制御できます。ガードタイマーは、DNISがRADIUSサーバーに送信されると開始されます。ガードタイマーが期限切れになる前にNASがAAAから応答を受信しない場合、タイマーの設定に基づいてコールを許可または拒否します。

## 許可用のAAA DNIS マップの設定方法

### AAA DNIS 事前認証の設定

DNIS 事前認証を使用すると、着信番号に基づいてコール設定時に事前認証を実行できます。DNIS 番号は、コールの着信時にセキュリティサーバーに直接送信されます。コールがAAAによって認証されると、そのコールは許可されます。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa preauthorization**
4. **group {radius | tacacs+ | server-group}**
5. **dnis [password string]**
6. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa preauthorization</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa preauthorization	AAA 事前認証コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>group</b> {radius   tacacs+   <i>server-group</i> } <b>Example:</b> Device(config-preauth)# group radius	(任意) AAA 事前認証要求に使用するセキュリティサーバーを選択します。 • デフォルトは RADIUS です。
ステップ 5	<b>dnis</b> [password <i>string</i> ] <b>Example:</b> Device(config-preauth)# dnis password dnisspass	DNIS を使用して事前認証をイネーブルにし、必要に応じて Access-Request パケットに使用するパスワードを指定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-preauth)# end	AAA 事前認証コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択の設定

サーバー グループの DNIS に基づいて特定の AAA サーバー グループを選択するようにデバイスを設定するには、DNIS マッピングを設定します。DNIS 番号を使用してサーバー グループをグループ名とマッピングするには、次のタスクを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. aaa dnis map enable
4. aaa dnis map *dnis-number* authentication ppp group *server-group-name*
5. aaa dnis map *dnis-number* authorization network group *server-group-name*
6. aaa dnis map *dnis-number* accounting network [none | start-stop | stop-only] group *server-group-name*
7. exit

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# <code>configure terminal</code>	
ステップ 3	<b>aaa dnis map enable</b> <b>Example:</b> Device(config)# <code>aaa dnis map enable</code>	DNIS マッピングをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>aaa dnis map dnis-number authentication ppp group server-group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# <code>aaa dnis map 7777 authentication ppp group sg1</code>	DNIS 番号を定義済みの AAA サーバー グループにマッピングします。このサーバー グループのサーバーは、認証に使用されます。
ステップ 5	<b>aaa dnis map dnis-number authorization network group server-group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# <code>aaa dnis map 7777 authorization network group sg1</code>	DNIS 番号を定義済みの AAA サーバー グループにマッピングします。このサーバー グループのサーバーは、認可に使用されます。
ステップ 6	<b>aaa dnis map dnis-number accounting network [none   start-stop   stop-only] group server-group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# <code>aaa dnis map 8888 accounting network stop-only group sg2</code>	DNIS 番号を定義済みの AAA サーバー グループにマッピングします。このサーバー グループのサーバーは、アカウントिंगに使用されます。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# <code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## AAA 事前認証の設定

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `aaa preauthorization`
4. `group server-group`
5. `clid [if-avail | required] [accept-stop] [password string]`
6. `ctype [if-avail | required] [accept-stop] [password string]`
7. `dnis [if-avail | required] [accept-stop] [password string]`
8. `dnis bypass dnis-group-name`
9. `end`



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa preauthorization</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa preauthorization	AAA 事前認証コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>group server-group</b> <b>Example:</b> Device(config-preauth)# group sg2	事前認証に使用する AAA RADIUS サーバー グループを指定します。
ステップ 5	<b>clid [if-avail   required] [accept-stop] [password string]</b> <b>Example:</b> Device(config-preauth)# clid required	CLID 番号に基づいて、コールを事前認証します。
ステップ 6	<b>ctype [if-avail   required] [accept-stop] [password string]</b> <b>Example:</b> Device(config-preauth)# ctype required	コールタイプに基づいて、コールを事前認証します。
ステップ 7	<b>dnis [if-avail   required] [accept-stop] [password string]</b> <b>Example:</b> Device(config-preauth)# dnis required	DNIS 番号に基づいて、コールを事前認証します。
ステップ 8	<b>dnis bypass dnis-group-name</b> <b>Example:</b> Device(config-preauth)# dnis bypass group1	事前認証をバイパスする DNIS 番号のグループを指定します。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b>	事前認証コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
	Device (config-preauth)# end	

## ガードタイマーの設定

RADIUS サーバーが認証要求または事前認証要求に応答できなかった場合にコールを許可または拒否するようにガードタイマーを設定するには、次のタスクを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **isdn guard-timer** *milliseconds* [**on-expiry** {**accept** | **reject**}]
5. **call guard-timer** *milliseconds* [**on-expiry** {**accept** | **reject**}]
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface serial 1/0/0:23	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>isdn guard-timer</b> <i>milliseconds</i> [ <b>on-expiry</b> { <b>accept</b>   <b>reject</b> }] <b>Example:</b> Device (config-if)# isdn guard-timer 8000 on-expiry reject	RADIUS サーバーが事前認証要求に応答できなかった場合にコールを許可または拒否できる ISDN ガードタイマーを設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>call guard-timer</b> <i>milliseconds</i> [ <b>on-expiry</b> { <b>accept</b>   <b>reject</b> }] <b>Example:</b> Device(config-if)# call guard-timer 2000 on-expiry accept	RADIUS サーバーが事前認証要求に応答できなかった場合にコールを許可または拒否できる CAS ガードタイマーを設定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 許可用の AAA DNIS マップの設定例

### 例：DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択

次に、特定の AAA サービスを提供するために、DNIS に基づいて RADIUS サーバー グループを選択する例を示します。

```

! This command enables AAA.
aaa new-model
!
! The following set of commands configures the RADIUS attributes for each server
! that will be associated with one of the defined server groups.
radius-server host 172.16.0.1 auth-port 1645 acct-port 1646 key cisco1
radius-server host 172.17.0.1 auth-port 1645 acct-port 1646 key cisco2
radius-server host 172.18.0.1 auth-port 1645 acct-port 1646 key cisco3
radius-server host 172.19.0.1 auth-port 1645 acct-port 1646 key cisco4
radius-server host 172.20.0.1 auth-port 1645 acct-port 1646 key cisco5
! The following commands define the sg1 RADIUS server group and associate servers
! with it.
aaa group server radius sg1
  server 172.16.0.1
  server 172.17.0.1
! The following commands define the sg2 RADIUS server group and associate a server
! with it.
aaa group server radius sg2
  server 172.18.0.1
! The following commands define the sg3 RADIUS server group and associate a server
! with it.
aaa group server radius sg3
  server 172.19.0.1
! The following commands define the default-group RADIUS server group and associate
! a server with it.
aaa group server radius default-group
  server 172.20.0.1
! The next set of commands configures default-group RADIUS server group parameters.
aaa authentication ppp default group default-group
aaa accounting network default start-stop group default-group
!
! The next set of commands enables DNIS mapping and maps DNIS numbers to the defined

```

```

! RADIUS server groups. In this configuration, all PPP connection requests using
! DNIS 7777 are sent to the sg1 server group. The accounting records for these
! connections (specifically, start-stop records) are handled by the sg2 server group.
! Calls with a DNIS of 8888 use server group sg3 for authentication and server group
! default-group for accounting. Calls with a DNIS of 9999 use server group
! default-group for authentication and server group sg3 for accounting records
! (stop records only). All other calls with DNIS other than the ones defined use the
! server group default-group for both authentication and stop-start accounting records.
aaa dnis map enable
aaa dnis map 7777 authentication ppp group sg1
aaa dnis map 7777 accounting network start-stop group sg2
aaa dnis map 8888 authentication ppp group sg3
aaa dnis map 9999 accounting network stop-only group sg3

```

## 例：AAA 事前認証

次に、事前認証に DNIS 番号を指定する単純な設定を示します。

```

aaa preauthentication
 group radius
 dnis required

```

次に、事前認証に DNIS 番号と CLID 番号の両方を使用する設定の例を示します。DNIS 事前認証が先に実行され、次に CLID 事前認証が実行されます。

```

aaa preauthentication
 group radius
 dnis required
 clid required

```

次に、「dnis-group1」という DNIS グループに指定されている 2 つの DNIS 番号を除き、すべての DNIS 番号について事前認証を実行することを指定する例を示します。

```

aaa preauthentication
 group radius
 dnis required
 dnis bypass dnis-group1
 dialer dnis group dnis-group1
 number 12345
 number 12346

```

次に、DNIS 事前認証を使用する AAA 設定の例を示します。

```

aaa new-model
aaa authentication login CONSOLE none
aaa authentication login RADIUS_LIST group radius
aaa authentication login TAC_PLUS group tacacs+ enable
aaa authentication login V.120 none
aaa authentication enable default enable group tacacs+
aaa authentication ppp RADIUS_LIST if-needed group radius
aaa authorization exec RADIUS_LIST group radius if-authenticated
aaa authorization exec V.120 none
aaa authorization network default group radius if-authenticated
aaa authorization network RADIUS_LIST if-authenticated group radius
aaa authorization network V.120 group radius if-authenticated
aaa accounting suppress null-username
aaa accounting exec default start-stop group radius
aaa accounting commands 0 default start-stop group radius
aaa accounting network default start-stop group radius

```

```
aaa accounting connection default start-stop group radius
aaa accounting system default start-stop group radius
aaa preauthentication
  dnis password Cisco-DNIS
aaa nas port extended
!
radius-server configure-nas
radius-server host 10.0.0.0 auth-port 1645 acct-port 1646 non-standard
radius-server host 10.255.255.255 auth-port 1645 acct-port 1646 non-standard
radius-server retransmit 2
radius-server deadtime 1
radius-server attribute nas-port format c
radius-server unique-ident 18
radius-server key MyKey
```



**Note** 事前認証を設定するには、RADIUS サーバーでも事前認証プロファイルを設定する必要があります。

## 例：ISDN および CAS のガード タイマー

次に、8,000 ミリ秒に設定された ISDN ガード タイマーの例を示します。事前認証要求に対して RADIUS サーバーが応答しないまま、タイマーが期限切れになった場合、コールは拒否されます。

```
interface serial 1/0/0:23
  isdn guard-timer 8000 on-expiry reject
aaa preauthentication
  group radius
  dnis required
```

次に、20,000 ミリ秒に設定された CAS ガード タイマーの例を示します。事前認証要求に対して RADIUS サーバーが応答しないまま、タイマーが期限切れになった場合、コールは許可されます。

```
controller T1 0
  framing esf
  clock source line primary
  linecode b8zs
  ds0-group 0 timeslots 1-24 type e&m-fgb dtmf dnis
  cas-custom 0
  call guard-timer 20000 on-expiry accept
aaa preauthentication
  group radius
  dnis required
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>
AAA	『Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide』 (Securing User Services Configuration Library の一部)

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 許可用の AAA DNIS マップの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 76: 許可用の AAA DNIS マップの機能情報

機能名	リリース	機能情報
許可用の AAA Dialed Number Information Service (DNIS) マップ	12.1(1)T 12.2(2)T 12.2(27)SBA Cisco IOS XE Release 2.3	<p>許可用の AAA DNIS マップ機能を使用すると、着信番号識別サービス (DNIS) 番号を特定の AAA サーバーグループに割り当てることができます。これによって、サーバーグループは、その DNIS を使用して、ネットワークにダイヤルインするユーザーの認証、認可、およびアカウントingの要求を処理できます。すべての電話回線（通常の自宅電話または商用の T1/PRI 回線）を、複数の電話番号と関連付けることができます。DNIS 番号は、ユーザー宛てに発信された番号を示します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>aaa dnis enable</b>、<b>aaa dnis map authentication group</b>、<b>aaa dnis map authorization network group</b>、および <b>aaa dnis map accounting network</b></p>







## CHAPTER 53

# AAA サーバグループ

認証、認可、およびアカウンティング（AAA）サーバーグループを使用するようにデバイスを設定すると、既存のサーバーホストをグループ化できます。既存のサーバーホストをグループ化すると、設定したサーバーホストのサブセットを選択し、それを特定のサービスに使用できます。サーバーグループ内でデッドタイムを設定することで、AAA トラフィックを、異なる動作特性を持つ別のサーバーグループに送信できます。この機能モジュールでは、AAA サーバーグループとデッドタイマーを設定する方法について説明します。

- [AAA サーバーグループに関する情報, on page 641](#)
- [AAA サーバーグループの設定方法, on page 643](#)
- [AAA サーバーグループの設定例, on page 645](#)
- [その他の参考資料, on page 646](#)
- [AAA サーバーグループの機能情報, on page 647](#)

## AAA サーバーグループに関する情報

### AAA サーバグループ

AAA サーバーグループを使用するようにデバイスを設定すると、既存のサーバーホストをグループ化できます。既存のサーバーホストをグループ化すると、設定したサーバーホストのサブセットを選択し、それを特定のサービスに使用できます。サーバーグループは、グローバルサーバーホストの一覧と一緒に使用されます。サーバーグループには、選択したサーバーホストの IP アドレスが一覧表示されます。

また、サーバーグループには、各エントリが一意の ID を持っていれば、同一サーバーに複数のホストエントリを組み込むことができます。固有の識別情報は、IP アドレスと UDP ポート番号の組み合わせで構成されます。これにより、RADIUS ホストとして定義されているさまざまなポートが、固有の AAA サービスを提供できるようになります。この一意の ID により、同じ IP アドレスでサーバーの異なる UDP ポートに RADIUS の要求を送ることができるようになります。同じ RADIUS サーバー上の異なる 2 つのホストエントリに同じサービス（たとえばアカウンティングなど）を設定した場合、2 番目に設定されたホストエントリは、最初に設定されたホストエントリのフェールオーバーバックアップとして動作します。最初のホストエ

ントリがアカウントリング サービスの提供に失敗すると、ネットワーク アクセス サーバは同じデバイスに設定されている 2 番目のホスト エントリを使用してアカウントリング サービスを提供するように試行します。（試行される RADIUS ホスト エントリの順番は、設定されている順序に従います）。

## AAA サーバー グループのデッドタイマー

サーバー名を指定してサーバーホストを設定したら、**deadtime** コマンドを使用して、サーバーグループごとに各サーバーを設定できます。サーバーグループ内でデッドタイムを設定することで、AAA トラフィックを、異なる動作特性を持つ別のサーバーグループに送信できます。

デッドタイムの設定は、グローバルコンフィギュレーションに限定されません。すべてのサーバーグループの各サーバーホストには、個別のタイマーがあります。そのため、サーバーが応答せず、再送信とタイムアウトが何度も発生する場合、そのサーバーは動作していない（デッド状態）と見なされます。すべてのサーバーグループの各サーバーホストに付属するタイマーが開始されます。基本的に、タイマーがチェックされ、サーバーに対する以降の要求は（デッド状態と見なされた場合）、（設定されていれば）代替タイマーに送信されます。ネットワーク アクセス サーバーがサーバーからの応答を受信すると、すべてのサーバーグループのそのサーバーに関するすべての設定済みタイマー（実行中の場合）が停止されます。

タイマーが期限切れになると、タイマーが付属しているサーバーは応答可能（アライブ状態）と見なされます。このサーバーは、タイマーが属するサーバーグループを使用して後で AAA 要求のために試行できる唯一のサーバーになります。



**Note** 1つのサーバーが複数のタイマーを持ち、異なるデッドタイム値がサーバーグループに設定されることがあるため、同時刻の同じサーバーでも複数の状態（デッドとアライブ）になる可能性があります。



**Note** サーバーの状態を変更するには、すべてのサーバーグループですべての設定済みタイマーを起動および終了する必要があります。

新しいタイマーと **deadtime** 属性が追加されるため、サーバーグループのサイズはやや増えます。構造の全体的な影響は、サーバーグループの数と規模、およびその設定でサーバーグループ内でサーバーを共有する方法によって変わります。

# AAA サーバー グループの設定方法

## AAA サーバー グループの設定

サーバーグループ名を使用してサーバーホストを定義するには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。一覧のサーバーは、グローバルコンフィギュレーションモードに存在します。

### Before you begin

グループの各サーバーは、**radius-server host** コマンドを使用して事前に定義する必要があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius server** *server-name*
4. **aaa group server** {radius | tacacs+} *group-name*
5. **server** *ip-address* [**auth-port** *port-number*] [**acct-port** *port-number*]
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius server</b> <i>server-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# radius server rad1	RADIUS サーバーの名前を指定します。
ステップ 4	<b>aaa group server</b> {radius   tacacs+} <i>group-name</i> <b>Example:</b>	グループ名を使用して、AAA サーバー グループを定義します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# aaa group server radius group1	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループのすべてのメンバは、タイプを同じにする必要があります。つまり、RADIUS または TACACS+ です。このコマンドを実行すると、デバイスはサーバーグループ RADIUS コンフィギュレーション モードへ移行します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>server</b> <i>ip-address</i> [ <b>auth-port</b> <i>port-number</i> ] [ <b>acct-port</b> <i>port-number</i> ] <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# server 172.16.1.1 acct-port 1616	特定の RADIUS サーバーを定義済みのサーバーグループと関連付けます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セキュリティサーバーは、IP アドレスと UDP ポート番号で識別されます。</li> <li>AAA サーバーグループの RADIUS サーバーごとに、このステップを繰り返します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# end	サーバーグループ RADIUS コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## AAA サーバー グループのデッドタイマーの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa group server radius** *group*
4. **deadtime** *minutes*
5. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>aaa group server radius</b> <i>group</i> <b>Example:</b> Device(config)# aaa group server radius group1	RADIUS タイプ サーバー グループを定義し、サーバーグループ RADIUS コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>deadtime</b> <i>minutes</i> <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# deadtime 1	デッドタイム値（分）を設定および定義します。 <b>Note</b> ローカル サーバー グループのデッドタイムは、グローバル コンフィギュレーションよりも優先されます。ローカルサーバーグループ コンフィギュレーションでデッドタイム値を省略した場合は、プライマリリストから継承されます。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# end	サーバーグループ RADIUS コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## AAA サーバー グループの設定例

### 例：AAA サーバー グループ

次に、3つの RADIUS サーバメンバを持ち、各メンバがデフォルトの認証ポート（1645）とアカウントングポート（1646）を使用するサーバグループ `radgroup1` を作成する例を示します。

```
aaa group server radius radgroup1
 server 172.16.1.11
 server 172.17.1.21
 server 172.18.1.31
```

次に、3つの RADIUS サーバメンバを持ち、各メンバが IP アドレスは同じでも認証ポートとアカウントングポートはそれぞれ異なるサーバグループ `radgroup2` を作成する例を示します。

```
aaa group server radius radgroup2
 server 172.16.1.1 auth-port 1000 acct-port 1001
 server 172.16.1.1 auth-port 2000 acct-port 2001
 server 172.16.1.1 auth-port 3000 acct-port 3001
```

## 例：AAA サーバー グループを使用する複数の RADIUS サーバー エントリ

次に、2つの RADIUS サーバー グループを認識するようにネットワーク アクセス サーバーを設定する例を示します。一方のグループである `group1` には、同じ RADIUS サーバー上に同じサービス用に設定された2つのホストエントリがあります。設定されている2番めのホストエントリは、1番めのエントリのフェールオーバーバックアップとして動作します各グループのデッドタイムは個々に設定されています。`group 1` のデッドタイムは1分で、`group 2` のデッドタイムは2分です。



**Note** グローバル コマンドと `server` コマンドの両方を使用する場合、`server` コマンドがグローバル コマンドよりも優先されます。

```
! This command enables AAA.
aaa new-model
! The next command configures default RADIUS parameters.
aaa authentication ppp default group group1
! The following commands define the group1 RADIUS server group and associate servers
! with it and configures a deadtime of one minute.
aaa group server radius group1
  server 10.1.1.1 auth-port 1645 acct-port 1646
  server 10.2.2.2 auth-port 2000 acct-port 2001
  deadtime 1
! The following commands define the group2 RADIUS server group and associate servers
! with it and configures a deadtime of two minutes.
aaa group server radius group2
  server 10.2.2.2 auth-port 2000 acct-port 2001
  server 10.3.3.3 auth-port 1645 acct-port 1646
  deadtime 2
! The following set of commands configures the RADIUS attributes for each host entry
! associated with one of the defined server groups.
radius-server host 10.1.1.1 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server host 10.2.2.2 auth-port 2000 acct-port 2001
radius-server host 10.3.3.3 auth-port 1645 acct-port 1646
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
AAA コマンドと RADIUS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Security Command Reference</a> 』
RADIUS 属性	『 <a href="#">RADIUS Attributes Configuration Guide</a> 』 (Securing User Services Configuration Library の一部)

関連項目	マニュアル タイトル
AAA	『 <i>Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide</i> 』 (Securing User Services Configuration Library の一部)
L2TP、VPN、または VPDN	『 <i>Dial Technologies Configuration Guide</i> 』 および 『 <i>VPDN Configuration Guide</i> 』
モデムの設定と管理	『 <i>Dial Technologies Configuration Guide</i> 』
PPP の RADIUS ポートの識別	『 <i>Wide-Area Networking Configuration Guide</i> 』

## RFC

RFC	タイトル
<a href="#">RFC 2138</a>	『 <i>Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)</i> 』
<a href="#">RFC 2139</a>	『 <i>RADIUS Accounting</i> 』
<a href="#">RFC 2865</a>	『 <i>RADIUS</i> 』
<a href="#">RFC 2867</a>	『 <i>RADIUS Accounting Modifications for Tunnel Protocol Support</i> 』
<a href="#">RFC 2868</a>	『 <i>RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support</i> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## AAA サーバー グループの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 77: AAA サーバー グループの機能情報

機能名	リリース	機能情報
AAA Server Group		<p>AAA サーバー グループを使用するようにデバイスを設定すると、既存のサーバー ホストをグループ化できます。これによって、設定したサーバーホストのサブセットを選択し、それを特定のサービスに使用できます。サーバー グループは、グローバルサーバーホストの一覧と一緒に使用されます。サーバー グループには、選択したサーバーホストの IP アドレスが一覧表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco 5760 Wireless LAN Controller</li> <li>• Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li> </ul> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa group server radius</b>、<b>aaa group server tacacs+</b>、および <b>server (RADIUS)</b>。</p>



機能名	リリース	機能情報
AAA サーバー グループの拡張機能		<p>AAA サーバー グループの拡張機能により、サーバー グループ内のサーバーの完全な設定が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li><li>• Cisco 5760 Wireless LAN Controller</li><li>• Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li></ul>
AAA サーバー グループ デッドタイマー		<p>サーバー グループ内でデッドタイムを設定することで、AAA トラフィックを、異なる動作特性を持つ別のサーバーグループに送信できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li><li>• Cisco 5760 Wireless LAN Controller</li><li>• Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li></ul> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>deadtime</b></p>





## CHAPTER 54

# RADIUS アカウンティング内の Framed-Route

RADIUS アカウンティング内の Framed-Route 機能は、RADIUS Accounting-Request アカウンティング レコードに Framed-Route (RADIUS 属性 22) 情報を挿入します。Framed-Route 情報は、Accounting-Request パケットで RADIUS サーバーに返されます。Framed-Route 情報を使用すれば、ユーザー単位ルートがネットワーク アクセス サーバー (NAS) 上の特定の静的 IP 顧客に適用されているかどうかを確認できます。

- [RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の前提条件, on page 651](#)
- [RADIUS アカウンティング内の Framed-Route に関する情報, on page 651](#)
- [RADIUS アカウンティング内の Framed-Route のモニター方法, on page 652](#)
- [RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の設定例, on page 652](#)
- [その他の参考資料, on page 653](#)
- [RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の機能情報, on page 655](#)

## RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の前提条件

認証、許可、アカウンティング (AAA)、RADIUS サーバー、および RADIUS 属性スクリーニングの設定に精通している必要があります。

## RADIUS アカウンティング内の Framed-Route に関する情報

### Framed-Route 属性 22

インターネット技術特別調査委員会 (IETF) 標準の RFC 2865 で属性 22 として定義されている Framed-Route は、NAS 上のユーザーに対して設定すべきルーティング情報を提供します。通常、Framed-Route 属性情報は、Access-Accept パケットで RADIUS サーバーから NAS に送信されます。この属性は複数挿入できます。

## RADIUS アカウンティング パケット内の Framed-Route

RADIUS アカウンティング パケット内の Framed-Route 属性情報は、NAS 上の特定の静的 IP 顧客に適用されたユーザー単位ルートを表します。現在は、Framed-Route 属性情報が Access-Accept パケットで送信されます。Framed-Route 属性情報は、Access-Accept パケットに挿入され、正常に適用されていれば、Accounting-Request パケットでも送信されます。Accounting-Request パケットには、0 個以上の Framed-Route 属性を挿入できます。



**Note** Access-Accept パケット内に複数の Framed-Route 属性が存在する場合は、Accounting-Request 内にも複数の Framed-Route 属性を挿入できます。

Framed-Route 情報は、accounting Delay-Start の設定時に、Stop および Interim アカウンティング レコードと Start アカウンティング レコードで返されます。

Frame-Route 属性情報を RADIUS アカウンティング パケットで返すための設定は不要です。

## RADIUS アカウンティング内の Framed-Route のモニター方法

`debug radius` コマンドを使用して、Framed-Route（属性 22）の情報が RADIUS Accounting-Request パケットで送信されているかどうかをモニターします。

## RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の設定例

### debug radius コマンドの出力例

次の例では、`debug radius` コマンドを使用して、Framed-Route（属性 22）情報が Accounting-Request パケットで送信されているかどうかを確認します（00:06:23: RADIUS: Framed-Route [22] 26 "10.80.0.1 255.255.255.255 10.60.0.1 100" の行を参照）。

```
Router# debug radius
00:06:23: RADIUS: Send to unknown id 0 10.1.0.2:1645, Access-Request, len 126
00:06:23: RADIUS: authenticator 40 28 A8 BC 76 D4 AA 88 - 5A E9 C5 55 0E 50 84 37
00:06:23: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6 PPP [1]
00:06:23: RADIUS: User-Name [1] 14 "nari@trw1001"
00:06:23: RADIUS: CHAP-Password [3] 19 *
00:06:23: RADIUS: NAS-Port [5] 6 1
00:06:23: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 33
00:06:23: RADIUS: Cisco AVpair [1] 27 "interface=Virtual-Access1"
00:06:23: RADIUS: NAS-Port-Type [6] 6 Virtual [5]
00:06:23: RADIUS: Service-Type [6] 6 Framed [2]
00:06:23: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6 12.1.0.1
00:06:23: RADIUS: Acct-Session-Id [44] 10 "00000002"
00:06:23: RADIUS: Received from id 0 10.1.0.2:1645, Access-Accept, len 103
```

```

00:06:23: RADIUS:  authenticator 5D 2D 9F 25 11 15 45 B2 - 54 BB 7F EB CE 79 20 3B
00:06:23: RADIUS:  Vendor, Cisco [26] 33
00:06:23: RADIUS:  Cisco AVpair [1] 27 "interface=Virtual-Access1"
00:06:23: RADIUS:  Service-Type [6] 6 Framed [2]
00:06:23: RADIUS:  Framed-Protocol [7] 6 PPP [1]
00:06:23: RADIUS:  Framed-IP-Netmask [9] 6 255.255.255.255
00:06:23: RADIUS:  Framed-IP-Address [8] 6 10.60.0.1
00:06:23: RADIUS:  Framed-Route [22] 26 "10.80.0.1 255.255.255.255 10.60.0.1
100"
<=====
00:06:23: RADIUS:  Received from id 2
00:06:24: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Virtual-Access1, changed state
to up
00:06:25: AAA/AUTHOR: Processing PerUser AV route
00:06:25: Vi1 AAA/PERUSER/ROUTE: route string: IP route 10.80.0.1 255.255.255.255
10.60.0.1 100
00:06:25: RADIUS/ENCODE(00000002): Unsupported AAA attribute timezone
00:06:25: RADIUS(00000002): sending
00:06:25: RADIUS: Send to unknown id 1 10.1.0.2:1646, Accounting-Request, len 278
00:06:25: RADIUS:  authenticator E0 CC 99 EB 49 18 B9 78 - 4A 09 60 0F 4E 92 24 C6
00:06:25: RADIUS:  Acct-Session-Id [44] 10 "00000002"
00:06:25: RADIUS:  Tunnel-Server-Endpoi[67] 12 00:"10.1.1.1"
00:06:25: RADIUS:  Tunnel-Client-Endpoi[66] 12 00:"10.1.1.2"
00:06:25: RADIUS:  Tunnel-Assignment-Id[82] 15 00:"from_isdn101"
00:06:25: RADIUS:  Tunnel-Type [64] 6 00:L2TP [3]
00:06:25: RADIUS:  Acct-Tunnel-Connecti[68] 12 "2056100083"
00:06:25: RADIUS:  Tunnel-Client-Auth-I[90] 10 00:"isdn101"
00:06:25: RADIUS:  Tunnel-Server-Auth-I[91] 6 00:"lns"
00:06:25: RADIUS:  Framed-Protocol [7] 6 PPP [1]
00:06:25: RADIUS:  Framed-Route [22] 39 "10.80.0.1 255.255.255.255 10.60.0.1
100"
<=====
00:06:25: RADIUS:  Framed-IP-Address [8] 6 10.60.0.1
00:06:25: RADIUS:  Vendor, Cisco [26] 35
00:06:25: RADIUS:  Cisco AVpair [1] 29 "connect-progress=LAN Ses Up"
00:06:25: RADIUS:  Authentic [45] 6 RADIUS [1]
00:06:25: RADIUS:  User-Name [1] 14 "username1@example.com"
00:06:25: RADIUS:  Acct-Status-Type [40] 6 Start [1]
00:06:25: RADIUS:  NAS-Port [5] 6 1
00:06:25: RADIUS:  Vendor, Cisco [26] 33
00:06:25: RADIUS:  Cisco AVpair [1] 27 "interface=Virtual-Access1"
00:06:25: RADIUS:  NAS-Port-Type [61] 6 Virtual [5]
00:06:25: RADIUS:  Service-Type [6] 6 Framed [2]
00:06:25: RADIUS:  NAS-IP-Address [4] 6 10.1.0.1
00:06:25: RADIUS:  Acct-Delay-Time [41] 6 0

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>
セキュリティコマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上のガイドライン、および例	<a href="#">『Cisco IOS Security Command Reference』</a>

関連項目	マニュアルタイトル
RADIUS	「Configuring RADIUS」機能モジュール。

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2865	『 <a href="#">Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)</a> 』
RFC 3575	『 <a href="#">IANA Considerations for RADIUS (Remote Authentication Dial In User Service)</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 78: RADIUS アカウンティング内の Framed-Route の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS アカウンティング内の Framed-Route	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>RADIUS アカウンティング内の Framed-Route 機能は、RADIUS Accounting-Request アカウンティングレコードに Framed-Route (RADIUS 属性 22) 情報を挿入します。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。</p>







## CHAPTER 55

# RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティング

RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングは、6つの新しい RADIUS アカウンティング タイプを導入しています。これらのタイプは、アカウンティング要求がユーザーサービスの始まり（開始）と終わり（終了）のどちらを表しているかを示す、RADIUS アカウンティング属性の Acct-Status-Type（属性 40）と一緒に使用されます。

また、この機能は、ユーザーによる VPDN セッション イベントのトラブルシューティングを支援する2つの新しい仮想プライベートダイヤルアップネットワーク（VPDN）コマンドを導入しています。

- [RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの制約事項, on page 657](#)
- [RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングに関する情報, on page 657](#)
- [RADIUS トンネル アカウンティングの設定方法, on page 662](#)
- [RADIUS トンネル アカウンティングの設定例, on page 666](#)
- [その他の参考資料, on page 668](#)
- [RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの機能情報, on page 670](#)

## RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの制約事項

RADIUS トンネル アカウンティングは、L2TP トンネル サポートがなければ動作しません。

## RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングに関する情報

## RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの利点

ユーザーが tunnel-link ステータスの変化を判断できるようにするネットワーク アカウンティングを使用した VPDN では、RADIUS トンネル アカウンティングがサポートされていないため、

使用可能なすべての属性がアカウンティング レコード ファイルに書き込まれませんでした。現在は使用可能なすべての属性を表示できるため、ユーザーはアカウンティング レコードをインターネット サービス プロバイダー (ISP) に確認しやすくなりました。

## RADIUS トンネル アカウンティングのための RADIUS 属性サポート

以下の表に、ダイヤルアップ ネットワーク内の Compulsory Tunneling のプロビジョンをサポートするように設計された新しい RADIUS アカウンティング タイプの概要を示します。これらの属性タイプを使用すると、トンネル ステータスの変化をより適切に追跡できます。



**Note** アカウンティング タイプは 2 つのトンネル タイプに分けられるため、ユーザーは、トンネル タイプが必要なのか、tunnel-link タイプが必要なのか、両方のアカウンティング タイプが必要なのかを判断できます。

Table 79: Acct-Status-Type 属性用の RADIUS アカウンティング タイプ

タイプ名	ケース	説明	追加属性 <sup>1</sup>
Tunnel-Start	9	別のノードとのトンネルセットアップの始まりを示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• User-Name (1) : クライアントから</li> <li>• NAS-IP-Address (4) : AAA から</li> <li>• Acct-Delay-Time (41) : AAA から</li> <li>• Event-Timestamp (55) : AAA から</li> <li>• Tunnel-Type (64) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Medium-Type (65) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Client-Endpoint (66) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Server-Endpoint (67) : クライアントから</li> <li>• Acct-Tunnel-Connection (68) : クライアントから</li> </ul>

タイプ名	ケース	説明	追加属性 <sup>1</sup>
Tunnel-Stop	10	別のノードへの、または別のノードからのトンネル接続の終わりを示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• User-Name (1) : クライアントから</li> <li>• NAS-IP-Address (4) : AAA から</li> <li>• Acct-Delay-Time (41) : AAA から</li> <li>• Acct-Input-Octets (42) : AAA から</li> <li>• Acct-Output-Octets (43) : AAA から</li> <li>• Acct-Session-Id (44) : AAA から</li> <li>• Acct-Session-Time (46) : AAA から</li> <li>• Acct-Input-Packets (47) : AAA から</li> <li>• Acct-Output-Packets (48) : AAA から</li> <li>• Acct-Terminate-Cause (49) : AAA から</li> <li>• Acct-Multi-Session-Id (51) : AAA から</li> <li>• Event-Timestamp (55) : AAA から</li> <li>• Tunnel-Type (64) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Medium-Type (65) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Client-Endpoint (66) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Server-Endpoint (67) : クライアントから</li> <li>• Acct-Tunnel-Connection (68) : クライアントから</li> <li>• Acct-Tunnel-Packets-Lost (86) : クライアントから</li> </ul>

タイプ名	ケース	説明	追加属性 <sup>1</sup>
Tunnel-Reject	11	別のノードとのトンネルセットアップの拒否を示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• User-Name (1) : クライアントから</li> <li>• NAS-IP-Address (4) : AAA から</li> <li>• Acct-Delay-Time (41) : AAA から</li> <li>• Acct-Terminate-Cause (49) : クライアントから</li> <li>• Event-Timestamp (55) : AAA から</li> <li>• Tunnel-Type (64) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Medium-Type (65) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Client-Endpoint (66) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Server-Endpoint (67) : クライアントから</li> <li>• Acct-Tunnel-Connection (68) : クライアントから</li> </ul>
Tunnel-Link-Start	12	トンネルリンクの構築を示します。一部のトンネルタイプ（レイヤ2 トランスポートプロトコル (L2TP) しか、トンネル当たりの複数リンクをサポートしていません。この値は、トンネル当たりの複数リンクをサポートしているトンネルタイプのアカウンティングパケット以外には含めないでください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• User-Name (1) : クライアントから</li> <li>• NAS-IP-Address (4) : AAA から</li> <li>• NAS-Port (5) : AAA から</li> <li>• Acct-Delay-Time (41) : AAA から</li> <li>• Event-Timestamp (55) : AAA から</li> <li>• Tunnel-Type (64) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Medium-Type (65) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Client-Endpoint (66) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Server-Endpoint (67) : クライアントから</li> <li>• Acct-Tunnel-Connection (68) : クライアントから</li> </ul>

タイプ名	ケース	説明	追加属性 <sup>1</sup>
Tunnel-Link-Stop	13	トンネルリンクの終わりを示します。一部のトンネルタイプ (L2TP) しか、トンネル当たりの複数リンクをサポートしていません。この値は、トンネル当たりの複数リンクをサポートしているトンネルタイプのアカウンティング パケット以外には含めないでください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• User-Name (1) : クライアントから</li> <li>• NAS-IP-Address (4) : AAA から</li> <li>• NAS-Port (5) : AAA から</li> <li>• Acct-Delay-Time (41) : AAA から</li> <li>• Acct-Input-Octets (42) : AAA から</li> <li>• Acct-Output-Octets (43) : AAA から</li> <li>• Acct-Session-Id (44) : AAA から</li> <li>• Acct-Session-Time (46) : AAA から</li> <li>• Acct-Input-Packets (47) : AAA から</li> <li>• Acct-Output-Packets (48) : AAA から</li> <li>• Acct-Terminate-Cause (49) : AAA から</li> <li>• Acct-Multi-Session-Id (51) : AAA から</li> <li>• Event-Timestamp (55) : AAA から</li> <li>• NAS-Port-Type (61) : AAA から</li> <li>• Tunnel-Type (64) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Medium-Type (65) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Client-Endpoint (66) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Server-Endpoint (67) : クライアントから</li> <li>• Acct-Tunnel-Connection (68) : クライアントから</li> <li>• Acct-Tunnel-Packets-Lost (86) : クライアントから</li> </ul>

タイプ名	ケース	説明	追加属性 <sup>1</sup>
Tunnel-Link-Reject	14	既存のトンネル内の新しいリンクに対するトンネルセットアップの拒否を示します。一部のトンネルタイプ (L2TP) しか、トンネル当たりの複数リンクをサポートしていません。この値は、トンネル当たりの複数リンクをサポートしているトンネルタイプのアカウンティングパケット以外には含めないでください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• User-Name (1) : クライアントから</li> <li>• NAS-IP-Address (4) : AAA から</li> <li>• Acct-Delay-Time (41) : AAA から</li> <li>• Acct-Terminate-Cause (49) : AAA から</li> <li>• Event-Timestamp (55) : AAA から</li> <li>• Tunnel-Type (64) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Medium-Type (65) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Client-Endpoint (66) : クライアントから</li> <li>• Tunnel-Server-Endpoint (67) : クライアントから</li> <li>• Acct-Tunnel-Connection (68) : クライアントから</li> </ul>

<sup>1</sup> 指定されたトンネルタイプが使用されている場合は、これらの属性もアカウンティング要求パケットに含める必要があります。

## RADIUS トンネル アカウンティングの設定方法

### トンネルタイプ アカウンティング レコードの有効化

このタスクを使用して、トンネルレコードと tunnel-link アカウンティングレコードを RADIUS サーバーに送信するように LAC を設定します。

vpdn セッション アカウンティング ネットワーク (tunnel-link-type レコード) と vpdn トンネル アカウンティング ネットワーク (tunnel-type レコード) という 2 つの新しいコマンドライン インターフェイス (CLI) が、次のイベントの特定を支援するためにサポートされています。

- VPDN トンネルが構築または破壊された。
- VPDN トンネルの作成要求が拒否された。
- VPDN トンネル内のユーザー セッションが起動または停止された。
- ユーザー セッション作成要求が拒否された。



**Note** 最初の2つのイベントは、`tunnel-type` アカウント記録です。認証、許可、アカウント記録 (AAA) が、`Tunnel-Start`、`Tunnel-Stop`、または `Tunnel-Reject` アカウント記録を RADIUS サーバーに送信します。次の2つのイベントは、`tunnel-link-type` アカウント記録です。AAA が、`Tunnel-Link-Start`、`Tunnel-Link-Stop`、または `Tunnel-Link-Reject` アカウント記録を RADIUS サーバーに送信します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. Router(config)# **aaa accounting network default list-name** {start-stop | stop-only | wait-start | none group groupname
4. Router(config)# **vpdn enable**
5. Router(config)# **vpdn tunnel accounting network list-name**
6. Router(config)# **vpdn session accounting network list-name**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router(config)# <b>aaa accounting network default list-name</b> {start-stop   stop-only   wait-start   none group groupname <b>Example:</b> <b>Example:</b> <b>Example:</b> <b>Example:</b>	ネットワーク アカウント記録を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>default</b> : デフォルトのネットワーク アカウント記録の方式リストが設定され、インターフェイス上でどの追加のアカウント記録設定も有効になっていない場合は、デフォルトで、ネットワーク アカウント記録が有効になります。</li></ul> <b>vpdn session accounting network</b> コマンドまたは <b>vpdn tunnel accounting network</b> コマンドが <b>default</b> 方式リストにリンクされている場合、すべてのトンネルお

	Command or Action	Purpose
	<p><b>Example:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# aaa accounting network m1 start-stop group radius</pre>	<p>よびトンネルリンクアカウントングレコードが、これらのセッションで有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>list-name</i> : <b>aaa accounting</b> コマンドで定義された <i>list-name</i> は、VPDN コマンドで定義された <i>list-name</i> と同一である必要があります。そうでない場合、アカウントングは発生しません。</li> </ul>
ステップ 4	<p>Router(config)# <b>vpdn enable</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# vpdn enable</pre>	<p>ルータ上のバーチャルプライベートダイヤルアップネットワークングを有効にして、ルータにローカルデータベースとリモート認可サーバー（該当する場合）上でトンネル定義を検索するように指示します。</p>
ステップ 5	<p>Router(config)# <b>vpdn tunnel accounting network</b> <i>list-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# vpdn tunnel accounting network m1</pre>	<p>Tunnel-Start、Tunnel-Stop、および Tunnel-Reject アカウントングレコードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>list-name</i> : <i>list-name</i> は、<b>aaa accounting</b> コマンドで定義された <i>list-name</i> と一致している必要があります。そうでない場合、ネットワークアカウントングは発生しません。</li> </ul>
ステップ 6	<p>Router(config)# <b>vpdn session accounting network</b> <i>list-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# vpdn session accounting network m1</pre>	<p>Tunnel-Link-Start、Tunnel-Link-Stop、および Tunnel-Link-Reject アカウントングレコードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>list-name</i> : <i>list-name</i> は、<b>aaa accounting</b> コマンドで定義された <i>list-name</i> と一致している必要があります。そうでない場合、ネットワークアカウントングは発生しません。</li> </ul>



## 次の作業

RADIUS トンネル アカウンティングを有効にしたら、次のオプション タスク「RADIUS トンネル アカウンティングの確認」で設定を確認できます。

## RADIUS トンネル アカウンティングの確認

次のオプション手順のどちらかまたは両方を使用して、RADIUS トンネル アカウンティング設定を確認します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. Router# **show accounting**
3. Router# **show vpdn [session] [tunnel]**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	Router# <b>show accounting</b> <b>Example:</b> Router# show accounting	ネットワーク上でアクティブなアカウント可能イベントを表示して、アカウンティングサーバー上でのデータ消失イベント時の情報収集を支援します。
ステップ 3	Router# <b>show vpdn [session] [tunnel]</b> <b>Example:</b>  <b>Example:</b>  <b>Example:</b>  <b>Example:</b> Router# show vpdn session	VPDN 内のアクティブな L2TP トンネルとメッセージ識別子に関する情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>session</b> : すべてのアクティブなトンネルのステータス サマリーを表示します。</li> <li>• <b>tunnel</b> : すべてのアクティブな L2TP トンネルに関する情報をサマリー形式で表示します。</li> </ul>

# RADIUS トンネル アカウンティングの設定例

## LAC 上での RADIUS トンネル アカウンティングの設定例

次の例は、トンネル レコードと tunnel-link アカウンティング レコードを RADIUS サーバーに送信するように L2TP アクセス コンセントレータ (LAC) を設定する方法を示しています。

```
aaa new-model
!
!
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default local
aaa accounting network m1 start-stop group radius
aaa accounting network m2 stop-only group radius
aaa session-id common
enable secret 5 $1$IDjH$iL7puCja1RMlyOM.JAeuf/
enable password lab
!
username ISP_LAC password 0 tunnelpass
!
!
resource-pool disable
!
!
ip subnet-zero
ip cef
no ip domain-lookup
ip host dirt 172.16.1.129
!
vpdn enable
vpdn tunnel accounting network m1
vpdn session accounting network m1
vpdn search-order domain dnis
!
vpdn-group 1
 request-dialin
  protocol l2tp
  domain cisco.com
  initiate-to ip 10.1.26.71
  local name ISP_LAC
!
mta receive maximum-recipients 0
!
interface GigabitEthernet0/0/0
 ip address 10.1.27.74 255.255.255.0
 no ip mroute-cache
 duplex half
 speed auto
 no cdp enable
!
interface FastEthernet0/0/1
 no ip address
 no ip mroute-cache
 shutdown
 duplex auto
 speed auto
 no cdp enable
!
```

```

ip default-gateway 10.1.27.254
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.1.27.254
no ip http server
ip pim bidir-enable
!
no cdp run
!
!
radius-server host 172.19.192.26 auth-port 1645 acct-port 1646 key rad123
radius-server retransmit 3
call rsvp-sync
!

```

## LNS 上での RADIUS トンネル アカウンティングの設定例

次の例は、トンネル レコードと tunnel-link アカウンティング レコードを RADIUS サーバーに送信するように L2TP ネットワーク サーバー（LNS）を設定する方法を示しています。

```

aaa new-model
!
!
aaa accounting network m1 start-stop group radius
aaa accounting network m2 stop-only group radius
aaa session-id common
enable secret 5 $1$ftf.$wE6Q5Yv6hmQiwL9pizPCg1
!
username ENT_LNS password 0 tunnelpass
username user1@cisco.com password 0 lab
username user2@cisco.com password 0 lab
spe 1/0 1/7
firmware location system:/ucode/mica_port_firmware
spe 2/0 2/9
firmware location system:/ucode/mica_port_firmware
!
!
resource-pool disable
clock timezone est 2
!
ip subnet-zero
no ip domain-lookup
ip host CALLGEN-SECURITY-V2 172.24.80.28 10.47.0.0
ip host dirt 172.16.1.129
!
vpdn enable
vpdn tunnel accounting network m1
vpdn session accounting network m1
!
vpdn-group 1
accept-dialin
protocol l2tp
virtual-template 1
terminate-from hostname ISP_LAC
local name ENT_LNS
!
mta receive maximum-recipients 0
!
interface Loopback0
ip address 192.168.70.101 255.255.255.0
!
interface Loopback1

```

```

ip address 192.168.80.101 255.255.255.0
!
interface FastEthernet0/0/0
ip address 10.1.26.71 255.255.255.0
no ip mroute-cache
no cdp enable
!
interface Virtual-Template1
ip unnumbered Loopback0
peer default ip address pool vpdn-pool1
ppp authentication chap
!
interface Virtual-Template2
ip unnumbered Loopback1
peer default ip address pool vpdn-pool2
ppp authentication chap
!
interface FastEthernet0/0/1
no ip address
no ip mroute-cache
shutdown
duplex auto
speed auto
no cdp enable
!
ip local pool vpdn-pool1 192.168.70.1 192.168.70.100
ip local pool vpdn-pool2 192.168.80.1 192.168.80.100
ip default-gateway 10.1.26.254
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.1.26.254
ip route 10.90.1.2 255.255.255.255 10.1.26.254
no ip http server
ip pim bidir-enable
!
no cdp run
!
radius-server host 172.19.192.80 auth-port 1645 acct-port 1646 key rad123
radius-server retransmit 3
call rsvp-sync

```

## その他の参考資料

次の項で、RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングに関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
RADIUS 属性	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services , Release 2』の「RADIUS Attributes Overview and RADIUS IETF Attributes」
VPDN	『Cisco IOS XE VPDN Configuration Guide , Release 2』
ネットワーク アカウンティング	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services , Release 2』の「Configuring Accounting」

関連項目	マニュアルタイトル
コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference』</li> <li>『Cisco IOS VPDN Command Reference』</li> </ul>

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能がサポートする新しいMIBまたは変更されたMIBはありません。また、この機能で変更された既存規格のサポートはありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットのMIBの場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### RFC

RFC	タイトル
RFC 2867	『RADIUS Accounting Modifications for Tunnel Protocol Support』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 80: RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
RFC-2867 RADIUS トンネル アカウン ティング	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>RFC-2867 RADIUS トンネル アカウンティングは、6 つの新しい RADIUS アカウンティング タイプを導入しています。これらのタイプは、アカウンティング要求がユーザー サービスの始まり（開始）と終わり（終了）のどちらを表しているかを示す、RADIUS アカウンティング属性の Acct-Status-Type（属性 40）と一緒に使用されます。</p> <p>また、この機能は、ユーザーによる VPDN セッション イベントのトラブルシューティングを支援する 2 つの新しい仮想プライベートダイヤルアップネットワーク（VPDN）コマンドを導入しています。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa accounting</b>、<b>vpdn session accounting network</b>、<b>vpdn tunnel accounting network</b></p>







## CHAPTER 56

# RADIUS 論理回線 ID

論理回線 ID (LLID) ブロッキング機能としても知られる RADIUS 論理回線 ID 機能を使用すれば、管理者は、顧客コールが発信された物理回線に基づいて顧客を追跡できます。管理者は、顧客が物理回線を移動しても変化しない仮想ポートを使用します。この仮想ポートは、管理者の顧客プロファイルデータベースのメンテナンスを容易にし、管理者が顧客に対して追加のセキュリティ チェックを実施できるようにします。

- [RADIUS 論理回線 ID の前提条件, on page 673](#)
- [RADIUS 論理回線 ID の制約事項, on page 673](#)
- [RADIUS 論理回線 ID に関する情報, on page 674](#)
- [RADIUS 論理回線 ID の設定方法, on page 674](#)
- [RADIUS 論理回線 ID の設定例, on page 677](#)
- [その他の参考資料, on page 678](#)
- [RADIUS 論理回線 ID の機能情報, on page 680](#)
- [用語集, on page 680](#)

## RADIUS 論理回線 ID の前提条件

この機能は任意の RADIUS サーバーと一緒に使用できますが、RADIUS サーバーによっては、Access-Accept メッセージで Calling-Station-ID 属性を返せるようにディレクトリ ファイルを変更する必要があります。たとえば、「ATTRIBUTE Calling-Station-Id 31 string (\*,\*)」のようにディクショナリを変更しなければ、Merit RADIUS サーバーで LLID ダウンロードはサポートされません。

## RADIUS 論理回線 ID の制約事項

RADIUS 論理回線 ID 機能は RADIUS のみをサポートしています。TACACS+ はサポートしていません。

この機能は、PPP over Ethernet over ATM (PPPoEoATM) コールと PPP over Ethernet over VLAN (PPPoEoVLAN) (Dot1Q) コールにしか適用できません。ISDN などのその他のコールは使用できません。

# RADIUS 論理回線 ID に関する情報

## 事前認可

LLID は、加入者線の論理識別を表す英数字文字列です（1～253 文字にする必要があります）。また、LLID は、RADIUS サーバー上の顧客プロファイルデータベース上に保存されます。顧客プロファイルデータベースがアクセスルータから事前認可要求を受け取ると、RADIUS サーバーが LLID を Calling-Station-ID 属性（属性 31）としてルータに送信します。

レイヤ 2 トンネリング プロトコル（L2TP）アクセス コンセントレータ（LAC）が、事前認可用に設定されている場合に、事前認可要求を顧客プロファイルデータベースに送信します。**subscriber access** コマンドを使用して、LAC を事前認可用に設定します。



**Note** LLID のダウンロードは「事前認可」と呼ばれています。これは、サービス（ドメイン）認可またはユーザー認証および認可の前に実施されるためです。

RADIUS サーバー上の顧客プロファイルデータベースは、ルータに接続された物理ネットワーク アクセス サーバー（NAS）ごとのユーザー プロファイルで構成されています。各ユーザー プロファイルには、ルータ上の物理ポートを表すユーザー名（属性 1）と一致したプロファイルが格納されています。ルータは、事前認可用に設定されている場合に、接続先の物理 NAS ポートの代表ユーザー名を使用して顧客プロファイルデータベースに問い合わせます。顧客プロファイルデータベース内で一致するものが見つかったら、顧客プロファイルデータベースが、ユーザー プロファイル内の LLID を含む Access-Accept メッセージを返します。LLID は、Calling-Station-ID 属性として Access-Accept レコード内に定義されています。

事前認可プロセスは、認証に使用される実際のユーザー名を RADIUS サーバーに提供することもできます。物理 NAS ポート情報がユーザー名（属性 1）として使用されるため、RADIUS 属性 77（Connect-Info）を認証ユーザー名を含めるように設定できます。この設定によって、RADIUS サーバーは、LLID をルータに返す前に、選択した認可要求に対して追加の検証（プライバシー ルールに対するユーザー名の分析など）を実施できます。

# RADIUS 論理回線 ID の設定方法

## 事前認可の設定

LLID をダウンロードして、LAC を事前認可用に設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**

3. **ip radius source-interface** *interface-name*
4. **subscriber access** {pppoe | pppoa} **pre-authorize nas-port-id** [default | *list-name*] [send username]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip radius source-interface</b> <i>interface-name</i> <b>Example:</b>  <b>Example:</b> Router (config)# ip radius source-interface Loopback1	事前認可要求用のユーザー名の IP アドレス部分を指定します。
ステップ 4	<b>subscriber access</b> {pppoe   pppoa} <b>pre-authorize nas-port-id</b> [default   <i>list-name</i> ] [send username] <b>Example:</b>  <b>Example:</b> Router (config)# subscriber access pppoe pre-authorize nas-port-id mlist_llid send username	LLID のダウンロードを可能にして、ルータを事前認可用に設定できるようにします。  <b>send username</b> オプションは、Access-Request メッセージ内の Connect-Info（属性 77）にセッションの認証ユーザー名を含めるように指定します。

## RADIUS ユーザー プロファイル内の LLID の設定

ユーザー プロファイルを事前認可用に設定するには、顧客プロファイルデータベースに NAS ポート ユーザーを追加して、ユーザー プロファイルに RADIUS インターネット技術特別調査委員会（IETF）属性 31（Calling-Station-ID）を追加します。

## SUMMARY STEPS

1. `UserName=nas_port: ip-address:slot/module/port/vpi.vci`
2. `User-Name=nas-port: ip-address:slot/module/port/vlan-id`
3. `Calling-Station-Id = "string (*,*)"`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>UserName=nas_port: ip-address:slot/module/port/vpi.vci</code>	(任意) PPPoE over ATM NAS ポート ユーザーを追加します。
ステップ 2	<code>User-Name=nas-port: ip-address:slot/module/port/vlan-id</code>	(任意) PPPoE over VLAN NAS ポート ユーザーを追加します。
ステップ 3	<code>Calling-Station-Id = "string (*,*)"</code>	ユーザー プロファイルに属性 31 を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• String : ユーザーがかけてきた電話番号を含む 1 つ以上のオクテット。</li> </ul>

## 論理回線 ID の確認

機能を確認するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `debug radius`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> <code>Router&gt; enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<code>debug radius</code> <b>Example:</b> <code>Router# debug radius</code>	RADIUS 属性 31 が、LAC 上の Accounting-Request と、LNS 上の Access-Request および Accounting-Request 内の LLID であることを確認します。

# RADIUS 論理回線 ID の設定例

## 事前認可用の LAC 設定例

次の例は、LLID をダウンロードすることによって、LAC を事前認可用に設定する方法を示しています。

```
aaa new-model
aaa group server radius sg_llid
  server 172.31.164.106 auth-port 1645 acct-port 1646
aaa group server radius sg_water
  server 172.31.164.106 auth-port 1645 acct-port 1646
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization config-commands
aaa authorization network default group sg_water
aaa authorization network mlist_llid group sg_llid
aaa session-id common
!
username s7200_2 password 0 lab
username s5300 password 0 lab
username sg_water password 0 lab
vpdn enable
!
vpdn-group 2
  request-dialin
  protocol l2tp
  domain example.com
  domain example.com#184
  initiate-to ip 10.1.1.1
  local name s7200_2
  l2tp attribute clid mask-method right * 255 match #184
!
vpdn-group 3
  accept dialin
  protocol pppoe
  virtual-template 1
!
!
Enable the LLID to be downloaded.
subscriber access pppoe pre-authorize nas-port-id mlist_llid send username
!
interface Loopback0
  ip address 10.1.1.2 255.255.255.0
!
interface Loopback1
  ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
!
interface FastEthernet1/0/0
  ip address 10.1.1.8 255.255.255.0 secondary
  ip address 10.0.58.111 255.255.255.0
  no cdp enable
!
interface ATM4/0/0
  no ip address
  no atm ilmi-keepalive
!
interface ATM4/0/0.1 point-to-point
  pvc 1/100
```

```

encapsulation aal5snap
protocol pppoe
!
interface virtual-templatel
no ip unnumbered Loopback0
no peer default ip address
ppp authentication chap
!
radius-server host 172.31.164.120 auth-port 1645 acct-port 1646 key rad123
radius-server host 172.31.164.106 auth-port 1645 acct-port 1646 key rad123
ip radius source-interface Loopback1

```

## LLID 用の RADIUS ユーザー プロファイルの例

次の例は、ユーザー プロファイルを PPPoEoVLAN および PPPoEoATM に対する LLID 問い合わせ用に設定する方法と属性 31 の追加方法を示しています。

```

pppoeovlan
-----
nas-port:10.1.0.3:6/0/0/0 Password = "password1",
Service-Type = Outbound,
Calling-Station-ID = "cat-example"
pppoeoa
-----
nas-port:10.1.0.3:6/0/0/1.100 Password = "password1",
Service-Type = Outbound,
Calling-Station-ID = "cat-example"

```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS EAP サポート機能に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
AAA を使用した ppp 認証の設定	「Configuring Authentication」モジュール。
RADIUS の設定	「Configuring RADIUS」モジュール。
PPP の設定	「Configuring Asynchronous SLIP and PPP」モジュール。
ダイヤルテクノロジー コマンド	『Cisco IOS Dial Technologies Command Reference』
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2284	『 <i>PPP Extensible Authentication Protocol (EAP)</i> 』
RFC 1938	『 <i>A One-Time Password System</i> 』
RFC 2869	『 <i>RADIUS Extensions</i> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS 論理回線 ID の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 81: RADIUS 論理回線 ID の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 論理回線 ID	Cisco IOS XE Release 2.1	論理回線 ID (LLID) ブロッキング機能としても知られる RADIUS 論理回線 ID 機能を使用すれば、管理者は、顧客コールが発信された物理回線に基づいて顧客を追跡できます。  この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で、Cisco ASR 1000 シリーズアグリゲーションサービスルータに導入されました。  この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。 <b>subscriber access</b>
発信側ステーション ID 属性 31	Cisco IOS XE Release 2.1	この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズルータに追加されました。
LLID ブロッキング	Cisco IOS XE Release 2.1	この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズルータに追加されました。

## 用語集

**attribute** : RADIUS Internet Engineering Task Force (IETF) 属性は、クライアントとサーバーの間で認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) 情報を通信するために使用される 255 個の標準属性からなるオリジナルセットの 1 つです。IETF 属性は標準であるため、属性データは事前定義されてその内容も認識されています。このため、IETF 属性を介して AAA 情報を交換するすべてのクライアントとサーバーは、属性の厳密な意味や各属性値の一般的な限界などの属性データを一致させる必要があります。

**CHAP** : チャレンジハンドシェイク認証プロトコル。PPP カプセル化を使用した回線上でサポートされ、不正アクセスを防止するセキュリティ機能。CHAP それ自体が不正アクセスを防止するわけではなく、単に、リモートエンドを識別するだけです。その後で、ルータまたはアクセスサーバーがそのユーザーのアクセスを許可するかどうかを決定します。



**EAP** : 拡張認証プロトコル。認証フェーズ (Link Control Protocol (LCP) フェーズではなく) でネゴシエートされる複数の認証メカニズムをサポートする PPP 認証プロトコル。EAP を使用すれば、汎用のインターフェイスを介して、サードパーティ製の認証サーバーと PPP 実装の間でデータのやり取りができます。

**LCP** : リンク制御プロトコル。PPP で使用するためのデータリンク接続を確立して、設定し、テストするプロトコル。

**MD5 (HMAC variant)** : Message Digest 5。パケットデータの認証に使用するハッシュアルゴリズム。HMAC は、メッセージ認証用の重要なハッシングです。

**NAS** : ネットワーク アクセス サーバー。公衆電話交換網 (PSTN) などのリモートアクセスネットワーク上でユーザーにローカル ネットワーク アクセスを提供するデバイス。

**PAP** : パスワード認証プロトコル。PPP ピアの相互認証を可能にする認証プロトコル。ローカルルータに接続を試みているリモートルータは、認証要求を送信するように要求されます。CHAP と違って、PAP はパスワードとホスト名またはユーザー名をクリアテキスト (暗号化なし) で渡します。PAP それ自体が不正アクセスを防止するわけではなく、単に、リモートエンドを識別するだけです。ルータまたはアクセスサーバーがそのユーザーのアクセスを許可するかどうかを決定します。PAP は、PPP 回線上でのみサポートされます。

**PPP** : ポイントツーポイントプロトコル。ポイントツーポイントリンク上でネットワーク層プロトコル情報をカプセル化するプロトコル。PPP は RFC 1661 で規定されています。

**RADIUS** : リモート認証ダイヤルインユーザー サービス。モデムおよび ISDN 接続の認証、および接続のトラッキングのためのデータベースです。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。© 2001-2009 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.





## CHAPTER 57

# RADIUS ルート ダウンロード

RADIUS ルート ダウンロード機能を使用すれば、RADIUS 認可を転送するようにネットワーク アクセス サーバー (NAS) を設定できます。

- [RADIUS ルート ダウンロードの前提条件, on page 683](#)
- [RADIUS ルート ダウンロードに関する情報, on page 683](#)
- [RADIUS ルート ダウンロードの設定方法, on page 684](#)
- [RADIUS ルート ダウンロードの設定例, on page 685](#)
- [その他の参考資料, on page 685](#)
- [RADIUS ルート ダウンロードの機能情報, on page 686](#)

## RADIUS ルート ダウンロードの前提条件

この機能でタスクを実行する前に、AAA ネットワーク セキュリティを有効にする必要があります。

## RADIUS ルート ダウンロードに関する情報

RADIUS ルート ダウンロード機能を使用すれば、RADIUS 認可を転送するようにネットワーク アクセス サーバー (NAS) を設定できます。ユーザーは、NAS から認証、許可、アカウント インテグレーション (AAA) に送信されるスタティック ルート ダウンロード要求用として、もう一つの名前付き方式リスト (デフォルトの方式リストに加えて) を設定できます。

この機能以前は、スタティック ルート ダウンロード要求用の RADIUS 認可が、デフォルトの方式リストで指定された AAA サーバーにのみ送信されていました。

この機能では、AAA サーバーへのスタティック ルート ダウンロード要求の転送に使用される方式リストの名前を指定できるように **aaa route download** コマンドの機能が拡張されています。**aaa route download** コマンドは、スタティック ルートをダウンロードするためのもう 1 つの方式リストを指定するために使用できます。この方式リストは、**aaa authorization configuration** コマンドを使用して追加できます。

# RADIUS ルート ダウンロードの設定方法

## RADIUS ルート ダウンロードの設定

名前付き方式リストで指定されたサーバーにスタティック ルート ダウンロード要求を送信するように NAS を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **aaa authorization configuration** *method-name* [ **radius** | **tacacs+** | **group** *group-name* ]
2. Router(config)# **aaa route download** [*time*] [**authorization** *method-list*]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>aaa authorization configuration</b> <i>method-name</i> [ <b>radius</b>   <b>tacacs+</b>   <b>group</b> <i>group-name</i> ]	RADIUS を使用して AAA サーバーからスタティック ルート設定情報をダウンロードします。
ステップ 2	Router(config)# <b>aaa route download</b> [ <i>time</i> ] [ <b>authorization</b> <i>method-list</i> ]	スタティック ルート ダウンロード機能を有効にします。 <b>authorization</b> <i>method-list</i> 属性を使用して、スタティック ルート ダウンロード用の RADIUS 認可要求が送信される名前付き方式リストを指定します。

## RADIUS ルート ダウンロードの確認

インストールされているルートを確認するには、EXEC モードで **show ip route** コマンドを使用します。

RADIUS に関連付けられた情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug radius** コマンドを使用します。

# RADIUS ルート ダウンロードの設定例

## RADIUS ルート ダウンロード設定例

次の例は、スタティックルートダウンロード要求を「list1」という名前の方式リストで指定されたサーバーに送信するように NAS を設定する方法を示しています。

```

aaa new-model
aaa group server radius rad1
server 10.2.2.2 auth-port 1645 acct-port 1646
!
aaa group server tacacs+ tac1
server 172.17.3.3
!
aaa authorization configuration default group radius
aaa authorization configuration list1 group rad1 group tac1
aaa route download 1 authorization list1
tacacs-server host 172.17.3.3
tacacs-server key cisco
tacacs-server administration
!
radius-server host 10.2.2.2 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server key cisco

```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS ルート ダウンロードに関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## RADIUS ルート ダウンロードの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 82: RADIUS ルートダウンロードの機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS ルートダウンロード	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>RADIUS ルートダウンロード機能を使用すれば、RADIUS 認可を転送するようにネットワークアクセスサーバー (NAS) を設定できます。ユーザーは、NAS から認証、許可、アカウントティング (AAA) に送信されるスタティック ルートダウンロード要求用として、もう一つの名前付き方式リスト (デフォルトの方式リストに加えて) を設定できます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で、Cisco ASR 1000 シリーズアグリゲーションサービスルータに導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入されました。 <b>aaa route download</b></p>







## CHAPTER 58

# RADIUS サーバー ロード バランシング

RADIUS サーバー ロード バランシング機能は、認証、認可、およびアカウントिंग（AAA）の認証トランザクションとアカウントングトランザクションをサーバーグループ内のRADIUSサーバーに分配します。これらのサーバーは、AAA トランザクションの負荷を共有することで、着信要求に迅速に応答できるようになります。

このモジュールでは、RADIUS サーバー ロード バランシング機能について説明します。

- [RADIUS サーバ ロード バランシングの前提条件, on page 689](#)
- [RADIUS サーバ ロード バランシングの制約事項, on page 689](#)
- [RADIUS サーバ ロード バランシングに関する情報, on page 690](#)
- [RADIUS サーバ ロード バランシングの設定方法, on page 692](#)
- [RADIUS サーバ ロード バランシングの設定例, on page 697](#)
- [RADIUS サーバ ロード バランシングのその他の参考資料, on page 709](#)
- [RADIUS サーバー ロード バランシングの機能情報, on page 711](#)

## RADIUS サーバ ロード バランシングの前提条件

- 認証、認可、およびアカウントング（AAA）を RADIUS サーバーに設定する必要があります。
- AAA RADIUS サーバー グループを設定する必要があります。
- 認証、アカウントング、スタティック ルート ダウンロードなどの機能用に RADIUS を設定する必要があります。

## RADIUS サーバ ロード バランシングの制約事項

- パケット オブ ディスコネクト（POD）要求などの着信 RADIUS 要求はサポートされていません。

# RADIUS サーバ ロード バランシングに関する情報

## RADIUS サーバ ロード バランシングの概要

ロードバランシングは、トランザクションのバッチをサーバグループ内のRADIUSサーバに分配します。ロードバランシングにより、トランザクションの各バッチは、キュー内の未処理トランザクション数が最も少ないサーバに割り当てられます。トランザクションのバッチの割り当てプロセスは次のとおりです。

1. 最初のトランザクションが新しいバッチとして受信されます。
2. すべてのサーバ トランザクション キューがチェックされます。
3. 最小番号の未処理トランザクションを持つサーバが特定されます。
4. 特定されたサーバが、トランザクションの次のバッチに割り当てられます。

バッチサイズはユーザー設定のパラメータです。バッチサイズを変更すると、CPUの負荷やネットワークのスループットに影響する可能性があります。バッチサイズが大きくなるほど、CPUの負荷が減少し、ネットワークのスループットが増加します。ただし、バッチサイズが大きくても、使用可能なすべてのサーバリソースが使い果たされることはありません。バッチサイズが小さくなるほど、CPUの負荷が増加し、ネットワークのスループットが減少します。



**Note** 大きなバッチサイズまたは小さなバッチサイズに関する設定数はありません。50を超えるトランザクションを含むバッチは大きいと見なされ、25より少ないトランザクションを含むバッチは、小さいと見なされます。



**Note** サーバグループに10以上のサーバが含まれている場合、CPUの負荷を軽減するために高いバッチサイズを設定することを推奨します。

## RADIUS サーバグループ全体のトランザクションのロードバランシング

名前付きRADIUSサーバグループごとに、またはグローバルRADIUSサーバグループに対してロードバランシングを設定できます。ロードバランシングサーバグループは、認証、認可、およびアカウントリング(AAA)方式リストで「radius」として参照される必要があります。RADIUSサーバグループの一部であるすべてのパブリックサーバは、その後、ロードバランシングされます。

同じ RADIUS サーバーを使用するか、または別のサーバーを使用するように認証およびアカウントティングを設定できます。1 つのサーバーをセッションの事前認証、認証、またはアカウントティング トランザクションに使用することもできます。内部設定であり、デフォルトとして設定される優先サーバーが、サーバー コストに関係なく、セッションの開始レコードと終了レコードに対して同じサーバーを使用するよう AAA に指示します。優先サーバー設定を使用する場合は、初期 トランザクション（認証など）に使用されるサーバー、つまり優先サーバーが、以降の トランザクション（アカウントティングなど）に使用される他のサーバーグループにも属するようにします。

優先サーバーは、次のいずれかの条件が真である場合は使用されません。

- **load-balance method least-outstanding ignore-preferred-server** コマンドが使用されている。
- 優先サーバーが停止中である。
- 優先サーバーが隔離中である。
- 必要サーバー フラグがセットされている場合は、優先サーバー設定が無効になります。

内部設定である必要サーバー フラグは、サーバー コストに関係なく、マルチステージ トランザクションのすべてのステージに対して同じサーバーを使用する必要がある場合に使用されます。必要サーバーが使用できない場合は、トランザクションが失敗します。

次のいずれかの設定がある場合、**load-balance method least-outstanding ignore-preferred-server** コマンドを使用できます。

- 専用の認証サーバーと別の専用のアカウントティング サーバー
- 開始レコードと終了レコード、および別のサーバーに保存されたレコードなど、すべての通話レコード統計情報と通話レコード詳細を追跡可能なネットワーク

認証サーバーをアカウントティング サーバーのスーパーセットとして設定している場合、優先サーバーは使用されません。

## RADIUS サーバー ステータスと自動テスト

RADIUS サーバー ロード バランシング機能では、バッチを割り当てるときにサーバー ステータスを考慮します。トランザクションのバッチは、稼働中のサーバーのみに送信されます。あまり使用されていないサーバー（バックアップサーバーなど）を含む、すべての RADIUS ロード バランシング サーバーのステータスをテストすることを推奨します。

停止中としてマークされたサーバーにはトランザクションが送信されません。隔離状態になったサーバーは、タイマーが切れるまで停止中としてマークされます。RADIUS 自動テスト機能によって動作中であることが確認されるまでサーバーは隔離中になります。

サーバーが稼働中でトランザクションを処理できるかどうかを確認するために、RADIUS 自動テスターは、テスト ユーザー ID で要求を定期的にサーバーに送信します。サーバーが **Access-Reject** メッセージを返した場合、サーバーは稼働中です。それ以外の場合、サーバーは停止中または隔離中です。

未応答のサーバに送信されたトランザクションは、未応答のサーバが停止中としてマークされる前に、次の使用可能なサーバにフェールオーバーされます。失敗したトランザクションには再試行順序変更モードを使用することを推奨します。

RADIUS 自動テスターを使用する場合、認証、認可、およびアカウントリング (AAA) サーバが、ネットワーク アクセス サーバ (NAS) によって送信されるテスト パケットに応答していることを確認します。サーバが正しく設定されていない場合は、パケットが破棄され、サーバが誤って停止中としてマークされる可能性があります。



**Caution** RADIUS サーバ上で定義されていないテスト ユーザーを RADIUS サーバ自動テストに使用して、テストユーザーが正しく設定されていない場合に発生するセキュリティ上の問題を解決することを推奨します。



**Note** ロード バランシング トランザクションを確認するには、**test aaa group** コマンドを使用します。



**Note** Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1 以降では、VRF を認識するように自動テスターを設定できます。**automate-tester** コマンドで **vrf** キーワードを使用すると、デフォルト以外の VRF の自動テスト機能を有効化します。

VRF 対応の自動テスターを機能させるには、**global config ipv4/ipv6 source interface interface-name vrf vrf-name** コマンドを設定する必要があります。

## RADIUS サーバ ロード バランシング の設定方法

### 名前付き RADIUS サーバグループのロード バランシングの有効化

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa group server radius group-name**
4. **server ip-address [auth-port port-number] [acct-port port-number]**
5. **load-balance method least-outstanding [batch-size number] [ignore-preferred-server]**
6. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa group server radius group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# aaa group server radius rad-sg	サーバー グループ コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 4	<b>server ip-address [auth-port port-number] [acct-port port-number]</b> <b>Example:</b> Device (config-sg-radius)server 192.0.2.238 auth-port 2095 acct-port 2096	グループ サーバー用の RADIUS サーバーの IP アドレスを設定します。
ステップ 5	<b>load-balance method least-outstanding [ batch-size number] [ignore-preferred-server]</b> <b>Example:</b> Device(config-sg-radius)# load-balance method least-outstanding batch-size 30	名前付きサーバー グループに対して最小未処理ロード バランシングを有効にします。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-sg) # end	サーバー グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## グローバル RADIUS サーバー グループのロード バランシングの有効化

グローバル RADIUS サーバー グループは、認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) 方式リストで「radius」として参照されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius-server host {hostname | ip-address} [test username name] [auth-port number] [ignore-auth-port] [acct-port number] [ignore-acct-port] [idle-time seconds]**
4. **radius-server load-balance method least-outstanding [ batch-size number] [ignore-preferred-server]**

5. **load-balance method least-outstanding** [ *batch-size number* ] [**ignore-preferred-server**]
6. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius-server host</b> { <i>hostname</i>   <i>ip-address</i> } [ <b>test username</b> <i>name</i> ] [ <b>auth-port</b> <i>number</i> ] [ <b>ignore-auth-port</b> ] [ <b>acct-port</b> <i>number</i> ] [ <b>ignore-acct-port</b> ] [ <b>idle-time</b> <i>seconds</i> ] <b>Example:</b> Device(config)# radius-server host 192.0.2.1 test username test1 idle-time 1	RADIUS 自動テストを有効にします。
ステップ 4	<b>radius-server load-balance method least-outstanding</b> [ <i>batch-size number</i> ] [ <b>ignore-preferred-server</b> ] <b>Example:</b> Device(config)# radius-server load-balance method least-outstanding	グローバル RADIUS サーバー グループに対して最小未処理ロードバランシングを有効にし、サーバーグループ コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルトのバッチ サイズは 25 です。バッチ サイズの範囲は 1 ～ 2147483647 です。</li> </ul>
ステップ 5	<b>load-balance method least-outstanding</b> [ <i>batch-size number</i> ] [ <b>ignore-preferred-server</b> ] <b>Example:</b> Device(config-sg)# load-balance method least-outstanding batch-size 5	グローバル名前付きサーバーグループに対して最小未処理ロードバランシングを有効にします。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-sg)# end	サーバー グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## RADIUS サーバ ロード バランシングのトラブルシューティング

RADIUS サーバ ロード バランシング機能を設定した後は、アイドルタイマー、デッドタイマー、ロードバランシングサーバの選択をモニターしたり、手動テスト コマンドを使用してサーバ ステータスを確認したりできます。

### SUMMARY STEPS

1. **debug aaa test** コマンドを使用して、アイドルタイマーやデッドタイマーが期限切れになった日時、テスト パケットが送信された日時、およびサーバ ステータスを特定し、サーバの状態を確認します。
2. **debug aaa sg-server selection** コマンドを使用して、ロードバランシング用に選択されたサーバを特定します。
3. **test aaa group** コマンドを使用して、RADIUS ロードバランシングサーバのステータスを手動で確認します。

### DETAILED STEPS

#### Procedure

**ステップ 1 debug aaa test** コマンドを使用して、アイドルタイマーやデッドタイマーが期限切れになった日時、テスト パケットが送信された日時、およびサーバ ステータスを特定し、サーバの状態を確認します。

アイドルタイマーは、サーバステータスのチェックに使用され、着信要求の有無に関係なく更新されます。アイドルタイマーをモニターすると、未応答のサーバが存在するかどうかを判断し、RADIUS サーバのステータスを最新の状態に保つことができるため、利用可能なリソースを効率的に利用できます。たとえば、アイドルタイマーが更新されていれば、着信要求が動作中のサーバに送信されていることを簡単に確認できます。

デッドタイマーは、サーバが停止中であることを特定したり、停止中のサーバのステータスを適切に更新したりするために使用します。

サーバの選択をモニターすると、サーバの選択が変更される頻度を特定するのに役立ちます。サーバの選択は、ボトルネック、つまり、キュー内に大量の要求が存在するかどうかや、特定のサーバのみが着信要求を処理しているかどうかを分析するのに有効です。

**debug aaa test** コマンドの次のサンプル出力は、アイドルタイマーが期限切れになった日時を示しています。

#### Example:

```
Device# debug aaa test

Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST: Server (192.0.2.245:1700,1701) quarantined.
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST: Sending test request(s) to server (192.0.2.245:1700,1701)
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST: Sending 1 Access-Requests, 1 Accounting-Requests in current batch.
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST(Req#: 1): Sending test AAA Access-Request.
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST(Req#: 1): Sending test AAA Accounting-Request.
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST: Obtained Test response from server (192.0.2.245:1700,1701)
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST: Obtained Test response from server (192.0.2.245:1700,1701)
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST: Necessary responses received from server (192.0.2.245:1700,1701)
```

```
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST: Server (192.0.2.245:1700,1701) marked ALIVE. Idle timer set for 60
sec(s).
Jul 16 00:07:01: AAA/SG/TEST: Server (192.0.2.245:1700,1701) removed from quarantine.
```

**ステップ 2 debug aaa sg-server selection** コマンドを使用して、ロード バランシング 用に選択されたサーバーを特定します。

**debug aaa sg-server selection** コマンドの次のサンプル出力は、5つのアクセス要求がバッチサイズ3のサーバー グループに送信されていることを示しています。

#### Example:

```
Device# debug aaa sg-server selection
```

```
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Obtaining least loaded server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: [3] transactions remaining in batch. Reusing server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Obtaining least loaded server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: [2] transactions remaining in batch. Reusing server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Obtaining least loaded server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: [1] transactions remaining in batch. Reusing server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Obtaining least loaded server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: No more transactions in batch. Obtaining a new server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Obtaining a new least loaded server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Server[0] load: 3
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Server[1] load: 0
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Server[2] load: 0
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Selected Server[1] with load 0
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: [3] transactions remaining in batch.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: Obtaining least loaded server.
Jul 16 03:15:05: AAA/SG/SERVER_SELECT: [2] transactions remaining in batch. Reusing server.
```

**ステップ 3 test aaa group** コマンドを使用して、RADIUS ロード バランシング サーバーのステータスを手動で確認します。

次のサンプル出力は、ユーザー名「test」がユーザー プロファイルと一致しない場合の動作中の RADIUS ロード バランシング サーバーからの応答を示しています。**test aaa group** コマンドを使用して生成された認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) パケットに対し、サーバーが **Access-Reject** 応答を発行する場合、そのサーバーは動作中であることが確認されます。

#### Example:

```
Device# test aaa group SG1 test lab new-code
```

```
00:06:07: RADIUS/ENCODE(00000000):Orig. component type = INVALID
00:06:07: RADIUS/ENCODE(00000000): dropping service type, "radius-server attribute 6 on-for-login-auth"
is off
00:06:07: RADIUS(00000000): Config NAS IP: 192.0.2.4
00:06:07: RADIUS(00000000): sending
00:06:07: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 192.0.2.141 for Radius-Server 192.0.2.176
00:06:07: RADIUS(00000000): Send Access-Request to 192.0.2.176:1645 id 1645/1, len 50
00:06:07: RADIUS: authenticator CA DB F4 9B 7B 66 C8 A9 - D1 99 4E 8E A4 46 99 B4
00:06:07: RADIUS: User-Password [2] 18 *
00:06:07: RADIUS: User-Name [1] 6 "test"
00:06:07: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6 192.0.2.141
00:06:07: RADIUS: Received from id 1645/1 192.0.2.176:1645, Access-Reject, len 44
00:06:07: RADIUS: authenticator 2F 69 84 3E F0 4E F1 62 - AB B8 75 5B 38 82 49 C3
00:06:07: RADIUS: Reply-Message [18] 24
00:06:07: RADIUS: 41 75 74 68 65 6E 74 69 63 61 74 69 6F 6E 20 66 [Authentication f]
00:06:07: RADIUS: 61 69 6C 75 72 65 [failure]
```



```
00:06:07: RADIUS(00000000): Received from id 1645/1
00:06:07: RADIUS/DECODE: Reply-Message fragments, 22, total 22 bytes
```

## RADIUS サーバ ロード バランシングの設定例

### 例：グローバル RADIUS サーバ グループのロード バランシングの有効化

次の例は、グローバル RADIUS サーバ グループのロード バランシングを有効化する方法を示しています。これらの例は、RADIUS コマンド出力の現在の設定、デバッグ出力、認証、認可、およびアカウントिंग（AAA）サーバのステータス情報という3つの部分からなります。区切り文字を使用して、設定の関連する部分を表示できます。

次の例は、関連する RADIUS 設定を示しています。

```
Device# show running-config | include radius

aaa authentication ppp default group radius
aaa accounting network default start-stop group radius
radius-server host 192.0.2.238 auth-port 2095 acct-port 2096 key cisco
radius-server host 192.0.2.238 auth-port 2015 acct-port 2016 key cisco
radius-server load-balance method least-outstanding batch-size 5
```

上記の RADIUS コマンド出力のうち、現在の設定に関する行は次のように定義されます。

- **aaa authentication ppp** コマンドは RADIUS を使用してすべての PPP ユーザーを認証します。
- **aaa accounting** コマンドは、クライアントが認証された後に **start-stop** キーワードを使用して切断されたときに、すべてのアカウントिंग要求を AAA サーバに送信できるようにします。
- **radius-server host** コマンドは、指定された認可ポートおよびアカウントिंगポートと、特定された認証および暗号キーを使用して、RADIUS サーバ ホストの IP アドレスを定義します。
- **radius-server load-balance** コマンドは、バッチ サイズが指定されたグローバル RADIUS サーバ グループのロード バランシングを有効化します。

下の **show debug** サンプル出力は、設定に関する優先サーバの選択と要求の処理を示しています。

```
Device# show debug

General OS:
  AAA server group server selection debugging is on
#
<sending 10 pppoe requests>
Device#
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000014):No preferred server available.
```

```

*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:No more transactions in batch. Obtaining a new
server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining a new least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[0] load:0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[1] load:0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Selected Server[0] with load 0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[5] transactions remaining in batch.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000014):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000015):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[4] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000015):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000016):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[3] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000016):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000017):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[2] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000017):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000018):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[1] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000018):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000019):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:No more transactions in batch. Obtaining a new
server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining a new least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[1] load:0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[0] load:5
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Selected Server[1] with load 0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[5] transactions remaining in batch.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000019):Server (192.0.2.238:2015,2016) now
being used as preferred server.

```

**show aaa servers** コマンドの次のサンプル出力は、グローバル RADIUS サーバー グループ設定に対する AAA サーバーのステータスを示しています。

このサンプル出力は、2つの RADIUS サーバーのステータスを示しています。両方のサーバーが稼働しており、最後の 2 分間に次の要求が正常に処理されました。

- 6 件の認証要求のうち 5 件
- 5 件のアカウントング要求のうち 5 件

```
Device# show aaa servers
```

```

RADIUS:id 4, priority 1, host 192.0.2.238, auth-port 2095, acct-port 2096
  State:current UP, duration 3175s, previous duration 0s
  Dead:total time 0s, count 0
  Quarantined:No
  Authen:request 6, timeouts 1

```

```

        Response:unexpected 1, server error 0, incorrect 0, time 1841ms
        Transaction:success 5, failure 0
    Author:request 0, timeouts 0
        Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
        Transaction:success 0, failure 0
    Account:request 5, timeouts 0
        Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 3303ms
        Transaction:success 5, failure 0
    Elapsed time since counters last cleared:2m
RADIUS:id 5, priority 2, host 192.0.2.238, auth-port 2015, acct-port 2016
    State:current UP, duration 3175s, previous duration 0s
    Dead:total time 0s, count 0
    Quarantined:No
    Authen:request 6, timeouts 1
        Response:unexpected 1, server error 0, incorrect 0, time 1955ms
        Transaction:success 5, failure 0
    Author:request 0, timeouts 0
        Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
        Transaction:success 0, failure 0
    Account:request 5, timeouts 0
        Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 3247ms
        Transaction:success 5, failure 0
    Elapsed time since counters last cleared:2m

```

## 例：サーバー設定とグローバル RADIUS サーバー グループに対するロードバランシングの有効化

次の例は、関連する RADIUS 設定を示しています。

```
Device# show running-config | include radius
```

```

aaa authentication ppp default group radius
aaa accounting network default start-stop group radius
radius-server host 192.0.2.238 auth-port 2095 acct-port 2096 key cisco
radius-server host 192.0.2.238 auth-port 2015 acct-port 2016 key cisco
radius-server load-balance method least-outstanding batch-size 5

```

上記の RADIUS コマンド出力のうち、現在の設定に関する行は次のように定義されます。

- **aaa authentication ppp** コマンドは RADIUS を使用してすべての PPP ユーザーを認証します。
- **aaa accounting** コマンドは、クライアントが認証された後に **start-stop** キーワードを使用して切断されたときに、すべてのアカウント要求を認証、認可、およびアカウントリング (AAA) サーバーに送信できるようにします。
- **radius-server host** コマンドは、指定された認可ポートおよびアカウントリングポートと、特定された認証および暗号キーを使用して、RADIUS サーバー ホストの IP アドレスを定義します。
- **radius-server load-balance** コマンドは、バッチ サイズが指定されたグローバル RADIUS サーバー グループのロードバランシングを有効化します。

## 例：グローバル RADIUS サーバー グループのデバッグ出力

下の **debug** コマンドの出力は、設定に関する優先サーバーの選択と要求の処理を示しています。

## 例：グローバル RADIUS サーバー グループのサーバー ステータス情報

```

Device# show debug

General OS:
  AAA server group server selection debugging is on
#
<sending 10 pppoe requests>
Device#
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000014):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:No more transactions in batch. Obtaining a new
  server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining a new least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[0] load:0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[1] load:0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Selected Server[0] with load 0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[5] transactions remaining in batch.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000014):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
  being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000015):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[4] transactions remaining in batch. Reusing
  server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000015):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
  being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000016):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[3] transactions remaining in batch. Reusing
  server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000016):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
  being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000017):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[2] transactions remaining in batch. Reusing
  server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000017):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
  being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000018):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[1] transactions remaining in batch. Reusing
  server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000018):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
  being used as preferred server
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000019):No preferred server available.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:No more transactions in batch. Obtaining a new
  server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining a new least loaded server.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[1] load:0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[0] load:5
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:Selected Server[1] with load 0
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT:[5] transactions remaining in batch.
*Feb 28 13:40:32.199:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000019):Server (192.0.2.238:2015,2016) now
  being used as preferred server.

```

## 例：グローバル RADIUS サーバー グループのサーバー ステータス情報

**show aaa server** コマンドの次のサンプル出力は、グローバル RADIUS サーバー グループ設定に対する AAA サーバーのステータスを示しています。

```

Device# show aaa server

RADIUS:id 4, priority 1, host 192.0.2.238, auth-port 2095, acct-port 2096
  State:current UP, duration 3175s, previous duration 0s

```

```

Dead:total time 0s, count 0
Quarantined:No
Authen:request 6, timeouts 1
    Response:unexpected 1, server error 0, incorrect 0, time 1841ms
    Transaction:success 5, failure 0
Author:request 0, timeouts 0
    Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
    Transaction:success 0, failure 0
Account:request 5, timeouts 0
    Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 3303ms
    Transaction:success 5, failure 0
Elapsed time since counters last cleared:2m
RADIUS:id 5, priority 2, host 192.0.2.238, auth-port 2015, acct-port 2016
State:current UP, duration 3175s, previous duration 0s
Dead:total time 0s, count 0
Quarantined:No
Authen:request 6, timeouts 1
    Response:unexpected 1, server error 0, incorrect 0, time 1955ms
    Transaction:success 5, failure 0
Author:request 0, timeouts 0
    Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
    Transaction:success 0, failure 0
Account:request 5, timeouts 0
    Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 3247ms
    Transaction:success 5, failure 0
Elapsed time since counters last cleared:2m

```

このサンプル出力は、2つの RADIUS サーバーのステータスを示しています。両方のサーバーが稼働しており、最後の 2 分間に次の要求が正常に処理されました。

- 6つの認証要求のうち5つ
- 5つのアカウントिंग要求のうち5つ

## 例：名前付き RADIUS サーバグループのロードバランシングの有効化

次の例は、名前付き RADIUS サーバグループで有効化されたロードバランシングを示しています。これらの例は、RADIUS コマンド出力の現在の設定、デバッグ出力、認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) サーバーのステータス情報という3つの部分からなります。

次のサンプル出力は、関連する RADIUS 設定を示しています。

```

Device# show running-config
.
.
.
aaa group server radius server-group1
 server 192.0.2.238 auth-port 2095 acct-port 2096
 server 192.0.2.238 auth-port 2015 acct-port 2016
 load-balance method least-outstanding batch-size 5
!
aaa authentication ppp default group server-group1
aaa accounting network default start-stop group server-group1
.
.
.
Device(config-sg-radius)# load-balance method least-outstanding batch-size 30

```

上記の RADIUS コマンド出力のうち、現在の設定に関する行は次のように定義されます。

- **aaa group server radius** コマンドは、2つのメンバーサーバからなるサーバグループの設定を表示します。
- **load-balance** コマンドは、バッチサイズが指定されたグローバル RADIUS サーバグループのロードバランシングを有効化します。
- **aaa authentication ppp** コマンドは RADIUS を使用してすべての PPP ユーザーを認証します。
- **aaa accounting** コマンドは、クライアントが認証された後に **start-stop** キーワードを使用して切断されたときに、すべてのアカウントング要求を AAA サーバに送信できるようにします。

下の show debug サンプル出力は、前の設定に関する優先サーバの選択と要求の処理を示しています。

```
Device# show debug

*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002C):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:No more transactions in batch. Obtaining a new
server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining a new least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[0] load:0
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[1] load:0
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Selected Server[0] with load 0
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[5] transactions remaining in batch.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002C):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002D):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[4] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002D):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002E):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[3] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002E):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002F):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[2] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002F):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000030):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[1] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000030):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000031):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:No more transactions in batch. Obtaining a new
server.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining a new least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[1] load:0
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[0] load:5
```

```
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Selected Server[1] with load 0
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:[5] transactions remaining in batch.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000031):Server (192.0.2.238:2015,2016) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000032):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:[4] transactions remaining in batch. Reusing
server.
.
.
.
```

**show aaa servers** コマンドの次のサンプル出力は、名前付き RADIUS サーバー グループ設定に対する AAA サーバーのステータスを示しています。

このサンプル出力は、2つの RADIUS サーバーのステータスを示しています。両方のサーバーが動作中ですが、カウンタが0分前にクリアされて以降は、どの要求も処理されていません。

```
Device# show aaa servers

RADIUS:id 8, priority 1, host 192.0.2.238, auth-port 2095, acct-port 2096
State:current UP, duration 3781s, previous duration 0s
Dead:total time 0s, count 0
Quarantined:No
Authen:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Author:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Account:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Elapsed time since counters last cleared:0m
RADIUS:id 9, priority 2, host 192.0.2.238, auth-port 2015, acct-port 2016
State:current UP, duration 3781s, previous duration 0s
Dead:total time 0s, count 0
Quarantined:No
Authen:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Author:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Account:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Elapsed time since counters last cleared:0m
```

## 例：サーバー設定と名前付き RADIUS サーバー グループに対するロードバランシングの有効化

次のサンプル出力は、関連する RADIUS 設定を示しています。

```
Device# show running-config
.
.
.
aaa group server radius server-group1
server 192.0.2.238 auth-port 2095 acct-port 2096
server 192.0.2.238 auth-port 2015 acct-port 2016
load-balance method least-outstanding batch-size 5
```

## 例：名前付き RADIUS サーバー グループのデバッグ出力

```
!
aaa authentication ppp default group server-group1
aaa accounting network default start-stop group server-group1
.
.
.
```

上記の RADIUS コマンド出力のうち、現在の設定に関する行は次のように定義されます。

- **aaa group server radius** コマンドは、2つのメンバーサーバーからなるサーバーグループの設定を表示します。
- **load-balance** コマンドは、バッチサイズが指定されたグローバル RADIUS サーバーグループのロードバランシングを有効化します。
- **aaa authentication ppp** コマンドは RADIUS を使用してすべての PPP ユーザーを認証します。
- **aaa accounting** コマンドは、クライアントが認証された後に **start-stop** キーワードを使用して切断されたときに、すべてのアカウント要求を AAA サーバーに送信できるようにします。

## 例：名前付き RADIUS サーバーグループのデバッグ出力

下のデバッグサンプル出力は、上の設定に関する優先サーバーの選択と要求の処理を示しています。

```
Device# show debug
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002C):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:No more transactions in batch. Obtaining a new server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining a new least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[0] load:0
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[1] load:0
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Selected Server[0] with load 0
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[5] transactions remaining in batch.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002C):Server (192.0.2.238:2095,2096) now being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002D):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[4] transactions remaining in batch. Reusing server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002D):Server (192.0.2.238:2095,2096) now being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002E):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[3] transactions remaining in batch. Reusing server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002E):Server (192.0.2.238:2095,2096) now being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002F):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[2] transactions remaining in batch. Reusing server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(0000002F):Server (192.0.2.238:2095,2096) now being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000030):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
```



```
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT:[1] transactions remaining in batch. Reusing
server.
*Feb 28 13:51:16.019:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000030):Server (192.0.2.238:2095,2096) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000031):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:No more transactions in batch. Obtaining a new
server.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining a new least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[1] load:0
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Server[0] load:5
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Selected Server[1] with load 0
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:[5] transactions remaining in batch.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000031):Server (192.0.2.238:2015,2016) now
being used as preferred server
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT(00000032):No preferred server available.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:Obtaining least loaded server.
*Feb 28 13:51:16.023:AAA/SG/SERVER_SELECT:[4] transactions remaining in batch. Reusing
server.
.
.
.
```

## 例：名前付き RADIUS サーバー グループのサーバー ステータス情報

**show aaa servers** コマンドの次のサンプル出力は、名前付き RADIUS サーバー グループ設定に対する AAA サーバーのステータスを示しています。

```
Device# show aaa servers

RADIUS:id 8, priority 1, host 192.0.2.238, auth-port 2095, acct-port 2096
State:current UP, duration 3781s, previous duration 0s
Dead:total time 0s, count 0
Quarantined:No
Authen:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Author:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Account:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Elapsed time since counters last cleared:0m
RADIUS:id 9, priority 2, host 192.0.2.238, auth-port 2015, acct-port 2016
State:current UP, duration 3781s, previous duration 0s
Dead:total time 0s, count 0
Quarantined:No
Authen:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Author:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Account:request 0, timeouts 0
      Response:unexpected 0, server error 0, incorrect 0, time 0ms
      Transaction:success 0, failure 0
Elapsed time since counters last cleared:0m
```

このサンプル出力は、2つの RADIUS サーバーのステータスを示しています。両方のサーバーが動作中ですが、カウンタが0分前にクリアされて以降は、どの要求も処理されていません。

## 例：アイドルタイマーのモニタリング

次の例は、名前付き RADIUS サーバー グループに対して有効にされたロード バランシングに関するアイドルタイマーと関連するサーバー状態を示しています。RADIUS コマンド出力と debug コマンド出力の現在の設定も表示されます。

次のサンプル出力は、関連する RADIUS 設定を示しています。

```
Device# show running-config | include radius

aaa group server radius server-group1
radius-server host 192.0.2.238 auth-port 2095 acct-port 2096 test username junk1 idle-time
 1 key cisco
radius-server host 192.0.2.238 auth-port 2015 acct-port 2016 test username junk1 idle-time
 1 key cisco
radius-server load-balance method least-outstanding batch-size 5
```

上記の RADIUS コマンド出力のうち、現在の設定に関する行は次のように定義されます。

- **aaa group server radius** コマンドは、サーバー グループの設定を表示します。
- **radius-server host** コマンドは、指定された認可ポートおよびアカウントングポートと、特定された認証および暗号キーを使用して、RADIUS サーバー ホストの IP アドレスを定義します。
- **radius-server load-balance** コマンドは、バッチ サイズが指定された RADIUS サーバーのロード バランシングを有効化します。

下の **show debug** サンプル出力は、サーバーに送信されるテスト要求を示しています。サーバーに送信されたテスト要求に対する応答が受信され、必要に応じて、隔離からサーバーが除外され、サーバーが動作中としてマークされてから、アイドルタイマーがリセットされます。

```
Device# show debug

*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST:Server (192.0.2.238:2015,2016) quarantined.
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST:Sending test request(s) to server (192.0.2.238:2015,2016)
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST:Sending 1 Access-Requests, 1 Accounting-Requests in
current batch.
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST(Req#:1):Sending test AAA Access-Request.
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST(Req#:1):Sending test AAA Accounting-Request.
*Feb 28 13:52:21.087:AAA/SG/TEST:Obtained Test response from server (192.0.2.238:2015,2016)
*Feb 28 13:52:22.651:AAA/SG/TEST:Obtained Test response from server (192.0.2.238:2015,2016)
*Feb 28 13:52:22.651:AAA/SG/TEST:Necessary responses received from server
(192.0.2.238:2015,2016)
*Feb 28 13:52:22.651:AAA/SG/TEST:Server (192.0.2.238:2015,2016) marked ALIVE. Idle timer
set for 60 secs(s).
*Feb 28 13:52:22.651:AAA/SG/TEST:Server (192.0.2.238:2015,2016) removed from quarantine.
.
.
.
```

## 例：サーバー設定とアイドルタイマー モニタリングに対するロード バランシングの有効化

次のサンプル出力は、関連する RADIUS 設定を示しています。

```
Device# show running-config | include radius
```

```

aaa group server radius server-group1
radius-server host 192.0.2.238 auth-port 2095 acct-port 2096 test username junk1 idle-time
 1 key cisco
radius-server host 192.0.2.238 auth-port 2015 acct-port 2016 test username junk1 idle-time
 1 key cisco
radius-server load-balance method least-outstanding batch-size 5

```

上記の RADIUS コマンド出力のうち、現在の設定に関する行は次のように定義されます。

- **aaa group server radius** コマンドは、サーバー グループの設定を表示します。
- **radius-server host** コマンドは、指定された認可ポートおよびアカウントングポートと、特定された認証および暗号キーを使用して、RADIUS サーバー ホストの IP アドレスを定義します。
- **radius-server load-balance** コマンドは、バッチ サイズが指定された RADIUS サーバーのロード バランシングを有効化します。

## 例：アイドルタイマーモニタリングのデバッグ出力

下の **debug** コマンドの出力は、サーバーに送信されるテスト要求を示しています。サーバーに送信されたテスト要求に対する応答が受信され、必要に応じて、隔離からサーバーが除外され、動作中としてマークされてから、アイドルタイマーがリセットされます。

```

Device# show debug
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST:Server (192.0.2.238:2015,2016) quarantined.
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST:Sending test request(s) to server (192.0.2.238:2015,2016)
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST:Sending 1 Access-Requests, 1 Accounting-Requests in
current batch.
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST(Req#:1):Sending test AAA Access-Request.
*Feb 28 13:52:20.835:AAA/SG/TEST(Req#:1):Sending test AAA Accounting-Request.
*Feb 28 13:52:21.087:AAA/SG/TEST:Obtained Test response from server (192.0.2.238:2015,2016)
*Feb 28 13:52:22.651:AAA/SG/TEST:Obtained Test response from server (192.0.2.238:2015,2016)
*Feb 28 13:52:22.651:AAA/SG/TEST:Necessary responses received from server
(192.0.2.238:2015,2016)
*Feb 28 13:52:22.651:AAA/SG/TEST:Server (192.0.2.238:2015,2016) marked ALIVE. Idle timer
set for 60 secs(s).
*Feb 28 13:52:22.651:AAA/SG/TEST:Server (192.0.2.238:2015,2016) removed from quarantine.
.
.
.

```

## 例：認証サーバと認可サーバが同じ優先サーバの設定

次の例は、サーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 を共有する認証サーバー グループと認可サーバー グループを示しています。両方のサーバー グループで優先サーバー フラグが有効になっています。

```

aaa group server radius authentication-group
  server 209.165.200.225 key radkey1
  server 209.165.200.226 key radkey2
aaa group server radius accounting-group
  server 209.165.200.225 key radkey1
  server 209.165.200.226 key radkey2

```

あるセッションで優先サーバーが選択されると、そのセッションのすべてのトランザクションでオリジナルの優先サーバーの使用が継続されます。サーバーの 209.165.200.225 と

209.165.200.226は、トランザクションではなく、セッションに基づいてロードバランシングされます。

## 例：認証サーバと認可サーバが別々の優先サーバの設定

次の例は、サーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 を使用する認証サーバー グループとサーバーの 209.165.201.1 と 209.165.201.2 を使用する認可サーバー グループを示しています。両方のサーバー グループで優先サーバー フラグが有効になっています。

```
aaa group server radius authentication-group
  server 209.165.200.225 key radkey1
  server 209.165.200.226 key radkey2
aaa group server radius accounting-group
  server 209.165.201.1 key radkey3
  server 209.165.201.2 key radkey4
```

認証サーバー グループとアカウントिंगサーバー グループほどの共通サーバーも共有しません。アカウントング トランザクションでは優先サーバーは検出されないため、認証サーバーとアカウントングサーバーはトランザクションに基づいてロードバランシングされます。1つのセッションで開始レコードと終了レコードが同じサーバーに送信されます。

## 例：認証サーバと認可サーバが重複している優先サーバの設定

次の例は、サーバーの 209.165.200.225、209.165.200.226、および 209.165.201.1 を使用する認証サーバー グループとサーバーの 209.165.201.1 と 209.165.201.2 を使用する認可サーバー グループを示しています。両方のサーバー グループで優先サーバー フラグが有効になっています。

```
aaa group server radius authentication-group
  server 209.165.200.225 key radkey1
  server 209.165.200.226 key radkey2
  server 209.165.201.1 key radkey3
aaa group server radius accounting-group
  server 209.165.201.1 key radkey3
  server 209.165.201.2 key radkey4
```

すべてのサーバーのトランザクション処理能力が同じ場合は、すべての認証トランザクションの 1/3 がサーバーの 209.165.201.1 に転送されます。したがって、すべてのアカウントング トランザクションの 1/3 もサーバーの 209.165.201.1 に転送されます。アカウントング トランザクションの残りの 2/3 は、サーバーの 209.165.201.1 と 209.165.201.2 の間で均等にロードバランシングされます。サーバーの 209.165.201.1 に未処理のアカウントング トランザクションがあるため、サーバーの 209.165.201.1 が受信する認証トランザクション数は減少します。

## 例：認証サーバが認可サーバのサブセットである優先サーバの設定

次の例は、サーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 を使用する認証サーバー グループと、サーバーの 209.165.200.225、209.165.200.226、および 209.165.201.1 を使用する認可サーバー グループを示しています。両方のサーバー グループで優先サーバー フラグが有効になっています。

```
aaa group server radius authentication-group
  server 209.165.200.225 key radkey1
  server 209.165.200.226 key radkey2
```

```
aaa group server radius accounting-group
server 209.165.200.225 key radkey1
server 209.165.200.226 key radkey2
server 209.165.201.1 key radkey3
```

すべての認証トランザクションの半分がサーバーの 209.165.200.225 に送信され、残りの半分がサーバーの 209.165.200.226 に送信されます。サーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 は、認証およびアカウントングトランザクションの優先サーバーです。そのため、認証およびアカウントングトランザクションは、サーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 に均等に分配されます。サーバーの 209.165.201.1 は相対的に使用されません。

## 例：認証サーバが認可サーバのスーパーセットである優先サーバの設定

次の例は、サーバーの 209.165.200.225、209.165.200.226、および 209.165.201.1 を使用する認証サーバーグループとサーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 を使用する認可サーバーグループを示しています。両方のサーバーグループで優先サーバーフラグが有効になっています。

```
aaa group server radius authentication-group
server 209.165.200.225 key radkey1
server 209.165.200.226 key radkey2
server 209.165.201.1 key radkey3
aaa group server radius accounting-group
server 209.165.200.225 key radkey1
server 209.165.200.226 key radkey2
```

最初に、認証トランザクションの 1/3 が認可サーバーグループ内の各サーバーに割り当てられます。追加のセッションに対してアカウントングトランザクションが生成されますが、優先サーバーフラグがオンになっているため、アカウントングトランザクションはサーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 に送信されます。サーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 がトランザクションの処理を開始しますが、認証トランザクションはサーバーの 209.165.201.1 に送信されます。サーバーの 209.165.201.1 で認証されたトランザクション要求は、どの優先サーバー設定も含まず、サーバーの 209.165.200.225 と 209.165.200.226 に分配されるため、優先サーバーフラグの使用が無効になります。この設定は慎重に使用する必要があります。

## RADIUS サーバ ロード バランシングのその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
AAA および RADIUS	『Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide』
AAA サーバ グループと RADIUS 設定	『RADIUS Configuration Guide』の「Configuring RADIUS」モジュール
フェールオーバー再試行順序変更モード	『RADIUS Configuration Guide』の「RADIUS Server Reorder on Failure」モジュール

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## RADIUS サーバー ロード バランシングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 83: RADIUS サーバー ロード バランシングの機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS サーバー ロード バランシング	12.2(28)SB 12.4(11)T 12.2(33)SRC	<p>RADIUS サーバー ロード バランシング機能は、認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) の認証トランザクションとアカウントिंग トランザクションをサーバーグループ内のサーバーに分配します。これらのサーバーは、トランザクションの負荷を分担し、空いているサーバーを効率的に使用して着信要求に対するより迅速な応答を実現します。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release 12.2(28)SB に統合されました。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release 12.4(11)T に統合されました。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release 12.2(33)SRC に統合されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>debug aaa sg-server selection</b>、<b>debug aaa test</b>、<b>load-balance (server-group)</b>、<b>radius-server host</b>、<b>radius-server load-balance</b>、<b>test aaa group</b>。</p>
RADIUS サーバー ロード バランシング ポーティング	Cisco IOS XE Release 2.1	この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズ ルーターで導入されました。







## CHAPTER 59

# RADIUS サーバー障害発生時順序変更

RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能は、高負荷期間またはサーバーで障害が発生した場合に、サーバーグループ内の別のサーバーへのフェールオーバーを提供します。障害発生後は、すべての RADIUS トラフィックが新しいサーバーに転送されます。新しいサーバーからサーバーグループ内の別のサーバーにトラフィックが切り替えられるのは、新しいサーバーでも障害が発生した場合に限られます。トラフィックが自動的に最初にサーバーに戻されることはありません。

RADIUS トランザクションを複数のサーバーに分散させることによって、認証要求とアカウントिंग要求がより迅速に処理されます。

- [RADIUS サーバー障害発生時順序変更の前提条件, on page 713](#)
- [RADIUS サーバー障害発生時順序変更の制約事項, on page 714](#)
- [RADIUS サーバー障害発生時順序変更に関する情報, on page 714](#)
- [RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定方法, on page 715](#)
- [RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定例, on page 720](#)
- [その他の参考資料, on page 722](#)
- [RADIUS サーバー障害発生時順序変更の機能情報, on page 723](#)

## RADIUS サーバー障害発生時順序変更の前提条件

- 障害発生時に順序変更を実行するように RADIUS サーバーを設定する前に、**aaa new-model** コマンドを使用して、認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) を有効にする必要があります。
- 認証、アカウントिंग、スタティック ルート ダウンロードなどの機能用に RADIUS を設定する必要があります。

## RADIUS サーバー障害発生時順序変更の制約事項

- サーバーグループごとに新しい4バイトのメモリが消費されます。ただし、ほとんどのサーバーは少数のサーバーグループのみに設定されているため、追加の4バイトはそれほど性能に影響しない可能性があります。
- Cisco IOS XE ソフトウェアセット内の RADIUS 機能によっては、この機能を使用できない場合があります。RADIUS 機能で RADIUS サーバ障害発生時順序変更機能を使用できない場合は、順序変更機能が設定されていないかのようにサーバが動作します。

## RADIUS サーバー障害発生時順序変更に関する情報

### RADIUS サーバーの障害

RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能が設定されていない状態でサーバーの障害が発生した場合：

1. 新しい RADIUS トランザクションを実行する必要があります。
2. トランザクション用の RADIUS パケットが、グループ内で停止中としてマークされていない（設定されたデッドタイムに従って）最初のサーバーに送信され、設定された再送回数だけ再送されます。
3. 再送のすべてがタイムアウトした（設定されたタイムアウトに従って）場合は、ルータがそのパケットをリストで次の非停止中サーバーに設定された再送回数だけ送信します。
4. ステップ 3 は、トランザクションごとに指定された最大送信回数に達するまで繰り返されます。最大送信回数に到達する前にリストの最後に到達した場合は、ルータがリストの先頭に戻ってそこから処理を続けます。

このプロセスのどの時点でも、サーバーが停止中サーバーの検出基準（設定不可。使用されている Cisco IOS XE ソフトウェアのバージョンによって異なる）を満たした場合は、設定されたデッドタイムに合わせてサーバーが停止中としてマークされます。

### RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能の動作方法

RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能を設定した場合は、次のように、初期サーバーとして使用する RADIUS サーバーが決定されます。

- ネットワークアクセスサーバー（NAS）は、トランスミッションが送信される最初のサーバーである「フラグ設定された」サーバーのステータスを保持します。
- フラグ設定されたサーバーにトランスミッションが送信された後は、設定された再送回数だけ、フラグ設置されたサーバーにトラフィックが再送されます。

- その後は、NASが、フラグ設定されたサーバーの次にリストされたサーバーから始めて、設定されたトランザクションの最大再試行回数に到達するか、応答が返されるまで、サーバーグループ内の非停止中サーバーのリストの順にトランスミッションを送信します。
- 起動時は、**radius-server host** コマンドを使用して設定されたように、フラグ設定されたサーバーがサーバーグループリストで最初のサーバーになります。
- フラグ設定されたサーバーが停止中としてマークされている場合は（デッドタイムが0の場合でも）、フラグ設定されたサーバーの次にリストされた最初の非停止中サーバーがフラグ設定されたサーバーになります。
- フラグ設定されたサーバーが、リスト内の最後のサーバーで、停止中としてマークされている場合は、フラグ設定されたサーバーがリスト内で停止中としてマークされていない最初のサーバーになります。
- すべてのサーバーが停止中としてマークされている場合は、トランザクションが失敗して、フラグ設定されたサーバーへの変更が実施されません。
- フラグ設定されたサーバーが停止中としてマークされており、デッドタイマーが切れた場合は、何も行われません。

**Note**

トランスミッションのタイプ（チャレンジハンドシェイク認証プロトコル（CHAP）、Microsoft CHAP（MS-CHAP）、拡張可能認証プロトコル（EAP））によっては、1つのサーバーを何度も往復しなければならない場合があります。これらの特別なトランザクションでは、サーバーのラウンドトリップの全シーケンスは、1つのトランスミッションと同じように処理されます。

## RADIUS サーバーが停止中の場合

次の1と2の基準が満たされた場合に、サーバーを停止中としてマークすることができます。

1. **radius-server transaction max-tries** コマンドで指定された再送信回数を超えてサーバーが応答しなかった場合。
2. 設定されたタイムアウトまでどの要求にもサーバーが応答しなかった場合。両方の基準（これと上の基準）が満たされた場合にのみ、サーバーが停止中としてマークされます。デッドタイムが0の場合でも、サーバーを停止中としてマークすると、RADIUSサーバーの再試行方式順序変更システムに重大な影響を及ぼします。

# RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定方法

## RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定

このタスクを実行して、サーバーグループ内のあるサーバーを、最初のサーバーで障害が発生した場合に別のサーバーにトラフィックを転送するように設定します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **radius-server retry method reorder**
5. **radius-server retransmit {retries}**
6. **radius-server transaction max-tries { number }**
7. **radius-server host { hostname | ip-address } [ key string ]**
8. **radius-server host { hostname | ip-address } [ key string ]**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b>  Router (config)# aaa new-model	AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>radius-server retry method reorder</b> <b>Example:</b>  <b>Example:</b>  Router (config)# radius-server retry method reorder	サーバー グループ内の RADIUS トラフィック エントリの順序変更を指定します。
ステップ 5	<b>radius-server retransmit {retries}</b> <b>Example:</b>  Router (config)# radius-server retransmit 1	Cisco IOS XE ソフトウェアが RADIUS サーバー ホストのリストを検索する回数の最大値を指定します。  <i>retries</i> 引数は、再送信の最大試行回数です。デフォルトは 3 回に設定されています。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>radius-server transaction max-tries { number }</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# radius-server transaction max-tries 3</pre>	<p>RADIUS サーバー上で試行可能なトランザクション当たりのトランスミッション数の最大値を指定します。</p> <p><i>number</i> 引数は、トランザクション当たりのトランスミッション数の総数です。このコマンドが設定されなかった場合のデフォルトは 8 トランスミッションです。</p> <p><b>Note</b> このコマンドは、特定のトランザクションに関するすべての RADIUS サーバーに適用されます。</p>
ステップ 7	<b>radius-server host { hostname   ip-address } [ key string ]</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# radius-server host 10.2.3.4 key radi23</pre>	<p>RADIUS サーバー ホストを指定します。</p> <p><b>Note</b> <b>radius-server key</b> コマンドを発行することによって、サーバー単位キーが設定されていないすべての RADIUS サーバーのグローバルキーを設定することもできます。</p>
ステップ 8	<b>radius-server host { hostname   ip-address } [ key string ]</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# radius-server host 10.5.6.7 key rad234</pre>	<p>RADIUS サーバー ホストを指定します。</p> <p><b>Note</b> 少なくとも 2 つのサーバーを設定する必要があります。</p>

## RADIUS サーバー障害発生時順序変更のモニタリング

ルータ上でサーバー障害発生時順序変更プロセスをモニターするには、次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug aaa sg-server selection**
3. **debug radius**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>debug aaa sg-server selection</b> <b>Example:</b> Router# debug aaa sg-server selection	ルータ内の RADIUS および TACACS+ サーバー グループシステムが特定のサーバーを選択している理由に関する情報を表示します。
ステップ 3	<b>debug radius</b> <b>Example:</b> Router# debug radius	ルータが特定の RADIUS サーバーを選択している理由に関する情報を表示します。

## 例

## デバッグ 1

## デバッグ 2

次の 2 つのデバッグ出力は、RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能の動作を示しています。

次のサンプル出力では、RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能が設定されています。サーバーの再送は 0（したがって、次に設定されたサーバーへのフェールオーバー前に、各サーバーが一度だけ試行される）に設定され、トランザクション当たりのトランスミッション数は 4（3 回めのフェールオーバーでトランスミッション終了）に設定されています。サーバーグループ内で 3 番めのサーバー（10.107.164.118）が、3 回めのトランスミッション（2 回めのフェールオーバー）のトランザクションを受け入れています。

```
00:38:35: %SYS-5-CONFIG-I: Configured from console by console
00:38:53: RADIUS/ENCODE(0000000F) : ask "Username: "
00:38:53: RADIUS/ENCODE (0000000F) : send packet; GET-USER
00:38:58: RADIUS/ENCODE (0000000F) : ask "Password: "
00:38:58: RADIUS/ENCODE(0000000F) : send packet; GET-PASSWORD
00:38:59: RADIUS: AAA Unsupported [152] 4
00:38:59: RADIUS: 7474 [tt]
00:38:59: RADIUS (0000000F) : Storing nasport 2 in rad-db
00:38:59: RADIUS/ENCODE(0000000F) : dropping service type, "radius-server attribute 6
on-for-login-auth" is off
00:38:59: RADIUS (0000000F) : Config NAS IP: 0.0.0.0
00:38:59: RADIUS/ENCODE (0000000F) : acct-session-id: 15
```

```
00:38:59: RADIUS (0000000F) : sending
00:38:59: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 192.1.1.1
00:38:59: RADIUS(0000000F) : Send Access-Request to 10.10.10.10:1645 id 21645/11, len
78
00:38:59: RADIUS:: authenticator 4481 E6 65 2D 5F 6F 0A -1E F5 81 8F 4E 1478 9C
00:38:59: RADIUS: User-Name [1] 7 "username1"
00:38:59: RADIUS: User-Password [2] 18 *
00:38:59: RADIUS: NAS-Port fSl 6 2
00:~8:59: RADIUS: NAS-Port-Type [61] 6 Virtual [5]
00:38:59: RADIUS: Calling-Station-Id [31] 15 "10.19.192.23"
00:39:00: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6 10.0.1.130
00:39:02: RADIUS: Fail-over to (10.2.2.2:1645,1646) for id 21645/11
00:39:02: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 192.2.2.2
00:39:04: RADIUS: Fail-over to (10.107.164.118:1645,1646) for id 21645/11
00:39:04: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 128.107.164.118
00:39:05: RADIUS: Received from id 21645/11 10.107.164.118:1645, Access-Accept, len 26
00:39:05: RADIUS: authenticator 5609 56 F9 64 4E DF 19- F3 A2 DD 73 EE 3F 9826
00:39:05: RADIUS: Service-Type [6] 6 Login [1]
```

次のサンプル出力では、RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能が設定されていま  
す。サーバーの再送は0に設定され、トランザクション当たりのトランスミッション  
数は8に設定されています。このトランザクションでは、サーバー 10.10.10.0 へのト  
ランスミッションが8回めで失敗します。

```
00:42:30: RADIUS(00000011): Received from id 21645/13
00:43:34: RADIUS/ENCODE(00000012) : ask "Username: "
00:43:34: RADIUS/ENCODE(00000012) : send packet; GET-USER
00:43:39: RADIUS/ENCODE(00000012) : ask "Password: "
00:43:39: RADIUS/ENCODE(00000012) : send packet; GET-PASSWORD
00:43:40: RADIUS: AAA Unsupported [152] 4
00:43:40: RADIUS: 7474 [tt]
00:43:40: RADIUS(00000012) : Storing nasport 2 in rad-db
00:43:40: RADIUS/ENCODE(00000012): dropping service type, "radius-server attribute 6
on-for-login-auth" is off
00:43:40: RADIUS(00000012) : Co~fig NAS IP: 0.0.0.0
00:43:40: RADIUS/ENCODE(00000012) : acct-session-id: 18
00:43:40: RADIUS(00000012) : sending
00:43:40: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 10.107.164.118
00:43:40: RADIUS(00000012) : Send Access-Request to 10.107.164.118:1645 id 21645/14,
len 78
00:43:40: RADIUS: authenticator B8 0A 51 3A AF A6 0018 -B3 2E 94 5E 07 0B 2A 1F
00:43:40: RADIUS: User-Name [1] 7 "username1"
00:43:40: RADIUS: User-Password [2] 18 *
00:43:40: RADIUS: NAS-Port [5] 6 2
00:43:40: RADIUS: NAS-Port-Type [61] 6 Virtual [5]
00:43:40: RADIUS: Calling-Station-Id [31] 15 "172.19.192.23"
00:43:40: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6 10.0.1.130
00:43:42: RADIUS: Fail-over to (10.10.10.10:1645,1646) for id 21645/14
00:43:42: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 10.1.1.1
00:43:44: RADIUS: Fail-over to (10.2.2.2:1645,1646) for id 21645/14
00:43:44: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 10.2.2.2
00:43:46: RADIUS: Fail-over to (10.107.164.118:1645,1646) for id 21645/14
00:43:46: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 10.107.164.118
00:43:48: RADIUS: Fail-over to (10.10.10.10:1645,1646) for id 21645/14
00:43:48: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 10.1.1.1
00:43:50: RADIUS: Fail-over to (10.2.2.2:1645,1646) for id 21645/14
00:43:50: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 10.2.2.2
00:43:52: RADIUS: Fail-over to (10.107.164.118:1645,1646) for id 21645/14
00:43:52: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 10.107.164.118
00:43:54: RADIUS: Fail-over to (10.10.10.10:1645,1646) for id 21645/14
00:43:54: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.0.1.130 for Radius-Server 10.1.1.1
00:43:56: RADIUS: No response from (10.10.10.10:1645,1646) for id 21645/14
00:43:56: RADIUS/DECODE: parse response no app start; FAIL
00:43:56: RADIUS/DECODE: parse response;
FAIL
```

# RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定例

## RADIUS サーバーで障害発生時の順序変更を設定する例

次の設定例は、RADIUSサーバーが障害発生時に順序変更されるように設定されます。RADIUSサーバー上で試行可能なトランザクション当たりのトランスミッション数の最大値は6です。

```
aaa new-model

radius-server retry method reorder

radius-server retransmit 0

radius-server transaction max-tries 6

radius-server host 10.2.3.4 key rad123

radius-server host 10.5.6.7 key rad123
```

## RADIUS サーバーが停止中の送信順序の決定

起動時に次のように設定し、

```
Router(config)# aaa new-model
Router(config)# radius-server retry method reorder
Router(config)# radius-server retransmit 0
Router(config)# radius-server transaction max-tries 6
Router(config)# radius-server host 10.2.3.4
Router(config)# radius-server host 10.5.6.7
```

両方のサーバーがダウンしているが、まだ、停止中としてマークされていない場合は、最初のトランザクションで、次のようなトランスミッションが見られます。

```
10.2.3.4
10.5.6.7
10.2.3.4
10.5.6.7
10.2.3.4
10.5.6.7
```

順序変更を次のように設定し、

```
Router(config)# aaa new-model
Router(config)# radius-server retry method reorder
Router(config)# radius-server retransmit 1
Router(config)# radius-server transaction max-tries 3
Router(config)# radius-server host 10.2.3.4
Router(config)# radius-server host 10.4.5.6
```



両方の RADIUS サーバーが RADIUS パケットに応答していないが、まだ、停止中としてマークされていない（NASの起動後のため）場合は、最初のトランザクションのトランスミッションが次のようになります。

```
10.2.3.4
10.2.3.4
10.4.5.6
```

以降のトランザクションは、別のパターンに従って転送されます。トランスミッションは、どちらか（または両方）のサーバーを停止中としてマークする基準が満たされているかどうかと、前述したサーバーのフラグ設定パターンによって異なります。

順序変更を次のように設定し、

```
Router(config)# aaa new-model
Router(config)# radius-server retry method reorder
Router(config)# radius-server retransmit 1
Router(config)# radius-server max-tries-per-transaction 8
Router(config)# radius-server host 10.1.1.1
Router(config)# radius-server host 10.2.2.2
Router(config)# radius-server host 10.3.3.3
Router(config)# radius-server timeout 3
```

RADIUS サーバー 10.1.1.1 が RADIUS パケットに応答していないが、まだ、停止中としてマークされておらず、残りの 2 つの RADIUS サーバーが動作中の場合は、次のように表示されます。

最初のトランザクションの場合：

```
10.1.1.1
10.1.1.1
10.2.2.2
```

サーバーが停止中としてマークされる前に任意のトランスミッションに対して開始された追加のトランザクションの場合：

```
10.1.1.1
10.1.1.1
10.2.2.2
```

その後開始されたトランザクションの場合：

```
10.2.2.2
```

その後で、サーバーの 10.2.2.2 と 10.3.3.3 もダウンした場合は、サーバーの 10.2.2.2 と 10.3.3.3 が停止中としてマークされる基準を満たすまで、次のようなトランスミッションが見られます。

```
10.2.2.2
10.2.2.2
10.3.3.3
10.3.3.3
10.1.1.1
10.1.1.1
10.2.2.2
10.2.2.2
```

この後に、トランスミッションが失敗し、方式リスト内で次の方式が使用されます（存在する場合）。

サーバーの 10.2.2.2 と 10.3.3.3 がダウンしたが、同時に、サーバー 10.1.1.1 が復旧した場合は、次のようになります。

10.2.2.2  
10.2.2.2  
10.3.3.3  
10.3.3.3  
10.1.1.1

その後で、サーバーの 10.2.2.2 と 10.3.3.3 が停止中としてマークされると、次のようになります。

10.1.1.1

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
RADIUS	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services , Release 2』の「Configuring RADIUS」
AAA コマンドと RADIUS コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
AAA の有効化	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services , Release 2』の「Authentication, Authorization, and Accounting (AAA)」
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入力するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS サーバー障害発生時順序変更の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 84: RADIUS サーバー障害発生時順序変更の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS サーバー障害発生時順序変更	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>RADIUS サーバー障害発生時順序変更機能は、高負荷期間またはサーバーで障害が発生した場合に、サーバーグループ内の別のサーバーへのフェールオーバーを提供します。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE Release 2.1 で Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーションサービス ルータに導入されました。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。 <b>debug aaa sg-server selection, radius-server retry method reorder, radius-server transaction max-tries.</b></p>



## CHAPTER 60

# アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタ

RADIUS : アカウントティングの個別再送信カウンタ機能を使用すると、指数バックオフ再送信を設定することができます。つまり、標準設定された再送信が再試行された後に、ルータは、設定された最大間隔に達するまで各再送信の失敗ごとに間隔を2倍にして試行を継続します。この機能により、RADIUS サーバーが復旧したときにサーバーに負荷をかけすぎることなく、長時間にわたってアカウントティング要求を再送信することができます。

- [アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタの制約事項, on page 725](#)
- [アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタに関する情報, on page 726](#)
- [アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタの設定方法, on page 726](#)
- [アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタの設定例, on page 729](#)
- [その他の参考資料, on page 730](#)
- [アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタの機能情報, on page 732](#)

## アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタの制約事項

次のタスクでは、ルータのメモリが過剰に消費されます。

- ルータ上でこの機能を高い発信レートで設定。
- **aaa accounting send stop-record authentication failure** コマンドを設定 : これにより、RADIUS サーバーがダウンしている間、認証に失敗する各ユーザーに対してアカウントティングレコードと RADIUS パケットが生成されます。
- 中間アカウントティングの設定 : 新しいアカウントティングレコードが生成され、ルータに保存されます。

# アカウントINGの RADIUS 個別再送信カウンタに関する情報

多くの環境では、認証およびアカウントINGに単一のRADIUSサーバーが使用されます。このサーバーが約24時間にわたってダウンすると、認証、認可、およびアカウントING (AAA) がすべての再送信を行った後に、ルータ上に保持されているユーザーのアカウントINGレコードは失われます。この機能を導入する前に、再送信の再試行が最大100回に設定され、タイムアウトが1,000秒に設定されている可能性があります。このような設定では、ルータ上のアカウントINGレコードが24時間保持されますが、タイムアウトが1,000秒の設定は、ネットワークの輻輳が原因でRADIUSサーバーに接続できないときに問題が発生するため、適切ではありません。

RADIUS : アカウントINGの個別再送信カウンタ機能を使用すると、指数バックオフ再送信を設定することができます。つまり、標準設定された再送信が再試行された後に、ルータは、設定された最大間隔に達するまで各再送信の失敗ごとに間隔を2倍にして試行を続けます。この機能により、RADIUSサーバーが復旧したときにサーバーに負荷をかけすぎることなく、長時間にわたってアカウントING要求を再送信することができます。

この機能は、グローバルに設定 (**radius-server backoff exponential** コマンドを使用)、サーバーごとに設定 (**radius-server host** コマンドを使用)、またはグループごとに設定 (**backoff exponential** コマンドを使用) できます。

## 利点

この機能を使用すると、RADIUSサーバーまたはサーバーへの接続がダウンし、アカウントING応答の確認がない場合に、RADIUSクライアント（ルータ）がアカウントING要求をRADIUSサーバーに送信する時間を延長できます。この機能により、アカウントINGレコードを最大24時間、ルータ上に保持できます。

# アカウントINGの RADIUS 個別再送信カウンタの設定方法

## アカウントINGの再送信カウンタのグローバル設定または RADIUS ホストごとの設定

拡張された期間でのRADIUS再送信の指数バックオフをグローバルおよびRADIUSホストごとに設定するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. Router(config)# **radius-server backoff exponential** [**max-delay** *minutes*] [**backoff-retry** *retransmits*]
4. Router(config)# **radius-server host** {*hostname* | *ip-address*} [**test username** *user-name*] [**auth-port** *port-number*] [**ignore-auth-port**] [**acct-port** *port-number*] [**ignore-acct-port**] [**timeout** *seconds*] [**retransmit** *retries*] [**key string**] [**alias** {*hostname* | *ip-address*}] [**idle-time** *seconds*] [**backoff exponential** {**backoff-retry** *number-of-retransmits* | **key encryption-key** | **max-delay** *minutes*}]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを開始します。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router(config)# <b>radius-server backoff exponential</b> [ <b>max-delay</b> <i>minutes</i> ] [ <b>backoff-retry</b> <i>retransmits</i> ] <b>Example:</b>  Router (config)# radius-server backoff exponential max-delay 60 backoff-retry 32	アカウント要求の指数バックオフ再送信をルータで設定します。
ステップ 4	Router(config)# <b>radius-server host</b> { <i>hostname</i>   <i>ip-address</i> } [ <b>test username</b> <i>user-name</i> ] [ <b>auth-port</b> <i>port-number</i> ] [ <b>ignore-auth-port</b> ] [ <b>acct-port</b> <i>port-number</i> ] [ <b>ignore-acct-port</b> ] [ <b>timeout</b> <i>seconds</i> ] [ <b>retransmit</b> <i>retries</i> ] [ <b>key string</b> ] [ <b>alias</b> { <i>hostname</i>   <i>ip-address</i> }] [ <b>idle-time</b> <i>seconds</i> ] [ <b>backoff exponential</b> { <b>backoff-retry</b> <i>number-of-retransmits</i>   <b>key encryption-key</b>   <b>max-delay</b> <i>minutes</i> }] <b>Example:</b>  Router (config)# radius-server host 192.0.2.1 test username test1 auth-port 1645 acct-port 1646	RADIUS サーバーホストを指定し、アカウント要求の指数バックオフ再送信を行うように設定します。

## アカウントティングの再送信カウンタの RADIUS サーバー グループごとの設定

RADIUS サーバー グループごとに拡張された期間で RADIUS 再送信の指数バック オフを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. Router(config)# **aaa group server radius group-name**
4. Router(config -sg-radius)# **backoff exponential max-delay minutes** [**backoff-retry retransmits**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router (config)# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router(config)# <b>aaa group server radius group-name</b>	異なる RADIUS サーバー ホストを別々のリストと方式にグループ化し、server-group RADIUS コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router(config -sg-radius)# <b>backoff exponential max-delay minutes</b> [ <b>backoff-retry retransmits</b>	RADIUS サーバーグループごとのアカウントティング要求の指数バック オフ再送信をルータで設定します。

## 再送信設定の確認

機能を確認するには、次のいずれかの EXEC コマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug radius**
3. **show accounting**



#### 4. show radius statistics

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを開始します。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>debug radius</b> <b>Example:</b> Router# debug radius	RADIUS 関連の情報を表示します。
ステップ 3	<b>show accounting</b> <b>Example:</b> Router# show accounting	すべてのアクティブセッションを表示し、アカウントがアクティブな機能のすべてのアカウントティングレコードを出力します。
ステップ 4	<b>show radius statistics</b> <b>Example:</b> Router# show radius statistics	アカウントティング パケットについての RADIUS 統計情報を表示します。

## アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタの設定例

### アカウントティングの再送信カウンタの包括的な設定例

次の例は、ルータでアカウントティング要求の指数バックオフ再送信を設定する方法を示します。この例では、指数バックオフはグローバル（**radius-server backoff exponential** コマンドを使用）および RADIUS サーバーホスト「172.107.164.206」（**radius-server host** コマンドを使用）に設定されています。

```

aaa new-model
aaa authentication login default group radius
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization exec default group radius
aaa authorization network default group radius
aaa accounting send stop-record authentication failure
aaa accounting update periodic 1
aaa accounting network default start-stop group radius

```

```

!
interface BRI1/0
 ip address 10.0.0.2 255.0.0.0
 encapsulation ppp
 no ip mroute-cache
 dialer idle-timeout 0
 dialer-group 1
 isdn switch-type basic-5ess
!
radius-server host 172.107.164.206 auth-port 1645 acct-port 1646 backoff exponential
max-delay 60 backoff-retry 32
radius-server backoff exponential max-delay 60 backoff-retry 32
radius-server retransmit 3
radius-server key rad123
end

```

## サーバーごとの設定例

次に、サーバー単位で指数バックオフ再送信を有効化する例を示します。この例では、再送信は3回の再試行に設定され、タイムアウトは5秒に設定されると想定します。つまり、RADIUS要求は5秒間の遅延で3回送信されます。その後、ルータは、再試行が32回になるまで、各再試行時に遅延間隔を2倍にしてRADIUS要求の再送信を継続します。ルータは、再送信間隔が設定された60分を超えると、間隔を2倍にする操作を中止し、その後は60分ごとに送信します。

```
radius-server host foo.xyz.com backoff exponential max-delay 60 backoff-retry 32
```

このコマンドを有効にすると、次のように再送信が実行されます（「t」は秒単位）。

```

t = 0 req sent
t = 5 retrans 1
t = 10 retrans 2
t = 15 retrans 3
t = 25 retrans 4
t = 45 retrans 5
t = 85 retrans 6
t = 165 retrans 7
t = 325 retrans 8
t = 645 retrans 9
t = 1285 retrans 10
t = 2565 retrans 11
t = 5125 retrans 12
t = 8725 retrans 13 (The interval has stabilized to 60 minutes here).
t = 12325 retrans 14 till retransmit 35

```

すべての再送信が完了すると、RADIUS要求は、通常の再送信がすべて完了したときと同じパスに従います。

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS : アカウンティングの個別再送信カウンタに関する参考資料を紹介します。

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
RADIUS および AAA アカウンティング 設定のタスクとコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Configuring RADIUS」 および 「Configuring Accounting」 機能モジュール。</li> <li>『CiscoOS Security Command Reference』</li> </ul>

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャ セットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能でサポートが追加または変更された RFC はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## アカウントティングの RADIUS 個別再送信カウンタの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 85: RADIUS の機能情報 : アカウントिंगの個別再送信カウンタ

機能名	リリース	機能情報
RADIUS : アカウ ンティングの個別 再送信カウンタ	12.2(15)B 12.2(33)SRC	<p>RADIUS : アカウントिंगの個別再送信カウンタ機能を使用すると、指数バックオフ再送信を設定することができます。つまり、標準設定された再送信が再試行された後に、ルータは、設定された最大間隔に達するまで各再送信の失敗ごとに間隔を 2 倍にして試行を継続します。この機能により、RADIUS サーバーが復旧したときにサーバーに負荷をかけすぎることなく、長時間にわたってアカウントिंग要求を再送信することができます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>backoff exponential</b>、<b>radius-server host</b>、<b>radius-server backoff exponential</b></p>





## CHAPTER 61

# RADIUS VC ロギング

RADIUS 仮想回線 (VC) ロギングを使用すると、着信サブスクリプションセッションの仮想パスインターフェイス (VPI) と仮想回線インターフェイス (VCI) を Cisco IOS XE で正確に記録できます。

RADIUS VC ロギングを有効にすると、RADIUS ネットワーク アクセス サーバー (NAS) のポート フィールドが拡張され、VPI/VCI 情報を伝送するように変更されます。この情報は、セッションの起動時に作成された RADIUS アカウンティング レコードに記録されます。

- [RADIUS VC ロギングの設定方法, on page 735](#)
- [RADIUS VC ロギングの設定例, on page 739](#)
- [その他の参考資料, on page 740](#)
- [RADIUS VC ロギングの機能情報, on page 741](#)

## RADIUS VC ロギングの設定方法

### NSP での NME インターフェイス IP アドレスの設定

RADIUS アカウンティング パケットの NAS-IP-Address フィールドには、NME がシャットダウンされた場合でも、ネットワーク サービス プロバイダー (NSP) のネットワーク管理イーサネット (NME) ポートの IP アドレスが含まれています。IP アドレスを取得するためにネットワーク ルート プロセッサ (NRP) で DHCP サーバーを使用しない場合、静的 IP アドレスを設定する必要があります。次の手順を実行して、静的に結合された NME IP アドレスを設定します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface BVI** *bridge-group*
4. **ip address** *address subnet*
5. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface BVI</b> <i>bridge-group</i> <b>Example:</b> Router(config)# interface BVI1	結合されたブリッジグループ仮想インターフェイス (BVI) NME インターフェイスを選択して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip address</b> <i>address subnet</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# ip address 209.165.200.225 255.255.255.224	静的 IP アドレスとサブネットワーク アドレスを設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

## NME IP アドレスの設定

結合された NME インターフェイスの代わりに、ギガビットイーサネットポートを別の NME インターフェイスとして使用できます。次の手順を実行して NME IP アドレスを設定します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface GigabitEthernet** *number*
4. **ip address** *address mask*
5. **exit**



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface GigabitEthernet <i>number</i></b> <b>Example:</b> Router(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	NME インターフェイスを選択します。
ステップ 4	<b>ip address <i>address mask</i></b> <b>Example:</b> Router(config-if)# ip address 209.165.200.225 255.255.255.224	静的 IP アドレスとサブネットワーク アドレスを設定します。 <b>Note</b> NRP で PVC を設定する前に、NME IP アドレスを設定する必要があります。そうしないと、RADIUS アカウンティング パケットの NAS-IP-Address フィールドに正しくない IP アドレスが含まれます。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	設定モードを終了します。

## NRP での RADIUS VC ロギングの設定

次の手順を実行して RADIUS VC ロギングを設定します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius-server attribute nas-port format d**
4. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius-server attribute nas-port format d</b> <b>Example:</b> Router(config)# radius-server attribute nas-port format d	NAS ポート フィールドに ATM VC（仮想回線）拡張形式を選択します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

## NME インターフェイス IP アドレスの確認

NME IP アドレスを確認するには、NSP で **show interface bvi1** または **show interface e0/0/0 EXEC** コマンドを入力します。インターネット アドレス ステートメント（矢印で示されます）を確認します。

```
Router# show interface bvi1BVI1 is up, line protocol is up
  Hardware is BVI, address is 0010.7ba9.c783 (bia 0000.0000.0000)
    MTU 1500 bytes, BW 10000 Kbit, DLY 5000 usec,
      reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
  Encapsulation ARPA, loopback not set
  ARP type:ARPA, ARP Timeout 04:00:00
  Last input never, output never, output hang never
  Last clearing of "show interface" counters never
  Queueing strategy:fifo
  Output queue 0/0, 0 drops; input queue 0/75, 0 drops
  5 minute input rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
  5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
    1540 packets input, 302775 bytes, 0 no buffer
    Received 0 broadcasts, 0 runts, 0 giants, 0 throttles
    0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored, 0 abort
    545 packets output, 35694 bytes, 0 underruns
    0 output errors, 0 collisions, 0 interface resets
    0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
```

## NRP での RADIUS VC ロギングの確認

RADIUS サーバー上の RADIUS VC ロギングを確認するには、RADIUS アカウンティング パケットを検査します。RADIUS VC ロギングが Cisco IOS XE ソフトウェアで有効になっている場合、RADIUS アカウンティング パケットは次の例のように表示されます。

```
Wed Jun 16 13:57:31 1999
NAS-IP-Address = 192.168.100.192
NAS-Port = 268566560
NAS-Port-Type = Virtual
User-Name = "cisco"
Acct-Status-Type = Start
Service-Type = Framed
Acct-Session-Id = "1/0/0/2.32_00000009"
Framed-Protocol = PPP
Framed-IP-Address = 172.16.7.254
Acct-Delay-Time = 0
```

NAS-Port フィールドは、RADIUS VC ロギングが有効であることを示します。この行が出力に表示されない場合、RADIUS VC ロギングは Cisco IOS XE ソフトウェアで有効になっていません。

また、Acct-Session-Id フィールドでは、着信 NSP インターフェイスと VPI/VCI 情報を次の形式で識別します。

```
Acct-Session-Id = "slot/subslot/port/VPI.VCI_acct-session-id"
```

## RADIUS VC ロギングの設定例

### NSP での NME インターフェイス IP アドレスの設定例

次に、ブリッジグループ仮想インターフェイスの静的 IP およびサブネットワーク アドレスを設定する例を示します。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# interface BVI1
ip address 209.165.200.225 255.255.255.224
Router(config)# exit
```

### NME IP アドレスの設定例

次に、GigabitEthernet インターフェイスを設定する例を示します。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0
Router(config-if)# ip address 209.165.200.225 255.255.255.224
Router(config)# exit
```

## NRP での RADIUS VC ロギングの設定例

次に、NRP で RADIUS VC ロギングを設定する例を示します。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# radius-server attribute nas-port format d
Router(config)# exit
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Security Commands List, All Releases』

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### RFC

RFC	タイトル

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS VC ロギングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 86:** ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの機能情報

機能名	リリース	機能の設定情報
RADIUS VC ロギング	Cisco IOS XE Release 3.1S	RADIUS 仮想回線 (VC) ロギングを使用すると、着信サブスクライバセッションの仮想パス インターフェイス (VPI) と仮想回線インターフェイス (VCI) を Cisco IOS XE ソフトウェアで正確に記録できます。





## CHAPTER 62

# RADIUS 集中型フィルタ管理

RADIUS 集中型フィルタ管理機能は、ACL の設定と管理を容易にするフィルタ サーバーを導入しています。このフィルタ サーバーは、集中型 RADIUS リポジトリおよび管理ポイントとして機能します。ユーザーは、アクセス コントロール リスト (ACL) フィルタを集中的に管理および設定できます。

- [RADIUS 集中型フィルタ管理の前提条件, on page 743](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理の制約事項, on page 743](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理に関する情報, on page 744](#)
- [RADIUS 用の集中型フィルタ管理の設定方法, on page 745](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理の設定例, on page 748](#)
- [その他の参考資料, on page 750](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理の機能情報, on page 751](#)

## RADIUS 集中型フィルタ管理の前提条件

- 新しい RADIUS VSA をサポートしていないサーバーにディレクトリ ファイルを追加しなければならない場合があります。サンプルのディクショナリとベンダーファイルについては、このドキュメントの後半にある「RADIUS ディクショナリとベンダーファイルの例」を参照してください。

ディレクトリ ファイルを追加する必要がある場合は、RADIUS サーバーが非標準であり、新しく導入された VSA を送信可能であること確認してください。

- リモート ユーザーがダイヤルインして IP 接続を確立できるように、RADIUS ネットワーク認証をセットアップすることができます。

## RADIUS 集中型フィルタ管理の制約事項

この機能では複数の方式リストがサポートされていません。単一のグローバルフィルタ方式リストが設定できるだけです。

## RADIUS 集中型フィルタ管理に関する情報

RADIUS 集中型フィルタ管理機能以前は、ホールセールプロバイダー（ACL などの顧客サービスに対して特別料金を課している）が、顧客の網羅的な ACL の適用を阻止できました。この行為は、ルータの性能や他の顧客に影響を与える可能性があります。この機能では、ACL 管理用の集中型管理ポイント（フィルタサーバー）が導入されます。フィルタサーバーは、ACL 設定用の集中型 RADIUS リポジトリとして機能します。

フィルタサーバーとして使用されている RADIUS サーバーがアクセス認証に使用されているサーバーと同じかどうかに関係なく、ネットワークアクセスサーバー（NAS）はフィルタサーバーに対して別のアクセス要求を開始します。設定されていれば、NAS は、認証ユーザー名と 2 つめのアクセス要求用のフィルタサーバーパスワードとして、フィルタ ID 名を使用します。RADIUS サーバーは、フィルタ ID 名を認証して、access-accept 応答内に必要なフィルタリング設定を返そうとします。

ACL のダウンロードには時間がかかるため、NAS 上でローカル キャッシュが維持されます。ローカル キャッシュ上に ACL 名が存在する場合は、フィルタサーバーに問い合わせることなくその設定が使用されます。



**Note** キャッシュが適切に設定されていれば、遅延は最小限に抑えられるはずです。ただし、フィルタが必要な最初のダイヤルインユーザーは必ず待たされることとなります。これは、初めての場合は、ACL 設定が読み込まれるためです。

## キャッシュ管理

グローバルフィルタ キャッシュは最後に ACL をダウンロードした NAS 上で維持されます。そのため、ユーザーは、過負荷状態の RADIUS サーバーに対して同じ ACL 設定情報を何度も要求する必要がありません。ユーザーは、次の基準が満たされている場合にキャッシュをフラッシュする必要があります。

- エントリが新しいアクティブコールに関連付けられた後に、そのエントリに関連付けられたアイドルタイマーがリセットされる（そのように設定されている場合）。
- アイドル時間スタンプの期限が切れたエントリが削除される。
- グローバルキャッシュのエントリが指定された最大数に到達した後に、アイドルタイマーがアイドル時間限界に最も近いエントリが削除される。

1 つのタイマーがすべてのキャッシュエントリの管理に使用されます。このタイマーは、最初のキャッシュエントリの作成時に開始され、リブートされるまで定期的に行われます。タイマーの期間は、キャッシュアイドルタイマーの設定時に指定された最小粒度に対応し、毎分期限切れになります。タイマーが 1 つしかないことによって、ユーザーは、キャッシュエントリごとに別々のタイマーを管理する必要がありません。





**Note** 単一のタイマーは、タイマーの期限切れの精度に欠けます。約 50% のタイマー粒度に平均誤差が含まれています。タイマー粒度を下げると平均誤差も下がりますが、性能が低下する可能性があります。キャッシュ管理には正確なタイミングが必要ないため、誤差遅延を受け入れる必要があります。

## 新しいベンダー固有属性のサポート

この機能は、次の 2 つのカテゴリに分類可能な 3 つの新しいベンダー固有属性 (VSA) のサポートを導入しています。

- ユーザー プロファイルの拡張
  - Filter-Required (50) : 指定されたフィルタが見つからなかった場合にコールを許可するかどうかを指定します。存在する場合は、この属性が、すべての認証、許可、アカウントリング (AAA) フィルタ方式リストの後に適用されます。
- 疑似ユーザー プロファイルの拡張
  - Cache-Refresh (56) : エントリが新しいセッションから参照されるたびにキャッシュ エントリを更新するかどうかを指定します。この属性は、**cache refresh** コマンドに対応します。
  - Cache-Time (57) : キャッシュ エントリのアイドル タイムアウトを分単位で指定します。この属性は、**cache clear age** コマンドに対応します。



**Note** すべての RADIUS 属性が、すべてのコマンドラインインターフェイス (CLI) 設定よりも優先されます。

## RADIUS 用の集中型フィルタ管理の設定方法

### RADIUS ACL フィルタ サーバーの設定

RADIUS ACL フィルタ サーバーを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<pre>Router(config)# <b>aaa</b> <b>authorization cache</b> <b>filterserver default</b> methodlist[methodlist2...]</pre>	<p>AAA 認可キャッシュと、RADIUS フィルタ サーバーからの ACL 設定のダウンロードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>default</b> : デフォルト認可リスト。</li> <li>• <b>methodlist [methodlist2...]</b> : <b>password</b> コマンド ページに列挙されたキーワードの 1 つ。</li> </ul>

## フィルタ キャッシュの設定

この項の次の手順に従って、AAA フィルタ キャッシュを設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. Router(config)# **aaa cache filter**
4. Router(config-aaa-filter)# **password 0 7} password**
5. Router(config-aaa-filter)# **cache disable**
6. Router(config-aaa-filter)# **cache clear age minutes**
7. Router(config-aaa-filter)# **cache refresh**
8. Router(config-aaa-filter)# **cache max number**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router(config)# <b>aaa cache filter</b>	フィルタ キャッシュ設定を有効にして、AAA フィルタ コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 4	Router(config-aaa-filter)# <b>password 0 7} password</b>	(任意) フィルタ サーバー認証要求に使用されるオプション パスワードを指定します。

	Command or Action	Purpose
		<p><b>0</b> : 暗号化されていないパスワードが後に続くことを示します。</p> <p><b>7</b> : 非表示パスワードが後に続くことを示します。</p> <p><i>password</i> : 暗号化されていない (クリアテキスト) パスワード。</p> <p><b>Note</b>   パスワードが指定されなかった場合は、デフォルトパスワード (「cisco」) が有効になります。</p>
ステップ 5	Router(config-aaa-filter)# <b>cache disable</b>	(任意) キャッシュを無効にします。
ステップ 6	Router(config-aaa-filter)# <b>cache clear age minutes</b>	<p>(任意) キャッシュエントリの期限が切れ、キャッシュがクリアされるタイミングを分単位で指定します。</p> <p><i>minutes</i> : 0 ~ 4294967295 の任意の値。</p> <p><b>Note</b>   時間が指定されなかった場合は、デフォルト (1400 分 (1 日)) が有効になります。</p>
ステップ 7	Router(config-aaa-filter)# <b>cache refresh</b>	(任意) 新しいセッションの開始時点でキャッシュエントリをリフレッシュします。このコマンドは、デフォルトでイネーブルになっています。この機能をディセーブルにするには、 <b>no cache refresh</b> コマンドを使用します。
ステップ 8	Router(config-aaa-filter)# <b>cache max number</b>	<p>(任意) キャッシュで特定のサーバー用に維持できるエントリの絶対数を制限します。</p> <p><i>number</i> : キャッシュに含めることが可能なエントリの最大数。0 ~ 4294967295 の任意の値。</p> <p><b>Note</b>   数値が指定されなかった場合は、デフォルト (100 エントリ) が有効になります。</p>

## フィルタ キャッシュの確認

キャッシュ ステータスを表示するには、**show aaa cache filterserver EXEC** コマンドを使用します。次に、**show aaa cache filterserver** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show aaa cache filterserver
Filter      Server      Age Expires Refresh Access-Control-Lists
-----
aol         10.2.3.4    0    1440    100 ip in icmp drop
           ip out icmp drop
```

```

msn          10.3.3.4          N/A  Never          ip out forward tcp dstip 1.2.3...
msn2         10.4.3.4          N/A  Never          2 ip in tcp drop
vone         10.5.3.4          N/A  Never          2 ip in tcp drop
              0 ip in tcp drop

```



**Note** `show aaa cache filterserver` コマンドは、特定のフィルタが参照またはリフレッシュされた回数を表示します。この機能は、実際に使用されるフィルタを決定するために管理者が使用します。

## トラブルシューティングのヒント

フィルタ キャッシュ設定のトラブルシューティングを支援するために、`debug aaa cache filterserver` 特権 EXEC コマンドを使用します。`debug aaa cache filterserver` コマンドのサンプル出力を確認するには、このドキュメントの後半にある「デバッグ出力の例」を参照してください。

## フィルタ キャッシュのモニタリングと維持

フィルタ キャッシュをモニターおよび維持するには、次の EXEC コマンドの少なくとも 1 つを使用します。

コマンド	目的
Router# <code>clear aaa cache filterserver acl [filter-name]</code>	特定のフィルタまたはすべてのフィルタのキャッシュ ステータスをクリアします。
Router# <code>show aaa cache filterserver</code>	キャッシュ ステータスを表示します。

# RADIUS 集中型フィルタ管理の設定例

## NAS の設定例

次の例は、キャッシュフィルタリング用の NAS の設定方法を示しています。この例では、最初に、サーバー グループの「mygroup」に接続されます。応答がない場合は、デフォルト RADIUS サーバーに接続されます。それでも応答がない場合は、ローカルフィルタ ケアに接続されます。最終的に、フィルタが解決できなければ、コールが受け入れられます。

```

aaa authorization cache filterserver group mygroup group radius local none
!
aaa group server radius mygroup
 server 10.2.3.4
 server 10.2.3.5
!

```

```
radius-server host 10.1.3.4
!
aaa cache filter
  password mycisco
  no cache refresh
  cache max 100
!
```

## RADIUS サーバーの設定例

次の例は、NAS にダイヤルしているリモートユーザー「user1」のサンプル RADIUS 設定です。

```
myfilter Password = "cisco"
Service-Type = Outbound,
Ascend:Ascend-Call-Filter = "ip in drop srcip 10.0.0.1/32 dstip 10.0.0.10/32 icmp",
Ascend:Ascend-Call-Filter = "ip in drop srcip 10.0.0.1/32 dstip 10.0.0.10/32 tcp dstport
= telnet",
Ascend:Ascend-Cache-Refresh = Refresh-No,
Ascend:Ascend-Cache-Time = 15
user1 Password = "cisco"
Service-Type = Framed,
Filter-Id = "myfilter",
Ascend:Ascend-Filter-Required = Filter-Required-Yes,
```

## RADIUS ディクショナリとベンダー ファイルの例

次の例は、新しい VSA 用のサンプル RADIUS 辞書ファイルです。この例では、辞書ファイルが Merit サーバー用です。

```
dictionary file:
Ascend.attr Ascend-Filter-Required 50 integer (*, 0, NOENCAPS)
Ascend.attr Ascend-Cache-Refresh 56 integer (*, 0, NOENCAPS)
Ascend.attr Ascend-Cache-Time 57 integer (*, 0, NOENCAPS)
Ascend.value Ascend-Cache-Refresh Refresh-No 0
Ascend.value Ascend-Cache-Refresh Refresh-Yes 1
Ascend.value Ascend-Filter-Required Filter-Required-No 0
Ascend.value Ascend-Filter-Required Filter-Required-Yes 1
vendors file:
50 50
56 56
57 57
```

## デバッグ出力例

次に、**debug aaa cache filterserver** コマンドの出力例を示します。

```
Router# debug aaa cache filterserver

AAA/FLTSV: need "myfilter" (fetch), call 0x612DAC64
AAA/FLTSV: send req, call 0x612DAC50
AAA/FLTSV: method SERVER_GROUP myradius
AAA/FLTSV: rcv reply, call 0x612DAC50 (PASS)
AAA/FLTSV: create cache
AAA/FLTSV: add attr "call-inacl"
```

```

AAA/FLTSV: add attr "call-inacl"
AAA/FLTSV: add attr "call-inacl"
AAA/FLTSV: skip attr "filter-cache-refresh"
AAA/FLTSV: skip attr "filter-cache-time"
AAA/CACHE: set "AAA filtserv cache" entry "myfilter" refresh? no
AAA/CACHE: set "AAA filtserv cache" entry "myfilter" cachetime 15
AAA/FLTSV: add attr to list "call-inacl" call 0x612DAC64
AAA/FLTSV: add attr to list "call-inacl" call 0x612DAC64
AAA/FLTSV: add attr to list "call-inacl" call 0x612DAC64
AAA/FLTSV: PASS call 0x612DAC64
AAA/CACHE: timer "AAA filtserv cache", next in 10 secs (0 entries)
AAA/CACHE: timer "AAA filtserv cache", next in 10 secs (1 entry)
AAA/CACHE: destroy "AAA filtserv cache" entry "myfilter"
AAA/CACHE: timer "AAA filtserv cache", next in 10 secs (0 entries)

```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS 集中型フィルタ管理に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
認可の設定	「Configuring Authorization」機能モジュール。
RADIUS の設定	「Configuring RADIUS」機能モジュール
認可コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
なし	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS 集中型フィルタ管理の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 87: RADIUS 集中型フィルタ管理の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 集中型 フィルタ管理	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>RADIUS 集中型フィルタ管理機能は、ACL の設定と管理を容易にするフィルタサーバーを導入しています。このフィルタサーバーは、集中型 RADIUS リポジトリおよび管理ポイントとして機能します。ユーザーは、アクセス コントロール リスト (ACL) フィルタを集中的に管理および設定できます。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。<b>aaa authorization cache filterserver</b>、<b>aaa cache filter</b>、<b>cache clear age</b>、<b>cache disable</b>、<b>cache refresh</b>、<b>clear aaa cache filterserver acl</b>、<b>debug aaa cache filterserver</b>、<b>password</b>、<b>show aaa cache filterserver</b>。</p>





## CHAPTER 63

# RADIUS EAP サポート

RADIUS EAP サポート機能は、ユーザーに PPP 内でのクライアント認証方式（独自の認証を含む）の適用を可能にします。この認証方式は、ネットワーク アクセス サーバー（NAS）ではサポートされない可能性があり、拡張可能認証プロトコル（EAP）を通して実現されます。この機能が導入される前は、PPP 接続用のさまざまな認証方式をサポートするために、特別なベンダー固有設定と、クライアントと NAS に対する変更が必要でした。RADIUS EAP サポートを使用すれば、トークンカードや公開キーなどの認証スキームでネットワークに対するエンドユーザーとデバイスの認証対象アクセスを補強できます。

- [RADIUS EAP サポートの前提条件, on page 753](#)
- [RADIUS EAP サポートの制約事項, on page 754](#)
- [RADIUS EAP サポートに関する情報, on page 754](#)
- [RADIUS EAP サポートの設定方法, on page 755](#)
- [設定例, on page 757](#)
- [その他の参考資料, on page 758](#)
- [RADIUS EAP サポートの機能情報, on page 760](#)
- [用語集, on page 761](#)

## RADIUS EAP サポートの前提条件

クライアント上で EAP RADIUS を有効化する前に、次のタスクを実行する必要があります。

- **interface** コマンドを使用してインターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
- **encapsulation** コマンドを使用して、PPP をカプセル化するためのインターフェイスを設定します。

これらのタスクの実行方法については、「Configuring Asynchronous SLIP and PPP」モジュールを参照してください。

## RADIUS EAP サポートの制約事項

EAP がプロキシ モードで動作中に、認証時間が大幅に増加する可能性があります。これは、ピアからのすべてのパケットを RADIUS サーバーに送信する必要があり、RADIUS サーバーからのすべての EAP パケットをクライアントに送り返す必要があるためです。この追加処理は遅延の原因になりますが、**ppp timeout authentication** コマンドを使用して、デフォルトの認証タイムアウト値を増やすことができます。

## RADIUS EAP サポートに関する情報

EAP は、認証フェーズ（Link Control Protocol (LCP) フェーズではなく）でネゴシエートされる複数の認証メカニズムをサポートする PPP 用の認証プロトコルです。EAP を使用すると、汎用のインターフェイスを介して、サードパーティ製の認証サーバーと PPP 実装の間でデータのやり取りができます。

## EAP のしくみ

デフォルトでは、EAP はプロキシモードで実行されます。このため、EAP では、RADIUS サーバーに存在するバックエンドサーバー、または RADIUS サーバーを介してアクセスできるバックエンドサーバーに対する認証プロセス全体を、NAS によってネゴシエートすることができます。LCP の交換中にクライアントと NAS の間で EAP がネゴシエートされると、その後のすべての認証メッセージは、クライアントとバックエンドサーバーの間で透過的に送信されます。NAS は認証プロセスに直接関与しなくなります。つまり、NAS はプロキシとして機能し、リモートピア間で EAP メッセージを送信します。



**Note** EAP は、ローカルモードでも実行できます。その場合、セッションは Message Digest 5 (MD5) アルゴリズムを使用して認証され、Challenge Handshake Authentication Protocol (CHAP) と同じ認証ルールに従います。プロキシモードを無効にしてローカルで認証するには、**ppp eap local** コマンドを使用する必要があります。

## 新しくサポートされた属性

RADIUS EAP サポート機能では、次の RADIUS 属性のサポートが追加されています。

番号	IETF 属性	説明
79	EAP-Message	PPP type、request-id、length、および EAP-type の各フィールドを含む EAP メッセージの 1 つのフラグメントをカプセル化します。

番号	IETF 属性	説明
80	Message Authenticator	メッセージの発信元整合性を保証します。無効なチェックサムを伴って受信されたすべてのメッセージは、通知されることなく両端で破棄されます。この属性には、RADIUS 要求または応答メッセージ全体の HMAC-MD5 チェックサムが含まれており、キーとして RADIUS サーバー シークレットが使用されます。

## RADIUS EAP サポートの設定方法

### EAP の設定

このタスクを実行して、PPP カプセル化用に設定されたインターフェイス上で EAP を設定します。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `ppp authentication eap`
4. `ppp eap identity string`
5. `ppp eap password [number] string`
6. `ppp eap local`
7. `ppp eap wait`
8. `ppp eap refuse [callin]`

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> <code>Router&gt; enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b> <code>Router# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>ppp authentication eap</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# ppp authentication eap	認証プロトコルとして EAP を有効にします。
ステップ 4	<b>ppp eap identity string</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# <b>ppp eap identity</b> user	(任意) ピアから要求されたときの EAP ID を指定します。
ステップ 5	<b>ppp eap password [number] string</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# <b>ppp eap password</b> 7 141B1309	(任意) ピア認証用の EAP パスワードを設定します。  このコマンドは、クライアント上でのみ設定する必要があります。
ステップ 6	<b>ppp eap local</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# ppp eap local	(任意) RADIUS バックエンドサーバーを使用する代わりにローカルで認証します。これはデフォルトの設定です。  <b>Note</b> このコマンドは、NAS 上でのみ設定する必要があります。
ステップ 7	<b>ppp eap wait</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# ppp eap wait	(任意) 発信者が自分自身を最初に認証するのを待機します。デフォルトでは、クライアントの方が発信者よりも先に自分自身を認証します。  <b>Note</b> このコマンドは、NAS 上でのみ設定する必要があります。
ステップ 8	<b>ppp eap refuse [callin]</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# ppp eap refuse	(任意) EAP を使用した認証を拒否します。 <b>callin</b> キーワードが有効になっている場合は、着信コールのみが認証されません。  <b>Note</b> このコマンドは、NAS 上でのみ設定する必要があります。

## EAP の確認

クライアントまたは NAS 上の EAP 設定を確認するには、特権 EXEC コンフィギュレーションモードで次のコマンドの少なくとも 1 つを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>show users</b>	ルータのアクティブ回線に関する情報を表示します。

コマンド	目的
Router# <b>show interfaces</b>	ルータまたはアクセス サーバーで設定されているすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。
Router# <b>show running-config</b>	使用している設定が実行コンフィギュレーションの一部として表示されていることを確認します。

## 設定例

### クライアント上の EAP ローカル設定例

次の例は、EAP 用に設定されたクライアントのサンプル設定です。

```
interface Ethernet0/0
 ip address 10.1.1.202 255.255.255.0
 no ip mroute-cache
 half-duplex
!
interface BRI0/0
 ip address 192.168.101.100 255.255.255.0
 encapsulation ppp
 no ip mroute-cache
 dialer map ip 192.168.101.101 56167
 dialer-group 1
 isdn switch-type basic-5ess
 ppp eap identity user
 ppp eap password 7 141B1309
!
!
 ip default-gateway 10.1.1.1
 ip classless
 ip route 192.168.101.101 255.255.255.255 BRI0/0
 no ip http server
!
dialer-list 1 protocol ip permit
```

### NAS 用の EAP プロキシ設定例

次の例は、EAP プロキシを使用するように設定された NAS のサンプル設定です。

```
aaa authentication login default group radius
aaa authentication login NOAUTH none
aaa authentication ppp default if-needed group radius
aaa session-id common
enable secret 5 $1$x5D0$cfTL/D8Be.34PgTbdGdgl/
!
username dtw5 password 0 lab
username user password 0 lab
ip subnet-zero
no ip domain-lookup
ip host lab24-boot 172.19.192.254
```

```

ip host lb 172.19.192.254
!
isdn switch-type primary-5ess
!
controller T1 3
 framing esf
 linecode b8zs
 pri-group timeslots 1-24
!
interface Ethernet0
 ip address 10.1.1.108 255.255.255.0
 no ip route-cache
 no ip mroute-cache
!
interface Serial3:23
 ip address 192.168.101.101 255.255.255.0
 encapsulation ppp
 dialer map ip 192.168.101.100 60213
 dialer-group 1
 isdn switch-type primary-5ess
 isdn T321 0
 ppp authentication eap
 ppp eap password 7 011F0706
!
!
ip default-gateway 10.0.190.1
ip classless
ip route 192.168.101.0 255.255.255.0 Serial3:23
no ip http server
!
dialer-list 1 protocol ip permit
!
radius-server host 10.1.1.201 auth-port 1645 acct-port 1646 key lab
radius-server retransmit 3
call rsvp-sync
!
mgcp profile default
!
!
line con 0
 exec-timeout 0 0
 logging synchronous
 login authentication NOAUTH
line 1 48
line aux 0
ine vty 0 4
lpassword lab

```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS EAP サポート機能に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
AAA を使用した ppp 認証の設定	「Configuring Authentication」モジュール。
RADIUS の設定	「Configuring RADIUS」モジュール。

関連項目	マニュアル タイトル
PPP の設定	「Configuring Asynchronous SLIP and PPP」モジュール。
ダイヤルテクノロジー コマンド	『Cisco IOS Dial Technologies Command Reference』
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2284	『PPP Extensible Authentication Protocol (EAP)』
RFC 1938	『A One-Time Password System』
RFC 2869	『RADIUS Extensions』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS EAP サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



Table 88: RADIUS EAP サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS EAP サポート	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>RADIUS EAP サポート機能は、ユーザーに PPP 内でのクライアント認証方式（独自の認証を含む）の適用を可能にします。この認証方式は、ネットワーク アクセス サーバー（NAS）ではサポートされない可能性があり、拡張可能認証プロトコル（EAP）を通して実現されます。この機能が導入される前は、PPP 接続用のさまざまな認証方式をサポートするために、特別なベンダー固有設定と、クライアントと NAS に対する変更が必要でした。RADIUS EAP サポートを使用すれば、トークンカードや公開キーなどの認証スキームでネットワークに対するエンドユーザーとデバイスの認証対象アクセスを補強できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ppp authentication</b>、<b>ppp eap identity</b>、<b>ppp eap local</b>、<b>ppp eap password</b>、<b>ppp eap refuse</b>、<b>ppp eap wait</b></p>

## 用語集

**attribute** : RADIUS Internet Engineering Task Force (IETF) 属性は、クライアントとサーバーの間で認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) 情報を通信するために使用される 255 個の標準属性からなるオリジナルセットの 1 つです。IETF 属性は標準であるため、属性データは事前定義されてその内容も認識されています。このため、IETF 属性を介して AAA 情報を交換するすべてのクライアントとサーバーは、属性の厳密な意味や各属性値の一般的な限界などの属性データを一致させる必要があります。

**CHAP** : チャレンジ ハンドシェイク 認証プロトコル。PPP カプセル化を使用した回線上でサポートされ、不正アクセスを防止するセキュリティ機能。CHAP それ自体が不正アクセスを防止するわけではなく、単に、リモートエンドを識別するだけです。その後で、ルータまたはアクセス サーバーがそのユーザーのアクセスを許可するかどうかを決定します。

**EAP** : 拡張認証プロトコル。認証フェーズ (Link Control Protocol (LCP) フェーズではなく) でネゴシエートされる複数の認証メカニズムをサポートする PPP 認証プロトコル。EAP を使用すれば、汎用のインターフェイスを介して、サードパーティ製の認証サーバーと PPP 実装の間でデータのやり取りができます。

**LCP** : リンク制御プロトコル。PPP で使用するためのデータリンク接続を確立して、設定し、テストするプロトコル。

**MD5 (HMAC variant)** : Message Digest 5。パケットデータの認証に使用するハッシュ アルゴリズム。HMAC は、メッセージ認証用の重要なハッシングです。

**NAS** : ネットワーク アクセス サーバー。公衆電話交換網 (PSTN) などのリモート アクセス ネットワーク上でユーザーにローカル ネットワーク アクセスを提供するデバイス。

**PAP** : パスワード認証プロトコル。PPPピアの相互認証を可能にする認証プロトコル。ローカルルータに接続を試みているリモートルータは、認証要求を送信するように要求されます。CHAPと違って、PAPはパスワードとホスト名またはユーザー名をクリアテキスト（暗号化なし）で渡します。PAPそれ自体が不正アクセスを防止するわけではなく、単に、リモートエンドを識別するだけです。ルータまたはアクセスサーバーがそのユーザーのアクセスを許可するかどうかを決定します。PAPは、PPP回線上でのみサポートされます。

**PPP** : ポイントツーポイントプロトコル。ポイントツーポイントリンク上でネットワーク層プロトコル情報をカプセル化するプロトコル。PPPはRFC 1661で規定されています。

**RADIUS** : リモート認証ダイヤルインユーザーサービス。モデムおよびISDN接続の認証、および接続のトラッキングのためのデータベースです。

このマニュアルで使用しているIPアドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。© 2001-2009 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## CHAPTER 64

# コール接続時の RADIUS 暫定アップデート

コール接続時の RADIUS 暫定アップデート機能では、課金サーバーにコール接続のタイムスタンプを提供する追加のアカウントングレコードが生成されます。

- コール接続時の RADIUS 暫定アップデートに関する情報, on page 763
- コール接続時の RADIUS 暫定アップデート機能を有効化する方法, on page 763
- その他の参考資料, on page 764
- コール接続時の RADIUS 暫定アップデートの機能情報, on page 766

## コール接続時の RADIUS 暫定アップデートに関する情報

コール接続時の RADIUS 暫定アップデート機能を有効にすると、Cisco IOS ソフトウェアは、コールレグが接続されたときに、追加の更新済み中間アカウントングレコードを生成してアカウントングサーバーに送信します。コールレグは、Voice over IP (VoIP) ネットワーク内のコール接続の別個のセグメントであり、ルータと、ベアラチャネルを介したテレフォニーエンドポイントまたはセッションプロトコルを使用した別のエンドポイントとの間の論理的な接続です。コール接続時に使用可能なすべての属性 (h323-connect-time や backward-call-indicators など) がこの更新済み中間アカウントングレコードによって送信されます。

## コール接続時の RADIUS 暫定アップデート機能を有効化する方法

次のタスクを実行して、コールレグが接続されたときに、Cisco IOS で追加の更新済み中間アカウントングレコードを生成してアカウントングサーバーに送信できるようにします。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**

4. `gw-accounting aaa`
5. `aaa accounting update newinfo`

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa new-model</pre>	認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) を有効化します。
ステップ 4	<b>gw-accounting aaa</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# gw-accounting aaa</pre>	AAA システムを通じてアカウントングを有効化し、コール詳細レコード (CDR) をベンダー固有属性 (VSA) の形式で RADIUS サーバーに送信します。
ステップ 5	<b>aaa accounting update newinfo</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa accounting update newinfo</pre>	問題のユーザーに関する新しいアカウントング情報が生成されるたびに、一時アカウントングレコードを定期的にアカウントングサーバーに送信できるようにします。

## その他の参考資料

次の項で、コール接続時の RADIUS 暫定アップデート機能に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
認証、許可、アカウントング (AAA)	「Configuring Authentication」、 「Configuring Authorization」、 および 「Configuring Accounting」 モジュール。

関連項目	マニュアルタイトル
RADIUS ベンダー固有属性	「RADIUS Vendor-Proprietary Attributes」モジュール。
ダイナミックプロンプトの設定、アカウントリングテンプレートのカスタマイズ、および音声ゲートウェイへの AAA 要求の転送	『Cisco IOS Dial Technologies Configuration Guide , Release 12.4T』 および 『Cisco IOS VPDN Configuration Guide , Release 12.4T』。

## 標準

標準	タイトル
なし。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2138	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』
RFC 2139	『RADIUS Accounting』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## コール接続時の RADIUS 暫定アップデートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 89:** コール接続時の RADIUS 暫定アップデートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
コール接続時の RADIUS 暫定アップデート	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>コール接続時の RADIUS 暫定アップデート機能では、課金サーバーにコール接続のタイムスタンプを提供する追加のアカウントングレコードが生成されます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>gw-accounting aaa</b> および <b>aaa accounting update</b></p>



## CHAPTER 65

# ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンス

ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンス機能は、シスコ独自のベンダー固有属性（VSA）を使用せずに、業界標準のロード バランシング機能とフェールオーバー機能を Layer 2 Tunneling Protocol ネットワーク サーバー（LNS）に提供します。この機能は、RFC 2868 で規定されているマルチベンダー ネットワーク環境に使用すべきトンネル属性に適合しているため、複数のベンダーで製造されたネットワーク アクセス サーバー（NAS）間の相互運用性の問題を解決します。

- [前提条件, on page 767](#)
- [機能制限, on page 768](#)
- [ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスに関する情報, on page 768](#)
- [ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスの設定方法, on page 770](#)
- [ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスの設定例, on page 770](#)
- [その他の参考資料, on page 771](#)
- [ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスの機能情報, on page 772](#)
- [用語集, on page 773](#)

## 前提条件

VPDN と HGW グループの設定はこのマニュアルの範囲を超えています。詳細については、「関連資料」を参照してください。

## 機能制限

次の制約および制限が、ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンス機能に適用されます。

- この機能は、VPDN ダイアルアウトネットワークをサポートしていません。ダイアルインアプリケーション専用で設計されています。
- ネットワーク上で許容される LNS の最大数は、タグ属性グループ当たり 50 ずつの合計 1550 で、タグは 31 までに制限されています。
- この機能には、RFC 2868 をサポートする RADIUS サーバー実装が必要です。

## ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスに関する情報

ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンス機能は、ロードバランシングおよびフェールオーバーの仮想プライベートダイアルアップネットワーク (VPDN) ホームゲートウェイ (HGW) グループを標準化された方式で提供します。この機能は、新しいソフトウェア機能を導入しています。この機能に関連付けられた新しいコマンドはありません。

### 独自の属性ではなく、業界標準の属性

Cisco IOS Release 12.2(4)T までは、LNS のロードバランシングおよびフェールオーバー機能が、シスコ独自の VSA によって提供されていました。マルチベンダーネットワーク環境で、RADIUS 上の VSA を使用した場合は、複数のベンダーによって製造された NAS 間で相互運用性の問題が発生する可能性があります。特定の RADIUS サーバー実装が要求元の NAS で解釈可能な VSA を送信可能な場合でも、ユーザーが同じ目的で複数の VSA をシングルサービスプロファイルに保存しておく必要があります。

マルチベンダーネットワーク環境で使用すべきトンネル属性に関する合意は RFC 2868 で規定されています。RFC 2868 では、Tunnel-Server-Endpoint と Tunnel-Medium-Type を組み合わせ、NAS が新しいセッションを開始すべきアドレスが指定されます。複数の Tunnel-Server-Endpoint 属性が 1 つのタグ付き属性グループ内で定義されている場合は、equal-cost load-balancing HGW として解釈されます。

RFC 2868 で規定されている Tunnel-Preference 属性は、ロードバランシングおよびフェールオーバー HGW グループを形成する手段として使用できます。複数のタグ付き属性グループの Tunnel-Preference 値が同じ場合は、他に指定されていなければ、それらの属性グループの Tunnel-Server-Endpoint が同じ優先順位に設定されていると見なされます。一部の属性グループの Tunnel-Preference 値が他の属性グループよりも高い (プリファレンスが低い) 場合は、それらの Tunnel-Server-Endpoint 属性の優先順位が上になります。ある属性グループの優先順位値



が高い場合は、それより優先順位値が低い属性グループが接続に使用できない場合に、その属性グループがフェールオーバーに使用されます。

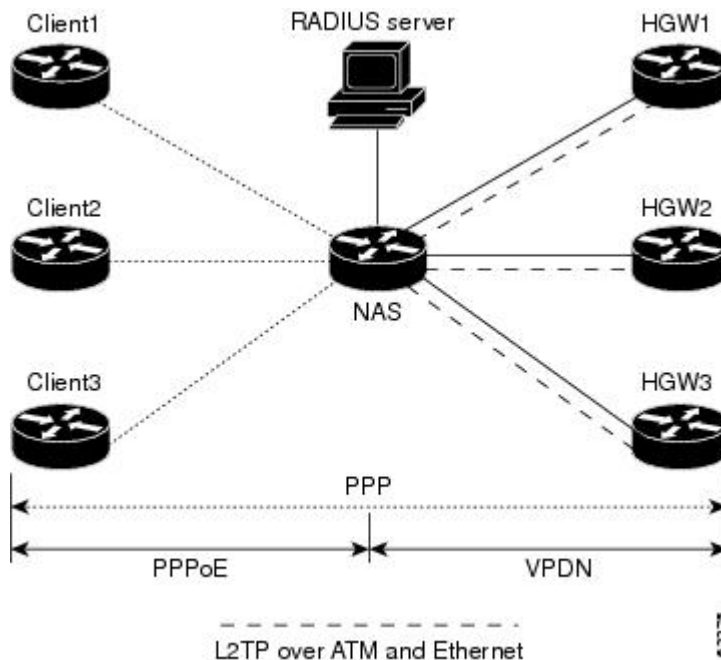
Cisco IOS Release 12.2(4)T までは、特別に書式設定された文字列が Cisco VSA の

「vpdn:ip-addresses」文字列内で NAS に転送され、HGW のロード バランシングおよびフェールオーバーに使用されていました。たとえば、10.0.0.1 10.0.0.2 10.0.0.3/2.0.0.1 2.0.0.2 は、ロード バランシング用の最初のグループに関する IP アドレスの 10.0.0.1、10.0.0.2、および 10.0.0.3 として解釈されます。新しいセッションは、least-load-first アルゴリズムに基づいて、この 3 つのアドレスに送出されます。このアルゴリズムは、ローカルな知識を利用して、新しいセッションを開始する負荷が最低の HGW を選択します。この例では、2 番目のグループ内のアドレスの 2.0.0.1 と 2.0.0.2 が、優先順位が低く、最初のグループ内で指定されたすべての HGW が新しい接続要求に対する応答に失敗した場合にのみ適用可能になります。そのため、2.0.0.1 と 2.0.0.2 がフェールオーバー アドレスになります。RADIUS トンネル プロファイル内でのこのようなフェールオーバー アドレスの設定方法の例については、[ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンスの設定例, on page 770](#)を参照してください。

## マルチベンダー ネットワークにおけるロード バランシングとフェールオーバー

ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンス機能は、以下の図に示す構成のように、ATM および Ethernet などの WAN リンクを経由して VPDN レイヤ 2 トンネルを使用する大規模なマルチベンダー ネットワーク向けに設計されています。

Figure 9: マルチベンダー ネットワークにおける代表的なロード バランシングとフェールオーバー



上の図に示す構成では、NAS が RADIUS サーバーからダウンロードされたトンネル プロファイルを使用して、ロード バランシングおよびフェールオーバー用の VPDN レイヤ 2 トンネルを構築します。Point-to-Point over Ethernet (PPPoE) プロトコルが、PPP セッションを生成するクライアントとして使用されます。

## 関連機能およびテクノロジー

ロード バランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンス機能は、VPDN で使用されます。加えて、次のテクノロジーとプロトコルに精通していることが求められます。

- ATM
- イーサネット
- L2TP と L2F
- PPP と PPPoE
- RADIUS サーバー

## ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンスの設定方法

この機能には新しいコンフィギュレーションコマンドはありません。ただし、RADIUS トンネル プロファイル内でのロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンス機能の実装方法の例については、次の項を参照してください。

## ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンスの設定例

次の例は、RADIUS トンネル プロファイルの作成方法を示しています。

```
net3 Password = "cisco" Service-Type = Outbound
  Tunnel-Type = :0:L2TP,
  Tunnel-Medium-Type = :0:IP,
  Tunnel-Server-Endpoint = :0:"1.1.3.1",
  Tunnel-Assignment-Id = :0:"1",
  Tunnel-Preference = :0:1,
  Tunnel-Password = :0:"welcome"
  Tunnel-Type = :1:L2TP,
  Tunnel-Medium-Type = :1:IP,
  Tunnel-Server-Endpoint = :1:"1.1.5.1",
  Tunnel-Assignment-Id = :1:"1",
  Tunnel-Preference = :1:1,
  Tunnel-Password = :1:"welcome"
```

```
Tunnel-Type = :2:L2TP,
Tunnel-Medium-Type = :2:IP,
Tunnel-Server-Endpoint = :2:"1.1.4.1",
Tunnel-Assignment-Id = :2:"1",
Tunnel-Preference = :2:1,
Tunnel-Password = :2:"welcome"
Tunnel-Type = :3:L2TP,
Tunnel-Medium-Type = :3:IP,
Tunnel-Server-Endpoint = :3:"1.1.6.1",
Tunnel-Assignment-Id = :3:"1",
Tunnel-Preference = :3:1,
Tunnel-Password = :3:"welcome"
```

これらのプロファイル内でフェールオーバーアドレスがどのように選択されるかの詳細については、[ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンスに関する情報](#), on page 768を参照してください。

## その他の参考資料

次の項で、ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネルプリファレンス機能に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
RADIUS	「Configuring RADIUS」モジュール。
RADIUS 属性	「RADIUS Attributes Overview and RADIUS IETF Attributes」モジュール。
バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク (VPDN) のロードマップ	『Cisco IOS VPDN Configuration Guide , Release 15.0』
ダイヤルテクノロジー	『Cisco IOS Dial Technologies Configuration Guide , Release 12.4T』
ブロードバンドアクセス : PPP とルーテッドブリッジエンカプセレーション	『Cisco IOS Broadband Access Aggregation and DSL Configuration Guide , Release 12.4T』

### 標準

標準	タイトル
なし。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2868	『RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support』

## ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンスの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 90:** ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンスの機能情報

機能名	リリース	機能情報
ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンス	Cisco IOS XE Release 3.9S	ロードバランシングおよびフェールオーバー用の RADIUS トンネル プリファレンス機能は、シスコ独自のベンダー固有属性 (VSA) を使用せずに、業界標準のロードバランシング機能とフェールオーバー機能を Layer 2 Tunneling Protocol ネットワーク サーバー (LNS) に提供します。この機能は、RFC 2868 で規定されているマルチベンダー ネットワーク環境に使用すべきトンネル属性に適合しているため、複数のベンダーで製造されたネットワークアクセスサーバー (NAS) 間の相互運用性の問題を解決します。

## 用語集

**HGW** : ホーム ゲートウェイ。L2TP などのレイヤ 2 トンネリング プロトコルを終端するゲートウェイ。

**home gateway** : 「HGW」を参照してください。

**L2TP** : レイヤ 2 トンネル プロトコル。PPP のトンネリングを提供する RFC 2661 で規定されたインターネット技術特別調査委員会 (IETF) 標準トラック プロトコル。L2F と PPTP の最良の機能に基づいて、L2TP が、VPDN を実装するための業界全体で相互運用可能な方式を提供します。

L2TP ネットワーク サーバー : LNS を参照してください。

**Layer 2 Tunnel Protocol** : 「L2TP」を参照してください。

**LNS** : L2TP ネットワーク サーバー。L2TP トンネルエンドポイントの一方の側として機能し、NAS または L2TP アクセス コンセントレータ (LAC) に対するピアであるノード。LNS は、アクセス サーバーによってリモート システムからトンネル化されている PPP セッションの論理的終端点です。レイヤ 2 フォワーディング (L2F) HGW に似ています。

**NAS** : ネットワーク アクセス サーバー。パケットの世界 (インターネットなど) と回線の世界 (公衆電話交換網など) をインターフェイスするシスコ プラットフォームまたはプラットフォームの集合。

**network access server** : 「NAS」を参照してください。

**Request for Comments** : 「RFC」を参照してください。

**RFCs** : コメント要求。インターネット技術特別調査委員会 (IETF) によって収集されたインターネットに関する各種規約。1969年に発足した IETF は、インターネットアーキテクチャの発展に携わっているネットワーク設計者、運営業者、ベンダー、および研究者の大規模でオープンな国際的コミュニティです。RFC は、ネットワーキング プロトコル、手続き、プログラム、および概念に焦点を当てた、コンピュータ通信のさまざまな側面を規定しています。

**virtual private dialup network** : 「VPDN」を参照してください。

**VPDN** : バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク。ネットワーク間のトラフィックをすべて暗号化することにより、パブリック TCP/IP ネットワーク経由でも IP トラフィックをセキュアに転送できます。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。© 2001-2009 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.





## 第 **V** 部

# RADIUS 属性

- 『RADIUS Attributes Overview and RADIUS IETF Attributes』, on page 777
- RADIUS ベンダー固有属性, on page 807
- RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値, on page 823
- Connect-Info RADIUS 属性 77, on page 835
- 暗号化されたベンダー固有属性, on page 843
- アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address, on page 849
- RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID, on page 857
- RADIUS トンネル属性拡張, on page 863
- RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張, on page 871
- RADIUS 属性値スクリーニング, on page 877
- RADIUS 属性 55 Event-Timestamp, on page 885
- RADIUS 属性 104, on page 893
- RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性, on page 901
- サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマット, on page 909







## CHAPTER 66

# 『RADIUS Attributes Overview and RADIUS IETF Attributes』

Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS) 属性は、RADIUS プログラムに保存されたユーザ プロファイル内の特定の認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) 要素を定義するために使用されます。この章では、サポートされる RADIUS 属性を示します。

- [RADIUS 属性の概要, on page 777](#)
- [RADIUS IETF 属性, on page 781](#)
- [その他の参考資料, on page 804](#)
- [RADIUS 属性の概要と RADIUS IETF 属性の機能情報, on page 806](#)

## RADIUS 属性の概要

### IETF 属性と VSA の比較

RADIUS インターネット技術特別調査委員会 (IETF) 属性は、255 個の標準属性で構成されるオリジナルのセットで、クライアントとサーバ間での AAA 情報の伝達に使用されます。IETF 属性は標準であり、属性のデータは事前に定義されています。IETF 属性を使用して AAA 情報を交換するクライアントとサーバは、属性の正確な意味や各属性値の一般的な範囲など、属性データについて合意する必要があります。

RADIUS ベンダー固有属性 (VSA) は、ベンダー固有 IETF 属性 (属性 26) に由来しています。属性 26 を使用して、ベンダーは 255 種の属性を追加作成できます。つまり、ベンダーは、IETF 属性のデータとは異なる属性を作成して、属性 26 の背後でカプセル化することができます。新しく作成された属性は、ユーザが属性 26 を受け入れる場合に受信されます。

VSA の詳細については、「RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値」の章を参照してください。

## RADIUS パケットのフォーマット

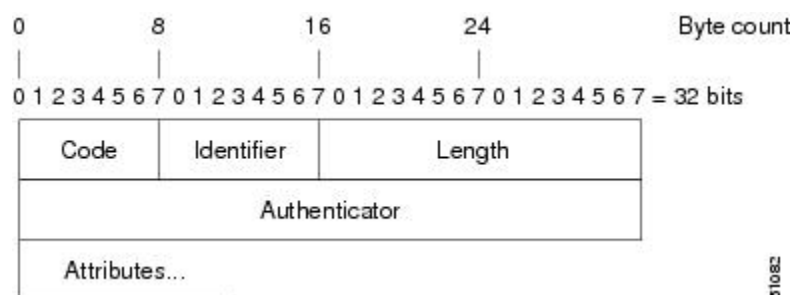
RADIUS サーバと RADIUS クライアント間のデータは、RADIUS パケットで交換されます。データフィールドは左から右に転送されます。

次の図に、RADIUS パケット内のフィールドを示します。



**Note** VSA の図については、「RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値」の章の図 1 を参照してください。

Figure 10: RADIUS パケット図



各 RADIUS パケットには、次の情報が含まれています。

- コード：コードフィールドは 1 オクテットです。次の RADIUS パケットのタイプを識別します。
  - Access-Request (1)
  - Access-Accept (2)
  - Access-Reject (3)
  - Accounting-Request (4)
  - Accounting-Response (5)
- 識別子：識別子フィールドは 1 オクテットです。RADIUS サーバの要求と応答の照合を支援し、重複した要求を検出します。
- 長さ：長さフィールドは 2 オクテットです。パケット全体の長さを示します。
- オーセンティケータ：オーセンティケータフィールドは 16 オクテットです。最上位オクテットが最初に転送されます。RADIUS サーバからの応答の認証に使用されます。オーセンティケータには次の 2 つのタイプがあります。
  - Request-Authentication：Access-Request パケットと Accounting-Request パケットで使用できます。
  - Response-Authenticator：Access-Accept、Access-Reject、Access-Challenge、および Accounting-Response パケットで使用できます。

## RADIUS パケットタイプ

次のリストは、属性情報を含むさまざまなタイプの RADIUS パケットをまとめたものです。

**Access-Request** : クライアントから RADIUS サーバに送信されます。このパケットには、ユーザにアクセスを許可している特定のネットワーク アクセス サーバ (NAS) へのアクセスを許可するかどうかを RADIUS サーバが判断するための情報が含まれています。認証を実行しているユーザは、Access-Request パケットを提出する必要があります。RADIUS サーバは、Access-Request パケットを受信した後、応答を返す必要があります。

**Access-Accept** : RADIUS サーバは、Access-Request パケットを受信した後、Access-Request パケット内のすべての属性値が受け入れ可能な場合に、Access-Accept パケットを送信する必要があります。Access-Accept パケットには、クライアントからユーザにサービスを提供するために必要な設定情報が含まれています。

**Access-Reject** : RADIUS サーバは、Access-Request パケットを受信した後、どの属性値も受け入れ可能でなかった場合に、Access-Reject パケットを送信する必要があります。

**Access-Challenge** : RADIUS サーバは、Access-Accept パケットの受信後、応答が必要な Access-Challenge パケットをクライアントに送信できます。クライアントで応答の仕方がわからない場合、または、パケットが無効な場合は、RADIUS サーバがそのパケットを破棄します。クライアントがパケットに応答する場合は、オリジナルの Access-Request パケットと一緒に新しい Access-Request パケットを送信する必要があります。

**Accounting-Request** : クライアントから RADIUS アカウンティング サーバに送信され、アカウンティング情報を提供します。RADIUS サーバが正常に Accounting-Request パケットを記録したら、Accounting-Response パケットを提出する必要があります。

**Accounting-Response** : RADIUS アカウンティング サーバからクライアントに送信され、Accounting-Request が正常に受信および記録されたことが伝えられます。

## RADIUS ファイル

クライアントからサーバに AAA 情報を伝送するためには、RADIUS で使用されるファイルのタイプを理解しておくことが重要です。各ファイルには、ユーザの認証や認可のレベルが定義されています。ディレクトリ ファイルには、ユーザの NAS が実装できる属性が定義され、クライアント ファイルには、RADIUS サーバに要求を行えるユーザが定義され、ユーザ ファイルには、セキュリティおよび構成データに基づいて RADIUS サーバが認証するユーザ要求が定義されます。

### ディレクトリ ファイル

ディレクトリ ファイルには、NAS でサポートされている属性に依存する属性のリストが格納されています。ただし、独自の属性のセットをカスタムソリューション用のディレクトリに追加できます。このファイルでは属性値が定義されるため、構文解析要求などの属性出力を解釈できます。ディレクトリ ファイルには次の情報が含まれています。

- 名前 : User-Name などの属性の ASCII 文字列「名」
- ID : 属性の数値「名」。たとえば、User-Name 属性は属性 1 です。

- 値型：属性は次の値型のいずれかとして指定できます。
  - **abinary**：0～254 オクテット
  - **date**：ビッグエンディアン順の32ビット値。たとえば、1970年1月1日00:00:00 GMT以降の秒数。
  - **ipaddr**：ネットワークバイト順の4オクテット
  - **integer**：ビッグエンディアン順による32ビット値（上位バイトが先頭）
  - **string**：0～253 オクテット

特定の属性のデータ型が整数の場合は、オプションで、整数を拡張して何らかの文字列と一致させることができます。次のサンプル辞書には、整数ベースの属性と対応する値が含まれています。

```
# dictionary sample of integer entry
#
ATTRIBUTE      Service-Type      6              integer
VALUE          Service-Type      Login          1
VALUE          Service-Type      Framed         2
VALUE          Service-Type      Callback-Login 3
VALUE          Service-Type      Callback-Framed 4
VALUE          Service-Type      Outbound       5
VALUE          Service-Type      Administrative 6
VALUE          Service-Type      NAS-Prompt     7
VALUE          Service-Type      Authenticate-Only 8
VALUE          Service-Type      Callback-NAS-Prompt 9
VALUE          Service-Type      Call-Check     10
VALUE          Service-Type      Callback-Administrative 11
```

## クライアントファイル

クライアントファイルには、RADIUS サーバへの認証要求とアカウント要求の送信を許可されたRADIUSクライアントのリストが含まれています。認証を受けるには、クライアントからサーバに送信された名前と認証キーがクライアントファイル内のデータと完全一致する必要があります。

クライアントファイルの例を次に示します。この例に示すキーは、**radius-server keySomeSecret** コマンドと同じにする必要があります。

```
#Client Name      Key
#-----
10.1.1.2.3:256    test
nas01              bananas
nas02              MoNkEys
nas07.foo.com      SomeSecret
```

## ユーザファイル

RADIUS ユーザファイルには、RADIUS サーバが認証するユーザごとのエントリが含まれています。ユーザプロファイルとも呼ばれるエントリごとに、そのユーザがアクセス可能な属性が設定されます。

ユーザプロファイルの最初の行は、常に、「ユーザアクセス」行です。つまり、サーバはユーザにアクセス許可を出す前に、最初の行の属性をチェックする必要があります。最初の行には

ユーザの名前が含まれています。この名前は、最大252文字にすることができ、後ろにユーザのパスワードなどの認証情報が続きます。

ユーザアクセス行に関連付けられたその他の行は、要求元のクライアントまたはサーバに送信される属性応答を表します。応答内で送信される属性は、ディレクトリファイルで定義する必要があります。ユーザファイルを調べるときは、等号 (=) 文字の左側のデータがディレクトリファイルで定義された属性で、等号文字の右側のデータが構成データであることに注意してください。



**Note** 空白行はユーザ プロファイルのどの場所にも挿入できません。

RADIUS ユーザプロファイル (Merit Daemon フォーマット) の例を次に示します。この例では、ユーザ名が `company.com`、パスワードが `user1` で、ユーザは5つのトンネル属性にアクセスできます。

```
# This user profile includes RADIUS tunneling attributes
company.com Password="user1" Service-Type=Outbound
Tunnel-Type = :1:L2TP
Tunnel-Medium-Type = :1:IP
Tunnel-Server-Endpoint = :1:10.0.0.1
Tunnel-Password = :1:"welcome"
Tunnel-Assignment-ID = :1:"nas"
```

## RADIUS IETF 属性



**Note** RADIUS トンネル属性では、L2TP に 32 個のタグ付きトンネルセットがサポートされます。

## サポートされている RADIUS IETF 属性

表 1 に、シスコがサポートしている IETF RADIUS 属性とそれらが実装されている Cisco IOS リリースを示します。属性がセキュリティ サーバ固有の形式の場合は、この形式が指定されません。

リスト内の属性の説明については、表 2 を参照してください。



**Note** 特別な (AA) リリースまたは初期開発 (T) リリースで実装された属性が次のメインラインイメージに追加されています。

Table 91: サポートされている RADIUS IETF 属性

番号	IETF 属性	11.1	11.2	11.3	11.3 AA	11.3T	12.0	12.1	12.2
1	User-Name	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
2	User-Password	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
3	CHAP-Password	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
4	NAS-IP Address	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
5	NAS-Port	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
6	Service-Type	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
7	Framed-Protocol	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
8	Framed-IP-Address	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
9	Framed-IP-Netmask	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
10	Framed-Routing	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
11	Filter-Id	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
12	Framed-MTU	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
13	Framed-Compression	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
14	Login-IP-Host	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
15	Login-Service	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
16	Login-TCP-Port	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
18	Reply-Message	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
19	Callback-Number	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
20	Callback-ID	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
22	Framed-Route	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
23	Framed-IPX-Netmask	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
24	State	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
25	Class	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
26	Vendor-Specific	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり

番号	IETF 属性	11.1	11.2	11.3	11.3 AA	11.3T	12.0	12.1	12.2
27	Session-Timeout	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
28	Idle-Timeout	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
29	Termination-Action	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
30	Called-Station-Id	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
31	Calling-Station-Id	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
32	NAS-Identifier	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
33	Proxy-State	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
34	Login-LAT-Service	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
35	Login-LAT-Node	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
36	Login-LAT-Group	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
37	Framed-AppleTalk-Link	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
38	Framed-AppleTalk-Network	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
39	Framed-AppleTalk-Zone	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
40	Acct-Status-Type	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
41	Acct-Delay-Time	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
42	Acct-Input-Octets	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
43	Acct-Output-Octets	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
44	Acct-Session-Id	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
45	Acct-Authentic	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
46	Acct-Session-Time	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
47	Acct-Input-Packets	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
48	Acct-Output-Packets	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
49	Acct-Terminate-Cause	なし	なし	なし	あり	あり	あり	あり	あり
50	Acct-Multi-Session-Id	なし	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
51	Acct-Link-Count	なし	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり

番号	IETF 属性	11.1	11.2	11.3	11.3 AA	11.3T	12.0	12.1	12.2
52	AuthInputGigawords	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
53	AuthOutputGigawords	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
55	Event-Timestamp	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
60	CHAP-Challenge	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
61	NAS-Port-Type	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
62	Port-Limit	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
63	Login-LAT-Port	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
64	Tunnel-Type <sup>2</sup>	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
65	TunnelMedium-Type 1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
66	TunnelClient-Endpoint	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
67	TunnelServer-Endpoint 1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
68	AuthLimitConstraintID	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
69	Tunnel-Password 1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
70	ARAP-Password	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
71	ARAP-Features	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
72	ARAP-Zone-Access	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
73	ARAP-Security	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
74	ARAP-Security-Data	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
75	Password-Retry	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
76	Prompt	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
77	Connect-Info	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
78	Configuration-Token	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
79	EAP-Message	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
80	Message-Authenticator	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし



番号	IETF 属性	11.1	11.2	11.3	11.3 AA	11.3T	12.0	12.1	12.2
81	Tunnel-Private-Group-ID	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
82	Tunnel-Assignment-ID	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
83	Tunnel-Preference	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
84	ARAP-Change-Response	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
85	Acct-Interim-Interval	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり
86	Acct-Tunnel-Packets-Limit	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
87	NAS-Port-ID	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
88	Framed-Pool	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
90	Tunnel-Client-Auth-ID	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
91	Tunnel-Server-Auth-ID	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
200	EIF-Token-Immediate	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

<sup>2</sup> この RADIUS 属性は、2つのドラフト IETF 文書、RFC 2868 『RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support』と RFC 2867 『RADIUS Accounting Modifications for Tunnel Protocol Support』に基づきます。

<sup>3</sup> この RADIUS 属性は、RFC 2865 および RFC 2868 に基づきます。

## RADIUS 属性解説の包括的リスト

次の表に、IETF RADIUS 属性とその説明を示します。属性がセキュリティ サーバ固有の形式の場合は、この形式が指定されます。

Table 92: RADIUS IETF 属性

番号	IETF 属性	説明
1	User-Name	RADIUS サーバで認証されるユーザの名前を示します。
2	User-Password	Access-Challenge の後に続くユーザのパスワードとユーザ入力を示します。16 文字を超えるパスワードは、RFC 2865 の仕様により暗号化されます。

番号	IETF 属性	説明
3	CHAP-Password	Access-Challenge に対する応答で PPP Challenge Handshake Authentication Protocol (CHAP) ユーザが入力した応答値を示します。
4	NAS-IP Address	認証を要求しているネットワーク アクセスサーバの IP アドレスを示します。デフォルト値は 0.0.0.0/0 です。
5	NAS-Port	<p>ユーザを認証しているネットワーク アクセスサーバの物理ポート番号を示します。NAS-Port 値 (32 ビット) は、1 つまたは 2 つの 16 ビット値 (radius-server extended-portnames コマンドの設定に依存) で構成されます。各 16 ビットの数値は、次のように、解釈用の 5 桁の 10 進整数として表示されるはずですが、</p> <p>非同期端末回線、非同期ネットワーク インターフェイス、および仮想非同期 インターフェイスの場合、この値は <b>00ttt</b> です。ここで、<b>ttt</b> は回線番号または非同期インターフェイスユニット番号です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 通常の同期ネットワーク インターフェイスの場合、この値は <b>10xxx</b> です。</li> <li>• プライマリレート ISDN インターフェイス上のチャネルの場合、この値は <b>2ppcc</b> です。</li> <li>• 基本レート ISDN インターフェイス上のチャネルの場合、この値は <b>3bb0c</b> です。</li> <li>• 他のタイプのインターフェイスの場合、値は <b>6nnss</b> です。</li> </ul>

番号	IETF 属性	説明
6	Service-Type	<p>要求されたサービスのタイプまたは指定されたサービスのタイプを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要求内 :</li> </ul> <p>既知の PPP または Serial Line Internet Protocol (SLIP) 接続の場合にフレーム化。 <b>enable</b> コマンドの場合は Administrative-user。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 応答内 :</li> </ul> <p>Login : 接続を確立します。 Framed : SLIP または PPP を開始します。  Administrative User : EXEC または <b>enable ok</b> を開始します。  Exec User : EXEC セッションを開始します。</p> <p>サービス タイプは、次のような特定の数値で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : Login</li> <li>• 2 : Framed</li> <li>• 3 : Callback-Login</li> <li>• 4 : Callback-Framed</li> <li>• 5 : Outbound</li> <li>• 6 : Administrative</li> <li>• 7 : NAS-Prompt</li> <li>• 8 : Authenticate Only</li> <li>• 9 : Callback-NAS-Prompt</li> </ul>

番号	IETF 属性	説明
7	Framed-Protocol	<p>フレーム化アクセスに使用されるフレーム構成を示します。他のフレーム構成は許可されません。</p> <p>フレーム構成は次のように数値で指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : PPP</li> <li>• 2 : SLIP</li> <li>• 3 : ARA</li> <li>• 4 : Gandalf 独自のシングルリンク/ マルチリンク プロトコル</li> <li>• 5 : Xylogics 独自の IPX/SLIP</li> </ul>
8	Framed-IP-Address	<p>access-request 内でユーザの IP アドレスを RADIUS サーバに送信することによって、ユーザに対して設定する IP アドレスを示します。このコマンドを有効にするには、グローバルコンフィギュレーション モードで <b>radius-server attribute 8 include-in-access-req</b> コマンドを使用します。</p>
9	Framed-IP-Netmask	<p>ユーザがネットワーク上でデバイスを使用している場合に、ユーザに対して設定する IP ネットマスクを示します。この属性値によって、指定されたマスクを使用して Framed-IP-Address にスタティック ルートが追加されることになります。</p>

番号	IETF 属性	説明
10	Framed-Routing	<p>ユーザがネットワーク上でデバイスを使用している場合に、ユーザに対するルーティング方式を示します。この属性に対してサポートされている値は、「None」と「Send and Listen」だけです。</p> <p>ルーティング方式は次のように数値で指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : なし</li> <li>• 1 : ルーティングパケットの送信</li> <li>• 2 : ルーティングパケットのリッスン</li> <li>• 3 : ルーティングパケットの送信とリッスン</li> </ul>
11	Filter-Id	<p>ユーザのフィルタリストの名前を示し、%d、%d.in、または%d.outとしてフォーマットされます。この属性は、最近のサービスタイプコマンドに関連付けられます。ログインとEXECの場合は、0～199の回線アクセスリスト値として%dまたは%d.outを使用します。フレーム化サービスの場合は、インターフェイス出力アクセスリストとして%dまたは%d.outを使用し、入力アクセスリストとして%d.inを使用します。この番号は、参照しているプロトコルに対する自己符号化です。</p>
12	Framed-MTU	<p>最大伝送ユニット (MTU) が PPP でネゴシエートされない場合に、ユーザに対して設定可能な MTU を示します。</p>

番号	IETF 属性	説明
13	Framed-Compression	<p>リンクに使用される圧縮プロトコルを示します。この属性により、EXEC 認可時に生成される PPP または SLIP オートコマンドに「/compress」が追加されます。これは EXEC 認可以外には実装されていません。</p> <p>圧縮プロトコルは次のように数値で指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : なし</li> <li>• 1 : VJ-TCP/IP ヘッダー圧縮</li> <li>• 2 : IPX ヘッダー圧縮</li> </ul>
14	Login-IP-Host	<p>Login-Service 属性が含まれている場合に、ユーザが接続するホストを示します。この動作はログイン直後に開始されます。</p>
15	Login-Service	<p>ユーザをログインホストに接続するために使用すべきサービスを示します。</p> <p>サービスは次のように数値で指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : Telnet</li> <li>• 1 : Rlogin</li> <li>• 2 : TCP-Clear</li> <li>• 3 : PortMaster</li> <li>• 4 : LAT</li> </ul>
16	Login-TCP-Port	<p>Login-Service 属性も存在する場合に、ユーザを接続すべき TCP ポートを定義します。</p>
18	Reply-Message	<p>RADIUS サーバを使用してユーザに表示される可能性のあるテキストを示します。この属性はユーザファイルに含めることができますが、プロファイル当たりの Reply-Message エントリ数を 16 以下にする必要があります。</p>

番号	IETF 属性	説明
19	Callback-Number	コールバックに使用するダイヤリング文字列を定義します。
20	Callback-ID	呼び出される場所の名前、つまり、ネットワーク アクセス サーバによって解釈される場所の名前（1つ以上のオクテットからなる）を定義します。
22	Framed-Route	このネットワーク アクセス サーバ上のユーザに対して設定するルーティング情報を指定します。RADIUS RFC 形式（net/bits [router [metric]]）と従来のドット区切りのマスク（net mask [router [metric]]）がサポートされています。デバース フィールドを省略するか、0にした場合は、ピア IP アドレスが使用されます。現在、メトリックは無視されます。この属性は access-request パケットです。
23	Framed-IPX-Network	ユーザに対して設定される IPX ネットワーク番号を定義します。
24	State	ネットワーク アクセス サーバと RADIUS サーバ間で状態情報の保持を可能にします。この属性は CHAP チャレンジにしか適用できません。
25	Class	（アカウントリング）RADIUS サーバで入力された場合に、このユーザに関するすべてのアカウントリング パケットにネットワーク アクセス サーバで追加される任意の値

番号	IETF 属性	説明
26	Vendor-Specific	<p>ベンダーに一般使用に適さない独自の拡張属性の使用を許可します。シスコの RADIUS 実装は、この仕様で推奨される形式を使用して、1つのベンダー固有オプションをサポートしています。シスコのベンダー ID は 9 であり、サポート対象のオプションはベンダータイプ 1 (名前は「cisco-avpair」) です。値は、次の形式のストリングです。</p> <pre>protocol : attribute sep value</pre> <p>「protocol」は、特定の認可タイプに使用するシスコの「protocol」属性の値です。「attribute」および「value」は、シスコの TACACS+ 仕様で定義されている適切な AV ペアです。「sep」は、必須の属性の場合は「=」、任意指定の属性の場合は「*」です。これにより、TACACS+ 認可で使用できるすべての機能を RADIUS にも使用できるようになります。次に例を示します。</p> <pre>cisco-avpair= "ip:addr-pool=first" cisco-avpair= "shell:priv-lvl=15"</pre> <p>1つめの例は、IP 認可の際 (PPP の IPCP アドレスの割り当て中) にシスコの「Multiple Named ip address Pools」機能を有効化します。2つめの例は、ネットワークアクセスサーバからのユーザログイン直後に EXEC コマンドにアクセスできるようにします。</p> <p>表 1 に、サポートされているベンダー固有 RADIUS 属性 (IETF 属性 26) を示します。</p>
27	Session-Timeout	<p>セッションを終了する前に、ユーザにサービスを提供する最大秒数を設定します。この属性値は、ユーザ単位の絶対タイムアウトになります。</p>



番号	IETF 属性	説明
28	Idle-Timeout	セッションが終了する前にユーザに許可されるアイドル接続の最大秒数を設定します。この属性値は、ユーザ単位のセッションタイムアウトになります。
29	Termination-Action	終了は次のように数値で指定されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : デフォルト</li> <li>• 1 : RADIUS 要求</li> </ul>
30	Called-Station-Id	(アカウントिंग) ネットワーク アクセス サーバから、ユーザが <b>Access-Request</b> パケットの一部として呼び出した電話番号を送信できるようにします (着信番号識別サービス (DNIS) または同様の技術を使用)。この属性は、ISDN と、PRI と一緒に使用された場合の Cisco AS5200 上のモデム コールに対してのみサポートされます。
31	Calling-Station-Id	(アカウントING) ネットワーク アクセス サーバから、コールが <b>Access-Request</b> パケットの一部として発信された電話番号を送信できるようにします (自動番号識別または同様の技術を使用)。この属性の値は、TACACS+ の「remote-addr」の値と同じです。この属性は、ISDN と、PRI と一緒に使用された場合の Cisco AS5200 上のモデム コールに対してのみサポートされます。
32	NAS-Identifier	<b>Access-Request</b> を送信したネットワーク アクセス サーバを識別する文字列。 <b>radius-server attribute 32 include-in-access-req</b> グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、 <b>Access-Request</b> または <b>Accounting-Request</b> 内で RADIUS 属性 32 を送信します。フォーマットが指定されなかった場合は、デフォルトで、完全修飾ドメイン名 (FQDN) が属性内で送信されます。

番号	IETF 属性	説明
33	Proxy-State	Access-Request の転送時にプロキシサーバから別のサーバに送信可能な属性。この属性は、Access-Accept、Access-Reject、または Access-Challenge 内でそのまま返され、ネットワーク アクセス サーバに応答が送信される前にプロキシサーバで削除される必要があります。
34	Login-LAT-Service	ユーザをローカルエリア トランスポート (LAT) で接続すべきシステムを示します。この属性は、EXEC モードでのみ使用できます。
35	Login-LAT-Node	ユーザが LAT で自動的に接続される ノードを示します。
36	Login-LAT-Group	ユーザに使用が認可されている LAT グループ コードを識別します。
37	Framed-AppleTalk-Link	AppleTalk デバイスであるシリアルリンクに使用すべき別の AppleTalk のネットワーク番号を示します。
38	Framed-AppleTalk- Network	ユーザに AppleTalk ノードを割り当てるためにネットワーク アクセス サーバで使用される AppleTalk ネットワーク番号を示します。
39	Framed-AppleTalk-Zone	ユーザに使用すべき AppleTalk デフォルトゾーンを示します。
40	Acct-Status-Type	(アカウントिंग) この Accounting-Request がユーザサービスの始まり (開始) または終わり (終了) をマークするかどうかを示します。
41	Acct-Delay-Time	(アカウントिंग) クライアントが特定のレコードの送信を試みる秒数を示します。
42	Acct-Input-Octets	(アカウントिंग) このサービスの提供中にポートから受信されたオクテット数を示します。

番号	IETF 属性	説明
43	Acct-Output-Octets	(アカウントिंग) このサービスの配信中にポートに送信されたオクテット数を示します。
44	Acct-Session-Id	(アカウントING) ログファイル内の開始レコードと終了レコードのマッチングを容易にする一意のアカウントING識別子。Acct-Session ID の番号は、デバイスの電源を入れ直したり、ソフトウェアをリロードしたりするたびに、1 から再開します。この属性を access-request パケット内で送信するには、グローバル コンフィギュレーション モードで <b>radius-server attribute 44 include-in-access-req</b> コマンドを使用します。
45	Acct-Authentic	(アカウントING) ユーザがどのように認証されたか、RADIUS、ネットワーク アクセス サーバ自体、およびその他のリモート認証プロトコルのどれで認証されたかを示します。この属性は、RADIUS で認証されたユーザの場合は「radius」に、TACACS+ と Kerberos の場合は「remote」に、local、enable、line、および if-needed 方式の場合は「local」に設定されます。その他のすべての方式の場合は、この属性が省略されます。
46	Acct-Session-Time	(アカウントING) ユーザがサービスを受信していた時間 (秒数) を示します。
47	Acct-Input-Packets	(アカウントING) このサービスのフレーム化ユーザへの提供中にポートから受信されたパケット数を示します。
48	Acct-Output-Packets	(アカウントING) このサービスのフレーム化ユーザへの配信中にポートに送信されたパケット数を示します。

番号	IETF 属性	説明
49	Acct-Terminate-Cause	<p>(アカウントティング) 接続が終了した理由の詳細を報告します。終了の理由は次のように数値で指定されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユーザ要求</li> <li>2. 搬送が失われた</li> <li>3. サービスの消失</li> <li>4. アイドル タイムアウト</li> <li>5. セッション タイムアウト</li> <li>6. 管理リセット</li> <li>7. 管理リブート</li> <li>8. ポート エラー</li> <li>9. NAS エラー</li> <li>10. NAS 要求</li> <li>11. NAS リブート</li> <li>12. ポートの不要化</li> <li>13. ポートの横取り</li> <li>14. ポートの保留</li> <li>15. 使用できないサービス</li> <li>16. コールバック</li> <li>17. ユーザー エラー</li> <li>18. ホスト要求</li> </ol> <p><b>Note</b> 属性 49 に関して、シスコは 1～6、8、9、12、および 15～18 の値をサポートしています。</p>

番号	IETF 属性	説明
50	Acct-Multi-Session-Id	(アカウントिंग) ログ ファイル内の複数の関連セッションをリンクするために使用される一意のアカウントング識別子。  マルチリンク セッション内でリンクされたセッションごとに、一意の Acct-Session-Id 値が割り当てられますが、Acct-Multi-Session-Id は共有されません。
51	Acct-Link-Count	(アカウントING) アカウントING レコードが生成された時点で特定のマルチリンク セッション内で認識されていたリンク数を示します。ネットワーク アクセス サーバは、複数のリンクが含まれる任意のアカウントING 要求内にこの属性を追加できます。
52	Acct-Input-Gigawords	サービスの提供中に Acct-Input-Octets カウンタが一周 (2 の 32 乗) した回数を示します。
53	Acct-Output-Gigawords	サービスの配信中に Acct-Output-Octets カウンタが一周 (2 の 32 乗) した回数を示します。

番号	IETF 属性	説明
55	Event-Timestamp	<p>NAS 上でイベントが発生した時刻を記録します。属性 55 内で送信されるタイムスタンプは、1970 年 1 月 1 日 00:00 UTC 以降の秒数です。アカウントングパケット内で RADIUS 属性 55 を送信するには、<b>radius-server attribute 55 include-in-acct-req</b> コマンドを使用します。</p> <p><b>Note</b> アカウントングパケット内で Event-Timestamp 属性を送信するには、ネットワークデバイスのクロックを設定する必要があります（ネットワークデバイスのクロックの設定方法については、ネットワーク管理の設定ガイドの「基本システム管理」の章の「基本システム管理の実行」を参照してください）。ネットワークデバイスがリロードされるたびにネットワークデバイスのクロックを設定するのを避けるには、<b>clock calendar-valid</b> コマンドを有効にします。（このコマンドの詳細については、ネットワーク管理の設定ガイドの「基本システム管理」の章の「時刻およびカレンダーサービスの設定」を参照してください）。</p>
60	CHAP-Challenge	<p>ネットワークアクセスサーバから PPP CHAP ユーザに送信されたチャレンジハンドシェイク認証プロトコルチャレンジが保存されます。</p>

番号	IETF 属性	説明
61	NAS-Port-Type	<p>ユーザを認証するためにネットワークアクセスサーバで使用されている物理ポートのタイプを示します。物理ポートは、次のように数値で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 非同期</li> <li>• 1 : 同期</li> <li>• 2 : ISDN 同期</li> <li>• 3 : ISDN 非同期 (V.120)</li> <li>• 4 : ISDN 非同期 (V.110)</li> <li>• 5 : 仮想</li> </ul>
62	Port-Limit	NAS からユーザに提供される最大ポート数を設定します。
63	Login-LAT-Port	ユーザを LAT で接続すべきポートを定義します。
64	Tunnel-Type <sup>4</sup>	使用されているトンネリングプロトコルを示します。シスコのソフトウェアでは、この属性の値として L2TP がサポートされます。
65	Tunnel-Medium-Type1	トンネルの作成に使用される転送メディアタイプを示します。この属性には、このリリースで使用可能な値 (IP) が 1 つしかありません。この属性に値を設定しなかった場合は、デフォルトとして IP が使用されます。

番号	IETF 属性	説明
66	Tunnel-Client-Endpoint	<p>トンネルの開始側端のアドレスが含まれています。Access-Request と Access-Accept の両方のパケットに含めて、新しいトンネルを開始するアドレスを示すこともできます。</p> <p>Tunnel-Client-Endpoint 属性が Access-Request パケットに含まれている場合、RADIUS サーバはその値を指示として取得する必要があります。この属性は、Accounting-Request パケットに含める必要があります。このパケットには、トンネルが開始されたアドレスを示す場合に Start と Stop のどちらかの値を伴う Acct-Status-Type 属性が含まれています。この属性は、Tunnel-Server-Endpoint 属性や Acct-Tunnel-Connection-ID 属性と一緒に使用して、アカウントリングと監査の目的でトンネルを特定する、グローバルで一意的な手段を提供できます。</p> <p>次のように、この属性の 127.0.0.X の値を受け入れるためにネットワーク アクセスサーバの機能が拡張されています。</p> <p>127.0.0.0 は loopback0 の IP アドレスを使用する必要があることを示し、127.0.0.1 は loopback1 の IP アドレスを使用する必要があることを示します。127.0.0.X は、実際のトンネルクライアントエンドポイントの IP アドレスに loopbackX の IP アドレスを使用する必要があることを示します。この機能拡張によって、複数のネットワーク アクセスサーバ全体のスケーラビリティが向上します。</p>



番号	IETF 属性	説明
67	Tunnel-Server-Endpoint1	トンネルのサーバ端のアドレスを示します。この属性のフォーマットは、Tunnel-Medium-Type の値によって異なります。リリースによっては、トンネルメディアタイプとして IP のみがサポートされ、IP アドレスまたは LNS のホスト名がこの属性に使用できる場合があります。
68	Acct-Tunnel-Connection-ID	トンネルセッションに割り当てられた識別子を示します。この属性は、Start、Stop、または上記のいずれかを値として持つ Acct-Status-Type 属性と一緒に Accounting-Request パケットに含める必要があります。この属性は、Tunnel-Client-Endpoint 属性や Tunnel-Server-Endpoint 属性と一緒に使用して、監査の目的でトンネルセッションを一意に特定する手段を提供できます。
69	Tunnel-Password1	リモートサーバの認証に使用されるパスワードを定義します。この属性は、Tunnel-Type の値 (AAA_ATTR_l2tp_tunnel_pw (L2TP)、AAA_ATTR_nas_password (L2F)、および AAA_ATTR_gw_password (L2F)) に基づいて、さまざまな AAA 属性に変換されます。  デフォルトで、受信されたすべてのパスワードが暗号化されます。そのため、NAS が暗号化されていないパスワードを復号化しようとする、認可エラーが発生する可能性があります。属性 69 を有効にして、暗号化されていないパスワードを受信できるようにするには、グローバル コンフィギュレーションモードで <b>radius-server attribute 69 clear</b> コマンドを使用します。
70	ARAP-Password	AppleTalk Remote Access Control (ARAP) の Framed-Protocol を含む Access-Request パケットを識別します。

番号	IETF 属性	説明
71	ARAP-Features	ARAP feature flags パケットで NAS からユーザに送信する必要があるパスワード情報が含まれています。
72	ARAP-Zone-Access	ユーザの ARAP ゾーン リストの使用方法を示します。
73	ARAP-Security	Access-Challenge パケット内で使用すべき ARAP セキュリティ モジュールを示します。
74	ARAP-Security-Data	Access-Challenge および Access-Request パケットに実際のセキュリティモジュールのチャレンジまたは応答が含まれています。
75	Password-Retry	ユーザが切断されるまでに認証を試みることができる回数を示します。
76	Prompt	ユーザの応答をエコーすべきか否かを NAS に指示します (0 = エコーなし、1 = エコーあり)。
77	Connect-Info	モデム コールに関する追加情報を提供します。この属性は start と stop のアカウント レコード内で生成されます。
78	Configuration-Token	使用するユーザ プロファイルのタイプを示します。この属性は、プロキシに基づく大規模な分散認証ネットワークで使用する必要があります。 Access-Accept 内で RADIUS プロキシ サーバから RADIUS プロキシクライアントに送信されます。NAS には送信しないでください。
79	EAP-Message	Extended Access Protocol (EAP) プロトコルを理解していなくても、NAS で EAP を使用してダイヤルインユーザを認証できるように EAP パケットをカプセル化します。
80	Message-Authenticator	CHAP、ARAP、または EAP 認証方式を使用して Access-Requests のスプーフィングを阻止します。

番号	IETF 属性	説明
81	Tunnel-Private-Group-ID	特定のトンネル化されたセッションのグループ ID を示します。
82	Tunnel-Assignment-ID1	セッションが割り当てられた特定のトンネル イニシエータを示します。
83	Tunnel-Preference	各トンネルに割り当てられた相対優先度を示します。この属性は、RADIUS サーバからトンネルイニシエータに複数のトンネリング属性のセットが返される場合を含める必要があります。
84	ARAP-Challenge-Response	ダイヤルイン クライアントのチャレンジに対する応答が含まれています。
85	Acct-Interim-Interval	この特定のセッションの一時更新間隔を秒数で示します。この値は、Access-Accept メッセージにのみ含めることができます。
86	Acct-Tunnel-Packets-Lost	特定のリンク上で失われたパケット数を示します。この属性は、Tunnel-Link-Stop の値を持つ Acct-Status-Type 属性と一緒に Accounting-Request パケットに含める必要があります。
87	NAS-Port-ID	ユーザを認証している NAS のポートを識別するテキスト文字列が含まれています。
88	Framed-Pool	ユーザにアドレスを割り当てるために使用すべき、割り当て済みのアドレスプールの名前が含まれています。NAS が複数のアドレス プールをサポートしていない場合は、この属性を無視する必要があります。
90	Tunnel-Client-Auth-ID	トンネルセットアップをトンネルターミネータで認証するときに、トンネルイニシエータ (NAS とも呼ばれる) で使用される名前を示します。L2F プロトコルと L2TP プロトコルをサポートします。

番号	IETF 属性	説明
91	Tunnel-Server-Auth-ID	トンネルセットアップをトンネルイニシエータで認証するときに、トンネルターミネータ（ホームゲートウェイとも呼ばれる）で使用される名前を示します。L2FプロトコルとL2TPプロトコルをサポートします。
200	IETF-Token-Immediate	<p>ファイルエントリがハンドヘルドセキュリティカードサーバを示しているログインユーザから受け取ったパスワードを RADIUS でどのように処理するかを決定します。</p> <p>この属性の値は次のように数値で指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : No - パスワードは無視されます。</li> <li>• 1 : Yes - パスワードが認証に使用されます。</li> </ul>

<sup>4</sup> この RADIUS 属性は、2つのドラフト IETF 文書、RFC 2868 『RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support』と RFC 2867 『RADIUS Accounting Modifications for Tunnel Protocol Support』に基づきます。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Master Commands List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2865	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』
RFC 2866	『RADIUS Accounting』
RFC 2867	『RADIUS Accounting Modifications for Tunnel Protocol Support』
RFC 2868	『RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support』
RFC 2869	『RADIUS Extensions』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS 属性の概要と RADIUS IETF 属性の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 93: RADIUS 属性の概要と RADIUS IETF 属性の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS IETF 属性	Cisco IOS Release 11.1	この機能は、Cisco IOS Release 11.1 で導入されました。



# CHAPTER 67

## RADIUS ベンダー固有属性

IETF ドラフト標準には、RADIUS でのネットワーク アクセス サーバと RADIUS サーバ間でベンダー固有情報を通信する方式が規定されています。ただし、ベンダーには固有のアプリケーション向けに拡張した RADIUS 属性セットを持つものがあります。このマニュアルでは、これらベンダー固有 RADIUS 属性の Cisco IOS XE でのサポート情報について記載します。

- サポートされるベンダー固有 RADIUS 属性, on page 807
- ベンダー固有 RADIUS 属性の説明に関する包括的なリスト, on page 813
- RADIUS ベンダー固有属性の機能情報, on page 822

## サポートされるベンダー固有 RADIUS 属性

次の表に、シスコがサポートしているベンダー固有 RADIUS 属性およびこれらを実装している Cisco IOS XE リリースを示します。属性がセキュリティサーバ固有の形式の場合は、この形式が指定されます。それぞれの説明については、ベンダー固有 RADIUS 属性の表を参照してください。

**Table 94:** サポートされるベンダー固有 RADIUS 属性

番号	ベンダー固有属性	IOS XE 2.1
17	Change-Password	あり
21	Password-Expiration	あり
68	Tunnel-ID	あり
108	My-Endpoint-Disc-Alias	なし
109	My-Name-Alias	なし
110	Remote-FW	なし
111	Multicast-GLeave-Delay	なし

番号	ベンダー固有属性	IOS XE 2.1
112	CBCP-Enable	なし
113	CBCP-Mode	なし
114	CBCP-Delay	なし
115	CBCP-Trunk-Group	なし
116	Appletalk-Route	なし
117	Appletalk-Peer-Mode	なし
118	Route-Appletalk	なし
119	FCP-Parameter	なし
120	Modem-PortNo	なし
121	Modem-SlotNo	なし
122	Modem-ShelfNo	なし
123	Call-Attempt-Limit	なし
124	Call-Block-Duration	なし
125	Maximum-Call-Duration	なし
126	Router-Preference	なし
127	Tunneling-Protocol	なし
128	Shared-Profile-Enable	なし
129	Primary-Home-Agent	なし
130	Secondary-Home-Agent	なし
131	Dialout-Allowed	なし
133	BACP-Enable	なし
134	DHCP-Maximum-Leases	なし
135	Primary-DNS-Server	あり
136	Secondary-DNS-Server	あり
137	Ascend-Client-Assign-DNS	なし



番号	ベンダー固有属性	IOS XE 2.1
138	User-Acct-Type	なし
139	User-Acct-Host	なし
140	User-Acct-Port	なし
141	User-Acct-Key	なし
142	User-Acct-Base	なし
143	User-Acct-Time	なし
144	Assign-IP-Client	なし
145	Assign-IP-Server	なし
146	Assign-IP-Global-Pool	なし
147	DHCP-Reply	なし
148	DHCP-Pool-Number	なし
149	Expect-Callback	なし
150	Event-Type	なし
151	Ascend-Session-Svr-Key	あり
152	Ascend-Multicast-Rate-Limit	あり
153	IF-Netmask	なし
154	h323-Remote-Address	なし
155	Ascend-Multicast-Client	あり
156	FR-Circuit-Name	なし
157	FR-LinkUp	なし
158	FR-Nailed-Grp	なし
159	FR-Type	なし
160	FR-Link-Mgt	なし
161	FR-N391	なし
162	FR-DCE-N392	なし

番号	ベンダー固有属性	IOS XE 2.1
163	FR-DTE-N392	なし
164	FR-DCE-N393	なし
165	FR-DTE-N393	なし
166	FR-T391	なし
167	FR-T392	なし
168	Bridge-Address	なし
169	TS-Idle-Limit	なし
170	TS-Idle-Mode	なし
171	DBA-Monitor	なし
172	Base-Channel-Count	なし
173	Minimum-Channels	なし
174	IPX-Route	なし
175	FT1-Caller	なし
176	Ipssec-Backup-Gateway	あり
177	rm-Call-Type	あり
178	Group	なし
179	FR-DLCI	なし
180	FR-Profile-Name	なし
181	Ara-PW	なし
182	IPX-Node-Addr	なし
183	Home-Agent-IP-Addr	なし
184	Home-Agent-Password	なし
185	Home-Network-Name	なし
186	Home-Agent-UDP-Port	なし
187	Multilink-ID	あり

番号	ベンダー固有属性	IOS XE 2.1
188	Ascend-Num-In-Multilink	あり
189	First-Dest	なし
190	Pre-Bytes-In	あり
191	Pre-Bytes-Out	あり
192	Pre-Paks-In	あり
193	Pre-Paks-Out	あり
194	Maximum-Time	あり
195	Disconnect-Cause	あり
196	Connect-Progress	あり
197	Data-Rate	あり
198	PreSession-Time	あり
199	Token-Idle	なし
201	Require-Auth	なし
202	Number-Sessions	なし
203	Authen-Alias	なし
204	Token-Expiry	なし
205	Menu-Selector	なし
206	Menu-Item	なし
207	PW-Warntime	なし
208	PW-Lifetime	あり
209	IP-Direct	あり
210	PPP-VJ-Slot-Compression	あり
211	PPP-VJ-1172	なし
212	PPP-Async-Map	なし
213	Third-Prompt	なし

番号	ベンダー固有属性	IOS XE 2.1
214	Send-Secret	あり
215	Receive-Secret	なし
216	IPX-Peer-Mode	なし
217	IP-Pool	あり
218	Static-Addr-Pool	あり
219	FR-Direct	なし
220	FR-Direct-Profile	なし
221	FR-Direct-DLCI	なし
222	Handle-IPX	なし
223	Netware-Timeout	なし
224	IPX-Alias	なし
225	Metric	なし
226	PRI-Number-Type	なし
227	Dial-Number	あり
228	Route-IP	あり
229	Route-IPX	なし
230	Bridge	なし
231	Send-Auth	あり
232	Send-Passwd	なし
233	Link-Compression	あり
234	Target-Util	あり
235	Maximum-Channels	あり
236	Inc-Channel-Count	なし
237	Dec-Channel-Count	なし
238	Seconds-of-History	なし

番号	ベンダー固有属性	IOS XE 2.1
239	History-Weigh-Type	なし
240	Add-Seconds	なし
241	Remove-Seconds	なし
242	Data-Filter	あり
243	Call-Filter	なし
244	Idle-Limit	あり
245	Preempt-Limit	なし
246	Callback	なし
247	Data-Service	あり
248	Force-56	あり
249	Billing Number	なし
250	Call-By-Call	なし
251	Transit-Number	なし
252	Host-Info	なし
253	PPP-Address	なし
254	MPP-Idle-Percent	なし
255	Xmit-Rate	あり

## ベンダー固有 RADIUS 属性の説明に関する包括的なリスト

次の表に、既知のベンダー固有 RADIUS 属性の一覧と説明を示します。

**Table 95:** ベンダー固有 RADIUS 属性

番号	ベンダー固有属性	説明
17	Change-Password	ユーザのパスワード変更要求を指定します。

番号	ベンダー固有属性	説明
21	Password-Expiration	ユーザのファイル エントリのユーザ パスワードの有効期限を指定します。
68	Tunnel-ID	(Ascend 5) CLID または DNIS トンネリングを使用する各セッションで、RADIUS により割り当てられるストリングを指定します。アカウントングが実装されている場合、この値はアカウントングに使用されます。
108	My-Endpoint-Disc-Alias	(Ascend 5) 説明はありません。
109	My-Name-Alias	(Ascend 5) 説明はありません。
110	Remote-FW	(Ascend 5) 説明はありません。
111	Multicast-GLeave-Delay	(Ascend 5) 説明はありません。
112	CBCP-Enable	(Ascend 5) 説明はありません。
113	CBCP-Mode	(Ascend 5) 説明はありません。
114	CBCP-Delay	(Ascend 5) 説明はありません。
115	CBCP-Trunk-Group	(Ascend 5) 説明はありません。
116	Appletalk-Route	(Ascend 5) 説明はありません。
117	Appletalk-Peer-Mode	(Ascend 5) 説明はありません。
118	Route-Appletalk	(Ascend 5) 説明はありません。
119	FCP-Parameter	(Ascend 5) 説明はありません。
120	Modem-PortNo	(Ascend 5) 説明はありません。
121	Modem-SlotNo	(Ascend 5) 説明はありません。
122	Modem-ShelfNo	(Ascend 5) 説明はありません。
123	Call-Attempt-Limit	(Ascend 5) 説明はありません。
124	Call-Block-Duration	(Ascend 5) 説明はありません。
125	Maximum-Call-Duration	(Ascend 5) 説明はありません。
126	Router-Preference	(Ascend 5) 説明はありません。
127	Tunneling-Protocol	(Ascend 5) 説明はありません。
128	Shared-Profile-Enable	(Ascend 5) 説明はありません。

番号	ベンダー固有属性	説明
129	Primary-Home-Agent	(Ascend 5) 説明はありません。
130	Secondary-Home-Agent	(Ascend 5) 説明はありません。
131	Dialout-Allowed	(Ascend 5) 説明はありません。
133	BACP-Enable	(Ascend 5) 説明はありません。
134	DHCP-Maximum-Leases	(Ascend 5) 説明はありません。
135	Primary-DNS-Server	Microsoft PPP クライアントにより IPCP ネゴシエーション中にネットワーク アクセス サーバから要求される可能性がある、プライマリ DNS サーバを特定します。
136	Secondary-DNS-Server	Microsoft PPP クライアントにより IPCP ネゴシエーション中にネットワーク アクセス サーバから要求される可能性がある、セカンダリ DNS サーバを特定します。
137	Client-Assign-DNS	説明はありません。
138	User-Acct-Type	説明はありません。
139	User-Acct-Host	説明はありません。
140	User-Acct-Port	説明はありません。
141	User-Acct-Key	説明はありません。
142	User-Acct-Base	説明はありません。
143	User-Acct-Time	説明はありません。
144	Assign-IP-Client	説明はありません。
145	Assign-IP-Server	説明はありません。
146	Assign-IP-Global-Pool	説明はありません。
147	DHCP-Reply	説明はありません。
148	DHCP-Pool-Number	説明はありません。
149	Expect-Callback	説明はありません。
150	Event-Type	説明はありません。
151	Session-Svr-Key	説明はありません。
152	Multicast-Rate-Limit	説明はありません。

番号	ベンダー固有属性	説明
153	IF-Netmask	説明はありません。
154	Remote-Addr	説明はありません。
155	Multicast-Client	説明はありません。
156	FR-Circuit-Name	説明はありません。
157	FR-LinkUp	説明はありません。
158	FR-Nailed-Grp	説明はありません。
159	FR-Type	説明はありません。
160	FR-Link-Mgt	説明はありません。
161	FR-N391	説明はありません。
162	FR-DCE-N392	説明はありません。
163	FR-DTE-N392	説明はありません。
164	FR-DCE-N393	説明はありません。
165	FR-DTE-N393	説明はありません。
166	FR-T391	説明はありません。
167	FR-T392	説明はありません。
168	Bridge-Address	説明はありません。
169	TS-Idle-Limit	説明はありません。
170	TS-Idle-Mode	説明はありません。
171	DBA-Monitor	説明はありません。
172	Base-Channel-Count	説明はありません。
173	Minimum-Channels	説明はありません。
174	IPX-Route	説明はありません。
175	FT1-Caller	説明はありません。
176	Backup	説明はありません。
177	Call-Type	説明はありません。



番号	ベンダー固有属性	説明
178	Group	説明はありません。
179	FR-DLCI	説明はありません。
180	FR-Profile-Name	説明はありません。
181	Ara-PW	説明はありません。
182	IPX-Node-Addr	説明はありません。
183	Home-Agent-IP-Addr	Ascend Tunnel Management Protocol (ATMP) を使用する際に、ホームエージェントの IP アドレスをドット付き 10 進表記で示します。
184	Home-Agent-Password	ATMP で、外部のエージェントが自身の認証に使用するパスワードを指定します。
185	Home-Network-Name	ATMP で、ホームエージェントがすべてのパケットを送信する接続プロファイルの名前を示します。
186	Home-Agent-UDP-Port	外部のエージェントが ATMP メッセージをホーム エージェントに送信する際に使用する UDP ポート番号を示します。
187	Multilink-ID	セッションが終了した時のマルチリンク バンドルの ID 番号をレポートします。この属性は、マルチリンクバンドルの一部のセッションに適用されます。Multilink-ID 属性は、認証応答パケットに送信されます。
188	Num-In-Multilink	アカウント終了パケットでレポートされたセッションが終了したときにマルチリンクバンドルに残っているセッション数をレポートします。この属性は、マルチリンクバンドルの一部のセッションに適用されます。Num-In-Multilink 属性は、認証応答パケットと一部のアカウント終了要求パケットで送信されます。
189	First-Dest	認証後最初に受信したパケットの宛先 IP アドレスを記録します。
190	Pre-Bytes-In	認証前の入力バイト数を記録します。Pre-Bytes-In 属性は、アカウント終了記録で送信されます。
191	Pre-Bytes-Out	認証前の出力バイト数を記録します。Pre-Bytes-Out 属性は、アカウント終了記録で送信されます。
192	Pre-Paks-In	認証前の入力パケット数を記録します。Pre-Paks-In 属性は、アカウント終了記録で送信されます。

番号	ベンダー固有属性	説明
193	Pre-Paks-Out	認証前の出力パケット数を記録します。Pre-Paks-Out 属性は、アカウントング終了記録で送信されます。
194	Maximum-Time	任意のセッションで許可される最大時間長を秒で指定します。セッションがこの制限した時間に達すると、接続がドロップします。
195	Disconnect-Cause	接続がオフラインになった理由を特定します。Disconnect-Cause 属性は、アカウントング終了記録で送信されます。また、この属性で、認証が実行される前に接続が切断された場合、最初に開始レコードを生成せずに終了レコードが生成されます。意味の詳細については、ベンダー固有属性 (VSA) および RADIUS Disconnect-Cause 属性値の説明を参照してください。
196	Connect-Progress	接続が切断される前の接続状態を示します。
197	Data-Rate	接続のライフタイムでの平均ビット/秒値を指定します。Data-Rate 属性は、アカウントング終了記録で送信されます。
198	PreSession-Time	コールが最初に接続された時から認証が完了した時までの時間長を秒で指定します。PreSession-Time 属性は、アカウントング終了記録で送信されます。
199	Token-Idle	キャッシュされたトークンが認証間での接続を継続できる最長時間を分で示します。
201	Require-Auth	CLID 認証が行われたクラスで、追加認証が必要かどうかを定義します。
202	Number-Sessions	RADIUS アカウントングサーバにレポートするクラスごとのアクティブセッション数を指定します。
203	Authen-Alias	PPP 認証中の RADIUS サーバのログイン名を定義します。
204	Token-Expiry	キャッシュされたトークンのライフタイムを定義します。
205	Menu-Selector	ユーザにデータの入力を指示するために使用するストリングを定義します。
206	Menu-Item	ユーザプロファイルの単一メニュー項目を指定します。プロファイルごとに最大 20 のメニュー項目を割り当てられます。
207	PW-Warntime	(Ascend 5) 説明はありません。
208	PW-Lifetime	ユーザ単位ベースで、パスワードの有効日数を指定できます。

番号	ベンダー固有属性	説明
209	IP-Direct	この属性をユーザのファイル エントリに含めると、フレーム ルートがルーティングおよびブリッジング テーブルにインストールされます。  <b>Note</b> パケットルーティングは、この新しくインストールした エントリだけではなくテーブル全体に依存しています。この属性を含めても、すべてのパケットが指定の IP アドレスに送信されるとは限りません。したがって、この属性は、完全にサポートされていません。このような属性の制限は、Cisco ルータが内部ルーティングやブリッジング テーブルを一部しかバイパスできず、指定した IP アドレスにパケットを送信できないために起こります。
210	PPP-VJ-Slot-Comp	VJ 圧縮パケットを PPP リンク経由で送信する際に、Cisco ルータでスロット圧縮しないように指示します。
211	PPP-VJ-1172	PPP で、VJ 圧縮に 0x0037 値を使用するように指示します。
212	PPP-Async-Map	Cisco ルータに、PPP セッション用の非同期制御文字マップを提供します。指定した制御文字は、PPP リンク経由でデータとして渡され、リンク上で起動しているアプリケーションで使用されます。
213	Third-Prompt	ユーザ名とパスワードの次の、ユーザが追加で入力する 3 番目のプロンプトを定義します。
214	Send-Secret	アウトダイヤルパスワードの通常のパスワードの代わりに暗号化パスワードを使用できるようにします。
215	Receive-Secret	暗号化パスワードを RADIUS サーバで検証できるようにします。
216	IPX-Peer-Mode	(Ascend 5) 説明はありません。
217	IP-Pool-Definition	アドレスのプールを X.a.b.c.Z の形式で定義します。ここで、X はプールインデックス番号、a.b.c はプールの開始 IP アドレス、Z はプールの IP アドレス数です。たとえば、3 10.0.0.1 5 は、10.0.0.1 から 10.0.0.5 までをダイナミック割り当てに割り当てます。
218	Assign-IP-Pool	ルータに、ユーザおよび IP アドレスを IP プールから割り当てるよう指示します。
219	FR-Direct	フレーム リレー リダイレクト モードで接続プロファイルを処理するかどうかを定義します。

番号	ベンダー固有属性	説明
220	FR-Direct-Profile	この接続をフレームリレースイッチまで伝送するフレームリレープロファイルの名前を定義します。
221	FR-Direct-DLCI	この接続をフレームリレースイッチまで伝送する DLCI を示します。
222	Handle-IPX	NCP のウォッチドッグ要求の処理方法を示します。
223	Netware-Timeout	RADIUS サーバが NCP ウォッチドッグ パケットに応答する時間を分で定義します。
224	IPX-Alias	番号が付いたインターフェイスが必要な IPX ルータでエイリアスを定義できます。
225	Metric	説明はありません。
226	PRI-Number-Type	説明はありません。
227	Dial-Number	ダイヤルする番号を定義します。
228	Route-IP	IP ルーティングがユーザのファイルエントリで許可されているかどうかを示します。
229	Route-IPX	IPX ルーティングをイネーブルにできます。
230	Bridge	説明はありません。
231	Send-Auth	CLID 認証に続く、username-password 認証で使用するプロトコル (PAP または CHAP) を定義します。
232	Send-Passwd	RADIUS サーバで、発信コールの接続のリモートエンドに送信するパスワードを指定できます。
233	Link-Compression	PPP リンクで「stac」圧縮をオンまたはオフのどちらにするかを定義します。 リンク圧縮は、次のように、数値で定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : なし</li> <li>• 1 : Stac</li> <li>• 2 : Stac-Draft-9</li> <li>• 3 : MS-Stac</li> </ul>
234	Target-Util	PPP マルチリンクが定義されている場合に、追加チャンネルを立ち上げる負荷しきい値を割合で指定します。

番号	ベンダー固有属性	説明
235	Maximum-Channels	割り当て済み/割り当て可能な最大チャンネル数を指定します。
236	Inc-Channel-Count	説明はありません。
237	Dec-Channel-Count	説明はありません。
238	Seconds-of-History	説明はありません。
239	History-Weigh-Type	説明はありません。
240	Add-Seconds	説明はありません。
241	Remove-Seconds	説明はありません。
242	Data-Filter	ユーザごとの IP データ フィルタを定義します。これらのフィルタは、コールが RADIUS 発信プロファイルを使用して発信された場合か、RADIUS 着信プロファイルを使用して応答した場合にのみ取得されます。最初に一致したフィルタのエントリが適用されます。したがって、フィルタのエントリの入力順が重要です。
243	Call-Filter	ユーザごとの IP データ フィルタを定義します。Cisco ルータでは、この属性は Data-Filter 属性と同一です。
244	Idle-Limit	セッションがアイドル状態を持続できる最大時間を秒で指定します。セッションがこのアイドル時間に達すると、接続がドロップします。
245	Preempt-Limit	説明はありません。
246	Callback	コールバックをイネーブルまたはディセーブルにできます。
247	Data-Svc	説明はありません。
248	Force-56	チャンネルの 64 K すべてが使用可能に見える場合でも、ネットワーク アクセス サーバが 56 K の部分のみを使用するかどうかを指定します。
249	Billing Number	説明はありません。
250	Call-By-Call	説明はありません。
251	Transit-Number	説明はありません。
252	Host-Info	説明はありません。
253	PPP-Address	PPP IPCP ネゴシエーション中に発信ユニットにレポートされた IP アドレスを示します。

番号	ベンダー固有属性	説明
254	MPP-Idle-Percent	説明はありません。
255	Xmit-Rate	(Ascend 5) 説明はありません。

ベンダー固有 RADIUS 属性の詳細については、「RADIUS の設定」機能モジュールを参照してください。

## RADIUS ベンダー固有属性の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 96: RADIUS ベンダー固有属性の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS ベンダー固有属性	Cisco IOS XE Release 2.1	IETF ドラフト標準には、RADIUS でのネットワーク アクセス サーバと RADIUS サーバ間でベンダー固有情報を通信する方式が規定されています。ただし、ベンダーには固有のアプリケーション向けに拡張した RADIUS 属性セットを持つものがあります。このマニュアルでは、これらベンダー固有 RADIUS 属性の Cisco IOS XE でのサポート情報について記載します。  Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。



## CHAPTER 68

# RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値

インターネット技術特別調査委員会（IETF）ドラフト標準には、ネットワーク アクセス サーバと RADIUS サーバの間でベンダー固有属性（属性 26）を使用してベンダー固有の情報を伝達する方法が規定されています。属性 26 はベンダー固有属性をカプセル化します。このため、ベンダーは一般的な用途に適さない独自の拡張属性をサポートできます。

- [RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値に関する情報, on page 823](#)
- [RADIUS Disconnect-Cause 属性値, on page 829](#)
- [その他の参考資料, on page 831](#)
- [RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値の機能情報, on page 833](#)

## RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値に関する情報

シスコの RADIUS 実装は、この仕様で推奨される形式を使用して、1 つのベンダー固有オプションをサポートしています。シスコのベンダー ID は 9 であり、サポート対象のオプションはベンダータイプ 1（名前は「cisco-avpair」）です。値は、次の形式のストリングです。

```
protocol : attribute sep value *
```

「Protocol」は、特定の認可タイプを表すシスコの「protocol」属性です。使用可能なプロトコルには、IP、IPX、VPDN、VOIP、SHELL、RSVP、SIP、AIRNET、OUTBOUND があります。

「attribute」および「value」は、シスコの TACACS+ 仕様で定義されている適切な属性値（AV）ペアです。「sep」は、必須の属性の場合は「=」、任意指定の属性の場合は「\*」です。これにより、TACACS+ 認可で使用できるすべての機能を RADIUS にも使用できるようになります。

たとえば、次の AV ペアは IP 許可の際（PPP の IPCP アドレス割り当ての際）、シスコの「multiple named ip address pools」機能を起動します。

```
cisco-avpair= "ip:addr-pool=first"
```

「\*」を挿入すると、AV ペア「ip:addr-pool=first」は任意指定になります。AV ペアはオプションにできることに注意してください。

```
cisco-avpair= "ip:addr-pool*first"
```

次に、ネットワーク アクセス サーバからユーザがログインしたときに、すぐに EXEC コマンドを実行する方法の例を示します。

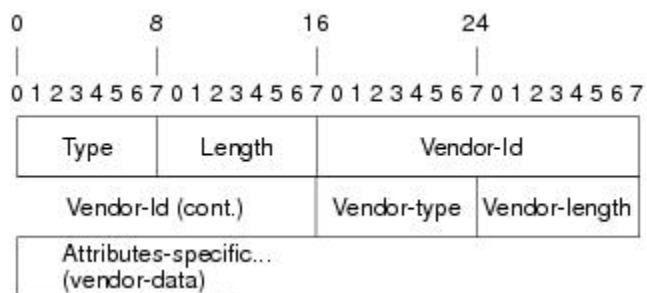
```
cisco-avpair= "shell:priv-lvl=15"
```

属性 26 には、次の 3 つの要素が含まれています。

- タイプ
- 長さ
- 文字列（またはデータ）
  - Vendor-Id
  - Vendor-Type
  - Vendor-Length
  - Vendor-Data

次の図は、属性 26 の「背後で」カプセル化される VSA のパケット形式を示します。

**Figure 11:** 属性 26 の背後でカプセル化される VSA



**Note** VSA の形式はベンダーが指定します。Attribute-Specific フィールド（Vendor-Data と呼ばれる）は、ベンダーによるその属性の定義によって異なります。

次の表に、「ベンダー固有 RADIUS IETF 属性テーブル」（次の 2 番目の表）で表示される重要なフィールドを示します。これは、サポート対象のベンダー固有 RADIUS 属性（IETF 属性 26）を表示します。



Table 97: ベンダー固有属性表のフィールドの説明

フィールド	説明
番号	次の表に示されるすべての属性は、IETF 属性 26 の拡張です。
ベンダー固有のコマンドコード	特定のベンダーの識別に使用する定義されたコード。コード 9 は Cisco VSA、311 は Microsoft VSA、529 は Ascend VSA を定義します。
サブタイプ番号	属性 ID 番号。この番号は、属性 26 の背後でカプセル化される「2 番目のレイヤ」の ID 番号であること以外、IETF 属性の ID 番号に似ています。
属性	属性の ASCII 文字列名。
説明	属性の説明。

Table 98: ベンダー固有 RADIUS IETF 属性

番号	ベンダー固有の企業コード	サブタイプ番号	属性	説明
MS-CHAP 属性				
26	311	1	MSCHAP-Response	PPP MS-CHAP ユーザがチャレンジに対する応答で提供するレスポンス値が含まれます。Access-Request パケットでしか使用されません。この属性は、PPP CHAP ID と同じです (RFC 2548)。
26	311	11	MSCHAP-Challenge	ネットワーク アクセス サーバが MS-CHAP ユーザに送信するチャレンジが含まれます。これは、Access-Request パケットと Access-Challenge パケットの両方で使用できます。(RFC 2548)。
VPDN 属性				
26	9	1	l2tp-busy-disconnect	LNS の vpdn-group で、事前にコピーするよう設定された仮想テンプレートを使用している場合、この属性は、接続先の事前にコピーされたインターフェイスが検索されない、新しい L2TP セッションのディスポジションを制御します。属性が true (デフォルト) の場合、セッションが LNS により切断されます。そうでない場合は、新しいインターフェイスが仮想テンプレートからコピーされます。
26	9	1	l2tp-cm-local-window-size	L2TP 制御メッセージの最大受信ウィンドウ サイズを指定します。この値は、トンネルの確立中にピアにアドバタイズされます。

番号	ベンダー固有の企業コード	サブタイプ番号	属性	説明
26	9	1	l2tp-drop-out-of-order	正しくない順序で受信したデータパケットを破棄して、シーケンス番号を順守します。これは受信した場合の処理方法であって、データパケット上でシーケンス番号が送信されるわけではありません。
26	9	1	l2tp-hello-interval	hello キープアライブ インターバルの秒数を指定します。ここで指定した秒数、トンネルでデータが送信されないと、hello パケットが送信されます。
26	9	1	l2tp-hidden-avp	有効にすると、L2TP 制御メッセージで、大文字小文字を区別する AVP にスクランブルがかけられるか、または非表示になります。
26	9	1	l2tp-nosession-timeout	タイムアウトおよびシャットダウンまでに、セッションなしでトンネルがアクティブのままになる秒数を指定します。
26	9	1	tunnel-tos-reflect	LNS でトンネルに入るパケットに対して、IP ToS フィールドを各ペイロードパケットの IP ヘッダーからトンネルパケットの IP ヘッダーにコピーします。
26	9	1	l2tp-tunnel-authen	この属性を設定すると、L2TP トンネル認証が実行されます。
26	9	1	l2tp-tunnel-password	L2TP トンネル認証および AVP 隠蔽に使用される共有秘密。
26	9	1	l2tp-udp-checksum	これは認可属性で、L2TP がデータパケットに対して UDP チェックサムを実行する必要があるかどうかを定義します。有効な値は「yes」と「no」です。デフォルトは「no」です。
H323 属性				
26	9	23	Remote-Gateway-ID (h323-remote-address)	リモート ゲートウェイの IP アドレスを示します。
26	9	24	Connection-ID (h323-conf-id)	会議 ID を識別します。
26	9	25	Setup-Time (h323-setup-time)	以前、グリニッジ標準時 (GMT) およびズールタイムと呼ばれていた協定世界時 (UTC) でのこの接続のセットアップ時間を示します。

番号	ベンダー固有の企業コード	サブタイプ番号	属性	説明
26	9	26	Call-Origin (h323-call-origin)	ゲートウェイに対するコールの発行元を示します。有効値は、originating および terminating です（回答）。
26	9	27	Call-Type (h323-call-type)	コールのレグタイプを示します。使用可能な値は <b>telephony</b> と <b>VoIP</b> です。
26	9	28	Connect-Time (h323-connect-time)	このコール レッグの UTC での接続時間を示します。
26	9	29	Disconnect-Time (h323-disconnect-time)	このコール レッグが UTC で接続解除された時間を示します。
26	9	30	Disconnect-Cause (h323-disconnect-cause)	Q.931 仕様によって、接続がオフラインにされた理由を示します。
26	9	31	Voice-Quality (h323-voice-quality)	コールの音声品質に影響する Impairment Factor (ICPIF) を指定します。
26	9	33	Gateway-ID (h323-gw-id)	下位のゲートウェイの名前を示します。
大規模のダイヤルアウト属性				
26	9	1	callback-dialstring	コールバックに使用するダイヤリング文字列を定義します。
26	9	1	data-service	説明はありません。
26	9	1	dial-number	ダイヤルする番号を定義します。
26	9	1	force-56	チャンネルの 64 K すべてが使用可能に見える場合でも、ネットワーク アクセス サーバが 56 K の部分のみを使用するかどうかを指定します。
26	9	1	map-class	ユーザプロファイルに、ダイヤルアウトするネットワーク アクセス サーバ上で同じ名前のマップクラスで設定される情報の参照を許可します。
26	9	1	send-auth	CLID 認証に続く、username-password 認証で使用するプロトコル (PAP または CHAP) を定義します。

番号	ベンダー固有の企業コード	サブタイプ番号	属性	説明
その他の属性				
26	9	2	Cisco-NAS-Port	NAS-Port アカウンティングに追加的なベンダー固有属性 (VSA) を指定します。属性値ペア (AVPair) スtring の形式で追加的な NAS-Port 情報を指定するには、 <code>radius-server vsa send</code> グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。  <b>Note</b> この VSA は、通常アカウンティングで使用されますが認証 (Access-Request) パケットで使用される場合もあります。
26	9	1	min-links	MLP に対するリンクの最小数を設定します。
26	9	1	proxyacl#<n>	ダウンロード可能なユーザプロファイル (ダイナミック ACL) を、認証プロキシを使用して設定でき、これにより設定されたインターフェイスのトラフィックの通過を許可するよう、認証を設定できます。
26	9	1	spi	登録中にホーム エージェントがモバイル ノードの認証で必要とする認証情報を伝送します。この情報は、 <code>ip mobile secure host &lt;addr&gt;</code> コンフィギュレーション コマンドと同じ構文です。基本的に、この文字列に続く残りのコンフィギュレーション コマンドはそのまま含まれます。これにはセキュリティ パラメータ インデックス (SPI)、鍵、認証 アルゴリズム、認証モード、およびリプレイ保護タイムスタンプ範囲が含まれています。
26	9	1	client-mac-address	PPPoE クライアントの MAC アドレスが含まれます。  <b>Note</b> この属性は、PPP over Ethernet (PPPoE) または PPP over ATM (PPPoA) にのみ適用できます。

NAS を設定して VSA を認識し使用方法については、「RADIUS の設定」機能モジュールの「ベンダー固有 RADIUS 属性を使用するためのルータの設定」セクションを参照してください。

## RADIUS Disconnect-Cause 属性値

Disconnect-cause 属性値は、接続がオフラインにされた理由を指定します。属性値は、アカウント要求パケットで送信されます。セッションの認証が失敗しても、これらの値は、セッションの終了時に送信されます。セッションが認証されないと、属性が開始レコードを生成せずに終了レコードを発生させる可能性があります。

次の表に、Disconnect-Cause (195) 属性の原因コード、値、および説明を示します。



**Note** Disconnect-Cause は、RADIUS AVPairs で使用されるごとに 1000 ずつ増分されます。たとえば、disc-cause 4 は 1004 になります。

Table 99: Disconnect-Cause 属性値

原因コード	値	説明
2	Unknown	理由は不明。
4	CLID-Authentication-Failure	calling-party 数の認証の失敗。
10	No-Carrier	キャリアが検出されない。 <b>Note</b> 最初のモデム接続中に接続解除があると、コード 10、11、および 12 が送信される場合があります。
11	Lost-Carrier	キャリアの喪失。
12	No-Detected-Result-Codes	モデム結果コード検出の失敗。
20	User-Ends-Session	ユーザがセッションを終了した。 <b>Note</b> コード 20、22、23、24、25、26、27、および 28 は、EXEC セッションに適用されます。
21	Idle-Timeout	ユーザ入力待機中のタイムアウト。 コード 21、100、101、102、および 120 は、すべてのセッションタイプに適用されます。
22	Exit-Telnet-Session	既存の Telnet セッションによる接続解除。
23	No-Remote-IP-Addr	SLIP/PPP への切り替え不能。リモートエンドに IP アドレスがない。
24	Exit-Raw-TCP	既存の raw TCP による接続解除。
25	Password-Fail	間違ったパスワード。

原因コード	値	説明
26	Raw-TCP-Disabled	Raw TCP がディセーブルにされた。
27	Control-C-Detected	Control-C が検出された。
28	EXEC-Process-Destroyed	EXEC プロセスが破棄された。
40	Timeout-PPP-LCP	PPP LCP ネゴシエーションがタイムアウトした。 <b>Note</b> コード 40、41、42、43、44、45、および 46 は、PPP セッションに適用されます。
41	Failed-PPP-LCP-Negotiation	PPP LCP ネゴシエーションが失敗した。
42	Failed-PPP-PAP-Auth-Fail	PPP PAP 認証が失敗した。
43	Failed-PPP-CHAP-Auth	PPP CHAP 認証が失敗した。
44	Failed-PPP-Remote-Auth	PPP リモート認証が失敗した。
45	PPP-Remote-Terminate	PPP がリモート エンドから Terminate Request を受信した。
46	PPP-Closed-Event	上位層がセッションの終了を要求した。
63	PPP-Echo-Replies	TCP 接続が終了した。
100	Session-Timeout	セッションがタイムアウトした。
101	Session-Failed-Security	セキュリティ上の理由から、セッションが失敗した。
102	Session-End-Callback	コールバックにより、セッションが終了した。
120	Invalid-Protocol	検出されたプロトコルがディセーブルにされていたため、コールが拒否された。
600	VPN-User-Disconnect	クライアントによってコールが接続解除された (PPP 経由)。 LNS がクライアントから PPP terminate request を受信するとコードが送信されます。
601	VPN-Carrier-Loss	キャリアの喪失。これは回線が物理的に普通になった結果である場合があります。 クライアントがダイヤラを使用してダイヤルアウトできない場合、コードが送信されます。
602	VPN-No-Resources	コールの処理に使用できるリソースがない。 クライアントがメモリを割り当てるできない場合、コードが送信されます (メモリの不足)。

原因コード	値	説明
603	VPN-Bad-Control-Packet	<p>L2TP または L2F 制御パケットが間違っている。</p> <p>このコードは、必須の属性値ペア (AVP) が欠落しているなど、ピアから受信した制御パケットが無効な場合に送信されます。L2TP を使用すると、コードは6回の再送信後に送信されます。L2F を使用すると、再送信の回数はユーザ設定が可能です。</p> <p><b>Note</b>            トンネルにアクティブなセッションがある場合は、VPN-Tunnel-Shut が送信されます。</p>
604	VPN-Admin-Disconnect	<p>管理上の接続解除。これは、VPN ソフトシャットダウンの結果である場合があります。これは、クライアントが最大セッション制限に達するか、最大ホップカウントを超過した場合に発生します。</p> <p>トンネルが、<b>clear vpdn tunnel</b> コマンドの発行によってダウンした場合に、コードが送信されます。</p>
605	VPN-Tunnel-Shut	<p>トンネルのティアダウン、またはトンネルのセットアップが失敗した。</p> <p>トンネルにアクティブなセッションがあり、トンネルがダウンした場合にコードが送信されます。</p> <p><b>Note</b>            このコードはトンネルの認証が失敗した場合は、送信されません。</p>
606	VPN-Local-Disconnect	<p>LNS PPP モジュールによって、コールが接続解除された。</p> <p>LNS がクライアントに PPP terminate request を送信するとコードが送信されます。これは通常の PPP 接続解除が LNS によって開始されたことを示します。</p>
607	VPN-Session-Limit	<p>VPN ソフト シャットダウンがイネーブルになった。</p> <p>前述したソフト シャットダウンの制約事項のいずれかによってコールが拒否されると、コードが送信されます。</p>
611	VPDN-Tunnel-In-Resync	<p>VPDN トンネルは HA 再同期中です。</p>

## その他の参考資料

ここでは、RADIUS ベンダー固有属性 (VSA) および RADIUS Disconnect-Cause 属性値に関する関連資料について説明します。

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Security Command Reference</a> 』
セキュリティ機能	『 <a href="#">Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2</a> 』
セキュリティ サーバプロトコル	『 <a href="#">Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2</a> 』の「セキュリティ サーバプロトコル」の項
RADIUS Configuration	「RADIUS の設定」機能モジュール。

## 標準

標準	タイトル
インターネット技術特別調査委員会 (IETF) インターネット ドラフト : Network Access Servers Requirements	『 <a href="#">Network Access Servers Requirements: Extended RADIUS Practices</a> 』

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2865	『 <a href="#">Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)</a> 』



## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS ベンダー固有属性および RADIUS Disconnect-Cause 属性値の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 100: RADIUS ベンダー固有属性 (VSA) および RADIUS Disconnect-Cause 属性値の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
VPDN Disconnect Cause のアカウント ティング	Cisco IOS XE Release 2.1	この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに追加されました。

機能名	リリース	機能情報
ベンダー固有の RADIUS 属性	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>このマニュアルは、ネットワーク アクセス サーバと RADIUS サーバの間でベンダー固有属性（属性 26）を使用してベンダー固有の情報を伝達する方法を規定するインターネット技術特別調査委員会（IETF）ドラフト標準を扱います。属性 26 はベンダー固有属性をカプセル化します。このため、ベンダーは一般的な用途に適さない独自の拡張属性をサポートできます。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p>



## CHAPTER 69

# Connect-Info RADIUS 属性 77

Connect-Info RADIUS 属性 77 機能を使用すれば、ネットワーク アクセスサーバ (NAS) から、RADIUS クライアント (ダイヤルイン モデム) に送信される RADIUS アカウンティング 「start」 および 「stop」 レコード内で Connect-Info (属性 77) を報告できます。これらのレコードを使用すれば、送受信の接続速度、変調、および圧縮を比較することによって、接続端 (ネゴシエーション後) での速度がさまざまなダイヤルイン モデム上のユーザ セッションを分析できます。

ネットワーク アクセスサーバ (NAS) からアカウンティング 「start」 および 「stop」 レコード内で属性 77 を送信したときの接続レートをプラットフォーム上で測定できます。「送信」速度 (NAS モデムが情報を送信する速度) と「受信」速度 (NAS が情報を受信する速度) を記録することによって、ユーザ モデム接続でセッションの開始直後に速度を落とすようにネゴシエーションをやり直すかどうかを判断できます。送信速度と受信速度が異なる場合は、属性 77 が両方の速度を報告します。これによって、顧客ごとにセッションからモデム接続速度を取得できます。

属性 77 は、PPPoX などのブロードバンド接続用のクラス文字列、ダイヤルアクセス用の物理接続速度、および **ip vrf forwarding** コマンドで定義されたルータインターフェイス上のセッションに関する VRF 文字列の送信にも使用されます。



**Note** この機能は設定が不要です。

- [Connect-Info RADIUS 属性 77 の前提条件, on page 836](#)
- [Connect-Info RADIUS 属性 77 に関する情報, on page 836](#)
- [Connect-Info RADIUS 属性 77 の確認方法, on page 837](#)
- [Connect-Info RADIUS 属性 77 の設定例, on page 839](#)
- [その他の参考資料, on page 839](#)
- [Connect-Info RADIUS 属性 77 の機能情報, on page 841](#)

## Connect-Info RADIUS 属性 77 の前提条件

リリースおよびプラットフォーム サポートの詳細については、[Connect-Info RADIUS 属性 77 の機能情報, on page 841](#)を参照してください。

NASからアカウントिंग「start」および「stop」レコード内で属性77を送信できるようにするには、次の作業を実行する必要があります。

- NAS を認証、認可、およびアカウントिंग（AAA）用に設定し、着信モデム コールを受け入れるように設定します。
- グローバル コンフィギュレーションモードで **aaa accounting network default start-stop group radius** コマンドを使用して、AAA アカウントिंगを有効にします。
- グローバル コンフィギュレーションモードで **modem link-info poll time** コマンドを使用して、モデムポーリングタイマーを変更します。



**Note** モデム ポーリング タイマーの変更は、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ上で必要です。

## Connect-Info RADIUS 属性 77 に関する情報

設定可能な Connect-Info 属性機能により、RADIUS 属性 77（Connect-Info）のサポートが導入されました。これにより、RADIUS アカウントिंग「start」および「stop」レコードを使用して、モデムダイヤルイン接続の接続速度、変調、圧縮に関する情報が提供されます。

## イーサネット接続での属性 77 のカスタマイズ

イーサネット接続での属性 77 をカスタマイズするには、イーサネット サブインターフェイスに適用されるサービスポリシーの名前として接続情報を入力します。ルータはそのポリシー名を取得して、属性 77 にコピーします。

たとえば、次の設定で、`speed:eth:25100:5100:19/0` という名前のアウトバウンド サービス ポリシーが、QinQ ギガビットイーサネット サブインターフェイス `1/0/0.2696` に適用されます。ルータはそのポリシー名を属性 77 にコピーし、これを `Access-Request`、`Accounting-Start`、または `Accounting-Stop` メッセージで RADIUS サーバに送信します。

```
interface GigabitEthernet1/0/0.2696
encapsulation dot1q 2696 second-dot1q 256
ppoe enable group global
no snmp trap link-status
service-policy input set_precedence_to_0
service-policy output speed:eth:25100:5100:19/0
```

## ATM 接続での属性 77 のカスタマイズ

ATM 接続の属性 77 をカスタマイズするには、次のコンフィギュレーション モードで **aaa connect-info string** コマンドを設定します。

- PVC (特定の PVC の場合)
- PVC 範囲 (一定範囲の PVC の場合)
- PVC-in-range (一定範囲の PVC の特定 PVC の場合)
- VC クラス (特定の **class-vc** コマンドの指定による)

ルータは、**class-vc** コマンドで指定した VC クラスの名前、または **aaa connect-info string** コマンドで指定した文字列を取得して、属性 77 にコピーします。

たとえば、次の設定では、ATMPVC 10/42 と 10/43 の両方で **class-vc** コマンドが設定され、PVC 10/42 で **aaa connect-info** コマンドが設定されます。

```
interface ATM1/0/0.1 multipoint
description TDSL clients - default TDSL 1024 no ip mroute-cache
class-int speed:ubr:1184:160:10
range pvc 10/41 10/160
!
pvc-in-range 10/42
class-vc speed:ubr:2303:224:10
aaa connect-info speed:ubr:2303:224:10:isp-specific-descr
!
pvc-in-range 10/43
class-vc speed:ubr:2303:224:10
```

PVC 10/42 の場合、ルータは、**aaa connect-info** コマンドで指定された文字列 (speed:ubr:2303:224:10:isp-specific-descr) を取得し、属性 77 にコピーします。サブインターフェイスで **aaa connect-info** コマンドが設定されない場合、ルータは **class-vc** コマンドで指定されたクラス名 (speed:ubr:2303:224:10) を取得し、属性 77 にコピーします。

PVC 10/43 の場合、ルータは **class-vc** コマンドで指定されたクラス名 (speed:ubr:2303:224:10) を取得し、属性 77 にコピーします。

## Connect-Info RADIUS 属性 77 の確認方法

### Connect-Info RADIUS 属性 77 の確認

アカウントिंग「start」および「stop」レコード内の属性 77 を確認するには、特権 EXEC モードで **debug radius** コマンドを使用します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug radius**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>debug radius</b> <b>Example:</b> Router# debug radius	RADIUS 関連の情報を表示します。

## 例

次の例は、Connect-Info [77] アカウンティング属性を示しています。

```

Router# debug radius
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS/ENCODE(00007D34):Orig. component type = PPPoE
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: AAA Unsupported Attr: interface [208] 10
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: 30 2F 31 2F 30 2F 39 2E [ 0/1/0/9.]
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: AAA Unsupported Attr: client-mac-address[45] 14
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: 30 30 30 30 2E 63 30 30 31 2E 30 31 [ 0000.c001.01]
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS(00007D34): Config NAS IP: 0.0.0.0
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS/ENCODE(00007D34): acct_session_id: 32042
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS(00007D34): sending
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.3.8.2 for Radius-Server
10.3.1.107
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS(00007D34): Send Access-Request to 10.3.1.107:1645 id 1645/1,
len 116
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: authenticator FC 82 50 DB 65 8F 21 A9 - F3 0A A8 09 29 E5
56 65
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6 PPP [1]
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: User-Name [1] 8 'user1'
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: User-Password [2] 18 *
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: NAS-Port-Type [61] 6 Virtual [5]
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: NAS-Port [5] 6 0
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: NAS-Port-Id [87] 12 ''0/1/0/9.32''
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: Connect-Info [77] 28 ''speed:ubr:3456:448:10/0000''
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: Service-Type [6] 6 Framed [2]
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6 10.3.8.2
Sep 8 21:53:05.242: RADIUS(00007D34): Started 5 sec timeout
Sep 8 21:53:05.244: RADIUS: Received from id 1645/1 10.3.1.107:1645, Access-Accept, len
32
Sep 8 21:53:05.244: RADIUS: authenticator 9A F1 29 01 66 53 17 CB - 73 FB 1B CE 7D 80
04 F2
Sep 8 21:53:05.244: RADIUS: Service-Type [6] 6 Framed [2]
Sep 8 21:53:05.244: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6 PPP [1]
Sep 8 21:53:05.244: RADIUS(00007D34): Received from id 1645/1
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS/ENCODE(00007D34):Orig. component type = PPPoE
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS(00007D34): Config NAS IP: 0.0.0.0
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS(00007D34): sending
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 10.3.8.2 for Radius-Server

```

```

5.3.1.107
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS(00007D34): Send Accounting-Request to 10.3.1.107:1646 id
1646/3, len 126
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: authenticator 71 6E 73 9B FD 7E 82 81 - 10 2A CD 83 A8 BD
D2 F0
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: Acct-Session-Id [44] 10 '00007D2A'
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: Framed-Protocol [7] 6 PPP [1]
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: User-Name [1] 8 'user1'
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: Acct-Authentic [45] 6 RADIUS [1]
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: Acct-Status-Type [40] 6 Start [1]
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: NAS-Port-Type [61] 6 Virtual [5]
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: NAS-Port [5] 6 0
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: NAS-Port-Id [87] 12 '0/1/0/9.32'
Sep 8 21:53:05.248: RADIUS: Connect-Info [77] 28 'speed:ubr:3456:448:10/0000

```

## Connect-Info RADIUS 属性 77 の設定例

### AAA と着信モデム コール用の NAS の設定例

次の例は、AAA と着信モデム コール用の NAS 設定のサンプルです。

```

interface Serial0:15
  no ip address
  isdn switch-type primary-net5
  isdn incoming-voice modem
!
interface Async1
  ip address 192.0.2.2 255.255.255.0
  encapsulation ppp
  async default routing
  async mode interactive
  no peer default ip address
  ppp authentication chap
!
line 1
  modem InOu
  transport preferred none
  transport input all
  autoselect ppp
!

```

## その他の参考資料

次の項で、Connect-Info RADIUS 属性 77 機能に関連する参考資料を紹介します。

#### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IOS ダイアルテクノロジー	『Cisco IOS XE Dial Technologies Configuration Guide, Release 2』
	『Cisco IOS Dial Technologies Command Reference』

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2869	『RADIUS Extensions』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>



## Connect-Info RADIUS 属性 77 の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 101: Connect-Info RADIUS 属性 77 の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
Connect-Info RADIUS 属性 77	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>Connect-Info RADIUS 属性 77 機能を使用すれば、ネットワーク アクセス サーバ (NAS) から、RADIUS クライアント (ダイヤルイン モデム) に送信される RADIUS アカウンティング 「start」 および 「stop」 レコード内で Connect-Info (属性 77) を報告できます。これらの 「start」 および 「stop」 レコードを使用すれば、送受信の接続速度、変調、および圧縮を比較することによって、接続端 (ネゴシエーション後) での速度がさまざまなダイヤルイン モデム上のユーザセッションを分析できます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE リリース 2.1 で、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに導入されました。</p>





## CHAPTER 70

# 暗号化されたベンダー固有属性

暗号化されたベンダー固有属性の機能により、ユーザはRADIUSサーバでフィルタを一元的に管理することができます。また、この機能は次の種類の文字列のベンダー固有属性（VSA）をサポートしています。

- [タグ付きの文字列 VSA, on page 844](#)（この新しいVSA がタグ付きであることを除き、Cisco VSA Type 1（Cisco:AVPair (1)）に類似）
- [暗号化された文字列 VSA, on page 844](#)（この新しいVSA が暗号化されていることを除き、Cisco VSA Type 1 に類似）
- [タグ付きおよび暗号化された文字列 VSA, on page 844](#)（この新しいVSA がタグ付きで、暗号化されていることを除き、Cisco VSA Type 1 に類似）

Cisco:AVPairs では、属性と値のペア（AVP）の文字列の形式で追加の認証情報および認可情報を指定します。Internet Engineering Task Force（IETF）の RADIUS 属性 26（Vendor-Specific）が、ベンダー ID 番号「9」およびベンダータイプ値「1」で転送された場合（Cisco AVPair であることを意味します）、Cisco AVPair の RADIUS ユーザ プロファイルは「Cisco:AVPair = "protocol:attribute=value"」というような形式になります。

- [暗号化されたベンダー固有属性の前提条件, on page 843](#)
- [暗号化されたベンダー固有属性に関する情報, on page 844](#)
- [暗号化されたベンダー固有属性の確認方法, on page 845](#)
- [暗号化されたベンダー固有属性の設定例, on page 845](#)
- [その他の参考資料, on page 846](#)
- [暗号化されたベンダー固有属性の機能情報, on page 847](#)

## 暗号化されたベンダー固有属性の前提条件

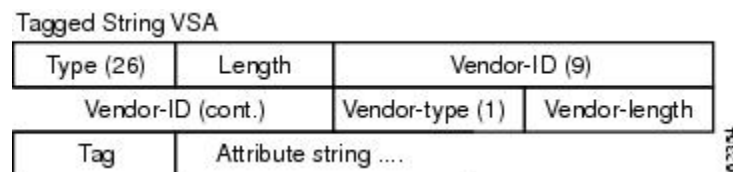
タグ付きで暗号化された VSA を RADIUS サーバが受け付けるようにするためには、AAA 認証および AAA 認可用にサーバを設定し、PPP コールを受け付けるように設定する必要があります。

## 暗号化されたベンダー固有属性に関する情報

### タグ付きの文字列 VSA

次の図は、タグ付きの文字列 VSA のパケット形式を示します。

Figure 12: タグ付きの文字列 VSA の形式

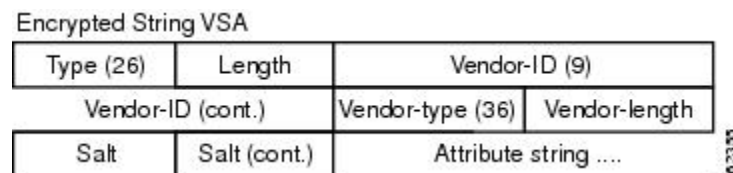


正しい値を取り出すために、Tag フィールドが正しく解析される必要があります。このフィールドの値の範囲はわずか 0x01 ~ 0x1F です。値が指定範囲内でない場合、RADIUS サーバはその値を無視し、Tag フィールドが Attribute String フィールドの一部であると見なします。

### 暗号化された文字列 VSA

次の図は、暗号化された文字列 VSA のパケット形式を示します。

Figure 13: 暗号化された文字列 VSA の形式



Salt フィールドは、VSA の各インスタンスの暗号化に使用される暗号キーの一意性を保証します。Salt フィールドの先頭の最上位ビットは 1 に設定する必要があります。



**Note** Vendor-type (36) は、属性が暗号化された文字列 VSA であることを示しています。

### タグ付きおよび暗号化された文字列 VSA

次の図は、新しくサポートされた各 VSA のパケットの形式を示しています。

Figure 14: タグ付きおよび暗号化された文字列 VSA の形式

Tagged and Encrypted String VSA

Type (26)	Length	Vendor-ID (9)	
Vendor-ID (cont.)		Vendor-type (36)	Vendor-length
*Tag	Salt	Salt (cont.)	Attribute string ....

この VSA は、Tag フィールドが追加されていることを除き、暗号化された文字列 VSA とほぼ同じです。Tag フィールドは、値が有効な範囲内 (0x01 ~ 0x1F) にない場合、Salt フィールドの一部と見なされます。

## 暗号化されたベンダー固有属性の確認方法

暗号化されたベンダー固有属性の機能では、設定は必要ありません。RADIUS のタグ付きおよび暗号化 VSA が RADIUS サーバから送信されていることを検証するために、次のコマンドを特権 EXEC モードで実行します。

コマンド	目的
Router# <b>debug radius</b>	RADIUS 関連の情報を表示します。このコマンドの出力は、タグ付きおよび暗号化 VSA が RADIUS サーバから送信されているかどうかを示しています。

## 暗号化されたベンダー固有属性の設定例

### NAS の設定例

次の例は、タグ付きおよび暗号化 VSA を使用して、基本的な設定のネットワーク アクセスサーバ (NAS) を設定する方法を示しています (この例では、PPP コールの確立に必要な設定がすでにイネーブルになっていると想定されています)。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default group radius
!
radius-server host 10.2.2.2 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server key cisco
```

### タグ付きおよび暗号化 VSA がある RADIUS ユーザ プロファイルの例

次の例は、タグ付きおよび暗号化された文字列 VSA をサポートする RADIUS サーバのユーザ プロファイルの例です。

```
mascot Password = "password1"
```

```
Service-Type = NAS-Prompt,
Framed-Protocol = PPP,
Cisco:Cisco-Enc = "ip:route=10.0.0.0 255.0.0.0"
Cisco.attr Cisco-Enc 36 tag-encstr(*,*)
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』
RADIUS 属性	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』
メディア独立型 PPP およびマルチリンク PPP	「メディア独立型 PPP およびマルチリンク PPP の設定」機能モジュール
認証	「認証の設定」機能モジュール
許可	「認可の設定」機能モジュール

### 標準

標準	タイトル
なし。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

### RFC

RFC	タイトル
RFC 2865	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』
RFC 2868	『RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 暗号化されたベンダー固有属性の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 102: 暗号化されたベンダー固有属性の機能情報

機能名	リリース	機能情報
暗号化されたベンダー固有属性	Cisco IOS XE Release 2.3	<p>暗号化されたベンダー固有属性の機能により、ユーザは RADIUS サーバでフィルタを一元的に管理できます。また、この機能はタグ付き、暗号化、タグ付きおよび暗号化の各文字列ベンダー固有属性 (VSA) をサポートしています。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.3 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p>







## CHAPTER 71

# アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address

アクセス要求内の RADIUS 属性 8 (Framed-IP-Address) 機能は、ネットワーク アクセス サーバ (NAS) から RADIUS サーバに、ユーザ認証に先立って、ユーザ IP アドレスのヒントを提供できるようにします。RADIUS サーバ上で動作するアプリケーションは、このヒントを使用して、ユーザ名とアドレスのテーブル (マップ) を作成できます。マッピング情報を使用して、サービスアプリケーションは、正常なユーザ認証に使用するユーザのログイン情報の準備を開始できます。

- [アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の前提条件, on page 849](#)
- [アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address に関する情報, on page 850](#)
- [アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の設定方法, on page 851](#)
- [アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の設定例, on page 852](#)
- [その他の参考資料, on page 853](#)
- [アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の機能情報, on page 854](#)

## アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の前提条件

RADIUS アクセス要求内で RADIUS 属性 8 を送信する場合は、NAS サーバから IP アドレスを要求するようにログインホストを設定しておく必要があります。また、NAS からの IP アドレスを受け入れるようにログインホストを設定しておく必要もあります。

NAS は、ログインホストをサポートしているインターフェイス上のネットワークアドレスのプールを使用して設定する必要があります。

# アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address に関する情報

## この機能の動作内容

ネットワーク デバイスが RADIUS 認証用に設定された NAS にダイヤルインすると、NAS がユーザ認証に備えて、RADIUS サーバとの通信プロセスを開始します。通常は、ユーザ認証が成功するまで、ダイヤルインホストの IP アドレスが RADIUS サーバに通知されません。RADIUS アクセス要求内でサーバにデバイス IP アドレスを通知すれば、他のアプリケーションがその情報を利用できるようになります。

NAS が RADIUS サーバと通信するようにセットアップされている場合は、NAS が特定のインターフェイス上で設定された IP アドレスのプールからダイヤルインホストに IP アドレスを割り当てます。NAS は、ダイヤルインホストの IP アドレスを属性 8 として RADIUS サーバに送信します。そのとき、NAS は、ユーザ名などの他のユーザ情報も RADIUS サーバに送信します。

RADIUS が NAS からユーザ情報を受信した場合は、次の 2 つの選択肢があります。

- RADIUS サーバ上のユーザプロファイルにすでに属性 8 が含まれていた場合は、RADIUS が NAS から受け取った IP アドレスをユーザプロファイル内で属性 8 として定義された IP アドレスに置き換えます。ユーザプロファイル内で定義されたアドレスが NAS に返されます。
- ユーザプロファイルに属性 8 が含まれていない場合は、RADIUS サーバが、NAS からの属性 8 を受け入れて、そのアドレスを NAS に返すことができます。

RADIUS サーバから返されたアドレスは、セッションが終わるまで、NAS 上のメモリに保存されます。NAS が RADIUS アカウンティング用に設定されている場合は、RADIUS サーバに送信されるアカウンティング開始パケットに属性 8 内のものと同じ IP アドレスが含まれています。以降のすべてのアカウンティングパケット、更新（設定されている場合）、および終了パケットにも、属性 8 で指定されたものと同じ IP アドレスが含まれています。

ただし、RADIUS 属性 8 (Framed-IP-Address) は、次の 2 つの状況ではアカウンティング開始パケットに含まれません。

- ユーザがデュアルスタック (IPv4 または IPv6) サブスクライバである場合。
- IP アドレスがローカルプールからであり、RADIUS サーバからではない場合。

これらの状況では、`aaa accounting delay-start extended-time delay-value` コマンドを使用し、設定した遅延値でインターネットプロトコル制御プロトコルバージョン 6 (IPCPv6) アドレスネゴシエーションを遅延させます。遅延している間は、IPCPv4 アドレスが使用され、フレーム化された IPv4 アドレスがアカウンティング開始パケットに追加されます。

## 利点

アクセス要求機能の RADIUS 属性 8 (Framed-IP-Address) を使用すると、ユーザと IP アドレスのマッピングテーブルを構築する RADIUS サーバで、アプリケーションを実行することができます。この機能により、サーバは、RADIUS サーバでの正常なユーザ認証の前に、カスタマイズしたユーザ ログイン ページの準備といった他のアプリケーションで、マッピング テーブルの情報を使用することができます。

# アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の設定方法

## アクセス要求での RADIUS 属性 8 の設定

アクセス要求内で RADIUS 属性 8 を送信するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius-server attribute 8 include-in-access-req**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius-server attribute 8 include-in-access-req</b> <b>Example:</b> Router(config)# radius-server attribute 8 include-in-access-req	access-request パケット内で RADIUS 属性 8 を送信します。

## アクセス要求内の RADIUS 属性 8 の確認

RADIUS 属性 8 がアクセス要求内で送信されていることを確認するには、次の手順を実行します。属性 8 は、すべての PPP アクセス要求内に存在するはずですが。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `more system:running-config`
3. `debug radius`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>more system:running-config</b> <b>Example:</b> Router# more system:running-config	現在実行されているコンフィギュレーションファイルの内容を表示します(コマンド <b>more system:running-config</b> が <b>show running-config</b> コマンドに置き換えられていることに注意してください)。
ステップ 3	<b>debug radius</b> <b>Example:</b> Router# debug radius	RADIUS 関連の情報を表示します。このコマンドの出力は、属性 8 がアクセス要求内で送信されているかどうかを示しています。

## アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の設定例

### ダイヤルインホストの IP アドレスを送信する NAS の設定例

次の例は、ダイヤルインホストの IP アドレスを RADIUS アクセス要求内で RADIUS サーバに送信する NAS 設定を示しています。NAS は、RADIUS 認証、許可、アカウントिंग (AAA) 用に設定されています。IP アドレスのプール (asyncl-pool) が設定され、インターフェイス virtual-template1 に適用されています。

```
aaa new-model
aaa authentication login default group radius
```

```

aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default group radius
aaa accounting network default start-stop group radius
!
ip address-pool local
!
interface virtual-templatel
 peer default ip address pool async1-pool
!
ip local pool async1-pool 209.165.200.225 209.165.200.229
!
radius-server host 172.31.71.146 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server retransmit 3
radius-server attribute 8 include-in-access-req
radius-server key radhost<xxx>: Example

```

## その他の参考資料

次の項で、アクセス要求内の RADIUS 属性 8 (Framed-IP-Address) に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
認証の設定および RADIUS の設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Configuring User Services, Release 2』の「認証の設定」および「RADIUS の設定」の章。
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2138	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## アクセス要求内の RADIUS 属性 8 Framed-IP-Address の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 103: アクセス要求内の RADIUS 属性 8 (Framed-IP-Address) の機能情報

機能名	リリース	機能情報
アクセス要求内の RADIUS 属性 8 (Framed-IP-Address) (スティッキー IP とも呼ばれます)	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>アクセス要求内の RADIUS 属性 8 (Framed-IP-Address) 機能は、ネットワーク アクセス サーバ (NAS) から RADIUS サーバに、ユーザ 認証に先立って、ユーザ IP アドレスのヒントを提供できるようにします。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>radius-server attribute 8 include-in-access-req.</b></p>







## CHAPTER 72

# RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID

- [RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の前提条件, on page 857](#)
- [RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の制約事項, on page 857](#)
- [RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID に関する情報, on page 857](#)
- [RADIUS 属性 82 が LAC で使用されているかどうかの確認方法, on page 858](#)
- [RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の設定例, on page 858](#)
- [その他の参考資料, on page 860](#)
- [RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の機能情報, on page 862](#)

## RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の前提条件

この機能を使用するには、VPDNをサポートするシスコプラットフォームを使用している必要があります。

## RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の制約事項

この機能は、VPDNダイヤルインアプリケーション専用設計されています。VPDNダイヤルアウトはサポートしていません。

## RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID に関する情報

RADIUS 属性 82：トンネル割り当て ID 機能を使用すれば、レイヤ 2 トランスポートプロトコル アクセス コンセントレータ（LAC）で複数のユーザ単位またはドメイン RADIUS プロファイルからのユーザを同じアクティブトンネルにグループ分けすることができます。RADIUS 属性 82：トンネル割り当て ID 機能は、選択されたエンドポイント、トンネルタイプ、および Tunnel-Assignment-ID が同じ場合に、LAC で複数の RADIUS プロファイルからのユーザを同じトンネルにグループ分けできるようにする新しい avpair の Tunnel-Assignment-ID を定義します。この機能により、新しいソフトウェア機能が導入されました。この機能のために導入されたコマンドはありません。

# RADIUS 属性 82 が LAC で使用されているかどうかの確認方法

RADIUS 属性 82：トンネル割り当て ID 機能に関する設定手順はありません。このタスクは、トンネル認可中に LAC で使用される RADIUS 属性 82 を確認します。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. Router# `debug radius`

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> <code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router# <b>debug radius</b> <b>Example:</b> Router# <code>debug radius</code>	RADIUS 関連の情報を表示します。このコマンドの出力は、属性 82 がアクセス要求内で送信されているかどうかを示します。

## RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の設定例

### LAC の設定例

次の例は、VPDN グループがルータで定義されている場合の LAC の設定を示しています。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default local
aaa authorization network default local
!
```

```
bba-group pppoe bba_group1
virtual-template 1
!
interface Loopback1
no ip address
vpdn-group VPDN_LAC1
request-dialin
protocol l2tp
local name tb162_LAC1
domain ispl.com
initiate-to ip 10.0.0.2
source-ip 10.0.0.1
l2tp tunnel receive-window 100
l2tp tunnel no-session-timeout 30
l2tp tunnel retransmit retries 5
l2tp tunnel retransmit timeout min 2
l2tp tunnel retransmit timeout max 8
l2tp tunnel hello 60
l2tp tunnel password tunnel1
!
!
interface virtual-template 1
no snmp trap link-status
no keepalive
ip unnumbered loopback1
ppp mtu adaptive
ppp authentication pap
no logging event link-status
!
```

次の例は、VPDN グループが RADIUS で定義されている場合の LAC の設定を示しています。

```
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default radius
!
bba-group pppoe bba_group1
virtual-template 1
!
interface Loopback1
no ip address
interface virtual-template 1
no snmp trap link-status
no keepalive
ip unnumbered loopback1
ppp mtu adaptive
ppp authentication pap
no logging event link-status
```

## LNS の設定例

次の例は、LNS 上で VPDN を設定します。

```
hostname lns
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius
aaa authorization network default group radius
vpdn enable
vpdn-group VPDN_LNS1
accept-dialin
protocol l2tp
virtual-template 1
```

```

terminate-from hostname tb162_LAC1
local name LNS1
l2tp tunnel hello 90
l2tp tunnel password 0 hello1
interface Loopback0
 ip address 10.1.1.3 255.255.255.0
interface Virtual-Template1
 ip unnumbered Loopback0
 no keepalive
 peer default ip address pool mypool
 ppp authentication chap
 ip local pool mypool 10.1.1.10 10.1.1.50
 radius-server host lns-radiusd auth-port 1645 acct-port 1646
 radius-server retransmit 3
 radius-server key cisco

```

## RADIUS の設定例

次の例では、トンネルのセッションをグループ化するように RADIUS サーバを設定します。

### ユーザ単位の設定

```

user@router.com Password = "cisco" Service-Type = Outbound,
 Tunnel-Type = :1:L2TP,
 Tunnel-Server-Endpoint = :1:"10.14.10.54",
 Tunnel-Assignment-Id = :1:"router"
client@router.com Password = "cisco" Service-Type = Outbound,
 Tunnel-Type = :1:L2TP,
 Tunnel-Server-Endpoint = :1:"10.14.10.54",
 Tunnel-Assignment-Id = :1:"router"

```

### ドメインの設定

```

eng.router.com Password = "cisco" Service-Type = Outbound,
 Tunnel-Type = :1:L2TP,
 Tunnel-Server-Endpoint = :1:"10.14.10.54",
 Tunnel-Assignment-Id = :1:"router"
sales.router.com Password = "cisco" Service-Type = Outbound,
 Tunnel-Type = :1:L2TP,
 Tunnel-Server-Endpoint = :1:"10.14.10.54",
 Tunnel-Assignment-Id = :1:"router"

```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS トンネル属性拡張に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
認証	「認証の設定」モジュール。
RADIUS 属性	「RADIUS Attributes Overview and RADIUS IETF Attributes」モジュール。

関連項目	マニュアル タイトル
VPDN	『Cisco IOS VPDN Configuration Guide, Release 15.0』。

## 標準

標準	タイトル
なし。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャ セットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2868	『RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS 属性 82 トンネル割り当て ID の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 104: RADIUS 属性 82 : トンネル割り当て ID の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 属性 82 : トンネル割り当て ID	Cisco IOS XE Release 2.1	RADIUS 属性 82 : トンネル割り当て ID 機能を使用すれば、レイヤ 2 トラnsポート プロトコル アクセス コンセントレータ (LAC) で複数のユーザ単位またはドメイン RADIUS プロファイルからのユーザを同じアクティブ トンネルにグループ分けすることができます。  Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータのサポートが追加されました。



## CHAPTER 73

# RADIUS トンネル属性拡張

RADIUS トンネル属性拡張機能は、RADIUS 属性 90 (Tunnel-Client-Auth-ID) と RADIUS 属性 91 (Tunnel-Server-Auth-ID) を導入しています。この両方の属性は、ユーザにネットワーク アクセス サーバ (NAS) と RADIUS サーバの認証名の指定を許可することによって、バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) での強制的トンネリングのプロビジョニングを支援します。

- [前提条件, on page 863](#)
- [機能制限, on page 863](#)
- [RADIUS トンネル属性拡張に関する情報, on page 864](#)
- [RADIUS トンネル属性拡張の設定方法, on page 865](#)
- [RADIUS トンネル属性拡張の設定例, on page 865](#)
- [その他の参考資料, on page 866](#)
- [RADIUS トンネル属性拡張の機能情報, on page 868](#)
- [用語集, on page 868](#)

## 前提条件

RADIUS 属性の 90 と 91 を使用するには、次のタスクを完了する必要があります。

- AAA をサポートするように NAS を設定する。
- RADIUS をサポートするように NAS を設定する。
- VPN をサポートするように NAS を設定する。

## 機能制限

RADIUS トンネル属性の 90 と 91 を使用するには、RADIUS サーバがタグ付き属性をサポートしている必要があります。

# RADIUS トンネル属性拡張に関する情報

## RADIUS トンネル属性拡張の利点

RADIUS トンネル属性拡張の機能により、トンネル イニシエータとトンネル ターミネータの名前が（デフォルト以外で）指定できます。これにより、VPN トンネリングのセットアップ時に、より高度なセキュリティを確立できます。

## RADIUS トンネル属性拡張の説明

NAS と RADIUS サーバ間の通信がセットアップされたら、トンネリング プロトコルを有効にできます。トンネリング プロトコルのアプリケーションの一部は自発的ですが、その他は強制的トンネリングを伴います。つまり、ユーザが何らかの処置や選択をしなくてもトンネルが作成されます。このような場合は、NAS から RADIUS サーバにトンネリング情報を伝送して認証を確立するための新しい RADIUS 属性が必要です。この新しい RADIUS 属性を次の表に示します。



**Note** 強制的トンネリングでは、配備中のセキュリティ対策がトンネルエンドポイント間のトラフィックにのみ適用されます。トンネル化されたトラフィックの暗号化または完全性保護をエンドツーエンドセキュリティの代替手段と見なさないでください。

Table 105: RADIUS トンネル属性

番号	IETF RADIUS トンネル属性	同等の TACACS+ 属性	サポートされているプロトコル	説明
90	Tunnel-Client-Auth-ID	tunnel-id	レイヤ2 トンネリング プロトコル (L2TP)	トンネル ターミネータを使用してトンネル セットアップを認証する際に、トンネル イニシエータ (NAS とも呼ばれます <sup>5</sup> ) によって使用される名前を指定します。
91	Tunnel-Server-Auth-ID	gw-name	レイヤ2 トンネリング プロトコル (L2TP)	トンネル イニシエータを使用してトンネル セットアップを認証する際に、トンネル ターミネータ (ホーム ゲートウェイとも呼ばれます <sup>6</sup> ) によって使用される名前を指定します。

<sup>5</sup> L2TP が使用される場合、NAS は L2TP アクセス コンセントレータ (LAC) とも呼ばれます。

<sup>6</sup> L2TP が使用される場合、ホーム ゲートウェイは L2TP ネットワーク サーバ (LNS) とも呼ばれます。

RADIUS 属性 90 と RADIUS 属性 91 は次のような状況で追加されます。

- RADIUS サーバが要求を受け入れ、必要な認証名がデフォルトと異なる場合



- アカウンティング要求に値が start と stop のどちらかの Acct-Status-Type 属性が含まれ、トンネル化されたセッションが関係している場合

## RADIUS トンネル属性拡張の設定方法

この機能に関連する設定作業はありません。

### RADIUS 属性 90 および RADIUS 属性 91 の確認

RADIUS 属性 90 と RADIUS 属性 91 がアクセス受け入れとアカウンティング要求内で送信されていることを確認するには、EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>debug radius</b>	RADIUS 関連の情報を表示します。このコマンドの出力は、属性 90 と属性 91 のどちらがアクセス受け入れとアカウンティング要求内で送信されているかを示します。

## RADIUS トンネル属性拡張の設定例

### L2TP ネットワーク サーバ設定の例

次の例は、RADIUS トンネリング属性の 90 と 91 を使用した基本的な L2F と L2TP の設定を含む LNS の設定方法を示しています。

```

aaa new-model
aaa authentication login default none
aaa authentication login console none
aaa authentication ppp default local group radius
aaa authorization network default group radius if-authenticated
!
username l2tp-svr-auth-id password 0 l2tp-tnl-pass
!
vpdn enable
vpdn search-order domain
!
vpdn-group 1
accept-dialin
protocol l2tp
virtual-template 1
terminate-from hostname l2tp-cli-auth-id
local name l2tp-svr-auth-id
!
interface loopback0
ip address 10.0.0.3 255.255.255.0
no ip route-cache
no ip mroute-cache
!

```

```

interface Virtual-Template1
ip unnumbered loopback0
ppp authentication pap
!
radius-server host 1.1.1.1 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server key <deleted>
!

```

## RADIUS トンネリング属性の 90 と 91 を含む RADIUS ユーザ プロファイルの例

L2TP トンネル用の RADIUS トンネリング属性の 90 と 91 を含む RADIUS ユーザ プロファイルの例を次に示します。

```

cisco.com Password = "cisco", Service-Type = Outbound
Service-Type = Outbound,
Tunnel-Type = :1:L2TP,
Tunnel-Medium-Type = :1:IP,
Tunnel-Client-Endpoint = :1:"10.0.0.2",
Tunnel-Server-Endpoint = :1:"10.0.0.3",
Tunnel-Client-Auth-Id = :1:"l2tp-cli-auth-id",
Tunnel-Server-Auth-Id = :1:"l2tp-svr-auth-id",
Tunnel-Assignment-Id = :1:"l2tp-assignment-id",
Cisco-Avpair = "vpdn:l2tp-tunnel-password=l2tp-tnl-pass",
Tunnel-Preference = :1:1

```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS トンネル属性拡張の機能に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
認証設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Configuring User Services, Release 2』の「認証の設定」
RADIUS の設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Configuring User Services, Release 2』の「RADIUS の設定」
RADIUS 属性の概要	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Configuring User Services, Release 2』の「RADIUS 属性の概要および RADIUS IETF 属性」。
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2868	『RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS トンネル属性拡張の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 106: RADIUS トンネル属性拡張の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS トンネル属性拡張	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>RADIUS トンネル属性拡張機能は、RADIUS 属性 90 (Tunnel-Client-Auth-ID) と RADIUS 属性 91 (Tunnel-Server-Auth-ID) を導入しています。この両方の属性は、ユーザにネットワーク アクセス サーバ (NAS) と RADIUS サーバの認証名の指定を許可することによって、バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) での強制的トンネリングのプロビジョニングを支援します。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p>

## 用語集

**Layer 2 Tunnel Protocol (L2TP)** : ISP などのアクセスサービスで仮想トンネルを作成し、顧客のリモートサイトやリモートユーザーを企業のホームネットワークにリンクさせることが可能な Layer 2 Tunneling Protocol です。具体的には、ISP アクセス ポイント (POP) にあるネットワーク アクセス サーバ (NAS) がリモート ユーザと PPP メッセージを交換し、L2F または L2TP の要求や応答を使用して顧客のトンネルサーバと通信し、トンネルのセットアップを行います。

**L2TP access concentrator (LAC)** : クライアントが直接接続し、PPP フレームが L2TP ネットワークサーバ (LNS) にトンネリングされるネットワークアクセスサーバ (NAS) です。LAC は、L2TP が 1 つまたは複数の LNS にトラフィックを渡すために操作するメディアのみを実装します。LAC は PPP 内で伝送されるすべてのプロトコルをトンネルすることができます。また、LAC は着信コールを開始して、発信コールを受け取ります。LAC は L2F ネットワークアクセスサーバに似ています。

**L2TP network server (LNS)** : L2TP トンネルの終端点であり、PPP フレームが処理され、上位層プロトコルに渡されるアクセスポイントです。LNS は PPP を終端させる任意のプラットフォーム上で動作できます。LNS はサーバ側の L2TP プロトコルを処理します。L2TP は、L2TP

のトンネルが到達する1つのメディアにのみ依存します。LNSは発信コールを開始して、着信コールを受け取ります。LNSはL2Fテクノロジーのホームゲートウェイに似ています。

**network access server (NAS)** : パケットの世界（インターネットなど）と回線交換の世界（PSTNなど）をインターフェイスする、CiscoプラットフォームまたはAccessPathシステムなどのプラットフォームの集合。

トンネル : L2TPアクセスコンセントレータ（LAC）とL2TPネットワークサーバ（LNS）間で複数のPPPセッションを伝送可能な仮想パイプ。

バーチャルプライベートネットワーク（VPN） : リモートでダイヤルインネットワークをホームネットワークに存在させ、あたかも直接接続されているかのように見せるシステム。VPNは、L2TPとL2Fを使用して、L2TPアクセスコンセントレータ（LAC）の代わりに、L2TPネットワークサーバ（LNS）でネットワーク接続のレイヤ2と上位層を終端させます。





## CHAPTER 74

# RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張

RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張機能を使用すれば、ネットワークアクセスサーバ (NAS) の IP アドレスではなく、NAS のホスト名を RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) に指定できます。この機能は、ユーザが数字の IP アドレスよりも覚えやすいホスト名を使用できるようにするとともに、NAS の IP アドレス の隠ぺいを支援します。

- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の前提条件, on page 871](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の制約事項, on page 871](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張に関する情報, on page 872](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定方法, on page 872](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定例, on page 872](#)
- [その他の参考資料, on page 873](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の機能情報, on page 874](#)
- [用語集, on page 875](#)

## RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の前提条件

VPDN をサポートするシスコプラットフォームが必要です。VPDN の詳細については、[用語集, on page 875](#)を参照してください。

## RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の制約事項

シスコ デバイスでは、バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク (VPDN) をサポートするシスコのソフトウェア イメージを実行する必要があります。

# RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張に関する情報

## RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の使用方法

バーチャルプライベートネットワーク (VPN) は、レイヤ2フォワーディング (L2F) または Layer 2 Tunnel Protocol (L2TP) トンネルを使用して、上位層プロトコルのリンク レイヤ (たとえば、PPP、非同期ハイレベルデータリンクコントロール (HDLC) など) をトンネルします。インターネットサービスプロバイダー (ISP) は、ユーザからのコールを受信して、それを顧客のトンネルサーバに転送するよう NAS を設定します。通常、ISP はトンネルサーバ (トンネルエンドポイント) に関する情報だけを保持します。顧客では、トンネルサーバユーザの IP アドレス、ルーティング、その他のユーザ データベース機能が保持されます。RADIUS 属性 66 は、顧客が NAS の IP アドレスの代わりにホスト名を指定できるようにします。



**Note** L2F は Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータではサポートされません。

## RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定方法

RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張のサポートに関連する設定作業はありません。

## RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定例

### RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張用の RADIUS プロファイルの設定

次の例は、RADIUS プロファイルの RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) を使用して、ユーザが NAS のホスト名を指定できるようにするための設定方法を示しています。

```
cisco-avpair = vpdn:l2tp-cm-local-window-size=1024
cisco-avpair = vpdn:l2tp-nosession-timeout=30
cisco-avpair = vpdn:l2tp-cm-retransmit-retries=10
cisco-avpair = vpdn:l2tp-cm-min-timeout=2
cisco-avpair = vpdn:l2tp-hello-interval=60
Service-Type = outbound
Tunnel-Assignment-Id_tag1 = ISP1
Tunnel-Client-Auth-Id_tag1 = LAC1
Tunnel-Client-Endpoint_tag1 = 10.0.0.2
Tunnel-Medium-Type_tag1 = IPv4
Tunnel-Password_tag1 = tunnell1
Tunnel-Server-Auth-Id_tag1 = LNS1
Tunnel-Server-Endpoint_tag1 = 10.0.0.1
Tunnel-Type_tag1 = l2tp
```



## その他の参考資料

次の項で、RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張の機能に関する参考資料を紹介し  
ます。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
RADIUS 属性 66	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Configuring User Services, Release 2』
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

### RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 107: RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張	Cisco IOS XE Release 2.1  Cisco IOS XE Release 2.3  Cisco IOS XE Release 3.9S	RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張機能を使用すれば、ネットワークアクセスサーバ (NAS) の IP アドレスではなく、NAS のホスト名を RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) に指定できます。この機能は、ユーザが数字の IP アドレスよりも覚えやすいホスト名を使用できるようにするとともに、NAS の IP アドレス の隠ぺいを支援します。  Cisco IOS XE Release 2.3 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。

## 用語集

**L2F** : レイヤ 2 フォワーディング プロトコル。インターネットでの安全なバーチャルプライベートダイヤルアップネットワークの作成をサポートするプロトコルです。

**L2TP** : Layer 2 Tunnel Protocol。ダイヤルアクセス領域におけるバーチャルプライベートネットワークの主要な構成要素の 1 つであり、シスコおよびその他のインターネットワーキング業界のリーダーにより支持されているプロトコルです。このプロトコルは、シスコの L2F プロトコルと Microsoft 社のポイントツーポイントトンネリングプロトコル (PPTP) のいいところを組み合わせたものです。

レイヤ 2 フォワーディング プロトコル : L2F を参照。

Layer 2 Tunnel Protocol : L2TP を参照。

ポイントツーポイントプロトコル : PPP を参照。

**PPP** : ポイントツーポイントプロトコル。同期回線と非同期回線上でルータ間接続とホスト/ネットワーク間接続を提供する SLIP の代替プロトコル。SLIP は IP と連動するように設計されているのに対して、PPP は IP、IPX、ARA などの複数のネットワーク層プロトコルと連動するように設計されています。PPP には、CHAP および PAP などの組み込みのセキュリティメカニズムもあります。PPP は LCP と NCP の 2 つのプロトコルに依存します。

**RADIUS** : Remote Authentication Dial-In User Service。モデムおよび ISDN 接続の認証、および接続のトラッキングのためのデータベースです。

Remote Authentication Dial-In User Service : RADIUS を参照。

バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク : VPDN を参照。

**VPDN** : バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク。リモートでダイヤルインネットワークをホームネットワークに存在させ、あたかも直接接続されているかのように見せるシ

システム。VPDN は、L2TP と L2F を使用して、L2TP アクセス コンセントレータ (LAC) ではなく、L2TP ネットワーク サーバ (LNS) で、レイヤ 2 と上位のネットワーク接続部分を終端します。



## CHAPTER 75

# RADIUS 属性値スクリーニング

RADIUS 属性値スクリーニング機能を使用すれば、認可やアカウントリングなどの目的で、ネットワーク アクセス サーバ (NAS) 上の「許可」または「拒否」RADIUS 属性のリストを設定できます。

NAS が Access-Accept パケットで受信したすべての RADIUS 属性を受け入れて処理する場合は、不必要な属性を処理する可能性があり、顧客の認証、認可、およびアカウントリング (AAA) サーバを制御しないホールセール プロバイダーの場合に問題が発生します。たとえば、顧客が加入していないサービスを指定する属性が存在したり、他のホールセールダイアルユーザ向けのサービスを低下させる属性が存在したりする場合です。そのため、特定の属性の使用を制限するように NAS を設定できることが、多くのユーザの要件になります。

RADIUS 属性値スクリーニング機能を実装するには、次の方法のいずれかを使用する必要があります。

- NAS が、特定の目的で、設定された拒否リストに登録されたものを除く、すべての標準 RADIUS 属性を受け入れて、処理できるようにする
- NAS が、特定の目的で、設定された許可リストに登録されたものを除く、すべての標準 RADIUS 属性を拒否 (除外) できるようにする
- [RADIUS 属性値スクリーニングの前提条件, on page 877](#)
- [RADIUS 属性値スクリーニングの制約事項, on page 878](#)
- [RADIUS 属性値スクリーニングに関する情報, on page 878](#)
- [RADIUS 属性のスクリーン方法, on page 879](#)
- [RADIUS 属性値スクリーニングの設定例, on page 881](#)
- [その他の参考資料, on page 882](#)
- [RADIUS 属性値スクリーニングの機能情報, on page 884](#)

## RADIUS 属性値スクリーニングの前提条件

RADIUS の許可リストおよび拒否リストを設定する前に、AAA を有効にする必要があります。

# RADIUS 属性値スクリーニングの制約事項

## NAS の要件

この機能を有効にするには、RADIUS グループを使用して認可するように NAS を設定する必要があります。

## 許可リストまたは拒否リストの制約事項

許可リストまたは拒否リストの設定に使用される 2 つのフィルタは相互排他的です。そのため、ユーザはサーバグループの目的ごとに、1 つのアクセスリストか、1 つの拒否リストしか設定できません。

## ベンダー固有属性

この機能は、ベンダー固有属性 (VSA) スクリーニングをサポートしていません。ただし、ユーザは、すべての VSA を許可または拒否する許可リストまたは拒否リスト内で属性 26 (Vendor-Specific) を指定できます。

## 必須属性スクリーニングの推奨事項

次の必須属性は、拒否しないことを推奨します。

- 認可用：
  - 6 (Service-Type)
  - 7 (Framed-Protocol)
- アカウンティング用：
  - 4 (NAS-IP-Address)
  - 40 (Acct-Status-Type)
  - 41 (Acct-Delay-Time)
  - 44 (Acct-Session-ID)

属性が必須の場合は、拒否が無視され、属性のパススルーが許可されます。



**Note** 必須属性の拒否リストを設定してもエラーにはなりません。これは、リストでは目的（認可またはアカウンティング）が指定されないためです。サーバが、属性の使用目的を認識したときに、その属性が必須かどうかを判断します。

# RADIUS 属性値スクリーニングに関する情報

RADIUS 属性値スクリーニング機能は、次のようなメリットを提供します。

- ユーザは、NAS上で特定の目的の属性を選択して許可リストまたは拒否リストを設定できるため、不必要な属性が受け入れられ、処理されることがなくなります。
- 関連するアカウント属性だけの許可リストを設定することによって、不必要なトラフィックを削減し、アカウントデータのカスタマイズを可能にすることができます。

## RADIUS 属性のスクリーン方法

### RADIUS 属性値スクリーニングの設定

RADIUS 属性の許可リストまたは拒否リストを認可またはアカウント用設定するには、次のコマンドを使用します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. Router(config)# **aaa authentication ppp default**
4. Router(config)# **aaa authorization network default group group-name**
5. Router(config)# **aaa group server radius group-name**
6. Router(config-sg-radius)# **server ip-address**
7. Router(config-sg-radius)# **authorization [accept | reject] listname**
8. Router(config-sg-radius)# **exit**
9. Router(config)# **radius-server host {hostname | ip-address} [key string**
10. Router(config)# **radius-server attribute list listname**
11. Router(config-sg-radius)# **attribute value1 [value2 [value3... ]]**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	Router(config)# <b>aaa authentication ppp default</b>  <b>Example:</b>  <b>group</b> <i>group-name</i>	PPP を実行しているシリアルインターフェイス上で使用する 1 つまたは複数の AAA 認証方式を指定します。
ステップ 4	Router(config)# <b>aaa authorization network default</b> <b>group</b> <i>group-name</i>	ユーザのネットワークアクセスを制限するパラメータを設定します。
ステップ 5	Router(config)# <b>aaa group server radius</b> <i>group-name</i>	複数の RADIUS サーバホストを別々のリストと別々の方式にグループ分けします。
ステップ 6	Router(config-sg-radius)# <b>server</b> <i>ip-address</i>	グループサーバ用の RADIUS サーバの IP アドレスを設定します。
ステップ 7	Router(config-sg-radius)# <b>authorization [accept   reject]</b> <i>listname</i>  <b>Example:</b>  and/or  <b>Example:</b>  Router(config-sg-radius)# <b>accounting [accept   reject]</b> <i>listname</i>	RADIUS サーバから Access-Accept パケット内で返す属性用のフィルタを指定します。  および/または  アカウントリング要求内で RADIUS サーバに送信すべき属性用のフィルタを指定します。  <b>Note</b> <b>accept</b> キーワードは、 <i>listname</i> で指定された属性を除く、すべての属性が拒否されることを意味します。 <b>reject</b> キーワードは、 <i>listname</i> で指定された属性とすべての標準属性を除く、すべての属性が許可されることを意味します。
ステップ 8	Router(config-sg-radius)# <b>exit</b>	server-group コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 9	Router(config)# <b>radius-server host</b> { <i>hostname</i>   <i>ip-address</i> } [ <b>key string</b> ]	RADIUS サーバホストを指定します。
ステップ 10	Router(config)# <b>radius-server attribute list</b> <i>listname</i>	<b>attribute</b> コマンドで定義された一連の属性に指定されたリスト名を定義します。  <b>Note</b> <i>listname</i> はステップ 5 で定義した <i>listname</i> と同じにする必要があります。
ステップ 11	Router(config-sg-radius)# <b>attribute</b> <i>value1</i> [ <i>value2</i> [ <i>value3</i> ... ]]	設定した許可リストまたは拒否リストに属性を追加します。  <b>Note</b> このコマンドは、許可リストまたは拒否リストに属性を追加するために何回も使用できます。



## RADIUS 属性値スクリーニングの確認

許可リストまたは拒否リストを確認するには、特権 EXEC モードで次のコマンドのいずれかを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>debug aaa accounting</b>	説明の義務があるイベントが発生したときに、その情報を表示します。
Router# <b>debug aaa authentication</b>	AAA 認証に関する情報を表示します。
Router# <b>show radius statistics</b>	アカウントングパケットと認証パケットについての RADIUS 統計情報を示します。

## RADIUS 属性値スクリーニングの設定例

### 認可許可の例

次の例は、属性 6 (Service-Type) と属性 7 (Framed-Protocol) 用の許可リストの設定方法を示しています。他のすべての属性 (VSA を含む) は RADIUS 認可に対して拒否されます。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius-sg
aaa authorization network default group radius-sg
aaa group server radius radius-sg
server 10.1.1.1
authorization accept min-author
!
radius-server host 10.1.1.1 key mykey1
radius-server attribute list min-author
attribute 6-7
```

### アカウントング拒否の例

次の例は、属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) と属性 67 (Tunnel-Server-Endpoint) 用の拒否リストの設定方法を示しています。他のすべての属性 (VSA を含む) は RADIUS アカウントングに対して受け入れられます。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius-sg
aaa authorization network default group radius-sg
aaa group server radius radius-sg
server 10.1.1.1
accounting reject tnl-x-endpoint
!
radius-server host 10.1.1.1 key mykey1
```

```
radius-server attribute list tnl-x-endpoint
attribute 66-67
```

## 認可拒否とアカウントング許可の例

次の例は、RADIUS 認可用の拒否リストと RADIUS アカウントング用の許可リストの設定方法を示しています。認可またはアカウントングのサーバグループごとに複数の許可リストまたは拒否リストを設定できませんが、サーバグループごとに認可用のリストとアカウントング用のリストを1つずつ設定できます。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default group radius-sg
aaa authorization network default group radius-sg
aaa group server radius radius-sg
server 10.1.1.1
authorization reject bad-author
accounting accept usage-only
!
radius-server host 10.1.1.1 key mykey1
radius-server attribute list usage-only
attribute 1,40,42-43,46
!
radius-server attribute list bad-author
attribute 22,27-28,56-59
```

## 必須属性の拒否の例

次に、**debug aaa accounting** コマンドを使用した場合のデバッグ出力の例を示します。この例では、必須属性の 44、40、および 41 が拒否リストの「standard」に追加されています。

```
Router# debug aaa authorization
AAA/ACCT(6): Accounting method=radius-sg (radius)
RADIUS: attribute 44 cannot be rejected
RADIUS: attribute 61 rejected
RADIUS: attribute 31 rejected
RADIUS: attribute 40 cannot be rejected
RADIUS: attribute 41 cannot be rejected
```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS 属性値スクリーニング機能に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
RADIUS	「RADIUS の設定」機能モジュール。
その他のセキュリティ機能	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2』

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS 属性値スクリーニングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 108: RADIUS 属性値スクリーニングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 属性値スクリーニング	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>RADIUS 属性値スクリーニング機能を使用すれば、認可やアカウントリングなどの目的で、ネットワーク アクセスサーバ (NAS) 上の「許可」または「拒否」RADIUS 属性のリストを設定できます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE リリース 2.1 で Cisco ASR 1000 シリーズアグリゲーションサービスルータに導入されました。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。<b>accounting (server-group), authorization (server-group), attribute (server-group), radius-server attribute list</b></p>



## CHAPTER 76

# RADIUS 属性 55 Event-Timestamp

RADIUS 属性 55 Event-Timestamp 機能により、ネットワーク アクセス サーバ (NAS) は、Network Time Protocol (NTP) 同期が行われているまたは行われていない RADIUS サーバに送信されるアカウントingおよび認証パケットに、イベントタイムスタンプ属性を挿入できます。

- [RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の前提条件, on page 885](#)
- [RADIUS 属性 55 Event-Timestamp に関する情報, on page 885](#)
- [RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の設定方法 \(886 ページ\)](#)
- [RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の設定例 \(890 ページ\)](#)
- [RADIUS 属性 55 Event-Timestamp に関するその他の参考資料, on page 890](#)
- [RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の機能情報, on page 891](#)

## RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の前提条件

アカウントingおよび認証要求パケット内で Event-Timestamp 属性を送信するには、ネットワーク デバイスのクロックを設定する必要があります。ネットワーク デバイスのクロックの設定方法については、ネットワーク管理の設定ガイドの「基本システム管理」の章の「基本システム管理の実行」を参照してください。

ネットワークデバイスがリロードされるたびにネットワークデバイスのクロックを設定するのを避けるには、**clock calendar-valid** コマンドを有効にします。このコマンドの詳細については、ネットワーク管理の設定ガイドの「基本システム管理」の章の「時刻およびカレンダーサービスの設定」を参照してください。

## RADIUS 属性 55 Event-Timestamp に関する情報

ネットワーク デバイスが RADIUS 認証用に設定されたネットワーク アクセス サーバ (NAS) にダイヤルインすると、NAS がユーザ認証に備えて、RADIUS サーバとの通信プロセスを開始します。通常、RADIUS 属性 55 (Event-Timestamp) は、Network Time Protocol (NTP) の同期が正常に完了するまで、RADIUS サーバに送信されません。この機能により、NTP が同期して

いない場合でも、NAS はアカウントिंगおよび認証要求パケットに Event-Timestamp 属性を挿入できます。

Event-Timestamp 属性は、NAS で発生したイベントの発生時刻を記録します。このタイムスタンプは RADIUS 属性 55 内で、1970 年 1 月 1 日 00:00 UTC 以降の秒数で送信されます。

Event-Timestamp 属性は、セッションが終わるまで NAS 上のメモリに保存されます。RADIUS アカウントिंगおよび認証開始パケットと、それに続くすべてのアカウントिंगおよび認証パケット、更新（設定されている場合）、停止パケットもまた、最初のパケットが送信された時刻を表す同じ RADIUS 属性 55 Event-Timestamp を含んでいます。

## RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の設定方法

### RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の設定

アカウントINGおよび認証要求内で RADIUS 属性 55 を送信するには、次の作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authentication ppp default group radius**
5. **aaa accounting network default start-stop group radius**
6. **radius-server host ip-address**
7. **radius-server attribute 55 include-in-acct-req**
8. **radius-server attribute 55 access-req include**
9. **exit**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b>  Device(config)# aaa new-model	認証、許可、アカウントिंग (AAA) をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>aaa authentication ppp default group radius</b> <b>Example:</b>  Device(config)# aaa authentication ppp default group radius	認証用のすべての RADIUS サーバのリストを利用して PPP を実行するシリアルインターフェイスで使用する、1 つ以上の AAA 方式を指定します。
ステップ 5	<b>aaa accounting network default start-stop group radius</b> <b>Example:</b>  Device(config)# aaa accounting network default start-stop group radius	ネットワーク アカウンティングを有効にして、RADIUS アカウンティングの方式リスト用の開始アカウンティングおよび停止アカウンティングの通知を RADIUS サーバに送信します。
ステップ 6	<b>radius-server host ip-address</b> <b>Example:</b>  Device(config)# radius-server host 192.0.2.3	RADIUS サーバホストの IP アドレスを指定します。
ステップ 7	<b>radius-server attribute 55 include-in-acct-req</b> <b>Example:</b>  Device(config)# radius-server attribute 55 include-in-acct-req	account-request パケット内で RADIUS 属性 55 を送信します。
ステップ 8	<b>radius-server attribute 55 access-req include</b> <b>Example:</b>  Device(config)# radius-server attribute 55 access-req include	access-request パケット内で RADIUS 属性 55 を送信します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

## RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の確認

アカウントングおよび認証パケット内で RADIUS 属性 55 が送信されていることを確認するには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable

2. **show running-config**
3. **debug radius**

## DETAILED STEPS

### Procedure

---

#### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

#### Example:

```
Device> enable
```

#### ステップ 2 show running-config

現在実行されているコンフィギュレーション ファイルの内容を表示します

#### Example:

```
Device# show running-config
.
.
.
aaa group server radius sample
aaa accounting network default start-stop group radius group sample
aaa server radius dynamic-author
radius-server attribute 55 include-in-acct-req
radius-server attribute 55 access-request include
radius-server dead-criteria time 10 tries 3
radius-server host 192.0.2.3
radius-server retry method reorder
radius-server retransmit 2
radius-server deadtime 1
radius-server key rad123
radius server host
.
.
.
radius-server attribute 55 include-in-acct-req
radius-server attribute 55 access-request include
```

#### ステップ 3 debug radius

RADIUS 関連の情報を表示します。このコマンドの出力は、アカウントिंगおよび認証要求で属性 55 が送信されているかどうかを示しています。

#### Example:

```
Device# debug radius

AAA/BIND(0000000D): Bind i/f Virtual-Templatel
AAA/AUTHEN/PPP (0000000D): Pick method list 'default'
```



```

RADIUS/ENCODE(0000000D):Orig. component type = PPPoE
RADIUS: DSL line rate attributes successfully added
RADIUS(0000000D): Config NAS IP: 0.0.0.0
RADIUS(0000000D): Config NAS IPv6: ::
RADIUS/ENCODE(0000000D): acct_session_id: 2
RADIUS(0000000D): sending
RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 192.0.2.3 for Radius-Server 192.0.2.1
RADIUS(0000000D): Sending a IPv4 Radius Packet
RADIUS(0000000D): Send Access-Request to 192.0.2.1:1645 id 1645/1, len 130
RADIUS: authenticator 66 D8 24 42 BC 45 5B 3D - 0E DC 74 D7 E9 3D 81 85
RADIUS: Framed-Protocol      [7] 6 PPP [1]
RADIUS: User-Name           [1] 6 "test"
RADIUS: User-Password       [2] 18 *
RADIUS: NAS-Port-Type       [61] 6 Virtual [5]
RADIUS: NAS-Port            [5] 6 0
RADIUS: NAS-Port-Id        [87] 9 "0/0/0/0"
RADIUS: Vendor, Cisco      [26] 41
RADIUS: Cisco AVpair       [1] 35 "client-mac-address=aabb.cc00.6500"
RADIUS: Service-Type       [6] 6 Framed [2]
RADIUS: NAS-IP-Address     [4] 6 1.1.1.2
RADIUS: Event-Timestamp    [55] 6 1362041578
RADIUS(0000000D): Started 5 sec timeout
RADIUS: Received from id 1645/192.0.2.1:1645, Access-Accept, len 20
.
.
RADIUS: authenticator 2A 2B 24 47 06 44 23 8A - CB CC 8C 96 8D 21 76 DD
RADIUS(0000000D): Received from id 1645/1
AAA/BIND(0000000D): Bind i/f Virtual-Access2.1
RADIUS/ENCODE(0000000D):Orig. component type = PPPoE
.
.
RADIUS(0000000D): Config NAS IP: 0.0.0.0
RADIUS(0000000D): Config NAS IPv6: ::
RADIUS(0000000D): sending
RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 192.0.2.3 for Radius-Server 192.0.2.1
RADIUS(0000000D): Sending a IPv4 Radius Packet
RADIUS(0000000D): Send Accounting-Request to 192.0.2.1:1646 id 1646/1, len 182
RADIUS: authenticator C6 81 D0 D7 EA BA 9A A9 - 19 4B 1B 90 B8 D1 66 BF
RADIUS: Acct-Session-Id    [44] 10 "00000002"
RADIUS: Framed-Protocol    [7] 6 PPP [1]
RADIUS: User-Name          [1] 6 "test"
RADIUS: Vendor, Cisco     [26] 32
RADIUS: Cisco AVpair      [1] 26 "connect-progress=Call Up"
RADIUS: Acct-Authentic    [45] 6 RADIUS [1]
RADIUS: Acct-Status-Type  [40] 6 Start [1]
RADIUS: NAS-Port-Type     [61] 6 Virtual [5]
RADIUS: NAS-Port          [5] 6 0
RADIUS: NAS-Port-Id      [87] 9 "0/0/0/0"
RADIUS: Vendor, Cisco    [26] 41
RADIUS: Cisco AVpair     [1] 35 "client-mac-address=aabb.cc00.6500"
RADIUS: Service-Type     [6] 6 Framed [2]
RADIUS: NAS-IP-Address   [4] 6 1.1.1.2
RADIUS: home-hl-prefix   [151] 10 "163BD6D4"
RADIUS: Event-Timestamp  [55] 6 1362041588
RADIUS: Acct-Delay-Time  [41] 6 0
RADIUS(0000000D): Started 5 sec timeout
.
.
RADIUS: Received from id 1646/1 1.1.1.1:1646, Accounting-response, len 20
RADIUS: authenticator 79 F1 6A 38 07 C3 C8 F9 - 96 66 BE EF 5C FA 91 E6

```

## RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の設定例

### 例：アカウントングおよび認証パケットの RADIUS 属性 55

次の例は、アカウントングおよび認証パケットで RADIUS 属性 55 を送信する設定を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa authentication ppp default group radius
Device(config)# aaa accounting network default start-stop group radius
Device(config)# radius-server host 192.0.2.3
Device(config)# radius-server attribute 55 include-in-acct-req
Device(config)# radius-server attribute 55 access-req include
Device(config)# exit
```

## RADIUS 属性 55 Event-Timestamp に関するその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

関連項目	マニュアル タイトル
「Configuring Authentication」	『Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide』の「認証の設定」の章
RADIUS の設定	『RADIUS Configuration Guide』の「RADIUS の設定」の章

#### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2138	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 109: RADIUS 属性 55 Event-Timestamp の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 属性 55 Event-Timestamp	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>RADIUS 属性 55 Event-Timestamp 機能により、ネットワーク アクセスサーバ (NAS) は、Network Time Protocol (NTP) 同期が行われているまたは行われていない RADIUS サーバに送信される アカウンティングおよび認証 パケットに、イベント タイムスタンプ属性が挿入できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>radius-server attribute 55 access-req include</b> および <b>radius-server attribute 55 include-in-acct-req</b></p>



## RADIUS 属性 104

RADIUS 属性 104 機能を使用すれば、RADIUS 認可プロファイル内でプライベートルート（属性 104）を指定できます。プライベートルートは、個々のインターフェイス上で受信されたパケットにのみ影響します。ルートはグローバルルーティングテーブルとは別に保存され、ルーティングプロトコルに埋め込まれて再配布されることはありません。

- [RADIUS 属性 104 の前提条件, on page 893](#)
- [RADIUS 属性 104 の制約事項, on page 894](#)
- [RADIUS 属性 104 に関する情報, on page 894](#)
- [RADIUS 属性 104 の適用方法, on page 895](#)
- [RADIUS 属性 104 の設定例, on page 898](#)
- [その他の参考資料, on page 898](#)
- [RADIUS 属性 104 の機能情報, on page 900](#)

### RADIUS 属性 104 の前提条件

- シスコ RADIUS サーバを使用している必要があります。
- RADIUS の設定に精通している必要があります。
- ポリシーベース ルーティング（PBR）とプライベートルートに精通している必要があります。
- アクセス コントロール リスト（ACL）に精通している必要があります。
- RADIUS 属性 104 機能を使用する前に、RADIUS AAA 認可と RADIUS ルート ダウンロードを設定する必要があります。
- `F:\tips-migration` には以下のメモリ バイトが必要です。
  - 1 つのルート マップ：50 バイト
  - 1 つの match-set 句：600 バイト
  - 1 つの拡張 ACL：366 バイト
  - 属性 104 の数 N のメモリ要件は、ユーザ当たり  $(600+366)*N+50 \approx 1000*N$  です。

## RADIUS 属性 104 の制約事項

- インターフェイス上ですでに PBR がローカル（静的）に設定されている状態で、属性 104 を指定した場合は、ローカルに設定された PBR が無効になります。
- 疑似ネクストホップアドレスを使用する場合は、ネクストホップアドレスのルーティングテーブル内に、使用可能なルートが存在する必要があります。どのルートも使用できない場合は、パケットがポリシー ルーティングされません。
- ポリシー ルーティングは `match-set` 句を順序付けせず、最初の一致を優先するため、一致させたい順序で属性を指定する必要があります。
- メトリック番号は属性内で使用できません。

## RADIUS 属性 104 に関する情報

### ポリシーベース ルーティングの背景

PBR は、定義済みのポリシーに基づいて、データ パケットを転送またはルーティングするためのメカニズムを提供します。ポリシーは、宛先アドレスではなく、サービスタイプ、送信元アドレス、優先順位、ポート番号、プロトコルタイプなどの他の要因に依存します。

ポリシーベース ルーティングは着信パケットに適用されます。ポリシーベース ルーティングが有効になっているインターフェイス上で受信されたパケットはすべて、ポリシーベース ルーティングと見なされます。ルータは、ルート マップと呼ばれる拡張パケット フィルタにそれらのパケットを通過させます。ルートマップ内で定義された基準に基づいて、パケットが適切なネクスト ホップに転送されます。

ルートマップ文のエントリごとに、`match` 句と `set` 句の組み合わせまたはコマンドが 1 つずつ含まれています。`match` 句は、該当するパケットが特定のポリシーを満たしているかどうか（つまり、条件が満たされているかどうか）に関する基準を定義します。`set` 句は、一致基準を満たしたパケットをどのようにルーティングするかに関する指示を提供します。`match` 句は、対応する `set` 句を適用するためにパケットが一致しなければならないフィルタのセットを指定します。

### 属性 104 とポリシーベース ルート マップ

この項では、属性 104 機能と、そのポリシーベース ルート マップとの連携について説明します。

### RADIUS 属性 104 の概要

RADIUS 属性 104 機能を使用すれば、RADIUS 認可プロファイル内でプライベートルートを指定できます。指定したプライベートルートは、個々のインターフェイス上で受信されたパケッ

トにのみ影響します。ルートはグローバルルーティングテーブルとは別に保存され、ルーティングプロトコルに埋め込まれて再配布されることはありません。

## 許可ルートマップ

ルートマップステートメントは、「許可」または「拒否」にマークすることができます。ステートメントが「許可」にマークされると、一致基準を満たすパケットに `set` 句が適用されます。属性 104 の場合は、ルートマップの設定中に、次のようにルートマップを「許可」としてマークする必要があります。ルートマップの設定に関する情報については、[関連資料, on page 898](#) を参照してください。

## デフォルトプライベートルート

ポリシールーティングプロセスは、一致するものが見つかるまで、ルートマップに沿って進行します。ルートマップ内で一致するものが見つからなかった場合は、グローバルルーティングテーブルが参照されます。ユーザプロファイル内でデフォルトルートを指定した場合は、事実上、デフォルトルートを越えるルートが無視されます。

## ルートマップの順序

ルートマップはサーバ上で適用したい順番に指定する必要があります。

# RADIUS 属性 104 の適用方法

## RADIUS 属性 104 のユーザプロファイルへの適用

次の内容を RADIUS サーバデータベースに追加することによって、RADIUS 属性 104 をユーザプロファイルに適用できます。

### SUMMARY STEPS

1. RADIUS 属性 104 をユーザプロファイルに適用します。

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	RADIUS 属性 104 をユーザプロファイルに適用します。	<pre>Ascend-Private-Route="dest_addr/netmask next_hop"</pre> <p>ルータの宛先ネットワークアドレスは「<code>dest_addr/netmask</code>」で、ネクストホップルータのアドレスは「<code>next_hop</code>」です。</p>

## 例

発信者に関連付けられた3つのプライベートルートを作成するユーザプロファイルのサンプルを次に示します。

```
username Password="ascend"; User-Service=Framed-User
  Framed-Protocol=PPP,
  Framed-Address=10.1.1.1,
  Framed-Netmask=255.0.0.0,
  Ascend-Private-Route="172.16.1.1/16 10.10.10.1"
  Ascend-Private-Route="192.168.1.1/32 10.10.10.2"
  Ascend-Private-Route="10.20.0.0/1 10.10.10.3"
  Ascend-Private-Route="10.0.0.0/0 10.10.10.4"
```

上のプロファイルを使用すれば、接続用のプライベートルーティングテーブルに、デフォルトルートのほかに次のルートが追加されます。

Destination/Mask	Gateway
172.16.1.1/16	10.10.10.1
192.168.1.1/32	10.10.10.2
10.20.20.20/1	10.10.10.3
10.0.0.0/0	10.10.10.4

## ルートマップの確認

次の **show** コマンドを使用して、設定済みのルートマップを確認します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show ip policy**
3. **show route-map** [*map-name* | **dynamic** [*dynamic-map-name* | **application** [*application-name*]] | **all**]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show ip policy</b> <b>Example:</b> Router# show ip policy	ポリシールーティングに使用されるルートマップを表示します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>show route-map</b> [ <i>map-name</i>   <b>dynamic</b> [ <i>dynamic-map-name</i>   <b>application</b> [ <i>application-name</i> ]]   <b>all</b> ]  <b>Example:</b>  Router# show route-map	設定済みのすべてのルートマップを表示するか、指定した 1 つのルート マップだけを表示します。

## RADIUS プロファイルのトラブルシューティング

プライベートルート設定が正常に動作しない場合は、「[ポリシーベース ルーティングの背景, on page 894](#)」を再度読んでみてください。このセクションは、パケットに何が発生しているかを判定するのに役立つことがあります。また、RADIUS プロファイルのトラブルシューティングには、次の **debug** コマンドが使用できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug radius**
3. **debug aaa per-user**
4. **debug ip policy**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug radius</b>  <b>Example:</b>  Router# debug radius	RADIUS 関連の情報を表示します。
ステップ 3	<b>debug aaa per-user</b>  <b>Example:</b>  Router# debug aaa per-user	ユーザ認証として各ユーザに適用される属性を表示します。
ステップ 4	<b>debug ip policy</b>  <b>Example:</b>	IP ルーティングパケットのアクティビティを表示します。

	Command or Action	Purpose
	Router# debug ip policy	

## RADIUS 属性 104 の設定例

### 属性 104 が適用された Route-Map 設定の例

次の出力は、属性 104 が適用された一般的な route-map 設定です。

```
Router# show route-map dynamic
route-map AAA-01/08/04-14:13:59.542-1-AppSpec, permit, sequence 0, identifier 1639994476

  Match clauses:
    ip address (access-lists): PBR#1 PBR#2
  Set clauses:
    Policy routing matches: 0 packets, 0 bytes
route-map AAA-01/08/04-14:13:59.542-1-AppSpec, permit, sequence 1, identifier 1640264784

  Match clauses:
    ip address (access-lists): PBR#3 PBR#4
  Set clauses:
    Policy routing matches: 0 packets, 0 bytes
route-map AAA-01/08/04-14:13:59.542-1-AppSpec, permit, sequence 2, identifier 1645563704

  Match clauses:
    ip address (access-lists): PBR#5 PBR#6
    length 10 100
  Set clauses:
    ip next-hop 10.1.1.1
    ip gateway10.1.1.1
    Policy routing matches: 0 packets, 0 bytes
Current active dynamic routemaps = 1
```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性に関する参考資料を紹介します。

## 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
AAA の設定	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Securing User Services』の「認証、認可、およびアカウントिंग (AAA)」の項
RADIUS の設定	「Configuring RADIUS」モジュール。
RADIUS コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS 属性 104 の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 110: RADIUS 属性 104 の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 属性 104	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>RADIUS 属性 104 機能を使用すれば、RADIUS 認可プロファイル内でプライベートルート（属性 104）を指定できます。プライベートルートは、個々のインターフェイス上で受信されたパケットにのみ影響します。ルートはグローバルルーティングテーブルとは別に保存され、ルーティングプロトコルに埋め込まれて再配布されることはありません。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<code>\tips-migration show ip policy</code>、<code>show route-map</code>。</p>



## CHAPTER 78

# RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性

RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性機能を使用すれば、RADIUS パケットの IP ヘッダー内の発信元 IP アドレスを変更せずに、任意の IP アドレスを設定して RADIUS 属性 4 (NAS-IP-Address) として使用できます。この機能は、サービスプロバイダーが、スケーラビリティを向上させるために、小規模なネットワーク アクセス サーバ (NAS) のクラスタを使用して大規模な NAS をシミュレートしている場合にも使用できます。この機能を使用すれば、NAS を RADIUS サーバから見て、単一の RADIUS クライアントとして機能させることができます。

- [RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の前提条件, on page 901](#)
- [RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の制約事項, on page 901](#)
- [RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性に関する情報, on page 902](#)
- [RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定方法, on page 903](#)
- [RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定例, on page 905](#)
- [その他の参考資料, on page 905](#)
- [RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の機能情報, on page 906](#)

## RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の前提条件

この機能を設定する前に、次の要件を満たす必要があります。

- IP セキュリティ (IPSec) の使用経験と、RADIUS サーバと認証、許可、アカウントینگ (AAA) の両方の設定経験が必要です。
- RADIUS サーバと AAA リストを設定する必要があります。

## RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の制約事項

スケーラビリティを向上させるために、RADIUS クライアントのクラスタを単一の RADIUS クライアントのシミュレーションに使用している場合に、次の制約事項が適用されます。制約事項に対する解決策または次善策についても説明します。

- RADIUS 属性 44 (Acct-Session-Id) は、複数の NAS からのセッション間で重複する可能性があります。

2つの解決策があります。NAS ルータ上で **radius-server attribute 44 extend-with-addr** コマンドと **radius-server unique-ident** コマンドのどちらかを使用して、NAS ルータごとに異なる先頭の番号を指定できます。

- RADIUS サーバベースの IP アドレス プールを NAS ごとに管理する必要があります。

この解決策は、RADIUS サーバ上で NAS ごとに異なる IP アドレス プール プロファイルを設定することです。NAS ごとに異なるプール ユーザ名を使用してそれらを取得します。

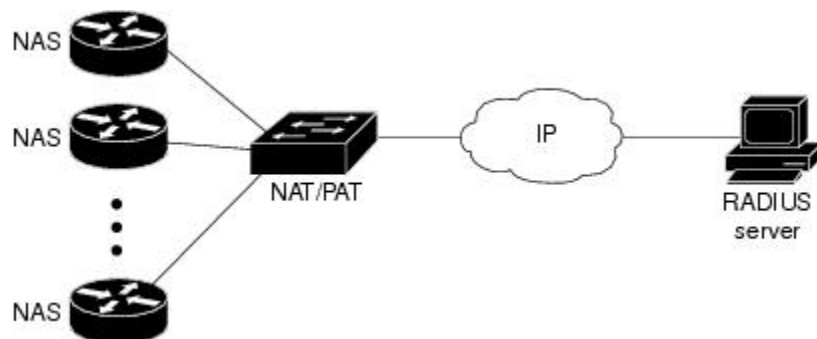
- セッション内の RADIUS 要求メッセージは NAS ごとに識別される必要があります。

この解決策の 1 つは、NAS 上で **radius-server attribute 32 include-in-access-req** コマンドを使用して、NAS ごとに異なる RADIUS 属性 32 (NAS-Identifier) 用の形式文字列を設定することです。

## RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性に関する情報

次の図に示すように、小規模な NAS RADIUS クライアントのクラスタを使用して大規模な NAS RADIUS クライアントをシミュレートする場合は、ネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスまたはポートアドレス変換 (PAT) デバイスがネットワークに挿入されます。このデバイスは、NAS のクライアントと、RADIUS サーバに接続された IP クラウドの間に配置されます。複数の NAS からの RADIUS トラフィックが NAT または PAT デバイスを通過するときに、RADIUS パケットの発信元 IP アドレスが単一の IP アドレスに変換されます。ほとんどの場合、この IP アドレスは、NAT または PAT デバイスのループバック インターフェイス上の IP アドレスです。NAS ごとに異なるユーザデータグラムプロトコル (UDP) 発信元プールが RADIUS パケットに割り当てられます。サーバから RADIUS 応答が返されると、NAT または PAT デバイスがそれを受信して、宛先 UDP ポートを使用して宛先 IP アドレスを NAS の IP アドレスに変換し、対応する NAS に転送します。

次の図は、複数の NAS の送信元 IP アドレスが、IP クラウドへの途中で NAT または PAT デバイスを通過するときに、どのように単一の IP アドレスに変換されるかを示しています。



通常は、RADIUS サーバが RADIUS パケットの IP ヘッダー内の発信元 IP アドレスをチェックして、RADIUS 要求の発信元を追跡し、セキュリティを確保します。NAT または PAT による

解決策は、RADIUS パケットが複数の NAS ルータから送られてきても単一の発信元 IP アドレスが使用されるため、これらの要件を満たします。

ただし、RADIUS データベースからアカウント記録レコードを取得するときに、課金システムによっては、アカウント記録レコード内で RADIUS 属性 4 (NAS-IP-Address) が使用される場合があります。この属性の値は、独自の IP アドレスとして NAS ルータ上に記録されます。NAS ルータは、RADIUS サーバとの間で動作している NAT または PAT を認識しません。そのため、NAS ルータごとに異なる RADIUS 属性 4 アドレスがユーザのアカウント記録レコードに記録されます。最終的に、これらのアドレスは、複数の NAS ルータを RADIUS サーバと対応する課金システムに公開することになります。

## RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性機能の使用方法

RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性機能を使用すれば、任意の IP アドレスを RADIUS NAS-IP-Address (RADIUS 属性 4) として設定できます。すべてのルータに対して同じ IP アドレス (ほとんどの場合、NAT または PAT デバイスのループバック インターフェイス上の IP アドレス) を手動で設定することによって、NAS ルータのクラスタを NAT または PAT デバイスの後ろに隠して、RADIUS から見えないようにすることができます。

## RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定方法

### RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定

RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性機能を設定する前に、RADIUS サーバまたはサーバグループと AAA 方式リストを設定しておく必要があります。

RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性機能を設定するには、次の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **radius-server attribute 4 ip-address**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>radius-server attribute 4 ip-address</b> <b>Example:</b>  Router (config)# radius-server attribute 4 10.2.1.1	RADIUS NAS-IP-Address (属性 4) として使用する IP アドレスを設定します。

## RADIUSNAS-IP-Address属性設定可能性のモニタリングとメンテナンス

RADIUS パケット内で使用されている RADIUS 属性 4 アドレスをモニターするには、**debug radius** コマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug radius**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>debug radius</b> <b>Example:</b>  Router# debug radius	RADIUS 関連の情報を表示します。

#### 例

次に、**debug radius** コマンドの出力例を示します。

```
Router# debug radius
RADIUS/ENCODE(0000001C): acct_session_id: 29
RADIUS(0000001C): sending
RADIUS(0000001C): Send Access-Request to 10.0.0.10:1645 id 21645/17, len 81
RADIUS: authenticator D0 27 34 C0 F0 C4 1C 1B - 3C 47 08 A2 7E E1 63 2F
```



```

RADIUS: Framed-Protocol      [7]  6  PPP                               [1]
RADIUS: User-Name           [1] 18  "shashi@pepsi.com"
RADIUS: CHAP-Password       [3] 19  *
RADIUS: NAS-Port-Type       [61] 6  Virtual                          [5]
RADIUS: Service-Type        [6]  6  Framed                             [2]
RADIUS: NAS-IP-Address      [4]  6  10.0.0.21
UDP: sent src=10.1.1.1(21645), dst=10.0.0.10(1645), length=109
UDP: rcvd src=10.0.0.10(1645), dst=10.1.1.1(21645), length=40
RADIUS: Received from id 21645/17 10.0.0.10:1645, Access-Accept, len 32
RADIUS: authenticator C6 99 EC 1A 47 0A 5F F2 - B8 30 4A 4C FF 4B 1D F0
RADIUS: Service-Type        [6]  6  Framed                             [2]
RADIUS: Framed-Protocol     [7]  6  PPP                               [1]
RADIUS(0000001C): Received from id 21645/17

```

## RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定例

### RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の設定例

次の例は、IP アドレス 10.0.0.21 が RADIUS NAS-IP-Address 属性として設定されていることを示しています。

```

radius-server attribute 4 10.0.0.21
radius-server host 10.0.0.10 auth-port 1645 acct-port 1646 key cisco

```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
AAA の設定	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Securing User Services』の「認証、認可、およびアカウントिंग (AAA)」の項
RADIUS の設定	「Configuring RADIUS」モジュール。
RADIUS コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能でサポートが追加または変更された RFC はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 111: RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性	Cisco IOS XE Release 3.9S	この機能を使用すれば、RADIUS パケットの IP ヘッダー内の発信元 IP アドレスを変更せずに、任意の IP アドレスを設定して RADIUS 属性 4 (NAS-IP-Address) として使用できます。  この機能のために <b>radius-server attribute 4</b> コマンドが導入されました。





## CHAPTER 79

# サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマット

サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 (NAS-Port) フォーマット機能を使用すれば、RADIUS サーバグループごとに設定をカスタマイズできます。この柔軟性によって、グローバルフォーマットの代わりに、カスタマイズされたネットワークアクセスサーバ (NAS) ポート フォーマットを使用できます。

- [サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの前提条件, on page 909](#)
- [サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットに関する情報, on page 910](#)
- [サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの設定方法, on page 910](#)
- [サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの設定例, on page 912](#)
- [その他の参考資料, on page 913](#)
- [サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの機能情報, on page 914](#)

## サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの前提条件

- 認証、認可、およびアカウンティング (AAA) コンポーネントを含む Cisco IOS イメージを実行する必要があります。

# サーバ単位グループレベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットに関する情報

## RADIUS 属性 5 フォーマットのカスタマイズ

Cisco IOS リリース 12.3(14)T よりも前の Cisco IOS ソフトウェアでは、アクセス要求またはアカウント要求で送信された RADIUS 属性をグローバルにカスタマイズすることが可能でした。設定可能な各属性では、RADIUS サーバとの通信時の動作がカスタマイズできました。サーバグループの実装により、グローバル属性設定の柔軟性が制限され、ルータと相互に通信する可能性のあるさまざまな RADIUS サーバをサポートするのに必要な、種々のカスタマイズに対処できなくなりました。たとえば、**global radius-server attribute nas-port format command** オプションを設定すると、RADIUS サーバと相互に通信するルータのすべてのサービスが同じ設定で使用されていました。

Cisco IOS リリース 12.3(14)T では、ルータを設定して、サーバ単位のグループを柔軟に上書きできるようになりました。RADIUS サーバ上のさまざまなサービスタイプに固有の名前付け方式を使用するようサービスを設定できます。サービスタイプは、独自のサービスグループを使用するように設定できます。この柔軟性により、NAS-port フォーマットをカスタマイズして、グローバルフォーマットの代わりに使用できるようになりました。

# サーバ単位グループレベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの設定方法

## サーバ単位グループレベルの RADIUS 属性 5 フォーマットの設定

サーバ単位グループレベルの RADIUS 属性 5 フォーマットをサポートするようにルータを設定するには、次の手順を実行します。



**Note** サーバ単位グループの機能を使用するには、名前付け方式リストをサービス内で積極的に使用する必要があります。1つのクライアントを特定の名前付け方式を使用するように設定して、他のクライアントをデフォルトフォーマットを使用するように設定できます。

### Before you begin

次の手順を実行する前に、まず AAA の方式リストを設定して、お客様の状況に適用できるようにする必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa group server radius** *group-name*
4. **server** *ip-address* [**auth-port** *port-number*] [**acct-port** *port-number*]
5. **attribute nas-port format** *format-type* [*string*]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa group server radius</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# aaa group server radius radius1</pre>	異なる RADIUS サーバホストを別々のリストと方式にグループ化し、server-group コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>server</b> <i>ip-address</i> [ <b>auth-port</b> <i>port-number</i> ] [ <b>acct-port</b> <i>port-number</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router (server-group)# server 172.101.159.172 auth-port 1645 acct-port 1646</pre>	グループ サーバー用の RADIUS サーバーの IP アドレスを設定します。
ステップ 5	<b>attribute nas-port format</b> <i>format-type</i> [ <i>string</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router (server-group)# attribute nas-port format d</pre>	サービスの種類ごとに固有の名前付け方式を使用するようにサービスを設定します。  • サービス タイプは、独自のサーバグループを使用するように設定できます。

## サーバ単位グループレベルの RADIUS 属性 5 フォーマットのモニタリングとメンテナンス

サーバ単位グループレベルの RADIUS 属性 5 フォーマットをモニターおよびメンテナンスするには、次の手順を実行します（**debug** コマンドは個別に使用される場合があります）。

## SUMMARY STEPS

1. enable
2. debug aaa sg-server selection
3. debug radius

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug aaa sg-server selection</b> <b>Example:</b> Router# debug aaa sg-server selection	ルータ内の RADIUS および TACACS+ サーバグループシステムが特定のサーバを選択している理由に関する情報を表示します。
ステップ 3	<b>debug radius</b> <b>Example:</b> Router# debug radius	サーバグループが特定の要求に対して選択されたことを示す情報を表示します。

## サーバ単位グループレベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの設定例

### サーバ単位グループレベルで指定された RADIUS 属性 5 フォーマットの例

次の設定例は、デフォルトが形式 F:\tips-migration を使用する一方、RADIUS 属性 5 を送信しないよう選択された専用線 PPP クライアントを示します。

```
interface Serial2/0
  no ip address
  encapsulation ppp
  ppp accounting SerialAccounting
  ppp authentication pap
  aaa accounting network default start-stop group radius
  aaa accounting network SerialAccounting start-stop group group1
  aaa group server radius group1
    server 10.101.159.172 auth-port 1645 acct-port 1646
    attribute nas-port none
```



```
radius-server host 10.101.159.172 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server attribute nas-port format d
```

## その他の参考資料

ここでは、RADIUS ベンダー固有属性（VSA）および RADIUS Disconnect-Cause 属性値に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Security Command Reference</a> 』
セキュリティ機能	『 <a href="#">Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2</a> 』
セキュリティ サーバプロトコル	『 <a href="#">Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services, Release 2</a> 』の「セキュリティ サーバプロトコル」の項
RADIUS Configuration	「RADIUS の設定」機能モジュール。

### 標準

標準	タイトル
インターネット技術特別調査委員会（IETF）インターネット ドラフト：Network Access Servers Requirements	『 <a href="#">Network Access Servers Requirements: Extended RADIUS Practices</a> 』

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2865	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## サーバ単位グループレベルで指定された RADIUS 属性 5 NAS-Port フォーマットの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 112: サーバ単位グループレベルで指定された RADIUS 属性 5 (NAS-Port) フォーマットの機能情報

機能名	リリース	機能情報
サーバ単位グループレベルで指定された RADIUS 属性 5 (NAS-Port) フォーマット	Cisco IOS XE Release 3.9S	サーバ単位グループレベルで指定された RADIUS 属性 5 (NAS-Port) フォーマット機能を使用すれば、RADIUS サーバグループごとに設定をカスタマイズできます。この柔軟性によって、グローバルフォーマットの代わりに、カスタマイズされたネットワークアクセスサーバ (NAS) ポートフォーマットを使用できます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <code>\tips-migration attribute nas-port format。</code>





## 第 **VI** 部

# TACACS

- [TACACS の設定, on page 919](#)
- [TACACS サーバーの Per VRF, on page 935](#)
- [TACACS の属性値ペア, on page 943](#)





## CHAPTER 80

# TACACS の設定

この章では、詳細なアカウント情報を提供し、認証および許可プロセスを柔軟に管理できるようにするために、TACACS+ をイネーブルにして設定する方法について説明します。TACACS+ は、AAA を介して実装され、AAA コマンドを使用するのみイネーブルにできます。

- [TACACS に関する情報, on page 919](#)
- [TACACS の設定方法, on page 922](#)
- [TACACS の設定例, on page 927](#)
- [その他の参考資料, on page 932](#)
- [TACACS の設定に関する機能情報, on page 933](#)

## TACACS に関する情報

TACACS+ は、ユーザーによるルータまたはネットワーク アクセスサーバーへのアクセス試行の集中的な確認を可能にするセキュリティアプリケーションです。TACACS+ サービスは、通常 UNIX または Windows NT ワークステーション上で動作する TACACS+ デーモンのデータベースで管理されます。ネットワーク アクセスサーバーに設定した TACACS+ 機能を使用可能にするには、TACACS+ サーバーにアクセスして TACACS+ サーバーを設定しておく必要があります。

TACACS+ では、独立したモジュラ型の認証、許可、アカウント機能を提供されます。TACACS+ を使用すると、単一のアクセスコントロールサーバー (TACACS+ デーモン) で、各サービス (認証、許可、アカウント) を個別に提供できます。各サービスを固有のデータベースに結合し、デーモンの機能に応じてそのサーバーまたはネットワークで使用できる他のサービスを提供できます。

TACACS+ の目的は、単一の管理サービスから複数のネットワークアクセスポイントを管理する方法を提供することです。アクセスサーバーおよびルーティングのシスコファミリおよび (ルータとアクセスサーバー両方の) Cisco IOS および Cisco IOS XE ユーザーインターフェイスは、ネットワークアクセスサーバーにすることができます。

ネットワークアクセスポイントによって、従来の「低機能な」端末、端末エミュレータ、ワークステーション、パーソナルコンピュータ (PC)、およびルータと、適切なアダプタ (たとえば、モデムまたは ISDN アダプタ) を併用して、Point-to-Point Protocol (PPP)、Serial Line Internet Protocol (SLIP)、Compressed SLIP (CSLIP)、または AppleTalk Remote Access (ARA)

プロトコルを使用する通信が可能になります。つまり、ネットワーク アクセス サーバーは、単一のユーザー、ネットワークまたはサブネットワーク、および相互接続したネットワークに対して、接続を提供できます。ネットワーク アクセス サーバーを介して接続されているエンティティは、ネットワーク アクセス クライアントと呼ばれます。たとえば、音声グレードの回路で PPP を実行する PC は、ネットワーク アクセス クライアントです。AAA セキュリティ サービスを介して管理される TACACS+ は、次のサービスを提供できます。

- 認証：ログインとパスワードのダイアログ、チャレンジ/レスポンス、メッセージングのサポートを介して、認証を詳細に制御できます。

認証機能には、ユーザーに任意のダイアログを実行する機能があります（たとえば、ログインとパスワードの指定後に、自宅住所、母親の旧姓、サービスタイプ、社会保険番号などの複数の質問をユーザーに試行する機能）。さらに、TACACS+ 認証サービスは、ユーザー画面へのメッセージ送信をサポートします。たとえば、会社のパスワード有効期間ポリシーに従い、パスワードの変更の必要があることをユーザーに通知することもできます。

- 認可：autocommand、アクセスコントロール、セッション期間、プロトコルサポートの設定といった、ユーザー セッション時のユーザー機能についてきめ細かく制御します。また、TACACS+ 認可機能を使用して、ユーザーが実行できるコマンドを制限することもできます。
- アカウンティング：課金、監査、およびレポートに使用する情報を収集して TACACS+ デーモンに送信します。ネットワークの管理者は、アカウンティング機能を使用して、セキュリティ監査のためにユーザの活動状況をトラッキングしたり、ユーザ課金用の情報を提供したりできます。アカウンティング レコードには、ユーザ ID、開始時刻および終了時刻、実行されたコマンド（PPP など）、パケット数、およびバイト数が含まれます。

TACACS+ プロトコルは、ネットワーク アクセス サーバーと TACACS+ デーモンの間に認証機能を提供します。また、ネットワーク アクセス サーバーと TACACS+ デーモン間のすべてのプロトコル交換は暗号化されるため、機密性を確保できます。

TACACS+ デーモン ソフトウェアを実行するシステムで、ネットワーク アクセス サーバーで TACACS+ 機能を使用する必要があります。

独自の TACACS+ ソフトウェアを開発することに関心があるユーザー向けに、シスコでは、TACACS+ プロトコル仕様をドラフトの RFC として使用できるようにしています。

## TACACS の動作

ユーザーが TACACS+ を使用してネットワーク アクセス サーバーに対して認証を受けることで、単純な ASCII ログインを試行すると、一般的に、次のプロセスが発生します。

1. 接続が確立すると、ネットワーク アクセス サーバーは TACACS+ デーモンに接続してユーザー名のプロンプトを取得します。また、そのプロンプトはユーザーに表示されます。ユーザーがユーザー名を入力すると、ネットワーク アクセス サーバーは TACACS+ デーモンに接続し、パスワードプロンプトを取得します。ネットワーク アクセス サーバーはユーザーに対してパスワードプロンプトを表示します。ユーザーがパスワードを入力すると、パスワードは TACACS+ デーモンに送信されます。





**Note** TACACS+によって、デーモンとユーザーとの間で対話できるようになり、デーモンはユーザーの認証に必要な情報を取得できるようになります。通常、この処理は、ユーザー名とパスワードの組み合わせのプロンプトを表示することで完了しますが、TACACS+デーモンの制御下で、母親の旧姓など、他のアイテムを含めることができます。

1. ネットワーク アクセス サーバーは、最終的に TACACS+ デーモンから次のいずれかの応答を得ます。
  - a. **ACCEPT** : ユーザーは認証され、サービスを開始できます。認可を必須にするようにネットワークアクセスサーバーが設定されている場合、この時点で認可が開始されません。
  - b. **REJECT** : ユーザーは認証に失敗しました。ユーザーは以降のアクセスを拒否される可能性があります。または、TACACS+ デーモンに応じてログインシーケンスを再試行するようにプロンプトが表示されます。
  - c. **ERROR** : 認証中のある時点でエラーが発生しました。エラーは、デーモン、またはデーモンとネットワークアクセスサーバー間のネットワーク接続で発生する可能性があります。ERROR 応答を受信すると、通常、ネットワーク アクセス サーバーはユーザーを認証する代替方式を使用しようとします。
  - d. **CONTINUE** : ユーザーは、さらに認証情報の入力を求められます。
2. PAP ログインは、ASCII ログインに似ていますが、ユーザーによる入力ではなく、PAP プロトコルパケットでユーザー名とパスワードがネットワーク アクセス サーバーに到達するため、ユーザーにはプロンプトが表示されません。PPP CHAP ログインは、原則もにています。

ネットワーク アクセス サーバーで認可をイネーブルにしている場合、認証の後に、ユーザーは追加の認可段階を実行する必要があります。ユーザーは TACACS+ 許可に進む前に、まず TACACS+ 認証を正常に完了する必要があります。

1. TACACS+ の認可が必要な場合も、TACACS+ デーモンに接続します。また、TACACS+ デーモンは、ACCEPT または REJECT 認可応答を返します。ACCEPT 応答が返される場合、この応答には、そのユーザーに関する EXEC または NETWORK セッションを指示するために使用される属性の形式のデータが含まれます。これによって、ユーザーがアクセスできるサービスを判断します。この場合のサービスは次のとおりです。
  - a. Telnet、rlogin、ポイントツーポイントプロトコル (PPP)、シリアルラインインターネットプロトコル (SLIP)、EXEC サービス
  - b. 接続パラメータ (ホストまたはクライアントの IP アドレス、アクセスリスト、およびユーザタイムアウトを含む)

## TACACS の設定方法

TACACS+ をサポートするようにルータを設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

- **aaa new-model** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、AAA をイネーブルにします。TACACS+を使用する予定がある場合、AAAを設定する必要があります。**aaa new-model** コマンドの使用の詳細については、「AAAの概要」の章を参照してください。
- コマンドを使用して、1つ以上の TACACS+ デーモンの IP アドレスを指定します。コマンドを使用して、ネットワーク アクセス サーバーと TACACS+ デーモンの間のすべてのやり取りを暗号化するために使用する暗号化キーを指定します。TACACS+ デーモンでも、この同じキーを設定する必要があります。
- **aaa authentication** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、認証に TACACS+ を使用する方式リストを定義します。**aaa authentication** コマンドの使用の詳細については、「認証の設定」の章を参照してください。
- **line** および **interface** コマンドを使用して、定義済みの方式リストを多様なインターフェイスに適用します。詳細については、「認証の設定」の章を参照してください。
- 必要に応じて、**aaa authorization** グローバル コマンドを使用して、ネットワーク アクセス サーバーの認可を設定します。回線またはインターフェイスごとに設定できる認証とは異なり、認可は、ネットワーク アクセス サーバー全体のグローバル設定です。**aaa authorization** コマンドの使用の詳細については、「認可の設定」の章を参照してください。
- 必要に応じて、**aaa accounting** コマンドを使用して TACACS+ 接続のアカウントिंगをイネーブルにします。**aaa accounting** コマンドの使用の詳細については、「アカウントिंगの設定」の章を参照してください。

## TACACS サーバー ホストの指定

コマンドを使用すると、TACACS+ サーバーを保守する 1 つまたは複数の IP ホストの名前を指定できます。TACACS+ ソフトウェアは、指定した順序でホストを検索するため、この機能は、希望のデーモン リストを設定する場合に役立ちます。

TACACS+ ホストを指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# <i>hostname</i> [ <b>single-connection</b> ] [ <b>port</b> <i>integer</i> ] [ <b>timeout</b> <i>integer</i> ] [ <b>key</b> <i>string</i> ]	TACACS+ ホストを指定します。

コマンドを使用して、次のオプションも設定できます。

- **single-connection** キーワードを使用して、単一接続を指定します。通信が必要になるたびに、ルータの接続を開き、TCP 接続を閉じるのではなく、**single-connection** オプションによって、ルータとデーモン間の単一のオープンな接続を保守します。この方法はデーモンが処理できる TACACS 操作数が多くなるため、効率的です。



**Note** この処理を有効にするには、デーモンが **single-connection** モードをサポートする必要があります。サポートしていない場合、ネットワーク アクセス サーバーとデーモン間の接続が動作しなくなるか、不要なエラーを受信します。

- **port integer** 引数を使用して、TACACS+デーモンに接続するときに使用される TCP ポート番号を指定します。デフォルトポート番号は 49 です。
- **timeout integer** 引数を使用して、ルータがタイムアウトしてエラー宣言するまで、デーモンからの応答を待つ期間（秒）を指定します。



**Note** コマンドによるタイムアウト値の指定は、このサーバーに関するコマンドで設定されたデフォルトのタイムアウト値よりも優先されます。

- **key string** 引数を指定して、ネットワーク アクセス サーバーと TACACS+ デーモン間のすべてのトラフィックを暗号化および復号化するための暗号キーを指定します。



**Note** コマンドによる暗号キーの指定は、このサーバーに関するグローバルコンフィギュレーションのコマンドで設定されたデフォルトキーよりも優先されます。

コマンドのパラメータの一部は、コマンドおよびコマンドによるグローバル設定よりも優先されるため、このコマンドを使用して個別の TACACS+ 接続を一意に設定することで、ネットワークのセキュリティを強化できます。

## TACACS 認証キーの設定

グローバル TACACS+ 認証キーおよび暗号化キーを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router (config)# <i>key</i>	TACACS+デーモンで使用する、一致する暗号キーを設定します。



**Note** 暗号化が成功するには、TACACS+ デーモンに同じキーを設定する必要があります。

## AAA サーバー グループの設定

AAA サーバー グループを使用するようにルータを設定すると、既存のサーバー ホストをグループ化できます。これによって、設定したサーバーホストのサブセットを選択し、それを特定のサービスに使用できます。サーバー グループは、グローバルサーバー ホストリストと併せて使用されます。サーバー グループには、選択したサーバー ホストの IP アドレスが一覧表示されます。

サーバー グループには複数のホスト エントリを含めることができます。ただし、各エントリの IP アドレスが一意である必要があります。そのサーバー グループにある異なる 2 つのホスト エントリが 1 つのサービス（アカウンティングなど）に設定されている場合、設定されている 2 番目のホスト エントリは最初のホスト エントリのフェールオーバー バックアップとして動作します。この例の場合、最初のホスト エントリがアカウンティング サービスの提供に失敗すると、2 番目のホスト エントリを使用してアカウンティング サービスを提供するように、ネットワーク アクセス サーバーが試行します（試行される TACACS+ ホスト エントリの順番は、設定されている順序に従います）。

サーバー グループ名を使用してサーバーホストを定義するには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。一覧のサーバーは、グローバルコンフィギュレーション モードに存在します。

### Procedure

**ステップ 1** Router(config)# *name* [**single-connection**] [**port integer**] [**timeout integer**] [**key string**]

サーバー ホストの IP アドレスを指定および定義してから、AAA サーバー グループを設定します。コマンドの詳細については、この章の「TACACS サーバー ホストの指定」セクションを参照してください。

**ステップ 2** Router(config-if)# **aaa group server** {**radius** | **tacacs+**} *group-name*

グループ名を指定して AAA サーバー グループを定義します。グループのすべてのメンバは、タイプを同じにする必要があります。つまり、RADIUS または TACACS+ です。このコマンドでは、サーバー グループのサブコンフィギュレーション モードにルータを配置します。

**ステップ 3** Router(config-sg)# **server ip-address** [**auth-port port-number**] [**acct-port port-number**]

特定の TACACS+ サーバーを定義済みのサーバー グループと関連付けます。 **auth-port port-number** オプションを使用して、認証専用の UDP ポートを設定します。 **acct-port port-number** オプションを使用して、アカウンティング専用の UDP ポートを設定します。

AAA サーバー グループの TACACS+ サーバーごとに、このステップを繰り返します。

**Note**                      グループの各サーバーは、コマンドを使用して事前に定義する必要があります。

## DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択の設定

Cisco IOS XE ソフトウェアを使用すると、セッションの Dialed Number Identification Service (DNIS) 番号に基づき、特定の AAA サーバーグループに対してユーザーを認証できます。すべての電話回線（通常の自宅電話または商用の T1/PRI 回線）を、複数の電話番号と関連付けることができます。DNIS 番号は、ユーザー宛てに発信された番号を示します。

たとえば、複数の顧客で同じ電話番号を共有する場合に、電話を受ける前に発信元を知りたいことがあります。DNIS を使用すると、応答するときに発信元の顧客がわかるため、電話に応答する方法をカスタマイズできます。

ISDN または内部モデムと接続する Cisco ルータは、DNIS 番号を受信できます。この機能を使用すると、顧客ごとに異なる TACACS+サーバーグループを割り当て可能です（つまり、DNIS 番号ごとに異なる TACACS+サーバー）。さらに、サーバーグループを使用して、複数の AAA サービスに同じサーバーグループを指定できます。また、各 AAA サービスに個別のサーバーグループを指定できます。

Cisco IOS XE ソフトウェアには、認証サービスとアカウントサービスを実装できる柔軟性があります。

- **グローバル**：AAA サービスは、グローバル コンフィギュレーション アクセス リスト コマンドを使用して定義され、特定のネットワーク アクセス サーバー上のすべてのインターフェイスに、一般的に適用されます。
- **インターフェイス別**：AAA サービスは、インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して定義され、特定のネットワーク アクセス サーバーに設定されているインターフェイスにだけ適用されます。
- **DNIS マッピング**：DNIS を使用して、AAA サーバーが AAA サービスを提供するように指定します。

複数の AAA コンフィギュレーション方式を同時に設定できるため、シスコでは、AAA サービスを提供するサーバーまたはサーバーグループを決定するために、優先順位を設定しました。優先順位は次のとおりです。

- **DNIS 別**：AAA サービスを提供するサーバーグループを DNIS によって指定するようネットワーク アクセス サーバーを設定している場合、この方式がその他の AAA 選択方式よりも優先されます。
- **インターフェイス別**：サーバーから AAA サービスを提供する方法をアクセス リストによって決定するように、インターフェイスごとにネットワーク アクセス サーバーを設定している場合、この方式が他のグローバル コンフィギュレーション AAA アクセス リストよりも優先されます。

- グローバル：セキュリティサーバーが AAA サービスを提供する方法を決定するために、グローバル AAA アクセスリストを使用してネットワーク アクセス サーバーを設定する場合、この方式には最も低い優先度が使用されます。



**Note** DNIS に基づいて AAA サーバー グループの選択を設定する前に、各 AAA サーバー グループに関連付けられたリモートセキュリティサーバーを設定する必要があります。「TACACS サーバー ホストの指定」および「AAA サーバー グループの設定」を参照してください。

サーバー グループの DNIS に基づいて、特定の AAA サーバー グループを選択するようにルータを設定するには、DNIS マッピングを設定します。DNIS 番号を使用して、サーバー グループをグループ名とマッピングするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

## Procedure

### ステップ 1 Router(config)# **aaa dnis map enable**

DNIS マッピングをイネーブルにします。

### ステップ 2 Router(config)# **aaa dnis map dnis-number authentication ppp group server-group-name**

DNIS 番号を定義済みの AAA サーバー グループにマッピングします。このサーバー グループのサーバーは、認証に使用されます。

### ステップ 3 Router(config)# **aaa dnis map dnis-number accounting network [none | start-stop | stop-only] group server-group-name**

DNIS 番号を定義済みの AAA サーバー グループにマッピングします。このサーバー グループのサーバーは、アカウントिंगに使用されます。

## TACACS 認証の指定

TACACS+ デモンを指定し、関連する TACACS+ 暗号キーを定義したら、TACACS+ 認証の方式リストを定義する必要があります。TACACS+ 認証は AAA を介して実行されるため、認証方式として TACACS+ を指定して、**aaa authentication** コマンドを発行する必要があります。詳細については、「認証の設定」の章を参照してください。

## TACACS 認可の指定

AAA 許可により、ユーザによるネットワーク アクセスを制限するパラメータを設定することができます。TACACS+ を介する許可は、コマンド、ネットワーク接続、および EXEC セッションに適用できます。AAA によって TACACS+ 許可が容易になるため、認可方式として

TACACS+ を指定して、**aaa authorization** コマンドを発行する必要があります。詳細については、「認可の設定」の章を参照してください。

## TACACS アカウンティングの指定

AAA アカウンティングを使用すると、ユーザーがアクセスしているサービスや、ユーザーが消費しているネットワークリソース量を追跡できます。AAAによってTACACS+アカウンティングは容易になるため、アカウンティング方式としてTACACS+を指定して、**aaa accounting** コマンドを発行する必要があります。詳細については、「アカウンティングの設定」の章を参照してください。

## TACACS の AV ペア

ネットワーク アクセス サーバーが TACACS+ 認可機能およびアカウンティング機能を実装するには、各ユーザーセッションで TACACS+ の属性と値 (AV) ペアを送受信します。サポートされる TACACS+ の AV ペアのリストについては、「TACACS 属性値ペア」の章を参照してください。

## TACACS の設定例

### TACACS 認証の例

次に、PPP 認証に使用するセキュリティプロトコルとして TACACS+ を設定する例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp test group tacacs+ local
  10.1.2.3
  key goaway
interface serial 0
  ppp authentication chap pap test
```

前述の設定例の回線は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA セキュリティサービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication** コマンドにより、PPP を実行するシリアルインターフェイスに使用する方式リスト「test」を定義します。キーワード **group tacacs+** は、TACACS+ を介して認証を実行することを示します。認証中に TACACS+ から何らかのエラーが返される場合、キーワード **local** は、ネットワークアクセスサーバ上のローカルデータベースを使用して認証が試行されることを示します。
- コマンドにより、TACACS+ デーモンが 10.1.2.3 という IP アドレスを持っていると指定します。コマンドにより、共有暗号キーを「goaway」に定義します。

- **interface** コマンドで回線を選択します。 **ppp authentication** コマンドは、テスト方式リストをこの回線に適用します。

次に、PPP 認証のセキュリティプロトコルとして TACACS+ を設定する例を示します。ただし、「test」方式リストの代わりに、「default」方式リストが使用されます。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default if-needed group tacacs+ local
 10.1.2.3
 key goaway
interface serial 0
 ppp authentication chap default
```

前述の設定例の回線は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA セキュリティ サービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication** コマンドにより、PPP を実行するシリアルインターフェイスに使用する方式リスト「default」を定義します。キーワード **default** は、デフォルトですべてのインターフェイスに PPP 認証が適用されることを示します。 **if-needed** キーワードは、ユーザが ASCII ログイン手順を介してすでに認証済みの場合には PPP 認証が不要なのでスキップできることを示します。認証が必要な場合、キーワード **group tacacs+** は、TACACS+ を介して認証が実行されることを示します。認証中に TACACS+ から何らかのエラーが返される場合、キーワード **local** は、ネットワーク アクセスサーバ上のローカルデータベースを使用して認証が試行されることを示します。
- コマンドにより、TACACS+ デーモンが 10.1.2.3 という IP アドレスを持っていると指定します。コマンドにより、共有暗号キーを「goaway」に定義します。
- **interface** コマンドで回線を選択します。 **ppp authentication** コマンドは、デフォルト方式リストをこの回線に適用します。

次に、PAP に同じ認証アルゴリズムを作成し、「default」ではなく「MIS-access」の方式リストを呼び出す例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication pap MIS-access if-needed group tacacs+ local
 10.1.2.3
 key goaway
interface serial 0
 ppp authentication pap MIS-access
```

前述の設定例の回線は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA セキュリティ サービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication** コマンドにより、PPP を実行するシリアルインターフェイスに使用する方式リスト「MIS-access」を定義します。方式リスト「MIS-access」は、PPP 認証がすべてのインターフェイスに適用されることを示します。 **if-needed** キーワードは、ユーザが ASCII ログイン手順を介してすでに認証済みの場合には PPP 認証が不要なのでスキップできることを示します。認証が必要な場合、キーワード **group tacacs+** は、TACACS+ を介して認証が実行されることを示します。認証中に TACACS+ から何らかのエラーが返される



場合、キーワード **local** は、ネットワーク アクセス サーバ上のローカルデータベースを使用して認証が試行されることを示します。

- コマンドにより、TACACS+ デーモンが 10.1.2.3 という IP アドレスを持っていると指定します。コマンドにより、共有暗号キーを「goaway」に定義します。
- **interface** コマンドで回線を選択します。 **ppp authentication** コマンドは、デフォルト方式リストをこの回線に適用します。

次に、IP アドレスが 10.2.3.4 である TACACS+ デーモンと暗号キー「apple」の設定の例を示します。

```
aaa new-model
aaa authentication login default group tacacs+ local
10.2.3.4
key apple
```

前述の設定例の回線は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA セキュリティ サービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication** コマンドで、デフォルトの方式リストを定義します。すべてのインターフェイスでの着信 ASCII ログイン（デフォルト）では、認証に TACACS+ を使用します。応答する TACACS+ サーバがない場合、ネットワーク アクセス サーバは、認証用のローカル ユーザ名データベースに含まれる情報を使用します。
- コマンドにより、TACACS+ デーモンが 10.2.3.4 という IP アドレスを持っていると指定します。コマンドにより、共有暗号キーが「apple」になるように定義します。

## TACACS 認可の例

次に、デフォルトの方式リストを使用して、PPP 認証用のセキュリティ プロトコルとして、TACACS+ を設定する例を示します。また、TACACS+ を介してネットワークの許可を設定する方法も示します。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default if-needed group tacacs+ local
aaa authorization network default group tacacs+
10.1.2.3
key goaway
interface serial 0
ppp authentication chap default
```

前述の設定例の回線は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA セキュリティ サービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication** コマンドにより、PPP を実行するシリアル インターフェイスに使用する方式リスト「default」を定義します。キーワード **default** は、デフォルトですべてのインターフェイスに PPP 認証が適用されることを示します。 **if-needed** キーワードは、ユーザが ASCII ログイン手順を介してすでに認証済みの場合には PPP 認証が不要なのでスキップできることを示します。認証が必要な場合、キーワード **group tacacs+** は、TACACS+ を

介して認証が実行されることを示します。認証中に TACACS+ から何らかのエラーが返される場合、キーワード **local** は、ネットワーク アクセス サーバ上のローカルデータベースを使用して認証が試行されることを示します。

- **aaa authorization** コマンドにより、TACACS+ を介するネットワークの許可を設定します。認証リストとは異なり、この許可リストは、ネットワーク アクセス サーバに対するすべての着信ネットワーク接続に常に適用されます。
- コマンドにより、TACACS+ デーモンが 10.1.2.3 という IP アドレスを持っていると指定します。コマンドにより、共有暗号キーを「goaway」に定義します。
- **interface** コマンドで回線を選択します。 **ppp authentication** コマンドは、デフォルト方式リストをこの回線に適用します。

## TACACS アカウンティングの例

次に、デフォルトの方式リストを使用して、PPP 認証用のセキュリティプロトコルとして、TACACS+ を設定する例を示します。また、TACACS+ を介してアカウンティングを設定する方法も示します。

```
aaa new-model
aaa authentication ppp default if-needed group tacacs+ local
aaa accounting network default stop-only group tacacs+
  10.1.2.3
  key goaway
interface serial 0
  ppp authentication chap default
```

前述の設定例の回線は、次のように定義されます。

- **aaa new-model** コマンドは、AAA セキュリティ サービスをイネーブルにします。
- **aaa authentication** コマンドにより、PPP を実行するシリアルインターフェイスに使用する方式リスト「default」を定義します。キーワード **default** は、デフォルトですべてのインターフェイスに PPP 認証が適用されることを示します。 **if-needed** キーワードは、ユーザが ASCII ログイン手順を介してすでに認証済みの場合には PPP 認証が不要なのでスキップできることを示します。認証が必要な場合、キーワード **group tacacs+** は、TACACS+ を介して認証が実行されることを示します。認証中に TACACS+ から何らかのエラーが返される場合、キーワード **local** は、ネットワーク アクセス サーバ上のローカルデータベースを使用して認証が試行されることを示します。
- **aaa accounting** コマンドにより、TACACS+ を介するネットワーク アカウンティングを設定します。この例では、ネットワーク接続が終了するたびに、終了したセッションについて説明するアカウンティングレコードが、TACACS+ デーモンに送信されます。
- コマンドにより、TACACS+ デーモンが 10.1.2.3 という IP アドレスを持っていると指定します。コマンドにより、共有暗号キーを「goaway」に定義します。
- **interface** コマンドで回線を選択します。 **ppp authentication** コマンドは、デフォルト方式リストをこの回線に適用します。

## TACACS サーバー グループの例

次に、3つの異なる TACACS+ サーバー メンバを使用してサーバー グループを作成する例を示します。

```
aaa group server tacacs tacgroup1
server 172.16.1.1
server 172.16.1.21
server 172.16.1.31
```

## DNIS に基づく AAA サーバー グループの選択の設定例

次に、特定の AAA サービスを提供するために、DNIS に基づいて TACACS+ サーバー グループを選択する例を示します。

```
! This command enables AAA.
aaa new-model
!
! The following set of commands configures the TACACS+ servers that will be associated
! with one of the defined server groups.
172.16.0.1
172.17.0.1
172.18.0.1
172.19.0.1
172.20.0.1
key abcdefg
! The following commands define the sg1 TACACS+ server group and associate servers
! with it.
aaa group server tacacs sg1
server 172.16.0.1
server 172.17.0.1
! The following commands define the sg2 TACACS+ server group and associate a server
! with it.
aaa group server tacacs sg2
server 172.18.0.1
! The following commands define the sg3 TACACS+ server group and associate a server
! with it.
aaa group server tacacs sg3
server 172.19.0.1
! The following commands define the default-group TACACS+ server group and associate
! a server with it.
aaa group server tacacs default-group
server 172.20.0.1
!
! The next set of commands configures default-group tacacs server group parameters.
aaa authentication ppp default group default-group
aaa accounting network default start-stop group default-group
!
! The next set of commands enables DNIS mapping and maps DNIS numbers to the defined
! RADIUS server groups. In this configuration, all PPP connection requests using DNIS
! 7777 are sent to the sg1 server group. The accounting records for these connections
! (specifically, start-stop records) are handled by the sg2 server group. Calls with a
! DNIS of 8888 use server group sg3 for authentication and server group default-group
! for accounting. Calls with a DNIS of 9999 use server group default-group for
! authentication and server group sg3 for accounting records (stop records only). All
! other calls with DNIS other than the ones defined use the server group default-group
! for both authentication and stop-start accounting records.
aaa dnis map enable
aaa dnis map 7777 authentication ppp group sg1
```

```

aaa dnis map 7777 accounting network start-stop group sg2
aaa dnis map 8888 authentication ppp group sg3
aaa dnis map 9999 accounting network stop-only group sg3

```

## TACACS デーモンの設定例

次に、TACACS+ デーモンの設定例を示します。実際に TACACS+ デーモンで使用する正確な構文は、この例の構文と異なる可能性があります。

```

user = mci_customer1 {
  chap = cleartext "some chap password"
  service = ppp protocol = ip {
    inacl#1="permit ip any any precedence immediate"
    inacl#2="deny igmp 0.0.1.2 255.255.0.0 any"
  }
}

```

## その他の参考資料

ここでは、TACACS+ の設定機能に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
TACACS+ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## TACACS の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 113: TACACS+ の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
TACACS+		<p>TACACS+ は、ユーザによるルータまたはネットワーク アクセスサーバへのアクセス試行の集中的な確認を可能にするセキュリティアプリケーションです。</p> <p>TACACS+ は、認証および認可プロセスについて詳細なアカウントリング情報と柔軟な管理コントロールを提供します。TACACS+ は、AAA を介して実装され、AAA コマンドを使用してのみインネブルにできます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました：、、<b>aaa authentication</b>、<b>aaa accounting</b>、<b>aaa group server tacacs+</b>。</p>
DNIS に基づく AAA サーバーグループ		<p>DNIS に基づく AAA サーバーグループを使用すると、セッションの着信番号識別サービス (DNIS) 番号に基づき、特定の AAA サーバーグループに対してユーザーを認証できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>aaa dnis map enable</b>、<b>aaa dnis map authentication group</b>、<b>aaa dnis map accounting</b></p>



## CHAPTER 81

# TACACS サーバーの Per VRF

TACACS+ サーバーの Per VRF 機能により、TACACS+ サーバーで Per Virtual ルーティングおよび転送 (Per VRF) の認証、認可、アカウントिंग (AAA) を設定できます。

- [TACACS サーバーの Per VRF の前提条件, on page 935](#)
- [TACACS サーバーの Per VRF の制限事項, on page 935](#)
- [TACACS サーバーの Per VRF に関する情報, on page 936](#)
- [TACACS サーバーの Per VRF の設定方法, on page 936](#)
- [TACACS サーバーの Per VRF の設定例, on page 939](#)
- [その他の参考資料, on page 940](#)
- [TACACS サーバーの Per VRF の機能情報, on page 941](#)

## TACACS サーバーの Per VRF の前提条件

- TACACS+ サーバー アクセスが必要です。
- TACACS+, AAA および Per VRF AAA、およびグループサーバー設定の経験が必要です。

## TACACS サーバーの Per VRF の制限事項

- TACACS+ サーバーの Per VRF を設定する前に、ルータで VRF インスタンスをグローバルにイネーブルにする必要があります。

# TACACS サーバーの Per VRF に関する情報

## TACACS サーバーの Per VRF の概要

TACACS+ サーバーの Per VRF 機能を使用すると、TACACS+ サーバーで Per VRF AAA を設定できます。Cisco IOS XE リリース 2.2 よりも前のリリースでは、この機能は RADIUS サーバーでのみ使用できました。

## TACACS サーバーの Per VRF の設定方法

### TACACS サーバ上の Per VRF の設定

この手順の最初のステップは、AAA およびサーバグループの設定、VRF ルーティングテーブルの作成、およびインターフェイスの設定に使用されます。ステップ 10 ~ 13 は、TACACS+ サーバ機能上での Per VRF の設定に使用されます。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip vrf *vrf-name***
4. **rd *route-distinguisher***
5. **exit**
6. **interface *interface-name***
7. **ip vrf forwarding *vrf-name***
8. **ip address *ip-address mask* [secondary]**
9. **exit**
10. **aaa group server tacacs+ *group-name***
11. **server-private {*ip-address* | *name*} [nat] [single-connection] [port *port-number*] [timeout *seconds*] [key [0 | 7] *string*]**
12. **ip vrf forwarding *vrf-name***
13. **ip tacacs source-interface *subinterface-name***
14. **exit**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。



	Command or Action	Purpose
	Router> enable	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip vrf vrf-name</b> <b>Example:</b> Router (config)# ip vrf cisco	VRF テーブルを設定し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>rd route-distinguisher</b> <b>Example:</b> Router (config-vrf)# rd 100:1	VRF インスタンスに対するルーティングおよびフォワーディング テーブルを作成します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router (config-vrf)# exit	VRF コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>interface interface-name</b> <b>Example:</b> Router (config)# interface Loopback0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>ip vrf forwarding vrf-name</b> <b>Example:</b> Router (config-if)# ip vrf forwarding cisco	インターフェイスに VRF を設定します。
ステップ 8	<b>ip address ip-address mask [secondary]</b> <b>Example:</b> Router (config-if)# ip address 10.0.0.2 255.0.0.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router (config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 10	<b>aaa group server tacacs+ group-name</b> <b>Example:</b> Router (config)# aaa group server tacacs+ tacacs1	異なる TACACS+ サーバ ホストを別々のリストと方式にグループ化し、server-group コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<p><b>server-private</b> <i>{ip-address   name}</i> [<b>nat</b>]  <b>[single-connection]</b> [<b>port</b> <i>port-number</i>] [<b>timeout</b> <i>seconds</i>] [<b>key</b> [<b>0</b>   <b>7</b>] <i>string</i>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router (config-sg-tacacs+)# server-private 10.1.1.1 port 19 key cisco</pre>	グループ サーバに対するプライベート TACACS+ サーバの IP アドレスを設定します。
ステップ 12	<p><b>ip vrf forwarding</b> <i>vrf-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router (config-sg-tacacs+)# ip vrf forwarding cisco</pre>	AAA TACACS+ サーバグループの VRF リファレンスを設定します。
ステップ 13	<p><b>ip tacacs source-interface</b> <i>subinterface-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router (config-sg-tacacs+)# ip tacacs source-interface Loopback0</pre>	すべての発信 TACACS+ パケットに対して、指定されたインターフェイスの IP アドレスを使用します。
ステップ 14	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router (config-sg-tacacs)# exit</pre>	server-group コンフィギュレーションモードを終了します。

## TACACS サーバーの Per VRF の確認

Per VRF TACACS+ 設定を確認するには、次の手順を実行します。



**Note** **debug** コマンドは、任意の順番で使用できます。



**Caution** デバッグ CLI をイネーブルにすると、ルータのパフォーマンスが低下する可能性があります。多数のセッションに対して **debug** コマンドを使用することはお勧めしません。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug tacacs authentication**
3. **debug tacacs authorization**
4. **debug tacacs accounting**
5. **debug tacacs packets**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>debug tacacs authentication</b> <b>Example:</b> Router# debug tacacs authentication	AAA/TACACS+ 認証に関する情報を表示します。
ステップ 3	<b>debug tacacs authorization</b> <b>Example:</b> Router# debug tacacs authorization	AAA/TACACS+ 認可に関する情報を表示します。
ステップ 4	<b>debug tacacs accounting</b> <b>Example:</b> Router# debug tacacs accounting	説明可能なイベントが発生したときに、その情報を表示します。
ステップ 5	<b>debug tacacs packets</b> <b>Example:</b> Router# debug tacacs packets	TACACS+ パケットに関する情報を表示します。

## TACACS サーバーの Per VRF の設定例

## TACACS サーバーの Per VRF の設定例

次の出力例では、Per VRF AAA サービスにグループ サーバ **tacacs1** が設定されています。

```
aaa group server tacacs+ tacacs1
  server-private 10.1.1.1 port 19 key cisco
  ip vrf forwarding cisco
  ip tacacs source-interface Loopback0
ip vrf cisco
  rd 100:1
interface Loopback0
  ip address 10.0.0.2 255.0.0.0
  ip vrf forwarding cisco
```

## その他の参考資料

次のセクションでは、TACACS+ サーバーの Per VRF に関連する参考資料を示します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
TACACS+ の設定	「Configuring TACACS+」モジュール。
Per VRF AAA	「Per VRF AAA」モジュール。
セキュリティコマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

### RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## TACACS サーバーの Per VRF の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 114: Per VRF for TACACS+ Servers の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Per VRF for TACACS+ Servers	Cisco IOS XE Release 2.2	<p>TACACS+ サーバーの Per VRF 機能により、TACACS+ サーバーで Per Virtual ルーティングおよび転送 (Per VRF) の認証、認可、アカウントリング (AAA) を設定できます。</p> <p>Cisco IOS XE リリース 2.2 では、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータにこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました：<b>ip tacacs source-interface</b>、<b>ip vrf forwarding (server-group)</b>、<b>server-private (TACACS+)</b>。</p>





## CHAPTER 82

# TACACS の属性値ペア

Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACACS+) の属性値 (AV) ペアは、TACACS+ デーモンに保存されるユーザープロファイルで特定の認証、認可、およびアカウントリング要素を定義するために使用されます。この章では、現在サポートされている TACACS+ AV ペアの一覧を示します。

- [TACACS の属性値ペアに関する情報, on page 943](#)

## TACACS の属性値ペアに関する情報

### TACACS+ 認証および認可の AV ペア

次の表で、サポートされている TACACS+ 認証および認可の AV ペアの一覧と説明を示し、実装されている Cisco IOS リリースを指定しています。

**Table 115:** サポートされている TACACS+ 認証および認可の AV ペア

属性	説明	IOS XE 2.1
acl=x	接続アクセスリストを表す ASCII 数。service=shell の場合のみ使用されます。	あり
addr=x	ネットワークアドレス。service=slip、service=ppp、および protocol=ip で使用されます。SLIP または PPP/IP 経由で接続する際にリモートホストが使用する IP アドレスを含みます。たとえば、addr=10.2.3.4 となります。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
addr-pool=x	<p>リモート ホスト アドレスの取得元とするローカル プールの名前を指定します。service=ppp および protocol=ip と使用されます。</p> <p><b>addr-pool</b> はローカル プーリングと連動して動作することに注意してください。ローカルプールの名前を指定します。これはネットワークアクセスサーバで事前設定する必要があります。</p> <p><b>ip-local pool</b> コマンドを使用して、ローカル プールを宣言します。次に例を示します。</p> <pre>ip address-pool local ip local pool boo 10.0.0.1 10.0.0.10 ip local pool moo 10.0.0.1 10.0.0.20</pre> <p>その後、TACACS+ を使用して addr-pool=boo または addr-pool=moo を返し、このリモート ノードのアドレスの取得元にするアドレス プールを指示することができます。</p>	あり
autocmd=x	EXEC 起動時に実行する autocommand を指定します (たとえば autocmd=telnet example.com)。service=shell の場合のみ使用されます。	あり
callback- dialstring	コールバックの電話番号 (例: callback-dialstring=408-555-1212) を設定します。値はヌルまたはダイヤルストリングです。ヌル値は、サービスで他の手段を通じてダイヤルストリングを取得することもできることを示します。service=arap、service=slip、service=ppp、service=shell で使用されます。ISDN では無効です。	あり
callback-line	コールバックで使用する TTY 回線の数 (例: callback-line=4) です。service=arap、service=slip、service=ppp、service=shell で使用されます。ISDN では無効です。	あり
callback-rotary	コールバックで使用するロータリー グループの数 (0 ~ 100 の範囲) です (例: callback-rotary=34)。service=arap、service=slip、service=ppp、service=shell で使用されます。ISDN では無効です。	あり
cmd-arg=x	<p>シェル (EXEC) コマンドに渡す引数です。実行されるシェル コマンドの引数を示します。cmd-arg 属性を複数指定でき、順序依存です。</p> <p><b>Note</b> この TACACS+ AV ペアは、RADIUS 属性 26 で使用できません。</p>	あり



属性	説明	IOS XE 2.1
cmd=x	シェル (EXEC) コマンドです。実行するシェル コマンドのコマンド名を示します。この属性は、サービスが「シェル」と等しい場合に指定する必要があります。ヌル値は、シェル自身が参照されることを示します。  <b>Note</b> この TACACS+ AV ペアは、RADIUS 属性 26 で使用できません。	あり
data-service	service=outbound および protocol=ip で使用されます。	あり
dial-number	ダイヤルする番号を定義します。service=outbound および protocol=ip で使用されます。	あり
dns-servers=	Microsoft PPP クライアントにより、IPCP ネゴシエーション中にネットワークアクセスサーバから要求される可能性がある DNS サーバ (プライマリまたはセカンダリ) を識別します。service=ppp および protocol=ip で使用されます。DNS サーバを特定する IP アドレスはドット付き 10 進表記で入力します。	あり
force-56	チャンネルの 64 K すべてが使用可能に見える場合でも、ネットワーク アクセスサーバが 56 K の部分のみを使用するかどうかを指定します。この属性をオンにするには、「true」値 (force-56=true) を使用します。他の値は、false として扱われます。service=outbound および protocol=ip で使用されます。	あり
gw-password	L2TP トンネル認証時のホーム ゲートウェイのパスワードを指定します。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
idletime=x	値を分単位で設定します。その時間が経過すると、アイドルセッションが終了します。ゼロ値はタイムアウトなしを示します。	あり
inacl#<n>	現在の接続期間に使用されるインターフェイスにインストールされ適用される、入力アクセスリストの ASCII アクセスリスト識別名です。service=ppp および protocol=ip、service service=ppp および protocol=ipx で使用されます。ユーザ単位のアクセスリストは、現在 ISDN インターフェイスでは使用できません。	あり
inacl=x	インターフェイス 入力アクセスリストの ASCII 識別名です。service=ppp および protocol=ip で使用されます。ユーザ単位のアクセスリストは、現在 ISDN インターフェイスでは使用できません。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
interface-config#<n>	<p>仮想プロファイルを使用してユーザ固有の AAA インターフェイス設定情報を指定します。等号 (=) が付いている情報は、すべての Cisco IOS インターフェイス コンフィギュレーション コマンドとして使用できます。この属性は複数インスタンスが許可されますが、各インスタンスは固有の番号を持つ必要があります。service=ppp および protocol=lcp で使用されます。</p> <p><b>Note</b> 「interface-config=」属性はこの属性に置き換えられます。</p>	あり
ip-addresses	トンネルのエンドポイントで使用できる IP アドレスの、スペースで区切ったリストです。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-busy-disconnect	LNS の vpdn-group で、事前にコピーするよう設定された仮想テンプレートを使用している場合、この属性は、接続先の事前にコピーされたインターフェイスが検索されない、新しい L2TP セッションのディスポジションを制御します。属性が true (デフォルト) の場合、セッションが LNS により切断されます。そうでない場合は、新しいインターフェイスが仮想テンプレートからコピーされます。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-cm-local-window-size	L2TP 制御メッセージの最大受信ウィンドウ サイズを指定します。この値は、トンネルの確立中にピアにアドバタイズされます。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-drop-out-of-order	正しくない順序で受信したデータパケットを破棄して、シーケンス番号を順守します。これは受信した場合の処理方法であって、データパケット上でシーケンス番号が送信されるわけではありません。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-hello- interval	hello キープアライブインターバルの秒数を指定します。ここで指定した秒数、トンネルでデータが送信されないと、hello パケットが送信されます。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-hidden-avp	有効にすると、L2TP 制御メッセージで、大文字小文字を区別する AVP にスクランブルがかけられるか、または非表示になります。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-nosession-timeout	タイムアウトおよびシャットダウンまでに、セッションなしでトンネルがアクティブのままになる秒数を指定します。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
l2tp-tos-reflect	LNS でトンネルに入るパケットに対して、IP ToS フィールドを各ペイロードパケットの IP ヘッダーからトンネルパケットの IP ヘッダーにコピーします。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-tunnel- authen	この属性を設定すると、L2TP トンネル認証が実行されます。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-tunnel- password	L2TP トンネル認証および AVP 隠蔽に使用される共有秘密です。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
l2tp-udp- checksum	これは認可属性で、L2TP がデータパケットに対して UDP チェックサムを実行する必要があるかどうかを定義します。有効な値は「yes」と「no」です。デフォルトは「no」です。service=ppp と protocol=vpdn で使用されます。	あり
link- compression=	PPP リンクで「stac」圧縮をオンまたはオフのどちらにするかを定義します。service=ppp で使用されます。 リンク圧縮は、次のように、数値で定義します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 0 : なし</li><li>• 1 : Stac</li><li>• 2 : Stac-Draft-9</li><li>• 3 : MS-Stac</li></ul>	あり
load-threshold=<n>	マルチリンクバンドルに対して他のリンクを追加または削除する発信元の負荷のしきい値を設定します。負荷がこの指定した値を超えると、追加リンクが追加されます。負荷が指定の値を下回ると、リンクが削除されます。service=ppp および protocol=multilink で使用されます。<n> の範囲は、1 から 255 です。	あり
map-class	ユーザプロファイルに、ダイヤルアウトするネットワークアクセスサーバ上で同じ名前のマップクラスで設定される情報の参照を許可します。service=outbound および protocol=ip で使用されます。	あり
max-links=<n>	ユーザがマルチリンクで保持できるリンク数を制限します。service=ppp および protocol=multilink で使用されます。<n> の範囲は、1 から 255 です。	あり
min-links	MLP に対するリンクの最小数を設定します。service=ppp と protocol=multilink、protocol=vpdn で使用されます。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
nas-password	L2TP トンネル認証時のネットワーク アクセス サーバーのパスワードを指定します。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
nocallback-verify	コールバック検証が必要かを指定します。このパラメータで有効な値は 1 のみです (例: nocallback-verify=1)。service=arap、service=slip、service=ppp、service=shell で使用されます。コールバックに認証がありません。ISDN では無効です。	あり
noescape=x	ユーザがエスケープ文字を使用できないようにします。service=shell で使用されます。true または false のどちらかです (例: noescape=true)。	あり
nohangup=x	service=shell で使用されます。nohangup オプションを指定します。このオプションで EXEC シェルの終了後、ユーザに他のログイン (ユーザ名) プロンプトを表示します。true または false のどちらかです (例: nohangup=false)。	あり
old-prompts	プロバイダーが以前のシステム (TACACS および拡張 TACACS) と同じプロンプトを TACACS+ で表示できます。これにより、管理者は、TACACS または拡張 TACACS から TACACS+ に、ユーザが気づくことなくアップグレードできます。	あり
outacl#<n>	現在の状態である限りインターフェイスにインストールされ、適用されるインターフェイス出力アクセスリストの ASCII アクセスリスト識別情報です。service=ppp および protocol=ip、service service=ppp および protocol=ipx で使用されます。ユーザ単位のアクセスリストは、現在 ISDN インターフェイスでは使用できません。	あり
outacl=x	インターフェイス 出力アクセス リストの ASCII 識別名です。service=ppp および protocol=ip、service service=ppp および protocol=ipx で使用されます。SLIP または PPP/IP の IP 出力アクセスリストが含まれます (outacl=4 など)。このアクセスリスト自身はルータで事前設定する必要があります。ユーザ単位のアクセスリストは、現在 ISDN インターフェイスでは使用できません。	あり
pool-def#<n>	ネットワーク アクセス サーバで IP アドレス プールを定義します。service=ppp および protocol=ip で使用されます。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
pool-timeout=	pool-defとともに、ネットワークアクセスサーバ上のIPアドレスプールを定義します。IPCP アドレス ネゴシエーション中、IP プール名がユーザに指定されている場合 (addr-pool 属性を参照)、指定された名前のプールがネットワークアクセスサーバで定義されているかチェックされます。その場合、プールにIPアドレスがあるか参照します。service=ppp および protocol=ip で使用されます。	あり
port-type	ユーザを認証するためにネットワークアクセスサーバで使用されている物理ポートのタイプを示します。 物理ポートは、次のように数値で示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 非同期</li> <li>• 1 : 同期</li> <li>• 2 : ISDN 同期</li> <li>• 3 : ISDN 非同期 (V.120)</li> <li>• 4 : ISDN-非同期 (V.110)</li> <li>• 5 : 仮想</li> </ul> service=any および protocol=aaa で使用されます。	あり
ppp-vj-slot-compression	VJ 圧縮パケットを PPP リンク経由で送信する際に、Cisco ルータでスロット圧縮しないように指示します。	あり
priv-lvl=x	EXEC に割り当てられる権限レベルです。service=shell で使用されます。権限レベルの範囲は 0 ~ 15 で、15 が最高です。	あり
protocol=x	サービスのサブセットのプロトコルです。たとえば、任意の PPP NCP などです。現在知られている値は、lcp、ip、ipx、atalk、vines、lat、xremote、tn3270、telnet、rlogin、pad、vpdn、osicp、decep、ccp、cdp、bridging、xns、nbf、bap、multilink、および unknown です。	あり
proxyacl#<n>	ダウンロード可能なユーザプロファイル (ダイナミック ACL) を、認証プロキシを使用して設定でき、これにより設定されたインターフェイスのトラフィックの通過を許可するよう、認証を設定できます。service=shell および protocol=exec で使用されます。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
route	<p>インターフェイスに適用されるルートを指定します。  <b>service=slip</b>、<b>service=ppp</b>、および <b>protocol=ip</b> で使用されます。</p> <p>ネットワークの許可中、<b>route</b> 属性はユーザ単位のスタティックルートの指定に使用でき、TACACS+ により次のようにインストールされます。</p> <p><b>route=" dst_address mask [ gateway ]"</b></p> <p>これは、一時的に適用されるスタティックルートを示します。  <b>dst_address</b>、<b>mask</b>、および <b>gateway</b> は通常のドット付き 10 進表記での記述を想定されていて、よく使用されるネットワークアクセスサーバーの <b>ip route</b> コンフィギュレーションコマンドと同じ意味を持ちます。</p> <p><b>gateway</b> を省略すると、ピアのアドレスがゲートウェイになります。ルートは接続が終了すると消去されます。</p>	あり
route#<n>	<p>ルート AV ペアと同様にインターフェイスに適用されるルートを指定しますが、このルートは番号が付けられて複数のルートを適用できます。<b>service=ppp</b> と <b>protocol=ip</b>、および <b>service=ppp</b> と <b>protocol=ipx</b> で使用されます。</p>	あり
routing=x	<p>ルーティング情報をインターフェイスに伝播し、このインターフェイスから受け入れるかどうかを指定します。<b>service=slip</b>、<b>service=ppp</b>、および <b>protocol=ip</b> で使用されます。機能上、SLIP および PPP コマンドの <b>/routing</b> フラグと同等です。<b>true</b> または <b>false</b> のいずれか（例：<b>routing=true</b>）です。</p>	あり
rte-fltr-in#<n>	<p>現在の接続中に、現在のインターフェイスのルーティングアップデートにインストールし、適用する入力アクセスリストの定義を指定します。<b>service=ppp</b> と <b>protocol=ip</b>、および <b>service=ppp</b> と <b>protocol=ipx</b> で使用されます。</p>	あり
rte-fltr-out#<n>	<p>現在の接続中に、現在のインターフェイスのルーティングアップデートにインストールし、適用する出力アクセスリストの定義を指定します。<b>service=ppp</b> と <b>protocol=ip</b>、および <b>service=ppp</b> と <b>protocol=ipx</b> で使用されます。</p>	あり
sap#<n>	<p>接続中にインストールされるスタティックサービスアダプタイジングプロトコル (SAP) エントリを指定します。<b>service=ppp</b> および <b>protocol=ipx</b> で使用されます。</p>	あり
sap-fltr-in#<n>	<p>現在の接続中に、現在のインターフェイスにインストールし、適用する入力 SAP フィルタアクセスリストの定義を指定します。<b>service=ppp</b> および <b>protocol=ipx</b> で使用されます。</p>	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
sap-fltr-out#<n>	現在の接続中に、現在のインターフェイスにインストールし、適用する出力 SAP フィルタ アクセス リストの定義を指定します。service=ppp および protocol=ipx で使用されます。	あり
send-auth	CLID 認証に続く、username-password 認証で使用するプロトコル (PAP または CHAP) を定義します。service=any および protocol=aaa で使用されます。	あり
send-secret	NAS が発信コールの接続のリモートエンドからの chap/pap 要求に応答する際に必要なパスワードを指定します。service=ppp および protocol=ip で使用されます。	あり
service=x	プライマリ サービスです。このサービスの認証またはアカウントリングを要求していることを示すサービス属性を指定します。現在の値は、slip、ppp、arap、shell、tty-daemon、connection、および system です。この属性は常に含める必要があります。	あり
source-ip=x	VPDN トンネルの一部として生成されたすべての VPDN パケットの発信元 IP アドレスとして使用されます。これは、Cisco vpdn outgoing グローバルコンフィギュレーションコマンドと同じ意義を持ちます。	あり
spi	登録中にホームエージェントがモバイルノードの認証で必要とする認証情報を伝送します。この情報は、ip mobile secure host <addr> コンフィギュレーション コマンドと同じ構文です。基本的に、この文字列に続く残りのコンフィギュレーションコマンドはそのまま含まれます。これにはセキュリティパラメータ インデックス (SPI)、鍵、認証アルゴリズム、認証モード、およびリプレイ保護タイムスタンプ範囲が含まれています。service=mobileip および protocol=ip で使用されます。	あり
timeout=x	EXEC または ARA セッションを切断するまでの分数です (例: timeout=60)。ゼロ値はタイムアウトなしを示します。service=arap で使用されます。	あり
tunnel-id	個々のユーザ MID が生成されるトンネルの認証に使用するユーザ名を指定します。これは、vpdn outgoing コマンドの remote name と同様です。service=ppp および protocol=vpdn で使用されます。	あり
wins-servers=	IPCP ネゴシエーション中に、ネットワーク アクセス サーバから Microsoft PPP クライアントにより要求される可能性がある Windows NT サーバを特定します。service=ppp および protocol=ip で使用されます。各 Windows NT サーバを特定する IP アドレスはドット付き 10 進表記で入力します。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
zonelist=x	数字の zonelist の値です。service=arap で使用されます。ARA 向けの AppleTalk zonelist です（例：zonelist=5）。	あり

TACACS+ の設定の詳細については、「TACACS+ の設定」の章を参照してください。TACACS+ の認証および認可の設定については、「認証の設定」および「認可の設定」の章を参照してください。

## TACACS アカウンティング AV ペア

次の表で、サポートされている TACACS+ アカウンティングの AV ペアの一覧と説明を示し、実装されている Cisco IOS XE リリースを指定しています。

**Table 116:** サポートされる TACACS+ アカウンティング AV ペア

属性	説明	IOS XE 2.1
Abort-Cause	ファクスセッションが中断した場合、中断の信号を送信したシステムコンポーネントを示します。中断する可能性のあるシステムコンポーネントには、FAP (Fax Application Process)、TIFF (TIFF リーダーまたは TIFF ライター)、fax-mail クライアント、fax-mail サーバー、ESMTP クライアント、ESMTP サーバーなどがあります。	あり
bytes_in	この接続中に転送される入力バイト数です。	あり
bytes_out	この接続中に転送される出力バイト数です。	あり
Call-Type	ファクスのアクティビティのタイプを、fax receive または fax send のどちらかで記述します。	あり
cmd	ユーザが実行したコマンドです。	あり
data-rate	この AV ペアは名前が変更されました。nas-rx-speed を参照してください。	
disc-cause	接続がオフラインになった理由を特定します。Disconnect-Cause 属性は、アカウンティング終了記録で送信されます。また、この属性で、認証が実行される前に接続が切断された場合、最初に開始レコードを生成せずに終了レコードが生成されず、Disconnect-Cause 値とその意味の一覧については、次の表（接続解除原因の拡張）を参照してください。	あり
disc-cause-ext	disc-cause 属性が、接続がオフラインになったベンダー固有の理由をサポートするよう拡張します。	あり



属性	説明	IOS XE 2.1
elapsed_time	処理の経過時間（秒）です。デバイスが実時間を保持していない場合に有用です。	あり
Email-Server-Address	オンランプ fax-mail メッセージを処理する E メール サーバの IP アドレスを示します。	あり
Email-Server-Ack-Flag	オンランプ ゲートウェイが fax-mail メッセージを受け入れる E メールサーバから肯定確認応答を受信したことを示します。	あり
event	ルータの状態変化を記述した、アカウンティング パケットに含める情報です。記述されたイベントは、アカウンティング 開始およびアカウンティング終了です。	あり
Fax-Account-Id-Origin	<b>mmoip aaa receive-id</b> コマンドまたは <b>mmoip aaa send-id</b> コマンドについて、アカウント ID の発信元がシステム管理者によって定義されたものとして示します。	あり
Fax-Auth-Status	このファクス セッションに対する認証が成功したかどうかを示します。このフィールドに対する有効値は、success、failed、bypassed、または unknown です。	あり
Fax-Connect-Speed	この fax-mail が最初に送信または受信された時点のモデム速度を示します。有効値は、1200、4800、9600、および 14400 です。	あり
Fax-Coverpage-Flag	カバー ページがこのファクスセッションのオフランプ ゲートウェイで生成されたかどうかを示します。true はカバー ページが生成されたことを示します。false はカバー ページが生成されなかったことを意味します。	あり
Fax-Dsn-Address	DSN の送信先のアドレスを示します。	あり
Fax-Dsn-Flag	DSN が有効にされているかどうかを示します。true は DSN が有効にされていることを示します。false は DSN が有効にされていないことを示します。	あり
Fax-Mdn-Address	MDN の送信先のアドレスを示します。	あり
Fax-Mdn-Flag	メッセージ配信通知（MDN）が有効にされているかどうかを示します。true は MDN が有効にされていることを示します。false は MDN が有効にされていないことを示します。	あり
Fax-Modem-Time	モデムがファクスデータを送信した時間（x）、およびファクスセッションの合計時間（y）を秒単位で示します。これには、fax-mail および PSTN 時間が x/y の形式で含まれます。たとえば、10/15 は送信時間が 10 秒で、合計ファクスセッションが 15 秒であったことを示します。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
Fax-Msg-Id=	Store and Forward Fax 機能によって割り当てられた一意のファクス メッセージ識別番号を示します。	あり
Fax-Pages	このファクス セッション中に送信または受信したページ数を示します。このページ数には、カバー ページも含まれます。	あり
Fax-Process-Abort-Flag	ファクス セッションが中断したこと、または正常に終了したことを示します。true はセッションが中断したことを示します。false はセッションが成功したことを示します。	あり
Fax-Recipient-Count	このファクス送信の受信者数を示します。E メール サーバがセッション モードをサポートするまで、この数字は 1 にする必要があります。	あり
Gateway-Id	ファクス セッションを処理したゲートウェイの名前を示します。この名前は、hostname.domain-name の形式で表示されます。	あり
mlp-links-max	アカウンティング レコードが生成された時点で特定のマルチリンク セッションにあるリンク数を示します。	あり
mlp-sess-id	セッションが終了した時のマルチリンク バンドルの ID 番号をレポートします。この属性は、マルチリンク バンドルの一部のセッションに適用されます。この属性は、認証応答パケットで送信されます。	あり
nas-rx-speed	接続のライフタイムでの平均ビット/秒値を指定します。この属性は、アカウンティング終了記録で送信されます。	あり
nas-tx-speed	2つのモデムによってネゴシエートされた送信速度を報告します。	あり
paks_in	この接続中に転送される入力パケット数です。	あり
paks_out	この接続中に転送される出力パケット数です。	あり
port	ユーザがログインしたポートです。	あり
Port-Used	この fax-mail の送受信いずれかに使用される Cisco AS5300 のスロット/ポート番号を示します。	あり
pre-bytes-in	認証前の入力バイト数を記録します。この属性は、アカウンティング終了記録で送信されます。	あり
pre-bytes-out	認証前の出力バイト数を記録します。この属性は、アカウンティング終了記録で送信されます。	あり

属性	説明	IOS XE 2.1
pre-paks-in	認証前の入力パケット数を記録します。この属性は、アカウンティング終了記録で送信されます。	あり
pre-paks-out	認証前の出力パケット数を記録します。Pre-Output-Packets 属性は、アカウンティング終了記録で送信されます。	あり
pre-session-time	コールが最初に接続された時から認証が完了した時までの時間長を秒で指定します。	あり
priv_level	処理に関連付けられた権限レベルです。	あり
protocol	処理に関連付けられたプロトコルです。	あり
reason	システム変更により発生したイベントを記述した、アカウンティングパケットに含める情報です。記述されるイベントは、システムのリロード、システムのシャットダウン、またはアカウンティングが再設定（オンまたはオフ）された場合です。	あり
service	ユーザが使用するサービスです。	あり
start_time	処理を開始する時刻（エポック（1970年1月1日 12:00 a.m.）からの秒数で指定）です。この情報を受信するよう、クロックを設定する必要があります。	あり
stop_time	処理を停止する時刻（エポックからの秒数で指定）です。この情報を受信するよう、クロックを設定する必要があります。	あり
task_id	同じ（一意の）task_id 番号を持つ同じイベントに対する開始レコードと終了レコードです。	あり
timezone	このパケットに含まれるすべてのタイムスタンプの時間帯（省略形）です。	あり
xmit-rate	この AV ペアは名前が変更されました。nas-tx-speed を参照してください。	

次の表で、Disconnect Cause Extended (disc-cause-ext) 属性の原因のコードと説明の一覧を示しています。

**Table 117:** 接続解除原因の拡張

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1000 – 理由なし	接続解除の理由はありません。	あり
1001 – 接続解除なし	イベントは接続解除されませんでした。	あり

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1002 – 不明	接続解除の理由が不明です。このコードは、リモート接続が停止している場合に表示されることがあります。	あり
1003 – コール接続解除	コールが接続解除されました。	あり
1004 – CLID 認証失敗	Calling line ID (CLID) 認証が失敗しました。	あり
1009 – モデム使用不可	モデムが使用できません。	あり
1010 – キャリアなし	モデムで、データ キャリア検出 (DCD) が検出されませんでした。このコードは、最初のモデム接続で切断が発生した場合に表示されます。	あり
1011 – キャリアのロスト	モデムで DCD は検出されましたが、非アクティブになっています。このコードは、最初のモデム接続で切断が発生した場合に表示されます。	あり
1012 – モデム結果なし	結果コードが解析できません。このコードは、最初のモデム接続で切断が発生した場合に表示されます。	あり
1020 – TS ユーザ退出	ユーザがターミナル サーバから正常に退出しました。このコードは、ターミナル サーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1021 – アイドル タイムアウト	アイドル タイマーの時間切れのため、ターミナル サーバからユーザが退出しました。このコードは、ターミナル サーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1022 – TS Telnet 退出	ユーザが、Telnet セッションから正常に退出しました。このコードは、ターミナル サーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1023 – TS IP アドレスなし	リモート ホストが IP アドレスを保持していないか、ダイナミック プールが割り当てられていないため、ユーザはシリアルラインインターネットプロトコル (SLIP) または PPP にスイッチできません。このコードは、ターミナル サーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1024 – TS TCP の raw 退出	ユーザが、raw TCP セッションから正常に退出しました。このコードは、ターミナル サーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1025 – TS パスワード不良	ユーザが3回、正しいパスワードの入力に失敗したため、ログイン処理が終了しました。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1026 – TS raw TCP なし	raw TCP オプションがイネーブルになっていません。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1027 – TS CNTL-C	ユーザが「Ctrl C」と入力したためログインプロセスが終了しました。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の接続解除に関連しています。	あり
1028 – TS セッション終了	ターミナルサーバセッションが終了しました。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1029 – TS Vconn 終了	ユーザがバーチャル接続を終了しました。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1030 – TS Vconn 終了	バーチャル接続が終了しました。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1031 – TS Rlogin 退出	ユーザが Rlogin セッションから正常に退出しました。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1032 – TS Rlogin オプション無効	ユーザが無効な Rlogin オプションを選択しました。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1033 – TS 不十分なリソース	アクセスサーバにターミナルサーバセッションを行う十分なリソースがありません。このコードは、ターミナルサーバセッション中のイミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連しています。	あり
1040 – PPP LCP タイムアウト	PPP リンク コントロール プロトコル (LCP) ネゴシエーションがピアからの応答を待機している間にタイムアウトしました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり
1041 – PPP LCP 失敗	PPP LCP ネゴシエーションで収束に失敗しました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1042 – PPP Pap 失敗	PPP パスワード認証プロトコル (PAP) 認証が失敗しました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり
1043 – PPP CHAP 失敗	PPP チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) 認証が失敗しました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり
1044 – PPP リモート失敗	リモート サーバからの認証が失敗しました。このコードは、PPP セッションと関係しています。	あり
1045 – PPP 終了の受信	ピアが PPP 終了要求を送信しました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり
PPP LCP 終了 (1046)	LCP がオープン状態にある時に、LCP が上位層から終了要求を受信しました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり
1047 – PPP NCP なし	NCP がオープンでないため、LCP が終了しました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり
1048 – PPP MP エラー	ユーザに追加するマルチリンク PPP バンドルを特定できなかったため、LCP は終了しました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり
1049 – PPP 最大チャネル	アクセス サーバが MP セッションにこれ以上チャネルを追加できなかったため、LCP が終了しました。このコードは、PPP 接続と関係しています。	あり
1050 – TS テーブルが満杯	raw TCP または Telnet 内部セッション テーブルが満杯です。このコードは、イミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連し、この表の前のほうに記載した Telnet および TCP コードよりも詳細な情報が含まれています。	あり
1051 – TS リソースが満杯	内部リソースが満杯です。このコードは、イミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連し、この表の前のほうに記載した Telnet および TCP コードよりも詳細な情報が含まれています。	あり
1052 – TS 無効な IP アドレス	Telnet ホストの IP アドレスが無効です。このコードは、イミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連し、この表の前のほうに記載した Telnet および TCP コードよりも詳細な情報が含まれています。	あり

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1053 – TS ホスト名不良	アクセス サーバがホスト名を解決できませんでした。このコードは、イミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連し、この表の前のほうに記載した Telnet および TCP コードよりも詳細な情報が含まれています。	あり
1054 – TS ポート不良	アクセス サーバが不良または欠落したポート番号を検出しました。このコードは、イミディエート Telnet および raw TCP の切断に関連し、この表の前のほうに記載した Telnet および TCP コードよりも詳細な情報が含まれています。	あり
1060 – TCP リセット	ホストで TCP 接続がリセットされました。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり
1061 – TCP 接続拒否	ホストで TCP 接続が拒否されました。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり
1062 – TCP タイムアウト	TCP 接続がタイムアウトしました。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり
1063 – TCP 外部ホストの終了	外部ホストで TCP 接続が終了しました。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり
1064 – TCP ネット到達不能	TCP ネットワークが到達不能でした。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり
1065 – TCP ホスト到達不能	TCP ホストが到達不能でした。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり
1066 – TCP ネット管理到達不能	TCP ネットワークが管理的に到達不能でした。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり
1067 – TCP ホスト管理到達不能	TCP ホストが管理的に到達不能でした。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり
1068 – TCP ポート到達不能	TCP ポートが到達不能でした。TCP スタックが、イミディエート Telnet または raw TCP セッション中に、この切断コードを返す場合があります。	あり

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1100 - セッション タイムアウト	PPP リンクでアクティビティがないため、セッションがタイムアウトしました。このコードは、すべてのセッションタイプに適用されます。	あり
1101 - セキュリティ障害	セキュリティ上の理由によりセッションが失敗しました。このコードは、すべてのセッションタイプに適用されません。	あり
1102 - コールバック	コールバックのためセッションが終了しました。このコードは、すべてのセッションタイプに適用されます。	あり
1120 - 非サポート	プロトコルがディセーブルまたは非サポートのため、片側がコールを拒否しました。このコードは、すべてのセッションタイプに適用されます。	あり
1150 - Radius 接続解除	RADIUS サーバが接続解除を要求しました。	あり
1151 - ローカル管理者接続解除	ローカル管理者が接続解除しました。	あり
1152 - SNMP 接続解除	簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) が接続解除しました。	あり
1160 - V110 リトライ	V110 同期で許可されたリトライ回数を超えました。	あり
1170 - PPP 認証タイムアウト	認証がタイムアウトしました。このコードは、PPP セッションに適用されます。	あり
1180 - ローカル ハングアップ	ローカルがハングアップした結果、コールが接続解除しました。	あり
1185 - リモート ハングアップ	リモート エンドがハングアップしたため、コールが接続解除しました。	あり
1190 - T1 休止	伝送している T1 回線が休止したため、コールが接続解除しました。	あり
1195 - コール期間	コール期間が、アクセス サーバの Max Call Mins または Max DS0 Mins パラメータで許可された時間を越えたため、コールが接続解除しました。	あり
1600 - VPDN ユーザ接続解除	ユーザが接続解除しました。この値は、バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク (VPDN) セッションに適用されます。	あり
1601 - VPDN 搬送波消失	搬送波消失が発生しました。このコードは、VPDN セッションに適用されます。	あり



原因コード	説明	IOS XE 2.1
1602 – VPDN リソースなし	リソースがありません。このコードは、VPDNセッションに適用されます。	あり
1603 – VPDN 制御パケット不良	制御パケットが無効です。このコードは、VPDNセッションに適用されます。	あり
1604 – VPDN 管理者接続解除	管理者が接続解除しました。このコードは、VPDNセッションに適用されます。	あり
1605 – VPDN トンネルダウン/確立失敗	トンネルがダウンしているか、確立に失敗しました。このコードは、VPDNセッションに適用されます。	あり
1606 – VPDN ローカル PPP 接続解除	ローカル PPP が接続解除しました。このコードは、VPDNセッションに適用されます。	あり
1607 – VPDN ソフト停止/セッション制限	VPN トンネルで新しいセッションを確立できませんでした。このコードは、VPDNセッションに適用されます。	あり
1608 – VPDN コールリダイレクト	コールがリダイレクトされました。このコードは、VPDNセッションに適用されます。	あり
1801 – Q850 未割り当て番号	番号が割り当てられていません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1802 – Q850 ルートなし	このコードを送信している機器が、認識されていない特定の中継ネットワークを使用したコールのルート要求を受信しました。このコードを送信している機器は、その中継ネットワークが存在しないか、その特定の中継ネットワークが存在していても、このコードを送信している機器で機能していないため、中継ネットワークを認識していません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1803 – Q850 宛先へのルートなし	コールが選択した経路で通過するネットワークが、目的の宛先で機能していないため、着信側に到達できません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1806 – Q850 チャネル受け入れ不能	直近で識別されたチャネルがこのコールで使用する送信エンティティに受け入れられません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1816 – Q850 正常な消去	このコールに関係するユーザの誰かが、コールを消去するよう要求したためコールが消去されました。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1817-Q850 ユーザ ビジー	ユーザビジー状態になっているため、着信側が他のコールを受けられません。このコードは、着信側のユーザまたはネットワークで生成されることがあります。ユーザにより生成された場合、ユーザの機器がこのコールに対応できます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1818-Q850 ユーザ応答なし	割り当てられた所定の時間内に、着信側が、コール確立メッセージに対してアラートまたは接続表示によって応答しないときに使用されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1819-Q850 ユーザ応答なし	着信側のアラートが送信されましたが、所定の時間内に接続表示による応答がありません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1821-Q850 コール却下	このコードを送信している機器は、ビジーまたは非対応ではないためこのコールを受けられますが、このコールを受けたくありません。このコードはネットワークにより生成されることもあり、この場合、このコールが補足サービスの制約により消去されたことを示します。診断フィールドには、補足サービスの追加情報や却下の理由が含まれている場合があります。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1822-Q850 番号の変更	着信側を示す番号が割り当てられていません。新しい着番号が、任意で診断フィールドに含まれている場合があります。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1827-Q850 宛先故障	宛先へのインターフェイスが正常に機能していないため、ユーザが指示した宛先に到達できません。「正常に機能していない」とは、シグナリングメッセージをリモート側に配信できなかったことを意味しています。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1828-Q850 無効な番号形式	着番号が有効な形式でないか、完全でないため、着信側に到達できません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1829-Q850 ファシリティ拒否	このコードは、ユーザが要求した補足サービスがネットワークで提供されていない場合に返されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1830 – Q850 状態問い合わせへの応答	このコードは、STATUS ENQUIRY メッセージよりも先に受領したために STATUS メッセージが生成された場合に、STATUS メッセージに含まれています。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1831 – Q850 未指定の原因	他のコードが適用されない場合に適用されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1834 – Q850 使用可能な回線なし	コールを処理できる回線またはチャネルがありません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1838 – Q850 ネットワーク障害	ネットワークが正常に機能しておらず、この状態が比較的長期間続く見込みです。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1841 – Q850 一時障害	ネットワークが正常に機能していませんが、この状態は長期間続かない見込みです。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1842 – Q850 ネットワーク輻輳	ネットワークが輻輳しています。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1843 – Q850 アクセス情報破棄	このコードは、ネットワークがアクセス情報をリモートユーザの要求に従って配信できなかったことを示します。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1844 – Q850 要求チャネルが使用不可能	このコードは、要求エンティティにより指定された回線またはチャネルが、インターフェイスの片側から提供できなかった場合に返されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1845 – Q850 コールプリエンプション	コールがプリエンプションされました。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1847 – Q850 リソースが使用不可能	このコードは、リソース使用不可クラスの他のコードが適用されない場合にのみ、リソース使用不可イベントをレポートするために使用されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1850 – Q850 未登録ファシリティ	登録されているファシリティではありません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1852 – Q850 発信コール除外	発信側が、発信非公開ユーザグループコールで非公開ユーザグループのメンバーであっても、このメンバーに対して発信コールが許可されていません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
Q850 着信コール除外 (1854)	着信側が、着信非公開ユーザグループコールで非公開ユーザグループのメンバーであっても、このメンバーに対して着信コールが許可されていません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1858 – Q850 ベアラー機能が使用不可	ユーザが、このコードを生成した機器に実装されているベアラー機能を要求しましたが、その時点で使用できませんでした。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1863 – Q850 サービス使用不可	このコードは、サービスまたはオプション使用不可クラス以外のコードが適用されない場合にのみ、サービスまたはオプション使用不可イベントのレポートに使用されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1865 – Q850 ベアラー機能未実装	このコードを送信した機器は、要求されたベアラ機能をサポートしていません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1866 – Q850 チャネル未実装	このコードを送信した機器は、要求されたチャネルタイプをサポートしていません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1869 – Q850 ファシリティ未実装	ユーザが要求した補足サービスがネットワークで提供できません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1881 – Q850 無効コール参照値	このコードを送信した機器は、ユーザネットワーク インターフェイスで現在使用されていないコール参照値が含まれたメッセージを受信しました。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1882 – Q850 チャネルが存在しない	直近で識別されたチャネルがこのコールで使用する送信エンティティに受け入れられません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1888 – Q850 互換性がない宛先	このコードを送信中の機器が、対応できない下位レイヤの互換性または他の互換性属性を持つコールを確立するよう要求されました。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1896 – Q850 必須情報要素が喪失	このコードを送信中の機器が、メッセージが処理される前にメッセージに存在しなければならない情報要素が失われているメッセージを受信しました。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1897 – Q850 存在しないメッセージタイプ	このコードを送信中の機器が、定義されていないメッセージであるか、定義されてはいるがこのコードを送信した機器で実装されていないため認識されないメッセージタイプのメッセージを受信しました。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1898 – Q850 無効なメッセージ	このコードは、無効なメッセージクラスの他のコードが適用されない場合に無効なメッセージをレポートするために使用されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1899 – Q850 情報要素不良	情報要素が認識されません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1900 – Q850 無効要素が含まれる	このコードを送信中の機器が、未実装の情報要素を受信しました。ただし、この情報要素の1つまたは複数のフィールドがこのコードを送信した機器で実装されていない方法で符号化されています。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1901 – Q850 誤った状態のメッセージ	受信したメッセージは、コール ステートと互換性がありません。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1902 – Q850 タイマーの期限切れからの回復	エラー処理手順に関連付けられたタイマーの期限切れによって、手順が初期化されました。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1903 – Q850 情報要素エラー	このコードを送信中の機器が、情報要素識別名またはパラメータ名が定義されていないか、定義されてはいるがこのコードを送信した機器で実装されていないため、認識されない情報要素またはパラメータが含まれるメッセージを受信しました。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし

原因コード	説明	IOS XE 2.1
1911 – Q850 プロトコルエラー	このコードは、プロトコルエラー クラスの他のコードが適用されない場合にのみ、プロトコルエラー イベントをレポートするために使用されます。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし
1927 – Q850 未指定のインターネットワーキング イベント	行った処理に対してコードを提供しないネットワークでインターネットワーキングした場合にエラーになります。このコードは、ISDN または ISDN 経由のモデム コールに適用されます。	なし

TACACS+ アカウンティングの設定の詳細については、「TACACS+ 機能の設定」モジュールを参照してください。



## 第 VII 部

# Cisco TrustSec

- [Cisco TrustSec の概要 \(969 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4, on page 977](#)
- [TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送, on page 999](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の前提条件, on page 1007](#)
- [双方向 SXP サポートの有効化 \(1029 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピング \(1037 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピング, on page 1043](#)
- [Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポート \(1051 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec SGT キャッシング \(1069 ページ\)](#)
- [CTS SGACL のサポート \(1083 ページ\)](#)
- [TrustSec 動作データへの外部アクセス, on page 1093](#)







## 第 83 章

# Cisco TrustSec の概要

Cisco TrustSec は、論理グループ権限を示すためにタグを使用します。このタグは、セキュリティグループタグ (SGT) と呼ばれ、アクセスポリシーで使用されます。SGT は、シスコのスイッチ、ルータ、およびファイアウォールでトラフィックを適用するために使用されます。Cisco TrustSec は、分類、伝達、および適用の 3 つのフェーズで定義されます。

ユーザーとデバイスがネットワークに接続すると、ネットワークは、特定のセキュリティグループを割り当てます。このプロセスは「分類」と呼ばれます。分類は、認証の結果に基づいて行うことも、SGT を IP、VLAN、またはポートプロファイルに関連付けることによって行うこともできます。

ユーザートラフィックが分類されると、SGT は、分類が行われた場所から適用アクションが呼び出される場所に伝達されます。このプロセスは「伝播」と呼ばれます。Cisco TrustSec には、インラインタグgingと SXP の 2 つの SGT 伝達方式があります。

インラインタグgingの場合、SGT は、イーサネットフレームに組み込まれます。イーサネットフレーム内に SGT を埋め込む機能には、特定のハードウェアサポートが必要です。そのため、ハードウェアサポートのないネットワークデバイスは、SXP (SGT 交換プロトコル) と呼ばれるプロトコルを使用します。SXP は、SGT から IP アドレスへのマッピングを共有するために使用されます。これにより、SGT 伝達がパス内の次のデバイスに対して続行されます。

最終的に、適用デバイスが、タグ情報に基づいてトラフィックを制御します。シスコのファイアウォール、ルータ、またはスイッチを TrustSec の適用ポイントとすることができます。適用デバイスは送信元 SGT を取得し、それを宛先 SGT と照合して、トラフィックを許可するか拒否するかを決定します。適用デバイスがシスコのファイアウォールである場合、そのデバイスは、単一のファイアウォールルールで同じ送信元 SGT を使用して、ステートフルファイアウォール処理と IPS ディープ パケット インスペクションも許可します。



(注) Cisco TrustSec 機能は、Cisco 1000 シリーズ サービス統合型ルータのスイッチポートではサポートされません。



- (注) CTS 適用が有効になっている場合、デバイスは、ISE からポリシーをダウンロードしようとして、これには、RADIUS サーバーが設定されている必要があります。RADIUS サーバーが設定されていないと、ポリシーをダウンロードできず、Syslog ファイルにエラーが記録されません。

分類と適用の詳細については、『[Cisco TrustSec Quick Start Configuration Guide](#)』を参照してください。

- [SGT インライン タギング \(970 ページ\)](#)
- [Protected Access Credential \(PAC\) , on page 971](#)
- [PAC Provisioning, on page 972](#)
- [ハイ アベイラビリティ セットアップでのデバイスの展開, on page 972](#)
- [CTS ログイン情報 \(973 ページ\)](#)
- [SGT インライン タギングの設定 \(973 ページ\)](#)
- [CTS ログイン情報の設定 \(975 ページ\)](#)
- [例 : SGT インライン タギングの設定 \(976 ページ\)](#)

## SGT インライン タギング

CTS ドメイン内の各セキュリティグループは、セキュリティグループタグ (SGT) と呼ばれる一意の 16 ビットタグが割り当てられます。SGT はネットワーク全体で送信元の権限を示す単一ラベルです。これは、ネットワーク ホップ間で順番に伝搬され、任意の中間デバイス (スイッチ、ルータ) はこれによってアイデンティティタグに基づいたポリシーを適用できます。

CTS 対応デバイスには、MAC (L2) レイヤ内に組み込まれた SGT を持つパケットを送受信できる、ハードウェア機能が組み込まれています。この機能は、「L2-SGT インポジション」と呼ばれます。これにより、デバイスのイーサネットインターフェイスで L2-SGT インポジションを有効にできるため、そのデバイスはネクスト ホップ イーサネット ネイバーに運ばれるパケット内に SGT を挿入できるようになります。SGT-over-Ethernet は、クリアテキスト (非暗号化) イーサネット パケットに組み込まれた SGT のホップバイホップの伝達方式です。インライン アイデンティティ伝達はスケーラブルで、ほぼラインレートのパフォーマンスを提供し、コントロールプレーンのオーバーヘッドを防ぎます。

SXPv4 機能を備えた Cisco TrustSec は、CTS メタ データ (CMD) ベースの L2-SGT をサポートします。パケットが CTS 対応インターフェイスに入力されると、IP-SGT マッピング データベース (SXP によって構築されたダイナミック エントリや設定コマンドによって構築されたスタティック エントリがある) が分析され、パケットの送信元 IP アドレスに対応する SGT が学習されます。この SGT はパケットに挿入され、CTS ヘッダー内でネットワーク全体に運ばれます。

このタグは、送信元のグループを表しているため、送信元グループタグ (SGT) としても参照されます。ネットワークの出力エッジでは、パケットの宛先に割り当てられたグループが既知になります。この時点で、アクセス制御を適用できます。CTS を使用すると、セキュリティグループアクセスコントロールリスト (SGACL) と呼ばれるアクセスコントロールポリシー

がセキュリティグループ間で定義されます。任意のパケットから見れば、これは単純にセキュリティグループから送信され、別のセキュリティグループに送信されています。

## Protected Access Credential (PAC)

PACは、クライアントとサーバーの相互認証に使用される一意の共有ログイン情報です。これは、特定のクライアントユーザー名およびサーバー権限識別子 (A-ID) に関連付けられます。PACにより、Public Key Infrastructure (PKI) およびデジタル証明書が不要になります。

PAC は次の手順で作成します。

1. サーバー A-ID は、サーバーのみが知っているローカルキー (マスターキー) を保持します。
2. クライアント (この文脈ではイニシエータアイデンティティ (I-ID) と呼ばれる) がサーバーに PAC を要求すると、サーバーはこのクライアントに対してランダムに一意の PAC キーと PAC-Opaque フィールドを生成します。
3. PAC-Opaque フィールドには、ランダムに生成された PAC キーと、I-ID やキーの有効期間などの他の情報が含まれます。
4. PAC-Opaque フィールドの PAC キー、I-ID、およびライフタイムは、マスターキーで暗号化されます。
5. A-ID を含む PAC-Info フィールドが作成されます。
6. PAC は、クライアントに自動的に配布またはインポートされます。

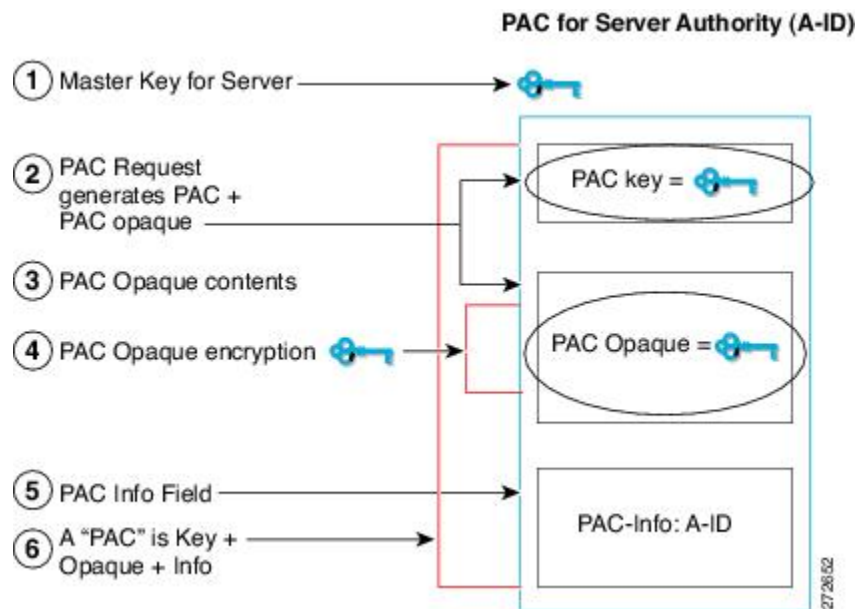


---

**Note** サーバーは PAC または PAC キーを保持しないため、EAP-FAST サーバーはステートレスになります。

---

次の図は、PAC の構造を示しています。PAC は、PAC-Opaque、PAC Key、および PAC-Info フィールドで構成されます。PAC-Info フィールドには A-ID が含まれます。



## PAC Provisioning

Secure RADIUS では、認証中に PAC キーが各デバイスにプロビジョニングされ、共有秘密が導出されます。RADIUS ACS は各デバイスの PAC キーを保存しないため、クライアントは、PAC-Opaque フィールドを含む追加の RADIUS 属性も送信する必要があります。PAC-Opaque フィールドは可変長のフィールドであり、サーバーだけが解釈して、必要な情報を回復し、ピアのアイデンティティと認証を検証することができます。たとえば、PAC-Opaque フィールドには PAC キーと PAC のピアアイデンティティが含まれていることがあります。

PAC-Opaque フィールドの形式と内容は、発行元の PAC サーバーによって異なります。RADIUS サーバーは、PAC-Opaque フィールドから PAC キーを取得し、クライアントと同じ方法で共有秘密を導出します。Secure RADIUS は、共有秘密の導出方法のみを変更し、その使用方法は変更しません。

EAP-FAST フェーズ 0 は、PAC を使用してクライアントを自動的にプロビジョニングするために使用されます。

## ハイアベイラビリティセットアップでのデバイスの展開

HA セットアップでデバイスを展開する場合は、次の手順を実行します。

1. HA セットアップに含まれるすべてのデバイスのログイン情報をクリアします。
2. スタックセットアップを起動し、デバイスロール（アクティブ、スタンバイ、およびメンバー）を確立します。
3. アクティブデバイスのログイン情報を設定します。ログイン情報を設定するには、**cts credentials id id password password** コマンドを使用します。



**Note** 既存のスタックに新しいデバイスを追加する場合は、新しいデバイスのログイン情報をクリアしてから、既存のスタックセットアップに追加してください。

## CTS ログイン情報

CTSでは、ネットワーク内の各デバイスがそれ自体を一意に識別する必要があります。TrustSec ネットワーク デバイス アドミッション コントロール (NDAC) 認証で使用する場合は、**cts credentials** コマンドを使用して、別の Cisco TrustSec デバイスでの認証時や、EAP-FAST を使用した PAC (Protected Access Credentials) のプロビジョニングのために、このデバイスが使用する Cisco TrustSec デバイス ID およびパスワードを指定します。CTS のクレデンシャル情報は startup-config ではなくキーストアに保存されているため、CTS のクレデンシャルの状態取得は不揮発性生成 (NVGEN) プロセスでは実行されません。これらのクレデンシャルは、キーストアで保存され、running-config を保存する必要がなくなります。CTS デバイス ID を表示するには、**show cts credentials** コマンドを使用します。保存されたパスワードは表示されません。

デバイス ID またはパスワードを変更するには、コマンドを再入力します。キーストアをクリアするには、**clear cts credentials** コマンドを使用します。



(注) CTS デバイス ID が変更された場合、Protected Access Credential (PAC) は古いデバイス ID に関連付けられており、新しいアイデンティティに対しては有効でないため、すべての PAC はキーストアから消去されます。

## SGT インライン タギングの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface {gigabitethernet port | vlan number}**
4. **cts manual**
5. **policy static sgt tag [trusted]**
6. **end**
7. **show cts interface brief**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface {gigabitethernet port   vlan number}</b> 例： Device(config)# interface gigabitethernet 0	CTSSGT の認証と転送が有効なインターフェイスを開始します。
ステップ 4	<b>cts manual</b> 例： Device(config-if)# cts manual	CTSSGT の承認と転送用のインターフェイスを有効化します。CTS 手動インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。  (注) サブインターフェイスを使用している場合は、 <b>config-if</b> モード（親インターフェイス）ではなく <b>config-subif</b> モード（サブインターフェイス）で <b>cts manual</b> コマンドを設定します。
ステップ 5	<b>policy static sgt tag [trusted]</b> 例： Device(config-if-cts-manual)# policy static sgt 77	インターフェイスでスタティック SGT 入力ポリシーを設定し、インターフェイスで受信する SGT の信頼性を定義します。  (注) <b>trusted</b> キーワードは、そのインターフェイスが CTS に信頼されていることを示します。このインターフェイス上のイーサネット パケット内で受信した SGT 値は信頼され、デバイスによって任意の SG 認識型ポリシーの適用または出力タギングに使用されます。
ステップ 6	<b>end</b> 例： Device(config-if-cts-manual)# end	CTS 手動インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<b>show cts interface brief</b> 例 : <pre>Device# show cts interface brief  Interface GigabitEthernet0/0   CTS is enabled, mode:    MANUAL   Propagate SGT:          Enabled   Peer SGT assignment:    Trusted  Interface GigabitEthernet0/1   CTS is enabled, mode:    MANUAL   Propagate SGT:          Disabled   Peer SGT assignment:    Untrusted  Interface GigabitEthernet0/3   CTS is disabled.</pre>	インターフェイスの CTS 設定の統計情報を表示します。

## CTS ログイン情報の設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **cts credentials id *cts-id* password *cts-pwd***
3. **show cts credentials**
4. **show keystore**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>cts credentials id <i>cts-id</i> password <i>cts-pwd</i></b> 例 : <pre>Device# cts credentials id atlas password cisco123</pre>	EAP-FAST を使用して他の Cisco TrustSec (CTS) デバイスで認証するときこのデバイスが使用する CTS デバイス ID およびパスワードを指定します。
ステップ 3	<b>show cts credentials</b> 例 :	Cisco TrustSec (CTS) デバイス ID を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device# show cts credentials	
ステップ 4	<p><b>show keystore</b></p> <p>例 :</p> <p><b>**Note that the following is the sample output of the command till Cisco IOS XE Everest release 16.5.**</b></p> <pre>Device# show keystore  Using software keystore emulation. Keystore contains the following records (S=Simple Secret, P=PAC, R=RSA):  Index  Type  Name -----  ---  ---       0   S   CTS-password       1   P   57366898EEF9D71A6E33C3628CE7EEDE</pre> <p>例 :</p> <p><b>**Note that the following is the sample output of the command from Cisco IOS XE Everest release 16.6 and above. The Protected Access Credentials (PAC) information is not displayed.**</b></p> <pre>Device# show keystore  Using software keystore emulation. Keystore contains the following records (S=Simple Secret, P=PAC, R=RSA):  Index  Type  Name -----  ---  ---       0   S   CTS-password</pre>	ソフトウェアまたはハードウェア暗号化キーストアの内容を表示します。

## 例：SGT インライン タギングの設定

この例では、デバイスのインターフェイスで L2-SGT タギングまたはインポジションを有効にして、インターフェイスが CTS に信頼されるかどうかを定義する方法を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 0
Device(config-if)# cts manual
Device(config-if-cts-manual)# propagate sgt
Device(config-if-cts-manual)# policy static sgt 77 trusted
```





## CHAPTER 84

# Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4

Cisco TrustSec (CTS) は、信頼できるネットワークデバイスのドメインを確立することによってセキュアネットワークを構築します。ドメイン内の各デバイスは、そのピアによって認証されます。ドメイン内のデバイス間リンクでの通信は、暗号化、メッセージ整合性検査、データパス リプレイ防止メカニズムを組み合わせたセキュリティで保護されます。

セキュリティ グループ タグ (SGT) 交換プロトコル (SXP) は、CTS をサポートする複数のプロトコルの 1 つであり、本書では CTS-SXP と呼びます。CTS-SXP は、パケットのタグ付け機能がないネットワーク デバイス全体に IP-to-SGT バイン드의情報を伝播する、制御プロトコルです。CTS-SXP は、ネットワーク上のアップストリームデバイスへの認証ポイントから SGT バインドへの IP を渡します。このプロセスにより、スイッチ、ルータ、ファイアウォールのセキュリティ サービスは、アクセス デバイスから学習したアイデンティティ情報を伝えることができます。

- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の制約事項, on page 977](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 に関する情報, on page 978](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定方法, on page 981](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定例, on page 994](#)
- [TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報, on page 996](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の機能情報, on page 997](#)

## Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の制約事項

- IOS 機能の Cisco TrustSec サポートは、第 2 世代 Cisco サービス統合型ルータ (ISR G2) のみでサポートされています。
- CTS-SXP は物理インターフェイスだけでサポートされ、論理インターフェイスでサポートされません。
- CTS-SXP 検証は、IPv6 をサポートしていません。
- ルータにデフォルトのパスワードが実装されている場合、そのルータでの接続は、デフォルトパスワードを使用するようにパスワードを設定する必要があります。デフォルトのパスワードが設定されていない場合、そのルータでの接続はパスワード設定を使用しないよ

うに設定してください。パスワードオプションの設定は導入ネットワーク全体で一貫している必要があります。

## Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 に関する情報

### セキュリティ グループ タギング

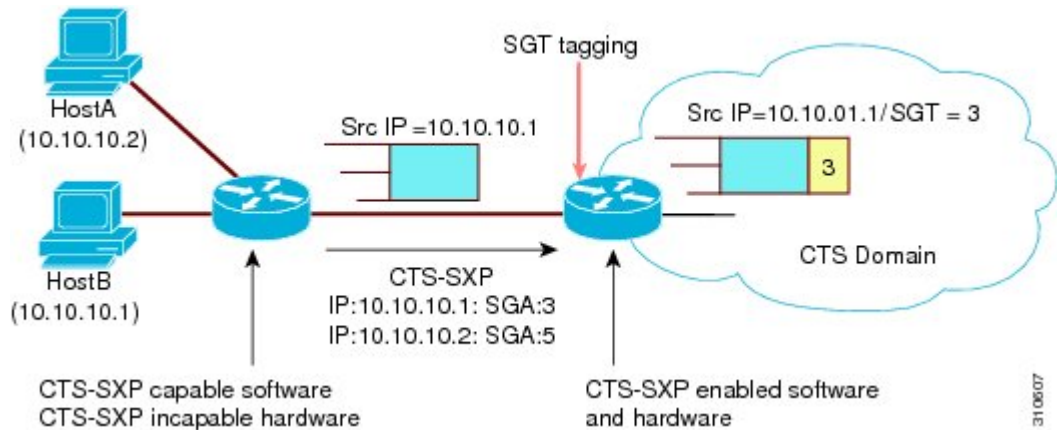
CTS-SXPは、認証時に取得したデバイスおよびユーザの識別情報を使用して、ネットワークに進入するパケットをセキュリティグループ (SG) で分類します。このパケット分類は、CTS-SXP ネットワークへの入力時にパケットにタグ付けされることにより維持されます。タグによってパケットはデータパス全体を通じて正しく識別され、セキュリティおよびその他のポリシー基準が適用されます。セキュリティグループタグ (SGT) によってエンドポイント デバイスはトラフィックをフィルタリングできるので、ネットワークへのアクセスコントロールポリシーの適用が可能になります。

### CTS-SXP によるレガシー アクセス ネットワークへの SGT の伝播

パケットへの SGT のタグ付けには、ハードウェアによるサポートが必要です。CTS 認証に参加でき、SGT でパケットをタグ付けするハードウェア機能を持たないデバイスが、ネットワーク内にある場合があります。ただし、CTS-SXPを使用する場合は、これらのデバイスが、IP と SGT のマッピングを CTS 対応ハードウェアがある CTS ピア デバイスに渡すことができます。

通常、CTS-SXP は CTS ドメインエッジの入力アクセス レイヤ デバイスと CTS ドメイン内のディストリビューション レイヤ デバイス間で動作します。アクセス レイヤ デバイスは入力パケットの適切な SGT を判断するために、外部送信元デバイスの CTS 認証を実行します。アクセス レイヤ デバイスは IP デバイス トラッキングおよび (任意で) DHCP スヌーピングを使用して送信元デバイスの IP アドレスを学習し、その後 CTS-SXP を使用して送信元デバイスの IP アドレスおよび SGT を、ディストリビューション スイッチに渡します。CTS 対応のハードウェアを備えたディストリビューション スイッチは、この IP と SGT のマッピング情報を使用して、パケットに適切にタグを付け、セキュリティ グループ アクセス コントロール リスト (SGACL) ポリシーを強制します。次の図を参照してください。SGACL は、SGT とポリシーを関連付けます。ポリシーは、SGT タグ付けされたトラフィックが CTS ドメインから出力されると適用されます。

Figure 15: CTS-SXP による SGT 情報の伝達方法



CTS ハードウェアサポート対象外のピアと CTS ハードウェアサポート対象のピア間の CTS-SXP 接続は、手動で設定する必要があります。CTS-SXP 接続を設定する場合は、次の作業を実行する必要があります。

- CTS-SXP のデータの整合性と認証が必要な場合、同じ CTS-SXP パスワードを両方のピアデバイスで設定できます。CTS-SXP パスワードは各ピア接続に対して明示的に指定することも、デバイスに対してグローバルに設定することもできます。CTS-SXP パスワードは必須ではありませんが、推奨します。
- CTS-SXP 接続の各ピアは、CTS-SXP スピーカーまたは CTS-SXP リスナーとして設定する必要があります。スピーカーデバイスはリスナーデバイスに IP-to-SGT 情報を渡します。
- 各ピアの関係に使用する送信元 IP アドレスを指定できます。または、特定の送信元 IP アドレスが設定されていないピア接続に対して、デフォルトの送信元 IP アドレスを設定できます。送信元 IP アドレスが指定されていないと、デバイスはピアへの接続のインターフェイス IP アドレスを使用します。

CTS-SXP では複数のホップを許可します。つまり、CTS ハードウェアサポート対象外デバイスのピアが CTS ハードウェアサポートの対象外でもある場合、2 番目のピアはハードウェア対応ピアに到達するまで IP と SGT のマッピング情報の伝播を継続して、3 番目のピアへの CTS-SXP 接続を設定できます。デバイスは 1 つの CTS-SXP 接続では CTS-SXP リスナーとして、別の CTS-SXP 接続では CTS-SXP スピーカーとして設定できます。

CTS デバイスは TCP キープアライブメカニズムを使用して、CTS-SXP ピアとの接続を維持します。ピア接続を確立または回復するために、デバイスは設定可能な再試行期間を使用して接続が成功するか、接続が設定から削除されるまで接続の確立を繰り返し試行します。

## VRF-Aware CTS-SXP

仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) の CTS-SXP の実装は、特定の VRF と CTS-SXP 接続をバインドします。CTS-SXP を有効化する前に、ネットワークトポロジがレイヤ 2 またはレイヤ 3 の VPN に対して正しく設定されており、すべての VRF が設定されていることを前提としています。

CTS-SXP VRF サポートは、次のようにまとめることができます。

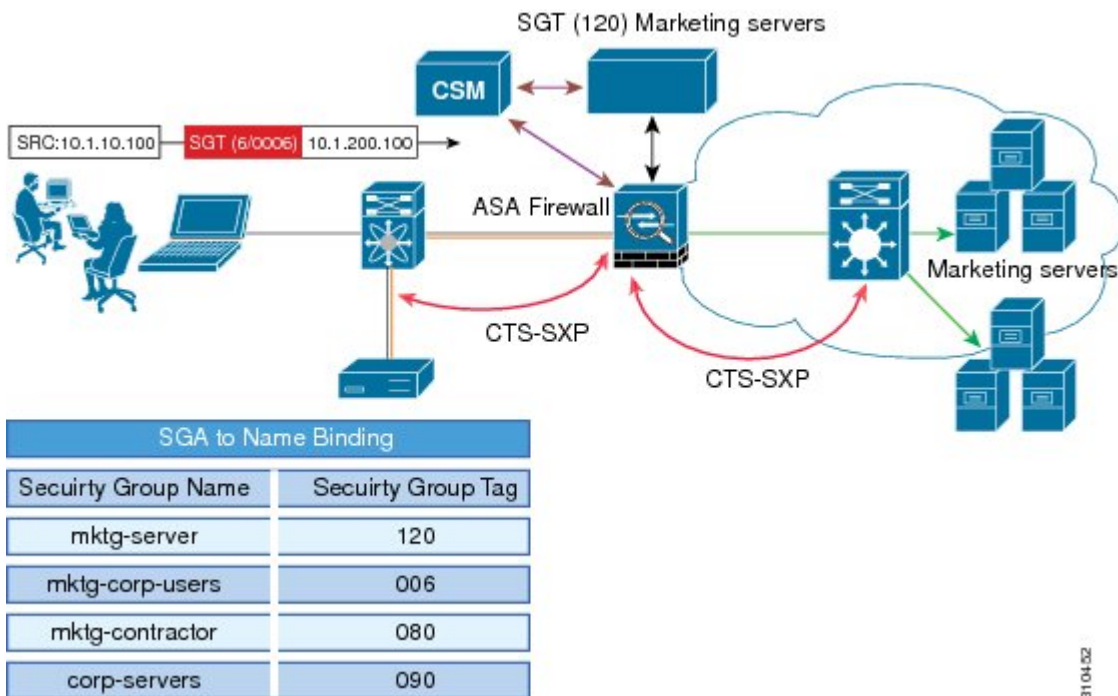
- 1 つの VRF には 1 つの CTS-SXP 接続のみをバインドできます。
- 別の VRF が重複する CTS-SXP ピアまたは送信元 IP アドレス持つ可能性があります。
- 1 つの VRF で学習（追加または削除）された IP と SGT のマッピングは、同じ VRF ドメインでのみ更新できます。CTS-SXP 接続は異なる VRF にバインドされたマッピングを更新できません。SXP 接続が VRF で終了しない場合は、その VRF の IP-SGT マッピングは SXP によって更新されません。
- CTS-SXP 検証は、送信元 IPv6 アドレスを使用した接続の確立をサポートしていません。ただし、VRF ドメイン内の 1 つの CTS-SXP 接続を IPv4 と IPv6 両方の IP と SGT のマッピングに転送できる場合は、VRF あたりで複数のアドレス ファミリがサポートされます。
- CTS-SXP には VRF あたりの接続数および IP と SGT のマッピング数に制限はありません。

## セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォール

CTS-SXP は、セキュリティグループアクセス (SGA) ゾーンベースポリシーファイアウォール (ZBPF) を使用することで、ネットワーク デバイスの導入をネットワークのさらに別の場所へ拡張します。CTS-SXP は、次の図に示すとおり、ネットワーク全体に存在するプライマリ通信パスからアイデンティティ情報を学習するインラインデバイスを通じたアイデンティティ分散に使用されます。

セキュリティグループタグ (SGT) は、強制ポリシーを適用するため、SGA ZBPF によって使用されます。IP と SGT のマッピング情報は、CTS-SXP から学習します。パケットを受信すると、パケット内の送信元と宛先の IP アドレスは、送信元と宛先のタグを派生させるために使用されます。アイデンティティファイアウォールは、属性の 1 つに SGT がある、設定されたポリシーに基づいて、受信した IP パケットにポリシーを適用します。

Figure 16: ネットワーク全体の CTS-SXP SGA ZBPF 分散パス



31/04/02

# Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定方法

## CTS-SXP の有効化

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. cts sxp enable

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp enable</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp enable	設定された任意のピア接続に対して CTS-SXP 接続を有効化します。  <b>Note</b> ピア接続が設定されていることを確認します。ピア接続が設定されていない場合、CTS-SXP 接続はそれらとは確立できません。

## CTS-SXP ピア接続の設定

CTS-SXP ピア接続を両方のデバイスで設定する必要があります。一方のデバイスはスピーカーで、他方のデバイスはリスナーになります。パスワード保護を使用している場合は、必ず両エンドに同じパスワードを使用してください。



**Note** デフォルトの CTS-SXP 送信元 IP アドレスが設定されていない場合に、接続の CTS-SXP 送信元アドレスを設定しないと、Cisco TrustSec ソフトウェアは既存のローカル IP アドレスから CTS-SXP 送信元 IP アドレスを抽出します。CTS-SXP 送信元 IP アドレスは、ルータから開始される TCP 接続ごとに異なる場合があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp connection peer** *ipv4-address* {**source** | **password**} {**default** | **none**} **mode** {**local** | **peer**} [[**listener** | **speaker**] [**vrf vrf-name**]]
4. **exit**
5. **show cts sxp** {**connections** | **sgt-map**} [**brief** | **vrf vrf-name**]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp connection peer <i>ipv4-address</i> {source   password} {default   none} mode {local   peer} [[listener   speaker] [<i>vrf vrf-name</i>]]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# cts sxp connection peer 10.20.2.2 password default mode local speaker</pre>	<p>CTS-SXP ピア アドレス接続を設定します。</p> <p><b>source</b> キーワードには発信元デバイスの IPv4 アドレスを指定します。接続アドレスが指定されていない場合、デフォルトの送信元アドレス（設定されている場合）、またはポートのアドレスを使用します。</p> <p><b>password</b> キーワードには、CTS-SXP で接続に使用するパスワードを指定します。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>default</b> : <b>cts sxp default password</b> コマンドを使用して設定したデフォルトの CTS-SXP パスワードを使用します。</li> <li>• <b>none</b> : パスワードは使用されません。</li> </ul> <p><b>mode</b> キーワードでは、リモートピアデバイスのロールを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>local</b> : 指定したモードはローカルデバイスを参照します。</li> <li>• <b>peer</b> : 指定したモードはピアデバイスを参照します。</li> <li>• <b>listener</b> : このデバイスが接続の際にリスナーになります。</li> <li>• <b>speaker</b> : 接続の際にこのデバイスがスピーカーになります。これはデフォルトです。</li> </ul> <p>オプションの <b>vrf</b> キーワードでは、ピアに対する VRF を指定します。デフォルトはデフォルト VRF です。</p>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>show cts sxp {connections   sgt-map} [brief   vrf <i>vrf-name</i>]</b> <b>Example:</b>	(オプション) CTS-SXP のステータスと接続を表示します。

	Command or Action	Purpose
	Device# show cts sxp connections	

## デフォルトの CTS-SXP パスワードの設定

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. cts sxp default password [0 | 6 | 7] password
4. exit

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp default password [0   6   7] password</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp default password Cisco123	CTS-SXP のデフォルトパスワードを設定します。クリアテキストパスワード（0を使用するかオプションなし）または暗号化パスワード（6または7オプションを使用）を入力できます。パスワードの最大長は 32 文字です。 <b>Note</b> デフォルトでは、CTS-SXP は接続のセットアップ時にパスワードを使用しません。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。



## デフォルトの CTS-SXP 送信元 IP アドレスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp default source-ip** *src-ip-addr*
4. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp default source-ip</b> <i>src-ip-addr</i> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp default source-ip 10.20.2.2	CTS-SXP デフォルトの送信元 IP アドレスを設定します。これは、送信元 IP アドレスが指定されていないすべての新しい TCP 接続に使用されます。  <b>Note</b> デフォルトの CTS-SXP 送信元 IP アドレスが設定されている場合も、既存の TCP 接続には影響しません。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## CTS-SXP の復帰期間の設定

ピアが CTS-SXP 接続を終了すると、内部ホールドダウン タイマーが開始されます。内部ホールドダウン タイマーが終了する前にピアが再接続すると、CTS-SXP 復帰期間タイマーが開始されます。CTS-SXP 復帰期間タイマーがアクティブな間、CTS ソフトウェアは前回の接続で学習した SGT マッピング エントリを保持し、無効なエントリを削除します。デフォルト値は 120 秒（2 分）です。CTS-SXP 復帰期間を 0 秒に設定すると、タイマーがディセーブルになり、前回の接続のすべてのエントリが削除されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp reconciliation period** *seconds*
4. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp reconciliation period</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b>  Device(config)# cts sxp reconciliation period 150	CTS-SXP 復帰タイマーを秒単位で設定します。範囲は 0 ~ 64000 です。デフォルトは 120 です。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## CTS-SXP 再試行期間の設定

CTS-SXP 再試行期間によって、CTS ソフトウェアが CTS-SXP 接続を再試行する頻度が決まります。CTS-SXP 接続が正常に確立されなかった場合、CTS ソフトウェアは CTS-SXP 再試行期間タイマーの終了後に、新たな接続の確立を試行します。デフォルト値は2分です。CTS-SXP 再試行期間を 0 秒に設定するとタイマーは無効になり、接続は再試行されません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp retry period** *seconds*
4. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp retry period seconds</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp retry period 160	CTS-SXP 再試行タイマーを秒単位で設定します。範囲は 0 ～ 64000 です。デフォルトは 120 です。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IP と SGT のマッピング変更をキャプチャする Syslog の作成

## SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. cts sxp log binding-changes
4. exit

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp log binding-changes</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# cts sxp log binding-changes</pre>	<p>IP と SGT バインド変更のロギングを有効にすると、IP と SGT バインディングの変更（追加、削除、変更）が発生するたびに CTS-SXP の syslog（sev 5 syslog）が生成されます。これらの変更は CTS-SXP 接続で学習されて伝播されます。</p> <p><b>Note</b> このロギング機能は、デフォルトではディセーブルになっています。</p>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォールのクラス マップの設定

このタスクを実行して、セキュリティグループアクセス（SGA）ゾーンベースポリシーファイアウォールのネットワークトラフィックを分類するためのクラスマップを設定します。



**Note** 少なくとも 1 つの手順を実行する必要があります。

ゾーンベースファイアウォールポリシーは、フィルタリングにセキュリティグループタグの ID を使用します。ゾーンベースファイアウォールポリシーでは、ポリシーと一致するのは、セッションを作成した最初のパケットのみです。このフローの後続パケットは、設定されたポリシー内のフィルタと一致しませんが、セッションとは直接一致します。後続パケットに関連する統計情報は、検査アクションの一部として表示されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **object-group security *name***
4. **security-group tag-id *sgt-id***
5. **group-object *name***
6. **description *text***
7. **exit**

8. **class-map type inspect** [**match-any** | **match-all**] *class-map-name*
9. **match group-object security source** *name*
10. **match group-object security destination** *name*
11. **end**
12. **show object-group** [*name*]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>object-group security</b> <i>name</i> <b>Example:</b>  Device(config)# object-group security myobject1a	オブジェクトグループを作成して、特定のユーザまたはエンドポイントから受信するトラフィックを特定し、オブジェクトグループのアイデンティティモードに入ります。
ステップ 4	<b>security-group tag-id</b> <i>sgt-id</i> <b>Example:</b>  Device(config-object-group)# security-group tag-id 120	SGT ID 番号を使用して、セキュリティグループのメンバーシップを指定します。この番号は 1 ~ 65535 ですこのコマンドを使用すると、複数のセキュリティグループを指定できます。
ステップ 5	<b>group-object</b> <i>name</i> <b>Example:</b>  Device(config-object-group)# group-object admin	(オプション) ネストされた参照を、ユーザグループのタイプに指定します。このコマンドを使用すると、複数のネストされたユーザグループを指定できます。
ステップ 6	<b>description</b> <i>text</i> <b>Example:</b>  Device(config-object-group)# description my sgtinfo	(オプション) セキュリティグループに関する情報を定義します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config-object-group)# exit	オブジェクトグループ アイデンティティ モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>class-map type inspect [match-any   match-all]</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# class-map type inspect match-any myclass1</pre>	レイヤ 3 またはレイヤ 4 の検査タイプ クラス マップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>match group-object security source name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# match group-object security source myobject1</pre>	セキュリティグループ内のユーザからのトラフィックと一致させます。
ステップ 10	<b>match group-object security destination name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# match group-object security destination myobject1</pre>	セキュリティグループ内のユーザのトラフィックと一致させます。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# end</pre>	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 12	<b>show object-group [name]</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show object-group admin</pre>	(オプション) すべてのユーザグループのコンテンツを表示します。オプションとして、 <i>name</i> 引数を使用すると、単一グループの情報が表示されません。

## セキュリティグループアクセスのゾーンベースポリシーファイアウォールのポリシーマップの作成

このタスクを実行して、ゾーンペアに接続する、セキュリティグループアクセス (SGA) ゾーンベースポリシーファイアウォールのポリシーマップを作成します。また、このタスクは、セキュリティゾーンに属するインターフェイス上で、セキュリティグループタグ (SGT) 交換プロトコル (SXP) または L2 タグ付きトラフィックと動作するよう、アイデンティティファイアウォール (IDFW) を設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **policy-map type inspect *policy-map-name***
4. **class type inspect *class-name***
5. **inspect**

6. **exit**
7. **zone-pair security zone-pair-name source source-zone destination destination-zone**
8. **service-policy type inspect policy-map-name**
9. **end**
10. **interface type number**
11. **zone-member security zone-name**
12. **cts manual**
13. **no propagate sgt**
14. **policy static sgt tag [trusted]**
15. **exit**
16. **show policy-map type inspect zone-pair session**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>policy-map type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b>  Device(config)# policy-map type inspect z1z2-policy	レイヤ3またはレイヤ4の検査タイプポリシーマップを作成します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>class type inspect class-name</b> <b>Example:</b>  Device(config-pmap)# class type inspect cmap-1	アクションを実行する対象のトラフィック (クラス) を指定し、ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>inspect</b> <b>Example:</b>  Device(config-pmap-c)# inspect	パケット インスペクションを有効化します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config-pmap-c)# exit	ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<p><b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> <b>source</b> <i>source-zone</i> <b>destination</b> <i>destination-zone</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# zone-pair security z1z2 source z1 destination z2</pre>	<p>ゾーン ペアを作成し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。</p> <p><b>Note</b> ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。</p>
ステップ 8	<p><b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-sec-zone)# service-policy type inspect z1z2-policy2</pre>	<p>ファイアウォール ポリシー マップを宛先ゾーンペアに付加します。</p> <p><b>Note</b> ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。</p>
ステップ 9	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-sec-zone)# end</pre>	<p>セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 10	<p><b>interface</b> <i>type number</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/1</pre>	<p>インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 11	<p><b>zone-member security</b> <i>zone-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-if)# zone-member security Inside</pre>	<p>インターフェイスを指定したセキュリティ ゾーンに割り当てます。</p> <p><b>Note</b> インターフェイスをセキュリティ ゾーンのメンバーにした場合、方向に関係なくインターフェイスを通過するすべてのトラフィック（ルータ宛のトラフィックまたはルータ発信のトラフィックを除く）は、デフォルトでドロップされます。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。</p>
ステップ 12	<p><b>cts manual</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-if)# cts manual</pre>	<p>Cisco TrustSec Security (CTS) SGT 認証と転送のインターフェイスを有効化し、CTS 手動インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 13	<p><b>no propagate sgt</b></p> <p><b>Example:</b></p>	<p>CTS インターフェイスでレイヤ 2 の SGT 伝達を無効化します。</p>



	Command or Action	Purpose
	Device(config-if-cts-manual)# no propagate sgt	
ステップ 14	<b>policy static sgt tag [trusted]</b> <b>Example:</b> Device(config-if-cts-manual)# policy static sgt 100 trusted	SGT の信頼性を定義するタグ付きパケットを使用して、CTS セキュリティ グループのスタティック 認証ポリシーを設定します。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 16	<b>show policy-map type inspect zone-pair session</b> <b>Example:</b> Device# show policy-map type inspect zone-pair session	<p>(オプション) 指定されたゾーン ペアのポリシー マップアプリケーションが原因で作成された、Cisco IOS ステートフルパケット インスペクション セッションを表示します。</p> <p><b>Note</b> クラスマップ フィールドの下に表示される情報は、接続開始トラフィックのみに属するトラフィックのトラフィック レート (ビット/秒) です。接続セットアップ レートが非常に高く、レートが計算される複数のインターバルにわたって高い接続セットアップ レートが持続する場合を除き、接続に関する意味のあるデータは表示されません。</p>

例 :

次の出力例は、**show policy-map type inspect zone-pair session** コマンドによって表示される、指定されたゾーンペアのポリシーマップアプリケーションが原因で作成された、Cisco IOS ステートフルパケット インスペクションセッションに関する情報を示します。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair session

Zone-pair: in-out
Service-policy inspect : test

Class-map: test (match-any)
  Match: group-object security source sgt
  Inspect
    Established Sessions
      Session 113EF68C (192.2.2.1:8)=>(198.51.100.252:153) icmp SIS_OPEN
        Created 00:00:02, Last heard 00:00:02
        Bytes sent (initiator:responder) [360:360]
```

```

Class-map: class-default (match-any)
  Match: any
  Drop (default action)
    310 packets, 37380 bytes

```

## Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定例

### 例：CTS-SXP ピア接続のイネーブル化と設定

次に、CTS-SXP をイネーブルにし、Device\_A (スピーカー) で Device\_B (リスナー) への SXP ピア接続を設定する例を示します。

```

Device# configure terminal
Device_A(config)# cts sxp enable
Device_A(config)# cts sxp default password Cisco123
Device_A(config)# cts sxp default source-ip 10.10.1.1
Device_A(config)# cts sxp connection peer 10.20.2.2 password default mode local speaker

```

次に、Device\_B (リスナー) で Device\_A (スピーカー) への CTS-SXP ピア接続を設定する例を示します。

```

Device# configure terminal
Device_B(config)# cts sxp enable
Device_B(config)# cts sxp default password Cisco123
Device_B(config)# cts sxp default source-ip 10.20.2.2
Device_B(config)# cts sxp connection peer 10.10.1.1 password default mode local listener

```

次に、CTS-SXP 接続を表示する `show cts sxp connections` コマンドの出力例を示します。

```

Device_B# show cts sxp connections

SXP                : Enabled
Default Password  : Set
Default Source IP : 10.10.1.1
Connection retry open period: 10 secs
Reconcile period: 120 secs
Retry open timer is not running
-----
Peer IP           : 10.20.2.2
Source IP        : 10.10.1.1
Conn status      : On
Connection mode  : SXP Listener
Connection inst# : 1
TCP conn fd     : 1
TCP conn password: default SXP password
Duration since last state change: 0:00:21:25 (dd:hr:mm:sec)
Total num of SXP Connections = 1

```

## 例：セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定

次の例は、SGA ゾーンベース ポリシー ファイアウォールのクラス マップとポリシー マップの設定を示します。

```
Device(config)# object-group security myobject1
Device(config-object-group)# security-group tag-id 1
Device(config-object-group)# exit
Device(config)# object-group security myobject2
Device(config-object-group)# security-group tag-id 2
Device(config-object-group)# exit
Device(config)# object-group security myobject3
Device(config-object-group)# security-group tag-id 3
Device(config-object-group)# exit
Device(config)# object-group security myobject4
Device(config-object-group)# security-group tag-id 4
Device(config-object-group)# exit

Device(config)# class-map type inspect match-any myclass1
Device(config-cmap)# match group-object security source myobject1
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any myclass2
Device(config-cmap)# match group-object security source myobject2
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any myclass3
Device(config-cmap)# match group-object security source myobject3
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any myclass4
Device(config-cmap)# match group-object security source myobject4
Device(config-cmap)# exit

Device(config)# policy-map type inspect InsideOutside
Device(config-pmap)# class type inspect myclass1
Device(config-pmap-c)# pass
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class type inspect myclass2
Device(config-pmap-c)# drop log
Device(config-pmap-c)# exit

Device(config)# policy-map type inspect OutsideInside
Device(config-pmap)# class type inspect myclass3
Device(config-pmap-c)# pass
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class type inspect myclass4
Device(config-pmap-c)# drop
Device(config-pmap-c)# exit

Device(config)# zone-pair security Inside
Device(config-sec-zone)# description Firewall Inside Zone
Device(config-sec-zone)# exit

Device(config)# zone-pair security Outside
Device(config-sec-zone)# description Firewall Outside Zone
Device(config-sec-zone)# exit

Device(config)# zone-pair security InsideOutside source Inside destination Outside
Device(config-sec-zone)# description Firewall ZonePair Inside Outside
Device(config-sec-zone)# service-policy type inspect InsideOutside
```

```

Device(config-sec-zone)# exit

Device(config)# zone-pair security OutsideInside source Outside destination Inside
Device(config-sec-zone)# description Firewall ZonePair Outside Inside
Device(config-sec-zone)# service-policy type inspect OutsideInside
Device(config-sec-zone)# exit

Device(config)# interface Gigabit 0/1/1
Device(config-if)# zone-member security Inside
Device(config-if)# exit

```

## TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』
Cisco TrustSec スイッチ	『Cisco TrustSec スイッチ コンフィギュレーション ガイド』

### MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-TRUSTSEC-SXP-MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 118: Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4		<p>セキュリティグループタグ (SGT) 交換プロトコル (SXP) は、CTS をサポートする複数のプロトコルの 1 つであり、本書では CTS-SXP と呼びます。CTS-SXP は、パケットのタグ付け機能がないネットワークデバイス全体に IP-to-SGT バインドの情報を伝播する、制御プロトコルです。CTS-SXP は、ネットワーク上のアップストリームデバイスへの認証ポイントから SGT バインドへの IP を渡します。これにより、スイッチ、ルータ、ファイアウォールのセキュリティサービスは、アクセスデバイスから学習したアイデンティティ情報を伝えることができます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>cts sxp enable, cts sxp connection peer, show cts sxp, cts sxp default source-ip, cts sxp reconciliation period, cts sxp retry period, cts sxp log binding-changes</b>。</p>

機能名	リリース	機能情報
TrustSec SG Firewall Enforcement IPv4		<p>この機能は、CTS-SXP がセキュリティ グループ アクセス (SGA) ゾーンベース ポリシーファイアウォール (ZBPF) を通じてネットワーク デバイスを拡張するのを支援します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>group-object</b>、 <b>match group-object security</b>、 <b>object-group security</b>、 <b>policy static sgt</b>、および <b>security-group</b>。</p>



## CHAPTER 85

# TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送

初版 : 2011年7月25日

Cisco TrustSec (CTS) は、信頼できるネットワークデバイスのドメインを確立することによってセキュアネットワークを構築します。ドメイン内の各デバイスは、そのピアによって認証されます。ドメイン内のデバイス間リンクでの通信は、暗号化、メッセージ整合性検査、データパズリプレイ防止メカニズムを組み合わせたセキュリティで保護されます。

TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送の機能により、ルータのインターフェイスは CTS を手動で有効化できるようになるため、ルータはセキュリティグループ タグ (SGT) を、CTS ヘッダー内でネットワーク全体に運ばれるパケットに挿入できます。

- [TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送の前提条件, on page 999](#)
- [TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送に関する情報, on page 1000](#)
- [TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送の設定方法, on page 1000](#)
- [TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報, on page 1004](#)
- [TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送の機能情報, on page 1005](#)

## TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送の前提条件

TrustSec SGT の処理 : L2 SGT インポジションと転送の機能を実装する前に、次の前提条件で CTS ネットワークを確立する必要があります。

- すべてのネットワーク デバイス間が接続されていること。
- Cisco Secure Access Control System (ACS) 5.1 が、CTS-SXP ライセンスで動作していること。
- ディレクトリ、DHCP、DNS、認証局、および NTP サーバーがネットワーク内で機能すること。
- 異なるルータで異なる値に **retry open timer** コマンドを設定します。

# TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送に関する情報

## セキュリティ グループおよび SGT

セキュリティ グループは、アクセス コントロール ポリシーを共有するユーザー、エンドポイント デバイス、およびリソースのグループです。セキュリティ グループは管理者が ACS で定義します。新しいユーザーおよびデバイスが Cisco TrustSec (CTS) ドメインに追加されると、認証サーバーは、適切なセキュリティ グループにこれらの新しいエンティティを割り当てます。CTS は各セキュリティ グループに、その範囲が CTS ドメイン内でグローバルな一意のセキュリティ グループ番号 (16 ビット) を割り当てます。ルータ内のセキュリティ グループの数は、認証されたネットワーク エンティティの数に制限されます。セキュリティ グループ番号は、手動で設定する必要はありません。

デバイスが認証されると、CTS はそのデバイスから発信されるすべてのパケットに、デバイスのセキュリティ グループ番号が含まれている SGT をタグ付けします。タグ付けされたパケットはネットワークを通じて CTS ヘッダーで SGT を運びます。SGT は CTS ドメイン全体で送信元の許可を特定する単一ラベルです。SGT には送信元のセキュリティ グループが含まれるため、送信元として特定されます。宛先デバイスには、宛先グループ タグ (DGT) が割り当てられます。



**Note** CTS パケット タグには、宛先デバイスのセキュリティ グループ番号は含まれません。

## TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送の設定方法

### TrustSec SGT の処理 : インターフェイスでの L2 SGT のインポジションと転送の手動による有効化

次の手順を実行して、Cisco TrustSec (CTS) のデバイス上のインターフェイスを手動で有効化します。これにより、デバイスは、ネットワーク全体で伝播するパケット内のセキュリティ グループ タグ (SGT) を追加し、スタティック認証ポリシーを実装できます。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`



3. **interface** { **GigabitEthernet** *port* | **Vlan** *number*}
4. **cts manual**
5. **policy static sgt tag** [trusted]
6. **end**
7. **show cts interface** [ **GigabitEthernet** *port* | **Vlan** *number* | **brief** | **summary**]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> { <b>GigabitEthernet</b> <i>port</i>   <b>Vlan</b> <i>number</i> } <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0	CTSSGT の認証と転送が有効なインターフェイスを開始します。
ステップ 4	<b>cts manual</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# cts manual	CTS SGT 認証と転送のインターフェイスを有効化し、CTS 手動インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 <b>Note</b> サブインターフェイスで <b>cts manual</b> コマンドを有効にするには、Dot1Q タグの追加バイトに対応するように IP MTU サイズを増やす必要があります。これは、Cisco IOS XE リリース 3.17 より前のリリースにのみ適用されます。
ステップ 5	<b>policy static sgt tag</b> [trusted] <b>Example:</b> Device(config-if-cts-manual)# policy static sgt 100 trusted	SGT の信頼性を定義するタグ付きパケットを使用して、CTS セキュリティグループのスタティック認証ポリシーを設定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if-cts-manual)# end	CTS 手動インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 7	<b>show cts interface</b> [ <b>GigabitEthernet</b> <i>port</i>   <b>Vlan</b> <i>number</i>   <b>brief</b>   <b>summary</b> ] <b>Example:</b>	インターフェイスの CTS 設定の統計情報を表示します。

Command or Action	Purpose
Device# show cts interface brief	

例：

次に、**show cts interface brief** コマンドの出力例を示します。

### Cisco ASR 1000 Series Aggregation Services Routers and Cisco Cloud Services Router 1000V Series

Device# **show cts interface brief**

```
Global Dot1x feature is Disabled
Interface GigabitEthernet0/1/0:
  CTS is enabled, mode:      MANUAL
  IFC state:                 OPEN
  Interface Active for 00:00:40.386
  Authentication Status:    NOT APPLICABLE
  Peer identity:            "unknown"
  Peer's advertised capabilities: ""
  Authorization Status:     NOT APPLICABLE
  SAP Status:               NOT APPLICABLE
  Propagate SGT:            Enabled
  Cache Info:
    Cache applied to link : NONE
```

### Cisco 4400 Series Integrated Services Routers

Device# **show cts interface brief**

```
Interface GigabitEthernet0/1/0
  CTS is enabled, mode:      MANUAL
  Propagate SGT:            Enabled
  Static Ingress SGT Policy:
  Peer SGT:                  100
  Peer SGT assignment:      Trusted
```

## インターフェイスでの CTS SGT 伝達の無効化

ピア デバイスが SGT を受信できない場合、次の手順を実行して、インスタンス内のインターフェイスで CTS SGT 伝達を無効化します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface {GigabitEthernetport | Vlan number}**
4. **cts manual**
5. **no propagate sgt**
6. **end**
7. **show cts interface [GigabitEthernetport | Vlan number | brief | summary]**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface {GigabitEthernetport   Vlan number}</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0	CTSSGT の認証と転送が有効なインターフェイスを開始します。
ステップ 4	<b>cts manual</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# cts manual	CTSSGT の承認と転送用のインターフェイスを有効化します。  CTS 手動インターフェイス コンフィギュレーション モードは、CTS パラメーターを設定できる場合に開始されます。
ステップ 5	<b>no propagate sgt</b> <b>Example:</b> Device(config-if-cts-manual)# no propagate sgt	ピア デバイスが SGT を受信できない状況では、インターフェイスの CTS SGT 伝達を無効化します。  <b>Note</b> CTSSGT 伝達はデフォルトで有効化されています。ピアデバイスで CTS SGT 伝達を再度オンにする必要がある場合、 <b>propagate sgt</b> コマンドを使用できます。  <b>no propagate sgt</b> コマンドが開始されると、SGT タグは L2 ヘッダーに追加できなくなります。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if-cts-manual)# end	CTS 手動インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 7	<b>show cts interface [GigabitEthernetport   Vlan number   brief   summary]</b> <b>Example:</b>  Device# show cts interface brief Global Dot1x feature is Disabled Interface GigabitEthernet0: CTS is enabled, mode:      MANUAL IFC state:                OPEN Authentication Status:   NOT APPLICABLE	インターフェイスで CTS SGT 伝達が無効化されていることを確認するため、CTS 設定の統計情報を表示します。

Command or Action	Purpose
Peer identity: "unknown" Peer's advertised capabilities: "" Authorization Status: NOT APPLICABLE SAP Status: NOT APPLICABLE Propagate SGT: Disabled Cache Info: Cache applied to link : NONE	

## TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』
Cisco TrustSec スイッチ	『Cisco TrustSec スイッチ コンフィギュレーション ガイド』

### MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-TRUSTSEC-SXP-MIB	選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャ セットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 119: TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送の機能情報

機能名	リリース	機能情報
TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送		<p>この機能により、ルータのインターフェイスは CTS を手動で有効化できるようになるため、ルータはセキュリティグループタグ (SGT) を、CTS ヘッダー内でネットワーク全体に運ばれるパケットに挿入できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CSR 1000V ルータ</li> <li>• Cisco ISR 4400 ルータ</li> <li>• Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li> <li>• Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco 5700 シリーズ ワイヤレス LAN コントローラ</li> <li>• Cisco Catalyst 4500E Supervisor Engine 7-E</li> <li>• Cisco Catalyst 4500E Supervisor Engine 7L-E</li> <li>• Cisco Catalyst 4500-X シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco Catalyst 4500E Supervisor Engine 8-E</li> <li>• Cisco Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li> </ul> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>cts manual</b>、<b>policy static sgt</b>、<b>propagate sgt</b>、<b>show cts interface</b></p>



## CHAPTER 86

# Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の前提条件

SXPを実装する前に、CTS-SXPネットワークを確立する必要があります。CTS-SXPネットワークには次の前提条件があります。

- Cisco TrustSec の機能を既存のルータで使用するには、Cisco TrustSec のセキュリティ ライセンスを購入していること。ルータを発注済みで Cisco TrustSec の機能が必要な場合は、発送前に、このライセンスが使用するルータにプリインストールされていること。
- すべてのネットワーク デバイスで CTS-SXP ソフトウェアを実行していること。
- すべてのネットワーク デバイス間が接続されていること。
- 認証には Cisco Identity Services Engine 1.0 が必要です。認証には Secure Access Control Server (ACS) Express Appliance サーバも使用できますが、CTS ではすべての ACS 機能がサポートされていません。ACS 5.1 が CTS-SXP ライセンスで動作していること。
- 異なるルータで異なる値に **retry open timer** コマンドを設定します。
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の制約事項, on page 1007](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 に関する情報, on page 1008](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定方法, on page 1011](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定例, on page 1024](#)
- [TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報, on page 1026](#)
- [Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の機能情報, on page 1027](#)

## Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の制約事項

- IOS 機能の Cisco TrustSec サポートは、第 2 世代 Cisco サービス統合型ルータ (ISR G2) のみでサポートされています。
- CTS-SXP は物理インターフェイスだけでサポートされ、論理インターフェイスでサポートされません。

- CTS-SXP 検証は、IPv6 をサポートしていません。
- ルータにデフォルトのパスワードが実装されている場合、そのルータでの接続は、デフォルトパスワードを使用するようにパスワードを設定する必要があります。デフォルトのパスワードが設定されていない場合、そのルータでの接続はパスワード設定を使用しないように設定してください。パスワードオプションの設定は導入ネットワーク全体で一貫している必要があります。

## Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 に関する情報

### セキュリティ グループ タギング

CTS-SXP は、認証時に取得したデバイスおよびユーザの識別情報を使用して、ネットワークに進入するパケットをセキュリティグループ (SG) で分類します。このパケット分類は、CTS-SXP ネットワークへの入力時にパケットにタグ付けされることにより維持されます。タグによってパケットはデータパス全体を通じて正しく識別され、セキュリティおよびその他のポリシー基準が適用されます。セキュリティグループタグ (SGT) によってエンドポイント デバイスはトラフィックをフィルタリングできるので、ネットワークへのアクセスコントロールポリシーの適用が可能になります。

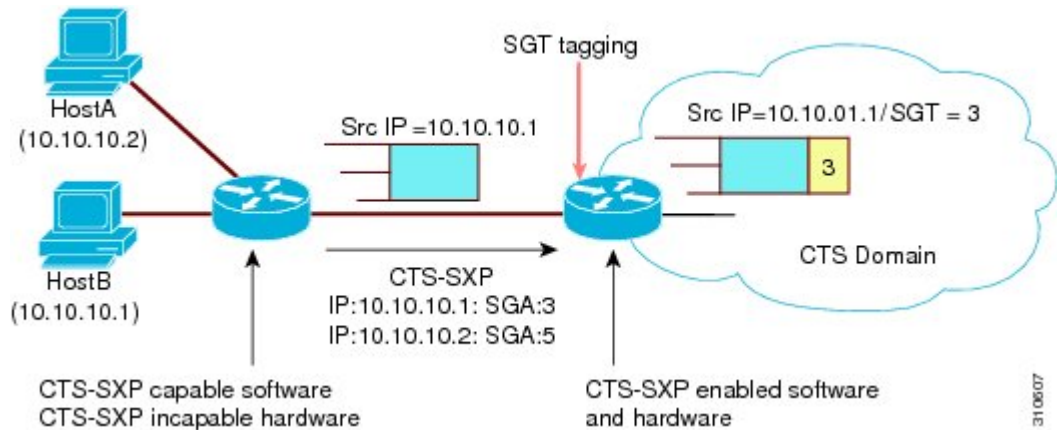
### CTS-SXP によるレガシー アクセス ネットワークへの SGT の伝播

パケットへの SGT のタグ付けには、ハードウェアによるサポートが必要です。CTS 認証に参加でき、SGT でパケットをタグ付けするハードウェア機能を持たないデバイスが、ネットワーク内にある場合があります。ただし、CTS-SXP を使用する場合は、これらのデバイスが、IP と SGT のマッピングを CTS 対応ハードウェアがある CTS ピア デバイスに渡すことができます。

通常、CTS-SXP は CTS ドメインエッジの入力アクセス レイヤ デバイスと CTS ドメイン内のディストリビューション レイヤ デバイス間で動作します。アクセス レイヤ デバイスは入力パケットの適切な SGT を判断するために、外部送信元デバイスの CTS 認証を実行します。アクセス レイヤ デバイスは IP デバイス トラッキング および (任意で) DHCP スヌーピングを使用して送信元デバイスの IP アドレスを学習し、その後 CTS-SXP を使用して送信元デバイスの IP アドレス および SGT を、ディストリビューション スイッチに渡します。CTS 対応のハードウェアを備えたディストリビューション スイッチは、この IP と SGT のマッピング情報を使用して、パケットに適切にタグを付け、セキュリティ グループ アクセス コントロール リスト (SGACL) ポリシーを強制します。次の図を参照してください。SGACL は、SGT とポリシーを関連付けます。ポリシーは、SGT タグ付けされたトラフィックが CTS ドメインから出力されると適用されます。



Figure 17: CTS-SXP による SGT 情報の伝達方法



CTS ハードウェアサポート対象外のピアと CTS ハードウェアサポート対象のピア間の CTS-SXP 接続は、手動で設定する必要があります。CTS-CSXP 接続を設定する場合は、次の作業を実行する必要があります。

- CTS-SXP のデータの整合性と認証が必要な場合、同じ CTS-SXP パスワードを両方のピアデバイスで設定できます。CTS-SXP パスワードは各ピア接続に対して明示的に指定することも、デバイスに対してグローバルに設定することもできます。CTS-SXP パスワードは必須ではありませんが、推奨します。
- CTS-SXP 接続の各ピアは、CTS-SXP スピーカーまたは CTS-SXP リスナーとして設定する必要があります。スピーカーデバイスはリスナーデバイスに IP-to-SGT 情報を渡します。
- 各ピアの関係に使用する送信元 IP アドレスを指定できます。または、特定の送信元 IP アドレスが設定されていないピア接続に対して、デフォルトの送信元 IP アドレスを設定できます。送信元 IP アドレスが指定されていないと、デバイスはピアへの接続のインターフェイス IP アドレスを使用します。

CTS-SXP では複数のホップを許可します。つまり、CTS ハードウェア サポート対象外デバイスのピアが CTS ハードウェア サポートの対象外でもある場合、2 番目のピアはハードウェア対応ピアに到達するまで IP と SGT のマッピング情報の伝播を継続して、3 番目のピアへの CTS-SXP 接続を設定できます。デバイスは 1 つの CTS-SXP 接続では CTS-SXP リスナーとして、別の CTS-SXP 接続では CTS-SXP スピーカーとして設定できます。

CTS デバイスは TCP キープアライブ メカニズムを使用して、CTS-SXP ピアとの接続を維持します。ピア接続を確立または回復するために、デバイスは設定可能な再試行期間を使用して接続が成功するか、接続が設定から削除されるまで接続の確立を繰り返し試行します。

## VRF-Aware CTS-SXP

仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) の CTS-SXP の実装は、特定の VRF と CTS-SXP 接続をバインドします。CTS-SXP を有効化する前に、ネットワーク トポロジがレイヤ 2 またはレイヤ 3 の VPN に対して正しく設定されており、すべての VRF が設定されていることを前提としています。

CTS-SXP VRF サポートは、次のようにまとめることができます。

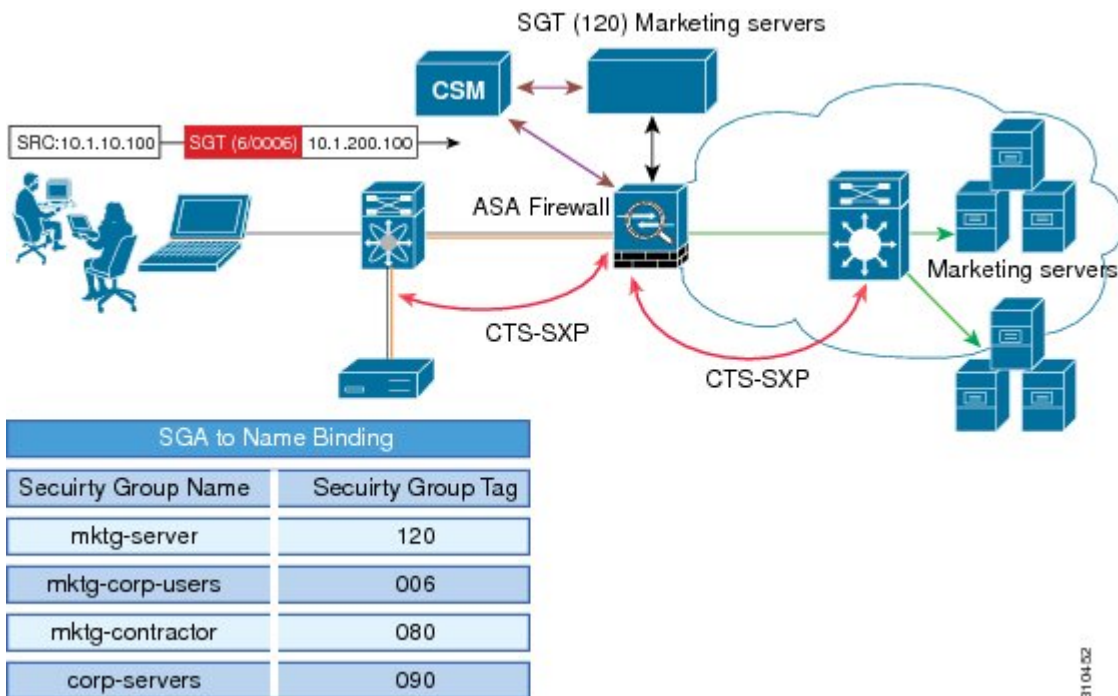
- 1 つの VRF には 1 つの CTS-SXP 接続のみをバインドできます。
- 別の VRF が重複する CTS-SXP ピアまたは送信元 IP アドレス持つ可能性があります。
- 1 つの VRF で学習（追加または削除）された IP と SGT のマッピングは、同じ VRF ドメインでのみ更新できます。CTS-SXP 接続は異なる VRF にバインドされたマッピングを更新できません。SXP 接続が VRF で終了しない場合は、その VRF の IP-SGT マッピングは SXP によって更新されません。
- CTS-SXP 検証は、送信元 IPv6 アドレスを使用した接続の確立をサポートしていません。ただし、VRF ドメイン内の 1 つの CTS-SXP 接続を IPv4 と IPv6 両方の IP と SGT のマッピングに転送できる場合は、VRF あたりで複数のアドレス ファミリがサポートされます。
- CTS-SXP には VRF あたりの接続数および IP と SGT のマッピング数に制限はありません。

## セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォール

CTS-SXP は、セキュリティグループアクセス (SGA) ゾーンベースポリシーファイアウォール (ZBPF) を使用することで、ネットワーク デバイスの導入をネットワークのさらに別の場所へ拡張します。CTS-SXP は、次の図に示すとおり、ネットワーク全体に存在するプライマリ通信パスからアイデンティティ情報を学習するインラインデバイスを通じたアイデンティティ分散に使用されます。

セキュリティグループタグ (SGT) は、強制ポリシーを適用するため、SGA ZBPF によって使用されます。IP と SGT のマッピング情報は、CTS-SXP から学習します。パケットを受信すると、パケット内の送信元と宛先の IP アドレスは、送信元と宛先のタグを派生させるために使用されます。アイデンティティファイアウォールは、属性の 1 つに SGT がある、設定されたポリシーに基づいて、受信した IP パケットにポリシーを適用します。

Figure 18: ネットワーク全体の CTS-SXP SGA ZBPF 分散パス



31/04/02

# Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定方法

## CTS-SXP の有効化

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. cts sxp enable

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp enable</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp enable	設定された任意のピア接続に対して CTS-SXP 接続を有効化します。  <b>Note</b> ピア接続が設定されていることを確認します。ピア接続が設定されていない場合、CTS-SXP 接続はそれらとは確立できません。

## CTS-SXP ピア接続の設定

CTS-SXP ピア接続を両方のデバイスで設定する必要があります。一方のデバイスはスピーカーで、他方のデバイスはリスナーになります。パスワード保護を使用している場合は、必ず両エンドに同じパスワードを使用してください。



**Note** デフォルトの CTS-SXP 送信元 IP アドレスが設定されていない場合に、接続の CTS-SXP 送信元アドレスを設定しないと、Cisco TrustSec ソフトウェアは既存のローカル IP アドレスから CTS-SXP 送信元 IP アドレスを抽出します。CTS-SXP 送信元 IP アドレスは、ルータから開始される TCP 接続ごとに異なる場合があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp connection peer** *ipv4-address* {**source** | **password**} {**default** | **none**} **mode** {**local** | **peer**} [[**listener** | **speaker**] [**vrf vrf-name**]]
4. **exit**
5. **show cts sxp** {**connections** | **sgt-map**} [**brief** | **vrf vrf-name**]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp connection peer</b> <i>ipv4-address</i> { <b>source</b>   <b>password</b> } { <b>default</b>   <b>none</b> } <b>mode</b> { <b>local</b>   <b>peer</b> } [[ <b>listener</b>   <b>speaker</b> ] [ <b>vrf</b> <i>vrf-name</i> ]] <b>Example:</b> <pre>Device(config)# cts sxp connection peer 10.20.2.2 password default mode local speaker</pre>	<p>CTS-SXP ピア アドレス接続を設定します。</p> <p><b>source</b> キーワードには発信元デバイスの IPv4 アドレスを指定します。接続アドレスが指定されていない場合、デフォルトの送信元アドレス（設定されている場合）、またはポートのアドレスを使用します。</p> <p><b>password</b> キーワードには、CTS-SXP で接続に使用するパスワードを指定します。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>default</b> : <b>cts sxp default password</b> コマンドを使用して設定したデフォルトの CTS-SXP パスワードを使用します。</li> <li>• <b>none</b> : パスワードは使用されません。</li> </ul> <p><b>mode</b> キーワードでは、リモートピアデバイスのロールを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>local</b> : 指定したモードはローカルデバイスを参照します。</li> <li>• <b>peer</b> : 指定したモードはピアデバイスを参照します。</li> <li>• <b>listener</b> : このデバイスが接続の際にリスナーになります。</li> <li>• <b>speaker</b> : 接続の際にこのデバイスがスピーカーになります。これはデフォルトです。</li> </ul> <p>オプションの <b>vrf</b> キーワードでは、ピアに対する VRF を指定します。デフォルトはデフォルト VRF です。</p>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>show cts sxp</b> { <b>connections</b>   <b>sgt-map</b> } [ <b>brief</b>   <b>vrf</b> <i>vrf-name</i> ] <b>Example:</b>	(オプション) CTS-SXP のステータスと接続を表示します。

	Command or Action	Purpose
	Device# show cts sxp connections	

## デフォルトの CTS-SXP パスワードの設定

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. cts sxp default password [0 | 6 | 7] password
4. exit

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp default password [0   6   7] password</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp default password Cisco123	CTS-SXP のデフォルトパスワードを設定します。クリアテキストパスワード（0を使用するかオプションなし）または暗号化パスワード（6または7オプションを使用）を入力できます。パスワードの最大長は 32 文字です。 <b>Note</b> デフォルトでは、CTS-SXP は接続のセットアップ時にパスワードを使用しません。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## デフォルトの CTS-SXP 送信元 IP アドレスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp default source-ip** *src-ip-addr*
4. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp default source-ip</b> <i>src-ip-addr</i> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp default source-ip 10.20.2.2	CTS-SXP デフォルトの送信元 IP アドレスを設定します。これは、送信元 IP アドレスが指定されていないすべての新しい TCP 接続に使用されます。  <b>Note</b> デフォルトの CTS-SXP 送信元 IP アドレスが設定されている場合も、既存の TCP 接続には影響しません。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## CTS-SXP の復帰期間の設定

ピアが CTS-SXP 接続を終了すると、内部ホールドダウン タイマーが開始されます。内部ホールドダウン タイマーが終了する前にピアが再接続すると、CTS-SXP 復帰期間タイマーが開始されます。CTS-SXP 復帰期間タイマーがアクティブな間、CTS ソフトウェアは前回の接続で学習した SGT マッピング エントリを保持し、無効なエントリを削除します。デフォルト値は 120 秒（2分）です。CTS-SXP 復帰期間を 0 秒に設定すると、タイマーがディセーブルになり、前回の接続のすべてのエントリが削除されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp reconciliation period** *seconds*
4. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp reconciliation period</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b>  Device(config)# cts sxp reconciliation period 150	CTS-SXP 復帰タイマーを秒単位で設定します。範囲は 0 ～ 64000 です。デフォルトは 120 です。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## CTS-SXP 再試行期間の設定

CTS-SXP 再試行期間によって、CTS ソフトウェアが CTS-SXP 接続を再試行する頻度が決まります。CTS-SXP 接続が正常に確立されなかった場合、CTS ソフトウェアは CTS-SXP 再試行期間タイマーの終了後に、新たな接続の確立を試行します。デフォルト値は2分です。CTS-SXP 再試行期間を 0 秒に設定するとタイマーは無効になり、接続は再試行されません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp retry period** *seconds*
4. **exit**



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp retry period seconds</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp retry period 160	CTS-SXP 再試行タイマーを秒単位で設定します。範囲は 0 ～ 64000 です。デフォルトは 120 です。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IP と SGT のマッピング変更をキャプチャする Syslog の作成

## SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. cts sxp log binding-changes
4. exit

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp log binding-changes</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# cts sxp log binding-changes</pre>	<p>IP と SGT バインド変更のロギングを有効にすると、IP と SGT バインディングの変更（追加、削除、変更）が発生するたびに CTS-SXP の syslog（sev 5 syslog）が生成されます。これらの変更は CTS-SXP 接続で学習されて伝播されます。</p> <p><b>Note</b> このロギング機能は、デフォルトではディセーブルになっています。</p>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォールのクラス マップの設定

このタスクを実行して、セキュリティ グループ アクセス（SGA）ゾーンベース ポリシー ファイアウォールのネットワーク トラフィックを分類するためのクラス マップを設定します。



**Note** 少なくとも 1 つの手順を実行する必要があります。

ゾーンベース ファイアウォール ポリシーは、フィルタリングにセキュリティ グループ タグの ID を使用します。ゾーンベース ファイアウォール ポリシーでは、ポリシーと一致するのは、セッションを作成した最初のパケットのみです。このフローの後続パケットは、設定されたポリシー内のフィルタと一致しませんが、セッションとは直接一致します。後続パケットに関連する統計情報は、検査アクションの一部として表示されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **object-group security *name***
4. **security-group tag-id *sgt-id***
5. **group-object *name***
6. **description *text***
7. **exit**

8. **class-map type inspect** [**match-any** | **match-all**] *class-map-name*
9. **match group-object security source** *name*
10. **match group-object security destination** *name*
11. **end**
12. **show object-group** [*name*]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>object-group security</b> <i>name</i> <b>Example:</b>  Device(config)# object-group security myobject1a	オブジェクトグループを作成して、特定のユーザまたはエンドポイントから受信するトラフィックを特定し、オブジェクトグループのアイデンティティモードに入ります。
ステップ 4	<b>security-group tag-id</b> <i>sgt-id</i> <b>Example:</b>  Device(config-object-group)# security-group tag-id 120	SGT ID 番号を使用して、セキュリティグループのメンバーシップを指定します。この番号は 1 ~ 65535 ですこのコマンドを使用すると、複数のセキュリティグループを指定できます。
ステップ 5	<b>group-object</b> <i>name</i> <b>Example:</b>  Device(config-object-group)# group-object admin	(オプション) ネストされた参照を、ユーザグループのタイプに指定します。このコマンドを使用すると、複数のネストされたユーザグループを指定できます。
ステップ 6	<b>description</b> <i>text</i> <b>Example:</b>  Device(config-object-group)# description my sgtinfo	(オプション) セキュリティグループに関する情報を定義します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config-object-group)# exit	オブジェクトグループアイデンティティモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>class-map type inspect [match-any   match-all]</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# class-map type inspect match-any myclass1</pre>	レイヤ 3 またはレイヤ 4 の検査タイプ クラス マップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>match group-object security source name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# match group-object security source myobject1</pre>	セキュリティグループ内のユーザからのトラフィックと一致させます。
ステップ 10	<b>match group-object security destination name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# match group-object security destination myobject1</pre>	セキュリティグループ内のユーザのトラフィックと一致させます。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# end</pre>	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 12	<b>show object-group [name]</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show object-group admin</pre>	(オプション) すべてのユーザグループのコンテンツを表示します。オプションとして、 <i>name</i> 引数を使用すると、単一グループの情報が表示されません。

## セキュリティグループアクセスのゾーンベースポリシーファイアウォールのポリシーマップの作成

このタスクを実行して、ゾーンペアに接続する、セキュリティグループアクセス (SGA) ゾーンベースポリシーファイアウォールのポリシーマップを作成します。また、このタスクは、セキュリティゾーンに属するインターフェイス上で、セキュリティグループタグ (SGT) 交換プロトコル (SXP) または L2 タグ付きトラフィックと動作するよう、アイデンティティファイアウォール (IDFW) を設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **policy-map type inspect policy-map-name**
4. **class type inspect class-name**
5. **inspect**

6. **exit**
7. **zone-pair security zone-pair-name source source-zone destination destination-zone**
8. **service-policy type inspect policy-map-name**
9. **end**
10. **interface type number**
11. **zone-member security zone-name**
12. **cts manual**
13. **no propagate sgt**
14. **policy static sgt tag [trusted]**
15. **exit**
16. **show policy-map type inspect zone-pair session**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>policy-map type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect z1z2-policy	レイヤ3またはレイヤ4の検査タイプポリシーマップを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>class type inspect class-name</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect cmap-1	アクションを実行する対象のトラフィック (クラス) を指定し、ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	パケット インスペクションを有効化します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> <b>source</b> <i>source-zone</i> <b>destination</b> <i>destination-zone</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# zone-pair security z1z2 source z1 destination z2</pre>	ゾーン ペアを作成し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <b>Note</b> ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-sec-zone)# service-policy type inspect z1z2-policy2</pre>	ファイアウォール ポリシー マップを宛先ゾーンペアに付加します。 <b>Note</b> ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-sec-zone)# end</pre>	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/1</pre>	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# zone-member security Inside</pre>	インターフェイスを指定したセキュリティ ゾーンに割り当てます。 <b>Note</b> インターフェイスをセキュリティ ゾーンのメンバーにした場合、方向に関係なくインターフェイスを通過するすべてのトラフィック（ルータ宛のトラフィックまたはルータ発信のトラフィックを除く）は、デフォルトでドロップされます。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 12	<b>cts manual</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# cts manual</pre>	Cisco TrustSec Security (CTS) SGT 認証と転送のインターフェイスを有効化し、CTS 手動インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>no propagate sgt</b> <b>Example:</b>	CTS インターフェイスでレイヤ 2 の SGT 伝達を無効化します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config-if-cts-manual)# no propagate sgt	
ステップ 14	<b>policy static sgt tag [trusted]</b> <b>Example:</b> Device(config-if-cts-manual)# policy static sgt 100 trusted	SGT の信頼性を定義するタグ付きパケットを使用して、CTS セキュリティ グループのスタティック 認証ポリシーを設定します。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 16	<b>show policy-map type inspect zone-pair session</b> <b>Example:</b> Device# show policy-map type inspect zone-pair session	<p>(オプション) 指定されたゾーン ペアのポリシー マップアプリケーションが原因で作成された、Cisco IOS ステートフルパケット インスペクション セッションを表示します。</p> <p><b>Note</b> クラスマップ フィールドの下に表示される情報は、接続開始トラフィックのみに属するトラフィックのトラフィック レート (ビット/秒) です。接続セットアップ レートが非常に高く、レートが計算される複数のインターバルにわたって高い接続セットアップ レートが持続する場合を除き、接続に関する意味のあるデータは表示されません。</p>

例 :

次の出力例は、**show policy-map type inspect zone-pair session** コマンドによって表示される、指定されたゾーンペアのポリシーマップアプリケーションが原因で作成された、Cisco IOS ステートフルパケット インスペクションセッションに関する情報を示します。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair session

Zone-pair: in-out
Service-policy inspect : test

Class-map: test (match-any)
  Match: group-object security source sgt
  Inspect
    Established Sessions
      Session 113EF68C (192.2.2.1:8)=>(198.51.100.252:153) icmp SIS_OPEN
        Created 00:00:02, Last heard 00:00:02
        Bytes sent (initiator:responder) [360:360]
```

```

Class-map: class-default (match-any)
  Match: any
  Drop (default action)
    310 packets, 37380 bytes

```

## Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の設定例

### 例：CTS-SXP ピア接続のイネーブル化と設定

次に、CTS-SXP をイネーブルにし、Device\_A（スピーカ）で Device\_B（リスナー）への SXP ピア接続を設定する例を示します。

```

Device# configure terminal
Device_A(config)# cts sxp enable
Device_A(config)# cts sxp default password Cisco123
Device_A(config)# cts sxp default source-ip 10.10.1.1
Device_A(config)# cts sxp connection peer 10.20.2.2 password default mode local speaker

```

次に、Device\_B（リスナー）で Device\_A（スピーカ）への CTS-SXP ピア接続を設定する例を示します。

```

Device# configure terminal
Device_B(config)# cts sxp enable
Device_B(config)# cts sxp default password Cisco123
Device_B(config)# cts sxp default source-ip 10.20.2.2
Device_B(config)# cts sxp connection peer 10.10.1.1 password default mode local listener

```

次に、CTS-SXP 接続を表示する `show cts sxp connections` コマンドの出力例を示します。

```

Device_B# show cts sxp connections

SXP                : Enabled
Default Password   : Set
Default Source IP  : 10.10.1.1
Connection retry open period: 10 secs
Reconcile period: 120 secs
Retry open timer is not running
-----
Peer IP            : 10.20.2.2
Source IP          : 10.10.1.1
Conn status        : On
Connection mode    : SXP Listener
Connection inst#   : 1
TCP conn fd        : 1
TCP conn password: default SXP password
Duration since last state change: 0:00:21:25 (dd:hr:mm:sec)
Total num of SXP Connections = 1

```



## 例：セキュリティ グループ アクセスのゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定

次の例は、SGA ゾーンベース ポリシー ファイアウォールのクラス マップとポリシー マップの設定を示します。

```
Device(config)# object-group security myobject1
Device(config-object-group)# security-group tag-id 1
Device(config-object-group)# exit
Device(config)# object-group security myobject2
Device(config-object-group)# security-group tag-id 2
Device(config-object-group)# exit
Device(config)# object-group security myobject3
Device(config-object-group)# security-group tag-id 3
Device(config-object-group)# exit
Device(config)# object-group security myobject4
Device(config-object-group)# security-group tag-id 4
Device(config-object-group)# exit

Device(config)# class-map type inspect match-any myclass1
Device(config-cmap)# match group-object security source myobject1
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any myclass2
Device(config-cmap)# match group-object security source myobject2
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any myclass3
Device(config-cmap)# match group-object security source myobject3
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any myclass4
Device(config-cmap)# match group-object security source myobject4
Device(config-cmap)# exit

Device(config)# policy-map type inspect InsideOutside
Device(config-pmap)# class type inspect myclass1
Device(config-pmap-c)# pass
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class type inspect myclass2
Device(config-pmap-c)# drop log
Device(config-pmap-c)# exit

Device(config)# policy-map type inspect OutsideInside
Device(config-pmap)# class type inspect myclass3
Device(config-pmap-c)# pass
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class type inspect myclass4
Device(config-pmap-c)# drop
Device(config-pmap-c)# exit

Device(config)# zone-pair security Inside
Device(config-sec-zone)# description Firewall Inside Zone
Device(config-sec-zone)# exit

Device(config)# zone-pair security Outside
Device(config-sec-zone)# description Firewall Outside Zone
Device(config-sec-zone)# exit

Device(config)# zone-pair security InsideOutside source Inside destination Outside
Device(config-sec-zone)# description Firewall ZonePair Inside Outside
Device(config-sec-zone)# service-policy type inspect InsideOutside
```

```

Device(config-sec-zone)# exit

Device(config)# zone-pair security OutsideInside source Outside destination Inside
Device(config-sec-zone)# description Firewall ZonePair Outside Inside
Device(config-sec-zone)# service-policy type inspect OutsideInside
Device(config-sec-zone)# exit

Device(config)# interface Gigabit 0/1/1
Device(config-if)# zone-member security Inside
Device(config-if)# exit

```

## TrustSec SGT の処理 : L2 SGT のインポジションと転送に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』
	『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』
Cisco TrustSec スイッチ	『Cisco TrustSec スイッチ コンフィギュレーション ガイド』

### MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-TRUSTSEC-SXP-MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 120: Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4 の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
Cisco TrustSec SGT Exchange Protocol IPv4		<p>セキュリティグループタグ (SGT) 交換プロトコル (SXP) は、CTS をサポートする複数のプロトコルの 1 つであり、本書では CTS-SXP と呼びます。CTS-SXP は、パケットのタグ付け機能がないネットワークデバイス全体に IP-to-SGT バインドの情報を伝播する、制御プロトコルです。CTS-SXP は、ネットワーク上のアップストリームデバイスへの認証ポイントから SGT バインドへの IP を渡します。これにより、スイッチ、ルータ、ファイアウォールのセキュリティサービスは、アクセスデバイスから学習したアイデンティティ情報を伝えることができます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>cts sxp enable, cts sxp connection peer, show cts sxp, cts sxp default source-ip, cts sxp reconciliation period, cts sxp retry period, cts sxp log binding-changes</b>。</p>

機能名	リリース	機能情報
TrustSec SG Firewall Enforcement IPv4		<p>この機能は、CTS-SXP がセキュリティ グループ アクセス (SGA) ゾーンベース ポリシーファイアウォール (ZBPF) を通じてネットワーク デバイスを拡張するのを支援します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>group-object</b>、<b>match group-object security</b>、<b>object-group security</b>、<b>policy static sgt</b>、および <b>security-group</b>。</p>



## 第 87 章

# 双方向 SXP サポートの有効化

双方向 SXP サポート機能は、セキュリティ グループ タグ (SGT) 交換プロトコル (SXP) バインドのサポートを追加することで、SXP バージョン 4 を使用した Cisco TrustSec の機能を強化します。このバインドは、単一の接続でスピーカーとリスナーどちらの方向へも伝播できます。

- [双方向 SXP サポートの前提条件 \(1029 ページ\)](#)
- [双方向 SXP サポートの制約事項 \(1030 ページ\)](#)
- [双方向 SXP サポートに関する情報 \(1030 ページ\)](#)
- [双方向 SXP サポートを有効化する方法 \(1030 ページ\)](#)
- [双方向 SXP サポートの設定例 \(1034 ページ\)](#)
- [双方向 SXP サポートに関する追加情報 \(1035 ページ\)](#)
- [双方向 SXP サポートの機能情報 \(1035 ページ\)](#)

## 双方向 SXP サポートの前提条件

- Cisco TrustSec がデバイス上に設定されていること。詳細については、『*Cisco TrustSec Configuration Guide*』の「Cisco TrustSec Support for IOS」の章を参照してください。
- Cisco TrustSec の機能を既存のデバイスで使用するには、次のセキュリティライセンスのいずれかを購入していること。
  - IP Base ライセンス
  - LAN Base ライセンス



(注) LAN Base ライセンスは、Cisco IOS XE Everest 16.5.1 から使用できません。

- IP サービスライセンス
- すべてのネットワークデバイスに接続が存在すること。

- Cisco TrustSec ソフトウェアをすべてのネットワークデバイス上で実行すること。

## 双方向 SXP サポートの制約事項

- 接続のそれぞれの端のピアは、**both** キーワードを使用して双方向接続として設定する必要があります。一方の端を **both** キーワードを使用した双方向接続として設定し、他方の端をスピーカーまたはリスナーとして設定（単方向接続）するのは、誤った設定です。

## 双方向 SXP サポートに関する情報

### 双方向 SXP サポートの概要

Cisco TrustSec は、信頼できるネットワークデバイスのドメインを確立することによってセキュアネットワークを構築します。ドメイン内の各デバイスは、そのピアによって認証されます。データを生成するピアはスピーカーで、対応するピアはリスナーになります。

双方向セキュリティグループタグ (SGT) 交換プロトコル (SXP) の設定をサポートすることで、ピアはスピーカーとリスナーのどちらとしても動作し、単一の接続を使用する双方向の SXP バインドを伝播できるようになります。

双方向 SXP の設定は、IP アドレスのペア 1 組と管理されます。いずれかの端で、SXP 接続を開始するのはリスナーのみであり、スピーカーは着信接続を受け入れます。

図 19: 双方向 SXP 接続



さらに、SXP バージョン 4 (SXPv4) は、引き続きループ検出メカニズムをサポートしています（ネットワークの古いバインディングを防ぐため）。

## 双方向 SXP サポートを有効化する方法

### 双方向 SXP サポートの設定

手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `cts sxp enable`

4. **cts sxp default password**
5. **cts sxp default source-ip**
6. **cts sxp connection peer** *ipv4-address* {**source** | **password**} {**default** | **none**} **mode** {**local** | **peer**} **both** [**vrf vrf-name**]
7. **cts sxp speaker hold-time** *minimum-period*
8. **cts sxp listener hold-time** *minimum-period maximum-period*
9. **exit**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp enable</b> 例： Device(config)# cts sxp enable	Cisco TrustSec セキュリティ グループ タグ (SGT) 交換プロトコルバージョン4 (SXPv4) をネットワーク デバイスで有効にします。
ステップ 4	<b>cts sxp default password</b> 例： Device(config)# cts sxp default password Cisco123	(オプション) Cisco TrustSec SGT SXP のデフォルトパスワードを指定します。
ステップ 5	<b>cts sxp default source-ip</b> 例： Device(config)# cts sxp default source-ip 10.20.2.2	(オプション) Cisco TrustSec SGT SXP 送信元 IPv4 アドレスを設定します。
ステップ 6	<b>cts sxp connection peer</b> <i>ipv4-address</i> { <b>source</b>   <b>password</b> } { <b>default</b>   <b>none</b> } <b>mode</b> { <b>local</b>   <b>peer</b> } <b>both</b> [ <b>vrf vrf-name</b> ] 例： Device(config)# cts sxp connection peer 10.20.2.2 password default mode local both	双方向 SXP 設定用の Cisco TrustSec SXP ピア アドレス接続を設定します。 <b>both</b> キーワードは、双方向 SXP 設定を設定します。  <b>source</b> キーワードには発信元デバイスの IPv4 アドレスを指定します。接続アドレスが指定されていない場合、デフォルトの送信元アドレス（設定されている場合）、またはポートのアドレスを使用します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p><b>password</b> キーワードには、Cisco TrustSec SXP で接続に使用するパスワードを指定します。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>default : cts sxp default password</b> コマンドを使用して設定した、デフォルトの Cisco TrustSec SXP パスワードを使用します。</li> <li>• <b>none</b> : パスワードは使用されません。</li> </ul> <p><b>mode</b> キーワードでは、リモートピアデバイスのロールを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>local</b> : 指定したモードはローカルデバイスを参照します。</li> <li>• <b>peer</b> : 指定したモードはピアデバイスを参照します。</li> <li>• <b>both</b> : デバイスが双方向 SXP 接続のスピーカーとリスナー両方であることを指定します。</li> </ul> <p>オプションの <b>vrf</b> キーワードでは、ピアに対する VRF を指定します。デフォルトはデフォルト VRF です。</p>
ステップ 7	<p><b>cts sxp speaker hold-time minimum-period</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# cts sxp speaker hold-time 950</pre>	<p>(オプション) Cisco TrustSec SGT SXPv4 用のスピーカー ネットワーク デバイスのグローバル ホールド時間 (秒単位) を設定します。有効な範囲は 1 ~ 65534 です。デフォルトは 120 です。</p>
ステップ 8	<p><b>cts sxp listener hold-time minimum-period maximum-period</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# cts sxp listener hold-time 750 1500</pre>	<p>(オプション) Cisco TrustSec SGT SXPv4 用のリスナー ネットワーク デバイスのグローバル ホールド時間 (秒単位) を設定します。有効な範囲は 1 ~ 65534 です。デフォルトは 90 ~ 180 です。</p> <p>(注) <i>maximum-period</i> 値は、<i>minimum-period</i> 値よりも大きい必要はありません。</p>
ステップ 9	<p><b>exit</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# exit</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>



## 双方向 SXP サポート設定の確認

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show cts sxp {connections | sgt-map} [brief | vrf vrf-name]**

### 手順の詳細

### 手順

#### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

例：

```
Device> enable
```

#### ステップ 2 show cts sxp {connections | sgt-map} [brief | vrf vrf-name]

Cisco TrustSec 交換プロトコル（SXP）のステータスと接続を表示します。

例：

```
Device# show cts sxp connections

SXP : Enabled
Highest Version Supported: 4
Default Password : Set
Default Source IP: Not Set
Connection retry open period: 120 secs
Reconcile period: 120 secs
Retry open timer is running
-----
Peer IP : 2.0.0.2
Source IP : 1.0.0.2
Conn status : On (Speaker) :: On (Listener)
Conn version : 4
Local mode : Both
Connection inst# : 1
TCP conn fd : 1(Speaker) 3(Listener)
TCP conn password: default SXP password
Duration since last state change: 1:03:38:03 (dd:hr:mm:sec) :: 0:00:00:46 (dd:hr:mm:sec)
```

```
Device# show cts sxp connection brief
```

```
SXP : Enabled
Highest Version Supported: 4
Default Password : Set
Default Source IP: Not Set
```

```

Connection retry open period: 120 secs
Reconcile period: 120 secs
Retry open timer is running
-----
Peer_IP Source_IP Conn Status Duration
-----
2.0.0.2 1.0.0.2 On(Speaker)::On(Listener) 0:00:37:17 (dd:hr:mm:sec)::0:00:37:19 (dd:hr:mm:sec)

```

次のテーブルに、接続ステータス出力のさまざまなシナリオを示します。

表 121: 接続ステータスの出力シナリオ

Node1	Node2	接続ステータスについての Node1 CLI 出力	接続ステータスについての Node2 CLI 出力
両方	両方	オン (スピーカー) オン (リスナー)	オン (スピーカー) オン (リスナー)
スピーカー	リスナー	オン	点灯
リスナー	スピーカー	オン	点灯

## 双方向 SXP サポートの設定例

### 例：双方向 SXP サポートの設定

次の例は、双方向 CTS-SXP を有効化し、Device\_A 上の SXP ピア接続が Device\_B に接続するよう設定する方法を示します。

```

Device_A> enable
Device_A# configure terminal
Device_A(config)# cts sxp enable
Device_A(config)# cts sxp default password Cisco123
Device_A(config)# cts sxp default source-ip 10.10.1.1
Device_A(config)# cts sxp connection peer 10.20.2.2 password default mode local both
Device_A(config)# exit

```

次の例は、Device\_B 上の双方向 CTS-SXP ピア接続が Device\_A に接続するように設定する方法を示します。

```

Device_B> enable
Device_B# configure terminal
Device_B(config)# cts sxp enable
Device_B(config)# cts sxp default password Password123
Device_B(config)# cts sxp default source-ip 10.20.2.2
Device_B(config)# cts sxp connection peer 10.10.1.1 password default mode local both

```

```
Device_B(config)# exit
```

## 双方向 SXP サポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
Cisco TrustSec の設定	『Cisco TrustSec Configuration Guide』の「Cisco TrustSec Support for IOS」の章

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## 双方向 SXP サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 122: 双方向 SXP サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
双方向 SXP サポート		<p>双方向 SXP サポート機能は、セキュリティグループタグ (SGT) 交換プロトコル (SXP) バインドのサポートを追加することで、SXP バージョン 4 を使用した Cisco TrustSec の機能を強化します。このバインドは、単一の接続でスピーカーとリスナーどちらの方向へも伝播できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Catalyst 3750-X シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco Catalyst 3560-X シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco Catalyst 4500E Supervisor Engine 7-E</li> <li>• Cisco Catalyst 4500E Supervisor Engine 7L-E</li> <li>• Cisco Catalyst 4500-X シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco Catalyst 4500E Supervisor Engine 8-E</li> <li>• Cisco Catalyst 3850 シリーズ スイッチ</li> <li>• Cisco Catalyst 3650 シリーズ スイッチ</li> </ul> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>cts sxp connection peer</b></p>



## 第 88 章

# Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピング

Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピング機能は、レイヤ 3 入力インターフェイス上のすべてのトラフィックを、セキュリティグループタグ (SGT) にバインドします。このマッピングを実装すると、Cisco TrustSec では、SGT を使用してさまざまな論理レイヤ 3 入力インターフェイスからトラフィックを分離できるようになります。

- [Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングに関する情報 \(1037 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの設定方法 \(1038 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの設定例 \(1040 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングに関する追加情報 \(1041 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの機能情報 \(1042 ページ\)](#)

## Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングに関する情報

### インターフェイスと SGT のマッピング

インターフェイスとセキュリティグループタグ (SGT) 間のマッピングを使用して、基盤となる物理インターフェイスに関わらず、SGT を次の論理レイヤ 3 入力インターフェイスいずれかのトラフィックにマッピングします。

- レイヤ 3 (ルーテッド) イーサネット インターフェイス
- レイヤ 3 (ルーテッド) イーサネット 802.1Q サブインターフェイス
- トンネル インターフェイス

設定された SGT タグは、レイヤ 3 入力インターフェイスのすべてのトラフィックに割り当てられ、インライン タギングとポリシーの適用に使用できます。

## バインディング送信元プライオリティ

Cisco TrustSec は完全優先方式で IP-SGT（IP アドレスからセキュリティ グループ タグへ）バインディング ソース間の競合を解決します。現在の優先順位の適用順序は、最小から最大まで、次のとおりです。

1. CLI : `cts role-based sgt-map sgt` コマンドを使用して設定されたバインド。
2. L3IF : 一貫した L3IF-SGT（レイヤ 3 インターフェイスから SGT へ）マッピングやアイデンティティ ポート マッピングを使用する 1 つ以上のインターフェイスを通るパスを持つ FIB 転送エントリが原因で追加されたバインド。
3. SXP : SXP（SGT Exchange Protocol）ピアから学習されたバインド。
4. INTERNAL : ローカルで設定された IP アドレスとデバイス独自の SGT 間のバインド。

## Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの設定方法

### レイヤ 3 インターフェイスと SGT のマッピングの設定

#### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `interface type slot/port`
4. `cts role-based sgt-map sgt sgt-number`
5. `end`

#### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<code>configure terminal</code> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type slot/port</i> 例： Device(config)# interface gigabitEthernet 0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>cts role-based sgt-map sgt sgt-number</b> 例： Device(config-if)# cts role-based sgt-map sgt 77	SGT は指定されたインターフェイスへの入力トラフィックに適用されます。 • <i>sgt-number</i> : セキュリティグループタグ (SGT) 番号を指定します。有効値は 2 ~ 65519 です。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## レイヤ3 インターフェイスと SGT のマッピングの確認

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show cts role-based sgt-map all**

### 手順の詳細

#### 手順

#### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

例：

```
Device> enable
```

#### ステップ 2 show cts role-based sgt-map all

レイヤ3 インターフェイスの入力トラフィックに対するセキュリティグループタグ (SGT) マッピングを表示します。

例：

次は、**show cts role-based sgt-map all** コマンドからの出力例です。Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピング機能が実装されると、入力インターフェイスのトラフィックは、レイヤ3 インターフェイス

(L3IF) によって適切にタグ付けされます。この出力では、IP アドレスからセキュリティグループタグ (IP-SGT) バインディング ソースの優先方式を表示します (IP-SGT バインディング ソースの優先度について、詳細は「バインディング送信元プライオリティ」の項を参照)。

```
Device# show cts role-based sgt-map all
```

```
IP Address          SGT      Source
=====
192.0.2.1           4        INTERNAL
192.0.2.5/24        3        L3IF
192.0.2.10/8        3        L3IF
192.0.2.20          5        CLI
198.51.100.1        4        INTERNAL
IP-SGT Active Bindings Summary
=====
Total number of CLI      bindings = 1
Total number of L3IF     bindings = 2
Total number of INTERNAL bindings = 2
Total number of active   bindings = 5
```

## Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの設定例

### 例：レイヤ3 インターフェイスと SGT のマッピングの設定

次の例は、レイヤ3 入力インターフェイスへのセキュリティグループタグ (SGT) のマッピング設定を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitEthernet 0/0
Device(config-if)# cts role-based sgt-map sgt 77
Device(config-if)# end
```



# Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングに関する追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
Cisco TrustSec と SXP の設定	『Cisco TrustSec スイッチ コンフィギュレーション ガイド』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

# Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 123: Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピング		<p>Cisco TrustSec インターフェイスと SGT のマッピング機能は、レイヤ3入力インターフェイス上のすべてのトラフィックを、セキュリティグループタグ (SGT) にバインドします。このマッピングを実装すると、Cisco TrustSec では、SGT を使用してさまざまな論理レイヤ3入力インターフェイスからトラフィックを分離できるようになります。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>cts role-based sgt-map sgt</b></p>



## CHAPTER 89

# Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピング

サブネットとセキュリティ グループ タグ (SGT) のマッピングは、指定したサブネット内のすべてのホストアドレスに SGT をバインドします。このマッピングが実行されると、Cisco TrustSec により、指定のサブネットに属する送信元 IP アドレスを持つ任意の着信パケットに SGT が課せられます。

- [Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの制約事項, on page 1043](#)
- [Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングに関する情報, on page 1043](#)
- [Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの設定方法, on page 1044](#)
- [Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピング : 例, on page 1046](#)
- [その他の参考資料, on page 1048](#)
- [Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの機能情報, on page 1049](#)

## Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの制約事項

- /31 プレフィックスの IPv4 サブ ネットワークを拡張できません。
- サブネットホストアドレスは、`cts sxp mapping network-map` コマンドの `bindings` 引数が、指定されたサブネット内のサブネットホストの合計数より小さいか、バインド数が 0 の場合、SGT にバインドできません。
- SXP スピーカーおよびリスナーが SXPv3 以降のバージョンを実行している場合のみ、IPv6 拡張および伝播が実行されます。

## Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングに関する情報

IPv4 ネットワークでは、SXPv3 以降のバージョンは SXPv3 ピアからサブネットの `network address/prefix` ストリングを受信し、解析できます。SXP の以前のバージョンでは、SXP リス

ナー ピアにエクスポートする前に、サブネットのプレフィックスをホスト バイン드의セットに変換します。

たとえば、IPv4 サブネット 198.1.1.0/29 は次のように拡張されます（ホストアドレスの3ビットのみ）。

- ホストアドレス 198.1.1.1 から 198.1.1.7 はタグ付けされて SXP ピアに伝播します。
- ネットワーク、およびブロードキャストアドレス 198.1.1.0 および 198.1.1.8 は、タグ付けされず、伝播しません。



**Note** SXPv3 がエクスポートできるサブネットバインドの数を制限するには、**cts sxp mapping network-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

サブネットバインディングは静的です。つまり、アクティブなホストは学習されません。これらはSGTインポジションおよびSGACLの適用にローカルで使用できます。サブネットとSGTのマッピングによってタグ付けされたパケットは、レイヤ2またはレイヤ3 TrustSec リンクに伝播できます。



**Note** IPv6 ネットワークの場合、SXPv3 は SXPv2 または SXPv1 ピアにサブネットバインディングをエクスポートできません。

## Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの設定方法

### サブネットと SGT のマッピングの設定

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts sxp mapping network-map *bindings***
4. **cts role-based sgt-map *ipv4-address sgt number***
5. **cts role-based sgt-map *ipv6-address::prefix sgt number***
6. **exit**
7. **show running-config | include *search-string***
8. **show cts sxp connections**
9. **show cts sxp sgt-map**
10. **copy running-config startup-config**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>cts sxp mapping network-map bindings</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts sxp mapping network-map 10000	サブネットと SGT のマッピングのホスト数の制限を設定します。 <i>bindings</i> 引数は、SGT にバインドされ、SXP リスナーにエクスポートできる、0 ～ 65,535 のサブネット IP ホストの最大数を指定します。デフォルトは 0（実行される拡張なし）です。
ステップ 4	<b>cts role-based sgt-map ipv4-address sgt number</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts role-based sgt-map 10.10.10.10/29 sgt 1234	(IPv4) CIDR 表記で IPv4 サブネットを指定します。 手順 3 で指定するバインディングの数は、サブネット上のホストアドレスの数以上である必要があります（ネットワーク、およびブロードキャストアドレスを除く）。 <i>sgt number</i> キーワードペアでは、指定したサブネットの各ホストアドレスにバインドする SGT 番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>ipv4-address</i> : ドット付き 10 進表記で IPv4 ネットワーク アドレスを指定します。</li> <li><i>prefix</i> : (0 ～ 30)。ネットワーク アドレス内のビット数を指定します。</li> <li><i>sgt number</i> : (0 ～ 65,535)。SGT 番号を指定します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>cts role-based sgt-map ipv6-address::prefix sgt number</b> <b>Example:</b> Device(config)# cts role-based sgt-map 2020::/64 sgt 1234	(IPv6) 16 進数表記で IPv6 サブネットを指定します。 手順 3 で指定するバインディングの数は、サブネット上のホストアドレスの数以上である必要があります（ネットワーク、およびブロードキャストアドレスを除く）。 <i>sgt number</i> キーワードペアでは、指定したサブネットの各ホストアドレスにバインドする SGT 番号を指定します。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>ipv6-address</i> : ドット付き 10 進表記で IPv4 ネットワーク アドレスを指定します。</li> <li>• <i>prefix</i> : (0 ~ 30) 。ネットワーク アドレス内のビット数を指定します。</li> <li>• <i>sgt number</i> : (0 ~ 65,535) 。SGT 番号を指定します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	<b>show running-config   include search-string</b> <b>Example:</b> Device# show running-config   include sgt 1234 Device# show running-config   include network-map	<b>cts role-based sgt-map</b> コマンドと <b>cts sxp mapping network-map</b> コマンドが実行コンフィギュレーション内にあることを確認します。
ステップ 8	<b>show cts sxp connections</b> <b>Example:</b> Device# show cts sxp connections	SXP スピーカーとリスナーの接続と、動作ステータスを表示します。
ステップ 9	<b>show cts sxp sgt-map</b> <b>Example:</b> Device# show cts sxp sgt-map	SXP リスナーにエクスポートした IP と SGT のバインディングを表示します。
ステップ 10	<b>copy running-config startup-config</b> <b>Example:</b> Device# copy running-config startup-config	実行設定を、スタートアップ設定にコピーします。

## Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピング : 例

次の例は、SXPv3 を実行している 2 つのデバイス (Device 1 と Device 2) 間の IPv4 サブネットと SGT のマッピングを設定する方法を示します。

Device 1 (10.1.1.1) と Device 2 (10.2.2.2) 間の SXP スピーカー/リスナー ピアリングを設定します。

```
Device1# configure terminal
Device1(config)# cts sxp enable
Device1(config)# cts sxp default source-ip 10.1.1.1
Device1(config)# cts sxp default password 1szygy1
Device1(config)# cts sxp connection peer 10.2.2.2 password default mode local speaker
```

Device 1 の SXP リスナーとして Device 2 を設定します。

```
Device2(config)# cts sxp enable
Device2(config)# cts sxp default source-ip 10.2.2.2
Device2(config)# cts sxp default password 1szygy1
Device2(config)# cts sxp connection peer 10.1.1.1 password default mode local listener
```

Device 2 で、SXP 接続が動作していることを確認してください。

```
Device2# show cts sxp connections brief | include 10.1.1.1

      10.1.1.1          10.2.2.2          On          3:22:23:18 (dd:hr:mm:sec)
```

サブネットワークが Device 1 に拡張されるように設定します。

```
Device1(config)# cts sxp mapping network-map 10000
Device1(config)# cts role-based sgt-map 10.10.10.0/30 sgt 101
Device1(config)# cts role-based sgt-map 10.11.11.0/29 sgt 11111
Device1(config)# cts role-based sgt-map 172.168.1.0/28 sgt 65000
```

Device 2 で、Device 1 からのサブネットと SGT の拡張を確認します。ここでは、10.10.10.0/30 サブネットワーク用の拡張が 2 個、10.11.11.0/29 サブネットワーク用の拡張が 6 個、172.168.1.0/28 サブネットワーク用の拡張が 14 個存在する必要があります。

```
Device2# show cts sxp sgt-map brief | include 101|11111|65000
```

```
IPv4,SGT: <10.10.10.1 , 101>
IPv4,SGT: <10.10.10.2 , 101>
IPv4,SGT: <10.11.11.1 , 11111>
IPv4,SGT: <10.11.11.2 , 11111>
IPv4,SGT: <10.11.11.3 , 11111>
IPv4,SGT: <10.11.11.4 , 11111>
IPv4,SGT: <10.11.11.5 , 11111>
IPv4,SGT: <10.11.11.6 , 11111>
IPv4,SGT: <172.168.1.1 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.2 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.3 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.4 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.5 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.6 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.7 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.8 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.9 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.10 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.11 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.12 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.13 , 65000>
IPv4,SGT: <172.168.1.14 , 65000>
```

Device 1 の拡張数を確認します。

```
Device1# show cts sxp sgt-map
```

```
IP-SGT Mappings expanded:22
There are no IP-SGT Mappings
```

Device 1 と Device 2 の設定を保存して、グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

```
Device1(config)# copy running-config startup-config
Device1(config)# exit
```

```
Device2(config)# copy running-config startup-config
Device2(config)# exit
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
Cisco TrustSec と SXP の設定	『Cisco TrustSec スイッチ コンフィギュレーション ガイド』
IPsec の設定	『Configuring Security for VPNs with IPsec』
IKEv2 の設定	『Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2) and FlexVPN Site-to-Site』
Cisco Secure Access Control Server	『Configuration Guide for the Cisco Secure ACS』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>



## Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 124: Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピングの機能情報**

機能名	リリース	機能情報
Cisco TrustSec サブネットと SGT のマッピング		<p>サブネットとセキュリティグループ タグ (SGT) のマッピングは、指定したサブネット内のすべてのホストアドレスに SGT をバインドします。このマッピングが実行されると、Cisco TrustSec により、指定のサブネットに属する送信元 IP アドレスを持つ任意の着信パケットに SGT が課せられます。</p> <p>次のコマンドが導入されました：<b>cts sxp mapping network-map</b></p>





## 第 90 章

# Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポート

Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートでは、Flexible Netflow (FNF) フローレコード内の Cisco TrustSec フィールドをサポートし、Cisco TrustSec 導入の標準から外れた動作のモニタ、トラブルシューティング、および特定を支援します。

このモジュールでは、Cisco TrustSec と FNF のインタラクションについてと、NetFlow バージョン 9 フローレコードの Cisco TrustSec フィールドを設定しエクスポートする方法を説明します。

- [Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの制約事項 \(1051 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートに関する情報 \(1052 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの設定方法 \(1053 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの設定例 \(1064 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートに関する追加情報 \(1066 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの機能情報 \(1067 ページ\)](#)

## Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの制約事項

- Flexible Netflow (FNF) レコードでエクスポートされるセキュリティグループタグ (SGT) 値は、次のシナリオではゼロになります。
  - パケットは、信頼されたインターフェイスから、ゼロの SGT 値とともに受信します。
  - パケットは SGT なしで受信します。
  - IP-SGT ルックアップ中に SGT が検出されません。

# Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートに関する情報

## Flexible NetFlow の Cisco TrustSec フィールド

Flexible Netflow (FNF) フローレコード内の Cisco TrustSec フィールド、送信元セキュリティグループタグ (SGT) および宛先セキュリティグループタグ (DGT) は、管理者によるフローとアイデンティティ情報の関連付けに役立ちます。ネットワークエンジニアは、これにより、顧客のネットワーク リソースおよびアプリケーション リソースの利用について詳しく理解できます。この情報を使用して、潜在的なセキュリティやポリシーの違反を検出して解決するために、アクセスおよびアプリケーション リソースを効率的に計画して割り当てることができます。

Cisco TrustSec フィールドは入力/出力 FNF、ユニキャスト/マルチキャストトラフィックでサポートされています。

次のテーブルに、Cisco TrustSec 用の NetFlow V9 の企業固有フィールドタイプを示します。これは、Cisco TrustSec の送信元/宛先ソースグループタグの FNF テンプレートで使用されます。

ID	説明
CTS_SRC_GROUP_TAG	Cisco Trusted Security 送信元グループタグ
CTS_DST_GROUP_TAG	Cisco Trusted Security 宛先グループタグ

FNF フローレコードで既存の一致するフィールドに加えて、Cisco TrustSec フィールドが設定されます。次の設定を使用して、Cisco TrustSec フローオブジェクトをキーフィールドまたは非キーフィールドとして FNF フローレコードに追加し、パケット用の送信元と宛先のセキュリティグループタグを設定します。

- match flow cts {source | destination} group-tag** コマンドは、キーフィールドとして Cisco TrustSec フィールドを指定するため、フローレコード以下で設定されます。キーフィールドはフローを差別化するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。フローレコードにキーフィールドが含まれていない場合は、フローモニタで使用することができません。
- collect flow cts {source | destination} group-tag** コマンドは、非キーフィールドとして Cisco TrustSec フィールドを指定するため、フローレコード以下で設定されます。非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。

フローレコードは、フローモニタ下で設定され、フローモニタはインターフェイスに適用されます。FNF データをエクスポートするには、フローエクスポートを設定し、フローモニター以下に追加する必要があります。

# Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの設定方法

## フローレコードのキーフィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow record** *record-name*
4. **match** {ipv4 | ipv6} **protocol**
5. **match** {ipv4 | ipv6} **source address**
6. **match** {ipv4 | ipv6} **destination address**
7. **match transport source-port**
8. **match transport destination-port**
9. **match flow direction**
10. **match flow cts source group-tag**
11. **match flow cts destination group-tag**
12. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>flow record</b> <i>record-name</i> 例： Device(config)# flow record cts-record-ipv4	Flexible Netflow (FNF) フローレコードを作成するか、または既存の FNF フローレコードを変更して、Flexible NetFlow フローレコードコンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>match {ipv4   ipv6} protocol</b> 例 :  Device(config-flow-record)# match ipv4 protocol	(オプション) フローレコードのキーフィールドとして IPv4 プロトコルまたは IPv6 プロトコルを設定します。
ステップ 5	<b>match {ipv4   ipv6} source address</b> 例 :  Device(config-flow-record)# match ipv4 source address	(オプション) IPv4 または IPv6 送信元アドレスをフローレコードのキーフィールドとして設定します。
ステップ 6	<b>match {ipv4   ipv6} destination address</b> 例 :  Device(config-flow-record)# match ipv4 destination address	(オプション) IPv4 または IPv6 接続先アドレスをフローレコードのキーフィールドとして設定します。
ステップ 7	<b>match transport source-port</b> 例 :  Device(config-flow-record)# match transport source-port	(オプション) フローレコードのキーフィールドとして、トランスポート送信元ポートを設定します。
ステップ 8	<b>match transport destination-port</b> 例 :  Device(config-flow-record)# match transport destination-port	(オプション) フローレコードのキーフィールドとして、トランスポート宛先ポートを設定します。
ステップ 9	<b>match flow direction</b> 例 :  Device(config-flow-record)# match flow direction	(オプション) フローがモニターされる方向をキーフィールドとして設定します。
ステップ 10	<b>match flow cts source group-tag</b> 例 :  Device(config-flow-record)# match flow cts source group-tag	FNF フローレコード内の Cisco TrustSec 送信元セキュリティグループタグ (SGT) をキーフィールドとして設定します。
ステップ 11	<b>match flow cts destination group-tag</b> 例 :  Device(config-flow-record)# match flow cts destination group-tag	FNF フローレコード内の Cisco TrustSec 宛先セキュリティグループタグ (DGT) をキーフィールドとして設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	<b>end</b> 例 : Device(config-flow-record)# end	Flexible NetFlow フローレコードコンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

## フローレコードの非キーフィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow record** *record-name*
4. **match** {ipv4 | ipv6} protocol
5. **match** {ipv4 | ipv6} source address
6. **match** {ipv4 | ipv6} destination address
7. **match transport source-port**
8. **match transport destination-port**
9. **collect flow direction**
10. **collect flow cts source group-tag**
11. **collect flow cts destination group-tag**
12. **collect counter packets**
13. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>flow record</b> <i>record-name</i> 例 :	Flexible Netflow (FNF) フローレコードを作成するか、または既存の FNF フローレコードを変更し

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config)# flow record cts-record-ipv4	て、Flexible NetFlow フローレコードコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>match {ipv4   ipv6} protocol</b> 例 : Device(config-flow-record)# match ipv4 protocol	(オプション) フローレコードのキーフィールドとして IPv4 プロトコルまたは IPv6 プロトコルを設定します。 (注) Cisco CSR100V、ISR 4400、および ASR 1000 プラットフォームでは、Cisco TrustSec フィールドは IPv4 FNF レコードでのみサポートされます。
ステップ 5	<b>match {ipv4   ipv6} source address</b> 例 : Device(config-flow-record)# match ipv4 source address	(オプション) IPv4 または IPv6 送信元アドレスをフローレコードのキーフィールドとして設定します。 (注) Cisco CSR100V、ISR 4400、および ASR 1000 プラットフォームでは、Cisco TrustSec フィールドは IPv4 FNF レコードでのみサポートされます。
ステップ 6	<b>match {ipv4   ipv6} destination address</b> 例 : Device(config-flow-record)# match ipv4 destination address	(オプション) IPv4 または IPv6 接続先アドレスをフローレコードのキーフィールドとして設定します。 (注) Cisco CSR100V、ISR 4400、および ASR 1000 プラットフォームでは、Cisco TrustSec フィールドは IPv4 FNF レコードでのみサポートされます。
ステップ 7	<b>match transport source-port</b> 例 : Device(config-flow-record)# match transport source-port	(オプション) フローレコードのキーフィールドとして、トランスポート送信元ポートを設定します。
ステップ 8	<b>match transport destination-port</b> 例 : Device(config-flow-record)# match transport destination-port	(オプション) フローレコードのキーフィールドとして、トランスポート宛先ポートを設定します。
ステップ 9	<b>collect flow direction</b> 例 : Device(config-flow-record)# collect flow direction	(オプション) フロー方向を非キーフィールドとして設定し、フローがモニタされた方向の収集を有効化します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	<b>collect flow cts source group-tag</b> 例：  Device(config-flow-record)# collect flow cts source group-tag	FNF フロー レコード内の Cisco TrustSec 送信元セキュリティグループタグ (SGT) を非キーフィールドとして設定します。
ステップ 11	<b>collect flow cts destination group-tag</b> 例：  Device(config-flow-record)# collect flow cts destination group-tag	FNF フロー レコード内の Cisco TrustSec 宛先セキュリティグループタグ (DGT) を非キーフィールドとして設定します。
ステップ 12	<b>collect counter packets</b> 例：  Device(config-flow-record)# collect counter packets	(オプション) フローで確認されるパケット数を非キーフィールドとして設定し、フローから合計パケット数を収集します。
ステップ 13	<b>end</b> 例：  Device(config-flow-record)# end	Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

## フロー エクスポートの設定

フローエクスポートごとに、1つの宛先のみがサポートされます。複数の宛先にデータをエクスポートする場合は、複数のフロー エクスポートを設定してフロー モニターに割り当てる必要があります。

### 始める前に

フロー レコードを作成していることを確認します。詳細については、「フロー レコードの非キーフィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定」の項および「フロー レコードの非キーフィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定」の項を参照してください。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow exporter** *exporter-name*
4. **destination** {*ip-address* | *hostname*} [**vrf** *vrf-name*]
5. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>flow exporter <i>exporter-name</i></b> 例： Device(config)# flow exporter EXPORTER-1	フローエクスポートを作成するか、または既存のフローエクスポートを変更して、Flexible NetFlow フローエクスポート コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>destination {<i>ip-address</i>   <i>hostname</i>}</b> [ <b>vrf <i>vrf-name</i></b> ] 例： Device(config-flow-exporter)# destination 172.16.10.2	エクスポートの宛先システムの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-flow-exporter)# end	Flexible NetFlow フローエクスポート コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

## フロー モニタの設定

## 始める前に

フローエクスポートをデータエクスポート用のフローモニタに追加するには、フローエクスポートを作成していることを確認します。詳細については、「フローエクスポートの設定」の項を参照してください。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow monitor *monitor-name***
4. **record *record-name***

5. **exporter** *exporter-name*
6. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例：  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例：  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>flow monitor</b> <i>monitor-name</i> 例：  Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1	フロー モニタを作成するか、または既存のフロー モニタを変更して、Flexible NetFlow フロー モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>record</b> <i>record-name</i> 例：  Device(config-flow-monitor) # record FLOW-RECORD-1	フロー モニターのレコードを指定します。
ステップ 5	<b>exporter</b> <i>exporter-name</i> 例：  Device(config-flow-monitor) # exporter EXPORTER-1	フロー モニタのエクスポートを指定します。
ステップ 6	<b>end</b> 例：  Device(config-flow-monitor) # end	Flexible NetFlow フロー モニタ コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

## インターフェイスへのフロー モニタの適用

フロー モニタをアクティベートするには、フロー モニタを 1 つ以上のインターフェイスに適用する必要があります。

## 始める前に

フロー モニタを作成していることを確認します。詳細については、「フロー モニタの設定」の項を参照してください。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **{ip | ipv6} flow monitor** *monitor-name* **{input | output}**
5. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Device(config)# interface ethernet 0/0	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>{ip   ipv6} flow monitor</b> <i>monitor-name</i> <b>{input   output}</b> 例： Device (config-if)# ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 input	作成済みのフローモニタを、トラフィックの分析対象となるインターフェイスに割り当てることで、そのフロー モニタをアクティブにします。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

# Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの確認

## 手順の概要

1. **enable**
2. **show flow record** *record-name*
3. **show flow exporter** *exporter-name*
4. **show flow monitor** *monitor-name*
5. **show flow monitor** *monitor-name* **cache**
6. **show flow interface** *type number*

## 手順の詳細

### 手順

#### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

例：

```
Device> enable
```

#### ステップ 2 show flow record *record-name*

指定した Flexible Netflow（FNF）フローレコードの詳細を表示します。

例：

```
Device> show flow record cts-recordipv4

flow record cts-recordipv4:
  Description:      User defined
  No. of users:    1
  Total field space: 30 bytes
  Fields:
    match ipv4 protocol
    match ipv4 source address
    match ipv4 destination address
    match transport source-port
    match transport destination-port
    match interface input
    match interface output
    match flow direction
    match flow cts source group-tag
    match flow cts destination group-tag
```

```
collect counter packets
```

### ステップ 3 `show flow exporter exporter-name`

指定した FNF フロー エクスポートの現在のステータスを表示します。

例 :

```
Device> show flow exporter EXPORTER-1

Flow Exporter EXPORTER-1:
  Description:          User defined
  Export protocol:      NetFlow Version 9
  Transport Configuration:
    Destination IP address: 100.100.100.1
    Source IP address:    3.3.3.2
    Transport Protocol:   UDP
    Destination Port:     2055
    Source Port:          65252
    DSCP:                 0x0
    TTL:                  255
    Output Features:      Used
```

### ステップ 4 `show flow monitor monitor-name`

指定した FNF フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

例 :

```
Device> show flow monitor FLOW-MONITOR-1

Flow Monitor FLOW-MONITOR-1:
  Description:          User defined
  Flow Record:          cts-recordipv4
  Flow Exporter:        EXPORTER-1
  Cache:
    Type:                normal (Platform cache)
    Status:               allocated
    Size:                 200000 entries
    Inactive Timeout:    60 secs
    Active Timeout:      1800 secs
    Update Timeout:      1800 secs
    Synchronized Timeout: 600 secs
    Trans end aging:     off
```

### ステップ 5 `show flow monitor monitor-name cache`

指定した FNF フロー モニタ キャッシュのコンテンツを表示します。

例 :

```
Device> show flow monitor FLOW-MONITOR-1 cache
```

```

Cache type: Normal
Cache size: 4096
Current entries: 2
High Watermark: 2

Flows added: 6
Flows aged: 4
- Active timeout (1800 secs) 0
- Inactive timeout (15 secs) 4
- Event aged 0
- Watermark aged 0
- Emergency aged 0

IPV4 SOURCE ADDRESS: 10.1.0.1
IPV4 DESTINATION ADDRESS: 172.16.2.0
TRNS SOURCE PORT: 58817
TRNS DESTINATION PORT: 23
FLOW DIRECTION: Input
IP PROTOCOL: 6
SOURCE GROUP TAG: 100
DESTINATION GROUP TAG: 200
counter packets: 10

IPV4 SOURCE ADDRESS: 172.16.2.0
IPV4 DESTINATION ADDRESS: 10.1.0.1
TRNS SOURCE PORT: 23
TRNS DESTINATION PORT: 58817
FLOW DIRECTION: Output
IP PROTOCOL: 6
SOURCE GROUP TAG: 200
DESTINATION GROUP TAG: 100
counter packets: 8

```

## ステップ 6 show flow interface type number

指定したインターフェイスに適用される FNF フローモニタの詳細を表示します。フローモニタがインターフェイスに適用されない場合、出力は空になります。

例：

```

Device> show flow interface GigabitEthernet0/0/3

Interface GigabitEthernet0/0/3
  FNF: monitor: FLOW-MONITOR-1
      direction: Input
      traffic(ip): on
  FNF: monitor: FLOW-MONITOR-1
      direction: Output
      traffic(ip): on

```

## Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの設定例

### 例：フローレコードのキーフィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定

次の例は、Cisco TrustSec フローオブジェクトを、IPv4 Flexible NetFlow フローレコードのキーフィールドとして設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# flow record cts-record-ipv4
Device(config-flow-record)# match ipv4 protocol
Device(config-flow-record)# match ipv4 source address
Device(config-flow-record)# match ipv4 destination address
Device(config-flow-record)# match transport source-port
Device(config-flow-record)# match transport destination-port
Device(config-flow-record)# match flow direction
Device(config-flow-record)# match flow cts source group-tag
Device(config-flow-record)# match flow cts destination group-tag
Device(config-flow-record)# end
```

### 例：フローレコードの非キーフィールドとしての Cisco TrustSec フィールドの設定

次の例は、Cisco TrustSec フローオブジェクトを、IPv4 Flexible NetFlow フローレコードの非キーフィールドとして設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# flow record cts-record-ipv4
Device(config-flow-record)# match ipv4 protocol
Device(config-flow-record)# match ipv4 source address
Device(config-flow-record)# match ipv4 destination address
Device(config-flow-record)# match transport source-port
Device(config-flow-record)# match transport destination-port
Device(config-flow-record)# collect flow direction
Device(config-flow-record)# collect flow cts source group-tag
Device(config-flow-record)# collect flow cts destination group-tag
Device(config-flow-record)# collect counter packets
Device(config-flow-record)# end
```



## 例：フロー エクスポートの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# flow exporter EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# destination 172.16.10.2
Device(config-flow-exporter)# end
```

## 例：フロー モニタの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1
Device(config-flow-monitor)# record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-monitor)# exporter EXPORTER-1
Device(config-flow-monitor)# end
```

## 例：インターフェイス上のフロー モニタの適用

次の例は、トラフィックを分析するインターフェイスにIPv4フローモニタを適用することで、このフローモニタをアクティベートする方法を示します。IPv6フローモニタをアクティベートするには、**ip** キーワードを **ipv6** キーワードと置き換えます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface ethernet 0/0
Device(config-if)# ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 input
Device(config-if)# end
```

# Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートに関する追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
Flexible NetFlow でのデータ エクスポート	『Flexible Netflow Configuration Guide』パブリケーションの「Flexible NetFlow Output Features on Data Export」の章
Flexible NetFlow のフロー レコードとフロー モニタ	『Flexible Netflow Configuration Guide』パブリケーションの「Customizing Flexible NetFlow Flow Records and Flow Monitors」の章

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 125: Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポート		<p>Cisco TrustSec フィールドの Flexible NetFlow エクスポートでは、Flexible Netflow (FNF) フロー レコード内の Cisco TrustSec フィールドをサポートし、Cisco TrustSec 導入の標準から外れた動作のモニタ、トラブルシューティング、および特定を支援します。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入されました。<b>match flow cts {source   destination} group-tag</b> および <b>collect flow cts {source   destination} group-tag</b>。</p>



## 第 91 章

# Cisco TrustSec SGT キャッシング

Cisco TrustSec SGT キャッシング機能は、セキュリティグループタグ (SGT) の移動性を柔軟にする Cisco TrustSec の機能を強化します。この機能は、IP-SGT バインドを特定し、対応する SGT をキャッシュすることで、通常のディープ パケット インスペクションを処理するすべてのネットワーク サービスを通じて、またパケットが該当する SGT で再度タグ付けされるサービス出力ポイントにおいて、ネットワーク パケットを転送します。

- [Cisco TrustSec SGT キャッシングの制約事項 \(1069 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec SGT キャッシングの詳細 \(1070 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec SGT キャッシングの設定方法 \(1072 ページ\)](#)
- [設定例 Cisco TrustSec SGT キャッシング \(1078 ページ\)](#)
- [に関する追加情報 Cisco TrustSec SGT キャッシング \(1079 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec SGT キャッシングの機能情報 \(1080 ページ\)](#)

## Cisco TrustSec SGT キャッシングの制約事項

グローバルなセキュリティグループタグ (SGT) キャッシング設定と、インターフェイス固有の入力設定は相互に排他的です。次のシナリオでは、SGT キャッシングをグローバルおよびインターフェイス上の両方で構成しようとした場合に、警告メッセージが表示されます。

- **cts role-based sgt-cache ingress** コマンドをインターフェイス設定モードで使用して、インターフェイスが入力 SGT キャッシングを有効にし、**cts role-based sgt-caching** コマンドを使用してグローバル設定を試行した場合、次の例が示すような警告メッセージが表示されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitEthernet0/0
Device(config-if)# cts role-based sgt-cache ingress
Device(config-if)# exit
Device(config)# cts role-based sgt-caching
```

```
There is at least one interface that has ingress sgt caching configured. Please
remove all interface ingress sgt caching configuration(s) before attempting global
enable.
```

- **cts role-based sgt-caching** コマンドを使用してグローバル設定を有効化し、インターフェイス設定モードで **cts role-based sgt-cache ingress** コマンドを使用してインターフェイス設定を試行した場合、次の例が示すような警告メッセージが表示されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# cts role-based sgt-caching
Device(config)# interface gigabitEthernet0/0
Device(config-if)# cts role-based sgt-cache ingress
```

Note that ingress sgt caching is already active on this interface due to global sgt-caching enable.

- V4 トランスポートを介した IPv6 パケットおよび V6 トランスポートを介した IPv4 パケットのトンネリングの SGT キャッシングは、サポートされていません。
- ルーティングプラットフォームでの IPv6 SGACL ポリシーのハイアベイラビリティおよび同期は、IPv6-SGT キャッシングではサポートされません。
- SGT キャッシングは、ISR4K ベースのプラットフォームにおいて ESP ヘッダーで SGT タグを伝送する IPsec パケットではサポートされません。
- SGT キャッシングは、リンクローカル IPv6 送信元アドレスに対して実行されません。  
リンクローカルアドレスとは、ホストが接続されているネットワークセグメント（リンク）またはブロードキャストドメイン内の通信にのみ有効なネットワークアドレスです。リンクローカルアドレスは、単一のネットワークセグメントを超えて一意であるとは限りません。そのため、ルータは、リンクローカルアドレスを持つパケットを転送しません。リンクローカルアドレスは一意ではないため、送信元がリンクローカル IPv6 アドレスであるパケットの SGT タグは割り当てられません。
- SGT キャッシングは、IVRF が設定された IPsec を持つトンネルインターフェイスではサポートされません。
- 仮想テンプレート インターフェイスでの SGT キャッシングの設定は、Cisco ASR 1000 プラットフォームではサポートされていません。

## Cisco TrustSec SGT キャッシングの詳細

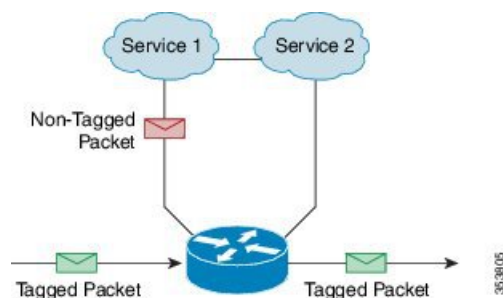
### SGT キャッシングを使用した SGT の特定と再適用

Cisco TrustSec は、セキュリティグループタグ (SGT) キャッシングを使用して、SGT でタグ付けされたトラフィックを、SGT を認識していないサービスを通じても渡すことができるようにします。SGT を伝播できないサービスには、WAN の高速化または最適化、侵入防御システム (IPS)、およびアップストリームファイアウォールがあります。ワンアームモードでは、SGT でタグ付けされたパケットはデバイス（タグがキャッシュされた場所）に入力され、サービスにリダイレクトされます。そのサービスが完了した後、パケットはデバイスに戻される

か、別のデバイスにリダイレクトされます（図を参照）。このようなシナリオでは、次のようになります。

1. Cisco TrustSec SGT キャッシング機能により、デバイスは、着信パケットからの IP-SGT バインド情報を特定し、この情報をキャッシュします。
2. デバイスは、SGT を伝播できないサービスにパケットをリダイレクトします。
3. サービスが完了した後、パケットはデバイスに戻されます。
4. サービスの出力ポイントで、適切な SGT がパケットに再適用されます。
5. サービスからデバイスに戻されたパケットには、ロールベースの強制が適用されます。
6. SGT のパケットは、他の Cisco TrustSec 対応デバイスのダウンストリームに転送されます。

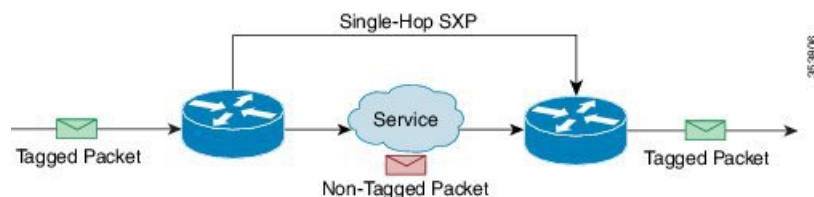
図 20: ワンアーム モードでの SGT キャッシング



特定のインスタンスでは、Bump-In-The-Wire (BITW) トポロジに導入されるサービスがあります。このようなシナリオでは、次のようになります。

1. サービスを通過するパケットはデバイスに戻されません。
2. シングルホップ SGT Exchange Protocol (SXP) を使用して、IP-SGT バインドを特定し、特定されたバインドをエクスポートします。
3. ネットワーク内のアップストリームデバイスは、SXPを通じて IP-SGT バインドを特定し、適切なタグを再適用するか、それらを SGT ベース強制に使用します。出力キャッシング中、元のネットワークアドレス移動 (NAT) 前の送信元 IP アドレスは、特定された IP-SGT バインド情報の一部としてキャッシュされます。
4. 300 秒間トラフィックを受信しない IP-SGT バインドは、キャッシュから削除されます。

図 21: Bump-In-The-Wire (BITW) トポロジでの SGT キャッシング



## IPv6 トラフィックの SGT キャッシング

IPv6 トラフィックの SGT キャッシングに関する考慮事項は次のとおりです。

- **グローバルユニキャスト IPv6 パケット** : IPv6-SGT キャッシングは、IPv6 パケットの入力方向および出力方向で着信するトラフィックに対して実行されます。SGT タグは、パケット（イーサネットヘッダー、IPSec ヘッダー、GRE ヘッダー）にインラインに含まれます。ただし、IPSec パケットのタグの SGT キャッシングは、ISR4K ベースのプラットフォームではサポートされていません。
- **マルチキャスト IPv6 アドレス** : SGT キャッシングは、IPv6 マルチキャストトラフィックおよびリンクローカル IPv6 アドレスではサポートされません。
- **キャッシュされた IPv6-SGT バインディングの SXP を介したエクスポート** : データプレーンで学習された IPv6-SGT バインディングは、IOS の RBM（ロールベースマネージャ）データベースに通知されます。その後、これらのバインディングは、SXP を使用して他の TrustSec デバイスにエクスポートできます。

## Cisco TrustSec SGT キャッシングの設定方法

### SGT キャッシングのグローバル設定

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cts role-based sgt-caching**
4. **end**

#### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>cts role-based sgt-caching</b> 例 : Device(config)# cts role-based sgt-caching	すべてのインターフェイスに対して、入力方向の SGT キャッシングを有効化します。
ステップ 4	<b>end</b> 例 : Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## インターフェイスでの SGT キャッシングの設定

インターフェイスが Virtual Routing and Forwarding (VRF) ネットワーク上に設定された場合、そのインターフェイス上で特定された IP-SGT バインドは特定の VRF 以下に追加されます。(対応する VRF 上で特定されたバインドを表示するには、**show cts role-based sgt-map vrf vrf-name all** コマンドを使用します。)

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface type slot/port**
4. **cts role-based sgt-cache [ingress | egress]**
5. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type slot/port</b> 例 :	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config)# interface gigabitEthernet 0/1/0	
ステップ 4	<b>cts role-based sgt-cache [ingress   egress]</b> 例 : Device(config-if)# cts role-based sgt-cache ingress	特定のインターフェイスでSGTキャッシングを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ingress</b> : 特定のインターフェイスを開始するトラフィック (インバウンドトラフィック) に対して SGT キャッシングを有効化します。</li> <li>• <b>egress</b> : 特定のインターフェイスを終了するトラフィック (アウトバウンドトラフィック) に対して SGT キャッシングを有効化します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>end</b> 例 : Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## Cisco TrustSec SGT キャッシングの確認

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show cts**
3. **show cts interface**
4. **show cts interface brief**
5. **show cts role-based sgt-map all ipv4**
6. **show cts role-based sgt-map vrf**

### 手順の詳細

#### 手順

##### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します (要求された場合)。

例 :

```
Device> enable
```

##### ステップ 2 show cts

Cisco TrustSec 接続とグローバル SGT キャッシングのステータスを表示します。

例 :

```
Device# show cts

Global Dot1x feature: Disabled
CTS device identity: ""
CTS caching support: disabled
CTS sgt-caching global: Enabled
Number of CTS interfaces in DOT1X mode: 0,    MANUAL mode: 0
Number of CTS interfaces in LAYER3 TrustSec mode: 0
Number of CTS interfaces in corresponding IFC state
  INIT          state: 0
  AUTHENTICATING state: 0
  AUTHORIZING   state: 0
  SAP_NEGOTIATING state: 0
  OPEN          state: 0
  HELD          state: 0
  DISCONNECTING state: 0
  INVALID       state: 0
CTS events statistics:
  authentication success: 0
  authentication reject : 0
  authentication failure: 0
  authentication logoff  : 0
  authentication no resp: 0
  authorization success  : 0
  authorization failure  : 0
  sap success            : 0
  sap failure            : 0
  port auth failure     : 0
```

### ステップ3 show cts interface

モード詳細（入力または出力）を使用した、インターフェイスと SGT キャッシング情報についての Cisco TrustSec 設定の統計情報を表示します。

例 :

```
Device# show cts interface GigabitEthernet0/1

Interface GigabitEthernet0/1
  CTS sgt-caching Ingress: Enabled
  CTS sgt-caching Egress : Disabled
  CTS is enabled, mode:    MANUAL
  Propagate SGT:          Enabled
  Static Ingress SGT Policy:
    Peer SGT:              200
    Peer SGT assignment:   Trusted

L2-SGT Statistics
  Pkts In                  : 16298041
  Pkts (policy SGT assigned) : 0
  Pkts Out                  : 5
  Pkts Drop (malformed packet): 0
  Pkts Drop (invalid SGT)   : 0
```

### ステップ4 show cts interface brief

すべてのインターフェイスについて、モード詳細（入力または出力）を使用してSGTキャッシング情報を表示します。

例：

```
Device# show cts interface brief

Interface GigabitEthernet0/0
  CTS sgt-caching Ingress: Enabled
  CTS sgt-caching Egress : Disabled
  CTS is disabled

Interface GigabitEthernet0/1
  CTS sgt-caching Ingress: Enabled
  CTS sgt-caching Egress : Disabled
  CTS is enabled, mode:      MANUAL
  Propagate SGT:           Enabled
  Static Ingress SGT Policy:
    Peer SGT:               200
    Peer SGT assignment:    Trusted

Interface GigabitEthernet0/2
  CTS sgt-caching Ingress: Enabled
  CTS sgt-caching Egress : Disabled
  CTS is enabled, mode:      MANUAL
  Propagate SGT:           Enabled
  Static Ingress SGT Policy:
    Peer SGT:               0
    Peer SGT assignment:    Untrusted

Interface GigabitEthernet0/3
  CTS sgt-caching Ingress: Enabled
  CTS sgt-caching Egress : Disabled
  CTS is disabled

Interface Backplane-GigabitEthernet0/4
  CTS sgt-caching Ingress: Enabled
  CTS sgt-caching Egress : Disabled
  CTS is disabled

Interface RG-AR-IF-INPUT1
  CTS sgt-caching Ingress: Enabled
  CTS sgt-caching Egress : Disabled
  CTS is disabled
```

## ステップ 5 show cts role-based sgt-map all ipv4

すべてのSGT-IPv4バインドを表示します。

例：

```
Device# show cts role-based sgt-map all ipv4

Active IPv4-SGT Bindings Information

IP Address          SGT      Source
=====
192.0.2.1           50       CACHED
192.0.2.2           50       CACHED
192.0.2.3           50       CACHED
192.0.2.4           50       CACHED
```

```

192.0.2.5          3900    INTERNAL
192.0.2.6          3900    INTERNAL
192.0.2.7          3900    INTERNAL

```

```
IP-SGT Active Bindings Summary
```

```

=====
Total number of CACHED bindings = 20
Total number of INTERNAL bindings = 3
Total number of active bindings = 23

```

## ステップ 6 show cts role-based sgt-map vrf

特定の Virtual Routing and Forwarding (VRF) インターフェイスに対する SGT-IP バイン드를すべて表示します。

例：

```
Device# show cts role-based sgt-map vrf
```

```
%IPv6 protocol is not enabled in VRF RED
Active IPv4-SGT Bindings Information
```

IP Address	SGT	Source
192.0.2.1	50	CACHED
192.0.2.2	2007	CACHED
192.0.2.3	50	CACHED
192.0.2.4	50	CACHED

## IP と SGT のバイン드의確認

データプレーンで学習された IP と SGT のバイン드를表示します。

```
Device# show cts role-based sgt-map all
Active IPv4-SGT Bindings Information
```

IP Address	SGT	Source
10.104.33.219	300	INTERNAL

```
IP-SGT Active Bindings Summary
```

```

=====
Total number of INTERNAL bindings = 1
Total number of active bindings = 1

```

```
Active IPv6-SGT Bindings Information
```

IP Address	SGT	Source
100::/64	124	CLI
200::2	300	INTERNAL
300::1	300	INTERNAL
1000::2	300	INTERNAL

```
IP-SGT Active Bindings Summary
```

```

Total number of CLI      bindings = 1
Total number of INTERNAL bindings = 3
Total number of active  bindings = 4

```

## 設定例 Cisco TrustSec SGT キャッシング

### 例：SGT キャッシングのグローバル設定

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# cts role-based sgt-caching
Device(config)# end

```

### 例：インターフェイスのSGT キャッシングの設定

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitEthernet 0/1/0
Device(config-if)# cts role-based sgt-cache ingress
Device(config-if)# end

```

### 例：インターフェイスでのSGT キャッシングの無効化

次の例は、キャッシングがグローバルに有効だがインターフェイスでは無効な場合に、インターフェイスでSGT キャッシングを無効化し、インターフェイスのSGT キャッシングの状態を表示する方法を示します。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# cts role-based sgt-caching
Device(config)# interface gigabitEthernet 0/1
Device(config-if)# no cts role-based sgt-cache ingress
Device(config-if)# end
Device# show cts interface GigabitEthernet0/1

```

```

Interface GigabitEthernet0/1
  CTS sgt-caching Ingress: Disabled
  CTS sgt-caching Egress : Disabled
  CTS is enabled, mode:    MANUAL
  Propagate SGT:         Enabled
  Static Ingress SGT Policy:
    Peer SGT:             200
    Peer SGT assignment: Trusted

```

```
L2-SGT Statistics
```

```

Pkts In                : 200890684
Pkts (policy SGT assigned) : 0
Pkts Out               : 14
Pkts Drop (malformed packet): 0
Pkts Drop (invalid SGT) : 0

```

## に関する追加情報 Cisco TrustSec SGT キャッシング

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</a></li> <li>• <a href="#">『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</a></li> <li>• <a href="#">『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</a></li> <li>• <a href="#">『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</a></li> </ul>
Cisco TrustSec の設定	『Cisco TrustSec Configuration Guide』の「Cisco TrustSec Support for IOS」の章
Cisco TrustSec の概要	<a href="#">『Overview of TrustSec』</a>
Cisco TrustSec ソリューション	<a href="#">『Cisco TrustSec Security Solution』</a>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec SGT キャッシングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 126: Cisco TrustSec SGT キャッシングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco TrustSec SGT キャッシング		<p>Cisco TrustSec SGT キャッシング 機能は、セキュリティグループタグ (SGT) の移動性を柔軟にする Cisco TrustSec の機能を強化します。この機能は、IP-SGT バインドを特定し、対応する SGT をキャッシュすることで、通常のディープパケットインスペクションを処理するすべてのネットワーク サービスを通じて、またパケットが該当する SGT で再度タグ付けされるサービス出力ポイントにおいて、ネットワーク パケットを転送します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>cts role-based sgt-caching</b>、 <b>cts role-based sgt-cache [ingress   egress]</b>。</p>



機能名	リリース	機能情報
IPv6の有効化 : SGT キャッシング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。





## 第 92 章

# CTS SGACL のサポート

CTS SGACL のサポート機能は、IP アドレスではなく、セキュリティアソシエーションまたはセキュリティ グループ タグ値に基づいたステートレスのアクセス制御メカニズムを提供します。

- [CTS SGACL サポートの前提条件 \(1083 ページ\)](#)
- [CTS SGACL サポートの制約事項 \(1083 ページ\)](#)
- [CTS SGACL サポートに関する情報 \(1084 ページ\)](#)
- [CTS SGACL サポートの設定方法 \(1085 ページ\)](#)
- [CTS SGACL サポートの設定例 \(1087 ページ\)](#)
- [CTS SGACL サポートに関する追加情報 \(1090 ページ\)](#)
- [CTS SGACL サポートの機能情報 \(1091 ページ\)](#)

## CTS SGACL サポートの前提条件

CTS SGACL サポートについては、Protected Access Credential (PAC) と環境データのダウンロードが、ダイナミック SGACL のデバイスで設定されていること。

## CTS SGACL サポートの制約事項

- プラットフォームあたりでサポートされている TrustSec 機能のリストおよび IOS リリースの最小要件については、次の URL の Cisco TrustSec プラットフォーム サポート マトリックス [英語] を参照してください：[http://www.cisco.com/en/US/solutions/ns170/ns896/ns1051/trustsec\\_matrix.html](http://www.cisco.com/en/US/solutions/ns170/ns896/ns1051/trustsec_matrix.html)
- SGACL の適用は、管理インターフェイスではサポートされていません。
- ダイナミック SGACL のダウンロードサイズは、6 KB に制限されています。
- Port-Channel インターフェイスの SGACL 適用は検証されていません。

- VRF aware SGT 設定では、Cisco IOS XE Denali 16.3 は、VRF 管理インターフェイスではありませんが、ISE 通信をサポートしています。管理インターフェイスを通じた ISE 通信はサポートされていません。
- 6 KB の拡張制限は、ダイナミック SGACL のみです。スタティック SGACL は、256\*256 マトリックスのような高い拡張性をサポートできます。
- SGACL の適用は、リンクローカル IPv6 送信元/宛先アドレスを持つ IPv6 パケットについてはバイパスされます。
- IPv6 マルチキャストトラフィックの SGACL 適用はバイパスされます。
- Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1 以降では、VRF を認識するように自動テスターを設定できます。**automate-tester** コマンドで **vrf** キーワードを使用すると、デフォルト以外の VRF の自動テスト機能を有効化します。



(注) VRF 対応の自動テスターを機能させるには、**global config ipv4/ipv6 source interface interface-name vrf vrf-name** コマンドを設定する必要があります。

## CTS SGACL サポートに関する情報

### CTS SGACL のサポート

セキュリティグループアクセスコントロールリスト (SGACL) はポリシーの適用です。これによって管理者は、セキュリティグループの割り当てと宛先リソースに基づいてユーザが実行する操作を制御できます。Cisco TrustSec ドメイン内のポリシーの適用は、軸の 1 つが送信元セキュリティグループ番号、もう 1 つの軸が宛先セキュリティグループ番号である、アクセス許可マトリックスで表示されます。マトリックス内の各セルには、SGACL の番号付きリストが含まれます。ここでは、送信元セキュリティグループに属し宛先セキュリティグループに属する宛先 IP を持つ、IP から送信されるパケットに適用される必要があるアクセス権限を指定します。

SGACL は、IP アドレスではなく、セキュリティアソシエーションまたはセキュリティグループタグ値に基づいたステートレスのアクセス制御メカニズムを提供し、一致クラスに基づいてトラフィックをフィルタリングします。SGACL ポリシーをプロビジョニングするには、次の 3 つの方法があります。

- スタティックポリシープロビジョニング : **cts role-based permission** コマンドを使用して、ユーザーが SGACL ポリシーを定義します。
- ダイナミックポリシープロビジョニング : SGACL ポリシーの設定は、Cisco Secure ACS または Cisco Identity Services Engine の主にポリシー管理機能によって実行する必要があります。後者については『[Cisco Identity Services Engine User Guide](#)』を参照してください。

- 認可変更 (CoA) : 更新されたポリシーは、SGACL ポリシーが ISE で変更され、CoA が CTS デバイスにプッシュされるとダウンロードされます。

## SGACL モニター モード

Cisco TrustSec の事前導入段階で、管理者は、モニターモードを使用して、ポリシーが意図したとおりに機能することを確認するために、セキュリティポリシーを適用しない状態でテストします。セキュリティポリシーが意図したとおり機能しない場合には、モニターモードが、その問題を識別するための便利なメカニズムと、SGACL の適用を有効にする前にポリシーを修正する機会を提供します。これにより、管理者は、ポリシーを適用する前にポリシーアクションの結果をより可視的に確認でき、対象のポリシーがセキュリティ要件を満たしている（ユーザーが認証されなければリソースへのアクセスは拒否される）ことを確認できます。

モニタリング機能は、SGT-DGT ペア レベルで提供されます。SGACL モニター モード機能を有効にすると、拒否アクションがラインカード上の ACL 許可として実装されます。これにより、SGACL カウンタおよびロギングでは、接続が SGACL ポリシーによりどう処理されているかを表示できます。すべてのモニター対象トラフィックが許可されるため、SGACL モニターモードでは、SGACL によるサービスの中断はありません。

## CTS SGACL サポートの設定方法

### SGACL ポリシーの適用のグローバルな有効化

Cisco TrustSec 対応ルーテッドインターフェイスの SGACL ポリシーの強制を有効化するには、次のタスクを実行します。

```
enable
configure terminal
cts role-based enforcement
```

### インターフェイスあたりの SGACL ポリシーの適用の有効化

**cts role-based enforcement** コマンドを使用すると、SGACL のグローバルな適用を有効にして、特定のインターフェイスでは無効にすることができます。また、SGACL の適用は、グローバルで有効化しなくても、特定のインターフェイスで有効化できます。

インターフェイスでの SGACL ポリシーの適用を有効化するには、次のタスクを実行します。

```
enable
configure terminal
interface GigabitEthernet 0/1/1
cts role-based enforcement
```

## IPv6 SGACL アクセス制御エントリの設定

SGACL は、次のコマンドを使用して、拡張名前付き ACL と同様に定義されます。

```
Device(config)#ipv6 access-list role-based sgacl1
IPv6 Role-based Access List Configuration commands:
  default  Set a command to its defaults
  deny     Specify packets to reject
  exit     Exit from access-list configuration mode
  no       Negate a command or set its defaults
  permit   Specify packets to forward
  remark   Access list entry comment
  sequence Sequence number for this entry
```

## 権限マトリックスセルへの SGACL のアタッチ

```
Device(config)#cts role-based permissions from 100 to 200
WORD Role-based Access-list name
  ipv4 Protocol Version - IPv4
  ipv6 Protocol Version - IPv6
```

このコマンドは、特定 <SGT, DGT> ペアの RBACL のリストを定義、置換、または削除します。このポリシーは、同じ SGT、DGT に対するダイナミックなポリシーがない場合に有効になります。デフォルトでは、IPv4 タイプの RBACL のみをアタッチできます。IPv6 SGACL を追加するには、**ipv6** を明示的に指定します。

## SGACL ポリシーの手動設定

SGACL ポリシーを手動で設定するには、次のタスクを実行します。

```
enable
configure terminal
ip access-list role-based allow_webtraff
10 permit tcp dst eq 80
20 permit tcp dst eq 443
cts role-based permissions from 55 to 66 allow_webtraff
end
```

## ダウンロードされた SGACL ポリシーのリフレッシュ

ダウンロードされた SGACL ポリシーを更新するには、次のタスクを実行します。

```
enable
cts refresh policy
```

または

```
enable
```

```
cts refresh policy sgt 10
```

## SGACL モニター モードの設定

SGACL モニターモードを設定する前に、Cisco TrustSec が有効になっていることを確認してください。



- (注) デバイスレベルのモニターモードは、いずれかの設定が適用されないかぎり、デフォルトでは有効になりません。ISE からダウンロードされた SGACL の場合、ISE からのモニターモードの状態が常に優先されます。これは、セルごとのモニターモードと、すべてのセルに適用されるグローバルモニターモードの両方に適用されます。

```
configure terminal
cts role-based monitor enable
cts role-based monitor permissions from 2 to 3 ipv4
show cts role-based permissions from 2 to 3 ipv4
show cts role-based counters ipv4
```

## IPv6 SGACL ACE の設定

IPv6 SGACL のアクセス制御エントリ (ACE) を定義するには、次の CLI が使用されます。

```
Device(config)#ipv6 access-list role-based sgacl1
Device(config-ipv6rb-acl)#permit ipv6
Device(config-ipv6rb-acl)#exit
Device(config)#cts role-based permissions from 100 to 200 ipv6 sgacl1
```



- (注) IPv6 ACL 設定はスタティック SGACL 用であり、ダイナミック SGACL の場合は、ACE が ISE で設定されます。

## CTS SGACL サポートの設定例

### 例 : CTS SGACL のサポート

次に、show cts role-based permissions コマンドの出力例を示します。

```
Router# show cts role-based permissions

IPv4 Role-based permissions default:
    default_sgacl-02
```

```

    Permit IP-00
IPv4 Role-based permissions from group 55:SGT_55 to group 66:SGT_66 (configured):
    allow webtraff
RBACL Monitor All for Dynamic Policies : FALSE
RBACL Monitor All for Configured Policies : FALSE

```

```

Router#sh cts role-based permissions ipv6
IPv6 Role-based permissions from group 2103:Cisco_UC_Servers to group
2104:Exchange_Servers:
    SGACL_5-10-ipv6
RBACL Monitor All for Dynamic Policies : FALSE
RBACL Monitor All for Configured Policies : FALSE

```

次に、ダイナミック SGACL にのみ適用される show cts policy sgt コマンドの出力例を示します。

```
Router# show cts policy sgt
```

```

CTS SGT Policy
=====
RBACL Monitor All : FALSE
RBACL IP Version Supported: IPv4
SGT: 0-02:Unknown
SGT Policy Flag: 0xc1408801
RBACL Source List: Empty
RBACL Destination List: Not exist
RBACL Multicast List: Not exist
RBACL Policy Lifetime = 1800 secs
RBACL Policy Last update time = 20:58:28 IST Wed Jul 13 2016
Policy expires in 0:00:24:05 (dd:hr:mm:sec)
Policy refreshes in 0:00:24:05 (dd:hr:mm:sec)
Cache data applied = NONE

SGT: 65535-46:ANY
SGT Policy Flag: 0x41400001
RBACL Source List:
  Source SGT: 65535-46:ANY-0, Destination SGT: 65535-46:ANY-0
  rbacl_type = 80
  rbacl_index = 1
  name      = default_sgacl-02
  IP protocol version = IPV4
  refcnt = 1
  flag     = 0x40000000
  stale   = FALSE
RBACL ACEs:
  permit icmp
  permit ip
  Source SGT: 65535-46:ANY-0, Destination SGT: 65535-46:ANY-0
  rbacl_type = 80
  rbacl_index = 2
  name      = Permit IP-00
  IP protocol version = IPV4
  refcnt = 1
  flag     = 0x40000000
  stale   = FALSE
RBACL ACEs:
  permit ip
RBACL Destination List: Not exist
RBACL Multicast List: Not exist
RBACL Policy Lifetime = 1800 secs

```



```
RBACL Policy Last update time = 20:58:28 IST Wed Jul 13 2016
Policy expires in 0:00:24:05 (dd:hr:mm:sec)
Policy refreshes in 0:00:24:05 (dd:hr:mm:sec)
Cache data applied = NONE
```

次に、ダイナミック SGACL にのみ適用される `show cts rbacl` コマンドの出力例を示します。

```
Router# show cts rbacl

CTS RBACL Policy
=====
RBACL IP Version Supported: IPv4 & IPv6
name      =multiple_ace-16
IP protocol version = IPV4
refcnt = 4
flag = 0x40000000
stale = FALSE
RBACL ACEs:
    permit icmp
    deny tcp

name      =default_sgacl-02
IP protocol version = IPV4
refcnt = 2
flag = 0x40000000
stale = FALSE
RBACL ACEs:
    permit icmp
    permit ip

name      =SGACL_256_ACE-71
IP protocol version = IPV4
```

## 例 : SGACL モニターモードの設定

次に、SGACL モニターモードの設定例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# cts role-based monitor enable
Device(config)# cts role-based permissions from 2 to 3 ipv4
Device# show cts role-based permissions from 2 to 3 ipv4

IPv4 Role-based permissions from group 2:sgt2 to group 3:sgt3 (monitored):
denytcpudpicmp-10
Deny IP-00

Device# show cts role-based permissions from 2 to 3 ipv4 details

IPv4 Role-based permissions from group 2:sgt2 to group 3:sgt3 (monitored):
denytcpudpicmp-10
Deny IP-00
Details:
Role-based IP access list denytcpudpicmp-10 (downloaded)
10 deny tcp
```

例：ダウンロードされた **SGACL** ポリシーのリフレッシュ

```

20 deny udp
30 deny icmp
Role-based IP access list Permit IP-00 (downloaded)
10 permit ip

Device# show cts role-based permissions ipv6
IPv6 Role-based permissions from group 201 to group 22 (configured):
  g6
IPv6 Role-based permissions from group 100 to group 200 (configured):
  sgacl1
RBACL Monitor All for Dynamic Policies : FALSE
RBACL Monitor All for Configured Policies : FALSE

Device# show cts role-based counters ipv4
Role-based IPv4 counters
From    To      SW-Denied  HW-Denied  SW-Permitt  HW-Permitt  SW-Monitor  HW-Monitor
100    200      0           0           0           0           0           0
101    201      0           0           0           0           0           0

Device# show cts role-based counters ipv6
Role-based IPv6 counters
From    To      SW-Denied  HW-Denied  SW-Permitt  HW-Permitt  SW-Monitor  HW-Monitor
201     22      0           0           0           0           0           0
100    200      0           0           0           0           0           0

```

## 例：ダウンロードされた **SGACL** ポリシーのリフレッシュ

次に、ダウンロードした **SGACL** ポリシーをリフレッシュするための設定例を示します。このコマンドは特権 EXEC モードで実行されます。

```

Router#cts refresh policy
Router#cts refresh policy sgt

```

## CTS **SGACL** サポートに関する追加情報

### 関連資料

#### MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## CTS SGACL サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 127: CTS SGACL サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
CTS SGACL のサポート	Cisco IOS Release 16.3	<p>CTS SGACL のサポート機能は、IP アドレスではなく、セキュリティ アソシエーションまたはセキュリティ グループ タグ値に基づいたステートレスのアクセス制御メカニズムを提供します。</p> <p>Cisco IOS リリース 16.3 では、この機能は、シスコ アグリゲーション サービス ルータ 1000 シリーズとサービス統合型ルータ 4000 シリーズに導入されました。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入されました。<b>cts role-based enforcement, ip access-list role-based, cts role-based permissions, show cts role-based permissions, show cts rbacl。</b></p>

機能名	リリース	機能情報
TrustSec SGACL モニターモード	Cisco IOS XE Everest 16.4.1	TrustSec SGACL モニターモード機能は、ポリシーが意図したとおりに機能することを強制することなく、セキュリティポリシーをモニターします。モニターモードは、機能しないセキュリティポリシーを識別するための便利なメカニズムと、SGACL の適用を有効にする前にポリシーを修正する機会を提供します。  この機能により、次のコマンドが導入されました。 <b>cts role-based monitor enable, cts role-based monitor permissions</b> 。
IPv6 の有効化： SGACL の適用	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。



## CHAPTER 93

# TrustSec 動作データへの外部アクセス

Cisco TrustSec は、信頼できるネットワークデバイスのドメインを確立することによってセキュアネットワークを構築します。ドメイン内の各デバイスは、そのピアによって認証されます。ドメイン内のデバイス間リンクでの通信は、暗号化、メッセージ整合性検査、データパストリプレイ防止メカニズムを組み合わせたセキュリティで保護されます。

Cisco TrustSec は、グループベースのアクセス制御を使用したセキュリティも提供します。Cisco TrustSec ドメイン内のアクセスポリシーは、トポロジとは無関係であり、ネットワークアドレスではなく送信元デバイスおよび宛先デバイスのルールに基づいています。個々のパケットには、送信元のセキュリティグループ番号のタグが付けられます。

Cisco TrustSec は、設定データと動作データの 2 種類のデータを生成します。設定データは設定プログラミングモデルから取得され、動作データは動作データモデルから取得されます。

TrustSec の運用データには、YANG を使用して構造化されたデータを処理できる外部アプリケーションからアクセスできます。Netconf および Restconf プロトコルを使用して、外部デバイスは Cisco デバイスから動作情報を抽出できます。これにより、外部インターフェイスを介したプログラマビリティが提供されます。

- [Cisco TrustSec 動作データへの外部アクセスの前提条件, on page 1093](#)
- [Cisco TrustSec 動作データへの外部アクセスの制限, on page 1094](#)
- [Cisco TrustSec 動作データに関する情報, on page 1094](#)
- [外部デバイス YTOOL の設定方法, on page 1099](#)
- [動作データへのアクセス, on page 1100](#)

## Cisco TrustSec 動作データへの外部アクセスの前提条件

- Cisco TrustSec、ネットワークデバイス間での SXP を使用したセキュリティタグの伝達、およびポリシーの適用について理解する必要があります。
- Cisco IOS XE Everest 16.5.1 以降、Cisco TrustSec は、IP Services または IP Base のライセンスでのみ暗号 k9 イメージをサポートします。

- Cisco デバイスで NETCONF または RESTCONF プロトコルを有効にする必要があります。NETCONF プロトコルを有効にするには、コンフィギュレーションモードで **netconf-yang** コマンドを使用します。



**Note** LANbase ライセンスは SXP のみをサポートします。SGACL および IP-SGT 動作データはサポートされていません。

## Cisco TrustSec 動作データへの外部アクセスの制限

- SGACL ポリシーと IP-SGT および SXP 接続に限定された動作データには、外部からのみアクセスできます。
- 次の TrustSec 動作データのリストは、Cisco IOS XE Everest 16.5.1 ではサポートされていません。
  - Cisco TrustSec PAC データ、環境データ、およびリンクレベルの動作データ。
  - IPV6 ベースの SGACL ポリシー、IP-SGT マッピング、および SXP 接続動作データ。
  - VFR ベースの IP-SGT マッピングおよび SXP 接続動作データ。

## Cisco TrustSec 動作データに関する情報

YTOOL などのアプリケーションを使用すると、Cisco デバイスに直接ログインして専用のコマンドで情報を取得することなく、外部インターフェイスから Cisco TrustSec の動作データに柔軟にアクセスできます。

外部デバイスからは、次のタイプの動作データにアクセスできます。

- 特定のデバイスのアクティブな SXP 接続。

次に、デバイスの SXP 接続を表示する出力例を示します。

```
Device# show cts sxp connections brief
SXP                : Enabled
Highest Version Supported: 4
Default Password : Not Set
Default Source IP: Not Set
Connection retry open period: 120 secs
Reconcile period: 120 secs
Retry open timer is running
Peer-Sequence traverse limit for export: Not Set
Peer-Sequence traverse limit for import: Not Set
```

```
-----
Peer_IP      Source_IP      Conn Status
  Duration
```

```

-----
10.10.1.1      11.11.1.1      Off
      0:00:36:24 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.2      11.11.1.2      Off
      0:00:36:24 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.3      11.11.1.3      Off
      0:00:36:23 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.4      11.11.1.4      Off
      0:00:36:22 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.5      11.11.1.5      Off
      0:00:36:22 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.6      11.11.1.6      Off
      0:00:36:21 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.7      11.11.1.7      Off
      0:00:36:21 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.8      11.11.1.8      Off
      0:00:36:20 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.9      11.11.1.9      Off
      0:00:36:15 (dd:hr:mm:sec)
10.10.1.10     11.11.1.10     Off (Speaker)::Off (Listener)
      0:00:33:40 (dd:hr:mm:sec)::0:00:33:40 (
dd:hr:mm:sec)

```

- IP-SGT マッピング情報。

すべての送信元 IP が、対応する SGT にマッピングされ、IP-SGT バインディングが作成されます。このマッピング情報は、ロールベースマネージャ (RBM) データベースに保存されます。

次に、IP-SGT マッピング情報を表示する出力例を示します。

```

Device# show cts role-based sgt-map all
Active IPv4-SGT Bindings Information

IP Address          SGT      Source
=====
10.10.10.10         10       CLI
20.20.20.20         20       CLI
30.30.30.30         30       CLI
32.1.1.32           40       CLI
45.1.1.45           100      CLI
69.1.1.1            103      CLI

IP-SGT Active Bindings Summary
=====
Total number of CLI      bindings = 6
Total number of active  bindings = 6

asr1k-cts-2006#

```

- すべてのデータパスに現在適用されているポリシーの名前。

SGACL ポリシーは、2つの TrustSec 対応エンドポイント間で SGT タグ付きパケットが転送されるときに適用されます。ポリシーは、スタティックまたはダイナミックのいずれかです。デバイスで CLI コマンドの **cts role-based permissions** を使用して設定されるポリシーは、スタティックポリシーです。ダイナミックポリシーは Cisco ISE (Identity Services Engine) で設定されます。ダイナミックポリシーは、スタティックポリシーに優先します。スタティックポリシーは、ダイナミックポリシーがない場合のみ適用されます。

次に、SGT タグ付きトラフィックのポリシーを表示する出力例を示します。

```

Device# show cts role-based permissions
IPv4 Role-based permissions default:

    Permit IP-00
IPv4 Role-based permissions from group 10:SGT_10 to group 10:SGT_10:

    Collabl-10
IPv4 Role-based permissions from group 10:SGT_10 to group 20:SGT_20:

    SGACL_2-30
IPv4 Role-based permissions from group 11:SGT_11 to group 20:SGT_20:

    SGACL_2-30

    SGACL_3-10

    SGACL_4-90
IPv4 Role-based permissions from group 12:SGT_12 to group 20:SGT_20:

    SGACL_3-10
IPv4 Role-based permissions from group 13:SGT_13 to group 20:SGT_20:

    SGACL_4-90
IPv4 Role-based permissions from group 14:SGT_14 to group 20:SGT_20:
    SGACL_5-20
IPv4 Role-based permissions from group 15:SGT_15 to group 20:SGT_20:
    SGACL_6-30
IPv4 Role-based permissions from group 16:SGT_16 to group 20:SGT_20:
    SGACL_101-90
IPv4 Role-based permissions from group 17:SGT_17 to group 20:SGT_20:
    SGACL_2-30
IPv4 Role-based permissions from group 18:SGT_18 to group 20:SGT_20:
    SGACL_3-10
IPv4 Role-based permissions from group 19:SGT_19 to group 20:SGT_20:
    SGACL_3-10
IPv4 Role-based permissions from group 10:SGT_10 to group 30:SGT_30:
    SGACL_6-30
IPv4 Role-based permissions from group 10:SGT_10 to group 40:SGT_40:
    SGACL_2-30
IPv4 Role-based permissions from group 10:SGT_10 to group 100:SGT_100:
    SGACL_4-90
IPv4 Role-based permissions from group 102:SGT_102 to group 100:SGT_100:
    Permit IP-00
IPv4 Role-based permissions from group 102:SGT_102 to group 103:SGT_103:
    SGACL_2-30

RBACL Monitor All for Dynamic Policies : FALSE
RBACL Monitor All for Configured Policies : FALSE

asrlk-cts-2006#

```

- 各ポリシーの内容。これには、ポリシー内のACE（アクセス制御エントリ）と、ポリシーのライフタイムおよび更新時間が含まれます。

ポリシーには、最大 256 の ACE を組み合わせて含めることができます。ライフタイムと更新時間の情報は、ダイナミックポリシーにのみ適用されます。スタティックポリシーのライフタイムと更新時間の値は 0 になります。

次に、SGT タグ付きトラフィックのポリシーを表示する出力例を示します（出力の一部のみが表示されます）。



```
Device# show cts policy sgt
CTS SGT Policy
=====
RBACL Monitor All : FALSE
RBACL IP Version Supported: IPv4
SGT: 0-02:Unknown
SGT Policy Flag: 0x41408001
RBACL Source List: Empty
RBACL Destination List: Not exist
RBACL Multicast List: Not exist
RBACL Policy Lifetime = 1800 secs
RBACL Policy Last update time = 15:56:42 IST Mon Feb 20 2017
Policy expires in 0:00:03:04 (dd:hr:mm:sec)
Policy refreshes in 0:00:03:04 (dd:hr:mm:sec)
Cache data applied = NONE

SGT: 65535-52:ANY
SGT Policy Flag: 0x41400001
RBACL Source List:
  Source SGT: 65535-52:ANY-0, Destination SGT: 65535-52:ANY-0
  rbacl_type = 80
  rbacl_index = 1
  name      = Permit IP-00
  IP protocol version = IPV4
  refcnt = 4
  flag     = 0x41000000
  stale   = FALSE
  RBACL ACEs:
    permit ip

RBACL Destination List: Not exist
RBACL Multicast List: Not exist
RBACL Policy Lifetime = 1800 secs
RBACL Policy Last update time = 15:56:43 IST Mon Feb 20 2017
Policy expires in 0:00:03:05 (dd:hr:mm:sec)
Policy refreshes in 0:00:03:05 (dd:hr:mm:sec)
Cache data applied = NONE

SGT: 10-2770:SGT_10
SGT Policy Flag: 0x41400001
RBACL Source List:
  Source SGT: 10-2770:SGT_10-0, Destination SGT: 10-2770:SGT_10-0
  rbacl_type = 80
  rbacl_index = 1
  name      = Collab1-10
  IP protocol version = IPV4
  refcnt = 2
  flag     = 0x41000000
  stale   = FALSE
  RBACL ACEs:
    permit ip

RBACL Destination List: Not exist
RBACL Multicast List: Not exist
RBACL Policy Lifetime = 1800 secs
RBACL Policy Last update time = 15:56:43 IST Mon Feb 20 2017
Policy expires in 0:00:03:04 (dd:hr:mm:sec)
Policy refreshes in 0:00:03:04 (dd:hr:mm:sec)
Cache data applied = NONE

SGT: 20-44:SGT_20
SGT Policy Flag: 0x41400001
RBACL Source List:
```

```
Source SGT: 10-2770:SGT_10-0, Destination SGT: 20-44:SGT_20-0
rbacl_type = 80
rbacl_index = 1
name      = SGACL_2-30
IP protocol version = IPV4
refcnt = 8
flag     = 0x41000000
stale    = FALSE
RBACL ACEs:
    permit ip
```

```
Source SGT: 12-17:SGT_12-0, Destination SGT: 20-44:SGT_20-0
rbacl_type = 80
rbacl_index = 2
name      = SGACL_3-10
IP protocol version = IPV4
refcnt = 5
flag     = 0x41000000
stale    = FALSE
RBACL ACEs:
    permit ip
```

```
Source SGT: 13-14:SGT_13-0, Destination SGT: 20-44:SGT_20-0
rbacl_type = 80
rbacl_index = 3
name      = SGACL_4-90
IP protocol version = IPV4
refcnt = 5
flag     = 0x41000000
stale    = FALSE
RBACL ACEs:
    deny tcp
```

```
Source SGT: 14-14:SGT_14-0, Destination SGT: 20-44:SGT_20-0
rbacl_type = 80
rbacl_index = 4
name      = SGACL_5-20
IP protocol version = IPV4
refcnt = 2
flag     = 0x41000000
stale    = FALSE
RBACL ACEs:
    permit ip
```

```
Source SGT: 15-1410:SGT_15-0, Destination SGT: 20-44:SGT_20-0
rbacl_type = 80
rbacl_index = 5
name      = SGACL_6-30
IP protocol version = IPV4
refcnt = 4
flag     = 0x41000000
stale    = FALSE
RBACL ACEs:
    permit icmp log
    permit udp log
    permit tcp log
```

```
Source SGT: 16-14:SGT_16-0, Destination SGT: 20-44:SGT_20-0
rbacl_type = 80
rbacl_index = 6
name      = SGACL_101-90
IP protocol version = IPV4
refcnt = 2
flag     = 0x41000000
```

```
stale = FALSE
RBACL ACEs:
  permit ip
```

## 外部デバイス YTOOL の設定方法

YTOOL を設定する前に、Cisco デバイスで NETCONF または RESTCONF プロトコルが有効になっていることを確認します。YTOOL が Cisco デバイスと通信するには、これらのプロトコルのいずれかが必要です。



**Note** NETCONF プロトコルを有効にするには、コンフィギュレーションモードで **netconf-yang** コマンドを使用します。NETCONF を有効にしたら、CLI で **show onep session all** を実行して、NETCONF を使用するために必要な 3 つのプロセスが実行されているかどうかを確認します。NETCONF は、これらの 3 つのプロセスが実行された後にのみ使用できます。

また、デバイスとの通信に使用する IP アドレスを特定します。



**Note** YTOOL は「yang-explorer」とも呼ばれます。このアプリケーションは、次の場所からダウンロードできます。

Yang Explorer :

YTOOL を Cisco デバイスに接続するには、Cisco デバイスを YTOOL に追加します。YTOOL にシスコデバイスを追加する手順は、次のとおりです。

1. YTOOL を開きます。
2. [管理 (Admin)] を選択します。
3. [Ytool ユーティリティ (Ytool Utilities)] ページで、[プロファイルの管理 (Manage Profiles)] ([デバイスプロファイルの管理 (Manage Device Profiles)] の下) を選択します。
4. [デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)] ドロップダウンから [新規デバイス (New Device)] を選択します。
5. [デバイスプロファイルの管理 (Manage Device Profile)] ページで、デバイスのすべての詳細情報 (テストデバイスの IP アドレス、テストデバイスの SSH ポート番号、NETCONF ユーザー名、NETCONF パスワードなど) を入力します。

Figure 22: デバイス プロファイルの管理

6. デバイスへの接続を確認するには、[ビルド (Build)] > [デバイス設定 (Device Settings)] の順に選択します。[プロファイル (Profile)] からデバイスを選択し、[Hello] をクリックします。[コンソール (Console)] に応答が表示された場合は、YTOOL がデバイスと通信できることを意味します。



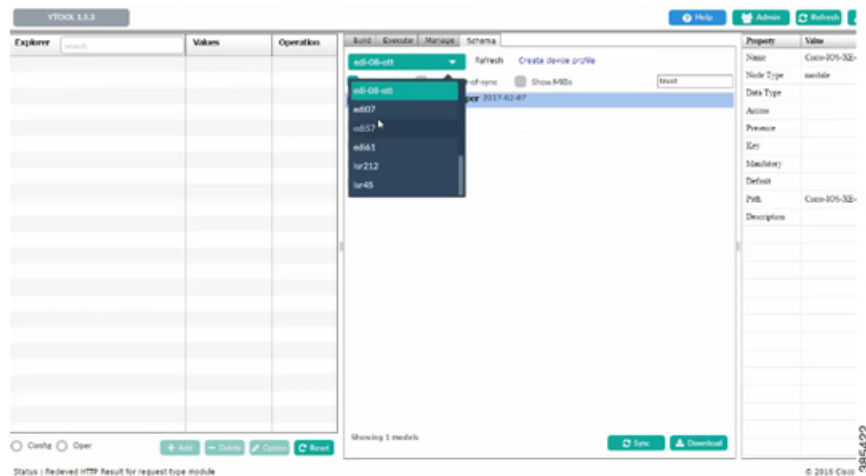
**Note** Cisco デバイスと通信するために、YANG を使用して構造化されたデータを処理できる他の外部アプリケーションを選択できます。このセクションは、Cisco デバイスにアクセスするために YTOOL を選択した場合にのみ関係します。

## 動作データへのアクセス

開始する前に、動作データを抽出する Cisco デバイスが YTOOL で設定されていることを確認します。詳細については、「外部デバイス YTOOL の設定方法」を参照してください。

1. Cisco デバイスから Cisco TrustSec 動作情報スキーマをダウンロードします。
  - a. [スキーマ (Schema)] を選択します。
  - b. デバイスを選択します。デバイス内のスキーマのリストが表示されます。

Figure 23: デバイスの選択



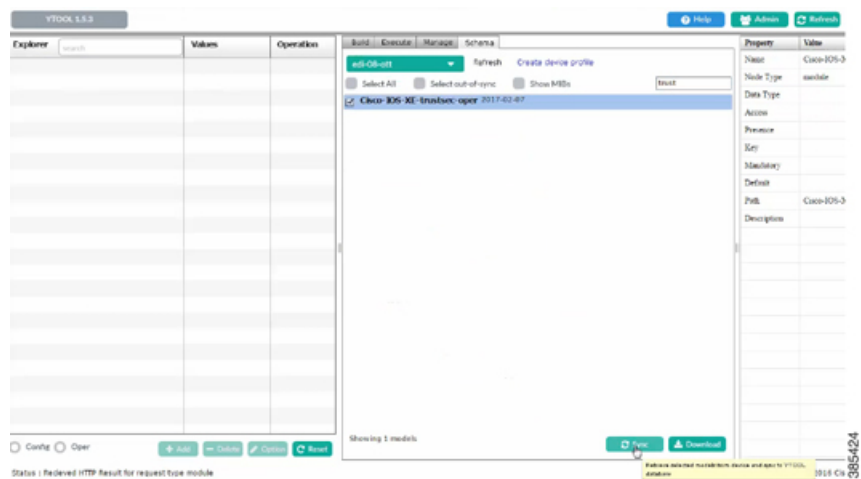
- c. Cisco TrustSec 動作情報スキーマを選択します。検索ボックスを使用して、このスキーマを検索してください。



**Note** 動作情報スキーマの名前は「oper」で終わります。

- d. [同期 (Sync)] をクリックします。スキーマが YTOOL にダウンロードされます。

Figure 24: スキーマのダウンロード

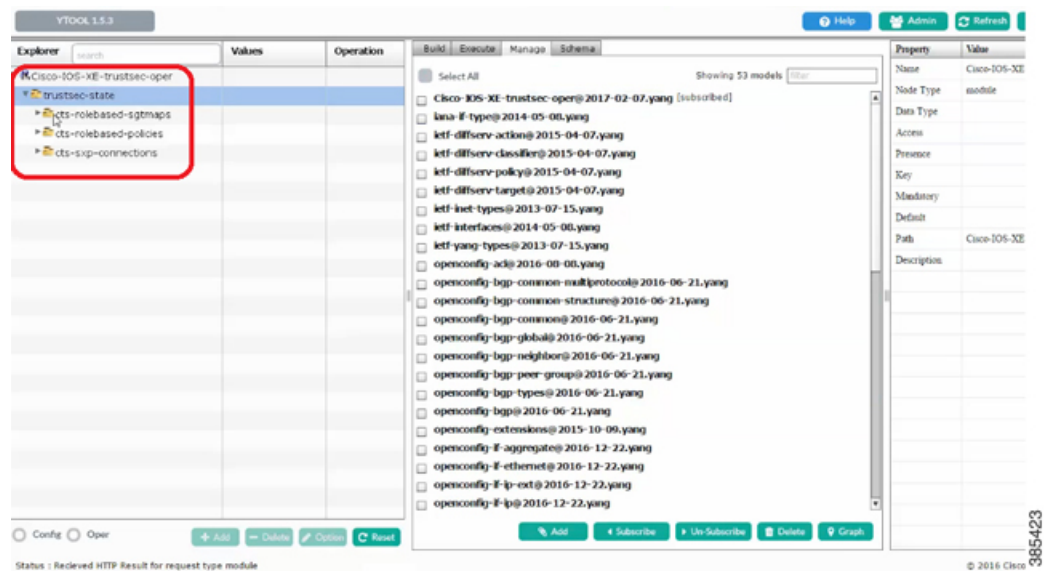


2. YTOOL でダウンロードした動作情報スキーマに登録します。
  - a. [管理 (Manage)] を選択します。
  - b. スキーマのリストから、動作情報スキーマを選択します。
  - c. [Subscribe] をクリックします。



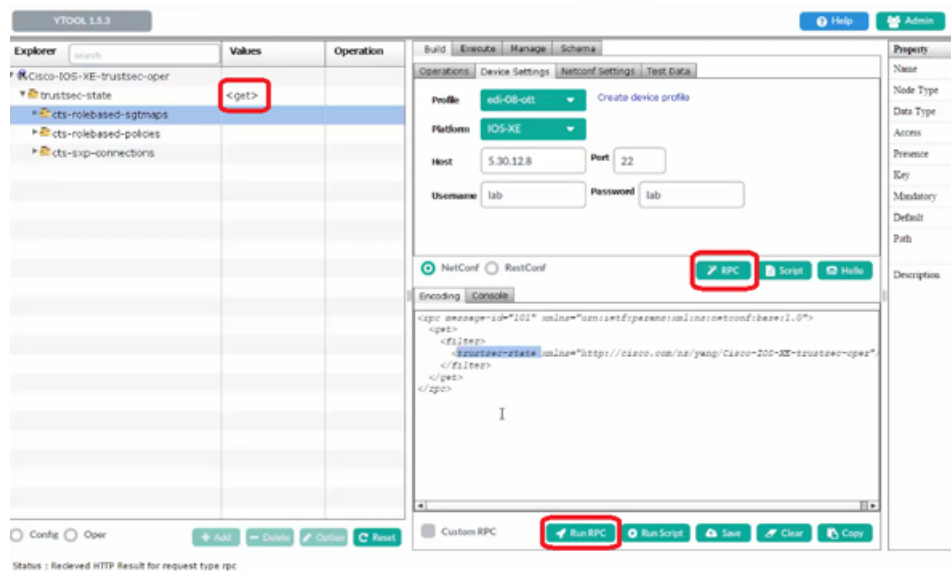
**Note** 登録すると、スキーマが [エクスプローラ (Explorer)] の欄に表示されます。

Figure 25: スキーマの登録



3. スキーマを使用して、選択した動作データを取得します。
  - a. 動作情報スキーマの関連情報レベルに対して、[値 (Values)] の欄の [取得 (get)] を選択します。
  - b. [RPC] をクリックします。XML 生成の RPC メッセージが生成されます。
  - c. [RPC の実行 (Run RPC)] をクリックします。動作データは、RPC 生成の XML 形式で Cisco デバイスから取得されます。

Figure 26: 動作データの取得



**Note** 運用データへのアクセスに使用されるコマンドについては、「[Cisco TrustSec 動作データに関する情報, on page 1094](#)」の項を参照してください。



**Note** Cisco デバイスと通信するために、YANG を使用して構造化されたデータを処理できる他の外部アプリケーションを選択できます。このセクションは、Cisco デバイスにアクセスするために YTOOL を選択した場合にのみ関係します。







## 第 **VIII** 部

# Access Node Control Protocol

- [Access Node Control Protocol, on page 1107](#)
- [Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化, on page 1123](#)
- [CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化, on page 1129](#)





## CHAPTER 94

# Access Node Control Protocol

Access Node Control Protocol (ANCP) 機能は、デジタル加入者線アクセスマルチプレクサ (DSLAM) とブロードバンドリモートアクセスサーバー (BRAS) の間の通信を強化し、マルチプレクサ側とサーバー側の間でのイベント、アクション、および情報要求の交換を可能にします。その結果、どちらの側も適切なアクションを実装できます。

- [Access Node Control Protocol の前提条件, on page 1107](#)
- [Access Node Control Protocol に関する制約事項, on page 1107](#)
- [Access Node Control Protocol に関する情報, on page 1108](#)
- [Access Node Control Protocol の設定方法, on page 1111](#)
- [Access Node Control Protocol の設定例, on page 1118](#)
- [Access Node Control Protocol に関する追加情報, on page 1120](#)
- [Access Node Control Protocol に関する機能情報, on page 1121](#)

## Access Node Control Protocol の前提条件

Transmission Control Protocol (TCP) を介して ANCP を実行するには、ブロードバンドリモートアクセスサーバー (BRAS) で IP を有効にする必要があります。RADIUS から BRAS へのインタラクションは、ANCP には必要なく、RADIUS サーバーに依存します。

リリースおよびプラットフォーム サポートの詳細については、[Access Node Control Protocol に関する機能情報, on page 1121](#)を参照してください。

## Access Node Control Protocol に関する制約事項

Cisco IOS XE リリース 2.4 は、ブロードバンドリモートアクセスサーバー (BRAS) からの RADIUS サーバーとのインタラクションをサポートしています。RADIUS から BRAS へのインタラクションは、ANCP には必要なく、RADIUS サーバーに依存します。

## Access Node Control Protocol に関する情報

ANCPは、アプリケーションから独立したまま、複数の加入者からのトラフィックを集約し、任意のアプリケーションの情報を配信するために使用されます。ANCPは現在、デジタル加入者線（DSL）ブロードバンド環境のDSLAMとブロードバンドリモートアクセスサーバーの間のアプリケーションで使用されています。

ANCP機能により、DSL集約マルチプレクサ（DSLAM）とネットワークエッジデバイスとの緊密な通信が可能になります。DSLAMとBRASの間でANCPを使用すると、イベント、アクション、および情報要求の交換が可能になり、DSLAMとBRASで適切なアクションが発生します。

ANCPアーキテクチャは、ANCPの次の使用をサポートしています。

### レートアダプティブモード

レートアダプティブモードは、特定の回線の回線ビットレートを最大化するのに役立ちます。そのレートは、回線で達成される信号の品質に依存します。レートアダプティブモードでは、DSLAMからブロードバンドリモートアクセスサーバーにDSLモデムの回線レートが伝えられます。

ANCPを実行しているBRASは、ANCPネイバー（DSLAM）からのTCP要求をリッスンします。

- TCPセッションの確立後：ANCPが、BRASとそのネイバーの間の隣接関係を確立するためにメッセージの交換を開始します。
- 隣接関係の確立後：ANCPイベントメッセージをDSLAMからBRASに送信できます。

レートアダプティブDSLは、信号品質を使用して回線速度を調整します。BRASは、通常、加入者インターフェイスを、サービスライセンス契約（SLA）で合意された最大帯域幅に設定します。

顧客宅内機器（CPE）が回線速度よりも低いデータレートに同期されると、DSLAMでセルまたはパケットの損失が発生します。これを防ぐために、DSLAMは、ANCPを使用して、新しく調整された回線レートをBRASに通知できます。

顧客側のポートがアクティブ化または非アクティブ化すると、次のようになります。

- アクティブ化：DSLAMがPort UpメッセージをBRASに送信します。ANCPによって提供される情報に従って、適切なQuality of Service（QoS）が有効になります。
- 非アクティブ化：DSLAMがPort DownメッセージをBRASに送信します。ANCPは、DSLAMによって送信されたDSLの状態（通常、サイレントまたはアイドル）を報告します。ブロードバンドリモートアクセスサーバーが別のPort Upメッセージを受信すると、加入者セッションは、タイムアウトになるか、新しいシェーピングレートで更新されます。インターフェイスのシェーピングレートは、ルータが新しいPort Upメッセージを受信するまで変更されません。

## RADIUS インタラクション

ブロードバンドリモートアクセスサーバーと RADIUS サーバーの間のインタラクションは、ルータから RADIUS へのものです。

BRAS は、次の属性および属性値ペア (AVP) を RADIUS サーバーに送信します。

ANCP 回線レート	アップストリームデータレート	ダウンストリームデータレート	出力ポリシー名
VSA 39	属性 197、Ascend-Data-Rate	属性 255、Ascend-Xmit-Rate	属性 77、Connect-Speed-Info
	属性タイプ 38、受信接続速度 AVP	属性タイプ 24、送信接続速度 AVP	

BRAS は、Point-to-Point Protocol (PPPoE) を使用して、認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) モジュールとやりとりします。RADIUS は、情報を処理し、適切なアクションを実行します。

## ポート マッピング

ポートマッピングは、DSLAM の顧客宅内機器 (CPE) クライアントを BRAS の VLAN サブインターフェイスに関連付けます。VLAN には、802.1Q または Queue-in-Queue (Q-in-Q) 階層型 VLAN が含まれます。ポートマッピングは、特定の DSLAM ネイバーを持つ CPE クライアント ID をグループ化することによって、BRAS においてグローバル コンフィギュレーション モードで設定されます。

ポートは 2 つの手法でマッピングできます。1 つ目は、最初にすべての VLAN サブインターフェイスを設定してから、ANCP ネイバーマッピングを設定します。2 つ目は、インターフェイスの直下でマッピングを設定します。

たとえば、次のコマンドは、Q-in-Q VLAN サブインターフェイスのポートマッピングを設定します。

```

ancp neighbor name
dslam-name
id
dslam-id
dot1q

outer-vlanid
second-dot1q

inner-vlanid
[interface

type number
] client-id
"
client-id
"

```

または

```

anncp neighbor name
dslam-name
id
  dslam-id
dot1q

outer-vlanid
  client-id
  "
client-id
"

```

*client-id* は、DSLAM が一意のポートごとに BRAS に送信する一意のアクセスループ回線 ID です。DSLAM は、ANCP Port Up イベントメッセージでこの ID を送信します。アクセスループ回線 ID では、次に示すように、アクセスノード識別子とデジタル加入者線 (DSL) 情報で構成される定義済みの形式が使用されます。

#### ATM/DSL

```
" access-node-identifier atm slot/module/port . subinterface : vpi . vci "
```

#### イーサネット/DSL

```
" access-node-identifier ethernet slot / module / port . subinterface [:vlan-id]"
```

BRAS は、DSLAM が Port Up メッセージを送信するまで、ルータのすべてのポートでデフォルト状態を Down に設定します。

## 非インタラクティブな運用、管理、保守

ANCP は、ブロードバンドリモートアクセスサーバーから非インタラクティブな運用、管理、保守 (OAM) 操作を実行するためのアウトオブバンド制御チャンネルを提供します。このチャンネルにより、ルータオペレータは、特定の DSLAM ポートの ANCP ポート状態を表示できます。ANCP ポートの状態の情報は、BRAS 上の ANCP ダイナミックデータベースに保存されません。

## インタラクティブな OAM

インタラクティブな OAM と拡張性の改善の機能により、運用とトラブルシューティングのために、ANCP へのオンデマンド ping の機能が追加されます。



**Note** この機能はデフォルトでイネーブルになり、設定は必要ありません。

## General Switch Management Protocol および ANCP

ANCP は、General Switch Management Protocol (GSMP) の拡張機能です。GSMP は、プライマリネイバーがセカンダリネイバーへの接続を開始するプライマリ/セカンダリネイバー関係を

定義します。ANCP では、このプライマリ/セカンダリ関係が逆になります。つまり、BRAS（プライマリ）が DSLAM（セカンダリ）からの着信 ANCP 接続をリッスンして受け入れます。DSLAM は、イベントメッセージを使用して、トポロジ変更や Port Down または Port Up イベントなどの非同期イベントを BRAS に伝達します。

BRAS と DSLAM の間の GSMP 接続は、TCP/IP (RFC 3293) を介して行われます。DSLAM はルータへの接続を開始し、適切なインターフェイスが ANCP 対応の場合、ルータはその接続を受け入れます。

GSMP 隣接関係（アジャセンシー）プロトコルは、GSMP ネイバー関係を確立します。

1. 隣接関係の構築中は、次のことが行われます。
  - a. DSLAM とルータは、それぞれの機能をネゴシエートし、2つのエンド間の同期状態を決定します。
  - b. GSMP は、転送障害が発生した場合にルータと DSLAM がローカル情報データベースの状態を保持しているかどうか、または両方のデバイスが状態の更新を必要としているかどうかを検出します。
  - c. GSMP が、隣接関係を再同期する必要があると判断した場合、隣接関係同期プロセスを再開します。これには、次の場所で入手可能な ANCP 拡張のドラフトで定義されている機能ネゴシエーションが含まれます。

<http://tools.ietf.org/id/draft-wadhwa-gsmp-l2control-configuration-02.txt>

1. ANCP では、あるネイバー (neighbor1) にそのネイバー (neighbor2) がサポートしていない機能が含まれている場合、neighbor1 はその機能をオフにして、neighbor2 と同じ機能セットでパケットを neighbor2 に再伝達します。
2. 両方のネイバーが同じ機能セットに同意すると、隣接関係が確立されます。

## Access Node Control Protocol の設定方法

ANCP を設定するには、次のグローバルまたはインターフェイス設定タスクを実行します。

### イーサネット インターフェイスでの ANCP の有効化

イーサネット インターフェイス上の ANCP を有効にするには、次の作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ancp adjacency timer *interval***
4. **interface *type number***
5. **ip address *address mask***
6. **ancp enable**

7. **interface** *type number . subinterface*
8. **encapsulation dot1q** *vlanid* [**second-dot1q** *second-vlanid*]
9. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ancp adjacency timer interval</b> <b>Example:</b> Router(config)# ancp adjacency timer 100	ANCP 隣接タイマー間隔を設定します。これは、ANCP hello パケットを DSLAM に送信するまで待機する時間を示します。
ステップ 4	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Router(config)# interface FastEthernet1/0/0	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始してインターフェイスを定義します。
ステップ 5	<b>ip address address mask</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# ip address 10.16.1.2 255.255.0.0	IP アドレスとサブネットマスクをインターフェイスに割り当てます。
ステップ 6	<b>ancp enable</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# ancp enable	IP が設定されているインターフェイスで ANCP をイネーブルにします。
ステップ 7	<b>interface type number . subinterface</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# interface FastEthernet1/0/0.1	サブインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始してサブインターフェイスを定義します。
ステップ 8	<b>encapsulation dot1q vlanid</b> [ <b>second-dot1q</b> <i>second-vlanid</i> ] <b>Example:</b>	シングルキュー 802.1Q VLAN または Q-in-Q 階層型 VLAN のサブインターフェイスで dot1q VLAN カプセル化を有効にします。



	Command or Action	Purpose
	Router(config-subif)# encapsulation dot1q 100 second-dot1q 200	
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router(config-subif)# exit	サブインターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

## ATM インターフェイスでの ANCP のイネーブル化

**ancp enable** コマンドは、DSLAM から ANCP メッセージを送信させる制御 VC に対してのみ設定する必要があります。ATM インターフェイス上の ANCP を有効にするには、次の作業を行います。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ancp adjacency timer interval**
4. **interface atm slot / subslot / port . subinterface**
5. **ip address ip-address mask**
6. **pvc vpi / vci**
7. **ancp enable**
8. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ancp adjacency timer interval</b> <b>Example:</b>  Router(config)# ancp adjacency timer 100	ANCP 隣接タイマー間隔を設定します。これは、ANCP hello パケットを DSLAM に送信するまで待機する時間を示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>interface atm</b> <i>slot / subslot / port . subinterface</i> <b>Example:</b> Router(config)# interface atm 2/0/1.1	サブインターフェイスコンフィギュレーションモードを開始してサブインターフェイスを定義します。
ステップ 5	<b>ip address</b> <i>ip-address mask</i> <b>Example:</b> Router(config-subif)# ip address 10.16.1.2 255.255.0.0	IP アドレスおよびサブネットマスクをサブインターフェイスに割り当てます。
ステップ 6	<b>pvc</b> <i>vpi / vci</i> <b>Example:</b> Router(config-subif)# pvc 2/100	ATM PVC 上の ANCP 接続をイネーブルにするために、ATM 仮想回線コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>ancp enable</b> <b>Example:</b> Router(config-if-atm-vc)# ancp enable	IP が設定されているインターフェイスで ANCP をイネーブルにします。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-if-atm-vc)# exit	ATM 仮想回線コンフィギュレーションモードを終了します。

## ブロードバンドリモートアクセスサーバー上の VLAN インターフェイスへの DSLAM ポートのマッピング

DSLAM ポートを BRAS 上の VLAN インターフェイスにマッピングするには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ancp atm shaper percent-factor** *factor*
4. **interface** *type number.subinterface*
5. **encapsulation dot1q** *vlan-id*
6. **ancp neighbor name** *dslam-name [id dslam-id] client-id client-id*
7. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>anyp atm shaper percent-factor factor</b> <b>Example:</b> Router(config)# anyp shaper percent-factor 95	ATM U インターフェイス接続の ANCP セル タックス アカウンティングを有効にします。
ステップ 4	<b>interface type number.subinterface</b> <b>Example:</b> Router(config)# interface FastEthernet0/0.1	特定のサブインターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>encapsulation dot1q vlan-id</b> <b>Example:</b> Router(config-subif)# encapsulation dot1q 411	指定した VLAN 上で、トラフィックの IEEE 802.1Q カプセル化を有効にします。
ステップ 6	<b>anyp neighbor name dslam-name [id dslam-id] client-id client-id</b> <b>Example:</b> Router(config-subif)# anyp neighbor name dslam1 id 1.2.3.4 client-id "1.2.3.4. eth 0/0.1"	VLAN サブインターフェイスをマッピングする ANCP アクセス DSLAM を指定します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-subif)# exit	サブインターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

## ブロードバンドリモートアクセスサーバー上の PVC インターフェイスへの DSLAM ポートのマッピング

**ancp neighbor name** コマンドは、**pvc** および **pvc-in-range** コマンドモードで使用できます。このコマンドにより、PVC と DSLAM ポートの間の 1 対 1 マッピングが作成されます。DSLAM ポートを BRAS 上の PVC インターフェイスにマッピングするには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ancp atm shaper percent-factor factor**
4. **interface atm slot / subslot / port . subinterface**
5. 次のいずれかを実行します。
  - **pvc vpi / vci**
  - 
  - **range pvc start-vpi / start-vci end-vpi / end-vci**
6. **pvc-in-range vpi / vci**
7. **ancp neighbor name dslam-name [id dslam-id] client-id client-id**
8. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ancp atm shaper percent-factor factor</b> <b>Example:</b> Router(config)# ancp shaper percent-factor 95	ATM U インターフェイス接続の ANCP セル タックス アカウンティングを有効にします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<p><b>interface atm slot / subslot / port . subinterface</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# interface atm 2/0/1.1</pre>	指定した ATM サブインターフェイスに対してインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>pvc vpi / vci</b></li> <li>•</li> <li>• <b>range pvc start-vpi / start-vci end-vpi / end-vci</b></li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-subif)# pvc 1/101</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-subif)# range pvc 9/100 9/102</pre>	<p>PVC と DSLAM ポートの間の 1 対 1 マッピングを作成し、ATM 仮想回線コンフィギュレーション モードを開始します。</p> <p>または</p> <p>ATM PVC の範囲を定義し、PVC 範囲コンフィギュレーション モードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ATM PVC の範囲が定義されている場合は、<b>pvc-in-range</b> コマンドを使用して個々の PVC を設定します。</li> </ul>
ステップ 6	<p><b>pvc-in-range vpi / vci</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-if-atm-range-pvc)# pvc-in-range 9/100</pre>	(任意) PVC 範囲コンフィギュレーション モードで、範囲内の個々の PVC を設定します。
ステップ 7	<p><b>anyp neighbor name dslam-name [id dslam-id] client-id client-id</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-if-atm-range-pvc)# anyp neighbor name dslam1 id 1.2.3.4 client-id "1.2.3.4.atm0/0.1"</pre>	<p>PVC サブインターフェイスをマッピングする ANCP アクセス DSLAM を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドは、PVC 範囲および ATM 仮想回線コンフィギュレーションモードで使用できます。</li> </ul>
ステップ 8	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-if-atm-range-pvc)# end</pre>	PVC 範囲コンフィギュレーションモードを終了します。

## Access Node Control Protocol の設定例

### イーサネット インターフェイスでの Access Node Control Protocol の有効化の例

次に、イーサネット インターフェイス 2/0/1 で ANCP を有効にする方法の例を示します。

```
interface GigabitEthernet 2/0/1
 ip address 192.168.64.16 255.255.255.0
 ancp enable
!
interface GigabitEthernet 2/0/1.1
 encapsulation dot1q 100 second-dot1q 200
!
 ancp adjacency timer 100
```

### ATM インターフェイスでの Access Node Control Protocol のイネーブル化の例

次に、ATM インターフェイス 2/0/1.1 で ANCP を有効にする方法の例を示します。

```
interface ATM2/0/0.1 point-to-point
 description ANCP Link to one DSLAM
 no ip mroute-cache
 ip address 192.168.0.2 255.255.255.252
 pvc 254/32
 protocol ip 192.168.0.1
 ancp enable
 no snmp trap link-status
```

### BRAS での DSLAM ポートと VLAN インターフェイスのマッピングの例

次に、DSLAM の CPE クライアントポートを BRAS の Q-in-Q VLAN サブインターフェイスにマッピングする例を示します。この例では、IP アドレスが 192.68.10.5 の DSLAM ネイバー（dslam1 という名前）の CPE クライアントポートが、イーサネット インターフェイス 1/0/0.2 で設定された Q-in-Q VLAN 100 および 200 にマッピングされています。また、別の CPE クライアントポートが、イーサネット インターフェイス 1/0/0.1 で設定された Q-in-Q VLAN 100 および 100 にマッピングされます。

```
interface GigabitEthernet1/0/0.1
 encapsulation dot1q 100 second-dot1q 100
 ancp neighbor name dslam1 id 192.168.10.5 client-id "192.168.10.5 ethernet1/0/0.2"
!
interface GigabitEthernet1/0/0.2
 encapsulation dot1q 100 second-dot1q 200
 ancp neighbor name dslam1 id 192.168.10.5 client-id "192.168.10.5 ethernet1/0/0.1"
!
```

```

anccp atm shaper percent-factor 95
!

```

上記の例では、ポートがサブインターフェースレベルで直接マッピングされます。次の例に示すように、最初にすべての VLAN サブインターフェイスを設定し、次に ANCP ネイバーでマッピングを実行することもできます。

```

interface GigabitEthernet1/0/0.1
 encapsulation dot1q 100 second-dot1q 100
!
interface GigabitEthernet1/0/0.2
 encapsulation dot1q 100 second-dot1q 200
!
anccp atm shaper percent-factor 95
!
anccp neighbor name dslam1 id 192.168.10.5
 dot1q 100 second-dot1q 100 interface GigabitEthernet1/0/0.1 client-id "192.168.10.5
 ethernet1/0/0.2"
!
anccp neighbor name dslam1 id 192.168.10.5
 dot1q 100 second-dot1q 200 interface GigabitEthernet1/0/0.2 client-id "192.168.10.5
 ethernet1/0/0.2"

```

## BRAS での DSLAM ポートと PVC インターフェイスのマッピングの例

**anccp neighbor name** コマンドは、DSLAM の CPE クライアントポートを BRAS 上の PVC インターフェイスにマッピングします。このコマンドは、グローバルに設定することも、PVC/PVC-in-Range モードで設定することもできます。

### PVC または PVC-in-Range コンフィギュレーション モードの場合

この例では、ルータは、2つのポートまたはクライアントを持つ1つの DSLAM とインターフェイスで接続します。

```

interface ATM2/0/0.1 point-to-point
 description ANCP Link to one DSLAM
 no ip mroute-cache
 ip address 192.168.0.2 255.255.255.252
 pvc 254/32
 protocol ip 192.168.0.1 255.255.255.252
 anccp neighbor name dslam1 id 192.168.10.5 client-id "dslam-port-x-identifier"
 no snmp trap link-status
!
interface ATM1/0/0.1 multipoint
 description TDSL clients - default TDSL 1024
 class-int speed:ubr:1184:160:10
 range pvc 10/41 10/160
 service-policy input SET-PRECEDENCE-0
 service-policy output premium-plus:l2c:25088
 pvc-in-range 10/103
 description TDSL client 16 Mbps with ANCP
 class-vc speed:ubr:17696:1184:05
 anccp neighbor name dslam1 id 192.168.10.5 client-id "dslam-port-x-identifier"
!
range pvc 11/41 11/160
 service-policy input SET-PRECEDENCE-0
 service-policy output premium-plus:l2c:25088
 pvc-in-range 11/108

```

```

description TDSL client 16 Mbps with ANCP
class-vc speed:ubr:17696:1184:05
ancp neighbor name dslam1 id 192.168.10.5 client-id "dslam-port-y-identifier"
!
```

## グローバル コンフィギュレーション モードの場合

**ancp neighbor** コマンドをグローバルに設定する場合は、次の例に示すように、ATM インターフェイスの PVC 情報も指定する必要があります。

```

interface ATM1/0/0.1 multipoint
description TDSL clients - default TDSL 1024
class-int speed:ubr:1184:160:10
range pvc 10/41 10/160
  service-policy input SET-PRECEDENCE-0
  service-policy output premium-plus:l2c:25088
pvc-in-range 10/103
  description TDSL client 16 Mbps with ANCP
  class-vc speed:ubr:17696:1184:05
!
range pvc 11/41 11/160
  service-policy input SET-PRECEDENCE-0
  service-policy output premium-plus:l2c:25088
pvc-in-range 11/108
  description TDSL client 16 Mbps with ANCP
  class-vc speed:ubr:17696:1184:05
!
ancp neighbor name dslam1 id 192.168.10.5
  atm 10/103 interface ATM1/0/0.1 client-id "dslam-port-x-identifier"
  atm 11/108 interface ATM1/0/0.1 client-id "dslam-port-y-identifier"
```

## Access Node Control Protocol に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
ANCP コマンド	『Cisco IOS Access Node Control Protocol Command Reference』
IEEE 802.1q VLAN	IEEE 802.1Q カプセル化を使用する VLAN 間のルーティング設定
Queue-in-Queue VLAN タグ	IEEE 802.1Q-in-Q VLAN タグ終端

### RFC

RFC	タイトル
ANCP 拡張のドラフト	『GSMP Extensions for Access Node Control Mechanism, Internet draft』
RFC 3292	『General Switch Management Protocol (GSMP) V3』



RFC	タイトル
RFC 3293	『General Switch Management Protocol (GSMP), Packet Encapsulations for Asynchronous Transfer Mode (ATM), Ethernet and Transmission Control Protocol (TCP)』

## Access Node Control Protocol に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 128: Access Node Control Protocol** に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
Access Node Control Protocol	Cisco IOS XE Release 2.4	この機能は、Cisco IOS XE リリース 2.4 で Cisco ASR 1000 に導入されました。 次のコマンドが導入されました。 <b>ancp vdsl ethernet shaper</b> 。
インタラクティブな OAM と拡張性の改善	Cisco IOS XE Release 2.4	インタラクティブな OAM と拡張性の改善の機能により、運用とトラブルシューティングのために、ANCP へのオンデマンド ping の機能が追加されます。 この機能は、Cisco IOS XE リリース 2.4 で Cisco ASR 1000 に導入されました。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ping ancp</b> 、 <b>show ancp neighbor port</b> 、 <b>show ancp port</b> 、 <b>show ancp session</b> 、 <b>show ancp session adjacency</b> 、 <b>show ancp session event</b> 、および <b>show ancp statistics</b> 。





## CHAPTER 95

# Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化

Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化の機能は、Access Node Control Protocol (ANCP) の一部であり、複数のサービスを単一の RADIUS Access-Accept メッセージに含めることができます。この機能は、認可変更 (CoA) メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化の機能に似ていますが、この場合は、要求されたすべてのサービスアクティブ化が自動的に処理されます。つまり、サービスアクティブ化に失敗すると、それ以上のサービスアクティブ化は処理されず、Access-Accept メッセージによってすでにアクティブ化されているサービスは非アクティブ化されます。

- [Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する制約事項, on page 1123](#)
- [Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する情報, on page 1124](#)
- [Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化の設定方法, on page 1125](#)
- [Access-Accept メッセージでのマルチサービスの設定例, on page 1125](#)
- [Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する追加情報, on page 1126](#)
- [Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する機能情報, on page 1127](#)

## Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する制約事項

- いずれかのサービスのアクティブ化が失敗すると、Access-Accept メッセージの未処理のサービスはすべて無視され、Access-Accept メッセージのアクティブ化されたサービスはすべて非アクティブ化されます。
- Access-Accept メッセージのサービスを介して Quality of Service (QoS) ポリシーを適用する場合、2 段階のアプリケーションプロセスが存在します。最初の段階では、ポリシーが解析され、ポリシー値がデータプレーンに送信されます。2 番目の段階では、データプレーンで QoS ポリシーが適用されます。最初の段階が正常に完了したものの、2 番目の段階が失敗した場合、関連するサービスは、アクティブ化が成功したことを示すことができます。

# Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する情報

## Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化の概要

Access-Request メッセージは、メッセージに含まれるユーザーまたはサブスクリバのプロファイルを認証するために、RADIUS クライアントから RADIUS サーバーに送信されます。ユーザーまたはサブスクリバのプロファイルの認証結果により、次のようになります。

- 受け入れ可能 : RADIUS サーバーが Access-Accept メッセージを返す場合があります。
- 受け入れ不可 : RADIUS サーバーが Access-Reject メッセージを返す場合があります。

マルチサービスアクティブ化を有効にするために、Access-Accept メッセージにシスコの汎用 VSA 250 (SSG\_ACCOUNT\_INFO) エントリを複数含めることができます。各 VSA では、アクティブ化するサービス名が指定されます。

### RSIM 形式

```
vsa cisco generic 250 string "Aservice-name1"
vsa cisco generic 250 string "Aservice-name2"
vsa cisco generic 250 string "Aservice-name3"
```

### RADIUS 形式

```
07:06:23.234: RADIUS: Received from id 1645/36 11.12.13.2:1645, Access-Accept, len 112
07:06:23.238: RADIUS:  authenticator 92 C5 A2 F2 24 56 37 1E - 74 F4 C6 92 B0 E8 92 4C
07:06:23.238: RADIUS:  Vendor, Cisco      [26] 23
07:06:23.238: RADIUS:  ssg-account-info  [250] 17 "Aservice-name-1"
07:06:23.238: RADIUS:  Vendor, Cisco      [26] 23
07:06:23.238: RADIUS:  ssg-account-info  [250] 17 "Aservice-name-2"
07:06:23.238: RADIUS:  Vendor, Cisco      [26] 23
07:06:23.238: RADIUS:  ssg-account-info  [250] 17 "Aservice-name-3"
```

Access-Accept メッセージが受信されると、指定されたサービスが抽出され、各サービスが順番にアクティブ化されます。サービスのアクティブ化が失敗すると、Access-Accept メッセージの未処理のサービスはすべて無視され、Access-Accept メッセージのアクティブ化されたサービスはすべて非アクティブ化されます。



**Note** QoS サービスの Access-Accept 複数サービス要求については、RSIM 形式は、CoA メッセージに含まれる複数サービスのアクティブ化または非アクティブ化要求には適用されません。CoA メッセージの形式は VSA 252 です。詳細については、「CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化」モジュールを参照してください。

## VSA 250 の QoS ポリシー

セッションの確立中に、VSA 250 連結 QoS 構文を RADIUS Access-Accept メッセージとともに使用できます。構文は、VSA の連結文字列を解析し、QoS およびインテリジェント サービス ゲートウェイ (ISG) ポリシーをアクティブにします。



**Note** ISG は、1 つの Access-Accept メッセージで複数の QoS サービスを管理し、メッセージを適用して静的 QoS およびパラメータ化された QoS をアクティブにします。

## Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化の設定方法

### Access-Accept を使用したセッションサービスのアクティブ化

Access-Accept でセッションサービスを動的にアクティブにするには、RADIUS のサービスプロファイルで Cisco VSA 250 を設定します。RADIUS では、次の構文により、Access-Accept メッセージで VSA 250 が使用されます。

#### RSIM 形式

```
vsa cisco generic 250 string  
"Aservice-name-1"
```

## Access-Accept メッセージでのマルチサービスの設定例

### VSA 250 を使用した QoS サービスのアクティブ化の例

QoS サービスをアクティブにするには、`qos:vc-qos-policy-out` 構文を RADIUS Access-Accept メッセージとともに使用します。連結文字列が解析され、QoS および ISG ポリシーがアクティブ化されます。

次に、VSA 250 の連結文字列の解析と ISG サービスおよび QoS ポリシーのアクティブ化を定義する例を示します。

```
qos:<qos-attribute-name>=<attribute value>[;qos:<qos-attribute-name>=<attribute value>...]
```

<b>qos-attribute-name</b>	QoS 属性名を表示します。この特殊な連結形式の QoS 属性名に使用できる属性は、次のとおりです。 vc-qos-policy-in vc-qos-policy-out vc-weight vc-watermark-min vc-watermark-max
<b>attribute value</b>	QoS 属性に割り当てる値を表示します。値の許容範囲はプラットフォームによって決定されます。

ターゲットセッションが ATM VC の場合、vc-weight、vc-watermark-min、および vc-watermark-max 属性が解釈されます。

次に、VSA 250 の連結 QoS 構文の例を示しています。

```
vsa cisco generic 250 string "Aqos:vc-qos-policy-out=IPOne_out;qos:vc-qos-policy-in=IPOne_in"
```

## Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
ANCP コマンド	『Cisco IOS Access Node Control Protocol Command Reference』
IEEE 802.1q VLAN	「Cisco IOS IEEE 802.1Q Support」機能モジュール
Access-Node Control Protocol	『Metro Ethernet WAN Services and Architectures』 (ホワイトペーパー)、 「Access Node Control Protocol」
Queue-in-Queue VLAN タグ	『IEEE 802.1Q-in-Q VLAN Tag Termination』

### RFC

RFC	タイトル
ANCP 拡張のドラフト	『GSMP Extensions for Access Node Control Mechanism, Internet draft』
RFC 3292	『General Switch Management Protocol (GSMP) V3』

RFC	タイトル
RFC 3293	『General Switch Management Protocol (GSMP), Packet Encapsulations for Asynchronous Transfer Mode (ATM), Ethernet and Transmission Control Protocol (TCP)』

## Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 129: Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化に関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化	Cisco IOS XE Release 2.4	<p>Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化の機能は、RADIUS Access-Accept メッセージを使用した複数のサービスの動的なアクティブ化をサポートしています。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE 2.4 で、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに導入されました。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。 <b>subscriber service multiple-accept</b>。</p>







## CHAPTER 96

# CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化

この機能を使用すると、ポリシーサーバーから送信される単一の許可変更 (CoA) メッセージによって、複数のサービスをアクティブ化または非アクティブ化できます。この機能は、Access-Accept メッセージでのマルチサービスアクティブ化の機能に似ていますが、この場合は、ユーザーセッションが事前にアクティブになっていることが前提となります。

- [CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する制約事項, on page 1129](#)
- [CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する情報, on page 1130](#)
- [CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化を設定する方法, on page 1131](#)
- [CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化の設定例, on page 1132](#)
- [CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する追加情報, on page 1133](#)
- [CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する機能情報, on page 1133](#)

## CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する制約事項

- マルチサービスアクティブ化または非アクティブ化メッセージに含まれるすべてのサービス名は、インテリジェントサービスゲートウェイ (ISG) 対応である必要があります。たとえば、これらは、タイプが `class-map type` のサービス「service1」である必要があります。
- いずれかのサービスアクティブ化または非アクティブ化メッセージが失敗した場合、ブロードバンドリモートアクセスサーバー (BRAS) は、以前に正常にアクティブ化または非アクティブ化されたサービスと、同じマルチサービスアクティブ化または非アクティブ化 CoA メッセージに含まれていたサービスのみをロールバックします。

- ただし、現在の ISG の実装では、以前にアクティブ化または非アクティブ化されたサービスの状態を再確立するプロセスに制限があります。たとえば、重複する可能性のある機能が同じセッションで有効になっている場合、新しい機能パラメータ、正常にアクティブ化された機能パラメータ、または非アクティブ化された機能パラメータは、そのセッションですでにアクティブ化されている同じ機能の古いパラメータを削除します。その機能の古いパラメータを再確立しようとするとうまくいきません。
- 有効な CLI 設定の ISG サービスが CoA を介して新しいセッションに転送され、失敗した (ISG サービスがアカウントングリストを見つけることができない) 場合は、次のようになります。
  - BRAS は、ハードウェアがプロビジョニングされるまで待機しません。
  - ACK メッセージがリレーされます。
  - ISG サービスは適用されません。
  - トレースバックが監視されます。

## CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する情報

### CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化の概要

CoA マルチサービスアクティブ化または非アクティブ化メッセージには、サービスのリストが含まれています。それらの複数のサービスは、VSA 252 に複数行の形式でリストされます。

1 つの CoA メッセージ内でのマルチサービス非アクティブ化の場合、RADIUS サーバーは、1 つの CoA マルチサービス非アクティブ化メッセージ内で複数のサービスを非アクティブ化する要求を送信します。マルチサービス非アクティブ化メッセージにリストされているサービスごとに、BRAS がサービスを非アクティブ化します。サービスが正常に非アクティブ化されると、accounting-stop メッセージが表示されます。

サービスを正常に非アクティブ化できない場合、BRAS は、マルチサービスアクティブ化メッセージに含まれる後続のすべてのサービスの非アクティブ化を終了します。BRAS は、同じマルチサービスアクティブ化メッセージに含まれる、失敗したサービスがアクティブ化される前に正常に非アクティブ化されたすべてのサービスをアクティブ化します。

既存の VSA 252 は、1 つのマルチサービスアクティブ化または非アクティブ化 CoA メッセージを形成するために使用されます。1 つのマルチサービスアクティブ化または非アクティブ化 CoA メッセージを形成するために、VSA 252 の複数の行がメッセージに含まれています。次の例は、1 つの CoA メッセージでの混合マルチサービスアクティブ化または非アクティブ化を示しています。

## RADIUS 形式

```

ISG#
00:41:15: RADIUS: CoA received from id 76 10.168.1.6:1700, CoA Request, len 67
00:41:15: CoA: 10.168.1.6 request queued
00:41:15: RADIUS: authenticator C4 AC 5D 50 6A BE D7 00 - F9 1D FA 38 15 32 25 3A
00:41:15: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 18
00:41:15: RADIUS: ssg-account-info [250] 12 "S151.1.1.2"
00:41:15: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 17
00:41:15: RADIUS: ssg-command-code [252] 11
00:41:15: RADIUS: 0B 70 6F 6C 69 63 65 31 [Service-Log-On service1]
00:41:15: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 17
00:41:15: RADIUS: ssg-command-code [252] 11
00:41:15: RADIUS: 0B 70 6F 6C 69 63 65 32 [Service-Log-On service2]
00:41:15: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 17
00:41:15: RADIUS: ssg-command-code [252] 11
00:41:15: RADIUS: 0C 73 65 72 76 69 63 65 33 [Service-Log-Off service3]
00:41:15: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 17
00:41:15: RADIUS: ssg-command-code [252] 11
00:41:15: RADIUS: 0B 70 6F 6C 69 63 65 34 [Service-Log-On service4]

```

## VSA 252 の QoS ポリシー

RADIUS CoA メッセージでは、VSA 252 連結 Quality of Service (QoS) 構文を使用できます。構文は、VSA 252 の連結文字列を解析することによって ISG サービスおよび QoS ポリシーをアクティブ化または非アクティブ化するために使用されます。



**Note** ISG は、1 つの CoA メッセージで複数の QoS サービスを管理し、メッセージを適用して静的 QoS およびパラメータ化された QoS をアクティブにします。

## CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化を設定する方法

### CoA を使用したセッションサービスのアクティブ化

CoA でセッションサービスを動的にアクティブにするには、RADIUS のサービスプロファイルで Cisco VSA 252 を設定します。RADIUS では、次の構文により、CoA メッセージで VSA 252 が使用されます。

```
vsa cisco generic 252 binary 0b suffix
"qos:vc-qos-policy-out=IPOne_out;qos:vc-qos-policy-in=IPOne_in;;"
```

この例の CoA コマンドは次の処理を実行します。

- ISG サービス「qos:vc-qos-policy-out=IPOne\_out;qos:vc-qos-policy-in=IPOne\_in;;」を開始します。

- 仮想テンプレート IPOne\_out にデフォルトの出力子ポリシーがない場合は、仮想テンプレートのデフォルトの QoS 出力子ポリシーを置き換え、IPOne\_out ポリシーをインストールします。
- 仮想テンプレート IPOne\_in で設定されているデフォルトの入力子ポリシーがない場合は、仮想テンプレートのデフォルトの QoS 入力子ポリシーを置き換え、IPOne\_in ポリシーをインストールします。

## CoA を使用したセッションサービスの非アクティブ化

仮想テンプレートで CoA およびデフォルト QoS ポリシーを使用してセッションサービスを動的にアクティブにするには、RADIUS サービスプロファイルで Cisco VSA 252 を設定します。RADIUS では、次の構文により、CoA メッセージで VSA 252 が使用されます。

```
vsa cisco generic 252 binary 0c suffix
"qos:vc-qos-policy-out=IPOne_out;qos:vc-qos-policy-in=IPOne_in;";
```

この例の CoA コマンドは次の処理を実行します。

- ISG サービス 「qos:vc-qos-policy-out=IPOne\_out;qos:vc-qos-policy-in=IPOne\_in」 を終了します。
- QoS 出力子ポリシー IPOne\_out を、適切な仮想テンプレートインターフェイスで設定されたデフォルトの子ポリシーに置き換えます。
- QoS 入力子ポリシー IPOne\_in を、適切な仮想テンプレートインターフェイスで設定されたデフォルトの子ポリシーに置き換えます。

## CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化の設定例

### VSA 252 を使用した QoS サービスのアクティブ化および非アクティブ化の例

QoS サービスをアクティブにするために、RADIUS は、1 つの VSA 252 文字列で親ポリシーと子ポリシーに 1 つ以上の QoS クラスを追加し、次の構文をリレーします。

```
CoA VSA 252 0b <new service>
```

既存のサービスに加えて、新しいサービスをインストールするとともに、現在のサービスとクラスが重複しないようにする必要があります。

次の例は、QoS のアクティブ化を定義し、QoS クラスをパラメータ化された QoS サービスの RADIUS フォームに追加します。

```
VSA252 0b q-p-out=IPOne1-isg-acct_service(1)((c-d,voip)1(200000,9216,0,1,0,0)10(9));q-p-in=
((c-d,voip)1(200000,9216,0,1,0,0)10(9))
```

2 つ目のサービスを非アクティブ化するために、RADIUS は、サービスのアクティブ化に使用された VSA 252 文字列をリレーし、「0b」を「0c」に置き換えます。

次の例は、QoS の非アクティブ化を定義し、パラメータ化された QoS サービスの RADIUS フォームの QoS クラスを削除します。

```
VSA252 0c q-p-out=IPOne1-isg-acct_service(1)((c-d,voip)1(200000,9216,0,1,0,0)10(9));q-p-in=
((c-d,voip)1(200000,9216,0,1,0,0)10(9))
```

## CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
ANCP コマンド	『Cisco IOS Access Node Control Protocol Command Reference』
IEEE 802.1q VLAN	IEEE 802.1Q カプセル化を使用する VLAN 間のルーティング設定
Queue-in-Queue VLAN タグ	IEEE 802.1Q-in-Q VLAN タグ終端

### RFC

RFC	タイトル
ANCP 拡張のドラフト	『 <a href="#">GSMP Extensions for Access Node Control Mechanism, Internet draft</a> 』
RFC 3292	『General Switch Management Protocol (GSMP) V3』
RFC 3293	『General Switch Management Protocol (GSMP), Packet Encapsulations for Asynchronous Transfer Mode (ATM), Ethernet and Transmission Control Protocol (TCP)』

## CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 130: CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化に関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
CoA メッセージでのマルチサービスのアクティブ化および非アクティブ化	Cisco IOS XE Release 2.4	CoA メッセージでのマルチサービスアクティブ化および非アクティブ化の機能は、RADIUS CoA メッセージを使用した複数のサービスの動的なアクティブ化および非アクティブ化をサポートしています。  この機能は、Cisco IOS XE 2.4 で、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに導入されました。



## 第 IX 部

# ファーストホップセキュリティ

- [IPv6 RA ガード, on page 1137](#)
- [IPv6 スヌーピング, on page 1145](#)
- [IPv6 DAD プロキシ, on page 1161](#)
- [IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制, on page 1167](#)
- [DHCP—DHCPv6 ガード, on page 1173](#)
- [IPv6 ソースガードとプレフィックスガード, on page 1181](#)
- [IPv6 宛先ガード, on page 1189](#)
- [IPv6 の RFC, on page 1195](#)







## CHAPTER 97

# IPv6 RA ガード

IPv6 RA ガード機能は、ネットワーク デバイス プラットフォームに到着した不要または不正なルーターアドバタイズメント (RA) ガードメッセージを、ネットワーク管理者がブロックまたは拒否できるようにするためのサポートを提供します。

- [IPv6 RA ガードの制限, on page 1137](#)
- [IPv6 RA ガードに関する情報, on page 1138](#)
- [IPv6 RA ガードの設定方法, on page 1138](#)
- [IPv6 RA ガードの設定例, on page 1142](#)
- [その他の参考資料, on page 1143](#)
- [IPv6 RA ガードの機能情報, on page 1144](#)

## IPv6 RA ガードの制限

- IPv6 RA ガード機能は、IPv6 トラフィックがトンネリングされる環境では保護を行いません。
- この機能は、TCAM (Ternary Content Addressable Memory) がプログラムされているハードウェアでのみサポートされています。
- この機能は、入力方向のスイッチ ポート インターフェイスで設定できます。
- この機能は、ホスト モードとルータ モードをサポートしています。
- この機能は、入力方向だけでサポートされます。出力方向ではサポートされません。
- この機能は、EtherChannel および EtherChannel ポート メンバーではサポートされません。
- この機能は、マージ モードのトランク ポートではサポートされません。
- この機能は、補助 VLAN およびプライベート VLAN (PVLAN) でサポートされています。PVLAN の場合、プライマリ VLAN の機能が継承され、ポート機能とマージされます。
- IPv6 RA ガード機能によってドロップされたパケットはスパニングできます。
- **platform ipv6 acl icmp optimize neighbor-discovery command** が設定されている場合、IPv6 RA ガード機能は設定できず、エラー メッセージが表示されます。このコマンドは、RA

ガードの ICMP エントリを上書きするデフォルトのグローバル Internet Control Message Protocol (ICMP) エントリを追加します。

## IPv6 RA ガードに関する情報

### IPv6 グローバル ポリシー

IPv6 グローバル ポリシーは、ストレージおよびアクセス ポリシー データベースのサービスを提供します。IPv6 ND 検査と IPv6 RA ガードは、IPv6 グローバル ポリシー機能です。ND インスペクションまたは RA ガードをグローバルに設定するたびに、ポリシーの属性が、ソフトウェア ポリシー データベースに保存されます。その後ポリシーはインターフェイスに適用され、ポリシーが適用されたこのインターフェイスを含めるためにソフトウェア ポリシー データベース エントリが更新されます。

### IPv6 RA ガード

IPv6 RA ガード機能は、ネットワーク デバイス プラットフォームに到着した不要または不正な RA ガードメッセージを、ネットワーク管理者がブロックまたは拒否できるようにするためのサポートを提供します。RA は、リンクで自身をアナウンスするためにデバイスによって使用されます。IPv6 RA ガード機能は、それらの RA を分析して、承認されていないデバイスから送信された RA を除外します。ホスト モードでは、ポート上の RA とルータ リダイレクトメッセージはすべて許可されません。RA ガード機能は、レイヤ 2 (L2) デバイスの設定情報を、受信した RA フレームで検出された情報と比較します。L2 デバイスは、RA フレームとルータ リダイレクトフレームの内容を設定と照らし合わせて検証した後で、RA をユニキャストまたはマルチキャストの宛先に転送します。RA フレームの内容が検証されない場合は、RA はドロップされます。

ワイヤレス展開では、ワイヤレスポートで受信した RA はドロップされます。ルータはこれらのインターフェイスに存在できないためです。

## IPv6 RA ガードの設定方法

### デバイスでの IPv6 RA ガード ポリシーの設定

**Note**

`ipv6 nd rguard` コマンドがポートで設定されている場合、ルータ送信要求メッセージはこれらのポートに複製されません。ルータ要求メッセージを複製するには、ルータ側のすべてのポートをルータ ロールに設定する必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 nd rguard policy *policy-name***
4. **device-role {host | router}**
5. **hop-limit {maximum | minimum *limit*}**
6. **managed-config-flag {on | off}**
7. **match ipv6 access-list *ipv6-access-list-name***
8. **match ra prefix-list *ipv6-prefix-list-name***
9. **other-config-flag {on | off}**
10. **router-preference maximum {high | low | medium}**
11. **trusted-port**
12. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 nd rguard policy <i>policy-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 nd rguard policy policy1	RA ガード ポリシー名を定義して、RA ガード ポリシーコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>device-role {host   router}</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# device-role router	ポートに接続されているデバイスの役割を指定します。
ステップ 5	<b>hop-limit {maximum   minimum <i>limit</i>}</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# hop-limit minimum 3	(任意) アドバタイズされたホップ カウント制限の検証をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 設定されていない場合、このチェックは回避されます。</li></ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>managed-config-flag {on   off}</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# managed-config-flag on	(任意) アドバタイズされた管理アドレスの設定フラグが on であることの検証をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>設定されていない場合、このチェックは回避されます。</li> </ul>
ステップ 7	<b>match ipv6 access-list ipv6-access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# match ipv6 access-list list1	(任意) 検証済みメッセージ内の送信者の IPv6 アドレスが設定された承認デバイス ソース アクセスリストからのものであることの検証をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>設定されていない場合、このチェックは回避されます。</li> </ul>
ステップ 8	<b>match ra prefix-list ipv6-prefix-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# match ra prefix-list listname1	(任意) 検証済みメッセージ内のアドバタイズされたプレフィックスが設定された承認プレフィックスリストからのものであることの検証をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>設定されていない場合、このチェックは回避されます。</li> </ul>
ステップ 9	<b>other-config-flag {on   off}</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# other-config-flag on	(任意) アドバタイズされた [Other] 設定パラメータの検証をイネーブルにします。
ステップ 10	<b>router-preference maximum {high   low   medium}</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# router-preference maximum high	(任意) アドバタイズされたデフォルト ルータの設定パラメータの値が指定された制限値以下であることの検証をイネーブルにします。
ステップ 11	<b>trusted-port</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# trusted-port	(任意) このポリシーが信頼できるポートに適用されることを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての RA ガード ポリシングが無効になります。</li> </ul>
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ra-guard)# exit	RA ガード ポリシー コンフィギュレーション モードを終了してグローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## インターフェイスの IPv6 RA ガードの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **ipv6 nd rguard attach-policy** [*policy-name* [**vlan** {**add** | **except** | **none** | **remove** | **all**} *vlan* [*vlan1*, *vlan2*, *vlan3*...]]]
5. **exit**
6. **show ipv6 nd rguard policy** [*policy-name*]
7. **debug ipv6 snooping rguard** [*filter* | *interface* | *vlanid*]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b>  Device(config)# interface fastethernet 3/13	インターフェイスのタイプと番号を指定し、デバイスをインターフェイスコンフィギュレーションモードにします。
ステップ 4	<b>ipv6 nd rguard attach-policy</b> [ <i>policy-name</i> [ <b>vlan</b> { <b>add</b>   <b>except</b>   <b>none</b>   <b>remove</b>   <b>all</b> } <i>vlan</i> [ <i>vlan1</i> , <i>vlan2</i> , <i>vlan3</i> ...]]] <b>Example:</b>  Device(config-if)# ipv6 nd rguard attach-policy	指定したインターフェイスに IPv6 RA ガード機能を適用します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>show ipv6 nd rguard policy</b> [ <i>policy-name</i> ] <b>Example:</b>  Device# show ipv6 nd rguard policy rguard1	RA ガードを使用して設定されているすべてのインターフェイスで RA ガードポリシーを表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>debug ipv6 snooping raguard</b> [ <i>filter</i>   <i>interface</i>   <i>vlanid</i> ] <b>Example:</b> Device# debug ipv6 snooping raguard	IPv6 RA ガード スヌーピング情報のデバッグをイネーブルにします。

## IPv6 RA ガードの設定例

### 例：IPv6 RA ガードの設定

```

Device(config)# interface fastethernet 3/13

Device(config-if)# ipv6 nd raguard attach-policy

Device# show running-config interface fastethernet 3/13

Building configuration...
Current configuration : 129 bytes
!
interface FastEthernet3/13
 switchport
 switchport access vlan 222
 switchport mode access
 access-group mode prefer port
 ipv6 nd raguard
end

```

### 例：IPv6 ND インスペクションおよび RA ガードの設定

この例は、ネイバー探索インスペクションおよびRA ガード機能の両方が設定されているインターフェイスに関する情報を示しています。

```

Device# show ipv6 snooping capture-policy interface ethernet 0/0

Hardware policy registered on Ethernet 0/0
Protocol      Protocol value  Message  Value  Action  Feature
ICMP          58              RS        85     punt    RA Guard
              58              RA        86     punt    ND Inspection
              58              NS        87     punt    ND Inspection
              58              NA        88     punt    ND Inspection
              58              REDIR     89     drop    RA Guard
              58              REDIR     89     punt    ND Inspection

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IPv6 アドレッシングと接続	『 <i>IPv6 Configuration Guide</i> 』
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
IPv6 コマンド	『 <i>Cisco IOS IPv6 Command Reference</i> 』
Cisco IOS IPv6 機能	『 <a href="#">Cisco IOS IPv6 Feature Mapping</a> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
IPv6 に関する RFC	<i>IPv6 RFCs</i>

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある <a href="#">Cisco MIB Locator</a> を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPv6 RA ガードの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 131: IPv6 RA ガードの機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 RA ガード	12.2(33)SX14 12.2(50)SY 12.2(54)SG 15.0(2)SE 15.0(2)SG Cisco IOS XE Release 3.8S Cisco IOS XE Release 3.2SE Cisco IOS XE Release 3.2SG	次のコマンドが導入または変更されました。 <b>debug ipv6 snooping rguard</b> 、 <b>device-role</b> 、 <b>hop-limit</b> 、 <b>ipv6 nd rguard attach-policy</b> 、 <b>ipv6 nd rguard policy</b> 、 <b>managed-config-flag</b> 、 <b>match ipv6 access-list</b> 、 <b>match ra prefix-list</b> 、 <b>other-config-flag</b> 、 <b>router-preference maximum</b> 、 <b>show ipv6 nd rguard policy</b> 。





## CHAPTER 98

# IPv6 スヌーピング

IPv6 スヌーピング機能は、複数のレイヤ 2 IPv6 ファーストホップセキュリティ機能（IPv6 ネイバー探索インスペクション、IPv6 デバイス トラッキング、IPv6 アドレス収集、および IPv6 バインディングテーブルのリカバリを含む）をバンドルして、セキュリティと拡張性を提供します。IPv6 ND インスペクションは、レイヤ 2（またはレイヤ 2 とレイヤ 3 の間）で動作し、IPv6 の機能にセキュリティと拡張性を提供します。

- [IPv6 スヌーピングの制限, on page 1145](#)
- [IPv6 スヌーピングに関する情報, on page 1145](#)
- [IPv6 スヌーピングの設定方法, on page 1149](#)
- [IPv6 スヌーピングの設定例, on page 1158](#)
- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1159](#)

## IPv6 スヌーピングの制限

IPv6 スヌーピング機能は、EtherChannel ポートではサポートされません。

## IPv6 スヌーピングに関する情報

ここでは、IPv6 スヌーピングについて説明します。

## IPv6 スヌーピング

IPv6 スヌーピング機能によって、複数のレイヤ 2 IPv6 ファーストホップセキュリティ機能（IPv6 アドレス収集と IPv6 デバイス トラッキングを含む）がバンドルされます。この機能は、レイヤ 2（またはレイヤ 2 とレイヤ 3 の間）で動作し、IPv6 の機能にセキュリティと拡張性を提供します。この機能によって、Duplicate Address Detection（DAD）、アドレス解決、デバイス検出やネイバーキャッシュに対する攻撃といった、ネイバー探索メカニズムに固有のいくつかの脆弱性が軽減されます。

IPv6 スヌーピングは、レイヤ 2 ネイバー テーブルのステートレス自動設定アドレスのバインディングを学習して保護し、信頼できるバインディング テーブルを構築するために ND メッ

セージを分析します。有効なバインディングのない IPv6 ND メッセージはドロップされます。ND メッセージは、その IPv6 から MAC へのマッピングが検証可能な場合に信頼できると見なされます。

ターゲット（プラットフォームのターゲット サポートによって異なり、デバイス ポート、スイッチ ポート、レイヤ 2 インターフェイス、レイヤ 3 インターフェイス、および VLAN が含まれることがある）に IPv6 スヌーピングが設定されている場合、IPv6 トラフィックの ND プロトコルと Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) をルーティング デバイスのスイッチ統合セキュリティ機能 (SISF) インフラストラクチャにリダイレクトするためのキャプチャ命令がハードウェアにダウンロードされます。ND トラフィックの場合、NS、NA、RS、RA、REDIRECT などのメッセージが SISF にリダイレクトされます。DHCP の場合、ポート 546 または 547 から送信された UDP メッセージがリダイレクトされます。

IPv6 スヌーピングはその「キャプチャルール」を分類子に登録します。分類子では、特定のターゲットにあるすべての機能のルールがすべて集約され、対応する ACL がプラットフォーム依存モジュールにインストールされます。分類子は、リダイレクトされたトラフィックを受信すると、（トラフィックを受信しているターゲットに対して）登録されているすべての機能からすべてのエントリ ポイント（IPv6 スヌーピングのエントリ ポイントを含む）を呼び出します。IPv6 スヌーピングのエントリ ポイントは最後に呼び出されるため、他の機能によって行われた決定が IPv6 スヌーピングの決定よりも優先されます。

## IPv6 デバイストラッキング

IPv6 デバイストラッキングは、IPv6 ホストが非表示になったときにネイバー テーブルを即時に更新できるように、IPv6 ホストの活性トラッキングを提供します。

### IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディング テーブル

IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディング テーブルのリカバリ メカニズム機能を使用すると、デバイスのリブート時にバインディング テーブルをリカバリできます。デバイスに接続されている IPv6 ネイバーのデータベース テーブルは、ND スヌーピングなどの情報源から作成されます。このデータベース（またはバインディング）テーブルは、スプーフィングやリダイレクト攻撃を防止するために、リンク層アドレス (LLA)、IPv4 または IPv6 アドレス、およびネイバーのプレフィックス バインディングを検証するためにさまざまな IPv6 ガード機能によって使用されます。

このメカニズムにより、デバイスのリブート時にバインディング テーブルをリカバリできます。リカバリ メカニズムは、不明な送信元、（バインディング テーブルにまだ指定されていない送信元や、ND または DHCP グリーニングを使用して学習されていない送信元）からのデータトラフィックをブロックします。この機能は、宛先ガードで宛先アドレスの解決に失敗したときに、不足しているバインディング テーブルのエントリをリカバリします。障害が発生すると、バインディング テーブルのエントリは、設定に応じて、DHCP サーバーまたは宛先ホストにクエリを実行することでリカバリできます。

## リカバリ プロトコルとプレフィックス リスト

IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディング テーブルのリカバリ メカニズム機能は、DHCP と NDP の両方でリカバリを試みる前に、一致するプレフィックス リストを提供する機能を導入します。

アドレスがプロトコルと関連付けられているプレフィックスリストと一致しない場合、そのプロトコルではバインディング テーブル エントリのリカバリは試行されません。プレフィックス リストは、プロトコルを使用してレイヤ2 ドメインに割り当てられているアドレスに対して有効なプレフィックスに対応している必要があります。デフォルトではプレフィックス リストは存在せず、すべてのアドレスのリカバリが試行されます。プロトコルにプレフィックス リストを関連付けるコマンドは、**protocol {dhcp | ndp} [prefix-list prefix-list-name]** です。

## IPv6 デバイス トラッキング

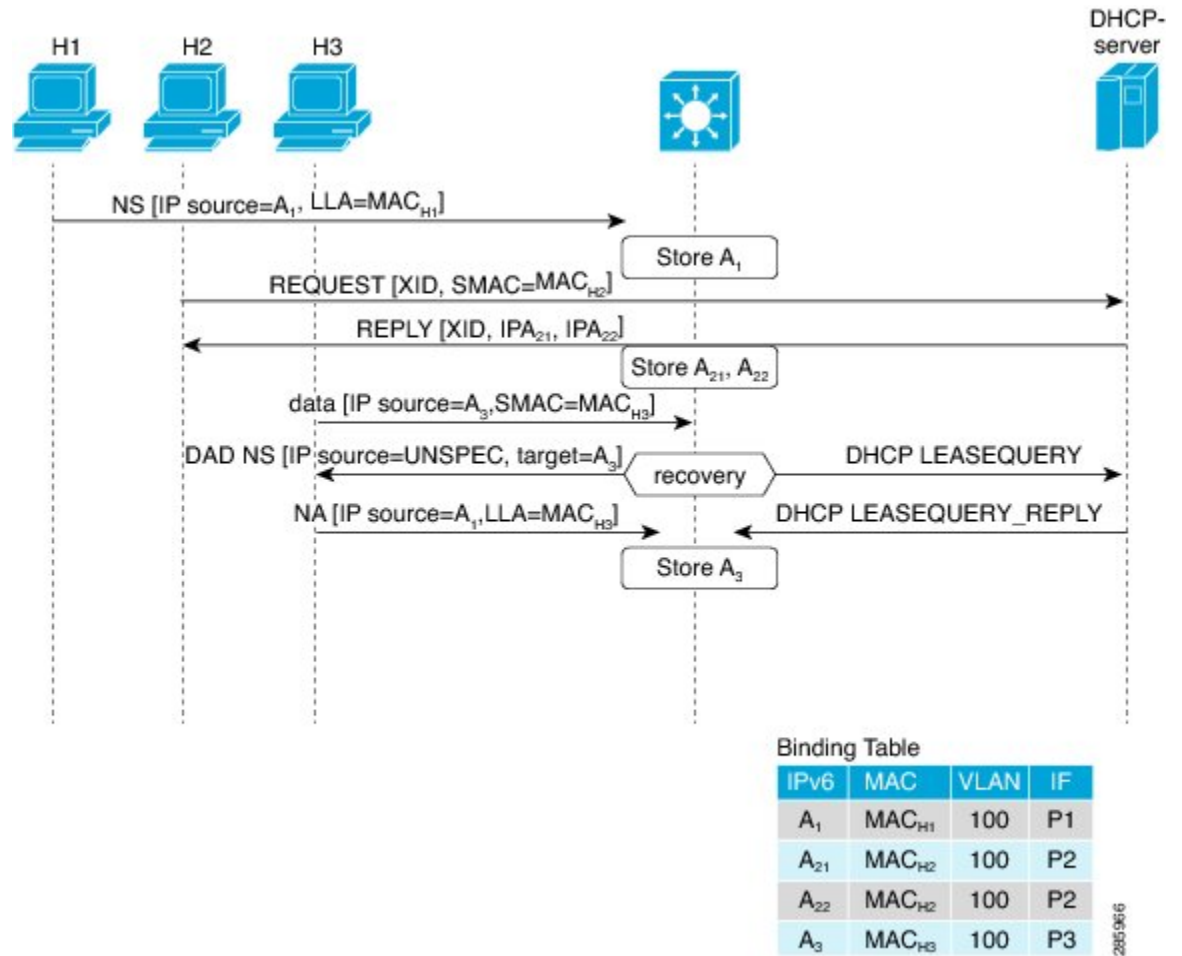
IPv6 デバイス トラッキングは、IPv6 ホストが非表示になったときにネイバー テーブルを即時に更新できるように、IPv6 ホストの活性トラッキングを提供します。

## IPv6 アドレス 収集

IPv6 アドレス 収集は、正確なバインディング テーブルに依存する他の多くの IPv6 の機能の基盤です。この機能は、アドレス 収集のためにリンク上の ND および DHCP メッセージを検査した後に、それらのアドレスをバインディング テーブルに入力します。また、この機能は、アドレスの所有権を強制し、特定のノードが要求可能なアドレスの数を制限します。

次の図は、IPv6 アドレス 収集の仕組みを示しています。

Figure 27: IPv6 アドレス収集



## 複数の IA\_NA および IA\_PD のサポート

場合によっては、ネットワークデバイスが DHCP サーバーから複数の IPv6 アドレスを要求して受信することがあります。これは、レジデンシャルゲートウェイがアドレスをその LAN クライアントに配布することを要求する場合など、デバイスの複数のクライアントにアドレスを提供するために実行できます。デバイスが DHCPv6 パケットを送信すると、パケットにはデバイスに割り当てられているすべてのアドレスが含まれます。

SISF は DHCPv6 パケットを分析する際に、パケットの IA\_NA (Identity Association-Nontemporary Address) および IA\_PD (Identity Association-Prefix Delegation) コンポーネントを検査し、パケットに含まれる各 IPv6 アドレスを抽出します。SISF は、抽出された各アドレスをバインディングテーブルに追加します。

# IPv6 スヌーピングの設定方法

## インターフェイスの IPv6 スヌーピングの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 snooping policy** *snooping-policy*
4. **exit**
5. **interface** *type number*
6. **ipv6 snooping attach-policy** *snooping-policy*

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 snooping policy</b> <i>snooping-policy</i> 例： Device(config)# ipv6 snooping policy policy1	IPv6 スヌーピング ポリシーを設定し、IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Device(config-ipv6-snooping)# exit	IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Device(config)# interface Gigabitethernet 0/0/1	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>ipv6 snooping attach-policy <i>snooping-policy</i></b> 例： <pre>Device(config-if)# ipv6 snooping attach-policy policy1</pre>	インターフェイスに IPv6 スヌーピング ポリシーを対応付けます。

## IPv6 ND インспекションの確認とトラブルシューティング

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. show ipv6 snooping capture-policy [*interface type number*]
3. show ipv6 snooping counter [*interface type number*]
4. show ipv6 snooping features
5. show ipv6 snooping policies [*interface type number*]
6. debug ipv6 snooping

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show ipv6 snooping capture-policy [<i>interface type number</i>]</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show ipv6 snooping capture-policy interface ethernet 0/0</pre>	スヌーピング ND メッセージキャプチャポリシーを表示します。
ステップ 3	<b>show ipv6 snooping counter [<i>interface type number</i>]</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show ipv6 snooping counter interface FastEthernet 4/12</pre>	インターフェイスカウンタによってカウントされたパケットに関する情報を表示します。
ステップ 4	<b>show ipv6 snooping features</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show ipv6 snooping features</pre>	デバイスに設定されているスヌーピング機能に関する情報を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>show ipv6 snooping policies</b> [interface <i>type number</i> ] <b>Example:</b> Device# show ipv6 snooping policies	設定されているポリシーと、ポリシーが接続されているインターフェイスに関する情報を表示します。
ステップ 6	<b>debug ipv6 snooping</b> <b>Example:</b> Device# debug ipv6 snooping	IPv6 でスヌーピング情報のデバッグをイネーブルにします。

## IPv6 デバイス トラッキングの設定

### IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディング テーブルの内容の設定

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 neighbor binding** {*ipv6-address* | *ipv6-prefix*} **interface** *type number* [*hardware-address* | *mac-address*][**tracking** [**disable** | **enable** | **retry-interval** *value*] | **reachable-lifetime** *value*]
4. **ipv6 neighbor binding max-entries** *entries*
5. **ipv6 neighbor binding logging**
6. **exit**
7. **show ipv6 neighbor binding**

#### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> <b>例:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>例:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>ipv6 neighbor binding</b> { <i>ipv6-address</i>   <i>ipv6-prefix</i> } <b>interface</b> <i>type number</i> [ <i>hardware-address</i>   <i>mac-address</i> ][ <b>tracking</b> [ <b>disable</b>   <b>enable</b>   <b>retry-interval</b> <i>value</i> ]   <b>reachable-lifetime</b> <i>value</i> ]  例 :  Device(config)# ipv6 neighbor binding 2001:DB8:0:ABCD::1 interface GigabitEthernet 0/0/1 reachable-lifetime 100	バインディングテーブルデータベースにスタティック エントリを追加します。
ステップ 4	<b>ipv6 neighbor binding max-entries</b> <i>entries</i>  例 :  Device(config)# ipv6 neighbor binding max-entries 100	バインディング テーブル キャッシュに挿入できる エントリの最大数を指定します。
ステップ 5	<b>ipv6 neighbor binding logging</b>  例 :  Device(config)# ipv6 neighbor binding logging	バインディング テーブル メイン イベントのロギングを有効にします。
ステップ 6	<b>exit</b>  例 :  Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 7	<b>show ipv6 neighbor binding</b>  例 :  Device# show ipv6 neighbor binding	バインディング テーブルの内容を表示します。

## IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディング テーブルのリカバリ メカニズムの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 neighbor binding** *ipv6-address* **interface** *type number*
4. **ipv6 prefix-list** *list-name* **permit** *ipv6-prefix/prefix-length* **ge** *ge-value*
5. **ipv6 snooping policy** *snooping-policy-id*
6. **destination-glean** {**recovery** | **log-only**} [**dhcp**]
7. **data-glean** {**recovery** | **log-only**} [**ndp** | **dhcp**]
8. **prefix-glean**
9. **protocol dhcp** [**prefix-list** *prefix-list-name*]



10. **exit**
11. **ipv6 destination-guard policy *policy-name***
12. **enforcement {always | stressed}**
13. **exit**
14. **interface *type number***
15. **ipv6 snooping attach-policy *snooping-policy***
16. **ipv6 destination-guard attach-policy *policy-name***
17. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 neighbor binding <i>ipv6-address interface type number</i></b> 例 : Device(config)# ipv6 neighbor binding 2001:db8::1 interface GigabitEthernet3/0/1	バインディングテーブルデータベースにスタティック エントリを追加します。
ステップ 4	<b>ipv6 prefix-list <i>list-name permit ipv6-prefix/prefix-length ge ge-value</i></b> 例 : Device(config)# ipv6 prefix-list abc permit 2001:DB8::/64 ge 128	IPv6 プレフィックスリストのエントリを作成します。
ステップ 5	<b>ipv6 snooping policy <i>snooping-policy-id</i></b> 例 : Device(config)# ipv6 snooping policy xyz	IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードを開始し、指定されたスヌーピング ポリシーの設定を変更できるようします。
ステップ 6	<b>destination-glean {recovery   log-only} [dhcp]</b> 例 :	宛先アドレスは DHCP からリカバリする必要があることを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config-ipv6-snooping)# destination-glean recovery dhcp	(注) ログिंग (リカバリなし) が必要な場合は、 <b>destination-glean log-only</b> コマンドを使用します。
ステップ 7	<b>data-glean {recovery   log-only} [ndp   dhcp]</b> 例 : Device(config-ipv6-snooping)# data-glean recovery ndp	ソース (または「データ」) アドレス グリーニングを使用して、IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディングテーブルのリカバリをイネーブルにします。  (注) ログिंग (リカバリなし) が必要な場合は、 <b>data-glean log-only</b> コマンドを使用します。
ステップ 8	<b>prefix-glean</b> 例 : Device(config-ipv6-snooping)# prefix-glean	デバイスが IPv6 ルータアドバタイズメント (RA) または Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) からプレフィックスを収集できるようにします。
ステップ 9	<b>protocol dhcp [prefix-list prefix-list-name]</b> 例 : Device(config-ipv6-snooping)# protocol dhcp prefix-list abc	(任意) アドレスを DHCP で収集し、プロトコルを特定の IPv6 プレフィックスリストと関連付ける必要があることを指定します。
ステップ 10	<b>exit</b> 例 : Device(config-ipv6-snooping)# exit	IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 11	<b>ipv6 destination-guard policy policy-name</b> 例 : Device(config)# ipv6 destination-guard policy xyz	(任意) 宛先ガード コンフィギュレーション モードを開始し、指定した宛先ガード ポリシーの設定を変更できるようにします。
ステップ 12	<b>enforcement {always   stressed}</b> 例 : Device(config-destguard)# enforcement stressed	ポリシーの強制レベルを、すべての条件下で強制するか、システムに負荷がかかっている場合のみ強制するか設定します。
ステップ 13	<b>exit</b> 例 : Device(config-destguard)# exit	宛先ガード コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 14	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 15	<b>ipv6 snooping attach-policy</b> <i>snooping-policy</i> 例： Device(config-if)# ipv6 snooping attach-policy xyz	インターフェイスに IPv6 スヌーピング ポリシーを対応付けます。
ステップ 16	<b>ipv6 destination-guard attach-policy</b> <i>policy-name</i> 例： Device(config-if)# ipv6 destination-guard attach-policy xyz	指定したインターフェイスに宛先ガード ポリシーを対応付けます。  (注) IPv6 宛先ガード ポリシーの設定方法の詳細については、「IPv6 宛先ガード」を参照してください。
ステップ 17	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## アドレス収集の設定およびリカバリ プロトコルとプレフィックス リストの関連付け

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 snooping policy** *snooping-policy-id*
4. **protocol** {*dhcp* | *ndp*} [**prefix-list** *prefix-list-name*]
5. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# <code>configure terminal</code>	
ステップ 3	<b>ipv6 snooping policy <i>snooping-policy-id</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# <code>ipv6 snooping policy 200</code>	IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードを開始し、指定されたスヌーピングポリシーの設定を変更できるようします。
ステップ 4	<b>protocol {dhcp   ndp} [<b>prefix-list <i>prefix-list-name</i></b>]</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-snooping)# <code>protocol dhcp prefix-list dhcp_prefix_list</code>	Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) で収集される必要があるアドレスを指定し、リカバリプロトコル (DHCP) とプレフィックスリストを関連付けます。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-snooping)# <code>end</code>	IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPv6 デバイス トラッキングの設定

IPv6 デバイス トラッキング機能のバインディングテーブルでエントリのライフサイクルを細かく調整するには、次の作業を実行します。IPv6 デバイス トラッキングが機能するには、バインディングテーブルにデータを入力する必要があります。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `ipv6 neighbor tracking [retry-interval value]`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> <code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>ipv6 neighbor tracking</b> [retry-interval <i>value</i> ] <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 neighbor tracking	バインディングテーブルのエントリを追跡します。

## IPv6 プレフィックス収集の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 snooping policy** *snooping-policy*
4. **prefix-glean** [only]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 snooping policy</b> <i>snooping-policy</i> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 snooping policy policy1	IPv6 スヌーピング ポリシーを設定し、IPv6 スヌーピング ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>prefix-glean</b> [only] <b>Example:</b> Device(config-ipv6-snooping)# prefix-glean	デバイスが IPv6 RA または DHCPv6 トラフィックからプレフィックスを収集できるようにします。

## IPv6 スヌーピングの設定例

### 例：インターフェイスの IPv6 ND インспекションの設定

```
Device(config)# ipv6 snooping policy policy1
Device(config-ipv6-snooping)# exit
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1
Device(config-if)# ipv6 snooping attach-policy policy1
.
.
.
Device# show ipv6 snooping policies interface gigabitEthernet 0/0/1
Target          Type Policy          Feature          Target range
Gi0/0/1         PORT my_policy       Destination Gu  vlan all
Gi0/0/1         PORT policy1      Snooping        vlan all
```

### 例：IPv6 バインディング テーブルの内容の設定

```
Device(config)# ipv6 neighbor binding 2001:DB8:0:ABCD::1 interface GigabitEthernet 0/0/1
reachable-lifetime 100
Device(config)# ipv6 neighbor binding max-entries 100
Device(config)# ipv6 neighbor binding logging
Device(config)# exit
```

### 例：IPv6 ファーストホップセキュリティ バインディング テーブルのリカバリの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 neighbor binding 2001:db8::1 interface GigabitEthernet3/0/1
Device(config)# ipv6 prefix-list abc permit 2001:DB8::/64 ge 128
Device(config)# ipv6 snooping policy xyz
Device(config-ipv6-snooping)# destination-glean recovery dhcp
Device(config-ipv6-snooping)# data-glean recovery ndp
Device(config-ipv6-snooping)# prefix-glean
Device(config-ipv6-snooping)# protocol dhcp prefix-list abc
Device(config-ipv6-snooping)# exit
Device(config)# ipv6 destination-guard policy xyz
Device(config-destguard)# enforcement stressed
Device(config-destguard)# exit
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1
Device(config-if)# ipv6 snooping attach-policy xyz
Device(config-if)# ipv6 destination-guard attach-policy xyz
Device(config-if)# end
```

## 例：アドレス収集の設定およびリカバリプロトコルとプレフィックスリストの関連付け

次の例は、NDP がすべてのアドレスのリカバリに使用され、DHCP が `dhcp_prefix_list` という名前のプレフィックスリストと一致するアドレスのリカバリに使用されることを示しています。

```
Device(config-ipv6-snooping)# protocol ndp
Device(config-ipv6-snooping)# protocol dhcp prefix-list dhcp_prefix_list
```

## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 132: Cisco TrustSec の概要の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。







## CHAPTER 99

# IPv6 DAD プロキシ

IPv6 Duplicate Address Detection (DAD) プロキシ機能は、クエリされたアドレスを所有するノードに代わって DAD クエリに応答します。この機能は、ノードがリンク上で直接通信できない環境で役立ちます。

- [IPv6 DAD プロキシの制限, on page 1161](#)
- [IPv6 DAD プロキシに関する情報, on page 1161](#)
- [IPv6 DAD プロキシの設定方法, on page 1162](#)
- [IPv6 DAD プロキシの設定例, on page 1163](#)
- [IPv6 DAD プロキシのその他の参考資料, on page 1164](#)
- [IPv6 DAD プロキシの機能情報, on page 1164](#)

## IPv6 DAD プロキシの制限

- IPv6 Duplicate Address Detection (DAD) 機能は、EtherChannel ポートではサポートされません。

## IPv6 DAD プロキシに関する情報

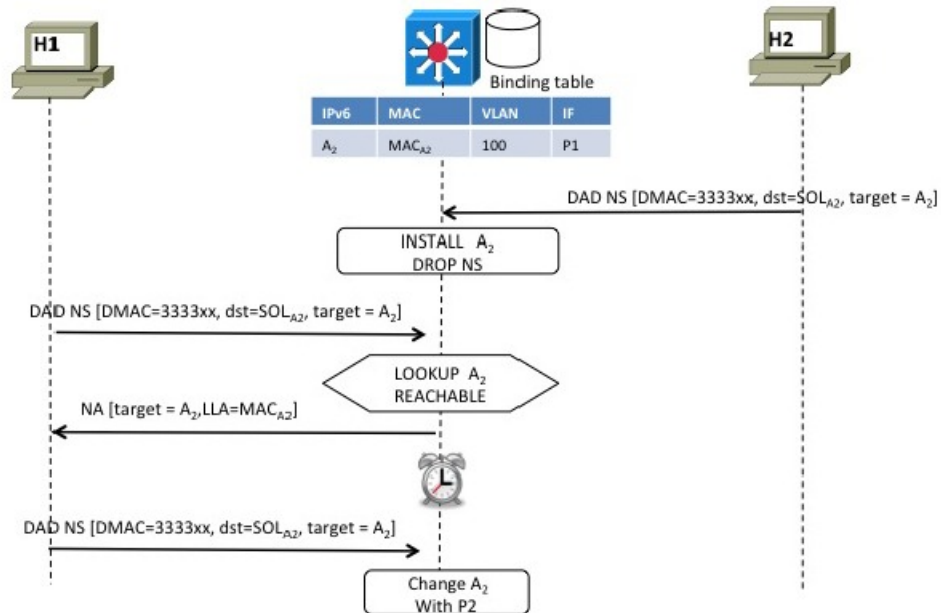
### IPv6 DAD プロキシの概要

IPv6 Duplicate Address Detection (DAD) 機能は、特定のセグメントに割り当てられるすべての IP アドレスを一意的なアドレスにします。このプロセスは、ホストが直接通信できず、プロキシが必要な場合に IPv6 ホスト同士が互いに直接通信するときに動作します。

ホストはそのアドレスが一意的であることを確認すると、DAD 手順を有効にします。ただし、2 台のホストが互いに通信ができない場合、この手順では重複アドレスを検出できません。DAD 手順を実行できない場合、両方のホストが同じリンクローカルアドレスを割り当てるため、どちらのホストも Dynamic Host Configuration Protocol バージョン 6 (DHCPv6) サーバに接続を試みると失敗します。IPv6 DAD プロキシ機能は、アドレスが使用中の場合、そのアドレスの所有者に代わって応答します。

次の図は、IPv6 DAD プロキシ機能の概要を示しています。

Figure 28: IPv6 DAD プロキシ



## IPv6 DAD プロキシの設定方法

### IPv6 DAD プロキシの設定

#### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. interface *type number*
4. [no] ipv6 nd dad-proxy
5. end

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1	インターフェイスのタイプおよび番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>[no] ipv6 nd dad-proxy</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 nd dad-proxy	ND 抑制を DAD プロキシモードで動作させる必要があるかどうか指定します。  このモードでは、DAD メッセージは転送されません。メッセージは既存のエントリに応答したり、バインディングテーブルに追加されたりします。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	ルータ インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPv6 DAD プロキシの設定例

## 例：IPv6 DAD プロキシの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface Ethernet 0/0
Device(config-if)# ipv6 nd dad-proxy
Device(config-if)# end
```

## IPv6 DAD プロキシのその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IPv6 アドレッシングと接続	『 <i>IPv6 Configuration Guide</i> 』
Cisco IOS コマンド	『 <i>Cisco IOS Master Commands List, All Releases</i> 』
IPv6 コマンド	『 <i>Cisco IOS IPv6 Command Reference</i> 』
Cisco IOS IPv6 機能	『 <i>Cisco IOS IPv6 Feature Mapping</i> 』

### MIB

MIB	MIB のリンク
	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IPv6 DAD プロキシの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 133: IPv6 DAD プロキシの機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 DAD プロキシ		次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ipv6 nd dad-proxy</b> 、 <b>mode dad-proxy</b> 、 <b>mode md-proxy</b>





## CHAPTER 100

# IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制

IPv6 ネイバー探索 (ND) マルチキャスト抑制機能は、ND マルチキャスト ネイバー送信要求 (NS) メッセージをドロップする (およびターゲットに代わって送信要求に応答する) か、またはユニキャストトラフィックに変換することでメッセージを抑制します。マルチキャストトラフィックからユニキャストトラフィックへの変換は、レイヤ2 マルチキャスト宛先 MAC をレイヤ2 ユニキャスト宛先 MAC で置き換えることで行われます。変換するには、リンク上のアドレスと各アドレスのレイヤ2へのバインディングを把握している必要があります。抑制されたマルチキャストメッセージは、ネイバー送信要求 (NS) メッセージです。

- [IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制に関する情報, on page 1167](#)
- [IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の設定方法, on page 1168](#)
- [IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の設定例, on page 1169](#)
- [IPv6 ネイバー探索マルチキャスト除去に関するその他の参考資料, on page 1169](#)
- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1170](#)

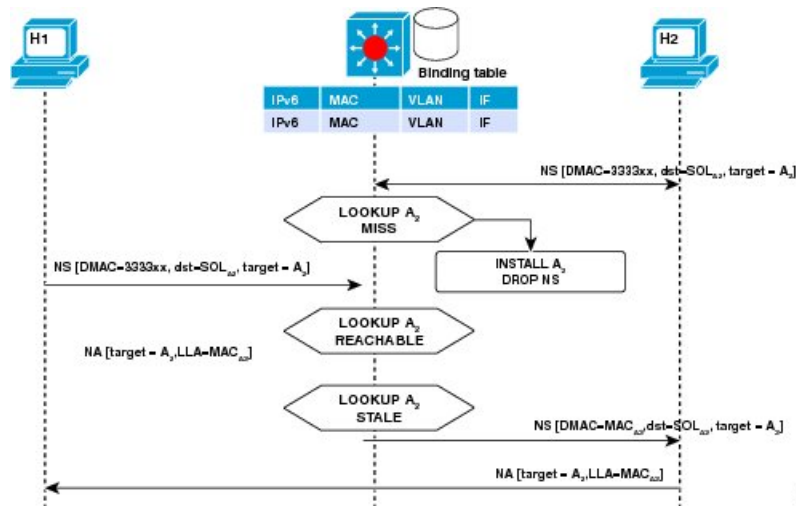
## IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制に関する情報

### IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の概要

IPv6 ネイバー探索 (ND) マルチキャスト抑制機能では、ND マルチキャスト ネイバー送信要求 (NS) メッセージを、ドロップする (およびターゲットに代わって送信要求に応答する) か、またはユニキャストトラフィックに変換することで停止します。この機能は、適切なリンク運用に必要な制御トラフィックの量を削減します。

アドレスがバインディングテーブルに挿入されると、マルチキャストアドレスに送信されたアドレス解決要求が代行受信され、デバイスはアドレスの所有者に代わって応答するか、要求をユニキャストメッセージに変換して宛先に転送します。

次の図は、この機能の概要を示しています。



## IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の設定方法

### インターフェイスの IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の設定

#### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. ipv6 nd suppress policy *policy-name*
4. [no] mode mc-proxy
5. [no] mode full-proxy
6. end

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>ipv6 nd suppress policy <i>policy-name</i></b> <b>Example:</b>  Device (config)# ipv6 nd suppress policy policy1 Device (config-nd-suppress)#	設定するネイバー探索 (ND) 抑制ポリシーの名前を指定します。
ステップ 4	<b>[no] mode mc-proxy</b> <b>Example:</b>  Device (config-nd-suppress)# mode mc-proxy	ND 抑制ですべてのマルチキャスト ネイバー送信要求 (NS) メッセージをプロキシする必要があるかどうか指定します。
ステップ 5	<b>[no] mode full-proxy</b> <b>Example:</b>  Device (config-nd-suppress)# mode full-proxy	ND 抑制でユニキャストとマルチキャストの両方の NS メッセージをプロキシする必要があるかどうか指定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device (config-nd-suppress)# end	ND 抑制モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPv6 ネイバー探索マルチキャスト抑制の設定例

### 例：インターフェイスの IPv6 ネイバー探索抑制の設定

```
Device> enable
Device(config)# interface Ethernet 0/0
Device(config-if)# ipv6 nd suppress attach-policy policy1
```

## IPv6 ネイバー探索マルチキャスト除去に関するその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IPv6 アドレッシングと接続	『 <a href="#">IPv6 Configuration Guide</a> 』
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』

関連項目	マニュアル タイトル
IPv6 コマンド	『Cisco IOS IPv6 Command Reference』
Cisco IOS IPv6 機能	『Cisco IOS IPv6 Feature Mapping』

## MIB

MIB	MIB のリンク
	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

# Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 134: Cisco TrustSec の概要の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。





## CHAPTER 101

# DHCP—DHCPv6 ガード

このモジュールでは、Dynamic Host Configuration Protocol バージョン 6 (DHCPv6) ガード機能について説明します。この機能は、サーバからクライアントに DHCP パケットを転送する、承認されていない DHCP サーバとリレー エージェントから発信される DHCP 応答やアドバタイズメントメッセージをブロックします。リレー エージェントによってクライアントからサーバに送信されるクライアントメッセージはブロックされません。フィルタリングの判断は、受信側のスイッチポート、トランク、または VLAN に割り当てられているデバイスのロールによって決まります。また、より細かいレベルのフィルタ精度を提供するために、送信元サーバやリレー エージェントのアドレスに基づいて、または応答メッセージに記載されているプレフィックスやアドレスの範囲によってメッセージをフィルタリングできます。この機能により、トラフィック リダイレクションやサービス妨害 (DoS) を防ぐことができます。

- [DHCPv6 ガードの制限, on page 1173](#)
- [DHCPv6 ガードに関する情報, on page 1173](#)
- [DHCPv6 ガードの設定方法, on page 1174](#)
- [DHCPv6 ガードの設定例, on page 1177](#)
- [その他の参考資料, on page 1177](#)
- [DHCP—DHCPv6 ガードの機能情報, on page 1178](#)

## DHCPv6 ガードの制限

- DHCPv6 ガード機能は、EtherChannel ポートではサポートされません。

## DHCPv6 ガードに関する情報

### DHCPv6 ガードの概要

DHCPv6 ガード機能は、承認されていない DHCP サーバおよびリレー エージェントからの応答およびアドバタイズメントメッセージをブロックします。

パケットは3つの DHCP メッセージタイプのいずれかに分類されます。すべてのクライアントメッセージは、デバイスのロールに関係なく、常にスイッチングされます。DHCP サーバのメッセージは、デバイスのロールがサーバに設定されている場合のみさらに処理されます。DHCP サーバのアドバタイズメント（送信元の検証とサーバの設定の場合）および DHCP サーバの応答（許可されたプレフィックスの場合）を含むサーバメッセージはさらに処理されます。

デバイスが DHCP サーバとして設定されている場合、デバイスのロールの設定に関係なく、すべてのメッセージをスイッチングする必要があります。

## DHCPv6 ガードの設定方法

### DHCP—DHCPv6 ガードの設定

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 access-list *access-list-name***
4. **permit host *address any***
5. **exit**
6. **ipv6 prefix-list *list-name permit ipv6-prefix 128***
7. **ipv6 dhcp guard policy *policy-name***
8. **device-role {client | server}**
9. **match server access-list *ipv6-access-list-name***
10. **match reply prefix-list *ipv6-prefix-list-name***
11. **preference min *limit***
12. **preference max *limit***
13. **trusted-port**
14. **exit**
15. **interface *type number***
16. **switchport**
17. **exit**
18. **exit**
19. **show ipv6 dhcp guard policy [*policy-name*]**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。

	Command or Action	Purpose
	Device> enable	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 access-list access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 access-list acl1	IPv6 アクセス リストを定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>permit host address any</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# permit host FE80::A8BB:CCFF:FE01:F700 any	名前付き IP アクセス リストに条件を設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# exit	IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>ipv6 prefix-list list-name permit ipv6-prefix 128</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 prefix-list abc permit 2001:0DB8::/64 le 128	IPv6 プレフィックス リストのエントリを作成します。
ステップ 7	<b>ipv6 dhcp guard policy policy-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 dhcp guard policy poll	DHCPv6 ガードポリシー名を定義して、DHCP ガード コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>device-role {client   server}</b> <b>Example:</b> Device(config-dhcp-guard)# device-role server	ターゲット（インターフェイスまたは VLAN）に接続されているデバイスのデバイス ロールを指定します。
ステップ 9	<b>match server access-list ipv6-access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config-dhcp-guard)# match server access-list acl1	（任意） 検査済みメッセージ内のアドバタイズされた DHCP サーバおよびリレー アドレスが設定された承認サーバアクセス リストからのものであることの検証をイネーブルにします。設定されていない場合、このチェックは回避されます。空のアクセス リストは、 <b>permit</b> として処理されます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 10	<b>match reply prefix-list</b> <i>ipv6-prefix-list-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-dhcp-guard)# match reply prefix-list abc</pre>	(任意) DHCP 応答メッセージ内のアドバタイズされたプレフィックスが設定された承認プレフィックスリストからのものであることの検証をイネーブルにします。設定されていない場合、このチェックは回避されます。空のプレフィックスリストは、 <b>permit</b> として処理されます。
ステップ 11	<b>preference min</b> <i>limit</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-dhcp-guard)# preference min 0</pre>	(任意) アドバタイズされた設定 ([ <i>preference</i> ] オプション内) が指定された制限を超過しているかどうかの検証をイネーブルにします。設定されていない場合、このチェックは回避されます。
ステップ 12	<b>preference max</b> <i>limit</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-dhcp-guard)# preference max 255</pre>	(任意) アドバタイズされた設定 ([ <i>preference</i> ] オプション内) が指定された制限未満であるかどうかの検証をイネーブルにします。設定されていない場合、このチェックは回避されます。
ステップ 13	<b>trusted-port</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-dhcp-guard)# trusted-port</pre>	(任意) このポリシーが信頼できるポートに適用されることを指定します。すべての DHCP ガード ポリシングが無効になります。
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-dhcp-guard)# exit</pre>	DHCP ガード コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 15	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# interface GigabitEthernet 0/2/0</pre>	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 16	<b>switchport</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# switchport</pre>	レイヤ3モードになっているインターフェイスを、レイヤ2 設定用にレイヤ2 モードにします。
ステップ 17	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# exit</pre>	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 18	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。



	Command or Action	Purpose
ステップ 19	<b>show ipv6 dhcp guard policy</b> [policy-name] <b>Example:</b> Device# show ipv6 dhcp policy guard poll	(任意) ポリシー設定と、そのポリシーが適用されるすべてのインターフェイスを表示します。

## DHCPv6 ガードの設定例

### 例：DHCP—DHCPv6 ガードの設定

次の例は、DHCPv6 ガードの設定例を示しています。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
DHCP コマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト、使用上の注意事項、および例	『 <i>Cisco IOS IP Addressing Services Command Reference</i> 』
DHCP の概念情報および設定情報	『 <i>Cisco IOS IP Addressing Services Configuration Guide</i> 』

### 標準規格/RFC

標準	タイトル
この機能でサポートが追加または変更された 標準/RFC はありません。	—

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## DHCP—DHCPv6 ガードの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 135: DHCP—DHCPv6 ガードの機能情報

機能名	リリース	機能情報
DHCP—DHCPv6 ガード		<p>DHCP—DHCPv6 ガード機能は、サーバからクライアントに DHCP パケットを転送する、承認されていない DHCP サーバとリレー エージェントから発信される DHCP 応答やアドバタイズメント メッセージをブロックします。リレー エージェントによってクライアントからサーバに送信されるクライアント メッセージはブロックされません。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>device-role</b>、<b>ipv6 dhcp guard attach-policy (DHCPv6 Guard)</b>、<b>ipv6 dhcp guard policy</b>、<b>match reply prefix-list</b>、<b>match server access-list</b>、<b>preference (DHCPv6 Guard)</b>、<b>show ipv6 dhcp guard policy</b>、<b>trusted-port (DHCPv6 Guard)</b>。</p>





## CHAPTER 102

# IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガード

IPv6 ソース ガードと IPv6 プレフィックス ガードは、IPv6 トラフィックの送信元を検証するレイヤ 2 スヌーピング機能です。IPv6 ソース ガードは、不明な送信元からのデータ トラフィックをブロックします。たとえば、バインディングテーブルにまだ入力されていないトラフィックや、ネイバー探索 (ND) または Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) グリーニングを介して学習されていないトラフィックをブロックします。IPv6 プレフィックス ガードは、承認および委任されたトラフィック以外のホームノードが送信元のトラフィックを阻止します。

- [IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードに関する情報, on page 1181](#)
- [IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードの設定方法, on page 1184](#)
- [IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードの設定例, on page 1187](#)
- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1187](#)

## IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードに関する情報

### IPv6 ソース ガードの概要

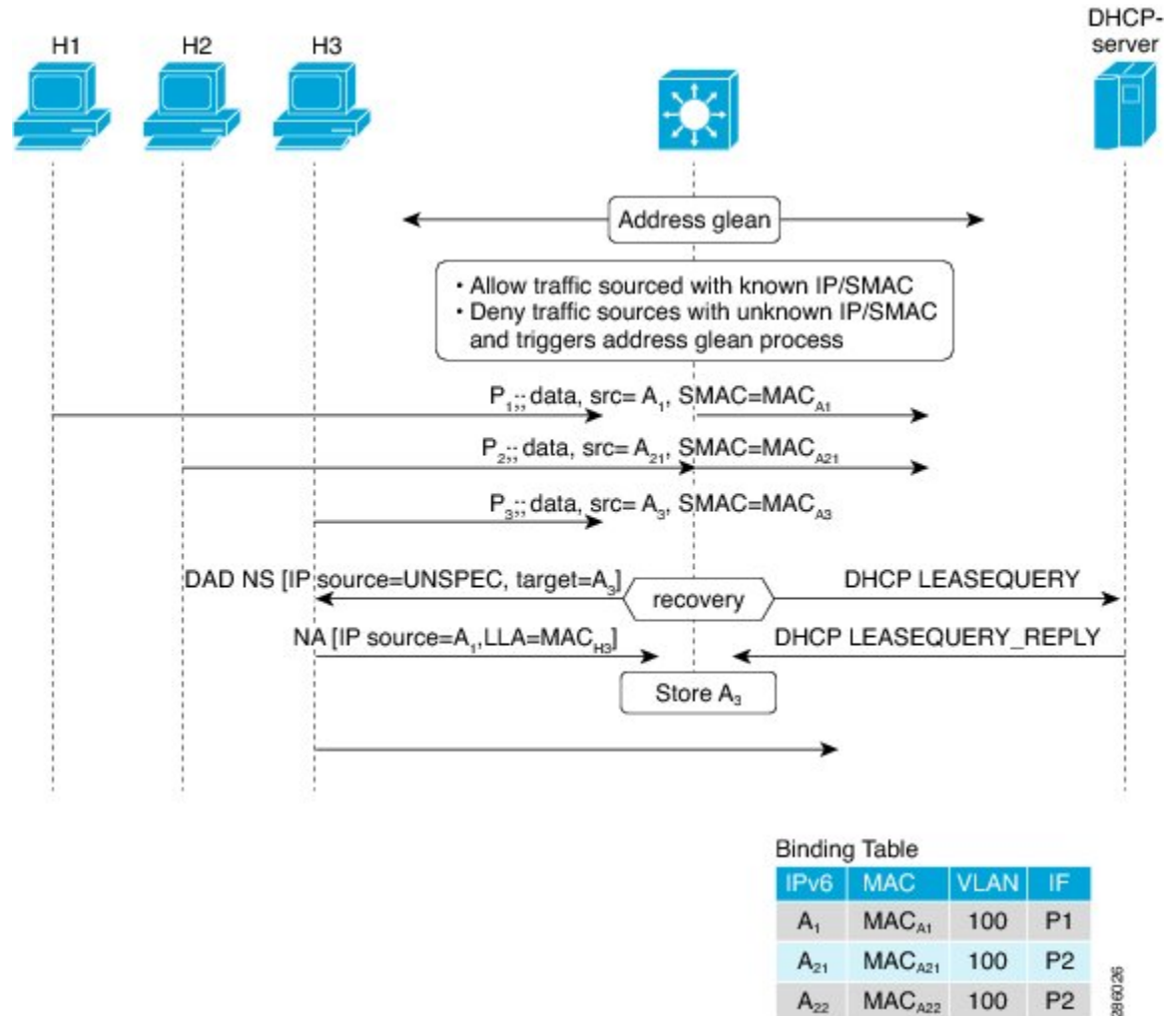
IPv6 ソース ガードは、入力されたバインディング テーブルとデータ トラフィックのフィルタリング間で動作するインターフェイス機能です。この機能により、デバイスは、バインディング テーブルに保存されていないアドレスから送信されたトラフィックを拒否できます。IPv6 ソース ガードは ND や DHCP パケットを検査せず、むしろ、IPv6 ネイバー探索 (ND) インスタクションや IPv6 アドレス収集 (どちらもリンク上の既存アドレスを検出して、バインディング テーブルに保存する機能) と連動して機能します。IPv6 ソース ガードは、入力されたバインディング テーブルとデータ トラフィックのフィルタリング間で動作するインターフェイスであり、IPv6 ソース ガードが機能するためには、バインディング テーブルに IPv6 プレフィックスが入力されている必要があります。

IPv6 ソース ガードは、DHCP サーバによって割り当てられていない送信元からのトラフィックなど、不明な発信元や未割り当てのアドレスからのトラフィックを拒否できます。トラフィック

クが拒否されると、IPv6アドレス収集機能に通知されるため、DHCPサーバをクエリして、またはIPv6NDを使用して、トラフィックのリカバリを試みることができます。データ収集機能は、有効なアドレスをバインディングテーブルに保存できず、復旧パスがなく、エンドユーザが接続できなくなるとすぐに、デバイスとエンドユーザがデッドロックになるのを防ぎます。

次の図は、IPv6 ソース ガードと IPv6 アドレス収集の仕組みの概要を示しています。

Figure 29: IPv6 ソース ガードとアドレス収集の概要



## IPv6 プレフィックス ガードの概要

IPv6 プレフィックス ガード機能は、IPv6 ソース ガード機能内で動作し、トポロジ面で正しくないアドレスから発信されたトラフィックをデバイスが拒否できるようにします。IPv6 プレフィックス ガードは、IPv6 プレフィックスが DHCP プレフィックス委任を使用してデバイス（ホームゲートウェイなど）に委任される場合によく使用されています。この機能は、リンク

に割り当てられたアドレスの範囲を検出し、この範囲に入っていないアドレスを発信元とするトラフィックをブロックします。

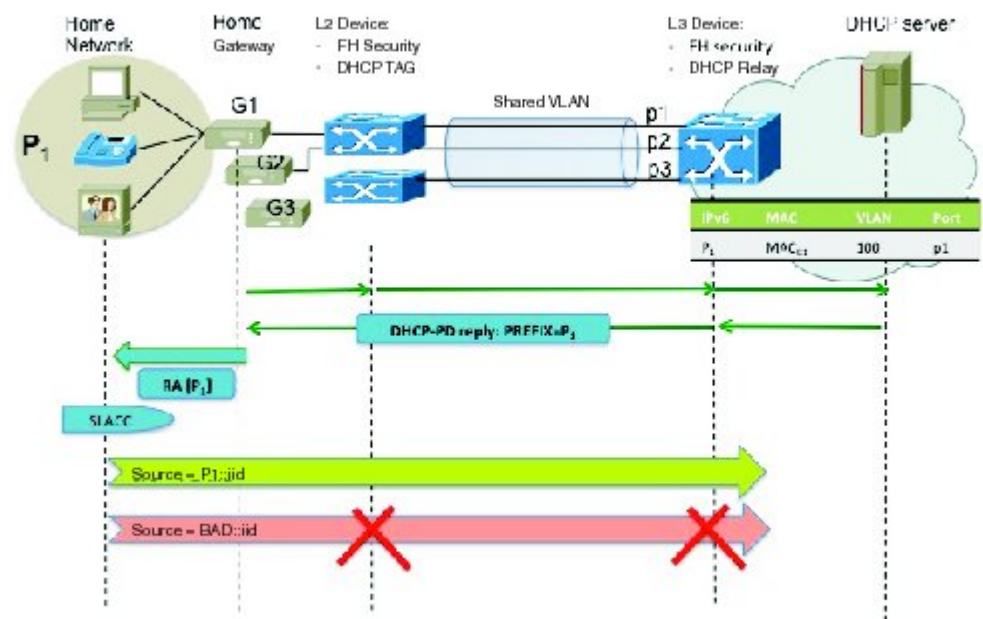
許可するプレフィックスとブロックするプレフィックスを決めるために、IPv6 プレフィックスガードは以下の情報を使用します。

- ルータ アドバタイズメント (RA) でのプレフィックス収集
- DHCP プレフィックス委任でのプレフィックス収集
- 静的設定

IPv6 プレフィックス ガードでは、許可されるプレフィックスは常にハードウェア テーブルにダウンロードされます。ハードウェアは、パケットのスイッチングが行われるたびに、パケットの送信元をこのテーブルで照合し、一致するものがない場合そのパケットをドロップします。

次の図は、プレフィックスが DHCP-PD メッセージで収集されるサービスプロバイダー (SP) のシナリオを示しています。

Figure 30: プレフィックスが収集される DHCP-PD メッセージのシナリオ



304714

# IPv6 ソース ガードとプレフィックス ガードの設定方法

## IPv6 ソース ガードの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 source-guard policy** *source-guard-policy*
4. **permit link-local**
5. **deny global-autoconf**
6. **trusted**
7. **exit**
8. **show ipv6 source-guard policy** [*snooping-policy*]

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 source-guard policy</b> <i>source-guard-policy</i> 例： Device(config)# ipv6 source-guard policy my_sourceguard_policy	IPv6 ソースガードポリシー名を定義して、スイッチ統合セキュリティ機能のソースガードポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>permit link-local</b> 例： Device(config-sisf-sourceguard)# permit link-local	リンクローカルアドレスから発信されるすべてのデータトラフィックに対するハードウェアブリッジングを許可します。
ステップ 5	<b>deny global-autoconf</b> 例： Device(config-sisf-sourceguard)# deny global-autoconf	自動設定されたグローバルアドレスからのデータトラフィックを拒否します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>trusted</b> 例： Device(config-sisf-sourceguard)# trusted	ポリシーが適用されるターゲットのすべてのデータトラフィックに対するハードウェアブリッジングを許可します。
ステップ 7	<b>exit</b> 例： Device(config-sisf-sourceguard)# exit	ソース ガード ポリシー コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>show ipv6 source-guard policy [snooping-policy]</b> 例： Device# show ipv6 source-guard policy policy1	IPv6 ソースガード ポリシー設定を表示します。

## インターフェイスの IPv6 ソース ガードの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface type number**
4. **ipv6 source-guard attach-policy source-guard-policy**
5. **exit**
6. **show ipv6 source-guard policy source-guard-policy**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface fastethernet 3/13	インターフェイスのタイプおよび番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>ipv6 source-guard attach-policy</b> <i>source-guard-policy</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 source-guard attach-policy my_source_guard_policy	インターフェイスに IPv6 ソース ガードを適用します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了して、デバイスを特権 EXEC モードにします。
ステップ 6	<b>show ipv6 source-guard policy</b> <i>source-guard-policy</i> <b>Example:</b> Device# show ipv6 source-guard policy policy1	IPv6 ソース ガードが適用されているすべてのインターフェイスを表示します。

## IPv6 プレフィックス ガードの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 source-guard policy** *source-guard-policy*
4. **validate address**
5. **validate prefix**
6. **exit**
7. **show ipv6 source-guard policy** [*source-guard-policy*]

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>ipv6 source-guard policy</b> <i>source-guard-policy</i> 例： Device(config)# ipv6 source-guard policy my_snooping_policy	IPv6 ソースガードポリシー名を定義して、スイッチ統合セキュリティ機能のソースガードポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>validate address</b> 例： Device(config-sisf-sourceguard)# no validate address	アドレス検証機能を無効にし、IPv6 プレフィックスガード機能を設定できるようにします。
ステップ 5	<b>validate prefix</b> 例： Device(config-sisf-sourceguard)# validate prefix	IPv6 プレフィックスガード動作を実行するよう、IPv6 ソースガードを有効にします。
ステップ 6	<b>exit</b> 例： Device(config-sisf-sourceguard)# exit	スイッチ統合セキュリティ機能のソースガードポリシー コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<b>show ipv6 source-guard policy</b> [ <i>source-guard-policy</i> ] 例： Device# show ipv6 source-guard policy policy1	IPv6 ソースガードポリシー設定を表示します。

## IPv6 ソースガードとプレフィックスガードの設定例

### 例：IPv6 ソースガードとプレフィックスガードの設定

```
Device# ipv6 source-guard policy policy1
```

```
Policy guard configuration:
  validate prefix
  validate address
```

## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 136: Cisco TrustSec の概要の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。



## CHAPTER 103

# IPv6 宛先ガード

IPv6 宛先ガード機能は、IPv6 ネイバー探索とともに動作して、リンク上でアクティブであると認識されているアドレスについてのみ、デバイスがアドレス解決を行うようにします。アドレス収集機能を用いてリンク上でアクティブな全ての宛先をバインディング表に追加し、バインディング表にない宛先に対するアドレス解決処理を実行前にブロックします。

- [IPv6 宛先ガードの前提条件 \(1189 ページ\)](#)
- [IPv6 宛先ガードに関する情報, on page 1189](#)
- [IPv6 宛先ガードの設定方法, on page 1190](#)
- [IPv6 宛先ガードの設定例, on page 1191](#)
- [その他の参考資料, on page 1192](#)
- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1192](#)

## IPv6 宛先ガードの前提条件

- IPv6 ネイバー探索機能についての知識が必要です。IPv6 ネイバー探索の詳細については、「IPv6 アドレッシングと基本接続の実装」を参照してください。
- IPv6 ファーストホップセキュリティバインディングテーブル機能についての知識が必要です。詳細については、「IPv6 ファーストホップセキュリティバインディングテーブル」を参照してください。

## IPv6 宛先ガードに関する情報

### IPv6 宛先ガードの概要

IPv6 宛先ガード機能は、IPv6 ネイバー探索とともに動作して、リンク上でアクティブであると認識されているアドレスについてのみ、デバイスがアドレス解決を行うようにします。アドレス収集機能を用いてリンク上でアクティブな全ての宛先をバインディング表に追加し、バインディング表にない宛先に対するアドレス解決処理を実行前にブロックします。

デバイスはルーティングされた着信トラフィックをフィルタリングする前に、Neighbor Discovery Protocol (NDP) メッセージおよび DHCP メッセージをスヌーピングして、リンク上のアドレスを収集します。パケットがデバイスに到達し、宛先またはネクストホップの隣接関係（アジャセンシー）がまだ存在していない場合、NDP はデバイス バインディング テーブルを参照して、リンク上の宛先またはネクストホップがすでに収集済みであるか確認します。バインディングテーブルに当該宛先が存在しない場合、そのパケットはドロップされます。存在する場合、ネイバー探索の解決が実行されます。

## IPv6 宛先ガードの設定方法

### IPv6 宛先ガードの設定

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 destination-guard policy *policy-name***
4. **enforcement {always | stressed}**
5. **exit**
6. **interface *type number***
7. **ipv6 destination-guard attach-policy [*policy-name*]**
8. **exit**
9. **show ipv6 destination-guard policy [*policy-name*]**

#### 手順の詳細

##### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例：  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例：  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 destination-guard policy <i>policy-name</i></b> 例：	宛先ガード ポリシー名を定義して、宛先ガード コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config)# ipv6 destination-guard policy poll	
ステップ 4	<b>enforcement {always   stressed}</b> 例 : Device(config-destguard)# enforcement always	ターゲット アドレスの強制レベルを設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> 例 : Device(config-destguard)# exit	宛先ガード コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>interface type number</b> 例 : Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>ipv6 destination-guard attach-policy [policy-name]</b> 例 : Device(config-if)# ipv6 destination-guard attach-policy poll	インターフェイスに宛先ガードポリシーを対応付けます。
ステップ 8	<b>exit</b> 例 : Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権EXEC コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 9	<b>show ipv6 destination-guard policy [policy-name]</b> 例 : Device# show ipv6 destination-guard policy poll	(任意) ポリシー設定と、そのポリシーが適用されるすべてのインターフェイスを表示します。

## IPv6 宛先ガードの設定例

### 例 : IPv6 宛先ガード ポリシーの設定

次の例は、宛先ガード ポリシーの設定方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1
```

```
Router(config-if)# ipv6 destination-guard attach-policy destination

Router# show ipv6 destination-guard policy destination
Destination guard policy Destination:
  enforcement always
  Target: Gi0/0/1
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
IPv6 アドレッシングと接続	『 <a href="#">IPv6 Configuration Guide</a> 』
IPv6 コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS IPv6 Command Reference</a> 』
Cisco IOS IPv6 機能	『 <a href="#">Cisco IOS IPv6 Feature Mapping</a> 』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。



プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 137: Cisco TrustSec の概要の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。





## CHAPTER 104

# IPv6 の RFC

### 標準および RFC

RFC	タイトル
RFC 1195	『Use of OSI IS-IS for Routing in TCP/IP and Dual Environments』
RFC 1267	『A Border Gateway Protocol 3 (BGP-3)』
RFC 1305	『Network Time Protocol (Version 3) Specification, Implementation and Analysis』
RFC 1583	『OSPF version 2』
RFC 1772	『Application of the Border Gateway Protocol in the Internet』
RFC 1886	『DNS Extensions to Support IP version 6』
RFC 1918	『Address Allocation for Private Internets』
RFC 1981	『Path MTU Discovery for IP version 6』
RFC 2080	『RIPng for IPv6』
RFC 2281	『Cisco Hot Standby Router Protocol (HSRP)』
RFC 2332	『NBMA Next Hop Resolution Protocol (NHRP)』
RFC 2373	『IP Version 6 Addressing Architecture』
RFC 2374	集約可能なグローバルユニキャスト形式
RFC 2375	『IPv6 Multicast Address Assignments』
RFC 2401	『Security Architecture for the Internet Protocol』
RFC 2402	『IP Authentication Header』
RFC 2404	『The Use of Hash Message Authentication Code Federal Information Processing Standard 180-1 within Encapsulating Security Payload and Authentication Header』

RFC	タイトル
RFC 2406	『 <i>IP Encapsulating Security Payload (ESP)</i> 』
RFC 2407	『 <i>The Internet Security Domain of Interpretation for ISAKMP</i> 』
RFC 2408	『 <i>Internet Security Association and Key Management Protocol</i> 』
RFC 2409	『 <i>Internet Key Exchange (IKE)</i> 』
RFC 2427	『 <i>Multiprotocol Interconnect over Frame Relay</i> 』
RFC 2428	『 <i>FTP Extensions for IPv6 and NATs</i> 』
RFC 2460	『 <i>Internet Protocol, Version 6 (IPv6) Specification</i> 』
RFC 2461	『 <i>Neighbor Discovery for IP Version 6 (IPv6)</i> 』
RFC 2462	『 <i>IPv6 Stateless Address Autoconfiguration</i> 』
RFC 2463	『 <i>Internet Control Message Protocol (ICMPv6) for the Internet Protocol Version 6 (IPv6) Specification</i> 』
RFC 2464	『 <i>Transmission of IPv6 Packets over Ethernet</i> 』
RFC 2467	『 <i>Transmission of IPv6 Packets over FDDI</i> 』
RFC 2472	『 <i>IP Version 6 over PPP</i> 』
RFC 2473	『 <i>Generic Packet Tunneling in IPv6 Specification</i> 』
RFC 2474	『 <i>Definition of the Differentiated Services Field (DS Field) in the IPv4 and IPv6 Headers</i> 』
RFC 2475	『 <i>An Architecture for Differentiated Services Framework</i> 』
RFC 2492	『 <i>IPv6 over ATM</i> 』
RFC 2545	『 <i>Use of BGP-4 Multiprotocol Extensions for IPv6 Inter-Domain Routing</i> 』
RFC 2590	『 <i>Transmission of IPv6 Packets over Frame Relay Specification</i> 』
RFC 2597	『 <i>Assured Forwarding PHB</i> 』
RFC 2598	『 <i>An Expedited Forwarding PHB</i> 』
RFC 2640	『 <i>Internet Protocol, Version 6 Specification</i> 』
RFC 2684	『 <i>Multiprotocol Encapsulation over ATM Adaptation Layer 5</i> 』
RFC 2697	『 <i>A Single Rate Three Color Marker</i> 』
RFC 2698	『 <i>A Two Rate Three Color Marker</i> 』

RFC	タイトル
RFC 2710	『Multicast Listener Discovery (MLD) for IPv6』
RFC 2711	『IPv6 Router Alert Option』
RFC 2732	『Format for Literal IPv6 Addresses in URLs』
RFC 2765	『Stateless IP/ICMP Translation Algorithm (SIIT)』
RFC 2766	『Network Address Translation-Protocol Translation (NAT-PT)』
RFC 2858	『Multiprotocol Extensions for BGP-4』
RFC 2893	『Transition Mechanisms for IPv6 Hosts and Routers』
RFC 3056	『Connection of IPv6 Domains via IPv4 Clouds』
RFC 3068	『An Anycast Prefix for 6to4 Relay Routers』
RFC 3095	『RObust Header Compression (ROHC): Framework and Four Profiles: RTP, UDP, ESP, and Uncompressed』
RFC 3107	『Carrying Label Information in BGP-4』
RFC 3137	『OSPF Stub Router Advertisement』
RFC 3147	『Generic Routing Encapsulation over CLNS』
RFC 3152	IP6.ARPA の委任
RFC 3162	RADIUS および IPv6
RFC 3315	『Dynamic Host Configuration Protocol for IPv6 (DHCPv6)』
RFC 3319	『Dynamic Host Configuration Protocol (DHCPv6) Options for Session Initiated Protocol (SIP) Servers』
RFC 3392	『Capabilities Advertisement with BGP-4』
RFC 3414	『User-based Security Model (USM) for version 3 of the Simple Network Management Protocol (SNMPv3)』
RFC 3484	『Default Address Selection for Internet Protocol version 6 (IPv6)』
RFC 3513	インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6) アドレス 指定アーキテクチャ
RFC 3576	『Change of Authorization』
RFC 3587	『IPv6 Global Unicast Address Format』
RFC 3590	『Source Address Selection for the Multicast Listener Discovery (MLD) Protocol』

RFC	タイトル
RFC 3596	『DNS Extensions to Support IP Version 6』
RFC 3633	『DHCP IPv6 Prefix Delegation』
RFC 3646	『DNS Configuration options for Dynamic Host Configuration Protocol for IPv6 (DHCPv6)』
RFC 3697	『IPv6 Flow Label Specification』
RFC 3736	『Stateless DHCP Service for IPv6』
RFC 3756	『IPv6 Neighbor Discovery (ND) Trust Models and Threats』
RFC 3759	『RObust Header Compression (ROHC): Terminology and Channel Mapping Examples』
RFC 3775	『Mobility Support in IPv6』
RFC 3810	『Multicast Listener Discovery Version 2 (MLDv2) for IPv6』
RFC 3846	『Mobile IPv4 Extension for Carrying Network Access Identifiers』
RFC 3879	『Deprecating Site Local Addresses』
RFC 3898	『Network Information Service (NIS) Configuration Options for Dynamic Host Configuration Protocol for IPv6 (DHCPv6)』
RFC 3954	『Cisco Systems NetFlow Services Export Version 9』
RFC 3956	『Embedding the Rendezvous Point (RP) Address in an IPv6 Multicast Address』
RFC 3963	『Network Mobility (NEMO) Basic Support Protocol』
RFC 3971	『SEcure Neighbor Discovery (SEND)』
RFC 3972	『Cryptographically Generated Addresses (CGA)』
RFC 4007	『IPv6 Scoped Address Architecture』
RFC 4075	『Simple Network Time Protocol (SNTP) Configuration Option for DHCPv6』
RFC 4087	『IP Tunnel MIB』
RFC 4091	『The Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics for the Session Description Protocol (SDP) Grouping Framework』
RFC 4092	『Usage of the Session Description Protocol (SDP) Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics in the Session Initiation Protocol (SIP)』
RFC 4109	『Algorithms for Internet Key Exchange version 1 (IKEv1)』
RFC 4191	『Default Router Preferences and More-Specific Routes』

RFC	タイトル
RFC 4193	固有ローカル IPv6 ユニキャスト アドレス
RFC 4214	『 <i>Intra-Site Automatic Tunnel Addressing Protocol (ISATAP)</i> 』
RFC 4242	『 <i>Information Refresh Time Option for Dynamic Host Configuration Protocol for IPv6 (DHCPv6)</i> 』
RFC 4282	『 <i>The Network Access Identifier</i> 』
RFC 4283	『 <i>Mobile Node Identifier Option for Mobile IPv6</i> 』
RFC 4285	『 <i>Authentication Protocol for Mobile IPv6</i> 』
RFC 4291	『 <i>IP Version 6 Addressing Architecture</i> 』
RFC 4292	『 <i>IP Forwarding Table MIB</i> 』
RFC 4293	『 <i>Management Information Base for the Internet Protocol (IP)</i> 』
RFC 4302	『 <i>IP Authentication Header</i> 』
RFC 4306	『 <i>Internet Key Exchange (IKEv2) Protocol</i> 』
RFC 4308	『 <i>Cryptographic Suites for IPsec</i> 』
RFC 4364	『 <i>BGP MPLS/IP Virtual Private Networks (VPNs)</i> 』
RFC 4382	『 <i>MPLS/BGP Layer 3 Virtual Private Network (VPN) Management Information Base</i> 』
RFC 4443	『 <i>Internet Control Message Protocol (ICMPv6) for the Internet Protocol Version 6 (IPv6) Specification</i> 』
RFC 4552	『 <i>Authentication/Confidentiality for OSPFv3</i> 』
RFC 4594	『 <i>Configuration Guidelines for DiffServ Service Classes</i> 』
RFC 4601	『 <i>Protocol Independent Multicast - Sparse Mode (PIM-SM): Protocol Specification</i> 』
RFC 4610	『 <i>Anycast-RP Using Protocol Independent Multicast (PIM)</i> 』
RFC 4649	『 <i>Dynamic Host Configuration Protocol for IPv6 (DHCPv6) Relay Agent Remote-ID Option</i> 』
RFC 4659	『 <i>BGP-MPLS IP Virtual Private Network (VPN) Extension for IPv6 VPN</i> 』
RFC 4724	『 <i>Graceful Restart Mechanism for BGP</i> 』
RFC 4798	『 <i>Connecting IPv6 Islands over IPv4 MPLS Using IPv6 Provider Edge Routers (6PE)</i> 』
RFC 4818	『 <i>RADIUS Delegated-IPv6-Prefix Attribute</i> 』

RFC	タイトル
RFC 4861	『Neighbor Discovery for IP version 6 (IPv6)』
RFC 4862	『IPv6 Stateless Address Autoconfiguration』
RFC 4884	『Extended ICMP to Support Multi-Part Messages』
RFC 4885	『Network Mobility Support Terminology』
RFC 4887	『Network Mobility Home Network Models』
RFC 5015	『Bidirectional Protocol Independent Multicast (BIDIR-PIM)』
RFC 5059	『Bootstrap Router (BSR) Mechanism for Protocol Independent Multicast (PIM)』
RFC 5072	『IPv6 over PPP』
RFC 5095	『Deprecation of Type 0 Routing Headers in IPv6』
RFC 5120	『M-ISIS: Multi Topology (MT) Routing in Intermediate System to Intermediate Systems (IS-ISs)』
RFC 5130	『A Policy Control Mechanism in IS-IS Using Administrative Tags』
RFC 5187	『OSPFv3 Graceful Restart』
RFC 5213	『Proxy Mobile IPv6』
RFC 5308	『Routing IPv6 with IS-IS』
RFC 5340	『OSPF for IPv6』
RFC 5460	『DHCPv6 Bulk Leasequery』
RFC 5643	『Management Information Base for OSPFv3』
RFC 5838	『Support of Address Families in OSPFv3』
RFC 5844	『IPv4 Support for Proxy Mobile IPv6』
RFC 5845	『Generic Routing Encapsulation (GRE) Key Option for Proxy Mobile IPv6』
RFC 5846	『Binding Revocation for IPv6 Mobility』
RFC 5881	『Bidirectional Forwarding Detection (BFD) for IPv4 and IPv6 (Single Hop)』
RFC 5905	『Network Time Protocol Version 4: Protocol and Algorithms Specification』
RFC 5969	『IPv6 Rapid Deployment on IPv4 Infrastructures (6RD) -- Protocol Specification』
RFC 6105	『IPv6 Router Advertisement Guard』



RFC	タイトル
RFC 6620	『 <i>FCFS SAVI: First-Come, First-Served Source Address Validation Improvement for Locally Assigned IPv6 Addresses</i> 』





## 第 **X** 部

# MACsec と MKA

- [WAN MACSEC および MKA のサポートの機能強化 \(1205 ページ\)](#)
- [MACsec スマート ライセンス \(1237 ページ\)](#)
- [証明書ベースの MACsec 暗号化 \(1241 ページ\)](#)
- [MACsec as a Service : 暗号化ソリューション \(1265 ページ\)](#)





## 第 105 章

# WAN MACSEC および MKA のサポートの機能強化

WAN MACsec および MKA 機能により、WAN 上での MACsec のサポート、および MACsec Key Agreement (MKA) プロトコルのアップリンクのサポートと事前共有キーのサポートが導入されます。

- [WAN MACsec および MKA, on page 1205](#)
- [WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の前提条件 \(1206 ページ\)](#)
- [WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の制約事項 \(1207 ページ\)](#)
- [WAN MACsec および MKA のサポートの機能強化に関する情報 \(1208 ページ\)](#)
- [WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の設定方法 \(1216 ページ\)](#)
- [WAN MACsec および MKA の設定例 \(1226 ページ\)](#)
- [その他の参考資料, on page 1234](#)

## WAN MACsec および MKA

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 138: WAN MACsec および MKA

機能名	リリース	機能情報
WAN MACsec と MKA	Cisco IOS XE リリース 3.14S	WAN MACsec および MKA 機能により、WAN 上での MACsec のサポート、および MACsec Key Agreement (MKA) プロトコルのアップリンクのサポートと事前共有キーのサポートが導入されます。  次のコマンドが導入または変更されました。 confidentiality-offset、eapol destination-mac、key-server、linksec policy、replay-protection window-size
WAN インターフェイスカード上の MACsec	Cisco IOS XE Release 3.16S	WAN インターフェイスカード上の MACsec 機能により、Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) 上の WAN インターフェイスカードに MACsec サポートが導入されます。
EAPoL フレームイーサネットタイプを変更する MACsec CLI オプション	Cisco IOS XE リリース 3.17S	EAPoL フレームイーサネットタイプを変更する MACsec CLI オプションの機能により、Extensible Authentication Protocol over LAN (EAPoL) フレームイーサネットタイプをユーザーが変更できるようにするための設定オプションが提供されます。  次のコマンドが導入または変更されました。eapol eth-type
MACsec 暗号化を使用したポートチャネルの設定のサポート	Cisco IOS XE Gibraltar 17.2	この機能拡張により、MACsec 対応インターフェイスでポートチャネルを設定して、ポートチャネルトラフィックのシームレスなフローを実現できます。それにより、トラフィックが保護されます。

## WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の前提条件

- WAN MACsec には MACsec ライセンスが必要です。Cisco ASR 1000 シリーズイーサネットラインカードデータシートドキュメントの表 8 を参照してください。  
<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/application-networking-services/wide-area-application-services-waas-software/data-sheet-c78-729778.html>
- Cisco ISR 4000 プラットフォームでは、MACsec を設定するために HSECK9 ライセンスが必要です。
- レイヤ 2 の透過型イーサネット サービスが存在している必要があります。
- サービスプロバイダーネットワークが、Extensible Authentication Protocol over LAN (EAPoL) などの透過的な MACsec レイヤ 2 制御プロトコルを提供する必要があります。

## WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の制約事項

- Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでは、MACsec で AAA アカウ  
ンティングがサポートされません。
- Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでは、高可用性クラスタでの  
MKA の設定がサポートされません。
- MACsec でサポートされる最大速度は、各インターフェイスのライン レートです。ただ  
し、転送機能はシステムの最大転送容量によって制限される場合があります。
- Cisco ASR1001-X ルータでは、MACsec は内蔵ポートでのみサポートされます。ルータに  
取り付けられている共有ポート アダプタ (SPA) では有効にすることはできません。
- ポートチャネルを設定するには、リンクバンドルの各インターフェイスで MACsec を設定  
してください。
- メイン インターフェイス上でコマンド `macsec dot1q-in-clear 1` を使用してネイティブ サブ  
インターフェイス上に設定された MACsec はサポートされません。
- Cisco IOS XE Denali 16.3.3 リリース以降では、RP のスイッチオーバー時に、物理/サブイ  
ンターフェイス コンフィギュレーション モードでの `macsec` コマンドの再入力が必要あり  
ません。
- キーのラップ解除の失敗が原因で MKA セッションが切断された場合は、それぞれのイン  
ターフェイスで MACsec 設定コマンドを使用して事前共有キーベースの MKA セッション  
を再設定し、MKA セッションを接続状態にします。
- イーサネット仮想回線 (EVC) を使用した物理インターフェイスで設定された MACsec は  
サポートされません。このような場合、EAPoL フレームはドロップされます。
- Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータについて、次の表に、  
GigabitEthernet インターフェイスと、インターフェイスごとにサポートされるピアの最大  
数を示します。

GigabitEthernet イン ターフェイス	インターフェイスご とのピア数
1G	8
10G	32
40G	60
100 G	120

- `macsec dot1q-in-clear` が有効になっている場合、ネイティブ VLAN はサポートされませ  
ん。

# WAN MACsec および MKA のサポートの機能強化に関する情報

## MACsec および MKA の概要

MACsec は、IEEE 802.1AE 規格ベースのレイヤ 2 ホップバイホップ暗号化であり、これにより、メディア アクセス非依存プロトコルに対してデータの機密性と完全性を確保できます。

MACsec は、暗号化キーにアウトオブバンド方式を使用して、有線ネットワーク上で MAC レイヤの暗号化を提供します。MACsec Key Agreement (MKA) プロトコルでは、必要なセッションキーを提供し、必要な暗号化キーを管理します。ホスト側のリンク（ネットワーク アクセスデバイスと、PC や IP フォンなどのエンドポイントデバイス間のリンク）だけが MACsec を使用して保護できます。

MACsec Key Agreement (MKA) による 802.1AE 暗号化は、ルータまたはスイッチとホストデバイス間の暗号化用に、ダウンリンク ポートでサポートされます。

MACsec は、イーサネット パケットの送信元および宛先 MAC アドレスを除くすべてのデータを暗号化します。

WAN またはメトロイーサネット上に MACsec サービスを提供するために、サービスプロバイダーは、Ethernet over Multiprotocol Label Switching (EoMPLS) および L2TPv3 などのさまざまなトランスポート レイヤプロトコルを使用して、E-Line や E-LAN などのレイヤ 2 透過サービスを提供しています。

EAP-over-LAN (EAPOL) プロトコルデータユニット (PDU) のパケット本体は、MACsec Key Agreement PDU (MKPDU) と呼ばれます。3 ハートビート (1 ハートビートは 2 秒) 後に MKPDU が受信されない場合、ライブピアのリストからピアが削除されます。たとえば、クライアントが切断されると、最後の MKPDU がクライアントにより受信されてから 3 ハートビートが経過するまで、スイッチ上の参加者は MKA を操作し続けます。

MKA 機能のサポートにより、暗号化されていない VLAN タグ (802.1Q タグ) などのトンネリング情報を提供します。そのため、サービスプロバイダーは、複数のポイントツーポイントサービスやマルチポイントサービスが単一の物理インターフェイス上で共存でき、表示されるようになった VLAN ID に基づいて差別化できるように、サービス多重化を提供できます。

サービス多重化の他に、暗号化されていない VLAN タグもサービスプロバイダーが 802.1Q タグの一部として表示されている 802.1P (CoS) に基づいて SP ネットワーク全体にわたり Quality of Service (QoS) を提供できるようにします。

## WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の利点

- ポイントツーポイント (P2P) 導入モデルのサポート。
- ポイントツーマルチポイント (P2MP) 導入モデルのサポート。



- 同一の物理インターフェイス上の複数の P2P および P2MP 導入のサポート。
- 128 ビットおよび 256 ビット Advanced Encryption Standard のサポート：データ パケットの Galois Counter Mode (AES-GCM) 暗号化。
- 128 ビットおよび 256 ビット Advanced Encryption Standard のサポート：制御パケットの暗号ベースのメッセージ認証コード (AEC-CMAC) 暗号化。
- キャリア イーサネット サービス多重化を有効にするための、clear オプションでの VLAN タグのサポート。
- MACsec サブインターフェイスと非 MACsec サブインターフェイスの共存のサポート。
- 設定可能な Extensible Authentication Protocol over LAN 宛先アドレスのサポート。
- EAPoL イーサネット タイプを変更する設定可能オプションのサポート。
- サービス プロバイダー ネットワークでのパケット再順序付けに対応するための、設定可能なリプレイ保護ウィンドウ サイズのサポート。

## WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の実装のベスト プラクティス

- MACsec を有効にする前に、基本的なレイヤ 2 イーサネット接続が確立され、検証されていることを確認します。カスタマー エッジ デバイス間の基本的な ping が機能している必要があります。
- WAN MACsec を初めて設定する場合は、MACsec を有効にした後にセッションの確立に失敗した場合にロックアウトされないように、リモート サイトへのアウトオブバンド接続が確立されていることを確認します。
- MACsec を初めて確立するときには **access-control should-secure** コマンドを設定し、その後、移行で必要になる場合以外は、セッションの確立が成功した後にこのコマンドをデフォルトの **access-control must-secure** に変更することを推奨します。
- インターフェイス MTU を設定し、これを MACsec オーバーヘッドに合わせて調整することを推奨します (例：32 バイト)。MACsec の暗号化と復号化は物理レベルで行われ、MTU のサイズは送信元または宛先のルータには影響しませんが、中間サービス プロバイダー ルータに影響を与える可能性があります。インターフェイスで MTU 値を設定すると、MACsec オーバーヘッドを含む MTU ネゴシエーションが可能になります。

## MKA ポリシーの継承

WAN ルータでは MKA ポリシーは継承され、デフォルト値も含まれます。新しいセッションが開始されると、次のルールが適用されます。

- MKA ポリシーがサブインターフェイスに設定されている場合、このポリシーは MKA セッションが開始されると適用されます。

- MKA ポリシーがサブインターフェイスに設定されていない場合、物理インターフェイスに設定されているポリシーがセッションの開始時に適用されます。
- MKA ポリシーがサブインターフェイスまたは物理インターフェイスに設定されていない場合、デフォルトのポリシーがセッションの開始時に適用されます。

## キー ライフタイムおよびヒットレス キー ロールオーバー

MACsec キー チェーンには、キー ID とオプションのライフタイムが設定された複数の事前共有キー (PSK) を含めることができます。キーのライフタイムには、キーが期限切れになる時刻が指定されます。ライフタイム設定が存在しない場合は、無期限のデフォルトライフタイムが使用されます。ライフタイムが設定されている場合、ライフタイムの期限が切れた後に、MKA はキー チェーン内の次に設定された事前共有キーにロールオーバーします。キーのタイムゾーンは、ローカルまたは UTC を指定できます。デフォルトのタイムゾーンは UTC です。

MACsec キー チェーンを設定するには、`key chain name macsec` を使用します。

キーチェーン内に2番目のキーを設定し、最初のキーのライフタイムを設定することで、同じキーチェーン内の次のキーにロールオーバーできます。最初のキーのライフタイムが期限切れになると、リスト内の次のキーに自動的にロールオーバーします。同一のキーがリンクの両側で同時に設定されている場合、キーのロールオーバーはヒットレスになります。つまり、キーはトラフィックを中断せずにロールオーバーされます。



(注) キーのライフタイムは、ヒットレス キー ロールオーバーを実現するためにオーバーラップする必要があります。

## プロトコル パケットの暗号化アルゴリズム

MKA 制御プロトコルパケット暗号化の暗号化アルゴリズムの選択は次のように行われます。

- MKA 制御プロトコルパケットを暗号化するための暗号化アルゴリズムは、キーチェーンの一部として設定されます。1つのキーチェーンに設定できる暗号化アルゴリズムは1つだけです。
- キー サーバーは、使用されるキー チェーン内に設定された MKA 暗号化アルゴリズムを使用します。
- すべての非キー サーバーは、キー サーバーと同じ暗号化アルゴリズムを使用する必要があります。

MKA 暗号化アルゴリズムが設定されていない場合、デフォルトの暗号化アルゴリズムである AES-CMAC-128 (128 ビット Advanced Encryption Standard を使用した暗号ベースのメッセージ 認証コード) が使用されます。

データ パケットの暗号化アルゴリズム :

```
mka policy p1
macsec-cipher-suite [gcm-aes-128 | gcm-aes-256
```

MKA 制御パケットの暗号化アルゴリズム：

```
key chain <name> macsec
key 01
key-string <Hex string>
cryptographic-algorithm [aes-256-cmac | aes-128-cmac]
```

非キー サーバーでリストにキー サーバーと同じ暗号スイートが設定されているか、デフォルト設定になっている場合、暗号スイートのロールオーバーをシームレスにするために、キーサーバー内のデータ パケット暗号スイートを変更することが推奨されます。

## スムーズな移行のためのアクセス制御オプション

MACsec がインターフェイスで有効になっている場合、デフォルトでインターフェイストラフィック全体がセキュリティ保護されます。MACsec は、暗号化されていないパケットを同じ物理インターフェイスから送受信することを許可しません。ただし、限定されたサブインターフェイスで MACsec を有効にするために、暗号化されていないパケットを同じ物理インターフェイスから送受信できるようにする追加のシスコ独自の拡張機能が実装されています。

暗号化されていないパケットの動作を制御するには、**macsec access-control {must-secure | should-secure}** コマンドを使用します。

- キーワード **should-secure** は、物理インターフェイスまたはサブインターフェイスからの暗号化されていないパケットの送受信を許可します。
- キーワード **must-secure** は、物理インターフェイスまたはサブインターフェイスからの暗号化されていないパケットの送受信を許可しません。このようなパケットは、MKA 制御プロトコルパケットを除きすべてドロップされます。
- 限定されたサブインターフェイスでのみ MACsec が有効になっている場合は、対応するインターフェイスで **should-secure** キーワード オプションを設定します。

サブインターフェイスでの MACsec のデフォルト設定は、**macsec access-control must-secure** です。このオプションは、**macsec** コマンドがインターフェイスで設定されている場合、デフォルトで有効になっています。



- 
- (注) **macsec access-control should-secure** コマンドはインターフェイス レベルでのみ設定でき、サブインターフェイスレベルでは設定できません。このコマンドを設定すると、セキュリティ保護された MACsec セッションで暗号化されていないトラフィックが許可されます。
- 



- 
- (注) 非 MACsec サブインターフェイスの場合は、トラフィックが通過できるように **should-secure** オプションを設定する必要があります。
-

## Extensible Authentication Protocol over LAN 宛先アドレス

MACsec セキュア セッションを確立する前に、MKA (MACsec Key Agreement) が制御プロトコルとして使用されます。MKA は、暗号化に使用する暗号スイートを選択し、必要なキーとパラメータをピア間で交換します。

MKA は、MKA メッセージを送信するためのトランスポート プロトコルとして Authentication Protocol over LAN (EAPoL) を使用します。デフォルトでは、EAPoL は宛先マルチキャスト MAC アドレスとして 01:80:c2:00:00:03 を使用して、複数の宛先へパケットをマルチキャストします。EAPoL は標準ベースのプロトコルであり、IEEE 802.1x などの他の認証メカニズムでも同じプロトコルが使用されます。サービス プロバイダー クラウド内のデバイスは、(宛先マルチキャスト MAC アドレスに基づいて) このパケットを消費し、EAPoL パケットの処理を試み、最終的にはパケットをドロップします。これにより、MKA セッションが失敗します。

インターフェイス上でサービス プロバイダーに送信される EAPoL パケットの宛先 MAC アドレスを変更するには、**epol destination-address** コマンドを使用します。これにより、サービス プロバイダーは、パケットを消費せずに、他のデータ パケットと同様にトンネリングできます。



- (注) EAPoL 宛先アドレスは、物理レベルまたはサブインターフェイスレベルで、独立して設定できます。物理インターフェイスで設定する場合、設定はサブインターフェイスによって自動的に継承されます。サブインターフェイスでの明示的な設定は、そのサブインターフェイスで継承された値またはポリシーよりも優先されます。

## リプレイ保護ウィンドウ サイズ

リプレイ保護は、リプレイ攻撃に対抗するために MACsec により提供される機能です。暗号化された各パケットには一意のシーケンス番号が割り当てられ、シーケンスはリモートエンドで確認されます。メトロイーサネット サービス プロバイダー ネットワークを介して送信されるフレームは、順序が変更されることが多くあります。これは、ネットワーク内で使用されている優先順位付けとロードバランシングのメカニズムによるものです。

フレームの順序が変更されるプロバイダー ネットワーク上で MACsec の使用をサポートするには、リプレイ ウィンドウが必要です。ウィンドウ内のフレームは順不同で受信できますが、リプレイ保護されません。デフォルトのウィンドウ サイズは 64 に設定されています。リプレイ ウィンドウ サイズを変更するには、**macsec replay-protection window-size** コマンドを使用します。ウィンドウ サイズの範囲は 0 ~ 4294967295 です。

リプレイ保護ウィンドウは、ゼロに設定することで、厳格な受信順序とリプレイ保護を強制できます。



- (注) リプレイ保護ウィンドウは、物理インターフェイスまたはサブインターフェイスで独立して設定できます。物理インターフェイスで設定する場合、設定はサブインターフェイスによって自動的に継承されます。サブインターフェイスでの明示的な設定は、そのサブインターフェイスで継承された値またはポリシーよりも優先されます。

## WAN インターフェイス カード上の MACsec

Cisco IOS XE リリース 3.16S では、MACsec は Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) 上の WAN インターフェイスカード (NIM-2GE-CU-SFP) に導入されています。

この WAN インターフェイス カードは、2 つの 1 ギガビット イーサネット ポートを持つ次世代 WAN インターフェイス カードです。

次世代 WAN インターフェイス カードは、次のプラットフォームでサポートされます。

- Cisco ISR 4451
- Cisco ISR4431
- Cisco ISR4351
- Cisco ISR 4331
- Cisco ISR 4321

### OIR サポート

WAN インターフェイスカードが動作中に挿入または取り外し (OIR) されると、そのインターフェイスに関連付けられている設定が保持されます。そのため、インターフェイスがシステムに再挿入された場合、同じ設定で動作します。ただし、Cisco ISR ルータ上の Cisco IOS XE リリース 3.16s では、MACsec および MKA セッションに次の制限が適用されます。

- 一部のスケーリング シナリオでは、OIR 後に MKA/MACsec セッションが失われる可能性があります。
- MKA/MACsec セッションは、OIR 後に再確立する必要があります。

## Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータでの MACsec のパフォーマンス

表 139: Cisco ISR 4451 ルータのパフォーマンス数値

フレーム サイズ	ポートごとの NDR (pps)	ライン レート (%)	モジュール CPU (%)	ホスト CPU (%)
64	1,077,532	72.41	44	65

フレーム サイズ	ポートごとの NDR (pps)	ライン レート (%)	モジュール CPU (%)	ホスト CPU (%)
128	692,568	82	29	42
256	405,797	89.6	17	25
iMIX	296,500	90.57	13	24
512	221,615	94.32	9	14
1024	116,163	97.02	5	7
1518	79,609	97.95	3.5』	5
9000	13,808	99.64%	1	2

## Cisco ASR 1000 プラットフォーム上の MACsec のパフォーマンス

次の表に、Cisco IOS XE 16.6 リリース以降の Cisco ASR 1000 ルータのパフォーマンス数値を示します。

表 140: Cisco ASR1001-X ルータのパフォーマンス数値

フレーム サイズ	集約レート ビット (bps)	ポートあたりのライン レート (%)	ESP CPU (%)
64	10064767891.17	65.59	93.33
iMIX	17763891467.40	93.14	26
1418	19311044388.60	97.89	9

表 141: Cisco ASR1001-HX ルータのパフォーマンス数値

フレーム サイズ	集約レート ビット (bps)	ポートあたりのライン レート (%)	ESP CPU (%)
64	28681245486.53	65.59	99
iMIX	65019905182.40	93.14	42
1418	64975057119.60	97.89	11

表 142: Cisco ASR1002-HX ルータのパフォーマンス数値

フレーム サイズ	集約レート ビット (bps)	ポートあたりのライン レート (%)	ESP CPU (%)
64	51467063849.50	65.59	96

フレーム サイズ	集約レート ビット (bps)	ポートあたりのライン レート (%)	ESP CPU (%)
iMIX	105267526427	93.14	36
1418	100007152449	97.89	10

## ASR 1000 および ISR 4400 プラットフォームの MACsec 互換性マトリックス

プラットフォーム	内蔵ポート	EPA-18x1GE	EPA-10x10GE	EPA-1x40GE / EPA-2x40GE	NIM-2GE-CU-SFP
ASR1001-X	Cisco IOS XE Release 3.13.1S	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
ASR1001-HX	Cisco IOS XE Everest リリース 16.4.1	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
ASR1002-HX	Cisco IOS XE Denali リリース 16.3.1	Cisco IOS XE Denali リリース 16.3.1	Cisco IOS XE Denali リリース 16.3.2 / 16.4.1	Cisco IOS XE Fuji リリース 16.8.1	該当なし
ASR1006-X	該当なし	Cisco IOS XE Everest リリース 16.4.1	Cisco IOS XE Denali リリース 16.3.1	Cisco IOS XE Fuji リリース 16.8.1	該当なし
ASR1009-X	該当なし	Cisco IOS XE Everest リリース 16.4.1	Cisco IOS XE Denali リリース 16.3.1	Cisco IOS XE Fuji リリース 16.8.1	該当なし
ASR1013	該当なし	Cisco IOS XE Everest リリース 16.4.1	Cisco IOS XE Denali リリース 16.3.1	Cisco IOS XE Fuji リリース 16.8.1	該当なし
ISR44XX	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	Cisco IOS XE Release 3.16.0S
ISR43XX	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	Cisco IOS XE Release 3.16.0S
ISR4462	Cisco IOS XE Fuji リリース 16.9.1	該当なし	該当なし	該当なし	Cisco IOS XE Release 3.16.0S



- (注)
- GLC-100FX はサポートされていません。
  - MIP-100 は、ASR1006X、ASR1009X、ASR1013 プラットフォームで EPA18x1GE、EPA-10x10GE、EPA-1x40GE、および EPA-2x40GE に対応するために必要です。
  - ASR1001-X 上の MACsec には IPsec ライセンスが必要です。
  - ASR1001-HX、ASR1002-HX、および EPA 上の MACsec には、ポートごとに MACsec ライセンスが必要です。
  - Cisco ISR 4000 プラットフォームでは、MACsec を設定するために HSECK9 ライセンスが必要です。
  - MACsec は、Cisco ASR 1004 ルータではサポートされていません。



- (注) IOS XE 17.2 Gibraltar 以降、ポートチャネル設定は MACsec でサポートされています。この機能を設定するには、リンクバンドルの各インターフェイスで MACsec を設定してください。詳細については、「設定例」を参照してください。

## WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の設定方法

### MKA の設定

MACsec Key Agreement (MKA) は、キー管理パラメータの設定と制御を可能にします。MKA を設定するには、次のタスクを実行します。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **mka policy *policy-name***
4. **include-icv-indicator**
5. **key-server priority *key-server-priority***
6. **macsec-cipher-suite {gem-aes-128 | gcm-aes-256 | gcm-aes-xpn-128 | gem-aes-xpn-256}**
7. **sak-rekey interval *interval***
8. **confidentiality-offset 30**
9. **end**



## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>mka policy <i>policy-name</i></b> 例： Device(config)# mka policy MKAPolicy	MKA ポリシーを設定します。
ステップ 4	<b>include-icv-indicator</b> 例： Device(config-mka-policy)# include-icv-indicator	(任意) MKPDU に ICV インジケータを含めます。
ステップ 5	<b>key-server priority <i>key-server-priority</i></b> 例： Device(config-mka-policy)# key-server priority 200	(任意) MKA キー サーバの優先度を設定します。
ステップ 6	<b>macsec-cipher-suite {gcm-aes-128   gcm-aes-256   gcm-aes-xpn-128   gcm-aes-xpn-256}</b> 例： Device(config-mka-policy)# macsec-cipher-suite gcm-aes-128 gcm-aes-256	(任意) セキュア アソシエーション キー (SAK) 導出のための暗号スイートを設定します。各暗号スイートの各オプションは 1 回だけ繰り返すことができますが、任意の順序で使用できます。
ステップ 7	<b>sak-rekey interval <i>interval</i></b> 例： Device(config-mka-policy)# sak-rekey interval 30	(任意) SAK キー再生成間隔を秒単位で設定します。範囲は 30 ~ 65535 で、デフォルト値は 0 です。SAK キー再生成タイマーは、デフォルトでは設定されるまで開始されません。 • SAK キー再生成タイマーを停止するには、定義された MKA ポリシーの下で <b>no sak-rekey interval</b> コマンドを使用します。
ステップ 8	<b>confidentiality-offset 30</b> 例：	(任意) MACsec 操作の機密性オフセットを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config-mka-policy)# confidentiality-offset 30	
ステップ 9	<b>end</b>  例：  Device(config-mka-policy)# end	特権 EXEC モードに戻ります。  (注) MKA ポリシーは、XPN 暗号の機密性オフセットを処理しません。したがって、XPN および非 XPN 暗号の両方が機密性オフセットとともに MKA ポリシーで設定されている場合、機密性オフセットは XPN 暗号では無視されます。そのため、XPN または非 XPN 暗号を使用して MKA ポリシーを設定する際は、慎重に判断してください。

### 例

**show mka policy** コマンドを使用して設定を確認できます。次に、**show** コマンドの出力例を示します。MKPDU に **icv-indicator** を含めないようにするには、MKA ポリシーで **no include-icv-indicator** でコマンドを使用します。

MKA Policy Summary...

Codes : CO - Confidentiality Offset, ICVIND - Include ICV-Indicator,  
SAKR OLPL - SAK-Rekey On-Live-Peer-Loss,  
DP - Delay Protect, KS Prio - Key Server Priority

Policy Name	KS Prio	DP	CO	SAKR OLPL	ICVIND	Cipher Suite(s)	Interfaces Applied
*DEFAULT POLICY*	0	FALSE	0	FALSE	TRUE	GCM-AES-128 GCM-AES-256	N/A
confid50	0	FALSE	50	FALSE	TRUE	GCM-AES-128 GCM-AES-256	
icv	0	FALSE	0	FALSE	TRUE	GCM-AES-128 GCM-AES-256	Te3/0/9
k10	0	FALSE	0	FALSE	TRUE	GCM-AES-128 GCM-AES-256	
xpn128	0	FALSE	0	FALSE	TRUE	GCM-AES-XPN-128	Fo2/1/1

## インターフェイスでの MACsec および MKA の設定

インターフェイスで MACsec と MKA を設定するには、次のタスクを実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**

3. **interface** *type number*
4. **mka policy** *policy-name*
5. **mka pre-shared-keykey-chainkey-chain-name**
6. **macsec**
7. **macsec replay-protection window-size**
8. **end**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>mka policy</b> <i>policy-name</i> 例： Device(config-if)# mka policy MKAPolicy	MKA ポリシーを設定します。
ステップ 5	<b>mka pre-shared-keykey-chainkey-chain-name</b> 例： Device(config-if)# mka pre-shared-key key-chain key-chain-name	MKA pre-shared-key key-chain に keychain1 を設定します。  (注) MKA 事前共有キーは、物理インターフェイスまたはサブインターフェイスのいずれかで設定できますが、物理インターフェイスとサブインターフェイスの両方で設定することはできません。
ステップ 6	<b>macsec</b> 例： Device(config-if)# macsec	EAPOL フレーム イーサネット タイプの MACsec を設定します。
ステップ 7	<b>macsec replay-protection window-size</b> 例：	リプレイ保護の MACsec ウィンドウサイズを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config-if)# macsec replay-protection window-size 10	
ステップ 8	<b>end</b> 例 : Device(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## MKA 事前共有キーの設定

MACsec Key Agreement (MKA) 事前共有キーを設定するには、次のタスクを実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **key chain** *key-chain-name* [**macsec**]
4. **key** *hex-string*
5. **cryptographic-algorithm** {**gcm-aes-128** | **gcm-aes-256**}
6. **key-string** {[**0** | **6**] *pwd-string* | [**7** | *pwd-string*]}
7. **lifetime local** {{*day month year duration seconds*}
8. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>key chain</b> <i>key-chain-name</i> [ <b>macsec</b> ] 例 : Device(config)# Key chain keychain1 macsec	キー チェーンを設定して、キー チェーン コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>key hex-string</b> 例： Device(config-keychain)# key 9ABCD	キーを設定して、キー チェーン コンフィギュレーション モードを開始します。  (注) Cisco IOS XE Everest リリース 16.6.1 以降では、接続アソシエーション キー名 (CKN) は、このキーの 16 進文字列として設定されている文字列とまったく同じ文字列を使用します。この動作の変更の詳細については、このタスクの後の「MKA-PSK : CKN 動作の変更」セクションを参照してください。
ステップ 5	<b>cryptographic-algorithm {gcm-aes-128   gcm-aes-256}</b> 例： Device(config-keychain-key)# cryptographic-algorithm gcm-aes-128	暗号化認証アルゴリズムを設定します。
ステップ 6	<b>key-string {[0   6] pwd-string   7   pwd-string}</b> 例： Device(config-keychain-key)# key-string 0 pwd	キー文字列のパスワードを設定します。
ステップ 7	<b>lifetime local {{day month year duration seconds}}</b> 例： Device(config-keychain-key)# lifetime local 16:00:00 Nov 9 2014 duration 6000	キー文字列のライフタイムを設定します。  期間に指定できる範囲は、1 ~ 864000 秒です。
ステップ 8	<b>end</b> 例： Device(config-keychain-key)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

### 接続アソシエーション キー (CAK) 再生成の例

CAK のキー再生成は、次の場合に発生します。

- キー チェーン K1 内でキー 01 からキー 02 に移動する場合。
- あるキー チェーン K1 から別のキー チェーン K2 に移動する場合。

注：CAS キー再生成が正常に行われ、キー/CA 間のシームレスな移行（トラフィック損失やセッションの再起動を伴わない）が実現するように、各キーのライフタイム間にオーバーラップがあるようにキーを設定することを推奨します。

```
Device# show key chain k1
Key-chain k1:
  MacSEC key chain
```

```

key 01 - text "c890433a1e05ef42d723a6b58af8fdbf7a25f42b3cda6a5eeb5ae4bf3a0a679f"
lifetime (00:00:00 UTC Oct 29 2014) - (12:10:00 UTC Oct 29 2014)
key 02 - text "14d9167d538819405c0ff78c655141ed4b3c7242562c0fb0f7a56f780bf29e52"
lifetime (12:00:00 UTC Oct 29 2014) - (18:05:00 UTC Oct 29 2014)
key 03 - text "88d971cb19d9f2598ad76edc562ade2e7e91e3ed70524f5c3c4d8d9599d0670e"
lifetime (18:00:00 UTC Oct 29 2014) - (18:10:00 UTC Oct 29 2014)
key 04 - text "75474bce819b49ad7e5bd06236bc0c944c69892f71e942e2f9812b7d3a7b2a5f"
lifetime (18:10:00 UTC Oct 29 2014) - (infinite)

```

!In this case, Key 01, 02, 03 have overlapping time, but not key 04. Here is the sequence, how this works:

```

@00:00:00 - A new MKA session is Secured with key 01
@12:00:00 - CAK Rekey triggers with key 02 and upon success goes to Secured state
@18:00:00 - CAK Rekey triggers with key 03 and upon success goes to Secured state
@18:10:00 - Key 03 dies, hence MKA session using this key is brought down
@18:10:00 - Key 04 becomes active and a new MKA session is triggered with this key.
Upon success, session will be Secured and UP for infinite time.

```

## MKA-PSK : CKN 動作の変更

Cisco IOS XE Everest リリース 16.6.1 以降では、MKA-PSK セッションで、固定 32 バイトの代わりに、接続アソシエーションキー名 (CKN) は、このキーの 16 進文字列として設定されている文字列とまったく同じ文字列を CKN として使用します。

設定例 :

```

configure terminal
key chain abc macsec
  key 11
    cryptographic-algorithm aes-128-cmac
    key-string 12345678901234567890123456789013
    lifetime local 12:21:00 Sep 9 2015 infinite
end

```

上記の例では、**show mka session** コマンドの **show** コマンド出力は次のようになります。

Device# **show mka session**

```

Total MKA Sessions..... 1
Secured Sessions... 1
Pending Sessions... 0

```

Interface	Local-TxSCI	Policy-Name	Inherited	Key-Server
Port-ID	Peer-RxSCI	MACsec-Peers	Status	CKN
Et0/0	aabb.cc00.6600/0002	icv	NO	NO
2	aabb.cc00.6500/0002	1	Secured	<b>11</b>

\*Note that the CKN key-string is exactly the same that has been configured for the key as hex-string.\*



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>eapol</b> <i>eth-type</i> 例： Device(config-if)# eapol eth-type 0xB860	インターフェイス上の EAPoL フレームのイーサネットタイプ（16 進数）を設定します。  (注) Cisco IOS リリース XE 3.17 以降では、 <b>macsec eth-type</b> コマンドは <b>eapol eth-type</b> コマンドに置き換えられました。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。

## インターフェイスおよびサブインターフェイスでの宛先 MAC アドレスの設定

インターフェイスまたはサブインターフェイスで宛先 MAC アドレスを設定するには、次のタスクを実行します。宛先 MAC は、ピアの MAC またはマルチキャスト MAC アドレスにすることができます。**eapol destination-address** コマンドがメインインターフェイスで設定されている場合は、そのインターフェイス上のすべてのサブインターフェイスに適用されます。ただし、**eapol destination-address** コマンドがサブインターフェイスで設定されている場合は、メインインターフェイスのコマンドよりも優先されます。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **eapol destination-address** [*MAC-Address* | [**bridge-group-address** | **broadcast-address** | **lldp-multicast-address**]]
5. **eapol destination-address** **bridge-group-address**
6. **eapol destination-address** **broadcast-address**
7. **eapol destination-address** **lldp-multicast-address**
8. **end**



## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> 例 : Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>eapol destination-address [MAC-Address   bridge-group-address   broadcast-address   lldp-multicast-address]</b> 例 : Device(config-if)# eapol destination-address 0018.b967.3cd0	インターフェイス上の Extensible Authentication Protocol over LAN (EAPoL) 宛先 MAC アドレスを設定します。
ステップ 5	<b>eapol destination-address bridge-group-address</b> 例 : Device(config-if)# eapol destination-address bridge-group-address	宛先アドレスをブリッジグループとして設定します。
ステップ 6	<b>eapol destination-address broadcast-address</b> 例 : Device(config-if)# eapol destination-address broadcast-address	宛先 MAC アドレスをブロードキャストアドレスとして設定します。
ステップ 7	<b>eapol destination-address lldp-multicast-address</b> 例 : Device(config-if)# eapol destination-address lldp-multicast-address	宛先アドレスを LLDP マルチキャストアドレスとして設定します。
ステップ 8	<b>end</b> 例 : DeviceDevice (config-if) # end	特権 EXEC モードに戻ります。

## WAN MACsec および MKA の設定例

### 例：EPL サービスを使用した CE から CE へのポイントツーポイント接続

次に、ポートベースのサービスを使用して、イーサネットプライベート回線（EPL）を使用したポイントツーポイントのカスタマーエッジからカスタマーエッジへの接続の設定例を示します。

```
!Customer Edge 1
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*

!Customer Edge 2
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  ip address 10.3.1.2 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*
```

### 例：EVPLサービスを使用したハブとスポークのポイントツーポイント接続

次に、VLANモードのイーサネット仮想プライベート回線（EVPL）サービスを使用した、ポイントツーポイントのハブ アンド スポーク接続の設定例を示します。

```
!CE 1
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
  macsec replay-protection-window-size 100
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 10
  ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*
interface GigabitEthernet0/0/4.2
  encapsulation dot1Q 20
  ip address 10.3.2.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*
```

```

!CE 2
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
  macsec replay-protection-window-size 100
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 10
  ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*

!CE 3
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
  macsec replay-protection-window-size 100
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 10
  ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*

```



(注) アスタリスク (\*) 付きのコマンドは、すべて必須コマンドです。

## 例：MACsec および非 MACsec スポークを使用したポイントツーポイントのハブアンドスポーク接続

次に、MACsec および非 MACsec スポークを使用したポイントツーポイントのハブアンドスポーク接続の出力例を示します。

```

!CE1
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
  macsec access-control should-secure*
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 10
  ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*
interface GigabitEthernet0/0/4.2
  encapsulation dot1Q 20
  ip address 10.3.2.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*
interface GigabitEthernet0/0/4.3
  encapsulation dot1Q 30
  ip address 10.3.3.1 255.255.255.0

!CE2

```

```

key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
  macsec access-control should-secure*
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 10
  ip address 10.3.1.2 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*

!CE3
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 20
  ip address 10.3.2.2 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*

!CE4
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 30
  ip address 10.3.3.2 255.255.255.0

```

## 例：EP-LAN サービスを使用したハブとスポークのマルチポイントツーマルチポイント接続

次に、ポートモードのイーサネットプライベート回線（EP-LAN）サービスを使用した、マルチポイントツーマルチポイントのハブアンドスポーク接続の設定例を示します。

```

!CE 1
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
  cryptographic-algorithm aes-128-cmac
mka policy p1
  macsec-cipher-suite gcm-aes-256
interface GigabitEthernet0/0/4
  ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  mka policy p1
  macsec*

!CE 2
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
  cryptographic-algorithm aes-128-cmac
mka policy p1
  macsec-cipher-suite gcm-aes-256
interface GigabitEthernet0/0/4
  ip address 10.3.1.2 255.255.255.0

```

```

mka pre-shared-key key-chain k1*
mka policy pl
macsec*

!CE 3
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
  cryptographic-algorithm aes-128-cmac
mka policy pl
  macsec-cipher-suite gcm-aes-256
interface GigabitEthernet0/0/4
  ip address 10.3.1.3 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  mka policy pl
  macsec*

```

## 例：EVP-LAN サービスを使用したハブとスポークのマルチポイントツーマルチポイント接続

次に、VLANモードのイーサネット仮想プライベート回線（EVP-LAN）サービスを使用した、マルチポイントツーマルチポイントのハブアンドスポーク接続の設定例を示します。

```

!CE 1
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
  macsec replay-protection-window-size 100
  eapol destination-address broadcast
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 10
  ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*

!CE 2
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
  macsec replay-protection-window-size 100
  eapol destination-address broadcast
interface GigabitEthernet0/0/4.1
  encapsulation dot1Q 10
  ip address 10.3.1.2 255.255.255.0
  mka pre-shared-key key-chain k1*
  macsec*

!CE 3
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface GigabitEthernet0/0/4
  macsec dot1q-in-clear 1*
  macsec replay-protection-window-size 100

```

例：トラフィックに影響を与えずにメンテナンスタスクを実行する

```
eapol destination-address broadcast
interface GigabitEthernet0/0/4.1
encapsulation dot1Q 10
ip address 10.3.1.3 255.255.255.0
mka pre-shared-key key-chain k1*
macsec*
```

## 例：トラフィックに影響を与えずにメンテナンスタスクを実行する

次に、トラフィックに影響を与えないパフォーマンスメンテナンスタスクの設定例を示します。

### 事前共有キーの変更（CAK ロールオーバー）

次に、事前共有キーを変更するための設定例を示します。



(注) キーは、両方のルータでライフタイムを設定することで、次のキーに自動的にロールバックされるように設定できます。

```
!From
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012

!To
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
  lifetime local 10:30:00 Oct 30 2014 11:30:00 Oct 30 2014
  key 02
  key-string 11145678901234567890123456789012
```

### キーチェーンの変更（キーチェーン ロールオーバー）

キーチェーンを変更するための設定例を次に示します：キーチェーンロールオーバー

```
! From
key chain k1 macsec*
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
interface TenGigabitEthernet0/0/0.10
mka pre-shared-key key-chain k1

! To
key chain k1 macsec
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
key chain k2 macsec
  key 02
  key-string abcdef0987654321abcdef0987654321
interface TenGigabitEthernet0/0/0.10
mka pre-shared-key key-chain k2
```



- (注) 任意のキーチェーンの下に定義されたキーIDは、デバイス上の一意の値にする必要があります。

ルータは、同じセッションに参加する他のピアルータよりも低いプライオリティを設定することによって、キーサーバーになることができます。確定的にキーサーバーに選択されるように、キーサーバーのプライオリティを設定します。たとえば、ハブアンドスポーク シナリオでは、キーサーバーの最も理想的な場所はハブ サイトのルータです。

```
!Hub Site (Key Server):
mka policy p1
key-server priority 0
!0 is the default.

interface TenGigabitEthernet0/0/0.10
 mka pre-shared-key key-chain k1
mka policy p1

!Spoke Sites (non-Key Servers):
mka policy p1
key-server priority 1

interface TenGigabitEthernet0/0/0.10
 mka pre-shared-key key-chain k1
mka policy p1
```

次に、データトラフィックを暗号化する暗号スイートを変更するための設定例を示します。

```
mka policy p1
 macsec-cipher-suite gcm-aes-128
interface GigabitEthernet0/0/1.10
 mka policy p1

!Alternate configuration

mka policy p1
 macsec-cipher-suite gcm-aes-256
interface GigabitEthernet0/0/1.10
 mka policy p1

key chain k3 macsec
key 01
 key-string abcdef0987654321abcdef0987654321
 cryptographic-algorithm aes-128-cmac
interface TenGigabitEthernet0/0/0.10
 mka pre-shared-key key-chain k3

!Alternate configuration:

key chain k3 macsec
key 01
 key-string abcdef0987654321abcdef0987654321
 cryptographic-algorithm aes-256-cmac
interface TenGigabitEthernet0/0/0.10
 mka pre-shared-key key-chain k3
```

EAPOL 宛先 MAC アドレスは、物理インターフェイス コンフィギュレーション モードまたはサブインターフェイス コンフィギュレーションモードから変更できます。物理インターフェイス レベルで設定されている場合は、サブインターフェイスによって自動的に継承されます。継承された値をオーバーライドするには、サブインターフェイス モードで MAC アドレスを設定します。デフォルトの EAPOL 宛先 MAC アドレスは 01:80:c2:00:00:03 です。

```
interface TenGigabitEthernet0/0/0
  eapol destination-address <H.H.H>

!Alternate configuration

interface TenGigabitEthernet0/0/0
  bridge-group-address

!Alternate configuration

interface TenGigabitEthernet0/0/0
  lldp-multicast-address>

mka policy p1
  confidentiality-offset 30
interface GigabitEthernet0/0/1.10
  mka policy p1
```

## 例：メンテナンス タスクの実行（トラフィックに影響する）

### リプレイ保護ウィンドウ サイズの変更

リプレイ保護ウィンドウは、物理インターフェイス コンフィギュレーションモードまたはサブインターフェイス コンフィギュレーションモードから変更できます。物理インターフェイス レベルで設定されている場合は、サブインターフェイスによって自動的に継承されます。継承された値をオーバーライドするには、サブインターフェイス モードで値を設定します。デフォルトのリプレイ保護ウィンドウ サイズは 64 です。

```
interface TenGigabitEthernet0/0/0
  macsec replay-protection window-size 10

interface TenGigabitEthernet0/0/0.10
  macsec replay-protection window-size 5
```

### clear オプションでの VLAN (dot1q) タグの有効化または無効化

**macsec dot1q-in-clear** コマンドは物理インターフェイス上でのみ設定できます。この設定はサブインターフェイスによって自動的に継承されます。

```
interface GigabitEthernet0/0/1
  macsec dot1q-in-clear 1
```

**macsec access-control [must-secure | should-secure]** コマンドは物理インターフェイス上でのみ設定できます。この設定はサブインターフェイスによって自動的に継承されません。

```
interface GigabitEthernet0/0/1
  macsec access-control must-secure|should-secure
```



## 例：MACsec を使用したポートチャネルの設定

次に、リンクバンドルの2つの個別インターフェイスでMACsecを使用してポートチャネルを設定する設定例を示します。



- (注) ポートチャネルのMACsec 設定を有効にしたり削除する前に、すべてのインターフェイスがシャットダウンされていることを確認してください。

```
key chain kc1 macsec
  key 01
  key-string 12345678901234567890123456789012
  cryptographic-algorithm aes-128-cmac

key chain kc2 macsec
  key 02
  key-string 12345678901234567890123456789013
  cryptographic-algorithm aes-128-cmac

mka policy policy1
  macsec-cipher-suite gcm-aes-256

!Port-Channel Configuration

interface Port-channel2
  mtu 9216
  ip mtu 9184
  ip address 10.3.1.3 255.255.255.0
  load-interval 30
  bfd interval 750 min_rx 750 multiplier 5
  lacp min-bundle 2
  no shut
  exit

!Member link configuration 1

interface TenGigabitEthernet0/1/1
  no shut
  mtu 9216
  no ip address
  ip mtu 9184
  load-interval 30
  cdp enable
  no cdp tlv app
  mka policy policy1
  mka pre-shared-key key-chain kc1
  macsec
  lacp rate fast
  channel-group 2 mode active

!Member link configuration 2

interface TenGigabitEthernet0/1/2
  no shut
  mtu 9216
  no ip address
  ip mtu 9184
  load-interval 30
```

```

cdp enable
no cdp tlv app
mka policy policy1
mka pre-shared-key key-chain kc2
macsec
lACP rate fast
channel-group 2 mode active

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
IEEE 802.1AE-2006	<i>Media Access Control (MAC) セキュリティ</i>
IEEE 802.1X-2010	ポート ベースのネットワーク アクセス コントロール
IEEE 802.1AEbw-2013	<i>Media Access Control (MAC) セキュリティ (IEEE 802.1AE-2006 の修正) : Extended Packet Numbering (XPN)</i>
IEEE 802.1Xbx-2014	ポートベースのネットワーク アクセス コントロール (IEEE 802.1x-2010 の修正)
RFC 4493	<i>AES-CMAC</i> アルゴリズム

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>





## 第 106 章

# MACsec スマート ライセンス

- MACsec スマートライセンスの概要 (1237 ページ)
- MACsec スマート ライセンスの機能情報 (1237 ページ)
- MACsec スマート ライセンスに関する情報 (1238 ページ)
- 導入と移行の例 (1239 ページ)

## MACsec スマートライセンスの概要

この章では、MACsec スマート ライセンスの概要を説明します。Smart Licensing クライアントの機能は、Cisco ソフトウェアを簡素化し、Cisco ソフトウェアがネットワーク全体でどのように使用されるかを理解するのに役立つ標準化されたライセンス プラットフォームです。Smart Licensing は、すべての Cisco ソフトウェアライセンスの次世代プラットフォームです。MACsec ライセンスにより、Cisco ASR 1000 プラットフォームで CSL 永久ライセンスとスマート ライセンスを有効にすることが可能になります。

## MACsec スマート ライセンスの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 143: MACsec スマート ライセンスの機能情報

機能名	リリース	機能情報
MACsec および DLC のサポート	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	Smart Licensing クライアントの機能は、Cisco ソフトウェアを簡素化し、Cisco ソフトウェアがネットワーク全体でどのように使用されるかを理解するのに役立つ標準化されたライセンス プラットフォームです。Smart Licensing は、すべての Cisco ソフトウェアライセンスの次世代プラットフォームです。この機能によって導入または変更されたコマンドはありません。

## MACsec スマート ライセンスに関する情報

Cisco IOS XE Fuji リリース 16.9.1 では、MACsec スマート ライセンス (SL) は次のプラットフォームでサポートされています。

ポート	ライセンス機能	ライセンス PID	サポートされるプラットフォーム		
			MIP-100 (RP2/RP3)	ASR1001-HX	ASR1002-HX
内蔵 1 GE ポート	MACSEC1G	FLSA1-MACSEC1G	該当なし	対応	対応
内蔵 10 GE ポート	MACSEC10G	FLSA1-MACSEC10G	該当なし	対応	対応
EPA-18X1GE	MACSEC1G	FLSA1-MACSEC1G	対応	該当なし	対応
EPA-10X10GE	MACSEC10G	FLSA1-MACSEC10G	対応	該当なし	対応
EPA-1X40GE	MACSEC40G	FLSA1-MACSEC40G	対応	該当なし	対応
EPA-2X40GE	MACSEC40G	FLSA1-MACSEC40G	対応	該当なし	対応
EPA-QSFP-1X100GE	MACSEC100G	FLSA1-MACSEC100G	対応	該当なし	対応

MACsec ライセンスはポートごとに提供され、物理ポートにのみ適用されます (サブインターフェイスには追加のライセンスは必要ありません)。MACsec ポートライセンスでは、デバイス リード変換 (DLC) のサポートが提供され、ペーパー ライセンスがスマート アカウントに確実に追加されます。

デバイス リード変換により、デバイス上のライセンスについてクラシック ライセンスからスマート ライセンスへのライセンス移行が自動的に実行されます。スマート ライセンスへの変換が自動的に行われるようにするには、デバイスを Cisco Smart Software Manager (SSM) に登録する必要があります。



- (注)
- 以前のリリースに従って、ASR1001 内蔵は MACsec ライセンスとして機能する IPsec ライセンスで引き続き使用できます。
  - MACsec ライセンスは EPA-1X100GE および EPA-CPAK-2X40GE ではサポートされていません。
  - CSL : EvalRTU ライセンスは MACsec ライセンスでは使用できません。

MACsec の設定を含むポートが閉じられていない場合、または閉じられていないポートに設定が適用されている場合は、MACsec ライセンスの 1 つのユニットが使用されます。

MACsec の設定を含むポートが閉じられた場合、または閉じられていないポートから設定が削除された場合は、MACsec ライセンスの 1 つのユニットがリリースされます。

## 導入と移行の例

Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 以降では、MACsec のサポートは Cisco ソフトウェア ライセンス (CSL) モードおよびスマート ライセンス (SL) モードで提供されます。ただし、16.9.1 より後のリリースでは、MACsec はスマート ライセンスのみをサポートします。

次のシナリオでは、既存のルータを Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 に展開、および移行する方法について説明します。

### 永久ライセンスがインストールされている場合の CSL モードでのアップグレード

アップグレードする前 (Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 リリースより前のリリース) に MACsec 永久ライセンスがデバイスにインストールされている場合は、アップグレード後にこれらのライセンスが使用されます。

- アップグレードの前は、次の状態であることを前提としています。
  - ルータは、Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 より前のリリースで動作している
  - MACsec は、4つの非シャットダウン1g インターフェイスで設定されます。
  - 4つの MACSEC1G 永久ライセンスがインストールされている
- アップグレード後、4つの MACSEC1G ライセンスが使用されます。

### 永久ライセンスがインストールされていない場合の CSL モードでのアップグレード

閉じられていないポートで MACsec が設定されている場合、アップグレード後に EvalRTU ライセンスを使用するのが理想的です。EvalRTU サポートが提供されないため、ライセンス要求はスキップされ、警告メッセージが表示されます。次に例を示します。

**%IOSXE\_LICENSE\_POLICY\_MANAGER-4-INSUF\_PERM\_LIC: 0/0/0: Insufficient MACSEC40G permanent license, skipping license request assuming customer has honour license**

- アップグレードの前は、次の状態であることを前提としています。
  - ルータは、Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 より前のリリースで動作している
  - MACsec は、4つの非シャットダウン1g インターフェイスで設定されます。
- アップグレード後
  - 使用できる MACsec ライセンスはありません
  - 警告メッセージが表示されます
  - その後、4つの永久ライセンスを後でインストールすると、これらのライセンスは直ちに使用されます

### SL モードへの移行

コンプライアンス違反シナリオを回避するには、すべての製品アクティベーションキー (PAK) および非 PAK ライセンスをお客様の仮想 CSSM アカウントに追加する必要があります。

デバイスリード変換 (DLC) 機能は、ライセンスをスマート アカウントに移行します。DLC が正常に動作するには、SL モードに移行する前に、すべてのライセンスを CSL モードで有効にする必要があります。

SL モードに移行するには、次の手順を実行します。

- Cisco IOS XE 16.9.1 より前のリリースから Cisco IOS XE 16.9.1 へのアップグレード
  1. CSL モードで Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 へアップグレードします
  2. SL モードへ移行して DLC をトリガーします
- Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 以前のリリースから以降のリリースへのアップグレード
  1. CSL モードで Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 へアップグレードします
  2. SL モードへ移行して DLC をトリガーします
  3. Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 より後のリリースへアップグレードします





## 第 107 章

# 証明書ベースの MACsec 暗号化

証明書ベースの MACsec 暗号化機能は、Extensible Authentication Protocol – Transport Layer Security (EAP-TLS) による 802.1X ポートベース認証を使用して、MACsec 暗号化が必要なルータポートの証明書を伝送します。EAP-TLS メカニズムを使用して相互認証を実行し、プライマリセッションキーを取得します。このキーから、MACsec Key Agreement (MKA) プロトコル用の接続アソシエーションキー (CAK) が導出されます。

証明書ベースの MACsec 暗号化は、リモート認証またはローカル認証のいずれかを使用して実行されます。

- [証明書ベース MACsec 暗号化の機能情報, on page 1241](#)
- [証明書ベース MACsec 暗号化の前提条件 \(1242 ページ\)](#)
- [証明書ベース MACsec 暗号化の制約事項 \(1242 ページ\)](#)
- [証明書ベース MACsec 暗号化に関する情報 \(1242 ページ\)](#)
- [リモート認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化の設定 \(1245 ページ\)](#)
- [ローカル認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化の設定 \(1252 ページ\)](#)
- [証明書ベース MACsec 暗号化の確認 \(1260 ページ\)](#)
- [証明書ベース MACsec 暗号化の設定例 \(1261 ページ\)](#)
- [その他の参考資料, on page 1263](#)

## 証明書ベース MACsec 暗号化の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 144: 証明書ベース MACsec 暗号化の機能情報

機能名	リリース	機能情報
証明書ベースの MACsec 暗号化	Cisco IOS XE Everest リリース 16.6.1	証明書ベースの MACsec 暗号化機能は、MACsec 暗号化が必要なルータポートの証明書を伝送するために、拡張認証プロトコルを使用した 802.1x ポートベースの認証を使用します。Transport Layer Security (eap-tls) を使用します。EAP-TLS メカニズムを使用して相互認証を実行し、プライマリセッションキーを取得します。このキーから、MACsec Key Agreement (MKA) プロトコル用の接続アソシエーションキー (CAK) が導出されます。

## 証明書ベース MACsec 暗号化の前提条件

- 認証局 (CA) サーバーがネットワークに設定されていることを確認します。
- CA 証明書を生成します。
- Cisco Identity Services Engine (ISE) リリース 2.0 が設定されていることを確認します。  
『Cisco Identity Services Engine リリース 2.3 管理者ガイド』を参照してください。
- 両方の参加デバイス (CA サーバーと Cisco Identity Services Engine (ISE)) が Network Time Protocol (NTP) を使用して同期されていることを確認します。時間がすべてのデバイスで同期されていないと、証明書は検証されません。
- 802.1x 認証と AAA がデバイスに設定されていることを確認します。

## 証明書ベース MACsec 暗号化の制約事項

- MKA は、ポートチャネルではサポートされていません。
- MKA のハイアベイラビリティはサポートされません。
- サブインターフェイスでの証明書ベースの MACsec 暗号化はサポートされていません。

## 証明書ベース MACsec 暗号化に関する情報

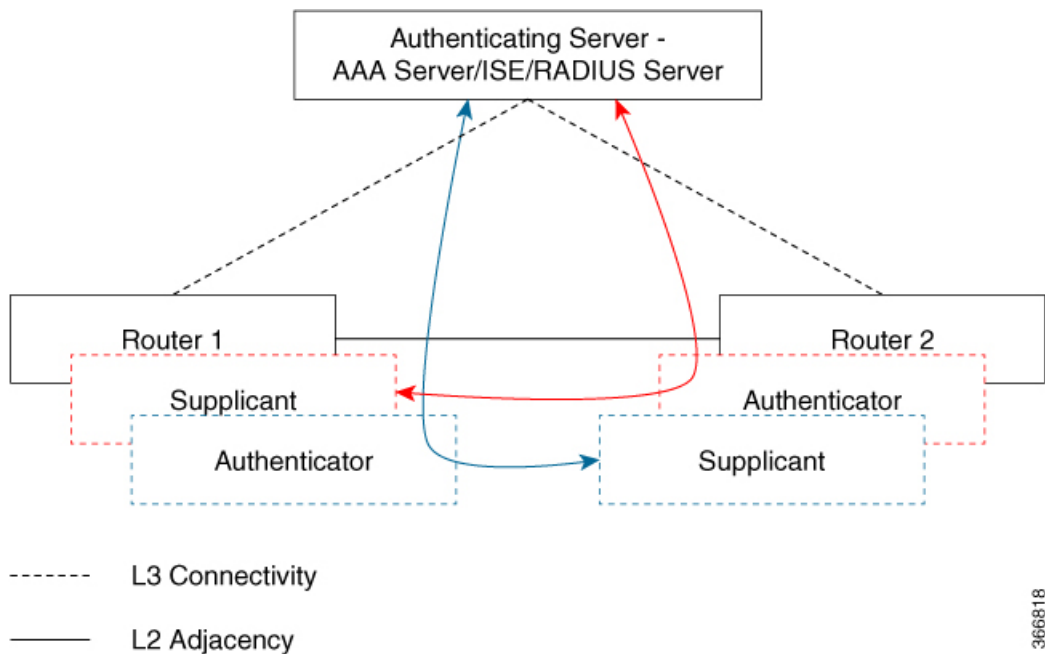
MKA MACsec は、ルータ間のリンクでサポートされています。Extensible Authentication Protocol (EAP-TLS) による IEE 802.1X ポートベース認証を使用して、デバイスのポート間の MKA MACsec を設定できます。EAP-TLS は相互認証を許可し、プライマリセッションキーを取得します。そのキーから、MKA プロトコル用の接続アソシエーションキー (CAK) が取得されます。デバイスの証明書は、AAA サーバーへの認証用に、EAP-TLS を使用して伝送されます。

## リモート認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化のコールフロー

サブリカントは、ネットワークへアクセスしようとする未承認デバイスです。オーセンティケータは、サブリカントの認証ステータスに基づいて、ネットワークへの物理アクセスを制御するデバイスです。

次の図に示すように、デバイスは直接接続されています。ルータは、ポート上で EAP サブリカントとオーセンティケータの両方として機能します。

次の図は、ルータ上の 2 つの EAP コールフロー（個別の EAP セッション ID を持つ）を示しています。赤色のフローは、ルータ 1 をサブリカントとして、ルータ 2 をオーセンティケータとして示しています。青のフローはその逆を示しています。



インターフェイスが 802.1x の両方のロールとして設定されている場合、ルータの認証マネージャは、サブリカントとオーセンティケータのロールを使用して 2 つの EAP セッション（個別の EAP セッション ID を持つ青色と赤色のセッション）フローを持つセッションを作成し、両方のロールがリモート認証サーバー（AAA サーバー/ISE/RADIUS）を使用した EAP-TLS 相互認証をトリガします。

相互認証後、認証サーバーとしてより大きい MAC アドレスを持ち、オーセンティケータロールを持つルータに対応するフローの MSK が選択されて CAK を導出します。

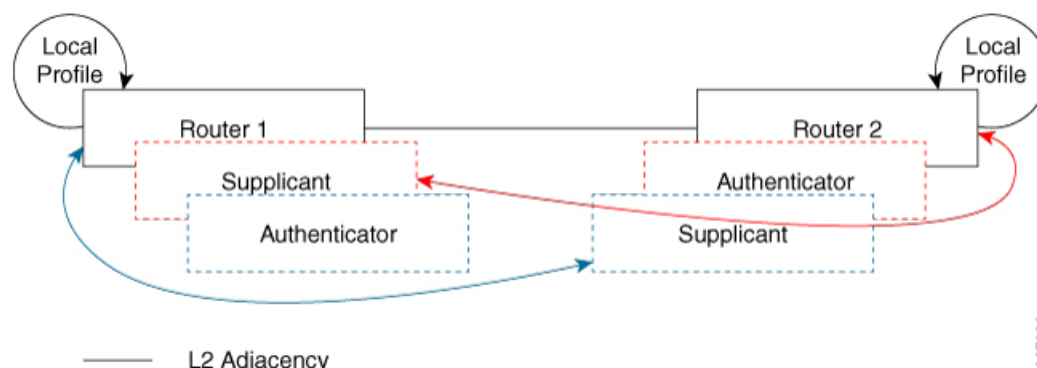
上の図では、ルータ 1 の MAC アドレスがルータ 2 より小さい場合、EAP セッション（青色のフロー）から取得したプライマリセッションキー（PSK）が MKA の EAP-PSK として使用されます（ルータ 1 はオーセンティケータとして、ルータ 2 はサブリカントとして機能します）。これにより、ルータ 1 が MKA キーサーバーとして機能し、ルータ 2 が非キーサーバーとして機能することが保証されます。

ルータ 2 の MAC アドレスがルータ 1 の MAC アドレスよりも小さい場合は、EAP セッションから取得された PSK（赤色のフロー）が（両方のルータにより）MKA の EAP-PSK として使用され、CAK が導出されます。

## ローカル認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化のコールフロー

次の図に示すように、デバイスは直接接続されています。ルータは、ポート上で EAP サブリカントとオーセンティケータの両方として機能します。

次の図は、ルータ上の 2 つの EAP コールフロー（個別の EAP セッション ID を持つ）を示しています。赤色のフローは、ルータ 1 をサブリカントとして、ルータ 2 をオーセンティケータとして示しています。青のフローはその逆を示しています。



インターフェイスが 802.1x の両方のロールとして設定されている場合、ルータの認証マネージャは、サブリカントとオーセンティケータのロールを使用して 2 つの EAP セッション（個別の EAP セッション ID を持つ青色と赤色のセッション）フローを持つセッションを作成し、両方のロールがローカル認証サーバーを使用した EAP-TLS 相互認証をトリガします。

相互認証後、認証サーバーとしてより大きい MAC アドレスを持ち、オーセンティケータロールを持つルータに対応するフローの PSK が選択されて CAK を導出します。

上の図では、ルータ 1 の MAC アドレスがルータ 2 より小さい場合、EAP セッション（青色のフロー）から取得したプライマリセッションキー（PSK）が MKA の EAP-PSK として使用されます（ルータ 1 はオーセンティケータとして、ルータ 2 はサブリカントとして機能します）。これにより、ルータ 1 が MKA キーサーバーとして機能し、ルータ 2 が非キーサーバーとして機能することが保証されます。

ルータ 2 の MAC アドレスがルータ 1 の MAC アドレスよりも小さい場合は、EAP セッションから取得された PSK（赤色のフロー）が（両方のルータにより）MKA の EAP-PSK として使用され、CAK が導出されます。

# リモート認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化の設定

ポイントツーポイントリンクでMKAによるMACsecを設定するには、次のタスクを実行します。

## 証明書登録の設定

### 鍵ペアの生成

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto key generate rsa label <i>label name</i> general-keys modulus <i>size</i></b>	署名および暗号化用に RSA 鍵ペアを作成します。  label キーワードを使用すると、各鍵ペアにラベルを割り当てることもできます。このラベルは、鍵ペアを使用するトラストポイントによって参照されます。ラベルを割り当てなかった場合、鍵ペアには <Default-RSA-Key> というラベルが自動的に付けられます。  追加のキーワードを使用しない場合、このコマンドは汎用 RSA 鍵ペアを1つ生成します。法 (modulus) が指定されていない場合は、デフォルトの鍵の法である 1024 が使用されます。その他の法サイズを指定するには、modulus キーワードを使用します。
ステップ 4	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>show authentication session interface <i>interface-id</i></b>	許可されたセッションのセキュリティステータスを確認します。
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## SCEP による登録の設定

Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) は、HTTP を使用して認証局 (CA) または登録局 (RA) と通信する、シスコが開発した登録プロトコルです。SCEP は、要求および証明書の送受信に最も一般的に使用される方式です。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint <i>server name</i></b>	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment url <i>url name pem</i></b>	デバイスが証明書要求を送信する CA の URL を指定します。 URL 内の IPv6 アドレスは括弧で囲む必要があります。たとえば、 <code>http://[2001:DB8:1:1::1]:80</code> です。 <b>pem</b> キーワードは、証明書要求に Privacy Enhanced Mail (PEM) の境界を追加します。
ステップ 5	<b>rsa keypair <i>label</i></b>	証明書に関連付けるキー ペアを指定します。 (注) <b>rsa keypair</b> 名は、信頼ポイント名と一致している必要があります。
ステップ 6	<b>serial-number none</b>	<b>none</b> キーワードは、証明書要求にシリアル番号が含まれないことを指定します。
ステップ 7	<b>ip-address none</b>	<b>none</b> キーワードは、証明書要求に IP アドレスが含まれないことを指定します。
ステップ 8	<b>revocation-check <i>crl</i></b>	ピアの証明書が取り消されていないことを確認する方法として CRL を指定します。
ステップ 9	<b>auto-enroll <i>percent regenerate</i></b>	自動登録を有効にします。これにより、クライアントは CA から自動的にロールオーバー証明書を要求できます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>自動登録が有効でない場合、証明書の失効時にクライアントを手動で PKI に再登録する必要があります。</p> <p>デフォルトでは、デバイスのドメイン ネーム システム (DNS) 名だけが証明書に含められます。</p> <p>現行の証明書の有効期間が指定のパーセンテージに達したときに、新しい証明書が要求されるように指定するには、<code>percent</code> 引数を使用します。</p> <p>名前付きの鍵がすでに存在する場合でも、証明書の新しい鍵を生成するには、<code>regenerate</code> キーワードを使用します。</p> <p>ロールオーバー中の鍵ペアがエクスポート可能な場合、新しい鍵ペアもエクスポート可能です。次のコメントがトラストポイント コンフィギュレーションに表示され、鍵ペアがエクスポート可能かどうかを示されます。「! RSA key pair associated with trustpoint is exportable.」</p> <p>新しい鍵ペアは、セキュリティ上の問題に対処するために生成することを推奨します。</p>
ステップ 10	<code>crypto pki authenticate name</code>	CA 証明書を取得して、認証します。
ステップ 11	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 12	<code>show crypto pki certificate trustpoint name</code>	信頼ポイントの証明書に関する情報を表示します。

## 登録の手動設定

CA が SCEP をサポートしない場合、またはルータと CA 間のネットワーク接続が不可能な場合、手動での証明書登録を設定するには、次の作業を実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>crypto pki trustpoint server name</code>	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<code>enrollment url url name pem</code>	デバイスが証明書要求を送信する CA の URL を指定します。  URL 内の IPv6 アドレスは括弧で囲む必要があります。たとえば、 <code>http://[2001:DB8:1:1::1]:80</code> です。  <code>pem</code> キーワードは、証明書要求に Privacy Enhanced Mail (PEM) の境界を追加します。
ステップ 5	<code>rsa keypair label</code>	証明書に関連付けるキーペアを指定します。
ステップ 6	<code>serial-number none</code>	<code>none</code> キーワードは、証明書要求にシリアル番号が含まれないことを指定します。
ステップ 7	<code>ip-address none</code>	<code>none</code> キーワードは、証明書要求に IP アドレスが含まれないことを指定します。
ステップ 8	<code>revocation-check crl</code>	ピアの証明書が取り消されていないことを確認する方法として CRL を指定します。
ステップ 9	<code>exit</code>	グローバルコンフィギュレーションモードから抜けます。
ステップ 10	<code>crypto pki authenticate name</code>	CA 証明書を取得して、認証します。
ステップ 11	<code>crypto pki enroll name</code>	証明書要求を生成し、証明書サーバーにコピーおよびペーストするために要求を表示します。  プロンプトが表示されたら、登録情報を入力します。たとえば、証明書要求にデバイスの FQDN および IP アドレスを含めるかどうかを指定します。  コンソール端末に対して証明書要求を表示するかについても選択できます。  必要に応じて、Base 64 符号化証明書を PEM ヘッダーを付けて、または付けずに表示します。
ステップ 12	<code>crypto pki import name certificate</code>	許可された証明書を取得するコンソール端末で、TFTP によって証明書をインポートします。  デバイスは、拡張子が「.req」から「.crt」に変更されたことを除いて、要求の送信に使用した同じファイル名を使用して、許可された証明書を TFTP によって取得しようと試みます。用途鍵証明書の場合



	コマンドまたはアクション	目的
		<p>合、拡張子「-sign.crt」および「-encr.crt」が使用されます。</p> <p>デバイスは、受信したファイルを解析して証明書を検証し、証明書をスイッチの内部証明書データベースに挿入します。</p> <p>(注) 一部の CA は、証明書要求の用途鍵情報を無視し、汎用目的の証明書を発行します。ご使用の CA が証明書要求の用途鍵情報を無視する場合は、汎用目的の証明書だけをインポートしてください。ルータは、生成される 2 つの鍵ペアのいずれも使用しません。</p>
ステップ 13	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードから抜けます。
ステップ 14	<b>show crypto pki certificate trustpoint name</b>	信頼ポイントの証明書に関する情報を表示します。
ステップ 15	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

## 802.1x 認証の有効化と AAA の設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b>	AAA を有効にします。
ステップ 4	<b>dot1x system-auth-control</b>	デバイス上で 802.1X を有効にします。
ステップ 5	<b>radius server name</b>	RADIUS サーバの設定の名前を Protected Access Credential (PAC) のプロビジョニング用に指定し、RADIUS サーバ設定モードを開始します。
ステップ 6	<b>address ip-address auth-port port-number acct-port port-number</b>	RADIUS サーバのアカウントingおよび認証パラメータの IPv4 アドレスを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<b>automate-tester username</b> <i>username</i>	RADIUS サーバーの自動テスト機能を有効にします。  このようにすると、デバイスは RADIUS サーバーにテスト認証メッセージを定期的送信し、サーバーからの RADIUS 応答を待機します。成功メッセージは必須ではありません。認証失敗であっても、サーバーが稼働していることを示しているため問題ありません。
ステップ 8	<b>key</b> <i>string</i>	デバイスと RADIUS サーバーとの間におけるすべての RADIUS 通信用の認証および暗号キーを指定します。
ステップ 9	<b>radius-server deadtime</b> <i>minutes</i>	いくつかのサーバーが使用不能になったときの RADIUS サーバーの応答時間を短くし、使用不能になったサーバーがすぐにスキップされるようにします。
ステップ 10	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 11	<b>aaa group server radius</b> <i>group-name</i>	異なる RADIUS サーバー ホストを別々のリストと方式にグループ化し、サーバー グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>server name</b>	RADIUS サーバー名を割り当てます。
ステップ 13	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 14	<b>aaa authentication dot1x default group</b> <i>group-name</i>	IEEE 802.1x 用にデフォルトの認証サーバー グループを設定します。
ステップ 15	<b>aaa authorization network default group</b> <i>group-name</i>	ネットワーク認証のデフォルト グループを設定します。

## EAP-TLS プロファイルと 802.1x クレデンシャルの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>eap profile</b> <i>profile-name</i>	EAP プロファイルを設定し、EAP プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>method tls</b>	デバイスで EAP-TLS 方式を有効にします。
ステップ 5	<b>pki-trustpoint</b> <i>name</i>	デフォルトの PKI トラストポイントを設定します。
ステップ 6	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>dot1x credentials</b> <i>profile-name</i>	802.1x クレデンシャルプロファイルを設定し、dot1x クレデンシャル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>username</b> <i>username</i>	認証ユーザー ID を設定します。
ステップ 9	<b>pki-trustpoint</b> <i>name</i>	デフォルトの PKI トラストポイントを設定します。
ステップ 10	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

## インターフェイスでの 802.1x MKA MACsec 設定の適用

EAP-TLS を使用して MKA MACsec をインターフェイスに適用するには、次のタスクを実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>interface-id</i>	MACsec インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。インターフェイスは物理インターフェイスでなければなりません。
ステップ 4	<b>macsec</b>	インターフェイス上で MACsec をイネーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>authentication periodic</b>	このポートの再認証をイネーブルにします。
ステップ 6	<b>authentication timer reauthenticate interval</b>	再認証間隔を設定します。
ステップ 7	<b>access-session host-mode multi-domain</b>	ホストにインターフェイスへのアクセスを許可します。
ステップ 8	<b>access-session closed</b>	インターフェイスへの事前認証アクセスを防止します。
ステップ 9	<b>access-session port-control auto</b>	ポートの認可状態を設定します。
ステップ 10	<b>dot1x pae both</b>	ポートを 802.1X ポートアクセス エンティティ (PAE) のサブリカントおよびオーセンティケータとして設定します。
ステップ 11	<b>dot1x credentials profile</b>	802.1x クレデンシャルプロファイルをインターフェイスに割り当てます。
ステップ 12	<b>dot1x supplicant eap profile name</b>	EAP-TLS プロファイルをインターフェイスに割り当てます。
ステップ 13	<b>service-policy type control subscriber control-policy name</b>	インターフェイスに加入者制御ポリシーを適用します。
ステップ 14	<b>exit</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 15	<b>show macsec interface</b>	インターフェイスの MACsec の詳細を表示します。
ステップ 16	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

## ローカル認証を使用した証明書ベース MACsec 暗号化の設定

ポイントツーポイントリンクで MKA による MACsec を設定するには、次のタスクを実行します。

## ローカル認証を使用した EAP クレデンシャルの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b>	AAA を有効にします。
ステップ 4	<b>aaa local authentication default authorization default</b>	デフォルトのローカル認証およびデフォルトのローカル認証方法を設定します。
ステップ 5	<b>aaa authentication dot1x default local</b>	IEEE 802.1x 用にデフォルトのローカルユーザー名認証リストを設定します。
ステップ 6	<b>aaa authorization network default local</b>	ローカルユーザーの認可方式リストを設定します。
ステップ 7	<b>aaa authorization credential-download default local</b>	ローカルクレデンシャルの使用に関する認可方式リストを設定します。
ステップ 8	<b>exit</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

## ローカル EAP-TLS 認証と認証プロファイルの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b>	AAA を有効にします。
ステップ 4	<b>dot1x credentials <i>profile-name</i></b>	dot1x クレデンシャルプロファイルを設定し、dot1x クレデンシャル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>username</b> <i>name</i> <b>password</b> <i>password</i>	認証のユーザー ID およびパスワードを設定します。
ステップ 6	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>aaa attribute list</b> <i>list-name</i>	(任意) AAA 属性リスト定義を設定し、属性リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>aaa attribute type linksec-policy must-secure</b>	(任意) AAA 属性タイプを指定します。
ステップ 9	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	<b>username</b> <i>name</i> <b>aaa attribute list</b> <i>name</i>	(任意) ユーザー ID に AAA 属性リストを指定します。
ステップ 11	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

## SCEP による登録の設定

Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) は、HTTP を使用して認証局 (CA) または登録局 (RA) と通信する、シスコが開発した登録プロトコルです。SCEP は、要求および証明書の送受信に最も一般的に使用される方式です。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint</b> <i>server name</i>	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment url</b> <i>url name pem</i>	デバイスが証明書要求を送信する CA の URL を指定します。  URL 内の IPv6 アドレスは括弧で囲む必要があります。たとえば、 <code>http://[2001:DB8:1:1::1]:80</code> です。

	コマンドまたはアクション	目的
		pem キーワードは、証明書要求に Privacy Enhanced Mail (PEM) の境界を追加します。
ステップ 5	<b>rsa</b> keypair <i>label</i>	証明書に関連付けるキー ペアを指定します。  (注) <b>rsa</b> keypair 名は、信頼ポイント名と一致している必要があります。
ステップ 6	<b>serial-number</b> none	<b>none</b> キーワードは、証明書要求にシリアル番号が含まれないことを指定します。
ステップ 7	<b>ip-address</b> none	<b>none</b> キーワードは、証明書要求に IP アドレスが含まれないことを指定します。
ステップ 8	<b>revocation-check</b> <i>crl</i>	ピアの証明書が取り消されていないことを確認する方法として CRL を指定します。
ステップ 9	<b>auto-enroll</b> <i>percent regenerate</i>	自動登録を有効にします。これにより、クライアントは CA から自動的にロールオーバー証明書を要求できます。  自動登録が有効でない場合、証明書の失効時にクライアントを手動で PKI に再登録する必要があります。  デフォルトでは、デバイスのドメイン ネーム システム (DNS) 名だけが証明書に含められます。  現行の証明書の有効期間が指定のパーセンテージに達したときに、新しい証明書が要求されるように指定するには、 <b>percent</b> 引数を使用します。  名前付きの鍵がすでに存在する場合でも、証明書の新しい鍵を生成するには、 <b>regenerate</b> キーワードを使用します。  ロールオーバー中の鍵ペアがエクスポート可能な場合、新しい鍵ペアもエクスポート可能です。次のコメントがトラストポイント コンフィギュレーションに表示され、鍵ペアがエクスポート可能かどうかを示されます。「! RSA key pair associated with trustpoint is exportable.」  新しい鍵ペアは、セキュリティ上の問題に対処するために生成することを推奨します。
ステップ 10	<b>crypto pki authenticate</b> <i>name</i>	CA 証明書を取得して、認証します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 12	<code>show crypto pki certificate trustpoint name</code>	信頼ポイントの証明書に関する情報を表示します。

## 登録の手動設定

CA が SCEP をサポートしない場合、またはルータと CA 間のネットワーク接続が不可能な場合。手動での証明書登録を設定するには、次の作業を実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>crypto pki trustpoint server name</code>	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>enrollment url url name pem</code>	デバイスが証明書要求を送信する CA の URL を指定します。 URL 内の IPv6 アドレスは括弧で囲む必要があります。たとえば、 <code>http://[2001:DB8:1:1::1]:80</code> です。 <pem (pem)="" enhanced="" mail="" privacy="" td="" の境界を追加します。<="" キーワードは、証明書要求に=""> </pem>
ステップ 5	<code>rsa keypair label</code>	証明書に関連付けるキー ペアを指定します。
ステップ 6	<code>serial-number none</code>	<b>none</b> キーワードは、証明書要求にシリアル番号が含まれないことを指定します。
ステップ 7	<code>ip-address none</code>	<b>none</b> キーワードは、証明書要求に IP アドレスが含まれないことを指定します。
ステップ 8	<code>revocation-check crl</code>	ピアの証明書が取り消されていないことを確認する方法として CRL を指定します。
ステップ 9	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードから抜けます。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	<b>crypto pki authenticate <i>name</i></b>	CA 証明書を取得して、認証します。
ステップ 11	<b>crypto pki enroll <i>name</i></b>	<p>証明書要求を生成し、証明書サーバーにコピーおよびペーストするために要求を表示します。</p> <p>プロンプトが表示されたら、登録情報を入力します。たとえば、証明書要求にデバイスの FQDN および IP アドレスを含めるかどうかを指定します。</p> <p>コンソール端末に対して証明書要求を表示するかについても選択できます。</p> <p>必要に応じて、Base 64 符号化証明書を PEM ヘッダーを付けて、または付けずに表示します。</p>
ステップ 12	<b>crypto pki import <i>name</i> certificate</b>	<p>許可された証明書を取得するコンソール端末で、TFTP によって証明書をインポートします。</p> <p>デバイスは、拡張子が「.req」から「.crt」に変更されたことを除いて、要求の送信に使用した同じファイル名を使用して、許可された証明書を TFTP によって取得しようと試みます。用途鍵証明書の場合、拡張子「-sign.crt」および「-encr.crt」が使用されます。</p> <p>デバイスは、受信したファイルを解析して証明書を検証し、証明書をスイッチの内部証明書データベースに挿入します。</p> <p>(注) 一部の CA は、証明書要求の用途鍵情報を無視し、汎用目的の証明書を発行します。ご使用の CA が証明書要求の用途鍵情報を無視する場合は、汎用目的の証明書だけをインポートしてください。ルータは、生成される 2 つの鍵ペアのいずれも使用しません。</p>
ステップ 13	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードから抜けます。
ステップ 14	<b>show crypto pki certificate <i>trustpoint name</i></b>	信頼ポイントの証明書に関する情報を表示します。
ステップ 15	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

## EAP-TLS プロファイルと 802.1x クレデンシャルの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>eap profile profile-name</code>	EAP プロファイルを設定し、EAP プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>method tls</code>	デバイスで EAP-TLS 方式を有効にします。
ステップ 5	<code>pki-trustpoint name</code>	デフォルトの PKI トラストポイントを設定します。
ステップ 6	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<code>dot1x credentials profile-name</code>	802.1x クレデンシャル プロファイルを設定し、dot1x クレデンシャル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<code>username username</code>	認証ユーザー ID を設定します。
ステップ 9	<code>pki-trustpoint name</code>	デフォルトの PKI トラストポイントを設定します。
ステップ 10	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

## インターフェイスでの 802.1x MKA MACsec 設定の適用

EAP-TLS を使用して MKA MACsec をインターフェイスに適用するには、次のタスクを実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface <i>interface-id</i></b>	MACsec インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。インターフェイスは物理インターフェイスでなければなりません。
ステップ 4	<b>macsec</b>	インターフェイス上で MACsec をイネーブルにします。
ステップ 5	<b>authentication periodic</b>	このポートの再認証をイネーブルにします。
ステップ 6	<b>authentication timer reauthenticate interval</b>	再認証間隔を設定します。
ステップ 7	<b>access-session host-mode multi-domain</b>	ホストにインターフェイスへのアクセスを許可します。
ステップ 8	<b>access-session closed</b>	インターフェイスへの事前認証アクセスを防止します。
ステップ 9	<b>access-session port-control auto</b>	ポートの認可状態を設定します。
ステップ 10	<b>dot1x pae both</b>	ポートを 802.1X ポート アクセス エンティティ (PAE) のサブリカントおよびオーセンティケータとして設定します。
ステップ 11	<b>dot1x credentials profile</b>	802.1x クレデンシアルプロファイルをインターフェイスに割り当てます。
ステップ 12	<b>dot1x authenticator eap profile <i>name</i></b>	EAP-TLS オーセンティケータ プロファイルをインターフェイスに割り当てます。
ステップ 13	<b>dot1x supplicant eap profile <i>name</i></b>	EAP-TLS サブリカントプロファイルをインターフェイスに割り当てます。
ステップ 14	<b>service-policy type control subscriber <i>control-policy name</i></b>	インターフェイスに加入者制御ポリシーを適用します。
ステップ 15	<b>exit</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 16	<b>show macsec interface</b>	インターフェイスの MACsec の詳細を表示します。
ステップ 17	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。



```
Device# show access-session interface tel1/0/1 details
```

```
Interface: TenGigabitEthernet1/0/1
          IIF-ID: 0x17298FCD
          MAC Address: f8a5.c592.13e4
          IPv6 Address: Unknown
          IPv4 Address: Unknown
          User-Name: DOT1XCRED
          Status: Authorized
          Domain: DATA
          Oper host mode: multi-host
          Oper control dir: both
          Session timeout: N/A
          Common Session ID: 0000000000000000BB72E8AFA
          Acct Session ID: Unknown
          Handle: 0xc3000001
          Current Policy: MUSTS_1
```

```
Local Policies:
  Security Policy: Must Secure
  Security Status: Link Secured
```

```
Server Policies:
```

```
Method status list:
  Method          State
  dot1xSup        Authc Success
  dot1x           Authc Success
```

## 証明書ベース MACsec 暗号化の設定例

### 例: : 証明書の登録

```
Configure Crypto PKI Trustpoint:
crypto pki trustpoint POLESTAR-IOS-CA
  enrollment terminal
  subject-name CN=ASR1000x1@polestar.com, C=IN, ST=KA, OU=ENG,O=Polestar
  revocation-check none
  rsakeypair mkaioscarsa
  storage nvram:
!
Manual Installation of Root CA certificate:
crypto pki authenticate POLESTAR-IOS-CA
```

### 例 : 802.1x 認証の有効化と AAA の設定

```
aaa new-model
dot1x system-auth-control
radius server ISE
  address ipv4 <ISE ipv4 address> auth-port 1645 acct-port 1646
```

## 例 : EAP-TLS プロファイルと 802.1x クレデンシャルの設定

```

    automate-tester username dummy
    key dummy123
    radius-server deadtime 2
    !
aaa group server radius ISEGRP
    server name ISE
    !
aaa authentication dot1x default group ISEGRP
aaa authorization network default group ISEGRP

```

## 例 : EAP-TLS プロファイルと 802.1x クレデンシャルの設定

```

eap profile EAPTLS-PROF-IOSCA
    method tls
    pki-trustpoint POLESTAR-IOS-CA
    !

dot1x credentials EAPTLSCRED-IOSCA
    username asr1000@polestar.company.com
    pki-trustpoint POLESTAR-IOS-CA
    !

```

## 例 : インターフェイスでの 802.1X、PKI、および MACsec の設定の適用

```

interface TenGigabitEthernet0/1
    macsec network-link
    authentication periodic
    authentication timer reauthenticate <reauthentication interval>
    access-session host-mode multi-host
    access-session closed
    access-session port-control auto
    dot1x pae both
    dot1x credentials EAPTLSCRED-IOSCA
    dot1x supplicant eap profile EAPTLS-PROF-IOSCA
    service-policy type control subscriber DOT1X_POLICY_RADIUS

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
IEEE 802.1AE-2006	<i>Media Access Control (MAC) セキュリティ</i>
IEEE 802.1X-2010	ポート ベースのネットワーク アクセス コントロール
IEEE 802.1AEbw-2013	<i>Media Access Control (MAC) セキュリティ (IEEE 802.1AE-2006 の修正) : Extended Packet Numbering (XPN)</i>
IEEE 802.1Xbx-2014	ポートベースのネットワーク アクセス コントロール (IEEE 802.1 x-2010 の修正)
RFC 4493	<i>AES-CMAC</i> アルゴリズム

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>





## 第 108 章

# MACsec as a Service : 暗号化ソリューション

このドキュメントでは、Cisco WAN MACsec およびイーサネット仮想回線（EVC）を使用してネットワークトラフィックを保護するために、暗号化ソリューションである Cisco MACsec as a Service を展開する方法について説明します。このソリューションは、MACsec Key Agreement（MKA）プロトコルを使用した Media Access Control Security（MACsec）のイーサネット仮想回線（EVC）サポートを提供します。MKA を使用した MACsec では、EVC が検出され、EVC 基準に一致する物理インターフェイスが有効になります。この機能により、ユーザーは、WAN リンクを介して複数の企業からのレイヤ 2 トラフィックを転送し、EVC を介した MACsec によってトラフィックを個別に保護できます。

- [MACsec as a Service の機能情報（1265 ページ）](#)
- [MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの前提条件（1266 ページ）](#)
- [MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する制約事項（1266 ページ）](#)
- [MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する情報（1267 ページ）](#)
- [MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの設定方法（1271 ページ）](#)
- [MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの設定例（1276 ページ）](#)
- [MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する追加情報（1277 ページ）](#)

## MACsec as a Service の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 145: MACsec as a Service の機能情報

機能名	リリース	機能情報
MACsec as a Service : MACsec およ び MKA の イーサネット 仮想回線サ ポート	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1a	<p>このドキュメントでは、MACsec Key Agreement (MKA) プロトコルによる MACsec のイーサネット仮想回線 (EVC) サポートを使用して暗号化ソリューションを展開する方法について説明します。MKA を使用した MACsec では、EVC が検出され、EVC 基準に一致する物理インターフェイスが有効になります。この機能により、ユーザーは、WAN リンクを介して複数の企業からのレイヤ 2 トラフィックを転送し、EVC を介した MACsec によってトラフィックを個別に保護できます。</p> <p>このリリースでは、この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでのみサポートされています。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました：</p> <p><b>mka pre-shared-key key-chain</b> <i>key-chain-name</i>、<b>mka policy</b> <i>policy-name</i>、<b>mka default-policy</b>、<b>macsec replay-protection window</b> <i>window size</i>、<b>eapol destination-address</b> <i>destination-address</i>{<i>bridge-group-address</i>   <i>broadcast-address</i>   <i>lldp-multicast-address</i>   <i>unicast mac-address</i>}、<b>eapol eth-type</b> <i>eth-type</i>。</p>

## MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの前提条件

- WAN MACsec には MACsec ライセンスが必要です。『Cisco ASR 1000 シリーズイーサネット ラインカード データシート』の表を参照してください。
- レイヤ 2 の透過型イーサネットサービスが使用可能であることを確認します。サービスプロバイダー ネットワークが、Extensible Authentication Protocol over LAN (EAPoL) などの透過的な MACsec レイヤ 2 制御プロトコルを提供する必要があります。

## MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する制約事項

- この機能は、Cisco 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでのみサポートされています。
- この機能は、Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1a 以降でサポートされています。

- MACsec を使用した EVC では、dot1q ベースのヘッダーのみがサポートされています。  
ポートあたりの MKA P2P セッションの数は、1 ギガインターフェイスで 8、10 ギガインターフェイスで 32 です。
- MACsec または MKA セッションが、物理インターフェイスまたはサブインターフェイスですでに設定されている場合、同じ物理インターフェイスのサービスインスタンスまたは EVC モードで MKA セッションを使用して MACsec を設定することはできません。その逆も同様です。
- MACsec EVC は、MKA PSK ベースのセッションでのみサポートされています。

## MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する情報

### MACsec および MKA の概要

MACsec は、IEEE 802.1AE 規格ベースのレイヤ 2 ホップバイホップ暗号化であり、これにより、メディアアクセス非依存プロトコルに対してデータの機密性と完全性を確保できます。

MACsec は、暗号化キーにアウトオブバンド方式を使用して、有線ネットワーク上で MAC レイヤの暗号化を提供します。MACsec Key Agreement (MKA) プロトコルでは、必要なセッションキーを提供し、必要な暗号化キーを管理します。ホスト側のリンク（ネットワークアクセスデバイスと、PC や IP フォンなどのエンドポイントデバイス間のリンク）だけが MACsec を使用して保護できます。

MKA による 802.1AE 暗号化は、ルータまたはスイッチとホストデバイス間の暗号化用に、ダウンリンクポートでサポートされます。MKA は、IEEE 規格の 802.1X で定義されている MACsec のコントロールプレーンです。MKA フレームは、EAPoL フレームの一部を形成します。MACsec は、パケット処理プロセスの最終段階であり、EAPoL フレームを除くすべてのトラフィックを暗号化します。

WAN MACsec および MKA を実装する場合は、MACsec の有効化を試みる前に、基本的なレイヤ 2 イーサネット接続が確立されていることを確認します。詳細については、「[MACsec および MKA の概要](#)」を参照してください。

### シスコのイーサネット仮想回線

イーサネット仮想回線 (EVC) は、レイヤ 2 サービスの単一インスタンスのエンドツーエンド表現です。さまざまなパラメータが統合されて、サービスが提供されます。シスコの EVC 構造では、ブリッジドメインは、サービスインスタンスと呼ばれているレイヤ 2 インターフェイス (1 つまたは複数) で設定されます。サービスインスタンスは、あるルータ上のあるポート上で EVC をインスタンス化したものです。サービスインスタンスは、設定に基づいてブリッジドメイン (BD) に関連付けられます。

着信フレームは、次の基準に基づいてサービス インスタンスとして分類できます。

- シングル 802.1Q VLAN タグ、優先度タグ付き、または 802.1ad VLAN タグ
- 両 QinQ（内部および外部）VLAN タグ、または 802.1ad S-VLAN と C-VLAN タグの両方
- 外部 802.1p CoS ビット、内部 802.1p CoS ビット、またはその両方
- サービスインスタンスは、他のマッピング基準もサポートします。
- [Untagged] : 802.1Q または 802.1ad ヘッダがないすべてのフレームにマッピングします。
- [Default] : すべてのフレームにマッピングします。

EVC アーキテクチャの詳細については、『[Carrier Ethernet Configuration Guide](#)』の「Configuring Ethernet Virtual Circuit」のセクションを参照してください。

## イーサネット サービス インスタンスまたはイーサネットフローポイント

イーサネットフローポイント（EFP）は、インターフェイス上のイーサネットサービスのトランスポートに依存しない抽象化です。EFPは、ユーザー定義の基準に基づいて、同じ物理ポートからのフレームを、そのポートに関連付けられた複数のサービスインスタンスの1つに分類します。各 EFP に、異なる転送アクションと動作を関連付けることができます。

## Extensible Authentication Protocol over LAN 宛先アドレス

MACsec セキュアセッションを確立する前に、MACsec Key Agreement（MKA）が制御プロトコルとして使用されます。MKA は、暗号化に使用する暗号スイートを選択し、必要なキーとパラメータをピア間で交換します。

MKA は、MKA メッセージを送信するためのトランスポート プロトコルとして Authentication Protocol over LAN（EAPoL）を使用します。デフォルトでは、EAPoL は宛先マルチキャスト MAC アドレスとして 01:80:c2:00:00:03 を使用して、複数の宛先へパケットをマルチキャストします。EAPoL は標準ベースのプロトコルであり、IEEE 802.1x などの他の認証メカニズムでも同じプロトコルが使用されます。サービス プロバイダー クラウド内のデバイスは、（宛先マルチキャスト MAC アドレスに基づいて）このパケットを消費し、EAPoL パケットの処理を試み、最終的にはパケットをドロップします。これにより、MKA セッションが失敗します。

インターフェイス上でサービス プロバイダーに送信される EAPoL パケットの宛先 MAC アドレスを変更するには、**capol destination-address** コマンドを使用します。これにより、サービス プロバイダーは、パケットを消費せずに、他のデータ パケットと同様にトンネリングできます。



- (注) EAPoL宛先アドレスは、物理レベルまたはサブインターフェイスレベルで設定できます。物理インターフェイスで設定する場合、設定はサブインターフェイスによって自動的に継承されます。サブインターフェイスでの明示的な設定は、そのサブインターフェイスで継承された値またはポリシーよりも優先されます。

ブリッジドメイン (BD) は、プラットフォーム内部のブロードキャストドメインを定義し、VLAN からブロードキャストドメインを分離できます。そのため、ポートごとの VLAN シグニフィカンスが可能になります。これにより、単一のボックス単位の VLAN ID 空間に関連する拡張性の制限がなくなります。EVC が各イーサネットフローポイント (EFP) でさまざまなカプセル化を使用する機能を提供する方法の詳細については、「[□ブリッジドメインインターフェイスのカプセル化](#)」を参照してください。

## イーサネット仮想回線を使用した MACsec および MKA の利点

- WAN リンクを介して複数の企業顧客からのレイヤ 2 VLAN を転送し、MACsec によってトラフィックを個別に保護します。

MACsec を使用した WAN 経由の LAN トラフィックの選択的暗号化

WAN MACsec および MKA のサポートの利点の詳細については、「[WAN MACsec および MKA のサポート機能強化の利点](#)」の項を参照してください。

## イーサネット仮想回線を使用した MACsec as a Service

次のトポロジは、ポイントツーポイントおよびポイントツーマルチポイントのシナリオで WAN MACsec を使用してイーサネット仮想回線 (EVC) を EoMPLS ネットワークに展開する方法を示しています。暗号化されたトラフィックが、CVLAN を持つ CE から CE ルータに伝送され、ネットワーク内の CE ルータが、データが宛先に到達することを確認します。

図 31: 単一の SVLAN を使用した MKA および MACsec トポロジ

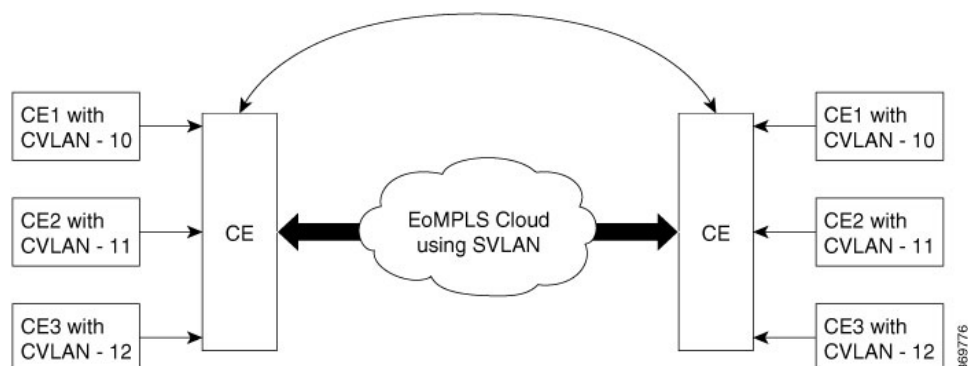
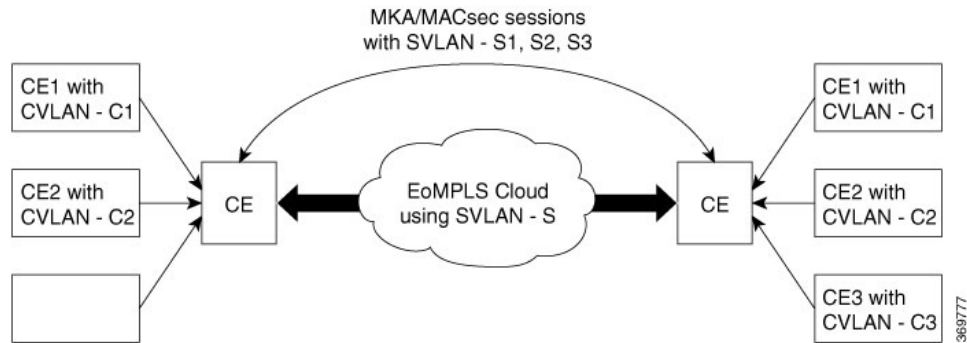


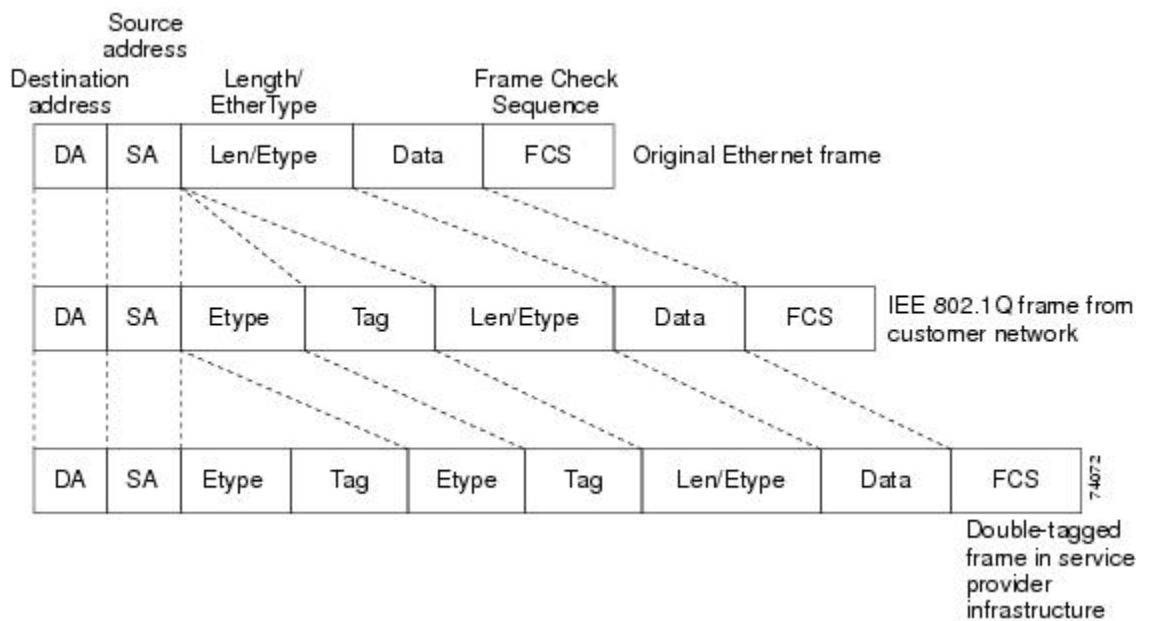
図 32: 複数の SVLAN を使用した MKA および MACsec トポロジ



EAPoL フレームをサポートする Cisco WAN MACsec は、データを暗号化するだけでなく、さまざまなサービスプロバイダー ネットワークをシームレスに移動して、すべてのリモートサイトに安全に接続するために役立ちます。

EoMPLS ネットワークでは、異なる場所にある複数のレイヤ2イーサネットネットワークを接続できます。EoMPLS を介してさまざまなサービスプロバイダーに接続することを可能にするために、WAN MACsec は、暗号化されていない dot.1q タグをサポートしています。これは、サービスプロバイダー ネットワークの動作を中断することなくパブリック E-LINE または E-LAN サービスを介してリモートサイトに接続するために役立ちます。

図 33: 802.1Q および二重タグ付きイーサネットパケット形式



サービスプロバイダーには、多くの場合、サポートする VLAN ID および VLAN の数に固有の要件があります。同一サービスプロバイダー ネットワークのさまざまな顧客が必要とする VLAN 範囲は重複し、インフラストラクチャを通る顧客のトラフィックは混合してしまうことがあります。顧客ごとに一意の VLAN ID 範囲を割り当てると、顧客の設定が制限され、802.1Q 仕様の VLAN に関する上限 (4096 個) を容易に超えてしまいます。

サービスプロバイダー ネットワークを使用してネットワーク間でデータを交換する場合、MACsec を使用した EVC は、転送中のデータの暗号化に役立ちます。暗号化されていない dot.1q タグにより、複雑なネットワークを保護するための多数の設計オプションが可能になります。サービスプロバイダーは EVC を使用して、複数のカスタマー VLANID (C-VLAN) と、サービスプロバイダー VLAN (S-VLAN) による単一の 0x8100 Ethertype VLAN タグを持ち、サービスプロバイダー ネットワークに入るパケットをカプセル化できます。サービスプロバイダー ネットワーク内では、パケットは、S-VLAN に基づいてスイッチングされます。パケットがサービスプロバイダー ネットワークからカスタマーネットワークに出ると、S-VLAN タグのカプセル化が解除され、元のカスタマーパケットが復元されます。

# MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの設定方法

## キーチェーンの設定

キーチェーンを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

#### ステップ 1 enable

例：

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

#### ステップ 2 configure terminal

例：

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

#### ステップ 3 key chain *key-chain-name* macsec

例：

```
Device(config)# Key chain keychain1 macsec
```

キーチェーンを設定して、キーチェーン コンフィギュレーション モードを開始します。

#### ステップ 4 key *hex-string*

例：

```
Device(config-keychain)# key 01
```

キーを設定して、キーチェーン コンフィギュレーション モードを開始します。

**ステップ 5 cryptographic-algorithm {gcm-aes-128 | gcm-aes-256}**

例 :

```
Device(config-keychain-key)# cryptographic-algorithm aes-128-cmac
```

暗号化認証アルゴリズムを設定します。

**ステップ 6 key-string *pwd-string***

例 :

```
Device(config-keychain-key)# key-string 12345678901234567890123456789013
```

キー文字列のパスワードを設定します。

**ステップ 7 end**

例 :

```
Device(config-keychain-key)# end
```

特権 EXEC モードに戻ります。

## インターフェイスでの MKA および MACsec の設定

インターフェイスで MKA および MACsec を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1 enable**

例 :

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

**ステップ 2 configure terminal**

例 :

```
Device# configure terminal
```

コンフィギュレーションモードを開始します。

**ステップ 3 mka policy *policy-name***

例 :

```
Device(config)# mka policy
```



MKA ポリシーを設定します。

**ステップ 4** `mka pre-shared-key key-chain` *key-chain-name*

例：

```
Device(config)# mka pre-shared-key key-chain 10
```

MKA 事前共有キーに `keychain10` を設定します。

(注) MKA 事前共有キーは、物理インターフェイスまたはサブインターフェイスのいずれかで設定できますが、物理インターフェイスとサブインターフェイスの両方で設定することはできません。

**ステップ 5** `macsec`

EAPOL フレームタイプの MACsec を設定します。

**ステップ 6** `macsec replay-protection window` *window-size*

リプレイウィンドウを `10` に変更します。

**ステップ 7** `end`

特権 EXEC モードに戻ります。

---

## カスタマーエッジ方向の入力ポートでのイーサネット仮想回線の設定

### 手順

---

**ステップ 1** `enable`

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

**ステップ 2** `configure terminal`

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

**ステップ 3** `interface GigabitEthernet0/0/2`

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

**ステップ 4** `service instance 10 Ethernet`

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

#### ステップ 5 **configure terminal**

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

#### ステップ 6 **interface GigabitEthernet0/0/2**

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

#### ステップ 7 **encapsulation dot1q 10**

#### ステップ 8 **rewrite ingress tag push dot1q 20 symmetric**

#### ステップ 9 **bridge-domain number**

```

ステップ 10 interface GigabitEthernet0/0/2
               service instance 11 Ethernet
               encapsulation dot1q 10
               rewrite ingress tag push dot1q 20 symmetric
               bridge-domain 21
               interface GigabitEthernet0/0/2
               service instance 12 Ethernet
               encapsulation dot1q 10
               rewrite ingress tag push dot1q 20 symmetric
               bridge-domain 22

```

## サービス プロバイダー ネットワーク方向の出力ポートでの MACsec EVC の設定

### 手順

#### ステップ 1 **enable**

#### ステップ 2 **configure terminal**

例 :

```

interface tenGigabitEthernet0/1/1
  macsec dot1q-in-clear 1
  service instance 20 Ethernet
  encapsulation dot1q 20
  mka pre-shared-key key-chain kcl
  macsec
  bridge-domain 20
    service instance 21 Ethernet
    encapsulation dot1q 21
  mka pre-shared-key key-chain kcl
  macsec
  bridge-domain 21
    service instance 22 Ethernet
    encapsulation dot1q 22

```

```
mka pre-shared-key key-chain kcl
macsec
bridge-domain 22
```

## MACsec および MKA セッションに基づく事前共有キーの有効化の確認

### 手順の概要

1. enable
- 2.

### 手順の詳細

### 手順

#### ステップ1 enable

#### ステップ2 例 :

```
show running-config | sec kcl
key chain kcl macsec
  key 01
    cryptographic-algorithm aes-128-cmac
    key-string 12345678901234567890123456789012
mka pre-shared-key key-chain kcl
mka pre-shared key-chain kcl
```

次に、サービスインスタンスモードでデフォルトポリシーを使用して事前共有キー（PSK）ベースの MKA/MACsec セッションを有効にするための設定例を示します。

```
Device#show running-config interface gi0/0/0
Building configuration...
...
...
...
Current configuration : 142 bytes
!
interface Ethernet0/0
  no ip address
  negotiation auto
  service instance 10 ethernet
    encapsulation dot1q 10
    rewrite ingress tag pop 1 symmetric
    mka pre-shared key-chain kcl
    macsec
    bridge-domain 100
!
end
```

## MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートの設定例

### 例：一般的なトラブルシューティング

例：一般的なトラブルシューティング

### 例：設定された **show mka** コマンド

例：設定された **show mka** コマンド

### 例：統計の表示

MACsec statistics on an EFP: To validate MACsec Statistics on an EFP instance, use show macsec statistics interface gi0/0/3 efp 10

```
-----
MACsec Statistics for Gi0/0/3.EFP10
SecY Counters
  Ingress Untag Pkts:          5
  Ingress No Tag Pkts:       63440
  Ingress Bad Tag Pkts:      0
  Ingress Unknown SCI Pkts:  0
  Ingress No SCI Pkts:       0
  Ingress Overrun Pkts:      0
  Ingress Validated Octets:  0
  Ingress Decrypted Octets:  0
  Egress Untag Pkts:         0
  Egress Too Long Pkts:     0
  Egress Protected Octets:   0
  Egress Encrypted Octets:   0
Controlled Port Counters
  IF In Octets:               0
  IF In Packets:              0
  IF In Discard:              63440
  IF In Errors:               0
  IF Out Octets:              0
  IF Out Packets:             0
  IF Out Errors:              0
  Transmit SC Counters (SCI: 70708BBA4683000A)
    Out Pkts Protected:       0
    Out Pkts Encrypted:       0
  Transmit SA Counters (AN 2)
    Out Pkts Protected:       0
    Out Pkts Encrypted:       0
  Receive SA Counters (SCI: 70708BBA4183000A AN 2)
    In Pkts Unchecked:        0
    In Pkts Delayed:          0
    In Pkts OK:               0
```

```

In Pkts Invalid:          0
In Pkts Not Valid:       0
In Pkts Not using SA:    0
In Pkts Unused SA:       0
In Pkts Late:            0

```

## 例 : show efp コマンド

例 : show efp コマンド

# MACsec および MKA のイーサネット仮想回線サポートに関する追加情報

関連資料

標準および RFC

標準/RFC	タイトル
標準	役職

MIB

MIB	MIB のリンク
• <del>RCMB</del>	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>



## 第 **XI** 部

### **PKI**

- [Cisco IOS XE PKI の概要, on page 1281](#)
- [PKI 内での RSA キーの展開, on page 1289](#)
- [PKI での証明書の許可および失効の設定, on page 1315](#)
- [PKI の証明書登録の設定, on page 1363](#)
- [PKI への登録のための Secure Device Provisioning の設定, on page 1411](#)
- [PKI クレデンシヤル失効アラート \(1473 ページ\)](#)
- [PKI 展開での 証明書サーバの設定および管理, on page 1477](#)
- [PKI クレデンシヤルの保存, on page 1533](#)
- [CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能, on page 1557](#)
- [PKI トラストプール管理, on page 1565](#)
- [トラストポイントの PKI 分割 VRF \(1581 ページ\)](#)
- [EST クライアント サポート \(1587 ページ\)](#)
- [PKI の Route Processor Redundancy の設定 \(1595 ページ\)](#)







## CHAPTER 109

# Cisco IOS XE PKI の概要

Cisco IOS XE 公開キー インフラストラクチャ (PKI) には、IP Security (IPSec)、セキュアシェル (SSH)、Secure Socket Layer (SSL) などのセキュリティプロトコルをサポートする証明書管理機能があります。

このマニュアルでは、PKI を理解、計画、実装するために必要な概念を確認、説明します。

- [Cisco IOS XE PKI の情報, on page 1281](#)
- [PKI の計画, on page 1285](#)
- [次の作業, on page 1286](#)
- [その他の参考資料, on page 1286](#)
- [用語集, on page 1288](#)

## Cisco IOS XE PKI の情報

### Cisco IOS XE PKI とは

PKI は以下のエンティティで構成されています。

- セキュアなネットワークで通信する複数のピア
- 証明書を発行および維持する認証局 (CA) を最低 1 つ
- デジタル証明書 (証明書の有効期間、ピアの ID 情報、セキュアな通信に使用する暗号キー、CA 発行のシグニチャなどで構成)
- 登録要求を処理し CA の負荷を軽減する登録局 (RA) (任意)
- 証明書失効リスト (CRL) を配信するメカニズム (Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)、HTTP など)



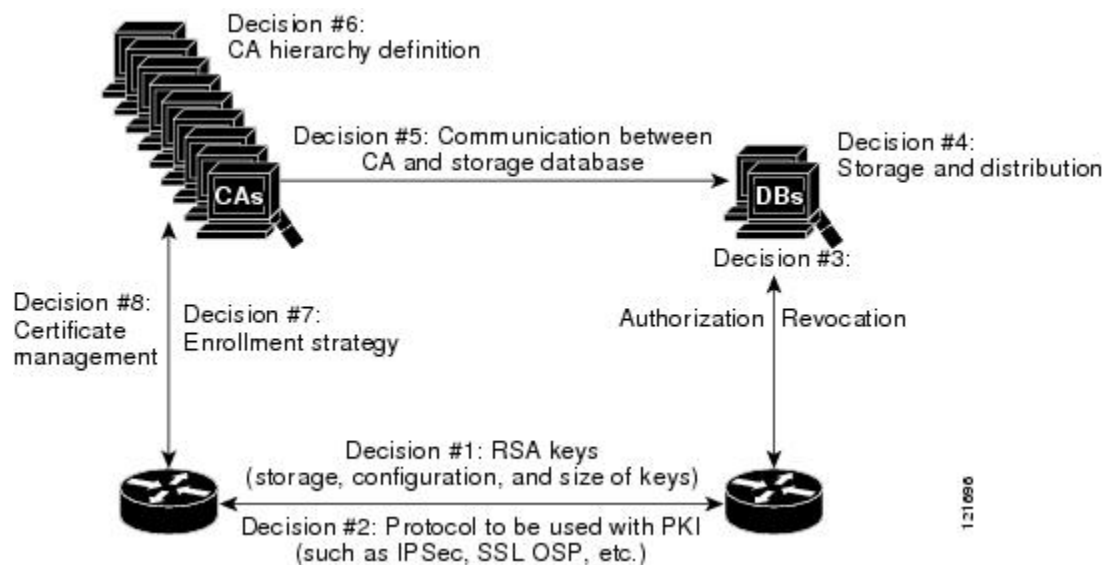
**Note** Public Key Infrastructure (PKI) は、重要な拡張である **Inhibit Any Policy** をサポートしていません (内部 PKI ライブラリがこの拡張を認識しないため)。

PKI を使用すると、セキュアなデータ ネットワークで暗号化情報と ID 情報を配信、管理、失効するためのスケーラブルでセキュアなメカニズムを実現できます。セキュアな通信に関係するエンティティ（人物またはデバイス）はすべて、あるプロセスを経て PKI に登録されます。そのプロセスでは、エンティティが RSA（Rivest, Shamir, Adelman）キーのペア（秘密キーが 1 つ、公開キーが 1 つ）を生成し、信頼されているエンティティ（CA またはトラストポイントともいいます）でキーの ID を確認します。

各エンティティが PKI に登録されると、PKI のすべてのピア（エンドホストともいいます）は、CA が発行したデジタル証明書を付与されます。セキュアな通信セッションをネゴシエーションする必要があるときは、ピアはデジタル証明書を交換します。ピアは証明書内の情報を基に他のピアの ID を確認し、証明書内の公開キーを使って、暗号化されたセッションを確立します。

PKI はさまざまな方法で計画、設定できますが、次の図に、PKI を構成する主なコンポーネントと、PKI で実行される各選択の順番を示します。図をアプローチとして推奨していますが、別の方法で PKI を設定してもかまいません。

Figure 34: PKI の設定方法の決定



## RSA キーの概要

RSA キー ペアは、公開キーと秘密キーで構成されます。PKI を設定する場合、証明書登録要求に公開キーを含める必要があります。証明書が付与された後、ピアが公開キーを使用して、ルータに送信されるデータを暗号化できるように、公開キーが証明書に組み込まれます。秘密キーはルータに保持され、ピアによって送信されたデータの復号化と、ピアとネゴシエーションするときの、トランザクションのデジタル署名に使用されます。

RSA キーペアには、キーのモジュラス値が含まれています。モジュラス値に応じて、RSA キーのサイズが決まります。モジュラス値が大きいほど、RSA キーの安全性が高まります。ただし、モジュラス値が大きくなると、キーの生成にかかる時間が長くなり、キーのサイズが大きくなると暗号化処理および復号化処理にかかる時間が長くなります。



**Note** デフォルトのキーサイズは 1024 ビットです。

## CA とは

CA (トラストポイントともいいます) は、証明書要求を管理し、参加ネットワーク デバイスに証明書を発行します。証明書要求の管理や証明書発行などのサービスにより、参加デバイスを一元的に管理します。またこれらのサービスによって受信者は、明示的に信頼してアイデンティティを確認し、デジタル証明書を作成できます。PKI の動作を開始する前に、CA は独自の公開キー ペアを生成し、自己署名 CA 証明書を作成します。その後、CA は、証明書要求に署名し、PKI に対してピア登録を開始できます。

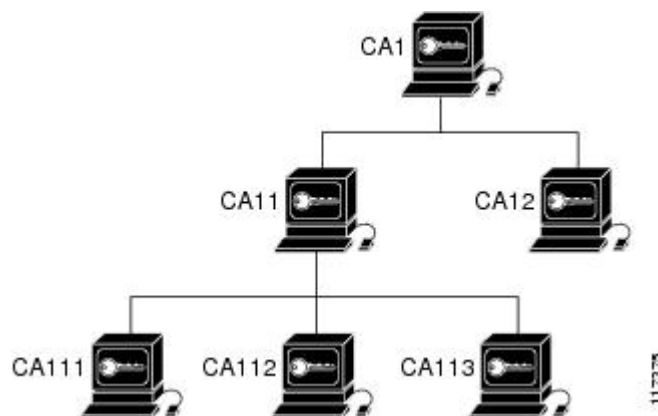
CA は、サードパーティの CA ベンダーが提供する CA を使用するか、内部の CA、つまり Cisco IOS 証明書サーバを使用します。

### 階層型 PKI : 複数の CA

PKI は、複数の CA をサポートするために階層型フレームワーク内に設定できます。階層の最上位にはルート CA があり、自己署名証明書を保持しています。階層全体の信頼性は、ルート CA の RSA キー ペアから導出されます。階層構造内の下位 CA は、ルート CA または別の下位 CA に登録できます。どちらの方法で登録するかによって、CA の複数階層の設定方法が決まります。階層型 PKI 内では、登録されているすべてのピアが信頼できるルート CA 証明書または共通の下位 CA を共有している場合、証明書を相互に検証できます。

次の表は、3 段の階層の CA 間の登録関係を示したものです。

**Figure 35: 3 段の CA 階層のサンプルトポロジ**



各 CA が 1 つのトラストポイントに対応します。たとえば、CA11 および CA12 は従属 CA で、CA1 が発行した CA 証明書を保持しています。CA111、CA112、CA113 も従属 CA ですが、その CA 証明書を発行したのは CA11 です。

## 複数 CA を使用する場合

複数 CA を使用することにより、柔軟性および信頼性が向上します。たとえば、ルート CA を本社オフィスに配置し、下位 CA をブランチ オフィスに配置できます。また、CA ごとに異なる許可ポリシーを実行できるため、階層構造内の、ある CA では各証明書要求を手動で許可する必要があるように、別の CA では証明書要求を自動的に許可するように設定できます。

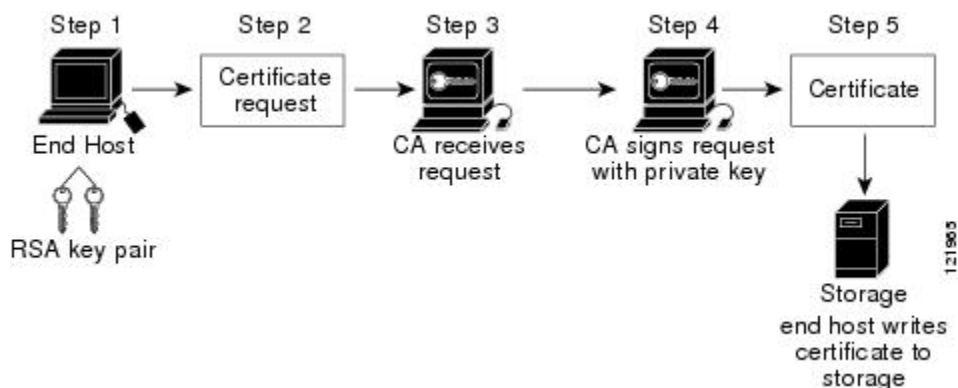
少なくとも 2 階層の CA が推奨されるシナリオは、次のとおりです。

- 多数の証明書が失効し、再発行される大規模かつ非常にアクティブなネットワーク。複数の階層を使用することにより、CA は CRL のサイズを制御しやすくなります。
- オンライン登録方式を使用するとき、ルート CA をオフラインのままにできる場合（従属 CA の証明書の発行を除く）。このシナリオでは、ルート CA のセキュリティが向上します。

## 証明書の登録：登録の動作

証明書の登録は、CA から証明書を取得するプロセスです。PKI に加わるエンドホストは、それぞれ証明書を取得する必要があります。証明書の登録は、証明書を要求しているエンドホストと CA との間で行われます。次の表および手順によって、証明書の登録プロセスを説明します。

Figure 36: 証明書の登録プロセス



1. エンドホストが RSA キーのペアを生成します。
2. エンドホストが証明書要求を生成し、CA（または使用可能な場合は RA）に送ります。
3. CA が証明書登録要求を受け取ります。ネットワークの設定によって、次のいずれかになります。
  - a. 要求の承認に手動による操作が必要。
  - b. CA に証明書を自動で要求するようにエンドホストが設定されている。これにより、登録要求が CA サーバに送信されたときのオペレータによる手動操作は不要になります。



**Note** CAに証明書を自動で要求するようにエンドホストを設定するには、別の認証メカニズムが必要になります。

1. 要求が承認されると、CAは自分の秘密キーを使って要求に署名し、処理の終わった証明書をエンドホストに戻します。
2. エンドホストは、証明書をNVRAMなどの保管領域に書き込みます。

## Secure Device Provisioning による証明書登録

Secure Device Provisioning (SDP) は、Cisco IOS XE クライアントと Cisco IOS 証明書サーバなど、2つのエンドデバイス間で PKI を簡単に配置できる、Web ベースの証明書登録インターフェイスです。

SDP (Trusted Transitive Introduction (TTI) とも呼ばれている) は、新しいネットワーク デバイスと VPN 間といった2つのエンドエンティティ間の双方向導入を実現する通信プロトコルです。SDP では次の3つのエンティティが関係します。

- イントロデューサ：ペティショナをレジストラに紹介する、相互に信頼できるデバイス。イントロデューサは、システム管理者などのデバイス ユーザの場合があります。
- ペティショナ：セキュアなドメインに参加した新しいデバイス。
- レジストラ：申請者を承認する証明書サーバなどのサーバ。

SDP は Web ブラウザを使い、よろこ、紹介、完了の3つの段階で実装します。各段階は、Web ページを通してユーザに表示されます。

## 証明書の失効：失効する理由

各ピアが正常に PKI に登録されると、ピアは互いにセキュアな接続を行うためのネゴシエーションを開始できます。そのためにピアは確認に自分の証明書を提示し、失効のチェックを受けます。ピアは、通信相手のピアの証明書が、認証済みの CA によって発行された証明書であることを確認すると、CRL サーバまたは OCSP (Online Certificate Status Protocol) サーバをチェックし、証明書を発行した CA によって証明書が失効になっていないことを確認します。証明書には通常、証明書分散ポイント (CDP) が URL 形式で含まれています。Cisco IOS ソフトウェアはこの CDP を使用して、CRL の場所の特定と取得を行います。CDP サーバが応答しないと Cisco IOS ソフトウェアはエラーを生成し、ピアの証明書が拒否される場合があります。

## PKI の計画

PKI の計画では、それぞれの PKI コンポーネントの要件と予定の用途を評価する必要があります。ユーザ (またはネットワーク管理者) の方で十分に PKI を計画してから、PKI の設定を始めること推奨します。

PKIの計画では検討すべきアプローチがいくつかありますが、このマニュアルでは、ピアツーピアの通信から始めます。ただし、ユーザまたはネットワーク管理者がPKIの計画を選択するときは、特定の決定がPKIの他の決定に影響することを理解しておいてください。たとえば、登録および展開をどのようにするかによって、CAの階層の計画が変わってくる場合があります。このため、PKI内の各コンポーネントがどのように機能するか、また、特定のコンポーネントのオプションが、計画プロセスで行った決定によってどのように変わるかを理解することが重要です。

## 次の作業

RSA キー ペアを生成したら、トラストポイントを設定する必要があります。すでにトラストポイントを設定している場合は、ルータを認証し、PKIに登録する必要があります。登録に関する情報については、「PKIの証明書登録の設定」を参照してください。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
PKI コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
証明書登録：サポートされる方法、登録プロファイル、設定作業	『Configuring Certificate Enrollment for a PKI』
証明書の許可および失効：設定作業	『Configuring Revocation and Authorization of Certificates in a PKI』
Cisco IOS 証明書サーバの概要および設定作業	『Configuring and Managing a Cisco IOS Certificate Server for PKI Deployment』
安全なデバイスプロビジョニング：機能概要および設定作業	『Setting Up Secure Device Provisioning (SDP) for Enrollment in a PKI』

関連項目	マニュアルタイトル
USB eToken への RSA キーおよび証明書 の保存	「PKI クレデンシャルの保存」

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2459	『Internet X.509 Public Key Infrastructure Certificate and CRL Profile』
RFC 2511	『Internet X.509 Certificate Request Message Format』
RFC 2527	『Internet X.509 Public Key Infrastructure Certificate Policy and Certification Practices Framework』
RFC 2528	『Internet X.509 Public Key Infrastructure』
RFC 2559	『Internet X.509 Public Key Infrastructure Operational Protocols - LDAPv2』
RFC 2560	『X.509 Internet Public Key Infrastructure Online Certificate Status Protocol - OCSP』
RFC 2585	『Internet X.509 Public Key Infrastructure Operational Protocols: FTP and HTTP』
RFC 2587	『Internet X.509 Public Key Infrastructure LDAPv2 Schema』
RFC 2875	『Diffie-Hellman Proof-of-Possession Algorithms』
RFC 3029	『Internet X.509 Public Key Infrastructure Data Validation and Certification Server Protocols』

### MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>PKI MIB</li> </ul>	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## 用語集

**CDP** : Certificate Distribution Point (証明書分散ポイント)。デジタル証明書内のフィールドで、証明書の CRL の取り出し方法を記述した情報が含まれています。最も一般的な CDP としては HTTP や LDAP の URL があります。CDP には、他の種類の URL または LDAP のディレクトリ指定が含まれている場合もあります。それぞれの CDP には、URL またはディレクトリの指定が 1 つ含まれています。

**certificates** : ユーザー名またはデバイス名を公開キーにバインドする電子ドキュメント。証明書は、一般的にデジタル署名を確認するために使用されます。

**CRL** : Certificate Revocation List (証明書失効リスト)。失効した証明書のリストが含まれる電子ドキュメントです。CRL は、証明書を発行した CA によって作成され、デジタル署名されます。CRL には、証明書の発行日と失効日が含まれています。現行の CRL が失効すると、新しい CRL が発行されます。

**CA** : Certification Authority (認証局)。証明書要求の管理と、関係する IPSec ネットワークデバイスへの証明書の発行を担当しているサービス。このサービスは、参加デバイスを一元的に管理します。またこれらのサービスによって受信者は、明示的に信頼してアイデンティティを確認し、デジタル証明書を作成できます。

**peer certificate** : ピアが提示する証明書のことで、ピアの公開キーが含まれており、トラストポイント CA が署名します。

**PKI** : Public Key Infrastructure (公開キーインフラストラクチャ)。セキュアに設定された通信に使用されているネットワーク コンポーネントの暗号キーと ID 情報を管理するシステムです。

**RA** : Registration Authority (登録局)。CA のプロキシとして機能するサーバーで、CA がオフラインのときでも CA の機能を継続できます。RA は CA サーバー上に設定するのが通常ですが、別アプリケーションとして、稼働のための別デバイスを必要とする場合もあります。

**RSA keys** : 公開キー暗号化システムで、Ron Rivest (ロナルド・リベスト)、Adi Shamir (アディ・シャミア)、Leonard Adleman (レオナルド・エーデルマン) の 3 人によって開発されました。ルータの証明書を取得するには、RSA キーのペア (公開キーと秘密キー) が必要です。





## CHAPTER 110

# PKI 内での RSA キーの展開

この章では、公開キー インフラストラクチャ (PKI) 内で Rivest、Shamir、Adelman (RSA) キーを設定および展開する方法について説明します。ルータの証明書を取得する前に、RSA キーペア (公開キーと秘密キー) が要求されます。つまり、エンドホストは RSA キーのペアを生成し、認証局 (CA) と公開キーを交換して証明書を取得し、PKIに登録する必要があります。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『Next Generation Encryption』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

- [PKI での RSA キーの設定に関する前提条件, on page 1289](#)
- [RSA キーの設定に関する情報, on page 1290](#)
- [PKI 内で RSA キーを設定および展開する方法, on page 1292](#)
- [RSA キー ペア展開での設定例, on page 1308](#)
- [その他の参考資料, on page 1313](#)
- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1314](#)

## PKI での RSA キーの設定に関する前提条件

- PKI の RSA キーを設定および展開する前に、「Cisco IOS PKI Overview: Understanding and Planning a PKI」の内容を理解している必要があります。

# RSA キーの設定に関する情報

## RSA キーの概要

RSA キー ペアは、公開キーと秘密キーで構成されます。PKI を設定する場合、証明書登録要求に公開キーを含める必要があります。証明書が付与された後、ピアが公開キーを使用して、ルータに送信されるデータを暗号化できるように、公開キーが証明書に組み込まれます。秘密キーはルータに保持され、ピアによって送信されたデータの復号化と、ピアとネゴシエーションするときの、トランザクションのデジタル署名に使用されます。

RSA キーペアには、キーのモジュラス値が含まれています。モジュラス値に応じて、RSA キーのサイズが決まります。モジュラス値が大きいほど、RSA キーの安全性が高まります。ただし、モジュラス値が大きくなると、キーの生成にかかる時間が長くなり、キーのサイズが大きくなると暗号化処理および復号化処理にかかる時間が長くなります。

## 用途 RSA キーと汎用目的 RSA キー

RSA キー ペアには用途キーと汎用目的キーの 2 つのタイプがあり、これらは相互に排他的です。RSA キーペアを生成するとき (`crypto key generate rsa` コマンドを使用)、用途キーまたは汎用目的キーを選択するためのプロンプトが表示されます。

### 用途 RSA キー

用途キーは 2 組の RSA キー ペアで構成されます。このうち 1 組の RSA キー ペアは暗号化用に、もう 1 組の RSA キー ペアは署名用にそれぞれ生成され、使用されます。用途キーを使用すると、各キーは不必要に暴露されなくなります (用途キーを使用しない場合、1 つのキーが両方の認証方法に使用されるため、そのキーが暴露される危険性が高くなります)。

### 汎用目的 RSA キー

汎用目的キーは、1 つの RSA キー ペアだけで構成され、このキー ペアは暗号化と署名の両方に使用されます。汎用目的のキー ペアは、用途キー ペアよりも頻繁に使用されます。

## RSA キー ペアとトラストポイントとの連携方法

トラストポイント (認証局 (CA) としても知られる) は、証明書要求を管理し、参加ネットワーク デバイスに証明書を発行します。これらのサービスは、参加デバイスを一元的に管理します。またこれらのサービスによって受信者は、明示的に信頼してアイデンティティを確認し、デジタル証明書を作成できます。PKI の動作を開始する前に、CA は独自の公開キー ペアを生成し、自己署名 CA 証明書を作成します。その後、CA は、証明書要求に署名し、PKI に対してピア登録を開始できます。



### Caution

トラストポイントでは RSA キーペアを手動で生成しないでください。キーを手動で生成する場合は、キーペアを汎用キーではなく特定目的キーとして生成します。

**Caution**

再生成オプションを使用した証明書の更新は、ゼロ（「0」）から始まるキーラベル（「0test」など）では機能しません。CLIを使用すると、トラストポイントでそのような名前を設定でき、ゼロから始まるホスト名を使用できます。トラストポイントで **rsa keypair name** を設定する場合は、ゼロから始まる名前を設定しないでください。キーペア名が設定されておらず、デフォルトのキーペアが使用されている場合は、ルータのホスト名がゼロから始まっていないことを確認してください。その場合は、トラストポイントで別の名前を使用して "**rsa keypair name**" を明示的に設定してください。

## ルータに複数の RSA キーを保管する理由

複数の RSA キーペアを設定することで、Cisco IOS ソフトウェアは、対応する CA ごとに異なるキーペアを維持できます。このようにして、このソフトウェアは、同じ CA で複数のキーペアおよび証明書を維持できます。したがって、Cisco IOS ソフトウェアは、キーの長さ、キーのライフタイム、汎用目的キーまたは用途キーなど、他の CA で指定される要件を損なうことなく、各 CA のポリシー要件に合致します。

名前付きのキーペア (**label key-label** オプションを使用して指定する) を使用して、複数の RSA キーペアを用意すると、Cisco IOS ソフトウェアがアイデンティティの証明書ごとに異なるキーペアを維持できるようになります。

## エクスポート可能な RSA キーのメリット

**Caution**

エクスポート可能な RSA キーを使用すると、キーが暴露される危険性があるため、エクスポート可能な RSA キーは、使用前に慎重に評価する必要があります。既存の RSA キーはすべてエクスポート不能です。新しいキーは、デフォルトでエクスポート不能として生成されます。既存のエクスポート不能のキーは、エクスポート可能なキーに変換できません。

Cisco IOS Release 12.2(15)T では、ユーザは、ルータの秘密 RSA キーペアをスタンバイ ルータと共有できます。したがって、ネットワーク デバイス間でセキュリティ クレデンシャルを転送できます。キーペアを2台のルータ間で共有すると、一方のルータが、もう一方のルータの機能を迅速かつトランスペアレントに引き継ぐことができます。メインルータが故障した場合、スタンバイ ルータがネットワークに投入され、キーの再生、CA への再登録、または手動でのキーの再配布を行うことなく、メインルータを置き換えます。

また、セキュア シェル (SSH) を使用するすべての管理ステーションを1つの公開 RSA キーで設定できるように、RSA キーペアをエクスポートおよびインポートすると、ユーザは同じ RSA キーペアを複数のルータに配置することもできます。

### PEM 形式ファイルでエクスポート可能な RSA キー

プライバシーエンハンスド メール (PEM) 形式ファイルを使用した RSA キーのインポートまたはエクスポートは、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.3(4)T 以降を実行するお客様および、

セキュア ソケット レイヤ (SSL) またはセキュア シェル (SSH) アプリケーションを使用して、RSA キー ペアを手動で生成し、キーを PKI アプリケーションに再インポートするお客様に役立ちます。PEM 形式のファイルを使用すると、新しいキーを生成しなくても、既存の RSA キー ペアを Cisco IOS ルータで直接使用できます。

## RSA キーのインポートおよびエクスポート時のパスフレーズ保護

エクスポートする PKCS12 ファイルまたは PEM ファイルを暗号化するには、パスフレーズを含める必要があります。また、PKCS12 または PEM ファイルをインポートするときは、同じパスフレーズを入力して復号化する必要があります。PKCS12 または PEM ファイルをエクスポート、削除、またはインポートする際にこれらのファイルを暗号化すると、ファイルの伝送あるいは外部デバイスへの保管中に、ファイルを不正なアクセスおよび使用から保護します。

パスフレーズには、8 文字以上の任意のフレーズを指定できます。パスフレーズにはスペースおよび句読点を含めることができますが、Cisco IOS パーサに特殊な意味を持つ疑問符 (?) は除きます。

### エクスポート可能な RSA キー ペアをエクスポート不可能な RSA キー ペアに変換する方法

パスフレーズ保護により、外部の PKCS12 または PEM ファイルが不正なアクセスおよび使用から保護されます。RSA キーペアがエクスポートされないようにするには、「nonexportable」とラベルを付ける必要があります。エクスポート可能な RSA キー ペアをエクスポート不可能なキー ペアに変換するには、キー ペアをエクスポートし、「exportable」というキーワードを指定しないで再びインポートする必要があります。

## PKI 内で RSA キーを設定および展開する方法

### RSA キー ペアの生成



**Note** 新しく設定した PKI 証明書には、新しい RSA キーペア名を使用することをお勧めします。既存の RSA キーペア名（古い証明書に関連付けられている）を新しい PKI 証明書に再利用する場合は、次のいずれかを実行します。

- 既存の RSA キーペア名を使用して新しい RSA キーペアを再生成するのではなく、既存の RSA キーペア名を再利用します。既存の RSA キーペア名を使用して新しい RSA キーペアを再生成すると、既存の RSA キーペアに関連付けられているすべての証明書が無効になります。
- まず古い PKI 証明書設定を手動で削除してから、新しい PKI 証明書に既存の RSA キーペア名を再利用します。

RSA キー ペアを手動で生成するには、次の作業を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto key generate rsa** [**general-keys** | **usage-keys** | **signature** | **encryption**] [**label key-label**] [**exportable**] [**modulus modulus-size**] [**storage devicename:**] [**on devicename:**]
4. **exit**
5. **show crypto key mypubkey rsa**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto key generate rsa</b> [ <b>general-keys</b>   <b>usage-keys</b>   <b>signature</b>   <b>encryption</b> ] [ <b>label key-label</b> ] [ <b>exportable</b> ] [ <b>modulus modulus-size</b> ] [ <b>storage devicename:</b> ] [ <b>on devicename:</b> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto key generate rsa usage-keys modulus 2048	（任意）証明書サーバの RSA キー ペアを生成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>storage</b> キーワードを使用すると、キーの保管場所を指定できます。</li> <li>• <b>key-label</b> 引数を指定することによってラベル名を指定する場合、<b>crypto pki server cs-label</b> コマンドによって証明書サーバーに使用するラベルと同じ名前を使用する必要があります。<b>key-label</b> 引数を指定していない場合、ルータの完全修飾ドメイン名（FQDN）であるデフォルト値が使用されます。</li> </ul> <p><b>no shutdown</b> コマンドを発行する前に、CA 証明書が生成されるまで待ってからエクスポート可能な RSA キーペアを手動で生成する場合、<b>crypto ca export pkcs12</b> コマンドを使用して、証明書サーバー証明書および秘密キーを含む PKCS12 ファイルをエクスポートできます。</p>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトでは、CA キーのモジュラス サイズは 1024 ビットです。推奨される CA キーのモジュラスは 2048 ビットです。CA キーのモジュラス サイズの範囲は 360 ~ 4096 ビットです。</li> <li><b>on</b> キーワードは、指定したデバイス上で RSA キーペアが作成されることを指定します。このデバイスには Universal Serial Bus (USB) トークン、ローカルディスク、および NVRAM があります。装置の名前の後にはコロン (:) を付けます。</li> </ul> <p><b>Note</b> USB トークン上で作成されるキーは、2048 ビット以下である必要があります。</p> <p><b>Caution</b> トラストポイントでは RSA キーペアを手動で生成しないでください。キーを手動で生成する場合は、キーペアを汎用キーではなく特定目的キーとして生成します。</p>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>show crypto key mypubkey rsa</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto key mypubkey rsa</pre>	(任意) ルータの RSA 公開キーを表示します。 このステップでは、RSA キーペアが正常に生成されたことを確認できます。

## 次の作業

正常に RSA キーペアを生成したら、この章のいずれかの追加作業に進み、RSA キーペアに対して追加の RSA キーペアを生成する、RSA キーペアのエクスポートおよびインポートを実行する、または追加のセキュリティパラメータ（秘密キーの暗号化またはロックなど）を設定します。

## RSA キーペアとトラストポイントの証明書の管理

複数の RSA キーペアを生成および保管し、トラストポイントにキーペアを関連付け、トラストポイントからルータの証明書を取得するようにルータを設定するには、次の作業を実行します。

### Before you begin

「RSA キーペアの生成」の作業どおりに RSA キーペアを生成しておく必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint *name***
4. **rsa keypair *key-label* [*key-size* [*encryption-key-size*]]**
5. **enrollment selfsigned**
6. **subject-alt-name *name***
7. **exit**
8. **crypto pki enroll *name***
9. **exit**
10. **show crypto key mypubkey rsa**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint <i>name</i></b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto pki trustpoint TESTCA	トラストポイントを作成し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>rsa keypair <i>key-label</i> [<i>key-size</i> [<i>encryption-key-size</i>]]</b> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# rsa keypair fancy-keys	(任意) <i>key-label</i> 引数には、登録時に生成された RSA キーペアの名前を指定し（まだ存在しない場合、または <b>auto-enroll regenerate</b> コマンドが設定されている場合）、トラストポイント証明書と一緒に使用します。デフォルトでは、完全修飾ドメイン名 (FQDN) キーを使用します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• キーペア名をゼロ（「0」）から始めることはできません。詳細については、「RSA キーペアとトラストポイントとの連携方法」のセクションを参照してください。</li></ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <i>key-size</i> 引数には、RSA キー ペアのサイズを指定します。推奨されるキー サイズは 2048 ビットです。</li> <li>• (任意) <i>encryption-key-size</i> 引数には 2 番めのキーのサイズを指定します。2 番めのキーは、個別の暗号化、署名キー、および証明書を要求する場合に使用されます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>enrollment selfsigned</b> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# enrollment selfsigned</pre>	(任意) トラストポイントの自己署名登録を指定します。
ステップ 6	<b>subject-alt-name name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# subject-alt-name TESTCA</pre>	<p>(任意) <i>name</i> 引数には、トラストポイントの証明書に含まれる X.509 証明書の所有者別名 (subjectAltName) フィールドのトラストポイントの名前を指定します。デフォルトでは、証明書に所有者別名フィールドは含まれていません。</p> <p><b>Note</b> X.509 証明書のこのフィールドは、RFC 2511 に定義されています。</p> <p>このオプションは、所有者別名 (subjectAltName) フィールドにトラストポイントの名前を含むルータの自己署名トラストポイント証明書を作成する場合に使用します。所有者別名は、トラストポイントポリシーの自己署名登録に <b>enrollment selfsigned</b> コマンドが指定された場合にのみ使用できます。</p>
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router (ca-trustpoint)# exit</pre>	CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 8	<b>crypto pki enroll name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto pki enroll TESTCA</pre> <b>Example:</b> <pre>% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]: no</pre> <b>Example:</b>	<p>トラストポイントからのルータの証明書を要求します。</p> <p><i>name</i> 引数にはトラストポイントの名前を指定します。このコマンドを入力したら、プロンプトに応答します。</p> <p><b>Note</b> <b>crypto pki trustpoint</b> コマンドで入力したものと同一トラストポイント名を使用します。</p>



	Command or Action	Purpose
	<pre>% Include an IP address in the subject name? [no]:  <b>Example:</b>  Generate Self Signed Router Certificate? [yes/no]: yes  <b>Example:</b>  Router Self Signed Certificate successfully created</pre>	
ステップ 9	<pre><b>exit</b>  <b>Example:</b>  Router(config)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 10	<pre><b>show crypto key mypubkey rsa</b>  <b>Example:</b>  Router# show crypto key mypubkey rsa</pre>	(任意) ルータの RSA 公開キーを表示します。 このステップでは、RSA キー ペアが正常に生成されたことを確認できます。

## 例

次に、所有者別名 (subjectAltName) フィールドにトラストポイントの名前を含むルータの自己署名トラストポイント証明書を作成する方法の例を示します。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)#crypto pki trustpoint TESTCA
Router(ca-trustpoint)#hash sha256
Router(ca-trustpoint)#rsakeypair testca-rsa-key 2048
Router(ca-trustpoint)#exit
Router(config)#crypto pki enroll TESTCA
% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]:no
% Include an IP address in the subject name? [no]: no
Generate Self Signed Router Certificate? [yes/no]: yes

Router Self Signed Certificate successfully created

Router(config)#
Router(config)#exit
Router#
```

次の証明書が作成されます。

```
Router#show crypto pki certificate verbose Router Self-Signed Certificate
Status: Available
Version: 3
Certificate Serial Number (hex): 01
Certificate Usage: General Purpose
Issuer:
```

```

hostname=Router.cisco.com
Subject:
  Name: Router.cisco.com
  hostname=Router.cisco.com
Validity Date:
  start date: 11:41:50 EST Aug 13 2012
  end date: 19:00:00 EST Dec 31 2019
Subject Key Info:
  Public Key Algorithm: rsaEncryption
  RSA Public Key: (2048 bit)
Signature Algorithm: SHA256 with RSA Encryption
Fingerprint MD5: CA92D937 593BF19A 5B7F8466 F554D631
Fingerprint SHA1: 57A9D411 2DDFAC81 68260F2F C6C8D7CF 4833F3E9
X509v3 extensions:
  X509v3 Subject Key ID: 44340F76 A6B8DC37 80724650 0672875F 741D518C
  X509v3 Basic Constraints:
    CA: TRUE
  X509v3 Authority Key ID: 44340F76 A6B8DC37 80724650 0672875F 741D518C
Authority Info Access:
Associated Trustpoints: TESTCA

```

```

-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIBszCCAV2gAwIBAgIBAgIBANBgkqhkiG9w0BAQQFADAUQ8wDQYDVQQDEwZURVNU
Q0ExGzAZBgkqhkiG9w0BCQIWDHlxLmNpc2NvLmNvbTAEFw0xMDAzMjIyMDIyMjBa
Fw0yMDAxMDEwMDAwMDBaMC4xDzANBgNVBAMTB1RFU1RDQTEbMBkGCSqGSIb3DQEJ
AhYMcjEuY2l2Y28uY29tMFwwDQYJKoZIhvcNAQEBBQADSwAwSAJBAl1xLjvrouLz
RNm8qYWI9Km9yX/wafXndY8A8o4+L8pexQhDLYyiaq7OoK6CYWH/ToyPidFW2DU0
t5WTGnIDcfsCAwEAAANmMGQwDwYDVR0TAQH/BAUwAwEB/zARBgNVHREECjAIGgZU
RVNUQ0EwHwYDVR0jBBgwFoAU+aSVh1+kyn1l+r44IFUY+Uxs1fMwHQYDVR0OBBYE
FPmklYdfpMp9Zfq+OCBVGP1MbNXzMA0GCSqGSIb3DQEBAUAA0EAbZLnqKUaWu8T
WAibeReTQTfJLZ8ao/U6cwXN0QKEQ37ghAdGVf1FWVG6JUHV2OENNUQHXYXNUWZ
4oBuU+U1dg==
-----END CERTIFICATE-----

```

## RSA キーのエクスポートおよびインポート

ここでは、RSA キーのエクスポートおよびインポートに使用できる次の作業について説明します。エクスポート可能な RSA キーを使用すると、メインルータが故障した場合に、使用ファイルが PKCS12 ファイルか PEM ファイルかにかかわらず、新しい RSA キーを生成しなくても、Cisco IOS ルータの既存の RSA キーを使用できます。

### PKCS12 ファイルの RSA キーのエクスポートおよびインポート

RSA キー ペアをエクスポートおよびインポートすることにより、ユーザは、セキュリティクレデンシャルをデバイス間で転送できます。キーペアを2台のデバイス間で共有すると、一方のデバイスが、もう一方のデバイスの機能を迅速かつトランスペアレントに引き継ぐことができます。

#### Before you begin

「RSA キー ペアの生成」で指定した作業のとおり RSA キー ペアを生成して「exportable」とマークを付ける必要があります。

**Note**

- システムを Cisco IOS Release 12.2(15)T 以降にアップグレードするまでは、ルータ上に存在する RSA キーをエクスポートできません。Cisco IOS ソフトウェアのアップグレード後、新しい RSA キーを生成し、このキーに「exportable」のラベルを付ける必要があります。
- サードパーティ製のアプリケーションで生成された PKCS12 ファイルをインポートする場合、PKCS12 ファイルには CA 証明書が含まれている必要があります。
- RSA キーペアをすでにエクスポートし、ターゲットルータにインポートした後で RSA キーペアを再インポートする場合、**exportable** キーワードを指定する必要があります。
- ルータがインポートできる RSA キーの最大サイズは、2048 ビットです。

**SUMMARY STEPS**

1. **crypto pki trustpoint** *name*
2. **rsakeypair** *key-label* [*key-size* [*encryption-key-size*]]
3. **exit**
4. **crypto pki export** *trustpointname* **pkcs12** *destination-url* **password** *password-phrase*
5. **crypto pki import** *trustpointname* **pkcs12** *source-url* **password** *password-phrase*
6. **exit**
7. **show crypto key mypubkey rsa**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>crypto pki trustpoint</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router(config)# <b>crypto pki trustpoint</b> my-ca	RSA キーペアに関連付けるトラストポイント名を作成し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>rsakeypair</b> <i>key-label</i> [ <i>key-size</i> [ <i>encryption-key-size</i> ]] <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# <b>rsakeypair</b> my-keys	トラストポイントに使用するキー ペアを指定します。
ステップ 3	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# <b>exit</b>	CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	<b>crypto pki export</b> <i>trustpointname</i> <b>pkcs12</b> <i>destination-url</i> <b>password</b> <i>password-phrase</i> <b>Example:</b>	トラストポイント名を使用して RSA キーをエクスポートします。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Router(config)# crypto pki export my-ca pkcs12 tftp://tftpserver/my-keys password mypassword123</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>trustpointname</i> 引数は、ユーザがエクスポート予定の証明書を発行するトラストポイントの名前を入力します。PKCS12 ファイルをエクスポートする場合、トラストポイント名は RSA キー名です。</li> <li>• <i>destination-url</i> 引数は、ユーザが RSA キー ペアをインポートする PKCS12 ファイルのファイル システム ロケーションを入力します。</li> <li>• <i>password -phrase</i> 引数は、エクスポート用に PKCS12 ファイルを暗号化するのに入力する必要があります。</li> </ul>
ステップ 5	<p><b>crypto pki import trustpointname pkcs12 source-url password password-phrase</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto pki import my-ca pkcs12 tftp://tftpserver/my-keys password mypassword123</pre>	<p>ターゲットルータに RSA キーをインポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>trustpointname</i> 引数は、ユーザがエクスポートまたはインポート予定の証明書を発行するトラストポイントの名前を入力します。インポートすると、トラストポイントが RSA キー名になります。</li> <li>• <i>source-url</i> 引数は、ユーザが RSA キー ペアをエクスポートする PKCS12 ファイルのファイル システム ロケーションを指定します。</li> <li>• <i>password -phrase</i> は、RSA キーがインポートされる場合、暗号化を元に戻すために入力する必要があります。</li> </ul>
ステップ 6	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# exit</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
ステップ 7	<p><b>show crypto key mypubkey rsa</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show crypto key mypubkey rsa</pre>	<p>(任意) ルータの RSA 公開キーを表示します。</p>

## PEM 形式ファイルの RSA キーのエクスポートおよびインポート

PEM ファイルの RSA キー ペアをエクスポートまたはインポートするには、次の作業を実行します。

**Before you begin**

「RSA キー ペアの生成」で指定した作業のとおり RSA キー ペアを生成して「exportable」とマークを付ける必要があります。

**Note**

- システムを Cisco IOS Release 12.3 (4)T 以降のリリースにアップグレードする前に、エクスポート可能なフラグを付けずに生成された RSA キーは、エクスポートおよびインポートできません。Cisco IOS ソフトウェアをアップグレードしたら、新しい RSA キーを生成する必要があります。
- ルータがインポートできる RSA キーの最大サイズは、2048 ビットです。

**Note**

セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『*Next Generation Encryption*』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

**SUMMARY STEPS**

1. **crypto key generate rsa** {usage-keys | general-keys} label key-label [exportable]
2. **crypto pki export trustpoint pem** {terminal | url destination-url} {3des | des} password password-phrase
3. **crypto pki import trustpoint pem** [check | exportable | usage-keys] {terminal | url source-url} password password-phrase
4. **exit**
5. **show crypto key mypubkey rsa**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>crypto key generate rsa</b> {usage-keys   general-keys} label key-label [exportable] <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto key generate rsa general-keys label mykey exportable</pre>	RSA キー ペアを生成します。  PEM ファイルを使用するには、RSA キー ペアはエクスポート可能なラベルが付いている必要があります。
ステップ 2	<b>crypto pki export trustpoint pem</b> {terminal   url destination-url} {3des   des} password password-phrase <b>Example:</b>	PEM 形式ファイルのトラストポイントと関連付けられた証明書および RSA キーをエクスポートします。  • エクスポートした証明書および RSA キー ペアに関連付けられた trustpoint 名を入力します。ト

	Command or Action	Purpose
	<pre>Router(config)# crypto pki export mycs pem url nvram: 3des password mypassword123</pre>	<p>ラストポイント名は、<b>crypto pki trustpoint</b> コマンドを使用して指定された名前と一致する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>terminal</b> キーワードを使用し、コンソール端末に PEM 形式で表示される証明書および RSA キーペアを指定します。</li> <li>• <b>url</b> キーワードおよび <i>destination-url</i> 引数を使用し、ルータが証明書および RSA キーペアをエクスポートするファイルシステムの URL を指定します。</li> <li>• (任意) <b>3des</b> キーワードは、Triple Data Encryption Standard (3DES) 暗号化アルゴリズムを使用してトランスポイントをエクスポートします。</li> <li>• (任意) <b>des</b> キーワードは、DES 暗号化アルゴリズムを使用してトランスポイントをエクスポートします。</li> <li>• <i>password-phrase</i> 引数を使用し、インポート用の PEM ファイルの暗号化に使用する暗号化パスワードフレーズを指定します。</li> </ul> <p><b>Tip</b> PEM ファイルは、必ず安全な場所に保管してください。たとえば、別のバックアップルータに保管することもできます。</p>
ステップ 3	<p><b>crypto pki import trustpoint pem [check   exportable   usage-keys] {terminal   url source-url} password password-phrase</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto pki import mycs2 pem url nvram: password mypassword123</pre>	<p>PEM 形式ファイルからにトランスポイントに証明書および RSA キーをインポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• インポートした証明書および RSA キー ペアに関連付けられた <i>trustpoint</i> 名を入力します。トランスポイント名は、<b>crypto pki trustpoint</b> コマンドを使用して指定された名前と一致する必要があります。</li> <li>• (任意) <b>check</b> キーワードを使用し、古い証明書を許可しないように指定します。</li> <li>• (任意) <b>exportable</b> キーワードを使用し、インポートした RSA キーペアをルータなどの別の Cisco デバイスに再びエクスポートできるように指定します。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• (オプション) <i>usage-keys</i> 引数を使用し、1つの汎用目的キーペアの代わりに、2つのRSA 特殊用途キーペア (暗号化ペア1つとシグニチャペア1つ) がインポートされるように指定します。</li> <li>• <i>source-url</i> 引数を使用し、ルータが証明書およびRSA キーペアをインポートするファイルシステムの URL を指定します。</li> <li>• <i>password-phrase</i> 引数を使用し、インポート用の PEM ファイルの暗号化に使用する暗号化パスワードフレーズを指定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> パスワードフレーズには、8 文字以上の任意のフレーズを指定できます。パスワードフレーズにはスペースおよび句読点を含めることができますが、Cisco IOS パーサに特殊な意味を持つ疑問符 (?) は除きません。</p> <p><b>Note</b> キーを CA からエクスポート可能にしない場合は、そのキーをエクスポート不能のキーペアとしてエクスポートしてから、CA に再度インポートしてください。このキーは削除できなくなります。</p>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>show crypto key mypubkey rsa</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto key mypubkey rsa</pre>	(任意) ルータの RSA 公開キーを表示します。

## ルータの秘密キーの暗号化およびロック

デジタル署名は、あるデバイスを別のデバイスに対して認証するために使用されます。デジタル署名を使用するには、プライベート情報 (秘密キー) を、署名を提示しているデバイスに保管する必要があります。保管されたプライベート情報は、秘密キーを含むハードウェア装置を乗っ取ろうとする攻撃者に役立つことがあります。たとえば、攻撃者は、乗っ取ったルータを

使用し、ルータに保管されている RSA 秘密キーを使用して、別のサイトへのセキュアな接続を開始する可能性があります。



**Note** RSA キーはパスワードの復元操作中に失われます。パスワードを喪失した場合、パスワードの復元操作を実行すると、RSA キーは削除されます（この機能により、攻撃者がパスワードの復元を実行してキーを使用するのを防止します）。

攻撃者から秘密 RSA キーを保護するために、ユーザは、パスワードを使用して NVRAM に保管された秘密キーを暗号化できます。侵入を試みる攻撃者によってルータが乗っ取られた場合、ユーザは、秘密キーを「ロック」することもできます。これにより、稼働中ルータからの新しい接続の試行がブロックされ、ルータ内のキーが保護されます。

NVRAM に保存された秘密キーを暗号化しロックするには、次の作業を実行します。



**Note** CA の登録中は、RSA キーのロックを解除する必要があります。ルータの秘密キーは認証時に使用されないため、CA でルータを認証している間、この秘密キーをロックできます。

### Before you begin

秘密キーを暗号化またはロックする前に、次の作業を実行する必要があります。

- RSA キーペアを生成します（「RSA キーペアの生成」のセクションを参照）。
- 必要に応じて、各ルータを認証し、CA サーバに登録できます。



**Note** 後方互換性に関する制約事項

Cisco IOS Release 12.3(7)T よりも前のイメージは、暗号キーをサポートしません。暗号キーがルータによってすべて喪失されないように、Cisco IOS Release 12.3(7)T 以前のイメージを起動する前に、暗号化されていないキーだけが NVRAM に書き込まれていることを確認してください。

Cisco IOS Release 12.3(7)T 以前のイメージをダウンロードする必要がある場合は、ダウンロードされたイメージによって設定が上書きされないように、キーを復号化し、ただちに設定を保存してください。

### アプリケーションとの相互作用

ルータの起動後、キーを手動で（**crypto key unlock rsa** コマンドを使用して）アンロックするまで、暗号キーは有効になりません。暗号化されているキーペアによっては、この機能により、IP セキュリティ（IPsec）、SSH、SSL などのアプリケーションに悪影響が及ぶ可能性があります。つまり必要なキーペアがアンロックされるまで、セキュア チャネル経由でのルータ管理ができない場合があります。

>



## SUMMARY STEPS

1. `crypto key encrypt [write] rsa [name key-name] passphrase passphrase`
2. `exit`
3. `show crypto key mypubkey rsa`
4. `crypto key lock rsa name key-name ] passphrase passphrase`
5. `show crypto key mypubkey rsa`
6. `crypto key unlock rsa [name key-name] passphrase passphrase`
7. `configure terminal`
8. `crypto key decrypt [write] rsa [namekey-name ] passphrase passphrase`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p><code>crypto key encrypt [write] rsa [name key-name] passphrase passphrase</code></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto key encrypt write rsa name pki.example.com passphrase password</pre>	<p>RSA キーを暗号化します。</p> <p>このコマンドが発行されると、ルータはキーを引き続き使用でき、キーはアンロックされたままになります。</p> <p><b>Note</b> <code>write</code> キーワードを発行しない場合、設定を手動でNVRAMに書き込む必要があります。この作業を行わないと、次にルータをリロードするときに暗号キーが消去されます。</p>
ステップ 2	<p><code>exit</code></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# exit</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
ステップ 3	<p><code>show crypto key mypubkey rsa</code></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show crypto key mypubkey rsa</pre>	<p>(任意) 秘密キーが暗号化 (保護) され、アンロックされていることを確認できます。</p> <p><b>Note</b> このコマンドを使用して、キーの暗号化後、インターネットキー交換 (IKE) および SSH などのアプリケーションが適切に機能していることを確認することもできます。</p>
ステップ 4	<p><code>crypto key lock rsa name key-name ] passphrase passphrase</code></p> <p><b>Example:</b></p>	<p>(任意) 暗号化された秘密キーを稼働中のルータ上でロックします。</p>

	Command or Action	Purpose
	Router# crypto key lock rsa name pki.example.com passphrase password	<b>Note</b> キーをロックした後は、そのキーを使用してピアデバイスにルータを認証できません。この動作により、ロックされているキーを使用するIPSecまたはSSL接続はすべてディセーブルになります。ロックされたキーに基づいて作成された既存のIPSecトンネルは閉じられます。すべてのRSAキーをロックすると、SSHは自動的にディセーブルになります。
ステップ 5	<b>show crypto key mypubkey rsa</b> <b>Example:</b>  Router# show crypto key mypubkey rsa	(任意) 秘密キーが保護され、ロックされていることを確認できます。  このコマンドの出力では、IKE、SSH、SSLなどのアプリケーションによって試行された接続の失敗も表示されます。
ステップ 6	<b>crypto key unlock rsa [name key-name] passphrase passphrase</b> <b>Example:</b>  Router# crypto key unlock rsa name pki.example.com passphrase password	(任意) 秘密キーをアンロックします。  <b>Note</b> このコマンドを発行すると、IKEトンネルを引き続き確立できます。
ステップ 7	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>crypto key decrypt [write] rsa [namekey-name] passphrase passphrase</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto key decrypt write rsa name pki.example.com passphrase password	(任意) 暗号化されたキーを削除し、暗号化されていないキーだけを残します。  <b>Note</b> <b>write</b> キーワードを使用すると、暗号化されていないキーはただちにNVRAMに保存されます。 <b>write</b> キーワードを発行しない場合、設定を手動でNVRAMに書き込む必要があります。この作業を行わないと、次にルータをリロードしたときにキーが暗号化したままになります。

## RSA キー ペア設定の削除

次のいずれかの理由により、RSA キー ペアの削除が必要になる場合があります。

- 手動での PKI 操作およびメンテナンスの間に、古い RSA キーを削除して、新しいキーと交換できます。

- 既存の CA を置き換えた場合、新しい CA では、新たにキーを生成する必要があります。たとえば、必要なキーのサイズが組織によって異なることがあるため、古い 1024 ビット キーを削除し、新しい 2048 ビット キーを生成することが必要になる場合があります。
- **T** IKEv1 および IKEv2 での署名確認の問題をデバッグできるように、ピアルータの公開キーを削除できます。デフォルトでは、キーはトラストポイントに関連付けられた証明書失効リスト (CRL) のライフタイムによってキャッシュされます。

すべての RSA キーまたはルータによって生成された指定の RSA キー ペアを削除するには、次の作業を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto key zeroize rsa [key-pair-label]**
4. **crypto key zeroize pubkey-chain [index]**
5. **exit**
6. **show crypto key mypubkey rsa**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto key zeroize rsa [key-pair-label]</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto key zeroize rsa fancy-keys	ルータから RSA キー ペアを削除します。  • <i>key-pair-label</i> 引数を指定していない場合、ルータによって生成された RSA キーはすべて削除されます。
ステップ 4	<b>crypto key zeroize pubkey-chain [index]</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto key zeroize pubkey-chain	キャッシュからリモートピアの公開キーを削除します。  (任意) 特定の公開キーのインデックスエントリを削除するには、 <i>index</i> 引数を使用します。インデックスエントリが指定されていない場合、すべてのエン

	Command or Action	Purpose
		トリが削除されます。インデックスエントリに指定できる値の範囲は 1 ~ 65535 です。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>show crypto key mypubkey rsa</b> <b>Example:</b>  Router# show crypto key mypubkey rsa	(任意) ルータの RSA 公開キーを表示します。 このステップでは、RSA キーペアが正常に生成されたことを確認できます。

## RSA キー ペア展開での設定例

### RSA キーの生成および指定例

次の例は、RSA キーペア「exampleCAkeys」を生成し、指定する方法を示すサンプルのトラストポイント設定です。

```
crypto key generate rsa general-purpose exampleCAkeys
crypto ca trustpoint exampleCAkeys
  enroll url http://exampleCAkeys/certsrv/mscep/mscep.dll
  rsakeypair exampleCAkeys 1024 1024
```

### RSA キーのエクスポートおよびインポート例

#### PKCS12 ファイルの RSA キーのエクスポートおよびインポート例

次の例では、RSA キーペア「mynewkp」がルータ A で生成され、トラストポイント名「mynewtp」が作成されて、この RSA キーペアに関連付けられています。トラストポイントはルータ B にインポートできるように TFTP サーバにエクスポートされます。ユーザがルータ B にトラストポイント「mynewtp」をインポートすると、ルータ B に RSA キーペア「mynewkp」がインポートされます。

#### ルータ A

```
crypto key generate rsa general label mykeys exportable
! The name for the keys will be:mynewkp
Choose the size of the key modulus in the range of 360 to 2048 for your
General Purpose Keys. Choosing a key modulus greater than 512 may take
a few minutes.
How many bits in the modulus [512]: 2048
% Generating 2048 bit RSA keys ...[OK]
!
```

```

crypto pki trustpoint mynewtp
  rsakeypair mykeys
  exit
crypto pki export mytp pkcs12 flash:myexport password mypassword123
Destination filename [myexport]?
Writing pkcs12 file to tftp://mytftpserver/myexport
CRYPTO_PKI:Exported PKCS12 file successfully.
Verifying checksum... OK (0x3307)
!
July 8 17:30:09 GMT:%CRYPTO-6-PKCS12EXPORT_SUCCESS:PKCS #12 Successfully Exported.

```

### ルータ B

```

crypto pki import mynewtp pkcs12 flash:myexport password mypassword123
Source filename [myexport]?
CRYPTO_PKI:Imported PKCS12 file successfully.
!
July 8 18:07:50 GMT:%CRYPTO-6-PKCS12IMPORT_SUCCESS:PKCS #12 Successfully Imported.

```

## PEM ファイルの RSA キーのエクスポートおよびインポート例

次の例では、RSA キーペア「mytp」の生成、エクスポート、インポートを示し、そのステータスを確認します。

```

! Generate the key pair
!
Router(config)# crypto key generate rsa general-purpose label mytp exportable

The name for the keys will be: mytp
Choose the size of the key modulus in the range of 360 to 2048 for your
General Purpose Keys. Choosing a key modulus greater than 512 may take a few minutes.
How many bits in the modulus [512]: 2048
% Generating 2048 bit RSA keys ...[OK]
!
! Archive the key pair to a remote location, and use a good password.
!
Router(config)# crypto pki export mytp pem url nvram:mytp 3des password mypassword123

% Key name:mytp
Usage:General Purpose Key
Exporting public key...
Destination filename [mytp.pub]?
Writing file to nvram:mytp.pub
Exporting private key...
Destination filename [mytp.prv]?
Writing file to nvram:mytp.prv
!
! Import the key as a different name.
!
Router(config)# crypto pki import mytp2 pem url nvram:mytp2 password mypassword123

% Importing public key or certificate PEM file...
Source filename [mytp2.pub]?
Reading file from nvram:mytp2.pub
% Importing private key PEM file...
Source filename [mytp2.prv]?
Reading file from nvram:mytp2.prv% Key pair import succeeded.
!
! After the key has been imported, it is no longer exportable.
!

```

```

! Verify the status of the key.
!
Router# show crypto key mypubkey rsa

% Key pair was generated at:18:04:56 GMT Jun 6 2011
Key name:mycs
Usage:General Purpose Key
Key is exportable.
Key Data:
30819F30 0D06092A 864886F7 0D010101 05000381 8D003081 89028181 00E65253
9C30C12E 295AB73F B1DF9FAD 86F88192 7D4FA4D2 8BA7FB49 9045BAB9 373A31CB
A6B1B8F4 329F2E7E 8A50997E AADBCFAA 23C29E19 C45F4F05 DBB2FA51 4B7E9F79
A1095115 759D6BC3 5DFB5D7F BCF655BF 6317DB12 A8287795 7D8DC6A3 D31B2486
C9C96D2C 2F70B50D 3B4CDDAE F661041A 445AE11D 002EEF08 F2A627A0 5B020301 0001
% Key pair was generated at:18:17:25 GMT Jun 6 2011
Key name:mycs2
Usage:General Purpose Key
Key is not exportable.
Key Data:
30819F30 0D06092A 864886F7 0D010101 05000381 8D003081 89028181 00E65253
9C30C12E 295AB73F B1DF9FAD 86F88192 7D4FA4D2 8BA7FB49 9045BAB9 373A31CB
A6B1B8F4 329F2E7E 8A50997E AADBCFAA 23C29E19 C45F4F05 DBB2FA51 4B7E9F79
A1095115 759D6BC3 5DFB5D7F BCF655BF 6317DB12 A8287795 7D8DC6A3 D31B2486
C9C96D2C 2F70B50D 3B4CDDAE F661041A 445AE11D 002EEF08 F2A627A0 5B020301 0001

```

## PEM ファイルからのルータ RSA キー ペアおよび証明書のエクスポート例

次の例では、トラストポイント「mycs」と関連付けられた PEM ファイルに RSA キー ペア「aaa」とルータの証明書を生成およびエクスポートする方法について示します。また、この例では、Base64 符号化データの前後の PEM 境界を含む PEM 形式ファイルも示します。このファイルは他の SSL と SSH アプリケーションで使用されます。

```

Router(config)# crypto key generate rsa general-keys label aaa exportable

The name for the keys will be:aaa
Choose the size of the key modulus in the range of 360 to 2048 for your General Purpose
Keys. Choosing a key modulus greater than 512 may take a few minutes.
!
How many bits in the modulus [512]:
% Generating 512 bit RSA keys ...[OK]
!
Router(config)# crypto pki trustpoint mycs

Router(ca-trustpoint)# enrollment url http://mycs

Router(ca-trustpoint)#
rsakeypair aaa

Router(ca-trustpoint)# exit

Router(config)# crypto pki authenticate mycs

Certificate has the following attributes:
Fingerprint:C21514AC 12815946 09F635ED FBB6CF31
% Do you accept this certificate? [yes/no]: y
Trustpoint CA certificate accepted.
!
Router(config)# crypto pki enroll mycs

%
% Start certificate enrollment ..

```

```

% Create a challenge password. You will need to verbally provide this password to the
CA Administrator in order to revoke your certificate.
For security reasons your password will not be saved in the configuration.
Please make a note of it.
Password:
Re-enter password:
% The fully-qualified domain name in the certificate will be: Router
% The subject name in the certificate will be:host.example.com
% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]: n
% Include an IP address in the subject name? [no]: n
Request certificate from CA? [yes/no]: y
% Certificate request sent to Certificate Authority
% The certificate request fingerprint will be displayed.
% The 'show crypto ca certificate' command will also show the fingerprint.
Router(config)# Fingerprint:8DA777BC 08477073 A5BE2403 812DD157
00:29:11:%CRYPTO-6-CERTRET:Certificate received from Certificate Authority
Router(config)# crypto ca export aaa pem terminal 3des password

% CA certificate:
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIICAzCCAa2gAwIBAgIBATANBgkqhkiG9w0BAQUFADBOMQswCQYDVQQGEWJVUzEs
<snip>
waDeNOSI3WlDa0AAWq5DkVBkxwgn0TqIJXJOCttjHnWHK1LMcMVGn
-----END CERTIFICATE-----
% Key name:aaa
Usage:General Purpose Key
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
Proc-Type:4,ENCRYPTED
DEK-Info:DES-EDE3-CBC,ED6B210B626BC81A
Urguv0jnJwOgowWVUQ2XR5nbzzYHI2vGLunpH/IxIsJuNjRVjbAAUpGk7VnPCT87
<snip>
kLCOTxzEv7JHc72gMku9uUlrLSnFH5slzAtoC0czfU4=
-----END RSA PRIVATE KEY-----
% Certificate:
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIICTjCCAfigAwIBAgICIQUwDQYJKoZIhvcNAQEFBQAwTjELMAkGA1UEBhMCVVMx
<snip>
6xlBaIsuMxnHmr89KkKkY1U6
-----END CERTIFICATE-----

```

## PEM ファイルからのルータ RSA キー ペアおよび証明書のインポート例

次の例では、TFTP を使用して、PEM ファイルから RSA キー ペアと証明書をトラストポイント「ggg」にインポートする方法を示します。

```

Router(config)# crypto pki import ggg pem url tftp://10.1.1.2/username/msca password

% Importing CA certificate...
Address or name of remote host [10.1.1.2]?
Destination filename [username/msca.ca]?
Reading file from tftp://10.1.1.2/username/msca.ca
Loading username/msca.ca from 10.1.1.2 (via Ethernet0):!
[OK - 1082 bytes]
% Importing private key PEM file...
Address or name of remote host [10.1.1.2]?
Destination filename [username/msca.prv]?
Reading file from tftp://10.1.1.2/username/msca.prv
Loading username/msca.prv from 10.1.1.2 (via Ethernet0):!
[OK - 573 bytes]
% Importing certificate PEM file...
Address or name of remote host [10.1.1.2]?
Destination filename [username/msca.crt]?

```

```

Reading file from tftp://10.1.1.2/username/msca.crt
Loading username/msca.crt from 10.1.1.2 (via Ethernet0):!
[OK - 1289 bytes]
% PEM files import succeeded.
Router(config)#

```

## ルータの秘密キーの暗号化およびロック例

### 暗号キーの設定および検証例

次の例に、RSA キー「pki-123.example.com」を暗号化する方法について示します。そのため、**show crypto key mypubkey rsa** コマンドを発行して、RSA キーが暗号化（保護）およびロック解除されているかを確認します。

```

Router(config)# crypto key encrypt rsa name pki-123.example.com passphrase password
Router(config)# exit
Router# show crypto key mypubkey rsa

% Key pair was generated at:00:15:32 GMT Jun 25 2003
Key name:pki-123.example.com
Usage:General Purpose Key
*** The key is protected and UNLOCKED. ***
Key is not exportable.
Key Data:
305C300D 06092A86 4886F70D 01010105 00034B00 30480241 00E0CC9A 1D23B52C
CD00910C ABD392AE BA6D0E3F FC47A0EF 8AFEE340 0EC1E62B D40E7DCC
23C4D09E
03018B98 E0C07B42 3CFD1A32 2A3A13C0 1FF919C5 8DE9565F 1F020301 0001
% Key pair was generated at:00:15:33 GMT Jun 25 2003
Key name:pki-123.example.com.server
Usage:Encryption Key
Key is exportable.
Key Data:
307C300D 06092A86 4886F70D 01010105 00036B00 30680261 00D3491E 2A21D383
854D7DA8 58AFBDAC 4E11A7DD E6C40AC6 66473A9F 0C845120 7C0C6EC8 1FFF5757
3A41CE04 FDCB40A4 B9C68B4F BC7D624B 470339A3 DE739D3E F7DDB549 91CD4DA4
DF190D26 7033958C 8A61787B D40D28B8 29BCD0ED 4E6275C0 6D020301 0001

Router#

```



## ロックされたキーの設定および確認例

次の例に、キー「pki-123.example.com」をロックする方法について示します。そのため、**show crypto key mypubkey rsa** コマンドを発行して、キーが保護（暗号化）またはロックされているかを確認します。

```
Router# crypto key lock rsa name pki-123.example.com passphrase password
!
Router# show crypto key mypubkey rsa

% Key pair was generated at:20:29:41 GMT Jun 20 2003
Key name:pki-123.example.com
Usage:General Purpose Key
*** The key is protected and LOCKED. ***
Key is exportable.
Key Data:
305C300D 06092A86 4886F70D 01010105 00034B00 30480241 00D7808D C5FF14AC
0D2B55AC 5D199F2F 7CB4B355 C555E07B 6D0DECBE 4519B1F0 75B12D6F 902D6E9F
B6FDAD8D 654EF851 5701D5D7 EDA047ED 9A2A619D 5639DF18 EB020301 0001
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
PKI の概要（RSA キー、証明書登録、および CA を含む）	「Cisco IOS PKI Overview: Understanding and Planning a PKI」
PKI コマンド：完全なコマンドの構文、コマンドモード、デフォルト、使用上の注意事項、例	『Cisco IOS Security Command Reference』
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### RFC

RFC	タイトル
RFC 2409	『The Internet Key Exchange (IKE)』

RFC	タイトル
RFC 2511	『Internet X.509 Certificate Request Message Format』

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 146: Cisco TrustSec の概要の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。



## CHAPTER 111

# PKI での証明書の許可および失効の設定

この章では、公開キーインフラストラクチャ（PKI）で証明書の許可および失効を設定する方法について説明します。証明書サーバへのハイアベイラビリティのサポートに関する情報も挙げています。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

- 証明書の許可および失効に関する前提条件, [on page 1315](#)
- 証明書の許可および失効に関する制約事項, [on page 1316](#)
- 証明書の許可および失効に関する情報, [on page 1316](#)
- PKI に対して証明書の許可および失効を設定する方法, [on page 1325](#)
- 証明書の許可および失効の設定例, [on page 1346](#)
- その他の参考資料, [on page 1360](#)
- Cisco TrustSec の概要の機能情報, [on page 1361](#)

## 証明書の許可および失効に関する前提条件

### PKI ストラテジの計画



**Tip** 実際の証明書の展開を開始する前に、全体の PKI ストラテジを計画することを強く推奨します。

ユーザーまたはネットワーク管理者が次の作業を完了した後に、許可および失効が発生します。

- 認証局（CA）の設定。
- ピア デバイスの CA への登録。

- ピアツーピア通信に使用される（IP セキュリティ（IPsec）またはセキュア ソケット レイヤ（SSL）などの）プロトコルの確認および設定。

許可および失効に固有の情報をピアデバイス証明書に含めなければならない場合があるため、ピアデバイスを登録する前に、設定する許可および失効ストラテジを決定する必要があります。

#### 「crypto ca」から「crypto pki」への CLI の変更

Cisco IOS Release 12.3(7)T では、「crypto ca」で始まるすべてのコマンドが、「crypto pki」から始まるように変更されました。ルータは引き続き crypto ca コマンドを受信しますが、出力はすべて crypto pki に読み替えられます。

#### 高可用性

ハイ アベイラビリティのため、IPsec 保護された Stream Control Transmission Protocol (SCTP) はアクティブ ルータとスタンバイ ルータの両方で設定する必要があります。同期を機能させるには、SCTP を設定した後に、証明書サーバーの冗長性モードを ACTIVE/STANDBY に設定する必要があります。

## 証明書の許可および失効に関する制約事項

- シャーシ内での Stateful Switchover (SSO) 冗長性の PKI High Availability (HA) サポートは、現在 Cisco IOS Release 12.2 S ソフトウェアを実行するすべてのスイッチ上でサポートされていません。詳細については、Cisco Bug CSCtb59872 を参照してください。
- Cisco IOS リリースに応じて、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) がサポートされます。

## 証明書の許可および失効に関する情報

### PKI の許可

PKI 認証では、許可を行いません。多くの場合、一元的に管理されるソリューションが必要ですが、現在の許可用のソリューションは、設定対象のルータに固有です。

それによって証明書を特定の作業に対して許可し、その他の作業に対しては許可しない、と定義できる標準的なメカニズムはありません。アプリケーションが証明書ベースの許可情報を認識する場合、この許可情報を証明書自体に取り込めます。このソリューションでは、許可情報をリアルタイムで更新するための簡単なメカニズムを提供していないため、証明書に組み込まれた固有の許可情報を認識するように各アプリケーションに強制します。

証明書ベースの ACL メカニズムがトラストポイント認証の一部として設定される場合、該当アプリケーションは、この許可情報を判別する役割を担うことはなく、どのアプリケーション

に対して証明書を許可するのか指定できません。ルータ上の証明書ベースの ACL は、大きくなりすぎて管理できないことがあります。また、外部サーバーから証明書ベースの ACL 指示を取得する方が有利です

許可の問題にリアルタイムで対処する現在のソリューションでは、新しいプロトコルの指定や新しいサーバーの構築（それとともに管理およびデータ配布などの関連作業）が必要になります。

## 証明書ステータスのための PKI と AAA サーバーの統合

PKI を認証、許可、アカウントिंग (AAA) サーバーと統合することにより、既存の AAA インフラストラクチャを活用する代替オンライン証明書ステータスソリューションを実現します。証明書を適切な許可レベルで AAA データベースに一覧表示できます。PKI-AAA を明示的にサポートしないコンポーネントでは、デフォルトラベルの「all」を指定すると、AAA サーバーからの許可が可能になります。また、AAA データベースのラベルが「none」の場合、指定された証明書が有効でないことを示します（アプリケーションラベルが欠如していることと同じですが、「none」は完全性および明確性のために含まれます）。アプリケーションコンポーネントが PKI-AAA をサポートしている場合、コンポーネントを直接指定できる場合があります。たとえば、アプリケーションコンポーネントを「ipsec」、「ssl」、または「osp」に指定できます（ipsec = IP セキュリティ、ssl = セキュアソケットレイヤ、および osp = Open Settlement Protocol）。



**Note** 現在、アプリケーションラベルの指定をサポートするアプリケーションコンポーネントはありません。

- AAA サーバーにアクセスしたときに、時間遅延が生じる場合があります。AAA サーバーを利用できない場合、許可は失敗します。

## RADIUS または TACACS+ : AAA サーバー プロトコルの選択

AAA サーバーは、RADIUS または TACACS+ プロトコルと連動するように設定できます。PKI 統合用に AAA サーバーを設定する場合、許可に必要な RADIUS または TACACS 属性を設定する必要があります。

RADIUS プロトコルが使われている場合は、AAA サーバーのユーザー名に設定するパスワードを「cisco」に設定する必要があります。証明書の検証が認証を行い、AAA データベースは許可の目的だけに使用されているので、このパスワードは受け入れ可能です。TACACS プロトコルを使用する場合、TACACS では認証が不要な許可をサポートする（認証にパスワードを使用）ので、AAA サーバーのユーザー名に対して設定されるパスワードとは無関係です。

さらに、TACACS を使用する場合は、AAA サーバーに PKI サービスを追加する必要があります。カスタム属性「cert-application=all」が、PKI サービスの特定のユーザーまたはユーザーグループに追加され、特定のユーザー名が許可されます。

## PKI と AAA サーバー統合用の属性値ペア

次の表に、AAA サーバーと PKI との統合を設定する場合に使用される属性値 (AV) ペアを示します (表に示す値は、可能な値であることに注意してください)。AV ペアはクライアント設定と一致する必要があります。AV ペアが一致しない場合、ピア証明書は許可されません。



**Note** 場合によっては、ユーザーは、他のすべてのユーザーの AV ペアとは異なる AV ペアを持つことができます。その場合、ユーザーごとに一意のユーザー名が必要になります。(authorization username コマンド内に) all パラメータを設定すると、証明書のサブジェクト名全体を許可ユーザー名として使用するよう指定できます。

Table 147: 一致する必要がある AV ペア

AV ペア	値
cisco-avpair=pki:cert-application=all	有効な値は、[all] および [none] です。
cisco-avpair=pki:cert-trustpoint=msca	この値は、Cisco IOS コマンドラインインターフェイス (CLI) 設定のトラストポイントラベルです。 <b>Note</b> cert-trustpoint AV ペアの指定は、通常任意です。このペアが指定されている場合、Cisco IOS ルータ クエリーは、一致するラベルを持つ証明書トラストポイントから受信する必要があり、認証された証明書は、指定された証明書シリアル番号を持っている必要があります。
cisco-avpair=pki:cert-serial=16318DB7000100001671	この値は証明書のシリアル番号です。 <b>Note</b> cert-serial AV ペアの指定は、通常任意です。このペアが指定されている場合、Cisco IOS ルータ クエリーは、一致するラベルを持つ証明書トラストポイントから受信する必要があり、認証された証明書は、指定された証明書シリアル番号を持っている必要があります。

AV ペア	値
cisco-avpair=pki:cert-lifetime-end=1:00 jan 1, 2003	<p>cert-lifetime-end AV ペアは、証明書で指示された期間を越えた証明書のライフタイムを人為的に延長する場合に使用できます。cert-lifetime-end AV ペアを使用する場合は、cert-trustpoint および cert-serial AV ペアも指定する必要があります。この値は、時/分/月/日/年の形式と一致する必要があります。</p> <p><b>Note</b> 月を表す最初の 3 文字 (Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov、Dec) だけが使用されます。月を表す文字として 4 文字以上入力すると、残りの文字は無視されます (たとえば、Janxxxx)。</p>

## CRL または OCSP サーバー：証明書失効メカニズムの選択

証明書が適切に署名された証明書として有効になった後、証明書失効方法を実行して、証明書が発行元 CA によって無効にされていないことを確認します。Cisco IOS ソフトウェアは、2 つの失効メカニズムとして証明書失効リスト (CRL) と Online Certificate Status Protocol (OCSP) をサポートします。Cisco IOS ソフトウェアも、証明書のチェックのために AAA 統合をサポートしますが、これには追加の許可機能が含まれます。PKI と AAA 証明書の許可とステータス確認に関する詳細については、「証明書ステータスのための PKI と AAA サーバーの統合」を参照してください。

次の項では、各失効メカニズムの機能方法について説明します。

### CRL とは

CRL とは、失効した証明書のリストです。CRL は、証明書を発行した CA によって作成され、デジタル署名されます。CRL には、各証明書の発行日と失効日が含まれています。

CA は、新しい CRL を定期的に、あるいは CA が責任を負う証明書が失効したときに公開します。デフォルトでは、現在キャッシュされている CRL が失効すると、新しい CRL がダウンロードされます。管理者は、CRL がルータのメモリにキャッシュされる時間を設定したり、CRL キャッシングを完全にディセーブルにしたりできます。CRL キャッシング設定は、トラストポイントに関連付けられたすべての CRL に適用されます。

CRL が失効すると、ルータはキャッシュから CRL を削除します。証明書が検証用に表示されると、新しい CRL がダウンロードされます。ただし、検証中の証明書を記載した新しいバージョンの CRL がサーバー上にあるにもかかわらず、ルータがキャッシュ内の CRL を使用し続ける場合、ルータは証明書が失効したことを認識しません。証明書は拒否されるはずのもので、失効チェックに合格します。

CA は、証明書を発行すると、証明書にその CRL 配布ポイント (CDP) を含めることができます。Cisco IOS クライアント デバイスは、CDP を使用して適切な CRL を見つけ、ロードします。Cisco IOS クライアントは複数の CDP をサポートしますが、Cisco IOS CA は現在 1 つの CDP しかサポートしません。ただし、サードパーティ ベンダー製の CA には、証明書ごとに複数の CDP または異なる CDP をサポートするものがあります。CDP が証明書に指定されていない場合、クライアント デバイスは、デフォルトの Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) 方式を使用して CRL を取得します (CDP の場所は、**cdp-url** コマンドを使用して指定できます)。

CRL を実装する際は、次の設計上の注意事項を考慮する必要があります。

- CRL ライフタイムとセキュリティ アソシエーション (SA) およびインターネット キー交換 (IKE) ライフタイム
- CRL ライフタイムにより、CA が CRL の更新を発行する時間間隔が決まりますデフォルト CRL ライフタイム値は 168 時間 (1 週間) です。これは、**lifetime crl** コマンドで変更できます。
- CDP のこの方式により、CRL の取得方法が決まり、この方式として、HTTP、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)、SCEP、または TFTP を選択できます。最も一般的に使用されている方式は、HTTP、TFTP、および LDAP です。Cisco IOS ソフトウェアでは、SCEP にデフォルト設定されていますが、CRL を使用して大容量のインストールを実行する場合、HTTP CDP を推奨します。HTTP では高いスケーラビリティを実現できるからです。
- CDP のこの場所は、CRL の取得先を決定します。たとえば、サーバーおよび CRL の取得先となるファイルパスを指定できます。



**Note** 証明書失効リスト (CRL) を含む Public Key Infrastructure (PKI) が使用されている場合、PKI CRL ファイルのサイズが 200 KB (概算値) 以上を超えると、CPU 占有が発生する可能性があります。

## 失効チェック中にすべての CDP を照会

CDP サーバが要求に返答しない場合、Cisco IOS ソフトウェアはエラーを報告し、その結果、ピアの証明書が拒否されることがあります。証明書に複数の CDP がある場合、証明書が拒否されないようにするために、Cisco IOS ソフトウェアは、証明書に表示されている順序で CDP を使用しようと試みます。ルータは、それぞれの CDP URL またはディレクトリ指定を使用して CRL を取得しようと試みます。ある CDP を使用してエラーが発生すると、次の CDP を使用して試行します。



**Note** Cisco IOS Release 12.3(7)T 以前のリリースでは、証明書に 2 つ以上の CDP が含まれていても、Cisco IOS ソフトウェアは、CRL の取得を 1 回だけ試行します。





**Tip** Cisco IOS ソフトウェアは、指示された CDP のいずれかから CRL を取得するためにあらゆる試行を行いますが、CDP 応答の遅延によりアプリケーションのタイムアウトを避けるために、HTTP CDP サーバを高速の冗長 HTTP サーバと併用することを推奨します。

## OCSP とは

OCSP は、証明書の有効性を判別するために使用されるオンラインのメカニズムであり、失効メカニズムとして次のような柔軟性を備えています。

- OCSP では、証明書ステータスをリアルタイムでチェックできます。
- OCSP を使用すると、ネットワーク管理者は、中央 OCSP サーバーを指定でき、これにより、ネットワーク内のすべてのデバイスにサービスを提供できます。
- また、OCSP により、ネットワーク管理者は、クライアント証明書ごと、またはクライアント証明書のグループごとに複数の OCSP サーバーを柔軟に指定できます。
- OCSP サーバーの検証は通常、ルート CA 証明書または有効な下位 CA 証明書に基づいて実行されますが、外部の CA 証明書または自己署名証明書を使用できるように設定することもできます。外部の CA 証明書または自己署名証明書を使用すると、代替の PKI 階層から OCSP サーバー証明書を発行し、有効にできます。

ネットワーク管理者は、さまざまな CA サーバーから CRL を収集し、更新するように OCSP サーバーを設定できます。ネットワーク内のデバイスは、OCSP サーバーに依存して、ピアごとに CRL を取得してキャッシュすることなく証明書ステータスをチェックできます。ピアは、証明書の失効ステータスをチェックする必要がある場合、OCSP 要求に関して疑わしい証明書のシリアル番号およびオプションの固有識別情報（ナンス）を含む OCSP サーバーにクエリーを送信します。OCSP サーバーは、CRL のコピーを保持して、CA がその証明書を無効として記載しているかどうか判別します。次に、サーバーは、ナンスを含むピアに応答します。応答のナンスが OCSP サーバーからピアによって送信された元のナンスと一致しない場合、応答は無効と見なされ、証明書の検証が失敗します。OCSP サーバーとピア間の対話での帯域幅の消費量は、ほとんどの場合、CRL ダウンロードより少なくなります。

OCSP サーバーが CRL を使用する場合は、CRL 時間の制約事項が適用されます。つまり、追加の証明書失効情報を含む CRL によって新しい CRL が発行されていても、まだ有効な CRL が OCSP サーバーで使用されることがあります。CRL 情報を定期的にダウンロードするデバイスが少なくなっているため、CRL ライフタイム値を小さくするか、CRL をキャッシュしないように OCSP サーバーを設定できます。詳細は、OCSP サーバーのマニュアルを参照してください。

### OCSP サーバーを使用する場合

PKI に次のいずれかの特性がある場合、CRL よりも OCSP の方が適している場合があります。

- リアルタイムの証明書失効ステータスが必要。CRL が定期的にしか更新されず、必ずしも最新の CRL がクライアント デバイスでキャッシュされていない場合があります。たとえ

ば、最新の CRL がまだクライアントにキャッシュされておらず、また、新たに無効にされた証明書がチェック中の場合は、無効にされた証明書が失効チェックに合格します。

- 無効にされた大量の証明書または複数の CRL があります。大きな CRL をキャッシュすると、Cisco IOS メモリの大部分が消費されてしまい、他のプロセスに使用できるリソースが減少することがあります。
- CRL が頻繁に失効するため、CDP は大量の CRL を処理します。



**Note** Cisco IOS Release 12.4(9)T 以降では、管理者は、CRL キャッシングを完全にディセーブルにするか、キャッシュされた CRL のトラストポイントごとに最大ライフタイムを設定することによって、CRL キャッシングを設定できます。

## 許可または失効用に証明書ベースの ACL を使用する場合

証明書には、指定された処理の実行をデバイスまたはユーザーが許可されているかどうかの判別に使用されるフィールドがいくつか含まれています。

証明書ベース ACL はデバイス上に設定されるため、大量の ACL を十分にスケーリングしません。ただし、証明書ベースの ACL では、特定のデバイスの動作を非常に細かく制御できます。また、証明書ベース ACL は追加機能で活用され、失効、許可、またはトラストポイントなどの PKI コンポーネントを使用するタイミングを判別するのを助けます。証明書ベース ACL は全般的なメカニズムを提供しており、このメカニズムによりユーザーは、許可または追加処理に対して有効になっている特定の証明書または証明書のグループを選択できます。

証明書ベース ACL では、証明書内の 1 つ以上のフィールドおよび指定された各フィールドで許可される値を指定します。証明書内でチェックする必要があるフィールドと、それらのフィールドで認められる値または認められない値を指定できます。

フィールドと値との比較には、6 つの論理テスト (Equal (等しい)、Not equal (等しくない)、Contains (含む)、Less than (未満)、Does not contain (含まない)、Greater than or equal (以上)) を使用できます。1 つの証明書ベース ACL で複数のフィールドを指定した場合、その ACL と一致するには、ACL 内のすべてのフィールド条件に合致しなければなりません。同じ ACL 内で、同じフィールドを複数回指定できます。複数の ACL を指定できます。一致するものが見つかるか、または ACL の処理がすべて完了するまで、各 ACL が順に処理されます。

### 証明書ベース ACL を使用した失効チェックの無視

証明書ベース ACL を設定して、有効なピアの失効チェックおよび失効した証明書を無視するようルータに指示できます。したがって、指定基準を満たす証明書は、証明書の有効期間にかかわらず受け入れることができます。また、証明書が指定基準を満たしている場合は失効チェックを実行する必要がなくなります。AAA サーバーとの通信が証明書で保護される場合にも、証明書ベース ACL を使用して失効チェックを無視できます。

### 失効リストの無視

トラストポイントが特定の証明書を除いて CRL を適用できるようにするには、**skip revocation-check** キーワードを指定して **match certificate** コマンドを入力します。このような適用は、スポークツースポークの直接接続も可能なハブアンドスポーク設定に最も便利です。純粹なハブアンドスポーク設定では、すべてのスポークはハブだけに接続するので、CRL チェックはハブ上だけで済みます。スポークが別のスポークと直接通信する場合、ネイバーピア証明書に対して、各スポーク上で CRL を要求する代わりに、**skip revocation-check** キーワードを指定して **match certificate** コマンドを使用できます。

### 失効した証明書の無視

失効した証明書を無視するようにルータを設定するには、**allow expired-certificate** キーワードを指定して **match certificate** コマンドを入力します。このコマンドには、次のような目的があります。

- このコマンドは、ピアの証明書が失効した場合にピアが新しい証明書を取得するまで、失効した証明書を「許可する」ために使用できます。
- ルータクロックがまだ正しい時間に設定されていない場合、クロックが設定されるまで、ピアの証明書はまだ有効ではないものとして表示されます。このコマンドは、ルータクロックが未設定であっても、ピアの証明書を許可する場合に使用できます。



#### Note

ネットワークタイムプロトコル (NTP) が IPSec 接続だけで (通常、ハブアンドスポーク設定のハブによって) 利用可能な場合は、ルータクロックを絶対に設定できません。ハブの証明書がまだ有効でないため、ハブへのトンネルを「アップ」状態にできません。

- 「失効」とは、失効している証明書またはまだ有効ではない証明書の総称です。証明書には、開始時刻と終了時刻が指定されます。ACL を目的とした、失効証明書は、ルータの現在時刻が証明書で指定された開始および終了時刻の範囲外の証明書です。

### 証明書の AAA チェックのスキップ

AAA サーバーとの通信が証明書で保護され、証明書の AAA チェックをスキップする場合は、**skip authorization-check** キーワードを指定して **match certificate** コマンドを使用します。たとえば、すべての AAA トラフィックがバーチャルプライベートネットワーク (VPN) トンネルを通過するように設定され、このトンネルが証明書で保護されている場合は、**skip authorization-check** キーワードを指定して **match certificate** コマンドを使用すると、証明書チェックをスキップしてトンネルを確立できます。

AAA サーバーとの PKI 統合が設定されると、**match certificate** コマンドと **skip authorization-check** キーワードを設定する必要があります。



**Note** AAA サーバーが IPSec 接続によってのみ使用可能な場合は、IPSec 接続が確立されるまで AAA サーバーとは通信できません。AAA サーバーの証明書がまだ有効でないため、IPSec 接続を「アップ」状態にできません。

## PKI 証明書チェーンの検証

証明書チェーンにより、ピア証明書からルート CA 証明書までの、一連の信頼できる証明書を確立します。階層型 PKI 内では、登録されているすべてのピアが信頼できるルート CA 証明書または共通の下位 CA を共有している場合、証明書を相互に検証できます。各 CA が 1 つのラストポイントに対応します。

証明書チェーンをピアから受信すると、最初の信頼できる証明書またはラストポイントに到達するまで、証明書チェーンパスのデフォルト処理が続けられます。Cisco IOS Release 12.4(6)T 以降のリリースでは、管理者は、下位 CA 証明書を含むすべての証明書における証明書チェーンの処理レベルを設定できます。

証明書チェーンの処理レベルを設定すると、信頼できる証明書の再認証、信頼できる証明書チェーンの延長、および欠落のある証明書チェーンの補完が可能になります。

### 信頼できる証明書の再認証

このデフォルト動作でルータは、チェーンを検証する前に、ピアによって送信された証明書チェーンから任意の信頼できる証明書を削除します。管理者は証明書チェーンパス処理を設定して、チェーン検証の前にすでに信頼されている CA 証明書をルータが削除しないようにできます。そのため、チェーン内のすべての証明書は現在のセッションに対して再度認証されます。

### 信頼できる証明書チェーンの延長

このデフォルト動作でルータは、ピアによって送信された証明書チェーンに欠落している証明書がある場合、その信頼できる証明書を使用して証明書チェーンを延長します。ルータが検証するのは、ピアによって送信されたチェーンの証明書だけです。管理者は証明書チェーンパス処理を設定して、ピアの証明書チェーンの証明書およびルータの信頼できる証明書を、指定したポイントに対して有効にできます。

### 証明書チェーンの欠落の補完

管理者は証明書チェーン処理を設定して、設定済みの Cisco IOS トラストポイント階層に欠落がある場合、ピアによって送信された証明書を使用して証明書のセットを有効にできます。



**Note** 親検証を要求するようにトラストポイントが設定され、ピアが完全な証明書チェーンを提示しない場合、欠落を補完できないため証明書チェーンは拒否され、無効になります。



**Note** 親検証を要求するようにトラストポイントが設定されていて、設定済みの親トラストポイントがない場合は、設定エラーです。発生する証明書チェーンの欠落を補完できず、下位 CA 証明書を有効にできません。この証明書チェーンは無効です。

## PKI に対して証明書の許可および失効を設定する方法

### AAA サーバーとの PKI 統合の設定

ピアによって提出された証明書から AAA ユーザー名を生成し、証明書内で AAA データベース ユーザー名の作成に使用するフィールドを指定するには、次の作業を実行します。



**Note** **authorization username** コマンドでサブジェクト名として **all** キーワードを使用する際に、次の制約事項を考慮する必要があります。

- 一部の AAA サーバーでは、ユーザー名の長さが制限されます（たとえば、64 文字まで）。その結果、証明書の全体のサブジェクト名は、サーバーの制約条件より長くできません。
- 一部の AAA サーバーでは、ユーザー名に使用できる文字セットが制限されます（たとえば、スペース（ ） および等号（=）を使用できない場合があります）。このような文字セットの制限がある AAA サーバーでは、**all** キーワードを使用できません。
- トラストポイント設定の **subject-name** コマンドは、必ずしも最終の AAA サブジェクト名とは限りません。証明書要求に完全修飾ドメイン名（FQDN）、シリアル番号、またはルータの IP アドレスが含まれている場合は、発行された証明書のサブジェクト名フィールドにもこれらのコンポーネントが含まれます。コンポーネントをオフにするには、**fqdn**、**serial-number**、および **ip-address** の各コマンドに **none** キーワードを使用します。
- CA サーバーが証明書を発行すると、CA サーバーは、要求したサブジェクト名フィールドを変更することがあります。たとえば、一部のベンダーの CA サーバーが要求したサブジェクト名の相対識別名（RDN）を CN、OU、O、L、ST、および C に切り替えます。ただし、別の CA サーバーは、設定した LDAP ディレクトリ ルート（O=cisco.com など）を要求したサブジェクト名の最後に追加する場合があります。
- 証明書の表示用に選択するツールによっては、サブジェクト名の RDN の印刷順序が異なることがあります。Cisco IOS ソフトウェアでは、重要度が最低の RDN を先頭に表示しますが、Open Source Secure Socket Layer（OpenSSL）などの、他のソフトウェアでは、重要度が最高の RDN を先頭に表示します。したがって、完全な識別名（DN）（サブジェクト名）を持つ AAA サーバーを対応するユーザー名として設定する場合は、Cisco IOS ソフトウェアスタイル（つまり、重要度が最低の RDN を先頭に表示）が使用されていることを確認してください。

または

**radius-server host** *hostname* [**key** *string*]

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authorization network** *listname* [*method*]
5. **crypto pki trustpoint** *name*
6. **enrollment** [*mode*] [**retry period** *minutes*] [**retry count** *number*] **url** *url* [**pem**]
7. **revocation-check** *method*
8. **exit**
9. **authorization username** *subjectname* *subjectname*
10. **authorization list** *listname*

## 11. tacacs-server host hostname [key string]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b>  Router(config)# aaa new-model	AAA アクセスコントロールモデルをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>aaa authorization network listname [method]</b> <b>Example:</b>  Router (config)# aaa authorization network maxaaa group tacacs+	ネットワークへのユーザー アクセスを制限するパラメータを設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li><b>method</b> : <b>group radius</b>、<b>group tacacs+</b>、または <b>group group-name</b> を指定できます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b>  Route (config)# crypto pki trustpoint msca	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>enrollment [mode] [retry period minutes] [retry count number] url url [pem]</b> <b>Example:</b>  Router (ca-trustpoint)# enrollment url http://caserver.myexample.com  または  Router (ca-trustpoint)# enrollment url http://[2001:DB8:1:1::1]:80	CA の次の登録パラメータを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>(任意) CA システムが登録局 (RA) を提供する場合、<b>mode</b> キーワードとして RA モードを指定します。デフォルトでは、RA モードは無効です。</li> <li>(任意) <b>retry period</b> キーワードおよび <b>minutes</b> 引数は、CA に別の証明書要求を送信するまでルータが待機する期間を分単位で指定します。有効値は 1 ~ 60 です。デフォルトは 1 です。</li> <li>(任意) <b>retry count</b> キーワードおよび <b>number</b> 引数は、直前の要求に対する応答をルータが受信しない場合、ルータが証明書要求を再送信す</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p>る回数を指定します。有効な値は、1～100です。デフォルトは10です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>url</i> 引数は、ルータが証明書要求を送信する CA の URL です。</li> </ul> <p><b>Note</b> Cisco IOS リリース 15.2(1)T を導入すると、IPv6 アドレスを <b>http:</b> 登録方式に追加できます。たとえば、  <a href="http://[ipv6-address]:80">http://[ipv6-address]:80</a> です。URL 内の IPv6 アドレスは括弧で囲む必要があります。使用できるその他の登録方式に関する詳細については、コマンドリファレンスマニュアルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>pem</b> キーワードは、証明書要求にプライベート強化メール (PEM) の境界を追加します。</li> </ul>
ステップ 7	revocation-check method <b>Example:</b> <pre>Router (ca-trustpoint)# revocation-check crl</pre>	(任意) 証明書の失効ステータスをチェックします。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router (ca-trustpoint)# exit</pre>	CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 9	<b>authorization username subjectname subjectname</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# authorization username subjectname serialnumber</pre>	<p>AAA ユーザー名の構築に使用する異なる証明書フィールドのパラメータを設定します。</p> <p><i>subjectname</i> 引数には、次のいずれかを指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : 証明書の識別名 (所有者名) 全体。</li> <li>• <b>commonname</b> : 証明書の共通名。</li> <li>• <b>country</b> : 証明書の国。</li> <li>• <b>email</b> : 証明書の電子メール。</li> <li>• <b>ipaddress</b> : 証明書の IP アドレス。</li> <li>• <b>locality</b> : 証明書の地域。</li> <li>• <b>organization</b> : 証明書の組織。</li> <li>• <b>organizationalunit</b> : 証明書の組織単位。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>postalcode</b> : 証明書の郵便番号。</li> <li>• <b>serialnumber</b> : 証明書のシリアル番号。</li> <li>• <b>state</b> : 証明書の州フィールド。</li> <li>• <b>streetaddress</b> : 証明書の住所。</li> <li>• <b>title</b> : 証明書のタイトル。</li> <li>• <b>unstructuredname</b> : 証明書の非公式名。</li> </ul>
ステップ 10	<b>authorization list</b> <i>listname</i> <b>Example:</b> Route (config)# authorization list maxaaa	AAA 認可リストを指定します。
ステップ 11	<b>tacacs-server host</b> <i>hostname</i> [ <b>key string</b> ] <b>Example:</b> Router (config)# tacacs-server host 192.0.2.2 key a_secret_key <b>Example:</b> radius-server host <i>hostname</i> [ <i>key string</i> ] <b>Example:</b> Router (config)# radius-server host 192.0.2.1 key another_secret_key	TACACS+ ホストを指定します。 または RADIUS ホストを指定します。

## トラブルシューティングのヒント

CAとルータ間のインタラクションのトレース（メッセージタイプ）に関するデバッグメッセージを表示するには、**debug crypto pki transactions** コマンドを使用します（サンプル出力を参照してください。ここでは、AAA サーバー交換との成功した PKI 統合、および AAA サーバー交換との失敗した PKI 統合を示します）。

### 成功した交換

```
Router# debug crypto pki transactions
Apr 22 23:15:03.695: CRYPTO_PKI: Found a issuer match
Apr 22 23:15:03.955: CRYPTO_PKI: cert revocation status unknown.
Apr 22 23:15:03.955: CRYPTO_PKI: Certificate validated without revocation check
```

「CRYPTO\_PKI\_AAA」と表示されている各行は、AAA 認可チェックの状態を示します。各 AAA AV ペアが示され、認可チェックの結果が表示されます。

```
Apr 22 23:15:04.019: CRYPTO_PKI_AAA: checking AAA authorization (ipsecca_script_aalist, PKIAAA-L, <all>)
```

```
Apr 22 23:15:04.503: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-application" = "all")
Apr 22 23:15:04.503: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-trustpoint" = "CA1")
Apr 22 23:15:04.503: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-serial" = "15DE")
Apr 22 23:15:04.503: CRYPTO_PKI_AAA: authorization passed
Apr 22 23:12:30.327: CRYPTO_PKI: Found a issuer match
```

### 失敗した交換

```
Router# debug crypto pki transactions
Apr 22 23:11:13.703: CRYPTO_PKI_AAA: checking AAA authorization =
Apr 22 23:11:14.203: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-application" = "all")
Apr 22 23:11:14.203: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-trustpoint" = "CA1")
Apr 22 23:11:14.203: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-serial" = "233D")
Apr 22 23:11:14.203: CRYPTO_PKI_AAA: parsed cert-lifetime-end as: 21:30:00
Apr 22 23:11:14.203: CRYPTO_PKI_AAA: timezone specific extended
Apr 22 23:11:14.203: CRYPTO_PKI_AAA: cert-lifetime-end is expired
Apr 22 23:11:14.203: CRYPTO_PKI_AAA: cert-lifetime-end check failed.
Apr 22 23:11:14.203: CRYPTO_PKI_AAA: authorization failed
```

上記の失敗した交換では、証明書が失効しています。

## PKI 証明書ステータス チェックの失効メカニズムの設定

証明書失効メカニズム (CRL または OCSP) として CRL を設定し、PKI の証明書のステータスをチェックするには、次の作業を実行します。

### revocation-check コマンド

**revocation-check** コマンドを使用し、ピアの証明書が無効にされていないことを確認するための方式 (OCSP、CRL、または失効チェックのスキップ) を少なくとも 1 つ指定します。複数の方式を指定する場合、方式を適用する順序は、このコマンドで指定した順序になります。

ルータに適用可能な CRL がなく、いずれの CRL も取得できない場合、あるいは OCSP サーバーがエラーを返す場合、設定に **none** キーワードを含めないかぎり、ルータはピアの証明書を拒否します。**none** キーワードを設定した場合、失効チェックは実行されず、証明書は常に受け入れられます。



**Note** トラストポイントで失効チェックが「none」に変更されると、トラストポイントの CA 証明書に関連付けられている CRL キャッシュがクリアされます。

### OCSP サーバーとのナンスおよびピア通信

OCSP を使用すると、OCSP サーバーとのピア通信時に、OCSP 要求に関するナンス (固有識別情報) がデフォルトで送信されます。ナンスを使用することにより、ピアと OCSP サーバー間にセキュアで信頼性の高い通信チャネルが確立されます。

OCSP サーバーがナンスをサポートしていない場合は、ナンスの送信をディセーブルにできます。詳細は、OCSP サーバのマニュアルを参照してください。

**Before you begin**

- クライアント証明書を発行する前に、サーバーで適切な設定（CDPの設定など）を行う必要があります。
- OCSPサーバーからCAサーバーの失効ステータスを返すように設定するときは、CAサーバーが発行したOCSP応答署名証明書をOCSPサーバーに設定する必要があります。署名証明書が正しいフォーマットであることを確認してください。署名証明書のフォーマットが正しくない場合、ルータは、OCSP応答を受理しません。詳細については、OCSPのマニュアルを参照してください。

**Note**

- OCSPは、HTTPを使用してメッセージを転送するので、OCSPサーバーにアクセスする際に遅延が発生する場合があります。
- OCSPサーバーが、失効ステータスのチェックを通常のCRL処理に依存している場合、CRLの遅延はOCSPにも適用されます。

&gt;

**SUMMARY STEPS**

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. `crypto pki trustpoint name`
4. `ocsp url url`
5. `revocation-check method1 [method2 method3]`
6. `ocsp disable-nonce`
7. **exit**
8. **exit**
9. `show crypto pki certificates`
10. `show crypto pki trustpoints [status | label [status]]`

**DETAILED STEPS****Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto pki trustpoint hazel	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>ocsp url</b> <i>url</i> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# ocsp url http://ocsp-server または Router(ca-trustpoint)# ocsp url http://10.10.10.1:80 または Router(ca-trustpoint)# ocsp url http://[2001DB8:1:1::2]:80	<i>url</i> 引数は、トラストポイントが証明書ステータスをチェックできるように OCSP サーバーの URL を指定します。この URL は、証明書の AIA 拡張部に指定されている OCSP サーバーの URL（存在する場合）を上書きします。設定したトラストポイントに関連するすべての証明書は、OCSP サーバーによって確認されます。使用可能な URL は、ホスト名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。
ステップ 5	<b>revocation-check</b> <i>method1</i> [ <i>method2 method3</i> ] <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# revocation-check ocsp none	証明書の失効ステータスをチェックします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>cr1</b> : CRL によって証明書をチェックします。これがデフォルトのオプションです。</li> <li>• <b>none</b> : 証明書のチェックを無視します。</li> <li>• <b>ocsp</b> : OCSP サーバーによって証明書をチェックします。</li> </ul> 2 番目と 3 番目の方法を指定した場合、各方法はその直前の方法でエラーが返された場合（サーバーがダウンしている場合など）にだけ使用されます。
ステップ 6	<b>ocsp disable-nonce</b> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# ocsp disable-nonce	（任意）OCSP サーバーとピアが通信するときに、ナンス（OCSP 要求に関する固有識別情報）が送信されないように指定します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# exit	グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	特権 EXEC モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>show crypto pki certificates</b> <b>Example:</b> Router# show crypto pki certificates	(任意) 証明書に関する情報を表示します。
ステップ 10	<b>show crypto pki trustpoints [status   label [status]]</b> <b>Example:</b> Router# show crypto pki trustpoints	ルータに設定されているトラストポイントに関する情報を表示します。

## 証明書の許可および失効の設定

証明書ベース ACL の指定、失効チェックまたは失効した証明書の無視、手動によるデフォルトの CDP の場所の上書き、手動による OCSP サーバー設定の上書き、CRL キャッシングの設定、あるいは証明書シリアル番号に基づくセッションの受理/拒否の設定を行うには、必要に応じて次の作業を実行します。

### 失効チェックを無視するように証明書ベース ACL を設定

証明書ベース ACL を使用して、失効チェックおよび失効証明書を無視するようにルータを設定するには、次の手順を実行します。

- 既存のトラストポイントの識別またはピアの証明書の検証に使用される新しいトラストポイントを作成します。トラストポイントがまだ認証されていない場合は、認証してください。必要に応じて、ルータをこのトラストポイントに登録できます。**match certificate** コマンドと **skip revocation-check** キーワードを使用する場合は、トラストポイントにオプションの CRL を設定しないでください。
- 証明書自体の CRL をチェックする必要がない証明書の固有の特性と、許可する必要がある失効証明書の固有の特性を判別します。
- 前のステップで確認した特性と一致する証明書マップを定義します。
- 最初の手順で作成または指定したトラストポイントに、**match certificate** コマンドと **skip revocation-check** キーワード、**match certificate command** と **allow expired-certificate** キーワードを追加できます。



#### Note

証明書マップは、ピアの公開キーがキャッシュされている場合でも確認されます。たとえば、ピアによって公開キーがキャッシュされており、証明書マップがトラストポイントに追加されて証明書が禁止されると、証明書マップが有効になります。これにより、過去に一度接続され、現在は禁止されている証明書を持つクライアントが再接続することを防ぎます。

## 証明書内の CDP の手動による上書き

ユーザーは、手動で設定した CDP で証明書内の CDP を上書きできます。証明書の CDP の手動による上書きは、特定のサーバーが長時間利用できない場合に便利です。元の CDP を含む証明書のすべてを再発行しなくても、証明書の CDP を URL またはディレクトリ指定に置き換えることができます。

## 手動による証明書の OCSP サーバー設定の上書き

管理者はクライアント証明書の Authority Information Access (AIA) フィールドに指定された、または **ocsp url** コマンドを発行して設定された OCSP サーバーの設定値を上書きできます。**match certificate override ocsp** コマンドを使用すると、1つまたは複数の OCSP サーバーをクライアント証明書ごとに、またはクライアント証明書のグループごとに手動で指定できます。失効チェック時にクライアント証明書が証明書マップに正常に照合された場合、**match certificate override ocsp** コマンドを発行すると、クライアント証明書 AIA フィールドまたは **ocsp url** コマンド設定が上書きされます。



**Note** 1つのクライアント証明書には、OCSP サーバーを1つだけ指定できます。

## CRL キャッシュコントロールの設定

デフォルトでは、現在キャッシュされている CRL が失効すると、新しい CRL がダウンロードされます。管理者は、**crl cache delete-after** コマンドを発行して、CRL がキャッシュに保持される最大時間（分単位）を設定するか、**crl cache none** コマンドを発行して CRL キャッシュを無効にできます。**crl-cache delete-after** コマンドまたは **crl-cache none** コマンドのみを指定できます。トラストポイントに両方のコマンドを入力した場合は、後に実行されたコマンドが有効になり、メッセージが表示されます。

**crl-cache none** コマンドまたは **crl-cache delete-after** コマンドのいずれを実行しても現在キャッシュされている CRL に影響はありません。**crl-cache none** コマンドを設定した場合、このコマンドを発行すると、ダウンロードされたすべての CRL はキャッシュされません。**crl-cache delete-after** コマンドを設定した場合、このコマンドの発行後に設定されたライフタイムだけがダウンロードされた CRL に影響します。

この機能は、CA が失効日を指定せずに CRL を発行する場合、あるいは失効日が数日後または数週間後に迫っている場合に役立ちます。

## 証明書のシリアル番号セッションコントロールの設定

証明書検証要求がセッションのトラストポイントによって受け入れられる、または拒否されるように証明書シリアル番号を指定できます。証明書のシリアル番号セッションコントロールによっては、証明書がまだ有効であっても、セッションが拒否される場合があります。証明書のシリアル番号セッションコントロールは、**serial-number** フィールドを持つ証明書マップまたは AAA 属性のいずれかを使用して **cert-serial-not** コマンドで設定できます。

セッションコントロールに証明書マップを使用すると、管理者は、1つの証明書シリアル番号を指定できます。AAA 属性を使用すると、管理者は、セッションコントロールに証明書シリアル番号を指定できます。

### Before you begin

- 証明書マップをトラストポイントに関連付ける前に、トラストポイントを定義し、認証する必要があります。
- CDP オーバライド機能を有効にする、または **serial-number** コマンドを発行する前に、証明書マップを設定する必要があります。
- PKI と AAA サーバーとの統合は、「証明書ステータスのための PKI と AAA サーバーの統合」の説明のとおり AAA 属性を使用して正常に完了する必要があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki certificate map label sequence-number**
4. *field-name match-criteria match-value*
5. **exit**
6. **crypto pki trustpoint name**
7. 次のいずれかを実行します。
  - **crl-cache none**
  - **crl-cache delete-after time**
8. **match certificate certificate-map-label [allow expired-certificate | skip revocation-check | skip authorization-check**
9. **match certificate certificate-map-label override cdp {url | directory} string**
10. **match certificate certificate-map-label override oosp [trustpoint trustpoint-label] sequence-number url oosp-url**
11. **exit**
12. **aaa new-model**
13. **aaa attribute list list-name**
14. **attribute type {name} {value}**
15. **exit**
16. **exit**
17. **show crypto pki certificates**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki certificate map label sequence-number</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto pki certificate map Group 10	証明書において、一致する必要がある値または一致する必要がない値を定義し、CA 証明書マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>field-name match-criteria match-value</b> <b>Example:</b> Router(ca-certificate-map)# subject-name co MyExample	1つまたは複数の証明書フィールドと、これらのフィールドの一致基準および照合する値を指定します。 <i>field-name</i> には、次のいずれかの名前文字列（大文字と小文字を区別しない）または日付を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>alt-subject-name</b></li> <li>• <b>expires-on</b></li> <li>• <b>issuer-name</b></li> <li>• <b>name</b></li> <li>• <b>serial-number</b></li> <li>• <b>subject-name</b></li> <li>• <b>unstructured-subject-name</b></li> <li>• <b>valid-start</b></li> </ul> <p><b>Note</b> 日付フィールドのフォーマットは、dd mm yyyy hh:mm:ss または mmm dd yyyy hh:mm:ss です。</p> <p><i>match-criteria</i> には、次の論理演算子のいずれかを指定します。</p>



	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>co</b> : 含む (名前およびシリアル番号フィールドでのみ有効)</li> <li>• <b>eq</b> : 等しい (名前、シリアル番号、および日付フィールドで有効)</li> <li>• <b>ge</b> : 以上 (日付フィールドでのみ有効)</li> <li>• <b>lt</b> : 未満 (日付フィールドでのみ有効)</li> <li>• <b>nc</b> : 含まない (名前およびシリアル番号フィールドでのみ有効)</li> <li>• <b>ne</b> : 等しくない (名前、シリアル番号、および日付フィールドで有効)</li> </ul> <p><i>match-value</i> は、<i>match-criteria</i> で割り当てられた論理演算子を使用してテストする名前または日付です。</p> <p><b>Note</b> このコマンドは、証明書ベース ACL を設定する場合にだけ使用し、失効チェックまたは失効した証明書を無視するように証明書ベース ACL を設定する場合には使用しないでください。</p>
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-certificate-map)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto pki trustpoint Access2</pre>	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>crl-cache none</b></li> <li>• <b>crl-cache delete-after time</b></li> </ul> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# crl-cache none</pre> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# crl-cache delete-after 20</pre>	(任意) トラストポイントに関連付けられたすべての CRL の CRL キャッシングを完全にディセーブルにします。 <b>crl-cache none</b> コマンドを実行しても、現在キャッシュされている CRL に影響はありません。このコマンドが設定された後にダウンロードされるすべての CRL は、キャッシュされません。 (任意) トラストポイントに関連付けられたすべての CRL に関して、CRL がキャッシュに保持される最大時間を指定します。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>time</i> : CRL が削除されるまでの時間 (分単位)。</li> </ul> <p><b>crl-cache delete-after</b> コマンドを実行しても、現在キャッシュされている CRL に影響はありません。設定されたライフタイムは、このコマンドが設定された後にダウンロードされた CRL だけに影響します。</p>
ステップ 8	<p><b>match certificate</b> <i>certificate-map-label</i> [<b>allow expired-certificate</b>   <b>skip revocation-check</b>   <b>skip authorization-check</b>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# match certificate Group skip revocation-check</pre>	<p>(任意) 証明書ベース ACL (<b>crypto pki certificate map</b> コマンドによって定義されている) をトラストポイントに関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>certificate-map-label</b> : <b>crypto pki certificate map</b> コマンドを使用して指定した <i>label</i> 引数と一致する必要があります。</li> <li>• <b>allowexpired-certificate</b> : 失効した証明書を無視します。</li> <li>• <b>skip revocation-check</b> : トラストポイントが、特定の証明書を除く CRL を適用できるようにします。</li> <li>• <b>skip authorization-check</b> : AAA サーバーとの PKI 統合を設定すると、証明書の AAA チェックをスキップします。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>match certificate</b> <i>certificate-map-label</i> <b>override cdp</b> {<b>url</b>   <b>directory</b>} <i>string</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# match certificate Group1 override cdp url http://server.cisco.com</pre>	<p>(任意) URL またはディレクトリが指定された証明書の、既存の CDP エントリを手動で上書きします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>certificate-map-label</b> : ユーザー指定のラベル。事前に定義された <b>crypto pki certificate map</b> コマンドに指定した <i>label</i> 引数と一致する必要があります。</li> <li>• <b>url</b> : 証明書の CDP が HTTP または LDAP URL で上書きされるように指定します。</li> <li>• <b>directory</b> : 証明書の CDP が LDAP ディレクトリ指定で上書きされるように指定します。</li> <li>• <b>string</b> : URL またはディレクトリ指定。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p><b>Note</b> 一部のアプリケーションは、すべてのCDPが試行される前にタイムアウトすることがあり、エラーメッセージで報告します。エラーメッセージはルータに影響を及ぼしません。また、Cisco IOS ソフトウェアは、すべてのCDPが試行されるまでCRLの取得を続行します。</p>
<p>ステップ 10</p>	<p><b>match certificate</b> <i>certificate-map-label</i> <b>override oosp</b> [<b>trustpoint</b> <i>trustpoint-label</i>] <i>sequence-number</i> <b>url</b> <i>ocsp-url</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# match certificate mycertmapname override oosp trustpoint mytp 15 url http://192.0.2.2</pre>	<p>(任意) OCSPサーバーをクライアント証明書ごとに、またはクライアント証明書のグループごとに指定し、複数回発行して、追加のOCSPサーバーおよびクライアント証明書の設定（代替のPKI階層を含む）を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>certificate-map-label</b> : 既存の証明書マップ名。</li> <li>• <b>trustpoint</b> : OCSPサーバー証明書を検証するときに使用されるトラストポイント。</li> <li>• <b>sequence-number</b> : <b>match certificate override oosp</b> コマンドステートメントを検証対象の証明書に適用する順序。照合が最低のシーケンス番号から最高のシーケンス番号に実行されます。同じシーケンス番号で複数のコマンドを発行すると、前のOCSPサーバーオーバーライド設定が上書きされます。</li> <li>• <b>url</b> : OCSPサーバーのURL。</li> </ul> <p>証明書が設定された証明書マップと一致すると、クライアント証明書のAIAフィールドおよび以前に発行された<b>ocsp url</b>コマンド設定値は、指定されたOCSPサーバーで上書きされます。</p> <p>マップベースの一致が発生しない場合、引き続き次の2つのケースがクライアント証明書に適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• OCSPを失効方法として指定すると、AIAフィールド値がクライアント証明書に引き続き適用されます。</li> <li>• <b>ocsp url</b> 設定が存在する場合は、<b>ocsp url</b> 設定が引き続きクライアント証明書に適用されます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 12	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa new-model</pre>	(任意) AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
ステップ 13	<b>aaa attribute list list-name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa attribute list crl</pre>	(任意) ルータにローカルで AAA 属性リストを定義し、 <b>config-attr-list</b> コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	<b>attribute type {name} {value}</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-attr-list)# attribute type cert-serial-not 6C4A</pre>	<p>(任意) ルータの AAA 属性リストにローカルに追加される AAA 属性タイプを定義します。</p> <p>証明書のシリアル番号セッションコントロールを設定するために、管理者は、<i>value</i> フィールドの特定の証明書を、<i>name</i> が <b>cert-serial-not</b> に設定されているシリアル番号に基づき受け入れるか、拒否するか指定できます。証明書のシリアル番号が属性タイプ設定で指定されたシリアル番号と一致した場合、証明書は拒否されます。</p> <p>使用可能な AAA 属性タイプのリストを表示するには、<b>show aaa attributes</b> コマンドを実行してください。</p>
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# exit</pre> <b>Example:</b> <pre>Router(config-attr-list)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 16	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# exit</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 17	<b>show crypto pki certificates</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto pki certificates</pre>	(任意) CA 証明書が認証されたら、ルータにインストールされた証明書のコンポーネントを表示します。

## 例

次に、サンプル証明書を示します。OCSP 関連の拡張子は感嘆符を使用して示されません。

```
Certificate:
  Data:
    Version: v3
    Serial Number:0x14
    Signature Algorithm:SHAwithRSA - 1.2.840.113549.1.1.4
    Issuer:CN=CA server,OU=PKI,O=Cisco Systems
    Validity:
      Not Before:Thursday, August 8, 2002 4:38:05 PM PST
      Not After:Tuesday, August 7, 2003 4:38:05 PM PST
    Subject:CN=OCSP server,OU=PKI,O=Cisco Systems
    Subject Public Key Info:
      Algorithm:RSA - 1.2.840.113549.1.1.1
      Public Key:
        Exponent:65537
        Public Key Modulus:(2048 bits) :
          <snip>
    Extensions:
      Identifier:Subject Key Identifier - 2.5.29.14
      Critical:no
      Key Identifier:
        <snip>
      Identifier:Authority Key Identifier - 2.5.29.35
      Critical:no
      Key Identifier:
        <snip>
      ! Identifier:OCSP NoCheck:- 1.3.6.1.5.5.7.48.1.5
      Critical:no
      Identifier:Extended Key Usage:- 2.5.29.37
      Critical:no
      Extended Key Usage:
        OCSPSigning
      !
      Identifier:CRL Distribution Points - 2.5.29.31
      Critical:no
      Number of Points:1
      Point 0
        Distribution Point:
        [URIName:ldap://CA-server/CN=CA server,OU=PKI,O=Cisco Systems]
      Signature:
        Algorithm:SHAwithRSA - 1.2.840.113549.1.1.4
      Signature:
        <snip>
```

次の例は、既存のシーケンスの先頭に **match certificate override ocsp** コマンドを追加したときの実行コンフィギュレーション出力の抜粋を示します。

```
match certificate map3 override ocsp 5 url http://192.0.2.3/
show running-configuration
.
.
.
      match certificate map3 override ocsp 5 url http://192.0.2.3/
      match certificate map1 override ocsp 10 url http://192.0.2.1/
      match certificate map2 override ocsp 15 url http://192.0.2.2/
```

次の例は、既存の **match certificate override ocsp** コマンドが置き換えられ、トラストポイントが代替のPKI階層を使用するように指定された場合の、実行コンフィギュレーション出力の抜粋を示します。

```
match certificate map4 override ocsp trustpoint tp4 10 url http://192.0.2.4/newvalue
show running-configuration
.
.
.
      match certificate map3 override ocsp trustpoint tp3 5 url http://192.0.2.3/
      match certificate map1 override ocsp trustpoint tp1 10 url http://192.0.2.1/
match certificate map4 override ocsp trustpoint tp4 10 url
http://192.0.2.4/newvalue
      match certificate map2 override ocsp trustpoint tp2 15 url http://192.0.2.2/
```

## トラブルシューティングのヒント

失効チェックまたは失効した証明書を無視した場合は、慎重に設定を確認する必要があります。証明書マップが、当該の証明書または許可する証明書、あるいはスキップするAAAチェックのいずれかと適切に一致していることを確認してください。管理された環境で、証明書マップを変更して想定どおりに機能していないものを判別します。

## 証明書チェーンの設定

ピア証明書の証明書チェーンパスに処理レベルを設定するには、次の作業を実行します。

### Before you begin

- デバイスを PKI 階層に登録する必要があります。
- 適切なキー ペアを証明書に関連付ける必要があります。



### Note

- ルート CA に関連付けられたトラストポイントは、次のレベルに対して有効になるように設定できません。

**chain-validation** コマンドは、ルート CA に関連付けられたトラストポイント用に **continue** キーワードを指定して設定します。エラーメッセージが表示され、チェーン検証はデフォルトの **chain-validation** コマンド設定に戻ります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint *name***
4. **chain-validation [{stop | continue} [*parent-trustpoint*]]**
5. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto pki trustpoint ca-sub1	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>chain-validation</b> [{ <b>stop</b>   <b>continue</b> }] [ <i>parent-trustpoint</i> ] <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# chain-validation continue ca-sub1	証明書チェーンが、すべての証明書（下位 CA 証明書を含む）で処理されるレベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>stop</b> キーワードを使用して、証明書がすでに信頼できることを明示します。これがデフォルトの設定です。</li><li><b>continue</b> キーワードを使用して、トラストポイントに関連付けられた下位 CA 証明書を有効にする必要があることを明示します。</li><li><i>parent-trustpoint</i> 引数は、証明書を照合する必要がある親トラストポイント名を指定します。</li></ul>
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## CRL 自動ダウンロードの設定

証明書失効リスト（CRL）の自動ダウンロードを設定するには、次の手順を実行します。

この機能を不適切に設定すると、デバイスによってすでにキャッシュされている CRL の過剰な CRL ダウンロードが発生し、CRL ダウンロードと CRL 検証を並行して実行できないために、検証が停止する可能性があります。CRL がすでにダウンロードされている場合は、追加の CRL をダウンロードせずに、ダウンロード済みの CRL を証明書の検証に使用できます。

**crl-cache none** コマンドを設定すると、トラストポイントの CRL を自動ダウンロードできません。CRL をダウンロードするには、**no crl cache none** コマンドを実行してトラストポイントから CRL キャッシュを削除します。同様に、CRL ダウンロードが設定されている場合は、**crl-cache none** コマンドを有効にできません。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki crl download url url [source-interface interface-name | vrf vrf-name]**
4. **crypto pki crl download trustpoint trustpoint-label**
5. **crypto pki crl download schedule time day hh:ss**
6. **crypto pki crl download schedule prepublish minutes**
7. **crypto pki crl download schedule retries number crypto pki crl download schedule retries interval minutes**
8. **end**
9. **crypto pki crl refresh-cache**
10. **show crypto pki crl download**
11. **show crypto pki timers**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki crl download url url [source-interface interface-name   vrf vrf-name]</b> 例： Device(config)# crypto pki crl download url www.abc.com source-interface GigabitEthernet 1	CRL 自動ダウンロードで、送信元インターフェイスと VRF のいずれかまたは両方を介して CRL を取得する必要があることを指定します。
ステップ 4	<b>crypto pki crl download trustpoint trustpoint-label</b> 例： Device(config)# crypto pki crl download trustpoint trp1	CRL 自動ダウンロードで、CRL 分散ポイント（CDP）を、そのトラストポイントに関連付けられたデバイス証明書から取得する必要があることを指定します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>crypto pki crl download schedule time <i>day hh:ss</i></b> 例 : Device(config)# crypto pki crl download schedule time Monday 00:00	CRL 自動ダウンロードをトリガーする必要がある日時を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>time</i> : CRL が見つからない場合に CRL をダウンロードする正確な日時を示します。時間と分の形式 (<i>mm:ss</i>) で指定する必要があります。</li> </ul>
ステップ 6	<b>crypto pki crl download schedule prepublish <i>minutes</i></b> 例 : Device(config)# crypto pki crl download schedule prepublish 720	CRL が期限切れになる前に CRL をダウンロードする時間間隔 (分単位)。デフォルト値は 0 です。
ステップ 7	<b>crypto pki crl download schedule retries <i>number</i> crypto pki crl download schedule retries <i>interval minutes</i></b> 例 : Device(config)# crypto pki crl download schedule retries 15 interval 15 crypto pki crl download schedule retries 15 interval 15	前のダウンロード試行が失敗した場合に、デバイスが CDP ロケーションからの CRL のダウンロードを再試行する時間間隔 (分単位) を指定します。デフォルトの再試行回数は 5 回です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>interval minutes</i> : 再試行の時間間隔 (分単位)。デフォルトの試行間隔は 30 分です。</li> </ul>
ステップ 8	<b>end</b> 例 : Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	<b>crypto pki crl refresh-cache</b> 例 : Device# crypto pki crl refresh-cache	キャッシュ内の CRL エントリを更新します。
ステップ 10	<b>show crypto pki crl download</b> 例 : Device# show crypto pki crl download	自動ダウンロードの設定を表示します。
ステップ 11	<b>show crypto pki timers</b> 例 : Device(config)# show crypto pki timers	公開キーインフラストラクチャについて Cisco IOS に設定されているタイマーに関する情報を表示します。

## 例

次に、**show crypto pki crl download** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show crypto pki crl download

CRL Issuer Name:
  cn=ios
  LastUpdate: 10:38:23 IST Sep 18 2013
  NextUpdate: 16:38:23 IST Sep 18 2013
```

```

Valid after expiry till: 16:58:23 IST Sep 18 2013

CRL Downloaded at 12:38:23 IST Sep 18 2013

Retrieved from CRL Distribution Point:
  ** CDP Not Published - Retrieved via SCEP

CRL DER is 213 bytes
CRL is stored in parsed CRL cache

CRL prepublish timer interval: 10

Parsed CRL cache current size is 213 bytes
Parsed CRL cache maximum size is 65536 bytes

```

- 「Valid after expiry till:」フィールドは、CRL キャッシュ拡張が設定されている場合に、有効期限が切れた後に CRL が有効である期間を示します。
- 「CRL Downloaded at」フィールドは、CRL がダウンロードされた時刻を示します。

次に、**show crypto pki timer** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show crypto pki timers

PKI Timers
|          13:42.564
|          13:42.564  SESSION CLEANUP
|          11:44.111
|          11:44.111  CRL UPDATE cn=IOS-CA
|          21:44.111  CRL EXPIRE cn=IOS-CA
|          7:59:56.917  STATIC CRL DOWNLOAD
CS Timers
|          1:44.071
|          1:44.071  CS DB CLEANUP
|          11:43.999  CS SHADOW CERT GENERATION
|          21:43.883  CS CERT EXPIRE

```

「CRL UPDATE」フィールドは、事前発行時間に基づいて更新されたタイマーを示します。

## 証明書の許可および失効の設定例

### PKI AAA 認可の設定および検証例

ここでは、PKI AAA 認可の設定例を示します。

#### ルータの設定例

次の **show running-config** コマンド出力は、AAA サーバー機能との PKI 統合を使用して、VPN 接続を許可するように設定されたルータの動作設定を示します。

```

Router# show running-config

```

```

Building configuration...
!
version 12.3
!
hostname router7200router7200
!
aaa new-model
!
!
aaa authentication login default group tacacs+
aaa authentication login no_tacacs enable
aaa authentication ppp default group tacacs+
aaa authorization exec ACSLab group tacacs+
aaa authorization network ACSLab group tacacs+
aaa accounting exec ACSLab start-stop group tacacs+
aaa accounting network default start-stop group ACSLab
aaa session-id common
!
ip domain name example.com
!
crypto pki trustpoint EM-CERT-SERV
  enrollment url http://192.0.2.33:80
  serial-number
  crl optional
  rsakeypair STOREVPN 2048
  auto-enroll
  authorization list ACSLab
!
crypto pki certificate chain EM-CERT-SERV
certificate 04
  30820214 3082017D A0030201 02020104 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
  17311530 13060355 0403130C 454D2D43 4552542D 53455256 301E170D 30343031
  31393232 30323535 5A170D30 35303131 38323230 3235355A 3030312E 300E0603
  55040513 07314437 45424434 301C0609 2A864886 F70D0109 02160F37 3230302D
  312E6772 696C2E63 6F6D3081 9F300D06 092A8648 86F70D01 01010500 03818D00
  30818902 818100BD F3B837AA D925F391 2B64DA14 9C2EA031 5A7203C4 92F8D6A8
  7D2357A6 BCC8596F A38A9B10 47435626 D59A8F2A 123195BB BE5A1E74 B1AA5AE0
  5CA162FF 8C3ACA4F B3EE9F27 8B031642 B618AE1B 40F2E3B4 F996BEFE 382C7283
  3792A369 236F8561 8748AA3F BC41F012 B859BD9C DB4F75EE 3CEE2829 704BD68F
  FD904043 0F555702 03010001 A3573055 30250603 551D1F04 1E301C30 1AA018A0
  16861468 7474703A 2F2F3633 2E323437 2E313037 2E393330 0B060355 1D0F0404
  030205A0 301F0603 551D2304 18301680 1420FC4B CFB01C56 F5BD4C06 0AFD4E67
  341AE612 D1300D06 092A8648 86F70D01 01040500 03818100 79E97018 FB955108
  12F42A56 2A6384BC AC8E22FE F1D6187F DA5D6737 C0E241AC AAAEC75D 3C743F59
  08DEEFF2 0E813A73 D79E0FA9 D62DC20D 8E2798CD 2C1DC3EC 3B2505A1 3897330C
  15A60D5A 8A13F06D 51043D37 E56E45DF A65F43D7 4E836093 9689784D C45FD61D
  EC1F160C 1ABC8D03 49FB11B1 DA0BED6C 463E1090 F34C59E4
  quit
certificate ca 01
  30820207 30820170 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
  17311530 13060355 0403130C 454D2D43 4552542D 53455256 301E170D 30333132
  31363231 34373432 5A170D30 36313231 35323134 3734325A 30173115 30130603
  55040313 0C454D2D 43455254 2D534552 5630819F 300D0609 2A864886 F70D0101
  01050003 818D0030 81890281 8100C14D 833641CF D784F516 DA6B50C0 7B3CB3C9
  589223AB 99A7DC14 04F74EF2 AAEEEE8F5 E3BFAE97 F2F980F7 D889E6A1 2C726C69
  54A29870 7E7363FF 3CD1F991 F5A37CFF 3FFDD3D0 9E486C44 A2E34595 C2D078BB
  E9DE981E B733B868 AA8916C0 A8048607 D34B83C0 64BDC101 161FC103 13C06500
  22D6EE75 7D6CF133 7F1B515F 32830203 010001A3 63306130 0F060355 1D130101
  FF040530 030101FF 300E0603 551D0F01 01FF0404 03020186 301D0603 551D0E04
  16041420 FC4BCF0B 1C56F5BD 4C060AFD 4E67341A E612D130 1F060355 1D230418
  30168014 20FC4BCF 0B1C56F5 BD4C060A FD4E6734 1AE612D1 300D0609 2A864886
  F70D0101 04050003 81810085 D2E386F5 4107116B AD3AC990 CBE84063 5FB2A6B5
  BD572026 528E92ED 02F3A0AE 1803F2AE AA4C0ED2 0F59F18D 7B50264F 30442C41
  0AF19C4E 70BD3CB5 0ADD8DE8 8EF636BD 24410DF4 DB62DAFC 67DA6E58 3879AA3E

```

```

12AFB1C3 2E27CB27 EC74E1FC AEE2F5CF AA80B439 615AA8D5 6D6DEDC3 7F9C2C79
3963E363 F2989FB9 795BA8
quit
!
!
crypto isakmp policy 10
  encr aes
  group 14
!
!
crypto ipsec transform-set ISC_TS_1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile ISC_IPSEC_PROFILE_2
  set security-association lifetime kilobytes 530000000
  set security-association lifetime seconds 14400
  set transform-set ISC_TS_1
!
!
controller ISA 1/1
!
!
interface Tunnel0
  description MGRE Interface provisioned by ISC
  bandwidth 10000
  ip address 192.0.2.172 255.255.255.0
  no ip redirects
  ip mtu 1408
  ip nhrp map multicast dynamic
  ip nhrp network-id 101
  ip nhrp holdtime 500
  ip nhrp server-only
  no ip split-horizon eigrp 101
  tunnel source FastEthernet2/1
  tunnel mode gre multipoint
  tunnel key 101
  tunnel protection ipsec profile ISC_IPSEC_PROFILE_2
!
interface FastEthernet2/0
  ip address 192.0.2.1 255.255.255.0
  duplex auto
  speed auto
!
interface FastEthernet2/1
  ip address 192.0.2.2 255.255.255.0
  duplex auto
  speed auto
!
!
tacacs-server host 192.0.2.55 single-connection
tacacs-server directed-request
tacacs-server key company lab
!
ntp master 1
!
end

```

## 成功した PKI AAA 認可のデバッグ例

次の **show debugging** コマンド出力は、AAA サーバー機能との PKI 統合を使用して、成功した許可を示します。

```
Router# show debugging
```

```

General OS:
  TACACS access control debugging is on
  AAA Authentication debugging is on
  AAA Authorization debugging is on
Cryptographic Subsystem:
Crypto PKI Trans debugging is on
Router#
May 28 19:36:11.117: CRYPTO_PKI: Trust-Point EM-CERT-SERV picked up
May 28 19:36:12.789: CRYPTO_PKI: Found a issuer match
May 28 19:36:12.805: CRYPTO_PKI: cert revocation status unknown.
May 28 19:36:12.805: CRYPTO_PKI: Certificate validated without revocation check
May 28 19:36:12.813: CRYPTO_PKI_AAA: checking AAA authorization (ACSLab, POD5.example.com,
<all>)
May 28 19:36:12.813: AAA/BIND(00000042): Bind i/f
May 28 19:36:12.813: AAA/AUTHOR (0x42): Pick method list 'ACSLab'
May 28 19:36:12.813: TPLUS: Queuing AAA Authorization request 66 for processing
May 28 19:36:12.813: TPLUS: processing authorization request id 66
May 28 19:36:12.813: TPLUS: Protocol set to None .....Skipping
May 28 19:36:12.813: TPLUS: Sending AV service=pki
May 28 19:36:12.813: TPLUS: Authorization request created for 66(POD5.example.com)
May 28 19:36:12.813: TPLUS: Using server 192.0.2.55
May 28 19:36:12.813: TPLUS(00000042)/0/NE_WAIT/203A4628: Started 5 sec timeout
May 28 19:36:12.813: TPLUS(00000042)/0/NE_WAIT: wrote entire 46 bytes request
May 28 19:36:12.813: TPLUS: Would block while reading pak header
May 28 19:36:12.817: TPLUS(00000042)/0/READ: read entire 12 header bytes (expect 27
bytes)
May 28 19:36:12.817: TPLUS(00000042)/0/READ: read entire 39 bytes response
May 28 19:36:12.817: TPLUS(00000042)/0/203A4628: Processing the reply packet
May 28 19:36:12.817: TPLUS: Processed AV cert-application=all
May 28 19:36:12.817: TPLUS: received authorization response for 66: PASS
May 28 19:36:12.817: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-application" = "all")
May 28 19:36:12.817: CRYPTO_PKI_AAA: authorization passed
Router#
Router#
May 28 19:36:18.681: %DUAL-5-NBRCHANGE: IP-EIGRP(0) 101: Neighbor 192.0.2.171 (Tunnel0)
is up: new adjacency
Router#
Router# show crypto isakmp sa
dst          src          state          conn-id slot
192.0.2.22   192.0.2.102  QM_IDLE        84         0

```

## 失敗した PKI AAA 認可のデバッグ例

次の **show debugging** コマンド出力は、ルータが、VPN を使用しての接続を許可されていないことを示します。このメッセージは、このような状況で表示される典型的なメッセージです。

この例においてピア ユーザ名は、Cisco Secure ACS の VPN\_Router\_Disabled と呼ばれる Cisco Secure ACS グループに移動することにより、許可されていないものとして設定されました。ルータ (router7200.example.com) は、任意のピアに VPN 接続を確立する前に、Cisco Secure ACS AAA サーバに確認するように設定されています。

```

Router# show debugging
General OS:
  TACACS access control debugging is on
  AAA Authentication debugging is on
  AAA Authorization debugging is on
Cryptographic Subsystem:
  Crypto PKI Trans debugging is on

Router#
May 28 19:48:29.837: CRYPTO_PKI: Trust-Point EM-CERT-SERV picked up

```

```

May 28 19:48:31.509: CRYPTO_PKI: Found a issuer match
May 28 19:48:31.525: CRYPTO_PKI: cert revocation status unknown.
May 28 19:48:31.525: CRYPTO_PKI: Certificate validated without revocation check
May 28 19:48:31.533: CRYPTO_PKI_AAA: checking AAA authorization (ACSLab, POD5.example.com,
<all>)
May 28 19:48:31.533: AAA/BIND(00000044): Bind i/f
May 28 19:48:31.533: AAA/AUTHOR (0x44): Pick method list 'ACSLab'
May 28 19:48:31.533: TPLUS: Queuing AAA Authorization request 68 for processing
May 28 19:48:31.533: TPLUS: processing authorization request id 68
May 28 19:48:31.533: TPLUS: Protocol set to None .....Skipping
May 28 19:48:31.533: TPLUS: Sending AV service=pki
May 28 19:48:31.533: TPLUS: Authorization request created for 68(POD5.example.com)
May 28 19:48:31.533: TPLUS: Using server 192.0.2.55
May 28 19:48:31.533: TPLUS(00000044)/0/NB_WAIT/203A4C50: Started 5 sec timeout
May 28 19:48:31.533: TPLUS(00000044)/0/NB_WAIT: wrote entire 46 bytes request
May 28 19:48:31.533: TPLUS: Would block while reading pak header
May 28 19:48:31.537: TPLUS(00000044)/0/READ: read entire 12 header bytes (expect 6 bytes)
May 28 19:48:31.537: TPLUS(00000044)/0/READ: read entire 18 bytes response
May 28 19:48:31.537: TPLUS(00000044)/0/203A4C50: Processing the reply packet
May 28 19:48:31.537: TPLUS: received authorization response for 68: FAIL
May 28 19:48:31.537: CRYPTO_PKI_AAA: authorization declined by AAA, or AAA server not
found.
May 28 19:48:31.537: CRYPTO_PKI_AAA: No cert-application attribute found. Failing.
May 28 19:48:31.537: CRYPTO_PKI_AAA: authorization failed
May 28 19:48:31.537: CRYPTO_PKI: AAA authorization for list 'ACSLab', and user
'POD5.example.com' failed.
May 28 19:48:31.537: %CRYPTO-5-IKMP_INVALID_CERT: Certificate received from 192.0.2.162
is bad: certificate invalid
May 28 19:48:39.821: CRYPTO_PKI: Trust-Point EM-CERT-SERV picked up
May 28 19:48:41.481: CRYPTO_PKI: Found a issuer match
May 28 19:48:41.501: CRYPTO_PKI: cert revocation status unknown.
May 28 19:48:41.501: CRYPTO_PKI: Certificate validated without revocation check
May 28 19:48:41.505: CRYPTO_PKI_AAA: checking AAA authorization (ACSLab, POD5.example.com,
<all>)
May 28 19:48:41.505: AAA/BIND(00000045): Bind i/f
May 28 19:48:41.505: AAA/AUTHOR (0x45): Pick method list 'ACSLab'
May 28 19:48:41.505: TPLUS: Queuing AAA Authorization request 69 for processing
May 28 19:48:41.505: TPLUS: processing authorization request id 69
May 28 19:48:41.505: TPLUS: Protocol set to None .....Skipping
May 28 19:48:41.505: TPLUS: Sending AV service=pki
May 28 19:48:41.505: TPLUS: Authorization request created for 69(POD5.example.com)
May 28 19:48:41.505: TPLUS: Using server 198.168.244.55
May 28 19:48:41.509: TPLUS(00000045)/0/IDLE/63B22834: got immediate connect on new 0
May 28 19:48:41.509: TPLUS(00000045)/0/WRITE/63B22834: Started 5 sec timeout
May 28 19:48:41.509: TPLUS(00000045)/0/WRITE: wrote entire 46 bytes request
May 28 19:48:41.509: TPLUS(00000045)/0/READ: read entire 12 header bytes (expect 6 bytes)
May 28 19:48:41.509: TPLUS(00000045)/0/READ: read entire 18 bytes response
May 28 19:48:41.509: TPLUS(00000045)/0/63B22834: Processing the reply packet
May 28 19:48:41.509: TPLUS: received authorization response for 69: FAIL
May 28 19:48:41.509: CRYPTO_PKI_AAA: authorization declined by AAA, or AAA server not
found.
May 28 19:48:41.509: CRYPTO_PKI_AAA: No cert-application attribute found. Failing.
May 28 19:48:41.509: CRYPTO_PKI_AAA: authorization failed
May 28 19:48:41.509: CRYPTO_PKI: AAA authorization for list 'ACSLab', and user
'POD5.example.com' failed.
May 28 19:48:41.509: %CRYPTO-5-IKMP_INVALID_CERT: Certificate received from 192.0.2.162
is bad: certificate invalid
Router#
Router# show crypto iskmp sa
dst          src          state          conn-id slot
192.0.2.2    192.0.2.102 MM_KEY_EXCH    95      0

```

## 失効メカニズムの設定例

ここでは、PKI の失効メカニズムを指定する際に使用できる設定例を示します。

### OCSP サーバの設定例

次の例では、証明書の AIA 拡張部で指定された OCSP サーバーを使用するようにルータを設定する方法を示します。

```
Router(config)# crypto pki trustpoint mytp
Router(ca-trustpoint)# revocation-check ocsp
```

### CRL および OCSP サーバの指定例

次の例では、CRL を CDP からダウンロードするようにルータを設定する方法を示します。CRL を利用できない場合は、証明書の AIA 拡張部で指定される OCSP サーバーが使用されます。両方のオプションが失敗した場合、証明書の検証も失敗します。

```
Router(config)# crypto pki trustpoint mytp
Router(ca-trustpoint)# revocation-check crl ocsp
```

### OCSP サーバの設定例

以下に、HTTP URL 「http://myocspserver:81」にある OCSP サーバーを使用するようにルータを設定する例を示します。このサーバーがダウンしている場合は、失効チェックは行われません。

```
Router(config)# crypto pki trustpoint mytp
Router(ca-trustpoint)# ocsp url http://myocspserver:81
Router(ca-trustpoint)# revocation-check ocsp none
```

### OCSP サーバとの通信でのナンスのディセーブル例

次の例は、OCSP 要求に関するナンス（固有識別情報）が、OCSP サーバーとの通信でディセーブルになっている場合の通信を示します。

```
Router(config)# crypto pki trustpoint mytp
Router(ca-trustpoint)# ocsp url http://myocspserver:81
Router(ca-trustpoint)# revocation-check ocsp none
Router(ca-trustpoint)# ocsp disable-nonce
```

## セントラル サイトにあるハブ ルータを証明書失効チェック用に設定する例

次の例では、複数のブランチ オフィスにセントラル サイトへの接続を提供しているセントラル サイトにあるハブ ルータを示します。

ブランチ オフィスも追加の IPSec トンネルを使用して、ブランチ オフィス間で直接相互に通信できます。

CA は、セントラルサイトにある HTTP サーバーの CRL を公開します。セントラルサイトは、各ピアと IPSec トンネルを設定する場合、そのピアの CRL をチェックします。

次の例では、IPSec 設定を示しません。PKI 関連の設定だけを示します。

### ホーム オフィスのハブ設定

```
crypto pki trustpoint VPN-GW
  enrollment url http://ca.home-office.com:80/certsrv/mscep/mscep.dll
  serial-number none
  fqdn none
  ip-address none
  subject-name o=Home Office Inc,cn=Central VPN Gateway
  revocation-check crl
```

### セントラルサイトのハブルータ

```
Router# show crypto ca certificate
Certificate
  Status: Available
  Certificate Serial Number: 2F62BE1400000000CA0
  Certificate Usage: General Purpose
  Issuer:
    cn=Central Certificate Authority
    o=Home Office Inc
  Subject:
    Name: Central VPN Gateway
    cn=Central VPN Gateway
    o=Home Office Inc
  CRL Distribution Points:
    http://ca.home-office.com/CertEnroll/home-office.crl
  Validity Date:
    start date: 00:43:26 GMT Sep 26 2003
    end date: 00:53:26 GMT Sep 26 2004
    renew date: 00:00:00 GMT Jan 1 1970
  Associated Trustpoints: VPN-GW
CA Certificate
  Status: Available
  Certificate Serial Number: 1244325DE0369880465F977A18F61CA8
  Certificate Usage: Signature
  Issuer:
    cn=Central Certificate Authority
    o=Home Office Inc
  Subject:
    cn=Central Certificate Authority
    o=Home Office Inc
  CRL Distribution Points:
    http://ca.home-office.com/CertEnroll/home-office.crl
  Validity Date:
    start date: 22:19:29 GMT Oct 31 2002
    end date: 22:27:27 GMT Oct 31 2017
  Associated Trustpoints: VPN-GW
```



## ブランチ オフィス ルータのトラストポイント

```
crypto pki trustpoint home-office
  enrollment url http://ca.home-office.com:80/certsrv/mscep/mscep.dll
  serial-number none
  fqdn none
```

```
ip-address none
  subject-name o=Home Office Inc,cn=Branch 1
  revocation-check crl
```

証明書マップがブランチ オフィス ルータに入力されます。

### Router# configure terminal

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
branch1(config)# crypto pki certificate map central-site 10
branch1(ca-certificate-map)#
```

セントラルサイトのハブルータ上で発行された **show certificate** コマンドの出力では、証明書が以下によって発行されたことを示しています。

```
cn=Central Certificate Authority
o=Home Office Inc
```

この2行は、行を区切るためのカンマ (,) を使用して1行に結合され、元の2行が最初の一致基準として追加されています。

```
Router (ca-certificate-map)# issuer-name co cn=Central Certificate Authority, ou=Home Office Inc
!The above line wrapped but should be shown on one line with the line above it.
```

セントラルサイトルータの証明書の所有者名についても、同じように組み合わせられています (「Name:」で始まる行は、所有者名の一部ではなく、証明書マップ基準を作成する際に無視する必要があることに注意してください)。これが証明書マップで使用されるサブジェクト名です。

```
cn=Central VPN Gateway
```

```
o=Home Office Inc
```

```
Router (ca-certificate-map)# subject-name eq cn=central vpn gateway, o=home office inc
```

これで、以前に設定された証明書マップがトラストポイントに追加されます。

```
Router (ca-certificate-map)# crypto pki trustpoint home-office
Router (ca-trustpoint)# match certificate central-site skip revocation-check
Router (ca-trustpoint)# exit
Router (config)# exit
```

設定がチェックされます (大部分の設定は示されていません)。

```
Router# write term
!Many lines left out
.
.
.
crypto pki trustpoint home-office
```

```

enrollment url http://ca.home-office.com:80/certsrv/mscep/mscep.dll
serial-number none
fqdn none
ip-address none
subject-name o=Home Office Inc,cn=Branch 1
revocation-check crl
match certificate central-site skip revocation-check
!
!
crypto pki certificate map central-site 10
  issuer-name co cn = Central Certificate Authority, ou = Home Office Inc
  subject-name eq cn = central vpn gateway, o = home office inc
!many lines left out

```

今後のピアの証明書との照合のために、発行者名の行とサブジェクト名の行が矛盾しないように再フォーマットされていることに注意してください。

ブランチオフィスが AAA をチェックする場合は、トラストポイントには次のような行があります。

```

crypto pki trustpoint home-office
  auth list allow_list
  auth user subj commonname

```

証明書マップが上記のように定義されると、次のコマンドがトラストポイントに追加され、セントラルサイトハブの AAA チェックがスキップされます。

```
match certificate central-site skip authorization-check
```

両方のケースにおいてブランチサイトルータは、CRL のチェックまたは AAA サーバと通信するために、セントラルサイトに IPSec トンネルを確立する必要があります。ただし、**match certificate** コマンドと **central-site skip authorization-check (argument and keyword)** を使用しないと、ブランチオフィスが CRL または AAA サーバを確認するまで、トンネルを確立することはできません (**match certificate** コマンドと **central-site skip authorization-check** 引数およびキーワードを使用しない限り、トンネルは確立されません)。

ブランチサイトにあるデバイスの証明書が失効していて、その証明書を更新するためにセントラルサイトにトンネルを確立する必要がある場合、セントラルサイトで **match certificate** コマンドと **allow expired-certificate** キーワードを使用できます。

### セントラルサイトルータのトラストポイント

```

crypto pki trustpoint VPN-GW
enrollment url http://ca.home-office.com:80/certsrv/mscep/mscep.dll
serial-number none
fqdn none
ip-address none
subject-name o=Home Office Inc,cn=Central VPN Gateway
revocation-check crl

```

### ブランチ 1 サイトルータのトラストポイント

```

Router# show crypto ca certificate
Certificate
  Status: Available

```

```

Certificate Serial Number: 2F62BE1400000000CA0
Certificate Usage: General Purpose
Issuer:
  cn=Central Certificate Authority
  o=Home Office Inc
Subject:
  Name: Branch 1 Site
  cn=Branch 1 Site
  o=Home Office Inc
CRL Distribution Points:
  http://ca.home-office.com/CertEnroll/home-office.crl
Validity Date:
  start date: 00:43:26 GMT Sep 26 2003
  end   date: 00:53:26 GMT Oct 3 2003
  renew date: 00:00:00 GMT Jan 1 1970
Associated Trustpoints: home-office
CA Certificate
Status: Available
Certificate Serial Number: 1244325DE0369880465F977A18F61CA8
Certificate Usage: Signature
Issuer:
  cn=Central Certificate Authority
  o=Home Office Inc
Subject:
  cn=Central Certificate Authority
  o=Home Office Inc
CRL Distribution Points:
  http://ca.home-office.com/CertEnroll/home-office.crl
Validity Date:
  start date: 22:19:29 GMT Oct 31 2002
  end   date: 22:27:27 GMT Oct 31 2017
Associated Trustpoints: home-office

```

証明書マップがセントラルサイトルータに入力されます。

```

Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router (config)# crypto pki certificate map branch1 10
Router (ca-certificate-map)# issuer-name co cn=Central Certificate Authority, ou=Home Office Inc
!The above line wrapped but should be part of the line above it.
Router (ca-certificate-map)# subject-name eq cn=Branch 1 Site,o=home office inc

```

証明書マップがトラストポイントに追加されます。

```

Router (ca-certificate-map)# crypto pki trustpoint VPN-GW
Router (ca-trustpoint)# match certificate branch1 allow expired-certificate
Router (ca-trustpoint)# exit
Router (config) #exit

```

設定がチェックされます（設定の大部分は示されていません）。

```

Router# write term
!many lines left out
crypto pki trustpoint VPN-GW
  enrollment url http://ca.home-office.com:80/certsrv/mscep/mscep.dll
  serial-number none
  fqdn none
  ip-address none
  subject-name o=Home Office Inc,cn=Central VPN Gateway
  revocation-check crl
  match certificate branch1 allow expired-certificate

```

```

!
!
crypto pki certificate map central-site 10
 issuer-name co cn = Central Certificate Authority, ou = Home Office Inc
 subject-name eq cn = central vpn gateway, o = home office inc
! many lines left out

```

**match certificate** コマンド、**branch1 allow expired-certificate** (引数とキーワード) および証明書マップは、ブランチルータが新しい証明書を取得した後すぐに削除する必要があります。

## 証明書の許可および失効の設定例

この項では、CRL キャッシュ コントロールの設定または証明書のシリアル番号セッション コントロールを指定する場合に使用する設定例を示します。

### CRL キャッシュ コントロールの設定

次の例では、CA1 トラストポイントに関連付けられたすべての CRL の CRL キャッシングをディセーブルにする方法を示します。

```

crypto pki trustpoint CA1
 enrollment url http://CA1:80
 ip-address FastEthernet0/0
 crl query ldap://ldap_CA1
 revocation-check crl
 crl-cache none

```

上記の例の設定を実行した直後は、まだ現在の CRL がキャッシュされています。

**Router# show crypto pki crls**

```

CRL Issuer Name:
 cn=name Cert Manager,ou=pki,o=example.com,c=US
 LastUpdate: 18:57:42 GMT Nov 26 2005
 NextUpdate: 22:57:42 GMT Nov 26 2005
 Retrieved from CRL Distribution Point:
 ldap://ldap.example.com/CN=name Cert Manager,O=example.com

```

現在の CRL が失効すると、次の更新時に新しい CRL がルータにダウンロードされます。

**crl-cache none** コマンドが有効になり、トラストポイントの CRL はすべてキャッシュされなくなります。また、キャッシュは無効になります。**show crypto pki crls** コマンドを実行して、CRL がキャッシュされていないことを確認できます。キャッシュされている CRL がないため、出力は表示されません。

次の例では、CA1 トラストポイントに関連付けられたすべての CRL に 2 分の最大ライフタイムを設定する方法を示します。

```

crypto pki trustpoint CA1
 enrollment url http://CA1:80
 ip-address FastEthernet0/0
 crl query ldap://ldap_CA1
 revocation-check crl
 crl-cache delete-after 2

```

CRLの最大ライフタイムを設定するために上記例の設定を実行した直後でも、依然現在のCRLがキャッシュされます。

#### Router# show crypto pki crls

```
CRL Issuer Name:
  cn=name Cert Manager,ou=pki,o=example.com,c=US
  LastUpdate: 18:57:42 GMT Nov 26 2005
  NextUpdate: 22:57:42 GMT Nov 26 2005
  Retrieved from CRL Distribution Point:
    ldap://ldap.example.com/CN=name Cert Manager,O=example.com
When the current CRL expires, a new CRL is downloaded to the router at the next update
and the crl-cache delete-after
command takes effect. This newly cached CRL and all subsequent CRLs will be deleted after
a maximum lifetime of 2 minutes.
You can verify that the CRL will be cached for 2 minutes by executing the show crypto
pki crls
command. Note that the NextUpdate time is 2 minutes after the LastUpdate time.
```

#### Router# show crypto pki crls

```
CRL Issuer Name:
  cn=name Cert Manager,ou=pki,o=example.com,c=US
  LastUpdate: 22:57:42 GMT Nov 26 2005

  NextUpdate: 22:59:42 GMT Nov 26 2005
  Retrieved from CRL Distribution Point:
    ldap://ldap.example.com/CN=name Cert Manager,O=example.com
```

## 証明書のシリアル番号セッションコントロールの設定

次の例では、CA1 トラストポイントの証明書マップを使用した証明書のシリアル番号セッションコントロールの設定を示します。

```
crypto pki trustpoint CA1
  enrollment url http://CA1
  chain-validation stop
  crl query ldap://ldap_server
  revocation-check crl
  match certificate crl
!
crypto pki certificate map crl 10
  serial-number co 279d
```



**Note** *match-criteria* 値が **co** (含む) ではなく **eq** (等しい) に設定されている場合、シリアル番号はスペースを含めて、証明書マップのシリアル番号に正確に一致する必要があります。

次の例では、AAA 属性を使用した証明書のシリアル番号セッションコントロールの設定を示します。この場合、証明書にシリアル番号「4ACA」がなければ、有効な証明書はすべて受け入れられません。

```
crypto pki trustpoint CA1
  enrollment url http://CA1
  ip-address FastEthernet0/0
```

```

crl query ldap://ldap_CA1
revocation-check crl
aaa new-model
!
aaa attribute list crl
attribute-type aaa-cert-serial-not 4ACA

```

サーバー ログは、シリアル番号「4ACA」を持つ証明書が拒否されたことを示しています。証明書の拒否は、感嘆符で表示されます。

```

.
.
.
Dec 3 04:24:39.051: CRYPTO_PKI: Trust-Point CA1 picked up
Dec 3 04:24:39.051: CRYPTO_PKI: locked trustpoint CA1, refcount is 1
Dec 3 04:24:39.051: CRYPTO_PKI: unlocked trustpoint CA1, refcount is 0
Dec 3 04:24:39.051: CRYPTO_PKI: locked trustpoint CA1, refcount is 1
Dec 3 04:24:39.135: CRYPTO_PKI: validation path has 1 certs
Dec 3 04:24:39.135: CRYPTO_PKI: Found a issuer match
Dec 3 04:24:39.135: CRYPTO_PKI: Using CA1 to validate certificate
Dec 3 04:24:39.135: CRYPTO_PKI: Certificate validated without revocation check
Dec 3 04:24:39.135: CRYPTO_PKI: Selected AAA username: 'PKIAAA'
Dec 3 04:24:39.135: CRYPTO_PKI: Anticipate checking AAA list:'CRL'
Dec 3 04:24:39.135: CRYPTO_PKI_AAA: checking AAA authorization (CRL, PKIAAA-L1, <all>)
Dec 3 04:24:39.135: CRYPTO_PKI_AAA: pre-authorization chain validation status (0x4)
Dec 3 04:24:39.135: AAA/BIND(00000021): Bind i/f
Dec 3 04:24:39.135: AAA/AUTHOR (0x21): Pick method list 'CRL'
.
.
.
Dec 3 04:24:39.175: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-application" = "all")
Dec 3 04:24:39.175: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-trustpoint" = "CA1")
!
Dec 3 04:24:39.175: CRYPTO_PKI_AAA: reply attribute ("cert-serial-not" = "4ACA")
Dec 3 04:24:39.175: CRYPTO_PKI_AAA: cert-serial doesn't match ("4ACA" != "4ACA")
!
Dec 3 04:24:39.175: CRYPTO_PKI_AAA: post-authorization chain validation status (0x7)
!
Dec 3 04:24:39.175: CRYPTO_PKI: AAA authorization for list 'CRL', and user 'PKIAAA'
failed.
Dec 3 04:24:39.175: CRYPTO_PKI: chain cert was anchored to trustpoint CA1, and chain
validation result was: CRYPTO_PKI_CERT_NOT_AUTHORIZED
!
Dec 3 04:24:39.175: %CRYPTO-5-IKMP_INVALID_CERT: Certificate received from 192.0.2.43 is
bad: certificate invalid
Dec 3 04:24:39.175: %CRYPTO-6-IKMP_MODE_FAILURE: Processing of Main mode failed with
peer at 192.0.2.43
.
.
.

```

## 証明書チェーン検証の設定例

この項では、デバイス証明書の証明書チェーン処理レベルを指定する場合に使用する設定例を示します。

## ピアからルート CA への証明書チェーン検証の設定

次の設定例では、ピア、SubCA11、SubCA1、および RootCA のすべての証明書が検証されます。

```
crypto pki trustpoint RootCA
  enrollment terminal
  chain-validation stop
  revocation-check none
  rsakeypair RootCA
crypto pki trustpoint SubCA1
  enrollment terminal
  chain-validation continue RootCA
  revocation-check none
  rsakeypair SubCA1
crypto pki trustpoint SubCA11
  enrollment terminal
  chain-validation continue SubCA1
  revocation-check none
  rsakeypair SubCA11
```

## ピアから下位 CA への証明書チェーン検証の設定

次の設定例では、ピア証明書および SubCA1 証明書が有効にされます。

```
crypto pki trustpoint RootCA
  enrollment terminal
  chain-validation stop
  revocation-check none
  rsakeypair RootCA
crypto pki trustpoint SubCA1
  enrollment terminal
  chain-validation continue RootCA
  revocation-check none
  rsakeypair SubCA1
crypto pki trustpoint SubCA11
  enrollment terminal
  chain-validation continue SubCA1
  revocation-check none
  rsakeypair SubCA11
```

## 証明書チェーンの欠落確認の設定

次の設定例では、SubCA1 が、設定済みの Cisco IOS 階層にはないが、提出された証明書チェーンでピアによって提示されたと想定しています。

ピアが、提出された証明書チェーンで SubCA1 証明書を提示した場合、ピア、SubCA11、および SubCA1 の各証明書が有効になります。

ピアが、提出された証明書チェーンで SubCA1 証明書を提示しない場合、チェーンの検証は失敗します。

```
crypto pki trustpoint RootCA
  enrollment terminal
  chain-validation stop
  revocation-check none
  rsakeypair RootCA
```

```
crypto pki trustpoint SubCA11
  enrollment terminal
  chain-validation continue RootCA
  revocation-check none
  rsakeypair SubCA11
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
PKI コマンド：完全なコマンドの構文、コマンドモード、デフォルト、使用上の注意事項、例	『Cisco IOS Security Command Reference』
PKI の概要（RSA キー、証明書登録、および CA を含む）	「Cisco IOS PKI Overview: Understanding and Planning a PKI」モジュール
RSA キーの生成および展開	「PKI 内での RSA キーの展開」モジュール
証明書登録：サポートされる方法、登録プロファイル、設定作業	「PKI の証明書登録の設定」モジュール
Cisco IOS 証明書サーバの概要および設定作業	「PKI 展開での Cisco IOS 証明書サーバの設定および管理」モジュール
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>



## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリース だけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 148: Cisco TrustSec の概要の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。





## CHAPTER 112

# PKI の証明書登録の設定

この章では、証明書登録に利用可能なさまざまな方式および参加する PKI ピアの各セットアップ方法について説明します。証明書登録は、認証局 (CA) から証明書を取得するプロセスであり、証明書を要求するエンドホストと CA の間で発生します。公開キーインフラストラクチャ (PKI) に参加する各ピアは、CA に登録する必要があります。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『Next Generation Encryption』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

- [PKI 証明書登録の前提条件, on page 1363](#)
- [PKI の証明書登録に関する情報, on page 1364](#)
- [PKI の証明書登録を設定する方法, on page 1369](#)
- [PKI 証明書登録要求の設定例, on page 1399](#)
- [その他の参考資料, on page 1407](#)
- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1409](#)

## PKI 証明書登録の前提条件

証明書登録用にピアを設定する前に、次のものを準備、あるいは次の作業を実行する必要があります。

- 登録用に生成された Rivest、Shamir、Adelman (RSA) キーペアおよび登録する PKI。
- 認証された CA。
- 「Cisco IOS PKI Overview: Understanding and Planning a PKI」の内容を理解していること。
- 自動登録と証明書ロールオーバーなどの PKI サービスが正しく動作するように、デバイスの NTP を有効にします。



**Note** Cisco IOS Release 12.3(7)T では、「**crypto ca**」で始まるすべてのコマンドが、「**crypto pki**」から始まるように変更されました。ルータは引き続き **crypto ca** コマンドを受信しますが、出力はすべて **crypto pki** と表示されます。

## PKI の証明書登録に関する情報

### CA とは

CA は他の通信相手が使用できるデジタル証明書を発行するエンティティです。これが、信頼できる第三者の例です。CA は多くの PKI スキームの特性です。

CA は証明書要求を管理し、参加ネットワーク装置に証明書を発行します。これらのサービスでは、身元情報を検証してデジタル証明書を作成するために、参加装置のキーを一元的に管理します。PKI の動作を開始する前に、CA は独自の公開キー ペアを生成し、自己署名 CA 証明書を作成します。その後、CA は、証明書要求に署名し、PKI に対してピア登録を開始できます。

Cisco IOS 証明書サーバまたはサードパーティの CA ベンダーが指定する CA を使用できます。

### 複数の CA のためのフレームワーク

PKI は、複数の CA をサポートするために階層型フレームワーク内に設定できます。階層の最上位にはルート CA があり、自己署名証明書を保持しています。階層全体の信頼性は、ルート CA の RSA キー ペアから導出されます。階層構造内の下位 CA は、ルート CA または別の下位 CA に登録できます。CA の複数の階層が、ルート CA または別の下位 CA で設定されます。階層型 PKI 内では、登録されているすべてのピアが信頼できるルート CA 証明書または共通の下位 CA を共有している場合、証明書を相互に検証できます。

#### 複数 CA を使用する場合

複数 CA を使用することにより、柔軟性および信頼性が向上します。たとえば、ルート CA を本社オフィスに配置し、下位 CA をブランチ オフィスに配置できます。また、CA ごとに異なる許可ポリシーを実行できるため、階層構造内の、ある CA では各証明書要求を手動で許可する必要があるように、別の CA では証明書要求を自動的に許可するように設定できます。

少なくとも 2 階層の CA が推奨されるシナリオは、次のとおりです。

- 多数の証明書が失効し、再発行される大規模かつ非常にアクティブなネットワーク。複数の階層を使用することにより、CA は証明書失効リスト (CRL) のサイズを制御しやすくなります。

- 下位の CA 証明書を発行する場合を除いて、オンラインの登録プロトコルが使用されているときは、ルート CA をオフラインにしておくことができます。このシナリオでは、ルート CA のセキュリティが向上します。

## CA の認証

装置に自身の証明書が発行されて証明書登録が発生する前に、CA の証明書が認証される必要があります。CA の認証は通常、ルータで PKI サポートを初期設定するときだけに実行されません。CA を認証するには、**crypto pki authenticate** コマンドを発行します。これにより、CA の公開キーが組み込まれた CA の自己署名証明書が取得されて CA がルータに対して認証されます。



**Note** PKI は、有効期限が 2099 年を超えている証明書をサポートしていません。そのため、値が 2099 よりも小さい有効期限を選択することをお勧めします。



**Note** **auto-trigger** コマンドが設定されている場合、**crypto pki authenticate** コマンドを明示的に設定する必要はありません。**auto-trigger** コマンドにより、認証が自動的にトリガーされます。

### fingerpint コマンドによる認証

Cisco IOS リリース 12.3(12) 以降では、**fingerpint** コマンドを発行して、認証時に CA 証明書のフィンガープリントと照合するフィンガープリントを事前入力できます。

フィンガープリントがトラストポイントにあらかじめ入力されていない場合や、認証要求がインタラクティブでない場合は、CA 証明書の認証時に表示されるフィンガープリントを検証する必要があります。認証要求がインタラクティブでない場合、事前入力フィンガープリントがないと、証明書は拒否されます。



**Note** 認証要求がコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して行われる場合、その要求はインタラクティブな要求です。認証要求が HTTP または別の管理ツールを使用して行われる場合、その要求はインタラクティブでない要求です。

## サポートされる証明書の登録方式

Cisco IOS ソフトウェアは、CA から証明書を取得するために次の方式をサポートしています。

- Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) : HTTP を使用して CA または登録局 (RA) と通信する、シスコが開発した登録プロトコル。SCEP は、要求および証明書の送受信に最も一般的に使用される方式です。



**Note** 自動証明書およびキー ロールオーバー機能を活用するには、ロールオーバーをサポートする CA を実行する必要があります。また、クライアント登録方式として SCEP を使用する必要があります。Cisco IOS CA を実行する場合は、ロールオーバーをサポートするために Cisco IOS Release 12.4(2)T 以降のリリースを実行する必要があります。

- PKCS12 : ルータは、外部のサーバから証明書を PKCS12 形式でインポートします。
- IOS ファイルシステム (IFS) : ルータは、Cisco IOS ソフトウェアでサポートされるファイルシステム (TFTP、FTP、フラッシュ、および NVRAM など) を使用して証明書要求を送信し、発行された証明書を受信します。ユーザの CA が SCEP をサポートしない場合、IFS 証明書登録をイネーブルにできます。



**Note** Cisco IOS Release 12.3(4)T 以前のリリースでは、IFS 内で TFTP ファイルシステムだけがサポートされます。

- 手動でのカットアンドペースト : ルータはコンソール端末に証明書要求を表示し、ユーザはコンソール端末で発行された証明書を入力できます。ルータと CA の間にネットワーク接続がない場合、ユーザは証明書要求および証明書を手動でカットアンドペーストできます。
- 登録プロファイル : 登録プロファイルは、主に EST または端末ベースの登録に使用されます。CA サーバーが SCEP をサポートしていない場合、推奨される登録手法は EST ベースの登録または端末ベースの登録です。
- トラストポイントの自己署名証明書登録 : セキュア HTTP (HTTPS) サーバは、セキュアソケットレイヤ (SSL) ハンドシェイク時に使用される自己署名証明書を生成し、HTTPS サーバとクライアントの間にセキュアな接続を確立します。自己署名証明書は、ルータのスタートアップコンフィギュレーション (NVRAM) に保存されます。保存された自己署名証明書は、将来の SSL ハンドシェイクに使用できます。これにより、ルータがリロードされる度に、証明書を受け入れるために必要だったユーザによる介入が不要になります。



**Note** 自動登録および自動再登録を活用するには、登録方式として、TFTP または手動でのカットアンドペースト登録を使用しないでください。TFTP およびカットアンドペーストによる手動での登録方式は手動の登録プロセスでは、ユーザによる入力が必要です。

## PKI の証明書登録のための Cisco IOS Suite-B サポート

Suite B の要件は、IKE および IPSec で使用するための暗号化アルゴリズムの 4 つのユーザインターフェイススイートで構成され、RFC 4869 に記述されています。各スイートは、暗号化アルゴリズム、デジタル署名アルゴリズム、キー合意アルゴリズム、ハッシュまたはメッセージダイジェストアルゴリズムで構成されています。

Suite-B によって、PKI の証明書登録に次のサポートが追加されます。

- X.509 証明書内の署名操作で、楕円曲線デジタル署名アルゴリズム (ECDSA) (256 ビットおよび 384 ビットの曲線) が使用されます。
- ECDSA の署名を使用した X.509 証明書の確認で PKI がサポートされます。
- ECDSA の署名を使用した証明書要求の生成、および発行された証明書の IOS へのインポートで、PKI がサポートされます。

Cisco IOS での Suite-B サポートに関する詳細については、『Configuring Security for VPNs with IPsec』フィーチャ モジュールを参照してください。

## 登録局

Cisco IOS 証明書サーバは、RA モードで実行できるように設定できます。RA は、CA から認証および認可責任をオフロードします。RA が SCEP または手動での登録要求を受信すると、管理者はローカルポリシーごとに要求を拒否または許可できます。要求が許可された場合、その要求は発行元 CA に転送されます。また、自動的に証明書を生成して、証明書を RA に返すように CA を設定できます。クライアントは、許可された証明書を RA から後で取得できます。

## 自動証明書登録

証明書自動登録を使用すると、CA クライアントは、CA サーバから証明書を自動的に要求できます。この自動ルータ要求では、登録要求が CA サーバに送信された時点で、オペレータによる介入が不要になります。自動登録は、設定済みの、有効なクライアント証明書を持っていないトラストポイント CA の起動時に実行されます。証明書が失効すると、新しい証明書が自動的に要求されます。



### Note

自動登録が設定されると、クライアントは自動的にクライアント証明書を要求します。CA サーバは、独自の許可チェックを実行します。このチェックに証明書を自動的に発行するポリシーが含まれている場合は、すべてのクライアントが自動的に証明書を受信しますが、これはそれほど安全ではありません。そのため、自動証明書登録を追加の認証および許可メカニズム（既存の証明書およびワンタイム パスワードを活用した Secure Device Provisioning (SDP) など）と組み合わせる必要があります。

### 自動クライアント証明書およびキー ロールオーバー

デフォルトでは、自動証明書登録機能により、クライアントの現在の証明書が失効する前に、CS から新しいクライアント証明書とキーが要求されます。証明書およびキー ロールオーバーにより、新しいキーおよび証明書、ロールオーバー、証明書が利用可能になるまで、現在のキーおよび証明書を保持して証明書が失効する前に証明書更新ロールオーバー要求を行うことができます。指定された時間が経過すると、ロールオーバー証明書およびキーがアクティブに

なります。失効した証明書およびキーは、ロールオーバー時にただちに削除され、証明書チェーンおよび CRL から削除されます。

自動ロールオーバーのセットアップは2段階で行われます。まず CA クライアントが自動的に登録され、クライアントの CA が自動的に登録される必要があります。さらに **auto-rollover** コマンドがイネーブルになる必要があります。CA サーバを自動証明書ロールオーバー用に設定する場合の詳細については、『*Public Key Infrastructure Configuration Guide*』の「Configuring and Managing a Cisco IOS Certificate Server for PKI Deployment」の章にある「Automatic CA Certificate and Key Rollover」の項を参照してください。

任意の **renewal percentage** パラメータを **auto-enroll** コマンドと一緒に使用すると、証明書の指定されたパーセンテージの有効期間が経過したときに、新しい証明書を要求できます。たとえば、更新パーセンテージが 90 に設定され、証明書の有効期間が 1 年の場合は、古い証明書が失効する 36.5 日前に新しい証明書が要求されます。自動ロールオーバーが発生するには、更新パーセンテージが 100 未満である必要があります。指定するパーセント値は、10 以上でなくてはなりません。CA 証明書の失効が差し迫っているため、有効設定期間よりも短い期間のクライアント証明書を発行する場合、その期間の残り日数に対してロールオーバー証明書が発行されます。最低でも、設定されている有効期間の 10 % と、ロールオーバーが機能するのに十分な時間（絶対最小値：3 分）を見込んでおく必要があります。



**Tip** CA 自動登録がイネーブルになっておらず、現在のクライアント証明書の有効期間が、対応する CA 証明書の有効期間と同じか、それよりも長い場合は、**crypto pki enroll** コマンドを使用して既存のクライアント上で手動でロールオーバーを開始できます。クライアントはロールオーバープロセスを開始しますが、このプロセスは、サーバが自動ロールオーバーに設定され、利用可能なロールオーバーサーバ証明書を保持している場合にだけ発生します。



**Note** キーペアが **auto-enroll re-generate** コマンドおよびキーワードによって設定されている場合は、キーペアも送信されます。新しいキーペアは、セキュリティ上の問題に対処するために発行することを推奨します。

## 証明書登録プロファイル

登録プロファイルを使用すると、証明書認証、登録および再登録の各パラメータを指定するよう求められたときにユーザは、これらのパラメータを指定できます。これらのパラメータ値は、プロファイルを構成する 2 つのテンプレートによって参照されます。このうち、1 つのテンプレートには、CA の証明書を取得するために CA サーバに送られる HTTP 要求のパラメータ（証明書認証としても知られる）が含まれ、もう 1 つのテンプレートには、証明書を登録するために CA に送られる HTTP 要求のパラメータが含まれます。

2 つのテンプレートを設定すると、ユーザは、証明書の認証と登録用に異なる URL または方法を指定できます。たとえば、認証（CA の証明書の取得）を TFTP によって（**authentication url** コマンドを使用して）実行できる一方で、（**enrollment terminal** コマンドを使用して）登録を手動で実行できます。



Cisco IOS Release 12.3(11)T 以前のリリースでは、証明書要求は PKCS10 形式でしか送信できませんでしたが、現在では、プロファイルにパラメータが追加されたことにより、証明書更新要求用に PKCS7 形式を指定できるようになりました。



**Note** 1つの登録プロファイルには、タスクごとに最大3つのセクション（証明書の認証、登録および再登録）を指定できます。

## PKI の証明書登録を設定する方法

ここでは、次の登録の任意手順について説明します。登録または自動登録を設定する（最初の作業）場合は、手動での証明書登録を設定できません。また、TFTP またはカットアンドペーストによる手動での証明書登録を設定した場合、自動登録、自動再登録、登録プロファイルは設定できず、自動 CA 証明書ロールオーバー機能も利用できません。

### 証明書登録または自動登録の設定

PKI に参加しているクライアントの証明書登録を設定するには、次の作業を実行します。

#### Before you begin

自動証明書登録要求を設定する前に、必要な登録情報がすべて設定されていることを確認する必要があります。

#### 自動クライアント証明書およびキーロールオーバーをイネーブルにするための前提条件

自動登録を使用するときには、証明書ロールオーバーの CA クライアントサポートが自動的にイネーブルになります。自動 CA 証明書ロールオーバーを正常に実行するには、次の前提条件が適用されます。

- ネットワーク装置はシャドウ PKI をサポートしている必要があります。
- クライアントは Cisco IOS Release 12.4(2)T 以降のリリースを実行している必要があります。
- クライアントの CS は自動ロールオーバーをサポートする必要があります。CA サーバの自動ロールオーバー設定コンフィギュレーションに関する詳細については、『*Public Key Infrastructure Configuration Guide*』の「Configuring and Managing a Cisco IOS Certificate Server for PKI Deployment」の章にある「Automatic CA Certificate and Key Rollover」を参照してください。

#### 自動登録の初期キー生成場所を指定するための前提条件

自動登録の初期キー生成場所を指定するには、Cisco IOS Release 12.4(11)T 以降のリリースを実行する必要があります。

#### 自動登録の RSA キーペアに関する制約事項

**regenerate** コマンドまたは **regenerate** コマンドの **auto-enroll** キーワードを使用して新しいキーペアを生成するように設定したトラストポイントは、他のトラストポイントとキーペアを共有することはできません。各トラストポイントに独自のキーペアを付与するには、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードで **rsakeypair** コマンドを使用します。再生トラストポイント間でのキーペアの共有がサポートされていない場合にキーペアを共有すると、キーと証明書が一致しなくなるため、トラストポイントの一部のサービスが失われます。

再生成オプションを使用した証明書の更新は、ゼロ（「0」）から始まるキーラベル（「0test」など）では機能しません。CLI を使用すると、トラストポイントでそのような名前を設定でき、ゼロから始まるホスト名を使用できますが、証明書の再生成は失敗します。

#### 自動クライアント証明書およびキーロールオーバーに関する制約事項

クライアントが自動 CA 証明書ロールオーバーを正常に実行するには、次の制約事項が適用されます。

- SCEP を使用してロールオーバーをサポートする必要があります。SCEP の代わりに証明書管理プロトコルまたはメカニズム（登録プロファイル、手動での登録、または TFTP による登録など）を使用して、PKI に登録する装置では、SCEP で提供されているロールオーバー機能を利用できません。
- シェドウ証明書の生成後に、設定をスタートアップ コンフィギュレーションに保存できない場合、ロールオーバーは発生しません。
- キーペア名がゼロ（「0」）から始まる場合（「0test」など）、キー再生成を使用したロールオーバーは機能しません。トラストポイントで **rsakeypair name** を設定する場合は、ゼロから始まる名前を設定しないでください。キーペア名が設定されておらず、デフォルトのキーペアが使用されている場合は、ルータのホスト名がゼロから始まっていないことを確認してください。その場合は、トラストポイントで別の名前を使用して "**rsakeypair name**" を明示的に設定してください。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『Next Generation Encryption』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint name**
4. **enrollment [mode | retry period minutes | retry count number] url url [pem]**
5. **disable-scep**
6. **eckeypair label**
7. **subject-name [x.500-name]**
8. **vrf vrf-name**
9. **ip-address {ip-address | interface | none}**

10. `serial-number [none]`
11. `auto-enroll [percent] [regenerate]`
12. `auto-trigger`
13. `usage method1 [method2 [method3]]`
14. `password string`
15. `rsa-keypair key-label key-size encryption-key-size []`
16. `fingerprint ca-fingerprint`
17. `on devicename :`
18. `exit`
19. `crypto pki authenticate name`
20. `exit`
21. `copy system:running-config nvram:startup-config`
22. `show crypto pki certificates`

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto pki trustpoint mytp</pre>	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment [mode   retry period minutes   retry count number] url url [pem]</b> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# enrollment url http://cat.example.com</pre>	ルータが証明書要求を送信する CA の URL を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>mode</b> : CA システムが RA を提供する場合は、RA モードを指定します。</li> <li>• <b>retry period minutes</b> : 証明書要求を再試行する待機期間を指定します。デフォルトの再試行間隔は 1 分です。</li> <li>• <b>retry count number</b> : 直前の要求に対する応答をルータが受信しない場合、ルータが証明書要</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p>求を再送信する回数を指定します（1～100回の範囲で指定できます）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>url url</b> : ルータが証明書要求を送信するファイルシステムの URL。URL 内の IPv6 アドレスは括弧で囲む必要があります。たとえば、<code>http://[2001:DB8:1:1::1]:80</code> です。</li> <li>• <b>pem</b> : 証明書要求に Privacy Enhanced Mail (PEM) の境界を追加します。</li> </ul> <p><b>Note</b> 自動登録をサポートするには、TFTP または手動でのカットアンドペースト以外の登録方式を設定する必要があります。</p>
ステップ 5	<p><b>disable-scep</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# disable-scep</pre>	<p>（任意）デフォルトの SCEP (Simple Certificate Enrollment Protocol) 方式の代わりに HTTP ファイルシステムを登録する代替方式を使用および許可します。</p>
ステップ 6	<p><b>eckeypair label</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# eckeypair Router_1_Key</pre>	<p>（任意）ECDSA の署名を使用して証明書要求を生成する Elliptic Curve (EC) キーを使用するように、トラストポイントを設定します。<i>label</i> 引数は、グローバル コンフィギュレーション モードで <b>crypto key generate rsa</b> または <b>crypto key generate ec keysize</b> コマンドを使用して設定される EC キーラベルを指定します。詳細については、『Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs』フィーチャ モジュールを参照してください。</p> <p><b>Note</b> トラストポイントの設定を使用せずに ECDSA の署名を持つ証明書をインポートする場合、ラベルにはデフォルトで FQDN の値が使用されます。</p>
ステップ 7	<p><b>subject-name [x.500-name]</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# subject-name cat</pre>	<p>（任意）証明書要求で使用される件名を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>x.500-name</b> : この名前が指定されていない場合、完全修飾ドメイン名 (FQDN) が使用されます。FQDN はデフォルトの件名です。</li> </ul>
ステップ 8	<p><b>vrf vrf-name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# vrf myvrf</pre>	<p>（任意）登録、証明書失効リスト (CRL) の取得、および Online Certificate Status Protocol (OCSP) のステータに使用される公開キー インフラストラク</p>

	Command or Action	Purpose
		チャ (PKI) トラストポイントで VRF インスタンスを指定します。
ステップ 9	<b>ip-address</b> { <i>ip-address</i>   <i>interface</i>   <b>none</b> } <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# ip address 192.168.1.66</pre>	(任意) 指定されたインターフェイスの IP アドレスを証明書要求に含めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IPv4 または IPv6 アドレスのいずれかを指定するには、<i>ip-address</i> 引数を発行します。</li> <li>ルータのインターフェイスを指定するには、<i>interface</i> 引数を発行します。</li> <li>IP アドレスを含めない場合は、<b>none</b> キーワードを発行します。</li> </ul> <p><b>Note</b> このコマンドがイネーブルになっている場合、このトラストポイントの登録時に IP アドレスのプロンプトは表示されません。</p>
ステップ 10	<b>serial-number</b> [ <b>none</b> ] <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# serial-number</pre>	(任意) <b>none</b> キーワードを発行しない場合は、証明書要求でルータのシリアル番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>証明書要求にシリアル番号を含めない場合は、<b>none</b> キーワードを発行します。</li> </ul>
ステップ 11	<b>auto-enroll</b> [ <i>percent</i> ] [ <b>regenerate</b> ] <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# auto-enroll regenerate</pre>	(任意) 自動登録をイネーブルにします。これにより、クライアントは CA から自動的にロールオーバー証明書を要求できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>自動登録イネーブルでない場合、証明書の失効時にクライアントを手動で PKI に再登録する必要があります。</li> <li>デフォルトでは、ルータのドメイン ネーム システム (DNS) 名だけが証明書に含まれます。</li> <li>現行の証明書の有効期間が指定のパーセンテージに達したときに、新しい証明書が要求されるように指定するには、<i>percent</i> 引数を使用します。</li> <li>名前付きのキーがすでに存在する場合でも、証明書の新しいキーを生成するには、<b>regenerate</b> キーワードを使用します。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p><b>Note</b> ロールオーバー中の鍵ペアがエクスポート可能な場合、新しい鍵ペアもエクスポート可能です。次のコメントがトラストポイントコンフィギュレーションに表示され、鍵ペアがエクスポート可能かどうかを示されます。「! RSA key pair associated with trustpoint is exportable.」</p> <p><b>Note</b> 新しい鍵ペアは、セキュリティ上の問題に対処するために生成することを推奨します。</p>
ステップ 12	<p><b>auto-trigger</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# auto-trigger</pre>	<p>(任意) 自動証明書認証をトリガーします。</p> <p><b>Note</b> <b>auto-trigger</b> コマンドが設定されている場合は、<b>crypto pki authenticate</b> コマンドを明示的に設定する必要はありません。<b>auto-trigger</b> コマンドにより、認証が自動的にトリガーされます。</p>
ステップ 13	<p><b>usage method1 [method2 [method3]]</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# usage ssl-client</pre>	<p>(任意) 証明書の目的の用途を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用可能なオプションは <b>ike</b>、<b>ssl-client</b>、および <b>ssl-server</b> で、デフォルトは <b>ike</b> です。</li> </ul>
ステップ 14	<p><b>password string</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# password string1</pre>	<p>(任意) 証明書の失効パスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドがイネーブルになっている場合、このトラストポイントの登録時にパスワードは求められません。</li> </ul> <p><b>Note</b> SCEPが使用されている場合、このパスワードを使用して証明書要求を認可できます（多くの場合、ワンタイムパスワードまたは類似のメカニズムによって行われます）。</p>
ステップ 15	<p><b>rsakeypair key-label key-size encryption-key-size</b> ]]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# rsakeypair key-label 2048 2048</pre>	<p>(任意) 証明書に関連付けるキーペアを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>key-label</b> 引数付きのキーペアがまだ存在しない、あるいは <b>auto-enroll regenerate</b> コマンドが発行された場合、登録時に <b>key-label</b> 引数付きのキーペアが生成されます。</li> <li>• キーを生成するための <b>key-size</b> 引数を指定し、<b>encryption-key-size</b> 引数を指定して、個別の暗</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p>号化、署名キー、および証明書を要求します。 key-size と encryption-key-size は同じサイズでなければなりません。2048 未満の長さを指定することは推奨されません。</p> <p><b>Note</b> このコマンドがイネーブルでない場合に、FQDN キー ペアが使用されます。</p>
ステップ 16	<p><b>fingerprint</b> <i>ca-fingerprint</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# fingerprint 12EF53FA 355CD23E 12EF53FA 355CD23E</pre>	<p>(任意) 認証時に CA 証明書のフィンガープリントと照合するフィンガープリントを指定します。</p> <p><b>Note</b> フィンガープリントが指定されておらず、CA 証明書の認証がインタラクティブな場合、フィンガープリントは検証用に表示されます。</p>
ステップ 17	<p><b>on</b> <i>devicename</i> :</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# on usbtoken0:</pre>	<p>(任意) 自動登録の初期キー生成時に、RSA キーが指定された装置に対して作成されるよう指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定可能な装置には、NVRAM、ローカルディスク、およびユニバーサルシリアルバス (USB) トークンがあります。USB トークンは、ストレージデバイス以外に、暗号化装置として使用できます。USB トークンを暗号化装置として使用すると、トークンでキー生成、署名、認証などの RSA 操作を実行できます。</li> </ul>
ステップ 18	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# exit</pre>	<p>CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。</p>
ステップ 19	<p><b>crypto pki authenticate</b> <i>name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto pki authenticate mytp</pre>	<p>CA 証明書を取得して、認証します。証明書フィンガープリントをチェックするよう求められた場合、証明書フィンガープリントをチェックします。</p> <p><b>Note</b> CA 証明書がコンフィギュレーションにすでにロードされている場合、このコマンドはオプションです。</p>
ステップ 20	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# exit</pre>	<p>グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 21	<b>copy system:running-config nvram:startup-config</b> <b>Example:</b> <pre>Router# copy system:running-config nvram:startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションを NVRAM スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。 <b>Note</b> 実行コンフィギュレーションが変更されていても NVRAM に書き込まれていない場合は、自動登録によって NVRAM が更新されません。
ステップ 22	<b>show crypto pki certificates</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto pki certificates</pre>	(任意) ロールオーバー証明書などの、証明書に関する情報を表示します。

## 手動での証明書登録の設定

手動での証明書登録は、TFTP または手動でのカットアンドペースト方式によって設定できます。これらの方式は両方とも、CA が SCEP をサポートしない場合またはルータと CA 間のネットワーク接続が不可能な場合に使用できます。手動での証明書登録を設定するには、次のいずれかの作業を実行します。

### 証明書登録要求用の PEM 形式ファイル

証明書要求用の PEM 形式ファイルは、端末またはプロファイルベースの登録を使用して CA サーバから証明書を要求する場合に役立ちます。PEM 形式ファイルを使用すると、ルータで既存の証明書を直接使用できます。

### 手動での証明書登録に関する制約事項

#### SCEP の制約事項

SCEP が使用されている場合、URL を切り替えることは推奨しません。つまり、登録 URL が「http://myca」である場合、CA 証明書を取得した後と証明書を登録する前で、登録 URL を変更しないでください。ユーザは、TFTP と手動でのカットアンドペーストを切り替えることができます。

#### キー再生に関する制約事項

**crypto key generate** コマンドを使用して、キーを手動で再生しないでください。キーの再生は、**regenerate** キーワードを指定して **crypto pki enroll** コマンドを発行します。



## カットアンドペーストによる証明書登録の設定

この作業は、カットアンドペーストによる証明書登録を設定するために実行します。PKIに参加しているピアに対してカットアンドペースト方式による手動での証明書登録を設定するには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint *name***
4. **enrollment terminal pem**
5. **fingerprint *ca-fingerprint***
6. **exit**
7. **crypto pki authenticate *name***
8. `crypto pki enroll name`
9. `crypto pki import name certificate`
10. **exit**
11. **show crypto pki certificates**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <code>Router&gt; enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <code>Router# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint <i>name</i></b> <b>Example:</b> <code>Router(config)# crypto pki trustpoint mytp</code>	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment terminal pem</b> <b>Example:</b> <code>Router(ca-trustpoint)# enrollment terminal</code>	カットアンドペーストによる手動での証明書登録方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>証明書要求は、手動でコピー（または切り取り）できるように、コンソール端末上に表示されます。</li></ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>pem</b> : PEM 形式の証明書要求をコンソール端末に対して生成するようトラストポイントを設定します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>fingerprint</b> <i>ca-fingerprint</i> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# fingerprint 12EF53FA 355CD23E 12EF53FA 355CD23E</pre>	(任意) 認証時に CA 証明書のフィンガープリントと照合するフィンガープリントを指定します。 <b>Note</b> フィンガープリントが指定されていない場合は、フィンガープリントは検証用に表示されます。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# exit</pre>	CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 7	<b>crypto pki authenticate</b> <i>name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto pki authenticate mytp</pre>	CA 証明書を取得して、認証します。
ステップ 8	<b>crypto pki enroll</b> <i>name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto pki enroll mytp</pre>	証明書要求を生成し、証明書サーバにコピーおよびペーストするために要求を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 証明書要求にルータの FQDN および IP アドレスを含めるかどうかなどの登録情報を求められます。コンソール端末に対して証明書要求を表示するかについても選択できます。</li> <li>• 必要に応じて、Base 64 符号化証明書を PEM ヘッダーを付けて、または付けずに表示します。</li> </ul>
ステップ 9	<b>crypto pki import</b> <i>name certificate</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto pki import mytp certificate</pre>	コンソール端末で証明書を手動でインポートします (貼り付けます)。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Base 64 符号化証明書はコンソール端末から受け取られ、内部証明書データベースに挿入されます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p><b>Note</b> 用途キー、署名キー、および暗号キーを使用する場合は、このコマンドを2度入力する必要があります。このコマンドが初めて入力されたとき、証明書の1つがルータにペーストされます。このコマンドが2回目に入力されたとき、もう1つの証明書がルータにペーストされます。どちらの証明書が先にペーストされても問題ありません。</p> <p><b>Note</b> 一部の CA は、証明書要求の用途キー情報を無視し、汎用目的の証明書を発行します。ご使用の認証局がこれに該当する場合は、汎用目的の証明書をインポートしてください。ルータは、生成される2つのキーペアのいずれも使用しません。</p>
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 11	<b>show crypto pki certificates</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto pki certificates</pre>	(任意) 証明書、CA の証明書、および RA 証明書に関する情報を表示します。

## TFTP による証明書登録の設定

この作業は、TFTP による証明書登録を設定するために実行します。この作業を実行すると、TFTP サーバを使用して手動で証明書登録を設定できます。

### Before you begin

- TFTP によって証明書登録を設定する場合は、使用する適切な URL がわかっている必要があります。
- **crypto pki enroll** コマンドを使用する場合、ルータにはファイルを TFTP サーバに書き込む機能が必要です。
- ファイル指定と共に **enrollment** コマンドを使用する場合、ファイルには、バイナリフォーマットまたは Base 64 符号化の CA 証明書が含まれている必要があります。
- ご使用の CA が証明書要求内のキーの用途情報を無視し、汎用目的の証明書だけを発行するかどうかを知っておく必要があります。

**Caution**

一部の TFTP サーバでは、サーバが書き込み可能になる前に、ファイルがサーバ上に存在している必要があります。ほとんどの TFTP サーバでは、ファイルを上書きできる必要があります。任意のルータまたは他の装置によって証明書要求が書き込まれたり、上書きされることがあるため、この要件によって危険が生じる可能性があります。そのため、証明書要求を許可する前に、まず登録要求フィンガープリントをチェックする必要がある CA 管理者は交換証明書要求を使用しません。

**SUMMARY STEPS**

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint** *name*
4. **enrollment** [**mode**] [**retry period** minutes] [**retry count** number] **url** url [**pem**]
5. **fingerprint** *ca-fingerprint*
6. **exit**
7. **crypto pki authenticate** *name*
8. **crypto pki enroll** name
9. **crypto pki import** name certificate
10. **exit**
11. **show crypto pki certificates**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto pki trustpoint mytp	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment</b> [ <b>mode</b> ] [ <b>retry period</b> minutes] [ <b>retry count</b> number] <b>url</b> url [ <b>pem</b> ] <b>Example:</b>	登録要求を送信して、CA 証明書とルータ証明書および任意のオプションのパラメータを取得するための登録方式として TFTP を指定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Router(ca-trustpoint)# enrollment url tftp://certserver/file_specification</pre>	<p><b>Note</b> TFTP 登録の場合、URL は TFTP URL (tftp://example_tftp_url) として設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TFTP URL には、任意のファイル指定ファイル名を使用できます。ファイル指定が含まれていない場合は、FQDN が使用されます。ファイル指定が含まれている場合は、ルータは指定されたファイル名に「.ca」という拡張子を付加します。</li> </ul>
ステップ 5	<p><b>fingerprint</b> <i>ca-fingerprint</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# fingerprint 12EF53FA 355CD23E 12EF53FA 355CD23E</pre>	<p>(任意) CA 管理者からアウトオブバンド方式によって受け取る CA 証明書のフィンガープリントを指定します。</p> <p><b>Note</b> フィンガープリントが指定されていない場合は、フィンガープリントは検証用に表示されます。</p>
ステップ 6	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-trustpoint)# exit</pre>	CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<p><b>crypto pki authenticate</b> <i>name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto pki authenticate mytp</pre>	指定された TFTP サーバから CA 証明書を取得して認証します。
ステップ 8	<p><b>crypto pki enroll</b> <i>name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto pki enroll mytp</pre>	<p>証明書要求を生成し、この要求を TFTP サーバに書き込みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 証明書要求にルータの FQDN および IP アドレスを含めるかどうかなどの登録情報を求められます。コンソール端末に証明書要求を表示するかどうかについて尋ねられます。</li> <li>• 書き込まれるファイル名には「.req」という拡張子が付加されます。用途キー、署名キー、および暗号キーの場合、2つの要求が生成されて送信されます。用途キーの要求ファイル名には、拡張子「-sign.req」および「-encr.req」がそれぞれ付加されます。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>crypto pki import</b> <i>name certificate</i></p> <p><b>Example:</b></p>	許可された証明書を取得するコンソール端末で、TFTP によって証明書をインポートします。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Router(config)# crypto pki import mytp certificate</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ルータは、拡張子が「.req」から「.crt」に変更されたことを除いて、要求の送信に使用した同じファイル名を使用して、許可された証明書を TFTP によって取得しようと試みます。用途キー証明書の場合、拡張子「-sign.crt」および「-encr.crt」が使用されます。</li> <li>• ルータは、受信したファイルを解析して証明書を検証し、証明書をルータの内部証明書データベースに挿入します。</li> </ul> <p><b>Note</b> 一部の CA は、証明書要求の用途鍵情報を無視し、汎用目的の証明書を発行します。ご使用の CA が証明書要求の用途鍵情報を無視する場合は、汎用目的の証明書だけをインポートしてください。ルータは、生成される 2 つの鍵ペアのいずれも使用しません。</p>
ステップ 10	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 11	<p><b>show crypto pki certificates</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show crypto pki certificates</pre>	(任意) 証明書、CA の証明書、および RA 証明書に関する情報を表示します。

## Trend Micro サーバとセキュアな通信を行うための URL リンクの認証

この作業は、Trend Micro サーバとセキュアに通信できるようにする URL フィルタリングで使用されるリンクを認証するために実行します。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『*Next Generation Encryption*』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clock set** *hh : mm : ss date month year*
3. **configure terminal**
4. **clock timezone** *zone hours-offset [minutes-offset]*

5. **ip http server**
6. **hostname** *name*
7. **ip domain-name** *name*
8. **crypto key generate rsa general-keys modulus** *modulus-size*
9. **crypto pki trustpoint** *name*
10. **enrollment terminal**
11. **crypto ca authenticate** *name*
12. Base 64 符号化の CA 証明書が含まれている次のテキスト部分をコピーし、プロンプトにペーストします。
13. **yes** と入力し、この証明書を受け入れます。
14. **serial-number**
15. **revocation-check none**
16. **end**
17. **trm register**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>clock set</b> <i>hh : mm : ss date month year</i> <b>Example:</b> Router# clock set 23:22:00 22 Dec 2009	ルータのクロックを設定します。
ステップ 3	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>clock timezone</b> <i>zone hours-offset [minutes-offset ]</i> <b>Example:</b> Router(config)# clock timezone PST -08	時間帯を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>zone</i> 引数は、時間帯の名前です (通常は標準略語)。<i>hours-offset</i> 引数は、使用する時間帯が協定世界時 (UTC) から異なる時間数です。<i>minutes-offset</i> 引数は、使用する時間帯が UTC から異なる分数です。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p><b>Note</b> <b>clock timezone</b> コマンドの <i>minutes-offset</i> 引数は、ローカル時間帯の UTC またはグリニッジ標準時 (GMT) からの差が 1 時間未満の割合で異なる場合に使用できます。たとえば、アトランティックカナダの一部の地域の時間帯 (大西洋標準時 (AST)) は UTC-3.5 です。この場合に必要なコマンドは、<b>clock timezone AST -3 30</b> です。</p>
ステップ 5	<p><b>ip http server</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# ip http server</pre>	HTTP サーバーを有効にします。
ステップ 6	<p><b>hostname name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# hostname hostname1</pre>	ルータのホスト名を設定します。
ステップ 7	<p><b>ip domain-name name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# ip domain-name example.com</pre>	ルータのドメイン名を定義します。
ステップ 8	<p><b>crypto key generate rsa general-keys modulus modulus-size</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto key generate rsa general-keys modulus general</pre>	<p>暗号キーを生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>general-keys</b> キーワードは、汎用のキーペアが生成されることを指定します。これがデフォルトです。</li> <li>• <b>modulus</b> キーワードと <i>modulus-size</i> 引数は、キーのモジュラスの IP サイズを指定します。デフォルトでは、CA キーのモジュラスサイズは 1024 ビットです。RSA キーを生成する場合、モジュラスの長さを入力するように促されます。モジュラスの長さが長いほど安全性が高まりますが、生成と使用にかかる時間も長くなります。2048 未満の長さを指定することは推奨されません。</li> </ul> <p><b>Note</b> 生成される汎用キーの名前は、手順 7 で設定したドメイン名に基づきます。たとえば、キーの名前は「example.com」になります。</p>



	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>crypto pki trustpoint</b> <i>name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto pki trustpoint mytp</pre>	ルータが使用する CA を宣言し、CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。 <b>Note</b> Cisco IOS リリース 12.3(8)T では、 <b>crypto pki trustpoint</b> コマンドが <b>crypto ca trustpoint</b> コマンドに置き換えられました。
ステップ 10	<b>enrollment terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# enrollment terminal</pre>	カットアンドペーストによる手動での証明書登録方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>証明書要求は、手動でコピー（または切り取り）できるように、コンソール端末上に表示されます。</li> </ul>
ステップ 11	<b>crypto ca authenticate</b> <i>name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(ca-trustpoint)# crypto ca authenticate mytp</pre>	CA の名前を引数として取得し、これを認証します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドの出力が表示されます。</li> </ul> <pre>Enter the base 64 encoded CA certificate. End with a blank line or the word "quit" on a line by itself.</pre>
ステップ 12	Base 64 符号化の CA 証明書が含まれている次のテキスト部分をコピーし、プロンプトにペーストします。	<pre>MIIDIDCCAmgAwIBAgIENd70zzANBgkqhkiG9w0BAQUFADBOMQswCQYDVQQGEwJV UzEQMA4GA1UEChMHFkF1aWZheDEtMCsGA1UECmMkRkF1aWZheCBTZWNLcnUgQ2V5 dGlmYWlnNhdGUGQXV0aG9yaXR5MB4XDTEk4MDgyMjE2NDElMVoXDTE4MDgyMjE2NDEl MVoWtjE1MAkGA1UEHmMCVWwKEDAOBgNVBAoTB0VxdWlmYXgkLTAxRjBjNBAStUEVx dWlmYXgkU2VjdXJlIENlcnRpmLjYXRLEIEFlcGhvcml0eTCBnzANBgkqhkiG9w0B AQEFAAOBjQAwgYkCgYEAwW2xWgcIYu6gmi0fOG2RFGiYCh7+2grvE4RiIcPRfM6f BeC4AfbQNZiipUEZKzxa1NfBbPLZ4C/QgKO/t0BCezhABRP/PwDN1Dulsr4R+A cJkV5MwBQ+XarfCaQmCze1ZMKxRHjvuvK9buY0V7xdlfUNLjUA86i0e/FP3gx7kC AwEAAaOCQkwwgEEMHAGAlUchwrpMGcwZaBjocGkxZBdMQswCQYDVQQGEwJVUzEQ MA4GA1UEChMHFkF1aWZheDEtMCsGA1UECmMkRkF1aWZheCBTZWNLcnUgQ2V5dGlm aWlnNhdGUGQXV0aG9yaXR5MQ0wCwYDVQQDEwRDUkwzMBcGA1UeIQAQIUMBGDZlWmItgW ODIyMTY0MTUxwWjALBgNVHQ8EBAMCAQYwHwYDVR0jBBgwFoAUSOZo+SvSspXXR9gj</pre>

	Command or Action	Purpose
		<pre> IBBPM5iQn9QwHQYDVR0COBBEVEFEjmaPkr0rKvL0fYTyAQIzOYkKJ/UMAwGA1UdeEwQF MAMBAAf8wGgYJKoZIhvcZ9B0EABA0wCxsFVjMuMGMDAgcAMA0GCSqGSIsb3DQEFBQUA A4GBAFjOKer89961zgjK5F7WF0bnj4JX4MJTENAKaSbn+2kmOeUUXRrm/kEd5jhW6Y 7qj/WsjTVbJmCvFfewCHRFSqnI0kEBBIZCe/zuf6IWUrVhZ9NA2zsrWLIocZ2uFHch 1voqZiegDfqnc1zqcPGUIWVEX/r87yloqaKHee9570+sB3c4 次のコマンドの出力が表示されます。  Certificate has the following attributes:          Fingerprint MD5: 67CB9DC0 13248A82         9BB2171E D11BECD4          Fingerprint SHA1: D23209AD 23D31423         2174E40D 7F9D6213 9786633A </pre>
ステップ 13	yes と入力し、この証明書を受け入れます。	<pre> % Do you accept this certificate? [yes/no]: yes  次のコマンドの出力が表示されます。  Trustpoint CA certificate accepted.  % Certificate successfully imported </pre>
ステップ 14	<b>serial-number</b> <b>Example:</b> <pre>hostname1(ca-trustpoint)# serial-number</pre>	ルータのシリアル番号を証明書要求で指定します。
ステップ 15	<b>revocation-check none</b> <b>Example:</b> <pre>hostname1(ca-trustpoint)# revocation-check none</pre> <b>Example:</b>	証明書の確認が無視されることを指定します。
ステップ 16	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>hostname1(ca-trustpoint)# end</pre>	CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 17	<b>trm register</b> <b>Example:</b> hostname1# trm register	Trend Micro サーバ登録プロセスを手動で開始します。

## 登録用の永続的自己署名証明書の SSL による設定

ここでは、次のタスクについて説明します。



**Note** これらの作業は任意です。これは、HTTPS サーバをイネーブルにした場合、このサーバがデフォルト値を使用して自動的に自己署名証明書を生成するからです。

### 永続的自己署名証明書の概要

SSL プロトコルは、HTTPS サーバとクライアント（Web ブラウザ）の間でセキュアな接続を確立するために使用されます。SSL ハンドシェイクの間、クライアントは、すでに所有している証明書を使用して SSL サーバの証明書が検証可能であると想定します。

Cisco IOS ソフトウェアが HTTP サーバで使用できる証明書を保持していない場合、サーバは、PKI アプリケーションプログラミングインターフェイス（API）を呼び出して自己署名証明書を生成します。クライアントがこの自己署名証明書を受け取ったにもかかわらず、検証できない場合、ユーザによる介入が必要です。クライアントは、証明書を受け入れるか、あとで使用するために保存するかどうかを尋ねます。証明書を受け入れると、SSL ハンドシェイクは続行されます。

それ以降、同じクライアントとサーバ間の SSL ハンドシェイクでは、同じ証明書が使用されます。ただし、ルータをリロードすると、自己署名証明書は失われます。その場合、HTTPS サーバは新しい自己署名証明書を作成する必要があります。この新しい自己署名証明書は前の証明書と一致しないため、この自己署名証明書を受け入れるかどうか再度確認されます。

ルータがリロードするたびにルータの証明書を受け入れるかどうか確認されると、この確認中に、攻撃者に不正な証明書を使用する機会を与えてしまうことがあります。永続的自己署名証明書では、ルータのスタートアップコンフィギュレーションに証明書を保存することにより、これらの制約をすべて解消しています。

### 機能制限

- 1 つの永続的自己署名証明書には、トラストポイントを 1 つだけ設定できます。
- 自己署名証明書の最大ライフタイムは、2030 年 1 月 1 日 00:00:00 GMT です。



**Note** 自己署名証明書の作成後は、ルータの IP ドメイン名またはホスト名を変更しないでください。いずれかの名前を変更すると、自己署名証明書の再生がトリガーされて、設定済みのトラストポイントが上書きされます。WebVPN は、SSL トラストポイント名を WebVPN ゲートウェイ設定に結合します。新しい自己署名証明書がトリガーされると、新しいトラストポイント名が WebVPN 設定と一致しなくなり、WebVPN 接続は失敗します。

## トラストポイントの設定および自己署名証明書パラメータの指定



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『*Next Generation Encryption*』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

トラストポイントを設定し、自己署名証明書パラメータを指定するには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint name**
4. **enrollment selfsigned**
5. **subject-name [x.500-name]**
6. **rsa keypair key-label [key-size [encryption-key-size]]**
7. **crypto pki enroll name**
8. **end**
9. **show crypto pki certificates [trustpoint-name[verbose]]**
10. **show crypto pki trustpoints [status | label [status]]**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Router# configure terminal	
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto pki trustpoint local	ルータが使用する CA を宣言し、CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。 <b>Note</b> Cisco IOS リリース 12.3(8)T では、 <b>crypto pki trustpoint</b> コマンドが <b>crypto ca trustpoint</b> コマンドに置き換えられました。
ステップ 4	<b>enrollment selfsigned</b> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# enrollment selfsigned	自己署名登録を指定します。
ステップ 5	<b>subject-name [x.500-name]</b> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# subject-name	(任意) 証明書要求に使用する要求件名を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>x-500-name</i> 引数を指定しない場合、デフォルト件名である FQDN が使用されます。</li> </ul>
ステップ 6	<b>rsakeypair key-label [key-size [encryption-key-size]]</b> <b>Example:</b> Router(ca-trustpoint)# rsakeypair examplekey 2048	(任意) 証明書に関連付けるキー ペアを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>key-label</i> 引数の値がまだ存在しない、あるいは <b>auto-enroll regenerate</b> コマンドが発行された場合は、登録時にこの引数の値が生成されます。</li> <li>• キーを生成するための <i>key-size</i> 引数を指定し、<i>encryption-key-size</i> 引数を指定して、個別の暗号化、署名キー、および証明書を要求します。<i>key-size</i> と <i>encryption-key-size</i> は同じサイズでなければなりません。2048 未満の長さを指定することは推奨されません。</li> </ul> <b>Note</b> このコマンドがイネーブルでない場合に、FQDN キー ペアが使用されます。
ステップ 7	<b>crypto pki enroll name</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto pki enroll local	永続的自己署名証明書を生成するようルータに指示します。
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b>	(任意) CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
	Router(ca-trustpoint)# end	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル コンフィギュレーション モードを終了するため、このコマンドをもう一度入力します。</li> </ul>
ステップ 9	<b>show crypto pki certificates</b> [ <i>trustpoint-name</i> ][ <i>verbose</i> ]] <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto pki certificates local verbose</pre>	証明書、認証局証明書、および任意の登録認局証明書に関する情報を表示します。
ステップ 10	<b>show crypto pki trustpoints</b> [ <i>status</i>   <i>label</i> [ <i>status</i> ]] <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto pki trustpoints status</pre>	ルータに設定されているトラストポイントを表示します。

## HTTPS サーバのイネーブル化

HTTPS サーバをイネーブルにするには、次の作業を実行します。

### Before you begin

パラメータを指定するには、トラストポイントを作成し、設定する必要があります。デフォルト値を使用するには、すべての既存の自己署名トラストポイントを削除します。自己署名トラストポイントをすべて削除すると、HTTPS サーバがイネーブルになるとただちに、サーバはデフォルト値を使用して永続的自己署名証明書を生成します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. ip http secure-server
4. end
5. copy system:running-config nvram: startup-config

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip http secure-server</b> <b>Example:</b>  Router(config)# ip http secure-server	HTTPS Web サーバをイネーブルにします。 <b>Note</b> キーペア (Modulus 1024) および自己署名証明書が自動的に生成されます。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b>  Router(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>copy system:running-config nvram: startup-config</b> <b>Example:</b>  Router# copy system:running-config nvram: startup-config	イネーブルになっているモードで自己署名証明書および HTTPS サーバを保存します。

## 登録または再登録用の証明書登録プロファイルの設定

この作業は、登録または再登録用の証明書登録プロファイルを設定するために実行します。この作業は、サードパーティベンダー製 CA にすでに登録されている証明書またはルータを Cisco IOS CA に登録または再登録するための登録プロファイルを設定するのに役立ちます。

登録要求が自動的に許可されるように、サードパーティベンダー製 CA に登録されているルータを Cisco IOS 証明書サーバに登録するには、このルータをイネーブルにして、その既存の証明書を使用します。この機能をイネーブルにするには、**enrollment credential** コマンドを発行する必要があります。また、手動による証明書登録は設定できません。

### Before you begin

次の作業は、サードパーティベンダー製 CA にすでに登録されているクライアントルータの証明書登録プロファイルを設定する前に、クライアントルータで実行します。これにより、そのルータを Cisco IOS 証明書サーバに再登録できます。

- サードパーティベンダー製 CA をポイントするトラストポイントの定義
- サードパーティベンダー製 CA でのクライアントルータの認証および登録

**Note**

- 証明書プロファイルを使用するには、ネットワークに、CA への HTTP インターフェイスが設定されている必要があります。
- 登録プロファイルが指定されている場合、トラストポイント設定に登録 URL が指定されていないことがあります。両方のコマンドがサポートされていても、トラストポイントに使用できるコマンドは一度に 1 つだけです。
- 各 CA で使用される HTTP コマンドには規格がないため、ユーザは使用している CA に適したコマンドを入力する必要があります。

&gt;

**SUMMARY STEPS**

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint *name***
4. enrollment profile label
5. **exit**
6. **crypto pki profile enrollment *label***
7. 次のいずれかを実行します。
  - **authentication url *url***
  - **authentication terminal**
8. **authentication command**
9. 次のいずれかを実行します。
  - **enrollment url *url***
  - **enrollment terminal**
10. **enrollment credential *label***
11. **enrollment command**
12. **parameter *number* {value *value* | prompt *string*}**
13. **exit**
14. **show crypto pki certificates**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto pki trustpoint Entrust	トラストポイントおよび設定された名前を宣言して、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	enrollment profile label <b>Example:</b>  Router(ca-trustpoint)# enrollment profile E	登録プロファイルが証明書認証および登録用に使用されるように指定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router(ca-trustpoint)# exit	CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>crypto pki profile enrollment label</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto pki profile enrollment E	登録プロファイルを定義し、ca-profile-enroll コンフィギュレーション モードを開始します。  • <b>label</b> : 登録プロファイルの名前。登録プロファイル名は、 <b>enrollment profile</b> コマンドで指定された名前と同じである必要があります。
ステップ 7	次のいずれかを実行します。  • <b>authentication url url</b> • <b>authentication terminal</b> <b>Example:</b>  Router(ca-profile-enroll)# authentication url http://entrust:81 <b>Example:</b>  Router(ca-profile-enroll)# authentication terminal	証明書認証要求の送信先となる CA サーバの URL を指定します。  • <b>url</b> : ルータが認証要求を送信する CA サーバの URL。HTTP を使用する場合、URL は「http://CA_name」という形式にする必要があります。ここで、CA_name は CA のホスト DNS 名または IP アドレスです。TFTP を使用する場合、この URL は「tftp://certserver/file_specification」という形式にする必要があります。(URL にファイル指定が含まれない場合、ルータの FQDN が使用されます。)  カットアンドペーストによる手動での証明書認証を指定します。
ステップ 8	<b>authentication command</b> <b>Example:</b>	(任意) 認証のために CA に送信される HTTP コマンドを指定します。

	Command or Action	Purpose
	Router(ca-profile-enroll)# authentication command	
ステップ 9	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>enrollment url</b> <i>url</i></li> <li>•</li> <li>• <b>enrollment terminal</b></li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-profile-enroll)# enrollment url http://entrust:81/cda-cgi/clientcgi.exe</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-profile-enroll)# enrollment terminal</pre>	<p>証明書登録要求を HTTP または TFTP によって送信する CA サーバの URL を指定します。</p> <p>カットアンドペーストによる手動での証明書登録を指定します。</p>
ステップ 10	<p><b>enrollment credential</b> <i>label</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-profile-enroll)# enrollment credential Entrust</pre>	<p>(任意) Cisco IOS CA に登録されるサードパーティベンダー製 CA トラストポイントを指定します。</p> <p><b>Note</b> 手動での証明書登録が使用されている場合、このコマンドは発行できません。</p>
ステップ 11	<p><b>enrollment command</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-profile-enroll)# enrollment command</pre>	<p>(任意) 登録のために CA に送信される HTTP コマンドを指定します。</p>
ステップ 12	<p><b>parameter</b> <i>number</i> {<b>value</b> <i>value</i>   <b>prompt</b> <i>string</i>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-profile-enroll)# parameter 1 value aaaa-bbbb-cccc</pre>	<p>(任意) 登録プロファイルのパラメータを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドを繰り返して使用すると、複数の値を指定できます。</li> </ul>
ステップ 13	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(ca-profile-enroll)# exit</pre>	<p>(任意) ca-profile-enroll コンフィギュレーションモードを終了します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• グローバル コンフィギュレーション モードを終了するため、このコマンドをもう一度入力します。</li> </ul>
ステップ 14	<p><b>show crypto pki certificates</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show crypto pki certificates</pre>	<p>(任意) 証明書、CA の証明書、および RA 証明書に関する情報を表示します。</p>

## 次の作業

Cisco IOS CA に再登録するようにルータを設定した場合にこの機能を活用するには、指定されたサードパーティベンダー製CA トラストポイントに登録されたクライアントからだけ登録要求を受け入れるように Cisco IOS 証明書サーバを設定する必要があります。詳細については、「Configuring and Managing a Cisco IOS Certificate Server for PKI Deployment」を参照してください。

## 2 階層 PKI 環境での証明書登録の設定

この機能により、ルート CA がオフラインのときにサブ CA がクライアントに証明書を発行できます。ルート証明書は、最初に CLI を使用してインポートできます。その後、ルート証明書を使用して、トラストポイントで設定された発行サブ CA 証明書を検証します。



**Note** 次のタスクを実行する前に、環境に応じて失効チェックを有効にします。

端末を介して ROOT-CA をインポートするには、次の手順を実行します。

```
enable
!
configure terminal
!
crypto pki trustpoint ROOT-CA
revocation-check none
enrollment terminal
!
crypto pki authenticate ROOT-CA
!
exit
```

フィンガープリントを指定または受け入れずに SUB-CA を認証する場合は、次の手順を実行します。

```
enable
!
configure terminal
!
crypto pki trustpoint SUB-CA
revocation-check none
enrollment url url
chain-validation continue ROOT-CA
exit
!
crypto pki authenticate SUB-CA
exit
```

## 複数のトラストポイントの有効化による証明書の更新の設定

Cisco IOS XE 17.4.1 リリース以降では、登録局が証明書の初期登録および証明書の更新のために複数のトラストポイントを使用してルータのログイン情報を検証することを実現できます。

この機能拡張により、SCEP 登録プロトコルを介したゼロタッチ証明書登録を維持しながら、複数のトラストポイントの自動検証が可能になります。

ルータを初めて登録すると、SCEP 要求が開始され、この要求は SUDI ログイン情報を使用して署名されます。その後、要求が登録局に送信され、登録局は、ローカルトラストポイントを介して SUDI 証明書を検証します。ローカルトラストポイントは、ルータ SCEP ログイン情報を検証します。検証が成功すると、登録局は、SUDI 証明書を使用して署名を復号し、ハッシュを検証します。ハッシュ検証も成功すると、登録局は、SCEP 要求を認証局 (CA) に転送します。次に、CA は、要求に署名し、証明書を登録局に送り返します。登録局は、証明書をルータに転送します。この時点で、SCEP の登録が完了です。

証明書の更新の場合、同じプロセスに従うと、更新は失敗します。これは、ルータが現在の証明書をログイン情報として使用するため、登録局が更新要求を検証できないからです。登録局がルータのアイデンティティを検証するために使用できるトラストポイントは1つだけであるため、証明書の更新は失敗します。

この問題を解決するために、複数のトラストポイントを使用してルータのログイン情報を検証するように登録局を設定できるようになりました。このようにして、初期登録と更新がシームレスに機能します。

複数のトラストポイントを設定するには、**grant auto <tp-list>** コマンドを使用します。このコマンドを使用して、最大5つのトラストポイントを設定できます。次に例を示します。

```
grant auto tp-list <tp1 tp2>
grant auto tp-list <tp1 tp2 tp3>
grant auto tp-list <tp1 tp2 tp3 tp4>
grant auto tp-list <tp1 tp2 tp3 tp4 tp5>
```

トラストポイントを設定すると、登録局は、設定されたいずれかのトラストポイントを使用して受信した証明書を検証します。検証は最初のトラストポイントから開始されます。検証が成功すると、証明書が更新されます。それ以外の場合、登録局は、次に使用可能なトラストポイントを使用して検証します。

## 設定例

```
crypto pki server FANRSACA
no database archive
grant auto <tp-list> ACT2_SUDI_CA <CA_TRUSTPOINT>
hash sha256
mode ra transparent
!
crypto pki trustpoint FANRSACA
enrollment url http://10.4.1.117:8080/ejbca/publicweb/apply/scep/FANRSACA
serial-number none
fqdn none
ip-address none
subject-name serialNumber=PID:ISR4451-X/K9 SN:FOC23231CRY, CN=ISR4k-1-ra
revocation-check none
rsa-keypair FANRSACA_Key 4096
!
crypto pki trustpoint ACT2_SUDI_CA
enrollment profile ACT2_SUDI_CA
revocation-check none
!
crypto pki trustpool policy
revocation-check none
```



(注) **grant auto trustpoint** と **grant auto tp-list** は、相互に排他的です。すでに **grant auto trustpoint** を設定している場合は、**grant auto tp-list** コマンドを実行できません。

## EKU 属性を追加するための PKI サーバの設定

EKU 属性を含めるように PKI サーバを設定するには、このタスクを実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip http server**
4. **crypto pki server** *cs-label*
5. **eku request** *attribute*
6. **exit**
7. **exit**
8. **show crypto pki counters**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <b>1.</b> パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip http server</b> 例： Device(config)# ip http server	ご使用のシステムの HTTP サーバをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>crypto pki server</b> <i>cs-label</i> 例： Device(config)# crypto pki server server-pki	証明書サーバのラベルを定義し、証明書サーバコンフィギュレーション モードを開始します。  (注) 手動で RSA キー ペアを生成した場合、 <i>cs-label</i> 引数はキー ペアの名前と一致する必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>eku request attribute</b> 例 : <pre>Device(cs-server)# eku request ssh-server</pre>	証明書に指定した <i>eku attribute</i> を含めるように要求します。 <i>attribute</i> 引数には次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• client-auth</li> <li>• code-signing</li> <li>• email-protection</li> <li>• ipsec-end-system</li> <li>• ipsec-tunnel</li> <li>• ipsec-user</li> <li>• ocsip-signing</li> <li>• server-auth</li> <li>• time-stamping</li> <li>• ssh-server</li> <li>• ssh-client</li> </ul>
ステップ 6	<b>exit</b> 例 : <pre>Device(cs-server)# exit</pre>	cs-server コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>exit</b> 例 : <pre>Device(config)# exit</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>show crypto pki counters</b> 例 : <pre>Device# show crypto pki counters</pre>	(任意) デバイスの PKI カウンタを表示します。

### 例

次に、**show crypto pki counters** の出力例を示します。

```
Device# show crypto pki counters
```

```
PKI Sessions Started: 0
PKI Sessions Ended: 0
PKI Sessions Active: 0
Successful Validations: 0
Failed Validations: 0
```

```

Bypassed Validations: 0
Pending Validations: 0
CRLs checked: 0
CRL - fetch attempts: 0
CRL - failed attempts: 0
CRL - rejected busy fetching: 0
OCSP - fetch requests: 0
OCSP - received responses: 0
OCSP - failed attempts: 0
OCSP - staple requests: 0
AAA authorizations: 0

```

## PKI 証明書登録要求の設定例

### 証明書登録または自動登録の設定例

次の例では、「mytp-A」証明書サーバおよび関連付けられたトラストポイントの設定を示します。この例では、トラストポイントの初期の自動登録によって生成された RSA キーが USB トークン「usbtoken0」に保管されます。

```

crypto pki server mytp-A
  database level complete
  issuer-name CN=company, L=city, C=country
  grant auto
! Specifies that certificate requests will be granted automatically.
!
crypto pki trustpoint mytp-A
  revocation-check none
  rsa-keypair myTP-A
  storage usbtoken0:
! Specifies that keys will be stored on usbtoken0:.
  on usbtoken0:

```

! Specifies that keys generated on initial auto enroll will be generated on and stored on ! usbtoken0:

### 自動登録の設定例

次の例では、自動ロールオーバーをイネーブルにして、ルータが起動時に自動的に CA に登録されるように設定する方法、および必要なすべての登録情報を設定に指定する方法を示します。

```

crypto pki trustpoint trustpt1
  enrollment url http://trustpt1.example.com//
  subject-name OU=Spiral Dept., O=example.com
  ip-address ethernet-0
  serial-number none
  usage ike
  auto-enroll regenerate
  password password1
  rsa-key trustpt1 2048
!
crypto pki certificate chain trustpt1
certificate pki 0B

```

```

30820293 3082023D A0030201 0202010B 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
79310B30 09060355 04061302 5553310B 30090603 55040813 02434131 15301306
0355040A 130C4369 73636F20 53797374 656D3120 301E0603 55040B13 17737562
6F726420 746F206B 6168756C 75692049 50495355 31243022 06035504 03131B79
6E692D75 31302043 65727469 66696361 7465204D 616E6167 6572301E 170D3030
30373134 32303536 32355A17 0D303130 37313430 31323834 335A3032 310E300C
06035504 0A130543 6973636F 3120301E 06092A86 4886F70D 01090216 11706B69
2D343562 2E636973 636F2E63 6F6D305C 300D0609 2A864886 F70D0101 01050003
4B003048 024100B3 0512A201 3B4243E1 378A9703 8AC5E3CE F77AF987 B5A422C4
15E947F6 70997393 70CF34D6 63A86B9C 4347A81A 0551FC02 ABA62360 01EF7DD2
6C136AEB 3C6C3902 03010001 A381F630 81F3300B 0603551D 0F040403 02052030
1C060355 1D110415 30138211 706B692D 3435622E 63697363 6F2E636F 6D301D06
03551D0E 04160414 247D9558 169B9A21 23D289CC 2DDA2A9A 4F77C616 301F0603
551D2304 18301680 14BD742C E892E819 1D551D91 683F6DB2 D8847A6C 73308185
0603551D 1F047E30 7C307AA0 3CA03AA4 38303631 0E300C06 0355040A 13054369
73636F31 24302206 03550403 131B796E 692D7531 30204365 72746966 69636174
65204D61 6E616765 72A23AA4 38303631 0E300C06 0355040A 13054369 73636F31
24302206 03550403 131B796E 692D7531 30204365 72746966 69636174 65204D61
6E616765 72300D06 092A8648 86F70D01 01040500 03410015 BC7CECF9 696697DF
E887007F 7A8DA24F 1ED5A785 C5C60452 47860061 0C18093D 08958A77 5737246B
0A25550A 25910E27 8B8B428E 32F8D948 3DD1784F 954C70
quit

```



**Note** この例では、キーは再生もロールオーバーもされません。

## 証明書自動登録とキー再生の設定例

次の例では、ルータが起動時に「trustme1」という CA に自動的に登録され、自動ロールオーバーがイネーブルになるように設定する方法を示します。**regenerate** キーワードが発行されるため、自動ロールオーバープロセスが開始されると、新しいキーが証明書に対して生成され、再発行されます。更新パーセンテージが 90 に設定されているため、証明書の有効期間が 1 年の場合は、古い証明書が失効する 36.5 日前に新しい証明書が要求されます。実行コンフィギュレーションを変更しても、NVRAM に書き込まないかぎり自動登録によって NVRAM が更新されないため、実行コンフィギュレーションの変更は NVRAM スタートアップコンフィギュレーションに保存されます。

```

crypto pki trustpoint trustme1
 enrollment url http://trustme1.example.com/
 subject-name OU=Spiral Dept., O=example.com
 ip-address ethernet0
 serial-number none
 auto-enroll 90 regenerate
 password password1
 rsakeypair trustme1 2048
 exit
crypto pki authenticate trustme1
copy system:running-config nvram:startup-config

```

## カットアンドペーストによる証明書登録の設定例

次の例では、カットアンドペーストによる手動での登録方式を使用して、証明書登録を設定する方法を示します。



```

Router(config)#
crypto pki trustpoint TP
Router(ca-trustpoint)#
enrollment terminal
Router(ca-trustpoint)#
crypto pki authenticate TP
Enter the base 64 encoded CA certificate.
End with a blank line or the word "quit" on a line by itself
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIICNDCCAd6gAwIBAgIQOsCmXpVHwodKryRoqULV7jANBgkqhkiG9w0BAQUFADA5
MQswCQYDVQQGEwJVUzEWMBQGA1UEChMNQ2l2Y28gU3lzdGVtczESMBAGA1UEAxMJ
bXNjYS1yb290MB4XDTAyMDEwNDYwMVoXDTEwMDA3MDIxNDAwNTQ0OFowOTELMAkG
A1UEBhMCVVMxZjAUBGNVBAoTDUNpc2NvIFN5c3RlbnRlYXNjaQBgNVBAMTCW12Y2E
cm9vdDBcMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA0sAMEgCQQCix8nIGFg+wvy3BjFbVi25wYoG
K2N0HWHWpQxFuFhgyBnIC00shIn9CtrdN3JvUNHr0NIKocEwNKUGYmPwWGTfAgMB
AAGjycEwgb4wCwYDVR0PBAQDAgHGMMA8GA1UdEwEB/wQFMAMBAF8wHQYDVR0OBBYE
FKIacsl6dKAfuNDVQym1Sp7esf8jMG0GA1UdHwRmMGQwL6AtoCuGKWh0dHA6Ly9t
c2NhLXJvb3QvQ2VydEVucm9sbFxtc2NhLXJvb3QuY3JsMDGgI6AthitmaWx1Oi8v
XFxtc2NhLXJvb3RcQ2VydEVucm9sbFxtc2NhLXJvb3QuY3JsMBAGCSsGAQQBgjcV
AQQDAgEAMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA0EAeuZkZXMx9qkoLHfEYTPVWjZPQbBmWnRA
oJDSdYdtL3BcI/uLL5q7EmODyGfLyMGxuhQYx5r/40aSQGLCqBq+yg==
-----END CERTIFICATE-----

Certificate has the following attributes:
Fingerprint: D6C12961 CD78808A 4E02193C 0790082A
% Do you accept this certificate? [yes/no]:
y
Trustpoint CA certificate accepted.
% Certificate successfully imported
Router(config)#
crypto pki enroll TP
% Start certificate enrollment..
% The subject name in the certificate will be:
Router.example.com
% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]:
n
% Include an IP address in the subject name? [no]:
n
Display Certificate Request to terminal? [yes/no]:
y
Signature key certificate request -
Certificate Request follows:
MIIBhTCB7wIBADAlMSMwIQYJKoZIhvcNAQkCFhRTYW5kQmFnZ2VyLmNpc2NvLmNv
bTBcnzANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOBjQAwYkCgYEAEaxdhXFdiWan/hIZs9zfotssKA
daowYU0ms9Fe/Pew01dh14vXdxgacstOs2Pr5wk6jL0PxpvxOJFPwYQM6ipLmyVxv
ojhyLTrVohrh6Dnqcvk+G/5ohss9o9RxxvONwx042pQchFnx9EkMuZC7evwRxEqR
mBHXBZ8GmP3jYQsjs8MCAwEAAAhMB8GCSqGSIb3DQEJDjESMBAwDgYDVR0PAQH/
BAQDAgeAMA0GCSqGSIb3DQEBBAUA4GBAMT6WtyFw95P0y7UteF+YIYHiVRUF4SCq
hRIAGr1jUePlo9iTqyPU1Pnt8JnIZ5P5BHU3MfgP8sqodaWub6mubkzaoHJ1qD06
O87fnLCnid5Tov5jKogFHIki2EGGZxBosUw91JlenQdNddPbJc5LIWdfDvciA6jO
Nl8rOtKnt8Q+
!
!
!
Redisplay enrollment request? [yes/no]:
Encryption key certificate request -
Certificate Request follows:
MIIBhTCB7wIBADAlMSMwIQYJKoZIhvcNAQkCFhRTYW5kQmFnZ2VyLmNpc2NvLmNv
bTBcnzANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOBjQAwYkCgYEAwG60QojpDbzbKnyj8FyTiOcv
THKDP7XD4vLT1XaJ409z0gSIOGnIcdFtXhVlBwtpq3/09zYFXr1tH+BMCRqi3Lts
0IpxYa3D9iFPqev7SPXpsAISy8a6FMq7TiWLOBqiQjLKL4cbuV0Frj10Yuv5A/Z+
kqMOM7c+pWNWFdLe9lScAwEAAAhMB8GCSqGSIb3DQEJDjESMBAwDgYDVR0PAQH/
BAQDAgUgMA0GCSqGSIb3DQEBBAUA4GBACF7feURj/fJMoJpBlR6fa9Br1MJx+2F
H91YM/Ciiz2n4mHTeWTKhLoT8wUfa9NGOK7yi+nF/F7035twLfq6n2bSCTW4aem

```

```

8jLMmaeFwxkrV/ceQKrucmNCluVx+fBy9rhnKx8j60XE25tnp1U08r6om/pBQABU
eNPFhozcaQ/2
!
!
!
Redisplay enrollment request? [yes/no]:
n
Router(config)#
crypto pki import TP certificate
Enter the base 64 encoded certificate.
End with a blank line or the word "quit" on a line by itself
MIIDajCCAxSgAwIBAgIKFN7C6QAAAAAMRzANBgkqhkiG9w0BAQUFADA5MQswCQYD
VQQGEwJVUzEWMBQGA1UEChMNQ21zY28gU31zdGVtczESMBAGA1UEAxMJbXNjYs1y
b290MB4XDTAyMDYwODAxMjY0MloXDTAzMDYwODAxMjY0MlowJTEjMCEGCSqGSIB3
DQEJAhMUU2FuZEJhZ2dldci5jaXNjby5jb20wgZ8wDQYJKoZIhvcNAQEBBQADgY0A
MIGJAoGBAMXYVxQ41gJ/4SGbPc3zrbLCgHWqFmLtJrPRXvz3sNNXYdeL13cYGnLL
TrNj6+cJ0oyzj8ab8TiT1skD0oqS5slcb6I4ci061aIa4eg56nL5Phv+aIbLPaPU
cbzjcMdOnQUHIRZ8fRJDLMQu3r8EcSRKkZgr1wWfBpj942ELI0vDagMBAAGjggHM
MIIBYDALBgNVHQ8EBAMCB4AwHQYDVR0OBBYEF8Quz8dyz4EGIEKx9A8UMNHLE4s
MHAGA1UdIwRpmGeAFKIacs16dKAFuNDVQymlSp7esf8joT2kOzA5MQswCQYDVQQG
EwJVUzEWMBQGA1UEChMNQ21zY28gU31zdGVtczESMBAGA1UEAxMJbXNjYs1yb290
ghA6wKZelUfCh0qvJGipQtXuMCIGA1UdEQEB/wQYMBaCFFNhbmcRCYWdnZXIuY21z
Y28uY29tMG0GA1UdHwRmMGQwL6AtoCuGKWh0dHA6Ly9tc2NhLXJvb3QvQ2VydEVu
cm9sbC9tc2NhLXJvb3QuY3J5sMDGg6L6AthitmaWx1Oi8vXFxtc2NhLXJvb3RcQ2Vy
dEVucm9sbFxtc2NhLXJvb3QuY3J5sMIGUBggrBgEFBQcBAQSBhzCBhDA/BggrBgEF
BQcwoAoYzaHR0cDovL21zY2Etc9vdC9DZXJ0RW5yb2xsL21zY2Etc9vdF9tc2Nh
LXJvb3QuY3J0MEEGCCsGAQUFBzAChjVmaWx1Oi8vXFxtc2NhLXJvb3RcQ2VydEVu
cm9sbFxtc2NhLXJvb3RfbXNjYs1yb290LmNydDANBgkqhkiG9w0BAQUFAANBAJo2
r6sHPGBdTX2EDoJpR/A2UHXXRYqVSHkFKZw0z31r5JzUM0oPNUETV7mnZ1YNVRZ
CSEX/G8boi3WQjz9wZo=
% Router Certificate successfully imported
Router(config)#
crypto pki import TP cert
Enter the base 64 encoded certificate.
End with a blank line or the word "quit" on a line by itself
MIIDajCCAxSgAwIBAgIKFN7OBQAAAAAMSDANBgkqhkiG9w0BAQUFADA5MQswCQYD
VQQGEwJVUzEWMBQGA1UEChMNQ21zY28gU31zdGVtczESMBAGA1UEAxMJbXNjYs1y
b290MB4XDTAyMDYwODAxMjY0NVoXDTAzMDYwODAxMjY0NVowJTEjMCEGCSqGSIB3
DQEJAhMUU2FuZEJhZ2dldci5jaXNjby5jb20wgZ8wDQYJKoZIhvcNAQEBBQADgY0A
MIGJAoGBAMButEKI6Q282yp8o/Bck4jnL0x5Az+1w+Ly09V2ieNpc9IEiKBpyHHR
bV4VZQVraat/zvc2BV69bR/gTAKUITy7bNCKcWGtw/YhT6nr+0j16bACLPGGuhTK
u04sCzm6okIyyi+HG7ldBa45dGLr+QP2fpKjDpu3PgVjVhXS3vZbAgMBAAGjggHM
MIIBYDALBgNVHQ8EBAMCBSAwHQYDVR0OBBYEFDPD029oRdlEUSgBMg6jZR+YFRW1j
MHAGA1UdIwRpmGeAFKIacs16dKAFuNDVQymlSp7esf8joT2kOzA5MQswCQYDVQQG
EwJVUzEWMBQGA1UEChMNQ21zY28gU31zdGVtczESMBAGA1UEAxMJbXNjYs1yb290
ghA6wKZelUfCh0qvJGipQtXuMCIGA1UdEQEB/wQYMBaCFFNhbmcRCYWdnZXIuY21z
Y28uY29tMG0GA1UdHwRmMGQwL6AtoCuGKWh0dHA6Ly9tc2NhLXJvb3QvQ2VydEVu
cm9sbC9tc2NhLXJvb3QuY3J5sMDGg6L6AthitmaWx1Oi8vXFxtc2NhLXJvb3RcQ2Vy
dEVucm9sbFxtc2NhLXJvb3QuY3J5sMIGUBggrBgEFBQcBAQSBhzCBhDA/BggrBgEF
BQcwoAoYzaHR0cDovL21zY2Etc9vdC9DZXJ0RW5yb2xsL21zY2Etc9vdF9tc2Nh
LXJvb3QuY3J0MEEGCCsGAQUFBzAChjVmaWx1Oi8vXFxtc2NhLXJvb3RcQ2VydEVu
cm9sbFxtc2NhLXJvb3RfbXNjYs1yb290LmNydDANBgkqhkiG9w0BAQUFAANBAHaU
hyCwLirUghNxcmLzXR7C3W1j0kSX7a4fX9OxKR/Z2SoMjdmNPPyApuh8SoT2zBP
ZKjZU2WjczG/nZF4W5k=
% Router Certificate successfully imported

```

証明書が正常にインポートされたかどうかを確認するには、**show crypto pki certificates** コマンドを発行します。

```

Router# show crypto pki certificates
Certificate
  Status: Available
  Certificate Serial Number: 14DECE05000000000C48

```

```

Certificate Usage: Encryption
Issuer:
  CN = TPCA-root
  O = Company
  C = US
Subject:
  Name: Router.example.com
  OID.1.2.840.113549.1.9.2 = Router.example.com
CRL Distribution Point:
  http://tpca-root/CertEnroll/tpca-root.crl
Validity Date:
  start date: 18:16:45 PDT Jun 7 2002
  end   date: 18:26:45 PDT Jun 7 2003
  renew date: 16:00:00 PST Dec 31 1969
Associated Trustpoints: TP
Certificate
Status: Available
Certificate Serial Number: 14DEC2E9000000000C47
Certificate Usage: Signature
Issuer:
  CN = tpca-root
  O = company
  C = US
Subject:
  Name: Router.example.com
  OID.1.2.840.113549.1.9.2 = Router.example.com
CRL Distribution Point:
  http://tpca-root/CertEnroll/tpca-root.crl
Validity Date:
  start date: 18:16:42 PDT Jun 7 2002
  end   date: 18:26:42 PDT Jun 7 2003
  renew date: 16:00:00 PST Dec 31 1969
Associated Trustpoints: TP
CA Certificate
Status: Available
Certificate Serial Number: 3AC0A65E9547C2874AAF2468A942D5EE
Certificate Usage: Signature
Issuer:
  CN = tpca-root
  O = Company
  C = US
Subject:
  CN = tpca-root
  O = company
  C = US
CRL Distribution Point:
  http://tpca-root/CertEnroll/tpca-root.crl
Validity Date:
  start date: 16:46:01 PST Feb 13 2002
  end   date: 16:54:48 PST Feb 13 2007
Associated Trustpoints: TP

```

## キー再生を使用した手動での証明書登録の設定例

次の例では、「trustme2」という名前の CA から手動で証明書を登録して、新しいキーを再生する方法を示します。

```

crypto pki trustpoint trustme2
enrollment url http://trustme2.example.com/
subject-name OU=Spiral Dept., O=example.com
ip-address ethernet0

```

```

serial-number none
regenerate
password password1
rsakeypair trustme2 2048
exit
crypto pki authenticate trustme2
crypto pki enroll trustme2

```

## 永続的自己署名の証明書の作成および検証例

次の例では、「local」という名前のトラストポイントを宣言して登録し、IPアドレスを含む自己署名証明書を生成する方法を示します。

```

crypto pki trustpoint local
  enrollment selfsigned
end
configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
crypto pki enroll local
Nov 29 20:51:13.067: %SSH-5-ENABLED: SSH 1.99 has been enabled
Nov 29 20:51:13.267: %CRYPTO-6-AUTOGEN: Generated new 512 bit key pair
% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]: yes
% Include an IP address in the subject name? [no]: yes
Enter Interface name or IP Address[: ethernet 0
Generate Self Signed Router Certificate? [yes/no]: yes
Router Self Signed Certificate successfully created

```



**Note** ルータに設定できる自己署名証明書は1つだけです。自己署名証明書がすでに存在する場合には、別の自己署名証明書用に設定されたトラストポイントを登録しようとする時、通知が表示され、自己署名証明書を置き換えるかどうか尋ねられます。置き換える場合は、新しい自己署名証明書が生成され、既存の自己署名証明書と置き換えられます。

## HTTPS サーバのイネーブル化の例

次の例では、以前に HTTPS サーバが設定されていなかったため、HTTPS サーバをイネーブルにし、デフォルトのトラストポイントを生成する方法を示します。

```

configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ip http secure-server
% Generating 1024 bit RSA keys ...[OK]
*Dec 21 19:14:15.421:%PKI-4-NOAUTOSAVE: Configuration was modified. Issue "write memory"
to save new certificate
Router(config)#

```



**Note** 自己署名証明書を保持し、次にルータをリロードしたときに HTTPS サーバをイネーブルにする場合は、コンフィギュレーションを NVRAM に保存する必要があります。

次のメッセージも表示されます。

```
*Dec 21 19:14:10.441:%SSH-5-ENABLED:SSH 1.99 has been enabled
```



**Note** 自己署名証明書で使用されたキー ペアを作成すると、Secure Shell (SSH) サーバが起動します。この動作は抑制できません。ご使用のアクセスコントロールリスト (ACL) を変更して、ルータへの SSH アクセスを許可または拒否できます。 **ip ssh rsa keypair-name *unexisting-key-pair-name*** コマンドを使用し、SSH サーバをディセーブルにできます。

## 自己署名証明書設定の検証例

次の例では、作成した自己署名証明書に関する情報を表示します。

```
Router# show crypto pki certificates
Router Self-Signed Certificate
  Status: Available
  Certificate Serial Number: 01
  Certificate Usage: General Purpose
  Issuer:
    cn=IOS-Self-Signed-Certificate-3326000105
  Subject:
    Name: IOS-Self-Signed-Certificate-3326000105
    cn=IOS-Self-Signed-Certificate-3326000105
  Validity Date:
    start date: 19:14:14 GMT Dec 21 2004
    end date: 00:00:00 GMT Jan 1 2020
  Associated Trustpoints: TP-self-signed-3326000105
```



**Note** 上記の 3326000105 という数値はルータのシリアル番号で、これはルータの実際のシリアル番号によって異なります。

次の例では、自己署名証明書に対応するキー ペアに関する情報を表示します。

```
Router# show crypto key mypubkey rsa
% Key pair was generated at: 19:14:10 GMT Dec 21 2004
Key name: TP-self-signed-3326000105
Usage: General Purpose Key
Key is not exportable.
Key Data:
  30819F30 0D06092A 864886F7 0D010101 05000381 8D003081 89028181 00B88F70
  6BC78B6D 67D6CFF3 135C1D91 8F360292 CA44A032 5AC1A8FD 095E4865 F8C95A2B
  BFD1C2B7 E64A3804 9BBD7326 207BD456 19BAB78B D075E78E 00D2560C B09289AE
  6DECB8B0 6672FB3A 5CDAEE92 9D4C4F71 F3BCB269 214F6293 4BA8FABF 9486BCFC
  2B941BCA 550999A7 2EFE12A5 6E7B669A 2D88AB77 39B38E0E AA23CB8C B7020301 0001
% Key pair was generated at: 19:14:13 GMT Dec 21 2004
Key name: TP-self-signed-3326000105.server
Usage: Encryption Key
Key is not exportable.
Key Data:
  307C300D 06092A86 4886F70D 01010105 00036B00 30680261 00C5680E 89777B42
  463E5783 FE96EA9E F446DC7B 70499AF3 EA266651 56EE29F4 5B003D93 2FC9F81D
  8A46E12F 3FBAC2F3 046ED9DD C5F27C20 1BBA6B9B 08F16E45 C34D6337 F863D605
  34E30F0E B4921BC5 DAC9EBBA 50C54AA0 BF551BDD 88453F50 61020301 0001
```



```

+r0o12fS3CGgY000+FINs3qw4h8H8xfmsc5cs81JCIBzGJhMTXq6u4Ecp+N1AgMB
AAGjUTBPMAsGAlUdDwQEAWIBhjAPBgNVHRMBAf8EBTADAQH/MB0GAlUdDgQWBbTb
zvfa7aNZspz3GwJcVkdIKO8KFTAQBgkrBgEEAYI3FQEEAwIBADANBgkqhkiG9w0B
AQsFAAOCAQEAgTIPtauHsPp7h1v/iFXkbVv1aG708/IaJG0sCr0f9/nsfM9H00Jm
LP+twy5KkFa7I6u4vMlMlfNyujS60Fqnr3m8UJCy2SkYVw1GrBddN+BQbnkZ460M
sYfaynFBsvsbmmaLEqUQ3t9cmNCskXoda+FffYFTwAUBFzV66BGKpn6Y7oyIghF5
NLjjgWPVmRy7RKM4IKe9J0+oEmnugwtdfHgiFdX+d6qPovjbApj2j6N4+Cv6qHDO
/c+wUXRz08eFNOqHNJipk700XMrUh4UaWmM/CYA9E1sjjSAWhB14ii/+fiaILw
xgof+2mmIzafzFZz+eVf5kgwpV07G1ZlNg==
-----END CERTIFICATE-----
quit
Certificate has the following attributes:
    Fingerprint MD5: 99182E1E 96FB0595 DF86BFCE 3C781CF5
    Fingerprint SHA1: 6E55B878 9AA3B603 D689AC25 F027615E 0C88E6E4

% Do you accept this certificate? [yes/no]: yes

Authenticating SUB-CA without having to specify or accept the fingerprint.

(config)#crypto pki trustpoint SUB-CA
(ca-trustpoint)#enrollment url http://<SUBCA_IP/FQDN>:80/certsrv/mscep/mscep.dll
(ca-trustpoint)#chain-validation continue ROOT-CA
(ca-trustpoint)#revocation-check none

(ca-trustpoint)#crypto pki authenticate SUB-CA
Certificate has the following attributes:
    Fingerprint MD5: 5C38CB0A 050AAE87 84A08A75 5F7084B8
    Fingerprint SHA1: EB829470 B8B9E26E 4457F346 7A3E957C C623C6F9
Certificate validated - Signed by existing trustpoint CA certificate.

Trustpoint CA certificate accepted.

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
USB トークンによる RSA 処理 : USB トークンを使用するメリット	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Storing PKI Credentials」モジュール
USB トークンによる RSA 処理 : 証明書サーバの設定	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Configuring and Managing a Cisco IOS Certificate Server for PKI Deployment」項  「Generating a Certificate Server RSA Key Pair」項、 「Configuring a Certificate Server Trustpoint」項、および関連する例を参照してください。
PKI の概要 (RSA キー、証明書登録、および CA を含む)	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Cisco IOS PKI Overview: Understanding and Planning a PKI」モジュール

関連項目	マニュアルタイトル
安全なデバイスプロビジョニング：機能概要および設定作業	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Setting Up Secure Device Provisioning (SDP) for Enrollment in a PKI」項
RSA キーの生成および展開	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Deploying RSA Keys Within a PKI」モジュール
Cisco IOS 証明書サーバの概要および設定作業	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Configuring and Managing a Cisco IOS Certificate Server for PKI Deployment」モジュール
USB トークンの設定および使用	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Storing PKI Credentials」モジュール
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
Suite-B の ESP トランスフォーム	『Configuring Security for VPNs with IPsec』 フィーチャ モジュール
Suite-B SHA-2 ファミリ (HMAC バリエーション) および Elliptic Curve (EC) キーペアの設定。	『Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs』 フィーチャ モジュール
Suite-B 整合性アルゴリズムタイプのトランスフォームの設定	『Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2)』 フィーチャ モジュール
IKEv2 用の Suite-B の Elliptic Curve Digital Signature Algorithm (ECDSA) signature (ECDSA-sig) 認証方式の設定	『Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2)』 フィーチャ モジュール
IPsec SA ネゴシエーションでの Suite-B の Elliptic Curve Diffie-Hellman (ECDH) のサポート	『Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs』 および 『Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2)』 フィーチャ モジュール
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>



## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 149: Cisco TrustSec の概要の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。





## CHAPTER 113

# PKI への登録のための Secure Device Provisioning の設定

この章では、公開キーインフラストラクチャ（PKI）で Secure Device Provisioning（SDP）を使用する方法を説明します。SDP は、Cisco IOS クライアントと Cisco IOS 証明書サーバなど、2つのエンドデバイス間で PKI を簡単に配置できる、Web ベースの証明書登録インターフェイスです。エンドデバイスは、配置やプロビジョニングの時点ではネットワークに直接接続されていたり、されていない場合があります。SDP は、多数のピア デバイスを導入するユーザに（証明書および設定を含む）ソリューションを提供します。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

- PKI への登録のための Secure Device Provisioning（SDP）の設定の前提条件, on page 1411
- PKI への登録のための Secure Device Provisioning（SDP）の設定に関する情報, on page 1413
- PKI への登録のための Secure Device Provisioning（SDP）の設定方法, on page 1440
- PKI への登録のための Secure Device Provisioning（SDP）の設定例, on page 1459
- その他の参考資料, on page 1469
- PKI への登録のための Secure Device Provisioning（SDP）の設定に関する機能情報, on page 1470

## PKI への登録のための Secure Device Provisioning（SDP）の設定の前提条件

### PKI への登録のための SDP の設定

SDP を設定する前に、次の要件を満たす必要があります。

- ペティショナのデバイスとサーバは、互いに IP 接続されている必要があります。

- イン트로デューサには、JavaScript をサポートする Web ブラウザが必要です。
- イン트로デューサは、クライアントデバイスで特権をイネーブルにしておく必要があります。
- Cisco IOS リリース 12.3(8)T PKI 対応イメージまたは以降のイメージ。

### USB トークンを使用した PKI への登録のための SDP の設定

USB トークンを活用してデバイスを SDP にプロビジョニングするには、ご使用の環境が次の要件を満たしている必要があります。

- ペティショナのデバイスとサーバの両方とも、互いに IP 接続されている必要があります。
- イン트로デューサには、JavaScript をサポートする Web ブラウザが必要です。
- イン트로デューサは、クライアントデバイスで特権をイネーブルにしておく必要があります。
- イン트로デューサは、ペティショナのデバイスにアクセスできなければなりません。
- イン트로デューサは、設定されている場合は、USB トークンと PIN にアクセスできなければなりません。
- Cisco IOS リリース 12.4(15)T PKI 対応イメージまたは以降のイメージ。



**Note** Cisco IOS リリース 12.4(15)T 以降のリリースは、USB トークンに保管されたログイン情報を移動できる柔軟性を備えています。ただし、USB トークンの設定に使用したデバイスは任意の Cisco IOS リリース 12.3(14)T PKI 対応イメージまたは以降のイメージを実行できます。

### サービス プロバイダー経由のインターネット接続に対する SDP を使用したデバイスの設定

SDP を活用してインターネットに接続されていないデバイスを設定するには、ご使用の環境が次の要件を満たしている必要があります。

- イン트로デューサには、JavaScript をサポートする Web ブラウザが必要です。
- イン트로デューサは、クライアントデバイスで特権をイネーブルにしておく必要があります。
- DHCP クライアントおよび PPPoE クライアントをサポートし、LAN または WAN インターフェイスが設定されている Cisco ルータ。
- Cisco IOS リリース 12.4(20)T PKI 対応イメージまたは以降のイメージ。前回の Cisco IOS リリースがいずれかのデバイスで使用されている場合、SDP 機能はデフォルトで以前の Cisco IOS バージョンになります。

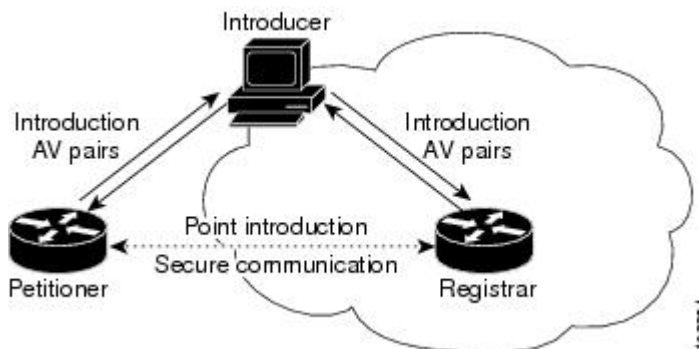
# PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定に関する情報

## SDP の概要

SDP (「Trusted Transitive Introduction (TTI)」とも呼ばれている) は、新しいネットワークデバイスと仮想プライベートネットワーク (VPN) の間といった2つのエンドエンティティ間の双方向導入を実現する通信プロトコルです。SDPには次の3つのエンティティが必要です (次の図を参照)。

- **イントロデューサ**：ペティショナをレジストラに紹介する、相互に信頼できるデバイス。イントロデューサは、システム管理者などのデバイス ユーザの場合があります。
  - イントロデューサは、管理イントロデューサとして設定できます。これにより紹介を行っている管理者は、紹介中のデバイスの名前を提供できます。提供されたデバイス名は、通常の SDP メカニズムにおいてイントロデューサの名前のよう使用され、SDP 設定の既存機能を保持します。管理イントロデューサの機能の詳細については、「[管理イントロデューサの認証リストと認可リスト, on page 1425](#)」を参照してください。
- **ペティショナ**：セキュアネットワークに紹介されるクライアント、あるいは新しいデバイス。
- **レジストラ**：ペティショナを認証するサーバー。レジストラは、証明書サーバの場合があります。

Figure 37: 紹介後のセキュア通信



Cisco IOS リリース 12.4(20)T 以降のリリースの時点では、ペティショナにあらかじめインターネット接続を確立しなくても、SDPプロセスを起動できます。予備接続段階と接続段階を利用することで、サービスプロバイダ経由のインターネット接続に対してペティショナを設定できます。予備接続段階と接続段階の詳細については、[SDPの機能, on page 1414](#)を参照してください。

レジストラは、外部認証、許可、アカウントिंग（AAA）サーバと直接通信し、ペティショナのクレデンシャルを確認し、登録を許可または拒否して、特定のペティショナ設定情報を取得します。ペティショナとレジストラは、エンドユーザであるイントロデューサへ Web ページを配信します。ペティショナは、イントロデューサの Web ブラウザを使用してリモート管理システムからブートストラップ設定を受信します。

SDP は、予備接続（任意）、接続、開始（任意）、ようこそ、紹介、および完了の可能な 6 つの段階により Web ブラウザ上に実装されます。各段階は、Web ページを通してユーザに表示されます。各段階の詳細については、[SDP の機能, on page 1414](#) を参照してください。

## SDP の機能

ここでは、SDP が 2 つのデバイス間で PKI を展開する方法について説明します。

- [SDP 予備接続段階, on page 1414](#)
- [SDP 接続段階, on page 1416](#)
- [SDP スタティック段階, on page 1418](#)
- [SDP ようこそ段階, on page 1419](#)
- [SDP 紹介段階, on page 1419](#)
- [SDP 完了段階, on page 1420](#)

SDP プロセスは、イントロデューサにより Web ブラウザにロードされている 3 つの入口ページのいずれかで起動します。3 つの入口ページは、管理者から受信した SDP 予備接続段階、レジストラからロードされた開始段階、ペティショナからロードされたようこそ段階です。

サンプル図では、ローカル デバイス（ペティショナ）をレジストラのセキュア ドメインに紹介する方法を示しています。「イントロデューサ」は、エンドユーザーとも呼ばれます。

### SDP 予備接続段階

予備接続ページはオプションです。予備接続ページがない場合、ペティショナは IP 接続を確立しておく必要があります。

管理者は予備接続テンプレートを設定し、予備接続ページをイントロデューサに送信する必要があります。詳細については、[デフォルトの予備接続テンプレート, on page 1431](#) を参照してください。

また管理者は、電話、E メール、セキュア E メール、CD、または USB トークンでセキュアネットワークのユーザ名とパスワードを取得し、イントロデューサに連絡する必要があります。レジストラは、既存の AAA インフラストラクチャ（たとえば、既存の企業ドメインの一部である既存のユーザ名とパスワードのデータベース）を使用してイントロデューサを認証するよう設定できます。SDP 予備接続段階では、一般的な AAA インフラストラクチャで使用されているようなチャレンジパスワードメカニズムがサポートされています。詳細については、[SDP による外部 AAA データベースの使用法, on page 1424](#) を参照してください。

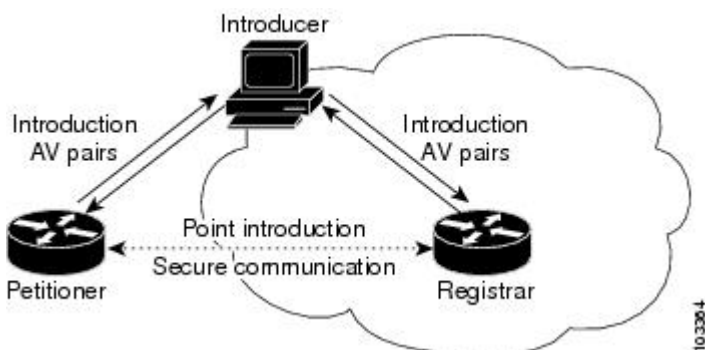
予備接続ページを受信後、イントロデューサはそのページを HTTP ブラウザが動作するコンピュータにロードする必要があります。イントロデューサが予備接続ページをローカルファイルとして HTTP ブラウザにロードすると、予備接続ページが表示されます（次の図を参照）。

Figure 38: SDP 予備接続ページのサンプル



イントロデューサが [Cisco デバイスにログオン (Log onto Cisco Device)] ボタンをクリックすると、ログインダイアログボックスが表示されます（次の図を参照）。イントロデューサは、シスコデバイスの出荷時デフォルトのユーザ名 (cisco) とパスワード (cisco) を入力します。

Figure 39: ペティシヨナ ログイン ダイアログボックスのサンプル



イントロデューサはペティシヨナを認証し、既知の URL にアクセスすることでインターネット接続をテストします。www.cisco.com (198.133.219.25) へのアクセスがデフォルトでテストされます。管理者は、デフォルト予備接続テンプレートを変更することで、URL をテスト接続用に変更できます。デフォルトテスト URL および管理者が予備接続ページに対して設定できるその他フィールドの詳細については、[デフォルトの予備接続テンプレート, on page 1431](#) の項を参照してください。



**Note** 予備接続ページに信頼できないレジストラの IP アドレスが含まれるよう変更されたり、予備接続ページが信頼できない発信元から E メール送信される可能性を減らすため、セキュア E メールなどのセキュアな方法を使用して予備接続ページを送信してください。

インターネット接続が確立されると、管理者により定義された予備接続テンプレート設定によって、開始ページまたはようこそページのいずれかが表示されます。インターネット接続が確立されていない場合は、接続ページが表示されます。

## SDP 接続段階

接続ページは、予備接続ページが使用され、予備接続ページの完了時にペティショナの IP 接続がない場合だけ表示されます。接続ページには、Cisco IOS プラットフォームに柔軟性をもたらすため Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)、Point to Point Protocol over Ethernet (PPPoE)、またはスタティック IP アドレス割り当ての 3 つの IP アドレス割り当て方法があります。



**Note** インターネット接続を確立する場合、Cisco IOS 設定では SDP 機能は使用されません。SDP 機能には Cisco IOS 設定にシグニチャがあり、送信中の値が変更されないようにします。

### DHCP IP アドレス割り当て方法

イントロデューサが IP アドレス割り当て方法オプションとしてデフォルト方法である DHCP を選択すると（次の図を参照）、[接続 (Connect)] ボタンをクリックするとペティショナのインターネット接続が設定されます。

**Figure 40:** DHCP IP アドレス割り当て方法のサンプル接続ページ



### PPPoE IP アドレス割り当て方法

イントロデューサが PPPoE を選択すると、PPPoE ユーザー名およびパスワードの入力フィールドが表示されます（次の図を参照）。イントロデューサは、インターネット サービス プロバイダー (ISP) により提供されたユーザ名とパスワードを入力し、[Connect] ボタンをクリックする必要があります。これによりペティショナのインターネット接続が設定されます。



Figure 41: PPPoE IP アドレス割り当て方法のサンプル接続ページ

SDP: Configure Internet Connection

http://10.10.10.1/ezsdd/connect

### Secure Device Provisioning Configure Internet Connection

Unable to verify a network connection between the Cisco device and the Internet.  
Perhaps the Cisco device needs to be configured to connect?

Get IP Address via:

PPPoE Username:

(in the form: 'username@company.com')

PPPoE Password:

211952

#### スタティック IP アドレス割り当て方法

イントロデューサがスタティックを選択すると、IP アドレス、ネットマスク、およびデフォルトゲートウェイの入力フィールドが表示されます（次の図を参照）。イントロデューサは、ISP により提供された設定値を入力し、[Connect] ボタンをクリックする必要があります。これによりペティショナのインターネット接続が設定されます。

Figure 42: スタティック IP アドレス割り当て方法の接続ページ

SDP: Configure Internet Connection

http://10.10.10.1/ezsdd/connect

### Secure Device Provisioning Configure Internet Connection

Unable to verify a network connection between the Cisco device and the Internet.  
Perhaps the Cisco device needs to be configured to connect?

Get IP Address via:

IP Address:

Netmask:

Default Gateway:

211953

#### 接続ページ IP アドレス設定

IP アドレス設定後、予備接続テンプレートで管理者により設定された既知の URL（デフォルトで www.cisco.com）にアクセスすることで、インターネット接続を再度テストします。これでインターネット接続が確立されると、管理者により定義された予備接続テンプレート設定によって、開始ページまたはようこそページのいずれかが表示されます。インターネット接続が確立されない場合、イントロデューサは入力された設定を確認するか、管理者に連絡します。

## SDP スタティック段階

開始ページはオプションです。SDP 交換中に開始ページがない場合、ようこそページで [次へ (Next)] ボタンをクリックすると、ユーザーはレジストラの紹介ページに送信されます。ユーザーはまだレジストラに接続していないので、使用可能な資格情報を使用して（レジストラを設定するたびに）レジストラにログインする必要があります。ユーザーがログインデータを入力した後では、レジストラに再接続できないブラウザもあります。Cisco IOS Release 12.4(4)T の時点では、ユーザーは、開始ページからレジストラの紹介 URL に連絡することで SDP 交換を開始するようブラウザを設定できます。その後、レジストラはペティショナデバイスにあるようこそページにユーザーを送信できます。SDP トランザクションは、このマニュアルに記載されているように、ようこそ段階から紹介段階を経て、完了段階へと続きます。

レジストラから SDP トランザクションを開始するには、**template http start** コマンドを使用してブラウザを設定する必要があります。それ以外の場合、SDP トランザクションはペティショナのようこそページから始まる必要があります。[カスタム テンプレートの SDP での動作, on page 1426](#) を参照してください。

ようこそページが表示される前に、ユーザーは自分のブラウザの開始ページが URL `http://registrar/ezsdd/intro` を指すように設定する必要があります。ログインダイアログボックスが表示されると、エンドユーザーは、管理者により提供されたユーザー名とパスワードを使用してレジストラにログインし、セキュアネットワークにアクセスできます（次の図を参照）。

Figure 43: レジストラ リモート ログイン ダイアログボックス



有効なユーザー名とパスワードを入力すると、開始ページが表示されます（次の図を参照）。

Figure 44: サンプル SDP 開始ページ



ユーザーは URL `http://10.10.10.1/ezsdd/welcome` からペティショナにログインする必要があります。ようこそ段階は、開始ページでユーザーが [Next] ボタンをクリックすると開始されます。

## SDP ようこそ段階

ローカル ログイン ダイアログボックスが表示されたら（次の図を参照）、エンドユーザーは出荷時デフォルトのユーザー名（cisco）とパスワード（cisco）を使用してローカルデバイスにログインできます。ようこそページが表示されます。

Figure 45: ペティショナ ローカル ログイン ダイアログボックス



パスワードの入力に成功すると、ペティショナにより処理されるようこそ Web ページが表示されます（次の図を参照）。

Figure 46: サンプル SDP ようこそページ



ようこそ Web ページでレジストラの URL（例：http://192.0.2.155/ezsdd/intro）を入力し、[Next] ボタンをクリックすると、SDP 紹介段階が始まり、レジストラにより処理される紹介ページが表示されます。

## SDP 紹介段階

紹介ページを表示する前に、開始ページからまだログインしていない場合、エンドユーザーはレジストラにログインする必要があります（SDP スタティック段階, on page 1418 を参照）。ここで外部 AAA データベースを利用します。

外部 AAA データベースがある場合、レジストラのイネーブルパスワードを知らなくても、イントロデューサはデータベースのアカウントを使用して紹介を行うことができます。外部 AAA データベースがない場合、イントロデューサは認証のためレジストラのイネーブルパスワードを使用できます。



**Note** レジストラのイネーブルパスワードを使用すると、パスワードがエンドユーザに公開されます。したがって、イネーブルパスワードは管理テストの目的でだけ使用することを推奨します。

管理イントロデューサは、紹介ページ（または開始ページ）の HTTP 認証で識別され、AAA データベースクエリによりユーザの管理特権が戻されます。イントロデューサに管理特権がある場合、デバイス名は管理紹介ページに入力された名前になります。イントロデューサに管理特権がない場合、デバイス名はイントロデューサ名になります。既存のデバイス証明書はペティショナの現在の証明書で、製造識別証明書（MIC）の場合があります。この証明書は存在する場合も、しない場合もあります。外部 AAA データベースの機能の詳細については、[SDP による外部 AAA データベースの使用法](#), on page 1424 を参照してください。

エンドユーザがパスワードの入力に成功したら、紹介 Web ページが表示されます（次の図を参照）。

**Figure 47:** サンプル SDP 紹介ページ



この時点で、レジストラはデバイス情報を外部管理システムに渡し、ブートストラップ設定ファイルを取得します。カスタマイズされたブートストラップ設定ファイルを識別するのに利用可能なオプションの詳細については、[カスタム HTML テンプレートの展開ルール](#), on page 1427 を参照してください。

紹介ページで [Next] ボタンをクリックすると、エンドユーザは完了段階に入り、自動的に自分のデバイスに戻ります。

## SDP 完了段階

エンドユーザがペティショナをレジストラに登録したので、ペティショナは完了ページを処理します（次の図を参照）。

Figure 48: サンプル SDP 完了ページ



211958

これで SDP 交換が完了しました。ペティショナはレジストラから設定情報を受信したため、まもなくレジストラから証明書を受信するはずです。

## USB トークンを活用している SDP

SDP により極めてスケーラブルな配置が実現され、個々のデバイスまたは複数デバイスの配置が簡略化されます。USB トークンによりセキュアな保管と設定の配信が行われます。

Cisco IOS リリース 12.4(15)T 以降の時点では、USB トークンは SDP を使用して PKI ログイン情報を転送する場合に利用でき、SDP は USB トークンの設定に使用できます。USB トークンを使用して、同じ位置にあるデバイスをプロビジョニングしたり、リモートデバイスのプロビジョニングとして使用できる別の場所に USB トークンを転送できます。

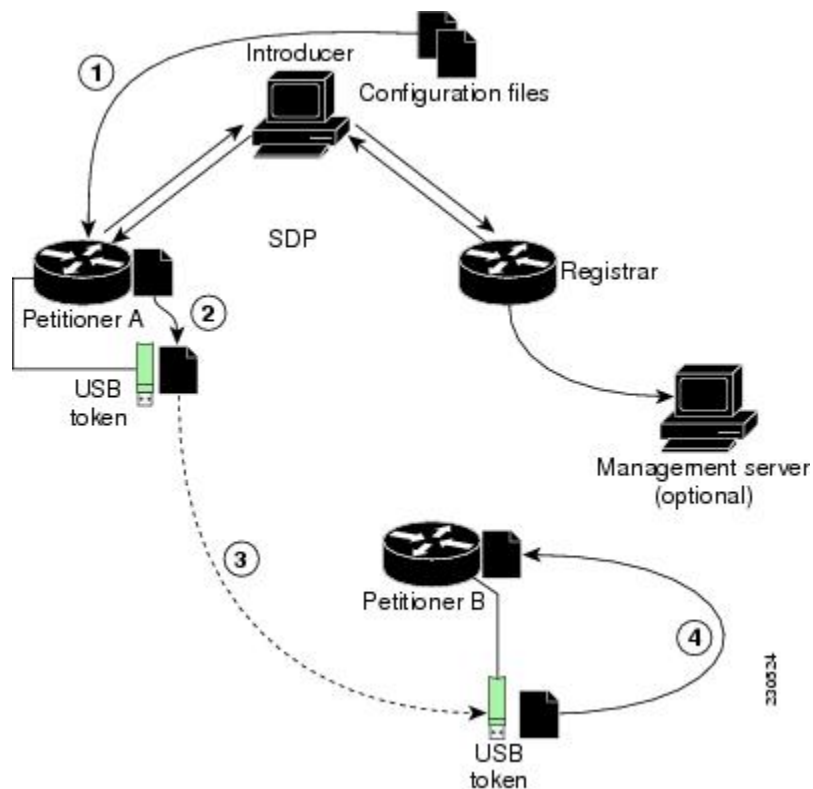
USB トークンを使用して PKI ログイン情報を転送する SDP 展開の例を次の図に示します。必要なデバイスとして、USB トークンとデバイスのプロビジョニングに必要な SDP エンティティがあります。これらの SDP エンティティは、イントロデューサ、レジストラ、ローカル位置のペティショナであるペティショナ A、リモート位置でのペティショナであるペティショナ B になります。オプションとして、管理サーバーが使用できます。



### Note

オプション設定は、1 台のデバイスをレジストラおよびペティショナ両方として設定することです。これは、USB トークンがリモート位置に転送される場合に利点があります。リモート位置では、個別のペティショナ デバイスは必要ありません。

Figure 49: USB トークンを使用したクレデンシャル転送の SDP 環境例



## SDP を使用した USB トークンの設定

SDP 導入の開始前に、USB トークンがペティショナ デバイスに挿入されます。図の設定例では、USB トークンはペティショナ A に挿入されます。ペティショナは、USB トークンにある既存の情報を無視するように設定できます。通常の SDP 操作の場合のように、USB トークンのスケラブル設定では、テンプレートの初期設定を作成し、適切なターゲット設定情報を備えた各 SDP デバイスに配置する必要があります。

デバイスのプロビジョニングに使用するファイルは、次の順番で移動します。

1. ペティショナの 1 つ、ペティショナ A はローカル位置にあります。ペティショナ A は SDP 交換に直接関わり、USB トークンの初期設定を行います。USB トークン、バイナリ ファイル、テンプレートファイルの設定に使用するファイルは、レジストラから取得され、ペティショナ A に移動します。

バイナリ ファイル位置の URL は、レジストラで展開されます。バイナリ ファイルは、テンプレート展開機能では処理されません。テンプレート展開はレジストラで、発信元 URL と宛先 URL の両方に対して行われます。

デフォルトでは、バイナリ ファイルとテンプレート ファイルは NVRAM から取得され、それぞれレジストラとペティショナに保管されます。レジストラのバイナリファイル位置とペティショナ A の宛先バイナリファイル位置は、**binary file** コマンドで指定できます。レジストラの

テンプレートファイル位置とペティショナ A の宛先テンプレートファイル位置は、**template file** コマンドで指定できます。

1. Rivest, Shamir, Adelman (RSA) キーおよび証明書チェーン情報は、ペティショナ A から USB トークンに移動します。
2. USB トークンはリモート位置に転送され、ペティショナ B に挿入されます。
3. USB トークンの設定ファイルは、ローカルデバイスのプロビジョニングに使用されます。USB トークンのファイルは、**crypto key move rsa** コマンドでペティショナ B の保管位置に移動できます。

## SDP 段階と USB トークン

「SDP の概要」で紹介された同じ SDP フェーズ概念が使用されます。SDP ようこそ段階、SDP 紹介段階、および SDP 完了段階には次のような違いがあります。

### SDP ようこそページと USB トークン

ようこそユーザ インターフェイスに接続して紹介が開始される場合、SDP ようこそ段階は通常どおり開始します。USB トークンに既存の証明書がある場合、SDP 交換に署名する場合に使用されます。ローカルな RSA キー ペアではなく、トークンの新しい RSA キー ペアが使用されます。



**Note** RSA キー ペアは、キーがトークンで生成される場合、どの場所からでも実質的に 5 分～10 分掛かります。時間の長さは、USB トークンで使用できるハードウェア キー生成により異なります。イントロデューサには、RSA キー ペアが生成されていることを示す情報 Web ページが表示されます。

ペティショナ A で生成された新しいキー ペアは、既存の RSA キー ペアを削除しなくても、USB トークンに追加されます。SDP AV ペアは、トークンが使用中であり、またトークンのセカンダリ設定情報があるかどうか両方を示します。オプションの管理サーバが使用中の場合、AV ペア情報を使用して、特殊なコンフィギュレーション コマンドが必要かどうかを判断します。

### SDP 紹介段階と USB トークン

SDP 紹介段階は、レジストラに転送中の AV ペアから開始します。レジストラにより USB トークン関連の AV ペアが検出されると、レジストラがすでに設定されている場合、レジストラは USB トークン宛ての設定情報を作成できます。現在、コンフィギュレーション コマンドは特定の設定ファイルとして送信され、引き続き実行コンフィギュレーションとマージされます。

管理者は通常の SDP コンフィギュレーション コマンドを活用して、USB トークンを設定できます。設定する必要がある USB トークン情報には、証明書、ブートストラップ設定、および PIN 番号設定があります。

## SDP 完了段階と USB トークン

完了段階の始めに、紹介はペティショナに転送中の AV ペアに移ります。指定のファイルシステム位置には各種ファイルが保管されており、既存の設定ファイル処理が行われます。この順序により、転送された新しいファイルを設定で利用できます。

## 設定された USB トークンの使用

USB トークンがペティショナ A により設定されたら、その現在位置からリモート位置へと転送されます。リモート位置には、2 番目のペティショナであるペティショナ B が配置されています。USB トークンはターゲットデバイスであるペティショナ B に挿入されます。ペティショナ B では USB トークンの設定と USB トークンの暗号素材が継承されます。リモート位置のエンドユーザには、USB トークンの PIN 番号がなければなりません。PIN 番号は、出荷時デフォルトの PN 番号、または紹介段階中に管理者が設定した PIN 番号のいずれかになります。

## SDP による外部 AAA データベースの使用

外部 AAA データベースは、SDP 交換中に 2 回アクセスされます。AAA データベースへの最初のアクセスでは、イントロデューサが認証されます。つまりレジストラで、セキュア HTTP (HTTPS) サーバー経由で紹介要求が受信されると、イントロデューサのユーザー名とパスワードに基づいて AAA 検索が行われ、要求が許可されます。AAA データベースへの 2 番目のアクセスでは、認証情報が取得され、ペティショナデバイスに発行された設定および証明書に適用されます。つまり、レジストラはペティショナが署名している証明書を使用して要求シグニチャが完全であることを確認します。証明書の題名は AAA データベースで指定でき、最大 9 つの設定テンプレート型変数を指定し、テンプレート設定にまで展開できます。

### 自己署名証明書と別の CA サーバにより発行された証明書の使用

デフォルトでは、SDP 交換の実施結果では、ペティショナデバイスに証明書が 1 枚だけ発行されます。発行される証明書は 1 枚だけですが、イントロデューサでは複数デバイスを紹介し、複数の証明書を取得する際の制限はありません。発行されている証明書の題名を指定することで、イントロデューサに関連しているすべての証明書がこのように発行されていることを保証できます。PKI AAA 統合により、さらにこれらの証明書の使用を制限できます。さらに、ユーザごとに 1 つだけ認証および認可の要求を許可するよう、AAA データベースを設定できます。

ペティショナ証明書は自己署名されているため、ペティショナの公開キーを伝送するためだけに使用されます。証明書に対する確認チェックや認可チェックは行われません。したがって、認可はユーザごとに行われ、デバイス単位の情報は使用されません。

デバイス単位の認可を使用した方が好ましい場合もあります。したがって、ペティショナが SDP トランザクションのために他の認証機関 (CA) サーバにより発行された証明書を使用できる場合、既存の PKI を使用でき、その証明書属性に対して認可を受けることができます。

証明書を使用して認可を受けるためにペティショナとレジストラを設定すると、展開中の特定のデバイスの認可が受けられます。以前は、イントロデューサとペティショナ間の通信は、イントロデューサとペティショナデバイス間の物理的なセキュリティだけでその安全が確保され



ていました。SDPの証明書を使用した認可では、レジストラは紹介を受け入れる前に、現在のデバイス IDを確認できる機会があります。

## SDP の認証および認可リスト

SDP レジストラを設定している場合に認証リストと認可リストを指定すると、レジストラではイントロデューサのすべての要求に対して、指定のリストが使用されます。認証リストは、イントロデューサを認証する場合に使用されます (AAA サーバでユーザ名とパスワードを確認して、アカウントが有効かどうか確認されます)。認可リストは、証明書題名およびペティシヨナに返信される Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) スニペットに展開されるテンプレート型変数のリストの該当認可フィールドを受信する場合に使用されます。認証リストと認可リストは通常、同じ AAA サーバリストを指しますが、認証と認可に異なるデータベースを使用できます (異なるデータベースへのファイルの保管は推奨しません)。

ペティシヨナが紹介要求をする場合、複数の照会が RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバ上の AAA リスト データベースに送信されます。照会により、次の形式のエントリが検索されます。

```
user Password <userpassword>
  cisco-avpair="ttdi:subjectname=<<DN subjectname>>"
  cisco-avpair="ttdi:iosconfig#<<value>>"
  cisco-avpair="ttdi:iosconfig#<<value>>"
  cisco-avpair="ttdi:iosconfig#<<value>>"
```



**Note** 有効な AAA ユーザ名レコードさえあれば、認証チェックを通過できます。「cisco-avpair=tti」情報は、認可チェックの場合だけ必要です。

認可応答で題名を受信した場合、SDP レジストラによりその題名は登録データベースに保管され、「subjectname」は、ペティシヨナデバイスからの以降の証明書要求 (PKCS10) で提供される題名より優先されます。

番号が付けられた「tti:iosconfig」値は、ペティシヨナに送信される SDP Cisco IOS スニペットに展開されます。設定により、あらゆる番号付き (\$1 ~ \$9) のテンプレート型変数が置き換えられます。デフォルト Cisco IOS スニペットテンプレートには変数 \$1 ~ \$9 が含まれていないため、外部 Cisco IOS スニペットテンプレートを設定しない限り、これらの変数は無視されます。外部設定を指定するには、**template config** コマンドを使用します。



**Note** テンプレート設定位置には、変数「\$n」が含まれている場合があります。この変数はユーザーがログインに使用した名前に展開されます。

## 管理イントロデューサの認証リストと認可リスト

SDP メカニズムでは、イントロデューサとデバイス間に永続的關係があることを前提としています。その結果、イントロデューサのユーザ名はデバイス名の定義に使用されます。

SDP 配置シナリオの中には、イントロデューサが多数のデバイスの紹介を行う、管理者の場合があります。ただし、イントロデューサ（管理者）名を使用してデバイス名を定義すると、複数のデバイスのデバイス名が同じになり、正しく配置されなくなります。代わりに、管理イントロデューサを使用すれば、管理者は紹介中に正しいデバイス名を指定できます。

一般的に言えば、イントロデューサのユーザ名がデータベース レコード ロケータとして使用され、Cisco IOS 設定テンプレート、（AAA データベースから取り出され、テンプレートに展開される）各種テンプレート型変数、およびデバイスに発行された PKI 証明書の該当する題名など、デバイスに関する他のすべての情報が決定されます。簡単にするため、データベース レコード ロケータはユーザ名またはデバイス名と呼びます。

管理イントロデューサは、デバイス名を提供します。そのようにして、管理者は紹介を行う場合に適切なレコード ロケータを提供できます。たとえば、管理者がユーザー名「user1」のデバイスを紹介しようとしている場合、管理者はそのデバイスを PKI ネットワークに紹介し、管理者自身のログイン情報を使用してレジストラにログインした後に、user1 をレコードロケータとして提供します。レコードロケータ user1 がデバイス名になります。紹介に固有の他のすべてのテンプレートおよび PKI 証明書の題名に関する情報が、管理者のレコードではなく、user1 ユーザー名レコードにより提供されます。

レジストラ デバイスでは、ユーザ イントロデューサ名とともに、提供されたユーザ名情報が使用されます。ユーザー名により既存のメカニズムで、変更なくサポートする必要があるユーザーの認可、テンプレート、および PKI 証明書の情報が判断できます。

## カスタム テンプレートの SDP での動作

カスタム テンプレートを使用して、SDP プロセスを簡略化できます。

- カスタム テンプレートにより、Web ページに必要な開始情報を記入できるため、イントロデューサはレジストラに連絡する必要がなくなり、SDP トランザクションを即座に開始できます。
- カスタム テンプレートにより、カスタマイズされた展開情報を Web ページに表示できるため、ユーザに合わせてユーザ エクスペリエンスを調整できます。

デフォルト テンプレートを変更すると、カスタム テンプレートを簡単に定義できます。カスタム テンプレートがない場合、イントロデューサは SDP トランザクションを開始できるための情報をレジストラに問い合わせる必要があります。デフォルトテンプレートのリストについては、[SDP トランザクション Web ページのデフォルトテンプレート, on page 1431](#) の項を参照してください。



**Note** カスタムテンプレートを設定するのは、上級の SDP ユーザーだけに限定することを推奨します。テンプレートがイントロデューサのブラウザに表示される前に、テンプレートを誤って変更してしまった場合に問題が発生するおそれがあるためです。

## カスタム テンプレート型変数の展開

テンプレートには、Cisco IOS SDP レジストラまたはペティショナにより置き換えられる展開変数があります。これらの変数は、次のように展開されます。

- \$\$ : 「\$」
- \$a : 属性と値 (AV) のペア
- \$c : 信頼できる証明書
- \$d : ブラウザのダンプ AV ペア
- \$h : ホスト名
- \$k : キーラベルまたは 「tti」
- \$l : トラストポイントラベル = 「tti」
- \$n : HTTP クライアントのユーザー名
- \$s : TTI キーのデフォルトサイズ
- \$t : トラストポイント設定
- \$u : 完了 URL
- \$1 ~ \$9 : ユーザー認証中に AAA サーバーから取得された変数

## カスタム テンプレート型変数の展開ルール

設定とテンプレートは SDP 交換中に使用されます。使用前および配布後、これらのテンプレートは、SDP 通信段階に基づき、次のルールで展開されます。

### カスタム HTML テンプレートの展開ルール

HTML テンプレートは HTTP クライアントに送信される前に、即座に展開されます。HTTP テンプレートは次のように展開されます。

- \$u : SDP 完了 URL (例 : `http://10.10.10.1/ezsdd/completion`) が入力される完了 URL。この変数は、内部「ウィザード」状態として SDP により内部的に使用されます。通常のウィザード処理のため、SDP 紹介ページには「`<FORM action="$u" method="post">`」といったようなテキストが含まれている場合があります。
- \$n : 管理イントロデューサにより入力されたイントロデューサ名またはデバイス名。
- \$\$ : \$
- \$h : ホスト名
- \$a : 指定のテンプレート文字があるないにかかわらずすべての AV ペアは、次の HTML フォーム形式に書き出されます (これらの AV ペアは「`INPUT type=hidden`」でないため、テンプレートまたは SDP プロセスのデバッグのために Web ページに直接表示されます)。

```
<INPUT type=hidden NAME="attribute string here"
value="variable string here"><BR>
```

すべての HTML テンプレートに以下のラインがなければなりません。

```
$d = dump all av pairs in: attribute = value<BR>
```

## URL テンプレートの展開ルール

設定テンプレートの発信元、ファイルテンプレートの発信元、およびファイル宛先には URL が存在します。これらの変数は、レジストラが URL を作成するとき、つまり設定またはファイルを取得する直前に展開されます。ファイル宛先については、これらの変数は、ペティショナによりファイルがファイル宛先にコピーされる直前に展開されます。

- \$\$ : \$
- \$h : ホスト名

## iPhone の導入に関する URL テンプレートの展開ルール

iPhone を導入するために、次のテンプレート展開変数が導入されました。

- \$o : チャレンジパスワード。このテンプレート文字は、SDP レジストラが Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) サーバからチャレンジパスワードを取得した後、開始段階で設定プロファイルが iPhone に送信される前に、SDP レジストラによって展開されます。
- \$i : iPhone の固有デバイス識別子 (UDID)。このテンプレート文字は、紹介段階で設定プロファイルが iPhone に送信される前に、SDP レジストラによって所有者名の CN フィールドに展開されます。
- \$p : 所有者名の差別化要因。このテンプレート文字は、CLI によって設定された値を使用して SDP レジストラによって展開されます。詳細については、[Apple iPhone を導入するための SDP レジストラの設定, on page 1449](#)を参照してください。この値は、SCEP サーバが iPhone に対して発行する 2 つの証明書を区別するために使用されます。1 つの証明書は完了段階で発行され、もう 1 つの証明書は VPN 確立段階で発行されます。この値を挿入する所有者名の部分またはフィールドを決定します。

詳細については、[PKI で SDP が Apple iPhone を導入する方法, on page 1434](#)を参照してください。

## カスタム設定およびファイルのテンプレート型変数の展開ルール

カスタム設定とファイルのテンプレート型変数は両方とも、レジストラが設定またはファイルのテンプレートを作成する場合、またペティショナが設定またはファイルのテンプレートを受信する場合に展開されます。

### カスタム設定とファイルのテンプレート型変数のレジストラでの展開ルール

レジストラが設定またはファイルのテンプレートを展開する場合、Cisco IOS CA により次の変数が使用されます。これらの変数は、SDP ウィザードで送信前に展開されます。

- \$\$ : \$

- \$h : ホスト名
- \$t : クライアントで展開されるよう \$l、\$k、および \$ を組み込んだ単純なトラストポイントデフォルト設定
- \$1 ~ \$9 : ユーザー認証中に AAA サーバーから取得された変数（ファイルテンプレートには適用されない）

### カスタム設定とファイルのテンプレート型変数のペティショナでの展開ルール

ペティショナが設定またはファイルのテンプレートを展開する場合、次の変数が展開されます。

- \$\$ : \$
- \$h : ホスト名
- \$k : キーラベル
- \$l : トラストポイントラベル
- \$s : キーのサイズ
- \$c : 証明書チェーンに展開
- \$n : ユーザー名に展開（ファイルテンプレートには適用されない）

### カスタム設定 HTTP テンプレート型変数の展開ルール

カスタム設定 HTTP テンプレートにより、バックエンド コモン ゲートウェイ インターフェイス (CGI) スクリプトに柔軟性が与えられ、外部管理システムと統合されます。テンプレート URL は、レジストラが外部管理システムからブートストラップ設定を受信する前に、HTTP テンプレートを展開することで実行されます。デバイス情報に基づいて特定のブートストラップ設定ファイルが見つかるようにするため、デバイス名 (\$n) は URL に展開され、外部管理システムへと渡されます。



**Note** 表示される HTML テキストの変更だけ行う必要があります。既存の展開変数、Javascript、およびデフォルトテンプレートの形式は、テンプレートのカスタマイズ時には削除しないでください。これらのは SDP が正しく動作するために必要な情報です。

HTTP テンプレートの展開と **template config** コマンドにより、次のいずれかのファイルタイプを指定して、カスタマイズブートストラップ構成ファイルを取得できます。

- デバイス名を使用した構成ファイル（例：template config http://myserver/\$n-config-file.conf）
- デバイス名を使用した CGI スクリプト（例：template config http://myserver/cgi-bin/mysdpcgi post）

Cisco IOS リリース 12.4(6)T の時点で、ブートストラップ設定がデバイス名だけでなく、タイプ、Cisco IOS 現行バージョン情報、および現行の設定で識別できるよう CGI サポートが拡張されました。この機能では、**post** キーワードにより **template config** コマンドが拡張されています。このキーワードはレジストラに、HTTP または HTTPS プロトコルだけを使用した CGI スクリプトによってこの追加デバイス情報を外部管理システムに送信するよう指示します。

レジストラにより、AV ペア (\$a) を使用してデバイス情報が外部管理システムに渡されます。AV ペア情報を使用して、管理システムは適切なブートストラップ設定ファイルを識別し、レジストラに返信します。カスタマイズブートストラップ構成ファイルを識別するため、拡張 CGI サポートにより送信される追加 AV ペアを次の表に示します。

**Table 150: HTTP** ポスト中に外部管理システムに送信される AV ペア

AV ペア	説明
TTIFixSubjectName	AAA_AT_TTI_SUBJECTNAME (レلم認証ユーザがレジストラでルートユーザでない場合だけ送信)
TTIIosRunningConfig	<b>show running-config brief</b> の出力
TTIKeyHash	デバイス公開キー上で計算されるダイジェスト
TTIPrivilege	AAA_AT_TTI_PRIVILEGE : ユーザーが管理者の場合は「admin」、ユーザーが管理者でない場合は「user」が送信されます (レلم認証ユーザーが管理者で AAA サーバーから情報が利用できる場合だけ送信)
TTISignature	UserDeviceName および TTISignCert を除く AV ペアすべてで計算されるダイジェスト
TTISignCert	デバイスの現在の証明書 (デバイスに現在証明書がある場合だけ送信)
TTITemplateVar	AAA_AT_TTI_IOSCONFIG (1-9) (レلم認証ユーザがレジストラでルートユーザでない場合だけ送信)
TTIUserName	デバイス名
TTIVersion	TTI バージョンのレジストラ
UserDeviceName	管理イントロデューサにより入力されたデバイス名 (レلم認証ユーザーが管理者の場合だけ送信)



**Note** レジストラでは Cisco IOS リリース 12.4 (6) T が実行され、**template config** コマンドは **post** キーワードを指定して発行する必要があります。また、*url* 引数には HTTP または HTTPS のいずれかが含まれている必要があります。拡張 CGI テンプレート機能にはその他のプロトコルはサポートされていません (例: FTP)。

## SDP トランザクション Web ページのデフォルト テンプレート

SDP トランザクション Web ページにはそれぞれ、次のデフォルトテンプレートが存在します。

- [デフォルトの予備接続テンプレート, on page 1431](#)
- [デフォルト開始ページテンプレート, on page 1432](#)
- [デフォルトようこそページテンプレート, on page 1433](#)
- [デフォルト紹介ページテンプレート, on page 1433](#)
- [デフォルト管理紹介ページテンプレート, on page 1433](#)
- [デフォルト完了ページテンプレート, on page 1433](#)

### デフォルトの予備接続テンプレート

予備接続テンプレートは、ユーザの環境に応じた値を含めるよう、管理者により変更できます。予備接続ページのフォーマットも、テンプレートに含まれている設定により変更できます。

管理者がカスタマイズする必要があるレジストラの IP アドレスを除き、予備接続テンプレートは次に示すように使用できます。

```
<html><head><title>
SDP: Test Internet Connection</title></head>
<noscript><b>
If you see this message, your browser is not running JavaScript,<br>
which is required by Cisco Secure Device Provisioning.<br>
If you cannot enable JavaScript, please contact your system administrator.
<br><br></b></noscript>
<body style="background-color: rgb(204, 255, 255);">
<div style="text-align: center;"><big><big>
Secure Device Provisioning</big><br>
Test Internet Connection</big><br><br>
<form action="http://10.10.10.1/ezsdd/connect" method="post">
<input type="submit" value="Log onto Cisco Device"><br><br>
Default username/password is cisco/cisco.
<input type="hidden" name="TTIAfterConnectURL" value="http://10.10.10.1/ezsdd/welcome">
<!-- Note, that for the below, 198.133.219.25 = www.cisco.com. -->
<input type="hidden" name="TTIConnectTestURL" value="http://198.133.219.25">
<input type="hidden" name="TTIInsideAddr" value="10.10.10.1">
<input type="hidden" name="TTIlanport" value="Vlan1">
<input type="hidden" name="TTIwanport" value="FastEthernet4">
</form></div></body></html>
```

### 非表示 HTML 形式フィールド

非表示 HTML 形式フィールドにより、初期設定情報が管理者により設定されたとおりにブラウザに送信されますが、署名はされていません。



**Note** 「非表示」という用語は、イントロデューサができるだけ混乱しないよう、これらの HTML 形式フィールドが予備接続ページに表示されないことを示します。

管理者は、次の表に示すように、予備接続テンプレートの非表示 HTML 形式フィールドを設定できます。

**Table 151:** 予備接続段階中に送信される管理者が定義した AV ペア

AV ペア	説明
TTIAfterConnectURL	管理者は、TTIAfterConnectURL フィールドをようこそページの URL または開始ページの URL のいずれかに設定できます。ようこそページの URL は、ペティショナの出荷時デフォルト IP アドレスに指定されています。接続後 URL は、インターネット接続確立後に SDP が使用されない場合に任意の有効な URL になることができます。
TTIConnectTestURL	管理者は、TTIConnectTestURL フィールドを、インターネット接続確立時にアクセスできるはずの有効な URL に設定できます。予備接続テンプレートのデフォルト値は、www.cisco.com (198.133.219.25) です。
TTIInsideAddr	管理者は、TTIInsideAddr フィールドをペティショナの出荷時デフォルト IP アドレスに設定できます。Cisco 871 ISR の場合は、IP アドレスは 10.10.10.1 です。
TTIlanportx	管理者は、TTIlanportx フィールドをペティショナプラットフォームの LAN インターフェイスに設定できます。このフィールドは、Cisco IOS 接続設定の適用に使用できます。Cisco 871 の場合は、フィールド値は「Vlan1」になります。
TTIwanport	管理者は、TTIwanport フィールドをペティショナの WAN インターフェイス名に設定できます。このフィールドは、Cisco IOS 接続設定の適用に使用できます。Cisco 871 の場合は、フィールド値は「FastEthernet4」になります。



**Note** 接続テンプレートはカスタマイズできません。

## デフォルト開始ページ テンプレート

```
<html><head><title>EZ-Secure Device Deployment Start page on $h</title></head>
<NOSCRIPT><B>
If you see this message, your browser is not running JavaScript.<BR>
Cisco Secure Device Deployment requires JavaScript.<BR> Please contact
your system administrator.<BR><BR></B></NOSCRIPT>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
function submit_to_url(form) {
form.action=form.TTIWelcomeURL.value;return true;}</SCRIPT>
<B>Welcome to Cisco Secure Device Deployment Server $h</B> <FORM action="" method="post"
onSubmit="return submit_to_url(this)"> Your
device:<BR> <INPUT type="text" name="TTIWelcomeURL" size=80 value=""><BR><BR> <INPUT
type="submit" value="Next"><BR>
$a</FORM></html>
```



## デフォルトようこそページ テンプレート

```

<html><head><title>EZ-Secure Device Deployment WELCOME to $h</title></head>
<NOSCRIPT><B>
If you see this message, your browser is not running JavaScript.<BR>
Cisco Secure Device Deployment requires JavaScript.<BR> Please contact
your system administrator.<BR><BR></B></NOSCRIPT>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
function submit_to_url(form){
natURL=location.href.split("/");
localURL=form.TTICompletionURL.value.split("/");
if(natURL[2]!=localURL[2]){
form.TTICompletionURL.value=localURL[0]+"//"+natURL[2]+"/"
+"/"+localURL[3]+
"/"+localURL[4];}
form.action=form.vpnserviceurl.value;
return true;}</SCRIPT>
<B>Welcome to Cisco Secure Device Deployment for $h</B> <FORM action="" method="post"
onSubmit="return submit_to_url (this)">
To join a Virtual Private Network (VPN) enter the web<BR> site URL
provided by your network administrator:<BR> <INPUT type="text" name="vpnserviceurl"
size=80 value=""><BR><BR><INPUT type="submit" value="Next"><BR> $a</FORM></html>

```

## デフォルト紹介ページ テンプレート

```

<html><head><title>EZ-Secure Device Deployment INTRODUCTION to $h</title>
</head><B>Welcome to the VPN network gateway on $h</B> <FORM action="$u"
method="post"> Your 'username' and 'password' entered
have been accepted.<BR> Your device will now be allowed to
automatically join the VPN network.<BR> <BR>Press Next to complete
automatic configuration of your VPN Device.<BR> <BR><INPUT type="submit"
value="Next"><BR> $a</P></FORM></html>

```

## デフォルト管理紹介ページ テンプレート

```

<html><head><title>EZ-Secure Device Deployment ADMINISTRATIVE
INTRODUCTION to $h</title></head> <NOSCRIPT><B> If you see this
message, your browser is not running JavaScript.<BR> Cisco Secure
Device Deployment requires JavaScript.<BR> Please contact your system
administrator.<BR><BR></B></NOSCRIPT>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
function submit_to_url(form){
form.introadminurl.value=location.href+"/admin";
form.action=form.introadminurl.value;
return true;}</SCRIPT>
<B>Welcome to the VPN network gateway on $h</B> <FORM action="" method="post"
onSubmit="return submit_to_url (this)"> Your
administrator 'username' and 'password' entered have been
accepted.<BR> Please provide the name to be associated with this
device:<BR> <INPUT type="text" name="userdevicename" size=64 value=""><BR><BR>
<INPUT type="submit" value="Next"><BR> <INPUT type="hidden" name="introadminurl"
value=""><BR>
$a</FORM></html>

```

## デフォルト完了ページ テンプレート

```

<html><head><title>EZ-Secure Device Deployment COMPLETE on $h</title></head>
<B>Now enrolling $h with the VPN network...</B><BR> Full network VPN
access should be available in a moment.<BR><BR> $d<BR></html>

```

## 設定ファイルのデフォルトテンプレート

デフォルト設定のテンプレートを示します。このデフォルト設定ファイルは、設定テンプレートが指定されていない、または **template config** コマンドが **post** キーワードを指定せずに発行されている場合に使用されます。デフォルト設定テンプレートの使用方法の詳細については、[UsingConfigurationTemplateFile](#) の例, [on page 1466](#)を参照してください。

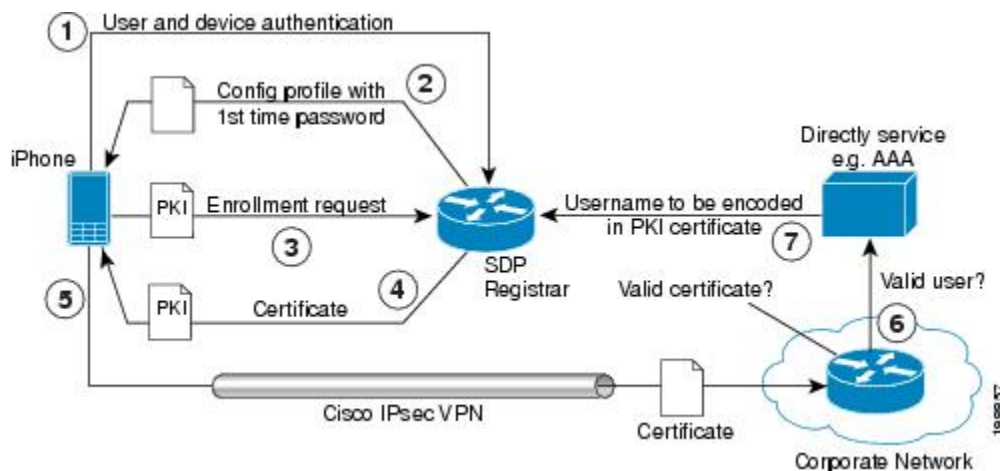
```
$t
!
$c
!
end
```

## PKI で SDP が Apple iPhone を導入する方法

Cisco IOS 15.1(2)T および Apple iPhone OS 3.0 リリースが導入されたため、Cisco IOS ネットワークデバイスで Apple iPhone がサポートされるようになりました。Cisco IOS ルータは SDP レジストラを使用して iPhone を導入し、IPSec VPN、SCEP サーバ、および PKI 証明書の導入テクノロジーを使用してネットワークアプリケーションに安全にアクセスできるようにします。

Apple iPhone では、XML ベースの「設定プロファイル」の配布と証明書の初期導入を組み合わせることで実行します。SDP はこれらの初期の証明書を使用してエンタープライズアプリケーションへのアクセスを認証し、その後のプロファイルの配布を暗号化します。SDP は、iPhone にデジタル証明書を配布する際に、この登録ソリューションを使用します。

Figure 50: PKI での SDP レジストラによる iPhone の導入



## PKI での SDP レジストラによる Apple iPhone の導入段階

ここでは、PKI で SDP レジストラが iPhone を導入する場合の各段階について説明します。

### SDP 導入開始段階

次のステップでは、SDP 導入開始段階について説明します。



**Note** SDP 導入開始段階は、『Apple iPhone Enterprise Deployment Guide』（[http://manuals.info.apple.com/en\\_US/Enterprise\\_Deployment\\_Guide.pdf](http://manuals.info.apple.com/en_US/Enterprise_Deployment_Guide.pdf)）で説明する「Begin Enrollment」段階（またはフェーズ 1）と同じです。

## SUMMARY STEPS

1. iPhone ユーザは Safari ブラウザを開き、開始ページの HTTPS URL を入力します。たとえばこの HTTPS URL は、社内のネットワーク アドレスなどです。SDP レジストラの HTTPS ページによってプロセスが開始されます。
2. ユーザは、ユーザ名とパスワードを入力して Cisco ルータとの認証を開始します。Cisco ルータは SDP レジストラとして動作します。
3. SDP レジストラは SCEP サーバに接続し、チャレンジパスワードを取得します。
4. SDP レジストラは、チャレンジパスワード、SCEP サーバの URL、および iPhone 属性の要求で構成される設定プロファイルを XML 形式で作成します。SCEP サーバの URL は登録要求の送信に使用され、iPhone デバイスの属性は RSA キーを生成する際に iPhone によって使用されます。
5. iPhone ユーザは、設定ファイルを iPhone にインストールして、SDP 開始段階を終了します。

## DETAILED STEPS

### Procedure

- ステップ 1** iPhone ユーザは Safari ブラウザを開き、開始ページの HTTPS URL を入力します。たとえばこの HTTPS URL は、社内のネットワーク アドレスなどです。SDP レジストラの HTTPS ページによってプロセスが開始されます。
- ステップ 2** ユーザは、ユーザ名とパスワードを入力して Cisco ルータとの認証を開始します。Cisco ルータは SDP レジストラとして動作します。
- ステップ 3** SDP レジストラは SCEP サーバに接続し、チャレンジパスワードを取得します。
- ステップ 4** SDP レジストラは、チャレンジパスワード、SCEP サーバの URL、および iPhone 属性の要求で構成される設定プロファイルを XML 形式で作成します。SCEP サーバの URL は登録要求の送信に使用され、iPhone デバイスの属性は RSA キーを生成する際に iPhone によって使用されます。

次の例は、SDP 導入開始段階で SDP レジストラが iPhone に送信する設定プロファイルを示しています。

### Example:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE plist PUBLIC "-//Apple Inc//DTD PLIST 1.0//EN" "http://
www.apple.com/DTDs/PropertyList-1.0.dtd">
<plist version="1.0">
<dict>
<key>PayloadContent</key>
<dict>
```

```

<key>URL</key>
<string>https://profileserver.example.com/iphone</string>
<key>DeviceAttributes</key>
<array>
<string>UDID</string>
<string>IMEI</string>
<string>ICCID</string>
<string>VERSION</string>
<string>PRODUCT</string>
</array>
<key>Challenge</key>
<string>optional challenge</string>

```

**ステップ 5** iPhone ユーザは、設定ファイルを iPhone にインストールして、SDP 開始段階を終了します。

## SDP 導入ようこそ段階

SDP 導入ようこそ段階は iPhone には適用されません。これは、イントロデューサ（Safari Web ブラウザなど）が SDP ペティショナ（iPhone）で実行されるためです。

## SDP 導入紹介段階

次のステップでは、SDP 導入紹介段階について説明します。



**Note** SDP 導入紹介段階は、「デバイス認証」段階に相当します。

## SUMMARY STEPS

1. iPhone は、要求されたデバイス属性情報とチャレンジパスワードを含む HTTPS POST を設定プロファイルとしてトリガーします。HTTPS POST は、SDP 導入開始段階で取得した設定プロファイルに指定されている HTTPS の URL に送信されます。これは、SDP 導入紹介段階の URL である必要があります。POST データは Apple 社が発行した証明書（組み込みの ID）を使用して iPhone によって署名されます。そしてこの署名が確認され、ID が確認され、デバイス属性が確認されます。
2. iPhone によって送信された UDID は SDP レジストラによって取得され、所有者名に追加されます。その後、SDP レジストラによって取得されたデバイス属性は、これが本当に受け入れられるデバイスのタイプであるかどうかを判断するために使用されます。たとえばネットワーク管理者は、3GS の iPhone のみをネットワークで使用できるように許可します。これは、iPhone 3GS にはハードウェアに暗号化された保管場所があるためです。取得されたデバイス属性によって、SDP レジストラは 3GS の iPhone と 3G の iPhone を区別できます。
3. SDP レジストラは、SCEP サーバの HTTP URL、登録要求で送信される所有者名（UDID を含む）、キーのサイズ、キーのタイプ、キーの使用状況、およびチャレンジパスワードで構成された設定プロファイルを作成して応答します。開始段階がスキップされた場合、SDP レジストラは SCEP サーバに接続し、チャレンジパスワードを取得します。SDP レジストラが所有者名とチャレンジパスワードを取得する方法の詳細については、[iPhone の導入に関する URL テンプレートの展開ルール（1428 ページ）](#) を参照してください。

## DETAILED STEPS

### Procedure

- ステップ 1** iPhone は、要求されたデバイス属性情報とチャレンジパスワードを含む HTTPS POST を設定プロファイルとしてトリガーします。HTTPS POST は、SDP 導入開始段階で取得した設定プロファイルに指定されている HTTPS の URL に送信されます。これは、SDP 導入紹介段階の URL である必要があります。POST データは Apple 社が発行した証明書（組み込みの ID）を使用して iPhone によって署名されます。そしてこの署名が確認され、ID が確認され、デバイス属性が確認されます。
- ステップ 2** iPhone によって送信された UDID は SDP レジストラによって取得され、所有者名に追加されます。その後、SDP レジストラによって取得されたデバイス属性は、これが本当に受け入れられるデバイスのタイプであるかどうかを判断するために使用されます。たとえばネットワーク管理者は、3GS の iPhone のみをネットワークで使用できるように許可します。これは、iPhone 3GS にはハードウェアに暗号化された保管場所があるためです。取得されたデバイス属性によって、SDP レジストラは 3GS の iPhone と 3G の iPhone を区別できます。

次の例は、SDP 導入紹介段階で iPhone が送信する設定プロファイルを示しています。

#### Example:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE plist PUBLIC "-//Apple//DTD PLIST 1.0//EN" "http://www.apple.com/
  DTDs/PropertyList-1.0.dtd">
<plist version="1.0">
<dict>
<key>UDID</key>
<string></string>
<key>VERSION</key>
<string>7A182</string>
<key>MAC_ADDRESS_EN0</key>
<string>00:00:00:00:00:00</string>
<key>CHALLENGE</key>
either:
  <string>String</string>
or:
  <data>"base64 encoded data"</data>
</dict>
</plist>
```

- ステップ 3** SDP レジストラは、SCEP サーバの HTTP URL、登録要求で送信される所有者名（UDID を含む）、キーのサイズ、キーのタイプ、キーの使用状況、およびチャレンジパスワードで構成された設定プロファイルを作成して応答します。開始段階がスキップされた場合、SDP レジストラは SCEP サーバに接続し、チャレンジパスワードを取得します。SDP レジストラが所有者名とチャレンジパスワードを取得する方法の詳細については、[iPhone の導入に関する URL テンプレートの展開ルール, on page 1428](#)を参照してください。

**Note** SDP レジストラでは RSA のキータイプのみをサポートしています。

次の例は、SDP 導入紹介段階で SDP レジストラが送信する設定プロファイルを示しています。

#### Example:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

```

<!DOCTYPE plist PUBLIC "-//Apple Inc//DTD PLIST 1.0//EN" "http://
www.apple.com/DTDs/PropertyList-1.0.dtd">
<plist version="1.0">
<dict>
<key>PayloadContent</key>
<dict>
<key>URL</key>
<string>https://iphone.vpn.apple.com/pkifooobar.exe</string>
<key>Name</key>
<string>instance_for_getcacert_call</string>
<key>Subject</key>
<array>
<array>
<array>
<string>0</string>
<string>Apple Inc.</string>
</array>
</array>
<array>
<array>
<string>CN</string>
<string>Foo</string>
</array>
</array>
</array>
<key>Challenge</key>
<string>CHALLENGE</string>
<key>Keysize</key>
<integer>1024</integer>
<key>Key Type</key>
<string>RSA</string>
<key>Key Usage</key>
<integer>5</integer>
</dict>
<key>PayloadDescription</key>
<string>Provides device encryption identity</string>
<key>PayloadUUID</key>
<string>fd8a6b9e-0fed-406f-9571-8ec98722b713</string>
<key>PayloadType</key>
<string>com.apple.security.scep</string>
<key>PayloadDisplayName</key>
<string>Encryption Identity</string>
<key>PayloadVersion</key>
<integer>1</integer>
<key>PayloadOrganization</key>
<string>Apple Inc.</string>
<key>PayloadIdentifier</key>
<string>com.apple.encrypted-profile-service</string>
</dict>
</plist>

```

## SDP 導入ポスト紹介段階

次のステップでは、SDP 導入ポスト紹介段階について説明します。



**Note** SDP 導入ポスト紹介段階は、『[http://manuals.info.apple.com/en\\_US/Enterprise\\_Deployment\\_Guide.pdf](http://manuals.info.apple.com/en_US/Enterprise_Deployment_Guide.pdf) Apple iPhone Enterprise Deployment Guide』で説明する「Certificate Installation」段階（またはフェーズ3）と同じです。

## SUMMARY STEPS

1. iPhone は、SDP 導入紹介段階で SDP レジストラから取得した SCEP 情報を含む設定プロファイルの指定をインストールします。
2. iPhone はプロファイルに指定された指示に従ってキーを生成し、HTTP URL がプロファイルに指定されている SCEP サーバに登録要求とチャレンジパスワードを送信します。
3. SCEP サーバはチャレンジパスワードを確認し、iPhone にデジタル証明書を発行します。
4. ユーザはこの証明書を iPhone にインストールし、Cisco IPsec VPN を使用して会社のネットワークに接続できます。

## DETAILED STEPS

### Procedure

- ステップ 1** iPhone は、SDP 導入紹介段階で SDP レジストラから取得した SCEP 情報を含む設定プロファイルの指定をインストールします。
- ステップ 2** iPhone はプロファイルに指定された指示に従ってキーを生成し、HTTP URL がプロファイルに指定されている SCEP サーバに登録要求とチャレンジパスワードを送信します。
- ステップ 3** SCEP サーバはチャレンジパスワードを確認し、iPhone にデジタル証明書を発行します。
- ステップ 4** ユーザはこの証明書を iPhone にインストールし、Cisco IPsec VPN を使用して会社のネットワークに接続できます。

**Note** この証明書は、VPN の設定などの会社のその他の設定や Wi-Fi の設定のダウンロードに使用することもできます。

## SDP 導入第二紹介段階

次のステップでは、SDP 導入第二紹介段階について説明します。



**Note** SDP 展開第2導入段階は、『[http://manuals.info.apple.com/en\\_US/Enterprise\\_Deployment\\_Guide.pdf](http://manuals.info.apple.com/en_US/Enterprise_Deployment_Guide.pdf) Apple iPhone Enterprise Deployment guide』で説明する「Device Configuration」段階（またはフェーズ4）と同じです。

## SUMMARY STEPS

1. iPhone は、次の場合を除き SDP 導入紹介段階を繰り返します。
2. SDP レジストラは、VPN の設定、Wi-Fi の設定、および電子メールの設定などの会社の一般的な設定を含む設定プロファイルを使用して応答します。また、VPN の確立に使用する別の証明書の SCEP の設定も含まれます。

## DETAILED STEPS

### Procedure

**ステップ 1** iPhone は、次の場合を除き SDP 導入紹介段階を繰り返します。

- iPhone の POST データにチャレンジパスワードが含まれていない。
- SDP 導入ポスト紹介段階で、SCEP サーバから取得した証明書を使用して、iPhone が POST データに署名している。

**ステップ 2** SDP レジストラは、VPN の設定、Wi-Fi の設定、および電子メールの設定などの会社の一般的な設定を含む設定プロファイルを使用して応答します。また、VPN の確立に使用する別の証明書の SCEP の設定も含まれます。

### 2回目のSDP導入ポスト紹介段階

2回目のSDP導入ポスト紹介段階は、SDP導入ポスト紹介段階と同じです。iPhoneは、2回目のSDP導入紹介段階でSDPレジストラが提供するSCEPの設定に基づいて証明書要求を生成し、SCEPサーバに登録します。

### SDP 導入完了段階

SDP 導入完了段階は iPhone には適用されません。これは、イントロデューサ（Safari Web ブラウザなど）が SDP ペティショナ（iPhone）で実行されるためです。

## PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定方法

ここでは、ご使用の PKI に対して SDP を設定する場合に従う次の手順について説明します。レジストラは、レジストラ設定作業のいずれかだけにしたがって設定できます。

### SDP ペティショナのイネーブル化

ペティショナをイネーブルまたはディセーブルにし、トラストポイントを SDP 交換に関連付ける場合にこの作業を行います。



またこの作業で、証明書および特定のトラストポイントに関連付けられた RSA キーを使用するようペティショナを設定できます。



**Note** ペティショナは、暗号イメージを含むシスコデバイスではデフォルトでイネーブルにされています。したがって、以前にペティショナをディセーブルにしたことがあったり、自動生成されたトラストポイントではなく、既存のトラストポイントを使用する場合は、**crypto provisioning petitioner** コマンドを発行するだけです。



**Note** デフォルトでは、SDP ペティショナ デバイスでは既存の証明書が使用されます。複数の証明書および特定の証明書が1つ存在する場合は、どちらか選択するためにこの作業を行います。ただし、デフォルト動作をイネーブルにする場合にはこの作業は必要ありません。

### Before you begin

- **iphttpserver** コマンドを使用して HTTP サーバーをイネーブルにする必要があります (HTTP サーバは通常、多数の Cisco IOS 設定ではデフォルトでイネーブルにされています)。
- 証明書および RSA キーを使用するようペティショナを設定している場合、SDP ペティショナデバイスには既存の製造業者の証明書または第三者の証明書がなければなりません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto provisioning petitioner**
4. 次のいずれかを実行します。
  - **trustpoint trustpoint-label**
5. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Router# configure terminal	
ステップ 3	<p><b>crypto provisioning petitioner</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto provisioning petitioner</pre>	<p>SDP ペティショナデバイスの動作を変更できるようにし、tti-petitioner コンフィギュレーション モードを開始します。</p> <p><b>Note</b> Cisco IOS リリース 12.3(14)T では、<b>crypto provisioning petitioner</b> コマンドが <b>crypto wui tti petitioner</b> コマンドに置き換えられました。</p>
ステップ 4	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>trustpoint trustpoint-label</b></li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(tti-petitioner)# trustpoint mytrust</pre> <p><b>Example:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>trustpoint signing trustpoint-label</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(tti-petitioner)# trustpoint signing mytrust</pre>	<p>(任意) ペティショナとレジストラ間でSDP交換と関連付けるトラストポイントを指定します。</p> <p><b>Note</b> このコマンドが発行されないと、<i>trustpoint-label</i> 引数には自動的に「tti」のラベルが付きます。</p> <p>(任意) SDP 交換中にすべての紹介データに署名する場合に使用されるトラストポイントと関連証明書を指定します。</p>
ステップ 5	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(tti-petitioner)# end</pre>	<p>(任意) tti-petitioner コンフィギュレーション モードを終了します。</p>

## トラブルシューティングのヒント

SDP 交換が完了したら、「tti」という新しいトラストポイントラベルができあがります。トラストポイントは、自動的に証明書サーバ（レジストラ）に登録されます。トラストポイントが実際に存在することを確認するには、**show running-config** コマンドを使用します。

## 次の作業

証明書と特定のトラストポイントに関連付けられた RSA キーを使用するようペティショナを設定する場合、「証明書を使用した認可のための SDP レジストラのイネーブル化」の作業で示されている方法で、レジストラを設定する必要があります。

## SDP レジストラのイネーブル化と AAA リストのサーバへの追加

レジストラをイネーブルにし、証明書サーバを SDP 交換と関連付ける場合にこの作業を行います。

また、認証リストと認可リストを RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバに追加する場合にもこの作業を行うことができます。

## 前提条件

レジストラを設定する前に、次の作業を実行します。

- HTTP サーバまたは HTTPS サーバをイネーブルにします。



### Note

HTTPS サーバをイネーブルにする前に、標準の HTTP サーバが設定されている場合は、それをディセーブルにする必要があります。HTTP サーバをディセーブルにするには、**no ip http server** コマンドを使用します。HTTPS サーバをイネーブルにするには、**ip http secure-server** コマンドの後に **ip http secure-trustpoint** コマンドを発行する必要があります。指定のトラストポイントは、レジストラとユーザーのブラウザ間の HTTPS 通信に適切なレジストラ ローカルトラストポイントです。

- **crypto pki server** コマンドを使用して、Cisco IOS 証明書サーバを設定します。

AAA リストを設定する場合、次の作業を完了するだけでなく、レジストラに必要な前提条件を完了する必要があります。

- ユーザ情報を AAA サーバデータベースに追加します。RADIUS サーバまたは TACACS+ AAA サーバを設定するには、『*Cisco IOS Security Configuration Guide*』の「Configuring RADIUS」および「Configuring TACACS+」の章を参照してください。
- 新しい AAA リストを設定します。AAA リストを設定するには、『*Cisco IOS Security Configuration Guide*』の「Configuring RADIUS」、「Configuring TACACS+」、「Configuring Authentication」、および「Configuring Authorization」を参照してください。

## 機能制限

### Cisco IOS CA デバイスの要件

SDP プロセス中、Cisco IOS CA 証明書はピア デバイスに自動的に発行されます。SDP レジストラが第三者のベンダーの CA デバイスで設定されている場合、SDP プロセスは動作しません。

## template config コマンド

Cisco IOS 設定変数は9つあります。設定でさらに柔軟性が必要な場合、**template config** コマンドを使用して、イントロデューサに固有の設定テンプレートを参照できます。設定の柔軟性の詳細については、「[カスタム設定およびファイルのテンプレート型変数の展開ルール, on page 1428](#)」を参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto provisioning registrar**
4. **pki-server** *label*
5. **authentication list** *list-name*
6. **authorization list** *list-name*
7. **template username** *name* **password** *password*
8. **template config** *url* [**post**]
9. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto provisioning registrar</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto provisioning registrar	デバイスを SDP 交換のレジストラになるよう設定し、tti-registrar コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> Cisco IOS リリース 12.3(14)T では、 <b>crypto provisioning registrar</b> コマンドが <b>crypto wui tti registrar</b> コマンドに置き換えられました。
ステップ 4	<b>pki-server</b> <i>label</i> <b>Example:</b>  Router(tti-registrar)# pki-server mycs	ペティショナとレジストラ間で SDP 交換と関連付ける証明書サーバを指定します。
ステップ 5	<b>authentication list</b> <i>list-name</i> <b>Example:</b>  Router (tti-registrar)# authentication list authen-tac	(任意) SDP 交換でイントロデューサを認証します。
ステップ 6	<b>authorization list</b> <i>list-name</i> <b>Example:</b>  Router (tti-registrar)# authorization list author-rad	(任意) 証明書の題名およびペティショナに返信される Cisco IOS CLI スニペットに展開されるテンプレート型変数のリストに該当する認証フィールドを受信します。
ステップ 7	<b>template username</b> <i>name password password</i> <b>Example:</b>  Router(tti-registrar)# template username ftpuser password ftppwd	(任意) ファイルシステムの設定テンプレートにアクセスするためのユーザ名およびパスワードを確立します。
ステップ 8	<b>template config</b> <i>url [post]</i> <b>Example:</b>  Router(tti-registrar)# template config http://myserver/cgi-bin/mycgi post	(任意) Cisco IOS CLI 設定テンプレートのリモート URL を指定します。  <i>url</i> 引数は設定ファイルを参照し、デバイス名 (\$n) を指定してブートストラップ設定を識別できます。CGI サポートにより HTTP または HTTPS のいずれかを使用して CGI スクリプトを参照でき、デバイス名だけでなく、タイプ、Cisco IOS 現行バージョン情報、および現行の設定でブートストラップ設定を識別できます。  CGI サポートでは <b>post</b> キーワードを使用する必要があります。  <b>Note</b> 拡張 CGI サポートを利用するには、レジストラは Cisco IOS リリース 12.4(6)T 以降を実行している必要があります。レジストラがそれ以前のバージョンの Cisco IOS を実行している場合は、追加デバイス ID 情報は無視されます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(tti-registrar)# end	(任意) tti-registrar コンフィギュレーション モードを終了します。

## 例

SDP トランザクションのトラブルシューティングに役立てるため、**debug crypto provisioning** コマンドを発行できます。このコマンドにより、ペティショナデバイスとレジストラデバイスからの出力が表示されます。

次に、**debug crypto provisioning** コマンドの出力を示します。次に、ペティショナデバイスとレジストラデバイスからの出力を示します。

```
Petitioner device
! The user starts the Welcome phase.
Nov 7 03:15:48.171: CRYPTO_PROVISIONING: received welcome get request.
! The router generates a Rivest, Shamir, and Adelman (RSA) keypair for future enrollment.
Nov 7 03:15:48.279: CRYPTO_PROVISIONING: keyhash 'A506BE3B83C6F4B4A6EFCEB3D584AACA'
! The TTI transaction is completed.
Nov 7 03:16:10.607: CRYPTO_PROVISIONING: received completion post request.
Registrar device
!. During the introduction phase, the browser prompts for login information.
06:39:18: CRYPTO_PROVISIONING: received introduction post request.
06:39:18: CRYPTO_PROVISIONING: checking AAA authentication (ipsecca_script_aalist,
ttiuser)
! This happens if the user types in the wrong username or password.
06:39:19: CRYPTO_PROVISIONING: authentication declined by AAA, or AAA server not found
- 0x3
06:39:19: CRYPTO_PROVISIONING: aaa query fails!
! The user re-enters login information.
06:39:19: CRYPTO_PROVISIONING: received introduction post request.
06:39:19: CRYPTO_PROVISIONING: checking AAA authentication (ipsecca_script_aalist,
ttiuser)
06:39:20: CRYPTO_PROVISIONING: checking AAA authorization (ipsecca_script_aalist,
ttiuser)
! The login attempt succeeds and authorization information is retrieved from the AAA
database.
06:39:21: CRYPTO_PROVISIONING: aaa query ok!
! These attributes are inserted into the configuration template.
06:39:21: CRYPTO_PROVISIONING: building TTI av pairs from AAA attributes
06:39:21: CRYPTO_PROVISIONING: "subjectname" = "CN=user1, O=company, C=US"
06:39:21: CRYPTO_PROVISIONING: "$1" = "ntp server 10.3.0.1"
06:39:21: CRYPTO_PROVISIONING: "$2" = "hostname user1-vpn"
! The registrar stores this subject name and overrides the subject name in the subsequent
enrollment request.
06:39:21: CRYPTO_PROVISIONING: subjectname=CN=user1, O=company, C=US
! The registrar stores this key information so that it may be used to automatically grant
the subsequent enrollment request.
06:39:21: CRYPTO_PROVISIONING: key_hash=A506BE3B83C6F4B4A6EFCEB3D584AACA
```

## 証明書を使用した認可のための SDP レジストラのイネーブル化

SDP レジストラをイネーブルにし、指定されたトラストポイントまたは設定済みのトラストポイントを使用してペティショナ署名証明書を確認し、イントロデューサのユーザ名と証明書名フィールドを使用して認可検索を開始する場合は、この作業を実行します。

### Before you begin

証明書および特定のトラストポイントに関連付けられた RSA キーを使用するには、SDP ペティショナも設定する必要があります。この作業を完了するには、「[SDP ペティショナのイネーブル化, on page 1440](#)」の作業の項で示すように、トラストポイント署名コマンドを使用します。



**Note** RADIUS では認証と認可の区別がされていないため、証明書の認可にはデフォルトパスワードの `cisco` を使用する必要があります。

>

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto provisioning registrar`
4. `template file sourceURL destinationURL`
5. `binary file sourceURL destinationURL`
6. `authentication trustpoint {trustpoint-label| use-any }`
7. `authorization {login | certificate | login certificate}`
8. `authorization username subjectname subjectname`
9. `end`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto provisioning registrar</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto provisioning registrar</pre>	SDP レジストラになるようデバイスを設定し、tti-registrar コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>template file sourceURL destinationURL</b> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template file http://myserver/registrar_file_r1 http://myserver/petitioner_file_p1</pre>	<p>(任意) レジストラの発信元テンプレートファイル位置とペティショナの宛先テンプレートファイル位置を指定します。</p> <p><b>Note</b> このコマンドは、USB トークンを使用してデバイスをプロビジョニングする場合に便利です。</p> <p>テンプレート展開は、レジストラで発信元 URL とファイルコンテンツの両方について行われます。宛先 URL はペティショナで展開されます。</p>
ステップ 5	<b>binary file sourceURL destinationURL</b> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# binary file http://myserver/registrar_file_a1 http://myserver/petitioner_file_b1</pre>	<p>(任意) レジストラのバイナリ ファイル位置とペティショナの宛先バイナリ ファイル位置を指定します。</p> <p><b>Note</b> このコマンドは、USB トークンを使用してデバイスをプロビジョニングする場合に便利です。</p> <p>発信元と宛先両方の URL はレジストラで展開されます。また、宛先 URL とファイル コンテンツはペティショナで展開されます。バイナリ ファイルは、テンプレート展開機能では処理されません。</p>
ステップ 6	<b>authentication trustpoint {trustpoint-label  use-any }</b> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# authentication trustpoint mytrust</pre>	<p>(任意) SDP ペティショナデバイスの現在の証明書の認証に使用するトラストポイントを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>trustpoint-label</b> : 特定のトラストポイントを指定します。</li> <li>• <b>use-any</b> : 任意の設定済みトラストポイントを指定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> トラストポイントを指定するのにこのコマンドを使用しない場合、既存のペティショナ証明書は検証されません (この機能は、自己署名ペティショナ証明書と互換性があります)。</p>
ステップ 7	<b>authorization {login   certificate   login certificate}</b> <b>Example:</b>	(任意) インTRODューサまたは証明書の AAA 認可をイネーブルにします。



	Command or Action	Purpose
	Router(tti-registrar)# authorization login certificate	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インTRODューサのユーザー名を使用した認可には、<b>login</b> キーワードを使用します。</li> <li>• ペティシヨナの証明書を使用した認可には、<b>certificate</b> キーワードを使用します。</li> <li>• インTRODューサのユーザー名およびペティシヨナの証明書を使用した認可には、<b>login certificate</b> キーワードを使用します。</li> </ul>
ステップ 8	<b>authorization username subjectname</b> <i>subjectname</i> <b>Example:</b> Router(tti-registrar)# authorization username subjectname all	AAA ユーザー名の構築に使用する異なる証明書フィールドのパラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> キーワードは、証明書を認可ユーザー名として使用する場合に、所有者名全体を指定します。</li> </ul>
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(tti-registrar)# end	(任意) tti-registrar コンフィギュレーション モードを終了します。

## Apple iPhone を導入するための SDP レジストラの設定

会社のネットワークに Apple iPhone を導入するために HTTPS を実行するように SDP レジストラを設定する場合は、この作業を実行します。

### Before you begin

HTTPS を実行するために SDP レジストラがイネーブルであることを確認します。詳細については、「SDP レジストラのイネーブル化と AAA リストのサーバーへの追加」を参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip http secure-server**
4. **crypto provisioning registrar**
5. **url-profile start** *profile-name*
6. **url-profile intro** *profile-name*
7. **match url** *url*
8. **match authentication trustpoint** *trustpoint-name*
9. **match certificate** *certificate-map*
10. **mime-type** *mime-type*

11. **template location** *location*12. **template variable p** *value*

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip http secure-server</b> <b>Example:</b>  Router(config)# ip http secure-server	HTTPS Web サーバをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>crypto provisioning registrar</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto provisioning registrar	デバイスを SDP 交換のレジストラになるよう設定し、 <b>tti-registrar</b> コンフィギュレーションモードを開始します。  <b>Note</b> Cisco IOS リリース 12.3(14)T では、 <b>crypto provisioning registrar</b> コマンドが <b>crypto wui tti registrar</b> コマンドに置き換えられました。
ステップ 5	<b>url-profile start profile-name</b> <b>Example:</b>  Router(tti-registrar)# url-profile start START	<b>start</b> キーワードを指定して、URL プロファイルが SDP 導入開始段階と関連付けられることを示します。 <i>profile-name</i> 引数には、一意の URL プロファイルの名前を指定します。  <b>Note</b> SDP 導入紹介段階と SDP 導入開始段階では、いずれも異なるプロファイルを使用したり、同じ URL プロファイルを使用したりすることができます。
ステップ 6	<b>url-profile intro profile-name</b> <b>Example:</b>  Router(tti-registrar)# url-profile intro INTRO	<b>intro</b> キーワードを指定して、URL プロファイルが SDP 導入紹介段階と関連付けられることを示します。 <i>profile-name</i> 引数には、一意の URL プロファイルの名前を指定します。

	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> SDP 導入紹介段階と SDP 導入開始段階では、いずれも異なるプロファイルを使用したり、同じ URL プロファイルを使用したりすることができます。
ステップ 7	<b>match url</b> <i>url</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# match url /sdp/intro</pre>	URL プロファイルに関連付ける URL を指定します。
ステップ 8	<b>match authentication trustpoint</b> <i>trustpoint-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# match authentication trustpoint apple-tp</pre>	(任意) ピアの証明書の認証に使用するトラストポイントの名前を指定します。トラストポイントの名前が指定されていない場合、ピアの証明書の認証には <b>tti-registrar</b> コンフィギュレーションモードで <b>authentication trustpoint command</b> を使用して設定されたトラストポイントが使用されます。詳細については、「証明書を使用した認可のための SDP レジストラのイネーブル化」を参照してください。
ステップ 9	<b>match certificate</b> <i>certificate-map</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# match certificate cat 10</pre>	(任意) ピアの証明書の許可に使用される証明書マップの名前を指定します。
ステップ 10	<b>mime-type</b> <i>mime-type</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# mime-type application/x-apple-aspen-config</pre>	SDP レジストラが URL プロファイルを通して受信した要求への応答に使用する多目的インターネットメール拡張 (MIME) タイプを指定します。
ステップ 11	<b>template location</b> <i>location</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template location flash:intro.mobileconfig</pre>	SDP レジストラが URL プロファイルを通して受信した要求に応答するとき使用するテンプレートの場所を指定します。
ステップ 12	<b>template variable p</b> <i>value</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template variable p iphone-vpn</pre>	(任意) SDP レジストラによって発行されるトラストポイント証明書の所有者名の組織ユニット (OU) フィールドに入力する値を指定します。以下の「Apple CA サーバーのトラストポイント証明書の設定例」に示されている証明書のこのフィールドを参照してください。

## Apple CA サーバーのトラストポイント証明書の設定

SDP レジストラは、Apple CA サーバーの証明書を信頼するために、iPhone のトラストポイント証明書から生成された署名を確認する必要があります。iPhone はトラストポイント証明書を使用してメッセージに署名します。このトラストポイント証明書は、SDP 導入紹介段階で Apple 社の CA サーバーによって発行されます。

次の例では、Apple 社の CA 証明書をカットアンドペーストして手動で登録する方式を使用して、証明書登録を設定する方法を示します。



**Note** トラストポイント証明書の設定の詳細については、『Configuring Certificate Enrollment for a PKI』フィーチャモジュールの「How to Configure Certificate Enrollment for a PKI」の項も参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. グローバル コンフィギュレーション モードで **crypto pki trustpoint** コマンドを入力してトラストポイントおよび設定された名前を宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
2. カットアンドペーストして手動で証明書を登録するように指定するには、**enrollment terminal** コマンドを入力します。
3. **crypto pki authenticate** コマンドを使用して、指定された TFTP サーバーから CA 証明書を取得して認証します。
4. Base 64 符号化の信頼できる Apple CA 証明書が含まれている次のテキスト部分をコピーし、プロンプトにペーストします。
5. **exit** コマンドを使用して CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
6. グローバル コンフィギュレーション モードで **crypto provisioning registrar** コマンドを入力し、SDP 交換用のレジストラになるルータを指定して、**tti-registrar** コンフィギュレーション モードを開始します。
7. **tti-registrar** コンフィギュレーション モードで **url-profile command with the intro** キーワードを入力し、SDP 導入紹介段階に関連付けられる一意の URL プロファイルの名前を指定します。
8. **tti-registrar** コンフィギュレーション モードで **match authentication trustpoint** コマンドを入力し、ピアの証明書の認証に使用するトラストポイントの名前を指定します。

### DETAILED STEPS

#### Procedure

**ステップ 1** グローバル コンフィギュレーション モードで **crypto pki trustpoint** コマンドを入力してトラストポイントおよび設定された名前を宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。

**Example:**

```
Router(config)# crypto pki trustpoint apple-tp
```

**ステップ 2** カットアンドペーストして手動で証明書を登録するように指定するには、**enrollment terminal** コマンドを入力します。

**Example:**

```
Router(ca-trustpoint)# enrollment terminal
```

**ステップ 3** **crypto pki authenticate** コマンドを使用して、指定された TFTP サーバーから CA 証明書を取得して認証します。

**Example:**

```
Router(ca-trustpoint)# crypto pki authenticate apple-tp
```

**ステップ 4** Base 64 符号化の信頼できる Apple CA 証明書が含まれている次のテキスト部分をコピーし、プロンプトにペーストします。

**Example:**

```
I Bag Attributes
    localKeyID: 7C 29 15 15 12 C9 CF F6 15 2B 5B 25 70 3D A7 9A 98 14 36 06
subject=/C=US/O=Apple Inc./OU=Apple iPhone/CN=Apple iPhone Device CA
issuer=/C=US/O=Apple Inc./OU=Apple Certification Authority/CN=Apple iPhone Certification Authority
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDaTCCAlGgAwIBAgIBATANBgkqhkiG9w0BAQUFADB5MQswCQYDVQQGEwJVUzET
MBEGA1UEChMKQXBwbGUgSW5jLjEmMCQGAlUECXMdQXBwbGUgQ2VydG1maWNhdGlv
biBBdXRob3JpdHkxLTArBgNVBAMTJEFwcGx1IGlQaG9uZSBDZlJ0aWZpY2F0aW9u
IEF1dGhvcml0eTAeFw0wNzA0MTYyMjU0NDZaFw0xNDA0MTYyMjU0NDZaMFoxCzAJ
BgNVBAYTAlVTMRMwEQYDVQQKEWpBcHBsZSBSBjBmMuMRUwEwYDVQQLEWxBcHBsZSBS
UGhvbWUxH2AdBgNVBAMTFkFwcGx1IGlQaG9uZSBEZXZpY2UgQ0EwgZ8wDQYJKoZI
hvcNAQEBBQADgY0AMIGJAoGBAPGUSsnquloYYK3Lok1NT1QZaRdZB2bL1+hmmkdf
Rq5nerVKc1SxywT2vtA4DFU4ioSDMVJ1+TPhl3ecK0wmsCU/6TKqewh01OzBSzgd
Z04IUprailmjXNeT9KD+VYW7TEaXXm6yd0UvZ1y8Cxi/WblshvcqdXbSGXH0KW05
JQuvAgMBAAGjgZ4wgZswDgYDVR0PAQH/BAQDAgGGMA8GA1UdEwEB/wQFMAMBAf8w
HQYDVR0OBBYEFLl+ISNEhpVqedWBJo5zENinTI5OMB8GA1UdIwQYMBaAF0c0Ki4i
3j1lga7SUzneDYS8xoHw1MDgGA1UdHwQxMC8wLaAroCmGJ2h0dHA6Ly93d3cuYXBw
bGUuY29tL2FwcGx1Y2EvaXBob251LmNybdANBgkqhkiG9w0BAQUFAAOCAQEAd13P
Z3pMviukVHe9WUg8Hum+0I/0kHKvjhwVd/IMwG1XyU7DhUYWdja2X/zqj7W24Aq5
7dEKm3fqqxK5XCFVGY5HI0cRsdENyTP7lxSiiTRYj2mlPedheCn+k6T5y0U4Xr40
FXwWb2nWqCF1AgIudhgvVbXlvqcxUm8Zz7yDeJ0JFovXQhyO5fLUHRLCQFssAbf8
B4i8rYYsBUhYTspVJcxVpI1ltkYpdIRS IARA49HNvKK4hzjzMS/OhKQpVKw+OCEZ
xptCVeN2pjbdt9uzi175oVo/u6B2ArKAW17u6XEHIddMOe7cb33peVI6TD15W4MI
pyQPbp8orlXe+tA8JA==
-----END CERTIFICATE-----
```

**ステップ 5** **exit** コマンドを使用して CA トラストポイント コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

**Example:**

```
Router(ca-trustpoint)# exit
```

**ステップ 6** グローバル コンフィギュレーションモードで **crypto provisioning registrar** コマンドを入力し、SDP 交換用のレジストラになるルータを指定して、**tti-registrar** コンフィギュレーションモードを開始します。

**Example:**

```
Router(config)# crypto provisioning registrar
```

**ステップ 7** tti-registrar コンフィギュレーション モードで **url-profile command with the intro** キーワードを入力し、SDP 導入紹介段階に関連付けられる一意の URL プロファイルの名前を指定します。

**Example:**

```
Router(tti-registrar)# url-profile intro INTRO
```

**ステップ 8** tti-registrar コンフィギュレーション モードで **match authentication trustpoint** コマンドを入力し、ピアの証明書の認証に使用するトラストポイントの名前を指定します。

**Example:**

```
Router(tti-registrar)# match authentication trustpoint apple-tp
```

これで、SDP レジストラは iPhone の署名を確認する際に、「apple-tp」という名前の Apple CA トラストポイント証明書を使用できます。

## 管理イントロデューサの設定

管理者の認証リストと認可リストを使用して、管理イントロデューサを設定するには、次の作業を行います。

**Before you begin**

管理イントロデューサは、クライアントデバイスの特権およびサーバの管理者特権をイネーブルにしておく必要があります。



**Note** RADIUS を使用する場合、管理イントロデューサにより紹介される必要があるユーザまたはデバイスのパスワードとして常に **cisco** を使用する必要があります。TACACS+ にはこの制限はありません。ユーザまたはデバイスのパスワードを使用しても、管理イントロデューサにより紹介されます。

>

**SUMMARY STEPS**

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto provisioning registrar**
4. **administrator authentication list** *list-name*
5. **administrator authorization list** *list-name*
6. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto provisioning registrar</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto provisioning registrar	SDP レジストラになるようデバイスを設定し、 tti-registrar コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>administrator authentication list list-name</b> <b>Example:</b> Router(tti-registrar)# administrator authentication list authen-tac	紹介中に管理者を認証場合に使用する AAA リストを設定します。
ステップ 5	<b>administrator authorization list list-name</b> <b>Example:</b> Router(tti-registrar)# administrator authorization list author-tac	紹介中に管理者の認可情報を取得する場合に使用する AAA リストを設定します。取得できる情報として、証明書の題名またはペティショナに返信される Cisco IOS CLI スニペットに展開されるテンプレート型変数のリストがあります。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(tti-registrar)# end	(任意) tti-registrar コンフィギュレーション モードを終了します。

## 例

**show running-config** コマンドの次の例では、認証リストと認可リストを使用した管理イントロデューサが作成されたことを確認できます。

```
Router# show running-config
Building configuration...
Current configuration : 2700 bytes
!
! Last configuration change at 01:22:26 GMT Fri Feb 4 2005
!
```

```

version 12.4
no service pad
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname router
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
memory-size iomem 5
enable secret 5 $1$tpBS$PXnBDTIDXfX5pWa//1JX20
enable password lab
!
aaa new-model
!
!
!
aaa session-id common
!
resource manager
!
clock timezone GMT 0
ip subnet-zero
no ip routing
!
!
no ip dhcp use vrf connected
!
!
no ip cef
no ip domain lookup
ip domain name company.com
ip host router 10.3.0.6
ip host router.company.com 10.3.0.6
no ip ips deny-action ips-interface
!
no ftp-server write-enable
!
crypto pki server mycs
!
crypto pki trustpoint mycs
  revocation-check crl
  rsakeypair mycs
!
crypto pki trustpoint tti
  revocation-check crl
  rsakeypair tti
!
crypto pki trustpoint mic
  enrollment url http://router:80
  revocation-check crl
!
crypto pki trustpoint cat
  revocation-check crl
!
!
!
crypto pki certificate map cat 10
!
crypto pki certificate chain mycs
  certificate ca 01
crypto pki certificate chain tti

```



```

crypto pki certificate chain mic
certificate 02
certificate ca 01
crypto pki certificate chain cat
!
crypto provisioning registrar <----- !SDP registrar device parameters!
administrator authentication list authen-tac
administrator authorization list author-tac
!
no crypto engine onboard 0
username qa privilege 15 password 0 lab

```

## カスタム テンプレートの設定

カスタム テンプレートを作成および設定するには、次の作業を行います。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto provisioning registrar**
4. **template http start URL**
5. **template http welcome URL**
6. **template http introduction URL**
7. **template http admin-introduction URL**
8. **template http completion URL**
9. **template http error URL**
10. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto provisioning registrar</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto provisioning registrar	SDP レジストラになるようデバイスを設定し、tti-registrar コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>template http start</b> <i>URL</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template http start tftp:// registrar.company .com/start.html</pre>	カスタム開始ページテンプレートを使用するよう TTI レジストラに指示します。 <b>Note</b> このコマンドは、開始ページ機能を使用する場合に必要です。このコマンドが発行されていない場合、ようこそページがイントロ デューサとペティショナの最初の通信になります。
ステップ 5	<b>template http welcome</b> <i>URL</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template http welcome tftp://registrar.company.com/welcome.html</pre>	(任意) デフォルトテンプレートではなく、カスタムようこそテンプレートを使用します。
ステップ 6	<b>template http introduction</b> <i>URL</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template http introduction tftp://registrar.company.com/intro.html</pre>	(任意) デフォルトテンプレートではなく、カスタム紹介テンプレートを使用します。
ステップ 7	<b>template http admin-introduction</b> <i>URL</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template http admin-introduction tftp://registrar.company.com/admin-intro.html</pre>	(任意) デフォルトテンプレートではなく、カスタム管理紹介テンプレートを使用します。
ステップ 8	<b>template http completion</b> <i>URL</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template http completion tftp://registrar.company.com/completion.html</pre>	(任意) デフォルトテンプレートではなく、カスタム完了テンプレートを使用します。
ステップ 9	<b>template http error</b> <i>URL</i> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# template http error tftp://registrar.company.com/error.html</pre>	(任意) デフォルトテンプレートではなく、カスタムエラーテンプレートを使用します。
ステップ 10	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Router(tti-registrar)# end</pre>	(任意) tti-registrar コンフィギュレーションモードを終了します。

## 例

次に、開始、紹介、および完了の各テンプレートを使用した例を示します。

```
template http start tftp://registrar.company.com/start.html
```

```
template http introduction tftp://registrar.company.com/intro.html
```

```
template http completion tftp://registrar.company.com/completion.html
```

# PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定例

## SDP レジストラの確認の例

**show running-config** コマンドの次のサンプル出力では、証明書サーバー「cs1」が設定され、レジストラとペティショナ間の SDP 交換と関連付けられていることが確認できます。

```
Router# show running-config
Building configuration...
Current configuration : 5902 bytes
!
! Last configuration change at 09:34:44 GMT Sat Jan 31 2004
!
version 12.3
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname pki-36a
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
logging buffered 32768 debugging
no logging console
enable secret 5 $1$b3jz$CKquLGjFIE3AdXA2/R19./
enable password lab
!
clock timezone GMT 0
no aaa new-model
ip subnet-zero
!
!
ip cef
ip domain name company.com
ip host msca-root
ip host yni-u10
ip host pki-36a 10.23.2.131
ip host pki-36a.company.com 10.23.2.131
!
!
crypto pki server cs1
```

```

issuer-name CN=company,L=city,C=US
hash sha1
lifetime crl 336
lifetime certificate 730
!
crypto pki trustpoint pki-36a
enrollment url http://pki-36a:80
ip-address FastEthernet0/0
revocation-check none
!
crypto pki trustpoint cs1
revocation-check crl
rsa-keypair cs1 2048
!
!
crypto pki certificate chain pki-36a
certificate 03
308201D0 30820139 A0030201 02020103 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
34310B30 09060355 04061302 55533114 30120603 55040713 0B205361 6E746120
4372757A 310F300D 06035504 03130620 696F7363 73301E17 0D303430 31333130
39333334 345A170D 30363031 33303039 33333434 5A303A31 38301606 092A8648
86F70D01 09081309 31302E32 332E322E 32301E06 092A8648 86F70D01 09021611
706B692D 3336612E 63697363 6F2E636F 6D305C30 0D06092A 864886F7 0D010101
0500034B 00304802 4100AFFA 8F429618 112FAB9D 01F3352E 59DD3D2D AE67E31D
370AC4DA 619735DF 9CF4EA13 64E4B563 C239C5F0 1578B773 07BED641 A18CA629
191884B5 61B66ECF 4D110203 010001A3 30302E30 0B060355 1D0F0404 030205A0
301F0603 551D2304 18301680 141DA8B1 71652961 3F7D69F0 02903AC3 2BADB137
C6300D06 092A8648 86F70D01 01040500 03818100 67BAE186 327CED31 D642CB39
AD585731 95868683 B950DF14 3BCB155A 2B63CFAD B34B579C 79128AD9 296922E9
4DEDFCAF A7B5A412 AB1FC081 09951CE3 08BFFDD9 9FB1B9DA E9AA42C8 D1049268
C524E58F 11C6BA7F C750320C 03DFB6D4 CBB3E739 C8C76359 CE939A97 B51B3F7F
3FF;A9D82 9CFDB6CF E2503A14 36D0A236 A1CCFEAE
quit
certificate ca 01
30820241 308201AA A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
34310B30 09060355 04061302 55533114 30120603 55040713 0B205361 6E746120
4372757A 310F300D 06035504 03130620 696F7363 73301E17 0D303430 31333130
39333132 315A170D 30373031 33303039 33313231 5A303431 0B300906 03550406
13025553 31143012 06035504 07130B20 53616E74 61204372 757A310F 300D0603
55040313 0620696F 73637330 819F300D 06092A86 4886F70D 01010105 0003818D
00308189 02818100 FC0695AF 181CE90A 1B34B348 BA957178 680C8B51 07802AC3
BF77B9C6 CB45092E 3C22292D C7D5FFC1 899185A1 FD8F37D5 C44FC206 6D1FA581
E2264C83 1CC7453E 548C89C6 F3CD25BC 9BFFE7C5 E6653A06 62133950 78BED51B
49128428 AB237F80 83A530EA 6F896193 F2134B54 D181F059 348AA84B 21EE6D80
727BF668 EB004341 02030100 01A36330 61300F06 03551D13 0101FF04 05300301
01FF300E 0603551D 0F0101FF 04040302 0186301D 0603551D 0E041604 141DA8B1
71652961 3F7D69F0 02903AC3 2BADB137 C6301F06 03551D23 04183016 80141DA8
B1716529 613F7D69 F002903A C32BADB1 37C6300D 06092A86 4886F70D 01010405
00038181 00885895 A0141169 3D754EB2 E6FEC293 5BF0A80B E424AA2F A3F59765
3463AAD1 55E71F0F B5D1A35B 9EA79DAC DDB40721 1344C01E 015BAB73 1E148E03
9DD01431 A5E2887B 4AEC8EF4 48ACDB66 A6F9401E 8F7CA588 8A4199BB F8A437A0
F25064E7 112805D3 074A154F 650D09B9 8FA19347 ED359EAD 4181D9ED 0C667C10
8A7BCFB0 FB
quit
crypto pki certificate chain cs1
certificate ca 01
30820241 308201AA A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
34310B30 09060355 04061302 55533114 30120603 55040713 0B205361 6E746120
4372757A 310F300D 06035504 03130620 696F7363 73301E17 0D303430 31333130
39333132 315A170D 30373031 33303039 33313231 5A303431 0B300906 03550406
13025553 31143012 06035504 07130B20 53616E74 61204372 757A310F 300D0603
55040313 0620696F 73637330 819F300D 06092A86 4886F70D 01010105 0003818D
00308189 02818100 FC0695AF 181CE90A 1B34B348 BA957178 680C8B51 07802AC3
BF77B9C6 CB45092E 3C22292D C7D5FFC1 899185A1 FD8F37D5 C44FC206 6D1FA581

```

```

E2264C83 1CC7453E 548C89C6 F3CD25BC 9BFFE7C5 E6653A06 62133950 78BED51B
49128428 AB237F80 83A530EA 6F896193 F2134B54 D181F059 348AA84B 21EE6D80
727BF668 EB004341 02030100 01A36330 61300F06 03551D13 0101FF04 05300301
01FF300E 0603551D 0F0101FF 04040302 0186301D 0603551D 0E041604 141DA8B1
71652961 3F7D69F0 02903AC3 2BADB137 C6301F06 03551D23 04183016 80141DA8
B1716529 613F7D69 F002903A C32BADB1 37C6300D 06092A86 4886F70D 01010405
00038181 00885895 A0141169 3D754EB2 E6FEC293 5BF0A80B E424AA2F A3F59765
3463AAD1 55E71F0F B5D1A35B 9EA79DAC DDB40721 1344C01E 015BAB73 1E148E03
9DD01431 A5E2887B 4AEC8EF4 48ACDB66 A6F9401E 8F7CA588 8A4199BB F8A437A02;
F25064E7 112805D3 074A154F 650D09B9 8FA19347 ED359EAD 4181D9ED 0C667C10
8A7BCFB0 FB
quit
!
crypto provisioning registrar
  pki-server csl
!
!
!
crypto isakmp policy 1
  hash sha
!
!
crypto ipsec transform-set test_transformset esp-aes
!
crypto map test_cryptomap 10 ipsec-isakmp
  set peer 10.23.1.10
  set security-association lifetime seconds 1800
  set transform-set test_transformset
  match address 170
!
!
interface Loopback0
  ip address 10.23.2.131 255.255.255.255
  no ip route-cache cef
  no ip route-cache
  no ip mroute-cache
!
interface FastEthernet0/0
  ip address 10.23.2.2 255.255.255.192
  no ip route-cache cef
  no ip route-cache
  no ip mroute-cache
  duplex auto
  speed auto
  crypto map test_cryptomap
!
interface FastEthernet1/0
  no ip address
  shutdown
  duplex auto
  speed auto
!
ip default-gateway 10.23.2.62
ip http server
no ip http secure-server
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.23.2.62
!
!
access-list 170 permit ip host 10.23.2.2 host 10.23.1.10
dialer-list 1 protocol ip permit
!
!
control-plane

```

```

!
!
line con 0
  exec-timeout 0 0
  speed 115200
line aux 0
line vty 0 4
  password lab
  login
!
!
end

```

## SDP ペティショナの確認の例

SDP 交換が完了したら、ペティショナは自動的にレジストラを登録し、証明書を取得します。**show running-config** コマンドによる次のサンプル出力では、トラストポイントが実際に存在することを確認する設定が自動的に生成されているところを示しています。

```

Router# show running-config
Building configuration...
Current configuration : 4650 bytes
!
! Last configuration change at 09:34:53 GMT Sat Jan 31 2004
!
version 12.3
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname pki-36b
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
logging buffered 32768 debugging
no logging console
enable secret 5 $1$JYgw$060JKXgl6dERLZpU9J3gb.
enable password lab
!
clock timezone GMT 0
no aaa new-model
ip subnet-zero
!
!
ip cef
ip domain name company.com
ip host msca-root
ip host yni-u10
ip host pki-36a 10.23.2.131
ip host pki-36a.company.com 10.23.2.131
!
!
crypto pki trustpoint tti
  enrollment url http://pki-36a.company.com:80
  revocation-check crl
  rsakeypair tti 1024
  auto-enroll 70
!
!
crypto pki certificate chain tti

```

```

certificate 02
308201FC 30820165 A00302012;02020102 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
34310B30 09060355 04061302 55533114 30120603 55040713 0B205361 6E746120
4372757A 310F300D 06035504 03130620 696F7363 73301E17 0D303430 31333130
39333333 385A170D 30363031 33303039 33333338 5A302231 20301E06 092A8648
86F70D01 09021611 706B692D 3336622E 63697363 6F2E636F 6D30819F 300D0609
2A864886 F70D0101 01050003 818D0030 81890281 8100E383 35584B6C 24751E2C
F4088F06 C00BFECE 84CFF8EB 50D52044 03D14A2B 91E5A260 7D07ED24 DB599D27
432065D9 0E459248 D7CDC15D 654E2AF6 BA27D79C 23850306 3E96C508 F311D333
76FDDC9C A810F75C FCD10F1B 9A142F0C 338B6DB3 346D3F24 97A4B15D 0A9504E7
1F6CB769 85E9F52B FE907AAF 63D54D66 1A715A20 D7DB0203 010001A3 30302E30
0B060355 1D0F0404 030205A0 301F0603 551D2304 18301680 141DA8B1 71652961
3F7D69F0 02903AC3 2BADB137 C6300D06 092A8648 86F70D01 01040500 03818100
C5E2DA0E 4312BCF8 0396014F E18B3EE9 6C970BB7 B8FAFC61 EF849568 D546F73F
67D2A73C 156202DC 7404A394 D6124DAF 6BACB8CF 96C3141D 109C5B0E 46F4F827
022474ED 8B59D654 F04E31A2 C9AA1152 75A0C455 FD7EEEF5 A505A648 863EE9E6
C361D9BD E12BBB36 16B729DF 823AD5CC 404CCE48 A4379CDC 67FF6362 0601B950
quit
certificate ca 01
30820241 308201AA A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
34310B30 09060355 04061302 55533114 30120603 55040713 0B205361 6E746120
4372757A 310F300D 06035504 03130620 696F7363 73301E17 0D303430 31333130
39333132 315A170D 30373031 33303039 33313231 5A303431 0B300906 03550406
13025553 31143012 06035504 07130B20 53616E74 61204372 757A310F 300D0603
55040313 0620696F 73637330 819F300D 06092A86 4886F70D 01010105 0003818D
00308189 02818100 FC0695AF 181CE90A 1B34B348 BA957178 680C8B51 07802AC3
BF77B9C6 CB45092E 3C22292D C7D5FFC1 899185A1 FD8F37D5 C44FC206 6D1FA581
E2264C83 1CC7453E 548C89C6 F3CD25BC 9BFFE7C5 E6653A06 62133950 78BED51B
49128428 AB237F80 83A530EA 6F896193 F2134B54 D181F059 348AA84B 21EE6D80
727BF668 EB004341 02030100 01A36330 61300F06 03551D13 0101FF04 05300301
01FF300E 0603551D 0F0101FF 04040302 0186301D 0603551D 0E041604 141DA8B1
71652961 3F7D69F0 02903AC3 2BADB137 C6301F06 03551D23 04183016 80141DA8
B1716529 613F7D69 F002903A C32BADB1 37C6300D 06092A86 4886F70D 01010405
00038181 00885895 A0141169 3D754EB2 E6FEC293 5BF0A80B E424AA2F A3F59765
3463AAD1 55E71F0F B5D1A35B 9EA79DAC DDB40721 1344C01E 015BAB73 1E148E03
9DD01431 A5E2887B 4AEC8EF4 48ACDB66 A6F9401E 8F7CA588 8A4199BB F8A437A0
F25064E7 112805D3 074A154F 650D09B9 8FA19347 ED359EAD 4181D9ED 0C667C10
8A7BCFB0 FB
quit
!
no crypto engine accelerator
!
!
crypto isakmp policy 1
 hash sha
!
!
crypto ipsec transform-set test_transformset esp-aes
!
crypto map test_cryptomap 10 ipsec-isakmp
 set peer 10.23.2.2
 set security-association lifetime seconds 1800
 set transform-set test_transformset
 match address 170
!
!
interface Ethernet0/0
 ip address 10.23.1.10 255.255.255.192
 no ip route-cache cef
 no ip route-cache
 no ip mroute-cache
 half-duplex
 crypto map test_cryptomap
!

```

```
interface Ethernet0/1
  no ip address
  shutdown
  half-duplex
!
interface Ethernet0/2
  no ip address
  shutdown
  half-duplex
!
interface Ethernet0/3
  no ip address
  shutdown
  half-duplex
!
interface Serial1/0
  no ip address
  shutdown
  serial restart-delay 0
!
interface Serial1/1
  no ip address
  shutdown
  serial restart-delay 0
!
interface Serial1/2
  no ip address
  shutdown
  serial restart-delay 0
!
interface Serial1/3
  no ip address
  shutdown
  serial restart-delay 0
!
ip default-gateway 10.23.1.62
ip http server
no ip http secure-server
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.23.1.62
!
!
access-list 170 permit ip host 10.23.1.10 host 10.23.2.2
dialer-list 1 protocol ip permit
!
!
control-plane
!
!
line con 0
  exec-timeout 0 0
  speed 115200
line aux 0
line vty 0 4
  password lab
  login
!
!
end
```



## AAA リストの RADIUS または TACACS+ サーバーへの追加の例

ここでは、次の設定例を示します。

### TACACS+ AAA サーバーデータベースの例

次に、ユーザ情報が TACACS+ AAA データベースに追加されている例を示します。ユーザー名は「user1」です。パスワードは「cisco」です。「user1」には、iosconfig1 と iosconfig2 の 2 つの Cisco IOS 設定テンプレート変数が設定されています。変数は設定テンプレートファイルで \$1 および \$2 を置き換えます。題名「CN=user1, O=company, C=US」も設定されます。この題名は、ペティショナデバイスから受信される以降の登録要求 (PKCS10) で題名フィールドを置き換えます。

```
user = user1
password = clear "pswd"
service=tti
    ! The certificate server inserts the following subject name to the certificate.
    set subjectname="CN=user1, O=company, C=US"
    ! Up to nine template variables may be added.
    set iosconfig1="ntp server 10.3.0.1"
    set iosconfig2="hostname user1-vpn"
```

### RADIUS AAA サーバーデータベースの例

次に、ユーザ情報が RADIUS AAA サーバデータベースに追加された例を示します。ユーザー名は「user1」です。パスワードは「cisco」です。「user1」には、iosconfig1 と iosconfig2 の 2 つの Cisco IOS 設定テンプレート変数が設定されています。変数は設定テンプレートファイルで \$1 および \$2 を置き換えます。題名「CN=user1, O=company, C=US」も設定されます。この題名は、ペティショナデバイスから受信される以降の登録要求 (PKCS10) で題名フィールドを置き換えます。

```
user = user1
password = clear "pswd"
radius=company
reply_attributes=9,1="tti:subjectname=CN=user1, O=company, C=US"
    ! Up to nine template variables may be added.
    9,1="tti:iosconfig1=ntp server 10.3.0.5"
    9,1="tti:iosconfig2=hostname user1-vpn"
```

### TACACS+ および RADIUS AAA サーバー上の AAA リストの例

次の設定例は、TACACS+ サーバで AAA 認証が、RADIUS サーバで AAA 認証が設定されていることを示しています。



**Note** 通常、認証と認可は同じサーバをポイントします。

```
Router(config)# tacacs-server host 10.0.0.48 key cisco
Router(config)# aaa authentication login authen-tac group tacacs+
```

```
Router(config)# radius-server host 10.0.1.49 key cisco
Router(config)# aaa authorization network author-rad group radius
```

## UsingaConfigurationTemplateFile の例

イントロデューサ名に基づいて、異なる設定テンプレート ファイルを使用できます。たとえば、異なるユーザに対する複数のテンプレートがある場合、各ファイルのファイル名にユーザ名を含め、レジストラで次のように設定します。

```
Router(config)# crypto provisioning registrar
Router (tti-registrar)# pki-server cs1
Router (tti-registrar)# template config tftp://server/config-$n.txt
```

この例では、設定ファイルのデフォルトテンプレート、[on page 1434](#)に示されているデフォルト設定ファイルが使用されます。**template config** コマンドは CGI スクリプトを参照しないためです。

## CGI スクリプトの例

次に、「mysdpcgi」という CGI スクリプトが実行される例を示します。

```
Router(config)# crypto provisioning registrar
Router (tti-registrar)# pki-server cs1
Router (tti-registrar)# template config tftp://server/cgi-bin/mysdpcgi post
```

次に、「mysdpcgi」という CGI スクリプトが上記の例の **template config** コマンドで実行される例を示します。

```
#!/usr/bin/perl -w
# for debugging use the -debug form
# use CGI (-debug);
use CGI;
# base64 decoding is being used.
use MIME::Base64;
# The following has been commented out, but left for your information.
#
# Reading everything that has been received from stdin and writing it to the debug log
to #see what has been sent from the registrar.
#
# Remember to reset the STDIN pointer so that the normal CGI processing can get the
input.
#
# print STDERR "mysdpcgi.cgi dump of stdin:\n";
# if($ENV{'REQUEST_METHOD'} eq "GET"){
#     $input_data = $ENV{'QUERY_STRING'};
# }
# else {
#     $data_length = $ENV{'CONTENT_LENGTH'};
#     $bytes_read = read(STDIN, $input_data, $data_length);
# }
# print STDERR $input_data,"\n";
# exit;

$query = new CGI;
my %av_table;
# A basic configuration file is being sent back, therefore it is being indicated as plain
```

```

# text in the command below.
print $query->header ("text/plain");
print "\n";
# For testing, parameters can be passed in so that the test applications can
# see what has been received.
#
# print STDERR "The following are the raw AV pairs mysdp.cgi received:\n";
# for each $key ($query->param) {
#   print STDERR "! $key is: \n";
#   $value = $query->param($key);
#   print STDERR "! ", $value;
#   print STDERR "! \n";
# }
# The post process AV pairs are identical to those in Cisco IOS and may be used to produce
# AV pair specific configurations as needed.
%av_table = &postprocessavpairs($query->param);
# Decoded values may be written out.
# WARNING: Some error_logs cannot handle the amount of data and will freeze.
# print STDERR "The following are the decoded AV pairs mysdp.cgi received:\n";
# now write the values out
# while ( ($a, $v) = each(%av_table) ) {
#   print STDERR "$a = $v\n";
# }
# Identifying the AV pairs and specifying them in the config.
while ( ($a, $v) = each(%av_table) ) {
  if ($a eq "TTIIosRunningConfig") {
    $search = "hostname ";
    $begin = index($v, $search) + length($search);
    $end = index($v, "\n", $begin);
    $hostname = substr($v, $begin, $end - $begin);
  }
  if ($a eq "TTIIosVersion") {
    $search = "Version ";
    $begin = index($v, $search) + length($search);
    $end = index($v, "(", $begin);
    $version = substr($v, $begin, $end - $begin);
  }
}
print <<END_CONFIG;
!
! Config auto-generated by sdp.cgi
! This is for SDP testing only and is not a real config
!
!
\ $t
!
\ $c
!
cry pki trust Version-$version-$hostname
! NOTE: The last line of the config must be 'end' with a blank line after the end
# statement.
END_CONFIG
;
# Emulate IOS tti_postprocessavpairs functionality
sub postprocessavpairs {
  @attributes = @_;
  # Combine any AV pairs that were split apart
  $n = 0; #element index counter
  while ($attributes[$n]) {
    # see if we are at the start of a set
    if ($attributes[$n] =~ m/_0/) {
      # determine base attribute name
      $a = (split /_0/, $attributes[$n])[0];
      # set initial (partial) value

```

```

    $v = $query->param($attributes[$n]);

    # loop and pull the rest of the matching
    # attributes's values into v (would be
    # faster if we stop at first non-match)
    $c = $n+1;
    while ($attributes[$c]) {
    if ($attributes[$c] =~ m/$a/) {
        $v = $v.$query->param($attributes[$c]);
    }
    $c++;
    }

    # store in the av hash table
    $av_table{$a} = $v;
} else {
    # store in hash table if not part of a set
    if ($attributes[$n] !~ m/_\d/) {
        $av_table{$attributes[$n]} = $query->param($attributes[$n]);
    }
}
$n++;
}
# de-base64 decode all AV pairs except userdevicename
while ( ($a, $v) = each(%av_table) ) {
    if ($a ne "userdevicename") {
        $av_table{$a} = decode_base64($av_table{$a});
    }
}
return %av_table;
}
}

```



**Note** CGI スクリプトは、Cisco IOS Release 12.4(6)T 以降では、**template config** コマンドに **post** キーワードを指定せずに実行することはできません。

## 証明書を使用した認証のペティショナとレジストラの設定の例

次に、mytrust というトラストポイントで発行された証明書を使用する場合のペティショナの  
設定方法の例を示します。

```

Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Router(config)# crypto provisioning petitioner

```

```

Router(tti-petitioner)# trustpoint signing mytrust

```

```

Router(tti-petitioner)# end

```

次に、ペティショナ署名証明書を確認し、認可検索を行う場合のレジストラの設定方法の例を示します。

```

Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Router(config)# crypto provisioning registrar

```

```

Router(tti-registrar)# authentication trustpoint mytrust

Router(tti-registrar)# authorization login certificate

Router(tti-registrar)# authorization username subjectname all

Router(tti-registrar)# end

```

## 認証リストおよび認可リストを使用した管理イントロデューサの設定例

次に、認証リスト「authen-tac」および認可リスト「author-tac」を使用した管理イントロデューサの設定方法の例を示します。

```

Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# crypto provisioning registrar
Router(tti-registrar)# administrator
authentication list authen-tac
Router(tti-registrar)# administrator
authorization list author-tac
Router(tti-registrar)# end

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』
証明書登録	「PKI の証明書登録の設定」モジュール
証明書サーバ設定	「PKI 展開での Cisco IOS 証明書サーバの設定および管理」モジュール
PKI AAA 統合の概念と設定作業	「PKI での証明書の失効および許可の設定」モジュール
PKI コマンド：完全なコマンドの構文、コマンドモード、デフォルト、使用上の注意事項、例	『Cisco IOS Security Command Reference』

関連項目	マニュアルタイトル
USB トークンの設定	『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Storing PKI Credentials」の章 SDP および USB トークンを使用した PKI クレデンシャルの導入に関するその他の 12.4T 機能については、機能情報表を参照してください。
iPhone、iPod touch、および iPad と会社のシステムとの統合	『Apple iPhone Enterprise Deployment Guide』
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## PKI への登録のための Secure Device Provisioning (SDP) の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 152: PKI での SDP の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Secure Device Provisioning (SDP) 接続テンプレート	12.4(20)T	この機能により、サービス プロバイダーを通してインターネット接続が行われるようにデバイスを設定できます。
USB トークンと Secure Device Provisioning (SDP) の連携機能	12.4(15)T	この機能により、SDP を介して特定のネットワーク デバイスからリモート デバイスにクレデンシャルを転送するメカニズムとして USB トークンを使用することで、リモート デバイスをプロビジョニングできるようになります。  次のコマンドが導入されました。 <b>binary file</b> 、 <b>crypto key move rsa</b> 、 <b>template file</b> 。
SDP 拡張テンプレートの CGI サポート	12.4(6)T	この機能によりユーザーは、デバイス名だけでなく、その Cisco IOS の現行バージョンおよび現行の設定に基づいてブートストラップ設定を SDP ペティショナに送信するよう SDP レジストラを設定できます。  次のコマンドが、この機能によって変更されました。 <b>template config</b> 。
Secure Device Provisioning (SDP) 開始ページ	12.4(4)T	この機能によりユーザーは、開始ページからレジストラの紹介 URL に連絡することで TTI トランザクションを開始するよう、ブラウザを設定できます。したがって、ユーザーはペティショナのようこそページから TTI トランザクションを開始する必要はなくなります。  この機能により、次のコマンドが導入されました。 <b>template http admin-introduction</b> 、 <b>template http completion</b> 、 <b>template http error</b> 、 <b>template http introduction</b> 、 <b>template http start</b> 、 <b>template http welcome</b> 。
Administrative Secure Device Provisioning Introducer	12.3(14)T	この機能により、デバイスを PKI ネットワークに紹介し、AAA データベースのレコード ロケータのデバイス名としてユーザ名を提供する場合に、管理イントロデューサの役割を果たすことができます。  この機能により、次のコマンドが導入されました。 <b>administrator authentication list</b> 、 <b>administrator authorization list</b> 。

機能名	リリース	機能情報
Easy Secure Device Deployment	12.3(8)T	<p>この機能は、SDPをサポートできるようにします。SDPは、ネットワーク管理者が大規模ネットワークで新しいデバイスを展開できるようにする Web ベースの登録インターフェイスを実現します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>crypto wui tti petitioner</b>、<b>crypto wui tti registrar</b>、<b>pki-server</b>、<b>template config</b>、<b>template username</b>、<b>trustpoint (tti-petitioner)</b>。</p>
Easy Secure Device Deployment AAA Integration	12.3(8)T	<p>この機能により外部 AAA データベースが統合され、ローカルなシスコ証明書サーバのイネーブルパスワードを使用しなくても、SDP イントロデューサが AAA データベースに対して認証できるようにします。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>authentication list (tti-registrar)</b>、<b>authorization list (tti-registrar)</b>、<b>debug crypto wui template config</b>、<b>template username</b>。</p>
Secure Device Provisioning (SDP) 証明書を使用した認可	12.3(14)T	<p>この機能により、その他の認証局 (CA) サーバで発行された証明書が SDP 導入に使用できるようになります。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入されました。<b>administrator authentication list</b>、<b>administrator authorization list</b></p>
iPhone の SDP	15.1(2)T	<p>Cisco IOS 15.1(2)T および Apple iPhone OS 3.0 リリースが導入されたため、Cisco IOS ネットワークデバイスで Apple iPhone がサポートされるようになりました。Cisco IOS ルータは SDP レジストラを使用して iPhone を導入し、IPSec VPN、SCEP サーバ、および PKI 証明書の導入テクノロジーを使用してネットワーク アプリケーションに安全にアクセスできるようにします。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入されました。<b>match authentication trustpoint</b>、<b>match certificate</b>、<b>match url</b>、<b>mime-type</b>、<b>template location</b>、<b>template variable p</b>、<b>url-profile</b>。</p>





## 第 114 章

# PKI クレデンシャル失効アラート

PKI クレデンシャル失効アラート機能を使用すると、CA 証明書が失効間近になるとアラート通知の形式で警告メカニズムが提供されます。

- [PKI クレデンシャル失効アラートの制約事項 \(1473 ページ\)](#)
- [PKI アラート通知の情報 \(1473 ページ\)](#)
- [PKI クレデンシャル失効アラートの追加資料 \(1475 ページ\)](#)
- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1476](#)

## PKI クレデンシャル失効アラートの制約事項

アラートは、次の証明書には送信されません。

- 永続的または一時的な自己署名証明書。
- セキュアな固有デバイス識別子 (SUDI) 証明書。
- トラストプールに属する証明書。トラストプールには独自の失効アラートメカニズムがあります。
- トラストポイントのクローン。

## PKI アラート通知の情報

### アラート通知の概要

Cisco IOS 認証局 (CA) サーバを使用すると、証明書が失効する前に証明書の自動登録が可能になり、認証中にアプリケーションの証明書が利用できるようになります。ただし、ネットワーク停止、クロック更新の問題、および CA の過負荷が証明書の更新に影響を与え、認証に有効な証明書が使用できなくなることでサブシステムがオフラインになります。PKI クレデンシャル失効アラート機能は、証明書の失効が近付くと、CA クライアントが syslog サーバに通知を送信するためのメカニズムを提供します。

通知は次の間隔で送信されます。

- 最初の通知：これは証明書が失効する 60 日前に送信されます。
- 通知の繰り返し：最初の通知の後、証明書が失効する 1 週間前まで後続の通知が毎週送信されます。最後の週には、証明書の失効日まで通知が毎日送信されます。

証明書の有効期限が 1 週間以上ある場合、通知は [warning] モードで送信されます。証明書の有効期限が 1 週間未満の場合、通知は [alert] モードで送信されます。通知には次の情報が含まれます。

- 証明書が関連付けられたトラストポイント
- 証明書タイプ
- 証明書のシリアル番号
- 証明書の発行元名
- 証明書が失効するまでの残り日数
- 証明書の自動登録が有効かどうか
- 対応する証明書のシャドウ証明書が利用可能かどうか



- (注) アラート通知は syslog サーバまたは Simple Network Management Protocol (SNMP) トラップを介して送信されます。トラストポイントの自動登録が設定され、対応するシャドウまたはロールオーバー証明書が有効である場合、およびシャドウまたはロールオーバー証明書の開始時刻が証明書の終了時刻と同じまたはそれ以前の場合、通知は停止します。

この機能は無効にできず、設定作業を追加する必要はありません。 **show crypto pki timers** コマンドはタイマーの有効期限情報を表示できるようになりました。次に、証明書の失効間近にタイマーを表示する **show crypto pki timers detail** コマンドの出力例を示します。このタイマーが失効すると、通知が syslog サーバに送信されます。

```
Device# show crypto pki timers detail

PKI Timers
|      14:36.150 (2019-10-30T11:33:30Z)
|      14:36.150 (2019-10-30T11:33:30Z) SESSION CLEANUP
|2569d23:56:19.461 (2026-11-12T11:15:13Z) SHADOW test

Expiry Alert Timers
|659d 5:56:19.599 (2021-08-19T17:15:13Z)
|659d 5:56:19.599 (2021-08-19T17:15:13Z) ID(test)
|2875d 4:45:18.562 (2027-09-13T16:04:12Z) CA(test)

Trustpool Timers
|3464d 9:06:48.463 (2029-04-24T20:25:42Z)
|3464d 9:06:48.463 (2029-04-24T20:25:42Z) TRUSTPOOL
```

次に、デバイスに表示される syslog メッセージを示します。

```

Device#
Dec 16 10:24:13.533: %PKI-4-CERT_EXPIRY_WARNING: ID Certificate belonging to trustpoint
tp will expire in 60 Days 0 hours 0 mins 0 secs.
Issuer-name cn=CA
Subject-name hostname=Router
Serial-number 02
Auto-Renewal: Not Enabled

```

## PKI トラップ

PKI トラップでは、ネットワーク内のデバイスの証明書情報を取得するため、PKI 展開の監視と運用が簡単になります。ルート デバイスは、デバイスに設定されたしきい値に基づいて、ネットワーク管理システム (NMS) に SNMP トラップを定期的に送信します。トラップは次のシナリオで送信されます。

- 新しい証明書がインストールされる場合。SNMP トラップ (新しい証明書通知) は、証明書のシリアル番号、証明書の発行者名、証明書の所有者名、トラストポイント名、証明書タイプ、証明書の開始日と終了日などの情報を含む SNMP サーバーに送信されます。
- 証明書が失効間近の場合。SNMP トラップ (証明書失効通知) は、証明書の終了日の 60 日から 1 週間前まで SNMP サーバに定期的に送信されます。証明書が失効する週には、トラップが毎日送信されます。トラップには、証明書のシリアル番号、証明書の発行者名、トラストポイント名、証明書タイプ、証明書の寿命などの証明書情報が含まれます。

PKI トラップを有効にするには、`snmp-server enable traps pki` コマンドを使用します。



- (注) シャドウまたはロールオーバー証明書の開始時間が証明書の終了時間よりも遅い場合、シャドウ証明書が有効でないことを示すトラップが送信されます。ただし、同じトラストポイントで利用可能なシャドウ証明書とシャドウ証明書が有効な場合には、トラップは送信されません。

## PKI クレデンシャル失効アラートの追加資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 153: Cisco TrustSec の概要の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。



## CHAPTER 115

# PKI展開での証明書サーバの設定および管理

この章では、Cisco IOS 証明書サーバを設定および管理して、公開キー インフラストラクチャ (PKI) を展開する方法を説明します。証明書サーバは、Cisco ソフトウェアに簡単な証明書サーバを組み込んでいますが、認証局 (CA) 機能は限定されています。したがって、ユーザには次のようなメリットがあります。

- デフォルト動作の定義による、PKI 展開の簡素化。デフォルト動作が事前に定義されているので、ユーザ インターフェイスが簡素化されています。つまり、CA が提供する証明書の拡張子をすべて使用しなくても PKI のスケーリングのメリットを活用できます。これにより、基本的な PKI で保護されたネットワークを簡単にイネーブルにできます。
- Cisco ソフトウェアとの直接統合。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『*Next Generation Encryption*』(NGE) ホワイト ペーパーを参照してください。

コピー中に、`running-config` に CA 証明書と ID 証明書の両方が含まれている場合、CA 証明書が `running-config` と同じであれば、CA と ID は置き換えられません。一方、CA 証明書が異なる場合は、ID 証明書と CA 証明書の両方がクリアされ、新しい CA が再挿入されます。

- 証明書サーバの設定に関する前提条件, [on page 1478](#)
- 証明書サーバの設定に関する制約事項, [on page 1478](#)
- 証明書サーバの情報, [on page 1479](#)
- 証明書サーバの設定および展開方法, [on page 1488](#)
- 証明書サーバを使用するための設定例, [on page 1519](#)
- 次の作業, [on page 1530](#)
- PKI 展開での 証明書サーバの設定および管理に関する追加資料, [on page 1530](#)
- PKI 展開での 証明書サーバの設定および管理に関する機能情報, [on page 1532](#)

## 証明書サーバの設定に関する前提条件

### 証明書サーバ設定前の PKI の計画

証明書サーバを設定する前に、PKI 内で使用する設定に対して適切な値（証明書のライフタイムおよび証明書失効リスト（CRL）ライフタイムなど）を考慮して、選択することが重要です。証明書サーバに設定値が設定され、証明書が許可されたら、証明書サーバを再設定し、ピアを再登録することで、設定を変更できます。証明書サーバのデフォルト設定と推奨設定に関する詳細については、「証明書サーバのデフォルト値および推奨値」の項を参照してください。

### HTTP サーバのイネーブル化

証明書サーバは、HTTP 上で Simple Certificate Enrollment Protocol（SCEP）をサポートします。証明書サーバが SCEP を使用するには、ルータで HTTP サーバをイネーブルにする必要があります（HTTP サーバをイネーブルにするには、`ip http server` コマンドを使用します）。HTTP サーバのイネーブルとディセーブルを切り替えると、証明書サーバは SCEP サービスのイネーブルとディセーブルを自動的に切り替えます。HTTP サーバがイネーブルでない場合は、手動の PKCS10 登録だけがサポートされます。



**Note** 証明書サーバのすべてのタイプで自動 CA 証明書およびキーペアのロールオーバー機能を利用するには、SCEP を登録方式として使用する必要があります。

### 信頼性の高い時刻サービスの設定

証明書サーバは信頼できる時刻を認識する必要があるため、時刻サービスをルータで実行する必要があります。ハードウェア クロックを利用できない場合、証明書サーバはネットワーク タイム プロトコル（NTP）などの、手動で設定したクロック設定に依存します。ハードウェア クロックがない、あるいはクロックが無効な場合、起動時に次のメッセージが表示されます。

```
% Time has not been set. Cannot start the Certificate server.
```

クロックが設定されると、証明書サーバは実行ステータスに自動的に切り替わります。

クロック設定を手動で設定する方法については、を参照してください。

## 証明書サーバの設定に関する制約事項

- 証明書サーバは、クライアントから受信した証明書要求を変更するメカニズムを備えていません。つまり、証明書サーバから発行される証明書は変更されていないため、その要求された証明書と一致します。名前制約などの固有の証明書ポリシーを発行する必要がある場合は、このポリシーを証明書要求に反映する必要があります。
- サーバーとクライアントが同じルータ上に存在する場合、管理インターフェイスを介した認証はサポートされません。

- サードパーティの OpenSSL を使用して HTTP 接続を検証するために、完全な ISE 証明書チェーンがデバイスに送信されます。これらの証明書には、ISE 証明書とその発行元 CA 証明書が含まれます。環境データには、これらの証明書がリストされます。

バージョン 2.7.0.310 以前を実行している Cisco ISE は、環境データの一部として着信証明書リストに証明書チェーンを入れます。Cisco IOS XE リリース 17.1.1 以前のリリースでは、Cisco ルータは、ISE からのマルチチェーン証明書のダウンロードをサポートしていません。そのため、デバイスは、ISE 証明書を受信せず、TLS ハンドシェイクエラーが表示されます。

**Attention**

この設定には、サービス妨害 (DOS) 攻撃などの攻撃を受けやすいオープン HTTP エンドポイントがあります。この設定をデフォルトで有効にしないことをお勧めします。有効になっている場合は、適切な ACL を設定して、信頼できるデバイスのみが設定されたデバイスと通信できるようにする必要があります。

## 証明書サーバの情報

### 証明書サーバの RSA キーペアと証明書

証明書サーバは、1024 ビット Rivest, Shamir, Adelman (RSA) キーペアを自動的に生成します。異なるキーペアモジュラスが必要な場合は、手動で RSA キーペアを生成する必要があります。この作業の完了に関する詳細については、「証明書サーバの RSA キーペアの生成」を参照してください。

**Note**

証明書サーバの RSA キーペアで推奨されるモジュラスは、2048 ビットです。

証明書サーバは、CA キーとして通常の RSA キーペアを使用します。このキーペアには、証明書サーバと同じ名前を付ける必要があります。証明書サーバがルータ上に作成される前にキーペアを生成していない場合、証明用目的のキーペアが自動的に生成されます。

CA 証明書および CA キーが証明書サーバによって一度生成されると、これらを自動的にバックアップできます。その結果、バックアップ目的のエクスポート可能な CA キーを生成する必要はなくなりました。

#### 自動生成キーペアの処理方法

キーペアが自動的に生成されると、キーペアにエクスポート可能なマークは付けられません。そのため、CA キーをバックアップする場合は、キーペアをエクスポート可能なものとして手動で生成する必要があります。この作業の完了方法については、「証明書サーバの RSA キーペアの生成」を参照してください。

## CA 証明書および CA キーを自動的にアーカイブする方法

CA 証明書および CA キーの原本または元の設定が失われた場合に CA 証明書および CA キーを後で復元できるように、初期の証明書サーバ設定時に、CA 証明書および CA キーの自動アーカイブをイネーブルにできます。

CA 証明書および CA キーは、証明書サーバを初めて起動したときに生成されます。また、自動アーカイブがイネーブルになっている場合、CA 証明書と CA キーはサーバデータベースにエクスポート（アーカイブ）されます。アーカイブは、PKCS12 形式またはプライバシーエンハンストメール（PEM）形式で実行できます。



**Note** この CA キーのバックアップファイルは非常に重要なので、すぐに別の安全な場所に移動する必要があります。

- このアーカイブ処理は、1回しか実行されません。（1）手動で生成され、エクスポート可能なマークが付けられた CA キー、または（2）証明書サーバによって自動的に生成された CA キーだけがアーカイブされます（このキーには、エクスポート不可能のマークが付けられます）。
- 手動で CA キーを生成し、そのキーに「エクスポート不可能」のマークが付いている場合、自動アーカイブは実行されません。
- CA 証明書および CA キー アーカイブ ファイル以外にも、シリアル番号ファイル（.ser）および CRL ファイル（.crl）を定期的にバックアップする必要があります。証明書サーバを復元する必要がある場合、CA 運用においてシリアルファイルおよび CRL ファイルは重要です。
- エクスポート不可能な RSA キーまたは手動で生成されたエクスポート不可能な RSA キーを使用するサーバを手動でバックアップできません。自動的に生成された RSA キーには、エクスポート不可能のマークが付いていますが、このキーは一度だけ自動的にアーカイブされます。

## 証明書サーバ データベース

証明書サーバは専用のファイルを保管し、他のプロセスに使用するファイルを公開できます。証明書サーバによって生成された、進行中の操作に必要な重要ファイルは、専用のファイルタイプごとに1つの場所に保管されます。証明書サーバはこれらのファイルに対して読み取りおよび書き込みを行います。重要な証明書サーバファイルは、シリアル番号ファイル（.ser）と CRL 保管場所ファイル（.crl）です。証明書サーバによって書き込みが行われても再度読み取りが行われないファイルは場合によって公開され、他のプロセスで使用できます。公開可能なファイルの例には、発行済みの証明書ファイル（.crt）があります。

証明書サーバのパフォーマンスは、次の要因から影響を受ける場合があります。証明書サーバファイルに対して、保管オプションおよび公開オプションを選択するときには、これらの要因を考慮する必要があります。



- 選択する保管場所または公開場所が証明書サーバのパフォーマンスに影響を与えることがあります。ネットワーク ロケーションから読み取ると、ルータのローカルストレージデバイスから直接読み取るよりも時間がかかります。
- 特定の場所では、保管または公開するファイルの数によって証明書サーバのパフォーマンスに影響を受けることがあります。ローカルのファイルシステムは、必ずしも大量のファイルに適していません。
- 保管または公開するファイルタイプが証明書サーバのパフォーマンスに影響を与えることがあります。特定のファイル（.crl ファイルなど）は非常に大きくなる可能性があります。



**Note** ローカルのファイルシステムに .ser および .crl ファイルを保管し、リモートファイルシステムに .crl ファイルを公開することを推奨します。

## 証明書サーバデータベース ファイルの保管

証明書サーバは、その柔軟性により、設定されたデータベースレベルに応じて、さまざまな種類の重要なファイルをさまざまな保管場所に保管できます（詳細については、**database level** コマンドを参照してください）。保管場所を選択するときは、必要なファイルセキュリティおよびサーバのパフォーマンスを考慮してください。たとえば、シリアル番号ファイルおよびアーカイブファイル（.p12 または .pem）では、発行された証明書ファイル（.crl）の保管場所または名前ファイル（.cnm）の保管場所よりもセキュリティ上の制約事項が多くなる場合があります。

次の表に、特定の場所に保管される重要な証明書サーバファイルのタイプをファイル拡張子別に示します。

**Table 154:** 証明書サーバの保管場所と重要なファイルタイプ

ファイル拡張子	ファイルタイプ
.ser	メイン証明書サーバのデータベースファイル
.crl	CRL の保管場所
.crt	発行された証明書の保管場所
.cnm	証明書名および失効ファイルの保管場所
.p12	PKCS12 形式の証明書サーバ証明書アーカイブファイルの保管場所
.pem	PEM 形式の証明書サーバ証明書アーカイブファイルの保管場所

証明書サーバファイルには、次の 3 つのレベルで保管場所を指定できます。

- デフォルトの場所（NVRAM）
- すべての重要ファイルに対して指定されたプライマリ保管場所

- 特定の重要ファイルに対して指定された保管場所

ファイルは、一般的な保管場所よりも、具体的に設定した保管場所に優先的に保管されます。たとえば、証明書サーバ ファイルの保管場所を指定しなかった場合、すべての証明書サーバ ファイルが NVRAM に保管されます。名前ファイルの保管場所を指定すると、名前ファイルだけがそこに保管され、その他すべてのファイルは NVRAM に保管されます。プライマリ ロケーションを指定すると、名前ファイル以外のすべてのファイルが、NVRAM の代わりに、この場所に保管されます。



**Note** .p12 または .pem のいずれかを指定できますが、両方のタイプのアーカイブ ファイルは一度に指定できません。

## 証明書サーバ データベース ファイルの公開

公開ファイルは元のファイルのコピーで、他のプロセスまたはユーザ用に使用できます。証明書サーバがファイルの公開に失敗すると、サーバはシャットダウンします。発行された証明書ファイルおよび名前ファイルに1つの公開場所を、CRL ファイルに複数の公開場所を指定できます。公開可能なファイルタイプについては、次の表を参照してください。設定されたデータベース レベルに関係なく、ファイルを公開できます。

**Table 155:** 証明書サーバの公開ファイル タイプ

ファイル拡張子	ファイル タイプ
.crl	CRL の公開場所
.crt	発行された証明書の公開場所
.cnm	証明書名および失効ファイルの公開場所

## 証明書サーバのトラストポイント

自動的に生成された同じ名前のトラストポイントも証明書サーバにある場合、そのトラストポイントが証明書サーバの証明書を保管します。証明書サーバの証明書を保管するためにトラストポイントが使用されていることを、ルータが検出すると、トラストポイントはロックされ変更できなくなります。

証明書サーバを設定する前に、次の操作を行います。

- このトラストポイントを手動で作成し、設定します (**crypto pki trustpoint** コマンドを使用)。これにより、代替 RSA キーペアを指定できます (**rsakeypair** コマンドを使用)。
- **on** コマンドを使用して、設定済みの利用可能な USB トークンなどの特定のデバイス上に初期の自動登録キーペアが生成されるように指定します。



**Note** 自動的に生成されたトラストポイントおよび証明書サーバ証明書は、証明書サーバデバイスのアイデンティティには使用できません。したがって、CA トラストポイントを指定して証明書を入手して接続しているクライアントの証明書を認証するために使用されるコマンドラインインターフェイス (CLI) (**ip http secure-trustpoint** コマンドなど) は、証明書サーバデバイス上に設定された追加のトラストポイントを指定する必要があります。

サーバがルート証明書サーバの場合、このサーバは RSA キー ペアおよびその他いくつかの属性を使用して自己署名証明書を生成します。関連付けられる CA 証明書には、デジタル署名、証明書署名および CRL 署名といった拡張キー用途があります。

CA 証明書の生成後の属性変更は、証明書サーバが壊れた場合に限りできます。



**Note** **auto-enroll** コマンドを使用して、証明書サーバトラストポイントを自動的に登録しないでください。証明書サーバの初期登録は手動で開始する必要があります。また、**auto-rollover** コマンドを使用して、進行中の自動ロールオーバー機能を設定できます。

## 証明書失効リスト (CRL)

デフォルトでは、CRL は 168 時間 (1 週間) に 1 度発行されます。CRL を発行するために、デフォルト値以外の値を指定するには、**lifetime crl** コマンドを実行します。CRL は発行されると、**ca-label.crl** として指定されたデータベースの場所に書き込まれます。この **ca-label** は、証明書サーバの名前です。

CRL は、設定済みで利用可能な場合、SCEP (デフォルト方式) または CRL 配布ポイント (CDP) を介して配布できます。CDP を設定する場合は、**cdp-url** コマンドを使用して、CDP の場所を指定します。**cdp-url** コマンドが指定されていない場合、証明書サーバによって発行される証明書には CDP 証明書拡張子が含まれません。CDP の場所が指定されていない場合は、Cisco IOS PKI クライアントは SCEP GetCRL メッセージを使用して証明書サーバから自動的に CRL を要求します。CA は、SCEP CertRep メッセージで CRL をクライアントに返します。すべての SCEP メッセージは、エンベロープ化された署名付き PKCS#7 データであるため、証明書サーバから CRL の SCEP を取得すると、コストがかかるうえに、拡張性はあまり高くありません。非常に大規模なネットワークでは、HTTP CDP の方が拡張性が向上するため、CRL をチェックするピアデバイスが多い場合は、HTTP CDP を推奨します。たとえば、次のように簡単な HTTP URL ストリングによって CDP の場所を指定できます。

**cdp-url** <http://my-cdp.company.com/filename.crl>

証明書サーバは、CDP を 1 つだけサポートします。したがって、発行される証明書には、すべて同じ CDP が含まれます。

Cisco IOS ソフトウェアを実行せず、SCEP GetCRL 要求をサポートしない PKI クライアントがある状態で CDP を使用する場合、外部サーバを設定して CRL を配布し、このサーバをポイントするように CDP を設定できます。または、次の形式の URL で **cdp-url** コマンドを指定する

と、証明書サーバから CRL を取得するために非 SCEP 要求を指定できます。この *cs-addr* は証明書サーバの場所です。

**cdp-url** `http://cs-addr/cgi-bin/pkiclient.exe?operation=GetCRL`



**Note** また、CA が HTTP CDP サーバーとしても設定されている場合、**cdp-url** `http://cs-addr/cgi-bin/pkiclient.exe?operation=GetCRL` コマンドシンタックスを使用して CDP を指定してください。

**cdp-url** コマンドによって指定された場所から CRL を利用できるかどうかは、ネットワーク管理者が確認してください。

指定された場所内に埋め込まれた疑問符を保持するようパーサーに強制するには、疑問符の前に **Ctrl+V** キーを入力します。この処理を実行しないと、HTTP による CRL 取得でエラーメッセージが返されます。

CDP の場所は、証明書サーバが実行されてから、**cdp-url** コマンドによって変更できます。新しい証明書には、更新された CDP の場所が含まれていますが、既存の証明書は、新たに指定された CDP 場所を含まない状態で再発行されます。新しい CRL が発行されると、証明書サーバは、キャッシュされた現在の CRL を使用して新しい CRL を生成します（証明書サーバが再起動されると、データベースから現在の CRL をリロードします）。現在の CRL が失効するまで、新しい CRL は発行できません。現在の CRL が失効すると、CLI から証明書を無効にしたときにだけ、新しい CRL が発行されます。

## 証明書サーバのエラー状態

証明書サーバは起動時、証明書を発行する前に現在の設定をチェックします。証明書サーバは、**show crypto pki server** コマンドの出力で、最後に認識されたエラー状態を報告します。たとえば、エラー状態には次のものがあります。

- 保管場所にアクセスできない
- HTTP サーバを待機する
- 時間設定を待機する

証明書サーバに、CRL の公開に失敗するなどの重大な障害が発生した場合、証明書サーバは自動的に使用不可状態になります。この場合、ネットワーク管理者がエラー状態を解消できます。エラーを解消すると、証明書サーバは直前の正常な状態に戻ります。

## 証明書サーバを使用した証明書登録

証明書登録要求は、次のように機能します。

- 証明書サーバがエンドユーザから登録要求を受け取ると、次の処理が発生します。

- 要求エントリが、初期状態で登録要求データベースに作成されます（証明書登録の要求状態のリストについては、次の表を参照してください）。
- 証明書サーバは、CLI 設定（パラメータが指定されていない場合は、デフォルト動作）を参照して、要求を許可するかどうか決定します。その後、登録要求の状態は登録要求データベースで更新されます。
- SCEP クエリーごとに応答するため、証明書サーバは現在の要求を調べ、次のいずれかの処理を実行します。
  - エンドユーザに「保留」または「拒否」状態で応答します。
  - 適切な証明書を生成して署名し、証明書を登録要求データベースに保管します。

クライアントの接続が終了すると、証明書サーバは、クライアントが別の証明書を要求するまで待機します。

すべての登録要求は、次の表に定義する証明書登録状態に移行します。現在の登録要求を表示するには、**crypto pki server request pkcs10** コマンドを使用します。

**Table 156:** 証明書登録要求状態の説明

証明書登録の状態	説明
許可	証明書サーバは要求を認可しました。
拒否	証明書サーバは、ポリシー上の理由で要求を拒否しました。
付与	CA コアは、証明書要求に対して適切な証明書を生成しました。
初期	SCEP サーバによって要求が作成されました。
形式異常	証明書サーバは、暗号化上の理由により、要求が無効であると判断しました。
保留中	ネットワーク管理者が登録要求を手動で受け入れる必要があります。

## SCEP 登録

すべての SCEP 要求は新しい証明書の登録要求として処理されます。SCEP 要求で前の証明書要求と重複する所有者名または公開のキー ペアが指定された場合も同様です。

## CA サーバのタイプ：下位および登録局（RA）

CA サーバは、下位の証明書サーバまたは RA モード証明書サーバとして設定できるように柔軟性を備えています。

### 下位 CA を設定する理由とは

下位証明書サーバは、ルート証明書サーバと同じ機能を提供します。ルート RSA キーペアは、PKI 階層構造においてきわめて重要で、多くの場合、このキー ペアをオフラインにしておく

か、アーカイブしておくことが得策です。この要件をサポートするために、PKI階層に、ルート権限で署名された下位 CA を組み込みます。このように、通常の動作時には、ルート権限をオフラインにして（特別な CRL 更新を発行する場合を除く）、下位 CA を使用できます。

### RA モード証明書サーバを設定する理由とは

証明書サーバは、RA モードで実行できるように設定できます。RA は、CA から認証および認可責任をオフロードします。RA が SCEP または手動での登録要求を受信すると、管理者はローカルポリシーごとに要求を拒否または許可できます。要求が許可されると、その要求は発行元 CA に転送され、CA は自動的に証明書を生成して RA に返します。クライアントは、許可された証明書を RA から後で取得できます。

RA とは、CA が証明書を発行するために必要なデータの一部またはすべてを記録あるいは検証する役割を担う機関です。多くの場合、CA は RA の機能自体をすべて請け負いますが、CA が広範囲の地理的エリアで運用されている、あるいは CA がネットワークアクセスに直接さらされるというセキュリティ上の懸念がある場合、管理上好ましいのは、作業の一部を RA に委任して、CA が基本作業である証明書および CRL の署名に集中できるようにすることです。

### CA サーバの互換性

CA サーバの互換性によって、RA モードの IOS CA サーバは複数のタイプの CA サーバと相互運用できます。詳細については、「証明書サーバを RA モードで実行するように設定」を参照してください。

## 自動 CA 証明書およびキー ロールオーバー

CA（ルート CA、下位 CA、および RA モード CA）は、クライアントと同様、有効期限付きの証明書とキー ペアを持っており、これらの証明書とキー ペアは、現在の証明書とキー ペアが失効するときに再発行する必要があります。ルート CA の証明書とキー ペアが失効すると、CA は自己署名付きロールオーバー証明書とキー ペアを生成する必要があります。下位 CA または RA モード CA の証明書およびキー ペアが失効すると、CA は、その上位 CA からロールオーバー証明書とキー ペアを要求すると同時に上位 CA の新しい自己署名付きロールオーバー証明書を取得します。CA は、そのすべてのピアに新しい CA ロールオーバー証明書とキー を配布する必要があります。CA およびそのクライアントが失効する CA 証明書とキー ペアから新しい CA 証明書とキー ペアに切り替えている間に、ロールオーバーと呼ばれるプロセスにより、ネットワークは中断せずに動作します。

ロールオーバーは、PKI インフラストラクチャの信頼関係の要件および同期化されたクロックに依存します。PKI の信頼関係により、（1）新しい CA 証明書の認証が可能になり、（2）セキュリティが損なわれることなく、ロールオーバーを自動的に実行できます。同期化されたクロックにより、ロールオーバーをネットワーク全体で調整できます。

## 自動 CA 証明書ロールオーバーの動作原理

CA サーバには、ロールオーバーが設定されている必要があります。すべてのレベルの CA を自動的に登録し、**auto-rollover** をイネーブルにする必要があります。CA クライアントは、自動的に登録されると、自動的にロールオーバーをサポートします。クライアントおよび自動ロー

ロールオーバーの詳細については、「PKIの証明書登録の設定」の章にある「自動証明書登録」を参照してください。

CA がロールオーバーをイネーブルにして、そのクライアントが自動的に登録された後に、3段階の自動 CA 証明書ロールオーバー プロセスがあります。

### 1 段階：アクティブな CA 証明書およびキー ペアのみ

1 段階には、アクティブな CA 証明書およびキー ペアだけがあります。

### 2 段階：CA 証明書のロールオーバーおよびキー ペアの生成と配布

2 段階では、ロールオーバー CA 証明書およびキー ペアが生成され、配布されます。上位 CA はロールオーバー証明書とキー ペアを生成します。CA が正常にアクティブな設定を保存すると、CA はロールオーバー証明書およびキー ペアのクライアント要求に応答する準備が完了です。上位 CA がクライアントから新しい CA 証明書とキー ペアに対する要求を受信すると、CA は、新しいロールオーバー CA 証明書とキー ペアを要求元クライアントに送信して応答します。クライアントは、ロールオーバー CA 証明書とキー ペアを保管します。



#### Note

CA は、ロールオーバー証明書とキー ペアを生成したときに、そのアクティブな設定を保存できる必要があります。現在の設定が変更された場合、ロールオーバー証明書とキー ペアは自動的に保存されません。この場合、管理者は手動で設定を保存する必要があります。保存しない場合、ロールオーバー情報は失われます。

### 3 段階：ロールオーバー CA 証明書とキー ペアがアクティブな CA 証明書とキー ペアになる

3 段階では、ロールオーバー CA 証明書とキー ペアがアクティブな CA 証明書とキー ペアになります。有効なロールオーバー CA 証明書を保管しているすべてのデバイスは、ロールオーバー証明書をアクティブな証明書の名前に変更し、それまでアクティブだった証明書とキー ペアは削除されます。

CA 証明書のロールオーバー後、通常の証明書のライフタイムおよび更新時間との間に次のような時間の違いがあることがわかる場合があります。

- ロールオーバー中に発行された証明書のライフタイムは、あらかじめ設定された値よりも低くなります。
- 特定の条件下では、更新時間が実際のライフタイムの設定割合よりも低くなる場合があります。証明書のライフタイムが1時間未満の場合に確認される違いは、20%までになることがあります。

このような違いがあるのは通常の状態であり、証明書サーバー上のアルゴリズムで発生する **jitter** (ランダムな時間の変動) によるものです。この作業は、PKIに参加するホストが自分の登録タイマーと同期しないようにするために実行します。同期すると、証明書サーバーで輻輳が発生する場合があります。



**Note** 発生するライフタイムの変動は、常にライフタイムが短くなるように発生し、証明書に対して設定された最大ライフタイム内に収まるため、PKIの適切な動作に悪影響を与えることはありません。

## 暗号化ハッシュ関数を指定するためのサポート

セキュアハッシュアルゴリズム (SHA) を使用すると、ユーザーは Cisco IOS Cisco IOS XE 証明書サーバーおよびクライアントの暗号化ハッシュ関数を指定できます。指定できる暗号化ハッシュ関数は、メッセージダイジェストアルゴリズム 5 (MD5)、SHA-1、SHA-256、SHA-384、または SHA-512 です。



**Note** シスコは MD5 の使用を推奨しません。その代わりに SHA-256 を使用する必要があります。シスコの最新の暗号化に関する推奨事項については、『*Next Generation Encryption (NGE)*』ホワイトペーパーを参照してください。

この機能の実装に使用される **hash (ca-trustpoint)** および **hash (cs-server)** コマンドの指定に関する詳細については、「下位証明書サーバーの設定」の作業を参照してください。

## 証明書サーバーの設定および展開方法

### 証明書サーバーの RSA キー ペアの生成

証明書サーバーの RSA キー ペアを手動で生成するには、次の作業を実行します。証明書サーバーの RSA キー ペアを手動で生成すると、生成しようとするキー ペアのタイプの指定、バックアップ目的のエクスポート可能なキー ペアの作成、キー ペアの保管場所の指定、またはキー生成場所の指定ができます。



**Note** バックアップまたはアーカイブ目的でエクスポート可能な証明書サーバーキー ペアを作成するとします。この作業を実行しない場合、証明書サーバーは自動的にキーペアを生成し、このキーペアにはエクスポート可能なマークが付けられます。

デバイスで USB トークンを設定し、それが利用可能な場合、USB トークンは、ストレージデバイスとしてだけでなく、暗号化デバイスとしても使用できます。USB トークンを暗号化装置として使用すると、USB トークンでクレデンシャルのキー生成、署名、認証などの RSA 操作を実行できます。秘密キーは決して USB トークンから出ないようにしており、エクスポートできません。公開キーはエクスポート可能です。USB トークンの設定および暗号装置として



の使用に関する具体的なマニュアルのタイトルについては、「関連資料」を参照してください。



**Note** 秘密キーを安全な場所に保管し、定期的に証明書サーバデータベースをアーカイブすることを推奨します。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『*Next Generation Encryption*』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto key generate rsa [general-keys | usage-keys | signature | encryption] [label key-label] [exportable] [modulus modulus-size] [storage devicename:] [on devicename:]`
4. `crypto key export rsa key-label pem {terminal | url url} {3des | des} passphrase`
5. `crypto key import rsa key-label pem [usage-keys | signature | encryption] {terminal | url url} [exportable] [on devicename:] passphrase`
6. `exit`
7. `show crypto key mypubkey rsa`

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>crypto key generate rsa [general-keys   usage-keys   signature   encryption] [label key-label] [exportable] [modulus modulus-size] [storage devicename:] [on devicename:]</code> <b>Example:</b> Device(config)# crypto key generate rsa label mycs exportable modulus 2048	証明書サーバの RSA キー ペアを生成します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>storage</b> キーワードを使用すると、キーの保管場所を指定できます。</li><li>• <b>key-label</b> 引数を指定することによってラベル名を指定する場合、<b>crypto pki server cs-label</b> コマンドによって証明書サーバに使用するラベル</li></ul>

	Command or Action	Purpose
		<p>と同じ名前を使用する必要があります。 <i>key-label</i> 引数を指定していない場合、ルータの完全修飾ドメイン名 (FQDN) であるデフォルト値が使用されます。</p> <p><b>no shutdown</b> コマンドを発行する前に、CA 証明書が生成されるまで待つからエクスポート可能な RSA キーペアを手動で生成する場合、<b>crypto ca export pkcs12</b> コマンドを使用して、証明書サーバ証明書および秘密キーを含む PKCS12 ファイルをエクスポートできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトでは、CA RSA キーのモジュラス サイズは 1024 ビットです。推奨される CA RSA キーのモジュラスは 2048 ビットです。CA RSA キーのモジュラス サイズの範囲は 350 ~ 4096 ビットです。</li> <li><b>on</b> キーワードは、指定したデバイス上で RSA キーペアが作成されることを指定します。このデバイスには Universal Serial Bus (USB) トークン、ローカルディスク、および NVRAM などがあります。装置の名前の後にはコロン (:) を付けます。</li> </ul> <p><b>Note</b> USB トークン上で作成されるキーは、2048 ビット以下である必要があります。</p>
ステップ 4	<pre>crypto key export rsa key-label pem {terminal   url} {3des   des} passphrase</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# crypto key export rsa mycs pem url nvram: 3des PASSWORD</pre>	<p>(任意) 生成された RSA キー ペアをエクスポートします。</p> <p>生成されたキーをエクスポートできます。</p>
ステップ 5	<pre>crypto key import rsa key-label pem [usage-keys   signature   encryption] {terminal   url url} [exportable] [on devicename:] passphrase</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# crypto key import rsa mycs2 pem url nvram:mycs PASSWORD</pre>	<p>(任意) RSA キー ペアをインポートします。</p> <p>USB トークンにインポートするキーを作成するには、<b>on</b> キーワードを使用して、適切なデバイスの場所を指定します。</p> <p><b>exportable</b> キーワードを使用して RSA キーをエクスポートし、RSA キーペアをエクスポート不可に変更する場合は、<b>exportable</b> キーワードを使用せずに証明書サーバにキーを再度インポートします。キーを再度エクスポートできません。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバルコンフィギュレーションを終了します。
ステップ 7	<b>show crypto key mypubkey rsa</b> <b>Example:</b> Device# show crypto key mypubkey rsa	ルータの RSA 公開キーを表示します。

## 例

次の例では、「ms2」というラベルの USB トークンに汎用 1024 ビット RSA キーペアを生成し、それとともに表示される暗号エンジンのデバッグメッセージを示します。

```
Device(config)# crypto key generate rsa on usbtoken0 label ms2 modulus 2048
The name for the keys will be: ms2
% The key modulus size is 2048 bits
% Generating 2048 bit RSA keys, keys will be on-token, non-exportable...
Jan 7 02:41:40.895: crypto_engine: Generate public/private keypair [OK]
Jan 7 02:44:09.623: crypto_engine: Create signature
Jan 7 02:44:10.467: crypto_engine: Verify signature
Jan 7 02:44:10.467: CryptoEngine0: CRYPTO_ISA_RSA_CREATE_PUBKEY(hw) (ipsec)
Jan 7 02:44:10.467: CryptoEngine0: CRYPTO_ISA_RSA_PUB_DECRYPT(hw) (ipsec)
```

これで、「ms2」というラベルが付けられた、トークン上のキーを登録に使用できます。

次の例では、設定済みの利用可能な USB トークンに正常にインポートされた暗号キーを示します。

```
Device# configure terminal

Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.

Device(config)# crypto key import rsa encryption on usbtoken0 url nvram:e password

% Importing public Encryption key or certificate PEM file...
filename [e-encr.pub]?
Reading file from nvram:e-encr.pub
% Importing private Encryption key PEM file...
Source filename [e-encr.prv]?
Reading file from nvram:e-encr.prv
% Key pair import succeeded.
```

## 証明書サーバの設定

### 自動 CA 証明書ロールオーバーに関する前提条件

証明書サーバを設定する場合、自動 CA 証明書ロールオーバーが正常に実行するために、CA サーバに次の前提条件が適用されます。

- CA サーバは、イネーブルにされ、信頼できる時刻、利用可能なキーペア、キーペアに関連付けられた自己署名付きの有効な CA 証明書、CRL、アクセス可能なストレージデバイス、およびアクティブな HTTP/SCEP サーバとともに完全に設定されている必要があります。
- CA クライアントでは、自動登録が正常に完了しており、同じ証明書サーバへの自動登録がイネーブルになっている必要があります。

## 自動 CA 証明書ロールオーバーに関する制約事項

証明書サーバを設定する場合、自動 CA 証明書ロールオーバーを正常に実行するために、次の制約事項が適用されます。

- SCEP を使用してロールオーバーをサポートする必要があります。SCEP の代わりに証明書管理プロトコルまたはメカニズム（登録プロファイル、手動での登録、または TFTP による登録など）を使用して、PKI に登録する装置では、SCEP で提供されているロールオーバー機能を利用できません。
- ネットワークに自動アーカイブを設定していてもアーカイブが失敗する場合、証明書サーバがロールオーバー状態にならず、ロールオーバー証明書およびキーペアが自動的に保存されないため、ロールオーバーは発生しません。

## 証明書サーバの設定

Cisco IOS または IOS XE 証明書サーバを設定し、自動ロールオーバーを有効にするには、次の作業を実行します。

### Before you begin



**Attention** この設定には、サービス妨害（DOS）攻撃などの攻撃を受けやすいオープン HTTP エンドポイントがあります。この設定をデフォルトで有効にしないことをお勧めします。有効になっている場合は、適切な ACL を設定して、信頼できるデバイスのみが設定されたデバイスと通信できるようにする必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip http server**
4. **crypto pki server *cs-label***
5. **no shutdown**
6. **auto-rollover [*time-period*]**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip http server</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip http server	ご使用のシステムの HTTP サーバをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>crypto pki server cs-label</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki server server-pki	証明書サーバのラベルを定義し、証明書サーバコンフィギュレーション モードを開始します。  <b>Note</b> 手動で RSA キー ペアを生成した場合、 <i>cs-label</i> 引数はキー ペアの名前と一致する必要があります。
ステップ 5	<b>no shutdown</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# no shutdown	(任意) 証明書サーバをイネーブルにします。  <b>Note</b> デフォルト機能を使用する場合は、この時点ではこのコマンドだけを使用します。つまり、デフォルト設定のいずれかを「証明書サーバ機能の設定」の作業に従って変更する場合、まだこのコマンドを発行しないでください。
ステップ 6	<b>auto-rollover [time-period]</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# auto-rollover 90	(任意) 自動CA証明書ロールオーバー機能をイネーブルにします。  • <i>time-period</i> : デフォルトは 30 日です。

## 例

次の例では、証明書サーバ「ms2」を設定する方法について示します。ms2は2048ビット RSA キー ペアのラベルです。

```
Device(config)# crypto pki server ms2
Device(cs-server)# no shutdown
```

```
% Once you start the server, you can no longer change some of
% the configuration.
```

```

Are you sure you want to do this? [yes/no]:
yes
% Certificate Server enabled.
Device(cs-server)# end
!
Device# show crypto pki server ms2
Certificate Server ms2:
  Status: enabled, configured
  CA cert fingerprint: 5A856122 4051347F 55E8C246 866D0AC3
  Granting mode is: manual
  Last certificate issued serial number: 0x1
  CA certificate expiration timer: 19:44:57 GMT Oct 14 2006

CRL NextUpdate timer: 19:45:25 GMT Oct 22 2003
Current storage dir: nvram:
Database Level: Complete - all issued certs written as <serialnum>.cer

```

次の例では、**auto-rollover** コマンドを使用して、サーバー ms2 の自動 CA 証明書ロールオーバーをイネーブルにする方法を示します。**show crypto pki server** コマンドを実行すると、自動ロールオーバーが 25 日のオーバーラップ期間でサーバー mycs に設定されたことが示されます。

```

Device(config)# crypto pki server ms2
Device(cs-server)# auto-rollover 25
Device(cs-server)# no shutdown
%Some server settings cannot be changed after CA certificate generation.
% Exporting Certificate Server signing certificate and keys...
% Certificate Server enabled.
Device(cs-server)#
Device# show crypto pki server ms2
Certificate Server ms2:
  Status:enabled
  Server's configuration is locked (enter "shut" to unlock it)
  Issuer name:CN=mycs
  CA cert fingerprint:70AFECA9 211CDDCC 6AA9D7FF 3ADB03AE
  Granting mode is:manual
  Last certificate issued serial number:0x1
  CA certificate expiration timer:00:49:26 PDT Jun 20 2008
  CRL NextUpdate timer:00:49:29 PDT Jun 28 2005
  Current storage dir:nvram:
  Database Level:Minimum - no cert data written to storage
  Auto-Rollover configured, overlap period 25 days
  Autorollover timer:00:49:26 PDT May 26 2008

```

## 下位証明書サーバの設定

すべて、または特定の SCEP 証明書要求あるいは手動の証明書要求を許可するために下位証明書サーバを設定し、自動ロールオーバーをイネーブルにするには、次の作業を実行します。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『*Next Generation Encryption*』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

### Before you begin

- ルート証明書サーバーは、Cisco IOS XE 証明書サーバーである必要があります。
- 下位の認証局（CA）の場合、ルート CA またはアップストリーム CA への登録は SCEP を介してのみ有効です。アップストリーム CA は、アップストリーム CA への登録が完了するまでオンラインである必要があります。ルート CA またはアップストリーム CA に下位 CA を手動で登録することはできません。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint *name***
4. **enrollment [mode] [ retry period *minutes*] [ retry count *number*] url *url* [pem]**
5. **hash {md5 | sha1 | sha256 | sha384 | sha512}**
6. **exit**
7. **crypto pki server *cs-label***
8. **issuer name *DN-string***
9. **mode sub-cs**
10. **auto-rollover [*time-period*]**
11. **grant auto rollover {ca-cert | ra-cert}**
12. **hash {md5 | sha1 | sha256 | sha384 | sha512}**
13. **no shutdown**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint <i>name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki trustpoint sub	下位の証明書サーバが使用するトラストポイントを宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment [mode] [ retry period <i>minutes</i>] [ retry count <i>number</i>] url <i>url</i> [pem]</b> <b>Example:</b>	CA の次の登録パラメータを指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• (任意) CA システムが登録局 (RA) を提供する場合、<b>mode</b> キーワードとして RA モード</li></ul>

	Command or Action	Purpose
	<pre>Device(ca-trustpoint)# enrollment url http://caserver.myexample.com</pre> <p>または</p> <pre>Device(ca-trustpoint)# enrollment url http://[2001:DB8:1:1::1]:80</pre>	<p>を指定します。デフォルトでは、RA モードは無効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>retry period</b> キーワードおよび <i>minutes</i> 引数は、CA に別の証明書要求を送信するまでルータが待機する期間を分単位で指定します。有効値は 1 ～ 60 です。デフォルトは 1 です。</li> <li>• (任意) <b>retry count</b> キーワードおよび <i>number</i> 引数は、直前の要求に対する応答をルータが受信しない場合、ルータが証明書要求を再送信する回数を指定します。有効な値は、1 ～ 100 です。デフォルトは 10 です。</li> <li>• <i>url</i> 引数は、ルータが証明書要求を送信する CA の URL です。</li> </ul> <p><b>Note</b> IPv6 アドレスは <b>http:</b> 登録方式に追加できます。たとえば、<b>http://[ipv6-address]:80</b> です。URL 内の IPv6 アドレスは括弧で囲む必要があります。使用できるその他の登録方式に関する詳細については、<i>enrollment url (ca-trustpoint)</i> コマンド ページを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>pem</b> キーワードは、証明書要求にプライベート強化メール (PEM) の境界を追加します。</li> </ul>
ステップ 5	<pre>hash {md5   sha1   sha256   sha384   sha512}</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(ca-trustpoint)# hash sha384</pre>	<p>(任意) Cisco IOS XE クライアントが自己署名証明書の署名に使用する署名のハッシュ関数を指定します。デフォルトでは、Cisco IOS XE クライアントは MD5 暗号化ハッシュ関数を自己署名証明書に使用します。</p> <p>トラストポイントのデフォルト値を上書きするように、次のコマンドアルゴリズム キーワード オプションのいずれかを指定できます。その後、この設定が、自己署名証明書のデフォルトの暗号化ハッシュ アルゴリズム関数になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>md5</b> : デフォルトのハッシュ関数 MD5 が使用されるように指定します (非推奨)。</li> <li>• <b>sha1</b> : SHA-1 ハッシュ関数が RSA キーのデフォルトのハッシュアルゴリズムとして使用されるように指定します (非推奨)。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>sha256</b> : SHA-256 ハッシュ関数が Elliptic Curve (EC) 256 ビットキーのハッシュアルゴリズムとして使用されるように指定します。</li> <li>• <b>sha384</b> : SHA-384 ハッシュ関数が EC 384 ビットキーのハッシュアルゴリズムとして使用されるように指定します。</li> <li>• <b>sha512</b> : SHA-512 ハッシュ関数が EC 512 ビットキーのハッシュアルゴリズムとして使用されるように指定します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(ca-trustpoint)# exit	CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	<b>crypto pki server</b> <i>cs-label</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki server sub	Cisco IOS XE 証明書サーバーをイネーブルにし、CS サーバー コンフィギュレーションモードを開始します。  <b>Note</b> 下位のサーバには、上記ステップ 3 で作成されたトラストポイントと同じ名前を付ける必要があります。
ステップ 8	<b>issuer name</b> <i>DN-string</i> <b>Example:</b> Device(cs-server)# issuer-name CN=sub CA, O=Cisco, C=us	(任意) 証明書サーバの CA 発行者名として DN を指定します。
ステップ 9	<b>mode sub-cs</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# mode sub-cs	PKI サーバをサブ証明書サーバモードにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 下位 CA と CA との関係は、ネットワーク上のすべてのデバイスが Cisco IOS XE デバイスタイプに含まれる場合のみサポートされます。そのため、Cisco IOS XE の下位 CA は、サードパーティの CA サーバーに登録することはできません。</li> </ul>
ステップ 10	<b>auto-rollover</b> [ <i>time-period</i> ] <b>Example:</b> Device(cs-server)# auto-rollover 90	(任意) 自動 CA 証明書ロールオーバー機能をイネーブルにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>time-period</i> : デフォルトは 30 日です。</li> </ul>
ステップ 11	<b>grant auto rollover</b> { <i>ca-cert</i>   <i>ra-cert</i> } <b>Example:</b> Device(cs-server)# grant auto rollover ca-cert	(任意) オペレータが介入せずに、下位の CA および RA モード CA の再登録要求を自動的に許可します。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ca-cert</b> : 下位の CA ロールオーバー証明書が自動的に付与されるように指定します。</li> <li>• <b>ra-cert</b> : RA モード CA ロールオーバー証明書が自動的に付与されるように指定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> これが、初めて下位の証明書サーバをイネーブルにし、登録するときであれば、証明書要求を手動で許可する必要があります。</p>
ステップ 12	<b>hash {md5   sha1   sha256   sha384   sha512}</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# hash sha384	(任意) Cisco IOS XE 認証局 (CA) はサーバーから発行されたすべての証明書の署名に使用する署名のハッシュ関数を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>md5</b> : デフォルトのハッシュ関数 MD5 が使用されるように指定します (非推奨)。</li> <li>• <b>sha1</b> : SHA-1 ハッシュ関数が使用されるように指定します (非推奨)。</li> <li>• <b>sha256</b> : SHA-256 ハッシュ関数が使用されるように指定します。</li> <li>• <b>sha384</b> : SHA-384 ハッシュ関数が使用されるように指定します。</li> <li>• <b>sha512</b> : SHA-512 ハッシュ関数が使用されるように指定します。</li> </ul>
ステップ 13	<b>no shutdown</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# no shutdown	証明書サーバをイネーブルまたは再イネーブル化します。  これが下位の証明書サーバを初めてイネーブルにするときであれば、証明書サーバはキーを生成し、ルート証明書サーバから署名付き証明書を取得します。

## 例

証明書サーバーがイネーブルにならない、あるいは証明書サーバーが設定された要求を処理する際にトラブルが発生した場合は、**debug crypto pki server** コマンドを使用すると、次に示すように (「クロックが未設定」および「トラストポイントが未設定」) 設定をトラブルシューティングできます。ここでは、「ms2」は 2048 ビットの RSA キーペアのラベルを示します。

```
Router# debug crypto pki server
```

### Clock Not Set

```
Router(config)# crypto pki server ms2
Router(cs-server)# mode sub-cs
Router(cs-server)# no shutdown
%Some server settings cannot be changed after CA certificate generation.
% Please enter a passphrase to protect the private key % or type Return to exit
Password:
*Jan 6 20:57:37.667: CRYPTO_CS: enter FSM: input state initial, input signal no shut
Re-enter password:
*Jan 6 20:57:45.303: CRYPTO_CS: starting enabling checks
*Jan 6 20:57:45.303: CRYPTO_CS: key 'sub' does not exist; generated automatically[OK]
% Time has not been set. Cannot start the Certificate server
```

### Trustpoint Not Configured

```
Router(config)# crypto pki server ms2
Router(cs-server)# mode sub-cs
Router(cs-server)# no shutdown
%Some server settings cannot be changed after CA certificate generation.
% Please enter a passphrase to protect the private key or type Return to exit
Password:
Jan 6 21:00:15.961: CRYPTO_CS: enter FSM: input state initial, input signal no shut.
Jan 6 21:03:34.309: CRYPTO_CS: enter FSM: input state initial, input signal time set.
Jan 6 21:03:34.313: CRYPTO_CS: exit FSM: new state initial.
Jan 6 21:03:34.313: CRYPTO_CS: cs config has been unlocked
Re-enter password:
Jan 6 21:03:44.413: CRYPTO_CS: starting enabling checks
Jan 6 21:03:44.413: CRYPTO_CS: associated trust point 'sub' does not exist; generated
automatically
Jan 6 21:03:44.417: CRYPTO_CS: key 'sub' does not exist; generated automatically[OK]
Jan 6 21:04:03.993: CRYPTO_CS: nvram filesystem
Jan 6 21:04:04.077: CRYPTO_CS: serial number 0x1 written.
You must specify an enrollment URL for this CA before you can authenticate it.
% Failed to authenticate the Certificate Authority
```

証明書サーバーが署名証明書をルート証明書サーバーから取得できない場合は、次の例に示すように、**debug crypto pki transactions** コマンドを使用して設定をトラブルシューティングできます。

```
Router# debug crypto pki transactions
Jan 6 21:07:00.311: CRYPTO_CS: enter FSM: input state initial, input signal time set
Jan 6 21:07:00.311: CRYPTO_CS: exit FSM: new state initial
Jan 6 21:07:00.311: CRYPTO_CS: cs config has been unlocked no sh
%Some server settings cannot be changed after CA certificate generation.
% Please enter a passphrase to protect the private key % or type Return to exit
Password:
Jan 6 21:07:03.535: CRYPTO_CS: enter FSM: input state initial, input signal no shut
Re-enter password:
Jan 6 21:07:10.619: CRYPTO_CS: starting enabling checks
Jan 6 21:07:10.619: CRYPTO_CS: key 'sub' does not exist; generated automatically[OK]
Jan 6 21:07:20.535: %SSH-5-ENABLED: SSH 1.99 has been enabled
Jan 6 21:07:25.883: CRYPTO_CS: nvram filesystem
Jan 6 21:07:25.991: CRYPTO_CS: serial number 0x1 written.
Jan 6 21:07:27.863: CRYPTO_CS: created a new serial file.
Jan 6 21:07:27.863: CRYPTO_CS: authenticating the CA 'sub'
Jan 6 21:07:27.867: CRYPTO_PKI: Sending CA Certificate Request:
GET /cgi-bin/pkiclient.exe?operation=GetCACert&message=sub HTTP/1.0
User-Agent: Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 5.0; Cisco PKI)
Jan 6 21:07:27.867: CRYPTO_PKI: can not resolve server name/IP address
```

```

Jan 6 21:07:27.871: CRYPTO_PKI: Using unresolved IP Address 192.0.2.6 Certificate has
the following attributes:
    Fingerprint MD5: 328ACC02 52B25DB8 22F8F104 B6055B5B
    Fingerprint SHA1: 02FD799D DD40C7A8 61DC53AB 1E89A3EA 2A729EE2
% Do you accept this certificate? [yes/no]:
Jan 6 21:07:30.879: CRYPTO_PKI: http connection opened
Jan 6 21:07:30.903: CRYPTO_PKI: HTTP response header:
    HTTP/1.1 200 OK
Date: Thu, 06 Jan 2005 21:07:30 GMT
Server: server-IOS
Content-Type: application/x-x509-ca-cert
Expires: Thu, 06 Jan 2005 21:07:30 GMT
Last-Modified: Thu, 06 Jan 2005 21:07:30 GMT
Cache-Control: no-store, no-cache, must-revalidate
Pragma: no-cache
Accept-Ranges: none
Content-Type indicates we have received a CA certificate.
Jan 6 21:07:30.903: Received 507 bytes from server as CA certificate:
Jan 6 21:07:30.907: CRYPTO_PKI: transaction GetCACert completed
Jan 6 21:07:30.907: CRYPTO_PKI: CA certificate received.
Jan 6 21:07:30.907: CRYPTO_PKI: CA certificate received.
Jan 6 21:07:30.927: CRYPTO_PKI: crypto_pki_authenticate_tp_cert()
Jan 6 21:07:30.927: CRYPTO_PKI: trustpoint sub authentication status = 0 y Trustpoint
CA certificate accepted.%
% Certificate request sent to Certificate Authority
% Enrollment in progress...
Router (cs-server)#
Jan 6 21:07:51.772: CRYPTO_CA: certificate not found
Jan 6 21:07:51.772: CRYPTO_CA: certificate not found
Jan 6 21:07:52.460: CRYPTO_CS: Publishing 213 bytes to crl file nvram:sub.crl
Jan 6 21:07:54.348: CRYPTO_CS: enrolling the server's trustpoint 'sub'
Jan 6 21:07:54.352: CRYPTO_CS: exit FSM: new state check failed
Jan 6 21:07:54.352: CRYPTO_CS: cs config has been locked
Jan 6 21:07:54.356: CRYPTO_PKI: transaction PKCSReq completed
Jan 6 21:07:54.356: CRYPTO_PKI: status:
Jan 6 21:07:55.016: CRYPTO_PKI: Certificate Request Fingerprint MD5: 1BA027DB 1C7860C7
    EC188F65 64356C80
Jan 6 21:07:55.016: CRYPTO_PKI: Certificate Request Fingerprint SHA1: 840DB52C E17614CB
    0C7BE187 0DFC884D D32CAA75
Jan 6 21:07:56.508: CRYPTO_PKI: can not resolve server name/IP address
Jan 6 21:07:56.508: CRYPTO_PKI: Using unresolved IP Address 192.0.2.6
Jan 6 21:07:56.516: CRYPTO_PKI: http connection opened
Jan 6 21:07:59.136: CRYPTO_PKI: received msg of 776 bytes
Jan 6 21:07:59.136: CRYPTO_PKI: HTTP response header:
    HTTP/1.1 200 OK
Date: Thu, 06 Jan 2005 21:07:57 GMT
Server: server-IOS
Content-Type: application/x-pki-message
Expires: Thu, 06 Jan 2005 21:07:57 GMT
Last-Modified: Thu, 06 Jan 2005 21:07:57 GMT
Cache-Control: no-store, no-cache, must-revalidate
Pragma: no-cache
Accept-Ranges: none
Jan 6 21:07:59.324: The PKCS #7 message has 1 verified signers.
Jan 6 21:07:59.324: signing cert: issuer=cn=root1
Jan 6 21:07:59.324: Signed Attributes:
Jan 6 21:07:59.328: CRYPTO_PKI: status = 102: certificate request pending
Jan 6 21:08:00.788: CRYPTO_PKI: can not resolve server name/IP address
Jan 6 21:08:00.788: CRYPTO_PKI: Using unresolved IP Address 192.0.2.6
Jan 6 21:08:00.796: CRYPTO_PKI: http connection opened
Jan 6 21:08:11.804: CRYPTO_PKI: received msg of 776 bytes
Jan 6 21:08:11.804: CRYPTO_PKI: HTTP response header: HTTP/1.1 200 OK
Date: Thu, 06 Jan 2005 21:08:01 GMT
Server: server-IOS

```

```

Content-Type: application/x-pki-message
Expires: Thu, 06 Jan 2005 21:08:01 GMT
Last-Modified: Thu, 06 Jan 2005 21:08:01 GMT
Cache-Control: no-store, no-cache, must-revalidate
Pragma: no-cache
Accept-Ranges: none
Jan 6 21:08:11.992: The PKCS #7 message has 1 verified signers.
Jan 6 21:08:11.992: signing cert: issuer=cn=root1
Jan 6 21:08:11.996: Signed Attributes:
Jan 6 21:08:11.996: CRYPTO_PKI: status = 102: certificate request pending
Jan 6 21:08:21.996: CRYPTO_PKI: All sockets are closed for trustpoint sub.
Jan 6 21:08:31.996: CRYPTO_PKI: All sockets are closed for trustpoint sub.
Jan 6 21:08:41.996: CRYPTO_PKI: All sockets are closed for trustpoint sub.
Jan 6 21:08:51.996: CRYPTO_PKI: All sockets are closed for trustpoint sub.
Jan 6 21:09:01.996: CRYPTO_PKI: All sockets are closed for trustpoint sub.
Jan 6 21:09:11.996: CRYPTO_PKI: resend GetCertInitial, 1
Jan 6 21:09:11.996: CRYPTO_PKI: All sockets are closed for trustpoint sub.
Jan 6 21:09:11.996: CRYPTO_PKI: resend GetCertInitial for session: 0
Jan 6 21:09:11.996: CRYPTO_PKI: can not resolve server name/IP address
Jan 6 21:09:11.996: CRYPTO_PKI: Using unresolved IP Address 192.0.2.6
Jan 6 21:09:12.024: CRYPTO_PKI: http connection opened% Exporting Certificate Server
signing certificate and keys...
Jan 6 21:09:14.784: CRYPTO_PKI: received msg of 1611 bytes
Jan 6 21:09:14.784: CRYPTO_PKI: HTTP response header:
HTTP/1.1 200 OK
Date: Thu, 06 Jan 2005 21:09:13 GMT
Server: server-IOS
Content-Type: application/x-pki-message
Expires: Thu, 06 Jan 2005 21:09:13 GMT
Last-Modified: Thu, 06 Jan 2005 21:09:13 GMT
Cache-Control: no-store, no-cache, must-revalidate
Pragma: no-cache
Accept-Ranges: none
Jan 6 21:09:14.972: The PKCS #7 message has 1 verified signers.
Jan 6 21:09:14.972: signing cert: issuer=cn=root1
Jan 6 21:09:14.972: Signed Attributes:
Jan 6 21:09:14.976: CRYPTO_PKI: status = 100: certificate is granted
Jan 6 21:09:15.668: The PKCS #7 message contains 1 certs and 0 crls.
Jan 6 21:09:15.688: Newly-issued Router Cert: issuer=cn=root serial=2
Jan 6 21:09:15.688: start date: 21:08:03 GMT Jan 6 2005
Jan 6 21:09:15.688: end date: 21:08:03 GMT Jan 6 2006
Jan 6 21:09:15.688: Router date: 21:09:15 GMT Jan 6 2005
Jan 6 21:09:15.692: Received router cert from CA
Jan 6 21:09:15.740: CRYPTO_CA: certificate not found
Jan 6 21:09:15.744: CRYPTO_PKI: All enrollment requests completed for trustpoint sub.
Jan 6 21:09:15.744: %PKI-6-CERTRET: Certificate received from Certificate Authority
Jan 6 21:09:15.744: CRYPTO_PKI: All enrollment requests completed for trustpoint sub.
Jan 6 21:09:15.744: CRYPTO_PKI: All enrollment requests completed for trustpoint sub.
Jan 6 21:09:15.748: CRYPTO_CS: enter FSM: input state check failed, input signal cert
configured
Jan 6 21:09:15.748: CRYPTO_CS: starting enabling checks
Jan 6 21:09:15.748: CRYPTO_CS: nvram filesystem
Jan 6 21:09:15.796: CRYPTO_CS: found existing serial file.
Jan 6 21:09:15.820: CRYPTO_CS: old router cert flag 0x4
Jan 6 21:09:15.820: CRYPTO_CS: new router cert flag 0x44
Jan 6 21:09:18.432: CRYPTO_CS: DB version 1
Jan 6 21:09:18.432: CRYPTO_CS: last issued serial number is 0x1
Jan 6 21:09:18.480: CRYPTO_CS: CRL file sub.crl exists.
Jan 6 21:09:18.480: CRYPTO_CS: Read 213 bytes from crl file sub.crl.
Jan 6 21:09:18.532: CRYPTO_CS: SCEP server started
Jan 6 21:09:18.532: CRYPTO_CS: exit FSM: new state enabled
Jan 6 21:09:18.536: CRYPTO_CS: cs config has been locked
Jan 6 21:09:18.536: CRYPTO_PKI: All enrollment requests completed for trustpoint sub.

```

証明書サーバがイネーブルにならない、あるいは証明書サーバが設定された要求を処理する際に問題が発生した場合は、**debug crypto pki server** コマンドを使用して、登録の進行状況をトラブルシューティングできます。このコマンドは、ルート CA をデバッグする場合にも使用できます（このコマンドは、ルート CA でオンにしてください）。

## 証明書サーバを RA モードで実行するように設定

証明書サーバは、CA または別のサードパーティの CA の RA として機能することができます。サードパーティの CA を使用する場合は、**transparent** キーワードオプションに関する手順 8 の詳細を確認してください。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint *name***
4. **enrollment url *url***
5. **subject-name *x.500-name***
6. **exit**
7. **crypto pki server *cs-label***
8. **mode ra [transparent]**
9. **auto-rollover [*time-period*]**
10. **grant auto rollover {ca-cert | ra-cert}**
11. **no shutdown**
12. **no shutdown**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint <i>name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki trustpoint ra-server	RA モード証明書サーバが使用するトラストポイントを宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment url <i>url</i></b> <b>Example:</b>	発行元 CA 証明書サーバ（ルート証明書サーバ）の登録 URL を指定します。

	Command or Action	Purpose
	Device(ca-trustpoint)# enrollment url http://ca-server.company.com	
ステップ 5	<b>subject-name</b> <i>x.500-name</i>  <b>Example:</b> Device(ca-trustpoint)# subject-name cn=ioscs RA	RA が使用する所有者名を指定します。  <b>Note</b> 発行元 CA 証明書サーバが RA を認識できるように、所有者名に「cn=ioscs RA」または「ou=ioscs RA」を含めます（ステップ 7 を参照）。
ステップ 6	<b>exit</b>  <b>Example:</b> Device(ca-trustpoint)# exit	CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	<b>crypto pki server</b> <i>cs-label</i>  <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki server ra-server	証明書サーバをイネーブルにし、CS サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。  <b>Note</b> 証明書サーバには、上記ステップ 3 で作成されたトラストポイントと同じ名前を付ける必要があります。
ステップ 8	<b>mode ra [transparent]</b>  <b>Example:</b> Device(cs-server)# mode ra	PKI サーバを RA 証明書サーバ モードにします。  RA モードの CA サーバが複数のタイプの CA サーバと相互運用できるようにするには、 <b>transparent</b> キーワードを使用します。 <b>transparent</b> キーワードを使用すると、元の PKCS#10 登録メッセージは再署名されず、変更せずに転送されます。この登録メッセージによって、IOS RA 証明書サーバは Microsoft CA サーバなどの CA サーバと連携します。
ステップ 9	<b>auto-rollover [time-period]</b>  <b>Example:</b> Device(cs-server)# auto-rollover 90	(任意) 自動 CA 証明書ロールオーバー機能をイネーブルにします。  • <i>time-period</i> : デフォルトは 30 日です。
ステップ 10	<b>grant auto rollover {ca-cert   ra-cert}</b>  <b>Example:</b> Device(cs-server)# grant auto rollover ra-cert	(任意) オペレータが介入せずに、下位の CA および RA モード CA の再登録要求を自動的に許可します。  • <b>ca-cert</b> : 下位の CA ロールオーバー証明書が自動的に付与されるように指定します。  • <b>ra-cert</b> : RA モード CA ロールオーバー証明書が自動的に付与されるように指定します。

	Command or Action	Purpose
		これが、初めて下位の証明書サーバをイネーブルにし、登録するときであれば、証明書要求を手動で許可する必要があります。
ステップ 11	<b>no shutdown</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# no shutdown	証明書サーバをイネーブルにします。 <b>Note</b> このコマンドが発行されると、RA はルート証明書サーバに自動的に登録されます。RA 証明書が正常に受信されたら、 <b>no shutdown</b> コマンドを再度発行する必要があります。これにより、証明書サーバが再イネーブル化されます。
ステップ 12	<b>no shutdown</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# no shutdown	証明書サーバを再イネーブル化します。

## RA モード証明書サーバに登録作業を委任するためのルート証明書サーバの設定

発行元証明書サーバを実行しているルータで、次のステップを実行します。具体的には、登録作業を RA モード証明書サーバに委任するルート証明書サーバを設定します。



**Note** RA の登録要求を許可することは、本質的にクライアントデバイスの登録要求を許可するプロセスと同じですが、RA の登録要求が **crypto pki server info-requests** コマンドのコマンド出力の「RA certificate requests」セクションに表示されるという点が異なります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **crypto pki server** *cs-label* **info requests**
3. **crypto pki server** *cs-label* **grant** *req-id*
4. **configure terminal**
5. **crypto pki server** *cs-label*
6. **grant ra-auto**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
	Device> enable	
ステップ 2	<b>crypto pki server</b> <i>cs-label</i> <b>info requests</b> <b>Example:</b> Device# crypto pki server root-server info requests	未処理の RA 証明書要求を表示します。 <b>Note</b> このコマンドは、発行元証明書サーバを実行しているルータ上で発行されます。
ステップ 3	<b>crypto pki server</b> <i>cs-label</i> <b>grant</b> <i>req-id</i> <b>Example:</b> Device# crypto pki server root-server grant 9	保留の RA 証明書要求を許可します。 <b>Note</b> 発行元証明書サーバが RA に登録要求の検証作業を委任するので、RA 証明書要求を許可する前に、RA 証明書要求に十分注意を払ってください。
ステップ 4	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>crypto pki server</b> <i>cs-label</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki server root-server	証明書サーバをイネーブルにし、CSサーバコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>grant ra-auto</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# grant ra-auto	(任意) RA からのすべての登録要求が自動的に許可されるように指定します。 <b>Note</b> <b>grant ra-auto</b> コマンドを機能させるには、RA 証明書の所有者名に「cn=ioscs RA」または「ou=ioscs RA」を含める必要があります（上記のステップ 2 を参照）。

## 次の作業

証明書サーバを設定したら、デフォルト値を使用するか、証明書サーバの機能用の CLI を使用して値を指定できます。デフォルト値以外の値を指定する場合は、「証明書サーバー機能の設定」の項を参照してください。

## 証明書サーバ機能の設定

証明書サーバをイネーブルにし、証明書サーバ コンフィギュレーション モードになったら、次の作業のいずれかのステップを使用して、基本証明書サーバ機能の値（デフォルト値以外）を設定します。

## 証明書サーバのデフォルト値および推奨値

証明書サーバのデフォルト値は、比較的小規模のネットワーク（10台程度のデバイス）に対処することを意図しています。たとえば、データベース設定値が最小に設定されている場合（**database level minimal** コマンドによって）、証明書サーバーは SCEP を使用してすべての CRL 要求を処理します。大規模なネットワークでは、考えられる監査および失効目的のためにデータベース設定「names」または「complete」（**database level** コマンドで示されるように）を使用することを推奨します。さらに大規模なネットワークでは、CRL 確認ポリシーに応じて、外部 CDP を使用する必要があります。

## 証明書サーバ ファイルの保管および公開場所

ファイルタイプをさまざまな保管場所に保管し、さまざまな公開場所で公開できる柔軟性が備わっています。

### SUMMARY STEPS

1. **database url** *root-url*
2. **database url** {*cnm* | *crl* | *crt* | *p12* | *pem* | *ser*} *root-url*
3. **database url** {*cnm* | *crl* | *crt*} **publish** *root-url*
4. **database level** {*minimal* | *names* | *complete*}
5. **database username** *username* [**password** [*encr-type*] *password*]
6. **database archive** {*pkcs12* | *pem*} [**password** *encr-type*] *password* ]
7. **issuer-name** *DN-string*
8. **lifetime** {*ca-certificate* | *certificate*} *time*
9. **lifetime crl** *time*
10. **lifetime enrollment-request** *time*
11. **cdp-url** *url*
12. **no shutdown**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>database url</b> <i>root-url</i> <b>Example:</b> Device(cs-server)# <b>database url</b> tftp://cert-svr-db.company.com	証明書サーバのデータベース エントリが書き出されるプライマリ ロケーションを指定します。  このコマンドが指定されていない場合、すべてのデータベース エントリは NVRAM に書き込まれます。
ステップ 2	<b>database url</b> { <i>cnm</i>   <i>crl</i>   <i>crt</i>   <i>p12</i>   <i>pem</i>   <i>ser</i> } <i>root-url</i> <b>Example:</b>	証明書サーバの重要なファイルの保管場所をファイルタイプ別に指定します。

	Command or Action	Purpose
	Device(cs-server)# database url ser nvram:	<b>Note</b> このコマンドが指定されていないと、すべての重要ファイルは、（指定されている場合）プライマリロケーションに保管されます。プライマリロケーションが指定されていない場合は、すべての重要ファイルがNVRAMに保管されます。
ステップ 3	<b>database url {cnm   crl   crt} publish root-url</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# database url crl publish tftp://csdb_specific_crl_files.company.com	証明書サーバの公開場所をファイルタイプ別に指定します。 <b>Note</b> このコマンドが指定されていないと、すべての公開ファイルは、（指定されている場合）プライマリロケーションに保管されます。プライマリロケーションが指定されていない場合は、すべての公開ファイルがNVRAMに保管されます。
ステップ 4	<b>database level {minimal   names   complete}</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# database level complete	証明書登録データベースに保管されるデータのタイプを制御します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>minimal</b> : 新しい証明書を、継続して問題なく発行できる程度の情報が保管されます。これがデフォルト値です。</li> <li>• <b>names</b> : minimal レベルで提供される情報以外に、各証明書のシリアル番号および所有者名を保存します。</li> <li>• <b>complete</b> : minimal レベルおよび names レベルで提供される情報以外に、発行済みの各証明書がデータベースに書き込まれます。</li> </ul> <b>Note</b> <b>complete</b> キーワードを指定すると、大量の情報が生成されます。このキーワードを発行する場合、 <b>database url</b> コマンドを使用して、データを保管する外部 TFTP サーバーも指定する必要があります。
ステップ 5	<b>database username username [password [encr-type] password]</b> <b>Example:</b> Device(cs-server)# database username user password PASSWORD	（任意）プライマリ証明書登録データベースの保管場所にアクセスする必要がある場合、ユーザ名とパスワードを設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<p><b>database archive</b> {pkcs12   pem}[password encr-type] password ]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(cs-server)# database archive pem</pre>	<p>(任意) ファイルを暗号化するための CA キーと CA 証明書のアーカイブ形式およびパスワードを設定します。</p> <p>デフォルト値は <b>pkcs12</b> です。したがって、このサブコマンドが設定されていない場合、自動アーカイブが引き続き実行され、PKCS12形式が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードの設定は任意です。パスワードが設定されていない場合、サーバを初めて起動したときに、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。</li> </ul> <p><b>Note</b> アーカイブが完了したら、設定からパスワードを削除することを推奨します。</p>
ステップ 7	<p><b>issuer-name</b> DN-string</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(cs-server)# issuer-name my-server</pre>	<p>(任意) 指定した識別名 (DN-string) に CA 発行者名を設定します。デフォルト値は <b>issuer-name cn={cs-label}</b> です。</p>
ステップ 8	<p><b>lifetime</b> {ca-certificate   certificate} time</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(cs-server)# lifetime certificate 888</pre>	<p>(任意) CA 証明書または証明書のライフタイム (日数) を指定します。</p> <p>有効な値の範囲は、1～1825日です。CA 証明書のデフォルトのライフタイムは3年、証明書のデフォルトのライフタイムは1年です。証明書の最大のライフタイムは、CA 証明書のライフタイムより1か月短い日数です。</p>
ステップ 9	<p><b>lifetime crl</b> time</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(cs-server)# lifetime crl 333</pre>	<p>(任意) 証明書サーバが使用する CRL のライフタイム (時間単位) を定義します。</p> <p>最大ライフタイム値は336時間 (2週間) です。デフォルト値は168時間 (1週間) です。</p>
ステップ 10	<p><b>lifetime enrollment-request</b> time</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(cs-server)# lifetime enrollment-request 888</pre>	<p>(任意) 登録要求が削除されるまで、登録データベースに保管される期間を指定します。</p> <p>最大ライフタイムは1000時間です。</p>
ステップ 11	<p><b>cdp-url</b> url</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(cs-server)# cdp-url http://my-cdp.company.com</pre>	<p>(任意) 証明書サーバが発行した証明書で使用される CDP の場所を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>URL は、HTTP URL を使用する必要があります。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p>Cisco IOS ソフトウェアを実行せず、また SCEP GetCRL 要求をサポートしない PKI クライアントの場合は、次の URL 形式を使用します。</p> <p><code>http://server.company.com/certEnroll/filename.crl</code></p> <p>また、Cisco IOS 証明書サーバが CDP としても設定されている場合は、次の URL 形式を使用します。</p> <p><code>http://cs-addr/cgi-bin/pkiclient.exe?operation=GetCRL</code></p> <p>この <i>cs-addr</i> は証明書サーバの場所です。</p> <p>指定された場所内に埋め込まれた疑問符を保持するようパーサーに強制するには、疑問符の前に Ctrl+V キーを入力します。この処理を実行しないと、HTTP による CRL 取得でエラーメッセージが返されます。</p> <p><b>Note</b> このコマンドは任意ですが、すべての展開シナリオで使用するのをぜひ推奨します。</p>
ステップ 12	<p><b>no shutdown</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(cs-server)# no shutdown</pre>	<p>証明書サーバをイネーブルにします。</p> <p>このコマンドは、証明書サーバの設定が完了した後で発行する必要があります。</p>

## 例

次の例では、PKI クライアントが SCEP GetCRL 要求をサポートしない CDP の場所を設定する方法を示します。

```
Device(config)# crypto pki server aaa
Device(cs-server)# database level minimum
Device(cs-server)# database url tftp://10.1.1.1/username1/
Device(cs-server)# issuer-name CN=aaa
Device(cs-server)# cdn-url http://server.company.com/certEnroll/aaa.crl
```

証明書サーバがルータ上でイネーブルになってから、**show crypto pki server** コマンドを実行すると、次の出力が表示されます。

```
Device# show crypto pki server

Certificate Server status:enabled, configured
Granting mode is:manual
Last certificate issued serial number:0x1
CA certificate expiration timer:19:31:15 PST Nov 17 2006
CRL NextUpdate timer:19:31:15 PST Nov 25 2003
Current storage dir:nvram:
Database Level:Minimum - no cert data written to storage
```

## 自動 CA 証明書ロールオーバーでの作業

### 自動 CA 証明書ロールオーバーをただちに開始する

ルート CA サーバ上で自動 CA 証明書ロールオーバー プロセスをただちに開始するには、次の作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto pki server cs-label rollover [cancel]`

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki server <i>cs-label</i> rollover [cancel]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki server mycs rollover	シャドウ CA 証明書を生成して、CA 証明書ロールオーバー プロセスをただちに開始します。  CA 証明書ロールオーバー証明書およびキーを削除するには、 <b>cancel</b> キーワードを使用します。

### 証明書サーバクライアントのロールオーバー証明書の要求

証明書サーバクライアントのロールオーバー証明書を要求するには、次の作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto pki server cs-label rollover request pkcs10 terminal`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki server <i>cs-label</i> rollover request pkcs10 terminal</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki server mycs rollover request pkcs10 terminal	サーバからクライアント ロールオーバー証明書を要求します。

## 例

次は、サーバに入力されるロールオーバー証明書要求の例です。

```
Device# crypto pki server mycs rollover request pkcs10 terminal

% Enter Base64 encoded or PEM formatted PKCS10 enrollment request.
% End with a blank line or "quit" on a line by itself.
-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----
MIIBUTCBuwIBADASMRawDgYDVQQDEwd0ZXZdSb290MIGfMA0GCSqGSIb3DQEBAQUA
A4GNADCBiQKBgQDMHeev1ERSs320zbLQQk+3lhV/R2HpYQ/im6uT1jkJf5iy0UPR
wF/Xl6yUNmG+ObiGiW9fsASF0nxZw+f07d2X2yh1PakfvF2wbP27C/sgJNOW9uPf
sBxEc40Xe0d5FMh0YKOSASHfZYKOf1nyQR2Drmm2x/33QGo15QyRvjkeWQIDAQAB
oAAwDQYJKoZIhvcNAQEEBQADgYEALM90r4d79X6vxhd0qjuYJXfBCOvv4FNyFsjr
aBS/y6CnNVYySF8UBUohXYIGTWf4I4+s6i8gYfoFUW1/L82djS18TLrUr6wpCOs
RqfAfps7HW1e4cizOfjAUU+C7lNcobCAhwF1o6q2nIEjppQ/2yfK907sb3SCJZBfe
eW3tyCo=
-----END CERTIFICATE REQUEST-----
```

## CA ロールオーバー証明書のエクスポート

CA ロールオーバー証明書をエクスポートするには、次の作業を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki export *trustpoint* pem {terminal | url *url*} [rollover]**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki export trustpoint pem {terminal   url url} [rollover]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki export mycs pem terminal rollover	CA シャドウ証明書をエクスポートします。

## 証明書サーバ、証明書、CAの保守、検証、およびトラブルシューティング

## 登録要求データベースの管理

SCEP は、2つのクライアント認証メカニズム（手動による登録と事前共有キーを使用する登録）をサポートします。手動による登録では、管理者は、CA サーバで具体的に登録要求を認可する必要があります。事前共有キーを使用する登録では、管理者は、ワンタイムパスワード（OTP）を生成することにより、登録要求を事前に許可できます。

次の作業のうち、いずれかのステップを使用して、SCEP で使用される登録処理パラメータの指定、および実行時動作または証明書サーバの制御などの機能を実行すると、登録要求データベースが管理しやすくなります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **crypto pki server** *cs-label* **grant** {all | req-id}
3. **crypto pki server** *cs-label* **reject** {all | req-id}
4. **crypto pki server** *cs-label* **password generate** *minutes*
5. **crypto pki server** *cs-label* **revoke** *certificate-serial-number*
6. **crypto pki server** *cs-label* **request pkcs10** {url | terminal} [base64] pem
7. **show crypto pki server** *cs-label* **cri**
8. **show crypto pki server** *cs-label* **requests**



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>crypto pki server <i>cs-label</i> grant {all   req-id}</b> <b>Example:</b> Device# crypto pki server mycs grant all	すべての SCEP 要求または特定の SCEP 要求を許可します。
ステップ 3	<b>crypto pki server <i>cs-label</i> reject {all   req-id}</b> <b>Example:</b> Device# crypto pki server mycs reject all	すべての SCEP 要求または特定の SCEP 要求を拒否します。
ステップ 4	<b>crypto pki server <i>cs-label</i> password generate <i>minutes</i></b> <b>Example:</b> Device# crypto pki server mycs password generate 75	SCEP 要求に対して OTP を生成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>minutes</i> : パスワードの有効時間（分）。有効な値の範囲は、1 ～ 1440 分です。デフォルトは 60 分です。</li> </ul> <p><b>Note</b> 有効になる OTP は、一度に 1 つだけです。別の OTP が生成されると、1 番目の OTP は無効になります。</p>
ステップ 5	<b>crypto pki server <i>cs-label</i> revoke <i>certificate-serial-number</i></b> <b>Example:</b> Device# crypto pki server mycs revoke 3	証明書を証明書のシリアル番号に基づいて無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>certificate-serial-number</i> : 次のオプションのいずれかを指定します。               <ul style="list-style-type: none"> <li>0x で始まるストリング。これは 16 進値として処理されます</li> <li>0 と no x で始まるストリング。これは 8 進値として処理されます</li> <li>その他すべてのストリング。これらは 10 進値として処理されます</li> </ul> </li> </ul>
ステップ 6	<b>crypto pki server <i>cs-label</i> request pkcs10 {url   terminal} [base64   pem]</b> <b>Example:</b> Device# crypto pki server mycs request pkcs10 terminal pem	Base 64 符号化形式または PEM 形式の PKCS10 証明書登録要求を要求データベースに手動で追加します。 証明書が付与されると、証明書は Base 64 符号化を使用してコンソール端末に表示されます。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>pem</b> : 要求に PEM ヘッダーが使用されたかどうかにかかわらず、証明書を付与された後、PEM ヘッダーを自動的に追加した証明書を返すように指定します。</li> <li>• <b>base64</b> : 要求に PEM ヘッダーが使用されたかどうかにかかわらず、証明書をプライバシー強化メール (PEM) ヘッダーなしで返すように指定します。</li> </ul>
ステップ 7	<b>show crypto pki server <i>cs-label</i> <i>crl</i></b> <b>Example:</b> Device# show crypto pki server mycs crl	現在の CRL のステータスに関する情報を表示します。
ステップ 8	<b>show crypto pki server <i>cs-label</i> <i>requests</i></b> <b>Example:</b> Device# show crypto pki server mycs requests	未処理の証明書登録要求をすべて表示します。

## 登録要求データベースからの要求の削除

証明書サーバは、登録要求を受け取ると、要求を保留状態のままにする、拒否するか、あるいは許可できます。要求は、クライアントが要求の結果を求めて証明書サーバをポーリングするまで、登録要求データベースに1週間保存されます。クライアントが終了し、証明書サーバを絶対にポーリングしない場合は、個々の要求またはすべての要求をデータベースから削除できます。

次の作業を実行して、データベースから要求を削除し、キーおよびトランザクション ID に関してサーバをクリーンな状態に戻せます。また、この作業を実行して、適切に動作しない SCEP クライアントのトラブルシューティングができます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **crypto pki server *cs-label* *remove* {*all* | *req-id*}**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>crypto pki server</b> <i>cs-label</i> <b>remove</b> { <b>all</b>   <i>req-id</i> } <b>Example:</b> Device# <b>crypto pki server mycs remove 15</b>	登録要求を登録要求データベースから削除します。

## 証明書サーバの削除

証明書サーバを PKI 設定に残したくない場合、証明書サーバを PKI 設定から削除できます。通常、下位の証明書サーバまたは RA は削除されます。ただし、保存された RSA キーを使用してルート証明書サーバを別のデバイスに移動した場合は、ルート証明書サーバを削除できません。

PKI 設定から証明書サーバを削除するには、次の作業を実行します。



**Note** 証明書サーバを削除すると、関連付けられているトラストポイントおよびキーも削除されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **no crypto pki server** *cs-label*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no crypto pki server</b> <i>cs-label</i> <b>Example:</b> Device(config)# <b>no crypto pki server mycs</b>	証明書サーバおよび関連付けられたトラストポイントとキーを削除します。

## 証明書サーバと CA ステータスの検証およびトラブルシューティング

証明書サーバまたは CA のステータスを検証するには、次の手順のいずれかを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `debug crypto pki server`
3. `dir filesystem :`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug crypto pki server</b> <b>Example:</b> Device# debug crypto pki server	暗号 PKI 証明書サーバのデバッグをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 証明書サーバが応答しない場合、あるいは証明書サーバが設定された要求を処理する際に問題が発生した場合は、このコマンドを使用して登録の進行状況のモニタリングおよびトラブルシューティングができます。</li> </ul>
ステップ 3	<b>dir filesystem :</b> <b>Example:</b> Device# dir slot0:	ファイルシステムのファイルリストを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ローカルファイルシステムをポイントするために <b>database url</b> コマンドを入力した場合は、このコマンドを使用して、証明書サーバー自動アーカイブファイルを検証できます。少なくともデータベース内の「<i>cs-label .ser</i>」および「<i>cs-label .crl</i>」ファイルを参照する必要があります。</li> </ul>

## CA 証明書情報の検証

CA 証明書に関連する情報（証明書サーバロールオーバープロセス、ロールオーバー証明書、およびタイマーなど）を入手するには、次のコマンドのいずれかを使用します。



**Note** これらのコマンドは、シャドウ証明書情報に対して排他的ではありません。シャドウ証明書が存在しない場合、次のコマンドを実行すると、アクティブな証明書情報だけが表示されます。

## SUMMARY STEPS

1. `crypto pki certificate chain`

2. `crypto pki server info requests`
3. `show crypto pki certificates`
4. `show crypto pki server`
5. `show crypto pki trustpoints`

## DETAILED STEPS

### Procedure

#### ステップ 1 `crypto pki certificate chain`

##### Example:

```
Device(config)# crypto pki certificate chain mica

certificate 06
certificate ca 01
! This is the peer's shadow PKI certificate.
certificate rollover 0B
! This is the CA shadow PKI certificate
certificate rollover ca 0A
```

証明書チェーンの詳細を表示し、現在のアクティブな証明書と証明書チェーンのロールオーバー証明書を区別します。次の例では、アクティブな CA 証明書を持つ証明書チェーンおよびシャドウ証明書、またはロールオーバー証明書を示します。

#### ステップ 2 `crypto pki server info requests`

##### Example:

```
Device# crypto pki server myca info requests

Enrollment Request Database:
RA certificate requests:
  ReqID  State      Fingerprint                               SubjectName
-----
RA rollover certificate requests:
  ReqID  State      Fingerprint                               SubjectName
-----
Router certificates requests:
  ReqID  State      Fingerprint                               SubjectName
-----
1      pending   A426AF07FE3A4BB69062E0E47198E5BF hostname=client
Router rollover certificates requests:
  ReqID  State      Fingerprint                               SubjectName
-----
2      pending   B69062E0E47198E5BFA426AF07FE3A4B hostname=client
```

未処理の証明書登録要求をすべて表示します。次に、シャドウ PKI 証明書情報要求の出力例を示します。

#### ステップ 3 `show crypto pki certificates`

##### Example:

```
Device# show crypto pki certificates

Certificate
  Subject Name
    Name: myrouter.example.com
```

```

IP Address: 192.0.2.1
Serial Number: 04806682
Status: Pending
Key Usage: General Purpose
Fingerprint: 428125BD A3419600 3F6C7831 6CD8FA95 00000000
CA Certificate
Status: Available
Certificate Serial Number: 3051DF7123BEE31B8341DFE4B3A338E5F
Key Usage: Not Set

```

証明書、認証局証明書、シャドウ証明書、および任意の登録認局証明書に関する情報を表示します。次の例では、ルータの証明書および CA の証明書を表示します。利用可能なシャドウ証明書はありません。単一の汎用目的 RSA キーペアが以前に生成されていましたが、このキーペアについては、証明書が要求されているものの、受信されていません。ルータの証明書のステータスが「Pending」であることに注意してください。ルータが CA からその証明書を受信すると、**show** 出力の [Status] フィールドが「Available」に変わります。

#### ステップ 4 show crypto pki server

##### Example:

```

Device# show crypto pki server

Certificate Server routercs:
  Status: enabled, configured
  Issuer name: CN=walnutcs
  CA cert fingerprint: 800F5944 74337E5B C2DF6C52 9A7B1BDB
  Granting mode is: auto
  Last certificate issued serial number: 0x7
  CA certificate expiration timer: 22:10:29 GMT Jan 29 2007
  CRL NextUpdate timer: 21:50:56 GMT Mar 5 2004
  Current storage dir: nvram:
  Database Level: Minimum - no cert data written to storage
  Rollover status: available for rollover
  Rollover CA cert fingerprint: 6AAF5944 74227A5B 23DF3E52 9A7F1FEF
  Rollover CA certificate expiration timer: 22:10:29 GMT Jan 29 2017

```

証明書サーバの現在の状態および設定を表示します。次の例では、証明書サーバ「routercs」にロールオーバーが設定されていることを示します。CA 自動ロールオーバー時間が発生し、ロールオーバーまたはシャドウ証明書、PKI 証明書が利用可能です。ステータスには、ロールオーバー証明書フィンガープリントおよびロールオーバー CA 証明書の失効タイマー情報が示されています。

#### ステップ 5 show crypto pki trustpoints

##### Example:

```

Device# show crypto pki trustpoints

Trustpoint vpn:
  Subject Name:
  cn=Cisco SSL CA
  o=Cisco Systems
  Serial Number: 0FFEBC1B6F6D9D0EA7875875E4C695
  Certificate configured.
  Rollover certificate configured.
  Enrollment Protocol:
  SCEPv1, PKI Rollover

```

デバイスに設定されているトラストポイントを表示します。次の出力は、シャドウ CA 証明書が使用可能であることを示し、最後の登録操作中に報告された SCEP 機能を示します。

## 証明書サーバを使用するための設定例

### 例：特定の保管および公開場所の設定

次の例では、証明書サーバが迅速に証明書要求に応答できるように、最低限のローカルファイルシステムの設定を示します。 .ser および .crl ファイルは、素早くアクセスできるようにローカルのシステムの上に保管され、長時間のログインでは、.crl ファイルのすべてのコピーがリモートの場所に公開されます。

```
crypto pki server myserver
!Pick your database level.
database level minimum
!Specify a location for the .crl files that is different than the default local
!Cisco IOS file system.
database url crt publish http://url username user1 password secret
```



**Note** .crl ファイルが非常に大きくなる場合に備えて、ローカルファイルシステムの空き容量をモニタリングする必要があります。

次の例では、重要ファイルのプライマリ保管場所、重要ファイルのシリアル番号ファイル固有の保管場所、メイン証明書サーバのデータベース ファイル、および CRL ファイルのパスワード保護されたファイル公開場所の設定を示します。

```
Device(config)# crypto pki server mycs
Device(cs-server)# database url ftp://cs-db.company.com

!
% Server database url was changed. You need to move the
% existing database to the new location.
!
Device(cs-server)# database url ser nvram:
Device(cs-server)# database url crt publish ftp://crl.company.com username myname password
mypassword
Device(cs-server)# end
```

次の出力は、指定されたプライマリ保管場所および指定された重要ファイルの保管場所を示します。

```
Device# show

Sep  3 20:19:34.216: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by user on console
Device# show crypto pki server

Certificate Server mycs:
```

## 例：登録要求データベースからの登録要求の削除

```

Status: disabled
Server's configuration is unlocked (enter "no shut" to lock it)
Issuer name: CN=mycs
CA cert fingerprint: -Not found-
Granting mode is: manual
Last certificate issued serial number: 0x0
CA certificate expiration timer: 00:00:00 GMT Jan 1 1970
CRL not present.
Current primary storage dir: ftp://cs-db.company.com
Current storage dir for .ser files: nvram:
Database Level: Minimum - no cert data written to storage The following output
displays all storage and publication locations. The serial number file (.ser) is stored
in NVRAM. The CRL file will be published to ftp://crl.company.com with a username and
password. All other critical files will be stored to the primary location,
ftp://cs-db.company.com.

```

```
Device# show running-config
```

```

section crypto pki server
crypto pki server mycs shutdown database url ftp://cs-db.company.com
database url crl publish ftp://crl.company.com username myname password 7
12141C0713181F13253920
database url ser nvram:
Device#

```

## 例：登録要求データベースからの登録要求の削除

次の例では、現在登録要求データベース内にある両方の登録要求と、これらの登録要求のうち1つがデータベースから削除された結果を示します。

## 例：現在登録要求データベース内にある登録要求

次の例では、現在登録要求データベース内にある登録要求を表示するために、**crypto pki server info requests** コマンドが使用されたことを示します。

```
Device# crypto pki server myserver info requests
```

```

Enrollment Request Database:
RA certificate requests:
ReqID      State      Fingerprint                                     SubjectName
-----
Router certificates requests:
ReqID      State      Fingerprint                                     SubjectName
-----
2          pending   1B07F3021DAAB0F19F35DA25D01D8567             hostname=host1.company.com
1          denied   5322459D2DC70B3F8EF3D03A795CF636             hostname=host2.company.com

```

## 例：crypto pki server remove コマンドを使用して1つの登録要求を削除する

次の例では、**crypto pki server remove** コマンドを使用して、登録要求1が削除されたことを示します。

```
Device# crypto pki server myserver remove 1
```

## 例：登録要求を1つ削除した後の登録要求データベース

次の例では、登録要求データベースから登録要求1を削除した結果を示します。



```

Device# crypto pki server mycs info requests

Enrollment Request Database:
RA certificate requests:
ReqID      State      Fingerprint                               SubjectName
-----
Router certificates requests:
ReqID      State      Fingerprint                               SubjectName
-----
2          pending   1B07F3021DAAB0F19F35DA25D01D8567       hostname=host1.company.com

```

## 例：証明書サーバのルートキーの自動アーカイブ化

次の出力設定および例では、**database archive** コマンドを設定していない（つまりデフォルト値を使用して設定した）場合、パスワードを設定せずに **database archive** コマンドを設定して CA 証明書および CA キーアーカイブ形式を PEM にする場合、およびパスワードを設定して **database archive** コマンドを設定し、CA 証明書および CA キーアーカイブ形式を PKCS12 にする場合の表示内容を示します。最後の例は、PEM 形式のアーカイブファイルのサンプル内容です。次の例の「ms2」は 2048 ビット キー ペアのラベルを示します。

### 例：database archive コマンド未設定



**Note** デフォルトは PKCS12 です。no shutdown コマンドを発行すると、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

```

Device(config)# crypto pki server ms2
Device(cs-server)# no shutdown

% Ready to generate the CA certificate.
%Some server settings cannot be changed after CA certificate generation.
Are you sure you want to do this? [yes/no]: y
% Exporting Certificate Server signing certificate and keys...
! Note the next two lines, which are asking for a password.
% Please enter a passphrase to protect the private key.
Password:
% Certificate Server enabled.
Device(cs-server)# end
Device# dir nvram:

Directory of nvram:/
 125  -rw-          1693          <no date>  startup-config
 126  ----           5          <no date>  private-config
   1  -rw-           32          <no date>  myserver.ser
   2  -rw-          214          <no date>  myserver.crl
! Note the next line, which indicates PKCS12 format.
   3  -rw-          1499          <no date>  myserver.p12

```

## 例：database archive コマンドおよび pem キーワードを設定



**Note** no shutdown コマンドを発行すると、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

```
Device(config)# crypto pki server ms2
Device(cs-server)# database archive pem
Device(cs-server)# no shutdown

% Ready to generate the CA certificate.
%Some server settings cannot be changed after CA certificate generation.
Are you sure you want to do this? [yes/no]: y
% Exporting Certificate Server signing certificate and keys...
!Note the next two lines, which are asking for a password.
% Please enter a passphrase to protect the private key.
Password:
% Certificate Server enabled.
Device(cs-server)# end
Device# dir nvram

Directory of nvram:/
 125  -rw-          1693          <no date>  startup-config
 126  ----           5          <no date>  private-config
   1  -rw-           32          <no date>  myserver.ser
   2  -rw-          214          <no date>  myserver.crl
! Note the next line showing that the format is PEM.
   3  -rw-          1705          <no date>  myserver.pem
```

## 例：database archive コマンドおよび pkcs12 キーワード（およびパスワード）を設定



**Note** パスワードは、入力されると暗号化されます。ただし、アーカイブが完了したら、設定からパスワードを削除することを推奨します。

```
Device(config)# crypto pki server ms2
Device(cs-server)# database archive pkcs12 password cisco123
Device(cs-server)# no shutdown

% Ready to generate the CA certificate.
% Some server settings cannot be changed after CA certificate generation.
Are you sure you want to do this? [yes/no]: y
% Exporting Certificate Server signing certificate and keys...
! Note that you are not being prompted for a password.
% Certificate Server enabled.
Device(cs-server)# end
Device# dir nvram:

Directory of nvram:/
 125  -rw-          1693          <no date>  startup-config
 126  ----           5          <no date>  private-config
   1  -rw-           32          <no date>  myserver.ser
   2  -rw-          214          <no date>  myserver.crl
! Note that the next line indicates that the format is PKCS12.
   3  -rw-          1499          <no date>  myserver.pl2
```

**例：PEM フォーマットのアーカイブ**

次のサンプル出力は、自動アーカイブがPEMファイル形式で設定されたことを示します。アーカイブは、CA 証明書と CA 秘密キーから成ります。バックアップを使用して証明書サーバを復元するには、PEM 形式の CA 証明書と CA キーを別々にインポートする必要があります。



**Note** CA 証明書および CA キーアーカイブファイル以外にも、シリアル番号ファイル (.ser) および CRL ファイル (.crl) を定期的にバックアップする必要があります。証明書サーバを復元する必要がある場合、CA 運用においてシリアルファイルおよび CRL ファイルは重要です。

```
Device# more nvram:mycs.pem

-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIB9zCCAQCgAwIBAgIBATANBgkqhkiG9w0BAQQFADAPMQ0wCwYDVQQDEwRteWNz
MB4XDTA0MDgyNzAyMzI0NDU0MDEyMDEyMDEyMDEyMDEyMDEyMDEyMDEyMDEyMDEy
czCBnzANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOBjQAwYkCgYEA11ZpKP4nGDJHGPkPYSkix71D
nr23aM1Z9Kz5oo/qTBxeZ8muJpYcZ0T8AZvoOiCuDnYm1796ZwpkMgjz1aZzBl+
BtuVv1sEOfhC+u/O1/vxfGG5xpshoz/F5J3xdg5ZzUWwuIDAUYu9+QbI5feuG04
Z/BiPib4AmGTP4B2MM0CAwEAANjMGEwDwYDVR0TAAQ/BAUwAwEB/zAOBGNVHQ8B
Af8EBAMCAyYwHwYDVR0jBBgwFoAUK1/cuK6wkz+ZswVtb06vUJboEeEwHQYDVR0O
BBYEFcov3LiusJM/mbMFbW9Or1CW6BHhMA0GCSqGSIb3DQEBAUAA4GBAKLOmoE2
4+NeOKEXMCXG1jcohK7O2HrkFfl/vpK0+q92PTnMUFhxLQqI8pWIq5CCG7heace
OrTv2zcUAoH4rzx3Rc2USIxkDokWWQMLuj3Mm/SLieHit0G5uj//GCcbgK20MAW6
ymf7+TmblSFljWzstoUXC2hLnsJIMq/KffaD
-----END CERTIFICATE-----

!The private key is protected by the password that is
configured in "database archive pem password pwd" or that
is entered when you are prompted for the password.
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
Proc-Type: 4,ENCRYPTED
DEK-Info: DES-EDE3-CBC,106CE91FFD0A075E

zyiFC8rKv8Cs+IKsQG2QpsVpvDBHqZqBSM4D528bvZv7jzr6WuHj8E6zo+6G8R/A
zjsfTALo+e+ZDg7KMzbrYHARvjSkbqFdOML1VIYBhCeS1KsskWB6chOuyPHJInW
JwC5YzZdZwOqcyLBP/xOYXcvjzZnFpAXZzN12VR8vWDNq/kHT+3Lplc8hY++ABMI
M+C9FB3dpNZzu501BZCJg46bqbkulaCCmScIDaVt0zDFZwWTSufiemNxBZG4xS8
t5t+FEhmSfv8DAmwg4f/KVRFtm10phUArcLxQ038A10W5YHHORdACnuzVUvHgc07
VT4XUTj07qMhmJgFNWylpu49fbdS2NnOn5Ioiaq51klKUPrz/WABWiCvLMylGnZ
kyMCWoaMtG5/vdx74BBCj09yRZJnLMLi6SDofjCNTDHfmFEVg4LsSWCd41P90P8
0MqhP1D5Vix6PbMNwkWW12lpBbCCdesFRGHjZD2dOu96kHD7ItErx34CC8W04aG4
b7DLktUu6WNV6M8g3CAqJiC0V8ATlp+kvdHZVkvXovgND5IU00Jpsj0HhGzKAGpOY
KTGTUekUboISjvVki6efp1v06temVL3Txg3KghzWMJGrq1snghe0KnV8tkddv/9N
d/t1l+we9mrccTq50WNDnkei/cwHI/0PKXg+NDNH3k3QGpAprsqGQmMPdqc5ut0P
86i4cF9078QwWg4Tpay3uqNH1Zz6UN0tcarVvNmDupFESUxYw10qJrrEYVRadu74
rKAU4Ey4xkAftB2kuqvr21Av/L+jne4kkGIozYdB+p/M98pQRgkYyg==
-----END RSA PRIVATE KEY-----
```

**例：証明書サーババックアップファイルからの証明書サーバの復元**

次の例は、PKCS12アーカイブから復元され、データベースURLがNVRAM（デフォルト）であることを示します。

```
Device# copy tftp://192.0.2.71/backup.ser nvram:mycs.ser
```

## 例：証明書サーババックアップファイルからの証明書サーバの復元

```

Destination filename [mycs.ser]?
32 bytes copied in 1.320 secs (24 bytes/sec)

Device# copy tftp://192.0.2.71/backup.crl nvram:mycs.crl

Destination filename [mycs.crl]?
214 bytes copied in 1.324 secs (162 bytes/sec)

Device# configure terminal
Device(config)# crypto pki import mycs pkcs12 tftp://192.0.2.71/backup.p12 cisco123

Source filename [backup.p12]?
CRYPTO_PKI: Imported PKCS12 file successfully.

Device(config)# crypto pki server mycs
! fill in any certificate server configuration here

Device(cs-server)# no shutdown
% Certificate Server enabled.

Device(cs-server)# end
Device# show crypto pki server

Certificate Server mycs:
  Status: enabled
  Server's current state: enabled
  Issuer name: CN=mycs
  CA cert fingerprint: 34885330 B13EAD45 196DA461 B43E813F
  Granting mode is: manual
  Last certificate issued serial number: 0x1
  CA certificate expiration timer: 01:49:13 GMT Aug 28 2007
  CRL NextUpdate timer: 01:49:16 GMT Sep 4 2004
  Current storage dir: nvram:
  Database Level: Minimum - no cert data written to storage

```

次の例は、PEMアーカイブから復元され、データベースURLがflashであることを示します。

```

Device# copy tftp://192.0.2.71/backup.ser flash:mycs.ser

Destination filename [mycs.ser]?
32 bytes copied in 1.320 secs (24 bytes/sec)
Router# copy tftp://192.0.2.71/backup.crl flash:mycs.crl
Destination filename [mycs.crl]?
214 bytes copied in 1.324 secs (162 bytes/sec)
Device# configure terminal

! Because CA cert has Digital Signature usage, you need to import using the "usage-keys"
keyword

Device(config)# crypto ca import mycs pem usage-keys terminal cisco123
% Enter PEM-formatted CA certificate.
% End with a blank line or "quit" on a line by itself.
! Paste the CA cert from .pem archive.
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIB9zCCAWCgAwIBAgIBATANBgkqhkiG9w0BAQQFADAPMQ0wCwYDVQQDEwRteWNz
MB4XDTA0MDkwMjI1MDI1N1oXDTA3MDkwMjI1MDI1N1owDzENMAAGA1UEAxMEbXl1
czCBnzANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOBjQAwYkCgYEAuGnnDXJbpDDQwCuKGS5Zg2rc
K7ZJauSUotTmWYQvNx+ZmWrUs5/j9Ee5FV2YonirGBQ9mc6u163kNlRIPFck062L
GpahBhNmKdGod1o2PHTnRlZpEZNDIqu2D3hACgByxPjry4vUnccV36ewLnQnYpp8
szEu7PYTJr5dU5ltAekCAwEAAAnjMGEwDwYDVR0TAQH/BAUwAwEB/zAObgNVHQ8B
Af8EBAMCAYYwHwYDVR0jBBgwFoAUaEEQwYKCQ1dm9+wLYBKRTlzxADIwHQYDVR0O
BBYEFghBEMGCgkNXZvfsC2AskU5c8WgyMA0GCSqGSIb3DQEBAUAA4GBAHyHiv2C
mH+vswkBjRAlFzkk8ttu9s5kwqG0dXp25QRUwGlr9nsKPNdVKt3P7p0A/KochHe

```

```

eNiygiv+hDQ3FVnzsNv9831e605jvAPxcl7RO1BbfNhqvEWMsXdnjHocUy7XerCo
+bdPcUf/eCiZueH/BEy/SZhd7yovzn2cdzBN
-----END CERTIFICATE-----
% Enter PEM-formatted encrypted private SIGNATURE key.
% End with "quit" on a line by itself.
! Paste the CA private key from .pem archive.
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
Proc-Type: 4,ENCRYPTED
DEK-Info: DES-EDE3-CBC,5053DC842B04612A

1CnlF5Pqvd0zp2NLZ7iosxzTy6nDeXPpNyJpxB5q+V29IuY8Apb6TlJCU7YrsEB/
nBTK7K76DCeGpLLpcuyEI17lQmkQJ2gA0QhC0LrRo09WrINVH+b4So/y7nffZkVb
p2yDpZwqoJ8cmRH94Tie0YmzBtEh6ayOud1lz53qbrsCnfSEwszt1xrWlMKrFZrk
/fTy6loHzGFz13BDj4r5gBecExwcPp74ldHO+Ld4Nc9egG8BYkeBCsZZOQNVhXLN
I0tODOs6hP915zb6OrZFYv0NK6grTBO9D8hjNZ3U79jJzsSP7UNzIYHNTzRjAyu
i56Oy/iHvkCSNUIK6zeIJQnW4bSoM1BqrbVPwHU6QaXUq1NzZ8SDtw7ZRZ/rHuiD
RTJMPbKquAzeuBss1132OaAUJRStjPXgyZTUbc+cWb6zATNws2yijPDTR6sRHoQL
47wHMr2Yj80VZGgkCSLakL88Acz9TfUiVfhtfl6xMC2yuFl+WRk1XfF5VtWe5Zer
3Fn1DcBmlF7086XUkiSHP4EV0cI6n5ZMzVLx0XAUTdAl1gD94y1V+6p9PcQHLYQA
pGRmj5IlsFw90aLafgCTbRbmC0ChIqHy91UFalub0130+yu7LsLGRlPmJ9NE61JR
bjRh1UXItRYWY7C4M3m/0wz6fmVQNSumJM08RHq61UB3olzIggIZlZkoaESrLG0p
qq2AENFemCPF0uhyVS2humMHjWuRr+jedfc/IMl7sLEgAdqCVCfV3RZVEaNXBud1
4QjkuTrwaTcRXVfBtrVioT/puyVUlpA7+k7w+F5TZwUV08mwvUEqDw==
-----END RSA PRIVATE KEY-----
quit
% Enter PEM-formatted SIGNATURE certificate.
% End with a blank line or "quit" on a line by itself.
! Paste the CA cert from .pem archive again.
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIB9zCCAWCgAwIBAgIBATANBgkqhkiG9w0BAQQFADAPMQ0wCwYDVQQDEwRteWNz
MB4XDTA0MDkzMjIxMDI1NlloXDTA3MDkzMjIxMDI1NlowDzENMAsGAlUEAxBEbx1j
czCBnzANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOBjQAwGykCgYEAuGnnDXJbpdDQwCuKGS5Zg2rc
K7ZJauSUotTmWYQvNx+ZmWrUs5/j9Ee5FV2YonirGBQ9mc6ul63kNlrIPFck062L
GpahBhNmKfgodlo2PHTnRlZpEZNDIqU2D3hACgByxPjry4vUnccV36ewLnQnYpp8
szEu7PYTJr5dU5ltAekCAwEAAnjMGEwDwYDVR0TAQH/BAUwAwEB/zAObGNVHQ8B
Af8EBAMCAYYwHwYDVR0jBBgwFoAUaEEQwYKCQ1dm9+wLYBKRTlzxADIwHQYDVR0O
BBYEFghBEMGCgkNXZvfc2ASkU5c8WgyMAOGCSqGSIB3DQEBAUAA4GBAhyhiv2C
mH+vsWkBJRAlFzZk8ttu9s5kwqG0dXp25QRUWsGlr9nsKPNdVkt3P7p0A/KochHe
eNiygiv+hDQ3FVnzsNv9831e605jvAPxcl7RO1BbfNhqvEWMsXdnjHocUy7XerCo
+bdPcUf/eCiZueH/BEy/SZhd7yovzn2cdzBN
-----END CERTIFICATE-----

% Enter PEM-formatted encrypted private ENCRYPTION key.
% End with "quit" on a line by itself.
! Because the CA cert only has Digital Signature usage, skip the encryption part.
quit
% PEM files import succeeded.
Device(config)# crypto pki server mycs
Device(cs-server)# database url flash:

! Fill in any certificate server configuration here.
Device(cs-server)# no shutdown

% Certificate Server enabled.
Device(cs-server)# end
Device# show crypto pki server

Certificate Server mycs:
  Status: enabled
  Server's current state: enabled
  Issuer name: CN=mycs
  CA cert fingerprint: F04C2B75 E0243FBC 19806219 B1D77412
  Granting mode is: manual
  Last certificate issued serial number: 0x2

```

```

CA certificate expiration timer: 21:02:55 GMT Sep 2 2007
CRL NextUpdate timer: 21:02:58 GMT Sep 9 2004
Current storage dir: flash:
Database Level: Minimum - no cert data written to storage

```

## 例：下位証明書サーバ

次の設定および出力は、下位の証明書サーバを設定した後で、通常表示されるものです。  
「ms2」は前述の手順で生成した 2048 ビット RSA キーを表します。

```

Device(config)# crypto pki trustpoint sub
Device(ca-trustpoint)# enrollment url http://192.0.2.6
Device(ca-trustpoint)# rsa keypair ms2 2048
Device(ca-trustpoint)# exit
Device(config)# crypto pki server sub
Device(cs-server)# mode sub-cs
Device(ca-server)# no shutdown

%Some server settings cannot be changed after CA certificate generation.
% Please enter a passphrase to protect the private key
% or type Return to exit
Password:
Jan 6 22:32:22.698: CRYPTO_CS: enter FSM: input state initial, input signal no shut
Re-enter password:
Jan 6 22:32:30.302: CRYPTO_CS: starting enabling checks
Jan 6 22:32:30.306: CRYPTO_CS: key 'sub' does not exist; generated automatically [OK]
Jan 6 22:32:39.810: %SSH-5-ENABLED: SSH 1.99 has been enabled
Certificate has the following attributes:
    Fingerprint MD5: 328ACC02 52B25DB8 22F8F104 B6055B5B
    Fingerprint SHA1: 02FD799D DD40C7A8 61DC53AB 1E89A3EA 2A729EE2
% Do you accept this certificate? [yes/no]:
Jan 6 22:32:44.830: CRYPTO_CS: nvram filesystem
Jan 6 22:32:44.922: CRYPTO_CS: serial number 0x1 written.
Jan 6 22:32:46.798: CRYPTO_CS: created a new serial file.
Jan 6 22:32:46.798: CRYPTO_CS: authenticating the CA 'sub'y
Trustpoint CA certificate accepted.%
% Certificate request sent to Certificate Authority
% Enrollment in progress...
Router (cs-server)#
Jan 6 22:33:30.562: CRYPTO_CS: Publishing 213 bytes to crl file nvram:sub.crl
Jan 6 22:33:32.450: CRYPTO_CS: enrolling the server's trustpoint 'sub'
Jan 6 22:33:32.454: CRYPTO_CS: exit FSM: new state check failed
Jan 6 22:33:32.454: CRYPTO_CS: cs config has been locked
Jan 6 22:33:33.118: CRYPTO_PKI: Certificate Request Fingerprint MD5: CED89E5F 53B9C60E

> AA123413 CDDAD964
Jan 6 22:33:33.118: CRYPTO_PKI: Certificate Request Fingerprint SHA1: 70787C76 ACD7E67F
7D2C8B23 98CB10E7 718E84B1
% Exporting Certificate Server signing certificate and keys...
Jan 6 22:34:53.839: %PKI-6-CERTRET: Certificate received from Certificate Authority
Jan 6 22:34:53.843: CRYPTO_CS: enter FSM: input state check failed, input signal cert
configured
Jan 6 22:34:53.843: CRYPTO_CS: starting enabling checks
Jan 6 22:34:53.843: CRYPTO_CS: nvram filesystem
Jan 6 22:34:53.883: CRYPTO_CS: found existing serial file.
Jan 6 22:34:53.907: CRYPTO_CS: old router cert flag 0x4
Jan 6 22:34:53.907: CRYPTO_CS: new router cert flag 0x44
Jan 6 22:34:56.511: CRYPTO_CS: DB version
Jan 6 22:34:56.511: CRYPTO_CS: last issued serial number is 0x1
Jan 6 22:34:56.551: CRYPTO_CS: CRL file sub.crl exists.
Jan 6 22:34:56.551: CRYPTO_CS: Read 213 bytes from crl file sub.crl.

```

```

Jan 6 22:34:56.603: CRYPTO_CS: SCEP server started
Jan 6 22:34:56.603: CRYPTO_CS: exit FSM: new state enabled
Jan 6 22:34:56.603: CRYPTO_CS: cs config has been locked
Jan 6 22:35:02.359: CRYPTO_CS: enter FSM: input state enabled, input signal time set
Jan 6 22:35:02.359: CRYPTO_CS: exit FSM: new state enabled
Jan 6 22:35:02.359: CRYPTO_CS: cs config has been locked

```

## 例：ルート証明書サーバの区別

証明書を発行するとき、ルート証明書サーバ（親の下位証明書サーバ）は、次のサンプル出力に示すように、証明書要求を「Sub CA」、「RA」およびピアの各要求に区別します。

```

Device# crypto pki server server1 info req

Enrollment Request Database:
RA certificate requests:
ReqID      State      Fingerprint                               SubjectName
-----
Subordinate CS certificate requests:
ReqID      State      Fingerprint                               SubjectName
-----
1          pending    CB9977AD8A73B146D3221749999B0F66        hostname=host-subcs.company.com
RA certificate requests:
ReqID      State      Fingerprint                               SubjectName
-----
Router certificate requests:
ReqID      State      Fingerprint                               SubjectName
-----

```

## 例：下位証明書サーバの出力表示

次の **show crypto pki server command** 出力は、下位の証明書サーバが設定されたことを示しています。

```

Device# show crypto pki server

Certificate Server sub:
  Status: enabled
  Server's configuration is locked (enter "shut" to unlock it)
  Issuer name: CN=sub
  CA cert fingerprint: 11B586EE 3B354F33 14A25DDD 7BD39187
  Server configured in subordinate server mode
  Upper CA cert fingerprint: 328ACC02 52B25DB8 22F8F104 B6055B5B
  Granting mode is: manual
  Last certificate issued serial number: 0x1
  CA certificate expiration timer: 22:33:44 GMT Jan 6 2006
  CRL NextUpdate timer: 22:33:29 GMT Jan 13 2005
  Current storage dir: nvram
  Database Level: Minimum - no cert data written to storage

```

## 例：RA モード証明書サーバ

次の出力は、RA モード証明書サーバの設定後に、通常表示される内容です。

```

Device-ra(config)# crypto pki trustpoint myra
Device-ra(ca-trustpoint)# enrollment url http://192.0.2.17
! Include "cn=ioscs RA" or "ou=ioscs RA" in the subject-name.
Device-ra(ca-trustpoint)# subject-name cn=myra, ou=ioscs RA, o=company, c=us

```

```

Device-ra(ca-trustpoint)# exit
Device-ra(config)# crypto pki server myra
Device-ra(cs-server)# mode ra
Device-ra(cs-server)# no shutdown

% Generating 1024 bit RSA keys ...[OK]
Certificate has the following attributes:
Fingerprint MD5: 32661452 0DDA3CE5 8723B469 09AB9E85
Fingerprint SHA1: 9785BBBCD 6C67D27C C950E8D0 718C7A14 C0FE9C38
% Do you accept this certificate? [yes/no]: yes
Trustpoint CA certificate accepted.
% Ready to request the CA certificate.
%Some server settings cannot be changed after the CA certificate has been requested.
Are you sure you want to do this? [yes/no]: yes
%
% Start certificate enrollment ..
% Create a challenge password. You will need to verbally provide this
password to the CA administrator in order to revoke your certificate.
For security reasons your password will not be saved in the configuration.
Please make a note of it.
Password:
Re-enter password:
% The subject name in the certificate will include: cn=myra, ou=ioscs RA, o=company,
c=us
% The subject name in the certificate will include: Router-ra.company.com
% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]: no
% Include an IP address in the subject name? [no]: no
Request certificate from CA? [yes/no]: yes
% Certificate request sent to Certificate Authority
% The certificate request fingerprint will be displayed.
% The 'show crypto pki certificate' command will also show the fingerprint.
% Enrollment in progress...
Device-ra (cs-server)#

Sep 15 22:32:40.197: CRYPTO_PKI: Certificate Request Fingerprint MD5: 82B41A76 AF4EC87D
AAF093CD 07747D3A
Sep 15 22:32:40.201: CRYPTO_PKI: Certificate Request Fingerprint SHA1: 897CDF40 C6563EAA
0FED05F7 0115FD3A 4FFC5231
Sep 15 22:34:00.366: %PKI-6-CERTRET: Certificate received from Certificate Authority

Device-ra(cs-server)# end
Device-ra# show crypto pki server

Certificate Server myra:
  Status: enabled
  Issuer name: CN=myra
  CA cert fingerprint: 32661452 0DDA3CE5 8723B469 09AB9E85
  ! Note that the certificate server is running in RA mode
  Server configured in RA mode
  RA cert fingerprint: C65F5724 0E63B3CC BE7AE016 BE0D34FE
  Granting mode is: manual
  Current storage dir: nvram:
  Database Level: Minimum - no cert data written to storage

```

次の出力は、RA がイネーブルになった後の、発行元証明書サーバの登録要求データベースを示します。



**Note** 所有者名に「ou=ioscs RA」が表示されていることから、RA 証明書要求は発行元証明書サーバによって認識されています。



```

Device-ca# crypto pki server mycs info request

Enrollment Request Database:
Subordinate CA certificate requests:
ReqID  State      Fingerprint                               SubjectName
-----
! The request is identified as RA certificate request.
RA certificate requests:
ReqID  State      Fingerprint                               SubjectName
-----
12     pending   88F547A407FA0C90F97CDE8900A30CB0
hostname=Router-ra.company.com,cn=myra,ou=ioscs RA,o=company,c=us
Router certificates requests:
ReqID  State      Fingerprint                               SubjectName
-----
! Issue the RA certificate.
Device-ca# crypto pki server mycs grant 12

```

次の出力は、要求が RA から出された場合に、発行元証明書サーバが自動的に証明書を発行するように設定されていることを示します。

```

Device-ca(config)# crypto pki server mycs
Device-ca(cs-server)# grant ra-auto

% This will cause all certificate requests already authorized by known RAs to be
automatically granted.
Are you sure you want to do this? [yes/no]: yes
Router-ca (cs-server)# end
Device-ca# show crypto pki server

Certificate Server mycs:
  Status: enabled
  Server's current state: enabled
  Issuer name: CN=mycs
  CA cert fingerprint: 32661452 0DDA3CE5 8723B469 09AB9E85
  ! Note that the certificate server will issue certificate for requests from the RA.
  Granting mode is: auto for RA-authorized requests, manual otherwise
  Last certificate issued serial number: 0x2
  CA certificate expiration timer: 22:29:37 GMT Sep 15 2007
  CRL NextUpdate timer: 22:29:39 GMT Sep 22 2004
  Current storage dir: nvram:
  Database Level: Minimum - no cert data written to storage

```

次の例は、「myra」の設定（RAサーバ）が自動ロールオーバーを「myca」（CA）からサポートするように設定されていることを示します。RAサーバが設定されると、証明書再登録要求の自動許可がイネーブルになります。

```

crypto pki trustpoint myra
  enrollment url
  http://myca
  subject-name ou=iosca RA
  rsakeypair myra
crypto pki server myra
  mode ra
  auto-rollover
crypto pki server mycs
  grant auto rollover ra-cert
  auto-rollover 25

```

## 例：CA 証明書ロールオーバーを有効にしてただちに開始する

次の例では、**crypto pki server** コマンドを使用して、サーバー **mycs** の自動 CA 証明書ロールオーバーをイネーブルにする方法を示します。**show crypto pki server** コマンドを実行すると、**mycs** サーバーの現在の状態と、ロールオーバー証明書が現在ロールオーバーに使用可能であることが示されます。

```
Device(config)# crypto pki server mycs rollover

Jun 20 23:51:21.211:%PKI-4-NOSHADOWAUTOSAVE:Configuration was
modified. Issue "write memory" to save new IOS CA certificate
! The config has not been automatically saved because the config has been changed.
Device# show crypto pki server

Certificate Server mycs:
  Status:enabled
  Server's configuration is locked (enter "shut" to unlock it)
  Issuer name:CN=mycs
  CA cert fingerprint:E7A5FABA 5D7AA26C F2A9F7B3 03CE229A
  Granting mode is:manual
  Last certificate issued serial number:0x2
  CA certificate expiration timer:00:49:26 PDT Jun 20 2008
  CRL NextUpdate timer:00:49:29 PDT Jun 28 2005
  Current storage dir:nvram:
  Database Level:Minimum - no cert data written to storage
  Rollover status:available for rollover
  ! Rollover certificate is available for rollover.
  Rollover CA certificate fingerprint:9BD7A443 00A6DD74 E4D9ED5F B7931BE0
  Rollover CA certificate expiration time:00:49:26 PDT Jun 20 2011
  Auto-Rollover configured, overlap period 25 days
```

## 次の作業

証明書サーバが正常に実行されたら、登録元クライアントを手動のメカニズムによって（「PKI の証明書登録の設定」の説明に従って）開始する、または Web ベースの登録インターフェイスである SDP の設定を（「*Setting Up Secure Device Provisioning (SDP) for Enrollment in a PKI*」の説明に従って）開始できます。

## PKI 展開での証明書サーバの設定および管理に関する追加資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
PKI およびセキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
USB トークンによる RSA 処理：初期の自動登録用の USB トークンにおける RSA キーの使用	「PKI の証明書登録の設定」
USB トークンによる RSA 処理：USB トークンを使用するメリット	「PKI クレデンシャルの保存」
証明書サーバクライアント証明書の登録、自動登録、および自動ロールオーバー	「PKI の証明書登録の設定」
USB トークンの設定およびUSB トークンへのログイン	「PKI クレデンシャルの保存」
Web を使用した証明書登録	「Setting Up Secure Device Provisioning (SDP) for Enrollment in a PKI」
PEM 形式ファイル内の RSA キー	「PKI 内での RSA キーの展開」
証明書失効メカニズムの選択	「PKI での証明書の許可および失効の設定」
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

# PKI 展開での証明書サーバの設定および管理に関する機能情報



## CHAPTER 116

# PKI クレデンシャルの保存

Rivest、Shamir、Adelman (RSA) キーと証明書などの公開キーインフラストラクチャ (PKI) は、NVRAM やフラッシュ メモリなどのルータまたは USB eToken 64 KB スマート カード上の特定の場所に保存できます。USB トークンを使用すると、セキュアな設定配布や、トークン上のキー生成、署名、認証などの RSA 処理、配置のためのバーチャルプライベート ネットワーク (VPN) クレデンシャルを USB トークンのストレージが提供されます。

- [PKI クレデンシャルを保存するための前提条件, on page 1533](#)
- [PKI クレデンシャルの保存に関する制約事項, on page 1534](#)
- [PKI クレデンシャルの保存について, on page 1534](#)
- [PKI データの保管場所の設定方法, on page 1537](#)
- [PKI データの保存に関する設定例, on page 1552](#)
- [その他の参考資料, on page 1554](#)
- [PKI クレデンシャルの保存に関する機能情報, on page 1555](#)

## PKI クレデンシャルを保存するための前提条件

### ローカル証明書の保管場所を指定するための前提条件

ローカル証明書の保管場所を指定するためには、ご使用のシステムが次の要件を満たしている必要があります。

- Cisco IOS Release 12.4(2)T PKI 対応イメージまたはそれ以降のイメージ
- PKI クレデンシャルを個別のファイルとして保存できるプラットフォームであること。
- 設定内に証明書が少なくとも 1 つ含まれていること。
- アクセス可能なローカル ファイル システムがあること。

### PKI クレデンシャルの保管場所として USB トークンを指定するための前提条件

USB トークンを使用するためには、ご使用のシステムが次の要件を満たしている必要があります。

- Cisco 871 ルータ、Cisco 1800 シリーズ ルータ、Cisco 2800 シリーズ ルータ、Cisco 3800 シリーズ ルータ、または Cisco 7200VXR NPE-G2 プラットフォームを使用していること。
- サポートされているいずれかのプラットフォーム上で、少なくとも Cisco IOS Release 12.3(14)T イメージが稼働していること。
- シスコのサポート対象 USB トークン (Safenet/Aladdin eToken PRO 32 KB または 64 KB)
- k9 イメージを使用していること。

## PKI クレデンシャルの保存に関する制約事項

### ローカル証明書の保管場所を指定する場合の制約事項

証明書をローカルな保管場所に保存する場合には、次のような制約事項があります。

- 使用できるのはローカルファイルシステムだけです。リモートファイルシステムを選択すると、エラーメッセージが表示され、コマンドは無効になります。
- ローカルファイルシステムでサポートされていれば、サブディレクトリを指定できます。NVRAM では、サブディレクトリはサポートされていません。

### 保管場所として USB トークンを指定する場合の制約事項

USB トークンを使用して PKI データを保存する場合には、次のような制約事項があります。

- USB トークンがサポートされるためには、ファイルをセキュアに保存できる 3DES (k9) Cisco IOS ソフトウェア イメージが必要です。
- イメージは USB トークンからは起動できません (ただし、設定は USB トークンからでも起動できます)。
- USB ハブは現在、サポートされていません。そのため、サポートされるデバイスの数は、多くても使用できる USB ポートの数までです。

## PKI クレデンシャルの保存について

### ローカルな保管場所への証明書の保存

デフォルトでは、証明書は NVRAM に格納されます。ただし、ルータによっては、証明書を正常に保存するために必要なサイズの NVRAM が搭載されていないことがあります。

シスコのプラットフォームはすべて、NVRAM およびフラッシュ ローカルストレージをサポートしています。ご使用のプラットフォームによっては、ブートフラッシュ、スロット、ディスク

ク、USB フラッシュ、USB トークンなど、サポートされているその他のローカルストレージを使用できます。

実行時には、証明書を保存するアクティブなローカルストレージデバイスを指定できます。

## PKI クレデンシャルと USB トークン

ご使用のルータ上でセキュアな USB トークンを使用するためには、次に説明する事柄について十分な知識が必要です。

### USB トークンの動作のしくみ

スマートカードはプラスチック製の小型カードで、データの保存や処理を行うためのマイクロプロセッサやメモリが搭載されています。USB インターフェイスを備えたスマートカードが USB トークンです。USB トークンでは、記憶域の容量（32KB）内であれば、どのようなタイプのファイルでもセキュアに保存できます。USB トークンに保存されたコンフィギュレーションファイルに対する暗号化およびアクセスは、ユーザ PIN を介してだけ行えます。デバイスにコンフィギュレーションファイルをロードするには、デバイスのコンフィギュレーションファイルをセキュアに配布できるよう適切な PIN が設定されている必要があります。

USB トークンをデバイスに装着したら、その USB トークンにログインする必要があります。ログイン後は、ユーザ PIN（デフォルトは 1234567890）や、ログインが拒否されるようになるまで許容されるログイン試行の失敗回数（デフォルトは 15 回）など、さまざまなデフォルト設定を変更できます。USB トークンのアクセス方法および設定方法については、「USB トークンへのログインと USB トークンの設定」を参照してください。

USB トークンへ正常にログインした場合は、**copy** コマンドを使用して、デバイスから USB トークンへファイルをコピーできます。USB トークンの RSA キーおよび関連する IPsec トンネルは、デバイスがリロードされるまで使用できます。キーが削除され IPsec トンネルが切断されるまでの時間を指定する場合は、**crypto pki token removal timeout** コマンドを発行します。デフォルトタイムアウトはゼロのため、eToken がデバイスから削除されると RSA キーが自動的に削除されるようになります。デフォルト値は、実行中のコンフィギュレーションで次のように表示されます。

```
crypto pki token default removal timeout 0
```

次の表に、USB トークンの機能を示します。

**Table 157: USB トークンの主な機能性**

機能	USB トークン
アクセシビリティ	デジタル証明書、事前共有キー、およびデバイス設定を USB トークンからデバイスへセキュアに保存したり転送したりするためのものです。
ストレージのサイズ	32 KB または 64 KB

機能	USB トークン
ファイルタイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通常、IPsec VPN 用のデジタル証明書、事前共有キー、およびデバイス設定を保存する場合には、ファイルタイプを指定します。</li> <li>• USB トークンには、Cisco IOS イメージは保存できません。</li> </ul>
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイルに対する暗号化およびアクセスは、ユーザ PIN を介してだけ行えます。</li> <li>• ファイルは、ノンセキュアなフォーマットでも保存できます。</li> </ul>
ブート設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイスではブート時に、USB トークンに保存されている設定を使用できます。</li> <li>• デバイスではブート時に、USB トークンに保存されているセカンダリ設定を使用できます（セカンダリ設定を使用すると、ユーザは各自の IPsec 設定をロードできます）。</li> </ul>

## USB トークンの応用上の利点

Cisco ルータ上で USB トークンがサポートされていることにより、応用上次のような利点が生じます。

**移動可能な証明書：配置する VPN クレデンシャルを外部デバイスに保存できます。**

USB トークンでは、スマートカードテクノロジーにより、IPsec VPN の導入に必要なデジタル証明書や設定を保存できます。これにより、ルータにおいて RSA 公開キーを生成し、少なくとも 1 つの IPsec トンネルを認証できるようになりました（ルータでは複数の IPsec トンネルを開始できるため、USB トークンには、必要に応じて複数の証明書を保存できるようになっています）。

VPN クレデンシャルを外部デバイスに保存すると、機密データが漏洩する危険性は低くなります。

**ファイルをセキュアに配置するための PIN 設定**

USB トークンには、ユーザが設定した PIN を介してルータにおける暗号化をイネーブルにする際に使用できるコンフィギュレーションファイルを保存できます（つまり、デジタル証明書、事前共有キー、および VPN は使用されません）。

**軽減されるまたは不要になる手動での設定作業**

USB トークンを使用すると、リモート ソフトウェアの設定やプロビジョニングの際、手動で行う作業がほとんど（あるいは完全に）必要なくなります。設定は自動プロセスとして構成されます。具体的には、ルータに装着した USB トークンにブートストラップ設定を保存しておくと、そのブートストラップ設定によりルータが起動します。さらにこのルータは、ブートス



トラップ設定によって TFTP サーバへ接続され、その TFTP サーバに保存されている設定に基づいて、すべてのルータ設定が行われます。

### RSA 処理

USB トークンは、ストレージデバイス以外に、暗号化装置として使用できます。USB トークンを暗号化装置として使用すると、トークンでキー生成、署名、認証などの RSA 操作を実行できます。

ご使用のトークンストレージデバイス上に配置されているクレデンシャルからは、モジュールが 2048 ビット以下の汎用 RSA キーペア、特殊 RSA キーペア、暗号化 RSA キーペア、またはシグニチャ RSA キーペアを生成できます。秘密キーは、デフォルトでは配布されず、トークン上に保存されたままです。ただし、秘密キーの保管場所を設定することは可能です。

USB トークン上に常駐するキーは、生成された段階でトークンの永続的な保管場所に保存されます。キーの削除操作を行うと、トークンに保存されているキーは、永続的な保管場所からただちに削除されます（トークン上に常駐していないキーは、**write memory** またはそれに類するコマンドが発行されると、トークン以外の保管場所で保存や削除が行われます）。

セキュアデバイスプロビジョニング（SDP）環境におけるリモートデバイスの設定およびプロビジョニング

SDP は USB トークンの設定に使用される場合があります。設定された USB トークンを送付すれば、リモートロケーションにあるデバイスをプロビジョニングできます。つまり、あるネットワークデバイスから別のリモートネットワークデバイスへ暗号化された情報を送る際に USB トークンを使用することで、USB トークンを段階的に配置できます。

SDP で USB トークンを使用する方法については、「その他の関連資料」に記載されている参照先を参照してください。

## PKI データの保管場所の設定方法

### 証明書のローカルストレージ場所の指定

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki certificate storage** *location-name*
4. **exit**
5. **copy** *source-url destination-url*
6. **show crypto pki certificates storage**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki certificate storage <i>location-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki certificate storage flash:/certs	証明書のローカルな保管場所を指定します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>copy <i>source-url destination-url</i></b> <b>Example:</b> Device# copy system:running-config nvram:startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。 <b>Note</b> 設定は、実行コンフィギュレーションがスタートアップ コンフィギュレーションに保存された場合にだけ有効になります。
ステップ 6	<b>show crypto pki certificates storage</b> <b>Example:</b> Device# show crypto pki certificates storage	(任意) PKI 証明書の保管場所に関する現在の設定を表示します。

## 例

次に、**show crypto pki certificates storage** コマンドの出力例を示します。ここでは、証明書が disk0 の certs サブディレクトリに保存されています。

```
Device# show crypto pki certificates storage
Certificates will be stored in disk0:/certs/
```

## Cisco デバイスにおける USB トークンの設定と使用

### USB トークンによる設定の保存

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **boot config usbtoken[0-9]:filename**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>boot config usbtoken[0-9]:filename</b> <b>Example:</b>  Device(config)# boot config usbtoken0:file	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルがセキュアな USB トークンに保存されるよう指定します。

### USB トークンへのログインと USB トークンの設定

#### RSA キーと USB トークンの併用方法

- RSA キーは、USB トークンがルータへ正常にログインした後にロードされます。
- デフォルトの場合、新規に生成された RSA キーは、最後に装着された USB トークンに保存されます。再生成されたキーは、元の RSA キーが生成されたのと同じ場所に保存する必要があります。

#### 手動ログイン用のデバイスの設定

自動ログインとは異なり、手動ログインを使用する場合は、ユーザが実際の USB トークン PIN を把握している必要があります。



**Note** 手動ログインまたは自動ログインのいずれかを使用する必要があります。

手動ログインは、PINをデバイス上に保存するのが適していない場合に使用できます。また、初期導入時やハードウェア交換時に、デバイスを現地の業者から調達したり、リモートサイトへ直送したりする場合にも、手動ログインが適しています。手動ログインは、権限の有無にかかわらず実行できます。また、手動ログインを実行すると、USBトークン上のファイルおよびRSAキーが、Cisco IOS ソフトウェアで使用可能になります。セカンダリ コンフィギュレーションファイルを設定する場合は、ログインを実行するユーザの権限がある場合にだけ手動ログインを実行できます。そのため、何らかの目的で、手動ログインを実行し、USBトークン上にセカンダリ コンフィギュレーション ファイルを設定する場合は、権限をイネーブルにする必要があります。

手動ログインは、失われたデバイス設定のリカバリを行う場合にも使用できます。通常 VPN を使用してコア ネットワークへ接続しているリモート サイトが存在する状況では、設定およびRSAキーが失われた場合、USB トークンが備えているアウトオブバンドサービスが必要となります。USB トークンには、ブート設定、セカンダリ設定、および接続を認証するためのRSAキーを保存できます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **crypto pki token *token-name* [admin] login [pin]**
3. **show usbtoken 0-9:*filename***

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>crypto pki token <i>token-name</i> [admin] login [pin]</b> <b>Example:</b> Device# crypto pki token usbtoken0 admin login 5678	USB トークンに手動でログインします。  <b>admin</b> キーワードを最初に指定していない場合は、このキーワードオプションで <b>crypto pki token</b> コマンドを再び入力できます。
ステップ 3	<b>show usbtoken 0-9:<i>filename</i></b> <b>Example:</b> Device# show usbtoken0:usbfile	(任意) USB トークンがデバイスにログインしているかどうかを確認します。

## 次の作業

USB トークンへのログインが完了すると、次のような作業が行えます。

- USB トークンを詳細に設定する。「USB トークンの設定」の項を参照してください。
- ユーザ PIN の変更、ルータから USB トークンに設定されたキーの保管場所へのファイルのコピー、USB トークンの変更など、USB トークンの管理作業を行う。「USB トークンにおける管理機能の設定」の項を参照してください。

## USB トークンの設定

USB トークンに対しては、自動ログインの設定後、さらに次のような設定を行えます。

### PIN およびパスキー

自動ログインにおける PIN のセキュリティをさらに強化するため、NVRAM に保存されている PIN を暗号化し、USB トークンにパスキーを設定できます。パスキーを設定すると、他のユーザには PIN そのものではなく、そのパスキーを周知すればよいため、PIN の安全性を維持できます。

このパスキーは、USB トークンをデバイスに装着した後、PIN を復号化する際に必要となります。PIN が復号化されると、デバイスはその PIN を使用して USB トークンにログインします。



---

**Note** ユーザがログインするには特権レベル 1 が必要です。

---

### USB トークンのロック/ロック解除

USB トークン自体をロック（暗号化）またはロック解除（復号化）できます。

USB トークンは、ロック解除すると使用できるようになります。ロック解除した場合、Cisco IOS ソフトウェアでは、その USB トークンは自動ログインされたものと見なされ、その USB トークン上にあるいずれかのキーがロードされます。また、セカンダリ コンフィギュレーションファイルがトークン上に存在する場合は、ログインしたユーザの権限レベルとは独立したフルユーザ権限（権限レベル 15）を使用して、そのセカンダリ コンフィギュレーションファイルが実行されます。

トークンをロックした場合は、トークンからログアウトする場合とは異なり、トークンからロードされた RSA キーがすべて削除され、セカンダリ アンコンフィギュレーションファイルが（もし設定されていれば）実行されます。

### セカンダリ コンフィギュレーションファイルとセカンダリ アンコンフィギュレーションファイル

USB トークン上に存在するコンフィギュレーションファイルは、セカンダリ コンフィギュレーションファイルと呼ばれます。セカンダリ コンフィギュレーションファイルを作成および設定する場合、セカンダリ コンフィギュレーションファイルの有無は、NVRAM に保存された Cisco IOS 設定内のセカンダリ コンフィギュレーションファイルオプションの存在によって決

定されます。ユーザがトークンを取り外した後またはトークンからログアウトした後に、無効タイマーで設定された期間が経過すると、別途用意されているセカンダリ アンコンフィギュレーション ファイルが実行され、セカンダリ コンフィギュレーションのすべての要素が、実行コンフィギュレーションから削除されます。セカンダリ コンフィギュレーション ファイルおよびセカンダリ アンコンフィギュレーション ファイルは、ログインしたユーザの権限レベルとは関係なく、権限レベル 15 で実行されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **crypto pki token *token-name* unlock [*pin*]**
3. **configure terminal**
4. **crypto pki token *token-name* encrypted-user-pin [*write*]**
5. **crypto pki token *token-name* secondary unconfig *file***
6. **exit**
7. **crypto pki token *token-name* lock [*pin*]**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>crypto pki token <i>token-name</i> unlock [<i>pin</i>]</b> <b>Example:</b>  Device# crypto pki token mytoken unlock mypin	（任意）ロックされている USB トークンを使用できるようにします。  ロック解除した場合、Cisco IOS ソフトウェアでは、その USB トークンは自動ログインされたものと見なされ、その USB トークン上にあるいずれかのキーがロードされます。また、セカンダリ コンフィギュレーションファイルが存在する場合、このファイルは実行されます。
ステップ 3	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>crypto pki token <i>token-name</i> encrypted-user-pin [<i>write</i>]</b> <b>Example:</b>	（任意）NVRAM に保存されている PIN を暗号化します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# crypto pki token mytoken encrypted-user-pin write	
ステップ 5	<b>crypto pki token token-name secondary unconfig file</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki token mytoken secondary unconfig configs/myunconfigfile.cfg	(任意) セカンダリ コンフィギュレーション ファイルとその保管場所を指定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 7	<b>crypto pki token token-name lock [pin]</b> <b>Example:</b> Device# crypto pki token mytoken lock mypin	(任意) トークンからロードされた RSA キーをすべて削除し、セカンダリ アンコンフィギュレーション ファイルが存在する場合は、それを実行します。

### 例

次の例は、ユーザ PIN の設定、ユーザ PIN の暗号化、デバイスのリロード、およびユーザ PIN のロック解除の各プロセスを順に示したものです。

```
! Configuring the user PIN

Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.

Device(config)# crypto pki token usbtoken0: userpin

Enter password: mypassword

! Encrypt the user PIN

Device(config)# crypto pki token usbtoken0: encrypted-user-pin

Enter passphrase: mypassphrase

Device(config)# exit

Device#

Sep 20 21:51:38.076: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console

Device# show running config

crypto pki token usbtoken0 user-pin *encrypted*

! Reloading the router.

Device> enable
```

```

Password:

! Decrypting the user pin.

Device# crypto pki token usbtoken0: unlock

Token eToken is usbtoken0

Enter passphrase: mypassphrase

Token login to usbtoken0(eToken) successful

Device#

Sep 20 22:31:13.128: %CRYPTO-6-TOKENLOGIN: Cryptographic Token eToken

Login Successful

```

次に示すのは、実行コンフィギュレーションからセカンダリ コンフィギュレーションの要素を削除する際に使用されるセカンダリ アンコンフィギュレーションファイルの設定例です。セカンダリ コンフィギュレーションファイルを使用して PKI トラストポイントが設定されている場合を例にとると、それに対応するアンコンフィギュレーションファイル `mysecondaryunconfigfile.cfg` には、次のようなコマンドラインが設定されます。

```
no crypto pki trustpoint token-tp
```

トークンが取り外された後で、次のコマンドが実行されると、デバイスの実行コンフィギュレーションから、トラストポイントおよびそれに関連付けられた証明書が削除されます。

```

Device# configure terminal
Device(config)# no crypto pki token mytoken secondary unconfig mysecondaryunconfigfile.cfg

```

## 次の作業

USB トークンへのログインおよび USB トークンの設定が完了すると、次のような作業が行えます。ユーザ PIN の変更、ルータから USB トークンに設定されたキーの保管場所へのファイルのコピー、USB トークンの変更など、USB トークンの管理作業を行う。「USB トークンにおける管理機能の設定」の項を参照してください。

## USB トークンにおける管理機能の設定

ここでは、ユーザ PIN、USB トークンに対するログイン試行の失敗回数の上限、クレデンシャルの保管場所など、さまざまなデフォルト設定を変更する手順について説明します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **crypto pki token *token-name* admin ] change-pin [*pin*]**
3. **crypto pki token *token-name* *device-name*: label *token-label***
4. **configure terminal**
5. **crypto key storage *device-name*:**



6. **crypto key generate rsa** [general-keys | usage-keys | signature | encryption] [label *key-label*] [exportable] [modulus *modulus-size*] [storage *device-name:*] [redundancy] [on *device-name*]:
7. **crypto key move rsa** *keylabel* [non-exportable | [on | storage]] *location*
8. **crypto pki token** {*token-name* | default} **removal timeout** [*seconds*]
9. **crypto pki token** {*token-name* | default} **max-retries** [*number*]
10. **exit**
11. **copy usbflash**[*0-9*]:*filename destination-url*
12. **show usbtokens**[*0-9*]:*filename*
13. **crypto pki token** *token-name* **logout**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>crypto pki token</b> <i>token-name</i> <b>admin</b> ] <b>change-pin</b> [ <i>pin</i> ] <b>Example:</b> <pre>Device# crypto pki token usbtokens0 admin change-pin</pre>	(任意) USB トークン上のユーザ PIN 番号を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>PIN が変更されない場合は、デフォルトの PIN (1234567890) が使用されます。</li> </ul> <p><b>Note</b> PIN の変更後は、ログインの失敗回数を 0 にリセットする必要があります (<b>crypto pki token max-retries</b> コマンドを使用)。許容されるログインの失敗回数の上限は、15 (デフォルト) に設定されています。</p>
ステップ 3	<b>crypto pki token</b> <i>token-name</i> <i>device-name:</i> <b>label</b> <i>token-label</i> <b>Example:</b> <pre>Device# crypto pki token mytokens0 usb0: label newlabel</pre>	(任意) USB トークンの名前を設定または変更します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>token-label</i> 引数には、英数字 (ダッシュおよびアンダースコアを含む) からなる 31 文字以下の文字列を指定できます。</li> </ul> <p><b>Tip</b> このコマンドは、自動ログインやセカンダリコンフィギュレーションファイルなどのトークン固有の設定用として複数の USB トークンを設定する場合に有用です。</p>
ステップ 4	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 5	<p><b>crypto key storage device-name:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# crypto key storage usbtokens0:</pre>	<p>(任意) 新規作成した RSA キーに対するデフォルトの保管場所を設定します。</p> <p><b>Note</b> 設定の内容にかかわらず、既存のキーは、ロード元のデバイスに保存されます。</p>
ステップ 6	<p><b>crypto key generate rsa [general-keys   usage-keys   signature   encryption] [label key-label] [exportable] [modulus modulus-size] [storage device-name:] [redundancy] [on device-name]:</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# crypto key generate rsa label tokenkey1 storage usbtokens0:</pre>	<p>(任意) 証明書サーバの RSA キー ペアを生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>storage</b> キーワードを使用すると、キーの保管場所を指定できます。</li> <li>• <b>key-label</b> 引数を指定することによってラベル名を指定する場合、<b>crypto pki server cs-label</b> コマンドによって証明書サーバーに使用するラベルと同じ名前を使用する必要があります。<b>key-label</b> 引数を指定していない場合、デバイスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) であるデフォルト値が使用されます。</li> </ul> <p><b>no shutdown</b> コマンドを発行する前に、CA 証明書が生成されるまで待ってからエクスポート可能な RSA キーペアを手動で生成する場合、<b>crypto ca export pkcs12</b> コマンドを使用して、証明書サーバー証明書および秘密キーを含む PKCS12 ファイルをエクスポートできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルトでは、CA キーのモジュラスサイズは 1024 ビットです。推奨される CA キーのモジュラスは 2048 ビットです。CA キーのモジュラスサイズの範囲は 350 ~ 4096 ビットです。</li> <li>• <b>on</b> キーワードは、指定したデバイス上で RSA キーペアが作成されることを指定します。このデバイスには Universal Serial Bus (USB) トークン、ローカルディスク、および NVRAM などがあります。装置の名前の後にはコロン (:) を付けます。</li> </ul> <p><b>Note</b> USB トークン上で作成されるキーは、2048 ビット以下である必要があります。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>crypto key move rsa</b> <i>keylabel</i> [ <b>non-exportable</b>   [ <b>on</b>   <b>storage</b> ]] <i>location</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# crypto key move rsa keypairname non-exportable on token</pre>	<p>(任意) 既存の Cisco IOS クレデンシャルを、現在の保管場所から指定した保管場所へ移動します。</p> <p>デフォルトの場合、RSA キー ペアは現在のデバイス上に保存されたままになります。</p> <p>デバイス上でキーを生成しそれをトークンに移動するまでの所要時間は 1 分未満です。トークン上でキーを生成する際に <b>on</b> キーワードを使用すると、USB トークン上で使用可能なハードウェアキー生成ルーチンに応じて、5 ~ 10 分程度の時間がかかります。</p> <p>Cisco IOS で生成された既存の RSA キー ペアが USB トークンに保存され、登録に使用される場合は、それら既存の RSA キー ペアを代替場所に移動して永続的に保存する必要があります。</p> <p>このコマンドは、USB トークンと SDP を使用してクレデンシャルを配置する場合に有用です。</p>
ステップ 8	<b>crypto pki token</b> { <i>token-name</i>   <b>default</b> } <b>removal timeout</b> [ <i>seconds</i> ] <b>Example:</b> <pre>Device(config)# crypto pki token usbtokn0 removal timeout 60</pre>	<p>(任意) USB トークンがデバイスから取り外されたから、USB トークンに保存されている RSA キーが削除されるまで、デバイスが待機する時間を秒単位で設定します。</p> <p><b>Note</b> このコマンドが発行されない場合は、USB トークンがデバイスから取り外された直後に、すべての RSA キーが削除されるほか、USB トークンに関連付けられている IPsec トンネルもすべて切断されます。</p>
ステップ 9	<b>crypto pki token</b> { <i>token-name</i>   <b>default</b> } <b>max-retries</b> [ <i>number</i> ] <b>Example:</b> <pre>Device(config)# crypto pki token usbtokn0 max-retries 20</pre>	<p>(任意) USB トークンへのアクセスが拒否されるまでに許容されるログイン試行の連続失敗回数の上限を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルト値は 15 です。</li> </ul>
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# exit</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
ステップ 11	<b>copy usbflash[0-9]:filename destination-url</b> <b>Example:</b>	<p>USB トークンからデバイスへファイルをコピーします。</p>

	Command or Action	Purpose
	Device# copy usbflash0:file1 nvram:	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>destination-url</i> : サポートされているオプションのリストについては、<b>copy</b> コマンドに関するセクションを参照してください。</li> </ul>
ステップ 12	<b>show usbtoken[0-9]:filename</b> <b>Example:</b> Device# show usbtoken:usbfile	(任意) USB トークンに関する情報を表示します。このコマンドを使用すると、USB トークンがデバイスにログインしているかどうかを確認できます。
ステップ 13	<b>crypto pki token token-name logout</b> <b>Example:</b> Device# crypto pki token usbtoken0 logout	USB トークンからデバイスをログアウトします。 <b>Note</b> USD トークンに何らかのデータを保存する場合は、再度トークンにログインする必要があります。

## USB トークンに関するトラブルシューティング

ここでは、次の各 Cisco IOS コマンドについて説明します。これらのコマンドは、USB トークンの使用中に発生しうる問題についてのトラブルシューティングに使用できます。

### USB ポート接続のトラブルシューティング

**show file systems** コマンドを使用すると、USB モジュールが USB ポートに差し込まれていることをルータが認識しているかどうかを判定できます。差し込まれている USB モジュールは、ファイルシステムのリスト上に表示されます。これらのモジュールがリスト上に表示されない場合は、次のいずれかの問題が発生している可能性があります。

- USB モジュールとの接続に問題がある。
- ルータ上で稼働している Cisco IOS イメージによりサポートされていない USB モジュールがある。
- USB モジュールそのものにハードウェア上の問題がある。

次に示すのは、**show file systems** コマンドによる出力例です。この中には USB トークンも表示されています。USB モジュールが現れるのはリストの最下行です。

```
Device# show file systems
File Systems:
  Size (b)      Free (b)      Type  Flags  Prefixes
  -           -             opaque rw      archive:
  -           -             opaque rw      system:
  -           -             opaque rw      null:
  -           -             network rw      tftp:
* 129880064    69414912     disk  rw      flash:#
      491512      486395      nvram  rw      nvram:
  -           -             opaque wo      syslog:
  -           -             opaque rw      xmodem:
  -           -             opaque rw      ymodem:
```

```

-          - network rw rcp:
-          - network rw pram:
-          - network rw ftp:
-          - network rw http:
-          - network rw scp:
-          - network rw https:
-          - opaque ro cns:
63158272 33037312 usbflash rw usbflash0:
32768      858  usbtoken rw  usbtoken1:

```

## シスコによりサポートされている USB トークンの特定

**show usb device** コマンドを使用すると、USB トークンがシスコによりサポートされているかどうかを判定できます。このコマンドの次の出力例では、太字で記されているのが、モジュールがサポートされているかどうかを示す箇所です。

```

Router# show usb device
Host Controller:1
Address:0x11
Device Configured:YES
Device Supported:YES
Description:eToken Pro 4254
Manufacturer:AKS
Version:1.0
Serial Number:
Device Handle:0x1010000
USB Version Compliance:1.0
Class Code:0xFF
Subclass Code:0x0
Protocol:0x0
Vendor ID:0x529
Product ID:0x514
Max. Packet Size of Endpoint Zero:8
Number of Configurations:1
Speed:Low
Selected Configuration:1
Selected Interface:0
Configuration:
  Number:1
  Number of Interfaces:1
  Description:
  Attributes:None
  Max Power:60 mA
  Interface:
    Number:0
    Description:
    Class Code:255
    Subclass:0
    Protocol:0
    Number of Endpoints:0

```

## USB トークンのデバイス問題の特定

**show usb controllers** コマンドを使用すると、USB フラッシュモジュールにハードウェア上の問題があるかどうかを判別できます。**show usb controllers** コマンドの出力結果にエラーが表示された場合は、USB モジュールにハードウェア上の問題があると考えられます。

USB フラッシュモジュールに対するコピー操作が正常に行われていることを確認する場合にも、この **show usb controllers** コマンドを使用できます。ファイルのコピーを実行した後で、

**show usb controllers** コマンドを発行すると、データ転送が正常に行われたことを示す内容が表示されます。

次に示すのは、使用中の USB フラッシュモジュールの **show usb controllers** コマンドによる出力例です。

```

Router# show usb controllers
Name:1362HCD
Controller ID:1
Controller Specific Information:
  Revision:0x11
  Control:0x80
  Command Status:0x0
  Hardware Interrupt Status:0x24
  Hardware Interrupt Enable:0x80000040
  Hardware Interrupt Disable:0x80000040
  Frame Interval:0x27782EDF
  Frame Remaining:0x13C1
  Frame Number:0xDA4C
  LSThreshold:0x628
  RhDescriptorA:0x19000202
  RhDescriptorB:0x0
  RhStatus:0x0
  RhPort1Status:0x100103
  RhPort2Status:0x100303
  Hardware Configuration:0x3029
  DMA Configuration:0x0
  Transfer Counter:0x1
  Interrupt:0x9
  Interrupt Enable:0x196
  Chip ID:0x3630
  Buffer Status:0x0
  Direct Address Length:0x80A00
  ATL Buffer Size:0x600
  ATL Buffer Port:0x0
  ATL Block Size:0x100
  ATL PTD Skip Map:0xFFFFFFFF
  ATL PTD Last:0x20
  ATL Current Active PTD:0x0
  ATL Threshold Count:0x1
  ATL Threshold Timeout:0xFF
Int Level:1
Transfer Completion Codes:
  Success          :920          CRC              :0
  Bit Stuff        :0           Stall            :0
  No Response      :0           Overrun          :0
  Underrun         :0           Other            :0
  Buffer Overrun    :0           Buffer Underrun   :0
Transfer Errors:
  Canceled Transfers :2          Control Timeout  :0
Transfer Failures:
  Interrupt Transfer :0          Bulk Transfer    :0
  Isochronous Transfer :0       Control Transfer:0
Transfer Successes:
  Interrupt Transfer :0          Bulk Transfer    :26
  Isochronous Transfer :0       Control Transfer:894
USB Failures:
  Enumeration Failures :0       No Class Driver Found:0
  Power Budget Exceeded:0
USB MSCD SCSI Class Driver Counters:
  Good Status Failures :3       Command Fail     :0
  Good Status Timed out:0       Device not Found:0

```

```

Device Never Opened :0
Illegal App Handle :0
Invalid Unit Number :0
Application Overflow :0
Control Pipe Stall :0
Device Stalled :0
Device Detached :0
Invalid Logic Unit Num:0
USB Aladdin Token Driver Counters:
Token Inserted :1
Send Insert Msg Fail :0
Dev Entry Add Fail :0
Dev Entry Remove Fail:0
Response Txn Fail :0
Txn Invalid Dev Handle:0
Token Removed :0
Response Txns :434
Request Txns :434
Request Txn Fail:0
Command Txn Fail:0
USB Flash File System Counters:
Flash Disconnected :0
Flash Device Fail :0
Flash startstop Fail :0
Flash Connected :1
Flash Ok :1
Flash FS Fail :0
USB Secure Token File System Counters:
Token Inserted :1
Token FS success :1
Token Max Inserted :0
Token Event :0
Watched Boolean Create Failures:0
Token Detached :0
Token FS Fail :0
Create Talker Failures:0
Destroy Talker Failures:0

```

## USB トークン情報の表示

**dir** コマンドと **filesystem** キーワードオプション **usbtoken0-9** を使用すると、USB トークン上にあるすべてのファイル、ディレクトリ、およびそれらの権限文字列を表示できます。

次の出力例は、USB トークンに関する情報を表示したものです。

```

Device# dir usbtoken1:
Directory of usbtoken1:/
 2 d---          64 Dec 22 2032 05:23:40 +00:00 1000
 5 d---        4096 Dec 22 2032 05:23:40 +00:00 1001
 8 d---          0 Dec 22 2032 05:23:40 +00:00 1002
10 d---          0 Dec 22 2032 05:23:42 +00:00 1003
12 d---          0 Dec 22 2032 05:23:42 +00:00 5000
13 d---          0 Dec 22 2032 05:23:42 +00:00 6000
14 d---          0 Dec 22 2032 05:23:42 +00:00 7000
15 ----          0 Dec 22 2032 05:23:42 +00:00 7000
15 ----          940 Jun 27 1992 12:50:42 +00:00 mystartup-config
16 ----         1423 Jun 27 1992 12:51:14 +00:00 myrunning-config
32768 bytes total (858 bytes free)

```

次の出力例では、デバイスが認識しているすべてのデバイスのディレクトリ情報を表示します。

```

Device# dir all-filesystems
Directory of archive:/
No files in directory
No space information available
Directory of system:/
 2 drwx          0 <no date> its
115 dr-x          0 <no date> lib
144 dr-x          0 <no date> memory
 1 -rw-         1906 <no date> running-config
114 dr-x          0 <no date> vfiles
No space information available
Directory of flash:/

```

```

 1 -rw-    30125020  Dec 22 2032 03:06:04 +00:00  c3825-entservicesk9-mz.123-14.T
129880064 bytes total (99753984 bytes free)
Directory of nvram:/
 476 -rw-         1947                <no date>  startup-config
 477 ----          46                <no date>  private-config
 478 -rw-         1947                <no date>  underlying-config
  1 -rw-           0                <no date>  ifIndex-table
  2 ----          4                <no date>  rf_cold_starts
  3 ----         14                <no date>  persistent-data
491512 bytes total (486395 bytes free)
Directory of usbflash0:/
 1 -rw-    30125020  Dec 22 2032 05:31:32 +00:00  c3825-entservicesk9-mz.123-14.T
63158272 bytes total (33033216 bytes free)
Directory of usbtokens1:/
 2 d---         64  Dec 22 2032 05:23:40 +00:00  1000
 5 d---        4096  Dec 22 2032 05:23:40 +00:00  1001
 8 d---          0  Dec 22 2032 05:23:40 +00:00  1002
10 d---         512  Dec 22 2032 05:23:42 +00:00  1003
12 d---          0  Dec 22 2032 05:23:42 +00:00  5000
13 d---          0  Dec 22 2032 05:23:42 +00:00  6000
14 d---          0  Dec 22 2032 05:23:42 +00:00  7000
15 ----         940  Jun 27 1992 12:50:42 +00:00  mystartup-config
16 ----        1423  Jun 27 1992 12:51:14 +00:00  myrunning-config
32768 bytes total (858 bytes free)

```

## PKI データの保存に関する設定例

### 例：特定のローカルな保管場所への証明書の保存

次に示すのは、certsサブディレクトリに証明書を保存する場合の設定例です。ここでは、certsサブディレクトリは存在しないため、自動的に作成されています。

```

Router# dir nvram:
114 -rw-    4687                <no date>  startup-config
115 ----   5545                <no date>  private-config
116 -rw-    4687                <no date>  underlying-config
  1 ----     34                <no date>  persistent-data
  3 -rw-    707                <no date>  ioscaroot#7401CA.cer
  9 -rw-    863                <no date>  msca-root#826E.cer
10 -rw-    759                <no date>  msca-root#1BA8CA.cer
11 -rw-    863                <no date>  msca-root#75B8.cer
24 -rw-   1149                <no date>  storagename#6500CA.cer
26 -rw-    863                <no date>  msca-root#83EE.cer
129016 bytes total (92108 bytes free)
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Router(config)# crypto pki certificate storage disk0:/certs
Requested directory does not exist -- created
Certificates will be stored in disk0:/certs/
Router(config)# end
Router# write
*May 27 02:09:00:%SYS-5-CONFIG_I:Configured from console by consolemem
Building configuration...
[OK]
Router# directory disk0:/certs
Directory of disk0:/certs/
 14 -rw-    707  May 27 2005 02:09:02 +00:00  ioscaroot#7401CA.cer
 15 -rw-    863  May 27 2005 02:09:02 +00:00  msca-root#826E.cer

```



```

16 -rw-          759 May 27 2005 02:09:02 +00:00 msca-root#1BA8CA.cer
17 -rw-          863 May 27 2005 02:09:02 +00:00 msca-root#75B8.cer
18 -rw-         1149 May 27 2005 02:09:02 +00:00 storagename#6500CA.cer
19 -rw-          863 May 27 2005 02:09:02 +00:00 msca-root#83EE.cer
47894528 bytes total (20934656 bytes free)
! The certificate files are now on disk0/certs:

```

## 例：USB トークンへのログインと USB トークンへの RSA キーの保存

次に示すのは、USB トークンにログインして RSA キーを生成し、その RSA キーを USB トークンに保存する場合の設定例です。

```

! Configure the router to automatically log into the eToken
configure terminal
 crypto pki token default user-pin 0 1234567890
! Generate RSA keys and enroll certificates with the CA.
crypto pki trustpoint IOSCA
 enrollment url http://10.23.2.2
 exit
crypto ca authenticate IOSCA
Certificate has the following attributes:
  Fingerprint MD5:23272BD4 37E3D9A4 236F7E1A F534444E
  Fingerprint SHA1:D1B4D9F8 D603249A 793B3CAF 8342E1FE 3934EB7A
% Do you accept this certificate? [yes/no]:yes
Trustpoint CA certificate accepted.
crypto pki enroll
crypto pki enroll IOSCA
%
% Start certificate enrollment ..
% Create a challenge password. You will need to verbally provide this
password to the CA Administrator in order to revoke your certificate.
For security reasons your password will not be saved in the configuration.
Please make a note of it.
Password:
Re-enter password:
% The subject name in the certificate will include:c2851-27.cisco.com
% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]:no
% Include an IP address in the subject name? [no]:no
Request certificate from CA? [yes/no]:yes
% Certificate request sent to Certificate Authority
% The 'show crypto ca certificate IOSCA verbose' command will show the fingerprint.
*Jan 13 06:47:19.413:CRYPTO_PKI: Certificate Request Fingerprint MD5:E6DDAB1B
0E30EFE6 54529D8A DA787DBA
*Jan 13 06:47:19.413:CRYPTO_PKI: Certificate Request Fingerprint SHA1:3B0F33B
7 57C02A10 3935042B C4B6CD3D 61039251
*Jan 13 06:47:21.021:%PKI-6-CERTRET:Certificate received from Certificate Authority
! Issue the write memory command, which will automatically save the RSA keys to the
eToken ! instead of private NVRAM.
Router# write memory
Building configuration...
[OK]
*Jan 13 06:47:29.481:%CRYPTO-6-TOKENSTOREKEY:Key c2851-27.cisco.com stored on
Cryptographic Token eToken Successfully

```

次に示すのは、USB トークンから正常にロードされた保存済みログイン情報の **show crypto key mypubkey rsa** コマンドによる出力例です。USB トークン上に保存されているクレデンシャルは、保護領域内に存在します。USB トークン上にクレデンシャルを保存する場合、それらのファイルは /keystore というディレクトリに保存されます。ただし、キー ファイルは、コマンドライン インターフェイス (CLI) では表示されません。

```

Router#
show crypto key mypubkey rsa
% Key pair was generated at:06:37:26 UTC Jan 13 2005
Key name:c2851-27.cisco.com
Usage:General Purpose Key
Key is not exportable.
Key Data:
305C300D 06092A86 4886F70D 01010105 00034B00 30480241 00E3C644 43AA7DDD
732E0F4E 3CA0CDAB 387ABF05 EB8F22F2 2431F1AE 5D51FEE3 FCDEA934 7FBD3603
7C977854 B8E999BF 7FC93021 7F46ABF8 A4BA2ED6 172D3D09 B5020301 0001
% Key pair was generated at:06:37:27 UTC Jan 13 2005
Key name:c2851-27.cisco.com.server
Usage:Encryption Key
Key is not exportable.
Key Data:
307C300D 06092A86 4886F70D 01010105 00036B00 30680261 00DD96AE 4BF912EB
2C261922 4784EF98 2E70E837 774B3778 7F7AEB2D 87F5669B BF5DDFBC F0D521A5
56AB8FDC 9911968E DE347FB0 A514A856 B30EAF4 D1F453E1 003CFE65 0CCC6DC7
21FBE3AC 2F8DEA16 126754BC 1433DEF9 53266D33 E7338C95 BB020301 0001

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
ルータへの USB モジュールの接続	『 <a href="#">Cisco Access Router USB Flash Module and USB eToken Hardware Installation Guide</a> 』
eToken および USB フラッシュのデータシート	『 <a href="#">USB eToken and USB Flash Features Support</a> 』
RSA キー	PKI 内での RSA キーの展開
ファイル管理（ファイルのロード、コピー、および再起動）	『 <a href="#">Cisco Configuration Fundamentals Configuration Guide</a> 』（Cisco.com）
USB トークンによる RSA 処理：証明書サーバの設定	「PKI 展開での Cisco IOS 証明書サーバの設定および管理」の機能に関する資料。  「Generating a Certificate Server RSA Key Pair」項、 「Configuring a Certificate Server Trustpoint」項、および 関連する例を参照してください。
USB トークンの RSA 処理：初期自動登録時における USB トークンを使用した RSA 処理	『 <a href="#">Configuring Certificate Enrollment for a PKI</a> 』の 「Configuring Certificate Enrollment or Autoenrollment」 項を参照してください。

関連項目	マニュアル タイトル
SDP のセットアップ、設定、および USB トークンとの使用	PKI クレデンシャルの展開での SDP と USB トークンの使用方法については、「Setting Up Secure Device Provisioning (SDP) for Enrollment in a PKI」にある機能名の機能情報の項を参照してください。

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## PKI クレデンシャルの保存に関する機能情報

Table 158: PKI クレデンシャルの保存に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
証明書：保管場所の指定		この機能を使用すると、証明書を個別のファイルとして保存する機能をサポートしているプラットフォームにおいて、ローカル証明書の保管場所を指定できます。シスコのプラットフォームはすべて、デフォルトの保管場所として使用する NVRAM、およびフラッシュ ローカルストレージをサポートしています。ご使用のプラットフォームによっては、ブートフラッシュ、スロット、ディスク、USB フラッシュ、USB トークンなど、サポートされているその他のローカルストレージを使用できます。  この機能により、次のコマンドが導入されました。 <b>crypto pki certificate storage</b> 、 <b>show crypto pki certificates storage</b> 。
ソフトウェア暗号エンジンサポートでの RSA 4096 ビットキー生成	15.1(1)T	<b>crypto key generate rsa</b> コマンドの <b>modulus</b> キーワードの値の範囲は、360 ～ 2048 ビットから 360 ～ 4096 ビットに拡張されました。





## CHAPTER 117

# CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能

認証局（CA）における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能により、指定のトラストポイントが設定されたときに、インターフェイスのアドレスをそのトラストポイントと関連付けられたすべての TCP 接続の送信元アドレスとして使用するよう設定できます。

- [CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能の詳細, on page 1557](#)
- [CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能の設定方法, on page 1558](#)
- [CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能の設定例, on page 1561](#)
- [その他の参考資料, on page 1561](#)
- [CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択の機能情報, on page 1563](#)
- [用語集, on page 1563](#)

## CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能の詳細

### エンティティを識別する証明書

証明書を使用して、エンティティを識別できます。認証局（CA）とも呼ばれるトラステッドサーバにより、エンティティの ID を決定した後にエンティティに証明書が発行されます。Cisco IOS XE ソフトウェアを実行しているルータは、CA にネットワーク接続することでその証明書を取得します。Simple Certificate Enrollment Protocol（SCEP）を使用して、ルータはその証明書要求を CA に送信し、許可された証明書を受信します。ルータは、SCEP を使用した場合と同様に CA の証明書を取得します。リモートデバイスからの証明書を検証する場合、ルータは再度 CA または Lightweight Directory Access Protocol（LDAP）サーバあるいは HTTP サーバに連絡して、リモートデバイスの証明書が失効しているかどうか判断できます（このプロセスは、証明書失効リスト（CRL）のチェックとも呼ばれています）。



**Note** Cisco IOS リリースに応じて、LDAP がサポートされます。

設定によっては、有効またはルーティング可能な IP アドレスを持たないインターフェイスを使用して発信 TCP 接続を実行できる場合があります。ユーザは、異なるインターフェイスのアドレスを発信接続の送信元 IP アドレスとして使用するよう指定する必要があります。この要件の具体例としてケーブル モデムがあります。発信ケーブル インターフェイス (RF インターフェイス) には通常、ルーティング可能なアドレスがないためです。ただし、ユーザ インターフェイス (通常は FastEthernet) には有効な IP アドレスはありません。

## トラストポイントに関連付けられた発信 TCP 接続の送信元インターフェイス

トラストポイントを指定するには、**crypto pki trustpoint** コマンドを使用します。インターフェイスのアドレスを、そのトラストポイントに関連付けられたすべての発信 TCP 接続の送信元アドレスとして指定する場合は、**source interface** コマンドも **crypto pki trustpoint** コマンドとともに使用します。



**Note** インターフェイスアドレスが **source interface** コマンドを使用して指定されていない場合は、発信インターフェイスのアドレスが使用されます。

## CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス 選択機能の設定方法

### トラストポイントに関連付けられたすべての発信 TCP 接続のインターフェイスの設定

トラストポイントに関連付けられたすべての発信 TCP 接続の送信元アドレスとして使用するインターフェイスを設定するには、次の作業を行います。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint** *name*
4. **enrollment url** *url*
5. **source interface** *interface-address*
6. **interface** *type slot / port*

7. **description** *string*
8. **ip address** *ip-address mask*
9. **interface** *type slot / port*
10. **description** *string*
11. **ip address** *ip-address mask*
12. **crypto map** *map-name*

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router (config)# crypto pki trustpoint ms-ca	ルータが使用する認証局 (CA) を宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment url</b> <i>url</i> <b>Example:</b> Router (ca-trustpoint)# enrollment url http://yourname:80/certsrv/mscep/mscep.dll	CA の登録パラメータを指定します。
ステップ 5	<b>source interface</b> <i>interface-address</i> <b>Example:</b> Router (ca-trustpoint)# interface fastethernet1/0	そのトラストポイントに関連付けられたすべての発信 TCP 接続の送信元アドレスとして使用するインターフェイス。
ステップ 6	<b>interface</b> <i>type slot / port</i> <b>Example:</b> Router (ca-trustpoint)# interface fastethernet1/0	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>description</b> <i>string</i> <b>Example:</b> Router (config-if)# description inside interface	インターフェイスの設定に説明を加えます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>ip address</b> <i>ip-address mask</i> <b>Example:</b>  Router (config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 9	<b>interface</b> <i>type slot / port</i> <b>Example:</b>  Router (config-if)# interface fastethernet1/0	インターフェイス タイプを設定します。
ステップ 10	<b>description</b> <i>string</i> <b>Example:</b>  Router (config-if)# description outside interface 10.1.1.205 255.255.255.0	インターフェイスの設定に説明を加えます。
ステップ 11	<b>ip address</b> <i>ip-address mask</i> <b>Example:</b>  Router (config-if)# ip address 10.2.2.205 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 12	<b>crypto map</b> <i>map-name</i> <b>Example:</b>  Router (config-if)# crypto map mymap	インターフェイスに対して以前に定義されたクリプトマップセットを適用します。

## トラブルシューティングのヒント

コマンドで指定されたインターフェイスのアドレスが有効であることを確認します。指定されたインターフェイスのアドレスを使用して別のデバイス（可能性としては CRL を処理している HTTP または LDAP サーバ）からルータに **ping** を実行します。外部デバイスからルータへのトレースルートを使用しても同じことができます。

Cisco IOS XE コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、ルータと CA または LDAP サーバ間の接続をテストすることもできます。 **ping ip** コマンドを入力し、プロンプトに回答します。「Extended commands [n]:」プロンプトに「はい」と回答すると、送信元アドレスまたはインターフェイスが指定できるようになります。

また、Cisco IOS XE CLI を使用して **traceroute** コマンドを入力できます。 **traceroute ip** コマンド (EXEC モード) を入力すると、宛先および送信元アドレスを求めるプロンプトが表示されます。CA または LDAP サーバを、宛先および送信元アドレスの「送信元インターフェイス」として指定されたインターフェイスのアドレスとして指定する必要があります。



# CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能の設定例

## CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択の例

次に、ルータが支社にある例を示します。ルータは IP セキュリティ (IPSec) を使用して本社と通信します。FastEthernet 1 は、ISP (インターネット サービス プロバイダー) に接続する「外部」インターフェイスです。FastEthernet 0 は、支社の LAN に接続されたインターフェイスです。本社にある CA サーバにアクセスするには、ルータは IPSec トンネルを使用してその IP データグラムを外部インターフェイスである FastEthernet 1 (アドレス 10.2.2.205) に送信する必要があります。アドレス 10.2.2.205 は ISP により割り当てられています。アドレス 10.2.2.205 は支社または本社の一部ではありません。

CA は、ファイアウォールがあるため、社外アドレスにはアクセスできません。CA は 10.2.2.205 から発信されたメッセージを確認しますが、応答はできません (つまり、CA は、ルータが支社の到達可能なアドレス 10.1.1.1 にあることを認識していません)。

**source interface** コマンドを追加すると、ルータはアドレス 10.1.1.1 を CA に送信される IP データグラムの送信元アドレスとして使用するよう指示されます。CA は 10.1.1.1 に応答できます。

このシナリオは、上記の **source interface** コマンドとインターフェイスアドレスを使用して設定されています。

```
crypto pki trustpoint ms-ca
  enrollment url http://ms-ca:80/certsrv/mscep/mscep.dll
  source interface fastethernet0
!
interface fastethernet 0
  description inside interface
  ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
!
interface fastethernet 1
  description outside interface
  ip address 10.2.2.205 255.255.255.0
  crypto map main-office
```

## その他の参考資料

次に、CA における発信トラフィックの送信元インターフェイスの機能に関する資料を示します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IPsec と認証局の設定	「Security for VPNs with IPsec」

関連項目	マニュアルタイトル
IPsec と認証局に関するコマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。	-

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能でサポートが追加または変更された RFC はありません。	-

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/techsupport">http://www.cisco.com/techsupport</a></p>

# CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択の機能情報

Table 159: CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択の機能情報

機能名	リリース	機能情報
CA における発信トラフィックの送信元インターフェイス選択機能	Cisco IOS XE Release 2.1	この機能により、指定のトラストポイントが設定されたときに、インターフェイスのアドレスをそのトラストポイントと関連付けられたすべての TCP 接続の送信元アドレスとして使用できるよう設定できます。 次のコマンドが導入されました。 <b>source interface</b>

## 用語集

**認証**：ID の証明書および ID がもたらす秘密を使用してエンティティの ID を証明すること（通常は、秘密キーは証明書の公開キーに対応します）。

**CA**：認証局。CA はデジタル証明書を発行するエンティティ（特に X.509 証明書）で、証明書のデータ項目間のバインディングを保証します。

**CA authentication**：ユーザーはルート CA からの証明書を手動で承認します。通常は、証明書のフィンガープリントがユーザに提示され、ユーザはフィンガープリントに基づく証明書を承認するよう求められます。ルート CA の証明書は、通常の証明書確認プロセスで自動的に認証できないよう、自ら署名（自己署名）されます。

**CRL**：証明書失効リスト。CRL は、発行者により無効にされたデジタル証明書をそれらの期限満了予定までに列挙するデータ構造です。

**enrollment**：ルータは登録プロセス経由でその証明書を受信します。ルータは、（PKCS#10 と呼ばれる）特定の形式で証明書の要求を生成します。その要求は CA に転送され、CA は要求を許可し、要求と同じ形式に符号化された証明書を生成します。ルータは許可された証明書を受信し、通常操作中に使用するため、内部データベースに保管します。

**certificate**：エンティティ（マシンまたはユーザー）をそのエンティティの公開キーと関連付けるため国際標準化機構（ISO）規格 X.509 で定義されたデータ構造。証明書には、エンティティの名前など特定のフィールドが含まれています。証明書は通常は、エンティティに代わって CA により発行されます。この場合は、ルータが CA としての役割を果たします。証明書内の共通フィールドには、エンティティの認定者名（DN）、証明書を発行している認証局の DN、およびエンティティの公開キーがあります。

**LDAP** : Lightweight Directory Access Protocol。LDAP は、X.500 ディレクトリに読み書きインタラクティブアクセスできる、管理アプリケーションおよびブラウザアプリケーションにアクセスできるプロトコルです。



## CHAPTER 118

# PKI トラストプール管理

PKI トラストプール管理機能を使用すると、認証局（CA）と呼ばれる一般的に認識された信頼できるエージェントを使用して、デバイス間で発生する HTTPS などのセッションを認証できます。

Trustpool 証明書は、信頼を確立できる既知の CA 証明書です。IOS PKI には両方の CA が組み込まれており、trustpool バンドルをダウンロードするオプションもあります。組み込み CA 証明書は、ダウンロードされた trustpool バンドルの PKCS7 署名を検証するために使用されます。署名の検証に失敗した場合は、trustpool バンドルをダウンロードできます。組み込み trustpool 証明書は削除できます。trustpool 証明書は、SSLVPN、PnP、スマートライセンス、MacSec などのアプリケーションで使用されます。

デフォルトで有効に設定されているこの機能を使用すると、セッションのセキュリティ保護のためにブラウザが提供するサービスと同じ方法で、既知の CA の証明書のプールのプロビジョニング、保管、管理を行うスキーマを作成できます。



**Note** 新しいルート証明書は、シスコのプラグ アンド プレイ アプリケーションの組み込み証明書に含まれています。



**Note** Cisco IOS XE Denali 16.3 から、PKI トラストプールが管理される方法が変更されました。このリリースへのアップグレードを計画している場合は、「PKI トラストプールの拡張」項に含まれる次の機能に対する変更を確認してください。

- [PKI トラストプール管理の前提条件, on page 1566](#)
- [PKI トラストプール管理の制約事項, on page 1566](#)
- [PKI トラストプール管理の情報, on page 1566](#)
- [PKI トラストプール管理の設定方法, on page 1568](#)
- [PKI トラストプール管理の設定例, on page 1575](#)
- [PKI トラストプール管理の追加資料, on page 1579](#)
- [PKI トラストプール管理の機能情報, on page 1580](#)

## PKI トラストプール管理の前提条件

証明書を使用するには、暗号化サブシステムが Cisco IOS ソフトウェア イメージに含まれている必要があります。

## PKI トラストプール管理の制約事項

CA 証明書を使用するデバイス証明書は PKI トラストプールに登録できません。

トラストプール URL を介してダウンロードできるのは、シスコの署名済み PKCS7 証明書のみです。

## PKI トラストプール管理の情報

### PKI トラストプール内の CA 証明書の保管場所

ルータは、PKI トラストプールと呼ばれる特別な証明書ストアに格納された内蔵型 CA 証明書バンドルを使用します。これはシスコから自動的に更新されます。この PKI トラストプールは、シスコおよび他のベンダーにも知られています。CA 証明書バンドルは次の形式で提供されます。

- 公開キー暗号化メッセージ構文標準 7 (pkcs7) 内にエンベロープ化された、Distinguished Encoding Rules (DER) バイナリ形式の X.509 証明書。PKI でメッセージの署名と暗号化に使用します。X.509 証明書は、PKI と権限管理インフラストラクチャ (PMI) の標準で、特に、公開キー証明書の標準形式、証明書失効リスト、属性証明書、および認証パス検証アルゴリズムを指定します。
- PEM ヘッダー付きプライバシー強化メール (PEM) 形式の連結型 X.509 証明書を含むファイル。



**Note** また、NVRAM の代わりに、バンドルの保管場所としてフラッシュも使用できます。

## PKI トラストプールの更新

PKI トラストプールは、次の条件が発生した場合に更新する必要がある単一エンティティとして処理されます。

- PKI トラストプールの証明書が期限切れまたは再発行されている。

- 公開された CA 証明書のバンドルに、特定のアプリケーションに必要な追加の信頼できる証明書が含まれている。
- 設定が破損している。



**Note** PKI トラストプールに組み込まれた証明書は物理的に置き換えることができません。ただし、組み込まれた証明書の X.509 所有者名属性が CA 証明書バンドル内の証明書と一致する場合、組み込まれた証明書は無効と表示されます。

PKI トラストプールは自動または手動で更新できます。PKI トラストプールを使用するアプリケーションによっては、PKI トラストプールが証明書検証で使用される場合があります。詳細については「PKI トラストプール内の証明書の手動更新」と「PKI トラストプールポリシーパラメータの設定」の項を参照してください。



**Note** 自動更新が有効になっていると、インポート方法に関係なく、ダウンロードされている既存のすべてのトラストプール証明書（組み込まれたトラストプール証明書を除く）が削除されます。

PKI トラストプール タイマーは、最初に失効する CA 証明書と一致します。タイマーが作動しても、バンドルのロケーションが設定されておらず、明示的に無効になっていない場合、`syslog` 警告が発効され、PKI トラストプール ポリシー オプションが設定されていないことが管理者に警告されます。

PKI トラストプールの自動更新では設定済み URL を使用します。

PKI トラストプールが失効すると、ポリシーが読み込まれ、バンドルがロードされ、PKI トラストプールが置き換えられます。PKI トラストプールの自動更新の開始時に問題が発生した場合は、ダウンロードが成功するまで、次のスケジュールで更新が開始されます。20 日、15 日、10 日、5 日、4 日、3 日、2 日、1 日、最後に 1 時間ごとです。

## PKI トラストプールとトラストポイントの両方での CA 処理

PKI トラストプールとトラストポイントの両方に CA が格納されている場合があります。たとえば、トラストポイントで CA を使用し、CA バンドルが同じ CA 内で後からダウンロードされたりします。このシナリオでは、PKI トラストプール管理機能がルータに実装されても、現在の動作が変更されないようにするため、トラストポイント内の CA とこのトラストポイントのポリシーが、PKI トラストプールまたは PKI トラストプールポリシーの CA よりも優先されます。

## PKI トラストプールの拡張機能

Cisco IOS XE Denali 16.3 より前のリリースでは、トラストプールは、すべてのシスコボックスで展開された内蔵型証明書と、公開されたバンドルからダウンロードした CA 証明書で構成さ

れています。ダウンロードした証明書は、デフォルトでは **NVRAM** に保存されます。ダウンロードしたトラストプールバンドルの証明書は抽出され、非効率的で多くの領域を使用する実行コンフィギュレーションに保存されていました。

Cisco IOS XE Denali 16.3 以降、PKI トラストプールの拡張機能では、これまでのリリースのような個別の証明書の代わりに、保管場所（デフォルトでは **NVRAM**）にあるファイルと同じダウンロードしたバンドル形式でバンドルが保存されます。このため、ファイルが圧縮形式の場合は、ストレージメモリが節約されます。また、証明書は実行コンフィギュレーションでは個別に表示されません。再起動するたびに、バンドルは保存場所から読み取られ、個別の証明書がデータベースにインストールされます。

この機能は、実行コンフィギュレーションから現在のダウンロードした証明書を削除します。これらの証明書は古い **NVRAM** および新しいイメージと互換性がないため、**crypto pki certificate pool** には **DER** 形式の証明書を指定できません。アップグレード中、**DER** 形式のトラストプール証明書が失われたら、バンドルを保管場所に再インストールする必要があります。古い **NVRAM** ファイルの場合、これは再起動時に **syslog** に記されます。**show crypto pki trustpool** コマンドは、設定が削除されたことを示します。アップグレード前に、**show crypto pki trustpool** コマンドを使用し、証明書が利用可能かどうかを確認します。

Cisco IOS XE Denali 16.3 へのアップグレード前に、次の手順を実行する必要があります。

- **crypto pki trustpool clean** コマンドを使用して、ダウンロードしたトラストプール証明書を削除します
- **write memory** コマンドを使用します。
- デバイスを再起動します。
- **crypto pki trustpool import url** コマンドを使用して、トラストプールバンドルをダウンロードします。

SSH へのログインにトラストプールを使用している場合、追加の手順を実行して、特定の証明書をバンドルからトラストポイントに転送する必要があります。詳細については、「例：アップグレード中の **SSH** 接続に **PKI** トラストプールを使用」を参照してください。



(注) Cisco IOS XE Gibraltar 16.10 リリース以降では、トラストポイントで **match crlsign** コマンドを設定すると、検証中に **crlsign** がクロスチェックされます。

## PKI トラストプール管理の設定方法

### PKI トラストプールの証明書の手動更新

PKI トラストプール管理機能はデフォルトで有効で、PKI トラストプールに組み込まれた **CA** 証明書バンドルを使用し、シスコから自動更新を受信します。PKI トラストプール内の証明書



が最新のものではない、破損している、または特定の証明書を更新する必要がある場合は、次の作業を実行して手動で更新します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpool import clean** [**terminal** | **url url**]
4. **crypto pki trustpool import** {**terminal**} {**url url** | **ca-bundle**} {**vrf vrf-name** | **source interface interface-name**}
5. **exit**
6. **show crypto pki trustpool**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpool import clean</b> [ <b>terminal</b>   <b>url url</b> ] <b>Example:</b>  Device(config)# crypto pki trustpool import clean	(任意) ダウンロードしたすべての PKI CA 証明書を手動で削除します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>clean</b> キーワードは、新しい証明書のダウンロードの前に、ダウンロード済みの PKI トラストプール証明書の削除を指定します。</li> <li>• <b>terminal</b> キーワードは、既存の CA 証明書バンドル端末設定を削除します。</li> <li>• <b>url</b> キーワードおよび <i>url</i> 引数は、既存の URL ファイル システム設定を削除します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>crypto pki trustpool import</b> { <b>terminal</b> } { <b>url url</b>   <b>ca-bundle</b> } { <b>vrf vrf-name</b>   <b>source interface interface-name</b> }	CA 証明書バンドルを PKI トラストプールに手動でインポート (ダウンロード) したり、既存の CA 証明書バンドルを交換したりします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>terminal</b> キーワードを指定すると、端末 (カットアンドペースト) を介して CA 証明書バンドルが PEM 形式でインポートされます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>url</b> キーワードと <i>url</i> 引数を指定すると、URL を介して CA 証明書バンドルがインポートされます。この URL は、HTTP などのさまざまな URL ファイルシステムを経由できます。詳細については、「PKI トラストプールの更新」の項を参照してください。CA バンドルで、<b>crypto pki trustpool import</b> コマンドを使用すると、グローバル VRF を介してトラフィックを転送できます。また、VRF と送信元インターフェイスを指定する <b>crypto pki trustpool policy</b> コマンドを設定すると、トラフィックが VRF を介して転送されることはありません。</li> </ul>
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>show crypto pki trustpool</b> <b>Example:</b> Device(config)# show crypto pki trustpool	冗長形式でルータの PKI トラストプール証明書を表示します。

## オプション PKI トラストプール ポリシー パラメータの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpool policy**
4. **cabundle url {url | none}**
5. **chain-validation**
6. **crl {cache {delete-after {minutes | none} | query url}**
7. **default command-name**
8. **match certificate certificate-map-name [allow expired-certificate | override {cdp directory ldap-location | oosp {number url url | trustpool name number url} | sia number url} | skip [revocation-check | authorization-check]]**
9. **oosp {disable-nonce | url url}**
10. **revocation-check method1 [method2 [method3]]**
11. **source interface name number**
12. **storage location**
13. **vrf vrf-name**
14. **show**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpool policy</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki trustpool policy Device(ca-trustpool)#	CAPKI トラストプールポリシーパラメータを設定するコマンドにアクセスできる、ca-trustpool コンフィギュレーション モードを入力します。トラストプールポリシーは crl 検索プロセスにのみ影響し、トラストプール インポート プロセスには影響しません。
ステップ 4	<b>cabundle url {url   none}</b> <b>Example:</b> Device(ca-trustpool)# cabundle url http://www.cisco.com/security/pki/crl/crca2048.crl	PKI トラストプール認証局の CA 証明書バンドルのダウンロード元となる URL を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>url 引数は CA 証明書バンドルの URL です。</li> <li>none キーワードを指定すると、PKI トラストプール CA の自動更新が許可されません。</li> </ul>
ステップ 5	<b>chain-validation</b> <b>Example:</b> Device(ca-trustpool)# chain-validation	ピアの証明書から PKI トラストプールのルート CA 証明書までチェーン検証を有効にします。デフォルトの検証はピア証明書の発行者で停止します。
ステップ 6	<b>crl {cache {delete-after {minutes   none}   query url}</b> <b>Example:</b> Device(ca-trustpool)# crl query http://www.cisco.com/security/pki/crl/crca2048.crl	PKI トラストプールの証明書失効リスト (CRL) クエリおよび CRL キャッシュ オプションを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>cache キーワードは CRL キャッシュオプションを指定します。</li> <li>delete-after キーワードは、タイムアウト後にキャッシュから CRL を削除します。</li> <li>minutes 引数は、キャッシュから CRL が削除されるまで待機する分数 (1 ~ 43,200) です。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>none</b> キーワードを指定すると、CRL がキャッシュ化されません。</li> <li>• <b>url</b> 引数の <b>query</b> キーワードは、CRL を照会するために CA サーバーによって公開される URL を指定します。</li> </ul>
ステップ 7	<p><b>default</b> <i>command-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(ca-trustpool)# default crl query http://www.cisco.com/security/pki/crl/crca2048.crl</pre>	<p>ca-trustpool コンフィギュレーション サブコマンドの値をデフォルト値にリセットします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>command-name</b> 引数は、その適用可能なキーワードを設定した ca-trustpool コンフィギュレーション モード コマンドです。</li> </ul>
ステップ 8	<p><b>match certificate</b> <i>certificate-map-name</i> [<b>allow expired-certificate</b>   <b>override</b> {<b>cdp directory ldap-location</b>   <b>ocsp</b> {<i>number url url</i>   <b>trustpool name number url url</b>}   <b>sia number url</b>}   <b>skip</b> [<b>revocation-check</b>   <b>authorization-check</b>]]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>match certificate mycert override ocsp 1 url http://ocspts.identrust.com</pre>	<p>PKI トラストプールの証明書マップを使用できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>certificate-map-name</b> 引数は証明書マップ名と一致します。</li> <li>• オプションの <b>allow expired-certificate</b> キーワードは、失効した証明書を無視します。</li> </ul> <p><b>Note</b> このキーワードを設定しないと、ルータは失効した証明書を無視しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>override</b> キーワードは、PKI トラストプール内にある証明書の Online Certificate Status Protocol (OCSP) または SubjectInfoAccess (SIA) 属性フィールドを上書きします。</li> <li>• <b>cdp</b> キーワードは、証明書の証明書分散ポイント (CDP) を上書きします。</li> <li>• <b>directory</b> キーワードおよび <b>ldap-location</b> は、証明書内で上書きする http: または ldap: URL の CDP、あるいは LDAP ディレクトリを指定します。</li> <li>• <b>ocsp</b> キーワードと <b>number</b> 引数および <b>url</b> キーワードと <b>url</b> 引数は、証明書内で上書きする OCSP シーケンス番号 (0 ~ 10000) および URL を指定します。</li> <li>• <b>trustpool</b> キーワードと <b>name</b> や <b>number</b> 引数および <b>url</b> キーワードと <b>url</b> 引数は、PKI トラストプール名、シーケンス番号、URL を指定す</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p>ることで、OCSP 証明書を確認するための PKI トラストプールを上書きします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>sia</b> キーワードと <i>number</i> や <i>url</i> 引数は、SIA シーケンス番号と URL を指定することで、証明書内の SIA URL を上書きします。</li> <li>• オプションの <b>skip revocation-check</b> キーワードを組み合わせると、PKI トラストプールが特定の証明書を除いた証明書失効リスト (CRL) を適用できます。</li> </ul> <p><b>Note</b> このキーワードの組み合わせを設定しないと、PKI トラストプールはすべての証明書を CRL を適用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• オプションの <b>skip authorization-check</b> キーワードを組み合わせると、公開キーインフラストラクチャ (PKI) と AAA サーバーとの統合を設定した場合に、証明書の認証、許可、アカウントティング (AAA) の確認をスキップします。</li> </ul> <p><b>Note</b> このキーワードの組み合わせを設定せずに、PKI と AAA サーバとの統合を設定すると、証明書の AAA の確認が行われます。</p>
ステップ 9	<p><b>ocsp</b> {<b>disable-nonce</b>   <b>url</b> <i>url</i>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(ca-trustpool)# ocsp url http://ocspts.identrust.com</pre>	<p>PKI トラストプールの OCSP 設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>disable-nonce</b> キーワードは OCSP ナンス拡張部を無効にします。</li> <li>• <b>url</b> キーワードと <i>url</i> 引数は、証明書の Authority Info Access (AIA) 拡張部で上書きする (存在する場合) OCSP サーバーの URL を指定します。設定した PKI トラストプールに関連するすべての証明書は、指定した HTTP URL の OCSP サーバによって確認されます。使用可能な URL は、ホスト名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。</li> </ul>
ステップ 10	<p><b>revocation-check</b> <i>method1</i> [<i>method2</i> [<i>method3</i>]]</p> <p><b>Example:</b></p>	<p>PKI トラストプール ポリシー使用時の失効確認を無効にします。 <i>method</i> 引数は、ルータが証明書の失効ステータスを確認するために使用されます。使用可能なキーワードは次のとおりです。</p>

	Command or Action	Purpose
	<pre>Device(ca-trustpool)# revocation-check oosp crl none</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>cr1</b> キーワードは、証明書失効リスト (CRL) で証明書の確認を行います。これはデフォルトの動作です。</li> <li>• <b>none</b> キーワードでは、証明書の確認が必要ありません。</li> <li>• <b>oosp</b> キーワードは、Online Certificate Status Protocol (OCSP) サーバによって証明書の確認を行います。</li> </ul> <p>2番目と3番目の方法を指定した場合、各方法はその直前の方法でエラーが返された場合（サーバがダウンしている場合など）にだけ使用されます。</p>
ステップ 11	<p><b>source interface name number</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(ca-trustpool)# source interface tunnel 1</pre>	<p>CRL の取得、OCSP ステータス、または PKI トラストプールの CA 証明書バンドルのダウンロードに使用する送信元インターフェイスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>name</b> および <b>number</b> 引数は、PKI トラストプールの送信元アドレスとして使用されるインターフェイスのタイプと数値です。</li> </ul>
ステップ 12	<p><b>storage location</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(ca-trustpool)# storage storage disk0:crca2048.crl</pre>	<p>PKI トラストプール証明書がルータ上で保存される場合のファイル システム ロケーションを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>location</b> は、PKI トラストプール証明書が保存されるファイル システム ロケーションです。ファイルシステムロケーションのタイプには、<b>disk0:</b>、<b>disk1:</b>、<b>nvrn:</b>、<b>unix:</b>、または名前付きファイルシステムがあります。</li> </ul>
ステップ 13	<p><b>vrf vrf-name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(ca-trustpool)# vrf myvrf</pre>	<p>登録、CRL の取得、および OCSP ステータスに使用される VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを指定します。</p>
ステップ 14	<p><b>show</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(ca-trustpool)# show</pre> <pre>Chain validation will stop at the first CA certificate in the pool Trustpool CA certificates will expire 12:58:31 PST Apr 5 2012 Trustpool policy revocation order:      crl Certificate matching is disabled Policy Overrides:</pre>	<p>ルータの PKI トラストプール ポリシーを表示します。</p>

# PKI トラストプール管理の設定例

## 例：PKI トラストプール管理の設定

次の **show crypto pki trustpool** コマンド出力は、PKI トラストプールの証明書を表示します。



**Note** この例のコマンド出力は、デバッグのためなので省略されています。

```
Device# show crypto pki trustpool

CA Certificate
Status: Available
Version: 3
Certificate Serial Number (hex): 00D01E47400000111C38A96440000002
Certificate Usage: Signature
Issuer:
  cn=DST Root CA X3
  o=Digital Signature Trust Co.
Subject:
  cn=Cisco SSCA
  o=Cisco Systems
CRL Distribution Points:
  http://crl.identrust.com/DSTROOTCAX3.crl
Validity Date:
  start date: 12:58:31 PST Apr 5 2007
  end   date: 12:58:31 PST Apr 5 2012

CA Certificate
Status: Available
Version: 3
Certificate Serial Number (hex): 6A6967B3000000000003
Certificate Usage: Signature
Issuer:
  cn=Cisco Root CA 2048
  o=Cisco Systems
Subject:
  cn=Cisco Manufacturing CA
  o=Cisco Systems
CRL Distribution Points:
  http://www.cisco.com/security/pki/crl/crca2048.crl
Validity Date:
  start date: 14:16:01 PST Jun 10 2005
  end   date: 12:25:42 PST May 14 2029
```

次の **show crypto pki trustpool verbose** コマンド出力は、PKI トラストプールの証明書を表示します。

```
Device# show crypto pki trustpool verbose
```

```

CA Certificate
  Status: Available
  Version: 3
  Certificate Serial Number (hex): 01
  Certificate Usage: Signature
  Issuer:
    cn=Licensing Root - DEV
    o=Cisco
  Subject:
    cn=Licensing Root - DEV
    o=Cisco
  Validity Date:
    start date: 03:25:43 IST Apr 25 2013
    end date: 03:25:43 IST Apr 25 2033
  Subject Key Info:
    Public Key Algorithm: rsaEncryption
    RSA Public Key: (2048 bit)
  Signature Algorithm: SHA256 with RSA Encryption
  Fingerprint MD5: 432CBFA0 32D2983A 8A56A319 FD28C6F9
  Fingerprint SHA1: 6341FCAF 19CE9FEE 961D92A5 D47390B5 2DD6D94D
  X509v3 extensions:
    X509v3 Key Usage: 6000000
      Key Cert Sign
      CRL Signature
    X509v3 Subject Key ID: 43214521 B5FB217A 1A4D1BB7 0236E664 CBEC8B65
    X509v3 Basic Constraints:
      CA: TRUE
  Authority Info Access:
  Associated Trustpoints: Trustpool
  Trustpool: Built-In

```

## 例 : アップグレード中の SSH 接続に PKI トラストプールを使用

Cisco IOS XE Denali 16.3 へアップグレードの前に、トラストプールから新しいトラストポイントに証明書をコピーします。

```

Device # show run | sec pool
crypto pki trustpool policy
  revocation-check none
  source interface GigabitEthernet0/0/0
crypto pki certificate pool
certificate ca 01
  308204FA 308202E2 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 0C050030
  0E310C30 0A060355 04031303 61626330 1E170D31 36303730 35303435 3935335A
  170D3136 30373035 30353535 35335A30 0E310C30 0A060355 04031303 61626330
  82022230 0D06092A 864886F7 0D010101 05000382 020F0030 82020A02 82020100
  C78AA144 8EC1D18A 4EECC3E8 81450CC7 A85A4C57 AF59E584 5C1EA888 6EF70DA8
  33327D93 E1F6CED7 32BB4FCF 693F60E0 37000225 40F6F9C5 0462C4AD 899E5BDD
  ED779180 D6C75E1B FBE97D42 E2A7B35D DDC18C4D 4CCDE401 68F67A6D E40FD744
  904EE49F 40820640 C6E0B072 510BC40E A0883F6C E8DF5128 EFF3B5F4 B31E5C16
  217652FF AFC30EBF 593CB19C 56C0E793 2814D504 0E079E0C 8E9E856A BCADB19C
  F2376994 A0A040C1 7BC1E88F CF80F218 9C48B4D9 F84ED5C0 79827BD1 32448478
  8F1F82F2 C91A9479 692B6456 C53CF937 777D0C31 1B8A1F5E 24B33553 047C2448
  855CF974 DFA21665 8AD8A0E5 81ED8068 81688997 FF05118C 93A59CA0 7FD594F6
  B7B1898C 272E089A 3392A2C4 22A22625 2BC1E16F 95B2FC15 207CCA49 378AD3A6
  0C574197 C5E94D8C E6736271 CE0BA9AB ACB380E3 A8084243 4E038DD1 8E86E206
  E2269290 F1AFB29A D28CFB3A 5ABADE4A 21A59728 7174E7A3 2FF59C90 E6100C6E
  E2E8CB4C 91BD574D 57B5E18A 78F9CE75 624C4A2E 1A6EFCC3 7D1BB20B 1CC79024

```



```

CD2FBC4D 46BE1B7A 6EFD8F05 6FD84E91 51215E9B E5E952A4 6E2D1388 10075706
7D6FAF9B 3F7F8994 F39B9B5D 0C7CD5BC 40738877 5D9985AC 5AB6363D 811BA440
41A1639F 352F4F01 1994300A A4B85B75 01486CA0 4C4B3175 82038B26 BEFE1D2A
4AC0D577 7784FACF A6877D68 5D73DD04 DC8D942B DE3FC9FE 4C1FF715 A2E7A5AB
02030100 01A36330 61300F06 03551D13 0101FF04 05300301 01FF300E 0603551D
0F0101FF 04040302 0186301F 0603551D 23041830 168014CA 195EDBF1 51753A92
71342CA8 36DDABA9 63A93130 1D060355 1D0E0416 0414CA19 5EDBF151 753A9271
342CA836 DDABA963 A931300D 06092A86 4886F70D 01010C05 00038202 0100553B
FB77A348 C4447C40 BEB2DDFD 63C82441 3CBDC198 B5D5B1AB DF17C4E2 98AEAF2F
CD570939 BCC116E0 33CFF471 E91EE308 8B29B5BD 11DFACF9 A3AC3135 8BE81B22
ED205587 5DE04654 A051CC14 CA8D2A6E 81F924DA 001BB1C4 7F85F177 4E75D8EA
797CCAEF 1502492D 17627CD1 E39E295B 44C55884 8E6DFF68 2129B222 18E3187D
AB97B4A7 6F838E75 A8908566 AD9E6687 35B150DE 0C8C1B37 6F17FDAC 7A7C53A4
434F5CF3 6EB71957 E65EC5D2 7685B05B A9D8C0D3 2DB8F97E E6B37E11 C9E26F4F
BFB97745 83E1A214 461B0E49 0FFDEF21 A7CA5364 44416002 03A01F0C 2BC098D3
B50A4071 AC4D2234 4E55C5D4 0FD9C308 63F2A8D4 24D34613 B73EAA1B B407D56F
90EEF5C7 AE61C0D8 13FB493D 0E1C8F9B 1D2D6DEA 458CDE18 8753FF14 F8C75213
35557FCC 50405056 D9790AF0 EAC21646 2D9AF88D 59C05434 45F21248 0BB72191
74D951DD 9D23997E 1134611E 837137E6 C40C694E 7AB4A05F E8470E87 E0F6D924
A69A98A8 5AA2B9B3 B7446883 94A7230D EE3C6EDA 4A348351 FC40C16D 6FDC91EC
CEFF580B F7826DD1 1D1D07DB 17CA3298 8C510826 D2712E04 EB669909 3D8106EB
5391A5BA 80B7E981 B41AAEB9 CE4A5236 20E30AE7 01D5FDB3 604C5505 0F8C96DC
8F5CF569 5D90C1FB F5679221 B7B922C0 5F11C379 9EBA283C 45A209F7 132B8DA2
EAF4751B 290A1CAC C3E7978B 760FB05A 185991FE 4884FA1A D3EEDD7C 63
3B
quit

```

新しいトラストポイントを作成し、設定モードで証明書を貼り付けます。

```

Device(config)#cry pki trust abc
Device(ca-trustpoint)#cry pki cert chain abc
Device(config-cert-chain)#certificate ca 01

```

16 進数で証明書を入力します

```

Device(config-pki-hexmode)# 308204FA 308202E2 A0030201 02020101 300D0609 2A864886
F70D0101 0C050030
Device(config-pki-hexmode)# 0E310C30 0A060355 04031303 61626330 1E170D31 36303730
35303435 3935335A
Device(config-pki-hexmode)# 170D3136 30373035 30353535 35335A30 0E310C30 0A060355
04031303 61626330
Device(config-pki-hexmode)# 82022230 0D06092A 864886F7 0D010101 05000382 020F0030
82020A02 82020100
Device(config-pki-hexmode)# C78AA144 8EC1D18A 4EECC3E8 81450CC7 A85A4C57 AF59E584
5C1EA888 6EF70DA8
Device(config-pki-hexmode)# 33327D93 E1F6CED7 32BB4FCF 693F60E0 37000225 40F6F9C5
0462C4AD 899E5BDD
Device(config-pki-hexmode)# ED779180 D6C75E1B FBE97D42 E2A7B35D DDC18C4D 4CCDE401
68F67A6D E40FD744
Device(config-pki-hexmode)# 904EE49F 40820640 C6E0B072 510BC40E A0883F6C E8DF5128
EFF3B5F4 B31E5C16
Device(config-pki-hexmode)# 217652FF AFC30EBF 593CB19C 56C0E793 2814D504 0E079E0C
8E9E856A BCADB19C
Device(config-pki-hexmode)# F2376994 A0A040C1 7BC1E88F CF80F218 9C48B4D9 F84ED5C0
79827BD1 32448478
Device(config-pki-hexmode)# 8F1F82F2 C91A9479 692B6456 C53CF937 777D0C31 1B8A1F5E
24B33553 047C2448
Device(config-pki-hexmode)# 855CF974 DFA21665 8AD8A0E5 81ED8068 81688997 FF05118C
93A59CA0 7FD594F6

```

## 例 : アップグレード中の SSH 接続に PKI トラストプールを使用

```

Device(config-pki-hexmode) # B7B1898C 272E089A 3392A2C4 22A22625 2BC1E16F 95B2FC15
207CCA49 378AD3A6
Device(config-pki-hexmode) # 0C574197 C5E94D8C E6736271 CE0BA9AB ACB380E3 A8084243
4E038DD1 8E86E206
Device(config-pki-hexmode) # E2269290 F1AFB29A D28CFB3A 5ABADE4A 21A59728 7174E7A3
2FF59C90 E6100C6E
Device(config-pki-hexmode) # E2E8CB4C 91BD574D 57B5E18A 78F9CE75 624C4A2E 1A6EFCC3
7D1BB20B 1CC79024
Device(config-pki-hexmode) # CD2FBC4D 46BE1B7A 6EFD8F05 6FD84E91 51215E9B E5E952A4
6E2D1388 10075706
Device(config-pki-hexmode) # 7D6FAF9B 3F7F8994 F39B9B5D 0C7CD5BC 40738877 5D9985AC
5AB6363D 811BA440
Device(config-pki-hexmode) # 41A1639F 352F4F01 1994300A A4B85B75 01486CA0 4C4B3175
82038B26 BEFE1D2A
Device(config-pki-hexmode) # 4AC0D577 7784FACF A6877D68 5D73DD04 DC8D942B DE3FC9FE
4C1FF715 A2E7A5AB
Device(config-pki-hexmode) # 02030100 01A36330 61300F06 03551D13 0101FF04 05300301
01FF300E 0603551D
Device(config-pki-hexmode) # 0F0101FF 04040302 0186301F 0603551D 23041830 168014CA
195EDBF1 51753A92
Device(config-pki-hexmode) # 71342CA8 36DDABA9 63A93130 1D060355 1D0E0416 0414CA19
5EDBF151 753A9271
Device(config-pki-hexmode) # 342CA836 DDABA963 A931300D 06092A86 4886F70D 01010C05
00038202 0100553B
Device(config-pki-hexmode) # FB77A348 C4447C40 BEB2DDFD 63C82441 3CBDC198 B5D5B1AB
DF17C4E2 98AEAF2F
Device(config-pki-hexmode) # CD570939 BCC116E0 33CFF471 E91EE308 8B29B5BD 11DFACF9
A3AC3135 8BE81B22
Device(config-pki-hexmode) # ED205587 5DE04654 A051CC14 CA8D2A6E 81F924DA 001BB1C4
7F85F177 4E75D8EA
Device(config-pki-hexmode) # 797CCAEF 1502492D 17627CD1 E39E295B 44C55884 8E6DFF68
2129B222 18E3187D
Device(config-pki-hexmode) # AB97B4A7 6F838E75 A8908566 AD9E6687 35B150DE 0C8C1B37
6F17FDAC 7A7C53A4
Device(config-pki-hexmode) # 434F5CF3 6EB71957 E65EC5D2 7685B05B A9D8C0D3 2DB8F97E
E6B37E11 C9E26F4F
Device(config-pki-hexmode) # BFB97745 83E1A214 461B0E49 0FFDEF21 A7CA5364 44416002
03A01F0C 2BC098D3
Device(config-pki-hexmode) # B50A4071 AC4D2234 4E55C5D4 0FD9C308 63F2A8D4 24D34613
B73EAA1B B407D56F
Device(config-pki-hexmode) # 90EEF5C7 AE61C0D8 13FB493D 0E1C8F9B 1D2D6DEA 458CDE18
8753FF14 F8C75213
Device(config-pki-hexmode) # 35557FCC 50405056 D9790AF0 EAC21646 2D9AF88D 59C05434
45F21248 0BB72191
Device(config-pki-hexmode) # 74D951DD 9D23997E 1134611E 837137E6 C40C694E 7AB4A05F
E8470E87 E0F6D924
Device(config-pki-hexmode) # A69A98A8 5AA2B9B3 B7446883 94A7230D EE3C6EDA 4A348351
FC40C16D 6FDC91EC
Device(config-pki-hexmode) # CEFF580B F7826DD1 1D1D07DB 17CA3298 8C510826 D2712E04
EB669909 3D8106EB
Device(config-pki-hexmode) # 5391A5BA 80B7E981 B41AAEB9 CE4A5236 20E30AE7 01D5FDB3
604C5505 0F8C96DC
Device(config-pki-hexmode) # 8F5CF569 5D90C1FB F5679221 B7B922C0 5F11C379 9EBA283C
45A209F7 132B8DA2
Device(config-pki-hexmode) # EAF4751B 290A1CAC C3E7978B 760FB05A 185991FE 4884FA1A
D3EEDD7C 63
Device(config-pki-hexmode) # 3B
Device(config-pki-hexmode) # quit

```

これで Cisco IOS XE Denali 16.3 にアップグレードできるようになりました。トラストプールの証明書は消えていますが、トラストポイントにはまだ保管されています。アップグレード後にトラストプールに証明書をインストールします。

## PKI トラストプール管理の追加資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右のURLにアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## PKI トラストプール管理の機能情報

Table 160: PKI トラストプール管理の機能情報

機能名	リリース	機能情報
PKI トラストプール管理		次のコマンドが導入または変更されました。 <b>cabundle url</b> 、 <b>chain-validation (ca-trustpool)</b> 、 <b>crypto pki trustpool import</b> 、 <b>crypto pki trustpool policy</b> 、 <b>crl</b> 、 <b>default (ca-trustpool)</b> 、 <b>match certificate (ca-trustpool)</b> 、 <b>ocsp</b> 、 <b>show (ca-trustpool)</b> 、 <b>show crypto pki trustpool</b> 、 <b>source interface (ca-trustpool)</b> 、 <b>storage</b> 、 <b>vrf (ca-trustpool)</b> 、 <b>show crypto pki trustpool built-in</b> 、 <b>crypto pki trustpool import clean ca-bundle</b> 。



## 第 119 章

# トラストポイントの PKI 分割 VRF

トラストポイントの PKI 分割 VRF 機能を使用すると、証明書登録と失効で VPN ルーティングおよび転送 (VRF) を設定できます。

- [トラストポイントの PKI 分割 VRF に関する情報 \(1581 ページ\)](#)
- [トラストポイントの PKI 分割 VRF の設定方法 \(1582 ページ\)](#)
- [トラストポイントの PKI 分割 VRF の設定例 \(1583 ページ\)](#)
- [トラストポイントの PKI 分割 VRF の追加資料, on page 1584](#)
- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1584](#)

## トラストポイントの PKI 分割 VRF に関する情報

### トラストポイントの PKI 分割 VRF の概要

トラストポイントの PKI 分割 VRF 機能を使用すると、証明書登録と証明書失効リスト (CRL) の確認で VPN ルーティングおよび転送 (VRF) を設定できます。VRF は、**crypto pki profile enrollment** コマンドの後に **enrollment url** コマンドを使用して登録プロファイルに設定し、この登録プロファイルをトラストポイントに添付します。登録および CRL に同じ VRF を設定したり、異なる VRF を設定したりできます。設定 (登録または失効) に基づいて、対応する VRF が選択され、Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) 要求が各 VRF を介して送信されます。

さまざまなルーティングパスを介して登録および CRL を設定するには、**crypto pki profile enrollment** コマンドを使用して登録 url コマンドを設定する必要があります。ここで設定した VRF は登録 VRF として動作し、登録要求はこの VRF を介して送信されます。ただし、CRL はトラストポイントで設定したグローバル VRF を使用します。

**enrollment url** コマンドで設定した VRF がない場合は、登録が **crypto pki trustpoint** コマンドで設定されるグローバル登録に変わります。

# トラストポイントの PKI 分割 VRF の設定方法

## 分割 VRF の設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki profile enrollment label**
4. **enrollment url url [vrf vrf-name]**
5. **exit**
6. **show crypto pki profile**
7. **show crypto pki trustpoint**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki profile enrollment label</b> 例： Device(config)# crypto pki profile enrollment pki_profile	登録プロファイルを定義し、ca-profile-enroll コンフィギュレーション モードを開始します。  • <b>label</b> : 登録プロファイルの名前。登録プロファイル名は、 <b>enrollment profile</b> コマンドで指定された名前と同じである必要があります。
ステップ 4	<b>enrollment url url [vrf vrf-name]</b> 例： Device(ca-profile-enroll)# enrollment url http://entrust:81/cda-cgi/clientcgi.exe vrf vrf1	証明書登録要求を HTTP または TFTP によって送信する CA サーバの URL および VPN ルーティングおよび転送 (VRF) を指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(ca-profile-enroll)# exit	ca-profile-enroll コンフィギュレーション モードを終了します。  • グローバル コンフィギュレーション モードを終了するため、このコマンドをもう一度入力します。
ステップ 6	<b>show crypto pki profile</b> 例： Device# show crypto pki profile	(任意) PKI プロファイルの情報を表示します。
ステップ 7	<b>show crypto pki trustpoint</b> 例： Device# show crypto pki trustpoint	(任意) PKI トラストポイントの情報を表示します。

## トラストポイントの PKI 分割 VRF の設定例

### 例：トラストポイントの PKI 分割 VRF の設定

#### 同一 VRF を介した登録と証明書失効リスト

次の例では、同一 VRF を介した登録と証明書失効リスト (CRL) の設定方法について示します。

```
crypto pki trustpoint trustpoint1
  enrollment url http://10.10.10.10:80
  vrf vrf1
  revocation-check crl
```

#### 異なる VRF を介した登録と証明書失効リスト

次の例では、異なる VRF を介した登録と証明書失効リスト (CRL) の設定方法について示します。

```
crypto pki profile enrollment pki_profile
  enrollment url http://10.10.10.10:80 vrf vrf2

crypto pki trustpoint trustpoint1
  enrollment profile pki_profile
  vrf vrf1
  revocation-check crl
```

## トラストポイントの PKI 分割 VRF の追加資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。



プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 161: Cisco TrustSec の概要の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。





## 第 120 章

# EST クライアント サポート

EST クライアント サポート機能を使用すると、SSL または TLS を使用して転送の安全性を保護しながら、すべてのトラストポイントの EST (Enrollment Over Secure Transport) を有効にできます。

- [Cisco TrustSec の概要の機能情報, on page 1587](#)
- [EST クライアント サポートの情報 \(1588 ページ\)](#)
- [EST クライアント サポートの設定方法 \(1588 ページ\)](#)
- [EST クライアント サポートの設定例 \(1590 ページ\)](#)
- [EST クライアント サポートの追加資料 \(1592 ページ\)](#)

## Cisco TrustSec の概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 162: Cisco TrustSec の概要の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 の有効化 - インライン タギング	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	IPv6 のサポートが導入されました。

# EST クライアント サポートの情報

## EST クライアント サポートの概要

EST クライアント サポート機能を使用すると、証明書をプロビジョニングするための証明書管理プロトコルとして Enrollment over Secure Transport (EST) を使用できます。PKI コンポーネント内に統合された既存の SCEP 登録では、EST を追加すると、転送を保護する SSL または TLS を使用する新しいコンポーネントが導入されます。PKI にはすべての証明書が格納されません。

EST サポートを有効にするには、EST クライアントが、TLS 接続の確立中にサーバを認証する必要があります。この認証では、TLS サーバがクライアントのクレデンシャルを要求する場合があります。

## EST クライアント サポートの前提条件

- `ip http authentication fore-close` コマンドを有効にします。

## EST クライアント サポートの制約事項

- EST クライアントは TLS 1.2 のみをサポートしています。
- 証明書属性要求はサポートされていません。
- CA 証明書のロールオーバーはサポートされていません。
- 証明書のない TLS 認証はサポートされていません。
- HTTP ベースのクライアント認証はサポートされていません。

# EST クライアント サポートの設定方法

## EST を使用するためのトラストポイントの設定

ユーザが登録プロファイルを使用できるようにすることで、EST (Enrolment Over Secure Transport) を使用するトラストポイントを設定するには、この作業を実行します。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto pki profile enrollment` ラベル

4. **method-est**
5. **enrollment url** *url* [**vrf** *vrf name*]
6. **enrollment credential** *label*
7. **exit**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto pki profile enrollment</b> ラベル 例： Device(config)# crypto pki profile enrollment pki_profile	登録プロファイルを定義し、ca-profile-enroll コンフィギュレーション モードを開始します。  • <b>label</b> ：登録プロファイルの名前。登録プロファイル名は、 <b>enrollment profile</b> コマンドで指定された名前と同じである必要があります。
ステップ 4	<b>method-est</b> 例： Device(ca-profile-enroll)# method-est	登録プロファイルで EST の使用を選択できるようにします。
ステップ 5	<b>enrollment url</b> <i>url</i> [ <b>vrf</b> <i>vrf name</i> ] 例： Device(ca-profile-enroll)# enrollment url http://entrust:81/cda-cgi/clientcgi.exe vrf vrf1	証明書登録に登録プロファイルを使用するように指定します。  (注) 認証 URL が指定されていない場合は、登録 URL が認証に使用されます。
ステップ 6	<b>enrollment credential</b> <i>label</i> 例： Device(ca-profile-enroll)# enrollment credential test_label	TLS クライアント認証にプロファイルで現在利用可能なトラストポイントログイン情報を提供します。
ステップ 7	<b>exit</b> 例： Device(ca-profile-enroll)# exit	ca-profile-enroll コンフィギュレーション モードを終了します。

## EST クライアントサポートの設定の確認

次の show コマンドを使用すると、EST クライアントサポートの設定を確認できます。

- **show crypto pki profile**
- **show crypto pki trustpoints estclient status**

## EST クライアント サポートの設定例

### EST を使用するためのトラストポイントの設定

次の例では、Enrollment over Secure Transport (EST) を使用するためにトラストポイントを設定する方法について示します。

```
crypto pki profile enrollment pki_profile
method-est
enrollment url http://www.example.com/BigCA/est/simpleenroll.dll
enrollment credential test_label
```

### EST クライアントサポートの確認

次に、EST クライアントサポートの設定を確認する **show crypto pki trustpoints estclient status** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show crypto pki trustpoints estclient status
Trustpoint estclient:
  Issuing CA certificate configured:
    Subject Name:
      cn=estExampleCA
    Fingerprint MD5: B9D0403C 7D33F1AA F9957796 CA6E86AA
    Fingerprint SHA1: F3698C9C DCB2B5F2 A38EBCB4 1DBA6A90 9F877A5B
  Router Signature certificate configured:
    Subject Name:
      cn=estclientrouter
    Fingerprint MD5: B740849B 37016DB7 A6797CE4 D6140D27
    Fingerprint SHA1: F032B015 50BB5742 2619EFC6 F1F0B8B1 31D9906D
  State:
    Keys generated ..... Yes (Signature, non-exportable)
    Issuing CA authenticated ..... Yes
    Certificate request(s) ..... Yes
```

次に、再登録前と再登録後のステータスを示す **show crypto pki certificate estclient** コマンドの出力例を示します。

```
BEFORE REENROLLMENT
```

```
Router# show crypto pki certificate estclient
```

```
Certificate
```

```
Status: Available
Certificate Serial Number (hex): 2603
Certificate Usage: Signature
Issuer:
  cn=estExampleCA
Subject:
  Name: estclientrouter
  cn=estclientrouter
CRL Distribution Points:
  http://example.com/crl.pem
Validity Date:
  start date: 19:31:24 GMT Feb 8 2019
  end   date: 19:31:24 GMT Feb 8 2020
  renew date: 19:35:50 GMT Feb 8 2019
Associated Trustpoints: estclient

CA Certificate
Status: Available
Certificate Serial Number (hex): 00ACFCD09D3182CBEB
Certificate Usage: General Purpose
Issuer:
  cn=estExampleCA
Subject:
  cn=estExampleCA
Validity Date:
  start date: 09:40:47 GMT Mar 28 2018
  end   date: 09:40:47 GMT Mar 28 2019
Associated Trustpoints: estclient ROOT

AFTER REENROLLMENT

show crypto pki certificates estclient
Certificate
Status: Available
Certificate Serial Number (hex): 4B
Certificate Usage: Signature
Issuer:
  cn=estExampleCA
Subject:
  Name: estclientrouter
  cn=estclientrouter
CRL Distribution Points:
  http://example.com/crl.pem
Validity Date:
  start date: 07:34:05 GMT Feb 9 2019
  end   date: 07:34:05 GMT Feb 9 2020
  renew date: 19:38:35 GMT Feb 8 2019
Associated Trustpoints: estclient

CA Certificate
Status: Available
Certificate Serial Number (hex): 00E5EEC53E0FBD597D
Certificate Usage: General Purpose
Issuer:
  cn=estExampleCA
Subject:
  cn=estExampleCA
Validity Date:
  start date: 04:59:30 GMT Dec 20 2018
  end   date: 04:59:30 GMT Dec 20 2019
Associated Trustpoints: estclient ROOT_SEC
```

## EST クライアント サポートの追加資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 7030	『Enrollment over Secure Transport』
RFC 2818	『HTTP Over TLS』
RFC 6125	『Representation and Verification of Domain-Based Application Service Identity within Internet Public Key Infrastructure Using X.509 (PKIX) Certificates in the Context of Transport Layer Security (TLS)』
RFC 2510	『Internet X.509 Public Key Infrastructure Certificate Management Protocols』
RFC 4210	『Internet X.509 Public Key Infrastructure Certificate Management Protocol (CMP)』



## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>





## 第 121 章

# PKI の Route Processor Redundancy の設定

Route Processor Redundancy は、ハイ システム アベイラビリティ機能の代替機能です。HSA によって、システムはアクティブ ルート スイッチ プロセッサ (RSP) が停止したときに、スタンバイ RSP をリセットして使用できます。RPR を使用すると、アクティブ RSP に重大エラーが発生したとき、RPR がアクティブ RSP とスタンバイ RSP の間で瞬時に切り替えを実現するため、計画外のダウンタイムを削減できます。

Route Processor Redundancy 機能は、現時点では、デュアル RP をサポートする Cisco ASR プラットフォーム (ASR 1006、ASR 1009、ASR 1013 など) で使用できます。



(注) Route Processor Redundancy は、トラストプールのインポートをサポートしています。

- [Route Processor Redundancy の設定の前提条件 \(1595 ページ\)](#)
- [Route Processor Redundancy の設定に関する制約事項 \(1595 ページ\)](#)
- [Route Processor Redundancy の設定方法 \(1596 ページ\)](#)
- [Route Processor Redundancy SSO モードの設定例 \(1596 ページ\)](#)
- [Route Processor Redundancy SSO モードの確認例 \(1597 ページ\)](#)

## Route Processor Redundancy の設定の前提条件

- フェールオーバー時にはセカンダリ RSP がプライマリ RSP をサポートできる必要があるため、両方の RSP で同じメモリを使用する必要があります。

## Route Processor Redundancy の設定に関する制約事項

- Route Processor Redundancy 機能は、デュアル RP をサポートするプラットフォームのみをサポートします。
- Route Processor Redundancy は、デュアル RSP をサポートするルータ上でのみサポートされます。

- RA（登録局）は検証されていないため、設定することは推奨されません。

## Route Processor Redundancy の設定方法

### Route Processor Redundancy SSO モードの設定

```
configure terminal
redundancy
mode sso
main-cpu
standby console enable
exit
```

### Route Processor Redundancy の確認

```
show redundancy states
show crypto pki server
show crypto pki certificates tname
```

## Route Processor Redundancy SSO モードの設定例

サーバー側の設定例：

```
asrlk(config)#ip http server
asrlk(config)#crypto pki trustpoint ROOTCA
asrlk(ca-trustpoint)#hash sha512
asrlk(ca-trustpoint)#revocation-check none
asrlk(ca-trustpoint)#rsa-keypair ROOTCA 2048
asrlk(ca-trustpoint)#crypto pki server ROOTCA
asrlk(cs-server)#issuer-name CN=ROOTCA C=pki
asrlk(cs-server)#lifetime certificate 00 00 15
asrlk(cs-server)#lifetime ca-certificate 00 00 25
asrlk(cs-server)#lifetime crl 6
asrlk(cs-server)#serial-number 0x1
asrlk(cs-server)#auto-rollover 00 00 24
% The archive password is not configured. Rollover CA keys and certificates will not be
automatically archived.
asrlk(cs-server)#grant auto
asrlk(cs-server)#database url tftp://<ip>//
```

```
% Server database url was changed. You need to move the
% existing database to the new location.
asrlk(cs-server)#database url p12 tftp://<ip>//
asrlk(cs-server)#database level complete
asrlk(cs-server)#database archive pkcs12 password <pwd>
asrlk(cs-server)#end
```

クライアント側の設定例：

```
crypto pki trustpoint client
  enrollment url http://<ip>:80
  usage ike
  subject-name CN=R1 C=pki
  revocation-check crl
  rsakeypair client 2048
  hash sha512
```

## Route Processor Redundancy SSO モードの確認例

```
show redundancy states
```

```
my state = 13 -ACTIVE
peer state = 8 -STANDBY HOT
  Mode = Duplex
  Unit = Primary
  Unit ID = 48

Redundancy Mode (Operational) = sso
Redundancy Mode (Configured) = sso
Redundancy State = sso
  Maintenance Mode = Disabled
  Manual Swact = enabled
  Communications = Up

client count = 132
```

```

client_notification_TMR = 30000 milliseconds
      RF debug mask = 0x0
show crypto pki server
Certificate Server ROOTCA:
    Status: enabled
    State: enabled
    Server's configuration is locked (enter "shut" to unlock it)
    Issuer name: CN=ROOTCA C=pki
    CA cert fingerprint: F2BF3707 D9F6F5F3 E0D111D8 A8486437
    Granting mode is: auto
    Last certificate issued serial number (hex): 2
    CA certificate expiration timer: 14:15:50 IST Mar 31 2019
    CRL NextUpdate timer: 14:15:50 IST Mar 31 2019
    Current primary storage dir: tftp://9.45.3.3//
    Current storage dir for .p12 files: tftp://9.45.3.3//
    Database Level: Complete - all issued certs written as <serialnum>.cer
    Auto-Rollover configured, overlap period 0 days
    Autorollover timer: 13:51:50 IST Mar 31 2019
    Redundancy configured. This is active.

```




---

(注) サーバーは、アクティブ RP でのみ有効であり、スタンバイモードでは無効状態になります。

---

```

show crypto pki certificates client
Certificate
    Status: Available
    Certificate Serial Number (hex): 03
    Certificate Usage: General Purpose
    Issuer:
        cn=ROOTCA C=pki
    Subject:
        Name: asr1k
        hostname=asr1k

```

```
cn=R1 C=uki
Validity Date:
  start date: 00:42:04 IST Mar 11 2019
  end   date: 01:02:04 IST Mar 11 2019
Associated Trustpoints: client
```

#### CA Certificate

```
Status: Available
Certificate Serial Number (hex): 02
Certificate Usage: Signature
Issuer:
  cn=ROOTCA C=uki
Subject:
  cn=ROOTCA C=uki
Validity Date:
  start date: 00:40:34 IST Mar 11 2019
  end   date: 00:40:34 IST Mar 9 2020
Associated Trustpoints: client
```







## 第 **XII** 部

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォール

- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォール, on page 1603](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポート, on page 1653](#)
- [VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール, on page 1675](#)
- [レイヤ 2 トランスペアレント ファイアウォール \(1697 ページ\)](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポート, on page 1703](#)
- [ゾーン不一致処理 \(1713 ページ\)](#)
- [ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の設定, on page 1721](#)
- [Cisco CSR1000v ルータに対するファイアウォール ボックスツースボックス ハイアベイラビリティ サポート \(1743 ページ\)](#)
- [ゾーンベースファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポート, on page 1751](#)
- [IPv6 ゾーンベース ファイアウォールのボックスツースボックス ハイアベイラビリティ サポート, on page 1773](#)
- [ICMP のファイアウォール ステートフル インспекション, on page 1801](#)
- [LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性 \(1813 ページ\)](#)
- [アプリケーション認識型ファイアウォール, on page 1829](#)
- [Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポート, on page 1837](#)
- [VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポート, on page 1851](#)
- [VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定, on page 1867](#)
- [IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポート, on page 1885](#)
- [分散型サービス妨害攻撃に対する保護, on page 1903](#)

- ファイアウォールリソース管理の設定, on page 1937
- IPv6ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポート, on page 1945
- フローあたりの同時パケットの設定可能数 (1983 ページ)
- ファイアウォール高速ロギング (1995 ページ)
- TCPリセットセグメント制御, on page 2025
- ゼーンベースポリシーファイアウォールでのTCPウィンドウスケーリングのルーズチェックオプション, on page 2033
- ゼーンベースポリシーファイアウォールでのALGとAICの有効化 (2041 ページ)
- ファイアウォールTCP SYN Cookieの設定, on page 2053
- ACLのオブジェクトグループ (2065 ページ)
- CiscoファイアウォールSIP機能拡張ALG, on page 2087
- ファイアウォールとNATに対するMSRPCALGサポート, on page 2099
- ファイアウォールとNATに対するSunRPCALGサポート, on page 2111
- ゼーンベースファイアウォールALGおよびAIC条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポート (2125 ページ)
- ファイアウォールとNATに対するハイアベイラビリティサポートを使用したALG-H.323vTCP, on page 2129
- NATとファイアウォールのSIPALG強化, on page 2139
- DoS攻撃に対するSIPALGレジリエンス (2151 ページ)



## CHAPTER 122

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォール

このモジュールでは、ゾーンと呼ばれるインターフェイスグループ間の Cisco 単方向ファイアウォールポリシーについて説明します。Cisco 単方向ファイアウォールポリシーがリリースされるまでは、Cisco ファイアウォールがインターフェイス上の検査ルールとしてのみ設定されてきました。設定されたインターフェイスを出入りするトラフィックは、検査ルールが適用される方向に基づいて検査されました。



**Note** Cisco IOS XE は、ゾーンベース ファイアウォール設定上で Virtual Fragmentation Reassembly (VFR) をサポートします。インターフェイスをゾーンに追加してインターフェイス上のファイアウォールを有効にすると、VFR は同じインターフェイス上で自動的に設定されます。

- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに関する機能情報 \(1603 ページ\)](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールについて, on page 1605](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの前提条件 \(1624 ページ\)](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの制約事項 \(1625 ページ\)](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定方法, on page 1627](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定例, on page 1643](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに関する追加情報 \(1652 ページ\)](#)

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 163: ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ファイアウォールの再分類	Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1	ゾーンベース ファイアウォールの再分類機能が導入されました。この機能は、既存のセッションでポリシー設定に変更がある場合に、その変更を適用します。
ASR1000 上のゾーンベース ファイアウォールに対するスマートライセンスサポート	Cisco IOS XE Denali 16.3.1	<b>show license all</b> コマンドが変更されました。
ゾーンベース ポリシーファイアウォールでの Out-of-Order パケット処理	Cisco IOS XE リリース 3.5S	Out-of-Order パケット処理機能は、セッションに DPI が必要ない場合に、OoO パケットのルータの通過を許可し、宛先への到達を可能にします。OoO パケットが含まれるすべてのレイヤ 4 トラフィックに、宛先へのパス スルーが許可されます。ただし、セッションでレイヤ 7 インスペクションが必要な場合は、OoO パケットがドロップされます。
IOS-XE ZBFW と暗号 VPN の相互運用	Cisco IOS XE リリース 3.17S	IOS-XE ZBFW と暗号 VPN の相互運用機能は、FlexVPN DVTI 上でのゾーンベース ファイアウォールの有効化をサポートします。
マルチパス TCP のゾーンベース ファイアウォールサポート	Cisco IOS XE リリース 3.13S	マルチポイント TCP は、ゾーンベース ファイアウォール レイヤ 4 インスペクションとシームレスに連動します。マルチポイント TCP は、アプリケーションレイヤゲートウェイ (ALG) とアプリケーションインスペクションおよびコントロール (AIC) とは連動しません。
Firewall : NetMeeting Directory (LDAP) ALG サポート	Cisco IOS XE Release 3.1S	LDAP は、ディレクトリ サービスに保存されている情報の照会および更新に使用されるアプリケーションプロトコルです。ファイアウォール - Netmeeting (LDAP) Directory ALG サポート機能は、Cisco ファイアウォールでレイヤ 4 LDAP インスペクションをデフォルトでサポートできるようにします。 次のコマンドが導入されました。 <b>match protocol</b>
ゾーンベース ファイアウォールでのデバッグ可能性強化 (フェーズ II)	Cisco IOS XE Release 3.10S	デバッグ可能性強化ゾーンベースファイアウォール機能は、デバッグログのシビラティ (重大度) レベルを提供します。

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ファイアウォール - デフォルト ゾーン	Cisco IOS リリース 2.6	ゾーンベース ファイアウォール - デフォルト ゾーン機能は、ゾーンとデフォルト ゾーンを構成するゾーンペアでファイアウォールポリシーを設定可能にするデフォルト ゾーンを導入します。明示的なゾーンメンバーシップのないインターフェイスがデフォルトゾーンに属します。
ゾーンベース ポリシーファイアウォール	Cisco IOS リリース 2.1	ゾーンベース ポリシー ファイアウォール機能は、ゾーンと呼ばれるインターフェイスのグループ間に Cisco IOS XE ソフトウェアの単方向ファイアウォール ポリシーを提供します。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールについて

以下のセクションでは、ゾーンベース ポリシー ファイアウォールについて詳しく説明します。

### トップレベル クラス マップとポリシー マップ

トップレベル クラス マップでは、高レベルでトラフィック ストリームを識別できます。これを実現するには、**match access-group** コマンドおよび **match protocol** コマンドを使用します。トップレベル クラス マップは、レイヤ 3 およびレイヤ 4 クラス マップとも呼ばれます。トップレベルポリシーマップでは、**inspect**、**drop**、および **pass** コマンドを使用して、ハイレベルのアクションを定義できます。ポリシー マップは、ターゲット（ゾーンペア）に付加できます。



(注) ゾーン ペアで設定できるのは、検査タイプのポリシーだけです。

### ゾーンの概要

ゾーンとは、同様の機能を果たすインターフェイスのグループです。ゾーンを利用して、Cisco IOS XE ファイアウォールをどこに適用するかを指定できます。たとえば、デバイスで、ギガビットイーサネット インターフェイス 0/0/0 とギガビットイーサネット インターフェイス 0/0/1 をローカル LAN に接続できるとします。これら 2つのインターフェイスは、内部ネットワークを表している点で同類です。そのため、ファイアウォール設定でゾーンとしてグループ化できます。

デフォルトでは、同じゾーン内のインターフェイス間のトラフィックはポリシーの制約を受けず、自由にゾーンを通過できます。ファイアウォールゾーンはセキュリティ機能に使用されません。



**Note** ゾーンは、異なる VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスのインターフェイスまでは拡大できません。

ダイナミックマルチポイントVPN (DMVPN) トンネルの場合、ゾーンベースファイアウォールは、内部パケットを検査し、評価のみを行います。内部パケットがGeneric Routing Encapsulation (GRE) およびカプセル化セキュリティペイロード (ESP) ペイロードにカプセル化されると、それ以上の検査なしで転送されます。着信パケットの場合、ZBF 評価の前に ESP と GRE のカプセル化が解除されます。セルフから外部または外部からセルフのゾーンペアでの ESP および GRE トラフィックに関する明示的なルールを設定する必要はありません。

## セキュリティ ゾーン

セキュリティゾーンとは、ポリシーを適用できるインターフェイスのグループです。

インターフェイスをゾーンにグループ化するには、次の2つの手順を実行します。

- インターフェイスを付加できるようにゾーンを作成します。
- インターフェイスを特定のゾーンのメンバーとなるように設定します。

デフォルトでは、トラフィックは、同じゾーンのメンバーであるインターフェイス間を通ります。

インターフェイスがセキュリティゾーンのメンバーである場合、そのインターフェイスと別のゾーンにあるインターフェイスの間を通るすべてのトラフィック（デバイスに送信されるか、デバイスによって開始されたトラフィックを除く）はデフォルトでドロップされます。ゾーンメンバーインターフェイスおよび別のインターフェイスに対する両方向のトラフィックを許可するには、そのゾーンをゾーンペアの一部にして、そのゾーンペアにポリシーを適用する必要があります。ポリシーが `inspect` または `pass` アクションによってトラフィックを許可する場合、トラフィックはインターフェイスを通過できます。

ゾーンを設定するときに考慮する基本的な規則を次に示します。

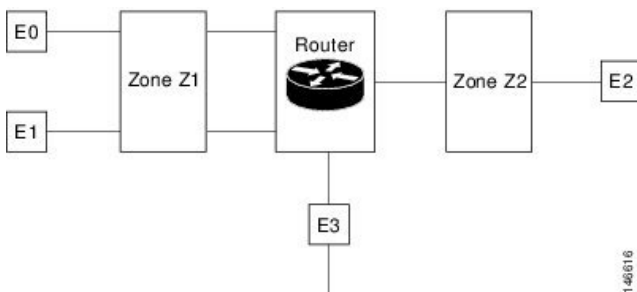
- ゾーンインターフェイスからゾーン外のインターフェイスへのトラフィックまたはゾーン外のインターフェイスからゾーンインターフェイスへのトラフィックは常にドロップされます。ただし、デフォルトゾーンが有効でないことが条件です（デフォルトゾーンはゾーン外のインターフェイスです）。
- 2つのゾーンインターフェイス間のトラフィックは、各ゾーンにゾーンペアの関係があるかどうか、およびそのゾーンペアにポリシーが設定されているかどうかを検査されます。
- デフォルトでは、同一ゾーン内の2つのインターフェイス間のすべてのトラフィックは常に許可されます。
- ゾーンペアは、ゾーンを送信元ゾーンおよび宛先ゾーンの両方として設定できます。このゾーンペアで検査ポリシーを設定して、2つのゾーン間のトラフィックを検査、転送、またはドロップできます。
- インターフェイスがメンバーになれるのは、1つのセキュリティゾーンだけです。

- インターフェイスがセキュリティゾーンのメンバーの場合、そのゾーンを含むゾーンペアで明示的なゾーン間ポリシーを設定しない限り、方向に関係なくそのインターフェイスを通過するすべてのトラフィックがブロックされます。
- トラフィックがデバイスのすべてのインターフェイス間を通過するには、これらのインターフェイスが1つのセキュリティゾーンまたは別のセキュリティゾーンのメンバーである必要があります。すべてのデバイスインターフェイスがセキュリティゾーンのメンバーである必要はありません。
- ゾーンに関連付けられたすべてのインターフェイスは、同じ仮想ルーティングおよび転送 (VRF) に含まれている必要があります。

図 1 には、次のことが示されています。

- インターフェイス E0 と E1 はセキュリティゾーン Z1 のメンバーです。
- インターフェイス E2 は、セキュリティゾーン Z2 のメンバーです。
- インターフェイス E3 は、どのセキュリティゾーンのメンバーでもありません。

Figure 51: セキュリティゾーンの制約



- ゾーンペアとポリシーは、同じゾーンで設定されます。インターフェイス E0 と E1 は同じセキュリティゾーン (Z1) のメンバーなので、2つのインターフェイス間のトラフィックは自由に流れます。
- ポリシーが設定されていない場合、他のインターフェイス間 (E0 と E2 の間、E1 と E2 の間、E3 と E1 の間、E3 と E2 の間など) でトラフィックは流れません。
- トラフィックを許可する明示的なポリシーがゾーン Z1 とゾーン Z2 間で設定されている場合だけ、E0 または E1 と E2 間でトラフィックが流れます。
- デフォルトゾーンが有効になっていないかぎり、E3 と E0、E1、または E2 の間でトラフィックは流れません。



**Note**

Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでは、ファイアウォールは最大 4000 のゾーンをサポートします。

## セキュリティ ゾーン ファイアウォール ポリシー

クラスは、一連のパケットをその内容に基づいて識別します。通常は、識別されたトラフィックでポリシーを反映するアクションを適用できるように、クラスを定義します。クラスは、クラス マップを介して指定されます。

アクションは、通常はトラフィック クラスに関連付けられる機能です。ファイアウォールは、次のタイプのアクションをサポートしています。

**inspect** : 分類されると、ファイアウォールセッションが接続テーブルに作成され、パケットの内容が検査されます。

**pass** : パケットが分類され、トラフィックは、それ以上の検査なしでシステムを通過できません。

**drop** : パケットが分類されてドロップされます。

セキュリティ ゾーン ファイアウォール ポリシーを作成するには、次の作業を実行する必要があります。

- 一致基準の定義 (クラス マップ)。
- 一致基準とアクションの関連付け (ポリシー マップ)。
- ゾーン ペアへのポリシー マップの付加 (サービス ポリシー)。

**class-map** コマンドは、パケットを指定されたクラスに一致させるためのクラスマップを作成します。ターゲット (入力インターフェイス、出力インターフェイス、またはゾーンペアなど) に到達したパケットは、**service-policy** コマンドの設定方法に従って、クラスマップ用に設定された一致基準に基づいてチェックされ、パケットがそのクラスに属しているかどうか判断されます。

**policy-map** コマンドは、1 つ以上のターゲットに付加できるポリシーマップを作成または変更し、サービスポリシーを指定します。**policy-map** コマンドを使用して、作成、追加、または修正するポリシーマップの名前を指定してから、クラスマップで一致基準が定義されているクラスのポリシーを設定します。

## セキュリティ ゾーンのメンバーとしての仮想インターフェイス

仮想テンプレートインターフェイスは、特定の目的のため、または特定のユーザに共通のコンフィギュレーションを定義するための汎用的なコンフィギュレーション情報と、デバイスに依存した情報を組み合わせて設定された論理インターフェイスです。このテンプレートには、仮想アクセス インターフェイスに適用される Cisco ソフトウェア インターフェイス コマンドが含まれます。仮想テンプレート インターフェイスを設定するには、**interface virtual-template** コマンドを使用します。

ゾーンメンバー情報が RADIUS サーバーから取得され、ダイナミックに作成されたインターフェイスがそのゾーンのメンバーになります。**zone-member security** コマンドは、ダイナミック インターフェイスを対応するゾーンに追加します。

LNS の加入者単位のファイアウォール機能の詳細については、『[Release Notes for Cisco ASR 1000 Series Aggregation Services Routers for Cisco IOS XE Release 2](#)』を参照してください。



## ゾーン ペア

ゾーンペアにより、2つのセキュリティゾーン間で単方向のファイアウォールポリシーを指定できます。

ゾーンペアを定義するには、**zone-pair security** コマンドを使用します。トラフィックの方向は、送信元ゾーンと宛先ゾーンで指定されます。ゾーンペアの送信元ゾーンと宛先ゾーンはセキュリティゾーンである必要があります。

デフォルトゾーンまたはセルフゾーンを送信元ゾーンと宛先ゾーンのどちらかとして選択することができます。セルフゾーンは、メンバーとしてインターフェイスを何も持たないシステム定義のゾーンです。セルフゾーンを含むゾーンペアは、関連付けられたポリシーとともに、デバイス宛てのトラフィックまたはデバイスによって生成されたトラフィックに適用されます。デバイスを通過するトラフィックには適用されません。

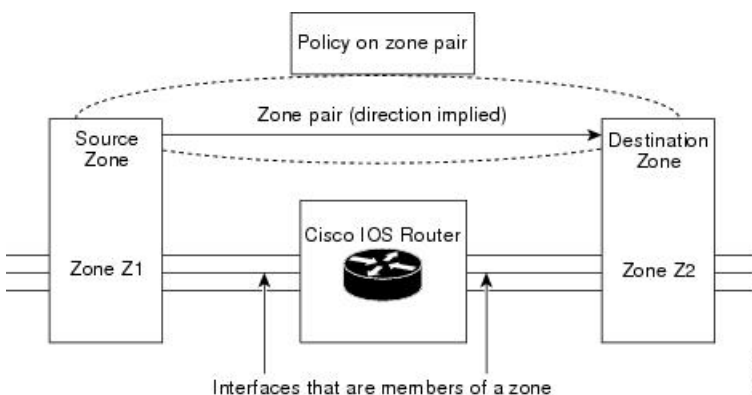
デフォルトゾーンは、セキュリティゾーンが関連付けられていないインターフェイスに適用されます。デフォルトゾーンは、デフォルトでは有効になっていません。デフォルトゾーンを有効にするには、**zone security default** コンフィギュレーションコマンドを使用します。

ファイアウォールの最も一般的な用途は、デバイス経由のトラフィックに適用することです。そのため、少なくとも2つのゾーンが必要になります。デバイスとの間のトラフィックの場合、ZBFはセルフゾーンの概念をサポートします。

ゾーンメンバーインターフェイス間のトラフィックを許可するには、そのゾーンと別のゾーン間のトラフィックを許可（検査または転送）するポリシーを設定する必要があります。ターゲットのゾーンペアにファイアウォールポリシーマップをアタッチするには、**service-policy type inspect** コマンドを使用します。

次の図は、ゾーンZ1からゾーンZ2に流れるトラフィックにファイアウォールポリシーを適用する例を示しています。ここでは、トラフィックの入力インターフェイスはゾーンZ1のメンバー、出力インターフェイスはゾーンZ2のメンバーです。

Figure 52: ゾーンペア



2つのゾーンがあるため、両方向（Z1からZ2およびZ2からZ1）のトラフィックにポリシーが必要になる場合があります。トラフィックがいずれかの方向から開始される場合は、2つのゾーンペアを設定する必要があります。

ゾーンペア間でポリシーが設定されていない場合は、トラフィックがドロップされます。ただし、リターン トラフィックのためだけにゾーンペアとサービス ポリシーを設定する必要はありません。デフォルトで、リターン トラフィックは許可されません。サービスポリシーでイニシエータ方向のトラフィックが検査され、リターン トラフィック用のゾーンペアとサービスポリシーが存在しない場合は、リターン トラフィックが検査されます。

サービス ポリシーで順方向のトラフィックが許可され、リターン トラフィック用のゾーンペアとサービス ポリシーが存在しない場合は、リターン トラフィックがドロップされます。どちらの場合も、リターン トラフィックを許可するようにゾーンペアとサービス ポリシーを設定する必要があります。図 2 では、Z2 から Z1 へのリターン トラフィックを許可するようにゾーンペアの送信元と宛先を設定する必要はありません。Z1 から Z2 へのゾーンペアに対するサービスポリシーがその役割を果たします。pass アクションの場合は各方向の packets に対するポリシーが存在する必要があり、inspect アクションの場合はイニシエータからのトラフィックに対するポリシーが存在する必要があります。

レガシーファイアウォールは、デフォルトでルールまたはポリシーによって明示的に定義されていない packets を許可するのに対し、ゾーンベースファイアウォールは、ルールまたはポリシーによって明示的に許可されていない packets をドロップします。

ゾーンベースファイアウォールの場合は、内部ゾーンと外部ゾーン間を流れるトラフィックによって、ゾーン内で生成される断続的な Internet Control Message Protocol (ICMP) 応答を処理するときの動作が異なります。

Internet Control Message Protocol (ICMP) エラー packets にはポリシーは必要ありません。



**Note** ポリシーは、イニシエータから着信する packets の ICMP\_ECHO (ping) などの ICMP 情報メッセージに対して必要です。

セルフゾーンを送信元とするゾーンペア、および内部ゾーンと外部ゾーン間を流れるトラフィックについて明示的なポリシーが設定されたコンフィギュレーションでは、ICMP\_ECHO\_REQUEST などの情報 ICMP packets が生成された場合、ゾーンベースファイアウォールはセルフゾーンを送信元とするゾーンペアで ICMP の明示的な許可ルールを探します。セルフゾーンを送信元とするゾーンペアに対する ICMP の明示的な検査ルールは、断続的な ICMP 応答に関連するセッションが存在しないという理由で役に立たない場合があります。

## ゾーンとインスペクション

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールは、ファイアウォール ポリシーに照らして、入力インターフェイスと出力インターフェイスから送信元ゾーンと宛先ゾーンを検査します。インターフェイスを通過するすべてのトラフィックを検査する必要はありません。ゾーンペア全体で適用されるポリシー マップを通して、ゾーンペアの個々のフローを検査するように指定できます。ポリシー マップには、個々のフローを指定するクラス マップが含まれます。検査アクションを伴うトラフィックは、ファイアウォールテーブル内に接続を構築し、状態チェックの対象になります。通過アクションを伴うトラフィックは、ゾーンファイアウォールを完全にバイパスして、どのセッションも作成しません。ファイアウォール接続が作成されると、packets は分類されなくなります。つまり、ポリシーマップが変更されると、基盤となる接続が

認識されなくなります。接続が確立されないため、逆方向のパケットに対する `pass` アクションを使用して、ミラーリングされたポリシーを作成する必要があります。

TCP しきい値やタイムアウトなどの `inspect` パラメータをフローあたりで設定することもできます。

## ゾーンと ACL

ゾーンのメンバーであるインターフェイスに適用されるアクセス制御リスト (ACL) は、ファイアウォールポリシーがゾーンペアに適用される前に処理されます。送信元ゾーンと宛先ゾーンの間にはポリシーが適用されている場合は、そのインターフェイス ACL がポリシー ファイアウォールトラフィックと干渉していないことを確認する必要があります。クラスマップにアクセスリストだけが含まれていて、照合プロトコルが含まれていない場合、ファイアウォールは、フロープロトコルを既知のアプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) と照合し、必要に応じて処理しようとします。

ピンホール (保護されたネットワークへのアプリケーション制御アクセスを許可するファイアウォール経路で開かれるポート) は、インターフェイス ACL 内のリターントラフィックに対して開かれません。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールのクラス マップとポリシー マップ

Quality of Service (QoS) クラス マップには多数の一致基準があります。ファイアウォールの一致基準はそれより少なくなっています。ファイアウォール クラス マップのタイプは `inspect` であり、この情報により、ファイアウォール クラス マップの下に表示される内容が決まります。

ポリシーとは、トラフィック クラスとアクションの関連付けです。定義されたトラフィック クラスで実行するアクションを指定します。アクションは特定の機能で、通常、トラフィック クラスに関連付けられます。たとえば、`inspect`、`pass`、および `drop` はアクションです。

## レイヤ 3 およびレイヤ 4 クラス マップとポリシー マップ

レイヤ 3 およびレイヤ 4 クラス マップは、異なるアクションを実行する必要のあるトラフィック ストリームを識別します。

トラフィックの基本的な検査には、レイヤ 3 またはレイヤ 4 ポリシー マップで十分です。

次に、ACL 101 と HTTP プロトコルの一致基準を含むクラスマップ `c1` を設定する例を示します。このコマンドにより、パケットが `c1` でトラフィックの一部としてドロップされることを指定する、`p1` という名前の検査ポリシーマップも作成されます。

```
Device(config)# class-map type inspect match-all c1
Device(config-cmap)# match access-group 101
Device(config-cmap)# match protocol http
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect p1
Device(config-pmap)# class type inspect c1
```

```
Device(config-pmap-c) # drop
```



**Note** Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでは、ファイアウォールが最大 1000 のポリシーマップをサポートし、ポリシーマップあたり 8 のクラスをサポートします。設定できるマッチング ステートメントは、クラス マップごとに最大 16、全体では 1000 です。

## クラスマップ設定の制約

トラフィックが複数の一致基準を満たす場合、個別性の高い基準から低い基準の順序で適用する必要があります。たとえば、次のクラス マップの例を考えてみましょう。

```
class-map type inspect match-any my-test-cmap
 match protocol http
 match protocol tcp
```

この例では、HTTP トラフィックが HTTP インスペクションのサービス固有機能によって確実に処理されるように、最初に **match protocol http** コマンドが HTTP トラフィックに適用されます。**match** 行が逆になっており、**match protocol http** コマンドの前に **match protocol tcp** コマンドがトラフィックに適用されると、そのトラフィックは TCP トラフィックとして分類され、ファイアウォールの TCP インスペクション コンポーネントの機能に従って検査されます。**match protocol TCP** が最初に設定されると、FTP や TFTP などのサービスの問題や、H.323、Real Time Streaming Protocol (RTSP)、Session Initiation Protocol (SIP)、Skinny Client Control Protocol (SCCP) などのマルチメディアおよび音声シグナリングサービスの問題が発生します。これらのサービスには、より複雑なアクティビティを認識するために追加のインスペクション機能が必要です。



**Note** TCP トラフィックフローのウィンドウサイズが 65k を超えないように、デバイスでゾーンベース ファイアウォールを設定します。

## class-default クラス マップ

ユーザー定義クラスに加えて、**class-default** という名前のシステム定義クラスマップは、ポリシーのユーザー定義クラスのどれとも一致しないすべてのパケットを表します。**class-default** クラスは常に、ポリシー マップの最後のクラスです。

どのユーザー定義クラスにも一致しないパケットのグループに対する明示的なアクションを定義できます。検査ポリシーで **class-default** クラスに対してアクションを設定しない場合、デフォルトのアクションは **drop** です。



**Note** 検査ポリシーの **class-default** に対して設定できるアクションは **drop** と **pass** だけです。

次の例は、ポリシーマップで **class-default** クラスを使用する方法を示します。この例では、HTTP トラフィックはドロップされ、残りのトラフィックが検査されます。HTTP トラフィック

クに対してクラスマップ c1 が定義されており、ポリシーマップ p1 で class-default クラスが使用されています。

```
Device(config)# class-map type inspect match-all c1
Device(config-cmap)# match protocol http
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect p1
Device(config-pmap)# class type inspect c1
Device(config-pmap-c)# drop
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap-c)# drop
```

### レイヤ3とレイヤ4のサポートされるプロトコル

次のプロトコルがサポートされています。

- FTP
- H.323
- リアルタイム ストリーミング プロトコル (RTSP)
- Skinny Client Control Protocol (SCCP)
- Session Initiation Protocol (SIP)
- Trivial File Transfer Protocol (TFTP)
- ルート収束モニタリングおよび診断 (RCMD)
- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)
- HTTP
- ドメイン ネーム システム (DNS)
- Simple Mail Transfer Protocol (SMTP/ESMTP)
- Post Office Protocol 3 (POP3)
- Internet Mail Access Protocol (IMAP)
- SUN リモートプロシージャコール (SUNRPC)
- GPRS トンネル プロトコル バージョン 0/1 (GTPv1)
- GPRS トンネル プロトコル バージョン 2 (GTPv2)
- ポイントツーポイント トンネリング プロトコル (PPTP)

### アクセスコントロール リストとクラス マップ

アクセス リストは、パケット分類メカニズムです。アクセスリストでは、ACL が特定のクラスマップに適用されたときに許可または拒否される実際のネットワークトラフィックを定義します。つまり、ACL は、パケットに適用される許可および拒否条件を順番に集めたものです。

ルータは、一度に1つずつ ACL の条件に基づいてパケットをテストします。拒否条件は「一致しない」と解釈されます。拒否アクセス制御エントリ (ACE) と一致するパケットの場合、ACL 処理が終了し、クラス内の次の **match** ステートメントが調べられます。



- (注) ACL の変数の範囲をクラスマップの一致基準として設定できます。ファイアウォールでは5タプル一致基準だけがサポートされているため、サポートされている一致基準は送信元アドレス、送信元ポート、宛先アドレス、宛先ポート、およびプロトコルだけです。CLI で設定および受け入れられるその他のすべての一致基準は、ファイアウォールではサポートされていません。

クラスマップは、次の基準に基づいて、ACL の一連の変数を照合するために使用されます。

- クラス マップが許可条件または拒否条件に一致しない場合、ACL は失敗します。
- **match-all** または **match-any** 条件は、クラスマップ内に含まれる **match** ステートメントに適用されます。ACL は通常どおりに処理され、その結果が、**match-all** または **match-any** と比較するときに使用されます。
- **match-all** 属性が指定され、どの一致条件、ACL、またはプロトコルもパケットと一致しない場合、現在のクラスの評価はその時点で停止され、ポリシーの次のクラスが調べられます。
- **match-any** 属性でいずれかの **match** が成功した場合、**class-map** 基準が満たされ、ポリシーで定義されたアクションが実行されます。
- ACL が **match-any** 属性と一致した場合、ファイアウォールは宛先ポートに基づいてレイヤ 7 プロトコルの確認を試みます。

クラスマップで **match-all** 属性を指定した場合、レイヤ 4 の一致基準 (ICMP、TCP、UDP) は設定されますが、レイヤ 7 の一致基準は設定されません。したがって、レイヤ 4 インスペクションが実行され、レイヤ 7 インスペクションは省略されます。

アクセスリストには、「標準アクセスリスト」と「拡張アクセスリスト」という異なる形式があります。標準アクセスリストでは、IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を許可または拒否するように定義します。拡張アクセスリストでは、送信元と宛先両方の IP アドレスまたは IP アドレス範囲を定義します。拡張アクセスリストは、パケットの ICMP、TCP、および UDP プロトコルタイプと宛先ポート番号に基づいて、パケットの許可または拒否を定義することもできます。

次に、IP アドレス 10.2.3.4 から受信したパケットを、クラス **test1** と照合する例を示します。この例では、アクセスリスト 102 が拒否条件と一致し、アクセスリストの他のエントリの処理を停止します。クラスマップは **match all** 属性で指定されているため、クラスマップ **test1** の照合は失敗します。ただし、このクラスマップがクラスマップ **test1** にリストされているプロトコルのいずれかと一致するかどうかは検査されます。

クラスマップ **test1** が **match-all** ではなく **match-any** 属性を使用していた場合は、ACL は拒否と一致して失敗しますが、HTTP プロトコルと一致し、**pmap1** を使用した検査が実行されます。

```
access-list 102 deny ip 10.2.3.4 0.0.0.0 any
access-list 102 permit any any
class-map type inspect match-all test1
 match access-list 102
 match protocol http
!
class-map type inspect match-any test2
 match protocol sip
 match protocol ftp
 match protocol http
!
parameter-map type inspect pmap1
 tcp idle-time 15
!
parameter-map type inspect pmap2
 udp idle-time 3600
!
policy-map type inspect test
 class type inspect test1
   inspect pmap1
!
 class type inspect test2
   inspect pmap2
!
 class type inspect class-default
   drop log
```

## 階層型ポリシー マップ

ポリシーを別のポリシー内にネストできます。ネストされたポリシーを含むポリシーのことを「階層ポリシー」と呼びます。

階層ポリシーを作成するには、ポリシーをトラフィックのクラスに直接付加します。階層ポリシーには、1つの子ポリシーと1つの親ポリシーが含まれています。子ポリシーは、以前定義したポリシーであり、**service-policy** コマンドを使用して新しいポリシーに関連付けられています。既存のポリシーを使用する新しいポリシーが親ポリシーです。



**Note** 階層検査サービスポリシーに作成できる階層レベルは2レベルまでです。

たとえば、マーケティングとエンジニアリングの2つのアクセスリストを定義します。2つのアクセスグループのいずれかと一致するクラスマップを作成します。その後、**match-all** 条件を持つ前のクラスマップを含み、プロトコル HTTP と一致する、別のクラスマップを作成します。

## パラメータ マップ

パラメータマップを使用すると、ポリシーマップで指定したアクションとクラスマップで指定した一致基準の動作を制御するパラメータを指定できます。

パラメータ マップには次の2種類があります。

- 検査パラメータマップ：検査パラメータマップは任意です。パラメータマップを使用しない場合、デフォルトのパラメータが使用されます。inspect アクションに関連付けられたパラメータは、すべてのマップに適用されます。上位レベルと下位レベルの両方でパラメータが指定されている場合、下位レベルのパラメータが優先されます。
- プロトコル固有パラメータマップ：インスタントメッセージング (IM) アプリケーション (レイヤ 7) のポリシーマップに必要なパラメータマップです。

## ファイアウォールとネットワーク アドレス変換

ネットワークアドレス変換 (NAT) は、登録されていない IP アドレスを使用してインターネットへ接続するプライベート IP インターネットワークをイネーブルにします。NAT はデバイス (通常、2つのネットワークを接続するもの) で動作し、パケットを別のネットワークに転送する前に、社内ネットワークの (グローバルに一意のアドレスではなく) プライベートアドレスを正規のアドレスに変換します。NAT は、ネットワーク全体の 1 つだけのアドレスを外部にアドバタイズするように設定できます。NAT が設定されたデバイスには、内部ネットワークと外部ネットワークのそれぞれに接続するインターフェイスが少なくとも 1 つずつあります。

標準的な環境では、NAT はスタブ ドメインとバックボーンの間での出口デバイスに設定されます。パケットがドメインから出て行くとき、NAT はローカルで意味のある送信元アドレスをグローバルで一意のアドレスに変換します。パケットがドメインに入ってくる際は、NAT はグローバルで一意の宛先アドレスをローカルアドレスに変換します。出力点が複数存在する場合、個々の NAT は同一の変換テーブルを持っていなければなりません。アドレスが足りなくなって、パケットにアドレスを割り当てられなくなった場合、ソフトウェアはそのパケットをドロップし、ICMP ホスト到達不能パケットを送信します。

NAT については、「内部」という用語は組織により所有され、変換を必要とするネットワークを意味します。このドメイン内では、ホストのアドレスは 1 つのアドレス空間に含まれます。NAT が設定されている場合、ホストが外部にあると、そのホストには別のアドレス空間にアドレスがあるように見えます。内部アドレス空間はローカルアドレス空間として参照され、外部アドレス空間はグローバルアドレス空間として参照されます。

NAT が送信元と宛先の両方の IP アドレスを変換するシナリオについて考えてみます。パケットは、送信元アドレス 209.168.1.1 および宛先アドレス 10.1.1.1 を使用して内部 NAT からデバイスに送信されます。NAT はこれらのアドレスを変換し、送信元アドレス 209.165.200.225 および宛先アドレス 209.165.200.224 を使用して外部ネットワークにパケットを送信します。

同様に、外部 NAT から応答が返されると、送信元アドレスは 209.165.200.225 になり、宛先アドレスは 209.165.200.224 になります。したがって NAT 内部では、パケットの送信元アドレスは 10.1.1.1、宛先アドレスは 209.168.1.1 となります。

このシナリオでは、ファイアウォールポリシーで使用されるアプリケーション コントロール エンジン (ACE) を作成する場合は、NAT 前の IP アドレス (内部ローカルアドレスおよび外部グローバルアドレス) 209.168.1.1 と 209.165.200.224 を使用する必要があります。一般に、外部グローバルアドレスのマッピングは推奨されません。



## Cisco ファイアウォールに対する WAAS サポート

リリースによっては、Wide Area Application Services (WAAS) ファイアウォールソフトウェアが、セキュリティ対応 WAN およびアプリケーション アクセラレーション ソリューションを最適化する統合型ファイアウォールに次のようなメリットを提供します。

- WAAS ネットワークを透過的に統合します。
- 透過的な WAN 加速化トラフィックを保護します。
- フルステートフルインスペクション機能を通して WAN を最適化します。
- Payment Card Industry (PCI) コンプライアンスを簡略化します。
- Network Management Equipment-Wide Area Application Engine (NME-WAE) モジュールまたはスタンドアロン WAAS デバイス展開をサポートします。

WAAS は、初期の 3 方向ハンドシェイク中に TCP オプションを使用して WAE デバイスを透過的に識別する自動検出メカニズムを備えています。自動検出後、最適化されたトラフィックフロー（パス）では TCP シーケンス番号が変化し、エンドポイントは最適化されたトラフィックフローと最適化されていないトラフィックフローを区別できます。



---

**Note** パスは接続と同じ意味で使用されています。

---

WAAS は、Cisco ファイアウォールで、内部ファイアウォール TCP 状態変数を含む TCP トラフィックフローのステートフルなレイヤ4インスペクションを損なうことなく、シーケンス番号を変更することによって、最適化されたトラフィックを自動的に検出できるようにします。これらの変数は、WAE デバイスの存在に応じて調整されます。

Cisco ファイアウォールは、トラフィックフローが正常に WAAS 自動検出を完了したことを認識すると、トラフィックフロー用の初期シーケンス番号のシフトを許可し、最適化されたトラフィックフローのレイヤ4状態を維持します。



---

**Note** クライアント側のステートフルなレイヤ7インスペクションは、最適化されていないトラフィックに対しても実行できます。

---

## WAAS トラフィック フロー最適化展開シナリオ

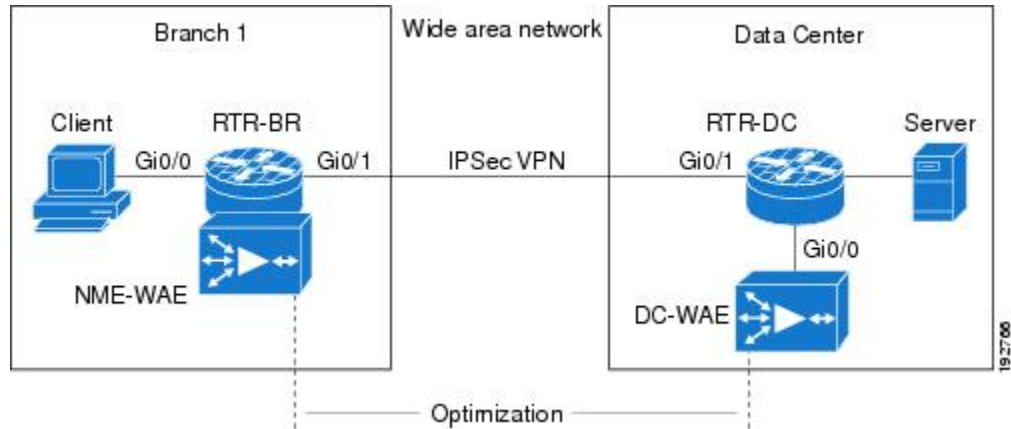
ここでは、ブランチ オフィス展開に関する 2 種類の WAAS トラフィック フロー最適化シナリオについて説明します。WAAS トラフィック フロー最適化は、Cisco サービス統合型ルータ (ISR) 上の Cisco ファイアウォール機能と連動します。ZBF は、WAAS がパケットの最適化を解除した後に、クリアテキストを検査します。

次の図に、Cisco ファイアウォールを使用したエンドツーエンドの WAAS トラフィックフロー最適化の例を示します。この特定の展開では、NME-WAE が Cisco ファイアウォールと同じデ

## オフパス デバイスを使用した WAAS ブランチ展開

バイスに展開されます。Web Cache Communication Protocol (WCCP) が代行受信用にトラフィックをリダイレクトするために使用されます。

Figure 53: エンドツーエンドの WAAS 最適化パス

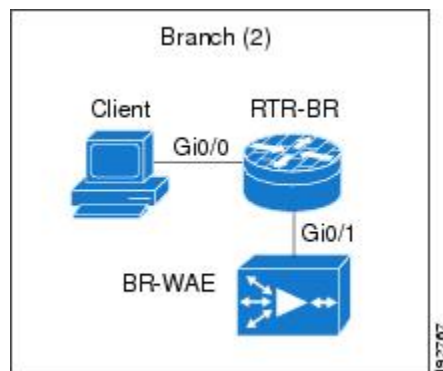


## オフパス デバイスを使用した WAAS ブランチ展開

このセクションにある Wide Area Application Services (WAAS) ブランチ展開の図のように、WAE デバイスは、スタンドアロン WAE デバイスにすることも、ISR に統合型サービスエンジンとしてインストールされた NME-WAE デバイスにすることもできます。

次の図は、トラフィックの代行受信のために、WCCP を使用してトラフィックを Off-Path スタンドアロン WAE デバイスにリダイレクトする WAAS 支店の展開例です。このオプションの設定は、NME-WAE を使用した WAAS 支店の展開と同じです。

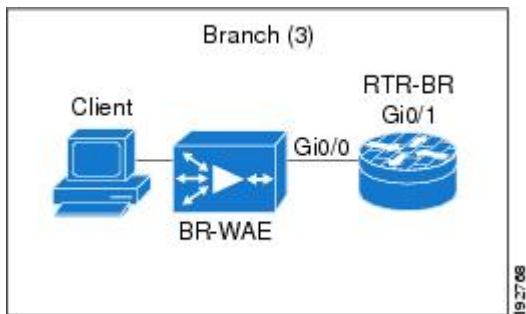
Figure 54: WAAS オフパス ブランチ展開



## インライン デバイスを使用した WAAS ブランチ展開

次の図に、インライン WAE デバイスがサービス統合型ルータ (ISR) の前に配置された WAAS ブランチ展開を示します。WAE デバイスがデバイスの前に配置されているため、Cisco ファイアウォールが WAAS 最適化パケットを受信し、結果的に、クライアント側のレイヤ7 インспекションがサポートされません。

Figure 55: WAAS インライン パス ブランチ展開



Cisco ファイアウォールを使用したエッジ WAAS デバイスを、WAN 接続との間で転送されるトラフィックを検査する必要があるブランチ オフィス サイトで使用します。Cisco ファイアウォールは、トラフィックで最適化インジケータ（TCP オプションと後続の TCP シーケンス番号の変更）をモニターして、最適化されたトラフィックが通過できるようにします。一方、すべてのトラフィックにレイヤ 4 のステートフルインスペクションとディープパケットインスペクションを適用し、セキュリティを確保することで、WAAS 最適化のメリットを享受します。



**Note** WAE デバイスがインラインロケーションにある場合、デバイスは自動検出プロセス後にバイパスモードになります。デバイスは、WAAS 最適化に直接関与しませんが、最適化インジケータが存在する場合は、Cisco ファイアウォールインスペクションをネットワークトラフィックに適用し最適化アクティビティを考慮に入れるために、WAAS 最適化がトラフィックに適用されていることを認識する必要があります。

## ゾーンベースファイアウォールでのOut-of-Orderパケット処理のサポート

デフォルトでは、レイヤ 7 ディープパケットインスペクションが有効にされている場合、またはレイヤ 7 プロトコルマッチングでレイヤ 4 インスペクションが有効にされている場合、Cisco IOS XE ファイアウォールはすべての Out-of-Order (OoO) パケットをドロップします。Out-of-Order パケットのドロップは（送信者の代わりとなる）再送信タイマーが満了するまで行われないため、Out-of-Order パケットがドロップされると終端アプリケーションで大幅な遅延が発生する可能性があります。レイヤ 7 インスペクションはステートフルパケットインスペクションであり、TCP パケットの順序が正しくなければ機能しません。

Cisco IOS XE リリース 3.5S では、セッションに DPI が必要ない場合、OoO パケットは許可されて、ルータをパススルーして宛先に到達できます。OoO パケットが含まれるすべてのレイヤ 4 トラフィックに、宛先へのパススルーが許可されます。一方、セッションにレイヤ 7 インスペクションが必要な場合は、やはり OoO パケットはドロップされます。DPI が必要ない場合は OoO パケットをドロップしないようにすることで、ドロップされたパケットを再送信する必要がなくなるため、再送信に必要なネットワーク上の帯域幅が削減されます。

## デバッグメッセージのシビラティ（重大度）

デバッグメッセージのシビラティ（重大度）により、メッセージが記録される問題のタイプが指定されます。ファイアウォールのデバッグを有効にする場合は、ログに記録するメッセージのレベルを指定できます。次の表に、デバッグメッセージのシビラティ（重大度）の詳細を示します。

表 164: ファイアウォール デバッグメッセージのシビラティ（重大度）

トレースレベル	シビラティ（重大度）	説明
深刻	1	<p>ゾーンベース ポリシー ファイアウォールが使用できない原因、またはパケットを転送できない原因である問題に適用されます。これはデフォルトです。Critical イベントの例を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ログ メカニズムによりトリガーされたバック プレッシュャ。</li> <li>• リソース制限の超過。</li> <li>• メモリ割り当ての失敗。</li> <li>• 新しいセッションを実行できないハイアベイラビリティ状態。</li> </ul>
Error	2	<p>すべてのエラー条件とパケット ドロップ条件に適用されます。Error イベントの例を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 同期（SYN）Cookie：最大宛先数に達した。</li> <li>• イニシエータ パケットではない。</li> <li>• パケットを送信できなかった。</li> <li>• アプリケーションレイヤゲートウェイ（ALG）のエラー状態。</li> </ul>

トレースレベル	シビラティ（重大度）	説明
Information	3	<p>情報メッセージに適用されます。Information イベントの例を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 誤ったポリシー設定、ゾーンチェック失敗、不正なパケット、またはハードコーディングされている制限またはしきい値が原因で発生したパケットドロップ。</li> <li>• ステート マシン 遷移。</li> <li>• セッションまたは不明確チャネルデータベース情報、検索結果など。</li> <li>• パケット分類のステータスまたは結果。</li> <li>• パケット パスまたはパケット ドロップのステータス。</li> <li>• セッション ヒットまたはセッション ミス。</li> <li>• 送信されたパケットが TCP リセット（RST）パケットである。</li> <li>• SYN Cookie イベント。</li> </ul>
Detail	4	<p>すべてのログメッセージを出力します。Detail イベントの例を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• データ構造。</li> <li>• TCAM（Ternary Content Addressable Memory）検索キーと結果構造。</li> <li>• ファイアウォール イベントの詳細。</li> </ul>

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールのスマート ライセンスのサポート

Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータのゾーンベース ポリシー ファイアウォール機能は、セキュリティパッケージとは別にパッケージ化されているので、ゾーンベース ポリシーファイアウォールでは機能を有効または無効にするためのライセンスが必要です。ASR1000 のゾーンベース ファイアウォールのスマートライセンスサポート機能は、Cisco UniversalK9 IOS ソフトウェアイメージにより、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータのスマートライセンスを機能レベルで実現します。

この機能を有効にするためにデバイスをリロードする必要はありません。スマートライセンスは、デフォルトではオンになっていません。スマートライセンスは、**license smart enable** コマンド、または **zone security** コマンドを使用したゾーンベース ポリシー ファイアウォールの

設定により、グローバルにオンとオフが切り替えられます。スマートライセンスの実装時に **show license all** コマンドを実行すると、スマートライセンスのステータスが表示されます。スマートライセンスがグローバルに有効である場合の **show license all** コマンドの出力例を次に示します。

```
Device# show license all

License Store: Primary License Storage
StoreIndex: 0   Feature: internal_service           Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, In Use
  Evaluation total period: 1 day 0 hour
  Evaluation period left: 18 hours 57 minutes
  Period used: 5 hours 2 minutes
  Expiry date: Mar 18 2016 14:15:02
License Count: Non-Counted
License Priority: Low
License Store: Built-In License Storage
StoreIndex: 0   Feature: adventerprise             Version: 1.0
License Type: EvalRightToUse
License State: Active, In Use
  Evaluation total period: 8 weeks 4 days
  Evaluation period left: 8 weeks 3 days
  Period used: 5 hours 13 minutes
  Transition date: May 16 2016 14:03:52
License Count: Non-Counted
License Priority: Low          <-- (CSL mode license)

Device(config)# license smart enable
Device(config)# zone security z1
Device(config)# exit
Device# show license all

Smart Licensing Status
-----
Smart Licensing is ENABLED

Registration:
  Status: UNREGISTERED
  Export-Controlled Functionality: Not Allowed

License Authorization:
  Status: EVAL MODE
  Evaluation Period Remaining: 65 days, 14 hours, 19 minutes, 47 seconds

License Usage
-----

(ASR_1000_AdvEnterprise):
  Description:
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: EVAL MODE

(ASR_1000_firewall):
  Description:
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: EVAL MODE

Product Information
-----
UDI: PID:ASR1013,SN:NWG165000A9
```

```
Agent Version
-----
Smart Agent for Licensing: 1.5.1_rel/29
Component Versions: SA:(1_3_dev)1.0.15, SI:(dev22)1.2.1, CH:(rel5)1.0.3, PK:(dev18)1.0.3
```

次に、スマートライセンスが無効な場合の出力例を示します。

```
Device(config)# no zone security z1
Device(config)# exit
Device# show license all

Smart Licensing Status
-----

Smart Licensing is ENABLED

Registration:
  Status: UNREGISTERED
  Export-Controlled Functionality: Not Allowed

License Authorization:
  Status: EVAL MODE
  Evaluation Period Remaining: 65 days, 14 hours, 18 minutes, 58 seconds

License Usage
-----

(ASR_1000_AdvEnterprise):
  Description:
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: EVAL MODE

Product Information
-----
UDI: PID:ASR1013,SN:NWG165000A9

Agent Version
-----
Smart Agent for Licensing: 1.5.1_rel/29
Component Versions: SA:(1_3_dev)1.0.15, SI:(dev22)1.2.1, CH:(rel5)1.0.3, PK:(dev18)1.0.3

Device(config)# no license smart enable
Device(config)# exit
Device# show license all

License Store: Primary License Storage
StoreIndex: 0  Feature: internal_service          Version: 1.0
  License Type: Evaluation
  License State: Active, Not in Use, EULA accepted
    Evaluation total period: 1 day 0 hour
    Evaluation period left: 18 hours 54 minutes
    Period used: 5 hours 5 minutes
  License Count: Non-Counted
  License Priority: Low
License Store: Built-In License Storage
StoreIndex: 0  Feature: adventerprise            Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, Not in Use, EULA accepted
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 8 weeks 3 days
    Period used: 5 hours 17 minutes
```

License Count: Non-Counted

License Priority: Low

&lt;--- (back to CSL mode)

## ゾーンベース ファイアウォールの再分類

Cisco IOS XE 17.6.1 以降では、ZBFW セッションの再分類を設定できます。ZBFW 再分類機能により、ポリシー設定の変更が既存のファイアウォールセッションに適用されます。確立されたセッションでセッションイニシエータからパケットを受信すると、特定のフローが再分類されます。

次に、これが発生する可能性のあるいくつかの例を示します。

- クラスマップでフィルタを追加、削除、または編集するには、次の作業を実行します。
  - 一致プロトコルの削除。
  - アクセスグループの削除。
  - アクセスグループでのアクセス制御エントリ (ACE) の編集。
  - オブジェクトグループの編集。
- Application Visibility and Control (AVC) ポリシーの追加、削除、または編集。

ポリシーへの変更に応じて、次のいずれかのアクションが発生する可能性があります。

- 検査してドロップ：既存のセッションが破棄され、セッションがセッションテーブルから削除されます。
- 検査して転送：ゾーンベース ファイアウォールがフローを検査しないため、既存のセッションが破棄されます。ただし、このシナリオでは、トラフィックフローは続きます。
- 検査して検査：既存のセッションが新しいクラスマップの下に移動されます。
- 転送して検査/ドロップして検査：既存の動作が続行され、フローの途中で再分類がサポートされていないためにフローがブロックされます。



(注) ポリシーの変更がある場合、フローの途中でデータを確立することはできません。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの前提条件

ゾーンを作成する前に、セキュリティの観点から見ると同様のインターフェイスをグループ化する必要があります。



## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの制約事項

- Cisco Wide Area Application Services (WAAS) と Cisco IOS XE ファイアウォール設定では、WAE デバイスによって処理されるすべてのパケットは、両方向とも Cisco IOS XE ファイアウォールを通過して、WCCP 総称ルーティングカプセル化 (GRE) リダイレクトをサポートする必要があります。この状況は、レイヤ2リダイレクトが使用できない場合に発生します。レイヤ2リダイレクトが WAE で設定されている場合、システムはデフォルトで、GRE リダイレクトを続行させます。
- WCCP がレイヤ2リダイレクト方式で設定されている場合、ゾーンベースファイアウォールは、WAAS および WCCP と相互運用できません。
- ゾーンベースファイアウォール設定は、Cisco Unity Express Virtual (vCUE) コールフローを含むブリッジドメインインターフェイス (BDI) には適用できません。
- セルフゾーンは、デフォルトの「deny all」ポリシーの唯一の例外です。ルータインターフェイスへのすべてのトラフィックは、トラフィックが明示的に拒否されるまで許可されます。
- WAAS および Cisco IOS XE ファイアウォール構成では、WCCP は、ポリシーベースルーティング (PBR) を使用したトラフィックのリダイレクトをサポートしていません。
- Cisco ISR-WAAS I/O モジュールを使用して構成された ASR で、汎用 GRE を使用したゾーンベースポリシーファイアウォールが有効になっている場合、WCCP トラフィックリダイレクションは機能しません。この構成は、WAN の最適化ソリューションです。WCCP トラフィックリダイレクションを機能させるには、インターフェイスからゾーンベースポリシーファイアウォール設定を削除します。WAE デバイスを使用している場合、WCCP トラフィックリダイレクションは正しく動作します。

WAAS の場合、汎用 GRE は最適化が完了すると、WAAS WAE からのパケットを GRE トンネル経由で最初にリダイレクトされたデバイスと同じデバイスに返すのに役立つ、アウトオブパス導入のメカニズムです。

- マルチキャストトラフィックのステートフルインスペクションサポートは、セルフゾーンを含め、すべてのゾーン間でサポートされません。コントロールプレーンをマルチキャストトラフィックから保護するには、コントロールプレーンポリシングを使用します。
- 内部から外部へのゾーンベースポリシーが Windows システムの ICMP に一致するように設定されている場合、**traceroute** コマンドは機能します。ただし Apple システムでは、UDP ベースの **traceroute** を使用するため、同じ設定は機能しません。この問題を解決するには、**icmp time-exceeded** コマンドおよび **icmp host unreachable** コマンドを **pass** コマンド (**inspect** コマンドではない) とともに使用して、外部から内部へのゾーンベースポリシーを設定します。この制限は Cisco IOS XE リリース 3.1S 以前のリリースに適用されます。
- クラスマップでは ACL がサポートされます。ただし、ACL ベースのパケットカウントはデフォルトで無効になっています。Perfilter の統計情報は Cisco IOS XE リリース 3.13S 以降のゾーンベースファイアウォールで使用できます。

- オブジェクトグループを使用する ACL ステートメントは、処理のためにランデブーポイント (RP) に送信されるパケットでは無視されます。
- ブリッジドメインインターフェイスは、すべてのレイヤ4およびレイヤ7インスペクションを含む、ゾーンベース ファイアウォール インスペクションをサポートしていません。
- デバイスで NAT NVI が有効になっている場合、ZBF はトラフィックを検査できません。
- トラフィックがゾーンペアに入ると、ファイアウォールは接続テーブル全体を調べ、入力インターフェイスがゾーンペアに一致しなくても、表内のすべての接続とトラフィックを照合します。このシナリオでは、検査アクションが設定されている場合、ファイアウォール上の非対称にルーティングされたトラフィックがパケットをドロップする可能性があります。

Cisco IOS XE リリース 3.15S 以降のリリースでは、`zone-mismatch drop` はクラスパラメータマップで設定されます。`zone-mismatch drop` が設定されている場合、ゾーンは、パケットの分類時に使用された元のゾーンに対してチェックされます。ゾーンがゾーンペアの一方ではない場合、パケットはドロップされます。`zone-mismatch drop` が設定されていない場合、ゾーンはチェックされません。

- ZBF が設定されている場合、ゾーンペアの一部であるすべてのインターフェイスに RII が設定されている必要があります。ピアデバイスと一致するインターフェイスには、同じ RII が設定されている必要があります。さらに、2つのインターフェイス間で開始されたフローは、一方のインターフェイスだけでも RII が割り当てられていない場合、スタンプに同期されません。
- ゾーンベース ファイアウォールは、デフォルトゾーンのダイナミック インターフェイスでのみサポートされます。これらのインターフェイスは、トラフィックが IPsec または VPN セキュアトンネルにトンネリングされると、動的に作成または削除されます。仮想テンプレートは、特定のタイプのダイナミック インターフェイスをサポートするために使用されます。詳細については、[セキュリティゾーンのメンバーとしての仮想インターフェイス \(1608 ページ\)](#) を参照してください。
- インターフェイスに適用されているゾーンベースファイアウォールの設定を無効にするには、`platform inspect disable-all` コマンドを使用します。同様に、インターフェイスでゾーンベース ファイアウォールを有効にするには、`no platform inspect disable-all` コマンドを使用します。

`platform inspect disable-all` コマンドが適用されているかどうかを確認するには、次の `show running` 設定を使用します。

```
show run | sec disable
platform inspect disable-all
```



- 
- (注) デフォルトでは、ゾーンベース ファイアウォールは常に有効になっています。
-

- ユーザー定義クラスまたはポリシーのデフォルトクラスで **droplog** コマンドが設定されていると、**drop** コマンドを設定してドロップされたパケットのログギングを無効にしても、ログメッセージは停止されません。これは既知の問題であり、回避策は、**nodroplog** コマンドを設定した後で、**drop** コマンドを設定し、メッセージのログギングを停止することです。この問題は **pass** コマンドにも適用されます。次の例は問題を示しています。

```
! Logging of dropped packets is enabled by configuring the drop log command.
policy-map type inspect INT-EXT
  class type inspect INT-EXT
    pass
  class class-default
    drop log
!
```

次の例は回避策を示しています。

```
! In this example, the no drop log command is configured before the drop command.
policy-map type inspect INT-EXT
  class type inspect INT-EXT
    pass
  class class-default
    drop log
  no drop log
  drop
!
```

- ZBFWセッション再分類機能を使用する場合、ステートフルトラフィックのフロー途中の検査はサポートされません。たとえば、ポリシー設定の変更により、既存のフローのアクションが、ドロップから検査に変更される可能性があります。この場合、ZBFWは、既存のフローを検査しません。
- ハイアベイラビリティは、ゾーンベース ファイアウォール ポリシー再分類ではサポートされません。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定方法

以下のセクションでは、ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定を指定するさまざまな作業について説明します。

### レイヤ3 およびレイヤ4 ファイアウォール ポリシーの設定

レイヤ3 およびレイヤ4 のポリシーは、ターゲット（ゾーンペア）に付加される「最上位」のポリシーです。レイヤ3 およびレイヤ4 のファイアウォールポリシーを設定するには、次の作業を実行します。

### レイヤ3 およびレイヤ4 のファイアウォール ポリシーのクラス マップの設定

ネットワーク トラフィックを分類するためのクラス マップを設定するには、次の作業を行います。



**Note** ステップ 4、5、6 のうち、少なくとも 1 つのマッチング手順を実行する必要があります。

パケットがアクセスグループ、プロトコル、クラスマップのいずれかにマッチングされると、それらのパケットのトラフィック レートが生成されます。ゾーンベース ファイアウォール ポリシーでは、ポリシーと一致するのは、セッションを作成した最初のパケットのみです。このフローの後続パケットは、設定されたポリシー内のフィルタと一致しませんが、セッションとは直接一致します。後続パケットに関連する統計情報は、検査アクションの一部として表示されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect [match-any | match-all] class-map-name**
4. **match access-group {access-group | name access-group-name}**
5. **match protocol protocol-name [signature]**
6. **match class-map class-map-name**
7. **end**
8. **show policy-map type inspect zone-pair session**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect [match-any   match-all] class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-all c1	レイヤ 3 またはレイヤ 4 の検査タイプ クラス マップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match access-group {access-group   name access-group-name}</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match access-group 101	ACL 名または番号に基づくクラスマップの一致基準を設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>match protocol <i>protocol-name</i> [<i>signature</i>]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# match protocol http</pre>	指定したプロトコルに基づいてクラスマップの一致基準を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 検査タイプクラスマップの一致基準には、Cisco ステートフル パケット インスペクションでサポートされているプロトコルのみを使用できません。</li> </ul>
ステップ 6	<b>match class-map <i>class-map-name</i></b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# match class-map c1</pre>	すでに定義したクラスをクラスマップの一致基準として指定します。
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# end</pre>	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>show policy-map type inspect zone-pair session</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-cmap)# show policy-map type inspect zone-pair session</pre>	(オプション) 指定されたゾーンペアにポリシーマップが適用されたために作成された、Cisco ステートフル パケット インスペクション セッションを表示します。 <b>Note</b> <b>Class-map</b> フィールドの下に表示される情報は、接続開始トラフィックのみに属するトラフィックのトラフィックレート (ビット/秒) です。接続セットアップレートが非常に高く、レートが計算される複数のインターバルにわたって高い接続セットアップレートが持続する場合を除き、接続に関する意味のあるデータは表示されません。

## レイヤ3 およびレイヤ4 ファイアウォール ポリシーのポリシー マップの作成

後でゾーンペアに付加するレイヤ3 およびレイヤ4 ファイアウォールポリシーのポリシーマップを作成するには、次の手順を実行します。

検査タイプのポリシーマップを作成する場合、許容されるアクションは `drop`、`inspect`、`pass`、および `service-policy` のみである点に注意してください。



**Note** ステップ 5、8、9、10 のうち、少なくとも 1 つの手順を実行する必要があります。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`

2. **configure terminal**
3. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
4. **class type inspect** *class-name*
5. **inspect** [*parameter-map-name*]
6. **drop** [log]
7. **pass**
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect p1	レイヤ 3 とレイヤ 4 の検査タイプ ポリシー マップを作成し、ポリシーマップコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>class type inspect</b> <i>class-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect c1	アクションを実行する対象のトラフィッククラスを指定し、ポリシーマップクラス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>inspect</b> [ <i>parameter-map-name</i> ] <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect inspect-params	Cisco ステートフルパケットインスペクションをイネーブルにします。
ステップ 6	<b>drop</b> [log] <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# drop	(任意) 定義されたクラスと一致するパケットをドロップします。 <b>Note</b> <b>drop</b> アクションと <b>pass</b> アクションは排他的であり、 <b>inspect</b> アクションと <b>drop</b> アクションは相互に排他的です。つまり、両方を同時に指定することはできません。どちらか1つだけを指定できます。
ステップ 7	<b>pass</b> <b>Example:</b>	(任意) 定義されたクラスと一致するパケットを許可します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config-pmap-c)# pass	
ステップ 8	<b>service-policy type inspect <i>policy-map-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# service-policy type inspect p1	ファイアウォール ポリシー マップをゾーン ペアに付加します。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 検査パラメータ マップの作成

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect {*parameter-map-name* | global | default}**
4. **log {dropped-packets {disable | enable} | summary [flows *number*] [time-interval *seconds*]}**
5. **alert {on | off}**
6. **audit-trail {on | off}**
7. **dns-timeout *seconds***
8. **icmp idle-timeout *seconds***
9. **max-incomplete {low | high} *number-of-connections***
10. **one-minute {low | high} *number-of-connections***
11. **sessions maximum *sessions***
12. **tcp finwait-time *seconds***
13. **tcp idle-time *seconds***
14. **tcp max-incomplete host *threshold* [block-time *minutes*]**
15. **tcp synwait-time *seconds***
16. **tcp window-scale-enforcement loose**
17. **udp idle-time *seconds***
18. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect</b> { <i>parameter-map-name</i>   <b>global</b>   <b>default</b> } <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect eng-network-profile	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査パラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>log</b> { <b>dropped-packets</b> { <b>disable</b>   <b>enable</b> }   <b>summary</b> [ <b>flows number</b> ] [ <b>time-interval seconds</b> ]} <b>Example:</b> Device(config-profile)# log summary flows 15 time-interval 30	(任意) ファイアウォール アクティビティの実行時のパケット ロギングを設定します。 <b>Note</b> このコマンドが見えるのは、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードの場合のみです。
ステップ 5	<b>alert</b> { <b>on</b>   <b>off</b> } <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	(任意) コンソールに表示される Cisco ステートフルパケットインスペクションアラートメッセージをイネーブルにします。
ステップ 6	<b>audit-trail</b> { <b>on</b>   <b>off</b> } <b>Example:</b> Device(config-profile)# audit-trail on	(任意) 監査証跡メッセージをイネーブルにします。
ステップ 7	<b>dns-timeout</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# dns-timeout 60	(任意) ドメインネームシステム (DNS) のアイドルタイムアウト (アクティビティのないときに DNS ルックアップセッションを管理する時間の長さ) を指定します。
ステップ 8	<b>icmp idle-timeout</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# icmp idle-timeout 90	(任意) ICMPセッションのタイムアウトを設定します。
ステップ 9	<b>max-incomplete</b> { <b>low</b>   <b>high</b> } <i>number-of-connections</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# max-incomplete low 800	(任意) Cisco ファイアウォールによるハーフオープンセッションの削除の開始および停止を起動する既存のハーフオープンセッションの数を定義します。
ステップ 10	<b>one-minute</b> { <b>low</b>   <b>high</b> } <i>number-of-connections</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# one-minute low 300	(任意) システムによるハーフオープンセッションの削除の開始と停止を起動する新規の未確立セッションの数を定義します。
ステップ 11	<b>sessions maximum</b> <i>sessions</i> <b>Example:</b>	(任意) 1つのゾーンペアに存在できる許可されたセッションの最大数を設定します。このコマンドを



	Command or Action	Purpose
	Device(config-profile)# sessions maximum 200	使用して、セッションによって使用される帯域幅を制限します。
ステップ 12	<b>tcp finwait-time seconds</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp finwait-time 5	(任意) Cisco ファイアウォールが finish-exchange (FIN-exchange) を検出した後、TCP セッションを管理する時間を指定します。
ステップ 13	<b>tcp idle-time seconds</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp idle-time 90	(任意) TCP セッションのタイムアウトを設定します。
ステップ 14	<b>tcp max-incomplete host threshold [block-time minutes]</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp max-incomplete host 500 block-time 10	(任意) TCP ホスト固有のサービス妨害 (DoS) の検出および回避のために、しきい値とブロックする時間値を指定します。
ステップ 15	<b>tcp synwait-time seconds</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp synwait-time 3	(任意) セッションをドロップする前に、TCP セッションが設定された状態に達するまで待機する時間を指定します。
ステップ 16	<b>tcp window-scale-enforcement loose</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp window-scale-enforcement loose	(任意) ゾーンベースポリシーファイアウォールにおいて無効なウィンドウ スケール オプションを持つ TCP パケットのウィンドウ スケール オプションのチェックをパラメータ マップでディセーブルにします。
ステップ 17	<b>udp idle-time seconds</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# udp idle-time 75	(任意) ファイアウォールを通る UDP セッションのアイドルタイムアウトしきい値を設定します。
ステップ 18	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC コンフィギュレーション モードに戻ります。

## セキュリティ ゾーンとゾーン ペアの作成、およびゾーン ペアへのポリシー マップの付加

ゾーン ペアを作成するには、2つのセキュリティ ゾーンが必要です。ただし、セキュリティ ゾーンを1つだけ作成し、「セルフ」と呼ばれるシステム定義のセキュリティゾーンを使用できます。「セルフ」ゾーンを選択する場合、検査ポリシングは設定できません。

ゾーンペアでは、送信元ゾーンと宛先ゾーンを同じゾーンにすることができます。デフォルトでは、ゾーン内に留まるトラフィックは検査されません。さらに、デフォルトゾーン (ゾーン割り当てのないインターフェイス) が存在し、これも指定できます。

このプロセスを使用して、次の作業を実行します。

- セキュリティ ゾーンにインターフェイスを割り当てます。
- ポリシー マップをゾーン ペアに付加します。
- セキュリティ ゾーンを少なくとも 1 つ作成します。
- ゾーン ペアを定義します。



**Tip** ゾーンを作成する前に、ゾーンの構成要素をよく検討する必要があります。一般的なガイドラインは、セキュリティの観点から同様の性質をもつインターフェイスをグループにすることです。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security zone-name**
4. **description line-of-description**
5. **exit**
6. **interface type number**
7. **zone-member security zone-name**
8. **exit**
9. **zone-pair security zone-pair name [source source-zone-name | self | default] destination [self | default | destination-zone-name]**
10. **description line-of-description**
11. **service-policy type inspect policy-map-name**
12. **platform inspect match-statistics per-filter**
13. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>zone security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security z1	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>description</b> <i>line-of-description</i> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# description Internet Traffic	(任意) ゾーンの説明を入力します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security zone1	インターフェイスを指定したセキュリティ ゾーンに割り当てます。 <b>Note</b> インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます (ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除きます)。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシー適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 9	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair name</i> [ <b>source</b> <i>source-zone-name</i>   <b>self</b>   <i>default</i> ] <b>destination</b> [ <b>self</b>   <i>default</i>   <i>destination-zone-name</i> ] <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security zp source z1 destination z2	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。 <b>Note</b> ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。
ステップ 10	<b>description</b> <i>line-of-description</i> <b>Example:</b>	(任意) ゾーン ペアの説明を入力します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config-sec-zone-pair)# description accounting network to internet	
ステップ 11	<b>service-policy type inspect <i>policy-map-name</i></b>  <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect p2	ファイアウォール ポリシー マップを宛先ゾーンペアに付加します。  <b>Note</b> ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。
ステップ 12	<b>platform inspect match-statistics per-filter</b>  <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# platform inspect match-statistics per-filter	ゾーンベース ファイアウォールのフィルタごとの統計を有効にします。  <b>Note</b> デバイスでフィルタごとの統計を有効にするには、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイスをリロードします。または</li> <li>• すべてのサービスポリシーを削除し、統計に変更を再適用します。 <b>platform inspect match-statistics per-filter</b> コマンドをアクティブにするには、すべてのサービスポリシーを再適用します。</li> </ul>
ステップ 13	<b>end</b>  <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# end	セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## NetFlow イベント ログिंगの設定

グローバルパラメータマップは、NetFlow イベント ログングに使用されます。NetFlow イベント ログングをイネーブルにすると、装置外の高速度ログコレクタにログが送信されます。デフォルトでは、この機能はイネーブルになっていません。この機能をイネーブルにしない場合、ファイアウォールのログは、ルートプロセッサまたはコンソールのロガーバッファに送信されます。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect-global**
4. **log dropped-packets**
5. **log flow-export v9 udp destination *ipv4-address port***
6. **log flow-export template timeout-rate *seconds***
7. **end**

## 8. show parameter-map type inspect-global

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-global</b> 例： Device(config)# parameter-map type inspect-global	グローバル パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ 検査 コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>log dropped-packets</b> 例： Device(config-profile)# log dropped-packets	ファイアウォールによってドロップされるすべてのパケットのログングをイネーブルにします。
ステップ 5	<b>log flow-export v9 udp destination ipv4-address port</b> 例： Device(config-profile)# log flow-export v9 udp destination 192.0.2.0 5000	NetFlow イベント ログングをイネーブルにして、コレクタの IP アドレスとポートを指定します。
ステップ 6	<b>log flow-export template timeout-rate seconds</b> 例： Device(config-profile)# log flow-export template timeout-rate 5000	テンプレートのタイムアウト値を指定します。
ステップ 7	<b>end</b> 例： Device(config-profile)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>show parameter-map type inspect-global</b> 例： Device# show parameter-map type inspect-global	グローバル 検査 タイプ パラメータ マップ 情報を表示します。

## WAAS を使用したファイアウォールの設定

トラフィックをインターセプトするために L2 を使用してトラフィックを WAE デバイスにリダイレクトするファイアウォール用のエンドツーエンド WAAS トラフィックフロー最適化を設定するには、次の作業を実行します。ZBFW 環境で WCCP を設定する場合は、L2 または GRE カプセル化が使用されます。ただし、このシナリオでは、ゾーンベース ファイアウォールに GRE が必要であるため、L2 リダイレクションが重要です。

Cisco IOS XE ソフトウェアでは WAAS のサポートがデフォルトで有効になっており、WAAS 処理が検出されません。



**Note** WAAS を使用したファイアウォールの設定（手順 5 ～ 13）は、Cisco IOS XE リリース 3.5S 以降では必要ありません。手順 5 ～ 12 のコマンドは、Cisco IOS XE リリース 3.5S 以降では廃止されています。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip wccp *service-id***
4. **ip wccp *service-id***
5. **log dropped-packets enable**
6. **max-incomplete low**
7. **max-incomplete high**
8. **class-map type inspect *class-name***
9. **match protocol *protocol-name* [*signature*]**
10. **exit**
11. **policy-map type inspect *policy-map-name***
12. **class class-default**
13. **class-map type inspect *class-name***
14. **inspect**
15. **exit**
16. **exit**
17. **zone security *zone-name***
18. **description *line-of-description***
19. **exit**
20. **zone-pair security *zone-pair name* [*source source-zone-name* | *self*] destination [*self* | *destination-zone-name*]**
21. **description *line-of-description***
22. **exit**
23. **interface *type number***
24. **description *line-of-description***
25. **zone-member security *zone-name***
26. **ip address *ip-address***

27. **ip wccp** *service-id* {**group-listen** | **redirect** {**in** | **out**}}
28. **exit**
29. **zone-pair security** *zone-pair-name* {**source** *source-zone-name* | **self**} **destination** [**self** | *destination-zone-name*]
30. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
31. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip wccp</b> <i>service-id</i> <b>Example:</b> Device(config)# ip wccp 61	WCCP のダイナミックに定義されたサービス識別番号を入力します。
ステップ 4	<b>ip wccp</b> <i>service-id</i> <b>Example:</b> Device(config)# ip wccp 62	WCCP のダイナミックに定義されたサービス識別番号を入力します。
ステップ 5	<b>log dropped-packets enable</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# log dropped-packets enable	
ステップ 6	<b>max-incomplete low</b> <b>Example:</b> Device(config)# max-incomplete low 18000	
ステップ 7	<b>max-incomplete high</b> <b>Example:</b> Device(config)# max-incomplete high 20000	
ステップ 8	<b>class-map type inspect</b> <i>class-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect most-traffic	トラフィック クラス用の検査タイプクラスマップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> <code>class-map type inspect most-traffic</code> コマンドは非表示になっています。
ステップ 9	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i> [ <i>signature</i> ] <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol http	指定されたプロトコルに基づくクラス マップの一致基準を設定します。検査タイプ クラス マップの一致基準には、Cisco ステートフル パケット インスペクションでサポートされているプロトコルのみを使用できます。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 11	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect p1	レイヤ 3 とレイヤ 4 の検査タイプ ポリシー マップを作成し、ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class class-default	システム デフォルト クラスの照合を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>システム デフォルト クラスを指定しない場合は、未分類のパケットが照合されます。</li></ul>
ステップ 13	<b>class-map type inspect</b> <i>class-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class-map type inspect most-traffic	アクションの実行対象となるファイアウォール トラフィック (クラス) マップを指定し、ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	Cisco ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシーマップコンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 16	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# exit	ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 17	<b>zone security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security zone1	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティ ゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 18	<b>description</b> <i>line-of-description</i> <b>Example:</b>	(任意) ゾーンの説明を入力します。



	Command or Action	Purpose
	Device(config-sec-zone)# description Internet Traffic	
ステップ 19	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 20	<b>zone-pair security zone-pair name [source source-zone-name   self] destination [self   destination-zone-name]</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security zp source z1 destination z2	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを開始します。 <b>Note</b> ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。
ステップ 21	<b>description line-of-description</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# description accounting network	(任意) ゾーンペアの説明を入力します。
ステップ 22	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 23	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface ethernet 0	インターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 24	<b>description line-of-description</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# description zone interface	(任意) インターフェイスについての説明を入力します。
ステップ 25	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security zone1	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。 <b>Note</b> インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます (ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除きます)。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 26	<b>ip address</b> <i>ip-address</i>  <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 10.70.0.1 255.255.255.0	セキュリティゾーン用のインターフェイス IP アドレスを割り当てます。
ステップ 27	<b>ip wccp</b> <i>service-id</i> { <b>group-listen</b>   <b>redirect</b> { <b>in</b>   <b>out</b> }}  <b>Example:</b> Device(config-if)# ip wccp 61 redirect in	インターフェイスで WCCP パラメータを指定します。
ステップ 28	<b>exit</b>  <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 29	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> { <b>source</b> <i>source-zone-name</i>   <b>self</b> } <b>destination</b> [ <b>self</b>   <i>destination-zone-name</i> ]  <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security zp source z1 destination z2	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 30	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i>  <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect p2	ファイアウォールポリシーマップを宛先ゾーンペアに付加します。  <b>Note</b> ゾーンのパア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。
ステップ 31	<b>end</b>  <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# end	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ゾーンベース ファイアウォールの再分類の設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect** {*parameter-map-name* | **global** | **session-reclassify-allow**}

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect</b> { <i>parameter-map-name</i>   <b>global</b>   <b>session-reclassify-allow</b> }	<b>parameter-map type inspect-global</b> モードで <b>session-reclassify-allow</b> 属性を設定して、セッションの再分類を有効にします。  この設定を無効にするには、 <b>session-reclassify-allow</b> コマンドの <b>no</b> 形式を使用します。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定例

ここでは、ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定に関連する例を示します。

### 例：レイヤ 3 およびレイヤ 4 ファイアウォール ポリシーの設定

次の例は、レイヤ 3 またはレイヤ 4 トップレベル ポリシーを示します。トラフィックは ACL 199 と一致し、ディープパケット HTTP インスペクションが設定されます。 **match access-group 101** を設定すると、レイヤ 4 インスペクションが有効になります。その結果、クラスマップのタイプが **match-all** である場合を除いて、レイヤ 7 インスペクションが省略されます。

```
class-map type inspect match-all http-traffic
  match protocol http
  match access-group 101
!
policy-map type inspect mypolicy
  class type inspect http-traffic
    inspect
  service-policy http http-policy
```

### 例：検査パラメータ マップの作成

次の設定例は、検査パラメータマップの作成を示しています。

例：セキュリティ ゾーンとゾーン ペアの作成とゾーン ペアへのポリシー マップのアタッチ

```
parameter-map type inspect eng-network-profile
  alert on
  audit-trail on
  dns-timeout 60
  icmp idle-timeout 90
  max-incomplete low 800
  one-minute low 300
  sessions maximum 200
  tcp finwait-time 5
  tcp idle-time 90
  tcp max-incomplete host 500 block-time 10
  tcp synwait-time 3
  udp idle-time 75
```

## 例：セキュリティ ゾーンとゾーン ペアの作成とゾーン ペアへのポリシー マップのアタッチ

### 例：セキュリティ ゾーン の作成

次に、finance department networks という名前のセキュリティ ゾーン z1 と engineering services network という名前のセキュリティ ゾーン z2 を作成する例を示します。

```
zone security z1
  description finance department networks
!
zone security z2
  description engineering services network
```

### 例：ゾーン ペア の作成

次に、ゾーン z1 とゾーン z2 を作成し、ゾーン z2 でゾーン間を流れるトラフィックにファイアウォール ポリシー マップが適用されるように指定する例を示します。

```
zone-pair security zp source z1 destination z2
service-policy type inspect p1
```

### 例：セキュリティ ゾーン へのインターフェイスの割り当て

次に、イーサネット インターフェイス 0 をゾーン z1 に、イーサネット インターフェイス 1 をゾーン z2 にアタッチする例を示します。

```
interface ethernet0
  zone-member security z1
!
interface ethernet1
  zone-member security z2
```

## 例：ゾーンベース ファイアウォールのフィルタ ごとの統計

次の設定例は、多数のファイアウォールフィルタが作成される場合にメモリ不足を回避する方法を示しています。メモリ不足を防ぐために、**platform inspect match-statistics per-filter** コマンドを使用してゾーンベースファイアウォールのフィルタごとの統計を有効にすることができ

ます。この例では、フィルタ（ACLまたはUDP）ごとに、ゾーンベース ファイアウォールを通過したパケット数とバイト数について使用可能な統計が存在します。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair ogacl_zp
Zone-pair: ogacl_zp
  Service-policy inspect : ogacl_pm
Class-map: ogacl_cm (match-any)
  Match: access-group name ogacl
        xxx packets, xxx bytes
  Match: protocol udp
        xxx packets, xxx bytes
```



**Note** フィルタごとの統計は、match-any フィルタについてのみ使用でき、match-all の場合には適用されません。



**Note** Cisco IOS XE 16.3 リリースおよび Cisco IOS XE 16.4 リリースの場合、フィルタごとの統計を有効にするには、**platform inspect match-statistics per-filter** コマンドをアクティブにする前に、デバイスをリロードするかサービスポリシーを削除してから、ゾーンペアにサービスポリシーを再適用します。

Cisco IOS XE 3.17 リリースの場合、このコマンドをアクティブにするには、設定を保存し、システムをリロードする必要があります。



**Note** 同様に、フィルタごとの統計を無効にするには、デバイスをリロードするかサービスポリシーを削除してから、ゾーンペアにサービスポリシーを再適用します。

デバイスで使用されている TCAM メモリを確認するには、**show platform hardware qfp active classification feature-manager shm-stats-counter** コマンドを使用します。

```
Device# show platform hardware qfp active classification feature-manager shm-stats-counter
Shared Memory Information:
Total shared memory size: 16777216
Used shared memory size: 14703656
```



**Note** トラフィックドロップまたはフィルタごとの統計のカウンタが表示されないときは、多くの場合、使用されている TCAM 共有メモリが TCAM 合計の 75% を超えています。



**Note** デバイスで使用されている共有メモリがキャパシティの 75% を超えると、次の警告メッセージが表示されます。

```
%CPP_FM-3-CPP_FM_TCAM_WARNING: SIP1: cpp_sp_svr: TCAM limit exceeded: Already used 75 percent shared memory for per-filter stats.
```

デバイスで使用されている共有メモリが 100% の場合は、次の警告メッセージが表示されます。

```
%CPP_FM-3-CPP_FM_TCAM_WARNING: SIP1: cpp_sp_svr: TCAM limit exceeded: Shared memory for per-filter stats overflow!
```

## 例 : NetFlow イベント ログの設定

次に、NetFlow イベント ログを設定する例を示します。

```
parameter-map type inspect global
 log dropped-packets
 log flow-export v9 udp destination 192.0.2.0 5000
 log flow-export template timeout rate 5000
```

## 例 : WAAS を使用した Cisco ファイアウォールの設定

次に、WCCP を使用してトラフィックを検査のために WAE デバイスにトラフィックをリダイレクトするファイアウォールのエンドツーエンドの WAAS トラフィックフローを最適化する設定の例を示します。

次に、`integrated-service-engine` インターフェイスが異なるゾーンで設定され、各セキュリティゾーンメンバーにインターフェイスが割り当てられているために、セキュリティゾーンメンバー間でトラフィックがドロップされないようにする設定例を示します。

```
! Zone-based firewall configuration on your router.
ip wccp 61
ip wccp 62
parameter-map type inspect global
 log dropped-packets enable
 max-incomplete low 18000
 max-incomplete high 20000
!
class-map type inspect match-any most-traffic
 match protocol icmp
 match protocol ftp
 match protocol tcp
 match protocol udp
!
policy-map type inspect p1
 class type inspect most-traffic
 inspect
!
class class-default
 drop
```

```
!
zone security in
!
zone security out
!
zone security waas
!
zone-pair security in-out source in destination out
  service-policy type inspect p1
!
zone-pair security out-in source out destination in
  service-policy type inspect p1
!
zone-pair security waas-out source waas destination out
  service-policy type inspect p1
!
zone-pair security in-waas source in destination waas
  service-policy type inspect p1
!
interface GigabitEthernet0/0
  description WAN Connection
  no ip dhcp client request tftp-server-address
  no ip dhcp client request router
  ip address dhcp
  ip wccp 62 redirect in
  ip wccp 61 redirect out
  ip flow ingress
  ip nat outside
  ip virtual-reassembly in
  ip virtual-reassembly out
  zone-member security out
  load-interval 30
  delay 30
  duplex auto
  speed auto
!
interface GigabitEthernet0/1
  description Clients
  ip address 172.25.50.1 255.255.255.0
  ip pim sparse-mode
  ip nat inside
  ip virtual-reassembly in
  zone-member security in
  ip igmp version 3
  delay 30
  duplex auto
  speed auto
!
interface Vlan1
  description WAAS Interface
  ip address 172.25.60.1 255.255.255.0
  ip wccp redirect exclude in
  ip nat inside
  ip virtual-reassembly in
  zone-member security waas
  load-interval 30
!
!Configuration on the WAE.
primary-interface Virtual 1/0
```

次に、ゾーンベース ファイアウォール サポートするための WAE 上での設定例を示します。この設定は、ルータでは行うことができず、WAE でのみ行うことができることに注意してください。

例：同じゾーン内の FlexVPN と DVTI を使用したファイアウォールの設定

```
interface Virtual 1/0
 ip address 172.25.60.12 255.255.255.0
 !
 ip default-gateway 172.25.60.1
 wccp router-list 1 172.25.60.1
 wccp tcp-promiscuous service-pair 61 62
 router-list-num 1
 redirect-method gre
 egress-method ip-forwarding
 enable
 !
```

## 例：同じゾーン内の FlexVPN と DVTI を使用したファイアウォールの設定

次に、FlexVPN およびダイナミック仮想トンネルインターフェイス (DVTI) が同じゾーンに設定されたファイアウォールの例を示します。

```
crypto ikev2 proposal PROP
 encryption 3des
 integrity sha256
 group 5
crypto ikev2 policy POL
 match fvrf any
 proposal PROP
crypto ikev2 keyring keyring1
 peer peer
 address 0.0.0.0 0.0.0.0
 pre-shared-key cisco
crypto ikev2 profile prof1
 authentication remote pre-share
 authentication local pre-share
 match identity remote address 0.0.0.0
 match address local interface loopback1
 keyring local keyring1
 no shutdown
Virtual-Template 1
class-map type inspect match-any cmap
 match protocol icmp
 match protocol tcp
 match protocol udp
policy-map type inspect pmap
 class type inspect cmap
 inspect
 class class-default
 drop log
zone security in
zone security zone1
zone-pair security zp1 source zone1 destination in
 service-policy type inspect pmap
crypto ipsec profile ipsec1
 set ikev2-profile prof1
interface Loopback1
 ip address 51.1.1.1 255.255.255.0
interface Gi0/0/0.2
 encapsulation dot1q 2
 ip address 100.1.1.1 255.255.255.0
 zone-member security in
interface Gi0/0/0.3
 encapsulation dot1q 3
```



```
ip address 100.1.2.1 255.255.255.0
zone-member security in
interface Gi0/0/0.4
encapsulation dot1q 4
ip address 100.1.3.1 255.255.255.0
zone-member security in
interface Gi0/0/0.5
encapsulation dot1q 5
ip address 100.1.4.1 255.255.255.0
zone-member security in
interface Gi0/0/0.6
encapsulation dot1q 6
ip address 100.1.5.1 255.255.255.0
zone-member security in
interface Virtual-Templatel type tunnel
ip unnumbered loopback1
zone-member security zone1
tunnel source loopback1
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec profile ipsec1
ip route 60.0.0.0 255.0.0.0 192.168.2.2
```

## 例：別のゾーン内の FlexVPN と DVTI を使用したファイアウォールの設定

次に、FlexVPN およびダイナミック仮想トンネルインターフェイス（DVTI）が別のゾーンに設定されたファイアウォールの例を示します。

```
crypto ikev2 proposal PROP
 encryption 3des
 integrity sha256
 group 5
crypto ikev2 policy POL
 match fvrf any
 proposal PROP
crypto ikev2 keyring keyring1
 peer peer1
 address 0.0.0.0 0.0.0.0
 pre-shared-key cisco1
crypto ikev2 keyring keyring2
 peer peer2
 address 0.0.0.0 0.0.0.0
 pre-shared-key cisco2
crypto ikev2 keyring keyring3
 peer peer3
 address 0.0.0.0 0.0.0.0
 pre-shared-key cisco3
crypto ikev2 keyring keyring4
 peer peer4
 address 0.0.0.0 0.0.0.0
 pre-shared-key cisco4
crypto ikev2 keyring keyring5
 peer peer5
 address 0.0.0.0 0.0.0.0
 pre-shared-key cisco5
crypto ikev2 profile prof1
 authentication remote pre-share
 authentication local pre-share
 match identity remote address 0.0.0.0
 match address local interface loopback1
 keyring local keyring1
```

例：別のゾーン内の FlexVPN と DVTI を使用したファイアウォールの設定

```
no shutdown
Virtual-Template 1
crypto ikev2 profile prof2
authentication remote pre-share
authentication local pre-share
match identity remote address 0.0.0.0
match address local interface loopback2
keyring local keyring2
no shutdown
Virtual-Template 2
crypto ikev2 profile prof3
authentication remote pre-share
authentication local pre-share
match identity remote address 0.0.0.0
match address local interface loopback3
keyring local keyring3
crypto ikev2 profile prof4
authentication remote pre-share
authentication local pre-share
match identity remote address 0.0.0.0
match address local interface loopback4
keyring local keyring4
no shutdown
Virtual-Template 4
crypto ikev2 profile prof5
authentication remote pre-share
authentication local pre-share
match identity remote address 0.0.0.0
match address local interface loopback5
keyring local keyring5
no shutdown
Virtual-Template 5
class-map type inspect match-any cmap
match protocol icmp
match protocol tcp
match protocol udp
policy-map type inspect pmap
class type inspect cmap
inspect
class class-default
drop log
zone security in
zone security zone1
zone security zone2
zone security zone3
zone security zone4
zone security zone5
zone-pair security zp1 source zone1 destination in
service-policy type inspect pmap
zone-pair security zp2 source zone2 destination in
service-policy type inspect pmap
zone-pair security zp3 source zone3 destination in
service-policy type inspect pmap
zone-pair security zp4 source zone4 destination in
service-policy type inspect pmap
zone-pair security zp5 source zone5 destination in
service-policy type inspect pmap
crypto ipsec profile ipsec1
set ikev2-profile prof1
crypto ipsec profile ipsec2
set ikev2-profile prof2
crypto ipsec profile ipsec3
set ikev2-profile prof3
crypto ipsec profile ipsec4
```

```
set ikev2-profile prof4
crypto ipsec profile ipsec5
set ikev2-profile prof5
interface Loopback1
 ip address 50.1.1.1 255.255.255.0
interface Loopback2
 ip address 50.1.2.1 255.255.255.0
interface Loopback3
 ip address 50.1.3.1 255.255.255.0
interface Loopback4
 ip address 50.1.4.1 255.255.255.0
interface Loopback5
 ip address 50.1.5.1 255.255.255.0
interface Gi0/0/0.2
 encapsulation dot1q 2
 ip address 100.1.1.1 255.255.255.0
 zone-member security in
interface Gi0/0/0.3
 encapsulation dot1q 3
 ip address 100.1.2.1 255.255.255.0
 zone-member security in
interface Gi0/0/0.4
 encapsulation dot1q 4
 ip address 100.1.3.1 255.255.255.0
 zone-member security in
interface Gi0/0/0.5
 encapsulation dot1q 5
 ip address 100.1.4.1 255.255.255.0
 zone-member security in
interface Gi0/0/0.6
 encapsulation dot1q 6
 ip address 100.1.5.1 255.255.255.0
 zone-member security in
interface Virtual-Template1 type tunnel
 ip unnumbered loopback1
 zone-member security zone1
 tunnel source loopback1
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile ipsec1
interface Virtual-Template2 type tunnel
 ip unnumbered loopback2
 zone-member security zone2
 tunnel source loopback2
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile ipsec2
interface Virtual-Template3 type tunnel
 ip unnumbered loopback3
 zone-member security zone3
 tunnel source loopback3
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile ipsec3
interface Virtual-Template4 type tunnel
 ip unnumbered loopback4
 zone-member security zone4
 tunnel source loopback4
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile ipsec4
interface Virtual-Template5 type tunnel
 ip unnumbered loopback5
 zone-member security zone5
 tunnel source loopback5
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile ipsec5
ip route 60.0.0.0 255.0.0.0 192.168.2.2
```

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに関する追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
ファイアウォール コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>を使用して無効にすることができます。</p>



## CHAPTER 123

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポート

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールは、IPv4 パケットの高度なトラフィック フィルタリングまたはインスペクションを提供します。IPv6 サポートにより、ゾーンベース ポリシー ファイアウォールは、IPv6 パケットのインスペクションをサポートします。IPv6 サポートの前は、ファイアウォールは IPv4 パケットのインスペクションしかサポートしていませんでした。レイヤ 4 プロトコル、Internet Control Messaging Protocol (ICMP)、TCP、および UDP パケットだけが IPv6 パケット インスペクションの対象です。

このモジュールでは、サポートされるファイアウォール機能と IPv6 パケット インスペクション用のファイアウォールの設定方法について説明します。

- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する制約事項, on page 1653](#)
- [VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する情報, on page 1654](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートの設定方法, on page 1660](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートの設定例, on page 1670](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する追加情報, on page 1672](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する機能情報, on page 1673](#)

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する制約事項

以下の機能がサポートされません。

- アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG)
- ボックスツーボックス ハイアベイラビリティ (HA)
- 分散型サービス妨害攻撃
- ファイアウォール リソース管理

- レイヤ7 インスペクション
- マルチキャスト パケット
- サブスライバ単位のファイアウォールまたはブロードバンド ベース ファイアウォール
- ステートレス ネットワーク アドレス変換 64 (NAT64)
- VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI)
- Wide Area Application Services (WAAS) と Web Cache Communication Protocol (WCCP)

## VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する情報

### ファイアウォール機能の IPv6 サポート

次の表に記載されているファイアウォール機能は、IPv6 パケット インスペクションでサポートされています。

Table 165: IPv6 でサポートされるファイアウォール機能

機能	設定情報
クラス マップ	「ゾーンベース ポリシー ファイアウォール」モジュール。
Internet Control Message Protocol バージョン 6 (ICMPv6)、TCP、および UDP プロトコル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ICMP のファイアウォールステートフルインスペクション」モジュール。</li> <li>• 「ゾーンベース ポリシーファイアウォール」モジュール。</li> </ul>
IP フラグメンテーション	「仮想フラグメンテーション再構成」モジュール。
シャーシ間 HA	—
エラー メッセージのロギング	「ゾーンベース ポリシー ファイアウォール」モジュール。
ネストされたクラス マップ	「ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップのサポート」モジュール。

機能	設定情報
Out-of-Order パケットの処理	「ゾーンベース ポリシー ファイアウォール」モジュールの「Out-of-Order パケット処理」の項。
パラメータ マップ (インスペクションタイプパラメータマップの場合、パラメータマップで定義されたセッション数は、IPv4 セッションと IPv6 セッションの合計数に適用されます)	「ゾーンベース ポリシー ファイアウォール」モジュール。
ポリシー マップ	「ゾーンベース ポリシー ファイアウォール」モジュール。
ポートとアプリケーションのマッピング	—
ステートフル ネットワーク アドレス変換 64 (NAT64)	『 <i>IP Addressing: NAT Configuration Guide</i> 』の「 <i>Stateful Network Address Translation 64</i> 」モジュール。
TCP SYN Cookie	「ファイアウォール <i>TCP SYN Cookie</i> の設定」モジュール。
VPNルーティングおよび転送 (VRF) 対応ファイアウォール	「VRF 対応 <i>Cisco IOS XE</i> ファイアウォール」モジュール。
仮想フラグメンテーション再構成 (VFR)	「仮想フラグメンテーション再構成」モジュール。
ゾーン、デフォルトゾーン、ゾーン ペア	「ゾーンベース ポリシー ファイアウォール」モジュール。

## デュアルスタック ファイアウォール

デュアルスタック ファイアウォールは、IPv4 および IPv6 トラフィックを同時に実行するファイアウォールです。デュアルスタック ファイアウォールは、次のシナリオで設定できます。

- IPv4 トラフィックを実行する 1 つのファイアウォールゾーン、および IPv6 トラフィックを実行する別のファイアウォールゾーン。
- IPv4 と IPv6 が、ステートフル ネットワーク アドレス変換 64 (NAT64) を使用して導入している場合に共存しています。このシナリオでは、トラフィックは IPv6 から IPv4 および IPv4 から IPv6 の方向で流れます。
- 同じゾーン ペアで IPv4 および IPv6 トラフィックの両方が許可されています。

## IPv6 ヘッダーのフィールドのファイアウォール アクション

次の表で、IPv6 ヘッダーのフィールドのファイアウォール アクションを（IPv6 ヘッダーで使用可能な順に）説明します。

Table 166: IPv6 ヘッダーのフィールド

IPv6 ヘッダーのフィールド	IPv6 ヘッダーのフィールドの詳細	ファイアウォール アクション
バージョン	IPv4 パケット ヘッダーのバージョン フィールドに該当しますが、IPv4 で示される数字 4 の代わりに、IPv6 では数字 6 が示されます。	IPv6 である必要があります。
トラフィック クラス	IPv4 パケット ヘッダーのタイプ オブ サービス (ToS) フィールドと同様です。トラフィック クラス フィールドは、差別化されたサービスで使用されるトラフィック クラスのタグをパケットに付けます。	検査されません。
フロー ラベル	IPv6 パケットヘッダーの新しいフィールドです。フロー ラベル フィールドは、ネットワーク層でパケットを差別化する特定のフローのタグをパケットに付けます。	検査されません。
ペイロード長	IPv4 パケットヘッダーの合計長フィールドと同様です。ペイロード長フィールドは、パケットのデータ部分の合計長を示します。	ファイアウォールは、いくつかのレイヤ4プロトコル（ICMP、TCPなど）の長さを計算するためにこのフィールドを限定ベースで使用します。
次ヘッダー長	IPv4 パケット ヘッダーの プロトコル フィールドと同様です。次ヘッダー長フィールドの値により、基本 IPv6 ヘッダーに続く情報のタイプが決まります。基本 IPv6 ヘッダーの後ろに続く情報のタイプは、TCP や UDP パケットなどのトランスポート層パケット、または拡張ヘッダーです。	ファイアウォールは、セッションを作成するためにこのフィールドを認識する必要があります。



IPv6 ヘッダーのフィールド	IPv6 ヘッダーのフィールドの詳細	ファイアウォール アクション
ホップ リミット	IPv4 パケット ヘッダーの存続可能時間 (TTL) フィールドと同様です。ホップ リミット フィールドの値は、IPv6 パケットが無効になるまでに通過できるデバイスの最大数を指定します。各デバイスを通過するたびに、ホップ リミットの値が1 ずつ減少します。IPv6 ヘッダーにはチェックサムがないため、デバイスはチェックサムを計算し直すことなく、値を減少できます。	検査されません。

## IPv6 ファイアウォール セッション

トラフィックのステートフルインスペクションを実行するために、ファイアウォールは、トラフィック フローごとに内部セッションを作成します。セッション情報には、送信元と宛先の IP アドレス、送信元と宛先の TCP/UDP ポートまたは ICMP タイプ、レイヤ 4 プロトコル タイプ (ICMP、TCP、UDP)、および VPN ルーティングおよび転送 (VRF) ID が含まれます。IPv6 ファイアウォールの場合、送信元アドレスと宛先アドレスには IPv6 アドレスの 128 ビットが含まれます。

ファイアウォールは最初のパケットを受信した後、そのパケットが設定済みポリシーに一致すると、TCP セッションを作成します。ファイアウォールは TCP シーケンス番号をトラッキングし、設定されている範囲内にはないシーケンス番号を持つ TCP パケットをドロップします。セッションが削除されるのは、TCP アイドル タイマーが満了した時点、または適切なシーケンス番号を持つリセット (RST) パケットあるいは終了確認 (FIN-ACK) パケットを受信した時点です。

ファイアウォールは、設定済みポリシーに一致する最初の UDP パケットを受信すると UDP セッションを作成し、UDP アイドル タイマーが満了した時点でセッションを削除します。マルチキャスト IPv6 アドレスまたは不明な IPv6 アドレスが設定された IPv6 パケットに対しては、ファイアウォールは TCP セッションも UDP セッションも作成しません。

## フラグメント化されたパケットのファイアウォールインスペクション

ファイアウォールは、フラグメント化された IPv6 パケットのインスペクションをサポートしています。IP フラグメンテーションは、単一の IP データグラムを小さなサイズの複数のパケットに分割するプロセスです。IPv6 では、エンド ノードはパス最大伝送ユニット (MTU) 探索を実行して、送信されるパケットの最大サイズを判別し、MTU サイズよりも大きいパケットについて、フラグメント拡張ヘッダーが含まれる IPv6 パケットを生成します。

ファイアウォールは、仮想フラグメンテーション再構成 (VFR) を使用して、フラグメント化されたパケットを検査します。VFR は、順序が正しくないフラグメントのフラグメント拡張

ヘッダーを調べ、インスペクションのためにそれらを正しい順序に配置します。インターフェイスをゾーンに追加してインターフェイス上のファイアウォールを有効にすると、VFRは同じインターフェイス上で自動的に設定されます。明示的にVFRを無効にした場合、ファイアウォールはレイヤ4ヘッダーを持つ最初のフラグメントだけを検査し、残りのフラグメントは検査なしで渡します。

フラグメント拡張ヘッダーは、次のヘッダー順で表示されます。

- IPv6 ヘッダー
- ホップバイホップ オプション ヘッダー
- 宛先オプション ヘッダー
- ルーティング ヘッダー
- フラグメント拡張ヘッダー

Cisco Express Forwarding は、フラグメント拡張ヘッダーが含まれている IPv6 パケットを検査することで、ファイアウォールがパケットを処理する前にさらにチェックする必要がないようにします。

## ICMPv6 メッセージ

IPv6 では ICMPv6 を使用して診断機能、エラー レポート、およびネイバー探索を実行します。ICMPv6 メッセージは情報メッセージとエラー メッセージにグループ化されます。

ファイアウォールで検査するのは、次の ICMPv6 メッセージのみです。

- ECHO REQUEST
- ECHO REPLY
- DESTINATION UNREACHABLE
- PACKET TOO BIG
- PARAMETER PROBLEM
- TIME EXCEEDED



---

**Note** ネイバー探索パケットは渡されて、ファイアウォールでは検査されません。

---

## ステートフル NAT64 のファイアウォール サポート

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでは、ステートフル NAT64 をサポートしています。ステートフル NAT64 は、IPv6 パケットを IPv4 パケットに（またはその逆に）変換します。ファイアウォールとステートフル NAT64 の両方をルータ上に設定すると、ファイアウォールはアクセス コントロール リスト (ACL) に含まれる IP アドレスを使用してパケットをフィル

タリングします。ただし、ACLにIPv4アドレスとIPv6アドレスを混在させることはできません。ファイアウォールとステートフルNAT64を連動させるには、先にIPv6 ACLを使用して、IPv4アドレスをIPv6 ACLに組み込む必要があります。



**Note** ステートフルNAT64はVRFに対応していないため、ファイアウォールとステートフルNAT64設定とをあわせてVRFを使用することはできません。

ファイアウォールのクラス マップでACLを使用する場合、ACLではホスト上の実際のIPアドレスを使用してパケットフローを設定する必要があります。送信元アドレスまたは宛先アドレスのみが必要な場合は、クラス マップ ACLでIPv4アドレスまたはIPv6アドレスのいずれかを使用します。送信元アドレスと宛先アドレスの両方に基づいてパケットフローをフィルタリングするには、IPv6アドレスを使用すること、およびACLにIPv4アドレスを組み込むことが必要です。ACLではIPv6アドレスを使用してステートフルNAT64パケットをフィルタリングする必要があります。



**Note** ファイアウォールを使用したステートレス NAT64はサポートされていません。

## ポートとアプリケーションのマッピング

ポートとアプリケーションのマッピング (PAM) を使用して、ネットワーク サービスとアプリケーション用のTCPまたはUDPポート番号をカスタマイズできます。ファイアウォールはPAMを使用して、TCPまたはUDPポート番号を特定のネットワーク サービスまたはアプリケーションに関連付けます。ポート番号をネットワーク サービスまたはアプリケーションにマッピングすることで、管理者は定義されていないカスタム設定に対して既知のポートを使用することによりファイアウォール インспекションを適用できます。PAMを設定するには、`ip port-map` コマンドを使用します。

## ハイ アベイラビリティおよび ISSU

IPv6 ファイアウォールはボックス内 HA をサポートしています。ファイアウォール セッションはスイッチオーバー用にスタンバイ Embedded Services Processor (ESP) と同期されます。In Service Software Upgrade (ISSU) も IPv6 ファイアウォールでサポートされています。

## トラフィック クラスの pass アクション

ファイアウォールでは、トラフィック クラスが一連のパケットをその内容に基づいて識別します。クラスを定義し、識別されたトラフィックにポリシーを反映するアクションを適用できます。アクションは、トラフィック クラスに関連付けられる特定の機能です。クラスに対して、inspect、drop、および pass アクションを設定できます。

`pass` アクションは、トラフィックをあるゾーンから別のゾーンに渡します。`pass` アクションを設定すると、ファイアウォールはトラフィックを検査せずに渡します。IPv6 ファイアウォールでは、ゾーンペアと `pass` アクションを設定したポリシーマップを定義することにより、リターントラフィックに対して明示的に `pass` アクションを設定する必要があります。

次の例に、IPv6 トラフィックのポリシー マップ (`outside-to-inside-policy` および `inside-to-outside-policy`) で `pass` アクションを設定する方法を示します。

```
policy-map type inspect outside-to-inside-policy
  class type inspect ipv6-class
    pass (Defines pass action for the ipv6-class from the outside to the inside)
  !
  class class-default
  !
policy-map type inspect inside-to-outside-policy
  class type inspect ipv4-class
    inspect (Defines inspect action for ipv4-class)
  class type inspect v6_class
    pass (Defines pass action for ipv6-class from the inside to the outside)
  class class-default
  !
  !
zone security inside
  !
zone security outside
  !
zone-pair security in-out source inside destination outside
  service-policy type inspect inside-to-outside-policy
  !
zone-pair security out-in source outside destination inside
  service-policy type inspect outside-to-inside-policy
```

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートの設定方法

### IPv6 ファイアウォールの設定

IPv4 ファイアウォールと IPv6 ファイアウォールを設定する手順は同じです。IPv6 ファイアウォールを設定するには、IPv6 アドレス ファミリーだけがマッチングされるようにクラス マップを設定する必要があります。

**match protocol** コマンドは IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方に適用され、IPv4 ポリシーと IPv6 ポリシーのどちらにもこれを含めることができます。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **vrf-definition** *vrf-name*
4. **address-family ipv6**
5. **exit-address-family**

6. **exit**
7. **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
8. **sessions maximum** セッション
9. **exit**
10. **ipv6 unicast-routing**
11. **ip port-map** *appl-name* **port** *port-num* **list** *list-name*
12. **ipv6 access-list** *access-list-name*
13. **permit ipv6 any any**
14. **exit**
15. **class-map type inspect match-all** *class-map-name*
16. **match access-group name** *access-group-name*
17. **match protocol** *protocol-name*
18. **exit**
19. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
20. **class type inspect** *class-map-name*
21. **inspect** [*parameter-map-name*]
22. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを開始します。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>vrf-definition</b> <i>vrf-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# vrf-definition VRF1	Virtual Routing and Forwarding (VRF) ルーティング テーブルインスタンスを設定し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>address-family ipv6</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# address-family ipv6	VRF アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始して、標準 IPv6 アドレス プレフィックスを伝送するセッションを設定します。
ステップ 5	<b>exit-address-family</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf-af)# exit-address-family	VRF アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを終了し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# exit	VRF コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>parameter-map type inspect parameter-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect ipv6-param-map	ファイアウォールのグローバル検査タイプパラメータマップを、検査アクションに関連するしきい値、タイムアウト、その他のパラメータに接続できるようにし、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>sessions maximum セッション</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# sessions maximum 10000	ゾーン ペア上に存在可能な最大許容セッション数を設定します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト データグラムの転送を有効にします。
ステップ 11	<b>ip port-map appl-name port port-num list list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip port-map ftp port 8090 list ipv6-acl	IPv6 アクセス コントロール リスト (ACL) を使用してポート/アプリケーション間マッピング (PAM) を確立します。
ステップ 12	<b>ipv6 access-list access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 access-list ipv6-acl	IPv6 アクセスリストを定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>permit ipv6 any any</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 any any	IPv6 アクセス リストに許可条件を設定します。
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# exit	IPv6 アクセスリスト コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 15	<b>class-map type inspect match-all class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-all ipv6-class	アプリケーション固有の検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラス マップ コンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 16	<b>match access-group name</b> <i>access-group-name</i> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match access-group name ipv6-acl	指定した ACL をベースにクラス マップに対して一致基準を設定します。
ステップ 17	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol tcp	指定されたプロトコルに基づき、クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 18	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラスマップ コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 19	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect ipv6-policy	プロトコル固有の検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 20	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect ipv6-class	アクションの実行対象となるトラフィック クラスを指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 21	<b>inspect</b> [ <i>parameter-map-name</i> ] <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect ipv6-param-map	ステートフルパケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 22	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security** *zone-name*
4. **exit**
5. **zone security** *zone-name*
6. **exit**
7. **zone-pair security** *zone-pair-name* [**source** *source-zone* **destination** *destination-zone*]
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **exit**

10. **interface** *type number*
11. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix-length*
12. **encapsulation dot1q** *vlan-id*
13. **zone-member security** *zone-name*
14. **end**
15. **show policy-map type inspect zone-pair sessions**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security z1	セキュリティ ゾーンを作成し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>zone security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security z2	セキュリティ ゾーンを作成し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> [ <b>source</b> <i>source-zone</i> <b>destination</b> <i>destination-zone</i> ] <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security in-2-out source z1 destination z2	ゾーンペアを作成し、セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect ipv6-policy	ポリシー マップをトップレベル ポリシーに関連付けます。



	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0.1	サブインターフェイスを設定し、サブインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>ipv6 address ipv6-address/prefix-length</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# ipv6 address 2001:DB8:2222:7272::72/64	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスまたはサブインターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 12	<b>encapsulation dot1q vlan-id</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# encapsulation dot1q 2	インターフェイスで使用するカプセル化方式を設定します。
ステップ 13	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# zone member security z1	インターフェイスをゾーン メンバーとして設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>zone-name</i> 引数の場合、<b>zone security</b> コマンドを使用して設定済みのゾーンの1つを設定する必要があります。</li> <li>• インターフェイスがセキュリティ ゾーンにある場合、そのインターフェイスを通るトラフィックはどちらの方向でもすべて（デバイス宛またはデバイス発のトラフィックを除く）はデフォルトでドロップされます。トラフィックがゾーン メンバーであるインターフェイスを通過するには、そのゾーンをポリシーの適用先のゾーン ペアの一部にする必要があります。ポリシーの <b>inspect</b> または <b>pass</b> アクションによってトラフィックが許可される場合は、そのインターフェイスを通じてトラフィックが流れます。</li> </ul>
ステップ 14	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# end	サブインターフェイスコンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 15	<b>show policy-map type inspect zone-pair sessions</b> <b>Example:</b> Device# show policy-map type inspect zone-pair sessions	ポリシー マップは指定されたゾーン ペアに適用されるので、作成されたステートフル パケット インスタレーション セッションを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドの出力は、IPv4 と IPv6 の両方のファイアウォール セッションを表示します。</li> </ul>

## 例

次に示す **show policy-map type inspect zone-pair sessions** コマンドの出力例は、IPv6 アドレスから IPv4 アドレスへ（またはその逆）の packets 変換を表示します。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair sessions
```

```
Zone-pair: in-to-out
Service-policy inspect : in-to-out

Class-map: ipv6-class (match-any)
 Match: protocol ftp
 Match: protocol tcp
 Match: protocol udp
 Inspect
  Established Sessions
   Session 110D930C [2001:DB8:1::103]:32847=>(209.165.201.2:21) ftp SIS_OPEN
     Created 00:00:00, Last heard 00:00:00
     Bytes sent (initiator:responder) [37:84]

  Half-open Sessions
   Session 110D930C [2001:DB8:1::104]:32848=>(209.165.201.2:21) ftp SIS_OPENING
     Created 00:00:00, Last heard 00:00:00
     Bytes sent (initiator:responder) [0:0]
```

次に示す **show policy-map type inspect zone-pair sessions** コマンドの出力例は、IPv6 アドレスから IPv6 アドレスへの packets 変換を表示します。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair sessions
```

```
Zone-pair: in-to-out
Service-policy inspect : in-to-out

Class-map: ipv6-class (match-any)
 Match: protocol ftp
 Match: protocol tcp
 Match: protocol udp
 Inspect
  Established Sessions
   Session 110D930C [2001:DB8:1::103]:63=>[2001:DB8:2::102]:63 udp SIS_OPEN
     Created 00:00:02, Last heard 00:00:01
     Bytes sent (initiator:responder) [162:0]
```

## IPv6 ファイアウォールおよびステートフル NAT64 ポートアドレス変換の設定

次の作業では、ステートフル NAT64 のダイナミック ポートアドレス変換 (PAT) を使用した IPv6 ファイアウォールを設定します。

PAT 設定では、複数の IPv6 ホストを、使用可能な IPv4 アドレス プールに先着順でマッピングします。ダイナミック PAT 設定は、IPv4 インターネット接続を提供しながら、少ない IPv4 アドレス空間を節約するのに直接役立ちます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 unicast-routing**
4. **interface** *type number*
5. **no ip address**
6. **zone-member security** *zone-name*
7. **negotiation auto**
8. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix-length*
9. **ipv6 enable**
10. **nat64 enable**
11. **exit**
12. **interface** *type number*
13. **ip address** *ip-address mask*
14. **zone member security** *zone-name*
15. **negotiation auto**
16. **nat64 enable**
17. **exit**
18. **ipv6 access-list** *access-list-name*
19. **permit ipv6 host** *source-ipv6-address* **host** *destination-ipv6-address*
20. **exit**
21. **ipv6 route** *ipv6-prefixlength interface-type interface-number*
22. **ipv6 neighbor** *ipv6-address interface-type interface-number hardware-address*
23. **nat64 v4 pool** *pool-name start-ip-address end-ip-address*
24. **nat64 v6v4 list** *access-list-name* **pool** *pool-name* **overload**
25. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト データグラムの転送を有効にします。
ステップ 4	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>no ip address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# no ip address	IP アドレスを削除するか、IP 処理をディセーブルにします。
ステップ 6	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone member security z1	インターフェイスをセキュリティ ゾーンにアタッチします。
ステップ 7	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。
ステップ 8	<b>ipv6 address ipv6-address/prefix-length</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:1::2/96	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 9	<b>ipv6 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 enable	明示的な IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 10	<b>nat64 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# nat64 enable	インターフェイスで NAT64 をイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 12	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>ip address ip-address mask</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 209.165.201.25 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 14	<b>zone member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone member security z2	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。
ステップ 15	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。
ステップ 16	<b>nat64 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# nat64 enable	インターフェイスで NAT64 をイネーブルにします。
ステップ 17	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 18	<b>ipv6 access-list access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 access-list ipv6-ipv4-pair	IPv6 アクセスリストを定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 19	<b>permit ipv6 host source-ipv6-address host destination-ipv6-address</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 host 2001:DB8:1::2 host 209.165:201.25	IPv6 アクセス リスト、送信元 IPv6 ホストアドレス、および宛先 IPv6 ホストアドレスの許可条件を設定します。
ステップ 20	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# exit	IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 21	<b>ipv6 route ipv6-prefix/length interface-type interface-number</b>	スタティック IPv6 ルートを確立します。

	Command or Action	Purpose
	<b>Example:</b> Device(config)# ipv6 route 2001:DB8:1::2/96 gigabitethernet 0/0/0	
ステップ 22	<b>ipv6 neighbor ipv6-address interface-type interface-number hardware-address</b>  <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 neighbor 2001:DB8:1::2/96 gigabitethernet 0/0/0 0000.29f1.4841	IPv6 ネイバー探索キャッシュのスタティックエントリを設定します。
ステップ 23	<b>nat64 v4 pool pool-name start-ip-address end-ip-address</b>  <b>Example:</b> Device(config)# nat64 v4 pool pool1 209.165.201.25 209.165.201.125	ステートフル NAT64 IPv4 アドレスプールを定義します。
ステップ 24	<b>nat64 v6v4 list access-list-name pool pool-name overload</b>  <b>Example:</b> Device(config)# nat64 v6v4 list nat64-ipv6-any pool pool1 overload	NAT64 PAT または過負荷アドレス変換をイネーブにします。
ステップ 25	<b>end</b>  <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートの設定例

### 例：IPv6 ファイアウォールの設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# vrf-definition VRF1
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect ipv6-param-map
Device(config-profile)# sessions maximum 10000
Device(config-profile)# exit
Device(config)# ipv6 unicast-routing
Device(config)# ip port-map ftp port 8090 list ipv6-acl
Device(config)# ipv6 access-list ipv6-acl
Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 any any
Device(config-ipv6-acl)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-all ipv6-class
Device(config-cmap)# match access-group name ipv6-acl

```

```
Device(config-cmap)# match protocol tcp
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect ipv6-policy
Device(config-pmap)# class type inspect ipv6-class
Device(config-pmap-c)# inspect ipv6-param-map
Device(config-pmap-c)# end
```

## 例：ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用

```
Device# configure terminal
Device(config)# zone security z1
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security z2
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security in-to-out source z1 destination z2
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect ipv6-policy
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0.1
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:2222:7272::72/64
Device(config-if)# encapsulation dot1q 2
Device(config-if)# zone member security z1
Device(config-if)# end
```

## 例：IPv6 ファイアウォールとステートフル NAT64 ポートアドレス変換の設定

```
configure terminal
ipv6 unicast-routing
interface gigabitethernet 0/0/0
no ip address
zone member security z1
negotiation auto
ipv6 address 2001:DB8:1::2/96
ipv6 enable
nat64 enable
!
interface gigabitethernet 0/0/1
ip address 209.165.201.25 255.255.255.0
zone member security z2
negotiation auto
nat64 enable
!
ipv6 access-list ipv6-ipv4-pair
permit ipv6 host 2001:DB8:1::2 host 209.165:201.25
!
ipv6 route 2001:DB8:1::2/96 gigabitethernet 0/0/0
ipv6 neighbor 2001:DB8:1::2/96 gigabitethernet 0/0/0 0000.29f1.4841
nat64 v4 pool pool1 209.165.201.25 209.165.201.125
nat64 v6v4 list nat64-ipv6-any pool pool1 overload
```

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Master Commands List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
ステートフル NAT64	『Stateful Network Address Translation 64』

## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2460	『Internet Protocol, Version 6 (IPv6) Specification』
RFC 2473	『Generic Packet Tunneling in IPv6 Specification』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>



## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 167:** ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの IPv6 サポート	Cisco IOS XE リリース 3.6S	ゾーンベース ポリシー ファイアウォールは、IPv6 パケットのインスペクションをサポートします。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ip port-map</b> および <b>show policy-map type inspect zone-pair</b> 。





## CHAPTER 124

# VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール

サービス プロバイダー (SP) または大企業のエッジルータで VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールが設定されている場合は、Cisco IOS XE ファイアウォール機能が VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インターフェイスに適用されます。SP は中小企業市場にマネージドサービスを提供しています。

VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールは、さまざまなプロトコルの VRF-Lite (別名 Multi-VRF CE) と Application Inspection and Control (AIC) をサポートします。

VRF 対応ファイアウォールは、さまざまなプロトコルの VRF-Lite (別名 Multi-VRF CE) と Application Inspection and Control (AIC) をサポートします。



**Note** Cisco IOS XE リリースは、コンテキストベースのアクセス コントロール (CBAC) ファイアウォールをサポートしません。

- [VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの前提条件, on page 1675](#)
- [VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する制約事項, on page 1676](#)
- [VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールについて, on page 1676](#)
- [VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの設定方法, on page 1686](#)
- [VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの設定例, on page 1692](#)
- [VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する追加情報, on page 1693](#)
- [VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する機能情報, on page 1694](#)
- [用語集, on page 1694](#)

## VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの前提条件

- Cisco IOS XE ファイアウォールについて理解します。
- VRF を設定します。

## VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する制約事項

- 2つのVPNネットワークに重複するアドレスがある場合、VRF対応ファイアウォールをサポートするには、VRF対応ネットワークアドレス変換(NAT)が必要です。NATはVRF間ルーティングはサポートしません。VRF間ルーティング機能向けのVRF対応ソフトウェアインフラストラクチャ(VASI)を使用できます。
- 複数のVPNに属するクリプトトンネルが単一のインターフェイスで終端する場合、VRFごとのファイアウォールポリシーを適用できません。
- VASIインターフェイスのサイト間クリプトマップは、次のプラットフォームではサポートされていません。
  - Cisco 1000 シリーズ サービス統合型ルータ
  - Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータ
  - Cisco 1000v クラウドサービスルータ
- 同じゾーンは、異なる複数のVRFに設定されたインターフェイスに適用できません。

## VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールについて

### VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール

VRF対応ファイアウォールは、VRF内で送受信されるIPパケットを検査します。VRFでは、ルーティングテーブルの複数のインスタンスを単一のルータ内で共存させることができます。これにより、VPNの分離が可能になり、IPアドレス空間の独立した重複が実現されます。VRFでは、あるサービスプロバイダーの顧客からのトラフィックを他のサービスプロバイダーの顧客から分離することができます。Cisco IOS XE VRFサポートは、インターフェイス、ルーティングテーブル、および転送テーブルの個別のセットで構成されるそれぞれのルーティングドメインを使って、ルータを複数のルーティングドメインに分割します。各ルーティングドメインは、テーブルIDと呼ばれる固有識別子によって参照されます。グローバルルーティングドメインとデフォルトルーティングドメイン(どのVRFにも関連付けられていない)は0のテーブルIDで解決されます。VRFは重複するIPアドレス空間をサポートするため、相互に重ならないVRFからのトラフィックに同じIPアドレスを割り当てることができます。

VRF対応Cisco IOS XEファイアウォールは次のようなメリットを提供します。

- スケーラブルな展開：あらゆるネットワークの帯域幅とパフォーマンスの要件を満たすようにスケールします。
- VPNサポート：Cisco IOS XE IPSecとその他のソフトウェアベースのテクノロジー(Layer 2 Tunneling Protocol (L2TP) トンネリングやQuality of Service (QoS) など)に基づく、すべてが揃ったVPNソリューションを提供します。

- AIC サポート：Internet Message Access Protocol (IMAP)、Post Office Protocol 3 (POP3)、Simple Mail Transfer Protocol (SMTP)、および Sun リモート プロシージャ コール (SUN RPC) 用のポリシー マップを提供します。
- ユーザは VRF 単位でファイアウォールを設定できます。ファイアウォールは、VRF 内で送受信した IP パケットを検査します。また、2つの異なる VRF (相互に重なりのある VRF) 間のトラフィックも検査します。
- SP は、プロバイダー エッジ (PE) ルータにファイアウォールを展開できます。
- 重複する IP アドレス空間をサポートするため、相互に重なりのない VRF のトラフィックが同じ IP アドレスを持つことができます。
- VRF (グローバルではない) ファイアウォールコマンドパラメータとサービス妨害 (DoS) パラメータをサポートするため、VRF 対応ファイアウォールは、さまざまな VPN 顧客に割り当てられた複数のインスタンス (VRF インスタンスを含む) として実行できます。
- VRFID を含む高速ロギング (HSL) メッセージを生成します。ただし、これらのメッセージは 1つのコレクタによって収集されます。

VRF 対応ファイアウォールを使用すれば、ファイアウォールセッションの数を制限することができます。ファイアウォールセッションが制限されていない場合は、複数の VRF でルータリソースを共有することが困難になります。これは、1つの VRF がリソースのほとんどを消費して、他の VRF のリソースが足りなくなることで、他の VRF でサービス妨害 (DoS) が発生する可能性があるためです。



**Note** Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでは、ファイアウォールが最大 4000 の VRF をサポートします。

## アドレス空間の重複

VRF はデバイスを複数のルーティング ドメインに分割します。これらの各ルーティング ドメインには、インターフェイスおよびルーティング テーブルの固有のセットが含まれています。ルーティング テーブルは、VRF ごとの一意のテーブル ID を使用して参照されます。ゼロは、VPN ルーティングおよび転送 (VRF) に関連付けられていないデフォルトのグローバル ルーティング テーブル ID です。

交差しない VRF では、重複するアドレス空間を使用できます (つまり、ある VRF の IP アドレスが他の VRF に含まれることがあります)。

## VRF

VPN ルーティングおよび転送 (VRF) により、ルーティング テーブルの複数のインスタンスが同じデバイス内に共存できます。VRF はプロバイダー エッジ (PE) デバイス内に VRF テーブルのテンプレートを含みます。

通常、アドレスの重複は、カスタマー ネットワークでプライベート IP アドレスを使用していることから発生します。アドレスの重複は、ピアツーピア (P2P) VPN の実装を展開するうえで主要な障害物の1つです。重複アドレスの問題を解消するために、マルチプロトコラベルスイッチング (MPLS) VPN テクノロジーを使用できます。

各 VPN は、デバイスに独自のルーティングおよびフォワーディングテーブルがあるため、VPN に属するすべてのカスタマーまたはサイトには、そのテーブルに含まれるルートセットに対してのみアクセス権があります。そのため、MPLS VPN ネットワークの PE デバイスには、多数の VPN 別のルーティングテーブルと、サービスプロバイダー (SP) ネットワーク内の他のデバイスに到達するために使用される 1 つのグローバルルーティングテーブルが含まれます。事実上、数多くの仮想デバイスが単一の物理デバイスに作成されます。

## VRF-Lite

MPLS 対応ファイアウォールを使用しない VRF とも呼ばれる VRF-Lite 対応ファイアウォール機能は、ファイアウォールゾーンを非 MPLS 対応 VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インターフェイスに適用できるようにします。

VRF-Lite 対応ファイアウォール機能を使用すれば、サービスプロバイダー (SP) は複数の VPN をサポートし、それらの VPN の間で IP アドレスを重複させることが可能です。VRF-lite は、入力インターフェイスを使用して異なる VPN のルートを区別し、1 つまたは複数のレイヤ 3 インターフェイスを各 VRF に関連付けることで仮想パケット転送テーブルを編成します。VRF には、イーサネットポートなどの物理インターフェイス、または VLAN スイッチ仮想インターフェイス (SVI) などの論理インターフェイスを使用できます。ただし、1 つのレイヤ 3 インターフェイスは同時に複数の VRF に所属できません。



**Note** すべての VRF-Lite インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスにする必要があります。

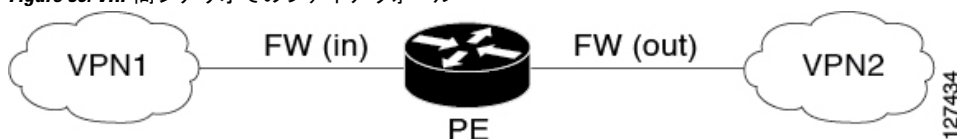
VRF-Lite には、次のデバイスが含まれます。

- カスタマー エッジ (CE) デバイスは、データリンクによる SP ネットワークへのアクセスを顧客に提供します。CE デバイスは、サイトのローカルルートをプロバイダーエッジ (PE) デバイスにアドバタイズして、PE デバイスからリモート VPN ルートに関する情報を入手します。
- PE デバイスは、スタティックルーティングまたはルーティングプロトコル (Border Gateway Protocol (BGP)、Routing Information Protocol バージョン 1 (RIPv1)、RIPv2 など) を使用して、CE デバイスとルーティング情報を交換します。
- PE デバイス (またはコア デバイス) は、CE デバイスに接続されていない SP ネットワーク内の任意のデバイスです。
- PE デバイスは、直接接続された VPN に関する VPN ルートのみを維持する必要があるだけで、すべての SP VPN ルートを維持する必要はありません。各 PE デバイスは、直接接続しているサイトごとに VRF を維持します。すべてのサイトが同じ VPN に属している場合は、PE デバイス上の複数のインターフェイスを 1 つの VRF に関連付けることができます。

す。各 VPN は、指定された VRF にマッピングされます。CE デバイスからローカル VPN ルートを学習した後、PE デバイスは、内部 BGP (iBGP) を使用して他の PE デバイスと VPN ルーティング情報を交換します。

VRF-Lite を使用すると、複数の顧客が 1 つの CE デバイスを共有できます。その場合は、CE デバイスと PE デバイス間で 1 つの物理リンクのみが使用されます。共有 CE デバイスは、顧客ごとに別々の VRF テーブルを維持し、独自のルーティング テーブルに基づいて、顧客ごとにパケットをスイッチングまたはルーティングします。VRF-Lite は限定された PE デバイスの機能を CE デバイスに拡張して、個別の VRF テーブルを維持する機能を提供し、VPN のプライバシーとセキュリティをブランチ オフィスまで拡張します。

Figure 56: VRF間シナリオでのファイアウォール



## MPLS VPN

マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) VPN 機能を使用すると、サービス プロバイダー (SP) のネットワーク全体で複数のサイトを透過的に相互接続できます。1 つの SP ネットワークで、複数の IP VPN をサポートできます。VPN ユーザから見ると、各 VPN はその他すべてのネットワークとは隔離されたプライベート ネットワークです。1 つの VPN 内では、各拠点は同一 VPN 内のいずれの拠点にも IP パケットを送信できます。

各 VPN は、1 つ以上の VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスに関連付けられています。VRF は、1 つの IP ルーティング テーブル、派生した 1 つの Cisco Express Forwarding (CEF) テーブル、およびそのフォワーディング テーブルを使用する一連のインターフェイスで構成されます。

デバイスは、各 VRF に対し別々のルーティングおよび Cisco Express Forwarding テーブルを保持します。これにより、情報が VPN 外に送信されることが回避でき、重複 IP アドレスの問題を起すことなく同一のサブネットが複数の VPN で使用可能になります。

マルチプロトコル BGP (MP-BGP) を使用しているデバイスは、MP-BGP 拡張コミュニティを使用して VPN のルーティング情報を配布します。

## VRF 対応 NAT

ネットワーク アドレス変換 (NAT) を使用すると、なんらかの単一のデバイスが、インターネット (またはパブリック ネットワーク) とローカル (またはプライベート) ネットワーク間でエージェントとして機能できます。NAT システムは多様なレベルのセキュリティ機能を提供できますが、主な目的は、アドレス空間を節約することです。

組織が NAT を使用すると、既存のネットワークを持っていてインターネットにアクセスする必要がある場合に、IP アドレスが枯渇する問題を解決できます。ネットワーク インフォメーション センター (NIC) 登録 IP アドレスを所有していないサイトは、取得する必要があります。

す。NAT は、何千もの非公開の内部アドレスを取得しやすいアドレスの範囲に動的にマップすることで、NIC 登録 IP アドレスの懸案事項を排除します。

NAT システムは、攻撃者が以下の情報を特定するのを困難にします。

- ネットワーク上で動作しているシステムの数。
- ネットワーク上で動作しているマシンとオペレーティング システムのタイプ。
- ネットワーク トポロジと配置。

NAT とマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) VPN の統合により、単一のデバイス上で複数の MPLS VPN を連動するように設定することができます。すべての MPLS VPN で同じ IP アドレス方式が使用されている場合でも、NAT で IP トラフィックを受信する MPLS VPN を区別できます。そのため、複数の MPLS VPN ユーザでサービスを共有しながら、各 MPLS VPN を相互に隔離できます。

インターネット接続、ドメイン ネーム サーバ (DNS)、VoIP サービスなどの付加価値サービスを顧客に提供するには、MPLS サービス プロバイダーが NAT を使用する必要があります。NAT は、MPLS VPN 顧客がネットワーク上で重複した IP アドレスを使用できるようにします。

また、NAT は、カスタマーエッジ (CE) デバイスまたはプロバイダーエッジ (PE) デバイスに実装できます。NAT と MPLS VPN の統合機能により、MPLS クラウド内の PE デバイスへの NAT の実装が可能になります。

## VRF 対応 ALG

アプリケーション層ゲートウェイ (ALG) は、アプリケーションパケットのペイロード内の IP アドレス情報を変換するアプリケーションです。ALG は NAT で上書きする必要があるパケットペイロード内のアドレス情報を特定し、その情報を NAT とファイアウォールに提供してデータが正しく流れるようにするための下位フローまたはドアを作成します (データフローの一例は FTP データフローです)。ドアは、特定の基準を満たす着信トラフィックを通過させる一時的な構造です。ドアは、完全な NAT セッション エントリを作成するのに十分な情報が得られなかった場合に作成されます。ドアには、送信元と宛先の IP アドレス、および宛先ポートに関する情報が含まれています。ただし、送信元ポートに関する情報は含まれていません。メディア データが到着すると、送信元ポート情報が知らされ、ドアは実際の NAT セッションに昇格します。

## VRF 認識 IPsec

VRF 対応 IPsec 機能は、IPsec トンネルを Multiprotocol Label Switching (MPLS) VPN にマップします。VRF 対応 IPsec 機能を使用すれば、単一の公開 IP アドレスを使用して、IPsec トンネルを VPN ルーティングおよび転送 (VRF) にマップすることができます。

各 IPsec トンネルは、2 つの VRF ドメインに関連付けられます。外部のカプセル化されたパケットは Front Door VRF (FVRF) という VRF ドメインに属します。内部の保護された IP パケットは、Inside VRF (IVRF) というドメインに属します。つまり、IPsec トンネルのローカ

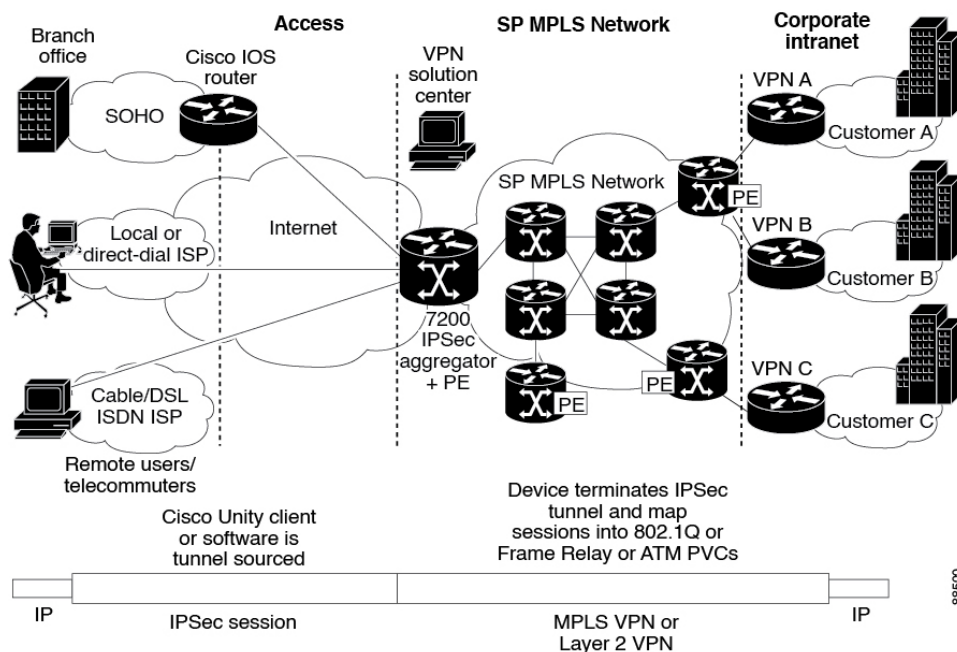


ル エンドポイントは FVRF に属しますが、内部パケットの送信元アドレスと宛先アドレスは IVRF に属すということです。

1 つ以上の IPsec トンネルを、単一のインターフェイス上で終了できます。これらのトンネルのすべての FVRF は同じものであり、そのインターフェイス上で設定されている VRF に設定されます。これらのトンネルの IVRF は異なる可能性があり、クリプト マップ エントリに付加された Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイル内で定義されている VRF に依存します。

次の図に、IPsec と MPLS VPN およびレイヤ 2 VPN 間のシナリオを示します。

Figure 57: IPsec と MPLS VPN およびレイヤ 2 VPN 間



## VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ

VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) を使用すれば、2 つの異なる VRF インスタンスを経由するトラフィックにアクセス コントロール リスト (ACL)、NAT、ポリシング、ゾーンベース ファイアウォールなどのサービスを適用することができます。VASI インターフェイスは、ルート プロセッサ (RP) と転送プロセッサ (FP) の冗長性をサポートします。この機能は、VASI インターフェイス上で IPv4 と IPv6 のユニキャストトラフィックをサポートします。

VASI の主な用途は、VRF のより適切な分離を実現することです。VASI は、共通のインターフェイスを共有している (すべての VRF がインターネット向けの同じインターフェイスを共有している場合など) 他の VRF に影響を与えることなく、各 VRF 固有の機能を VASI インターフェイスに適用できるようにします。ファイアウォールでは、この機能により、ゾーンを VASI に適用することができます。

VASI は、仮想インターフェイスのペアを使用して実装されます。ペア内の各インターフェイスが別々の VRF に関連付けられます。VASI 仮想インターフェイスは、この 2 つの VRF 間で切り替える必要があるすべてのパケットのネクストホップインターフェイスです。VASI インターフェイスは、2 つの VRF 間で NAT をサポートする必要があるフレームワークを提供します。

各インターフェイス ペアは、異なる 2 つの VRF インスタンスに関連付けられています。2 つの仮想インターフェイスのペア (vasileft と vasiright) は、論理的にバックツーバックで接続されており、完全な対称性を有しています。各インターフェイスにはインデックスがあります。ペアリングの関連付けは、vasileft が自動的に vasiright にペア化されるように、2 つのインターフェイス インデックスに基づいて自動的に実行されます。BGP、Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP)、または Open Shortest Path First (OSPF) を使用して、スタティックルーティングとダイナミック ルーティングのどちらかを設定することができます。BGP ダイナミック ルーティング プロトコルの制約事項とコンフィギュレーションが、VASI インターフェイス間の BGP ルーティング コンフィギュレーションに適用されます。VASI の詳細については、「[VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定](#)」機能を参照してください。

## セキュリティ ゾーン

セキュリティ ゾーンとは、ポリシーを適用できるインターフェイスのグループです。

インターフェイスをゾーンにグループ化するには、次の 2 つの手順を実行します。

- インターフェイスを付加できるようにゾーンを作成します。
- インターフェイスを特定のゾーンのメンバーとなるように設定します。

デフォルトでは、トラフィックは、同じゾーンのメンバーであるインターフェイス間を通ります。

インターフェイスがセキュリティゾーンのメンバーである場合、そのインターフェイスと別のゾーンにあるインターフェイスの間を通るすべてのトラフィック (デバイスに送信されるか、デバイスによって開始されたトラフィックを除く) はデフォルトでドロップされます。ゾーンメンバーインターフェイスおよび別のインターフェイスに対する両方向のトラフィックを許可するには、そのゾーンをゾーンペアの一部にして、そのゾーンペアにポリシーを適用する必要があります。ポリシーが inspect または pass アクションによってトラフィックを許可する場合、トラフィックはインターフェイスを通過できます。

ゾーンを設定するときに考慮する基本的な規則を次に示します。

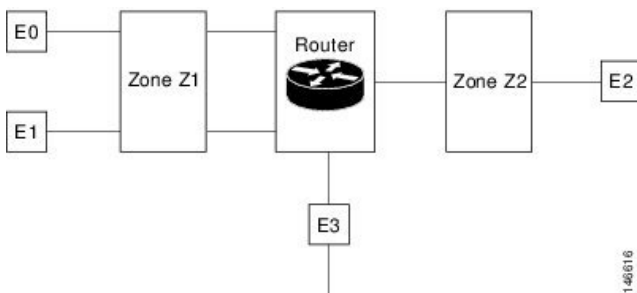
- ゾーンインターフェイスからゾーン外のインターフェイスへのトラフィックまたはゾーン外のインターフェイスからゾーンインターフェイスへのトラフィックは常にドロップされます。ただし、デフォルトゾーンが有効でないことが条件です (デフォルトゾーンはゾーン外のインターフェイスです)。
- 2 つのゾーンインターフェイス間のトラフィックは、各ゾーンにゾーンペアの関係があるかどうか、およびそのゾーンペアにポリシーが設定されているかどうかを検査されます。
- デフォルトでは、同一ゾーン内の 2 つのインターフェイス間のすべてのトラフィックは常に許可されます。

- ゾーンペアは、ゾーンを送信元ゾーンおよび宛先ゾーンの両方として設定できます。このゾーンペアで検査ポリシーを設定して、2つのゾーン間のトラフィックを検査、転送、またはドロップできます。
- インターフェイスがメンバーになれるのは、1つのセキュリティゾーンだけです。
- インターフェイスがセキュリティゾーンのメンバーの場合、そのゾーンを含むゾーンペアで明示的なゾーン間ポリシーを設定しない限り、方向に関係なくそのインターフェイスを通過するすべてのトラフィックがブロックされます。
- トラフィックがデバイスのすべてのインターフェイス間を通過するには、これらのインターフェイスが1つのセキュリティゾーンまたは別のセキュリティゾーンのメンバーである必要があります。すべてのデバイスインターフェイスがセキュリティゾーンのメンバーである必要はありません。
- ゾーンに関連付けられたすべてのインターフェイスは、同じ仮想ルーティングおよび転送 (VRF) に含まれている必要があります。

図 1 には、次のことが示されています。

- インターフェイス E0 と E1 はセキュリティゾーン Z1 のメンバーです。
- インターフェイス E2 は、セキュリティゾーン Z2 のメンバーです。
- インターフェイス E3 は、どのセキュリティゾーンのメンバーでもありません。

Figure 58: セキュリティゾーンの制約



- ゾーンペアとポリシーは、同じゾーンで設定されます。インターフェイス E0 と E1 は同じセキュリティゾーン (Z1) のメンバーなので、2つのインターフェイス間のトラフィックは自由に流れます。
- ポリシーが設定されていない場合、他のインターフェイス間 (E0 と E2 の間、E1 と E2 の間、E3 と E1 の間、E3 と E2 の間など) でトラフィックは流れません。
- トラフィックを許可する明示的なポリシーがゾーン Z1 とゾーン Z2 間で設定されている場合だけ、E0 または E1 と E2 間でトラフィックが流れます。
- デフォルトゾーンが有効になっていないかぎり、E3 と E0、E1、または E2 の間でトラフィックは流れません。



**Note** Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでは、ファイアウォールは最大 4000 のゾーンをサポートします。

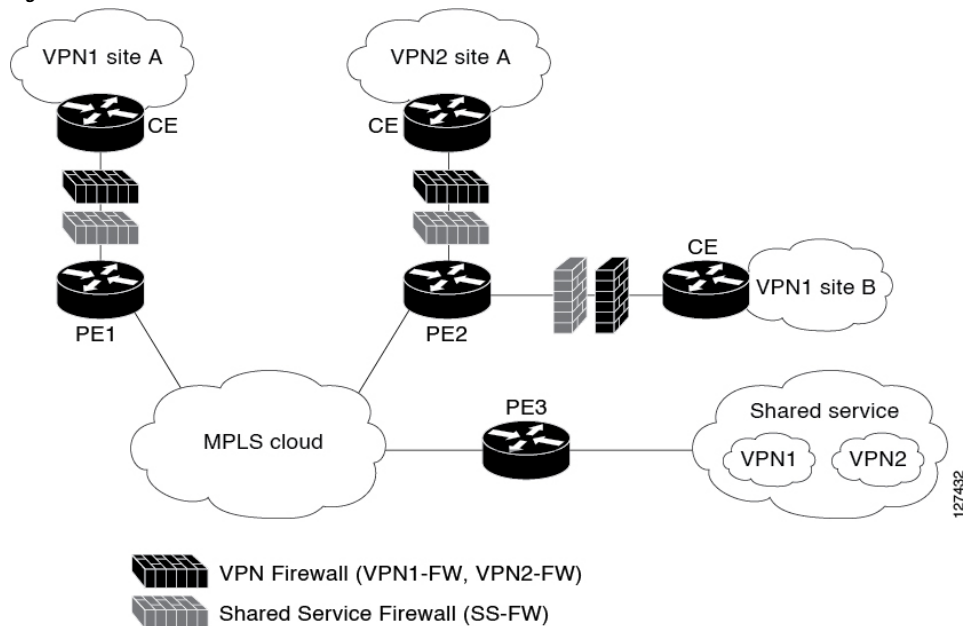
## VRF 対応シスコ ファイアウォールの展開

ファイアウォールをネットワーク内の複数のポイントに展開することで、VPN サイトと共有サービス（またはインターネット）を双方向で保護できます。ここでは、次のファイアウォール展開シナリオについて説明します。

### VRF 対応のシスコ ファイアウォールを擁する分散ネットワーク

次の図は、サービス プロバイダー（SP）がファイアウォール サービスを VPN カスタマーの VPN1 および VPN2 に提供し、VPN サイトと外部ネットワーク（共有サービスやインターネットなど）を双方向で保護するという一般的な状況について示します。

Figure 59: 分散ネットワーク



この例では、VPN1 には、マルチプロトコルラベルスイッチング（MPLS）コア全体を対象とする Site A と Site B という 2 つのサイトがあります。Site A は PE1 に接続され、Site B は PE2 に接続されています。VPN2 には、PE2 に接続している 1 つのサイトのみがあります。各 VPN には、PE3 上の対応する VLAN サブインターフェイスに接続されている共有サービス内の VLAN セグメントがあります。

各 VPN（VPN1 および VPN2）には 2 つのファイアウォールルールがあります。1 つは VPN サイトを共有サービスから保護するためのもので、もう 1 つは共有サービスを VPN サイトから保護するためのものです。VPN サイトを共有サービスから保護するファイアウォールは VPN ファイアウォールと呼ばれ、共有サービスを VPN サイトから保護するファイアウォールは共

有サービス ファイアウォールと呼ばれます。両方のファイアウォール ルールが、VPN サイトに接続された各入力プロバイダー エッジ (PE) デバイスの VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インターフェイスに適用されます。VPN ファイアウォールルールは、VRF インターフェイスが VPN サイトへの入力であるため、入力方向に適用されます。共有サービス ファイアウォールルールは、VRF インターフェイスが共有サービスへの出力であるため、出力方向に適用されます。

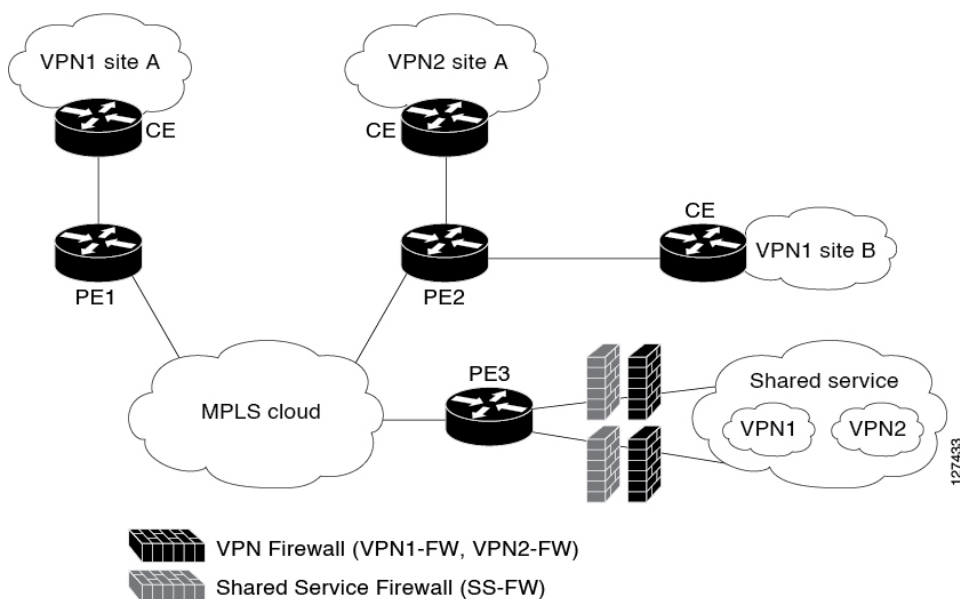
分散ネットワークを使用する利点は次のとおりです。

- ファイアウォールの導入はマルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) クラウドで分散されるため、ファイアウォールの処理負荷はすべての入力 PE デバイスに分散されます。
- 共有サービスは、入力 PE デバイスの VPN サイトから保護されるため、VPN サイトから送信された悪意のあるパケットは、MPLS クラウドに入る前に、入力 PE デバイスでフィルタリングされます。
- VPN ファイアウォール機能はインバウンド方向に導入できます。

## VRF 対応のシスコ ファイアウォールを擁するハブアンドスポーク ネットワーク

次の図に、すべての VPN サイトのファイアウォールが、共有サービスに接続されている出力 PE デバイス PE3 に適用されるハブアンドスポーク ネットワークを示します。

Figure 60: ハブアンドスポーク ネットワーク



一般的に、個々の VPN には、共有サービスに接続されている VLAN と VPN ルーティングおよび転送 (VRF) サブインターフェイスの両方または一方があります。パケットがマルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) インターフェイスに到着すると、MPLS はそのパケットを、共有サービスに接続されている対応するサブインターフェイスにルーティングします。各 VPN 上のファイアウォール ポリシーが、対応するサブインターフェイス (VRF インターフェイス) に適用されます (上記の図を参照)。VPN サイトにとってはサブインターフェイスは出

カインターフェイスであるため、VPN ファイアウォール ルールは出力方向で適用されます。共有サービスにとってはサブインターフェイスは入力インターフェイスであるため、共有サービス ファイアウォールは入力方向で適用されます。

ハブアンドスポーク ネットワークの利点は次のとおりです。

- ファイアウォールは出力プロバイダーエッジ (PE) デバイス (PE3) に集中的に導入されるため、ファイアウォールの導入および管理が容易になります。
- 共有サービス ファイアウォール機能は、入力方向で適用できます。
- VPN サイトは出力 PE デバイスで共有サービスから保護されるため、パケットが MPLS クラウドに入る前に、共有サービスからの悪意のあるパケットが PE デバイスでフィルタリングされます。

## VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの設定方法

### VRF、クラスマップ、およびポリシーマップの定義

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip vrf *vrf-name***
4. **rd *route-distinguisher***
5. **route-target export *route-target-ext-community***
6. **route-target import *route-target-ext-community***
7. **exit**
8. **class-map type inspect match-any *class-map-name***
9. **match protocol tcp**
10. **match protocol h323**
11. **exit**
12. **policy-map type inspect *policy-map-name***
13. **class type inspect *class-map-name***
14. **inspect [*parameter-map-name*]**
15. **exit**
16. **class class-default**
17. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip vrf vrf-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# ip vrf vrf1	VRF インスタンスを定義し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>rd route-distinguisher</b> <b>Example:</b> Router(config-vrf)# rd 10:1	VRF インスタンスのルート識別子 (RD) を指定します。
ステップ 5	<b>route-target export route-target-ext-community</b> <b>Example:</b> Router(config-vrf)# route-target export 10:1	VRF インスタンスのルート ターゲット拡張コミュニティを作成し、ターゲット VPN 拡張コミュニティへのルーティング情報をエクスポートします。
ステップ 6	<b>route-target import route-target-ext-community</b> <b>Example:</b> Router(config-vrf)# route-target import 10:1	VRF インスタンスのルート ターゲット拡張コミュニティを作成し、ターゲット VPN 拡張コミュニティへルーティング情報をインポートします。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-vrf)# exit	VRF コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>class-map type inspect match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# class-map type inspect match-any class-map1	レイヤ 3 およびレイヤ 4 (アプリケーション固有) 検査タイプ クラスマップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>match protocol tcp</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match protocol tcp	指定されたプロトコルに基づいて、クラスマップの一致基準を設定します。
ステップ 10	<b>match protocol h323</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match protocol h323	指定されたプロトコルに基づいて、クラスマップの一致基準を設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# exit	クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>policy-map type inspect <i>policy-map-name</i></b> <b>Example:</b> Router(config)# policy-map type inspect global-vpn1-pmap	レイヤ 3 およびレイヤ 4 (プロトコル固有) 検査タイプ ポリシー マップを作成し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>class type inspect <i>class-map-name</i></b> <b>Example:</b> Router(config-pmap)# class type inspect class-map1	アクションを実行する対象のトラフィック (クラス) を指定し、ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	<b>inspect [<i>parameter-map-name</i>]</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap-c)# inspect class-map1	Cisco IOS XE ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap-c)# exit	ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 16	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap)# class class-default	ポリシーを設定または変更できるようにデフォルト クラスを指定します。  • <b>class-default</b> クラスはデフォルトで定義されません。 <b>class class-default</b> コマンドを設定して、 <b>class-default</b> に関連付けられるデフォルトのドロップ属性を変更します。
ステップ 17	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap)# end	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

## ゾーンとゾーン ペアの定義

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security *security-zone-name***
4. **exit**
5. **zone security *security-zone-name***
6. **exit**



7. **zone-pair security** *zone-pair-name* **source** *source-zone* **destination** *destination-zone*
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security</b> <i>security-zone-name</i>  <b>Example:</b> Router(config)# zone security vpn1-zone	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b>  <b>Example:</b> Router(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>zone security</b> <i>security-zone-name</i>  <b>Example:</b> Router(config)# zone security global-zone	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b>  <b>Example:</b> Router(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> <b>source</b> <i>source-zone</i> <b>destination</b> <i>destination-zone</i>  <b>Example:</b> Router(config)# zone-pair security vpn1-global-zone-pair source vpn1-zone destination global-zone	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。  • <b>zone-pair-name</b> : インターフェイスに付加されているゾーンの名前。  • <b>source</b> <i>source-zone</i> : トラフィックの送信元ルータの名前を指定します。  • <b>destination</b> <i>destination-zone</i> : トラフィックの宛先ルータの名前を指定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect global-vpn1-pmap</pre>	レイヤ 7 ポリシー マップをトップレベル ポリシーに関連付けます。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-sec-zone-pair)# end</pre>	ゾーン ペア コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

## インターフェイスへのゾーンの適用とルートの定義

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **ip vrf forwarding** *name*
5. **ip address** *ip-address mask*
6. **zone-member security** *zone-name*
7. **negotiation auto**
8. **exit**
9. **interface** *type number*
10. **ip address** *ip-address mask*
11. **zone-member security** *zone-name*
12. **negotiation auto**
13. **exit**
14. **ip route vrf** *vrf-name destination-ip-address destination-prefix interface-type number* [**global**]
15. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Router(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip vrf forwarding</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# ip vrf forwarding vrf1	VRF をインターフェイスまたはサブインターフェイスと関連付けます。
ステップ 5	<b>ip address</b> <i>ip-address mask</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 6	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# zone-member security vpn1-zone	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。
ステップ 7	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 9	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Router(config)# interface gigabitethernet 1/1/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>ip address</b> <i>ip-address mask</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# ip address 10.111.111.111 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 11	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# zone-member security global-zone	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。
ステップ 12	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 13	<b>exit</b>  <b>Example:</b> Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 14	<b>ip route vrf vrf-name destination-ip-address destination-prefix interface-type number [global]</b>  <b>Example:</b> Router(config)# ip route vrf vpn1 10.111.111.0 255.255.255.0 gigabitethernet 1/1/1 global	VRF インスタンス用のスタティック ルートを確立します。
ステップ 15	<b>end</b>  <b>Example:</b> Router(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールの設定例

### 例：VRF、クラス マップ、およびポリシー マップの定義

```
Router# configure terminal
Router(config)# ip vrf vrf1
Router(config-vrf)# rd 10:1
Router(config-vrf)# route-target export 10:1
Router(config-vrf)# route-target import 10:1
Router(config-vrf)# exit
Router(config)# class-map type inspect match-any class-map1
Router(config-cmap)# match protocol tcp
Router(config-cmap)# match protocol h323
Router(config-cmap)# exit
Router(config)# policy-map type inspect global-vpn1-pmap
Router(config-pmap)# class type inspect match-acl-111
Router(config-pmap-c)# inspect match-acl-111
Router(config-pmap-c)# exit
Router(config-pmap)# class class-default
Router(config-pmap)# end
```

### 例：ポリシー マップ、ゾーン、およびゾーン ペアの定義

```
Router# configure terminal
Router(config)# zone security vpn1-zone
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone security global-zone
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone-pair security vpn1-global-zone-pair source vpn1-zone destination global-zone
Router(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect vpn1-global-pmap
Router(config-sec-zone-pair)# end
```

## 例：インターフェイスへのゾーンの適用とルートの定義

```

Router# configure terminal
Router(config)# interface gigabitethernet 0/0/0
Router(config-if)# ip vrf forwarding vrf1
Router(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
Router(config-if)# zone-member security vpn1-zone
Router(config-if)# negotiation auto
Router(config-if)# exit
Router(config)# interface gigabitethernet 1/1/1
Router(config-if)# ip address 10.111.111.111 255.255.255.0
Router(config-if)# zone-member security global-zone
Router(config-if)# negotiation auto
Router(config-if)# exit
Router(config)# ip route vrf vpn1 10.111.111.0 255.255.255.0 gigabitethernet 1/1/1 global
Router(config)# end

```

## VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z</a>』</li> </ul>
NAT	『 <a href="#">Configuring Network Address Translation: Getting Started</a> 』
MPLS VPN	『 <a href="#">onfiguring a Basic MPLS VPN</a> 』
ゾーンベース ポリシー ファイアウォール	『 <a href="#">Zone-based Policy Firewall</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 168: VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール	Cisco IOS XE リリース 2.5	SP または大企業のエッジルータで VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールが設定されている場合は、Cisco IOS XE ファイアウォール機能が VRF インターフェイスに適用されます。
ファイアウォール - VRF 対応 ALG サポート	Cisco IOS XE リリース 2.5	ファイアウォール - VRF 対応 ALG サポート機能を使用すれば、正しい IP アドレス VRF ID ペアが必要な ALG トークンを作成するときに、ALG で、キャッシュされた情報から正しい IP アドレスと VRF ID を抽出することができます。

## 用語集

**C3PL** : Cisco Common Classification Policy Language。ポリシーマップとクラスマップを使用してイベント、条件、アクションに基づくトラフィックポリシーを作成する、構造化された機能固有の設定コマンドです。

**EHLO** : 機能のネゴシエーションを開始するための拡張 HELO 代替コマンド。このコマンドは、ESMTP プロトコルを使用してリモート SMTP サーバに接続する送信者（クライアント）を識別します。

**ESMTP** : Extended Simple Mail Transfer Protocol（拡張 Simple Mail Transfer Protocol）。送達通知やセッション配信などの追加機能が含まれる、Simple Mail Transfer Protocol（SMTP）の拡張バージョンです。ESMTP は、RFC 1869「SMTP Service Extensions」で定義されています。

**HELO** : SMTP 機能のネゴシエーションを開始するコマンド。このコマンドは、完全修飾 DNS ホスト名を使用してリモート SMTP サーバに接続する送信者（クライアント）を識別します。

**MAIL FROM** : 電子メールメッセージの開始部分。送信者の電子メールアドレス（および使用されている場合は名前）をメッセージの From: フィールドに示して識別します。

**MIME** : Multipurpose Internet Mail Extension。電子メールで、テキスト以外のデータ（つまり、プレーン ASCII コードでは表現できないデータ）を転送するための規格。たとえば、バイナリ、外国語テキスト（ロシア語や中国語など）、オーディオ、ビデオなどのデータです。MIME は RFC 2045 で定義されています。

**RCPT TO** : 受信者の電子メールアドレス（および使用されている場合は名前）。単一のメッセージを複数の受信者に配信するようなメッセージでは、複数回繰り返すことができます。

**SMTP** : Simple Mail Transfer Protocol。電子メール サービスを提供するインターネットプロトコル。







## 第 125 章

# レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォール

レイヤ2 トランスペアレントファイアウォールは、ブリッジされたパケットに対して動作し、ローカルスイッチドイーサネットポートのペアで有効になります。これらのポート経由で転送される埋め込みIPパケットは、ルーティングネットワーク内の通常のIPパケットと同様に検査されます。トランスペアレントファイアウォール設定では、ゾーンベースファイアウォールまたはレイヤ3ファイアウォール設定をレイヤ2インターフェイスに適用できます。

このモジュールでは、レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォール機能の概要を紹介します。

- [レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールのサポートに関する制約事項 \(1697 ページ\)](#)
- [レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールについて \(1698 ページ\)](#)
- [レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールの設定方法 \(1699 ページ\)](#)
- [レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールの設定例 \(1699 ページ\)](#)
- [レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールに関する追加情報 \(1701 ページ\)](#)
- [レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールに関する機能情報 \(1702 ページ\)](#)

## レイヤ2 トランスペアレント ファイアウォールのサポートに関する制約事項

- アドレス解決プロトコル (ARP) インスペクションはサポートされていません。
- ブリッジドメイン、ブリッジドメインインターフェイス (BDI)、オーバーレイトランスポート仮想化 (OTV)、X-Connect、仮想プライベートLANサービス (VPLS)、VxLAN、非IPフローといったレイヤ2フォワーディングテクノロジーはサポートされません。
- イーサネットフレームでは、通常のIPまたは単純なVLANのみがサポートされています。トランスペアレントファイアウォールはTCPリセット (RST) パケットを生成し、これらのパケットをサポートされているイーサネットフレームで送信します。

- TCP RST はボックス内高可用性スイッチオーバーの後ではサポートされません。
- 仮想 TCP (vTCP) はサポートされません。
- ネットワークアドレス変換 (NAT) 、ボックスツーボックス (B2B) 高可用性、マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) 、仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンス、VRF 対応ソフトウェアインフラストラクチャ (VASI) 、Locator-ID Separation Protocol (LISP) はレイヤ2 スイッチ パスではサポートされません。
- イーサネット運用管理および保守 (OAM) 、接続障害管理 (CFM) といった非 IP パケットフローはサポートされません。
- トランスペアレント ファイアウォール クラス マップでは、レイヤ2 ベースのアクセス コントロール リスト (ACL) はサポートされません。

## レイヤ2トランスペアレント ファイアウォールについて

### レイヤ2トランスペアレント ファイアウォールのサポート

従来のゾーンベースファイアウォールは、ネットワーク内でレイヤ3ノードのように機能し、ノードをパススルーする IP トラフィックを検査します。従来のファイアウォールはルーテッドホップであり、保護されたサブネットのいずれかに接続するホストのデフォルトゲートウェイとして機能します。ただし、このレイヤ3ファイアウォールを既存のネットワークに配置するには、ネットワークを再びサブネット化しなければならないため、多くの時間とリソースが必要です。レイヤ2トランスペアレントファイアウォールはネットワークに対して透過的であり、セグメント間でレイヤ3の分離は必要ありません。トランスペアレントファイアウォールは、「Bump In The Wire」または「ステルスファイアウォール」のように動作し、接続されたデバイスへのルータホップとしては認識されません。トランスペアレントファイアウォールはルーティング対象のホップではないので、既存のネットワークに容易に導入できます。IP 再アドレッシングは不要です。トランスペアレントファイアウォールはブリッジされたパケットに対して動作し、レイヤ3ファイアウォールはルーティングされるパケットに対して動作しません。

トランスペアレントファイアウォールは、ローカルスイッチドイーサネットポートのペアで有効になります。これらのポート経由で転送される埋め込みIPパケットは、ルーティングネットワーク内の通常のIPパケットと同様に検査されます。トランスペアレントファイアウォールが検査するのはIPパケットのみです。

トランスペアレントファイアウォールセッションは、5タプル情報（送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、送信元ポート、宛先ポート、プロトコル）が格納されたIPレイヤ3およびレイヤ4ヘッダーを使用して作成されます。トランスペアレントファイアウォールはレイヤ2プロトコルとしてイーサネットのみをサポートし、IPv4アドレスとIPv6アドレスの両方をサポートします。

トランスペアレントファイアウォール設定では、ゾーンベースファイアウォールまたはレイヤ3ファイアウォール設定をレイヤ2インターフェイスに適用できます。レイヤ3ファイア

ウォールとレイヤ2トランスペアレントファイアウォールの両方を同じデバイスで共存させることができます。

トランスペアレントファイアウォールでは、次のトポロジでIP（Internet Control Message Protocol（ICMP）、TCP、UDP）インスペクションをサポートします。

- 2つの GigabitEthernet インターフェイス間。
- GigabitEthernet インターフェイスと GigabitEthernet サブインターフェイス間。
- 2つの GigabitEthernet サブインターフェイス間。

トランスペアレントファイアウォールは、ポリシーを関連付けずに次のパケットを渡します。

- アドレス解決プロトコル（ARP）
- マルチキャストパケット：Routing Information Protocol（RIP）、Open Shortest Path First（OSPF）、OSPFバージョン3（OSPFv3）、Enhanced Interior Gateway Routing Protocol（EIGRP）IPv4 および IPv6 パケット、Intermediate System-to-Intermediate System（ISIS）IPv4 および IPv6 パケット
- Protocol-Independent Multicast（PIM）IPv4 および IPv6 パケット
- Hot Standby Router Protocol（HSRP）、Virtual Router Redundancy Protocol（VRRP）、および Gateway Load Balancing Protocol（GLBP）
- Internet Group Management Protocol（IGMP）およびマルチキャストリスナー検出（MLD）

## レイヤ2トランスペアレントファイアウォールの設定方法

ゾーンベースファイアウォールと同じ設定を使用してレイヤ2トランスペアレントファイアウォールを設定できます。詳細は、「[ゾーンベースファイアウォール](#)」モジュールを参照してください。

## レイヤ2トランスペアレントファイアウォールの設定例

### 例：レイヤ2トランスペアレントファイアウォールの設定

次に、TCPインスペクションとUDPインスペクションを使用してレイヤ2トランスペアレントファイアウォールを設定する例を示します。

- クラスマップを定義します。
- ポリシーマップを定義します。

- ゾーンとゾーン ペアを定義します。
- インターフェイス GigabitEthernet 0/0/0 と GigabitEthernet 0/0/1 をファイアウォールゾーンにアタッチします。
- GigabitEthernet 0/0/0 と GigabitEthernet 0/0/1 を接続することにより、ローカルスイッチングを有効にします。

```

!Class map configuration
Device# configure terminal
Device(config)# class-map typ inspect match-any lan-wan-inspect-tcp
Device(config-cmap)# match protocol tcp
Device(config-cmap)# match protocol udp
Device(config-cmap)# match protocol icmp
Device(config-cmap)# exit
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any wan-lan-inspect-udp
Device(config-cmap)# match protocol tcp
Device(config-cmap)# match protocol udp
Device(config-cmap)# match protocol icmp
Device(config-cmap)# exit
Device(config-cmap)# exit

!Policy map configuration
Device(config)# policy-map type inspect policy-wan-lan
Device(config-pmap)# class type inspect lan-wan-inspect-tcp
Device(config-pmap-c)# inspect
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap)# class type inspect wan-lan-inspect-udp
Device(config-pmap-c)# inspect
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# exit

!Zones and zone pair configuration
Device(config)# zone security lan
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security wan
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security lan2wan source lan destination wan
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect policy-lan-wan
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# zone-pair security wan2lan source wan destination lan
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect policy-wan-lan
Device(config-sec-zone-pair)# exit

! Interface configuration
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# zone-member security lan
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/1
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# zone-member security wan
Device(config-if)# exit

!Local switching configuration
Device(config)# connect l2fw-conn gigabitethernet 0/0/0 gigabitethernet 0/0/1

```

Device (config) # end

## レイヤ2トランスペアレント ファイアウォールに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
ゾーンベースのファイアウォール	『Zone-Based Policy Firewalls, Configuration Guide』の「Zone-Based Policy Firewalls」モジュール

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## レイヤ2トランスペアレント ファイアウォールに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 169: レイヤ2トランスペアレント ファイアウォールに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
レイヤ2トランスペアレント ファイアウォール	Cisco IOS XE 3.15S	<p>レイヤ2トランスペアレント ファイアウォールは、ブリッジされたパケットに対して動作し、ローカルスイッチドイーサネットポートのペアで有効になります。これらのポート経路で転送される埋め込みIPパケットは、ルーティングネットワーク内の通常のIPパケットと同様に検査されます。トランスペアレントファイアウォール設定では、ゾーンベースファイアウォールまたはレイヤ3ファイアウォール設定をレイヤ2インターフェイスに適用できません。</p> <p>この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズアグリゲーションサービスルータとシスコクラウドサービスルータ 1000V シリーズでサポートされます。</p> <p>この機能のために導入または変更されたコマンドはありません。</p>



## CHAPTER 126

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォール に対するネストされたクラスマップサポ ート

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポート機能は、Cisco IOS XE ファイアウォールに単一のトラフィック クラスとして複数のトラフィック クラスを設定する機能（ネストされたクラスマップまたは階層型クラスマップとも呼ばれる）を提供します。パケットが複数の一致基準を満たしている場合は、単一のトラフィック ポリシーに関連付けることが可能な複数のクラス マップを設定できます。Cisco IOS XE ファイアウォールは、最大 3 レベルのクラス マップ階層をサポートします。

- [ゾーンベース ポリシーファイアウォールに対するネストされたクラスマップサポートに関する前提条件, on page 1703](#)
- [ゾーンベース ポリシーファイアウォールに対するネストされたクラスマップサポートに関する情報, on page 1704](#)
- [ゾーンベース ポリシーファイアウォールに対するネストされたクラスマップサポートの設定方法, on page 1705](#)
- [ゾーンベース ポリシーファイアウォールに対するネストされたクラスマップサポートの設定例, on page 1709](#)
- [ゾーンベース ポリシーファイアウォールに対するネストされたクラスマップサポートに関する追加情報, on page 1710](#)
- [ゾーンベース ポリシーファイアウォールに対するネストされたクラスマップサポートに関する機能情報, on page 1711](#)

## ゾーンベース ポリシーファイアウォールに対するネスト されたクラス マップ サポートに関する前提条件

ネストされたクラス マップを設定する前に、モジュラ Quality of Service (QoS) CLI (MQC) に精通しておく必要があります。

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートに関する情報

## ネストされたクラス マップ

Cisco IOS XE リリース 3.5S 以降のリリースでは、複数のトラフィック クラスを単一のトラフィック クラスとして設定できます（これらのトラフィック クラスは、ネストされたクラス マップまたは階層型クラスマップとも呼ばれます）。パケットが複数の一致基準を満たしている場合は、単一のトラフィック ポリシーに関連付けることが可能な複数のクラス マップを設定できます。クラスマップをネストするには、**match class-map** コマンドを設定します。1つのトラフィッククラスで **match-any** 特性と **match-all** 特性を組み合わせる唯一の方法は、**class-map** コマンドを使用することです。

### class-map コマンドの **match-all** キーワードと **match-any** キーワード

トラフィッククラスを作成するには、**match-all** および **match-any** キーワードを指定した **class-map** コマンドを設定する必要があります。**match-all** キーワードと **match-any** キーワードの指定が必要になるのは、トラフィッククラスで複数の一致基準を設定する場合だけです。**match-all** および **match-any** キーワードには次のルールが適用されます。

- 指定したトラフィッククラスにパケットを分類するために、そのパケットがトラフィッククラス内のすべての一致基準に一致する必要がある場合、**match-all** キーワードを使用します。
- 指定したトラフィッククラスにパケットを分類するために、そのパケットがトラフィッククラス内のいずれかの一致基準にのみ一致する必要がある場合、**match-any** キーワードを使用します。
- match-all** キーワードと **match-any** キーワードのどちらも指定しないと、トラフィッククラスは **match-all** キーワードを指定した場合と同じように動作します。

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールの設定は、次の条件が満たされる場合にネストされたクラス マップをサポートします。

- 階層の個々のクラスマップで複数の **match class-map** コマンドが参照されている場合。
- 階層の個々のクラスマップに **match class-map** コマンド以外の一致ルールが含まれている場合。



# ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートの設定方法

## 2 レイヤ ネスト クラス マップ の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map match-any *class-map-name***
4. **match protocol *protocol-name***
5. **exit**
6. **class-map match-any *class-map-name***
7. **match protocol *protocol-name***
8. **exit**
9. **class-map match-any *class-map-name***
10. **match class-map *class-map-name***
11. **match class-map *class-map-name***
12. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map match-any <i>class-map-name</i></b> <b>Example:</b> Router(config)# class-map match-any child1	レイヤ3またはレイヤ4のクラスマップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol <i>protocol-name</i></b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match protocol tcp	指定されたプロトコルに基づくクラスマップの一致基準を設定します。

## ■ ネストされたクラス マップ用のポリシー マップの設定

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# exit	クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>class-map match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# class-map match-any child2	レイヤ3またはレイヤ4のクラス マップを作成し、クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>match protocol protocol-name</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match protocol udp	指定されたプロトコルに基づくクラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# exit	クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>class-map match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# class-map match-any parent	レイヤ3またはレイヤ4のクラス マップを作成し、クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>match class-map class-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match class-map child1	トラフィック クラスを分類ポリシーとして設定します。
ステップ 11	<b>match class-map class-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match class-map child2	トラフィック クラスを分類ポリシーとして設定します。
ステップ 12	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# end	クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ネストされたクラス マップ用のポリシー マップの設定

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **policy-map type inspect policy-map-name**
4. **class-type inspect class-map-name**
5. **inspect**
6. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>policy-map type inspect <i>policy-map-name</i></b> <b>Example:</b> Router(config)# policy-map type inspect pmap	レイヤ 3 またはレイヤ 4 の検査タイプ ポリシー マップを作成し、ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>class-type inspect <i>class-map-name</i></b> <b>Example:</b> Router(config-pmap)# class-type inspect parent	アクションを実行する対象のトラフィック（クラス）を指定し、ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap-c)# inspect	Cisco IOS XE ステートフルパケットインスペクションをイネーブルにします。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap-c)# end	ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ゾーンペアへのポリシー マップのアタッチ

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security *zone-name***
4. **exit**
5. **zone security *zone-name***
6. **exit**
7. **zone-pair security *zone-pair-name* [source *zone-name* destination [*zone-name*]]**
8. **service-policy type inspect *policy-map-name***
9. **exit**
10. **interface *type number***
11. **zone-member security *zone-name***

## 12. end

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security zone-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# zone security source-zone	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>zone security zone-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# zone security destination-zone	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>zone-pair security zone-pair-name [source zone-name destination [zone-name]]</b> <b>Example:</b> Router(config)# zone-pair security secure-zone source source-zone destination destination-zone	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペアコンフィギュレーションモードを開始します。  • ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect pmap	ファイアウォールポリシーマップを宛先ゾーンペアに付加します。  <b>Note</b> ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Router(config)# interface gigabitethernet 0/0/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Router(config-if)# zone-member security source-zone	インターフェイスを指定したセキュリティ ゾーンに割り当てます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• インターフェイスをセキュリティ ゾーンのメンバーにした場合、方向に関係なくインターフェイスを通過するすべてのトラフィック（ルータ宛のトラフィックまたはルータ発信のトラフィックを除く）は、デフォルトでドロップされます。トラフィックがインターフェイスを通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。</li> </ul>
ステップ 12	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートの設定例

### 例：2 レイヤ ネストされたクラス マップの設定

```
Router# configure terminal
Router(config)# class-map match-any child1
Router(config-cmap)# match protocol tcp
Router(config-cmap)# exit
Router(config)# class-map match-any child2
Router(config-cmap)# match protocol udp
Router(config-cmap)# exit
Router(config)# class-map match-any parent
Router(config-cmap)# match class-map child1
Router(config-cmap)# match class-map child2
```

例：ネストされたクラス マップのポリシー マップの設定

```
Router(config-cmap)# end
```

## 例：ネストされたクラス マップのポリシー マップの設定

```
Router# configure terminal
Router(config)# policy-map type inspect pmap
Router(config-pmap)# class-type inspect parent
Router(config-pmap-c)# inspect
Router(config-pmap-c)# end
```

## 例：ゾーン ペアへのポリシー マップのアタッチ

```
Router# configure terminal
Router(config)# zone security source-zone
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone security destination-zone
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone-pair security secure-zone source source-zone destination
destination-zone
Router(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect pmap
Router(config-sec-zone-pair)# exit
Router(config)# interface gigabitethernet 0/0/1
Router(config-if)# zone-member security source-zone
Router(config-if)# end
```

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

関連項目	マニュアル タイトル
ゾーンベース ポリシー ファイアウォール	『Zone-Based Policy Firewall』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 170: ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポート	Cisco IOS XE リリース 3.5S	ゾーンベース ポリシー ファイアウォールに対するネストされたクラス マップ サポート機能は、Cisco IOS XE ファイアウォールに単一のトラフィック クラスとして複数のトラフィック クラスを設定する機能（ネストされたクラス マップまたは階層型クラス マップとも呼ばれる）を提供します。パケットが複数の一致基準を満たしている場合は、単一のトラフィック ポリシーに関連付けることが可能な複数のクラス マップを設定できます。





## 第 127 章

# ゾーン不一致処理

ゾーン不一致処理機能を使用すれば、既存のセッションに関連付けられたゾーンペアを検証して、そのゾーンペアと一致するトラフィックをネットワークに転送することができます。セッションに関連付けられたゾーンペアを検証せずにネットワークへのトラフィックの転送を許可すると、セキュリティの脆弱性につながる可能性があります。

このモジュールでは、機能の概要とその設定方法について説明します。

- [ゾーン不一致処理に関する制約事項 \(1713 ページ\)](#)
- [ゾーン不一致処理に関する情報 \(1713 ページ\)](#)
- [ゾーン不一致処理の設定方法 \(1715 ページ\)](#)
- [ゾーン不一致処理の設定例 \(1717 ページ\)](#)
- [ゾーン不一致処理に関する追加情報 \(1718 ページ\)](#)
- [ゾーン不一致処理に関する機能情報 \(1718 ページ\)](#)

## ゾーン不一致処理に関する制約事項

`zone-mismatch drop` コマンドは、`parameter-map type inspect-vrf` コマンド、`parameter-map type inspect-zone` コマンド、および `parameter-map type inspect global` コマンドの下で設定できません。

## ゾーン不一致処理に関する情報

### ゾーン不一致処理の概要

ゾーンベース ファイアウォールは、送信元ゾーンから宛先ゾーンに流れるトラフィック用のセッションを作成し、そのトラフィックが宛先ゾーンから送信元ゾーンに戻るときに照合を行います。ゾーンとは、同様の機能を果たすインターフェイスのグループです。ゾーンペアを使用すれば、その一部である 2 つのセキュリティ ゾーン間の単方向ファイアウォール ポリシーを指定することができます。

トラフィックの最初のパケットに対して、ファイアウォールがパケットの入力インターフェイスと出力インターフェイスに関連付けられたゾーンペアをチェックし、パケットを検証してから、検査可能なトラフィック用のセッションを作成します。また、リターントラフィックが戻ってきたら、ファイアウォールが最初のパケットに基づいてセッションルックアップを実行し、既存のセッションを検索します。ファイアウォールが一致するセッションを見つけると、トラフィックの通過を許可し、リターントラフィックに関連付けられたゾーンが既存のセッションに関連付けられたゾーンペアと一致するかどうかをチェックしません。セッションに関連付けられたゾーンペアを検証せずにネットワークへのトラフィックの転送を許可すると、セキュリティの脆弱性につながる可能性があります。

ゾーン不一致処理機能を使用すれば、既存のセッションに関連付けられたゾーンペアを検証して、そのゾーンペアと一致するトラフィックをネットワークに転送することができます。

**zone-mismatch drop** コマンドを設定する場合、ファイアウォールは、既存のセッションと一致するもののパケットが出入りするゾーンとゾーンペアが一致しないすべてのパケット (IPv4 と IPv6) をドロップします。この機能は、ハイアベイラビリティおよび In-Service Software Upgrade (ISSU) と連動します。

**parameter-map type inspect-global** コマンドの下で **zone-mismatch drop** コマンドを設定する場合、ゾーン不一致処理の設定がグローバルファイアウォールの設定に適用されます。すべてのゾーン間のトラフィックでゾーンペア不一致が検査されます。

**parameter-map type inspect** コマンドの下で **zone-mismatch drop** コマンドを設定することもできます。この場合は、ゾーン不一致処理機能をポリシー単位で適用することができます。

**zone-mismatch drop** コマンドを設定する場合、その設定は新しいセッションにのみ適用されます。既存のセッションでは、そのセッションが同じゾーンペアに属していなくても、トラフィックはドロップされません。

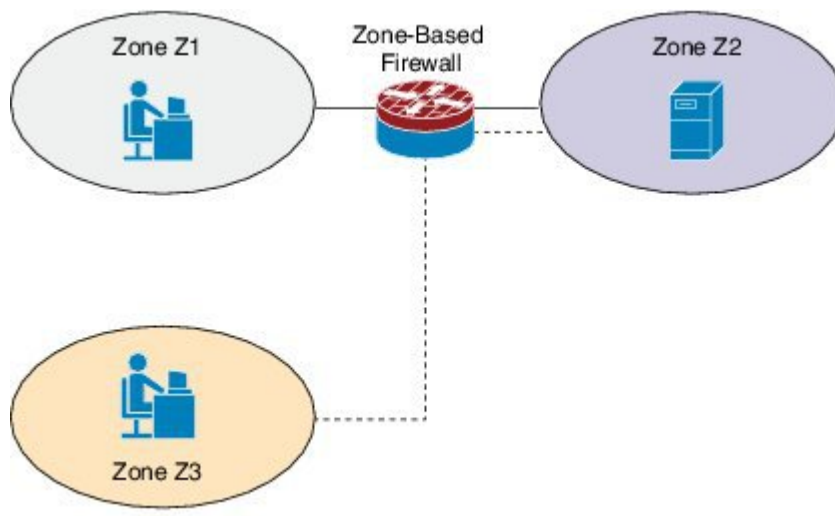
## ゾーン不一致処理機能の導入シナリオ

ここでは、ゾーン不一致処理機能が導入される一般的なシナリオについて説明します。

### ゾーンベース ファイアウォール アプリケーションによるトラフィック インспекション

次の図は、ゾーン不一致処理機能が有効な場合のファイアウォールによるトラフィック インспекションを示します。

図 61: ゾーンベース ファイアウォール アプリケーションによるトラフィック インспекション



ゾーン Z1 と Z2 は同一のゾーンペアに含まれており、このゾーンペアには、**zone-mismatch drop** コマンドが設定されているパラメータマップがあります。ゾーン Z3 はゾーンペアに含まれていないため、Z3 からのトラフィックは、インターフェイス 1 とインターフェイス 2 の間のファイアウォールセッションに一致する場合でも、ドロップされます。

ゾーン Z3 が追加されたゾーンペアに関連付けられているパラメータマップに対して **zone-mismatch drop** コマンドを設定すると、Z1 と Z2 の間で確立されるセッションに対しては、その設定は反映されません。ただし、**parameter-map type inspect-global** コマンドの下で **zone-mismatch drop** コマンドを設定すると、すべてのゾーン間のトラフィックに対してその設定が適用されます。

#### ゾーンベース ファイアウォールで設定されたアプリケーション レイヤ ゲートウェイ

一部のアプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) はアプリケーション レベル ゲートウェイとも呼ばれ、動作するには複数のコントロールおよびメディアチャネルが必要です。ゾーンベース ファイアウォールでは、制御チャネルおよびメディアチャネルが ALG の同一ゾーンペアに含まれることは義務付けられません。メディアチャネルまたはデータチャネルに対して **zone-mismatch drop** コマンドを設定する場合、この設定が有効になるのは、不明確なセッションから明確なセッションにメディアチャネルまたはデータチャネルが昇格した後です。ゾーンベースファイアウォールは、これらの明確なセッションを通常のセッションと同様にチェックします。不明確なセッションとは、5 タプル情報が含まれていないセッションです。

## ゾーン不一致処理の設定方法

### ゾーン不一致処理の設定

**zone-mismatch drop** コマンドは、**parameter-map type inspect-vrf**、**parameter-map type inspect-zone**、および **parameter-map type inspect global** コマンドの下で設定できません。

**zone-mismatch drop** コマンドを **parameter-map type inspect-global** コマンドの下で設定した場合、ゾーン不一致処理の設定はグローバルファイアウォール設定に適用されます。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかを実行します。
  - **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
  - **parameter-map type inspect-global**
4. **zone-mismatch drop**
5. **end**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	ユーザ EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかを実行します。  • <b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> • <b>parameter-map type inspect-global</b>  例： Device(config)# parameter-map type inspect pmap1 or Device(config)# parameter-map type inspect-global	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の inspect アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ 検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>zone-mismatch drop</b> 例： Device(config-profile)# zone-mismatch drop	既存のセッションに接続しているゾーンペアを検証し、ゾーン ペアに一致するトラフィックをネットワークに対して許可します。着信セッションのゾーンペアがセッションが到着または離脱するゾーンと一致しない場合、ファイアウォールはこれらのパケットをドロップします。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

## ゾーン不一致処理の設定例

### 例：ゾーン不一致処理の設定

次の例では、ゾーン不一致処理機能がパラメータ マップ pmap-fw に対して有効になっています。

```
! Configuring zones
Device(config)# zone security private
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security public
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security internet
Device(config-sec-zone)# exit

! Attaching zones to interfaces
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/5
Device(config-if)# ip address 172.16.1.1 255.255.255.0
Device(config-if)# zone-member security private
Device(config-if)# no shutdown
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/6
Device(config-if)# ip address 209.165.200.226 255.255.255.0
Device(config-if)# zone-member security public
Device(config-if)# no shutdown
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/1
Device(config-if)# ip address 198.51.100.1 255.255.255.0
Device(config-if)# zone-member security internet
Device(config-if)# no shutdown
Device(config-if)# exit

!Configuring the Zone Mismatch Handling feature
Device(config)# parameter-map type inspect pmap-fw
Device(config-profile)# zone-mismatch drop
Device(config-profile)# exit

!Configuring class maps
Device(config)# class-map type inspect match-any internet-traffic-class
Device(config-cmap)# match protocol tcp
Device(config-cmap)# match protocol udp
Device(config-cmap)# match protocol icmp
Device(config-cmap)# exit

! Configuring policy maps and class matching
Device(config)# policy-map type inspect private-internet-policy
Device(config-pmap)# class type inspect internet-traffic-class
Device(config-pmap-c)# inspect pmap-fw
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap-c)# drop
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# exit

! Configuring zone pairs
Device(config)# zone-pair security private-internet source private destination internet
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect private-internet-policy
```

```
Device(config-sec-zone-pair)# end
```

## ゾーン不一致処理に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## ゾーン不一致処理に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 171: ゾーン不一致処理に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ゾーン不一致処理	Cisco IOS XE 3.15S	<p>ゾーン不一致処理機能を使用すれば、既存のセッションに関連付けられたゾーン ペアを検証して、そのゾーンペアと一致するトラフィックをネットワークに転送することができます。</p> <p>この機能は、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ、およびシスコ クラウド サービス ルータ 1000V シリーズでサポートされます。</p> <p>次のコマンドが導入されました：<b>zone-mismatch handling</b></p>







## CHAPTER 128

# ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の設定

ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性機能を使用すると、相互にバックアップとして動作するルータのペアを設定できます。この機能を設定し、複数のフェールオーバー条件に基づいてアクティブルータを判断できます。フェールオーバーが発生すると、中断なくスタンバイルータが引き継ぎ、トラフィックフォワーディングサービスの実行とダイナミックルーティングテーブルのメンテナンスを開始します。

- [ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の前提条件, on page 1721](#)
- [ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性に関する制約事項, on page 1722](#)
- [ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性について, on page 1722](#)
- [ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の設定方法, on page 1727](#)
- [ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の設定例, on page 1735](#)
- [ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性に関する追加情報, on page 1739](#)
- [ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性に関する機能情報, on page 1740](#)

## ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の前提条件

- ファイアウォールに接続しているインターフェイスは、同じ冗長インターフェイス識別子 (RII) を持つ必要があります。
- アクティブデバイスおよびスタンバイデバイスは、Cisco IOS XE ゾーンベースファイアウォールの設定を同じにする必要があります。
- アクティブデバイスとスタンバイデバイスは、同じバージョンのCisco IOS XE ソフトウェアで実行する必要があります。アクティブデバイスとスタンバイは、スイッチを介して接続する必要があります。
- 組み込みサービスプロセッサ (ESP) は、アクティブデバイスとスタンバイデバイスの両方で一致する必要があります。

## ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性に関する制約事項

- LAN および MESH シナリオはサポートされません。
- ボックス間の高可用性（HA）とボックス内の HA の共存はサポートされていないので、シャーシ内にデュアル エンベデッド サービス プロセッサ（ESP）またはデュアル ルート プロセッサ（RP）を持つ Cisco ASR 1006 および Cisco ASR 1013 プラットフォームはサポートされていません。  
  
シャーシ内に単一の ESP と単一の RP を持つ Cisco ASR 1006 および Cisco ASR 1013 プラットフォームは、シャーシ間冗長性をサポートします。
- デュアル IOS デーモン（IOSd）が設定されている場合、デバイスはファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の設定をサポートしません。

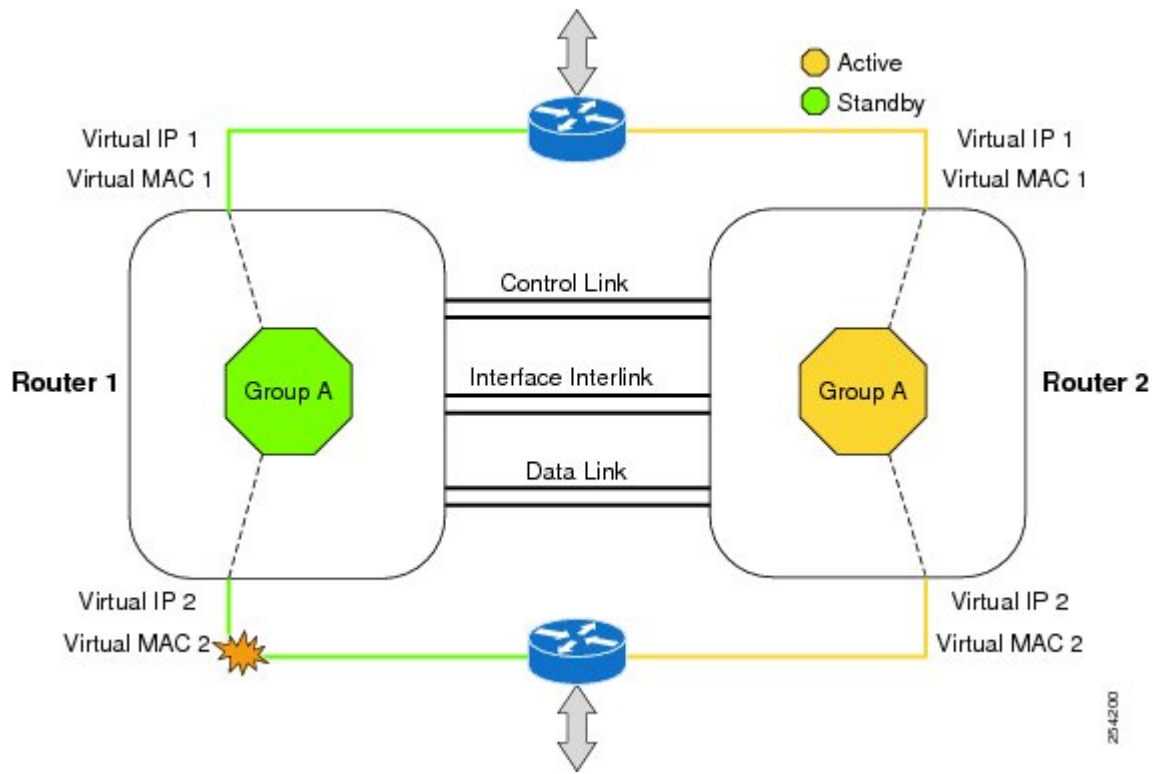
## ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性について

### ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の機能

相互にホットスタンバイとして動作するようにルータのペアを設定できます。この冗長性は、インターフェイスベースで設定します。冗長インターフェイスのペアは、冗長グループと呼ばれます。次の図に、アクティブ/スタンバイ デバイスのシナリオを示します。また、1つの発信インターフェイスを持つルータのペアについて、冗長グループを設定する方法を示します。アクティブ/アクティブ デバイス シナリオを表現する「冗長グループの設定：2つの発信インターフェイス」の図に、2つの発信インターフェイスを使用するルータのペアに2つの冗長グループを設定する方法を示します。

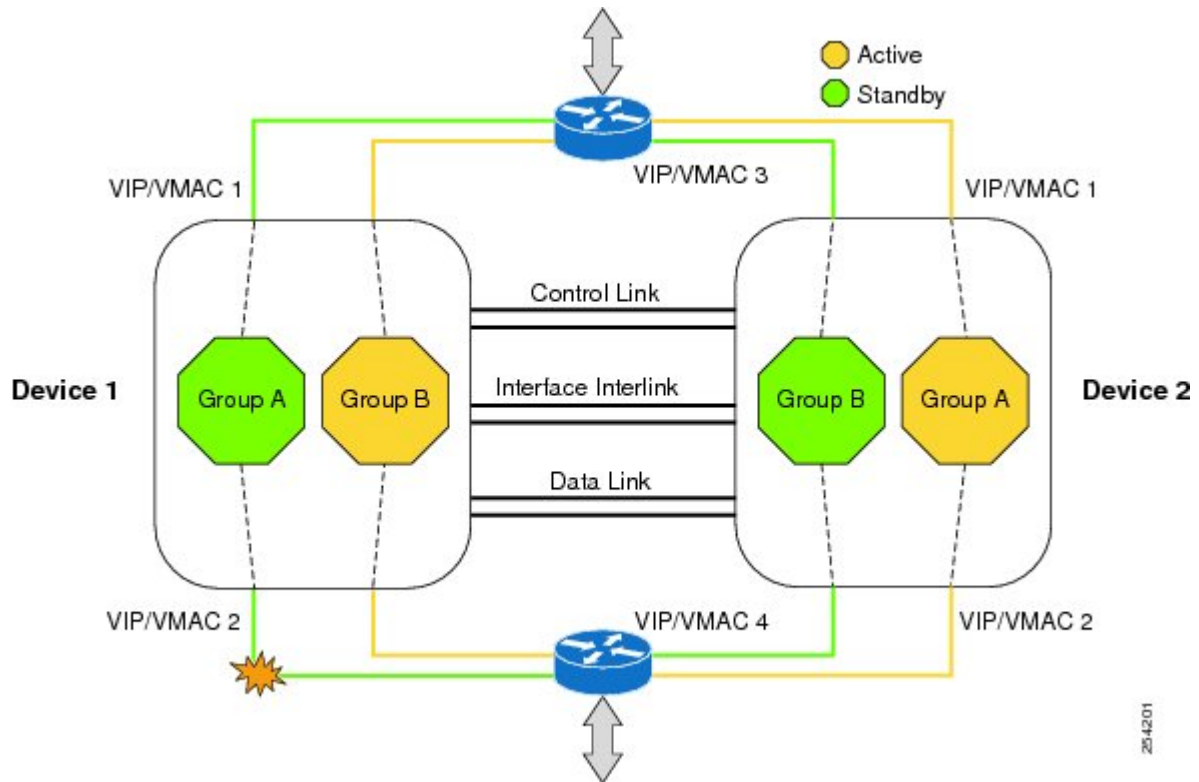
いずれの場合でも、設定可能なコントロールリンクおよびデータ同期リンクによって冗長ルータは参加します。コントロールリンクは、ルータのステータスを通信するために使用されます。データ同期リンクは、ネットワーク アドレス変換（NAT）およびファイアウォールからステートフル情報を転送し、これらのアプリケーションについてステートフルデータベースを同期するために使用されます。

また、いずれの場合でも、冗長インターフェイスのペアは、同じ固有ID番号（RIIと呼ばれます）で設定されます。



25-4200

Figure 62: 冗長グループの設定 : 2つの発信インターフェイス



25-4201

冗長グループメンバーのステータスは、コントロールリンクで送信される hello メッセージを使用することで判断できます。設定可能な時間内に、いずれかのルータが hello メッセージに応答しない場合、エラーが発生したと見なされ、スイッチオーバーが開始されます。ミリ秒単位でエラーを検出するには、双方向フォワーディング検出 (BFD) プロトコルと統合されたフェールオーバー プロトコルをコントロールリンクで実行します。hello メッセージについて次のパラメータを設定できます。

- Active timer
- Standby timer
- hellotime : hello メッセージが送信される間隔
- holdtime : アクティブまたはスタンバイ ルータをダウン状態と宣言するまでの時間

hellotime は、Hot Standby Router Protocol (HSRP) に合わせてデフォルトで 3 秒に設定されます。holdtime のデフォルトは 10 秒です。これらのタイマーは、**timers hellotime msec** コマンドを使用してミリ秒単位で設定することもできます。

スイッチオーバーの影響を受けるインターフェイスのペアを判断するには、冗長インターフェイスの各ペアについて、固有の ID 番号を設定する必要があります。この ID 番号は RII と呼ばれ、インターフェイスに関連付けられています。

また、スタンバイルータに対するスイッチオーバーは、他の条件でも発生する可能性があります。スイッチオーバーが発生する別の要因として、各ルータで設定可能な優先順位設定があります。最も優先度が高いルータがアクティブルータになります。アクティブルータまたはスタンバイルータで障害が発生した場合、重みと呼ばれる設定可能な数値分、ルータの優先度が減らされます。アクティブルータの優先度が、スタンバイルータの優先度を下回る場合、スイッチオーバーが発生し、スタンバイルータがアクティブルータになります。このデフォルトの動作を無効にするには、冗長グループについて **preemption** 属性をディセーブルにします。また、インターフェイスの L1 状態がダウン状態になった場合、各インターフェイスを設定して優先度を減らします。この数は、冗長グループに設定されているデフォルトの値よりも優先されます。

冗長グループの優先度の変更されるエラー イベントごとに、タイムスタンプ、影響を受けた冗長グループ、以前の優先度、新しい優先度、およびエラー イベントの原因の説明を含む syslog エントリが生成されます。

スイッチオーバーが発生する原因となるもう 1 つの状況は、ルータまたはインターフェイスの優先度が、設定可能なしきい値レベルを下回る場合です。

一般的に、スタンバイルータへのスイッチオーバーは次の条件で発生します。

- アクティブルータで停電またはリロードが発生した場合 (クラッシュも含まれます)。
- アクティブルータのランタイム優先度が、スタンバイルータの優先度を下回った場合。
- アクティブルータのランタイム優先度が、設定したしきい値を下回った場合。
- アクティブルータの冗長グループを手動でリロードするには、**redundancy application reload group rg-number** コマンドを使用します。

- 任意のモニタ対象インターフェイスで2つの連続する hello メッセージに失敗した場合、インターフェイスは強制的にテストモードになります。この問題が発生すると、いずれのユニットもまずインターフェイス上のリンクステータスを確認してから、次のテストを実行します。

- ネットワーク アクティビティ テスト
- ARP テスト
- ブロードキャスト ping テスト

ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性機能では、冗長グループのトラフィックは、その冗長グループの入力インターフェイスに関連付けられている仮想 IP アドレスを使用してルーティングされます。仮想 IP アドレスに送信されたトラフィックは、冗長グループがアクティブ状態になっているルータで受信されます。冗長グループのフェールオーバー中は、仮想 IP アドレスへのトラフィックが新しくアクティブになった冗長グループに自動的にルーティングされます。

冗長グループのトラフィックがスタンバイルータの物理 IP アドレスを使用してルーティングされてスタンバイ冗長グループに到達した場合、ファイアウォールはスタンバイ冗長グループに到達したトラフィックをドロップします。一方、トラフィックがアクティブ冗長グループに到達した場合は、確立された TCP または UDP セッションがスタンバイ冗長グループに同期されます。

## 排他的仮想 IP アドレスと排他的仮想 MAC アドレス

仮想 IP (VIP) アドレスと仮想 MAC (VMAC) アドレスは、セキュリティアプリケーションが、トラフィックを受信するインターフェイスを制御するために使用します。インターフェイスは別のインターフェイスとペアにされ、これらのインターフェイスは同じ冗長グループ (RG) に関連付けられます。アクティブな RG に関連付けられているインターフェイスは、VIP アドレスと VMAC を排他的に所有します。アクティブデバイスの Address Resolution Protocol (ARP) プロセスによって、VIP への ARP 要求に対する ARP 応答が送信されます。また、インターフェイスのイーサネット コントローラは、VMAC 宛てのパケットを受信するようにプログラミングされます。RG のフェールオーバーが発生すると、VIP と VMAC の所有権は変化します。新しくアクティブになった RG に関連付けられたインターフェイスは、gratuitous ARP を送信し、インターフェイスのイーサネット コントローラをプログラミングして、VMAC 宛てのパケットを受け入れます。

### IPv6 のサポート

各冗長グループ (RG) を、同じ冗長インターフェイス識別子 (RII) で IPv4 と IPv6 の両方の仮想 IP (VIP) アドレスのトラフィック インターフェイスに割り当てることができます。各 RG は RII ごとに一意の仮想 MAC (VMAC) アドレスを使用します。RG では、IPv6 リンクローカル VIP とグローバル VIP がインターフェイス上に共存します。

トラフィック インターフェイス上の各 RG に対して IPv4 VIP、リンクローカル IPv6 VIP、および/またはグローバル IPv6 VIP を設定できます。IPv6 リンクローカル VIP は、スタティック ルートまたはデフォルトルートを設定する場合に主に使用されます。IPv6 グローバル VIP は、LAN トポロジと WAN トポロジの両方で広く使用されています。

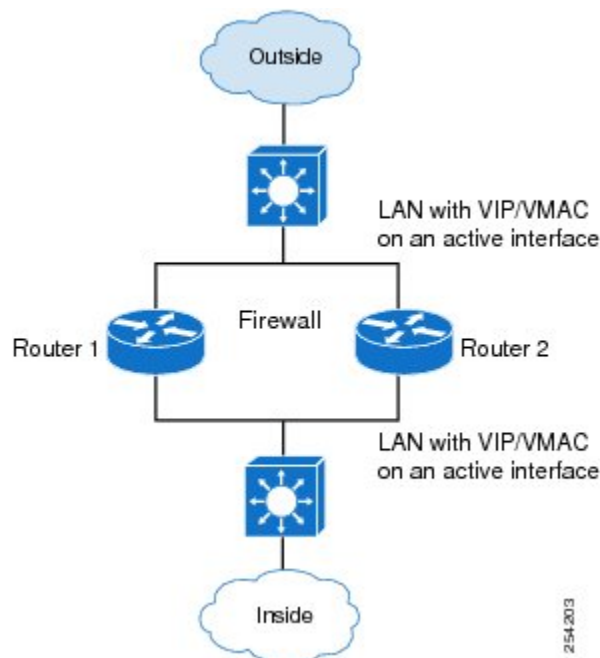
IPv4 VIP を設定する前に、物理 IP アドレスを設定する必要があります。

## サポートされるトポロジ

LAN-LAN トポロジは、ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性アーキテクチャでサポートされます。

### LAN/LAN

次の図に、LAN/LAN トポロジを示します。専用のアプリケーションベースのファイアウォールソリューションを使用するときに、アップストリームまたはダウンストリーム ルータから適切な仮想 IP アドレスへのスタティック ルーティングを設定することで、多くの場合、トラフィックは適切なファイアウォールに送信されます。さらに、Aggregation Services Router (ASR) は、アップストリームまたはダウンストリーム ルータとのダイナミック ルーティングに参加します。LAN 方向のインターフェイスでサポートされるダイナミックルーティング構成では、ルーティングプロトコルのコンバージェンスへの依存が生じないようにしてください。依存があると、高速フェールオーバー要件に適合しなくなります。



LAN/LAN の設定の詳細については、「例：LAN/LAN の設定」を参照してください。

## ゾーンベース ファイアウォールでの VRF 対応シャーシ間冗長性

Cisco IOS XE リリース 3.14S では、ゾーンベース ファイアウォールが VRF 対応シャーシ間冗長性をサポートします。アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスの VPN ルーティングおよび転送 (VRF) 名は同じにする必要があります。アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスの両方で同じ VRF 設定を使用できる必要があります。

ゾーンベース ファイアウォールでの VRF 対応シャーシ間冗長性機能では、アクティブ デバイスとスタンバイ デバイス上でボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ セッション同期メッセージと一緒に VRF ハッシュ キーを送信する VRF マッピング機能が使用されます。

# ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の設定方法

## 冗長アプリケーショングループの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **redundancy**
4. **application redundancy**
5. **group id**
6. **name group-name**
7. **shutdown**
8. **priority value [failover threshold value]**
9. **preempt**
10. **track object-number {decrement value | shutdown}**
11. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config)# redundancy	冗長コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b>	冗長アプリケーションコンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config-red)# application redundancy	
ステップ 5	<b>group id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# group 1	冗長アプリケーション グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>name group-name</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# name group1	(任意) プロトコル インスタンスに任意のエイリアスを指定します。
ステップ 7	<b>shutdown</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# shutdown	(任意) 冗長グループを手動でシャットダウンします。
ステップ 8	<b>priority value [failover threshold value]</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# priority 100 failover threshold 50	(任意) 冗長グループの初期優先度とフェールオーバーしきい値を指定します。
ステップ 9	<b>preempt</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# preempt	グループでのプリエンプションをイネーブルにし、優先度とは無関係にスタンバイデバイスがアクティブデバイスをプリエンプション処理できるようにします。
ステップ 10	<b>track object-number {decrement value   shutdown}</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# track 200 decrement 200	冗長グループの優先度を指定します。この値は、イベントが発生した場合に減らされます。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# end	冗長アプリケーション グループ コンフィギュレーション モードを終了して特権 EXEC モードを開始します。

## 冗長グループ プロトコルの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **redundancy**
4. **application redundancy**
5. **protocol id**
6. **name group-name**
7. **timers hellotime {seconds | msec milliseconds} holdtime {seconds | msec milliseconds}**



8. **authentication** {*text string* | **md5 key-string** [0 | 7] *key-string* **timeout seconds** | **key-chain key-chain-name**}
9. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config)# redundancy	冗長コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-red)# application redundancy	冗長アプリケーションコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>protocol id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# protocol 1	コントロールインターフェイスに接続されるプロトコルインスタンスを指定し、冗長アプリケーションプロトコルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>name group-name</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-prtcl)# name prtcl	(任意) 名前を使用して冗長グループ (RG) を設定します。
ステップ 7	<b>timers hello</b> time { <i>seconds</i>   <b>msec milliseconds</b> } <b>hold</b> time { <i>seconds</i>   <b>msec milliseconds</b> } <b>Example:</b> Device(config-red-app-prtcl)# timers hello 3 hold 9	hello メッセージが送信される間隔と、デバイスがダウン状態と宣言されるまでの時間を指定します。
ステップ 8	<b>authentication</b> { <i>text string</i>   <b>md5 key-string</b> [0   7] <i>key-string</i> <b>timeout seconds</b>   <b>key-chain key-chain-name</b> } <b>Example:</b> Device(config-red-app-prtcl)# authentication md5 key-string 0 n1 timeout 100	認証情報を指定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-prtc1)# end	冗長アプリケーションプロトコルコンフィギュレーションモードを終了し、特権EXECモードを開始します。

## 仮想 IP アドレスおよび冗長インターフェイス識別子の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **redundancy rii** *id*
5. **redundancy group** *id ip virtual-ip exclusive* [**decrement** *value*]
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/1	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>redundancy rii</b> <i>id</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy rii 600	冗長グループ用に冗長インターフェイス識別子 (RII) を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 有効な範囲は 1 ~ 65535 です。</li> </ul>
ステップ 5	<b>redundancy group</b> <i>id ip virtual-ip exclusive</i> [ <b>decrement</b> <i>value</i> ] <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy group 1 ip 10.10.1.1 exclusive decrement 20	インターフェイスを冗長グループに関連付け、仮想 IP アドレスをイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## コントロール インターフェイスおよびデータ インターフェイスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **redundancy**
4. **application redundancy**
5. **group ID**
6. **data** *interface-type interface-number*
7. **control** *interface-type interface-number protocol id*
8. **timers delay** *seconds [reload seconds]*
9. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config)# redundancy	冗長コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-red)# application redundancy	冗長アプリケーションコンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>group ID</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# group 1	冗長アプリケーション グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>data interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# data GigabitEthernet 0/0/0	冗長グループに使用されるデータインターフェイスを指定します。
ステップ 7	<b>control interface-type interface-number protocol id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# control gigabitethernet 0/0/2 protocol 1	冗長グループに使用されるコントロール インターフェイスを指定します。  • このインターフェイスは、コントロール インターフェイス プロトコルのインスタンスにも関連付けられます。
ステップ 8	<b>timers delay seconds [reload seconds]</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# timers delay 100 reload 400	障害の発生後、またはシステムのリロード後に起動するロールのネゴシエートを遅らせるために、冗長グループが待機する時間を指定します。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# end	冗長アプリケーション グループ コンフィギュレーション モードを終了して特権 EXEC モードを開始します。

## ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の管理とモニタリング

ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性機能を管理およびモニタするには、次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug redundancy application group config {all | error | event | func}**
3. **debug redundancy application group faults {all | error | event | fault | func}**
4. **debug redundancy application group media {all | error | event | nbr | packet {rx | tx} | timer}**
5. **debug redundancy application group protocol {all | detail | error | event | media | peer}**
6. **debug redundancy application group rii {error | event}**
7. **debug redundancy application group transport {db | error | event | packet | timer | trace}**
8. **debug redundancy application group vp {error | event}**
9. **show redundancy application group [group-id | all]**
10. **show redundancy application transport {client | group [group-id]}**
11. **show redundancy application control-interface group [group-id]**

12. **show redundancy application faults group** [*group-id*]
13. **show redundancy application protocol** {*protocol-id* | **group** [*group-id*]
14. **show redundancy application if-mgr group** [*group-id*]
15. **show redundancy application data-interface group** [*group-id*]
16. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug redundancy application group config</b> { <b>all</b>   <b>error</b>   <b>event</b>   <b>func</b> } <b>Example:</b> Device# debug redundancy application group config all	冗長グループ アプリケーションの設定を表示します。
ステップ 3	<b>debug redundancy application group faults</b> { <b>all</b>   <b>error</b>   <b>event</b>   <b>fault</b>   <b>func</b> } <b>Example:</b> Device# debug redundancy application group faults error	冗長グループ アプリケーションの障害を表示します。
ステップ 4	<b>debug redundancy application group media</b> { <b>all</b>   <b>error</b>   <b>event</b>   <b>nbr</b>   <b>packet</b> { <b>rx</b>   <b>tx</b> }   <b>timer</b> } <b>Example:</b> Device# debug redundancy application group media timer	冗長グループ アプリケーションのグループ メディア情報を表示します。
ステップ 5	<b>debug redundancy application group protocol</b> { <b>all</b>   <b>detail</b>   <b>error</b>   <b>event</b>   <b>media</b>   <b>peer</b> } <b>Example:</b> Device# debug redundancy application group protocol peer	冗長グループ アプリケーションのグループ プロトコル情報を表示します。
ステップ 6	<b>debug redundancy application group rii</b> { <b>error</b>   <b>event</b> } <b>Example:</b> Device# debug redundancy application group rii event	冗長グループ アプリケーションのグループ RII 情報を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>debug redundancy application group transport {db   error   event   packet   timer   trace}</b> <b>Example:</b> <pre>Device# debug redundancy application group transport trace</pre>	冗長グループ アプリケーションのグループ トランスポート情報を表示します。
ステップ 8	<b>debug redundancy application group vp {error   event}</b> <b>Example:</b> <pre>Device# debug redundancy application group vp event</pre>	冗長グループ アプリケーションのグループ VP 情報を表示します。
ステップ 9	<b>show redundancy application group [group-id   all]</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show redundancy application group all</pre>	冗長グループ情報を表示します。
ステップ 10	<b>show redundancy application transport {client   group [group-id]}</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show redundancy application transport group 1</pre>	冗長グループのトランスポート固有の情報を表示します。
ステップ 11	<b>show redundancy application control-interface group [group-id]</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show redundancy application control-interface group 2</pre>	冗長グループのコントロール インターフェイス情報を表示します。
ステップ 12	<b>show redundancy application faults group [group-id]</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show redundancy application faults group 2</pre>	冗長グループの障害固有の情報を表示します。
ステップ 13	<b>show redundancy application protocol {protocol-id   group [group-id]}</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show redundancy application protocol 3</pre>	冗長グループのプロトコル固有の情報を表示します。
ステップ 14	<b>show redundancy application if-mgr group [group-id]</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show redundancy application if-mgr group 2</pre>	冗長グループのインターフェイス マネージャ情報を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 15	<b>show redundancy application data-interface group</b> [group-id]  <b>Example:</b>  Device# show redundancy application data-interface group 1	データインターフェイス固有の情報を表示します。
ステップ 16	<b>end</b>  <b>Example:</b>  Device# end	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の設定例

### 例：冗長アプリケーショングループの設定

次に、優先順位属性とプリエンプション属性のある group1 という名前の冗長グループを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# group 1
Device(config-red-app-grp)# name group1
Device(config-red-app-grp)# priority 100 failover-threshold 50
Device(config-red-app-grp)# preempt
Device(config-red-app-grp)# track 200 decrement 200
Device(config-red-app-grp)# end
```

### 例：冗長グループ プロトコルの設定

次に、hello time メッセージと hold time メッセージ用のタイマーが設定されている冗長グループを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# protocol 1
Device(config-red-app-prtcl)# timers hellotime 3 holdtime 9
Device(config-red-app-prtcl)# authentication md5 key-string 0 n1 timeout 100
Device(config-red-app-prtcl)# bfd
Device(config-red-app-prtcl)# end
```

## 例：仮想 IP アドレスと冗長インターフェイス識別子の設定

次に、ギガビット イーサネット インターフェイス 0/1/1 の冗長グループ仮想 IP アドレスを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/1
Device(config-if)# redundancy rii 600
Device(config-if)# redundancy group 2 ip 10.2.3.4 exclusive decrement 200
Device(config-if)# end
```

## 例：コントロールインターフェイスとデータ インターフェイスの設定

```
Device# configure terminal
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app-grp)# group 1
Device(config-red-app-grp)# data GigabitEthernet 0/0/0
Device(config-red-app-grp)# control GigabitEthernet 0/0/2 protocol 1
Device(config-red-app-grp)# timers delay 100 reload 400
Device(config-red-app-grp)# end
```

## 例：LAN-LAN トポロジの設定

次のサンプル LAN-LAN 構成で、ステータフルな冗長性を確保するために、2つの発信インターフェイスを備えたルータのペアを設定する方法を示します。この例では、GigabitEthernet 0/1/1 が入力インターフェイスで、GigabitEthernet 0/2/1 が出力インターフェイスです。両方のインターフェイスがゾーンに割り当てられ、ゾーン間のトラフィックを記述するためのクラスマップが定義されます。また、冗長性を確保するようにインターフェイスが設定されます。「検査」アクションがアプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) を呼び出して、ピンホールを開き、他のポート上のトラフィックを許可します。ピンホールは、保護されたネットワークへの制御されたアクセスを特定のアプリケーションが取得できるようにするために ALG 経路で開かれるポートです。

アクティブ デバイスである Device 1 の設定を以下に示します。

```
! Configures redundancy, control and data interfaces
redundancy
mode none
application redundancy
group 2
preempt
priority 200 failover threshold 100
control GigabitEthernet 0/0/4 protocol 2
data GigabitEthernet 0/0/3
!
protocol 2
timers hellotime ms 250 holdtime ms 750
!
! Configures a VRF
ip vrf vrf1
!
```



```
! Configures parameter maps to add parameters that control the behavior of actions and
match criteria.
parameter-map type inspect pmap-udp
  redundancy
  redundancy delay 10
!
parameter-map type inspect pmap-tcp
  redundancy
  redundancy delay 10
!
! Defines class-maps to describes traffic between zones
class-map type inspect match-any cmap-udp
  match protocol udp
!
class-map type inspect match-any cmap-ftp-tcp
  match protocol ftp
  match protocol tcp
!
! Associates class-maps with policy-maps to define actions to be applied
policy-map type inspect p1
  class type inspect cmap-udp
  inspect pmap-udp
!
  class type inspect cmap-ftp-tcp
  inspect pmap-tcp
!
! Identifies and defines network zones
zone security z-int
!
zone security z-hi
!
! Sets zone pairs for any policy other than deny all and assign policy-maps to zone-pairs
by defining a service-policy
zone-pair security hi2int source z-hi destination z-int
  service-policy type inspect p1
!
! Assigns interfaces to zones
interface GigabitEthernet 0/0/1
  ip vrf forwarding vrf1
  ip address 10.1.1.3 255.255.0.0
  ip virtual-reassembly
  zone-member security z-hi
  negotiation auto
  redundancy rii 20
  redundancy group 2 ip 10.1.1.10 exclusive decrement 50
!
interface GigabitEthernet 0/0/2
  ip vrf forwarding vrf1
  ip address 192.0.2.2 255.255.255.240
  ip virtual-reassembly
  zone-member security z-int
  negotiation auto
  redundancy rii 21
  redundancy group 2 ip 192.0.2.12 exclusive decrement 50
!
interface GigabitEthernet 0/0/4
  ip address 198.51.100.17 255.255.255.240
!
interface GigabitEthernet 0/0/4
  ip address 203.0.113.49 255.255.255.240
!
ip route vrf vrf1 192.0.2.0 255.255.255.240 GigabitEthernet0/0/2 10.1.1.4
ip route vrf vrf1 10.1.0.0 255.255.0.0 GigabitEthernet0/0/1 10.1.0.4
!
```

スタンバイ デバイスである Device 2 の設定を以下に示します。

```

! Configures redundancy, control and data interfaces
redundancy
mode none
application redundancy
  group 2
    preempt
    priority 200 failover threshold 100
    control GigabitEthernet 0/0/4 protocol 2
    data GigabitEthernet 0/0/3
!
  protocol 2
    timers hellotime ms 250 holdtime ms 750
!
! Configures a VRF
ip vrf vrfl
!
! Configures parameter maps to add parameters that control the behavior of actions and
match criteria.
parameter-map type inspect pmap-udp
  redundancy
  redundancy delay 10
!
parameter-map type inspect pmap-tcp
  redundancy
  redundancy delay 10
!
! Defines class-maps to describes traffic between zones
class-map type inspect match-any cmap-udp
  match protocol udp
!
class-map type inspect match-any cmap-ftp-tcp
  match protocol ftp
  match protocol tcp
!
! Associates class-maps with policy-maps to define actions to be applied
policy-map type inspect p1
  class type inspect cmap-udp
    inspect pmap-udp
!
  class type inspect cmap-ftp-tcp
    inspect pmap-tcp
!
! Identifies and defines network zones
zone security z-int
!
zone security z-hi
!
! Sets zone pairs for any policy other than deny all and assign policy-maps to zone-pairs
by defining a service-policy
zone-pair security hi2int source z-hi destination z-int
  service-policy type inspect p1
!
! Assigns interfaces to zones
interface GigabitEthernet 0/0/1
  ip vrf forwarding vrfl
  ip address 10.1.1.6 255.255.0.0
  ip virtual-reassembly
  zone-member security z-hi
  negotiation auto
  redundancy rii 20
  redundancy group 2 ip 10.1.1.12 exclusive decrement 50
!

```

```

interface GigabitEthernet 0/0/2
 ip vrf forwarding vrf1
 ip address 192.0.2.5 255.255.255.240
 ip virtual-reassembly
 zone-member security z-int
 negotiation auto
 redundancy rii 21
 redundancy group 2 ip 192.0.2.10 exclusive decrement 50
!
interface GigabitEthernet 0/0/4
 ip address 198.51.100.21 255.255.255.240
!
interface GigabitEthernet 0/0/4
 ip address 203.0.113.53 255.255.255.240
!
ip route vrf vrf1 192.0.2.0 255.255.255.240 GigabitEthernet0/0/2 10.1.1.4
ip route vrf vrf1 10.1.0.0 255.255.0.0 GigabitEthernet0/0/1 10.1.0.4
!

```

## ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

# ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 172:** ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性	Cisco IOS XE リリース 3.1(S)	<p>ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性機能を使用すれば、デバイスのペアを互いのバックアップとして機能するように設定することができます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。  <b>application redundancy、 authentication、 control、 data、 debug redundancy application group config、 debug redundancy application group faults、 debug redundancy application group media、 debug redundancy application group protocol、 debug redundancy application group rii、 debug redundancy application group transport、 debug redundancy application group vp、 group、 name、 preempt、 priority、 protocol、 redundancy rii、 redundancy group、 track、 timers delay、 timers hellotime、 show redundancy application group、 show redundancy application transport、 show redundancy application control-interface、 show redundancy application faults、 show redundancy application protocol、 show redundancy application if-mgr、 show redundancy application data-interface。</b></p>

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ファイアウォールでの VRF 対応ステートフルシャーシ間冗長性	Cisco IOS XE リリース 3.14S	Cisco IOS XE リリース 3.14S では、ゾーンベース ファイアウォールが VRF 対応シャーシ間冗長性をサポートします。アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスの VPN ルーティングおよび転送 (VRF) 名は同じにする必要があります。アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスの両方で同じ VRF 設定を使用できる必要があります。





## 第 129 章

# Cisco CSR1000v ルータに対するファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティ サポート

Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティ サポート機能を使用すると、相互にバックアップとして動作するルータのペアを設定できます。この機能を設定し、複数のフェールオーバー条件に基づいてアクティブ ルータを判断できます。フェールオーバーが発生すると、中断なくスタンバイ ルータが引き継ぎ、トラフィック フォワーディング サービスの実行とダイナミック ルーティング テーブルのメンテナンスを開始します。

- [Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティ サポートの前提条件 \(1743 ページ\)](#)
- [Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティ サポートに関する制約事項 \(1744 ページ\)](#)
- [Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックス高可用性サポートについて \(1744 ページ\)](#)
- [Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティ サポートの設定例 \(1747 ページ\)](#)
- [Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティに関する追加情報, on page 1748](#)
- [Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティに関する機能情報, on page 1749](#)

## Cisco CSR1000v ルータのファイアウォールボックスツーボックスハイアベイラビリティ サポートの前提条件

- ファイアウォールに接続しているインターフェイスは、同じ冗長インターフェイス識別子 (RII) を持つ必要があります。

- アクティブ デバイスおよびスタンバイ デバイスは、Cisco IOS XE ゾーンベース ファイアウォールの設定を同じにする必要があります。
- アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスは、同じバージョンの Cisco IOS XE ソフトウェアで実行する必要があります。アクティブ デバイスとスタンバイは、スイッチを介して接続する必要があります。

## Cisco CSR1000v ルータのファイアウォール ボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する制約事項

- デュアル IOS デーモン (IOSd) が設定されている場合、デバイスはファイアウォール ボックスツーボックス ハイ アベイラビリティの設定をサポートしません。

## Cisco CSR1000v ルータのファイアウォール ボックスツーボックス 高可用性サポートについて

### Cisco CSR1000v でのファイアウォール ボックスツーボックス 高可用性サポートの機能

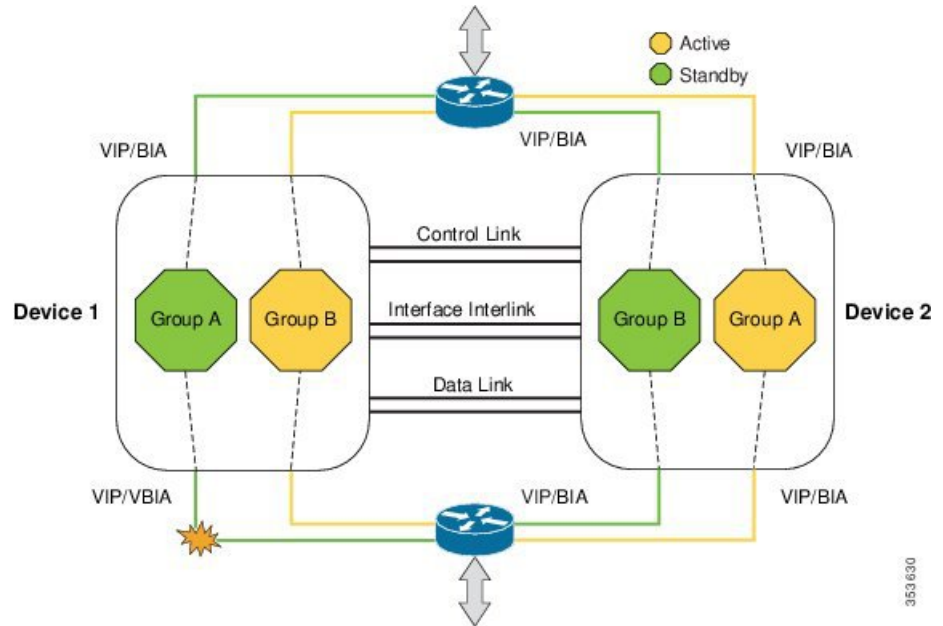
相互にホットスタンバイとして動作するようにルータのペアを設定できます。この冗長性は、インターフェイスベースで設定します。冗長インターフェイスのペアは、冗長グループと呼ばれます。次の図に、アクティブ/スタンバイ デバイスのシナリオを示します。また、1つの発信インターフェイスを持つルータのペアについて、冗長グループを設定する方法を示します。アクティブ/アクティブ デバイス シナリオを表現する「冗長グループの設定：2つの発信インターフェイス」の図に、2つの発信インターフェイスを使用するルータのペアに2つの冗長グループを設定する方法を示します。

いずれの場合でも、設定可能なコントロールリンクおよびデータ同期リンクによって冗長ルータは参加します。コントロールリンクは、ルータのステータスを通信するために使用されます。データ同期リンクは、ネットワーク アドレス変換 (NAT) およびファイアウォールからステートフル情報を転送し、これらのアプリケーションについてステートフルデータベースを同期するために使用されます。

また、いずれの場合でも、冗長インターフェイスのペアは、同じ固有ID番号 (RII と呼ばれます) で設定されます。

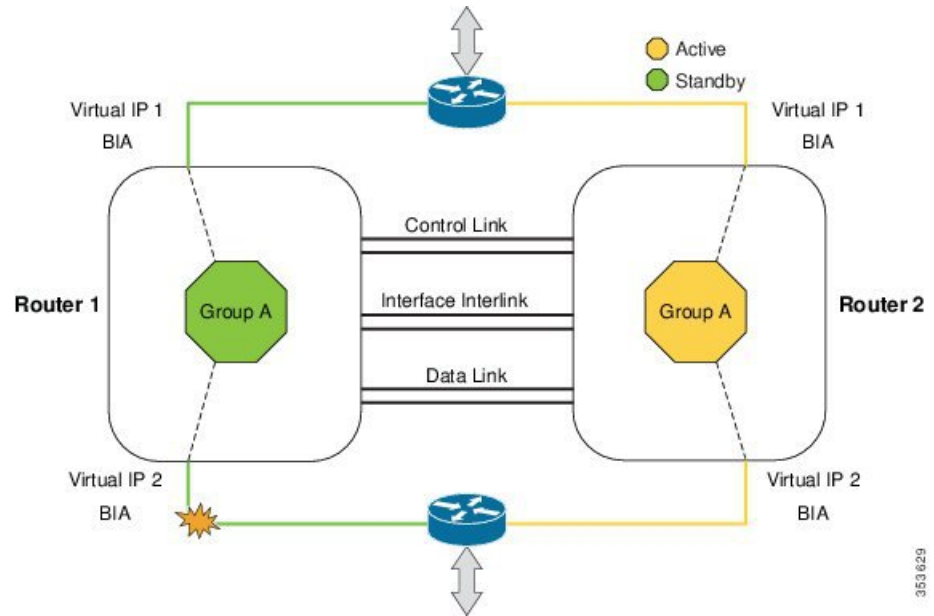


図 63:冗長グループの設定 : 2つの発信インターフェイス



353 630

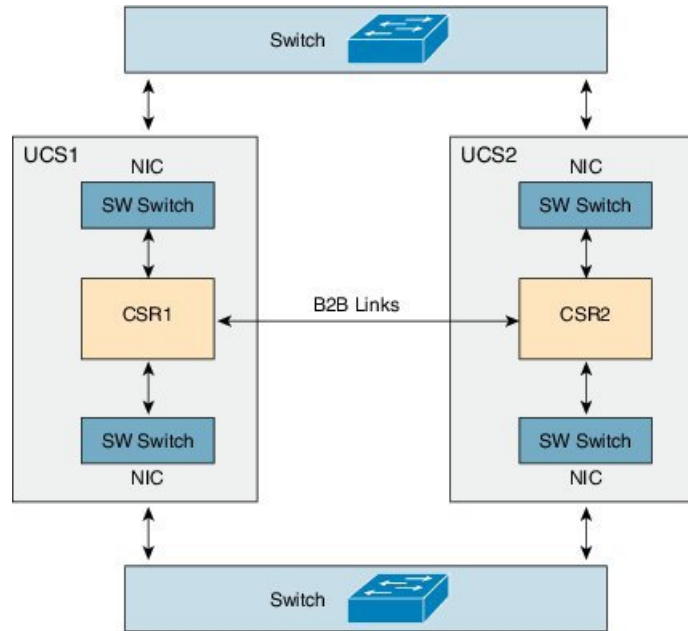
図 64:冗長グループの設定



353 629

以下のシナリオは、Cisco CSR1000v ルータにボックスツーボックス高可用性を導入する例です。

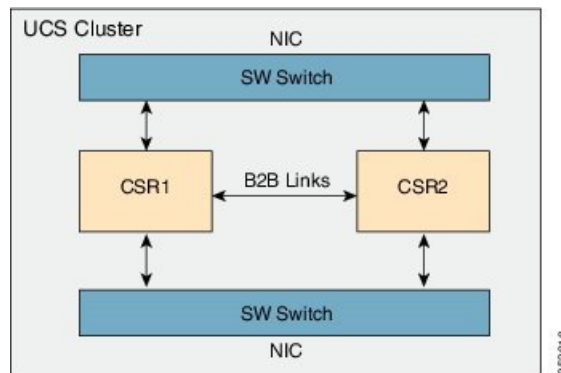
図 65: 2つの独立したサーバでの CSR1000v ボックスツールボックス高可用性



この導入では、2つの冗長 Cisco CSR 1000v ルータがそれぞれ異なる独立した UCS サーバ内にあります。2つの Cisco Unified Computing System (UCS) サーバは、同じデータセンター内に配置することも、異なる地域の2つの異なるデータセンター内に配置することもできます。ボックスツールボックス高可用性データリンクおよびコントロールリンクには、2つの別個の物理接続を設定することを推奨します。ただし、2つの専用物理リンクが使用できない場合は、ボックスツールボックス高可用性データトラフィックおよびコントロールトラフィックにそれぞれ異なるLAN拡張接続を経由できます。その場合、遅延の増加を考慮してボックスツールボックス高可用性パラメータ（ハートビート期間など）を調整する必要があります。

各 Cisco CSR 1000v ルータの LAN インターフェイスは、スイッチ（ESXi L2 SW など）を介して UCS 物理ネットワークインターフェイスカード（NIC）のインターフェイスと接続します。それぞれの UCS にある2つの物理 NIC は外部スイッチに接続されてボックスツールボックスペアを形成します。Gratuitous Address Resolution Protocol（ARP）は、CSR LAN インターフェイスから送信されて物理スイッチとそのスイッチの組み込みアドレス（BIA）に到達します。

図 66: クラスタサーバでの CSR1000v ボックスツールボックス高可用性



上記の導入例での NAT とゾーンベース ファイアウォール (ZBFW) のボックスツースボックス 高可用性は UCS クラスタ構成でも機能します。クラスタ構成の場合、ボックスツースボックス コントロール リンクおよびデータ リンクはクラスタ内の仮想接続を経由します。スイッチ (ESXi L2 SW など) を使用して接続された 2 つの冗長 Cisco CSR 1000v ルータがボックスツースボックス 高可用性ペアを形成します。それぞれの Cisco CSR 1000v ルータ上の LAN インターフェイスは SW スイッチに直接接続され、クラスタ UCS の 2 つの物理 NIC は外部ネットワークと通信するために SW スイッチに接続されます。

設定および設定例について詳しくは、「[ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の設定](#)」モジュールを参照してください。

## Cisco CSR1000v ルータのファイアウォール ボックスツースボックス ハイ アベイラビリティ サポートの設定例

### 例 : Cisco CSR1000v ルータのファイアウォール ボックスツースボックス ハイ アベイラビリティの設定

次に、冗長アプリケーション グループ、冗長グループ プロトコル、仮想 IP アドレスと冗長インターフェイス識別子、および制御インターフェイスとデータインターフェイスを設定する例を示します。

```
!Configures a redundancy application group
Device# configure terminal
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# group 1
Device(config-red-app-grp)# name group1
Device(config-red-app-grp)# priority 100 failover-threshold 50
Device(config-red-app-grp)# preempt
Device(config-red-app-grp)# track 200 decrement 200
Device(config-red-app-grp)# exit

!Configures a redundancy group protocol
Device(config-red-app)# protocol 1
Device(config-red-app-prtcl)# timers hellotime 3 holdtime 9
Device(config-red-app-prtcl)# authentication md5 key-string 0 n1 timeout 100
Device(config-red-app-prtcl)# bfd
Device(config-red-app-prtcl)# end

! Configures a Virtual IP Address and Redundant Interface Identifier
Device# configure terminal
Device(config)# interface GigabitEthernet0/1/1
Device(conf-if)# redundancy rii 600
Device(config-if)# redundancy group 2 ip 10.2.3.4 exclusive decrement 200
Device(config)# redundancy
Device(config-red-app-grp)# data GigabitEthernet0/0/0
Device(config-red-app-grp)# control GigabitEthernet0/0/2 protocol 1
Device(config-red-app-grp)# end
```

```

!Configures control and data interfaces
Device# configure terminal
Device(config-red) # application redundancy
Device(config-red-app-grp) # group 1
Device(config-red-app-grp) # data GigabitEthernet 0/0/0
Device(config-red-app-grp) # control GigabitEthernet 0/0/2 protocol 1
Device(config-red-app-grp) # end

```

## Cisco CSR1000v ルータのファイアウォール ボックスツーマニファスチャス ハイ アベイラビリティに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Master Command List</a> 』、すべてのリリース
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>
ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Configuring Firewall Stateful Interchassis Redundancy</a>』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco CSR1000v ルータのファイアウォール ボックスツーボックス ハイ アベイラビリティに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 173:** ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco CSR1000v ルータに対するファイアウォール ボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ	Cisco IOS XE リリース 3.14S	Cisco CSR1000v ルータに対するファイアウォール ボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ機能を使用すれば、Cisco CSR1000v ルータのペアを互いのバックアップとして機能するように設定することができます。





## CHAPTER 130

# ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポート

ゾーンベース ファイアウォールおよび NAT のシャーシ間非対称ルーティングサポート機能では、スタンバイ冗長グループからアクティブ冗長グループへのパケット処理のためのパケット転送がサポートされています。この機能が有効になっていない場合は、初期同期 (SYN) メッセージを受信しなかったルータに転送されたリターン TCP パケットがドロップされます。これは、パケットが既知のセッションに属していないためです。

このモジュールでは、非対称ルーティングの概要とその設定方法について説明します。

- [ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートに関する制約事項, on page 1751](#)
- [ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートに関する情報, on page 1752](#)
- [ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートの設定方法, on page 1757](#)
- [ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートの設定例, on page 1766](#)
- [ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートに関する追加情報, on page 1770](#)
- [ゾーンベース ファイアウォールおよび NAT のシャーシ間非対称ルーティング サポートの機能情報, on page 1771](#)

## ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートに関する制約事項

次の制約事項が、シャーシ間非対称ルーティング サポート機能に適用されます。

- 仮想 IP アドレスと仮想 MAC (VMAC) アドレスを使用する LAN は、非対称ルーティングをサポートしません。
- In Service Software Upgrade (ISSU) はサポートされません。

以下の機能は、VRF 対応非対称ルーティング サポート機能でサポートされません。

- Cisco Trustsec
- エッジスイッチング サービス
- ヘッダー圧縮
- IPSec
- Policy Based Routing (PBR)
- ポートバンドル
- 合法的傍受
- レイヤ 2 トンネリング プロトコル (L2TP)
- Locator/ID Separation Protocol (LISP) 内部パケット インスペクション
- セキュア シェル (SSL) VPN
- セッション ボーダー コントローラ (SBC)

## ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートに関する情報

### 非対称ルーティングの概要

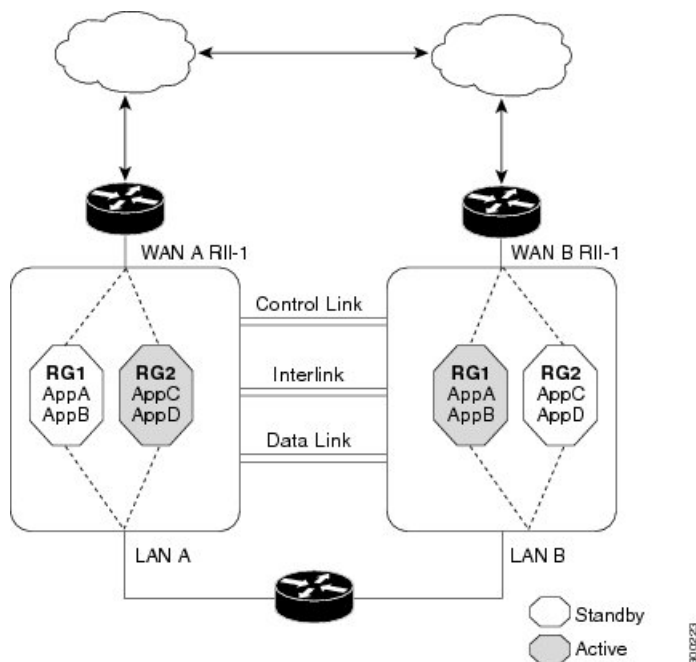
非対称ルーティングは、TCP または UDP 接続の複数のパケットが、異なるルートを経由して異なる方向に送信される場合に発生します。非対称ルーティングでは、1つのTCPまたはUDP接続に属しているパケットは、冗長グループ (RG) の1つのインターフェイスを介して転送されますが、同じRGの別のインターフェイスを介して戻されます。非対称ルーティングでは、パケットフローは同じRGに残ります。非対称ルーティングを設定する場合、スタンバイRGで受信したパケットは、処理のためにアクティブRGにリダイレクトされます。非対称ルーティングが設定されていない場合、スタンバイRGで受信したパケットはドロップされる可能性があります。

非対称ルーティングは、特定のトラフィックフローのRGを決定します。RGの状態は、パケット処理の決定において重要です。RGがアクティブの場合は、通常のパケットの処理が実行されます。RGがスタンバイ状態で、非対称ルーティングおよび **asymmetric-routing always-divert enable** コマンドを設定している場合、パケットはアクティブRGに転送されます。スタンバイRGで受信したパケットをアクティブRGに常に転送するには、**asymmetric-routing always-divert enable** コマンドを使用します。

次の図は、別の非対称ルーティング インターリンク インターフェイスを使用して、パケットをアクティブRGに転送する非対称ルーティング シナリオを示しています。



Figure 67: 非対称ルーティング シナリオ



非対称ルーティングには次のルールが適用されます。

- 冗長インターフェイス識別子 (RII) とインターフェイス間のマッピングは 1:1 です。
- インターフェイスと RG 間のマッピングは 1:n です。(1つの非対称ルーティング インターフェイスは複数の RG との間でトラフィックを送受信できます。非対称ルーティング インターフェイス以外のインターフェイス (通常の LAN インターフェイス) では、インターフェイスと RG 間のマッピングは 1:1 です)
- RG およびその RG を使用するアプリケーション間のマッピングは 1:n です。(複数のアプリケーションが同じ RG を使用できます)。
- RG とトラフィック フロー間のマッピングは 1:1 です。トラフィック フローは、単一 RG だけにマッピングされる必要があります。トラフィック フローが複数の RG にマッピングされると、エラーが発生します。
- 非対称ルーティング インターリンクに、すべての RG インターリンク トラフィックをサポートできる十分な帯域幅がある限り、RG と非対称ルーティング インターリンク間のマッピングは 1:1 または 1:n です。

非対称ルーティングは、転送されるすべてのトラフィックを処理するインターリンク インターフェイスで構成されます。非対称ルーティング インターリンク インターフェイスの帯域幅は、転送が予期されるすべてのトラフィックを処理できるだけの十分な大きさが必要です。IPv4 アドレスは、非対称ルーティング インターリンク インターフェイスで設定され、非対称ルーティング インターフェイスの IP アドレスは、このインターフェイスから到達可能である必要があります。



**Note** 非対称ルーティング インターリンク インターフェイスは、インターリンク トラフィックのみに使用し、ハイ アベイラビリティ制御インターフェイスまたはデータ インターフェイスと共有しないことを推奨します。これは、非対称ルーティング インターリンク インターフェイス上のトラフィック量が非常に高くなる可能性があるためです。

## ファイアウォールでの非対称ルーティング サポート

ボックス内非対称ルーティングのサポートのために、ファイアウォールは、Internet Control Message Protocol (ICMP)、TCP、およびUDP パケットのステートフルレイヤ3およびレイヤ4 インспекションを行います。ファイアウォールは、パケットのウィンドウサイズと順序を確認して、TCP パケットのステートフル インспекションを実行します。ファイアウォールでは、ステートフルインспекションのためにトラフィックの双方向からのステート情報も必要です。ファイアウォールはICMP 情報フローの限定的なインспекションを行います。ICMP エコー要求および応答に関連付けられているシーケンス番号が確認されます。ファイアウォールでスタンバイ冗長グループ (RG) とパケットフローの同期が行われるのは、そのパケットに対してセッションが確立された後です。確立されるセッションは、TCP、UDP の2番目のパケット、およびICMPの 情報メッセージに対するスリーウェイハンドシェイクです。すべてのICMP フローはアクティブ RG に送信されます。

ファイアウォールにより、ICMP、TCP、およびUDP プロトコルに属さないパケットについて、ポリシーのステートレス検証が行われます。

ファイアウォールは、双方向トラフィックを使用して、パケットフローがエージングアウトする時期を決定し、すべての検査対象パケット フローをアクティブ RG に転送します。パス ポリシーを持つパケットフローと、ポリシーなしまたはドロップポリシーと同じゾーンが含まれるパケット フローは転送されません。



**Note** スタンバイ RG で受信したパケットをアクティブ RG へ転送する `asymmetric-routing always-divert enable` コマンドは、ファイアウォールではサポートされていません。デフォルトでは、ファイアウォールはすべてのパケット フローをアクティブ RG に強制的に転送します。

## NAT での非対称ルーティング

デフォルトでは、非対称ルーティングが設定されている場合、ネットワーク アドレス変換 (NAT) は非 ALG パケットをアクティブ RG に転送するのではなく、スタンバイ RG で処理します。NAT のみの設定 (ファイアウォールが設定されていない場合) では、パケットの処理にアクティブ RG およびスタンバイ RG の両方を使用できます。NAT のみの設定を使用しており、非同期ルーティングを設定している場合、デフォルトの非同期ルーティングルールは、NAT がスタンバイ RG でパケットを選択的に処理するというルールです。スタンバイ RG で受信したパケットをアクティブ RG へ転送するように `asymmetric-routing always-divert enable` コ

マンドを設定できます。あるいは、NAT と共にファイアウォールを設定している場合は、デフォルトの非同期ルーティング ルールではパケットが常にアクティブ RG に転送されます。

NAT がスタンバイ RG でパケットを受信したときに、パケットの転送が設定されていない場合、NAT は検索を実行してそのパケットのセッションが存在するかどうかを確認します。セッションが存在しており、そのセッションに関連付けられた ALG がない場合、NAT はスタンバイ RG でパケットを処理します。セッションが存在している場合にスタンバイ RG でパケットを処理すると、NAT トラフィックの帯域幅が大幅に増加します。

NAT ではペイロードの特定と変換、および子フローの作成に ALG が使用されます。ALG が適切に機能するには、双方向トラフィックが必要です。NAT は、ALG に関連付けられているすべてのパケットフローのトラフィックをアクティブ RG に転送する必要があります。このため、セッションに関連付けられている ALG データがスタンバイ RG で検出されたかどうかを確認します。ALG データが存在している場合、非対称ルーティングのためにパケットが転送されます。

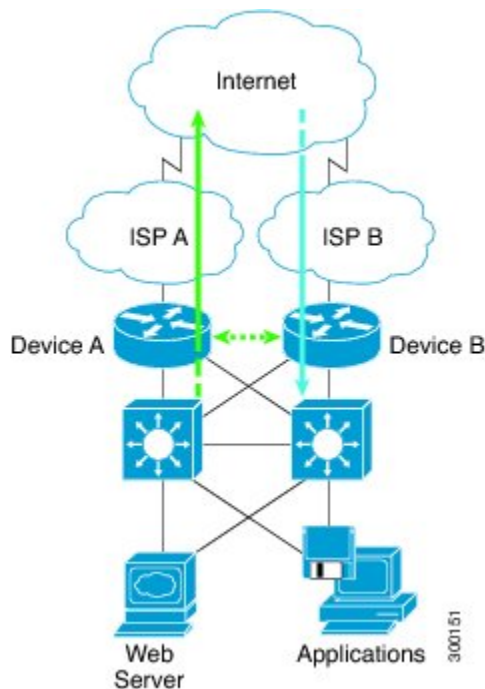
VRF 対応ソフトウェアインフラストラクチャ (VASI) サポートが Cisco IOS XE リリース 3.16S で追加されました。マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) 非対称ルーティングもサポートされています。

Cisco IOS XE リリース 3.16S では、NAT は ALG、キャリア グレード NAT (CGN)、および Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスによる非対称ルーティングをサポートしています。ALG、CGN、または VRF による非対称ルーティングを有効にするために設定を変更する必要はありません。詳細については、「例：VRF による非対称ルーティングの設定」を参照してください。

## WAN-LAN トポロジでの非対称ルーティング

非対称ルーティングでは WAN-LAN トポロジだけがサポートされています。WAN-LAN トポロジでは、デバイスが内部の LAN インターフェイスおよび外部の WAN インターフェイスを介して接続されます。WAN リンク経由で受信されるリターン トラフィックのルーティングは制御できません。非対称ルーティングは、WAN-LAN トポロジの WAN リンク経由で受信したリターン トラフィックのルーティングを制御します。次に、WAN-LAN トポロジを示します。

Figure 68: WAN-LAN トポロジでの非対称ルーティング



## ゾーンベース ファイアウォールでの VRF 対応非対称ルーティング

Cisco IOS XE リリース 3.14S では、ゾーンベース ファイアウォールで、VRF 対応シャーマン間非対称ルーティング機能がサポートされます。この機能は、マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) をサポートします。

非対称ルーティング転送中に、VPN ルーティングおよび転送 (VRF) 名ハッシュ値が転送パケットとともに送信されます。VRF 名ハッシュ値は、転送後にアクティブ デバイス上でローカル VRF ID とテーブル ID に変換されます。

転送パケットが、ネットワーク アドレス変換 (NAT) とゾーンベース ファイアウォールが設定されたアクティブ デバイスに到着すると、ファイアウォールが NAT または NAT64 から VRF ID を取得して、それをファイアウォールセッション キーに保存します。

ここでは、ゾーンベースファイアウォールのみがデバイスに設定されている場合の非対称ルーティング パケット フローについて説明します。

- デバイスに MPLS が設定されている場合は、転送パケットの VRF ID 処理が非対称ルーティング転送パケットの処理と同じになります。MPLS パケットは、スタンバイデバイスで MPLS ラベルが削除される場合でも、アクティブ デバイスに転送されます。ゾーンベースファイアウォールは、出力インターフェイスでパケットを検査し、このインターフェイスで MPLS が検出された場合は、出力 VRF ID を 0 に設定します。入力インターフェイスで MPLS が設定されている場合は、ファイアウォールが入力 VRF ID を 0 に設定します。

- マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) パケットがスタンバイ デバイスからアクティブ デバイスに転送されるときに、非対称ルーティング転送が実行される前に MPLS ラベルが削除されます。
- デバイスで MPLS が設定されていない場合は、IP パケットがアクティブ デバイスに転送され、VRF ID が設定されます。ファイアウォールは、出力インターフェイスでパケットを検査するときに、ローカル VRF ID を取得します。

アクティブ デバイスとスタンバイ デバイス間の VRF マッピングは、コンフィギュレーションの変更を必要としません。

## NAT での VRF 対応非対称ルーティング

Cisco IOS XE リリース 3.14S では、ネットワーク アドレス変換で VRF 対応シャーシ間非対称ルーティングがサポートされます。VRF 対応シャーシ間非対称ルーティングでは、VPN ルーティングおよび転送 (VRF) 名のメッセージ ダイジェスト (MD) 5 ハッシュを使用して、アクティブ デバイスとスタンバイ デバイス内の VRF とデータパスを特定し、VRF 名ハッシュからローカル VRF ID を、またはローカル VRF ID から VRF 名ハッシュを取得します。

VRF 対応シャーシ間非対称ルーティングでは、アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスの VRF に同じ VRF 名を付ける必要があります。ただし、VRF ID は、非対称ルーティング転送またはボックスツーボックスハイアベイラビリティ同期の最中にスタンバイ デバイスとアクティブ デバイスの VRF 名に基づいてマップされるため、両方のデバイスで同じにする必要はありません。

VRF 名の MD5 ハッシュ衝突が発生した場合は、VRF に属しているファイアウォールセッションと NAT セッションがスタンバイ デバイスと同期しません。

アクティブ デバイスとスタンバイ デバイス間の VRF マッピングは、コンフィギュレーションの変更を必要としません。

## ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートの設定方法

### 冗長アプリケーション グループおよび冗長グループ プロトコルの設定

冗長グループは、次の設定要素で構成されています。

- オブジェクトごとに優先度が減らされる量。
- 優先度を減少させる障害 (オブジェクト)
- フェールオーバー優先度

- フェールオーバーしきい値
- グループ インスタンス
- グループ名
- 初期化遅延タイマー

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **redundancy**
4. **application redundancy**
5. **group id**
6. **name group-name**
7. **priority value [failover threshold value]**
8. **preempt**
9. **track object-number decrement number**
10. **exit**
11. **protocol id**
12. **timers hello-time {seconds | msec msec} hold-time {seconds | msec msec}**
13. **authentication {text string | md5 key-string [0 | 7] key [timeout seconds] | key-chain key-chain-name}**
14. **bfd**
15. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config)# redundancy	冗長コンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-red)# application redundancy	アプリケーション冗長性を設定し、冗長性アプリケーション コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>group id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# group 1	冗長性グループを設定し、冗長性アプリケーショングループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>name group-name</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# name group1	プロトコル インスタンス用に、任意指定のエイリアスを指定します。
ステップ 7	<b>priority value [failover threshold value]</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# priority 100 failover threshold 50	冗長グループの初期優先度とフェールオーバーしきい値を指定します。
ステップ 8	<b>preempt</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# preempt	冗長グループでのプリエンプションをイネーブルにし、スタンバイ デバイスがアクティブ デバイスをプリエンプション処理できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>スタンバイ デバイスは、優先度がアクティブ デバイスよりも高いときにのみプリエンプション処理します。</li> </ul>
ステップ 9	<b>track object-number decrement number</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# track 50 decrement 50	冗長グループの優先度値を指定します。この値は、トラッキング対象のオブジェクトでイベントが発生した場合に減らされます。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# exit	冗長アプリケーショングループ コンフィギュレーション モードを終了して、冗長アプリケーション コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>protocol id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# protocol 1	コントロール インターフェイスに接続されるプロトコル インスタンスを指定し、冗長アプリケーションプロトコル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>timers hello-time {seconds   msec msec} hold-time {seconds   msec msec}</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-protcl)# timers hello-time 3 hold-time 10	hello メッセージが送信される間隔、およびデバイスがダウン状態と宣言されるまでの時間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>保留時間は、hello-time の少なくとも 3 倍でなければなりません。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 13	<b>authentication</b> { <i>text string</i>   <b>md5 key-string</b> [0   7] <i>key</i> [ <i>timeout seconds</i> ]   <b>key-chain key-chain-name</b> }  <b>Example:</b> <pre>Device(config-red-app-prtc1)# authentication md5 key-string 0 n1 timeout 100</pre>	認証情報を指定します。
ステップ 14	<b>bfd</b>  <b>Example:</b> <pre>Device(config-red-app-prtc1)# bfd</pre>	双方向フォワーディング検出 (BFD) を使用してコントロール インターフェイスで実行されているフェールオーバー プロトコルを統合し、ミリ秒単位での障害検出を達成できるようにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• BFD はデフォルトでイネーブルになっています。</li> </ul>
ステップ 15	<b>end</b>  <b>Example:</b> <pre>Device(config-red-app-prtc1)# end</pre>	冗長アプリケーションプロトコルコンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## データ、コントロール、および非対称ルーティング インターフェイスの設定

この作業では、次の冗長グループ (RG) 要素を設定します。

- コントロール インターフェイスとして使用されるインターフェイス。
- データ インターフェイスとして使用されるインターフェイス。
- 非対称ルーティングに使用されるインターフェイス。これはオプションのタスクです。この作業は、ネットワーク アドレス変換 (NAT) の非対称ルーティングを設定する場合にのみ実行します。



**Note** 別個のインターフェイスで非対称ルーティング、データ、およびコントロールを設定する必要があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **redundancy**
4. **application redundancy**
5. **group id**



6. **data** *interface-type interface-number*
7. **control** *interface-type interface-number protocol id*
8. **timers delay** *seconds [reload seconds]*
9. **asymmetric-routing interface** *type number*
10. **asymmetric-routing always-divert** **enable**
11. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config)# redundancy	冗長コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-red)# application redundancy	アプリケーション冗長性を設定し、冗長性アプリケーション コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>group id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# group 1	冗長性グループ (RG) を設定し、冗長性アプリケーショングループ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>data interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# data GigabitEthernet 0/0/1	RG で使用されるデータ インターフェイスを指定します。
ステップ 7	<b>control interface-type interface-number protocol id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# control GigabitEthernet 1/0/0 protocol 1	RG で使用されるコントロール インターフェイスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>また、コントロール インターフェイスは、コントロール インターフェイス プロトコルのインスタンスにも関連付けられます。</li></ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>timers delay</b> <i>seconds</i> [ <b>reload</b> <i>seconds</i> ] <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# timers delay 100 reload 400	障害の発生後、またはシステムのリロード後に開始されるロールネゴシエーションを RG で遅延させるのに必要な時間を指定します。
ステップ 9	<b>asymmetric-routing interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# asymmetric-routing interface GigabitEthernet 0/1/1	RG で使用される非対称ルーティングインターフェイスを指定します。
ステップ 10	<b>asymmetric-routing always-divert enable</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# asymmetric-routing always-divert enable	スタンバイ RG から受信したパケットをアクティブ RG に常に転送します。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# end	冗長アプリケーショングループ コンフィギュレーションモードを終了して特権 EXEC モードを開始します。

## インターフェイスでの冗長インターフェイス識別子および非対称ルーティングの設定



### Note

- データ インターフェイスまたはコントロール インターフェイスとして設定されているインターフェイスでは、冗長インターフェイス識別子 (RII) を設定してはなりません。
- アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスの両方で RII および非対称ルーティングを設定する必要があります。
- 仮想 IP アドレスが設定されているインターフェイスでは、非対称ルーティングをイネーブルにすることはできません。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **redundancy rii** *id*
5. **redundancy group** *id* [**decrement** *number*]
6. **redundancy asymmetric-routing enable**
7. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/3	冗長グループ (RG) に関連付けるインターフェイスを選択し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>redundancy rii id</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy rii 600	冗長性インターフェイス識別子 (RII) を設定します。
ステップ 5	<b>redundancy group id [decrement number]</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy group 1 decrement 20	RG 冗長性トラフィック インターフェイスの設定をイネーブルにし、インターフェイスのダウン時に優先度から減らされる量を指定します。  <b>Note</b> 非対称ルーティングがイネーブルになっているトラフィック インターフェイスで RG を設定する必要はありません。
ステップ 6	<b>redundancy asymmetric-routing enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy asymmetric-routing enable	各 RG の非対称フロー転送トンネルを確立します。
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## 非対称ルーティングを使用したダイナミック内部送信元変換の設定

次の設定は、非対称ルーティングを使用したダイナミック内部送信元変換の例です。非対称ルーティングを設定する際に使用できる NAT 設定のタイプは、ダイナミック外部送信元、スタティック内部および外部送信元、ポートアドレス変換 (PAT) 内部および外部送信元変換です。NAT 設定のそれぞれのタイプの詳細については、「[IP アドレス節約のための NAT 設定](#)」の章を参照してください。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **ip address** *ip-address mask*
5. **ip nat outside**
6. **exit**
7. **redundancy**
8. **application redundancy**
9. **group** *id*
10. **asymmetric-routing always-divert enable**
11. **end**
12. **configure terminal**
13. **ip nat pool** *name start-ip end-ip {mask | prefix-length prefix-length}*
14. **exit**
15. **ip nat inside source list** *acl-number pool name redundancy redundancy-id mapping-id map-id*
16. **access-list** *standard-acl-number permit source-address wildcard-bits*
17. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/3	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip address</b> <i>ip-address mask</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	インターフェイスのプライマリ IP アドレスを設定します。
ステップ 5	<b>ip nat outside</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nat outside	外部と接続されることを示すマークをインターフェイスに付けます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 7	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config)# redundancy	冗長性を設定し、冗長性コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-red)# application redundancy	アプリケーション冗長性を設定し、冗長性アプリケーション コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>group id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# group 1	冗長性グループを設定し、冗長性アプリケーショングループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>asymmetric-routing always-divert enable</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# asymmetric-routing always-divert enable	アクティブデバイスにトラフィックを転送します。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# end	冗長アプリケーショングループ コンフィギュレーション モードを終了して特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 12	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>ip nat pool name start-ip end-ip {mask  prefix-length prefix-length}</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip nat pool pool1 prefix-length 24	グローバルアドレスのプールを定義します。  • IP NAT プール コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ipnat-pool)# exit	IP NAT プール コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 15	<b>ip nat inside source list acl-number pool name redundancy redundancy-id mapping-id map-id</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip nat inside source list pool pool1 redundancy 1 mapping-id 100	内部送信元アドレスの NAT を有効にし、マッピング ID を使用して NAT を冗長グループに関連付けます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 16	<b>access-list standard-acl-number permit source-address wildcard-bits</b>  <b>Example:</b> Device(config)# access-list 10 permit 10.1.1.1 255.255.255.0	変換される内部アドレス用の標準アクセス リストを定義します。
ステップ 17	<b>end</b>  <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートの設定例

例：冗長アプリケーショングループと冗長グループ プロトコルの設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# group 1
Device(config-red-app-grp)# name group1
Device(config-red-app-grp)# priority 100 failover threshold 50
Device(config-red-app-grp)# preempt
Device(config-red-app-grp)# track 50 decrement 50
Device(config-red-app-grp)# exit
Device(config-red-app)# protocol 1
Device(config-red-app-prtcl)# timers hellotime 3 holdtime 10
Device(config-red-app-prtcl)# authentication md5 key-string 0 n1 timeout 100
Device(config-red-app-prtcl)# bfd
Device(config-red-app-prtcl)# end

```

例：データ、コントロール、および非対称ルーティングインターフェイスの設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# group 1
Device(config-red-app-grp)# data GigabitEthernet 0/0/1
Device(config-red-app-grp)# control GigabitEthernet 1/0/0 protocol 1
Device(config-red-app-grp)# timers delay 100 reload 400
Device(config-red-app-grp)# asymmetric-routing interface GigabitEthernet 0/1/1
Device(config-red-app-grp)# asymmetric-routing always-divert enable
Device(config-red-app-grp)# end

```

## 例：インターフェイスでの冗長インターフェイス識別子と非対称ルーティングの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/3
Device(config-if)# redundancy rii 600
Device(config-if)# redundancy group 1 decrement 20
Device(config-if)# redundancy asymmetric-routing enable
Device(config-if)# end
```

## 例：非対称ルーティングを使用したダイナミック内部送信元変換の設定

```
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/3
Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
Device(config-if)# ip nat outside
Device(config-if)# exit
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# group 1
Device(config-red-app-grp)# asymmetric-routing always-divert enable
Device(config-red-app-grp)# end
Device# configure terminal
Device(config)# ip nat pool pool1 prefix-length 24
Device(config-ipnat-pool)# exit
Device(config)# ip nat inside source list pool pool1 redundancy 1 mapping-id 100
Device(config)# access-list 10 permit 10.1.1.1 255.255.255.0
```

## 例：対称ルーティングボックスツーボックス冗長性を使用した WAN-WAN トポロジ用の VRF 対応 NAT の設定

次に、WAN 間対称ルーティング設定の例を示します。

```
vrf definition Mgmt-intf
 address-family ipv4
   exit-address-family
!
 address-family ipv6
   exit-address-family
!
!
vrf definition VRFA
 rd 100:1
 route-target export 100:1
 route-target import 100:1
 address-family ipv4
   exit-address-family
!
!
```

```
no logging console
no aaa new-model
!
multilink bundle-name authenticated
!
redundancy
mode sso
application redundancy
group 1
  preempt
  priority 120
  control GigabitEthernet 0/0/1 protocol 1
  data GigabitEthernet 0/0/2
!
!
!
!
ip tftp source-interface GigabitEthernet0
ip tftp blocksize 8192
!
track 1 interface GigabitEthernet 0/0/4 line-protocol
!
interface Loopback 0
 ip address 209.165.201.1 255.255.255.224
!
interface GigabitEthernet 0/0/0
 vrf forwarding VRFA
 ip address 192.168.0.1 255.255.255.248
 ip nat inside
 negotiation auto
 bfd interval 50 min_rx 50 multiplier 3
 redundancy rii 2
!
interface GigabitEthernet 0/0/1
 ip address 209.165.202.129 255.255.255.224
 negotiation auto
!
interface GigabitEthernet 0/0/2
 ip address 192.0.2.1 255.255.255.224
 negotiation auto
!
interface GigabitEthernet 0/0/3
 ip address 198.51.100.1 255.255.255.240
 negotiation auto
!
interface GigabitEthernet 0/0/4
 ip address 203.0.113.1 255.255.255.240
 negotiation auto
!
interface GigabitEthernet 0
 vrf forwarding Mgmt-intf
 ip address 172.16.0.1 255.255.0.0
 negotiation auto
!
interface vasileft 1
 vrf forwarding VRFA
 ip address 10.4.4.1 255.255.0.0
 ip nat outside
 no keepalive
!
interface vasiright 1
 ip address 10.4.4.2 255.255.0.0
 no keepalive
!
```



```
router mobile
!
router bgp 577
  bgp router-id 1.1.1.1
  bgp log-neighbor-changes
  neighbor 203.0.113.1 remote-as 223
  neighbor 203.0.113.1 description PEERING to PTNR neighbor 10.4.4.1 remote-as 577
  neighbor 10.4.4.1 description PEEERING to VASI VRFA interface
!
address-family ipv4
  network 203.0.113.1 mask 255.255.255.240
  network 10.4.0.0 mask 255.255.0.0
  network 209.165.200.224 mask 255.255.255.224
  neighbor 203.0.113.1 activate
  neighbor 10.4.4.1 activate
  neighbor 10.4.4.1 next-hop-self
  exit-address-family
!
address-family ipv4 vrf VRFA
  bgp router-id 4.4.4.4
  network 192.168.0.0 mask 255.255.255.248
  network 10.4.0.0 mask 255.255.0.0
  redistribute connected
  redistribute static
  neighbor 192.168.0.2 remote-as 65004
  neighbor 192.168.0.2 fall-over bfd
  neighbor 192.168.0.2 activate
  neighbor 10.4.4.2 remote-as 577
  neighbor 10.4.4.2 description PEERING to VASI Global intf
  neighbor 10.4.4.2 activate
  exit-address-family
!
ip nat switchover replication http
ip nat pool att_pool 209.165.200.225 209.165.200.225 prefix-length 16
ip nat inside source list 4 pool att_pool redundancy 1 mapping-id 100 vrf VRFA overload
ip forward-protocol nd
!
no ip http server
no ip http secure-server
ip route 203.0.113.1 255.255.255.224 10.4.4.1
ip route 192.168.0.0 255.255.0.0 10.4.4.1
ip route 209.165.200.224 255.255.255.224 10.4.4.1
ip route vrf Mgmt-intf 209.165.200.1 255.255.255.224 172.16.0.0
!
ip prefix-list VRF_Pool seq 5 permit 209.165.200.0/27
ip prefix-list p1-adv-1 seq 5 permit 209.165.200.0/27
ip prefix-list p1-exist-1 seq 5 permit 203.0.113.193/27
logging esm config
access-list 4 permit 203.0.113.193 255.255.255.224
!
control-plane
line console 0
  stopbits 1
!
line vty 0 3
  login
!
line vty 4
  password lab
  login
!
end
```

## 例：VRF を使用した非対称ルーティングの設定

次に、Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスを使用して非対称ルーティングを設定する例を示します。

```

Device(config)# redundancy
Device(config-red)# mode sso
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# group 1
Device(config-red-app-grp)# name RG1
Device(config-red-app-grp)# preempt
Device(config-red-app-grp)# priority 100 failover threshold 40
Device(config-red-app-grp)# control GigabitEthernet 1/0/3 protocol 1
Device(config-red-app-grp)# data GigabitEthernet 1/0/3
Device(config-red-app-grp)# asymmetric-routing interface GigabitEthernet 1/0/4
Device(config-red-app-grp)# asymmetric-routing always-divert enable
Device(config-red-app-grp)# exit
Device(config-red-app)# exit
Device(config-red)# exit
!
Device(config)# interface TenGigabitEthernet 2/0/0
Device(config-if)# ip vrf forwarding vrf001
Device(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.255.255.0
Device(config-if)# ip nat inside
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface TenGigabitEthernet 3/0/0
Device(config-if)# ip vrf forwarding vrf001
Device(config-if)# ip address 192.0.2.1 255.255.255.0
Device(config-if)# ip nat outside
Device(config-if)# exit
!
Device(config-if)# ip nat pool pool-vrf001 209.165.201.1 209.165.201.30 prefix-length
24
Device(config-if)# ip nat inside source list 1 pool pool-vrf001 redundancy 1 mapping-id
1 vrf vrf001 match-in-vrf overload
Device(config-if)# end

```

## ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティング サポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
ファイアウォール シャーシ間冗長性	「ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性の設定」モジュール
NAT シャーシ間冗長性	「ステートフル シャーシ間冗長性の設定」モジュール

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ゾーンベース ファイアウォールおよび NAT のシャーシ間非対称ルーティング サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 174: ゾーンベース ファイアウォールおよび NAT のシャーシ間非対称ルーティング サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
NAT44 対応の非対称ルーティング拡張	Cisco IOS XE リリース 3.16S	NAT 44 対応の非対称ルーティング拡張機能は、CGN、ALG、VRF、VASI、および MPLS を使用した非対称ルーティングをサポートしています。  追加または変更されたコマンドはありません。
ゾーンベースファイアウォールと NAT に対するシャーシ間非対称ルーティングサポート	Cisco IOS XE Release 3.5S	ゾーンベース ファイアウォールおよび NAT のシャーシ間非対称ルーティングサポート機能では、スタンバイ冗長グループからアクティブ冗長グループへのパケット処理のためのパケット転送がサポートされています。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>asymmetric-routing</b> 、 <b>redundancy asymmetric-routing enable</b>
ゾーンベースファイアウォールの VRF 対応シャーシ間非対称ルーティング サポート	Cisco IOS XE リリース 3.14S	ゾーンベースファイアウォールでは、VRF 対応シャーシ間非対称ルーティング機能がサポートされています。この機能は MPLS をサポートしています。この機能については設定の変更はありません。  追加または変更されたコマンドはありません。
NAT の VRF 対応シャーシ間非対称ルーティングサポート	Cisco IOS XE リリース 3.14S	NAT では、VRF 対応シャーシ間非対称ルーティング機能がサポートされています。この機能は MPLS をサポートしています。この機能については設定の変更はありません。  追加または変更されたコマンドはありません。



## CHAPTER 131

# IPv6 ゾーンベースファイアウォールのボックスツーボックスハイアベイラビリティサポート

IPv6 ゾーンベースファイアウォールのボックスツーボックスハイアベイラビリティサポート機能では、IPv6 ファイアウォールの冗長グループ (RG) に基づいてハイアベイラビリティ (HA) がサポートされています。この機能により、相互にバックアップとして動作するデバイスのペアを設定できます。この機能を設定し、複数のフェールオーバー条件に基づいてアクティブデバイスを判断できます。この機能は、IPv6 パケットインスペクションのFTP66 アプリケーションレイヤゲートウェイ (ALG) をサポートしています。

このモジュールでは、ボックスツーボックス (B2B) HA サポートに関する情報を提供し、この機能を設定する方法について説明します。

- [IPv6 ゾーンベースファイアウォールに対するボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートに関する前提条件, on page 1774](#)
- [IPv6 ゾーンベースファイアウォールに対するボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートに関する制約事項, on page 1774](#)
- [IPv6 ゾーンベースファイアウォールに対するボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートに関する情報, on page 1775](#)
- [IPv6 ゾーンベースファイアウォールに対するボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートの設定方法, on page 1781](#)
- [IPv6 ゾーンベースファイアウォールに対するボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートの設定例, on page 1795](#)
- [IPv6 ゾーンベースファイアウォールに対するボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートに関する追加情報, on page 1798](#)
- [IPv6 ゾーンベースファイアウォールのボックスツーボックスハイアベイラビリティサポートの機能情報, on page 1798](#)

## IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックス ツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する 前提条件

- ファイアウォールにアタッチされたインターフェイスは、冗長インターフェイス識別子 (RII) を同じにする必要があります。
- アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスは、ゾーンベース ポリシー ファイアウォール 設定を同じにする必要があります。
- アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスは、同じバージョンのシスコ ソフトウェア上で動作する必要があります。アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスは、スイッチ経由で接続する必要があります。
- アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスの両方のボックスツーボックス (B2B) 設定は同じにする必要があります。これは、これらのデバイス間の設定の自動同期機能がないためです。
- 非対称ルーティング トラフィックを通過させるためには、`class-default` クラスの通過アクションを設定する必要があります。`class-default` クラスは、ポリシー内のユーザ定義クラスのどれとも一致しないすべてのパケットを表すシステム定義のクラス マップです。
- 2 つの LAN インターフェイス間でゾーン ペアを設定する場合は、両方のインターフェイス上で同じ冗長グループ (RG) が設定されていることを確認します。ゾーンペア設定は、LAN インターフェイスが別の RG に属している場合はサポートされません。

## IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックス ツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する 制約事項

- ボックスツーボックス (B2B) リンク間インターフェイスでは、IPv4 のみがサポートされます。
- マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) と Virtual Routing and Forwarding (VRF) はサポートされません。
- シャーシ内のデュアル エンベデッド サービス プロセッサ (ESP) またはデュアル ルート プロセッサ (RP) を搭載した Cisco ASR 1006 および 1013 アグリゲーション サービス ルータはサポートされません。これは、ボックス間ハイ アベイラビリティ (HA) とボックス内 HA の共存がサポートされないためです。

シャーシ内のシングル ESP とシングル RP を搭載した Cisco ASR 1006 および Cisco ASR 1013 アグリゲーション サービス ルータは、シャーシ間冗長性をサポートします。

- デュアル IOS デーモン (IOSd) が設定されている場合、デバイスはファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性の設定をサポートしません。
- IPv6 ファイアウォールを使用したステートレス ネットワーク アドレス変換 64 (NAT64) はサポートされません。

## IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックス ツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する 情報

### ゾーンベース ポリシー ファイアウォール ハイ アベイラビリティの概 要

ハイアベイラビリティは、ネットワークのどの場所でも起こり得る障害からの迅速な回復を可能にすることで、ネットワーク全体の保護を実現します。ハイアベイラビリティは、ユーザ アプリケーションやネットワークアプリケーションの中断からの迅速な回復を可能にします。

ゾーンベースポリシーファイアウォールは、アクティブ/アクティブおよびアクティブ/スタンバイ ハイアベイラビリティ フェールオーバーと非対称ルーティングをサポートします。

アクティブ/アクティブ フェールオーバーは、フェールオーバーに関与している両方のデバイスが同時にトラフィックを転送できるようにします。

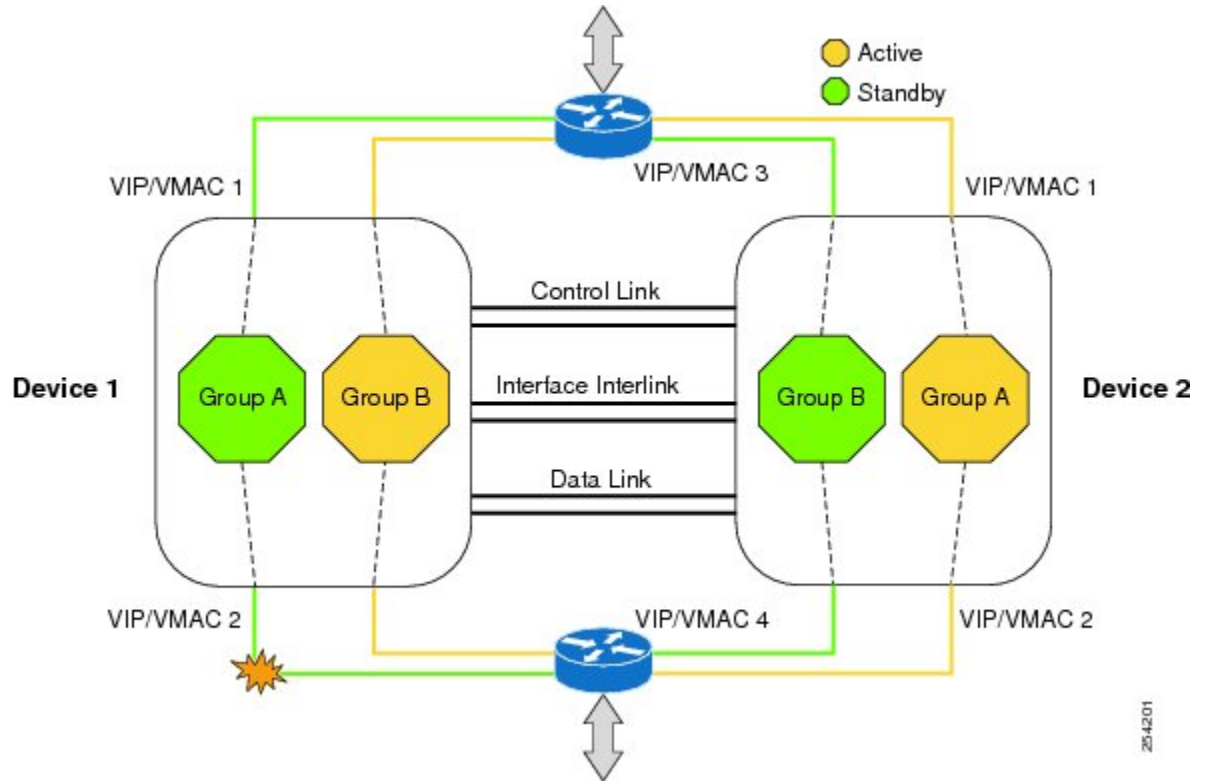
アクティブ/スタンバイ ハイアベイラビリティ フェールオーバーが設定されている場合は、一度にフェールオーバーに関与している一方のデバイスだけがトラフィックを処理し、もう一方のデバイスはスタンバイ モードに入って定期的にアクティブ デバイスからセッション情報を同期します。

非対称ルーティングは、パケット処理のためのスタンバイ冗長グループからアクティブ冗長グループへのパケットの転送をサポートします。この機能が有効になっていない場合は、初期同期 (SYN) メッセージを受信しなかったデバイスに転送されたリターン TCP パケットがドロップされます。これは、パケットが既知のセッションに属していないためです。

### ボックスツーボックス ハイアベイラビリティの動作

相互にホットスタンバイとして動作するようにデバイスのペアを設定できます。冗長性はインターフェイスごとに設定します。冗長インターフェイスのペアは、冗長グループ (RG) と呼ばれます。図 1 は、アクティブ/アクティブ フェールオーバー シナリオを示しています。2つの発信インターフェイスを持つデバイスのペアに対して2つの冗長グループがどのように設定されているかを示します。

Figure 69: 冗長グループの設定 : 2つの発信インターフェイス



冗長デバイスは、設定可能なコントロールリンク、データ同期リンク、およびインターリンクインターフェイスによって結合されます。コントロールリンクは、デバイスのステータスを通信するために使用されます。データ同期リンクは、ファイアウォールからステータス情報を転送し、ステータスデータベースを同期するために使用されます。冗長インターフェイスのペアは、同じ固有 ID 番号（冗長インターフェイス識別子（RII）と呼ばれます）を使用して設定されます。ルーティングテーブルは、アクティブからスタンバイには同期されません。

非対称ルーティングは、ファイアウォール HA の一部としてサポートされています。リターントラフィックがスタンバイ デバイスに入る LAN-WAN シナリオでは、非対称ルーティングがサポートされます。非対称ルーティングの機能を実装するには、非対称トラフィックの専用インターフェイス（インターリンクインターフェイス）で両方の冗長デバイスを設定します。この専用インターフェイスは、スタンバイ WAN インターフェイスに着信するトラフィックを、アクティブ デバイスにリダイレクトします。

冗長グループメンバーのステータスは、コントロールリンクで送信される hello メッセージを使用することで判断できます。いずれかのデバイスが、設定された時間内に hello メッセージに応答しない場合、ソフトウェアは障害が発生したと見なし、スイッチオーバーが開始されます。ミリ秒単位でエラーを検出するには、フェールオーバー プロトコルをコントロールリンクで実行します。hello メッセージについて次のパラメータを設定できます。

- Active timer。
- Standby timer。



- Hello time : hello メッセージが送信される間隔。
- Hold time : アクティブ デバイスまたはスタンバイ デバイスがダウンしていると宣言されるまでの時間。

Hello time のデフォルトは、Hot Standby Router Protocol (HSRP) に合わせるために 3 秒です。Hold time のデフォルトは 10 秒です。これらのタイマーは、**timers hellotime msec** コマンドを使用してミリ秒単位で設定することもできます。

スイッチオーバーの影響を受けるインターフェイスのペアを判断するには、冗長インターフェイスの各ペアに対して固有の ID を設定する必要があります。この ID は、インターフェイスに関連付けられている RII です。

### スイッチオーバーの原因

スイッチオーバーが発生する別の要因として、各デバイスで設定可能な優先度設定があります。優先度が最も高いデバイスがアクティブ デバイスになります。アクティブ デバイスまたはスタンバイ デバイスで障害が発生した場合、重みと呼ばれる設定可能な数値分、ルータの優先度が下がります。アクティブ デバイスの優先度が、スタンバイ デバイスの優先度を下回る場合、スイッチオーバーが発生し、スタンバイ デバイスがアクティブ デバイスになります。このデフォルトの動作を無効にするには、冗長グループの **preemption** 属性を無効にします。また、インターフェイスのレイヤ1状態がダウンになった場合、各インターフェイスを設定して優先度を下げます。設定された優先度が、冗長グループのデフォルトの優先度を上書きします。

冗長グループの優先度の変更されるエラー イベントごとに、タイム スタンプ、影響を受けた冗長グループ、変更前の優先度、変更後の優先度、およびエラーイベントの原因の説明を含む **syslog** エントリが生成されます。

スイッチオーバーが発生する原因となるもう1つの状況は、デバイスまたはインターフェイスの優先度が、設定可能なしきい値レベルを下回る場合です。

スタンバイ デバイスへのスイッチオーバーは次の条件で発生します。

- アクティブ デバイスで停電またはリロードが発生した場合（クラッシュも含まれます）。
- アクティブ デバイスのランタイム優先度が、スタンバイ デバイスの優先度を下回った場合。
- アクティブ デバイスのランタイム優先度が、設定したしきい値レベルを下回った場合。
- アクティブ デバイスの冗長グループを手動でリロードするには、**redundancy application reload group rg-number** コマンドを使用します。
- 任意のモニタ対象インターフェイスで2つの連続する hello メッセージに失敗した場合、インターフェイスは強制的にテストモードになります。いずれのデバイスもインターフェイス上のリンク ステータスを確認してから、次のテストを実行します。
  - ネットワーク アクティビティ テスト
  - Address Resolution Protocol (ARP) テスト
  - ブロードキャスト ping テスト

## アクティブ/アクティブ フェールオーバー

アクティブ/アクティブフェールオーバー構成では、両方のデバイスがネットワークトラフィックを渡すことができます。アクティブ/アクティブフェールオーバーでは、各冗長グループ (RG) のインターフェイスの仮想 MAC (VMAC) アドレスが生成されます。

アクティブ/アクティブフェールオーバーペアの1つのデバイスがプライマリ (アクティブ) デバイスとして指定され、もう1つのデバイスがセカンダリ (スタンバイ) デバイスとして指定されます。アクティブ/スタンバイフェールオーバーの場合とは異なり、両方のデバイスが同時に起動された場合、この指定ではどちらのデバイスがアクティブになるかは指示しません。代わりに、プライマリまたはセカンダリの指定によって次の点が決定します。

- デバイスが同時に起動したときに、実行コンフィギュレーションをフェールオーバーペアに提供するデバイス。
- デバイスが同時に起動したときに、フェールオーバーRGがアクティブ状態のデバイス。このコンフィギュレーションの各フェールオーバーRGは、プライマリまたはセカンダリデバイスプリファレンスで設定されます。1つのデバイスで両方のフェールオーバーRGがアクティブ状態であり、スタンバイフェールオーバーRGがもう一方のデバイスにあるように設定できます。また、1つのフェールオーバーRGをアクティブ状態にし、もう1つのRGを1つのデバイスでスタンバイ状態に設定することもできます。

## アクティブ/スタンバイ フェールオーバー

アクティブ/スタンバイフェールオーバーでは、スタンバイデバイスを使用して、障害が発生したデバイスの機能を引き継ぐことができます。障害が発生したアクティブデバイスはスタンバイ状態になり、スタンバイデバイスがアクティブ状態になります。アクティブ状態になったデバイスは、障害が発生したデバイスのIPアドレスとMACアドレスを引き継いで、トラフィックの処理を開始します。スタンバイ状態になったデバイスは、スタンバイIPアドレスとMACアドレスを引き継ぎます。ネットワークデバイスはMAC to IP アドレスペアでの変更を認識しないため、ネットワーク上のいずれの場所でも Address Resolution Protocol (ARP) エントリが変更されたり、タイムアウトが生じたりすることはありません。

アクティブ/スタンバイシナリオでは、フェールオーバーペアの2つのデバイス間の主な違いは、どのデバイスがアクティブで、どのデバイスがスタンバイであるか、つまり、どのIPアドレスを使用し、どのデバイスがアクティブにトラフィックを渡すかということに関連します。両方のデバイスが同時にスタートアップした場合 (さらに動作ヘルスが等しい場合)、アクティブデバイスは常にアクティブデバイスになります。アクティブデバイスのMACアドレスは常に、アクティブIPアドレスと組み合わせられます。

## NAT ボックスツубックス高可用性 LAN/LAN トポロジ

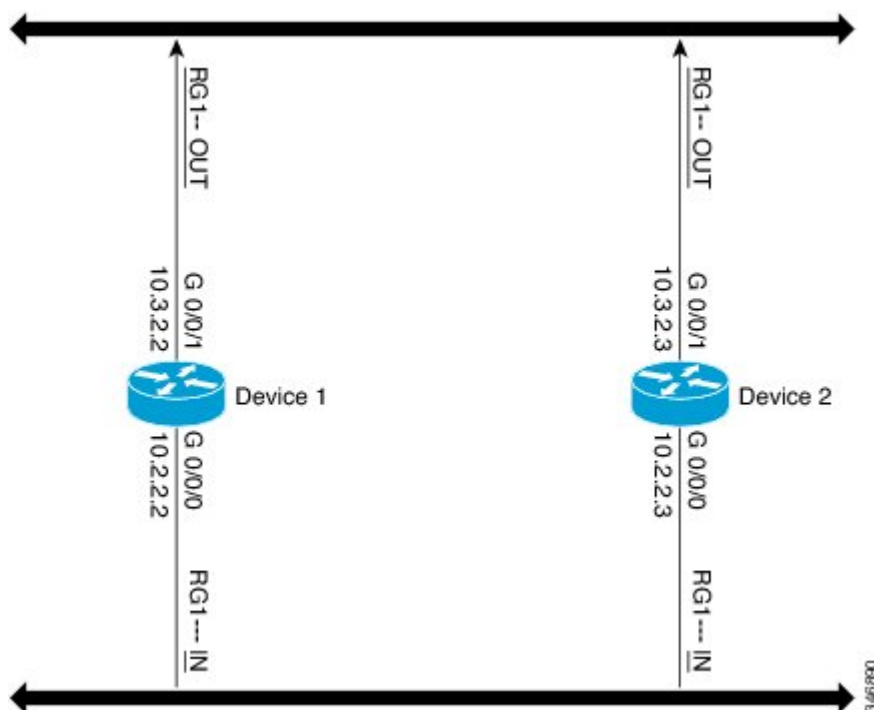
LAN/LANトポロジに参加するすべてのデバイスは、内部と外部の両方でLANインターフェイスを介して相互接続されます。次の図に、NATボックスツубックスLAN/LANトポロジを示します。ネットワークアドレス変換 (NAT) はアクティブ/スタンバイモードで行われ、ピア

は1つの冗長グループ (RG) にまとめられます。すべてのトラフィックまたはトラフィックのサブセットに NAT 変換が適用されます。



**Note** フェールオーバーは、RG インフラストラクチャでリッスンする障害によってのみ発生します。

Figure 70: NATボックスツーボックス高可用性 LAN/LAN トポロジ



## WAN-LAN トポロジ

WAN-LAN トポロジでは、2つのデバイスが内部の LAN インターフェイスと外部の WAN インターフェイスを介して接続されます。WAN リンク経由で受信されるリターン トラフィックのルーティングは制御できません。

WAN リンクは、同じサービスプロバイダーまたは別のサービスプロバイダーから提供できます。ほとんどの場合、WAN リンクは別のサービスプロバイダーから提供されます。WAN リンクを最大限に活用するには、フェールオーバーを提供するように外部デバイスを設定します。

LAN ベースのインターフェイスでは、クライアント情報の交換とフェールオーバーの高速化のために、ハイアベイラビリティ仮想 IP アドレスが必要です。WAN ベースのインターフェイスでは、フェールオーバーに **redundancy group id ip virtual-ip decrement value** コマンドが使用されます。

## 排他的仮想 IP アドレスと排他的仮想 MAC アドレス

仮想 IP (VIP) アドレスと仮想 MAC (VMAC) アドレスは、セキュリティアプリケーションが、トラフィックを受信するインターフェイスを制御するために使用します。インターフェイスは別のインターフェイスとペアにされ、これらのインターフェイスは同じ冗長グループ (RG) に関連付けられます。アクティブな RG に関連付けられているインターフェイスは、VIP アドレスと VMAC を排他的に所有します。アクティブデバイスの Address Resolution Protocol (ARP) プロセスによって、VIP への ARP 要求に対する ARP 応答が送信されます。また、インターフェイスのイーサネットコントローラは、VMAC 宛てのパケットを受信するようにプログラミングされます。RG のフェールオーバーが発生すると、VIP と VMAC の所有権は変化します。新しくアクティブになった RG に関連付けられたインターフェイスは、gratuitous ARP を送信し、インターフェイスのイーサネットコントローラをプログラミングして、VMAC 宛てのパケットを受け入れます。

### IPv6 のサポート

各冗長グループ (RG) を、同じ冗長インターフェイス識別子 (RII) で IPv4 と IPv6 の両方の仮想 IP (VIP) アドレスのトラフィック インターフェイスに割り当てることができます。各 RG は RII ごとに一意の仮想 MAC (VMAC) アドレスを使用します。RG では、IPv6 リンクローカル VIP とグローバル VIP がインターフェイス上に共存します。

トラフィック インターフェイス上の各 RG に対して IPv4 VIP、リンクローカル IPv6 VIP、および/またはグローバル IPv6 VIP を設定できます。IPv6 リンクローカル VIP は、スタティック ルートまたはデフォルトルートを設定する場合に主に使用されます。IPv6 グローバル VIP は、LAN トポロジと WAN トポロジの両方で広く使用されています。

IPv4 VIP を設定する前に、物理 IP アドレスを設定する必要があります。

## FTP66 ALG サポートの概要

ファイアウォールでは、IPv6 パケットとステートフルネットワークアドレス変換 64 (NAT64) のインスペクションをサポートしています。FTP を IPv6 パケット インスペクションに基づいて機能させるには、アプリケーション層ゲートウェイ (ALG) (別名アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG)) FTP66 が必要です。FTP66 ALG は、オールインワン FTP ALG およびワン FTP ALG とも呼ばれています。

FTP66 ALG では、次の機能をサポートしています。

- ファイアウォール IPv4 パケット インスペクション
- ファイアウォール IPv6 パケット インスペクション
- NAT の設定
- NAT64 の設定 (FTP64 サポートを使用)
- NAT とファイアウォールの設定
- NAT64 とファイアウォールの設定

FTP66 ALG には、次のセキュリティ上の脆弱性があります。

- パケット セグメンテーション攻撃：FTP ALG ステート マシンではセグメント化されたパケットを検出できません。完全なパケットを受信するまで、ステートマシンの処理は停止します。
- バウンス攻撃：FTP ALG は、番号が 1024 未満のデータ ポートでドア（NAT の場合）やピンホール（ファイアウォールの場合）を作成しません。バウンス攻撃の防止がアクティブになるのは、ファイアウォールが有効にされている場合のみです。

# IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックス ツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートの設定方 法

## 冗長グループ プロトコルの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **redundancy**
4. **application redundancy**
5. **protocol *id***
6. **name *group-name***
7. **timers *hellotime* {*seconds* | *msec milliseconds*} *holdtime* {*seconds* | *msec milliseconds*}**
8. **authentication {*text string* | *md5 key-string* [0 | 7] *key-string* *timeout seconds* | *key-chain key-chain-name*}**
9. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config)# redundancy	冗長コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-red)# application redundancy	冗長アプリケーションコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>protocol id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# protocol 1	コントロールインターフェイスに接続されるプロトコルインスタンスを指定し、冗長アプリケーションプロトコルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>name group-name</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-prtcl)# name prtcl	(任意) 名前を使用して冗長グループ (RG) を設定します。
ステップ 7	<b>timers hello</b> time {seconds   msec milliseconds} <b>hold</b> time {seconds   msec milliseconds} <b>Example:</b> Device(config-red-app-prtcl)# timers hello 3 hold 9	hello メッセージが送信される間隔と、デバイスがダウン状態と宣言されるまでの時間を指定します。
ステップ 8	<b>authentication</b> {text string   md5 key-string [0   7] key-string timeout seconds   key-chain key-chain-name} <b>Example:</b> Device(config-red-app-prtcl)# authentication md5 key-string 0 n1 timeout 100	認証情報を指定します。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-prtcl)# end	冗長アプリケーションプロトコルコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## 冗長アプリケーショングループの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **redundancy**
4. **application redundancy**
5. **group id**
6. **name group-name**
7. **shutdown**

8. **priority** *value* [**failover threshold** *value*]
9. **preempt**
10. **track** *object-number* {**decrement** *value* | **shutdown**}
11. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config)# redundancy	冗長コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-red)# application redundancy	冗長アプリケーションコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>group id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# group 1	冗長アプリケーショングループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>name group-name</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# name group1	(任意) プロトコル インスタンスに任意のエイリアスを指定します。
ステップ 7	<b>shutdown</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# shutdown	(任意) 冗長グループを手動でシャットダウンします。
ステップ 8	<b>priority value</b> [ <b>failover threshold value</b> ] <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# priority 100 failover threshold 50	(任意) 冗長グループの初期優先度とフェールオーバーしきい値を指定します。
ステップ 9	<b>preempt</b> <b>Example:</b>	グループでのプリエンプションをイネーブルにし、優先度とは無関係にスタンバイ デバイスがアクティ

	Command or Action	Purpose
	Device(config-red-app-grp)# preempt	ブ デバイスをプリエンプション処理できるようにします。
ステップ 10	<b>track</b> <i>object-number</i> { <b>decrement</b> <i>value</i>   <b>shutdown</b> } <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# track 200 decrement 200	冗長グループの優先度を指定します。この値は、イベントが発生した場合に減らされます。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# end	冗長アプリケーション グループ コンフィギュレーション モードを終了して特権 EXEC モードを開始します。

## コントロール インターフェイスおよびデータ インターフェイスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **redundancy**
4. **application redundancy**
5. **group ID**
6. **data** *interface-type interface-number*
7. **control** *interface-type interface-number protocol id*
8. **timers delay** *seconds* [**reload** *seconds*]
9. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>redundancy</b> <b>Example:</b>	冗長コンフィギュレーションモードを開始します。



	Command or Action	Purpose
	Device(config)# redundancy	
ステップ 4	<b>application redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-red)# application redundancy	冗長アプリケーションコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>group ID</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app)# group 1	冗長アプリケーショングループコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>data interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# data GigabitEthernet 0/0/0	冗長グループに使用されるデータインターフェイスを指定します。
ステップ 7	<b>control interface-type interface-number protocol id</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# control gigabitethernet 0/0/2 protocol 1	冗長グループに使用されるコントロールインターフェイスを指定します。  • このインターフェイスは、コントロールインターフェイスプロトコルのインスタンスにも関連付けられます。
ステップ 8	<b>timers delay seconds [reload seconds]</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# timers delay 100 reload 400	障害の発生後、またはシステムのリロード後に起動するロールのネゴシエートを遅らせるために、冗長グループが待機する時間を指定します。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-red-app-grp)# end	冗長アプリケーショングループコンフィギュレーションモードを終了して特権EXECモードを開始します。

## LAN トラフィック インターフェイスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface type number**
4. **description string**
5. **encapsulation dot1q vlan-id**
6. **ip vrf forwarding name**
7. **ipv6 address {ipv6-prefix/prefix-length | prefix-name sub-bits/prefix-length}**
8. **zone-member security zone-name**
9. **redundancy rii RII-identifier**

10. **redundancy group** *id* {**ip** *virtual-ip* | **ipv6** {*link-local-address* | *ipv6-address/prefix-length*} | **autoconfig**} [**exclusive**] [**decrement** *value*]
11. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/2	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>description</b> <i>string</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# description lan interface	(任意) インターフェイス設定に説明を追加します。
ステップ 5	<b>encapsulation dot1q</b> <i>vlan-id</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# encapsulation dot1q 18	インターフェイスで使用するカプセル化方式を設定します。
ステップ 6	<b>ip vrf forwarding</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip vrf forwarding trust	VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスをインターフェイスまたはサブインターフェイスに関連付けます。 <ul style="list-style-type: none"><li>指定された VRF が設定されていない場合、コマンドは設定されません。</li></ul>
ステップ 7	<b>ipv6 address</b> { <i>ipv6-prefix/prefix-length</i>   <i>prefix-name sub-bits/prefix-length</i> } <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:0DB8:1:1:FFFF:FFFF:FFFF:FFFE/64	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone member security z1	インターフェイスをゾーン メンバーとして設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>zone-name</i> 引数の場合、ファイアウォール設定時に <b>zone security</b> コマンドを使って設定したゾーンの 1 つを設定する必要があります。</li> <li>• インターフェイスがセキュリティ ゾーン内にある場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックはデフォルトでドロップされます（ただしルータ宛またはルータ発のトラフィックを除く）。ゾーンメンバーであるインターフェイスをトラフィックが通過できるようにするには、ポリシー適用対象のゾーンペアにそのゾーンを含める必要があります。ポリシーの <b>inspect</b> または <b>pass</b> アクションによってトラフィックが許可される場合は、そのインターフェイスを通じてトラフィックが流れます。</li> </ul>
ステップ 9	<b>redundancy rii</b> <i>RII-identifier</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy rii 100	冗長グループで保護されたトラフィック インターフェイス用に RII を設定します。
ステップ 10	<b>redundancy group id</b> { <b>ip virtual-ip</b>   <b>ipv6</b> { <b>link-local-address</b>   <b>ipv6-address/prefix-length</b> }   <b>autoconfig</b> } [ <b>exclusive</b> ] [ <b>decrement value</b> ] <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy group 1 ipv6 2001:0DB8:1:1:FFFF:FFFF:FFFF:FFFE/64 exclusive decrement 50	冗長グループ (RG) トラフィック インターフェイス設定をイネーブルにします。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## WAN トラフィック インターフェイスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **description** *string*

5. **ipv6 address** {*ipv6-prefix/prefix-length* | *prefix-name sub-bits/prefix-length*}
6. **zone-member security** *zone-name*
7. **ip tcp adjust-mss** *max-segment-size*
8. **redundancy rii** *RII-identifier*
9. **redundancy asymmetric-routing enable**
10. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 2/1/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>description</b> <i>string</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# description wan interface	（任意）インターフェイス設定に説明を追加します。
ステップ 5	<b>ipv6 address</b> { <i>ipv6-prefix/prefix-length</i>   <i>prefix-name sub-bits/prefix-length</i> } <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:2222::/48	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 6	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security z2	ファイアウォールを設定する際に、インターフェイスをゾーン メンバーとして設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>zone-name</i> 引数の場合、<b>zone security</b> コマンドを使用して設定済みのゾーンの 1 つを設定する必要があります。</li> <li>• インターフェイスがセキュリティ ゾーン内にある場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックはデフォルトでドロップされます（ただしルータ宛またはルータ発のトラフィックを除く）。ゾーンメンバー</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		であるインターフェイスをトラフィックが通過できるようにするには、ポリシー適用対象のゾーンペアにそのゾーンを含める必要があります。ポリシーの <code>inspect</code> または <code>pass</code> アクションによってトラフィックが許可される場合は、そのインターフェイスを通じてトラフィックが流れます。
ステップ 7	<b>ip tcp adjust-mss <i>max-segment-size</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip tcp adjust-mss 1360	ルータを通過する TCP SYN パケットの最大セグメント サイズ (MSS) の値を調整します。
ステップ 8	<b>redundancy rii <i>RII-identifier</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy rii 360	冗長グループで保護されたトラフィック インターフェイス用に RII を設定します。
ステップ 9	<b>redundancy asymmetric-routing enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# redundancy asymmetric-routing enable	冗長グループを、非対称ルーティングに使用されるインターフェイスに関連付けます。
ステップ 10	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## IPv6 ファイアウォールの設定

IPv4 ファイアウォールと IPv6 ファイアウォールを設定する手順は同じです。IPv6 ファイアウォールを設定するには、IPv6 アドレス ファミリーだけがマッチングされるようにクラス マップを設定する必要があります。

**match protocol** コマンドは IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方に適用され、IPv4 ポリシーと IPv6 ポリシーのどちらにもこれを含めることができます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **vrf-definition *vrf-name***
4. **address-family ipv6**
5. **exit-address-family**
6. **exit**
7. **parameter-map type inspect *parameter-map-name***
8. **sessions maximum** セッション

9. **exit**
10. **ipv6 unicast-routing**
11. **ip port-map** *appl-name* **port** *port-num* **list** *list-name*
12. **ipv6 access-list** *access-list-name*
13. **permit ipv6 any any**
14. **exit**
15. **class-map type inspect match-all** *class-map-name*
16. **match access-group name** *access-group-name*
17. **match protocol** *protocol-name*
18. **exit**
19. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
20. **class type inspect** *class-map-name*
21. **inspect** [*parameter-map-name*]
22. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを開始します。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>vrf-definition</b> <i>vrf-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# vrf-definition VRF1	Virtual Routing and Forwarding (VRF) ルーティング テーブルインスタンスを設定し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>address-family ipv6</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# address-family ipv6	VRF アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始して、標準 IPv6 アドレスプレフィックスを伝送するセッションを設定します。
ステップ 5	<b>exit-address-family</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf-af)# exit-address-family	VRF アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを終了し、VRF コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# exit	VRF コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect ipv6-param-map	ファイアウォールのグローバル検査タイプパラメータマップを、検査アクションに関連するしきい値、タイムアウト、その他のパラメータに接続できるようにし、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	<b>sessions maximum</b> セッション <b>Example:</b> Device(config-profile)# sessions maximum 10000	ゾーン ペア上に存在可能な最大許容セッション数を設定します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト データグラムの転送を有効にします。
ステップ 11	<b>ip port-map appl-name port port-num list list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip port-map ftp port 8090 list ipv6-acl	IPv6 アクセス コントロール リスト (ACL) を使用してポート/アプリケーション間マッピング (PAM) を確立します。
ステップ 12	<b>ipv6 access-list access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 access-list ipv6-acl	IPv6 アクセスリストを定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 13	<b>permit ipv6 any any</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 any any	IPv6 アクセス リストに許可条件を設定します。
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# exit	IPv6 アクセスリスト コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 15	<b>class-map type inspect match-all class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-all ipv6-class	アプリケーション固有の検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラス マップ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 16	<b>match access-group name access-group-name</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match access-group name ipv6-acl	指定した ACL をベースにクラス マップに対して一致基準を設定します。

## ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用

	Command or Action	Purpose
ステップ 17	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol tcp	指定されたプロトコルに基づき、クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 18	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 19	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect ipv6-policy	プロトコル固有の検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 20	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect ipv6-class	アクションの実行対象となるトラフィック クラスを指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 21	<b>inspect</b> [ <i>parameter-map-name</i> ] <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect ipv6-param-map	ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 22	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security** *zone-name*
4. **exit**
5. **zone security** *zone-name*
6. **exit**
7. **zone-pair security** *zone-pair-name* [**source** *source-zone* **destination** *destination-zone*]
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **exit**
10. **interface** *type number*
11. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix-length*
12. **encapsulation dot1q** *vlan-id*
13. **zone-member security** *zone-name*
14. **end**



## 15. show policy-map type inspect zone-pair sessions

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone security z1	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>zone security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone security z2	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>zone-pair security zone-pair-name [source source-zone destination destination-zone]</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security in-2-out source z1 destination z2	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect ipv6-policy	ポリシー マップをトップレベル ポリシーに関連付けます。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 10	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0.1	サブインターフェイスを設定し、サブインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>ipv6 address</b> <i>ipv6-address/prefix-length</i> <b>Example:</b> Device(config-subif)# ipv6 address 2001:DB8:2222:7272::72/64	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスまたはサブインターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 12	<b>encapsulation dot1q</b> <i>vlan-id</i> <b>Example:</b> Device(config-subif)# encapsulation dot1q 2	インターフェイスで使用するカプセル化方式を設定します。
ステップ 13	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config-subif)# zone member security z1	<p>インターフェイスをゾーン メンバーとして設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>zone-name</i> 引数の場合、<b>zone security</b> コマンドを使用して設定済みのゾーンの1つを設定する必要があります。</li> <li>• インターフェイスがセキュリティゾーンにある場合、そのインターフェイスを通るトラフィックはどちらの方向でもすべて（デバイス宛またはデバイス発のトラフィックを除く）はデフォルトでドロップされます。トラフィックがゾーン メンバーであるインターフェイスを通過するには、そのゾーンをポリシーの適用先のゾーン ペアの一部にする必要があります。ポリシーの <b>inspect</b> または <b>pass</b> アクションによってトラフィックが許可される場合は、そのインターフェイスを通じてトラフィックが流れます。</li> </ul>
ステップ 14	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# end	サブインターフェイス コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 15	<b>show policy-map type inspect zone-pair sessions</b> <b>Example:</b> Device# show policy-map type inspect zone-pair sessions	<p>ポリシー マップは指定されたゾーン ペアに適用されるので、作成されたステートフル パケット インспекション セッションを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドの出力は、IPv4 と IPv6 の両方のファイアウォール セッションを表示します。</li> </ul>

## 例

次に示す **show policy-map type inspect zone-pair sessions** コマンドの出力例は、IPv6 アドレスから IPv4 アドレスへ（またはその逆）の packets 変換を表示します。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair sessions

Zone-pair: in-to-out
Service-policy inspect : in-to-out

Class-map: ipv6-class (match-any)
 Match: protocol ftp
 Match: protocol tcp
 Match: protocol udp
 Inspect
  Established Sessions
   Session 110D930C [2001:DB8:1::103]:32847=>(209.165.201.2:21) ftp SIS_OPEN
   Created 00:00:00, Last heard 00:00:00
   Bytes sent (initiator:responder) [37:84]

  Half-open Sessions
   Session 110D930C [2001:DB8:1::104]:32848=>(209.165.201.2:21) ftp SIS_OPENING
   Created 00:00:00, Last heard 00:00:00
   Bytes sent (initiator:responder) [0:0]
```

次に示す **show policy-map type inspect zone-pair sessions** コマンドの出力例は、IPv6 アドレスから IPv6 アドレスへの packets 変換を表示します。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair sessions

Zone-pair: in-to-out
Service-policy inspect : in-to-out

Class-map: ipv6-class (match-any)
 Match: protocol ftp
 Match: protocol tcp
 Match: protocol udp
 Inspect
  Established Sessions
   Session 110D930C [2001:DB8:1::103]:63=>[2001:DB8:2::102]:63 udp SIS_OPEN
   Created 00:00:02, Last heard 00:00:01
   Bytes sent (initiator:responder) [162:0]
```

# IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックス ツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートの設定例

## 例：冗長グループ プロトコルの設定

次に、hello time メッセージと hold time メッセージ用のタイマーが設定されている冗長グループを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# redundancy
```

## 例：冗長アプリケーショングループの設定

```

Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# protocol 1
Device(config-red-app-prtcl)# timers hellotime 3 holdtime 9
Device(config-red-app-prtcl)# authentication md5 key-string 0 n1 timeout 100
Device(config-red-app-prtcl)# bfd
Device(config-red-app-prtcl)# end

```

## 例：冗長アプリケーショングループの設定

次に、優先順位属性とプリエンプション属性のある group1 という名前の冗長グループを設定する例を示します。

```

Device# configure terminal
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app)# group 1
Device(config-red-app-grp)# name group1
Device(config-red-app-grp)# priority 100 failover-threshold 50
Device(config-red-app-grp)# preempt
Device(config-red-app-grp)# track 200 decrement 200
Device(config-red-app-grp)# end

```

## 例：コントロールインターフェイスとデータ インターフェイスの設定

```

Device# configure terminal
Device(config-red)# application redundancy
Device(config-red-app-grp)# group 1
Device(config-red-app-grp)# data GigabitEthernet 0/0/0
Device(config-red-app-grp)# control GigabitEthernet 0/0/2 protocol 1
Device(config-red-app-grp)# timers delay 100 reload 400
Device(config-red-app-grp)# end

```

## 例：LAN トラフィック インターフェイスの設定

```

Device# configure terminal
Device(config-if)# interface gigabitethernet 2/0/2
Device(config-if)# description lan interface
Device(config-if)# encapsulation dot1q 18
Device(config-if)# ip vrf forwarding trust
Device(config-if)# ipv6 address 2001:0DB8:1:1:FFFF:FFFF:FFFF:FFFE/64
Device(config-if)# zone member security z1
Device(config-if)# redundancy rii 100
Device(config-if)# redundancy group 1 ipv6 2001:0DB8:1:1:FFFF:FFFF:FFFF:FFFE exclusive
decrement 50
Device(config-if)# end

```

## 例：WAN トラフィック インターフェイスの設定

次に、WAN-LAN シナリオ用の冗長グループを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config-if)# interface gigabitethernet 2/1/0
Device(config-if)# description wan interface
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:2222::/48
Device(config-if)# zone-member security z2
Device(config-if)# ip tcp adjust-mss 1360
Device(config-if)# redundancy rii 360
Device(config-if)# redundancy asymmetric-routing enable
Device(config-if)# end
```

## 例：IPv6 ファイアウォールの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# vrf-definition VRF1
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect ipv6-param-map
Device(config-profile)# sessions maximum 10000
Device(config-profile)# exit
Device(config)# ipv6 unicast-routing
Device(config)# ip port-map ftp port 8090 list ipv6-acl
Device(config)# ipv6 access-list ipv6-acl
Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 any any
Device(config-ipv6-acl)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-all ipv6-class
Device(config-cmap)# match access-group name ipv6-acl
Device(config-cmap)# match protocol tcp
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect ipv6-policy
Device(config-pmap)# class type inspect ipv6-class
Device(config-pmap-c)# inspect ipv6-param-map
Device(config-pmap-c)# end
```

## 例：ゾーンの設定とインターフェイスへのゾーンの適用

```
Device# configure terminal
Device(config)# zone security z1
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security z2
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security in-to-out source z1 destination z2
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect ipv6-policy
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0.1
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:2222:7272::72/64
Device(config-if)# encapsulation dot1q 2
Device(config-if)# zone member security z1
Device(config-if)# end
```

# IPv6 ゾーンベース ファイアウォールに対するボックス ツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートに関する 追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
ファイアウォール コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

# IPv6 ゾーンベース ファイアウォールのボックスツーボッ クス ハイ アベイラビリティ サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 175: IPv6 ゾーンベース ファイアウォールのボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポートの機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPv6 ゾーンベースのファイアウォールのボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポート	Cisco IOS XE Release 3.8S	IPv6 ゾーンベース ファイアウォールのボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポート機能では、IPv6 ファイアウォールの冗長グループ (RG) に基づいてハイ アベイラビリティ (HA) がサポートされています。この機能により、相互にバックアップとして動作するデバイスのペアを設定できます。この機能を設定し、複数のフェールオーバー条件に基づいてアクティブ デバイスを判断できます。 追加または変更されたコマンドはありません。
IPv6 ゾーンベースのファイアウォールのボックスツーボックス ハイ アベイラビリティ サポート	Cisco IOS XE Release 3.8S	Cisco IOS XE リリース 3.10S では、Cisco ISR 4400 シリーズ ルータのサポートが追加されました。







## CHAPTER 132

# ICMP のファイアウォールステートフルインスペクション

ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションは、Internet Control Management Protocol バージョン 4 (ICMPv4) メッセージを悪意のあるメッセージまたは無害なメッセージのいずれかに分類する機能です。ファイアウォールではステートフルインスペクションを使用して、プライベートネットワーク内で生成された無害な ICMPv4 メッセージを信頼し、関連付けられた ICMP 応答がネットワーク内に入ることを許可します。ICMP のファイアウォールステートフルインスペクション機能は、侵入者がネットワークに入り込まないように ICMP を使用してネットワークの問題をデバッグするネットワーク管理者に役立ちます。

このモジュールでは、ICMPv4 メッセージのファイアウォールステートフルインスペクションの概要を紹介し、ICMPv4 メッセージを検査するようにファイアウォールを設定する方法を説明します。

- [ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションの前提条件, on page 1801](#)
- [ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションの制約事項, on page 1802](#)
- [ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションについて, on page 1802](#)
- [ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションの設定方法, on page 1804](#)
- [ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションの設定例, on page 1809](#)
- [ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションに関する追加情報, on page 1810](#)
- [ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションに関する機能情報, on page 1811](#)

## ICMP のファイアウォールステートフルインスペクションの前提条件

- ICMP のファイアウォールステートフルインスペクション機能を設定するには、その前に、シスコファイアウォールを設定する必要があります。
- ネットワークで、すべての ICMP トラフィックにセキュリティアプライアンスインターフェイスのパススルーが許可される必要があります。

- セキュリティアプライアンスのインターフェイスで終端する ICMP トラフィックに対してアクセス ルールを設定する必要があります。

## ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの制約事項

この機能は UDP traceroute ユーティリティとは連動しません。この場合、ICMP パケットの代わりに UDP データグラムが送信されます。UDP traceroute は UNIX システムのデフォルトです。UNIX ホストでファイアウォールによって検査される ICMP traceroute パケットが生成されるようにするには、**traceroute** コマンドで「-I」オプションを使用します。

## ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションについて

### ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの概要

Internet Control Management Protocol (ICMP) は、ネットワークに関する情報を提供し、ネットワーク内のエラーを報告するネットワークプロトコルです。ネットワーク管理者は ICMP を使用して、ネットワークの接続上の問題をデバッグします。ICMP を使用してプライベートネットワークのトポロジを発見する可能性がある侵入者から保護するために、プライベートネットワーク内に入らないように ICMPv4 メッセージをブロックすることはできますが、その場合、ネットワーク管理者がネットワークをデバッグできなくなります。

シスコ ルータでアクセス コントロール リスト (ACL) を使用することで、ICMPv4 メッセージを完全に許可または拒否するように設定できます。ICMPv4 メッセージに対して ACL を使用する場合、メッセージのインспекションが、設定済みの allow または deny アクションよりも優先されます。

IP プロトコルを使用する ICMPv4 メッセージは、次の 2 つのタイプに分類することができます。

- 単純な要求/応答メカニズムを使用する情報メッセージ。
- IP パケットの配信中に何らかのエラーが発生したことを示すエラー メッセージ。



**Note** ICMP 攻撃で宛先到達不能エラー メッセージが使用されないようにするために、1つのセッションにつき1つの宛先到達不能メッセージだけがファイアウォールで許可されます。

ファイアウォールを経由する UDP セッションを処理しているホストが、宛先到達不能メッセージを含む ICMP エラー パケットを生成する場合があります。その場合、そのセッションでは1つの宛先到達不能メッセージだけがファイアウォールの通過を許可されます。

サポートされている ICMPv4 パケット タイプは以下のとおりです。

**Table 176: ICMPv4 パケット タイプ**

パケット タイプ	名前	説明
0	エコー応答	エコー要求 (タイプ 8) に対する応答。
3	到達不能	どの要求にも可能性のある応答。
8	エコー要求	ping または traceroute 要求。
11	時間超過	パケットの存続可能時間 (TTL) のサイズがゼロの場合の応答。
13	タイムスタンプ要求	要求。
14	タイムスタンプ応答	タイムスタンプ要求 (タイプ 13) に対する応答。

ICMPv4 パケット タイプ 0 と 8 は宛先に対する ping に使用されます。送信元がエコー要求パケットを送信すると、宛先はエコー応答パケットで応答します。パケット タイプ 0、8、および 11 は、ICMPv4 traceroute に使用されます (つまり、送信されるエコー要求パケットは、TTL サイズ 1 で開始されます)。TTL サイズはホップごとに増分されます。エコー要求パケットに対し、中間ホップは時間超過パケットで応答し、最終宛先はエコー応答パケットで応答します。

ICMPv4 エラーパケットが組み込みパケットである場合、その組み込みパケットは、該当するパケットに対して設定されたプロトコルとポリシーに応じて処理されます。たとえば、組み込みパケットが TCP パケットであり、そのパケットに対して drop アクションが設定されている場合、ICMPv4 では pass アクションを設定しているとしても、この組み込みパケットはドロップされます。

次のシナリオで、ICMPv4 パケットがファイアウォールをパススルーするプロセスを説明します。

1. ICMPv4 パケットが送信元インターフェイスに到達します。ファイアウォールは、パケットの送信元アドレスと宛先アドレスを変更せずにそのまま使用して、パケットインспекションを実行します。ファイアウォールは IP アドレス（送信元と宛先）、ICMP タイプ、およびプロトコルを使用してセッション キーの作成およびルックアップを行います。
2. パケットがファイアウォール インспекションに合格します。
3. リターン トラフィックが宛先インターフェイスから戻ると、ファイアウォールは ICMPv4 メッセージ タイプに応じてセッション ルックアップ キーを作成します。
4.
  - a. 応答メッセージが情報メッセージの場合、ファイアウォールはパケットの送信元アドレスと宛先アドレスを変更せずにそのまま使用して、パケットインспекションを実行します。ここで、宛先ポートは ICMPv4 メッセージの要求タイプです。
  - b. 応答メッセージが ICMPv4 エラーメッセージの場合、ファイアウォールは ICMP エラー パケットに含まれるペイロード パケットを使用して、セッション ルックアップ用のセッション キーを作成します。
5. ファイアウォールセッション ルックアップが成功すると、パケットはファイアウォール インспекションに合格します。

## ICMP インспекション チェック

ICMP の戻りパケットは、アクセス コントロール リスト (ACL) ではなくインспекション コードによってチェックされます。インспекションコードは各出力パケットの宛先アドレスをトラッキングし、返されるそれぞれのパケットをチェックします。エコー応答とタイムスタンプ応答のパケットについては、リターンアドレスがチェックされます。到達不能パケットおよび時間超過パケットについては、パケットデータから目的の宛先アドレスが抽出されてチェックされます。

## ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの設定方法

### ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの設定

次の項目を含む、ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションを設定するには、この作業を実行します。

- ICMP トラフィックに一致するクラス マップ。
- 検査アクションを含むポリシー マップ。
- セキュリティゾーンおよびゾーンペア（ファイアウォールポリシー マップをゾーンペアにアタッチするために必要）。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} **icmp** *source source-wildcard destination destination-wildcard*
4. **class-map type inspect** *class-map-name*
5. **match protocol** *protocol-name*
6. **exit**
7. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
8. **class** *class-map-name*
9. **inspect**
10. **exit**
11. **exit**
12. **zone security** *zone-name*
13. **exit**
14. **zone-pair security** *zone-pair-name* **source** *source-zone* **destination** *destination-zone*
15. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
16. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>access-list</b> <i>access-list-number</i> { <b>deny</b>   <b>permit</b> } <b>icmp</b> <i>source source-wildcard destination destination-wildcard</i> <b>Example:</b> Device(config)# access-list 102 permit icmp 192.168.0.1 255.255.255.0 192.168.2.22 255.255.255.0	拡張 IP アクセス リストを定義します。
ステップ 4	<b>class-map type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect c1	アクションの実行対象となるクラスを定義し、QoS クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol icmp	指定されたプロトコルに基づき、クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect p1	プロトコル固有の検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>class</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class c1	アクションの実行対象となるクラスを定義し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インспекションをイネーブルにします。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# exit	QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>zone security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security z1	セキュリティ ゾーンを作成し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 設定では送信元ゾーンと宛先ゾーンという、ゾーン ペアを作成するための 2 つのセキュリティ ゾーンが必要です。</li> <li>• ゾーンペアでは、送信元ゾーンまたは宛先ゾーンとしてデフォルトゾーンを使用できます。</li> </ul>
ステップ 13	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 14	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> <b>source</b> <i>source-zone</i> <b>destination</b> <i>destination-zone</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security inout source z1 destination z2	インターフェイスを割り当てることができるゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 15	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect p1	ファイアウォール ポリシー マップをゾーンペアに付加します。
ステップ 16	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# end	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの確認

次の **show** コマンドは任意の順序で使用できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show ip access-lists**
3. **show policy-map type inspect** *policy-map-name*
4. **show policy-map type inspect zone-pair** *zone-pair-name*
5. **show zone security** *zone-name*
6. **show zone-pair security** [**source** *source-zone* **destination** *destination-zone*]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

##### ステップ 1 **enable**

**Example:**

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

##### ステップ 2 **show ip access-lists**

**Example:**

```
Device# show ip access-lists
```

指定されたポリシー マップに関する情報を表示します。

### ステップ 3 **show policy-map type inspect *policy-map-name***

**Example:**

```
Device# show policy-map type inspect p1
```

指定されたポリシー マップに関する情報を表示します。

### ステップ 4 **show policy-map type inspect zone-pair *zone-pair-name***

**Example:**

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair inout
```

ゾーン ペアのランタイム検査タイプ ポリシー マップ統計情報を表示します。

### ステップ 5 **show zone security *zone-name***

**Example:**

```
Device# show zone security z1
```

ゾーン セキュリティ情報を表示します。

### ステップ 6 **show zone-pair security [source *source-zone* destination *destination-zone*]**

**Example:**

```
Device# show zone-pair security source z1 destination z2
```

送信元および宛先のゾーンとゾーン ペアに付加されたポリシーを表示します。

例 :

次に示す **show ip access-lists** コマンドの出力例は、ホストから ping パケットのみが発行された ICMP セッションに対して ACL が作成されるしくみを示します。

```
Device# show ip access-lists
```

```
Extended IP access list 102
  permit icmp any host 192.168.133.3 time-exceeded
  permit icmp any host 192.168.133.3 unreachable
  permit icmp any host 192.168.133.3 timestamp-reply
  permit icmp any host 192.168.133.3 echo-reply (4 matches)
```

次に、**show policy-map type inspect p1** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show policy-map type inspect p1
```

```
Policy Map type inspect p1
  Class c1
    Inspect
```

次に、**show policy-map type inspect zone-pair inout** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair inout
```



```
Zone-pair: inout
Service-policy : p1
Class-map: c1 (match-all)
Match: protocol icmp
Inspect
  Session creations since subsystem startup or last reset 0
  Current session counts (estab/half-open/terminating) [0:0:0]
  Maxever session counts (estab/half-open/terminating) [0:0:0]
  Last session created never
  Last statistic reset never
  Last session creation rate 0
  half-open session total 0
Class-map: class-default (match-any)
Match: any
Drop
  0 packets, 0 bytes
```

次に、**show zone security** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show zone security

zone self
Description: System defined zone
```

次に、**show zone-pair security** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show zone-pair security source z1 destination z2

zone-pair name inout
Source-Zone z1 Destination-Zone z2
service-policy p1
```

## ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの設定例

### 例 : ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# access-list 102 permit icmp 192.168.0.1 255.255.255.0 192.168.2.22
255.255.255.0
Device(config)# class-map type inspect c1
Device(config-cmap)# match protocol icmp
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect p1
Device(config-pmap)# class c1
Device(config-pmap-c)# inspect
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# exit
Device(config)# zone security z1
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security z2
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security inout source z1 destination z2
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect p1
Device(config-sec-zone-pair)# end
```

# ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションに関する追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Master Command List』、すべてのリリース
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## 標準と RFC

標準および RFC	タイトル
RFC 792	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP)
RFC 950	『Internet Standard Subnetting Procedure』
RFC 1700	『Assigned Numbers』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 177: ICMP のファイアウォール ステートフル インспекションに関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
ICMP のファイアウォールステートフルインспекション	Cisco IOS XE リリース 2.1 Cisco IOS XE リリース 3.2S	ICMP のファイアウォールステートフルインспекション機能は、ICMPv4 メッセージを「悪意のある」と「無害」のどちらかに分類します。ファイアウォールは、ステートフルインспекションを使用して、プライベートネットワーク内で生成された無害の ICMP メッセージを信頼し、関連する ICMP 応答のエントリを許可します。





## 第 133 章

# LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性

LISP およびゾーンベース ファイアウォールの統合および相互運用性の機能により、デバイスをパズスルーするすべての Locator/ID Separation Protocol (LISP) データパケットの内部パケットインスペクションが可能になります。LISP 内部パケットインスペクションを有効にするには、**lisp inner-packet inspection** コマンドを設定する必要があります。LISP 内部パケットインスペクションが行われないと、LISP ネットワーク内のエンドポイント ID (EID) デバイスはファイアウォールで保護されません。

このモジュールでは、この機能を設定する方法を説明します。

- [LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する機能情報 \(1813 ページ\)](#)
- [LISP およびゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の前提条件 \(1814 ページ\)](#)
- [LISP およびゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する制約事項 \(1815 ページ\)](#)
- [LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する情報 \(1815 ページ\)](#)
- [LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の設定方法 \(1818 ページ\)](#)
- [LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の設定例 \(1825 ページ\)](#)
- [LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する追加情報 \(1827 ページ\)](#)

## LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 178: LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性	Cisco IOS XE リリース 3.13S	LISP およびゾーンベース ファイアウォールの統合および相互運用性の機能により、デバイスをパススルーするすべての Locator/ID Separation Protocol (LISP) データ パケットの内部パケット インスペクションが可能になります。LISP 内部パケット インスペクションを有効にするには、 <code>lisp inner-packet inspection</code> コマンドを設定する必要があります。LISP 内部インスペクションを使用しない場合は、LISP ネットワーク内のエンドポイント識別子 (EID) デバイスにファイアウォール保護が設定されません。  この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。 <b><code>lisp inner-packet-inspection</code></b> 、 <b><code>show parameter-map type inspect-global</code></b> 、および <b><code>show parameter-map type inspect global</code></b> 。
ゾーンベース ファイアウォールおよび LISP 統合のシャーシ内およびシャーシ間ハイアベイラビリティ	Cisco IOS XE リリース 3.14S	Cisco IOS XE リリース 3.14S では、LISP およびゾーンベース ファイアウォール統合および相互運用性機能により、シャーシ内ハイアベイラビリティとシャーシ間ハイアベイラビリティの両方がサポートされています。  この機能によって導入または変更されたコマンドはありません。

## LISP およびゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の前提条件

- アクティブ デバイスとスタンバイ デバイスのシャーシ間高可用性設定は同一でなければなりません。

# LISP およびゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する制約事項

次の機能はサポートされていません。

- Locator ID Separator Protocol (LISP) モビリティ
- ゾーンベース ファイアウォール、LISP、および Web Cache Control Protocol (WCCP) の相互運用性
- VRF 相互運用性を備えたゾーンベース ファイアウォールと LISP サブインターフェイス

LISP 内部パケットインスペクションが有効な場合、次の機能はサポートされません。

- 非対称ルーティング
- LISP 制御メッセージインスペクション
- LISP 内部パケット フラグメンテーション
- ネットワーク アドレス変換 (NAT) および NAT 64
- TCP リセット
- VPN ルーティングおよび転送 (VRF)
- 仮想 TCP (vTCP)
- VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI)
- Web Cache Communication Protocol (WCCP)

## LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する情報

### LISP の概要

Locator/ID Separation Protocol (LISP) は、ネットワーク アーキテクチャ兼プロトコルです。LISP は、単一の IP アドレスを 2 つのナンバリング スペースで置き換えます。ナンバリング スペースの一方は、ネットワーク 接続ポイントにトポロジ的に割り当てられ、そのネットワーク 経由のパケットのルーティングおよび転送に使用されるルーティング ロケータ (RLOC) です。もう一方は、ネットワーク トポロジとは関係なく割り当てられ、ナンバリング デバイス に使用されて管理境界で集約されるエンドポイント ID です。

LISP が定義しているのは、これら 2 つのナンバリング スペースをマッピングし、ルーティング不可能な EID を使用してデバイスから発信されたトラフィックを、ルーティングと転送に RLOC を使用するネットワーク インフラストラクチャで転送できるようにカプセル化するための機能です。LISP では、デバイスがルーティング不可能な EID をルーティング可能な RLOC にマップする際に使用する情報を交換するための一連の機能を提供しています。

LISP を使用するには、LISP 関連の 1 つ以上のデバイス（LISP 出力トンネルルータ（ETR）、入力トンネルルータ（ITR）、プロキシ ETR（PETR）、Proxy Ingress Tunnel Router（PITR）、マップリゾルバ（MR）、マップ サーバ（MS）、LISP 代替論理トポロジ（ALT）デバイスなど）からなる LISP 固有の構成が必要です。

## ゾーンベース ファイアウォールと LISP の相互運用性の概要

ゾーンベース ファイアウォールは、ネットワーク内でのエッジルータ（Cisco ASR 1000 アグリゲーションサービスルータなどのルータ）の配置場所に応じて、Locator/ID Separation Protocol（LISP）xTR デバイスのサウスバウンドまたはノースバウンドに導入できます。入力トンネルルータ（ITR）と出力トンネルルータ（ETR）は xTR デバイスと総称されています。

ゾーンベース ファイアウォールが xTR デバイスのノースバウンドに位置する場合、ファイアウォールはネットワークをパススルーする LISP カプセル化パケット（LISP トンネル化パケットなど）を確認できます。

ゾーンベース ファイアウォールが xTR デバイスのサウスバウンドに位置する場合、ファイアウォールはオリジナルパケットを確認できます。ただし、ゾーンベース ファイアウォールが LISP xTR 処理を認識したり、LISP ヘッダーを確認することはできません。出力パケットについては、xTR デバイスはファイアウォール インспекションの後に LISP カプセル化を行い、LISP ヘッダーをオリジナルパケットの先頭に追加します。入力パケットについては、xTR デバイスはファイアウォール インспекションの前に LISP カプセル化解除（LISP ヘッダーの削除）を行うため、ファイアウォール インспекションではオリジナルパケットだけを検査します。したがって、LISP との対話はありません。

この項では、LISP xTR デバイスのサウスバウンドでゾーンベース ファイアウォールを導入する場合のシナリオを説明します：

LISP カプセル化およびカプセル化解除機能を実行する LISP xTR としてエッジルータを設定する場合、ゾーンベース ファイアウォールは、LISP インターフェイスと同じエッジルータ上の LISP ローカル エンドポイント ID（EID）デバイスに対応するインターフェイスとの間に設定できます。LISP ヘッダーのカプセル化解除は、LISP インターフェイスに位置するゾーンベース ファイアウォールにヘッダーが入力される前に実行されます。LISP ヘッダーのカプセル化は、LISP インターフェイスに位置するゾーンベース ファイアウォールからパケットが出力された後に実行されます。ファイアウォールは EID スペースのネイティブ トラフィックだけを検査します。

この項では、LISP xTR デバイスのノースバウンドでゾーンベース ファイアウォールを導入する場合のシナリオを説明します。

xTR デバイスのノースバウンドでロードシェアリング ルータとして複数のエッジルータを導入する場合、エッジルータ上のファイアウォールは xTR デバイスのノースバウンドと見なされます。この場合、ゾーンベース ファイアウォールをパススルーするすべてのパケットが、



LISP カプセル化パケットになります。パケットが到着すると、ファイアウォールは LISP パケットの内部ヘッダーまたは外部ヘッダーのいずれかを検査します。デフォルトでは、外部ヘッダーだけが検査されます。内部ヘッダーのインスペクションを有効にするには、**lisp inner-packet-inspection** コマンドを使用します。

Cisco IOS XE リリースでは、LISP 内部パケットインスペクションが有効にされていると、ファイアウォールはフラグメント化された最初の内部パケットだけを検査し、後続の内部パケットはインスペクションされずにファイアウォールをパス スルーします。LISP 内部パケットインスペクションが有効になっている場合、LISP インスタンス ID が Virtual Routing and Forwarding (VRF) ID として扱われ、異なるインスタンス ID に属する LISP パケットは別のゾーンベース ファイアウォールセッションに関連付けられます。

## LISP 機能の相互運用性

Cisco IOS XE リリース 3.13S では LISP およびゾーンベース ファイアウォール統合および相互運用性機能が次の機能と連携します。

- IPv4 内部ヘッダーおよび外部ヘッダー
- IPv6 内部ヘッダーおよび外部ヘッダー
- LISP マルチテナンシー
- アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG)
- アプリケーション インスペクションおよびコントロール (AIC)
- マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS)
- インサービス ソフトウェア アップグレード (ISSU)
- PxTR ケース

## ゾーンベース ファイアウォールおよび LISP 統合のシャーシ内およびシャーシ間ハイ アベイラビリティ

Cisco IOS XE リリース 3.14S では、LISP およびゾーンベース ファイアウォール統合および相互運用性機能により、シャーシ内ハイ アベイラビリティとシャーシ間ハイ アベイラビリティの両方がサポートされています。Location/ID Separation Protocol (LISP) 内部パケットインスペクションが有効な場合、xTR ノースバウンドデバイスでシャーシ内およびシャーシ間冗長性がサポートされています。

ノースバウンドデバイスでの LISP 内部パケットインスペクションでは、LISP インスタンス ID が Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスとして使用されます。LISP 内部パケットインスペクションが有効な場合、ノースバウンドデバイスの VRF 設定は無視されます。

2つのデバイスが xTR デバイスのノースバウンドに配置されており、xTR デバイスがクラウド内部に配置されている場合、この両方のデバイスで LISP 内部パケットインスペクションが有

効であると、LISP 内部パケット フローに対して作成されたゾーンベース ファイアウォール セッションがスタンバイ デバイスと同期されます。

一般的なシャーシ間（ボックスツーボックス）ハイ アベイラビリティ トポロジでは、xTR デバイスのノースバウンドのルーティング ロケータ（RLOC）スペースに2つのデバイスがあります。xTR デバイスは、内部ネットワークに配置されます。LISP 内部パケット インスペクションがこの両方のデバイスで有効であると、LISP 内部パケットに対して作成されたゾーンベース ファイアウォール セッションがスタンバイ デバイスと同期されます。

シャーシ内冗長性については設定の変更はありません。

## LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の設定方法

### LISP 内部パケット インスペクションの有効化

`parameter-map type inspect global` コマンドまたは `parameter-map type inspect-global` コマンドを設定した後で、LISP 内部パケット インスペクションを設定できます。



(注) これらのコマンドの両方を同時には設定できません。

#### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `parameter-map type inspect global`
4. `lisp inner-packet-inspection`
5. `end`
6. `show parameter-map type {inspect global | inspect-global}`

#### 手順の詳細

##### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect global</b> 例： Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の検査アクションに関連するパラメータのグローバル検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>lisp inner-packet-inspection</b> 例： Device(config-profile)# lisp inner-packet-inspection	LISP 内部パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<b>show parameter-map type {inspect global   inspect-global}</b> 例： Device# show parameter-map type inspect-global	グローバル検査タイプ パラメータ マップ情報を表示します。

### 例

次に示す **show parameter-map type inspect-global** コマンドの出力例は、LISP 内部パケットインスペクションが有効であることを表示します。

```
Device# show parameter-map type inspect-global

parameter-map type inspect-global
 log dropped-packet off
 alert on
 aggressive aging disabled
 syn_flood_limit unlimited
 tcp window scaling enforcement loose off
 max_incomplete unlimited aggressive aging disabled
 max_incomplete TCP unlimited
 max_incomplete UDP unlimited
 max_incomplete ICMP unlimited
 application-inspect all
 vrf default inspect vrf-default
 vrf vrf2 inspect vrf-default
 vrf vrf3 inspect vrf-default
 lisp inner-packet-inspection
```

# LISP 内部パケット インスペクションのシャーシ間ハイ アベイラビリティの設定

## シャーシ間ハイ アベイラビリティのための xTR サウスバウンド インターフェイスの設定

始める前に

前提条件

- ゾーンとゾーン ペアを設定する必要があります。
- 冗長性と冗長グループを設定する必要があります。詳細については、『*Zone-Based Policy Firewall Configuration Guide*』の「Configuring Firewall Stateful Interchassis Redundancy」モジュールを参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **vrf forwarding** *vrf-name*
5. **description** *string*
6. **ip address** *ip-address mask*
7. **exit**
8. **interface** *type number*
9. **description** *string*
10. **zone-member security** *zone-name*
11. **exit**
12. **interface** *type number*
13. **description** *string*
14. **ip address** *ip-address mask*
15. **zone-member security** *zone-name*
16. **cdp enable**
17. **end**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 :	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface TenGigabitEthernet 1/3/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>vrf forwarding vrf-name</b> 例： Device(config-if)# vrf forwarding lower	VRF インスタンスまたは仮想ネットワークをインターフェイスまたはサブインターフェイスに関連付けます。
ステップ 5	<b>description string</b> 例： Device(config-if)# description facing RLOC and the LISP cloud; has a LISP header.	インターフェイスの設定に説明を加えます。 <ul style="list-style-type: none"><li>ゾーンベース ファイアウォールは、このインターフェイスには設定できません。</li></ul>
ステップ 6	<b>ip address ip-address mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 192.0.1.27 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 7	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 8	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface LISP 0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>これは LISP 仮想インターフェイスです。</li></ul>
ステップ 9	<b>description string</b> 例： Device(config-if)# description LISP virtual interface. Adds LISP header after firewall inspection or removes LISP header before firewall inspection.	インターフェイスの設定に説明を加えます。
ステップ 10	<b>zone-member security zone-name</b> 例： Device(config-if)# zone-member security ge0-0-3a	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 12	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface tengigabitethernet 0/3/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>description string</b> 例： Device(config-if)# description facing internal network, does not have a LISP header.	インターフェイスの設定に説明を加えます。
ステップ 14	<b>ip address ip-address mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 192.0.2.5 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 15	<b>zone-member security zone-name</b> 例： Device(config-if)# zone-member security ge0-0-0	インターフェイスをセキュリティ ゾーンにアタッチします。
ステップ 16	<b>cdp enable</b> 例： Device(config-if)# cdp enable	インターフェイスで Cisco Discovery Protocol (CDP) を有効にします。
ステップ 17	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## LISP 内部パケットインスペクションのための xTR ノースバウンドインターフェイスの設定

この設定では、ノースバウンドで LISP ヘッダーが検査されないため、Locator ID Separation Protocol (LISP) 仮想インターフェイスは必要ありません。ただし、ゾーンベースのファイアウォールを設定して、LISP 内部パケットまたは外部パケットのどちらかを検査できます。

### 始める前に

- ゾーンとゾーン ペアを設定する必要があります。

- 冗長性と冗長グループを設定する必要があります。詳細については、『*Zone-Based Policy Firewall Configuration Guide*』の「Configuring Firewall Stateful Interchassis Redundancy」モジュールを参照してください。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **description** *string*
5. **ip address** *ip-address mask*
6. **zone-member security** *zone-name*
7. **negotiation auto**
8. **redundancy rii** *id*
9. **redundancy group** *id ip virtual-ip exclusive decrement value*
10. **exit**
11. **interface** *type number*
12. **description** *string*
13. **ip address** *ip-address mask*
14. **zone-member security** *zone-name*
15. **negotiation auto**
16. **redundancy rii** *id*
17. **redundancy group** *id ip virtual-ip exclusive decrement value*
18. **ip virtual-reassembly**
19. **end**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Device(config)# interface GigabitEthernet 1/2/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 • このインターフェイスは LISP パケット全体を認識できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>description string</b> 例： Device(config-if)# description RLOC-space/north LAN	インターフェイスの設定に説明を加えます。
ステップ 5	<b>ip address ip-address mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 198.51.100.8 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 6	<b>zone-member security zone-name</b> 例： Device(config-if)# zone-member security ge0-0-3	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。
ステップ 7	<b>negotiation auto</b> 例： Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイス上で速度、デュプレックスモード、およびフロー制御のアドバタイズをイネーブルにします。
ステップ 8	<b>redundancy rii id</b> 例： Device(config-subif)# redundancy rii 200	冗長グループが保護するトラフィックインターフェイス用に冗長インターフェイス識別子 (RII) を設定します。
ステップ 9	<b>redundancy group id ip virtual-ip exclusive decrement value</b> 例： Device(config-if)# redundancy group 1 ip 198.51.100.12 exclusive decrement 50	冗長グループ (RG) トラフィックインターフェイス設定をイネーブルにします。
ステップ 10	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 11	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/3	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このインターフェイスは LISP パケット全体を認識できます。</li> </ul>
ステップ 12	<b>description string</b> 例： Device(config-if)# description RLOC-space/south LAN	インターフェイスの設定に説明を加えます。
ステップ 13	<b>ip address ip-address mask</b> 例：	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。



	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config-if)# ip address 198.51.100.27 255.255.255.0	
ステップ 14	<b>zone-member security zone-name</b> 例： Device(config-if)# zone-member security ge0-0-0	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。
ステップ 15	<b>negotiation auto</b> 例： Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイス上で速度、デュプレックスモード、およびフロー制御のアドバタイズをイネーブルにします。
ステップ 16	<b>redundancy rii id</b> 例： Device(config-subif)# redundancy rii 300	冗長グループが保護するトラフィックインターフェイス用に冗長インターフェイス識別子 (RII) を設定します。
ステップ 17	<b>redundancy group id ip virtual-ip exclusive decrement value</b> 例： Device(config-if)# redundancy group 1 ip 194.88.4.1 exclusive decrement 50	RG トラフィックインターフェイス設定を有効にします。
ステップ 18	<b>ip virtual-reassembly</b> 例： Device(config-if)# ip virtual-reassembly	インターフェイス上の仮想フラグメント再構成 (VFR) を有効にします。
ステップ 19	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性の設定例

### 例：LISP 内部パケット インспекションの有効化

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect-global
Device(config-profile)# lisp inner-packet-inspection
Device(config-profile)# end
```

次に、LISP 内部パケット インспекションを有効にしたゾーンベース ファイアウォール設定の例を示します。

## 例: LISP 内部パケットインスペクションの有効化

```
address-family ipv4
exit-address-family
!
address-family ipv6
exit-address-family

class-map type inspect match-any c-ftp-tcp
match protocol ftp
match protocol telnet
match protocol http
match protocol tcp
match protocol udp
!
policy-map type inspect p1
class type inspect c-ftp-tcp
inspect
class class-default
!
zone security ge0-0-0
!
zone security ge0-0-3
!
zone-pair security zp-ge000-ge003 source ge0-0-0 destination ge0-0-3
service-policy type inspect p1
!
zone-pair security zp-ge003-ge000 source ge0-0-3 destination ge0-0-0
service-policy type inspect p1
!
interface TenGigabitEthernet 1/3/0
ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
ipv6 address 2001:DB8:100::2/64
zone-member security ge0-0-0
!
interface TenGigabitEthernet 0/3/0
ip address 192.168.2.1 255.255.255.0
ipv6 address 2001:DB8:200::2/64
zone-member security ge0-0-3
!
parameter-map type inspect global
lisp inner-packet-inspection
log dropped-packet off
alert on
!
```

## LISP 内部パケット インспекションのシャーシ間ハイ アベイラビリティの設定

## LISP とゾーンベース ファイアウォールの統合と相互運用性に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco コマンド	『 <a href="#">Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<a href="#">Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>
LISP コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS IP Routing: LISP Command Reference</a> 』
LISP 設定ガイド	『 <a href="#">IP Routing: LISP Configuration Guide</a> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 6830	『 <a href="#">The Locator/ID Separation Protocol (LISP)</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a></p>



## CHAPTER 134

# アプリケーション認識型ファイアウォール

このドキュメントでは、NBAR が検出してゾーンベース ファイアウォール アプリケーションを認識させることができるアプリケーションに基づいて、ゾーンベース ファイアウォール ポリシーを定義する方法について説明します。アプリケーションファイアウォールは、トラフィックを検査し、アプリケーション、カテゴリ、アプリケーションファミリー、またはアプリケーショングループに基づいてトラフィックをブロックします。このアプリケーション認識型ファイアウォールの機能には、次の利点があります。

- アプリケーションの可視性ときめ細かな制御
- 1400 以上のレイヤ 7 アプリケーションの分類
- アプリケーション、カテゴリ、アプリケーションファミリー、またはアプリケーショングループごとのトラフィックの許可またはブロック
- アプリケーション認識型ファイアウォールに関する機能情報, on page 1829
- ゾーンベース FW でのアプリケーション認識に関する情報, on page 1830
- ZBFW での NBAR ベースアプリケーション認識の設定方法, on page 1831
- 例 : アプリケーション認識型 show コマンド, on page 1833
- ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する追加情報, on page 1834

## アプリケーション認識型ファイアウォールに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

機能名	リリース	機能情報
アプリケーション認識型ゾーンベースFW	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	<p>このドキュメントでは、NBARが検出してゾーンベース ファイアウォール アプリケーションを認識させることができるアプリケーションに基づいて、ゾーンベース ファイアウォール ポリシーを定義する方法について説明します。アプリケーション ファイアウォールは、トラフィックを検査し、アプリケーション、カテゴリ、アプリケーションファミリ、またはアプリケーショングループに基づいてトラフィックをブロックします。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました：</p> <pre>show class-map avc-classmap-name show policy-map type inspect zone-pair show policy-map type inspect zone-pair sessions show policy-map type inspect avc show platform hardware qfpactive feature firewall drop</pre>

## ゾーンベース FW でのアプリケーション認識に関する情報

### アプリケーション認識型ファイアウォールの前提条件

- トラフィックがレイヤ3/レイヤ4検査クラスマップと一致していることを確認します。トラフィックがファイアウォール検査に一致しない場合、AVC ポリシーはトラフィックを認識できません。
- AVC サービスポリシーが適用されている同じクラスマップのDNSを検査します。

### アプリケーション認識型ゾーンベース FW に関する制約事項

- セルフゾーンへのトラフィックはサポートされません。
- AVC 検査ポリシーは、すべてのアプリケーションを許可し、特定のアプリケーションのみを拒否する必要があります。これは、多くのアプリケーションが相互に依存しているため、あるアプリケーションを許可し、他のすべてのアプリケーションを拒否することは常に機能するわけではないためです。

- 各アプリケーション クラスマップは、最大 16 のフィルタ（各一致がフィルタと見なされます）を持つことができます。
- AVC ポリシーマップは、最大 32 のクラスマップ（class-default を含む）を持つことができます。
- **match protocol attribute category** コマンドを使用してカテゴリを指定する場合は、**match protocol attribute application-family** または **match protocol attribute application-group** を設定できません。

クラスマップやポリシーマップを設定する前に、**parameter-map type inspect** を使用して、ドロップされたパケットをログに記録するようにパラメータマップタイプを設定してください。

```
Device (config)# parameter-map type inspect
Device (config-map)# log dropped-packets
```

## ネットワークレイヤ L3/L4 に基づくポリシー

ゾーンベース ファイアウォールは、ネットワークレイヤ L3/L4 に基づくポリシーを使用します。たとえば、クラスマップは、ACL と L4 プロトコル TCP/UDP/ICMP または L7 プロトコル FTP および SIP に基づいています。L7 プロトコルを使用して定義されたポリシーは、プロトコルの宛先ポートを使用してパケットを分類します。ZBF にはアプリケーションの可視性がなく、FTP ALG を介した FTP 検査をサポートし、ポート 21 に基づくプロトコルのみを識別します。



**Note** FTP 制御フローがランダムなポートで開かれると、ゾーンベース ファイアウォールはアプリケーションを識別できません。

## ZBFW での NBAR ベースアプリケーション認識の設定方法

### レイヤ 4 ゾーンベース ファイアウォールの設定

```
Device (config-profile)#class-map type inspect match-any cml
Device (config-cmap)#match protocol http
Device (config-cmap)#match protocol https
Device (config-cmap)#match protocol dns
Device (config-cmap)#match protocol tcp
Device (config-cmap)#match protocol udp
Device (config-cmap)#match protocol icmp
Device (config-cmap)#exit
Device (config)#class-map match-any nbar-class1
Device (config-cmap)#match protocol yahoo-mail
Device (config-cmap)#match protocol amazon
```

```
Device(config-cmap)#match protocol attribute category consumer-internet
Device(config-cmap)#exit
```

## アプリケーション認識型ファイアウォールの L7 サービスポリシー

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>検査用のクラスマップを設定します。</p> <p>例：</p> <pre>class-map type inspect match-any cml match protocol http match protocol https match protocol dns match protocol tcp match protocol udp match protocol icmp</pre>	<p><b>class-map type inspect</b> コマンドと <b>match protocol</b> コマンドを使用して、プロトコルとカテゴリを定義します。</p>
ステップ 2	<p>アプリケーション ファイアウォール ポリシーを使用して、アクション（この場合は AVC）を定義します。</p> <p>例：</p> <pre>policy-map type inspect avc nbar-policy1 class nbar-class1 deny class class-default allow</pre>	<p><b>deny</b> コマンドを使用して、nbar-class1 クラスマップにリストされているリモートネットワーク管理プロトコルを拒否します。</p>
ステップ 3	<p>アプリケーション ファイアウォール ポリシーを使用して、ドロップされたパケットをログに記録します。</p> <p>例：</p> <pre>policy-map type inspect pml class type inspect cml inspect service-policy avc nbar-policy1 class class-default drop log</pre> <p>nbar-class1 での Amazon からのトラフィックは、ポリシーによって拒否されます。たとえば、ドロップされたパケットは、次のドロップログメッセージに示されます。</p> <pre>Oct 17 12:44:08.101: %IOSXE-6-PLATFORM: R0/0: cpp_cp: QFP:0.0 Thread:000 TS:000000002517650404876 %FW-6-DROP_PKT: Dropping dns/amazon pkt from GigabitEthernet3 171.70.168.183:53 =&gt; 171.10.1.101:50877(target:class)</pre>	



コマンドまたはアクション	目的
<code>-(in_to_out:cml) due to AVC Policy drop:classify result with ip ident 65434</code>	

### 次のタスク

入力インターフェイスに **ip nbar protocol-discovery ipv4** コマンドを追加します。その後、**show ip nbar protocol-discovery interface [intf-name]** コマンドを使用して、アプリケーションの分類を確認します。

## 例：アプリケーション認識型 show コマンド

この例では、**show policy-map type inspect zone-pair** コマンドにより、ポリシーマップの統計とその他の情報（指定されたゾーンペアに存在するセッションに関する情報など）が表示されます。Class-map: nbar-class1 (match-any) に続く行には、トラフィックが nbar-class1 クラスと一致するたびに増加するパケットカウンタ値（7 packets）が含まれています。

```
Device# show policy-map type inspect zone-pair

Zone-pair: in_to_out
Service-policy inspect : pml

Class-map: cml (match-any)
Match: protocol http
Match: protocol https
Match: protocol dns
Match: protocol tcp
Match: protocol udp
Match: protocol icmp
Inspect
Packet inspection statistics [process switch:fast switch]
tcp packets: [0:485]
dns packets: [0:51]

Session creations since subsystem startup or last reset 21
Current session counts (estab/half-open/terminating) [13:0:0]
Maxever session counts (estab/half-open/terminating) [13:2:0]
Last session created 00:00:00
Last statistic reset 00:00:19
Last session creation rate 151
Last half-open session total 0

Service-policy inspect avc : nbar-policy1

Class-map: nbar-class1 (match-any)
7 packets, 1449 bytes
30 second offered rate 1000 bps, drop rate 0000 bps
Match: protocol amazon
Match: protocol yahoo-mail
Match: protocol attribute category consumer-internet
Deny

Class-map: class-default (match-any)
211 packets, 94091 bytes
30 second offered rate 27000 bps, drop rate 0000 bps
```

```
Match: any
Allow
```

```
Class-map: class-default (match-any)
Match: any
Drop
0 packets, 0 bytes
```

```
Device# show platform hardware qfp active feature firewall drop
```

```
-----
Drop Reason                                                    Packets
-----
AVC Policy drop:classify result                                38
```

```
Device# show platform hardware qfp active feature firewal datapath scb
```

```
[s=session i=imprecise channel c=control channel d=data channel A/D=appfw action
allow/deny]
Session ID:0x0000DA5B 171.10.1.101 64204 171.70.168.183 53 proto 17 (0:0) (1456:0xd000208)
[scA]
Session ID:0x0000DA18 171.10.1.101 58836 74.125.199.103 443 proto 6 (0:0) (1456:0xd000208)
[sdA]
Session ID:0x0000DA5A 171.10.1.101 64206 8.8.8.8 53 proto 17 (0:0) (0:0xd000001) [sc]
Session ID:0x0000DA11 171.10.1.101 58833 74.125.199.84 443 proto 6 (0:0) (1440:0xd000210)
[sdA]
Session ID:0x0000DA57 171.10.1.101 64205 173.36.131.10 53 proto 17 (0:0) (1761:0xd00033f)
[scD]
Session ID:0x0000DA2C 171.10.1.101 58839 74.125.199.94 443 proto 6 (0:0) (1456:0xd000208)
[sdA]
Session ID:0x0000DA59 171.10.1.101 64203 173.36.131.10 53 proto 17 (0:0) (1761:0xd00033f)
[scD]
Session ID:0x0000DA0B 171.10.1.101 58831 74.125.199.94 443 proto 6 (0:0) (1456:0xd000208)
[sdA]
Session ID:0x0000DA5C 171.10.1.101 64207 8.8.4.4 53 proto 17 (0:0) (0:0xd000001) [sc]
Session ID:0x0000DA58 171.10.1.101 64203 171.70.168.183 53 proto 17 (0:0) (1761:0xd00033f)
[scD]
```

## ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"><li>• 『Security Command Reference: Commands A to C』</li><li>• 『Security Command Reference: Commands D to L』</li><li>• 『Security Command Reference: Commands M to R』</li><li>• 『Security Command Reference: Commands S to Z』</li></ul>

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>





## CHAPTER 135

# Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポート

Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポート機能は、Cisco IOS XE ファイアウォールで VoIP と Skinny Client Control Protocol (SCCP) をサポートできるようにします。Cisco IP 電話は、SCCP を使用して Cisco Unified Communications Manager に接続および登録を行います。スケーラブルな環境で IP 電話と Cisco Unified Communications Manager 間の Cisco IOS XE ファイアウォールを設定できるようにするには、ファイアウォールが SCCP を検出して、メッセージ内で渡される情報を理解できる必要があります。Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポート機能によって、ファイアウォールは、Skinny クライアント (IP 電話など) と Cisco Unified Communications Manager 間で交換される Skinny コントロールパケットを検査し、Skinny データチャンネルがルータを通過できるようにルータを設定します。この機能は、ビデオチャンネルに対応するように SCCP のサポートを拡張します。

- [Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポートに関する前提条件, on page 1837](#)
- [Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポートに関する制約事項, on page 1838](#)
- [Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポートに関する情報, on page 1838](#)
- [Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポートの設定方法, on page 1841](#)
- [Skinny Control Protocol のファイアウォールサポートの設定例, on page 1845](#)
- [Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポートに関する追加情報, on page 1846](#)
- [Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポートに関する機能情報, on page 1847](#)

## Skinny Client Control Protocol のファイアウォールサポートに関する前提条件

- システムは、Cisco IOS XE リリース 2.1 以降のリリースを実行している必要があります。
- SCCP アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) が機能するためにはファイアウォールを有効にする必要があります。

- SCCP が機能するためには TFTP ALG を有効にする必要があります。これは、Skinny を使用する IP 電話には Cisco Unified Communications Manager からの TFTP コンフィギュレーション ファイルが必要なためです。

## Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する制約事項

- IPv6 アドレスのインスペクションと変換はサポートされません。
- TCP セグメンテーションはサポートされません。

## Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する情報

### アプリケーション レベル ゲートウェイ

アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、アプリケーション レイヤ ゲートウェイとも呼ばれ、アプリケーション パケットのペイロード内の IP アドレス情報を変換するアプリケーションです。ALG は、アプリケーション レイヤ プロトコルを解釈し、ファイアウォールおよびネットワーク アドレス変換 (NAT) アクションを実行するために使用されます。これらのアクションは、ファイアウォールおよび NAT の設定に応じて次の 1 つまたは複数のアクションになります。

- クライアントアプリケーションが、ダイナミック TCP または UDP ポートを使用してサーバアプリケーションと通信できるようにします。
- アプリケーション固有のコマンドを認識し、これらのコマンドに対するきめ細かいセキュリティ制御を提供します。
- データ交換を行う 2 つのホスト間の複数のデータ ストリームまたはデータ セッションを同期します。
- アプリケーション ペイロードで使用できるネットワーク層アドレス情報を変換します。

ファイアウォールがピンホールを開き、アプリケーション レイヤ データストリームの送信元 IP アドレスおよび宛先 IP アドレスを伝送しない TCP または UDP トラフィックに対する変換サービスを NAT が実行します。IP アドレス情報を埋め込む特定のプロトコルまたはアプリケーションには ALG のサポートが必要です。

## SCCP インспекションの概要

SCCP インспекションでは、Cisco Unified Communications Manager を使用して、2つの SCCP クライアント間での音声通信が可能です。Cisco Unified Communications Manager は TCP ポート 2000（デフォルトの SCCP ポート）を使用して、SCCP クライアントにサービスを提供します。初めに SCCP クライアントは TCP 接続を確立することでプライマリ Cisco Unified Communications Manager に接続し、その後、使用可能であればセカンダリ Cisco Unified Communications Manager に接続します。TCP 接続が確立された後、SCCP クライアントはプライマリ Cisco Unified Communications Manager に登録されます。プライマリ Cisco Unified Communications Manager は リブートするか、またはキープアライブ障害が発生するまで、制御 Cisco Unified Communications Manager として使用されます。したがって、SCCP クライアントと Cisco Unified Communications Manager 間の TCP 接続は永続的に存在し、クライアントとのコールを確立するために使用されます。TCP 接続が失敗すると、セカンダリ Cisco Unified Communications Manager が使用されます。最初の Cisco Unified Communications Manager と確立されたすべてのデータ チャネルは、コールの終了後に閉じられるまでアクティブのままです。

SCCP プロトコルは、ローカルで生成または終了した SCCP 制御チャネルを検査し、ファイアウォールを送信先または送信元とするメディアチャネルのピンホールを開閉します。ピンホールは、保護されたネットワークに対するアプリケーションで制御されたアクセスを可能するために、ファイアウォールを通じて開かれるポートです。

データセッションの開閉に必要なメッセージのセットを下の表に示します。SCCP インспекションは、アクセス リスト ピンホールを開閉するために使用されるデータセッションを検査します。

Table 179: SCCP データ セッションメッセージ

Skinny インспекションメッセージ	説明
CloseReceiveChannel	コールを中断する必要があることを示します。このメッセージが受信されると、ファイアウォールおよび NAT により作成されたすべての中間セッションはクリーンアップする必要があります。
OpenReceiveChannelACK	電話機が Cisco Unified Communications Manager から受信した OpenReceiveChannel メッセージを確認していることを示します。
StartMediaTransmission	コールの送信元または宛先である電話の Realtime Transport Protocol (RTP) 情報が含まれます。メッセージには、IP アドレス、他方の電話がリスンしている RTP ポート、およびコールを一意に識別するコール ID が含まれます。
StopMediaTransmission	通話が終了したことを表します。このメッセージを受信した後、セッションをクリーンアップすることができます。

Skinnny インспекション メッセージ	説明
StationCloseReceiveChannel	Skinnny クライアント（このメッセージ中の情報に基づく）に受信チャンネルを閉じるように指示します。
StationOpenMultiMediaReceiveChannelAck	このメッセージを送信する Skinnny クライアントの IP アドレスおよびポート情報が含まれます。また、クライアントがビデオおよびデータチャンネルを受信する用意があるかどうかのステータスも含まれます。
StationOpenReceiveChannelAck	このメッセージを送信する Skinnny クライアントの IP アドレスおよびポート情報が含まれます。このメッセージには、クライアントが音声トラフィックを受信する用意があるかどうかのステータスも含まれます。
StationStartMediaTransmission	リモート Skinnny クライアントの IP アドレスおよびポート情報を含みます。
StationStartMultiMediaTransmit	Cisco Unified Communications Manager がビデオまたはデータチャンネルの OpenLogicalChannelAck メッセージを受信したことを示します。
StationStopMediaTransmission	Skinnny クライアント（このメッセージ中の情報に基づく）に音声トラフィックの送信を停止するように指示します。
StationStopSessionTransmission	Skinnny クライアント（このメッセージ中の情報に基づく）に指定されたセッションを終了するように指示します。

## ALG--SCCP バージョン 17 サポート

ALG - SCCP バージョン 17 サポート機能は、SCCP ALG で SCCP バージョン 17 パケットを解析できるようにします。Cisco Unified Communications Manager 7.0 および Cisco Unified Communications Manager 7.0 を使用する IP フォンでは、SCCP バージョン 17 のメッセージだけがサポートされています。IPv6 に対応するため、SCCP の形式はバージョン 17 から変更されました。SCCP ALG は、メッセージのプレフィックス内の SCCP バージョンをチェックしてから、バージョンに応じて解析します。SCCP メッセージのバージョンはメッセージヘッダーから抽出され、バージョンが 17 よりも大きい場合そのメッセージはバージョン 17 形式を使用して解析され、IPv4 アドレスおよびポート情報が抽出されます。SCCP ALG は、SCCP メッセージの IPv4 アドレス情報の検査および変換をサポートしています。



**Note** IPv6 アドレスの検査および変換はサポートされていません。

次の SCCP ALG 処理メッセージの IP アドレス形式は、バージョン 17 で変更されました。



- StationOpenMultiMediaReceiveChannelAck
- StationOpenReceiveChannelAckMessage
- StationRegisterMessage
- StationStartMediaTransmissionAckMessage
- StationStartMultiMediaTransmissionAckMessage
- StationStartMediaTransmissionMessage
- StationStartMultiMediaTransmissionMessage

## Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポートの設定方法

### Skinny クラス マップとポリシー マップの設定

ファイアウォール設定で (**match protocol** コマンドを使用して) SCCP をイネーブルにする場合、(**match protocol** コマンドを使用して) TFTP をイネーブルにする必要があります。そうしないと、SCCP を使用する IP フォンは Cisco Unified Communications Manager と通信できません。SCCP は、Cisco Unified Communications Manager を使用して、2 つの Skinny クライアント間の音声通信を可能にします。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect match-any** *class-map-name*
4. **match protocol** *protocol-name*
5. **match protocol** *protocol-name*
6. **exit**
7. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
8. **class type inspect** *class-map-name*
9. **inspect**
10. **exit**
11. **class class-default**
12. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# class-map type inspect match-any cmap1	検査タイプクラスマップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol protocol-name</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match protocol skinny	Skinny クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 5	<b>match protocol protocol-name</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match protocol tftp	TFTP クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# exit	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	<b>policy-map type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# policy-map type inspect pmap1	検査タイプポリシー マップを作成し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>class type inspect class-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap)# class type inspect cmap1	アクションを実行するクラスを指定し、ポリシー マップクラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap-c)# exit	ポリシー マップクラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-pmap)# class class-default</pre>	これらのポリシー マップ設定が事前に定義したデフォルト クラスに適用されることを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>設定済みクラス マップの一致基準のいずれともトラフィックが一致しない場合、事前に定義されたデフォルト クラスに誘導されます。</li> </ul>
ステップ 12	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-pmap)# end</pre>	ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ゾーン ペアの設定および SCCP ポリシー マップのアタッチ

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security** {*zone-name* | **default**}
4. **exit**
5. **zone security** {*zone-name* | **default**}
6. **exit**
7. **zone-pair security** *zone-pair-name* [**source** {*source-zone-name* | **self** | **default**}] **destination** [*destination-zone-name* | **self** | **default**]
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **exit**
10. **interface** *type number*
11. **zone-member security** *zone-name*
12. **exit**
13. **interface** *type number*
14. **zone-member security** *zone-name*
15. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security {zone-name   default}</b> <b>Example:</b> Router(config)# zone security zone1	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーンコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>zone security {zone-name   default}</b> <b>Example:</b> Router(config)# zone security zone2	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>zone-pair security zone-pair-name [source {source-zone-name   self   default} destination [destination-zone-name   self   default]]</b> <b>Example:</b> Router(config)# zone-pair security in-out source zone1 destination zone2	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペアコンフィギュレーションモードを開始します。 <b>Note</b> ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect pmap1	ファイアウォールポリシーマップを宛先ゾーンペアに付加します。 <b>Note</b> ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティゾーンペアコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Router(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b>	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。

	Command or Action	Purpose
	Router(config-if)# zone-member security zone1	<b>Note</b> インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、方向に関係なくインターフェイスを通過するすべてのトラフィック（ルータ宛のトラフィックまたはルータ発信のトラフィックを除く）は、デフォルトでドロップされます。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 13	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Router(config)# interface gigabitethernet 0/1/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# zone-member security zone2	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。
ステップ 15	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## Skinny Control Protocol のファイアウォール サポートの設定例

### 例：SCCP クラス マップとポリシー マップの設定

```
Router# configure terminal
Router(config)# class-map type inspect match-any cmap1
Router(config-cmap)# match protocol skinny
Router(config-cmap)# match protocol tftp
Router(config-cmap)# exit
Router(config)# policy-map type inspect pmap1
Router(config-pmap)# class type inspect cmap1
Router(config-pmap-c)# inspect
Router(config-pmap-c)# exit
```

例：ゾーンペアの設定と SCCP ポリシー マップのアタッチ

```
Router(config-pmap)# class class-default
Router(config-pmap)# end
```

## 例：ゾーンペアの設定と SCCP ポリシー マップのアタッチ

```
Router# configure terminal
Router(config)# zone security zone1
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone security zone2
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone-pair security in-out source zone1 destination zone2
Router(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect pmap1
Router(config-sec-zone-pair)# exit
Router(config)# interface gigabitethernet 0/0/0
Router(config-if)# zone-member security zone1
Router(config-if)# exit
Router(config)# interface gigabitethernet 0/1/1
Router(config-if)# zone-member security zone2
Router(config-if)# end
```

## Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 180: Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポートに関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
ALG - SCCP V17 サポート	Cisco IOS XE リリース 3.5S	ALG - SCCP バージョン 17 サポート機能は、SCCP ALG で SCCP バージョン 17 パケットを解析できるようにします。SCCP 形式はバージョン 17 から IPv6 をサポートするように変更されました。

機能名	リリース	機能情報
ファイアウォール : SCCP ビデオ ALG サポート	Cisco IOS XE リリース 2.4	SCCP は、Cisco Unified Communications Manager を使用して、2 つの Skinny クライアント間の音声通信を可能にします。この機能は、Cisco ファイアウォールで、Skinny クライアントと Cisco Unified Communications Manager 間で交換される Skinny 制御パケットを検査できるようにします。  <b>match protocol</b> コマンドが変更されました。



機能名	リリース	機能情報
Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポート	Cisco IOS XE リリース 2.1	<p>Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポート機能は、Cisco IOS XE ファイアウォールで VoIP と SCCP をサポートできるようにします。Cisco IP 電話は、SCCP を使用して Cisco Unified Communications Manager に接続および登録を行います。スケーラブルな環境で IP 電話と Cisco Unified Communications Manager 間の Cisco IOS XE ファイアウォールを設定できるようにするには、ファイアウォールが SCCP を検出して、メッセージ内で渡される情報を理解できる必要があります。Skinny Client Control Protocol のファイアウォール サポート機能によって、ファイアウォールは、Skinny クライアント (IP 電話など) と Cisco Unified Communications Manager 間で交換される Skinny コントロール パケットを検査し、Skinny データ チャネルがルータを通過できるようにルータを設定します。この機能は、ビデオ チャネルに対応するように SCCP のサポートを拡張します。</p>





## CHAPTER 136

# VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポート

この機能は、IPv6 ファイアウォールでの VRF 対応サービス インフラストラクチャ (VASI) インターフェイスをサポートします。この機能により、アクセスコントロールリスト (ACL)、ネットワークアドレス変換 (NAT)、ポリシング、ゾーンベースファイアウォールなどのサービスを、2つの異なる Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスの間を流れるトラフィックに適用できます。VASI インターフェイスは、ルートプロセッサ (RP) とフォワーディングプロセッサ (FP) の冗長性をサポートします。VASI インターフェイスは IPv4 および IPv6 ユニキャストトラフィックをサポートします。

このモジュールでは、VASI インターフェイスの概要を紹介し、VASI インターフェイスを設定する方法を説明します。

- [VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する制約事項, on page 1851](#)
- [VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する情報, on page 1852](#)
- [VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートの設定方法, on page 1854](#)
- [VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートの設定例, on page 1862](#)
- [ファイアウォール ステートフル シャーシ間冗長性に関する追加情報, on page 1864](#)
- [VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する機能情報, on page 1864](#)

## VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する制約事項

- VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) インターフェイス経由のマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) トラフィックはサポートされません。
- IPv4 と IPv6 のマルチキャストトラフィックはサポートされません。

- VASI インターフェイスは、キューベース機能のアタッチメントをサポートしません。以下のコマンドは、VASI インターフェイスにアタッチされたモジュラ QoS CLI (MQC) ポリシーでサポートされません。

- **bandwidth (policy-map class)**
- **fair-queue**
- **priority**
- **queue-limit**
- **random-detect**
- **shape**

## VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する情報

### VASI の概要

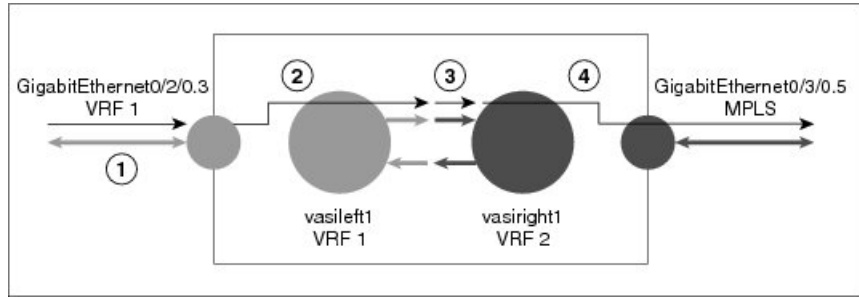
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) を使用すると、ファイアウォール、GETVPN、IPsec、およびネットワークアドレス変換 (NAT) などのサービスを、異なる仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを横断するトラフィックに適用できます。VASI は仮想インターフェイスのペアを使用して実行され、ペア内の各インターフェイスは別の VRF インスタンスに関連付けられます。VASI 仮想インターフェイスは、これら 2 つの VRF インスタンス間で切り替える必要がある、すべてのパケットのネクストホップインターフェイスです。VASI インターフェイスは、VRF インスタンス間にファイアウォールまたは NAT を設定するためのフレームワークを提供します。

各インターフェイス ペアは、異なる 2 つの VRF インスタンスに関連付けられています。ペアリングは、vasileft インターフェイスが自動的に vasiright インターフェイスへのペアとなるように、2 つのインターフェイスのインデックスに基づいて自動的に行われます。たとえば、下の図では、vasileft1 と vasiright1 は自動的にペアになり、vasileft1 に入るパケットは vasiright1 に内部的に渡されます。

VASI インターフェイスでは、内部ボーダー ゲートウェイ プロトコル (IBGP)、Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP)、および Open Shortest Path First (OSPF) を使用して、スタティックルーティングまたはダイナミックルーティングのいずれかを設定できます。

次の図は、同じデバイスの VRF 間 VASI 設定を示しています。

Figure 71: VRF間 VASI設定



VRF 間 VASI が同じデバイス上で設定されている場合、パケット フローは次の順序で発生します。

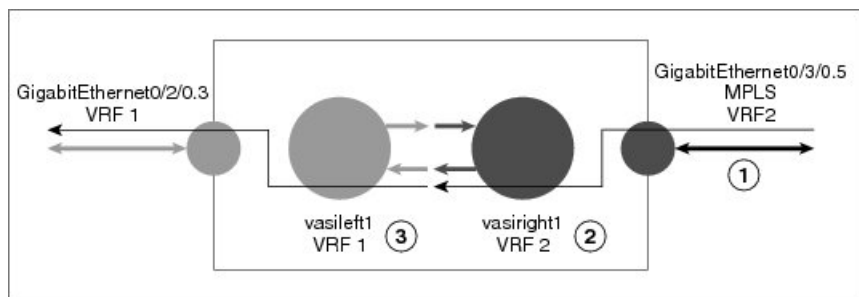
1. パケットが VRF 1（ギガビットイーサネット 0/2/0.3）に属する物理インターフェイスに入ります。
2. パケットを転送する前に、VRF1 ルーティングテーブルでフォワーディングルックアップが実行されます。Vasileft1 がネクスト ホップとして選択され、存続可能時間（TTL）値がパケットから引かれます。通常、フォワーディング アドレスは VRF のデフォルト ルートに基づいて選択されます。ただし、フォワーディング アドレスはスタティック ルートまたは学習したルートになる可能性もあります。パケットは vasileft1 の出力パスに送信されてから、vasiright1 入力パスに自動的に送信されます。
3. パケットが vasiright1 に入ると、VRF 2 ルーティング テーブルでフォワーディング ルックアップが実行され、TTL が再度減らされます（このパケットでは 2 回目）。
4. VRF 2 はパケットを物理インターフェイス、ギガビットイーサネット 0/3/0.5 へ転送します。

次の図は VASI がマルチプロトコル ラベル スイッチング（MPLS）VPN 設定で機能するしくみを示します。



**Note** 次の図で、MPLS はギガビットイーサネット インターフェイスで有効になっていますが、MPLS トラフィックは VASI ペア間ではサポートされていません。

Figure 72: MPLS VPN 設定を使用する VASI



VASI がマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) VPN を使用して設定されている場合、パケットフローは次の順序で発生します。

1. パケットが VPN ラベルを持つ MPLS インターフェイスに到着します。
2. VPN ラベルがパケットから取り除かれ、VRF2 でフォワーディングルックアップが実行され、パケットが `vasiright1` に転送されます。TTL 値がパケットから引かれます。
3. パケットが入力パスの `vasileft1` に入り、別のフォワーディングルックアップが VRF1 で行われます。パケットが VRF1 の出力物理インターフェイス (ギガビットイーサネット 0/2/0.3) に送信されます。TTL がパケットから再度減らされます。

## VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートの設定方法

### VRF とアドレス ファミリ セッションの設定

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `vrf definition vrf-name`
4. `address-family ipv6`
5. `exit-address-family`
6. `end`

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>vrf definition vrf-name</code> <b>Example:</b> Device(config)# vrf definition VRF1	Virtual Routing and Forwarding (VRF) ルーティング テーブルインスタンスを設定し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>address-family ipv6</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# address-family ipv6	アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始し、標準の IPv6 アドレス プレフィックスを伝送するセッションを設定します。
ステップ 5	<b>exit-address-family</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf-af)# exit-address-family	アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを終了して、VRF コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# end	VRF コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

## VASI サポート用のクラス マップとポリシー マップの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 unicast-routing**
4. **class-map type inspect match-any class-map-name**
5. **match protocol name**
6. **match protocol name**
7. **exit**
8. **policy-map type inspect policy-map-name**
9. **class type inspect class-map-name**
10. **inspect**
11. **exit**
12. **class class-default**
13. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6-unicast routing	IPv6 ユニキャスト データグラムの転送を有効にします。
ステップ 4	<b>class-map type inspect match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-any c-map	検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>match protocol name</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol icmp	指定されたプロトコルに基づいて、クラス マップ 一致基準を設定します。
ステップ 6	<b>match protocol name</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol tcp	指定されたプロトコルに基づいて、クラス マップ 一致基準を設定します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>policy-map type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect p-map	プロトコル固有の検査タイプ ポリシー マップを作成して、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>class type inspect class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect c-map	アクションの実行対象となるトラフィック クラスを指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インспекションをイネーブルにします。
ステップ 11	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class class-default	定義済みのデフォルト クラスにポリシー マップ設定を適用して、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>設定済みクラス マップの一致基準のいずれともトラフィックが一致しない場合、事前に定義されたデフォルト クラスに誘導されます。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
ステップ 13	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## VASI サポートのゾーンおよびゾーン ペアの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security zone-name**
4. **exit**
5. **zone-pair security zone-pair-name source source-zone destination destination-zone**
6. **service-policy type inspect policy-map-name**
7. **exit**
8. **interface type number**
9. **vrf forwarding vrf-name**
10. **no ip address**
11. **zone member security zone-name**
12. **ipv6 address ipv6-address/prefix-length**
13. **ipv6 enable**
14. **negotiation auto**
15. **exit**
16. **interface type number**
17. **no ip address**
18. **ipv6 address ipv6-address/prefix-length**
19. **ipv6 enable**
20. **negotiation auto**
21. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>zone security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security in	セキュリティ ゾーンを作成し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ゾーンペアを作成するには2つのセキュリティ ゾーン（送信元ゾーンと宛先ゾーン）が設定に含まれる必要があります。</li> <li>• ゾーンペアでは、送信元ゾーンまたは宛先ゾーンとしてデフォルトゾーンを使用できます。</li> </ul>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> <b>source</b> <i>source-zone</i> <b>destination</b> <i>destination-zone</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security in-out source in destination out	ゾーンペアを作成し、セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポリシーを適用するには、ゾーン ペアを設定する必要があります。</li> </ul>
ステップ 6	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect p-map	ポリシー マップをトップレベル ポリシーに関連付けます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。</li> </ul>
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>vrf forwarding</b> <i>vrf-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# vrf forwarding VRF1	インターフェイスまたはサブインターフェイスに Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスまたは仮想ネットワークを関連付けます。
ステップ 10	<b>no ip address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# no ip address	IP アドレスを削除するか、IP 処理をディセーブルにします。
ステップ 11	<b>zone member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b>	インターフェイスをセキュリティ ゾーンにアタッチします。

	Command or Action	Purpose
	Device(config-if)# zone member security in	
ステップ 12	<b>ipv6 address</b> <i>ipv6-address/prefix-length</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:2:1234/64	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 13	<b>ipv6 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 enable	明示的な IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 14	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビット イーサネット インターフェイス上で速度、デュプレックス モード、およびフロー制御のアドバタイズをイネーブルにします。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 16	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 17	<b>no ip address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# no ip address	IP アドレスを削除するか、IP 処理をディセーブルにします。
ステップ 18	<b>ipv6 address</b> <i>ipv6-address/prefix-length</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:3:1234/64	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 19	<b>ipv6 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 enable	明示的な IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 20	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビット イーサネット インターフェイス上で速度、デュプレックス モード、およびフロー制御のアドバタイズをイネーブルにします。
ステップ 21	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## VASI インターフェイスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **vrf forwarding** *vrf-name*
5. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix-length* **link-local**
6. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix-length*
7. **ipv6 enable**
8. **no keepalive**
9. **zone member security** *zone-name*
10. **exit**
11. **interface** *type number*
12. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix-length* **link-local**
13. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix-length*
14. **ipv6 enable**
15. **no keepalive**
16. **exit**
17. **ipv6 route** *ipv6-prefix/prefix-length interface-type interface-number* *ipv6-address*
18. **ipv6 route vrf** *vrf-name ipv6-prefix/prefix-length interface-type interface-number* *ipv6-address*
19. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i>  <b>Example:</b> Device(config)# interface vasileft 1	VASI インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>vrf forwarding</b> <i>vrf-name</i>  <b>Example:</b> Device(config-if)# vrf forwarding VRF1	インターフェイスまたはサブインターフェイスに Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスまたは仮想ネットワークを関連付けます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>ipv6 address <i>ipv6-address/prefix-length link-local</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address FE80::8EB6:4FFF:FE6C:E701 link-local	インターフェイスの IPv6 リンクローカルアドレスを設定し、そのインターフェイスでの IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 6	<b>ipv6 address <i>ipv6-address/prefix-length</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:4:1234/64	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 7	<b>ipv6 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 enable	明示的な IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 8	<b>no keepalive</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# no keepalive	キープアライブパケットをディセーブルにします。
ステップ 9	<b>zone member security <i>zone-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone member security out	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 11	<b>interface <i>type number</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# interface vasiright 1	VASI インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 12	<b>ipv6 address <i>ipv6-address/prefix-length link-local</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address FE80::260:3EFF:FE11:6770 link-local	インターフェイスの IPv6 リンクローカルアドレスを設定し、そのインターフェイスでの IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 13	<b>ipv6 address <i>ipv6-address/prefix-length</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:4:1234/64	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 14	<b>ipv6 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 enable	明示的な IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 15	<b>no keepalive</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# no keepalive	キープアライブパケットをディセーブルにします。
ステップ 16	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 17	<b>ipv6 route ipv6-prefix/prefix-length interface-type interface-number ipv6-address</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 route 2001::/64 vasileft 1 2001::/64	スタティック IPv6 ルートを確立します。
ステップ 18	<b>ipv6 route vrf vrf-name ipv6-prefix/prefix-length interface-type interface-number ipv6-address</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 route vrf vrf1 2001::/64 vasiright 1 2001::/64	IPv6 アドレスのすべての VRF テーブルまたは特定の VRF テーブルを指定します。
ステップ 19	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートの設定例

### 例：VRF とアドレス ファミリ セッションの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# vrf definition VRF1
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# end
```

### 例：VASI サポート用のクラス マップとポリシー マップの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6-unicast routing
Device(config)# class-map type inspect match-any c-map
Device(config-cmap)# match protocol icmp
Device(config-cmap)# match protocol tcp
```

```
Device(config-cmap)# match protocol udp
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect p-map
Device(config-pmap)# class type inspect c-map
Device(config-pmap-c)# inspect
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap-c)# end
```

## 例：VASI サポート用のゾーンとゾーン ペアの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# zone security in
Device(config)# exit
Device(config)# zone security out
Device(config)# exit
Device(config)# zone-pair security in-out source in destination out
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect p-map
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0
Device(config-if)# vrf forwarding VRF1
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# zone member security in
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:2:1234/64
Device(config-if)# ipv6 enable
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/1
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:3:1234/64
Device(config-if)# ipv6 enable
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# end
```

## 例：VASI インターフェイスの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface vasileft 1
Device(config-if)# vrf forwarding VRF1
Device(config-if)# ipv6 address FE80::8EB6:4FFF:FE6C:E701 link-local
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:4:1234/64
Device(config-if)# ipv6 enable
Device(config-if)# no keepalive
Device(config-if)# zone-member security out
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface vasiright 1
Device(config-if)# ipv6 address FE80::260:3EFF:FE11:6770 link-local
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:4:1234/64
Device(config-if)# ipv6 enable
Device(config-if)# no keepalive
Device(config-if)# exit
Device(config)# ipv6 route 2001::/64 vasileft 1 2001::/64
Device(config)# ipv6 route vrf vrf1 2001::/64 vasiright 1 2001::/64
Device(config)# end
```

## ファイアウォールステートフルシャーシ間冗長性に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



Table 181: VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
VASI インターフェイス経由の IPv6 ゾーンベース ファイアウォール サポート	Cisco IOS XE リリース 3.7S	<p>この機能は、IPv6 ファイアウォール経由の VASI インターフェイスをサポートします。この機能により、アクセス コントロール リスト (ACL)、ネットワーク アドレス変換 (NAT)、ポリシング、ゾーンベース ファイアウォールなどのサービスを、2つの異なる Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスの間を流れるトラフィックに適用できます。VASI インターフェイスは、ルート プロセッサ (RP) とフォワーディング プロセッサ (FP) の冗長性をサポートします。VASI インターフェイスは IPv4 および IPv6 ユニキャストトラフィックをサポートします。</p> <p>この機能について導入または変更されたコマンドはありません。</p>





## CHAPTER 137

# VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定

VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ機能を使用すると、アクセス コントロール リスト (ACL)、ネットワークアドレス変換 (NAT)、ポリシング、ゾーンベースファイアウォールなどのサービスを、2つの異なる仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを通過するトラフィックに適用できます。VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) インターフェイスは、ルートプロセッサ (RP) と転送プロセッサ (FP) の冗長性、IPSec、および IPv4 と IPv6 のユニキャストおよびマルチキャストトラフィックをサポートします。

このモジュールでは、VASI インターフェイスを設定する方法について説明します。

- [VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャに関する制約事項, on page 1867](#)
- [VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定について, on page 1868](#)
- [VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定方法, on page 1870](#)
- [VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定例, on page 1873](#)
- [VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定に関する追加情報, on page 1880](#)
- [VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定に関する機能情報, on page 1881](#)

## VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャに関する制約事項

- VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) インターフェイス経由のマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) トラフィックはサポートされません。
- VASI インターフェイスは、キューベース機能のアタッチメントをサポートしません。以下のコマンドは、VASI インターフェイスにアタッチされたモジュラ QoS CLI (MQC) ポリシーでサポートされません。
  - **bandwidth (policy-map class)**
  - **fair-queue**
  - **priority**
  - **queue-limit**

- **random-detect**
- **shape**
- VASI 2000 ペアは、Open Shortest Path First (OSPF) でサポートされていません。
- VASI インターフェイス上のマルチキャスト ファースト ホップおよびマルチキャスト パケットがサポートされていないため、VASI はサポートされません。
- Web Cache Communication Protocol (WCCP) はサポートされていません。

## VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定について

### VASI の概要

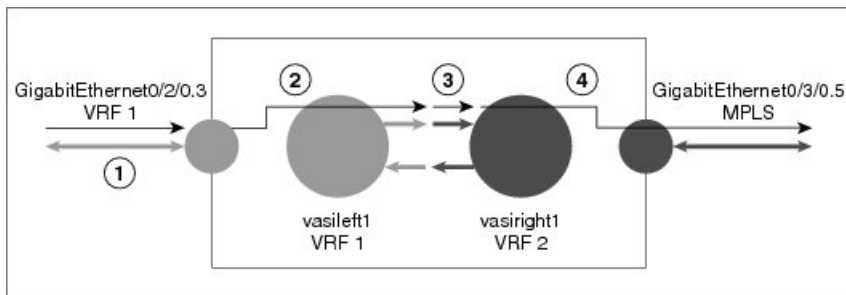
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) を使用すると、ファイアウォール、GETVPN、IPsec、およびネットワークアドレス変換 (NAT) などのサービスを、異なる仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを横断するトラフィックに適用できます。VASI は仮想インターフェイスのペアを使用して実行され、ペア内の各インターフェイスは別の VRF インスタンスに関連付けられます。VASI 仮想インターフェイスは、これら 2 つの VRF インスタンス間で切り替える必要がある、すべてのパケットのネクストホップインターフェイスです。VASI インターフェイスは、VRF インスタンス間にファイアウォールまたは NAT を設定するためのフレームワークを提供します。

各インターフェイス ペアは、異なる 2 つの VRF インスタンスに関連付けられています。ペアリングは、`vasileft` インターフェイスが自動的に `vasiright` インターフェイスへのペアとなるように、2 つのインターフェイスのインデックスに基づいて自動的に行われます。たとえば、下の図では、`vasileft1` と `vasiright1` は自動的にペアになり、`vasileft1` に入るパケットは `vasiright1` に内部的に渡されます。

VASI インターフェイスでは、内部ボーダー ゲートウェイ プロトコル (IBGP)、Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP)、および Open Shortest Path First (OSPF) を使用して、スタティックルーティングまたはダイナミックルーティングのいずれかを設定できます。

次の図は、同じデバイスの VRF 間 VASI 設定を示しています。

Figure 73: VRF間 VASI設定



VRF 間 VASI が同じデバイス上で設定されている場合、パケット フローは次の順序で発生します。

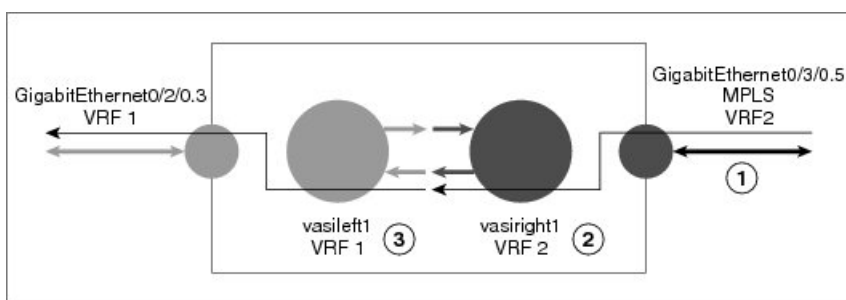
1. パケットが VRF 1（ギガビットイーサネット 0/2/0.3）に属する物理インターフェイスに入ります。
2. パケットを転送する前に、VRF1 ルーティングテーブルでフォワーディングルックアップが実行されます。Vasileft1 がネクスト ホップとして選択され、存続可能時間（TTL）値がパケットから引かれます。通常、フォワーディング アドレスは VRF のデフォルト ルートに基づいて選択されます。ただし、フォワーディング アドレスはスタティック ルートまたは学習したルートになる可能性もあります。パケットは vasileft1 の出力パスに送信されてから、vasiright1 入力パスに自動的に送信されます。
3. パケットが vasiright1 に入ると、VRF 2 ルーティング テーブルでフォワーディング ルックアップが実行され、TTL が再度減らされます（このパケットでは 2 回目）。
4. VRF 2 はパケットを物理インターフェイス、ギガビットイーサネット 0/3/0.5 へ転送します。

次の図は VASI がマルチプロトコル ラベル スイッチング（MPLS）VPN 設定で機能するしくみを示します。



**Note** 次の図で、MPLS はギガビットイーサネット インターフェイスで有効になっていますが、MPLS トラフィックは VASI ペア間ではサポートされていません。

Figure 74: MPLS VPN 設定を使用する VASI



VASI がマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) VPN を使用して設定されている場合、パケット フローは次の順序で発生します。

1. パケットが VPN ラベルを持つ MPLS インターフェイスに到着します。
2. VPN ラベルがパケットから取り除かれ、VRF2 でフォワーディング ルックアップが実行され、パケットが `vasiright1` に転送されます。TTL 値がパケットから引かれます。
3. パケットが入力パスの `vasileft1` に入り、別のフォワーディング ルックアップが VRF1 で行われます。パケットが VRF1 の出力物理インターフェイス (ギガビット イーサネット 0/2/0.3) に送信されます。TTL がパケットから再度減らされます。

## VASI でのマルチキャストおよびマルチキャスト VPN

VRF 対応サービス インフラストラクチャ (VASI) は、ゾーンベース ファイアウォール、ネットワーク アドレス変換 (NAT)、IPsec などのサービスを、異なる Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスの間を移動するトラフィックに適用します。VASI 上のマルチキャストと MVPN 機能は、VASI インターフェイスで IPv4 と IPv6 のマルチキャストとマルチキャスト VPN (MVPN) をサポートします。この機能は、顧客サイトで設定されたマルチキャストモード (Sparse や Source-Specific Multicast (SSM) など) や、コア ネットワーク内の MVPN モード (Generic Routing Encapsulation (GRE) ベースまたは Multicast Label Distribution Protocol (MLDP) ベース) に影響されません。

マルチキャストは単一の情報ストリームを場合によっては何千もの受信者に同時に配信することによって、ネットワーク内のトラフィックを削減します。マルチキャストは送信元または受信者に負荷をかけることなくアプリケーションから複数の受信者にソーストラフィックを配信するため、最小限のネットワーク帯域幅が使用されることになります。マルチキャスト VPN (MVPN) 機能は、レイヤ 3 VPN 上でマルチキャストをサポートできるようにします。

VASI の実装に使用する仮想インターフェイスのペアは、それぞれに異なる VRF に関連付けられます。VASI 仮想インターフェイスは、この 2 つの VRF 間でスイッチングする必要があるすべてのパケットのネクストホップインターフェイスになります。VASI インターフェイスは仮想インターフェイスであり、IP アドレスや、他の論理インターフェイスなどの他のサービスを設定できます。この機能を有効にするには、VASI インターフェイス ペアでマルチキャストを有効にする必要があります。

## VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定方法

### VASI インターフェイス ペアの設定

VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) のインターフェイスペアを設定するには、1 つのインターフェイスで `interface vasileft` コマンドを設定し、2 番目のインターフェイスで `interface vasiright` コマンドを設定する必要があります。vasileft を vasiright とペアにするにはインターフェイス番号を同じにする必要があります。任意の VASI インターフェイスで Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスを設定できます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **vrf forwarding** *table-name*
5. **ip address** {*ip-address mask [secondary]* | **pool** *pool-name*}
6. **exit**
7. **ip route** [**vrf** *vrf-name*] *destination-prefix destination-prefix-mask interface-type interface-number*
8. **interface** *type number*
9. **vrf forwarding** *table-name*
10. **ip address** {*ip-address mask [secondary]* | **pool** *pool-name*}
11. **exit**
12. **ip route** [**vrf** *vrf-name*] *destination-prefix destination-prefix-mask interface-type interface-number*
13. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface vasileft 100	VASI インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>この例では、vasileft インターフェイスが設定されます。</li></ul>
ステップ 4	<b>vrf forwarding</b> <i>table-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# vrf forwarding VRFLEFT	VRF テーブルを設定します。 <b>Note</b> 任意の VASI インターフェイスで VRF 転送を設定できます。両方の VASI インターフェイスで VRF インスタンスを設定する必要はありません。
ステップ 5	<b>ip address</b> { <i>ip-address mask [secondary]</i>   <b>pool</b> <i>pool-name</i> } <b>Example:</b>	インターフェイスのプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。

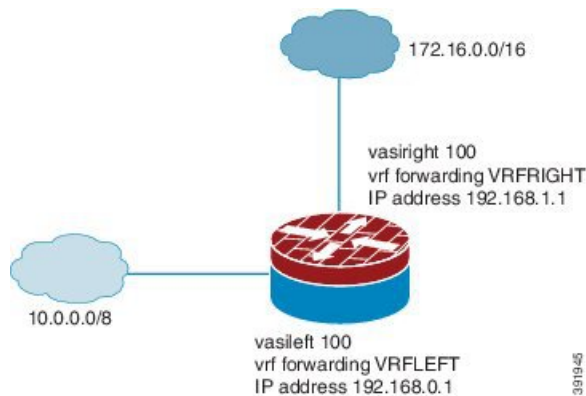
	Command or Action	Purpose
	Device(config-if)# ip address 192.168.0.1 255.255.255.0	
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 7	<b>ip route [vrf vrf-name] destination-prefix destination-prefix-mask interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip route vrf VRFLEFT 172.16.0.0 255.255.0.0 VASILEFT 100	VRF インスタンスおよび VASI インターフェイスのスタティック ルートを確立します。 <b>Note</b> VRF インスタンスの IP ルートを追加するには、 <b>vrf</b> キーワードを指定する必要があります。
ステップ 8	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface vasiright 100	VASI インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>この例では、<b>vasiright</b> インターフェイスが設定されます。</li></ul>
ステップ 9	<b>vrf forwarding table-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# vrf forwarding VRFRIGHT	VRF テーブルを設定します。
ステップ 10	<b>ip address {ip-address mask [secondary]   pool pool-name}</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 192.168.1.1 255.255.255.0	インターフェイスのプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 11	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 12	<b>ip route [vrf vrf-name] destination-prefix destination-prefix-mask interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip route vrf VRFRIGHT 10.0.0.0 255.0.0.0 VASIRIGHT 100	VRF インスタンスおよび VASI インターフェイスのスタティック ルートを確立します。 <b>Note</b> VRF インスタンスの IP ルートを追加するには、 <b>vrf</b> キーワードを指定する必要があります。
ステップ 13	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。



## VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定例

### 例：VASI インターフェイス ペアの設定

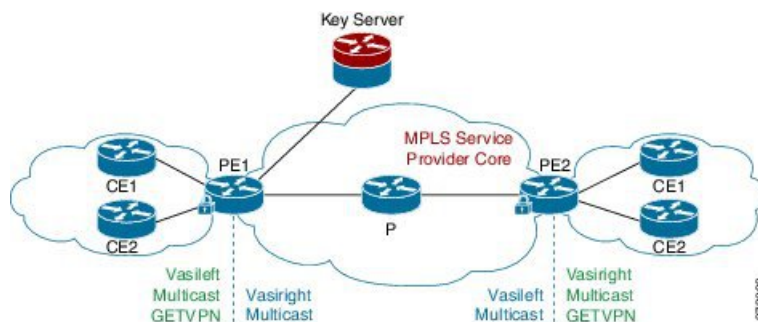
Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスは、VASI ペア (VASILEFT と VASIRIGHT) のインターフェイスごとに有効にする必要があります。次に、VASI インターフェイス ペアを設定する例を示します。



```
Device(config)# interface vasileft 100
Device(config-if)# vrf forwarding VRFLEFT
Device(config-if)# ip address 192.168.0.1 255.255.255.0
Device(config-if)# exit
Device(config)# ip route vrf VRFLEFT 172.16.0.0 255.255.0.0 vasileft 100
Device(config)# interface vasiright 100
Device(config-if)# vrf forwarding VRFRIGHT
Device(config-if)# ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
Device(config-if)# exit
Device(config)# ip route vrf VRFRIGHT 10.0.0.0 255.0.0.0 vasiright 100
Device(config)# end
```

### 例：VASI 上のマルチキャストと MVPN の設定

図 75: GRE ベースの MVPN と GETVPN の設定



次に、VASI インターフェイスペア上で Generic Routing Encapsulation (GRE) ベースのマルチキャスト VPN (MVPN) と GETVPN を設定する例を示します。ここでは、暗号マップが `vasileft` インターフェイスに適用されます。`vasileft` インターフェイスは、カスタマーエッジ (CE) デバイスとして機能し、暗号化を実行します。このインターフェイスは、`vrf-cust1` Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスの一部です。`vasiright` インターフェイスは、マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) コア上と適用先の暗号サービス宛てにトラフィックを通過させる `vrf-core1` VRF インスタンスの一部です。コアネットワークはマルチキャストをサポートし、VRF 内のマルチキャストはステートフルスイッチオーバー (SSO) モードになります。

```
! PE1 Configuration
Device(config)# vrf definition Mgmt-intf
Device(config-vrf)# address-family ipv4
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# exit
!
Device(config)# vrf definition vrf-core1
Device(config-vrf)# rd 2:1
Device(config-vrf)# address-family ipv4
Device(config-vrf-af)# mdt default 203.0.113.1 ! Enables GRE-based MVPN and mdt default
tree
Device(config-vrf-af)# mdt data 203.0.113.33 255.255.255.224 ! Enables the mdt data tree
Device(config-vrf-af)# route-target export 2:1
Device(config-vrf-af)# route-target import 2:1
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# mdt default 203.0.113.1
Device(config-vrf-af)# mdt data 203.0.113.33 255.255.255.224
Device(config-vrf-af)# route-target export 2:1
Device(config-vrf-af)# route-target import 2:1
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# exit
!
Device(config)# vrf definition vrf-cust1
Device(config-vrf)# rd 1:1
Device(config-vrf)# address-family ipv4
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# exit
!
Device(config)# logging buffered 10000000
Device(config)# no logging console
!
Device(config)# no aaa new-model
Device(config)# clock timezone CST 8 0
!
Device(config)# ip multicast-routing distributed
Device(config)# ip multicast-routing vrf vrf-core1 distributed
Device(config)# ip multicast-routing vrf vrf-cust1 distributed
!
Device(config)# ipv6 unicast-routing
Device(config)# ipv6 multicast-routing
Device(config)# ipv6 multicast-routing vrf vrf-core1
Device(config)# ipv6 multicast-routing vrf vrf-cust1
!
Device(config)# subscriber templating
```

```
Device(config)# mpls label protocol ldp
Device(config)# multilink bundle-name authenticated
Device(config)# spanning-tree extend system-id
!
Device(config)# cdp run
Device(config)# ip ftp source-interface GigabitEthernet 0
Device(config)# ip tftp source-interface GigabitEthernet 0
Device(config)# ip tftp blocksize 8192
!
Device(config)# class-map match-any maincampus-ratelimit
Device(config-cmap)# match access-group 101
Device(config-cmap)# exit
!
Device(config)# policy-map transit-limt
Device(config-pmap)# description 160mb transit rate limit
Device(config-pmap)# class maincampus-ratelimit
Device(config-pmap-c)# police 160000000 30000000 60000000 conform-action transmit
exceed-action drop
Device(config-pmap-c-police)# exit
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# exit
!
Device(config)# crypto keyring vrf-cust1 vrf vrf-cust1 ! enables GETVPN
Device(conf-keyring)# pre-shared-key address 0.0.0.0 0.0.0.0 key cisco
Device(conf-keyring)# exit
!
Device(config)# crypto isakmp policy 1
Device(config-isakmp)# encryption 3des
Device(config-isakmp)# authentication pre-share
Device(config-isakmp)# group 2
Device(config-isakmp)# exit
Device(config)# crypto isakmp key cisco address 10.0.3.2
!
Device(config)# crypto gdoi group secure-wan
Device(config-gkm-group)# identity number 12345
Device(config-gkm-group)# server address ipv4 10.0.3.4
Device(config-gkm-group)# exit
!
Device(config)# crypto gdoi group ipv6 ipv6-secure-wan
Device(config-gkm-group)# identity number 123456
Device(config-gkm-group)# server address ipv4 10.0.3.6
Device(config-gkm-group)# exit
!
Device(config)# crypto map getvpn 1 gdoi
Device(config-crypto-map)# set group secure-wan
Device(config-crypto-map)# exit
!
Device(config)# crypto map ipv6 getvpn-v6 1 gdoi
Device(config-crypto-map)# set group ipv6-secure-wan
Device(config-crypto-map)# exit
!
Device(config)# interface loopback 0
Device(config-if)# ip address 198.51.100.241 255.255.255.240
Device(config-if)# ip pim sparse-mode
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8::1/32
Device(config-if)# ipv6 enable
Device(config-if)# ospfv3 100 ipv6 area 0
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0
Device(config-if)# vrf forwarding vrf-cust1
Device(config-if)# ip address 192.0.2.1 255.255.255.240
```

## 例：VASI 上のマルチキャストと MVPN の設定

```

Device(config-if)# shutdown
Device(config-if)# negotiation auto
!
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/1
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/2/0
Device(config-if)# ip address 192.0.2.18 255.255.255.240
Device(config-if)# ip pim sparse-mode
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# mpls ip
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/2/1
Device(config-if)# vrf forwarding vrf-cust1
Device(config-if)# ip address 10.0.3.1 255.255.255.0
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/2/2
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/2/3
Device(config-if)# vrf forwarding vrf-cust1
Device(config-if)# ip address 192.0.2.34 255.255.255.240
Device(config-if)# ip pim sparse-mode
Device(config-if)# ip igmp version 3
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:0000:0000:0000:0000:0001/48
Device(config-if)# ospfv3 100 ipv6 area 0
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/2/4
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface GigabitEthernet 0
Device(config-if)# vrf forwarding Mgmt-intf
Device(config-if)# ip address 10.74.30.161 255.255.255.0
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface vasileft 1 ! On the vasileft interface, enable multicast and
GETVPN.
Device(config-if)# vrf forwarding vrf-cust1
Device(config-if)# ip address 209.165.202.129 255.255.255.0
Device(config-if)# ip pim sparse-mode
Device(config-if)# ipv6 address FE80::CEEF:48FF:FEEA:C501 link-local
Device(config-if)# ipv6 address 2001:B000::2/64
Device(config-if)# ipv6 crypto map getvpn-v6
Device(config-if)# ospfv3 100 ipv6 area 0
Device(config-if)# no keepalive
Device(config-if)# crypto map getvpn
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# interface vasiright 1 ! On the vasiright interface, only enable multicast.
Device(config-if)# vrf forwarding vrf-core1

```

```
Device(config-if)# ip address 209.165.202.130 255.255.255.0
Device(config-if)# ip pim sparse-mode
Device(config-if)# ipv6 address 2001:B000::1/64
Device(config-if)# ospfv3 100 ipv6 area 0
Device(config-if)# no keepalive
Device(config-if)# exit
!
Device(config)# router ospfv3 100
Device(config-router)# address-family ipv6 unicast
Device(config-router-af)# redistribute bgp 1
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config-router)# address-family ipv6 unicast vrf vrf-cust1
Device(config-router-af)# redistribute bgp 1
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config-router)# address-family ipv6 unicast vrf vrf-core1
Device(config-router-af)# redistribute bgp 1
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config)# router ospf 1
Device(config-router)# network 1.1.1.1 0.0.0.0 area 0
Device(config-router)# network 192.0.2.0 0.0.0.255 area 0
Device(config-router)# exit
!
Device(config)# router bgp 1 ! Use BGP routing protocol to broadcast vrf-cust1 routing
entry.
Device(config-router)# bgp log-neighbor-changes
Device(config-router)# neighbor 172.16.0.1 remote-as 1
Device(config-router)# neighbor 172.16.0.1 update-source Loopback0
!
Device(config-router)# address-family ipv4
Device(config-router-af)# neighbor 172.16.0.1 activate
Device(config-router-af)# neighbor 172.16.0.1 send-community both
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config-router)# address-family vpnv4
Device(config-router-af)# neighbor 172.16.0.1 activate
Device(config-router-af)# neighbor 172.16.0.1 send-community both
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config-router)# address-family ipv4 mdt ! For MVPN neighbor setup
Device(config-router-af)# neighbor 172.16.0.1 activate
Device(config-router-af)# neighbor 172.16.0.1 send-community both
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config-router)# address-family vpnv6
Device(config-router-af)# neighbor 192.168.0.1 activate
Device(config-router-af)# neighbor 192.168.0.1 send-community both
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config-router)# address-family ipv4 vrf vrf-core1
Device(config-router-af)# bgp router-id 209.165.202.130
Device(config-router-af)# redistribute connected
Device(config-router-af)# neighbor 209.165.202.129 remote-as 65002
Device(config-router-af)# neighbor 209.165.202.129 local-as 65001 no-prepend replace-as
Device(config-router-af)# neighbor 209.165.202.129 activate
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config-router)# address-family ipv6 vrf vrf-core1
Device(config-router-af)# redistribute connected
Device(config-router-af)# redistribute ospf 100 include-connected
```

## 例：VASI 上のマルチキャストと MVPN の設定

```

Device(config-router-af)# bgp router-id 209.165.202.130
Device(config-router-af)# neighbor 2001:B000::2 remote-as 10000
Device(config-router-af)# neighbor 2001:B000::2 local-as 65000 no-prepend replace-as
Device(config-router-af)# neighbor 2001:B000::2 activate
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config-router)# address-family ipv4 vrf vrf-cust1
Device(config-router-af)# bgp router-id 209.165.202.129
Device(config-router-af)# redistribute connected
Device(config-router-af)# neighbor 209.165.202.130 remote-as 65001
Device(config-router-af)# neighbor 209.165.202.130 local-as 65002 no-prepend replace-as
Device(config-router-af)# neighbor 209.165.202.130 activate
Device(config-router-af)# exit-address-family
Device(config-router)# exit
!
Device(config-router)# address-family ipv6 vrf vrf-cust1
Device(config-router-af)# redistribute connected
Device(config-router-af)# redistribute ospf 100 include-connected
Device(config-router-af)# bgp router-id 209.165.202.129
Device(config-router-af)# neighbor 2001:B000::1 remote-as 65000
Device(config-router-af)# neighbor 2001:B000::1 local-as 10000 no-prepend replace-as
Device(config-router-af)# neighbor 2001:B000::1 activate
Device(config-router-af)# exit-address-family
!
Device(config)# ip forward-protocol nd
!
Device(config)# no ip http server
Device(config)# no ip http secure-server
Device(config)# ip pim rp-address 1.1.1.1
Device(config)# ip pim vrf vrf-core1 ssm default
Device(config)# ip pim vrf vrf-cust1 ssm default
Device(config)# ip route 192.0.2.0 255.255.255.240 10.11.12.10
Device(config)# ip route vrf Mgmt-intf 0.0.0.0 0.0.0.0 10.74.9.1
!
Device(config)# ip access-list standard bidir
Device(config-std-nacl)# exit
!
Device(config)# access-list 101 deny ip 198.51.100.1 255.255.255.240 198.51.100.177
255.255.255.240
Device(config)# ipv6 router eigrp 300
Device(config-rtr)# passive-interface Loopback 0
Device(config-rtr)# redistribute connected
Device(config-rtr)# exit
!
Device(config)# mpls ldp router-id Loopback 0
Device(config)# control-plane
Device(config-cp)# exit
!
Device(config)# line con 0
Device(config-line)# exec-timeout 0 0
Device(config-line)# privilege level 15
Device(config-line)# logging synchronous
Device(config-line)# stopbits 1
Device(config-line)# exit
Device(config)# line vty 0 4
Device(config-line)# exec-timeout 0 0
Device(config-line)# privilege level 15
Device(config-line)# logging synchronous
Device(config-line)# no login
Device(config-line)# end

```

## マルチキャスト VASI 設定の確認

マルチキャスト VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) 設定を確認するには、次のコマンドを使用します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show ip mroute**
3. **show ip mroute vrf**

### 手順の詳細

#### 手順

##### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

例:

```
Device> enable
```

##### ステップ 2 show ip mroute

マルチキャストルーティング (mroute) テーブルの内容を表示します。

例:

```
Device# show ip mroute
```

```
IP Multicast Routing Table
Flags: D - Dense, S - Sparse, B - Bidir Group, s - SSM Group, C - Connected,
L - Local, P - Pruned, R - RP-bit set, F - Register flag,
T - SPT-bit set, J - Join SPT, M - MSDP created entry, E - Extranet,
X - Proxy Join Timer Running, A - Candidate for MSDP Advertisement,
U - URD, I - Received Source Specific Host Report,
Z - Multicast Tunnel, z - MDT-data group sender,
Y - Joined MDT-data group, y - Sending to MDT-data group,
G - Received BGP C-Mroute, g - Sent BGP C-Mroute,
N - Received BGP Shared-Tree Prune, n - BGP C-Mroute suppressed,
Q - Received BGP S-A Route, q - Sent BGP S-A Route,
V - RD & Vector, v - Vector, p - PIM Joins on route,
x - VxLAN group
Outgoing interface flags: H - Hardware switched, A - Assert winner, p - PIM Join
Timers: Uptime/Expires
Interface state: Interface, Next-Hop or VCD, State/Mode
(*, 203.0.113.1), 04:33:39/stopped, RP 0.0.0.0, flags: D
Incoming interface: Null, RPF nbr 0.0.0.0
Outgoing interface list:
GigabitEthernet0/0/2, Forward/Sparse-Dense, 04:33:39/stopped
GigabitEthernet0/0/0, Forward/Sparse-Dense, 04:33:39/stopped
(10.0.0.3, 203.0.113.1), 04:33:36/00:00:36, flags: T
Incoming interface: GigabitEthernet0/0/2, RPF nbr 10.1.1.3
Outgoing interface list:
```

```
GigabitEthernet0/0/0, Forward/Sparse-Dense, 04:33:36/stopped
(10.0.0.1, 203.0.113.1), 04:33:39/00:02:44, flags: T
Incoming interface: GigabitEthernet0/0/0, RPF nbr 10.1.1.0
Outgoing interface list:
GigabitEthernet0/0/2, Forward/Sparse-Dense, 04:33:39/stopped
```

### ステップ3 show ip mroute vrf

出力をフィルタして、*vrf-name* 引数で指定された、マルチキャスト VPN (MVPN) ルーティングおよび転送 (MVRF) インスタンスに関する、マルチキャストルーティングテーブルの内容だけを表示します。

例：

```
Device# show ip mroute vrf cust1

(10.2.1.1, 203.1.113.4), 00:40:09/00:02:44, flags: sTI
Incoming interface: vasileft1, RPF nbr 36.1.1.2
Outgoing interface list:
GigabitEthernet0/0/1.1, Forward/Sparse-Dense, 00:40:09/00:02:44
PE1#sh ip mroute vrf cust1-core
(10.2.1.1, 203.1.113.4), 04:22:09/00:02:50, flags: sT
Incoming interface: Tunnel0, RPF nbr 10.0.0.3
Outgoing interface list:
vasiright1, Forward/Sparse-Dense, 04:22:09/00:02:50
PE1#sh ip mroute
(*, 203.1.113.4), 21:08:36/stopped, RP 0.0.0.0, flags: DCZ
Incoming interface: Null, RPF nbr 0.0.0.0
Outgoing interface list:
GigabitEthernet0/0/0, Forward/Sparse-Dense, 04:27:50/stopped
MVRF cust1-core, Forward/Sparse-Dense, 21:06:53/stopped
(10.0.0.3, 203.1.113.4), 04:26:53/00:01:22, flags: TZ
Incoming interface: GigabitEthernet0/0/0, RPF nbr 10.1.1.1
Outgoing interface list:
MVRF cust1-core, Forward/Sparse-Dense, 04:26:53/stopped
```

## VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>



関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 182: VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャの設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
VASIでのマルチキャストおよびマルチキャスト VPN	Cisco IOS XE リリース 3.14S	VASI 上のマルチキャストと MVPN 機能は、VASI インターフェイスで IPv4 と IPv6 のマルチキャストとマルチキャスト VPN (MVPN) をサポートします。この機能は、顧客サイトで設定されたマルチキャストモード (Sparse や Source-Specific Multicast (SSM) など) や、コア ネットワーク内の MVPN モード (Generic Routing Encapsulation (GRE) ベースまたは Multicast Label Distribution Protocol (MLDP) ベース) に影響されません。  この機能のために導入または変更された新しいコマンドはありません。
VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ	Cisco IOS XE リリース 2.6	VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ機能を使用すれば、2つの異なる VRF インスタンスを経由するトラフィックに ACL、NAT、ポリシング、ゾーンベースファイアウォールなどのサービスを適用することができます。VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ (VASI) インターフェイスは、RP と FP の冗長性をサポートします。この機能は、VASI インターフェイス上で IPv4 と IPv6 のユニキャストトラフィックとマルチキャストトラフィックをサポートします。
VASI (VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ) 拡張機能フェーズ I	Cisco IOS XE リリース 3.1S	VASI 強化フェーズ I 機能は、以下の強化を VASI に提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 500 VASI インターフェイスのサポート。</li> <li>• VASI インターフェイス間の IBGP ダイナミックルーティングのサポート。</li> </ul>

機能名	リリース	機能情報
VASI (VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ) 強化 フェーズ II	Cisco IOS XE リリース 3.2S	VASI 強化フェーズ II 機能は、以下の強化を VASI に提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• VASI インターフェイス上の IPv6 ユニキャスト トラフィックのサポート。</li> <li>• VASI インターフェイス間の OSPF および EIGRP ダイナミック ルーティングのサポート。</li> </ul>
VASI (VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ) スケール	Cisco IOS XE リリース 3.3S	VASI スケール機能は、1000 VASI インターフェイスをサポートします。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>interface (VASI)</b> 。
VASI (VRF 対応ソフトウェア インフラストラクチャ) スケール	Cisco IOS XE リリース 3.7.2S	VASI スケール機能は、VASI インターフェイス間の eBGP ダイナミックルーティングをサポートします。
VASI 2000 ペア スケール	Cisco IOS XE リリース 3.10S	VASI 2000 ペア スケール機能は、2000 VASI インターフェイスをサポートします。2000 VASI インターフェイスは、Border Gateway Protocol (BGP) でサポートされます。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>interface (VASI)</b> 。





## CHAPTER 138

# IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポート

IPv6 ファイアウォールの FTP66 ALG サポート機能により、FTP を IPv6 ファイアウォールと連動させることができます。このモジュールでは、FTP66 アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) と連動するようにファイアウォール、ネットワーク アドレス変換 (NAT)、およびステートフル NAT64 を設定する方法を説明します。

- [IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する制約事項, on page 1885](#)
- [IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する情報, on page 1886](#)
- [IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートの設定方法, on page 1889](#)
- [IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートの設定例, on page 1899](#)
- [IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する追加情報, on page 1901](#)
- [IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する機能情報, on page 1902](#)

## IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する制約事項

FTP66 ALG は以下をサポートしません。

- ボックスツーボックス ハイアベイラビリティ。
- サブスクリバ単位のファイアウォール。
- ステートレス ネットワーク アドレス変換 64 (NAT64)。
- ステートフル NAT64 が設定されている場合の Virtual Routing and Forwarding (VRF)。
- 仮想 TCP (vTCP) または変換後の小パケットへのパケット分割。

# IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する情報

## アプリケーション レベル ゲートウェイ

アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、アプリケーション レイヤ ゲートウェイとも呼ばれ、アプリケーション パケットのペイロード内の IP アドレス情報を変換するアプリケーションです。ALG は、アプリケーション レイヤ プロトコルを解釈し、ファイアウォールおよびネットワーク アドレス変換 (NAT) アクションを実行するために使用されます。これらのアクションは、ファイアウォールおよび NAT の設定に応じて次の 1 つまたは複数のアクションになります。

- クライアントアプリケーションが、ダイナミック TCP または UDP ポートを使用してサーバアプリケーションと通信できるようにします。
- アプリケーション固有のコマンドを認識し、これらのコマンドに対するきめ細かいセキュリティ制御を提供します。
- データ交換を行う 2 つのホスト間の複数のデータ ストリームまたはデータ セッションを同期します。
- アプリケーション ペイロードで使用できるネットワーク層アドレス情報を変換します。

ファイアウォールがピンホールを開き、アプリケーション レイヤ データストリームの送信元 IP アドレスおよび宛先 IP アドレスを伝送しない TCP または UDP トラフィックに対する変換サービスを NAT が実行します。IP アドレス情報を埋め込む特定のプロトコルまたはアプリケーションには ALG のサポートが必要です。

## FTP66 ALG サポートの概要

ファイアウォールでは、IPv6 パケットとステートフルネットワークアドレス変換 64 (NAT64) のインスペクションをサポートしています。FTP を IPv6 パケット インスペクションに基づいて機能させるには、アプリケーション層ゲートウェイ (ALG) (別名アプリケーション レベルゲートウェイ (ALG)) FTP66 が必要です。FTP66 ALG は、オールインワン FTP ALG およびワン FTP ALG とも呼ばれています。

FTP66 ALG では、次の機能をサポートしています。

- ファイアウォール IPv4 パケット インスペクション
- ファイアウォール IPv6 パケット インスペクション
- NAT の設定
- NAT64 の設定 (FTP64 サポートを使用)

- NAT とファイアウォールの設定
- NAT64 とファイアウォールの設定

FTP66 ALG には、次のセキュリティ上の脆弱性があります。

- パケット セグメンテーション攻撃 : FTP ALG ステート マシンではセグメント化されたパケットを検出できません。完全なパケットを受信するまで、ステートマシンの処理は停止します。
- バウンス攻撃 : FTP ALG は、番号が 1024 未満のデータ ポートでドア (NAT の場合) やピンホール (ファイアウォールの場合) を作成しません。バウンス攻撃の防止がアクティブになるのは、ファイアウォールが有効にされている場合のみです。

## FTP66 ALG でサポートされる FTP コマンド

FTP66 アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、RFC 959 に基づいています。この項では、FTP66 ALG が処理する、RFC 959 および RFC 2428 の主要な FTP コマンドと応答について説明します。

### PORT コマンド

PORT コマンドは、アクティブ FTP モードで使用されます。PORT コマンドでは、サーバの接続先とするアドレスとポート番号を指定します。このコマンドを使用する際の引数は、32 ビットのインターネットホストアドレスと 16 ビットの TCP ポートアドレスを連結したものです。このアドレス情報は 8 ビットのフィールドに分割されて、各フィールドの値が 10 進数 (文字列表現) として送信されます。フィールドはカンマで区切ります。

次に示す PORT コマンドの例では、*h1* がインターネット ホスト アドレスの最上位 8 ビットです。

```
PORT h1,h2,h3,h4,p1,p2
```

### PASV コマンド

PASV コマンドは、サーバに対し、TRANSFER コマンドの受信時に別の接続を開始するのではなく、サーバのデフォルト以外のデータ ポートでリッスンして接続を待機するよう要求します。PASV コマンドへの応答には、サーバがリッスンしているホストおよびポートアドレスが組み込まれます。

### 拡張 FTP コマンド

拡張 FTP コマンドは、FTP で IPv4 以外のネットワーク プロトコルのデータ接続エンドポイント情報を伝える手段になります。拡張 FTP コマンドは、RFC 2428 で規定されています。RFC 2428 では、拡張 FTP コマンドの EPRT と EPSV が FTP コマンドの PORT と PASV にそれぞれ置き換わっています。

## EPRT コマンド

EPRT コマンドでは、データ接続の拡張アドレスを指定できます。拡張アドレスは、ネットワークプロトコル、ネットワークアドレス、トランスポートアドレスで構成する必要があります。EPRT コマンドの形式は次のとおりです。

```
EPRT<space><d><net-prt><d><net-addr><d><tcp-port><d>
```

- <net-prt> 引数はアドレス ファミリ番号であり、次の表に示すように定義する必要があります。

Table 183: <net-prt> 引数の定義

アドレス ファミリ番号	プロトコル
1	IPv4 (Pos81a)
2	IPv6 (DH96)

- <net-addr> 引数は、プロトコル固有のネットワークアドレスの文字列表現です。上記の表で指定されているアドレスファミリ番号（アドレスファミリ番号1と2）は、次の表に記載するアドレス形式にする必要があります。

アドレス ファミリ番号	アドレス形式	例
1	ドット付き 10 進法	10.135.1.2
2	DH96 で定義されている IPv6 文字列形式	2001:DB8:1::1

- <tcp-port> 引数は、ホストがデータ接続をリッスンしている TCP ポート番号の文字列形式にする必要があります。
- 次のコマンドは、サーバに対し、IPv4 アドレスを使用してホスト 10.235.1.2 へのデータ接続を TCP ポート 6275 で開くように指示する方法を示しています。  

```
EPRT |1|10.235.1.2|6275|
```
- 次のコマンドは、サーバに対し、IPv6 ネットワーク プロトコルとネットワーク アドレスを使用して TCP データ接続をポート 5282 で開くように指示する方法を示しています。  

```
EPRT |2|2001:DB8:2::2:417A|5282|
```
- <d> 引数は区切り文字です。この引数は、ASCII 形式の 33 から 126 までの範囲の値にする必要があります。

## EPSV コマンド

EPSV コマンドでは、サーバに対し、データポートでリッスンして接続を待機するよう要求します。このコマンドの応答には、リッスンする接続の TCP ポート番号だけが組み込まれます。拡張アドレスを使用してパッシブ モードを開始するための応答コードは 229 です。

EPSV コマンドに対して返されるテキストは、次の形式になります。



```
(<d><d><d><tcp-port><d>)
```

- カッコで囲まれた文字列の部分は、EPRT コマンドでデータ接続を開くために必要な文字列と正確に一致する必要があります。

カッコ内の最初の2つのフィールドは空白でなければなりません。3番目のフィールドは、サーバがデータ接続をリッスンしている TCP ポート番号の文字列表現でなければなりません。データ接続で使用されるネットワークプロトコルは、制御接続で使用されるネットワークプロトコルと同じです。データ接続を確立するために使用されるネットワークアドレスは、制御接続に使用されるネットワークアドレスと同じです。

- 次に、応答文字列の例を示します。

```
Entering Extended Passive Mode (|||6446|)
```

次の FTP 応答およびコマンドも、FTP66 ALG によって処理されます。これらのコマンドの実行結果は、ステート マシンの遷移を操作するために使用されます。

- 230 応答メッセージ
- AUTH
- USER
- PASS

## IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートの設定方法

### FTP66 ALG サポート用のファイアウォールの設定

`match protocol ftp` コマンドを使用して FTP66 ALG を明示的にイネーブルにする必要があります。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `class-map type inspect match-any class-map-name`
4. `match protocol protocol-name`
5. `exit`
6. `policy-map type inspect policy-map-name`
7. `class type inspect class-map-name`
8. `inspect`
9. `exit`
10. `class class-default`
11. `exit`

12. **exit**
13. **zone security** *zone-name*
14. **exit**
15. **zone-pair security** *zone-pair* **source** *source-zone* **destination** *destination-zone*
16. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
17. **exit**
18. **interface** *type number*
19. **no ip address**
20. **ip virtual-reassembly**
21. **zone-member security** *zone-name*
22. **negotiation auto**
23. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix-length*
24. **cdp enable**
25. **exit**
26. **ipv6 route** *ipv6-prefix/prefix-length interface-type interface-number*
27. **ipv6 neighbor** *ipv6-address interface-type interface-number hardware-address*
28. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect match-any</b> <i>class-map-name</i>  <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-any in2out-class	検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i>  <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol ftp	指定されたプロトコルに基づいて、クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 5	<b>exit</b>  <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect in-to-out	検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect in2out-class	アクションを実行する対象のクラスを指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class class-default	定義済みのデフォルト クラスにポリシー マップ設定を適用して、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>設定済みクラス マップのどの一致基準ともトラフィックが一致しない場合、事前に定義されたデフォルト クラスに誘導されます。</li> </ul>
ステップ 11	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# exit	QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>zone security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security inside	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>ゾーンペアを作成するには2つのセキュリティゾーン（送信元ゾーンと宛先ゾーン）が設定に含まれる必要があります。</li> <li>ゾーンペアでは、送信元ゾーンまたは宛先ゾーンとしてデフォルトゾーンを使用できます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 15	<b>zone-pair security zone-pair source source-zone destination destination-zone</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security in2out source inside destination outside	セキュリティ ゾーンのペアを作成して、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>ポリシーを適用するには、ゾーン ペアを設定する必要があります。</li></ul>
ステップ 16	<b>service-policy type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect in-to-out	ファイアウォール ポリシー マップを宛先ゾーン ペアに付加します。 <ul style="list-style-type: none"><li>ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。</li></ul>
ステップ 17	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 18	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 19	<b>no ip address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# no ip address	IP アドレスを削除するか、IP 処理をディセーブルにします。
ステップ 20	<b>ip virtual-reassembly</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip virtual-reassembly	インターフェイスでの仮想フラグメンテーション再構成 (VFR) をイネーブルにします。
ステップ 21	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security inside	インターフェイスを指定したセキュリティ ゾーンに割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"><li>インターフェイスをセキュリティ ゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます (ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除く)。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシー</li></ul>

	Command or Action	Purpose
		がトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 22	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。
ステップ 23	<b>ipv6 address ipv6-address/prefix-length</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:1::1/96	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 24	<b>cdp enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# cdp enable	インターフェイスで Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
ステップ 25	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 26	<b>ipv6 route ipv6-prefix/prefix-length interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 route 2001::/96 gigabitethernet 0/0/1	スタティック IPv6 ルートを確立します。
ステップ 27	<b>ipv6 neighbor ipv6-address interface-type interface-number hardware-address</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 neighbor 2001:DB8:1::1 gigabitethernet 0/0/1 0000.29f1.4841	IPv6 ネイバー探索キャッシュのスタティックエントリを設定します。
ステップ 28	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## FTP66 ALG サポート用の NAT の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface type number**
4. **ip address ip-address mask**

5. **ip nat inside**
6. **zone-member security zone-name**
7. **exit**
8. **interface type number**
9. **ip address ip-address mask**
10. **ip nat outside**
11. **zone-member security zone-name**
12. **exit**
13. **ip nat inside source static local-ip global-ip**
14. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/2	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip address ip-address mask</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 5	<b>ip nat inside</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nat inside	インターフェイスが内部ネットワーク (NAT 変換の対象となるネットワーク) に接続されていることを示します。
ステップ 6	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security inside	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。  • インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます (ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除く)。トラフィックがインターフェイス通

	Command or Action	Purpose
		過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 8	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>ip address ip-address mask</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 10.2.1.1 255.255.255.0	インターフェイスが内部ネットワーク (NAT 変換の対象となるネットワーク) に接続されていることを示します。
ステップ 10	<b>ip nat outside</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nat outside	インターフェイスが外部ネットワークに接続されていることを示します。
ステップ 11	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security outside	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます (ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除く)。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。</li></ul>
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 13	<b>ip nat inside source static local-ip global-ip</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip nat inside source static 10.1.1.10 10.1.1.80	内部送信元アドレスの NAT をイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 14	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## FTP66 ALG サポート用 NAT64 の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 unicast-routing**
4. **interface** *type number*
5. **no ip address**
6. **ipv6 virtual-reassembly**
7. **zone-member security** *zone-name*
8. **negotiation auto**
9. **ipv6 address** *ipv6-address*
10. **ipv6 enable**
11. **nat64 enable**
12. **cdp enable**
13. **exit**
14. **interface** *type number*
15. **ip address** *type number*
16. **ip virtual-reassembly**
17. **zone member security** *zone-name*
18. **negotiation auto**
19. **nat64 enable**
20. **exit**
21. **ipv6 route** *ipv6-address interface-type interface-number*
22. **ipv6 neighbor** *ipv6-address interface-type interface-number hardware-address*
23. **nat64 v6v4 static** *ipv6-address ipv4-address*
24. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト データグラムの転送を有効にします。
ステップ 4	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>no ip address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# no ip address	IP アドレスを削除するか、IP 処理をディセーブルにします。
ステップ 6	<b>ipv6 virtual-reassembly</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 virtual-reassembly	インターフェイスでの仮想フラグメンテーション再構成 (VFR) をイネーブルにします。
ステップ 7	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security inside	<p>インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます (ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除く)。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。</li> </ul>
ステップ 8	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。
ステップ 9	<b>ipv6 address ipv6-address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:1::2/96	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 10	<b>ipv6 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 enable	明示的な IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 11	<b>nat64 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# nat64 enable	インターフェイスで NAT64 をイネーブルにします。
ステップ 12	<b>cdp enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# cdp enable	インターフェイスで Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
ステップ 13	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 14	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 15	<b>ip address type number</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 209.165.201.25 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 16	<b>ip virtual-reassembly</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip virtual-reassembly	インターフェイスで VFR をイネーブルにします。
ステップ 17	<b>zone member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone member security outside	<p>インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、方向に関係なくインターフェイスを通過するすべてのトラフィック（ルータ宛のトラフィックまたはルータ発信のトラフィックを除く）は、デフォルトでドロップされます。トラフィックがインターフェイスを通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 18	<b>negotiation auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。
ステップ 19	<b>nat64 enable</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# nat64 enable	インターフェイスで NAT64 をイネーブルにします。
ステップ 20	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 21	<b>ipv6 route ipv6-address interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 route 2001:DB8:1::2/96 gigabitethernet 0/0/0	スタティック IPv6 ルートを確立し、指定したネットワークへの到達に使用できるネクストホップの IPv6 アドレスを指定します。
ステップ 22	<b>ipv6 neighbor ipv6-address interface-type interface-number hardware-address</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 neighbor 2001:DB8:1::103 gigabitethernet 0/0/0 0000.29f1.4841	IPv6 ネイバー探索キャッシュのスタティックエントリを設定します。
ステップ 23	<b>nat64 v6v4 static ipv6-address ipv4-address</b> <b>Example:</b> Device(config)# nat64 v6v4 static 2001:DB8:1::103 209.165.201.32	NAT64 の IPv6 送信元アドレスを IPv4 送信元アドレスに、および IPv4 宛先アドレスを IPv6 宛先アドレスに変換します。
ステップ 24	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートの設定例

### 例：FTP66 ALG サポート用の IPv6 ファイアウォールの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# class-map type inspect match-any in2out-class
Device(config-cmap)# match protocol ftp
Device(config-cmap)# exit
```

## 例：FTP66 ALG サポート用の NAT の設定

```

Device(config)# policy-map type inspect in-to-out
Device(config-pmap)# class type inspect in2out-class
Device(config-pmap-c)# inspect
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# exit
Device(config)# zone security inside
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security outside
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security in2out source inside destination outside
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect in-to-out
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/1
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# ip virtual-reassembly
Device(config-if)# zone-member security inside
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:1::1/96
Device(config-if)# cdp enable
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# ip virtual-reassembly
Device(config-if)# zone-member security outside
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:2::2/96
Device(config-if)# exit
Device(config)# ipv6 route 2001::/96 gigabitethernet 0/0/1
Device(config)# ipv6 route 2001::/96 gigabitethernet 0/1/1
Device(config)# ipv6 neighbor 2001:DB8:1::1 gigabitethernet 0/0/1 0000.29f1.4841
Device(config)# ipv6 neighbor 2001:DB8:2::2 gigabitethernet 0/1/1 0000.29f1.4842
Device(config)# end

```

## 例：FTP66 ALG サポート用の NAT の設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/2
Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
Device(config-if)# ip nat inside
Device(config-if)# zone-member security inside
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1
Device(config-if)# ip address 10.2.1.1 255.255.255.0
Device(config-if)# ip nat outside
Device(config-if)# zone-member security outside
Device(config-if)# exit
Device(config-if)# ip nat inside source static 10.1.1.10 10.1.1.80

```

## 例：FTP66 ALG サポート用の NAT64 の設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 unicast-routing
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0

```

```

Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# ipv6 virtual-reassembly
Device(config-if)# zone-member security inside
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:1::2/96
Device(config-if)# ipv6 enable
Device(config-if)# nat64 enable
Device(config-if)# cdp enable
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1
Device(config-if)# ip address 209.165.201.25 255.255.255.0
Device(config-if)# ip virtual-reassembly
Device(config-if)# zone member security outside
Device(config-if)# negotiation auto
Device(config-if)# nat64 enable
Device(config-if)# exit
Device(config)# ipv6 route 2001:DB8:1::2/96 gigabitethernet 0/0/0
Device(config)# 2001:DB8:1::103 gigabitethernet 0/0/0 0000.29f1.4841
Device(config)# nat64 v6v4 static 2001:DB8:1::103 209.165.201.32

```

## IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>
NAT コマンド	『 <a href="#">IP Addressing Command Reference</a> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 959	『 <a href="#">File Transfer Protocol</a> 』

標準/RFC	タイトル
RFC 2428	『FTP Extensions for IPv6 and NATs』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 184: IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 ファイアウォールに対する FTP66 ALG サポート	Cisco IOS XE リリース 3.7S	IPv6 ファイアウォールの FTP66 ALG サポート機能により、FTP を IPv6 ファイアウォールと連動させることができます。このモジュールでは、FTP66 アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) と連動するように、ファイアウォール、ネットワーク アドレス変換 (NAT)、および NAT64 を設定する方法について説明します。



## CHAPTER 139

# 分散型サービス妨害攻撃に対する保護

分散型サービス妨害攻撃の防止機能は、グローバルレベル（すべてのファイアウォールセッション）およびVPNルーティングおよび転送（VRF）レベルでのサービス妨害（DoS）攻撃からの保護を提供します。Cisco IOS XE リリース 3.4S 以降のリリースでは、分散型 DoS 攻撃を防ぐために、ファイアウォールセッションのアグレッシブエージング、ファイアウォールセッションのイベントレートモニタリング、ハーフオープン接続制限、およびグローバル TCP SYN Cookie 保護を設定できます。

- [分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する情報, on page 1903](#)
- [分散型サービス妨害攻撃に対する防御の設定方法, on page 1907](#)
- [分散型サービス妨害攻撃に対する保護の設定例, on page 1931](#)
- [分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する追加情報, on page 1934](#)
- [分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する機能情報, on page 1935](#)

## 分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する情報

### ファイアウォールセッションのアグレッシブエージング

アグレッシブエージング機能により、ファイアウォールは、セッションを積極的にエージングアウトし、新しいセッションのためのスペースを確保することで、ファイアウォールセッションデータベースがいっぱいになるのを防ぐことができます。ファイアウォールはそのリソースを保護するため、アイドルセッションを削除します。アグレッシブエージング機能により、ファイアウォールセッションが存在できる時間は、タイマーで定義されている時間（エージングアウト時間）よりも短くなります。

アグレッシブエージング機能には、アグレッシブエージング期間の開始と終了を定義するしきい値（高位水準点と低位水準点）があります。アグレッシブエージング期間は、セッションテーブルが高位水準点を超えると開始され、低位水準点を下回ると終了します。アグレッシブエージングの期間中、セッションの存続期間は、エージングアウト時間を使用して設定した期間よりも短くなります。ファイアウォールがセッションを終了する時間よりも短い時間で攻撃者がセッションを開始する場合、セッションを作成するために割り当てられているすべてのリソースが使用され、新しいすべての接続が拒否されます。このような攻撃を防ぐには、セッ

セッションを積極的にエイジングアウトするようにアグレッシブエイジング機能を設定できます。この機能はデフォルトで無効に設定されています。

ボックス レベル（ボックスはファイアウォールセッション テーブル全体を示します）および Virtual Routing and Forwarding (VRF) レベルで、ハーフオープンセッションおよび総セッションにアグレッシブエイジングを設定できます。この機能を総セッションに対して設定している場合、ファイアウォールセッションリソースを使用するすべてのセッションが考慮されます。総セッションは、確立されたセッション、ハーフオープンセッション、および不明確セッション データベース内のセッションで構成されます。（確立状態に達していない TCP セッションはハーフオープンセッションと呼ばれます）。

ファイアウォールには2つのセッション データベースがあります。1つはセッション データベースで、もう1つは不正確なセッション データベースです。セッション データベースには、5 タプル（送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、送信元ポート、宛先ポート、およびプロトコル）が設定されているセッションが含まれます。タプルは、要素の番号付きリストです。不正確なセッション データベースには、5 つ未満のタプル（欠落した IP アドレス、ポート番号など）のセッションが含まれます。ハーフオープンセッションのアグレッシブエイジングでは、ハーフオープンセッションだけが考慮されます。

Internet Control Message Protocol (ICMP)、TCP、およびUDP ファイアウォールセッションにはアグレッシブエイジングアウト時間を設定できます。エイジングアウト時間は、デフォルトではアイドル時間に設定されます。

## イベント レート モニタリング機能

イベント レート モニタリング機能は、ゾーンの事前定義イベントのレートをモニタします。イベント レート モニタリング機能には基本脅威検出機能が含まれています。これはセキュリティ デバイスの機能であり、ファイアウォールの内側にあるリソースで発生する可能性のある脅威、異常、および攻撃を検出し、それらに対するアクションを実行します。イベントの基本脅威検出レートを設定できます。特定タイプのイベントの着信レートが、設定されている脅威検出レートを超えると、イベント レート モニタリング機能はこのイベントを脅威と見なし、脅威を阻止するためのアクションを実行します。脅威検出機能は、入力ゾーンでのみイベントを検査します（イベント レート モニタリング機能が入力ゾーンで有効な場合）。

ネットワーク管理者に対し、発生する可能性のある脅威に関する情報がアラートメッセージ（syslog または高速ロガー（HSL））で通知されます。ネットワーク管理者は攻撃ベクトルの検出、攻撃元ゾーンの検出、または特定の動作やトラフィックをブロックするようにネットワーク上のデバイスを設定するなどのアクションを実行できます。

イベント レート モニタリング機能は、次のタイプのイベントをモニタします。

- 基本ファイアウォールチェックが失敗したためにファイアウォールがドロップする：これには、ゾーンまたはゾーンペアのチェック失敗、ドロップアクションを使用して設定されたファイアウォールポリシーなどがあります。
- レイヤ4インスペクションの失敗が原因でファイアウォールがドロップする：これには、1 番目の TCP パケットが同期（SYN）パケットではないために失敗した TCP インスペクションが含まれることがあります。



- TCP SYN Cookie 攻撃：これには、ドロップされた SYN パケットの数と、スプーフィング攻撃として送信された SYN Cookie の数の集計が含まれることがあります。

イベントレート モニタリング機能は、さまざまなイベントの平均レートとバーストレートをモニタします。各イベントタイプにはレートオブジェクトがあります。レートオブジェクトは、設定可能なパラメータ（平均しきい値、バーストしきい値、期間）が含まれる関連レートにより制御されます。期間はタイムスロットに分割されます。各タイムスロットは期間の1/30です。

平均レートは、イベントタイプごとに計算されます。各レートオブジェクトは、30個の完了済みサンプリング値と、現在進行中のサンプリング期間を保持するための1つの値を保持します。計算済みの最も古い値が現在のサンプリング値で置き換えられ、平均が再計算されます。平均レートは各期間で計算されます。平均レートが平均しきい値を超えると、イベントレートモニタリング機能はこれを潜在的な脅威と解釈し、統計情報を更新し、ネットワーク管理者に通知します。

バーストレートは、トークンバケットアルゴリズムを使用して実装されます。各タイムスロットで、トークンバケットがトークンで埋められます。発生する（特定のイベントタイプの）イベントごとに、バケットからトークンが削除されます。空のバケットは、バーストしきい値に到達したことを意味し、管理者が `syslog` または HSL からアラームを受信します。 `show policy-firewall stats zone` コマンドの出力から、脅威検出統計情報を確認し、ゾーン内でさまざまなイベントに対する潜在的な脅威を理解することができます。

最初に `threat-detection basic-threat` コマンドを使用して、基本脅威検出機能を有効にする必要があります。基本脅威検出機能を設定したら、脅威検出レートを設定できます。脅威検出レートを設定するには、`threat-detection rate` コマンドを使用します。

次の表では、イベントレートモニタリング機能が有効な場合に適用可能な基本脅威検出のデフォルト設定について説明します。

**Table 185:** 基本的な脅威の検出のデフォルト設定

パケットドロップの理由	脅威検出の設定
基本的なファイアウォールドロップ	平均レート 400 パケット/秒 (pps) バーストレート 1600 pps レート間隔 600 秒
インスペクションベースのファイアウォールドロップ	平均レート 400 pps バーストレート 1600 pps レート間隔 600 秒
SYN 攻撃ファイアウォールドロップ	平均レート 100 pps バーストレート 200 pps レート間隔 600 秒

## ハーフオープン接続の制限

ファイアウォールセッションテーブルでは、ファイアウォールのハーフオープン接続数を制限できるようになっています。ハーフオープンセッション数を制限することで、ハーフオープンセッションでボックスごとのレベルや Virtual Routing and Forwarding (VRF) レベルでファイアウォールセッションテーブルをいっぱいにしてセッションを確立できないようにする攻撃に対し、ファイアウォールを防御できます。ハーフオープン接続の制限は、レイヤ4プロトコル、Internet Control Message Protocol (ICMP)、TCP、UDP に対して設定できます。UDP ハーフオープンセッション数に対して設定された制限は、TCP や ICMP のハーフオープンセッションには影響しません。設定されたハーフオープンセッションの制限を超えると、すべての新規セッションが拒否され、ログメッセージが Syslog または高速ログ (HSL) に生成されます。

次のセッションはハーフオープンセッションと見なされます。

- 3 ウェイ ハンドシェイクを完了していない TCP セッション。
- UDP フローで 1 つのパケットだけが検出された UDP セッション。
- ICMP エコー要求または ICMP タイムスタンプ要求に対する応答を受信していない ICMP セッション。

## TCP SYN フラッド攻撃

グローバルの TCP SYN フラッド制限を設定して、SYN フラッド攻撃を制限できます。TCP SYN フラッド攻撃は、サービス妨害 (DoS) 攻撃の一種です。設定済みの TCP SYN フラッド制限に達すると、ファイアウォールは、さらにセッションを作成する前に、セッションの送信元を確認します。通常は、TCP SYN パケットはファイアウォールの背後のターゲット エンドホストまたはサブネットアドレスの範囲に送信されます。これらの TCP SYN パケットによって、送信元 IP アドレスがスプーフィングされます。スプーフィング攻撃では、個人やプログラムが偽のデータを使用してネットワーク内のリソースにアクセスしようとします。TCP SYN フラッド攻撃は、ファイアウォールまたはエンドホスト上のすべてのリソースを乗っ取る可能性があるため、サービス妨害がトラフィックを正当化することになります。TCP SYN フラッド保護は、VRF レベルとゾーン レベルで設定できます。

SYN フラッド攻撃は、次の 2 つのタイプに分類されます。

- ホスト フラッド : SYN フラッド パケットが単一のホストに送信され、そのホスト上のすべてのリソースを使用することが意図されます。
- ファイアウォールセッションテーブルフラッド : SYN フラッド パケットがファイアウォールの背後のアドレスの範囲に送信され、ファイアウォール上のセッションテーブルリソースを枯渇させ、その結果、リソースの拒否がファイアウォールを通過するトラフィックを正当化することが意図されます。

# 分散型サービス妨害攻撃に対する防御の設定方法

## ファイアウォールの設定

このタスクの内容は以下のとおりです。

- ファイアウォールを設定します。
- セキュリティ送信元ゾーンを作成します。
- セキュリティ宛先ゾーンを作成します。
- 設定された送信元ゾーンと宛先ゾーンを使用してセキュリティゾーンペアを作成します。
- インターフェイスをゾーン メンバーとして設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect match-any *class-map-name***
4. **match protocol {icmp | tcp | udp}**
5. **exit**
6. **parameter-map type inspect global**
7. **redundancy**
8. **exit**
9. **policy-map type inspect *policy-map-name***
10. **class type inspect *class-map-name***
11. **inspect**
12. **exit**
13. **class class-default**
14. **drop**
15. **exit**
16. **exit**
17. **zone security *security-zone-name***
18. **exit**
19. **zone security *security-zone-name***
20. **exit**
21. **zone-pair security *zone-pair-name* source *source-zone* destination *destination-zone***
22. **service-policy type inspect *policy-map-name***
23. **exit**
24. **interface *type number***
25. **ip address *ip-address mask***
26. **encapsulation dot1q *vlan-id***
27. **zone-member security *security-zone-name***

28. end

29. ゾーンを別のインターフェイスにアタッチするには、ステップ21～25を繰り返します。

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-any ddos-class	アプリケーション固有の検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol {icmp   tcp   udp}</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol tcp	指定したプロトコルに基づいて、クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>parameter-map type inspect global</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect global	グローバル検査パラメータ マップを定義し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>redundancy</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# redundancy	ファイアウォールの高可用性を有効にします。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 9	<b>policy-map type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw	プロトコル固有の検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 10	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect ddos-class	アクションの実行対象となるトラフィック クラスを指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class class-default	アクションの実行対象となるデフォルト クラスを設定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	<b>drop</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# drop	同じゾーンの 2 つのインターフェイス間でトラフィックの受け渡しが可能になります。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 16	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# exit	QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 17	<b>zone security</b> <i>security-zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security private	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>（送信元ゾーンと宛先ゾーンからなる）ゾーンペアを作成するには、2つのセキュリティゾーンが必要です。</li></ul>
ステップ 18	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 19	<b>zone security</b> <i>security-zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone security public	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>（送信元ゾーンと宛先ゾーンからなる）ゾーンペアを作成するには、2つのセキュリティゾーンが必要です。</li></ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 20	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 21	<b>zone-pair security zone-pair-name source source-zone destination destination-zone</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security private2public source private destination public	ゾーンペアを作成し、セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 22	<b>service-policy type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect ddos-fw	ポリシー マップをトップレベル ポリシーに関連付けます。
ステップ 23	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 24	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/0.1	サブインターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 25	<b>ip address ip-address mask</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	サブインターフェイスに IP アドレスを設定します。
ステップ 26	<b>encapsulation dot1q vlan-id</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# encapsulation dot1q 2	インターフェイスで使用するカプセル化方式を設定します。
ステップ 27	<b>zone-member security security-zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# zone-member security private	インターフェイスをゾーン メンバーとして設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>security-zone-name</i> 引数の場合、<b>zone security</b> コマンドを使用して設定済みのゾーンの1つを設定する必要があります。</li> <li>• インターフェイスがセキュリティ ゾーンにある場合、そのインターフェイスを通るトラフィックはどちらの方向でもすべて（デバイス宛またはデバイス発のトラフィックを除く）はデフォルトでドロップされます。ゾーン メンバーであるインターフェイスをトラフィックが通過できるようにするには、ポリシー適用対象</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		のゾーン ペアにそのゾーンを含める必要があります。ポリシーの <b>inspect</b> または <b>pass</b> アクションによってトラフィックが許可される場合は、そのインターフェイスを通じてトラフィックが流れます。
ステップ 28	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-subif)# end	サブインターフェイスコンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 29	ゾーンを別のインターフェイスにアタッチするには、ステップ 21 ~ 25 を繰り返します。	—

## ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングの設定

アグレッシブ エージング機能は、ボックス単位（ボックス単位とは、ファイアウォールセッションテーブル全体を意味します）、デフォルト VRF、および VRF 単位のファイアウォールセッションに設定できます。アグレッシブ エージング機能が動作するには、ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングおよびエージング アウト時間を設定する必要があります。

ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングを設定するには、次の作業を実行します。

### ボックス単位のアグレッシブ エージングの設定

ボックス単位とは、ファイアウォールセッションテーブル全体という意味です。 **parameter-map type inspect-global** コマンドに続くすべての設定がボックスに適用されます。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **per-box max-incomplete number aggressive-aging high {value low value | percent percent low percent percent}**
5. **per-box aggressive-aging high {value low value | percent percent low percent percent}**
6. **exit**
7. **parameter-map type inspect parameter-map-name**
8. **tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]**
9. **end**
10. **show policy-firewall stats global**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li><b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値およびタイムアウトのグローバル パラメータ マップを設定し、パラメータ マップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li><b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順4と手順5をスキップしてください。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、<b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての<b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。</p>
ステップ 4	<b>per-box max-incomplete number aggressive-aging high {value low value   percent percent low percent percent}</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# per-box max-incomplete 2000 aggressive-aging high 1500 low 1200	ファイアウォール セッション テーブル内のハーフオープンセッションの上限およびアグレッシブ エージング レートを設定します。
ステップ 5	<b>per-box aggressive-aging high {value low value   percent percent low percent percent}</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# per-box aggressive-aging high 1700 low 1300	総セッションのアグレッシブ エージング制限を設定します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>parameter-map type inspect parameter-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap1	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10	セッションをドロップする前に、TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>アグレッシブ エージングがイネーブルになった後、最も古い TCP 接続の SYN 待機タイマーが、デフォルトから設定済みエージアウト時間にリセットされます。この例では、接続がタイムアウトするまで 30 秒待機する代わりに、最も古い TCP 接続のタイムアウトが 10 秒に設定されます。接続が低ウォーターマークを下回ると、アグレッシブ エージングはディセーブルになります。</li> </ul>
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 10	<b>show policy-firewall stats global</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats global	グローバル ファイアウォール統計情報を表示します。

## デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定

**max-incomplete aggressive-aging** command, it applies to the default VRF. を設定する場合

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します：
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**

4. **max-incomplete** *number* **aggressive-aging high** {*value low value* | **percent percent low percent percent**}
5. **session total** *number* [**aggressive-aging high** {*value low value* | **percent percent low percent percent**}]
6. **exit**
7. **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
8. **tcp synwait-time** *seconds* [**ageout-time** *seconds*]
9. **end**
10. **show policy-firewall stats vrf global**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します： <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>parameter-map type inspect-global</b></li><li>• <b>parameter-map type inspect global</b></li></ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値およびタイムアウトのグローバルパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li><li>• <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順5をスキップしてください。</li></ul> <b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は <b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>max-incomplete number aggressive-aging high</b> {value low value   percent percent low percent percent} <b>Example:</b> Device(config-profile)# max-incomplete 3455 aggressive-aging high 2345 low 2255	ハーフオープン ファイアウォール セッションの上限およびアグレッシブ エージング制限を設定します。
ステップ 5	<b>session total number [aggressive-aging high {value low value   percent percent low percent percent}]</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 1000 aggressive-aging high percent 80 low percent 60	総ファイアウォール セッションの合計制限およびアグレッシブ エージング制限を設定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>parameter-map type inspect parameter-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap1	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10	セッションをドロップする前に、TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>アグレッシブ エージングがイネーブルになった後、最も古い TCP 接続の SYN 待機タイマーが、デフォルトから設定済みエージアウト時間にリセットされます。この例では、接続がタイムアウトするまで 30 秒待機する代わりに、最も古い TCP 接続のタイムアウトが 10 秒に設定されます。接続が低ウォーターマークを下回ると、アグレッシブ エージングはディセーブルになります。</li> </ul>
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 10	<b>show policy-firewall stats vrf global</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf global	グローバル VRF ファイアウォール ポリシー統計を表示します。

## ファイアウォールセッションのエージングアウトの設定

ICMP、TCP、またはUDP ファイアウォールセッションのエージングアウトを設定できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **vrf vrf-name inspect vrf-pmap-name**
5. **exit**
6. **parameter-map type inspect parameter-map-name**
7. **tcp idle-time seconds [ageout-time seconds]**
8. **tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]**
9. **exit**
10. **policy-map type inspect policy-map-name**
11. **class type inspect match-any class-map-name**
12. **inspect parameter-map-name**
13. **end**
14. **show policy-firewall stats vrf vrf-pmap-name**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します。  • <b>parameter-map type inspect-global</b> • <b>parameter-map type inspect global</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspectglobal	グローバル パラメータ マップを設定し、パラメータ マップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。  • リリースに基づいて、 <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。

	Command or Action	Purpose
		<p>これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順4をスキップしてください。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、<b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。</p>
ステップ 4	<b>vrf vrf-name inspect vrf-pmap-name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap</pre>	パラメータ マップに VRF をバインドします。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-profile)# exit</pre>	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>parameter-map type inspect parameter-map-name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# parameter-map type inspect pmap1</pre>	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>tcp idle-time seconds [ageout-time seconds]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-profile)# tcp idle-time 3000 ageout-time 100</pre>	<p>アイドル状態の TCP セッションのタイムアウト、および TCP セッションのアグレッシブ エージングアウト時間を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、<b>tcp finwait-time</b> コマンドを設定すると、終了 (FIN) 交換がファイアウォールで検出された後に TCP セッションを管理する時間の長さを指定できます。または <b>tcp synwait-time</b> コマンドを設定すると、セッションをドロップする前に TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定できます。</li> </ul>
ステップ 8	<b>tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10</pre>	<p>セッションをドロップする前に、TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アグレッシブ エージングがイネーブルになると、最も古い TCP 接続の SYN 待機タイマー</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		が、デフォルトから設定済みエージアウト時間にリセットされます。この例では、接続がタイムアウトするまで30秒待機する代わりに、最も古いTCP接続のタイムアウトが10秒に設定されます。接続が低ウォーターマークを下回ると、アグレッシブエージングがイネーブルになります。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>policy-map type inspect <i>policy-map-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw	プロトコル固有の検査タイプポリシーマップを作成し、QoSポリシーマップコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>class type inspect match-any <i>class-map-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect match-any ddos-class	アクションの実行対象となるトラフィッククラスを指定し、QoSポリシーマップクラスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 12	<b>inspect <i>parameter-map-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect pmap1	パラメータマップのステートフルパケットインスペクションをディセーブルにします。
ステップ 13	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoSポリシーマップクラスコンフィギュレーションモードを終了し、特権EXECモードを開始します。
ステップ 14	<b>show policy-firewall stats vrf <i>vrf-pmap-name</i></b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap	VRFレベルポリシーファイアウォール統計情報を表示します。

## 例

次に、**show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap

VRF: vrf1, Parameter-Map: vrf1-pmap
Interface reference count: 2
  Total Session Count(estab + half-open): 270, Exceed: 0
  Total Session Aggressive Aging Period Off, Event Count: 0

          Half Open
Protocol Session Cnt   Exceed
-----
-----
```

```

All      0          0
UDP      0          0
ICMP     0          0
TCP      0          0

```

```

TCP Syn Flood Half Open Count: 0, Exceed: 12
Half Open Aggressive Aging Period Off, Event Count: 0

```

## VRF 単位のアグレッシブ エージングの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip vrf *vrf-name***
4. **rd *route-distinguisher***
5. **route-target export *route-target-ext-community***
6. **route-target import *route-target-ext-community***
7. **exit**
8. **parameter-map type inspect-vrf *vrf-pmap-name***
9. **max-incomplete *number* aggressive-aging high {*value low value* | percent *percent low percent percent*}**
10. **session total *number* [aggressive-aging {**high** *value low value* | percent *percent low percent percent*}]**
11. **alert on**
12. **exit**
13. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
14. **vrf *vrf-name* inspect *vrf-pmap-name***
15. **exit**
16. **parameter-map type inspect *parameter-map-name***
17. **tcp idle-time *seconds* [**ageout-time** *seconds*]**
18. **tcp synwait-time *seconds* [**ageout-time** *seconds*]**
19. **exit**
20. **policy-map type inspect *policy-map-name***
21. **class type inspect match-any *class-map-name***
22. **inspect *parameter-map-name***
23. **end**
24. **show policy-firewall stats vrf *vrf-pmap-name***

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip vrf vrf-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip vrf ddos-vrf1	VRF インスタンスを定義し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>rd route-distinguisher</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# rd 100:2	VRF インスタンスのルート識別子 (RD) を指定します。
ステップ 5	<b>route-target export route-target-ext-community</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# route-target export 100:2	ルートターゲット拡張コミュニティを作成し、ルーティング情報をターゲット VPN 拡張コミュニティにエクスポートします。
ステップ 6	<b>route-target import route-target-ext-community</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# route-target import 100:2	ルートターゲット拡張コミュニティを作成し、ターゲット VPN 拡張コミュニティからルーティング情報をインポートします。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# exit	VRF コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>parameter-map type inspect-vrf vrf-pmap-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap	VRF 検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>max-incomplete number aggressive-aging high {value low value   percent percent low percent percent}</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# max-incomplete 2000 aggressive-aging high 1500 low 1200	ハーフ オープン セッションの上限およびアグレッシブ エージング制限を設定します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 10	<b>session total</b> <i>number</i> [ <b>aggressive-aging</b> { <b>high value</b> <b>low value</b>   <b>percent percent low percent percent</b> }] <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 1000 aggressive-aging high percent 80 low percent 60	総セッション制限および総セッションに関するアグレッシブ エージング制限を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>総セッション制限は、絶対値またはパーセンテージとして設定できます。</li> </ul>
ステップ 11	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフル パケット インスペクションのアラートメッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 13	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li><b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	グローバル パラメータ マップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li><b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順 14 をスキップしてください。</li> </ul> <b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、 <b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。
ステップ 14	<b>vrf</b> <i>vrf-name</i> <b>inspect</b> <i>vrf-pmap-name</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap	パラメータ マップに VRF をバインドします。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 16	<b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap1	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 17	<b>tcp idle-time</b> <i>seconds</i> [ <b>ageout-time</b> <i>seconds</i> ] <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp idle-time 3000 ageout-time 100	アイドル状態の TCP セッションのタイムアウト、および TCP セッションのアグレッシブ エージングアウト時間を設定します。
ステップ 18	<b>tcp synwait-time</b> <i>seconds</i> [ <b>ageout-time</b> <i>seconds</i> ] <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10	セッションをドロップする前に、TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>アグレッシブ エージングがイネーブルになると、最も古い TCP 接続の SYN 待機タイマーが、デフォルトから設定済みエージアウト時間にリセットされます。この例では、接続がタイムアウトするまで 30 秒待機する代わりに、最も古い TCP 接続のタイムアウトが 10 秒に設定されます。接続が低ウォーターマークを下回ると、アグレッシブ エージングはディセーブルになります。</li> </ul>
ステップ 19	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 20	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw	プロトコル固有の検査タイプポリシーマップを作成し、QoS ポリシーマップコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 21	<b>class type inspect match-any</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect match-any ddos-class	アクションの実行対象となるトラフィック（クラス）を指定し、QoS ポリシーマップクラスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 22	<b>inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect pmap1	パラメータマップのステートフルパケットインスペクションをディセーブルにします。
ステップ 23	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoS ポリシーマップクラスコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 24	<b>show policy-firewall stats vrf</b> <i>vrf-pmap-name</i> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap	VRF レベル ポリシー ファイアウォール統計情報を表示します。

### 例

次に、**show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap
```

```
VRF: vrf1, Parameter-Map: vrf1-pmap
Interface reference count: 2
Total Session Count (estab + half-open): 80, Exceed: 0
Total Session Aggressive Aging Period Off, Event Count: 0

          Half Open
Protocol Session Cnt      Exceed
-----
All          0              0
UDP          0              0
ICMP         0              0
TCP          0              0

TCP Syn Flood Half Open Count: 0, Exceed: 116
Half Open Aggressive Aging Period Off, Event Count: 0
```

## ファイアウォール イベント レート モニタリングの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect-zone** *zone-pmap-name*
4. **alert on**
5. **threat-detection basic-threat**
6. **threat-detection rate fw-drop average-time-frame** *seconds* **average-threshold** *packets-per-second* **burst-threshold** *packets-per-second*
7. **threat-detection rate inspect-drop average-time-frame** *seconds* **average-threshold** *packets-per-second* **burst-threshold** *packets-per-second*
8. **threat-detection rate syn-attack average-time-frame** *seconds* **average-threshold** *packets-per-second* **burst-threshold** *packets-per-second*
9. **exit**
10. **zone security** *security-zone-name*
11. **protection** *parameter-map-name*
12. **exit**
13. **zone-pair security** *zone-pair-name* **source** *source-zone* **destination** *destination-zone*
14. **end**

## 15. show policy-firewall stats zone

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-zone zone-pmap-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-zone zone-pmap1	ゾーン検査パラメータ マップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ゾーンに関するステートフルパケットインスペクションのアラートメッセージのコンソール表示を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>log</b> コマンドを使用すると、アラートのロギングを Syslog または高速ロガー（HSL）のいずれかに設定できます。</li></ul>
ステップ 5	<b>threat-detection basic-threat</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# threat-detection basic-threat	ゾーンの基本脅威検出を設定します。
ステップ 6	<b>threat-detection rate fw-drop average-time-frame seconds average-threshold packets-per-second burst-threshold packets-per-second</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# threat-detection rate fw-drop average-time-frame 600 average-threshold 100 burst-threshold 100	ファイアウォールドロップイベントの脅威検出レートを設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>threat-detection rate</b> コマンドを設定する前に、<b>threat-detection basic-threat</b> コマンドを設定する必要があります。</li></ul>
ステップ 7	<b>threat-detection rate inspect-drop average-time-frame seconds average-threshold packets-per-second burst-threshold packets-per-second</b> <b>Example:</b>	ファイアウォールインスペクションベースのドロップイベントに関する脅威検出レートを設定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Device(config-profile)# threat-detection rate inspect-drop average-time-frame 600 average-threshold 100 burst-threshold 100</pre>	
ステップ 8	<p><b>threat-detection rate syn-attack average-time-frame seconds average-threshold packets-per-second burst-threshold packets-per-second</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# threat-detection rate syn-attack average-time-frame 600 average-threshold 100 burst-threshold 100</pre>	TCP SYN 攻撃イベントの脅威検出レートを設定します。
ステップ 9	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# exit</pre>	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<p><b>zone security security-zone-name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# zone security public</pre>	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<p><b>protection parameter-map-name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-sec-zone)# protection zone-pmap1</pre>	ゾーン検査パラメータ マップをゾーンにアタッチし、ゾーン検査パラメータ マップで設定されている機能をゾーンに適用します。
ステップ 12	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-sec-zone)# exit</pre>	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<p><b>zone-pair security zone-pair-name source source-zone destination destination-zone</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# zone-pair security private2public source private destination public</pre>	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-sec-zone-pair)# end</pre>	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 15	<p><b>show policy-firewall stats zone</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# show policy-firewall stats zone</pre>	ゾーン レベルでのポリシー ファイアウォール統計情報を表示します。

## ボックス単位のハーフオープン セッション制限の設定

ボックス単位とは、ファイアウォールセッションテーブル全体という意味です。parameter-map type inspect-global コマンドに続くすべての設定がボックスに適用されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **alert on**
5. **per-box max-incomplete** *number*
6. **session total** *number*
7. **end**
8. **show policy-firewall stats global**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li>• <b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値およびタイムアウトのグローバルパラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ 検査コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順 5 および手順 6 をスキップしてください。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、<b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての<b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフルパケット インспекションのアラートメッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 5	<b>per-box max-incomplete number</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# per-box max-incomplete 12345	ファイアウォールセッションテーブルのハーフオープン接続の最大数を設定します。
ステップ 6	<b>session total number</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 34500	ファイアウォールセッションテーブルの合計セッション制限を設定します。
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 8	<b>show policy-firewall stats global</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats global	グローバル ファイアウォール統計情報を表示します。

## VRF 検査パラメータ マップ用のハーフオープンセッション制限の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect-vrf vrf-name**
4. **alert on**
5. **max-incomplete number**
6. **session total number**
7. **exit**
8. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
9. **alert on**
10. **vrf vrf-name inspect vrf-pmap-name**
11. **end**
12. **show policy-firewall stats vrf vrf-pmap-name**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-vrf vrf-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap	VRF 検査パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフル パケット インспекションのアラート メッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 5	<b>max-incomplete number</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# max-incomplete 2000	VRF ごとのハーフ オープン接続の最大数を設定します。
ステップ 6	<b>session total number</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 34500	VRF の総セッション制限を設定します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>parameter-map type inspect-global</b></li><li><b>parameter-map type inspect global</b></li></ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値およびタイムアウトのグローバル パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドまたは <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドのいずれかを使用できます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li></ul>



	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順 10 をスキップしてください。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は <b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。</p>
ステップ 9	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフル パケット インспекションのアラート メッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 10	<b>vrf vrf-name inspect vrf-pmap-name</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap	グローバルパラメータマップに VRF をバインドします。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 12	<b>show policy-firewall stats vrf vrf-pmap-name</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap	VRF レベル ポリシー ファイアウォール統計情報を表示します。

## グローバル TCP SYN フラッド制限の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **alert on**
5. **per-box tcp syn-flood limit number**
6. **end**
7. **show policy-firewall stats vrf global**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li><b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	グローバル パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ 検査 コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドまたは <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドのいずれかを設定できます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li><b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順 5 をスキップしてください。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、<b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。</p>
ステップ 4	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフル パケット インспекションのアラートメッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 5	<b>per-box tcp syn-flood limit number</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# per-box tcp syn-flood limit 500	新しい SYN パケットの SYN Cookie 処理をトリガーする TCP ハーフ オープン セッションの数を制限します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータ マップ タイプ 検査 コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>show policy-firewall stats vrf global</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf global	(任意) グローバルVRF ファイアウォールポリシーのステータスを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>存在する TCP ハーフ オープン セッションの数もまたコマンド出力に表示されます。</li> </ul>

### 例

次に、**show policy-firewall stats vrf global** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show policy-firewall stats vrf global

Global table statistics
  total_session_cnt: 0
  exceed_cnt: 0
  tcp_half_open_cnt: 0
  syn_exceed_cnt: 0
```

## 分散型サービス妨害攻撃に対する保護の設定例

### 例：ファイアウォールの設定

```
Router# configure terminal
Router(config)# class-map type inspect match-any ddos-class
Router(config-cmap)# match protocol tcp
Router(config-cmap-c)# exit
Router(config)# parameter-map type inspect global
Router(config-profile)# redundancy
Router(config-profile)# exit
Router(config)# policy-map type inspect ddos-fw
Router(config-pmap)# class type inspect ddos-class
Router(config-pmap-c)# inspect
Router(config-pmap-c)# exit
Router(config-pmap)# class class-default
Router(config-pmap-c)# drop
Router(config-pmap-c)# exit
Router(config-pmap)# exit
Router(config)# zone security private
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone security public
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone-pair security private2public source private destination public
Router((config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect ddos-fw
Router((config-sec-zone-pair)# exit
Router(config)# interface gigabitethernet 0/1/0.1
Router(config-subif)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
Router(config-subif)# encapsulation dot1q 2
Router(config-subif)# zone-member security private
Router(config-subif)# exit
```

## 例：ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングの設定

```
Router(config)# interface gigabitethernet 1/1/0.1
Router(config-subif)# ip address 10.2.2.2 255.255.255.0
Router(config-subif)# encapsulation dot1q 2
Router(config-subif)# zone-member security public
Router(config-subif)# end
```

## 例：ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングの設定

## 例：ボックス単位のアグレッシブ エージングの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# per-box max-incomplete 2000 aggressive-aging 1500 low 1200
Device(config-profile)# per-box aggressive-aging high 1700 low 1300
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect pmap1
Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10
Device(config-profile)# end
```

## 例：デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# max-incomplete 2000 aggressive-aging high 1500 low 1200
Device(config-profile)# session total 1000 aggressive-aging high percent 80 low percent
60
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect pmap1
Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10
Device(config-profile)# end
```

## 例：ファイアウォールセッションのエージングアウトの設定

```
Device# configure terminal
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect pmap1
Device(config-profile)# tcp idle-time 3000 ageout-time 100
Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10
Device(config-profile)# exit
Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw
Device(config-profile)# class type inspect match-any ddos-class
Device(config-profile)# inspect pmap1
Device(config-profile)# end
```

## 例：VRF 単位のアグレッシブ エージングの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# ip vrf ddos-vrf1
```

```
Device(config-vrf)# rd 100:2
Device(config-vrf)# route-target export 100:2
Device(config-vrf)# route-target import 100:2
Device(config-vrf)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap
Device(config-profile)# max-incomplete 3455 aggressive-aging high 2345 low 2255
Device(config-profile)# session total 1000 aggressive-aging high percent 80 low percent
60
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect pmap1
Device(config-profile)# tcp idle-time 3000 ageout-time 100
Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10
Device(config-profile)# exit
Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw
Device(config-pmap)# class type inspect match-any ddos-class
Device(config-pmap-c)# inspect pmap1
Device(config-profile)# end
```

## 例：ファイアウォール イベント レート モニタリングの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect zone zone-pmap1
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# threat-detection basic-threat
Device(config-profile)# threat-detection rate fw-drop average-time-frame 600
average-threshold 100 burst-threshold 100
Device(config-profile)# threat-detection rate inspect-drop average-time-frame 600
average-threshold 100 burst-threshold 100
Device(config-profile)# threat-detection rate syn-attack average-time-frame 600
average-threshold 100 burst-threshold 100
Device(config-profile)# exit
Device(config)# zone security public
Device(config-sec-zone)# protection zone-pmap1
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security private2public source private destination public
Device(config-sec-zone-pair)# end
```

## 例：ボックス単位のーフオープン セッション制限の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# per-box max-incomplete 12345
Device(config-profile)# session total 34500
Device(config-profile)# end
```

## 例：検査 VRF パラメータ マップに対するハーフオープン セッション制限の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect vrf vrf1-pmap
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# max-incomplete 3500
Device(config-profile)# session total 34500
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap
Device(config-profile)# end
```

## 例：グローバル TCP SYN フラッド制限の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# per-box tcp syn-flood limit 500
Device(config-profile)# end
```

## 分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス</a> 』
ファイアウォール リソース管理	『 <a href="#">Configuring Firewall Resource Management feature</a> 』
ファイアウォール TCP SYN Cookie	『 <a href="#">Configuring Firewall TCP SYN Cookie feature</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 186: 分散型サービス妨害攻撃に対する保護に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
分散型サービス妨害攻撃に対する保護	Cisco IOS XE リリース 3.4S	<p>分散型サービス妨害攻撃に対する保護機能は、ボックス単位レベル（すべてのファイアウォールセッションに対応）と VRF レベルでの DoS 攻撃に対する保護を提供します。DDoS 攻撃を防ぐために、ファイアウォールセッションのアグレッシブエイジング、ファイアウォールセッションのイベント レート モニタリング、ハーフオープン接続制限、およびグローバル TCP SYN Cookie 保護を設定できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>clear policy-firewall stats global、max-incomplete、max-incomplete aggressive-aging、per-box aggressive-aging、per-box max-incomplete、per-box max-incomplete aggressive-aging、per-box tcp syn-flood limit、session total、show policy-firewall stats global、show policy-firewall stats zone、threat-detection basic-threat、threat-detection rate、および udp half-open。</b></p>





## CHAPTER 140

# ファイアウォール リソース管理の設定

ファイアウォール リソース管理機能は、ルータで設定される VPN ルーティングおよび転送 (VRF) セッションとグローバル ファイアウォール セッションの数を制限します。

- [ファイアウォール リソース管理の設定に関する制約事項, on page 1937](#)
- [ファイアウォール リソース管理の設定について, on page 1937](#)
- [ファイアウォール リソース管理の設定方法, on page 1940](#)
- [ファイアウォール リソース管理の設定例, on page 1942](#)
- [その他の参考資料, on page 1942](#)
- [ファイアウォール リソース管理の設定に関する機能情報, on page 1943](#)

## ファイアウォールリソース管理の設定に関する制約事項

- グローバル レベルまたは VRF レベルのセッション制限を設定した後、その制限値を下回るセッション制限を再設定すると、新しいセッションは追加されなくなります。ただし、現在のセッションはドロップされません。

## ファイアウォール リソース管理の設定について

### ファイアウォール リソース管理

リソース管理では、デバイス上の共有リソースの利用レベルが制限されます。デバイス上の共有リソースには次のものがあります。

- 帯域幅
- 接続状態
- メモリ使用率 (テーブル単位)
- セッションまたはコールの数
- Packets per second (1 秒あたりのパケット数)

- Ternary content addressable memory (TCAM) エントリ

ファイアウォール リソース管理機能は、ゾーンベースのファイアウォール リソース管理をクラス レベルから VRF レベルおよびグローバルレベルに拡張します。クラス レベルのリソース管理は、クラス レベルでファイアウォール セッションのリソースを保護します。たとえば、最大セッション制限、セッション レート制限、不完全セッション制限などのパラメータは、ファイアウォール リソース (チャンク メモリなど) を保護し、これらのリソースが単一クラスによって使い果たされないようにします。

複数の Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスが同じポリシーを共有する場合、1 つの VRF インスタンスからのファイアウォール セッション設定要求によって総セッション数が最大制限に達する可能性があります。1 つの VRF がデバイス上で最大量のリソースを消費すると、他の VRF インスタンスがデバイス リソースを共有することが難しくなります。VRF ファイアウォール セッションの数を制限するには、ファイアウォール リソース管理機能を使用できます。

グローバル レベルでは、ファイアウォール リソース管理機能により、グローバルルーティング ドメインでのファイアウォール セッションによるリソースの使用を制限できます。

## VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール

サービス プロバイダー (SP) または大企業のエッジルータで VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールが設定されている場合は、Cisco IOS XE ファイアウォール機能が VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インターフェイスに適用されます。SP は中小企業市場にマネージドサービスを提供しています。

VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォールは、さまざまなプロトコルの VRF-Lite (別名 Multi-VRF CE) と Application Inspection and Control (AIC) をサポートします。

VRF 対応ファイアウォールは、さまざまなプロトコルの VRF-Lite (別名 Multi-VRF CE) と Application Inspection and Control (AIC) をサポートします。



**Note** Cisco IOS XE リリースは、コンテキストベースのアクセス コントロール (CBAC) ファイアウォールをサポートしません。

## ファイアウォール セッション

### セッション定義

Virtual Routing and Forwarding (VRF) レベルでは、ファイアウォール リソース管理機能により、各 VRF インスタンスのファイアウォール セッション数が追跡されます。グローバル レベルでは、ファイアウォール リソース管理機能により、デバイスレベルではなくグローバルルーティング ドメインでのファイアウォール セッションの合計数が追跡されます。VRF とグローバル レベルの両方では、セッション数はオープンセッションとハーフオープンセッションと

不正確なファイアウォールセッションデータベース内のセッションの合計です。まだ確立状態に達していない TCP セッションは、ハーフオープンセッションと呼ばれます。

ファイアウォールには2つのセッションデータベースがあります。1つはセッションデータベースで、もう1つは不正確なセッションデータベースです。セッションデータベースには、5つのタプル（送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、送信元ポート、宛先ポート、およびプロトコル）のセッションが含まれます。タプルは、要素の番号付きリストです。不正確なセッションデータベースには、5つ未満のタプル（欠落した IP アドレス、ポート番号など）のセッションが含まれます。

次の規則は、セッション制限の設定に適用されます。

- クラスレベルセッションの上限は、グローバルの制限を超える可能性があります。
- クラスレベルセッションの上限は、関連する VRF セッションの最大値を超える可能性があります。
- VRF 制限値の合計は、グローバルなコンテキストを含め、ハードコーディングされたセッションの制限を超える可能性があります。

## セッション レート

セッションレートは、セッションが特定の時間間隔で確立されるレートです。最大および最小セッションレート制限を定義できます。セッションレートが指定された最大レートを超えると、ファイアウォールは新しいセッションのセットアップ要求を拒否し始めます。

リソース管理の観点から最大および最小セッションレート制限を設定すると、多数のファイアウォールセッションのセットアップ要求が受信された場合に、Cisco Packet Processor が過負荷になることを防ぐのに役立ちます。

## 未完了またはハーフオープン セッション

未完了セッションはハーフオープンセッションです。未完了セッションで使用されるリソースがカウントされ、未完了セッション数の増加は最大セッション数制限を設定することにより制限されます。

## ファイアウォール リソース管理セッション

ファイアウォール リソース管理セッションには次のルールが適用されます。

- デフォルトでは、オープンセッションまたはハーフオープンセッションのセッション制限は無制限です。
- オープンセッションまたはハーフオープンセッションは、パラメータで制限され、個別にカウントされます。
- オープンセッションの数またはハーフオープンセッションの数には、Internet Control Message Protocol (ICMP)、TCP、またはUDPセッションが含まれます。
- オープンセッションの数とレートを制限できます。

- ハーフオープン セッションではセッションの数だけを制限できます。

# ファイアウォール リソース管理の設定方法

## ファイアウォール リソース管理の設定



**Note** グローバルパラメータ マップは、ルータ レベルではなく、グローバルルーティング ドメインで有効になります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect-vrf** *vrf-pmap-name*
4. **session total** *number*
5. **tcp syn-flood limit** *number*
6. **exit**
7. **parameter-map type inspect-global**
8. **vrf** *vrf-name* **inspect** *parameter-map-name*
9. **exit**
10. **parameter-map type inspect-vrf** *vrf-default*
11. **session total** *number*
12. **tcp syn-flood limit** *number*
13. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-vrf</b> <i>vrf-pmap-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap	VRF 検査タイプ パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>session total</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 1000	セッションの総数を設定します。
ステップ 5	<b>tcp syn-flood limit</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp syn-flood limit 2000	新しい SYN パケットの同期 (SYN) Cookie 処理をトリガーする TCP ハーフ オープンセッションの数を制限します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>parameter-map type inspect-global</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global	グローバル パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>vrf</b> <i>vrf-name</i> <b>inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap	VRF をパラメータ マップにバインドします。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>parameter-map type inspect-vrf</b> <i>vrf-default</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf-default	デフォルトの VRF 検査タイプパラメータ マップを設定します。
ステップ 11	<b>session total</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 6000	セッションの総数を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• VRF 検査タイプパラメータマップ用およびグローバルパラメータマップ用に <b>session total</b> コマンドを設定できます。VRF 検査タイプパラメータマップ用に <b>session total</b> コマンドを設定する場合、VRF 検査タイプパラメータマップにセッションが関連付けられます。グローバルパラメータマップ用に <b>session total</b> コマンドを設定する場合、このコマンドはグローバルルーティングドメインに適用されます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 12	<b>tcp syn-flood limit</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp syn-flood limit 7000	新しい SYN パケットの SYN Cookie 処理をトリガーする TCP ハーフ オープンセッションの数を制限します。
ステップ 13	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ファイアウォール リソース管理の設定例

### 例：ファイアウォール リソース管理の設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap
Device(config-profile)# session total 1000
Device(config-profile)# tcp syn-flood limit 2000
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect-global
Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect pmap1
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf-default
Device(config-profile)# session total 6000
Device(config-profile)# tcp syn-flood limit 7000
Device(config-profile)# end

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
VRF 対応ファイアウォール	「VRF 対応 Cisco IOS XE ファイアウォール」モジュール

関連項目	マニュアル タイトル
ゾーンベース ポリシー ファイアウォール	「ゾーンベース ポリシー ファイアウォール」 モジュール

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ファイアウォールリソース管理の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 187:** ファイアウォール リソース管理の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ファイアウォールリソース管理	Cisco IOS XE リリース 3.3S	ファイアウォールリソース管理機能は、ルータで設定される VPN ルーティングおよび転送 (VRF) セッションとグローバル ファイアウォール セッションの数を制限します。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>parameter-map type inspect-vrf。</b>







## CHAPTER 141

# IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポート

IPv6 ゾーンベース ファイアウォールでは、分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理がサポートされています。

分散型サービス妨害攻撃の防止機能は、グローバル レベル（すべてのファイアウォールセッション）およびVPNルーティングおよび転送（VRF）レベルでのサービス妨害（DoS）攻撃からの保護を提供します。分散型サービス妨害攻撃からの保護機能により、分散型 DoS 攻撃を防止するため、ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージング、ファイアウォールセッションのイベント レート モニタ、ハーフオープン接続制限、およびグローバル TCP 同期（SYN）Cookie 保護を設定できます。

ファイアウォール リソース管理機能では、デバイスで設定されているグローバル ファイアウォールセッションと VPN ルーティングおよび転送（VRF）インスタンスの数が制限されます。

このモジュールでは、分散型サービス妨害攻撃からの保護機能とファイアウォールリソース管理機能を設定する方法について説明します。

- [IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃からの保護およびリソース管理のサポートの制約事項, on page 1946](#)
- [IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートに関する情報, on page 1946](#)
- [IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの設定方法, on page 1951](#)
- [IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの設定例, on page 1977](#)
- [IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートに関する追加情報, on page 1980](#)
- [IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの機能情報, on page 1981](#)

# IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃からの保護およびリソース管理のサポートの制約事項

ファイアウォール リソース管理機能には次の制約事項が適用されます。

- グローバル レベルまたは Virtual Routing and Forwarding (VRF) レベルでのセッション制限を設定し、その後このセッション制限を再設定すると、グローバル レベルまたは VRF レベルのセッション制限が初期設定セッション数を下回っている場合に、新しいセッションが追加されません。ただし、現在のセッションはドロップされません。

## IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートに関する情報

### ファイアウォール セッションのアグレッシブ エージング

アグレッシブ エージング機能により、ファイアウォールは、セッションを積極的にエージングアウトし、新しいセッションのためのスペースを確保することで、ファイアウォールセッションデータベースがいっぱいになるのを防ぐことができます。ファイアウォールはそのリソースを保護するため、アイドルセッションを削除します。アグレッシブ エージング機能により、ファイアウォールセッションが存在できる時間は、タイマーで定義されている時間（エージングアウト時間）よりも短くなります。

アグレッシブ エージング機能には、アグレッシブ エージング期間の開始と終了を定義するしきい値（高位水準点と低位水準点）があります。アグレッシブ エージング期間は、セッションテーブルが高位水準点を超えると開始され、低位水準点を下回ると終了します。アグレッシブ エージングの期間中、セッションの存続期間は、エージングアウト時間を使用して設定した期間よりも短くなります。ファイアウォールがセッションを終了する時間よりも短い時間で攻撃者がセッションを開始する場合、セッションを作成するために割り当てられているすべてのリソースが使用され、新しいすべての接続が拒否されます。このような攻撃を防ぐには、セッションを積極的にエージングアウトするようにアグレッシブ エージング機能を設定できます。この機能はデフォルトで無効に設定されています。

ボックス レベル（ボックスはファイアウォールセッションテーブル全体を示します）および Virtual Routing and Forwarding (VRF) レベルで、ハーフオープンセッションおよび総セッションにアグレッシブ エージングを設定できます。この機能を総セッションに対して設定している場合、ファイアウォールセッションリソースを使用するすべてのセッションが考慮されます。総セッションは、確立されたセッション、ハーフオープンセッション、および不明確セッションデータベース内のセッションで構成されます。（確立状態に達していない TCP セッションはハーフオープンセッションと呼ばれます）。

ファイアウォールには2つのセッションデータベースがあります。1つはセッションデータベースで、もう1つは不正確なセッションデータベースです。セッションデータベースには、5タプル（送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、送信元ポート、宛先ポート、およびプロトコル）が設定されているセッションが含まれます。タプルは、要素の番号付きリストです。不正確なセッションデータベースには、5つ未満のタプル（欠落した IP アドレス、ポート番号など）のセッションが含まれます。ハーフオープンセッションのアグレッシブ エージングでは、ハーフオープンセッションだけが考慮されます。

Internet Control Message Protocol (ICMP)、TCP、および UDP ファイアウォールセッションにはアグレッシブ エージングアウト時間を設定できます。エージングアウト時間は、デフォルトではアイドル時間に設定されます。

## イベント レート モニタリング機能

イベント レート モニタリング機能は、ゾーンの事前定義イベントのレートをモニタします。イベント レート モニタリング機能には基本脅威検出機能が含まれています。これはセキュリティデバイスの機能であり、ファイアウォールの内側にあるリソースで発生する可能性のある脅威、異常、および攻撃を検出し、それらに対するアクションを実行します。イベントの基本脅威検出レートを設定できます。特定タイプのイベントの着信レートが、設定されている脅威検出レートを超えると、イベント レート モニタリング機能はこのイベントを脅威と見なし、脅威を阻止するためのアクションを実行します。脅威検出機能は、入力ゾーンでのみイベントを検査します（イベント レート モニタリング機能が入力ゾーンで有効な場合）。

ネットワーク管理者に対し、発生する可能性のある脅威に関する情報がアラート メッセージ（syslog または高速ロガー（HSL））で通知されます。ネットワーク管理者は攻撃ベクトルの検出、攻撃元ゾーンの検出、または特定の動作やトラフィックをブロックするようにネットワーク上のデバイスを設定するなどのアクションを実行できます。

イベント レート モニタリング機能は、次のタイプのイベントをモニタします。

- 基本ファイアウォールチェックが失敗したためにファイアウォールがドロップする：これには、ゾーンまたはゾーンペアのチェック失敗、ドロップアクションを使用して設定されたファイアウォール ポリシーなどがあります。
- レイヤ4インスペクションの失敗が原因でファイアウォールがドロップする：これには、1番目の TCP パケットが同期（SYN）パケットではないために失敗した TCP インスペクションが含まれることがあります。
- TCP SYN Cookie 攻撃：これには、ドロップされた SYN パケットの数と、スプーフィング攻撃として送信された SYN Cookie の数の集計が含まれることがあります。

イベント レート モニタリング機能は、さまざまなイベントの平均レートとバースト レートをモニタします。各イベント タイプにはレート オブジェクトがあります。レート オブジェクトは、設定可能なパラメータ（平均しきい値、バーストしきい値、期間）が含まれる関連レートにより制御されます。期間はタイムスロットに分割されます。各タイムスロットは期間の1/30です。

平均レートは、イベントタイプごとに計算されます。各レート オブジェクトは、30個の完了済みサンプリング値と、現在進行中のサンプリング期間を保持するための1つの値を保持しま

す。計算済みの最も古い値が現在のサンプリング値で置き換えられ、平均が再計算されます。平均レートは各期間で計算されます。平均レートが平均しきい値を超えると、イベントレートモニタリング機能はこれを潜在的な脅威と解釈し、統計情報を更新し、ネットワーク管理者に通知します。

バーストレートは、トークンバケットアルゴリズムを使用して実装されます。各タイムスロットで、トークンバケットがトークンで埋められます。発生する（特定のイベントタイプの）イベントごとに、バケットからトークンが削除されます。空のバケットは、バーストしきい値に到達したことを意味し、管理者が `syslog` または `HSL` からアラームを受信します。 **show policy-firewall stats zone** コマンドの出力から、脅威検出統計情報を確認し、ゾーン内でさまざまなイベントに対する潜在的な脅威を理解することができます。

最初に **threat-detection basic-threat** コマンドを使用して、基本脅威検出機能を有効にする必要があります。基本脅威検出機能を設定したら、脅威検出レートを設定できます。脅威検出レートを設定するには、**threat-detection rate** コマンドを使用します。

次の表では、イベントレートモニタリング機能が有効な場合に適用可能な基本脅威検出のデフォルト設定について説明します。

Table 188: 基本的な脅威の検出のデフォルト設定

パケットドロップの理由	脅威検出の設定
基本的なファイアウォールドロップ	平均レート 400 パケット/秒 (pps) バーストレート 1600 pps レート間隔 600 秒
インスペクションベースのファイアウォールドロップ	平均レート 400 pps バーストレート 1600 pps レート間隔 600 秒
SYN 攻撃ファイアウォールドロップ	平均レート 100 pps バーストレート 200 pps レート間隔 600 秒

## ハーフオープン接続の制限

ファイアウォールセッションテーブルでは、ファイアウォールのハーフオープン接続数を制限できるようになっています。ハーフオープンセッション数を制限することで、ハーフオープンセッションでボックスごとのレベルや **Virtual Routing and Forwarding (VRF)** レベルでファイアウォールセッションテーブルをいっぱいにしてセッションを確立できないようにする攻撃に対し、ファイアウォールを防御できます。ハーフオープン接続の制限は、レイヤ4プロトコル、**Internet Control Message Protocol (ICMP)**、**TCP**、**UDP** に対して設定できます。UDP ハーフオープンセッション数に対して設定された制限は、**TCP** や **ICMP** のハーフオープンセッショ

ンには影響しません。設定されたハーフオープンセッションの制限を超えると、すべての新規セッションが拒否され、ログメッセージが Syslog または高速ロガー（HSL）に生成されます。

次のセッションはハーフオープンセッションと見なされます。

- 3 ウェイ ハンドシェイクを完了していない TCP セッション。
- UDP フローで 1 つのパケットだけが検出された UDP セッション。
- ICMP エコー要求または ICMP タイムスタンプ要求に対する応答を受信していない ICMP セッション。

## TCP SYN フラッド攻撃

グローバルの TCP SYN フラッド制限を設定して、SYN フラッド攻撃を制限できます。TCP SYN フラッド攻撃は、サービス妨害（DoS）攻撃の一種です。設定済みの TCP SYN フラッド制限に達すると、ファイアウォールは、さらにセッションを作成する前に、セッションの送信元を確認します。通常は、TCP SYN パケットはファイアウォールの背後のターゲット エンドホストまたはサブネットアドレスの範囲に送信されます。これらの TCP SYN パケットによって、送信元 IP アドレスがスプーフィングされます。スプーフィング攻撃では、個人やプログラムが偽のデータを使用してネットワーク内のリソースにアクセスしようとします。TCP SYN フラディングは、ファイアウォールまたはエンドホスト上のすべてのリソースを乗っ取る可能性があるため、サービス妨害がトラフィックを正当化することになります。TCP SYN フラッド保護は、VRF レベルとゾーン レベルで設定できます。

SYN フラッド攻撃は、次の 2 つのタイプに分類されます。

- ホストフラッド：SYN フラッドパケットが単一のホストに送信され、そのホスト上のすべてのリソースを使用することが意図されます。
- ファイアウォールセッションテーブルフラッド：SYN フラッドパケットがファイアウォールの背後のアドレスの範囲に送信され、ファイアウォール上のセッションテーブルリソースを枯渇させ、その結果、リソースの拒否がファイアウォールを通過するトラフィックを正当化することが意図されます。

## ファイアウォール リソース管理

リソース管理では、デバイス上の共有リソースの利用レベルが制限されます。デバイス上の共有リソースには次のものがあります。

- 帯域幅
- 接続状態
- メモリ使用率（テーブル単位）
- セッションまたはコールの数
- Packets per second（1 秒あたりのパケット数）

- Ternary content addressable memory (TCAM) エントリ

ファイアウォール リソース管理機能は、ゾーンベースのファイアウォール リソース管理をクラス レベルから VRF レベルおよびグローバル レベルに拡張します。クラス レベルのリソース管理は、クラス レベルでファイアウォール セッションのリソースを保護します。たとえば、最大セッション制限、セッション レート制限、不完全セッション制限などのパラメータは、ファイアウォール リソース (チャンク メモリなど) を保護し、これらのリソースが単一クラスによって使い果たされないようにします。

複数の Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスが同じポリシーを共有する場合、1 つの VRF インスタンスからのファイアウォール セッション設定要求によって総セッション数が最大制限に達する可能性があります。1 つの VRF がデバイス上で最大量のリソースを消費すると、他の VRF インスタンスがデバイス リソースを共有することが難しくなります。VRF ファイアウォール セッションの数を制限するには、ファイアウォール リソース管理機能を使用できます。

グローバル レベルでは、ファイアウォール リソース管理機能により、グローバル ルーティング ドメインでのファイアウォール セッションによるリソースの使用を制限できます。

## ファイアウォール セッション

### セッション定義

Virtual Routing and Forwarding (VRF) レベルでは、ファイアウォール リソース管理機能により、各 VRF インスタンスのファイアウォール セッション数が追跡されます。グローバル レベルでは、ファイアウォール リソース管理機能により、デバイスレベルではなくグローバル ルーティング ドメインでのファイアウォール セッションの合計数が追跡されます。VRF とグローバル レベルの両方では、セッション数はオープンセッションとハーフオープンセッションと不正確なファイアウォール セッション データベース内のセッションの合計です。まだ確立状態に達していない TCP セッションは、ハーフオープンセッションと呼ばれます。

ファイアウォールには 2 つのセッション データベースがあります。1 つはセッション データベースで、もう 1 つは不正確なセッション データベースです。セッション データベースには、5 つのタプル (送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、送信元ポート、宛先ポート、およびプロトコル) のセッションが含まれます。タプルは、要素の番号付きリストです。不正確なセッション データベースには、5 つ未満のタプル (欠落した IP アドレス、ポート番号など) のセッションが含まれます。

次の規則は、セッション制限の設定に適用されます。

- クラスレベルセッションの上限は、グローバルの制限を超える可能性があります。
- クラスレベルセッションの上限は、関連する VRF セッションの最大値を超える可能性があります。
- VRF 制限値の合計は、グローバルなコンテキストを含め、ハードコーディングされたセッションの制限を超える可能性があります。

## セッション レート

セッションレートは、セッションが特定の時間間隔で確立されるレートです。最大および最小セッションレート制限を定義できます。セッションレートが指定された最大レートを超えると、ファイアウォールは新しいセッションのセットアップ要求を拒否し始めます。

リソース管理の観点から最大および最小セッションレート制限を設定すると、多数のファイアウォールセッションのセットアップ要求が受信された場合に、Cisco Packet Processor が過負荷になることを防ぐのに役立ちます。

## 未完了またはハーフオープン セッション

未完了セッションはハーフオープンセッションです。未完了セッションで使用されるリソースがカウントされ、未完了セッション数の増加は最大セッション数制限を設定することにより制限されます。

## ファイアウォール リソース管理セッション

ファイアウォール リソース管理セッションには次のルールが適用されます。

- デフォルトでは、オープンセッションまたはハーフオープンセッションのセッション制限は無制限です。
- オープンセッションまたはハーフオープンセッションは、パラメータで制限され、個別にカウントされます。
- オープンセッションの数またはハーフオープンセッションの数には、Internet Control Message Protocol (ICMP)、TCP、またはUDPセッションが含まれます。
- オープンセッションの数とレートを制限できます。
- ハーフオープンセッションではセッションの数だけを制限できます。

# IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの設定方法

## IPv6 ファイアウォールの設定

IPv4 ファイアウォールと IPv6 ファイアウォールを設定する手順は同じです。IPv6 ファイアウォールを設定するには、IPv6 アドレス ファミリーだけがマッチングされるようにクラス マップを設定する必要があります。

**match protocol** コマンドは IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方に適用され、IPv4 ポリシーと IPv6 ポリシーのどちらにもこれを含めることができます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **vrf-definition** *vrf-name*
4. **address-family ipv6**
5. **exit-address-family**
6. **exit**
7. **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
8. **sessions maximum** セッション
9. **exit**
10. **ipv6 unicast-routing**
11. **ip port-map** *appl-name* **port** *port-num* **list** *list-name*
12. **ipv6 access-list** *access-list-name*
13. **permit ipv6 any any**
14. **exit**
15. **class-map type inspect match-all** *class-map-name*
16. **match access-group name** *access-group-name*
17. **match protocol** *protocol-name*
18. **exit**
19. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
20. **class type inspect** *class-map-name*
21. **inspect** [*parameter-map-name*]
22. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを開始します。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>vrf-definition</b> <i>vrf-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# vrf-definition VRF1	Virtual Routing and Forwarding (VRF) ルーティング テーブルインスタンスを設定し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>address-family ipv6</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# address-family ipv6	VRF アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始して、標準 IPv6 アドレス プレフィックスを伝送するセッションを設定します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>exit-address-family</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf-af)# exit-address-family	VRF アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを終了し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# exit	VRF コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>parameter-map type inspect parameter-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect ipv6-param-map	ファイアウォールのグローバル検査タイプパラメータマップを、検査アクションに関連するしきい値、タイムアウト、その他のパラメータに接続できるようにし、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>sessions maximum</b> セッション <b>Example:</b> Device(config-profile)# sessions maximum 10000	ゾーン ペア上に存在可能な最大許容セッション数を設定します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト データグラムの転送を有効にします。
ステップ 11	<b>ip port-map appl-name port port-num list list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip port-map ftp port 8090 list ipv6-acl	IPv6 アクセス コントロール リスト (ACL) を使用してポート/アプリケーション間マッピング (PAM) を確立します。
ステップ 12	<b>ipv6 access-list access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ipv6 access-list ipv6-acl	IPv6 アクセスリストを定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>permit ipv6 any any</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 any any	IPv6 アクセス リストに許可条件を設定します。
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ipv6-acl)# exit	IPv6 アクセスリストコンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 15	<b>class-map type inspect match-all</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-all ipv6-class	アプリケーション固有の検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 16	<b>match access-group name</b> <i>access-group-name</i> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match access-group name ipv6-acl	指定した ACL をベースにクラス マップに対して一致基準を設定します。
ステップ 17	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol tcp	指定されたプロトコルに基づき、クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 18	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 19	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect ipv6-policy	プロトコル固有の検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 20	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect ipv6-class	アクションの実行対象となるトラフィック クラスを指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 21	<b>inspect</b> [ <i>parameter-map-name</i> ] <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect ipv6-param-map	ステートフル パケット インспекションをイネーブルにします。
ステップ 22	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ファイアウォール セッションのアグレッシブ エージングの設定

アグレッシブ エージング機能は、ボックス単位（ボックス単位とは、ファイアウォールセッションテーブル全体を意味します）、デフォルト VRF、および VRF 単位のファイアウォールセッションに設定できます。アグレッシブ エージング機能が動作するには、ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングおよびエージングアウト時間を設定する必要があります。

ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージングを設定するには、次の作業を実行します。

## ボックス単位のアグレッシブ エージングの設定

ボックス単位とは、ファイアウォールセッションテーブル全体という意味です。 **parameter-map type inspect-global** コマンドに続くすべての設定がボックスに適用されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **per-box max-incomplete number aggressive-aging high {value low value | percent percent low percent percent}**
5. **per-box aggressive-aging high {value low value | percent percent low percent percent}**
6. **exit**
7. **parameter-map type inspect parameter-map-name**
8. **tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]**
9. **end**
10. **show policy-firewall stats global**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li>• <b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値およびタイムアウトのグローバルパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p>これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順4と手順5をスキップしてください。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、<b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての<b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。</p>
ステップ 4	<p><b>per-box max-incomplete</b> <i>number</i> <b>aggressive-aging high</b> {<i>value low value</i>   <b>percent percent low percent percent</b>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# per-box max-incomplete 2000 aggressive-aging high 1500 low 1200</pre>	ファイアウォールセッションテーブル内のハーフオープンセッションの上限およびアグレッシブエージング レートを設定します。
ステップ 5	<p><b>per-box aggressive-aging high</b> {<i>value low value</i>   <b>percent percent low percent percent</b>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# per-box aggressive-aging high 1700 low 1300</pre>	総セッションのアグレッシブ エージング制限を設定します。
ステップ 6	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# exit</pre>	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<p><b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# parameter-map type inspect pmap1</pre>	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<p><b>tcp synwait-time</b> <i>seconds</i> [<b>ageout-time</b> <i>seconds</i>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10</pre>	<p>セッションをドロップする前に、TCPセッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アグレッシブ エージングがイネーブルになった後、最も古いTCP接続のSYN待機タイマーが、デフォルトから設定済みエージアウト時間にリセットされます。この例では、接続がタイムアウトするまで30秒待機する代わりに、最も古いTCP接続のタイムアウトが10秒に設定</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		されます。接続が低ウォーターマークを下回ると、アグレッシブ エージングはディセーブルになります。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 10	<b>show policy-firewall stats global</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats global	グローバル ファイアウォール統計情報を表示します。

## デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定

**max-incomplete aggressive-aging** command, it applies to the default VRF. を設定する場合

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します :
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **max-incomplete number aggressive-aging high {value low value | percent percent low percent percent}**
5. **session total number [aggressive-aging high {value low value | percent percent low percent percent}]**
6. **exit**
7. **parameter-map type inspect parameter-map-name**
8. **tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]**
9. **end**
10. **show policy-firewall stats vrf global**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します : <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li>• <b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値およびタイムアウトのグローバル パラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順5をスキップしてください。</li> </ul> <b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は <b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。
ステップ 4	<b>max-incomplete number aggressive-aging high {value low value   percent percent low percent percent}</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# max-incomplete 3455 aggressive-aging high 2345 low 2255	ハーフオープン ファイアウォールセッションの上限およびアグレッシブ エージング制限を設定します。
ステップ 5	<b>session total number [aggressive-aging high {value low value   percent percent low percent percent}]</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 1000 aggressive-aging high percent 80 low percent 60	総ファイアウォールセッションの合計制限およびアグレッシブ エージング制限を設定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>parameter-map type inspect parameter-map-name</b> <b>Example:</b>	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップ

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# parameter-map type inspect pmap1	タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10	セッションをドロップする前に、TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アグレッシブ エージングがイネーブルになった後、最も古い TCP 接続の SYN 待機タイマーが、デフォルトから設定済みエージアウト時間にリセットされます。この例では、接続がタイムアウトするまで 30 秒待機する代わりに、最も古い TCP 接続のタイムアウトが 10 秒に設定されます。接続が低ウォーターマークを下回ると、アグレッシブ エージングはディセーブルになります。</li> </ul>
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 10	<b>show policy-firewall stats vrf global</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf global	グローバル VRF ファイアウォール ポリシー統計を表示します。

## VRF 単位のアグレッシブ エージングの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip vrf vrf-name**
4. **rd route-distinguisher**
5. **route-target export route-target-ext-community**
6. **route-target import route-target-ext-community**
7. **exit**
8. **parameter-map type inspect-vrf vrf-pmap-name**
9. **max-incomplete number aggressive-aging high {value low value | percent percent low percent percent}**
10. **session total number [aggressive-aging {high value low value | percent percent low percent percent}]**
11. **alert on**
12. **exit**
13. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**

- **parameter-map type inspect global**

14. **vrf** *vrf-name* **inspect** *vrf-pmap-name*
15. **exit**
16. **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
17. **tcp idle-time** *seconds* [**ageout-time** *seconds*]
18. **tcp synwait-time** *seconds* [**ageout-time** *seconds*]
19. **exit**
20. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
21. **class type inspect match-any** *class-map-name*
22. **inspect** *parameter-map-name*
23. **end**
24. **show policy-firewall stats vrf** *vrf-pmap-name*

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip vrf</b> <i>vrf-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# ip vrf ddos-vrf1	VRF インスタンスを定義し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>rd</b> <i>route-distinguisher</i> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# rd 100:2	VRF インスタンスのルート識別子 (RD) を指定します。
ステップ 5	<b>route-target export</b> <i>route-target-ext-community</i> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# route-target export 100:2	ルートターゲット拡張コミュニティを作成し、ルーティング情報をターゲット VPN 拡張コミュニティにエクスポートします。
ステップ 6	<b>route-target import</b> <i>route-target-ext-community</i> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# route-target import 100:2	ルートターゲット拡張コミュニティを作成し、ターゲット VPN 拡張コミュニティからルーティング情報をインポートします。



	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-vrf)# exit	VRF コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>parameter-map type inspect-vrf vrf-pmap-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap	VRF 検査タイプ パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>max-incomplete number aggressive-aging high {value low value   percent percent low percent percent}</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# max-incomplete 2000 aggressive-aging high 1500 low 1200	ハーフ オープン セッションの上限およびアグレッシブ エージング制限を設定します。
ステップ 10	<b>session total number [aggressive-aging {high value low value   percent percent low percent percent}]</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 1000 aggressive-aging high percent 80 low percent 60	総セッション制限および総セッションに関するアグレッシブ エージング制限を設定します。  • 総セッション制限は、絶対値またはパーセンテージとして設定できます。
ステップ 11	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフル パケット インспекションのアラート メッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	次のいずれかのコマンドを入力します。  • <b>parameter-map type inspect-global</b> • <b>parameter-map type inspect global</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	グローバル パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。  • リリースに基づいて、 <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。  • <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順 14 をスキップしてください。

	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> <code>parameter-map type inspect-global</code> コマンドを設定する場合は、 <code>per-box</code> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <code>per-box</code> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。
ステップ 14	<code>vrf vrf-name inspect vrf-pmap-name</code> <b>Example:</b> Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap	パラメータ マップに VRF をバインドします。
ステップ 15	<code>exit</code> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 16	<code>parameter-map type inspect parameter-map-name</code> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap1	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 17	<code>tcp idle-time seconds [ageout-time seconds]</code> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp idle-time 3000 ageout-time 100	アイドル状態の TCP セッションのタイムアウト、および TCP セッションのアグレッシブ エージングアウト時間を設定します。
ステップ 18	<code>tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]</code> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10	セッションをドロップする前に、TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>アグレッシブ エージングがイネーブルになると、最も古い TCP 接続の SYN 待機タイマーが、デフォルトから設定済みエージアウト時間にリセットされます。この例では、接続がタイムアウトするまで 30 秒待機する代わりに、最も古い TCP 接続のタイムアウトが 10 秒に設定されます。接続が低ウォーターマークを下回ると、アグレッシブ エージングはディセーブルになります。</li></ul>
ステップ 19	<code>exit</code> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 20	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw	プロトコル固有の検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 21	<b>class type inspect match-any</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect match-any ddos-class	アクションの実行対象となるトラフィック (クラス) を指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 22	<b>inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect pmap1	パラメータ マップのステートフルパケット インспекションをディセーブルにします。
ステップ 23	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 24	<b>show policy-firewall stats vrf</b> <i>vrf-pmap-name</i> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap	VRF レベル ポリシー ファイアウォール 統計情報を表示します。

## 例

次に、**show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap
```

```
VRF: vrf1, Parameter-Map: vrf1-pmap
Interface reference count: 2
Total Session Count(estab + half-open): 80, Exceed: 0
Total Session Aggressive Aging Period Off, Event Count: 0

          Half Open
Protocol Session Cnt    Exceed
-----
All          0          0
UDP          0          0
ICMP         0          0
TCP          0          0

TCP Syn Flood Half Open Count: 0, Exceed: 116
Half Open Aggressive Aging Period Off, Event Count: 0
```

## ファイアウォールセッションのエージングアウトの設定

ICMP、TCP、またはUDPファイアウォールセッションのエージングアウトを設定できます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **vrf vrf-name inspect vrf-pmap-name**
5. **exit**
6. **parameter-map type inspect parameter-map-name**
7. **tcp idle-time seconds [ageout-time seconds]**
8. **tcp synwait-time seconds [ageout-time seconds]**
9. **exit**
10. **policy-map type inspect policy-map-name**
11. **class type inspect match-any class-map-name**
12. **inspect parameter-map-name**
13. **end**
14. **show policy-firewall stats vrf vrf-pmap-name**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li>• <b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspectglobal	グローバルパラメータ マップを設定し、パラメータ マップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順4をスキップしてください。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> <code>parameter-map type inspect-global</code> コマンドを設定する場合は、 <b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。
ステップ 4	<b>vrf</b> <i>vrf-name</i> <b>inspect</b> <i>vrf-pmap-name</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap	パラメータ マップに VRF をバインドします。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap1	接続しきい値、タイムアウト、およびその他の <b>inspect</b> アクションに関連するパラメータの検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>tcp idle-time</b> <i>seconds</i> [ <b>ageout-time</b> <i>seconds</i> ] <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp idle-time 3000 ageout-time 100	アイドル状態の TCP セッションのタイムアウト、および TCP セッションのアグレッシブ エージングアウト時間を設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、<b>tcp finwait-time</b> コマンドを設定すると、終了 (FIN) 交換がファイアウォールで検出された後に TCP セッションを管理する時間の長さを指定できます。または <b>tcp synwait-time</b> コマンドを設定すると、セッションをドロップする前に TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定できます。</li> </ul>
ステップ 8	<b>tcp synwait-time</b> <i>seconds</i> [ <b>ageout-time</b> <i>seconds</i> ] <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10	セッションをドロップする前に、TCP セッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• アグレッシブ エージングがイネーブルになると、最も古い TCP 接続の SYN 待機タイマーが、デフォルトから設定済みエージングアウト時間にリセットされます。この例では、接続がタイムアウトするまで 30 秒待機する代わりに、最も古い TCP 接続のタイムアウトが 10 秒に設定されます。接続が低ウォーターマークを下回る</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		と、アグレッシブ エージングがイネーブルになります。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>policy-map type inspect <i>policy-map-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw	プロトコル固有の検査タイプポリシーマップを作成し、QoS ポリシーマップコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>class type inspect match-any <i>class-map-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect match-any ddos-class	アクションの実行対象となるトラフィッククラスを指定し、QoS ポリシーマップクラスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 12	<b>inspect <i>parameter-map-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect pmap1	パラメータマップのステートフルパケットインスペクションをディセーブルにします。
ステップ 13	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoS ポリシーマップクラスコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 14	<b>show policy-firewall stats vrf <i>vrf-pmap-name</i></b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap	VRF レベルポリシーファイアウォール統計情報を表示します。

## 例

次に、**show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap
```

```
VRF: vrf1, Parameter-Map: vrf1-pmap
Interface reference count: 2
Total Session Count(estab + half-open): 270, Exceed: 0
Total Session Aggressive Aging Period Off, Event Count: 0
```

```

                Half Open
Protocol Session Cnt    Exceed
-----
All          0            0
UDP          0            0
ICMP         0            0
TCP          0            0

```

```
TCP Syn Flood Half Open Count: 0, Exceed: 12
Half Open Aggressive Aging Period Off, Event Count: 0
```

## ファイアウォール イベント レート モニタリングの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect-zone** *zone-pmap-name*
4. **alert on**
5. **threat-detection basic-threat**
6. **threat-detection rate fw-drop average-time-frame** *seconds* **average-threshold** *packets-per-second* **burst-threshold** *packets-per-second*
7. **threat-detection rate inspect-drop average-time-frame** *seconds* **average-threshold** *packets-per-second* **burst-threshold** *packets-per-second*
8. **threat-detection rate syn-attack average-time-frame** *seconds* **average-threshold** *packets-per-second* **burst-threshold** *packets-per-second*
9. **exit**
10. **zone security** *security-zone-name*
11. **protection** *parameter-map-name*
12. **exit**
13. **zone-pair security** *zone-pair-name* **source** *source-zone* **destination** *destination-zone*
14. **end**
15. **show policy-firewall stats zone**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-zone</b> <i>zone-pmap-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-zone zone-pmap1	ゾーン検査パラメータ マップを設定し、パラメータ マップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ゾーンに関するステートフルパケットインスペクションのアラートメッセージのコンソール表示を有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>log</b> コマンドを使用すると、アラートのログを Syslog または高速ロガー (HSL) のいずれかに設定できます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>threat-detection basic-threat</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# threat-detection basic-threat	ゾーンの基本脅威検出を設定します。
ステップ 6	<b>threat-detection rate fw-drop average-time-frame seconds average-threshold packets-per-second burst-threshold packets-per-second</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# threat-detection rate fw-drop average-time-frame 600 average-threshold 100 burst-threshold 100	ファイアウォールドロップイベントの脅威検出レートを設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>threat-detection rate</b> コマンドを設定する前に、<b>threat-detection basic-threat</b> コマンドを設定する必要があります。</li> </ul>
ステップ 7	<b>threat-detection rate inspect-drop average-time-frame seconds average-threshold packets-per-second burst-threshold packets-per-second</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# threat-detection rate inspect-drop average-time-frame 600 average-threshold 100 burst-threshold 100	ファイアウォールインスペクションベースのドロップイベントに関する脅威検出レートを設定します。
ステップ 8	<b>threat-detection rate syn-attack average-time-frame seconds average-threshold packets-per-second burst-threshold packets-per-second</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# threat-detection rate syn-attack average-time-frame 600 average-threshold 100 burst-threshold 100	TCP SYN 攻撃イベントの脅威検出レートを設定します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>zone security security-zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone security public	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<b>protection</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# protection zone-pmap1	ゾーン検査パラメータ マップをゾーンにアタッチし、ゾーン検査パラメータ マップで設定されている機能をゾーンに適用します。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 13	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> <b>source</b> <i>source-zone</i> <b>destination</b> <i>destination-zone</i> <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security private2public source private destination public	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペアコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 14	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# end	セキュリティゾーンペアコンフィギュレーションモードを終了し、特権EXECモードを開始します。
ステップ 15	<b>show policy-firewall stats zone</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats zone	ゾーン レベルでのポリシー ファイアウォール統計情報を表示します。

## ボックス単位のハーフオープン セッション制限の設定

ボックス単位とは、ファイアウォールセッションテーブル全体という意味です。 **parameter-map type inspect-global** コマンドに続くすべての設定がボックスに適用されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **alert on**
5. **per-box max-incomplete** *number*
6. **session total** *number*
7. **end**
8. **show policy-firewall stats global**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li><b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値およびタイムアウトのグローバルパラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ 検査コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドと <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドがサポートされます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li><b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順 5 および手順 6 をスキップしてください。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、<b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての<b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。</p>
ステップ 4	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフル パケット インспекションのアラートメッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 5	<b>per-box max-incomplete number</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# per-box max-incomplete 12345	ファイアウォールセッションテーブルのハーフオープン接続の最大数を設定します。
ステップ 6	<b>session total number</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 34500	ファイアウォールセッション テーブルの合計セッション制限を設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 8	<b>show policy-firewall stats global</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats global	グローバル ファイアウォール統計情報を表示します。

## VRF 検査パラメータ マップ用のハーフオープンセッション制限の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect-vrf** *vrf-name*
4. **alert on**
5. **max-incomplete** *number*
6. **session total** *number*
7. **exit**
8. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
9. **alert on**
10. **vrf** *vrf-name* **inspect** *vrf-pmap-name*
11. **end**
12. **show policy-firewall stats vrf** *vrf-pmap-name*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-vrf</b> <i>vrf-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap	VRF 検査パラメータ マップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフルパケットインスペクションのアラートメッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 5	<b>max-incomplete</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# max-incomplete 2000	VRF ごとのハーフオープン接続の最大数を設定します。
ステップ 6	<b>session total</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 34500	VRF の総セッション制限を設定します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b></li> <li>• <b>parameter-map type inspect global</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global	接続しきい値およびタイムアウトのグローバルパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドまたは <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドのいずれかを使用できます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li>• <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順 10 をスキップしてください。</li> </ul> <b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は <b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。

	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	ステートフル パケット インスペクションのアラートメッセージのコンソール表示をイネーブにします。
ステップ 10	<b>vrf vrf-name inspect vrf-pmap-name</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap	グローバルパラメータマップに VRF をバインドします。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 12	<b>show policy-firewall stats vrf vrf-pmap-name</b> <b>Example:</b> Device# show policy-firewall stats vrf vrf1-pmap	VRF レベル ポリシー ファイアウォール統計情報を表示します。

## グローバル TCP SYN フラッド制限の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **parameter-map type inspect-global**
  - **parameter-map type inspect global**
4. **alert on**
5. **per-box tcp syn-flood limit number**
6. **end**
7. **show policy-firewall stats vrf global**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 3	<p>次のいずれかのコマンドを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>parameter-map type inspect-global</li> <li>parameter-map type inspect global</li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# parameter-map type inspect-global Device(config)# parameter-map type inspect global</pre>	<p>グローバルパラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リリースに基づいて、<b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドまたは <b>parameter-map type inspect global</b> コマンドのいずれかを設定できます。これら両方のコマンドを一緒に設定することはできません。</li> <li><b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、手順 5 をスキップしてください。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>parameter-map type inspect-global</b> コマンドを設定する場合は、<b>per-box</b> コンフィギュレーションがサポートされません。これは、デフォルトですべての <b>per-box</b> コンフィギュレーションがすべてのファイアウォールセッションに適用されるためです。</p>
ステップ 4	<p><b>alert on</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# alert on</pre>	ステートフル パケット インспекションのアラートメッセージのコンソール表示をイネーブルにします。
ステップ 5	<p><b>per-box tcp syn-flood limit number</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# per-box tcp syn-flood limit 500</pre>	新しい SYN パケットの SYN Cookie 処理をトリガーする TCP ハーフ オープンセッションの数を制限します。
ステップ 6	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-profile)# end</pre>	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 7	<p><b>show policy-firewall stats vrf global</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# show policy-firewall stats vrf global</pre>	<p>(任意) グローバル VRF ファイアウォールポリシーのステータスを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>存在する TCP ハーフ オープンセッションの数もまたコマンド出力に表示されます。</li> </ul>

## 例

次に、**show policy-firewall stats vrf global** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show policy-firewall stats vrf global

Global table statistics
total_session_cnt: 0
exceed_cnt: 0
tcp_half_open_cnt: 0
syn_exceed_cnt: 0
```

## ファイアウォール リソース管理の設定



**Note** グローバルパラメータマップは、ルータ レベルではなく、グローバルルーティングドメインで有効になります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect-vrf vrf-pmap-name**
4. **session total number**
5. **tcp syn-flood limit number**
6. **exit**
7. **parameter-map type inspect-global**
8. **vrf vrf-name inspect parameter-map-name**
9. **exit**
10. **parameter-map type inspect-vrf vrf-default**
11. **session total number**
12. **tcp syn-flood limit number**
13. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-vrf</b> <i>vrf-pmap-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap	VRF 検査タイプパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>session total</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 1000	セッションの総数を設定します。
ステップ 5	<b>tcp syn-flood limit</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp syn-flood limit 2000	新しい SYN パケットの同期 (SYN) Cookie 処理をトリガーする TCP ハーフオープンセッションの数を制限します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>parameter-map type inspect-global</b> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-global	グローバルパラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	<b>vrf</b> <i>vrf-name</i> <b>inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap	VRF をパラメータマップにバインドします。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>parameter-map type inspect-vrf</b> <i>vrf-default</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf-default	デフォルトの VRF 検査タイプパラメータマップを設定します。
ステップ 11	<b>session total</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# session total 6000	セッションの総数を設定します。  • VRF 検査タイプパラメータマップ用およびグローバルパラメータマップ用に <b>session total</b> コマンドを設定できます。VRF 検査タイプパラメータマップ用に <b>session total</b> コマンドを設定する場合、VRF 検査タイプパラメータマップにセッションが関連付けられます。グローバルパラメータマップ用に <b>session total</b> コマンドを設定する場合、このコマンドはグローバルルーティングドメインに適用されます。



	Command or Action	Purpose
ステップ 12	<b>tcp syn-flood limit</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp syn-flood limit 7000	新しい SYN パケットの SYN Cookie 処理をトリガーする TCP ハーフ オープン セッションの数を制限します。
ステップ 13	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの設定例

### 例：IPv6 ファイアウォールの設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# vrf-definition VRF1
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# exit-address-family
Device(config-vrf)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect ipv6-param-map
Device(config-profile)# sessions maximum 10000
Device(config-profile)# exit
Device(config)# ipv6 unicast-routing
Device(config)# ip port-map ftp port 8090 list ipv6-acl
Device(config)# ipv6 access-list ipv6-acl
Device(config-ipv6-acl)# permit ipv6 any any
Device(config-ipv6-acl)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-all ipv6-class
Device(config-cmap)# match access-group name ipv6-acl
Device(config-cmap)# match protocol tcp
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect ipv6-policy
Device(config-pmap)# class type inspect ipv6-class
Device(config-pmap-c)# inspect ipv6-param-map
Device(config-pmap-c)# end

```

### 例：ファイアウォール セッションのアグレッシブ エージングの設定

#### 例：ボックス単位のアグレッシブ エージングの設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# per-box max-incomplete 2000 aggressive-aging 1500 low 1200
Device(config-profile)# per-box aggressive-aging high 1700 low 1300
Device(config-profile)# exit

```

## 例：デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定

```
Device(config)# parameter-map type inspect pmap1
Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10
Device(config-profile)# end
```

## 例：デフォルト VRF のアグレッシブ エージングの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# max-incomplete 2000 aggressive-aging high 1500 low 1200
Device(config-profile)# session total 1000 aggressive-aging high percent 80 low percent
60
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect pmap1
Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10
Device(config-profile)# end
```

## 例：VRF 単位のアグレッシブ エージングの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# ip vrf ddos-vrf1
Device(config-vrf)# rd 100:2
Device(config-vrf)# route-target export 100:2
Device(config-vrf)# route-target import 100:2
Device(config-vrf)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap
Device(config-profile)# max-incomplete 3455 aggressive-aging high 2345 low 2255
Device(config-profile)# session total 1000 aggressive-aging high percent 80 low percent
60
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect pmap1
Device(config-profile)# tcp idle-time 3000 ageout-time 100
Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10
Device(config-profile)# exit
Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw
Device(config-pmap)# class type inspect match-any ddos-class
Device(config-pmap-c)# inspect pmap1
Device(config-profile)# end
```

## 例：ファイアウォール セッションのエージングアウトの設定

```
Device# configure terminal
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect pmap1
Device(config-profile)# tcp idle-time 3000 ageout-time 100
Device(config-profile)# tcp synwait-time 30 ageout-time 10
Device(config-profile)# exit
Device(config)# policy-map type inspect ddos-fw
Device(config-profile)# class type inspect match-any ddos-class
```

```
Device(config-profile)# inspect pmap1
Device(config-profile)# end
```

## 例：ファイアウォール イベント レート モニタリングの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect zone zone-pmap1
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# threat-detection basic-threat
Device(config-profile)# threat-detection rate fw-drop average-time-frame 600
average-threshold 100 burst-threshold 100
Device(config-profile)# threat-detection rate inspect-drop average-time-frame 600
average-threshold 100 burst-threshold 100
Device(config-profile)# threat-detection rate syn-attack average-time-frame 600
average-threshold 100 burst-threshold 100
Device(config-profile)# exit
Device(config)# zone security public
Device(config-sec-zone)# protection zone-pmap1
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security private2public source private destination public
Device(config-sec-zone-pair)# end
```

## 例：ボックス単位のハーフオープン セッション制限の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# per-box max-incomplete 12345
Device(config-profile)# session total 34500
Device(config-profile)# end
```

## 例：検査 VRF パラメータ マップに対するハーフオープン セッション制限の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect vrf vrf1-pmap
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# max-incomplete 3500
Device(config-profile)# session total 34500
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf1-pmap
Device(config-profile)# end
```

## 例：グローバル TCP SYN フラッド制限の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# per-box tcp syn-flood limit 500
Device(config-profile)# end
```

## 例：ファイアウォール リソース管理の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf1-pmap
Device(config-profile)# session total 1000
Device(config-profile)# tcp syn-flood limit 2000
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect-global
Device(config-profile)# vrf vrf1 inspect pmap1
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf-default
Device(config-profile)# session total 6000
Device(config-profile)# tcp syn-flood limit 7000
Device(config-profile)# end
```

# IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">『Security Command Reference: Commands A to C』</a></li> <li>• <a href="#">『Security Command Reference: Commands D to L』</a></li> <li>• <a href="#">『Security Command Reference: Commands M to R』</a></li> <li>• <a href="#">『Security Command Reference: Commands S to Z』</a></li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 189: IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポート	Cisco IOS XE Release 3.7S	<p>IPv6 ゾーンベース ファイアウォールでは、分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理がサポートされています。</p> <p>分散型サービス妨害攻撃の防止機能は、グローバルレベル（すべてのファイアウォールセッション）および VPN ルーティングおよび転送（VRF）レベルでのサービス妨害（DoS）攻撃からの保護を提供します。分散型 DoS 攻撃を防止するため、ファイアウォールセッションのアグレッシブ エージング、ファイアウォールセッションのイベントレートモニタ、ハーフオープン接続制限、およびグローバル TCP SYN Cookie 保護を設定できます。</p> <p>ファイアウォールリソース管理機能では、デバイスで設定されているグローバルファイアウォールセッションと VPN ルーティングおよび転送（VRF）インスタンスの数が制限されます。</p>
IPv6 ファイアウォールでの分散型サービス妨害攻撃の防止およびリソース管理のサポート	Cisco IOS XE Release 3.10S	Cisco IOS XE リリース 3.10S では、Cisco CSR 1000 シリーズ ルータのサポートが追加されました。



## 第 142 章

# フローあたりの同時パケットの設定可能数

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでは、フローあたりの同時パケットの数は 25 に制限されており、この制限を超えるパケットはドロップされます。この制限に達したためにパケットのドロップが発生すると、ネットワークのパフォーマンスに影響します。フローあたりの設定可能な同時パケット数機能では、フローあたりの同時パケットの数を 25 ～ 100 の範囲で設定できます。

このモジュールではこの機能について概説し、この機能を設定する方法を説明します。

- [フローあたりの同期パケットの設定可能数に関する制約事項 \(1983 ページ\)](#)
- [フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する情報 \(1984 ページ\)](#)
- [フローあたりの同時パケット数の設定方法 \(1985 ページ\)](#)
- [フローあたりの同時パケットの設定可能数の設定例 \(1990 ページ\)](#)
- [フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する追加情報 \(1992 ページ\)](#)
- [フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する機能情報 \(1992 ページ\)](#)

## フローあたりの同期パケットの設定可能数に関する制約事項

- TCP ウィンドウ スケール オプションが設定されている場合、ファイアウォールはフローあたりの多すぎる TCP パケットを同時に処理できないため、設定された制限を超えたパケットはドロップされます。TCP ウィンドウ スケール オプションが有効になっている場合は、使用可能な最大ウィンドウ サイズが 1 GB になります。

標準の TCP ウィンドウ サイズは 2～65,535 バイトの間です。TCP ペイロード サイズが 655 バイト未満の場合は、1 つの TCP ウィンドウに属しているすべての TCP パケットを 100 個の同時パケットに含めることができないため、パケットドロップが発生する可能性があります。パケットドロップを回避するには、TCP ペイロード サイズを大きくするか、TCP ウィンドウ サイズを小さくすることをお勧めします。

- 各プラットフォームで利用可能な総スレッド数は有効なライセンスレベルによって異なります。設定されたフローあたりの同時パケット数が利用可能なハードウェアスレッド数を超えている場合は、同時パケット数の設定が無効になります。

# フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する情報

## 設定可能なフローごとの同時パケット数の概要

フローごとの同時パケット数は設定可能であるため、フローごとにネットワークに入ることができる同時パケット数を増やすことができます。フローごとの同時パケット数は、25から100まで増加させることができます。デフォルトの同時パケット数は25です。

マルチスレッド環境では、ゾーンベース ポリシー ファイアウォールが単一のトラフィックフローで複数のパケットを同時に受信する場合があります。ファイアウォールがパケットの処理中に使用するロックのタイプには、フローロックとソフトウェアロックの2つがあります。フローロックでは、同じフローに属するパケットが正しい順序で処理されるようになります。通常のソフトウェアロックは、クリティカルセクションまたは共通データ構造（メモリなど）に対して、複数の Power Processing Element (PPE) スレッドが同時に読み取りや書き込みを試行する際に使用されます。

フローごとの同時パケット数が多いと、スレッドがロックを要求して取得するまでの時間が大幅に長くなります。この遅延は、リソースの再利用やハートビート処理などといったタイムクリティカルなインフラストラクチャに悪影響を与えます。遅延を制御するために、同時パケットの数は25に制限され、25を超えるパケットはドロップされていました。

ただし、パケットのドロップはシステムパフォーマンスに多大な影響を与えます。パケットのドロップを最小限に抑えるために、設定可能なフローごとの同時パケット数の機能が導入されました。フローごとの同時パケット数をデフォルトの25から最大100までに変更して設定できます。

フローごとの同時パケット数を変更するには、**parameter-map type inspect parameter-map-name** コマンドまたは **parameter-map type inspect global** コマンドの後に **session packet** コマンドを続けて設定する必要があります。**parameter-map type inspect parameter-map-name** コマンドで設定された制限は、**parameter-map type inspect global** コマンドで設定された制限より優先されます。

ファイアウォールは、Session Initiation Protocol (SIP) トランクのトラフィックを単一のセッションと見なします。ただし、SIP トランクのトラフィックには、さまざまなユーザのアプリケーション層ゲートウェイ (ALG) フローが多数含まれます。SIP トランクのトラフィックのスループットが他のトラフィックに比べて高いと、同時パケット数の制限によってパケットがドロップされて、ユーザのコールが終了される可能性があります。



# フローあたりの同時パケット数の設定方法

## フローあたりの同時パケットのクラス マップとポリシー マップの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect {match-any | match-all} class-map-name**
4. **match protocol protocol-name**
5. **exit**
6. **policy-map type inspect policy-map-name**
7. **class type inspect class-map-name**
8. **inspect**
9. **exit**
10. **class class-default**
11. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 3	<b>class-map type inspect {match-any   match-all} class-map-name</b> 例： Device(config)# class-map type inspect match-any cmap-protocols	検査タイプ クラス マップを作成して、クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol protocol-name</b> 例： Device(config-cmap)# match protocol tcp	指定されたプロトコルを基づくクラス マップの一致基準を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-cmap)# exit	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>policy-map type inspect <i>policy-map-name</i></b> 例： Device(config)# policy-map type inspect policy1	検査タイプ ポリシー マップを作成して、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>class type inspect <i>class-map-name</i></b> 例： Device(config-pmap)# class type inspect cmap-protocols	アクションを実行する対象のトラフィック クラスを指定し、ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>inspect</b> 例： Device(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 9	<b>exit</b> 例： Device(config-pmap-c)# exit	ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了して、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	<b>class class-default</b> 例： Device(config-pmap)# class class-default	デフォルト クラスのポリシーを設定または変更します。
ステップ 11	<b>end</b> 例： Device(config-pmap)# end	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## フローあたりの同時パケット数の設定

**parameter-map type inspect** コマンドまたは **parameter-map type inspect global** コマンドのいずれかを設定した後で、フローあたりの同時パケットの数を設定できます。 **parameter-map type inspect** コマンドで設定されたフローあたりの同時パケット数は、 **parameter-map type inspect global** コマンドで設定された数を上書きします。

フローあたりの同時パケットの数を設定するには、 **session packet** コマンドを設定する必要があります。



(注) ステップ 3 と 4 またはステップ 6 と 7 のどちらかを設定する必要があります。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect *parameter-map-name***
4. **session packet *number-of-simultaneous-packets***
5. **exit**
6. **parameter-map type inspect global**
7. **session packet *number-of-simultaneous-packets***
8. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect <i>parameter-map-name</i></b> 例： Device(config)# parameter-map type inspect param1	（オプション）接続しきい値、タイムアウト、および検査アクションに関連するその他のパラメータを設定する、検査タイプパラメータマップを定義します。また、parameter-map タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>session packet <i>number-of-simultaneous-packets</i></b> 例： Device(config-profile)# session packet 55	（オプション）セッションごとに設定可能な同時トラフィック パケットの数を設定します。  • <i>number-of-simultaneous-packets</i> 引数の有効値は 25 ～ 55 です。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了して、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 6	<b>parameter-map type inspect global</b> 例： Device(config)# parameter-map type inspect global	（オプション）グローバル検査パラメータマップを定義して、parameter-map タイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。

## フローあたりの同時パケットのゾーンの設定

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<b>session packet</b> <i>number-of-simultaneous-packets</i> 例： Device(config-profile)# session packet 35	(オプション) セッションごとに設定可能な同時トラフィック パケットの数を設定します。  • <i>number-of-simultaneous-packets</i> 引数の有効値は 25 ~ 55 です。
ステップ 8	<b>end</b> 例： Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

## フローあたりの同時パケットのゾーンの設定

この作業では、セキュリティゾーン、ゾーン ペアを設定し、ゾーン メンバーとしてインターフェイスを割り当てる方法を示します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security** *security-zone*
4. **exit**
5. **zone security** *security-zone*
6. **exit**
7. **zone-pair security** *zone-pair-name* **source** *source-zone* **destination** *destination-zone*
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **exit**
10. **interface** *type number*
11. **zone-member security** *zone-name*
12. **exit**
13. **interface** *type number*
14. **zone-member security** *zone-name*
15. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security security-zone</b> 例： Device(config)# zone security z1	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。  • 送信元ゾーンと宛先ゾーンという、ゾーン ペアを作成するための2つのセキュリティゾーンが必要です。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	<b>zone security security-zone</b> 例： Device(config)# zone security z2	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。  • 送信元ゾーンと宛先ゾーンという、ゾーン ペアを作成するための2つのセキュリティゾーンが必要です。
ステップ 6	<b>exit</b> 例： Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>zone-pair security zone-pair-name source source-zone destination destination-zone</b> 例： Device(config)# zone-pair security zp-security source z1 destination z2	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect policy-map-name</b> 例： Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect policy1	ファイアウォールポリシーマップを宛先ゾーンペアに付加します。  • ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。
ステップ 9	<b>exit</b> 例： Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> 例： Device(config-if)# zone-member security z1	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。  • インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます（ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除く）。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 12	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 13	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/3	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> 例： Device(config-if)# zone-member security z2	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。
ステップ 15	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## フローあたりの同時パケットの設定可能数の設定例

例：フローあたりの同時パケットのクラス マップとポリシー マップの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# class-map type inspect match-any cmap-protocols
```

```
Device(config-cmap)# match protocol tcp
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect policy1
Device(config-pmap)# class type inspect cmap-protocols
Device(config-pmap-c)# inspect
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap)# end
```

## 例：フローあたりの同時パケット数の設定

**parameter-map type inspect** コマンドまたは **parameter-map type inspect global** コマンドのいずれかを設定した後で、フローあたりの同時パケットの数を設定できます。

**parameter-map type inspect** コマンドで設定されたフローあたりの同時パケット数は、**parameter-map type inspect global** コマンドで設定された数を上書きします。

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect param1
Device(config-profile)# session packet 55
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# session packet 35
Device(config-profile)# end
```

## 例：フローあたりの同時パケットのゾーンの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# zone security z1
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security z2
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security zp-security source z1 destination z2
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect policy1
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0
Device(config-if)# zone-member security z1
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/3
Device(config-if)# zone-member security z2
Device(config-if)# end
```

## フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
ファイアウォール コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ



けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 190: フローあたりの同時パケットの設定可能数に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
フローあたりの同時パケットの設定可能数	Cisco IOS XE リリース 3.11S	<p>ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでは、フローあたりの同時パケット数が 25 に制限され、その制限を超えたパケットはドロップされました。上限に達したことによるパケットのドロップは、ネットワーク パフォーマンスに影響します。フローあたりの設定可能な同時パケット数機能では、フローあたりの同時パケットの数を 25 ～ 100 の範囲で設定できます。</p> <p>Cisco IOS XE リリース 3.11S では、この機能が Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ、およびシスコクラウドサービスルータ 1000V シリーズで導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。  <b>session packet</b>、<b>show parameter-map type inspect</b>、<b>show platform hardware qfp feature firewall datapath scb</b>、<b>show platform hardware qfp feature firewall zone-pair</b>、および <b>show platform software firewall parameter-map</b>。</p>





## 第 143 章

# ファイアウォール高速ロギング

ファイアウォール高速ロギング機能は、エクスポートフォーマットとして NetFlow バージョン 9 を使用して、ファイアウォール メッセージの高速ロギング (HSL) をサポートします。

このモジュールでは、ゾーンベース ポリシー ファイアウォールで HSL を設定する方法について説明します。

- [ファイアウォール高速ロギングに関する機能情報, on page 1995](#)
- [ファイアウォール高速ロギングに関する情報 \(1996 ページ\)](#)
- [ファイアウォール高速ロギングの設定方法 \(2020 ページ\)](#)
- [ファイアウォール高速ロギングの設定例 \(2023 ページ\)](#)

## ファイアウォール高速ロギングに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 191:** ファイアウォール高速ロギングに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ファイアウォール高速ロギング	Cisco IOS XE リリース 2.1	ファイアウォール高速ロギング サポート機能は、NetFlow バージョン 9 をエクスポート形式として使用したファイアウォール HSL のサポートを導入します。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>log dropped-packet</b> 、 <b>log flow-export v9 udp destination</b> 、 <b>log flow-export template timeout-rate</b> 、 <b>parameter-map type inspect global</b> 。

機能名	リリース	機能情報
高速ロギングを使用したゾーンベースファイアウォールの設定	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このリリースでは、送信元インターフェイスのサポートが追加されました。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>log flow-export v9 udp destination source interface interface-name</b>

## ファイアウォール高速ロギングに関する情報

### ファイアウォール高速ロギングの概要

ゾーンベース ファイアウォールでは、高速ロギング (HSL) がサポートされています。HSL が設定されている場合、ファイアウォールは (NetFlow バージョン 9 レコードと同様に) ルーティングデバイスを介して外部コレクタに伝送されるパケットのログを提供します。レコードは、セッションの作成時と破棄時に送信されます。セッションレコードには、完全な 5 タプル情報 (送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、送信元ポート、宛先ポート、およびプロトコル) が含まれます。タプルは、要素の番号付きリストです。

HSL により、ファイアウォールは、パケット処理への影響を最小限に抑えてレコードをログに記録できます。ファイアウォールは HSL にバッファ モードを使用します。バッファ モードでは、ファイアウォールは、高速ロガーバッファにレコードを直接記録し、パケットを個別にエクスポートします。



**Note** 高速ロギング (HSL) は、VASI インターフェイスを介してルーティングできません。



**Note** ゾーンベース ファイアウォールでは、最大 4 つの HSL 宛先を設定できます。

ファイアウォールは、次のタイプのイベントをログに記録します。

- 監査：セッションの作成および削除の通知。
- アラート：ハーフオープンおよび最大オープン TCP セッションの通知。
- ドロップ：パケット ドロップの通知。
- 通過：(設定済みレート制限に基づく) パケット通過の通知。
- サマリー：ポリシー ドロップと通過サマリーの通知。

NetFlow コレクタは、**show platform software interface F0 brief** コマンドを発行して、インターフェイス名に FW\_SRC\_INTF\_ID および FW\_DST\_INTF\_ID インターフェイス ID をマッピングします。

次に示す **show platform software interface F0 brief** コマンドの出力例は、[ID] カラムがインターフェイス ID をインターフェイス名 ([Name] カラム) にマッピングすることを示しています。

```
Device# show platform software interface F0 brief
```

```
Name                ID      QFP ID
GigabitEthernet0/2/0  16      9
GigabitEthernet0/2/1  17     10
GigabitEthernet0/2/2  18     11
GigabitEthernet0/2/3  19     12
```

## NetFlow フィールド ID の説明

次の表に、ファイアウォールの NetFlow テンプレート内で使用される NetFlow フィールド ID を記載します。

表 192: NetFlow フィールド ID

フィールド ID	タイプ	長さ	説明
<b>NetFlow ID フィールド (レイヤ 3 IPv4)</b>			
FW_SRC_ADDR_IPV4	8	4	発信元 IPv4 アドレス
FW_DST_ADDR_IPV4	12	4	送信先 IPv4 アドレス
FW_SRC_ADDR_IPV6	27	16	発信元 IPv6 アドレス
FW_DST_ADDR_IPV6	28	16	送信先 IPv6 アドレス
FW_PROTOCOL	4	1	IP プロトコル値
FW_IPV4_IDENT	54	4	IPv4 ID
FW_IP_PROTOCOL_VERSION	60	1	IP プロトコルバージョン
<b>フロー ID フィールド (レイヤ 4)</b>			
FW_TCP_FLAGS	6	1	TCP フラグ
FW_SRC_PORT	7	2	送信元ポート
FW_DST_PORT	11	2	宛先ポート
FW_ICMP_TYPE	176	1	ICMP <sup>(1)</sup> タイプ値
FW_ICMP_CODE	177	1	ICMP コード値

フィールド ID	タイプ	長さ	説明
FW_ICMP_IPV6_TYPE	178	1	ICMP バージョン 6 (ICMPv6) タイプ値
FW_ICMP_IPV6_CODE	179	1	ICMPv6 コード値
FW_TCP_SEQ	184	4	TCP シーケンス番号
FW_TCP_ACK	185	4	TCP 確認応答番号
<b>フロー ID フィールド (レイヤ 7)</b>			
FW_L7_PROTOCOL_ID	95	2	レイヤ 7 プロトコル ID。ファイアウォール インスペクションで使用されるレイヤ 7 アプリケーション分類を識別します。通常のレコードでは 2 バイトを使用しますが、オプションレコードでは 4 バイトを使用します。
<b>フロー名フィールド (レイヤ 7)</b>			
FLOW_FIELD_L7_PROTOCOL_NAME	96	32	レイヤ 7 プロトコル名。レイヤ 7 プロトコル ID (FW_L7_PROTOCOL_ID) に対応するレイヤ 7 プロトコル名を識別します。
<b>フロー ID フィールド (インターフェイス)</b>			
FW_SRC_INTF_ID	10	2	入力 SNMP (8) ifIndex
FW_DST_INTF_ID	14	2	出力 SNMP ifIndex
FW_SRC_VRF_ID	234	4	入力 (イニシエータ) VRF (9) ID
FW_DST_VRF_ID	235	4	出力 (レスポнда) VRF ID
FW_VRF_NAME	236	32	VRF 名
<b>マッピングされたフロー ID フィールド (ネットワーク アドレス変換)</b>			
FW_XLATE_SRC_ADDR_IPV4	225	4	マッピングされた発信元 IPv4 アドレス
FW_XLATE_DST_ADDR_IPV4	226	4	マッピングされた送信先 IPv4 アドレス
FW_XLATE_SRC_PORT	227	2	マッピングされた発信元ポート

フィールド ID	タイプ	長さ	説明
FW_XLATE_DST_PORT	228	2	マッピングされた送信先ポート
ステータスおよびイベントフィールド			
FW_EVENT	233	1	高レベルのイベント コード <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 無視 (無効)</li> <li>• 1 : フローが作成されました。</li> <li>• 2 : フローが削除されました。</li> <li>• 3 : フローが拒否されました。</li> <li>• 4 : フロー アラート</li> </ul>
FW_EXT_EVENT	35,001	2	拡張イベント コード通常のレコードでの長さは2バイト、オプションレコードでの長さは4バイトです。
タイムスタンプおよび統計情報フィールド			
FW_EVENT_TIME_MSEC	323	8	イベントが発生した時間 (ミリ秒単位) (1970 年 1 月 1 日 00:00 (UTC <sup>10</sup> ) からの経過時間。イベントがマイクロイベントの場合は 324、ナノイベントの場合は 325 を使用)
FW_INITIATOR_OCTETS	231	4	イニシエータから到着したパケットフローに含まれるレイヤ4ペイロードの合計バイト数
FW_RESPONDER_OCTETS	232	4	レスポンドから到着したパケットフローに含まれるレイヤ4ペイロードの合計バイト数
AAA フィールド			
FW_USERNAME	40,000	テンプレートに応じて20または64	AAA ( <sup>11</sup> ) ユーザ名
FW_USERNAME_MAX	40,000	64	最大許容サイズの AAA ユーザ名
アラート フィールド			

フィールド ID	タイプ	長さ	説明
FW_HALFOPEN_CNT	35,012	4	ハーフオープンセッションエントリ数
FW_BLACKOUT_SECS	35,004	4	宛先がブロックされたか、使用できなかった時間 (秒単位)
FW_HALFOPEN_HIGH	35,005	4	1分間でログに記録される TCP ハーフオープンセッションエントリ数に対して設定された最大レート
FW_HALFOPEN_RATE	35,006	4	1分間でログに記録される TCP ハーフオープンセッションエントリ数の現在のレート
FW_MAX_SESSIONS	35,008	4	このゾーンペアまたはクラス ID に許可される最大セッション数
<b>その他 (Miscellaneous)</b>			
FW_ZONEPAIR_ID	35,007	4	ゾーン ペア ID
FW_CLASS_ID	51	4	クラス ID
FW_ZONEPAIR_NAME	35,009	64	ゾーン ペア名
FW_CLASS_NAME	100	64	クラス名
FW_EXT_EVENT_DESC	35,010	32	拡張イベントの説明
FLOW_FIELD_CTS_SRC_GROUP_TAG	34000	2	Cisco TrustSec ソース タグ
FW_SUMMARY_PKT_CNT	35,011	4	ドロップ/パス サマリ レコードに示されたパケット数
FW_EVENT_LEVEL	33003	4	ログに記録されたイベントのレベルを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0x01 : ボックスごと</li> <li>• 0x02 : VRF</li> <li>• 0x03 : ゾーン</li> <li>• 0x04 : クラス マップ</li> <li>• その他の値は未定義</li> </ul>



フィールド ID	タイプ	長さ	説明
FW_EVENT_LEVEL_ID	33,004	4	FW_EVENT_LEVEL フィールドの ID を定義します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>FW_EVENT_LEVEL が 0x02 (VRF) の場合、このフィールドは VRF_ID を表します。</li> <li>FW_EVENT_LEVEL が 0x03 (ゾーン) の場合、このフィールドは ZONE_ID を表します。</li> <li>FW_EVENT_LEVEL が 0x04 (クラス マップ) の場合、このフィールドは CLASS_ID を表します。</li> <li>その他すべてのクラスでは、このフィールド ID は 0 (ゼロ) になります。 FW_EVENT_LEVEL が存在しない場合、このフィールドの値はゼロになります。</li> </ul>
FW_CONFIGURED_VALUE	33,005	4	設定済みのハーフオープン、アグレッシブ エージング、およびイベント レート モニタリングの制限を表す値。このフィールドの値の意味は、関連付けられた FW_EXT_EVENT フィールドによって異なります。
FW_ERM_EXT_EVENT	33,006	2	拡張イベント レート モニタリング コード
FW_ERM_EXT_EVENT_DESC	33,007	N (文字列)	拡張イベント レート モニタリング イベントを説明する文字列

<sup>7</sup> Internet Control Message Protocol

<sup>8</sup> Simple Network Management Protocol

<sup>9</sup> Virtual Routing and Forwarding

<sup>10</sup> 協定世界時

<sup>11</sup> 認証、認可、アカウンティング

## HSL メッセージ

以下に、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータからの Syslog メッセージの例を記載します。

表 193: Syslog メッセージおよびそのテンプレート

メッセージ ID	メッセージの説明	HSL テンプレート
FW-6-DROP_PKT タイプ: 情報	<p>Dropping %s pkt from %s %CA:%u =&gt; %CA:%u (target:class)-(%s:%s) %s %s with ip ident %u %s %s</p> <p>説明: ファイアウォールインス ペクションによりパケットがドロ ップされました。</p> <p>%s: tcp/udp/icmp/不明なプロトコ ル/L7 プロトコル</p> <p>%s: インターフェイス</p> <p>%CA:%u: IP/IP6 アドレス:ポート</p> <p>%s:%s: ゾーンペアの名前/クラス 名</p> <p>%s: 「原因 (due to)」</p> <p>%s: fw_ext_event 名</p> <p>%u: IP 識別子</p> <p>%s: TCP の場合、TCP SEQ/ACK 番号および TCP フラグ</p> <p>%s: ユーザ名</p>	FW_TEMPLATE_DROP_V4 または FW_TEMPLATE_DROP_V6

メッセージ ID	メッセージの説明	HSL テンプレート
<p><b>FW-SESS_AUDIT_TRAIL_START</b>                      タイプ : 情報</p>	<p>(target:class)-(%s:%s):Start %s                      session: initiator (%CA:%u) --                      responder (%CA:%u) from %s %s %s</p> <p>説明 : インспекションセッションが開始されました。このメッセージは、各インспекションセッションの開始時に発行され、送信元/宛先アドレスおよびポートを記録します。</p> <p>%s:%s : ゾーンペアの名前/クラス名</p> <p>%s : L4/L7 プロトコル名</p> <p>%CA:%u : IP/IP6 アドレス:ポート</p> <p>%s : インターフェイス</p> <p>%s : ユーザ名</p> <p>%s : TODO</p> <p>実際のログ :</p> <pre>*Jan 21 20:13:01.078: %IOSXE-6-PLATFORM: F0: cpp_cp: CPP:00 Thread:125 TS:00000010570290947309 %FW-6-SESS_AUDIT_TRAIL_START: Start tcp session: initiator (10.1.1.1:43365) -- responder (10.3.21.1:23) from FastEthernet0/1/0</pre>	<p>FW_TEMPLATE_START_AUDIT_V4                      または                      FW_TEMPLATE_START_AUDIT_V6</p>

メッセージ ID	メッセージの説明	HSL テンプレート
<p>FW6SESS_AUDIT_TRAIL タイプ : 情報</p>	<p>(target:class)-(%s:%s):Stop %s session: initiator (%CA:%u) sent %u bytes -- responder (%CA:%u) sent %u bytes , from %s %s</p> <p>説明 : ネットワーク アクティビ ティのセッションごとのトランザ クション ログ。このメッセージ は、各インスペクションセッシ ョンの終了時に発行され、送信元/宛 先アドレスおよびポート、クライ アントとサーバから送信されたバ イト数を記録します。</p> <p>%s:%s : ゾーンペアの名前/クラス 名</p> <p>%s : L4/L7 プロトコル名</p> <p>%CA:%u : IP/IP6 アドレス:ポート</p> <p>%u : バイトカウンタ</p> <p>%s : インターフェイス</p> <p>%s : TODO</p> <p>実際のログ :</p> <p>*Jan 21 20:13:15.889: %IOSXE-6-PLATFORM: F0: cpp_cp: CPP:00 Thread:036 TS:00000010585102587819 %FW-6-SESS_AUDIT_TRAIL: Stop tcp session: initiator (10.1.1.1:43365) sent 35 bytes -- responder (11.1.1.1:23) sent 95 bytes, from FastEthernet0/1/0</p>	<p>FW_TEMPLATE_STOP_AUDIT_V4 ま たは FW_TEMPLATE_STOP_AUDIT_V6</p>

メッセージ ID	メッセージの説明	HSL テンプレート
FW4UNBLOCK_HOST タイプ：警告	<p>(target:class)-(%s:%s):New TCP connections to host %CA no longer blocked</p> <p>説明：指定のホストへの新しい TCP 接続試行がブロックされなくなりました。このメッセージは、指定のホストへの新しい TCP 接続試行のブロッキングが解除されたことを意味します。</p> <p>%s:%s：ゾーンペアの名前/クラス名</p> <p>%CA：IP/IP6 アドレス</p>	<p>FW_TEMPLATE_ALERT_TCP_HALF_OPEN_V4 または FW_TEMPLATE_ALERT_TCP_HALF_OPEN_V6, fw_ext_event ID : FW_EXT_ALERT_UNBLOCK_HOST</p>
FW4HOST_TCP_ALERT_ON タイプ：警告	<p>"(target:class)-(%s:%s):Max tcp half-open connections (%u) exceeded for host %CA.</p> <p>説明：ハーフオープン TCP 接続の max-incomplete host 制限を超えました。このメッセージは、保護対象のサーバに対するハーフオープン接続数が多く、SYN フラッド攻撃が進行中であることを示す可能性があることを意味します。</p> <p>%s:%s：ゾーンペアの名前/クラス名</p> <p>%u：ハーフオープン接続数</p> <p>%CA：IP/IP6 アドレス</p>	<p>FW_TEMPLATE_ALERT_TCP_HALF_OPEN_V4 または FW_TEMPLATE_ALERT_TCP_HALF_OPEN_V6, fw_ext_event ID : FW_EXT_ALERT_HOST_TCP_ALERT_ON</p>

メッセージ ID	メッセージの説明	HSL テンプレート
FW-2-BLOCK_HOST タイプ：クリティカル	<p>(target:class)-(%s:%s):Blocking new TCP connections to host %CA for %u minute%s (half-open count %u exceeded).</p> <p>説明：ハーフオープン TCP 接続の max-incomplete host しきい値を超えました。指定のホストに対する以降の新しい TCP 接続試行は拒否され、ブロッキングオプションが以降の新しい接続すべてをブロックするように設定されます。設定されたブロック時間が満了すると、ブロッキングが解除されます。</p> <p>%s:%s：ゾーンペアの名前/クラス名</p> <p>%CA：IP/IP6 アドレス</p> <p>%u：ブロック時間（分）</p> <p>%s：ブロック時間が1分を超える場合「s」</p> <p>%u：ハーフオープン カウンタ</p>	<p>FW_TEMPLATE_ALERT_TCP_HALF_OPEN_V4 または FW_TEMPLATE_ALERT_TCP_HALF_OPEN_V6、 fw_ext_event ID： FW_EXT_ALERT_BLOCK_HOST</p>

メッセージ ID	メッセージの説明	HSL テンプレート
FW-4-ALERT_ON タイプ：警告	<p>(target:class)-(%s:%s):%s, count (%u/%u) current rate: %u</p> <p>説明：ハーフオープン接続の max-incomplete high しきい値または新しい接続開始レートのいずれかを超えました。このエラーメッセージは、ファイアウォールからの新しい着信接続レートが異常に高く、DOS 攻撃が進行中であることを示す可能性があることを意味します。このメッセージが発行されるのは、max-incomplete high しきい値を上回った場合のみです。</p> <p>%s:%s：ゾーンペアの名前/クラス名</p> <p>%s：「アグレッシブな状態 (getting aggressive)」</p> <p>%u/%u：ハーフオープン接続数/高</p> <p>%u：現在のレート</p>	FW_TEMPLATE_ALERT_HALFOPEN_V4 または FW_TEMPLATE_ALERT_HALFOPEN_V6、 fw_ext_event ID : FW_EXT_SESS_RATE_ALERT_ON
FW-4-ALERT_OFF タイプ：警告	<p>(target:class)-(%s:%s):%s, count (%u/%u) current rate: %u</p> <p>説明：ハーフオープン接続数または新しい接続開始レートのいずれかが、max-incomplete low しきい値を下回りました。このメッセージは、新しい着信接続のレートが低下したことを意味します。新しい接続は、max-incomplete low しきい値を下回った場合にのみ実行されます。</p> <p>%s:%s：ゾーンペアの名前/クラス名</p> <p>%s：「沈静化中 (calming down)」</p> <p>%u/%u：ハーフオープン接続数/高</p> <p>%u：現在のレート</p>	FW_TEMPLATE_ALERT_HALFOPEN_V4 または FW_TEMPLATE_ALERT_HALFOPEN_V6、 fw_ext_event ID : FW_EXT_SESS_RATE_ALERT_OFF

メッセージ ID	メッセージの説明	HSL テンプレート
FW4-SESSIONS_MAXIMUM タイプ：警告	<p>Number of sessions for the firewall policy on "(target:class)-(%s:%s) exceeds the configured sessions maximum value %u</p> <p>説明：確立済みのセッション数が、設定されているセッション最大数の制限を超えました。</p> <p>%s:%s：ゾーンペアの名前/クラス名</p> <p>%u：最大セッション数</p>	FW_TEMPLATE_ALERT_MAX_SESSION
FW-6-PASS_PKT タイプ：情報	<p>Passing %s pkt from %s %CA:%u =&gt; %CA:%u (target:class)-(%s:%s) %s %s with ip ident %u</p> <p>説明：ファイアウォールインスペクションによりパケットが渡されました。</p> <p>%s：tcp/udp/icmp/不明なプロトコル</p> <p>%s：インターフェイス</p> <p>%CA:%u：送信元 IP/IP6 アドレス:ポート</p> <p>%CA:%u：宛先 IP/IP6 アドレス:ポート</p> <p>%s:%s：ゾーンペアの名前/クラス名</p> <p>%s%s：「原因 (due to)」、「ポリシーマップで PASS アクションを検出 (PASS action found in policy-map)」</p> <p>%u：IP 識別子</p>	FW_TEMPLATE_PASS_V4 または FW_TEMPLATE_PASS_V6



メッセージ ID	メッセージの説明	HSL テンプレート
FW-6LOG_SUMMARY タイプ：情報	<p>%u packet%s %s from %s %CA:%u =&gt; %CA:%u (target:class)-(%s:%s) %s</p> <p>説明：ドロップされたパケット数 と渡されたパケット数のログサマ リ</p> <p>%u %s：パケット数、「s were」 または「was」</p> <p>%s：「ドロップ (dropped)」/ 「パス (passed)」</p> <p>%s：インターフェイス</p> <p>%CA:%u：送信元 IP/IP6 アドレス： ポート</p> <p>%CA:%u：宛先 IP/IP6 アドレス： ポート</p> <p>%s:%s：ゾーンペアの名前/クラス 名</p> <p>%s：ユーザ名</p>	FW_TEMPLATE_SUMMARY_V4 または FW_TEMPLATE_SUMMARY_V6、FW_EVENT として 3 - drop 4 - pass を使用

## ファイアウォール拡張イベント

ファイアウォール拡張イベントのイベント名により、ファイアウォール拡張イベント値とイベント ID が対応付けられます。イベント名オプションレコードを使用して、イベント値とイベント ID の対応付けを確認します。

拡張イベントは標準ファイアウォールイベント (inspect、pass、drop) の一部ではありません。

次の表に、Cisco IOS XE リリース 3.9S より前のリリースに適用されるファイアウォール拡張イベントについて説明します。

表 194: Cisco IOS XE リリース 3.9S 以前のファイアウォール拡張イベントおよびイベントの説明

値	イベント ID	説明
0	FW_EXT_LOG_NONE	特定の拡張イベントはありません。
1	FW_EXT_ALERT_UNBLOCK_HOST	指定したホストに対する新規の TCP 接続試行はブロックされません。
2	FW_EXT_ALERT_HOST_TCP_ALERT_ON	ハーフオープン TCP 接続の最大不完全ホスト制限を超えました。

値	イベント ID	説明
3	FW_EXT_ALERT_BLOCK_HOST	指定されたホストに対する後続の TCP 接続試行はすべて拒否されます。これは、ハーフオープン TCP 接続の最大不完全ホストしきい値を超えており、かつ後続の新規接続をブロックするようにブロッキング オプションが設定されているためです。
4	FW_EXT_SESS_RATE_ALERT_ON	ハーフオープン接続の最大不完全上限しきい値を超えたか、または新規接続開始レートを超過しました。
5	FW_EXT_SESS_RATE_ALERT_OFF	ハーフオープン TCP 接続の数が、最大不完全下限しきい値を下回っているか、または新規接続開始レートが最大不完全下限しきい値を下回りました。
6	FW_EXT_RESET	接続をリセットします。
7	FW_EXT_DROP	接続をドロップします。
10	FW_EXT_L4_NO_NEW_SESSION	新規セッションは許可されません。
12	FW_EXT_L4_INVALID_SEG	無効な TCP セグメント。
13	FW_EXT_L4_INVALID_SEQ	無効な TCP シーケンス番号。
14	FW_EXT_L4_INVALID_ACK	無効な TCP 確認応答 (ACK)。
15	FW_EXT_L4_INVALID_FLAGS	無効な TCP フラグ。
16	FW_EXT_L4_INVALID_CHKSM	無効な TCP チェックサム。
18	FW_EXT_L4_INVALID_WINDOW_SCALE	無効な TCP ウィンドウ スケール。
19	FW_EXT_L4_INVALID_TCP_OPTIONS	無効な TCP オプション。
20	FW_EXT_L4_INVALID_HDR	無効なレイヤ 4 ヘッダー。
21	FW_EXT_L4_OOO_INVALID_SEG	OoO <sup>12</sup> 無効セグメント。
24	FW_EXT_L4_SYN_FLOOD_DROP	同期 (SYN) フラッドパケットがドロップされます。
25	FW_EXT_L4_SCB_CLOSED	セッションがパケット受信中にセッションが終了しました。
26	FW_EXT_L4_INTERNAL_ERR	ファイアウォールの内部エラーです。

値	イベント ID	説明
27	FW_EXT_L4_OOO_SEG	OoO セグメント。
28	FW_EXT_L4_RETRANS_INVALID_FLAGS	無効な再送信パケット。
29	FW_EXT_L4_SYN_IN_WIN	無効な SYN フラグ。
30	FW_EXT_L4_RST_IN_WIN	無効なリセット (RST) フラグ。
31	FW_EXT_L4_STRAY_SEG	遊離 TCP セグメント。
32	FW_EXT_L4_RST_TO_RESP	応答側へのリセットメッセージの送信。
33	FW_EXT_L4_CLOSE_SCB	セッションの終了。
34	FW_EXT_L4_ICMP_INVALID_RET	無効な ICMP <sup>13</sup> パケット。
37	FW_EXT_L4_MAX_HALFSESSION	最大ハーフオープンセッション制限を超えています。
38	FW_EXT_NO_RESOURCE	リソース (メモリ) が使用できません。
40	FW_EXT_INVALID_ZONE	無効なゾーン。
41	FW_EXT_NO_ZONE_PAIR	ゾーン ペアは使用できません。
42	FW_EXT_NO_TRAFFIC_ALLOWED	トラフィックは許可されていません。
43	FW_EXT_FRAGMENT	パケットフラグメントがドロップされます。
44	FW_EXT_PAM_DROP	PAM <sup>14</sup> アクションがドロップされます。
45	FW_EXT_NOT_INITIATOR	セッション開始パケットではありません。 これは、次のいずれかの理由で発生します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロトコルが TCP の場合、1 番目のパケットが SYN パケットではありません。</li> <li>• プロトコルが ICMP の場合、1 番目のパケットが ECHO パケットまたは TIMESTAMP パケットではありません。</li> </ul>

値	イベント ID	説明
48	FW_EXT_ICMP_ERROR_PKTS_BURST	ICMP エラー パケットがバースト モードになりました。バースト モードでは、応答側インターフェイスからの応答を待たずにパケットが繰り返し送信されます。
49	FW_EXT_ICMP_ERROR_MULTIPLE_UNREACH	「宛先到達不能」タイプの ICMP エラーを複数受信しました。
50	FW_EXT_ICMP_ERROR_L4_INVALID_SEQ	ICMP エラー メッセージに埋め込まれたパケットに無効なシーケンス番号があります。
51	FW_EXT_ICMP_ERROR_L4_INVALID_ACK	ICMP エラー メッセージに埋め込まれたパケットに無効な確認応答 (ACK) 番号があります。
52	FW_EXT_MAX	未使用。

<sup>12</sup> 順序外

<sup>13</sup> Internet Control Message Protocol

<sup>14</sup> Port-to-Application Mapping

次の表では、Cisco IOS XE リリース 3.9S 以降のリリースに適用されるファイアウォール拡張イベントについて説明します。

表 195: Cisco IOS XE リリース 3.9S 以降のファイアウォール拡張イベントおよびイベントの説明

値	イベント ID	説明
0	FW_EXT_LOG_NONE	特定の拡張イベントはありません。
1	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_HDR	レイヤ 4 ICMP、TCP、または UDP ヘッダーを組み込むことができない小さいデータグラム。
2	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_ACK_FLAG	ACK フラグが含まれていないか、または TCP スリーウェイ ハンドシェイクにおいて SYN/ACK パケットに RST フラグが設定されており、パケットに無効なシーケンス番号がありました。

値	イベント ID	説明
3	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_ACK_NUM	<p>これは、次のいずれかの理由で発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パケットの ACK 値が、接続の最も古い応答未確認シーケンス番号よりも小さい場合。</li> <li>• パケットの ACK 値が、接続の次のシーケンス番号よりも大きい場合。</li> <li>• スリーウェイ ハンドシェイク中に受信した SYN/ACK または ACK パケットで、シーケンス番号が初期シーケンス番号に 1 を加算した値と等しくない場合。</li> </ul>
4	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_TCP_INITIATOR	フローの 1 番目のパケットが SYN パケットではありませんでした。
5	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_SYN_WITH_DATA	SYN パケットにペイロードが含まれています。このような SYN パケットはサポートされていません。
6	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_TCP_WIN_SCALE_OPTION	TCP ウィンドウ スケール オプションの長さが無効です。
7	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_SEG_SYNSENT_STATE	<p>SYNSENT 状態の無効な TCP セグメントを受信しました。</p> <p>これは、次のいずれかの理由で発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SYN/ACK にペイロードが含まれています。</li> <li>• SYN/ACK にその他のフラグ (push (PSH)、urgent (URG)、finish (FIN)) が設定されています。</li> <li>• ペイロードまたは無効な TCP フラグ (ACK、PSH、URG、FIN、RST) が設定されている再送信 SYN メッセージを受信しました。</li> <li>• イニシエータから SYN 以外のパケットを受信しました。</li> </ul>

値	イベント ID	説明
8	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_SEG_SYNRCVD_STATE	再送信された SYN パケットにペイロードが含まれているか、または応答側からパケットを受信しました。
9	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_SEG_PKT_TOO_OLD	パケットが、受信側の現在の TCP ウィンドウよりも古い (小さい) パケットです。
10	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_SEG_PKT_WIN_OVERFLOW	パケットのシーケンス番号は、受信側の TCP ウィンドウの範囲外 (大きい) です。
11	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_SEG_PYLD_AFTER_FIN_SEND	FIN メッセージの受信後に、ペイロードを含むパケットを送信元から受信しました。
12	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_FLAGS	<p>パケットに関連付けられた TCP フラグが無効です。この問題は、次の理由で発生する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期パケットで、SYN フラグとともにその他のフラグが設定されていた。初期パケットでは SYN フラグだけが許可されています。</li> <li>予期される SYN/ACK に SYN フラグが含まれていなかったか、SYN/ACK にスリーウェイハンドシェイクの 2 番目のパケットの余分なフラグが含まれていました。</li> </ul>

値	イベント ID	説明
13	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INVALID_SEQ	<p>無効なシーケンス番号。</p> <p>これは、次のいずれかの理由で発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シーケンス番号が ISN<sup>15</sup>よりも小さい。</li> <li>シーケンス番号が ISN と等しく、SYN パケットと等しくない。</li> <li>受信ウィンドウ サイズがゼロでパケットにデータが含まれている場合、またはシーケンス番号が最終 ACK 番号よりも大きい場合。</li> <li>シーケンス番号が TCP ウィンドウの範囲外である。</li> </ul>
14	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_RETRANS_INVALID_FLAGS	再送信されたパケットは、受信側によりすでに確認応答済みです。
15	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_L7_OOO_SEG	パケットに、予期されている次のセグメントよりも前に到着した TCP セグメントが含まれています。
16	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_SYN_FLOOD_DROP	ポリシーに設定されている最大最大不完全セッション数を越え、ホストがブロック期間に入りました。
17	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_MAX_HALFSESSION	許可されているハーフオープンセッションの数を超過しました。
18	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_TOO_MANY_PKTS	フローあたりの同時インスペクション可能なパケットの最大数を超過しました。現在、最大 25 個の同時パケットのインスペクションが許可されています。同時インスペクションにより、1 つのフローがプロセッサリソースを占有することが防止されます。
19	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_TOO_MANY_ICMP_ERR_PKTS	フローあたりの ICMP エラー パケット最大数を超過しました。このログは、ファイアウォールベース インスペクションによってトリガーされます。

値	イベント ID	説明
20	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_UNEXPECT_TCP_PYLD	レスポンドから再送信された SYN/ACK にペイロードが含まれています。TCP スリーウェイ ハンドシェイク ネゴシエーションの実行中はペイロードは許可されません。
21	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INTERNAL_ERR_UNDEFINED_DIR	パケットの方向が未定義です。
22	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_SYN_IN_WIN	確立されたセッションの TCP パケットが、SYN フラグが設定された状態で到着しました。スリーウェイ ハンドシェイクの最初の2つのパケットの後には、SYN フラグは許可されていません。
23	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_RST_IN_WIN	RST フラグが設定された TCP パケットを受信しましたが、そのシーケンス番号が最後に受信した確認応答の外部でした。このパケットは誤った順序で送信された可能性があります。
24	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_STRAY_SEG	フローの切断後に予期しないパケットを受信したか、またはイニシエータが有効な SYN フラグを送信する前に応答側からパケットを受信しました。
25	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_RST_TO_RESP	応答側からの SYN/ACK フラグが予期されていました。しかし、無効なシーケンス番号のパケットを受信しました。ゾーンベース ファイアウォールから RST フラグが応答側に送信されました。
26	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INTERNAL_ERR_ICMP_NO_NAT	ICMP パケットは NAT <sup>16</sup> 変換されていますが、内部 NAT 情報がありません。内部エラーです。
27	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INTERNAL_ERR_ICMP_ALLOC_FAIL	ICMP インスペクション中に ICMP エラー パケットを割り当てることができませんでした。
28	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INTERNAL_ERR_ICMP_GET_STAT_BLK_FAIL	分類結果に、必要な統計情報メモリがありませんでした。ポリシー情報がデータ プレーンに正しくダウンロードされていません。



値	イベント ID	説明
29	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INTERNAL_ERR_ICMP_DIR_NOT_IDENTIFIED	パケットの方向が未定義です。
30	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ICMP_SCB_CLOSE	セッションの切断中に ICMP パケットを受信しました。
31	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ICMP_PKT_NO_IP_HDR	ICMP エラーパケットのペイロードに IP ヘッダーがありません。
32	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ICMP_ERROR_NO_IP_NO_ICMP	ICMP エラーパケットに IP または ICMP がありません。これは、不正なパケットが原因で発生している可能性があります。
33	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ICMP_ERROR_PKTS_BURST	ICMP エラーパケットがバースト制限 10 を超えています。
34	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ICMP_ERROR_MULTIPLE_UNREACH	ICMP エラーパケットが「到達不能」制限を超えています。1 番目の到達不能パケットだけが通過できます。
35	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ICMP_ERROR_L4_INVALID_SEQ	埋め込みパケットのシーケンス番号が、ICMP エラーパケットをトリガーした TCP パケットのシーケンス番号と一致しません。
36	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ICMP_ERROR_L4_INVALID_ACK	ICMP エラーパケットペイロードに含まれている TCP パケットに、これまでに確認されていない ACK フラグが含まれています。
37	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ICMP_PKT_TOO_SHORT	ICMP エラーパケットの長さが、IP ヘッダー長と ICMP ヘッダー長の合計よりも短くなっています。
38	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_SESSION_LIMIT	不明確なチャネルの入力を求めている間に、リソースがセッション制限を超えました。
39	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_SCB_CLOSE	終了したセッションで TCP パケットを受信されました。
40	FW_EXT_FW_DROP_INSP_TYPE_POLICY_NOT_PRESENT	ゾーン ペア内にポリシーがありません。

値	イベント ID	説明
41	FW_EXT_FW_DROP_INSP_TYPE_SESS_MISS_POLICY_NOT_PRESENT	ゾーン ペアは同一ゾーンで設定されていますが、このゾーンにポリシーが含まれていません。
44	FW_EXT_FW_DROP_INSP_TYPE_CLASS_ACTION_DROP	分類アクションは、ICMP、TCP、およびUDP 以外のパケットのドロップです。
45	FW_EXT_FW_DROP_INSP_TYPE_PAM_LOOKUP_FAIL	分類アクションは、PAM エントリのドロップです。
48	FW_EXT_FW_DROP_INSP_TYPE_INTERNAL_ERR_GET_STAT_BLK_FAIL	分類結果バイトから統計ブロックを取得できませんでした。
49	FW_EXT_FW_DROP_SYNCOOKIE_TYPE_SYNCOOKIE_MAX_DST	SYN フラッドパケットの最大エントリ制限に達しました。
50	FW_EXT_FW_DROP_SYNCOOKIE_TYPE_INTERNAL_ERR_ALLOC_FAIL	宛先テーブルエントリにメモリを割り当てることができません。
51	FW_EXT_FW_DROP_SYNCOOKIE_TYPE_SYN_COOKIE_TRIGGER	SYN Cookie ロジックがトリガーされました。SYN Cookie を含む SYN/ACK が送信され、元の SYN パケットがドロップされたことを示します。
52	FW_EXT_FW_DROP_POLICY_TYPE_FRAG_DROP	VFR <sup>17</sup> パケットの1番目のフラグメントがドロップされ、関連付けられているその他のフラグメントがすべてドロップされます。
53	FW_EXT_FW_DROP_POLICY_TYPE_ACTION_DROP	分類アクションは、パケットのドロップです。
54	FW_EXT_FW_DROP_POLICY_TYPE_ICMP_ACTION_DROP	ICMP 埋め込みパケットのポリシーアクションは DROP です。
55	FW_EXT_FW_DROP_L7_TYPE_NO_SEG	レイヤ7 ALG <sup>18</sup> は、検査セグメント化パケットを検査しません。
56	FW_EXT_FW_DROP_L7_TYPE_NO_FRAG	レイヤ7 ALG は、フラグメント化パケットを検査しません。
57	FW_EXT_FW_DROP_L7_TYPE_UNKNOWN_PROTO	不明なアプリケーションプロトコルタイプ。
58	FW_EXT_FW_DROP_L7_TYPE_ALG_RET_DROP	レイヤ7 ALG インспекションの結果、パケットがドロップされました。

値	イベント ID	説明
59	FW_EXT_FW_DROP_NONSESSION_TYPE	セッションの作成に失敗しました。
60	FW_EXT_FW_DROP_NO_NEW_SESSION_TYPE	初期 HA <sup>19</sup> 状態では新規セッションは許可されていません。
61	FW_EXT_FW_DROP_NOT_INITIATOR_TYPE	セッション イニシエータ パケットではありません。
62	FW_EXT_FW_DROP_INVALID_ZONE_TYPE	デフォルトのゾーンが無効な場合、セキュリティゾーンに関連付けられているインターフェイス間でのみトラフィックが許可されます。
64	FW_EXT_FW_DROP_NO_FORWARDING_TYPE	ファイアウォールが設定されていません。
65	FW_EXT_FW_DROP_BACKPRESSURE_TYPE	ファイアウォールバックプレッシャを有効にできるのは、HSL <sup>20</sup> が有効であり、かつ HSL ロガーがログメッセージを送信できない場合です。バックプレッシャは、HSL がログを送信できるようになるまで有効なままになります。
66	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_INTERNAL_ERR_SYN_FLOOD_ALLOC_HOSTDB_FAIL	SYN 処理中にホスト レート制限が追跡されます。ホスト エントリを割り当てることができませんでした。
67	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_SYN_FLOOD_BLACKOUT_DROP	ブラックアウト時間が設定されている場合に、設定されているハーフオープン接続の制限を超えると、指定されている IP アドレスへの新規接続はすべてドロップされます。
68	FW_EXT_FW_DROP_L7_TYPE_PROMOTE_FAIL_NO_ZONE_PAIR	失敗したポリシー。ゾーン ペアが設定されていないために AGL がセッションのレベルを上げようとすると、ポリシーが失敗します。
69	FW_EXT_FW_DROP_L7_TYPE_PROMOTE_FAIL_NO_POLICY	失敗したポリシー。ポリシーがないために ALG がセッションのレベルを上げようとすると、ポリシーが失敗します。

値	イベント ID	説明
	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ONEFW_SCB_CLOSE	コンテキスト認識型ファイアウォール (CXSC) がティアダウンを要求した後でパケットを受信しました。
	FW_EXT_FW_DROP_L4_TYPE_ONEFW_FAIL_CLOSE	CXSC が動作していません。

- 15 初期シーケンス番号
- 16 ネットワーク アドレス変換
- 17 フラグメンテーション再構成
- 18 アプリケーション レイヤ ゲートウェイ
- 19 ハイ アベイラビリティ
- 20 高速ロギング

## ファイアウォール高速ロギングの設定方法

### グローバル パラメータ マップの高速ロギングの有効化

デフォルトでは、高速ロギング (HSL) は有効ではなく、ファイアウォールのログはルートプロセッサ (RP) またはコンソールのロガー バッファに送信されます。HSL をイネーブルにすると、ログはボックス外の高速ログ コレクタに送信されます。パラメータ マップはファイアウォールに到達するトラフィックに対してアクションを実行する手段を提供し、グローバルパラメータ マップはファイアウォールセッションテーブル全体に適用されます。グローバルパラメータ マップの高速ロギングを有効にするには、次の作業を実行します。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect global**
4. **log dropped-packets**
5. **log flow-export v9 udp destination ip-address port-number**
6. **log flow-export template timeout-rate seconds**
7. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect global</b> 例： Device(config)# parameter-map type inspect global	グローバル パラメータ マップを設定し、パラメータ マップ タイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>log dropped-packets</b> 例： Device(config-profile)# log dropped-packets	ドロップされたパケットのロギングをイネーブルにします。
ステップ 5	<b>log flow-export v9 udp destination ip-address port-number</b> 例： Device(config-profile)# log flow-export v9 udp destination 10.0.2.0 5000	NetFlow イベント ロギングをイネーブルにし、ログコレクタの IP アドレスとポート番号を提供します。
ステップ 6	<b>log flow-export template timeout-rate seconds</b> 例： Device(config-profile) log flow-export template timeout-rate 5000	テンプレートのタイムアウト値を指定します。
ステップ 7	<b>end</b> 例： Device(config-profile)# end	パラメータ マップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

## ファイアウォールアクションの高速ロギングの有効化

検査タイプ パラメータ マップを設定している場合、高速ロギングを有効にするには、次の作業を実行します。パラメータマップはファイアウォールのインスペクション動作を指定し、ファイアウォールのインスペクション パラメータマップは検査タイプとして設定されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**

2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
4. **audit-trail on**
5. **alert on**
6. **one-minute** {*low number-of-connections* | **high** *number-of-connections*}
7. **tcp max-incomplete host** *しきい値*
8. **exit**
9. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
10. **class type inspect** *class-map-name*
11. **inspect** *parameter-map-name*
12. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect parameter-map-hsl	接続しきい値、タイムアウト、その他の <b>inspect</b> キーワードに関連するパラメータに対する検査パラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>audit-trail on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# audit-trail on	監査証跡メッセージをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パラメータマップに対する監査証跡を有効にして、接続またはセッションの開始、停止、および継続時間、および送信元と宛先の IP アドレスを記録できます。</li></ul>
ステップ 5	<b>alert on</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# alert on	コンソールに表示されるステートフルパケットインスペクションアラートメッセージをイネーブルにします。
ステップ 6	<b>one-minute</b> { <b>low</b> <i>number-of-connections</i>   <b>high</b> <i>number-of-connections</i> } <b>Example:</b> Device(config-profile)# one-minute high 10000	システムによるハーフオープンセッションの削除の開始と停止を起動する新規の未確立セッションの数を定義します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>tcp max-incomplete host</b> しきい値 <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp max-incomplete host 100	TCP ホスト固有のサービス妨害 (DoS) の検出および回避のために、しきい値とブロックする時間値を指定します。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了して、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 9	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect policy-map-hsl	検査タイプ ポリシー マップを作成して、ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect class-map-tcp	アクションを実行する対象のトラフィック クラスを指定し、ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect parameter-map-hsl	(任意) ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 12	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ファイアウォール高速ロギングの設定例

### 例：グローバル パラメータ マップの高速ロギングの有効化

次に、ドロップされたパケットのロギングを有効にし、NetFlow バージョン 9 形式のエラー メッセージを外部 IP アドレスに記録する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect global
Device(config-profile)# log dropped-packets
Device(config-profile)# log flow-export v9 udp destination 10.0.2.0 5000
Device(config-profile)# log flow-export template timeout-rate 5000
Device(config-profile)# end
```

## 例：ファイアウォールアクションの高速ロギングの有効化

次に、inspect-type parameter-map parameter-map-hsl の高速ロギング（HSL）を設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect parameter-map-hsl
Device(config-profile)# audit trail on
Device(config-profile)# alert on
Device(config-profile)# one-minute high 10000
Device(config-profile)# tcp max-incomplete host 100
Device(config-profile)# exit
Device(config)# policy-map type inspect policy-map-hsl
Device(config-pmap)# class type inspect class-map-tcp
Device(config-pmap-c)# inspect parameter-map-hsl
Device(config-pmap-c)# end
```

## ファイアウォール高速ロギングに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>





## CHAPTER 144

# TCP リセット セグメント制御

TCP リセットセグメント制御機能は、ハーフクローズ、ハーフオープン、またはアイドルセッションに対して、セッション削除が発生したときに TCP リセット (RST) セグメントを送信する必要があるかどうかを設定するメカニズムを提供します。

- [TCP リセットセグメント制御について, on page 2025](#)
- [TCP リセットセグメント制御の設定方法, on page 2026](#)
- [TCP リセットセグメント制御の設定例, on page 2030](#)
- [TCP リセットセグメント制御に関する追加情報, on page 2031](#)
- [TCP リセットセグメント制御に関する機能情報, on page 2032](#)

## TCP リセット セグメント制御について

### TCP リセット セグメント制御

TCP ヘッダーには、リセット (RST) フラグというフラグが含まれます。TCP セグメントは、参照される接続の条件を満たしていないセグメントが到着するたびに、RST フラグとともに送信されます。たとえば、接続要求が宛先ポートで受信されたにもかかわらず、そのポートでリスンしているプロセスがない場合、TCP セグメントは RST フラグとともに送信されます。

この動作は、ホスト間通信用に RFC 793 の伝送制御プロトコルで定義され、さまざまなベンダーによって実装されています。ただし、ホスト間のネットワークにあるネットワークデバイスに関しては、セッション (ハーフオープン、アイドル、ハーフクローズ) のクリア時に、デバイスが接続の発信側、受信側、またはその両方に TCP RST セグメントを送信する必要があるかどうかを判別するための特定の規則が定義されていません。一部のデバイスはセッションのクリア時に送信側と受信側の両方のポートに TCP RST セグメントを送信しますが、TCP RST セグメントを送信せずにセッションテーブルのセッションを暗黙的に削除するデバイスもあります。

TCP リセットセグメント制御機能は、ハーフクローズ、ハーフオープン、またはアイドルセッションに対して、セッションがクリアされるときに TCP RST セグメントを送信する必要があるかどうかを設定するメカニズムを提供します。

ハーフオープンセッションは TCP 同期 (SYN) セグメントによって開始された未確立のセッションで、TCP スリーウェイ ハンドシェイクのみが発生し、タイマーが開始されるため、不完全です。

TCP は、接続の一端で出力を終了すると同時に、接続のもう他端からデータを受信し続ける機能を提供します。この TCP 状態は、ハーフクローズと呼ばれます。セッションは最初の TCP FIN セグメントを受信し、タイマーが起動すると、ハーフクローズ状態になります。セッションがタイムアウトになる前に別のセグメントを受信した場合、タイマーが再開されます。

ハーフオープンおよびハーフクローズのセッションのタイムアウト値は、それぞれ **tcp synwait-time** コマンドと **tcp finwait-time** コマンドを使用して設定できます。デフォルトのタイムアウト値は 30 秒です。

アイドルセッションは、2 つのデバイス間でアクティブで、長時間どちらのデバイスからもデータが送信されていない TCP セッションです。アイドルセッションのタイムアウト値は、**tcp idle-time** コマンドを使用して設定できます。アイドルセッションのデフォルトのタイムアウト値は 3600 秒です。

TCP セッションでタイムアウトが発生し、セッションがクリアされると、TCP RST セグメントが送信され、セッションに TCP リセット セグメント制御が設定されている場合に限り、セッションがリセットされます。

## TCP リセット セグメント制御の設定方法

### ハーフオープンセッションの TCP リセットの設定

ハーフオープンセッションとは、TCP 同期 (SYN) セグメントによって開始されたが、3 ウェイ ハンドシェイクがまだ完了していない未確立セッションです。未完了 3 ウェイ ハンドシェイクが発生すると、ただちにタイマーが開始します。**tcp synwait-time** コマンドを使用すると、ハーフオープンセッションタイムアウトのタイマー値を設定できます。このようなセッションのデフォルトタイムアウト値は 30 秒です。

ハーフオープン TCP セッションでタイムアウトが発生してセッションがクリアされると、セッションで TCP リセット セグメント制御が設定されている場合にのみ、TCP リセット (RST) セグメントが送信されてセッションがリセットされます。

**tcp half-open reset on** コマンドを設定すると、セッションがクリアされたときにハーフオープンセッションの両端に TCP RST セグメントが送信されます。**tcp half-open reset off** コマンドを設定すると、セッションがクリアされても TCP RST セグメントは伝送されません。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
4. **tcp synwait-time** *seconds*
5. **tcp half-open reset** {**off** | **on**}

## 6. end

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap-name	(任意) 接続しきい値、タイムアウト、その他の <b>inspect</b> キーワードに関連するパラメータに対する検査パラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>tcp synwait-time</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp synwait-time 10	セッションをドロップする前に、TCPセッションが確立状態になるのを待機する時間を指定します。
ステップ 5	<b>tcp half-open reset</b> {off   on} <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp half-open reset on	ハーフオープンセッションのタイムアウトが発生してセッションがクリアされた場合に、TCP RST セグメントが送信されるかどうかを指定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータ マップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ハーフクローズセッションのTCPリセットの設定

TCPでは、接続の一方の終端が出力を終了しても、接続のもう一方の終端から引き続きデータを受信することができます。このTCP状態は、ハーフクローズと呼ばれます。セッションは最初のTCP終了(FIN)セグメントを受信するとハーフクローズ状態になり、タイマーを開始します。セッションがタイムアウトになる前に別のセグメントを受信した場合、タイマーが再開されます。**tcp finwait-time** コマンドを使用すると、ハーフクローズセッションのタイムアウト値を設定できます。ハーフクローズセッションのデフォルトタイムアウト値は30秒です。

ハーフクローズTCPセッションでタイムアウトが発生すると、セッションでTCPリセットセグメント制御が設定されている場合にのみ、TCP RSTセグメントが送信されてセッションがリセットされます。

**tcp half-close reset on** コマンドを設定すると、タイムアウトが発生してセッションがクリアされたときに、ハーフオープンセッションの両端に TCP RST セグメントが送信されます。**tcp half-close reset off** コマンドを設定すると、セッションタイムアウトが発生してセッションがクリアされたときに TCP RST セグメントが伝送されません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
4. **tcp finwait-time** *seconds*
5. **tcp half-close reset** {off | on}
6. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap-name	接続しきい値、タイムアウト、その他の <b>inspect</b> キーワードに関連するパラメータに対する検査パラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>tcp finwait-time</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp finwait-time 10	(任意) ファイアウォールが FIN-exchange を検出してから TCP セッションが管理される時間を指定します。
ステップ 5	<b>tcp half-close reset</b> {off   on} <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp half-close reset on	ハーフオープンセッションでセッション削除が発生した場合に TCP RST セグメントが送信されるかどうかを指定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## アイドルセッションの TCP リセットの設定

アイドルセッションとは、2つのデバイス間でアクティブな、長時間にわたっていずれのデバイスからもデータが送信されない TCP セッションです。アイドルセッションのタイムアウト値は、**tcp idle-time** コマンドを使用して設定できます。アイドルセッションのデフォルトのタイムアウト値は 3600 秒です。

アイドル TCP セッションでタイムアウトが発生すると、セッションで TCP リセット セグメント制御が設定されている場合には TCP RST セグメントが送信され、セッションがリセットされます。

**tcp idle reset on** コマンドを設定すると、タイムアウトが発生してセッションがクリアされたときに、アイドルセッションの両端に TCP RST セグメントが送信されます。**tcp idle reset off** コマンドを設定すると、セッションタイムアウトが発生してセッションがクリアされたときに TCP RST セグメントが伝送されません。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
4. **tcp idle-time** *seconds*
5. **tcp idle reset** {off | on}
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap-name	接続しきい値、タイムアウト、その他の <b>inspect</b> キーワードに関連するパラメータに対する検査パラメータマップを設定し、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>tcp idle-time</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp idle-time 90	(任意) TCPセッションのタイムアウトを設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>tcp idle reset {off  on}</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp idle reset on	アイドルセッションでセッション削除が発生した場合にTCPRSTセグメントが送信されるかどうかを指定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# end	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## TCP リセット セグメント制御の設定例

### 例：ハーフオープンセッションのTCP リセットの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect pmap-name
Device(config-profile)# tcp synwait-time 10
Device(config-profile)# tcp half-open reset on
Device(config-profile)# end
```

### 例：ハーフクローズセッションのTCP リセットの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect pmap-name
Device(config-profile)# tcp finwait-time 10
Device(config-profile)# tcp half-close reset on
Device(config-profile)# end
```

### 例：アイドルセッションのTCP リセットの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect pmap-name
Device(config-profile)# tcp idle-time 90
Device(config-profile)# tcp idle reset on
Device(config-profile)# end
```

# TCP リセット セグメント制御に関する追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
ファイアウォール コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 793	『Transmission Control Protocol』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## TCP リセット セグメント制御に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 196: TCP リセット セグメント制御に関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
TCP リセット セグメント制御	Cisco IOS XE リリース 3.8S	<p>TCP リセット セグメント制御機能は、ハーフオープン、ハーフクローズ、およびアイドル セッションに関するセッションがクリアされたときに TCP RST ビットが送出されるように設定するための一貫したメカニズムを提供します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>tcp idle reset</b>、<b>tcp half-close reset</b>、<b>tcp half-open reset</b></p>





## CHAPTER 145

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォール での TCP ウィンドウ スケーリングのルー ズ チェック オプション

ゾーンベース ポリシー ファイアウォール機能の TCP ウィンドウ スケーリング オプションの ルーズ チェックは、ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリング オプションの厳格な チェックを無効にします。

- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションに関する情報, on page 2033](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションの設定方法, on page 2034](#)
- [TCP ウィンドウ スケーリングの設定例, on page 2038](#)
- [ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションに関する機能情報, on page 2038](#)

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィ ンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションに関す る情報

### TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションの概要

TCP は、高帯域幅および高速データ パスでのパフォーマンスを向上させる、さまざまな TCP 拡張機能を提供しています。このような拡張機能の 1 つが、TCP ウィンドウ スケーリング オプションです。TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションは、RFC 1323 に記述されているウィンドウ スケーリング オプションの厳密なチェックを無効にします。

広帯域高遅延ネットワーク (LFN) と呼ばれる大きな帯域遅延積の特性を持つネットワーク経路での TCP のパフォーマンスを改善するため、より大きなウィンドウサイズが推奨されます。

TCP ウィンドウ スケーリングにより、TCP ウィンドウの定義は 32 ビットに拡大され、スケールファクタを使用して TCP ヘッダーの 16 ビット ウィンドウ フィールドでこの 32 ビットの値を伝送します。ウィンドウ サイズはスケール係数 14 まで大きくすることができます。典型的なアプリケーションは、広帯域高遅延ネットワークで動作するときにスケール係数 3 を使いません。

ファイアウォールの実装により、TCP ウィンドウ スケーリング オプションの厳密なチェックが適用されます。この場合、ファイアウォールは、TCP スリーウェイ ハンドシェイクの初期同期 (SYN) パケットで TCP ウィンドウ スケーリング オプションを受信しなかった場合、TCP ウィンドウ スケーリング オプションを使用する SYN/ACK パケットをドロップします。ウィンドウ スケーリング オプションは SYN ビットがオンに設定された SYN セグメントでのみ送信されます。したがって、接続のオープン時にウィンドウスケールが各方向で固定されます。

**tcp window-scale-enforcement loose** コマンドを使用すると、TCP SYN セグメントでの TCP ウィンドウ スケーリング オプションの厳格なチェックが無効になります。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションの設定方法

### ファイアウォールの TCP ウィンドウ スケーリング オプションの設定

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect** {*parameter-map-name* | **global** | **default**}
4. **tcp window-scale-enforcement loose**
5. **exit**
6. **class-map type inspect** {**match-any** | **match-all**} *class-map-name*
7. **match protocol** [*parameter-map*] [**signature**]
8. **exit**
9. **policy-map type inspect***policy-map-name*
10. **class type inspect** *class-map-name*
11. **inspect** [*parameter-map-name*]
12. **exit**
13. **class** *name*
14. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect</b> { <i>parameter-map-name</i>   <b>global</b>   <b>default</b> } <b>Example:</b> Device(config)# parameter-map type inspect pmap-fw	検査パラメータ マップを設定し、プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>tcp window-scale-enforcement loose</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# tcp window-scale-enforcement loose	ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリング オプションの厳密なチェックを無効にします。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-profile)# exit	プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>class-map type inspect</b> { <b>match-any</b>   <b>match-all</b> } <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-any internet-traffic-class	検査タイプ クラス マップを作成して、QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>match protocol</b> [ <i>parameter-map</i> ] [ <b>signature</b> ] <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol tcp	指定されたプロトコルに基づいてクラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 9	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect private-internet-policy	検査タイプ ポリシー マップを作成して、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 10	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect internet-traffic-class	アクションを実行する対象のトラフィック クラスを指定し、ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>inspect</b> [ <i>parameter-map-name</i> ] <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect pmap-fw	ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 13	<b>class name</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class class-default	指定したデータリンク 接続識別子 (DLCI) にマップ クラスを関連付けます。
ステップ 14	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# end	QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## TCP ウィンドウ スケーリングのゾーンとゾーン ペアの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **ip address** *ip-address*
5. **zone-member security** *security-zone-name*
6. **exit**
7. **interface** *type number*
8. **ip address** *ip-address*
9. **zone-member security** *security-zone-name*
10. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/5	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip address ip-address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	インターフェイス IP アドレスを割り当てます。
ステップ 5	<b>zone-member security security-zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security private	インターフェイスをゾーン メンバーとして設定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 7	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/6	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>ip address ip-address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 209.165.200.225 255.255.255.0	IP アドレスをインターフェイスに割り当てます。
ステップ 9	<b>zone-member security security-zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security internet	インターフェイスをゾーン メンバーとして設定します。
ステップ 10	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## TCP ウィンドウ スケーリングの設定例

例：ファイアウォールの TCP ウィンドウ スケーリング オプションの設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect pmap-fw
Device(config-profile)# tcp window-scale-enforcement loose
Device(config-profile)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any internet-traffic-class
Device(config-cmap)# match protocol tcp
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect private-internet-policy
Device(config-pmap)# class type inspect internet-traffic-class
Device(config-pmap-c)# inspect pmap-fw
Device(config-pmap-c)#exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap)#end
```

例：TCP ウィンドウ スケーリングのゾーンとゾーン ペアの設定

```
Device# enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/5
Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
Device(config-if)# zone-member security private
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/1/6
Device(config-if)# ip address 209.165.200.225 255.255.255.0
Device(config-if)# zone-member security internet
Device(config-if)# end
```

## ゾーンベースポリシーファイアウォールでのTCPウィンドウスケーリングのルーズチェックオプションに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 197:** ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプションに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプション	Cisco IOS XE リリース 3.10S	ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの TCP ウィンドウ スケーリングのルーズ チェック オプション機能は、IOS-XE ファイアウォール内の TCP ウィンドウ スケーリング オプションの厳密なチェックを無効にします。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>tcp window-scale-enforcement loose</b>  Cisco IOS XE リリース 3.10S で、Cisco CSR 1000 シリーズルータのサポートが追加されました。







## 第 146 章

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォール での ALG と AIC の有効化

ゾーンベースポリシーファイアウォールでは、アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) およびアプリケーションインスペクションおよびコントロール (AIC) と、レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションがサポートされています。レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションを使用すると、セキュリティモジュールを通過するプロトコルの動作の確認や、不要なトラフィックや悪意のあるトラフィックの識別が可能です。

ゾーンベースポリシーファイアウォールでの ALG および AIC の有効化機能の導入前は、ALG/AIC 設定とともにレイヤ7プロトコルインスペクションが自動的に有効になりました。この機能を使用すると、**no application-inspect** コマンドを使用して、レイヤ7インスペクションを有効または無効にすることができます。

このモジュールでは、ゾーンベースポリシーファイアウォールでの ALG および AIC の有効化機能について概説し、この機能を設定する方法について説明します。

- [ゾーンベースポリシーファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する情報 \(2042 ページ\)](#)
- [ゾーンベースポリシーファイアウォールでの ALG と AIC の有効化方法 \(2043 ページ\)](#)
- [ゾーンベースポリシーファイアウォールでの ALG と AIC の有効化の設定例 \(2048 ページ\)](#)
- [ゾーンベースポリシーファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する追加情報 \(2049 ページ\)](#)
- [ゾーンベースポリシーファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する機能情報 \(2050 ページ\)](#)

# ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する情報

## アプリケーション レベル ゲートウェイ

アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、アプリケーション レイヤ ゲートウェイとも呼ばれ、アプリケーション パケットのペイロード内の IP アドレス情報を変換するアプリケーションです。ALG は、アプリケーション レイヤ プロトコルを解釈し、ファイアウォールおよびネットワーク アドレス変換 (NAT) アクションを実行するために使用されます。これらのアクションは、ファイアウォールおよび NAT の設定に応じて次の 1 つまたは複数のアクションになります。

- クライアントアプリケーションが、ダイナミック TCP または UDP ポートを使用してサーバアプリケーションと通信できるようにします。
- アプリケーション固有のコマンドを認識し、これらのコマンドに対するきめ細かいセキュリティ制御を提供します。
- データ交換を行う 2 つのホスト間の複数のデータ ストリームまたはデータ セッションを同期します。
- アプリケーション ペイロードで使用できるネットワーク層アドレス情報を変換します。

ファイアウォールがピンホールを開き、アプリケーション レイヤ データストリームの送信元 IP アドレスおよび宛先 IP アドレスを伝送しない TCP または UDP トラフィックに対する変換サービスを NAT が実行します。IP アドレス情報を埋め込む特定のプロトコルまたはアプリケーションには ALG のサポートが必要です。

## レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションの有効化の概要

ゾーンベース ポリシーファイアウォールでは、アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) およびアプリケーションインスペクションおよびコントロール (AIC) と、レイヤ7プロトコルインスペクションがサポートされています。レイヤ7プロトコルインスペクションは ALG/AIC 設定とともに自動的に有効になります。

レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションは、アプリケーション層プロトコルを解釈または理解し、適切なファイアウォールまたはネットワーク アドレス変換 (NAT) アクションを実行する手法です。アプリケーションによっては、パケットがデバイスのセキュリティモジュールを通過する際、パケットのデータ部分に特別な処理をする必要があります。レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションを使用すると、セキュリティモジュールを通過するプロトコルの動作の確認や、不要なトラフィックや悪意のあるトラフィックの識別が可能です。セキュリティモジュールは、設定されているトラフィックポリシーに基づい

てパケットの受け入れまたは拒否を行い、アプリケーションおよびサービスを安全に使用できるようにします。

アプリケーション インспекションの実装の問題が原因で、アプリケーション パケットがドロップされることや、ネットワークが不安定になることがあります。ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG および AIC の有効化機能の導入前は、アプリケーション インспекションを無効にするには、ターゲット レイヤ 7 プロトコル ポートを使用してアクセス コントロール リスト (ACL) を定義し、特定のレイヤ 7 プロトコルのインспекションをバイパスするために、この ACL と、TCP または UDP プロトコルに一致するクラス マップを定義する必要があります。

ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG および AIC の有効化機能が導入されたことで、**application-inspect** コマンドを使用して、特定のプロトコルまたはサポートされているすべてのレイヤ 7 プロトコルに対して、レイヤ 7 プロトコル インспекションを有効または無効にできます。パラメータ マップの設定の変更は、新しいセッションにのみ適用されます。たとえば、FTP レイヤ 7 インспекションを無効にすると、新規に作成されたセッションは FTP レイヤ 7 インспекションをスキップしますが、この設定変更前にすでに確立されていた既存のセッションは FTP レイヤ 7 インспекションを実行します。すべてのセッションで設定の変更を行う場合は、すべてのセッションを削除してから再作成する必要があります。

レイヤ 7 アプリケーション プロトコル インспекションは、個々のパラメータ マップまたはグローバル ファイアウォールに対して有効にできます。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化方法

### ファイアウォールのレイヤ 7 アプリケーション プロトコル インспекションの有効化

アプリケーション プロトコル インспекションはデフォルトではイネーブルです。no **application-inspect** コマンドを使用して、アプリケーション プロトコル インспекションを無効にします。

何らかの理由でアプリケーション プロトコル インспекションを無効化した場合、**application-inspect** コマンドを使用して再設定します。**application-inspect** コマンドを設定する前に、**parameter-map type inspect** コマンドまたは **parameter-map type inspect-global** コマンドのいずれかを設定します。

いつでも **parameter-map type inspect** コマンドまたは **parameter-map type inspect-global** コマンドのいずれかのみを設定できます。

使用

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかを実行します。
  - **parameter-map type inspect** *parameter-map-name*
  - **parameter-map type inspect-global**
4. **application-inspect** {*all* | *protocol-name*}
5. **exit**
6. **class-map type inspect** {*match-all* | *match-any*} *class-map-name*
7. **match protocol** *protocol-name*
8. **exit**
9. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
10. **class type inspect** {*class-map-name* | **class-default**}
11. **inspect** *parameter-map-name*
12. **exit**
13. **class** {*class-map-name* | **class-default**}
14. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかを実行します。  • <b>parameter-map type inspect</b> <i>parameter-map-name</i> • <b>parameter-map type inspect-global</b> 例： Device(config)# parameter-map type inspect pmap-fw または Device(config)# parameter-map type inspect-global	<ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) 接続しきい値、タイムアウト、およびその他の検査アクションに関連するパラメータに対して、ファイアウォールの検査タイプパラメータマップを有効にして、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。</li> <li>• (任意) グローバルパラメータマップを有効にし、パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを開始します。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>application-inspect</b> { <b>all</b>   <i>protocol-name</i> } 例： Device(config-profile)# application-inspect msrpc	指定されたプロトコルについてアプリケーション インспекションをイネーブルにします。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-profile)# exit	パラメータマップタイプ検査コンフィギュレーションモードを終了して、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 6	<b>class-map type inspect</b> { <b>match-all</b>   <b>match-any</b> } <i>class-map-name</i> 例： Device(config)# class-map type inspect match-any internet-traffic-class	検査タイプクラスマップを作成し、クラスマップコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i> 例： Device(config-cmap)# match protocol msrpc	指定したプロトコルに基づいてクラスマップの一致基準を設定します。
ステップ 8	<b>exit</b> 例： Device(config-cmap)# exit	クラスマップコンフィギュレーションモードを終了して、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 9	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> 例： Device(config)# policy-map type inspect private-internet-policy	検査タイプポリシーマップを作成し、ポリシーマップコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>class type inspect</b> { <i>class-map-name</i>   <b>class-default</b> } 例： Device(config-pmap)# class type inspect internet-traffic-class	アクションを実行する対象のトラフィッククラスを指定し、ポリシーマップクラスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>inspect</b> <i>parameter-map-name</i> 例： Device(config-pmap-c)# inspect pmap-fw	ステートフルパケットインспекションをイネーブルにします。
ステップ 12	<b>exit</b> 例： Device(config-pmap-c)# exit	ポリシーマップクラスコンフィギュレーションモードを終了して、ポリシーマップコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 13	<b>class</b> { <i>class-map-name</i>   <b>class-default</b> } 例： Device(config-pmap)# class class-default	ポリシーを設定または変更できるようにデフォルトクラスを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 14	<b>end</b> 例： Device(config-pmap)# end	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## レイヤ7アプリケーション プロトコル インспекションを有効にするためのゾーンの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security {default | security-zone}**
4. **exit**
5. **zone security {default | security-zone}**
6. **exit**
7. **zone-pair security zone-pair source source-zone destination destination-zone**
8. **service-policy type inspect policy-map-name**
9. **exit**
10. **interface type number**
11. **zone-member security security-zone**
12. **exit**
13. **interface type number**
14. **zone-member security security-zone**
15. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>zone security {default   security-zone}</b> 例： Device(config)# zone security private	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>送信元ゾーンと宛先ゾーンという、ゾーン ペアを作成するための2つのセキュリティゾーンが必要です。</li> </ul>
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	<b>zone security {default   security-zone}</b> 例： Device(config)# zone security internet	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> 例： Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>zone-pair security zone-pair source source-zone destination destination-zone</b> 例： Device(config)# zone-pair security private-internet source private destination internet	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect policy-map-name</b> 例： Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect private-internet-policy	ファイアウォール ポリシー マップを宛先ゾーンペアに付加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。</li> </ul>
ステップ 9	<b>exit</b> 例： Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	<b>zone-member security</b> <i>security-zone</i> 例 : Device(config-if)# zone-member security private	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。  • インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます（ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除く）。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 12	<b>exit</b> 例 : Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 13	<b>interface</b> <i>type number</i> 例 : Device(config)# interface gigabitethernet 0/2/2	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 14	<b>zone-member security</b> <i>security-zone</i> 例 : Device(config-if)# zone-member security internet	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。
ステップ 15	<b>end</b> 例 : Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化の設定例

### 例：ファイアウォールでのレイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションの有効化

次に、**parameter-map type inspect** コマンドを設定した後に、レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションを有効にする例を示します。**parameter-map type**



**inspect-global** コマンドを設定した後も、アプリケーション インスペクションを有効にすることができます。

いつでも **parameter-map type inspect** コマンドまたは **parameter-map type inspect-global** コマンドのいずれかのみを設定できます。

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type inspect pmap-fw
Device(config-profile)# application-inspect msrpc
Device(config-profile)# exit
Device(config)# class-map type inspect match-any internet-traffic-class
Device(config-cmap)# match protocol msrpc
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect private-internet-policy
Device(config-pmap)# class type inspect internet-traffic-class
Device(config-pmap-c)# inspect pmap-fw
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap)# end
```

## 例：レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションを有効化するゾーンの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# zone security private
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security internet
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security private-internet source private destination internet
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect private-internet-policy
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0
Device(config-if)# zone-member security private
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/2/2
Device(config-if)# zone-member security internet
Device(config-if)# end
```

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
ファイアウォール コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 198: ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ポリ シー ファイアウォ ールでの ALG と AIC の 有効化	Cisco IOS XE リリース 3.11S	<p>ゾーンベース ポリシーファイアウォールでは、アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) およびアプリケーションインスペクションおよびコントロール (AIC) と、レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションがサポートされています。レイヤ7アプリケーションプロトコルインスペクションは、プロトコル動作の確認と、セキュリティ モジュールを通過する不要なまたは悪意のあるトラフィックの識別を容易にします。</p> <p>ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでの ALG と AIC の有効化機能が導入される前は、レイヤ7プロトコルインスペクションが ALG/AIC 設定とともに自動的に有効になりました。この機能を使用すると、<code>no application-inspect</code> コマンドを使用して、レイヤ7インスペクションを有効または無効にすることができます。</p> <p>Cisco IOS XE リリース 3.11S では、この機能が Cisco ASR 1000 シリーズアグリゲーションサービスルータ、Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータ、およびシスコクラウド サービスルータ 1000V で導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。  <b>application-inspect</b>、<b>show parameter-map type inspect</b>、  <b>show platform software firewall</b>。</p>





## CHAPTER 147

# ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定

ファイアウォール TCP SYN Cookie 機能は、TCP SYN フラッド攻撃からファイアウォールを保護します。TCP SYN フラッド攻撃は、サービス妨害 (DoS) 攻撃の一種です。通常、TCP 同期 (SYN) パケットは、ファイアウォールの背後にある対象のエンドホストまたは一定範囲のサブネットアドレスに送信されます。これらの TCP SYN パケットによって、送信元 IP アドレスがスプーフィングされます。スプーフィング攻撃とは、個人またはプログラムが、データを改ざんして不正な優位性を獲得し、別のものになります。TCP SYN フラッド攻撃は、ファイアウォールまたはエンドホスト上のすべてのリソースを占有し、そのために正当なトラフィックに対する DoS が発生します。ファイアウォールおよびファイアウォール背後のエンドホストでの TCP SYN フラッド攻撃を防ぐには、ファイアウォール TCP SYN Cookie 機能を設定する必要があります。

- [ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定に関する制約事項, on page 2053](#)
- [ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定について, on page 2054](#)
- [ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定方法, on page 2055](#)
- [ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定例, on page 2060](#)
- [ファイアウォール TCP SYN Cookie に関する追加情報, on page 2061](#)
- [ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定に関する機能情報, on page 2062](#)

## ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定に関する制約事項

- デフォルトのゾーンはゾーンタイプのパラメータマップをサポートしていないため、デフォルトのゾーンのファイアウォール TCP SYN Cookie 機能を設定することはできません。
- ファイアウォール TCP SYN Cookie 機能は、サブスクリバ単位のファイアウォールをサポートしていません。

# ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定について

## TCP SYN フラッド攻撃

ファイアウォール TCP SYN Cookie 機能は、DoS 攻撃の一種である TCP SYN フラッディング攻撃からファイアウォールを保護するソフトウェアを実装します。

SYN フラッディング攻撃は、ハッカーがサーバに膨大な数の接続要求をフラッドすることによって発生します。これらのメッセージには到達不能の返信アドレスが含まれているため、接続を確立できません。未解決のオープン接続の数が増え、最終的にはサーバで処理しきれなくなり、有効な要求へのサービスが拒否されるようになるため、正当なユーザの Web サイトへの接続、電子メールのアクセス、FTP サービスの使用などが妨げられます。

SYN フラッド攻撃は、次の 2 つのタイプに分類されます。

- **ホスト フラッド**：SYN フラッドパケットが単一のホストに送信され、そのホスト上のすべてのリソースを使用することが意図されます。
- **ファイアウォールセッションテーブルフラッド**：SYN フラッドパケットはファイアウォールの背後のアドレスの範囲に送信され、ファイアウォール上のセッションテーブルリソースを枯渇させ、その結果、リソースの拒否がファイアウォールを通過するトラフィックを正当化することが意図されます。

ファイアウォール TCP SYN Cookie 機能は、TCP 接続要求を代行受信して検証することにより、SYN フラッディング攻撃を防止するのに役立ちます。ファイアウォールは、クライアントからサーバに送信される TCP SYN パケットを代行受信します。TCP SYN Cookie がトリガーされると、設定された VPN ルーティングおよび転送 (VRF) またはゾーン宛てのすべての SYN パケットに作用します。TCP SYN Cookie は宛先サーバの代わりにクライアントとの接続を確立し、クライアントの代わりにサーバとの別の接続を確立して、2 つの半接続を透過的に結び付けます。したがって、到達不能なホストからの接続試行がサーバに到達することはありません。TCP SYN Cookie は接続されている間、パケットを代行受信および転送します。

ファイアウォール TCP SYN Cookie 機能は、グローバルルーティング ドメインと VRF ドメインのセッション テーブル SYN フラッド保護を提供します。ファイアウォールはグローバル テーブルにセッションを保存するため、TCP ハーフオープンセッションの数に制限を設定できます。TCP ハーフオープンセッションは、確立状態に達していないセッションです。VRF 対応ファイアウォールでは、各 VRF の TCP ハーフオープンセッションの数に制限を設定できます。グローバルレベルと VRF レベルの両方で、設定済みの制限に達すると、TCP SYN Cookie はより多くのセッションを作成する前に、ハーフオープンセッションの送信元を確認します。

# ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定方法

## ファイアウォール ホスト保護の設定

ホストのすべてのリソースを引き継ぐために、TCP SYN パケットが単一のホストに送信されます。ホスト保護は、送信元ゾーンに関してのみ設定可能です。宛先ゾーン設定で保護を設定しても、TCP SYN 攻撃から宛先ゾーンが保護されるわけではありません。

ファイアウォール ホスト保護を設定するには、次の作業を実行します。



**Note** `show` コマンドは任意の順序で指定できます。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `parameter-map type inspect-zone zone-pmap-name`
4. `tcp syn-flood rate per-destination maximum-rate`
5. `max-destination limit`
6. `exit`
7. `zone security zone-name`
8. `protection parameter-map-name`
9. `exit`
10. `show parameter-map type inspect-zone zone-pmap-name`
11. `show zone security`
12. `show policy-firewall stats zone zone-name`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-zone</b> <i>zone-pmap-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# parameter-map type inspect-zone zone-pmap</pre>	ゾーン検査タイプ パラメータ マップを設定し、プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>tcp syn-flood rate per-destination</b> <i>maximum-rate</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config-profile)# tcp syn-flood rate per-destination 400</pre>	各宛先アドレスの 1 秒あたりの SYN フラッド パケット数を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の宛先アドレスに送信される SYN パケットのレートが、宛先ごとの制限を超えた場合、ファイアウォールは宛先アドレスにルーティングされる SYN パケットの SYN Cookie 処理を開始します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>max-destination</b> <i>limit</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config-profile)# max-destination 10000</pre>	ファイアウォールがゾーンで追跡できる宛先の最大数を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>limit</i> 引数を使って設定された制限を最大宛先が超えた場合、ファイアウォールは SYN パケットをドロップします。</li> </ul>
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-profile)# exit</pre>	プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>zone security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# zone security secure-zone</pre>	セキュリティ ゾーンを設定し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>protection</b> <i>parameter-map-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config-sec-zone)# protection zone-pmap</pre>	パラメータ マップを使用して指定のゾーンに関する保護を設定します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-sec-zone)# exit</pre>	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション を終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 10	<b>show parameter-map type inspect-zone</b> <i>zone-pmap-name</i> <b>Example:</b>	(任意) ゾーン検査タイプ パラメータ マップの詳細を表示します。



	Command or Action	Purpose
	Router# show parameter-map type inspect-zone zone-pmap	
ステップ 11	<b>show zone security</b> <b>Example:</b>  Router# show zone security	(任意) ゾーン セキュリティ情報を表示します。
ステップ 12	<b>show policy-firewall stats zone zone-name</b> <b>Example:</b>  Router# show policy-firewall stats zone secure-zone	(任意) パケット制限を超えた、SYN Cookieによつて処理された SYN パケットの数を表示します。

## ファイアウォール セッション テーブル保護の設定

ファイアウォール上のセッションテーブルリソースを使い果たすことで、そのファイアウォールを通過する正当なトラフィックに対するサービスを拒否することを目的として、TCP SYN パケットがファイアウォール背後の一定範囲のアドレスに送信されます。グローバルルーティング ドメインまたは VRF ドメインにファイアウォールセッションテーブル保護を設定できます。

### グローバル ルーティング ドメインでのファイアウォール セッション テーブル保護の設定

グローバルルーティング ドメインにファイアウォールセッションテーブル保護を設定するには、次の作業を実行します。



**Note** グローバルパラメータマップは、ルータ レベルではなく、グローバルルーティング ドメインで有効になります。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect global**
4. **tcp syn-flood limit number**
5. **end**
6. **show policy-firewall stats vrf global**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect global</b> <b>Example:</b> Router(config)# parameter-map type inspect global	グローバル パラメータ マップを設定し、プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>tcp syn-flood limit number</b> <b>Example:</b> Router(config-profile)# tcp syn-flood limit 500	新しい SYN パケットの SYN Cookie 処理をトリガーする TCP ハーフ オープン セッション 数を制限します。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-profile)# end	プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 6	<b>show policy-firewall stats vrf global</b> <b>Example:</b> Router# show policy-firewall stats vrf global	(任意) グローバル VRF ファイアウォール ポリシー のステータスを表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>また、存在する TCP ハーフ オープン セッション の数もコマンド出力に表示されます。</li></ul>

## VRF ドメインでのファイアウォール セッション テーブル保護の設定

VRF ドメインにファイアウォール セッション テーブル保護を設定するには、次の作業を実行します。



**Note** **show** コマンドは任意の順序で指定できます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parameter-map type inspect-vrf** *vrf-pmap-name*
4. **tcp syn-flood limit** *number*
5. **exit**
6. **parameter-map type inspect global**
7. **vrf** *vrf-name* **inspect** *parameter-map-name*
8. **end**
9. **show parameter-map type inspect-vrf**
10. **show policy-firewall stats vrf** *vrf-name*

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parameter-map type inspect-vrf</b> <i>vrf-pmap-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf-pmap	VRF 検査タイプ パラメータ マップを設定し、プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>tcp syn-flood limit</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Router(config-profile)# tcp syn-flood limit 200	新しい SYN パケットの SYN Cookie 処理をトリガーする TCP ハーフ オープン セッション 数を制限します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-profile)# exit	プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>parameter-map type inspect global</b> <b>Example:</b> Router(config)# parameter-map type inspect global	VRF 検査タイプ パラメータ マップを VRF にバインドし、プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>vrf vrf-name inspect parameter-map-name</b> <b>Example:</b>  Router(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf-pmap	パラメータ マップを VRF にバインドします。
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b>  Router(config-profile)# end	プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 9	<b>show parameter-map type inspect-vrf</b> <b>Example:</b>  Router# show parameter-map type inspect-vrf	(任意) VRF 検査タイプ パラメータ マップに関する情報を表示します。
ステップ 10	<b>show policy-firewall stats vrf vrf-name</b> <b>Example:</b>  Router# show policy-firewall stats vrf vrf-pmap	(任意) VRF ファイアウォール ポリシーのステータスを表示します。  • また、存在する TCP ハーフ オープンセッションの数もコマンド出力に表示されます。

## ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定例

### ファイアウォール ホスト保護の設定例

次に、ファイアウォール ホスト保護を設定する例を示します。

```
Router(config)# parameter-map type inspect-zone zone-pmap
```

```
Router(config-profile)# tcp syn-flood rate per-destination 400
```

```
Router(config-profile)# max-destination 10000
```

```
Router(config-profile)# exit
```

```
Router(config)# zone security secure-zone
```

```
Router(config-sec-zone)# protection zone-pmap
```

## ファイアウォール セッション テーブル保護の設定例

### グローバルパラメータ マップ

次に、グローバルルーティング ドメインのファイアウォールセッションテーブル保護を設定する例を示します。

```
Router# configure terminal

Router(config)# parameter-map type inspect global

Router(config-profile)# tcp syn-flood limit 500

Router(config-profile)# end
```

### 検査 VRF タイプパラメータ マップ

次に、VRF ドメインのファイアウォールセッションテーブル保護を設定する例を示します。

```
Router# configure terminal

Router(config)# parameter-map type inspect-vrf vrf-pmap

Router(config-profile)# tcp syn-flood limit 200

Router(config-profile)# exit

Router(config)# parameter-map type inspect global

Router(config-profile)# vrf vrf1 inspect vrf-pmap

Router(config-profile)# end
```

## ファイアウォール TCP SYN Cookie に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 199: ファイアウォール TCP SYN Cookie の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ファイアウォール TCP SYN Cookie	Cisco IOS XE リリース 3.3S	<p>ファイアウォール TCP SYN Cookie 機能は、TCP SYN フラッディング攻撃からファイアウォールを保護します。TCP SYN フラッディング攻撃は DoS 攻撃の一種です。通常は、TCP SYN パケットはファイアウォールの背後のターゲット エンド ホストまたはサブネットアドレスの範囲に送信されます。これらの TCP SYN パケットによって、送信元 IP アドレスがスプーフィングされます。スプーフィング攻撃とは、個人またはプログラムが、データを改ざんして不正な優位性を獲得し、別のものになりますことです。TCP SYN フラッディングは、ファイアウォールまたはエンド ホスト上のリソースを使い果たすことにより、正当なトラフィックに対する DoS を引き起こすことができます。ファイアウォールおよびファイアウォール背後のエンドホストでの TCP SYN フラッディングを防ぐには、ファイアウォール TCP SYN Cookie 機能を設定する必要があります。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>parameter-map type inspect-vrf</b>、<b>parameter-map type inspect-zone</b>、<b>parameter-map type inspect global</b>、<b>show policy-firewall stats</b>、<b>tcp syn-flood rate per-destination</b>、<b>tcp syn-flood limit</b>。</p>







## 第 148 章

# ACL のオブジェクト グループ

ACL のオブジェクト グループ機能を使用して、ユーザ、デバイス、またはプロトコルをグループに分類し、これらのグループをアクセス コントロール リスト (ACL) に適用してアクセス コントロール ポリシーを作成することができます。この機能により、従来の ACL で使用される個々の IP アドレス、プロトコル、ポートではなく、オブジェクト グループを使用できるようになります。この機能では、複数のアクセス コントロール エントリ (ACE) を使用できます。それぞれの ACE を使用してユーザのグループ全体にサーバやサービスのグループに対するアクセスを許可したり、アクセスを拒否したりできるため、ACL のサイズが削減されて管理が容易になります。

このモジュールでは、ゾーンベース ポリシー ファイアウォールでのオブジェクト グループ ACL の概要と、ゾーンベース ファイアウォールを設定する方法を説明します。

- [機能情報の確認 \(2065 ページ\)](#)
- [ACL のオブジェクト グループに関する制約事項 \(2066 ページ\)](#)
- [ACL のオブジェクト グループに関する情報 \(2066 ページ\)](#)
- [ACL のオブジェクト グループの設定方法, on page 2068](#)
- [ACL 用オブジェクト グループの設定例, on page 2081](#)
- [ACL 用オブジェクト グループに関する追加情報, on page 2084](#)
- [ACL 用 IPv6 オブジェクトグループに関する機能情報, on page 2084](#)

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、「[Bug Search Tool](#)」およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## ACL のオブジェクトグループに関する制約事項

以下の制限が、ゾーンベース ファイアウォール上の ACL 用オブジェクトグループ機能に適用されます。

- IPv6 はサポートされていません。
- 動的およびユーザ単位のアクセス コントロール リスト (ACL) はサポートされません。
- ACL 内で使用されている場合は、オブジェクトグループを削除したり、オブジェクトグループを空にしたりすることができません。
- オブジェクトグループを使用する ACL ステートメントは、処理のために RP に送信されるパケットでは無視されます。
- オブジェクトグループは IP 拡張 ACL でのみサポートされます。

## ACL のオブジェクトグループに関する情報

### ACL のオブジェクトグループの概要

大規模なネットワークでは、アクセス コントロール リスト (ACL) の行数が大量 (数百行) になり、特に ACL が頻繁に変更される場合は ACL の設定および管理が困難になります。オブジェクトグループベースの ACL は小規模で読みやすく、簡単に設定および管理できます。オブジェクトグループベースの ACL により、Cisco IOS ルータの大規模なユーザアクセス環境でのスタティック ACL の導入が容易になります。オブジェクトグループはポリシーの作成を簡素化することから (たとえば、グループ A にグループ A サービスへのアクセスを許可するなど)、ゾーンベース ファイアウォールにはオブジェクトグループによるメリットが得られます。

従来型のアクセス コントロール エントリ (ACE) を設定し、複数の ACE が同じ ACL 内のオブジェクトグループを参照するように設定できます。オブジェクトグループベースの ACL は、Quality of Service (QoS) 一致基準、ゾーンベース ポリシー ファイアウォール、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)、およびその他の拡張 ACL を使用する機能で使用できます。

さらに、マルチキャストトラフィックでオブジェクトグループベースの ACL を使用することもできます。多数のインバウンドおよびアウトバウンドパケットがある場合、オブジェクトグループベースの ACL を使用すると、従来型の ACL を使用する場合よりパフォーマンスが向上します。また、大規模な構成では、この機能によりアドレスとプロトコルのペアごとに個別の ACE を定義する必要がなくなるため、NVRAM に必要なストレージを削減できます。

### ゾーンベース ファイアウォールとオブジェクトグループの統合

ゾーンベース ファイアウォールでは特定のトラフィックにポリシーを適用するために、オブジェクトグループアクセスコントロールリスト (ACL) を使用します。オブジェクトグループ

プ ACL を定義し、その ACL をゾーンベース ファイアウォール ポリシーに関連付けて、ゾーンペアにポリシーを適用してトラフィックを検査します。

Cisco IOS XE リリース 3.12S の場合、ファイアウォールでサポートされるのは拡張オブジェクトグループ ACL のみです。

ファイアウォールで設定されたオブジェクトグループには、次の機能が有効です。

- スタティックおよびダイナミック ネットワーク アドレス変換 (NAT)
- サービス NAT (**ip nat service** コマンドで設定された標準外の FTP ポート番号をサポートする NAT)
- FTP アプリケーション層ゲートウェイ (ALG)
- Session Initiation Protocol (SIP) ALG

クラスマップには、**match access-group** コマンドを使用して最大 64 のマッチングステートメントを設定できます。

## ネットワーク オブジェクト グループで許可されるオブジェクト

ネットワーク オブジェクト グループは、次のいずれかのオブジェクトのグループです。

- IPv6 アドレス
- ホスト IPv6 アドレス
- その他のネットワーク オブジェクト グループ
- サブネット

## サービス オブジェクト グループで許可されるオブジェクト

サービス オブジェクト グループは、次のいずれかのオブジェクトのグループです。

- 送信元および宛先プロトコルポート (Telnet や Simple Network Management Protocol (SNMP) など)
- Internet Control Message Protocol (ICMP) タイプ (エコー、エコー応答、到達不能など)
- トップレベルプロトコル (Encapsulating Security Payload (ESP) 、TCP、UDP など)
- その他のサービス オブジェクト グループ

## オブジェクト グループに基づく ACL

従来のアクセス コントロール リスト (ACL) を使用または参照する機能はすべて、オブジェクトグループベースの ACL と互換性があり、従来の ACL の機能インタラクションはオブジェクトグループベース ACL と同じです。この機能により、オブジェクトグループベースの ACL をサポートできるように従来の ACL が拡張され、新しいキーワードと、送信元アドレス、宛先アドレス、送信元ポート、および宛先ポートが追加されます。

オブジェクトグループメンバーシップリストでは、（オブジェクトグループを削除および再定義せずに）オブジェクトを動的に追加、削除、または変更できます。また、オブジェクトグループメンバーシップリストでは、オブジェクトグループを使用する ACL アクセスコントロールエントリ（ACE）を再定義せずに、オブジェクトを追加、削除、または変更できます。グループにオブジェクトを追加してから、グループからオブジェクトを削除することで、ACL をインターフェイスに再適用せずに、オブジェクトグループベースの ACL 内で変更が正しく機能することを確認できます。

ソースグループのみ、宛先グループのみ、またはソースグループと宛先グループの両方を使用して、オブジェクトグループベースの ACL を複数回設定できます。

ACL 内またはクラスベースポリシー言語（CPL）ポリシー内で使用されているオブジェクトグループは削除できません。

## オブジェクトグループ ACL のガイドライン

- オブジェクトグループには、固有の名前が必要となります。例として、「Engineering」という名前のネットワークオブジェクトグループと「Engineering」という名前のサービスオブジェクトグループを作成するとします。この場合、少なくとも1つのオブジェクトグループ名に識別子（またはタグ）を追加して、その名前を固有のものにする必要があります。たとえば、「Engineering-admins」と「Engineering-hosts」という名前を使用すると、オブジェクトグループの名前を固有のものにして識別しやすくなります。
- 既存のオブジェクトグループに、さらにオブジェクトを追加することができます。オブジェクトグループを追加した後、同じグループ名で必要に応じてさらにオブジェクトを追加できます。既存のオブジェクトを再入力する必要はありません。オブジェクトグループを削除するまで以前の設定がそのまま保持されます。
- さまざまなオブジェクトをグループ化することができます。たとえば、ホスト、プロトコル、サービスなどのオブジェクトがグループ化され、同じグループ名で設定できます。ネットワークオブジェクトは、ネットワークオブジェクトグループでのみ定義し、サービスオブジェクトはサービスグループでのみ定義できます。
- **object-group** コマンドでグループを定義した後に任意のセキュリティアプライアンスコマンドを使用すると、そのコマンドはそのグループの各項目に適用されます。この機能を使用すると、コンフィギュレーションのサイズを大幅に削減できます。
- ZBF 検査のクラスマップに関連付けられている ACL にオブジェクトグループが含まれている場合、ACL にエントリを追加したり、ACL からエントリを削除したりすると、アクセスリストコンフィギュレーションプロンプトを終了した後にはのみ変更が有効になります。

## ACL のオブジェクトグループの設定方法

ACL のオブジェクトグループを設定するには、最初に1つ以上のオブジェクトグループを作成します。作成するオブジェクトグループは、ネットワークオブジェクトグループ（ホスト

アドレスやネットワークアドレスなどのオブジェクトが含まれるグループ) またはサービスオブジェクトグループ (ポート番号に **lt**、**eq**、**gt**、**neq**、**range** などの演算子を使用するグループ) を任意に組み合わせることができます。オブジェクトグループを作成した後、それらのグループにポリシー (**permit** または **deny** など) を適用するアクセス コントロール エントリ (ACE) を作成します。

## ネットワーク オブジェクト グループの作成

単一のオブジェクト (単一の IP アドレス、ホスト名、別のネットワーク オブジェクトグループ、またはサブネットなど) または複数のオブジェクトを含むネットワーク オブジェクトグループには、オブジェクトのアクセス制御ポリシーを作成するための、ネットワークオブジェクトグループ ベース ACL が関連付けられています。

ネットワーク オブジェクトグループを作成するには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **object-group network** *object-group-name*
4. **description** *description-text*
5. **host** {*host-address* | *host-name*}
6. **network-address** {*ln* | *network-mask*}
7. **group-object** *nested-object-group-name*
8. オブジェクトグループのベースとなるオブジェクトを指定するまで、手順を繰り返します。
9. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>object-group network</b> <i>object-group-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# object-group network my-network-object-group</pre>	オブジェクト グループ名を定義し、ネットワーク オブジェクトグループコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>description</b> <i>description-text</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-network-group)# description test engineers</pre>	(オプション) オブジェクトグループの説明を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 200 文字を使用できます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>host</b> { <i>host-address</i>   <i>host-name</i> } <b>Example:</b> <pre>Device(config-network-group)# host 209.165.200.237</pre>	(オプション) ホストの IP アドレスまたは名前を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホストアドレスを指定する場合、IPv4 アドレスを使用する必要があります。</li> </ul>
ステップ 6	<b>network-address</b> { <i>lnn</i>   <i>network-mask</i> } <b>Example:</b> <pre>Device(config-network-group)# 209.165.200.225 255.255.255.224</pre>	(オプション) サブネットオブジェクトを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ネットワーク アドレスには IPv4 アドレスを指定する必要があります。デフォルトのネットワーク マスクは 255.255.255.255 です。</li> </ul>
ステップ 7	<b>group-object</b> <i>nested-object-group-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-network-group)# group-object my-nested-object-group</pre>	(オプション) 現在の (親) オブジェクトグループに含めるネストされた (子) オブジェクトグループを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 子オブジェクトグループのタイプは親のタイプと一致している必要があります (たとえば、ネットワーク オブジェクトグループを作成する場合、子として別のネットワーク オブジェクトグループを指定する必要があります)。</li> <li>• グループオブジェクト内で重複するオブジェクトの使用は、オブジェクトグループのネストによってのみ可能です。たとえば、オブジェクト 1 がグループ A とグループ B の両方に含まれる場合、A と B の両方を含むグループ C を定義できます。ただし、グループ階層の循環を引き起こすグループオブジェクトを含めることはできません (たとえば、グループ A をグループ B に含め、次にグループ B をグループ A に含めることはできません)。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネストされたオブジェクトグループのレベルの数は無制限に使用できます（ただし、最大2つのレベルを推奨します）。</li> </ul>
ステップ 8	オブジェクトグループのベースとなるオブジェクトを指定するまで、手順を繰り返します。	—
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-network-group)# end</pre>	ネットワーク オブジェクトグループ コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## サービス オブジェクト グループの作成

TCP または UDP ポートまたはポート範囲を指定するにはサービス オブジェクトグループを使用します。サービス オブジェクトグループがアクセスコントロールリスト (ACL) に関連付けられると、このサービス オブジェクトグループベースの ACL はポートへのアクセスを制御できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **object-group service** *object-group-name*
4. **description** *description-text*
5. *protocol*
6. **{tcp | udp | tcp-udp}** [**source** **{[eq] | lt | gt} port1 | range port1 port2**] **{[eq] | lt | gt} port1 | range port1 port2**]
7. **icmp** *icmp-type*
8. **group-object** *nested-object-group-name*
9. 手順を繰り返して、オブジェクトグループのベースとなるオブジェクトを指定します。
10. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>object-group service <i>object-group-name</i></b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# object-group service my-service-object-group</pre>	オブジェクトグループ名を定義し、サービスオブジェクトグループコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>description <i>description-text</i></b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-service-group)# description test engineers</pre>	<p>(オプション) オブジェクトグループの説明を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大 200 文字を使用できます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>protocol</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-service-group)# ahp</pre>	(オプション) IP プロトコルの番号または名前を指定します。
ステップ 6	<b>{tcp   udp   tcp-udp} [source {[eq]   lt   gt} port1   range port1 port2}] [[eq]   lt   gt} port1   range port1 port2]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-service-group)# tcp-udp range 2000 2005</pre>	(オプション) TCP、UDP、または両方を指定します。
ステップ 7	<b>icmp <i>icmp-type</i></b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-service-group)# icmp conversion-error</pre>	(オプション) Internet Control Message Protocol (ICMP) タイプの 10 進数または名前を指定します。
ステップ 8	<b>group-object <i>nested-object-group-name</i></b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-service-group)# group-object my-nested-object-group</pre>	<p>(オプション) 現在の (親) オブジェクトグループに含めるネストされた (子) オブジェクトグループを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子オブジェクトグループのタイプは親のタイプと一致している必要があります (たとえば、ネットワーク オブジェクトグループを作成する場合、子として別のネットワーク オブジェクトグループを指定する必要があります)。</li> <li>グループ オブジェクト内で重複するオブジェクトの使用は、オブジェクトグループのネス</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
		<p>トによってのみ可能です。たとえば、オブジェクト 1 がグループ A とグループ B の両方に含まれる場合、A と B の両方を含むグループ C を定義できます。ただし、グループ階層の循環を引き起こすグループ オブジェクトを含めることはできません（たとえば、グループ A をグループ B に含め、次にグループ B をグループ A に含めることはできません）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ネストされたオブジェクト グループのレベルの数は無制限に使用できます（ただし、最大2つのレベルを推奨します）。</li> </ul>
ステップ 9	手順を繰り返して、オブジェクト グループのベースとなるオブジェクトを指定します。	—
ステップ 10	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-service-group)# end</pre>	サービス オブジェクトグループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## オブジェクト グループ ベース ACL の作成

オブジェクト グループ ベースのアクセス コントロール リスト (ACL) を作成する場合、1つ以上のオブジェクトグループを参照する ACL を設定します。従来の ACE と同様に、同じアクセス ポリシーを1つまたは複数のインターフェイスと関連付けることができます。

同じオブジェクトグループベース ACL 内のオブジェクトグループを参照する、複数のアクセス コントロール エントリ (ACE) を定義できます。また、複数の ACE で特定のオブジェクトグループを再利用できます。

オブジェクト グループ ベース ACL を作成するには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip access-list extended** *access-list-name*
4. **remark** *remark*
5. **deny protocol source** [*source-wildcard*] *destination* [*destination-wildcard*] [**option** *option-name*] [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**established**] [**log** | **log-input**] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**]
6. **remark** *remark*
7. **permit protocol source** [*source-wildcard*] *destination* [*destination-wildcard*] [**option** *option-name*] [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**established**] [**log** | **log-input**] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**]

8. 手順を繰り返して、アクセス リストのベースとなるフィールドと値を指定します。
9. end

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip access-list extended access-list-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip access-list extended nomarketing	名前を使用して拡張 IP アクセス リストを定義し、拡張アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>remark remark</b> <b>Example:</b> Device(config-ext-nacl)# remark protect server by denying access from the Marketing network	（任意）設定されたアクセス リスト エントリに関するコメントを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 注釈はアクセス リスト エントリの前または後に指定できます。</li> <li>• この例では、注釈によって、後続のエントリがインターフェイスに対する Marketing ネットワークアクセスを拒否することをネットワーク管理者に示します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>deny protocol source [source-wildcard] destination [destination-wildcard] [option option-name] [precedence precedence] [tos tos] [established] [log   log-input] [time-range time-range-name] [fragments]</b> <b>Example:</b> Device(config-ext-nacl)# deny ip 209.165.200.244 255.255.255.224 host 209.165.200.245 log Example based on object-group: Router(config)#object-group network my_network_object_group Router(config-network-group)#209.165.200.224	（任意）ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを拒否します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 必要に応じて、<b>object-group service-object-group-name</b> キーワードおよび引数を、<i>protocol</i> の代わりに使用します。 <b>argument</b></li> <li>• 必要に応じて、<b>object-group source-network-object-group-name</b> キーワードおよび引数を、<i>source source-wildcard</i> 引数の代わりに使用します。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	<pre>255.255.255.224 Router(config-network-group)#exit Router(config)#object-group network my_other_network_object_group Router(config-network-group)#host 209.165.200.245 Router(config-network-group)#exit Router(config)#ip access-list extended nomarketing Router(config-ext-nacl)#deny ip object-group my_network_object_group object-group my_other_network_object_group log</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 必要に応じて、<b>object-group</b> <i>destination-network-object-group-name</i> キーワード および引数を、<i>destination destination-wildcard</i> 引数の代わりに使用します。</li> <li>• <i>source-wildcard</i> または <i>destination-wildcard</i> を省略すると、<b>0.0.0.0</b> のワイルドカードマスクが想定され、それぞれ送信元アドレスまたは宛先アドレスの全ビットへの一致を意味します。</li> <li>• 必要に応じて、<i>source source-wildcard</i> または <i>destination destination-wildcard</i> の代わりに、キーワード <b>any</b> を使用して、アドレスと <b>0.0.0.0 255.255.255.255</b> のワイルドカードを指定します。</li> <li>• 必要に応じて、<b>host source</b> キーワード および引数を使用して送信元と <i>source 0.0.0.0</i> の送信元ワイルドカードを示すか、<b>host destination</b> キーワード および引数を使用して宛先と <i>destination 0.0.0.0</i> の宛先ワイルドカードを示します。</li> <li>• この例では、すべての送信元のパケットは、宛先ネットワーク <b>209.165.200.244</b> へのアクセスが拒否されます。アクセスリストによって許可または拒否されるパケットに関するロギングメッセージは、<b>logging facility</b> コマンドに設定された設備に送信されます（たとえば、コンソール、端末、<b>syslog</b>）。つまり、パケットがアクセスリストに一致する場合は常に、パケットに関する情報を提供するロギングメッセージが設定された設備に送信されます。コンソールにロギングするメッセージのレベルは、<b>logging console</b> コマンドで制御します。</li> </ul>
<p>ステップ 6</p>	<p><b>remark</b> <i>remark</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ext-nacl)# remark allow TCP from any source to any destination</pre>	<p>(任意) 設定されたアクセス リスト エントリに関するコメントを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 注釈はアクセス リスト エントリの前または後に指定できます。</li> </ul>
<p>ステップ 7</p>	<p><b>permit</b> <i>protocol source [source-wildcard] destination [destination-wildcard] [option option-name] [precedence precedence] [tos tos] [established] [log   log-input] [time-range time-range-name] [fragments]</i></p>	<p>ステートメントに指定されたすべての条件に一致するすべてのパケットを許可します。</p>

	Command or Action	Purpose
	<p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ext-nacl)# permit tcp any any</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各アクセスリストには、少なくとも1つの <code>permit</code> ステートメントが必要です。</li> <li>必要に応じて、<b>object-group</b> <code>service-object-group-name</code> キーワードおよび引数を、<code>protocol</code> の代わりに使用します。</li> <li>必要に応じて、<b>object-group</b> <code>source-network-object-group-name</code> キーワードおよび引数を、<code>source source-wildcard</code> の代わりに使用します。</li> <li>必要に応じて、<b>object-group</b> <code>destination-network-object-group-name</code> キーワードおよび引数を、<code>destination destination-wildcard</code> の代わりに使用します。</li> <li><code>source-wildcard</code> または <code>destination-wildcard</code> を省略すると、<code>0.0.0.0</code> のワイルドカードマスクが想定され、それぞれ送信元アドレスまたは宛先アドレスの全ビットへの一致を意味します。</li> <li>必要に応じて、<code>source source-wildcard</code> または <code>destination destination-wildcard</code> の代わりに、キーワード <b>any</b> を使用して、アドレスと <code>0.0.0.0 255.255.255.255</code> のワイルドカードを指定します。</li> <li>この例では、任意の送信元から任意の宛先への TCP パケットが許可されています。</li> <li><b>log-input</b> キーワードを使用して、ロギング出力に入力インターフェイス、送信元 MAC アドレス、または仮想回線を含めます。</li> </ul>
ステップ 8	<p>手順を繰り返して、アクセスリストのベースとなるフィールドと値を指定します。</p>	<p>明示的に許可されていないすべての送信元は、アクセスリストの末尾にある暗黙的な <b>deny</b> ステートメントで拒否されます。</p>
ステップ 9	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ext-nacl)# end</pre>	<p>拡張アクセスリスト コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。</p>

## オブジェクトグループのクラスマップとポリシーマップの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect match-all *class-map-name***
4. **match access-group name *access-list-name***
5. **exit**
6. **policy-map type inspect *policy-map-name***
7. **class type inspect *class-map-name***
8. **pass**
9. **exit**
10. **class class-default**
11. **drop**
12. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect match-all <i>class-map-name</i></b> 例： Device(config)# class-map type inspect match-all ogacl-cmap	レイヤ 3 およびレイヤ 4 の検査タイプ クラスマップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match access-group name <i>access-list-name</i></b> 例： Device(config-cmap)# match access-group name my-ogacl-policy	指定された ACL に基づいて、クラスマップの一致基準を設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-cmap)# exit	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> 例： Device(config)# policy-map type inspect ogacl-pmap	検査タイプ ポリシーマップを作成して、ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> 例： Device(config-pmap)# class type inspect ogacl-cmap	アクションを実行する対象のトラフィック クラスを指定し、ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>pass</b> 例： Device(config-pmap-c)# pass	検査なしでパケットをデバイスに送信できるようにします。
ステップ 9	<b>exit</b> 例： Device(config-pmap-c)# exit	ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシーマップコンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	<b>class class-default</b> 例： Device(config-pmap)# class class-default	ポリシーを設定または変更するデフォルト クラスを指定し、ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>drop</b> 例： Device(config-pmap-c)# drop	デバイスに送信されるパケットをドロップします。
ステップ 12	<b>end</b> 例： Device(config-pmap-c)# end	ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## オブジェクトグループのゾーンの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security** *zone-name*
4. **exit**
5. **zone security** *zone-name*
6. **exit**
7. **interface** *type number*
8. **zone-member security** *zone-name*
9. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security zone-name</b> 例： Device(config)# zone security outside	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>送信元ゾーンと宛先ゾーンという、ゾーンペアを作成するための2つのセキュリティゾーンが必要です。</li></ul>
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	<b>zone security zone-name</b> 例： Device(config)# zone security inside	セキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>送信元ゾーンと宛先ゾーンという、ゾーンペアを作成するための2つのセキュリティゾーンが必要です。</li></ul>
ステップ 6	<b>exit</b> 例： Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>zone-member security zone-name</b> 例： Device(config-if)# zone-member security inside	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。
ステップ 9	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。

## オブジェクトグループのゾーンペアへのポリシー マップの適用

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone-pair security** *zone-pair-name* **source** {*zone-name* | **default** | **self**} **destination** {*zone-name* | **default** | **self**}
4. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
5. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> <b>source</b> { <i>zone-name</i>   <b>default</b>   <b>self</b> } <b>destination</b> { <i>zone-name</i>   <b>default</b>   <b>self</b> } 例： Device(config)# zone-pair security out-to-in source outside destination inside	ゾーン ペアを作成し、セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> 例： Device(conf-sec-zone-pair)# service-policy type inspect ogacl-pmap	ファイアウォール ポリシー マップをセキュリティ ゾーン ペアにアタッチします。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-sec-zone-pair)# end	セキュリティ ゾーン ペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードに戻ります。

## ACL のオブジェクトグループの確認

### SUMMARY STEPS

1. **enable**



2. **show object-group** [*object-group-name*]
3. **show ip access-list** [*access-list-name*]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show object-group</b> [ <i>object-group-name</i> ] <b>Example:</b> Device# show object-group my-object-group	名前付きまたは番号付きオブジェクトグループ（名前が入力されていない場合はすべてのオブジェクトグループ）の設定を表示します。
ステップ 3	<b>show ip access-list</b> [ <i>access-list-name</i> ] <b>Example:</b> Device# show ip access-list my-ogacl-policy	名前付きまたは番号付きアクセスリストまたはオブジェクトグループベース ACL（名前が入力されていない場合はすべてのアクセスリストおよびオブジェクトグループベース ACL）の内容を表示します。

## ACL 用オブジェクトグループの設定例

### 例：IPv6 ネットワーク オブジェクトグループの作成

次に、v6-network ognet1 という名前の IPv6 ネットワーク オブジェクトグループを作成する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group v6-network ognet1
Device(config-v6-network-group)# 1:1:2::0/32
Device(config-v6-network-group)# host AB:233::23D5
Device(config-v6-network-group)# exit
```

次に、1つのホスト、1つのサブネット、および既存のオブジェクトグループ（子）をオブジェクトとして含む、v6-network ognet2 という名前のネットワーク オブジェクトグループを作成する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group network v6-network ognet2
```

## 例：IPv6 サービス オブジェクト グループの作成

```
Device(config-v6network-group) # 1:2:3::4/36
Device(config-v6network-group) # host AABB::CCDD
Device(config-v6network-group) # group-object ognet1
Device(config-v6network-group) # exit
```

## 例：IPv6 サービス オブジェクト グループの作成

次に、複数の ICMP、TCP、UDP、および TCP-UDP プロトコルをオブジェクトとして含む、v6-service ogserv1 という名前のサービス オブジェクト グループを作成する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# object-group service v6-service ogserv1
Device(config-v6service-group) # icmp unreachable
Device(config-v6service-group) # tcp smtp
Device(config-v6service-group) # tcp telnet
Device(config-v6service-group) # tcp source range 3000 4000 telnet
Device(config-v6service-group) # pcp
Device(config-v6service-group) # udp domain
Device(config-v6service-group) # hph
Device(config-v6service-group) # exit
```

## 例：IPv6 オブジェクトグループベースの ACL の作成

次に、パケットを許可する IPv6 オブジェクトグループベース ACL を作成する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 access-list ogacl1
Device(config-ipv6-acl) # permit object-group ogserv1 5:6:7::5/56 object-group ognet1
Device(config-ipv6-acl) # deny ip object-group ognet2 object-group ognet3
Device(config-ipv6-acl) # permit ipv6 any any
Device(config-ipv6-acl) # exit
```

## 例：オブジェクトグループのクラス マップとポリシー マップの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# class-map type inspect match-all ogacl-cmap
Device(config-cmap) # match access-group name my-ogacl-policy
Device(config-cmap) # exit
Device(config)# policy-map type inspect ogacl-pmap
Device(config-pmap) # class type inspect ogacl-cmap
Device(config-pmap-c) # pass
Device(config-pmap-c) # exit
Device(config-pmap) # class class-default
Device(config-pmap-c) # drop
Device(config-pmap-c) # end
```

## 例：オブジェクトグループのゾーンの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# zone security outside
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security inside
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security out-to-in source outside destination inside
Device(conf-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1
Device(config-if)# zone-member security inside
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/0
Device(config-if)# zone-member security outside
Device(config-if)# end
```

## 例：オブジェクトグループのゾーンペアへのポリシーマップの適用

```
Device# configure terminal
Device(config)# zone-pair security out-to-in source outside destination inside
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect ogacl-pmap
Device(config-sec-zone-pair)# end
```

## 例：ACL用IPv6オブジェクトグループの確認

次に、すべてのオブジェクトグループを表示する例を示します。

```
Device# show object-group

V6-Network object group oghnet1
1:1:2::/32
host AB:233::23D5
V6-Network object group oghnet2
1:2:3::4/36
host AAB::CCDD
group-object oghnet1
V6-Network object group oghnet3
host 1::1
host 1::2
host 1::3
V6-Service object group ogserv1
icmp unreachable
tcp source range 3000 4000 eq telnet
pcp
hbh
```

次に、IPv6オブジェクトグループベースACLに関する情報を表示する例を示します。

```
Device# show ipv6 access-list
IPv6 access list ogacl1
  permit object-group ogserv1 5:6:7::/56 object-group oghnet1 sequence 10
  deny ipv6 object-group oghnet2 object-group oghnet3 sequence 20
```

```
permit ipv6 any any sequence 30
```

## ACL 用オブジェクトグループに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>
ACL 設定ガイド	『セキュリティコンフィギュレーションガイド』の「アクセスコントロールリスト」

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ACL 用 IPv6 オブジェクトグループに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 200: ACL 用オブジェクトグループに関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
ACL の IPv6 オブジェクトグループ	Cisco IOS XE リリース 16.11.1	ACL 用 IPv6 オブジェクトグループ機能を使用すれば、ユーザー、デバイス、またはプロトコルをグループに分類して、それらをアクセス制御リスト (ACL) に適用し、そのグループ用のアクセス制御ポリシーを作成することができます。この機能により、従来の ACL で使用される個々の IP アドレス、プロトコル、ポートではなく、オブジェクトグループを使用できるようになります。この機能は、複数のアクセスコントロール エントリ (ACE) を許可しますが、各 ACE を使用して、ユーザーのグループ全体に対してサーバーまたはサービスのグループへのアクセスを許可または禁止できます。





## CHAPTER 149

# Cisco ファイアウォール SIP 機能拡張 ALG

Cisco XE ファイアウォールの強化された Session Initiation Protocol (SIP) インспекションには、基本的な SIP 検査機能 (SIP パケット インспекションとピンホールのオープン) に加え、プロトコル準拠機能とアプリケーションセキュリティ機能があります。これらの機能拡張によって、SIP トラフィックおよび機能に適用するポリシーとセキュリティ チェックを制御し、不要なメッセージやユーザを除外できます。

Cisco IOS XE ソフトウェアで追加の SIP 機能を開発することで、Cisco Call Manage、Cisco Call Manager Express、および Cisco IP-IP Gateway ベースの音声/ビデオ システムのサポートが改善されます。また、アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) SIP の機能拡張では、RFC 3261 とその拡張もサポートされています。

- [Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG の前提条件, on page 2087](#)
- [Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG に関する制約事項, on page 2087](#)
- [Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG について, on page 2088](#)
- [Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG の設定方法, on page 2090](#)
- [シスコ ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG の設定例, on page 2094](#)
- [シスコ ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG に関する追加情報, on page 2095](#)
- [Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG に関する機能情報, on page 2096](#)

## Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG の前提条件

システムが Cisco IOS XE リリース 2.4 以降のリリースを実行している必要があります。

## Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG に関する制約事項

### DNS 名前解決

SIP メソッドでは、IP アドレスを直接指定する代わりにドメイン ネーム システム (DNS) 名を使用できますが、この機能は現在 DNS 名をサポートしていません。

### Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ

この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ上のアプリケーション インспекションおよびコントロール (AIC) をサポートせずに実装されました。Cisco IOS XE リリース 2.4 では、次コマンドのみがサポートされています。**class-map type inspect**、**class type inspect**、**match protocol**、および **policy-map type inspect**。

### Cisco ISR 4000 シリーズ ルータ

Cisco IOS XE Fuji 16.7.1 リリースは、Transport Layer Security (TLS) または Secure Real-time Transport Protocol (SRTP) をサポートしていません。

## Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG について

### SIP の概要

Session Initiation Protocol (SIP) は、1 人または複数の参加者とのセッションを作成、変更、および終了するためのアプリケーション層コントロール (シグナリング) プロトコルです。SIP セッションには、インターネット電話の通話、マルチメディアの配布、マルチメディア会議などがあります。SIP は HTTP のような要求/応答トランザクションモデルに基づいています。各トランザクションは、サーバで特定のメソッドまたは関数を呼び出す 1 つの要求と 1 つ以上の応答で構成されます。

セッションの作成に使用される SIP の招待は、互換性のあるメディアタイプのセットに参加者が同意できるセッション記述を伝送しています。SIP は、プロキシサーバと呼ばれる要素を利用して、ユーザの所在地への要求のルーティング、サービスのためのユーザ認証および認可、プロバイダーのコールルーティングポリシーの実装、およびユーザへの機能提供を行っています。また、SIP には、プロキシサーバから使用できるように、ユーザの所在地をアップロードできる登録機能があります。SIP は複数のトランスポートプロトコルを基礎として実行されます。

### SIP 用ファイアウォールの機能の説明

SIP 用ファイアウォールのサポート機能を使用すると、SIP シグナリング要求は、ゲートウェイ間の直接伝送によって、または複数のプロキシを介して、宛先ゲートウェイまたは電話に送信できます。最初の要求後に、Record-Route ヘッダーフィールドを使用しない場合、後続の要求は、Contact ヘッダーフィールドに指定されている宛先ゲートウェイアドレスに直接伝送できます。そのため、ファイアウォールは、周囲のすべてのプロキシとゲートウェイを認識し、次の機能を使用できます。

- SIP シグナリング応答は、SIP シグナリング要求と同じパスを伝送できます。
- 後続のシグナリング要求は、エンドポイント (宛先ゲートウェイ) に直接伝送できます。
- メディア エンドポイントは、相互にデータを交換できます。



### SIP UDP および TCP のサポート

RFC 3261 は最新の SIP の RFC であり、RFC 2543 の置き換えです。この機能は、シグナリングに SIP UDP と TCP 形式をサポートします。

## SIP インспекション

ここでは、Cisco ファイアウォール - SIP ALG 拡張機能でサポートされる展開シナリオについて説明します。

### SIP 電話と CCM 間の Cisco IOS XE ファイアウォール

Cisco IOS XE ファイアウォールは、Cisco Call Manager または Cisco Call Manager Express と SIP 電話の間にあります。SIP 電話はファイアウォールを介して Cisco Call Manager または Cisco Call Manager Express に登録され、SIP 電話とのすべての SIP コールはファイアウォールを通過します。

### SIP ゲートウェイ間の Cisco IOS XE ファイアウォール

Cisco IOS XE ファイアウォールは、2つの SIP ゲートウェイ（Cisco Call Manager、Cisco Call Manager Express、または SIP プロキシ）の間にあります。電話は SIP ゲートウェイに直接登録されます。ファイアウォールから SIP セッションまたはトラフィックを認識するのは、異なる SIP ゲートウェイに登録された電話間で SIP コールが存在する場合のみです。シナリオによっては、IP-IP ゲートウェイをファイアウォールと同じデバイスに設定することもできます。このシナリオでは、SIP ゲートウェイ間のすべてのコールは IP-IP ゲートウェイで終端します。

### ローカルの Cisco Call Manager Express とリモートの Cisco Call Manager Express/Cisco Call Manager を使用する Cisco IOS XE ファイアウォール

Cisco IOS XE ファイアウォールは、2つの SIP ゲートウェイ（Cisco Call Manager、Cisco Call Manager Express、または SIP プロキシ）の間にあります。ゲートウェイの1つは、ファイアウォールと同じデバイスで設定されます。このゲートウェイに登録されているすべての電話は、ファイアウォールによってローカルで検査されます。また、2つのゲートウェイ間に SIP コールがある場合、ファイアウォールによってその SIP セッションも検査されます。このシナリオでは、ファイアウォール的一方では SIP 電話がローカルで検査され、もう一方では SIP ゲートウェイが検査されます。

### ローカルの Cisco Call Manager Express を使用する Cisco IOS XE ファイアウォール

Cisco IOS XE ファイアウォールと Cisco Call Manager Express は、同じデバイスで設定されます。Cisco Call Manager Express に登録されているすべての電話は、ファイアウォールによってローカルで検査されます。また、登録されている任意の電話間で行われる SIP コールも、Cisco IOS XE ファイアウォールによって検査されます。

## ALG--SIP Over TCP の拡張機能

SIP が UDP を介して転送されると、すべての SIP メッセージが 1 つの UDP データグラムで送信されます。ただし、SIP が TCP を介して転送されると、1 つの TCP セグメントに複数の SIP メッセージが含まれることがあります。また、いずれかの TCP セグメント内の最後の SIP メッセージが部分的なメッセージである可能性があります。Cisco IOS XE リリース 3.5S 以前では、受信した 1 つの TCP セグメント内に複数の SIP メッセージがある場合、SIP ALG は最初のメッセージだけを解析します。解析されないデータは 1 つの不完全な SIP メッセージと見なされ、vTCP に戻されます。次の TCP セグメントを受信すると、vTCP は未処理データをそのセグメントの前に置き、それらを SIP ALG に渡すため、vTCP でバッファする必要があるデータが増えていきます。

Cisco IOS XE リリース 3.5S では、ALG--SIP over TCP 機能拡張機能により、SIP ALG は 1 つの TCP セグメント内の複数の SIP メッセージを処理できます。TCP セグメントを受信すると、このセグメント内のすべての完全な SIP メッセージは、1 つずつ解析されます。最終的に不完全なメッセージがある場合、その部分だけが vTCP に戻されます。

## Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 ALG の設定方法

### SIP インstrukションの有効化

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect match-any class-map-name**
4. **match protocol protocol-name**
5. **exit**
6. **policy-map type inspect policy-map-name**
7. **class type inspect class-map-name**
8. **inspect**
9. **exit**
10. **class class-default**
11. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-any sip-class1	検査タイプ クラス マップを作成し、クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol protocol-name</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol sip	名前付きプロトコルに基づいてクラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>policy-map type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect sip-policy	検査タイプ ポリシー マップを作成し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>class type inspect class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect sip-class1	アクションを実行するクラスを指定し、ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インспекションをイネーブルにします。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class class-default	これらのポリシー マップ設定が事前に定義したデフォルト クラスに適用されることを指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>設定済みクラス マップの一致基準のいずれともトラフィックが一致しない場合、事前に定義されたデフォルト クラスに誘導されます。</li></ul>
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# end	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## トラブルシューティングのヒント

SIP 対応のファイアウォール設定の問題を解決するには、次のコマンドを使用できます。

- **clear zone-pair**
- **debug cce**
- **debug policy-map type inspect**
- **show policy-map type inspect zone-pair**
- **show zone-pair security**

## ゾーンペアの設定と SIP ポリシー マップのアタッチ

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security** {*zone-name* | **default**}
4. **exit**
5. **zone security** {*zone-name* | **default**}
6. **exit**
7. **zone-pair security** *zone-pair-name* [**source** {*source-zone-name* | **self** | **default**} **destination** [*destination-zone-name* | **self** | **default**]]
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **exit**
10. **interface** *type number*
11. **zone-member security** *zone-name*
12. **exit**
13. **interface** *type number*
14. **zone-member security** *zone-name*
15. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>zone security</b> { <i>zone-name</i>   <b>default</b> } <b>Example:</b> Device(config)# zone security zone1	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 5	<b>zone security</b> { <i>zone-name</i>   <b>default</b> } <b>Example:</b> Device(config)# zone security zone2	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーンコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 7	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> [ <b>source</b> { <i>source-zone-name</i>   <b>self</b>   <b>default</b> } <b>destination</b> [ <i>destination-zone-name</i>   <b>self</b>   <b>default</b> ]] <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security in-out source zone1 destination zone2	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペアコンフィギュレーションモードに戻ります。 <b>Note</b> ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect sip-policy	ファイアウォールポリシーマップを宛先ゾーンペアに付加します。 <b>Note</b> ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティゾーンペアコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 10	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b>	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。

	Command or Action	Purpose
	Device(config-if)# zone-member security zone1	<b>Note</b> インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます（ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除く）。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 13	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 14	<b>zone-member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security zone2	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。
ステップ 15	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## シスコ ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG の設定例

### 例 : SIP インспекションの有効化

```
class-map type inspect match-any sip-class1
  match protocol sip
  !
policy-map type inspect sip-policy
  class type inspect sip-class1
    inspect
  !
class class-default
```

## 例：ゾーンペアの設定と SIP ポリシー マップのアタッチ

```

zone security zone1
!
zone security zone2
!
zone-pair security in-out source zone1 destination zone2
  service-policy type inspect sip-policy
!
interface gigabitethernet 0/0/0
  zone security zone1
!
interface gigabitethernet 0/1/1
  zone security zone2

```

## シスコ ファイアウォール SIP 拡張機能：ALG に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
ファイアウォールコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>
追加の SIP 情報	『 <a href="#">Guide to Cisco Systems VoIP Infrastructure Solution for SIP</a> 』
vTCP のサポート	<i>vTCP for ALG</i> サポート

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 3261	『 <a href="#">SIP: Session Initiation Protocol</a> 』

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 201: Cisco ファイアウォール SIP 拡張機能 : ALG に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ALG--SIP over TCP の拡張機能	Cisco IOS XE リリース 3.5S	ALG--SIP over TCP 拡張機能は、SIP ALG で 1 つの TCP セグメント内の複数の SIP メッセージを処理できるようにします。TCP セグメントを受信すると、このセグメント内のすべての完全な SIP メッセージは、1 つずつ解析されます。最終的に不完全なメッセージがある場合、その部分だけが vTCP に戻されます。



機能名	リリース	機能情報
Cisco ファイアウォール--SIP ALG 拡張機能	Cisco IOS XE リリース 2.4	<p>Cisco ファイアウォール--SIP ALG 拡張機能は、Cisco ASR 1000 シリーズルータ上の Cisco IOS XE ソフトウェアのファイアウォール機能セットに含まれる音声セキュリティ機能を拡張します。</p> <p>Cisco ASR 1000 シリーズルータでは、次のコマンドはレイヤ 7 (アプリケーション固有) シンタックスをサポートせずに実装されました。 <b>class type inspect</b>, <b>class-map type inspect</b>, <b>match protocol</b>, <b>policy-map type inspect</b>。</p>
T.38 Fax Relay 用のファイアウォール--SIP ALG 拡張機能	Cisco IOS XE リリース 2.4.1	<p>T.38 Fax Relay 用のファイアウォール--SIP ALG 拡張機能は、Cisco ASR 1000 シリーズルータ上の Cisco IOS XE ソフトウェアのファイアウォール機能セットに含まれる機能を拡張します。</p> <p>この機能は、SIP ALG で、Cisco ASR 1000 シリーズルータ上のファイアウォールを通過する T.38 Fax Relay over IP をサポートできるようにします。</p>





## CHAPTER 150

# ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポート

ファイアウォールおよび NAT 対応の MSRPC ALG サポート機能により、ファイアウォールにおける Microsoft (MS) リモート プロシージャ コール (RPC) アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) のサポート、およびネットワーク アドレス変換 (NAT) のサポートが提供されます。MSRPCALGは、MSRPCプロトコルのディープパケットインスペクション (DPI) を実行します。MSRPCALGはプロビジョニングシステムと連動して、ネットワーク管理者が MSRPC パケットで検索可能な一致基準を定義するマッチングフィルタを設定できるようにします。

MSRPC ALG はさらに、Virtual Transport Control Protocol (vTCP) 機能もサポートします。vTCP 機能は、TCP セグメンテーションを適切に処理し、Cisco IOS Zone-Based ファイアウォール、ネットワーク アドレス変換 (NAT)、およびその他のアプリケーションでセグメントを解析するための各種 ALG プロトコルに対応するフレームワークを提供します。

- [ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する前提条件, on page 2099](#)
- [ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する制約事項, on page 2100](#)
- [ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する情報, on page 2100](#)
- [ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートの設定方法, on page 2103](#)
- [ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートの設定例, on page 2108](#)
- [ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する機能情報, on page 2109](#)

## ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する前提条件

- パケットに Microsoft (MS) リモートプロシージャコール (RPC) アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) を適用する前に、Cisco IOS XEファイアウォールとネットワークアドレス変換 (NAT) を有効にする必要があります。

**Note**

トラフィックが Cisco IOS XE ファイアウォールと NAT のどちらかまたはその両方によって TCP ポート 135 に送信される場合は、MSRPC ALG が自動的に有効になります。

## ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する制約事項

- TCP ベースの MSRPC のみがサポートされます。
- **allow** コマンドと **reset** コマンドを同時に設定することはできません。
- DPI のために **match protocol msrpc** コマンドを設定する必要があります。
- 宛先ポート 135 に到達したトラフィックのみがサポートされます。この設定はコンフィギュレーションで変更できます。

## ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する情報

### アプリケーション レベル ゲートウェイ

アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、アプリケーション レイヤ ゲートウェイとも呼ばれ、アプリケーション パケットのペイロード内の IP アドレス情報を変換するアプリケーションです。ALG は、アプリケーション レイヤ プロトコルを解釈し、ファイアウォールおよびネットワーク アドレス変換 (NAT) アクションを実行するために使用されます。これらのアクションは、ファイアウォールおよび NAT の設定に応じて次の 1 つまたは複数のアクションになります。

- クライアントアプリケーションが、ダイナミック TCP または UDP ポートを使用してサーバアプリケーションと通信できるようにします。
- アプリケーション固有のコマンドを認識し、これらのコマンドに対するきめ細かいセキュリティ制御を提供します。
- データ交換を行う 2 つのホスト間の複数のデータ ストリームまたはデータ セッションを同期します。
- アプリケーション ペイロードで使用できるネットワーク層アドレス情報を変換します。

ファイアウォールがピンホールを開き、アプリケーション レイヤ データストリームの送信元 IP アドレスおよび宛先 IP アドレスを伝送しない TCP または UDP トラフィックに対する変換

サービスを NAT が実行します。IP アドレス情報を埋め込む特定のプロトコルまたはアプリケーションには ALG のサポートが必要です。

## MSRPC

MSRPC とは、開発者が一連のアプリケーションとサービスをサーバおよび企業にパブリッシュするために使用するフレームワークのことです。RPC はプロセス間通信技術であり、クライアントとサーバソフトウェアがネットワーク経由で通信することを可能にします。MSRPC はアプリケーション層プロトコルで、多岐にわたる Microsoft アプリケーションで使用されています。MSRPC は、多種多様なトランスポートプロトコルでコネクション型 (CO) およびコネクションレス型 (CL) の両方の分散コンピューティング環境 (DCE) RPC モードをサポートしています。MSRPC のすべてのサービスは、プライマリ接続と呼ばれる初期セッションを確立します。MSRPC の一部のサービスは、1024 ~ 65535 のポート範囲を宛先ポートとするセカンダリセッションを確立します。

ファイアウォールと NAT が有効にされる時点で MSRPC を機能させるには、MSRPC パケットのインスペクションに加え、ALG がダイナミック ファイアウォールセッションの確立や NAT 後のパケット コンテンツの修正などの MSRPC 固有の問題を処理する必要があります。

MSRPC プロトコルインスペクションを適用することで、ほとんどの MSRPC サービスがサポートされ、レイヤ 7 ポリシー フィルタの必要がなくなります。

## ファイアウォールでの MSRPC ALG

MSRPC プロトコルを検査するようにファイアウォールを設定すると、MSRPC ALG が MSRPC メッセージの解析を開始します。次の表に、ファイアウォールおよび NAT 機能の MSRPC ALG でサポートされるプロトコル データ ユニット (PDU) のタイプを記載します。

Table 202: サポートされる PDU タイプ

PDU	番号	タイプ	説明
REQUEST	0	コール	コール要求を開始します。
RESPONSE	2	コール	コール要求に応答します。
FAULT	3	コール	RPC ランタイム、RPC スタブ、または RPC 固有の例外を示します。
BIND	11	アソシエーション	本文データのプレゼンテーションネゴシエーションを開始します。
BIND_ACK	12	アソシエーション	バインド要求を受け入れます。
BIND_NAK	13	アソシエーション	アソシエーション要求を拒否します。

PDU	番号	タイプ	説明
ALTER_CONTEXT	14	アソシエーション	別のインターフェイスやバージョンの追加プレゼンテーション ネゴシエーションを要求するか、新しいセキュリティ コンテキストのネゴシエーションを要求するか、あるいはその両方を要求します。
ALTER_CONTEXT_RESP	15	アソシエーション	ALTER_CONTEXT PDU に応答します。有効な値は accept または deny です。
SHUTDOWN	17	コール	接続を終了して関連するリソースを解放するようクライアントに要求します。
CO_CANCEL	18	コール	接続をキャンセルするか、孤立させます。このメッセージは、クライアントでキャンセル失敗が発生すると送信されます。
ORPHANED	19	コール	進行中の要求およびまだ完全に送信されていない要求を中止するか、進行中の（おそらく長い）応答を中断します。

## NAT での MSRPC ALG

NAT は MSRPC パケットを受信すると MSRPC ALG を呼び出し、MSRPC ALG によってパケットのペイロードが解析されて、組み込み IP アドレスを変換するためのトークンが形成されます。このトークンが NAT に渡されて、NAT 設定に応じてアドレスまたはポートに変換されます。変換後のアドレスは、MSRPC ALG によってパケットのペイロードに書き込まれます。

ファイアウォールと NAT の両方が設定されている場合、NAT は ALG を最初に呼び出します。

## MSRPC ステートフル パーサー

MSRPC ステート マシンまたはパーサーは、MSRPC ALG の中枢部です。MSRPC ステートフルパーサーにより、ファイアウォールまたは NAT（どちらの機能がパーサーを最初に呼び出したかによります）内のすべてのステートフル情報が保持されます。パーサーは、MSRPC プロトコルパケットの DPI を実行します。つまり、プロトコルへの準拠性をチェックし、順序が正しくないコマンドや形式の誤ったパケットを検出します。パケットが解析されると、ステート マシンが各種のデータを記録して、NAT およびファイアウォール インспекション用に正しいトークン情報を取り込みます。

# ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートの設定方法



**Note** NAT が有効になっている場合は、デフォルトで、MSRPC ALG が自動的に有効になります。NAT のみの設定では MSRPC ALG を明示的に有効にする必要はありません。NAT 上で MSRPC ALG を無効にするには、**no ip nat service msrpc** コマンドを使用できます。

## レイヤ 4 MSRPC クラス マップおよびポリシー マップの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect match-any** *class-map-name*
4. **match protocol** *protocol-name*
5. **exit**
6. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
7. **class type inspect** *class-map-name*
8. **inspect**
9. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

## ゾーンペアの設定および MSRPC ポリシー マップのアタッチ

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>class-map type inspect match-any</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# class-map type inspect match-any msrpc-cmap	トラフィック クラスの検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# match protocol msrpc	指定されたプロトコルに基づくクラスマップの一致基準を設定します。  • 検査タイプ クラス マップでは Cisco IOS XE ステートフルパケットインスペクションがサポートするプロトコルだけを一致基準として使用できます。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# policy-map type inspect msrpc-pmap	レイヤ3またはレイヤ4の検査タイプポリシーマップを作成し、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Router(config-pmap)# class type inspect msrpc-class-map	アクションの実行対象となるトラフィック (クラス) を指定し、QoS ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap-c)# inspect	Cisco IOS XE ステートフルパケットインスペクションをイネーブルにします。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-pmap-c)# end	QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ゾーンペアの設定および MSRPC ポリシー マップのアタッチ

## SUMMARY STEPS

1. enable



2. **configure terminal**
3. **zone security** *security-zone-name*
4. **exit**
5. **zone security** *security-zone-name*
6. **exit**
7. **zone-pair security** *zone-pair-name* [**source** *source-zone* **destination** [*destination-zone*]]
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security</b> <i>security-zone-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# zone security in-zone	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>zone security</b> <i>security-zone-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# zone security out-zone	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> [ <b>source</b> <i>source-zone</i> <b>destination</b> [ <i>destination-zone</i> ]] <b>Example:</b> <pre>Router(config)# zone-pair security in-out source in-zone destination out-zone</pre>	ゾーン ペアを作成し、セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。 <b>Note</b> ポリシーを適用するには、ゾーン ペアを設定する必要があります。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect msrpc-pmap</pre>	ファイアウォール ポリシー マップを宛先ゾーン ペアに付加します。 <b>Note</b> ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-sec-zone-pair)# end</pre>	セキュリティ ゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

## MSRPC ALG の vTCP サポートの有効化

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **alg vtcp service msrpc**
4. **exit**
5. **set platform hardware qfp active feature alg msrpc tolerance on**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>alg vtcp service msrpc</b> 例： Rotuer(config)# alg vtcp service msrpc	MSRPC ALG の vTCP 機能を有効にします。  (注) デフォルトで、MSRPC ALG は vTCP をサポートします。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Rotuer(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>set platform hardware qfp active feature alg msrpc tolerance on</b> 例： Rotuer# set platform hardware qfp active feature alg msrpc tolerance on	MSRPC 不明メッセージの許容を有効にします。  (注) デフォルトでは、許容はオフになっています。

## MSRPC ALG の vTCP サポートの無効化

### 手順の概要

1. enable
2. configure terminal
3. no alg vtcp service msrpc
4. end

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no alg vtcp service msrpc</b> 例：	MSRPC ALG の vTCP 機能を無効にします。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config)# no alg vtcp service msrpc	
ステップ 4	<b>end</b> 例： Router(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートの設定例

### 例：レイヤ 4 MSRPC クラス マップとポリシー マップの設定

```
Router# configure terminal
Router(config)# class-map type inspect match-any msrpc-cmap
Router(config-cmap)# match protocol msrpc
Router(config-cmap)# exit
Router(config)# policy-map type inspect msrpc-pmap
Router(config-pmap)# class type inspect msrpc-cmap
Router(config-pmap-c)# inspect
Router(config-pmap-c)# end
```

### 例：ゾーンペアの設定と MSRPC ポリシー マップのアタッチ

```
Router# configure terminal
Router(config)# zone security in-zone
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone security out-zone
Router(config-sec-zone)# exit
Router(config)# zone-pair security in-out source in-zone destination out-zone
Router(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect msrpc-pmap
Router(config-sec-zone-pair)# end
```

### 例：MSRPC ALG に対する vTCP サポートの有効化

```
Router# configure terminal
Router(config)# alg vtcp service msrpc
Router(config)# end
```

## 例：MSRPC ALG に対する vTCP サポートの無効化

```
Router# configure terminal
Router(config)# no alg vtcp service msrpc
Router(config)# end
```

## ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 203:** ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポート	Cisco IOS XE リリース 3.5S	<p>ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG サポート機能は、ファイアウォールと NAT における MSRPC ALG のサポートを提供します。</p> <p>MSRPC ALG は、MSRPC プロトコルのディープパケットインスペクションを提供します。MSRPC ALG は、プロビジョニングシステムと連動して、ネットワーク管理者が MSRPC パケットで検索可能な一致基準を定義する一致フィルタを設定できるようにします。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>ip nat service msrpc</b>、<b>match protocol msrpc</b>。</p>

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG インспекション強化	Cisco IOS XE リリース 3.14S	<p>ゾーンベース ファイアウォールと NAT に対する MSRPC ALG インспекション強化機能は、Cisco ファイアウォール、ネットワーク アドレス変換 (NAT)、およびその他のアプリケーションで、さまざまな ALG プロトコルが適切に TCP セグメンテーションを処理しセグメントを解析するためのフレームワークを提供する Virtual Transport Control Protocol (vTCP) 機能をサポートします。</p> <p>次のコマンドが導入されました：<b>alg vtcp service msrpc</b></p>



## CHAPTER 151

# ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポート

ファイアウォールおよび NAT 対応の Sun RPC ALG のサポート機能により、ファイアウォールおよびネットワーク アドレス変換 (NAT) における Sun Microsystems (Sun) リモート プロシージャ コール (RPC) アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) のサポートが追加されます。Sun RPC は、リモート サーバプログラム内の関数をクライアントプログラムが呼び出すことができるようにするアプリケーション層プロトコルです。このモジュールでは、Sun RPC ALG を設定する方法について説明します。

- [ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートに関する制約事項, on page 2111](#)
- [ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートについて, on page 2112](#)
- [ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートの設定方法, on page 2113](#)
- [ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートの設定例, on page 2121](#)
- [ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートに関する追加情報, on page 2123](#)
- [ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートに関する機能情報, on page 2124](#)

## ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートに関する制約事項

- レイヤ 4 または レイヤ 7 クラス マップ のインスペクションアクションを設定した場合、ポート マッパー プロトコルのウェルノウンポート (111) に一致するパケットはレイヤ 7 のインスペクションなしでファイアウォールを通過します。レイヤ 7 のインスペクションがない場合、ファイアウォール ピンホールはトラフィック フロー用に開放されず、Sun リモート プロシージャ コール (RPC) がファイアウォールによってブロックされます。回避策として、Sun RPC プログラム番号に対応する **match program-number** コマンドを設定します。
- ポート マッパー プロトコル バージョン 2 のみがサポートされます。他のバージョンはサポートされません。
- RPC バージョン 2 のみサポートされます。

# ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートについて

## アプリケーション レベル ゲートウェイ

アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、アプリケーション レイヤ ゲートウェイとも呼ばれ、アプリケーション パケットのペイロード内の IP アドレス情報を変換するアプリケーションです。ALG は、アプリケーション レイヤ プロトコルを解釈し、ファイアウォールおよびネットワーク アドレス変換 (NAT) アクションを実行するために使用されます。これらのアクションは、ファイアウォールおよび NAT の設定に応じて次の 1 つまたは複数のアクションになります。

- クライアントアプリケーションが、ダイナミック TCP または UDP ポートを使用してサーバアプリケーションと通信できるようにします。
- アプリケーション固有のコマンドを認識し、これらのコマンドに対するきめ細かいセキュリティ制御を提供します。
- データ交換を行う 2 つのホスト間の複数のデータ ストリームまたはデータ セッションを同期します。
- アプリケーション ペイロードで使用できるネットワーク層アドレス情報を変換します。

ファイアウォールがピンホールを開き、アプリケーション レイヤ データストリームの送信元 IP アドレスおよび宛先 IP アドレスを伝送しない TCP または UDP トラフィックに対する変換サービスを NAT が実行します。IP アドレス情報を埋め込む特定のプロトコルまたはアプリケーションには ALG のサポートが必要です。

## Sun RPC

Sun リモート プロシージャ コール (RPC) アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、Sun RPC プロトコルのディープ パケット インスペクションを実行します。Sun RPC ALG は、管理者が一致フィルタを設定できるプロビジョニングシステムと連動します。一致フィルタはそれぞれ、Sun RPC パケット内で検索される一致基準を定義し、それにより、基準に一致するパケットのみ許可されます。

RPC では、クライアントプログラムは、サーバプログラム内のプロシージャを呼び出します。RPC ライブラリは、プロシージャ引数をネットワーク メッセージ内にパッケージ化し、そのメッセージをサーバに送信します。次にサーバは、RPC ライブラリを使用して、ネットワーク メッセージからプロシージャ引数を取り出し、指定されたサーバ プロシージャを呼び出します。サーバ プロシージャが RPC に戻ると、戻り値がネットワーク メッセージ内にパッケージ化され、クライアントに送り返されます。

Sun RPC プロトコルの詳細については、RFC 1057、『*RPC: Remote Procedure Call Protocol Specification Version 2*』を参照してください。



### ファイアウォール向けの Sun RPC ALG のサポート

ポリシーおよびクラス マップを使用して作成されるゾーンベース ファイアウォールを使用して Sun RPC ALG を設定できます。レイヤ7クラス マップを使用することで、ネットワーク管理者は一致フィルタを設定できます。フィルタはSun RPCパケット内で検索されるプログラム番号を指定します。Sun RPC レイヤ7ポリシーマップは、**service-policy** コマンドを使用するレイヤ4 ポリシーマップの子ポリシーとして設定します。

レイヤ7ファイアウォールポリシーを設定しないで Sun RPC レイヤ4クラス マップを設定すると、Sun RPC トラフィックにより戻されるトラフィックはファイアウォールを通過しますが、セッションはレイヤ7で検査されません。セッションが検査されないため、後続のRPCコールはファイアウォールによってブロックされます。Sun RPC レイヤ4クラス マップおよびレイヤ7ポリシーを設定すると、レイヤ7インスペクションが使用できるようになります。空のレイヤ7ファイアウォールポリシー、つまり、一致フィルタが設定されていないポリシーを設定できます。

### NAT 向けの Sun RPC ALG のサポート

デフォルトでは、ネットワーク アドレス変換 (NAT) が有効な場合、Sun RPC ALG は自動的に有効になります。NAT で Sun RPC ALG を無効にするには、**no ip nat service alg** コマンドを使用します。

## ファイアウォールおよび NAT の Sun RPC ALG サポートの設定方法

ファイアウォールおよび NAT が有効にされている場合に Sun RPC を動作させるには、ALG で Sun RPC パケットを検査する必要があります。また ALG では、ダイナミック ファイアウォールセッションの確立や NAT 変換後のパケット コンテンツの修正など、Sun RPC 固有の問題も処理します。

### Sun RPC ALG 用のファイアウォールの設定

Sun RPC プロトコルの検査アクションを設定している場合（つまり、レイヤ4クラスマップで **match protocol sunrpc** コマンドを指定している場合）は、レイヤ7 Sun リモートプロシージャコール (RPC) ポリシーマップを設定する必要があります。

セキュリティゾーンと検査ルールの両方を同じインターフェイス上で設定しないことを推奨します。これは、このような設定は機能しない場合があるためです。

Sun RPC ALG 対応のファイアウォールを設定するには、次の作業を実行します。

### ファイアウォールポリシー用のレイヤ4クラス マップの設定

ネットワーク トラフィックを分類するためのレイヤ4クラス マップを設定するには、この作業を実行します。**class-map type inspect** コマンドで **match-all** キーワードを指定すると、クラスマップ内の（プログラム番号として指定された）すべての Sun リモートプロシージャコール

(RPC) レイヤ7フィルタに Sun RPC トラフィックがマッチします。 **class-map type inspect match-any** キーワードを指定すると、クラスマップ内の (プログラム番号として指定された) 少なくとも 1 つの Sun RPC レイヤ7フィルタに Sun RPC トラフィックがマッチする必要があります。

レイヤ4クラスマップを設定するには、 **class-map type inspect {match-any | match-all} class-map-name** コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect {match-any | match-all} class-map-name**
4. **match protocol protocol-name**
5. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect {match-any   match-all} class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-any sunrpc-l4-cmap	レイヤ4 検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol protocol-name</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol sunrpc	指定されたプロトコルに基づき、クラスマップの一致基準を設定します。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# end	QoS クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ファイアウォールポリシー用のレイヤ7クラス マップの設定

ネットワークトラフィックを分類するためのレイヤ7クラス マップを設定するには、この作業を実行します。この設定により、Sun RPCを使用する mount (100005)、ネットワークファイルシステム (NFS) (100003) などのプログラムが使用可能になります。100005 および 100003 は Sun RPC プログラムの番号です。デフォルトでは、Sun RPC ALG はすべてのプログラムをブロックします。

Sun RPC プログラムおよびプログラム番号の詳細については、RFC 1057、『*RPC: Remote Procedure Call Protocol Specification Version 2*』を参照してください。

レイヤ7クラスマップを設定するには、**class-map type inspect protocol-name** コマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect protocol-name {match-any | match-all} class-map-name**
4. **match program-number program-number**
5. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect protocol-name {match-any   match-all} class-map-name</b>  <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect sunrpc match-any sunrpc-l7-cmap	レイヤ7 (アプリケーション固有) 検査タイプ クラスマップを作成し、QoS クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match program-number program-number</b>  <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match program-number 100005	許可する RPC プロトコル プログラム番号を一致基準として指定します。
ステップ 5	<b>end</b>  <b>Example:</b>	QoS クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device (config-cmap) # end	

## Sun RPC ファイアウォール ポリシー マップの設定

Sun リモート プロシージャ コール (RPC) ファイアウォール ポリシー マップを設定するには、この作業を実行します。ポリシー マップを使用して、レイヤ 7 ファイアウォール ポリシーのクラス マップで定義する Sun RPC レイヤ 7 クラスごとにパケット転送を許可します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **policy-map type inspect** *protocol-name policy-map-name*
4. **class type inspect** *protocol-name class-map-name*
5. **allow**
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>policy-map type inspect</b> <i>protocol-name policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect sunrpc sunrpc-17-pmap	レイヤ 7 (プロトコル固有) 検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>class type inspect</b> <i>protocol-name class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect sunrpc sunrpc-17-cmap	アクションの実行対象となるトラフィック クラスを指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>allow</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# allow	パケット転送を許可します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# end	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーションモードを終了し、特権EXECモードに戻ります。

## レイヤ7ポリシー マップをレイヤ4ポリシー マップにアタッチする

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **policy-map type inspect** *policy-map-name*
4. **class** {*class-map-name* | **class-default**}
5. **inspect** [*parameter-map-name*]
6. **service-policy** *protocol-name policy-map-name*
7. **exit**
8. **class** **class-default**
9. **drop**
10. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect sunrpc-l4-pmap	レイヤ4検査タイプポリシーマップを作成し、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>class</b> { <i>class-map-name</i>   <b>class-default</b> } <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class sunrpc-l4-cmap	アクションを実行する対象 (クラス) を関連付け、QoS ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>inspect</b> [ <i>parameter-map-name</i> ] <b>Example:</b>	ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。

	Command or Action	Purpose
	<code>Device(config-pmap-c)# inspect</code>	
ステップ 6	<b>service-policy protocol-name policy-map-name</b> <b>Example:</b> <code>Device(config-pmap-c)# service-policy sunrpc sunrpc-17-pmap</code>	レイヤ 7 ポリシー マップをトップレベルのレイヤ 4 ポリシー マップにアタッチします。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> <code>Device(config-pmap-c)# exit</code>	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 8	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> <code>Device(config-pmap)# class class-default</code>	ポリシーを設定する前にデフォルト クラス (一般的にクラスデフォルト クラスと呼ばれます) を指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>drop</b> <b>Example:</b> <code>Device(config-pmap-c)# drop</code>	特定のクラスに属するパケットを廃棄するトラフィック クラスを設定します。
ステップ 10	<b>end</b> <b>Example:</b> <code>Device(config-pmap-c)# end</code>	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## セキュリティ ゾーンとゾーンペアの作成、およびゾーンペアへのポリシー マップの付加

ゾーンペアを作成するには、2つのセキュリティゾーンが必要です。ただし、1つのセキュリティゾーンのみ作成でき、もう1つのセキュリティゾーンはシステム定義のセキュリティゾーンにすることができます。システム定義のセキュリティゾーンまたはセルフゾーンを作成するには、**self** キーワードを指定した **zone-pair security** コマンドを設定します。



**Note** セルフ ゾーンを選択する場合、検査アクションは設定できません。

このタスクの内容は以下のとおりです。

- セキュリティ ゾーンを作成します。
- ゾーンペアを定義します。
- セキュリティ ゾーンにインターフェイスを割り当てます。
- ポリシー マップをゾーンペアに付加します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security** {*zone-name* | **default**}
4. **exit**
5. **zone security** {*zone-name* | **default**}
6. **exit**
7. **zone-pair security** *zone-pair-name* **source** *source-zone-name* **destination** *destination-zone-name*
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **exit**
10. **interface** *type number*
11. **ip address** *ip-address mask* [**secondary** [*vrf vrf-name*]]
12. **zone-member security** *zone-name*
13. **exit**
14. **interface** *type number*
15. **ip address** *ip-address mask* [**secondary** [*vrf vrf-name*]]
16. **zone-member security** *zone-name*
17. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security</b> { <i>zone-name</i>   <b>default</b> }	セキュリティ ゾーンを作成し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>Example:</b> Device(config)# zone security z-client	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設定では送信元ゾーンと宛先ゾーンという、ゾーン ペアを作成するための 2 つのセキュリティ ゾーンが必要です。</li> <li>• ゾーン ペアでは、デフォルト ゾーンまたはセルフ ゾーンを送信元ゾーンまたは宛先ゾーンとして使用できます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	<b>zone security</b> {zone-name   default} <b>Example:</b> Device(config)# zone security z-server	セキュリティ ゾーンを作成し、セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>設定では送信元ゾーンと宛先ゾーンという、ゾーンペアを作成するための2つのセキュリティゾーンが必要です。</li> <li>ゾーンペアでは、デフォルトゾーンを送信元ゾーンまたは宛先ゾーンとして使用できます。</li> </ul>
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティ ゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>zone-pair security</b> zone-pair-name source source-zone-name destination destination-zone-name <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security clt2srv source z-client destination z-server	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect</b> policy-map-name <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect sunrpc-l4-pmap	ファイアウォールポリシーマップをゾーンペアに付加します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	<b>interface</b> type number <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/0	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>ip address</b> ip-address mask [secondary [vrf vrf-name]] <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 192.168.6.5 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 12	<b>zone-member security</b> zone-name <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security z-client	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。



	Command or Action	Purpose
ステップ 13	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 14	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 2/1/1	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 15	<b>ip address ip-address mask [secondary [vrf vrf-name]]</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 192.168.6.1 255.255.255.0	インターフェイスに対するプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
ステップ 16	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone-member security z-server	インターフェイスをセキュリティゾーンにアタッチします。
ステップ 17	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートの設定例

### 例：ファイアウォール ポリシー用のレイヤ4 クラス マップの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# class-map type inspect match-any sunrpc-l4-cmap
Device(config-cmap)# match protocol sunrpc
Device(config-cmap)# end
```

### 例：ファイアウォール ポリシー用のレイヤ7 クラス マップの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# class-map type inspect sunrpc match-any sunrpc-l7-cmap
Device(config-cmap)# match program-number 100005
Device(config-cmap)# end
```

## 例 : Sun RPC ファイアウォール ポリシー マップの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# policy-map type inspect sunrpc sunrpc-17-pmap
Device(config-pmap)# class type inspect sunrpc sunrpc-17-cmap
Device(config-pmap-c)# allow
Device(config-pmap-c)# end
```

## 例 : レイヤ4ポリシーマップへのレイヤ7ポリシーマップのアタッチ

```
Device# configure terminal
Device(config)# policy-map type inspect sunrpc14-pmap
Device(config-pmap)# class sunrpc14-cmap
Device(config-pmap-c)# inspect
Device(config-pmap-c)# service-policy sunrpc sunrpc-17-pmap
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap-c)# drop
Device(config-pmap-c)# end
```

## 例 : セキュリティ ゾーンとゾーン ペアの作成とゾーン ペアへのポリシーマップのアタッチ

```
Device# configure terminal
Device(config)# zone security z-client
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security z-server
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security clt2srv source z-client destination z-server
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect sunrpc-14-pmap
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/0
Device(config-if)# ip address 192.168.6.5 255.255.255.0
Device(config-if)# zone-member security z-client
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 2/1/1
Device(config-if)# ip address 192.168.6.1 255.255.255.0
Device(config-if)# zone-member security z-server
Device(config-if)# end
```

## 例 : Sun RPC ALG 用のファイアウォールの設定

Sun リモート プロシージャ コール (RPC) アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) サポート用のファイアウォール設定の例を以下に示します。

```
class-map type inspect sunrpc match-any sunrpc-17-cmap
  match program-number 100005
!
class-map type inspect match-any sunrpc-14-cmap
  match protocol sunrpc
```

```

!
!
policy-map type inspect sunrpc sunrpc-17-pmap
  class type inspect sunrpc sunrpc-17-cmap
    allow
!
!
policy-map type inspect sunrpc-14-pmap
  class type inspect sunrpc-14-cmap
    inspect
    service-policy sunrpc sunrpc-17-pmap
!
class class-default
  drop
!
!
zone security z-client
!
zone security z-server
!
zone-pair security clt2srv source z-client destination z-server
  service-policy type inspect sunrpc-14-pmap
!
interface GigabitEthernet 2/0/0
  ip address 192.168.10.1 255.255.255.0
  zone-member security z-client
!
interface GigabitEthernet 2/1/1
  ip address 192.168.23.1 255.255.255.0
  zone-member security z-server
!

```

## ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Master Command List, All Releases</a> 』
IP アドレッシング コマンド	『 <a href="#">IP Addressing Services Command Reference</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<a href="#">Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>

## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 1057	『RPC: Remote Procedure Call Protocol Specification Version 2』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートに関する機能情報

Table 204: ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポート	Cisco IOS XE リリース 3.2S	ファイアウォールと NAT に対する Sun RPC ALG サポート機能は、ファイアウォールと NAT に Sun RPC ALG のサポートを追加します。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>match protocol</b> 。



## 第 152 章

# ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポート

ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースの機能は、アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) とアプリケーション 検査および制御 (AIC) の次の機能をサポートしています。

- パケット トレース
- 条件付きデバッグ
- デバッグ ログ
- [ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する情報 \(2125 ページ\)](#)
- [ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する追加情報 \(2127 ページ\)](#)
- [ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する機能情報 \(2128 ページ\)](#)

## ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する情報

### パケット トレース

パケット トレースを有効にすると、ルータ スループットへの影響を最小限に抑えて、指定のパケットフローのコントロールプレーンポリシング (CPP) 統計情報を生成できます。また、

フロー内の各パケットのパスもトレースされるため、入力インターフェイス、使用された機能、出力パスを判別する上で役立ちます。

アプリケーション層ゲートウェイ（ALG）が統計情報を生成し、パケットの移動パスのログを保持します。

## 条件付きデバッグ

送信元アドレスまたは宛先アドレスからの特定の接続が失敗するという一般的なアプリケーションレイヤゲートウェイ（ALG）対応シナリオでは、デバッグを実行すると、ALGを経由するすべてのトラフィックに関するメッセージのリストが表示されます。条件付きデバッグを有効にすると、指定された接続に関連するデバッグメッセージがコンソールに表示されます。この機能が導入されるまでは、デバッグにより、ALGを通過するすべてのトラフィックに関する多数のメッセージが表示されました。

## デバッグ ログ

次のシビラティ（重大度）が追加されました。

1. **Error** : エラーおよびファイアウォール パケット ドロップの条件。

例 :

- パケットを送信できない。
- ALG エラー状態

2. **Warning** : 警告デバッグ メッセージ。

3. **Info** : イベントに関する情報。

例 :

- ポリシー設定、不正なパケット、またはハードコーディングされている制限としきい値が原因で発生したパケット ドロップ。
- ステート マシン 遷移
- ALG チェック ステータス
- パケット パスおよびパケット ドロップのステータス。

4. **Verbose** : すべてのログ メッセージ。

例 :

- データ構造
- イベントの詳細



- (注) ALG-AIC 機能デバッグ フラグとシビラティ (重大度) はどちらも設定する必要があります。シビラティ (重大度) だけが設定され、ALG-AIC 機能デバッグフラグが設定されていないと、デバッグ ログが無効になります。ALG-AIC 機能デバッグフラグだけが設定されている場合、Info レベル (デフォルトのシビラティ (重大度)) がログに記録されます。

## ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
ファイアウォール コマンド	<ul style="list-style-type: none"><li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li><li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L</a>』 [英語]</li><li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R</a>』 [英語]</li><li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z</a>』 [英語]</li></ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 205: ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ゾーンベース ファイアウォール ALG および AIC 条件付きデバッグおよびパケットトレースのサポート	Cisco IOS XE 3.13S	<p>この機能は、次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パケットトレース</li> <li>• 条件付きデバッグ</li> <li>• デバッグ ログ</li> </ul>





## CHAPTER 153

# ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP

ファイアウォールおよび NAT 対応のハイ アベイラビリティ サポートを備えた ALG—H.323 vTCP 機能により、H.323 アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) が拡張され、単一 H.323 メッセージではない TCP セグメントをサポートします。仮想 TCP (vTCP) は TCP セグメント リアセンブルをサポートします。この機能の導入前は、H.323 ALG は TCP セグメントが完全な H.323 メッセージである場合にだけ TCP セグメントを処理していました。TCP セグメントに複数のメッセージが含まれていた場合は、H.323 ALG が TCP セグメントを無視し、そのパケットは処理されずに転送されていました。

このモジュールでは、ファイアウォールおよび NAT 対応のハイ アベイラビリティ (HA) サポートを備えた ALG—H.323 vTCP を設定する方法について説明します。

- [ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG-H.323 vTCP に関する制約事項, on page 2130](#)
- [ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG-H.323 vTCP に関する情報, on page 2130](#)
- [ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG-H.323 vTCP の設定方法, on page 2133](#)
- [ファイアウォールおよび NAT 対応のハイ アベイラビリティ サポートを備えた ALG—H.323 vTCP の設定例, on page 2136](#)
- [ファイアウォールおよび NAT 対応のハイ アベイラビリティ サポートを備えた ALG-H.323 vTCP に関する追加情報, on page 2137](#)
- [ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG-H.323 vTCP に関する機能情報, on page 2138](#)

# ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP に関する制約事項

- 着信 TCP セグメントが完全な H.323 メッセージでない場合は、H.323 ALG がその TCP セグメントをバッファリングしメッセージの残りの部分を待機します。バッファリングされたデータは、ハイ アベイラビリティ (HA) 用のスタンバイ デバイスに同期されません。
- vTCP がデータのバッファリングを開始した時点で、H.323 ALG のパフォーマンスに影響する可能性があります。

# ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP に関する情報

## アプリケーション レベル ゲートウェイ

アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、アプリケーション レイヤ ゲートウェイとも呼ばれ、アプリケーション パケットのペイロード内の IP アドレス情報を変換するアプリケーションです。ALG は、アプリケーション レイヤ プロトコルを解釈し、ファイアウォールおよびネットワーク アドレス変換 (NAT) アクションを実行するために使用されます。これらのアクションは、ファイアウォールおよび NAT の設定に応じて次の 1 つまたは複数のアクションになります。

- クライアントアプリケーションが、ダイナミック TCP または UDP ポートを使用してサーバアプリケーションと通信できるようにします。
- アプリケーション固有のコマンドを認識し、これらのコマンドに対するきめ細かいセキュリティ制御を提供します。
- データ交換を行う 2 つのホスト間の複数のデータ ストリームまたはデータ セッションを同期します。
- アプリケーション ペイロードで使用できるネットワーク層アドレス情報を変換します。

ファイアウォールがピンホールを開き、アプリケーション レイヤ データストリームの送信元 IP アドレスおよび宛先 IP アドレスを伝送しない TCP または UDP トラフィックに対する変換サービスを NAT が実行します。IP アドレス情報を埋め込む特定のプロトコルまたはアプリケーションには ALG のサポートが必要です。

## 基本 H.323 ALG サポート

H.323 は、パケットベース ネットワーク経由でのマルチメディア送信用の一連のネットワーク要素およびプロトコルを定義する ITU-T が公開している推奨事項です。H.323 は、マルチメディアの送信で使用されるさまざまなネットワーク要素を定義します。

現在、ほとんどの H.323 実装ではシグナリング用の転送メカニズムとして TCP が利用されていますが、H.323 バージョン 2 では基本 UDP トランスポートが有効になります。

- H.323 端末：この要素は、別の H.323 端末またはゲートウェイとの双方向通信を行うネットワークのエンドポイントです。
- H.323 ゲートウェイ：この要素は、H.323 端末と H.323 をサポートしないその他の端末との間のプロトコル変換を行います。
- H.323 ゲートキーパー：この要素は、アドレス変換、ネットワーク アクセス コントロール、帯域幅管理といったサービスを提供し、H.323 端末およびゲートウェイで構成されます。

次のコア プロトコルが H.323 仕様で規定されています。

- H.225：このプロトコルは、任意の 2 つの H.323 エンティティ間で通信を確立するために使用されるコール シグナリング方式を規定します。
- H.225 Registration, Admission, and Status (RAS)：このプロトコルは、アドレス解決およびアドミッション制御サービスのために、H.323 エンドポイントとゲートウェイによって使用されます。
- H.245：このプロトコルは、マルチメディア通信機能の交換と、オーディオ、ビデオ、およびデータ用の論理チャネルの開閉のために使用されます。

H.323 仕様では上記のプロトコルの他に、さまざまな IETF プロトコル (Real-time Transport Protocol (RTP) プロトコルや、オーディオ (G.711、G.729 など) およびビデオ (H.261、H.263、および H.264) コーデックなど) の使用についても規定しています。

NAT では、パケット ペイロード内の埋め込み IP アドレスおよびポート番号の変換や、制御チャネルからの新規接続/セッション情報の取得といった、レイヤ 7 プロトコル固有のサービスを処理するために、さまざまな ALG を必要とします。H.323 ALG は、H.323 メッセージに対してこれらの特定サービスを実行します。

## vTCP for ALG サポートの概要

レイヤ 7 プロトコルが TCP を使用してデータ転送を行う際は、アプリケーションの設計、最大セグメントサイズ (MSS)、TCP ウィンドウ サイズなどのさまざまな理由によって TCP ペイロードがセグメント化される場合があります。ファイアウォールと NAT がサポートするアプリケーション レベルゲートウェイ (ALG) には、パケットインスペクションで TCP フラグメントを認識する機能がありません。vTCP が、ALG を使用して TCP セグメントを認識し、TCP ペイロードを解析する汎用フレームワークになります。

vTCP は、組み込みデータを書き直すために TCP ペイロード全体を必要とする NAT や Session Initiation Protocol (SIP) などのアプリケーションに役立ちます。ファイアウォールでは vTCP を使用して、ALG がパケット間でのデータ分割をサポートできるようにします。

ファイアウォールまたは NAT ALG を設定すると、vTCP 機能が有効になります。

vTCP は、現在のところ、Real Time Streaming Protocol (RTSP) および DNS ALG をサポートしています。

### TCP 確認応答と確実な送信

vTCP は 2 つの TCP ホストの間に存在するため、TCP セグメントをもう一方のホストに送信する前に一時的に保存するためのバッファスペースが必要です。vTCP はホスト間の適切なデータ伝送を保証します。vTCP は伝送するデータがさらに必要な場合は、送信側ホストに TCP 確認応答 (ACK) を送信します。また、TCP フローの最初から受信側ホストが送信する ACK をトラッキングして、確認応答されたデータを詳細にモニタします。

vTCP は、TCP セグメントを再構成します。着信セグメントの IP ヘッダーおよび TCP ヘッダー情報は、確実に送信されるように vTCP バッファに保存されます。

NAT 対応アプリケーションの場合、vTCP は発信セグメントの長さにマイナーな変更を加えることができます。vTCP は最後のセグメントのデータ長を大きくするか、新しいセグメントを作成して、追加のデータを伝送することができます。新しく作成されたセグメントの IP ヘッダーまたは TCP ヘッダーは、オリジナルの着信セグメントから派生したものです。IP ヘッダーの合計の長さ と TCP ヘッダーのシーケンス番号は、必要に応じて調整されます。

## NAT ALG とファイアウォール ALG を使用した vTCP

ALG は、NAT およびファイアウォールのサブコンポーネントです。NAT とファイアウォールのいずれにも、ダイナミックに ALG を連結させるためのフレームワークがあります。ファイアウォールがレイヤ 7 インспекションを実行する場合または NAT がレイヤ 7 フィックスアップを実行する場合は、ALG によって登録されたパーサー機能が呼び出され、ALG がパケットインспекションを引き継ぎます。vTCP は、NAT またはファイアウォールとこれらのアプリケーションを使用する ALG を仲介します。つまり、パケットは、まず、vTCP で処理されてから、ALG に渡されます。vTCP は、TCP 接続内の両方向で TCP セグメントを再構築します。

## ALG の概要：高可用性をサポートする H.323 vTCP

ファイアウォールおよび NAT の高可用性をサポートする ALG/H.323 vTCP 機能は、単一の H.323 メッセージではない TCP セグメントをサポートするように H.323 アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) を拡張します。H.323 ALG が vTCP と結合されると、ファイアウォールと NAT は vTCP を使用して H.323 ALG と対話するようになります。vTCP ではバッファ内のデータをスタンバイ デバイスに同期できないため、vTCP がデータのバッファリングを開始すると高可用性 (HA) 機能が影響を受けます。vTCP がデータをバッファリングしているときにスタンバイ デバイスへのスイッチオーバーが発生すると、バッファ内のデータがスタンバイ デバイスに同期されていないために接続がリセットされる可能性があります。vTCP がバッファ内のデータを確認応答した後は、そのデータは失われ、接続がリセットされます。ファイア

ウォールと NAT は HA を確保するためにスタンバイ デバイスにデータを同期しますが、vTCP がスタンバイ デバイスに同期するのは現在の接続のステータスだけなので、エラーが発生すると接続がリセットされます。

## ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP の設定方法

### ALG の設定：ファイアウォール用のハイ アベイラビリティ サポートを備えた H.323 vTCP

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect match-any *class-map-name***
4. **match protocol *protocol-name***
5. **match protocol *protocol-name***
6. **exit**
7. **policy-map type inspect *policy-map-name***
8. **class type inspect *class-map-name***
9. **inspect**
10. **exit**
11. **class class-default**
12. **exit**
13. **zone security *zone-name***
14. **exit**
15. **zone-pair security *zone-pair-name* source *source-zone* destination *destination-zone***
16. **service-policy type inspect *policy-map-name***
17. **exit**
18. **interface *type number***
19. **zone member security *zone-name***
20. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードをイネーブルにします <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-any h.323-class	検査タイプ クラス マップを作成し、QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match protocol protocol-name</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol h323	指定されたプロトコルに基づいて、クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 5	<b>match protocol protocol-name</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol h323ras	指定されたプロトコルに基づいて、クラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>policy-map type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect h.323-policy	検査タイプ ポリシー マップを作成し、QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>class type inspect class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect h.323-class	アクションを実行するクラスを指定し、QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インспекションをイネーブルにします。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class class-default	ポリシー マップ 設定を、事前に定義したデフォルト クラスに適用します。 <ul style="list-style-type: none"><li>設定済みクラス マップの一致基準のいずれともトラフィックが一致しない場合、事前に定義されたデフォルト クラスに誘導されます。</li></ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>zone security zone-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone security inside	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゾーンペアを作成するには2つのセキュリティゾーン（送信元ゾーンと宛先ゾーン）が設定に含まれる必要があります。</li> <li>ゾーンペアでは、送信元ゾーンまたは宛先ゾーンとしてデフォルトゾーンを使用できます。</li> </ul>
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 15	<b>zone-pair security zone-pair-name source source-zone destination destination-zone</b> <b>Example:</b> Device(config)# zone-pair security inside-outside source inside destination outside	セキュリティゾーンのペアを作成して、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。</li> </ul>
ステップ 16	<b>service-policy type inspect policy-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect h.323-policy	ファイアウォールポリシーマップを宛先ゾーンペアに付加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。</li> </ul>
ステップ 17	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone-pair)# exit	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 18	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 19	<b>zone member security</b> <i>zone-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# zone member security inside	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、方向に関係なくインターフェイスを通過するすべてのトラフィック（ルータ宛のトラフィックまたはルータ発信のトラフィックを除く）は、デフォルトでドロップされます。トラフィックがインターフェイスを通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。</li> </ul>
ステップ 20	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ファイアウォールおよび NAT 対応のハイ アベイラビリティ サポートを備えた ALG—H.323 vTCP の設定例

例：ファイアウォールに対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP の設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# class-map type inspect h.323-class
Device(config-cmap)# match protocol h323
Device(config-cmap)# match protocol h323ras
Device(config-cmap)# exit
Device(config)# policy-map type inspect h323-policy
Device(config-pmap)# class type inspect h323
Device(config-pmap-c)# inspect
Device(config-pmap-c)# exit
Device(config-pmap)# class class-default
Device(config-pmap)# exit
Device(config)# zone security inside
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone security outside
Device(config-sec-zone)# exit
Device(config)# zone-pair security inside-outside source inside destination outside
Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect h.323-policy
Device(config-sec-zone-pair)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/1

```



```

Device(config-if)# zone-member security inside
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1
Device(config-if)# zone-member security outside
Device(config-if)# end

```

## ファイアウォールおよび NAT 対応のハイ アベイラビリティ サポートを備えた ALG-H.323 vTCP に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Master Commands List, All Releases</a> 』
ファイアウォール コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>
NAT コマンド	『 <a href="#">IP Addressing Services Command Reference</a> 』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 206:** ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ファイアウォールと NAT に対するハイアベイラビリティサポートを使用した ALG-H.323 vTCP	Cisco IOS XE リリース 3.7S	ファイアウォールと NAT に対するハイ アベイラビリティ サポートを使用した ALG - H.323 vTCP 機能は、単一の H.323 メッセージではない TCP セグメントをサポートするように H.323 ALG を拡張します。vTCP はセグメントの再構成をサポートします。この機能が導入される前は、H.323 メッセージが完全な場合にのみ、H.323 ALG が TCP セグメントを処理していました。TCP セグメントに複数のメッセージが含まれていた場合は、H.323 ALG が TCP セグメントを無視し、そのパケットは処理されずに転送されていました。



## CHAPTER 154

# NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化

NAT およびファイアウォール向けの SIP ALG ハードニング機能は、ネットワーク アドレス変換 (NAT) とファイアウォールの既存の Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) サポートに対して、より優れたメモリ管理と RFC 準拠性を提供します。この機能は次の点で強化されています。

- すべての SIP レイヤ 7 データ用のローカル データベースの管理
- Via ヘッダーの処理
- 追加 SIP メソッドの記録に関するサポート
- 暫定応答確認 (PRACK) コールフローのサポート
- Record-Route ヘッダーのサポート

上記の機能強化はデフォルトで使用できます。NAT やファイアウォールでの追加設定は必要ありません。

このモジュールでは、SIP ALG の機能拡張について説明し、SIP に対する NAT およびファイアウォールのサポートを有効にする方法について説明します。

- [NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する制約事項, on page 2139](#)
- [NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する情報, on page 2140](#)
- [NAT とファイアウォールに対する SIP ALG 強化の設定方法, on page 2143](#)
- [NAT とファイアウォールに対する SIP ALG 強化の設定例, on page 2148](#)
- [NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する追加情報, on page 2149](#)
- [NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する機能情報, on page 2150](#)

## NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する制約事項

- Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) は、セキュリティ機能を提供しません。

- SIP ALG はコール ID に基づいてローカル データベースを管理します。2 台のクライアントからコール ID が同じ 2 つのコールが送られ、コール ID が重複するという、異常ケースが発生する場合もあるかもしれません。

## NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する情報

### SIP の概要

Session Initiation Protocol (SIP) は、1 人または複数の参加者とのセッションを作成、変更、および終了するためのアプリケーション層コントロール (シグナリング) プロトコルです。SIP セッションには、インターネット電話の通話、マルチメディアの配布、マルチメディア会議などがあります。SIP は HTTP のような要求/応答トランザクションモデルに基づいています。各トランザクションは、サーバで特定のメソッドまたは関数を呼び出す 1 つの要求と 1 つ以上の応答で構成されます。

セッションの作成に使用される SIP の招待は、互換性のあるメディアタイプのセットに参加者が同意できるセッション記述を伝送しています。SIP は、プロキシサーバと呼ばれる要素を利用して、ユーザの所在地への要求のルーティング、サービスのためのユーザ認証および認可、プロバイダーのコールルーティングポリシーの実装、およびユーザへの機能提供を行っています。また、SIP には、プロキシサーバから使用できるように、ユーザの所在地をアップロードできる登録機能があります。SIP は複数のトランスポートプロトコルを基礎として実行されます。

### アプリケーション レベル ゲートウェイ

アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、アプリケーション レイヤ ゲートウェイとも呼ばれ、アプリケーション パケットのペイロード内の IP アドレス情報を変換するアプリケーションです。ALG は、アプリケーション レイヤ プロトコルを解釈し、ファイアウォールおよびネットワーク アドレス変換 (NAT) アクションを実行するために使用されます。これらのアクションは、ファイアウォールおよび NAT の設定に応じて次の 1 つまたは複数のアクションになります。

- クライアントアプリケーションが、ダイナミック TCP または UDP ポートを使用してサーバアプリケーションと通信できるようにします。
- アプリケーション固有のコマンドを認識し、これらのコマンドに対するきめ細かいセキュリティ制御を提供します。
- データ交換を行う 2 つのホスト間の複数のデータ ストリームまたはデータ セッションを同期します。
- アプリケーション ペイロードで使用できるネットワーク層アドレス情報を変換します。

ファイアウォールがピンホールを開き、アプリケーション レイヤ データストリームの送信元 IP アドレスおよび宛先 IP アドレスを伝送しない TCP または UDP トラフィックに対する変換

サービスを NAT が実行します。IP アドレス情報を埋め込む特定のプロトコルまたはアプリケーションには ALG のサポートが必要です。

## SIP ALG ローカル データベース管理

Session Initiation Protocol (SIP) トランクは、サービス プロバイダーへの IP PBX の直接接続で、SIP を使用して IP ネットワークを経由します。SIP トランクでは、多数の同時コールを実現できます。コールセットアッププロセスの間に、すべてのコールはコール確立のために同じ制御チャンネルを使用します。複数のコールが、コールセットアップ用に同じ制御チャンネルを使用します。同じ制御チャンネルが複数のコールで使用されると、制御チャンネルセッションに保存されたステートフル情報の信頼性が低くなります。SIP ステートフル情報は、メディア データを送信するクライアントおよびサーバエンドポイントで使用される IP アドレスやポート番号などのメディア チャンネル情報で構成されています。メディア チャンネル情報は、ファイアウォールおよび NAT に対して、それぞれのデータ チャンネルのファイアウォール ピンホールとネットワークアドレス変換 (NAT) ドアを作成するために使用されます。複数のコールがコールセットアップ用に同じ制御チャンネルを使用するため、メディア データの複数のセットが存在します。

SIP トランクでは、複数のコールが同じファイアウォールおよび NAT セッションを共有します。NAT およびファイアウォールは、SIP パケットの 5 つのタプル (送信元アドレス、宛先アドレス、発信元ポート、宛先ポート、およびプロトコル) を使用して、SIP セッションを識別および管理します。5 つのタプルを使用してコールを識別および照合する従来の方法は、SIP トランッキングを完全にはサポートしないため、レイヤ 7 データのメモリ リークやコール照合の問題が発生することがよくあります。

他のアプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) とは対照的に、SIP ALG はローカル データベースを使用して、通常の SIP コールおよび SIP トランクに埋め込まれた SIP コールに含まれるすべてのメディア関連の情報を保存することで、SIP レイヤ 7 データを管理します。SIP ALG は、SIP メッセージに含まれるコール ID ヘッダー フィールドを使用してローカル データベース内で一致するコールを検索し、コールを管理および終了します。コール ID ヘッダー フィールドは、同じ SIP ダイアログに属するメッセージを識別するダイアログ識別子です。

SIP ALG は、コール ID を使用してローカル データベース内を検索し、メモリ リソースを管理します。SIP ALG がデータベースからレイヤ 7 データ レコードを解放できない特定の状況で、リソースの管理と解放にセッション タイマーが使用され、データベース内に停止したコール レコードが存在しないようにします。



**Note** すべてのレイヤ 7 データはローカル データベースを使用した SIP ALG により管理されるので、SIP ALG は SIP レイヤ 7 データを解放するためにファイアウォールおよび NAT に応答しません。SIP ALG はデータを自ら解放します。**clear** コマンドを使用して、すべての NAT 変換およびファイアウォールセッションをクリアした場合、ローカル データベース内の SIP レイヤ 7 データは解放されません。

## SIP ALG Via ヘッダーのサポート

Session Initiation Protocol (SIP) INVITE 要求には、Via ヘッダー フィールドが含まれます。Via ヘッダーフィールドは、SIP 要求によって採用される転送パスを示します。Via ヘッダーには、後続の SIP 応答のリターンパスに関する情報も含まれます。その中には応答メッセージが送信される IP アドレスとポートが含まれます。

SIP ALG は、確認応答 (ACK) メッセージを除き、受信した SIP 要求の Via ヘッダー フィールド内の最初の値に基づいて、ファイアウォール ピンホールまたはネットワーク アドレス変換 (NAT) ドアを作成します。最初の Via ヘッダーにポート番号情報がない場合、ポート番号は 5060 であるとみなされます。

## SIP ALG メソッド ロギングのサポート

NAT およびファイアウォール向けの SIP ALG ハードニング機能は、Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) の統計情報で次のメソッドの詳細なロギングをサポートします。

- PUBLISH
- OPTIONS
- 1XX (100、180、183 を除く)
- 2XX (200 を除く)

SIP ALG 統計情報に記録される既存の SIP メソッドには ACK、BYE、CANCEL、INFO、INVITE、MESSAGE、NOTIFY、REFER、REGISTER、SUBSCRIBE、および 1XX-6XX があります。

## SIP ALG PRACK コール フローのサポート

Session Initiation Protocol (SIP) は、最終と暫定という 2 つのタイプの応答を定義します。最終応答は、要求処理の結果を知らせるもので、確実に送信されます。一方で暫定応答は、要求処理の進行状況に関する情報を提供しますが、確実に送信されません。

暫定応答確認 (PRACK) は、暫定応答の確認応答 (ACK) システムを提供する SIP メソッドです。PRACK を使用すると、SIP エンドポイント間の SIP の暫定応答を確実に交換できます。SIP の信頼性の高い暫定応答は、メディア情報が交換され、リソース予約がコールの接続前に実行できるようにします。

SIP は、接続ネゴシエーション中、Session Description Protocol (SDP) の接続、メディア、および属性のフィールドを使用します。SIP アプリケーションレベルゲートウェイ (ALG) は、PRACK メッセージ内の SDP 情報をサポートします。メディア情報が PRACK メッセージ内に存在する場合、SIP ALG はメディア情報を取得して処理します。SIP ALG はまた、後続のメディア ストリームのメディア チャネルの作成を処理します。SIP ALG は PRACK メッセージ内の SDP 情報に基づいてファイアウォール ピンホールおよび NAT ドアを作成します。

## SIP ALG Record-Route ヘッダーのサポート

Record-Route ヘッダーフィールドは、Session Initiation Protocol (SIP) プロキシによって SIP 要求に追加され、SIP ダイアログ内の将来の要求がプロキシを介してルーティングされることを強制します。その後、ダイアログ内で送信されるメッセージはすべての SIP プロキシを通過し、Record-Route ヘッダーフィールドが SIP 要求に追加されます。Record-Route ヘッダーフィールドには、プロキシを識別する、グローバルに到達可能な Uniform Resource Identifier (URI) が含まれます。

SIP アプリケーション レベル ゲートウェイ (ALG) は、Contact ヘッダーを解析し、Contact ヘッダー内の IP アドレスとポート番号を使用して、ファイアウォールピンホールとネットワーク アドレス変換 (NAT) ドアを作成します。さらに、SIP ALG は、プロキシを経由してルーティングされる将来のメッセージ用のファイアウォールピンホールと NAT ドアを作成するために、Record-Route ヘッダーの解析をサポートします。

## NAT とファイアウォールに対する SIP ALG 強化の設定方法

### SIP の NAT サポートの有効化

SIP の NAT サポートは、デフォルトでポート 5060 でイネーブルになっています。この機能が無効になっている場合、SIP の NAT サポートを再びイネーブルにするには、次の作業を実行します。SIP の NAT サポートを無効にするには、**no ip nat service sip** コマンドを使用します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip nat service sip {tcp | udp} port port-number**
4. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 3	<b>ip nat service sip {tcp   udp} port port-number</b> <b>Example:</b> Device(config)# ip nat service sip tcp port 5060	SIP の NAT サポートを有効にします。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## SIP インспекションの有効化

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **class-map type inspect match-any class-map-name**
4. **match protocol protocol-name**
5. **exit**
6. **policy-map type inspect policy-map-name**
7. **class type inspect class-map-name**
8. **inspect**
9. **exit**
10. **class class-default**
11. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>class-map type inspect match-any class-map-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# class-map type inspect match-any sip-class1	検査タイプクラスマップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>match protocol</b> <i>protocol-name</i> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# match protocol sip	名前付きプロトコルに基づいてクラス マップの一致基準を設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-cmap)# exit	クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>policy-map type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# policy-map type inspect sip-policy	検査タイプ ポリシー マップを作成し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>class type inspect</b> <i>class-map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class type inspect sip-class1	アクションを実行するクラスを指定し、ポリシー マップクラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>inspect</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# inspect	ステートフル パケット インスペクションをイネーブルにします。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap-c)# exit	ポリシー マップクラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	<b>class class-default</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# class class-default	これらのポリシー マップ設定が事前に定義したデフォルトクラスに適用されることを指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>設定済みクラス マップの一致基準のいずれともトラフィックが一致しない場合、事前に定義されたデフォルトクラスに誘導されます。</li></ul>
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-pmap)# end	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ゾーンペアの設定と SIP ポリシー マップのアタッチ

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **zone security** {*zone-name* | **default**}

4. **exit**
5. **zone security** {*zone-name* | **default**}
6. **exit**
7. **zone-pair security** *zone-pair-name* [**source** {*source-zone-name* | **self** | **default**} **destination** [*destination-zone-name* | **self** | **default**]]
8. **service-policy type inspect** *policy-map-name*
9. **exit**
10. **interface** *type number*
11. **zone-member security** *zone-name*
12. **exit**
13. **interface** *type number*
14. **zone-member security** *zone-name*
15. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>zone security</b> { <i>zone-name</i>   <b>default</b> }	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	<b>zone security</b> { <i>zone-name</i>   <b>default</b> }	インターフェイスを割り当てることができるセキュリティゾーンを作成し、セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-sec-zone)# exit	セキュリティゾーン コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>zone-pair security</b> <i>zone-pair-name</i> [ <b>source</b> { <i>source-zone-name</i>   <b>self</b>   <b>default</b> } <b>destination</b> [ <i>destination-zone-name</i>   <b>self</b>   <b>default</b> ]]	ゾーンペアを作成し、セキュリティゾーンペア コンフィギュレーション モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
	<b>Example:</b> <pre>Device(config)# zone-pair security in-out source zone1 destination zone2</pre>	<b>Note</b> ポリシーを適用するには、ゾーンペアを設定する必要があります。
ステップ 8	<b>service-policy type inspect</b> <i>policy-map-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-sec-zone-pair)# service-policy type inspect sip-policy</pre>	ファイアウォールポリシーマップを宛先ゾーンペアに付加します。 <b>Note</b> ゾーンのペア間でポリシーが設定されない場合、トラフィックはデフォルトでドロップされます。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-sec-zone-pair)# exit</pre>	セキュリティゾーンペア コンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 10	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0</pre>	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 11	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# zone-member security zone1</pre>	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。 <b>Note</b> インターフェイスをセキュリティゾーンのメンバーにした場合、そのインターフェイスを通して送受信されるすべてのトラフィックは、デフォルトでドロップされます（ただしデバイス宛のトラフィックとデバイス発のトラフィックを除く）。トラフィックがインターフェイス通過するには、ゾーンをポリシーの適用先のゾーンペアの一部にする必要があります。ポリシーがトラフィックを許可すると、トラフィックはそのインターフェイスを通過できます。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# exit</pre>	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 13	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1</pre>	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 14	<b>zone-member security zone-name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# zone-member security zone2</pre>	インターフェイスを指定したセキュリティゾーンに割り当てます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 15	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## NAT とファイアウォールに対する SIP ALG 強化の設定例

### 例：SIP サポート用の NAT の有効化

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip nat service sip tcp port 5060
Device(config)# end
```

### 例：SIP インспекションの有効化

```
class-map type inspect match-any sip-class1
  match protocol sip
!
policy-map type inspect sip-policy
  class type inspect sip-class1
    inspect
!
class class-default
```

### 例：ゾーンペアの設定と SIP ポリシー マップのアタッチ

```
zone security zone1
!
zone security zone2
!
zone-pair security in-out source zone1 destination zone2
  service-policy type inspect sip-policy
!
interface gigabitethernet 0/0/0
  zone security zone1
!
interface gigabitethernet 0/1/1
  zone security zone2
```

# NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
NAT 設定	『IP Addressing: NAT Configuration Guide』
ファイアウォールの設定	『セキュリティ設定ガイド：ゾーンベース ポリシー ファイアウォール』
NAT コマンド	『Cisco IOS IP Addressing Services Command Reference』
ファイアウォールコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 3261	『SIP: Session Initiation Protocol』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

# NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する機能情報

Table 207: NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化	Cisco IOS XE リリース 3.8S	NAT とファイアウォールの SIP ALG 強化機能は、既存の NAT とファイアウォールの SIP ALG サポートでより適切なメモリ管理と RFC 準拠を可能にします。



## 第 155 章

# DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンス

DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンス機能は、Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) へのサービス妨害 (DoS) 攻撃に対する保護を提供します。この機能は、DoS 攻撃を防ぐために、設定可能なロック制限、動的ブラックリスト、および設定可能なタイマーをサポートします。

このモジュールでは、機能と SIP アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) に対する DoS 保護の設定方法を説明します。ネットワーク アドレス変換およびゾーンベース ポリシー ファイアウォールは、この機能をサポートしています。

- [DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスに関する情報 \(2151 ページ\)](#)
- [DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定方法 \(2153 ページ\)](#)
- [DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定例 \(2157 ページ\)](#)
- [DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスに関する追加情報 \(2157 ページ\)](#)

## DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスに関する情報

### DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの概要

DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンス機能は、Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) へのサービス妨害 (DoS) 攻撃に対する保護を提供します。この機能は、DoS 攻撃を防ぐために、設定可能なロック制限、動的ブラックリスト、および設定可能なタイマーをサポートします。この機能はネットワーク アドレス変換 (NAT) およびゾーンベース ポリシー ファイアウォールによってサポートされています。

SIP は、IP データ ネットワーク上の参加者の間でリアルタイム セッションをセットアップ、変更、および終了するための、アプリケーション レベル シグナリング プロトコルです。SIP セッションには、インターネット電話の通話、マルチメディアの配布、マルチメディア会議などがあります。SIP DoS 攻撃は、ネットワークに対する大きな脅威です。

SIP DoS 攻撃のタイプを次に示します。

- **SIP 登録フラッディング**：登録フラッドは、多数の VoIP デバイスが同時にネットワークに登録を試みると発生します。登録メッセージの量がデバイスの容量を超過すると、一部

のメッセージは失われます。こうしたデバイスは再び登録を試行するため、輻輳が増加します。このようなネットワークの輻輳により、ユーザは一定の期間ネットワークにアクセスできない可能性があります。

- **SIP INVITE フラッディング**：INVITE フラッディングは、多数の INVITE メッセージがサーバに送信され、それらのメッセージのすべてをサーバが対応できなくなると発生します。攻撃レートが非常に高くなると、サーバのメモリが枯渇します。
- **SIP 破損認証およびセッション攻撃**：この攻撃は、攻撃者がダイジェスト認証を使用して有効なユーザの ID を推定するときに発生します。認証サーバが攻撃者の身元を確認しようとする、検証は無視され、攻撃者は別のセッション ID を使用して新しい要求を開始します。これらの攻撃は、サーバのメモリを消費します。

## SIP ALG 動的ブラックリスト

サービス妨害 (DoS) 攻撃の一般的な方法の1つは、ターゲットネットワークを外部通信要求で飽和させ、ネットワークが正当なトラフィックに応答できなくすることです。この問題を解決するために、SIP ALG の DoS 攻撃レジリエンス機能は、設定可能なブロックリストを使用します。ブロックリストは、特定の権限、サービス、またはアクセスが拒否されているエンティティのリストです。動的ブラックリストはデフォルトで無効になっています。宛先アドレスに対する要求が、設定されたブロックリストの定義済みトリガーの基準を超えると、Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) は、これらのパケットをドロップします。

次の異常な SIP セッションパターンは、動的ブロックリストによって監視されます。

- 設定された期間内に、送信元が宛先に複数の要求を送信し、宛先から 2xx 以外 (RFC 3261 に従って、200 から 299 までのステータスコードを持つすべての応答は「2xx 応答」です) の最終応答を受信する場合。
- 設定された期間に、送信元が宛先に複数の要求を送信し、宛先からまったく応答を受信しない場合。

## SIP ALG ロック制限

ネットワーク アドレス変換 (NAT) とファイアウォールは、どちらも Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) を使用して SIP メッセージを解析し、トークンからセッションを作成します。セッション状態を維持するために、SIP ALG はコール単位のデータ構造とレイヤ7データを使用して、セッションの開始時に割り当てられセッションの解除時に解放されるコール関連情報を保存します。SIP ALG がコールの終了を示すメッセージを受信しない場合、ネットワーク リソースはコール用に保持されます。

レイヤ7データはスレッド間で共有されるため、データにアクセスするためにロックが必要です。サービス妨害 (DoS) 攻撃や分散型 DoS 攻撃の発生時は、同じロックを取得するために多くのスレッドが待機するため、CPU 使用率が高くなり、システムが不安定になります。システムが不安定になることを防ぐために、ロックを待機できるスレッドの数を抑制するように制限が追加されています。SIP セッションは、要求/応答モードで確立されます。1つの SIP コールに対して同時 SIP メッセージの数が多すぎる場合、ロック制限を超えたパケットはドロップされます。



## SIP ALG タイマー

あるタイプの DoS 攻撃は、Session Initiation Protocol (SIP) サーバのリソースを枯渇させるために、SIP コールの終わりを示しません。こうしたタイプの DoS 攻撃を防ぐために、保護タイマーが追加されました。

SIP ALG の DoS 攻撃に対するレジリエンス機能は、次のタイマーを使用します。

- 応答される SIP コールの最大長を制御する、コール継続時間タイマー。
- 応答されない SIP コールの最大長を制御する、コール進行時間タイマー。

設定された最大時間を超えると、SIP アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) は、このコールのリソースを解放し、このコールに関連する将来のメッセージは、SIP ALG によって適切に解析されないことがあります。

## DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定方法

### DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定

ネットワーク アドレス変換 (NAT) およびゾーンベース ポリシー ファイアウォールによって使用される Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) 用のサービス妨害 (DoS) 防止パラメータを設定できます。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **alg sip processor session max-backlog concurrent-processor-usage**
4. **alg sip processor global max-backlog concurrent-processor-usage**
5. **alg sip blacklist trigger-period trigger-period trigger-size minimum-events destination ip-address**
6. **alg sip blacklist trigger-period trigger-period trigger-size minimum-events block-time block-time [destination ip-address]**
7. **alg sip timer call-proceeding-timeout** 時刻
8. **alg sip timer max-call-duration** 秒
9. **end**

#### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 :	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>alg sip processor session max-backlog concurrent-processor-usage</b> 例： Device(config)# alg sip processor session max-backlog 5	共有リソースを待機するバックログメッセージ数に対するセッションごとの制限を設定します。
ステップ 4	<b>alg sip processor global max-backlog concurrent-processor-usage</b> 例： Device(config)# alg sip processor global max-backlog 5	すべての SIP セッションで共有リソースを待機するバックログメッセージの最大数を設定します。
ステップ 5	<b>alg sip blacklist trigger-period trigger-period trigger-size minimum-events destination ip-address</b> 例： Device(config)# alg sip blacklist trigger-period 90 trigger-size 30 destination 10.1.1.1	指定した宛先 IP アドレスに関するダイナミック SIP ALG ブラックリスト基準を設定します。
ステップ 6	<b>alg sip blacklist trigger-period trigger-period trigger-size minimum-events block-time block-time [destination ip-address]</b> 例： Device(config)# alg sip blacklist trigger-period 90 trigger-size 30 block-time 30	設定済みの制限を超えた場合に送信元からのパケットがブロックされる期間（秒単位）を設定します。
ステップ 7	<b>alg sip timer call-proceeding-timeout 時刻</b> 例： Device(config)# alg sip timer call-proceeding-timeout 35	応答を受信しない SIP コールを終了するための最大時間（秒単位）を設定します。
ステップ 8	<b>alg sip timer max-call-duration 秒</b> 例： Device(config)# alg sip timer max-call-duration 90	正常な SIP コールの最大コール期間（秒単位）を設定します。
ステップ 9	<b>end</b> 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの確認

機能のトラブルシューティングには、次のコマンドを使用します。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `show alg sip`
3. `show platform hardware qfp {active | standby} feature alg statistics sip`
4. `show platform hardware qfp {active | standby} feature alg statistics sip dbl`
5. `show platform hardware qfp {active | standby} feature alg statistics sip dblcfg`
6. `show platform hardware qfp {active | standby} feature alg statistics sip processor`
7. `show platform hardware qfp {active | standby} feature alg statistics sip timer`
8. `debug alg {all | info | trace | warn}`

### 手順の詳細

#### 手順

##### ステップ 1 `enable`

例：

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

##### ステップ 2 `show alg sip`

Session Initiation Protocol (SIP) アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) の情報を表示します。

例：

```
Device# show alg sip
```

```
sip timer configuration
  Type                Seconds
  max-call-duration   380
  call-proceeding-timeout 620

sip processor configuration
  Type                Backlog number
  session              14
  global               189

sip blacklist configuration
  dst-addr            trig-period(ms)  trig-size  block-time(sec)
  10.0.0.0            60                30         2000
  10.1.1.1            20                30         30
  192.0.2.115        1000              5          30
  198.51.100.34      20                30         388
```

**ステップ3 show platform hardware qfp {active|standby} feature alg statistics sip**

Cisco Quantum Flow Processor (QFP) の SIP ALG 固有の統計情報を表示します。

例：

```
Device# show platform hardware qfp active feature alg statistics sip

Events
...
Cr dbl entry:          10   Del dbl entry:          10
Cr dbl cfg entry:      8     Del dbl cfg entry:      4
start dbl trig tmr:    10   restart dbl trig tmr:   1014
stop dbl trig tmr:     10   dbl trig timeout:      1014
start dbl blk tmr:     0     restart dbl blk tmr:    0
stop dbl blk tmr:      0     dbl blk tmr timeout:    0
start dbl idle tmr:    10   restart dbl idle tmr:   361
stop dbl idle tmr:     1     dbl idle tmr timeout:   9

DoS Errors
Dbl Retmem Failed:    0     Dbl Malloc Failed:     0
DblCfg Retm Failed:  0     DblCfg Malloc Failed:  0
Session wlock ovflw: 0     Global wlock ovflw:    0
Blacklisted:         561
```

**ステップ4 show platform hardware qfp {active|standby} feature alg statistics sip dbl**

すべての SIP ブロックリストデータに関する概要情報を表示します。

例：

```
Device# show platform hardware qfp active feature alg statistics sip dbl

SIP dbl pool used chunk entries number: 1

entry_id      src_addr      dst_addr      remaining_time(sec)
a4a051e0a4a1ebd  10.74.30.189  10.74.5.30   25
```

**ステップ5 show platform hardware qfp {active|standby} feature alg statistics sip dblcfg**

すべての SIP ブロックリストの設定が表示されます。

例：

```
Device# show platform hardware qfp active feature alg statistics sip dblcfg

SIP dbl cfg pool used chunk entries number: 4
dst_addr      trig_period(ms)  trig_size  block_time(sec)
10.1.1.1      20               30         30
10.74.5.30    1000             5          30
192.0.2.2     60               30         2000
198.51.100.115 20               30         388
```

**ステップ6 show platform hardware qfp {active|standby} feature alg statistics sip processor**

SIP プロセッサの設定を表示します。

例：

```
Device# show platform hardware qfp active feature alg statistics sip processor

Session:      14          Global:      189
```

```
Current global wlock count:      0
```

### ステップ7 show platform hardware qfp {active|standby} feature alg statistics sip timer

SIP タイマーの設定を表示します。

例：

```
Device# show platform hardware qfp active feature alg statistics sip timer
call-proceeding:      620      call-duration:      380
```

### ステップ8 debug alg {all|info|trace|warn}

例：

```
Device# debug alg warn
```

ALG 警告メッセージのロギングをイネーブルにします。

## DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定例

### 例：DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# alg sip processor session max-backlog 5
Device(config)# alg sip processor global max-backlog 5
Device(config)# alg sip blacklist trigger-period 90 trigger-size 30 destination 10.1.1.1
Device(config)# alg sip blacklist trigger-period 90 trigger-size 30 block-time 30
Device(config)# alg sip timer call-proceeding-timeout 35
Device(config)# alg sip timer max-call-duration 90
Device(config)# end
```

## DoS 攻撃に対する SIP ALG レジリエンスに関する追加情報

#### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
ファイアウォール コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
NAT コマンド	『IP Addressing Services Command References』

## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 4028	『Session Timers in the Session Initiation Protocol (SIP)』

## MIB

MIB	MIB のリンク
	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a></p>



## 第 **XIII** 部

### 「Security for VPNs with IPsec」

- [IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定, on page 2161](#)
- [IPSec 仮想トンネル インターフェイス, on page 2199](#)
- [Session Initiation Protocol トリガー VPN \(2249 ページ\)](#)
- [失効したピア証明書の暗号セッションの削除, on page 2285](#)
- [暗号条件付きデバッグ サポート, on page 2293](#)
- [IPv4 GRE トンネル保護経路の IPv6, on page 2303](#)
- [RFC 430x IPsec サポート \(2317 ページ\)](#)







## CHAPTER 156

# IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定

この部分では、基本的な IP VPN を設定する方法について説明します。IPsec は、IETF によって開発されたオープン規格のフレームワークです。インターネットなどの保護されていないネットワークを介して機密情報を伝達する場合にセキュリティを提供します。IPsec はネットワーク層で機能し、Cisco ルータなどの参加している IPsec 装置（「ピア」）間の IP パケットを保護および認証します。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

- [IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する前提条件, on page 2161](#)
- [IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する制約事項, on page 2162](#)
- [IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する情報, on page 2163](#)
- [IPsec VPN の設定方法, on page 2171](#)
- [IPsec VPN の設定例, on page 2193](#)
- [IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する追加のリファレンス, on page 2194](#)
- [IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する機能情報, on page 2196](#)
- [用語集, on page 2197](#)

## IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する前提条件

### IKE の設定

インターネット キー エクスチェンジ (IKE) は、「*Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs*」の手順に従って設定する必要があります。



**Note** IKE を使用しない場合でも、「*Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs*」の手順に従って、IKE をディセーブルにする必要があります。

#### アクセス リストが IPsec と互換性があるか確認する

IKE は UDP ポート 500 を使用します。IPsec Encapsulating Security Payload (ESP) プロトコルと認証ヘッダー (AH) プロトコルは、それぞれ、プロトコル番号 50 と 51 を使用します。プロトコル 50、51、および UDP ポート 500 からのトラフィックが IPsec によって使用されるインターフェイスでブロックされないように、アクセス リストが設定されていることを確認します。場合によっては、これらのトラフィックを明示的に許可する文をアクセスリストに追加する必要があります。

## IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する制約事項

#### Cisco IPsec ポリシー マップ MIB

MIB OID オブジェクトは、IPsec セッションが起動中にしか表示されません。

#### 不連続アクセス制御リスト

不連続マスクを持つアクセス制御リスト (ACL) を使用する暗号マップはサポートされません。

#### 物理インターフェイスと暗号マップ

物理インターフェイスまたは送信元 IP がトンネル保護インターフェイスの送信元インターフェイスである場合、物理インターフェイスの暗号マップはサポートされません。

#### NAT の設定

ネットワークアドレス変換 (NAT) を使用する場合は、IPsec が適切に動作するように、ステティック NAT を設定する必要があります。一般に、ルータが IPsec カプセル化を実行する前に、NAT が発生する必要があります。つまり、IPsec はグローバルアドレスと連動している必要があります。

#### ユニキャスト IP データグラム アプリケーションのみ

IPsec は、ユニキャスト IP データグラムにのみ適用できます。IPsec のワーキング グループがまだグループキー配布の問題に対処していないため、IPsec は現在マルチキャストまたはブロードキャスト IP データグラムを処理しません。

### サポートされないインターフェイス タイプ

- 暗号 VPN は、ブリッジ ドメイン インターフェイス (BDI) 上でサポートされません。
- 暗号マップは、トンネルインターフェイスとポートチャネルインターフェイス上でサポートされません。例外として、GDOIの暗号マップは、トンネルインターフェイス上でサポートされます。
- 暗号マップは、ループバック インターフェイス上ではサポートされません。
- トンネルでトランスポートプロファイルが有効になっている場合、トンネル送信元インターフェイス上では暗号マップはサポートされません。
- 暗号マップは、MFR のトンネルインターフェイス上ではサポートされません。
- 暗号マップは、VLAN インターフェイス上ではサポートされません。
- GetVPN 暗号マップは、ポートチャネルインターフェイス上でサポートされます。

## IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する情報

### Supported Standards

シスコでは、この機能を使用して次の規格を実装しています。

- **IPsec** : IPsec は、参加しているピア間のデータ機密性、データ整合性、およびデータ認証を提供するオープンスタンダードのフレームワークです。IPsec は、これらのセキュリティ サービスを IP レイヤで提供します。IPsec は、IKE を使用して、ローカルポリシーに基づいてプロトコルおよびアルゴリズムのネゴシエーションを処理し、IPsec で使用される暗号キーと認証キーを生成します。IPsec は、1 組のホスト間、1 組のセキュリティ ゲートウェイ間、またはセキュリティ ゲートウェイとホスト間で 1 つ以上のデータ フローを保護するために使用できます。



**Note** IPsec という用語は、IPsec データ サービスのプロトコル全体およびIKEセキュリティプロトコルを表す場合に使用されることがあります。また、データサービスだけを表す場合にも使用されることがあります。

- **IKE (IKEv1 と IKEv2)** : Oakley キー交換や SKEME キー交換を Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) フレームワーク内部に実装したハイブリッドプロトコルです。IKE は他のプロトコルで使用されますが、その初期実装は IPsec プロトコルで使用されます。IKE は、IPSec ピアを認証し、IPSec セキュリティ アソシエーションをネゴシエーションし、IPSec キーを確立します。



**Note** Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.x 以降、脆弱な暗号化アルゴリズムを設定すると警告が生成されますが、警告は無視しても問題はなく、アルゴリズムの動作には影響しません。次の例では、脆弱な暗号アルゴリズムに関する警告メッセージを表示します。

```
Device(config-ikev2-proposal)# group 5
%Warning: weaker dh-group is deprecated
```

次の表に、すべての脆弱なアルゴリズムを示します。

IKEv1	IKEv2	IPSec
DH_GROUP_768_MODP/Group 1	DH_GROUP_768_MODP/Group 1	ah-md5-hmac
DH_GROUP_1024_MODP/Group 2	DH_GROUP_1024_MODP/Group 2	ah-sha-hmac
DH_GROUP_1536_MODP/Group 5	DH_GROUP_1536_MODP/Group 5	esp-des
DES	DES	esp-3des
3DES	3DES	esp-sha-hmac
MD5	MD5	esp-gmac
DH_GROUP_2048_256_MODP/Group 24	DH_GROUP_2048_256_MODP/Group 24	esp-md5-hmac
		esp-null

IPsec のために実装されているコンポーネントテクノロジーには、次のものがあります。



**Note** Cisco IOS XE 17.11.1a 以降、セキュリティ強化と弱い暗号の廃止の一環として、DES、3DES、MD5、および Diffie-Hellman (DH) グループ 1、2、5 を設定するオプションは廃止され、サポートされなくなりました。代わりに、AES、SHA、および DH グループ 14 以上を使用してください。さらに、esp-gmac トランスフォームも廃止されました。

弱い暗号を引き続き使用する場合は、**crypto engine compliance shield disable** コマンドを使用してデバイスで CSDL コンプライアンスを無効にし、再起動してください。

- **AES** : Advanced Encryption Standard (AES)。暗号アルゴリズムの 1 つで、重要ではあるが機密扱いではない情報を保護します。AES は、IPsec および IKE 用のプライバシー変換であり、DES に代わる規格として開発されました。AES は DES よりも安全度の高い設計となっています。AES ではキーのサイズが従来より大きく、侵入者がメッセージを解読するには、あらゆるキーを試してみるしか方法がありません。AES のキーは可変長であり、アルゴリズムは 128 ビットキー (デフォルト)、192 ビットキー、または 256 ビットキーを指定できます。
- **DES** : データ暗号規格 (DES)。パケットデータの暗号化に使用されるアルゴリズムです。シスコソフトウェアは、必須の 56 ビット DES-CBC with Explicit IV を実装していま

す。Cipher Block Chaining (CBC) では、暗号化の開始に初期ベクター (IV) が必要です。IV は IPsec パケットに明示的に指定されます。下位互換性を確保するために、Cisco IOS IPsec は ESP DES-CBC の RFC 1829 バージョンも実装します。

また、Cisco IOS は、特定のプラットフォームで使用可能なソフトウェアバージョンに応じて、Triple DES (168 ビット) 暗号化も実装します。Triple DES (3DES) は推奨されていません。



**Note** 強力な暗号化を使用する Cisco IOS イメージ (56 ビット データ暗号化フィーチャセットを含むがこれに限定されない) は、米国輸出規制の対象となり、配布が制限されます。米国以外の国でインストールされるイメージには、輸出許可が必要です。米国政府の規制により、お客様の注文が拒否されたり、納入が遅れたりすることがあります。詳細については、営業担当者または販売業者、あるいは [export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) までお問い合わせください。

- **SHA-2 および SHA-1 ファミリー (HMAC バリエーション) :** セキュア ハッシュ アルゴリズム (SHA) の 1 および 2。SHA-1 および SHA-2 は、パケット データの認証および IKE プロトコルの整合性確認メカニズムの検証に使用されるハッシュ アルゴリズムです。HMAC は、追加レベルのハッシュを提供するバリエーションです。SHA-2 ファミリーには、SHA-256 ビットのハッシュ アルゴリズムと SHA-384 ビットのハッシュ アルゴリズムが加わっています。この機能は Suite-B の要件に含まれています。Suite-B は、IKE および IPsec で使用するための暗号化アルゴリズムの 4 つのユーザ インターフェイス スイートで構成され、RFC 4869 に記述されています。各スイートは、暗号化アルゴリズム、デジタル署名アルゴリズム、キー合意アルゴリズム、ハッシュまたはメッセージダイジェスト アルゴリズムで構成されています。Cisco IOS での Suite-B サポートについての詳細は、「Configuring Security for VPNs with IPsec」機能モジュールを参照してください。
- **Diffie-Hellman :** 公開キー暗号法プロトコルの 1 つで、2 者間に、安全でない通信チャネルでの共有秘密を確立できます。Diffie-Hellman は、IKE 内でセッション キーを確立するために使用されます。これは、768 ビット (デフォルト)、1024 ビット、1536 ビット、2048 ビット、3072 ビット、および 4096 ビット DH グループをサポートします。また、256 ビット サブグループを含む 2048 ビット DH グループと、256 ビットと 384 ビットの Elliptic Curve DH (ECDH) もサポートします。Cisco では、2048 ビット以上の DH キー交換または ECDH キー交換を使用することを推奨します。
- **MD5 (ハッシュ ベースのメッセージ認証コード (HMAC) バリエーション) :** メッセージダイジェスト アルゴリズム 5 (MD5) はハッシュ アルゴリズムです。HMAC はデータの認証に使用されるキー付きハッシュ バリエーションです。

シスコ ソフトウェアに実装された IPsec は、さらに次の規格をサポートします。

- **AH :** 認証ヘッダー。データ認証と、オプションとしてアンチリプレイ サービスを提供するセキュリティ プロトコルです。AH は、保護対象のデータ (完全 IP データグラム) に埋め込まれます。
- **ESP :** Encapsulating Security Payload。データ プライバシー サービスと、オプションとしてデータ認証およびアンチリプレイ サービスを提供するセキュリティ プロトコルです。ESP は保護対象のデータをカプセル化します。

## サポートされるカプセル化

IPsec は、フレームリレー、ハイレベルデータ リンク制御 (HDLC)、および PPP のシリアルカプセル化と連動します。

また、IPsec は、Generic Routing Encapsulation (GRE)、IPinIP レイヤ 3、データリンクスイッチング+ (DLsw+)、および Source Route Bridging (SRB) トンネリングプロトコルとも連動します。ただし、マルチポイントトンネルはサポートされません。他のレイヤ3のトンネリングプロトコルと IPsec の併用はサポートされない場合があります。

## IPsec 機能の概要

IPsec は、次のネットワークセキュリティサービスを提供します。(一般に、ローカルセキュリティ ポリシーにより、これらのサービスを 1 つ以上使用するよう指示されます)。

- データ機密性：ネットワークにパケットを伝送する前に IPsec 送信側がパケットを暗号化できます。
- データ整合性：IPsec 受信者は、IPsec 送信者から送信されたパケットを認証し、伝送中にデータが変更されていないかを確認できます。
- データ送信元認証：IPsec 受信者は、送信された IPsec パケットの送信元を認証できます。このサービスは、データ整合性サービスに依存します。
- アンチリプレイ：IPsec 受信者は、再送されたパケットを検出し、拒否できます。

IPsec は、2 つのピア (2 台のルータなど) 間にセキュア トンネルを確立します。機密性が高く、セキュア トンネルを介して送信する必要があるパケットを定義し、セキュア トンネルの特性を指定することによって、機密性の高いパケットを保護するために使用するパラメータを定義します。IPsec ピアが機密パケットを認識すると、ピアは適切なセキュア トンネルを設定し、このトンネルを介してリモートピアにパケットを送信します (この章で使用するトンネルという用語は、IPsec をトンネルモードで使用することではありません)。

正確には、このトンネルは、2 つの IPsec ピア間に確立されるセキュリティ アソシエーション (SA) のセットです。SA は、機密パケットに適用するプロトコルおよびアルゴリズムを定義し、2 つのピアが使用するキー関連情報を指定します。SA は単方向で、セキュリティプロトコル (AH または ESP) ごとに確立されます。

2 つのピア間に複数の IPsec トンネルを設定し、トンネルごとに個別の SA のセットを使用することにより、さまざまなデータストリームを保護できます。たとえば、一部のデータストリームは認証だけが必要で、他のデータストリームは暗号化と認証の両方が必要な場合があります。

## IKEv1 トランスフォーム セット

インターネット キー エクスチェンジ バージョン 1 (IKEv1) トランスフォーム セットは、セキュリティプロトコルとアルゴリズムの特定の組み合わせを表します。IPsec SA のネゴシエーション中に、ピアは、特定のトランスフォーム セットを使用して特定のデータ フローを保護することに合意します。

## IKEv2 トランスフォーム セット

インターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 (IKEv2) プロポーザルは、IKE\_SA\_INIT 交換の一部としての IKEv2 SA のネゴシエーションで使用されるトランスフォームのセットです。IKEv2 プロポーザルは、少なくとも 1 つの暗号化アルゴリズム、整合性アルゴリズム、および Diffie-Hellman (DH) グループが設定されている場合にのみ、完全であるとみなされます。プロポーザルが設定されておらず、IKEv2 ポリシーに接続されていない場合、ネゴシエーションではデフォルトのプロポーザルが使用されます。デフォルトのプロポーザルは、次のような通常使用されるアルゴリズムのコレクションです。

```
encryption aes-cbc-128 3des
integrity sha1 md5
group 5 2
```

**crypto ikev2 proposal** コマンドは **crypto isakmp policy priority** コマンドに似ていますが、IKEv2 プロポーザルには次のような違いがあります。

- IKEv2 プロポーザルを使用すると、各トランスフォーム タイプに対して 1 つ以上のトランスフォームを設定できます。
- IKEv2 プロポーザルには関連付けられた優先順位はありません。



**Note** ネゴシエーションで IKEv2 プロポーザルを使用するには、それらを IKEv2 ポリシーにアタッチする必要があります。プロポーザルが設定されていない場合、デフォルトの IKEv2 プロポーザルとデフォルトの IKEv2 ポリシーが使用されます。

## トランスフォーム セット：セキュリティ プロトコルとアルゴリズムの組み合わせ

### トランスフォーム セットの概要



**Note** h-md5-hmac、esp-md5-hmac、esp-des、または esp-3des の使用は推奨されていません。代わりに、ah-sha-hmac、esp-sha-hmac、または esp-aes を使用する必要があります。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

トランスフォーム セットは、特定のセキュリティ プロトコルとアルゴリズムを組み合わせたものです。IPsec SA のネゴシエーション中に、ピアは、特定のトランスフォーム セットを使用して特定のデータ フローを保護することに合意します。

IKE との IPsec セキュリティ アソシエーション ネゴシエーションで、ピアは両方のピア用の同じトランスフォーム セットを探します。同一のトランスフォーム セットが検出された場合、そのトランスフォーム セットが選択され、両方のピアの IPsec SA の一部として、保護するト

ラフィックに適用されます。（手動で確立した SA は、ピアとネゴシエーションしないため、両方に同じトランスフォームセットを指定する必要があります）。

次の表に、許可されるトランスフォームの組み合わせを示します。

**Table 208:** 許可されるトランスフォームの組み合わせ

トランスフォームタイプ	トランスフォーム	説明
<b>AH Transform</b> (1つ選択)	<b>ah-md5-hmac</b>	MD5（メッセージダイジェスト 5）（HMAC バリエント）認証アルゴリズムを使用する AH。（非推奨）。
	<b>ah-sha-hmac</b>	SHA（セキュア ハッシュ アルゴリズム）（HMAC バリエント）認証アルゴリズムを使用する AH。
<b>ESP Encryption Transform</b> (1つ選択)	<b>esp-aes</b>	128 ビット Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化アルゴリズムを使用する ESP。
	<b>esp-aes 192</b>	192 ビット AES 暗号化アルゴリズムを使用する ESP。
	<b>esp-aes 256</b>	256 ビット AES 暗号化アルゴリズムを使用する ESP。
	<b>esp-des</b>	56 ビットのデータ暗号規格 (DES) 暗号化アルゴリズムを使用する ESP。（非推奨）。
<b>esp-3des</b>	168 ビット DES 暗号化アルゴリズム (3DES、トリプル DES と呼ばれる) を使用する ESP。（非推奨）。	MD5 (HMAC バリエント) 認証アルゴリズムを使用する ESP。（非推奨）。
<b>ESP Authentication Transform</b> (1つ選択)	<b>esp-md5-hmac</b>	
	<b>esp-sha-hmac</b>	SHA (HMAC バリエント) 認証アルゴリズムを使用する ESP。



**Note**

セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

## IKE および IPsec 暗号化アルゴリズムのための Cisco IOS Suite-B のサポート

Suite-B には次の暗号化アルゴリズムがあります。

- Suite-B-GCM-128 : ESP 整合性保護、機密性、および RFC 4106 で規定されている 128 ビット AES using Galois and Counter Mode (AES-GCM) を使用する IPsec 暗号化アルゴリズムを提供します。ESP の整合性の保護と暗号化の両方が必要な場合にはこのスイートを使用する必要があります。
- Suite-B-GCM-256 : RFC 4106 で規定されている 256 ビット AES-GCM を使用して、ESP 整合性保護と機密性を提供します。ESP の整合性の保護と暗号化の両方が必要な場合にはこのスイートを使用する必要があります。
- Suite-B-GMAC-128 : RFC 4543 で規定されている 128 ビット AES-Galois Message Authentication Code (GMAC) を使用して、ESP 整合性保護を提供しますが、機密性は提供しません。このスイートは、ESP の暗号化が不要である場合のみに使用する必要があります。
- Suite-B-GMAC-256 : RFC 4543 で規定されている 256 ビット AES-GMAC を使用して、ESP 整合性保護を提供しますが、機密性は提供しません。このスイートは、ESP の暗号化が不要である場合のみに使用する必要があります。

IPsec 暗号化アルゴリズムは、暗号化が必要な場合に AES-GCM を使用し、暗号化が不要な場合のメッセージの整合性には AES-GMAC を使用します。

IKE ネゴシエーションでは、AES 暗号ブロック連鎖 (CBC) モードを使用して暗号化を行い、RFC 4634 に定義されている SHA-256 および SHA-384 ハッシュアルゴリズムを含む Secure Hash Algorithm (SHA) -2 ファミリーを使用してハッシュ機能を実行します。キー交換には RFC 4753 に定義されている Elliptic Curves (ECP) を使用した Diffie-Hellman が使用され、認証を行うには RFC 4754 に定義されている楕円曲線デジタル署名アルゴリズム (ECDSA) が使用されます。

### Suite-B の要件

IKE および IPsec を使用する場合、Suite-B によって次のソフトウェア暗号エンジンに要件が課せられます。

- HMAC-SHA256 と HMAC-SHA384 は疑似ランダム関数として使用されます。また、IKE プロトコル内の整合性チェックが使用されます。必要に応じて、HMAC-SHA512 を使用することもできます。

- 楕円曲線グループ 19 (256 ビットの ECP 曲線) および 20 (384 ビットの ECP 曲線) は、IKE で Diffie-Hellman グループとして使用されます。必要に応じて、グループ 21 (521 ビットの ECP 曲線) を使用できます。
- X.509 証明書内の署名操作で、楕円曲線デジタル署名アルゴリズム (ECDSA) (256 ビットおよび 384 ビットの曲線) が使用されます。
- ESP (128 ビットおよび 256 ビットのキー) には、GCM (16 バイトの ICV) および GMAC が使用されます。必要に応じて、192 ビットのキーを使用することもできます。
- ECDSA 署名を使用した X.509 証明書の確認に対する Public Key Infrastructure (PKI) サポートを使用する必要があります。
- ECDSA 署名を使用して証明書要求を生成する場合、および発行された証明書を IOS にインポートする場合に、PKI を使用する必要があります。
- 認証方式として ECDSA signature (ECDSA-sig) を使用できるようにする場合に、IKEv2 を使用する必要があります。

## Suite-B の設定情報の入手先

Suite-B の設定のサポートについては、次のマニュアルで説明されています。

- SHA-2 ファミリ (HMAC バリエーション) および Elliptic Curve (EC) キー ペアの設定の詳細については、「*Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs*」機能モジュールを参照してください。
- 整合性アルゴリズム タイプのトランスフォームの設定の詳細については、「*Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2) and FlexVPN Site-to-Site*」機能モジュールの「*Configuring the IKEv2 Proposal*」を参照してください。
- ECDSA-sig を IKEv2 の認証方式として設定する場合の詳細については、「*Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2) and FlexVPN Site-to-Site*」機能モジュールの「*Configuring IKEv2 Profile (Basic)*」を参照してください。
- IPsec SA ネゴシエーション用の Elliptic Curve Diffie-Hellman (ECDH) サポートの設定の詳細については、「*Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs*」および「*Configuring Internet Key Exchange Version 2 and FlexVPN*」機能モジュールを参照してください。

PKI の証明書登録での Suite-B のサポートの詳細については、「*Configuring Certificate Enrollment for a PKI*」機能モジュールを参照してください。

# IPsec VPN の設定方法

## クリプト アクセス リストの作成

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかを実行します。
  - **access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [**log**]
  - **ip access-list extended** *name*
4. 作成するクリプト アクセス リストごとにステップ 3 を繰り返します。

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかを実行します。  • <b>access-list</b> <i>access-list-number</i> { <b>deny</b>   <b>permit</b> } <i>protocol source source-wildcard destination destination-wildcard</i> [ <b>log</b> ] • <b>ip access-list extended</b> <i>name</i>  <b>Example:</b> Device(config)# access-list 100 permit ip 10.0.68.0 0.0.0.255 10.1.1.0 0.0.0.255  <b>Example:</b> Device(config)# ip access-list extended vpn-tunnel	保護する IP パケットを判別する条件を指定します。  • 番号または名前によって指定された IP アクセス リストを使用して、条件を指定します。 <b>access-list</b> コマンドでは、番号付き拡張アクセス リストを指定し、 <b>ip access-list extended</b> コマンドでは、名前付きアクセスリストを指定します。  • これらの条件に一致するトラフィックに対して暗号化をイネーブ爾またはディセーブルにします。

	Command or Action	Purpose
		<b>Tip</b> IPsec で使用できるように "mirror image" クリプトアクセスリストを設定することを推奨します。また、 <b>any</b> キーワードを使用することは推奨しません。
ステップ 4	作成するクリプト アクセス リストごとにステップ 3 を繰り返します。	—

## 次の作業

クリプトアクセスリストを1つ以上作成したら、トランスフォームセットをIKEv1 およびIKEv2 プロポーザルのトランスフォームセットの設定, on page 2172 の手順に従って定義する必要があります。

次に、クリプトマップセットを設定してインターフェイスに適用するときに、クリプトアクセスリストを特定のインターフェイスに関連付ける必要があります。(クリプトマップセットの作成, on page 2180 およびインターフェイスへのクリプトマップセットの適用, on page 2191 の指示に従ってください)。

## IKEv1 および IKEv2 プロポーザルのトランスフォームセットの設定

この作業は、IKEv1 および IKEv2 プロポーザルとの IPsec SA のネゴシエーション時に IPsec ピアが使用するトランスフォームセットを定義するために実行します。



### Note

- Cisco IOS XE リリース 17.6 ~ 17.9 では、暗号マップベースの VPN ソリューションで、トンネルモードとトランスポートモードの両方がサポートされます。
- Cisco IOS XE リリース 17.10 以降では、暗号マップベースの VPN ソリューションで、トランスポートモードのみがサポートされます。

## 機能制限

SEAL 暗号化を指定する場合は、次の制約事項に注意してください。

- ルータと他のピアがハードウェア IPsec 暗号化を備えていないこと。
- ルータおよび他のピアが IPsec をサポートすること。
- ルータおよび他のピアが k9 サブシステムをサポートすること。
- SEAL 暗号化はシスコ製の装置だけで使用可能。したがって、相互運用性はありません。
- IKEv1 と異なり、認証方式と SA ライフタイムは IKEv2 ではネゴシエーション可能ではありません。そのため、これらのパラメータを IKEv2 プロポーザルで設定することはできません。

## IKEv1 のトランスフォーム セットの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec transform-set transform-set-name transform1 [transform2 [transform3]]**
4. **mode [tunnel | transport]**
5. **end**
6. **clear crypto sa [peer {ip-address | peer-name} | sa map map-name | sa entry destination-address protocol spi]**
7. **show crypto ipsec transform-set [tag transform-set-name]**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec transform-set transform-set-name transform1 [transform2 [transform3]]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ipsec transform-set aasset esp-aes 256 esp-sha-hmac	トランスフォームセットを定義し、暗号化トランスフォーム コンフィギュレーション モードを開始します。  • <b>transform</b> 引数に使用できるエントリを定義する複合ルールがあります。これらルールについては、 <b>crypto ipsec transform-set</b> コマンドのコマンド解説で説明します。また、「トランスフォームセットの概要」の表に、許可されるトランスフォームの組み合わせのリストを示します。
ステップ 4	<b>mode [tunnel   transport]</b> <b>Example:</b> Device(cfg-crypto-tran)# mode transport	(任意) トランスフォームセットに関連付けられたモードを変更します。  • このモード設定は、送信元アドレスと宛先アドレスが IPsec ピア アドレスであるトラフィックだけに適用され、その他すべてのトラフィックに対しては無視されます。（他のトラフィックはすべてトンネル モードです）。

## 次の作業

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(cfg-crypto-tran)# end	暗号トランスフォーム コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 6	<b>clear crypto sa</b> [ <b>peer</b> { <i>ip-address</i>   <i>peer-name</i> }   <b>sa map</b> <i>map-name</i>   <b>sa entry</b> <i>destination-address protocol spi</i> ] <b>Example:</b> Device# clear crypto sa	(任意) 既存の IPsec SA を消去して、その後確立された SA でトランスフォーム セットへの変更が有効になるようにします。 手動で確立した SA は、すぐに再確立されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パラメータを指定せずに <b>clear crypto sa</b> コマンドを使用すると、SA データベースの内容が完全に消去されるので、アクティブなセキュリティセッションが消去されます。</li> <li>• SA データベースのサブセットだけを消去するには、<b>peer</b>、<b>map</b>、または <b>entry</b> キーワードも指定します。</li> </ul>
ステップ 7	<b>show crypto ipsec transform-set</b> [ <b>tag</b> <i>transform-set-name</i> ] <b>Example:</b> Device# show crypto ipsec transform-set	(任意) 設定済みのトランスフォームセットを表示します。

## 次の作業

トランスフォーム セットを定義したら、「クリプト マップ セットの作成」の手順に従ってクリプト マップを作成する必要があります。

## IKEv2 のトランスフォーム セットの設定

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 proposal** *proposal-name*
4. **encryption** *transform1* [*transform2*] ...
5. **integrity** *transform1* [*transform2*] ...
6. **group** *transform1* [*transform2*] ...
7. **end**
8. **show crypto ikev2 proposal**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 proposal proposal-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 proposal proposal-1	プロポーザルの名前を指定し、暗号 IKEv2 プロポーザル コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IKEv2 ポリシーでは、プロポーザル名を使用してプロポーザルが参照されます。</li> </ul>
ステップ 4	<b>encryption transform1 [transform2] ...</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-proposal)# encryption aes-cbc-128	(任意) 次の暗号化タイプのトランスフォームを 1 つ以上指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>AES-CBC 128 : 128 ビット AES-CBC</li> <li>AES-CBC 192 : 192 ビット AES-CBC</li> <li>AES-CBC 256 : 256 ビット AES-CBC</li> <li>3DES : 168 ビット DES (非推奨。AES が推奨されている暗号化アルゴリズムです)。</li> </ul>
ステップ 5	<b>integrity transform1 [transform2] ...</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-proposal)# integrity sha1	(任意) 次の整合性タイプのトランスフォームを 1 つ以上指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>sha256</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして SHA-2 ファミリ 256 ビット (HMAC バリエーション) を指定します。</li> <li><b>sha384</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして SHA-2 ファミリ 384 ビット (HMAC バリエーション) を指定します。</li> <li><b>sha512</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして SHA-2 ファミリ 512 ビット (HMAC バリエーション) を指定します。</li> <li><b>sha1</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして SHA-1 (HMAC バリエーション) を指定します。</li> </ul>

## IKEv2 のトランスフォーム セットの例

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>md5</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして MD5 (HMAC バリエーション) を指定します。(非推奨。SHA-1 が推奨されている代替品です)。</li> </ul>
ステップ 6	<b>group transform1 [transform2] ...</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-proposal)# group 14	(任意) 使用可能な DH グループタイプのトランスフォームを 1 つ以上指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>1</b> : 768 ビット DH (非推奨)</li> <li>• <b>2</b> : 1024 ビット DH (非推奨)</li> <li>• <b>5</b> : 1536 ビット DH (非推奨)</li> <li>• <b>14</b> : 2048 ビット DH グループを指定します。</li> <li>• <b>15</b> : 3072 ビット DH グループを指定します。</li> <li>• <b>16</b> : 4096 ビット DH グループを指定します。</li> <li>• <b>19</b> : 256 ビット Elliptic Curve DH (ECDH) グループを指定します。</li> <li>• <b>20</b> : 384 ビット ECDH グループを指定します。</li> <li>• <b>24</b> : 2048 ビット DH/DSA グループを指定します。</li> </ul>
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-proposal)# end	暗号 IKEv2 プロポーザル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>show crypto ikev2 proposal</b> <b>Example:</b> Device# show crypto ikev2 proposal	(任意) 各 IKEv2 プロポーザルのパラメータを表示します。

## IKEv2 のトランスフォーム セットの例

次の例では、プロポーザルの設定方法を示しています。

各トランスフォームタイプに対して 1 つのトランスフォームがある IKEv2 プロポーザル

```
Device(config)# crypto ikev2 proposal proposal-1
Device(config-ikev2-proposal)# encryption aes-cbc-128
Device(config-ikev2-proposal)# integrity sha1
Device(config-ikev2-proposal)# group 14
```



各トランスフォームタイプに対して複数のトランスフォームがある IKEv2 プロポーザル

```
crypto ikev2 proposal proposal-2
encryption aes-cbc-128 aes-cbc-192
integrity sha1 sha256
group 14 15
```

トランスフォームの組み合わせのリストについては、「[Configuring Security for VPNs with IPsec](#)」を参照してください。

### 発信側と応答側の IKEv2 プロポーザル

発信側のプロポーザルは次のとおりです。

```
Device(config)# crypto ikev2 proposal proposal-1
Device(config-ikev2-proposal)# encryption aes-cbc-128 aes-cbc-196
Device(config-ikev2-proposal)# integrity sha1 sha256
Device(config-ikev2-proposal)# group 14 16
```

応答側のプロポーザルは次のとおりです。

```
Device(config)# crypto ikev2 proposal proposal-2
Device(config-ikev2-proposal)# encryption aes-cbc-196 aes-cbc-128
Device(config-ikev2-proposal)# integrity sha256 sha1
Device(config-ikev2-proposal)# group 16 14
```

このシナリオでは、発信側のアルゴリズムの選択が優先されます。選択されたアルゴリズムは次のとおりです。

```
encryption aes-cbc-128
integrity sha1
group 14
```

## 次の作業

トランスフォームセットを定義したら、「クリプトマップセットの作成」の手順に従ってクリプトマップを作成する必要があります。

## セキュリティ アソシエーションの強度適用の有効化

ここでは、子 IPsec SA の暗号化暗号より高い IKE SA 暗号化暗号の強度の適用について説明します。この機能は、コモンクライテリア (CC) 認定要件の一部として実装されています。これにより、IKE (IKEv1 および IKEv2) SA 暗号化暗号の強度が、確実に子 IPsec SA の暗号化暗号の強度以上になります。

### セキュリティ アソシエーションの強度適用について

ここでは、セキュリティ アソシエーションの強度適用の機能について詳しく説明します。

## 概要

IKE SA 暗号化暗号の強度が確実に子 IPsec SA の暗号化暗号の強度以上になるように IPsec を設定することは、優れたセキュリティ手法です。強度適用では、暗号化暗号のみがチェックされます。完全性またはキー交換アルゴリズムはチェックされません。暗号化暗号強度の比較は、セッションのネゴシエーションまたは確立中に行われます。IKE または IPsec の設定時には適用されません。暗号化キーのビット数によって、暗号化暗号の強度が決まります。

この機能はデフォルトで無効に設定されています。有効になっている場合、IKEv1 および IKEv2 セッションで、各子 SA の選択された暗号化暗号の相対的な強度が比較されます。子 SA の暗号化アルゴリズムが IKEv1 または IKEv2 暗号化アルゴリズムよりも強力である場合は、子 SA のネゴシエーションが中止され、失敗したネゴシエーションの原因を特定するために、重大度の高い新しい syslog およびデバッグメッセージが発行されます。

次の表 209 : サポートされている暗号化暗号に、サポートされている暗号化暗号を、強度の高い順に示します。同じ行の暗号化暗号は、このチェックの目的では、同等の強度となります。

表 209 : サポートされている暗号化暗号

ISAKMP/IKEv1	IKEv2	IPsec
AES-256	AES-CBC-256 (デフォルト)、AES-GCM-256	ESP-AES-256
aes-192	AES-CBC-192	ESP-AES-192
		ESP-SEAL-160
AES-128 (デフォルト)	AES-CBC-128、AES-GCM-128	ESP-AES-128 (デフォルト)、ESP-GCM-128



(注) この機能は、Encapsulating Security Payload (ESP) プロトコルにのみ適用されます。認証ヘッダー (AH) プロトコルには影響しません。

### セキュリティ アソシエーションの強度適用でサポートされるプラットフォーム

セキュリティ アソシエーションの強度適用でサポートされるプラットフォームは、次のとおりです。

- Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ
- Cisco 1000 シリーズ サービス統合型ルータ
- Cisco Catalyst 8200 シリーズ エッジ プラットフォーム
- Cisco Catalyst 8300 シリーズ エッジ プラットフォーム
- Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォーム
- Cisco Catalyst 8000V Edge ソフトウェア

## セキュリティ アソシエーションの強度適用の設定方法

ここでは、セキュリティアソシエーションの強度適用の設定に関連するプロセスについて説明します。

### セキュリティ アソシエーションの強度適用の設定

SA の強度適用を設定するには、次の手順を実行します。



- (注)
- これは、IKEv1 および IKEv2 に適用可能なグローバル設定です。セキュリティアソシエーション強度適用機能を IKEv1 または IKEv2 に対して個別に有効または無効にすることはできません。
  - 既存の IPsec セッションがクリアされていない場合は、IPsec キー再生成時に SA の強度適用が適用されます。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec ike sa-strength-enforcement**
4. **exit**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec ike sa-strength-enforcement</b> 例： Device(config)# crypto ipsec ike sa-strength-enforcement	IKE SA 暗号化暗号の強度が、確実に、子 IPsec SA の暗号化暗号の強度以上になるようにします。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## セキュリティアソシエーションの強度適用の設定例

ここでは、セキュリティアソシエーション (SA) の強度適用の設定に関連する詳細な設定例を示します。

### 例：セキュリティアソシエーションの強度適用の設定

```
Router(config)#crypto ipsec ike sa-strength-enforcement
% Warning: Please make sure IKE SA encryption keysize configured, is greater than or
equal to IPsec SA encryption keysize.
Please run "clear crypto session" to enforce stronger IKE SA encryption immediately.
```

## セキュリティアソシエーションの強度適用の確認

暗号化セッションのステータスを表示するには、**show crypto session detail** コマンドを使用します。出力においてIKEの**Capabilities**の横に表示されている**E**は、より強力なIKE暗号化が適用されていることを示しています。

次に、**show crypto session detail** コマンドの出力例を示します。

```
Router#show crypto session detail
Crypto session current status
Code: C - IKE Configuration mode, D - Dead Peer Detection
K - Keepalives, N - NAT-traversal, T - cTCP encapsulation
X - IKE Extended Authentication, F - IKE Fragmentation
R - IKE Auto Reconnect, U - IKE Dynamic Route Update
S - SIP VPN, E - Stronger IKE Encryption Enforced

Interface: Tunnel0
Uptime: 00:09:29
Session status: UP-ACTIVE
Peer: 10.0.149.217 port 500 fvrf: (none) ivrf: (none)
      Phase1_id: 10.0.149.217
      Desc: (none)
Session ID: 0
IKEv1 SA: local 10.0.149.203/500 remote 10.0.149.217/500 Active
Capabilities: DE connid:1001 lifetime:00:20:30
IPSEC FLOW: permit ip 0.0.0.0/0.0.0.0 0.0.0.0/0.0.0.0
Active SAs: 2, origin: crypto map
Inbound: #pkts dec'ed 0 drop 0 life (KB/Sec) 4154754/330
Outbound: #pkts enc'ed 0 drop 0 life (KB/Sec) 4154754/330
```

## クリプトマップセットの作成

スタティックおよびダイナミック暗号マップを作成するには、次の作業を実行します。



### Note

- Cisco IOS XE リリース 17.6 ~ 17.9 では、暗号マップセットは、トンネルモードとトランスポートモードの両方をサポートします。
- Cisco IOS XE リリース 17.10 以降では、暗号マップセットは、トランスポートモードのみをサポートします。

## スタティッククリプトマップの作成

IKE を使用して SA が確立されると、IPsec ピアは、新しいセキュリティアソシエーションに使用する設定をネゴシエートできます。つまり、クリプトマップエントリ内でリスト（許容されるトランスフォームのリストなど）を指定できます。

このタスクは、IKE を使用して SA を確立するクリプトマップエントリを作成するために実行します。IPv6 クリプトマップエントリを作成するには、**crypto map** コマンドで **ipv6** キーワードを使用する必要があります。IPv4 クリプトマップでは、**ipv6** キーワードなしで **crypto map** コマンドを使用します。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map [ipv6] map-name seq-num [ipsec-isakmp]**
4. **match address access-list-id**
5. **set peer {hostname | ip-address}**
6. **crypto ipsec security-association dummy {pps rate | seconds seconds}**
7. **set transform-set transform-set-name1 [transform-set-name2...transform-set-name6]**
8. **set security-association lifetime {seconds seconds | kilobytes kilobytes | kilobytes disable}**
9. **set security-association level per-host**
10. **set pfs [group1 | group14 | group15 | group16 | group19 | group2 | group20 | group24 | group5]**
11. **end**
12. **show crypto map [interface interface | tag map-name]**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto map [ipv6] map-name seq-num [ipsec-isakmp]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# crypto map static-map 1 ipsec-isakmp</pre>	クリプト マップ エントリを作成または変更し、クリプトマップコンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IPv4 クリプトマップでは、<b>ipv6</b> キーワードなしでコマンドを使用します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>match address access-list-id</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-crypto-m)# match address vpn-tunnel</pre>	拡張アクセス リストに名前を付けます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このアクセス リストは、このクリプト マップ エントリに照らして、IPsec で保護する必要のあるトラフィックと IPsec セキュリティで保護する必要のないトラフィックを判別します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>set peer {hostname   ip-address}</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-crypto-m)# set-peer 192.168.101.1</pre>	リモート IPsec ピアを指定します。これは、IPsec 保護されたトラフィックの転送先となるピアです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数のリモート ピアに対して、同じ作業を繰り返します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>crypto ipsec security-association dummy {pps rate   seconds seconds}</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-crypto-m)# set security-association dummy seconds 5</pre>	ダミー パケットの生成を有効にします。これらのダミー パケットは、クリプト マップ内で作成されたすべてのフローに対して生成されます。
ステップ 7	<b>set transform-set transform-set-name1 [transform-set-name2...transform-set-name6]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-crypto-m)# set transform-set aasset</pre>	このクリプト マップ エントリで許可するトランスフォーム セットを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>複数のトランスフォーム セットをプライオリティ順（最高のプライオリティのものが最初）に列挙します。</li> </ul>
ステップ 8	<b>set security-association lifetime {seconds seconds   kilobytes kilobytes   kilobytes disable}</b> <b>Example:</b> <pre>Device (config-crypto-m)# set security-association lifetime seconds 2700</pre>	(任意) クリプト マップ エントリの SA ライフタイムを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトでは、クリプト マップの SA はグローバルライフタイムに従ってネゴシエーションされ、これはディセーブルにできます。</li> </ul>
ステップ 9	<b>set security-association level per-host</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-crypto-m)# set security-association level per-host</pre>	(任意) 送信元と宛先ホストのペアごとに、個別の SA を確立するよう指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトで、1つの IPsec 「トンネル」を使用して、複数の送信元ホストと複数の宛先ホストのトラフィックを伝送できます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p><b>Caution</b> 特定のサブネット間の複数のストリームによって急速にリソースが消費される可能性があるため、このコマンドは注意して使用してください。</p>
ステップ 10	<p><b>set pfs</b> [group1   group14   group15   group16   group19   group2   group20   group24   group5]</p> <p><b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# set pfs group14</p>	<p>(任意) IPsecがこのクリプトマップエントリの新しいSAを要求するときにPassword Forward Secrecy (PFS)を要求するか、IPsecピアから受信する要求にPFSを含めるように要求するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ 1 は、768 ビット Diffie-Hellman (DH) 識別子を指定します (デフォルト)。(非推奨)。</li> <li>グループ 2 は、1024 ビット DH 識別子を指定します。(非推奨)。</li> <li>グループ 5 は、1536 ビット DH 識別子を指定します。(非推奨)</li> <li>グループ 14 は、2048 ビット DH 識別子を指定します。</li> <li>グループ 15 は、3072 ビット DH 識別子を指定します。</li> <li>グループ 16 は、4096 ビット DH 識別子を指定します。</li> <li>グループ 19 は、256 ビット Elliptic Curve DH (ECDH) 識別子を指定します。</li> <li>グループ 20 は、384 ビット ECDH 識別子を指定します。</li> <li>グループ 24 は、2048 ビット DH/DSA 識別子を指定します。</li> <li>デフォルトでは、PFSは要求されません。このコマンドでグループが指定されなかった場合は、グループ 1 がデフォルトとして使用されず。</li> </ul>
ステップ 11	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# end</p>	<p>クリプトマップコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 12	<b>show crypto map</b> [ <i>interface interface</i>   <b>tag map-name</b> ]  <b>Example:</b> Device# show crypto map	クリプト マップ コンフィギュレーションを表示します。

## トラブルシューティングのヒント

特定の設定変更は、それ以後の SA をネゴシエーションする場合にだけ有効になります。新しい設定をすぐに有効にする場合は、既存の SA が変更後の設定で再確立されるように、これらの SA を消去する必要があります。ルータが活発に IPsec トラフィックを処理する場合は、設定変更によって影響を受ける SA データベースの一部だけを消去します（つまり、所定のクリプト マップ セットで確立されている SA だけを消去します）。大規模な変更を行う場合や、ルータが他の IPsec トラフィックをほとんど処理しない場合を除いて、SA データベースを完全に消去しないでください。

IPsec SA をクリアするには、**clear crypto sa** コマンドと適切なパラメータを使用してください。（パラメータをすべて省略すると、SA データベースが完全に消去され、アクティブなセキュリティ セッションも消去されてしまいます）。

## 次の作業

スタティック クリプト マップ を正常に作成したら、IPsec トラフィック フローが通過する各インターフェイスにクリプト マップ セットを適用する必要があります。この作業を完了するには、[インターフェイスへのクリプト マップ セットの適用, on page 2191](#) を参照してください。

## ダイナミック クリプト マップ の作成

ダイナミック クリプト マップ エントリにより、IPsec SA を確立できるトラフィックを制限するクリプト アクセス リストを指定します。トラフィックのフィルタリング中、アクセス リストを指定しないダイナミック クリプト マップ エントリは、無視されます。ダイナミック クリプト マップ エントリに空のアクセス リストが含まれていると、トラフィックが廃棄されます。クリプト マップ セットにダイナミック クリプト マップ エントリが1つしかない場合、クリプト マップ セットは許容範囲内のトランスフォーム セットを指定する必要があります。

このタスクは、SA の確立に IKE を使用するダイナミック クリプト マップ エントリを作成するために実行します。



**Note** IPv6 アドレスは、ダイナミック クリプト マップ ではサポートされません。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイト ペーパーを参照してください。



## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto dynamic-map** *dynamic-map-name dynamic-seq-num*
4. **set transform-set** *transform-set-name1* [*transform-set-name2...transform-set-name6*]
5. **match address** *access-list-id*
6. **set peer** {*hostname* | *ip-address*}
7. **set security-association lifetime** {**seconds** *seconds* | **kilobytes** *kilobytes* | **kilobytes disable**}
8. **set pfs** [**group1** | **group14** | **group15** | **group16** | **group19** | **group2** | **group20** | **group24** | **group5**]
9. **exit**
10. **exit**
11. **show crypto dynamic-map** [**tag** *map-name*]
12. **configure terminal**
13. **crypto map** *map-name seq-num ipsec-isakmp dynamic dynamic-map-name* [**discover**]
14. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto dynamic-map</b> <i>dynamic-map-name dynamic-seq-num</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto dynamic-map test-map 1	ダイナミッククリプトマップエントリを作成し、クリプトマップコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name1</i> [ <i>transform-set-name2...transform-set-name6</i> ] <b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# set transform-set aasset	このクリプトマップエントリで許可するトランスフォームセットを指定します。  • 複数のトランスフォームセットをプライオリティ順 (最高のプライオリティのものが最初) に列挙します。これは、ダイナミッククリプトマップエントリで必要とされる唯一の設定文です。
ステップ 5	<b>match address</b> <i>access-list-id</i> <b>Example:</b>	(任意) 拡張アクセスリストのリスト番号またはリスト名を指定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Device(config-crypto-m)# match address 101</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このアクセスリストは、このクリプトマップ エントリに照らして、IPsec で保護する必要があるトラフィックと、IPsec セキュリティで保護しないトラフィックを決定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> ダイナミック クリプト マップでは、アクセスリストの使用は任意ですが、使用することを強く推奨します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アクセスリストが設定されている場合、IPsec ピアによって提示されるデータフロー ID は、このクリプトアクセスリストの <b>permit</b> ステートメントの範囲内である必要があります。</li> <li>アクセス リストが設定されていない場合、デバイスは、IPsec ピアが提示したデータフロー ID を受け入れます。ただし、アクセスリストが設定されていても指定されたアクセス リストが存在しない、あるいは空である場合、デバイスはすべてのパケットを廃棄します。これは、アクセス リストを指定する必要のあるスタティック クリプト マップと同様です。</li> <li>アクセスリストはネゴシエーションだけでなくパケットフィルタリングでも使用されるため、<b>any</b> キーワードをアクセスリストで使用するには注意が必要です。</li> <li>一致アドレスを設定する必要があります。設定しない場合、パケットがクリアテキスト（暗号解除されて）で送信されるため、動作が不安定になり、TED をイネーブルにできません。</li> </ul>
ステップ 6	<pre>set peer {hostname   ip-address}</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-crypto-m)# set peer 192.168.101.1</pre>	<p>(任意) リモート IPsec ピアを指定します。リモートピアが複数ある場合、このステップを繰り返します。</p> <p><b>Note</b> ダイナミック クリプト マップ エントリでは、これを設定することはまれです。ダイナミック クリプト マップ エントリは、多くの場合、未知のリモート ピアで使用されます。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<p><b>set security-association lifetime</b> {seconds <i>seconds</i>   kilobytes <i>kilobytes</i>   kilobytes <i>disable</i>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-crypto-m)# set security-association lifetime seconds 7200</pre>	<p>(任意) IPセキュリティ SA をネゴシエーションするときに使用されるグローバル ライフタイム値を上書きします (特定のクリプト マップ エントリの場合)。</p> <p><b>Note</b> 高帯域幅環境でのキーの再生成時にパケット損失が発生する可能性を最小限にするには、大量のライフタイム有効期限によってトリガーされるキーの再生成要求をディセーブルにできます。</p>
ステップ 8	<p><b>set pfs</b> [group1   group14   group15   group16   group19   group2   group20   group24   group5]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-crypto-m)# set pfs group14</pre>	<p>(任意) IPsec がこのクリプトマップ エントリの新しい SA を要求した場合、PFS を要求するように、または IPsec ピアから受信する要求に PFS が含まれることを要求するように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• グループ 1 は、768 ビット Diffie-Hellman (DH) 識別子を指定します (デフォルト)。(非推奨)。</li> <li>• グループ 2 は、1024 ビット DH 識別子を指定します。(非推奨)。</li> <li>• グループ 5 は、1536 ビット DH 識別子を指定します。(非推奨)</li> <li>• グループ 14 は、2048 ビット DH 識別子を指定します。</li> <li>• グループ 15 は、3072 ビット DH 識別子を指定します。</li> <li>• グループ 16 は、4096 ビット DH 識別子を指定します。</li> <li>• グループ 19 は、256 ビット Elliptic Curve DH (ECDH) 識別子を指定します。</li> <li>• グループ 20 は、384 ビット ECDH 識別子を指定します。</li> <li>• グループ 24 は、2048 ビット DH/DSA 識別子を指定します。</li> <li>• デフォルトでは、PFS は要求されません。このコマンドでグループが指定されなかった場合は、<b>group1</b> がデフォルトとして使用されます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# exit	クリプトマップコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 11	<b>show crypto dynamic-map [tag map-name]</b> <b>Example:</b> Device# show crypto dynamic-map	(任意) ダイナミッククリプトマップに関する情報を表示します。
ステップ 12	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 13	<b>crypto map map-name seq-num ipsec-isakmp dynamic dynamic-map-name [discover]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto map static-map 1 ipsec-isakmp dynamic test-map discover	(任意) クリプトマップセットにダイナミッククリプトマップを追加します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>クリプトマップセット内のプライオリティの最も低いエントリに、ダイナミックマップを参照するクリプトマップエントリを設定する必要があります。</li> </ul> <p><b>Note</b> TEDを有効にするには、<b>discover</b> キーワードを入力する必要があります。</p>
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。

## トラブルシューティングのヒント

特定の設定変更は、それ以後の SA をネゴシエーションする場合にだけ有効になります。新しい設定をすぐに有効にする場合は、既存の SA が変更後の設定で再確立されるように、これらの SA を消去する必要があります。ルータが活発に IPsec トラフィックを処理する場合は、設定変更によって影響を受ける SA データベースの一部だけを消去します (つまり、所定のクリプトマップセットで確立されている SA だけを消去します)。大規模な変更を行う場合や、ルータが最小の IPsec トラフィックを処理している場合を除いて、SA データベース全体のクリアを予約しないでください。

IPsec SA をクリアするには、**clear crypto sa** コマンドと適切なパラメータを使用してください。(パラメータをすべて省略すると、SA データベースが完全に消去され、アクティブなセキュリティセッションも消去されてしまいます)。

## 次の作業

クリプトマップセットを正常に作成したら、IPsec トラフィックフローが通過する各インターフェイスにクリプトマップセットを適用する必要があります。この作業を完了するには、「[インターフェイスへのクリプトマップセットの適用, on page 2191](#)」を参照してください。

## 手動による SA を確立するためのクリプト マップ エントリの作成

このタスクは、クリプト マップ エントリを作成して手動 SA を確立するため（つまり、SA の確立に IKE が使用されない場合）に実行します。IPv6 クリプトマップエントリを作成するには、**crypto map** コマンドで **ipv6** キーワードを使用する必要があります。IPv4 クリプトマップでは、**ipv6** キーワードなしで **crypto map** コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map [ipv6] map-name seq-num [ipsec-manual]**
4. **match address access-list-id**
5. **set peer {hostname | ip-address}**
6. **set transform-set transform-set-name**
7. 次のいずれかを実行します。
  - **set session-key inbound ah spi hex-key-string**
  - **set session-key outbound ah spi hex-key-string**
8. 次のいずれかを実行します。
  - **set session-key inbound esp spi cipher hex-key-string [authenticator hex-key-string]**
  - **set session-key outbound esp spi cipher hex-key-string [authenticator hex-key-string]**
9. **exit**
10. **exit**
11. **show crypto map [interface interface | tag map-name]**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto map [ipv6] map-name seq-num [ipsec-manual]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto map mymap 10 ipsec-manual	作成または変更するクリプトマップエントリを指定して、クリプトマップコンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IPv4 クリプトマップでは、<b>ipv6</b> キーワードなしで <b>crypto map</b> コマンドを使用します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>match address access-list-id</b> <b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# match address 102	このクリプトマップエントリに照らして、IPsec で保護するトラフィックと、IPsec で保護しないトラフィックを決定する IPsec アクセスリストに名前を付けます <ul style="list-style-type: none"> <li>IKE を使用しない場合、アクセスリストは <b>permit</b> エントリを 1 つだけ指定できます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>set peer {hostname   ip-address}</b> <b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# set peer 10.0.0.5	リモート IPsec ピアを指定します。これは、IPsec 保護されたトラフィックの転送先となるピアです <ul style="list-style-type: none"> <li>IKE を使用しない場合、ピアを 1 つだけ指定できます。</li> </ul>
ステップ 6	<b>set transform-set transform-set-name</b> <b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# set transform-set someset	使用するトランスフォームセットを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>これは、リモートピアの対応するクリプトマップエントリで指定したトランスフォームセットと同じである必要があります。</li> </ul> <p><b>Note</b> IKE を使用しない場合、トランスフォームセットを 1 つだけ指定できます。</p>
ステップ 7	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>set session-key inbound ah spi hex-key-string</b></li> <li><b>set session-key outbound ah spi hex-key-string</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# set session-key inbound ah 256 98765432109876549876543210987654 <b>Example:</b> Device(config-crypto-m)# set session-key outbound ah 256 fedcbafedcbafedcfedcbafedcbafedc	指定されたトランスフォームセットに AH プロトコルが含まれている場合、保護対象の着信および発信トラフィックに適用する AH セキュリティパラメータインデックス (SPI) およびキーを設定します <ul style="list-style-type: none"> <li>保護するトラフィックに使用する AH セキュリティアソシエーションを手動で指定します。</li> </ul>
ステップ 8	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>set session-key inbound esp spi cipher hex-key-string [authenticator hex-key-string]</b></li> <li><b>set session-key outbound esp spi cipher hex-key-string [authenticator hex-key-string]</b></li> </ul>	指定されたトランスフォームセットに ESP プロトコルが含まれている場合、保護対象の着信および発信トラフィックに適用する Encapsulating Security Payload (ESP) セキュリティパラメータインデックス (SPI) およびキーを設定します。

	Command or Action	Purpose
	<p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-crypto-m)# set session-key inbound esp 256 cipher 0123456789012345</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-crypto-m)# set session-key outbound esp 256 cipher abcdefabcdefabcd</pre>	<p>または</p> <p>トランスフォームセットに ESP 暗号化アルゴリズムが含まれている場合は、暗号キーを指定します。トランスフォームセットに ESP 認証アルゴリズムが含まれている場合は、認証キーを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護するトラフィックに使用する ESP セキュリティアソシエーションを手動で指定します。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-crypto-m)# exit</pre>	クリプトマップコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 10	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# exit</pre>	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 11	<p><b>show crypto map [interface interface   tag map-name]</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# show crypto map</pre>	クリプトマップコンフィギュレーションを表示します。

### トラブルシューティングのヒント

手動で確立された SA の場合、変更を有効にするために SA を消去し、再初期化する必要があります。IPsec SA をクリアするには、**clear crypto sa** コマンドと適切なパラメータを使用してください。（パラメータをすべて省略すると、SA データベース全体がクリアされ、アクティブなセキュリティセッションもクリアされてしまいます）。

### 次の作業

クリプトマップセットを正常に作成したら、IPsec トラフィックフローが通過する各インターフェイスにクリプトマップセットを適用する必要があります。この作業を完了するには、「[インターフェイスへのクリプトマップセットの適用, on page 2191](#)」を参照してください。

## インターフェイスへのクリプトマップセットの適用

クリプトマップセットは、IPsec トラフィックが通過する各インターフェイスに適用する必要があります。インターフェイスにクリプトマップセットを適用すると、デバイスに対して、トラフィックをクリプトマップで保護する代わりに、インターフェイスのトラフィックをクリプトマップセットに対して評価し、接続中またはセキュリティアソシエーションネゴシエーション中に指定されたポリシーを使用するように指示されます。

インターフェイスにクリプトマップを適用するには、次の作業を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type/number*
4. **crypto map** *map-name*
5. **exit**
6. **crypto map** *map-name local-address interface-id*
7. **exit**
8. **show crypto map** [ **interface** *interface* ]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type/number</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface FastEthernet 0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>crypto map</b> <i>map-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# crypto map mymap	インターフェイスに対してクリプト マップ セットを適用します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 6	<b>crypto map</b> <i>map-name local-address interface-id</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto map mymap local-address loopback0	(任意) 冗長インターフェイスが同じローカルアイデンティティを使用して、同じクリプトマップを共有できるようにします。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>show crypto map [ interface interface]</b>  <b>Example:</b> Device# show crypto map	(任意) クリプト マップ コンフィギュレーションを表示します。

## IPsec VPN の設定例

### 例 : AES ベースのスタティック暗号マップの設定

この例は、スタティッククリプトマップを設定し、暗号化方式として AES を定義する方法を示しています。

```

crypto isakmp policy 10
  encryption aes 256
  authentication pre-share
  group 14
  lifetime 180
crypto isakmp key cisco123 address 10.0.110.1
!
!
crypto ipsec transform-set aesset esp-aes 256 esp-sha-hmac
  mode transport
!
crypto map aesmap 10 ipsec-isakmp
  set peer 10.0.110.1
  set transform-set aesset
  match address 120
!
!
!
voice call carrier capacity active
!
!
mta receive maximum-recipients 0
!
!
interface FastEthernet0/0
  ip address 10.0.110.2 255.255.255.0
  ip nat outside
  no ip route-cache
  no ip mroute-cache
  duplex auto
  speed auto
  crypto map aesmap
!
interface Serial10/0
  no ip address
  shutdown
!
interface FastEthernet0/1
  ip address 10.0.110.1 255.255.255.0
  ip nat inside
  no ip route-cache
  no ip mroute-cache

```

```

duplex auto
speed auto
!
ip nat inside source list 110 interface FastEthernet0/0 overload
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.5.1.1
ip route 10.0.110.0 255.255.255.0 FastEthernet0/0
ip route 172.18.124.0 255.255.255.0 10.5.1.1
ip route 172.18.125.3 255.255.255.255 10.5.1.1
ip http server
!
!
access-list 110 deny ip 10.0.110.0 0.0.0.255 10.0.110.0 0.0.0.255
access-list 110 permit ip 10.0.110.0 0.0.0.255 any
access-list 120 permit ip 10.0.110.0 0.0.0.255 10.0.110.0 0.0.0.255
!

```

## IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する追加のリファレンス

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』
IKE、IPsec、および PKI のコンフィギュレーション コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
IKE 設定	「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」
Suite-B SHA-2 ファミリ (HMAC バリエーション) および Elliptic Curve (EC) キー ペア の設定	「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」
Suite-B 整合性アルゴリズム タイプのトランスフォームの設定	「Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2)」
IKEv2 用の Suite-B の Elliptic Curve Digital Signature Algorithm (ECDSA) signature (ECDSA-sig) 認証方式の設定	「Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2)」

関連項目	マニュアルタイトル
IPsec SA ネゴシエーションでの Suite-B の Elliptic Curve Diffie-Hellman (ECDH) のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<i>Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs</i>」</li> <li>「<i>Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2) and FlexVPN Site-to-Site</i>」</li> </ul>
PKI の証明書登録のための Suite-B サポート	「 <i>PKI の証明書登録の設定</i> 」
推奨される暗号化アルゴリズム	『 <a href="#">Next Generation Encryption</a> 』

## 標準

標準	タイトル
なし	—

## MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>• CISCO-IPSEC-FLOW-MONITOR-MIB</li> <li>• CISCO-IPSEC-MIB</li> <li>• CISCO-IPSEC-POLICY-MAP-MIB</li> </ul>	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2401	『 <i>Security Architecture for the Internet Protocol</i> 』
RFC 2402	『 <i>IP Authentication Header</i> 』
RFC 2403	『 <i>The Use of HMAC-MD5-96 within ESP and AH</i> 』
RFC 2404	『 <i>The Use of HMAC-SHA-1-96 within ESP and AH</i> 』
RFC 2405	『 <i>The ESP DES-CBC Cipher Algorithm With Explicit IV</i> 』
RFC 2406	『 <i>IP Encapsulating Security Payload (ESP)</i> 』
RFC 2407	『 <i>The Internet IP Security Domain of Interpretation for ISAKMP</i> 』

RFC	タイトル
RFC 2408	『Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP)』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 210: IPsec VPN のセキュリティ設定に関する機能情報

機能名	ソフトウェアリリース	機能情報
Advanced Encryption Standard		この機能により、新しい暗号化規格 AES に対するサポートが追加されます。AES は、DES の後継として開発された IPsec および IKE のプライバシー トランスフォームです。  この機能により、次のコマンドが変更されました。 <b>crypto ipsec transform-set</b> 、 <b>encryption (IKE policy)</b> 、 <b>show crypto ipsec transform-set</b> 、 <b>show crypto isakmp policy</b> 。

機能名	ソフトウェアリリース	機能情報
IOS ソフトウェア暗号での Suite-B のサポート		Suite-B には、IKE と IPSec で使用するための暗号化アルゴリズムの4つのユーザインターフェイススイートのサポートが追加されています。これは RFC 4869 に記述されています。各スイートは、暗号化アルゴリズム、デジタル署名アルゴリズム、キー合意アルゴリズム、ハッシュまたはメッセージダイジェストアルゴリズムで構成されています。  この機能により、 <b>crypto ipsec transform-set</b> コマンドが変更されました。
IKE セキュリティアソシエーション (SA) の強度適用	Cisco IOS XE 17.13	この機能により、IKE (IKEv1 および IKEv2) SA 暗号化暗号の強度が、確実に、子 IPsec SA の暗号化暗号の強度以上になります。  この機能を有効にするために、 <b>crypto ipsec ike sa-strength-enforcement</b> コマンドが導入されました。



**Note** GetVPN 暗号マップは、IOS XE 16.9.1 以降のポートチャネルインターフェイスでサポートされています。

## 用語集

**anti-replay** : 受信者が再送攻撃から自身を保護するために、古いパケットまたは重複するパケットを拒否できるセキュリティサービス。IPSec は、データ認証とシーケンス番号を組み合わせることで使用することにより、このオプションサービスを提供します。Cisco IOS XE IPsec は、手動で確立された SA (IKE ではなく、設定によって確立された SA) を除いて、データ認証サービスを実行するときは必ずこのサービスを提供します。

**data authentication** : データの整合性および発信元の検証。データ認証は、整合性だけを意味する場合と、整合性と認証の両方の概念を意味する場合があります (ただし、データ発信元認証はデータの整合性に依存します)。

**data confidentiality** : 保護されたデータが第三者に読み取られないようにするセキュリティサービス。

**data flow** : 送信元アドレスまたはマスク、宛先アドレスまたはマスク、IP 次プロトコルフィールド、送信元および宛先ポートの組み合わせによって識別されるトラフィックの集まり。プロトコルフィールドおよびポートフィールドには **any** の値が含まれます。IPSec 保護はデータフローに適用されます。

**IKE** : Internet Key Exchange (インターネット キー エクスチェンジ)。IKE は、共有セキュリティポリシーを確立し、キーを必要とするサービス (IPSec など) のキーを認証します。IPSec トラフィックが通過する前に、各ルータ、ファイアウォール、およびホストはそのピアの ID を検証する必要があります。それには、事前共有キーを両ホストに手動で入力するか、CA サービスを使用します。

**IPsec** : IP Security (IP セキュリティ)。参加ピア間でのデータの機密性、整合性、および認証を提供するオープンスタンダードの枠組みです。IPSec は、このようなセキュリティサービスを IP レイヤで提供します。IPSec は IKE を使用して、プロトコルやアルゴリズムのネゴシエーションをローカルポリシーに基づいて処理し、IPSec で使用される暗号キーや認証キーを生成します。IPSec では、一対のホスト間、一対のセキュリティゲートウェイ間、または一対のセキュリティゲートウェイとホストの間で 1 つ以上のデータフローを保護できます。

**peer** : ここで使用する「ピア」とは、IPsec に参加するルータまたはその他のデバイスです。

**PFS** : Perfect Forward Secrecy。これは、導き出される共有秘密値に関連する暗号特性です。PFS を使用すると、1 つのキーが損なわれても、これ以降のキーは前のキーの取得元から取得されないため、前および以降のキーには影響しません。

**SA** : Security Association (セキュリティアソシエーション)。2 つ以上のエンティティが、特定のデータフローにおいて安全に通信するために、特定のセキュリティプロトコル (AH または ESP) と関連してセキュリティサービスを使用する方法を記述します。トラフィックを保護するために、トランスフォームと共有秘密キーが使用されます。

**SPI** : Security Parameter Index (セキュリティパラメータインデックス)。これは、宛先 IP アドレスおよびセキュリティプロトコルを組み合わせ、特定の SA を一意に識別する番号です。IKE を使用しない場合、SPI は、手動で各セキュリティアソシエーションに指定されません。

**transform** : データ認証、データ機密性、およびデータ圧縮を実現するためにデータフローで実行される処理のリスト。たとえば、トランスフォームには、HMAC MD5 認証アルゴリズムを使用する ESP プロトコル、56 ビット DES 暗号規格アルゴリズムを使用する AH プロトコルおよび HMAC-SHA 認証アルゴリズムを使用する ESP プロトコルなどがあります。

**tunnel** : ここで使用する「トンネル」とは、2 つのピア間 (2 台のルータなど) の安全な通信パスです。トンネルモードで IPsec を使用することではありません。



## CHAPTER 157

# IPsec 仮想トンネル インターフェイス

IPsec 仮想トンネル インターフェイス (VTI) では、IPsec トンネルを終了するためのルーティング可能なインターフェイス タイプと、オーバーレイ ネットワークを形成するためにサイト間の保護を定義する簡単な手段が提供されます。IPsec VTI によって、リモート リンクを保護するための IPsec の設定が簡素化され、マルチキャストがサポートされ、さらには、ネットワーク管理およびロード バランシングが簡単に実現できるようになります。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

- [IPsec 仮想トンネル インターフェイスの制約事項, on page 2199](#)
- [IPsec 仮想トンネル インターフェイスに関する情報, on page 2200](#)
- [IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定方法, on page 2207](#)
- [IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定例, on page 2225](#)
- [IPsec 仮想トンネル インターフェイスに関する追加のリファレンス, on page 2243](#)
- [IPsec 仮想トンネル インターフェイスに関する機能情報, on page 2244](#)

## IPsec 仮想トンネル インターフェイスの制約事項

### フラグメンテーション

フラグメンテーションは、IPsec トンネルではサポートされていません。ホストの MTU を小さく設定してパケットフラグメントを回避することや、任意のデバイスでパケットをフラグメント化することを選択できます。

### IPsec トランスフォーム セット

IPsec トランスフォーム セットを設定できるのは、トンネル モードだけです。

### IKE セキュリティ アソシエーション

インターネット キー交換 (IKE) セキュリティ アソシエーション (SA) は VTI にバインドされています。

### IPsec SA トラフィック セレクタ

スタティック VTI では、VTI インターフェイスに接続している単一の IPsec SA だけがサポートされます。IPsec SA のトラフィック セレクタは常に "IP any any" です。

デフォルトでは、スタティック VTI (SVTI) は、仮想トンネルインターフェイスに接続された 1 つの IPsec SA のみをサポートします。IPsec SA のトラフィックセレクタは常に "IP any any" です。

### IPv4 パケット

この機能は、IPv4 パケットをカプセル化するように設定された SVTI をサポートしますが、IPv4 パケットで IPv6 パケットを伝送したり、IPv6 パケットで IPv4 パケットを伝送したりすることはできません。

### tunnel protection

IPsec IPv4 モードで **tunnel mode ipsec ipv4** コマンドを使用する場合は、**shared** キーワードを設定しないでください。

### traceroute

VTI での暗号化オフロードを使用したトレースルート機能はサポートされていません。

### VxLAN GPE トンネルインターフェイス

VxLAN GPE トンネルインターフェイスは、IPsec VTI と同じ送信元インターフェイスを使用できません。

## IPsec 仮想トンネルインターフェイスに関する情報

IPsec VTI の使用により、リモートアクセスの保護を提供する必要がある場合の設定プロセスが簡素化され、カプセル化に Generic Routing Encapsulation (GRE) またはレイヤ 2 トンネリングプロトコル (L2TP) トンネルを使用する代替手段が提供されます。IPsec VTI を使用するメリットは、設定において物理インターフェイスに対する IPsec セッションのスタティックマッピングが必要ないことです。IPsec トンネルエンドポイントは実際 (仮想) のインターフェイスに関連付けられます。トンネルエンドポイントにはルーティング可能なインターフェイスがあるので、多くの共通インターフェイス機能を IPsec トンネルに適用できます。

IPsec VTI によって、複数パスの場合のように、物理インターフェイス上における IP ユニキャストおよびマルチキャストの両方の暗号化トラフィックの送受信の柔軟性が高まります。トラフィックは、トンネルインターフェイスから転送されるときに暗号化され、トンネルインターフェイスに転送されると復号化されます。また、IP ルーティングテーブルによって管理され



ます。IP ルーティングを使用してトラフィックをトンネル インターフェイスに転送すると、IPsec VPN 設定が簡単になります。DVTI は他のすべての実際のインターフェイスと同様に機能するため、トンネルがアクティブになるとすぐに Quality of Service (QoS)、ファイアウォール、およびその他のセキュリティ サービスを適用できます。

IPsec VTI に関する詳細については、次の各項を参照してください。

## IPsec 仮想トンネルインターフェイスを使用するメリット

IPsec VTI によって、機能を適用できる仮想インターフェイスを設定できます。暗号化されていないテキスト パケットの機能は VTI 上で設定されます。暗号化されたパケットの機能は物理外部インターフェイス上で適用されます。IPsec VTI を使用すると、ネットワーク アドレス変換 (NAT)、ACL、QoS などの各種機能のアプリケーションを分離して、それらを暗号化されていないテキストまたは暗号化されたテキスト、あるいはその両方に適用できます。

スタティック VTI (SVTI) と DVTI という 2 つのタイプの VTI インターフェイスが存在します。

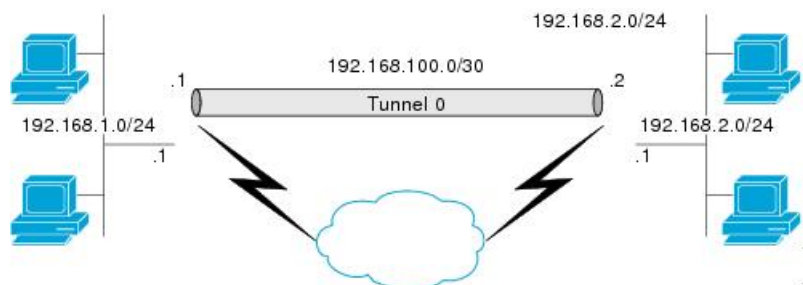
## スタティック仮想トンネルインターフェイス

SVTI 設定は、トンネルによって 2 つのサイト間の常にオンであるアクセスが提供される、サイト間接続用に使用できます。

さらに、複数の Cisco IOS ソフトウェア機能を、トンネルインターフェイス上、およびトンネルインターフェイスの物理出力インターフェイス上で直接設定できます。この直接設定によって、ユーザは、暗号化前または暗号化後のパスにおける機能のアプリケーションを確実に管理できます。

次の図に、SVTI の使用方法を示します。

Figure 76: IPsec SVTI



IPsec VTI によって、ネイティブの IPsec トネリングがサポートされ、物理インターフェイスのプロパティの大部分が示されます。

## SVTI のマルチ SA サポート

デフォルトでは、SVTI のトラフィックセクタは「any any」に設定されます。その結果、「any any」トラフィックセクタに対応する SVTI に単一の IPsec SA が接続されます。

Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1 以降では、アクセス制御リスト (ACL) を定義して SVTI に関連付けることで、デフォルトで定義されている「any any」プロキシではなく特定の送信元プロキシと宛先プロキシの間のトラフィックを選択できます。非 any-any トラフィックセクタごとに IPsec SA が作成されるため、複数の SA が SVTI に接続されます。

この機能は、トンネルモードでの IPsec カプセル化による IPv4 および IPv6 トラフィック保護をサポートしています。この機能は IKEv1 と IKEv2 の両方をサポートしています。

### 制約事項

- この機能は、共有されたトンネル保護ではサポートされません。
- この機能は、IPsec 混合モードではサポートされません。
- トンネルの両端の SVTI に関連付けられたトラフィックセクタには、一致する送信元プロキシと宛先プロキシが必要です。トンネルを形成する SVTI のいずれかでトラフィックセクタを絞り込まないでください。
- VTI 設定により、IOS ルータは、デフォルトで IKEv2 設定要求ペイロードを送信します。これにより、ピアデバイスがこのペイロードを正しく処理しない場合、IKEv2 ネゴシエーションが失敗する可能性があります。この状態を緩和するには、IKEv2 プロファイル設定で **crypto ikev2 profile <profile\_name>** コマンドと **no config-exchange request** コマンドを使用します。

### ACL の特性と SVTI IPsec SA への影響

- SVTI に関連付けられた ACL に「any any」プロキシを含めないでください。「any any」トラフィックセクタについては、SVTI のデフォルト動作を使用してください (ACL を SVTI に関連付けしないでください)。
- SVTI に関連付けられた ACL は **permit** ステートメントのみをサポートしているので、**deny** ステートメントを含めないでください。
- SVTI に関連付けられた ACL の実行時変更はサポートされていません。ACL の ACE を追加または変更する前にトンネルをシャットダウンしてください。
- SVTI への ACL の関連付けを解除すると、既存の IPsec SA が削除され、「IP any any」のデフォルトトラフィックセクタに関する新しい IPsec SA が形成されます。
- SVTI に関連付けるアクセス制御エントリ (ACE) は 100 までにすることをお勧めします。また、さまざまなトンネルインターフェイスに関連付けられたすべての ACL で使用される ACE の合計が 2000 を超えないようにすることをお勧めします。

### 逆ルート注入

リバースルートインジェクションは、マルチ SA の SVTI ではサポートされていません。

拡張 ACL または ACE オプション (プロトコル、ポート番号、DHCP など) を使用する場合は、ルーティングにはルートマップなどの他の手段を使用してください。

## SVTI に対するデュアルスタックのサポート

SVTI デュアルスタック機能により、IPv4 を介してトンネリングされる単一の IPsec セキュリティアソシエーション (SA) を使用して IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方を伝送することが可能になります。IOS XE リリース 17.9 以降では、トンネルインターフェイスの入力側がサードパーティの IPsec クライアントで設定されている場合、ACL の特定のサブネットがサポートされます。また、サードパーティの IPsec クライアントの設定に基づいて、特定のトラフィックセレクトラで応答されます。この場合、IPsec は、non-any non-any プロキシ設定をサポートし、トンネルインターフェイスで IPv4 または IPv6 タイプのトラフィックを伝送することを許可します。この機能は、IKEv2 でのみサポートされます。

### 制約事項

- トンネルモードの設定は、デュアルオーバーレイモードでトンネルインターフェイスを使用する場合に、IPsec プロファイルでのみ許可されます。
- Cisco IOS XE では、ACL フィルタリング インフラストラクチャは、デバイスでローカルに生成されたトラフィックでは機能しません。
- IPsec SA のキー再生成には、一連の同じトラフィックセレクトラを使用する必要があります。キー再生成プロセス中にトラフィックセレクトラを変更することはできず、変更すると、キー再生成要求はメッセージ *TS\_UNACCEPTABLE* をともなって拒否されます。
- IKEv2 レベルでは、最大 16 のトラフィックセレクトラが受け入れられます。
- デュアルスタック トンネルインターフェイスの ACL は、サポートされていません。このインターフェイスで設定されている ACL は、デュアルスタック ACL によって上書きされます。

## ダイナミック仮想トンネル インターフェイス

DVTI によって、リモートアクセス VPN 用接続のセキュリティ保護とスケーラビリティが向上します。DVTI テクノロジーは、ダイナミッククリプトマップとトンネルを確立するためのダイナミック ハブアンドスポーク方式にとって代わるものです。



**Note** IKEv1 または IKEv2 を使用して DVTI を設定できます。レガシー クリプトマップ ベースの設定は、IKEv1 を使用した DVTI しかサポートしません。IKEv2 を使用した DVTI 設定は FlexVPN でのみサポートされます。

DVTI は、サーバと、リモート設定の両方に対して使用可能です。トンネルにより、各 VPN セッションに対して、仮想アクセスインターフェイスがオンデマンドで個別に提供されます。仮想アクセス インターフェイス設定は、仮想テンプレート設定からコピーされます。このコピーには、IPsec 設定と、QoS、NetFlow、ACL といった、仮想テンプレートインターフェイス上で設定されたすべての Cisco IOS ソフトウェア機能が含まれています。

DVTI は、他の現実のインターフェイスと同様に機能するため、トンネルがアクティブになった直後に、QoS、ファイアウォール、またはその他のセキュリティサービスを適用できます。QoS機能を使用して、ネットワーク上の各種アプリケーションのパフォーマンスを向上させることが可能です。Cisco IOS ソフトウェア内で提供される各種 QoS 機能の組み合わせを使用して、音声、ビデオ、またはデータアプリケーションをサポートできます。

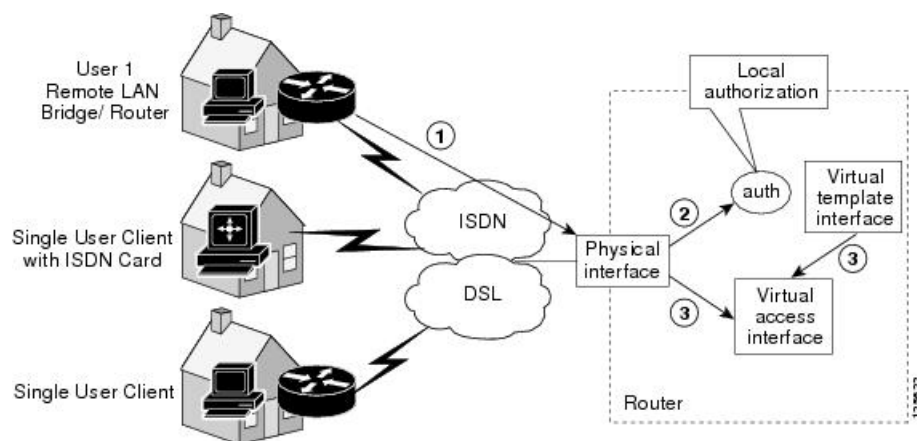
DVTI によって、IP アドレスを効率的に使用できるようになり、また、セキュアな接続を実現できます。DVTI によって、動的にダウンロード可能な、グループごとおよびユーザーごとのポリシーを RADIUS サーバー上で設定できます。グループ単位またはユーザ単位の定義は、拡張認証 (Xauth) User または Unity グループを使用して作成することも、証明書から抽出することもできます。DVTI は、標準ベースです。そのため、複数のベンダー環境における相互運用性がサポートされます。IPsec DVTI を使用すれば、リモートアクセス VPN 用のセキュリティ保護が強化された接続を作成できます。また、Cisco Architecture for Voice, Video, and Integrated Data (AVVID) と組み合わせて、IP ネットワーク経由で集約された音声、ビデオ、およびデータを転送できます。DVTI は VPN ルーティングおよび転送 (VRF) 対応 IPsec の導入を容易にします。VRF は、インターフェイス上で設定されます。

DVTI には、ルータ上での最小限の設定が必要です。単一の仮想テンプレートを設定およびコピーできます。

DVTI によって、IPsec セッション用のインターフェイスが作成され、ダイナミック IPsec VTI の動的なインスタンス化および管理のための仮想テンプレートインフラストラクチャが使用されます。仮想テンプレートインフラストラクチャは、ダイナミック仮想アクセス トンネル インターフェイスを作成するために拡張されます。DVTI は、ハブアンドスポーク設定で使用されます。単一の DVTI で複数のスタティック VTI をサポートできます。

次の図に、DVTI 認証パスを示します。

Figure 77: ダイナミック IPsec VTI



上の図の認証は、次のパスに従います。

1. ユーザ 1 がルータを呼び出します。
2. ルータ 1 によって ユーザ 1 が認証されます。

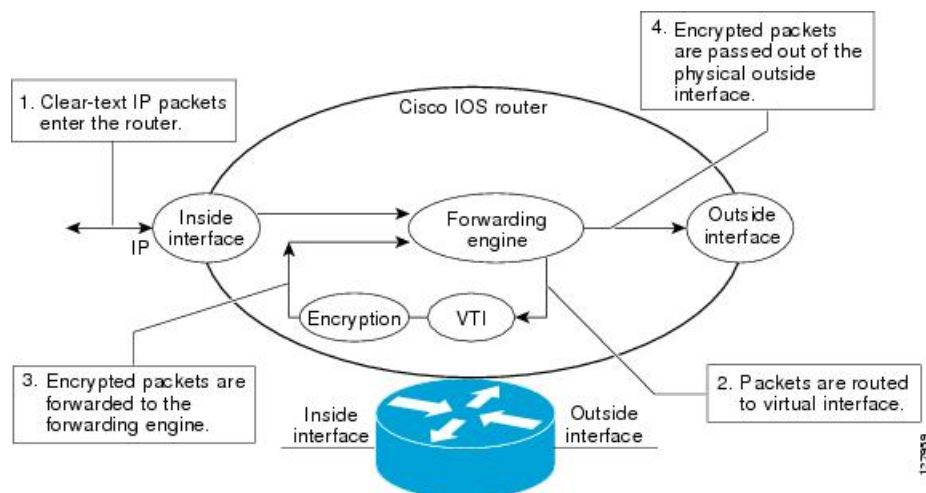
3. IPsec によって、仮想テンプレート インターフェイスから仮想アクセス インターフェイスがコピーされます。

## IPsec 仮想トンネル インターフェイスを使用したトラフィックの暗号化

IPsec VTI が設定されると、暗号化がトンネル内で実行されます。トラフィックがトンネル インターフェイスに転送されると、そのトラフィックが暗号化されます。トラフィックの転送は、IP ルーティング テーブルによって処理され、ダイナミックまたはスタティック ルーティングを使用してトラフィックを SVTI にルーティングできます。DVTI では、逆ルート注入が使用されるので、ルーティングの設定がさらに簡単になっています。IP ルーティングを使用してトラフィックを暗号化に転送すると、IPsec VPN 設定が簡単になります。さらに、IPsec 仮想トンネルを使用すれば、IPsec によってマルチキャストトラフィックを暗号化できます。

次の図に、IPsec トンネルへの IPsec パケット フローを示します。

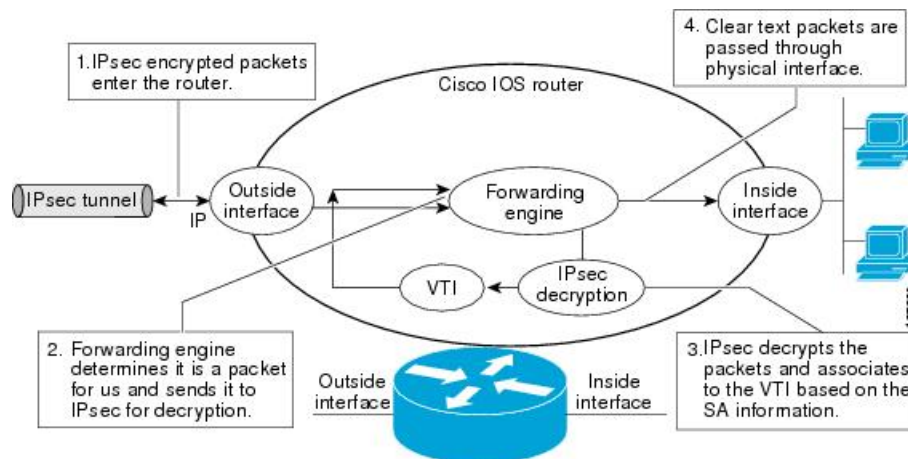
Figure 78: IPsec トンネルへのパケット フロー



パケットが内部インターフェイスに到着すると、転送エンジンによってパケットが VTI にスイッチングされ、そこで暗号化されます。暗号化されたパケットは転送エンジンに戻され、そこで外部インターフェイスを介してスイッチングされます。

次の図に、IPsec トンネルからのパケット フローを示します。

Figure 79: IPsec トンネルからのパケット フロー



## ダイナミック仮想トンネルインターフェイスのライフサイクル

IPsec プロファイルによって、DVTI のポリシーが定義されます。ダイナミック インターフェイスが、IKE フェーズ 1 および IKE フェーズ 1.5 の終了時に作成されます。ピアに対する IPsec セッションが終了すると、インターフェイスが削除されます。ピアに対する IKE と IPsec SA の両方が削除されると、IPsec セッションが終了します。

## IPsec 仮想トンネルインターフェイスを使用したルーティング

VTI はルーティング可能なインターフェイスなので、暗号化プロセスにおけるルーティングの役割は重要です。トラフィックは、VTI の外に転送される場合にだけ暗号化され、VTI に到着するトラフィックは、適宜、復号化およびルーティングされます。VTI を利用すれば、実際のインターフェイスをトンネルエンドポイントとして使用することによって、暗号化トンネルを確立できます。インターフェイスにルーティングしたり、QoS、ファイアウォール、ネットワーク アドレス変換 (NAT)、Netflow 統計情報などのサービスを必要に応じて他のインターフェイスに適用したりできます。インターフェイスをモニタして、それにルーティングできます。このインターフェイスは他の Cisco IOS インターフェイスと同様のメリットを提供します。

## FlexVPN 混合モードのサポート

FlexVPN 混合モード機能は、IPsec IPv6 トランスポート経由の IPv4 トラフィックの伝送をサポートします。これは、IPsec スタック上でのデュアルスタックのサポートにつながる第 1 段階です。この実装は、IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方に対する単一の IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) ペアの使用をサポートしません。

この機能は、IKEv2 とダイナミック VTI を使用したリモート アクセス VPN に対してのみサポートされます。

FlexVPN 混合モード機能は、Cisco IOS XE Everest 16.4.1 からの IPsec IPv4 トランスポート経由の IPv6 トラフィック伝送をサポートします。

## IPsec での自動トンネル モードのサポート

複数ベンダー シナリオで VPN ヘッドエンドを設定する場合は、ピアまたはレスポンドの技術的な詳細を認識しておく必要があります。たとえば、一部のデバイスは IPsec トンネルを使用しているが、他のデバイスは Generic Routing Encapsulation (GRE) または IPsec トンネルを使用している場合やトンネルが IPv4 または IPv6 の場合があります。最後のケースでは、インターネットキーエクスチェンジ (IKE) プロファイルと仮想テンプレートを設定する必要があります。

トンネルモード自動選択機能は、設定を容易にし、レスポンドの詳細の入手を支援します。この機能は、IKE プロファイルから仮想アクセスインターフェイスが作成されるとすぐに、トンネリングプロトコル (GRE または IPsec) とトランスポートプロトコル (IPv4 または IPv6) を自動的に仮想テンプレートに適用します。この機能は、Cisco AnyConnect VPN Client や Microsoft Windows 7 Client などのマルチベンダー リモートアクセスを集約しているデュアルスタック ハブ上で役に立ちます。



- (注) トンネルモード自動選択機能は、レスポンドの設定のみを容易にします。トンネルはイニシエータに対して静的に設定する必要があります。

## VTI に対する IPsec 混合モードのサポート

IPsec 混合モード機能は、IPsec IPv6 トランスポート経由の IPv4 トラフィックの伝送をサポートします。これは、IPsec スタック上でのデュアルスタックのサポートにつながる第 1 段階です。この実装は、IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方に対する単一の IPsec セキュリティアソシエーション (SA) ペアの使用をサポートしません。

この機能は、SVTI、DVTI、IKEv1、および IKEv2 でサポートされます。

## IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定方法

### スタティック IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定

#### Before you begin

IPsec プロファイルのトンネル保護を設定する前に、トンネルインターフェイスをシャットダウンする必要があります。設定後、トンネルインターフェイスを手動で有効にしてください。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto IPsec profile *profile-name***

4. **set transform-set** *transform-set-name* [*transform-set-name2...transform-set-name6*]
5. **exit**
6. **interface** *type number*
7. **ip address** *address mask*
8. **tunnel mode ipsec ipv4**
9. **tunnel source** *interface-type interface-number*
10. **tunnel destination** *ip-address*
11. **tunnel protection IPsec profile** *profile-name*
12. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto IPsec profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b>  Device(config)# crypto IPsec profile PROF	2 つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> [ <i>transform-set-name2...transform-set-name6</i> ] <b>Example:</b>  Device(ipsec-profile)# set transform-set tset	使用可能なトランスフォームセットを指定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(ipsec-profile)# exit	IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b>  Device(config)# interface tunnel 0	トンネルが設定されるインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>ip address</b> <i>address mask</i> <b>Example:</b>	IP アドレスおよびマスクを指定します。



	Command or Action	Purpose
	Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	
ステップ 8	<b>tunnel mode ipsec ipv4</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4	トンネルのモードを定義します。
ステップ 9	<b>tunnel source interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel source loopback 0	トンネルの送信元をループバック インターフェイスとして指定します。* <b>Note</b> * 仮想テンプレートを使用してトンネルモード自動選択機能を設定する場合は、 <b>interface virtual-template number type tunnel</b> コマンドでトンネル送信元とトンネルモードを省略します。トンネル送信元とトンネルモードが指定されている場合、IPv6 トランスポートを使用するクライアントは接続に失敗します。
ステップ 10	<b>tunnel destination ip-address</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel destination 172.16.1.1	トンネルの宛先の IP アドレスを指定します。
ステップ 11	<b>tunnel protection IPsec profile profile-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel protection IPsec profile PROF	トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。
ステップ 12	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPsec 仮想トンネルインターフェイスを介した BGP の設定

必要に応じて、2つのルータの仮想トンネルインターフェイスを介してBGPを設定するには、次の作業を実行します。

始める前に

[スタティック IPsec 仮想トンネルインターフェイスの設定 \(2207 ページ\)](#) の手順を実行します。

手順の概要

### 1. router bgp autonomous-system-number

2. **neighbor ip-address remote-as autonomous-system-number**
3. **network network-ip-address mask subnet-mask**
4. **exit**
5. 2 番目のルータで次のコマンドを入力します。
6. **router bgp autonomous-system-number**
7. **neighbor ip-address remote-as autonomous-system-number**
8. **network network-ip-address mask subnet-mask**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>router bgp autonomous-system-number</b> 例 : Device(config)# router bgp 65510	ルータ コンフィギュレーションモードを開始して、BGP ルーティング プロセスを作成します。  <i>autonomous-system-number</i> : 他の BGP ルータに対するルータを指定し、同時に渡されるルーティング情報のタグgingをする自律システムの番号。番号の範囲は 1 ~ 65535 です。  この例では、この手順の最初のルータは「65510」として識別されます。
ステップ 2	<b>neighbor ip-address remote-as autonomous-system-number</b> 例 : Device(config-router)# neighbor 10.1.1.2 remote-as 65511	<i>ip-address</i> : 隣接ルータのトンネルインターフェイスの IP アドレス。  <i>autonomous-system-number</i> : 2 番目のルータのルータを識別する自律システムの番号。番号の範囲は 1 ~ 65535 です。
ステップ 3	<b>network network-ip-address mask subnet-mask</b> 例 : Device(config-router)# network 2.2.2.0 mask 255.255.255.0	<i>network-ip-address</i> : BGP でアドバタイズされるネットワークの IP アドレス。たとえば、ループバック インターフェイスの IP アドレスです。  <i>subnet-mask</i> : BGP でアドバタイズされるネットワークのサブネットマスク。  (注) BGP ネットワークコマンドの <b>network</b> および <b>mask</b> は、BGP に取り込まれて BGP ネイバーにアドバタイズされるように、ルーティング テーブルにすでに存在するルートと正確に一致する必要があります。これは、 <b>network</b> ステートメントがインターフェイスネットワークを「カバーする」だけで、インターフェイスからマスクを使用してネットワークを取得する EIGRP、OSPF とは異なります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Device(config-router)# exit	ルータ コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	2 番目のルータで次のコマンドを入力します。	
ステップ 6	<b>router bgp autonomous-system-number</b> 例： Device(config)# router bgp 65511	ルータ コンフィギュレーションモードを開始して、BGP ルーティング プロセスを作成します。  <i>autonomous-system-number</i> : 他の BGP ルータに対するルータを指定し、同時に渡されるルーティング情報のタギングをする自律システムの番号。番号の範囲は 1 ~ 65535 です。  この例では、この手順の 2 番目のルータは「65511」として識別されます。
ステップ 7	<b>neighbor ip-address remote-as autonomous-system-number</b> 例： Device(config-router)# neighbor 10.1.1.1 remote-as 65510	<i>ip-address</i> : 隣接ルータのトンネルインターフェイスの IP アドレス。
ステップ 8	<b>network network-ip-address mask subnet-mask</b> 例： Device(config-router)# network 1.1.1.0 mask 255.255.255.0	<i>network-ip-address</i> : BGP でアドバタイズされるネットワークの IP アドレス。たとえば、ループバックインターフェイスの IP アドレスです。  <i>subnet-mask</i> : BGP でアドバタイズされるネットワークのサブネットマスク。  (注) 正確なネットワーク IP アドレスおよびサブネットマスクを使用してください。

## ダイナミック IPsec 仮想トンネルインターフェイスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec profile profile-name**
4. **set transform-set transform-set-name [transform-set-name2...transform-set-name6]**
5. **exit**
6. **interface virtual-template number type tunnel**
7. **tunnel mode ipsec ipv4**
8. **tunnel protection IPsec profile profile-name**
9. **exit**

10. **crypto isakamp profile** *profile-name*
11. **match identity address** *ip-address mask*
12. **virtual template** *template-number*
13. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ipsec profile PROF	2 つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> [ <i>transform-set-name2...transform-set-name6</i> ] <b>Example:</b> Device(ipsec-profile)# set transform-set tset	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(ipsec-profile)# exit	IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>interface virtual-template</b> <i>number type tunnel</i> <b>Example:</b> Device(config)# interface virtual-template 2 type tunnel	仮想テンプレート トンネル インターフェイスを定義し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>tunnel mode ipsec ipv4</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4	トンネルのモードを定義します。
ステップ 8	<b>tunnel protection IPsec profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel protection ipsec profile PROF	トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 10	<b>crypto isakmp profile profile-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto isakmp profile profile1	仮想テンプレートに使用される ISAKMP プロファイルを定義します。
ステップ 11	<b>match identity address ip-address mask</b> <b>Example:</b> Device(conf-isa-prof)# match identity address 10.1.1.0 255.255.255.0	ISAKMP プロファイルからの ID を照合して、isakmp-profile コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>virtual template template-number</b> <b>Example:</b> Device(config)# virtual-template 1	ISAKMP プロファイルにアタッチされた仮想テンプレートを指定します。
ステップ 13	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## IKEv1 を使用したダイナミック仮想トンネルインターフェイスのマルチ SA サポートの設定



(注) セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip vrf vrf-name**
4. **rd route-distinguisher**
5. **exit**
6. **crypto keyring keyring-name**
7. **pre-shared-key address key key**
8. **exit**
9. **crypto isakmp profile profile-name**
10. **keyring keyring-name**

11. **match identity** *address mask*
12. **virtual-template** *template-number*
13. **exit**
14. **crypto ipsec transform-set** *transform-set-name transform1 [transform2] [transform3]*
15. **exit**
16. **crypto ipsec profile** *name*
17. **set security-policy limit** *maximum-limit*
18. **set transform-set** *transform-set-name [transform-set-name2 .... transform-set-name6]*
19. **exit**
20. **interface virtual-template** *number type tunnel*
21. **ip vrf forwarding** *vrf-name*
22. **ip unnumbered** *type number*
23. **tunnel mode ipsec ipv4**
24. **tunnel protection profile ipsec** *profile-name*
25. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip vrf</b> <i>vrf-name</i> 例： Device(config)# ip vrf VRF-100-1	VRF インスタンスを定義し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>rd</b> <i>route-distinguisher</i> 例： Device(config-vrf)# rd 100:21	VRF のルーティング テーブルと転送テーブルを作成します。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-vrf)# exit	VRF コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>crypto keyring</b> <i>keyring-name</i> 例： Device(config)# crypto keyring cisco-100-1	暗号キーリングを定義し、キーリング コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<b>pre-shared-key</b> <i>address key key</i> 例： Device(config-keyring)# pre-shared-key address 10.1.1.1 key cisco-100-1	インターネット キー エクスチェンジ (IKE) 認証 に使用する事前共有キーを定義します。
ステップ 8	<b>exit</b> 例： Device(config-keyring)# exit	キーリング コンフィギュレーション モードを終了 して、グローバル コンフィギュレーション モード を開始します。
ステップ 9	<b>crypto isakmp profile</b> <i>profile-name</i> 例： Device(config)# crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-1	ISAKMP プロファイルを定義し、ISAKMP コンフィ ギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>keyring</b> <i>keyring-name</i> 例： Device(conf-isa-prof)# keyring cisco-100-1	ISAKMP モードでキーリングを設定します。
ステップ 11	<b>match identity</b> <i>address mask</i> 例： Device(conf-isa-prof)# match identity address 10.1.1.0 255.255.255.0	ISAKMP プロファイルからの ID を照合します。
ステップ 12	<b>virtual-template</b> <i>template-number</i> 例： Device(conf-isa-prof)# virtual-template 101	仮想アクセス インターフェイスの複製に使用され る仮想テンプレートを指定します。
ステップ 13	<b>exit</b> 例： Device(conf-isa-prof)# exit	ISAKMP プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレー ション モードを開始します。
ステップ 14	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name</i> <i>transform1</i> [ <i>transform2</i> ] [ <i>transform3</i> ] 例： Device(config)# crypto ipsec transform-set cisco esp-aes esp-sha-hmac	トランスフォーム セットを定義し、暗号トランス フォーム コンフィギュレーション モードを開始し ます。
ステップ 15	<b>exit</b> 例： Device(conf-crypto-trans)# exit	クリプト トランスフォーム コンフィギュレーショ ンモードを終了して、グローバルコンフィギュレー ション モードを開始します。
ステップ 16	<b>crypto ipsec profile</b> <i>name</i> 例： Device(config)# crypto ipsec profile cisco-ipsec-profile-101	2 つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用され る IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイ ル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 17	<b>set security-policy limit</b> <i>maximum-limit</i>  例： Device(ipsec-profile)# set security-policy limit 3	仮想アクセス インターフェイスごとに作成可能なフロー数の上限を定義します。
ステップ 18	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> [ <i>transform-set-name2</i> .... <i>transform-set-name6</i> ]  例： Device(ipsec-profile)# set transform-set cisco	クリプト マップ エントリで使用されるトランスフォーム セットを指定します。
ステップ 19	<b>exit</b>  例： Device(ipsec-profile)# exit	IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 20	<b>interface virtual-template</b> <i>number type tunnel</i>  例： Device(config)# interface virtual-template 101 type tunnel	インターフェイスを設定可能な仮想テンプレート インターフェイスを作成し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 21	<b>ip vrf forwarding</b> <i>vrf-name</i>  例： Device(config-if)# ip vrf forwarding VRF-100-1	VRF インスタンスと仮想テンプレート インターフェイスを関連付けます。
ステップ 22	<b>ip unnumbered</b> <i>type number</i>  例： Device(config-if)# ip unnumbered GigabitEthernet 0.0	明示的な IP アドレスをインターフェイスに割り当てずにインターフェイス上の IP 処理をイネーブルにします。
ステップ 23	<b>tunnel mode ipsec ipv4</b>  例： Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4	トンネルのモードを定義します。
ステップ 24	<b>tunnel protection profile ipsec</b> <i>profile-name</i>  例： Device(config-if)# tunnel protection ipsec profile PROF	トンネル インターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。
ステップ 25	<b>end</b>  例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。



## SVTI に対する IPsec 混合モードのサポートの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto IPsec profile** *profile-name*
4. **set transform-set** *transform-set-name* [*transform-set-name2...transform-set-name6*]
5. **exit**
6. **interface** *type number*
7. **ip address** *address mask*
8. 次のいずれかを実行します。
  - **tunnel mode ipsec ipv4 v6-overlay**
  - **tunnel mode ipsec ipv6 v4-overlay**
9. **tunnel source** *interface-type interface-type*
10. **tunnel destination** *ip-address*
11. **tunnel protection IPsec profile** *profile-name*
12. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto IPsec profile</b> <i>profile-name</i> 例： Device(config)# crypto IPsec profile PROF	2 つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> [ <i>transform-set-name2...transform-set-name6</i> ] 例： Device(ipsec-profile)# set transform-set tset	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(ipsec-profile)# exit	IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface tunnel 0	トンネルが設定されるインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>ip address address mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	IP アドレスおよびマスクを指定します。
ステップ 8	次のいずれかを実行します。  • <b>tunnel mode ipsec ipv4 v6-overlay</b> • <b>tunnel mode ipsec ipv6 v4-overlay</b> 例： Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4 v6-overlay	トンネルのモードを定義します。
ステップ 9	<b>tunnel source interface-type interface-type</b> 例： Device(config-if)# tunnel source loopback 0	トンネルの送信元をループバック インターフェイスとして指定します。
ステップ 10	<b>tunnel destination ip-address</b> 例： Device(config-if)# tunnel destination 172.16.1.1	トンネルの宛先の IP アドレスを指定します。
ステップ 11	<b>tunnel protection IPsec profile profile-name</b> 例： Device(config-if)# tunnel protection IPsec profile PROF	トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。
ステップ 12	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ダイナミック VTI に対する IPsec 混合モードのサポートの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec profile *profile-name***
4. **set mixed mode**
5. **set transform-set *transform-set-name* [*transform-set-name2*...*transform-set-name6*]**
6. **exit**
7. **interface virtual-template *number* type tunnel**
8. **tunnel mode ipsec ipv4**
9. **tunnel protection IPsec profile *profile-name***
10. **exit**
11. **crypto isakamp profile *profile-name***
12. **match identity address *ip-address mask***
13. **virtual template *template-number***
14. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec profile <i>profile-name</i></b> 例： Device(config)# crypto ipsec profile PROF	2 つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set mixed mode</b> 例： Device(config)# set mixed mode	2 つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>set transform-set <i>transform-set-name</i> [<i>transform-set-name2</i>...<i>transform-set-name6</i>]</b> 例： Device(ipsec-profile)# set transform-set tset	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>exit</b> 例： Device(ipsec-profile)# exit	IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>interface virtual-template number type tunnel</b> 例： Device(config)# interface virtual-template 2 type tunnel	仮想テンプレート トンネル インターフェイスを定義し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>tunnel mode ipsec ipv4</b> 例： Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4	トンネルのモードを定義します。
ステップ 9	<b>tunnel protection IPsec profile profile-name</b> 例： Device(config-if)# tunnel protection ipsec profile PROF	トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。
ステップ 10	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 11	<b>crypto isakmp profile profile-name</b> 例： Device(config)# crypto isakmp profile profile1	仮想テンプレートに使用される ISAKMP プロファイルを定義します。
ステップ 12	<b>match identity address ip-address mask</b> 例： Device(conf-isa-prof)# match identity address 10.1.1.0 255.255.255.0	ISAKMP プロファイルからの ID を照合して、isakmp-profile コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>virtual template template-number</b> 例： Device(config)# virtual-template 1	ISAKMP プロファイルにアタッチされた仮想テンプレートを指定します。
ステップ 14	<b>end</b> 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

# スタティック IPsec 仮想トンネルインターフェイスのマルチ SA サポートの設定

## 手順

### ステップ 1 **enable**

例：

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します（要求された場合）。

### ステップ 2 **configure terminal**

例：

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

### ステップ 3 **crypto IPsec profile *profile-name***

例：

```
Device(config)# crypto IPsec profile PROF
```

2つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

### ステップ 4 **set transform-set *transform-set-name* [*transform-set-name2*...*transform-set-name6*]**

例：

```
Device(ipsec-profile)# set transform-set tset
```

使用可能なトランスフォームセットを指定します。

### ステップ 5 **exit**

例：

```
Device(ipsec-profile)# exit
```

IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

### ステップ 6 **interface *type number***

例：

```
Device(config)# interface tunnel 0
```

トンネルが設定されるインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

### ステップ 7 **ip address *address mask***

例 :

```
Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
```

IP アドレスおよびマスクを指定します。

#### ステップ 8 **tunnel mode ipsec {ipv4 | ipv6}**

例 :

```
Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4
```

トンネルのモードを定義します。

#### ステップ 9 **tunnel source interface-type interface-number**

例 :

```
Device(config-if)# tunnel source loopback 0
```

トンネルの送信元をループバック インターフェイスとして指定します。

#### ステップ 10 **tunnel destination ip-address**

例 :

```
Device(config-if)# tunnel destination 172.16.1.1
```

トンネルの宛先の IP アドレスを指定します。

#### ステップ 11 **tunnel protection ipsec policy {ipv4 | ipv6} acl**

例 :

```
Device(config-if)# tunnel protection ipsec policy ipv4 ipsec-acl1
```

ACL を SVTI に関連付けて、非 any-any トラフィックセクタを定義します。

#### ステップ 12 **tunnel protection ipsec profile profile-name**

例 :

```
Device(config-if)# tunnel protection IPsec profile PROF
```

トンネル インターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。

#### ステップ 13 **exit**

例 :

```
Device(config-if)# exit
```

インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに入ります。

#### ステップ 14 **ip access-list extended name** または **ipv6 access-list name**

例 :

IPv4 :

```
Device(config)# ip access-list extended ipsec-acl1
```

IPv6 :

```
Device(config)# ipv6 access-list ipsec-acl1
```

名前を使用して拡張IPアクセスリストを定義し、拡張名前付きアクセスリストのコンフィギュレーションモードを開始します。

**ステップ 15** `permit protocol source [source-wildcard] destination [destination-wildcard] [option option-name]`

例：

```
Device(config-ext-nacl)# permit ip 30.0.1.0 0.0.0.255 10.0.1.0 0.0.0.255
```

ステートメントに指定されたすべての条件に一致するトラフィックを許可します。

送信元プロキシと宛先プロキシの両方にキーワード **any** をワイルドカードとして使用しないでください。「any any」トラフィックセレクタの場合は、ACL が関連付けられていないデフォルトの SVTI を使用します。

**deny** ステートメントは使用しないでください。

**ステップ 16** `end`

例：

```
Device(config-ext-nacl)# end
```

標準の名前付きアクセスリスト コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

---

## デュアルオーバーレイとしてのトンネルモードの設定

トンネルモードをデュアルオーバーレイとして設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

**ステップ 1** `enable`

例：

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します（要求された場合）。

**ステップ 2** `configure terminal`

例：

```
Device# configure terminal
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

**ステップ 3** `interface tunnel type number`

例：

```
Device(config)# interface tunnel 1
```

トンネルインターフェイスおよび番号を指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。

#### ステップ 4 **ipv6 enable**

例：

```
Device(config-if)# ipv6 enable
```

明示的なIPv6アドレスが設定されていないインターフェイスにおけるIPv6処理をイネーブルにします。

#### ステップ 5 **tunnel source { ipv4-address | interface-type | interface-number }**

例：

```
Device(config-if)# tunnel source GigabitEthernet 1
```

送信元 IPv6 アドレスまたは送信元インターフェイス タイプおよびトンネル インターフェイスの番号を指定します。インターフェイスのタイプと番号が指定されている場合、そのインターフェイスは IPv6 アドレスを使用して設定する必要があります。

#### ステップ 6 **tunnel mode ipsec dual-overlay**

例：

```
Device(config-if)# tunnel mode ipsec dual-overlay
```

デュアルオーバーレイ トンネルを指定します。**tunnel mode ipsec dual-overlay** コマンドは、トンネルのカプセル化プロトコルを指定します。

#### ステップ 7 **tunnel destination ip address address mask**

例：

```
Device(config-if)# tunnel destination 89.89.89.1 255.255.255.255.0
```

トンネルインターフェイスの宛先 IPv6 アドレスを指定します。

#### ステップ 8 **tunnel protection ipsec profile ipsec profile-name**

例：

```
Device(config-if)# tunnel protection IPsec profile ipsecprof
```

トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。*name* 引数には、IPsec プロファイルの名前を指定します。この値は、**crypto IPsec profile name** コマンドで指定した *name* と一致する必要があります。

#### ステップ 9 **exit**

例：

```
Device(config-if)# exit
```

インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに入ります。

#### ステップ 10 **end**

例：

```
Device(config-if)# end
```



インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPsec 仮想トンネル インターフェイスの設定例

### 例：IPsec を使用したスタティック仮想トンネル インターフェイス

次の設定例では、ピア間の認証用に事前共有キーが使用されています。VPN トラフィックは、暗号化のために IPsec VTI に転送されてから、物理インターフェイスに送信されます。サブネット 10 のトンネルでは、IPsec ポリシーに関してパケットがチェックされ、IPsec 暗号化のために暗号エンジン (CE) に渡されます。次の図に、IPsec VTI 設定を示しています。

**Figure 80: IPsec を使用した VTI**

#### ルータのコンフィギュレーション

```
version 12.3
service timestamps debug datetime
service timestamps log datetime
hostname 7200-3
no aaa new-model
ip subnet-zero
ip cef
controller ISA 6/1
!
crypto isakmp policy 1
encr aes
authentication pre-share
group 14
crypto isakmp key Cisco12345 address 0.0.0.0 0.0.0.0
crypto ipsec transform-set T1 esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec profile P1
set transform-set T1
!
interface Tunnel0
 ip address 10.0.51.203 255.255.255.0

 load-interval 30
 tunnel source 10.0.149.203
 tunnel destination 10.0.149.217
 tunnel mode IPsec ipv4
 tunnel protection IPsec profile P1
!

 ip address 10.0.149.203 255.255.255.0
 duplex full
!

 ip address 10.0.35.203 255.255.255.0
 duplex full
!
ip classless
ip route 10.0.36.0 255.255.255.0 Tunnel0
line con 0
```

## 例：IPsec スタティック仮想トンネルインターフェイスの結果の確認

```

line aux 0
line vty 0 4
end

```

## ルータのコンフィギュレーション

```

version 12.3
hostname c1750-17
no aaa new-model
ip subnet-zero
ip cef
crypto isakmp policy 1
encr aes
authentication pre-share
group 14
crypto isakmp key Cisco12345 address 0.0.0.0 0.0.0.0
crypto ipsec transform-set T1 esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec profile P1
set transform-set T1
!
interface Tunnel0
 ip address 10.0.51.217 255.255.255.0

 tunnel source 10.0.149.217
 tunnel destination 10.0.149.203
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile P1
!
interface
 ip address 10.0.149.217 255.255.255.0
 speed 100
 full-duplex
!
interface
 ip address 10.0.36.217 255.255.255.0
 load-interval 30
 full-duplex
!
ip classless
ip route 10.0.35.0 255.255.255.0 Tunnel0
line con 0
line aux 0
line vty 0 4
end

```

## 例：IPsec スタティック仮想トンネルインターフェイスの結果の確認

ここでは、設定が正しく動作しているか確認するうえで利用可能な情報を示します。次の出力では、Tunnel 0 およびラインプロトコルが「up」状態です。ラインプロトコルが「down」状態の場合、セッションは非アクティブです。

## IPsec スタティック仮想トンネルインターフェイスの確認

```

Router# show interface tunnel 0

Tunnel0 is up, line protocol is up
Hardware is Tunnel
Internet address is 10.0.51.203/24
MTU 1514 bytes, BW 9 Kbit, DLY 500000 usec,

```

```

reliability 255/255, txload 103/255, rxload 110/255
Encapsulation TUNNEL, loopback not set
Keepalive not set
Tunnel source 10.0.149.203, destination 10.0.149.217
Tunnel protocol/transport ipsec/ip, key disabled, sequencing disabled
Tunnel TTL 255
Checksumming of packets disabled, fast tunneling enabled
Tunnel transmit bandwidth 8000 (kbps)
Tunnel receive bandwidth 8000 (kbps)
Tunnel protection via IPsec (profile "P1")
Last input never, output never, output hang never
Last clearing of "show interface" counters never
Input queue: 1/75/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 0
Queueing strategy: fifo
Output queue: 0/0 (size/max)
30 second input rate 13000 bits/sec, 34 packets/sec
30 second output rate 36000 bits/sec, 34 packets/sec
191320 packets input, 30129126 bytes, 0 no buffer
Received 0 broadcasts, 0 runts, 0 giants, 0 throttles
0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored, 0 abort
59968 packets output, 15369696 bytes, 0 underruns
0 output errors, 0 collisions, 0 interface resets
0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out

```

```
Router# show crypto session
```

```

Crypto session current status
Interface: Tunnel0
Session status: UP-ACTIVE
Peer: 10.0.149.217 port 500
IKE SA: local 10.0.149.203/500 remote 10.0.149.217/500 Active
IPsec FLOW: permit ip 0.0.0.0/0.0.0.0 0.0.0.0/0.0.0.0
Active SAs: 4,

```

```
Router# show ip route
```

```

Codes: C - connected, S - static, R - RIP, M - mobile, B - BGP
D - EIGRP, EX - EIGRP external, O - OSPF, IA - OSPF inter area
N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 - OSPF NSSA external type 2
E1 - OSPF external type 1, E2 - OSPF external type 2
i - IS-IS, su - IS-IS summary, L1 - IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2
ia - IS-IS inter area, * - candidate default, U - per-user static route
o - ODR, P - periodic downloaded static route
Gateway of last resort is not set
10.0.0.0/8 is variably subnetted, 4 subnets, 2 masks
C 10.0.35.0/24 is directly connected, Ethernet3/3
S 10.0.36.0/24 is directly connected, Tunnel0
C 10.0.51.0/24 is directly connected, Tunnel0
C 10.0.149.0/24 is directly connected, Ethernet3/0

```

## 例：VRF 認識スタティック仮想トンネルインターフェイス

VRF をスタティック VTI の例に追加するには、次の例で示すように、**ipvrf** コマンドおよび **ip vrf forwarding** コマンドを設定に含めます。

### C8000 ルータ設定

```

hostname c8000
.
.
ip vrf sample-vti1

```

## 例：QoSを使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス

```

rd 1:1
route-target export 1:1
route-target import 1:1
!
.
.
interface Tunnel0
ip vrf forwarding sample-vt1
ip address 10.0.51.217 255.255.255.0
tunnel source 10.0.149.217
tunnel destination 10.0.149.203
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec profile P1
.
.
!
end

```

## 例：QoSを使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス

トンネルインターフェイスの下に **service-policy** ステートメントを指定することによって、QoS ポリシーをトンネルエンドポイントに適用できます。次に、トンネルインターフェイスからトラフィックをポリシングする例を示します。

## C8000 ルータ設定

```

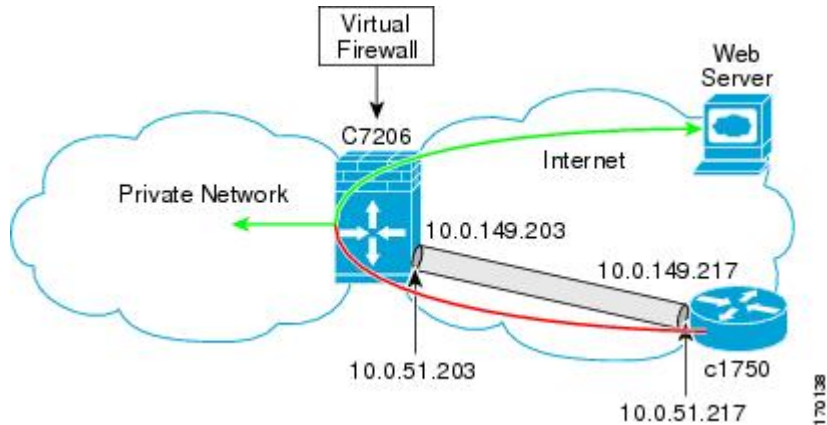
hostname c8000
.
.
class-map match-all VTI
match any
!
policy-map VTI
class VTI
police cir 2000000
conform-action transmit
exceed-action drop
!
.
.
interface Tunnel0
ip address 10.0.51.217 255.255.255.0
tunnel source 10.0.149.217
tunnel destination 10.0.149.203
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec profile P1
service-policy output VTI
!
.
.
!
end

```

## 例：仮想ファイアウォールを使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス

仮想ファイアウォールを SVTI トンネルに適用することによって、スポークからのトラフィックを、ハブを通過させてインターネットに送信できます。次の図に、企業ファイアウォールによって本質的に保護されているスポークを使用した SVTI を示します。

Figure 81: 仮想ファイアウォールを使用したスタティック VTI



SVTI の基本設定は、仮想ファイアウォール定義を含むように変更されています。

### C8000 ルータ設定

```
hostname c8000
.
.
ip inspect max-incomplete high 1000000
ip inspect max-incomplete low 800000
ip inspect one-minute high 1000000
ip inspect one-minute low 800000
ip inspect tcp synwait-time 60
ip inspect tcp max-incomplete host 100000 block-time 2
ip inspect name IOSFW1 tcp timeout 300
ip inspect name IOSFW1 udp
!
.
.
interface GigabitEthernet0/1
description Internet Connection
ip address 172.18.143.246 255.255.255.0
ip access-group 100 in
ip nat outside
!
interface Tunnel0
ip address 10.0.51.217 255.255.255.0
ip nat inside
ip inspect IOSFW1 in
tunnel source 10.0.149.217
tunnel destination 10.0.149.203
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec profile P1
```

```

!
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 172.18.143.1
!
ip nat translation timeout 120
ip nat translation finrst-timeout 2
ip nat translation max-entries 300000
ip nat pool test1 10.2.100.1 10.2.100.50 netmask 255.255.255.0
ip nat inside source list 110 pool test1 vrf test-vt11 overload
!
access-list 100 permit esp any any
access-list 100 permit udp any eq isakmp any
access-list 100 permit udp any eq non500-isakmp any
access-list 100 permit icmp any any
access-list 110 deny esp any any
access-list 110 deny udp any eq isakmp any
access-list 110 permit ip any any
access-list 110 deny udp any eq non500-isakmp any
!
end

```

## 例：ダイナミック仮想トンネルインターフェイス Easy VPN サーバ

次に、DVTI Easy VPN サーバを使用する例を示します。このサーバは、IPsec リモートアクセスアグリゲータになります。クライアントは、Cisco VPN Client を実行しているホームユーザにすることも、Easy VPN クライアントとして設定された Cisco IOS ルータにすることもできます。

### C8000 ルータ設定

```

hostname c8000
!
aaa new-model
aaa authentication login local_list local
aaa authorization network local_list local
aaa session-id common
!
ip subnet-zero
ip cef
!
username cisco password 0 cisco123
!
controller ISA 1/1
!
crypto isakmp policy 1
  encr aes
  authentication pre-share
  group 14
!
crypto isakmp client configuration group group1
  key cisco123
  pool group1pool
  save-password
!
crypto isakmp profile vpn1-ra
  match identity group group1
  client authentication list local_list
  isakmp authorization list local_list
  client configuration address respond

```

```

    virtual-template 1
  !
  crypto ipsec transform-set VTI-TS esp-aes esp-sha-hmac
  !
  crypto ipsec profile test-vt1
    set transform-set VTI-TS
  !
  interface GigabitEthernet0/1
    description Internet Connection
    ip address 172.18.143.246 255.255.255.0
  !
  interface GigabitEthernet0/2
    description Internal Network
    ip address 10.2.1.1 255.255.255.0
  !
  interface Virtual-Templat1 type tunnel
    ip unnumbered GigabitEthernet0/1
    ip virtual-reassembly
    tunnel mode ipsec ipv4
    tunnel protection ipsec profile test-vt1
  !
  ip local pool group1pool 192.168.1.1 192.168.1.4
  ip classless
  ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 172.18.143.1
  !
end

```

## 例：ダイナミック仮想トンネルインターフェイス Easy VPN サーバの結果の確認

次に、DVTI が、Easy VPN サーバ用に設定されている例を示します。

```

Router# show running-config interface Virtual-Access2

Building configuration...
Current configuration : 250 bytes
!
interface Virtual-Access2
 ip unnumbered GigabitEthernet0/1
 ip virtual-reassembly
 tunnel source 172.18.143.246
 tunnel destination 172.18.143.208
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile test-vt1
 no tunnel protection ipsec initiate
end
Router# show ip route

Codes: C - connected, S - static, R - RIP, M - mobile, B - BGP
       D - EIGRP, EX - EIGRP external, O - OSPF, IA - OSPF inter area
       N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 - OSPF NSSA external type 2
       E1 - OSPF external type 1, E2 - OSPF external type 2
       i - IS-IS, su - IS-IS summary, L1 - IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2
       ia - IS-IS inter area, * - candidate default, U - per-user static route
       o - ODR, P - periodic downloaded static route
Gateway of last resort is 10.2.1.10 to network 0.0.0.0
172.18.0.0/24 is subnetted, 1 subnets
C       172.18.143.0 is directly connected, GigabitEthernet0/1
192.168.1.0/32 is subnetted, 1 subnets
S       192.168.1.1 [1/0] via 0.0.0.0, Virtual-Access2
10.0.0.0/24 is subnetted, 1 subnets
C       10.2.1.0 is directly connected, GigabitEthernet0/2
S*    0.0.0.0/0 [1/0] via 172.18.143.1

```

## 例：VRF が仮想テンプレートに基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec

次に、仮想テンプレートに基づいて DVTI を利用するように VRF 認識 IPsec を設定する例を示します。

```
hostname c8000
!
ip vrf VRF-100-1
  rd 1:1
!
ip vrf VRF-100-2
  rd 1:1
!
!
!
crypto keyring cisco-100-1
  pre-shared-key address 10.1.1.1 key cisco-100-1
crypto keyring cisco-100-2
  pre-shared-key address 10.1.2.1 key cisco-100-2
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-1
  keyring cisco-100-1
  match identity address 10.1.1.0 255.255.255.0
  virtual-template 101
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-2
  keyring cisco-100-2
  match identity address 10.1.2.0 255.255.255.0
  virtual-template 102
!
!
crypto ipsec transform-set cisco esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile cisco-ipsec-profile-101
  set security-policy limit 3
  set transform-set cisco
!
crypto ipsec profile cisco-ipsec-profile-102
  set security-policy limit 5
  set transform-set Cisco
!
interface Virtual-Template101 type tunnel
  ip vrf forwarding VRF-100-1
  ip unnumbered Ethernet 0/0
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec-profile-101
!
interface Virtual-Template102 type tunnel
  ip vrf forwarding VRF-100-2
  ip unnumbered Ethernet 0/0
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec-profile-102
!
```



## 例：VRFが仮想テンプレートとIPsecプロファイル内のゲートウェイオプションに基づいて設定された場合のダイナミックVTIを使用したVRF認識IPsec

次に、VRFが仮想テンプレートとIPsecプロファイル内のゲートウェイオプションに基づいて設定されている場合に、DVTIを利用するようにVRF認識IPsecを設定する例を示します。

```
hostname c8000
!
ip vrf VRF-100-1
  rd 1:1
!
ip vrf VRF-100-2
  rd 1:1
!
!
!
crypto keyring cisco-100-1
  pre-shared-key address 10.1.1.1 key cisco-100-1
crypto keyring cisco-100-2
  pre-shared-key address 10.1.2.1 key cisco-100-2
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-1
  keyring cisco-100-1
  match identity address 10.1.1.0 255.255.255.0
  virtual-template 101
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-2
  keyring cisco-100-2
  match identity address 10.1.2.0 255.255.255.0
  virtual-template 102
!
!
crypto ipsec transform-set cisco esp-3des esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile cisco-ipsec-profile-101
  set security-policy limit 3
  set transform-set cisco
  set reverse-route gateway 172.16.0.1
!
crypto ipsec profile cisco-ipsec-profile-102
  set security-policy limit 5
  set transform-set cisco
  set reverse-route gateway 172.16.0.1
!
interface Virtual-Template101 type tunnel
  ip vrf forwarding VRF-100-1
  ip unnumbered Ethernet 0/0
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec-profile-101
!
interface Virtual-Template102 type tunnel
  ip vrf forwarding VRF-100-2
  ip unnumbered Ethernet 0/0
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec-profile-102
!
```

例：VRF が ISAKMP プロファイルに基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec

## 例：VRF が ISAKMP プロファイルに基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec

```

hostname c8000
!
ip vrf VRF-100-1
  rd 1:1
!
ip vrf VRF-100-2
  rd 1:1
!
crypto keyring cisco-100-1
  pre-shared-key address 10.1.1.1 key cisco-100-1
crypto keyring cisco-100-2
  pre-shared-key address 10.1.2.1 key cisco-100-2
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-1
  vrf VRF-100-1
  keyring cisco-100-1
  match identity address 10.1.1.0 255.255.255.0
  virtual-template 1
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-2
  vrf VRF-100-2
  keyring cisco-100-2
  match identity address 10.1.2.0 255.255.255.0
  virtual-template 1
!
!
crypto ipsec transform-set cisco esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec profile cisco-ipsec-profile
  set security-policy limit 3
  set transform-set cisco
!
!
!
interface Virtual-Template 1 type tunnel
  ip unnumbered ethernet 0/0
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec-profile
!
!

```

## 例：VRF が ISAKMP プロファイルと IPsec プロファイル内のゲートウェイ オプションに基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec

次に、VRF が ISAKMP プロファイルと IPsec プロファイル内のゲートウェイ オプションに基づいて設定されている場合に、DVTI を利用するように VRF 認識 IPsec を設定する例を示します。

```

hostname C8000 server
!

```

```

ip vrf VRF-100-1
 rd 1:1
!
ip vrf VRF-100-2
 rd 1:1
!
crypto keyring cisco-100-1
 pre-shared-key address 10.1.1.1 key cisco-100-1
crypto keyring cisco-100-2
 pre-shared-key address 10.1.2.1 key cisco-100-2
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-1
 vrf VRF-100-1
 keyring cisco-100-1
 match identity address 10.1.1.0 255.255.255.0
 virtual-template 1
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile-100-2
 vrf VRF-100-2
 keyring cisco-100-2
 match identity address 10.1.2.0 255.255.255.0
 virtual-template 1
!
!
crypto ipsec transform-set cisco esp-3des esp-sha-hmac
crypto ipsec profile cisco-ipsec-profile
 set security-policy limit 3
 set transform-set cisco
 set reverse-route gateway 172.16.0.1
!
!
!
interface Virtual-Templat1 type tunnel
 ip unnumbered Ethernet 0/0
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec-profile
!
!

```

## 例：VRF が仮想テンプレートと ISAKMP プロファイルの両方に基づいて設定された場合のダイナミック VTI を使用した VRF 認識 IPsec



- (注) ISAKMP プロファイルと仮想テンプレートに基づいて別々の VRF が設定されている場合は、仮想テンプレートに基づいて設定された VRF が優先されます。この設定は推奨されません。

次に、VRF が仮想テンプレートと ISAKMP プロファイルの両方に基づいて設定されている場合に、DVTI を利用するように VRF 認識 IPsec を設定する例を示します。

```

hostname C8000 server
.
.
.
ip vrf test-vti2
 rd 1:2
 route-target export 1:1

```

例：仮想ファイアウォールを使用したダイナミック仮想トンネルインターフェイス

```

route-target import 1:1
!
.
.
.
ip vrf test-vt1l
rd 1:1
route-target export 1:1
route-target import 1:1
!
.
.
.
crypto isakmp profile cisco-isakmp-profile
vrf test-vti2
keyring key
match identity address 10.1.1.0 255.255.255.0
!
.
.
.
interface Virtual-Templatel type tunnel
ip vrf forwarding test-vt1l
ip unnumbered Loopback 0
ip virtual-reassembly
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec profile test-vt1l
!
.
.
.
end

```

## 例：仮想ファイアウォールを使用したダイナミック仮想トンネルインターフェイス

DVTIEasy VPN サーバは、仮想ファイアウォールの背後に設定できます。Behind-the-firewall 設定を使用すれば、ユーザはネットワークに入れますが、ネットワークファイアウォールは不正アクセスから保護されます。仮想ファイアウォールでは、コンテキストベースのアクセスコントロール (CBAC) と、インターネットインターフェイスおよび仮想テンプレートに対して適用される NAT が使用されます。

```

hostname c8000
.
.
ip inspect max-incomplete high 1000000
ip inspect max-incomplete low 800000
ip inspect one-minute high 1000000
ip inspect one-minute low 800000
ip inspect tcp synwait-time 60
ip inspect tcp max-incomplete host 100000 block-time 2
ip inspect name IOSFW1 tcp timeout 300
ip inspect name IOSFW1 udp
!
.
.
interface GigabitEthernet0/1
description Internet Connection

```

```

ip address 172.18.143.246 255.255.255.0
ip access-group 100 in
ip nat outside
!
interface GigabitEthernet0/2
description Internal Network
ip address 10.2.1.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
ip unnumbered Loopback0
ip nat inside
ip inspect IOSFW1 in
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec profile test-vti1
!
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 172.18.143.1
!
ip nat translation timeout 120
ip nat translation finrst-timeout 2
ip nat translation max-entries 300000
ip nat pool test1 10.2.100.1 10.2.100.50 netmask 255.255.255.0
ip nat inside source list 110 pool test1 vrf test-vti1 overload
!
access-list 100 permit esp any any
access-list 100 permit udp any eq isakmp any
access-list 100 permit udp any eq non500-isakmp any
access-list 100 permit icmp any any
access-list 110 deny esp any any
access-list 110 deny udp any eq isakmp any
access-list 110 permit ip any any
access-list 110 deny udp any eq non500-isakmp any
!
end

```

## 例：QoSを使用したダイナミック仮想トンネルインターフェイス

サービスポリシーを仮想テンプレートに適用することによって、QoSをDVTIトンネルに追加できます。テンプレートを複製して仮想アクセスインターフェイスを作成した場合は、サービスポリシーが仮想アクセスインターフェイスにも適用されます。次に、QoSが追加されたDVTI基本設定の例を示します。

```

hostname c8000
.
.
class-map match-all VTI
match any
!
policy-map VTI
class VTI
police cir 2000000
conform-action transmit
exceed-action drop
!
.
.
interface Virtual-Template1 type tunnel
ip vrf forwarding test-vti1
ip unnumbered Loopback0
ip virtual-reassembly

```

例：複数の IPsec SA を使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス

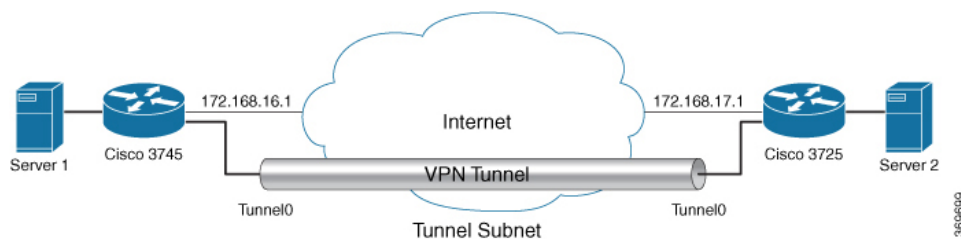
```
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec profile test-vt1
service-policy output VTI
!
.
.
!
end
```

## 例：複数の IPsec SA を使用したスタティック仮想トンネルインターフェイス

次の例では、SVTI を使用して Cisco 3745 と Cisco 3725 の 2 つのルータの間で IPsec トンネルを確立します。この設定では、非 any-any トラフィックセレクタを使用し、複数の IPsec SA の形成を有効にします。

**IPv4 トンネルモードのルータでの設定例：**

次の図は、設定の参照トポロジを示しています。



Cisco 3745 ルータの設定例は、次のとおりです。

```
crypto isakmp policy 1
 authentication pre-share
 group 2
!
crypto isakmp policy 5
 encr 3des
 authentication pre-share
 group 2
crypto isakmp key example address 172.168.17.1
!
!
crypto ipsec transform-set svt1 esp-3des esp-sha-hmac
 mode tunnel
!
!
crypto ipsec profile ipsec_prof
 set transform-set svt1
!
!
!
interface Loopback0
 ip address 30.0.0.1 255.255.255.0
!
interface Loopback1
 ip address 50.0.0.1 255.255.255.0
!
interface Tunnel0
```

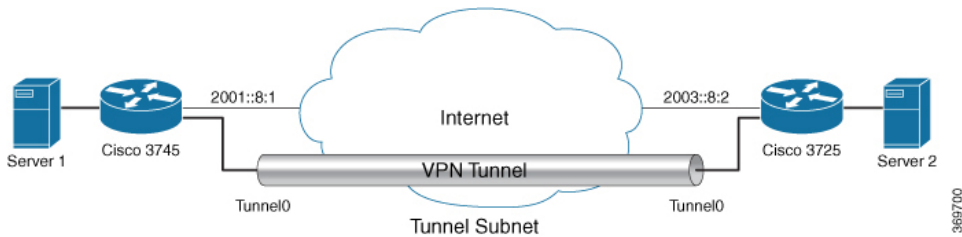
```

ip address 11.1.1.2 255.255.255.0
tunnel source Ethernet0/0
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel destination 172.168.17.1
tunnel protection ipsec policy ipv4 ipsec_acl1
tunnel protection ipsec profile ipsec_prof
!
interface Ethernet0/0
ip address 172.168.16.1 255.255.255.0
!
!
ip access-list extended ipsec_acl1
permit ip 30.0.0.0 0.0.0.255 40.0.0.0 0.0.0.255
permit ip 50.0.0.0 0.0.0.255 60.0.0.0 0.0.0.255

```

### IPv6 トンネルモードのルータでの設定例：

次の図は、設定の参照トポロジを示しています。



Cisco 3745 ルータの設定例は、次のとおりです。

```

crypto isakmp policy 1
 authentication pre-share
 group 2
!
crypto isakmp policy 5
 encr 3des
 authentication pre-share
 group 2
crypto isakmp key example address ipv6 2003::8:2/112
!
!
crypto ipsec transform-set svt11 esp-3des esp-sha-hmac
 mode tunnel
!
!
crypto ipsec profile ipsec_prof
 set transform-set svt11
!
!
!
interface Loopback0
 ipv6 address 2005::10:1/112
 ipv6 enable
!
interface Loopback1
 ipv6 address 2005::15:1/112
 ipv6 enable
!
interface Loopback2
 ipv6 address 2005::20:1/112
 ipv6 enable
!

```

## 例：デュアルオーバーレイとしてのトンネルモードの設定

```

interface Tunnel0
 ip address 11.1.1.2 255.255.255.0
 ipv6 address 400::10:1/112
 ipv6 enable
 tunnel source Ethernet0/0
 tunnel mode ipsec ipv6
 tunnel destination 2003::8:2
 tunnel protection ipsec policy ipv6 ipsec_acl2
 tunnel protection ipsec profile ipsec_prof
!
interface Ethernet0/0
 ipv6 address 2001::8:1/112
 ipv6 enable
!
!
ipv6 access-list ipsec_acl2
sequence 10 permit ipv6 host 2005::10:1 host 2005::11:1
sequence 20 permit ipv6 host 2005::15:1 host 2005::16:1
sequence 30 permit ipv6 host 2005::20:1 host 2005::21:1

```

## 例：デュアルオーバーレイとしてのトンネルモードの設定

次に、トンネルモードをデュアルオーバーレイとして設定する例を示します。

```

Device# configure terminal
Router(config)# interface tunnel 1
Router(config-if)# ipv6 enable
Router(config-if)# tunnel source ethernet 0/0
Router(config-if)# tunnel mode ipsec dual-overlay
Router(config-if)# tunnel destination 89.89.89.1 255.255.255.255.0
Device(config-if)# tunnel protection IPsec profile ipsecprof

```

## デュアルオーバーレイとしてのトンネルモードの設定の確認

次のコマンドを使用して、設定をトラブルシューティングします。

- **show crypto session [detail]**
- **show crypto ipsec sa**
- **show crypto map**
- **show crypto socket**
- **show crypto ikev2 session [detail]**

```

Device# show crypto map
Crypto Map: "Tunnel0-head-0" IKEv2 profile: prof

Crypto Map IPv4 "Tunnel0-head-0" 65536 ipsec-isakmp
IKEv2 Profile: prof
Profile name: prof
Security association lifetime: 4608000 kilobytes/120 seconds
Dualstack (Y/N): N

Responder-Only (Y/N): N
PFS (Y/N): N
Mixed-mode : Disabled
Transform sets={
  default: { esp-aes esp-sha-hmac } ,
}

```



```

Crypto Map IPv4 "Tunnel0-head-0" 65537 ipsec-isakmp
Map is a PROFILE INSTANCE.
Peer = 10.10.10.2
IKEv2 Profile: prof
Extended IP access list
    access-list permit ip any any
Current peer: 10.10.10.2
Security association lifetime: 4608000 kilobytes/120 seconds
Dualstack (Y/N): Y
    TRUE ident (addr/mask/prot/port): {LOCAL -> REMOTE}
        0.0.0.0/0.0.0.0/0/0 -> 0.0.0.0/0.0.0.0/0/0
        ::/0.0.0.0/0/0 -> ::/0/0/0
Responder-Only (Y/N): N
PFS (Y/N): N
Mixed-mode : Disabled
Transform sets={
    default: { esp-aes esp-sha-hmac } ,
}
Always create SAs
Interfaces using crypto map Tunnel0-head-0:
    Tunnel0

Device# show crypto ipsec sa

interface: Tunnel0
    Crypto map tag: Tunnel0-head-0, local addr 10.10.10.1

protected vrf: (none)
local ident (addr/mask/prot/port): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
remote ident (addr/mask/prot/port): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
    TRUE ident (addr/mask/prot/port): {LOCAL -> REMOTE}
        0.0.0.0/0.0.0.0/0/0 -> 0.0.0.0/0.0.0.0/0/0
        ::/0.0.0.0/0/0 -> ::/0/0/0
current_peer 10.10.10.2 port 500
    PERMIT, flags={origin_is_acl,}
    #pkts encaps: 0, #pkts encrypt: 0, #pkts digest: 0
    #pkts decaps: 0, #pkts decrypt: 0, #pkts verify: 0
    #pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
    #pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
    #pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
    #send errors 0, #recv errors 0

local crypto endpt.: 10.10.10.1, remote crypto endpt.: 10.10.10.2
plaintext mtu 1438, path mtu 1500, ip mtu 1500, ip mtu idb Ethernet0/0
current outbound spi: 0x4776A36B(1198957419)
PFS (Y/N): N, DH group: none

inbound esp sas:
    spi: 0xA97EDEE7(2843664103)
        transform: esp-aes esp-sha-hmac ,
        in use settings ={Tunnel, }
        conn id: 4, flow_id: 4, sibling_flags FFFFFFFF80000040, crypto map: Tunnel0-head-0

        sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4377587/76)
        IV size: 16 bytes
        replay detection support: Y
        Status: ACTIVE(ACTIVE)

inbound ah sas:

inbound pcp sas:

outbound esp sas:

```

## 例：デュアルオーバーレイとしてのトンネルモードの設定

```
spi: 0x4776A36B(1198957419)
  transform: esp-aes esp-sha-hmac ,
  in use settings ={Tunnel, }
conn id: 3, flow_id: 3, sibling_flags FFFFFFFF80000040, crypto map: Tunnel0-head-0

  sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4377587/76)
  IV size: 16 bytes
  replay detection support: Y
  Status: ACTIVE(ACTIVE)
```

outbound ah sas:

outbound pcp sas:

**Device# show crypto socket**

Number of Crypto Socket connections 1

```
Tu0 Peers (local/remote): 10.10.10.1/10.10.10.2
Local Ident (addr/mask/port/prot): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
Remote Ident (addr/mask/port/prot): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
TRUE ident (addr/mask/port/port): {LOCAL -> REMOTE}
  0.0.0.0/0.0.0.0/0/0 -> 0.0.0.0/0.0.0.0/0/0
  ::/0.0.0.0/0/0 -> ::/0/0/0
IPSec Profile: "prof"
Socket State: Open
Client: "TUNNEL SEC" (Client State: Active)
```

Crypto Sockets in Listen state:

Client: "TUNNEL SEC" Profile: "prof" Map-name: "Tunnel0-head-0"

**Device# show cry ikev2 session**

IPv4 Crypto IKEv2 Session

Session-id:1, Status:UP-ACTIVE, IKE count:1, CHILd count:1

Tunnel-id	Local	Remote	fvrf/ivrf	Status
1	10.10.10.1/500	10.10.10.2/500	none/none	READY

Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:19, Auth sign: PSK  
Auth verify: PSK  
Life/Active Time: 86400/145 sec  
CE id: 1001, Session-id: 1  
Local spi: 25A0B173944015D3 Remote spi: 9F0C7677425670E1

Child sa:

```
local selector 0.0.0.0/0 - 255.255.255.255/65535
local selector ::/0 - FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF/65535
remote selector 0.0.0.0/0 - 255.255.255.255/65535
remote selector ::/0 - FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF/65535
ESP spi in/out: 0xA97EDEE7/0x4776A36B
```

IPv6 Crypto IKEv2 Session

**Device# show crypto session**

Crypto session current status

Interface: Tunnel0

Profile: prof

Session status: UP-ACTIVE

Peer: 10.10.10.2 port 500

Session ID: 1

IKEv2 SA: local 10.10.10.1/500 remote 10.10.10.2/500 Active

IPSEC FLOW: permit ip 0.0.0.0/0.0.0.0 0.0.0.0/0.0.0.0

TRUE IDENT (addr/mask/prot/port): {LOCAL -> REMOTE}

0.0.0.0/0.0.0.0/0/0 -> 0.0.0.0/0.0.0.0/0/0

::/0.0.0.0/0/0 -> ::/0/0/0

Active SAs: 2, origin: crypto map

## IPsec 仮想トンネル インターフェイスに関する追加のリファレンス

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z</a>』</li> </ul>
IPsec の設定	『 <a href="#">Configuring Security for VPNs with IPsec</a> 』
QoS の設定	『 <a href="#">Cisco IOS Quality of Service Solutions Configuration Guide</a> 』
EasyVPN の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「<a href="#">Cisco Easy VPN Remote</a>」</li> <li>• 「<a href="#">Easy VPN Server</a>」</li> </ul>
推奨される暗号化アルゴリズム	『 <a href="#">Next Generation Encryption</a> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2401	『 <a href="#">Security Architecture for the Internet Protocol</a> 』
RFC 2408	『 <a href="#">Internet Security Association and Key Management Protocol</a> 』
RFC 2409	『 <a href="#">The Internet Key Exchange (IKE)</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IPsec 仮想トンネルインターフェイスに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 211: IPsec 仮想トンネルインターフェイスに関する機能情報

機能名	リリース	機能の設定情報
ダイナミック IPsec VTI	12.3(7)T 12.3(14)T	<p>ダイナミック VTI によって IP アドレスの使用が効率的になり、セキュアな接続が提供されます。ダイナミック VTI によって、動的にダウンロード可能な、グループごとおよびユーザごとのポリシーを RADIUS サーバ上で設定できます。IPsec ダイナミック VTI を使用すれば、リモート アクセス VPN 用の高度にセキュアな接続を構築することができます。ダイナミック VTI によって、VRF 認識 IPsec の導入が簡単になります。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto isakmp profile, interface virtual-template, show vtemplate, tunnel mode, virtual-template.</b></p>
FlexVPN 混合モードのサポート	15.4(2)T Cisco IOS XE Release 3.10S	<p>FlexVPN 混合モード機能は、IPsec IPv6 トランスポート経由の IPv4 トラフィックの伝送をサポートします。これは、IPsec スタック上でのデュアルスタックのサポートにつながる第 1 段階です。この実装は、IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方に対する単一の IPsec セキュリティアソシエーション (SA) ペアの使用をサポートしません。</p> <p>この機能は、IKEv2 とダイナミック VTI を使用したリモートアクセス VPN に対してのみサポートされます。</p>

機能名	リリース	機能の設定情報
ダイナミック VTI に対するマルチ SA	15.2(1)T Cisco IOS XE Release 3.2S	DVTIは、イニシエータから提案された複数のIPsecセレクトアを受け入れることができます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>set security-policy limit, set reverse-route.</b>
スタティック IPsec VTI	12.2(33)SRA 12.2(33)SXH 12.3(7)T 12.3(14)T Cisco IOS XE Release 2.1	IPsec VTIでは、IPsecトンネルを終端するためのルーティング可能なインターフェイスタイプと、オーバーレイネットワークを形成するためにサイト間の保護を定義する簡単な手段が提供されます。IPsec VTIによって、リモートリンクを保護するためのIPsecの設定が簡素化され、マルチキャストがサポートされ、さらには、ネットワーク管理およびロードバランシングが簡単に実現できるようになります。
トンネルモード自動選択	15.4(2)T Cisco IOS XE リリース 3.12S	トンネルモード自動選択機能は、設定を容易にし、レスポンドの詳細の入手を支援します。この機能は、IKEプロファイルから仮想アクセスインターフェイスが作成されるとすぐに、トンネリングプロトコル（GREまたはIPsec）とトランスポートプロトコル（IPv4またはIPv6）を自動的に仮想テンプレートに適用します。  次のコマンドが導入または変更されました： <b>virtual-template</b>

機能名	リリース	機能の設定情報
FlexVPN 混合モード v4 経由 v6 トランスポート	Cisco IOS XE Everest 16.4.1	FlexVPN 混合モード v4 経由 v6 トランスポート機能は、IPsec IPv4 トランスポート経由の IPv6 トラフィックの伝送をサポートします。この実装は、IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方に対する単一の IPsec セキュリティアソシエーション (SA) ペアの使用をサポートしません。
Cisco 以外のデバイスでの IPsec デュアルスタックのサポート	Cisco IOS XE Cupertino 17.9.x	この機能により、IPv4 を介してトンネリングされる単一の IPsec セキュリティアソシエーション (SA) を使用して IPv4 トラフィックと IPv6 トラフィックの両方を伝送することが可能になります。IOS XE リリース 17.9.1a 以降、シスコでは、トンネルインターフェイスの入力側がサードパーティの IPsec クライアントで設定されている場合、アクセス制御リストの特定のサブネットをサポートしています。SVTI シングルセキュリティアソシエーションデュアルスタック機能の導入により、Business-to-Business (B2B) サービスやその他の IoT ビジネスを効率的に管理できるようになりました。







## 第 158 章

# Session Initiation Protocol トリガー VPN

Session Initiation Protocol トリガー VPN (SIP トリガー VPN または VPN SIP) は、サービスプロバイダーが提供するサービスで、Session Initiation Protocol (SIP) を使用して、オンデマンドメディアやピア間のアプリケーション共有に必要な VPN が設定されます。VPN SIP 機能は、2つの SIP ユーザエージェントが相互の IP アドレスを解決し、自己署名証明書、サードパーティ証明書、または事前共有キーのフィンガープリントを安全に交換して、IPsec ベース VPN の確立に同意するプロセスを定義します (訳注: NTT 東日本及び西日本の提供する「ひかり電話データコネク」サービスに接続するための機能です)。

サービスプロバイダーは、銀行の ATM や支店など、SIP ベースのサービスを必要とする顧客に VPN SIP サービスを提供します。この VPN SIP サービスは、バックアップ ネットワーク機能の ISDN 接続に代わるものです。プライマリのブロードバンド サービス リンクがダウンした場合、これらの銀行の ATM や支店は VPN SIP サービスを介して中央ヘッドエンドまたはデータセンターに接続します。

サービスプロバイダーの SIP サーバは、VPN SIP サービスの調整に加えて、サービスの使用時間を基にしたサービス料金の請求にも使用されます。

- [VPN SIP の機能情報 \(2250 ページ\)](#)
- [VPN SIP の情報 \(2250 ページ\)](#)
- [VPN SIP の前提条件 \(2255 ページ\)](#)
- [VPN SIP の制約事項 \(2255 ページ\)](#)
- [VPN SIP の設定方法 \(2256 ページ\)](#)
- [VPN SIP の設定例 \(2262 ページ\)](#)
- [VPN SIP の DHCP の設定 \(2263 ページ\)](#)
- [VPN SIP のトラブルシューティング \(2275 ページ\)](#)
- [VPN SIP に関する追加情報 \(2283 ページ\)](#)

## VPN SIP の機能情報

表 212: VPN SIP の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Session Initiation Protocol トリガー VPN		<p>VPN SIP は、サービス プロバイダーが提供するサービスで、Session Initiation Protocol (SIP) を使用して、オンデマンドメディアやピア間のアプリケーション共有に必要な VPN が設定されます。</p> <p>次のコマンドが導入されました：<b>nat force-encap, show vpn-sip session, show vpn-sip sip, show vpn-sip registration-status, vpn-sip local-number, vpn-sip logging, vpn-sip tunnel source</b></p>

## VPN SIP の情報

### VPN SIP ソリューションのコンポーネント

VPN SIP は、IPSec 静的仮想トンネルインターフェイス (SVTI) を使用します。IPSec SVTI は、IPSec セキュリティアソシエーション (SA) がトンネルインターフェイスと SVTI ピア間でまったく確立されていない場合でも、アクティブ (UP) な状態のままになります。

VPN SIP ソリューションの 3 つのコンポーネントを次に示します。

- SIP
- VPN SIP
- 暗号 (IP Security (IPsec)、インターネットキーエクスチェンジ (IKE)、トンネル保護 (TP)、暗号内の Public Key Infrastructure (PKI) モジュール)

## Session Initiation Protocol

SIP は、IKE セッションを開始するための名前解決メカニズムとして使用されます。VPN SIP は、SIP サービスを使用して、固定 IP アドレスを持たないホーム ルータまたはスモール ビジネス ルータに VPN 接続を確立します。この接続は、自己署名証明書か事前共有キーを使用し

て実現されます。SIP は、Session Description Protocol (SDP) オファー/アンサー モデルでのメディア セッションに必要な IKE の使用をネゴシエートします。

SIP は静的に設定されています。リモート SIP 番号それぞれに対して、1つのトンネルインターフェイスを設定する必要があります。

SIP は、VPN SIP サービスの使用料を SIP 番号に基づいて顧客に請求する課金機能もサービスプロバイダーに提供します。SIP 番号に基づく請求は、サービスプロバイダーネットワーク内で発生するものであり、Cisco VPN SIP ルータのようなエンドデバイスとは無関係です。

## VPN SIP のソリューション

VPN SIP は、SIP モジュールと暗号モジュールを連携し、両者の間を抽象化する中央ブロックです。

SIP 番号の背後にあるリモート ネットワークへ向けられたトラフィックがトンネル インターフェイスにルーティングされると、そのピアには IPSEC SA が設定されていないため、IPSec コントロールプレーンはパケット スイッチング パスからのトリガーを受け取ります。このトンネルは VPN SIP 用に設定されているため、IPsec コントロールプレーンは VPN SIP にトリガーを渡します。



- (注) その SIP 番号のリモート ネットワークの静的ルートは、このトンネル インターフェイスを指すように設定される必要があります。

VPN SIP サービスがトリガーされると、SIP は SIP 電話番号のペアを使用してコールを設定します。SIP は VPN SIP に着信コールの詳細も渡し、ローカルの自己署名証明書または事前共有キーのローカル アドレスとフィンガープリント情報を使用して、IKE メディア セッションをネゴシエートします。SIP は VPN SIP にリモート アドレスとフィンガープリント情報も渡します。

VPN SIP サービスはトンネル ステータスの更新をリッスンし、SIP を呼び出して、SIP セッションを切断します。VPN SIP サービスは、現在のアクティブなセッションを表示する手段も提供します。

## 機能一覧

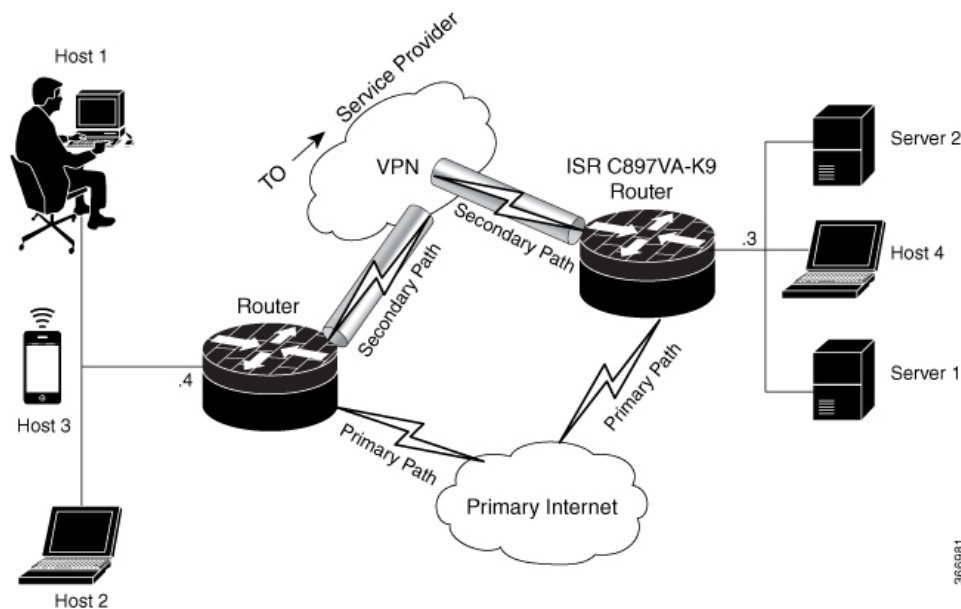
次に、VPN SIP 機能の概略を示します。

- IP SLA は、ルート トラッキングを使用してプライマリ リンクをモニタリングします。プライマリ リンクが失敗すると、IP SLA はこの障害を検出します。
- プライマリ パスが失敗すると、IP SLA はルーターに設定されているメトリックがさらに高いルートにデフォルト ルートを切り替えます。
- 関連するトラフィックがセカンダリ リンクを使用してフローを試みると、SIP は SIP サーバに招待メッセージを送信し、VPN ピア情報を取得します。

- ルータは VPN ピア情報（IP アドレス、ローカル SIP 番号とリモート SIP 番号、IKE ポート、およびフィンガープリント）を受け取って、VPN SIP トンネルを確立します。
- プライマリパスが復帰すると、IP SLA はプライマリパスを検出し、ルートが元のパスに戻ります。アイドルタイマーの有効期限が切れると、IPSec は破棄され、SIP コールは切断されます。

次に、VPN SIP ソリューションのトポロジを示します。

図 82: VPN SIP のトポロジ



## SIP コール フロー

SIP コールフローは、ローカルピアでの開始とリモートピアでのコールの受信に分かれます。

### SIP コールの開始

データプレーン内の SVTI インターフェイスにパケットがルーティングされると、そのアドレスを解決するためにピア SIP 番号に対して SIP コールを発呼する必要があります。これにより、VPN トンネルがアクティブになります。

- ローカル認証タイプが PSK の場合、IKEv2 はピア SIP 番号と一致するキーを検索します。IKEv2 キーリングは、各 SIP ピアの SIP 番号として id\_key\_id 型（文字列）で設定する必要があります。IKEv2 は検索されたキーのフィンガープリントを計算し、VPN SIP に渡します。
- ローカル認証タイプが自己署名証明書やサードパーティ証明書の場合、IKEv2 は IKEv2 プロファイルに設定されているローカルの証明書のフィンガープリントを計算し、VPN SIP に渡します。

VPN SIP モジュールは、ピアに SIP コールを設定するために SIP と対話します。コールが成功すると、VPN SIP は解決された IP アドレスを SVTI のトンネル接続先として設定し、SVTI に対して VPN トンネルを開始するように要求します。



- (注) ワイルドカード キーが必要な場合は、IKEv2 プロファイルで、`authentication local pre-share key` コマンドと `authentication remote pre-share key` コマンドを使用します。

### リモートピアでの SIP コールの受信

ピアから SIP コールを受信すると、さまざまな暗号モジュールが以下のように関連して動作します。

- トンネル保護は、VPN SIP モジュールによるトンネルの宛先アドレスの設定に協力します。
- IKEv2 は、ローカル認証タイプ (PSK または PKI) とローカルフィンガープリントを VPN SIP モジュールに返します。ローカル認証タイプが PSK の場合、IKEv2 は対応する SIP 番号と一致するキーを検索します。



- (注) IKEv2 は SIP 番号によってのみピアを識別できます。

ピア間で SIP コール ネゴシエーションが行われている間に、各ピアは SDP 上で交換される一意のローカル IKEv2 ポート番号を選択する必要があります。セッションごとに異なるポート番号をサポートするため、VPN SIP モジュールは IP ポート アドレス変換 (PAT) をプログラムにより自動的に設定します。PAT は、IKEv2 ポート (4500) と、SDP 上で交換されるポート番号との変換を担います。変換には、セカンダリリンク上に IP NAT が設定され、ループバックインターフェイスが VPN SIP トンネルの送信元として設定される必要があります。変換の有効期間は、VPN SIP セッションの有効期間で決まります。

### SDP オファーとアンサー

RFC 6193 で定義されている、SIP コールでネゴシエートされる SDP オファーとアンサーの例を次に示します。

```
offer SDP
...
m=application 50001 udp ike-esp-udpencap
c=IN IP4 10.6.6.49
a=ike-setup:active
a=fingerprint:SHA-1 \
b=AS:512
4A:AD:B9:B1:3F:82:18:3B:54:02:12:DF:3E:5D:49:6B:19:E5:7C:AB
...

answer SDP
...
m=application 50002 udp ike-esp-udpencap
c=IN IP4 10.6.6.50
```

```

a=ike-setup:passive
a=fingerprint:SHA-1 \
b=AS:512
D2:9F:6F:1E:CD:D3:09:E8:70:65:1A:51:7C:9D:30:4F:21:E4:4A:8E

```

SDP ネゴシエーションの一環として、両方のピアが「b=AS :number」という SDP 属性を使用し、VPN SIP セッションの最大帯域幅のレートをネゴシエートします。SDP に表示されるピア双方の帯域幅が異なる場合、小さい方の値が最大帯域幅として使用される必要があります。

「b=AS :number」SDP 属性がオファーかアンサーに含まれていない場合、SIP コールは正常に設定されていません。

ネゴシエートされた最大帯域幅は、プログラムによって設定される出力方向の QoS ポリシーを介して SVTI トンネルインターフェイスに適用されます。静的に設定されたポリシーが既に存在する場合は、プログラムによって設定される QoS ポリシーは適用されず、セッションは失敗します。

SIP コールが完了し、ピアのアドレスが解決されると、VPN SIP は SVTI のトンネル接続先を設定し、トンネルを開始する要求を送信します。

## IKEv2 ネゴシエーション

次に、IKEv2 セキュリティセッション (SA) ネゴシエーションのプロセスを示します。

- セッションの開始前に、IKEv2 は VPN SIP を使用して、そのセッションが VPN SIP セッションであるかどうかを確認します。
- セッションが VPN SIP セッションで、ローカル認証タイプが PSK の場合、IKEv2 はピアの IP アドレスの代わりにピアの SIP 番号を使用して、PSK キーペアを検索します。
- 自己署名証明書を検証する場合、IKEv2 はその証明書が自己署名されたものかを確認して、証明書を検証します。
  - IKEv2 プロトコルの一部である既存の AUTH ペイロード検証に加えて、IKEv2 は受信した証明書または検索された PSK のハッシュを計算して、IKEv2 が VPN SIP モジュールからクエリする SIP ネゴシエーションのフィンガープリントと比較します。フィンガープリントが一致する場合のみ、IKEv2 はピアの認証が有効であると見なします。一致しない場合、IKEv2 はそのピアが認証に失敗したことを宣言し、VPN セッションを終了します。

VPN SIP ソリューションは、バックアップ VPN でトラフィックをルーティングする必要がなくなったことを、IPSEC アイドルタイマーに基づいて検出します。トラフィックがない時にセッションが切断されるようにするには、IPSec プロファイルにアイドル時間を設定する必要があります。推奨設定は 120 秒です。

VPN SIP と SIP は、連係して SIP コールを切断します。

IPsec アイドル時間の有効期限が切れると、VPN SIP モジュールは IPsec トンネルをダウンするように IKEv2 に通知します。VPN SIP は、SIP モジュールに対して、IKEv2 からの確認を待機せずに SIP コールを切断するように要求します。

SIP コールの切断をピアから受信すると、VPN SIP モジュールは IPsec トンネルをダウンするように IKEv2 に通知し、SIP に対して SIP コールの切断を許可します。

## VPN SIP の前提条件

- セキュリティ K9 ライセンスをルータで有効にする必要があります。
- ルータには最低 1 GB のメモリが必要です。
- SIP ユーザ エージェントの SIP 登録要求が成功するには、VPN SIP ルータが SIP レジストラを使用できる必要があります。
- DHCP サーバは、SIP サーバアドレスを取得するためにオプション 120 と 125 をサポートする必要があります。SIP サーバアドレスは、SIP セッションの登録と確立に必要なになります。
- プライマリ パスがダウンしたときにバックアップ WAN パスが使用される ようにするには、ルーティングを適切に設定しておく必要があります。
- トンネルインターフェイスの最大伝送ユニット (MTU) は、セカンダリ WAN インターフェイスの MTU よりも小さくなければなりません。
- IKEv2 認証に自己署名証明書やサードパーティ証明書を使用する場合は、IP 層のフラグメンテーションを避けるために、VPN SIP ルータに IKEv2 フラグメンテーションを設定します。
- NAT SIP ALG は無効にする必要があります。
- 発信者ID通知サービス（訳注：「ナンバー・ディスプレイ」）が該当の加入者契約において、ネットワーク側で設定されている必要があります。

## VPN SIP の制約事項

- VPN SIP と CUBE/SIP ゲートウェイを同一デバイス上で設定することはできません。CUBE ライセンスがデバイス上でアクティブな場合、CUBE のみが有効になります。
- トランスポートとメディア（SIP 登録、SIP シグナリング、および IPv4 トランスポートを介して暗号化された IPv4 パケットの IPv4 トランスポート）では、IPv4 のみがサポートされています。
- NAT の背後にあるピア デバイスを使用した SIP シグナリングはサポートされていません（ICE および STUN はサポートされていません）。
- SIP ネゴシエーションは、グローバル VRF でのみサポートされています。
- プライベートアドレスの割り当て、設定モード交換（CP ペイロード）、ルート交換などのリモートアクセス VPN 機能はサポートされていません。

- VPN SIP セッションでのルーティング プロトコルはサポートされていません。
- Rivest-Shamir-Addleman (RSA) サーバ自己署名証明書のみがサポートされています。
- 認証、認可、およびアカウントリング (AAA) を使用した事前共有キーの検索機能は、サポートされていません。
- IPsec アイドル タイマーは、`ipsec-profile` コマンドを使用して IPsec プロファイルごとに設定します。アイドル時間は、特定の IPsec プロファイルを使用するすべての VPN SIP セッションで同じです。
- IPSLA のモニタリングに使用されるトラック オブジェクトは、Cisco IOS ソフトウェアで最大 1000 オブジェクトまでに制限されています。1 つのトラック オブジェクトを使用して 1 台のピア ルーターを追跡する場合、1 台の IOS デバイスが処理できる VPN SIP セッションの最大数は、トラック オブジェクトの最大数で決まります。
- Cisco IOS ソフトウェアでは、ローカル SIP 番号は 1 つのみサポートされています。
- 静的に設定されたポリシーが既に存在する場合は、プログラムによって設定される QoS ポリシーは適用されず、セッションは失敗します。SVTI インターフェイス上に静的に設定された QoS ポリシーは、すべて削除してください。
- シスコ以外のベンダーによって実装された VPN SIP との相互運用性は、サポートされていません。
- VPN-SIP トンネルに付加されたポリシーマップに含まれるクラスポリシーについては、プライオリティキューイングとクラスベース重み付け均等化キューイング (CBWFQ) のみがサポートされます。
- CBWFQ の設定でサポートされているのは、`bandwidth percent percent` コマンドのみです。VPN-SIP セッションの帯域幅はピア ルータとのネゴシエーションによって変わるため、`bandwidth bandwidth` コマンドはサポートされていません。
- VPN-SIP の設定は IPv6 ではサポートされていません。
- VPN-SIP の設定は、自律モードでのみサポートされます。
- 参照、フォークなどの複雑な SIP コールシナリオは、VPN-SIP の設定ではサポートされていません。

## VPN SIP の設定方法

### VPN SIP の設定

VPN SIP を設定する手順は次のとおりです。

1. サードパーティ証明書、自己署名証明書、または事前共有キーを使用してトンネル認証を設定します。



### 1. 証明書を使用するトンネル認証

顧客のネットワーク内にある証明機関（CA）サーバから証明書を取得するためのトラストポイントを設定します。これはトンネル認証で必要です。次の設定を使用します。

```
peer1(config)# crypto pki trustpoint CA
  enrollment url http://10.45.18.132/
  serial-number none
  subject-name CN=peer2
  revocation-check crl
  rsakeypair peer2

peer2(config)# crypto pki authenticate CA
Certificate has the following attributes:
  Fingerprint MD5: F38A9B4C 2D80490C F8E7581B BABE7CBD
  Fingerprint SHA1: 4907CC36 B1957258 5DFE23B2 649E7DDA 99BDB7C3
% Do you accept this certificate? [yes/no]: yes
Trustpoint CA certificate accepted.

peer2(config)#crypto pki enroll CA
%
% Start certificate enrollment ..
% Create a challenge password. You will need to verbally provide this
  password to the CA Administrator in order to revoke your certificate.
  For security reasons your password will not be saved in the configuration.
  Please make a note of it.
Password:
Re-enter password:
% The subject name in the certificate will include: CN=peer2
% The subject name in the certificate will include: peer2
% Include an IP address in the subject name? [no]:
Request certificate from CA? [yes/no]: yes
% Certificate request sent to Certificate Authority
% The 'show crypto pki certificate verbose CA' command will show the fingerprint.
Certificate map for Trustpoint
crypto pki certificate map data 1
issuer-name co cn = orange
```

### 2. 自己署名証明書を使用するトンネル認証

自己署名証明書を使用して認証を行う場合、そのデバイス上に自己署名証明書を生成する PKI トラストポイントを設定します。次の設定を使用します。

```
peer4(config)#crypto pki trustpoint Self
  enrollment selfsigned
  revocation-check none
  rsakeypair myRSA
  exit
crypto pki enroll Self

Do you want to continue generating a new Self Signed Certificate? [yes/no]: yes
% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]: yes
% Include an IP address in the subject name? [no]: no
Generate Self Signed Router Certificate? [yes/no]: yes

Router Self Signed Certificate successfully created
```

### 3. 事前共有キーを使用してトンネル認証を設定します。

```
crypto ikev2 keyring keys
peer peer1
```

```
identity key-id 1234
pre-shared-key key123
```

2. 1. 証明書の IKEv2 プロファイルを設定します。

```
crypto ikev2 profile IPROF
match certificate data
identity local key-id 5678
authentication remote rsa-sig
authentication local rsa-sig
keyring local keys
pki trustpoint self
nat force-encap
```

2. 事前共有キーの IKEv2 プロファイルを設定します。

```
crypto ikev2 profile IPROF
match identity remote any
identity local key-id 5678
authentication remote pre-share
authentication local pre-share
keyring local keys
nat force-encap
```



- (注) IKEv2 SA を設定するには、両方のピアで **nat force-encap** コマンドを設定する必要があります。UDP のカプセル化が SDP でネゴシエートされるので、IKEv2 はポート 4500 で開始し続行される必要があります。

3. IPsec プロファイルを設定します。

```
crypto ipsec profile IPROF
set security-association idle-time 2000
```

4. LAN 側インタフェースを設定します。

```
interface Vlan101
    ip address 10.3.3.3 255.255.255.0
    no shutdown
!
    interface GigabitEthernet2
        switchport access vlan 101
        no ip address
```

5. ループバック インターフェイスを設定します。

ループバック インターフェイスは、セカンダリ VPN トンネルの送信元インターフェイスとして使用されます。

```
interface loopback 1
    ip address 10.11.1.1 255.0.0.0
    ip nat inside
```

6. セカンダリ インターフェイスを設定します。



- (注) セカンダリ インターフェイスは、IP アドレス、SIP サーバアドレス、およびベンダー固有の情報を DHCP 経由で受信するように設定する必要があります。

```
interface GigabitEthernet8
 ip dhcp client request sip-server-address
 ip dhcp client request vendor-identifying-specific
 ip address dhcp
 ip nat outside
```

7. トンネル インターフェイスを設定します。

```
interface Tunnel1
 ip address 10.3.2.1 255.255.255.255
 load-interval 30
 tunnel source Loopback1
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel destination dynamic
 tunnel protection ipsec profile IPROF ikev2-profile IPROF
 vpn-sip local-number 5678 remote-number 1234 bandwidth 1000
```

**vpn-sip local-number local-number remote-number remote-number bandwidth bw-number** コマンドを使用して、SVTI インターフェイスに VPN-SIP を設定します。帯域幅とは、このピアとネゴシエートされる必要のある最大データ伝送速度のことで、ネゴシエートされた値がトンネル インターフェイスに設定されます。使用できる値は 64 Kbps、128 Kbps、256 Kbps、512 Kbps、および 1000 Kbps です。

VPN SIP 用に SVTI を設定した後で、トンネル モード、トンネルの接続先、トンネルの送信元、およびトンネル保護を変更することはできません。モード、送信元、接続先、またはトンネル保護を変更するには、その SVTI インターフェイスから VPN SIP 設定を削除する必要があります。

8. 接続先ネットワークにスタティックルートを追加します。

メトリックが高いセカンダリ ルートを追加します。

```
ip route 192.168.10.0 255.255.255.0 Tunnel0 track 1
ip route 192.168.10.0 255.255.255.0 Tunnel1 254
```

9. IP SLA を設定します。

```
ip sla 1
 icmp-echo 10.11.11.1
 threshold 500
 timeout 500
 frequency 2
 ip sla schedule 1 life forever start-time now
```

10. ルート トラッキングを設定します。

```
track 1 ip sla 1 reachability
```

11. VPN SIP を有効化します。

```
vpn-sip enable
vpn-sip local-number 5678 address ipv4 GigabitEthernet8
vpn-sip tunnel source Loopback1
vpn-sip logging
```

VPN SIP を設定するには、ローカルの SIP 番号とローカルアドレスを設定する必要があります。 **vpn-sip local-number SIP-number address ipv4 WAN-interface-name** コマンドを使用して、SIP コールに使用するローカル SIP 番号と、関連づけられた IPv4 アドレスを設定します。



- (注) IPv4 アドレスのみ設定できます。暗号モジュールはデュアル スタックをサポートしていません。
- バックアップ WAN インターフェイスのアドレスは、DHCP 割り当てに基づいて変わることがあります。

プライマリ WAN インターフェイスが機能している場合、VPN SIP トンネルの接続先はバックアップ WAN インターフェイスに設定され、トンネル インターフェイスが有効になります。トラフィックがトンネルインターフェイスにルーティングされる場合、接続先は SIP ネゴシエーションの SDP から学習されるピアの IP アドレスに設定されます。プライマリ WAN インターフェイスが失敗した場合、バック ルートがアクティブ化されれば、パケットはバックアップを介して sVTI にルーティングされます。



- (注) ループバック インターフェイスのアドレスにはルーティング不可能な未使用のアドレスを使用し、そのループバック インターフェイスは他のいかなる目的にも使用しないようにお勧めします。ループバック インターフェイスを設定すると、VPN SIP はこのインターフェイスに対するすべての更新プログラムをリッスンし、それらをブロックします。 **vpn-sip logging** コマンドにより、セッションの開始、終了、障害発生などのイベントに関する VPN-SIP モジュールのシステムロギングが有効になります。

## ローカル ルータの VPN SIP の確認

### 登録ステータスの確認

```
Peer1# show vpn-sip registration-status
SIP registration of local number 0388881001 : registered 10.6.6.50
```

### SIP レジストラの確認

```
Peer1#show vpn-sip sip registrar
```

Line	destination	expires(sec)	contact	transport	call-id
0388881001	example.com	2359	10.6.6.50	UDP	
3176F988-9EAA11E7-8002AFA0-8EF41435					

### VPN SIP ステータスの確認

```
Peer1#show vpn-sip session detail
VPN-SIP session current status
```

```

Interface: Tunnell
  Session status: SESSION_UP (I)
  Uptime          : 00:00:42
  Remote number   : 0388881001 =====> This is the Remote Router's SIP number
  Local number    : 0388882001 =====> Local router's SIP number
  Remote address:port: 10.6.6.49:50002
  Local address:port : 10.6.6.50:50001
  Crypto conn handle: 0x8000017D
  SIP Handle      : 0x800000C7
  SIP callID      : 1554
  Configured/Negotiated bandwidth: 64/64 kbps

```

### 暗号化セッションの確認

```

Peer1# show crypto session detail
Crypto session current status
Code: C - IKE Configuration mode, D - Dead Peer Detection
K - Keepalives, N - NAT-traversal, T - cTCP encapsulation
X - IKE Extended Authentication, F - IKE Fragmentation
R - IKE Auto Reconnect, U - IKE Dynamic Route Update
S - SIP Vpn-sip

Interface: Tunnell
Profile: IPROF
Uptime: 00:03:53
Session status: UP-ACTIVE
Peer: 10.6.6.49 port 4500 fvrf: (none) ivrf: (none)
      Phase1_id: 10.6.6.49
      Desc: (none)
      Session ID: 43
      IKEv2 SA: local 10.11.1.1/4500 remote 10.6.6.49/50002 Active
                Capabilities:S connid:1 lifetime:23:56:07 =====> Capabilities:S indicates this
is a SIP VPN_SIP Session
      IPSEC FLOW: permit ip 0.0.0.0/0.0.0.0 0.0.0.0/0.0.0.0
      Active SAs: 2, origin: crypto map
      Inbound:   #pkts dec'ed 6 drop 0 life (KB/Sec) 4222536/3366
      Outbound:  #pkts enc'ed 4 drop 0 life (KB/Sec) 4222537/3366

```

### IP NAT 変換の確認

```

Peer1#sh ip nat translations
Pro Inside global      Inside local      Outside local      Outside global
udp 2.2.2.2:4500       10.6.6.50:50001   10.6.6.49:50002   10.6.6.49:50002

```

### DHCP SIP 設定の確認

```

Peer9#show vpn-sip sip dhcp
SIP DHCP Info

SIP-DHCP interface: GigabitEthernet8

SIP server address:
Domain name:         dns:example.com

```

## VPN SIP の設定例

### 認証用自己署名証明書の使用

認証用の自己署名証明書を使用して VPN SIP を設定する例を次に示します。VPN SIP では、イニシエータとレスポンドのロールの違いはありません。ピアノード上の設定は、変更されたローカルの SIP 番号と同一になります。

```
// Self-signed certificate
crypto pki trustpoint selfCert
  rsakeypair myRSA
  enrollment selfsigned
  revocation-check none
!
crypto ikev2 profile vpn-sip-profile
  match identity remote any
  authentication local rsa-sig
  authentication remote rsa-sig
  pki trustpoint selfCert // Use same self-signed trustpoint for sign and verify
  nat force-encap
!
crypto ipsec profile vpn-sip-ipsec
  set security-association idle-time 120
!
vpn-sip enable
vpn-sip local-number 0388883001 address ipv4 GigabitEthernet1
vpn-sip tunnel source Loopback11
vpn-sip logging
!
// one tunnel per peer - configuration is for peer with a SIP-number of 0388884001
int tunnel0
  ip unnumbered loopback 0
  tunnel source loopback11
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel destination dynamic
  tunnel protection ipsec profile vpn-sip-ipsec ikev2-profile vpn-sip-profile
  vpn-sip local-number 0388883001 remote-number 0388884001 bandwidth 1000
!
// ip unnumbered of tunnel interfaces
int loopback 0
  ip address 10.21.1.1 255.255.255.255
!
int loopback11
  ip address 10.9.9.9 255.255.255.255
  ip nat inside
!
// one tunnel per peer - this is for peer with SIP-number 0388885001
int tunnell
  ip unnumbered loopback 0
  tunnel source loopback11
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel destination dynamic
  tunnel protection ipsec profile vpn-sip-ipsec ikev2-profile iprof
  vpn-sip sip-local 0388883001 sip-remote 0388885001 bandwidth 1000
!
interface GigabitEthernet8
  ip dhcp client request sip-server-address
  ip dhcp client request vendor-identifying-specific
  ip address dhcp
```

```

ip nat outside

// backup routes configured with higher AD so that these routes will be activated only
when primary path goes down. AD need to be chosen to be greater than that of primary
route.
ip route 10.0.0.0 255.0.0.0 tunnel 0 250
ip route 10.1.0.0 255.0.0.0 tunnel 0 250
ip route 10.2.0.0 255.0.0.0 tunnel 0 250
ip route 10.3.0.0 255.0.0.0 tunnel 0 250

```

## VPN SIP の DHCP の設定

### ホームゲートウェイ配下での接続

Cisco IOS XE リリース 17.11.1a から、ホームゲートウェイ (HGW) の背後に VPN-SIP 対応ルータをインストールできます。このインストールでは、HGW は、固定電話番号の代わりに Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を介してトンネルインターフェイスに内線番号を割り当てます。これにより、ネットワーク上のデータと音声を集約できます。これは、アナログデータとデジタルデータの両方で同じ物理加入者回線を共有する必要があるシナリオで役立ちます。

さらに、HGW のネットワーク仕様に準拠するために、VPN-SIP の DHCP には、`vendor-class-data DHCP` オプションを介して、HGW ネットワークへ接続する WAN 側インターフェイスの MAC アドレスが必要です。この設定では、デバイスは DHCP 要求の `vendor-class-data` オプションを介して、自身の WAN インターフェイスの MAC アドレスをホームゲートウェイネットワークに通知します。

#### サポートされている PID とファームウェア

次の表は、テストされた HGW の PID とファームウェアバージョンを示しています。シスコは、お客様の拠点に設置されている HGW または HGW の操作についてはサポートを提供していません。（訳注：ホームゲートウェイは NTT の資産としてお客様宅内に設置されるものであるためです）この機能を使用する前に、環境を確認することをお勧めします。

HGW PID	ファームウェアバージョン
RT-400NE	8.06
RT-400MI	09.00.0015
RT-400KI	08.00.0040
RT-500MI	08.00.0004
RT-500KI	08.00.0020
RX-600MI	01.00.0001
RX-600KI	01.00.0001

HGW PID	ファームウェアバージョン
OG410Xi	2.32
OG410Xa	2.32

## ホームゲートウェイ配下での接続

DHCP ローカル番号を設定すると、デバイスは DHCP 応答を受信するまで SIP 登録を遅延させます。デバイスは、DHCP サーバーが内線番号を提供することを想定しています。この内線番号は、SIP サーバーへの登録に使用されます。登録が成功し、デバイスが SIP サーバーとのセッションを開始すると、200 OK 応答を通じて、内線番号、外線番号、およびその他の使用可能な番号を受信します。



(注) 外線番号は、ルータをグローバルに識別する番号です。この外線番号は、データ接続を確立するためにも必要です。

DHCP 拡張により、データ接続には SIP シグナリングチャンネルと IPsec データ接続の 2 つのチャンネルがあります。データパケットにトンネル保護が必要な場合、SIP コールが開始されます。

VPN-SIP の DHCP を設定するには、次の手順を実行します。

## DHCP クライアントの有効化

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `interface type number`
4. `ip dhcp client request sip-server-address`
5. `ip dhcp client request vendor-identifying-specific`
6. `ip address dhcp`
7. `ip dhcp client vendor-class mac-address`
8. `ip nat outside`
9. `exit`



## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> 例： Router(config)# interface gigabitethernet 0/0	インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip dhcp client request sip-server-address</b> 例： Router(config-if)# ip dhcp client request sip-server-address	DHCP サーバーに SIP サーバーアドレスを要求するように DHCP クライアントを設定します。
ステップ 5	<b>ip dhcp client request vendor-identifying-specific</b> 例： Router(config-if)# ip dhcp client request vendor-identifying-specific	DHCP サーバーにベンダー固有の情報を要求するように DHCP クライアントを設定します。
ステップ 6	<b>ip address dhcp</b> 例： Router(config-if)# ip address dhcp	インターフェイス上で DHCP から IP アドレスを取得します。
ステップ 7	<b>ip dhcp client vendor-class mac-address</b> 例： Router(config-if)# ip dhcp client vendor-class mac-address	HGW の DHCP 仕様に準拠します。
ステップ 8	<b>ip nat outside</b> 例： Router(config-if)# ip nat outside	外部ネットワークにインターフェイスを接続します。
ステップ 9	<b>exit</b> 例： Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## DHCP クライアントを有効にする設定例

次に、DHCP クライアントを有効にするためのサンプルコードを示します。

```
interface GigabitEthernet 0/0/0
 ip dhcp client request sip-server-address
 ip dhcp client request vendor-identifying-specific
 ip address dhcp
 ip dhcp client vendor-class mac-address
 ip nat outside
```

## トンネリング認証の設定

サードパーティ証明書、自己署名証明書、または事前共有キー（PSK）を使用してトンネル認証を設定できます。トンネル認証を設定するには、次のいずれかのタスクを実行します。

### 証明書を使用したトンネル認証の設定

顧客のネットワーク内にある証明機関（CA）サーバから証明書を取得するためのトラストポイントを設定します。これはトンネル認証で必要です。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto pki trustpoint name**
4. **enrollment url url**
5. **serial-number**
6. **subject-name [subject-name]**
7. **revocation-check crl**
8. **rsakeypair**
9. **crypto pki authenticate CA**
10. **crypto pki enroll CA name**
11. **exit**

#### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル設定モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint name</b> 例： Router(config)# crypto pki trustpoint CA	トラストポイントおよび設定された名前を指定して、CA トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment url url1</b> 例： Router(ca-trustpoint)# enrollment url http://10.45.18.132/	ルータが証明書要求を送信する CA の URL を指定します。
ステップ 5	<b>serial-number</b> 例： Router(ca-trustpoint)# serial-number	<b>none</b> キーワードを指定した場合を除き、証明書要求でルータのシリアル番号を指定します。  証明書要求にシリアル番号を含めない場合は、 <b>none</b> キーワードを使用します。
ステップ 6	<b>subject-name [subject-name]</b> 例： Router(ca-trustpoint)# subject-name CN=peer2	証明書要求で使用される要求された情報カテゴリ名を指定します。情報カテゴリ名が指定されていない場合は、デフォルトの情報カテゴリ名である完全修飾ドメイン名 (FQDN) が使用されます。
ステップ 7	<b>revocation-check crl</b> 例： Router(ca-trustpoint)# revocation-check crl	証明書失効リスト (CRL) メカニズムを使用して証明書の有効性を確認します。
ステップ 8	<b>rsakeypair</b> 例： Router (ca-trustpoint)# rsakeypair peer2	トラストポイントのキーペアを提供します。
ステップ 9	<b>crypto pki authenticate CA</b> 例： Router(config)# crypto pki authenticate CA	CA の公開キーが含まれている CA の自己署名証明書を取得して、CA をルータに対して認証します。
ステップ 10	<b>crypto pki enroll CA name</b> 例： Router(config)# crypto pki enroll CA	証明書要求を生成し、コピーして証明書サーバーに貼り付けるために要求を表示します。  証明書要求にルータの FQDN および IP アドレスを含めるかどうかなどの登録情報を求められます。コンソール端末に証明書要求を表示するかについても選択できます。
ステップ 11	<b>exit</b> 例： Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 例：証明書を使用したトンネル認証の設定

これは、証明書を使用してトンネル認証を設定するためのサンプルコードです。

```
peer1(config)# crypto pki trustpoint CA
enrollment url http://10.45.18.132/
serial-number none
subject-name CN=peer2
revocation-check crl
rsa keypair peer2

peer2(config)# crypto pki authenticate CA
Certificate has the following attributes:
Fingerprint MD5: F38A9B4C 2D80490C F8E7581B BABE7CBD
Fingerprint SHA1: 4907CC36 B1957258 5DFE23B2 649E7DDA 99BDB7C3
% Do you accept this certificate? [yes/no]: yes
Trustpoint CA certificate accepted.

peer2(config)# crypto pki enroll CA
% Start certificate enrollment ..
% Create a challenge password. You will need to verbally provide this password to the
CA Administrator in order to revoke your certificate.
For security reasons your password will not be saved in the configuration. Please make
a note of it.
Password:
Re-enter password:
% The subject name in the certificate will include: CN=peer2
% The subject name in the certificate will include: peer2
% Include an IP address in the subject name? [no]:
Request certificate from CA? [yes/no]: yes
% Certificate request sent to Certificate Authority
% The 'show crypto pki certificate verbose CA' command will show the fingerprint.
Certificate map for Trustpoint
crypto pki certificate map data 1
issuer-name co cn = orange
```

## 自己署名証明書を使用したトンネル認証の設定

自己署名証明書を使用してトンネル認証を設定するには、**crypto pki trustpoint self** コマンドを実行します。このコマンドにより、デバイスで自己署名証明書を生成するためのPKIトラストポイントを設定できます。

```
Router(config)# crypto pki trustpoint self
enrollment self signed
revocation-check none
rsa keypair myRSA
exit

crypto pki enroll self
Do you want to continue generating a new Self Signed Certificate? [yes/no]: yes
% Include the router serial number in the subject name? [yes/no]: yes
% Include an IP address in the subject name? [no]: no
Generate Self Signed Router Certificate? [yes/no]: yes
Router Self Signed Certificate successfully created
```

## 事前共有キーを使用したトンネル認証の設定

### 手順の概要

#### 1. enable

2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 keyring keyring-name**
4. **peer name**
5. **address {ipv4-address [mask] | ipv6-addressprefix}**
6. **identity {address { ipv4-address | ipv6-address} | fqdn name | email email-id | key-id key-id}**
7. **pre-shared-key {local| remote} {0| 6| line}**
8. **exit**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 keyring keyring-name</b> 例： Router(config)# crypto ikev2 keyring kyr1	IKEv2 キーリングを定義し、IKEv2 キーリング コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>peer name</b> 例： Router(config-ikev2-keyring)# peer peer1	ピアまたはピアグループを定義し、IKEv2 キーリング コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>address {ipv4-address [mask]   ipv6-addressprefix}</b> 例： Router(config-ikev2-keyring-peer)# address 10.0.0.1 255.255.255.0	IP アドレスまたはピアの範囲を指定します。この IP アドレスが IKE エンドポイントアドレスであり、ID アドレスとは別個のものです。
ステップ 6	<b>identity {address { ipv4-address   ipv6-address}   fqdn name   email email-id   key-id key-id}</b> 例： Router(config-ikev2-keyring-peer)# identity key-id 1234	次の ID を使用して IKEv2 ピアを特定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子メール</li> <li>• [FQDN]</li> <li>• IPv4 アドレス</li> <li>• キー ID</li> </ul> <p>ID は IKEv2 レスポンド上のキー ルックアップにし か使用できません。</p>

例：事前共有キーを使用したトンネル認証の設定

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<b>pre-shared-key {local  remote} {0  6  line}</b> 例： Router(config-ikev2-keyring-peer)# pre-shared-key key123	ピアの PSK を指定します。 <b>local</b> キーワードまたは <b>remote</b> キーワードを入力し、非対称 PSK を指定します。デフォルトでは、PSK は対称です。
ステップ 8	<b>exit</b> 例： Router(config-ikev2-keyring-peer)# end	キーリング ピア コンフィギュレーション モードを終了して、コンフィギュレーションモードに戻ります。

## 例：事前共有キーを使用したトンネル認証の設定

これは、事前共有キーを使用してトンネル認証を設定するためのサンプルコードです

```
crypto ikev2 keyring keys
 peer p1
  identity key-id 0388881001
  pre-shared-key cisco
 !
 peer p2
  identity key-id 0388882002
  pre-shared-key cisco
 !
crypto ikev2 keyring HUB-KEY
 peer SPOKES
 address 0.0.0.0 0.0.0.0
 pre-shared-key cisco
```

## 証明書の IKEv2 プロファイルの設定

IKEv2 プロファイルの証明書を設定するには、**crypto ikev2 profile IPROF** コマンドを実行します。次に、証明書の IKEv2 プロファイルを設定するためのサンプルコードを示します。

```
Router(config)# crypto ikev2 profile IPROF-psk
 match identity remote any
 identity local key-id dhcp
 authentication remote pre-share
 authentication local pre-share
 keyring local keys
 nat force-encap
```

## IPsec プロファイルの設定

IPsec プロファイルを設定するには、**crypto ipsec profile IPROF** コマンドを実行します。次に、IPsec プロファイルを設定するためのサンプルコードを示します。

```
Router(config)# crypto ipsec profile IPROF
 set security-association idle-time 300
```

## VPN SIP を有効化します。

VPN-SIP 機能を有効にするには、**vpn-sip enable** コマンドを実行します。次に、VPN-SIP を有効にするサンプルコードを示します。

```
Router(config)# vpn-sip enable
vpn-sip local-number dhcp address ipv4 GigabitEthernet0/0/0
vpn-sip tunnel source Loopback1
```

## LAN 側インターフェイスの設定

LAN 側のインターフェイスを設定するには、**interface VLAN <interface>** コマンドを実行します。次に、LAN 側インターフェイスを設定するためのサンプルコードを示します。

```
Router(config)# interface GigabitEthernet2
ip address 192.0.2.3 255.255.255.0
no shutdown
```

## ループバック インターフェイスの設定

ループバック インターフェイスを設定するには、**interface loopback <number>** コマンドを実行します。次に、ループバックインターフェイスを設定するためのサンプルコードを示します。

```
Router(config)# interface Loopback1
ip address 10.255.255.3 255.255.255.0
ip nat inside
```

## トンネルインターフェイスの設定

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface tunnel *number***
4. **tunnel source {*ip-address* | *interface-type number*}**
5. **tunnel destination**
6. **tunnel protection IPsec profile *name***
7. **vpn-sip local-number dhcp remote-number bandwidth**
8. **exit**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 :	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface tunnel number</b> 例： Router(config)# interface tunnel1	トンネルインターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。 <i>number</i> 引数には、作成または設定するトンネルインターフェイスの数を指定します。作成可能なトンネルインターフェイスの数に制限はありません。
ステップ 4	<b>tunnel source {ip-address   interface-type number}</b> 例： Router(config-if)# ip address 12.12.12.12 255.255.255.255 tunnel source Loopback1	トンネルインターフェイスの送信元 IP アドレスまたは送信元インターフェイスタイプ番号を設定します。この手順では、 <b>tunnel protection IPsec profile</b> コマンドも使用するため、トンネル送信元として、IP アドレスではなくインターフェイスを指定する必要があります。
ステップ 5	<b>tunnel destination</b> 例： Router(config-if)# tunnel destination destination dynamic	トンネルの宛先を指定します。
ステップ 6	<b>tunnel protection IPsec profile name</b> 例： Router(config-if)# tunnel protection ipsec profile IPROF ikev2-profile IPROF-psk	トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。 <i>name</i> 引数には、IPsec プロファイルの名前を指定します。この値は、 <b>crypto IPsec profile &lt;name&gt;</b> コマンドで指定した値と同じである必要があります。
ステップ 7	<b>vpn-sip local-number dhcp remote-number bandwidth</b> 例： Router(config-if)# vpn-sip local-number dhcp remote-number 0388881001 bandwidth 1000	VPN-SIP のインターフェイスを設定します。帯域幅とは、このピアとネゴシエートされる必要のある最大データ伝送速度のことで、ネゴシエートされた値がトンネルインターフェイスに設定されます。使用できる値は、64 kbps、128 kbps、256 kbps、512 kbps、および 1000 kbps です。  (注) VPN SIP 用にインターフェイスを設定した後で、トンネルモード、トンネルの接続先、トンネルの送信元、およびトンネル保護を変更することはできません。モード、送信元、接続先、またはトンネル保護を変更するには、そのインターフェイスから VPN SIP 設定を削除する必要があります。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<b>exit</b> 例： Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 例：トンネルインターフェイスの設定

これは、トンネルインターフェイスを設定するためのサンプルコードです。

```
Router(config)# interface Tunnel1
ip address 10.12.12.12 255.255.255.255
tunnel source Loopback1
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel destination dynamic
tunnel protection ipsec profile IPROF ikev2-profile IPROF-psk
vpn-sip local-number dhcp remote-number 0388881001 bandwidth 1000
!
interface Tunnel10
ip address 10.20.20.21 255.255.255.255
tunnel source Loopback1
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel destination dynamic
tunnel protection ipsec profile IPROF ikev2-profile IPROF-psk
vpn-sip local-number dhcp remote-number 0388882002 bandwidth 100
```

## VPN-SIP での DHCP 設定の確認

次の show コマンドの出力は、VPN-SIP の DHCP が HGW の背後にある Cisco IOS XE ルータで正常に設定されているかどうかを確認する方法を示しています。

```
Router_behind_HGW# show vpn-sip sip dhcp
SIP DHCP Info
SIP-DHCP interface: GigabitEthernet 0/0/0
SIP server address: ipv4:192.168.1.1
Domain name: dns:ntt-east.ne.jp

Router_behind_HGW# show vpn-sip registration-status
SIP registration of local number dhcp : registered 192.168.1.200
Local dynamic number via dhcp[3], via SIP[0398765432]

Router_behind_HGW# show vpn-sip sip registrar
Line destination expires(sec) contact
transport call-id
=====
3 ntt-east.ne.jp 2439 192.168.1.20
UDP FFFFFFFFCCE6C415-5D8611ED-FFFFFFFF810AE9D4-FFFFFFFD

Router_behind_HGW# show vpn-sip session detail
VPN-SIP session current status
Interface: Tunnel0
Session status: SESSION_UP (I)
Uptime : 00:00:37
Remote number : 0387654321
Local number : dhcp
Remote address:port: aaa.bbb.ccc.ddd:27129
Local address:port : 192.168.1.200:50026
Crypto conn handle: 0x4000003D
SIP Handle : 0x4000001B
```

```

SIP callID          : 301
Configured/Negotiated bandwidth: 256/256 kbps
Applied service policy:

Router_behind_HGW# show crypto session
Crypto session current status
Interface: Tunnel0
Profile: IPROF
Session status: UP-ACTIVE
Peer: aaa.bbb.ccc.ddd port 27129
Session ID: 26
IKEv2 SA: local 10.255.255.1/4500 remote aaa.bbb.ccc.ddd/27129 Active
IPSEC FLOW: permit ip 0.0.0.0/0.0.0.0 0.0.0.0/0.0.0.0
Active SAs: 2, origin: crypto map

Router_behind_HGW# show crypto ikev2 sa
IPv4 Crypto IKEv2 SA

Tunnel-id Local Remote fvrf/ivrf
Status
1 10.255.255.1/4500 aaa.bbb.ccc.ddd/27129 none/none
READY
Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH
Grp:19, Auth sign: PSK, Auth verify: PSK
Life/Active Time: 86400/86 sec
CE id: 1022, Session-id: 22
Local spi: 59E8EED28441BC32
Remote spi: B5487716A19873BE
IPv6 Crypto IKEv2 SA

Router_behind_HGW# show crypto ipsec sa

interface: Tunnel0
Crypto map tag: Tunnel0-head-0, local addr 10.255.255.1
protected vrf: (none)
local ident (addr/mask/prot/port): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
remote ident (addr/mask/prot/port): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
current_peer aaa.bbb.ccc.ddd port 27129
PERMIT, flags={origin_is_acl,}
#pkts encaps: 4, #pkts encrypt: 4, #pkts digest: 4
#pkts decaps: 4, #pkts decrypt: 4, #pkts verify: 4
#pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
#pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
#pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
#send errors 0, #recv errors 0

local crypto endpt.: 10.255.255.1, remote crypto endpt.:
aaa.bbb.ccc.ddd
plaintext mtu 1422, path mtu 1500, ip mtu 1500, ip mtu idb
GigabitEthernet0/0/0
current outbound spi: 0xE0F51D37(3774160183)
PFS (Y/N): N, DH group: none

inbound esp sas:
spi: 0x493D896(76798102)
transform: esp-aes esp-sha-hmac ,
in use settings = {Tunnel UDP-Encaps, }
conn id: 2044, flow_id: ESG:44, sibling_flags FFFFFFFF80004048,
crypto map: Tunnel0-head-0, initiator : True
sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4607999/3509)
IV size: 16 bytes
replay detection support: Y
Status: ACTIVE(ACTIVE)

inbound ah sas:

```

```

inbound pcp sas:

outbound esp sas:
  spi: 0xE0F51D37(3774160183)
  transform: esp-aes esp-sha-hmac ,
  in use settings = {Tunnel UDP-Encaps, }
  conn id: 2043, flow_id: ESG:43, sibling_flags FFFFFFFF80004048,
crypto map: Tunnel0-head-0, initiator : True
  sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4607999/3509)
  IV size: 16 bytes
  replay detection support: Y
  Status: ACTIVE(ACTIVE)
outbound ah sas:
outbound pcp sas:

Router_behind_HGW# show ip nat translations
Pro  Inside global      Inside local      Outside local
-----
udp  192.168.1.200:50269  10.255.255.1:4500  aaa.bbb.ccc.ddd:23060
aaa.bbb.ccc.ddd:23060
Total number of translations: 1

```

## VPN SIP のトラブルシューティング

**show** コマンドの出力にトンネルインターフェイスを表示する

症状

Show VPN-SIP セッションにトンネルインターフェイスの情報が表示されません。次の例では、トンネルインターフェイスである `tunnel1` の情報が表示されていません。

```

Peer5-F#show vpn-sip session
VPN-SIP session current status

Interface: Tunnel2
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0334563333
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 0.0.0.0:0
  Local address:port : 192.30.18.22:0

Interface: Tunnel3
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0323452222
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 0.0.0.0:0
  Local address:port : 192.30.18.22:0

Interface: Tunnel4
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0612349999
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 0.0.0.0:0
  Local address:port : 192.30.18.22:0

Interface: Tunnel6
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0634567777

```

```

Local number : 0623458888
Remote address:port: 0.0.0.0:0
Local address:port : 172.30.18.22:0

```

### 考えられる原因

そのトンネル インターフェイスに VPN SIP が設定されていません。

```

Peer5-F#sh run int tun1
Building configuration...

```

```

Current configuration : 201 bytes
!
interface Tunnel1
 ip address 10.5.5.5 255.0.0.0
 tunnel source Loopback11
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel destination dynamic
 tunnel protection ipsec profile test-prof ikev2-profile test
end

```

### 推奨処置

そのトンネル インターフェイスに VPN SIP を設定します。

:

```

Peer5-F#show running interface tunnel 1
Building configuration...

```

```

Current configuration : 278 bytes
!
interface Tunnel1
 ip address 10.5.5.5 255.255.255.255
 tunnel source Loopback11
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel destination dynamic
 tunnel protection ipsec profile test-prof ikev2-profile test
 vpn-sip local-number 0623458888 remote-number 0312341111 bandwidth 1000
end

```

次に、上記のシナリオを実行した出力を示します。

```

Peer5-F#show vpn-sip session detail
VPN-SIP session current status

```

```

Interface: Tunnel1
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0312341111
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 0.0.0.0:0
  Local address:port : 172.30.18.22:0

  Crypto conn handle: 0x8000002C
  SIP Handle         : 0x0
  SIP callID         : --
  Configured/Negotiated bandwidth: 1000/0 kbps

```

```

Interface: Tunnel2
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0334563333
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 0.0.0.0:0
  Local address:port : 172.30.18.22:0

```

```

Crypto conn handle: 0x80000012
SIP Handle       : 0x0
SIP callID      : --
Configured/Negotiated bandwidth: 512/0 kbps

Interface: Tunnel3
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0323452222
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 0.0.0.0:0
  Local address:port : 172.30.18.22:0
  Crypto conn handle: 0x80000031
  SIP Handle     : 0x0
  SIP callID    : --
  Configured/Negotiated bandwidth: 512/0 kbps

Interface: Tunnel4
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0612349999
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 0.0.0.0:0
  Local address:port : 172.30.18.22:0
  Crypto conn handle: 0x8000002F
  SIP Handle     : 0x0
  SIP callID    : --
  Configured/Negotiated bandwidth: 1000/0 kbps

Interface: Tunnel6
  Session status: READY_TO_CONNECT
  Remote number : 0634567777
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 0.0.0.0:0
  Local address:port : 172.30.18.22:0
  Crypto conn handle: 0x80000026
  SIP Handle     : 0x0
  SIP callID    : --
  Configured/Negotiated bandwidth: 1000/0 kbps

```

## SIP 登録ステータスのトラブルシューティング

### 症状

SIP 登録ステータスが登録されていません。

```

Peer5#show vpn-sip sip registrar
Line      destination      expires(sec)  contact
transport call-id
=====
Peer5-F#show vpn-sip registration-status

SIP registration of local number 0623458888 : not registered

```

### 考えられる原因

その WAN インターフェイスに IP アドレスが設定されていません。

```

Peer5#show ip interface brief
Interface      IP-Address      OK? Method Status Protocol
GigabitEthernet0/0  unassigned     YES unset  down   down
GigabitEthernet0/1  unassigned     YES unset  up     up
GigabitEthernet0/2  unassigned     YES unset  down   down
GigabitEthernet0/3  unassigned     YES unset  down   down

```

```

GigabitEthernet0/4      unassigned      YES unset  up
GigabitEthernet0/5      10.5.5.5        YES manual up
Vlan1                   10.45.1.5       YES NVRAM  up
NVI0                    10.1.1.1        YES unset  up
Loopback1               10.1.1.1        YES NVRAM  up
Loopback5               10.5.5.5        YES NVRAM  administratively down
Loopback11              10.11.11.11    YES NVRAM  up
Tunnel1                 10.5.5.5        YES NVRAM  up
Tunnel2                 10.2.2.2        YES NVRAM  up
Tunnel3                 10.3.3.3        YES NVRAM  up
Tunnel4                 10.4.4.4        YES NVRAM  up
Tunnel6                 10.8.8.8        YES NVRAM  up

```

```

Peer5-F#show run interface gigabitEthernet 0/4
Building configuration...

```

```

Current configuration : 213 bytes
!
interface GigabitEthernet0/4
 ip dhcp client request sip-server-address
 ip dhcp client request vendor-identifying-specific
 no ip address          =====> no IP address
 ip nat outside
 ip virtual-reassembly in
 duplex auto
 speed auto
end

```

#### 推奨処置

**ip address dhcp** コマンドを使用してインターフェイスの IP アドレスを設定する。

```

Peer5-F#show running-config interface gigabitEthernet 0/4
Building configuration...

```

```

Current configuration : 215 bytes
!
interface GigabitEthernet0/4
 ip dhcp client request sip-server-address
 ip dhcp client request vendor-identifying-specific
 ip address dhcp          =====> configure IP address DHCP
 ip nat outside
 ip virtual-reassembly in
 duplex auto
 speed auto
end

```

```

Peer5-F#show ip interface brief
Interface      IP-Address      OK? Method Status      Protocol
GigabitEthernet0/0      unassigned      YES unset  down       down
GigabitEthernet0/1      unassigned      YES unset  up         up
GigabitEthernet0/2      unassigned      YES unset  down       down
GigabitEthernet0/3      unassigned      YES unset  down       down
GigabitEthernet0/4      172.30.18.22   YES DHCP   up         up
GigabitEthernet0/5      10.5.5.5        YES manual up         up
Vlan1             10.45.1.5       YES NVRAM  up         up
NVI0              10.1.1.1        YES unset  up         up
Loopback1         10.1.1.1        YES NVRAM  up         up
Loopback5         10.5.5.5        YES NVRAM  administratively down
Loopback11        10.11.11.11    YES NVRAM  up         up
Tunnel1           10.6.5.5        YES NVRAM  up         down
Tunnel2           10.2.2.2        YES NVRAM  up         down
Tunnel3           10.3.3.3        YES NVRAM  up         down
Tunnel4           10.4.4.4        YES NVRAM  up         down

```

```
Tunnel6                10.8.8.8                YES NVRAM up                down
```

```
Peer5-F#show vpn-sip sip registrar
Line      destination      expires(sec)  contact
transport call-id
=====
062345888 example.com      2863          172.30.18.22
UDP       1E83ECF0-AF0611E7-802B8FCF-594EB9E7@122.50.18.22
```

```
Peer5-F#show vpn-sip registration-status
```

```
SIP registration of local number 0623458888 : registered 172.30.18.22
```

## Negotiating IKE 状態でのセッション停止

症状

Negotiating IKE 状態で VPN SIP セッションが停止します。

```
Peer5#show vpn-sip session remote-number 0612349999 detail
VPN-SIP session current status
```

```
Interface: Tunnel4
  Session status: NEGOTIATING_IKE (R)
  Uptime        : 00:00:58
  Remote number : 0612349999
  Local number  : 0623458888
  Remote address:port: 172.30.168.3:24825
  Local address:port : 172.30.18.22:50012
  Crypto conn handle: 0x8000002E
  SIP Handle     : 0x8000000C
  SIP callID     : 16
  Configured/Negotiated bandwidth: 1000/1000 kbps
```

考えられる原因

IKEv2 関連の設定が不適切です。

次の例では、キーリングで設定されているキー ID が、リモートピアの SIP 番号と一致していません。

```
Peer5-F#show running-config interface tunnel 4
Building configuration...

Current configuration : 276 bytes
!
interface Tunnel4
 ip address 10.4.4.4 255.0.0.0
 tunnel source Loopback11
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel destination dynamic
 tunnel protection ipsec profile test-prof ikev2-profile test
 VPN-SIP local-number 0623458888 remote-number 0612349999 bandwidth 1000 ====> Remote
 number mentioned here doesn't match the remote number in the keyring
end

IKEv2 Keyring configs:
!
crypto ikev2 keyring keys
 peer peer1
  identity key-id 0312341111
  pre-shared-key psk1
```

```

!
peer abc
  identity key-id 0345674444
  pre-shared-key psk1
!
peer peer2
  identity key-id 0334563333
  pre-shared-key psk10337101690
!
peer peer6
  identity key-id 0634567777
  pre-shared-key cisco123
!
peer peer3
  identity key-id 0323452222
  pre-shared-key cisco123
!
peer peer4
  identity key-id 0645676666
  pre-shared-key psk1
!
peer NONID
  identity fqdn example.com
  pre-shared-key psk1
!
!
!
crypto ikev2 profile test
  match identity remote any
  identity local key-id 0623458888
  authentication remote pre-share
  authentication local pre-share
  keyring local keys
  dpd 10 6 periodic
  nat force-encap

```

### 推奨処置

キーリングの設定を修正します。

```

crypto ikev2 keyring keys
peer peer1
  identity key-id 0312341111
  pre-shared-key psk1
!
peer abc
  identity key-id 0345674444
  pre-shared-key psk1
!
peer peer2
  identity key-id 0334563333
  pre-shared-key psk1
!
peer peer6
  identity key-id 0634567777
  pre-shared-key psk1
!
peer peer3
  identity key-id 0323452222
  pre-shared-key psk1
!
peer peer4
  identity key-id 0612349999
  pre-shared-key psk1
!

```



```

peer NONID
  identity fqdn example.com
  pre-shared-key psk1
!
!
crypto ikev2 profile test
  match identity remote any
  identity local key-id 0623458888
  authentication remote pre-share
  authentication local pre-share
  keyring local keys
  dpd 10 6 periodic
  nat force-encap
!

Peer5-F#show vpn-sip session remote-number 0612349999 detail
VPN-SIP session current status

Interface: Tunnel4
  Session status: SESSION_UP (R)
  Uptime          : 00:02:04
  Remote number   : 0612349999
  Local number    : 0623458888
  Remote address:port: 172.30.168.3:24845
  Local address:port : 172.30.18.22:50020
  Crypto conn handle: 0x8000004E
  SIP Handle      : 0x80000014
  SIP callID      : 24
  Configured/Negotiated bandwidth: 1000/1000 kbps

```

## セッション開始のトラブルシューティング

### 症状

セッションが開始せず、Negotiating IKE 状態で停止します。

### 考えられる原因

大きな PKI 証明書が IKE 認証メッセージに含まれている状況で、IKE パケットがフラグメンテーションを起こしています。

### 推奨処置

ルータに IKEv2 フラグメンテーションを設定します。

### debug コマンド

次のデバッグ コマンドを VPN SIP 設定のデバッグに使用できます。

表 213: デバッグ コマンド

コマンド名	説明
<b>debug vpn-sip event</b>	VPN SIP を使用した SVTI 登録、SIP 登録、コールセットアップなどのデバッグメッセージを出力します。

コマンド名	説明
<b>debug vpn-sip errors</b>	初期化、登録、コールセットアップなどの最中にエラーが発生した場合にのみ、エラーメッセージを出力します。
<b>debug vpn-sip sip all</b>	すべての SIP デバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip calls</b>	SIP SPI コールのデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip dhcp</b>	SIP DHCP デバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip error</b>	SIP エラーのデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip events</b>	SIP イベントのデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip feature</b>	機能レベルでのデバッグを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip function</b>	SIP 機能のデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip info</b>	SIP 情報のデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip level</b>	情報レベルでのデバッグを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip media</b>	SIP メディアのデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip messages</b>	SIP SPI メッセージのデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip non-call</b>	コール コンテキスト以外のトレース (OPTIONS、SUBSCRIBE など) を有効化します。
<b>debug vpn-sip sip preauth</b>	SIP 事前認証のデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip states</b>	SIP SPI 状態のデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip translate</b>	SIP 変換のデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip transport</b>	SIP トランスポートのデバッグ トレースを有効化します。
<b>debug vpn-sip sip verbose</b>	デバッグ モードを有効化します。

## VPN SIP に関する追加情報

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 6193 (制約事項付き)	セッション記述プロトコル (SDP) におけるIKEのメディア記述





## CHAPTER 159

# 失効したピア証明書の暗号セッションの削除

CRL ダウンロード時の失効したピア証明書の暗号セッションの削除機能は、新しい CRL のダウンロード中に証明書が失効していることが判明した場合にピアとのアクティブな暗号セッションを削除します。

- [失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する制約事項, on page 2285](#)
- [失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する情報, on page 2286](#)
- [失効したピア証明書の暗号セッションの削除のイネーブル化方法, on page 2286](#)
- [失効したピア証明書の暗号セッションを削除する設定例, on page 2288](#)
- [失効したピアの暗号セッションの削除に関する追加のリファレンス, on page 2289](#)
- [失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する機能情報, on page 2290](#)

## 失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する制約事項

- 失効チェックがオフで、この機能が有効になっている場合は、IKE データベースにセッション番号が入力されません。show 出力に、削除されたセッションに関する情報が表示されません。
- この機能を（デバイス上のアクティブセッションで）頻繁に有効化/無効化するのはお勧めできません。
- 同じ発行者名（CA サーバ）の CRL を頻繁にダウンロードする（30 分間隔）のはお勧めできません。
- CRL キャッシュを有効にする必要があります。CRL キャッシングをトラストポイントベースのプリフェッチに対して無効にすることはできません。ただし、CRL キャッシングを URL ベースのプリフェッチに対して無効にすることはできます。

- IKE 上の自動登録の場合は、セッションが次の IKE キー再生成まで削除されませんが、IKEv2 の場合は、トンネルを手動でクリアするか、証明書が失効するまで待つ必要があります。
- IKE が "issuer-name" と "SN" のデータベースを生成し、PKI から証明書の失効に関する通知を受け取ると、IKE がその PKI 通知を処理します。

## 失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する情報

### 暗号セッションの削除方法

1. 証明書認証経由でネゴシエートする場合は、ピアが CERT ペイロードをデバイスに送信し、デバイスが各証明書を解析してシリアル番号と発行者名に関する情報を保存します。この情報は、対応する CA サーバによって発行されたシリアル番号のリストを形成し、PKI に渡され、失効がチェックされます。
2. `revocation-check crl` コマンドがトラストポイント用に設定されている場合は、PKI が IKE に失効チェックの結果を伝達するため、IKE は不要なピア認定情報を保存せずに済みます。
3. CRL のダウンロードが成功すると、PKI が IKE に "issuer-name" を含む通知を送信します。CRL の署名と内容が検証されます。CRL の内容に変更がなければ、PKI は IKE に通知しません。
4. PKI が IKE に発行者名を通知すると、IKE は発行者名に関するシリアル番号のリストを作成して、そのリストを PKI に渡し、リスト内のシリアル番号が失効しているかどうかを検証されます。
5. PKI は IKE から渡されたシリアル番号のリストに対して失効チェックを実行し、ダウンロードした CRL に照らしてそのリストをチェックします。失効したシリアル番号のリストが IKE に返されます。
6. 失効したシリアル番号のリストを含む通知を PKI から受信すると、IKE はそのようなシリアル番号に関連付けられたセッションを特定して削除します。

## 失効したピア証明書の暗号セッションの削除のイネーブル化方法

### 暗号セッションの削除の有効化

このタスクは、失効した証明書の暗号セッションの削除を有効にするために実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear crypto session**
3. **configure terminal**
4. 次のいずれかを実行します。
  - **crypto isakmp disconnect-revoked-peers**
  - **crypto ikev2 disconnect-revoked-peers**
5. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>clear crypto session</b> <b>Example:</b> Device# clear crypto session	(任意) IPSec 暗号セッション、IKE、およびセキュリティ アソシエーションを削除します。  <b>Note</b> このコマンドは、以前確立したセッションの機能を有効にするために使用します。そうでない場合は、機能が新しいセッションでのみ有効になります。
ステップ 3	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかを実行します。  • <b>crypto isakmp disconnect-revoked-peers</b> • <b>crypto ikev2 disconnect-revoked-peers</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto isakmp disconnect-revoked-peers <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 disconnect-revoked-peers	証明書が失効したピアとの IKE または IKEv2 暗号セッションを切断します。  このコマンドを有効にするには、既存のセッションを再接続します。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 失効したピア証明書の暗号セッションの削除機能の確認

このタスクは、暗号セッションの削除機能が show 出力に表示されるかどうかを確認するために実行します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `show crypto isakmp peers`
3. `show crypto ikev2 session detail`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

---

##### ステップ 1 `enable`

**Example:**

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

##### ステップ 2 `show crypto isakmp peers`

**Example:**

```
Device# show crypto isakmp peers
```

Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) ピアの説明を表示します。

##### ステップ 3 `show crypto ikev2 session detail`

**Example:**

```
Device# show crypto ikev2 session detail
```

アクティブなインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) セッションのステータスを表示します。

---

## 失効したピア証明書の暗号セッションを削除する設定例

### 例：IKE セッションの暗号セッションの削除のイネーブル化

```
Device> enable
Device# clear crypto session
Device# configure terminal
```



```

Device(config)# crypto isakmp disconnect-revoked-peers
Device# show crypto isakmp peers

Peer: 150.1.1.2 Port: 500 Local: 150.1.1.1
Phase1 id: 150.1.1.2
Disconnect Revoked Peer: Enabled

```

## 例：IKEv2 セッションの暗号セッションの削除のイネーブル化

```

Device> enable
Device# clear crypto session
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ikev2 disconnect-revoked-peers
Device# show crypto ikev2 session detail

Session-id:1, Status:UP-ACTIVE, IKE count:1, CHILD count:1
Tunnel-id   Local                Remote                fvrf/ivrf           Status
1           10.0.0.1/500        10.0.0.2/500        (none)/(none)      READY
    Encr: 3DES, Hash: SHA96, DH Grp:2, Auth: PSK
    Life/Remaining/Active Time: 86400/86157/248 sec
    CE id: 0, Session-id: 1, MIB-id: 1
    Status Description: Negotiation done
    Local spi: 750CBE827434A245      Remote spi: 4353FEDBABEBF24C
    Local id: 10.0.0.1              Remote id: 10.0.0.2
    Local req mess id: 0             Remote req mess id: 0
    Local next mess id: 0           Remote next mess id: 2
    Local req queued: 0             Remote req queued: 0
    Local window: 5                 Remote window: 5
    DPD configured for 0 seconds
    NAT-T is not detected
    Disconnect Revoked Peer: Enabled
Child sa: local selector 10.0.0.1/0 - 10.0.0.1/65535
          remote selector 10.0.0.2/0 - 10.0.0.2/65535
          ESP spi in/out: 0x9360A95/0x6C340600
          CPI in/out: 0x9FE5/0xC776
          AH spi in/out: 0x0/0x0
          Encr: AES CBC, keysize: 128, esp_hmac: SHA96
          ah_hmac: Unknown - 0, comp: IPCOMP_LZS, mode tunnel

```

## 失効したピアの暗号セッションの削除に関する追加のリファレンス

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
IKE の設定	『Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs』
IKEv2 の設定	『Configuring Internet Key Exchange Version 2 and FlexVPN Site-to-Site』
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 214: 失効したピア証明書の暗号セッションの削除に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
CRLダウンロード時の失効したピア証明書の暗号セッションの削除		<p>CRLダウンロード時の失効したピア証明書の暗号セッションの削除機能は、新しいCRLのダウンロード中に証明書が失効していることが判明した場合にピアとのアクティブな暗号セッションを削除します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>crypto ikev2 disconnect-revoked-peers</b>、<b>crypto isakmp disconnect-revoked-peers</b>、<b>show crypto isakmp peers</b>、<b>show crypto ikev2 session detail</b></p>





## CHAPTER 160

# 暗号条件付きデバッグ サポート

暗号条件付きデバッグサポート機能では、新しいdebug コマンドが導入され、これらのコマンドにより、ユーザは、ピア IP アドレス、暗号エンジンの接続 ID、セキュリティパラメータインデックス (SPI) などの事前に定義された暗号条件に基づいて IP セキュリティ (IPSec) トンネルをデバッグできます。特定の IPsec 処理に限定してデバッグ メッセージを表示し、デバッグ出力の量を減らすことにより、多数のトンネルを使用するルータを効率的にトラブルシューティングできます。

- [暗号条件付きデバッグ サポートの前提条件, on page 2293](#)
- [暗号条件付きデバッグ サポートの制約事項, on page 2293](#)
- [暗号条件付きデバッグ サポートに関する情報, on page 2294](#)
- [暗号条件付きデバッグ サポートのイネーブル化方法, on page 2295](#)
- [暗号条件付きデバッグ CLI の設定例, on page 2298](#)
- [その他の参考資料, on page 2299](#)
- [暗号条件付きデバッグ サポートに関する機能情報, on page 2301](#)

## 暗号条件付きデバッグ サポートの前提条件

## 暗号条件付きデバッグ サポートの制約事項

- 条件付きデバッグは、特定のピアまたは機能に関連するインターネットキー交換 (IKE) および IPsec の問題をトラブルシューティングする際に役立ちますが、デバッグ条件が多すぎると、そのデバッグ条件を定義およびチェックできない場合があります。デバッグ条件値を保管するために空き領域が余分に必要となるため、CPU の処理オーバーヘッドが増加し、メモリ使用量も増加します。したがって、大量のトラフィックを処理するルータで暗号条件付きデバッグをイネーブルにする場合は、注意が必要です。

# 暗号条件付きデバッグ サポートに関する情報

## サポートされる条件タイプ

新しい暗号条件付きデバッグ CLI (**debug crypto condition**、**debug crypto condition unmatched**、**and show crypto debug-condition**) を使用すれば、条件 (フィルタ値) を指定して、指定した条件に関連するデバッグメッセージだけを生成して表示することができます。次の表に、サポートされる条件タイプを示します。



**Note** **ipv4** または **ipv6** キーワードを指定した **debug crypto condition peer** コマンドは、ハードウェアプラットフォーム固有のデバッグ出力を提供できます。残りの条件フィルタは、プラットフォーム固有のデバッグ出力を提供しません。

Table 215: 暗号デバッグ CLI でサポートされる条件タイプ

条件タイプ (キーワード)	説明
connid <sup>21</sup>	1 ~ 32766 の整数。現在の IPsec 処理で、この値が暗号エンジンのあるインターフェイスへの接続 ID として使用されている場合、関連するデバッグメッセージが表示されます。
FVRF	バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) ルーティング/転送 (VRF) インスタンスの名前を表す文字列。この VRF インスタンスが、現在の IPsec 処理で、前面扉 VRF (FVRF) として使用されている場合、関連するデバッグメッセージが表示されます。
ikev2	IKEv2 プロファイルの名前文字列。IKEv2 プロファイル名が指定された場合は、関連するデバッグメッセージが表示されます。
isakmp	ISAKMP プロファイルの名前文字列。ISAKMP プロファイル名が指定された場合は、関連するデバッグメッセージが表示されます。
IVRF	VRF インスタンスの名前を表す文字列。この VRF インスタンスが、現在の IPsec 処理で、内部 VRF (IVRF) として使用されている場合、関連するデバッグメッセージが表示されます。
local	IPv4 または IPv6 ローカルアドレスの名前文字列。
peer group	Unity グループ名を表す文字列。このグループ名をピアがアイデンティティとして使用している場合、関連するデバッグメッセージが表示されます。

条件タイプ (キーワード)	説明
peer hostname	完全修飾ドメイン名 (FQDN) を表す文字列。この文字列をピアがアイデンティティとして使用している場合、関連するデバッグメッセージが示されます (たとえば、ピアがこの FQDN 文字列を使用して IKE Xauth をイネーブルにする場合)。
peer ipv4 または peer ipv6	単一の IP アドレス。現在の IPsec 処理が、このピアの IP アドレスに関係している場合、関連するデバッグメッセージが表示されます。
peer subnet	ピアの IP アドレスの範囲を指定するサブネットおよびサブネットマスク。現在の IPsec ピアの IP アドレスが、指定したサブネット範囲に属する場合、関連するデバッグメッセージが表示されます。
peer username	ユーザ名を表す文字列。このユーザ名をピアがアイデンティティとして使用している場合、関連するデバッグメッセージが示されます (たとえば、ピアがこのユーザ名を使用して IKE 拡張認証 (Xauth) をイネーブルにする場合)。
session	暗号セッションに関する情報を提供します。
SPI	32 ビットの符号なし整数。現在の IPsec 処理がこの値を SPI として使用する場合、関連するデバッグメッセージが表示されます。
unmatched	コンテキスト情報が使用できない場合にデバッグメッセージを提供します。

<sup>21</sup> IPsec connid、flowid、または SPI をデバッグ条件として使用する場合、関連する IPsec フローに関するデバッグメッセージが生成されます。IPsec フローには、connid、flowid、および SPI が 2 つ (インバウンドとアウトバウンド) ずつ含まれています。各 2 つの connid、flowid、および SPI は、IPsec フローのデバッグメッセージをトリガーするデバッグ条件として使用できます。

## 暗号条件付きデバッグ サポートのイネーブル化方法

### 暗号条件付きデバッグ メッセージのイネーブル化

#### パフォーマンス上の考慮事項

- 暗号条件付きデバッグをイネーブルにする前に、使用するデバッグ条件タイプ (デバッグフィルタとしても知られる) および値を決める必要があります。デバッグメッセージの量は、定義する条件数によって異なります。



**Note** 多数のデバッグ条件を指定すると、CPU サイクルが消費され、ルータのパフォーマンスに悪影響を及ぼすことがあります。

- ルータによって条件付きデバッグが実行されるのは、最低 1 つのグローバル `crypto debug` コマンド (`debug crypto isakmp`、`debug crypto ipsec`、および `debug crypto engine`) がイネーブルに設定されている場合に限られます。この要件により、条件付きデバッグを使用していないときは、ルータのパフォーマンスに影響が出ないようにしています。

## 暗号条件付きデバッグのディセーブル化

暗号条件付きデバッグをディセーブルにするには、発行済みのグローバルな暗号デバッグ CLI を事前にディセーブルにする必要があります。その後で、条件付デバッグをディセーブルにできます。



**Note** `reset` キーワードを使用すると、設定されたすべての条件を同時にディセーブルにできます。

### SUMMARY STEPS

- `enable`
- `debug crypto condition [connid integer engine-id integer] [flowid integer engine-id integer] [fvrf string] [ivrf string] [peer [group string] [hostname string] [ipv4 ipaddress] [subnet subnet mask] [username string]] [spi integer] [reset]`
- `show crypto debug-condition {[peer] [connid] [spi] [fvrf] [ivrf] [unmatched]}`
- `debug crypto isakmp`
- `debug crypto ipsec`
- `debug crypto engine`
- `debug crypto condition unmatched [isakmp | ipsec | engine]`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p><code>enable</code></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router&gt; enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<p><code>debug crypto condition [connid integer engine-id integer] [flowid integer engine-id integer] [fvrf string] [ivrf string] [peer [group string] [hostname string] [ipv4</code></p>	<p>条件付きデバッグ フィルタを定義します。</p>



	Command or Action	Purpose
	<b>ipaddress</b> [ <b>subnet subnet mask</b> ] [ <b>username string</b> ] [ <b>spi integer</b> ] [ <b>reset</b> ] <b>Example:</b> Router# debug crypto condition connid 2000 engine-id 1	
ステップ 3	<b>show crypto debug-condition</b> {[ <b>peer</b> ] [ <b>connid</b> ] [ <b>spi</b> ] [ <b>fvrfl</b> ] [ <b>ivrf</b> ] [ <b>unmatched</b> ]} <b>Example:</b> Router# show crypto debug-condition spi	ルータ上ですでにイネーブルに設定されている暗号デバッグ条件を表示します。
ステップ 4	<b>debug crypto isakmp</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto isakmp	グローバル IKE デバッグをイネーブルにします。
ステップ 5	<b>debug crypto ipsec</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto ipsec	グローバル IPsec デバッグをイネーブルにします。
ステップ 6	<b>debug crypto engine</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto engine	グローバル暗号エンジンデバッグをイネーブルにします。
ステップ 7	<b>debug crypto condition unmatched</b> [ <b>isakmp</b>   <b>ipsec</b>   <b>engine</b> ] <b>Example:</b> Router# debug crypto condition unmatched ipsec	(任意) デバッグ条件をチェックするためのコンテキスト情報がない場合、デバッグ条件付き暗号メッセージを表示します。 オプションのキーワードを指定しない場合は、暗号関連のすべての情報が表示されます。

## 暗号エラー デバッグ メッセージのイネーブル化

暗号エラー デバッグ フィルタリングをイネーブルにするには、次の作業を実行する必要があります。

## デバッグ暗号エラー CLI

**debug crypto error** コマンドを有効にすると、エラーに関連するデバッグメッセージだけが表示されます。これにより、IKE ネゴシエーションなどの暗号処理がシステム内で失敗した理由を簡単に判別できます。



**Note** このコマンドをイネーブルにする場合は、グローバル暗号 **debug** コマンドがイネーブルに設定されていないことを確認してください。設定されていると、グローバル コマンドによってエラー関連のデバッグ メッセージが上書きされます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug crypto isakmp | ipsec | engine} error**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>debug crypto isakmp   ipsec   engine} error</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto ipsec error	暗号エリアに関するエラー デバッグ メッセージだけをイネーブルにします。

## 暗号条件付きデバッグ CLI の設定例

### 暗号条件付きデバッグのイネーブル化の例

次の例では、ピアの IP アドレスが 10.1.1.1、10.1.1.2、または 10.1.1.3 で、暗号エンジン 0 の接続 ID に 2000 が使用されている場合のデバッグ メッセージの表示例を示します。また、この例では、グローバルデバッグ暗号 CLI をイネーブルする方法と、**show crypto debug-condition** コマンドをイネーブルにして条件付きの設定を確認する方法も示します。

```
Router#
debug crypto condition connid 2000 engine-id 1
Router#
```

```

debug crypto condition peer ipv4 10.1.1.1
Router#
debug crypto condition peer ipv4 10.1.1.2
Router#
debug crypto condition peer ipv4 10.1.1.3
Router#
debug crypto condition unmatched
! Verify crypto conditional settings.
Router#
show crypto debug-condition
Crypto conditional debug currently is turned ON
IKE debug context unmatched flag:ON
IPsec debug context unmatched flag:ON
Crypto Engine debug context unmatched flag:ON
IKE peer IP address filters:
10.1.1.1 10.1.1.2 10.1.1.3
Connection-id filters:[connid:engine_id]2000:1,
! Enable global crypto CLIs to start conditional debugging.
Router#
debug crypto isakmp
Router#
debug crypto ipsec
Router#
debug crypto engine

```

## 暗号条件付きデバッグのディセーブル化の例

次の例では、すべての暗号条件付き設定をディセーブルにし、またこれらの設定がディセーブルになったことを確認する方法を示します。

```

Router#
debug crypto condition reset
! Verify that all crypto conditional settings have been disabled.
Router#
show crypto debug-condition
Crypto conditional debug currently is turned OFF
IKE debug context unmatched flag:OFF
IPsec debug context unmatched flag:OFF
Crypto Engine debug context unmatched flag:OFF

```

## その他の参考資料

ここでは、暗号条件付きデバッグ サポート機能に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IPSec および IKE 設定作業	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Internet Key Exchange for IPsec VPNs」の章
IPSec および IKE コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## 暗号条件付きデバッグ サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。





## CHAPTER 161

# IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6

IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 機能は、IPv6 ユニキャストトラフィックと IPv6 マルチキャストトラフィックの両方が保護された Generic Routing Encapsulation (GRE) を通過できるようにします。

- [IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の前提条件, on page 2303](#)
- [IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の制約事項, on page 2303](#)
- [IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 に関する情報, on page 2304](#)
- [IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の設定方法, on page 2305](#)
- [IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の設定例, on page 2313](#)
- [その他の参考資料, on page 2314](#)
- [IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 に関する機能情報, on page 2315](#)

## IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の前提条件

- この機能を有効にするには、IPv4 GRE トンネル上で IPsec トンネル保護を設定する必要があります。
- IPv6 マルチキャストを有効にするには、IPv6 マルチキャストルーティングを設定する必要があります。

## IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の制約事項

IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 機能は、IPv4 ポイントツーポイント GRE トンネル保護経由の IPv6 をサポートしますが、IPv4 mGRE トンネル保護経由の IPv6 はサポートしません。

## IPv4 GRE トンネル保護経路の IPv6 に関する情報

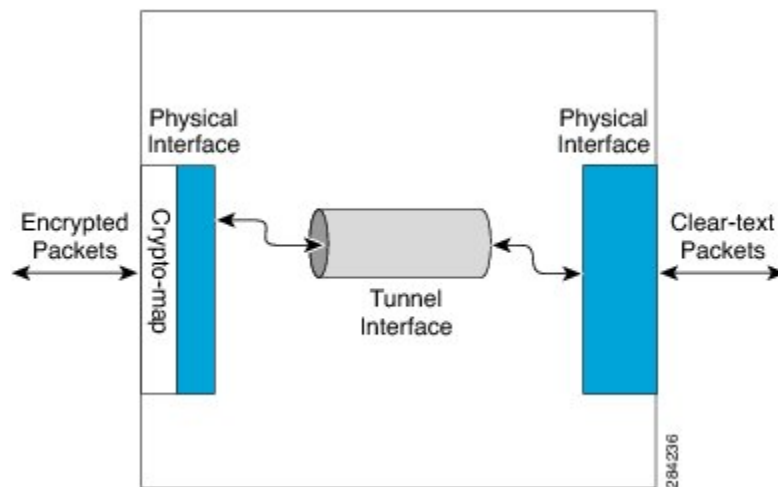
### IPsec を使用した GRE トンネル

Generic Routing Encapsulation (GRE) トンネルは、ときどき、IPsec と組み合わせて使用されます。これは、IPsec が IPv6 マルチキャストパケットをサポートしていないためです。これにより、ダイナミックルーティングプロトコルが IPsec VPN ネットワーク経路で正しく機能しません。GRE トンネルは IPv6 マルチキャストをサポートしているため、ダイナミックルーティングプロトコルを GRE トンネル経路で実行できます。ダイナミックルーティングプロトコルが GRE トンネル経路で設定されている場合は、IPsec を使用して GRE IPv6 マルチキャストパケットを暗号化できます。

IPsec は、クリプトマップまたはトンネル保護を使用して GRE パケットを暗号化できます。いずれの方法でも、GRE カプセル化の設定後に、IPsec 暗号化を実行するように指定されます。クリプトマップを使用している場合は、暗号化が GRE トンネルパケット用のアウトバウンド物理インターフェイスに適用されます。トンネル保護を使用している場合は、暗号化が GRE トンネルインターフェイス上で設定されます。

次の図に、物理インターフェイス上でクリプトマップを使用して、GRE トンネルインターフェイス経路でルータに入る暗号化されたパケットを示します。パケットは、復号化およびカプセル化解除されてから、クリアテキストとして IP 宛先に送られます。

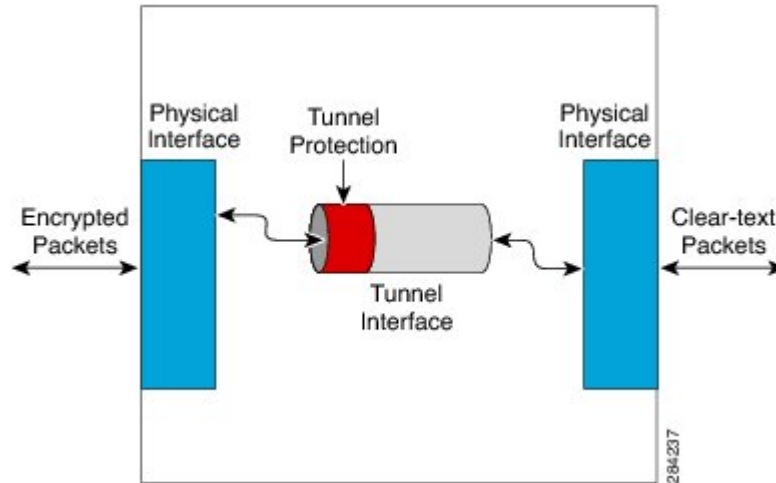
Figure 83: クリプトマップを使用した IPv4 GRE トンネル暗号化経路の IPv6 の設定



次の図に、GRE トンネルインターフェイス上で `tunnel protection` コマンドを使用した暗号化を示します。暗号化されたパケットは、トンネルインターフェイス経路でルータに入り、復号化およびカプセル化解除されてから、クリアテキストとして宛先に送られます。



Figure 84: トンネル保護を使用した IPv4 GRE トンネル暗号化経由の IPv6 の設定



クリプトマップ方式を使用した場合とトンネル保護方式を使用した場合の重要な違いを以下に示します。

- IPsec クリプト マップは、物理インターフェイスに関連付けられ、パケットが物理インターフェイスを通して転送される時にチェックされます。この時点で、パケットはすでに GRE トンネル内でカプセル化されています。
- トンネル保護は、暗号化機能を GRE トンネルに関連付け、パケットが GRE カプセル化されてから物理インターフェイスに転送されるまでの間にチェックされます。

## IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の設定方法

### クリプト マップを使用した IPv4 GRE 暗号化経由の IPv6 の設定

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 multicast-routing**
4. **ipv6 unicast-routing**
5. **interface type number**
6. **ipv6 address {ipv6-address/prefix-length | prefix-name sub-bits/prefix-length}**
7. **tunnel mode {aurp | cayman | dvmrp | eon | gre | gre multipoint | gre ip | gre ipv6 | ipip [decapsulate-any] | ipsec ipv4 | iptalk | ipv6 | ipsec ipv6 | mpls | nos | rbscp}**
8. **tunnel source {ip-address | ipv6-address | interface-typeinterface-number}**
9. **tunnel destination {hostname | ip-address | ipv6-address}**
10. **exit**
11. **crypto isakmp policy priority**

12. **authentication** {*rsa-sig* | *rsa-encr* | *pre-share*}
13. **hash** {*sha* | *md5*}
14. **group** {*1* | *2* | *5*}
15. **encryption** {*des* | *3des* | *aes 192* | *aes 256*}
16. **exit**
17. **crypto isakmp key** *enc-type-digit* *keystring* {*address peer-address* [*mask*] | **ipv6** {*ipv6-address/ipv6-prefix*} | *hostname hostname*} [**no-xauth**]
18. **crypto ipsec transform-set** *transform-set-name transform1* [*transform2*] [*transform3*] [*transform4*]
19. **access-list** *access-list-number* [**dynamic** *dynamic-name* [*timeout minutes*]] {**deny** | **permit**} *protocol source source-wildcard destination destination-wildcard* [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**] [**log** [*word*] | **log-input** [*word*]]
20. **crypto map** [**ipv6**] *map-name seq-num* [**ipsec-isakmp** [**dynamic** *dynamic-map-name* | **discover** | **profile** *profile-name*]]
21. **set peer** {*hostname* [**dynamic**] [**default**] | *ip-address* [**default**]}
22. **set transform-set** *transform-set-name* [*transform-set-name2...transform-set-name6*]
23. **match address** [*access-list-id* | *name*]
24. **exit**
25. **interface** *type number*
26. **crypto map** *map-name* [**redundancy** *standby-group-name* [**stateful**]]
27. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 multicast-routing</b>  <b>Example:</b> Router(config)# ipv6 multicast-routing	ルータのすべての IPv6 対応インターフェイス上で Protocol Independent Multicast (PIM) とマルチキャストリスナー検出 (MLD) を使用したマルチキャストルーティングを有効にして、マルチキャスト転送を有効にします。  • このコマンドは、IPv6 マルチキャストを使用している場合にのみ有効にします。IPv6 ユニキャストを使用している場合は、このコマンドを有効にしないようにする必要があります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b> Router(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト データグラムの転送を有効にします。
ステップ 5	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Router(config)# interface tunnel 10	トンネル インターフェイスおよび番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>ipv6 address {ipv6-address/prefix-length   prefix-name sub-bits/prefix-length}</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# ipv6 address 0:0:0:7272::72/64	IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 7	<b>tunnel mode {aurp   cayman   dvmrp   eon   gre   gre multipoint   gre ip   gre ipv6   ipip [decapsulate-any]   ipsec ipv4   iptalk   ipv6   ipsec ipv6   mpls   nos   rbscp}</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# tunnel mode gre ip	トンネル インターフェイスのカプセル化モードを設定します。
ステップ 8	<b>tunnel source {ip-address   ipv6-address   interface-typeinterface-number}</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# tunnel source ethernet0	トンネル インターフェイスの送信元アドレスを設定します。
ステップ 9	<b>tunnel destination {hostname   ip-address   ipv6-address}</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# tunnel destination 172.16.0.12	トンネル インターフェイスの宛先を指定します。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 11	<b>crypto isakmp policy priority</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp policy 15	インターネット キー エクスチェンジ (IKE) ポリシーを定義して、ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ポリシー番号 1 は、最もプライオリティが高いポリシーを示します。priority 引数値が低いほど、優先順位が高くなります。</li></ul>
ステップ 12	<b>authentication {rsa-sig   rsa-encr   pre-share}</b> <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# authentication pre-share	IKE ポリシー内の認証方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>rsa-sig</b> キーワードと <b>rsa-encr</b> キーワードは IPv6 でサポートされません。</li></ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 13	<b>hash</b> {sha   md5} <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# hash md5	IKE ポリシー内のハッシュ アルゴリズムを指定します。
ステップ 14	<b>group</b> {1   2   5} <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# group 2	IKE ポリシー内部での D-H グループの識別番号を指定します。
ステップ 15	<b>encryption</b> {des   3des   aes 192   aes 256} <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# encryption 3des	IKE ポリシー内の暗号化アルゴリズムを指定します。
ステップ 16	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# exit	ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 17	<b>crypto isakmp key</b> <i>enc-type-digit</i> <i>keystring</i> { <b>address</b> <i>peer-address</i> [ <i>mask</i> ]   <b>ipv6</b> { <i>ipv6-address</i> / <i>ipv6-prefix</i> }   <b>hostname</b> <i>hostname</i> } [ <b>no-xauth</b> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp key cisco-10 address 172.16.0.12 255.240.0.0	事前共有認証キーを設定します。
ステップ 18	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name</i> <i>transform1</i> [ <i>transform2</i> ] [ <i>transform3</i> ] [ <i>transform4</i> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto ipsec transform-set myset0 ah-sha-hmac esp-3des	トランスフォーム セットを定義します。
ステップ 19	<b>access-list</b> <i>access-list-number</i> [ <b>dynamic</b> <i>dynamic-name</i> [ <b>timeout</b> <i>minutes</i> ]] { <b>deny</b>   <b>permit</b> } <i>protocol</i> <i>source</i> <i>source-wildcard</i> <i>destination</i> <i>destination-wildcard</i> [ <b>precedence</b> <i>precedence</i> ] [ <b>tos</b> <i>tos</i> ] [ <b>time-range</b> <i>time-range-name</i> ] [ <b>fragments</b> ] [ <b>log</b> [ <i>word</i> ]   <b>log-input</b> [ <i>word</i> ]] <b>Example:</b> Router(config)# access-list 110 permit gre host 192.168.0.16 host 172.16.0.12	拡張 IP アクセス リストを定義します。
ステップ 20	<b>crypto map</b> [ <b>ipv6</b> ] <i>map-name</i> <i>seq-num</i> [ <b>ipsec-isakmp</b> [ <b>dynamic</b> <i>dynamic-map-name</i>   <b>discover</b>   <b>profile</b> <i>profile-name</i> ]] <b>Example:</b> Router(config)# crypto map mymap 10 ipsec-isakmp	新しいクリプト マップ エントリまたはプロファイルを作成し、クリプトマップコンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 21	<b>set peer</b> {hostname [dynamic] [default]   ip-address [default]} <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# set peer 10.0.0.1	クリプト マップ エントリ内の IP Security (IPsec) ピアを指定します。
ステップ 22	<b>set transform-set</b> transform-set-name [transform-set-name2...transform-set-name6] <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# set transform-set myset0	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。
ステップ 23	<b>match address</b> [access-list-id   name] <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# match address 102	クリプト マップ エントリの拡張アクセスリストを指定します。
ステップ 24	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# exit	クリプト マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 25	<b>interface</b> type number <b>Example:</b> Router(config)# interface ethernet 1	インターフェイスと番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 26	<b>crypto map</b> map-name [redundancy standby-group-name [stateful]] <b>Example:</b> Router(config-if)# crypto map mymap	定義済みのクリプト マップ セットをアウトバウンド インターフェイスに適用します。
ステップ 27	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## トンネル保護を使用した IPv4 GRE 暗号化経由の IPv6 の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 multicast-routing**
4. **ipv6 unicast-routing**
5. **crypto isakmp policy** priority
6. **authentication** {rsa-sig | rsa-encr | pre-share}
7. **hash** {sha | md5}
8. **group** {1 | 2 | 5}

9. **encryption** {des |3des |aes |aes 192 |aes 256}
10. **exit**
11. **crypto isakmp key** *enc-type-digit* *keystring* {**address** *peer-address* [*mask*] | **ipv6** {*ipv6-address/ipv6-prefix*} | **hostname** *hostname*} [**no-xauth**]
12. **crypto ipsec transform-set** *transform-set-name* *transform1* [*transform2*] [*transform3*] [*transform4*]
13. **crypto ipsec profile** *profile-name*
14. **set transform-set** *transform-set-name* [*transform-set-name2...transform-set-name6*]
15. **exit**
16. **interface** *type number*
17. **ipv6 address** {*ipv6-address / prefix-length* | *prefix-name sub-bits/prefix-length*}
18. **tunnel mode** {**aurp** | **cayman** | **dvmrp** | **eon** | **gre** | **gre multipoint** | **gre ip** | **gre ipv6** | **ipip**[**decapsulate-any**] | **ipsec ipv4** | **iptalk** | **ipv6** | **ipsec ipv6** | **mpls** | **nos** | **rbsep**}
19. **tunnel source** {*ip-address* | *ipv6-address* | *interface-type interface-number*}
20. **tunnel destination** {*hostname* | *ip-address* | *ipv6-address*}
21. **tunnel protection ipsec profile** *name* [**shared**]
22. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 multicast-routing</b> <b>Example:</b> Router(config)# ipv6 multicast-routing	ルータのすべての IPv6 対応インターフェイス上で Protocol Independent Multicast (PIM) とマルチキャストリスナー検出 (MLD) を使用したマルチキャストルーティングを有効にして、マルチキャスト転送を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>このコマンドは、IPv6 マルチキャストを使用している場合にのみ有効にします。IPv6 ユニキャストを使用している場合は、このコマンドを有効にする必要はありません。</li></ul>
ステップ 4	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b> Router(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト データグラムの転送を有効にします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>crypto isakmp policy</b> <i>priority</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp policy 15	IKE ポリシーを定義し、ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。  ポリシー番号1は、最もプライオリティが高いポリシーを示します。 <i>priority</i> 引数値が低いほど、優先順位が高くなります。
ステップ 6	<b>authentication</b> { <i>rsa-sig</i>   <i>rsa-encr</i>   <i>pre-share</i> } <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# authentication pre-share	インターネット キー エクスチェンジ (IKE) ポリシー内の認証方式を指定します。  • <b>rsa-sig</b> キーワードと <b>rsa-encr</b> キーワードは IPv6 でサポートされません。
ステップ 7	<b>hash</b> { <i>sha</i>   <i>md5</i> } <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# hash md5	IKE ポリシー内のハッシュ アルゴリズムを指定します。
ステップ 8	<b>group</b> { <i>1</i>   <i>2</i>   <i>5</i> } <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# group 2	IKE ポリシー内部での D-H グループの識別番号を指定します。
ステップ 9	<b>encryption</b> { <i>des</i>   <i>3des</i>   <i>aes</i>   <i>aes 192</i>   <i>aes 256</i> } <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# encryption 3des	IKE ポリシー内の暗号化アルゴリズムを指定します。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# exit	ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを終了します。続いて、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 11	<b>crypto isakmp key</b> <i>enc-type-digit</i> <i>keystring</i> { <i>address peer-address</i> [ <i>mask</i> ]   <i>ipv6</i> { <i>ipv6-address/ipv6-prefix</i> }   <i>hostname hostname</i> } [ <i>no-xauth</i> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp key cisco-10 address 172.16.0.12 255.240.0.0	事前共有認証キーを設定します。
ステップ 12	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name transform1</i> [ <i>transform2</i> ] [ <i>transform3</i> ] [ <i>transform4</i> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto ipsec transform-set myset0 ah-sha-hmac esp-3des	トランスフォーム セットを定義し、ルータを暗号化トランスフォーム コンフィギュレーション モードにします。
ステップ 13	<b>crypto ipsec profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto ipsec profile ipsecprof	2 つの IPsec ルータ間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 14	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> [ <i>transform-set-name2...transform-set-name6</i> ] <b>Example:</b> Router(ipsec-profile)# set transform-set myset0	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(ipsec-profile)# exit	IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 16	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b> Router(config)# interface tunnel 1	トンネル インターフェイス および 番号 を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 17	<b>ipv6 address</b> { <i>ipv6-address / prefix-length</i>   <i>prefix-name sub-bits/prefix-length</i> } <b>Example:</b> Router(config-if)# ipv6 address 3ffe:b00:c18:1::3/127	インターフェイスに割り当てられている IPv6 ネットワークを指定し、インターフェイスで IPv6 処理をイネーブルにします。
ステップ 18	<b>tunnel mode</b> { <i>aurp</i>   <i>cayman</i>   <i>dvmrp</i>   <i>eon</i>   <b>gre</b>   <b>gre multipoint</b>   <b>gre ip</b>   <b>gre ipv6</b>   <b>ipip</b> [ <i>decapsulate-any</i> ]   <b>ipsec ipv4</b>   <b>iptalk</b>   <b>ipv6</b>   <b>ipsec ipv6</b>   <b>mpls</b>   <b>nos</b>   <b>rbscp</b> } <b>Example:</b> Router(config-if)# tunnel mode gre ip	GRE IPv6 トンネルを指定します。
ステップ 19	<b>tunnel source</b> { <i>ip-address</i>   <i>ipv6-address</i>   <i>interface-type interface-number</i> } <b>Example:</b> Router(config-if)# tunnel source 10.0.0.1	トンネル インターフェイスの送信元アドレスまたは送信元インターフェイス タイプと番号を指定します。
ステップ 20	<b>tunnel destination</b> { <i>hostname</i>   <i>ip-address</i>   <i>ipv6-address</i> } <b>Example:</b> Router(config-if)# tunnel destination 172.16.0.12	トンネル インターフェイスの宛先アドレスまたはホスト名を指定します。
ステップ 21	<b>tunnel protection ipsec profile</b> <i>name</i> [ <i>shared</i> ] <b>Example:</b> Router(config-if)# tunnel protection ipsec profile ipsecprof	トンネル インターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>name</i> 引数には、IPsec プロファイルの名前を指定します。この値は、<b>crypto IPsec profile name</b> コマンドで指定した <i>name</i> と一致する必要があります。</li> <li>• <b>shared</b> キーワードを指定すると、同じトンネル送信元 IP を設定した複数のトンネル インターフェイス間で IPsec セッションを共有できるようになります。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> IPsec プロファイルのトンネル保護を変更する場合は、まずトンネルインターフェイスをシャットダウンする必要があります。変更が成功したら、トンネル設定を手動でオンにする必要があります。
ステップ 22	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 の設定例

### クリプト マップを使用した IPv4 GRE 暗号化経由の IPv6 の設定例

```

Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# ipv6 multicast-routing
Router(config)# ipv6 unicast-routing
Router(config)# interface tunnel 10
Router(config-if)# ipv6 address my-prefix 0:0:0:7272::72/64
Router(config-if)# tunnel mode gre ip
Router(config-if)# tunnel source ethernet0
Router(config-if)# tunnel destination 172.16.0.12
Router(config-if)# exit
Router(config)# crypto isakmp policy 15
Router(config-isakmp-policy)# authentication pre-share
Router(config-isakmp-policy)# hash md5
Router(config-isakmp-policy)# group 2
Router(config-isakmp-policy)# encryption 3des
Router(config-isakmp-policy)# exit
Router(config)# crypto isakmp key cisco-10 address 172.16.0.12 255.240.0.0
Router(config)# crypto ipsec transform-set myset0 ah-sha-hmac esp-3des
Router(config)# access-list 110 permit gre host 192.168.0.16 host 172.16.0.12
Router(config)# crypto map mymap 10 ipsec-isakmp
Router(config-crypto-map)# set peer 10.0.0.1
Router(config-crypto-map)# set transform-set myset0
Router(config-crypto-map)# match address 102
Router(config-crypto-map)# exit
Router(config)# interface ethernet1
Router(config-if)# crypto map mymap
Router(config-if)# end

```

### トンネル保護を使用した IPv4 GRE 暗号化経由の IPv6 の設定例

次に、IPv4 GRE トンネル上で IPsec トンネル保護を設定する例を示します。IPv6 マルチキャストルーティングは、**ipv6 multicast-routing** コマンドを使用して有効にします。

```

Router> enable
Router# configure terminal

```

```

Router(config)# ipv6 multicast-routing
Router(config)# ipv6 unicast-routing
Router(config)# crypto isakmp policy 15
Router(config-isakmp-policy)# authentication pre-share
Router(config-isakmp-policy)# hash md5
Router(config-isakmp-policy)# group 2
Router(config-isakmp-policy)# encryption 3des
Router(config-isakmp-policy)# exit
Router(config)# crypto isakmp key cisco-10 address 172.16.0.12 255.240.0.0
Router(config)# crypto ipsec transform-set myset0 ah-sha-hmac esp-3des
Router(config)# crypto ipsec profile ipsecprof
Router(ipsec-profile)# set transform-set myset0
Router(ipsec-profile)# exit
Router(config)# interface tunnel 1
Router(config-if)# ipv6 address 3ffe:b00:c18:1::3/127
Router(config-if)# tunnel mode gre ip
Router(config-if)# tunnel source 10.0.0.1
Router(config-if)# tunnel destination 172.16.0.12
Router(config-if)# tunnel protection ipsec profile ipsecprof
Router(config-if)# end

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IPv6 マルチキャスト ルーティング	『 <a href="#">IPv6 Implementation Guide</a> 』
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド: コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上の注意事項、および例	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R</a>』</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z</a>』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPv4 GRE トンネル保護経由の IPv6 に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。





## 第 162 章

# RFC 430x IPsec サポート

RFC 430x IPsec サポートには、RFC 4301 で規定されているインターネット キー エクスチェンジ (IKE) と IPsec の動作を実装する機能 (RFC 430x IPsec サポート フェーズ 1 およびフェーズ 2) が含まれます。

- [RFC 430x IPsec サポートに関する情報 \(2317 ページ\)](#)
- [RFC 430x IPsec サポートの設定方法 \(2318 ページ\)](#)
- [RFC 430x IPsec サポートの設定例 \(2322 ページ\)](#)
- [RFC 430x IPsec サポートに関する追加のリファレンス \(2323 ページ\)](#)
- [RFC 430x IPsec サポートに関する機能情報 \(2324 ページ\)](#)

## RFC 430x IPsec サポートに関する情報

### RFC 430x IPsec サポート フェーズ 1

RFC 430x IPsec サポートフェーズ 1 機能は、RFC 4301 で規定されているインターネット キー エクスチェンジ (IKE) と IPsec の動作を実装します。

RFC 4301 は IPsec に準拠したシステムの基本アーキテクチャを規定しています。RFC 4301 には、IPv4 と IPv6 の両方の環境で、IP レイヤのトラフィックに一連のセキュリティ サービスを提供する方法が記載されています。RFC 430x IPsec サポート フェーズ 1 機能は、Cisco IOS ソフトウェア上の次の RFC 4301 実装をサポートします。

- **Security association (SA) lifetime** : IPsec とインターネット キー エクスチェンジ (IKE) またはインターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 (IKEv2) 間のセキュリティ アソシエーションのライフタイムは認証証明書のライフタイムを超えないようにする必要があります。
- **OPAQUE selectors** : OPAQUE は、対応するセクタフィールドが検証に使用できないことを示します。IKEv2 が OPAQUE セクタに遭遇すると、IKEv2 はスキップして、OPAQUE セクタを処理せず、ポリシー検証のために次のセクタに移動します。
- **Explicit Congestion Notification (ECN) support** : ECN は、IPsec パケットの復号時に伝播されるため、パケットの送信元と宛先がネットワーク内で発生した輻輳を認識することが保証されます。

- **Fragment processing** : ピアは、同じトンネル内で初期フラグメントと非初期フラグメントを送信しないようにする必要があります。初期フラグメントと非初期フラグメントを伝送するためのトンネルモード SA と非初期フラグメント用のトンネルモード SA を分ける必要があります。IPsec ピアは、バイパストラフィックに適合するために、パケットの破棄とステートフルフラグメントチェックをサポートする必要があります。
- **Do not fragment-(DF) bit processing** : DF ビット処理は、SA 単位で設定する必要があります。
- **Dummy packet generation support** : トラフィックが IPsec SA トンネル経由で流れている場合に IPsec SA 経由でダミーパケットを送信してパケットをカプセル化できる必要があります。

## RFC 430x IPsec サポート フェーズ 2

RFC 430x IPsec サポート フェーズ 2 機能は、Cisco IOS ソフトウェア上の Internet Control Message Protocol (ICMP) パケットの暗号化と復号化の RFC 4301 実装をサポートします。

ICMP エラーが発生すると、ICMP エラーメッセージが送信されます。たとえば、ホストが到達不能の場合は、中間デバイスが ICMP 要求の発信元にホストが到達不能であることを示すメッセージを送信します。ICMP エラーメッセージが IPsec 暗号化ポリシーに届いた場合は、既存の SA と一致するように分類されない可能性があります。そのため、パケットは ICMP エラーメッセージ内のデータに基づいて分類されます。このデータには、元の ICMP メッセージの送信元アドレスと宛先アドレスが含まれています。SA が ICMP エラーメッセージ内のアドレスに基づいて検出された場合は、その SA が使用されます。SA が存在しない場合は、ポリシーで許可されていれば、SA が作成されます。復号化では、有効な SA が見つからない場合に、ICMP エラーメッセージ内のデータに基づいて復号化後チェックが実行されます。

ICMP エラーメッセージの暗号化と復号は、**show crypto ipsec sa** コマンドの出力に表示される暗号化カウンタと復号カウンタを通して確認できます。

## RFC 430x IPsec サポートの設定方法

### RFC 430x IPsec サポートのグローバル設定

このタスクは、RFC 4301 実装をグローバルに設定するために実行します。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec security-association dummy {pps rate | seconds seconds}**
4. **crypto ipsec security-association ecn {discard | propogate}**
5. **exit**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec security-association dummy {pps rate   seconds seconds}</b> 例： Device(config)# crypto ipsec security-association dummy seconds 5	IPsec トラフィック フロー内のダミーパケットの生成と送信を可能にします。
ステップ 4	<b>crypto ipsec security-association ecn {discard   propogate}</b> 例： Device(config)# crypto ipsec security-association ecn discard	IPsec トラフィック フロー内の明示的輻輳通知 (ECN) 設定を可能にします。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-crypto-map)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## クリプトマップ単位の RFC 430x IPsec サポートの設定

このタスクは、RFC 4301 実装をクリプトマップ単位で設定するために実行します。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map map-name seq-num ipsec-isakmp**
4. **set ipsec security-association dfbit {clear | copy | set}**
5. **set ipsec security-association dummy {pps rate | seconds seconds}**
6. **set ipsec security-association ecn {discard | propogate}**
7. **end**
8. **show crypto map ipsec sa**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map map-name seq-num ipsec-isakmp</b> 例： Device(config)# crypto map cmap 1 ipsec-isakmp	作成または変更するクリプトマップ エントリを指定して、クリプトマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set ipsec security-association dfbit {clear   copy   set}</b> 例： Device(config-crypto-map)# set ipsec security-association dfbit set	クリプトマップ内の IPsec トラフィックフローのセキュリティアソシエーション (SA) 単位の Do not Fragment (DF) ビット処理を有効にします。
ステップ 5	<b>set ipsec security-association dummy {pps rate   seconds seconds}</b> 例： Device(config-crypto-map)# set ipsec security-association dummy seconds 5	クリプトマップ内の IPsec トラフィックフロー用のダミーパケットの生成と送信を有効にします。
ステップ 6	<b>set ipsec security-association ecn {discard   propagate}</b> 例： Device(config-crypto-map)# set ipsec security-association ecn propagate	クリプトマップ内の IPsec トラフィックフロー用の SA 単位の明示的輻輳通知 (ECN) 設定を有効にします。
ステップ 7	<b>end</b> 例： Device(config-crypto-map)# end	クリプトマップ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>show crypto map ipsec sa</b> 例： Device# show crypto map ipsec sa	IPsec SA によって使用される設定を表示します。

## 例

次に、**show crypto map ipsec sa** コマンドの出力例を示します。



```
Device# show crypto map ipsec sa

interface: Tunnel0
  Crypto map tag: Tunnel0-head-0, local addr 3FFE:2002::32F7:DFF:FE54:7FD1
  protected vrf: (none)
  local ident (addr/mask/prot/port): (3FFE:2002::32F7:DFF:FE54:7FD1/128/47/0)
  remote ident (addr/mask/prot/port): (3FFE:2002::C671:FEFF:FE88:EB82/128/47/0)
  current_peer 3FFE:2002::C671:FEFF:FE88:EB82 port 500
    PERMIT, flags={origin_is_acl,}
  #pkts encaps: 36, #pkts encrypt: 36, #pkts digest: 36
  #pkts decaps: 28, #pkts decrypt: 28, #pkts verify: 28
  #pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
  #pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
  #pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
  #send errors 0, #recv errors 0
  #send dummy packets 852600, #recv dummy packets 424905

  local crypto endpt.: 3FFE:2002::32F7:DFF:FE54:7FD1,
  remote crypto endpt.: 3FFE:2002::C671:FEFF:FE88:EB82
  plaintext mtu 1430, path mtu 1500, ipv6 mtu 1500, ipv6 mtu idb GigabitEthernet0/0/1
  current outbound spi: 0xE963D1EC(3915633132)
  PFS (Y/N): N, DH group: none
  Dummy packet: Initializing

  inbound esp sas:
    spi: 0xF4E01B9A(4108327834)
      transform: esp-3des esp-md5-hmac,
      in use settings = {Tunnel, }
      conn id: 2053, flow_id: ESG:53, sibling_flags FFFFFFFF80000049, crypto map: Tunnel0-head-0

      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4608000/2343)
      IV size: 8 bytes
      replay detection support: Y
      Status: ACTIVE(ACTIVE)

  inbound ah sas:

  inbound pcp sas:

  outbound esp sas:
    spi: 0xE963D1EC(3915633132)
      transform: esp-3des esp-md5-hmac,
      in use settings = {Tunnel, }
      conn id: 2054, flow_id: ESG:54, sibling_flags FFFFFFFF80000049, crypto map: Tunnel0-head-0

      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4608000/2343)
      IV size: 8 bytes
      replay detection support: Y
      Status: ACTIVE(ACTIVE)

  outbound ah sas:

  outbound pcp sas:
```

## RFC 430x IPsec サポートの設定例

### 例：RFC 430x IPsec サポートのグローバル設定

次に、RFC 430x IPsec サポートをグローバルに設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ipsec security-association dummy seconds 15
Device(config)# crypto ipsec security-association ecn propogate
Device(config-crypto-map)# exit
```

### 例：クリプト マップ単位の RFC 430x IPsec サポートの設定

次に、RFC 430x IPsec サポートをクリプト マップ単位で設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto map cmap 1 ipsec-isakmp
Device(config-crypto-map)# set security-association copy
Device(config-crypto-map)# set security-association dummy seconds 15
Device(config-crypto-map)# set security-association ecn propogate
Device(config-crypto-map)# end
Device# show crypto map ipsec sa

interface: Tunnel0
  Crypto map tag: Tunnel0-head-0, local addr 3FFE:2002::32F7:DFF:FE54:7FD1
  protected vrf: (none)
  local ident (addr/mask/prot/port): (3FFE:2002::32F7:DFF:FE54:7FD1/128/47/0)
  remote ident (addr/mask/prot/port): (3FFE:2002::C671:FEFF:FE88:EB82/128/47/0)
  current_peer 3FFE:2002::C671:FEFF:FE88:EB82 port 500
    PERMIT, flags={origin_is_acl,}
  #pkts encaps: 36, #pkts encrypt: 36, #pkts digest: 36
  #pkts decaps: 28, #pkts decrypt: 28, #pkts verify: 28
  #pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
  #pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
  #pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
  #send errors 0, #recv errors 0
  #send dummy packets 852600, #recv dummy packets 424905

  local crypto endpt.: 3FFE:2002::32F7:DFF:FE54:7FD1,
  remote crypto endpt.: 3FFE:2002::C671:FEFF:FE88:EB82
  plaintext mtu 1430, path mtu 1500, ipv6 mtu 1500, ipv6 mtu idb GigabitEthernet0/0/1
  current outbound spi: 0xE963D1EC(3915633132)
  PFS (Y/N): N, DH group: none
  Dummy packet: Initializing

  inbound esp sas:
  spi: 0xF4E01B9A(4108327834)
    transform: esp-3des esp-md5-hmac,
    in use settings ={Tunnel, }
    conn id: 2053, flow_id: ESG:53, sibling_flags FFFFFFFF80000049, crypto map: Tunnel0-head-0

  sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4608000/2343)
  IV size: 8 bytes
```

```

replay detection support: Y
Status: ACTIVE (ACTIVE)

inbound ah sas:

inbound pcp sas:

outbound esp sas:
spi: 0xE963D1EC(3915633132)
transform: esp-3des esp-md5-hmac,
in use settings = {Tunnel, }
conn id: 2054, flow_id: ESG:54, sibling_flags FFFFFFFF80000049, crypto map: Tunnel0-head-0

sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4608000/2343)
IV size: 8 bytes
replay detection support: Y
Status: ACTIVE (ACTIVE)

outbound ah sas:

outbound pcp sas:

```

## RFC 430x IPsec サポートに関する追加のリファレンス

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z</a>』</li> </ul>
IKEv2 の設定	
推奨される暗号化アルゴリズム	『 <a href="#">Next Generation Encryption</a> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 4301	『 <a href="#">Security Architecture for the Internet Protocol</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RFC 430x IPsec サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 216: RFC430x IPsec サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
RFC430x IPsec サポート フェーズ 1		RFC 430x IPsec サポートフェーズ 1 機能は、RFC 4301 で規定されているインターネット キー エクスチェンジ (IKE) と IPsec の動作を実装します。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto ipsec security-association dummy, crypto ipsec security-association ecn, set ipsec security-association dfbit, set ipsec security-association dummy, set ipsec security-association ecn, show crypto map ipsec sa.</b>
RFC430x IPsec サポート フェーズ 2		RFC 430x IPsec サポートフェーズ 1 機能は、RFC 4301 で規定されているインターネット キー エクスチェンジ (IKE) と IPsec の動作を実装します。  この機能に関して変更または更新されたコマンドはありません。



## 第 **XIV** 部

### 統合脅威防御

- [Cisco Firepower Threat Defense for ISR](#) (2327 ページ)
- [Snort IPS](#) (2347 ページ)
- [Web フィルタリング](#) (2401 ページ)
- [統合脅威防御 \(UTD\) のマルチテナントの設定](#) (2425 ページ)





## 第 163 章

# Cisco Firepower Threat Defense for ISR

Cisco Firepower Threat Defense は、シスコの主要なネットワーク セキュリティ オプションです。ファイアウォール機能、モニタリング、アラート、侵入検知システム (IDS) などの総合的なセキュリティ機能を提供します。

ここでは、Cisco サービス統合型ルータ (ISR) でIDSを設定および導入する方法について説明します。

- [Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関する制限事項 \(2327 ページ\)](#)
- [Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関する情報 \(2327 ページ\)](#)
- [Cisco Firepower Threat Defense for ISR の導入方法 \(2331 ページ\)](#)
- [ISR での Cisco Firepower Threat Defense の設定例 \(2341 ページ\)](#)
- [IDS 検査の確認とモニタリング \(2343 ページ\)](#)
- [Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関するその他の参考資料 \(2345 ページ\)](#)
- [Cisco FirePOWER Threat Defense for ISR の機能に関する情報 \(2346 ページ\)](#)

## Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関する制限事項

- マルチキャストトラフィックは検査されません。
- IPv6 トラフィックはエクスポートできません。

## Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関する情報

### Cisco FirePOWER Threat Defense for ISR の概要

Cisco Firepower Threat Defense は、パケットフローの検査を強化する優れたセキュリティソリューションです。

Cisco Firepower Threat Defense ソリューションは、次の2つのエンティティで構成されています。

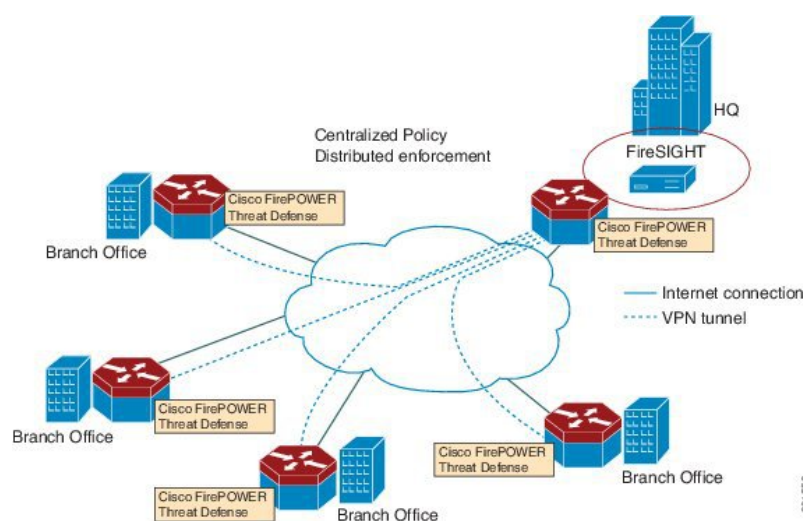
- Cisco FireSIGHT：ネットワーク内の任意の場所で実行できる一元化されたポリシーおよびレポートエンティティ。Cisco FireSIGHT は、Cisco FireSIGHT アプライアンスまたはサーバクラスマシンに仮想インストールしたもののいずれかになります。
- 仮想 Firepower センサー：ポリシーを実装し、イベントと統計情報を防御センターに送り返すセキュリティエンティティ。Firepower センサーは、Cisco 統合型コンピューティングシステム（UCS：Unified Computing System）E シリーズブレードでホストされます。FireSIGHT とセンサーの両方が仮想パッケージとして配布されます。

UCS E シリーズブレードは、第 2 世代（G2）Cisco サービス統合型ルータ（ISR）および Cisco ISR 4000 シリーズサービス統合型ルータ内に収容されている汎用ブレードサーバです。これらのブレードを、オペレーティングシステムのベアメタルとして、またはハイパーバイザの仮想マシンとして導入できます。ルータを UCS E シリーズブレードに接続する内部インターフェイスが 2 つあります。ISR G2 では、Slot0 は周辺機器相互接続エクスプレス（PCIe：Peripheral Component Interconnect Express）の内部インターフェイスであり、UCS E シリーズのスロット 1 はバックプレーンマルチギガビットファブリック（MGF：Multi Gigabit Fabric）に接続されたスイッチドインターフェイスです。Cisco ISR 4000 シリーズルータでは、両方の内部インターフェイスが MGF に接続されます。

ハイパーバイザが UCS E シリーズブレードにインストールされ、Cisco Firepower Threat Defense が仮想マシンとして実行されます。Cisco Firepower Threat Defense の OVA ファイルは、ハイパーバイザ オペレーティングシステムを使用して UCS E シリーズブレードに直接インストールされます。Cisco Firepower Threat Defense は、ルータとの追加の通信を行うことなく、匿名のインラインデバイスとして動作します。トラフィックは、入力物理インターフェイスから UCS E シリーズブレードで実行される Cisco Firepower Threat Defense に転送されます。

次の図は、Cisco Firepower Threat Defense の導入の概要を示しています。この図では、センサーと FireSIGHT の間のトラフィックの流れが制御接続となっています。パケットは、ルータの転送ルールを使用し、これらの接続を介してルーティングされます。

図 85：Cisco FirePOWER Threat Defense の導入概要





デフォルトでは、仮想 Cisco Firepower センサーには 3 つのインターフェイスがあり、1 つは管理用、残りの 2 つはトラフィック分析用です。これらのインターフェイスは、UCS E シリーズのインターフェイスにマッピングする必要があります。

## UCS ベースのホスティング

Cisco 統合型コンピューティングシステム (UCS) E シリーズブレードは、アプリケーションをホストするための汎用サーバブレードを提供します。このブレードは通常、VMware ESXi ハイパーバイザを実行し、他の VMWare 導入と同様に vSphere を介して管理されます。

Firepower センサーが Cisco UCS E シリーズブレードでホストされている場合は、Cisco Firepower Threat Defense に接続されている Cisco IOS インターフェイスを指定する必要があります。UCS E シリーズブレード内で実行されているアプリケーションは Cisco IOS との互換性が低いため、アプライアンスに接続されているインターフェイスを特定するには、インターフェイスのマッピングを実行する必要があります。Cisco UCS E シリーズブレードに接続するインターフェイスは、ブリッジ ドメインインターフェイス (BDI) です。

次の Cisco UCS E シリーズブレードは、Firepower センサーのホスティングに対応しています。

- UCS-E 120S
- UCS-E 140D
- UCS-E 140S
- UCS-E 160D
- UCS-E 180D

## Cisco Firepower Threat Defense における IDS パケットフロー

Cisco Firepower Threat Defense は、侵入検知システム (IDS) に対応しています。IDS モードでは、トラフィックがセンサーにコピーされ、脅威が分析されます。IDS モードではポリシーを適用できません。違反を検出して報告できます。IDS モードでは、トラフィックはインターフェイスから複製され、Cisco UCS E シリーズブレードで実行される Cisco Firepower Threat Defense にリダイレクトされます。

IDS はトラフィックをコピーし、脅威を検出するためそのトラフィックを分析します。次のいずれかの基準に基づいて、Firepower センサーにパケットを複製する **utd** コマンドを有効にします。

- グローバル検査が有効である場合、ルータを通過するすべてのパケットがセンサーに複製されます。
- インターフェイス単位の検査が有効である場合、入力または出力インターフェイスで検査の **utd** コマンドが有効になっている場合にのみ、パケットが複製されます。

IDS モードでパケット検査を有効にしたインターフェイスを表示するには、**show platform software utd interfaces** コマンドを使用します。パケットの複製は、最初の出力機能の 1 つとして実行されます。

通常のパケット処理では、パケットに適用される機能は、デバイスの設定によって決定される順序付けられたシーケンスを形成します。通常、これらの機能は入力機能または出力機能としてグループ化され、ルーティング機能はこの2つの機能の境界を示しています。IDS パケットの複製は、最初の出力機能の1つとして実行されるため、入力機能がパケットをドロップした場合、そのパケットは IDS エンジンへ複製されません。

## Firepower センサーのインターフェイス

Firepower センサーの仮想アプライアンスには、トラフィック分析用の2つのインターフェイスと FireSIGHT への管理接続用の1つのインターフェイスという3つのネットワークインターフェイスがあります。2つのトラフィック対応インターフェイスは、設定で2つの仮想インターフェイス「ブリッジドメインインターフェイス (BDI : Bridge Domain Interface)」として表されます。

トラフィックの分析には2つのインターフェイスを使用できますが、侵入検知システム (IDS) には1つのトラフィック対応インターフェイスのみ使用できます。

Firepower センサーは管理ネットワークに接続され、LAN セグメント上の別のホストとして表示されます。



(注) 仮想環境で VLAN トラフィックを監視するには、無差別ポートの VLAN ID を 4095 に設定します。

## Cisco FirePOWER Threat Defense の相互運用性

Cisco Firepower Threat Defense は、侵入検知システム (IDS) に対応しています。IDS モードでは、選択したトラフィックが分析のために Firepower センサーにコピーされます。

Cisco Firepower Threat Defense は、次の機能と相互運用します。

- ゾーンベースのファイアウォール : アプリケーションレイヤゲートウェイ (ALG : Application Layer Gateways) 、アプリケーション検査および制御 (AIC : Application Inspection and Control) 、およびゾーン間で設定されたポリシー
- ネットワークアドレス変換 (NAT : Network Address Translation)



(注) Cisco Firepower Threat Defense は、外部グローバルアドレスについて Firepower Threat Defense に通知するメカニズムがないため、外部アドレス変換に対応していません。ただし、外部インターフェイスでアドレス変換を有効にできます。侵入防止システム (IPS) は、常に内部アドレスを使用して、入力インターフェイスの NAT の後、および出力インターフェイスの NAT の前で呼び出されません。

- 暗号
- インテリジェント WAN (IWAN : Intelligent WAN)
- カーネルベースの仮想マシンのワイドエリア アプリケーション サービス (kWAAS : Kernel-based Virtual Machine Wide-Area Application Service)

## Cisco Firepower Threat Defense のハードウェアおよびソフトウェア要件

Cisco Firepower Threat Defense ソリューションを実行するには、次のハードウェアが必要です。

- Cisco Firepower センサー (バージョン 5.4)
- Cisco サービス統合型ルータ (ISR) 4000 シリーズルータ
- Cisco 統合型コンピューティングシステム (UCS) E シリーズブレード
- Cisco FireSIGHT

Cisco Firepower Threat Defense ソリューションを実行するには、次のソフトウェアが必要です。

- UCS-E ハイパーバイザ
- ESXi 5.0.0、5.1.0、5.5.0
- Cisco Firepower センサー (バージョン Cisco IOS XE リリース 3.14S 以降)
- Cisco FireSIGHT (バージョン 5.2、5.3、5.4)。FireSIGHT は現在のバージョンのみに対応し、直前のバージョンのみとの下位互換性があります。Cisco Firepower センサーのバージョンが 5.4 の場合は、FireSIGHT のバージョン 5.4 または 5.3 を使用する必要があります。

## Cisco Firepower Threat Defense ライセンスの取得

Cisco ISR 4000 シリーズサービス統合型ルータには、Cisco Firepower Threat Defense を有効にするためのセキュリティ K9 ライセンスとアプリケーションエクスペリエンス (AppX) ライセンスが必要です。

Technology Package License Information:

Technology	Technology-package Current	Technology-package Type	Technology-package Next reboot
appx	appxk9	EvalRightToUse	appxk9
uc	uck9	EvalRightToUse	uck9
security	securityk9	EvalRightToUse	securityk9
ipbase	ipbasek9	Permanent	ipbasek9

## Cisco Firepower Threat Defense for ISR の導入方法

Cisco Firepower Threat Defense の侵入検知システム (IDS) を導入するには、次のタスクを実行します。

1. Firepower センサーのパッケージを入手します。

2. VMWare VSphere などのハイパーバイザを使用して Firepower センサーのパッケージをインストールします。
3. トラフィックリダイレクションのルータインターフェイスを設定します。
  - Cisco ISR 4000 シリーズルータのブリッジドメインインターフェイス (BDI) の設定。
  - Cisco ISR 第 2 世代ルータの VLAN 設定。
4. Firepower センサーをブートストラップします。
5. Cisco FireSIGHT でポリシーを設定します。
  - ポリシーは FireSIGHT GUI を使用して設定します。
6. 検査を有効にします。

## Firepower センサーパッケージの入手

統合型コンピューティングシステム (UCS) E シリーズブレードに Firepower センサーを導入するために、OVA ファイルをダウンロードして保存します。OVA は仮想マシンの圧縮された「インストール可能な」バージョンを含む、オープン仮想アーカイブ (Open Virtualization Archive) です。[https://support.sourcefire.com/sections/1/sub\\_sections/51#5-2-virtual-appliances](https://support.sourcefire.com/sections/1/sub_sections/51#5-2-virtual-appliances) から OVA ファイルをダウンロードします。

## Firepower センサー OVA ファイルのインストール

VMWare VSphere などのハイパーバイザを使用して、UCS E シリーズブレードに Firepower センサー OVA をインストールします。

## UCS E シリーズブレードへの Firepower センサーの取り付け

ここでは、Cisco ISR 4000 シリーズサービス統合型ルータにインストールされている統合型コンピューティングシステム (UCS) E シリーズブレードに Firepower センサーを取り付ける方法について説明します。

1. UCS E シリーズカードを取り付けます。
2. **show platform** コマンドを使用して、カードが動作していることを確認します。
3. Cisco 統合型管理コントローラ (CIMC : Cisco Integrated Management Controller) のポートを設定します。

CIMC GUI は、E シリーズサーバの Web ベースの管理インターフェイスです。CIMC GUI を起動して、次の最小要件を満たしている任意のリモートホストからサーバを管理できます。

- Java 1.6 以降
- HTTP または HTTPS に対応
- Adobe Flash Player 10 以降

CIMC は、管理 (management) という名前のポートで実行されます。次に、管理ポートを IP アドレスでブートストラップする例を示します。

```
ucse subslot 1/0
  imc access-port dedicated
  imc ip-address 10.66.152.158 255.255.255.0
!
```

デフォルトのログインとパスワード（それぞれ `admin` と `password`）を使用して、ブラウザから CIMC に接続します。設定例では、ブラウザのアドレスは `https://10.66.152.158` です。

4. ESXi をインストールします。

Cisco UCS E シリーズブレードの ESXi イメージを

<https://my.vmware.com/web/vmware/details?downloadGroup=CISCO-ESXI-5.1.0-GA-25SEP2012&productId=284> からダウンロードします。

5. VMWare VSphere を使用して Cisco UCS E シリーズブレードに Firepower センサーをインストールします。
6. トラフィックリダイレクトを設定します。詳細については、「Cisco UCSE シリーズブレードでのトラフィックリダイレクトの設定」の項を参照してください。
7. VMWare vSwitch を設定します。ISR 4000 シリーズルータの仮想マシン ネットワーク インターフェイス カード (VMNIC : Virtual Machine Network Interface Card) のマッピングは次のとおりです。

- VMNIC0 : ルータバックプレーンの UCS E シリーズのインターフェイス x/0/0 にマッピング
- VMNIC1 : ルータバックプレーンの UCSE シリーズのインターフェイス x/0/1 にマッピング
- VMNIC2 : UCS E シリーズのフロントプレーン GigabitEthernet 2 インターフェイスにマッピング
- VMNIC3 : UCS E シリーズのフロントプレーン GigabitEthernet 3 インターフェイスにマッピング



- (注) VMNIC3 は、UCS E シリーズ 140D、160Dm、および 180D でのみ使用できます。

UCS E シリーズ 120S および 140S には、3 つのネットワークアダプタと 1 つの管理ポートがあります。UCS E シリーズ 140D、160Dm、および 180D には 4 つのネットワークアダプタがあります。

## Cisco UCSE シリーズブレードにおけるトラフィックのリダイレクトの設定

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`

3. **interface** *type number*
4. **no ip address**
5. **no negotiation auto**
6. **switchport mode trunk**
7. **no mop enabled**
8. **no mop sysid**
9. **service instance** *service-instance-number ethernet*
10. **encapsulation dot1q** *vlan-id*
11. **rewrite ingress tag pop** {1 | 2} **symmetric**
12. **bridge domain** *bridge-ID*
13. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> 例： Router(config)# interface ucse 1/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>no ip address</b> 例： Router(config-if)# no ip address	インターフェイス上で IP アドレスを削除するか、IP 処理を無効にします。
ステップ 5	<b>no negotiation auto</b> 例： Router(config-if)# no negotiation auto	インターフェイス上で速度、デュプレックスモード、およびフロー制御のアドバタイズメントを無効にします。
ステップ 6	<b>switchport mode trunk</b> 例： Router(config-if)# switchport mode trunk	トランキング VLAN レイヤ 2 インターフェイスを指定します。
ステップ 7	<b>no mop enabled</b> 例： Router(config-if)# no mop enabled	インターフェイス上でメンテナンス オペレーション プロトコル (MOP : Maintenance Operation Protocol) を無効にします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<b>no mop sysid</b> 例： Router(config-if)# no mop sysid	インターフェイスからの定期的な MOP システム識別メッセージの送信を無効にします。
ステップ 9	<b>service instance service-instance-number ethernet</b> 例： Router(config-if)# service instance 10 ethernet	インターフェイスでイーサネット サービス インスタンスを設定し、イーサネット サービス インスタンスの設定モードに入ります。
ステップ 10	<b>encapsulation dot1q vlan-id</b> 例： Router(config-if-srv)# encapsulation dot1q 10	インターフェイスの 802.1Q フレーム入力を適切な サービス インスタンスにマップするための一致基準を定義します。
ステップ 11	<b>rewrite ingress tag pop {1   2} symmetric</b> 例： Router(config-if-srv)# rewrite ingress tag pop 1 symmetric	サービス インスタンスに入るフレームで実行されるカプセル化調整を指定します。
ステップ 12	<b>bridge domain bridge-ID</b> 例： Router(config-if-srv)# bridge domain 10	サービス インスタンスまたは MAC トンネルをブリッジ ドメイン インスタンスにバインドします。
ステップ 13	<b>end</b> 例： Router(config-if)# end	イーサネット サービス インスタンスの設定モードを終了し、特権 EXEC 設定モードに戻ります。

## Firepower センサーのブートストラップ

Firepower センサーは手動で設定する必要があります。FireSIGHT と通信するように Firepower センサーを設定するには、次のタスクを実行します。詳細については、<https://support.sourcefire.com/sections/10> を参照してください。

Cisco 統合型コンピューティングシステム (UCS) E シリーズブレードで実行されているセンサーは、VSpere を介して Firepower センサーの仮想マシンのコンソールにログインすることによってブートストラップされます。



(注) Firepower センサーは、ブートストラップする前にインストールして導入する必要があります。

### 手順の概要

1. ログインするためのデフォルトのユーザ名とパスワードを入力します。
2. **configure network ipv4 manual ip-address network-mask default-gateway**
3. **configure network dns servers dns-server**

4. **configure network dns searchdomains** *domain-name*
5. **configure manager add** *dc-hostname registration-key*

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ログインするためのデフォルトのユーザ名とパスワードを入力します。	センサーを設定する場合、デフォルトのユーザ名とパスワードはそれぞれ <b>admin</b> と <b>Sourcefire</b> となります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Firepower センサーに初めてログインした後は、管理者パスワードを変更する必要があります。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure network ipv4 manual</b> <i>ip-address network-mask default-gateway</i>  例： Device# configure network ipv4 manual 10.66.152.137 255.255.255.0 10.66.152.1	ネットワーク接続を設定します。
ステップ 3	<b>configure network dns servers</b> <i>dns-server</i>  例： Device# configure network dns servers 192.10.26.10	ドメインネームシステム（DNS : Domain Name System）サーバを設定します。
ステップ 4	<b>configure network dns searchdomains</b> <i>domain-name</i>  例： Device# configure network dns searchdomains cisco.com	DNS 検索ドメインを設定します。
ステップ 5	<b>configure manager add</b> <i>dc-hostname registration-key</i>  例： Device# configure manager sourcefire-dc.cisco.com cisco-sf	センサーを FireSIGHT に関連付けます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>registration key</i> は、ユーザが FireSIGHT にセンサーを登録するために後で使用する文字列です。</li> </ul>

## 例

次は、Firepower センサーの設定済みのネットワーク設定を表示する **show network** コマンドからの出力例です。

```
Device# show network
-----
IPv4
Configuration          : manual
Address                 : 10.66.152.137
```



```
Netmask           : 255.255.255.0
Gateway           : 10.66.152.1
MAC Address       : 44:03:A7:43:05:AD
Management port   : 8305
-----
```

```
IPv6
Configuration     : disabled
Management port   : 8305
-----
```

次は、設定済みの DNS 設定を表示する **show dns** コマンドからの出力例です。

```
Device# show dns

search cisco.com
nameserver 192.10.26.10
```

次は、設定済みの管理設定を表示する **show managers** コマンドからの出力例です。

```
Device# show managers

Host                : sourcefire-dc.cisco.com
Registration Key    : cisco-sf
Registration        : pending
RPC Status         :
```

## IDS 検査のグローバルな有効化

要件に基づいて、グローバルレベルまたはインターフェイスレベルで侵入検知システム (IDS) の検査を設定できます。

専用の管理インターフェイスでは IDS 検査を有効にできません。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **utd enable**
4. **utd engine advanced**
5. **threat detection**
6. **exit**
7. **utd**
8. **all-interfaces**
9. **engine advanced**
10. **fail close**
11. **rate pps-rate**
12. **redirect-interface interface interface-number**
13. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>utd enable</b> 例： Router(config)# utd enable	統合脅威防御の設定モードに入ります。
ステップ 4	<b>utd engine advanced</b> 例： Router(config)# utd engine advanced	統合脅威防御（UTD）の拡張エンジンを設定し、UTD の拡張エンジンの設定に入ります。 モードで使用します。
ステップ 5	<b>threat detection</b> 例： Router(config-utd-eng-adv)# threat detection	脅威検知または侵入防止システム（IPS）を Snort エンジンの動作モードとして設定します。
ステップ 6	<b>exit</b> 例： Router(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 7	<b>utd</b> 例： Router(config)# utd	統合脅威防御の設定モードに入ります。
ステップ 8	<b>all-interfaces</b> 例： Router(config-utd)# all-interfaces	デバイスのすべてのレイヤ3インターフェイスで UTD を設定します。
ステップ 9	<b>engine advanced</b> 例： outer(config-utd)# engine advanced	統合脅威防御（UTD）の拡張エンジンを設定し、UTD の拡張エンジンの設定に入ります。
ステップ 10	<b>fail close</b> 例： Device(config-engine-std)# fail close	（オプション）UTD エンジンに障害が発生した場合に行うアクションを定義します。デフォルトのオプションはフェールオープンです。フェールクロー

	コマンドまたはアクション	目的
		ズオプションは、UTD エンジンに障害が発生した場合にすべての IPS または IDS トラフィックをドロップします。フェールオープンオプションを使用すると、UTD エンジンに障害が発生した場合にすべての IPS または IDS トラフィックを許可します。
ステップ 11	<b>rate</b> <i>pps-rate</i> 例： Device(config-engine-std)# rate 2000000	(オプション) センサーにプッシュする pps レートを指定します。指定できる範囲は 1000 ~ 4000000 です。
ステップ 12	<b>redirect-interface</b> <i>interface interface-number</i> 例： Router(config-utd)# redirect-interface BDI 10	インターフェイスで IDS のトラフィックリダイレクトを設定します。
ステップ 13	<b>end</b> 例： Router(config-utd)# end	統合脅威防御の設定モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## インターフェイスごとの IDS 検査の有効化

要件に基づいて、グローバルレベルまたはインターフェイスレベルで侵入検知システム (IDS) の検査を設定できます。

専用の管理インターフェイスでは IDS 検査を有効にできません。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **utd enable**
5. **exit**
6. IDS 検査を必要とするすべてのインターフェイスで、手順 3 ~ 5 を繰り返します。管理インターフェイスで検査を設定しないでください。
7. **utd engine advanced**
8. **threat detection**
9. **utd**
10. **engine advanced**
11. **fail close**
12. **rate** *range*
13. **redirect interface** *type number*
14. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> 例： Router(config)# interface gigabitethernet 0/1/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>utd enable</b> 例： Router(config-if)# utd enable	インターフェイスで侵入検知を有効にします。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Router(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 6	IDS 検査を必要とするすべてのインターフェイスで、手順 3～5 を繰り返します。管理インターフェイスで検査を設定しないでください。	-
ステップ 7	<b>utd engine advanced</b> 例： Router(config)# utd engine advanced	統合脅威防御（UTD）の拡張エンジンを設定し、UTD の拡張エンジンの設定に入ります。 モードで使用します。
ステップ 8	<b>threat detection</b> 例： Router(config-utd-eng-adv)# threat detection	脅威検知または侵入防止システム（IPS）を Snort エンジンの動作モードとして設定します。
ステップ 9	<b>utd</b> 例： Router(config)# utd	統合脅威防御の設定モードに入ります。
ステップ 10	<b>engine advanced</b> 例： outer(config-utd)# engine advanced	統合脅威防御（UTD）の拡張エンジンを設定し、UTD の拡張エンジンの設定に入ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	<b>fail close</b> 例 : Device(config-engine-std)# fail close	(オプション) UTD エンジンに障害が発生した場合に行うアクションを定義します。デフォルトのオプションはフェールオープンです。フェールクローズオプションは、UTD エンジンに障害が発生した場合にすべての IPS または IDS トラフィックをドロップします。フェールオープンオプションを使用すると、UTD エンジンに障害が発生した場合にすべての IPS または IDS トラフィックを許可します。
ステップ 12	<b>rate range</b> 例 : Device(config-engine-std)# rate 1000	(オプション) センサーにプッシュする pps レートを指定します。指定できる範囲は 1000 ~ 4000000 です。
ステップ 13	<b>redirect interface type number</b> 例 : Router(config-utd)# redirect interface BDI 10	インターフェイスで IDS のトラフィックリダイレクトを設定します。
ステップ 14	<b>end</b> 例 : Router(config-utd)# end	統合脅威防御の設定モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ISR での Cisco Firepower Threat Defense の設定例

### 例 : Cisco UCSE シリーズブレードでのトラフィックリダイレクトの設定

次に、トラフィックリダイレクトの入力および出力インターフェイスを設定する例を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# interface ucse 1/0/0
Router(config-if)# no ip address
Router(config-if)# no negotiation auto
Router(config-if)# switchport mode trunk
Router(config-if)# no mop enabled
Router(config-if)# no mop sysid
Router(config-if)# exit
Router(config)# interface ucse 1/0/1
Router(config-if)# no ip address
Router(config-if)# no negotiation auto
Router(config-if)# switchport mode trunk
Router(config-if)# no mop enabled
Router(config-if)# no mop sysid
Router(config-if)# service instance 10 ethernet
Router(config-if-srv)# encapsulation dot1q 10
```

## 例 : Firepower センサーのブートストラップ

```

Router(config-if-srv)# rewrite ingress tag pop 1 symmetric
Router(config-if-srv)# bridge domain 10
Router(config-if-srv)# exit
Router(config-if)# exit
Router(config)# interface BDI 10
Router(config-if)# no shutdown
Router(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
Router(config-if-srv)# end

```

## 例 : Firepower センサーのブートストラップ

次に、Firepower Threat Defense センサーをブートストラップする例を示します。

```

Sourcefire3D login: admin
Password: Sourcefire
Last login: Tue Nov 12 11:15:03 UTC 2013 on tty1

Copyright 2001-2013, Sourcefire, Inc. All rights reserved. Sourcefire is
a registered trademark of Sourcefire, Inc. All other trademarks are
property of their respective owners.

Sourcefire Linux OS v5.2.0 (build 135)
Sourcefire Virtual Device 64bit v5.2.0 (build 838)

> configure password
Enter current password:
Enter new password:
Confirm new password:

> configure network ipv4 manual 10.66.152.137 255.255.255.0 10.66.152.1
Setting IPv4 network configuration.
ADDRCONF(NETDEV_UP): eth0: link is not ready
e1000: eth0: e1000_phy_read_status: Error reading PHY register
e1000: eth0: e1000_watchdog_task: NIC Link is Up
1000 Mbps Full Duplex, Flow Control: None
ADDRCONF(NETDEV_CHANGE): eth0: link becomes ready

Network settings changed.

> configure network dns servers 192.10.26.10

> configure network dns searchdomains cisco.com

configure manager add sourcefire-dc.cisco.com cisco-sf
Manager successfully configured.

```

## 例 : IDS 検査のグローバルな有効化

```

Router# configure terminal
Router(config)# utd enable
Router(config-utd)# utd engine advanced
Router(config-utd-adv)# threat detection
Router(config-utd-adv)# exit
Router(config)# utd

```

```
Router(config-utd)# all-interfaces
Router(config-utd)# engine advanced
Router(config-utd)# fail close
Router(config-utd)# rate 1000
Router(config-utd)# redirect-interface BDI 10
Router(config-utd)# end
```

## 例：インターフェイスごとの IDS 検査の有効化

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/1
Device(config-if)# utd enable
Router(config-utd)# utd engine advanced
Router(config-utd-adv)# threat detection
Router(config-utd-adv)# exit
Router(config)# utd
Router(config-utd)# engine advanced
Router(config-utd)# fail close
Router(config-utd)# rate 1000
Router(config-utd)# redirect-interface BDI 10
Router(config-utd)# end
```

## IDS 検査の確認とモニタリング

次のコマンドを使用して、侵入検知システム（IDS）の導入を確認およびモニタします。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **debug platform condition feature utd controlplane**
3. **debug platform condition feature utd dataplane submode**
4. **show platform hardware qfp active utd {config | status [all] [clear] [drop] [general]}**

### 手順の詳細

#### 手順

##### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

例：

```
Router> enable
```

##### ステップ 2 debug platform condition feature utd controlplane

IDS 設定およびステータス情報のデバッグを有効にします。

例：

```
Router# debug platform condition feature utd controlplane

network RF:
  network-rf idb-sync-history events debugging is on
IOSXE Conditional Debug Configs:

Conditional Debug Global State: Stop

Feature          Type          Submode          Level
-----|-----|-----|-----
UTD              controlplane                info

IOSXE Packet Tracing Configs:

Packet Infra debugs:

Ip Address                                     Port
-----|-----
```

### ステップ3 debug platform condition feature utd dataplane submode

IDS パケットフロー情報のデバッグを有効にします。

例：

```
Router# debug platform condition feature utd dataplane submode

network RF:
  network-rf idb-sync-history events debugging is on
IOSXE Conditional Debug Configs:

Conditional Debug Global State: Stop

Feature          Type          Submode          Level
-----|-----|-----|-----
UTD              controlplane                info
UTD              dataplane    fia proxy punt    info

IOSXE Packet Tracing Configs:

Packet Infra debugs:

Ip Address                                     Port
-----|-----
```

### ステップ4 show platform hardware qfp active utd {config | status [all] [clear] [drop] [general]}

Cisco クオンタムフロープロセッサ（QFP：Quantum Flow Processor）の IDS 検査に関する情報を表示します。

例：

```
Router# show platform hardware qfp active utd config

Global flags: 0x40004
Num divert interfaces: 1
Divert UIDBs: 65521 0
FIB information
```



```
[0] [0] 0x309e3c30
[0] [1] 0x0
[1] [0] 0x309e4040
[1] [1] 0x0
```

## Cisco Firepower Threat Defense for ISR に関するその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C</a>』 [英語]</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L</a>』 [英語]</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R</a>』 [英語]</li> <li>• 『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z</a>』 [英語]</li> </ul>
UCSE シリーズサーバ	<a href="http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/e/2-0/guide/b_2_0_Ge">http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/e/2-0/guide/b_2_0_Ge</a>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

# Cisco FirePOWER Threat Defense for ISR の機能に関する情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 217: Cisco FirePOWER Threat Defense for ISR の機能に関する情報

機能名	リリース	機能情報



## 第 164 章

# Snort IPS

Snort IPS 機能は、Cisco 4000 シリーズサービス統合型ルータおよび Cisco クラウドサービスルータ 1000v シリーズのブランチオフィスで侵入防止システム (IPS) または侵入検知システム (IDS) を実現します。この機能は、オープンソースの Snort ソリューションを使用して IPS と IDS を有効にします。Snort IPS 機能は、Cisco IOS XE リリース 3.16.1S、3.17S、およびそれ以降のリリースで使用できます。



(注) 仮想ルーティングおよび転送 (VRF) 機能は、Cisco IOS XE Denali リリース 16.3.1 以降のリリースの Snort IPS 設定に対応しています。

ここでは、その機能および動作の仕組みについて説明します。

- [Snort IPS の制約事項 \(2347 ページ\)](#)
- [Snort IPS に関する情報 \(2348 ページ\)](#)
- [Snort IPS の導入方法 \(2355 ページ\)](#)
- [Snort IPS の設定例 \(2371 ページ\)](#)
- [アクティブな署名の表示例 \(2377 ページ\)](#)
- [統合型 Snort IPS 設定の確認 \(2378 ページ\)](#)
- [Cisco Prime CLI テンプレートを使用した Snort IPS の導入 \(2386 ページ\)](#)
- [IOx コンテナへの移行 \(2387 ページ\)](#)
- [Snort IPS のトラブルシューティング \(2391 ページ\)](#)
- [Snort IPS に関するその他の参考資料 \(2397 ページ\)](#)
- [Snort IPS の機能情報 \(2398 ページ\)](#)

## Snort IPS の制約事項

Snort IPS 機能には、次のような制約事項が適用されます。

- Cisco 4000 シリーズ ISR でブーストライセンスを有効にした場合、Snort IPS の仮想サービスコンテナを設定できません。
- ゼーンベース型ファイアウォールの SYN クッキー機能と互換性がありません。

- ネットワークアドレス変換 64 (NAT64) には対応しません。
- オープンソースの Snort での SNMP ポーリングには、SnortSnmp プラグインが必要となります。SnortSnmp プラグインが UTD にインストールされていないため、Snort IPS は SNMP ポーリング機能または MIB に対応しません。
- IOS syslog はレートが制限されているため、Snort によって生成されたすべてのアラートが IOS Syslog で表示されない場合があります。ただし、外部ログサーバにエクスポートする場合は、すべての Syslog メッセージを表示できます。

## Snort IPS に関する情報

### Snort IPS の概要

Snort IPS 機能は、Cisco 4000 シリーズサービス統合型ルータおよび Cisco クラウドサービスルータ 1000v シリーズのブランチオフィスで侵入防止システム (IPS) または侵入検知システム (IDS) を実現します。この機能は、Snort エンジンを使用して IPS および IDS 機能を実現します。

Snort は、リアルタイムでトラフィック分析を行い、IP ネットワークで脅威が検出されたときにアラートを生成するオープンソースのネットワーク IPS です。また、プロトコル分析、コンテンツ検索またはマッチングを実行し、バッファオーバーフロー、ステルスポートスキャンなどのさまざまな攻撃やプローブを検出することもできます。Snort エンジンには、Cisco 4000 シリーズサービス統合型ルータおよび Cisco クラウドサービスルータ 1000v シリーズで仮想コンテナサービスとして実行されます。

Snort IPS 機能は、IPS または IDS 機能を提供するネットワーク侵入検知および防止モードで動作します。ネットワーク侵入検知および防止モードでは、Snort は次のアクションを実行します。

- ネットワークトラフィックをモニタし、定義されたルールセットに照らしあわせて分析します。
- 攻撃の分類を行います。
- 一致したルールに照らしあわせてアクションを呼び出します。

要件に応じて、IPS または IDS モードで Snort を有効にできます。IDS モードでは、Snort はトラフィックを検査し、アラートを報告しますが、攻撃を防ぐためのアクションは実行しません。IPS モードでは、侵入検知に加えて、攻撃を防ぐためのアクションを実行します。

Snort IPS はトラフィックをモニタし、イベントを外部ログサーバまたは IOS syslog に報告します。IOS syslog へのロギングを有効にすると、ログメッセージが大量に発生する可能性があるため、パフォーマンスに影響する場合があります。Snort ログに対応する外部のサードパーティ製のモニタリングツールを、ログの収集と分析に使用できます。

## Snort IPS 署名パッケージ

UTD OVA は、ルータのセキュリティライセンスに含まれています。デフォルトでは、ルータにはコミュニティ署名パッケージのみがロードされています。サブスクリプションには次の2つのタイプがあります。

- コミュニティ署名パッケージ
- サブスクライバベースの署名パッケージ

コミュニティ署名パッケージのルールセットは、脅威に対する限定的な防御を提供します。サブスクライバベースの署名パッケージのルールセットは、脅威に対する最良の防御を提供します。これには、エクスプロイトの前のカバレッジが含まれているため、セキュリティインシデントまたは新しい脅威のプロアクティブな検出に応じて、更新された署名に最速でアクセスできます。このサブスクリプションはシスコによって完全にサポートされており、パッケージは [Cisco.com](https://www.cisco.com) でアップデートされます。サブスクライバベースの署名パッケージは、[ソフトウェアのダウンロードページ](#) からダウンロードできます。

ユーザがソフトウェアのダウンロードページから署名パッケージを手動でダウンロードする場合、パッケージのバージョンが Snort エンジンのバージョンと同じであることを確認する必要があります。たとえば、Snort エンジンのバージョンが 2982 の場合、ユーザは同じバージョンの署名パッケージをダウンロードする必要があります。バージョンが一致しないと、署名パッケージのアップデートは拒否され、失敗します。



- (注) 署名パッケージがアップデートされると、データプレーンのフェールオープンまたはフェールクローズ設定に応じて、エンジンが再起動され、トラフィックが短時間中断されるか、もしくは検知がバイパスされます。

## 署名更新でサポートされる Cisco IOSXE のリリースおよび UTD パッケージの最小バージョン

次の表 1 に、Cisco IOS XE の最小リリースと、2020 年 1 月以降の署名パッケージのアップデートに対応する各 UTD パッケージのバージョンを示します。表に示されているものより前の Cisco IOS XE のリリースおよび各 UTD パッケージのバージョンには対応していません。表に記載されているものよりも新しい Cisco IOS XE のリリースおよび各 UTD パッケージのバージョンには、最初のリリースから対応しています。

表 218: UTD 署名パッケージのアップデート対応バージョンのマトリックス

Cisco IOS XE リリース	UTD パッケージのバージョン
16.6.7	1.0.10_SV29111_XE_16_6
16.9.4	1.0.4_SV29111_XE_16_9

Cisco IOS XE リリース	UTD パッケージのバージョン
16.10.2	1.0.9_SV2.9.11.1_XE16.10



- (注) UTD がオーバーサブスクライブされると、脅威防御チャネルの状態が緑と赤の間で変化します。UTD データプレーンは、フェールクローズが設定されている場合はそれ以降のすべてのパケットをドロップするか、フェールクローズが設定されていない場合は検査されていないパケットを転送します（デフォルト）。UTD サービスプレーンがオーバーサブスクリプションから回復すると、緑色のステータスで UTD データプレーンに応答します。

## Snort IPS ソリューション

Snort IPS ソリューションは、次のエンティティで構成されています。

- **Snort センサー**：トラフィックをモニタして、設定されたセキュリティポリシー（署名、統計情報、プロトコル分析など）に基づいて異常を検出し、アラートサーバまたはレポートサーバにアラートメッセージを送信します。Snort センサーは、仮想コンテナサービスとしてルータに導入されます。
- **署名ストア**：定期的に更新される Cisco 署名パッケージをホストします。これらの署名パッケージは、定期的にもしくはオンデマンドで Snort センサーにダウンロードされます。検証済みの署名パッケージは Cisco.com に掲載されます。設定に基づいて、署名パッケージを Cisco.com またはローカルサーバからダウンロードできます。

次のドメインは、次の cisco.com から署名パッケージをダウンロードするプロセスにおいてルータによってアクセスされます。

- api.cisco.com
- apx.cisco.com
- cloudsso.cisco.com
- cloudsso-test.cisco.com
- cloudsso-test3.cisco.com
- cloudsso-test4.cisco.com
- cloudsso-test5.cisco.com
- cloudsso-test6.cisco.com
- cloudsso.cisco.com
- download-ssc.cisco.com
- dl.cisco.com
- resolver1.opendns.com
- resolver2.opendns.com



- (注) 署名パッケージを保持するためにローカルサーバから署名パッケージをダウンロードする場合は、HTTP のみに対応します。

Snort センサーが署名パッケージを取得するには、Cisco.com の認証情報を使用して、署名パッケージを Cisco.com からローカルサーバに手動でダウンロードする必要があります。

URL が IP アドレスとして指定されていない場合、Snort コンテナは（ルータに設定された DNS サーバ上で）ドメイン名ルックアップを実行して、Cisco.com によるまたはローカルサーバ上の自動署名更新の場所を解決します。

- アラートまたはレポートサーバ：Snort センサーからアラートイベントを受信します。Snort センサーによって生成されたアラートイベントは、IOS syslog または外部 syslog サーバ、もしくは IOS syslog と外部 syslog サーバの両方に送信できます。Snort IPS ソリューションに付属している外部ログサーバはありません。
- 管理：Snort IPS ソリューションを管理します。管理は、IOS CLI を使用して設定します。Snort センサーには直接アクセスできず、すべての設定は IOS CLI を使用してのみ行えます。

## Snort 仮想サービスインターフェ이스の概要

Snort センサーは、ルータ上でサービスとして動作します。サービスコンテナは、仮想テクノロジーを使用して、アプリケーション用の Cisco デバイスにホスティング環境を提供します。

Snort トラフィック検査は、インターフェース単位で、または対応しているすべてのインターフェースでグローバルに有効にできます。検査対象のトラフィックは Snort センサーに転送され、再度投入されます。侵入検知システム (IDS) では、識別された脅威がログイベントとして報告され、許可されます。ただし、侵入防止システム (IPS) では、ログイベントとともに攻撃を防ぐためのアクションが実行されます。

Snort センサーには2つの VirtualPortGroup インターフェースが必要です。最初の VirtualPortGroup インターフェースは管理トラフィックに使用され、2つ目は転送プレーンと Snort 仮想コンテナサービス間のデータトラフィックに使用されます。これらの VirtualPortGroup インターフェースには、ゲスト IP アドレスを設定する必要があります。管理 VirtualPortGroup インターフェースに割り当てられた IP サブネットは、署名サーバおよびアラート/報告サーバと通信できる必要があります。

2つ目の VirtualPortGroup インターフェースの IP サブネットは、このインターフェース上のトラフィックがルータ内部にあるため、カスタマーネットワーク上でルーティング可能であってはなりません。内部サブネットを外部に公開することはセキュリティ上のリスクとなります。2つ目の VirtualPortGroup サブネットには 192.0.2.0/30 の IP アドレス範囲を使用することをお勧めします。192.0.2.0/24 のサブネットを使用することは、RFC 3330 で定義されています。

管理トラフィック用の **virtual-service** コマンドを使って管理インターフェースを使用することもできます。管理インターフェースを設定する場合、2つの VirtualPortGroup インターフェイ

スが必要となります。ただし、最初の VirtualPortGroup インターフェイスには **guest ip address** を設定しないでください。

仮想サービスが実行されているルータと同じ管理ネットワークで、Snort 仮想コンテナサービスの IP アドレスを割り当てることができます。この設定は、syslog またはアップデートサーバが管理ネットワーク上にあり、他のインターフェイスからアクセスできない場合に役立ちます。

## 仮想サービスのリソースプロファイル

Snort IPS 仮想サービスは、低、中、高という3つのリソースプロファイルに対応しています。これらのプロファイルは、仮想サービスの実行に必要な CPU およびメモリリソースを表示します。これらのリソースプロファイルの1つを設定できます。リソースプロファイルの設定は任意です。プロファイルを設定しない場合、仮想サービスはデフォルトのリソースプロファイルでアクティブ化されます。次の表に、Cisco 4000 シリーズ ISR および Cisco クラウドサービスルータ 1000v シリーズのリソースプロファイルの詳細を示します。

プラットフォーム	プロファイル	仮想サービスのリソース要件		プラットフォーム要件
		システム CPU	メモリ	
Cisco 4321 ISR	デフォルト	50%	最小：1 GB (RAM) 最小：750 MB (ディスクまたはフラッシュ)	最小：8 GB (RAM) 最小：8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
Cisco 4331 ISR	低 (デフォルト)	25%	最小：1 GB (RAM) 最小：750 MB (ディスクまたはフラッシュ)	最小：8 GB (RAM) 最小：8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	中	50%	最小：2 GB (RAM) 最小：1 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小：8 GB (RAM) 最小：8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	高	75%	最小：4 GB (RAM) 最小：2 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小：8 GB (RAM) 最小：8 GB (ディスクまたはフラッシュ)



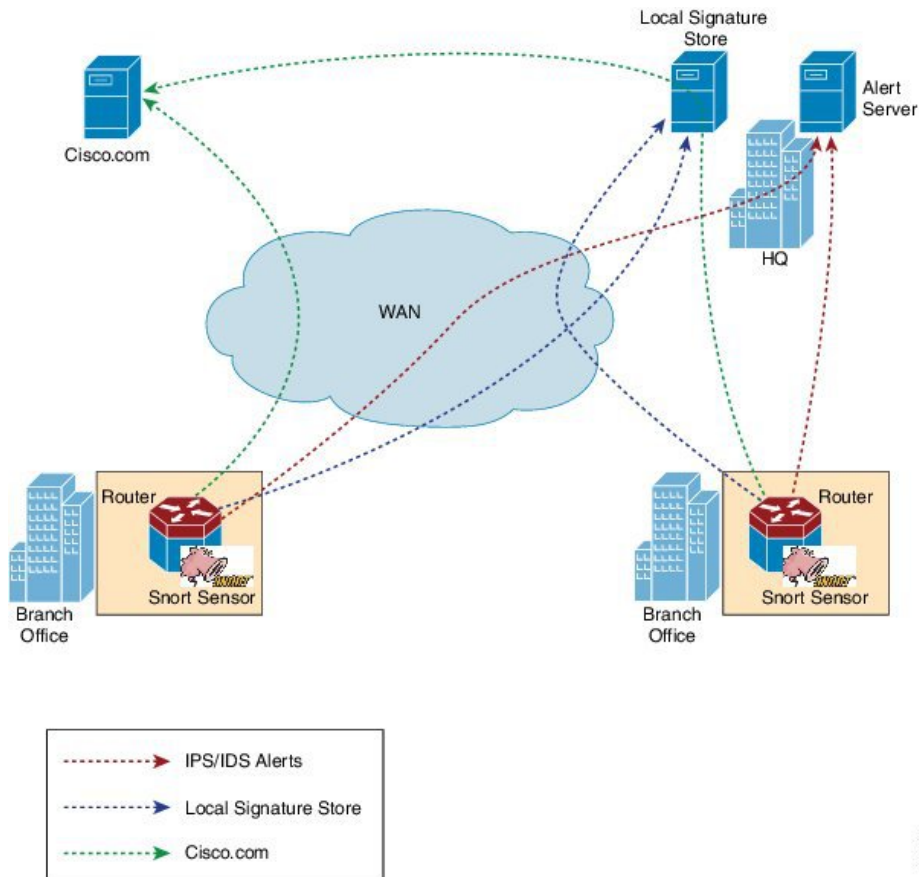
プラットフォーム	プロファイル	仮想サービスのリソース要件		プラットフォーム要件
		システム CPU	メモリ	
Cisco 4351 ISR	低 (デフォルト)	25%	最小 : 1 GB (RAM) 最小 : 750 MB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	中	50%	最小 : 2 GB (RAM) 最小 : 1 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	高	75%	最小 : 4 GB (RAM) 最小 : 2 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
Cisco 4431 ISR	低 (デフォルト)	25%	最小 : 1 GB (RAM) 最小 : 750 MB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	中	50%	最小 : 2 GB (RAM) 最小 : 1 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	高	75%	最小 : 4 GB (RAM) 最小 : 2 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 12 GB (RAM) 最小 : 12 GB (ディスクまたはフラッシュ)

プラットフォーム	プロファイル	仮想サービスのリソース要件		プラットフォーム要件
		システム CPU	メモリ	
Cisco 4451 ISR	低 (デフォルト)	25%	最小 : 1 GB (RAM) 最小 : 750 MB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	中	50%	最小 : 2 GB (RAM) 最小 : 1 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	高	75%	最小 : 4 GB (RAM) 最小 : 2 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 12 GB (RAM) 最小 : 12 GB (ディスクまたはフラッシュ)
Cisco CSR 1000V	低 (デフォルト)	25%	最小 : 1 GB (RAM) 最小 : 750 MB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	中	50%	最小 : 2 GB (RAM) 最小 : 1 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 8 GB (RAM) 最小 : 8 GB (ディスクまたはフラッシュ)
	高	75%	最小 : 3 GB (RAM) 最小 : 2 GB (ディスクまたはフラッシュ)	最小 : 12 GB (RAM) 最小 : 12 GB (ディスクまたはフラッシュ)

## Snort IPS の導入

次の図は、Snort IPS の導入概要を示しています。

図 86 : Snort IPS の展開概要



次の手順では、Snort IPS ソリューションの導入について説明します。

- Snort OVA ファイルを Cisco ルータにコピー、インストール、アクティブ化する。
- 署名パッケージを、Cisco.com または設定済みのローカルサーバから Cisco ルータにダウンロードする。
- ネットワーク侵入検知またはネットワーク防御機能を設定する。
- アラートおよびレポートサーバを、Snort センサーからアラートを受信するように設定する。

## Snort IPS の導入方法

対応しているデバイスに Snort IPS を導入するには、次のタスクを実行します。

1. デバイスをプロビジョニングします。  
Snort IPS 機能をインストールするデバイスを特定します。
2. ライセンスを取得します。

Snort IPS 機能は、サービスを有効にするためにセキュリティライセンスを必要とするセキュリティパッケージでのみ使用できます。この機能は、Cisco IOS XE リリース 3.16.1S、3.17S、およびそれ以降のリリースで使用できます。



(注) ライセンスの取得については、シスコ サポートにお問い合わせください。

3. Snort OVA ファイルをインストールします。
4. VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスを設定します。
5. Snort 仮想コンテナサービスをアクティブにします。
6. Snort IPS または IDS のモードとポリシーを設定します。
7. 外部アラートおよびログサーバまたは IOS syslog、あるいはその両方へのイベントのレポートを設定します。
8. 署名の更新方法を設定します。
9. 署名を更新します。
10. IPS をグローバルに、または必要なインターフェイスで有効にします。

## Snort OVA ファイルのインストール

OVA ファイルは、仮想マシンの圧縮された「インストール可能な」バージョンを含むオープン仮想アーカイブ (Open Virtualization Archive) です。Snort IPS は仮想コンテナサービスとして使用できます。この OVA ファイルをルータにダウンロードし、**virtual-service install** CLI を使用してサービスをインストールする必要があります。

サービス OVA ファイルは、ルータにインストールされている Cisco IOS XE リリースイメージには付属していません。ただし、OVA ファイルはルータのフラッシュに事前にインストールされている場合があります。

セキュリティライセンスが付属した Cisco IOS XE イメージを使用する必要があります。OVA ファイルのインストール中に、セキュリティライセンスがチェックされ、ライセンスが存在しない場合はエラーが報告されます。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **virtual-service install name virtual-service-name package file-url media file-system**
3. **show virtual-service list**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>virtual-service install name virtual-service-name package file-url media file-system</b> 例 : Device# virtual-service install name UTDIPS package harddisk:utd-ips-v102.ova media harddisk:	デバイスの仮想サービスコンテナにアプリケーションをインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>名前の長さは 20 文字です。ハイフン (-) は有効な文字ではありません。</li> <li>インストールする OVA パッケージの完全パスを指定する必要があります。</li> </ul> (注) OVA のインストールは、ハードディスクとブートフラッシュの両方で行えますが、OVA をインストールするのに推奨されるファイルシステムはハードディスクです。
ステップ 3	<b>show virtual-service list</b> 例 : Device# show virtual-service list	仮想サービスコンテナにインストールされているすべてのアプリケーションのインストールのステータスを表示します。

## VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定

2 つの VirtualPortGroup インターフェイスと両方のインターフェイスのゲスト IP アドレスを設定する必要があります。ただし、**vnic management GigabitEthernet0** コマンドを使用して管理インターフェイスを設定する場合は、最初の VirtualPortGroup インターフェイスのゲスト IP アドレスを設定しないでください。



- (注) データトラフィック用の VirtualPortGroup インターフェイスは、プライベートまたはルーティング不可の IP アドレスを使用する必要があります。このインターフェイスには、IP アドレスの範囲として 192.0.2.0 / 30 を使用することを推奨します。



(注) Cisco IOS ソフトウェアイメージを XE 3.x バージョンから XE 16.2.1 に、または XE 16.2.1 から XE 3.x バージョンに変更する前に、デバイス上の仮想サービスごとに **virtual-service uninstall name [name]** コマンドを使用して仮想サービスをアンインストールします。仮想サービスの 1 つが ISR-WAAS サービスであり、**service waas enable** コマンドを使用してインストールされている場合は、**service waas disable** コマンドを使用します。

Cisco IOS ソフトウェアイメージの新しいバージョンでデバイスをアップグレードした後、仮想サービスを再インストールします。ISR-WAAS の場合は **service waas enable** コマンドを使用し、その他の仮想サービスの場合は **virtual-service install name [name] package [.ova file]** コマンドを使用します。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface VirtualPortGroup number**
4. **ip address ip-address mask**
5. **exit**
6. **interface type number**
7. **ip address ip-address mask**
8. **exit**
9. **virtual-service name**
10. **profile profile-name**
11. **vnic gateway VirtualPortGroup interface-number**
12. **guest ip address ip-address**
13. **exit**
14. **vnic gateway VirtualPortGroup interface-number**
15. **guest ip address ip-address**
16. **exit**
17. **vnic management GigabitEthernet0**
18. **guest ip address ip-address**
19. **exit**
20. **activate**
21. **end**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 :	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface VirtualPortGroup number</b> 例： Device(config)# interface VirtualPortGroup 0	インターフェイスを設定し、インターフェイス設定モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>VirtualPortGroup インターフェイスを設定します。このインターフェイスは、管理インターフェイスの GigabitEthernet0 が使用されていない場合に管理トラフィックに対して使用されません。</li> </ul>
ステップ 4	<b>ip address ip-address mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.252	インターフェイスのプライマリ IP アドレスを設定します。このインターフェイスは、署名アップデートサーバおよび外部ログサーバにルーティング可能である必要があります。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 6	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface VirtualPortGroup 1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>VirtualPortGroup インターフェイスを設定します。</li> <li>このインターフェイスは、データトラフィックに使用されます。</li> </ul>
ステップ 7	<b>ip address ip-address mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 192.0.2.1 255.255.255.252	インターフェイスのプライマリ IP アドレスを設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>この IP アドレスは、外部ネットワークに対してルーティング不能である必要があります。</li> <li>IP アドレスは、推奨される 192.0.2.0/30 のサブネットから割り当てられます。</li> </ul>
ステップ 8	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<b>virtual-service name</b> 例 : Device(config)# virtual-service UTDIPS	仮想コンテナサービスを設定し、仮想サービス設定モードに入ります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>name</b> 引数は、仮想コンテナサービスを識別するために使用される論理名です。</li> </ul>
ステップ 10	<b>profile profile-name</b> 例 : Device(config-virt-serv)#profile high 例 : Device(config-virt-serv)#profile multi-tenancy	(オプション) リソースプロファイルを設定します。リソースプロファイルを設定しない場合、仮想サービスはデフォルトのリソースプロファイルを使用してアクティブ化されます。オプションは、 <b>low</b> 、 <b>medium</b> 、 <b>high</b> 、および <b>multi-tenancy</b> です。(マルチテナントモードの場合 (Cisco CSR 1000v のみ)、 <b>profile multi-tenancy</b> コマンドを設定する必要があります。
ステップ 11	<b>vnic gateway VirtualPortGroup interface-number</b> 例 : Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup 0	仮想コンテナサービスの仮想ネットワークインターフェイスカード (vNIC) のゲートウェイインターフェイスを作成し、vNIC ゲートウェイインターフェイスを仮想ポートグループにマッピングして、仮想サービスの vNIC 設定モードに入ります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドで参照されるインターフェイスは、手順 3 で設定したインターフェイスである必要があります。このコマンドは、管理目的で使用されるインターフェイスをマッピングします。</li> </ul>
ステップ 12	<b>guest ip address ip-address</b> 例 : Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 10.1.1.2	(オプション) vNIC ゲートウェイインターフェイスのゲスト vNIC アドレスを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• (注) 手順 17 で指定した <b>vnic management gigabitethernet0</b> コマンドが設定されていない場合にのみこのコマンドを設定します。</li> </ul>
ステップ 13	<b>exit</b> 例 : Device(config-virt-serv-vnic)# exit	仮想サービスの vNIC 設定モードを終了し、仮想サービス設定モードに戻ります。
ステップ 14	<b>vnic gateway VirtualPortGroup interface-number</b> 例 : Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup 1	仮想コンテナサービスの vNIC ゲートウェイインターフェイスを作成し、vNIC ゲートウェイインターフェイスを仮想ポートグループにマッピングして、仮想サービスの vNIC 設定モードに入ります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドで参照されるインターフェイスは、手順 6 で設定したインターフェイスである</li> </ul>



	コマンドまたはアクション	目的
		必要があります。このコマンドは、Snortがユーザトラフィックのモニタリングに使用する仮想コンテナサービスのインターフェイスをマッピングします。
ステップ 15	<b>guest ip address <i>ip-address</i></b> 例： Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 192.0.2.2	vNIC ゲートウェイインターフェイスのゲスト vNIC アドレスを設定します。
ステップ 16	<b>exit</b> 例： Device(config-virt-serv-vnic)# exit	仮想サービスの vNIC 設定モードを終了し、仮想サービス設定モードに戻ります。
ステップ 17	<b>vnic management GigabitEthernet0</b> 例： Device(config-virt-serv)# vnic management GigabitEthernet0	(オプション) GigabitEthernet インターフェイスを vNIC 管理インターフェイスとして設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>管理インターフェイスは、VirtualPortGroup インターフェイスまたは GigabitEthernet0 インターフェイスである必要があります。</li><li><b>vnic management GigabitEthernet0</b> コマンドを設定しない場合は、手順 12 で指定した <b>guest ip address</b> コマンドを設定する必要があります。</li></ul>
ステップ 18	<b>guest ip address <i>ip-address</i></b> 例： Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 209.165.201.1	(オプション) vNIC 管理インターフェイスのゲスト vNIC アドレスを設定します。このアドレスは、管理インターフェイスおよび GigabitEthernet0 設定と同じサブネット内にある必要があります。
ステップ 19	<b>exit</b> 例： Device(config-virt-serv-vnic)# exit	仮想サービスの vNIC 設定モードを終了し、仮想サービス設定モードに戻ります。
ステップ 20	<b>activate</b> 例： Device(config-virt-serv)# activate	仮想コンテナサービスにインストールされたアプリケーションをアクティブにします。
ステップ 21	<b>end</b> 例： Device(config-virt-serv)# end	仮想サービス設定モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## Snort IPS のグローバル設定

要件に基づいて、侵入防止システム（IPS）または侵入検知システム（IDS）の検査をグローバルレベルまたはインターフェイスで設定します。このタスクを実行して、デバイス上でIPSをグローバルに設定します。



(注) グローバルという用語は、対応しているすべてのインターフェイスで実行されている Snort IPS を意味します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **utd threat-inspection whitelist**
4. **generator id** *generator-id* **signature id** *signature-id* [**comment** *description*]
5. **exit**
6. **utd engine standard**
7. **logging** {**host** *hostname* | **syslog**}
8. **threat-inspection**
9. **threat** {**detection** | **protection** }
10. **policy** {**balanced** | **connectivity** | **security**}
11. **whitelist**
12. **signature update occur-at** {**daily** | **monthly** *day-of-month* | **weekly** *day-of-week*} *hour minute*
13. **signature update server** {**cisco** | **url** *url*} [**username** *username* [**password** *password*]]
14. **logging level** {**alert** | **crit** | **debug** | **emerg** | **err** | **info** | **notice** | **warning**}
15. **exit**
16. **utd**
17. **redirect interface** **virtualPortGroup** *interface-number*
18. **all-interfaces**
19. **engine standard**
20. **fail close**
21. **exit**
22. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>utd threat-inspection whitelist</b> 例： Device(config)# utd threat-inspection whitelist	(オプション) UTD 許可リストの設定モードを有効にします。
ステップ 4	<b>generator id generator-id signature id signature-id [comment description]</b> 例： Device(config-utd-whitelist)# generator id 24 signature id 24245 comment traffic from branchoffice1	署名 ID を許可リストに表示するように設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>署名 ID は、抑制する必要があるアラートからコピーできます。</li> <li>複数の署名 ID を設定できます。</li> <li>許可リストに追加する必要がある署名 ID ごとに、この手順を繰り返します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-utd-whitelist)# exit	UTD 許可リストの設定モードを終了して、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 6	<b>utd engine standard</b> 例： Device(config)# utd engine standard	統合脅威防御 (UTD) 標準エンジンを設定し、UTD 標準エンジンの設定モードに入ります。
ステップ 7	<b>logging {host hostname   syslog}</b> 例： Device(config-utd-eng-std)# logging host syslog.yourcompany.com	サーバへの緊急メッセージのログを有効にします。
ステップ 8	<b>threat-inspection</b> 例： Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection	Snort エンジンの脅威検知を設定します。
ステップ 9	<b>threat {detection   protection }</b> 例： Device(config-utd-eng-std-insp)# threat protection	脅威検知または侵入防止システム (IPS) を Snort エンジンの動作モードとして設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトは <b>detection</b> です。</li> <li>侵入検知システム (IDS) を設定するには、<b>detection</b> キーワードを設定します。</li> </ul>
ステップ 10	<b>policy {balanced   connectivity   security}</b> 例：	Snort エンジンのセキュリティポリシーを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>Device(config-utd-eng-std-insp)# policy security</code>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトのポリシーオプションは <b>balanced</b> です。</li> </ul>
ステップ 11	<b>whitelist</b> 例： <code>Device(config-utd-eng-std-insp)# whitelist</code>	(オプション) UTD エンジンで許可リストを有効にします。
ステップ 12	<b>signature update occur-at {daily   monthly day-of-month   weekly day-of-week} hour minute</b> 例： <code>Device(config-utd-eng-std-insp)# signature update occur-at daily 0 0</code>	署名の更新間隔パラメータを設定します。この設定をすることで、午前0時に署名の更新がトリガーされます。
ステップ 13	<b>signature update server {cisco   url url} [username username [password password]]</b> 例： <code>Device(config-utd-eng-std-insp)# signature update server cisco username abcd password cisco123</code>	署名更新サーバのパラメータを設定します。サーバの詳細で署名更新パラメータを指定する必要があります。署名の更新に Cisco.com を使用する場合は、ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。署名の更新にローカルサーバを使用する場合は、サーバ設定に基づいてユーザ名とパスワードを指定できます。
ステップ 14	<b>logging level {alert   crit   debug   emerg   err   info   notice   warning}</b> 例： <code>Device(config-utd-eng-std-insp)# logging level emerg</code>	ログレベルを有効にします。
ステップ 15	<b>exit</b> 例： <code>Device(config-utd-eng-std-insp)# exit</code>	UTD 標準エンジンの設定モードを終了して、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 16	<b>utd</b> 例： <code>Device(config)# utd</code>	統合脅威防御 (UTD) を有効にし、UTD 設定モードに入ります。
ステップ 17	<b>redirect interface virtualPortGroup interface-number</b> 例： <code>Device(config-utd)# redirect interface virtualPortGroup 1</code>	(オプション) VirtualPortGroup インターフェイスにリダイレクトします。これはデータトラフィックインターフェイスです。このインターフェイスを設定しない場合、インターフェイスは自動検出されます。
ステップ 18	<b>all-interfaces</b> 例： <code>Device(config-utd)# all-interfaces</code>	デバイスのすべてのレイヤ 3 インターフェイスで UTD を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 19	<b>engine standard</b> 例： Device(config-utd)# engine standard	統合脅威防御（UTD）エンジンを設定し、標準エンジンの設定モードに入ります。
ステップ 20	<b>fail close</b> 例： Device(config-engine-std)# fail close	（オプション）UTD エンジンに障害が発生した場合に行うアクションを定義します。デフォルトのオプションはフェールオープンです。フェールクローズオプションは、UTD エンジンに障害が発生した場合にすべての IPS または IDS トラフィックをドロップします。フェールオープンオプションを使用すると、UTD エンジンに障害が発生した場合にすべての IPS または IDS トラフィックを許可します。
ステップ 21	<b>exit</b> 例： Device(config-eng-std)# exit	標準エンジンの設定モードを終了して、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 22	<b>end</b> 例： Device(config-utd)# end	UTD 設定モードを終了して、グローバル設定モードに戻ります。

## Snort IDS 検知のグローバル設定

要件に基づいて、侵入防止システム（IPS）または侵入検知システム（IDS）検査をグローバルレベルまたはインターフェイスレベルで設定します。インターフェイスごとにIDSを設定するには、次のタスクを実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface *type number***
4. **utd enable**
5. **exit**
6. 検査が必要なすべてのインターフェイスで、手順 3～5 を繰り返します。
7. **utd threat-inspection whitelist**
8. **generator id *generator-id* signature id *signature-id* [*comment description*]**
9. **exit**
10. **utd engine standard**
11. **logging {*host hostname* | *syslog*}**
12. **threat-inspection**
13. **threat {*detection* | *protection*}**
14. **policy {*balanced* | *connectivity* | *security*}**

15. **whitelist**
16. **signature update occur-at** {daily | monthly *day-of-month* | weekly *day-of-week*} *hour minute*
17. **signature update server** {cisco | url *url*} [**username** *username* [**password** *password*]]
18. **logging level** {alert | crit | debug | emerg | err | info | notice | warning}
19. **exit**
20. **utd**
21. **redirect interface virtualPortGroup** *interface-number*
22. **engine standard**
23. **fail close**
24. **exit**
25. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> 例： Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>utd enable</b> 例： Device(config-if)# utd enable	統合脅威防御（UTD）を有効にします。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 6	検査が必要なすべてのインターフェイスで、手順 3～5 を繰り返します。	–
ステップ 7	<b>utd threat-inspection whitelist</b> 例： Device(config)# utd threat-inspection whitelist	（オプション）UTD 許可リストの設定モードを有効にします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<b>generator id</b> <i>generator-id</i> <b>signature id</b> <i>signature-id</i> <b>[comment</b> <i>description</i> <b>]</b>  例： <pre>Device(config-utd-whitelist)# generator id 24 signature id 24245 comment traffic from branchoffice1</pre>	署名 ID を許可リストで表示するように設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>署名 ID は、抑制する必要があるアラートからコピーできます。</li> <li>複数の署名 ID を設定できます。</li> <li>許可リストに表示する必要がある署名 ID ごとに、この手順を繰り返します。</li> </ul>
ステップ 9	<b>exit</b>  例： <pre>Device(config-utd-whitelist)# exit</pre>	UTD 許可リストの設定モードを終了して、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 10	<b>utd engine standard</b>  例： <pre>Device(config)# utd engine standard</pre>	統合脅威防御 (UTD) 標準エンジンを設定し、UTD 標準エンジンの設定モードに入ります。
ステップ 11	<b>logging</b> { <i>host hostname</i>   <b>syslog</b> }  例： <pre>Device(config-utd-eng-std)# logging syslog</pre>	IOSd syslog への重要なメッセージのログギングを有効にします。
ステップ 12	<b>threat-inspection</b>  例： <pre>Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection</pre>	Snort エンジンの脅威検知を設定します。
ステップ 13	<b>threat</b> { <b>detection</b>   <b>protection</b> }  例： <pre>Device(config-utd-eng-std-insp)# threat detection</pre>	脅威防止または侵入検知システム (IDS) を Snort センサーの動作モードとして設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>侵入防止システム (IPS) を設定するには、<b>protection</b> キーワードを設定します。</li> </ul>
ステップ 14	<b>policy</b> { <b>balanced</b>   <b>connectivity</b>   <b>security</b> }  例： <pre>Device(config-utd-eng-std-insp)# policy balanced</pre>	Snort センサーのセキュリティポリシーを設定します。
ステップ 15	<b>whitelist</b>  例： <pre>Device(config-utd-eng-std-insp)# whitelist</pre>	(オプション) トラフィックの許可リストを有効にします。
ステップ 16	<b>signature update occur-at</b> { <b>daily</b>   <b>monthly</b> <i>day-of-month</i>   <b>weekly</b> <i>day-of-week</i> } <i>hour minute</i>  例： <pre>Device(config-utd-eng-std-insp)# signature update occur-at daily 0 0</pre>	署名の更新間隔パラメータを設定します。この設定をすることで、午前0時に署名の更新がトリガーされます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 17	<b>signature update server</b> {cisco   url url} [username username [password password]] 例： Device(config-utd-eng-std-insp)# signature update server cisco username abcd password cisco123	署名更新サーバのパラメータを設定します。サーバの詳細で署名更新パラメータを指定する必要があります。署名の更新にCisco.comを使用する場合は、ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。署名の更新にローカルサーバを使用する場合は、サーバ設定に基づいてユーザ名とパスワードを指定できます。
ステップ 18	<b>logging level</b> {alert   crit   debug   emerg   err   info   notice   warning} 例： Device(config-utd-eng-std-insp)# logging level crit	ログレベルを有効にします。
ステップ 19	<b>exit</b> 例： Device(config-utd-eng-std-insp)# exit	UTD標準エンジンの設定モードを終了して、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 20	<b>utd</b> 例： Device(config)# utd	統合脅威防御（UTD）を有効にし、UTD設定モードに入ります。
ステップ 21	<b>redirect interface virtualPortGroup interface-number</b> 例： Device(config-utd)# redirect interface virtualPortGroup 1	（オプション）VirtualPortGroup インターフェイスにリダイレクトします。これはデータトラフィックインターフェイスです。このインターフェイスを設定しない場合、インターフェイスは自動検出されます。
ステップ 22	<b>engine standard</b> 例： Device(config-utd)# engine standard	統合脅威防御（UTD）エンジンを設定し、標準エンジンの設定モードに入ります。
ステップ 23	<b>fail close</b> 例： Device(config-engine-std)# fail close	（オプション）UTD エンジンに障害が発生した場合に行うアクションを定義します。デフォルトのオプションはフェールオープンです。フェールクローズオプションは、UTD エンジンに障害が発生した場合にすべての IPS または IDS トラフィックをドロップします。フェールオープンオプションを使用すると、UTD エンジンに障害が発生した場合にすべての IPS または IDS トラフィックを許可します。
ステップ 24	<b>exit</b> 例： Device(config-eng-std)# exit	標準エンジンの設定モードを終了して、グローバル設定モードに戻ります。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 25	<b>end</b> 例： Device(config-utd)# end	設定モードを終了し、EXEC モードに戻ります。

## アクティブな署名のリストの表示

アクティブな署名は、Snort IDS または IPS に脅威に対するアクションを実行するように指示するものです。トラフィックがアクティブな署名のいずれかと一致した場合、Snort コンテナは IDS モードでアラートをトリガーし、IPS モードでトラフィックをドロップします。

**utd threat-inspection signature active-list write-to bootflash: file name** コマンドは、アクティブな署名のリストと、アクティブな署名、ドロップ署名、およびアラート署名の合計数のサマリーを表示します。

## コンテナの正常性をモニタリングするための Quality of Service (QoS) ポリシーの設定

コンテナの正常性をモニタリングする正常性プローブが高いトラフィックレートで影響を受けないように、Quality of Service (QoS) ポリシーを設定することをお勧めします。

### 手順の概要

1. **ip access-list extended** {acl-name | acl-number}
2. sequence-number permit protocol source *source-wildcard* destination *destination-wildcard* [precedence] [tos *tos* tos] [log] [time-range *time-range-name*] [fragments]
3. **exit**
4. class-map { [type inspect match-all] | [match-any] } *class-map-name*
5. match access-group { *access-group* | name *access-group-name* }
6. **exit**
7. policy-map *policy-map-name*
8. class {*class-name* | class-default
9. priority level *level*
10. **exit**
11. **interface** *type number*
12. service-policy [ history | {output} *policy-map-name* | type control *control-policy-name*]
13. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>ip access-list extended</b> {acl-name   acl-number}  例： Device(config)# ip access-list extended health_probes_accesslist	拡張 ACL コンフィギュレーションモードを有効にします。CLI は拡張 ACL コンフィギュレーションモードを開始します。このモードでは、後続のすべてのコマンドが現在の拡張アクセスリストに適用されます。
ステップ 2	sequence-number permit protocol source <i>source-wildcard</i> destination <i>destination-wildcard</i> [precedence] [tos tos] [log] [time-rangetime-range-name ] [fragments]  例： Device(config-ext-nacl)# 10 permit udp any eq 3367 any eq 3367	名前付き IP アクセスリストモードで <b>permit</b> ステートメントを指定します。このアクセスリストでは、 <b>permit</b> ステートメントを最初に使用していますが、必要なステートメントの順序に応じて、 <b>deny</b> ステートメントが最初に使用される可能性もあります。
ステップ 3	<b>exit</b>  例： Device(config-ext-nacl)# exit	拡張 ACL コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 4	<b>class-map</b> { [type inspect match-all ]   [match-any] } <i>class-map-name</i>  例： Device(config)# class-map match-all health_probes_cmap	作成するクラス マップの名前を指定し、QoS クラスマップ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>match access-group</b> { <i>access-group</i>   name <i>access-group-name</i> }  例： Device(config-cmap)# match access-group name health_probes_accesslist	すべてのパケットに対して適切に一致する基準となる、クラスマップの一致基準を設定します。
ステップ 6	<b>exit</b>  例： Device(config-cmap)# exit	クラスマップ コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 7	<b>policy-map</b> <i>policy-map-name</i>  例： Device(config)# policy-map health_probes_pmap	サービス ポリシーを指定するために 1 つ以上のインターフェイスに適用可能なポリシー マップを作成または修正し、QoS ポリシーマップ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	<b>class</b> { <i>class-name</i>   class-default}  例： Device(config-pmap)# class health_probes_cmap	クラスのポリシーを設定する前に、ポリシーの作成/変更対象となるクラスの名前を指定するか、（一般に <b>class-default</b> クラスと呼ばれる）デフォルトク

	コマンドまたはアクション	目的
		ラスを指定してから、ポリシーマップコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 9	<p><code>priority level level</code></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-pmap)# priority level 1</pre>	<p>指定されたプライオリティレベルでトラフィッククラスにプライオリティを割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プライオリティクラスに割り当てられた優先順位の値を入力します。有効な値は、1（高優先順位）または2（低優先順位）です。デフォルトは1です。</li> </ul>
ステップ 10	<p><code>exit</code></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-pmap)# exit</pre>	<p>ポリシーマップコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。</p>
ステップ 11	<p><code>interface type number</code></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# interface VirtualPortGroup 1</pre>	<p>インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>VirtualPortGroup</code> インターフェイスを設定します。</li> <li>• このインターフェイスは、データトラフィックに使用されます。</li> </ul>
ステップ 12	<p><code>service-policy [ history   {output} policy-map-name   type control control-policy-name ]</code></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-if)# service-policy output health_probes_pmap</pre>	<p>ポリシーマップをクラスに結合します。適用されるサービスポリシーマップ (<b>policy-map</b> コマンドを使用して作成) の名前。名前には最大 40 文字までの英数字を指定できます。</p>
ステップ 13	<p><code>end</code></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-if)# end</pre>	<p>インターフェイスコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。</p>

## Snort IPS の設定例

### 例 : VirtualPortGroup インターフェイスおよび仮想サービスの設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface VirtualPortGroup 0
Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.252
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface VirtualPortGroup 1
Device(config-if)# ip address 192.0.2.1 255.255.255.252
Device(config-if)# exit
```

## 例：異なるリソースプロファイルの設定

```

Device(config)# virtual-service UTDIPS
Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup 0
Device(config-virt-serv-vnic)# exit
Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup 1
Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 192.0.2.2
Device(config-virt-serv-vnic)# exit
Device(config-virt-serv)# vnic management GigabitEthernet0
Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 209.165.201.1
Device(config-virt-serv-vnic)# exit
Device(config-virt-serv)# activate
Device(config-virt-serv-vnic)# end

```

## 例：異なるリソースプロファイルの設定

```

Device# configure terminal
Device(config)# virtual-service UTDIPS
Device(config-virt-serv)# no activate
Device(config-virt-serv)# end
Device# virtual-service uninstall name UTDIPS
Device# configure terminal
Device(config)# virtual-service UTDIPS
Device(config-virt-serv)# profile medium
Device(config-virt-serv)# end
Device# virtual-service install name UTDIPS package:utd.ova
Device# configure terminal
Device(config)# virtual-service UTDIPS
Device(config-virt-serv)# activate
Device(config-virt-serv)# end

```

## 例：Snort IPS のグローバル設定

次に、デバイス上で侵入防止システム（IPS）をグローバルに設定する例を示します。

```

Device# configure terminal
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-eng-std-insp)# threat protection
Device(config-utd-eng-std-insp)# policy security
Device(config-utd-eng-std)# exit
Device(config)# utd
Device(config-utd)# all-interfaces
Device(config-utd)# engine standard
Device(config-utd-whitelist)# end
Device#

```

## 例：インターフェイスごとの Snort IPS 検査の設定

次に、インターフェイスごとに Snort 侵入検知システム（IDS）を設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-eng-std-insp)# threat detection
Device(config-utd-eng-std-insp)# policy security
Device(config-utd-eng-std)# exit
Device(config)# utd
Device(config-utd)# engine standard
Device(config-eng-std)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet 0/0/0
Device(config-if)# utd enable
Device(config-if)# exit
```

## 例：インバウンドインターフェイスとアウトバウンドインターフェイスの両方での VRF を使用した UTD の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# vrf definition VRF1
Device(config-vrf)# rd 100:1
Device(config-vrf)# route-target export 100:1
Device(config-vrf)# route-target import 100:1
Device(config-vrf)# route-target import 100:2
!
Device(config-vrf)# address-family ipv4
Device(config-vrf-af)# exit
!
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# exit
!
Device(config-vrf-af)# vrf definition VRF2
Device(config-vrf)# rd 100:2
Device(config-vrf)# route-target export 100:2
Device(config-vrf)# route-target import 100:2
Device(config-vrf)# route-target import 100:1
!
Device(config-vrf)# address-family ipv4
Device(config-vrf-af)# exit
!
Device(config-vrf)# address-family ipv6
Device(config-vrf-af)# exit
!
Device(config-vrf)# interface VirtualPortGroup0
Device(config-if)# ip address 192.0.2.1 255.255.255.252
Device(config-if)# no mop enabled
Device(config-if)# no mop sysid
!
Device(config-if)# interface VirtualPortGroup1
Device(config-if)# ip address 192.0.2.5 255.255.255.252
Device(config-if)# no mop enabled
Device(config-if)# no mop sysid
!
Device(config-if)# interface GigabitEthernet0/0/2
Device(config-if)# vrf forwarding VRF1
Device(config-if-vrf)# ip address 192.1.1.5 255.255.255.0
Device(config-if-vrf)# ipv6 address A000::1/64
!
Device(config-if)# interface GigabitEthernet0/0/3
Device(config-if)# vrf forwarding VRF2
Device(config-if-vrf)# ip address 192.1.1.5 255.255.255.0
Device(config-if-vrf)# ipv6 address B000::1/64
```

```

!
Device(config-if-vrf)# router bgp 100
Device(config-if-vrf)# bgp log-neighbor-changes
!
Device(config-vrf)# address-family ipv4 vrf VRF1
Device(config-vrf-af)# redistribute connected
Device(config-vrf-af)# redistribute static
Device(config-vrf-af)# exit
!
Device(config-vrf)# address-family ipv6 vrf VRF1
Device(config-vrf-af)# redistribute connected
Device(config-vrf-af)# redistribute static
Device(config-vrf-af)# exit
!
Device(config-vrf)# address-family ipv4 vrf VRF2
Device(config-vrf-af)# redistribute connected
Device(config-vrf-af)# redistribute static
Device(config-vrf-af)# exit
!
Device(config-vrf)# address-family ipv6 vrf VRF2
Device(config-vrf-af)# redistribute connected
Device(config-vrf-af)# redistribute static
Device(config-vrf-af)# exit
!
Device(config)# utd
Device(config-utd)# all-interfaces
Device(config-utd)# engine standard
Device(config-utd)# exit

Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# logging syslog
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-engstd-insp)# threat protection
Device(config-utd-engstd-insp)# policy security
Device(config-utd-engstd-insp)# exist
Device(config-utd-eng-std)# exit
!
Device(config)# virtual-service utd
Device(config-virt-serv)# profile low
Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup0
Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 192.0.2.2
Device(config-virt-serv-vnic)# exit
Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup1
Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 192.0.2.6
Device(config-virt-serv-vnic)# exit
Device(config-virt-serv)# activate

UTD Snort IPS Drop Log
=====
2016/06/13-14:32:09.524475 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**]
[1:30561:1] BLACKLIST DNS request for known malware
domain domai.ddns2.biz - Win.Trojan.Beebone [**]
[Classification: A Network Trojan was Detected]
[Priority: 1] [VRF_ID: 2] {UDP} 11.1.1.10:58016 -> 21.1.1.10:53

```

## 例 : IOS Syslog のロギングの設定

次に、デバイスのログレベルを使用して IOS syslog のロギングを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# logging syslog
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-engstd-insp)# logging level debug
Device(config-utd-eng-std-insp)# end
Device#
```

## 例：中央集中型ログサーバへのロギングの設定

次の例は、中央集中型ログサーバへのロギングの設定方法を示しています。

```
Device# configure terminal
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std-insp)# logging host syslog.yourcompany.com
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-eng-std-insp)# logging level info
Device(config-utd-eng-std-insp)# end
Device#
```

## 例：Cisco サーバからの署名更新の設定

次の例は、Cisco サーバから署名の更新を設定する方法を示しています。

```
Device# configure terminal
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-eng-std-insp)# signature update server cisco username CCOuser password
passwd123
Device(config-utd-eng-std-insp)# end
Device#
```



- 
- (注) DNS が Cisco サーバから署名をダウンロードするように設定されていることを確認します。
- 

## 例：ローカルサーバからの署名更新の設定

次の例は、ローカルサーバから署名の更新を設定する方法を示しています。

```
Device# configure terminal
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-eng-std-insp)# signature update server url http://192.168.1.2/sig-1.pkg
Device(config-utd-eng-std-insp)# end
Device#
```

## 例：自動署名更新の設定

次の例は、サーバで自動署名更新を設定する方法を示しています。

```
Device# configure terminal
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-eng-std-insp)# signature update occur-at daily 0 0
Device(config-utd-eng-std-insp)# signature update server cisco username abcd password cisco123
Device(config-utd-eng-std-insp)# end
Device#
```

## 例：手動による署名の更新の実行

次の例は、さまざまな方法で手動で署名を更新する方法を示しています。

```
Device# utd threat-inspection signature update
```

既存のサーバ設定をダウンロードするか、既存のサーバ設定を使用して設定された明示的なサーバ情報を取得します。これらのコマンドにより、次の設定を使用して手動で署名更新が実行されます。

```
Device# show utd engine standard threat-inspection signature update status
```

```
Current signature package version: 2983.4.s
Current signature package name: UTD-STD-SIGNATURE-2983-4-S.pkg
Previous signature package version: 29.0.c
-----
Last update status: Successful
-----
Last successful update time: Mon Aug 7 02:02:32 2017 UTC
Last successful update method: Manual
Last successful update server: cisco
Last successful update speed: 3022328 bytes in 25 secs
-----
Last failed update time: Mon Aug 7 01:53:21 2017 UTC
Last failed update method: Manual
Last failed update server: cisco
Last failed update reason: ('Connection aborted.', gaierror(-2, 'Name or service hnot known'))
-----
Last attempted update time: Mon Aug 7 02:02:32 2017 UTC
Last attempted update method: Manual
Last attempted update server: cisco
-----
Total num of updates successful: 1
Num of attempts successful: 1
Num of attempts failed: 3
Total num of attempts: 4
-----
Next update scheduled at: None
-----
Current status: Idle
```

```
Device# utd threat-inspection signature update server cisco username ccouser password passwd123
```



```
Device# utd threat-inspection signature update server url http://192.168.1.2/sig-1.pkg
```

## 例：署名許可リストの設定

次の例は、署名の許可リストを設定する方法を示しています。

```
Device# configure terminal
Device(config)# utd threat-inspection whitelist
Device(config-utd-whitelist)# utd-whitelist)# generator id 1 signature id 23456 comment
"traffic from client x"
Device(config-utd-whitelist)# exit
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
Device(config-utd-eng-std-insp)# whitelist
Device(config-utd-eng-std-insp)# end
Device#
```



- 
- (注) 許可リストの署名 ID が設定されると、Snort はフローがアラートやドロップなしでデバイスを通過できるようにします。
- 

## アクティブな署名の表示例

### 例：接続ポリシーを使用したアクティブな署名の表示

```
Device# utd threat-inspection signature active-list write-to bootflash:siglist_connectivity
Device# more bootflash:siglist_connectivity
=====
Signature Package Version: 2982.1.s
Signature Ruleset: Connectivity
Total no. of active signatures: 581
Total no. of drop signatures: 452
Total no. of alert signatures: 129

For more details of each signature please go to www.snort.org/rule_docs to lookup
=====
List of Active Signatures:
-----
<snipped>
```

### 例：バランスの取れたポリシーを使用したアクティブな署名の表示

```
Device# utd threat-inspection signature active-list write-to bootflash:siglist_balanced
Device# more bootflash:siglist_balanced
=====
Signature Package Version: 2982.1.s
Signature Ruleset: Balanced
Total no. of active signatures: 7884
Total no. of drop signatures: 7389
Total no. of alert signatures: 495
```

例：セキュリティポリシーを使用したアクティブな署名の表示

```
For more details of each signature please go to www.snort.org/rule_docs to lookup
=====

List of Active Signatures:
-----
<snipped>
```

## 例：セキュリティポリシーを使用したアクティブな署名の表示

```
Device# utd threat-inspection signature active-list write-to bootflash:siglist_security
Device# more bootflash:siglist_security
=====
Signature Package Version: 2982.1.s
Signature Ruleset: Security
Total no. of active signatures: 11224
Total no. of drop signatures: 10220
Total no. of alert signatures: 1004

For more details of each signature please go to www.snort.org/rule_docs to lookup
=====

List of Active Signatures:
-----
<snipped>
```

## 統合型 Snort IPS 設定の確認

次のコマンドを使用して、設定をトラブルシューティングします。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show virtual-service list**
3. **show virtual-service detail**
4. **show service-insertion type utd service-node-group**
5. **show service-insertion type utd service-context**
6. **show utd engine standard config**
7. **show utd engine standard status**
8. **show utd engine standard threat-inspection signature update status**
9. **show utd engine standard logging events**
10. **clear utd engine standard logging events**
11. **show platform hardware qfp active feature utd config**
12. **show platform software utd global**
13. **show platform software utd interfaces**
14. **show platform hardware qfp active feature utd stats**
15. **show utd engine standard statistics daq all**

## 手順の詳細

## 手順

**ステップ 1 enable**

例 :

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

**ステップ 2 show virtual-service list**

仮想サービスコンテナ上のすべてのアプリケーションのインストールのステータスを表示します。

例 :

```
Device# show virtual-service list
```

```
Virtual Service List:
```

Name	Status	Package Name
UTDIPS	Activated	utdsnort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova

**ステップ 3 show virtual-service detail**

デバイスの仮想サービスコンテナにインストールされているアプリケーションによって使用されるリソースを表示します。

例 :

```
Device# show virtual-service detail
```

```
Device#show virtual-service detail
Virtual service UTDIPS detail
State           : Activated
Owner           : IOSd
Package information
Name            : utdsnort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova
Path            : bootflash:/utdsnort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova
Application
Name            : UTD-Snort-Feature
Installed version : 1.0.1_SV2982_XE_16_3
Description     : Unified Threat Defense
Signing
Key type       : Cisco development key
Method         : SHA-1
Licensing
Name           : Not Available
Version       : Not Available

Detailed guest status
```

```

-----
Process                Status                Uptime                # of restarts
-----
climgr                 UP                   0Y 0W 0D 0: 0:35    1
logger                 UP                   0Y 0W 0D 0: 0: 4    0
snort_1                UP                   0Y 0W 0D 0: 0: 4    0
Network stats:
eth0: RX packets:43, TX packets:6
eth1: RX packets:8, TX packets:6

Coredump file(s): lost+found

Activated profile name: None
Resource reservation
  Disk           : 736 MB
  Memory         : 1024 MB
  CPU            : 25% system CPU

Attached devices
  Type           Name                Alias
-----
NIC              ieobc_1             ieobc
NIC              dp_1_0              net2
NIC              dp_1_1              net3
NIC              mgmt_1              mgmt
Disk             _rootfs
Disk             /opt/var
Disk             /opt/var/c
Serial/shell
Serial/aux
Serial/Syslog
Serial/Trace
Watchdog         watchdog-2

Network interfaces
  MAC address          Attached to interface
-----
54:0E:00:0B:0C:02     ieobc_1
A4:4C:11:9E:13:8D     VirtualPortGroup0
A4:4C:11:9E:13:8C     VirtualPortGroup1
A4:4C:11:9E:13:8B     mgmt_1

Guest interface
---
Interface: eth2
ip address: 48.0.0.2/24
Interface: eth1
ip address: 47.0.0.2/24
---

Guest routes
---
Address/Mask          Next Hop              Intf.
-----
0.0.0.0/0             48.0.0.1              eth2
0.0.0.0/0             47.0.0.1              eth1
---

Resource admission (without profile) : passed
  Disk space         : 710MB
  Memory             : 1024MB

```

```
CPU          : 25% system CPU
VCPUs       : Not specified
```

#### ステップ4 show service-insertion type utd service-node-group

サービスノードグループのステータスを表示します。

例：

```
Device# show service-insertion type utd service-node-group

Service Node Group name : utd_sng_1
Service Context : utd/1
Member Service Node count : 1

Service Node (SN) : 30.30.30.2
Auto discovered : No
SN belongs to SNG : utd_sng_1
Current status of SN : Alive
Time current status was reached : Tue Jul 26 11:57:48 2016

Cluster protocol VPATH version : 1
Cluster protocol incarnation number : 1
Cluster protocol last sent sequence number : 1469514497
Cluster protocol last received sequence number: 1464
Cluster protocol last received ack number : 1469514496
```

#### ステップ5 show service-insertion type utd service-context

AppNav およびサービスノードビューを表示します。

例：

```
Device# show service-insertion type utd service-context

Service Context : utd/1
Cluster protocol VPATH version : 1
Time service context was enabled : Tue Jul 26 11:57:47 2016
Current FSM state : Operational
Time FSM entered current state : Tue Jul 26 11:57:58 2016
Last FSM state : Converging
Time FSM entered last state : Tue Jul 26 11:57:47 2016
Cluster operational state : Operational

Stable AppNav controller View:
30.30.30.1

Stable SN View:
30.30.30.2

Current AppNav Controller View:
30.30.30.1

Current SN View:
30.30.30.2
```

#### ステップ6 show utd engine standard config

統合脅威防御 (UTD) の設定を表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard config
```

```
UTD Engine Standard Configuration:
  Operation Mode : Intrusion Prevention
  Policy         : Security

Signature Update:
  Server        : cisco
  User Name     : ccouser
  Password      : YEX^SH\fhdOeEGaOBIQAICOVLgaVGf
  Occurs-at     : weekly ; Days:0 ; Hour: 23; Minute: 50

Logging:
  Server        : IOS Syslog; 10.104.49.223
  Level         : debug

Whitelist Signature IDs:
  28878
```

## ステップ7 show utd engine standard status

UTD エンジンのステータスを表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard status
```

```
Profile : High
System memory :
Usage : 8.00 %
Status : Green
Number of engines : 4

Engine Running CFT flows Health Reason
=====
Engine(#1): Yes 0 Green None
Engine(#2): Yes 0 Green None
Engine(#3): Yes 0 Green None
Engine(#4): Yes 0 Green None
=====

Overall system status: Green

Signature update status:
=====
Current signature package version: 2983.4.s
Last update status: Successful
Last successful update time: Mon Aug 7 02:02:32 2017 UTC
Last failed update time: Mon Aug 7 01:53:21 2017 UTC
Last failed update reason: ('Connection aborted.', gaierror(-2, 'Name or service not known'))
Next update scheduled at: None
Current status: Idle
```

## ステップ8 show utd engine standard threat-inspection signature update status

署名更新プロセスのステータスを表示します。

例 :

```

Device# show utd engine standard threat-inspection signature update status

Current signature package version: 2983.4.s
Current signature package name: UTD-STD-SIGNATURE-2983-4-S.pkg
Previous signature package version: 29.0.c
-----
Last update status: Successful
-----
Last successful update time: Mon Aug  7 02:02:32 2017 UTC
Last successful update method: Manual
Last successful update server: cisco
Last successful update speed: 3022328 bytes in 25 secs
-----
Last failed update time: Mon Aug  7 01:53:21 2017 UTC
Last failed update method: Manual
Last failed update server: cisco
Last failed update reason: ('Connection aborted.', gaierror(-2, 'Name or service hnot known'))
-----
Last attempted update time: Mon Aug  7 02:02:32 2017 UTC
Last attempted update method: Manual
Last attempted update server: cisco
-----
Total num of updates successful: 1
Num of attempts successful: 1
Num of attempts failed: 3
Total num of attempts: 4
-----
Next update scheduled at: None
-----
Current status: Idle

```

## ステップ 9 show utd engine standard logging events

Snort センサーからのログイベントを表示します。

例 :

```

Device# show utd engine standard logging events

2016/06/13-14:32:09.524475 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**] [1:30561:1]
BLACKLIST DNS request for known malware domain domai.ddns2.biz -
Win.Trojan.Beebone [**] [Classification: A Network Trojan was Detected] [Priority: 1]
[VRF_ID: 2] {UDP} 11.1.1.10:58016 -> 21.1.1.10:53
2016/06/13-14:32:21.524988 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**] [1:30561:1]
BLACKLIST DNS request for known malware domain domai.ddns2.biz -
Win.Trojan.Beebone [**] [Classification: A Network Trojan was Detected] [Priority: 1]
[VRF_ID: 2] {UDP} a000:0:0:0:0:0:10:59964 -> b000:0:0:0:0:0:10:53

```

## ステップ 10 clear utd engine standard logging events

例 :

```
Device# clear utd engine standard logging events
```

Snort センサーからのログイベントをクリアします。

## ステップ 11 show platform hardware qfp active feature utd config

サービスノードの正常性に関する情報を表示します。

例 :

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd config
```

```

Global configuration
NAT64: disabled
SN threads: 12
CFT inst_id 0 feat id 1 fo id 1 chunk id 8
Context Id: 0, Name: Base Security Ctx
Ctx Flags: (0x60000)
Engine: Standard
SN Redirect Mode : Fail-open, Divert
Threat-inspection: Enabled, Mode: IDS
Domain Filtering : Not Enabled
URL Filtering : Not Enabled
SN Health: Green

```

## ステップ 12 show platform software utd global

UTD が有効になっているインターフェイスを表示します。

例 :

```

Device# show platform software utd global

UTD Global state
Engine           : Standard
Global Inspection : Enabled
Operational Mode : Intrusion Prevention
Fail Policy      : Fail-open
Container techonlogy : LXC
Redirect interface : VirtualPortGroup1
UTD interfaces
All dataplane interfaces

```

## ステップ 13 show platform software utd interfaces

すべてのインターフェイスに関する情報を表示します。

例 :

```

Device# show platform software utd interfaces

UTD interfaces
All dataplane interfaces

```

## ステップ 14 show platform hardware qfp active feature utd stats

データプレーンの UTD 統計情報を表示します。

例 :

```

Device# show platform hardware qfp active feature utd stats

Security Context:   Id:0   Name: Base Security Ctx

Summary Statistics:
Pkts entered policy feature          pkt          228
                                      byt          31083

Drop Statistics:

Service Node flagged flow for dropping          48
Service Node not healthy                       62

```



```

General Statistics:

Non Diverted Pkts to/from divert interface          32913
Inspection skipped - UTD policy not applicable      48892
Policy already inspected                            2226
Pkts Skipped - L2 adjacency glean                   1
Pkts Skipped - For Us                               67
Pkts Skipped - New pkt from RP                     102
Response Packet Seen                                891
Feature memory allocations                           891
Feature memory free                                  891
Feature Object Delete                               863

Service Node Statistics:
SN Health: Green
SN down                                             85
SN health green                                     47
SN health red                                       13

Diversion Statistics
redirect                                           2226
encaps                                           2226
decaps                                           2298
reinject                                          2250
decaps: Could not locate flow                       72
Redirect failed, SN unhealthy                       62
Service Node requested flow bypass drop            48

```

## ステップ 15 show utd engine standard statistics daq all

サービスプレーンのデータ収集 (DAQ) の統計情報を表示します。

例 :

```

Device# show utd engine standard statistics daq all

IOS-XE DAQ Counters(Engine #1):
-----
Frames received                               :0
Bytes received                               :0
RX frames released                           :0
Packets after vPath decap                    :0
Bytes after vPath decap                      :0
Packets before vPath decap                   :0
Bytes before vPath decap                     :0
Frames transmitted                           :0
Bytes transmitted                            :0

Memory allocation                            :2
Memory free                                  :0
Merged packet buffer allocation               :0
Merged packet buffer free                    :0

VPL buffer allocation                        :0
VPL buffer free                              :0
VPL buffer expand                            :0
VPL buffer merge                             :0
VPL buffer split                             :0
VPL packet incomplete                        :0

VPL API error                                :0
CFT API error                                :0

```

```

Internal error                :0
External error                :0
Memory error                  :0
Timer error                    :0

Kernel frames received        :0
Kernel frames dropped          :0

FO cached via timer           :0
Cached fo used                 :0
Cached fo freed                :0
FO not found                   :0
CFT full packets              :0

```

```

VPL Stats(Engine #1):
-----

```

## Cisco Prime CLI テンプレートをを使用した Snort IPS の導入

Cisco Prime CLI テンプレートをを使用して、Snort IPS 導入をプロビジョニングすることができません。Cisco Prime CLI テンプレートを 사용하면、Snort IPS 導入を容易にプロビジョニングできます。Cisco Prime CLI テンプレートを Snort IPS 導入のプロビジョニングに使用するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 システムで実行されている IOS XE バージョンに対応する Prime テンプレートを [ソフトウェアのダウンロードページ](#) からダウンロードします。
- ステップ 2 このファイルが圧縮されている場合は解凍します。
- ステップ 3 Prime から、[Configuration] > [Templates] > [Features and Technologies] の順に選び、[CLI Templates] を選択します。
- ステップ 4 [Import] をクリックします。
- ステップ 5 テンプレートのインポート先フォルダを選択し、[Select Templates] をクリックして、先ほどダウンロードしたテンプレートを選択してインポートします。

次の Snort IPS CLI テンプレートを使用できます。

- Copy OVA to Device : このテンプレートを使用して、Snort IPS OVA ファイルをルータのファイルシステムにコピーします。
- Delete OVA : このテンプレートを使用して、コピーした Snort IPS OVA ファイルをルータのファイルシステムから削除します。

- **Dynamic NAT** : ダイナミック NAT (ネットワークアドレス変換) が環境内で設定されており、Snort IPS 管理インターフェイス IP 用に変更する必要がある NAT 変換を選択するためにアクセスリストを使用する場合は、このテンプレートを 사용합니다。
- **Dynamic NAT Cleanup** : このテンプレートを 사용하여、Snort IPS の NAT 設定を削除します。
- **Dynamic PAT** : 環境内でダイナミック PAT (ポートアドレス変換) が設定されており、Snort IPS 管理インターフェイス IP 用に変更する必要がある PAT 変換を選択するためにアクセスリストを使用する場合は、このテンプレートを 사용합니다。
- **Dynamic NAT Cleanup** : このテンプレートを 사용하여、Snort IPS の PAT 設定を削除します。
- **IP Unnumbered** : このテンプレートを 사용하여、Snort IPS および IP 番号なしの導入に必要な仮想サービスを設定します。
- **IP Unnumbered Cleanup** : このテンプレートを 사용하여、IP 番号なしで設定された Snort IPS 管理インターフェイスを削除します。
- **Management Interface** : Snort IPS 管理トラフィックのルーティングにシステム管理インターフェイス (GigabitEthernet0 など) を使用する場合は、このテンプレートを 사용합니다。
- **Management Interface Cleanup** : このテンプレートを 사용하여、Snort IPS 管理トラフィックをルーティングするために設定されたシステム管理インターフェイス (GigabitEthernet0 など) を削除します。
- **Static NAT** : このテンプレートを 사용하여、Snort IPS および既存の静的 NAT の導入に必要な仮想サービスを設定します。
- **Static NAT Cleanup** : このテンプレートを 사용하여、静的 NAT の導入で設定された Snort IPS を削除します。
- **Upgrade OVA** : このテンプレートを 사용하여、Snort IPS の OVA ファイルをアップグレードします。

## IOx コンテナへの移行

ここでは、Cisco 1000 シリーズサービス統合型ルータ (ISR) での UTD 対応を拡張するための、Cisco IOx および IOx への UTD の移行について説明します。Cisco IOx では Cisco IOS と Linux OS が組み合わされており、安全性の高いネットワークを実現します。

### Cisco IOx について

Cisco IOx は、さまざまな Cisco プラットフォームにおける各種アプリケーションに統一された一貫性のあるホスティング機能を提供するアプリケーションプラットフォームです。このプラットフォームは、ネットワーキングオペレーティングシステム (Cisco IOS) とオープンソースのプラットフォーム (Linux) を統合し、ネットワーク上のカスタムアプリケーションとインターフェイスを実現します。

仮想サービスコンテナはデバイスの仮想化環境です。仮想マシン (VM)、仮想サービス、またはコンテナとも呼ばれます。仮想サービスコンテナ内にアプリケーションをインストールできます。このアプリケーションは、デバイスのオペレーティングシステムの仮想サービスコンテナ内で稼働します。アプリケーションは、拡張子 .ova を持つ tar ファイルである Open Virtual Application (OVA) として提供されます。OVA パッケージは、コマンドラインのインターフェイスを介してデバイスにインストールされ、有効化されます。オープンフローの Cisco プラグインは、仮想サービスコンテナ内に導入できるアプリケーションの一例です。

UTD OVA をホストするために使用される仮想サービスコンテナのインフラストラクチャは、Cisco 1100 シリーズ ISR では対応していません。現在、UTD は両方のコンテナに対応していません。ただし、OVA コンテナ機能は Cisco IOS XE Gibraltar 16.10 のリリースでは対応していますが、それ以降のリリースでは対応していません。

## 仮想サービスコンテナから IOx へのアップグレード

OVA ファイルは、仮想マシンの圧縮された「インストール可能な」バージョンを含むオープン仮想アーカイブ (Open Virtualization Archive) です。Snort IPS は仮想コンテナサービスとして使用できます。この OVA ファイルをデバイスにダウンロードし、**virtual-service install CLI** を使用してサービスをインストールする必要があります。

UTD IOx インフラストラクチャの場合、IOx ベースの OVA は IOx CLI コマンドを使用してインストールします。インストールする前に、グローバル設定モードで IOx 環境を開始します。

IOx ベースの OVA は TAR ファイルと呼ばれます。セキュリティライセンスが付属した Cisco IOS XE イメージを使用する必要があります。OVA ファイルのインストール中に、セキュリティライセンスがチェックされ、ライセンスが存在しない場合はエラーが報告されます。

仮想サービスから IOx コンテナにアップグレードするには、次の手順を実行します。

### 手順

---

#### ステップ 1 no activate

例 :

```
Device# configure terminal
Device (config)# virtual-service utd
Device (config-virt-serv)# no activate
Device (config-virt-serv)# exit
Device (config)# no virtual-service utd
```

仮想マネージャベースの仮想サービスのインスタンスを非アクティブにします。

#### ステップ 2 show virtual-service list

例 :

```
Device# show virtual-service list
```

仮想サービスコンテナにインストールされているすべてのアプリケーションのステータスを表示します。仮想サービスインスタンスが非アクティブになっていることを確認します。

**ステップ 3** `virtual-service uninstall name virtual-service instance`

例 :

```
Device# virtual-service uninstall name utd
```

仮想マネージャベースの仮想サービスインスタンスをアンインストールします。 **show virtual-service list** コマンドを実行したときに、仮想サービスインスタンスが表示されないことを確認します。

**ステップ 4** `iox`

例 :

```
Device# configure terminal
Device (config)# iox
Device (config)# end
```

IOx環境をグローバル設定モードで開始します。

**ステップ 5** `app-hosting install appid name package bootflash:<tarfile>`

例 :

```
Device# app-hosting install appid UTD package bootflash:utd.tar
Device#
```

IOx ベースの OVA tar ファイルをデバイスにコピーしてインストールします。

**ステップ 6** `show app-hosting list`

例 :

```
Device# show app-hosting list
App id                               State
-----
UTD                                   DEPLOYED
Device#
```

インストールのステータスを表示します。アプリケーションが展開されていることを確認します。

**ステップ 7** `app-hosting activate appid name`

例 :

```
Device# app-hosting activate appid UTD
```

デバイス上の IOx ベースの TAR ファイルをアクティブにします。

**ステップ 8** `show app-hosting list`

例 :

```
Device# show app-hosting list
App id                               State
-----
UTD                                   ACTIVATED
Device#
```

アクティベーションのステータスが表示されます。アプリケーションがアクティブになっていることを確認します。

**ステップ 9** `app-hosting start appid name`

例 :

```
Device# app-hosting start appid UTD
Device# show app-hosting list | in UTD
```

IOx ベースの OVA を開始します。

## ステップ 10 show app-hosting list

例 :

```
Example:
Device# show app-hosting list
App id                               State
-----
UTD                                   RUNNING

Device#
```

開始のステータスを表示します。アプリケーションが実行されていることを確認します。

## IOx の設定例

IOx の設定例を次に示します。

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Device(config)# iox
Device(config)# interface VirtualPortGroup0
Device(config-if)# no shutdown
Device(config-if)# ip address 192.0.2.1 255.255.255.252
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface VirtualPortGroup1
Device(config-if)# no shutdown
Device(config-if)# ip address 192.0.2.5 255.255.255.252
Device(config-if)# exit
Device(config)# app-hosting appid utd
Device(config-app-hosting)# app-vnic gateway0 virtualportgroup 0 guest-interface 0
Device(config-app-hosting-gateway0)# guest-ipaddress 192.0.2.2 netmask 255.255.255.252
Device(config-app-hosting-gateway0)# exit
Device(config-app-hosting)# app-vnic gateway1 virtualportgroup 1 guest-interface 1
Device(config-app-hosting-gateway1)# guest-ipaddress 192.0.2.6 netmask 255.255.255.252
Device(config-app-hosting-gateway1)# exit
Device(config-app-hosting)# app-resource package-profile custom
Device(config-app-hosting)# start
Device(config-app-hosting)# exit
Device(config)# exit
Device#
```

# Snort IPS のトラブルシューティング

## トラフィックが転送されない

**問題** トラフィックは転送されません。

**考えられる原因** 仮想サービスがアクティブになっていない可能性があります。

**解決法** `show virtual-service list` コマンドを使用して、仮想サービスがアクティブになっているかどうかを確認します。次に、コマンドの出力例を示します。

```
Device# show virtual-service list
```

```
Virtual Service List:
```

```
Name Status Package Name
```

```
-----  
snort Activated utdsnort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova
```

**考えられる原因** 指定されたインターフェイスでは、統合脅威防御（UTD）が有効になっていない可能性があります。

**解決法** `show platform software utd global` コマンドを使用して、インターフェイスで UTD が有効になっているかどうかを確認します。

```
Device# show platform software utd global
```

```
UTD Global state  
Engine : Standard  
Global Inspection : Disabled  
Operational Mode : Intrusion Prevention  
Fail Policy : Fail-open  
Container technology : LXC  
Redirect interface : VirtualPortGroup1  
UTD interfaces  
GigabitEthernet0/0/0
```

**考えられる原因** サービスノードが正常に動作していない可能性があります。

**解決法** `show platform hardware qfp active feature utd config` コマンドを使用して、サービスノードの状態が緑色かどうかを確認します。

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd config
```

```
Global configuration  
NAT64: disabled  
SN threads: 12  
CFT inst_id 0 feat id 0 fo id 0 chunk id 4  
Context Id: 0, Name: Base Security Ctx  
Ctx Flags: (0x60000)  
Engine: Standard  
SN Redirect Mode : Fail-open, Divert  
Threat-inspection: Enabled, Mode: IDS  
Domain Filtering : Not Enabled
```

```
URL Filtering : Not Enabled
SN Health: Green
```

考えられる原因 Snort プロセスがアクティブになっていない可能性があります。

解決法 **show virtual-service detail** コマンドを使用して、Snortプロセスが稼働しているかどうかを確認します。

```
Device# show virtual-service detail
```

```
Virtual service UTDIPS detail
State           : Activated
Owner           : IOSd
Package information
Name            : utdsnort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova
Path            : bootflash:/utdsnort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova
Application
Name            : UTD-Snort-Feature
Installed version : 1.0.1_SV2982_XE_16_3
Description     : Unified Threat Defense
Signing
Key type        : Cisco development key
Method          : SHA-1
Licensing
Name            : Not Available
Version         : Not Available
```

```
Detailed guest status
```

```
-----
Process           Status           Uptime           # of restarts
-----
climgr            UP              0Y 0W 0D 0: 0:35   1
logger            UP              0Y 0W 0D 0: 0: 4    0
snort_1           UP              0Y 0W 0D 0: 0: 4    0
Network stats:
eth0: RX  packets:43, TX  packets:6
eth1: RX  packets:8, TX  packets:6
```

```
Coredump file(s): lost+found
```

```
Activated profile name: None
Resource reservation
Disk           : 736 MB
Memory         : 1024 MB
CPU            : 25% system CPU
```

```
Attached devices
```

```
-----
Type           Name           Alias
-----
NIC            ieobc_1        ieobc
NIC            dp_1_0         net2
NIC            dp_1_1         net3
NIC            mgmt_1         mgmt
Disk           _rootfs
Disk           /opt/var
Disk           /opt/var/c
Serial/shell
Serial/aux
Serial/Syslog
Serial/Trace
Watchdog       watchdog-2
```

```
Network interfaces
```



```

MAC address                Attached to interface
-----
54:0E:00:0B:0C:02         ieobc_1
A4:4C:11:9E:13:8D         VirtualPortGroup0
A4:4C:11:9E:13:8C         VirtualPortGroup1
A4:4C:11:9E:13:8B         mgmt_1

Guest interface
---
Interface: eth2
ip address: 48.0.0.2/24
Interface: eth1
ip address: 47.0.0.2/24

---

Guest routes
---
Address/Mask                Next Hop                    Intf.
-----
0.0.0.0/0                   48.0.0.1                    eth2
0.0.0.0/0                   47.0.0.1                    eth1

---

Resource admission (without profile) : passed
Disk space      : 710MB
Memory          : 1024MB
CPU             : 25% system CPU
VCPUs          : Not specified

```

考えられる原因 AppNav トンネルがアクティブになっていない可能性があります。

**解決法** `show service-insertion type utd service-node-group` および `show service-insertion type utd service-context` コマンドを使用して、AppNav トンネルがアクティブになっているかどうかを確認します。

**解決法** 次に、`show service-insertion type utd service-node-group` コマンドの出力例を示します。

```

Device# show service-insertion type utd service-node-group

Service Node Group name : utd_sng_1
Service Context : utd/1
Member Service Node count : 1

Service Node (SN) : 30.30.30.2
Auto discovered : No
SN belongs to SNG : utd_sng_1
Current status of SN : Alive
Time current status was reached : Tue Jul 26 11:57:48 2016

Cluster protocol VPATH version : 1
Cluster protocol incarnation number : 1
Cluster protocol last sent sequence number : 1469514497
Cluster protocol last received sequence number: 1464
Cluster protocol last received ack number : 1469514496

```

**解決法** 次に、`show service-insertion type utd service-context` コマンドの出力例を示します。

```

Device# show service-insertion type utd service-context

Service Context : utd/1
Cluster protocol VPATH version : 1
Time service context was enabled : Tue Jul 26 11:57:47 2016
Current FSM state : Operational
Time FSM entered current state : Tue Jul 26 11:57:58 2016
Last FSM state : Converging
Time FSM entered last state : Tue Jul 26 11:57:47 2016
Cluster operational state : Operational

Stable AppNav controller View:
30.30.30.1

Stable SN View:
30.30.30.2

Current AppNav Controller View:
30.30.30.1

Current SN View:
30.30.30.2

```

**考えられる原因** トラフィックのステータスのデータプレーンUTD統計情報を確認します。トラフィックが転送されない場合、転送および拒否されたパケットの数はゼロになります。数値がゼロ以外の場合、トラフィック転送が行われており、Snort センサーはデータプレーンにパケットを再送信しています。

**解決法** `show platform hardware qfp active feature utd stats` コマンドを使用してトラフィックのステータスを確認します。

```

Device# show platform hardware qfp active feature utd stats

Security Context:   Id:0   Name: Base Security Ctx

Summary Statistics:
Active Connections                               29
TCP Connections Created                          712910
UDP Connections Created                          80
Pkts entered policy feature                      pkt      3537977
                                                    byt      273232057
Pkts entered divert feature                      pkt      3229148
                                                    byt      249344841
Pkts slow path                                   pkt      712990
                                                    byt      45391747
Pkts Diverted                                    pkt      3224752
                                                    byt      249103697
Pkts Re-injected                                 pkt      3224746
                                                    byt      249103373
...

```

## 署名の更新が機能しない

**問題** Cisco ボーダレスソフトウェア配布 (BSD : Borderless Software Distribution) サーバからの署名更新が機能していません。

**考えられる原因** さまざまな理由により署名の更新に失敗した可能性があります。最後に署名の更新に失敗した理由を確認します。

**解決法** `show utd engine standard threat-inspection signature update status` コマンドを使用して、最後に署名の更新に失敗した理由を表示します。

```
Device# show utd eng standard threat-inspection signature update status
Current signature package version: 29.0.c
Current signature package name: default
Previous signature package version: None
-----
Last update status: Failed
-----
Last successful update time: None
Last successful update method: None
Last successful update server: None
Last successful update speed: None
-----
Last failed update time: Thu Jan 11 13:34:36 2018 PST
Last failed update method: Manual
Last failed update server: http://172.27.57.252/UTD-STD-SIGNATURE-2983-1-S.pkg
Last failed update reason: [Errno 113] No route to host
-----
Last attempted update time: Thu Jan 11 13:34:36 2018 PST
Last attempted update method: Manual
Last attempted update server: http://172.27.57.252/UTD-STD-SIGNATURE-2983-1-S.pkg
-----
Total num of updates successful: 0
Num of attempts successful: 0
Num of attempts failed: 1
Total num of attempts: 1
-----
Next update scheduled at: None
-----
Current status: Idle
```

**考えられる原因** ドメインネームシステム (DNS) が正しく設定されていません。

**解決法** `show running-config | i name-server` コマンドを使用して、ネームサーバの詳細を表示します。

```
Device# show run | i name-server

ip name-server 10.104.49.223
```

**考えられる原因** システムエラー：ユーザ名とパスワードの組み合わせの処理に失敗しました。

**解決法** 署名パッケージのダウンロードに正しい認証情報を使用したことを確認します。

## ローカルサーバからの署名の更新が機能しない

**問題** ローカルサーバからの署名の更新が機能しない。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：無効なスキーム — HTTP または HTTPS のみに対応します。

**解決法** ローカルダウンロード方式として HTTP またはセキュア HTTP (HTTPS) が指定されていることを確認します。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：名前またはサービスが不明です。

**解決法** ローカルサーバに指定されたホスト名または IP アドレスが正しいことを確認します。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：認証情報が入力されていません。

**解決法** ローカル HTTP または HTTPS サーバの認証情報が入力されていることを確認します。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：ファイルが見つかりません。

**解決法** 入力した署名ファイル名または URL が正しいことを確認します。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：ダウンロードが破損しています。

**解決法**

- 以前の署名のダウンロード時に署名更新の再試行でエラーが発生していないかどうかを確認します。
- 正しい署名パッケージが使用可能であることを確認します。

## IOSd Syslog へのロギングが機能しない

**問題** IOSd syslog へのロギングが機能しない。

**考えられる原因** syslog へのロギングは、統合脅威防御 (UTD) の設定では設定できません。

**解決法** UTD 設定を表示し、syslog へのロギングが設定されていることを確認するには、**show utd engine standard config** コマンドを使用します。

```
Device# show utd engine standard config

UTD Engine Standard Configuration:
  Operation Mode : Intrusion Prevention
  Policy          : Security

Signature Update:
  Server         : cisco
  User Name      : ccouser
  Password       : YEX^SH\fhdOeEGaOBIQAiCovLgaVGf
  Occurs-at      : weekly ; Days:0 ; Hour: 23; Minute: 50

Logging:
  Server         : IOS Syslog; 10.104.49.223
  Level          : debug

Whitelist Signature IDs:
  28878
```

**解決法** UTD エンジンのイベントログを表示するには、次の **show utd engine standard logging events** コマンドを使用します。

```
Device# show utd engine standard logging events

2016/06/13-14:32:09.524475 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**] [1:30561:1]
BLACKLIST DNS request for known malware domain domai.ddns2.biz -
Win.Trojan.Beebone [**] [Classification: A Network Trojan was Detected]
[Priority: 1] [VRF_ID: 2] {UDP} 11.1.1.10:58016 -> 21.1.1.10:53
2016/06/13-14:32:21.524988 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**] [1:30561:1]
BLACKLIST DNS request for known malware domain domai.ddns2.biz -
Win.Trojan.Beebone [**] [Classification: A Network Trojan was Detected] [Priority: 1]
[VRF_ID: 2] {UDP} a000:0:0:0:0:0:10:59964 -> b000:0:0:0:0:0:10:53
```

## 外部サーバへのロギングが機能しない

**問題** 外部サーバへのロギングが機能していません。

**考えられる原因** 外部サーバで Syslog が実行されていない可能性があります。

**解決法** syslog サーバが外部サーバで実行されているかどうかを確認します。ステータスを表示するには、外部サーバで次のコマンドを設定します。

```
ps -eaf | grep syslog
```

```
root 2073 1 0 Apr12 ? 00:00:02 syslogd -r -m
```

**考えられる原因** 統合脅威防御（UTD）の Linux コンテナ（LXC : Linux Container）と外部サーバ間の接続が失われている可能性があります。

**解決法** 管理インターフェイスから外部 syslog サーバへの接続を確認します。

## UTD 条件付きデバッグ

条件付きデバッグは、Unified Threat Defense のマルチテナントに対応しています。条件付きデバッグの設定方法の詳細については、以下を参照してください。

[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/utd/1000/troubleshooting/guide/Troubleshooting-3sar-1000-book.htm#task\\_AC969BB06B414DCBBDEF7ADD29F8131](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/utd/1000/troubleshooting/guide/Troubleshooting-3sar-1000-book.htm#task_AC969BB06B414DCBBDEF7ADD29F8131)

## Snort IPS に関するその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## Snort IPS の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 219: Snort IPS の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Snort IPS	Cisco IOS XE 3.16.1S、3.17S 以降のリリース	Snort IPS 機能は、Cisco IOS XE ベースのプラットフォームのブランチオフィスにおける侵入防止システム (IPS : Intrusion Prevention System) および侵入検知システム (IDS) を有効にします。この機能は、オープンソースの Snort ソリューションを使用して IPS と IDS を有効にします。
Snort IPS での VRF 対応	Cisco IOS XE Denali 16.3.1	Snort IPS 設定で仮想フラグメンテーションの再構成 (VFR : Virtual Fragmentation Reassembl) に対応。
Cisco クラウド サービスルータ 1000v シリーズで Snort IPS に対応	Cisco IOS XE Denali 16.3.1	Cisco クラウドサービスルータ 1000v シリーズは Snort IPS に対応します。
16.4 リリースにおける UTD Snort IPS の機能拡張	Cisco IOS XE Everest 16.4.1	16.4 リリースにおける UTD Snort IPS の機能拡張には、アクティブな署名のリストを表示する機能が追加されています。
脅威検知アラートの可視性 UTD サービスの有用性の強化	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1	この機能は、脅威検知アラートの概要を提供します。次のコマンドが導入されています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>show utd engine standard logging statistics threat-inspection</b></li> <li>• <b>show utd engine standard logging statistics threat-inspection detail</b></li> </ul> <p>次のコマンドは、UTD サービスの有用性の強化の一環として変更されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>show utd engine standard status</b></li> <li>• <b>show utd engine standard threat-inspection signature update status</b></li> </ul>
IOX コンテナへの UTD (IPS および URL フィルタリング) の移行	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	UTD は、仮想サービスコンテナを OVA から IOx に移行することで、Cisco 1100 シリーズ ISR に対応します。







## 第 165 章

# Web フィルタリング

Web フィルタリング機能を使用すると、ドメインベースまたは URL ベースのポリシーとフィルタをデバイスに設定することで、インターネット Web サイトまたはインターネットサイトへのアクセスを制御できます。ユーザは、Web アクセスを管理する Web フィルタリングプロファイルを設定できます。Web フィルタリング機能はコンテナサービスを使用して実装され、これは Snort IPS ソリューションに似ています。

Web フィルタリングでは、以下に基づいて特定のドメインまたは URL へのアクセスを許可または拒否できます。

- 許可リストおよびブロックリスト：これらは静的ルールであり、ユーザがドメインまたは URL を許可または拒否するのに役立ちます。許可リストとブロックリストの両方で同じパターンが設定されている場合、トラフィックは許可されます。
- カテゴリ：URL を、ニュース、ソーシャルメディア、教育、アダルトなどの複数のカテゴリに分類できます。要件に基づいて、ユーザは1つ以上のカテゴリをブロックまたは許可することができます。
- レピュテーション：各URLにはレピュテーションスコアが関連付けられています。レピュテーションスコアの範囲は0～100で、高リスク（レピュテーションスコア（0～20）、疑わしい（0～40）、中程度のリスク（0～60）、低リスク（0～80）、信頼できる（0～100）に分類されます。URL のレピュテーションスコアと設定に基づいて、URL はブロックまたは許可されます。ユーザがCLIを使用してレピュテーションのしきい値を定義すると、レピュテーションスコアがユーザ定義のしきい値よりも低いすべてのURLがブロックされます。
- [Web フィルタリング（2402 ページ）](#)
- [Web フィルタリングの利点（2406 ページ）](#)
- [Web フィルタリングの前提条件（2406 ページ）](#)
- [Web フィルタリングの制約事項（2406 ページ）](#)
- [Web フィルタリングの導入方法（2407 ページ）](#)
- [Web フィルタ設定の確認（2417 ページ）](#)
- [設定例（2419 ページ）](#)
- [Cisco Web フィルタリングに関する追加の参考資料（2421 ページ）](#)
- [Cisco Web フィルタリングに関する機能情報（2422 ページ）](#)

# Web フィルタリング

Web フィルタリング機能を使用すると、ドメインベースまたは URL ベースのポリシーとフィルタをデバイスに設定することで、インターネット Web サイトへのアクセスを制御できます。ドメインベースのフィルタリングでは、ユーザはドメインレベルで Web サイトまたはサーバへのアクセスを制御でき、URL ベースのフィルタリングでは、ユーザは URL レベルで Web サイトへのアクセスを制御できます。この項では、次のトピックについて取り上げます。

## ドメインベースのフィルタリング

ドメインベースのフィルタリングでは、ユーザは、デバイスに設定されたドメインベースのポリシーとフィルタに基づいてアクセスを許可または拒否することで、ドメインへのアクセスを制御できます。クライアントが Cisco クラウドサービスルータ 1000V シリーズを介して DNS 要求を送信すると、DNS トラフィックはドメインベースのポリシー（許可リストまたはブロックリスト）に基づいて検査されます。許可リストまたはブロックリストにあるドメインは、設定されている場合でも URL ベースのフィルタリングの対象になりません。グレーリストのトラフィックは許可リストとブロックリストの両方に一致せず、設定されている場合は URL ベースのフィルタリングの対象となります。

## 許可リストフィルタを使用したドメインベースのフィルタリング

完全なドメイン（cisco.com）をフィルタリングせずに許可するには、許可リストオプションを使用します。ユーザがブラウザを使用して Web サイトにアクセスする要求を行うと、ブラウザは Web サイトの IP アドレスを取得するための DNS 要求を行います。ドメインフィルタリングは、DNS トラフィックにフィルタを適用します。Web サイトのドメイン名が許可リストのパターンのいずれかに一致する場合、ドメインフィルタリングは Web サイトのアドレスを許可リストに追加します。ブラウザが Web サイトの IP アドレスを受信し、Web サイトの IP アドレスに HTTP 要求を送信します。ドメインフィルタリングは、このトラフィックを許可されたトラフィックとして扱います。この許可されたトラフィックは、設定されていても URL ベースのフィルタリングの対象にはなりません。Snort IPS が設定されている場合、トラフィックは Snort IPS の対象となります。

## ブロックリストフィルタを使用したドメインベースのフィルタリング

ユーザがドメイン全体（badsite.com）をブロックする場合は、ブロックリストオプションを使用します。ドメインフィルタリングは、DNS トラフィックにフィルタを適用します。Web サイトのドメイン名がブロックリストのパターンの1つと一致する場合、ドメインフィルタリングは、Web サイトの実際に解決された IP アドレスの代わりに、DNS 応答で設定されたブロックサーバの IP アドレスをエンドユーザに送信します。ブラウザは、Web サイトの IP アドレスとしてブロックサーバの IP アドレスを受信し、この IP アドレスに HTTP 要求を送信します。このトラフィックは、設定されている場合でも URL フィルタリングまたは Snort IPS の対象になりません。ブロックサーバは HTTP 要求を受信し、エンドユーザにブロックページを提供します。また、DNS 要求がブロックリストに一致すると、そのドメインへのすべてのアプリケーショントラフィックがブロックされます。

ドメインフィルタリングは、DNS 要求が FTP、Telnet などの非 HTTP (S) 要求である方法で行われた場合でも、すべての DNS トラフィックに適用されます。ブロックリストに追加されている非 HTTP (S) トラフィック (FTP、telnet など) もブロックサーバに転送されます。ブロックページへの対応または要求の拒否はブロックサーバの役割です。内部または外部ブロックサーバを設定できます。設定手順については、「外部ブロックサーバを使用したドメインベースの Web フィルタリングの設定 (2410 ページ)」および「ローカルブロックサーバを使用したドメインベースの Web フィルタリングの設定 (2411 ページ)」を参照してください。

ドメインフィルタリング中にトラフィックが許可リストまたはブロックリストに含まれていない場合、URL フィルタリングと Snort IPS が設定されていれば、そのトラフィックは URL フィルタリングと Snort IPS の対象となります。

ユーザは、ドメインフィルタリングの許可パターンリストとブロックパターンリストの組み合わせでフィルタを設計することを検討できます。たとえば、ユーザが許可リスト `www.foo.com` だけでなく、`www.foo.abc` や `www.foo.xyz` などのブロックリストにある他のドメインを作成する場合は、`www.foo.com` を許可リストのパターンに、`www.foo` をブロックリストのパターンに設定します。



- (注) 許可またはブロック正規表現パターンで `www` プレフィックスを使用している場合、クライアントメッセージで返されるサーバー名インジケータ (SNI) が一致しない場合に問題が発生する可能性があります。たとえば、`www.foo.com` を許可する場合、SNI は `foo.com` としてのみ返されます。正規表現による照合には `www` を含めないことをお勧めします。

## URL ベースのフィルタリング

URL ベースのフィルタリングにより、ユーザは許可リスト、ブロックリスト、カテゴリ、レピュテーションの設定に基づいて特定の Web サイトへのアクセスを許可または拒否することで、インターネット Web サイトへのアクセスを制御できます。たとえば、クライアントが Cisco CSR 1000V クラウドサービスルータ経由で HTTP 要求を送信すると、HTTP トラフィックは URL フィルタリングポリシー (許可リスト、ブロックリスト、カテゴリ、レピュテーション) に基づいて検査されます。HTTP 要求がブロックリストと一致する場合、HTTP 要求はインラインブロックページ応答によってブロックされるか、URL をブロックサーバにリダイレクトします。HTTP 要求が許可リストと一致する場合、トラフィックはそれ以上の URL フィルタリング検査を行われずに許可されます。

HTTPS トラフィックの場合、インラインブロックページは表示されません。URL ベースのフィルタリングでは、ルックアップを実行する前にエンコードされた URL をデコードしません。

デバイスに許可リストおよびブロックリストの設定がない場合、URL のカテゴリとレピュテーションに基づいて、ブロックページまたは HTTP のリダイレクト URL を使用してトラフィックが許可またはブロックされます。HTTP の場合、ブロックページまたはリダイレクト URL はなく、フローはドロップされます。

ユーザがカテゴリまたはレピュテーションベースの URL フィルタリングを設定すると、URL データベースがクラウドからダウンロードされます。URL カテゴリまたはレピュテーションデータベースには IP アドレスベースの記録がいくつかあり、カテゴリまたはレピュテーション

ンの検索は、URL のホスト部分にドメイン名がある場合にのみ実行されます。完全なデータベースがクラウドからダウンロードされた後、既存のデータベースに更新がある場合、差分の更新が 15 分ごとに自動的にダウンロードされます。完全なデータベースのサイズは約 440 MB で、ダウンロードしたデータベースは常にクラウドと同期する必要があります。クラウドへの接続が 24 時間以上失われると、データベースは無効になります。

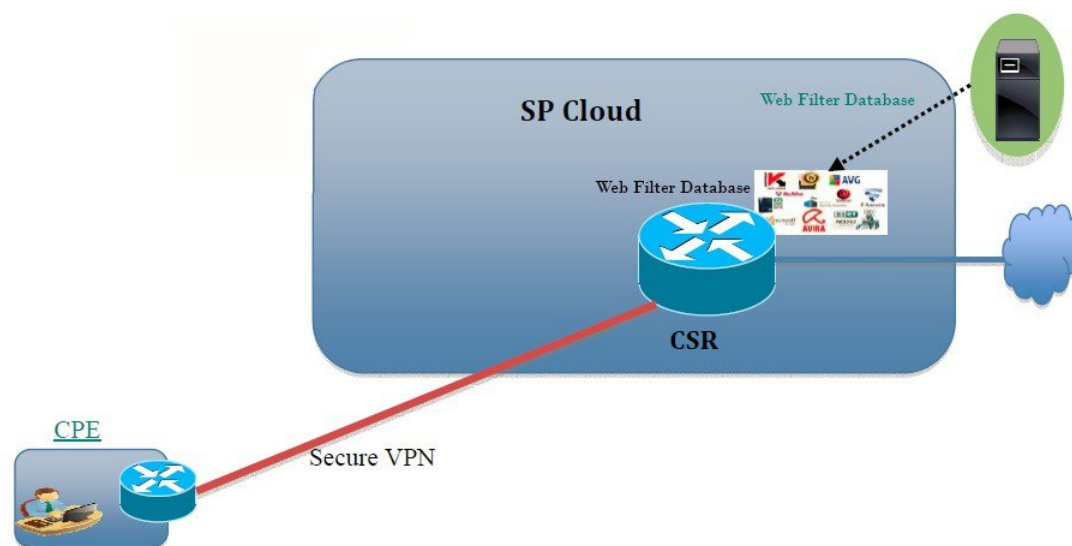
デバイスがクラウドからデータベースの更新を取得しない場合、フェールオープンオプションにより、URL フィルタリング用に指定されたトラフィックがドロップされません。フェールクローズオプションを設定した場合、クラウドの接続が失われると、URL フィルタリング宛てのすべてのトラフィックがドロップされます。



(注) Web フィルタリングデータベースは、15 分ごとにクラウドから定期的に更新されます。

次の図に Web フィルタリングトポロジを示します。

図 87: Web フィルタリングのネットワークトポロジ



### URL フィルタリングにおける仮想サービスのリソースプロファイル

Cisco ISR 4000 シリーズサービス統合型ルータは、urlf-low プロファイルとともに urlf-medium および urlf-high リソースプロファイルに対応します。これらのプロファイルは、仮想サービスの実行に必要な CPU およびメモリリソースを表示します。

プラットフォーム	プロファイル	仮想サービスのリソース要件		プラットフォーム要件
		システム CPU	SP メモリ	
CSR1000v、ISRv	urlf-low	25%	3 GB	8 GB (RAM)
	urlf-medium	50%	4 GB	8 GB (RAM)
	urlf-high	75%	6 GB	12 GB (RAM)

## クラウドルックアップ

クラウドルックアップ機能は、シングルテナントモードで動作し、ローカルデータベースで使用できない URL のカテゴリとレピュテーションスコアを取得します。クラウドルックアップ機能は、デフォルトで有効になっています。

クラウドルックアップ機能は、オンボックスデータベースルックアップ機能を拡張したものです。以前は、オンボックスデータベースルックアップ機能により、オンボックスデータベースに存在せず、レピュテーションスコアが 0 の URL が許可されていました。クラウドルックアップが有効になっている場合、レピュテーションスコアと設定されたブロックしきい値に基づいて、以前に許可されていた URL がドロップされる場合があります。そのような URL を許可するには、それらを許可リストに追加する必要があります。クラウドルックアップのさまざまな URL のカテゴリおよびレピュテーションスコアを以下に説明します。

URL には次の 2 種類があります。

- 名前ベースの URL
- IP ベースの URL

クラウドルックアップ機能を有効にすると、不明な URL のカテゴリとレピュテーションスコアが次のように返されます。

### 名前ベースの URL

- 有効な URL：対応するカテゴリとレピュテーションスコアが受信されます。
- 不明な URL（新しい URL またはクラウドに対して未知な URL）：カテゴリは「未分類」、レピュテーションスコアは 40
- 適切なドメイン名を持つ内部 URL（例：internal.abc.com）：カテゴリとレピュテーションスコアはベースドメイン名（上記の例の abc.com）に基づきます。
- 完全に内部にある URL（例：abc.xyz）：カテゴリは「未分類」、レピュテーションスコアは 40

### IP ベースの URL

- パブリックホスト型 IP：対応するカテゴリとレピュテーションスコアが受信されます。
- プライベート IP（例：10.<>.192.168.<>）：カテゴリは「未分類」、レピュテーションスコアは 100

- 非ホスト型またはルーティング不可の IP：カテゴリは「未分類」、レピュテーションスコアは 40

クラウドルックアップのスコアは、これらの URL（不明 / 非ホスト型 / ルーティング不可 / 内部 URL）のオンボックスデータベースとは異なります。



(注) クラウドルックアップ機能は、マルチテナントモードでは使用できません。

## Web フィルタリングの利点

Web フィルタリング機能を使用すると、ドメインおよび URL ベースのポリシーとフィルタを設定して、インターネットへのアクセスを制御できます。悪意のあるまたは不要な Web サイトをブロックすることで、ネットワークを保護します。Web フィルタリングは、URL ベースのフィルタリングとドメインベースのフィルタリングで構成されています。ドメインベースのフィルタリングは、ドメインレベルで Web サイトまたはサーバへのアクセスを制御し、URL ベースのフィルタリングは、URL レベルで Web サイトへのアクセスを制御します。ユーザは Web フィルタリングを使用して、個別の URL をブロックリストまたはドメイン名に追加し、その同じ URL に対して許可リストのポリシーを設定できます。ユーザは、レピュテーションまたはカテゴリに基づいて URL を許可またはブロックするようにプロビジョニングすることもできます。

## Web フィルタリングの前提条件

Cisco CSR 1000V クラウドサービスルータで Web フィルタリング機能を設定する前に、次のことを確認します。

- Cisco CSR 1000V クラウドサービスルータは、Cisco IOS XE Denali 16.3 以降のソフトウェアイメージを実行します。
- Cisco CSR 1000V クラウドサービスルータには、コンテナサービスを導入するために 2 つの vCPU、8 GB のメモリ、および 2 GB の追加のディスク領域が必要となります。
- Cisco CSR 1000V クラウドサービスルータには、Web フィルタリング機能を有効にするためのセキュリティ K9 ライセンスが必要です。

## Web フィルタリングの制約事項

Web フィルタリング機能には、次のような制約事項が適用されます。

- この機能は、Cisco CSR 1000V クラウドサービスルータのみに対応し、Cisco 4000 シリーズサービス統合型ルータには対応しません。

- 許可リストおよびブロックリストのパターンは正規表現のパターンのみに対応し、現在は許可リストおよびブロックリストでは 64 個のパターンに対応しています。正規表現のパターンの詳細については、「[正規表現](#)」の章を参照してください。
- ドメインフィルタリングは、IPv4 UDP 転送を使用して DNS プロトコルで解決された IPv4 ドメインのみに対応します。ドメインフィルタリングアラートは、IOS syslog にのみ送信されます。
- OpenDNS によるドメインフィルタリングには対応していません。
- 仮想ルーティングおよび転送（VRF：Virtual Routing and Forwarding）を使用した URL フィルタリングには対応していません。
- CWS によるドメインフィルタリングには対応していません。
- ドメインフィルタリングは、カテゴリとレピュテーションに対応していません。
- ローカルブロックサーバは、HTTPS ブロックページの提供には対応していません。URL フィルタがブロックページまたはリダイレクトメッセージを挿入しようとする場合、HTTPS トラフィックには対応しません。
- URL にユーザ名とパスワードがある場合、URL フィルタは許可リストおよびブロックリストのパターンと一致させる前に URL からそれらを削除することはしません。ただし、カテゴリまたはレピュテーションルックアップにはこの制限はなく、ルックアップの前に URL からユーザ名とパスワードを削除します。
- HTTPS 検査は制限されています。Web フィルタリングでは、サーバ証明書を使用して URL およびドメイン情報を取得します。完全な URL のパスを検査することはできません。
- UTD は、VRF 間シナリオにおいては WCCP および NBAR との相互運用は行いません。
- URL、ドメイン、ブロック、sourcedb の Web フィルタのプロファイル名に使用できるのは、英数字、ダッシュ、および下線のみです。
- 仮想サービスプロファイルが変更された場合、プロファイルの変更を有効にするには、仮想サービスを再インストールする必要があります。

## Web フィルタリングの導入方法

対応しているデバイスに Web フィルタリングを導入するには、次のタスクを実行します。

### 始める前に

- **デバイスのプロビジョニング**：Web フィルタリング機能をインストールするデバイスを特定します。この機能は、Cisco CSR 1000V クラウドサービスルータに対応しています。
- **ライセンスの取得**：Web フィルタリング機能は、サービスを有効にするためにセキュリティライセンスが必要なセキュリティパッケージでのみ使用できます。ライセンスの取得については、シスコ サポートにお問い合わせください。

## 手順

- 
- ステップ 1 仮想コンテナサービスをインストールしてアクティブにします。 [仮想コンテナサービスのインストールおよびアクティブ化の方法 \(2408 ページ\)](#)
  - ステップ 2 外部ブロックサーバを使用してドメインベースの Web フィルタリングを設定します。 [外部ブロックサーバを使用したドメインベースの Web フィルタリングの設定 \(2410 ページ\)](#)
  - ステップ 3 ローカルブロックサーバを使用してドメインベースの Web フィルタリングを設定します。 [ローカルブロックサーバを使用したドメインベースの Web フィルタリングの設定 \(2411 ページ\)](#)
  - ステップ 4 ローカルブロックサーバを使用して URL ベースの Web フィルタリングを設定します。 [ローカルブロックサーバを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定 \(2413 ページ\)](#)
  - ステップ 5 インラインブロックサーバを使用して URL ベースの Web フィルタリングを設定します。 [インラインブロックページを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定 \(2415 ページ\)](#)
  - ステップ 6 Snort IPS または IDS を設定します。 [ドメインおよび URL ベースの Web フィルタリングと Snort IPS の設定 \(2417 ページ\)](#)
- 

## 仮想コンテナサービスのインストールおよびアクティブ化の方法

仮想コンテナサービスをインストールしてアクティブにするには、次のタスクを実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1 UTD OVA ファイルをインストールします。 [UTD OVA ファイルのインストール \(2408 ページ\)](#)
  - ステップ 2 VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスを設定します。 [VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定 \(2409 ページ\)](#)
  - ステップ 3 Snort 仮想コンテナサービスをアクティブにします。
- 

## UTD OVA ファイルのインストール

OVA ファイルは、仮想マシンの圧縮された「インストール可能な」バージョンを含むオープン仮想アーカイブ (Open Virtualization Archive) です。この OVA ファイルをルータにダウンロードし、仮想サービスのインストール CLI を使用してサービスをインストールする必要があります。サービス OVA ファイルは、ルータにインストールされている Cisco IOS XE リリースイメージには付属していません。ただし、OVA ファイルはルータのフラッシュに事前にインストールされている場合があります。



セキュリティライセンスが付属した Cisco IOS XE イメージを使用する必要があります。OVA ファイルのインストール中に、セキュリティライセンスがチェックされ、ライセンスが存在しない場合はエラーが報告されます。

これはサンプル設定です。

```
Device> enable
Device# virtual-service install name UTDIPS package harddisk:utd-ips-v102.ova media
harddisk:
Device# show virtual-service list
Virtual Service List:
Name Status Package Name
-----
snort Installed utdsnort.1_2_2_SV2982_XE_main.20160
```

## VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定

2つの VirtualPortGroup インターフェイスと両方のインターフェイスのゲスト IP アドレスを設定する必要があります。



- (注) データトラフィック用の VirtualPortGroup インターフェイスは、プライベートまたはルーティング不可の IP アドレスを使用する必要があります。このインターフェイスには、IP アドレスの範囲として 192.0.2.0/30 を使用することを推奨します。

これはサンプル設定です。

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface VirtualPortGroup0
Device(config-if)# ip address 192.0.2.1 255.255.255.252
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface VirtualPortGroup 1
Device(config-if)# ip address 192.0.2.5 255.255.255.252
Device(config-if)# exit
Device(config)# virtual-service UTDIPS

Device(config-virt-serv)# profile urlf-low (This is minimum requirement for web filtering
to work.)

Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup 0 (The IP-address configured in
VPG0 interface should have access to Internet over http(s).If the VPG0 interface does
not have access to Internet, the web filter database will not be updated.)
Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 192.0.2.2
Device(config-virt-serv-vnic)# exit
Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup 1
Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 192.0.2.6
Device(config-virt-serv-vnic)# exit
Device(config-virt-serv)# activate
Device(config-virt-serv)# end

Device# show virtual-service list
Virtual Service List:

Name                               Status           Package Name
-----
snort                               Activated       utdsnort.1_2_2_SV2982_XE_main.20160
```

## 外部ブロックサーバを使用したドメインベースの Web フィルタリングの設定

外部ブロックサーバを使用してドメインベースの Web フィルタリングを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** 仮想サービスをインストールし、アクティブにします。詳細については、[VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定 \(2409 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** ブロックリストのパラメータマップを次のように設定します。

```
parameter-map type regex domainfilter_blacklist_pmap1
  pattern examplebook\.com
  pattern bitter\.com
```

**ステップ 3** 許可リストのパラメータマップを次のように設定します。

```
parameter-map type regex domainfilter_whitelist_pmap1
  pattern example\.com
  pattern exmaplegoogle\.com
```

**ステップ 4** ドメインプロファイルを設定し、ブロックリストと許可リストのパラメータマップを次のように関連付けます。

```
utd web-filter domain profile 1
  blacklist
  parameter-map regex domainfilter_blacklist_pmap1
  whitelist
  parameter-map regex domainfilter_whitelist_pmap1
```

**ステップ 5** (オプション) デフォルトでは、ドメインフィルタリングアラートは有効になっていません。ドメインプロファイルでブロックリストまたは許可リスト、あるいはその両方のアラートを設定します。

```
alert {all | blacklist | whitelist}
```

**ステップ 6** ドメインプロファイルで外部リダイレクトサーバを設定します。

```
redirect-server external x.x.x.x (This is the IP address that is used for serving block page when
a page is on the blocked list)
```

**ステップ 7** 次のドメインプロファイルを使用して UTD エンジン標準を設定します。

```
utd engine standard
  web-filter
  domain-profile 1
```

**ステップ 8** エンジン標準を使用して UTD を設定し、グローバルに、または特定のインターフェイスで有効にします。

```
utd
  all-interfaces
  engine standard
```

次に、外部ブロックサーバを使用してドメインベースの Web フィルタリングを設定する例を示します。

```
parameter-map type regex domainfilter_blacklist_pmap1
  pattern examplebook\.com
  pattern bitter\.com
parameter-map type regex domainfilter_whitelist_pmap1
  pattern exmaplegoogle\.com
  pattern exmaplegoogle\.com
utd engine standard
  web-filter
    domain-profile 1
!
utd web-filter domain profile 1
  alert all
  blacklist
    parameter-map regex domainfilter_blacklist_pmap1
  whitelist
    parameter-map regex domainfilter_whitelist_pmap1
  redirect-server external 192.168.1.1
!
utd
  all-interfaces
  engine standard
```

## ローカルブロックサーバを使用したドメインベースのWebフィルタリングの設定

ローカルブロックサーバでを使用してドメインベースの Web フィルタリングを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** 仮想サービスをインストールし、アクティブにします。詳細については、[VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定 \(2409 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 2** ループバックインターフェイスを設定するか、クライアントがアクセスできる既存のインターフェイスを使用します。

```
interface loopback 110
  ip address 10.1.1.1 255.255.255.255
exit
```
- ステップ 3** ローカルブロックサーバのプロファイルを使用して UTD Web フィルタを設定します。

```
utd web-filter block local-server profile 1
  block-page-interface loopback 110
  http-ports 80
  content text "Blocked by Web-Filter"
```
- ステップ 4** ブロックリストのパラメータマップを次のように設定します。

```
parameter-map type regex domainfilter_blacklist_pmap1
  pattern bitter\.com
```
- ステップ 5** 許可リストのパラメータマップを次のように設定します。

```
parameter-map type regex domainfilter_whitelist_pmap1
  pattern sweet\.com
```

- ステップ 6** ドメインプロファイルを設定し、ブロックリストと許可リストのパラメータマップを次のように関連付けます。

```
utd web-filter domain profile1
  blacklist
  parameter-map regex domainfilter_blacklist_pmap1
  whitelist
  parameter-map regex domainfilter_whitelist_pmap1
```

- ステップ 7** (オプション) デフォルトでは、ドメインフィルタリングアラートは有効になっていません。ドメインプロファイルでブロックリストまたは許可リスト、あるいはその両方のアラートを設定します。

```
alert {all |blacklist | whitelist}
```

- ステップ 8** ドメインプロファイルでリダイレクトサーバをローカルブロックサーバとして設定します。

```
redirect-server local-block-server 1
```

- ステップ 9** 次のドメインプロファイルを使用して UTD エンジン標準を設定します。

```
utd engine standard
  web-filter
  domain-profile 1
```

- ステップ 10** エンジン標準を使用して UTD を設定し、グローバルに、または特定のインターフェイスで有効にします。

```
utd
  all-interfaces
  engine standard
```

次に、ローカルブロックサーバを使用してドメインベースの Web フィルタリングを設定する例を示します。

```
interface loopback 110
  ip address 10.1.1.1 255.255.255.255
exit
parameter-map type regex domainfilter_blacklist_pmap1
  pattern bitter\.com
parameter-map type regex domainfilter_whitelist_pmap1
  pattern sweet\.com
utd engine standard
  web-filter
  domain-profile 1
!
utd web-filter block local-server profile 1
  block-page-interface Loopback110
  content text "Blocked by Web-Filter"
  http-ports 80
!
utd web-filter domain profile 1
  alert all
  blacklist
  parameter-map regex domainfilter_blacklist_pmap1
  whitelist
  parameter-map regex df_whitelist_pmap1
  redirect-server local-block-server 1
!
utd
```

```
all-interfaces
engine standard
```

## ローカルブロックサーバを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定

ローカルブロックサーバを使用して URL ベースの Web フィルタリングを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** 仮想サービスをインストールし、アクティブにします。詳細については、[VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定 \(2409 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** ループバックインターフェイスを設定するか、クライアントがアクセスできる既存のインターフェイスを使用します。

```
interface loopback 110
 ip address 10.1.1.1 255.255.255.255
exit
```

**ステップ 3** ローカルブロックサーバのプロファイルを使用して UTD Web フィルタを設定します。

```
utd web-filter block local-server profile 1
 block-page-interface loopback 110
 http-ports 80
 content text "Blocked by Web-Filter"
```

**ステップ 4** ブロックリストのパラメータマップを次のように設定します。

```
parameter-map type regex urlf_blacklist_pmap1
 pattern exmplee.com/sports
```

**ステップ 5** 許可リストのパラメータマップを次のように設定します。

```
parameter-map type regex urlf_whitelist_pmap1
 pattern examplehoo.com/finance
```

**ステップ 6** URL プロファイルを設定し、次の手順を実行します。

```
utd web-filter url profile 1
```

a) ブロックリストと許可リストのパラメータマップを関連付けます。

```
blacklist
 parameter-map regex urlf_blacklist_pmap1
whitelist
 parameter-map regex urlf_whitelist_pmap1
```

b) ローカルブロックサーバのプロファイルでブロックリスト、許可リスト、またはその両方のアラートを設定します。

```
alert {all | blacklist | whitelist}
```

- c) 許可またはブロックするカテゴリを設定します。

```
categories allow
sports
```

- d) レピュテーションブロックのしきい値を設定します。

```
reputation
block-threshold high-risk
```

- e) フェールオプションを使用して URL ソースデータベースを設定します。

```
sourcedb fail close
```

- f) ログレベルを設定します。デフォルトオプションはエラーです。オプションを [info] または [detail] に設定すると、パフォーマンスが次の影響を受ける可能性があります。

```
log level error
```

- g) ローカルブロックサーバをブロックに設定します。

```
block local-server 1
```

#### ステップ7 URL プロファイルを使用して UTD エンジン標準を設定します。

```
utd engine standard
web-filter
url-profile 1
```

#### ステップ8 UTD エンジン標準を設定し、グローバルまたは特定のインターフェイスで UTD を有効にします。

```
utd
all-interfaces
engine standard
```

次に、ローカルブロックサーバを使用して URL ベースの Web フィルタリングを設定する例を示します。

```
parameter-map type regex urlf_blacklist_pmap1
pattern examplee.com/sports
parameter-map type regex urlf_whitelist_pmap1
pattern exmaplehoo.com/finance
!
interface loopback 110
ip address 10.1.1.1 255.255.255.255
exit
utd web-filter block local-server profile 1
block-page-interface loopback 110
http-ports 80
content text "Blocked by Web-Filter"
utd web-filter url profile 1
blacklist
parameter-map regex urlf_blacklist_pmap1
whitelist
parameter-map regex urlf_whitelist_pmap1
alert all
categories allow
sports
reputation
block-threshold high-risk
sourcedb fail close
```

```
log level error
block local-server 1
!
utd engine standard
web-filter
  url-profile 1
!
utd
  all-interfaces
  engine standard
```

## インラインブロックページを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定

インラインブロックページを使用して URL ベースの Web フィルタリングを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** 仮想サービスをインストールし、アクティブにします。詳細については、[VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスの設定 \(2409 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** ブロックリストのパラメータマップを次のように設定します。

```
parameter-map type regex urlf_blacklist_pmap1
pattern exmaplegoogle.com/sports
```

**ステップ 3** 許可リストのパラメータマップを次のように設定します。

```
parameter-map type regex urlf_whitelist_pmap1
pattern exmaplehoo.com/finance
```

**ステップ 4** UTD ブロックページのプロファイルを設定します。

```
utd web-filter block page profile 1
  text "Blocked by Web-Filter URLF" (The other options are file and redirect-url)
```

**ステップ 5** URL プロファイルを設定し、次の手順を実行します。

```
utd web-filter url profile 1
```

a) ブロックリストと許可リストのパラメータマップを関連付けます。

```
blacklist
  parameter-map regex urlf_blacklist_pmap1
whitelist
  parameter-map regex urlf_whitelist_pmap1
```

b) ローカルブロックサーバのプロファイルでブロックリスト、許可リスト、またはその両方のアラートを設定します。

```
alert {all | blacklist | whitelist | categories-reputation}
```

c) 許可またはブロックするカテゴリを設定します。

```
categories allow
sports
```

- d) レピュテーションブロックのしきい値を設定します。

```
reputation
block-threshold high-risk
```

- e) フェールオプションを使用して URL ソースデータベースを設定します。

```
sourcedb fail close
```

- f) ログレベルを設定します。デフォルトオプションはエラーです。オプションを [info] または [detail] に設定すると、パフォーマンスが次の影響を受ける可能性があります。

```
log level error
```

- g) ローカルブロックサーバをブロックに設定します。

```
block local-server 1
```

#### ステップ6 URL プロファイルを使用して UTD エンジン標準を設定します。

```
utd engine standard
web-filter
url-profile 1
```

#### ステップ7 UTD エンジン標準を設定し、グローバルまたは特定のインターフェイスで UTD を有効にします。

```
utd
all-interfaces
engine standard
```

次に、インラインブロックサーバを使用して URL ベースの Web フィルタリングを設定する例を示します。

```
parameter-map type regex urlf_blacklist_pmap1
pattern exmaplegoogle.com/sports
parameter-map type regex urlf_whitelist_pmap1
pattern exmaplehoo.com/finance
!
utd web-filter block page profile 1
text "Blocked by Web-Filter URLF"
!
utd web-filter url profile 1
blacklist
parameter-map regex urlf_blacklist_pmap1
whitelist
parameter-map regex urlf_whitelist_pmap1
alert all
categories allow
sports
reputation
block-threshold high-risk
sourcedb fail close
log level error
!
utd engine standard
web-filter
url-profile 1
!
utd
```



```
all-interfaces
engine standard
```

---

## ドメインおよび URL ベースの Web フィルタリングと Snort IPS の設定

ドメインまたは URL ベースの Web フィルタリングと Snort IPS を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

**ステップ 1** ドメインプロファイルを設定します。

```
utd web-filter domain profile 1
```

**ステップ 2** URL プロファイルを設定します。

```
utd web-filter url profile 1
```

**ステップ 3** UTD エンジン標準で脅威検知を設定します。

```
utd engine standard
threat-inspection
```

**ステップ 4** ドメインプロファイルと URL プロファイルを使用して、UTD エンジン標準で Web フィルタを設定します。

```
utd engine standard
logging syslog
threat-inspection
threat protection
policy security
signature update server cisco username xxx password QhLb]Z[ifMbFgLYgR]^KLDUZ
signature update occur-at daily 0 0
logging level error
web-filter
domain-profile 1
url-profile 1
```

**ステップ 5** UTD エンジン標準を設定し、グローバルに、または特定のインターフェイスで有効にします。

```
utd
all-interfaces
engine standard
```

---

## Web フィルタ設定の確認

次のコマンドを使用して、Web フィルタリングの設定を確認できます。

```
Device# show utd engine standard config

UTD Engine Standard Configuration:
  Operation Mode : Intrusion Detection
  Policy         : Balanced

Signature Update: Not Configured

Logging:
  Server        : IOS Syslog
  Level         : err (Default)
  Statistics     : Disabled

Whitelist : Disabled
Whitelist Signature IDs:

Web-Filter      : Enabled

Whitelist :
  www.cisco.com
Blacklist :
  www.hotstar.com

Categories Action : Block
Categories :
  Fashion and Beauty

Block Profile:
  No config present

Reputation Block Threshold : Moderate risk
Alerts Enabled : Blacklist
Cloud Lookup : Enabled
Debug level : Error
Conditional debug level : Error
```

## Web フィルタリングのトラブルシューティング

ログを収集するには、**virtual-service move name "CONTAINER\_NAME" log to bootflash:** コマンドを使用します。デバイスで次のコマンドを使用して、Web フィルタリング機能の有効化に関連する問題のトラブルシューティングを行うことができます。

- **debug utd engine standard all**
- **debug utd engine standard climg**
- **debug utd engine standard daq**
- **debug utd engine standard internal**
- **debug utd engine standard onep**
- **show utd engine standard logging events**



- (注) このツールは、設定された URL フィルタリングアラート/イベントの出力のみを表示します。ユーザーは、「設定例」セクションの手順に従って、この出力に表示されるイベントとアラートのタイプを設定できます。たとえば、「alertall」を設定した場合は、「ホワイトリスト」、「ブラックリスト」、およびカテゴリとレピュテーションのイベントが表示されます。「alert whitelist」のみを設定すると、「ホワイトリスト」イベントのみが表示されます。

リリース 16.8.1 では、コンテナの設定および署名の更新を適用するために、コンテナの設定エラーの回復が強化されています。強化されたエラー修復により、次のことが可能になります。

- エラーを検出して対処するための、設定をダウンロードする際の安定性の向上。
- 署名と設定の更新を同時に処理する効率的な方法。
- IOSd と CLIMGR 間の oneP 接続が失われた際の早期における検出と回復。たとえば、CLIMGR がクラッシュした場合など。
- (現在または最近の) 設定ダウンロードの詳細結果の可視性の向上 (デバッグを有効にする必要はありません)。

次のサイト <https://www.brightcloud.com/tools/url-ip-lookup.php> を使用すると、URL フィルタリング機能によって Web サイトがどのように分類されるのかを検証できます。

## 設定例

次に、CSR 1000V クラウドサービスルータでドメインフィルタリングを有効にする例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type regex wlist1
Device(config-profile)# pattern google.com
Device(config-profile)# pattern cisco.com
Device(config-profile)# exit
Device(config)# parameter-map type regex blist1
Device(config-profile)# pattern exmaplehoo.com
Device(config-profile)# pattern bing.com
Device(config-profile)# exit
Device(config)# utd web-filter block local-server profile 1
Device(config--utd-webf-blk-srvr)# content file bootflash:test.utd.file
Device(config--utd-webf-blk-srvr)# end
```

ローカルブロックサーバを動作させるには、HTTP サーバが稼働している必要があります。ip http server コマンドを使用して、ブロックサーバを設定します。show ip http server status コマンドは、サーバのステータスを有効として表示します。

```
Device# show ip http server status
HTTP server status: Enabled
HTTP server port: 80
```

## 例 : Web フィルタのドメインプロファイルの設定

次の例は、Web フィルタのドメインプロファイルを設定する方法を示しています。

```
Device(config)# utd web-filter domain profile 1
Device(config-utd-webfltr-domain)# blacklist
Device(config-utd-webf-dmn-bl)# parameter-map regex blist1
Device(config-utd-webf-dmn-bl)# whitelist
Device(config-utd-webf-dmn-wl)# parameter-map regex wlist1
Device(config-utd-webf-dmn-wl)# exit
Device(config-utd-webfltr-domain)# alert all
Device(config-utd-webfltr-domain)# redirect-server external 1.2.3.4
Device(config-utd-webfltr-domain)# exit
```

## Web フィルタの URL プロファイルの設定

次の例は、Web フィルタの URL プロファイルを設定する方法を示しています。

```
Device(config)# utd web-filter url profile 1
Device(config-utd-webfltr-url)# blacklist
Device(config-utd-webf-url-bl)# parameter-map regex blist1
Device(config-utd-webf-url-bl)# whitelist
Device(config-utd-webf-url-wl)# parameter-map regex wlist1
Device(config-utd-webf-url-wl)# exit
Device(config-utd-webfltr-url)# categories allow
Device(config-utd-webf-url-cat)# news-and-media
Device(config-utd-webf-url-cat)# search-engines
Device(config-utd-webf-url-cat)# computer-and-internet-info
Device(config-utd-webf-url-cat)# computer-and-internet-security
Device(config-utd-webf-url-cat)# financial-services
Device(config-utd-webf-url-cat)# image-and-video-search
Device(config-utd-webf-url-cat)# job-search
Device(config-utd-webf-url-cat)#exit
Device(config-utd-webfltr-url)# alert all
Device(config-utd-webfltr-url)# reputation
Device(config-utd-webf-url-rep)# block-threshold suspicious
Device(config-utd-webf-url-rep)# exit
Device(config-utd-webfltr-url)# block local-server 1
Device(config-utd-webfltr-url)# exit
```

## UTD Snort IPS または IDS の許可リスト署名の設定

次の例は、署名の許可リストを設定する方法を示しています。

```
Device(config)# utd threat-inspection whitelist
Device(config-utd-whitelist)# generator id 1 signature id 1
Device(config-utd-whitelist)# generator id 1 signature id 2
Device(config-utd-whitelist)# exit
```

## 例 : Web フィルタプロファイルの設定

次の例は、Web フィルタのプロファイルを設定する方法を示しています。

```
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# logging server 1.2.3.4
Device(config-utd-eng-std)# threat-inspection
```

```
Device(config-utd-engstd-insp)#threat protection
Device(config-utd-engstd-insp)# policy security
Device(config-utd-engstd-insp)# logging level emerg
Device(config-utd-engstd-insp)# whitelist
Device(config-utd-engstd-insp)# web-filter
Device(config-utd-engstd-webf)# domain-profile 1
Device(config-utd-engstd-webf)# url-profile 1
Device(config-utd-engstd-webf)# exit
```

## 例：Web フィルタリングイベントのアラートメッセージ

次に、Web フィルタリングイベントのアラートメッセージの例を示します。

```
016/06/02-14:44:41.061501 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**] UTD WebFilter Blacklist
[**] [URL: www.edition.cnn.com/2016/03/31/asia/kolkata-bridge-collapse/index.html]
[Initiator_VRF: 0] {TCP} 1.0.0.9:56608 -> 2.0.0.29:80
```

```
2016/06/02-14:48:06.636270 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Pass [**] UTD WebFilter Whitelist
[**] [URL: www.ndtv.com/index.html] [Initiator_VRF: 0] {TCP} 1.0.0.9:56611 -> 2.0.0.23:80
```

```
Jun 2 14:37:57.856 IST: %IOSXE-6-PLATFORM: F0: cpp_cp: QFP:0.0 Thread:000
TS:00000618422205723793 %UTD-6-UTD_DF_BLACKLIST_MATCH: UTD WebFilter Domain Blacklist
[**] [Domain: www.cricinfo.com] [Matched Pattern: www.cricinfo.com] {UDP} 2.0.0.10:53
-> 1.0.0.9:55184
```

```
Jun 2 14:39:22.653 IST: %IOSXE-6-PLATFORM: F0: cpp_cp: QFP:0.0 Thread:000
TS:00000618507002407540 %UTD-6-UTD_DF_WHITELIST_MATCH: UTD WebFilter Domain Whitelist
[**] [Domain: www.cricinfo.com] [Matched Pattern: www.cricinfo.com] {UDP} 2.0.0.10:53
-> 1.0.0.9:55286
```

## 例：クラウドルックアップの設定解除

次に、Web フィルタリングでクラウドルックアップ機能を設定解除する例を示します。

```
Device(config)# utd engine standard
Device(config-utd-eng-std)# web-filter
% Please ensure urlf-<low/medium/high> virtual-service profile is configured to use the
web-filter feature

Device(config-utd-engstd-webf)# no cloud-lookup
Device(config-utd-engstd-webf)# end
Device # exit
```

## Cisco Web フィルタリングに関する追加の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>
UCSE シリーズサーバ	<a href="http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/e/2-0/guide/b_2_0_Gettin">http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/e/2-0/guide/b_2_0_Gettin</a>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## Cisco Web フィルタリングに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 220: Cisco Web フィルタリングに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco Web フィルタリング	Cisco IOS XE Denali リリース 16.3.1	Web フィルタリング機能を使用すると、ドメインベースまたは URL ベースのポリシーとフィルタをデバイスに設定することで、インターネット Web サイトへのアクセスを制御できます。ユーザは Web フィルタリングのプロファイルを設定して Web アクセスを管理できます。Web フィルタリング機能はコンテナサービスを使用して実装され、これは Snort IPS ソリューションに似ています。
ISRv の UTD 機能 パリティ  UTD サービスの有用性の強化	Cisco IOS XE Fuji リリース 16.8.1	CSR では、シングルテナントモードとマルチテナントモードの両方でのドメインおよび URL フィルタリングに対応しています。ISRv では、シングルテナントのみに対応しています。この機能は、ENCS プラットフォームのすべてのモデルで使用できます。  UTD のエラー回復機能が強化され、IOS から一括設定のダウンロードを開始することで、コンテナが内部エラーから回復できるようになりました。  コマンド <b>utd web-filter profile name</b> が変更されています。
Web ルート URL フィルタリングの機能強化	Cisco IOS XE Fuji リリース 16.9.1	Web フィルタリングの URLF 仮想リソースプロファイルは、プラットフォーム CSR1000v および ISRv にのみ対応します。  URL フィルタリングは、データベースに存在しないクラウド内の URL を検索するクラウドルックアップ機能に対応しています。







## 第 166 章

# 統合脅威防御（UTD）のマルチテナントの設定

統合脅威防御（UTD）のマルチテナントは、複数のユーザに Snort IPS と Web フィルタリングを提供します。1つの Cisco CSR 1000v インスタンスで1つ以上のテナントのポリシーを定義できます。各ポリシーには、脅威検知プロファイルと Web フィルタリングプロファイルを設定できます。次の項では、Unified Threat Defense のマルチテナントを設定する方法について説明します。これらの設定手順で使用されるコマンドの多くは、シングルテナントの設定で 사용되는ものと似ています。「[Snort IPS \(2347ページ\)](#)」および「[Web フィルタリング \(2401ページ\)](#)」を参照してください。

- [統合脅威防御（UTD）のマルチテナントに関する情報 \(2425 ページ\)](#)
- [Snort 仮想サービスインターフェイスの概要 \(2428 ページ\)](#)
- [統合脅威防御（UTD）のマルチテナントの設定に関する制約事項 \(2429 ページ\)](#)
- [統合脅威防御（UTD）のマルチテナントの設定方法 \(2429 ページ\)](#)
- [統合脅威防御エンジンの標準設定の確認 \(2446 ページ\)](#)
- [統合脅威防御（UTD）のマルチテナントに関するトラブルシューティング \(2458 ページ\)](#)

## 統合脅威防御（UTD）のマルチテナントに関する情報

Snort IPS および Web フィルタリングのマルチテナントを使用すると、1つの Cisco CSR 1000v のインスタンスで1つ以上のテナントのポリシーを定義できます。この機能は、Cisco IOS XE Everest 16.6.1 で導入されました。

各テナントは、1つ以上の VPN ルーティングおよび転送テーブル（VRF）を持つ VPN ルーティングおよび転送インスタンスです。統合脅威防御（UTD）のポリシーは、脅威検知プロファイルと Web フィルタリングプロファイルに関連付けられています。複数のテナントが UTD ポリシーを共有できます。

システムログには、テナントごとの統計情報の生成を可能にする VRF の名前が含まれます。

マルチテナントモードで使用する CLI コマンドは、シングルテナントモードで使用するものと似ています（[Snort IPS \(2347ページ\)](#) および [Web フィルタリング \(2401ページ\)](#) を参照）。マルチテナントでは、サブモードである `utd engine standard multi-tenancy` に入り、UTD ポ

リシー、Web フィルタリング、および脅威検知プロファイルを設定します。utd engine standard multi-tenancyのサブモードを終了すると、UTD ポリシーが適用されます。

Web フィルタリングと脅威検知 (Snort IPS または IDS) の利点については、次の項で説明します。

- [Web フィルタリングの利点 \(2406 ページ\)](#)
- [Snort 仮想サービスインターフェイスの概要 \(2428 ページ\)](#)

## Web フィルタリングの概要

Web フィルタリングにより、URL ベースのポリシーとフィルタを設定することで、インターネットへのアクセスを制御できます。Web フィルタリングは、悪意のあるもしくは不要な Web サイトをブロックし、ネットワークのセキュリティを強化することで、Web サイトへのアクセスの制御に役立ちます。個々の URL またはドメイン名をブロックリストに載せ、それらに対して許可リストポリシーを設定できます。レピュテーションまたはカテゴリに基づいて URL を許可またはブロックするようにプロビジョニングすることもできます。

## Snort IPS の概要

Snort IPS 機能は、Cisco 4000 シリーズサービス統合型ルータおよび Cisco クラウドサービスルータ 1000v シリーズのブランチオフィスで侵入防止システム (IPS) または侵入検知システム (IDS) を実現します。この機能は、Snort エンジンを使用して IPS および IDS 機能を実現します。

Snort は、リアルタイムでトラフィック分析を行い、IP ネットワークで脅威が検出されたときにアラートを生成するオープンソースのネットワーク IPS です。また、プロトコル分析、コンテンツ検索またはマッチングを実行し、バッファオーバーフロー、ステルスポートスキャンなどのさまざまな攻撃やプローブを検出することもできます。Snort エンジンには、Cisco 4000 シリーズサービス統合型ルータおよび Cisco クラウドサービスルータ 1000v シリーズで仮想コンテナサービスとして実行されます。

Snort IPS 機能は、IPS または IDS 機能を提供するネットワーク侵入検知および防止モードで動作します。ネットワーク侵入検知および防止モードでは、Snort は次のアクションを実行します。

- ネットワークトラフィックをモニタし、定義されたルールセットに照らしあわせて分析します。
- 攻撃の分類を行います。
- 一致したルールに照らしあわせてアクションを呼び出します。

要件に応じて、IPS または IDS モードで Snort を有効にできます。IDS モードでは、Snort はトラフィックを検査し、アラートを報告しますが、攻撃を防ぐためのアクションは実行しません。IPS モードでは、侵入検知に加えて、攻撃を防ぐためのアクションを実行します。

Snort IPS はトラフィックをモニタし、イベントを外部ログサーバまたは IOS syslog に報告します。IOS syslog へのロギングを有効にすると、ログメッセージが大量に発生する可能性があるため、パフォーマンスに影響する場合があります。Snort ログに対応する外部のサードパーティ製のモニタリングツールを、ログの収集と分析に使用できます。

## Snort IPS ソリューション

Snort IPS ソリューションは、次のエンティティで構成されています。

- **Snort センサー**：トラフィックをモニタして、設定されたセキュリティポリシー（署名、統計情報、プロトコル分析など）に基づいて異常を検出し、アラートサーバまたはレポートサーバにアラートメッセージを送信します。Snort センサーは、仮想コンテナサービスとしてルータに導入されます。
- **署名ストア**：定期的に更新される Cisco 署名パッケージをホストします。これらの署名パッケージは、定期的にもしくはオンデマンドで Snort センサーにダウンロードされます。検証済みの署名パッケージは Cisco.com に掲載されます。設定に基づいて、署名パッケージを Cisco.com またはローカルサーバからダウンロードできます。

次のドメインは、次の cisco.com から署名パッケージをダウンロードするプロセスにおいてルータによってアクセスされます。

- api.cisco.com
- apx.cisco.com
- cloudsso.cisco.com
- cloudsso-test.cisco.com
- cloudsso-test3.cisco.com
- cloudsso-test4.cisco.com
- cloudsso-test5.cisco.com
- cloudsso-test6.cisco.com
- cloudsso.cisco.com
- download-ssc.cisco.com
- dl.cisco.com
- resolver1.opendns.com
- resolver2.opendns.com



---

(注) 署名パッケージを保持するためにローカルサーバから署名パッケージをダウンロードする場合は、HTTP のみに対応します。

---

Snort センサーが署名パッケージを取得するには、Cisco.com の認証情報を使用して、署名パッケージを Cisco.com からローカルサーバに手動でダウンロードする必要があります。

URL が IP アドレスとして指定されていない場合、Snort コンテナは（ルータに設定された DNS サーバ上で）ドメイン名ルックアップを実行して、Cisco.com によるまたはローカルサーバ上の自動署名更新の場所を解決します。

- アラートまたはレポートサーバ：Snort センサーからアラートイベントを受信します。Snort センサーによって生成されたアラートイベントは、IOS syslog または外部 syslog サーバ、もしくは IOS syslog と外部 syslog サーバの両方に送信できます。Snort IPS ソリューションに付属している外部ログサーバはありません。
- 管理：Snort IPS ソリューションを管理します。管理は、IOS CLI を使用して設定します。Snort センサーには直接アクセスできず、すべての設定は IOS CLI を使用してのみ行えます。

## Snort 仮想サービスインターフェ이스の概要

Snort センサーは、ルータ上でサービスとして動作します。サービスコンテナは、仮想テクノロジーを使用して、アプリケーション用の Cisco デバイスにホスティング環境を提供します。

Snort トラフィック検査は、インターフェイス単位で、または対応しているすべてのインターフェイスでグローバルに有効にできます。検査対象のトラフィックは Snort センサーに転送され、再度投入されます。侵入検知システム（IDS）では、識別された脅威がログイベントとして報告され、許可されます。ただし、侵入防止システム（IPS）では、ログイベントとともに攻撃を防ぐためのアクションが実行されます。

Snort センサーには2つの VirtualPortGroup インターフェイスが必要です。最初の VirtualPortGroup インターフェイスは管理トラフィックに使用され、2つ目は転送プレーンと Snort 仮想コンテナサービス間のデータトラフィックに使用されます。これらの VirtualPortGroup インターフェイスには、ゲスト IP アドレスを設定する必要があります。管理 VirtualPortGroup インターフェイスに割り当てられた IP サブネットは、署名サーバおよびアラート/報告サーバと通信できる必要があります。

2つ目の VirtualPortGroup インターフェイスの IP サブネットは、このインターフェイス上のトラフィックがルータ内部にあるため、カスタマーネットワーク上でルーティング可能であってはなりません。内部サブネットを外部に公開することはセキュリティ上のリスクとなります。2つ目の VirtualPortGroup サブネットには 192.0.2.0/30 の IP アドレス範囲を使用することをお勧めします。192.0.2.0/24 のサブネットを使用することは、RFC 3330 で定義されています。

仮想サービスが実行されているルータと同じ管理ネットワークで、Snort 仮想コンテナサービスの IP アドレスを割り当てることができます。この設定は、syslog またはアップデートサーバが管理ネットワーク上にあり、他のインターフェイスからアクセスできない場合に役立ちます。

## 統合脅威防御 (UTD) のマルチテナントの設定に関する制約事項

- 
- ドメインベースのフィルタリングには対応しません。
- 各 Cisco CSR 1000v インスタンスで最大25のテナントに対応します。
- 最大 25 のポリシーに対応します。
- Cisco CSR 1000v では、最大 50,000 の同時セッションに対応します。
- 
- ブロックリストまたは許可リストのルールは、正規表現のパターンのみに対応します。現在、ブロックリストまたは許可リストのルールごとに 64 のパターンに対応しています。ただし、各テナントには複数のルールを設定できます。
- ローカルブロックサーバは、HTTPS ブロックページの提供には対応していません。URL フィルタがブロックページまたはリダイレクトメッセージを挿入しようとする場合、HTTPS トラフィックには対応しません。
- URL にユーザ名とパスワードがある場合、ブロックリストまたは許可リストのパターンと一致する前に、URL フィルタがユーザ名とパスワードを URL から削除することはできません。ただし、カテゴリまたはレピュテーションルックアップにはこの制限はなく、ルックアップの前に URL からユーザ名とパスワードを削除します。
- HTTPS 検査は制限されています。Web フィルタリングでは、サーバ証明書を使用して URL およびドメイン情報を取得します。完全な URL のパスを検査することはできません。
- UTD は、VRF 間シナリオにおいては WCCP および NBAR との相互運用は行いません。
- Snort IPS コマンドの `threat inspection profile profile-name` は、ID (番号) ではなく英数字のプロファイル名を使用します。

## 統合脅威防御 (UTD) のマルチテナントの設定方法

対応しているデバイスに Unified Threat Defense のマルチテナント機能を導入するには、次のタスクを実行します。

### 始める前に

マルチテナント用に Web フィルタリングおよび脅威検知をインストールするデバイスをプロビジョニングします。この機能は現在、Cisco CSR 1000v でのみ対応しています。

ライセンスを取得します。UTD は、セキュリティパッケージを実行しているルータでのみ使用でき、サービスを有効にするにはセキュリティライセンスが必要となります。セキュリティライセンスの取得については、シスコサポートにお問い合わせください。

## 手順の概要

1. 仮想サービスをインストールしてアクティブにします。 [マルチテナント用の UTD OVA ファイルのインストール \(2430 ページ\)](#)
2. VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスを設定します。 [マルチテナント用の VirtualPortGroup インターフェイスと仮想サービスの設定方法 \(2431 ページ\)](#)
3. VRF を設定します。 [マルチテナント用の VRF の設定方法 \(2434 ページ\)](#)
4. マルチテナント用の脅威検知と Web フィルタリングを設定します。 [マルチテナント Web フィルタリングおよび脅威検知の設定方法 \(2435 ページ\)](#)

## 手順の詳細

### 手順

---

**ステップ 1** 仮想サービスをインストールしてアクティブにします。 [マルチテナント用の UTD OVA ファイルのインストール \(2430 ページ\)](#)

**ステップ 2** VirtualPortGroup のインターフェイスおよび仮想サービスを設定します。 [マルチテナント用の VirtualPortGroup インターフェイスと仮想サービスの設定方法 \(2431 ページ\)](#)

**ステップ 3** VRF を設定します。 [マルチテナント用の VRF の設定方法 \(2434 ページ\)](#)

**ステップ 4** マルチテナント用の脅威検知と Web フィルタリングを設定します。 [マルチテナント Web フィルタリングおよび脅威検知の設定方法 \(2435 ページ\)](#)

---

## マルチテナント用の UTD OVA ファイルのインストール

仮想サービスの OVA ファイルは、仮想マシンの圧縮された「インストール可能な」バージョンを含むオープン仮想アーカイブファイルです。この OVA ファイルをルータにダウンロードしてから、仮想サービスをインストールする必要があります。仮想サービスの OVA ファイルは、ルータにインストールされている Cisco IOS XE リリースイメージには付属していません。OVA ファイルは、ルータのフラッシュメモリに事前にインストールされている場合があります。

OVA ファイルをインストールするには、セキュリティライセンス付きの Cisco IOS XE イメージを使用する必要があります。インストール中に、セキュリティライセンスのチェックが行われます。

仮想サービスのインストール例：

```
Device> enable
Device# virtual-service install name utd package
bootflash:utdsnort.1.0.4_SV2983_XE_16_6.20170623_174453_RELEASE.oVA
```

```

Device# show virtual-service list

Name Status   Package Name
-----
utd Activated utdsnort.1.0.4_SV2983_XE_16_6.20170

仮想サービスのアップグレードの例：

Device> enable
Device# virtual-service upgrade name utd package
bootflash:utdsnort.1.0.4_SV2983_XE_16_6.20170623_174453_RELEASE.ova
Device# show virtual-service list

Name Status   Package Name
-----
utd Activated utdsnort.1.0.4_SV2983_XE_16_6.20170

仮想サービスのアンインストールの例：

Device> enable
Device# virtual-service uninstall name utd
Device# show virtual-service list

Virtual Service List:

```

## マルチテナント用の VirtualPortGroup インターフェイスと仮想サービスの設定方法

この手順に示すように、マルチテナントの場合、2つの VirtualPortGroup インターフェイスと両方のインターフェイスのゲスト IP アドレスを設定する必要があります。



- (注) データトラフィック用の VirtualPortGroup インターフェイスは、プライベートまたはルーティング不可の IP アドレスを使用する必要があります。このインターフェイスには、IP アドレスの範囲として 192.0.2.0/30 を使用することを推奨します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface VirtualPortGroup interface-number**
4. **ip address ip-address mask**
5. **exit**
6. **interface VirtualPortGroup interface-number**
7. **ip address ip-address mask**
8. **exit**
9. **virtual-service name**
10. **profile multi-tenancy**
11. **vnuc gateway VirtualPortGroup interface-number**
12. **guest ip address ip-address**

13. **exit**
14. **vnic gateway VirtualPortGroup interface-number**
15. **guest ip address ip-address**
16. **exit**
17. **activate**
18. **end**
19. **show virtual-service list**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface VirtualPortGroup interface-number</b> 例： Device(config)# interface VirtualPortGroup 0	インターフェイス設定モードに入り、 <b>VirtualPortGroup</b> インターフェイスを設定します。このインターフェイスは、管理インターフェイスの <b>GigabitEthernet0</b> が使用されていない場合に管理トラフィックに対して使用されます。
ステップ 4	<b>ip address ip-address mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.252	インターフェイスのプライマリ IP アドレスを設定します。このインターフェイスは、署名アップデートサーバおよび外部ログサーバにルーティング可能である必要があります。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 6	<b>interface VirtualPortGroup interface-number</b> 例： Device(config)# interface VirtualPortGroup 1	インターフェイスを設定し、インターフェイス設定モードを開始します。 <b>VirtualPortGroup</b> インターフェイスを設定します。このインターフェイスは、データトラフィックに使用されます。
ステップ 7	<b>ip address ip-address mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 192.0.2.1 255.255.255.252	インターフェイスのプライマリ IP アドレスを設定します。この IP アドレスは、外部ネットワークに対してルーティング不能である必要があります。IP



	コマンドまたはアクション	目的
		アドレスは、推奨される 192.0.2.0/30 のサブネットから割り当てられます。
ステップ 8	<b>exit</b> 例： Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 9	<b>virtual-service name</b> 例： Device(config)# virtual-service utd	仮想コンテナサービスを設定し、仮想サービス設定モードに入ります。name 引数は、仮想コンテナサービスを識別するために使用される論理名です。
ステップ 10	<b>profile multi-tenancy</b> 例： Device(config-virt-serv)#profile multi-tenancy	リソースプロファイルを設定します。マルチテナントモードの場合 (Cisco CSR 1000v のみ)、このプロファイル マルチテナント コマンドを設定する必要があります。
ステップ 11	<b>vnic gateway VirtualPortGroup interface-number</b> 例： Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup 0	仮想サービスの仮想ネットワーク インターフェイス カード (vNIC : virtual network interface card) 設定モードに入ります。仮想コンテナサービス用の vNIC ゲートウェイ インターフェイスを作成し、vNIC ゲートウェイ インターフェイスを仮想ポートグループ インターフェイスにマッピングします。これは、手順3で設定したインターフェイスです。
ステップ 12	<b>guest ip address ip-address</b> 例： Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 10.1.1.2	vNIC ゲートウェイ インターフェイスのゲスト vNIC アドレスを設定します。
ステップ 13	<b>exit</b> 例： Device(config-virt-serv-vnic)# exit	仮想サービスの vNIC 設定モードを終了し、仮想サービス設定モードに戻ります。
ステップ 14	<b>vnic gateway VirtualPortGroup interface-number</b> 例： Device(config-virt-serv)# vnic gateway VirtualPortGroup 1	仮想サービスの vNIC 設定モードに入ります。仮想コンテナサービス用の vNIC ゲートウェイ インターフェイスを設定し、インターフェイスを仮想ポートグループにマッピングします。手順6で設定されたインターフェイス (interface-number) は、ユーザトラフィックをモニタするために Snort エンジンによって使用されます。
ステップ 15	<b>guest ip address ip-address</b> 例： Device(config-virt-serv-vnic)# guest ip address 192.0.2.2	vNIC ゲートウェイ インターフェイスのゲスト vNIC アドレスを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 16	<b>exit</b> 例： Device(config-virt-serv-vnic)# exit	仮想サービスの vNIC 設定モードを終了し、仮想サービス設定モードに戻ります。
ステップ 17	<b>activate</b> 例： Device(config-virt-serv)# activate	仮想コンテナサービスにインストールされたアプリケーションをアクティブにします。
ステップ 18	<b>end</b> 例： Device(config-virt-serv)# end	仮想サービス設定モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 19	<b>show virtual-service list</b> 例： Device# show virtual-service list  Virtual Service List:  Name    Status        Package Name ----- utd    Activated utdsnort.1.0.4_SV2983_XE_16_6.20170	

## マルチテナント用の VRF の設定方法

この手順では、テナントの VRF を設定するために必要な一般的な手順について説明します。この手順は後に [マルチテナント Web フィルタリングおよび脅威検知の設定方法 \(2435 ページ\)](#) で使います。



- (注) VRF 間トラフィックの場合、2つの VRF 間を流れるトラフィックに UTD 用の入力インターフェイスと出力インターフェイスが設定されている場合、セッションを表す VRF を決定するルールが適用されます。選択した VRF の UTD ポリシーは、VRF 間トラフィックのすべてのパケットに適用されます。

### 手順の概要

1. **vrf definition** *vrf-name*
2. **rd** *route-distinguisher*
3. **address-family** *ipv4*
4. **exit** *address-family*
5. VRF ごとに手順 1～4 を繰り返します。

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>vrf definition</b> <i>vrf-name</i> 例： Device(config)# vrf definition 100	VRF 名を定義し、VRF 設定モードに入ります。
ステップ 2	<b>rd</b> <i>route-distinguisher</i> 例： Device(config-vrf)# rd 100:1	ルーティングテーブルと転送テーブルを作成し、ルート識別子を「VRF 名」という名前の VRF インスタンスに関連付けます。ルータはルート識別子を使用して、パケットが属する VRF を識別します。ルート識別子は、次の 2 つのタイプのいずれかとなります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>自律システム関連。AS 番号 xxx および任意の番号 y : xxx:y</li> <li>IP アドレス関連。IP アドレス A.B.C.D および任意の番号 y : A.B.C.D:y</li> </ul>
ステップ 3	<b>address-family ipv4</b> 例： Device(config-vrf)# address-family ipv4	IP バージョン 4 アドレスを使用してルーティングセッションを設定するためのアドレスファミリー設定モードに入ります。
ステップ 4	<b>exit address-family</b> 例： Device(config-vrf-af)# exit	アドレスファミリー設定モードを終了します。
ステップ 5	VRF ごとに手順 1 ~ 4 を繰り返します。	

## マルチテナント Web フィルタリングおよび脅威検知の設定方法

マルチテナント（複数のテナントまたは VRF）の脅威検知（IPS または IDS）および Web フィルタリングを設定するには、次の手順を実行します。

この手順では、ブロックリストと許可リストの定義を最初の手順 1 ~ 5 に示します。主な設定手順（マルチテナント用の UTD 標準エンジンの設定モード）は、手順 6 以降に示しています。



(注) シングルテナント用の脅威検知と Web フィルタリングの詳細については、[Snort IPS \(2347 ページ\)](#) および [Web フィルタリング \(2401 ページ\)](#) を参照してください。

## 始める前に

no utd engine standard コマンドを使用して、既存のシングルテナントの UTD 設定を削除します。

テナントごとに VRF を事前に設定しておく必要があります（[マルチテナント用の VRF の設定方法（2434 ページ）](#) を参照）。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>parameter-map type regex <i>blacklist-name</i></b> 例： <pre>Device(config)# parameter-map type regex urlf-blacklist1</pre>	ブロックリストのパラメータマップを定義します。これは、後に手順 17 で使用します。
ステップ 2	<b>pattern <i>URL-name</i></b> 例： <pre>Device(config-profile)# pattern www\.cnn\.com Device(config-profile)# pattern www\.msnbc\.com</pre>	ブロックリストに登録する URL を定義します。 <i>URL-name</i> 内のピリオドの前には、必ずエスケープ「\」文字を入れてください。ブロックリストに複数の URL を設定するには、この手順を繰り返します。
ステップ 3	<b>parameter-map type regex <i>whitelist-name</i></b> 例： <pre>Device(config-profile)# parameter-map type regex urlf-whitelist1</pre>	許可リストのパラメータマップを定義します。これは、後に手順 20 で使用します。
ステップ 4	<b>pattern <i>URL-name</i></b> 例： <pre>Device(config-profile)# pattern www\.nfl\.com</pre>	許可リストに登録する URL を定義します。ブロックリストの URL では、 <i>URL-name</i> 内のピリオドの前には、必ずエスケープ「\」文字を入れてください。許可リストに複数の URL を設定するには、この手順を繰り返します。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： <pre>Device(config-profile)# exit</pre>	
ステップ 6	<b>utd multi-tenancy</b> 例： <pre>Device(config)# utd multi-tenancy</pre>	このコマンドは、次の utd engine standard multi-tenancy コマンドに備えて、スイッチの役割を果たします。
ステップ 7	<b>utd engine standard multi-tenancy</b> 例： 	マルチテナント用の UTD 標準エンジンの設定モードに入ります。

	コマンドまたはアクション	目的																		
	Device(config)# utd engine standard multi-tenancy	(注) 後に手順 50 で UTD 標準エンジンの設定モードを終了すると、ポリシー設定が適用されます。																		
ステップ 8	<b>web-filter sourcedb sourcedb-number</b> 例： Device(config)# web-filter sourcedb 1	Web フィルタリングのソース DB プロファイル ( <i>sourcedb-number</i> は数字) を設定します。これは、後に手順 29 で使用されます。																		
ステップ 9	<b>logging level {alerts   critical   debugging   emergencies   errors   informational   notifications   warnings}</b> 例： Device(config)# logging level errors	Web フィルタリングイベントに関して報告されるシステムメッセージのレベルを設定します。指定したレベル以下のメッセージが報告されます。(各レベルには、次の表に示す数値があります)  表 221: システムメッセージのシビラティ (重大度)																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0 : emergencies</td> <td>システムが使用不可</td> </tr> <tr> <td>1 : alerts</td> <td>即時処理が必要</td> </tr> <tr> <td>2 : critical</td> <td>クリティカル状態</td> </tr> <tr> <td>3 : errors</td> <td>エラー状態</td> </tr> <tr> <td>4 : warnings</td> <td>警告状態</td> </tr> <tr> <td>5 : notifications</td> <td>正常だが注意を要する状態</td> </tr> <tr> <td>6 : informational</td> <td>情報メッセージだけ</td> </tr> <tr> <td>7 : debugging</td> <td>デバッグ実行時にのみ表示</td> </tr> </tbody> </table>	レベル	説明	0 : emergencies	システムが使用不可	1 : alerts	即時処理が必要	2 : critical	クリティカル状態	3 : errors	エラー状態	4 : warnings	警告状態	5 : notifications	正常だが注意を要する状態	6 : informational	情報メッセージだけ	7 : debugging	デバッグ実行時にのみ表示
レベル	説明																			
0 : emergencies	システムが使用不可																			
1 : alerts	即時処理が必要																			
2 : critical	クリティカル状態																			
3 : errors	エラー状態																			
4 : warnings	警告状態																			
5 : notifications	正常だが注意を要する状態																			
6 : informational	情報メッセージだけ																			
7 : debugging	デバッグ実行時にのみ表示																			
ステップ 10	<b>web-filter block local-server profile profile-id</b> 例： Device(config-utd-multi-tenancy)# web-filter block local-server profile 1  コンテンツのテキストはローカルサーバによって表示されます。	Web フィルタリングのローカルブロックサーバのプロファイルを設定します。 <i>profile-id</i> の値の範囲は 1 ~ 255 です。  「ローカルブロックサーバを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定」を参照してください。  (注) マルチテナント用のコマンドを設定する場合、シングルテナントと比較して、最初の <i>utd</i> というキーワードを使用しないでください。																		

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	<b>block-page-interface loopback id</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webf-blk-srvr)# block-page-interface loopback 110</pre>	ループバックインターフェイスにこのプロファイルに関連付けます。このループバックインターフェイスの IP アドレスは、ブロックローカルサーバの IP アドレスとして使用されます。
ステップ 12	<b>content text display-text</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webf-blk-srvr)# content text "Blocked by Web-Filter"</pre>	ブロックされたページにアクセスした後に表示される警告テキストを指定します。
ステップ 13	<b>http-ports port-number</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webf-blk-srvr)# http-ports 80</pre>	http ポート値は、カンマで区切られたポートの文字列です。nginx HTTP サーバはこれらのポートをリスンします。
ステップ 14	<b>web-filter block page profile profile-name</b> 例 : <pre>Device(config-utd-multi-tenancy)# web-filter block page profile 1  Device(config-utd-mt-webf-block-urc)# text "this page is blocked"</pre>	インラインブロックページを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定 (2415 ページ) を参照してください。ただし、マルチテナント用にここで使用されるコマンドは、シングルテナント用に使用される utd キーワードを使用しません。
ステップ 15	<b>web-filter url profile web-filter-profile-id</b> 例 : <pre>Device(config-utd-multi-tenancy)# web-filter url profile 1 Device(config-utd-mt-webfltr-url)#</pre>	<p>Web フィルタリングの URL プロファイルである <i>web-filter-profile-id</i> を指定します。値は 1 ~ 255 です。このコマンドの後、ブロックリスト、許可リスト、およびカテゴリのアラートを設定できます。詳細については、「<a href="#">インラインブロックページを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定</a>」を参照してください。</p> <p>(注) マルチテナント用のコマンドを設定する場合、シングルテナントと比較して、最初の utd というキーワードを使用しないでください。</p>
ステップ 16	<b>blacklist</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webfltr-url)# blacklist</pre>	Web フィルタリングのブロックリストの設定モードに入ります。
ステップ 17	<b>parameter-map regex blacklist-name</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webf-url-bl)# parameter-map regex urlf-blacklist1</pre>	手順 1 で前に定義したブロックリストを使用して、パラメータマップの正規表現を指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 18	<b>exit</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webf-url-bl)# exit Device(config-utd-mt-webfltr-url)#</pre>	Web フィルタリングのブロックリストの設定モードを終了します。
ステップ 19	<b>whitelist</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webfltr-url)# whitelist Device(config-utd-mt-webf-url-wl)#</pre>	Web フィルタリングの許可リストの設定モードに入ります。
ステップ 20	<b>parameter-map regex <i>whitelist-name</i></b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webf-url-wl)# parameter-map regex urlf-list1</pre>	手順3で前に定義した許可リストを使用して、パラメータマップの正規表現を指定します。
ステップ 21	<b>exit</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webf-url-wl)# exit Device(config-utd-mt-webfltr-url)#</pre>	Web フィルタリングの許可リストの設定モードを終了します。
ステップ 22	<b>exit</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-webfltr-url)# exit Device(config-utd-multi-tenancy)#</pre>	Web フィルタリングの URL プロファイルモードを終了します。
ステップ 23	<b>utd global</b> 例 : <pre>Device(config-utd-multi-tenancy)# utd global</pre>	utd global に入力されたコマンドは、すべてのテナントまたはポリシーに適用されます。Cisco CSR 1000v インスタンスの場合のコマンド例は、logginghost syslog および threat inspection などです。
ステップ 24	<b>logging {host <i>hostname</i>   syslog}</b> 例 : この例では、アラートは指定されたホストのログファイルに記録されます。 <pre>Device(config-utd-mt-utd-global)# logging host systemlog1</pre> 例 : この例では、アラートは IOS syslog に記録されません。 <pre>Device(config-utd-mt-utd-global)# logging syslog</pre>	logging コマンドは、syslog メッセージの送信先となるホスト名または IOS syslog を指定します。
ステップ 25	<b>threat inspection</b> 例 :	グローバル脅威検知モードに入ります。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config-utd-mt-utd-global)# threat inspection	
ステップ 26	<b>signature update server</b> {cisco   url url } [username username [password password]] 例 : Device(config-utd-mt-utd-global-threat)# signature update server cisco username abcd password cisco123	署名更新サーバのパラメータを設定します。サーバの詳細で署名更新パラメータを指定する必要があります。署名の更新に <a href="http://www.cisco.com">www.cisco.com</a> を使用する場合は、ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。署名の更新にローカルサーバを使用する場合は、サーバ設定に基づいてユーザ名とパスワードを指定できます。ルータは、インターネットに接続することでドメイン名を解決できる必要があります。
ステップ 27	<b>signature update occur-at</b> {daily   monthly day-of-month   weekly day-of-week} hour minute 例 : Device(config-utd-mt-utd-global-threat)# signature update occur-at daily 0 0	署名の更新間隔パラメータを設定します。この設定をすることで、午前0時に署名の更新がトリガーされます。
ステップ 28	<b>web-filter</b> 例 : Device(config-utd-mt-utd-global-threat)# web-filter	このコマンドは、次の <code>sourcedb</code> コマンドと組み合わせて使用し、Web フィルタリングの URL ソースデータベースを指定します。
ステップ 29	<b>sourcedb sourcedb-number</b> 例 : Device(config-utd-mt-utd-global-threat)# sourcedb 1	Web フィルタリングのソースデータベースを割り当てます。アクティブにできるソースデータベースは1つだけです。
ステップ 30	<b>exit</b> 例 : Device(config-utd-mt-utd-global-threat)# exit	脅威検知設定モードを終了します。
ステップ 31	<b>exit</b> 例 : Device(config-utd-mt-global)# exit	グローバル更新設定モードを終了します。
ステップ 32	<b>threat-inspection whitelist profile</b> policy-name 例 : Device(config-utd-multi-tenancy)# threat-inspection whitelist profile wh101	許可リストのプロファイルを現在設定されているポリシーに関連付けます。同様のコマンドがシングルテナントで使用されますが、 <code>utd</code> キーワードを使用します。
ステップ 33	<b>signature id</b> id 例 : Device(config-utd-mt-list)# signature id 101	以前に脅威として特定した ID である <i>id</i> を指定します。たとえば、アラートのログファイルの ID を確認した後などです。



	コマンドまたはアクション	目的
		複数の署名 ID に対してこのコマンドを繰り返します。
ステップ 34	<b>exit</b> 例： Device(config-utd-mt-whitelist)# exit	許可リストの設定モードを終了します。
ステップ 35	<b>threat-inspection profile profile-name</b> 例： Device(config-utd-multi-tenancy)# threat-inspection profile 101	脅威検知プロファイルを設定することで、複数のテナントにより再利用できるようになります。複数の脅威検知プロファイルを設定できます。プロファイル内では、複数の許可リストを設定できます。 profile-name は英数字です。
ステップ 36	<b>threat {detection   protection }</b> 例： Device(config-utd-mt-threat)# threat protection	Snort エンジンの動作モードとして侵入検知システム (IDS) または侵入防止システム (IPS) を指定します。 デフォルトは <b>threat detection</b> です。
ステップ 37	<b>policy {balanced   connectivity   security }</b> 例： Device(config-utd-mt-threat)# policy security	Snort エンジンのセキュリティポリシーを設定します。 • デフォルトのセキュリティポリシータイプは <b>balanced</b> です。
ステップ 38	<b>logging level {alert   crit   debug   emerg   err   info   notice   warning }</b>	次のいずれかのカテゴリのログを表示します。 • alert : アラートレベルのログを表示します (シビラティ (重大度) = 2)。 • crit : クリティカルレベルのログ (シビラティ (重大度) = 3) • debug : すべてのログ (シビラティ (重大度) = 8) • emerg : 緊急レベルのログ (シビラティ (重大度) = 1) • err : エラーレベルのログ (シビラティ (重大度) = 4) デフォルト。 • info : 情報レベルのログ (シビラティ (重大度) = 7) • notice : 通知レベルのログ (シビラティ (重大度) = 6)

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• warning : 警告レベルのログ (シビラティ (重大度) = 5)</li> </ul>
ステップ 39	<b>whitelist profile</b> <i>profile-name</i> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-threat)# whitelist profile wh101</pre>	また、許可リストプロファイルを別の場所にある許可リストのプロファイルに対してのみ指定することもできます (上記の <code>threat-inspection whitelist profile</code> コマンド)。 (オプション) UTD エンジンで許可リストを有効にします。
ステップ 40	<b>exit</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-threat)# exit</pre>	脅威検知モードを終了します。
ステップ 41	脅威検知プロファイルを追加するには、手順 35 ~ 40 を繰り返します。	
ステップ 42	<b>policy</b> <i>policy-name</i> 例 : <pre>Device(config-utd-multi-tenancy)# policy pol101</pre>	複数のテナントに関連付けるポリシーを定義します。脅威検知 (IPS) および Web フィルタリングのプロファイルがポリシーに追加されます。
ステップ 43	<b>vrf</b> [ <i>vrf-name</i>   global ] 例 : この例では、2つのテナント (VRF) と2つのポリシーの設定を示します。 <pre>Device(config-utd-mt-policy)# vrf vrf101</pre>	UTD ポリシーを使用する VRF (テナント) ごとに <code>vrf vrf-name</code> コマンドを繰り返し入力します。以前に定義されたこれらの VRF については、 <a href="#">マルチテナント用の VRF の設定方法 (2434 ページ)</a> を参照してください。 または、 <code>vrf global</code> を使用してグローバル (デフォルト) VRF に関連付け、インターフェイスで VRF を有効にします。
ステップ 44	<b>all-interfaces</b> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-policy)# all-interfaces</pre>	(オプション) VRF のすべてのインターフェイスをポリシーに関連付けます。
ステップ 45	<b>threat-inspection profile</b> <i>profile-name</i> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-policy)# threat-inspection profile 101</pre>	(オプション) 以前に定義した脅威検知プロファイルにポリシーを関連付けます。手順 35 を参照してください。
ステップ 46	<b>web-filter url profile</b> <i>web-filter-profile-id</i> 例 : <pre>Device(config-utd-mt-policy)# web-filter url profile 1</pre>	(オプション) 以前に定義した Web フィルタリングのプロファイルにポリシーを関連付けます。手順 15 を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 47	<b>fail close</b> 例： Device(config-utd-mt-policy)# fail close	(オプション) エンジン障害時に IPS または IDS パケットをドロップします。デフォルトは fail open です。
ステップ 48	<b>exit</b>	ポリシー設定モードを終了します。
ステップ 49	各ポリシーに対して手順42～48を繰り返します。	
ステップ 50	<b>exit</b> 例： Device(config-utd-multi-tenancy)# exit	utd engine standard multi-tenancyモードを終了します。  ポリシー設定が適用されます。これには数分かかる場合があります。この間は、utd engine standard multi-tenancy設定モードのコマンドはそれ以上入力できません。
ステップ 51	<b>exit</b> 例： Device(config)# exit Device#	
ステップ 52	<b>show logging</b> 例： Device(config)# show logging  ..UTD MT configuration download has started ..UTD MT configuration download has completed	
ステップ 53	<b>interface sub-interface</b> 例： Device(config)# interface GigabitEthernet4.101	テナント (VRF) に使用するサブインターフェイスを指定します。
ステップ 54	<b>encapsulation dot1Q vlan-id</b> 例： Device(config-if)# encapsulation dot1Q 101	VLAN ID をサブインターフェイスに適用します。
ステップ 55	<b>ip vrf forwarding vrf-name</b> 例： Device(config-if)# ip vrf forwarding vrf101	VRF インスタンスをサブインターフェイスに関連付けます。
ステップ 56	<b>ip address ip-address subnet-mask</b> 例： Device(config-if)# ip address 111.0.0.1 255.255.255.0	VRF のサブインターフェイスの IP アドレスを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 57	<b>ip route ip-address subnet-mask sub-interface</b> 例： この例では、VRF のサブネット GigabitEthernet4.101 は、静的 IP アドレス 111.0.0.0 255.255.255.0 を使用してグローバルルーティングテーブルにリンクされています。 <pre>Device(config-if)# ip route 111.0.0.0 255.255.255.0 GigabitEthernet4.101</pre>	（オプション）次の手順のこの ip route コマンドと ip route vrf コマンドはオプションです。VRF とグローバルルーティングテーブル間の静的ルートを使用してルートルイクを設定する場合にこれらの手順を使用できます。 これにより、VRF インターフェイスから VRF サブネットへの静的ルートが設定され、VRF サブネットにグローバルルーティングテーブルからアクセスできるようになります。ルートルイクの設定の詳細については、「 <a href="#">MPLS または VPN ネットワークでのルートルイク</a> 」を参照してください。
ステップ 58	<b>ip route vrf vrf-name ip-address subnet-mask global</b> 例： <pre>Device(config-if)# ip route vrf vrf101 0.0.0.0 0.0.0.0 5.2.1.1 global</pre>	（オプション）この手順と前の手順は任意となります。VRF とグローバルルーティングテーブル間の静的ルートを使用してルートルイクを設定する場合は、次の手順を使用できます。ルートルイクの設定の詳細については、「 <a href="#">MPLS または VPN ネットワークでのルートルイク</a> 」を参照してください。 グローバルルーティングテーブルへの静的 VRF のデフォルトルートを指定します。
ステップ 59	<b>utd enable</b>	（オプション）インターフェイス上で UTD を有効にします。このコマンドは、all-interfaces コマンドが設定されていない場合に使用できます（手順 44 内）。
ステップ 60	各テナント（VRF）のサブインターフェイスを設定するには、手順 53 ～ 59 を繰り返します。	
ステップ 61	<b>exit</b>	インターフェイス設定モードを終了します。

Web フィルタリングおよび脅威検知（IPS）のプロファイルが適用されました。

## 設定例：統合脅威防御（UTD）のマルチテナント

この例は、2 つのテナントの UTD にマルチテナントを設定した後の一般的な実行設定を示しています。



（注） 次の例では、パラメータマップである urlf-blacklist1 および urlf-whitelist1 について説明します。これらのパラメータマップの設定は、例には示されていません。ブロックリストおよび承認済みリストのパラメータマップの詳細については、「[インラインブロックページを使用した URL ベースの Web フィルタリングの設定](#)」を参照してください。

```
utd multi-tenancy
utd engine standard multi-tenancy
web-filter block page profile 1
  text "This page is blocked"
web-filter block page profile 2
  text "This page is blocked"
web-filter url profile 1
alert all
blacklist
  parameter-map regex urlf-blacklist1
whitelist
  parameter-map regex urlf-whitelist1
categories block
  social-network
  sports
block page-profile 1
log level error
web-filter url profile 2
alert all
blacklist
  parameter-map regex urlf-blacklist2
categories block
  shopping
  news-and-media
  sports
  real-estate
  motor-vehicles
block page-profile 2
log level error
reputation
  block-threshold low-risk
web-filter sourcedb 1
  logging level error
threat-inspection whitelist profile wh101
  signature id 101
threat-inspection profile 101
  threat protection
  policy security
  logging level debug
  whitelist profile wh101
threat-inspection profile 102
  threat detection
  policy security
  logging level debug
utd global
  logging host 172.27.58.211
  logging host 172.27.58.212
  logging host 172.27.56.97
  threat-inspection
    signature update server cisco username abc password
]RDCE[B\^KFI_LgQgCFeBEKWP^SWZM2Mb]KKAAB
  signature update occur-at daily 0 0
web-filter
  sourcedb 1
policy pol102
  vrf vrf102
  all-interfaces
  threat-inspection profile 102
  web-filter url profile 2
policy pol101
  vrf vrf101
  all-interfaces
  threat-inspection profile 101
```

```
web-filter url profile 1
fail close
```

## 統合脅威防御エンジンの標準設定の確認

次のコマンドを使用して、設定を確認します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show utd multi-tenancy**
3. **show utd engine standard global**
4. **show utd engine standard status**
5. **show utd engine standard statistics**
6. **show utd engine standard statistics daq [ dp | cp ]**
7. **show utd engine standard statistics url-filtering [ engine | no ]**
8. **show utd engine standard statistics url-filtering vrf name vrf-name**
9. **show utd engine standard statistics internal**
10. **show utd engine standard logging event**
11. **show logging | include CONFIG\_DOWNLOAD**
12. **show utd threat-inspection whitelist [profile profile-name]**
13. **show utd threat-inspection profile profile-name**
14. **show utd [policy profile-name]**
15. **show utd web-filter url [profile profile-name]**
16. **show utd web-filter block local-server [profile profile-name]**
17. **show utd web-filter sourcedb [profile profile-name]**
18. **show utd engine standard statistics daq dp [engine engine-num] [vrf [name vrf-name | global]]**
19. **show utd engine standard config threat-inspection whitelist [profile profile-name ]**
20. **show utd engine standard config web-filter url profile profile-name**
21. **show utd engine standard config [vrf name vrf-name ]**
22. **show utd engine standard config threat-inspection profile profile-name**
23. **show utd engine standard threat-inspection signature update status**
24. **show platform software qfp active feature utd config [ vrf[ {id vrf-id | name vrf-name | global } ]**
25. **show platform software utd interfaces**
26. **show platform hardware qfp active feature utd config [vrf {id vrf-id | name vrf-name | global } ]**
27. **show platform hardware qfp active feature utd stats [clear | divert | drop | general | summary] [vrf {id vrf-id | name vrf-name | global } ] [all] [verbose]**
28. **show platform hardware qfp active feature utd stats summary [vrf name vrf-name | all]**
29. **show platform hardware qfp active feature utd stats drop all**

## 手順の詳細

## 手順

**ステップ 1 enable**

例 :

Device# **enable**

特権 EXEC モードを有効にします。パスワードを入力します（要求された場合）。

**ステップ 2 show utd multi-tenancy**

マルチテナントの現在のステータスを表示します。

例 :

Device# **show utd multi-tenancy**  
Multitenancy is enabled**ステップ 3 show utd engine standard global**

UTD エンジン標準のグローバル設定を表示します。

例 :

Device# **show utd engine standard global**  
UTD Engine Standard Global: enabled  
Threat-inspection: enabled  
Web-filter: enabled  
Logging:**ステップ 4 show utd engine standard status**

UTD エンジンのステータスが緑色であることを確認します。

例 :

Device# **show utd eng standard status**  
Engine version : 1.0.2\_SV2983\_XE\_16\_8  
  
Profile : Multi-tenancy  
System memory :  
Usage : 3.50 %  
Status : Green  
Number of engines : 1  
  
Engine Running CFT flows Health Reason  
=====Engine(#1): Yes 0 Green None  
=====

Overall system status: Green

Signature update status:  
=====Current signature package version: 29.0.c  
Last update status: Failed  
Last successful update time: None  
Last failed update time: Thu Jan 11 13:34:36 2018 PST

```
Last failed update reason: [Errno 113] No route to host
Next update scheduled at: None
Current status: Idle
```

## ステップ 5 show utd engine standard statistics

例 :

```
Device# show utd engine standard statistics
*****Engine #1*****
=====
Memory usage summary:
Total non-mmapped bytes (arena): 80125952
Bytes in mapped regions (hblkhd): 359546880
Total allocated space (uordblks): 68314032
Total free space (fordblks): 11811920
Topmost releasable block (keepcost): 112
=====
Packet I/O Totals:
Received: 49088
Analyzed: 49088 (100.000%)
Dropped: 0 ( 0.000%)
Filtered: 0 ( 0.000%)
Outstanding: 0 ( 0.000%)
Injected: 640
=====
Breakdown by protocol (includes rebuilt packets):
Eth: 49394 (100.000%)

<output removed for brevity>

Total: 49394
=====
Action Stats:
Alerts: 65 ( 0.132%)
Logged: 65 ( 0.132%)
Passed: 0 ( 0.000%)
```

## ステップ 6 show utd engine standard statistics daq [ dp | cp ]

Snort DAQ 統計情報を表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard statistics daq dp
IOS-XE DAQ Counters(Engine #1):
-----
Frames received 654101
Bytes received 549106120
RX frames released 654101
Packets after vPath decap 654101
Bytes after vPath decap 516510928
Packets before vPath encap 651686
Bytes before vPath encap 514800669
Frames transmitted 651686
Bytes transmitted 544447557

<output removed for brevity>
```

例 :



```

Device# show utd engine standard statistics daq cp
IOS-XE DAQ CP Counters (Engine #1):
-----
Packets received :16353210
Bytes received :1112018252
Packets transmitted :16353210
Bytes transmitted :1700733776
Memory allocation :16353212
Memory free :16353210
CFT API error :0
VPL API error :0
Internal error :0
External error :0
Memory error :0
Timer error :0
RX ring full 0
CFT full 0
sPath lib flow handle exhausted 0
Memory status changed to yellow :1
Memory status changed to red :0
Process restart notifications :0

```

## ステップ7 show utd engine standard statistics url-filtering [ engine | no ]

すべてのテナントのURL統計情報（ブロックリストのサイトのヒット数、許可リストのサイトのヒット数、カテゴリブロックとレピュテーションブロックによってブロックされたサイトの数を）を表示します。

例：

```

Device# show utd engine standard statistics url-filtering
UTM Preprocessor Statistics
-----
URL Filter Requests Sent:          377226166          379846771          381117940
URL Filter Response Received:      377009606          379622845          380892658
Blacklist Hit Count:                0                   0                   0
Whitelist Hit Count:                0                   0                   0

Reputation Lookup Count:           376859139          379458008          380706804
Reputation Action Block:            0                   0                   0
Reputation Action Pass:             307                 280                 102
Reputation Action Default Pass:     376858832          379457728          380706702
Reputation Score None:              376858832          379457728          380706702
Reputation Score Out of Range:      0                   0                   0

Category Lookup Count:             376859139          379458008          380706804
Category Action Block:              0                   0                   0
Category Action Pass:               307                 280                 102
Category Action Default Pass:       376858832          379457728          380706702
Category None:                      376858832          379457728          380706702

```

```

Device# show utd engine standard statistics url-filtering engine1
UTM Preprocessor Statistics
-----
URL Filter Requests Sent:          377226166
URL Filter Response Received:      377009606
Blacklist Hit Count:                0
Whitelist Hit Count:                0

Reputation Lookup Count:           376859139
Reputation Action Block:            0

```

```

Reputation Action Pass:          307
Reputation Action Default Pass:  376858832
Reputation Score None:          376858832
Reputation Score Out of Range:   0

Category Lookup Count:          376859139
Category Action Block:          0
Category Action Pass:           307
Category Action Default Pass:   376858832
Category None:                  376858832

```

## ステップ 8 **show utd engine standard statistics url-filtering vrf name vrf-name**

追加パラメータの **vrf name vrf-name** を使用して、テナントごとの URL の統計情報を表示します。

例 :

```

Device# show utd engine standard statistics url-filtering vrf name vrf101
UTM Preprocessor Statistics
-----
URL Filter Requests Sent: 764
URL Filter Response Received: 764
Blacklist Hit Count: 3
Whitelist Hit Count: 44

Reputation Lookup Count: 764
Reputation Action Block: 0
Reputation Action Pass: 58
Reputation Action Default Pass: 706
Reputation Score None: 706
Reputation Score Out of Range: 0

Category Lookup Count: 764
Category Action Block: 5
Category Action Pass: 53
Category Action Default Pass: 706
Category None: 706

```

## ステップ 9 **show utd engine standard statistics internal**

例 :

```

Device# show utd engine standard statistics internal
*****Engine #1*****
=====
Memory usage summary:
Total non-mmapped bytes (arena): 80125952
Bytes in mapped regions (hblkhd): 359546880
Total allocated space (uordblks): 68314032
Total free space (fordblks): 11811920
Topmost releasable block (keepcost): 112
=====
Packet I/O Totals:
Received: 49088
Analyzed: 49088 (100.000%)
Dropped: 0 ( 0.000%)
Filtered: 0 ( 0.000%)
Outstanding: 0 ( 0.000%)
Injected: 640
=====
Breakdown by protocol (includes rebuilt packets):
Eth: 49394 (100.000%)
VLAN: 49394 (100.000%)

```

```
IP4: 49394 (100.000%)
Frag: 0 ( 0.000%)
ICMP: 5 ( 0.010%)
UDP: 2195 ( 4.444%)
TCP: 47194 ( 95.546%)
```

<output removed for brevity>

## ステップ 10 show utd engine standard logging event

VRF ごとにブロックリストまたは許可リストにあるアラートと URL を含むログを表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard logging event

2017/08/04-16:01:49.205959 UTC [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**]
UTD WebFilter Category/Reputation [**] [URL: www.cricinfo.com] ** [Category: Sports]
** [Reputation: 96] [VRF: vrf101] {TCP} 23.72.180.26:80 -> 111.0.0.254:53509
2017/08/04-16:02:12.253330 UTC [**] [Instance_ID: 1] [**] Pass [**]
  UTD WebFilter Whitelist [**] [URL: www.espn.go.com/m]
[VRF: vrf101] {TCP} 111.0.0.254:53511 -> 199.181.133.61:80
```

## ステップ 11 show logging | include CONFIG\_DOWNLOAD

例 :

```
show# logging | include CONFIG_DOWNLOAD
Aug 23 11:34:21.250 PDT: %IOSXE_UTD-4-MT_CONFIG_DOWNLOAD: UTD MT configuration download has started
Aug 23 11:54:18.496 PDT: %IOSXE_UTD-4-MT_CONFIG_DOWNLOAD: UTD MT configuration download has
completed
```

## ステップ 12 show utd threat-inspection whitelist [profile profile-name]

すべての許可リストのプロファイルまたは特定の許可リストのプロファイルを表示します。

例 :

```
Device# show utd threat-inspection whitelist
Whitelist Profile: wh101
Signature ID: 101
```

例 :

```
Device# show utd threat-inspection whitelist profile wh101
Whitelist Profile: wh101
Signature ID: 101
```

## ステップ 13 show utd threat-inspection profile profile-name

プロファイル名で指定された脅威検知プロファイルの詳細を表示します。

例 :

```
Device# show utd threat-inspection profile 101
Threat-inspection Profile: 101
Operational Mode: Intrusion Protection
Operational Policy: Security
Logging Level: debug
Whitelist Profile: wh101
```

**ステップ 14** `show utd [policy profile-name]`

すべての UTD ポリシーまたは特定の UTD ポリシーを表示します。

例 :

```
Device# show utd policy pol101
Policy name: pol101
VRF name: vrf101, VRF ID: 1
Global Inspection (across above VRFs): Enabled
Threat-inspection profile: 101
Web-filter URL profile: 1
Fail Policy: Fail-open
```

**ステップ 15** `show utd web-filter url [profile profile-name]`

すべての URL プロファイルまたは特定のプロファイルを表示します。

例 :

```
Device# show utd web-filter url profile 1
URL Profile: 1
Alert: all
Blacklist Parameter Map Regex: urlf-blacklist1
Whitelist Parameter Map Regex: urlf-whitelist1
Block Categories:
dating
sports
Block Page Profile 1
Log level error
reputation block-threshold high-risk
```

**ステップ 16** `show utd web-filter block local-server [profile profile-name]`

すべてのブロックページのプロファイルまたは特定のブロックページのプロファイルを表示します。

例 :

```
Device# show utd web-filter block local-server profile 2
Block Local Server Profile: 2
Content text: "Blocked by Web-Filter"
HTTP ports: 80
```

**ステップ 17** `show utd web-filter sourcedb [profile profile-name]`

すべての sourcedb プロファイルまたは特定の sourcedb プロファイルを表示します。

例 :

```
Device# show utd web-filter sourcedb
SourceDB Profile: 1
database update server interval hour 0 minute 0
Fail open
Log level: error
Proxy host port 0

SourceDB Profile: 2
database update server interval hour 0 minute 0
Fail open
Log level: error
```

```
Proxy host port 0
```

例 :

```
Device# show utd web-filter sourcedb profile 1
SourceDB Profile: 1
database update server interval hour 0 minute 0
Fail open
Log level: error
Proxy host port 0
```

## ステップ 18 show utd engine standard statistics daq dp [engine engine-num] [vrf [name vrf-name | global]]

すべての VRF または特定の VRF のサービスプレーンのデータ収集 (DAQ : Data Acquisition) の統計情報を表示します。

例 :

次の例は、VRF vrf101 のサービスプレーンのデータ収集の統計情報を示しています。

```
Device# show utd engine standard statistics daq dp vrf name vrf101
IOS-XE DAQ Counters(Engine #1):
-----
Frames received 374509
Bytes received 303136342
RX frames released 374509
Packets after vPath decap 374509
Bytes after vPath decap 284405526
Packets before vPath encap 372883
Bytes before vPath encap 283234522
Frames transmitted 372883
Bytes transmitted 300202270

Memory allocation 781856
Memory free 749636
Memory free via timer 29420
Merged packet buffer allocation 0
Merged packet buffer free 0

VPL buffer allocation 0
VPL buffer free 0
VPL buffer expand 0
VPL buffer merge 0
VPL buffer split 0
VPL packet incomplete 0

VPL API error 0
CFT API error 0
Internal error 52
External error 0
Memory error 0
Timer error 0

Kernel frames received 373590
Kernel frames dropped 0

FO cached via timer 0
Cached fo used 0
Cached fo freed 0
FO not found 0
CFT full packets 0
```

**ステップ 19** `show utd engine standard config threat-inspection whitelist [profile profile-name ]`

コンテナに保存されている脅威検知許可リストのプロファイルの詳細を表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard config threat-inspection whitelist
UTD Engine Standard Configuration:

UTD threat-inspection whitelist profile table entries:
Whitelist profile: wh101
Entries: 1
```

**ステップ 20** `show utd engine standard config web-filter url profile profile-name`

コンテナに保存されている Web フィルタのプロファイルの詳細を表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard config web-filter url profile 1
UTD Engine Standard Configuration:

UTD web-filter profile table entries
Web-filter URL profile: 1
Whitelist:
www.espn.com
www.nbcsports.com
www.nfl.com
Blacklist:
www.cnn.com
Categories Action: Block
Categories:
Social Network
Sports
Block Profile: 1
Redirect URL: http://172.27.56.97/vrf101.html
Reputation Block Threshold: High risk
Alerts Enabled: Whitelist, Blacklist, Categories, Reputation
Debug level: Error
Conditional debug level: Error
```

**ステップ 21** `show utd engine standard config [vrf name vrf-name ]`

特定の VRF に関連付けられた UTD ポリシー、脅威検知プロファイル、および Web フィルタプロファイルの詳細を表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard config vrf name vrf101
UTD Engine Standard Configuration:

UTD VRF table entries:
VRF: vrf101 (1)
Policy: pol101
Threat Profile: 101
Webfilter Profile: 1
```

**ステップ 22** `show utd engine standard config threat-inspection profile profile-name`

特定の脅威検知プロファイルの詳細を表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard config threat-inspection profile 101
UTD Engine Standard Configuration:

UTD threat-inspection profile table entries:
Threat profile: 101
Mode: Intrusion Prevention
Policy: Security
Logging level: Debug
Whitelist profile: whl01

Description:
Displays the details of a threat-inspection profile stored in the container.
```

### ステップ 23 show utd engine standard threat-inspection signature update status

現在の署名パッケージのバージョン、以前の署名パッケージのバージョン、および最後のステータス更新の出力を表示します。

例 :

```
Device# show utd engine standard threat-inspection signature update status
Current signature package version: 29.0.c
Current signature package name: default
Previous signature package version: None
-----
Last update status: Failed
-----
Last successful update time: None
Last successful update method: None
Last successful update server: None
Last successful update speed: None
-----
Last failed update time: Thu Jan 11 13:34:36 2018 PST
Last failed update method: Manual
Last failed update server: http://172.27.57.252/UTD-STD-SIGNATURE-2983-1-S.pkg
Last failed update reason: [Errno 113] No route to host
-----
Last attempted update time: Thu Jan 11 13:34:36 2018 PST
Last attempted update method: Manual
Last attempted update server: http://172.27.57.252/UTD-STD-SIGNATURE-2983-1-S.pkg
-----
Total num of updates successful: 0
Num of attempts successful: 0
Num of attempts failed: 1
Total num of attempts: 1
-----
Next update scheduled at: None
-----
Current status: Idle
```

### ステップ 24 show platform software qfp active feature utd config [ vrf [ {id vrf-id | name vrf-name | global } ] ]

サービスノードの統計情報を表示します。VRF情報は、マルチテナントの場合にのみ表示できます。データプレーンUTD設定を表示します。次の例では、セキュリティコンテキスト情報が強調表示されています。

例 :

```
Device# Global configuration
  NAT64: disabled
```

```

SN threads: 12
CFT inst_id 0 feat id 0 fo id 0 chunk id 4
Context Id: 0, Name: Base Security Ctx
Ctx Flags: (0xf0000)
  Engine: Standard
  SN Redirect Mode : Fail-close, Divert
  Threat-inspection: Enabled, Mode: IPS
  Domain Filtering : Not Enabled
  URL Filtering    : Not Enabled
SN Health: Green

```

## ステップ 25 show platform software utd interfaces

例 :

```

Device# show platform software utd interfaces

UTD interfaces
All dataplane interfaces

```

## ステップ 26 show platform hardware qfp active feature utd config [vrf {id vrf-id | name vrf-name | global }]

UTD データパスの設定とステータスを表示します。

例 :

```

Device# show platform hardware qfp active feature utd config vrf name vrf101
Global configuration
NAT64: disabled
Drop pkts: disabled
Multi-tenancy: enabled
Data plane initialized: yes
SN threads: 12
CFT inst_id 0 feat id 1 fo id 1 chunk id 8
SN Health: Green

```

## ステップ 27 show platform hardware qfp active feature utd stats [clear | divert | drop | general | summary] [vrf {id vrf-id | name vrf-name | global }][all] [verbose]

ゼロのカウントを含むデータプレーン UTD 統計情報を表示します。

clear : 統計情報をクリアします

divert : AppNav リダイレクト統計情報を表示します

drop : ドロップ統計情報を表示します

general : 一般統計情報を表示します

summary : サマリー統計情報を表示します

verbose : Verbose 統計情報を表示します

VRF 統計情報ごとの VRF 表示 : VRF 情報は、マルチテナントが有効な場合にのみ入力できます。

id : VRF ID に関連付けられた統計情報を表示します

name : 指定した名前の VRF に関連付けられた統計情報を表示します



global : グローバル VRF (つまり VRF ID が 0) に関連付けられている統計情報を表示します

例 :

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd stats
```

```
Summary Statistics:
TCP Connections Created 29893
UDP Connections Created 24402
ICMP Connections Created 796
Pkts dropped pkt 258
  byt 66365
Pkts entered policy feature pkt 715602
  byt 562095214
Pkts entered divert feature pkt 662014
  byt 516226302
Pkts slow path pkt 55091
  byt 4347864
Pkts Diverted pkt 662014
  byt 516226302
Pkts Re-injected pkt 659094
  byt 514305557

Would-Drop Statistics:

Service Node flagged flow for dropping 258

General Statistics:
Non Diverted Pkts to/from divert interface 1022186
Inspection skipped - UTD policy not applicable 1081563

<output removed for brevity>
```

例 :

**ステップ 28** `show platform hardware qfp active feature utd stats summary [vrf name vrf-name | all]`

`show platform hardware qfp active feature utd stats` コマンドのサマリーオプションから取得したすべての VRF または特定の VRF に関する情報を表示します。

例 :

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd stats vrf name vrf101
Security Context: Id:1 Name: 1 : vrf101
```

```
Summary Statistics:
TCP Connections Created 18428
UDP Connections Created 13737
ICMP Connections Created 503
Pkts dropped pkt 258
  byt 66365
Pkts entered policy feature pkt 407148
  byt 296496913
Pkts entered divert feature pkt 383176
  byt 283158966
Pkts slow path pkt 32668
  byt 2571632
Pkts Diverted pkt 383176
  byt 283158966
Pkts Re-injected pkt 381016
  byt 281761395
```

<output removed for brevity>

## ステップ 29 show platform hardware qfp active feature utd stats drop all

**show platform** コマンドのドロップオプションから取得したすべての VRF からの情報を表示します。

例 :

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd stats drop all
```

Would-Drop Statistics:

```
No diversion interface 0
No egress interface 0
Inspection service down 0
Could not find divert interface 0
Could not find divert fib 0
UTD FIB did not contain oce_chain 0
Invalid IP version 0
IPS not supported 0
Re-inject Error 0
Service Node flagged flow for dropping 1225
Could not attach feature object 0
Could not allocate feature object 0
Error getting feature object 0
Policy: could not create connection 0
NAT64 Interface Look up Failed 0
Decaps: VPATH connection establishment error 0
Decaps: VPATH could not find flow, no tuple 0
Decaps: VPATH notification event error 0
Decaps: Could not delete flow 0
Decaps: VPATH connection classification error 0
Encaps: Error retrieving feature object 0
Encaps: Flow not classified 0
Encaps: VPATH connection specification error 0
Encaps: VPATH First packet meta-data failed 0
Encaps: VPATH No memory for meta-data 0
Encaps: VPATH Could not add TLV 0
Encaps: VPATH Could not fit TLV into memory 0
Service Node Divert Failed 0
No feature object 0
Service Node not healthy 123
Could not allocate VRF meta-data 0
Could not allocate debug meta-data 0
Packet was virtually fragmented (VFR) 0
IPv6 Fragment 0
IPv4 Fragment 0
```

# 統合脅威防御 (UTD) のマルチテナントに関するトラブルシューティング

## トラフィックが転送されない

**問題** トラフィックは転送されません。

**考えられる原因** 仮想サービスがアクティブになっていない可能性があります。

**解決法** **show virtual-service list** コマンドを使用して、仮想サービスがアクティブになっているかどうかを確認します。次に、コマンドの出力例を示します。

```
Device# show virtual-service list

Virtual Service List:

Name Status Package Name
-----
snort Activated utd snort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova
```

**考えられる原因** 指定されたインターフェイスでは、統合脅威防御（UTD）が有効になっていない可能性があります。

**解決法** **show platform software utd global** コマンドを使用して、インターフェイスで UTD が有効になっているかどうかを確認します。

```
Device# show platform software utd global

UTD Global state
Engine           : Standard
Global Inspection : Disabled
Operational Mode : Intrusion Prevention
Fail Policy      : Fail-open
Container techonlogy : LXC
Redirect interface : VirtualPortGroup1
UTD interfaces
GigabitEthernet0/0/0
```

**考えられる原因** サービスノードが正常に動作していない可能性があります。

**解決法** **show platform hardware qfp active feature utd config** コマンドを使用して、サービスノードの状態が緑色かどうかを確認します。

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd config

Global configuration
NAT64: disabled
SN threads: 12
CFT inst_id 0 feat_id 0 fo_id 0 chunk_id 4
Context Id: 0, Name: Base Security Ctx
Ctx Flags: (0x60000)
Engine: Standard
SN Redirect Mode : Fail-open, Divert
Threat-inspection: Enabled, Mode: IDS
Domain Filtering : Not Enabled
URL Filtering : Not Enabled
SN Health: Green
```

**解決法** また、マルチテナントの場合は、**show platform hardware qfp active feature utd config vrf name vrf-name** コマンドを使用して、特定の VRF に関するサービスノードの正常性が緑色であるかどうかを確認できます。

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd config vrf name vrf102

Global configuration
NAT64: disabled
Drop pkts: disabled
```

```

Multi-tenancy: enabled
Data plane initialized: yes
SN threads: 12
CFT inst_id 0 feat id 0 fo id 0 chunk id 4
SN Health: Green

```

考えられる原因 Snort プロセスがアクティブになっていない可能性があります。

**解決法** `show virtual-service detail` コマンドを使用して、Snortプロセスが稼働しているかどうかを確認します。

```
Device# show virtual-service detail
```

```

Virtual service UTDIPS detail
State           : Activated
Owner           : IOSd
Package information
Name            : utdsnort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova
Path            : bootflash:/utdsnort.1_0_1_SV2982_XE_16_3.20160701_131509.ova
Application
Name            : UTD-Snort-Feature
Installed version : 1.0.1_SV2982_XE_16_3
Description     : Unified Threat Defense
Signing
Key type        : Cisco development key
Method          : SHA-1
Licensing
Name            : Not Available
Version         : Not Available

```

```
Detailed guest status
```

```

-----
Process           Status           Uptime           # of restarts
-----
climgr            UP              0Y 0W 0D 0: 0:35    1
logger            UP              0Y 0W 0D 0: 0: 4     0
snort_1           UP              0Y 0W 0D 0: 0: 4     0

```

```

Network stats:
eth0: RX packets:43, TX packets:6
eth1: RX packets:8, TX packets:6

```

```
Coredump file(s): lost+found
```

```

Activated profile name: None
Resource reservation
Disk           : 736 MB
Memory         : 1024 MB
CPU            : 25% system CPU

```

```

Attached devices
Type           Name           Alias
-----
NIC            ieobc_1        ieobc
NIC            dp_1_0         net2
NIC            dp_1_1         net3
NIC            mgmt_1         mgmt
Disk           _rootfs
Disk           /opt/var
Disk           /opt/var/c
Serial/shell   serial0
Serial/aux     serial1
Serial/Syslog  serial2
Serial/Trace   serial3

```

```

Watchdog          watchdog-2

Network interfaces
  MAC address      Attached to interface
  -----
  54:0E:00:0B:0C:02    ieobc_1
  A4:4C:11:9E:13:8D    VirtualPortGroup0
  A4:4C:11:9E:13:8C    VirtualPortGroup1
  A4:4C:11:9E:13:8B    mgmt_1

Guest interface
---
Interface: eth2
ip address: 48.0.0.2/24
Interface: eth1
ip address: 47.0.0.2/24

---

Guest routes
---
Address/Mask      Next Hop          Intf.
-----
0.0.0.0/0        48.0.0.1         eth2
0.0.0.0/0        47.0.0.1         eth1

---

Resource admission (without profile) : passed
Disk space       : 710MB
Memory           : 1024MB
CPU              : 25% system CPU
VCPUs            : Not specified

```

考えられる原因 AppNav トンネルがアクティブになっていない可能性があります。

**解決法** `show service-insertion type utd service-node-group` および `show service-insertion type utd service-context` コマンドを使用して、AppNav トンネルがアクティブになっているかどうかを確認します。

**解決法** 次に、`show service-insertion type utd service-node-group` コマンドの出力例を示します。

```

Device# show service-insertion type utd service-node-group

Service Node Group name : utd_sng_1
Service Context : utd/1
Member Service Node count : 1

Service Node (SN) : 30.30.30.2
Auto discovered : No
SN belongs to SNG : utd_sng_1
Current status of SN : Alive
Time current status was reached : Tue Jul 26 11:57:48 2016

Cluster protocol VPATH version : 1
Cluster protocol incarnation number : 1
Cluster protocol last sent sequence number : 1469514497
Cluster protocol last received sequence number: 1464
Cluster protocol last received ack number : 1469514496

```

**解決法** 次に、**show service-insertion type utd service-context** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show service-insertion type utd service-context

Service Context : utd/1
Cluster protocol VPATH version : 1
Time service context was enabled : Tue Jul 26 11:57:47 2016
Current FSM state : Operational
Time FSM entered current state : Tue Jul 26 11:57:58 2016
Last FSM state : Converging
Time FSM entered last state : Tue Jul 26 11:57:47 2016
Cluster operational state : Operational

Stable AppNav controller View:
30.30.30.1

Stable SN View:
30.30.30.2

Current AppNav Controller View:
30.30.30.1

Current SN View:
30.30.30.2
```

**考えられる原因** トラフィックのステータスのデータプレーンUTD統計情報を確認します。トラフィックが転送されない場合、転送および拒否されたパケットの数はゼロになります。数値がゼロ以外の場合、トラフィック転送が行われており、Snort センサーはデータプレーンにパケットを再送信しています。

**解決法** **show platform hardware qfp active feature utd stats** コマンドを使用してトラフィックのステータスを確認します。

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd stats

Security Context:   Id:0   Name: Base Security Ctx

Summary Statistics:
Active Connections                               29
TCP Connections Created                          712910
UDP Connections Created                          80
Pkts entered policy feature                      pkt      3537977
                                                    byt      273232057
Pkts entered divert feature                      pkt      3229148
                                                    byt      249344841
Pkts slow path                                   pkt      712990
                                                    byt      45391747
Pkts Diverted                                    pkt      3224752
                                                    byt      249103697
Pkts Re-injected                                 pkt      3224746
                                                    byt      249103373
...
```

**解決法** また、マルチテナントの場合は、**show platform hardware qfp active feature utd stats vrf name vrf-name** コマンドを使用して、特定の VRF に関するトラフィックのステータスを確認できます。

```
Device# show platform hardware qfp active feature utd stats vrf name vrf 101

Security Context:   Id:1   Name: 1 : vrf101

Summary Statistics:
Active Connections                               2
TCP Connections Created                          34032
UDP Connections Created                          11448
ICMP Connections Created                          80
Pkts dropped                                     pkt          626
                                                    byt          323842
Pkts entered policy feature                       pkt          995312
                                                    byt      813163885
Pkts entered divert feature                       pkt          639349
                                                    byt      420083106
Pkts slow path                                    pkt          45560
                                                    byt          7103132
Pkts Diverted                                     pkt          638841
                                                    byt      419901335
Pkts Re-injected                                  pkt          630642
                                                    byt      412139098
...
```

## 署名の更新が機能しない

**問題** Cisco ボーダレスソフトウェア配布 (BSD : Borderless Software Distribution) サーバからの署名更新が機能していません。

**考えられる原因** さまざまな理由により署名の更新に失敗した可能性があります。最後に署名の更新に失敗した理由を確認します。

**解決法** `show utd engine standard threat-inspection signature update status` コマンドを使用して、最後に署名の更新に失敗した理由を表示します。

```
Device# show utd eng standard threat-inspection signature update status
Current signature package version: 29.0.c
Current signature package name: default
Previous signature package version: None
-----
Last update status: Failed
-----
Last successful update time: None
Last successful update method: None
Last successful update server: None
Last successful update speed: None
-----
Last failed update time: Thu Jan 11 13:34:36 2018 PST
Last failed update method: Manual
Last failed update server: http://172.27.57.252/UTD-STD-SIGNATURE-2983-1-S.pkg
Last failed update reason: [Errno 113] No route to host
-----
Last attempted update time: Thu Jan 11 13:34:36 2018 PST
Last attempted update method: Manual
Last attempted update server: http://172.27.57.252/UTD-STD-SIGNATURE-2983-1-S.pkg
-----
Total num of updates successful: 0
Num of attempts successful: 0
Num of attempts failed: 1
```

```
Total num of attempts: 1
-----
Next update scheduled at: None
-----
Current status: Idle
```

**考えられる原因** ドメインネームシステム (DNS) が正しく設定されていません。

**解決法** `show running-config | i name-server` コマンドを使用して、ネームサーバの詳細を表示します。

```
Device# show run | i name-server

ip name-server 10.104.49.223
```

**考えられる原因** システムエラー：ユーザ名とパスワードの組み合わせの処理に失敗しました。

**解決法** 署名パッケージのダウンロードに正しい認証情報を使用したことを確認します。

## ローカルサーバからの署名の更新が機能しない

**問題** ローカルサーバからの署名の更新が機能しない。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：無効なスキーム — HTTP または HTTPS のみに対応します。

**解決法** ローカルダウンロード方式として HTTP またはセキュア HTTP (HTTPS) が指定されていることを確認します。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：名前またはサービスが不明です。

**解決法** ローカルサーバに指定されたホスト名または IP アドレスが正しいことを確認します。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：認証情報が入力されていません。

**解決法** ローカル HTTP または HTTPS サーバの認証情報が入力されていることを確認します。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：ファイルが見つかりません。

**解決法** 入力した署名ファイル名または URL が正しいことを確認します。

**考えられる原因** 最後の失敗の理由：ダウンロードが破損しています。

**解決法**

- 以前の署名のダウンロード時に署名更新の再試行でエラーが発生していないかどうかを確認します。
- 正しい署名パッケージが使用可能であることを確認します。

## IOSd Syslog へのロギングが機能しない

**問題** IOSd syslog へのロギングが機能しない。



考えられる原因 syslog へのロギングは、統合脅威防御（UTD）の設定では設定できません。

解決法 UTD 設定を表示し、syslog へのロギングが設定されていることを確認するには、**show utd engine standard config** コマンドを使用します。

```
Device# show utd engine standard config

UTD Engine Standard Configuration:
  Operation Mode : Intrusion Prevention
  Policy         : Security

Signature Update:
  Server        : cisco
  User Name     : ccouser
  Password      : YEX^SH\fhdOeEGaOBiQAicOVLgaVGf
  Occurs-at     : weekly ; Days:0 ; Hour: 23; Minute: 50

Logging:
  Server        : IOS Syslog; 10.104.49.223
  Level         : debug

Whitelist Signature IDs:
  28878
```

解決法 UTD エンジンのイベントログを表示するには、次の **show utd engine standard logging events** コマンドを使用します。

```
Device# show utd engine standard logging events

2016/06/13-14:32:09.524475 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**] [1:30561:1]
BLACKLIST DNS request for known malware domain domai.ddns2.biz -
Win.Trojan.Beebone [**] [Classification: A Network Trojan was Detected]
[Priority: 1] [VRF_ID: 2] {UDP} 11.1.1.10:58016 -> 21.1.1.10:53
2016/06/13-14:32:21.524988 IST [**] [Instance_ID: 1] [**] Drop [**] [1:30561:1]
BLACKLIST DNS request for known malware domain domai.ddns2.biz -
Win.Trojan.Beebone [**] [Classification: A Network Trojan was Detected] [Priority: 1]
[VRF_ID: 2] {UDP} a000:0:0:0:0:0:0:10:59964 -> b000:0:0:0:0:0:0:10:53
```

## 外部サーバへのロギングが機能しない

問題 外部サーバへのロギングが機能していません。

考えられる原因 外部サーバで Syslog が実行されていない可能性があります。

解決法 syslog サーバが外部サーバで実行されているかどうかを確認します。ステータスを表示するには、外部サーバで次のコマンドを設定します。

```
ps -eaf | grep syslog

root 2073 1 0 Apr12 ? 00:00:02 syslogd -r -m
```

**考えられる原因** 統合脅威防御（UTD）の Linux コンテナ（LXC : Linux Container）と外部サーバ間の接続が失われている可能性があります。

**解決法** 管理インターフェイスから外部 syslog サーバへの接続を確認します。

## UTD 条件付きデバッグ

条件付きデバッグは、Unified Threat Defense のマルチテナントに対応しています。条件付きデバッグの設定方法の詳細については、以下を参照してください。

[http://www.cisco.com/c/en/us/products/ios-xe-1000/troubleshooting/guide/Troubleshooting-3-as-1000-book.html#sk\\_AC96BB06B414DCBBDEF7ADD29EF8131](http://www.cisco.com/c/en/us/products/ios-xe-1000/troubleshooting/guide/Troubleshooting-3-as-1000-book.html#sk_AC96BB06B414DCBBDEF7ADD29EF8131)



## 第 **XV** 部

# Umbrella

- [Cisco Umbrella 統合](#) (2469 ページ)





## 第 167 章

# Cisco Umbrella 統合

Cisco Umbrella 統合機能では、デバイスを介して DNS サーバーに送信されるドメインネームシステム (DNS) クエリを検証して、クラウドベースのセキュリティサービスを有効にすることができます。セキュリティ管理者は、完全修飾ドメイン名 (FQDN) へのトラフィックを許可または拒否するポリシーを Cisco Umbrella ポータルに設定します。Cisco デバイスは、ネットワークエッジの DNS フォワーダとして機能し、DNS トラフィックを透過的にキャッチして Cisco Umbrella ポータルに DNS クエリを転送します。この機能は、Cisco IOS XE Denali 16.3 以降のリリースで使用できます。

- [Cisco Umbrella 統合の制限 \(2469 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella 統合の前提条件 \(2470 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella Integration を使用したクラウドベースのセキュリティサービス \(2471 ページ\)](#)
- [DNS パケットの暗号化 \(2471 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella 統合のメリット \(2472 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella Connector の設定 \(2472 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella タグの登録 \(2473 ページ\)](#)
- [Cisco デバイスをパススルーサーバーとして設定 \(2474 ページ\)](#)
- [DNSCrypt、リゾルバ、および公開キー \(2474 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella Connector の設定の確認 \(2475 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella 統合のトラブルシューティング \(2477 ページ\)](#)
- [設定例 \(2477 ページ\)](#)
- [Cisco Prime CLI テンプレートを使用した Cisco Umbrella Integration の展開 \(2477 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella 統合の追加情報 \(2478 ページ\)](#)
- [Cisco Umbrella 統合の機能情報 \(2479 ページ\)](#)

## Cisco Umbrella 統合の制限

- アプリケーションまたはホストが、DNSを使用する代わりにIPアドレスを直接使用してドメイン名をクエリしている場合、ポリシーは適用されません。

- クライアントが Web プロキシに接続すると、DNS クエリはシスコデバイスをパススルーしません。この場合、コネクタはDNS要求を一切検出できず、Web サーバーへの接続は Cisco Umbrella ポータルからのすべてのポリシーをバイパスします。
- Cisco Umbrella の統合ポリシーによって DNS クエリがブロックされると、クライアントは Cisco Umbrella ブロックページにリダイレクトされます。これらのブロックページは、HTTPS サーバによって提供され、IP アドレス範囲は Cisco Umbrella ポータルによって定義されます。
- ユーザー認証とアイデンティティは、このリリースではサポートされません。
- リダイレクトされるレコードは、タイプ A、AAAA、および TXT クエリのみです。他のタイプのクエリはコネクタをバイパスします。Cisco Umbrella Connector は、悪意のあるトラフィックに関する既知の IP アドレスのリストを保持しています。Cisco Umbrella ローミングクライアントは、これらのアドレスが宛先のパケットを検出すると、各アドレスを Cisco Umbrella クラウドに転送して、さらに検査します。
- ホストの IPv4 アドレスのみが EDNS オプションで伝達されます。
- 最大 64 のローカルドメインを設定できます。許可されるドメイン名の長さは 100 文字です。

## Cisco Umbrella 統合の前提条件

Cisco Umbrella 統合機能を設定するには、次の要件を満たしている必要があります。

- Cisco Umbrella を有効にするには、デバイスにセキュリティ K9 ライセンスが必要です。
- デバイスが Cisco IOS XE Denali 16.3 以降のソフトウェアイメージを実行している必要があります。
- Cisco Umbrella サブスクリプションライセンスが利用可能である必要があります。
- デバイスがデフォルトの DNS サーバゲートウェイとして設定されており、DNS トラフィックがその Cisco デバイスを確実に通過する必要があります。
- Cisco Umbrella サーバへのデバイス登録に使用する通信は HTTPS 経由です。HTTPS 通信を行うには、ルータにルート証明書がインストールされている必要があります。この証明書をペーストする代わりに、次のリンクから証明書を直接ダウンロードすることができます。<https://cacerts.digicert.com/DigiCertGlobalRootCA.crt.pem>

# Cisco Umbrella Integration を使用したクラウドベースのセキュリティサービス

Cisco Umbrella Integration 機能は、デバイスを介して DNS サーバーに送信される DNS クエリを検査する、クラウドベースのセキュリティサービスを提供します。ホストがトラフィックを開始し、DNS クエリを送信すると、デバイスの Cisco Umbrella コネクタは DNS クエリを横取りして検査します。ローカルドメインへの DNS クエリの場合は、DNS パケットを変更せずにエンタープライズネットワーク内の DNS サーバーにクエリを転送します。外部ドメインへの DNS クエリの場合は、クエリに拡張 DNS (EDNS) レコードを追加して Cisco Umbrella リゾルバに送信します。EDNS レコードには、デバイス識別子情報、組織 ID、およびクライアント IP アドレスが含まれています。Cisco Umbrella クラウドは、この情報に基づいて、DNS クエリにさまざまなポリシーを適用します。

## DNS パケットの暗号化

Cisco デバイスから Cisco Umbrella 統合サーバーに送信される DNS パケットは、パケット内の EDNS 情報にユーザー ID、内部ネットワーク IP アドレスなどの情報が含まれている場合、暗号化する必要があります。DNS 応答が DNS サーバーから戻されると、デバイスはパケットを復号してからホストに転送します。

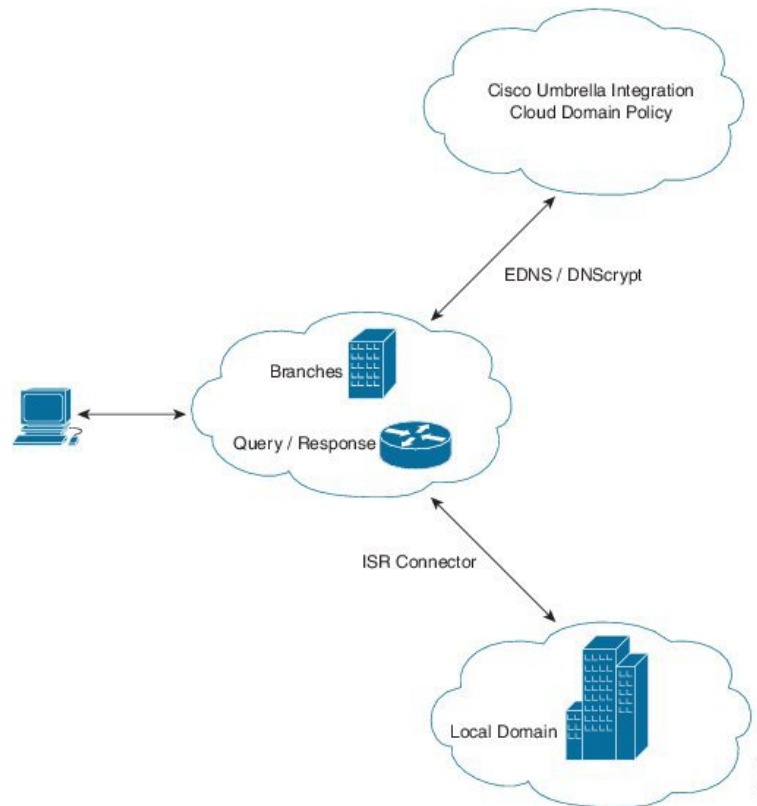
DNS パケットは、DNSCrypt 機能が Cisco デバイスで有効化されている場合にのみ暗号化できます。

Cisco デバイスは次の Anycast 再帰型 Cisco Umbrella 統合サーバーを使用します。

- 208.67.222.222
- 208.67.220.220
- 2620:119:53::53
- 2620:119:35::35

次の図は、Cisco Umbrella 統合のトポロジを示します。

図 88 : Cisco Umbrella 統合のトポロジ



## Cisco Umbrella 統合のメリット

Cisco Umbrella 統合により、DNS レベルでセキュリティとポリシーを適用できます。これにより、管理者は DNS トラフィックを分割して、目的の DNS トラフィックの一部を特定の DNS サーバ（エンタープライズ ネットワーク内にある DNS サーバ）に直接送信することができます。これにより、管理者は Cisco Umbrella 統合をバイパスできます。

## Cisco Umbrella Connector の設定

Cisco Umbrella Connector を設定するには、次の手順を実行します。

- Cisco Umbrella 登録サーバーから API トークンを取得します。
- Cisco Umbrella 登録サーバとの間で HTTPS 接続を確立するために、ルート証明書を取得します。 **crypto pki trustpool import terminal** コマンドを使用して、以下に示す DigiCert のルート証明書をデバイスにインポートします。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDrzCCApegAwIBAgIQCDvgVpBCRrGhdWrJWZHHSjANBgkqhkiG9w0BAQUFADBh
MQswCQYDVQQGEwJVUzEVMBMGA1UEChMMRGlnaUNlbnQgSW5jMRkwFwYDVQQLExB3
```



```
d3cuZG1naWN1cnQuY29tMSAwHgYDVQQDEXdEaWdpQ2VydCBHbG9iYWwgUm9vdCBD
QTAEfW0wNjExMTAwMDAwMDBaFw0zMTEwMTAwMDAwMDBaMGExCzAJBgNVBAYTA1VT
MRUwEwYDVQQKEWxEaWdpQ2VydCBJbmMxGTAXBGNVBASTEHd3dy5kaWdpY2VydC5j
b20xIDAeBgNVBAMTF0RpZ21DZXJ0IEdsb2JhbCBsb290IENBMTIjANBgkqhkiG
9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAA4jvhEXLeqKTTTo1eqUKKPC3eQyaK17hL01lsB
CSDMAZONtjC3U/dDxGkAV53ijSLdhwZAAIEJzs4bg7/fzTtxRuLWZscFs3YnFo97
nh6Vfe63SKMI2tavegw5BmV/S10fvBf4q77uKNd0f3p4mVmFaG5cIzJLv07A6Fpt
43C/dxC//AH2hdmoRBBYmq11GNXRor5H4idq9Joz+EkIYIvUX7Q6hL+hqkpMfT7P
T19sd16gSzeRntwi5m3OFBqOasv+zbMUZBFHWymeMr/y7vrTC0LUq7dBmtoM10/4
gdW7jVg/tRvoSSiicNoxBN33shbyTApOB6jtSj1etX+jkM0vJwIDAQABo2MwYTAO
BgNVHQ8BAf8EBAMCAYYwDwYDVR0TAQH/BAUwAwEB/zAdBgNVHQ4EFgQUA95QNVbR
TLtm8KPiGxvD17I90VUwHwYDVR0jBBgwFoAUA95QNVbRtLtm8KPiGxvD17I90VUw
DQYJKoZIhvcNAQEFBQADggEBAMucN6pIExIK+t1EnE9SsPTfrrgT1eXkIoyQY/Esr
hMAtudXH/vTBH1jLuG2cenTnmCmrEbXjcKChzUyImZOMkXDiqw8cvpOp/2PV5Adg
060/nVsJ8dWO41P0jpmP6P6fbtGbfYmbW0W5BjfiTteP3Sp+dWOIrWcBAI+0tKIJF
PnlUkiaY4IBIqDfv8NZ5YBberOgOzW6sRbc4L0na4UU+Krk2U886UAb3LujEV01s
YSEY1QSteDwsOoBrp+uvFRtp2InBuThs4pFsiv9kuXclVzDAGySj4dZp30d8tbQk
CAUw7C29C79Fv1C5qfPrmAESrciIxpG0X40KPMbp1ZWVbd4=
-----END CERTIFICATE-----
```

- PEM インポートが正常に行われたことを確認します。証明書をインポートすると、メッセージが表示されます。

これはサンプル設定です。

```
enable
configure terminal
parameter-map type umbrella global
  token AABBA59A0BDE1485C912AFE472952641001EEECC
exit
```

## Cisco Umbrella タグの登録

Cisco Umbrella タグを登録するには、次の手順を実行します。

1. 前の項で示したように Cisco Umbrella パラメータマップを設定します。
2. WAN インターフェイスで **umbrella out** を設定します。

```
interface gigabitEthernet 0/0/1
  umbrella out
```

3. LAN インターフェイスで **umbrella in** を設定します。

```
interface gigabitEthernet 0/0/0.4
  umbrella in mydevice_tag
```



(注) Cisco デバイスの場合、ホスト名と **umbrella** タグは 49 文字以内で指定します。

4. **umbrella in mydevice\_tag** コマンドを使用してタグと **umbrella in** を設定すると、デバイスによって Cisco Umbrella Integration ポータルにタグが登録されます。

5. デバイスが `api.opendns.com` を解決して登録プロセスを開始します。FQDN の解決を成功させるために、デバイスにネームサーバー (`ip name-server x.x.x.x`) とドメインルックアップ (`ip domain-lookup`) が設定されている必要があります。



- (注) `umbrella in` コマンドを設定する前に、`umbrella out` コマンドを設定してください。登録は、ポート 443 が「オープン」状態にあり、既存のファイアウォールへのトラフィックのパススルーが許可される場合にのみ成功します。

## Cisco デバイスをパススルーサーバーとして設定

ドメイン名を使用して、バイパスされるトラフィックを特定することができます。Cisco デバイスでは、正規表現形式でこれらのドメインを定義できます。デバイスによってキャッチされる DNS クエリが、設定済みの正規表現の 1 つにマッチすると、このクエリはバイパスされ、Cisco Umbrella クラウドにリダイレクトされずに、指定された DNS サーバーに送信されます。次の設定例は、目的のドメイン名と正規表現で `regex parameter-map` を定義する方法を示しています。

```
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type regex dns_bypass
Device(config)# pattern www.fisco.com
Device(config)# pattern .*engineering.fisco.*
```

Attach the regex param-map with the openDNS global configuration as shown below:

```
Device(config)# parameter-map type umbrella global
Device(config-profile)# token AADD5FF6E510B28921A20C9B98EEFF
Device(config-profile)# local-domain dns_bypass
```

## DNSEncrypt、リゾルバ、および公開キー

- DNSEncrypt
- リゾルバ IP
- 公開キー

上記のパラメータは、ラボで特定のテストを実行するときのみ変更することをお勧めします。これらのパラメータは今後の利用のために予約されています。これらのパラメータを変更すると、デバイスの正常な機能に影響が及ぶことがあります。

### リゾルバ

次のコマンドは、DNS パケットのリダイレクションを Cisco デバイスから Cisco Umbrella クラウドに変更します。

- `resolver ipv4 1.1.1.1`

- **resolver ipv4 1.1.1.2**
- **resolver ipv6 1234::1**
- **resolver ipv6 2345::1**

この例では、すべての IPv4 DNS パケットが 1.1.1.1 または 1.1.1.2 にリダイレクトされ、IPv6 DNS パケットが 1234::1 または 2345::1 にリダイレクトされます。リゾルバのデフォルト値に戻すには、IP アドレスを削除する必要があります。リゾルバ IP アドレスを変更すると、次のメッセージが表示されます。

```
User configured would overwrite defaults
Defaults are restored when no more user configured are present
```

**208.67.222.222** および **208.67.220.220** のデフォルト値を使用すると、すべての DNS パケットが Cisco Umbrella Anycast リゾルバにリダイレクトされます。デバイスは、すべてのリダイレクションに最初のデフォルトリゾルバ IP アドレスを使用します。Cisco デバイスは、3 つの連続する DNS クエリの応答を受信しない場合、別のリゾルバ IP アドレスに自動的に切り替えます。この動作は、IPv6 リゾルバアドレスの場合も同じです。



- (注) IPv6 リダイレクションは延期され、すべての IPV6 DNS パケットは Cisco Umbrella Anycast サーバーにリダイレクトされません。

### 公開キー

公開キーは、Cisco Umbrella Integration クラウドから DNSCrypt 証明書をダウンロードするために使用されます。この値は、

**B735:1140:206F:225D:3E2B:D822:D7FD:691E:A1C3:3CC8:D666:8D0C:BE04:BFAB:CA43:FB79**

(Cisco Umbrella Integration Anycast サーバーの公開キー) に事前に設定されています。public-key に変更があり、このコマンドを変更する場合、デフォルト値に戻すときは変更されたコマンドを削除する必要があります。この値を変更すると、DNSCrypt 証明書のダウンロードは失敗することがあります。

### DNSCrypt

DNSCrypt を無効化するには **no dnsencrypt** コマンドを使用し、DNSCrypt を再度有効化するには **dnsencrypt** コマンドを使用します。

DNSCrypt を使用する場合は、DNS 要求パケットサイズが 512 バイトよりも大きくなります。これらのパケットが中間デバイスで許可されていることを確認します。そうしないと、応答が目的の受信者に到達しない可能性があります。

## Cisco Umbrella Connector の設定の確認

Cisco Umbrella Connector の設定を確認するには、次のコマンドを実行します。

```

Router# show umbrella config
Umbrella Configuration
=====
Token: AAC1A2555C11B2B798FFF3AF27C2FB8F001CB7B2
OrganizationID: 1882034
Local Domain Regex parameter-map name: NONE
DNSEncrypt: Enabled
Public-key:
B735:1140:206F:225D:3E2B:D822:D7FD:691E:A1C3:3CC8:D666:8DOC:BE04:BFAB:CA43:FB79

UDP Timeout: 5 seconds
Resolver address:
  1. 208.67.220.220
  2. 208.67.222.222
  3. 2620:119:53::53
  4. 2620:119:35::35
Umbrella Interface Config:
  Number of interfaces with "opendns out" config: 1
  1. GigabitEthernet0/0/0
     Mode      : OUT
     VRF       : global(Id: 0)
  Number of interfaces with "opendns in" config: 1
  1. GigabitEthernet0/0/1
     Mode      : IN
     Tag       : test
     Device-id : 010a6aef0b443f0f
     VRF       : global(Id: 0)

Device# show umbrella deviceid
Device registration details
Interface Name      Tag      Status  Device-id
GigabitEthernet0/0/1  guest  200 SUCCESS 010a7ba73bd216d1

Device#show umbrella dnscrypt
DNSEncrypt: Enabled
Public-key: B735:1140:206F:225D:3E2B:D822:D7FD:691E:A1C3:3CC8:D666:8DOC:BE04:BFAB:CA43:FB79
Certificate Update Status:
Last Successful Attempt : 10:55:40 UTC Apr 14 2016
Last Failed Attempt : 10:55:10 UTC Apr 14 2016
Certificate Details:
Certificate Magic : DNSC
Major Version : 0x0001
Minor Version : 0x0000
Query Magic : 0x717744506545635A
Serial Number : 1435874751
Start Time : 1435874751 (22:05:51 UTC Jul 2 2015)
End Time : 1467410751 (22:05:51 UTC Jul 1 2016)
Server Public Key :
ABA1:F000:D394:8045:672D:73E0:EAE6:F181:19D0:2A62:3791:EFAD:B04E:40B7:B6F9:C40B
Client Secret Key Hash :
BBC3:409F:5CB5:C3F3:06BD:A385:78DA:4CED:62BC:3985:1C41:BCCE:1342:DF13:B71E:F4CF
Client Public key :
ECE2:8295:2157:6797:6BE2:C563:A5A9:C5FC:C20D:ADAF:EB3C:A1A2:C09A:40AD:CAEA:FF76
NM key Hash :
F9C2:2C2C:330A:1972:D484:4DD8:8E5C:71FF:6775:53A7:0344:5484:B78D:01B1:B938:E884

```

# Cisco Umbrella 統合のトラブルシューティング

次のコマンドを使用して、Cisco Umbrella 機能の有効化に関連する問題のトラブルシューティングを行うことができます。

- **debug umbrella device-registration**
- **debug umbrella config**
- **debug umbrella dnscrypt**

OS に応じて、クライアントデバイスから次の 2 つのコマンドのいずれかを実行します。

- Windows マシンのコマンドプロンプトから **nslookup -type=txt debug.umbrella.com** コマンドを実行します
- Linux マシンのターミナルウィンドウまたはシェルから **nslookup -type=txt debug.umbrella.com** コマンドを実行します

```
nslookup -type=txt debug.opendns.com 8.8.8.8
Server: 8.8.8.8
Address: 8.8.8.8#53
Non-authoritative answer:
debug.opendns.com text = "server r6.mum1"
debug.opendns.com text = "device 010A826AAABB6C3D"
debug.opendns.com text = "organization id 1892929"
debug.opendns.com text = "remoteip 171.168.1.7"
debug.opendns.com text = "flags 436 0 6040 39FF0000000000000000"
debug.opendns.com text = "originid 119211936"
debug.opendns.com text = "orgid 1892929"
debug.opendns.com text = "orgflags 3"
debug.opendns.com text = "actype 0"
debug.opendns.com text = "bundle 365396"
debug.opendns.com text = "source 72.163.220.18:36914"
debug.opendns.com text = "dnscrypt enabled (713156774457306E)"
```

## 設定例

次に、Cisco Umbrella 統合を有効にする例を示します。

# Cisco Prime CLI テンプレートを使用した Cisco Umbrella Integration の展開

Cisco Prime CLI テンプレートを使用して、Cisco Umbrella Integration 環境をプロビジョニングできます。Cisco Prime CLI テンプレートを使用すると、Cisco Umbrella Integration 環境を簡単にプロビジョニングできます。



(注) Cisco Prime CLI テンプレートは、Cisco Prime バージョン 3.1 以降でのみサポートされていません。

Cisco Prime CLI テンプレートを Cisco Umbrella Integration 環境のプロビジョニングに使用するには、次の手順を実行します。

## 手順

**ステップ 1** システムで実行されている Cisco IOS XE バージョンに対応する Cisco Prime テンプレートをダウンロードします。

**ステップ 2** このファイルが圧縮されている場合は解凍します。

**ステップ 3** Cisco Prime Web UI から、[設定 (Configuration)] > [テンプレート (Templates)] > [機能とテクノロジー (Features and Technologies)] を選択し、次に [CLI テンプレート (ユーザー定義) (CLI Templates (User Defined))] を選択します。

**ステップ 4** [Import] をクリックします。

**ステップ 5** テンプレートのインポート先フォルダを選択し、[テンプレートを選択 (Select Templates)] をクリックして、先ほどダウンロードしたテンプレートを選択します。

**ステップ 6** 次の Cisco Umbrella Integration テンプレートが使用可能です。

- [Cisco Umbrella (Umbrella)] : このテンプレートは、デバイスの Cisco Umbrella Connector のプロビジョニングに使用します。
- [Cisco Umbrella クリーンアップ (Umbrella Cleanup)] : このテンプレートは、Cisco Umbrella Connector の削除に使用します。

## Cisco Umbrella 統合の追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』 [英語]</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』 [英語]</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## Cisco Umbrella 統合の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 222: Cisco Umbrella 統合の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco Umbrella 統合	Cisco IOS XE Everest リリース 16.6.1	Cisco Umbrella 統合機能により、Cisco デバイスを介して任意の DNS サーバに送信される DNS クエリを検査する、クラウドベースのセキュリティサービスを利用できるようになります。セキュリティ管理者は、完全修飾ドメイン名 (FQDN) へのトラフィックを許可または拒否するポリシーを Cisco Umbrella クラウドに設定します。この機能は、Cisco ISR のみサポートされます。





## 第 **XVI** 部

# ユーザーセキュリティ

- [Cisco IOS Login Enhancements \(Login Block\)](#) , on page 2483
- [パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定](#), on page 2493
- [ロールベースの CLI アクセス](#), on page 2539
- [セキュアストレージについて](#), on page 2553
- [AutoSecure](#), on page 2561
- [Kerberos の設定](#), on page 2575
- [合法的傍受アーキテクチャ](#), on page 2593
- [IPoE セッションの LI サポート \(2617 ページ\)](#)
- [イメージ検証](#), on page 2621





## CHAPTER 168

# Cisco IOS Login Enhancements (Login Block)

Cisco IOS Login Enhancements (Login Block) 機能により、ユーザはサービス拒絶 (DoS) 攻撃と思われる攻撃が検出された場合、ログイン試行を自動的にブロックするオプションを設定して、ルータのセキュリティを強化できます。

この機能により導入された Login Block オプションおよび Login Delay オプションで、Telnet または SSH 仮想接続を設定できます。この機能をイネーブルにすると、接続試行の失敗が複数回検出された場合に、「待機時間」を強制して「辞書攻撃」をスローダウンし、ルーティングデバイスをサービス拒絶 (DoS) 攻撃攻撃から保護できます。



**Note** AAA の「待機モード」機能を使用する場合は、`aaa new-model` コマンドを使用して `aaa new-model` を設定する必要があります。

- [機能情報の確認 \(2483 ページ\)](#)
- [Cisco IOS Login Enhancements について, on page 2484](#)
- [Cisco IOS Login Enhancement の設定方法, on page 2485](#)
- [ログインパラメータの設定例, on page 2489](#)
- [その他の参考資料, on page 2489](#)
- [Cisco IOS Login Enhancements \(Login Block\) に関する機能情報, on page 2490](#)

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、「[Bug Search Tool](#)」およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

# Cisco IOS Login Enhancements について

## サービス拒絶攻撃および辞書ログイン攻撃からの保護

ユーザまたは経営幹部レベルで、デバイスを管理する目的によるルーティングデバイスへの接続は、リモート コンソール（PC など）から Telnet または SSH（セキュア シェル）を使用して最も頻繁に実行されます。ユーザのデバイスと管理デバイスとの間の通信トラフィックが暗号化されるため、SSH では、よりセキュアな接続オプションが提供されます。Login Block 機能をイネーブルにすると、Telnet 接続と SSH 接続の両方に適用されます。

この機能によって導入される自動有効化、および Login Block 機能および Quiet Period 機能のログインは、個人が使用するとネットワークデバイスを阻害したり、損なう可能性のある2つの既知の方法に特に対処したりすることで、デバイスのセキュリティをさらに強化するように設計されています。

デバイスの接続アドレスが検出され、到達可能である場合、悪意あるユーザが接続要求のフラグディングによってデバイスの通常の動作を妨げようとする可能性があります。通常のルーティングサービスを適切に処理しようとして、繰り返し行われるログイン接続試行を処理しようとしたり、デバイスがビジーになったり、正規のシステム管理者に通常のログインサービスを提供できなくなる可能性があるため、この種の攻撃は、サービス拒絶（DoS）攻撃の試行と呼ばれます。

辞書攻撃の主な意図は、一般的な DoS 攻撃とは異なり、デバイスへの管理アクセスを実際に取得することです。辞書攻撃とは、数千、時には数百万ものユーザ名/パスワードの組み合わせでログインを試行する自動プロセスです（このタイプの攻撃は、まず最初に、有効なパスワードとして一般的な辞書で見られるあらゆる言葉が使用されるため、「辞書攻撃」と呼ばれています）。このアクセスを試行するためにスクリプトやプログラムが使用されていて、このような試みのプロファイルは通常、DoS 試行のものと同じです。短期間で複数のログインを試行します。

検出プロファイルをイネーブルにすることにより、ログイン試行の失敗が反復する場合は、以降の接続要求を拒否して対応するように、ルーティング デバイスを設定できます（ログイン ブロッキング）。このブロックには「待機時間」と呼ばれる、一定の時間を設定できます。システム管理者との関連付けが把握されているアドレスを使用してアクセスリスト（ACL）を設定し、待機時間中でも正規の接続試行を許可できます。

## Login Enhancements 機能の概要

### 連続するログイン試行間の遅延

シスコのデバイスは、仮想接続をできる限り高速で処理して受け入れることができます。ログイン試行間に遅延を導入すると、シスコのデバイスを辞書攻撃や DoS 攻撃などの悪意あるログイン接続から保護することができます。遅延は次のいずれかの方法でイネーブルにできます。

- **auto secure** コマンドを介します。AutoSecure 機能をイネーブルにすると、デフォルトで 1 秒のログイン遅延時間が自動的に強制されます。
- **login block-for** コマンドを介します。**login delay** コマンドを発行する前に、このコマンドを入力する必要があります。**login block-for** コマンドのみを入力すると、デフォルトで 1 秒のログイン遅延時間が自動的に強制されます。
- ログイン遅延時間の強制を秒単位で指定できる新しいグローバルコンフィギュレーションモードコマンドの **login delay** を介します。

## DoS 攻撃が疑われる場合のログイン シャットダウン

設定された回数の接続試行が指定期間内で失敗しても、シスコのデバイスは「待機時間」のどのような追加接続も受け付けません。（事前定義されたアクセスコントロールリスト (ACL) によって許可されたホストは待機時間から除外されます）。

待機時間を発生させる接続試行の失敗回数は、新しいグローバルコンフィギュレーションモードコマンド **login block-for** で指定できます。待機時間から除外される定義済みの ACL は、新しいグローバルコンフィギュレーションモードコマンド **login quiet-mode access-class** で指定できます。

この機能は、デフォルトではディセーブルです。AutoSecure がイネーブルの場合はイネーブルになりません。

# Cisco IOS Login Enhancement の設定方法

## ログインパラメータの設定

シスコのデバイスへの DoS 攻撃の疑いを検出し、辞書攻撃による影響の緩和に役立つログインパラメータを設定するには、ここに示す手順を実行します。

すべてのログインパラメータは、デフォルトではディセーブルです。他のログインコマンドを使用する前に、デフォルトのログイン機能を有効にする **login block-for** コマンドを発行する必要があります。**login block-for** コマンドをイネーブルにすると、次のデフォルトが強制されます。

- デフォルトの 1 秒のログイン遅延
- Telnet または SSH を通じて行われるすべてのログイン試行は、待機時間中拒否されます。つまり、**login quiet-mode access-class** コマンドが発行されるまで、ACL はログイン時間から除外されません。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**

4. **login block-for** *seconds* **attempts** *tries* **within** *seconds*
5. **login quiet-mode access-class** {*acl-name* | *acl-number*}
6. **login delay** *seconds*

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# aaa new-model</pre>	認証、許可、およびアカウントिंग（AAA）アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>login block-for</b> <i>seconds</i> <b>attempts</b> <i>tries</i> <b>within</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# login block-for 100 attempts 2 within 100</pre>	Cisco IOS XE デバイスで DoS 検出の提供に役立つログインパラメータを設定します。 <b>Note</b> このコマンドは、その他のログインコマンドを使用する前に発行する必要があります。
ステップ 5	<b>login quiet-mode access-class</b> { <i>acl-name</i>   <i>acl-number</i> } <b>Example:</b> <pre>Router(config)# login quiet-mode access-class myacl</pre>	（任意）このコマンドはオプションですが、ルータが待機モードに切り替わる時にルータに適用される ACL を指定するように設定することを推奨します。ルータが待機モードになっている間は、すべてのログイン要求が拒否され、使用できる接続はコンソール経由の接続のみになります。 このコマンドを設定しないかぎり、デフォルトの ACL <b>sl_def_acl</b> はルータ上に作成されます。この ACL は実行コンフィギュレーションでは非表示です。デフォルトの ACL のパラメータを表示するには、 <b>show access-list sl_def_acl</b> を使用します。 次に例を示します。 <pre>Router#show access-lists sl_def_acl</pre>

	Command or Action	Purpose
		<pre>Extended IP access list sl_def_acl  10 deny tcp any any eq telnet  20 deny tcp any any eq www  30 deny tcp any any eq 22  40 permit ip any any</pre>
ステップ 6	<b>login delay</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# login delay 10</pre>	(任意) 連続するログイン試行間の遅延を設定します。

## 次の作業

ルータでログインパラメータを設定した後、設定を確認する必要がある場合があります。この作業を完了するには、「[ログインパラメータの確認, on page 2487](#)」を参照してください。

## ログインパラメータの確認

ルータに適用されたログイン設定と現在のログインステータスを確認するには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show login failures**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show login failures</b> <b>Example:</b>	ログインパラメータを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>failures</b> : 失敗したログイン試行に関連する情報のみを表示します。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	Router# show login	

### 例

**show login** コマンドからの次のサンプル出力は、ログインパラメータが指定されていないことを確認します。

```
Router# show login
No login delay has been applied.
No Quiet-Mode access list has been configured.
All successful login is logged and generate SNMP traps.
All failed login is logged and generate SNMP traps
Router NOT enabled to watch for login Attacks
```

**show login** コマンドからの次のサンプル出力は、**login block-for** コマンドが発行されたことを確認します。この例で、コマンドは100秒以内に16回以上のログイン要求が失敗した場合、ログインホストを100秒ブロックするように設定されています。すでに5回のログイン要求が失敗しています。

```
Router# show login
A default login delay of 1 seconds is applied.
No Quiet-Mode access list has been configured.
All successful login is logged and generate SNMP traps.
All failed login is logged and generate SNMP traps.
Router enabled to watch for login Attacks.
If more than 15 login failures occur in 100 seconds or less, logins will be disabled for
 100 seconds.
Router presently in Watch-Mode, will remain in Watch-Mode for 95 seconds.
Present login failure count 5.
```

**show login** コマンドからの次のサンプル出力は、ルータが待機モードになっていることを確認します。この例で、**login block-for** コマンドは、100秒以内に3回以上のログイン要求が失敗した場合、ログインホストを100秒ブロックするように設定されています。

```
Router# show login
A default login delay of 1 seconds is applied.
No Quiet-Mode access list has been configured.
All successful login is logged and generate SNMP traps.
All failed login is logged and generate SNMP traps.
Router enabled to watch for login Attacks.
If more than 2 login failures occur in 100 seconds or less, logins will be disabled for
 100 seconds.
Router presently in Quiet-Mode, will remain in Quiet-Mode for 93 seconds.
Denying logins from all sources.
```

**show login failures** コマンドからの次のサンプル出力は、ルータ上で失敗したすべてのログイン試行を表示します。

```
Router# show login failures
Information about login failure's with the device
Username      Source IPAddr  lPort Count  TimeStamp
```



```
try1          10.1.1.1          23    1    21:52:49 UTC Sun Mar 9 2003
try2          10.1.1.2          23    1    21:52:52 UTC Sun Mar 9 2003
```

**show login failures** コマンドからの次のサンプル出力は、現在記録されている情報が無いことを確認します。

```
Router# show login failures
*** No logged failed login attempts with the device.***
```

## ログインパラメータの設定例

### ログインパラメータの設定例

次に、100秒以内に15回ログイン試行が失敗した場合に100秒の待機時間に入るようにルータを設定する例を示します。待機時間中、ACL “myacl” からのホスト以外、すべてのログイン要求が拒否されます。

```
Router(config)# aaa new-model
Router(config)# login block-for 100 attempts 15 within 100
Router(config)# login quiet-mode access-class myacl
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
AutoSecure の設定	AutoSecure の機能モジュール。
セキュリティ コマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上のガイドライン、および例	『Cisco IOS Security Command Reference』
セキュアな管理/管理アクセス	「Role-Based CLI Access」機能モジュール

### 標準

標準	タイトル
なし。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## Cisco IOS Login Enhancements (Login Block) に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 223: Cisco IOS Login Enhancements (Login Block) に関する機能情報**

機能名	リリース	機能の設定情報
Cisco IOS Login Enhancements	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>Cisco IOS Login Enhancements (Login Block) 機能により、ユーザはサービス拒絶 (DoS) 攻撃と思われる攻撃が検出された場合、ログイン試行を自動的にブロックするオプションを設定して、ルータのセキュリティを強化できます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE リリース 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ サービス アグリゲーションルータに導入されていました。</p> <p>この機能により、次のコマンドが変更されました。<b>login block-for</b>、<b>login delay</b>、<b>login quiet-mode access-class</b>、<b>show login</b>。</p>





## CHAPTER 169

# パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定

Cisco IOS ベースのネットワーキング デバイスには、デバイスで実行されているオペレーティングシステムだけを使用して、基本的なセキュリティを実装できる機能が複数あります。たとえば、次のような機能があります。

- ネットワーキング デバイスのステータスを変更できるコマンドと、デバイスの監視に使用されるコマンドに対するアクセスを制御する CLI セッションの複数の認可レベル
- CLI セッションにパスワードを割り当てる機能
- ユーザがユーザ名を使用してネットワーキング デバイスにログインする操作を必須にする機能
- CLI セッション用に新しい認可レベルを作成するコマンドの特権レベルを変更する機能

このモジュールは、使用しているネットワーキング デバイスについて、基本レベルのセキュリティを実装する手順です。基本レベルのセキュリティを実装するために使用できる、最もシンプルなオプションを中心に説明します。セキュリティ オプションを設定せずにネットワークにネットワーキング デバイスをインストールした場合、またはこれからネットワーキング デバイスをインストールする予定で、基本的なセキュリティを実装する方法を理解する必要がある場合、このドキュメントが役立ちます。

- [パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定の制約事項, on page 2494](#)
- [パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定について, on page 2494](#)
- [パスワード、特権、およびログインによるセキュリティの設定方法, on page 2509](#)
- [パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定の設定例, on page 2532](#)
- [次の作業, on page 2536](#)
- [その他の参考資料, on page 2536](#)
- [パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定に関する機能情報, on page 2538](#)

# パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定の制約事項

任意のローカルまたはリモートの認証、許可、アカウントिंग (AAA) セキュリティ機能を使用するようにネットワークングデバイスを設定しないでください。このドキュメントでは、ネットワーク デバイスでローカルで設定できる非 AAA セキュリティ機能のみを説明します。

ネットワーク デバイスでローカルで実行できる AAA セキュリティ機能の設定方法、または TACACS+ や RADIUS サーバを使用したリモート AAA セキュリティの設定方法については、『*Securing User Services Configuration Guide Library*』を参照してください。

## 可逆的パスワードタイプの制約事項とガイドライン

- パスワードタイプ 0 およびタイプ 7 は廃止されました。したがって、コンソール、Telnet、SSH、webUI、NETCONF への管理者ログインに使用されるパスワードタイプ 0 およびタイプ 7 は、パスワードタイプ 8 またはタイプ 9 に移行する必要があります。
- ISG および Dot1x の CHAP、EAP などのローカル認証でユーザー名とパスワードがタイプ 0 およびタイプ 7 の場合、アクションは不要です。
- イネーブルパスワードタイプ 0 およびタイプ 7 は、パスワードタイプ 8 またはタイプ 9 に移行する必要があります。

## 不可逆的パスワードタイプの制約事項とガイドライン

- パスワードタイプ 5 は廃止されました。パスワードタイプ 5 は、より強力なパスワードタイプ 8 またはタイプ 9 に移行する必要があります。
- ユーザー名シークレットパスワードタイプ 5 およびイネーブルシークレットパスワードタイプ 5 の場合は、タイプ 8 または 9 に移行します。
- シークレットパスワードタイプ 4 はサポートされていません。

# パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定について

## セキュリティ スキームを作成する利点

ネットワークの優れたセキュリティ スキームの基礎は、ネットワークングデバイスのユーザーインターフェイスを不正アクセスから保護することです。ネットワークングデバイス上のユー

ザインターフェイスに対するアクセスを保護することで、ネットワークの安定を妨げ、ネットワークセキュリティを危険にさらすような設定の変更を不正ユーザが行うことを回避できます。

このドキュメントで説明する Cisco IOS XE の機能をさまざまな方法で組み合わせて、実際の各ネットワーク デバイスに固有のセキュリティ スキームを作成できます。次に、いくつかの設定例を示します。

- コマンドを実行可能なレベルを非管理特権レベルまで下げることで、非管理ユーザに対して、ネットワーク デバイスで使用できる管理コマンドの一部の実行を許可できます。この処理は、次のシナリオに役立ちます。
  - ISP で、窓口のテクニカルサポートスタッフが、新規顧客の新規インターフェイスをイネーブルにするタスク、または接続がトラフィックのパスを停止した顧客の接続をリセットするタスクなどを実行できるようにする場合。その実行方法の例については、例：ユーザがインターフェイスをシャットダウンおよびイネーブル化することを可能にするデバイスの設定, on page 2535 を参照してください。
  - 窓口のテクニカル サポート スタッフが、ターミナル サーバから不正に接続解除されたコンソール ポート セッションをクリアする機能を実行できるようにする場合。その実行方法の例については、例：ユーザがリモートセッションをクリア可能にするデバイスの設定, on page 2532 を参照してください。
  - 窓口のテクニカルサポート スタッフが、ネットワーク デバイスの設定を変更ではなく表示し、ネットワークの問題を解決する機能を実行できるようにする場合。その実行方法の例については、例：ユーザが実行コンフィギュレーションを表示可能にするデバイスの設定, on page 2533 を参照してください。

## Cisco IOS XE CLI モード

システムの設定を支援するために、Cisco IOS XE コマンドラインインターフェイスは、さまざまなコマンドモードに分かれています。各コマンドモードには、ルータとネットワークの動作を設定、メンテナンス、モニタリングするための独自のコマンドセットがあります。常に使用可能なコマンドは、モードによって異なります。システムプロンプト（デバイスプロンプト）で疑問符（?）を入力すると、各コマンドモードで使用できるコマンドのリストを取得できます。

特定のコマンドを使用すると、コマンドモードを変更できます。ユーザがモードにアクセスする標準の順序は、ユーザ EXEC モード、特権 EXEC モード、グローバルコンフィギュレーションモード、特定のコンフィギュレーションモード、コンフィギュレーションサブモード、およびコンフィギュレーションサブモードです。



**Note** Cisco IOS XE ソフトウェア ベースのネットワーク デバイスのデフォルト設定で利用できるのは、ユーザ EXEC モード（ローカルおよびリモート CLI セッションの場合）と特権 EXEC モードへのアクセスを保護するパスワードを設定する操作だけです。ここでは、ユーザー名、パスワード、および **privilege** コマンドを組み合わせることで他のモードへのアクセスおよびコマンドを保護することで、追加のセキュリティレベルを提供する方法について説明します。

ほとんどの EXEC モード コマンドは、現在の設定ステータスを表示する **show** コマンドまたは **more** コマンドや、カウンタやインターフェイスをクリアする **clear** コマンドのように、1 回限りのコマンドです。EXEC モードのコマンドは、ルータをリブートすると保持されません。

特権 EXEC モードから、グローバル コンフィギュレーション モードに入ることができます。このモードでは、一般的なシステム特性を設定するためのコマンドを実行できます。また、グローバル コンフィギュレーション モードを使用して特定のコンフィギュレーション モードを開始することもできます。グローバルコンフィギュレーションモードを含むコンフィギュレーションモードでは、実行コンフィギュレーションを変更できます。後で設定を保存すると、ルータをリブートしてもこれらのコマンドが保持されます。

グローバル コンフィギュレーション モードから、さまざまなプロトコル固有または機能固有のコンフィギュレーション モードを開始できます。CLI 階層では、グローバル コンフィギュレーションモードのみからこれらのコンフィギュレーションモードを開始できます。たとえば、インターフェイス コンフィギュレーションモードは、共通して使用されるコンフィギュレーションモードです。

コンフィギュレーションモードから、コンフィギュレーションサブモードを開始できます。コンフィギュレーションサブモードは、特定のコンフィギュレーションモードの範囲内で特定の機能を設定するために使用します。たとえば、この章では、インターフェイス コンフィギュレーションモードのサブモードであるサブインターフェイスコンフィギュレーションモードについて説明します。

**ROM** モニタ モードは、ルータが適切にブートできない場合に使用される別のモードです。システム（ルータ、スイッチ、またはアクセス サーバー）のブート時に適切なシステムイメージが見つからない場合、システムは **ROM** モニター モードを開始します。**ROM** モニター（**ROMMON**）モードには、起動時にブートシーケンスに割り込むことでもアクセスできません。**ROMMON** には使用できるセキュリティ機能がないため、このドキュメントでは説明していません。

## ユーザ EXEC モード

ルータでセッションを開始するときは、通常、EXEC モードの2つあるアクセスレベルの1つであるユーザ **EXEC** モードから始めます。セキュリティのために、ユーザー EXEC モードで実行できる EXEC コマンドは制限されています。このアクセスレベルは、ルータのステータスを確認するなど、ルータの設定を変更しない作業のために予約されています。

デバイスの設定で、ユーザのログインが必須の場合、そのログインプロセスはユーザ名とパスワードが必須になります。接続が拒否されるまでにパスワードを3回入力できます。

ユーザ EXEC モードは、デフォルトで特権レベル1に設定されています。特権 EXEC モードは、デフォルトで特権レベル15に設定されています。ユーザ EXEC モードでネットワークデバイスにログインしている場合、システムは特権レベル1で実行されます。デフォルトで、特権レベル1の EXEC コマンドは、特権レベル15で使用できるコマンドのサブセットです。特権 EXEC モードでネットワークデバイスにログインしている場合、システムは特権レベル15で実行されます。**privilege** コマンドを使用すると、1～15の任意の特権レベルにコマンドを移動できます。



一般に、ユーザ EXEC コマンドでは、リモート デバイスへの接続、端末回線の一時的な設定変更、基本的なテストの実行、システム情報の表示を行うことができます。

使用可能なユーザ EXEC コマンドの一覧を表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Device (config) # ?	ユーザ EXEC モード コマンド リストを表示します

ユーザ EXEC モード プロンプトは、デバイスのホスト名と、それに続く山カッコ (>) で構成されます。次に例を示します。

```
Device>
```

**setup EXEC** コマンドで初期設定時に変更していなければ、通常はデフォルトのホスト名は **Router** です。また、ホスト名の変更には、**hostname** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。



**Note** Cisco IOS XE のドキュメントの例では、「デバイス」のデフォルト名を使用することを想定しています。さまざまなデバイス（アクセスサーバ）が異なるデフォルト名を使用できます。デバイス（ルータ、アクセスサーバ、またはスイッチ）に、**hostname** コマンドで名前が設定されている場合、デフォルトの名前の代わりにその名前がプロンプトに表示されます。

ユーザ EXEC モードで使用できるコマンドの一覧を表示するには、次の例に示すように疑問符 (?) を入力します。

```
Device> ?
```

```
Exec commands:
<1-99>          Session number to resume
connect         Open a terminal connection
disconnect      Disconnect an existing telnet session
enable         Turn on privileged commands
exit           Exit from Exec mode
help           Description of the interactive help system
lat            Open a lat connection
lock           Lock the terminal
login          Log in as a particular user
logout         Exit from Exec mode and log out
menu           Start a menu-based user interface
mbranch        Trace multicast route for branch of tree
mrbranch       Trace reverse multicast route to branch of tree
mtrace         Trace multicast route to group
name-connection Name an existing telnet connection
pad            Open a X.29 PAD connection
ping           Send echo messages
resume         Resume an active telnet connection
show           Show running system information
systat         Display information about terminal lines
telnet         Open a telnet connection
terminal       Set terminal line parameters
tn3270         Open a tn3270 connection
```

```

trace          Trace route to destination
where         List active telnet connections
x3           Set X.3 parameters on PAD

```

コマンドの一覧は、使用しているソフトウェア機能セットおよびプラットフォームによって異なります。



**Note** コマンドは、大文字、小文字、または大文字と小文字を混在させて入力できます。大文字と小文字の区別があるのはパスワードだけです。ただし、Cisco IOS XE のマニュアルの表記法では、コマンドは常に小文字になっています。

## 特権 EXEC モード

すべてのコマンドにアクセスするには、EXEC モードの第2レベルのアクセスである特権 *EXEC* モードを開始する必要があります。特権 EXEC モードを開始するには、通常、パスワードが必要です。特権 EXEC モードでは、任意の EXEC コマンドを入力できます。これは、特権 EXEC モードが、ユーザー EXEC モード コマンドのスーパーセットであるためです。

多くの特権 EXEC モード コマンドは操作パラメータを設定するため、不正使用を防ぐために、特権 EXEC レベルアクセスをパスワードで保護する必要があります。特権 EXEC コマンドセットには、ユーザ EXEC モードに含まれているこれらのコマンドが含まれます。また、特権 EXEC モードでは、**configure** コマンドを使用することで各種コンフィギュレーションモードにアクセスでき、**debug** などの高度なテストコマンドも含まれています。

特権 EXEC モードは、デフォルトで特権レベル 15 に設定されています。ユーザ EXEC モードは、デフォルトで特権レベル 1 に設定されています。詳細については、[ユーザ EXEC モード, on page 2496](#) を参照してください。特権 EXEC モードでネットワークデバイスにログインしている場合、システムは特権レベル 15 で実行されます。ユーザ EXEC モードでネットワークデバイスにログインしている場合、システムは特権レベル 1 で実行されます。デフォルトで、特権レベル 15 の EXEC コマンドは、特権レベル 1 で使用できるコマンドのスーパーセットです。**privilege** コマンドを使用すると、1～15 の任意の特権レベルにコマンドを移動できます。特権レベルおよび **privilege** コマンドの詳細については、[Cisco IOS XE の特権レベル, on page 2507](#) を参照してください。

特権 EXEC モードプロンプトは、デバイスのホスト名と、それに続くポンド記号 (#) で構成されます。次に例を示します。

```
Device#
```

特権 EXEC モードにアクセスするには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Device> <b>enable</b>  Password  Device# <b>exit</b>  Device>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特権 EXEC モードのパスワードを選択すると、<b>enable</b> コマンドの発行後にパスワードの入力が求められます。</li> <li>特権 EXEC モードを終了するには、<b>exit</b> コマンドを使用します。</li> </ul>



**Note** 特権 EXEC モードは、モードの開始に、**enable** コマンドを使用するため、「イネーブルモード」とも呼ばれます。

システムでパスワードが設定されている場合、特権 EXEC モードへのアクセスが許可される前にパスワードを入力するよう求められます。パスワードは画面には表示されません。また、大文字と小文字が区別されます。イネーブルパスワードが設定されていない場合、特権 EXEC モードには、ローカル CLI セッション（コンソールポートに接続された端末）からしかアクセスできません。

Telnet 接続など、リモート接続上のルータで特権 EXEC モードへのアクセスを試行しても、特権 EXEC モードのパスワードを設定していない場合は、**% No password set** エラーメッセージが表示されます。リモート接続の詳細については、[リモート CLI セッション, on page 2503](#) を参照してください。システム管理者は、**enable secret** または **enable password** グローバルコンフィギュレーション コマンドを使用して、特権 EXEC モードへのアクセスを制限するパスワードを設定します。特権 EXEC モードのパスワード設定の詳細については、[特権 EXEC モードへのアクセスの保護, on page 2514](#) を参照してください。

ユーザ EXEC モードに戻るには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Device# <b>disable</b>	特権 EXEC モードを終了し、ユーザ EXEC モードに戻ります。

次に、特権 EXEC モードにアクセスするプロセスの例を示します。

```
Device> enable
Password:<letmein>
Device#
```

入力してもパスワードが表示されませんが、ここでは説明のために表示しています。特権 EXEC モードで使用できるコマンドの一覧を表示するには、プロンプトで **?** コマンドを発行します。次の項で説明するように、特権 EXEC モードからグローバル コンフィギュレーション モードにアクセスできます。



**Note** 特権 EXEC コマンドセットには、ユーザ EXEC モードで使用できるすべてのコマンドが含まれているため、一部のコマンドはどちらのモードでも実行できます。Cisco IOS XE のドキュメントでは、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで入力できるコマンドは、EXEC モードコマンドと呼ばれます。ユーザまたは特権とドキュメントに特記されていない場合、どちらのモードでもそのコマンドを入力できることを示します。

## グローバル コンフィギュレーション モード

「グローバル」という言葉は、システム全体に影響する特性や機能を示すために使用されています。グローバル コンフィギュレーション モードは、システムをグローバルに設定したり、インターフェイスやプロトコルなどの特定の要素を設定したりする目的で、特定のコンフィギュレーションモードを開始するために使用します。グローバルコンフィギュレーションモードを開始するには、**configure terminal** 特権 EXEC コマンドを使用します。

グローバル コンフィギュレーション モードにアクセスするには、特権 EXEC モードで次のコマンドを入力します。

コマンド	目的
Device# <b>configure terminal</b>	特権 EXEC モードで、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

次に、特権 EXEC モードからグローバル コンフィギュレーション モードを開始するプロセスの例を示します。

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#
```

システム プロンプトが変わり、グローバル コンフィギュレーション モードに入ったことが示されることに注意してください。グローバルコンフィギュレーションモードのプロンプトは、デバイスのホスト名と、それに続く (config) およびポンド記号 (#) で構成されます。特権 EXEC モードで使用できるコマンドの一覧を表示するには、プロンプトで ? コマンドを発行します。

グローバルコンフィギュレーションモードでコマンドを入力すると、すぐに実行コンフィギュレーションファイルが更新されます。つまり、設定に対する変更は、有効なコマンドの後に Enter キーまたは Return キーを押すたびに有効になります。ただし、これらの変更は、**copy running-config startup-config** EXEC モードコマンドを発行するまで、スタートアップコンフィギュレーションファイルに保存されません。この動作は、このマニュアルの後の項で詳しく説明します。

上記の例のように、コントロール (Ctrl) キーと「z」キーを同時に押すと、システムダイアログでコンフィギュレーションセッションを終了するプロンプトが表示されます。これらのキー操作で、^Z が画面に出力されます。実際にコンフィギュレーションセッションを終了するには、Ctrl+Z キーの組み合わせ、**end** コマンド、または Ctrl+C キーの組み合わせを使用できま

す。現在のコンフィギュレーションセッションを終了することをシステムに示すための方法としては、**end** コマンドが推奨されます。



**Caution** 有効なコマンドを入力してから、コマンドラインの最後で **Ctrl+Z** キーを使用すると、そのコマンドが実行コンフィギュレーションファイルに追加されます。つまり、**Ctrl+Z** キーを使用することは、終了前に **Enter** (復帰) キーを押すことと同じです。このような理由から、**end** コマンドを使用してコンフィギュレーションセッションを終了するほうが安全です。また、改行信号を送信せずにコンフィギュレーションセッションを終了するには、**Ctrl+C** キーの組み合わせを使用できます。

また、**exit** コマンドを使用して、グローバル コンフィギュレーション モードから EXEC モードに戻ることもできますが、使用できるのはグローバル コンフィギュレーション モードだけです。**Ctrl+Z** キーを押すか **end** コマンドを入力することにより、どのコンフィギュレーションモードまたはコンフィギュレーション サブモードにいるかにかかわらず、常に EXEC モードに戻ることができます。

グローバル コンフィギュレーション コマンド モードを終了して特権 EXEC モードに戻るには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
Device(config)# <b>end</b> または Device(config)# <b>^Z</b>	現在のコンフィギュレーションセッションを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。
Device(config)# <b>exit</b>	現在のコマンドモードを終了して、前のモードに戻ります。たとえば、グローバル コンフィギュレーション モードから特権 EXEC モードに戻ります。

グローバルコンフィギュレーションモードから、いくつかのプロトコル固有、プラットフォーム固有、機能固有のコンフィギュレーションモードを開始できます。

次のセクションで説明されているインターフェイスコンフィギュレーションモードは、グローバルコンフィギュレーションモードから入ることができるコンフィギュレーションモードの例です。

## インターフェイス コンフィギュレーション モード

グローバル コンフィギュレーション モードから開始する特定のコンフィギュレーション モードの一例が、インターフェイス コンフィギュレーション モードです。

多くの機能は、インターフェイスごとにイネーブルになります。インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、イーサネット、FDDI、シリアルポートなど、インターフェイスの動作を変更します。インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは常に、インター

フェイスタイプを定義する **interface** グローバル コンフィギュレーション コマンドの後に指定します。

帯域幅やクロック レートなど、一般的なインターフェイス パラメータに影響があるインターフェイス コンフィギュレーション コマンドの詳細については、Release 12.2 の『Cisco IOS Interface Configuration Guide』を参照してください。プロトコル固有のコマンドについては、該当する Cisco IOS XE ソフトウェア コマンドリファレンスを参照してください。

インターフェイス コンフィギュレーション コマンドにアクセスし、その一覧を表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Device(config)# <b>interface</b> <i>type</i> <i>number</i>	設定するインターフェイスを指定して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

次に、シリアルインターフェイス 0 についてユーザがインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。新しいプロンプト、*hostname (config-if) #* は、インターフェイス コンフィギュレーション モードを示しています。

```
Device(config)# interface serial 0
Device(config-if)#
```

インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了してグローバル コンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを入力します。

コンフィギュレーション サブモードは、他のコンフィギュレーション モード（グローバル コンフィギュレーション モード以外）から開始されるコンフィギュレーション モードです。コンフィギュレーション サブモードは、コンフィギュレーション モード内の特定の要素を設定するためにあります。コンフィギュレーション サブモードの1つの例は、次の項で説明するサブインターフェイス コンフィギュレーション モードです。

## サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

インターフェイス コンフィギュレーション モードから、サブインターフェイス コンフィギュレーション モードに入ることができます。サブインターフェイス コンフィギュレーション モードは、インターフェイス コンフィギュレーション モードのサブモードの1つです。サブインターフェイス コンフィギュレーション モードでは、1つの物理インターフェイスに複数の仮想インターフェイス（別名サブインターフェイス）を設定できます。サブインターフェイスは、さまざまなプロトコルにとって個別の物理インターフェイスのように見えます。

サブインターフェイスの設定方法の詳細については、Cisco IOS XE ソフトウェア マニュアル セット内の特定のプロトコルの該当するドキュメンテーション モジュールを参照してください。

サブインターフェイス コンフィギュレーション モードにアクセスするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Device(config-if)# <b>interface</b> type number	設定する仮想インターフェイスを指定し、サブインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。

次の例では、シリアルライン2のサブインターフェイスで、フレームリレーカプセル化を設定します。シリアルインターフェイス2のサブインターフェイス1であることを示すため、サブインターフェイスは「2.1」として識別されます。新しいプロンプトの *hostname* (config-subif) #は、サブインターフェイスコンフィギュレーションモードを示します。サブインターフェイスは、1つ以上のフレームリレーPVCをサポートするように設定できます。

```
Device(config)# interface serial 2
Device(config-if)# encapsulation frame-relay
Device(config-if)# interface serial 2.1
Device(config-subif)#
```

サブインターフェイスコンフィギュレーションモードを終了しインターフェイスコンフィギュレーションモードに戻るには、**exit** コマンドを入力します。コンフィギュレーションセッションを終了し特権 EXEC モードに戻るには、Ctrl+Z キーを押すか、**end** コマンドを入力します。

## Cisco IOS XE CLI セッション

### ローカル CLI セッション

ローカル CLI セッションでは、ネットワーク デバイスのコンソールポートへの直接アクセスが要求されます。ローカル CLI セッションは、ユーザ EXEC モードで開始されます。ネットワーク デバイスの設定とおよび管理に必要なすべてのタスクは、ローカル CLI セッションを使用して実行できます。ローカル CLI セッションを確立する最も一般的な方式は、PC 上のシリアルポートを、ネットワーク デバイスのコンソールポートに接続し、PC で端末エミュレーションアプリケーションを起動する方法です。必要とされるケーブルとコネクタの種類および PC 上の端末エミュレーションアプリケーションの設定は、設定しているネットワーク デバイスの種類によって異なります。ローカル CLI セッションでネットワーク デバイスを設定する方法の詳細については、そのデバイスのマニュアルを参照してください。

### リモート CLI セッション

リモート CLI セッションは、PC などのホストとネットワーク上のルータなどのネットワーク デバイス間で、Telnet やセキュアシェル (SSH) などのリモート端末アクセスアプリケーションを使用して作成されます。ローカル CLI セッションは、ユーザ EXEC モードで開始されます。ネットワーク デバイスの設定とおよび管理に必要なほとんどのタスクは、リモート CLI セッションを使用して実行できます。例外は、ROM モニタモードのときのネットワーク デバイスとの通信や、(コンソールポートで新しい OS イメージをアップロードすることによる、破壊されたオペレーティングシステム (OS) の復元など)、コンソールポートと直接的に通信するタスクです。

このドキュメントでは、リモート Telnet セッションのセキュリティを設定する方法について説明します。Telnet は、ネットワーキング デバイスでリモート CLI セッションにアクセスする際に最も一般的な方式です。



**Note** ただし、SSH の方が Telnet よりも安全な方式です。SSH には、PC などのローカル管理デバイスと、管理しているネットワーキング デバイスとの間のセッション トラフィックを暗号化する機能があります。SSH を使用してセッション トラフィックを暗号化すると、ハッカーがトラフィックを傍受しても、トラフィックをデコードできなくなります。SSH を使用する詳細については、「Secure Shell Version 2 Support」フィーチャ モジュールを参照してください。

## 端末回線はローカルおよびリモート CLI セッションに使用される

シスコ ネットワーク デバイスでは、ローカルおよびリモート CLI セッションを管理するソフトウェア コンポーネントを参照するため語線を使用します。**line console 0** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してライン コンフィギュレーション モードを開始し、パスワードなど、コンソールポートのオプションを設定します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# line console 0
Device(config-line)# password password-string
```

リモート CLI セッションでは、仮想テレタイプ (VTY) の行である回線を使用しています。**line vty line-number [ending-line-number]** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してライン コンフィギュレーション モードを開始し、パスワードなど、リモート CLI セッションのオプションを設定します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# line vty 0 4
Device(config-line)# password password-string
```

## Cisco IOS XE EXEC モードへのアクセスの保護

Cisco IOS XE では、次へのアクセスを保護するパスワードを設定できます。

### ユーザ EXEC モードへのアクセスの保護

ネットワーク デバイスの安全な環境の構築に向けた第一歩は、ローカルおよびリモート CLI セッションのパスワードを設定することで、ユーザ EXEC モードへのアクセスを保護することです。

ローカル CLI セッションでユーザ EXEC モードに対するアクセスを保護するには、コンソールポートでパスワードを設定します。[ローカル CLI セッションのパスワードの設定と確認, on page 2512](#)を参照してください。



リモート CLI セッションでユーザ EXEC モードに対するアクセスを保護するには、仮想端末回線 (VTY) でパスワードを設定します。リモート CLI セッションのパスワード設定方法の手順については、「[リモート CLI セッションのパスワードの設定と確認, on page 2509](#)」を参照してください。

## 特権 EXEC モードへのアクセスの保護

ネットワーク デバイスのセキュア環境を作成するための第 2 段階は、特権 EXEC モードに対するアクセスをパスワードで保護することです。特権 EXEC モードに対するアクセスを保護する方式は、ローカルおよびリモートの CLI セッションと同じです。

特権 EXEC モードに対するアクセスを保護するには、そのモード用のパスワードを設定します。特権 EXEC モードを開始するコマンドが **enable** なので、このパスワードもイネーブルパスワードと呼ばれることがあります。

コマンド	目的
<pre>enable Device&gt; enable Password Device#</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。パスワードはターミナルウィンドウに表示されません。</li> <li>プロンプト文字列の末尾の「&gt;」は、特権 EXEC モードにいることを示す「#」に変更されました。</li> </ul>

## Cisco IOS XE のパスワード暗号化レベル

ネットワーク デバイスで設定するパスワードの中には、プレーンテキストで設定に保存されるものもあります。これは、ディスクにコンフィギュレーションファイルのコピーを保存すると、コンフィギュレーションファイルを読み取ることで、ディスクへのアクセス権を持つ誰もが、パスワードがわかることを意味します。次の種類のパスワードは、デフォルトでプレーンテキストで設定に保存されます。

- ローカル CLI セッションのコンソールパスワード
- リモート CLI セッションの仮想端末回線のパスワード
- パスワードを設定するため、デフォルトの方法を使用したユーザ名のパスワード
- enable password password** コマンドで設定されるときの特権 EXEC モードのパスワード
- RIPv2 と EIGRP で使用されている認証キーチェーンパスワード
- BGP ネイバーを認証するための BGP パスワード
- OSPF ネイバーの認証に使用する OSPF 認証キー
- ISIS ネイバーを認証するための ISIS パスワード

ルータの設定ファイルからのこの引用文は、クリアテキストとして保存されたパスワードと認証キーの例を示しています。

```

!
enable password O9Jb6D
!
username username1 password 0 kV9sIj3
!
key chain trees
  key 1
    key-string willow
!
interface Ethernet1/0.1
 ip address 172.16.6.1 255.255.255.0
 ip router isis
 ip rip authentication key-chain trees
 ip authentication key-chain eigrp 1 trees
 ip ospf authentication-key j7876
 no snmp trap link-status
 isis password u7865k
!
line vty 0 4
 password V9jA5M
!

```

**service password-encryption** コマンドを使用することで、これらのクリアテキストのパスワードをコンフィギュレーションファイルで暗号化できます。パスワードを暗号化するのに **service password-encryption** コマンドによって使用された暗号化アルゴリズムは、公で使用可能なツールを使用して暗号化されるテキストストリングを作成するため、これは最小レベルのセキュリティにすぎないと見なされる必要があります。また、**service password-encryption** コマンドを使用後、コンフィギュレーションファイルのどのような電子または文書でのコピーに対するアクセスも保護する必要があります。

パスワードがリモートデバイスに送信される時、**service password-encryption** コマンドではパスワードを暗号化しません。ネットワークに対するアクセス権があるネットワークトラフィックアナライザを使用するユーザは、デバイス間でパケットを送信するときに、パケットからこのようなパスワードをキャプチャできます。コンフィギュレーションファイルでのクリアテキストパスワードの暗号化の詳細については、「[クリア テキスト パスワードのパスワード暗号化の設定, on page 2516](#)」を参照してください。

クリアテキストパスワードを使用する Cisco IOS XE 機能の多くは、より安全な MD5 アルゴリズムを使用するように設定することもできます。MD5 アルゴリズムによって、暗号化がはるかに難しいコンフィギュレーションファイル内でテキストストリングが作成されます。MD5 アルゴリズムは、リモートデバイスにパスワードを送信しません。これによって、トラフィックアナライザのユーザが、内部ネットワークのトラフィックをキャプチャしてパスワードを検出することを防ぎます。

ネットワークングデバイスのコンフィギュレーションファイルにパスワード文字列とともに保存されている数字によって、使用されているパスワード暗号化の種類を判断できます。下記のコンフィギュレーションの引用文での数字 5 は、イネーブル シークレットパスワードは MD5 アルゴリズムを使用して暗号化されていること示しています。

```
enable secret 5 $1$fGCS$rkYbR6.Z8xo4qCl3vghWQ0
```

下記の引用文での数字 7 は、**service password-encryption** コマンドによって使用された、より安全でないアルゴリズムを使用してイネーブルパスワードが暗号化されたことを示しています。

!

```
enable password 7 00081204
```

## Cisco IOS XE CLI セッションのユーザ名

これらのパスワードを設定して、ユーザ EXEC モードおよび特権 EXEC モードへのアクセスを保護した後に、個々のユーザにネットワーク デバイスの CLI セッションへのアクセスを制限するためのユーザ名を設定することで、ネットワーク デバイスのセキュリティ レベルをさらに強化できます。

ネットワーキングデバイスの管理に使用するユーザ名は、次のような追加オプションを使用して変更できます。

『*Cisco IOS Security Command Reference*』を参照してください。 **username** コマンドの設定方法の詳細については、

([http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/security/command/reference/sec\\_book.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/security/command/reference/sec_book.html)) を参照してください。

## Cisco IOS XE の特権レベル

Cisco IOS XE ベースのネットワーク デバイスのデフォルト設定では、ユーザ EXEC モードに特権レベル 1 を、特権 EXEC に特権レベル 15 を使用します。特権レベル 1 のユーザ EXEC モードで実行できるコマンドは、特権レベル 15 の特権 EXEC モードで実行できるコマンドのサブセットです。

**privilege** コマンドは、1 つの特権レベルから別の特権レベルへコマンドを移動するのに使用されます。たとえば、一部の ISP では、窓口のテクニカル サポート スタッフに対して、新しい顧客の接続をアクティブ化するインターフェイスをイネーブルまたはディセーブルにする機能、およびトラフィックの送信を終了した接続を再起動する機能を許可しています。このオプションの設定方法の例については、[例：ユーザがインターフェイスをシャットダウンおよびイネーブル化することを可能にするデバイスの設定, on page 2535](#)を参照してください。

**privilege** コマンドは、ユーザー名に特権レベルを割り当てるために使用できるため、ユーザーがこのユーザー名でログインすると、セッションは、**privilege** コマンドで指定された特権レベルで実行されます。たとえば、テクニカルサポートスタッフに対して、設定を変更することなくネットワークの問題を解決できるように、ネットワークデバイス設定を閲覧できるようにする場合、ユーザー名を作成し、特権レベル 15 を使用してユーザー名を設定し、**show running-config** コマンドを自動的に実行するように設定できます。ユーザがそのユーザ名でログインすると、実行コンフィギュレーションが自動的に表示されます。ユーザがコンフィギュレーションの最後の行を表示すると、ユーザのセッションは自動的にログアウトされます。このオプションの設定方法の例については、[例：ユーザが実行コンフィギュレーションを表示可能にするデバイスの設定, on page 2533](#)を参照してください。

このようなコマンドの特権は、TACACS+ および RADIUS による AAA を使用するときにも実装できます。たとえば、TACACS+ には、ユーザ別またはグループ別にルータ コマンドの認可を制御する方法が 2 つあります。1 つ目の方法では、コマンドに特権レベルを割り当て、指定した特権レベルでユーザが認可されているかどうかについて、TACACS+ サーバを使用するルータで確認します。2 つ目の方法では、ユーザ別またはグループ別に、明示的に許可するコマンドを TACACS+ サーバに指定します。TACACS+ および RADIUS による AAA の実装の詳細については、『[How to Assign Privilege Levels with TACACS+ and RADIUS](#)』のテクニカル ノートを参照してください。

## Cisco IOS XE のパスワード設定

Cisco IOS XE ソフトウェアでは、パスワードが意図したとおりに正確に入力されたことを確認するため、設定するパスワードの再入力を求めるプロンプトを採用していません。新しいパスワードおよび既存のパスワードへの変更は、パスワード コンフィギュレーション コマンド文字列の末尾に、Enter キーを入力すると、ただちに有効になります。新しいパスワードを入力し、ネットワーク デバイスのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存し、特権 EXEC モードを出たときに間違えた場合、間違えたことを認識する前に、デバイスを管理できなくなっていることがわかる場合があります。

発生する可能性のある一般的な状況は次のとおりです。

- コンソール ポートでローカル CLI セッションのパスワード設定時に間違えます。
  - リモート CLI セッションでネットワーク デバイスに対するアクセスを適切に設定した場合、コンソール ポートで Telnet をして、パスワードを再設定できます。
- リモート Telnet または SSH セッションのパスワード設定時に間違えます。
  - ローカル CLI セッションでネットワーク デバイスに対するアクセスを適切に設定した場合、端末に接続して、リモート CLI セッションのパスワードをリセットできます。
- 特権 EXEC モードでパスワード（イネーブルパスワードまたはイネーブル シークレットパスワード）を設定するときに誤入力しました。
  - 失われたパスワードの復元手順を実行する必要があります。
- ユーザ名パスワード設定するときに誤入力し、ネットワーク デバイスからそのユーザ名を使用してログインするように求められました。
  - 別のアカウント名へのアクセス権を持っていない場合、失われたパスワード復元手順を実行する必要があります。

忘失パスワードの復元手順を実行する必要があるようにするには、ネットワーク デバイスに対して 2 つの CLI セッションを開き、特権 EXEC モードでその一方を開いたままで、他のセッションを使用してパスワードをリセットします。2 つの CLI セッションまたは 2 種類のデバイスを実行するときに、同じデバイス（PC または端末）を使用できます。この手順には、ローカルの CLI セッションとリモート CLI セッションを使用するか、2 つのリモート CLI セッションを使用できます。パスワードの設定に使用する CLI セッションを、パスワードが適切に変更されたことを確認するために利用することもできます。最初の設定で誤入力した場合、特

権 EXEC モードで開いておいたもう一方の CLI セッションはパスワードを変更するときにも利用できます。

実行コンフィギュレーションで行ったパスワードの変更は、そのパスワードが適切に変更されたことを確認できるまで、スタートアップコンフィギュレーションに保存しないでください。パスワードの設定時に誤入力したことに気づき、上記のような第2の CLI セッションの手法を使用して問題を解決できなかった場合、スタートアップコンフィギュレーションに保存されている以前のパスワードに戻すように、ネットワークング デバイスの電源を再投入します。

## AES パスワード暗号化およびマスター暗号キー

強力で、反転可能な 128 ビットの高度暗号化規格 (AES) パスワード暗号化 (タイプ 6 暗号化ともいう) をイネーブルにすることができます。タイプ 6 暗号化の使用を開始するには、AES パスワード暗号化機能をイネーブルにし、パスワード暗号化および復号化に使用されるマスター暗号キーを設定する必要があります。AES パスワード暗号化を有効にしてマスターキーを設定すると、タイプ 6 パスワード暗号化を無効にしない限り、サポートされているアプリケーションの既存および新規作成されたクリアテキストパスワードがすべて、タイプ 6 暗号化の形式で保存されます。また、既存の弱いすべての暗号化パスワードをタイプ 6 暗号化パスワードに変換するようにデバイスを設定することもできます。

AES パスワード暗号化機能とマスター暗号キーが設定されている場合、タイプ 0 およびタイプ 7 のパスワードはタイプ 6 に自動変換できます。



- (注) タイプ 6 のユーザー名とパスワードには、Cisco IOS リリース 16.10.1 とのみ下位互換性があります。Cisco IOS リリース 16.10.1 より前のリリースバージョンにダウングレードすると、タイプ 6 のユーザー名とパスワードは拒否されます。自動変換後、管理者パスワードがダウングレード中に拒否されないようにするには、パスワードを移行します。

## パスワード、特権、およびログインによるセキュリティの設定方法

### ユーザ EXEC モードへのアクセスの保護

#### リモート CLI セッションのパスワードの設定と確認

このタスクを実行すると、リモート CLI セッションのパスワードが割り当てられます。このタスクを完了すると、この次にリモート CLI セッションを起動するときに、ネットワーク デバイスからパスワードの入力が求められます。

Cisco IOS XE ベースのネットワーク デバイスでは、リモート CLI セッション用に設定されたパスワードが必要になります。リモート CLI セッション用に設定されたパスワードがないデバ

イスでリモート CLI セッションを開始しようとする、パスワードが必要で、設定されていないことを示すメッセージが表示されます。リモート CLI セッションは、リモートホストによって終了されます。

### Before you begin

以前にリモート CLI セッションのパスワードを設定していない場合、コンソールポートに接続している端末、または端末エミュレーションアプリケーションを実行する PC を使用して、ローカル CLI セッションでこのタスクを実行する必要があります。

ネットワーク デバイス上のコンソールポートに使用される設定によって、端末、または端末エミュレーションアプリケーションを設定する必要があります。ほとんどのシスコのネットワーク デバイスのコンソールポートには、次の設定が必要です。9600 ボー、8 データ ビット、1 ストップ ビット、パリティなし、およびフロー制御は "none" に設定します。これらの設定が端末で機能しない場合は、ネットワーク デバイスのマニュアルを参照してください。

このタスクの確認手順（手順 6）を実行するには、ネットワーク デバイスに、動作状態のインターフェイスが必要です。インターフェイスは有効な IP アドレスを持っている必要があります。



**Note** 以前にリモート CLI セッションのパスワードを設定していない場合、コンソールポートに接続している端末を使用して、ローカル CLI セッションでこのタスクを実行する必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **line vty line-number [ending-line-number]**
4. **password password**
5. **end**
6. **telnet ip-address**
7. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line vty line-number [ending-line-number]</b> <b>Example:</b>  Device(config)# line vty 0 4	ライン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>password password</b> <b>Example:</b>  Device(config-line)# password H7x3U8	引数 <i>password</i> は、ライン パスワードを指定する文字列です。次の規則が <i>password</i> 引数に適用されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の文字を数値にはできません。</li> <li>ストリングには、80 文字以下の任意の英数字（スペースを含む）を指定できます。数字-スペース-任意の文字の形式ではパスワードを指定できません。</li> <li>パスワードは大文字と小文字が区別されます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device(config-line)# end	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<b>telnet ip-address</b> <b>Example:</b>  Device# telnet 172.16.1.1	動作状態（インターフェイスがアップ、ラインプロトコルがアップ）のネットワークデバイスで、インターフェイスの IP アドレスを使用して、現在の CLI セッションからネットワークデバイスとのリモート CLI セッションを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロンプトが表示されたら、手順 4 で設定したパスワードを入力します。</li> </ul> <p><b>Note</b> この手順は、ネットワークデバイス自体からネットワークデバイスへのリモート Telnet セッションを開始するため、再帰的 Telnet セッションの開始とも呼ばれます。</p>
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device# exit	ネットワーク デバイスとのリモート CLI セッション（再帰的 Telnet セッション）を終了します。

## トラブルシューティングのヒント

合法的傍受ビューにアクセス可能なすべてのユーザーに関する情報を表示するには、**show users lawful-intercept** コマンドを発行します（このコマンドは、認可された合法的傍受ビュー ユーザしか使用できません）。

## 次の作業

[ローカル CLI セッションのパスワードの設定と確認, on page 2512](#)に進みます。

## ローカル CLI セッションのパスワードの設定と確認

このタスクを実行すると、コンソールポートでのローカル CLI セッション用のパスワードが割り当てられます。このタスクを完了した後に、コンソールポートでローカル CLI セッションを起動すると、ネットワークングデバイスからパスワードの入力が求められます。

このタスクは、コンソールポートを使用するローカル CLI セッションまたはリモート CLI セッションで実行できます。パスワードを適切に設定したことを確認するオプションの手順を実行する場合、コンソールポートでローカル CLI セッションを使用して、このタスクを実行する必要があります。

### Before you begin

ローカル CLI セッションパスワードを確認するオプションの手順を実行する場合、ローカル CLI セッションを使用してこのタスクを実行する必要があります。ネットワークデバイスのコンソールポートに、端末または端末エミュレーションプログラムが稼働している PC を接続する必要があります。ネットワークングデバイス上のコンソールポートに使用される設定によって、端末を設定する必要があります。ほとんどのシスコのネットワークデバイスのコンソールポートには、次の設定が必要です。9600 ボー、8 データビット、1 ストップビット、パリティなし、およびフロー制御は "none" に設定します。これらの設定が端末で機能しない場合は、ネットワーク デバイスのマニュアルを参照してください。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **line console 0**
4. **password *password***
5. **end**
6. **exit**
7. Enter キーを押します。



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line console 0</b> <b>Example:</b> Device(config)# line console 0	ライン コンフィギュレーション モードを開始し、設定しているラインとしてコンソールポートを選択します。
ステップ 4	<b>password password</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# password Ji8F5Z	引数 <i>password</i> は、ラインパスワードを指定する文字列です。次の規則が <i>password</i> 引数に適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の文字を数値にはできません。</li> <li>ストリングには、80 文字以下の任意の英数字（スペースを含む）を指定できます。数字-スペース-任意の文字の形式ではパスワードを指定できません。</li> <li>パスワードは大文字と小文字が区別されます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-line)# end	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	特権 EXEC モードを終了します。
ステップ 7	Enter キーを押します。	(任意) コンソールポートでローカル CLI セッションを開始します。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• プロンプトが表示されたら、ステップ 4 で設定したパスワードを入力して、適切に設定されたことを確認します。</li> </ul> <p><b>Note</b> この手順を実行できるのは、このタスクの実行にローカル CLI セッションを使用している場合だけです。</p>

## トラブルシューティングのヒント

新しいパスワードを受け入れられなかったら次に何をするのかについては、パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定の設定例に進みます。

## 次の作業

特権 EXEC モードへのアクセスの保護, [on page 2514](#)に進みます。

# 特権 EXEC モードへのアクセスの保護

## イネーブルパスワードの設定と確認

シスコは特権 EXEC モードのパスワード設定に **enable password** コマンドを使用することを推奨しなくなりました。 **enable password** コマンドを使用して入力したパスワードは、ネットワークデバイスのコンフィギュレーションファイルにプレーンテキストとして保存されます。ネットワークデバイスのコンフィギュレーションファイルに含まれる **enable password** コマンドのパスワードを暗号化するには、 **service password-encryption** コマンドを使用します。ただし、 **service password-encryption** コマンドで使用される暗号化レベルは、インターネットで入手できるツールを使用して復号できます。

シスコでは、 **enable password** コマンドを使用する代わりに、 **enable secret** コマンドを使用することを推奨します。設定したパスワードが、強力な暗号化方式で暗号化されるためです。パスワード暗号化問題の詳細については、 [Cisco IOS XE のパスワード暗号化レベル, on page 2505](#)を参照してください。 **enable secret** コマンドの設定については、 [イネーブルシークレットパスワードの設定と確認, on page 2517](#)を参照してください。



**Note** このタスクを正常に実行するため、ネットワークデバイスでは、 **enable secret** コマンドを使用してパスワードを設定しないでください。 **enable secret** コマンドを使用して特権 EXEC モードのパスワードを既に設定している場合、設定されたパスワードは、このタスクで **enable password** コマンドを使用して設定するパスワードより優先されます。

**enable secret** コマンドと **enable password** コマンドに同じパスワードを使用することはできません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **enable password *password***
4. **end**
5. **exit**
6. **enable**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>enable password <i>password</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# enable password t6D77CdKq	引数 <i>password</i> は、イネーブルパスワードを指定する文字列です。次の規則が <i>password</i> 引数に適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1～25 文字の大文字と小文字の英数字を含める必要があります。</li> <li>• 先頭の文字に数字は指定できません。</li> <li>• 先頭にスペースを指定できますが、無視されます。ただし、中間および末尾のスペースは認識されます。</li> <li>• パスワードを作成するときに、Ctrl+v キーの組み合わせを押してから疑問符 (?) を入力すると、パスワードに疑問符を含めることができます。たとえば、abc?123 というパスワードを作成するには、次の手順を実行します。               <ul style="list-style-type: none"> <li>• abc と入力します。</li> <li>• Ctrl-v キーを押します。</li> <li>• ?123 と入力します。</li> </ul> </li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device# exit	特権 EXEC モードを終了します。
ステップ 6	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>手順 3 で設定したパスワードを入力します。</li> </ul>

### トラブルシューティングのヒント

新しいパスワードを受け入れられなかったら、次に何をするのかについては、特権 EXEC モードの忘失パスワードまたは誤設定パスワードの復元セクションに進みます。

### 次の作業

クリアテキストパスワードのパスワード暗号化の設定、[on page 2516](#)で説明した手順を使用して、ネットワークデバイスのコンフィギュレーションファイルにクリアテキストで保存されているイネーブルパスワードを暗号化します。

## クリアテキストパスワードのパスワード暗号化の設定

Cisco IOS XE は、一部の機能について、ネットワークデバイスのコンフィギュレーションファイルにクリアテキストでパスワードを保存します。たとえば、ローカルおよびリモートの CLI セッションのパスワード、およびルーティングプロトコルのネイバー認証のパスワードなどです。コンフィギュレーションファイルのアーカイブコピーにアクセスできれば、誰でもクリアテキストで保存されているパスワードを発見できるため、クリアテキストパスワードはセキュリティリスクです。**service password-encryption** コマンドを使用して、ネットワークデバイスのコンフィギュレーションファイルに含まれるクリアテキストコマンドを暗号化できます。詳細については、[Cisco IOS XE のパスワード暗号化レベル, on page 2505](#)を参照してください。

ネットワークデバイスのコンフィギュレーションファイルにクリアテキストとして保存されているパスワードについて、パスワード暗号化を設定するには、次の手順を実行します。

### Before you begin

このコマンドの結果を即時に確認するために、クリアテキストパスワードを使用する機能が 1 つ以上、ネットワークデバイスに設定されている必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **service password-encryption**
4. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>service password-encryption</b> <b>Example:</b>  Device(config)# service password-encryption	すべてのクリア テキストパスワード（ユーザ名パスワード、認証キーパスワード、特権コマンドパスワード、コンソールおよび仮想端末ラインアクセスパスワード、および Border Gateway Protocol ネイバーパスワード）について、パスワード暗号化をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device(config)# end	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## イネーブル シークレットパスワードの設定と確認

シスコは、**enable password** コマンドの代わりに **enable secret** コマンドを使用して特権 EXEC モードのパスワードを設定することを推奨しています。**enable secret** コマンドで作成されたパスワードは、より安全な MD5 アルゴリズムで暗号化されます。



**Note** **enable secret** コマンドと **enable password** コマンドに同じパスワードを使用することはできません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかの手順を実行します。
  - **enable secret password**
  - **enable secret 5 previously-encrypted-password**
4. **end**
5. **exit**
6. **enable**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかの手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>enable secret password</b></li> <li>• <b>enable secret 5 previously-encrypted-password</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config)# enable secret t6D77CdKq <b>Example:</b> Device(config)# enable secret 5 \$1\$/x6H\$RhnDI3yLC4GA01aJnHLQ4/	引数 <i>password</i> は、 <b>enable secret</b> パスワードを指定する文字列です。次の規則が <i>password</i> 引数に適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1～25 文字の大文字と小文字の英数字を含める必要があります。</li> <li>• 先頭の文字に数字は指定できません。</li> <li>• 先頭にスペースを指定できますが、無視されます。ただし、中間および末尾のスペースは認識されます。</li> <li>• パスワードを作成するときに、Ctrl+v キーの組み合わせを押してから疑問符 (?) を入力すると、パスワードに疑問符を含めることができます。たとえば、abc?123 というパスワードを作成するには、次の手順を実行します。               <ul style="list-style-type: none"> <li>• abc と入力します。</li> <li>• Ctrl-v キーを押します。</li> </ul> </li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ?123 と入力します。</li> </ul> <p>または</p> <p>前に暗号化した文字列の前に数字 5 を入力することで、以前に暗号化した特権 EXEC モードのパスワードを設定します。この方式を使用するには、<b>enable secret</b> コマンドによって以前に暗号化されたコンフィギュレーションファイルから、パスワードの正確なコピーを入力する必要があります。</p>
ステップ 4	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# end</pre>	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# exit</pre>	特権 EXEC モードを終了します。
ステップ 6	<p><b>enable</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device&gt; enable</pre>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 手順 3 で設定したパスワードを入力します。</li> </ul>

### トラブルシューティングのヒント

新しいパスワードを受け入れられなかったら次に何をするのかについては、パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定の設定例に進みます。

### 次の作業

ローカルおよびリモートの CLI セッションのパスワードを設定し終わり、ユーザ名や特権レベルなど、追加のセキュリティ機能を設定する場合、[CLI セッションとコマンドへのアクセスを管理するセキュリティ オプションの設定, on page 2521](#)に進みます。

## ユーザが実行コンフィギュレーションを表示可能にするデバイスの設定

レベル 15 より低い特権レベルで **show running-config** コマンドを使用してデバイスの実行コンフィギュレーションにアクセスするには、次の作業を実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **privilege exec all level level command-string**

4. **file privilege level**
5. **privilege configure all level level command-string**
6. **end**
7. **show privilege**
8. **show running-config**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>privilege exec all level level command-string</b> 例： Device(config)# privilege exec all level 5 show running-config	指定されたコマンドの特権レベルを、1つの権限レベルから別の特権レベルに変更します。
ステップ 4	<b>file privilege level</b> 例： Device(config)# file privilege 5	特権レベルのユーザが、ファイルシステムを含むコマンドをデバイスで実行できるようにします。
ステップ 5	<b>privilege configure all level level command-string</b> 例： Device(config)# privilege configure all level 5 logging	特権レベルのユーザが、特定のコンフィギュレーションコマンドを表示できるようにします。たとえば、特権レベル 5 のユーザが、実行コンフィギュレーションでログイン コンフィギュレーション コマンドを表示できるようにします。
ステップ 6	<b>end</b> 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<b>show privilege</b> 例：	現在の特権レベルを表示します。



	コマンドまたはアクション	目的
	Device# show privilege	
ステップ 8	<b>show running-config</b> 例 : Device# show running-config	指定された特権レベルの現在の実行コンフィギュレーションを表示します。

### 例

**show running-config** コマンドの次の出力は、実行コンフィギュレーションのロギングコンフィギュレーションコマンドを表示します。15未満の特権レベルを持つユーザーは、**privilege configure all level level command-string** コマンドを設定した後、実行コンフィギュレーションを表示できます。

```
Device# show running-config
Building configuration...

Current configuration : 128 bytes
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
no logging queue-limit
logging buffered 10000000
no logging rate-limit
!
!
!
end
```

## CLI セッションとコマンドへのアクセスを管理するセキュリティ オプションの設定

ここでは、特権 EXEC モードで使用できる全コマンドに対してはアクセス権を持たないユーザーが、特権 EXEC モード コマンドのサブセットを使用できるように、ネットワークング デバイスを設定するタスクについて説明します。

このようなタスクは、複数レベルのネットワーク サポート スタッフがいて、各レベルのスタッフに、異なるサブセットの特権 EXEC モード コマンドに対するアクセス権を付与したい会社に役立ちます。

このタスクでは、特権 EXEC モードで使用できる全コマンドに対してはアクセス権を持たないユーザーは、窓口のテクニカル サポート スタッフと呼びます。

ここでは、次の手順について説明します。

## 窓口のテクニカルサポートスタッフ用のネットワーク デバイスの設定

このタスクでは、窓口のテクニカルサポートスタッフユーザ用にネットワーク デバイスを設定する方法について説明します。通常、窓口のテクニカルサポートスタッフは、ネットワーク デバイスの特権 EXEC モードで（特権レベル 15）使用できる全コマンドの実行は許可されていません。また、特権 EXEC モードに割り当てられているパスワード、またはネットワーク デバイスに設定されている他の役割に対してアクセス権が付与されていないため、権限がないコマンドを実行できません。

**privilege** コマンドは、ある特権レベルのコマンドを別の特権レベルに移動するために使用されます。この操作で、ネットワーク デバイスに追加レベルの管理が作成されます。このような操作は、さまざまなスキルレベルを持つ、さまざまなレベルのネットワーク サポート スタッフがいる会社の場合に必要です。

Cisco IOS XE デバイスのデフォルトの設定では、2 種類のユーザが CLI にアクセスできます。1 つ目のユーザは、ユーザ EXEC モードだけにアクセスできるユーザです。2 つ目のユーザは、特権 EXEC モードにアクセスできるユーザです。ユーザ EXEC モードへのアクセスが許可されているだけのユーザは、ネットワーク デバイスの設定を表示または変更したり、ネットワーク デバイスの稼働状態を変更することはできません。一方、特権 EXEC モードにアクセスできるユーザは、CLI に許可されているネットワーク デバイスを変更できます。

この作業では、通常特権レベル 15 で動作する 2 つのコマンドは、特権コマンドを使用して特権レベル 7 にリセットされます。窓口のテクニカルサポート スタッフ ユーザが 2 つのコマンドを実行できるようにするためです。特権レベルをリセットする 2 つのコマンドは、**clear counters** コマンドと **reload** コマンドです。

- **clear counters** コマンドは、受信されたパケット、送信されたパケット、およびエラーなどの統計情報のために、インターフェイスのカウントフィールドをリセットするために使用されます。窓口のテクニカルサポート スタッフ ユーザがネットワーク デバイス間で、またはネットワークに接続しているリモートユーザとの間で、インターフェイスに関する接続の問題を解決しているときに、インターフェイスの統計情報をゼロにリセットしたり、インターフェイスの統計情報カウンタの値が変化するかを見るため、一定の時間インターフェイスを監視するのに役立ちます。
- **reload** コマンドは、ネットワーク デバイスのリブートシーケンスを開始するのに使用します。窓口のテクニカルサポート スタッフによる一般的な **reload** コマンドの使用法の 1 つは、メンテナンス ウィンドウでネットワーク デバイスをリブートすることです。この操作によって、高い権限レベルのユーザが以前にネットワーク デバイスのファイル システムにコピーした新しいオペレーティング システムがロードされます。

窓口のテクニカルサポート ユーザー ロールの特権レベルに割り当てられている **enable secret** パスワードを知る権限を持つユーザーは、窓口のテクニカルサポート ユーザーとしてそのネットワーク デバイスにアクセスできます。ネットワーク デバイスのユーザ名を設定し、ユーザによるユーザ名とパスワードの把握を必須にして、新たなセキュリティ レベルを追加できます。追加レベルのセキュリティとしてユーザ名を設定する方法については、「」を参照してください。 [窓口のテクニカルサポート スタッフのユーザ名を必須にするデバイスの設定, on page 2527](#)



**Note** ネットワークデバイスでは、**aaa new-model** コマンドをイネーブルにしないでください。コンソールポートでのローカル CLI セッションの場合、またはリモート CLI セッションの場合、**login local** コマンドを設定しないでください。



**Note** このタスクの手順では、わかりやすくするために、各手順に関する構文に使用しています。これらのコマンドと併用できるその他の引数については、お使いの Cisco IOS リリースの Cisco IOS コマンドリファレンスを使用してください。



**Caution** コマンドの特権レベルをデフォルトにリセットする場合、**privilege** コマンドを使用しないでください。コンフィギュレーションが適切なデフォルト状態に戻ります。コマンドをデフォルトの特権レベルに戻すには、**privilege** コマンドを使用します。たとえば、コンフィギュレーションから **privilege exec level** コマンドを削除し、**reload** コマンドをデフォルトの特権レベル 15 に戻すには、**reload** コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **enable secret level *level password***
4. **privilege exec level *level command-string***
5. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを開始します。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>enable secret level <i>level password</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# enable secret level 7 Zy72sKj	特権レベル7の新しいイネーブル シークレット パスワードを設定します。
ステップ 4	<b>privilege exec level <i>level command-string</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# privilege exec level 7 clear counters	<b>clear counters</b> コマンドの特権レベルを、特権レベル 15 から特権レベル7に変更します。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

## 窓口のテクニカル サポート スタッフ用の設定の確認

ここでは、ネットワーキング デバイスが窓口のテクニカル サポート スタッフ用に適切に設定されていることを確認するタスクについて説明します。

### Before you begin

次のコマンドは、このタスクのために特権レベル7で実行するように変更済みです。

- clear counters
- reload

### SUMMARY STEPS

1. enable *level password*
2. show privilege
3. clear counters
4. clear ip route \*
5. reload in time
6. reload cancel
7. disable
8. show privilege

### DETAILED STEPS

#### Procedure

---

ステップ 1 enable *level password*

level 引数に指定した特権レベルで、ネットワーキング デバイスにログインします。

**Example:**

```
Device> enable 7 Zy72sKj
```

**ステップ 2 show privilege**

現在の CLI セッションの特権レベルを表示します。

**Example:**

```
Device# show privilege
Current privilege level is 7
```

**ステップ 3 clear counters**

clear counters コマンドは、インターフェイスのカウンタをクリアします。このコマンドは、特権レベル 15 から特権レベル 7 に変更されました。

**Example:**

```
Device# clear counters
Clear "show interface" counters on all interfaces [confirm]
Device#
02:41:37: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all interfaces by console
```

**ステップ 4 clear ip route \***

clear コマンドの ip route 引数文字列は、特権レベル 15 から特権レベル 7 に変更されていないため、使用できません。

**Example:**

```
Device# clear ip route *
% Invalid input detected at '^' marker.
```

**ステップ 5 reload in time**

reload コマンドによって、ネットワーキング デバイスはリブートされます。

**Example:**

```
Device# reload in
10
Reload scheduled in 10 minutes by console
Proceed with reload? [confirm]
Device#
***
*** --- SHUTDOWN in 0:10:00 ---
```

## トラブルシューティングのヒント

```
***
02:59:50: %SYS-5-SCHEDULED_RELOAD: Reload requested for 23:08:30 PST Sun Mar 20
```

### ステップ 6 reload cancel

**reload cancel** によって、以前に **reload in time** コマンドで設定したリロードが終了します。

#### Example:

```
Device# reload cancel

***
*** --- SHUTDOWN ABORTED ---
***
04:34:08: %SYS-5-SCHEDULED_RELOAD_CANCELLED: Scheduled reload cancelled at 15:38:46 PST Sun Mar 27
2005
```

### ステップ 7 disable

現在の特権レベルを終了し、特権レベル 1 に戻します。

#### Example:

```
Device# disable
```

### ステップ 8 show privilege

現在の CLI セッションの特権レベルを表示します。

#### Example:

```
Device> show privilege

Current privilege level is 1
```

## トラブルシューティングのヒント

設定が希望どおりに機能しないため、設定から **privilege** コマンドを削除する場合、コマンドをデフォルトの特権レベルに戻すには、**privilege** コマンドに **reset** キーワードを使用します。たとえば、コンフィギュレーションから **privilege exec level reload** コマンドを削除し、**reload** コマンドをデフォルトの特権レベル 15 に戻すには、**privilege exec reset reload** コマンドを使用します。

## 次の作業

窓口のテクニカルサポートスタッフがログイン名を使用することを必須にして、セキュリティレベルを追加する場合、[窓口のテクニカルサポートスタッフのユーザ名を必須にするデバイスの設定](#), [on page 2527](#)に進みます。

## 窓口のテクニカル サポート スタッフのユーザ名を必須にするデバイスの設定

このタスクでは、窓口のテクニカルサポートスタッフが、**admin**のログイン名を使用してネットワーク デバイスにログインすることを必須にするように、ネットワーク デバイスを設定します。このタスクで設定された **admin** ユーザ名には、特権レベル7が割り当てられています。この名前を使用してログインするユーザは、前のタスクで特権レベル7に再割り当てされたコマンドを実行できます。ユーザがユーザ名 **admin** で正常にログインすると、CLI セッションは自動的に特権レベル7に入ります。

Cisco IOS XE リリース 2.3 よりも前のリリースでは、2 種類のパスワードがユーザー名に関連付けられていました。タイプ0は、ルータの特権モードにアクセスできるすべてのユーザーから確認できるクリアテキストパスワードです。また、タイプ7は、**service password encryption** コマンドで暗号化されたパスワードです。

Cisco IOS XE リリース 2.3 以降のリリースでは、**username** コマンドに新しい **secret** キーワードを使用することで、ユーザー名のパスワードに Message Digest 5 (MD5) 暗号化を設定できます。

### Before you begin

次のコマンドは、このタスクのために特権レベル7で実行するように変更済みです。

- **clear counters**
- **reload**

コマンドの特権レベルを変更する手順については、[窓口のテクニカル サポート スタッフ用のネットワーク デバイスの設定, on page 2522](#)を参照してください。



**Note** **username** コマンドの MD5 暗号化は、Cisco IOS XE リリース 2.3 よりも前の Cisco IOS ソフトウェアバージョンではサポートされません。

ネットワーク デバイスでは、**aaa-new model** コマンドをイネーブルにしないでください。コンソールポートでのローカル CLI セッションの場合、またはリモート CLI セッションの場合、**login local** コマンドを設定しないでください。



**Note** このタスクの手順では、わかりやすくするために、各手順に関する構文に使用しています。これらのコマンドと併用できるその他の引数については、お使いの Cisco IOS XE リリースの Cisco IOS コマンドリファレンスガイドを参照してください。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **username *username* privilege *level* secret *password***

4. **end**
5. **disable**
6. **login username**
7. **show privilege**
8. **clear counters**
9. **clear ip route \***
10. **reload in time**
11. **reload cancel**
12. **disable**
13. **show privilege**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを開始します。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>username username privilege level secret password</b> <b>Example:</b> Device(config)# username admin privilege 7 secret Kd65xZa	ユーザ名を作成し、 <i>password</i> テキスト スtring に MD5 暗号化を適用します。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>disable</b> <b>Example:</b> Device# disable	現在の特権レベルを終了し、ユーザ EXEC モードに戻します。
ステップ 6	<b>login username</b> <b>Example:</b> Device> login admin	ユーザにログインします。プロンプトが表示されたら、手順3で設定したユーザ名とパスワードを入力します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>show privilege</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show privilege Current privilege level is 7</pre>	<b>show privilege</b> コマンドで、CLI セッションの特権レベルが表示されます。
ステップ 8	<b>clear counters</b> <b>Example:</b> <pre>Device# clear counters  Clear "show interface" counters on all interfaces [confirm] Device# 02:41:37: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all interfaces by console</pre>	<b>clear counters</b> コマンドでインターフェイスカウンタがクリアされます。このコマンドは、特権レベル 15 から特権レベル 7 に変更されました。
ステップ 9	<b>clear ip route *</b> <b>Example:</b> <pre>Device# clear ip route *                 ^ % Invalid input detected at '^' marker.</pre>	<b>clear</b> コマンドの <i>ip route</i> 引数文字列は、特権レベル 15 から特権レベル 7 に変更されていないため、使用できません。
ステップ 10	<b>reload in time</b> <b>Example:</b> <pre>Device# reload in 10 Reload scheduled in 10 minutes by console Proceed with reload? [confirm] Device# *** *** --- SHUTDOWN in 0:10:00 --- *** 02:59:50: %SYS-5-SCHEDULED_RELOAD: Reload requested for 23:08:30 PST Sun Mar 20</pre>	<b>reload</b> コマンドによって、ネットワーキングデバイスはリブートされます。
ステップ 11	<b>reload cancel</b> <b>Example:</b> <pre>Device# reload cancel  *** *** --- SHUTDOWN ABORTED --- *** 04:34:08: %SYS-5-SCHEDULED_RELOAD_CANCELLED: Scheduled reload cancelled at 15:38:46 PST Sun Mar 27 2005</pre>	<b>reload cancel</b> コマンドによって、以前に <b>reload in time</b> コマンドで設定したリロードが終了します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 12	<b>disable</b> <b>Example:</b>  Device# disable	現在の特権レベルを終了し、ユーザ EXEC モードに戻します。
ステップ 13	<b>show privilege</b> <b>Example:</b>  Device> show privilege  Current privilege level is 1	現在の CLI セッションの特権レベルを表示します。

## ローカルセッションの忘失パスワードおよび誤設定パスワードの復元

コンソールポートでローカル CLI セッションの忘失パスワードおよび誤設定パスワードを復元するために使用できる方式は3つあります。使用する方式は、ネットワークングデバイスの現在の設定によって変わります。

### ネットワーク デバイスがリモート CLI セッションを許可するように設定されている

ローカル CLI セッションの忘失パスワードまたは誤設定パスワードを復元する最速の方式は、ネットワークングデバイスとリモート CLI セッションを確立し、[ローカル CLI セッションのパスワードの設定と確認, on page 2512](#)を繰り返す方法です。この手順を実行するには、リモート CLI セッションを許可するようにネットワークングデバイスを設定し、さらにリモート CLI セッションのパスワードを知っている必要があります。

### ネットワーク デバイスがリモート CLI セッションを許可するように設定されていない

- ネットワークングデバイスに対するリモートセッションを確立できず、誤設定したローカル CLI セッションパスワードをスタートアップ コンフィギュレーションに保存していない場合、ネットワークングデバイスを再起動できます。ネットワークングデバイスを再起動すると、スタートアップ コンフィギュレーションファイルが読み込まれます。以前のローカル CLI セッションパスワードが復元されます。



#### Caution

ネットワークングデバイスの再起動によって、トラフィックの転送が停止されます。また、DHCP サーバサービスなど、ネットワークングデバイスで実行されているすべてのサービスが中断されます。必要な操作は、ネットワークのメンテナンスに割り当てられた期間中に、ネットワークングデバイスを再起動することだけです。

## リモートセッションの忘失パスワードおよび誤設定パスワードの復元

忘失または誤設定したリモート CLI セッション パスワードから復元するために使用できる方式は3つあります。使用する方式は、ネットワークングデバイスの現在の設定によって変わります。

### ネットワーク デバイスがローカル CLI セッションを許可するように設定されている

リモート CLI セッションの忘失パスワードまたは誤設定パスワードを復元する最速の方式は、ネットワークング デバイスとローカル CLI セッションを確立し、[リモート CLI セッションのパスワードの設定と確認, on page 2509](#)を繰り返す方法です。この手順を実行するには、ローカル CLI セッションを許可するようにネットワークング デバイスを設定し、さらにローカル CLI セッションのパスワードを知っている必要があります。

### ネットワーク デバイスがローカル CLI セッションを許可するように設定されていない

- ネットワークング デバイスに対するローカル CLI セッションを確立できず、誤設定したリモート CLI セッションパスワードをスタートアップ コンフィギュレーションに保存していない場合、ネットワークング デバイスを再起動できます。ネットワークング デバイスを再起動すると、スタートアップコンフィギュレーションファイルが読み込まれます。以前のリモート CLI セッションパスワードが復元されます。

**Caution**

ネットワークング デバイスの再起動によって、トラフィックの転送が停止されます。また、DHCP サーバ サービスなど、ネットワークング デバイスで実行されているすべてのサービスが中断されます。必要な操作は、ネットワークのメンテナンスに割り当てられた期間中に、ネットワークング デバイスを再起動することだけです。

## 特権 EXEC モードの忘失パスワードまたは誤設定パスワードの復元

忘失または誤設定した特権 EXEC モードパスワードから復元するために使用できる方式は2つあります。使用する方式は、ネットワークングデバイスの現在の設定によって変わります。

### 誤設定された特権 EXEC モードのパスワードが保存されていない

- 誤設定した特権 EXEC モードパスワードをスタートアップ コンフィギュレーションに保存していない場合、ネットワークング デバイスを再起動できます。ネットワークング デバイスを再起動すると、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルが読み込まれます。以前の特権 EXEC モードパスワードが復元されます。

**Caution**

ネットワーク デバイスの再起動によって、トラフィックの転送が停止されます。また、DHCP サーバ サービスなど、ネットワーク デバイスで実行されているすべてのサービスが中断されます。必要な操作は、ネットワークのメンテナンスに割り当てられた期間中に、ネットワーク デバイスを再起動することだけです。

## パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定の設定例

### 例：暗号化事前共有キーの設定

次に示すのは、タイプ6の事前共有キーが暗号化された場合の設定例です。この中には、ユーザに対して表示されるプロンプトやメッセージも含まれています。

```
Device(config)# password encryption aes
New key:
Confirm key:
Device (config)#
```

```
01:46:40: TYPE6_PASS: New Master key configured, encrypting the keys with
the new master key
Device (config)# exit
```

### 例：ユーザがリモートセッションをクリア可能にするデバイスの設定

次に、管理者以外のユーザがリモート CLI セッションの仮想端末 (VTY) 回線をクリアできるように、ネットワーク デバイスを設定する例を示します。

最初の項は、この例の実行コンフィギュレーションの抜粋です。ここでは、この例を使用する方法を示します。

次の項は、実行コンフィギュレーションの抜粋です。

```
!
privilege exec level 7 clear line
!
no aaa new-model
!
!
username admin privilege 7 secret 5 $1$tmIw$1aM7sadKhWmpkVTzxNw1J.
!
privilege exec level 7 clear line
!
! the privilege exec level 7 clear command below is entered automatically
! when you enter the privilege exec level 7 clear line command above, do
! not enter it again
!
privilege exec level 7 clear
!
```

次の項では、**login** コマンドを使用して、ユーザが **admin** のユーザ一名を使用してネットワークデバイスにログインする場合を示します。

```
R1> login
Username: admin
Password:
```

次の項では、**show privilege** コマンドを使用して、現在の特権レベルが 7 であることを示します。

```
R1# show privilege

Current privilege level is 7
R1#
```

次の項では、**show user** コマンドを使用して、現在、2 ユーザー (**admin** と **root**) がネットワークデバイスにログインしていることを示します。

```
R1# show user

      Line      User      Host(s)      Idle      Location
*  0 con 0      admin      idle        00:00:00
  2 vty 0      root       idle        00:00:17  172.16.6.2
  Interface    User      Mode        Idle      Peer Address
```

次の項では、**clear line 2** コマンドを使用して、ユーザー名 **root** に使用されているリモート CLI セッションを終了します。

```
R1# clear line 2

[confirm]
[OK]
```

次の項では、**show user** コマンドを使用して、ネットワークデバイスに現在ログインしているユーザーは **admin** だけであることを示します。

```
R1# show user

      Line      User      Host(s)      Idle      Location
*  0 con 0      admin      idle        00:00:00
  Interface    User      Mode        Idle      Peer Address
```

## 例：ユーザが実行コンフィギュレーションを表示可能にするデバイスの設定

### 特権レベル 15 を持つユーザ

次に、管理者以外のユーザ（特権 EXEC モードへのアクセスなし）が、実行コンフィギュレーションを自動的に表示できるようにネットワークデバイスを設定する例を示します。この例では、ユーザ名を特権レベル 15 に設定する必要があります。コンフィギュレーションファイルの多くのコマンドは、特権レベル 15 へのアクセス権を持つユーザだけが表示できるためです。

この点を解決するには、**show running-config** コマンドの実行中、一時的に特権レベル 15 へのユーザーアクセスを許可し、コンフィギュレーションファイルの表示後に、CLIセッションを終了します。この例では、設定ファイルの表示後に、ネットワークデバイスが CLIセッションを自動的に終了します。その他の設定手順は必要ありません。



**Caution** **username** コマンドに **noescape** キーワードを含める必要があります。これは、コンフィギュレーションファイルの表示を終了し、特権レベル 15 で実行するセッションを終了するエスケープ文字をユーザーが入力しないようにするためです。

```
!
!
username viewconf privilege 15 noescape secret 5 $1$zA9C$TDWD/Q0zwp/5xRwRqdgC/.
username viewconf autocommand show running-config
!
```

### レベル 15 より低い特権レベルを持つユーザ

次の例は、レベル 15 より低い特権レベルを持つユーザが、実行コンフィギュレーションを表示可能にするネットワーク デバイスの設定方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# privilege exec all level 5 show running-config
Device(config)# file privilege 5
Device(config)# privilege configure all level 5 logging
Device(config)# end
Device# show privilege

Current privilege level is 5

Device# show running-config

Building configuration...

Current configuration : 128 bytes
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
no logging queue-limit
logging buffered 10000000
no logging rate-limit
!
!
!
end
```

## 例：ユーザがインターフェイスをシャットダウンおよびイネーブル化することを可能にするデバイスの設定

次に、管理者以外のユーザが、インターフェイスをシャットダウンおよびイネーブルにできるように、ネットワーキングデバイスを設定する例を示します。

最初の項は、この例の実行コンフィギュレーションの抜粋です。ここでは、この例を使用する方法を示します。

次の項は、実行コンフィギュレーションの抜粋です。

```
!
no aaa new-model
!
username admin privilege 7 secret 5 $1$tmIw$1aM7sadKhWMpkVTzxNw1J.
!
privilege interface all level 7 shutdown
privilege interface all level 7 no shutdown
privilege configure level 7 interface
privilege exec level 7 configure terminal
!
! the privilege exec level 7 configure command below is entered automatically
! when you enter the privilege exec level 7 configure terminal command above, do
! not enter it again
!
privilege exec level 7 configure
!
```

次の項では、**login** コマンドを使用して、ユーザが **admin** のユーザ名を使用してネットワークデバイスにログインする場合を示します。

```
R1> login
Username: admin
Password:
```

次の項では、**show privilege** コマンドを使用して、現在の特権レベルが 7 であることを示します。

```
R1# show privilege
Current privilege level is 7
```

次の項では、**show user** コマンドを使用して、ネットワークデバイスに現在ログインしているユーザは **admin** だけであることを示します。

```
R1# show user
   Line      User      Host(s)          Idle      Location
*  0 con 0   admin     idle            00:00:00
   Interface  User      Mode            Idle      Peer Address
```

次の項は、**admin** ユーザがインターフェイスをシャットダウンおよびイネーブルにできる権限を持つことを示します。

```
R1# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
R1(config)# interface ethernet 1/0
```

```
R1(config-if)# shutdown
R1(config-if)# no shutdown
R1(config-if)# exit
R1#
```

## 次の作業

ネットワークデバイスのセキュリティの基本を設定したら、次のように高度なオプションを考慮できます。

- **ロールベースのCLIアクセス**：ネットワークマネージャが、さまざまなレベルのテクニカルサポートスタッフに、異なるレベルのCLIコマンドのアクセスを付与する場合、ロールベースのCLIアクセス機能には、（このドキュメントで説明する）**privilege** コマンドよりも包括的なオプションセットが用意されています。
- **AAA セキュリティ**：多くのシスコネットワークデバイスは、認証、許可、およびアカウントティング（AAA）機能を使用して、高度なレベルのセキュリティを提供しています。ネットワークデバイスでAAAを使用し、リモートTACACS+またはRADIUSサーバを併用することで、このドキュメントで説明しているすべてのタスクと、他のより高度なセキュリティ機能を実装できます。ネットワークデバイスのローカルで実行できるAAAセキュリティ機能を設定する方法、またはTACACS+やRADIUSサーバを使用してリモートAAAセキュリティを設定する方法については、『*Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services* リリース 2』を参照してください。

## その他の参考資料

ここでは、パスワードによるセキュリティの設定、およびネットワークデバイスでのCLIセッションのログインユーザ名に関連する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
CLI コマンドおよび設定情報に対するユーザアクセスの管理	『 <i>Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services</i> 』 Release 2 の「Role-Based CLI Access」
AAA セキュリティ機能	『 <i>Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services</i> 』 Release 2
TACACS+ および RADIUS での特権レベルの割り当て	<a href="#">『How to Assign Privilege Levels with TACACS+ and RADIUS』</a>



**標準**

標準	タイトル
この機能によってサポートされる新しい RFC または変更された RFC はありません。また、この機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

**MIB**

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィアチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

**RFC**

RFC	タイトル
この機能によってサポートされる新しい RFC または変更された RFC はありません。また、この機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

**シスコのテクニカル サポート**

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 224:** ネットワーク デバイス上の CLI セッションでのパスワード、特権レベル、およびログインユーザ名によるセキュリティ設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能の設定情報
強化されたパスワードセキュリティ		Enhanced Password Security 機能を使用すると、ユーザ名のパスワードに MD5 暗号化を設定できます。MD5 暗号化は、暗号化されたパスワードの逆送信を不可能にする一方向ハッシュ関数であり、強力な暗号化保護を可能にします。MD5 暗号化を使用すると、クリアテキストパスワードを取得できません。MD5 で暗号化されたパスワードは、クリアテキストパスワードを取得可能にすることを必須にするプロトコルでは使用できません。たとえば、チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) などのプロトコルです。



## CHAPTER 170

# ロールベースの CLI アクセス

ロールベースの CLI アクセス機能を使用すれば、ネットワーク管理者はビューを定義できます。ビューは、Cisco IOS EXEC コマンドおよびコンフィギュレーション (config) モードコマンドへのアクセスを精選したり部分的に制限する、操作コマンドと設定機能のセットです。ビューで、ユーザの Cisco IOS コマンドラインインターフェイス (CLI) や設定情報へのアクセスを制限します。つまり、ビューで、使用するコマンドや表示する設定情報を定義できます。したがって、ネットワーク管理者はシスコ ネットワーキング デバイスへのアクセスを柔軟に管理できます。

- [ロールベースの CLI アクセスの前提条件, on page 2539](#)
- [ロールベースの CLI アクセスの制約事項, on page 2539](#)
- [ロールベースの CLI アクセスに関する情報, on page 2540](#)
- [ロールベースの CLI アクセスの使用方法, on page 2542](#)
- [ロールベースの CLI アクセスの設定例, on page 2548](#)
- [ロールベースの CLI アクセスに関する追加情報, on page 2550](#)
- [ロールベースの CLI アクセスに関する機能情報, on page 2551](#)

## ロールベースの CLI アクセスの前提条件

イメージで CLI ビューをサポートする必要があります。

## ロールベースの CLI アクセスの制約事項

### 合法的傍受イメージの制限

CLI ビューは Cisco IOS パーサーの一部であるため、すべてのプラットフォームおよび Cisco IOS イメージの一部です。ただし、合法的傍受ビューは、合法的傍受サブシステムが組み込まれたイメージ内でしか使用できません。

### 許可されたビューの最大数

1つの合法的傍受ビューを含むCLIビューとスーパービューの設定可能な最大数は15です（これには、ルートビューは含まれません）。

### 解析ビューのプロファイル

解析ビューのプロファイルを設定する場合、「no」コマンドまたは「default」コマンドと任意の設定コマンドの組み合わせは、スタートアップコンフィギュレーションファイルに保存されません。設定は受け入れられ、デバイスがリロードされるまで保持されます。スタートアップコンフィギュレーションに保存されないコマンドの例：

- **command configure include all no**
- **command interface include all no**
- **command configure include all default**

## ロールベースの CLI アクセスに関する情報

### CLI ビューを使用するメリット

ユーザは特権レベルとイネーブルモードパスワードの両方を介してCLIアクセスを制御できますが、これらの機能では、ネットワーク管理者にCisco IOS デバイス进行操作するのに必要な詳細レベルが提供されません。CLIビューは、より詳細なアクセスコントロール機能をネットワーク管理者に提供するため、Cisco IOS ソフトウェア全体のセキュリティとアカウントビリティが向上します。

Cisco IOS Release 12.3(11)T以降では、ネットワーク管理者が、ビューへのインターフェイスまたはインターフェイスグループを指定することもできます。そのため、指定されたインターフェイスに基づくアクセスが可能になります。

### ルートビュー

システムがルートビューになっている場合は、レベル15の権限を持つユーザとして、すべてのアクセス権限が付与されます。管理者がシステムのビュー（CLIビュー、スーパービュー、合法的傍受ビューなど）を設定する場合は、システムをルートビューにする必要があります。

レベル15権限を持つユーザとルートビューユーザの違いは、ルートビューユーザは、新しいビューを設定したり、ビューに対してコマンドを追加または削除したりできることです。また、CLIビューでは、ルートビューユーザがそのビューに追加したコマンドにしかアクセスできません。

## 合法的傍受ビュー

CLI ビューと同様に、合法的傍受ビューは、特定のコマンドと設定情報へのアクセスを制限します。具体的には、合法的傍受ビューを使用すれば、ユーザは、コールとユーザに関する情報を保存する簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) コマンドの特別なセットである TAP-MIB 内に保持された合法的傍受コマンドへのアクセスを保護できます。

合法的傍受ビュー内で使用可能なコマンドは、次のカテゴリのいずれかに属します。

- 他のビューまたは権限レベルでは使用不可にすべき合法的傍受コマンド
- 合法的傍受ユーザにとっては有効であるが、他のビューまたは権限レベルから除外する必要のない CLI ビュー

## スーパービュー

スーパービューは、1 つ以上の CLI ビューで構成されています。このビューでは、受け入れるコマンドと表示する設定情報を定義できます。スーパービューを使用すれば、ネットワーク管理者は、複数の CLI ビューをユーザグループに割り当てなくても、設定された CLI ビュー内のすべてのユーザをスーパービューに割り当てることができます。

スーパービューには次の特性があります。

- CLI ビューを複数のスーパービュー間で共有できます。
- スーパービューにはコマンドを設定できません。つまり、CLI ビューにコマンドを追加してから、その CLI ビューをスーパービューに追加する必要があります。
- スーパービューにログインしたユーザは、そのスーパービューに属している CLI ビューに設定されたすべてのコマンドにアクセスできます。
- スーパービューごとにパスワードが設定されます。このパスワードは、スーパービューを切り替えたり、CLI ビューからスーパービューに切り替えたりするために使用されます。
- スーパービューが削除されても、関連する CLI ビューは削除されません。

## ビュー認証と新しい AAA 属性

ビュー認証は、新しい属性の **cli-view-name** を介して、外部の認証、許可、およびアカウントティング (AAA) サーバーで実行されます。

AAA 認証は特定のユーザに 1 つのビュー名のみを関連付けます。つまり、認証サーバ内の 1 人のユーザに対して 1 つのビュー名しか設定できません。

# ロールベースの CLI アクセスの使用方法

## CLI ビューの設定

このタスクを実行して、CLI ビューを作成し、必要に応じて、コマンドまたはインターフェイスをビューに追加します。

### Before you begin

ビューを作成する前に、次のタスクを実行する必要があります。

- `aaa new-model` コマンドを使用して AAA をイネーブルにします。
- システムが特権レベル 15 ではなく、ルート ビューになっていることを確認します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable view`
2. `configure terminal`
3. `parser view view-name [inclusive]`
4. `secret [0 | 5] encrypted-password`
5. `commands parser-mode {exclude | include-exclusive | include} [all] [interface interface-name | command]`
6. `end`
7. `enable [privilege-level | view view-name]`
8. `show parser view all`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable view</b> <b>Example:</b> Device> enable view	ルート ビューを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、権限レベル 15 パスワード（ルートパスワードなど）を入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>parser view view-name [inclusive]</b> <b>Example:</b>	すべてのコマンドを含むビューがデフォルトで作成されます。 <b>inclusive</b> キーワードオプションを選択し

	Command or Action	Purpose
	<pre>Device(config)# parser view first inclusive Device(config-view)#</pre>	ないと、すべてのコマンドを除くビューがデフォルトで作成されます。ビューの設定モードになります。
ステップ 4	<p><b>secret</b> [0   5] <i>encrypted-password</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-view)# secret 5 secret</pre>	<p>CLI ビューまたはスーパービューとパスワードを関連付けます。</p> <p><b>Note</b> このコマンドを発行しなければ、ビューのその他の属性が設定できません。</p> <p><b>Note</b> CSCts50236 を使用すると、パスワードは削除または上書きできます。設定されたパスワードを削除するには、<b>no secret</b> コマンドを使用します。</p>
ステップ 5	<p><b>commands</b> <i>parser-mode</i> {<b>exclude</b>   <b>include-exclusive</b>   <b>include</b>} [<b>all</b>] [<b>interface</b> <i>interface-name</i>   <i>command</i>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-view)# commands exec include show version</pre>	<p>コマンドまたはインターフェイスをビューに追加し、指定されたコマンドがあるモードを指定します。</p> <p><b>Note</b> <code>parser view</code> プロファイルを設定するときは、次の <b>no</b> または <b>default</b> コマンドはスタートアップコンフィギュレーションには保存されません。これらのコマンドは、デバイスがリロードされるまで使用中です。デバイスをリロードしたら、必要な結果が得られるように、これらのコマンドを再適用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>commands configure include all no</b></li> <li>• <b>commands interface include all no</b></li> <li>• <b>commands configure include all default</b></li> </ul>
ステップ 6	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-view)# end</pre>	ビューのコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<p><b>enable</b> [<i>privilege-level</i>   <b>view</b> <i>view-name</i>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device# enable view first</pre>	<p>設定済みの CLI ビューにアクセスするためのパスワードを求めるプロンプトが表示され、1つのビューから別のビューへ切り替えられます。</p> <p>パスワードを入力して CLI ビューにアクセスします。</p>
ステップ 8	<p><b>show parser view all</b></p> <p><b>Example:</b></p>	(任意) デバイス上で設定されるすべてのビューに関する情報を表示します。

	Command or Action	Purpose
	Device# show parser view all	<b>Note</b> このコマンドはルートユーザーと合法的傍受ユーザーの両方に使用できますが、 <b>all</b> キーワードはルートユーザーしか使用できません。ただし、 <b>all</b> キーワードは、ルートビュー内のユーザーが、合法的傍受ビューや CLI ビュー内のユーザーに使用を許可するように設定できます。

## トラブルシューティングのヒント

パスワードとビューを関連付ける必要があります。パスワードを関連付けずに、**commands** コマンド経由でビューにコマンドを追加しようとすると、次のようなシステムメッセージが表示されます。

```
%Password not set for view <viewname>.
```

## 合法的傍受ビューの設定

このタスクを実行して、ビューを初期化し、合法的傍受固有のコマンドと設定情報用に設定します

### Before you begin

合法的傍受ビューを初期化する前に、**privilege** コマンド経由で特権レベルが 15 に設定されていることを確認します。



**Note** レベル 15 権限を持っている管理者またはユーザだけが合法的傍受ビューを初期化できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable view**
2. **configure terminal**
3. **li-view** *li-password* **user** *username* **password** *password*
4. **username** **lawful-intercept** [*name*] [**privilege** *privilege-level* | **view** *view-name*] **password** *password*
5. **parser view** *view-name*
6. **secret** **5** *encrypted-password*
7. **name** *new-name*



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable view</b> <b>Example:</b> Device> enable view	ルート ビューを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロンプトが表示されたら、権限レベル 15 パスワード（ルートパスワードなど）を入力します。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>li-view li-password user username password password</b> <b>Example:</b> Device(config)# li-view lipass user li_admin password li_adminpass	合法的傍受ビューを初期化します。 li-view が初期化されたら、 <b>user username password password</b> オプション経由で少なくとも 1 人のユーザーを指定する必要があります。
ステップ 4	<b>username lawful-intercept [name] [privilege privilege-level   view view-name] password password</b> <b>Example:</b> Device(config)# username lawful-intercept li-user1 password li-user1pass	シスコ デバイス上で合法的傍受ユーザを設定します。
ステップ 5	<b>parser view view-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# parser view li view name	(任意) ビュー コンフィギュレーション モードに入ります。このモードでは、合法的傍受ビューのパスワードや名前を変更できます。
ステップ 6	<b>secret 5 encrypted-password</b> <b>Example:</b> Device(config-view)# secret 5 secret	(任意) 合法的傍受ビューの既存のパスワードを変更します。
ステップ 7	<b>name new-name</b> <b>Example:</b> Device(config-view)# name second	(任意) 合法的傍受ビューの名前を変更します。 このコマンドが発行されなかった場合、合法的傍受ビューのデフォルト名は "li-view" になります。

## トラブルシューティングのヒント

合法的傍受ビューにアクセス可能なすべてのユーザーに関する情報を表示するには、**show users lawful-intercept** コマンドを発行します（このコマンドは、認可された合法的傍受ビュー ユーザしか使用できません）。

## スーパービューの設定

このタスクを実行して、スーパービューを設定し、スーパービューに少なくとも 1 つの CLI ビューを追加します。

### Before you begin

CLI ビューをスーパービューに追加する前に、スーパービューに追加する CLI ビューがシステム内で有効なビューであることを確認します。つまり、ビューが、**parser view** コマンド経由で正常に作成されたことを確認します。



**Note** スーパービューにビューを追加するには、スーパービューに対してパスワードを設定する必要があります（**secret 5** コマンド経由）。その後で、ビュー コンフィギュレーションモードで **view** コマンドを発行して、少なくとも 1 つの CLI ビューをスーパービューに追加します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable view**
2. **configure terminal**
3. **parser view superview-name superview**
4. **secret 5 encrypted-password**
5. **view view-name**
6. **end**
7. **show parser view all**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable view</b> <b>Example:</b> Device> enable view	ルート ビューを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、権限レベル 15 パスワード（ルートパスワードなど）を入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 3	<b>parser view <i>superview-name</i> <i>superview</i></b> <b>Example:</b>  Device(config)# parser view su_view1 <i>superview</i>	スーパービューを作成して、ビュー コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 4	<b>secret 5 <i>encrypted-password</i></b> <b>Example:</b>  Device(config-view)# secret 5 secret	CLI ビューまたはスーパービューとパスワードを関連付けます。  <b>Note</b> このコマンドを発行しなければ、ビューのその他の属性が設定できません。
ステップ 5	<b>view <i>view-name</i></b> <b>Example:</b>  Device(config-view)# view view_three	正常な CLI ビューをスーパービューに追加します。 特定のスーパービューに追加する各 CLI ビューに対して、このコマンドを発行します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device(config-view)# end Device#	ビューのコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<b>show parser view all</b> <b>Example:</b>  Device# show parser view	(任意) デバイス上で設定されるすべてのビューに関する情報を表示します。  <b>Note</b> このコマンドはルートユーザーと合法的傍受ユーザーの両方に使用できますが、 <b>all</b> キーワードはルートユーザーしか使用できません。ただし、 <b>all</b> キーワードは、ルートビュー内のユーザーが、合法的傍受ビューや CLI ビュー内のユーザーに使用を許可するように設定できます。

## ビューとビュー ユーザのモニタリング

すべてのビュールート、CLI、合法的傍受、およびスーパービューに関するデバッグメッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug parser view** コマンドを使用します。

## ロールベースの CLI アクセスの設定例

### 例：CLI ビューの設定

次の例は、2つの CLI ビュー "first" と "second" の設定方法を示しています。その後、実行コンフィギュレーションの CLI ビューを確認できます。

```
Device(config)# parser view first inclusive
Device(config-view)# secret 5 firstpass
Device(config-view)# command exec exclude show version
Device(config-view)# command exec exclude configure terminal
Device(config-view)# command exec exclude all show ip
Device(config-view)# exit
Device(config)# parser view second
Device(config-view)# secret 5 secondpass
Device(config-view)# command exec include-exclusive show ip interface
Device(config-view)# command exec include logout
Device(config-view)# exit
!
!
Device(config-view)# do show running-config | beg view

parser view first inclusive
secret 5 $1$Mcmh$QuZaU8PIMPlff9sFCZvgW/
commands exec exclude configure terminal
commands exec exclude configure
commands exec exclude all show ip
commands exec exclude show version
commands exec exclude show
!
parser view second
secret 5 $1$iP2M$R16BXKecMEiQesxLyqygW.
commands exec include-exclusive show ip interface
commands exec include show ip
commands exec include show
commands exec include logout
!
```

### 例：CLI ビューの確認

CLI ビューの "first" と "second" を設定したら、**enable view** コマンドを発行して、各ビュー内で使用可能なコマンドを確認できます。次の例は、ユーザが CLI ビューの "first" にログイン後に、どのコマンドがこのビュー内で使用可能かを示しています (**show ip** コマンドは all オプションと一緒に設定されているため、second ビュー内で **include-exclusive** キーワードを使用している **show ip interface** コマンドを除く、すべてのサブオプションのセットが表示されます)。

```
Device# enable view first
Password:
Device# ?
Exec commands:
  configure  Enter configuration mode
  enable     Turn on privileged commands
  exit       Exit from the EXEC
```

```

show          Show running system information
Device# show ?
  ip          IP information
  parser      Display parser information
  version     System hardware and software status
Device# show ip ?

access-lists  List IP access lists
accounting    The active IP accounting database
aliases       IP alias table
arp           IP ARP table
as-path-access-list  List AS path access lists
bgp           BGP information
cache         IP fast-switching route cache
casa          display casa information
cef           Cisco Express Forwarding
community-list  List community-list
dfp           DFP information
dhcp          Show items in the DHCP database
drp           Director response protocol
dvmrp        DVMRP information
eigrp         IP-EIGRP show commands
extcommunity-list  List extended-community list
flow          NetFlow switching
helper-address  helper-address table
http          HTTP information
igmp          IGMP information
irdp          ICMP Device Discovery Protocol
.
.
.

```

## 例：合法的傍受ビューの設定

次の例は、合法的傍受ビューの設定方法、ビューへのユーザの追加方法、および追加されたユーザの確認方法を示しています。

```

!Initialize the LI-View.
Device(config)# li-view lipass user li_admin password li_adminpass
Device(config)# end
! Enter the LI-View; that is, check to see what commands are available within the view.
Device# enable view li-view
Password:
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Device(config)# parser view li-view

Device(config-view)# ?
View commands:
  commands  Configure commands for a view
  default   Set a command to its defaults
  exit      Exit from view configuration mode
  name      New LI-View name
  no        Negate a command or set its defaults
  password  Set a password associated with CLI views
Device(config-view)#
! NOTE:LI View configurations are never shown as part of 'running-configuration'.
! Configure LI Users.
Device(config)# username lawful-intercept li-user1 password li-user1pass

Device(config)# username lawful-intercept li-user2 password li-user2pass

```

```
! Displaying LI User information.
Device# show users lawful-intercept
li_admin
li-user1
li-user2
Device#
```



**Note** 合法的傍受ビューは特定のイメージに対してのみ使用でき、表示名オプションは合法的傍受ビューでのみ使用できます。

## 例：スーパービューの設定

次の **show running-config** コマンドのサンプル出力は、"view\_one" と "view\_two" がスーパービューの "su\_view1" に追加され、"view\_three" と "view\_four" がスーパービューの "su\_view2" に追加されていることを示しています。

```
Device# show running-config
!
parser view su_view1 superview
secret 5 <encoded password>
view view_one
view view_two
!
parser view su_view2 superview
secret 5 <encoded password>
view view_three
view view_four
!
```

## ロールベースの CLI アクセスに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List, All Releases</a> 』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z</a>』</li> </ul>
SNMP、MIB、CLI 設定	『 <a href="#">Cisco IOS Network Management Configuration Guide , Release 15.0.</a> 』
権限レベル	「パスワード、特権、およびログインによるセキュリティ設定」モジュール

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ロールベースの CLI アクセスに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 225: ロールベースの CLI アクセスに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ロールベースの CLI アクセス		<p>ロールベースの CLI アクセス機能は、ネットワーク管理者が、CLI と設定情報に対するユーザアクセスを制限できるようにします。</p> <p>CLI ビュー機能は、インターフェイス単位レベルでユーザアクセスを制限するように拡張されました。新しい CLI ビューは、拡張されたビュー機能をサポートするために導入されました。また、設定された CLI ビューをスーパービューにグループ分けするためのサポートが導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>commands (view)</b>、<b>enable</b>、<b>li-view</b>、<b>name (view)</b>、<b>parser view</b>、<b>parser view superview</b>、<b>secret</b>、<b>show parser view</b>、<b>show users</b>、<b>username</b>、および <b>view</b>。</p>
ロールベースの CLI 包含ビュー		<p>ロールベースの CLI 包含ビュー機能によって、すべてのコマンドを含む標準 CLI ビューがデフォルトで有効になっています。</p> <p>次のコマンドが変更されました。 <b>parser view inclusive</b>。</p>







## CHAPTER 171

# セキュアストレージについて

セキュアストレージ機能では、重要な設定情報を暗号化して保護できます。VPN、IPSec とその他の非対称キーペア、事前共有秘密、タイプ6のパスワード暗号化キーおよび特定のクレデンシャルを暗号化します。インスタンス固有の暗号キーは、危険にさらされることを防ぐためにハードウェアのトラストアンカーに保管されます。

デフォルトでは、この機能はハードウェアのトラストアンカーを備えたプラットフォームで有効です。この機能は、ハードウェアのトラストアンカーがないプラットフォームではサポートされません。

- サポートされるプラットフォーム, [on page 2553](#)
- セキュアストレージの有効化 ([2556 ページ](#))
- セキュアストレージの無効化 ([2557 ページ](#))
- 暗号化のステータスの確認, [on page 2558](#)
- プラットフォームイメージの旧バージョンへのダウングレード, [on page 2559](#)
- セキュアストレージの概要の機能情報, [on page 2559](#)

## サポートされるプラットフォーム

Cisco IOS リリース 15.6(3) M1 以降、次の Cisco 880 シリーズプラットフォームでセキュアストレージがサポートされています。

**Table 226:** セキュアストレージでサポートされるプラットフォーム : Cisco サービス統合型ルータ 880 PID

C881-K9
C887VA-K9
C886VA-K9
C887VAM-K9
C886VAJ-K9
C888-K9

Cisco IOS リリース 15.6(3)M1 以降、次の Cisco 890 シリーズプラットフォームでセキュアストレージがサポートされています。

**Table 227:** セキュアストレージでサポートされるプラットフォーム : *Cisco* サービス統合型ルータ **890 PID**

C891FW-E-K9
C891F-K9
C891FW-A-K9
C891-24X-K9

Cisco IOS リリース 15.6(3)M1 以降、次の Cisco 800M シリーズプラットフォームでセキュアストレージがサポートされています。

**Table 228:** セキュアストレージでサポートされるプラットフォーム : *Cisco* サービス統合型ルータ **800M PID**

C841M-4X/K9
C886VA-K9
C841M-8X/K9

Cisco IOS XE リリース 16.6.1 以降、次の ISR 4000 シリーズプラットフォームでセキュアストレージがサポートされています。

**Table 229:** セキュアストレージでサポートされるプラットフォーム : *Cisco* サービス統合型ルータ **4000 PID**

ISR4431
ISR4221
ISR4321
ISR4331
ISR4351
ISR4451-X

Cisco IOS XE リリース 16.6.1 以降、次の ASR 1000 プラットフォームでセキュアストレージがサポートされています。

**Table 230:** セキュアストレージでサポートされるプラットフォーム : *Cisco ASR 1000* シリーズ アグリゲーションサービスルータ **PID**

ASR1000-RP3
ASR1001-X
ASR1001-HX
ASR1002-HX

Cisco IOS XE リリース 16.9.1 以降、次の Cisco 1000 シリーズプラットフォームでセキュアストレージがサポートされています。

**Table 231:** セキュアストレージでサポートされるプラットフォーム : *Cisco 1000* シリーズ *PID*

C1101-4P
C1111-8P
C1111-4P
C1112-8P
C1113-8P
C1113-8PM
C1116-4P
C1117-4P
C1117-4PM
C1101-4PLTEP
C1111-8PLTEEA
C1111-8PLTELA
C1111-4PLTEEA
C1111-4PLTELA
C1112-8PLTEEA
C1113-8PLTEEA
C1113-8PLTELA
C1113-8PMLTEEA
C1116-4PLTEEA
C1117-4PLTEEA
C1117-4PLTELA
C1117-4PMLTEEA
C1111-8PWY
C1111-4PWX
C1112-8PWE
C1113-8PWA

C1113-8PWB
C1113-8PWE
C1116-4PWE
C1117-4PWE
C1117-4PWA
C1117-4PWZ
C1117-4PMWE
C1111-8PLTEEAWX
C1111-8PLTELAZY
C1112-8PLTEAWE
C1113-8PLTEEAWA
C1113-8PLTEEAWB
C1113-8PLTEEAWC
C1113-8PLTELAZY
C1116-4PLTEEAWC
C1117-4PMLTEEA
C1117-4PLTEEAWC
C1117-4PLTEEAWA
C1117-4PLTELAZY
C1117-4PMLTEEAWC
C1101-4PLTEPWX

## セキュアストレージの有効化

### 始める前に

デフォルトでは、この機能はプラットフォームで有効です。この手順は、無効になっているプラットフォームで使用します。

### 手順の概要

#### 1. Config terminal

2. service private-config-encryption
3. do write memory

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Config terminal 例： router#config terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	service private-config-encryption 例： router(config)# service private-config-encryption	プラットフォームでセキュリティストレージ機能を有効にします。
ステップ 3	do write memory 例： router(config)# do write memory	private-config ファイルを暗号化し、暗号化フォーマットで保存します。

#### 例

次に、セキュア ストレージをイネーブルにする例を示します。

```
router#config terminal
router(config)# service private-config-encryption
router(config)# do write memory
```

## セキュア ストレージの無効化

#### 始める前に

プラットフォームでセキュア ストレージ機能を無効にするには、次のタスクを実行します。

#### 手順の概要

1. Config terminal
2. no service private-config-encryption
3. do write memory

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Config terminal 例： router#config terminal	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	no service private-config-encryption 例： router(config)# no service private-config-encryption	プラットフォームでセキュリティストレージ機能を無効にします。
ステップ 3	do write memory 例： router(config)# do write memory	private-config ファイルを復号し、プレーンフォーマットで保存します。

## 例

次に、セキュアストレージをディセーブルにする例を示します。

```
router#config terminal
router(config)# no service private-config-encryption
router(config)# do write memory
```

## 暗号化のステータスの確認

暗号化のステータスを確認するには、**show parser encrypt file status** コマンドを使用します。次のコマンド出力は、機能は利用できるが、ファイルが暗号化されていないことを示します。ファイルは「プレーンテキスト」形式です。

```
router#show parser encrypt file status
Feature: Enabled
File Format: Plain Text
Encryption Version: Ver1
```

次のコマンド出力は、機能は有効で、ファイルが暗号化されていることを示します。ファイルは「暗号テキスト」形式です。

```
router#show parser encrypt file status
Feature: Enabled
File Format: Cipher Text
Encryption Version: Ver1
```

# プラットフォームイメージの旧バージョンへのダウングレード

セキュアストレージがサポートされていない旧バージョンにプラットフォームイメージをダウングレードする場合は、サポートされているバージョンでこの機能を事前に無効にする必要があります。

旧バージョンにダウングレードする前にこの機能を無効にしないと、private-config ファイルが暗号化形式になります。ファイルが暗号化形式になっていることを示す、次の Syslog メッセージが生成されます。

```
%PARSER-4-BADCFG: Unexpected end of configuration file.
```

ファイルが「プレーンテキスト」の場合、Syslog メッセージは生成されません。

## セキュアストレージの概要の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 232: Cisco TrustSec の概要の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
セキュアなストレージ	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	セキュアなストレージのサポートが ASR および ISR プラットフォームに導入されました。







## CHAPTER 172

# AutoSecure

AutoSecure 機能では、1 つの CLI コマンドによって、ネットワーク攻撃に悪用されるおそれのある一般的な IP サービスを無効にしたり、攻撃を受けたときにネットワークを防御するのに役立つ IP サービスや機能を有効にしたりできます。また、ルータのセキュリティ設定を簡素化しつつ機能を堅牢にすることができます。

AutoSecure では、「lab」や「cisco」など、ネットワークで広く使用されているありふれたパスワードが排除され、最小限必要なパスワード長が設定されることで、ルータへのセキュアなアクセスが強化されています。正常に実行できなかった回数が、設定したしきい値を超えると、syslog メッセージが生成されます。

また、ロールバックを有効にすると、AutoSecure 設定に失敗しても、ルータを前の設定状態に戻すことができます。

AutoSecure を有効にすると、システム ロギング メッセージの詳細な監査証跡によって、実行コンフィギュレーションに適用される可能性のある AutoSecure の設定変更または改ざんがキャプチャされます。

- [AutoSecure の制約事項, on page 2561](#)
- [AutoSecure について, on page 2562](#)
- [AutoSecure の設定方法, on page 2566](#)
- [AutoSecure の設定例, on page 2568](#)
- [その他の参考資料, on page 2571](#)
- [AutoSecure に関する機能情報, on page 2572](#)

## AutoSecure の制約事項

AutoSecure の設定は、実行時またはセットアップ時に行います。AutoSecure をイネーブルにした後に、関連する設定を変更した場合は、AutoSecure の設定が完全に有効にならないことがあります。

# AutoSecure について

## 管理プレーンのセキュリティ保護

管理プレーンのセキュリティ保護は、潜在的にセキュリティ攻撃に利用される可能性がある特定のグローバルおよびインターフェイスサービスをオフにし、攻撃の脅威を軽減できるグローバルサービスをオンにすることで行います。また、セキュリティ保護されたアクセスとログインもルータに設定できます。



**Caution** デバイスがネットワーク管理 (NM) アプリケーションで管理されている場合、管理プレーンのセキュリティ保護によって、HTTPサーバなどのいくつかのサービスがディセーブル化され、NM アプリケーションのサポートが妨げられることがあります。

ここでは、AutoSecure がマネジメントプレーンのセキュリティ保護にどのように役立つかを説明します。

## グローバルサービスのディセーブル化

この機能をイネーブルにすると (**auto secure** コマンドを介して)、次のグローバルサービスは、ユーザーにプロンプトを表示することなくルータで自動的にディセーブルになります。

- **Finger** : 攻撃の前にシステムの情報を収集 (探査) します。イネーブルになっている場合、この情報により、デバイスが攻撃に対して脆弱なままになることがあります。
- **PAD** : すべてのパケットアセンブラ/逆アセンブラ (PAD) コマンドと、PAD デバイスとアクセスサーバとの接続をイネーブルにします。イネーブルになっている場合、このサービスにより、デバイスが攻撃に対して脆弱なままになることがあります。
- **スモールサーバ** : TCP およびユーザデータグラムプロトコル (UDP) の診断ポート攻撃の原因となります。この攻撃では、送信者がルータの UDP 診断サービスに偽の要求を大量に送信し、すべての CPU リソースを使い果たします。
- **BOOTP サーバ** : BOOTP はセキュアではないプロトコルです。攻撃で悪用されます。
- **HTTP サーバ** : Secure HTTP サーバが使用されていないか、ACL を関連付けて HTTP サーバに組み込まれる認証が使用されていない場合、HTTP サーバは安全ではなく、攻撃に悪用されることがあります。(HTTP サーバをイネーブルにする必要がある場合は、適切な認証またはアクセスリストの指定を求めるメッセージが表示されます)。



**Note** Cisco Configuration Professional (CCP) を使用している場合は、**ip http server** コマンドを介して手動で HTTP サーバをイネーブルにする必要があります。

- 識別サービス：RFC 1413 で定義されている安全ではないプロトコルです。TCP ポートで ID を照会することが可能です。攻撃者は、ID サーバでユーザに関する個人的な情報にアクセスできます。
- CDP：大量の Cisco Discovery Protocol (CDP) パケットがルータに送信されると、ルータの使用可能なメモリが消費され、ルータがクラッシュすることがあります。

**Caution**

CDP を使用してネットワーク トポロジを検出する NM アプリケーションは、検出を実行できなくなります。

- NTP：認証またはアクセス コントロールが行われないと、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は安全ではありません。攻撃者はこのプロトコルを使用して NTP パケットを送信し、ルータをクラッシュさせたり、過負荷状態にしたりすることが可能です。(NTP を有効にする場合は、Message Digest 5 (MD5) および `ntp access-group` コマンドを使用して NTP 認証を設定する必要があります。NTP がグローバルにイネーブルになっている場合は、NTP が不要なすべてのインターフェイスでディセーブルにしてください)。
- 送信元ルーティング：デバッグ作業でのみ使用するため、それ以外のすべての場合でルーティングをディセーブルにする必要があります。そうしないと、アクセス コントロール メカニズムを通過すべきパケットが、一部のアクセス コントロール メカニズムを回避する可能性があります。

## サービスのインターフェイス単位のディセーブル化

この機能をイネーブルにすると、次のインターフェイス単位のサービスが自動的にルータでディセーブルになります。

- ICMP リダイレクト：すべてのインターフェイスでディセーブルになります。このサービスは、正しく設定されたネットワークにとっては有益な機能ではなく、セキュリティホールを悪用するために攻撃者によって使用される可能性があります。
- ICMP 到達不能：すべてのインターフェイスでディセーブルになります。インターネット 制御マネジメント プロトコル (ICMP) 到達不能は、ICMP ベースのサービス拒否攻撃 (DoS) の原因として知られています。
- ICMP マスク応答メッセージ：すべてのインターフェイスでディセーブルになります。ICMP マスク応答メッセージにより、攻撃者はインターネットワークの特定のサブネットワークのサブネットマスクを入手できます。
- プロキシ Arp：すべてのインターフェイスでディセーブルになります。プロキシ Arp 要求は、DoS 攻撃の原因として知られています。これは、攻撃者が何度も送信した要求に応答しようとしてルータの使用可能な帯域幅とリソースが消費されることがあるためです。
- ダイレクトブロードキャスト：すべてのインターフェイスでディセーブルになります。DoS を生じさせるための SMURF 攻撃の原因となる可能性があります。

- メンテナンス オペレーション プロトコル (MOP) サービス：すべてのインターフェイスでディセーブルになります。

## グローバルサービスのイネーブル化

AutoSecure 機能をイネーブルにすると、次のグローバルサービスが自動的にルータでイネーブルになります。

- **service password-encryption** コマンド：設定でパスワードが表示されなくなります。
- **service tcp-keepalives-in** および **service tcp-keepalives-out** コマンド：異常終了した TCP セッションが確実に削除されます。

## ルータへのアクセスの保護



### Caution

デバイスが NM アプリケーションによって管理されている場合に、ルータへのアクセスをセキュリティ保護すると、重要なサービスが無効化されたり、NM アプリケーションのサポートが妨げられたりすることがあります。

AutoSecure 機能をイネーブルにすると、ルータへのアクセスをセキュリティ保護する次のオプションをユーザが使用できるようになります。

- テキスト バナーがない場合は、バナーの追加を求めるメッセージが表示されます。AutoSecure 機能には次のサンプル バナーが用意されています。

#### Authorized access only

```
This system is the property of ABC Enterprise
Disconnect IMMEDIATELY if you are not an authorized user!
Contact abc@xyz.com +99 876 543210 for help.
```

- ログインおよびパスワード（サポートされている場合はシークレットパスワードを推奨）は、コンソール、AUX、TTY の各回線で設定されます。 **transport input** コマンドと **transport output** コマンドも、これらの回線のすべてで設定されます。（Telnet およびセキュアシェル (SSH) のみが有効な転送方式です。） **exec-timeout** コマンドは、コンソールと AUX の各回線で 10 に設定されます。
- デバイスのイメージが暗号化イメージである場合、AutoSecure はルータに対するアクセスとファイル転送に SSH とセキュアコピー (SCP) をイネーブルにします。 **ip ssh** コマンドの **timeout seconds** および **authentication-retries integer** オプションは最小数に設定されます。（Telnet および FTP は、この操作の影響を受けず、引き続き動作します）。
- AutoSecure ユーザが、デバイスで簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) を使用しないと指定した場合は、次のいずれかの状態になります。
  - インタラクティブモードでは、コミュニティストリングの値に関係なく SNMP をディセーブルにするかどうかを尋ねるメッセージがユーザに表示されます。コミュニティ

ストリングは、パスワードと同じように機能し、ルータのエージェントへのアクセスを規制します。

- 非インタラクティブモードでは、コミュニティストリングが "public" または "private" である場合に SNMP がディセーブルになります。



**Note** AutoSecure がイネーブルになると、装置のモニタおよび設定のために SNMP を使用するツールは、SNMP を使用する装置との通信を行うことができなくなります。

- 認証、許可、アカウンティング (AAA) が設定されていない場合は、ローカル AAA を設定します。ユーザは、ローカルのユーザ名とそのパスワードをルータで設定するように AutoSecure から要求されます。

## セキュリティ ロギング

次のロギングオプションは、AutoSecure をイネーブルにした後で使用できます。これらのオプションは、セキュリティ インシデントを特定し、顧客に対応する方法を提供します。

- すべてのデバッグメッセージおよびログメッセージのシーケンス番号とタイムスタンプ。このオプションは、ロギングメッセージを監査するときに役立ちます。
- ロギングメッセージはログ関連のイベントに対して生成されます。たとえば、ログイン攻撃が検出されルータが「待機モード」に入ると、「Blocking Period when Login Attack Detected」のメッセージが表示されます。(待機モードでは、ルータは Telnet、HTTP、または SSH を使用したログイン試行を許可しません)。

ログイン関連のシステムメッセージの詳細については、『Cisco IOS Release 12.3(4)T feature module Cisco IOS Login Enhancements』を参照してください。

- **logging console critical** コマンド。これにより、システムロギング (Syslog) メッセージがすべての使用可能な TTY 回線に送信され、シビラティ (重大度) に応じてメッセージが制限されます。
- **logging buffered** コマンド。これにより、ロギングメッセージが内部バッファにコピーされ、バッファに記録されるメッセージがシビラティ (重大度) に応じて制限されます。
- **logging trap debugging** コマンド。これにより、デバッグよりもシビラティ (重大度) の高いコマンドをすべてロギングサーバーに送信できます。

## フォワーディング プレーンのセキュリティ保護

ルータのフォワードプレーンでの攻撃の危険を最小限にするために、AutoSecure には次の機能が用意されています。

- Cisco エクスプレス フォワーディング (CEF) : AutoSecure は、可能であれば CEF または分散 CEF (dCEF) をルータでイネーブルにします。トラフィックが新たな宛先に到着し

始めたときにキャッシュエントリを作成する必要がないため、大量のトラフィックが多数の宛先に送信される場合でも、CEFは他のモードよりも予測しやすい方法で動作します。このため、CEF用に設定されているルータは、SYN攻撃下において、従来のキャッシュ方法を採用しているルータと比較して高い性能を発揮します。



**Note** CEFは従来のキャッシュよりもメモリを多く消費します。

- TCPインターセプト機能が使用可能な場合、この機能をルータで接続タイムアウト用に設定することができます。
- ストリクトユニキャストリバースパス転送 (uRPF) が使用可能である場合、偽造（詐称）された送信元 IP アドレスが入ってくることによって発生する問題を軽減できるようにするために、この uRPF をルータで設定できます。uRPF は検証可能な送信元 IP アドレスが不足している IP パケットを廃棄します。
- ルータは、ファイアウォールとして使用されている場合、インターネットに繋がっているパブリックインターフェイスでコンテキストベースアクセスコントロール (CBAC) 用に設定することができます。



**Note** AutoSecure ダイアログの冒頭では、パブリックインターフェイスのリストの指定を求めるメッセージが表示されます。

## AutoSecure の設定方法

### AutoSecure の設定



**Caution** `auto secure` コマンドでルータのセキュリティ保護を行うことはできますが、ルータが完全にセキュリティ保護されるという保証はありません。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `auto secure [management | forwarding] [no-interact | full] [ntp | login | ssh | firewall | tcp-intercept]`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	<p>特権 EXEC モードなど、高位の権限レベルを有効にします。</p> <p>パスワードを入力します（要求された場合）。</p>
ステップ 2	<pre>auto secure [management   forwarding] [no-interact   full] [ntp   login   ssh   firewall   tcp-intercept]</pre> <b>Example:</b> <pre>Router# auto secure</pre>	<p>セミインタラクティブ ダイアログ セッションは、<b>management</b> または <b>forwarding</b> キーワードが選択されているときに、ルータの管理またはフォワーディングプレーンのセキュリティ保護を開始します。いずれのオプションも選択しないと、ダイアログによってどちらのプレーンにも設定するよう尋ねられます。<b>management</b> キーワードが選択されると、管理プレーンだけがセキュリティ保護されます。<b>forwarding keyword is selected, then</b> の場合は、フォワーディングプレーンのみがセキュリティ保護されます。</p> <p><b>no-interact</b> キーワードが選択されると、どのようなインタラクティブな設定も求められません。</p> <p><b>full</b> キーワードが選択されると、デフォルトで、ユーザーはすべてのインタラクティブな質問を入力するように求められます。</p>

## 強化されたルータへのセキュリティアクセスの設定

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **enable password** {password | [encryption-type ] encrypted-password }
4. **security authentication failure rate** threshold-rate **log**
5. **exit** threshold-rate **log**
6. **show auto secure config**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードなど、高位の権限レベルを有効にします。  パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>enable password</b> {password   [encryption-type ] encrypted-password } <b>Example:</b> Router(config)# enable password elephant	さまざまな権限レベルへのアクセスを制御するローカルパスワードを設定します。
ステップ 4	<b>security authentication failure rate</b> threshold-rate <b>log</b> <b>Example:</b> Router(config)# security authentication failure rate 10 log	許容されるログイン失敗回数を設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>threshold-rate</b> : 許容されるログイン失敗回数。</li> <li>• <b>log</b> : 回数が多い値を超えた場合、Syslog 認証は失敗します。</li> </ul>
ステップ 5	<b>exit</b> threshold-rate <b>log</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 6	<b>show auto secure config</b> <b>Example:</b> Router# show auto secure config	(任意) AutoSecure の設定の過程で追加されたコンフィギュレーション コマンドをすべて表示します。

## AutoSecure の設定例

AutoSecure ダイアログの例を次に示します。 **auto secure** コマンドを実行すると、下記のようなダイアログが自動的に表示されます。ただし、 **no-interact** キーワードを指定した場合を除き、 (ディセーブルになっているサービスと、イネーブルになっている機能については、このマニュアルで前述されている「[管理プレーンのセキュリティ保護, on page 2562](#)」および「[フォーワーディングプレーンのセキュリティ保護, on page 2565](#)」を参照してください)。



```
Router# auto secure
--- AutoSecure Configuration ---
*** AutoSecure configuration enhances the security of the router but it will not make
router absolutely secure from all security attacks ***
All the configuration done as part of AutoSecure will be shown here. For more details
of why and how this configuration is useful, and any possible side effects, please refer
to Cisco documentation of AutoSecure.
At any prompt you may enter '?' for help.
Use ctrl-c to abort this session at any prompt.
Gathering information about the router for AutoSecure
Is this router connected to internet? [no]:y
Enter the number of interfaces facing internet [1]:
Interface                IP-Address OK? Method Status
Protocol
FastEthernet0/1/0        10.1.1.1   YES NVRAM  up down
FastEthernet1/0/0        10.2.2.2   YES NVRAM  up down
FastEthernet1/1/0        10.0.0.1   YES NVRAM  up up
Loopback0                unassigned YES NVRAM  up up
FastEthernet0/0/0        10.0.0.2   YES NVRAM  up down
Enter the interface name that is facing internet:FastEthernet0/0/0
Securing Management plane services..
Disabling service finger
Disabling service pad
Disabling udp & tcp small servers
Enabling service password encryption
Enabling service tcp-keepalives-in
Enabling service tcp-keepalives-out
Disabling the cdp protocol
Disabling the bootp server
Disabling the http server
Disabling the finger service
Disabling source routing
Disabling gratuitous arp
Enable secret is either not configured or is same as enable password
Enter the new enable secret:abc123
Configuring aaa local authentication
Configuring console, Aux and vty lines for
local authentication, exec-timeout, transport
Configure SSH server? [yes]:
Enter the domain-name:example.com
Configuring interface specific AutoSecure services
Disabling the following ip services on all interfaces:
no ip redirects
no ip proxy-arp
no ip unreachable
no ip directed-broadcast
no ip mask-reply
Disabling mop on Ethernet interfaces
Securing Forwarding plane services..
Enabling CEF (it might have more memory requirements on some low end
platforms)
Enabling unicast rpf on all interfaces connected to internet
Configure CBAC Firewall feature? [yes/no]:yes
This is the configuration generated:
no service finger
no service pad
no service udp-small-servers
no service tcp-small-servers
service password-encryption
service tcp-keepalives-in
service tcp-keepalives-out
no cdp run
no ip bootp server
```

```
no ip http server
no ip finger
no ip source-route
no ip gratuitous-arps
no ip identd
security authentication failure rate 10 log
enable secret 5 $1$CZ6G$GkGOnHdNJCO3CjNHHyTUA.
aaa new-model
aaa authentication login local_auth local
line console 0
  login authentication local_auth
  exec-timeout 5 0
  transport output telnet
line aux 0
  login authentication local_auth
  exec-timeout 10 0
  transport output telnet
line vty 0 4
  login authentication local_auth
  transport input telnet
ip domain-name example.com
crypto key generate rsa general-keys modulus 1024
ip ssh time-out 60
ip ssh authentication-retries 2
line vty 0 4
  transport input ssh telnet
service timestamps debug datetime localtime show-timezone msec
service timestamps log datetime localtime show-timezone msec
logging facility local2
logging trap debugging
service sequence-numbers
logging console critical
logging buffered
interface FastEthernet0/1/0
  no ip redirects
  no ip proxy-arp
  no ip unreachable
  no ip directed-broadcast
  no ip mask-reply
  no mop enabled
interface FastEthernet1/0/0
  no ip redirects
  no ip proxy-arp
  no ip unreachable
  no ip directed-broadcast
  no ip mask-reply
  no mop enabled
interface FastEthernet1/1/0
  no ip redirects
  no ip proxy-arp
  no ip unreachable
  no ip directed-broadcast
  no ip mask-reply
  no mop enabled
interface FastEthernet0/0/0
  no ip redirects
  no ip proxy-arp
  no ip unreachable
  no ip directed-broadcast
  no ip mask-reply
  no mop enabled
ip cef
interface FastEthernet0/0/0
  ip verify unicast reverse-path
```

```

ip inspect audit-trail
ip inspect dns-timeout 7
ip inspect tcp idle-time 14400
ip inspect udp idle-time 1800
ip inspect name autosec_inspect cuseeme timeout 3600
ip inspect name autosec_inspect ftp timeout 3600
ip inspect name autosec_inspect http timeout 3600
ip inspect name autosec_inspect rcmd timeout 3600
ip inspect name autosec_inspect realaudio timeout 3600
ip inspect name autosec_inspect smtp timeout 3600
ip inspect name autosec_inspect tftp timeout 30
ip inspect name autosec_inspect udp timeout 15
ip inspect name autosec_inspect tcp timeout 3600
access-list 100 deny ip any any
interface FastEthernet0/0/0
 ip inspect autosec_inspect out
 ip access-group 100 in
!
end
Apply this configuration to running-config? [yes]:yes
Applying the config generated to running-config
The name for the keys will be:ios210.example.com
% The key modulus size is 1024 bits
% Generating 1024 bit RSA keys ...[OK]
Router#

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>
SNMP サポートの設定	SNMP サポートの設定
セキュリティ コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Security Command Reference』</a>

### 標準

標準	タイトル
PacketCable™ コントロール ポイント検出 インターフェイス仕様	『 <i>PacketCable™ Control Point Discovery Interface Specification</i> 』 (PKT-SP-CPD-I02-061013)

## MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>• CISCO-802-TAP-MIB</li> <li>• CISCO-IP-TAP-MIB</li> <li>• CISCO-MOBILITY-TAP-MIB</li> <li>• CISCO-TAP2-MIB</li> <li>• CISCO-USER-CONNECTION-TAP-MIB</li> </ul>	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC-2865	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』
RFC-3576	Dynamic Authorization Extensions to Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)
RFC-3924	『Cisco Architecture for Lawful Intercept in IP Networks』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## AutoSecure に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 233: AutoSecure に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
AutoSecure の管理性	Cisco IOS XE Release 2.3	<p>この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズのアグリゲーション サービス ルータで導入されました。</p> <p>単一のコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用することで、AutoSecure 機能ではユーザは次の機能を実行することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• ネットワーク攻撃のために不正利用される可能性のある、一般的な IP サービスをディセーブルする。</li><li>• 攻撃を受けたときにネットワークの防御を支援できる IP サービスと機能をイネーブルにする。</li></ul> <p>この機能は、ルータのセキュリティ設定を簡素化し、ルータの設定も強化します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>auto secure</b> および <b>show auto secure config</b></p>





## CHAPTER 173

# Kerberos の設定

- [Kerberos に関する情報, on page 2575](#)
- [Kerberos を設定する方法, on page 2580](#)
- [Kerberos 設定の例, on page 2588](#)
- [その他の参考資料, on page 2589](#)
- [Kerberos の設定に関する機能情報, on page 2591](#)

## Kerberos に関する情報

Kerberos は、マサチューセッツ工科大学（MIT）が開発した秘密キーネットワーク認証プロトコルであり、暗号化と認証にデータ暗号規格（DES）暗号アルゴリズムを使用します。Kerberos は、ネットワークリソースの要求を認証するために設計されました。Kerberos は他の秘密キーシステムと同様に、ユーザーとサービスのセキュアな検証を実行する、信頼できるサードパーティの概念に基づいています。Kerberos プロトコルでは、この信頼できるサードパーティは、キー発行局（KDC）と呼ばれます。

Kerberos の主な用途は、ユーザと、そのユーザが使用するネットワークサービスの身元が主張どおりであることを検証することです。この検証のために、信頼できる Kerberos サーバがユーザにチケットを発行します。有効期限のあるこれらのチケットは、ユーザの認定証キャッシュに保存されており、標準のユーザ名とパスワードの認証メカニズムの代わりに使用できます。

Kerberos の認定証スキームは、「シングルログイン」という概念を表しています。この手順では、ユーザを1回認証することが必要で、ユーザクレデンシャルが有効な間は（他のパスワードの暗号化を行わずに）セキュア認証が可能になります。

Cisco IOS XE ソフトウェアは Kerberos 5 をサポートするようになりました。そのため、Kerberos 5 をすでに配置している組織の場合、ルータ上で、他のネットワーク ホスト（UNIX サーバや PC など）ですでに使用している同じ Kerberos 認証データベースを使用できます。

次のネットワークサービスは、Cisco IOS XE ソフトウェアの Kerberos 認証機能によってサポートされています。

- Telnet
- rlogin

- rsh
- rcp



**Note** Kerberos クライアントサポートのシスコの実装は、MIT のコードから派生した CyberSafe が開発したコードに基づいています。そのため、シスコの Kerberos 実装は、CyberSafe Challenger 製の市販 Kerberos サーバおよび無料配布されている MIT のサーバコードとの完全互換性テストに成功しています。

一般的な Kerberos 関連の用語と定義を下表に示します。

**Table 234: Kerberos の用語**

用語	定義
認証	ユーザやサービスが他のサービスに対して自分自身の身元を証明する手順。たとえば、クライアントがルータに対して認証したり、ルータが他のルータに対して認証したりすることができます。
許可	ネットワークまたはルータでユーザが持っている特権、および実行できるアクションをルータが判断する手段です。
クレデンシヤル	認証チケット（チケット認可チケット（TGT）、サービスクレデンシヤルなど）を表す総称。Kerberos クレデンシヤルで、ユーザまたはサービスの ID を検証します。ネットワーク サービスがチケットを発行した Kerberos サーバを信頼することを決定すると、ユーザとパスワードを再入力する代わりにそのチケットを使用できます。クレデンシヤルの有効期限は、8 時間がデフォルトの設定です。
インスタンス	Kerberos プリンシパルの承認レベル ラベル。ほとんどの Kerberos プリンシパルは、 <code>user@REALM</code> という形式です（たとえば、 <code>smith@EXAMPLE.COM</code> ）。Kerberos インスタンスを指定した Kerberos プリンシパルは、 <code>user/instance@REALM</code> という形式です（たとえば、 <code>smith/admin@EXAMPLE.COM</code> ）。Kerberos インスタンスは、認証が成功した場合のユーザーの承認レベルを指定するために使用できます。Kerberos インスタンスの認可マッピングを実装および実施するのは、各ネットワーク サービスのサーバ次第です。Kerberos レルム名は、大文字で指定する必要があります。
Kerberos 対応	Kerberos 証明書の基盤をサポートするように変更されたアプリケーションおよびサービス。



用語	定義
Kerberos レルム	Kerberos サーバーに登録されたユーザー、ホスト、およびネットワークサービスで構成されるドメイン。Kerberos サーバーを信頼して、ユーザーまたはネットワーク サービスに対する別のユーザーまたはネットワーク サービスの ID を検証します。Kerberos レルムは、常に大文字にする必要があります。
Kerberos サーバ	ネットワーク ホスト上で稼働しているデーモン。ユーザーおよびネットワーク サービスはそれぞれ Kerberos サーバーに ID を登録します。ネットワーク サービスは Kerberos サーバーにクエリーを送信して、他のネットワーク サービスの認証を得ます。
キー発行局 (KDC)	ネットワーク ホストで実行される Kerberos サーバとデータベースプログラム。
プリンシパル	Kerberos ID と呼ばれ、Kerberos サーバに基づき、ユーザが誰であるか、サービスが何であるかを表します。
サービス認定証	ネットワーク サービスのクレデンシャル。この認定証は、KDC から発行されるとき、ネットワーク サービスと KDC で共有されるパスワード、およびユーザの TGT で暗号化されます。
SRVTAB	ネットワーク サービスが KDC と共有するパスワード。ネットワーク サービスは、SRVTAB (別名 KEYTAB) を使用することにより、暗号化されたサービス証明書を認証して解読します。
チケット認可チケット (TGT)	キー発行局 (KDC) が認証済みユーザに発行する認定証。TGT を受け取ったユーザーは、KDC が示した Kerberos レルム内のネットワーク サービスに対して認証を得ることができます。

## Kerberos クライアントのサポート操作

ここでは、Kerberos セキュリティシステムが、セキュリティサーバとして機能する Cisco ルータと連携する方法について説明します。(便宜上または技術的な理由から) Kerberos は多様な方法でカスタマイズできますが、ネットワーク サービスにアクセスを試みるリモートユーザは、3レイヤのセキュリティを通過してからネットワーク サービスにアクセスする必要があります。

### 境界ルータに対する認証

ここでは、リモートユーザがネットワークにアクセスを試みるときに通過する必要があるセキュリティの第1レイヤについて説明します。Kerberos 認証プロセスの第1段階は、ユーザが境界ルータに対して自身を認証することです。次のプロセスでは、ユーザが境界ルータに対して認証する方法について説明します。

1. リモートユーザは、会社サイトのルータに対して PPP 接続を開きます。

2. ルータは、ユーザに対してユーザ名とパスワードの入力を求めます。
3. ルータは、そのユーザに関する KDC の TGT を要求します。
4. KDC は、（他の情報も含まれますが）ユーザの ID を含む暗号化済み TGT をルータに送信します。
5. ルータは、ユーザが入力したパスワードを使用して、TGT の復号化を試行します。復号化に成功すると、リモートユーザはルータに対して認証されます。

PPPセッションの開始、および境界ルータに対する認証に成功するリモートユーザは、ファイアウォール内にいますが、ネットワーク サービスにアクセスするには KDC に対して直接認証する必要があります。これは、KDC から発行された TGT はルータに保存され、ユーザが物理的にルータにログインしない限り、追加の認証には役立ちません。

## KDCからのTGTの取得

ここでは、境界ルータに対して認証されたリモートユーザが、KDC に対して自身を認証する方法について説明します。

リモートユーザが境界ルータに対して認証すると、そのユーザは技術的にはネットワークの一部になります。つまり、ネットワークは、そのリモートユーザとユーザのマシンまたはネットワークを含むように拡張されます。ただし、リモートユーザーがネットワーク サービスに対するアクセス権を得るには、KDC から TGT を取得する必要があります。次のプロセスでは、リモートユーザーが KDC に対して認証する方法について説明します。

1. リモートサイトにあるワークステーションを使用するリモートユーザーは、KINIT プログラム（Kerberos プロトコルに付属するクライアントソフトウェアの一部）を起動します。
2. KINIT プログラムは、ユーザの ID を検索し、KDC から TGT を要求します。
3. KDC は TGT を作成します。TGT には、ユーザーの ID、KDC の ID、および TGT の有効期限が含まれます。
4. KDC は、ユーザーのパスワードをキーとして使用して、TGT を暗号化し、その TGT をワークステーションに送信します。
5. KINIT プログラムは暗号化された TGT を受信すると、ユーザーにパスワード（KDC でそのユーザー用に定義されているパスワード）の入力を求めます。
6. ユーザーが入力したパスワードを使用して KINIT プログラムが TGT を復号化できる場合、ユーザーは KDC に対して認証され、KINIT プログラムはユーザーの認証証キャッシュに TGT を保存します。

この時点で、ユーザーは TGT を持っており、KDC と安全に通信できます。その TGT を使用して、ユーザーは他のネットワーク サービスに対して認証できます。

## ネットワーク サービスに対する認証の取得

次のプロセスでは、TGT を持つリモートユーザーが、特定の Kerberos レルム内でネットワーク サービスに対して認証する方法について説明します。ここでは、ユーザーはリモートワークステーション (Host A) 上にあり、Host B にログインしようとしています。

1. Host A 上のユーザーは、Host B に対して Kerberos 化アプリケーション (Telnet など) を開始します。
2. Kerberos 化アプリケーションはサービス認定証要求を構築し、KDC に送信します。サービス認定証要求には、(他の情報も含まれますが) ユーザーの ID と目的のネットワークサービスの ID が含まれます。TGT は、サービス認定証要求を暗号化するために使用されます。
3. KDC は、Host A 上のユーザーに対して発行された TGT を使用して、サービス認定証要求を復号化しようとしています。KDC がパケットを復号化できる場合、要求の発行元が Host A 上の認証済みユーザーであると確認されます。
4. KDC は、サービス認定証要求に含まれるネットワーク サービス ID を記録します。
5. KDC は、Host A 上のユーザーの代理で、適切なネットワーク サービスのサービス認定証を Host B に構築します。サービス認定証には、クライアントの ID および必要なネットワーク サービスの ID が含まれます。
6. 次に、KDC はサービス認定証の暗号化を 2 回実行します。まず、認定証に指定されたネットワーク サービスと共有する SRVTAB を使用して認定証を暗号化します。次に、ユーザー (この場合は Host A 上のユーザー) の TGT を使用して結果のパケットを暗号化します。
7. KDC は、2 回暗号化された認定証を Host A に送信します。
8. Host A は、ユーザーの TGT を使用してサービス認定証の復号化を試行します。Host A がサービス認定証を復号化できる場合、その認定証の発行元が KDC であると確認されます。
9. Host A はサービス認定証を目的のネットワーク サービスに送信します。認定証は、まだ KDC とネットワーク サービスに共有されている SRVTAB で暗号化されています。
10. ネットワーク サービスは、SRVTAB を使用してサービス認定証の復号化を試行します。
11. ネットワーク サービスが認定証を復号化できる場合、その認定証の発行元が KDC であると確認されます。ネットワーク サービスは、ユーザーから間接的に送信されたデータでも、KDC から送信された復号化できるデータであれば、常に信頼します。これは、ユーザーがまず KDC で認証されているためです。

この時点で、ユーザーは Host B のネットワーク サービスに認証されます。このプロセスは、ユーザーが Kerberos レルムのネットワーク サービスにアクセスするときは毎回繰り返されます。

# Kerberos を設定する方法

通信と相互認証を行う Kerberos レルムのホストと KDC について、相互に識別する必要があります。そのために、KDC 上の Kerberos データベースにホストのエントリを追加し、KDC が生成する SRVTAB ファイルを Kerberos レルムのすべてのホストに追加します。また、KDC データベースにユーザのエントリも作成します。

ここでは、Kerberos 認証済みのサーバクライアント システムを設定する方法について説明します。内容は次のとおりです。

このセクションは、KDC 認識された UNIX ホストで Kerberos 管理プログラムをインストールし、データベースを初期化して、Kerberos レルム名とパスワードを選択していることを前提とします。これらのタスクの実行に関する手順については、Kerberos ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。



**Note** KDC のホスト名または IP アドレス、KDC で照会のために監視するポート番号、およびサービスを提供する Kerberos レルムの名前を書き留めます。この情報は、ルータの設定で必要になります。

## Kerberos コマンドによる KDC の設定

Kerberos レルムで KDC として動作するようにホストを設定した後は、レルムのすべてのプリンシパルの KDC データベースに対してエントリを作成する必要があります。プリンシパルは、Cisco ルータおよびホスト上のネットワーク サービスの場合、またはユーザの場合があります。

Kerberos コマンドで KDC データベースにサービスを追加するには（また、既存のデータベース情報を変更するには）、以下の項のタスクを実行します。



**Note** すべての Kerberos コマンド例は、オリジナルの MIT 実装の Kerberos 5 Beta 5 に基づいています。それよりも新しいバージョンでは、やや異なるインターフェイスを使用しています。

## KDC データベースへのユーザーの追加

KDC にユーザーを追加し、そのユーザーの特権インスタンスを作成するには、KDC を実行するホストのルートになるために **su** コマンドを実行します。また、**kdb5\_edit** プログラムを使用して、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router# **ankusername@REALM**
2. Router# **ankusername/instance@REALM**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router# <b>ankusername@REALM</b>	<b>ank</b> (新しいキーを追加) コマンドを使用して、ユーザーを KDC に追加します。このコマンドを実行するとパスワードの入力が求められ、ユーザはルータに対して認証するために入力する必要があります。
ステップ 2	Router# <b>ankusername/instance@REALM</b>	<b>ank</b> コマンドを使用して、ユーザの特権インスタンスを追加します。

## What to do next

たとえば、Kerberos レalm CISCO.COM のユーザ *loki* を追加するには、次の Kerberos コマンドを入力します。

```
ank loki@CISCO.COM
```



**Note** Kerberos レalm名は、大文字で指定する必要があります。

ネットワーク管理がイネーブルレベルでルータに接続できるように、特権インスタンスを作成できます。たとえば、イネーブルモードを開始するためにクリアテキストパスワードを入力する（またセキュリティを脅かす）必要がないようにできます。

新しい特権（この場合 **enable** ですが、任意に指定できます）を使用して *loki* のインスタンスを追加するには、次の Kerberos コマンドを入力します。

```
ank loki/enable@CISCO.COM
```

以下の各例では、パスワードの入力が求められます。このパスワードは、ユーザ *loki* がログイン時に使用できるように、ユーザに付与する必要があります。

「[Kerberos インスタンスマッピングの有効化, on page 2587](#)」では、Kerberos インスタンスを多様な Cisco IOS XE 特権レベルにマッピングする方法について説明します。

## KDCでのSRVTABの作成

Kerberos プロトコルを使用するために認証するすべてのルータは、SRVTAB を持っている必要があります。SRVTAB の抽出の詳細については、「[SRVTAB の抽出](#)」を参照してください。

KDC に SRVTAB エントリを作成するには、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>ark</b> <i>SERVICE/HOSTNAME@REALM</i>	<b>ark</b> (add random key) コマンドを使用して、ホストまたはルータがサポートするネットワークサービスを KDC に追加します。

たとえば、*router1* という Cisco ルータ用の Kerberos 化認証サービスを Kerberos レルム CISCO.COM に追加するには、次の Kerberos コマンドを入力します。

```
ark host/router1.cisco.com@CISCO.COM
```

すべての Kerberos 化ホスト上に、認証にこの KDC を使用するすべてのネットワーク サービスに関するエントリを作成します。

## SRVTAB の抽出

SRVTAB には、（他の情報も含まれますが）KDC データベースに入力したサービスプリンシパルのパスワードまたはランダムに生成されたキーが含まれます。サービスプリンシパルキーは、そのサービスを実行するホストと共有する必要があります。そのためには、SRVTAB をファイルに保存し、Kerberos レルムにあるルータおよびすべてのホストにそのファイルをコピーします。SRVTAB エントリをファイルに保存することを、SRVTAB の抽出といいます。SRVTAB を抽出するには、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>xst</b> <i>router-name host</i>	<b>kdb5_edit</b> コマンド <b>xst</b> を使用して、SRVTAB エントリをファイルに書き込みます。

たとえば、*host/router1.cisco.com@CISCO.COM* SRVTAB をファイルに書き込むには、次の Kerberos コマンドを入力します。

```
xst router1.cisco.com@CISCO.COM host
```

**quit** コマンドを使用して、**kdb5\_edit** プログラムを終了します。

## Kerberos プロトコルを使用するルータの設定

### Kerberos レルムの定義

ルータが、Kerberos データベースに定義されているユーザを認証するには、KDC を実行するホストのホスト名または IP アドレスと Kerberos レルムの名前を知っている必要があります。また、オプションで、ホスト名またはドメイン ネーム システム (DNS) ドメインを Kerberos レルムにマッピングする機能がルータに必要です。

特定の Kerberos レルムで、指定した KDC に対して認証するようにルータを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。DNS ドメイン名の先頭にはドット (.) を付ける必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **kerberos local-realm** *kerberos-realm*
2. Router(config)# **kerberos server** *kerberos-realm* {*hostname* | *ip-address* } [*port-number* ]
3. Router(config)# **kerberos realm** {*dns-domain* | *host* } *kerberos-realm*

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>kerberos local-realm</b> <i>kerberos-realm</i>	ルータのデフォルト レルムを定義します。
ステップ 2	Router(config)# <b>kerberos server</b> <i>kerberos-realm</i> { <i>hostname</i>   <i>ip-address</i> } [ <i>port-number</i> ]	特定の Kerberos レルムで使用する KDC、およびオプションで KDC が監視するポート番号をルータに指定します (デフォルト値は 88 です)。
ステップ 3	Router(config)# <b>kerberos realm</b> { <i>dns-domain</i>   <i>host</i> } <i>kerberos-realm</i>	(任意) ホスト名または DNS ドメインを Kerberos レルムにマッピングします。

### What to do next



**Note** KDC を実行するマシンおよびすべての Kerberos 化ホストは 5 分の期限内で通信する必要があります。通信できない場合、認証は失敗します。そのため、すべての Kerberos 化マシン (特に KDC) は、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) を実行する必要があります。

**kerberos local-realm**、**kerberos realm**、および **kerberos server** コマンドは、UNIX *krb.conf* ファイルに相当します。下記の表は、Cisco IOS XE コンフィギュレーションコマンドから Kerberos 5 コンフィギュレーションファイル (*krb5.conf*) への対応一覧です。

**Table 235: Kerberos 5 のコンフィギュレーションファイルおよびコマンド**

krb5.conf ファイル	Cisco IOS XE のコンフィギュレーションコマンド
[libdefaults]  default_realm = DOMAIN.COM	(コンフィギュレーションモードで)  <b>kerberos local-realm</b> DOMAIN.COM
[domain_realm]  .domain.com = DOMAIN.COM  domain.com = DOMAIN.COM	(コンフィギュレーションモードで)  <b>kerberos realm</b> .domain.com DOMAIN.COM <b>kerberos realm</b> domain.com DOMAIN.COM

krb5.conf ファイル	Cisco IOS XE のコンフィギュレーションコマンド
<pre>[realms]  kdc = DOMAIN.PIL.COM:750  admin_server = DOMAIN.PIL.COM  default_domain = DOMAIN.COM</pre>	<p>(コンフィギュレーションモードで)</p> <pre><b>kerberos server</b> DOMAIN.COM 172.65.44.2 (172.65.44.2 is the example IP address for DOMAIN.PIL.COM )</pre>

Kerberos レルムの定義例については、Kerberos レルムの定義例のモジュールを参照してください。

## SRVTAB ファイルのコピー

リモートユーザが Kerberos 認定証を使用してルータに対して認証できるようにするには、ルータが KDC 秘密キーを共有する必要があります。そのためには、KDC で抽出した SRVTAB をルータにコピーする必要があります。

SRVTAB ファイルを Kerberos レルムのホストにコピーする最もセキュアな方式は、ファイルを物理メディアにコピーし、各ホストの場所に行き、そのシステムに手動でファイルをコピーすることです。ルータに物理メディア ドライバがない場合、SRVTAB ファイルをルータにコピーするには、TFTP を使用してネットワークを介して転送する必要があります。

KDC からルータに対して SRVTAB ファイルをリモートコピーするには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<pre>Router(config)# <b>kerberos srvtab remote</b> {hostname    ip-address } {filename }</pre>	<p>KDC から SRVTAB ファイルを取得します。</p>

SRVTAB ファイルをルータから KDC にコピーする場合、**kerberos srvtab remote** コマンドでこのファイルの情報を解析し、**kerberos srvtab entry** 形式でルータの実行コンフィギュレーションに保存します。ルータをリブートしたときに SRVTAB が使用できるようにするには (KDC から取得する必要はありません)、**write memory** コンフィギュレーションコマンドを使用し、実行コンフィギュレーション (解析した SRVTAB ファイルを含みます) を NVRAM に書き込みます。

SRVTAB ファイルのコピー例については、「[SRVTAB ファイルのコピー例, on page 2589](#)」を参照してください。

## Kerberos 認証の指定

これまでの操作でルータの Kerberos の設定が完了しました。そのため、ルータは Kerberos を使用して認証できます。次の手順は、認証するようにルータに指示することです。AAA によ



て Kerberos 認証が容易になるため、**aaa authentication** コマンドを入力し、認証方式として Kerberos を指定する必要があります。詳細については、「認証の設定」の章を参照してください。

## 認定証転送の有効化

これまでの手順で Kerberos を設定すると、Kerberos 化ルータに対して認証されているユーザは TGT を持ち、その TGT を使用してネットワーク上のホストに対して認証できます。ただし、ユーザがホストの認証後に認定証のリストを表示しようとする、出力には Kerberos 認定証が表示されません。

Kerberos 化された Telnet、rcp、rsh、および rlogin（適切なフラグ付き）を使用するときに、ルータからネットワーク上の Kerberos 化リモートホストに対して認証する場合、オプションで、ユーザの TGT を転送するようにルータを設定できます。

Kerberos レルムで他のホストに接続するときにユーザーの認定証を転送するように、すべてのクライアントに強制するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# <b>kerberos credentials forward</b>	Kerberos 認証に成功したときに、すべてのクライアントがユーザーの認定証を転送するように強制します。

認定証の転送を有効にすると、ユーザーの TGT は、認証を受ける次のホストへ自動的に転送されます。この方法で、ユーザーは Kerberos レルム内の複数のホストに接続できます。新しい TGT を取得するたびに KINIT プログラムを実行する必要はありません。

## ルータに対する Telnet セッションの開始

ネットワーク内からルータに対して Telnet セッションを開始するユーザを認証するために、Kerberos を使用するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# <b>aaa authentication login</b> {default   list-name} <b>krb5_telnet</b>	Telnet を使用してルータに接続する場合、ログイン認証を設定して Kerberos 5 Telnet 認証プロトコルを使用します。

ルータに対する Telnet セッションは認証されますが、イネーブルモードを開始するには、ユーザがクリア テキスト パスワードを入力する必要があります。後述する **kerberos instance map** コマンドを使用すると、事前に定義した特権レベルでルータに対して認証できます。

## 暗号化された Kerberos 対応 Telnet セッションの確立

ユーザーがセキュア Telnet セッションを開始するもう 1 つの方法は、Encrypted Kerberized Telnet を使用することです。Encrypted Kerberized Telnet を使用すると、Telnet セッションを確立する

前に、ユーザーは Kerberos 認定証によって認証されます。Telnet セッションは、64-bit Cipher Feedback (CFB) による 56-bit データ暗号規格 (DES) 暗号を使用して暗号化されます。送受信データは暗号化され、クリア テキストではないため、着信したルータまたはアクセス サーバの整合性は制御しやすくなります。



**Note** この機能を使用できるのは、56-bit 暗号化イメージを持っている場合だけです。56 ビット DES 暗号化は、米国政府の輸出管理規制の対象となります。

ルータからリモートホストに対して、Encrypted Kerberized Telnet セッションを確立するには、EXEC コンフィギュレーション モードで次のコマンドのいずれかを使用します。

コマンド	目的
<pre>Router(config)# <b>connect</b> host [<i>port</i> ] <b>/encrypt kerberos</b></pre> <p>または</p> <pre>Router(config)# <b>telnet</b> host [<i>port</i> ] <b>/encrypt kerberos</b></pre>	暗号化された Telnet セッションを確立します。

ユーザが Cisco ルータからリモートホストに対する Telnet セッションを開始すると、ルータとリモートホストは、Kerberos 認定証を使用してユーザを認証するためにネゴシエートします。この認証に成功すると、ルータとリモートホストは、暗号化を使用するかどうかをネゴシエートします。このネゴシエーションに成功すると、着信および発信トラフィックは、64-bit CFB による 56-bit DES を使用して暗号化されます。

ユーザが、リモートホストから Kerberos 認証用に設定された Cisco ルータに対してダイヤルインすると、Telnet セッションに暗号化を使用するかどうかについて、ホストとルータでネゴシエーションが試行されます。このネゴシエーションに成功すると、ルータは Telnet セッション中のすべての発信データを暗号化します。

暗号化のネゴシエーションに成功しなかった場合、セッションは終了し、ユーザは、暗号化された Telnet セッションの確立に失敗したというメッセージを受信します。

リモートホストから双方向暗号化をイネーブル化する方法については、リモートホストデバイスのマニュアルを参照してください。

暗号化された Kerberos 対応 Telnet を使用してセキュアな Telnet セッションを開始する例については、この章で後述する「[暗号化された Telnet セッションの例, on page 2589](#)」を参照してください。

## 必須の Kerberos 認証の有効化

セキュリティの追加レイヤとして、リモートユーザがルータに対して認証した後に、ユーザは Kerberos 化 Telnet、rlogin、rsh、および rcp だけを使用してネットワーク上の他のサービスに対して認証できます。Kerberos 認証を必須にしていない状態で Kerberos 認証に失敗すると、アプリケーションは、そのネットワークサービスのデフォルト認証方式を使用して、ユーザーの認証を試行します。たとえば、Telnet および rlogin はパスワードの入力を求め、rsh はローカル rhost ファイルを使用して認証を試行します。

Kerberos 認証を必須にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# <b>kerberos clients mandatory</b>	リモート ホストとの間で Kerberos プロトコルをネゴシエートできない場合、Telnet、rlogin、rsh、および rcp を失敗に設定します。

## Kerberos インスタンス マッピングの有効化

「[KDCでのSRVTABの作成, on page 2581](#)」で説明したように、KDC データベースにユーザの管理インスタンスを作成することができます。kerberos instance map コマンドを使用すると、その管理インスタンスを Cisco IOS XE 特権レベルにマッピングできます。それによって、事前定義した特権レベルで、ユーザーはルータに対するセキュア Telnet セッションを開くことができます。イネーブルモードを開始するためにクリアテキストのパスワードを入力する必要はありません。

Kerberos インスタンスを Cisco IOS XE 特権レベルにマッピングするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# <b>kerberos instance map</b> instance privilege-level	Kerberos インスタンスを Cisco IOS XE 特権レベルにマッピングします。

KDC データベースにユーザ *loki* (たとえば、*loki/admin*) の Kerberos インスタンスがある場合、ユーザ *loki* は、*loki/admin* としてルータに対して Telnet セッションを開始し、特権レベル 15 で自動的に認証します。インスタンス「admin」は特権レベル 15 にマッピングされるという前提です。(ルータに対する [Telnet セッションの開始, on page 2585](#)を参照してください。)

Cisco IOS XE コマンドは、**privilege level** コマンドを使用して、さまざまな権限レベルに設定できます。

Kerberos インスタンスを Cisco IOS XE 権限レベルにマッピングした後、ユーザーがログインするたびに Kerberos インスタンスをチェックするようにルータを設定する必要があります。マッピングされた Kerberos インスタンスに基づいて、ユーザーに EXEC シェルの実行を許可するかどうかを決定するための承認を実行するには、**krb5-instance** キーワードを指定して **aaa**

**authorization** コマンドを使用します。詳細については、「認可の設定」の章を参照してください。

## Kerberos の監視とメンテナンス

現在のユーザの認定証を表示または削除するには、EXEC モードで次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router# **show kerberos creds**
2. Router# **clear kerberos creds**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router# <b>show kerberos creds</b>	現在のユーザの認定証キャッシュに含まれる認定証を一覧表示します。
ステップ 2	Router# <b>clear kerberos creds</b>	転送済みの認定証を含め、現在のユーザの認定証キャッシュに含まれるすべての認定証を破棄します。

## Kerberos 設定の例

### Kerberos レルムの定義例

デフォルトの Kerberos レルムとして CISCO.COM を定義するには、次のコマンドを使用します。

```
kerberos local-realm CISCO.COM
```

CISCO.COM KDC が、ホスト 10.2.3.4 でポート番号 170 を使用して実行されていることをルータに示すには、次の Kerberos コマンドを使用します。

```
kerberos server CISCO.COM 10.2.3.4 170
```

DNS ドメイン `cisco.com` を Kerberos レルム `CISCO.COM` にマッピングするには、次のコマンドを使用します。

```
kerberos realm.cisco.com CISCO.COM
```

## SRVTAB ファイルのコピー例

host123.cisco.com というホスト上の SRVTAB ファイルを、router1.cisco.com というルータにコピーするには、次のようなコマンドを使用します。

```
kerberos srvtab remote host123.cisco.com router1.cisco.com-new-srvtab
Valid Starting           Expires           Service Principal
13-May-1996 14:59:44    13-May-1996 23:00:45    krbtgt/CISCO.COM@CISCO.COM
chet-2500# show privilege
Current privilege level is 15
chet-2500# q
Connection closed by foreign host.
chet-ss20% telnet chet-2500
Trying 172.16.0.0 ...
Connected to chet-2500.cisco.com.
Escape character is '^]'.
User Access Verification
Username: chet/restricted
Password:
chet-2500# show kerberos creds
Default Principal: chet/restricted@CISCO.COM
Valid Starting           Expires           Service Principal
13-May-1996 15:00:32    13-May-1996 23:01:33    krbtgt/CISCO.COM@CISCO.COM
chet-2500# show privilege
Current privilege level is 3
chet-2500# q
Connection closed by foreign host.
chet-ss20%
```

## 暗号化された Telnet セッションの例

ルータから「host1」というリモートホストに対して、暗号化された Telnet セッションを確立する例を示します。

```
Router> telnet host1 /encrypt kerberos
```

## その他の参考資料

次の項では、No Service Password-Recovery 機能の関連資料を示します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
パスワードの設定、変更および忘失パスワードの回復	「Configuring Security with Passwords, Privilege Levels and, Login Usernames for CLI Sessions on Networking Devices」機能モジュール
システムイメージのロードと再起動	「Using the Cisco IOS Integrated File System」機能モジュール

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド: コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上の注意事項、および例	『Cisco IOS Security Command Reference』
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能でサポートが追加または変更された RFC はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## Kerberos の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 236: Kerberos の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
暗号化された Kerberos 対応 Telnet	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>Encrypted Kerberized Telnet を使用すると、Telnet セッションを確立する前に、ユーザーは Kerberos 認定証によって認証されます。Telnet セッションは、64-bit Cipher Feedback (CFB) による 56-bit データ暗号規格 (DES) 暗号を使用して暗号化されます。送受信データは暗号化され、クリアテキストではないため、着信したルータまたはアクセスサーバの整合性は制御しやすくなります。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>connect</b> および <b>telnet</b>。</p>
Kerberos V クライアントのサポート	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>Kerberos 5 のサポートでは、Kerberos 5 をすでに配置している組織は、ルータ上で、他のネットワーク ホスト (UNIX サーバや PC など) ですでに使用している同じ Kerberos 認定データベースを使用できます。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.1 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。</p>





## CHAPTER 174

# 合法的傍受アーキテクチャ

合法的傍受 (LI) 機能は、法執行機関 (LEA) の要件を満たす際にサービスプロバイダーをサポートし、管轄または行政命令によって承認されている電子サーベイランスを提供します。サーベイランスは、エッジルータを通過する Voice over Internet Protocol (VoIP) またはデータトラフィックを傍受するため、盗聴を利用して実行されます。LEA は、ターゲットのサービスプロバイダーに盗聴を要求します。サービスプロバイダーには、IP セッションを使用してその個人が送受信するデータ通信を傍受する責任があります。

このマニュアルでは、Cisco Service Independent Intercept アーキテクチャと PacketCable Lawful Intercept アーキテクチャを含む、LI アーキテクチャについて説明します。また、LI 機能の構成要素と、システムで LI 機能を設定するための手順についても説明します。

Cisco IOS XE リリース 2.5 以前は、PPP セッションはアカウントセッションに基づいてタップされました。回線 ID ベースのタッピングは、Cisco IOS XE リリース 2.5 で導入されました。

Cisco IOS XE リリース 2.6 では、ユーザセッションはイーサネット (PPPoE) 回線 ID タグを介する独自の PPP に基づいてタップされます。この回線 ID タグは、デバイスの PPPoE ユーザセッションの固有のパラメータとして機能します。タップされたユーザセッションは SNMP を使ってプロビジョニングされ、ユーザセッションのデータ パケットおよび RADIUS 認証のデータ パケットはタップされます。

- [合法的傍受の前提条件, on page 2594](#)
- [合法的傍受の制約事項, on page 2594](#)
- [合法的傍受に関する情報, on page 2595](#)
- [合法的傍受の設定方法, on page 2602](#)
- [合法的傍受の設定例, on page 2612](#)
- [その他の参考資料, on page 2613](#)
- [合法的傍受に関する機能情報, on page 2615](#)

## 合法的傍受の前提条件

Cisco LI MIB ビューへのアクセスは、メディエーションデバイスと、ルータ上の合法的傍受について知っておく必要があるシステム管理者に制限されます。MIB にアクセスするには、ルータ上でレベル 15 のアクセス権がユーザに必要です。

### メディエーションデバイスとの通信

ルータがメディエーションデバイスと通信して合法的傍受を実行するには、次の構成要件が満たされている必要があります。

- ルータとメディエーションデバイスの両方のドメイン名が、ドメイン ネーム システム (DNS) に登録されている必要があります。

DNS で、ルータの IP アドレスは、通常はルータ上の FastEthernet0/0/0 インターフェイスのアドレスです。

- メディエーション デバイスに Access Function (AF) および Access Function Provisioning Interface (AFPI) が必要です。
- メディエーション デバイスを、CISCO-TAP2-MIB ビューにアクセスできるシンプル ネットワーク管理プロトコル (SNMP) ユーザグループに追加する必要があります。グループに追加するユーザとして、メディエーション デバイスのユーザ名を指定します。

メディエーション デバイスを CISCO-TAP2-MIB ユーザとして追加するときに、必要に応じてメディエーション デバイスの認可パスワードを指定できます。パスワードの長さは、最低 8 文字である必要があります。

## 合法的傍受の制約事項

### 一般的な制約事項

ルータで LI を設定するためのコマンドライン インターフェイス (CLI) はありません。すべてのエラー メッセージは、メディエーション デバイスに SNMP 通知として送信されます。すべての傍受は、SNMPv3 だけを使用してプロビジョニングされます。

合法的傍受では SUP HA がサポートされません。SUP スイッチオーバーの後に LI 設定を再適用する必要があります。このイベント用に SNMP トラップが生成されます。

### 合法的傍受 MIB

合法的傍受について知る必要があるメディエーション デバイスとユーザだけに LI MIB へのアクセスが許可されます。

Cisco LI MIB は、その機密性から、LI 機能をサポートしているソフトウェア イメージだけで使用できます。これらの MIB には、Network Management Software MIBs Support ページ (<http://www.cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml>) からはアクセスできません。

### SNMP 通知

LI の SNMP 通知は、メディアエーションデバイス上のユーザ データグラム プロトコル (UDP) ポート 161 に送信する必要があります。ポート 162 (SNMP のデフォルト) ではありません。

## 合法的傍受に関する情報

### 合法的傍受の概要

LI は、司法当局 (LEA) が、司法命令または行政命令の許可に従って、電子的監視を行うためのプロセスです。ますます多くの法律が採択され、規制が施行されるのに伴い、サービスプロバイダー (SP) やインターネットサービスプロバイダー (ISP) は、許可された電子監視を明示的にサポートするネットワークを実装する必要性に迫られています。LI の指令に従う必要がある SP または ISP の種類は、国によって大きく異なります。米国での LI への準拠は、Commission on Accreditation for Law Enforcement Agencies (CALEA) で規定されています。

シスコでは、LI に対し、PacketCable と Service Independent Intercept の 2 つのアーキテクチャをサポートしています。LI コンポーネントだけでは、該当する規制に準拠できません。LI コンポーネントは、SP および ISP が、LI 準拠のネットワークを構築するために使用可能なツールを提供します。

### Cisco Service Independent Intercept アーキテクチャ

『Cisco Service Independent Intercept Architecture Version 3.0』では、Cisco BTS 10200 Softswitch コールエージェントバージョン 5.0 を非 PacketCable ネットワークで使用した、VoIP ネットワーク向けの LI の実装について説明しています。Packet Cable Event Message 仕様バージョン 1.5-I01 は、コール識別情報と、コールの内容に対する Cisco Tap MIB バージョン 2.0 を提供するために使用されます。

『Cisco Service Independent Intercept Architecture Version 2.0』では、Cisco BTS 10200 Softswitch コールエージェントバージョン 4.4 および 4.5 を非 PacketCable ネットワークで使用した、VoIP ネットワーク向けの LI の実装について説明しています。PacketCable ネットワークではありませんが、PacketCable Event Messages Specification バージョン I08 は、コール識別情報と、コール内容に対する Cisco Tap MIB のバージョン 1.0 またはバージョン 2.0 を提供するために引き続き使用されています。『Cisco Service Independent Intercept Architecture Version 2.0』では、IP アドレスとセッション ID の両方でデータを傍受するための追加機能について説明しています。これは、どちらも Cisco Tap MIB (CISCO-TAP2-MIB) のバージョン 2.0 でサポートされています。

『Cisco Service Independent Intercept Architecture Version 1.0』では、Cisco BTS 10200 Softswitch コールエージェントバージョン 3.5 および 4.1 を非 PacketCable ネットワークで使用した、VoIP

ネットワーク向けの LI の実装について説明しています。PacketCable ネットワークではありませんが、PacketCable Event Message Specification バージョン I03 は、コール識別情報と、コール内容に対する Cisco Tap MIB (CISCO-TAP-MIB) のバージョン 1.0 を提供するために引き続き使用されています。IP アドレスによる単純なデータの傍受についても説明されています。

## PacketCable 合法的傍受アーキテクチャ

『*PacketCable Lawful Intercept Architecture for BTS Version 5.0*』では、PacketCable Event Messages Specification バージョン 1.5-I01 に準拠した PacketCable ネットワークで、Cisco BTS 10200 Softswitch コール エージェント バージョン 5.0 を使用した、VoIP 向けの LI の実装について説明しています。

『*PacketCable Lawful Intercept Architecture for BTS Versions 4.4 and 4.5*』では、Cisco BTS 10200 Softswitch コール エージェント バージョン 4.4 および 4.5 を、PacketCable Event Messages Specification バージョン I08 に準拠した PacketCable ネットワークで使用した、VoIP 向けの LI の実装について説明しています。

『*PacketCable Lawful Intercept Architecture for BTS Versions 3.5 and 4.1*』では、Cisco Broadband Telephony Softswitch (BTS) 10200 Softswitch コール エージェント バージョン 3.5 および 4.1 を、PacketCable Event Message Specification バージョン I03 に準拠した PacketCable ネットワークで使用した、Voice over IP (VoIP) 向けの LI の実装について説明しています。

『*PacketCable Control Point Discovery Interface Specification*』では、指定された IP アドレスのコントロールポイントを発見するために使用可能な IP ベースのプロトコルが定義されています。コントロールポイントとは、Quality of Service (QoS) 操作、LI コンテンツ タッピング操作、その他の操作を実行可能な場所です。

## CISCO ASR 1000 シリーズ ルータ

Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータは、通常および広帯域（加入者ごと）の 2 種類の LI をサポートしています。広帯域の盗聴は、アクセス サブインターフェイス およびトンネルインターフェイス上で実行します。通常の盗聴は、アクセスサブインターフェイス、トンネルインターフェイス、および物理インターフェイス上で実行します。内部インターフェイス上では盗聴は不要であり、実行されません。ルータは、ターゲットトラフィックが使用しているインターフェイスに基づいて、実行する盗聴の種類を決定します。

Cisco ASR 1000 シリーズルータ上の LI は、次の 1 つ以上のフィールドの組み合わせに基づいてトラフィックを傍受できます。

- 宛先 IP アドレスとマスク (IPv4 または IPv6 アドレス)
- 宛先ポートまたは宛先ポートの範囲
- 送信元 IP アドレスとマスク (IPv4 または IPv6 アドレス)
- 送信元ポートまたは送信元ポート範囲
- プロトコル ID

- Type of Service (TOS)
- ルータ内で *vrf-tableid* 値に変換される Virtual Routing and Forwarding (VRF) 名
- 加入者 (ユーザ) 接続 ID

Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ上の LI の実装は、SNMP3 を使用してプロビジョニングされ、次の機能がサポートされています。

- RADIUS セッションは傍受し、次のいずれかの方法で実行できます。
  - アクセス許可パケットを介した傍受では、セッションの開始時に傍受が開始されるようにできます。
  - CoA 要求パケットによる傍受では、ルータがセッション中に傍受を開始または停止することができます。
- 通信内容の傍受。ルータは、傍受した各パケットを複製し、パケットのコピーをUDPヘッダーでカプセル化されたパケットに (設定された CCCid とともに) 格納します。ルータは、カプセル化したパケットを LI メディエーション デバイスに送信します。複数の合法的傍受が同じデータフローに対して設定されている場合でも、パケットの1つのコピーだけメディエーション デバイスに送信されます。必要に応じて、メディエーション デバイスは各 LEA に対しパケットを複製できます。
- IPv4、IPv4 マルチキャスト、IPv6、および IPv6 マルチキャストフローの傍受。

## VRF 対応 LI

VRF 対応 LI は、特定のバーチャルプライベート ネットワーク (VPN) での IPv4 データの LI 盗聴をプロビジョニングする機能です。この機能により、LEA は、その VPN 内のターゲット データを合法的に傍受できます。VRF ベースの LI タップを受けるのは、その VPN 内の IPv4 データのみです。

VRF 対応の LI は、次の種類のトラフィックに対して使用できます。

- ip2ip
- ip2tag (IP から MPLS)
- tag2ip (MPLS から IP)

VPN ベースの IPv4 タップをプロビジョニングするために、LI 管理機能 (メディエーション デバイスで動作します) は、CISCO-IP-TAP-MIB を使用して、ターゲットの VPN が使用している VRF テーブルの名前を特定します。VRF 名は、タップを実行するために LI をイネーブルにする VPN インターフェイスを選択するのに使用します。

ルータは、傍受するトラフィックと、傍受したパケットを送信するメディエーション デバイスを、VRF 名 (および送信元および宛先アドレス、送信元および宛先ポート、およびプロトコル) に基づいて決定します。



**Note** Cisco-IP-TAP-MIB を使用する場合、VRF 名がストリーム エントリで指定されていない場合、デフォルトでグローバル IP ルーティング テーブルが使用されます。

## 合法的傍受 MIB

Cisco LI MIB は、その機密性から、LI 機能をサポートしているソフトウェア イメージだけで使用できます。これらの MIB には、Network Management Software MIBs Support ページ (<http://www.cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml>) からはアクセスできません。

### 合法的傍受 MIB へのアクセスの制限

合法的傍受について知る必要があるメディエーション デバイスとユーザだけに LI MIB へのアクセスを許可する必要があります。これらの MIB へのアクセスを制限するには、次の作業を実行する必要があります。

1. Cisco LI MIB を含むビューを作成します。
2. このビューへの読み取りおよび書き込みアクセス権を持つ SNMP ユーザ グループを作成します。このユーザ グループに割り当てられたユーザだけが、MIB の情報にアクセスできます。
3. ユーザをシスコ LI ユーザ グループに追加し、合法的傍受に関連する MIB および情報にアクセスできるユーザを定義します。このグループのユーザとして、メディエーション デバイスを追加してください。追加しないと、ルータで合法的傍受を実行できません。

詳細は、「合法的傍受 MIB の制限付き SNMP ビューの作成」を参照してください。



**Note** Cisco LI MIB ビューへのアクセスは、メディエーション デバイスと、ルータ上の合法的傍受について知っておく必要があるシステム管理者に制限されます。MIB にアクセスするには、ルータ上でレベル 15 のアクセス権がユーザに必要です。

## RADIUS ベースの合法的傍受

RADIUS ベースの合法的傍受ソリューションを使用すると、傍受要求は RADIUS サーバからネットワーク アクセス サーバ (NAS) またはレイヤ 2 トンネル プロトコル アクセス コンセントレータ (LAC) に (アクセス許可パケットまたは認可変更 (CoA) 要求パケットを介して) 送信されるようになります。PPP または L2TP セッションとやり取りされるすべてのトラフィック データは、仲介デバイスに渡されます。RADIUS ベースの合法的傍受のもう 1 つの利点は、ソリューションの同期です。すべてのターゲットトラフィックを傍受するように、タップはアクセス許可パケットで設定されます。

傍受要求は、SNMPv3 メッセージによって仲介デバイスで開始されるため、特定の IP アドレスから送受信されるすべてのトラフィック データは仲介デバイスに渡されます。IP アドレスに基づいた傍受は、IP アドレスがセッションに割り当てられるまでセッションがタップされるのを防ぎます。

RADIUS ベースの合法的傍受機能は、次のモードの合法的傍受にハイアベイラビリティ (HA) サポートを提供します。

- 新しいセッションのアクセス許可ベースの LI
- 既存のセッションの CoA ベースの LI

RADIUS ベースの LIHA は、RADIUS ベースのプロビジョニングのみをサポートします。SNMP ベースのプロビジョニングはサポートされません。

## 傍受の動作

### 傍受要求がアクセス許可パケット内で動作するしくみ

傍受ターゲットが接続の確立を開始するとき、アクセス要求パケットは RADIUS サーバに送信されます。RADIUS サーバは、4 つの RADIUS 属性を含むアクセス許可パケットで応答します。

NAS または LAC は値 1 の LI-Action 属性を受け取り、新しいセッションの開始時に NAS または LAC でトラフィック データを複製できるようにします。また、属性、MD IP アドレス、および MD ポート番号を通して指定された仲介デバイスに複製されたデータを転送できるようにします。



**Note** NAS または LAC が新しいセッションのトラフィック データの傍受を開始することができなければ、セッションは確立されません。

アカウントिंगが (`aaa accounting network` コマンドおよび `aaa accounting send stop-record authentication failure` コマンドを介して) イネーブル化されると、アカウントング停止パケットは、Acct-Termination-Cause 属性 (49) が 15 に設定されて送信される必要があります。つまり、サービスは利用できないということです。

### 傍受要求が CoA 要求パケット内で動作するしくみ

セッションが傍受ターゲットに対して確立された後、次のタスクに CoA 要求パケットを使用できます。

- 既存のセッションの傍受の開始。LI-Action の属性は 1 に設定されます。
- 既存のセッションの傍受の停止。LI-Action の属性は 0 に設定されます。
- ダミーの傍受要求の発行。LI-Action の属性は 2 に設定されます。NAS または LAC は、どのセッションの傍受も実行することはできません。代わりに、CoA 要求パケットで指定されている Acct-Session-Id 属性値に基づいてセッションを検索します。セッションが存在す

ると、NASまたはLACはRADIUSサーバへCoAの確認応答（ACK）を送信します。セッションがなければ、NASまたはLACは「セッションが見つかりません」のエラーメッセージを発行します。

各ケースでRADIUSサーバは、特定の属性とAcct-Session-Id属性のCoA要求パケットを送信する必要があります。これらの属性はそれぞれ、パケットである必要があります。

Acct-Session-Id属性は傍受されるセッションを識別します。Acct-Session-Id属性は、アクセス要求パケットまたはアカウンティング停止パケットから取得できます。

セッションがタップされセッションが終了すると、タップが停止します。アクセス許可が開始タップを示すか、CoA要求がセッションを開始するように送信されることを示さない限り、加入者のログが戻るときにセッションは開始されません。



**Note** CoA要求パケットの頻度は、10分ごとに1つの要求のレートを超えることはありません。

## Service Independent Intercept (SII)

シスコでは、サービスプロバイダーカスタマーの合法的傍受のサポート要件に対応するため、Service Independent Intercept (SII) アーキテクチャを開発しました。SII アーキテクチャは、コンテンツの傍受アクセスポイント (IAP) として機能するシスコ機器とメディアエーションデバイス間に、明確に定義されたオープンインターフェイスを提供します。SII アーキテクチャのモジュラ特性により、サービスプロバイダーは、特定のネットワーク要件と警察当局の収集機能へのインターフェイスに対する地域的な標準ベースの要件とを満たす最適なメディアエーションデバイスを選択できます。

メディアエーションデバイスはSNMPv3を使用してコール接続 (CC) IAPを指示し、CCを複製してメディアエーションデバイスにコンテンツを送信します。CC IAPは、エッジルータまたは音声のトランッキングゲートウェイのいずれか、およびエッジルータまたはデータのアクセスサーバのいずれかにできます。

セキュリティを強化し、SNMPv3脆弱性を緩和するには、次のタスクが必要です。

### 信頼できるホストへのアクセス制限（暗号化なし）

SNMPv3は、セキュリティモデルとセキュリティレベルの両方をサポートします。セキュリティモデルは、ユーザおよびユーザに属するグループに合わせて設定される認証方式です。セキュリティレベルとは、セキュリティモデル内で許可されるセキュリティのレベルです。セキュリティモデルとセキュリティレベルの組み合わせによって、SNMPパケットを処理するときに適用されるセキュリティメカニズムが決定されます。

さらに、名前付きアクセスリストのSNMPサポート機能により、いくつかのSNMPコマンドに、標準の名前付きアクセスコントロールリスト (ACL) へのサポートが追加されます。

新しいSNMPグループ、またはSNMPユーザーをSNMPビューにマップするテーブルを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server group** コマンドを使用します。



```
access-list my-list permit ip host 10.10.10.1
snmp-server group my-group v3 auth access my-list
```

この例では、**my-list** という名前のアクセス リストは 10.10.10.1 以降の SNMP トラフィックのみ許可します。次にこのアクセス リストは、**my-group** という名前の SNMP グループに適用されます。

## 合法的傍受をするトラフィックの暗号化および信頼できるホストへのアクセス制限

ルータ（コンテンツインターセプトアクセス ポイント（IAP））と仲介デバイス（MD）間で傍受されたトラフィックを暗号化することを強く推奨します。

次のように設定する必要があります。

- ルータの暗号化および MD の暗号化クライアント、またはトラフィックを複合化するため MD に関連付けられたルータを設定します。
- 信頼できるホストへのアクセスを制限します。
- VPN クライアントを設定します。

### ルータの暗号化の設定

最初に、認証、許可、およびアカウントिंग（AAA）パラメータを設定します。次に、パラメータを設定する例を示します。

```
aaa authentication login userauthen local
username <username> password 0 <password>
```

次の例は、内部データベースを使用しています。ただし、認証を実行するように、外部認証サーバを指定できます。

AAA パラメータを設定した後、Internet Security Association and Key Management Protocol（ISAKMP）ポリシーとクリプト マップを設定します。次の例では、フェーズ 1（Internet Key Exchange（IKE））の暗号化プロトコルとして事前共有キー、Diffie-Hellman（DH）グループ 2 および AES 256 を使用します。クリプト マップはダイナミック マップと呼ばれ、VPN グループは LI グループと呼ばれます。アクセス リスト 108 によって、ルータに許可されるトラフィックが定義されます（この状況で ip プールは 10.1.1.254 を介した 10.1.1.1 です）。

```
crypto isakmp policy 1
encr aes 256
authentication pre-share
group 2
!
crypto isakmp client configuration group LI-group
key <password>
dns 10.10.10.10
wins 10.10.10.20
domain cisco.com
pool ippool
acl 108
!
!
crypto ipsec transform-set myset esp-3des esp-sha-hmac
```

```

!
crypto dynamic-map dynmap 10
set transform-set myset
!
!
crypto map clientmap client authentication list userauthen
crypto map clientmap isakmp authorization list groupauthor
crypto map clientmap client configuration address respond
crypto map clientmap 10 ipsec-isakmp dynamic dynmap
!
!
interface GigabitEthernet0/3
ip address <IP address of LI-enabled router> 255.255.255.0
crypto map clientmap
!
!
ip local pool ippool 10.1.1.1 10.1.1.254
!
!
access-list 108 permit ip 10.1.1.0 0.0.0.255 host 10.0.24.4 <IP address of LI-enabled
router>

```

### 信頼できるホストへのアクセス制限（暗号化あり）

次の例は、VPN クライアントの IP プール（10.1.1.0/24）のみを許可する ACL の作成方法と、SNMPv3 グループへのその ACL の割り当て方法を示しています。

```

access-list my-list permit ip 10.1.1.0 0.0.0.255
snmp-server group my-group v3 auth access my-list

```

### VPN クライアントの設定

See the [Installing the VPN Client](#) document to download and configure the Cisco VPN Client for Solaris. See the [Cisco VPN Client installation instructions](#) document to download and configure the Cisco VPN Client for other operating systems.

## 合法的傍受の設定方法

ルータで合法的傍受をプロビジョニングするための直接のユーザコマンドはありませんが、LI MIB へのアクセスの有効化、SNMP 通知の設定、LI RADIUS セッション機能のイネーブル化など、いくつかの設定作業を実行する必要があります。ここでは、必要なタスクの実行方法について説明します。

### 合法的傍受 MIB の制限付き SNMP ビューの作成

ユーザを作成して、シスコの合法的傍受 MIB を含む SNMP ビューに割り当てるには、ここに示す手順を実行します。

### Before you begin

- コマンドは、レベル 15 のアクセス権で、グローバル コンフィギュレーション モードで実行する必要があります。
- デバイスで SNMPv3 が設定されている必要があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa intercept**
4. **snmp-server view** *view-name MIB-name* **included**
5. **snmp-server view** *view-name MIB-name* **included**
6. **snmp-server view** *view-name MIB-name* **included**
7. **snmp-server group** *group-name* **v3 noauth read** *view-name* **write** *view-name*
8. **snmp-server user** *user-name group-name* **v3 auth md5** *auth-password*
9. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa intercept</b> <b>Example:</b>  Device(config)# aaa intercept	デバイスで合法的傍受をイネーブルにします。  • このコマンドが削除されたときに許可のないユーザが傍受を停止できないように、このコマンドを高い管理セキュリティに関連付けます。  <b>Note</b> <b>aaa intercept</b> コマンドは、IP セッションを使用した盗聴の設定に必要です。
ステップ 4	<b>snmp-server view</b> <i>view-name MIB-name</i> <b>included</b> <b>Example:</b>  Device(config)# snmp-server view exampleView ciscoTap2MIB included	CISCO-TAP2-MIB を含む SNMP ビューを作成します (ここで、 <i>exampleView</i> は、MIB に対して作成するビューの名前です)。

## 次の作業

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>この MIB は、通常とブロードバンドの両方の合法的傍受に必要です。</li> </ul>
ステップ 5	<b>snmp-server view</b> <i>view-name MIB-name</i> <b>included</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# snmp-server view exampleView ciscoIpTapMIB included</pre>	CISCO-IP-TAP-MIB を SNMP ビューに追加します。
ステップ 6	<b>snmp-server view</b> <i>view-name MIB-name</i> <b>included</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# snmp-server view exampleView cisco802TapMIB included</pre>	CISCO-802-TAP-MIB を SNMP ビューに追加します。
ステップ 7	<b>snmp-server group</b> <i>group-name v3 noauth read view-name write view-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# snmp-server group exampleGroup v3 noauth read exampleView write exampleView</pre>	L1MIB ビューにアクセス可能な SNMP ユーザグループを作成し、グループのビューに対するアクセス権を定義します。
ステップ 8	<b>snmp-server user</b> <i>user-name group-name v3 auth md5 auth-password</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# snmp-server user exampleUser exampleGroup v3 auth md5 examplePassword</pre>	指定したユーザグループにユーザを追加します。
ステップ 9	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# end</pre>	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 次の作業

これで、メディアエーション デバイスは合法的傍受 MIB にアクセスし、SNMP の **set** および **get** 要求を発行して、ルータ上で合法的傍受を設定および実行できるようになります。ルータがメディアエーション デバイスに SNMP 通知を送信するよう設定する方法については、「合法的傍受のための SNMP 通知のイネーブル化」を参照してください。

## 合法的傍受のための SNMP 通知のイネーブル化

SNMP は、合法的傍受イベントについての通知を自動的に生成します。合法的傍受通知をメディアエーション デバイスに送信するようにルータを設定するには、ここに示す手順を実行します。

**Before you begin**

- コマンドは、レベル 15 のアクセス権で、グローバル コンフィギュレーション モードで実行する必要があります。
- ルータで SNMPv3 が設定されている必要があります。

**SUMMARY STEPS**

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **snmp-server host ip-address community-string udp-port port notification-type**
4. **snmp-server enable traps snmp authentication linkup linkdown coldstart warmstart and snmp-server enable traps rf**
5. **end**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>snmp-server host ip-address community-string udp-port port notification-type</b> <b>Example:</b>  Device(config)# snmp-server 10.2.2.1 community-string udp-port 161 udp	メディアエーション デバイスの IP アドレスと、通知要求とともに送信されるパスワードに似たコミュニティ スtring を指定します。  • 合法的傍受では、 <b>udp-port</b> は 162（SNMP のデフォルト）ではなく 161 とする必要があります。
ステップ 4	<b>snmp-server enable traps snmp authentication linkup linkdown coldstart warmstart and snmp-server enable traps rf</b> <b>Example:</b>  Device(config)# snmp-server enable traps snmp authentication linkup linkdown coldstart warmstart Device(config)# snmp-server enable traps rf	RFC 1157 通知をメディアエーション デバイスに送信するようにルータを設定します。  これらの通知は、認証の失敗、リンク ステータス（アップまたはダウン）、およびルータ再起動を示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## SNMP 通知のディセーブル

ルータ上で SNMP 通知をディセーブルにするには、ここに示す手順を実行します。



**Note** 合法的傍受通知をディセーブルにするには、SNMPv3 を使用して CISCO-TAP2-MIB オブジェクト `cTap2MediationNotificationEnable` を `false(2)` に設定します。SNMPv3 を通じて合法的傍受の通知を再度イネーブルにするには、オブジェクトに `true (1)` を再設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **no snmp-server enable traps**
4. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no snmp-server enable traps</b> <b>Example:</b> Device(config)# no snmp-server enable traps	システムで使用可能なすべての SNMP 通知タイプをディセーブルにします。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b>	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# end	

## RADIUS セッション傍受のイネーブル化

メディアエーションデバイスまたはタップをプロビジョニングするために使用可能なユーザ CLI コマンドはありません。しかし、CISCO-TAP-MIB を通じて傍受をイネーブルにするには、account-session-id 値をメディアエーションデバイスが使用できるようにシステムを設定する必要があります。ルータで RADIUS セッション傍受をイネーブルにするには、ここに示す手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa intercept**
4. **aaa authentication ppp default group radius**
5. **aaa accounting delay-start all**
6. **aaa accounting send stop-record authentication failure**
7. **aaa accounting network default start-stop group radius**
8. **radius-server attribute 44 include-in-access-req**
9. **radius-server host host-name**
10. **aaa server radius dynamic-author**
11. **client ip-address**
12. **domain {delimiter character| stripping [right-to-left]}**
13. **server-key word**
14. **port port-number**
15. **exit**
16. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>aaa intercept</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# aaa intercept</pre>	ルータで合法的傍受をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドが削除されたときに許可のないユーザが傍受を停止できないように、このコマンドを高い管理セキュリティに関連付けます。</li> </ul>
ステップ 4	<b>aaa authentication ppp default group radius</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# aaa authentication ppp default group radius</pre>	ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実行中のシリアルインターフェイス上で使用する認証方式を指定します。 <b>Note</b> このコマンドが必要なのは、タップ情報が RADIUS サーバにしかないためです。ローカルに設定した情報で認証できますが、ローカルに設定した情報ではタップを指定できません。
ステップ 5	<b>aaa accounting delay-start all</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# aaa accounting delay-start all</pre>	アカウンティング開始レコードの生成を、ユーザの IP アドレスが確立されるまで遅らせます。 <b>all</b> キーワードを指定することにより、遅延がすべての VRF ユーザーおよび非 VRF ユーザーに適用されます。 <b>Note</b> このコマンドは、メディアエーションデバイスがターゲットに割り当てられた IP アドレスを参照できるようにするために必要です。
ステップ 6	<b>aaa accounting send stop-record authentication failure</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# aaa accounting send stop-record authentication failure</pre>	(任意) ログイン時またはセッションのネゴシエーション中に認証に失敗したユーザに対するアカウンティング停止レコードを生成します。 <b>Note</b> 合法的傍受の動作 1 でタップが開始されない場合、停止レコードの Acct-Termination-Cause (属性 49) に 15 (サービス使用不能) が設定されます。
ステップ 7	<b>aaa accounting network default start-stop group radius</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# aaa accounting network default start-stop group radius</pre>	(任意) すべてのネットワーク関連のサービス要求に対するアカウンティングをイネーブルにします。 <b>Note</b> このコマンドは、タップが開始されなかった理由を特定するためだけに必要です。
ステップ 8	<b>radius-server attribute 44 include-in-access-req</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# radius-server attribute 44 include-in-access-req</pre>	(任意) ユーザ認証前のアクセス要求パケット (事前認証の要求を含む) 中で、RADIUS 属性 44 (アカウンティングセッション ID) を送信します。



	Command or Action	Purpose
		<p><b>Note</b> このコマンドは、Access-Request パケットから属性 44 を取得するために入力します。そうしない場合、属性44の値を特定するには、アカウントング パケットが受信されるのを待つ必要があります。</p>
ステップ 9	<p><b>radius-server host</b> <i>host-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# radius-server host host1</pre>	(任意) RADIUS サーバホストを指定します。
ステップ 10	<p><b>aaa server radius dynamic-author</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config)# aaa server radius dynamic-author</pre>	<p>デバイスを認証、許可、アカウントング (AAA) サーバとして設定して外部ポリシー サーバとの通信を容易にし、ダイナミック認可ローカルサーバコンフィギュレーションモードを開始します。</p> <p><b>Note</b> セッションの開始時に常にタップが開始される場合、このコマンドはオプションです。CoA-Requests を使用して既存のセッションでタップを開始および停止する場合は、このコマンドは必須です。</p>
ステップ 11	<p><b>client</b> <i>ip-address</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-locsvr-da-radius)# client 10.0.0.2</pre>	(任意) デバイスが CoA-Request パケットを受け付ける RADIUS クライアントを指定します。
ステップ 12	<p><b>domain</b> {<b>delimiter</b> <i>character</i>  <b>stripping</b> [<b>right-to-left</b>]}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-locsvr-da-radius)# domain stripping right-to-left</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-locsvr-da-radius)# domain delimiter @</pre>	<p>(任意) RADIUS アプリケーションについてユーザ名のドメイン オプションを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>delimiter</b> キーワードで、ドメインデリミタを指定します。次のいずれかのオプションを文字引数に指定できます: @、/、\$、%、\、#または -</li> <li>• <b>stripping</b> キーワードは、着信のユーザー名と、@ ドメインデリミタの左側にある名前を比較します。</li> <li>• The <b>right-to-left</b> キーワードは、右から左方向に見て最初のデリミタで文字列を終了します。</li> </ul>
ステップ 13	<p><b>server-key</b> <i>word</i></p> <p><b>Example:</b></p>	(任意) デバイスと RADIUS クライアントの間で共有する RADIUS キーを設定します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config-locsvr-da-radius)# server-key samplekey	
ステップ 14	<b>port</b> <i>port-number</i> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# port 1600	(任意) デバイスが CoA-Request パケットを受け付ける RADIUS クライアントを指定します。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-locsvr-da-radius)# exit	ダイナミック認可ローカル サーバー コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 16	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	現在のコンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 回線 ID ベースのタッピングの設定

ルータのユーザセッションのデータパケットと RADIUS 認証のデータパケットの回線 ID ベースのタッピングを設定するには、このセクションの手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **subscriber access pppoe unique-key circuit-id**
4. **end**
5. **show pppoe session all**
6. **show idmgr session key circuit-id** *circuit-id*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 3	<b>subscriber access pppoe unique-key circuit-id</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)#subscriber access pppoe unique-key circuit-id</pre>	PPPoE のユーザセッションの一意の回線 ID タグがルータでタップされるように指定します。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# end</pre>	現在のコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>show pppoe session all</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show pppoe session all</pre>	次の手順でユーザセッションの検証に使用される、PPPoE セッションの回線 ID タグを表示します。
ステップ 6	<b>show idmgr session key circuit-id circuit-id</b> <b>Example:</b> <pre>Device# show idmgr session key circuit-id Ethernet4/0.100:PPPoE-Tag-1</pre> <b>Example:</b> <pre>session-handle = AA000007</pre> <b>Example:</b> <pre>aaa-unique-id = 0000000E</pre> <b>Example:</b> <pre>circuit-id-tag = Ethernet4/0.100:PPPoE-Tag-1</pre> <b>Example:</b> <pre>interface = nas-port:0.0.0.0:0/1/1/100</pre> <b>Example:</b> <pre>authen-status = authen</pre> <b>Example:</b> <pre>username = user1@cisco.com</pre> <b>Example:</b>	一意の回線 ID タグを指定して、ID Manager (IDMGR) データベースのユーザセッション情報を確認します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>addr = 106.1.1.3</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>session-guid = 650101020000000E</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>The session hdl AA000007 in the record is valid</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>The session hdl AA000007 in the record is valid</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>No service record found</pre>	

## 合法的傍受の設定例

### 例：メディエーションデバイスアクセスの合法的傍受 MIB の有効化

次に、メディエーションデバイスが合法的傍受 MIB にアクセスできるようにする例を示します。この例では、4つのLMIB（CISCO-TAP2-MIB、CISCO-IP-TAP-MIB、CISCO-802-TAP-MIB、CISCO-USER-CONNECTION-TAP-MIB）を含む SNMP ビュー（tapV）を作成します。また、tapV ビュー内の MIB に読み込み、書き込み、通知アクセス可能なユーザグループも作成します。

```
aaa intercept
snmp-server view tapV ciscoTap2MIB included
snmp-server view tapV ciscoIpTapMIB included
snmp-server view tapV cisco802TapMIB included
snmp-server view tapV ciscoUserConnectionTapMIB included
snmp-server group tapGrp v3 noauth read tapV write tapV notify tapV
snmp-server user MDuser tapGrp v3 auth md5 MDpasswd
snmp-server engineID local 1234
```

### 例：RADIUS セッションの合法的傍受のイネーブル化

次に、イーサネットの PPP connection over Ethernet（PPPoE）リンクを使用したネットワークアクセスサーバ（NAS）デバイスとして機能するルータ上で、RADIUS ベースの合法的傍受ソリューションを設定する例を示します。

```
aaa new-model
!
aaa intercept
!
```

```

aaa group server radius SG
server 10.0.56.17 auth-port 1645 acct-port 1646
!
aaa authentication login LOGIN group SG
aaa authentication ppp default group SG
aaa authorization network default group SG
aaa accounting send stop-record authentication failure
aaa accounting network default start-stop group SG
!
aaa server radius dynamic-author
client 10.0.56.17 server-key cisco
!
vpdn enable
!
bba-group pppoe PPPoE-TERMINATE
virtual-template 1
!
interface Loopback0
ip address 10.1.1.2 255.255.255.0
!
interface GigabitEthernet4/1/0
description To RADIUS server
ip address 10.0.56.20 255.255.255.0
duplex auto
!
interface GigabitEthernet4/1/2
description To network
ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
duplex auto
!
interface GigabitEthernet5/0/0
description To subscriber
no ip address
!
interface GigabitEthernet5/0/0.10
encapsulation dot1q 10
protocol pppoe group PPPoE-TERMINATE
!
interface Virtual-Template1
ip unnumbered Loopback0
ppp authentication chap
!
radius-server attribute 44 include-in-access-req
radius-server attribute nas-port format d
radius-server host 10.0.56.17 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server key cisco

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>
SNMP サポートの設定	SNMP サポートの設定

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティコマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
PacketCable™ コントロールポイント検出 インターフェイス仕様	『PacketCable™ Control Point Discovery Interface Specification』 (PKT-SP-CPD-I02-061013)

## MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>• CISCO-TAP2-MIB</li> <li>• CISCO-IP-TAP-MIB</li> <li>• CISCO-802-TAP-MIB</li> <li>• CISCO-USER-CONNECTION-TAP-MIB</li> </ul>	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC-2865	『Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)』
RFC-3576	Dynamic Authorization Extensions to Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)
RFC-3924	『Cisco Architecture for Lawful Intercept in IP Networks』

## シスコのテクニカルサポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## 合法的傍受に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 237:** 合法的傍受に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
合法的傍受	Cisco IOS XE Release 2.4 Cisco IOS XE Release 3.15S	合法的傍受 (LI) 機能を利用すると、サービスプロバイダーは、エッジルータを通過する Voice-over-Internet (VoIP) トラフィックまたはデータトラフィックを傍受できる機能を提供するという、司法当局による要求を満たすことができます。  Cisco IOS XE Release 2.4 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。  Cisco IOS XE リリース 3.15S で、Cisco ASR 1000 シリーズアグリゲーションサービスルータのトンネルインターフェイスに合法的傍受機能が導入されました。
VRF 対応の LI (合法的傍受)	Cisco IOS XE Release 2.4	VRF 対応 LI は、特定のバーチャルプライベートネットワーク (VPN) での IPv4 データの LI 盗聴をプロビジョニングする機能です。  Cisco IOS XE Release 2.4 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。
RADIUS ベースの合法的傍受	Cisco IOS XE Release 2.4 Cisco IOS XE Release 3.5S	合法的傍受の実装は SNMP3 を使用してプロビジョニングされ、RADIUS セッションの傍受をサポートします。  Cisco IOS XE Release 2.4 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。  Cisco IOS XE リリース 3.5 では、ハイ アベイラビリティのサポートが RADIUS ベースの合法的傍受用に追加されました。

機能名	リリース	機能情報
合法的傍受の PPP セッションの回線 ID ベースのタッピング	Cisco IOS XE Release 2.5	Cisco IOS XE リリース 2.5 では、PPP セッションの回線 ID ベースのタッピングが導入されました。回線 ID ベースのタッピングは、ユーザセッションがアクティブになった後、タップがプロビジョニングされる場合のみ動作します。このインスタンスでは、ユーザセッションは回線 ID タグで一意に識別されることを前提としています。
合法的傍受の回線 ID ベースのタッピング	Cisco IOS XE Release 2.6	Cisco IOS XE リリース 2.6 では、PPP セッションの回線 ID ベースのタッピングの事前プロビジョニングが導入されました。ユーザセッションがアクティブになる前にタップがプロビジョニングされる場合、タップはユーザセッションがアクティブになればいつでも有効になります。また、対応する RADIUS 認証とアカウントングパケットもタップされます。このインスタンスでは、ユーザセッションは回線 ID タグで一意に識別されることを前提としています。
非合法的傍受 (Non-LI) のイメージ	Cisco IOS XE Release 3.10S	Cisco IOS XE リリース 3.10S では、この機能は Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。  非合法的傍受のイメージは、Cisco IOS XE リリース 3.10S 以降で使用可能で、合法的傍受サブシステムは含まれません。





## 第 175 章

# IPoE セッションの LI サポート

IPoE セッションの LI サポート機能は、RFC 2866 に準拠した IP over Ethernet (IPoE) セッションへのプロビジョニングされた合法的傍受 (LI) のサポートを拡張しています。このドキュメントでは、IPoE 用の RADIUS ベースの合法的傍受を説明します。合法的傍受アーキテクチャとコンポーネントの情報およびコンフィギュレーションタスクと例については、「合法的傍受アーキテクチャ」モジュールを参照してください。

- [IPoE セッションの LI サポートの制約事項 \(2617 ページ\)](#)
- [IPoE セッションの LI サポートに関する追加情報 \(2618 ページ\)](#)
- [IPoE セッションの LI サポートに関する機能情報, on page 2619](#)

## IPoE セッションの LI サポートの制約事項

次の制約事項は IPoE セッションの RADIUS ベースの合法的傍受に適用されます。

- アクセス許可パケットは、LI パラメータが暗号化される時、RADIUS プロキシセッションに対してタップを開始するために使用することはできません。
- **aaa intercept** コマンドは、RADIUS ベースの LI に関連付けられた属性値ペア (AVP) を受け付けるように設定する必要があります。開始、停止、または非動作の認可変更 (CoA) 要求の頻度は、10 分あたり 1 のレートを超えることはありません。
- 異なるユーザから傍受されたトラフィックは、同じ仲介デバイス (MD) に送信されません。各 MD ごとに固有のストリーム ID (8 桁の傍受 ID の最初の 4 桁で構成される) を使用する必要があります。
- RADIUS ベースの LI を使用してキャプチャされた傍受パケットの形式には、L2 ヘッダーが含まれます。これは SNMP ベースの LI の形式とは異なります。
- フロー単位のタップは、RADIUS ベースの LI を介してはサポートされていません。SNMP ベースの LI でサポートされます。

## IPoE セッションの LI サポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』
『Configuring SNMP Support』	SNMP サポートの設定
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
PacketCable™ コントロール ポイント検出 インターフェイス仕様	『PacketCable™ Control Point Discovery Interface Specification』 (PKT-SP-CPD-I02-061013)

### MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>• CISCO-IP-TAP-MIB</li> <li>• CISCO-TAP2-MIB</li> <li>• CISCO-802-TAP-MIB</li> <li>• CISCO-USER-CONNECTION-TAP-MIB</li> </ul>	選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

### RFC

RFC	タイトル
RFC 2866	『RADIUS Accounting』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/support">http://www.cisco.com/support</a>

## IPoE セッションの LI サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 238: IPoE セッションの LI サポートに関する機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPoE セッションの LI サポート	Cisco IOS XE Release 3.10S	RFC 2866 に従って、IPoE セッションへのプロビジョニング LI サポートを拡張します。





## CHAPTER 176

# イメージ検証

イメージ検証機能を使用すると、Cisco IOS XE イメージとプロビジョニングファイルの完全性を自動的に検証できます。そのため、ユーザは、イメージまたはプロビジョニングファイルが偶発的な破壊から保護されていることを確認できます。破壊は、シスコによってファイルが作成される瞬間からユーザに届くまで、輸送中にいつでも起きる可能性があります。

- [イメージ検証の制約事項, on page 2621](#)
- [イメージ検証について, on page 2621](#)
- [イメージ検証の使用方法, on page 2622](#)
- [イメージ検証の設定例, on page 2626](#)
- [その他の参考資料, on page 2627](#)
- [イメージ検証に関する機能情報, on page 2628](#)

## イメージ検証の制約事項

イメージ検証は、任意のファイルに適用され実行されますが、ファイルがイメージファイルまたはプロビジョニングファイルでない場合、イメージ検証は実行されず、「SIGNATURE-4-NOT\_PRESENT」というエラーが表示されます。



**Note** イメージ検証機能は、Cisco IOS XE デバイスに格納されている Cisco IOS XE ソフトウェア イメージまたはプロビジョニングファイルの完全性を確認するためにだけに使用できます。リモートファイルシステム上のイメージや、メモリ内で実行されているイメージの完全性を確認するためには使用できません。

## イメージ検証について



**Note** このドキュメントでは、Cisco IOS XE イメージに関する記述は、プロビジョニングファイルにも適用されます。

## イメージ検証の利点

転送エラーやディスク破壊の結果、偶発的にイメージやプロビジョニングファイルの完全性が破壊される場合に、ルータが自動的に検出できるようになったため、Cisco IOS XE ルータの効率は向上しています。

## イメージ検証の動作

実稼働イメージは、一連の転送を経てルータのメモリにコピーされるため、イメージの完全性が転送のたびに偶発的に破壊される危険があります。Cisco.com からイメージをダウンロードするとき、ユーザはダウンロードしたイメージに対してメッセージダイジェスト 5 (MD5) ハッシュを実行し、Cisco.com で公開されている MD5 ダイジェストが、ユーザのサーバで計算した MD5 ダイジェストと同じであることを確認できます。しかし、MD5 ダイジェストが 128 ビット長であり、検証が手動であることから、多くのユーザは MD5 ダイジェストを実行しません。イメージ検証により、ユーザは、ダウンロードしたすべてのイメージの完全性を自動的に検証できるため、ユーザの操作が大幅に削減されます。

## イメージ検証の使用方法

### イメージの完全性のグローバルな検証

**file verify auto** コマンドを使用すると、イメージの検証がグローバルにイネーブルになります。つまり、コピー (**copy** コマンドを使用) またはリロード (**reload** コマンドを使用) されるすべてのイメージが自動的に検証されます。**copy** コマンドと **reload** コマンドには、イメージの検証をイネーブルにする **/verify** キーワードがありますが、イメージをコピーまたはリロードするたびにキーワードを指定する必要があります。**file verify auto** コマンドを使用すると、デフォルトでイメージの検証がイネーブルになるため、イメージ検証を何度も指定する必要がなくなります。

デフォルトでイメージ検証をイネーブルにし、特定のイメージのコピーまたはリロードで検証をディセーブルにする場合は、**/noverify** キーワードは、**copy** コマンドまたは **reload** コマンドを指定することで、**file verify auto** コマンドを上書きします。

自動的なイメージ検証をイネーブルにするには、ここに示す手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **file verify auto**
4. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>file verify auto</b> <b>Example:</b> Device(config)# file verify auto	自動的なイメージ検証をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。  イメージをコピーまたはリロードする場合は、グローバル コンフィギュレーション モードを終了する必要があります。

## 次の作業

**file verify auto** コマンドを実行した後は、**/verify** キーワードを **copy** または **reload** コマンドで発行する必要はなくなります。これは、コピーまたはリロードされる各イメージが自動的に検証されるためです。

## コピーしようとしているイメージの完全性の検証

**copy** コマンドを実行するとき、**/verify** キーワードを指定することで、コピーされるファイルの完全性を検証できます。完全性の確認に失敗した場合、コピーされたファイルは削除されません。コピーしようとしているファイルにハッシュが埋め込まれていない場合（古いイメージの場合）、コピー処理を続行するかどうかを質問されます。続行を選択すると、ファイルは正常にコピーされ、続行しないことを選択すると、コピーされたファイルが削除されます。

**/verify** キーワードを指定しないと、**copy** コマンドにより有効でないファイルがコピーされる可能性があります。そのため、**copy** コマンドを正常に実行した後、いつでも **verify** コマンドを実行して、ルータのストレージに格納されているファイルの完全性を確認できます。

ルータにコピーする前にイメージの完全性を確認するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **copy** [/erase] [/verify|/noverify] *source-url destination-url*
3. **verify** [/md5 [*md5-value*]] *filesystem: file-url*

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>copy</b> [/erase] [/verify /noverify] <i>source-url destination-url</i> <b>Example:</b> Device# copy /verify tftp://10.1.1.1/cats3k_caa-universalk9.SSA.16.1.0.EFT3-1.bin flash:	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>/verify</b> : コピー先のファイルのシグニチャを検証します。検証に失敗すると、ファイルは削除されます。</li> <li>• <b>/noverify</b> : イメージをコピーする前にコピー先ファイルのシグニチャを検証しません。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>/noverify</b> は、多くの場合、<b>file verify auto</b> コマンドが有効になっており、コピーするすべてのイメージのシグニチャが自動的に検証される場合に使用されます。</p>
ステップ 3	<b>verify</b> [/md5 [ <i>md5-value</i> ]] <i>filesystem: file-url</i> <b>Example:</b> Device# flash: tftp://10.1.1.1/cats3k_caa-universalk9.SSA.16.1.0.EFT3-1.bin flash:	(任意) デバイスのストレージに格納されているイメージの完全性を検証します。

## リロードしようとしているイメージの完全性の検証

**reload** コマンドを **/verify** キーワード付きで実行することにより、システムにロードしようとしているイメージの完全性が確認されます。**/verify** キーワードを指定した場合、システムがリブートを開始する前にイメージの検証が実行されます。そのため、検証に失敗すると、イメージはロードされません。





**Note** プラットフォームが異なれば、ロードするファイルの取得方法も異なるため、BOOTVAR で指定されたファイルが検証されます。ファイルが指定されていない場合、各サブシステム上の最初のファイルが検証されます。プラットフォームによっては、設定レジスタなどの変数があるため、検証されるファイルがロードされるファイルになるとは限りません。

ルータにリロードする前にイメージの完全性を確認するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **reload** **[[warm] [/verify|/noverify] text | [warm] [/verify|/noverify] in [hh : mm [text] | [warm] [/verify|/noverify] at hh : mm [month day | day month] [text] | [warm] [/verify|/noverify] cancel]**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>reload</b> <b>[[warm] [/verify /noverify] text   [warm] [/verify /noverify] in [hh : mm [text]   [warm] [/verify /noverify] at hh : mm [month day   day month] [text]   [warm] [/verify /noverify] cancel]</b> <b>Example:</b> Device# reload /verify	オペレーティング システムをリロードします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>/verify</b> : コピー先のファイルのシグニチャを検証します。検証に失敗すると、ファイルは削除されます。</li> <li>• <b>/noverify</b> : イメージをリロードする前にコピー先ファイルのシグニチャを検証しません。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>/noverify</b> は、多くの場合、<b>file verify auto</b> コマンドが有効になっており、コピーするすべてのイメージのシグニチャが自動的に検証される場合に使用されます。</p>

# イメージ検証の設定例

## グローバルイメージ検証の例

次に、自動的なイメージ検証をイネーブルにする例を示します。このコマンドをイネーブルにした後、コピー（**copy** コマンドを使用）またはリロード（**reload** コマンドを使用）されるすべてのイメージに対し、イメージ検証が自動的に実行されます。

```
Device(config)# file verify auto
```

## copy コマンドを使用したイメージ検証の例

次に、イメージをコピーする前にイメージ検証を指定する例を示します。

```
Device# copy /verify tftp://10.1.1.1/jdoe/c7200-js-mz disk0:
Destination filename [c7200-js-mz]?
Accessing tftp://10.1.1.1/jdoe/c7200-js-mz...
Loading jdoe/c7200-js-mz from 10.1.1.1 (via FastEthernet0/0):!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
[OK - 19879944 bytes]
19879944 bytes copied in 108.632 secs (183003 bytes/sec)
Verifying file integrity of disk0:/c7200-js-mz
.....
.....
.....Done!
Embedded Hash   MD5 :CFA258948C4ECE52085DCF428A426DCD
Computed Hash   MD5 :CFA258948C4ECE52085DCF428A426DCD
CCO Hash        MD5 :44A7B9BDDD9638128C35528466318183
Signature Verified
```

## reload コマンドを使用したイメージ検証の例

次に、デバイスにイメージをリロードする前にイメージ検証を指定する例を示します。

```
Device# reload /verify
Verifying file integrity of bootflash:c7200-kboot-mz.121-8a.E
%ERROR:Signature not found in file bootflash:c7200-kboot-mz.121-8a.E.
Signature not present. Proceed with verify? [confirm]
Verifying file disk0:c7200-js-mz
.....
.....Done!
Embedded Hash   MD5 :CFA258948C4ECE52085DCF428A426DCD
Computed Hash   MD5 :CFA258948C4ECE52085DCF428A426DCD
CCO Hash        MD5 :44A7B9BDDD9638128C35528466318183
Signature Verified
Proceed with reload? [confirm]n
```

## verify コマンドの出力例

次に、**verify** コマンドでイメージ検証を指定する例を示します。

```
Device# verify disk0:c7200-js-mz
%Filesystem does not support verify operations
Verifying file integrity of disk0:c7200-js-mz.....
.....Done!
Embedded Hash      MD5 :CFA258948C4ECE52085DCF428A426DCD
Computed Hash      MD5 :CFA258948C4ECE52085DCF428A426DCD
CCO Hash           MD5 :44A7B9BDDD9638128C35528466318183

Signature Verified
```

## その他の参考資料

ここでは、イメージ検証機能に関する関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
システム イメージのロード、メンテナンス、リブートに関する設定作業と情報	<a href="#">『Cisco ASR 1000 Series Aggregation Services Routers Software Configuration Guide』</a>
システム イメージをロード、メンテナンス、リブートするためのその他のコマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## イメージ検証に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 239: イメージ検証に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
イメージ検証		イメージ検証機能を使用すると、ユーザは Cisco IOS XE イメージの完全性を自動的に検証できます。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>copy</b> 、 <b>file verify auto</b> 、 <b>reload</b> 、 <b>verify</b> 。





## 第 **XVII** 部

# IPsec データ プレーン

- [IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化, on page 2633](#)
- [IPsec VPN の Pre-fragmentation, on page 2649](#)
- [Invalid Security Parameter Index Recovery, on page 2655](#)
- [「IPsec Dead Peer Detection Periodic Message Option」, on page 2671](#)
- [IPsec NAT 透過性, on page 2683](#)
- [IPsec 拡張シーケンス番号, on page 2695](#)
- [IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能, on page 2699](#)
- [IPsec SA アイドルタイマー, on page 2707](#)
- [IPv6 IPsec の QoS \(2715 ページ\)](#)
- [IPv6 仮想トンネルインターフェイス, on page 2725](#)







## CHAPTER 177

# IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化

Cisco IP セキュリティ (IPsec) 認証では、暗号化されたパケットそれぞれに対して固有のシーケンス番号を割り当てることによって、暗号化されたパケットを複製する攻撃者に対するアンチリプレイ保護が提供されます。それらの番号に基づいて、デクリプタが検知したパケットを追跡します。現在、デフォルトのウィンドウ サイズは、64 パケットです。一般的にはこの数字 (ウィンドウ サイズ) で十分ですが、このウィンドウ サイズを拡張する必要がある場合があります。IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張とディセーブル化機能を使用すれば、ウィンドウ サイズを拡張でき、デクリプタによる 64 を超すパケットの追跡が可能となります。

- [IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化の前提条件, on page 2633](#)
- [IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化に関する情報, on page 2634](#)
- [IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化機能の設定方法, on page 2634](#)
- [IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化の設定例, on page 2637](#)
- [QoS のための IPsec アンチリプレイのメカニズム \(2639 ページ\)](#)
- [その他の参考資料, on page 2645](#)
- [IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化の機能情報, on page 2647](#)

## IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化の前提条件

- この機能を設定する前に、クリプトマップまたは暗号プロファイルを作成しておく必要があります。
- IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張とディセーブル化機能を設定するには、次の概念を理解しておく必要があります。 [IPsec アンチリプレイ ウィンドウ, on page 2634](#)

# IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化に関する情報

## IPsec アンチリプレイウィンドウ

Cisco IPsec 認証では、暗号化されたパケットそれぞれに対して固有のシーケンス番号を割り当てることによって、暗号化されたパケットを複製する攻撃者に対するアンチリプレイ保護が提供されます（セキュリティ アソシエーション (SA) アンチリプレイは、受信側がリプレイ攻撃から自身を保護するために、古いパケットまたは重複パケットを拒否できるセキュリティ サービスです）。復号機能によって、以前に認識したシーケンス番号が除外されます。エンクリプタによって、シーケンス番号が昇順で割り当てられます。すでに検出されている最も高いシーケンス番号である値  $X$  はデクリプタによって記録されます。また、デクリプタによって、 $X-N+1 \sim X$  ( $N$  はウィンドウ サイズ) までのシーケンス番号を持つパケットが検出されているかどうかも記録されます。シーケンス番号  $X-N$  を持つすべてのパケットが廃棄されます。現在、 $N$  は 64 に設定されているため、デクリプタによって追跡できるパケットは 64 までです。

ただし、64 パケットウィンドウサイズでは不十分な場合があります。たとえば、Cisco Quality of Service (QoS) によってハイプライオリティパケットにプライオリティが与えられている場合、一部のロープライオリティパケットは、それらがデクリプタに 64 パケットのリプレイウィンドウを超えて到着すると、廃棄されてしまう可能性があります。IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張とディセーブル化機能を使用すれば、ウィンドウサイズを拡張でき、デクリプタによる 64 を超すパケットの追跡が可能となります。

アンチリプレイウィンドウサイズを増やしても、スループットおよびセキュリティに影響はありません。メモリへの影響は限定的です。デクリプタ上にシーケンス番号を保管するために必要となるのは、着信 IPsec SA ごとに追加の 128 バイトだけであるためです。今後アンチリプレイに関する問題が発生しないように、最大のウィンドウサイズである 1024 を使用することを推奨します。

## IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化機能の設定方法

### IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化のグローバル設定

IPsec アンチリプレイウィンドウ：拡張と無効化をグローバルに設定する（その結果、作成されるすべての SA が影響を受けます）には、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec security-association replay window-size [N]**
4. **crypto ipsec security-association replay disable**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec security-association replay window-size [N]</b> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto ipsec security-association replay window-size 256	SA リプレイ ウィンドウのサイズをグローバルに設定します。  <b>Note</b> このコマンドまたは <b>crypto ipsec security-association replay disable</b> コマンドを設定します。この2つのコマンドは、同時に使用できません。
ステップ 4	<b>crypto ipsec security-association replay disable</b> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto ipsec security-association replay disable	検査をグローバルにイネーブルにします。  <b>Note</b> このコマンドまたは <b>crypto ipsec security-association replay window-size</b> コマンドを設定します。この2つのコマンドは、同時に使用できません。

## クリプトマップ上における IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化の設定

暗号マップ上で IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化を、特定の暗号マップまたはプロファイルを使用して作成された SA に影響を与えるように設定するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map** *map-name seq-num* [**ipsec-isakmp**]
4. **set security-association replay window-size** [*N*]
5. **set security-association replay disable**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map</b> <i>map-name seq-num</i> [ <b>ipsec-isakmp</b> ] <b>Example:</b> <pre>Router (config)# crypto map ETH0 17 ipsec-isakmp</pre>	クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始し、動的に作成されるクリプトマップの設定のためのテンプレートを提供する暗号プロファイルを作成します。
ステップ 4	<b>set security-association replay window-size</b> [ <i>N</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router (crypto-map)# set security-association replay window-size 128</pre>	特定のクリプトマップ、ダイナミッククリプトマップ、または暗号プロファイルによって指定されたポリシーを使用して作成される SA を制御します。  <b>Note</b> このコマンドまたは <b>set security-association replay disable</b> コマンドを設定します。この2つのコマンドは、同時に使用できません。
ステップ 5	<b>set security-association replay disable</b> <b>Example:</b> <pre>Router (crypto-map)# set security-association replay disable</pre>	特定のクリプトマップ、ダイナミッククリプトマップ、または暗号プロファイルに対するリプレイ検査をディセーブルにします。  <b>Note</b> このコマンドまたは <b>set security-association replay window-size</b> コマンドを設定します。この2つのコマンドは、同時に使用できません。

## トラブルシューティングのヒント

- 受信されるパケットの数に対して十分高い数字がリプレイ ウィンドウ サイズに設定されていない場合、次のようなシステム メッセージが受信されます。

```
*Nov 17 19:27:32.279: %CRYPTO-4-PKT_REPLAY_ERR: decrypt: replay check failed connection id=1
```

受信されたメッセージが、アンチ リプレイ ウィンドウの範囲を超えていると判断されると、上記メッセージが生成されます。

# IPsec アンチ リプレイ ウィンドウの拡張と無効化の設定例

## アンチ リプレイ ウィンドウのグローバル拡張と無効化：例

次の例は、アンチリプレイ ウィンドウサイズがグローバルに 1024 に設定されていることを示しています。

```
version 2.1
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname VPN-Gateway1
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
!
clock timezone EST 0
no aaa new-model
ip subnet-zero
!
!
ip audit po max-events 100
no ftp-server write-enable
!
!
crypto isakmp policy 10
 authentication pre-share
crypto isakmp key cisco123 address 192.165.201.2 !
crypto ipsec security-association replay window-size 1024 !
crypto ipsec transform-set basic esp-des esp-md5-hmac !
crypto map mymap 10 ipsec-isakmp
 set peer 192.165.201.2
 set transform-set basic
 match address 101
!
!
interface FastEthernet0/0
 ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
!
```

```

interface Serial1/0
  ip address 192.165.200.2 255.255.255.252 serial restart-delay 0 crypto map mymap !
  ip classless
  ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.165.200.1
  no ip http server
  no ip http secure-server
  !
  !
  access-list 101 permit ip 192.168.1.0 0.0.0.255 172.16.2.0 0.0.0.255 access-list 101
  remark Crypto ACL
  !
  !
  control-plane
  !
  !
  line con 0
  line aux 0
  line vty 0 4
  !
  !
end

```

## 暗号マップまたは暗号プロファイルのアンチ リプレイ ウィンドウの拡張および無効化 : 例

次の例では、アンチ リプレイ 検査が、172.17.150.2 への IPsec 接続に関してディセーブルにされているが、172.17.150.3 および 172.17.150.4 への IPsec 接続に関してはイネーブル（および、デフォルトのウィンドウ サイズが 64）にされていることを示しています。

```

service timestamps debug uptime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
!
hostname networkserver1
!
enable secret 5 $1$KxKv$cbqKsZtQTLJLGPn.tErFZ1 enable password ww !
ip subnet-zero
!
cns event-service server
crypto isakmp policy 1
authentication pre-share
crypto isakmp key cisco170 address 172.17.150.2 crypto isakmp key cisco180 address
172.17.150.3 crypto isakmp key cisco190 address 172.17.150.4
crypto ipsec transform-set 170cisco esp-des esp-md5-hmac crypto ipsec transform-set
180cisco esp-des esp-md5-hmac crypto ipsec transform-set 190cisco esp-des esp-md5-hmac
crypto map ETH0 17 ipsec-isakmp
  set peer 172.17.150.2
  set security-association replay disable set transform-set 170cisco match address 170
crypto map ETH0 18 ipsec-isakmp set peer 192.168.1.3 set transform-set 180cisco match
address 180 crypto map ETH0 19 ipsec-isakmp set peer 192.168.1.4 set transform-set
190cisco match address 190 !
interface FastEthernet0
  ip address 172.17.150.1 255.255.255.0
  no ip directed-broadcast
  no ip route-cache
  no ip mroute-cache
  no mop enabled
  crypto map ETH0
  !

```

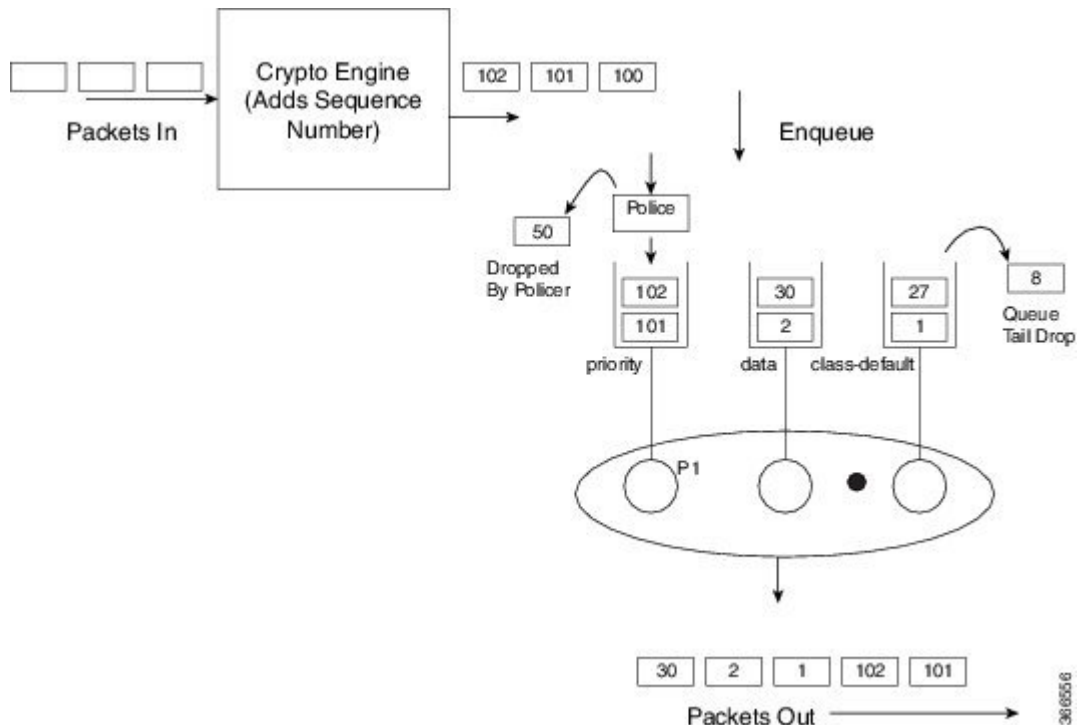
```

interface Serial0
 ip address 172.16.160.1 255.255.255.0
 no ip directed-broadcast
 no ip mroute-cache
 no fair-queue
 !
 ip classless
 ip route 172.18.170.0 255.255.255.0 172.17.150.2 ip route 172.19.180.0 255.255.255.0
 172.17.150.3 ip route 172.20.190.0 255.255.255.0 172.17.150.4 no ip http server !
 access-list 170 permit ip 172.16.160.0 0.0.0.255 172.18.170.0 0.0.0.255 access-list 180
  permit ip 172.16.160.0 0.0.0.255 172.19.180.0 0.0.0.255 access-list 190 permit ip
 172.16.160.0 0.0.0.255 172.20.190.0 0.0.0.255 !
 dialer-list 1 protocol ip permit
 dialer-list 1 protocol ipx permit
 !
 line con 0
 transport input none
 line aux 0
 line vty 0 4
 password ww
 login
 end

```

## QoS のための IPsec アンチリプレイのメカニズム

QoS メカニズム（暗号化デバイスの出力インターフェイスまたはパス内の他のネットワーク要素上）、ロードバランシング メカニズム、またはルーティング/パス選択メカニズム（異なるパスを介して異なるフローを送信する）が使用される IP ネットワークでは、パケットの順序が変更されるのは通常のことです。

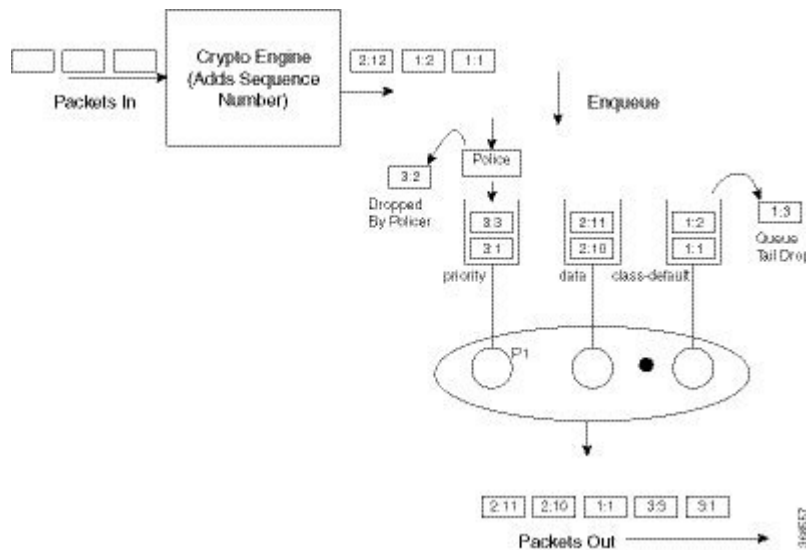


上の図は、QoSがパケットの順序を変更するときに、アンチリプレイ保護システムがどのように問題を引き起こすのかを示しています。暗号化エンジンはシーケンス番号を追加します。これらの番号が追加されると、パケットは、そのパケット内のアプリケーションに応じて出力キューに入れられます。図の例では、シーケンス番号 101 および 102 のパケットがプライオリティキューに入れられるときに、パケットがすでに帯域幅キュー（data および class-default）に存在しています。プライオリティパケットが最初にスケジュールされます。復号デバイスがシーケンス番号 101 のパケットを受信すると、スライディングウィンドウの履歴は 101 に移動します。これは、スライディングウィンドウがシーケンス番号 30 ~ 101 の履歴を作成することを意味します。シーケンス番号 102 を持つ次のパケットが受信されると、スライディングウィンドウの履歴が 39 ~ 102 に変更されます。この時点で、プライオリティキューにパケットがないため、他のキューのいずれかからパケット（たとえば、シーケンス番号 1 のパケット）が取得されます。復号デバイスがシーケンス番号 1 のパケットを受信するのはこれが初めてですが、スライディングウィンドウで履歴が維持されているため、パケットはドロップされません。

暗号化の前に QoS スケジューリングを移動すると、アンチリプレイの問題が解決される可能性があります。ただし、QoS 機能が役に立たなくなります。さらに、スケジューリングは、出力インターフェイス（またはそのインターフェイスのシェイパー）の輻輳によって駆動される必要があります。アンチリプレイウィンドウのサイズを大きくすると、この機能を処理するデバイスのメモリに大きな負荷がかかります。

そのため、セキュリティアソシエーションごとに複数のシーケンス番号スペースを維持するソリューションが導入されました。特定のキュー内のすべてのパケットが同じシーケンス番号スペースからシーケンス番号を受け取るように、番号スペースが出力キューイングスキームに合わせて調整されます。シーケンス番号スペース内のすべてのパケットが同じキューを通過するため、出力 QoS によってそれらのパケットの順序が変更される可能性がなくなります。番号スペース内の順序変更がネットワークの他の場所で発生する可能性は依然としてあります（ただし、可能性は低い）。パケットがシーケンス番号どおりにキューに入れられずにテールドロップされた（順不同で入れられたのではない）場合でも、シーケンス番号は受信側で受信されます。そのため、シーケンス番号スペースごとの履歴ウィンドウは維持されますが、その履歴はかなり短くなります。





この図は、シーケンス番号がセレクタとシーケンス番号の2つの部分で設定されていることを示しています。受信側は、セレクタを使用して、使用する正しい履歴を選択し、シーケンス番号は通常どおりに動作します。



- (注) 複数のシーケンス番号スペース（マルチ SNS）が有効になっている場合、IPsec アンチリプレイ機能は Group Encrypted Transport VPN（GETVPN）をサポートしません。

## IPsec アンチリプレイパケット損失の回避

IPsec アンチリプレイパケット損失の回避の機能により、QoS が IPsec で設定されている場合に、不要な IPsec アンチリプレイパケットのドロップが回避されます。ただし、IPsec アンチリプレイが有効な状態で QoS が使用されている場合、特定の状況下で一部のパケットのドロップが発生する可能性があります。暗号インターフェイスがピアルータに接続されているときにクラスマップが追加または削除されると、マルチ SNS が有効になっている場合、1～2 秒間、アンチリプレイドロップが発生します。トラフィックは数秒後に回復し、その後はドロップが見られません。

アンチリプレイドロップは、次の状況で発生する可能性があります。

- パケットの転送中に、クラスが QoS ポリシーマップから削除されます。このクラスに属するパケットが使い果たされ、着信パケットが、**class-default** キューに入っているすべてのパケットの後にキューイングされます。これにより、シーケンス番号スペースが壊れ、アンチリプレイドロップが発生する可能性があります。キューが空になり、システムはすぐに回復して通常の動作を再開します。
- ESPベースのハイアベイラビリティが設定され、オーバーサブスクライブされたトラフィックがすべてのシーケンス番号スペースを介して送信されるときに、アンチリプレイドロップが発生します。送信側でオーバーサブスクライブされたトラフィックがある場合、トラフィックは QoS ポリシーに基づいてシェーピングされます。その結果、受信側ルータが、

シーケンス番号の順序が正しくないパケットを受信します。これらのドロップは一時的であり、すぐに回復します。

- セキュリティ アソシエーション (SA) のキー再生成中に、ルータが、新旧両方のインバウンドセキュリティ パラメータ インデックス (SPI) を短期間保持します。古い SA は短期間で削除されます。古い SA が削除された後、ルータが古い SPI を持つパケットを受信すると (QoS ポリシーが存在する場合に発生する可能性があります)、無効 SPI エラーによりパケットがドロップされます。

## QoS のための IPsec アンチリプレイの設定

次に、IPsec SA ごとに複数のシーケンス番号スペースを有効にするコマンドを示します。

```
Device(config)#crypto ipsec security-association multi-sn
```



**注意** この機能を設定する前に、既存のすべてのセッションをクリアする必要があります。そうしないと、既存のセッションからのトラフィックがドロップされます。



**注意** この機能は、IPsec 接続の両方のトンネルルータで設定する必要があります。この機能が一方のルータでしか有効になっていない場合、もう一方のルータはパケットをドロップします。

## コマンドの表示

### show platform hardware qfp active feature ipsec datapath crypto-sa

このコマンドにより、QFP の IPsec SA におけるシーケンス番号スペースとシーケンス番号の間のマッピングが表示されます。

```
Device# show platform hardware qfp active feature ipsec datapath crypto-sa 4
Crypto Context Handle: e8b06b60
peer sa handle: 0
anti-replay enabled
esn disabled
Outbound SA
Total SNS: 16
Space                current seq number
-----
0                    0
1                    0
2                    0
3                    0
4                    0
5                    0
6                    0
7                    0
8                    0
9                    0
10                   0
```

```

11                               100
12                               0
13                               0
14                               0
15                               0

```

## show platform hardware qfp active feature ipsec sa

このコマンドは、Cisco QuantumFlow Processor (Cisco QFP) の IPsec SA を表示します。

```

Device# show platform hardware qfp active feature ipsec sa 6
QFP ipsec sa Information

    QFP sa id: 6
    pal sa id: 170
    QFP spd id: 1
    QFP sp id: 2
    QFP spi: 0xa4a5244 (172642884)
    crypto ctx: 0x00000000e8b14a20
    flags: 0x4640068 (Details below)
           : src:IKE valid:Yes soft-life-expired:No hard-life-expired:No
           : replay-check:No proto:ESP mode:Receive-only direction:Egress
           : qos_preclassify:No qos_group:No
           : frag_type:AFTER_ENCRYPT df_bit_type:COPY
           : sar_enable:No getvpn_mode:SNDRCV_SA
           : doing_translation:No assigned_outside_rport:No
           : inline_tagging_enabled:No
    qos_group: 0x0
    mtu: 0x59e=1438
    mtu_adj: 0x588=1416
    sar_delta: 0
    sar_window: 0x0
    sibling_sa: 0x0
    sp_ptr: 0xe8abc000
    sbs_ptr: 0xe8a73878
    local endpoint: 33.0.0.3
    remote endpoint: 33.0.0.4
    cgid.cid.fid.rid: 1.1.1.11141121
    ivrf: 0
    fvrf: 0
    trans udp sport: 0
    trans udp dport: 0
    first intf name: Tunnel0
    nat fixup src port: 0
    nat fixup ip: 0.0.0.0

```

## show platform software ipsec fp active flow

このコマンドは、指定されたフロー ID の fman-fp プロセスの IPsec SA を表示します。

```

Device# show platform software ipsec fp active flow identifier 169
Flow id: 169
    mode: tunnel
    direction: inbound
    protocol: esp
    SPI: 0xbcd8840
    local IP addr: 33.0.0.3
    remote IP addr: 33.0.0.4
    crypto device id: 0
    crypto map id: 1
    SPD id: 1
    QFP SPD id: 1

```

**show crypto ipsec sa <ip> peer**

```

ACE line number: 1
  QFP SA handle: 5
IOS XE interface id: 11
  interface name: Tunnel0
  Crypto SA ctx id: 0x00000000e8b148c0
    cipher: AES-128
    auth: SHA256
initial seq.number: 0
  timeout, mins: 0
  flags: exp time;exp traffic;
Time limits

  soft limit(sec): 3401
  hard limit(sec): 3568
Traffic limits

  soft limit(kb): 3962880
  hard limit(kb): 4608000
  inline_tagging: DISABLED
anti-replay window: 64
SPI Selector:

  remote addr low: 0.0.0.0
  remote addr high: 0.0.0.0
  local addr low: 33.0.0.3
  local addr high: 33.0.0.3
Classifier: range

  src IP addr low: 33.0.0.3
  src IP addr high: 33.0.0.3
  dst IP addr low: 33.0.0.4
  dst IP addr high: 33.0.0.4
  src port low: 0
  src port high: 65535
  dst port low: 0
  dst port high: 65535
  protocol low: 47
  protocol high: 47
----- Statistics

  octets(delta): 0
  total octets(delta): 4718576880
  packets(delta): 0
  dropped packets(delta): 0
  replay drops(delta): 0
  auth packets(delta): 0
  auth fails(delta): 0
  encrypted packets(delta): 0
  encrypt fails(delta): 0
----- End statistics

  object state: active
----- AOM

  cpp aom id: 894
  cgm aom id: 0
  n2 aom id: 891
  if aom id: 0

```

**show crypto ipsec sa <ip> peer**

このコマンドは、指定されたピアの IPsec SA ID を取得し、IOS レイヤから QFP レイヤまでのすべてのレイヤの SA を表示します。

```
Device# polaris-csr#show crypto ipsec sa peer 33.0.0.4 platform

interface: Tunnel0
  Crypto map tag: Tunnel0-head-0, local addr 33.0.0.3

protected vrf: (none)
local ident (addr/mask/prot/port): (33.0.0.3/255.255.255.255/47/0)
remote ident (addr/mask/prot/port): (33.0.0.4/255.255.255.255/47/0)
current_peer 33.0.0.4 port 500
  PERMIT, flags={origin_is_acl,}
#pkts encaps: 190, #pkts encrypt: 190, #pkts digest: 190
#pkts decaps: 190, #pkts decrypt: 190, #pkts verify: 190
#pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
#pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
#pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
#send errors 0, #rcv errors 0

local crypto endpt.: 33.0.0.3, remote crypto endpt.: 33.0.0.4
plaintext mtu 1438, path mtu 1500, ip mtu 1500, ip mtu idb GigabitEthernet2
current outbound spi: 0xA4A5244(172642884)
PFS (Y/N): N, DH group: none

inbound esp sas:
  spi: 0xBCD8840(198019136)
    transform: esp-aes esp-sha256-hmac ,
    in use settings ={Tunnel, }
    conn id: 2169, flow_id: CSR:169, sibling_flags FFFFFFFF80004048, crypto map:
Tunnel0-head-0
  sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4607985/3255)
  IV size: 16 bytes
  replay detection support: Y
  Status: ACTIVE(ACTIVE)

inbound ah sas:

inbound pcp sas:

outbound esp sas:
  spi: 0xA4A5244(172642884)
    transform: esp-aes esp-sha256-hmac ,
    in use settings ={Tunnel, }
    conn id: 2170, flow_id: CSR:170, sibling_flags FFFFFFFF80004048, crypto map:
Tunnel0-head-0
  sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4607989/3255)
  IV size: 16 bytes
  replay detection support: Y
  Status: ACTIVE(ACTIVE)

outbound ah sas:

outbound pcp sas:
```

## その他の参考資料

次の項では、IPsec アンチ リプレイ ウィンドウの拡張無効化の関連資料を示します。

## 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス』
IP セキュリティ および 暗号化	IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## IPsec アンチ リプレイ ウィンドウの拡張と無効化の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 240: IPsec アンチ リプレイ ウィンドウの機能情報：拡張と無効化**

機能名	リリース	機能情報
IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化	Cisco IOS XE Release 2.1  <a href="#">IPsec アンチリプレイ ウィンドウの拡張と無効化, on page 2633</a>	次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto ipsec security-association replay disable</b> 、 <b>ipsec security-association replay window-size</b> 、 <b>security-association replay disable</b> 、 <b>security-association replay window-size</b>

機能名	リリース	機能情報
IPsec アンチリプレイは、CSR プラットフォームで QoS が有効になっている場合に機能します。	Cisco IOS XE リリース 16.6.1	この機能により、Cisco Cloud Services Router 1000V シリーズで QoS が有効になっている場合、IPsec アンチリプレイメカニズムのサポートが有効になります。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>show platform hardware qfp active feature ipsec、show platform software ipsec fp active flow、show crypto ipsec sa。</b>
IPsec アンチリプレイは、ISR 4300/4200 プラットフォームで QoS が有効になっている場合に機能します。	Cisco IOS XE リリース 16.7.1	この機能により、ISR 44xx を除く ISR プラットフォームで QoS が有効になっている場合、IPsec アンチリプレイメカニズムが確実に機能します。
アンチリプレイ QoS/IPsec パケット損失の回避	Cisco IOS XE リリース 16.8.1	この機能により、IPsec アンチリプレイが有効な状態で QoS が使用されている場合に、IPsec アンチリプレイパケットのドロップが回避されます。  このサポートは、Octeon ベースの ASR プラットフォームにのみ追加されます。





## CHAPTER 178

# IPsec VPN の Pre-fragmentation

IPsec VPN の Pre-fragmentation 機能で、最大伝送ユニット (MTU) サイズに近いパケットに対し、暗号化スループットが暗号化ハードウェア アクセラレータの速度で提供されることにより、Cisco IOS XE ルータと VPN クライアントとの間のパフォーマンスが向上します。同じサイズの単位にパケットが分割され、以降の処理ではフラグメンテーションが不要になります。

- [IPsec VPN の Pre-fragmentation の制約事項, on page 2649](#)
- [IPsec VPN の Pre-fragmentation に関する情報, on page 2651](#)
- [IPsec VPN の Pre-fragmentation の設定方法, on page 2652](#)
- [その他の参考資料, on page 2653](#)
- [IPsec VPN の Pre-fragmentation の機能情報, on page 2653](#)

## IPsec VPN の Pre-fragmentation の制約事項

この機能の設定前に次の情報を考慮してください。

- IPsec VPN の Pre-fragmentation は IPsec トンネル モードおよび GRE を使用する IPsec トンネル モードで動作し、IPsec トランスポート モードでは動作しません。
- トラフィックが単一方向のネットワーク上で復号ルータに IPsec VPN の Pre-fragmentation を設定しても、パフォーマンスは向上せず、それぞれのピアの動作は変わりません。
- 発信パケットの圧縮がオンになっている場合は、IPsec VPN の Pre-fragmentation は変換前に実行されます。
- IPsec VPN の Pre-fragmentation は、出カインターフェイス **crypto ipsec df-bit** の設定と着信パケットの「do not fragment」 (DF) ビットの状態によって機能が異なります。次の表を参照してください。

Table 241: IPsec VPN の Pre-fragmentation の依存関係

IPsec VPN の Pre-fragmentation 機能の状態 (イネーブル/ディセーブル)	出力インターフェイス「crypto ipsec df-bit」の設定	着信パケット DF ビットの状態	結果
イネーブル	crypto ipsec df-bit クリア	0	暗号化前にフラグメンテーションが実行されます。
イネーブル	crypto ipsec df-bit クリア	1	暗号化前にフラグメンテーションが実行されます。
ディセーブル	crypto ipsec df-bit クリア	0	暗号化後にフラグメンテーションが実行され、復号前にパケットが再編成されます。
ディセーブル	crypto ipsec df-bit クリア	1	暗号化後にフラグメンテーションが実行され、復号前にパケットが再編成されます。
イネーブル	crypto ipsec df-bit セット	0	暗号化前にフラグメンテーションが実行されます。
イネーブル	crypto ipsec df-bit セット	1	パケットがドロップされます。
ディセーブル	crypto ipsec df-bit セット	0	暗号化後にフラグメンテーションが実行され、復号前にパケットが再編成されます。
ディセーブル	crypto ipsec df-bit セット	1	パケットがドロップされます。
イネーブル	crypto ipsec df-bit コピー	0	暗号化前にフラグメンテーションが実行されます。
イネーブル	crypto ipsec df-bit コピー	1	パケットがドロップされます。
ディセーブル	crypto ipsec df-bit コピー	0	暗号化の後にフラグメンテーションが発生し、復号の前にパケットがリアセンブルされます。
ディセーブル	crypto ipsec df-bit コピー	1	パケットがドロップされます。

# IPsec VPN の Pre-fragmentation に関する情報

## IPsec VPN の Pre-fragmentation

パケットのサイズが暗号化ルータのアウトバウンドリンクの MTU のサイズに近く、IPsec ヘッダー付きでカプセル化されている場合は、アウトバウンドリンクの MTU を超えることがあります。これにより、暗号化後にパケット フラグメンテーションが発生します。よって復号化ルータでは、その復号化ルータのパフォーマンスを低下させているプロセスパスの当該パケットがリアセンブルされる必要があります。

IPsec VPN の Pre-fragmentation 機能により、プロセスパスではなく高パフォーマンスの CEF パスで復号化ルータが動作可能になるため、その復号化ルータのパフォーマンスが向上します。復号化ルータでは、トランスフォームセット (IPsec セキュリティアソシエーション (SA) の一部として設定) の利用可能な情報を基に、カプセル化されているパケットのサイズを事前に確認できます。パケットのサイズが出力インターフェイスの MTU を超えることが前もって確認されると、パケットは暗号化前にフラグメント化 (分割) されます。この機能を使用すると、復号化前にプロセスレベルでパケットをリアセンブルすることがなくなるため、復号化のパフォーマンスと IPsec トラフィックの全体的なスループットが向上します。



---

**Note** トンネル インターフェイスの Pre-fragmentation 機能はデフォルトでオフになっています。Pre-fragmentation によってパフォーマンスを向上させるには、トンネル インターフェイスの両端に同じ MTU があるようにしてから、Pre-fragmentation をオンにします。

---

暗号マップは、暗号化の前後に発生するフラグメンテーションの動作を定義するためには使用されなくなっています。現在、IPsec 仮想トンネル インターフェイス (仮想テンプレート インターフェイスともいう) (VTI) のフラグメンテーションの動作は、VTI で設定されている IP MTU の設定によって決定されます。

VTI の詳細については、IPsec 仮想トンネル インターフェイス機能のドキュメントを参照してください。



---

**Note** フラグメンテーションを暗号化後に動作させる場合、VTI の IP MTU は、出力ルータ インターフェイスの IP MTU よりも大きい値に設定します。IP MTU の値を表示するには、**show ip interface tunnel** コマンドを使用します。

---

# IPsec VPN の Pre-fragmentation の設定方法

## IPsec VPN の Pre-fragmentation の設定

このタスクを実行して、IPsec VPN の Pre-Fragmentation を設定します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `interface type number`
4. `ip mtu bytes`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# interface tunnel0	VTI が設定されるインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip mtu bytes</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# ip mtu 1500 <b>Example:</b>	IPsec VPN の出力インターフェイスにおける IP パケットの VTI MTU サイズをバイト単位で設定します。 <b>Note</b> フラグメンテーションを暗号化後に動作させる場合、VTI の IP MTU は、出力ルータ インターフェイスの IP MTU よりも大きい値に設定します。IP MTU の値を表示するには、 <b>show ip interface tunnel</b> コマンドを使用します。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティコマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
IPsec	IPsec 仮想トンネルインターフェイス機能のドキュメント

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IPsec VPN の Pre-fragmentation の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 242: IPsec VPN の Pre-fragmentation の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec VPN の Pre-fragmentation	Cisco IOS XE 2.1	<p>この機能で、最大伝送ユニット (MTU) サイズに近いパケットに対し、暗号化スループットが暗号化ハードウェア アクセラレータの速度で提供されることにより、Cisco IOS XE ルータと VPN クライアントとの間のパフォーマンスが向上します。同じサイズの単位にパケットが分割され、以降の処理ではフラグメンテーションが不要になります。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ip mtu (interface configuration)</b> .</p>



## CHAPTER 179

# Invalid Security Parameter Index Recovery

IP セキュリティ (IPsec) パケットの処理中に無効なセキュリティパラメータインデックスエラー (「Invalid SPI」として表示されます) が発生した場合、Invalid Security Parameter Index Recovery 機能によって、インターネットキーエクスチェンジ (IKE) セキュリティアソシエーション (SA) を確立できます。「IKE」モジュールによって「Invalid SPI」エラーの通知が、発信側の IPsec ピアに対して送信され、セキュリティアソシエーションデータベース (SADB) の再同期化と、成功したパケット処理の再開が可能になります。

- [Invalid Security Parameter Index Recovery の前提条件, on page 2655](#)
- [Invalid Security Parameter Index Recovery の制約事項, on page 2655](#)
- [Invalid Security Parameter Index Recovery に関する情報, on page 2656](#)
- [Invalid Security Parameter Index Recovery の設定方法, on page 2656](#)
- [Invalid Security Parameter Index Recovery の設定例, on page 2663](#)
- [その他の参考資料, on page 2668](#)
- [Invalid Security Parameter Index Recovery の機能情報, on page 2669](#)

## Invalid Security Parameter Index Recovery の前提条件

Invalid Security Parameter Index Recovery 機能を設定する前に、ルータ上で IKE および IPsec を有効化しておく必要があります。

## Invalid Security Parameter Index Recovery の制約事項

IPsec ピアに対して「Invalid SPI」エラーを通知するために IKE SA を開始する場合、サービス妨害 (DoS) 攻撃が発生するリスクがあります。Invalid Security Parameter Index Recovery 機能には、そのようなリスクを最小化するためのメカニズムが内蔵されていますが、リスクが存在するため、Invalid Security Parameter Index Recovery 機能は、デフォルトでは有効化されていません。コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用してコマンドをイネーブルにする必要があります。

# Invalid Security Parameter Index Recovery に関する情報

## 機能の動作

ある IPsec ピアが「死ぬ」（たとえば、リポートが発生したり、IPsec ピアが何らかの理由によりリセットされたりした場合にピアが「死ぬ」可能性があります）と、IPsec の「ブラックホール化」が発生します。ピアの 1 つ（受信側のピア）は完全にリセットされるため、そのピアでは他のピアとの IKE SA が失われます。一般に、IPsec ピアによって、SA を検出できないパケットが受信されると、そのピアによって、そのデータの発信者に対する IKE 「INVALID SPI NOTIFY」メッセージの送信が試行されます。この通知は IKE SA を使用して送信されます。IKE SA が使用できない場合、受信側のピアによってパケットが廃棄されます。



**Note** 1 つの SA につきピアは 2 つだけです。しかし、SADB は複数の SA を持てます。これにより、各 SA は異なるピアとのアソシエーションを持ちます。

無効なセキュリティパラメータインデックス (SPI) が発生した場合、Invalid Security Parameter Index 機能によって、データの発信者に IKE SA が設定され、IKE 「INVALID SPI NOTIFY」メッセージが送信されます。データを発信したピアによって「INVALID SPI NOTIFY」メッセージが「参照」され、無効な SPI を持つ IPsec SA が削除されます。発信側のピアからトラフィックがさらにある場合、IPsec SA は存在せず、新しい SA が設定されます。トラフィックが再び流れます。デフォルトの動作（つまり、Invalid Security Parameter Index 機能が設定されていない状態）では、無効な SPI エラーの原因となったデータパケットは廃棄されます。発信側のピアによって、無効な SPI を持つ IPsec SA を使用したデータの送信が続けられ、受信側のピアによってトラフィックが廃棄され続けます（その結果、「ブラックホール」が作成されます）。

IPsec モジュールでは IKE モジュールが使用され、他のピアに IKE 「INVALID SPI NOTIFY」メッセージが送信されます。無効な SPI リカバリが行われると、IPsec SA の設定自体によっていくつかのパケットが廃棄されますが、意味のあるパケット廃棄は一切行われません。

Invalid Security Parameter Index Recovery 機能用にルータを設定するには、**crypto isakmp invalid-spi-recovery** コマンドを使用します。IKE SA は、このコマンドを設定しない限り開始されません。

## Invalid Security Parameter Index Recovery の設定方法

### Invalid Security Parameter Index Recovery の設定

Invalid Security Parameter Index Recovery 機能を設定するには、次の手順を実行します。



## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp invalid-spi-recovery**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp invalid-spi-recovery</b> <b>Example:</b>  Router (config)# <b>crypto isakmp invalid-spi-recovery</b>	IKE モジュール プロセスを開始します。それにより、IKE モジュールによって、受信側ピアに対して「Invalid SPI」エラーが発生したことが通知されます。

## 事前共有設定の確認

2つのピア間におけるトラフィックに関する IPsec SA のステータスを確認するには、**show crypto ipsec sa** コマンドを使用します。IPsec SA が、あるピアでは使用可能で、他のピアでは使用不可の場合、「ブラックホール化」の状況が発生します。この場合、無効な SPI エラーが受信側のピアのログに記録されます。コンソール ロギングをオンにするか、シスログ サーバを確認すると、これらのエラーもログに記録されていることがわかります。

次の図に、一般的な事前共有設定のトポロジを示します。ホスト 1 が発信側のピア（発信側）、ホスト 2 が受信側のピア（応答側）です。

**Figure 89:** 事前共有設定トポロジ

## SUMMARY STEPS

1. ホスト 1 とホスト 2 の間における IKE および IPsec SA を開始します。
2. ルータ B 上の IKE および IPsec SA をクリアします。
3. ホスト 1 からのトラフィックをホスト 2 に送信し、新しい IKE および IPsec SA が正しく確立されているかどうかを確認します。
4. ルータ B に無効な SPI メッセージがないか確認します。

## DETAILED STEPS

## Procedure

ステップ 1 ホスト 1 とホスト 2 の間における IKE および IPsec SA を開始します。

**Router A****Example:**

```
Router# show crypto isakmp sa
  f_vrf/i_vrf  dst          src          state        conn-id slot
  / 10.2.2.2          10.1.1.1    QM_IDLE      1          0
```

**ルータ B****Example:**

```
Router# show crypto isakmp sa
  f_vrf/i_vrf  dst          src          state        conn-id slot
  /            10.1.1.1    10.2.2.2    QM_IDLE      1          0
```

**ルータ A****Example:**

```
Router# show crypto ipsec sa interface fastethernet0/0
interface: FastEthernet0/0
  Crypto map tag: testtag1, local addr. 10.1.1.1
  protected vrf:
  local ident (addr/mask/prot/port): (10.0.0.1/255.255.255.255/0/0)
  remote ident (addr/mask/prot/port): (10.0.2.2/255.255.255.255/0/0)
  current_peer: 10.2.2.2:500
    PERMIT, flags={origin_is_acl,}
    #pkts encaps: 10, #pkts encrypt: 10, #pkts digest: 10
    #pkts decaps: 10, #pkts decrypt: 10, #pkts verify: 10
    #pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
    #pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
    #pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
    #send errors 0, #recv errors 0
    local crypto endpt.: 10.1.1.1, remote crypto endpt.: 10.2.2.2
    path mtu 1500, media mtu 1500
    current outbound spi: 7AA69CB7
  inbound esp sas:
    spi: 0x249C5062(614223970)
      transform: esp-des esp-sha-hmac ,
      in use settings = {Tunnel, }
      slot: 0, conn id: 5123, flow_id: 1, crypto map: testtag1
      crypto engine type: Hardware
      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4537831/3595)
      IV size: 8 bytes
      replay detection support: Y
  inbound ah sas:
    spi: 0xB16D1587(2976716167)
      transform: ah-sha-hmac ,
      in use settings = {Tunnel, }
      slot: 0, conn id: 5121, flow_id: 1, crypto map: testtag1
      crypto engine type: Hardware
      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4537831/3595)
      replay detection support: Y
```

```

inbound pcp sas:
outbound esp sas:
  spi: 0x7AA69CB7(2057739447)
    transform: esp-des esp-sha-hmac ,
    in use settings ={Tunnel, }
    slot: 0, conn id: 5124, flow_id: 2, crypto map: testtag1
    crypto engine type: Hardware
    sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4537835/3595)
    IV size: 8 bytes
    replay detection support: Y
outbound ah sas:
  spi: 0x1214F0D(18960141)
    transform: ah-sha-hmac ,
    in use settings ={Tunnel, }
    slot: 0, conn id: 5122, flow_id: 2, crypto map: testtag1
    crypto engine type: Hardware
    sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4537835/3594)
    replay detection support: Y
outbound pcp sas:

```

## ルータ B

### Example:

```

Router# show crypto ipsec sa interface FastEthernet1/0
interface: FastEthernet1/0
  Crypto map tag: testtag1, local addr. 10.2.2.2
  protected vrf:
  local ident (addr/mask/prot/port): (10.0.2.2/255.255.255.255/0/0)
  remote ident (addr/mask/prot/port): (10.0.0.1/255.255.255.255/0/0)
  current_peer: 10.1.1.1:500
    PERMIT, flags={origin_is_acl,}
    #pkts encaps: 10, #pkts encrypt: 10, #pkts digest: 10
    #pkts decaps: 10, #pkts decrypt: 10, #pkts verify: 10
    #pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
    #pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
    #pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
    #send errors 0, #recv errors 0
    local crypto endpt.: 10.2.2.2, remote crypto endpt.: 10.1.1.1
    path mtu 1500, media mtu 1500
    current outbound spi: 249C5062
  inbound esp sas:
    spi: 0x7AA69CB7(2057739447)
      transform: esp-des esp-sha-hmac ,
      in use settings ={Tunnel, }
      slot: 0, conn id: 5123, flow_id: 1, crypto map: testtag1
      crypto engine type: Hardware
      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4421281/3593)
      IV size: 8 bytes
      replay detection support: Y
  inbound ah sas:
    spi: 0x1214F0D(18960141)
      transform: ah-sha-hmac ,
      in use settings ={Tunnel, }
      slot: 0, conn id: 5121, flow_id: 1, crypto map: testtag1
      crypto engine type: Hardware
      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4421281/3593)
      replay detection support: Y
  inbound pcp sas:
  outbound esp sas:
    spi: 0x249C5062(614223970)
      transform: esp-des esp-sha-hmac ,
      in use settings ={Tunnel, }
      slot: 0, conn id: 5124, flow_id: 2, crypto map: testtag1

```

```

crypto engine type: Hardware
sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4421285/3593)
IV size: 8 bytes
replay detection support: Y
outbound ah sas:
spi: 0xB16D1587(2976716167)
transform: ah-sha-hmac ,
in use settings ={Tunnel, }
slot: 0, conn id: 5122, flow_id: 2, crypto map: testtag1
crypto engine type: Hardware
sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4421285/3592)
replay detection support: Y
outbound pcp sas:

```

**ステップ 2** ルータ B 上の IKE および IPsec SA をクリアします。

**Example:**

```

Router# clear crypto isakmp
Router# clear crypto sa
Router# show crypto isakmp sa
  f_vrf/i_vrf  dst          src          state          conn-id slot
    /           10.2.2.2.    10.1.1.1    MM_NO_STATE          1        0 (deleted)
Router# show crypto ipsec sa
interface: FastEthernet1/0
  Crypto map tag: testtag1, local addr. 10.2.2.2
  protected vrf:
  local ident (addr/mask/prot/port): (10.0.2.2/255.255.255.255/0/0)
  remote ident (addr/mask/prot/port): (10.0.0.1/255.255.255.255/0/0)
  current_peer: 10.1.1.1:500
    PERMIT, flags={origin_is_acl,}
    #pkts encaps: 0, #pkts encrypt: 0, #pkts digest: 0
    #pkts decaps: 0, #pkts decrypt: 0, #pkts verify: 0
    #pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
    #pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
    #pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
    #send errors 0, #recv errors 0
    local crypto endpt.: 10.2.2.2, remote crypto endpt.: 10.1.1.1
    path mtu 1500, media mtu 1500
    current outbound spi: 0
  inbound esp sas:
  inbound ah sas:
  inbound pcp sas:
  outbound esp sas:
  outbound ah sas:
  outbound pcp sas:

```

**ステップ 3** ホスト 1 からのトラフィックをホスト 2 に送信し、新しい IKE および IPsec SA が正しく確立されているかどうかを確認します。

**Example:**

```

ping
Protocol [ip]: ip
Target IP address: 10.0.2.2
Repeat count [5]: 30
Datagram size [100]: 100
Timeout in seconds [2]:
Extended commands [n]: no
Sweep range of sizes [n]: n
Type escape sequence to abort.
Sending 30, 100-byte ICMP Echos to 10.0.2.2, timeout is 2 seconds:
..!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

```

```

Success rate is 93 percent (28/30), round-trip min/avg/max = 1/3/8 ms
RouterB# show crypto isakmp sa
  f_vrf/i_vrf  dst          src          state          conn-id slot
  /           10.1.1.1     10.2.2.2     QM_IDLE        3         0
  /           10.1.1.1     10.2.2.2     MM_NO_STATE    1         0 (deleted)
RouterB# show crypto ipsec sa
interface: FastEthernet1/0
  Crypto map tag: testtag1, local addr. 10.2.2.2
  protected vrf:
  local ident (addr/mask/prot/port): (10.0.2.2/255.255.255.255/0/0)
  remote ident (addr/mask/prot/port): (10.0.0.1/255.255.255.255/0/0)
  current_peer: 10.1.1.1:500
    PERMIT, flags={origin_is_acl,}
    #pkts encaps: 28, #pkts encrypt: 28, #pkts digest: 28
    #pkts decaps: 28, #pkts decrypt: 28, #pkts verify: 28
    #pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
    #pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
    #pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
    #send errors 0, #recv errors 0
    local crypto endpt.: 10.2.2.2, remote crypto endpt.: 10.1.1.1
    path mtu 1500, media mtu 1500
    current outbound spi: D763771F
  inbound esp sas:
    spi: 0xE7AB4256(3886760534)
      transform: esp-des esp-sha-hmac ,
      in use settings =({Tunnel, })
      slot: 0, conn id: 5127, flow_id: 3, crypto map: testtag1
      crypto engine type: Hardware
      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4502463/3596)
      IV size: 8 bytes
      replay detection support: Y
  inbound ah sas:
    spi: 0xF9205CED(4179647725)
      transform: ah-sha-hmac ,
      in use settings =({Tunnel, })
      slot: 0, conn id: 5125, flow_id: 3, crypto map: testtag1
      crypto engine type: Hardware
      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4502463/3596)
      replay detection support: Y
  inbound pcp sas:
  outbound esp sas:
    spi: 0xD763771F(3613619999)
      transform: esp-des esp-sha-hmac ,
      in use settings =({Tunnel, })
      slot: 0, conn id: 5128, flow_id: 4, crypto map: testtag1
      crypto engine type: Hardware
      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4502468/3596)
      IV size: 8 bytes
      replay detection support: Y
  outbound ah sas:
    spi: 0xEB95406F(3952427119)
      transform: ah-sha-hmac ,
      in use settings =({Tunnel, })
      slot: 0, conn id: 5126, flow_id: 4, crypto map: testtag1
      crypto engine type: Hardware
      sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4502468/3595)
      replay detection support: Y
  outbound pcp sas:
RouterA# show crypto isakmp sa
  f_vrf/i_vrf  dst          src          state          conn-id slot
  /           10.2.2.2     10.1.1.1     MM_NO_STATE    1         0 (deleted)
  /           10.2.2.2     10.1.1.1     QM_IDLE        2         0

```

**ステップ 4** ルータ B に無効な SPI メッセージがないか確認します。

**Example:**

```

Router# show logging
Syslog logging: enabled (10 messages dropped, 13 messages rate-limited, 0 flushes, 0 overruns, xml
disabled)
  Console logging: disabled
  Monitor logging: level debugging, 0 messages logged, xml disabled
  Buffer logging: level debugging, 43 messages logged, xml disabled
  Logging Exception size (8192 bytes)
  Count and timestamp logging messages: disabled
  Trap logging: level informational, 72 message lines logged
Log Buffer (8000 bytes):
*Mar 24 20:55:45.739: %CRYPTO-4-RECVD_PKT_INV_SPI: decaps: rec'd IPSEC packet has invalid spi for
  destaddr=10.2.2.2, prot=51, spi=0x1214F0D(18960141), srcaddr=10.1.1.1
*Mar 24 20:55:47.743: IPSEC(validate_proposal_request): proposal part #1,
  (key eng. msg.) INBOUND local= 10.2.2.2, remote= 10.1.1.1,
  local_proxy= 10.0.2.2/255.255.255.255/0/0 (type=1),
  remote_proxy= 10.0.0.1/255.255.255.255/0/0 (type=1),
  protocol= AH, transform= ah-sha-hmac ,
  lifedur= 0s and 0kb,
  spi= 0x0(0), conn_id= 0, keysize= 0, flags= 0x2
*Mar 24 20:55:47.743: IPSEC(validate_proposal_request): proposal part #2,
  (key eng. msg.) INBOUND local= 10.2.2.2, remote= 10.1.1.1,
  local_proxy= 10.0.2.2/255.255.255.255/0/0 (type=1),
  remote_proxy= 10.0.0.1/255.255.255.255/0/0 (type=1),
  protocol= ESP, transform= esp-des esp-sha-hmac ,
  lifedur= 0s and 0kb,
  spi= 0x0(0), conn_id= 0, keysize= 0, flags= 0x2
*Mar 24 20:55:47.743: IPSEC(key_proxy): head = testtag1, map->ivrf = , kei->ivrf =
*Mar 24 20:55:47.743: IPSEC(key_engine): got a queue event with 2 kei messages
*Mar 24 20:55:47.743: IPSEC(spi_response): getting spi 4179647725 for SA
  from 10.2.2.2 to 10.1.1.1 for prot 2
*Mar 24 20:55:47.747: IPSEC(spi_response): getting spi 3886760534 for SA
  from 10.2.2.2 to 10.1.1.1 for prot 3
*Mar 24 20:55:48.071: IPsec: Flow_switching Allocated flow for flow_id 939524099
*Mar 24 20:55:48.071: IPsec: Flow_switching Allocated flow for flow_id 939524100
*Mar 24 20:55:48.135: IPSEC(key_engine): got a queue event with 4 kei messages
*Mar 24 20:55:48.135: IPSEC(initialize_sas): ,
  (key eng. msg.) INBOUND local= 10.2.2.2, remote= 10.1.1.1,
  local_proxy= 10.0.2.2/0.0.0.0/0/0 (type=1),
  remote_proxy= 10.0.0.1/0.0.0.0/0/0 (type=1),
  protocol= AH, transform= ah-sha-hmac ,
  lifedur= 3600s and 4608000kb,
  spi= 0xF9205CED(4179647725), conn_id= 939529221, keysize= 0, flags= 0x2
*Mar 24 20:55:48.135: IPSEC(initialize_sas): ,
  (key eng. msg.) OUTBOUND local= 10.2.2.2, remote= 10.1.1.1,
  local_proxy= 10.0.2.2/0.0.0.0/0/0 (type=1),
  remote_proxy= 10.0.0.1/0.0.0.0/0/0 (type=1),
  protocol= AH, transform= ah-sha-hmac ,
  lifedur= 3600s and 4608000kb,
  spi= 0xEB95406F(3952427119), conn_id= 939529222, keysize= 0, flags= 0xA
*Mar 24 20:55:48.135: IPSEC(initialize_sas): ,
  (key eng. msg.) INBOUND local= 10.2.2.2, remote= 10.1.1.1,
  local_proxy= 10.0.2.2/0.0.0.0/0/0 (type=1),
  remote_proxy= 10.0.0.1/0.0.0.0/0/0 (type=1),
  protocol= ESP, transform= esp-des esp-sha-hmac ,
  lifedur= 3600s and 4608000kb,
  spi= 0xE7AB4256(3886760534), conn_id= 939529223, keysize= 0, flags= 0x2
*Mar 24 20:55:48.135: IPSEC(initialize_sas): ,
  (key eng. msg.) OUTBOUND local= 10.2.2.2, remote= 10.1.1.1,
  local_proxy= 10.0.2.2/0.0.0.0/0/0 (type=1),
  remote_proxy= 10.0.0.1/0.0.0.0/0/0 (type=1),
  protocol= ESP, transform= esp-des esp-sha-hmac ,
  lifedur= 3600s and 4608000kb,

```

```

spi= 0xD763771F(3613619999), conn_id= 939529224, keysize= 0, flags= 0xA
*Mar 24 20:55:48.139: IPSEC(kei_proxy): head = testtag1, map->ivrf = , kei->ivrf =
*Mar 24 20:55:48.139: IPSEC(mtrees_add_ident): src 10.2.2.2, dest 10.1.1.1, dest_port 0
*Mar 24 20:55:48.139: IPSEC(create_sa): sa created,
(sa) sa_dest= 10.1.1.1, sa_prot= 51,
sa_spi= 0xF9205CED(4179647725),
sa_trans= ah-sha-hmac , sa_conn_id= 939529221
*Mar 24 20:55:48.139: IPSEC(create_sa): sa created,
(sa) sa_dest= 10.2.2.2, sa_prot= 51,
sa_spi= 0xEB95406F(3952427119),
sa_trans= ah-sha-hmac , sa_conn_id= 939529222
*Mar 24 20:55:48.139: IPSEC(create_sa): sa created,
(sa) sa_dest= 10.1.1.1, sa_prot= 50,
sa_spi= 0xE7AB4256(3886760534),
sa_trans= esp-des esp-sha-hmac , sa_conn_id= 939529223
*Mar 24 20:55:48.139: IPSEC(create_sa): sa created,
(sa) sa_dest= 10.2.2.2, sa_prot= 50,
sa_spi= 0xD763771F(3613619999),
sa_trans= esp-des esp-sha-hmac , sa_conn_id= 939529224
ipseca-72a#

```

## Invalid Security Parameter Index Recovery の設定例

### Invalid Security Parameter Index Recovery : 例

次に、Invalid Security Parameter Index Recovery がルータ A とルータ B に設定されている例を示します。次の例には、この例で使用されるトポロジが示されています。

#### ルータ A

```

Router# show running-config
Building configuration...
Current configuration : 2048 bytes
!
version 2.1
no service pad
service timestamps debug datetime msec localtime
service timestamps log datetime msec localtime
no service password-encryption
service tcp-small-servers
!
hostname ipseca-71a
!
logging queue-limit 100
no logging console
enable secret 5 $1$4GZB$L2Y0mnenOCNAu0jgFxebT/
enable password lab
!
clock timezone PST -8
clock summer-time PDT recurring
ip subnet-zero
!
!
no ip domain lookup

```

```
!  
ip cef  
ip audit notify log  
ip audit po max-events 100  
mpls ldp logging neighbor-changes  
no ftp-server write-enable  
!  
!  
no voice hpi capture buffer  
no voice hpi capture destination  
!  
!  
crypto isakmp policy 1  
  authentication pre-share  
  lifetime 180  
crypto isakmp key 0 1234 address 10.2.2.2  
crypto isakmp invalid-spi-recovery  
!  
!  
crypto ipsec transform-set auth2 ah-sha-hmac esp-des esp-sha-hmac  
!  
crypto map testtag1 10 ipsec-isakmp  
  set peer 10.2.2.2  
  set transform-set auth2  
  match address 150  
!  
!  
controller ISA 5/1  
!  
!  
interface FastEthernet0/0  
  ip address 10.1.1.1 255.0.0.0  
  no ip route-cache cef  
  duplex full  
  speed 100  
  crypto map testtag1  
!  
interface FastEthernet0/1  
  ip address 10.0.0.1 255.0.0.0  
  no ip route-cache cef  
  duplex auto  
  speed auto  
!  
interface Serial1/0  
  no ip address  
  no ip route-cache  
  no ip mroute-cache  
  shutdown  
  serial restart_delay 0  
  clockrate 128000  
!  
interface Serial1/1  
  no ip address  
  no ip route-cache  
  no ip mroute-cache  
  shutdown  
  serial restart_delay 0  
  clockrate 128000  
!  
interface Serial1/2  
  no ip address  
  no ip route-cache  
  no ip mroute-cache  
  shutdown
```



```
    serial restart_delay 0
!
interface Serial1/3
  no ip address
  no ip route-cache
  no ip mroute-cache
  shutdown
  no keepalive
  serial restart_delay 0
  clockrate 128000
!
ip classless
ip route 10.3.3.3 255.0.0.0 10.2.0.1
no ip http server
no ip http secure-server
!
!
access-list 150 permit ip host 10.0.0.1 host 10.0.2.2
dialer-list 1 protocol ip permit
dialer-list 1 protocol ipx permit
!
!
call rsvp-sync
!
!
mgcp profile default
!
!
line con 0
  exec-timeout 0 0
line aux 0
line vty 0 4
  password lab
  login
!
!
end
ipseca-71a#
```

## ルータ B

```
Router# show running-config
Building configuration...
Current configuration : 2849 bytes
!
version 2.1
no service pad
service timestamps debug datetime msec localtime
service timestamps log datetime msec localtime
no service password-encryption
service udp-small-servers
service tcp-small-servers
!
hostname ipseca-72a
!
logging queue-limit 100
no logging console
enable secret 5 $1$kKqL$5Th5Qhw1ubDkkK90KWFx11
enable password lab
!
clock timezone PST -8
clock summer-time PDT recurring
ip subnet-zero
```

```
!
!
no ip domain lookup
!
ip cef
ip audit notify log
ip audit po max-events 100
mpls ldp logging neighbor-changes
no ftp-server write-enable
!
!
no voice hpi capture buffer
no voice hpi capture destination
!
!
mta receive maximum-recipients 0
!
!
crypto isakmp policy 1
 authentication pre-share
 lifetime 180
crypto isakmp key 0 1234 address 10.1.1.1
crypto isakmp invalid-spi-recovery
!
!
crypto ipsec transform-set auth2 ah-sha-hmac esp-des esp-sha-hmac
!
crypto map testtag1 10 ipsec-isakmp
 set peer 10.1.1.1
 set transform-set auth2
 match address 150
!
!
controller ISA 5/1
!
!
interface FastEthernet0/0
 no ip address
 no ip route-cache
 no ip mroute-cache
 shutdown
 duplex half
!
interface FastEthernet1/0
 ip address 10.2.2.2 255.0.0.0
 no ip route-cache cef
 duplex half
 crypto map testtag1
!
interface FastEthernet1/1
 ip address 10.0.2.2 255.0.0.0
 no ip route-cache cef
 duplex half
!
interface FastEthernet1/2
 no ip address
 no ip route-cache
 no ip mroute-cache
 shutdown
 duplex half
!
interface FastEthernet1/3
 no ip address
 no ip route-cache
```

```
no ip mroute-cache
shutdown
duplex half
!
interface FastEthernet1/4
no ip address
no ip route-cache
no ip mroute-cache
shutdown
duplex half
!
interface FastEthernet1/5
no ip address
no ip route-cache
no ip mroute-cache
shutdown
duplex half
!
interface FastEthernet1/6
no ip address
no ip route-cache
no ip mroute-cache
shutdown
duplex half
!
interface FastEthernet1/7
no ip address
no ip route-cache
no ip mroute-cache
shutdown
duplex half
!
interface Serial3/0
no ip address
no ip route-cache
no ip mroute-cache
shutdown
serial restart_delay 0
!
interface Serial3/1
no ip address
no ip route-cache
no ip mroute-cache
shutdown
serial restart_delay 0
clockrate 128000
!
interface Serial3/2
no ip address
no ip route-cache
no ip mroute-cache
shutdown
serial restart_delay 0
!
interface Serial3/3
no ip address
no ip route-cache
no ip mroute-cache
shutdown
no keepalive
serial restart_delay 0
clockrate 128000
!
ip classless
```

```

ip route 10.0.0.0 255.0.0.0 10.2.0.1
no ip http server
no ip http secure-server
!
!
access-list 150 permit ip host 10.0.2.2 host 10.0.0.1
dialer-list 1 protocol ip permit
dialer-list 1 protocol ipx permit
!
!
call rsvp-sync
!
!
mgcp profile default
!
dial-peer cor custom
!
!
gatekeeper
shutdown
!
!
line con 0
exec-timeout 0 0
stopbits 1
line aux 0
stopbits 1
line vty 0 4
password lab
login
!
!
end

```

## その他の参考資料

次の項では、Invalid Security Parameter Index Recovery に関連した参考資料を示します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IKE の設定	「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## Invalid Security Parameter Index Recovery の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 243: Invalid Security Parameter Index Recovery の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
Invalid Special Parameter Index (SPI) Recovery	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>IPsec パケット処理で、無効な SPI が検出された場合は、Invalid Security Parameter Index Recovery 機能によって、IKE SA が確立されます。「IKE」モジュールによって「Invalid SPI」エラーの通知が、発信側の IPsec ピアに対して送信され、セキュリティアソシエーションデータベース (SADB) の再同期化と、成功したパケット処理の再開が可能になります。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>cryptoisakmp invalid-spi-recovery.</b></p>



## CHAPTER 180

# 「IPsec Dead Peer Detection Periodic Message Option」

IPSecデッドピア検出定期メッセージオプション機能を使用すれば、ルータに対し、そのインターネットキーエクスチェンジ (IKE) ピアの活性を定期的に照会するよう設定できます。このオプションを使用すると、デフォルトのオンデマンドデッドピア検出機能を使用した場合に比べ、停止しているピアをより早期に検出できます。

- [IPSec デッドピア検出定期メッセージオプションの前提条件, on page 2671](#)
- [IPSec デッドピア検出定期メッセージオプションの制約事項, on page 2672](#)
- [IPSec デッドピア検出定期メッセージオプションに関する情報, on page 2672](#)
- [IPSec デッドピア検出定期メッセージオプションの設定方法, on page 2673](#)
- [IPSec デッドピア検出定期メッセージオプションの設定例, on page 2677](#)
- [その他の参考資料, on page 2680](#)
- [デッドピア検出定期メッセージオプションの機能情報, on page 2682](#)

## IPSec デッドピア検出定期メッセージオプションの前提条件

IPSecデッドピア検出定期メッセージオプション機能を設定するには、次のことが必要です。

- IPセキュリティ (IPsec) の設定についての知識。
- DPD (Dead Peer Detection) がサポートされている IKE ピア。DPD をサポートしているのは、Cisco VPN 3000 コンセントレータ、Cisco PIX ファイアウォール、Cisco VPN Client、およびすべての動作モードの Cisco IOS XE ソフトウェア (サイト間および Easy VPN サーバー) などです。

# IPsec デッド ピア検出定期メッセージオプションの制約事項

定期的な DPD を使用すると、ルータによって、オンデマンドの DPD と比較してより速い応答時間で無応答の IKE ピアを検知できる可能性があります。ただし、定期的な DPD では、余分なオーバーヘッドが発生します。大量の IKE ピアと通信する場合は、オンデマンドの DPD の方を検討してください。

## IPsec デッド ピア検出定期メッセージオプションに関する情報

### DPD および Cisco IOS XE キープアライブ機能の動作

DPD および Cisco IOS XE キープアライブは、タイマーに基づいて機能します。タイマーが 10 秒に設定されている場合、ルータは 10 秒毎に「hello」メッセージが送信されます（もちろん、ルータによってピアからの「hello」メッセージが受信された場合は除きます）。IOS キープアライブおよび定期的な DPD の利点は、デッドピアの検知が早くなることです。しかし、IOS キープアライブおよび定期的な DPD では、かなりの頻度でメッセージを定期的に送信する必要があります。頻繁にメッセージを送信する結果、通信を行うピアによって暗号化および復号化しなければならないパケット数が増加します。

DPD にはオンデマンド方式もあります。対称的なこのオンデマンド方式がデフォルトです。オンデマンド DPD では、トラフィックパターンに基づいてメッセージが送信されます。たとえば、ルータによって発信トラフィックが送信される必要があり、ピアの活性に疑問がある場合、ルータによって DPD メッセージが送信され、ピアのステータスが照会されます。ルータに送信するトラフィックがない場合、DPD メッセージは送信されません。ピアが停止しており、ピアに送信するトラフィックがルータにない場合、IKE または IPsec セキュリティアソシエーション (SA) のキー再生成が必要でないかぎり、ルータによる検知は行われません（ルータによるピアとの通信が行われない場合、ピアの活性は重要ではありません）。一方、ピアに送信するトラフィックがルータにあり、ピアの応答がない場合は、ピアのステータスを判断するために、ルータによって DPD メッセージが開始されます。

### IPsec デッド ピア検出定期メッセージオプションの使用

IPsec デッドピア検出 (DPD) 定期メッセージオプション機能では、DPD メッセージが定期的に「強制される」ようルータを設定できます。この強制方式の結果、デッドピアが早期に検知されます。たとえば、送信するトラフィックがルータにない場合でも、DPD メッセージが定期的に送信され、ピアが停止していた場合、IKE SA による検知がタイムアウトになるまでルータが待機する必要はありません。



DPD 定期メッセージオプションを設定する場合、**crypto isakmp keepalive** コマンドは **periodic** キーワードを指定して使用する必要があります。**periodic** キーワードを指定しない場合、ルータはデフォルトのオンデマンド方式になります。



**Note** **crypto isakmp keepalive** コマンドを設定すると、Cisco IOS ソフトウェアは、ピアがサポートしているプロトコルに応じて、Cisco IOS キープアライブまたは DPD の使用についてネゴシエーションを行います。

## 暗号マップ内の複数のピアとの DPD および Cisco IOS XE キープアライブ機能の使用

暗号マップ内で DPD および Cisco IOS XE キープアライブ機能を複数のピアと組み合わせることにより、ステートレス フェールオーバーを実現できます。DPD により、ルータによる停止 IKE ピアの検知が可能となり、ルータによって停止状態が検知されると、ルータによってピアに対する IPsec と IKE SA が削除されます。複数のピアを設定している場合、ルータによって、次にリストされているピアへの切り替えが行われ、ステートレスフェールオーバーが実現します。

## IPsec デッド ピア検出定期メッセージオプションの設定方法

### 定期的な DPD メッセージの設定

定期的な DPD メッセージを設定するには、次の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp keepalive seconds [retries] [periodic | on-demand]**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。

	Command or Action	Purpose
	Router> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp keepalive seconds [retries] [periodic   on-demand]</b> <b>Example:</b> Router (config)# crypto isakmp keepalive 10 periodic	<p>ゲートウェイによるピアへの DPD メッセージの送信を許可します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>seconds : periodic</b> キーワードを使用する場合、この引数には DPD メッセージの間隔を秒数で指定します。範囲は 10 ~ 3600 秒です。</li> </ul> <p><b>on-demand</b> キーワードを使用する場合、この引数には、送信するデータ (IPsec) トラフィックがあるときに、DPD リトライメッセージを送信するまでピアからトラフィックを受信しない間に待機する秒数を指定します。範囲は 10 ~ 3600 秒です。</p> <p><b>Note</b> 間隔を指定しない場合、エラーメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>retry-seconds :</b> (任意) ピアによって DPD リトライメッセージが失われた場合の DPD リトライメッセージの送信間隔を秒数で指定します。範囲は 2 ~ 60 秒です。</li> </ul> <p>1つの DPD メッセージがピアで失われると、ルータはよりアグレッシブな状態に移行し、より短いリトライ間隔で DPD リトライメッセージを送信します。ピアによって DPD リトライメッセージが失われた場合のこの間隔は、DPD リトライ間の秒数です。デフォルトで、DPD リトライメッセージは 2 秒ごとに送信されます。アグレッシブな 5 回の DPD リトライメッセージが失われると、トンネルがダウンした状態としてマークされます。</p> <p><b>Note</b> IPsec ハイ アベイラビリティ (HA) を使用して DPD を設定するには、デフォルト (2 秒) 以外の値を使用することを推奨します。HA には、キープアライブ時間を 10 秒、試行を 5 回に設定するのが適しています。その時間が、ルータがアクティブ モードになるためにかかる時間であるからです。</p>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>periodic</b> : (任意) DPD メッセージが定期的に送信されます。</li> <li>• <b>on-demand</b> : (任意) デフォルトの動作です。DPD リトライがオンデマンドで送信されます。</li> </ul> <p><b>Note</b> このオプションはデフォルトであるため、<b>on-demand</b> キーワードは設定の出力に表示されません。</p>

## 暗号マップ内の複数のピアとの DPD および Cisco IOS XE キープアライブの設定

DPD および IOS キープアライブを、クリプト マップと組み合わせて使用するよう設定し、ステートレスフェールオーバーを実現するには、次の手順を実行します。この設定により、最初のピアが停止していることが検知されると、ルータによってピア リストが循環されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map map-name seq-num ipsec-isakmp**
4. **set peer {host-name [dynamic] | ip-address}**
5. **set transform-set transform-set-name**
6. **match address [access-list-id | name]**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

## DPD が有効化されていることの確認

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto map</b> <i>map-name seq-num ipsec-isakmp</i> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# crypto map green 1 ipsec-isakmp</pre>	クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始して、クリプト マップ エントリを作成または変更します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ipsec-isakmp</b> キーワードは、このクリプトマップ エントリによって指定されたトラフィックを保護するための IPsec SA を確立するために、IKE が使用されることを示します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>set peer</b> { <i>host-name [dynamic]   ip-address</i> } <b>Example:</b> <pre>Router (config-crypto-map)# set peer 10.12.12.12</pre>	クリプト マップ内の IPsec ピアを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドを繰り返すことによって、複数のピアを指定できます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router (config-crypto-map)# set transform-set txfm</pre>	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドを繰り返すことによって、複数のトランスフォーム セットを指定できます。</li> </ul>
ステップ 6	<b>match address</b> [ <i>access-list-id   name</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router (config-crypto-map)# match address 101</pre>	クリプト マップ エントリの拡張アクセス リストを指定します。

## DPD が有効化されていることの確認

DPD を使用すれば、ピアが到達不能になった時に、ルータによる IKE ステートのクリアが可能になります。DPD が有効化されており、ピアがしばらくの間到達不能になった場合、**clear crypto session** コマンドを使用して、手動で IKE と IPsec SA をクリアできます。

**debug crypto isakmp** コマンドを使用すると、DPD が有効化されていることを確認できます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear crypto session** [**local ip-address** [**port local-port**]] [**remote ip-address** [**port remote-port**]] | [**fvr** *vrf-name*] [**ivrf** *vrf-name*]
3. **debug crypto isakmp**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>clear crypto session</b> [local <i>ip-address</i> [port <i>local-port</i> ]] [remote <i>ip-address</i> [port <i>remote-port</i> ]]   [fvrf <i>vrf-name</i> ] [ivrf <i>vrf-name</i> ] <b>Example:</b> Router# clear crypto session	暗号セッション（IPsec および IKE SA）を削除します。
ステップ 3	<b>debug crypto isakmp</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto isakmp	IKE イベントに関するメッセージを表示します。

## IPsec デッド ピア検出定期メッセージオプションの設定例

### 定期的な DPD を有効化したサイト間設定の例

次の設定は、定期的な DPD が有効になっているサイト間設定用です。設定は、IKE フェーズ 1 ポリシー用と IKE 事前共有キー用です。

#### IKE フェーズ 1 ポリシー

```
crypto isakmp policy 1
  encryption aes
  authentication pre-share
  group 14
!
```

#### IKE 事前共有キー

```
crypto isakmp key kd94j1ksldz address 10.2.80.209 255.255.255.0
crypto isakmp keepalive 10 periodic
crypto ipsec transform-set Trans1 esp-aes esp-sha-hmac
!
```

```

!
interface
  ip address 10.1.32.14 255.255.255.0
  speed auto
!

```

## debug crypto isakmp コマンドを使用した DPD 設定の確認の例

次の `debug crypto isakmp` コマンドの出力例では、IKE DPD が有効化されていることを確認しています。

```
*Mar 25 15:17:14.131: ISAKMP:(0:1:HW:2):IKE_DPD is enabled, initializing timers
```

IKE DPD がイネーブルになっていること（および、ピアによって DPD がサポートされていること）を確認するには、定期的な DPD をイネーブルにする時に、コマンドによって指定された間隔で次のデバッグ メッセージが出力されることを確認する必要があります。

```

*Mar 25 15:18:52.107: ISAKMP:(0:1:HW:2): sending packet to 10.2.80.209 my_port
500 peer_port 500 (I) QM_IDLE
*Mar 25 15:18:52.107: ISAKMP:(0:1:HW:2):purging node 899852982 *Mar 25 15:18:52.111:
ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_TIMER,
IKE_TIMER_IM_ALIVE
*Mar 25 15:18:52.111: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_P1_COMPLETE

```

上記のメッセージは、DPD R\_U\_THERE メッセージの送信に対応しています。

```

*Mar 25 15:18:52.123: ISAKMP (0:268435457): received packet from 10.2.80.209
dport 500 sport 500 Global (I) QM_IDLE
*Mar 25 15:18:52.123: ISAKMP: set new node -443923643 to QM_IDLE *Mar 25 15:18:52.131:
ISAKMP:(0:1:HW:2): processing HASH payload. message ID =
-443923643
*Mar 25 15:18:52.131: ISAKMP:(0:1:HW:2): processing NOTIFY R_U_THERE_ACK protocol 1
spi 0, message ID = -443923643, sa = 81BA4DD4
*Mar 25 15:18:52.135: ISAKMP:(0:1:HW:2): DPD/R_U_THERE_ACK received from peer
10.2.80.209, sequence 0x9
*Mar 25 15:18:52.135: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node -443923643 error FALSE
reason "informational (in) state 1"
*Mar 25 15:18:52.135: ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_INFO_NOTIFY *Mar
25 15:18:52.135: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_P1_COMPLETE

```

上記のメッセージは、ピアからの確認応答（ACK）メッセージに対応しています。

```

Router#
*Mar 25 15:47:35.335: ISAKMP: set new node -90798077 to QM_IDLE *Mar 25 15:47:35.343:
ISAKMP:(0:1:HW:2): sending packet to 10.2.80.209 my_port
500 peer_port 500 (I) QM_IDLE
*Mar 25 15:47:35.343: ISAKMP:(0:1:HW:2):purging node -90798077 *Mar 25 15:47:35.347:
ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_TIMER,
IKE_TIMER_IM_ALIVE
*Mar 25 15:47:35.347: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_P1_COMPLETE
*Mar 25 15:47:36.611: ISAKMP:(0:1:HW:2):purging node 1515050537 *Mar 25 15:47:37.343:
ISAKMP:(0:1:HW:2):incrementing error counter on sa:
PEERS_ALIVE_TIMER
*Mar 25 15:47:37.343: ISAKMP: set new node -1592471565 to QM_IDLE *Mar 25 15:47:37.351:

```

```
ISAKMP:(0:1:HW:2): sending packet to 10.2.80.209 my_port
500 peer_port 500 (I) QM_IDLE
*Mar 25 15:47:37.351: ISAKMP:(0:1:HW:2):purging node -1592471565 *Mar 25 15:47:37.355:
ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_TIMER,
IKE_TIMER_PEERS_ALIVE
*Mar 25 15:47:37.355: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_P1_COMPLETE
*Mar 25 15:47:39.355: ISAKMP:(0:1:HW:2):incrementing error counter on sa:
PEERS_ALIVE_TIMER
*Mar 25 15:47:39.355: ISAKMP: set new node 1758739401 to QM_IDLE *Mar 25 15:47:39.363:
ISAKMP:(0:1:HW:2): sending packet to 10.2.80.209 my_port
500 peer_port 500 (I) QM_IDLE
*Mar 25 15:47:39.363: ISAKMP:(0:1:HW:2):purging node 1758739401 *Mar 25 15:47:39.367:
ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_TIMER,
IKE_TIMER_PEERS_ALIVE
*Mar 25 15:47:39.367: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_P1_COMPLETE
*Mar 25 15:47:41.367: ISAKMP:(0:1:HW:2):incrementing error counter on sa:
PEERS_ALIVE_TIMER
*Mar 25 15:47:41.367: ISAKMP: set new node 320258858 to QM_IDLE *Mar 25 15:47:41.375:
ISAKMP:(0:1:HW:2): sending packet to 10.2.80.209 my_port
500 peer_port 500 (I) QM_IDLE
*Mar 25 15:47:41.379: ISAKMP:(0:1:HW:2):purging node 320258858 *Mar 25 15:47:41.379:
ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_TIMER,
IKE_TIMER_PEERS_ALIVE
*Mar 25 15:47:41.379: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_P1_COMPLETE
*Mar 25 15:47:43.379: ISAKMP:(0:1:HW:2):incrementing error counter on sa:
PEERS_ALIVE_TIMER
*Mar 25 15:47:43.379: ISAKMP: set new node -744493014 to QM_IDLE *Mar 25 15:47:43.387:
ISAKMP:(0:1:HW:2): sending packet to 10.2.80.209 my_port
500 peer_port 500 (I) QM_IDLE
*Mar 25 15:47:43.387: ISAKMP:(0:1:HW:2):purging node -744493014 *Mar 25 15:47:43.391:
ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_TIMER,
IKE_TIMER_PEERS_ALIVE
*Mar 25 15:47:43.391: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_P1_COMPLETE
*Mar 25 15:47:45.391: ISAKMP:(0:1:HW:2):incrementing error counter on sa:
PEERS_ALIVE_TIMER
*Mar 25 15:47:45.391: ISAKMP:(0:1:HW:2):peer 10.2.80.209 not responding! *Mar 25
15:47:45.391: ISAKMP:(0:1:HW:2):peer does not do paranoid keepalives.
*Mar 25 15:47:45.391: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting SA reason "peers alive" state
(I) QM_IDLE (peer 10.2.80.209) input queue 0
*Mar 25 15:47:45.395: ISAKMP: Unlocking IPSEC struct 0x81E5C4E8 from
delete_siblings, count 0
*Mar 25 15:47:45.395: %CRYPTO-5-SESSION_STATUS: Crypto tunnel is DOWN. Peer
10.2.80.209:500 Id: 10.2.80.209
*Mar 25 15:47:45.399: ISAKMP: set new node -2061951065 to QM_IDLE *Mar 25 15:47:45.411:
ISAKMP:(0:1:HW:2): sending packet to 10.2.80.209 my_port
500 peer_port 500 (I) QM_IDLE
*Mar 25 15:47:45.411: ISAKMP:(0:1:HW:2):purging node -2061951065 *Mar 25 15:47:45.411:
ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_TIMER,
IKE_TIMER_PEERS_ALIVE
*Mar 25 15:47:45.411: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_DEST_SA
*Mar 25 15:47:45.415: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting SA reason "peers alive" state
(I) QM_IDLE (peer 10.2.80.209) input queue 0
*Mar 25 15:47:45.415: ISAKMP: Unlocking IKE struct 0x81E5C4E8 for
isadb_mark_sa_deleted(), count 0
*Mar 25 15:47:45.415: ISAKMP: Deleting peer node by peer_reap for 10.2.80.209:
81E5C4E8
*Mar 25 15:47:45.415: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node -1067612752 error TRUE
reason "peers alive"
*Mar 25 15:47:45.415: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node -114443536 error TRUE
```

```

reason "peers alive"
*Mar 25 15:47:45.419: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node 2116015069 error TRUE
reason "peers alive"
*Mar 25 15:47:45.419: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node -1981865558 error TRUE
reason "peers alive"
*Mar 25 15:47:45.419: ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_INTERNAL, IKE_PHASE1_DEL *Mar 25
25 15:47:45.419: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_DEST_SA New State =
IKE_DEST_SA
*Mar 25 15:47:45.419: ISAKMP: received ke message (4/1)
*Mar 25 15:47:45.419: ISAKMP: received ke message (3/1)
*Mar 25 15:47:45.423: ISAKMP: ignoring request to send delete notify (no ISAKMP
sa) src 10.1.32.14 dst 10.2.80.209 for SPI 0x3A7B69BF
*Mar 25 15:47:45.423: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting SA reason "" state (I)
MM_NO_STATE (peer 10.2.80.209) input queue 0
*Mar 25 15:47:45.423: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node -1067612752 error FALSE
reason ""
*Mar 25 15:47:45.423: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node -114443536 error FALSE
reason ""
*Mar 25 15:47:45.423: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node 2116015069 error FALSE
reason ""
*Mar 25 15:47:45.427: ISAKMP:(0:1:HW:2):deleting node -1981865558 error FALSE
reason ""
*Mar 25 15:47:45.427: ISAKMP:(0:1:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_MM_EXCH *Mar 25
15:47:45.427: ISAKMP:(0:1:HW:2):Old State = IKE_DEST_SA New State =
IKE_DEST_SA

```

上記のメッセージは、リモートピアが到達不能になっている時に何が発生しているのかを示しています。ルータによって、最終的に IPsec および SA が削除される前に、1つの DPD\_R\_U\_THERE メッセージおよび 4 つの転送が送信されます。

## 暗号マップ内の複数のピアとの組み合わせで使用される DPD および Cisco IOS XE キープアライブ : 例

次に、セキュリティアソシエーション (SA) を確立するために IKE が使用される場合に、DPD および Cisco IOS XE キープアライブが暗号マップ設定内の複数のピアとの組み合わせで使用される例を示します。この例では、SA が、10.0.0.1、10.0.0.2、または 10.0.0.3 の IPsec ピアに設定される可能性があります。

```

crypto isakmp keepalive 10 periodic
crypto map green 1 ipsec-isakmp
  set peer 10.0.0.1
  set peer 10.0.0.2
  set peer 10.0.0.3
  set transform-set txfm
  match address 101

```

## その他の参考資料

次の項では、IPsec デッド ピア検出定期メッセージ オプションの関連資料を示します。



## 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IPsec の設定	IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定
IPsec コマンド	『Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
DPD は、インターネット ドラフト「draft-ietf-ipsec-dpd-04.txt」に準拠しています。このドラフトは、Informational RFC（番号はまだ割り当てられていません）として公表の検討中です。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## デッドピア検出定期メッセージオプションの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 244:** デッドピア検出の機能情報

機能名	リリース	機能情報
デッドピア検出定期メッセージオプション	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>この機能により、ルータに対し、そのIKEピアの有効性について定期的に照会が行われるよう設定できます。このオプションを使用すると、デフォルトのオンデマンドデッドピア検出機能を使用した場合に比べ、停止しているピアをより早期に検出できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto isakmp keepalive</b>。</p>



## CHAPTER 181

# IPsec NAT 透過性

IPsec NAT 透過性機能では、ネットワークアドレス変換 (NAT) とポートアドレス変換 (PAT) の間における多くの既知の非互換性に対処することによって、ネットワーク内の NAT ポイントまたは PAT ポイントを経由して送信される IP セキュリティ (IPsec) のサポートが導入されています。

- [IPsec NAT 透過性の制約事項, on page 2683](#)
- [IPsec NAT 透過性に関する情報, on page 2684](#)
- [NAT および IPsec の設定方法, on page 2688](#)
- [IPsec および NAT の設定例, on page 2690](#)
- [その他の参考資料, on page 2691](#)
- [IPsec NAT 透過性の機能情報, on page 2692](#)
- [用語集, on page 2693](#)

## IPsec NAT 透過性の制約事項

この機能では、NAT および IPsec 間における多くの非互換性に対して対処が行われていますが、次の問題が依然として残されています。

### インターネットキー交換 (IKE) IP アドレスと NAT

この非互換性が問題になるのは、IP アドレスを、事前共有キーを検索するための検索キーとして使用する場合だけです。NAT またはリバース NAT によって IP 発信元アドレスまたは宛先アドレスが変更されると、IP アドレスと事前共有キーの間でミスマッチが生じます。

### 組み込み IP アドレスと NAT

ペイロードの完全性は保護されているので、NAT によって IPsec パケット内の IP アドレスを変換することが不可能です。組み込み IP アドレスを使用するプロトコルには、FTP、インターネットリレーチャット (IRC)、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)、H.323、および Session Initiation Protocol (SIP) などがあります。

# IPsec NAT 透過性に関する情報

## IPsec NAT 透過性の利点

IPsec パケットの配信パス内に 1 つ以上の NAT または PAT ポイントがない場合、この機能を導入しなければ、標準の IPsec バーチャルプライベートネットワーク (VPN) トンネルは動作しません。この機能によって NAT が IPsec 認識となり、その結果、リモートアクセス ユーザは、ホーム ゲートウェイへの IPsec トンネルを構築できます。

## IPsec NAT Traversal の機能設計

IPsec NAT 透過性機能では、ユーザ データグラム プロトコル (UDP) ラップ内に IPsec パケットをカプセル化することによって、NAT または PAT ポイントを通過する IPsec トラフィックのサポートが導入されており、その結果、パケットによる各 NAT デバイス間の通過が可能となっています。次の項では、NAT トラバーサルの詳細を定義します。

## IKE フェーズ 1 ネゴシエーション : NAT 検出

インターネット キー エクスチェンジ (IKE) のフェーズ 1 ネゴシエーション中、IKE Quick Mode が開始される前に、NAT サポート、およびネットワーク パス上の NAT イグジスタンスという、2 つのタイプの NAT 検出が実行されます。

NAT サポートを検出するには、リモートピアとベンダー ID ストリングを交換する必要があります。IKE フェーズ 1 のメインモード (MM) 1 および MM2 の間、リモートピアによって、ベンダー ID ストリング ペイロードが、そのピアに送信され、このバージョンでは NAT トラバーサルがサポートされていることが示されます。その後、ネットワーク パス上の NAT イグジスタンスを検出できます。

ネットワーク パス上に NAT が存在しているかどうかを検出すると、2 つのピア間のすべての NAT と、NAT の正確な位置がわかります。NAT デバイスによって、プライベート IP アドレスおよびポートがパブリック値に (またはパブリックからプライベートに) 変換されます。パケットがデバイスを通ると、この変換によって IP アドレスとポートが変更されます。ネットワーク パス上に NAT デバイスが存在しているかどうかを検出するには、ピアによって、各終端からの送信元アドレスと宛先アドレスの両方の IP アドレスおよびポートのハッシュを持つペイロードが送信する必要があります。両端でハッシュが計算され、ハッシュが一致した場合、各ピアによって、両ピア間におけるネットワーク パス上に NAT デバイスが存在しないことが認識されます。ハッシュが一致しない (つまり、誰かがアドレスまたはポートを変換した) 場合、各終端では、NAT トラバーサルを実行し、ネットワークを介して IPsec パケットを取得する必要があります。

ハッシュは一連の NAT Discovery (NAT-D) ペイロードとして送信されます。各ペイロードには 1 つのハッシュが格納されます。複数のハッシュが存在する場合、複数の NAT-D が送信されます。ほとんどの環境では、NAT-D ペイロードは 2 つだけです。1 つは送信元アドレスおよびポート用、もう 1 つは宛先アドレスおよびポート用です。最初に宛先 NA-D ペイロードが

送信され、次に送信元 NAT-D ペイロードが送信されます。これは、受信側では、最初にローカル NAT-D ペイロードを処理し、次にリモート NAT-D ペイロードを処理することを予期する必要があることを意味します。メインモードでは、NAT-D ペイロードは 3 番目および 4 番目のメッセージに格納され、アグレッシブモード (AM) では、2 番目および 3 番目のメッセージ内に格納されます。

## IKE フェーズ 2 ネゴシエーション : NAT トラバーサル決定

IKE フェーズ 1 による NAT サポート、およびネットワークパス上の NAT イグジスタンスの検出中に、IKE フェーズ 2 によって両端の各ピアによって NAT トラバーサルが使用されるかどうかが決まります。QM1 および QM2 におけるクイックモード (QM) セキュリティアソシエーション (SA) ペイロードは、NAT トラバーサル ネゴシエーション用に使用されます。

NAT デバイスによって IP アドレスおよびポート番号が変更されるので、NAT と IPsec との間に非互換性が発生する可能性があります。そのため、元の送信元アドレスを交換することで、いかなる非互換性も回避できます。

## NAT Traversal 用 IPsec パケットの UDP カプセル化

UDP カプセル化によって、IPsec パケットが NAT デバイスを経由できるようにするだけでなく、IPsec、NAT、および PAT 間における多くの非互換性問題に対処できます。解決できる問題は以下のとおりです。

### IPsec ESP と PAT との間における非互換性 : 解決

PAT によって立法 IP アドレスおよびポートが検出されると、その PAT によって Encapsulating Security Payload (ESP) パケットが廃棄されます。このようなシナリオを防ぐために、UDP カプセル化が使用され、UDP ヘッダーの背後に ESP パケットが隠蔽されます。その結果、PAT によって ESP パケットが UDP パケットとして扱われ、ESP パケットが通常の UDP パケットとして処理されます。

### チェックサムと NAT との間における非互換性 : 解決

新しい UDP ヘッダー内では、チェックサムの値は必ずゼロに割り当てられます。この値によって、中間デバイスによるパケットのチェックサムを参照したチェックサムの確認が防止され、それにより、NAT によって IP 送信元アドレスおよび宛先アドレスが変更されるので、TCP/UDP チェックサム問題が解決されます。

### 固定 IKE 宛先ポートおよび PAT 間における非互換性 : 解決

PAT によって、新しい変換用 UDP ヘッダー内のポートアドレスが変更され、元のペイロードは変更されないままとなります。

UDP カプセル化によってどのように IPsec パケットの送信が可能になるのかを確認するには、次の図を参照してください。

Figure 90: NAT/PAT ポイントを介した標準的な IPsec トンネル (UDP カプセル化なし)

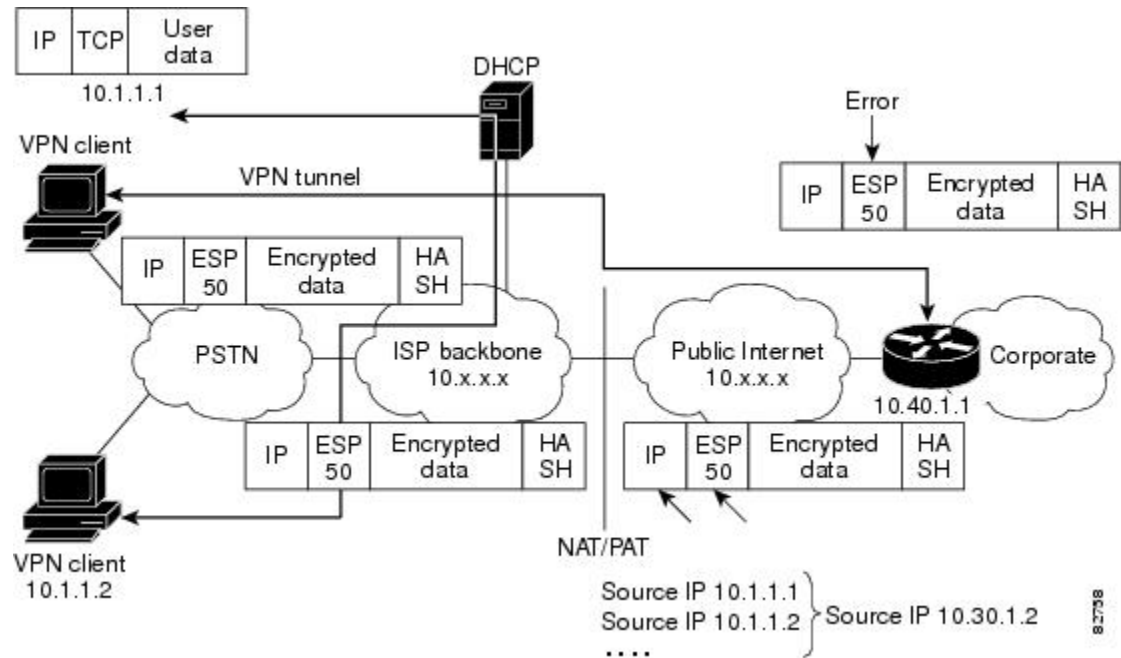
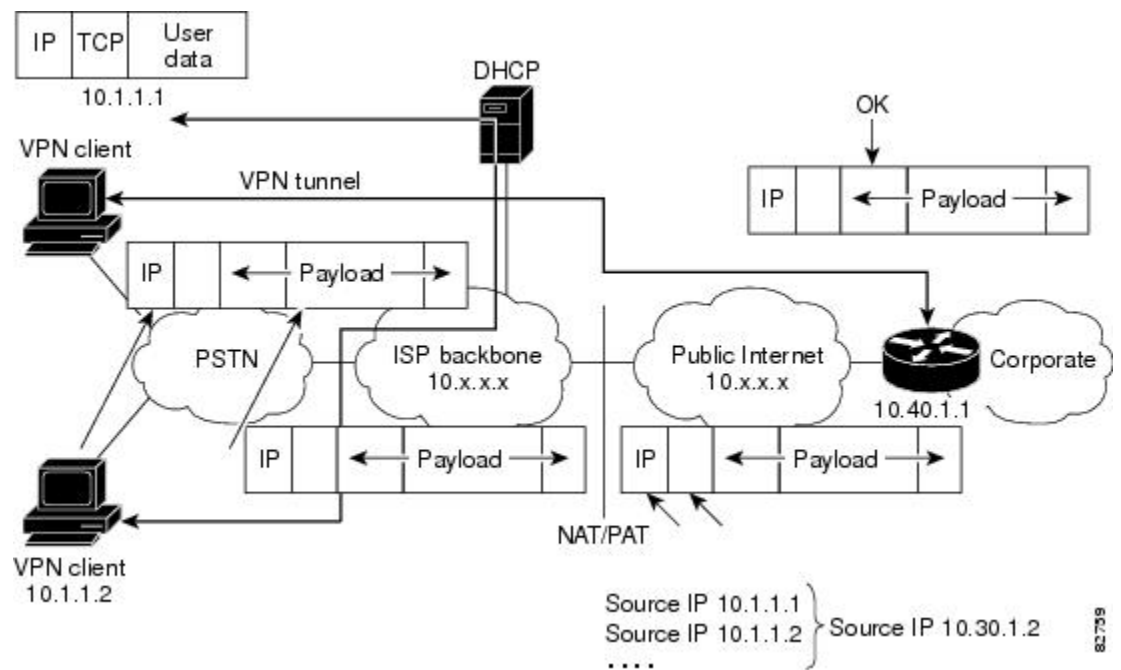


Figure 91: UDP カプセル化を使用した IPsec パケット



## ソフトウェア エンジン用 UDP カプセル化処理：トランスポート モードおよびトンネル モード EDP カプセル化

IPsec パケットがハードウェア アクセラレータまたはソフトウェア暗号化エンジンによって暗号化されると、UDP ヘッダーおよび非 IKE マーカ（長さは 8 バイト）が、元の IP ヘッダーと ESP ヘッダーの間に挿入されます。合計長フィールド、プロトコルフィールド、およびチェックサムフィールドはこの変更に合わせて変更されます。次の 1 番目の図に、トランスポートモードが適用される前後の IPsec パケットを示します。2 番目の図には、トンネルモードが適用される前後の IPsec パケットを示します。

Figure 92: トランスポート モード：ESP カプセル化前後の IPsec パケット

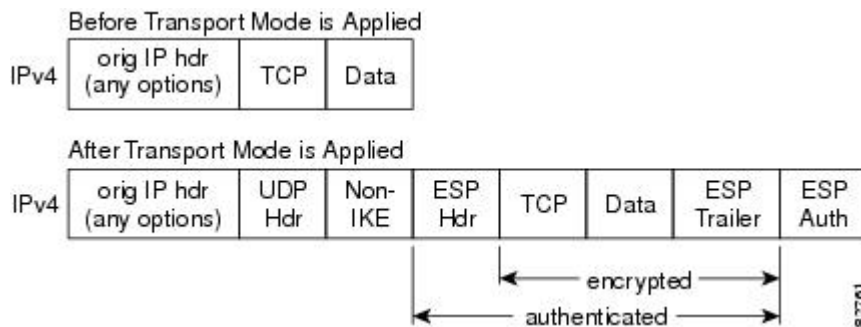
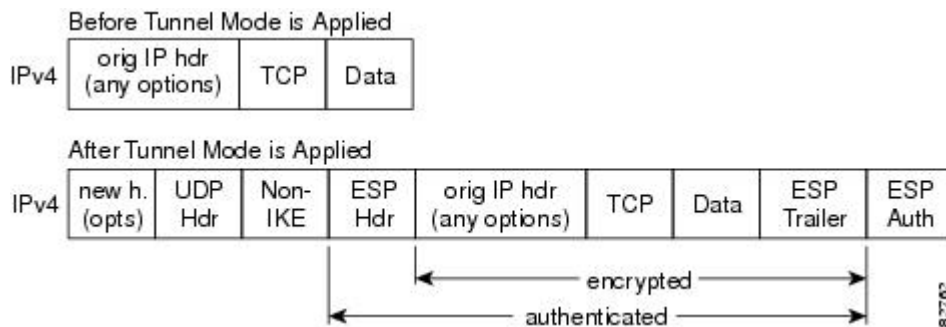


Figure 93: トンネル モード：ESP カプセル化前後の IPsec パケット



## NAT キープアライブ

NAT キープアライブは、2 つのピア間の接続中におけるダイナミック NAT マッピングをアライブに保つためにイネーブルにされます。NAT キープアライブは、1 バイトの非暗号化ペイロードを持つ UDP パケットです。現在の Dead Peer Detection (DPD) 実装は NAT キープアライブとほぼ同じですが、若干の違いがあります。DPD は、ピアのステータスを検出するために使用されます。一方、NAT キープアライブは、指定された期間（有効範囲は 5 ～ 3600 秒）にパケットが IPsec エンティティによって送信も受信されなかった場合に送信されます。

NAT キープアライブを（`crypto isakmp nat keepalive` コマンドを使用して）有効化する場合、アイドル値は NAT マッピングの有効期間（20 秒）より小さくなるようにする必要があります。

# NAT および IPsec の設定方法

## NAT Traversal の設定

NAT Traversal は、VPN デバイスによって自動検出される機能です。Cisco IOS XE Release 2.1 を実行するルータに設定するものではありません。両端の VPN デバイスが NAT-T 対応の場合、NAT Traversal が自動検出され、自動ネゴシエーションが行われます。

## NAT Traversal の無効化

ご使用のネットワークですでに IPsec 認識 NAT が使用されている (spi マッチング スキーム) ことがわかっている場合、NAT トラバーサルをディセーブルにする必要が生じることがあります。NAT トラバーサルをディセーブルにするには、次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **no crypto ipsec nat-transparency udp-encapsulation**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードなど、高位の権限レベルを有効にします。  パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no crypto ipsec nat-transparency udp-encapsulation</b> <b>Example:</b>  Router(config)# no crypto ipsec nat-transparency udp-encapsulation	NAT トラバーサルをディセーブルにします。



## NAT キープアライブの設定

ルータを、NAT キープアライブを送信するように設定するには、次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp nat keepalive *seconds***

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードなど、高位の権限レベルを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp nat keepalive <i>seconds</i></b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp nat keepalive 20	IPsec ノードによる NAT キープアライブ パケットの送信を可能にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>seconds</i> : キープアライブパケット間の秒数。範囲は 5 ~ 3,600 秒。</li> </ul> <p><b>Note</b> タイマーが変更されると、インターネットセキュリティアソシエーションおよびキー管理プロトコル (ISAKMP) SA のキープアライブが既存のタイマーに基づく場合、この秒数は SA ごとに変更されます。</p> <p><b>Note</b> セキュリティアソシエーションでキーの再生成の衝突が発生するのを防止するため、5% のジッタメカニズム値がタイマーに適用されます。ピアルータが多数あるときに、タイマーが低く設定されすぎている場合、ルータの CPU 使用率が高くなる場合があります。</p>

## IPsec 設定の確認

設定を確認するには、次の任意の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `show crypto ipsec sa [map map-name | address | identity] [detail]`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードなど、高位の権限レベルを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show crypto ipsec sa [map map-name   address   identity] [detail]</b> <b>Example:</b> Router# show crypto ipsec sa	現在の SA によって使用されている設定を表示します。

## IPsec および NAT の設定例

### NAT キープアライブの設定例

次に、NAT キープアライブを、20 秒毎に送信されるようにイネーブルにする方法の例を示します。

```
crypto isakmp policy 1
 authentication pre-share
crypto isakmp key 1234 address 10.0.0.1
crypto isakmp nat keepalive 20
!
!
crypto ipsec transform-set t2 esp-des esp-sha-hmac
!
crypto map test2 10 ipsec-isakmp
 set peer 10.0.0.1
 set transform-set t2
 match address 101
```

## その他の参考資料

次の項では、IPsec NAT 透過性機能に関連した関連資料を示します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
その他の NAT 設定タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS XE IP Addressing Services Configuration Guide』の「Configuring NAT for IP Address Conservation」モジュール</li> <li>『Cisco IOS XE IP Addressing Services Configuration Guide』の「Using Application Level Gateways with NAT」モジュール</li> <li>『Cisco IOS XE IP Addressing Services Configuration Guide』の「Configuring NAT for High Availability」モジュール</li> <li>『Cisco IOS XE IP Addressing Services Configuration Guide』の「Integrating NAT with MPLS VPNs」モジュール</li> </ul>
その他の NAT コマンド	『Cisco IOS IP Addressing Services Command Reference』
その他の IPsec 設定タスク	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Configuring Security for VPNs with IPsec」モジュール
その他の IPsec コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
IKE に関する情報	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」モジュール
IKE デッド ピア検出の追加情報	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Easy VPN Server」モジュール

### 標準

標準	タイトル
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://tools.cisco.com/ITDIT/MIBS/servlet/index">http://tools.cisco.com/ITDIT/MIBS/servlet/index</a>

## RFC

RFC <sup>22</sup>	Title
RFC 2402	『IP Authentication Header』
RFC 2406	『IP Encapsulating Security Payload (ESP)』

<sup>22</sup> サポートされている RFC がすべて記載されているわけではありません。

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/techsupport">http://www.cisco.com/techsupport</a>

## IPsec NAT 透過性の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 245: IPsec NAT 透過性の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec NAT 透過性	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>IPsec NAT 透過性機能では、ネットワーク アドレス変換 (NAT) とポート アドレス変換 (PAT) の間における多くの既知の非互換性に対処することによって、ネットワーク内の NAT ポイントまたは PAT ポイントを経由して送信される IP セキュリティ (IPsec) のサポートが導入されています。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto isamkp nat keepalive</b>、 <b>access-list (IP extended)</b>、 <b>show crypto ipsec sa</b></p>

## 用語集

**IKE** : Internet Key Exchange (インターネットキーエクスチェンジ)。Oakley キー交換や Skeme キー交換をインターネット セキュリティ アソシエーションおよびキー管理プロトコル (ISAKMP) フレームワーク内部に実装したハイブリッドプロトコルです。IKE は、他のプロトコルでも使用できますが、初期実装されるのは IPsec です。IKE は、IPsec ピアを認証し、IPsec キーをネゴシエーションし、IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) を実行します。

**IPsec** : IP Security (IP セキュリティ)。インターネット技術特別調査委員会 (IETF) によって開発されたオープン規格のフレームワークです。IPSec は、インターネットなどの保護されていないネットワークを使用して機密情報を送信する場合に、セキュリティを提供します。IPsec はネットワーク層で機能し、Cisco ルータなどの参加している IPsec 装置 (ピア) 間の IP パケットを保護および認証します。

**NAT** : Network Address Translation (ネットワークアドレス変換)。企業内で使用されているプライベート IP アドレスを、インターネットなど企業外で使用される、ルーティング可能なパブリック アドレスに変換します。NAT は、アドレスのプライベートからパブリックへの 1 対 1 のマッピングと見なされます。

**PAT** : Port Address Translation (ポートアドレス変換)。NAT と同様、PAT でもプライベート IP アドレスからルーティング可能なパブリック アドレスへの変換が行われます。NAT とは異なり、PAT では、プライベート アドレスのパブリック アドレスへの多対 1 のマッピングが提供されます。パブリックアドレスの各インスタンスは、一意性を確保するために特定のポート番号と関連付けられます。PAT は、一連のパブリックアドレスを取得するコストが組織にとって高すぎるような環境で使用可能です。





## CHAPTER 182

# IPsec 拡張シーケンス番号

拡張シーケンス番号 (ESN) は、IPsec 標準シーケンス番号に追加され、高速 IPsec 実装を支援するために使用されます。IPsec パケットには 32 ビットのシーケンス番号があり、IKE キー付き IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) では、シーケンス番号のロールオーバー後のキー再生成が必須です。ESN は、シーケンス番号を 64 ビットに拡張することにより、この高い IPsec SA キー再生成レートの低下を試みます。これにより、必須のキー再生成までの時間が長くなります。

- [IPsec 拡張シーケンス番号の前提条件 \(2695 ページ\)](#)
- [IPsec 拡張シーケンス番号に関する制約事項, on page 2695](#)
- [IPsec 拡張シーケンス番号に関する情報, on page 2696](#)
- [IPsec 拡張シーケンス番号の設定方法, on page 2696](#)
- [その他の参考資料, on page 2697](#)
- [IPsec ESN サポートに関する機能情報 \(2697 ページ\)](#)

## IPsec 拡張シーケンス番号の前提条件

- ESN は、セキュアな接続の確立に関与する両方の IPsec ピアでサポートされている必要があります。いずれかのピアが ESN をサポートしていない場合、この機能は機能しません。
- ESN を使用する場合は、アンチリプレイ設定が必要です。詳細については、「[IPsec アンチリプレイウィンドウの拡張と無効化](#)」を参照してください。

## IPsec 拡張シーケンス番号に関する制約事項

- ESN は、Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームと Cisco ASR 1000 シリーズ ESP 100-X および ESP 200-X でのみサポートされています。
- ESN 機能は、DES または 3DES アルゴリズムではサポートされません。

# IPsec 拡張シーケンス番号に関する情報

## IPsec 拡張シーケンス番号

拡張シーケンス番号 (ESN) は、IPsec 標準シーケンス番号に追加され、高速 IPsec 実装を支援するために使用されます。ESN は、標準のシーケンス番号よりも大きなシーケンス番号スペースを使用します。これにより、顧客は、キーを再生成せずに大量のデータを高速で送信できます。

IPsec パケットには 32 ビットのシーケンス番号があり、IKE キー付き IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) では、シーケンス番号のロールオーバー後のキー再生成が必須です。ESN は、シーケンス番号を 64 ビットに拡張することにより、この高い IPsec SA キー再生成レートの低下を試みます。これにより、必須のキー再生成までの時間が長くなり、シーケンス番号のロールオーバーが防止されます。その結果、システムリソースの使用率が低下し、高速 IPsec 接続や、長い IPsec SA ライフタイムを必要とする IPsec 実装での、頻繁なキー再生成が防止されます。

## IPsec 拡張シーケンス番号の設定方法

### IPsec 拡張シーケンス番号の設定

IPsec 拡張シーケンス番号のサポートを設定するには、次の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto ipsec transform-set transform-set-name transform1 [transform2]`
4. `esn`

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b>  Router> <code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
	Router# configure terminal	
ステップ 3	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name</i> <i>transform1</i> [ <i>transform2</i> ] <b>Example:</b> Router (config)# crypto ipsec transform-set foo esp-aes esp-sha-hmac	IPsec 用のトランスフォームセットを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• transform 引数に使用できるエントリを定義する複合ルールがあります。これらルールについては、<b>crypto ipsec transform-set</b> コマンドのコマンド解説で説明します。また、「<a href="#">トランスフォームセットの概要</a>」の表に、許可されるトランスフォームの組み合わせのリストを示します。</li> </ul>
ステップ 4	<b>esn</b> <b>Example:</b> Router(cfg-crypto-trans)#[no] esn [optional]	(オプション) IPsec ESN を有効にします。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS セキュリティ コマンドリファレンス』

## IPsec ESN サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 246: IPsec 拡張シーケンス番号に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec 拡張シーケンス番号 (ESN)	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1 リリース	この機能は、次のプラットフォームに導入されました。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォーム</li><li>• Cisco ASR 1000 シリーズ ESP 100-X および ESP 200-X</li></ul>



## CHAPTER 183

# IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能

IPsec トンネル機能による DF ビット オーバーライド機能では、トンネルモード IPsec トラフィックを、グローバルレベルまたは各インターフェイスレベルでカプセル化する際に、DF ビットを設定できます。したがって、ルータが DF ビットを消去するように設定されている場合、ルータは、元の DF のパケット設定に関係なく、パケットを断片化できます。

- [IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の前提条件, on page 2699](#)
- [IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の制約事項, on page 2699](#)
- [IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能に関する情報, on page 2700](#)
- [IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の設定方法, on page 2701](#)
- [IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の設定例, on page 2702](#)
- [その他の参考資料, on page 2703](#)
- [IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の機能情報, on page 2704](#)

## IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の前提条件

ルータで IPsec がイネーブルに設定されている必要があります。

## IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の制約事項

### パフォーマンス上の影響

各パケットがプロセス レベルで再アセンブルされるため、高いデータ レートでパフォーマンスに大きな影響が生じます。主な警告事項には、次の 2 つがあります。

- 再アSEMBル キューが満杯になると、フラグメントが強制的に廃棄されることがあります。
- プロセス スイッチングにより、トラフィックの速度は低下します。

### DF ビットの設定要件

複数のインターフェイスがローカルアドレス機能を使用して同じクリプト マップを共有する場合、これらのインターフェイスは同じ DF ビット設定を共有する必要があります。

### 機能の Availability

この機能は IPsec トンネル モードだけで使用できます (IPsec トランスポート モードは、カプセル化 IP ヘッダーを提供しないので、影響を受けません)。

# IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能に関する情報

## 機能の概要

IPsec トンネル機能による DF ビット オーバーライド機能により、ルータがカプセル化ヘッダーの Don't Fragment (DF) ビットをクリア、設定、またはコピーするかどうかを指定できます。DF ビットは IP ヘッダー内のビットで、このビットは、ルータがパケットを断片化することを許可されているかどうか判別します。

一部のユーザ設定のホストでは、次の機能を実行します。

- 送信されたパケットに DF ビットを設定する。
- ファイアウォールを使用して、ファイアウォールの外部からくるインターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) エラーをブロックし、ホストがファイアウォールの外部から最大伝送単位 (MTU) サイズを認識できないようにする。
- IP セキュリティ (IPsec) を使用してパケットをカプセル化し、MTU サイズを縮小する。

使用可能な MTU サイズを認識できないようにホストが設定されている場合、DF ビットをクリアし、パケットを断片化するよう、ルータを設定できます。



**Note** この機能は、RFC 2401 に準拠して、グローバルに、またはインターフェイスごとに設定できます。両方のレベルを設定すると、インターフェイスコンフィギュレーションにより、グローバルコンフィギュレーションが上書きされます。

# IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の設定方法

## トンネル モードでのカプセル化ヘッダーへの DF ビットの設定

トンネルモードでDF ビットをカプセル化ヘッダーに設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto ipsec df-bit [clear | set | copy]`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec df-bit [clear   set   copy]</b> <b>Example:</b> Router (config)# crypto ipsec df-bit set	すべてのインターフェイスのトンネルモードで DF ビットをカプセル化ヘッダーに設定します。 指定されたインターフェイスに DF ビットを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで <b>crypto ipsec df-bit</b> コマンドを使用します。 <b>Note</b> DF ビット インターフェイス コンフィギュレーション設定によって、すべての DF ビット グローバル コンフィギュレーション設定が上書きされます。

## DF ビット設定の確認

ルータ上の現在の DF ビット設定を確認するには、**show running-config** コマンドを EXEC モードで使用します。

# IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の設定例

## DF ビットの設定例

次の例では、DF ビットの設定をグローバルに消去し、DF ビットを FastEthernet というインターフェイスにコピーするようにルータが設定されています。したがって、FastEthernet 以外のすべてのインターフェイスでは、ルータは使用可能な MTU サイズより大きいパケットを送信でき、FastEthernet では、ルータはパケットをフラグメント化できます。

```
crypto isakmp policy 1
  hash md5
  authentication pre-share
crypto isakmp key Delaware address 192.168.10.66
crypto isakmp key Key-What-Key address 192.168.11.19
!
!
crypto ipsec transform-set exampleset ah-md5-hmac esp-des
crypto ipsec df-bit clear
!
!
crypto map armadillo 1 ipsec-isakmp
set peer 192.168.10.66
set transform-set exampleset
match address 101
!
crypto map basilisk 1 ipsec-isakmp
set peer 192.168.11.19
set transform-set exampleset
match address 102
!
!
interface FastEthernet
 ip address 192.168.10.38 255.255.255.0
 ip broadcast-address 0.0.0.0
 media-type 10BaseT
 crypto map armadillo
 crypto ipsec df-bit copy
!
interface FastEthernet1
 ip address 192.168.11.75 255.255.255.0
 ip broadcast-address 0.0.0.0
 media-type 10BaseT
 crypto map basilisk
!
interface Serial0
 no ip address
 ip broadcast-address 0.0.0.0
```

```
no ip route-cache
no ip mroute-cache
```

## その他の参考資料

次のセクションには、IPsec トンネル機能による DF ビット オーバライド機能の関連資料が記載されています。

## 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
インターネット キー エクスチェンジ ネットワークと IPsec ネットワーク	「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」
IPSec ネットワークのコマンド	『Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能がサポートする新しい MIB または変更された MIB はありません。また、この機能で変更された既存規格のサポートはありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
この機能がサポートする新しい RFC または変更された RFC はありません。また、この機能は既存の規格に対するサポートに影響を及ぼしません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



Table 247: IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec トンネルを使用する DF ビット オーバーライド機能	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>この機能により、ルータがカプセル化ヘッダーから Don't Fragment (DF) ビットを消去、設定、またはコピーするかどうかを指定できます。DF ビットは IP ヘッダー内のビットで、このビットは、ルータがパケットを断片化することを許可されているかどうか判別します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>crypto ipsec df-bit</b>。</p>





## CHAPTER 184

# IPsec SA アイドルタイマー

Cisco IOS XE ソフトウェアを実行しているルータによってピアの IPsec セキュリティアソシエーション (SA) が作成される場合、その SA を維持するためにリソースを割り当てる必要があります。SA には、メモリと、複数の管理されたタイマーが必要です。ピアがアイドル状態だと、それらのリソースが無駄になってしまいます。あまりに多くのリソースがアイドル状態のピアによって浪費されてしまうと、ルータによる他のピアとの新しい SA の作成ができなくなる可能性があります。IPsec SA アイドルタイマー機能では、SA のアクティビティをモニタリングするための、設定可能なアイドルタイマーが導入されており、これにより、アイドル状態のピアの SA を削除できます。この機能には、次のような利点があります。

- 向上したリソースの可用性
- Cisco IOS XE IPsec 配置のスケーラビリティの向上この機能によって、アイドル状態のピアによるリソースの浪費を防止できるので、より多くのリソースを、必要に応じた新しい SA の作成に使用できます。
- [IPsec セキュリティアソシエーションアイドルタイマーの前提条件, on page 2707](#)
- [IPsec セキュリティアソシエーションアイドルタイマーに関する情報, on page 2708](#)
- [IPsec セキュリティアソシエーションアイドルタイマーの設定方法, on page 2708](#)
- [IPsec セキュリティアソシエーションアイドルタイマーの設定例, on page 2710](#)
- [その他の参考資料, on page 2710](#)
- [IPsec セキュリティアソシエーションアイドルタイマーの機能仕様, on page 2712](#)

## IPsec セキュリティアソシエーションアイドルタイマーの前提条件

インターネットキーエクスチェンジ (IKE) は、『*Cisco IOS XE Security Configuration Guide*』の「Configuring Internet Key Exchange Security Protocol」の章に従って設定する必要があります。

# IPsec セキュリティ アソシエーションアイドルタイマーに関する情報

## IPsec セキュリティ アソシエーションのライフタイム

現在、Cisco IOS ソフトウェアでは、IPsec SA のライフタイムの設定が可能です。ライフタイムは、グローバルに、またはクリプトマップごとに設定できます。ライフタイムには、「指定時刻」ライフタイムと「トラフィック量」ライフタイムの2つがあります。これらのライフタイムに到達すると、セキュリティ アソシエーションが期限切れになります。

## IPsec SA アイドルタイマー

IPsec SA アイドルタイマーは、IPsec SA のグローバルライフタイムとは異なります。グローバルライフタイムの有効期間は、ピアのアクティビティとは独立しています。IPsec SA アイドルタイマーを使用すれば、非アクティブなピアに関連付けられた SA を、グローバルライフタイムが期限切れになる前に削除できます。

IPsec SA アイドルタイマーが設定されていない場合、IPsec SA のグローバルライフタイムだけが適用されます。SA は、ピアのアクティビティと関わりなく、グローバルタイマーが有効期限切れになるまで維持されます。



**Note** アイドルタイマーの期限切れのために、特定のピアに対する最新の IPsec SA が削除された場合、そのピアに対する IKE も削除されます。

# IPsec セキュリティ アソシエーションアイドルタイマーの設定方法

## IPsec SA アイドルタイマーのグローバルな設定

このタスクでは、IPsec SA アイドルタイマーをグローバルに設定します。このアイドルタイマーの設定は、すべての SA に適用されます。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto ipsec security-association idle-time seconds`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec security-association idle-time <i>seconds</i></b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto ipsec security-association idle-time 600	IPsec SA アイドル タイマーを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>seconds</i> 引数では、アイドル タイマーが非アクティブ ピアによる SA の維持を許可する時間を秒単位で指定します。<i>seconds</i> 引数の有効な値の範囲は 60 ~ 86400 です。</li> </ul>

## IPsec SA アイドル タイマーのクリプト マップ単位での設定

このタスクでは、指定されたクリプト マップの IPsec SA アイドル タイマーを設定します。アイドル タイマーの設定は、指定されたクリプト マップ下のすべての SA に適用されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map *map-name seq-number ipsec-isakmp***
4. **set security-association idle-time *seconds***

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map map-name seq-number ipsec-isakmp</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto map test 1 ipsec-isakmp	クリプト マップ エントリを作成または変更し、クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set security-association idle-time seconds</b> <b>Example:</b>  Router(config-crypto-map)# set security-association idle-time 600	デフォルトピアが使用される前に、現在のピアをアイドル状態にしておける最大期間を指定します。  • <i>seconds</i> 引数は、デフォルトピアが使用される前に現在のピアをアイドル状態にできる秒数です。有効値は 60 ~ 86400 です。

## IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマー の設定例

### IPsec SA アイドル タイマー のグローバル設定例

次に、IPsec SA アイドル タイマー をグローバルに設定して、600 秒後に非アクティブなピアの SA を廃棄している例を示します。

```
crypto ipsec security-association idle-time 600
```

### 暗号マップごとの IPsec SA アイドル タイマー の設定例

次に、test という名前のクリプト マップの IPsec SA アイドル タイマーを設定して、600 秒後に非アクティブなピアの SA を廃棄している例を示します。

```
crypto map test 1 ipsec-isakmp
set security-association idle-time 600
```

## その他の参考資料

ここでは、IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマー 機能の関連資料について説明します。

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
IKE の設定に関する追加情報	「Internet Key Exchange for IPsec VPNs」
IPsec SA のグローバルライフタイムの設定に関する追加情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定</li> <li>• IPSEC 優先ピア</li> </ul>
追加セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	---

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマーの機能仕様

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



Table 248: IPsec セキュリティ アソシエーション アイドル タイマーの機能仕様

機能名	リリース	機能情報
IPsec SA アイドルタイマー	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>Cisco IOS XE ソフトウェアを実行しているルータによってピアの IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) が作成される場合、その SA を維持するためにリソースを割り当てる必要があります。SA には、メモリと、複数の管理されたタイマーが必要です。ピアがアイドル状態だと、それらのリソースが無駄になってしまいます。あまりに多くのリソースがアイドル状態のピアによって浪費されてしまうと、ルータによる他のピアとの新しい SA の作成ができなくなる可能性があります。IPsec SA アイドルタイマー機能では、SA のアクティビティをモニタリングするための、設定可能なアイドルタイマーが導入されており、これにより、アイドル状態のピアの SA を削除できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto ipsec security-association idle-time</b></p>
	Cisco IOS XE Release 2.1	<p><b>set security-association idle-time</b> コマンドが追加され、指定された暗号マップに対する IPsec アイドルタイマーの設定が可能になりました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>set security-association idle-time</b>。</p>





## 第 185 章

# IPv6 IPsec の QoS

IPv6 IPsec QoS 機能は、Quality of Service (QoS) ポリシーを IPv6 IPsec に適用できるようにします。

- [IPv6 IPsec QoS に関する情報 \(2715 ページ\)](#)
- [IPv6 IPsec QoS の設定方法 \(2716 ページ\)](#)
- [QoS の設定例 \(2720 ページ\)](#)
- [IPv6 IPsec QoS の追加情報 \(2723 ページ\)](#)
- [IPv6 IPsec QoS の機能情報 \(2723 ページ\)](#)

## IPv6 IPsec QoS に関する情報

### IPv6 IPsec QoS の概要

IPv6 IPsec QoS 機能は、IPv6 IPsec に Quality of Service (QoS) ポリシーを適用します。この機能は、次の機能をサポートしています。

- **Crypto LLQ QoS** : 従来の Cisco モジュラ QoS CLI (MQC) の QoS 設定 (PAK\_PRIORITY など) により QoS に分類されて優先度レベル 1 または 2 にマークされたトラフィックがエンキューされ、暗号プロセッサの前にプライオリティ キューに入れられます。IPsec 暗号化エンジンの低遅延キューイング (LLQ) により、プライオリティトラフィックのパケット遅延を軽減できます。
- **IPsec QoS Pre-Classify** : QoS Pre-Classify が暗号マップの下で設定されることで、暗号化の前に IPsec で元のレイヤ 3 およびレイヤ 4 ヘッダーを保存できるようにします。これにより QoS では、保存されたヘッダーを使用した分類ができます。
- **QoS group-based LLQ** : QoS group-based LLQ 機能により、IPsec で LLQ QoS グループの設定を確認することで、パケットが低遅延キューイング (LLQ) にエンキューされる前に高プライオリティ パケットであるかどうかを判断できます。

# IPv6 IPsec QoS の設定方法

## Crypto LLQ QoS の設定

IPsec と QoS が物理インターフェイスに設定され、QoS ポリシーにプライオリティクラスがある場合、IPsec はインターフェイスにアタッチしたポリシーに基づいてパケットを分類します。プライオリティクラスに一致するパケットを低遅延キューにエンキューします。優先順位の高いパケットは低遅延キューイング (LLQ) にエンキューされます。

このタスクを実行して、サービス ポリシーを出カインターフェイスにアタッチし、IPsec 暗号化エンジンの LLQ を有効化します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *physical-interface-name*
4. **ipv6 address** {*ipv6-address /prefix-length* | *prefix-name sub-bits/prefix-length*}
5. **service-policy output** *policy-map*
6. **ipv6 crypto map** *map-name*
7. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>physical-interface-name</i> 例 : Device(config)# interface GigabitEthernet0/0/1	IPsec 暗号化エンジンの LLQ を使ってインターフェイスを指定します。
ステップ 4	<b>ipv6 address</b> { <i>ipv6-address /prefix-length</i>   <i>prefix-name sub-bits/prefix-length</i> }	インターフェイスで IPv6 アドレスを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	例 :  Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:FFFF::2/64	
ステップ 5	<b>service-policy output</b> <i>policy-map</i> 例 :  Device(config-if)# service-policy output pl	指定したサービス ポリシー マップを出力インターフェイスにアタッチし、IPsec 暗号化エンジンの LLQ をイネーブルにします。
ステップ 6	<b>ipv6 crypto map</b> <i>map-name</i> 例 :  Device(config-if)# ipv6 crypto map CMAP_1	インターフェイスで IPv6 暗号マップを有効化します。
ステップ 7	<b>end</b> 例 :  Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## QoS Pre-classify の設定

### 暗号マップ上での Pre-classify の設定

**qos pre-classify** コマンドは暗号マップに適用され、トンネル単位の設定が可能です。QoS ポリシーは、暗号化の前に、L3 および L4 ヘッダーに基づいて、パケットに適用されます。

このタスクを実行して、QoS Pre-classify を暗号マップに適用します。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 crypto map** *map-name*
4. **qos pre-classify**
5. **end**

#### 手順の詳細

##### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 :	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合) 。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 crypto map map-name</b> 例 : Device(config-if)# ipv6 crypto map CM_V6	暗号マップ コンフィギュレーション モードを開始し、設定する暗号マップを指定します。
ステップ 4	<b>qos pre-classify</b> 例 : Device(config-if)# qos pre-classify	QoS Pre-classify を暗号マップで有効化します。
ステップ 5	<b>end</b> 例 : Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## トンネル インターフェイス上での Pre-classify の設定

**qos pre-classify** コマンドは、IPv6 IPsec トンネル インターフェイスに適用され、QoS で設定オプションをトンネル単位にします。

このタスクを実行して、QoS Pre-classify をトンネル インターフェイスに適用します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface tunnel-interface-name**
4. **ipv6 address {ipv6-address /prefix-length | prefix-name sub-bits/prefix-length}**
5. **qos pre-classify**
6. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface tunnel-interface-name</b> 例： Device(config)# interface Tunnel1	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始して、設定するトンネルまたは仮想インターフェイスを指定します。
ステップ 4	<b>ipv6 address {ipv6-address /prefix-length / prefix-name sub-bits/prefix-length}</b> 例： Device(config-if)# ipv6 address 2001:DB8:FFFF::2/64	インターフェイスで IPv6 アドレスを設定します。
ステップ 5	<b>qos pre-classify</b> 例： Device(config-if)# qos pre-classify	QoS Pre-classify をトンネルインターフェイスで有効化します。
ステップ 6	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## LLQ QoS グループの設定

**platform ipsec llq qos-group** コマンドは、このコマンドで設定される QoS グループに一致するトラフィックの低遅延キューイングを有効化します。

このタスクを実行して、QoS グループの LLQ を有効化します。

## 手順の概要

## 1. enable

2. **configure terminal**
3. **platform ipsec llq qos-group group-number**
4. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>platform ipsec llq qos-group group-number</b> 例： Device(config)# platform ipsec llq qos-group 1	LLQ を有効化する QoS グループを指定します。有効値は 1 ~ 99 です。
ステップ 4	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## QoS の設定例

### 例：Crypto LLQ QoS の設定

次の例では、出力インターフェイスに対してサービスポリシーマップを指定し、インターフェイスで IPv6 暗号マップを有効にする方法を示します。

```

!
class-map match-all c2
  match precedence 5 6 7
class-map match-all c1
  match precedence 0 1 2 3

policy-map p1
  class c1
    priority percent 10

```



```
class c2
  bandwidth remaining percent 3

crypto map ipv6 CMAP_1 1 ipsec-isakmp
  set peer address 2001:DB8:FFFF::1
  set transform-set ESP-3DES-SHA
  match address 102

interface GigabitEthernet0/0/1
  ipv6 address 2001:DB8:FFFF::2/64
  ipv6 crypto map CMAP_1
  service-policy output p1
```

## 例：暗号マップ上での Pre-classify の設定

次の例では、暗号マップ CM\_V6 で **qos pre-classify** コマンドを使用して QoS 事前分類を有効化する方法を示します。

```
!
crypto map ipv6 CM_V6 10 ipsec-isakmp
  match address ACL_IPV6_1
  set transform-set set1
  set peer 2001:DB8:FFFF::1
  qos pre-classify
!
interface GigabitEthernet0/0/1
  ipv6 address 2001:DB8:FFFF::2/64
  service-policy output policy1
  ipv6 crypto map CM_V6
```

## 例：トンネルインターフェイス上での Pre-classify の設定

次の例では、トンネルインターフェイス `tunnell` で **qos pre-classify** コマンドを使用して QoS 事前分類を有効化する方法を示します。

```
interface GigabitEthernet1/1/2
  ipv6 address 2001:DB8:1::F/64
  service-policy output policy1
!
interface Tunnell
  ipv6 address 2001:DB8:2::F/64
  qos pre-classify
  ipv6 mtu 1400
  tunnel protection ipsec profile greprof
```

## 例：LLQ QoS グループの設定

次の例では、QoS グループで低遅延キューイングを設定する方法を示します。

```
!
platform ipsec llq qos-group 1
```

```
platform ipsec llq qos-group 49
!
!
crypto map ipv6 cmap 1 ipsec-isakmp
  set peer 2001:DB8:FFFF:1::E/64
  set security-association lifetime seconds 600
  set transform-set aes-192
  match address 102
!
!
class-map match-all c1
  match precedence 5
class-map match-all c2
  match precedence 2
class-map match-all c3
  match precedence 4
class-map match-all c4
  match precedence 3
!
policy-map p1
  class c3
    set qos-group 20
  class c1
    set qos-group 49
  class c4
    set qos-group 77
!
policy-map p2
  class class-default
    set qos-group 1
!
interface GigabitEthernet0/2/0
  ipv6 address
  negotiation auto
  cdp enable
  ipv6 crypto map cmap
  service-policy input p2
!
!
interface GigabitEthernet0/2/7
  ipv6 address 2001:DB8:FFFF:1::F/64
  negotiation auto
  cdp enable
  service-policy input p1
!
```

## IPv6 IPsec QoS の追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
IPv6 コマンド	『IPv6 Command Reference』
QoS コマンド	『Cisco IOS Quality of Service Solutions Command Reference』
IPv6 アドレッシングと接続	『IPv6 Configuration Guide』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPv6 IPsec QoS の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 249: IPv6 IPsec QoS の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 IPsec QoS	15.4(1)S	<p>IPv6 IPsec QoS 機能は、QoS ポリシーを IPv6 IPsec に適用できるようにします。この機能は、次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Crypto LLQ QoS</li><li>• IPsec QoS Pre-Classify</li><li>• QoS group-based LLQ</li></ul> <p>次のコマンドが変更されました。 <b>ipv6 crypto map</b></p>



## CHAPTER 186

# IPv6 仮想トンネル インターフェイス

シスコのネットワーク デバイス用の Cisco IOS IPv6 セキュリティ機能を利用すると、ネットワークをパフォーマンスの劣化や障害から保護するだけでなく、故意に行われる攻撃や、善意のネットワーク ユーザの意図しない危険な間違いにより生ずるデータの紛失または毀損に対しても保護できます。

Cisco IOS IPsec 機能では、IP パケット レベルのネットワーク データ暗号化を利用して、標準規格に準拠した堅牢なセキュリティが提供されています。また、IPsec では、データ機密保持サービスだけでなく、データ認証およびリプレイ攻撃防止サービスも提供されています。

IPsec は、IPv6 仕様の必須コンポーネントです。IPv6 ユニキャストおよびマルチキャストトラフィックを保護するために、IPv6 IPsec トンネルモードおよびカプセル化が使用されます。このマニュアルでは IPv6 セキュリティへの IPsec の実装について説明します。

- [IPv6 仮想トンネル インターフェイスに関する情報, on page 2725](#)
- [IPv6 仮想トンネル インターフェイスの設定方法, on page 2727](#)
- [IPv6 仮想トンネル インターフェイスの設定例, on page 2739](#)
- [その他の参考資料, on page 2739](#)
- [IPv6 仮想トンネル インターフェイスの機能情報, on page 2740](#)

## IPv6 仮想トンネル インターフェイスに関する情報

### IPsec for IPv6

IP セキュリティ (IPsec) は Internet Engineering Task Force (IETF)によって開発されたオープン規格のフレームワークであり、インターネットなどの保護されていないネットワークを介して機密情報を送信する際のセキュリティを確保します。IPsec はネットワーク層で機能し、Cisco ルータなどの参加している IPsec 装置 (ピア) 間の IP パケットを保護および認証します。IPsec は、次のオプションのネットワーク セキュリティ サービスを提供します。一般に、ローカルセキュリティ ポリシーにより、これらのサービスを 1 つ以上使用するよう指示されます。

- **データ機密性** : IPsec 送信者はネットワークを通じてパケットを送信する前に、パケットを暗号化できます。

- データ整合性：IPsec 受信者は、IPsec 送信者から送信されたパケットを認証し、伝送中にデータが変更されていないようにします。
- データ送信元認証：IPsec 受信者は、送信された IPsec パケットの送信元を認証できます。このサービスはデータ整合性サービスに依存します。
- アンチリプレイ：IPsec 受信者はリプレイされたパケットを検出し、拒否できます。

IPsec を使用すれば、データを、観測、変更、またはスプーフィングされることなく、パブリック ネットワークを介して送信できます。IPsec 機能は IPv6 と IPv4 の両方で似ていますが、サイト間トンネル モードは IPv6 だけでサポートされています。

IPv6 では、IPsec は AH 認証ヘッダーと ESP 拡張ヘッダーを使用して実装されます。認証ヘッダーは、送信元の整合性と認証を提供します。再送されたパケットに対するオプションの保護も提供します。認証ヘッダーによって、ほとんどの IP ヘッダー フィールドの整合性が保護され、シグニチャベースのアルゴリズムに従って送信元が認証されます。ESP ヘッダーは、機密性、送信元の認証、内部パケットのコネクションレス型整合性、アンチリプレイ、および制限されたトラフィック フローの機密性を提供します。

インターネット キー交換 (IKE) プロトコルとは、IPsec とともに使用されるキー管理プロトコル標準です。IPsec の設定には必ずしも IKE は必要ありませんが、IKE では、IPsec 標準に対する新機能が追加されているほか、設定をより柔軟かつ容易に行えるよう、IPsec のサポートが強化されています。

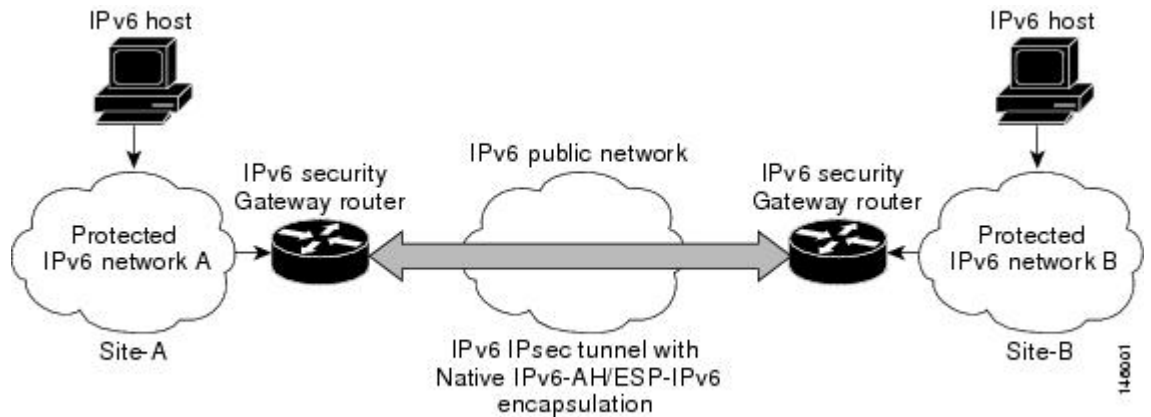
IKE は、Oakley キー交換や Skeme キー交換を Internet Security Association Key Management Protocol (ISAKMP) フレームワークの内部に実装したハイブリッドプロトコルです (ISAKMP、Oakley、および Skeme は IKE によって実装されるセキュリティ プロトコルです)。次の図を参照してください。この機能は、IPv4 IPsec 保護を使用したセキュリティ ゲートウェイ モデルと似ています。

## 仮想トンネル インターフェイスを使用する IPv6 IPsec サイト間保護

IPsec 仮想トンネル インターフェイス (VTI) は、IPv6 トラフィックのサイト間 IPv6 暗号保護を提供します。IPv6 ユニキャストと IPv6 マルチキャストのあらゆるタイプのトラフィックを保護するために、ネイティブ IPv6 IPsec カプセル化が使用されます。

IPsec VTI では、IPv6 ルータがセキュリティ ゲートウェイとして機能し、他のセキュリティ ゲートウェイ ルータ間に IPsec トンネルを確立したり、トラフィックが内部ネットワークからパブリック IPv6 インターネットを介して送信された場合に暗号 IPsec 保護を提供したりできます (次の図を参照)。この機能は、IPv4 IPsec 保護を使用したセキュリティ ゲートウェイ モデルと似ています。

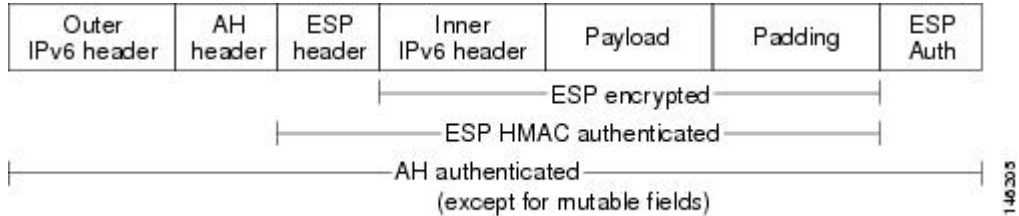
Figure 94: IPv6 の IPsec トンネル インターフェイス



IPsec トンネルを設定すると、トンネルインターフェイスの回線プロトコルがアップ状態に変わる前に、IKE および IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) がネゴシエーションされ、設定されます。リモート IKE ピアは、トンネルの宛先アドレスと同じです。ローカル IKE ピアは、トンネルの宛先アドレスと同じ IPv6 アドレス スコープを持つトンネルの送信元インターフェイスから選択されたアドレスです。

次の図に、IPsec パケット形式を示します。

Figure 95: IPv6 IPsec パケット形式



## IPv6 仮想トンネル インターフェイスの設定方法

### サイト間 IPv6 IPsec 保護用の VTI の設定

#### IPv6 での IKE ポリシーおよび事前共有キーの定義

IKE ネゴシエーションは保護する必要があるため、各 IKE ネゴシエーションは、共有 (共通) の IKE ポリシーについて両ピアが同意することで開始されます。このポリシーには、次の IKE ネゴシエーションを保護するために使用するセキュリティパラメータとピアの認証方法を記述します。

両ピアがポリシーに同意すると、各ピアに確立されている SA によってポリシーのセキュリティパラメータが識別され、ネゴシエーションにおける以降すべての IKE トラフィックに適用されます。

パラメータ値の組み合わせをそれぞれ変えることにより各ピアにプライオリティをつけたポリシーを複数設定できます。ただし、そのうちの少なくとも1つのポリシーには、リモートピアのポリシーのいずれかとまったく同じ暗号化、ハッシュ、認証、Diffie-Hellman パラメータの各値が設定されている必要があります。作成する各ポリシーに対して、一意のプライオリティを割り当てます（1～10,000 で指定し、1 が最大のプライオリティ）。



**Note** サポートされているパラメータの値が1つしかないデバイスを使用する場合は、もう一方のデバイスでサポートされている値を設定する必要があります。この制限を別にすれば、セキュリティとパフォーマンスには通常トレードオフの関係があり、パラメータ値の多くにはこのトレードオフがあります。ネットワークのセキュリティリスクのレベルと、そのリスクに対する許容度を評価する必要があります。

IKE ネゴシエーションが開始されると、IKE は、両方のピアにある同じ IKE ポリシーを検索します。ネゴシエーションを開始したピアがすべてのポリシーをリモートピアに送信し、リモートピアの方では一致するポリシーを探そうとします。リモートピアは、自分のプライオリティ1位のポリシーと、相手のピアから受け取ったポリシーを比較し、一致するポリシーを探します。一致するポリシーが見つかるまで、リモートピアは優先順位が高い順に各ポリシーをチェックします。

2つのピアのポリシーが一致するのは、両方のピアが同じ暗号化、ハッシュ、認証、Diffie-Hellman パラメータの各値を持ち、リモートピアのポリシーに指定されているライフタイムが、比較対象のポリシーのライフタイム以下の場合です（ライフタイムが同一でない場合は、リモートピアのポリシーでの、より短いライフタイムが使用されます）。

一致した場合は、IKE がネゴシエーションを完了し、IPsec セキュリティアソシエーションが作成されます。一致するポリシーが見つからなかった場合は、IKE はネゴシエーションを拒否し、IPsec は確立されません。



**Note** ポリシーに指定する認証方式によっては、追加の設定が必要な場合があります。ピアのポリシーに必要な関連設定がされていないと、一致するポリシーをリモートピアで検索するとき、ピアはポリシーを送信しません。

IKE ポリシーで事前共有キーを使用するピアそれぞれについて ISAKMP ID を設定する必要があります。

2つのピアが IKE を使って IPsec SA を確立する場合、各ピアが自分の ID をもう一方のピア（リモートピア）に送信します。各ピアは、ルータの ISAKMP ID の設定に従い、ホスト名または IPv6 アドレスを送信します。

デフォルトでは、ピアの ISAKMP ID はピアの IPv6 アドレスになっています。必要に応じて ID をピアのホスト名に変更します。一般的に、すべてのピアの ID は同じ設定（すべてのピアで



IPv6 アドレスを設定するか、すべてのピアでホスト名を設定) にします。お互いの識別にホスト名を使うピアと IPv6 アドレスを使うピアが混在していると、リモートピアの ID が識別されない場合に DNS lookup で ID を解決できなくなり、IKE ネゴシエーションが失敗することがあります。

このタスクを実行して、IPv6 での IKE ポリシーおよび事前共有キーを作成します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp policy *priority***
4. **authentication {rsa-sig | rsa-encr | pre-share}**
5. **hash {sha | md5}**
6. **group {1 | 2 | 5}**
7. **encryption {des | 3des | aes | aes 192 | aes 256}**
8. **lifetime *seconds***
9. **exit**
10. **crypto isakmp key password-type keystring *keystring* { address *peer-address* | ipv6 { *ipv6-address* / *ipv6-prefix* } | hostname *hostname* } [ no-xauth ]**
11. **crypto keyring *keyring-name* [vrf *fvr-name*]**
12. **pre-shared-key {address *address* [*mask*] | hostname *hostname* | ipv6 { *ipv6-address* | *ipv6-prefix* } } key *key***

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp policy <i>priority</i></b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto isakmp policy 15	IKE ポリシーを定義し、ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。  • ポリシー番号 1 は、最もプライオリティが高いポリシーを示します。 <i>priority</i> 引数の値が小さいほど、プライオリティは高くなります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>authentication</b> { <b>rsa-sig</b>   <b>rsa-encr</b>   <b>pre-share</b> } <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# authentication pre-share	IKE ポリシー内の認証方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>rsa-sig</b> キーワードと <b>rsa-encr</b> キーワードは IPv6 でサポートされません。</li> </ul>
ステップ 5	<b>hash</b> { <b>sha</b>   <b>md5</b> } <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# hash md5	IKE ポリシー内のハッシュ アルゴリズムを指定します。
ステップ 6	<b>group</b> { <b>1</b>   <b>2</b>   <b>5</b> } <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# group 2	IKE ポリシー内部での D-H グループの識別番号を指定します。
ステップ 7	<b>encryption</b> { <b>des</b>   <b>3des</b>   <b>aes</b>   <b>aes 192</b>   <b>aes 256</b> } <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# encryption 3des	IKE ポリシー内の暗号化アルゴリズムを指定します。
ステップ 8	<b>lifetime</b> <i>seconds</i> <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# lifetime 43200	IKE SA のライフタイムを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• IKE ライフタイム値の設定は任意です。</li> </ul>
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# exit	ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>crypto isakmp key</b> <i>password-type</i> <i>keysting</i> <i>keysting</i> { <b>address</b> <i>peer-address</i>   <b>ipv6</b> { <i>ipv6-address</i>   <i>ipv6-prefix</i> }   <b>hostname</b> <i>hostname</i> } [ <b>no-xauth</b> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp key 0 my-preshare-key-0 address ipv6 3ffe:1001::2/128	事前共有認証キーを設定します。
ステップ 11	<b>crypto keyring</b> <i>keyring-name</i> [ <b>vrf</b> <i>fvr-name</i> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto keyring keyring1	IKE 認証で使用される暗号キーリングを定義し、config-keyring モードを開始します。
ステップ 12	<b>pre-shared-key</b> { <b>address</b> <i>address</i> [ <i>mask</i> ]   <b>hostname</b> <i>hostname</i>   <b>ipv6</b> { <i>ipv6-address</i>   <i>ipv6-prefix</i> }} <b>key</b> <i>key</i> <b>Example:</b>	IKE 認証に使用する事前共有キーを定義します。

	Command or Action	Purpose
	Router (config-keyring)# pre-shared-key ipv6 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02/128	

## ISAKMP アグレッシブ モードの設定

一般的には、サイト間シナリオではアグレッシブモードを設定する必要はありません。通常、デフォルトモードが使用されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp peer** {address {ipv4-address | ipv6 ipv6-address ipv6-prefix-length} | hostname fqdn-hostname}
4. **set aggressive-mode client-endpoint** {client-endpoint | ipv6 ipv6-address}
5. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp peer</b> {address {ipv4-address   ipv6 ipv6-address ipv6-prefix-length}   hostname fqdn-hostname} <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp peer address ipv6 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02/128	IPsec ピアによるトンネル属性の IKE クエリーをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>set aggressive-mode client-endpoint</b> {client-endpoint   ipv6 ipv6-address} <b>Example:</b> Router(config-isakmp-peer)# set aggressive mode client-endpoint ipv6 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02/128	リモートピアの IPv6 アドレスを定義します。このアドレスは、アグレッシブモードのネゴシエーションで使用されます。通常、リモートピアのアドレスはクライアント側のエンドポイントアドレスです。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-isakmp-peer)# end	crypto ISAKMP ピア コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPsec トランスフォーム セットおよび IPsec プロファイルの定義

このタスクを実行して、IPsec トランスフォーム セットを定義します。トランスフォーム セットは、IPsec ルータに受け入れられるセキュリティ プロトコルとアルゴリズムの組み合わせです。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec transform-set** *transform-set-name transform1 [transform2] [transform3] [transform4]*
4. **crypto ipsec profile** *name*
5. **set transform-set** *transform-set-name [transform-set-name2...transform-set-name6]*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name transform1 [transform2] [transform3] [transform4]</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto ipsec transform-set myset0 ah-sha-hmac esp-3des	トランスフォーム セットを定義し、ルータを暗号化 トランスフォーム コンフィギュレーション モードにします。
ステップ 4	<b>crypto ipsec profile</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto ipsec profile profile0	2 つの IPsec ルータ間における IPsec 暗号化のために使用される IPsec パラメータを定義します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> [ <i>transform-set-name2...transform-set-name6</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router (config-crypto-transform)# set-transform-set myset0</pre>	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。

## IPv6 での ISAKMP プロファイルの定義

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp profile** *profile-name* [**accounting** *aaalist*]
4. **self-identity** {**address** | **address ipv6**} | **fqdn** | **user-fqdn** *user-fqdn*}
5. **match identity** {**group** *group-name* | **address** {*address* [*mask*] [*fvr*]} | **ipv6** *ipv6-address*} | **host** *host-name* | **host domain** *domain-name* | **user** *user-fqdn* | **user domain** *domain-name*}
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp profile</b> <i>profile-name</i> [ <b>accounting</b> <i>aaalist</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto isakmp profile profile1</pre>	ISAKMP プロファイルを定義し、IPsec ユーザ セッションを監査します。
ステップ 4	<b>self-identity</b> { <b>address</b>   <b>address ipv6</b> }   <b>fqdn</b>   <b>user-fqdn</b> <i>user-fqdn</i> } <b>Example:</b> <pre>Router(config-isakmp-profile)# self-identity address ipv6</pre>	ローカル IKE がリモートピアに対して IKE 自身を識別させるために使用する ID を定義します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>match identity</b> {group <i>group-name</i>   address { <i>address</i> [ <i>mask</i> ] [ <i>fvrfl</i> ]   ipv6 <i>ipv6-address</i> }   host <i>host-name</i>   host domain <i>domain-name</i>   user <i>user-fqdn</i>   user domain <i>domain-name</i> }  <b>Example:</b>  <pre>Router(config-isakmp-profile)# match identity address ipv6 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02/128</pre>	ISAKMP プロファイルでリモート ピアの ID を照合します。
ステップ 6	<b>end</b>  <b>Example:</b>  <pre>Router(config-isakmp-profile)# end</pre>	ISAKMP プロファイルコンフィギュレーションモードを終了し、特権 sEXEC モードに戻ります。

## IPv6 IPsec VTI の設定

### Before you begin

**ipv6 unicast-routing** コマンドを使用して、IPv6 ユニキャストルーティングを有効化します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 unicast-routing**
4. **interface tunnel** *tunnel-number*
5. **ipv6 address** *ipv6-address/prefix*
6. **ipv6 enable**
7. **tunnel source** {*ip-address* | *ipv6-address* | *interface-type interface-number*}
8. **tunnel destination** {*host-name* | *ip-address* | *ipv6-address*}
9. **tunnel mode** {*aurp* | *cayman* | *dvmrp* | *eon* | *gre* | *gre multipoint* | *gre ipv6* | *ipip* [*decapsulate-any*] | *ipsec ipv4* | *iptalk* | *ipv6* | *ipsec ipv6* | *mpls* | *nos* | *rbscp*}
10. **tunnel protection ipsec profile** *name* [*shared*]
11. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 unicast-routing</b> <b>Example:</b>  Router(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト ルーティングをイネーブルにします。設定するインターフェイス トンネルの数に関係なく、IPv6 ユニキャスト ルーティングを有効化する必要があるのは 1 回だけです。
ステップ 4	<b>interface tunnel tunnel-number</b> <b>Example:</b>  Router(config)# interface tunnel 0	トンネル インターフェイスおよび番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>ipv6 address ipv6-address/prefix</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# ipv6 address 3FFE:C000:0:7::/64 eui-64	IPv6 トラフィックをこのトンネルにルーティングできるように、このトンネル インターフェイスに対する IPv6 アドレスを指定します。
ステップ 6	<b>ipv6 enable</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# ipv6 enable	このトンネル インターフェイスに対して IPv6 をイネーブルにします。
ステップ 7	<b>tunnel source {ip-address   ipv6-address   interface-type interface-number}</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# tunnel source ethernet0	トンネル インターフェイスの送信元アドレスを設定します。
ステップ 8	<b>tunnel destination {host-name   ip-address   ipv6-address}</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# tunnel destination 2001:DB8:1111:2222::1	トンネル インターフェイスの宛先を指定します。
ステップ 9	<b>tunnel mode {aurp   cayman   dvmrp   eon   gre   gre multipoint   gre ipv6   ipip [decapsulate-any]   ipsec ipv4   iptalk   ipv6   ipsec ipv6   mpls   nos   rbscp}</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# tunnel mode ipsec ipv6	トンネル インターフェイスのカプセル化モードを設定します。IPsec では、 <b>ipsec ipv6</b> キーワードだけがサポートされています。

	Command or Action	Purpose
ステップ 10	<b>tunnel protection ipsec profile <i>name</i> [shared]</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-if)# tunnel protection ipsec profile profile1</pre>	トンネルインターフェイスをIPsec プロファイルに関連付けます。IPv6 では、 <b>shared</b> キーワードはサポートされていません。
ステップ 11	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-if)# end</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPsec トンネル モード設定の確認

### SUMMARY STEPS

1. **show adjacency [summary [interface-type interface-number]] | [prefix] [interface interface-number] [connectionid id] [link {ipv4 ipv6 | mpls}] [detail]**
2. **show crypto engine {accelerator | brief | configuration | connections [active | dh | dropped-packet | show] | qos}**
3. **show crypto ipsec sa [ipv6] [interface-type interface-number] [detailed]**
4. **show crypto isakmp peer [config | detail]**
5. **show crypto isakmp policy**
6. **show crypto isakmp profile [tag profilename | vrf vrfname]**
7. **show crypto map [interface interface | tag map-name]**
8. **show crypto session [detail] | [local ip-address [port local-port]] | [remote ip-address [port remote-port]] | detail | fvfr vrf-name | ivrf vrf-name]**
9. **show crypto socket**
10. **show ipv6 access-list [access-list-name]**
11. **show ipv6 cef [ipv6-prefix / prefix-length] | [interface-type interface-number] [longer-prefixes | similar-prefixes | detail | internal | platform | epoch | source]**
12. **show interface type number stats**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>show adjacency [summary [interface-type interface-number]]   [prefix] [interface interface-number] [connectionid id] [link {ipv4 ipv6   mpls}] [detail]</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show adjacency detail</pre>	シスコ エクスプレス フォワーディングの隣接関係テーブルまたはハードウェア レイヤ 3 スイッチングの隣接関係テーブルに関する情報を表示します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>show crypto engine</b> { <i>accelerator</i>   <i>brief</i>   <i>configuration</i>   <i>connections</i> [ <i>active</i>   <i>dh</i>   <i>dropped-packet</i>   <i>show</i> ]   <i>qos</i> } <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto engine connection active</pre>	暗号化エンジンの設定情報の要約を表示します。
ステップ 3	<b>show crypto ipsec sa</b> [ <i>ipv6</i> ] [ <i>interface-type interface-number</i> ] [ <i>detailed</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto ipsec sa ipv6</pre>	IPv6 で現在の SA によって使用されている設定を表示します。
ステップ 4	<b>show crypto isakmp peer</b> [ <i>config</i>   <i>detail</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto isakmp peer detail</pre>	ピアの説明を表示します。
ステップ 5	<b>show crypto isakmp policy</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto isakmp policy</pre>	各 IKE ポリシーのパラメータを表示します。
ステップ 6	<b>show crypto isakmp profile</b> [ <i>tag profilename</i>   <i>vrf vrfname</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto isakmp profile</pre>	ルータに定義されている ISAKMP プロファイルをすべてリストします。
ステップ 7	<b>show crypto map</b> [ <i>interface interface</i>   <i>tag map-name</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto map</pre>	クリプトマップの設定内容を表示します。 このコマンド出力で表示されるクリプトマップは、ダイナミックに生成されます。ユーザはクリプトマップを設定する必要はありません。
ステップ 8	<b>show crypto session</b> [ <i>detail</i> ]   [ <i>local ip-address</i> [ <i>port local-port</i> ]]   [ <i>remote ip-address</i> [ <i>port remote-port</i> ]]   <i>detail</i> ]   <i>fvfr vrf-name</i>   <i>ivrf vrf-name</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto session</pre>	アクティブな暗号セッションのステータス情報を表示します。 IPv6 では、 <b>fvfr</b> キーワード、 <b>ivrf</b> キーワード、または <i>vrf-name</i> 引数はサポートされていません。
ステップ 9	<b>show crypto socket</b> <b>Example:</b> <pre>Router# show crypto socket</pre>	暗号ソケットのリストを表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 10	<b>show ipv6 access-list</b> [ <i>access-list-name</i> ] <b>Example:</b> Router# show ipv6 access-list	現在のすべての IPv6 アクセスリストの内容を表示します。
ステップ 11	<b>show ipv6 cef</b> [ <i>ipv6-prefix / prefix-length</i> ]   [ <i>interface-type interface-number</i> ] [ <b>longer-prefixes</b>   <b>similar-prefixes</b>   <b>detail</b>   <b>internal</b>   <b>platform</b>   <b>epoch</b>   <b>source</b> ] <b>Example:</b> Router# show ipv6 cef	IPv6 転送情報ベース (FIB) のエントリを表示します。
ステップ 12	<b>show interface</b> <i>type number</i> <b>stats</b> <b>Example:</b> Router# show interface fddi 3/0/0 stats	プロセススイッチング、ファーストスイッチング、および分散スイッチングされたパケットの数を表示します。

## IPsec for IPv6 の設定と動作のトラブルシューティング

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug crypto ipsec**
3. **debug crypto engine packet** [**detail**]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug crypto ipsec</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto ipsec	IPsec ネットワーク イベントを表示します。
ステップ 3	<b>debug crypto engine packet</b> [ <b>detail</b> ] <b>Example:</b>	IPv6 パケットの内容を表示します。

	Command or Action	Purpose
	Router# debug crypto engine packet	<b>Caution</b> 複数のパケットが暗号化される場合、このコマンドを使用すると、システムのフラッシュが過剰に発生し、CPU使用率が高くなる可能性があります。

## IPv6 仮想トンネル インターフェイスの設定例

### 例：サイト間 IPv6 IPsec 保護用の VTI の設定

```

crypto isakmp policy 1
  encryption aes
  authentication pre-share
  group 14
!
crypto isakmp key myPreshareKey0 address ipv6 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02/128
crypto isakmp keepalive 30 30
!
crypto ipsec transform-set Trans1 ah-sha-hmac esp-aes
!
crypto ipsec profile profile0
  set transform-set Trans1
!
ipv6 cef
!
interface Tunnel0
  ipv6 address 3FFE:1001::/64 eui-64
  ipv6 enable
  ipv6 cef
  tunnel source Ethernet2/0
  tunnel destination 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02
  tunnel mode ipsec ipv6
  tunnel protection ipsec profile profile0

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
QoS コマンド	『Cisco IOS Quality of Service Solutions Command Reference』
重み付け均等化キューイング	「Configuring Weighted Fair Queuing」機能モジュール

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IPv6 仮想トンネルインターフェイスの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 250: IPv6 仮想トンネルインターフェイスの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 仮想トンネルインターフェイス	Cisco IOS XE Release 2.4	<p>IPsecは、インターネットなどの保護されていないネットワーク上の機密情報の送信にセキュリティを提供します。IPsecはネットワーク層で機能し、Cisco ルータなどの参加している IPsec 装置（ピア）間の IP パケットを保護および認証します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>authentication (IKE policy)</b>、<b>crypto ipsec profile</b>、<b>crypto isakmp key</b>、<b>crypto isakmp peer</b>、<b>crypto isakmp policy</b>、<b>crypto isakmp profile</b>、<b>crypto keyring</b>、<b>debug crypto ipv6 ipsec</b>、<b>encryption (IKE policy)</b>、<b>group (IKE policy)</b>、<b>hash (IKE policy)</b>、<b>lifetime (IKE policy)</b>、<b>match identity</b>、<b>pre-shared-key</b>、<b>self-identity</b>、<b>set aggressive-mode</b>、<b>set client-endpoint</b>、<b>set transform-set</b>、<b>show adjacency</b>、<b>show crypto engine</b>、<b>show crypto ipsec sa</b>、<b>show crypto isakmp peers</b>、<b>show crypto isakmp policy</b>、<b>show crypto isakmp profile</b>、<b>show crypto map</b>、<b>show crypto session</b>、<b>show crypto socket</b>、<b>show ipv6 access-list</b>、<b>show ipv6 cef</b>、<b>tunnel destination</b>、<b>tunnel mode</b>、<b>tunnel source</b>。</p>





## 第 **XVIII** 部

### **IPsec 管理プレーン**

- [IPsec VPN モニタリング, on page 2745](#)
- [Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポート, on page 2755](#)
- [IPsec SNMP サポート, on page 2773](#)
- [IPsec VPN アカウンティング, on page 2783](#)
- [IPsec Usability Enhancements, on page 2803](#)







## CHAPTER 187

# IPsec VPN モニタリング

IP Security VPN モニタリング機能では、VPNセッションモニタリング拡張機能によって、パブリックプライベート ネットワーク (VPN) のトラブルシューティングを行い、エンドユーザー インターフェイスをモニタリングできます。セッションモニタリング拡張には、次のものが含まれます。

- コンフィギュレーションファイル内のインターネットキー交換 (IKE) ピアの説明を指定する機能
- 暗号セッション ステータスの一覧
- 暗号セッションのアップまたはダウン ステータスの Syslog 通知
- 1 つのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、IKE と IP Security (IPsec) の両方のセキュリティ アソシエーション (SA) をクリアする機能。
- [IP Security VPN モニタリングの前提条件, on page 2745](#)
- [IP Security VPN モニタリングの制限事項, on page 2746](#)
- [IPsec VPN モニタリングに関する情報, on page 2746](#)
- [IP Security VPN モニタリングの設定方法, on page 2748](#)
- [IP Security VPN モニタリングの設定例, on page 2750](#)
- [その他の参考資料, on page 2751](#)
- [IP Security VPN モニタリングの機能履歴, on page 2752](#)

## IP Security VPN モニタリングの前提条件

- IPsec と暗号化についての知識が必要です。
- ご使用のルータで IPsec がサポートされている必要があります。また IPsec VPN モニタリング機能を使用する前に、ルータ上で IPsec を設定しておく必要があります。

# IP Security VPN モニタリングの制限事項

- ルータ上で Cisco IOS XE k8 または k9 暗号イメージを実行する必要があります。

## IPsec VPN モニタリングに関する情報

### 暗号セッションの背景知識

暗号化セッションは、2つの暗号エンドポイント間における一連のIPSec接続（フロー）です。2つの暗号エンドポイントで、IKEをキーイングプロトコルとして使用している場合、それらの暗号エンドポイントは互いに対してIKEピアになります。一般に、暗号化セッションは、1つのIKEセキュリティアソシエーション（制御トラフィック用）と、少なくとも2つのIPSecセキュリティアソシエーション（データトラフィック用、各方向に1つ）で構成されています。キー再生成中、または両サイドから同時に設定要求が行われたことにより、同じセッションのIKE SAとIPSec SAが重複したり、IKE SAまたはIPSec SAが重複したりする可能性があります。

### Per-IKE ピアの説明

Per-IKE Peer Description 機能を使用すれば、IKE ピアの選択に関する説明を入力できます。一意なピアの説明（最大 80 文字）は、特定の IKE ピアを参照する場合に使用することができます。ピアの説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。



**Note** ネットワークアドレス変換（NAT）デバイスの背後に「配置」された IKE ピアは一意に識別することができないため、同じピアの説明を共有する必要があります。

この説明フィールドの主要な利用目的はモニタリングです（たとえば、**show** コマンドを使用するときや、ロギング（Syslog メッセージ）などのためです）。説明フィールドは純粹に記述用です（たとえば、クリプト マップを定義する際のピアアドレスや FQDN の置換としては使用できません）。

### 暗号化セッションステータスのサマリー リスト

すべてのアクティブなVPNセッションの一覧を表示するには、**show crypto session** コマンドを入力します。一覧には次の項目が含まれます。

- インターフェイス
- IKE ピアの説明（存在している場合）

- IPsec SA を作成したピアに関連付けられた IKE SA
- セッションのフローにサービスを提供する IPsec SA

同じピア（同じセッション）に対して複数の IKE または IPsec SA が確立される場合があります。その場合、IKE ピアの説明は、ピアに関連付けられている各 IKE SA に対して、また、セッションのフローにサービスを提供する各 IPsec SA に対して、異なる値で繰り返されます。

このコマンドの **show crypto session detail** バリエーションを使用して、セッションに関してより詳しい情報を取得することもできます。

## 暗号化セッションのアップまたはダウンステータスに関する Syslog 通知

暗号セッションのアップまたはダウンステータスの Syslog 通知を実行する機能では、暗号セッションがアップおよびダウンする度に Syslog 通知を行います。

次に、暗号セッションがアップしたことを示す Syslog 通知の例を示します。

```
%CRYPTO-5-SESSION_STATUS: Crypto session is UP. Peer 10.6.6.1:500 fvrfr=name10 ivrfr=name20  
Description: SJC24-2-VPN-Gateway Id: 10.5.5.2
```

次に、暗号セッションがダウンしたことを示す Syslog 通知の例を示します。

```
%CRYPTO-5-SESSION_STATUS: Crypto session is DOWN. Peer 10.6.6.1:500 fvrfr=name10 ivrfr=name20  
Description: SJC24-2-VPN-Gateway Id: 10.5.5.2
```

## IKE および IPsec セキュリティ交換のクリア コマンド

**clear crypto session** コマンドを使用すると、1つのコマンドで IKE と IPsec の両方をクリアできます。特定の暗号化セッションや、すべてのセッションのサブセット（たとえば、あるリモートサイトへの単一のトンネル）をクリアするには、ローカルまたはリモート IP アドレス、ローカルまたはリモート ポート、フロント ドア VPN ルーティングおよび転送 (FVRF) 名、内部 VRF (IVRF) 名といった、セッション固有のパラメータを指定する必要があります。削除する単一のトンネルを指定する場合、リモート IP アドレスを使用するのが一般的です。

**clear crypto session** コマンドを入力するとき、パラメータとしてローカル IP アドレスを指定すると、その IP アドレスをローカルの暗号化エンドポイント (IKE ローカルアドレス) として共有するすべてのセッション（および各セッションの IKE SA と IPsec SA）がクリアされます。

**clear crypto session** コマンドを使用する際に、パラメータを指定しなかった場合、ルータ内のすべての IPsec SA および IKE SA が削除されます。

# IP Security VPN モニタリングの設定方法

## IKE ピアの説明の追加

IKE ピアの説明を IPsec VPN セッションに追加するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp peer {ip-address ip-address}**
4. **description**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp peer {ip-address ip-address}</b> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto isakmp peer address 10.2.2.9	IPsec ピアによるアグレッシブ モードのトンネル属性に関する認証、許可、アカウントिंग (AAA) の IKE クエリーをイネーブルにし、ISAKMP ピア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>description</b> <b>Example:</b>  Router (config-isakmp-peer)# description connection from site A	IKE ピアの説明を追加します。

## ピアの記述の確認

ピアの説明を確認するには、**show crypto isakmp peer** コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto isakmp peer**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show crypto isakmp peer</b> <b>Example:</b> Router# show crypto isakmp peer	ピアの説明を表示します。

## 例

次に、説明の例を示します。IKE ピア 10.2.2.9 の説明として「connection from site A」が追加されていることが確認できます。

```
Router# show crypto isakmp peer
Peer: 10.2.2.9 Port: 500
  Description: connection from site A
  flags: PEER_POLICY
```

アドレス 10.2.2.9 のピアが接続され、セッションがアップになると、Syslog のステータスが次のように表示されます。

```
%CRYPTO-5-SESSION_STATUS: Crypto tunnel is UP. Peer 10.2.2.9:500 Description: connection from site A Id: ezvpn
```

次に、説明の例を示します。IKE ピア 10.2.2.9 の説明として「connection from site A」が追加されていることが確認できます。

```
Router# show crypto isakmp peer
Peer: 10.2.2.9 Port: 500
  Description: connection from site A
  flags: PEER_POLICY
```

アドレス 10.2.2.9 のピアが接続され、セッションがアップになると、Syslog のステータスが次のように表示されます。

```
%CRYPTO-5-SESSION_STATUS: Crypto tunnel is UP. Peer 10.2.2.9:500 Description: connection from site A Id: ezvpn
```

## 暗号化セッションのクリア

暗号セッションをクリアするには、ルータのコマンドラインから **clear crypto session** コマンドを使用します。このコマンドを使用するうえで、コンフィギュレーションファイル内のコンフィギュレーション文は不要です。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear crypto session**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>clear crypto session</b> <b>Example:</b> Router# clear crypto session	暗号セッション（IPSec および IKE SA）を削除します。

## IP Security VPN モニタリングの設定例

### show crypto session コマンドの出力例

次に、**detail** キーボードを使用しない場合の **show crypto session** の出力例を示します。

```
Router# show crypto session
Crypto session current status
Interface: FastEthernet0/1
Session status: UP-ACTIVE
Peer: 172.0.0.2/500
  IKE SA: local 172.0.0.1/500 remote 172.0.0.2/500 Active
  IPSEC FLOW: permit ip 10.10.10.0/255.255.255.0 10.30.30.0/255.255.255.0
    Active SAs: 2, origin: crypto map
```

次に、**show crypto session command and the detail** キーワードを使用する場合の出力例を示します。

```
Router# show crypto session detail
Interface: Tunnel0
Session status: UP-ACTIVE
```

```
Peer: 10.1.1.3 port 500 fvrf: (none) ivrf: (none)
  Desc: this is my peer at 10.1.1.3:500 Green
  Phase1_id: 10.1.1.3
  IKE SA: local 10.1.1.4/500 remote 10.1.1.3/500 Active
    Capabilities:(none) connid:3 lifetime:22:03:24
  IPSEC FLOW: permit 47 host 10.1.1.4 host 10.1.1.3
    Active SAs: 0, origin: crypto map
    Inbound: #pkts dec'ed 0 drop 0 life (KB/Sec) 0/0
    Outbound: #pkts enc'ed 0 drop 0 life (KB/Sec) 0/0
  IPSEC FLOW: permit ip host 10.1.1.4 host 10.1.1.3
    Active SAs: 4, origin: crypto map
    Inbound: #pkts dec'ed 4 drop 0 life (KB/Sec) 4605665/2949
    Outbound: #pkts enc'ed 4 drop 1 life (KB/Sec) 4605665/2949
```

## その他の参考資料

ここでは、IPsec VPN モニタリングの関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IP セキュリティ、暗号化、および IKE	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」</li> <li>IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定</li> </ul>
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規または改訂された標準規格はありません。また、この機能による既存の標準規格サポートの変更はありません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェアリリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/techsupport">http://www.cisco.com/techsupport</a>

## IP Security VPN モニタリングの機能履歴

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



Table 251: IP Security VPN モニタリングの機能履歴

機能名	リリース	機能情報
IPsec VPN モニタリング	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>IP Security VPN モニタリング機能では、VPN セッション モニタリング拡張機能によって、VPN のトラブルシューティングを行い、エンドユーザ インターフェイスをモニタリングできます。セッション モニタリング拡張には、次のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コンフィギュレーション ファイル内の IKE ピアの説明を指定する機能。</li> <li>• 暗号セッション ステータスの一覧</li> <li>• 暗号セッションのアップまたはダウン ステータスの Syslog 通知</li> </ul> <p>CLI を使用して IKE と IPsec SA の両方を削除する機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>clear crypto session</b>、 <b>description (isakmp peer)</b>、 <b>show crypto isakmp peer</b>、 <b>show crypto session</b>。</li> </ul>





## CHAPTER 188

# Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポート

バーチャルプライベートネットワークのルーティングと転送（VRF）対応 IP security（IPsec）機能を使用すると、MIB で VRF 対応 IPsec を管理できます。これにより、VRF ごとに IPsec 統計情報とパフォーマンス メトリックの詳細が表示されます。

- [Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する前提条件, on page 2755](#)
- [Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する情報, on page 2755](#)
- [Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートの設定方法, on page 2756](#)
- [Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートの設定例, on page 2758](#)
- [その他の参考資料, on page 2770](#)
- [Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する機能情報, on page 2771](#)

## Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する前提条件

- 簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）の知識が必要です。

## Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する情報

## Cisco VRF 対応 IPsec の IPsec および IKE MIB サポート機能でサポートされる MIB

- CISCO-IPSEC-FLOW-MONITOR-MIB は、トンネル履歴と障害情報ごとに IKE および IPSEC をサポートします。この履歴と障害情報の長さは設定することができ、VRF ごとに維持す

する必要があります。テーブルサイズは、グローバル コンフィギュレーション モードで **crypto mib ipsec flowmib history tunnel size number** コマンドおよび **crypto mib ipsec flowmib history failure size** コマンドを使用することによって制御されます。

- CISCO-IPSEC-MIB
- CISCO-IPSEC-POLICY-MAP-MIB はサポートされています。しかし、この MIB は、特定の VPN VRF インスタンスに対してではなくルータ全体に適用されるので、VRF 対応ではありません。そのため、この MIB に所属するオブジェクト ID (OID) は、グローバル VRF コンテキストに関連して実行されます。

## Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポート機能によってサポートされる SNMP トラップ

次の IKE および IPsec トンネルの開始と終了トラップは、対応する VRF と一致する必要があります。

- IPSEC\_TUNNEL\_STOP
- IKE\_TUNNEL\_STOP
- IPSEC\_TUNNEL\_START
- IKE\_TUNNEL\_START

次のトラップは、Cisco VRF-Aware IPsec 機能に合わせて変更されたグローバルトラップです。

- TOO\_MANY\_SAS\_CREATED
- CRYPTOMAP\_ADDED
- CRYPTOMAPSET\_ATTACHED
- CRYPTOMAP\_DELETED
- CRYPTOMAPSET\_DELETED
- ISAKMP\_POLICY\_ADDED
- ISAKMP\_POLICY\_DELETED

## Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートの設定方法

この機能を使用するに当たって、特別な設定は必要ありません。SNMP フレームワークを使用して、MIB を使用した VRF 対応 IPsec を管理できます。詳細については、「Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートの設定例」の項を参照してください。

この機能のトラブルシューティングに関する情報は、次の項に記載されています。

## Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポート機能のトラブルシューティング方法

次の **debug crypto mib** コマンドおよびキーワードを使用して、Cisco VRF-aware IPsec に関連している IPsec およびインターネットキー交換 (IKE) MIB に関する情報を表示できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug crypto mib detail**
3. **debug crypto mib error**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug crypto mib detail</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto mib detail	IPsec MIB サブシステムで発生する各種イベントを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>detail</b> キーワードの出力は非常に長くなる可能性があるため、<b>debug crypto mib detail</b> をイネーブルにすることは慎重に検討する必要があります。</li> </ul>
ステップ 3	<b>debug crypto mib error</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto mib error	MIB エージェント内のエラー イベントを表示します。

# Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートの設定例

## 2 つの VRF を持つ設定の例

次に、2 つの VRF を持つハブ設定の典型的な出力例を示します。この出力は、IPsec セキュリティアソシエーション (SA) に対してポーリングを実行する場合の出力です。ルータ 3745b は VRF 対応ルータです。

### 2 つの VRF を設定

次の出力は、2 つの VRF (vrf1 および vrf2) が設定されていることを示しています。

```
Router3745b# show running-config
Building configuration...
Current configuration : 6567 bytes
!
version 12.4
service timestamps debug datetime msec localtime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
!
hostname ipsecf-3745b
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
no logging console
enable password lab
!
no aaa new-model
!
resource policy
!
memory-size iomem 5
clock timezone PST -8
clock summer-time PDT recurring
ip subnet-zero
ip cef
!
!
ip vrf vrf1
 rd 1:101
  context vrf-vrf1-context
  route-target export 1:101
  route-target import 1:101
!
ip vrf vrf2
 rd 2:101
  context vrf-vrf2-context
  route-target export 2:101
  route-target import 2:101
!
no ip domain lookup
```

```
!  
!  
crypto keyring vrf1-1 vrf vrf1  
  pre-shared-key address 10.1.1.1 255.255.255.0 key vrf1-1  
crypto keyring vrf2-1 vrf vrf2  
  pre-shared-key address 10.1.2.1 255.255.255.0 key vrf2-1  
!  
!  
crypto isakmp policy 1  
  authentication pre-share  
!  
crypto isakmp policy 50  
  authentication pre-share  
crypto isakmp key global1-1 address 10.1.151.1  
crypto isakmp key global2-1 address 10.1.152.1  
crypto isakmp profile vrf1-1  
  keyring vrf1-1  
  match identity address 10.1.1.1 255.255.255.255 vrf1  
crypto isakmp profile vrf2-1  
  keyring vrf2-1  
  match identity address 10.1.2.1 255.255.255.255 vrf2  
!  
crypto ipsec security-association lifetime kilobytes 99000  
crypto ipsec security-association lifetime seconds 5000  
!  
crypto ipsec transform-set tset ah-sha-hmac esp-des esp-sha-hmac  
!  
crypto map global1-1 10 ipsec-isakmp  
  set peer 10.1.151.1  
  set transform-set tset  
  match address 151  
!  
crypto map global2-1 10 ipsec-isakmp  
  set peer 10.1.152.1  
  set transform-set tset  
  match address 152  
!  
crypto map vrf1-1 10 ipsec-isakmp  
  set peer 10.1.1.1  
  set transform-set tset  
  set isakmp-profile vrf1-1  
  match address 101  
!  
crypto map vrf2-1 10 ipsec-isakmp  
  set peer 10.1.2.1  
  set transform-set tset  
  set isakmp-profile vrf2-1  
  match address 102  
!  
!  
interface FastEthernet0/0  
  ip address 10.1.38.25 255.255.255.0  
  no ip mroute-cache  
  duplex auto  
  speed auto  
!  
interface Serial10/0  
  no ip address  
  shutdown  
  clock rate 2000000  
!  
interface FastEthernet0/1  
  no ip address  
  no ip mroute-cache
```

```
shutdown
duplex auto
speed auto
!
interface Serial0/1
no ip address
shutdown
clock rate 2000000
!
interface Serial1/0
no ip address
encapsulation frame-relay
no ip route-cache cef
no ip route-cache
no ip mroute-cache
no keepalive
serial restart-delay 0
clock rate 128000
no frame-relay inverse-arp
!
interface Serial1/0.1 point-to-point
ip vrf forwarding vrf1
ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
no ip route-cache
frame-relay interface-dlci 21
!
interface Serial1/0.2 point-to-point
ip vrf forwarding vrf2
ip address 10.3.2.1 255.255.255.0
no ip route-cache
frame-relay interface-dlci 22
!
interface Serial1/0.151 point-to-point
ip address 10.7.151.1 255.255.255.0
no ip route-cache
frame-relay interface-dlci 151
!
interface Serial1/0.152 point-to-point
ip address 10.7.152.1 255.255.255.0
no ip route-cache
frame-relay interface-dlci 152
!
interface Serial1/1
no ip address
no ip mroute-cache
shutdown
serial restart-delay 0
!
interface Serial1/2
no ip address
encapsulation frame-relay
no ip route-cache cef
no ip route-cache
no ip mroute-cache
no keepalive
serial restart-delay 0
no frame-relay inverse-arp
!
interface Serial1/2.1 point-to-point
ip vrf forwarding vrf1
ip address 10.1.1.2 255.255.255.0
no ip route-cache
frame-relay interface-dlci 21
crypto map vrf1-1
```



```

!
interface Serial1/2.2 point-to-point
 ip vrf forwarding vrf2
 ip address 10.1.2.2 255.255.255.0
 no ip route-cache
 frame-relay interface-dlci 22
 crypto map vrf2-1
!
interface Serial1/2.151 point-to-point
 ip address 10.5.151.2 255.255.255.0
 no ip route-cache
 frame-relay interface-dlci 151
 crypto map global1-1
!
interface Serial1/2.152 point-to-point
 ip address 10.5.152.2 255.255.255.0
 no ip route-cache
 frame-relay interface-dlci 152
 crypto map global2-1
!
interface Serial1/3
 no ip address
 no ip mroute-cache
 shutdown
 serial restart-delay 0
!
ip default-gateway 10.1.38.1
ip classless
ip route 10.1.1.6 255.255.255.255 10.1.151.1
ip route 10.2.1.6 255.255.255.255 10.1.152.1
ip route 10.6.2.1 255.255.255.255 10.7.151.2
ip route 10.6.2.2 255.255.255.255 10.7.152.2
ip route 172.19.216.110 255.255.255.255 FastEthernet0/0
ip route vrf vrf1 10.20.1.1 255.255.255.255 10.1.1.1
ip route vrf vrf1 10.22.1.1 255.255.255.255 10.30.1.1
ip route vrf vrf2 10.20.2.1 255.255.255.255 10.1.2.1
ip route vrf vrf2 10.22.2.1 255.255.255.255 10.30.1.2
!
!
ip http server
no ip http secure-server
!
ip access-list standard vrf-vrf1-context
ip access-list standard vrf-vrf2-context
!
access-list 101 permit ip host 10.22.1.1 host 10.20.1.1
access-list 102 permit ip host 10.22.2.1 host 10.20.2.1
access-list 151 permit ip host 10.6.2.1 host 10.1.1.6
access-list 152 permit ip host 10.6.2.2 host 10.2.1.6
snmp-server group abc1 v2c context vrf-vrf1-context read view_vrf1 notify
*tv.FFFFFFFFF.FFFFFFFFF.FFFFFFFFF.F access vrf-vrf1-context
snmp-server group abc2 v2c context vrf-vrf2-context read view_vrf2 notify
*tv.FFFFFFFFF.FFFFFFFFF.FFFFFFFFF.F access vrf-vrf2-context
snmp-server view view_vrf1 iso included
snmp-server view view_vrf2 iso included
snmp-server community abc1 RW
snmp-server community global1 RW
snmp-server community abc2 RW
snmp-server community global2 RW
snmp-server enable traps tty
snmp-server enable traps config
snmp-server host 172.19.216.110 version 2c abc1
snmp-server host 172.19.216.110 vrf vrf1 version 2c abc1 udp-port 2001 ipsec isakmp
snmp-server host 172.19.216.110 version 2c abc2

```

```

snmp-server host 172.19.216.110 vrf vrf2 version 2c abc2 udp-port 2002 ipsec isakmp
snmp-server context vrf-vrf1-context
snmp-server context vrf-vrf2-context
!
!
snmp mib community-map abc1 context vrf-vrf1-context
snmp mib community-map abc2 context vrf-vrf2-context
!
!
control-plane
!
!
line con 0
  exec-timeout 0 0
line aux 0
line vty 0 4
  login
!
!
webvpn context Default_context
  ssl authenticate verify all
!
no inservice
!
!
end

```

### 両方のVRFをクリア

次の出力（abc1 および abc2 の出力）は、両方のVRFが、すべてのカウンタが必ず既知の値に初期化されるように「クリア」されていることを示しています。

次の出力は、VRF abc1 がクリアされていることを示しています。

```

orcas:2> setenv SR_MGR_CONF /users/green1
orcas:3> setenv SR_UTIL_SNMP_VERSION v2c
orcas:5> setenv SR_UTIL_COMMUNITY abc1
orcas:6> setenv SR_MGR_CONF_DIR /users/green1
orcas:7> /auto/sw/packages/snmp/10.14.2.0/solaris2bin/getmany -v2c 10.1.38.25
cipSecMIBObjects
cipSecMibLevel.0 = 1
cikeGlobalActiveTunnels.0 = 0
cikeGlobalPreviousTunnels.0 = 0
cikeGlobalInOctets.0 = 0
cikeGlobalInPkts.0 = 0
cikeGlobalInDropPkts.0 = 0
cikeGlobalInNotifys.0 = 0
cikeGlobalInP2Exchgs.0 = 0
cikeGlobalInP2ExchgInvalids.0 = 0
cikeGlobalInP2ExchgRejects.0 = 0
cikeGlobalInP2SaDelRequests.0 = 0
cikeGlobalOutOctets.0 = 0
cikeGlobalOutPkts.0 = 0
cikeGlobalOutDropPkts.0 = 0
cikeGlobalOutNotifys.0 = 0
cikeGlobalOutP2Exchgs.0 = 0
cikeGlobalOutP2ExchgInvalids.0 = 0
cikeGlobalOutP2ExchgRejects.0 = 0
cikeGlobalOutP2SaDelRequests.0 = 0
cikeGlobalInitTunnels.0 = 0
cikeGlobalInitTunnelFails.0 = 0
cikeGlobalRespTunnelFails.0 = 0

```

```

cikeGlobalSysCapFails.0 = 0
cikeGlobalAuthFails.0 = 0
cikeGlobalDecryptFails.0 = 0
cikeGlobalHashValidFails.0 = 0
cikeGlobalNoSaFails.0 = 0
cipSecGlobalActiveTunnels.0 = 0
cipSecGlobalPreviousTunnels.0 = 0
cipSecGlobalInOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcInOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalInOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalInDecompOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcInDecompOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalInDecompOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalInPkts.0 = 0
cipSecGlobalInDrops.0 = 0
cipSecGlobalInReplayDrops.0 = 0
cipSecGlobalInAuths.0 = 0
cipSecGlobalInAuthFails.0 = 0
cipSecGlobalInDecrypts.0 = 0
cipSecGlobalInDecryptFails.0 = 0
cipSecGlobalOutOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcOutOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalOutOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalOutUncompOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcOutUncompOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalOutUncompOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalOutPkts.0 = 0
cipSecGlobalOutDrops.0 = 0
cipSecGlobalOutAuths.0 = 0
cipSecGlobalOutAuthFails.0 = 0
cipSecGlobalOutEncrypts.0 = 0
cipSecGlobalOutEncryptFails.0 = 0
cipSecGlobalProtocolUseFails.0 = 0
cipSecGlobalNoSaFails.0 = 0
cipSecGlobalSysCapFails.0 = 0
cipSecHistTableSize.0 = 200
cipSecHistCheckPoint.0 = ready(1)
cipSecFailTableSize.0 = 200
cipSecTrapCntlIkeTunnelStart.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIkeTunnelStop.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIkeSysFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeCertCrlFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeProtocolFail.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeNoSa.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecTunnelStart.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIpSecTunnelStop.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIpSecSysFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecSetUpFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecEarlyTunTerm.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecProtocolFail.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecNoSa.0 = disabled(2)

```

次の出力は、VRF abc2 がクリアされていることを示しています。

```

orcas:8> setenv SR_UTIL_COMMUNITY abc2
orcas:9> /auto/sw/packages/snmpr/14.2.0.0/solaris2bin/getmany -v2c 10.1.38.25
cipSecMIBObjects
cipSecMibLevel.0 = 1
cikeGlobalActiveTunnels.0 = 0
cikeGlobalPreviousTunnels.0 = 0
cikeGlobalInOctets.0 = 0
cikeGlobalInPkts.0 = 0
cikeGlobalInDropPkts.0 = 0
cikeGlobalInNotifys.0 = 0

```

```
cikeGlobalInP2Exchgs.0 = 0
cikeGlobalInP2ExchgInvalids.0 = 0
cikeGlobalInP2ExchgRejects.0 = 0
cikeGlobalInP2SaDelRequests.0 = 0
cikeGlobalOutOctets.0 = 0
cikeGlobalOutPkts.0 = 0
cikeGlobalOutDropPkts.0 = 0
cikeGlobalOutNotifys.0 = 0
cikeGlobalOutP2Exchgs.0 = 0
cikeGlobalOutP2ExchgInvalids.0 = 0
cikeGlobalOutP2ExchgRejects.0 = 0
cikeGlobalOutP2SaDelRequests.0 = 0
cikeGlobalInitTunnels.0 = 0
cikeGlobalInitTunnelFails.0 = 0
cikeGlobalRespTunnelFails.0 = 0
cikeGlobalSysCapFails.0 = 0
cikeGlobalAuthFails.0 = 0
cikeGlobalDecryptFails.0 = 0
cikeGlobalHashValidFails.0 = 0
cikeGlobalNoSaFails.0 = 0
cipSecGlobalActiveTunnels.0 = 0
cipSecGlobalPreviousTunnels.0 = 0
cipSecGlobalInOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcInOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalInOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalInDecompOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcInDecompOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalInDecompOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalInPkts.0 = 0
cipSecGlobalInDrops.0 = 0
cipSecGlobalInReplayDrops.0 = 0
cipSecGlobalInAuths.0 = 0
cipSecGlobalInAuthFails.0 = 0
cipSecGlobalInDecrypts.0 = 0
cipSecGlobalInDecryptFails.0 = 0
cipSecGlobalOutOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcOutOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalOutOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalOutUncompOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcOutUncompOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalOutUncompOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalOutPkts.0 = 0
cipSecGlobalOutDrops.0 = 0
cipSecGlobalOutAuths.0 = 0
cipSecGlobalOutAuthFails.0 = 0
cipSecGlobalOutEncrypts.0 = 0
cipSecGlobalOutEncryptFails.0 = 0
cipSecGlobalProtocolUseFails.0 = 0
cipSecGlobalNoSaFails.0 = 0
cipSecGlobalSysCapFails.0 = 0
cipSecHistTableSize.0 = 200
cipSecHistCheckPoint.0 = ready(1)
cipSecFailTableSize.0 = 200
cipSecTrapCntlIkeTunnelStart.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIkeTunnelStop.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIkeSysFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeCertCrlFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeProtocolFail.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeNoSa.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecTunnelStart.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIpSecTunnelStop.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIpSecSysFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecSetUpFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecEarlyTunTerm.0 = disabled(2)
```

```
cipSecTrapCntlIpSecProtocolFail.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecNoSa.0 = disabled(2)
orcas:10>
orcas:10>
orcas:10>
```

### VRF abc1 に対する ping の実行

次の出力は、VRF abc1 に対して ping が実行されていることを示しています。

```
Router3745a# ping
Protocol [ip]:
Target IP address: 10.22.1.1
Repeat count [5]:
Datagram size [100]:
Timeout in seconds [2]:
Extended commands [n]: y
Source address or interface: 10.20.1.1
Type of service [0]:
Set DF bit in IP header? [no]:
Validate reply data? [no]:
Data pattern [0xABCD]:
Loose, Strict, Record, Timestamp, Verbose[none]:
Sweep range of sizes [n]:
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 10.22.1.1, timeout is 2 seconds:
Packet sent with a source address of 10.20.1.1
```

### VRF abc1 に対するポーリングの実行

VRF abc1 に対してポーリングを実行すると次の出力が行われます。



**Note** ping 実行後、カウンタにはゼロ以外の何らかの値が表示されます。

```
orcas:10>
orcas:12> setenv SR_UTIL_COMMUNITY abc1
orcas:13> /auto/sw/packages/snmpr/10.14.2.0/solaris2bin/getmany -v2c 10.1.38.25
cipSecMIBObjects
cipSecMibLevel.0 = 1
cikeGlobalActiveTunnels.0 = 1
cikeGlobalPreviousTunnels.0 = 0
cikeGlobalInOctets.0 = 336
cikeGlobalInPkts.0 = 2
cikeGlobalInDropPkts.0 = 0
cikeGlobalInNotifys.0 = 1
cikeGlobalInP2Exchgs.0 = 2
cikeGlobalInP2ExchgInvalids.0 = 0
cikeGlobalInP2ExchgRejects.0 = 0
cikeGlobalInP2SaDelRequests.0 = 0
cikeGlobalOutOctets.0 = 344
cikeGlobalOutPkts.0 = 2
cikeGlobalOutDropPkts.0 = 0
cikeGlobalOutNotifys.0 = 0
cikeGlobalOutP2Exchgs.0 = 1
cikeGlobalOutP2ExchgInvalids.0 = 0
cikeGlobalOutP2ExchgRejects.0 = 0
cikeGlobalOutP2SaDelRequests.0 = 0
```

```

cikeGlobalInitTunnels.0 = 0
cikeGlobalInitTunnelFails.0 = 0
cikeGlobalRespTunnelFails.0 = 0
cikeGlobalSysCapFails.0 = 0
cikeGlobalAuthFails.0 = 0
cikeGlobalDecryptFails.0 = 0
cikeGlobalHashValidFails.0 = 0
cikeGlobalNoSaFails.0 = 0
cikePeerLocalAddr.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.50.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.49.1
= 0a 01 01 02
cikePeerRemoteAddr.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.50.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.49.1
= 0a 01 01 01
cikePeerActiveTime.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.50.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.49.1
= 13743
cikePeerActiveTunnelIndex.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.50.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.49.1
= 1
cikeTunLocalType.1 = ipAddrPeer(1)
cikeTunLocalValue.1 = 010.001.001.002
cikeTunLocalAddr.1 = 0a 01 01 02
cikeTunLocalName.1 = ipsecf-3745b
cikeTunRemoteType.1 = ipAddrPeer(1)
cikeTunRemoteValue.1 = 010.001.001.001
cikeTunRemoteAddr.1 = 0a 01 01 01
cikeTunRemoteName.1 =
cikeTunNegoMode.1 = main(1)
cikeTunDiffHellmanGrp.1 = dhGroup1(2)
cikeTunEncryptAlgo.1 = des(2)
cikeTunHashAlgo.1 = sha(3)
cikeTunAuthMethod.1 = preSharedKey(2)
cikeTunLifeTime.1 = 86400
cikeTunActiveTime.1 = 13752
cikeTunSaRefreshThreshold.1 = 0
cikeTunTotalRefreshes.1 = 0
cikeTunInOctets.1 = 336
cikeTunInPkts.1 = 2
cikeTunInDropPkts.1 = 0
cikeTunInNotifys.1 = 1
cikeTunInP2Exchgs.1 = 2
cikeTunInP2ExchgInvalids.1 = 0
cikeTunInP2ExchgRejects.1 = 0
cikeTunInP2SaDelRequests.1 = 0
cikeTunOutOctets.1 = 344
cikeTunOutPkts.1 = 2
cikeTunOutDropPkts.1 = 0
cikeTunOutNotifys.1 = 0
cikeTunOutP2Exchgs.1 = 1
cikeTunOutP2ExchgInvalids.1 = 0
cikeTunOutP2ExchgRejects.1 = 0
cikeTunOutP2SaDelRequests.1 = 0
cikeTunStatus.1 = active(1)
cikePeerCorrIpSecTunIndex.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.50.1.15.48.49.48.46.48.48.49.46.48.48.49.46.48.48.49.1.1
= 1
cipSecGlobalActiveTunnels.0 = 1
cipSecGlobalPreviousTunnels.0 = 0
cipSecGlobalInOctets.0 = 400
cipSecGlobalHcInOctets.0 = 0x0190
cipSecGlobalInOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalInDecompOctets.0 = 400
cipSecGlobalHcInDecompOctets.0 = 0x0190
cipSecGlobalInDecompOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalInPkts.0 = 4
cipSecGlobalInDrops.0 = 0
cipSecGlobalInReplayDrops.0 = 0
cipSecGlobalInAuths.0 = 4

```

```

cipSecGlobalInAuthFails.0 = 0
cipSecGlobalInDecrypts.0 = 4
cipSecGlobalInDecryptFails.0 = 0
cipSecGlobalOutOctets.0 = 704
cipSecGlobalHcOutOctets.0 = 0x02c0
cipSecGlobalOutOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalOutUncompOctets.0 = 704
cipSecGlobalHcOutUncompOctets.0 = 0x02c0
cipSecGlobalOutUncompOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalOutPkts.0 = 4
cipSecGlobalOutDrops.0 = 0
cipSecGlobalOutAuths.0 = 4
cipSecGlobalOutAuthFails.0 = 0
cipSecGlobalOutEncrypts.0 = 4
cipSecGlobalOutEncryptFails.0 = 0
cipSecGlobalProtocolUseFails.0 = 0
cipSecGlobalNoSaFails.0 = 0
cipSecGlobalSysCapFails.0 = 0
cipSecTunIkeTunnelIndex.1 = 1
cipSecTunIkeTunnelAlive.1 = true(1)
cipSecTunLocalAddr.1 = 0a 01 01 02
cipSecTunRemoteAddr.1 = 0a 01 01 01
cipSecTunKeyType.1 = ike(1)
cipSecTunEncapMode.1 = tunnel(1)
cipSecTunLifeSize.1 = 99000
cipSecTunLifeTime.1 = 5000
cipSecTunActiveTime.1 = 13749
cipSecTunSaLifeSizeThreshold.1 = 64
cipSecTunSaLifeTimeThreshold.1 = 10
cipSecTunTotalRefreshes.1 = 0
cipSecTunExpiredSaInstances.1 = 0
cipSecTunCurrentSaInstances.1 = 4
cipSecTunInSaDiffHellmanGrp.1 = dhGroup1(2)
cipSecTunInSaEncryptAlgo.1 = des(2)
cipSecTunInSaAhAuthAlgo.1 = hmacSha(3)
cipSecTunInSaEspAuthAlgo.1 = hmacSha(3)
cipSecTunInSaDecompAlgo.1 = none(1)
cipSecTunOutSaDiffHellmanGrp.1 = dhGroup1(2)
cipSecTunOutSaEncryptAlgo.1 = des(2)
cipSecTunOutSaAhAuthAlgo.1 = hmacSha(3)
cipSecTunOutSaEspAuthAlgo.1 = hmacSha(3)
cipSecTunOutSaCompAlgo.1 = none(1)
cipSecTunInOctets.1 = 400
cipSecTunHcInOctets.1 = 0x0190
cipSecTunInOctWraps.1 = 0
cipSecTunInDecompOctets.1 = 400
cipSecTunHcInDecompOctets.1 = 0x0190
cipSecTunInDecompOctWraps.1 = 0
cipSecTunInPkts.1 = 4
cipSecTunInDropPkts.1 = 0
cipSecTunInReplayDropPkts.1 = 0
cipSecTunInAuths.1 = 4
cipSecTunInAuthFails.1 = 0
cipSecTunInDecrypts.1 = 4
cipSecTunInDecryptFails.1 = 0
cipSecTunOutOctets.1 = 704
cipSecTunHcOutOctets.1 = 0x02c0
cipSecTunOutOctWraps.1 = 0
cipSecTunOutUncompOctets.1 = 704
cipSecTunHcOutUncompOctets.1 = 0x02c0
cipSecTunOutUncompOctWraps.1 = 0
cipSecTunOutPkts.1 = 4
cipSecTunOutDropPkts.1 = 0
cipSecTunOutAuths.1 = 4
```

```

cipSecTunOutAuthFails.1 = 0
cipSecTunOutEncrypts.1 = 4
cipSecTunOutEncryptFails.1 = 0
cipSecTunStatus.1 = active(1)
cipSecEndPtLocalName.1.1 =
cipSecEndPtLocalType.1.1 = singleIpAddr(1)
cipSecEndPtLocalAddr1.1.1 = 16 01 01 01
cipSecEndPtLocalAddr2.1.1 = 16 01 01 01
cipSecEndPtLocalProtocol.1.1 = 0
cipSecEndPtLocalPort.1.1 = 0
cipSecEndPtRemoteName.1.1 =
cipSecEndPtRemoteType.1.1 = singleIpAddr(1)
cipSecEndPtRemoteAddr1.1.1 = 14 01 01 01
cipSecEndPtRemoteAddr2.1.1 = 14 01 01 01
cipSecEndPtRemoteProtocol.1.1 = 0
cipSecEndPtRemotePort.1.1 = 0
cipSecSpiDirection.1.1 = in(1)
cipSecSpiDirection.1.2 = out(2)
cipSecSpiDirection.1.3 = in(1)
cipSecSpiDirection.1.4 = out(2)
cipSecSpiValue.1.1 = 3891970674
cipSecSpiValue.1.2 = 1963217493
cipSecSpiValue.1.3 = 3691920464
cipSecSpiValue.1.4 = 3458912974
cipSecSpiProtocol.1.1 = ah(1)
cipSecSpiProtocol.1.2 = ah(1)
cipSecSpiProtocol.1.3 = esp(2)
cipSecSpiProtocol.1.4 = esp(2)
cipSecSpiStatus.1.1 = active(1)
cipSecSpiStatus.1.2 = active(1)
cipSecSpiStatus.1.3 = active(1)
cipSecSpiStatus.1.4 = active(1)
cipSecHistTableSize.0 = 200
cipSecHistCheckPoint.0 = ready(1)
cipSecFailTableSize.0 = 200
cipSecTrapCntlIkeTunnelStart.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIkeTunnelStop.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIkeSysFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeCertCrlFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeProtocolFail.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeNoSa.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecTunnelStart.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIpSecTunnelStop.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIpSecSysFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecSetUpFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecEarlyTunTerm.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecProtocolFail.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecNoSa.0 = disabled(2)
orcas:14>
orcas:14>
orcas:14>

```

### VRF abc2 に対するポーリングの実行

VRF abc2 に対してポーリングを実行すると次の出力が行われます。



**Note** ping は VRF abc1 に関してだけ完了しています。そのため、VRF abc2 のカウンタは初期化された状態のままです。



```
setenv SR_UTIL_COMMUNITY abc2
orcas:15>
orcas:15> /auto/sw/packages/snmpr/10.14.2.0/solaris2bin/getmany -v2c 10.1.38.25
cipSecMIBObjects
cipSecMibLevel.0 = 1
cikeGlobalActiveTunnels.0 = 0
cikeGlobalPreviousTunnels.0 = 0
cikeGlobalInOctets.0 = 0
cikeGlobalInPkts.0 = 0
cikeGlobalInDropPkts.0 = 0
cikeGlobalInNotifys.0 = 0
cikeGlobalInP2Exchgs.0 = 0
cikeGlobalInP2ExchgInvalids.0 = 0
cikeGlobalInP2ExchgRejects.0 = 0
cikeGlobalInP2SaDelRequests.0 = 0
cikeGlobalOutOctets.0 = 0
cikeGlobalOutPkts.0 = 0
cikeGlobalOutDropPkts.0 = 0
cikeGlobalOutNotifys.0 = 0
cikeGlobalOutP2Exchgs.0 = 0
cikeGlobalOutP2ExchgInvalids.0 = 0
cikeGlobalOutP2ExchgRejects.0 = 0
cikeGlobalOutP2SaDelRequests.0 = 0
cikeGlobalInitTunnels.0 = 0
cikeGlobalInitTunnelFails.0 = 0
cikeGlobalRespTunnelFails.0 = 0
cikeGlobalSysCapFails.0 = 0
cikeGlobalAuthFails.0 = 0
cikeGlobalDecryptFails.0 = 0
cikeGlobalHashValidFails.0 = 0
cikeGlobalNoSaFails.0 = 0
cipSecGlobalActiveTunnels.0 = 0
cipSecGlobalPreviousTunnels.0 = 0
cipSecGlobalInOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcInOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalInOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalInDecompOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcInDecompOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalInDecompOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalInPkts.0 = 0
cipSecGlobalInDrops.0 = 0
cipSecGlobalInReplayDrops.0 = 0
cipSecGlobalInAuths.0 = 0
cipSecGlobalInAuthFails.0 = 0
cipSecGlobalInDecrypts.0 = 0
cipSecGlobalInDecryptFails.0 = 0
cipSecGlobalOutOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcOutOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalOutOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalOutUncompOctets.0 = 0
cipSecGlobalHcOutUncompOctets.0 = 0x00
cipSecGlobalOutUncompOctWraps.0 = 0
cipSecGlobalOutPkts.0 = 0
cipSecGlobalOutDrops.0 = 0
cipSecGlobalOutAuths.0 = 0
cipSecGlobalOutAuthFails.0 = 0
cipSecGlobalOutEncrypts.0 = 0
cipSecGlobalOutEncryptFails.0 = 0
cipSecGlobalProtocolUseFails.0 = 0
cipSecGlobalNoSaFails.0 = 0
cipSecGlobalSysCapFails.0 = 0
cipSecHistTableSize.0 = 200
cipSecHistCheckPoint.0 = ready(1)
```

```

cipSecFailTableSize.0 = 200
cipSecTrapCntlIkeTunnelStart.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIkeTunnelStop.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIkeSysFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeCertCrlFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeProtocolFail.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIkeNoSa.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecTunnelStart.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIpSecTunnelStop.0 = enabled(1)
cipSecTrapCntlIpSecSysFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecSetUpFailure.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecEarlyTunTerm.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecProtocolFail.0 = disabled(2)
cipSecTrapCntlIpSecNoSa.0 = disabled(2)
orcas:16>

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
テクノロジーごとの Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Release Command References』
Cisco IOS マスター コマンド リスト	『 <a href="#">Master Command List</a> 』
SNMP の設定	『 <i>Cisco IOS Network Management Configuration Guide</i> 』の「Configuring SNMP Support」の章
VRF-Aware IPsec の設定	「VRF-Aware IPsec」

### 標準

標準	タイトル
なし。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>• CISCO-IPSEC-FLOW-MONITOR-MIB</li> <li>• CISCO-IPSEC-MIB</li> <li>• CISCO-IPSEC-POLICY-MAP-MIB</li> </ul>	選択したプラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
なし。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 252: Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポートに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco VRF-Aware IPsec の IPsec および IKE MIB サポート	IOS XE 3.1S	<p>バーチャルプライベート ネットワークのルーティングと転送（VRF）対応 IP security（IPsec）機能を使用すると、MIB で VRF 対応 IPsec を管理できます。これにより、VRF ごとに IPsec 統計情報とパフォーマンスメトリックの詳細が表示されます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release 12.4(4)T で導入されました。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release XE 3.1S に統合されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>debug crypto mib</b>。</p>



## CHAPTER 189

# IPsec SNMP サポート

IP セキュリティ (IPsec) SNMP サポート機能には、業界標準の IPsec MIB および Cisco IOS XE ソフトウェア固有の IPsec MIB が導入されています。

この機能のコマンドを使用すれば、IPsec MIB 機能のバージョンを確認したり、SNMP トラップをディセーブルにしたり、この機能によって使用されるバッファのサイズをモニタリングおよび制御したりできます。



**Note** このマニュアルでは、Cisco IPsec MIB の Cisco IOS XE CLI サポートを中心に説明します。また、このマニュアルでは現在サポートされている MIB の要素も示します。このマニュアルでは、Cisco IPsec MIB の (ネットワーク管理ステーションからの) SNMP 設定については説明しません。

- [IPsec SNMP サポートの制限事項, on page 2773](#)
- [IPsec SNMP サポートの情報, on page 2774](#)
- [IPsec SNMP サポートの設定方法, on page 2775](#)
- [IPsec SNMP サポートの設定例, on page 2779](#)
- [その他の参考資料, on page 2779](#)
- [IPsec SNMP サポートの機能情報, on page 2780](#)
- [用語集, on page 2781](#)

## IPsec SNMP サポートの制限事項

- IPsec--SNMP サポート機能でサポートされるトンネル設定エラー ログは次のものだけです。
  - NOTIFY\_MIB\_IPSEC\_PROPOSAL\_INVALID
    - 「A tunnel could not be established because the peer did not supply an acceptable proposal.」
  - NOTIFY\_MIB\_IPSEC\_ENCRYPT\_FAILURE
    - 「A tunnel could not be established because it failed to encrypt a packet to be sent to a peer.」
  - NOTIFY\_MIB\_IPSEC\_SYSCAP\_FAILURE
    - 「A tunnel could not be established because the system ran out of resources.」

- NOTIFY\_MIB\_IPSEC\_LOCAL\_FAILURE
- 「A tunnel could not be established because of an internal error.」

これらのエラー通知はエラーテーブルに記録されますが、SNMP 通知（トラップ）としては使用できないことに注意してください。

- 次の機能は、IPsec MIB 機能ではサポートされていません。
  - チェックポインティング
  - CISCO-IPSEC-MIB の Dynamic Cryptomap テーブル
- CISCO-IPSEC-POLICY-MAP-MIB (ciscoIpSecPolMap) で定義されている通知はありません（「IPSec Policy Map Notifications Group」は空です）。

## IPsec SNMP サポートの情報

IP セキュリティ (IPsec) SNMP サポート機能には、業界標準の IPsec MIB および Cisco IOS XE ソフトウェア固有の IPsec MIB が導入されています。

IPsec MIB を使用すれば、SNMP を使用した IPsec 設定のモニタリングおよび IPsec ステータスのモニタリングが可能です。また、IPsec MIB を各種バーチャルプライベートネットワーク (VPN) ソリューションに統合できます。

たとえば、この機能を使用すれば、Cisco IOS XE CLI を使用して、トンネル履歴テーブルやトンネルエラーテーブルのサイズを細かく指定できます。履歴テーブルには、トンネルに関する属性および統計情報がアーカイブされます。エラーテーブルには、トンネルのエラーの原因とエラーが発生した時刻がアーカイブされます。エラー履歴テーブルは、トンネルの終了が通常のものか異常なものかを区別するための簡単な手段として使用できます。つまり、トンネル履歴テーブル内のトンネルエントリに関連するエラーレコードがない場合、トンネルは正常に終了したことになります。ただし、すべてのエラーがトンネルのものとは限らないので、トンネル履歴テーブルがすべてのエラーテーブルを伴うわけではありません。そのため、サポート対象の設定エラーはエラーテーブルに記録されますが、関連する履歴テーブルは、トンネルが設定されていないので、記録されません。

この機能では、ネットワーク管理システムで使用される IPsec 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 通知も提供されます。

## 関連機能およびテクノロジー

IPsec--SNMP サポート機能は、VPN Device Manager (VDM) をサポートするように設計されました。VDM によって、ネットワーク管理者は、Web ブラウザから単一デバイス上のサイト間 VPN を管理および設定でき、また、リアルタイムで変更の効果を確認できます。VDM では、IPsec プロトコルを使用したサイト間 VPN の設定プロセスを簡単にするために、ウィザードベースのグラフィカルユーザインターフェイス (GUI) が実装されます。VDM ソフトウェアは Cisco VPN ルータに直接インストールされます。また、VDM ソフトウェアは、次世代の Device Manager 製品で使用でき、互換性を保つように設計されています。

# IPsec SNMP サポートの設定方法

## IPsec SNMP 通知のイネーブル化

IPsec SNMP 通知をイネーブルにするには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **snmp-server enable traps ipsec cryptomap [add | delete | attach | detach]**
4. **snmp-server enable traps isakmp [policy {add | delete} | tunnel {start | stop}]**
5. **snmp-server host *host-address* traps *community-string* ipsec**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>snmp-server enable traps ipsec cryptomap [add   delete   attach   detach]</b> <b>Example:</b>  Router (config)# snmp-server enable traps ipsec cryptomap add	ルータを、IPsec SNMP 通知を送信するようにルータをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>snmp-server enable traps isakmp [policy {add   delete}   tunnel {start   stop}]</b> <b>Example:</b>  Router (config)# snmp-server enable traps isakmp policy add	ルータを、IPsec ISAKMP SNMP 通知を送信するようにルータをイネーブルにします。
ステップ 5	<b>snmp-server host <i>host-address</i> traps <i>community-string</i> ipsec</b>	IPsec SNMP 通知動作の受信者を指定します。

	Command or Action	Purpose
	<b>Example:</b>  Router (config)# snmp-server host my.example.com traps version2c	

### What to do next

SNMP の設定の詳細については、『*Cisco IOS XE Configuration Fundamentals Configuration Guide*』の「Configuring SNMP Support」章を参照してください。

## IPsec エラー履歴テーブルのサイズの設定

デフォルトのエラー履歴テーブルのサイズは 200 です。エラー履歴テーブルのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto mib ipsec flowmib history failure size *number***

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto mib ipsec flowmib history failure size <i>number</i></b>  <b>Example:</b>  Router (config)# crypto mib ipsec flowmib history failure size 220	IPsec エラー履歴テーブルのサイズを変更します。



## IPsec トンネル履歴テーブルのサイズの設定

デフォルトのトンネル履歴テーブルのサイズは200です。トンネル履歴テーブルのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto mib ipsec flowmib history tunnel size *number***

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto mib ipsec flowmib history tunnel size <i>number</i></b> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto mib ipsec flowmib history tunnel size	IPsec トンネル履歴テーブルのサイズを変更します。

## IPsec MIB 設定の確認

IPsec MIB 機能が正しく設定されているかどうかを確認するには、次のタスクを実行します。

- **show crypto mib ipsec flowmib history failure size** 特権 EXEC コマンドを入力して、エラー履歴テーブルのサイズを表示します。

```
Router# show crypto mib ipsec flowmib history failure size
IPSec Failure Window Size: 140
```

- **show crypto mib ipsec flowmib history tunnel size** 特権 EXEC コマンドを入力して、トンネル履歴テーブルのサイズを表示します:

```
Router# show crypto mib ipsec flowmib history tunnel size
IPSec History Window Size: 130
```

- **show crypto mib ipsec flowmib version** 特権 EXEC コマンドを入力して、管理アプリケーションによって使用される MIB バージョンを表示して、フィーチャセットを識別します。

```
Router# show crypto mib ipsec flowmib version
IPSec Flow MIB version: 1
```

- **debug crypto mib** コマンドを入力して、IPsec MIB デバッグメッセージ通知を表示します。

```
Router# debug crypto mib
Crypto IPsec Mgmt Entity debugging is on
```

## IPsec MIB のモニタおよびメンテナンス

IPsec MIB 情報のステータスをモニタリングするには、次のコマンドのいずれかを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto mib ipsec flowmib history failure size**
3. **show crypto mib ipsec flowmib history tunnel size**
4. **show crypto mib ipsec flowmib version**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show crypto mib ipsec flowmib history failure size</b> <b>Example:</b> Router# show crypto mib ipsec flowmib history failure size	IPsec エラー履歴テーブルのサイズを表示します。
ステップ 3	<b>show crypto mib ipsec flowmib history tunnel size</b> <b>Example:</b> Router# show crypto mib ipsec flowmib history tunnel size	IPsec トンネル履歴テーブルのサイズを表示します。
ステップ 4	<b>show crypto mib ipsec flowmib version</b> <b>Example:</b>	ルータによって使用される IPsec Flow MIB のバージョンを表示します。

	Command or Action	Purpose
	Router# show crypto mib ipsec flowmib version	

## IPsec SNMP サポートの設定例

### IPsec 通知のイネーブル化の例

次に、IPsec 通知がイネーブルにされている例を示します。

```
snmp-server enable traps ipsec isakmp
```

次に、ルータが、ホスト nms1.example.com に IPsec 通知を送信するように設定されている例を示します。

```
snmp-server host nms1.example.com public ipsec isakmp
Translating "nms1.example.com"...domain server (172.00.0.01) [OK]
```

### 履歴テーブルのサイズの指定例

次に、指定したエラー履歴テーブルのサイズが 140 になっている例を示します。

```
crypto mib ipsec flowmib history failure size 140
```

次に、指定したトンネル履歴テーブルのサイズが 130 になっている例を示します。

```
crypto mib ipsec flowmib history tunnel size 130
```

## その他の参考資料

#### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
AAA アカウンティングの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Configuring Accounting」</li> </ul>
IPsec VPN アカウンティングの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Configuring Security for VPNs with IPsec」</li> </ul>
基本 AAA RADIUS の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco.com にある『Cisco IOS Security Configuration Guide: User Services』の「Configuring RADIUS」の章</li> </ul>
ISAKMP プロファイルの設定	「VRF Aware IPsec」

関連項目	マニュアル タイトル
TACACS+ および RADIUS での権限レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Configuring TACACS+」</li> <li>Cisco.com にある『Cisco IOS Security Configuration Guide: User Services』の「Configuring RADIUS」の章</li> </ul>
IPセキュリティ、RADIUS、およびAAA コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

# IPsec SNMP サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 253: IPsec SNMP サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec SNMP サポート	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>IPセキュリティ (IPsec) SNMPサポート機能には、業界標準の IPsec MIB および Cisco IOS XE ソフトウェア固有の IPsec MIB が導入されています。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto mib ipsec flowmib history failure size, crypto mib ipsec flowmib history tunnel size, debug crypto mib, show crypto mib ipsec flowmib history failure size, show crypto mib ipsec flowmib history tunnel size, show crypto mib ipsec flowmib version, snmp-server enable traps ipsec, snmp-server enable traps isakmp, snmp-server host</b>。</p>

## 用語集

**CA** : 認証局。認証局 (CA) は、メッセージ暗号化用のセキュリティ証明書および公開キー (X509v3 証明書の形式) を発行および管理する、ネットワーク内のエンティティです。CA は、公開キーインフラストラクチャ (PKI) の一部として、デジタル証明書の要求側が提供した情報を確認するために登録局 (RA) に問い合わせます。RA によって要求側の情報が確認されると、CA は証明書を発行できます。一般に、証明書には、オーナーの公開キー、証明書の失効日、およびその公開キーのオーナーに関するその他の情報が含まれています。

**IP Security** : 「IPsec」を参照してください。

**IPsec** : インターネットプロトコルセキュリティ。参加ピア間でのデータの機密性、整合性、および認証を提供するオープンスタンダードの枠組みです。IPsecでは、これらのセキュリティサービスがIPレイヤで実現されます。IPsecでは、インターネットキー交換 (IKE) によって、ローカルポリシーに基づいたプロトコルおよびアルゴリズムのネゴシエーションが処理され、IPsecによって使用される暗号キーおよび認証キーが生成されます。IPsecは、1組のホスト間、1組のセキュリティゲートウェイ間、またはセキュリティゲートウェイとホスト間で1つ以上のデータフローを保護するために使用できます。

**Management Information Base** : 「MIB」を参照してください。

**MIB** : 管理情報ベース。ネットワーク管理情報のデータベースです。これらの情報は、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) や共通管理情報プロトコル (CMIP) などのネットワーク管理プロトコルにより使用および保持されます。MIBオブジェクトの値は、SNMPコマンドまたはCMIPコマンドを使用して変更および取得できます。これらのコマンドは通常、グラフィカルユーザインターフェイス (GUI) のネットワーク管理システム (NMS) から実行します。MIBオブジェクトはツリー構造であり、ツリーにはパブリック (標準) ブランチとプライベート (独自) ブランチを含みます。

**Simple Network Management Protocol** : 「SNMP」を参照してください。

**SNMP** : 簡易ネットワーク管理プロトコル。アプリケーション層プロトコルであり、SNMPマネージャとSNMPエージェントとの通信に使用されるメッセージ形式を規定します。

**trap** : 重要なイベントを知らせるためのメッセージです。指定された重大な状況が発生したり、しきい値を超過した場合、SNMP エージェントから、ネットワーク管理システム、コンソール、または端末へ送信されます。



## CHAPTER 190

# IPsec VPN アカウンティング

IPsec VPN アカウンティング機能を使用すれば、セッションが開始される時と終了する時を示すことによって、セッションをアカウンティングできます。

VPNセッションとは、インターネットキー交換 (IKE) セキュリティアソシエーション (SA) および、IKE SA によって作成される 1 つ以上の SA ペアとして定義されます。セッションは、最初の IP セキュリティ (IPsec) ペアが作成されると開始し、すべての IPsec SA が削除されると停止します。

セッション識別情報およびセッション使用状況情報は、標準RADIUS属性とベンダー固有属性を介して、Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS) サーバに渡されます。

- [IPsec VPN アカウンティングの前提条件, on page 2783](#)
- [IPsec VPN アカウンティングに関する情報, on page 2784](#)
- [IPsec VPN アカウンティングの設定方法, on page 2788](#)
- [IPsec VPN アカウンティングの設定例, on page 2794](#)
- [その他の参考資料, on page 2798](#)
- [関連資料, on page 2798](#)
- [IPsec VPN アカウンティングの機能情報, on page 2799](#)
- [用語集, on page 2800](#)

## IPsec VPN アカウンティングの前提条件

- RADIUS と認証、許可、アカウンティング (AAA) アカウンティングの設定方法を理解します。
- IPsec アカウンティングの設定方法を理解します。

# IPsec VPN アカウンティングに関する情報

## RADIUS アカウンティング

多くの大規模ネットワークでは、監査のために、ユーザアクティビティを記録する必要があります。多く使用される方式は、RADIUS アカウンティングです。

RADIUS アカウンティングを使用すれば、セッションが開始される時と終了する時を指示することによって、セッションをアカウンティングできます。また、セッション識別情報およびセッション使用状況情報が、RADIUS 属性およびVSA を介して RADIUS サーバに渡されます。

## RADIUS 開始アカウンティング

RADIUS 開始パケットには、一般的には、サービスを要求する者、およびサービスのプロパティの構成を特定する多くの属性が格納されています。次の表に、開始に必要な属性を示します。

**Table 254: RADIUS アカウンティング開始パケット属性**

RADIUS 属性値	属性	説明
1	user-name	拡張認証 (XAUTH) で使用されるユーザ名。XAUTH が使用されない場合、ユーザ名が NULL になる場合があります。
4	nas-ip-address	ユーザにサービスを提供するネットワーク アクセス サーバ (NAS) の IP アドレスの識別。RADIUS サーバのスコープ内の NAS に対して一意である必要があります。
5	nas-port	ユーザにサービスを提供する NAS の物理ポート番号。
8	framed-ip-address	IPsec セッション用に割り当てられたプライベートアドレス。
40	acct-status-type	ステータス タイプ。この属性では、このアカウンティング要求がマーキングするのが、セッションの開始 (start)、終了 (stop)、または更新のいずれかなのかを示します。
41	acct-delay-time	クライアントが特定のレコードの送信を試行した秒数。
44	acct-session-id	ログ ファイル内の開始レコードと終了レコードのマッチングを容易にする一意のアカウンティング ID。
26	vrf-id	Virtual Route Forwarder (VRF) の名前を表す文字列。
26	isakmp-initiator-ip	リモート IKE の発信側 (V4) のエンドポイント IP アドレス。



RADIUS 属性 値	属性	説明
26	isakmp-group-id	アカウントティングに使用される VPN グループ プロファイル の名前。
26	isakmp-phase1-id	セッションの発信側の識別を可能にする、IKE によって使用 されるフェーズ 1 識別情報 (ID) (たとえば、ドメイン名 (DN)、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、IP アドレスなど)。

## RADIUS 終了アカウントティング

RADIUS 終了パケットには、セッションの使用状況を識別する多くの属性が格納されています。表 2 に、RADIUS 終了パケットに必要な追加属性を示します。開始パケットなしで終了パケットだけを送信することは、そのように設定すれば可能です。終了パケットだけを送信すれば、これにより、AAA サーバに送信されるレコードの数を簡単に減らせます。

**Table 255: RADIUS アカウントティング終了パケット属性**

RADIUS 属 性 値	属性	説明
42	acct-input-octets	サービスが提供されている間に Unity クライアントから受信されたオクテット数。
43	acct-output-octets	このサービスの配信中に Unity クライアントに送信されたオクテット数。
46	acct-session-time	Unity クライアントがサービスを受信した時間の長さ (秒単位)。
47	acct-input-packets	このサービスの配信中に Unity クライアントから受信したパケット量。
48	acct-output-packets	このサービスの配信中に Unity クライアントに送信したパケット量。
49	acct-terminate-cause	未使用。
52	acct-input-gigawords	このサービスの間に Acct-Input-Octets カウンタの値が 232 (2 の 32 乗) を超えた回数。
52	acct-output-gigawords	このサービスの間に Acct-Input-Octets カウンタの値が 232 (2 の 32 乗) を超えた回数。

## RADIUS 更新アカウントティング

RADIUS 更新アカウントティングがサポートされています。パケットおよびオクテットカウントが更新内に表示されます。

## IKE および IPsec サブシステムの相互作用

### Accounting Start

IPsec アカウントティングが設定されている場合、IKE フェーズが終了すると、アカウントティング開始レコードがセッション用に生成されます。キー再生成中は、新しいアカウントティングレコードは生成されません。

次に、ルータ上で生成されており、定義されている AAA サーバに送信されるアカウント開始レコードを示します。

```
*Aug 23 04:06:20.131: RADIUS(00000002): sending
*Aug 23 04:06:20.131: RADIUS(00000002): Send Accounting-Request to 10.1.1.4:1646 id 4,
len 220
*Aug 23 04:06:20.131: RADIUS:   authenticator 38 F5 EB 46 4D BE 4A 6F - 45 EB EF 7D B7
19 FB 3F
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Acct-Session-Id      [44] 10 "00000001"
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Vendor, Cisco      [26] 31
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Cisco AVpair      [1] 25 "isakmp-group-id=cclient"
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Framed-IP-Address [8] 6 10.13.13.1
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Vendor, Cisco      [26] 20
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Cisco AVpair      [1] 14 "vrf-id=cisco"
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Vendor, Cisco      [26] 35
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Cisco AVpair      [1] 29 "isakmp-initiator-ip=10.1.2.2"
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Vendor, Cisco      [26] 36
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Cisco AVpair      [1] 30 "connect-progress=No Progress"
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   User-Name         [1] 13 "username1"
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Acct-Status-Type  [40] 6 Start
[1]
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Vendor, Cisco      [26] 25
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   cisco-nas-port    [2] 19 "FastEthernet0/0.1"
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   NAS-Port          [5] 6 0
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   NAS-IP-Address    [4] 6 10.1.1.147
*Aug 23 04:06:20.135: RADIUS:   Acct-Delay-Time   [41] 6 0
*Aug 23 04:06:20.139: RADIUS: Received from id 21645/4 10.1.1.4:1646, Accounting-response,
len 20
*Aug 23 04:06:20.139: RADIUS:   authenticator B7 E3 D0 F5 61 9A 89 D8 - 99 A6 8A 8A 98
79 9D 5D
```

### アカウントティング終了

リモートピアでのフロー（IPsec SA ペア）がなくなると、アカウントティング終了パケットが生成されます。

アカウントティング終了レコードには次の情報が格納されます。

- パケット出力
- パケット入力
- オクテット出力

- ギガワード入力
- ギガワード出力

次に、ルータ上で生成されたアカウント開始レコードを示します。アカウント開始レコードは、定義されている AAA サーバに送信されます。

```
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS(00000003): Using existing nas_port 0
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS(00000003): Config NAS IP: 100.1.1.147
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS(00000003): sending
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS(00000003): Send Accounting-Request to 100.1.1.4:1646 id 19,
len 238
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: authenticator 82 65 5B 42 F0 3F 17 C3 - 23 F3 4C 35 A2
8A 3E E6
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Session-Id [44] 10 "00000002"
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 20
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Cisco AVpair [1] 14 "vrf-id=cisco"
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 35
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Cisco AVpair [1] 29 "isakmp-initator-ip=10.1.1.2"
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 36
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Cisco AVpair [1] 30 "connect-progress=No Progress"
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Session-Time [46] 6 709
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Input-Octets [42] 6 152608
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Output-Octets [43] 6 152608
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Input-Packets [47] 6 1004
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Output-Packets [48] 6 1004
*Apr 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Input-Giga-Word[52] 6 0
*Apr 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Output-Giga-Wor[53] 6 0

*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Terminate-Cause[49] 6 none
[0]
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 32
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Cisco AVpair [1] 26 "disc-cause-ext=No Reason"
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Status-Type [40] 6 Stop
[2]
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 25
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: cisco-nas-port [2] 19 "FastEthernet0/0.1"
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: NAS-Port [5] 6 0
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6 100.1.1.147
*Aug 23 04:20:16.519: RADIUS: Acct-Delay-Time [41] 6 0
*Aug 23 04:20:16.523: RADIUS: Received from id 21645/19 100.1.1.4:1646,
Accounting-response, len 20
*Aug 23 04:20:16.523: RADIUS: authenticator F1 CA C1 28 CE A0 26 C9 - 3E 22 C9 DA EA
B8 22 A0
```

## アカウントिंग更新

アカウントING更新がイネーブルな場合、セッションが「アップ」であればアカウントING更新が送信されます。更新間隔は設定可能です。アカウントING更新をイネーブルにするには、**aaa accounting update** コマンドを使用します。

次に、ルータから送信されるアカウントING更新を示します。

```
Router#
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS(00000004): Using existing nas_port 0
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS(00000004): Config NAS IP: 100.1.1.147
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS(00000004): sending
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS(00000004): Send Accounting-Request to 100.1.1.4:1646 id 22,
len 200
```

```

*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  authenticator 30 FA 48 86 8E 43 8E 4B - F9 09 71 04 4A
F1 52 25
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Acct-Session-Id      [44] 10 "00000003"
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Vendor, Cisco        [26] 20
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Cisco AVpair          [1] 14 "vrf-id=cisco"
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Vendor, Cisco        [26] 35
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Cisco AVpair          [1] 29 "isakmp-initiator-ip=10.1.1.2"
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Vendor, Cisco        [26] 36
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Cisco AVpair          [1] 30 "connect-progress=No Progress"
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Acct-Session-Time   [46] 6 109
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Acct-Input-Octets   [42] 6 608
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Acct-Output-Octets  [43] 6 608
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Acct-Input-Packets  [47] 6 4
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Acct-Output-Packets [48] 6 4
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Acct-Status-Type   [40] 6 Watchdog
[3]
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Vendor, Cisco        [26] 25
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  cisco-nas-port     [2] 19 "FastEthernet0/0.1"
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  NAS-Port           [5] 6 0
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  NAS-IP-Address      [4] 6 100.1.1.147
*Aug 23 21:46:05.263: RADIUS:  Acct-Delay-Time     [41] 6 0
*Aug 23 21:46:05.267: RADIUS:  Received from id 21645/22 100.1.1.4:1646,
Accounting-response, len 20
*Aug 23 21:46:05.267: RADIUS:  authenticator 51 6B BB 27 A4 F5 D7 61 - A7 03 73 D3 0A
AC 1C

```

## IPsec VPN アカウンティングの設定方法

### IPsec VPN アカウンティングの設定

#### Before you begin

IPsec は、IPsec VPN アカウンティングを設定するより先に設定する必要があります。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa authentication login** *list-name method*
5. **aaa authorization network** *list-name method*
6. **aaa accounting network** **list-name** **start-stop** [**broadcast**] **group** *group-name*
7. **aaa session-id common**
8. **crypto isakmp profile** *profile-name*
9. **vrf** *ivrf*
10. **match identity group** *group-name*
11. **client authentication list** *list-name*
12. **isakmp authorization list** *list-name*
13. **client configuration address** [**initiate** | **respond**]
14. **accounting** *list-name*
15. **exit**

16. **crypto dynamic-map** *dynamic-map-name* *dynamic-seq-num*
17. **set transform-set** *transform-set-name*
18. **set isakmp-profile** *profile-name*
19. **reverse-route** [**remote-peer**]
20. **exit**
21. **crypto map** *map-name* **ipsec-isakmp dynamic** *dynamic-template-name*
22. **radius-server host** *ip-address* [**auth-port** *port-number*] [**acct-port** *port-number*]
23. **radius-server** **key** *string*
24. **radius-server** **vsa** **send** **accounting**
25. **interface** *type* *slot* / *port*
26. **crypto map** *map-name*

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> <b>Example:</b>  Router (config)# aaa new-model	アカウンティング サーバに送信される定期的中間アカウンティングレコードをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>aaa authentication login</b> <i>list-name method</i> <b>Example:</b>  Router (config)# aaa authentication login cisco-client group radius	RADIUS またはローカル経由で、認証、許可、および拡張認可 (XAUTH) のアカウンティング (AAA) 認証を実行します。
ステップ 5	<b>aaa authorization network</b> <i>list-name method</i> <b>Example:</b>  Router (config)# aaa authorization network cisco-client group radius	RADIUS またはローカルから、リモートクライアント上の AAA 認証パラメータを設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>aaa accounting network list-name start-stop [broadcast] group group-name</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# aaa accounting network acc start-stop broadcast group radius</pre>	RADIUS または TACACS+ を使用する場合は課金またはセキュリティのために、要求されたサービスの AAA アカウンティングをイネーブルにします。
ステップ 7	<b>aaa session-id common</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# aaa session-id common</pre>	コール内の各 AAA アカウンティング サービス タイプに、同じセッション ID を使用するかどうか、または、各アカウンティング サービス タイプに対して異なるセッション ID を割り当てるかどうかを指定します。
ステップ 8	<b>crypto isakmp profile profile-name</b> <b>Example:</b> <pre>Route (config)# crypto isakmp profile cisco</pre>	IPsec ユーザセッションを監査し、isakmp-profile サブモードを開始します。
ステップ 9	<b>vrf ivrf</b> <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# vrf cisco</pre>	オンデマンドアドレス プールを、バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) Routing and Forwarding (VRF) インスタンス名に関連付けます。
ステップ 10	<b>match identity group group-name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(conf-isa-prof)# match identity group cisco</pre>	ISAKMP プロファイルのピアの ID を一致させます。
ステップ 11	<b>client authentication list list-name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(conf-isa-prof)# client authentication list cisco</pre>	Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイル内の IKE 拡張認証 (XAUTH) を設定します。
ステップ 12	<b>isakmp authorization list list-name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(conf-isa-prof)# isakmp authorization list cisco-client</pre>	ISAKMP プロファイル内の AAA サーバを使用して、IKE 共有秘密およびその他のパラメータを設定します。一般に、共有秘密およびその他のパラメータは、モード設定 (MODECFG) を介して、リモートピアへプッシュされます。
ステップ 13	<b>client configuration address [initiate   respond]</b> <b>Example:</b> <pre>Router(conf-isa-prof)# client configuration address respond</pre>	ISAKMP プロファイル内で IKE モード設定 (MODECFG) を設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 14	<b>accounting</b> <i>list-name</i> <b>Example:</b> Router(conf-isa-prof)# accounting acc	この ISAKMP プロファイルを介して接続しているすべてのピアの AAA アカウンティングサービスをイネーブルにします。
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(conf-isa-prof)# exit	isakmp-profile サブモードを終了します。
ステップ 16	<b>crypto dynamic-map</b> <i>dynamic-map-name</i> <i>dynamic-seq-num</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto dynamic-map mymap 10 ipsec-isakmp	ダイナミック クリプトマップテンプレートを作成し、クリプトマップコンフィギュレーションコマンドモードを開始します。
ステップ 17	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# set transform-set aswan	クリプトマップテンプレートで使用可能なトランスフォームセットを指定します。
ステップ 18	<b>set isakmp-profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# set isakmp-profile cisco	ISAKMP プロファイル名を設定します。
ステップ 19	<b>reverse-route</b> [ <b>remote-peer</b> ] <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# reverse-route	ルート (IP アドレス) を、VPN リモートトンネルエンドポイントの背後の宛先に対して注入できるようにします。また、トンネルエンドポイント自体に対するルートを設定することも可能です (クリプトマップの <b>remote-peer</b> キーワードを使用します)。
ステップ 20	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# exit	ダイナミック クリプトマップコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 21	<b>crypto map</b> <i>map-name</i> <b>ipsec-isakmp</b> <b>dynamic</b> <i>dynamic-template-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto map mymap ipsec-isakmp dynamic dmap	クリプトマップコンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 22	<b>radius-server host</b> <i>ip-address</i> [ <b>auth-port</b> <i>port-number</i> ] [ <b>acct-port</b> <i>port-number</i> ] <b>Example:</b>  Router(config)# radius-server host 172.16.1.4	RADIUS サーバ ホストを指定します。
ステップ 23	<b>radius-server key</b> <i>string</i> <b>Example:</b>  Router(config)# radius-server key nsite	ルータおよび RADIUS デーモン間のすべての RADIUS コミュニケーションの認証キーおよび暗号キーを指定します。
ステップ 24	<b>radius-server vsa send accounting</b> <b>Example:</b>  Router(config)# radius-server vsa send accounting	ベンダー固有属性を認識し使用するために、ネットワーク アクセス サーバーを設定します。
ステップ 25	<b>interface type slot / port</b> <b>Example:</b>  Router(config)# interface FastEthernet 1/0	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 26	<b>crypto map map-name</b> <b>Example:</b>  Router(config-if)# crypto map mymap	インターフェイスに対して以前に定義されたクリプト マップ セットを適用します。

## アカウンティング更新の設定

セッションが「up」中にアカウンティング更新を送信するには、次の任意の作業を実行します。

### Before you begin

IPSec VPN アカウンティングは、アカウンティング更新の設定前に設定する必要があります。詳細については、「[IPsec VPN アカウンティングの設定, on page 2788](#)」を参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa accounting update periodic number**



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa accounting update periodic number</b> <b>Example:</b> Router (config)# aaa accounting update periodic 1-2147483647	（任意）アカウンティングサーバに送信される定期的中間アカウンティングレコードをイネーブルにします。

## IPsec VPN アカウンティングのトラブルシューティング

IPsec アカウンティング イベントに関するメッセージを表示するには、次の任意の作業を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. enable
2. debug crypto isakmp aaa

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>debug crypto isakmp aaa</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto isakmp aaa	IKE に関するメッセージを表示します。 • <b>aaa</b> キーワードによって、アカウンティング イベントが指定されます。

# IPsec VPN アカウンティングの設定例

## アカウンティングおよび ISAKMP プロファイル例

次に、アカウンティングおよび ISAKMP プロファイルを持つリモート アクセス クライアントをサポートするための設定する例を示します。

```
version 2.1
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname sheep
!
aaa new-model
!
!
aaa accounting network ipsecaaa start-stop group radius
aaa accounting update periodic 1
aaa session-id common
ip subnet-zero
ip cef
!
!
no ip domain lookup
ip domain name cisco.com
ip name-server 172.29.2.133
ip name-server 172.29.11.48
!
!
crypto isakmp policy 1
authentication pre-share
group 2
!
crypto isakmp policy 10
hash md5
authentication pre-share
lifetime 200
crypto isakmp key cisco address 172.31.100.2
crypto iakmp client configuration group cclient
key jegjegjhrhg
pool addressA

crypto-isakmp profile groupA
vrf cisco
match identity group cclient
client authentication list cisco-client
isakmp authorization list cisco-client
client configuration address respond
accounting acc
!
!
crypto ipsec transform-set esp-des-md5 esp-des esp-md5-hmac
!
crypto dynamic-map remotes 1
set peer 172.31.100.2
set security-association lifetime seconds 120
set transform-set esp-des-md5
```

```
reverse-route
!
crypto map test 10 ipsec-isakmp dynamic remotes
!
voice call carrier capacity active
!
interface Loopback0
ip address 10.20.20.20 255.255.255.0
no ip route-cache
no ip mroute-cache
!
interface FastEthernet0/0
ip address 10.2.80.203 255.255.255.0
no ip mroute-cache
load-interval 30
duplex full
!
interface FastEthernet1/0
ip address 192.168.219.2 255.255.255.0
no ip mroute-cache
duplex auto
speed auto
!
interface FastEthernet1/1
ip address 172.28.100.1 255.255.255.0
no ip mroute-cache
duplex auto
speed auto
crypto map test
!
no fair-queue
ip default-gateway 10.2.80.1
ip classless
ip route 10.0.0.0 0.0.0.0 10.2.80.1
ip route 10.20.0.0 255.0.0.0 10.2.80.56
ip route 10.10.10.0 255.255.255.0 172.31.100.2
ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 10.2.80.73
ip local pool addressA 192.168.1.1 192.168.1.253
no ip http server
ip pim bidir-enable
!
!
ip access-list extended encrypt
permit ip host 10.0.0.1 host 10.5.0.1
!
access-list 101 permit ip host 10.20.20.20 host 10.10.10.10
!
!
radius-server host 172.27.162.206 auth-port 1645 acct-port 1646 key cisco123
radius-server retransmit 3
radius-server authorization permit missing Service-Type
radius-server vsa send accounting
call rsvp-sync
!
!
mgcp profile default
!
dial-peer cor custom
!
!
gatekeeper
shutdown
!
!
```

```

line con 0
exec-timeout 0 0
exec prompt timestamp
line aux 0
line vty 5 15
  ntp server 172.31.150.52
end

```

## ISAKMP プロファイルなしのアカウントिंग例

次に、ISAKMP プロファイルが使用されていない時にアカウントング リモート アクセス ピアをサポートする Cisco IOS XE 設定全体の例を示します。

```

version 2.1
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname sheep
!
aaa new-model
!
!
aaa accounting network ipsecaaa start-stop group radius
aaa accounting update periodic 1
aaa session-id common
ip subnet-zero
ip cef
!
!
no ip domain lookup
ip domain name cisco.com
ip name-server 172.29.2.133
ip name-server 172.29.11.48
!
!
crypto isakmp policy 1
  authentication pre-share
  group 2
!
crypto isakmp policy 10
  hash md5
  authentication pre-share
  lifetime 200
crypto isakmp key cisco address 172.31.100.2
!
!
crypto ipsec transform-set esp-des-md5 esp-des esp-md5-hmac
!
crypto map test client accounting list ipsecaaa
crypto map test 10 ipsec-isakmp
  set peer 172.31.100.2
  set security-association lifetime seconds 120
  set transform-set esp-des-md5
  match address 101
!
voice call carrier capacity active
!
interface Loopback0
  ip address 10.20.20.20 255.255.255.0
  no ip route-cache

```

```
no ip mroute-cache
!
interface FastEthernet0/0
ip address 10.2.80.203 255.255.255.0
no ip mroute-cache
load-interval 30
duplex full
!
interface FastEthernet1/0
ip address 192.168.219.2 255.255.255.0
no ip mroute-cache
duplex auto
speed auto
!
interface FastEthernet1/1
ip address 172.28.100.1 255.255.255.0
no ip mroute-cache
duplex auto
speed auto
crypto map test
!
no fair-queue
ip default-gateway 10.2.80.1
ip classless
ip route 10.0.0.0 0.0.0.0 10.2.80.1
ip route 10.30.0.0 255.0.0.0 10.2.80.56
ip route 10.10.10.0 255.255.255.0 172.31.100.2
ip route 10.0.0.2 255.255.255.255 10.2.80.73
no ip http server
ip pim bidir-enable
!
!
ip access-list extended encrypt
permit ip host 10.0.0.1 host 10.5.0.1
!
access-list 101 permit ip host 10.20.20.20 host 10.10.10.10
!
!
radius-server host 172.27.162.206 auth-port 1645 acct-port 1646 key cisco123
radius-server retransmit 3
radius-server authorization permit missing Service-Type
radius-server vsa send accounting
call rsvp-sync
!
!
mgcp profile default
!
dial-peer cor custom
!
!
gatekeeper
shutdown
!
!
line con 0
exec-timeout 0 0
exec prompt timestamp
line aux 0
line vty 5 15
!
exception core-file ioscrypto/core/sheep-core
exception dump 172.25.1.129
ntp clock-period 17208229
ntp server 172.71.150.52
```

```
!
end
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
AAA アカウンティングの設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services』の「Configuring Accounting」モジュール
IPsec VPN アカウンティングの設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Configuring Security for VPNs with IPsec」モジュール
基本 AAA RADIUS の設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services』の「Configuring RADIUS」モジュール
ISAKMP プロファイルの設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「VRF-Aware IPsec」モジュール
TACACS+ および RADIUS での権限レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services』の「Configuring TACACS+」モジュール</li> <li>『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Securing User Services』の「Configuring RADIUS」モジュール</li> </ul>
IP セキュリティ、RADIUS、および AAA コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
なし。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
なし。	

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IPsec VPN アカウンティングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 256: IPsec VPN アカウンティングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec VPN アカウンティング	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>IPsec VPN アカウンティング機能を使用すれば、セッションが開始される時と終了する時を指示することによって、セッションをアカウンティングできます。</p> <p>VPN セッションとは、IKE SA および、IKE SA によって作成される 1 つ以上の SA ペアとして定義されます。セッションは、最初の IPsec ペアが作成されると開始し、すべての IPsec SA が削除されると停止します。</p> <p>セッション識別情報およびセッション使用状況情報が、標準的な RADIUS 属性および VSA を介して、RADIUS サーバに渡されます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>client authentication list, client configuration address, crypto isakmp profile, crypto map (global IPsec), debug crypto isakmp, isakmp authorization list, match identity, set isakmp-profile, vrf。</b></p>

## 用語集

**IKE** : Internet Key Exchange (インターネット キー エクスチェンジ)。IKE によって、キーが必要なサービス (IP セキュリティ (IPsec) など) のための共有セキュリティ ポリシーおよび認証キーが確立されます。IPsec トラフィックを通過させる前に、ルータ、ファイアウォール、ホストそれぞれでピアの ID を検証する必要があります。それには、事前共有キーを両ホストに手動で入力するか、認証局 (CA) サービスを使用します。

**IPsec** : IP security (IP セキュリティ)。IPsec はオープン規格のフレームワークであり、これにより、参加ピア間でデータ機密性、データ整合性、およびデータ認証が提供されます。IPsec では、これらのセキュリティ サービスが IP レイヤで実現されます。IPsec では、ローカル ポリシーに基づいたプロトコルやアルゴリズムのネゴシエーションの処理や、IPsec に使用される暗号キーや認証キーの生成が、IKE を通じて行われます。IPsec は、1 組のホスト間、1 組のセキュリティ ゲートウェイ間、またはセキュリティ ゲートウェイとホスト間で 1 つ以上のデータ フローを保護するために使用できます。

**ISAKMP** : Internet Security Association and Key Management Protocol。ISAKMP は、セキュリティ アソシエーションのネゴシエーション、確立、変更、および削除を行うインターネット IPsec プロトコル (RFC 2408) です。また、キー生成および認証データ (特定のキー生成メカニズム



とは独立しています)、キー確立プロトコル、暗号化アルゴリズム、または認証メカニズムも交換されます。

**L2TP session** : Layer 2 Transport Protocol (レイヤ 2 転送プロトコル)。L2TP は、単一の PPP 接続のトンネリングがサポートされた、L2TP アクセス コンセントレータ (LAC) と L2TP ネットワーク サーバ (LNS) の間における通信トランザクションです。PPP 接続、L2TP セッション、および L2TP コールの間には 1 対 1 の関係があります。

**NAS** : ネットワーク アクセス サーバー。NAS は、パケットの世界 (インターネットなど) と回線の世界 (公衆電話交換網 (PSTN)) との間のインターフェイスとなるシスコのプラットフォーム (または複数のプラットフォームの集まり。AccessPath システムなど) です。

**PFS** : Perfect Forward Secrecy。PFS は、導き出される共有秘密値に関連する暗号特性です。PFS を使用すると、1 つのキーが損なわれても、これ以降のキーは前のキーの取得元から取得されないため、前および以降のキーには影響しません。

**QM** : Queue Manager (キューマネージャ)。Cisco IP Queue Manager (IP QM) は、インテリジェントで、IP ベースの、コール処理およびルーティング ソリューションであり、Cisco IP Contact Center (PCC) ソリューションの一部として、強力なコール処理オプションが提供されます。

**RADIUS** : リモート認証ダイヤルイン ユーザー サービス。RADIUS は、モデムおよび ISDN 接続の認証、および接続のトラッキングのためのデータベースです。

**RSA** : Rivest, Shamir, and Adelman (Rivest, Shamir、および Adelman)。Rivest, Shamir、および Adelman は、暗号化および認証に使用可能な公開キー暗号化システムの発明者たちです。

**SA** : Security Association (セキュリティ アソシエーション)。SA は、データフローに適用されるセキュリティ ポリシーおよびキー関連情報のインスタンスです。

**TACACS+** : Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACAS+)。TACACS+ は、ユーザーによるルータまたはネットワーク アクセス サーバーへのアクセス試行の集中的な確認を可能にするセキュリティアプリケーションです。

**VPN** : Virtual Private Network (仮想プライベートネットワーク)。VPN を使用すると、ネットワーク間のトラフィックをすべて暗号化することにより、パブリック TCP/IP ネットワーク経由でも IP トラフィックをセキュアに転送できます。VPN は「トンネリング」を使用して、IP レベルですべての情報を暗号化します。

**VRF** : VPN Routing/Forwarding instance (VPN ルーティング/転送インスタンス)。VRF は、IP ルーティング テーブル、取得されたルーティング テーブル、そのルーティング テーブルを使用する一連のインターフェイス、ルーティング テーブルに登録されるものを決定する一連のルールおよびルーティング プロトコルで構成されています。一般に、VRF には、PE ルータに付加されるカスタマー VPN サイトが定義されたルーティング情報が格納されています。

**VSA** : Vendor-Specific Attribute (ベンダー固有属性)。VSA は、特定のベンダーによって実装された属性です。Vendor-Specific 属性が使用された結果、AV ペアがカプセル化されます。基本的には、Vendor-Specific = プロトコル:Attribute = 値となります。

**XAUTH** : Extended Authentication (拡張認証)。XAUTH は、IKE フェーズ 1 と IKE フェーズ 2 の間における任意の交換です。XAUTH では、ルータが、(ピアの認証ではなく) 実際のユーザの認証試行において、追加の認証情報を要求します。





## CHAPTER 191

# IPsec Usability Enhancements

IPsec Usability Enhancements 機能では、IPsec バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) の設定およびモニタリングを簡単にする機能が導入されています。この機能の利点としては、IPsec およびインターネット キー交換 (IKE) のインテリジェントなデフォルト、および IPsec VPN を簡単に確認およびトラブルシューティングできる機能などがあります。

- [IPsec Usability Enhancements の前提条件, on page 2803](#)
- [IPsec Usability Enhancements に関する情報, on page 2803](#)
- [IPsec Usability Enhancements の活用方法, on page 2805](#)
- [IPsec Usability Enhancements の設定例, on page 2821](#)
- [その他の参考資料, on page 2824](#)
- [IPsec Usability Enhancements の機能情報, on page 2826](#)
- [用語集, on page 2826](#)

## IPsec Usability Enhancements の前提条件

- IPsec、IKE、および暗号化の知識が必要です。
- IPsec を設定し、ルータ上の IKE をイネーブルにしておく必要があります。
- ルータ上で Cisco IOS XE k9 暗号イメージを実行する必要があります。

## IPsec Usability Enhancements に関する情報

### IPsec の概要

IPsec は、インターネット技術特別調査委員会 (IETF) によって開発されたオープン規格のフレームワークであり、パブリック ネットワークを介して機密性の高い情報を送信する際にセキュリティを確保します。IPsec はネットワーク層で機能し、Cisco ルータなどの参加している IPsec 装置 (ピア) 間の IP パケットを保護および認証します。

IPsec では、2つのピア間におけるセキュアなトンネルが提供されます。機密性の高いパケットを定義し、そのパケットをこれらのセキュアなトンネルを介して送信されるように定義できます。また、トンネルの特性を指定することによって、このように機密性の高いパケットを保護するために使用されるパラメータを定義できます。IPsec ピアによってこのように機密性の高いパケットが検出されたら、そのピアによって、適切かつセキュアなトンネルが設定され、そのパケットがトンネルからリモートピアに送信されます。

## IPsec の動作

IPsec の動作は5つの基本的な手順で構成されています。対象となるトラフィックの識別、IKE フェーズ1、IKE フェーズ2、トンネルまたはIPsecセッションの確立、そして最後にトンネルの切断です。

### ステップ1：対象となるトラフィックの識別

VPNデバイスによって、検出対象のトラフィック、つまり機密性の高いパケットが認識されます。IPsec が機密性の高いパケットに適用されるか、パケットがバイパスされるか、または、パケットが廃棄されます。トラフィックのタイプに基づき、IPsecが適用されると、IKE フェーズ1が開始されます。

### ステップ2：IKE フェーズ1

IKE セキュリティポリシーのネゴシエーションを行い、セキュアなチャネルを確立するために、VPNデバイス間で3回の交換が実行されます。

最初の交換の間、VPNデバイスによって、IKE交換を保護するためのIKE トランスフォームセットのマッチングのネゴシエーションが行われ、その結果、使用する Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) ポリシーが確立されます。ISAKMP ポリシーは、暗号化アルゴリズム、ハッシュアルゴリズム、認証アルゴリズム、デフィーヘルマン (DH) グループ、およびライフタイムパラメータで構成されています。

8種類のデフォルトISAKMPポリシーがサポートされています。デフォルトISAKMPポリシーの詳細については、[IKE フェーズ1 ISAKMP デフォルトポリシーの確認, on page 2805](#)を参照してください。

2番目の交換は Diffie-Hellman 交換です。共有秘密が確立されます。

3番目の交換では、ピアのアイデンティティが認証されます。ピアが認証されると、IKE フェーズ2が開始されます。

### ステップ3：IKE フェーズ2

VPNデバイスによって、IPsecデータの保護に使用されるIPsecセキュリティポリシーのネゴシエーションが行われます。IPsec トランスフォームセットがネゴシエートされます。

トランスフォームセットは、ネットワークトラフィックのセキュリティポリシーを制定するアルゴリズムおよびプロトコルの組み合わせです。デフォルトトランスフォームセットの詳細については、[デフォルトIPsec トランスフォームセットの確認, on page 2809](#)を参照してください。VPN トンネル確立の準備ができました。

#### ステップ 4 : Tunnel--IPsec の確立

VPN デバイスによって、セキュリティサービスが IPsec トラフィックに適用され、次に、IPsec データが送信されます。セキュリティアソシエーション (SA) がピア間で交換されます。IPsec セッションがアクティブの間、ネゴシエートされたセキュリティ サービスがトンネルトラフィックに適用されます。

#### ステップ 5 : トンネルの終了

IPsec SA ライフタイムのタイムアウトが発生するか、パケットカウンタが超過すると、トンネルが切断されます。IPsec SA が削除されます。

## IPsec Usability Enhancements の活用方法

### IKE フェーズ 1 ISAKMP デフォルト ポリシーの確認

IKE ネゴシエーションが開始されると、ピアによって共通ポリシーの検出が試行され、検出はリモートピア上で指定された最も高いプライオリティを持つポリシーから開始されます。一致が存在するまで、ピアによって、ポリシーセットのネゴシエーションが行われます。各ピアに共通のポリシーセットが複数存在する場合、最も低いプライオリティを持つ番号が使用されません。

IKE フェーズ 1、ISAKMP、ポリシーのプライオリティの範囲および動作によって定義された各種ポリシーの 3 つのグループがあります。

- デフォルト ISAKMP ポリシー。自動的にイネーブルにされます。
- ユーザー ISAKMP 設定ポリシー。 **crypto isakmp policy** コマンドを使用して設定できます。
- Easy VPN ISAKMP ポリシー。Easy VPN 設定中に使用可能にされます。

このセクションでは、ISAKMP ポリシーの 3 つのグループに関して、互いの関係の中での動作、使用中のポリシーを適切な **show** コマンドを使用して特定する方法、および、デフォルト ISAKMP ポリシーをディセーブルにする方法について説明します。

### デフォルト IKE フェーズ 1 ポリシー

8 種類のデフォルト IKE フェーズ 1、ISAKMP、各種ポリシーがサポートされています (下表を参照)。自動的にイネーブルにされます。 **crypto isakmp policy** コマンドを使用して IKE ポリシーを手動で設定していない場合、または **no crypto isakmp default policy** コマンドを使用してデフォルト IKE ポリシーを無効にしていない場合、ピア IKE ネゴシエーション中はデフォルトの IKE ポリシーが使用されます。 **show crypto isakmp policy** コマンドまたは **show crypto isakmp default policy** コマンドのいずれかを発行して、デフォルトの IKE ポリシーが使用されていることを確認できます。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

デフォルト IKE ポリシーによって、次のポリシー セット パラメータが定義されます。

- プライオリティ、65507 ～ 65514。65507 が最も高いプライオリティで、65514 が最も低いプライオリティ。
- 認証方式、Rivest、Shamir、および Adelman（RSA）または事前共有キー（PSK）。
- 暗号方式、Advanced Encryption Standard（AES）または Triple Data Encryption Standard（3DES）。
- ハッシュ関数、Secure Hash Algorithm（SHA-1）または Message-Digest algorithm 5（MD5）。
- DH グループ仕様 DH2 または DH5。
  - DH2 では、768 ビット DH グループが指定されます。
  - DH5 では、1536 ビット DH グループが指定されます。



**Note** 3DES、MD5、および DH グループ 1、2、5 の使用は推奨しません。シスコの最新の暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)（NGE）』ホワイトペーパーを参照してください。IKE 設定の詳細については、『[Internet Key Exchange for IPsec VPNs Configuration Guide](#)』の「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」の章を参照してください。

**Table 257:** デフォルト IKE フェーズ 1、ISAKMP、ポリシー

プライオリティ	認証	暗号化	ハッシュ	Diffie-Hellman
65507	RSA	AES	SHA	DH5
65508	PSK	AES	SHA	DH5
65509	RSA	AES	MD5	DH5
65510	PSK	AES	MD5	DH5
65511	RSA	3DES	SHA	DH2
65512	PSK	3DES	SHA	DH2
65513	RSA	3DES	MD5	DH2
65514	PSK	3DES	MD5	DH2

## ユーザ設定 IKE ポリシー

**crypto isakmp policy** コマンドを使用して、IKE ポリシーを設定できます。ユーザ設定 IKE ポリシーは一意に識別され、1～10000の範囲のプライオリティ番号が使用されて設定されます。1が最も高いプライオリティで、10000は最も低いプライオリティです。

1～10000のプライオリティを持つ1つ以上のIKEポリシーを設定した結果は次のとおりです。

- ピア IKE ネゴシエーション中にユーザ設定ポリシーが使用されます。
- ピア IKE ネゴシエーション中にデフォルト IKE ポリシーが使用されます。
- **show crypto isakmp policy** コマンドを発行することによって、ユーザー設定ポリシーを表示できます。

## Easy VPN ISAKMP ポリシー

Easy VPNを設定した場合、使用中のデフォルト Easy VPN ISAKMP ポリシーは、65515～65535の範囲のプライオリティ番号で一意に識別されます。65515が最も高いプライオリティで、65535は最も低いプライオリティです。

ユーザが Easy VPN を設定した結果は次のとおりです。

- ピア Easy VPN ISAKMP ネゴシエーション中に、デフォルト EzVPN ISAKMP ポリシーおよびデフォルト IKE ポリシーが使用されます。
- **show crypto isakmp policy** コマンドを発行することによって、Easy VPN ISAKMP ポリシーおよびデフォルト IKE ポリシーを表示できます。
- デフォルト ISAKMP ポリシーは、**no crypto isakmp default policy** コマンドを発行して無効にしない限り、**show crypto isakmp default policy** コマンドを発行すると表示されます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto isakmp default policy**
3. **configure terminal**
4. **no crypto isakmp default policy**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>show crypto isakmp default policy</b> <b>Example:</b> Router# show crypto isakmp default policy	(任意) 1～10000 のプライオリティを持つポリシーが設定されていない場合、デフォルト ISAKMP ポリシーを表示します。
ステップ 3	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>no crypto isakmp default policy</b> <b>Example:</b> Router(config)# no crypto isakmp default policy	(任意) 65507～65514 のプライオリティを持つデフォルト ISAKMP ポリシーをオフにします。

### 例

次に、**show crypto isakmp default policy** コマンドの出力例を示します。デフォルトポリシーがディセーブルにされていないので、デフォルトポリシーが表示されています。

```
Router# show crypto isakmp default policy

Default IKE policy
Default protection suite of priority 65507
  encryption algorithm: AES - Advanced Encryption Standard (128 bit key.)
  hash algorithm:      Secure Hash Standard
  authentication method: Rivest-Shamir-Adleman Signature
  Diffie-Hellman group: #5 (1536 bit)
  lifetime:           86400 seconds, no volume limit
Default protection suite of priority 65508
  encryption algorithm: AES - Advanced Encryption Standard (128 bit key.)
  hash algorithm:      Secure Hash Standard
  authentication method: Pre-Shared Key
  Diffie-Hellman group: #5 (1536 bit)
  lifetime:           86400 seconds, no volume limit
Default protection suite of priority 65509
  encryption algorithm: AES - Advanced Encryption Standard (128 bit key.)
  hash algorithm:      Message Digest 5
  authentication method: Rivest-Shamir-Adleman Signature
  Diffie-Hellman group: #5 (1536 bit)
  lifetime:           86400 seconds, no volume limit
Default protection suite of priority 65510
  encryption algorithm: AES - Advanced Encryption Standard (128 bit key.)
  hash algorithm:      Message Digest 5
  authentication method: Pre-Shared Key
  Diffie-Hellman group: #5 (1536 bit)
  lifetime:           86400 seconds, no volume limit
Default protection suite of priority 65511
  encryption algorithm: Three key triple DES
  hash algorithm:      Secure Hash Standard
  authentication method: Rivest-Shamir-Adleman Signature
  Diffie-Hellman group: #2 (1024 bit)
```



```

lifetime: 86400 seconds, no volume limit
Default protection suite of priority 65512
  encryption algorithm: Three key triple DES
  hash algorithm: Secure Hash Standard
  authentication method: Pre-Shared Key
  Diffie-Hellman group: #2 (1024 bit)
  lifetime: 86400 seconds, no volume limit
Default protection suite of priority 65513
  encryption algorithm: Three key triple DES
  hash algorithm: Message Digest 5
  authentication method: Rivest-Shamir-Adleman Signature
  Diffie-Hellman group: #2 (1024 bit)
  lifetime: 86400 seconds, no volume limit
Default protection suite of priority 65514
  encryption algorithm: Three key triple DES
  hash algorithm: Message Digest 5
  authentication method: Pre-Shared Key
  Diffie-Hellman group: #2 (1024 bit)
  lifetime: 86400 seconds, no volume limit

```

次に、デフォルト IKE ポリシーがディセーブルにされてからの、**show crypto isakmp default policy** コマンドの出力結果の例を示します。ここでは、結果は空白になっています。

```

Router# configure terminal
Router(config)# no crypto isakmp default policy
Router(config)# exit
Router# show crypto isakmp default policy
Router#
!There is no output since the default IKE policies have been disabled.

```

次に、デフォルト ISAKMP ポリシーが使用中の時はいつでも生成されるシステム ログ メッセージの例を示します。

```
%CRYPTO-6-IKMP_POLICY_DEFAULT: Using ISAKMP Default policies
```

## デフォルト IPsec トランスフォーム セットの確認

トランスフォーム セットは、特定のセキュリティ プロトコルとアルゴリズムを組み合わせたものです。IPsec SA のネゴシエーション中に、ピアは、特定のトランスフォーム セットを使用して特定のデータ フローを保護することに合意します。

IKE との IPsec SA のネゴシエーション中に、ピアは両方のピア上で同じトランスフォーム セットを検索します。同一のトランスフォーム セットが検出された場合、そのトランスフォーム セットが選択され、両方のピアの IPsec SA の一部として、保護するトラフィックに適用されます。

## デフォルト トランスフォーム セット

他のトランスフォーム セットが設定されておらず、次の条件が満たされている場合、1つのデフォルト トランスフォーム セットがすべてのクリプトマップまたは IPsec プロファイルによって使用されます。

- デフォルトトランスフォームセットが **no crypto ipsec default transform-set** コマンドによって無効にされていない。
- 使用中の暗号化エンジンで、暗号化アルゴリズムがサポートされている。

下図に示すとおり、2つのデフォルトトランスフォームセットのそれぞれによって、Encapsulation Security Protocol (ESP) 暗号化トランスフォームタイプおよびESP認証トランスフォームタイプが定義されます。

**Table 258:** デフォルトトランスフォームセットおよびパラメータ

デフォルトトランスフォーム名	ESP暗号化トランスフォームおよび説明	ESP認証トランスフォームおよび説明
#\$!default_transform_set_0	esp-3des  (168ビット3DESまたはトリプルDES暗号化アルゴリズムを持つEDP)	esp-sha-hmac
#\$!default_transform_set_1	esp-aes  (128ビットAES暗号化アルゴリズムを持つESP)	esp-sha-hmac  (SHA-1、ハッシュメッセージ認証コード [HMAC] バリエーション認証アルゴリズムを持つESP)

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto ipsec default transform-set**
3. **configure terminal**
4. **no crypto ipsec default transform-set**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>show crypto ipsec default transform-set</b>  <b>Example:</b>  Router# show crypto ipsec default transform-set	(任意) IKEによって現在使用中のデフォルトIPsecトランスフォームセットを表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>no crypto ipsec default transform-set</b> <b>Example:</b> Router(config)# no crypto ipsec default transform-set	(任意) デフォルト IPsec トランスフォーム セットを表示します。

## 例

The following example displays output from the **show crypto ipsec default transform-set** command when the default transform sets are enabled, the default setting:

```
Router# show crypto ipsec default transform-set
Transform set #1!default_transform_set_1: { esp-aes esp-sha-hmac }
  will negotiate = { Transport, },

Transform set #2!default_transform_set_0: { esp-3des esp-sha-hmac }
  will negotiate = { Transport, },
```

次に、**no crypto ipsec default transform-set** コマンドを使用してデフォルト トランスフォーム セットを無効にした場合の、**show crypto ipsec default transform-set** コマンドの出力例を示します。

```
Router(config)# no crypto ipsec default transform-set
Router(config)# exit
Router#
Router# show crypto ipsec default transform-set
! There is no output.
Router#
```

次に、IPsec SA がデフォルト トランスフォーム セットでネゴシエーションを行った時はいつでも生成されるシステム ログ メッセージ例を示します。

```
%CRYPTO-5-IPSEC_DEFAULT_TRANSFORM: Using Default IPsec transform-set
```

## IPsec VPN 確認および IPsec VPN のトラブルシューティング

IKE フェーズ 1 または IKE フェーズ 2 を確認したいのか、または IPsec VPN のトラブルシューティングを行いたいのかによって、この項における次の任意の作業のいずれかを実行します。

### IKE フェーズ 1 ISAKMP の確認

ISAKMP トンネルの統計情報を表示するには、次のオプション コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. `show crypto mib isakmp flowmib failure [ vrf vrf-name ]`
2. `show crypto mib isakmp flowmib global [ vrf vrf-name ]`
3. `show crypto mib isakmp flowmib history [ vrf vrf-name ]`
4. `show crypto mib isakmp flowmib peer [ index peer-mib-index ][ vrf vrf-name ]`
5. `show crypto mib isakmp flowmib tunnel [ index tunnel-mib-index ][ vrf vrf-name ]`

## DETAILED STEPS

## Procedure

ステップ 1 `show crypto mib isakmp flowmib failure [ vrf vrf-name ]`

ISAKMP トンネルにエラーが発生した場合、このコマンドでイベント情報を表示できます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

## Example:

```
Router# show crypto mib isakmp flowmib failure
vrf Global
Index:                1
Reason:               peer lost
Failure time since reset: 00:07:27
Local type:           ID_IPV4_ADDR
Local value:          192.0.2.1
Remote type:          ID_IPV4_ADDR
Remote Value:         192.0.2.2
Local Address:        192.0.2.1
Remote Address:       192.0.2.2
Index:                2
Reason:               peer lost
Failure time since reset: 00:07:27
Local type:           ID_IPV4_ADDR
Local value:          192.0.3.1
Remote type:          ID_IPV4_ADDR
Remote Value:         192.0.3.2
Local Address:        192.0.3.1
Remote Address:       192.0.3.2
Index:                3
Reason:               peer lost
Failure time since reset: 00:07:32
Local type:           ID_IPV4_ADDR
Remote type:          ID_IPV4_ADDR
Remote Value:         192.0.2.2
Local Address:        192.0.2.1
Remote Address:       192.0.2.2
```

ステップ 2 `show crypto mib isakmp flowmib global [ vrf vrf-name ]`

このコマンドを発行することによって、グローバル ISAKMP トンネル統計情報が表示されます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

## Example:

```
Router# show crypto mib isakmp flowmib global
```

```

vrf Global
  Active Tunnels:                3
  Previous Tunnels:              0
  In octets:                     2856
  Out octets:                    3396
  In packets:                   16
  Out packets:                  19
  In packets drop:              0
  Out packets drop:             0
  In notifys:                   4
  Out notifys:                  7
  In P2 exchg:                  3
  Out P2 exchg:                 6
  In P2 exchg invalids:         0
  Out P2 exchg invalids:        0
  In P2 exchg rejects:          0
  Out P2 exchg rejects:         0
  In IPSEC delete:              0
  Out IPSEC delete:             0
  SAs locally initiated:        3
  SAs locally initiated failed: 0
  SAs remotely initiated failed: 0
  System capacity failures:     0
  Authentication failures:      0
  Decrypt failures:             0
  Hash failures:                0
  Invalid SPI:                  0

```

### ステップ 3 show crypto mib isakmp flowmib history [ vrf vrf-name ]

アクティブにならない ISAKMP トンネルの情報については、このコマンドによって、トンネルが終了した原因を含むイベント情報を表示できます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

#### Example:

```

Router# show crypto mib isakmp flowmib history
vrf Global
  Reason:                        peer lost
  Index:                         2
  Local type:                    ID_IPV4_ADDR
  Local address:                 192.0.2.1
  Remote type:                   ID_IPV4_ADDR
  Remote address:               192.0.2.2
  Negotiation mode:             Main Mode
  Diffie Hellman Grp:           2
  Encryption algo:              des
  Hash algo:                    sha
  Auth method:                  psk
  Lifetime:                     86400
  Active time:                   00:06:30
  Policy priority:              1
  Keepalive enabled:            Yes
  In octets:                    3024
  In packets:                   22
  In drops:                     0
  In notifys:                   18
  In P2 exchanges:              1
  In P2 exchg invalids:         0
  In P2 exchg rejected:         0
  In P2 SA delete reqs:         0
  Out octets:                   4188
  Out packets:                  33
  Out drops:                    0

```

```

Out notifys:                28
Out P2 exchgs:              2
Out P2 exchg invalids:     0
Out P2 exchg rejects:      0
Out P2 Sa delete requests: 0
Reason:                     peer lost
Index:                      3
Local type:                 ID_IPV4_ADDR
Local address:              192.0.3.1
Remote type:                ID_IPV4_ADDR
Remote address:             192.0.3.2
Negotiation mode:          Main Mode
Diffie Hellman Grp:        2
Encryption algo:           des
Hash algo:                  sha
Auth method:                psk
Lifetime:                   86400
Active time:                00:06:25
Policy priority:            1
Keepalive enabled:         Yes
In octets:                  3140
In packets:                 23
In drops:                   0
In notifys:                 19
In P2 exchanges:           1
In P2 exchg invalids:     0
In P2 exchg rejected:      0
In P2 SA delete reqs:     0
Out octets:                  4304
Out packets:                34
Out drops:                   0
Out notifys:                29
Out P2 exchgs:              2
Out P2 exchg invalids:     0
Out P2 exchg rejects:      0
Out P2 Sa delete requests: 0

```

#### ステップ 4 `show crypto mib isakmp flowmib peer [ index peer-mib-index ][ vrf vrf-name ]`

アクティブな ISAKMP ピアアソシエーションについては、このコマンドによって、インデックス、接続タイプ、および IP アドレスを含む情報を表示できます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

##### Example:

```

Router# show crypto mib isakmp flowmib peer
vrf Global
  Index:                1
  Local type:           ID_IPV4_ADDR
  Local address:        192.0.2.1
  Remote type:          ID_IPV4_ADDR
  Remote address:       192.0.2.2
  Index:                2
  Local type:           ID_IPV4_ADDR
  Local address:        192.0.3.1
  Remote type:          ID_IPV4_ADDR
  Remote address:       192.0.3.1
  Index:                3
  Local type:           ID_IPV4_ADDR
  Local address:        192.0.4.1
  Remote type:          ID_IPV4_ADDR
  Remote address:       192.0.4.1

```

#### ステップ 5 `show crypto mib isakmp flowmib tunnel [ index tunnel-mib-index ][ vrf vrf-name ]`

アクティブな ISAKMP トンネルについては、このコマンドによって、トンネルの統計情報を表示できます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

**Example:**

```
Router# show crypto mib isakmp flowmib tunnel
vrf Global
  Index: 1
  Local type: ID_IPV4_ADDR
  Local address: 192.0.2.1
  Remote type: ID_IPV4_ADDR
  Remote address: 192.0.2.2
  Negotiation mode: Main Mode
  Diffie Hellman Grp: 2
  Encryption algo: des
  Hash algo: sha
  Auth method: psk
  Lifetime: 86400
  Active time: 00:03:08
  Policy priority: 1
  Keepalive enabled: Yes
  In octets: 2148
  In packets: 15
  In drops: 0
  In notifys: 11
  In P2 exchanges: 1
  In P2 exchg invalids: 0
  In P2 exchg rejected: 0
  In P2 SA delete reqs: 0
  Out octets: 2328
  Out packets: 16
  Out drops: 0
  Out notifys: 12
  Out P2 exchgs: 2
  Out P2 exchg invalids: 0
  Out P2 exchg rejects: 0
  Out P2 Sa delete requests: 0
```

## IKE フェーズ 2 の確認

IPsec フェーズ 2 トンネルの統計情報を表示するには、次のオプションコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **show crypto mib ipsec flowmib endpoint [ vrf vrf-name ]**
2. **show crypto mib ipsec flowmib failure [ vrf vrf-name ]**
3. **show crypto mib ipsec flowmib global [ vrf vrf-name ]**
4. **show crypto mib ipsec flowmib history [ vrf vrf-name ]**
5. **show crypto mib ipsec flowmib spi [ vrf vrf-name ]**
6. **show crypto mib ipsec flowmib tunnel [index tunnel-mib-index] [ vrf vrf-name ]**

## DETAILED STEPS

### Procedure

#### ステップ 1 `show crypto mib ipsec flowmib endpoint [ vrf vrf-name ]`

このコマンドを発行することによって、IPsec フェーズ 2 トンネルに関連付けられた、各アクティブ エンドポイント、ローカルまたはリモートデバイスの情報が表示されます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

#### Example:

```
Router# show crypto mib ipsec flowmib endpoint
vrf Global
  Index:                1
  Local type:           Single IP address
  Local address:        192.1.2.1
  Protocol:             0
  Local port:           0
  Remote type:          Single IP address
  Remote address:       192.1.2.2
  Remote port:          0
  Index:                2
  Local type:           Subnet
  Local address:        192.1.3.0 255.255.255.0
  Protocol:             0
  Local port:           0
  Remote type:          Subnet
  Remote address:       192.1.3.0 255.255.255.0
  Remote port:          0
```

#### ステップ 2 `show crypto mib ipsec flowmib failure [ vrf vrf-name ]`

ISAKMP トンネルにエラーが発生した場合、このコマンドでイベント情報を表示できます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

#### Example:

```
Router# show crypto mib ipsec flowmib failure
vrf Global
  Index:                1
  Reason:               Operation request
  Failure time since reset: 00:25:18
  Src address:          192.1.2.1
  Destination address: 192.1.2.2
  SPI:                  0
```

#### ステップ 3 `show crypto mib ipsec flowmib global [ vrf vrf-name ]`

このコマンドを発行することによって、グローバル IKE フェーズ 2 トンネルの統計情報が表示されます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

#### Example:

```
Router# show crypto mib ipsec flowmib global
vrf Global
  Active Tunnels:                2
```



```

Previous Tunnels:                0
In octets:                       800
Out octets:                      1408
In packets:                      8
Out packets:                     8
Uncompressed encrypted bytes:    1408
In packets drops:                0
Out packets drops:               2
In replay drops:                 0
In authentications:              8
Out authentications:             8
In decrypts:                     8
Out encrypts:                    8
Compressed bytes:                0
Uncompressed bytes:              0
In uncompressed bytes:           0
Out uncompressed bytes:          0
In decrypt failures:             0
Out encrypt failures:            0
No SA failures:                  0
! Number of SA Failures.
Protocol use failures:           0
System capacity failures:        0
In authentication failures:      0
Out authentication failures:     0

```

#### ステップ 4 show crypto mib ipsec flowmib history [ vrf vrf-name ]

アクティブにならない IKE フェーズ 2 トンネルの情報については、このコマンドによって、トンネルが終了した原因を含むイベント情報を表示できます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

##### Example:

```

Router# show crypto mib ipsec flowmib history
vrf Global
Reason:                            Operation request
Index:                             1
Local address:                     192.1.2.1
Remote address:                    192.1.2.2
IPSEC keying:                      IKE
Encapsulation mode:                1
Lifetime (KB):                     4608000
Lifetime (Sec):                   3600
Active time:                       00:24:32
Lifetime threshold (KB):           423559168
Lifetime threshold (Sec):          3590000
Total number of refreshes:         0
Expired SA instances:              4
Current SA instances:              4
In SA DH group:                   14
In sa encrypt algorithm             aes
In SA auth algorithm:              rsig
In SA ESP auth algo:               ESP_HMAC_SHA
In SA uncompress algorithm:        None
Out SA DH group:                   14
Out SA encryption algorithm:       aes
Out SA auth algorithm:              ESP_HMAC_SHA
Out SA ESP auth algorithm:         ESP_HMAC_SHA
Out SA uncompress algorithm:        None
In octets:                         400
Decompressed octets:               400
In packets:                        4
In drops:                          0

```

```

In replay drops:           0
In authentications:       4
In authentication failures: 0
In decrypts:              4
In decrypt failures:      0
Out octets:                704
Out uncompressed octets:   704
Out packets:              4
Out drops:                 1
Out authentications:      4
Out authentication failures: 0
Out encryptions:          4
Out encryption failures:  0
Compressed octets:        0
Decompressed octets:      0
Out uncompressed octets:   704

```

### ステップ 5 show crypto mib ipsec flowmib spi [ vrf vrf-name ]

security protection index (SPI) テーブルには、アクティブおよび期限切れの各セキュリティ IKE フェーズ 2 アソシエーションのエントリが格納されます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。SPI テーブルが表示されています。

#### Example:

```

Router# show crypto mib ipsec flowmib spi
vrf Global
  Tunnel Index:          1
  SPI Index:            1
  SPI Value:             0xCC57D053
  SPI Direction:        In
  SPI Protocol:         AH
  SPI Status:           Active
  SPI Index:            2
  SPI Value:             0x68612DF
  SPI Direction:        Out
  SPI Protocol:         AH
  SPI Status:           Active
  SPI Index:            3
  SPI Value:             0x56947526
  SPI Direction:        In
  SPI Protocol:         ESP
  SPI Status:           Active
  SPI Index:            4
  SPI Value:             0x8D7C2204
  SPI Direction:        Out
  SPI Protocol:         ESP
  SPI Status:           Active

```

### ステップ 6 show crypto mib ipsec flowmib tunnel [index tunnel-mib-index] [ vrf vrf-name ]

アクティブな IKE フェーズ 2 トンネルについては、このコマンドによって、トンネルの統計情報を表示できます。次に、このコマンドのサンプル出力を示します。

#### Example:

```

Router# show crypto mib ipsec flowmib tunnel
vrf Global
  Index:                1
  Local address:        192.0.2.1
  Remote address:       192.0.2.2
  IPSEC keying:         IKE

```

```
Encapsulation mode:          1
Lifetime (KB):               4608000
Lifetime (Sec):              3600
Active time:                  00:05:46
Lifetime threshold (KB):     64
Lifetime threshold (Sec):    10
Total number of refreshes:   0
Expired SA instances:        0
Current SA instances:         4
In SA DH group:              14
In sa encrypt algorithm:     aes
In SA auth algorithm:        rsig
In SA ESP auth algo:         ESP_HMAC_SHA
In SA uncompress algorithm:  None
Out SA DH group:             14
Out SA encryption algorithm: aes
Out SA auth algorithm:       ESP_HMAC_SHA
Out SA ESP auth algorithm:   ESP_HMAC_SHA
Out SA uncompress algorithm: None
In octets:                    400
Decompressed octets:          400
In packets:                   4
In drops:                     0
In replay drops:              0
In authentications:           4
In authentication failures:   0
In decrypts:                  4
In decrypt failures:          0
Out octets:                   704
Out uncompressed octets:      704
Out packets:                  4
Out drops:                    1
Out authentications:          4
Out authentication failures:  0
Out encryptions:              4
Out encryption failures:      0
Compressed octets:            0
Decompressed octets:          0
Out uncompressed octets:      704
```

---

## IPsec VPN のトラブルシューティング

問題のトラブルシューティングを行う場合、**show tech-support ipsec** コマンドを使用すれば、IPsec 関連情報の収集が簡単にできます。

### SUMMARY STEPS

1. **show tech-support ipsec**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

---

```
show tech-support ipsec
```

**show tech-support ipsec** コマンドには、次の 3 つのバリエーションがあります。

- **show tech-support ipsec**
- **show tech-support ipsec peer** *ipv4address*
- **show tech-support ipsec vrf** *vrf-name*

各バリエーションについて次に示す個々の **show** コマンドに関する **show tech-support ipsec** コマンドからの出力のサンプル表示については、以下のセクションを参照してください。

#### **show tech-support ipsec** コマンドの出力

キーワードを何も指定しないで **show tech-support ipsec** コマンドを入力すると、コマンドの出力には、次の **show** コマンドが出力順に表示されます。

- **show version**
- **show running-config**
- **show crypto isakmp sa** **count**
- **show crypto ipsec sa** **count**
- **show crypto session** **summary**
- **show crypto session** **detail**
- **show crypto isakmp sa** **detail**
- **show crypto ipsec sa** **detail**
- **show crypto isakmp peers**
- **show crypto ruleset detail**
- **show processes memory** | **include Crypto IKMP**
- **show processes cpu** | **include Crypto IKMP**
- **show crypto eli**
- **show crypto engine accelerator statistic**

#### **show tech-support ipsec peer** コマンドの出力

**peer** キーワードと *ipv4address* 引数を指定して **show tech-support ipsec** コマンドを入力すると、出力に次の **show** コマンドが、指定したピアの出力順に表示されます。

- **show version**
- **show running-config**
- **show crypto session remote** *ipv4address* **detail**
- **show crypto isakmp sa peer** *ipv4address* **detail**
- **show crypto ipsec sa peer** *ipv4address* **detail**
- **show crypto isakmp peers** *ipv4address*

- **show crypto ruleset detail**
- **show processes memory | include Crypto IKMP**
- **show processes cpu | include Crypto IKMP**
- **show crypto eli**
- **show crypto engine accelerator statistic**

#### show tech-support ipsec vrf コマンドの出力

**vrf** キーワードと **vrf-name** 引数を指定して **show tech-support ipsec** コマンドを入力すると、出力に次の **show** コマンドが、指定した Virtual Routing and Forwarding (VRF) の出力順に表示されます。

- **show version**
- **show running-config**
- **show crypto isakmp sa count vrf vrf-name**
- **show crypto ipsec sa count vrf vrf-name**
- **show crypto session ivrf ivrf-name detail**
- **show crypto session fvrf fvrf-name detail**
- **show crypto isakmp sa vrf vrf-name detail**
- **show crypto ipsec sa vrf vrf-name detail**
- **show crypto ruleset detail**
- **show processes memory | include Crypto IKMP**
- **show processes cpu | include Crypto IKMP**
- **show crypto eli**
- **show crypto engine accelerator statistic**

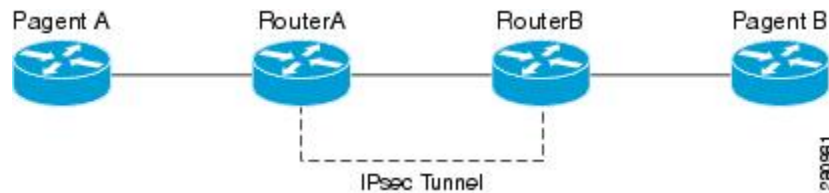
Example:

## IPsec Usability Enhancements の設定例

### IKE デフォルト ポリシーの例

次に、クリプト マップが RouterA および RouterB 上で設定されており、デフォルト IKE ポリシーが使用中になっている例を示します。トラフィックは Pagent A から Pagent B にルーティングされます。Peer A および Peer B のシステム ログをチェックすると、デフォルトの IKE ポリシーが両方のピアで使用中的であることを確認できます（下図を参照）。

Figure 96: サイトツーサイト トポロジーの例



```

! Configuring RouterA.
RouterA(config)# crypto isakmp key identity address 209.165.200.226
RouterA(config)# crypto map testmap 10 ipsec-isakmp
% NOTE: This new crypto map will remain disabled until a peer
and a valid access list have been configured.
RouterA(config-crypto-map)# set peer 209.165.200.226
RouterA(config-crypto-map)# match address 101
RouterA(config-crypto-map)# exit
RouterA(config)# ip route 209.165.200.225 255.255.255.224 209.165.200.226
RouterA(config)# access-list 101 permit ip host 209.165.200.227 host 209.165.200.225
RouterA(config)# end
RouterA(config)# interface FastEthernet1/2
RouterA(config-if)# crypto map testmap
RouterA(config-if)# end
RouterA(config)# crypto ipsec transform test_transf esp-aes esp-sha-hmac
RouterA(cfg-crypto-trans)# mode tunnel
RouterA(cfg-crypto-trans)# end
RouterA(config)# crypto map testmap 10
RouterA(config-crypto-map)# set transform-set test_transf
RouterA(config-crypto-map)# end
! Configuring RouterB.
RouterB(config)# crypto isakmp key identity address 209.165.200.228
RouterB(config)# crypto dynamic-map dyn_testmap 10
RouterB(config-crypto-map)# crypto map testmap 10 ipsec-isakmp dynamic dyn_testmap
RouterB(config)# ip route 209.165.200.227 255.255.255.224 209.165.200.228
RouterB(config)# end
RouterB(config)# interface GigabitEthernet0/1
RouterB(config-if)# crypto map testmap
RouterB(config-if)# end
RouterB(config)# crypto ipsec transform test_transf esp-aes esp-sha-hmac
RouterB(cfg-crypto-trans)# mode tunnel
RouterB(cfg-crypto-trans)# end
RouterB(config)# crypto dynamic-map dyn_testmap 10
RouterB(config-crypto-map)# set transform-set test_transf
RouterB(config-crypto-map)# end
! Routing traffic from PagentA to PagentB.
PagentA(config)# ip route 209.165.200.225 255.255.255.224 209.165.200.229
PagentA(config)# end
! Routing traffic from PagentB to PagentA.
PagentB(config)# ip route 209.165.200.227 255.255.255.224 209.165.200.230
PagentB(config)# end
! Checking the system log on RouterA confirms that the default IKE policies are in use.
RouterA# show log | include %CRYPTO-6-IKMP_POLICY_DEFAULT*
Jun  5 09:17:59.251 PDT: %CRYPTO-6-IKMP_POLICY_DEFAULT: Using ISAKMP Default policies
! Checking the system log on RouterB confirms that the default IKE policies are in use.
RouterB# show log | include %CRYPTO-6-IKMP_POLICY_DEFAULT*
Jun  5 09:17:59.979 PDT: %CRYPTO-6-IKMP_POLICY_DEFAULT: Using ISAKMP Default policies

```

## デフォルト トランスフォーム セットの例

次に、スタティッククリプトマップが RouterA 上で設定され、ダイナミッククリプトマップが RouterB 上で設定されている例を示します。トラフィックは Pagent A から Pagent B にルーティングされます。IPsec SA はデフォルトトランスフォームセットとネゴシエーションを行い、トラフィックは暗号化されます。両方のピアで **show crypto map** コマンドを実行すると、デフォルトトランスフォームセットが使用中であることを確認できます。

```
! Configuring RouterA.
RouterA(config)# crypto isakmp key identify address 209.165.200.225
RouterA(config)# crypto map testmap 10 ipsec-isakmp
% NOTE: This new crypto map will remain disabled until a peer
and a valid access list have been configured.
RouterA(config-crypto-map)# set peer 209.165.200.225
RouterA(config-crypto-map)# match address 101
RouterA(config-crypto-map)# exit
RouterA(config)# ip route 209.165.200.226 255.255.255.255 209.165.200.225
RouterA(config)# access-list 101 permit ip host 209.165.200.227 host 209.165.200.226
RouterA(config)# end
RouterA(config)# interface FastEthernet1/2
RouterA(config-if)# crypto map testmap
RouterA(config-if)# end
RouterA(config)# crypto isakmp policy 10
RouterA(config-isakmp)# encryption aes
RouterA(config-isakmp)# authentication pre-share
RouterA(config-isakmp)# hash sha
RouterA(config-isakmp)# group 5
RouterA(config-isakmp)# end
! Configuring RouterB.
RouterB(config)# crypto isakmp key identity address 209.165.200.229
RouterB(config)# crypto dynamic-map dyn_testmap 10
RouterB(config-crypto-map)# crypto map testmap 10 ipsec-isakmp dynamic dyn_testmap
RouterB(config)# ip route 209.165.200.227 255.255.255.255 209.165.200.229
RouterB(config)# end
RouterB(config)# interface GigabitEthernet0/1
RouterB(config-if)# crypto map testmap
RouterB(config-if)# end
RouterB(config)# crypto isakmp policy 10
RouterB(config-isakmp)# encryption aes
RouterB(config-isakmp)# authentication pre-share
RouterB(config-isakmp)# hash sha
RouterB(config-isakmp)# group 5
RouterB(config-isakmp)# end
! The SA is using the default transform set and traffic is encrypted on RouterA.
RouterA# show crypto isakmp sa detail | include 209.165.200.229.*209.165.200.225.*ACTIVE
13007 209.165.200.229 209.165.200.225 ACTIVE aes sha psk 5 23:59:56
13006 209.165.200.229 209.165.200.225 ACTIVE aes sha psk 5 0
13005 209.165.200.229 209.165.200.225 ACTIVE aes sha psk 5 0
! The SA is using the default transform set and traffic is encrypted on RouterB.
RouterB# show crypto isakmp sa detail | include 209.165.200.225.*209.165.200.229.*ACTIVE
7007 209.165.200.225 209.165.200.229 ACTIVE aes sha psk 5 23:59:55
7006 209.165.200.225 209.165.200.229 ACTIVE aes sha psk 5 0
7005 209.165.200.225 209.165.200.229 ACTIVE aes sha psk 5 0
! Verifying that the default transform sets are in use on RouterA.
RouterA# show crypto map
Crypto Map "testmap" 10 ipsec-isakmp
Peer = 209.165.200.225
Extended IP access list 101
access-list 101 permit ip host 209.165.200.227 host 209.165.200.226
```

```

Current peer: 209.165.200.225
Security association lifetime: 4608000 kilobytes/3600 seconds
PFS (Y/N): N
Transform sets={
  #!default_transform_set_1: { esp-aes esp-sha-hmac },
  #!default_transform_set_0: { esp-3des esp-sha-hmac },
}
Interfaces using crypto map testmap:
  FastEthernet1/2
! Verifying that the default transform sets are in use on RouterB.
RouterB# show crypto map
Crypto Map "testmap" 10 ipsec-isakmp
  Dynamic map template tag: dyn_testmap
Crypto Map "testmap" 65536 ipsec-isakmp
  Peer = 209.165.200.229
  Extended IP access list
    access-list permit ip host 209.165.200.226 host 209.165.200.227
    dynamic (created from dynamic map dyn_testmap/10)
Current peer: 209.165.200.229
Security association lifetime: 4608000 kilobytes/3600 seconds
PFS (Y/N): N
Transform sets={
  #!default_transform_set_1: { esp-aes esp-sha-hmac },
}
Interfaces using crypto map testmap:
  GigabitEthernet0/1

```

## その他の参考資料

次の項では、IPsec Usability Enhancement 機能の関連資料を示します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IKE 設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」モジュール
IPsec の設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Configuring Security for VPNs with IPsec」モジュール
Easy VPN サーバ	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』の「Easy VPN Server」モジュール
Cisco IOS XE セキュリティコマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』



## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE リリース、およびフィチャセットの MIB を検索してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## IPsec Usability Enhancements の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 259: IPsec Usability Enhancements の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec Usability Enhancements	Cisco IOS XE Release 2.4	<p>この機能では、IKE および IPsec のインテリジェントなデフォルト、および、MIB 統計情報にアクセスするためおよびトラブルシューティングを支援するための各種 <b>show</b> コマンドが導入されています。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto ipsec default transform-set</b>、<b>crypto isakmp default policy</b>、<b>crypto isakmp policy</b>、<b>show crypto ipsec default transform-set</b>、<b>show crypto ipsec transform-set</b>、<b>show crypto isakmp default policy</b>、<b>show crypto isakmp policy</b>、<b>show crypto map (IPsec)</b>、<b>show crypto mib ipsec flowmib endpoint</b>、<b>show crypto mib ipsec flowmib failure</b>、<b>show crypto mib ipsec flowmib global</b>、<b>show crypto mib ipsec flowmib history</b>、<b>show crypto mib ipsec flowmib spi</b>、<b>show crypto mib ipsec flowmib tunnel</b>、<b>show crypto mib isakmp flowmib failure</b>、<b>show crypto mib isakmp flowmib global</b>、<b>show crypto mib isakmp flowmib history</b>、<b>show crypto mib isakmp flowmib peer</b>、<b>show crypto mib isakmp flowmib tunnel</b>、<b>show tech-support ipsec</b>。</p>

## 用語集

ピア：ここでのピアとは、IPsec に参加するルータまたはその他の装置です。

SA：セキュリティ アソシエーション。2 つ以上のエンティティが、特定のデータ フローにおいて安全に通信するために、特定のセキュリティ プロトコル (AH または ESP) と関連してセキュリティ サービスを使用する方法を記述します。トラフィックを保護するために、トランスフォームと共有秘密キーが使用されます。

トランスフォーム：データ認証、データ機密性、およびデータ圧縮を実現するためにデータフローで実行される処理のリスト。たとえば、トランスフォームには、HMAC MD5 認証アルゴ

リズムを使用する ESP プロトコル、56 ビット DES 暗号規格アルゴリズムを使用する AH プロトコルおよび HMAC-SHA 認証アルゴリズムを使用する ESP プロトコルなどがあります。

トンネル：ここで使用するトンネルとは、2つのピア間（2台のルータなど）の安全な通信パスです。トンネルモードで IPsec を使用することではありません。





## 第 **XIX** 部

# VPN のアベイラビリティ

- [Reverse Route Injection, on page 2831](#)
- [IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能, on page 2839](#)
- [IPSEC 優先ピア, on page 2861](#)
- [IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution, on page 2871](#)





## CHAPTER 192

# Reverse Route Injection

逆ルート注入（RRI）とは、リモートトンネルエンドポイントによって保護されているネットワークおよびホストのルーティングプロセスに、スタティックルートを自動的に組み込む機能です。保護されているこれらのホストおよびネットワークは、リモートプロキシアイデンティティと呼ばれます。

各ルートは、リモートプロキシネットワークとマスクを基にして作成され、リモートトンネルエンドポイントがこのネットワークへのネクストホップとなります。ネクストホップとしてバーチャルプライベートネットワーク（VPN）のリモートルータを使い、暗号化プロセスによってトラフィックを強制的に暗号化します。

- [逆ルート注入の前提条件, on page 2831](#)
- [逆ルート注入の制約事項, on page 2831](#)
- [逆ルート注入に関する情報, on page 2832](#)
- [RRI の設定方法, on page 2833](#)
- [RRI の設定例, on page 2835](#)
- [その他の参考資料, on page 2835](#)
- [RRI の機能情報, on page 2836](#)

## 逆ルート注入の前提条件

- RRI で生成されたスタティックルートの伝播にダイナミックルーティングプロトコルを使用する場合は、IP ルーティングをイネーブルにし、スタティックルートを再配布する必要があります。

## 逆ルート注入の制約事項

- RRI は、IPv6 暗号マップではサポートされません。
- スタティッククリプトマップでは、適用済みのクリプトマップに RRI が設定されている場合、必ずルートが存在します。デフォルト動作（スタティックマップに常に表示される

ルートの) は、**static** キーワードが **reverse-route** コマンドに追加されない限り適用されません。

- RIB のプレフィックスに、手動で設定されたタグ付きのスタティックルートと、RRI を介して挿入されたタグのないルートがある場合、ルート選択に一貫性がなくなる可能性があります。このシナリオでは、手動設定ルートまたは RRI ルートのいずれかが選択される可能性があります。そのような一貫性のなさを回避するには、次の作業のいずれかを行う必要があります。
  - ルータのすべてのピア VPN ネットワークへのスタティックルートを手動で設定する場合は、暗号マップからリバースルート設定を削除することで RRI を無効にします。
  - RRI を介して挿入されたルートの暗号マップに同一のタグを設定します。

## 逆ルート注入に関する情報

### Reverse Route Injection

RRI とは、リモートトンネルエンドポイントによって保護されているネットワークとホストのルーティングプロセスに、スタティックルートを自動的に組み込む機能です。保護されているこれらのホストおよびネットワークは、リモートプロキシアイデンティティと呼ばれます。

各ルートは、リモートプロキシネットワークとマスクを基にして作成され、リモートトンネルエンドポイントがこのネットワークへのネクストホップとなります。リモート VPN ルータをネクストホップとして使用することによって、トラフィックは強制的に暗号プロセスを通して暗号化されます。

VPN ルータでスタティックルートが作成されたあと、この情報がアップストリームデバイスに伝播されます。これにより、アップストリームデバイスでは、IPsec 状態フローを維持するためのリターントラフィックの送信先として適切な VPN ルータを特定できるようになります。適切な VPN ルータを判定することができれば、サイトで複数の VPN ルータを使用してロードバランシングやフェールオーバーを実行する場合や、デフォルトルートでリモート VPN デバイスにアクセスできない場合に特に役立ちます。ルートは、グローバルルーティングテーブルまたは適切な Virtual Routing and Forwarding (VRF) テーブルに作成されます。

スタティッククリプトマップテンプレートであってもダイナミッククリプトマップテンプレートであっても、RRI はクリプトマップごとに適用されます。この2つのタイプのマップのデフォルト動作は次のとおりです。

- ダイナミッククリプトマップでは、ルートは、リモートプロキシの IPsec セキュリティアソシエーション (SA) が正常に確立されるとすぐに作成されます。リモートプロキシへのネクストホップは、リモート VPN ルータ経由となります。リモート VPN ルータのアドレスは、ダイナミッククリプトマップテンプレートの作成中に学習および適用されます。ルートは、SA が削除されたあとに削除されます。スタティッククリプトマップの



IPsec 送信元プロキシで作成されたルートは、スタティック マップのデフォルト動作であり、クリプト ACL（次の項目を参照）に基づいたルートの作成よりも優先されます。

- スタティック クリプト マップでは、クリプト アクセス リストに定義されている宛先情報を基にルートが作成されます。ネクスト ホップは、クリプト マップにアタッチされている最初の `set peer` 文から取得します。RRI、ピア、またはアクセス リストがクリプト マップから削除されると、必ずルートも削除されます。この動作は、以降の項で説明するように、RRI の拡張機能を追加することで変わります。

## RRI の設定方法

### スタティック クリプト マップを使用した RRI の設定

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto map { map-name } { seq-name } ipsec-isakmp`
4. `reverse-route [static | tag tag-id [static] | remote-peer[static] | remote-peer ip-address [static]]`

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>crypto map { map-name } { seq-name } ipsec-isakmp</code> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# crypto map mymap 1 ipsec-isakmp</pre>	クリプト マップ エントリを作成または変更し、クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>reverse-route [static   tag tag-id [static]   remote-peer[static]   remote-peer ip-address [static]]</code> <b>Example:</b>	クリプト マップ エントリのソース プロキシ情報を作成します。

	Command or Action	Purpose
	Router (config-crypto-map)# reverse-route remote peer 10.1.1.1	

## ダイナミック マップ テンプレートでの RRI の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto dynamic-map** *dynamic-map-name* *dynamic-seq-name*
4. **reverse-route** [**static** | **tag** *tag-id* [**static**] | **remote-peer**[**static**] | **remote-peer** *ip-address* [**static**]]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto dynamic-map</b> <i>dynamic-map-name</i> <i>dynamic-seq-name</i> <b>Example:</b> Router (config)# crypto dynamic-map mymap 1	ダイナミック クリプト マップ エントリを作成し、クリプト マップ コンフィギュレーション コマンド モードを開始します。
ステップ 4	<b>reverse-route</b> [ <b>static</b>   <b>tag</b> <i>tag-id</i> [ <b>static</b> ]   <b>remote-peer</b> [ <b>static</b> ]   <b>remote-peer</b> <i>ip-address</i> [ <b>static</b> ]] <b>Example:</b> Router (config-crypto-map)# reverse-route remote peer 10.1.1.1	クリプト マップ エントリのソース プロキシ情報を作成します。

## RRI の設定例

### Crypto ACL が存在する場合の RRI の設定例

次に、すべてのリモート VPN ゲートウェイを 192.168.0.3 でルータに接続している例を示します。RRI がスタティック クリプト マップに追加され、crypto アクセス コントロール リスト (ACL) で定義されている発信元ネットワークおよび発信元ネットマスクを基にルートを作成します。

```
crypto map mymap 1 ipsec-isakmp
  set peer 10.1.1.1
  reverse-route
  set transform-set esp-3des-sha
  match address 102
Interface FastEthernet 0/0/1
  ip address 192.168.0.2 255.255.255.0
  standby name group1
  standby ip 192.168.0.3
  crypto map mymap redundancy group1
access-list 102 permit ip 192.168.1.0 0.0.0.255 10.0.0.0 0.0.255.255
```

### 2つのルート（リモート エンドポイント用とルート再帰用）を作成する場合の RRI の設定例

次に、クリプト マップが設定されているインターフェイスを介して、リモート エンドポイント用とリモート エンドポイントへのルート再帰用の2つのルートを作成する場合の例を示します。

```
reverse-route remote-peer
```

## その他の参考資料

#### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## RRI の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 260: RRI の機能情報

機能名	リリース	機能情報
逆ルート 注入	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>逆ルート注入 (RRI) とは、リモート トンネル エンドポイントによって保護されているネットワークおよびホストのルーティングプロセスに、スタティック ルートを自動的に組み込む機能です。保護されているこれらのホストおよびネットワークは、リモート プロキシ アイデンティティと呼ばれます。</p> <p>各ルートは、リモート プロキシ ネットワークとマスクを基にして作成され、リモート トンネル エンドポイントがこのネットワークへのネクスト ホップとなります。ネクスト ホップとしてバーチャルプライベートネットワーク (VPN) のリモート ルータを使い、暗号化プロセスによってトラフィックを強制的に暗号化します。</p> <p>この機能に関する詳細については、次の各項を参照してください。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。 <b>reverse-route</b>。</p>





## CHAPTER 193

# IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能

IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能：逆ルート注入（RRI）およびホットスタンバイ ルータ プロトコル（HSRP）と IPsec。これらの 2 つの機能を一緒に使用すると、VPN における ネットワーク 設計を簡素化できるほか、ゲートウェイ リストを定義する場合にリモート ピア の設定の複雑さを低減することができます。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

- [IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能に関する情報, on page 2839](#)
- [IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の設定方法, on page 2842](#)
- [HSRP を使用した仮想トンネルインターフェイスでのハイアベイラビリティ冗長性 の設定 \(2847 ページ\)](#)
- [IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の設定例, on page 2855](#)
- [その他の参考資料, on page 2858](#)
- [IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の機能情報, on page 2859](#)

## IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能に関する情報

### Reverse Route Injection

逆ルート注入（RRI）は、冗長性やロードバランシングが求められるバーチャルプライベート ネットワーク（VPN）のネットワーク設計を簡素化します。RRI は、ダイナミック クリプト マップとスタティック クリプトマップのどちらを使用する場合でも適用できます。

RRI には次の利点があります。

- 複数の（冗長な）VPN ヘッドエンドデバイスがある環境で、IPsec トラフィックを特定の VPN ヘッドエンドデバイスにルーティングできます。

- 特に、リモートデバイスのルートフラッピングが多く発生する環境で IKE キープアライブを使用するとき、ヘッドエンドデバイス間のリモートセッションの予測可能なフェールオーバー時間を保証します（ルート収束の効果は考慮されません。これは、使用されるルーティングプロトコルとネットワークの規模によって異なるためです）。
- ルートが動的にアップストリームデバイスで学習されるので、アップストリームデバイス上でスタティックルートを管理する必要はありません。

ダイナミッククリプトマップと連動する場合、リモートピアが RRI 対応のルータとの IPsec セキュリティアソシエーション (SA) を確立すると、スタティックルートが、そのリモートピアによって保護されたサブネットまたはホストごとに作成されます。スタティッククリプトマップの場合、スタティックルートが拡張アクセスリストルールの各宛先に対して作成されます。アクセスコントロールリスト (ACL) を持つスタティッククリプトマップで RRI を使用すると、IPsec SA のネゴシエーションがなくても、ルートは常に存在します。

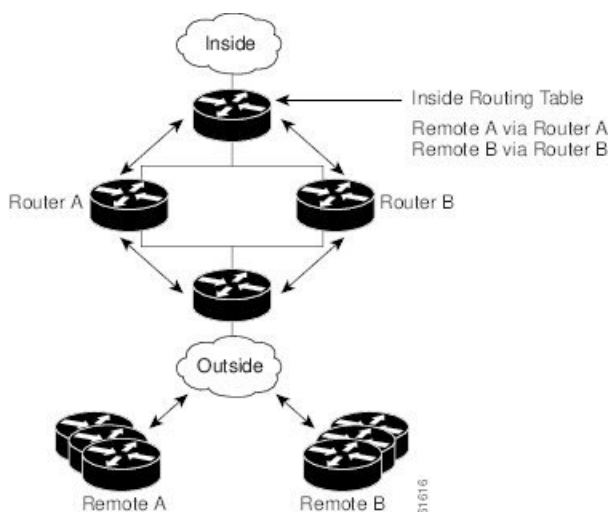


**Note** RRI を使用する ACL では、any キーワードを使用できません。

作成されたルートは任意のダイナミックルーティングプロトコルに注入され、周囲のデバイスに配布されます。このトラフィックフローでは、IPsec を正しい SA 全体に転送するために適切な RRI ルータに誘導し、IPsec ポリシーの不一致およびパケット喪失を回避する必要があります。

次の図は、RRI 設定機能のトポロジを示します。リモート A にルータ A がサービスを提供し、リモート B はルータ B に接続します。このようにして、セントラルサイトにある VPN ゲートウェイ全体にロードバランシングを提供します。セントラルサイトのデバイスの RRI により、ネットワーク内部の他のルータは、正しい転送判断を自動的に実行できるようになります。また、RRI により、内部ルータのスタティックルートを管理する必要がなくなります。

Figure 97: 逆ルート注入設定機能を示すトポロジ





## ホットスタンバイ ルータ プロトコルおよび IPsec

ホットスタンバイ ルータ プロトコル (HSRP) は、1つのルータのアベイラビリティに頼らなくても、イーサネットネットワークのホストからIPトラフィックをルーティングすることで、ネットワークのハイアベイラビリティを実現します。HSRPは、ICMP Router Discovery Protocol (IRDP) などのルータ ディスカバリ プロトコルをサポートしないホスト、および選択したルータがリロードしたときまたはオフになったときに新しいルータに切り替える機能を備えていないホストには特に便利です。この機能がないと、ルータ障害が原因でデフォルト ゲートウェイを失うルータはネットワークと通信できません。

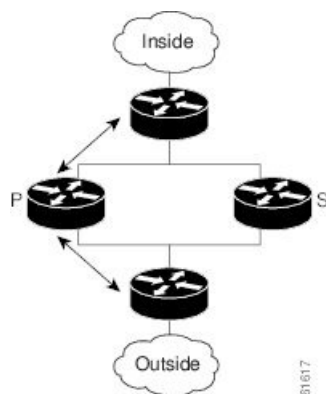
HSRP は、スタンバイ コマンドライン インターフェイス (CLI) コマンドを使用して LAN インターフェイス上に設定できます。インターフェイスから、ローカル IPsec ID またはローカル トンネル エンドポイントとしてスタンバイ IP アドレスを使用できます。

スタンバイ IP アドレスをトンネルエンドポイントとして使用すると、HSRP を使用してフェールオーバーを VPN ルータに適用できます。リモート VPN ゲートウェイは、HSRP グループ内のアクティブ デバイスに所属するスタンバイ アドレスを使用してローカル VPN ルータに接続します。フェールオーバーの際、スタンバイ デバイスはスタンバイ IP アドレスの所有権を引き継いで、リモート VPN ゲートウェイへのサービスを開始します。

フェールオーバーは、HSRP を使用して VPN ルータに適用できます。リモート VPN ゲートウェイは、HSRP グループ内のアクティブ デバイスに所属するスタンバイ アドレスを使用してローカル VPN ルータに接続します。この機能では、定義の必要があるのは HSRP スタンバイ アドレスだけなので、ゲートウェイ リストの定義に関してリモート ピア上での設定の複雑さが軽減されます。

次の図は、拡張 HSRP 機能のトポロジを示します。トラフィックは、スタンバイ グループのアクティブ 装置である、アクティブ ルータ P でサービスが提供されています。フェールオーバーが発生した場合、トラフィックは、元のスタンバイ 装置であるルータ S に迂回されます。ルータ S は新しいアクティブ ルータの役割を想定し、スタンバイ IP アドレスの所有権を引き継ぎます。

Figure 98: ホットスタンバイ ルータ プロトコル機能を示すトポロジ





**Note** フェールオーバーの場合、HSRP は、VPN ルータ間の IPsec 状態情報の転送を促進しません。つまり、この状態の転送が行われない場合、リモートに対する SA が削除され、インターネット キー交換 (IKE) および IPsec SA を再確立する必要があります。IPsec フェールオーバーをさらに効率的に行うために、IKE キープアライブをすべてのルータ上でイネーブルにすることを推奨します。

## IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の設定方法

### ダイナミック クリプト マップでの逆ルート注入の設定

標準スタティック クリプト マップ エントリのようなダイナミック クリプト マップ エントリは各セットにグループ化されます。セットは、すべて同じダイナミック マップ名を持つダイナミック クリプト マップ エントリのグループですが、ダイナミック シーケンス番号はそれぞれ異なります。セットの各メンバーは、RRI に設定できます。

ダイナミック クリプト マップ エントリを作成し、RRI をイネーブルにするには、この項の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto dynamic-map** *map-name seq-num*
4. **set transform-set**
5. **reverse-route**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto dynamic-map</b> <i>map-name seq-num</i> <b>Example:</b> Router(config)# <b>crypto dynamic-map mymap</b>	ダイナミック クリプト マップ エントリを作成し、クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set transform-set</b> <b>Example:</b> Router(config-crypto-m)# <b>set transform-set</b>	このクリプト マップ エントリで許可するトランスフォーム セットを指定します。複数のトランスフォーム セットをプライオリティの順に表示します（最もプライオリティの高いものを先頭に表示）。このエントリは、ダイナミック クリプト マップ エントリで必要とされる唯一の設定文です。
ステップ 5	<b>reverse-route</b> <b>Example:</b> Router(config-crypto-m)# <b>reverse-route</b>	送信元プロキシの情報を作成します。

## スタティック クリプト マップでの逆ルート注入の設定

スタティック クリプト マップに RRI を設定する前に、次の内容に注意してください。

- 逆ルートが `mymap 2` でイネーブルになっていない場合、ルートはアクセス リスト 102 に基づいて作成されません。RRI は、デフォルトでイネーブルになっておらず、ルータ設定に表示されません。
- アップストリーム デバイスに VPN ルートを配布するには、ルーティング プロトコルをイネーブルにしてください。
- RRI 用に設定された VPN ルータ上でシスコ エクスプレス フォワーディング (CEF) が実行されている場合は、ネクスト ホップ デバイスを使用して、RRI 注入されたネットワークごとに隣接を設定する必要があります。これらのルートに対してネクストホップがルーティング テーブルで明示的に定義されていないので、プロキシ ARP をネクスト ホップ ルータ上でイネーブルにする必要があります（このルータによりそのデバイスのレイヤ 2 アドレスを使用して CEF 隣接関係を設定できます）。RRI 注入ルートが多い場合、RRI ルートが表す各サブネットからエントリがデバイスごとに作成されるので、隣接関係テーブルが非常に大きくなる場合があります。

スタティック クリプト マップ セットに RRI を追加するには、この項の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map** *map-name seq-num ipsec-isakmp*
4. **set peer** *ip-address*

5. **reverse-route**
6. **match address**
7. **set transform-set transform-set-name**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map map-name seq-num ipsec-isakmp</b> <b>Example:</b> Router (config)# <b>crypto map mymap 3 ipsec-isakmp</b>	ダイナミック クリプト マップ セットをスタティック クリプト マップ セットに追加し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>set peer ip-address</b> <b>Example:</b> Router (config-if)# <b>set peer 209.165.200.248</b>	クリプト マップ エントリに対して IPsec ピアの IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<b>reverse-route</b> <b>Example:</b> Router (config-if)# <b>reverse-route</b>	スタティックルートをクリプトアクセスコントロール リスト (ACL) に基づいて動的に作成します。
ステップ 6	<b>match address</b> <b>Example:</b> Router (config-if)# <b>match address</b>	クリプト マップ エントリの拡張アクセス リストを指定します。
ステップ 7	<b>set transform-set transform-set-name</b> <b>Example:</b> Router (config-if)# <b>set transform-set my_t_set1</b>	このクリプト マップ エントリで許可するトランスフォーム セットを指定します。複数のトランスフォーム セットをプライオリティ順（最高のプライオリティのものが最初）に列挙します。

## IPsec を使用した HSRP の設定

IPsec を使用して HSRP を設定する場合、次の条件を満たさなければならないことがあります。

- スタンバイ IP アドレスまたはスタンバイ名をインターフェイス上で変更した場合、HSRP をインターフェイス上のクリプト マップに適用するときに、クリプト マップを再度適用する必要があります。
- HSRP がインターフェイス上のクリプト マップに適用され、そのインターフェイスからスタンバイ IP アドレスまたはスタンバイ名を削除した場合、暗号トンネル エンドポイントは、そのインターフェイスの実際の IP アドレスに再初期化されます。
- IPsec フェールオーバーの要件があるインターフェイスにスタンバイ IP アドレスおよびスタンバイ名を追加する場合、適切な冗長情報を使用してクリプト マップを再度適用する必要があります。
- スタンバイ プライオリティは、アクティブ ルータとスタンバイ ルータ上で等しくなる必要があります。等しくない場合、プライオリティが高いルータがアクティブルータを引き継ぎます。以前アクティブだったルータが再度アップ状態になり、ただちにアクティブ ロールを引き継いだためスタンバイの報告がされず同期化しない場合、接続は廃棄されます。
- HSRP 追跡されるインターフェイスの、スタンバイ ルータおよびアクティブ ルータ上の IP アドレスは、他方のルータより低く、あるいは高くする必要があります。プライオリティが等しい (HA 要件) 場合、HSRP はアクティブ状態に基づいた IP アドレスを割り当てます。ルータ A のパブリック IP アドレスはルータ B のパブリック IP アドレスよりも低いが、プライベートインターフェイスに関してはその逆になるようなアドレッシング方式が存在する場合、アクティブ/スタンバイとスタンバイ/アクティブのように分裂した状況が発生し、接続が切断される可能性があります。



**Note** IPsec を使用せずに HSRP を設定するには、『*IP Application Services Configuration Guide*』の「Configuring IP Services」モジュールを参照してください。

インターフェイスにクリプト マップ セットを適用するには、この項の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type slot / port*
4. **standby name** *group-name*
5. **standby ip** *ip-address*
6. **crypto map** *map-name* **redundancy** [*standby-name*]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type slot / port</i> <b>Example:</b> Router (config)# <b>interface</b> GigabitEthernet 0/0	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>standby name</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Router (config-if)# <b>standby name</b> mygroup	スタンバイのグループ名を指定します。
ステップ 5	<b>standby ip</b> <i>ip-address</i> <b>Example:</b> Router (config-if)# <b>standby ip</b> 209.165.200.249	スタンバイ グループの IP アドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内のデバイスごとにこのコマンドが必要です。</li> </ul>
ステップ 6	<b>crypto map</b> <i>map-name</i> <b>redundancy</b> [ <i>standby-name</i> ] <b>Example:</b> Router (config-if)# <b>crypto map</b> mymap redundancy	IPsec のトンネルエンドポイントとして IP 冗長アドレスを指定します。

## VPN IPsec 暗号設定の確認

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto ipsec transform-set**
3. **show crypto map** [*interface interface* | **tag** *map-name*]
4. **show crypto ipsec sa** [**map** *map-name* | **address** | **identity**] [**detail**]
5. **show crypto dynamic-map** [**tag** *map-name*]

## DETAILED STEPS

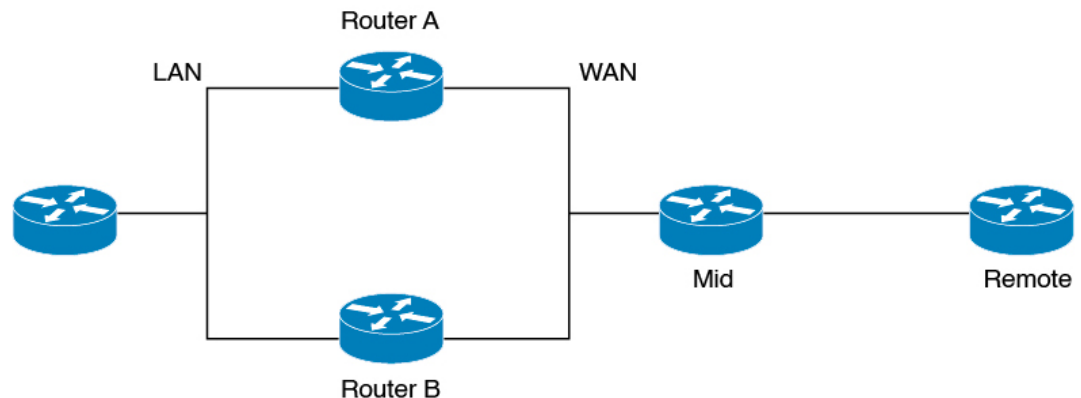
## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show crypto ipsec transform-set</b> <b>Example:</b> Router# <b>show crypto ipsec transform-set</b>	トランスフォーム セットの設定を表示します。
ステップ 3	<b>show crypto map [interface interface   tag map-name]</b> <b>Example:</b> Router# <b>show crypto map tag mycryptomap</b>	クリプト マップ コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 4	<b>show crypto ipsec sa [map map-name   address   identity] [detail]</b> <b>Example:</b> Router# <b>show crypto ipsec sa address detail</b>	IPsec SA に関する情報を表示します。
ステップ 5	<b>show crypto dynamic-map [tag map-name]</b> <b>Example:</b> Router# <b>show crypto dynamic-map tag mymap</b>	ダイナミック クリプト マップに関する情報を表示します。

## HSRP を使用した仮想トンネルインターフェイスでのハイアベイラビリティ冗長性の設定

Hot Standby Router Protocol (HSRP) を使用して、仮想トンネルインターフェイス (VTI) で IPsec のハイアベイラビリティ (HA) 冗長性を設定し、アクティブ HSRP デバイスとリモート デバイスの間で IPsec セッションを確立できます。このトポロジでは、リモート デバイスが、優先順位設定に基づいて HSRP アクティブ デバイスとの IPsec セッションを確立します。優先順位が高い デバイスが、アクティブ デバイスとして動作します。アクティブ デバイスがダウンすると、スタンバイ デバイスから新しい IPsec セッションが確立されます。

図 99: HSRP を使用した仮想トンネルインターフェイスの冗長性ハイアベイラビリティを示すトポロジ



357855

HSRP を使用して仮想トンネルインターフェイスの HA 冗長性を設定するには、次の手順を実行します。

- デバイス A とデバイス B を HA 設定で設定します。
- VTI トンネルの送信元アドレスは、物理インターフェイスの VIP アドレスを指す必要があります。
- HSRP ペアのアクティブデバイスへの IPsec セッションを確立するようにリモートデバイスを設定します。

## デバイス A および B の IPsec 仮想トンネルインターフェイスでの HA の設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto IPsec profile *profile-name***
4. **set transform-set *transform-set-name* [*transform-set-name2*...*transform-set-name6*]**
5. **set ikev2 profile *ikev2 profile-name***
6. **crypto ikev2 dpd *interval* *retry-interval* {**on-demand** | **periodic**}**
7. **exit**
8. **interface *type number***
9. **ip address *address mask***
10. **tunnel source *ip address***
11. **tunnel mode ipsec ipv4**
12. **tunnel destination *ip-address***
13. **tunnel protection IPsec profile *profile-name***
14. **exit**
15. **interface *type slot/port number***



16. **ip address** *address mask*
17. **standbygroup-number ip** [*IP [secondary]*]
18. **standbygroup-number priority** *priority name*
19. **standbygroup-number preempt**
20. **standbygroup-number name** *name*
21. **standbygroup-number track** *type [interface-priority]*
22. **negotiate auto**
23. **exit**
24. **interface type slot/port** *number*
25. **ip address** *address mask*
26. **standbygroup-number ip** [*IP [secondary]*]
27. **standbygroup-number priority** *priority name*
28. **standbygroup-number preempt**
29. **standbygroup-number track** *type [interface-priority]*
30. **negotiate auto**
31. **exit**
32. 同じ手順を繰り返して、デバイス B を設定します。

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto IPsec profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto IPsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE	2 つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> [ <i>transform-set-name2...transform-set-name6</i> ] <b>Example:</b> Device(config-ipsec-profile)# set transform-set tset1	使用可能なトランスフォームセットを指定します。

## ■ デバイス A および B の IPsec 仮想トンネルインターフェイスでの HA の設定

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>set ikev2 profile</b> <i>ikev2 profile-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ipsec-profile)# set ikev2-profile ikev2profile</pre>	使用可能なトランスフォームセットを指定します。
ステップ 6	<b>crypto ikev2 dpd interval retry-interval {on-demand   periodic}</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-profile)# crypto ikev2 dpd 10 2 periodic</pre>	この手順は任意です。(任意) プロファイルと一致したピアの Dead Peer Detection (DPD; デッドピア検出) をグローバルに設定します。デフォルトでは、Dead Peer Detection (DPD; デッドピア検出) は無効化されています。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(ipsec-profile)# exit</pre>	IPsec プロファイルコンフィギュレーションモードを終了して、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# interface tunnel 10</pre>	トンネルが設定されるインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 9	<b>ip address address mask</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# ip address 10.10.10.1 255.255.255.0</pre>	IP アドレスおよびマスクを指定します。
ステップ 10	<b>tunnel source ip address</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# tunnel source 2.2.2.1</pre>	トンネル送信元アドレスを指定します。IPsec HA の場合、このトンネル送信元アドレスは、トンネルを終端する物理インターフェイスの HSRP VIP (仮想 IP) アドレスを指す必要があります。
ステップ 11	<b>tunnel mode ipsec ipv4</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4</pre>	トンネルのモードを定義します。
ステップ 12	<b>tunnel destination ip-address</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# tunnel destination 3.3.3.5</pre>	トンネルの宛先の IP アドレスを指定します。
ステップ 13	<b>tunnel protection IPsec profile profile-name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# tunnel protection IPsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE</pre>	トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 15	<b>interface type slot/port number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet0/0/0	ギガビットイーサネットインターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 16	<b>ip address address mask</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 2.2.2.2 255.255.255.0	IP アドレスおよびマスクを指定します。
ステップ 17	<b>standbygroup-number ip [IP [secondary]]</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 1 ip 2.2.2.1	Hot Standby Router Protocol (HSRP) をアクティブにするスタンバイ IP アドレスを指定します。
ステップ 18	<b>standbygroup-number priority priority name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 1 priority 105	Hot Standby Router Protocol (HSRP) をアクティブにするスタンバイ優先順位を指定します。
ステップ 19	<b>standbygroup-number preempt</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 1 preempt	Hot Standby Router Protocol (HSRP) をアクティブにするスタンバイプリエンプトを指定します。
ステップ 20	<b>standbygroup-number name name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 1 name IPSEC-VTI-HA	Hot Standby Router Protocol (HSRP) をアクティブにするスタンバイ名を指定します。
ステップ 21	<b>standbygroup-number track type [interface-priority]</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 1 track 200 decrement 10	他のインターフェイスを追跡するインターフェイスを指定します。これにより、他のインターフェイスの1つがダウンした場合は、そのデバイスのホットスタンバイ優先順位が減少します。
ステップ 22	<b>negotiate auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 23	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 24	<b>interface type slot/port number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet0/0/1	ギガビットイーサネット インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 25	<b>ip address address mask</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 1.1.1.2 255.255.255.0	IP アドレスおよびマスクを指定します。
ステップ 26	<b>standby group-number ip [IP [secondary]]</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 2 ip 1.1.1.1	Hot Standby Router Protocol (HSRP) をアクティブにするスタンバイ IP アドレスを指定します。
ステップ 27	<b>standby group-number priority priority name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 2 priority 105	Hot Standby Router Protocol (HSRP) をアクティブにするスタンバイ優先順位を指定します。
ステップ 28	<b>standby group-number preempt</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 2 preempt	Hot Standby Router Protocol (HSRP) をアクティブにするスタンバイプリエンプトを指定します。
ステップ 29	<b>standby group-number track type [interface-priority]</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# standby 2 track 100 decrement 10	他のインターフェイスを追跡するインターフェイスを指定します。これにより、他のインターフェイスの1つがダウンした場合は、そのデバイスのホットスタンバイ優先順位が減少します。
ステップ 30	<b>negotiate auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。
ステップ 31	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 32	同じ手順を繰り返して、デバイス B を設定します。	

## リモートデバイスでの IPsec 仮想トンネルインターフェイスの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto IPsec profile** *profile-name*
4. **set transform-set** *transform-set-name* [*transform-set-name2...transform-set-name6*]
5. **set ikev2 profile** *ikev2 profile-name*
6. **crypto ikev2 dpd** *interval retry-interval* {**on-demand** | **periodic**}
7. **exit**
8. **interface** *type number*
9. **ip address** *address mask*
10. **tunnel source** *interface-type interface-number*
11. **tunnel mode ipsec ipv4**
12. **tunnel destination** *ip-address*
13. **tunnel protection IPsec profile** *profile-name*
14. **exit**
15. **interface type slot/port** *number*
16. **ip address** *address mask*
17. **negotiate auto**
18. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto IPsec profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b>  Device(config)# crypto IPsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE	2 つの IPsec デバイス間の IPsec 暗号化に使用される IPsec パラメータを定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> [ <i>transform-set-name2...transform-set-name6</i> ]	使用可能なトランスフォームセットを指定します。

	Command or Action	Purpose
	<b>Example:</b> <pre>Device(config-ipsec-profile)# set transform-set tset1</pre>	
ステップ 5	<b>set ikev2 profile ikev2 profile-name</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ipsec-profile)# set ikev2-profile ikev2profile</pre>	使用可能なトランスフォームセットを指定します。
ステップ 6	<b>crypto ikev2 dpd interval retry-interval {on-demand   periodic}</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-profile)# crypto ikev2 dpd 10 2 periodic</pre>	この手順は任意です。(任意) プロファイルと一致したピアの Dead Peer Detection (DPD; デッドピア検出) をグローバルに設定します。デフォルトでは、Dead Peer Detection (DPD; デッドピア検出) は無効化されています。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Device(ipsec-profile)# exit</pre>	IPsec プロファイルコンフィギュレーションモードを終了して、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	<b>interface type number</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# interface tunnel 10</pre>	トンネルが設定されるインターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 9	<b>ip address address mask</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# ip address 10.10.10.254 255.255.255.0</pre>	IP アドレスおよびマスクを指定します。
ステップ 10	<b>tunnel source interface-type interface-number</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# tunnel source 3.3.3.5</pre>	トンネルの送信元インターフェイスを指定します。
ステップ 11	<b>tunnel mode ipsec ipv4</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4</pre>	トンネルのモードを定義します。
ステップ 12	<b>tunnel destination ip-address</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-if)# tunnel destination 2.2.2.1</pre>	トンネルの宛先の IP アドレスを指定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 13	<b>tunnel protection IPsec profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel protection IPsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE	トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 15	<b>interface type slot/port number</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface GigabitEthernet0/0/1	ギガビットイーサネットインターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 16	<b>ip address address mask</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address 3.3.3.5 255.255.255.0	IP アドレスおよびマスクを指定します。
ステップ 17	<b>negotiate auto</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# negotiation auto	ギガビットイーサネットインターフェイスの速度、デュプレックス、および自動フロー制御を自動ネゴシエーションプロトコルで設定できるようにします。
ステップ 18	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IPsec VPN ハイ アベイラビリティ拡張機能の設定例

### 例：ダイナミック クリプト マップでの逆ルート注入の設定

次の例では、ダイナミック クリプト マップ テンプレートの定義で **reverse-route** コマンドを使用することにより、接続しているリモート IPsec ピアによって保護されている、すべてのリモート プロキシ（サブネットまたはホスト）に対してルートが確実に作成されるようにします。

```
crypto dynamic mydynmap 1
  set transform-set my-transform-set
  reverse-route
```

このテンプレートは、「親」クリプトマップ文に関連付けられてから、インターフェイスに適用されます。

```
crypto map mymap 3 ipsec-isakmp dynamic mydynmap
interface FastEthernet 0/0
crypto map mymap
```

## 例：スタティック クリプト マップでの逆ルート注入の設定

RRI は、暗号化されたトラフィックを VPN ルータに転送し、他のトラフィックをすべて別のルータに転送する必要があるトポロジに適したソリューションです。このようなシナリオでは、RRI により、デバイスにスタティック ルートを手動で定義する必要はなくなります。

単一の VPN ルータが使用され、すべてのトラフィックがそのルータのネットワークのパスに出入りするときに VPN ルータを通過する場合、RRI は不要です。

リモートプロキシの VPN ルータに手動でスタティック ルートを定義し、これらのルートを永続的にルーティング テーブルにインストールする場合には、同じリモート プロキシをカバーするクリプト マップ インスタンスで RRI をイネーブルにしないでください。この場合、ユーザ定義のスタティック ルートが RRI によって削除されません。

ルーティング コンバージェンスの影響で、ルートのアドバタイズ（リンク状態と定期的な更新）に使用される、ルーティング プロトコルに基づくフェールオーバーの成否が左右されることがあります。ルーティング ステートの変更が検出された直後に、ルーティング アップデートが確実に送信されるようにして、コンバージェンス時間を短縮するには、OSPF などのリンク ステート ルーティング プロトコルを使用することを推奨します。

次の例では、RRI が mymap 2 に対してではなく、mymap 1 に対してイネーブルにされています。インターフェイスにクリプト マップが適用されると、ルートが次のようなアクセス リスト 101 に基づいて作成されます。

```
IP route 172.17.11.0 255.255.255.0 FastEthernet 0/0
crypto map mymap 1 ipsec-isakmp
set peer 172.17.11.1
reverse-route
set transform-set my-transform-set
match address 101
crypto map mymap 2 ipsec-isakmp
set peer 10.1.1.1
set transform-set my-transform-set
match address 102
access-list 101 permit ip 192.168.1.0 0.0.0.255 172.17.11.0 0.0.0.255
access-list 102 permit ip 192.168.1.0 0.0.0.255 10.0.0.0 0.0.255.255
interface FastEthernet 0/0
crypto map mymap
```

## 例：IPsec を使用した HSRP の設定

次の例では、すべてのリモート VPN ゲートウェイを、192.168.0.3 を介してルータに接続する方法を示します。インターフェイス上のクリプトマップは、このスタンバイアドレスを mymap のすべてのインスタンスのローカル トンネル エンドポイントとしてバインドすると同時に、group1 と呼ばれる同じスタンバイ グループに属しているアクティブ デバイスとスタンバイ デバイスの間で HSRP フェールオーバーが確実に行われるようにします。



RRIにより、HSRP グループ内のアクティブデバイスだけが、リモートプロキシへのネクストホップ VPN ゲートウェイとして、内部のデバイスにアドバタイズできることにも注意してください。フェールオーバーが発生すると、ルートは、以前アクティブだったデバイス上から削除され、新たにアクティブになったデバイス上に作成されます。

```
crypto map mymap 1 ipsec-isakmp
  set peer 10.1.1.1
  reverse-route
  set transform-set esp-aes-sha
  match address 102
Interface FastEthernet 0/0
  ip address 192.168.0.2 255.255.255.0
  standby name group1
  standby ip 192.168.0.3
  crypto map mymap redundancy group1
access-list 102 permit ip 192.168.1.0 0.0.0.255 10.0.0.0 0.0.255.255
```

スタンバイ名はスタンバイグループ内のすべてのデバイスに設定する必要があります。スタンバイアドレスはグループの少なくとも1つのメンバーに設定する必要があります。スタンバイ名がルータから削除されると、IPsec SA は削除されます。スタンバイ名が再度追加された場合、使用される名前が同じかどうかにかかわらず、(冗長オプションを使用して) クリプトマップをインターフェイスに再度適用する必要があります。

## 例：HSRP を使用した VTI での HA 冗長性の設定

次に、HSRP を使用して VTI の HA 冗長性を設定し、内部ネットワーク内のデバイスとリモートデバイス間の IPsec セッションを確立する例を示します。

### Device A

```
crypto ipsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE
  set transform-set tset1
  set ikev2-profile ikev2profile
crypto ikev2 dpd 10 2 periodic
!
interface Tunnel10
  ip address 10.10.10.1 255.255.255.0
  tunnel source 2.2.2.1
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel destination 3.3.3.5
  tunnel protection ipsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE
!
interface GigabitEthernet0/0/0
  ip address 2.2.2.2 255.255.255.0
  standby 1 ip 2.2.2.1
  standby 1 priority 105
  standby 1 preempt
  standby 1 name IPSEC-VTI-HA
  standby 1 track 200 decrement 10
  negotiation auto
!
interface GigabitEthernet0/0/1
  ip address 1.1.1.2 255.255.255.0
  standby 2 ip 1.1.1.1
  standby 2 priority 105
  standby 2 preempt
  standby 2 track 100 decrement 10
  negotiation auto
```

**Device B**

```

crypto ipsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE
  set transform-set tset1
  set ikev2-profile ikev2profile
crypto ikev2 dpd 10 2 periodic
!
interface Tunnel10
  ip address 10.10.10.2 255.255.255.0
  tunnel source 2.2.2.1
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel destination 3.3.3.5
  tunnel protection ipsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE
!
interface GigabitEthernet0/0/0
  ip address 2.2.2.3 255.255.255.0
  standby 1 ip 2.2.2.1
  standby 1 priority 110
  standby 1 preempt
  standby 1 name IPSEC-VTI-HA
  standby 1 track 200 decrement 10
  negotiation auto
!
interface GigabitEthernet0/0/1
  ip address 1.1.1.3 255.255.255.0
  standby 2 ip 1.1.1.1
  standby 2 priority 110
  standby 2 preempt
  standby 2 track 100 decrement 10
  negotiation auto

```

**Remote Device**

```

crypto ipsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE
  set transform-set tset1
  set ikev2-profile ikev2profile
crypto ikev2 dpd 10 2 periodic
!
interface Tunnel10
  ip address 10.10.10.254 255.255.255.0
  tunnel source 3.3.3.5
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel destination 2.2.2.1
  tunnel protection ipsec profile TUNNEL-PROFILE-SITE
!
interface GigabitEthernet0/0/1
  ip address 3.3.3.5 255.255.255.0
  negotiation auto

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
IPsec を使用しない HSRP の設定	『 <i>IP Application Services Configuration Guide</i> 』の「Configuring IP Services」モジュール
IP security (IPsec) 用のステートフル フェールオーバーの設定	『 <i>Security Configuration Guide: Secure Connectivity</i> 』の「Stateful Failover for IPsec」モジュール
推奨される暗号化アルゴリズム	『 <a href="#">Next Generation Encryption</a> 』

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェアリリース、およびフィチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 261: IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能	Cisco IOS XE 3.1.0S	<p>IPsec VPN ハイ アベイラビリティ 拡張機能は次の 2 つの機能から構成されます。逆ルート注入 (RRI) およびホットスタンバイ ルータ プロトコル (HSRP) と IPsec。これらの 2 つの機能を一緒に使用すると、VPN におけるネットワーク設計を簡素化できるほか、ゲートウェイリストを定義する場合にリモートピアの設定の複雑さを低減することができます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto map</b> (インターフェイス IPsec) 、 <b>reverse-route</b>。</p>



## CHAPTER 194

# IPSEC 優先ピア

IP セキュリティ (IPsec) 優先ピア機能を使用すれば、フェールオーバー シナリオでクリプトマップ上の複数のピアが試行される環境を制御できます。

この機能には、次の機能が含まれます。

- デフォルト ピア設定
- デフォルト ピアでの IPsec アイドル タイマーの使用
- [IPsec 優先ピアの前提条件, on page 2861](#)
- [IPsec 優先ピアの制約事項, on page 2861](#)
- [IPsec 優先ピアに関する情報, on page 2862](#)
- [IPsec 優先ピアの設定方法, on page 2865](#)
- [IPsec 優先ピアの設定例, on page 2867](#)
- [その他の参考資料, on page 2867](#)
- [IPsec 優先ピアの機能情報, on page 2868](#)
- [用語集, on page 2869](#)

## IPsec 優先ピアの前提条件

- クリプト マップを正しく定義し、完成させておく必要があります。

## IPsec 優先ピアの制約事項

### デフォルト ピア

- この機能はデッドピア検出 (DPD) と組み合わせて使用する必要があります。定期モードで DPD が実行されている、リモートサイト上で使用するのが最も有効です。DPD によって、デバイスの障害が素早く検出され、デフォルト ピアが次に試行される接続用に試行されるようにピア リストがリセットされます。

- クリプト マップ内のデフォルト ピアとして指定できるピアは1つだけです。
- デフォルト ピアはピア リスト内の最初のピアである必要があります。

#### デフォルト ピアでの IPsec アイドル タイマーの使用

- この機能は、それが設定されているクリプトマップ上でだけ動作します。すべてのクリプトマップ用に機能をグローバルに設定はできません。
- グローバルアイドルタイマーが存在する場合、クリプトマップアイドルタイマー値とグローバル値は異なっている必要があります。同じである場合、アイドルタイマーがクリプトマップに追加されません。

#### IPsec フェールオーバー

Cisco ASR 1000 シリーズルータの IPsec は、ステートレス フェールオーバーのみをサポートします。IPsec フェールオーバーは、IPsec ネットワークの合計稼働時間（または可用性）を増やす機能です。従来、これは元の（アクティブな）ルータに加えて冗長（スタンバイ）ルータを使用することで実現されています。アクティブルータが何らかの理由で使用できなくなると、スタンバイルータは、IKE および IPsec の処理を引き継ぎます。

IPsec フェールオーバーは、ステートレス フェールオーバーおよびステートフル フェールオーバーの2種類に分類されます。ステートレスフェールオーバーは、ホットスタンバイルータプロトコル（HSRP）のようなプロトコルを使用して、プライマリからセカンダリへのカットオーバーを行い、さらにアクティブおよびスタンバイの VPN ゲートウェイを許可して、共通の仮想 IP アドレスを共有することができます。

## IPsec 優先ピアに関する情報

### IPsec

IPsec は、インターネット技術特別調査委員会（IETF）によって開発されたオープン規格のフレームワークです。IPsec は、インターネットなどの保護されていないネットワークを使用して機密情報を送信する場合に、セキュリティを提供します。IPsec はネットワーク層で機能し、Cisco ルータなどの参加している IPsec 装置（ピア）間のインターネットプロトコル（IP）パケットを保護および認証します。

IPsec は、次のネットワークセキュリティサービスを提供します。これらのサービスはオプションです。一般に、ローカルセキュリティポリシーにより、これらのサービスを1つ以上使用するよう指示されます。

- データ機密性：ネットワークにパケットを伝送する前に IPsec 送信側がパケットを暗号化できます。
- データ整合性：IPsec 受信者は、IPsec 送信者から送信されたパケットを認証し、伝送中にデータが変更されていないかを確認できます。

- データ送信元認証：IPSec 受信者は、送信された IPSec パケットの送信元を認証できます。
- アンチリプレイ：IPsec 受信者は再送されたパケットを検出し、拒否できます。

IPSec を使用すれば、データを、観察、変更、またはスプーフィングされることを心配することなく、パブリックネットワークを介して転送できます。これにより、インターネット、エクストラネット、およびリモート ユーザー アクセスを含む、バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) などのアプリケーションが可能となります。

IPsec は、2 つのピア (2 台のルータなど) 間にセキュア トンネルを確立します。機密性が高く、セキュア トンネルを介して送信する必要があるパケットを定義し、セキュア トンネルの特性を指定することによって、機密性の高いパケットを保護するパラメータを定義します。IPsec ピアによってこのように機密性の高いパケットが検出されたら、そのピアによって、適切な、セキュアなトンネルが設定され、そのパケットがトンネルからリモートピアに送信されます。

## Dead Peer Detection

VPN クライアントでは、DPD と呼ばれるキープアライブメカニズムが使用され、IPsec トンネルの反対側の VPN デバイスが利用できるかどうかチェックされます。ネットワークが極端にビジーだったり、信頼性が低下していたりした場合、ピアがこれからアクティブになることがないかどうか判断するまで VPN クライアントが待機する時間の秒数を増加できます。

トラフィックが受信されると、キープアライブパケットは送信されません。これにより、DPD に関連したオーバーヘッドが低下します。高い負荷がかかっているネットワーク上では、トラフィックがトンネル上で受信されるために、送信されるキープアライブパケットがきわめて少なくなるからです。さらに、DPD によってキープアライブパケットが送信されるのは、送信されるユーザトラフィックがある (そして受信されるユーザトラフィックがない) 場合だけです。

インターネットキー交換 (IKE) を、発信ユーザデータが存在しているかどうかにかかわらず DPD によってキープアライブパケットが送信されるように設定できます。つまり、受信ユーザデータがないかぎり、キープアライブパケットは設定されたキープアライブインターバルで送信されます。

## デフォルトピア設定

接続タイムアウトが発生した場合、現在のピアへの接続は終了します。**set peer** コマンドを使用すれば、最初のピアをデフォルトピアとして設定できます。デフォルトピアが存在している状態で次の接続が開始された場合、その接続は、ピアリスト内の次のピアではなく、デフォルトピアに直接接続されます。デフォルトピアの応答がない場合、ピアリスト内の次のピアが現在のピアとなり、クリプトマップを介した次からの接続では、そのピアが試行されます。

この機能は、物理リンク上のトラフィックがリモートピアの障害により停止した場合に便利です。DPD によって、リモートピアが使用できないことが示されますが、そのピアは現在のピアのままです。

デフォルトピアによって、過去に使用不可になったがサービスに復帰した優先ピアへのフェールオーバーが容易になります。ユーザは、特定のピアに対してフェールオーバーのイベントにおけるプリファレンスを与えることが可能です。これは、元の障害の原因がリモートピアの障害ではなく、ネットワーク接続の問題であった場合に便利です。

## アイドルタイマー

ルータでピアの IPsec セキュリティアソシエーション (SA) を作成する場合、SA を維持するためのリソースを割り当てる必要があります。SA には、メモリと、複数の管理されたタイマーが必要です。ピアがアイドル状態だと、それらのリソースが無駄になってしまいます。あまりに多くのリソースがアイドル状態のピアによって浪費されてしまうと、ルータによる他のピアとの新しい SA の作成ができなくなる可能性があります。

IPsec SA アイドルタイマーを使用すると、アイドル状態のピアに関連した SA を削除することによってリソースの可用性を高めることが可能です。IPsec SA アイドルタイマーによってアイドル状態のピアによるリソースの浪費が防止されるので、必要に応じて新しい SA を作成するためにより多くのリソースを利用できるようになります。

IPsec SA アイドルタイマーが設定されていない場合、IPsec SA のグローバルライフタイムだけが適用されます。SA は、ピアのアクティビティと関わりなく、グローバルタイマーが有効期限切れになるまで維持されます。

## デフォルトピアでの IPsec アイドルタイマーの使用

現在のピアへのすべての接続がタイムアウトした場合、次に接続が開始された時には、`set peer` コマンドで設定されたデフォルトピアに直接接続されます。デフォルトピアが設定されていない状態で接続タイムアウトが発生した場合、現在のピアはタイムアウトしたピアのままになります。

この機能拡張により、過去に使用不可になったが現在では稼働中の優先ピアに対するフェールオーバーが容易になります。

## クリプトマップ上のピア

クリプトマップセットには複数のエントリを含めることができ、それぞれが異なるアクセスリストに対応します。ルータでは、クリプトマップエントリが順番に検索され、そのエントリ内で指定されたアクセスリストとパケットの照合が試行されます。

パケットが特定のアクセスリスト内の `permit` エントリと一致し、対応するクリプトマップエントリが Cisco としてタグが付けられていた場合、クリプトマップ内のピア設定ステートメントで指定されたリモートピアとの接続が確立されます。



# IPsec 優先ピアの設定方法

## デフォルト ピアの設定

デフォルト ピアを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map** *map-name seq-num [ipsec-isakmp] [dynamic dynamic-map-name] [discover] [profile profile-name]*
4. **set peer** *{host-name [dynamic] [default] | ip-address [default] }*
5. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map</b> <i>map-name seq-num [ipsec-isakmp] [dynamic dynamic-map-name] [discover] [profile profile-name]</i> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto map mymap 10 ipsec-isakmp	クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始します。クリプト マップ エントリを作成または変更するか、動的に作成されるクリプトマップ設定のテンプレートを提供する暗号プロファイルを作成するか、またはクライアント アカウンティング リストを設定します。
ステップ 4	<b>set peer</b> <i>{host-name [dynamic] [default]   ip-address [default] }</i> <b>Example:</b>  Router(config-crypto-map)# set peer 10.0.0.2 default	クリプト マップ内の IPsec ピアを指定します。指定した最初のピアがデフォルトピアとして定義されていることを確認します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# exit	クリプト マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## アイドルタイマーの設定

アイドルタイマーを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map** *map-name seq-num* [**ipsec-isakmp**] [**dynamic** *dynamic-map-name*] [**discover**] [**profile** *profile-name*]
4. **set security-association idletime** *seconds* [**default**]
5. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map</b> <i>map-name seq-num</i> [ <b>ipsec-isakmp</b> ] [ <b>dynamic</b> <i>dynamic-map-name</i> ] [ <b>discover</b> ] [ <b>profile</b> <i>profile-name</i> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto map mymap 10 ipsec-isakmp	クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始します。クリプト マップ エントリを作成または変更するか、動的に作成されるクリプトマップ設定のテンプレートを提供する暗号プロファイルを作成するか、またはクライアント アカウンティング リストを設定します。
ステップ 4	<b>set security-association idletime</b> <i>seconds</i> [ <b>default</b> ] <b>Example:</b>	デフォルトピアが使用される前に、現在のピアをアイドル状態にしておける最大期間を指定します。

	Command or Action	Purpose
	Router(config-crypto-map)# set security-association idletime 120 default	
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-crypto-map)# exit	クリプト マップ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## IPsec 優先ピアの設定例

### デフォルト ピアの設定例

次に、IP アドレスが 10.1.1.1 である最初のピアがデフォルト ピアである例を示します。

```
crypto map tohub 1 ipsec-isakmp
 set peer 10.1.1.1 default
 set peer 10.2.2.2
```

### IPsec アイドル タイマーの設定例

次の例では、現在のピアが 120 秒間アイドルであった場合、次の接続試行ではデフォルトピア 10.1.1.1 (**set peer** コマンドで指定) が使用されます。

```
crypto map tohub 1 ipsec-isakmp
 set peer 10.1.1.1 default
 set peer 10.2.2.2
 set security-association idletime 120 default
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
IPSec	『 <i>Security for VPNs with IPsec</i> 』
クリプト マップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<i>Security for VPNs with IPsec</i>』</li> <li>「<i>Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs</i>」</li> </ul>

関連項目	マニュアルタイトル
DPD	『 <i>IPsec Dead Peer Detection Periodic Message Option</i> 』
セキュリティ コマンド	『 <i>Cisco IOS Security Command Reference</i> 』

**MIB**

MIB	MIB のリンク
なし。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IPsec 優先ピアの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 262: IPsec 優先ピアの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPSEC 優先ピア	Cisco IOS XE Release 2.1	IPsec 優先ピア機能を使用すれば、フェールオーバーシナリオでクリプトマップ上の複数のピアが試行される環境を制御できます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>set peer (IPsec)</b> および <b>set security-association idle-time</b> 。

## 用語集

**crypto access list** : 暗号によって保護する IP トラフィック、および暗号によって保護しないトラフィックが定義されたリスト。

**crypto map** : IPsec によって保護する必要があるトラフィック、送信する必要がある IPsec 保護対象トラフィック、およびこのトラフィックに適用する必要がある IPsec トランスフォームセットが指定されたマップ。

**dead peer detection** : 応答しないピアを検出することをルータに可能にさせる機能。

**keepalive message** : 1つのネットワークデバイスからもう1つのネットワークデバイスに対して、2つのネットワークデバイス間の仮想回線はまだアクティブであることを通知するために送信されるメッセージ。

**peer** : IPsec および IKE に参加するルータまたはその他のデバイス。IPsec においては、ピアは、キーの交換またはデジタル証明書の交換のどちらかを通じてセキュアに通信するデバイスまたはエンティティです。

**SA** : Security Association (セキュリティアソシエーション)。データフローに適用されるセキュリティポリシーとキー関連情報のインスタンスです。SA は、IKE と IPsec の双方で使用されますが、各 SA は互いに独立しています。IPsec SA は単方向通信であり、セキュリティプロトコルごとに一意です。IKE SA は、IPsec SA とは異なって双方向通信であり、使用されるのは IKE に限られます。SA のネゴシエーションおよび確立は、IPsec ではなく IKE によって行われます。また、IPsec SA はユーザが手動で確立できます。保護されたデータパイプでは1組の SA が必要であり、プロトコルごとに1方向あたり1つずつ必要です。たとえば、ピア間でカプセル化セキュリティペイロード (ESP) をサポートするパイプに対しては、それぞれの通信方向ごとに1つの ESP SA が必要です。SA は、宛先 (IPsec エンドポイント) のアドレス、セキュリティプロトコル (AH または ESP)、およびセキュリティパラメータインデックス (SPI) によって一意に識別されます。

**transform set** : IPsec 保護されたトラフィックに適用されるセキュリティプロトコル、アルゴリズムおよびその他の設定の適切な組み合わせです。IPsec SA のネゴシエーション中に、ピアは、特定のトランスフォームセットを使用して特定のデータフローを保護することに合意します。





## CHAPTER 195

# IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution

リモート IP セキュリティ (IPsec) ピアにホスト名 (IP アドレスではない) を指定した後、IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution 機能を使用すると、ルータが IPsec トンネルを確立する前にドメイン ネーム サーバ (DNS) でホスト名を名前解決できます。これにより、ピアの IP アドレスが変更されたかどうかをルータが直ちに検出できます。

- [IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution の制約事項, on page 2871](#)
- [IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution に関する情報, on page 2872](#)
- [Real-Time Resolution の設定方法, on page 2872](#)
- [Real-Time Resolution の設定例, on page 2874](#)
- [その他の参考資料, on page 2875](#)
- [IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution の機能情報, on page 2876](#)

## IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution の制約事項

### セキュア DNS の要件

この機能はセキュア DNS とだけ使用し、さらに、DNS の応答を認証できる場合に使用することを推奨します。それ以外の場合に使用すると、攻撃者が DNS の応答を偽装または強制し、証明書などのインターネットキー交換 (IKE) 認証データへのアクセス権を取得するおそれがあります。攻撃者は、発信側のホストによって信頼されている証明書を取得すると、フェーズ 1 の IKE セキュリティ アソシエーション (SA) を確立したり、発信側と実際の応答側で共有されている事前共有キーを推測しようとしたりします。

### DNS 発信側

DNS によるリモート IPsec ピアの名前解決が機能するのは、ピアを発信側として使用する場合があります。暗号化される最初のパケットが DNS ルックアップを開始します。DNS ルックアップが完了すると、これに続くパケットによって IKE が開始されます。

# IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution に関する情報

## セキュア DNS による Real-Time Resolution

リモート IPsec ピアのホスト名を **set peer** コマンドで指定する際、キーワード **dynamic** も発行できますが、このキーワードを使用すると IPsec トンネルが確立される直前まで、DNS によるホスト名の解決が遅れます。解決が遅れることで、ソフトウェアはリモート IPsec ピアの IP アドレスが変更されたかどうかを検出できます。こうしてこのソフトウェアは、新しい IP アドレスでこのピアと通信できるようになります。

キーワード **dynamic** を発行しない場合は、ホスト名は指定後すぐに解決されます。このため、ソフトウェアは IP アドレスの変更を検知できず、以前に解決した IP アドレスに対して接続を試みます。

DNS 解決によって、確立した IPsec トンネルがセキュアで、認証済みであることが保証されます。

## Real-Time Resolution の設定方法

### IPsec ピアの Real-Time Resolution の設定

この作業で、DNS によるリモート IPsec ピアのリアルタイム DNS 決を実行するようにルータを設定します。これにより、DNS ルックアップによるピアのホスト名の解決は、ルータがピアと接続 (IPsec トンネル) を確立する直前になります。

#### Before you begin

クリプト マップを作成する前に、次の作業を実行してください。

- Internet Security Association Key Management Protocol (ISAKMP) ポリシーの定義。
- IPsec トランスフォーム セットの定義。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map** *map-name seq-num* **ipsec-isakmp**
4. **match address** *access-list-id*
5. **set peer** *{host-name [dynamic] | ip-address*
6. **set transform-set** *transform-set-name1 [transform-set-name2 ... transform-set-name6]*



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map map-name seq-num ipsec-isakmp</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto map secure_b 10 ipsec-isakmp</pre>	作成または変更するクリプト マップ エントリを指定して、クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match address access-list-id</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-crypto-m)# match address 140</pre>	拡張アクセス リストに名前を付けます。 このアクセス リストは、このクリプト マップ エントリに照らして、IPsec で保護する必要があるトラフィックと、IPsec で保護しないトラフィックを決定します。
ステップ 5	<b>set peer {host-name [dynamic]   ip-address}</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-crypto-m)# set peer b.cisco.com dynamic</pre>	リモート IPsec ピアを指定します。 このピアは、IPsec で保護されたトラフィックの転送先となるピアです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>dynamic</b> : ルータがリモートピアとの間で IPsec トンネルを確立する直前に DNS ルックアップでホスト名を解決するようにします。このキーワードを指定しない場合、ホスト名は指定後すぐに解決されます。</li> </ul> 複数のリモートピアに対して、同じ作業を繰り返します。
ステップ 6	<b>set transform-set transform-set-name1 [transform-set-name2 ... transform-set-name6]</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-crypto-m)# set transform-set myset</pre>	このクリプト マップ エントリで許可するトランスフォーム セットを指定します。複数のトランスフォーム セットをプライオリティ順（最高のプライオリティのものが最初）に列挙します。

## トラブルシューティングのヒント

暗号マップの設定情報を表示するには、**show crypto map** コマンドを使用します。

### 次の作業

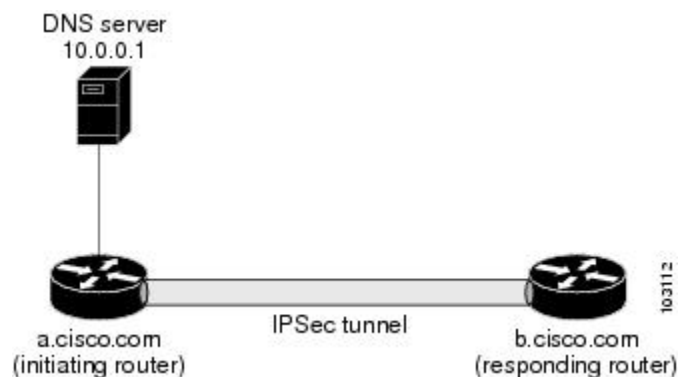
IPSec トラフィック フローが通過する各インターフェイスにクリプト マップ セットを適用する必要があります。インターフェイスにクリプト マップ セットを適用すると、ルータには、接続中にクリプト マップ セットに対してすべてのインターフェイスのトラフィックを評価し、暗号で保護するトラフィックのために、指定されたポリシーまたは SA のネゴシエーションを使用するように指示されます。

## Real-Time Resolution の設定例

### IPsec ピアの Real-Time Resolution の設定例

次の図および例を使って、ソフトウェアがリモート IPsec ピアとの間で接続を確立しようとする直前に、そのピアのホスト名を DNS ルックアップで DNS 解決するように設定する暗号マップの作成方法を説明します。

**Figure 100: Real-Time Resolution** のサンプル トポロジ



```
! Configure the initiating router.
hostname a.cisco.com
ip domain name cisco.com
ip name server 10.0.0.1
!
crypto map secure_b 10 ipsec-isakmp
  match address 140
  set peer b.cisco.com dynamic
  set transform-set xset
interface serial1
  ip address 10.10.0.1
  crypto map secure_b
access-list 140 permit ...
!
! Configure the responding router (the remote IPsec peer).
hostname b.cisco.com
```

```

!
crypto map secure_a 10 ipsec-isakmp
  match address 150
  set peer 10.10.0.1
  set transform-set
interface serial0/1
  ip address 10.0.0.1
  crypto map secure_a
access-list 150 ...
! DNS server configuration
b.cisco.com 10.0.0.1      # the address of serial0/1 of b.cisco.com

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
クリプト マップ	『 <i>Security for VPNs with IPsec Configuration Guide</i> 』の「Configuring Security for VPNs with IPsec」モジュール
ISAKMP ポリシー	『 <i>Internet Key Exchange for IPsec VPNs Configuration Guide</i> 』の「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」モジュール
IPsec および IKE のコンフィギュレーション コマンド	『 <i>Cisco IOS Security Command Reference</i> 』

### 標準

標準	タイトル
この機能によってサポートされる新しい規格または変更された規格はありません。またこの機能による既存規格のサポートに変更はありません。	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/techsupport">http://www.cisco.com/techsupport</a>

## IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 263: IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec トンネル ピアの Real-Time Resolution	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>リモート IP セキュリティ (IPsec) ピアにホスト名 (IP アドレスではない) を指定した後、この機能を使用すると、ルータが IPsec トンネルを確立する前にドメインネームサーバ (DNS) でホスト名を名前解決できます。これにより、ピアの IP アドレスが変更されたかどうかをルータが直ちに検出できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>set peer (IPsec)</b>。</p>





## 第 **XX** 部

# インターネット キー エクスチェンジ

- 「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」, on page 2881
- 「Call Admission Control for IKE」, on page 2907
- 証明書/ISAKMP プロファイルマッピング, on page 2917
- 「Encrypted Preshared Key」, on page 2929
- 識別名ベースのクリプトマップ, on page 2945
- IPsec と Quality of Service, on page 2953
- VRF 認識 IPsec, on page 2963
- IKE アグレッシブ モードの開始, on page 3001







## CHAPTER 196

# 「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」

この章では、基本的な IP Security (IPsec) バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) 用のインターネット キー エクスチェンジ (IKE) プロトコルの設定方法について説明します。IKE とは、IPsec 標準とともに使用されるキー管理プロトコル標準です。IPsec は、IP パケットに対して強力な認証や暗号化を実現する IP セキュリティ機能です。

IPsec の設定には必ずしも IKE は必要ありませんが、IKE では、IPsec 標準に対する新機能が追加されているほか、設定をより柔軟かつ容易に行えるよう、IPsec のサポートが強化されています。

IKE は、Oakley キー交換や Skeme キー交換をインターネットセキュリティアソシエーションおよびキー管理プロトコル (ISAKMP) フレームワーク内部に実装したハイブリッドプロトコルです (ISAKMP、Oakley、および Skeme は、IKE により実装されるセキュリティプロトコルです)。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

- [IKE 設定の前提条件, on page 2882](#)
- [IKE 設定の制約事項, on page 2882](#)
- [IPsec VPN の IKE 設定に関する情報, on page 2883](#)
- [IPsec VPN 用 IKE の設定方法, on page 2890](#)
- [IKE コンフィギュレーションの設定例, on page 2899](#)
- [次の作業, on page 2902](#)
- [その他の参考資料, on page 2902](#)
- [IPsec VPN の IKE 設定の機能情報, on page 2904](#)

## IKE 設定の前提条件

- 「[Configuring Security for VPNs with IPsec](#)」 モジュールで説明している概念およびタスクを理解している必要があります。
- ご使用のアクセス コントロール リスト (ACL) が IKE と互換性があることを確認してください。IKE ネゴシエーションではポート 500 で User Datagram Protocol (UDP) を使用するため、IKE および IPsec が使用するインターフェイスで UDP ポート 500 のトラフィックがブロックされないように ACL を設定しておく必要があります。場合によっては、UDP ポート 500 のトラフィックを明示的に許可するために、ACL にステートメントを追加する必要があります。

## IKE 設定の制約事項

- プロファイルがロックされたり、DMI 劣化状態が発生したりしないようにするには、**config-replace** コマンドを使用して設定を置き換える前に、必ず、トンネルインターフェイスをシャットダウンして、すべての暗号セッションとトンネル設定を停止させてください。
- 開始ルータでは、リモートピアに関連付けられた証明書が必要ありません。
- 事前共有キーは、両方のピアで完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用する必要があります (事前共有キーを設定するには、**crypto isakmp key** コマンドを入力します)。
- 各通信ルータは、互いの FQDN ホスト エントリを設定に保持している必要があります。
- 通信ルータはホスト名で認証するように設定する必要があります (IP アドレスでは必要ありません)。このため、**crypto isakmp identity hostname** コマンドを使用する必要があります。
- **show crypto eli** コマンドを使用して、デバイスのソフトウェア暗号化制限事項を決定します。ハードウェア モジュールがない場合の制限事項は次のとおりです。
  - IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) 数 : 1000
  - IKE SA 数 : 100
  - Diffie-Hellman (DH) セッション キー数 : 50
- サイト間 VPN での TCP フローのパフォーマンスを向上させるには、**no crypto batch allowed** コマンドを使用して暗号バッチ機能を無効にします。ただし、暗号バッチ機能を無効にすると、CPU 使用率が影響を受ける可能性があります。
- Cisco IOS リリース 15.0(1)SY 以降では、Cisco Catalyst 6500 シリーズ スイッチで **crypto ipsec** コマンドを使用して IPsec ネットワークセキュリティ機能を設定できません。これらのスイッチで IPsec をサポートするには、ハードウェア暗号化エンジンを使用する必要があります。

# IPsec VPN の IKE 設定に関する情報

## IKE での使用でサポート対象となる標準

シスコでは次の標準を採用しています。

- **IPsec** : IP セキュリティ プロトコル。IPsec はオープン規格のフレームワークであり、これにより、参加ピア間でデータ機密性、データ整合性、およびデータ認証が提供されます。IPsec は、これらのセキュリティ サービスを IP レイヤで提供します。IPsec は、IKE を使用して、ローカルポリシーに基づいてプロトコルのネゴシエーションおよびアルゴリズムを処理し、IPsec で使用される暗号キーと認証キーを生成します。IPsec は、1 組のホスト間、1 組のセキュリティ ゲートウェイ間、またはセキュリティ ゲートウェイとホスト間で 1 つ以上のデータ フローを保護するために使用できます。
- **ISAKMP** : インターネット セキュリティ アソシエーションおよびキー管理プロトコル。ペイロード形式、キー交換プロトコル実装の方法、およびセキュリティ アソシエーションのネゴシエーションを定義するプロトコル フレームワークです。
- **Oakley** : キー交換プロトコルの 1 つで、認証済みのキー関連情報を取得する方法を定義します。
- **Skeme** : キー交換プロトコルの 1 つで、キーをすばやく更新しながら認証済みのキー関連情報を取得する方法を定義します。



### Note

シスコは現在、DES、3DES、MD5 (HMAC バリエーション含む)、および Diffie-Hellman (DH) グループ 1、2、および 5 の使用は推奨していません。代わりに、AES、SHA-256、および DH グループ 14 以降を使用する必要があります。Cisco の暗号化に関する最新の推奨事項の詳細については、『[Next Generation Encryption \(NGE\)](#)』ホワイト ペーパーを参照してください。

IKE での使用に備えて実装されているコンポーネントテクノロジーには次のものがあります。

- **AES** : Advanced Encryption Standard (AES)。暗号アルゴリズムの 1 つで、重要ではあるが機密扱いではない情報を保護します。AES は、IPsec および IKE 用のプライバシー変換であり、データ暗号規格 (DES) に代わる規格として開発されました。AES は DES よりセキュリティを向上させるために設計されています。具体的には、AES は、キーのサイズが従来より大きく、侵入者が既知の方式でメッセージを解読するには、キーを総当たりで試すしかありません。AES のキーは可変長であり、アルゴリズムは 128 ビット キー (デフォルト)、192 ビット キー、または 256 ビット キーを指定できます。
- **DES** : データ暗号規格 (DES)。パケット データの暗号化に使用されるアルゴリズムです。IKE は Explicit IV 標準の 56 ビット DES-CBC を実装しています。Cipher Block Chaining (CBC) では、暗号化の開始に初期ベクター (IV) が必要です。IV は IPsec パケットに明示的に指定されます。

また Cisco IOS ソフトウェアは、特定のプラットフォームで使用可能なソフトウェアバージョンに応じて、Triple DES (168 ビット) 暗号化も実装します。トリプル DES (3DES) は強力な暗号化方式であり、これにより、機密性の高い情報を非信頼ネットワーク上で送信できます。この暗号化方式を使用することで、(特に金融業界の) お客様はネットワーク層での暗号化を実現できます。



**Note** 強力な暗号化を使用する Cisco IOS イメージ (56 ビット データ暗号化フィーチャ セットを含むがこれに限定されない) は、米国輸出規制の対象となり、配布が制限されます。米国以外の国でインストールされるイメージには、輸出許可が必要です。米国政府の規制により、お客様の注文が拒否されたり、納入が遅れたりすることがあります。詳細については、営業担当者または販売業者、あるいは [export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) までお問い合わせください。

- **SEAL** : ソフトウェア暗号化アルゴリズム (SEAL) 。ソフトウェアベースの DES、3DES、および AES に代わるアルゴリズムです。SEAL 暗号化では、160 ビットの暗号キーが使用され、他のソフトウェアベースのアルゴリズムに比べて、CPU に与える影響は小さくなります。
- **SHA-2 および SHA-1 ファミリ (HMAC バリエーション)** : セキュア ハッシュ アルゴリズム (SHA) の 1 および 2。SHA-1 および SHA-2 は、パケットデータの認証および IKE プロトコルの整合性確認メカニズムの検証に使用されるハッシュ アルゴリズムです。HMAC は、追加レベルのハッシュを提供するバリエーションです。SHA-2 ファミリには、SHA-256 ビットのハッシュ アルゴリズムと SHA-384 ビットのハッシュ アルゴリズムが加わっています。この機能は Suite-B の要件に含まれています。Suite-B は、IKE および IPsec で使用するための暗号化アルゴリズムの 4 つのユーザ インターフェイススイートで構成され、RFC 4869 に記述されています。各スイートは、暗号化アルゴリズム、デジタル署名アルゴリズム、キー合意アルゴリズム、ハッシュまたはメッセージダイジェストアルゴリズムで構成されています。Cisco IOS での Suite-B サポートについての詳細は、「Configuring Security for VPNs with IPsec」機能モジュールを参照してください。
- **RSA シグニチャおよび RSA 暗号化ナンス** : RSA は、ロナルド・リベスト、アディ・シャミア、レオナルド・エーデルマンの 3 人によって開発された公開キー暗号化システムです。RSA シグニチャは否認防止を実行し、RSA 暗号化ナンスは否認を実行します (否認および否認防止は追跡可能性と関係があります) 。
- **Diffie-Hellman** : 公開キー暗号法プロトコルの 1 つで、2 者間に、安全でない通信チャンネルでの共有秘密を確立できます。Diffie-Hellman は、IKE 内でセッションキーを確立するために使用されます。これは、768 ビット (デフォルト) 、1024 ビット、1536 ビット、2048 ビット、3072 ビット、および 4096 ビット DH グループをサポートします。また、256 ビットサブグループを含む 2048 ビット DH グループと、256 ビットと 384 ビットの Elliptic Curve DH (ECDH) もサポートします。Cisco では、2048 ビット以上の DH キー交換または ECDH キー交換を使用することを推奨します。
- **MD5 : Message Digest 5 (ハッシュ ベースのメッセージ認証コード (HMAC) ) バリエーション** 。パケットデータの認証に使用するハッシュ アルゴリズム。HMAC は、追加レベルのハッシュを提供するバリエーションです。

IKE は、X.509v3 証明書と相互運用されます。X.509v3 は、認証に公開キーが必要な場合に、IKE プロトコルに沿って使用されます。この証明書サポートを使用すると、各デバイスに同等のデジタル ID カードを付与することで、保護されたネットワークを拡張できます。2つの装置が通信する際、デジタル証明書を交換することで ID を証明します（これにより、各ピアで公開キーを手動で交換したり、各ピアで共有キーを手動で指定したりする必要がなくなります）。

## IKE の利点

IKE は自動で IPsec セキュリティアソシエーション (SA) をネゴシエーションするため、手間のかかる手動の事前設定をすることなしに IPsec によるセキュアな通信を実現できます。特に、IKE には次のような利点があります。

- IPsec SA のライフタイムが指定可能。
- IPsec セッション中に暗号キーの変更が可能。
- IPsec でアンチリプレイ サービスが使用可能。
- 認証局 (CA) のサポートにより、管理可能でスケーラブルな IPsec を実現可能。
- ピアのダイナミック認証が可能です。

## IKE のメインモードとアグレッシブモード

IKE では、キーのネゴシエーションにフェーズ 1 とフェーズ 2 の 2つのフェーズがあります。フェーズ 1 では、2つの IKE ピア間でセキュリティアソシエーション (キー) のネゴシエーションをします。フェーズ 1 でキーのネゴシエーションをすることで、フェーズ 2 で IKE ピアが安全に通信できるようになります。フェーズ 2 のネゴシエーションでは、IKE が IPsec など他の適用でのキー (セキュリティアソシエーション) を設定します。

フェーズ 1 のネゴシエーションは、メインモードまたはアグレッシブモードを使用して実行されます。メインモードでは、ネゴシエーション中にすべての情報が保護されるため、攻撃者が情報にアクセスできなくなります。メインモードを使用すると、2つの IKE ピアの ID が非表示になります。このモードでの運用は非常にセキュアですが、ネゴシエーションの実行に比較的時間が掛かります。アグレッシブモードでは、メインモードよりも少ない時間でピア間のキーのネゴシエーションを実行します。ただし、メインモードでのネゴシエーションでは可能なセキュリティが一部失われます。たとえば、セキュリティアソシエーションを確立しようとしている 2つの装置の ID が傍受者に見えてしまいます。

この2つのモードは異なる目的で使用し、それぞれ別の強みがあります。メインモードは、アグレッシブモードに比べると低速ですが、アグレッシブモードよりも IKE ピアのセキュリティが高いため、セキュアで柔軟性があります。アグレッシブモードは柔軟性とセキュリティの点で劣りますが、より高速です。

Cisco IOS ソフトウェアでは、この2つのモードの設定はできません。IKE 認証 (rsa-sig、rsa-encr、または事前共有) ではデフォルトでメインモードを起動しますが、認証の起動に対応する情報がなく、ピアのホスト名に関連づけられている事前共有キーがある場合、Cisco IOS

ソフトウェアはアグレッシブ モードを起動できます。Cisco IOS ソフトウェアでは、アグレッシブ モードを開始した IKE ピアには、アグレッシブ モードで応答します。

## IKE ネゴシエーション用 IKE ポリシー セキュリティ パラメータ

IKE ポリシーを使い、IKE ネゴシエーション中に使用するセキュリティ パラメータの組み合わせを定義します。IKE エクスチェンジに参加する各ピアで IKE ポリシーを作成する必要があります。

IKE ポリシーを1つも設定しない場合、ルータはデフォルトのポリシーを使用します。デフォルトのポリシーは、常にプライオリティが最低に設定されており、各パラメータはデフォルト値に設定されています。

### IKE ポリシーについて

IKE ネゴシエーションは保護する必要があるため、各 IKE ネゴシエーションは、共有（共通）の IKE ポリシーについて両ピアが同意することで開始されます。このポリシーには、次の IKE ネゴシエーションを保護するために使用するセキュリティ パラメータとピアの認証方法を記述します。

両ピアがポリシーに同意すると、各ピアに確立されている SA によってポリシーのセキュリティ パラメータが識別され、ネゴシエーションにおける以降すべての IKE トラフィックに適用されます。

各ピアには、パラメータ値の組み合わせをそれぞれ変えることでプライオリティをつけたポリシーを複数設定できます。ただし、そのうちの少なくとも1つのポリシーには、リモートピアのポリシーのいずれかとまったく同じ暗号化、ハッシュ、認証、Diffie-Hellman パラメータの各値が設定されている必要があります。作成する各ポリシーに対して、一意のプライオリティを割り当てます（1～10,000 で指定し、1 が最大のプライオリティ）。



**Tip** サポートされているパラメータの値が1つしかないデバイスを使用する場合は、もう一方のデバイスでサポートされている値を設定する必要があります。この制限を別にすれば、セキュリティとパフォーマンスには通常トレードオフの関係があり、パラメータ値の多くにはこのトレードオフがあります。ネットワークのセキュリティリスクのレベルと、そのリスクに対する許容度を評価する必要があります。

### 一致する IKE ポリシーでの IKE ピアの合意

IKE ネゴシエーションが開始されると、IKE は、両方のピアにある同じ IKE ポリシーを検索します。ネゴシエーションを開始したピアがすべてのポリシーをリモートピアに送信し、リモートピアの方では一致するポリシーを探そうとします。リモートピアは、自分のプライオリティ1位のポリシーと、相手のピアから受け取ったポリシーを比較し、一致するポリシーを探します。一致するポリシーが見つかるまで、リモートピアは優先順位が高い順に各ポリシーをチェックします。

一致が成立するのは、2つのピアからの両方のポリシーに、同じ暗号化、ハッシュ、認証、Diffie-Hellman パラメータ値が含まれているときです。

一致した場合は、IKE がネゴシエーションを完了し、IPsec セキュリティ アソシエーションが作成されます。一致するポリシーが見つからなかった場合は、IKE はネゴシエーションを拒否し、IPsec は確立されません。



**Note** このパラメータ値は、IKE SA の確立後 IKE ネゴシエーションに適用されます。ポリシーに指定する認証方式によっては、追加の設定が必要な場合があります。詳細については、[IKE 認証の設定, on page 2891](#)を参照してください。

ピアのポリシーに必要な関連設定がされていないと、一致するポリシーをリモートピアで検索するときに、ピアはポリシーを送信しません。

## IKE 認証

IKE 認証は次のオプションで構成され、各認証方式には追加の設定が必要です。

### RSA シグニチャ

RSA シグニチャでは、CA から証明書を取得するようにピアを設定できます（証明書を発行するよう、CA が正しく設定されている必要があります）。CA を使用すると、IPSec ネットワークの管理性と拡張性が大幅に改善されます。また、RSA シグニチャ ベースの認証で使用できる公開キー操作は2つだけです。これに対し、RSA 暗号化では4つの公開キー操作を使用しますが、その分だけ全体のパフォーマンスが下がります。CA サポートを正しく設定するには、モジュール「PKI 内での RSA キーの展開」を参照してください。

証明書は公開キーを安全に交換するために各ピアで使用されます。RSA シグニチャでは、各ピアに、リモートピアの公開シグネチャキーが必要です。双方のピアに有効な証明書がある場合、RSA シグニチャを使用する IKE ネゴシエーションの一環として、ピア間で公開キーが自動的に交換されます。

公開キーは手動で交換することもできます。これについては、[RSA 暗号化ナンスの RSA キーの手動設定, on page 2891](#)を参照してください。

RSA シグニチャにより、IKE ネゴシエーションで否認防止が可能になります。さらに、リモートピアとのIKE ネゴシエーションを実際に行うことで、第三者に対する証明が可能になります。

### RSA 暗号化ナンス

RSA 暗号化ナンスを使用するには、各ピアが他のピアの公開キーを持つようにする必要があります。

RSA シグニチャとは異なり、RSA 暗号化ナンス方式では、証明書を使って公開キーを交換できません。その代わりに、各ピアが他のピアの公開キーを持つようにする必要があります。それには次の方法のいずれかを実行します。

- RSA キーを手動で設定する（「[RSA 暗号化ナンスの RSA キーの手動設定, on page 2891](#)」を参照）。
- 証明書を使用する RSA シグニチャを使って IKE 交換がピア間で実行されていることを確認する（証明書を使用すると、RSA シグニチャ ベースの IKE ネゴシエーション中にピアの公開キーが交換されます）。IKE 交換が実行されるようにするには、RSA 暗号化ナンスによる高プライオリティのポリシーと、RSA シグニチャによる低プライオリティのポリシーの 2 つのポリシーを指定します。RSA シグニチャは IKE ネゴシエーションが実行されるときに初めて使用されます。これは、各ピアに他のピアの公開キーがまだないためです。公開キーが交換されることで、今後の IKE ネゴシエーションで RSA 暗号化ナンスを使用できるようになります。この方法では、CA サポートをあらかじめ設定しておく必要があります。

RSA 暗号化ナンスでは IKE ネゴシエーションを否認できます。ただし、RSA シグニチャとは異なり、リモート ピアと IKE ネゴシエーションを実行したことを第三者に対して証明はできません。

## 事前共有キー

### 事前共有キーの概要

事前共有キーは、大規模なセキュアネットワークでは、成長するネットワークにうまく対応できないため、適していません。ただし、RSA シグニチャのように CA を使用する必要がないため、10 ノード未満の規模の小さいネットワークではセットアップが簡単です。また、事前共有キーによる認証に比べ、RSA シグニチャによる認証の方が安全です。



**Note** RSA 暗号化を設定し、シグニチャ モードがネゴシエーションされ、シグニチャ モードに証明書が使用されると、ピアはシグニチャと暗号キーを要求します。基本的にルータは、コンフィギュレーションでサポートされているできる限り多くのキーを要求します。RSA 暗号化が設定されていない場合は、ルータはシグニチャ キーだけを要求します。

### 事前共有キーの ISAKMP ID の設定

IKE ポリシーで事前共有キーを使用するピアそれぞれについて ISAKMP ID を設定する必要があります。

2 つのピアが IKE を使って IPsec SA を確立する場合、各ピアが自分の ID をもう一方のピア（リモートピア）に送信します。各ピアは、ルータの ISAKMP ID の設定に従い、ホスト名または IP アドレスを送信します。

デフォルトでは、ピアの ISAKMP ID はピアの IP アドレスになっています。必要に応じて ID をピアのホスト名に変更します。一般的に、すべてのピアの ID は同じ設定（すべてのピアで IP アドレスを設定するか、すべてのピアでホスト名を設定）にします。お互いの識別にホスト名を使うピアと IP アドレスを使うピアが混在していると、リモートピアの ID が識別されない場合にドメイン ネーム システム (DNS) lookup で ID を解決できなくなり、IKE ネゴシエーションが失敗することがあります。



## マスク事前共有キー

マスク事前共有キーを使用すると、認証レベルが同じリモートユーザのグループで、IKE 事前共有キーを共有できます。IKE 認証を実行するには、リモートピアの事前共有キーと、ローカルピアの事前共有キーが一致している必要があります。

マスク事前共有キーは通常、アウトオブバンドの安全なチャネル経由で配信されます。リモートピアとローカルピアが通信する場合、IKE 事前共有キーが設定されているリモートピアとローカルピアとの間で、IKE SA を確立できます。

**mask** キーワードの指定を **crypto isakmp key** コマンドで行う場合、サブネットアドレスを使用するかどうかはユーザーが決定します。使用すると、より多くのピアとの間で同じキーを共有できます。つまり、事前共有キーが2人のユーザ間の使用に制限されないということです。



**Note** サブネットアドレスとして 0.0.0.0 の使用は推奨しません。この設定ではグループで事前共有キーを保持できるため（すべてのピアが同じグループキーを持つことが可能）、ユーザ認証のセキュリティが低下するからです。

## 特定の IPsec ピアの Xauth の無効化

静的 IPsec ピアの拡張認証 (Xauth) を無効にすると、ルータで Xauth 情報 (ユーザ名とパスワード) が表示されなくなります。

## IKE モード設定

Internet Engineering Task Force (IETF) によって定義されているように、IKE モード コンフィギュレーションでは、ゲートウェイにより、IP アドレス (およびその他のネットワークレベルの設定) を、IKE ネゴシエーションの一環で、クライアントにダウンロードできます。このエクスチェンジを使用することで、IP アドレスはゲートウェイによって IKE クライアントに渡され、IPsec でカプセル化された「内部」IP アドレスとして使用されます。この方式では、IPsec ポリシーと一致する可能性のある、クライアントの既知の IP アドレスが渡されます。

ダイナミック IP アドレスと会社のゲートウェイが設定されたリモートアクセスクライアント間に IPsec VPN を実装するには、各クライアントが認証された後、拡張可能な IPsec ポリシーをゲートウェイでダイナミックに管理する必要があります。IKE モード コンフィギュレーションにより、各クライアントの IP アドレスに関係なく、非常に規模の大きいクライアント群に対して拡張可能なポリシーをゲートウェイでセットアップできます。

IKE モード コンフィギュレーションには次の2つのタイプがあります。

- ゲートウェイ始動：ゲートウェイがクライアントでコンフィギュレーションモードを開始する。クライアントが応答すると、IKE が送信者の ID を変更し、メッセージが処理され、クライアントが応答を受信します。
- クライアント始動：クライアントがゲートウェイでコンフィギュレーションモードを開始する。クライアントに割り当てた IP アドレスでゲートウェイが応答します。

# IPsec VPN 用 IKE の設定方法

IPsec 実装で IKE を使用しない場合は、**no crypto isakmp** コマンドを使ってすべての IPsec ピアの IKE を無効にし、この章の残りは実行せずに、IPsec VPN を開始します。

IKE はデフォルトでイネーブルになっています。各インターフェイスについて IKE を個別にイネーブルにする必要はなく、ルータのすべてのインターフェイスについてグローバルにイネーブルになっています。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

IPsec ピアの認証、IPsec SA のネゴシエーション、IPsec キーの確立を実行するには、次の作業を実行します。

## トラブルシューティングのヒント

- **clear crypto sa EXEC** コマンドを使用して、IPsec SA を消去（および再初期化）します。

パラメータを指定せずに **clear crypto sa** コマンドを使用すると、SA データベースの内容が完全に消去されるので、アクティブなセキュリティセッションが消去されます。SA データベースのサブセットだけを消去するには、**peer**、**map**、または **entry** キーワードも指定します。詳細については、『[Cisco IOS Security Command Reference](#)』の **clear crypto sa** コマンドを参照してください。

- デフォルトポリシーおよび設定されているポリシーのデフォルト値は、**show running-config** コマンドの発行時には設定に表示されません。デフォルトポリシーおよび設定されているポリシーのデフォルト値を確認するには、**show crypto isakmp policy** コマンドを使用してください。
- 使用しているハードウェアがサポートしていない IPsec トランスフォームまたは IKE 暗号化方式はすべて無効にしてください。無効にしておくと、ピアとのネゴシエーションのときに常に無視されます。

ハードウェアがサポートしていない IPsec トランスフォームまたは IKE 暗号化方式を入力すると、警告メッセージが表示されます。この警告メッセージはブート時にも表示されます。暗号化カードを挿入すると、現在の設定がスキャンされます。ハードウェアがサポートしていない IPsec トランスフォームまたは IKE 暗号化方式が検出されると、警告メッセージが表示されます。

## 次の作業

IKE ポリシーで指定した認証方式（RSA シグニチャ、RSA 暗号化ナンス、事前共有キー）によっては、IKE および IPsec が IKE ポリシーを正常に使用できるように、特定の設定作業を追加で実行する必要があります。これらの追加作業の完了に関する詳細については、[IKE 認証の設定, on page 2891](#) を参照してください。

AES ベースのトランスフォーム セットを設定する方法については、モジュール「Configuring Security for VPNs with IPsec」を参照してください。

## IKE 認証の設定

認証方式を指定（またはデフォルト方式を設定）した IKE ポリシーを少なくとも1つ作成したら、認証方式を設定する必要があります。認証方式を正常に設定しなければ、IPsec が IKE ポリシーを使用できません。



**Note** IKE 認証を設定する前に、認証方式を指定した（またはデフォルトの RSA シグニチャにした）IKE ポリシーを最低 1 つは設定しておく必要があります。

IKE 認証を設定するには、状況に応じて次の作業のいずれかを実行する必要があります。

### 前提条件

認証方式を指定した（またはデフォルトの RSA シグニチャを設定した）IKE ポリシーを最低 1 つは設定しておく必要があります。

### RSA 暗号化ナンスの RSA キーの手動設定



**Note** この作業を実行するのは、CA を使用していない場合だけです。

RSA キーを手動で設定するには、IKE ポリシーで RSA 暗号化ナンスを使用する IPsec ピアそれぞれについて、この作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto key generate rsa {general-keys} | usage-keys} [label key-label] [exportable] [modulus modulus-size]**
4. **crypto key generate ec keysize [256 | 384] [label label-string]**
5. **exit**
6. **show crypto key mypubkey rsa**
7. **configure terminal**

8. **crypto key pubkey-chain rsa**
9. 次のいずれかを実行します。
  - **named-key** *key-name* [**encryption** | **signature**]
  - **addressed-key** *key-address* [**encryption** | **signature**]
10. **address** *ip-address*
11. **key-string** *key-string*
12. **quit**
13. IKE ポリシーで RSA 暗号化ナンスを使用するピアそれぞれについて上記の手順を繰り返します。
14. **exit**
15. **exit**
16. **show crypto key pubkey-chain rsa** [**name** *key-name* | **address** *key-address*]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto key generate rsa</b> { <b>general-keys</b> }   <b>usage-keys</b> } <b>[label</b> <i>key-label</i> ] [ <b>exportable</b> ] [ <b>modulus</b> <i>modulus-size</i> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto key generate rsa general-keys modulus 360	RSA キーを生成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>key-label</i> 引数を指定していない場合、ルータの完全修飾ドメイン名 (FQDN) であるデフォルト値が使用されます。</li> </ul>
ステップ 4	<b>crypto key generate ec</b> <b>keysize</b> [ <b>256</b>   <b>384</b> ] [ <b>label</b> <i>label-string</i> ] <b>Example:</b> Router(config)# crypto key generate ec keysizes 256 label Router_1_Key	EC キーを生成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 256 キーワードは、キーのサイズを 256 ビットに指定します。</li> <li>• 384 キーワードは、キーのサイズを 384 ビットに指定します。</li> <li>• <b>label</b> キーワードと <i>label-string</i> 引数を使用して、EC キーにラベルを指定できます。</li> </ul> <p><b>Note</b>      ラベルを指定しない場合は、FQDN の値が使用されます。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>show crypto key mypubkey rsa</b> <b>Example:</b> Router# show crypto key mypubkey rsa	(任意) 生成された RSA 公開キーを表示します。
ステップ 7	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 8	<b>crypto key pubkey-chain rsa</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto key pubkey-chain rsa	公開キー コンフィギュレーション モード (他のデバイスの RSA 公開キーの手動設定が可能) にします。
ステップ 9	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>named-key</b> <i>key-name</i> [<b>encryption</b>   <b>signature</b>]</li> <li>• <b>addressed-key</b> <i>key-address</i> [<b>encryption</b>   <b>signature</b>]</li> </ul> <b>Example:</b> Router(config-pubkey-chain)# named-key otherpeer.example.com <b>Example:</b> Router(config-pubkey-chain)# addressed-key 10.1.1.2 encryption	どのリモートピアの RSA 公開キーを指定するのかを示し、公開キー コンフィギュレーション モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• リモートピアが ISAKMP ID にホスト名を使用している場合は、<b>named-key</b> コマンドを使用し、リモートピアの FQDN (somerouter.example.com など) を <i>key-name</i> に指定します。</li> <li>• リモートピアが ISAKMP ID に IP アドレスを使用している場合は、<b>addressed-key</b> コマンドを使用し、リモートピアの IP アドレスを <i>key-address</i> に指定します。</li> </ul>
ステップ 10	<b>address ip-address</b> <b>Example:</b> Router(config-pubkey-key)# address 10.5.5.1	リモートピアの IP アドレスを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>named-key</b> コマンドを使用するのは、このコマンドを使用してピアの IP アドレスを指定する必要がある場合です。</li> </ul>
ステップ 11	<b>key-string</b> <i>key-string</i> <b>Example:</b> Router(config-pubkey-key)# key-string <b>Example:</b> Router(config-pubkey)# 00302017 4A7D385B 1234EF29 335FC973 <b>Example:</b>	リモートピアの RSA 公開キーを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• (このキーは、リモートルータの RSA キーが生成されたときに、リモートピアの管理者が確認したキーです)</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	<pre>Router(config-pubkey)# 2DD50A37 C4F4B0FD 9DADE748 429618D5</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-pubkey)# 18242BA3 2EDFBDD3 4296142A DDF7D3D8</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-pubkey)# 08407685 2F2190A0 0B43F1BD 9A8A26DB</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-pubkey)# 07953829 791FCDE9 A98420F0 6A82045B</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-pubkey)# 90288A26 DBC64468 7789F76E EE21</pre>	
ステップ 12	<p><b>quit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-pubkey-key)# quit</pre>	公開キーチェーンコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 13	IKE ポリシーで RSA 暗号化ナンスを使用するピアそれぞれについて上記の手順を繰り返します。	—
ステップ 14	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-pubkey-key)# exit</pre>	グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 15	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# exit</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 16	<p><b>show crypto key pubkey-chain rsa [name key-name   address key-address]</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# show crypto key pubkey-chain rsa</pre>	(任意) ルータに保存されているすべての RSA 公開キーのリスト、またはルータに保存されている特定の RSA キーの詳細を表示します。

## 事前共有キーの設定

事前共有キーを設定するには、IKE ポリシーで事前共有キーを使用するピアそれぞれについて以下の手順を実行します。



**Note** 事前共有は、規模が拡大しているネットワークではうまく拡張できない。マスク事前共有キーには次の制約事項があります。

- 同じ事前共有キーのすべての IPsec ピアを設定するまで、IPsec ピア間に SA を確立できない。
- マスク事前共有キーは、さまざまなレベルの認可を要求しているリモートユーザごとに、明確に異なっている必要がある。認証のレベルごとに新しい事前共有キーを設定し、適切なキーを適切なユーザに割り当てる必要があります。正しく設定しないと、認証を受けていない人物が、保護されているデータに対するアクセス権を取得する場合があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp identity {address | dn | hostname}**
4. **ip host hostname address1 [address2...address8]**
5. 次のいずれかを実行します。
  - **crypto isakmp key keystring address peer-address [mask] [no-xauth]**
  - **crypto isakmp key keystring hostname hostname [no-xauth]**
6. 次のいずれかを実行します。
  - **crypto isakmp key keystring address peer-address [mask] [no-xauth]**
  - **crypto isakmp key keystring hostname hostname [no-xauth]**
7. IKE ポリシーで事前共有キーを使用するピアそれぞれについて以上の手順を繰り返します。

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp identity {address   dn   hostname}</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp identity address	ローカル ピアの IP アドレスまたは認定者名 (DN) ホスト名を使ってピアの ISAKMP ID を指定します。  • <b>address</b> : 通常は、ピアが IKE ネゴシエーションに使用するインターフェイスが 1 つだけ (した

	Command or Action	Purpose
		<p>がって IP アドレスが 1 つだけ) で、IP アドレスがわかっている場合に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>dn</b> : 通常は、IKE 処理中、ISAKMP ID としてルータ証明書の DN が指定および選択される場合に使用します。dn キーワードは、証明書ベースの認証にだけ使用します。</li> <li>• <b>hostname</b> : IKE ネゴシエーションに使用するインターフェイスがピアに複数ある場合か、(IP アドレスのダイナミック割り当てなどで) インターフェイスの IP アドレスが不明の場合に使用する必要があります。</li> </ul>
ステップ 4	<p><b>ip host hostname address1 [address2...address8]</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# ip host RemoteRouter.example.com 192.168.0.1</pre>	<p>ホスト名を使ってローカル ピアの ISAKMP ID を指定した場合、すべてのリモートピアについて、ピアのホスト名を IP アドレスにマップします</p> <p>(ホスト名または IP アドレスが DNS サーバでマップ済みの場合はこの手順は不要)。</p>
ステップ 5	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>crypto isakmp key keystring address peer-address [mask] [no-xauth]</b></li> <li>• <b>crypto isakmp key keystring hostname hostname [no-xauth]</b></li> </ul> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# crypto isakmp key sharedkeystring address 192.168.1.33 no-xauth</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config) crypto isakmp key sharedkeystring hostname RemoteRouter.example.com</pre>	<p>特定のリモートピアで使用する共有キーをローカルピアで指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リモートピアで ISAKMP ID を IP アドレスで指定した場合は、この手順で <b>address</b> キーワードを使用し、それ以外の場合は、この手順で <b>hostname</b> キーワードを使用します。</li> <li>• <b>no-xauth--</b> : ルータがピアに Xauth 情報のプロンプトを出力しないようにします。</li> </ul> <p><b>Note</b> 事前共有キーは、IKE メイン モードでの事前共有キー認証の設計に従い、ピアの IP アドレスを基にしている必要があります。事前共有キー認証の ID としてホスト名を送信できますが、キーはピアの IP アドレスを基に検索されます。(IP アドレスに基づいて) キーが検索されなかった場合、ネゴシエーションが失敗します。</p>
ステップ 6	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>crypto isakmp key keystring address peer-address [mask] [no-xauth]</b></li> <li>• <b>crypto isakmp key keystring hostname hostname [no-xauth]</b></li> </ul>	<p>ローカルピアで使用する共有キーをリモートピアで指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これは、ローカルピアで指定したキーと同じキーです。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
	<p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config) crypto isakmp key sharedkeystring address 10.0.0.1</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config) crypto isakmp key sharedkeystring hostname LocalRouter.example.com</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローカルピアで ISAKMP ID を IP アドレスで指定した場合は、この手順で <b>address</b> キーワードを使用し、それ以外の場合は、この手順で <b>hostname</b> キーワードを使用します。</li> </ul>
ステップ 7	IKE ポリシーで事前共有キーを使用するピアそれぞれについて以上の手順を繰り返します。	--

## IKE モード コンフィギュレーションの設定



**Note** IKE モード コンフィギュレーションには次の制約事項があります。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip local pool *pool-name start-addr end-addr***
4. **crypto isakmp client configuration address-pool local *pool-name***

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p><b>enable</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router&gt; enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<p><b>configure terminal</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router# configure terminal</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p><b>ip local pool <i>pool-name start-addr end-addr</i></b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config)# ip local pool pool1 172.16.23.0 172.16.23.255</pre>	<p>アドレス式が定義されている既存のローカルアドレス プールを定義します。</p>
ステップ 4	<p><b>crypto isakmp client configuration address-pool local <i>pool-name</i></b></p> <p><b>Example:</b></p>	<p>IKE コンフィギュレーションのローカルアドレス プールを参照します。</p>

	Command or Action	Purpose
	Router(config)# crypto isakmp client configuration address-pool local pool1	

## IPsec SA ネゴシエーションのための IKE 暗号マップの設定



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map tag sequence ipsec-isakmp**
4. **set pfs {group1 | group2 | group5 | group14 | group15 | group16}**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map tag sequence ipsec-isakmp</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto map example 1 ipsec-ipsec-isakmp	クリプトマップを指定し、クリプトマップコンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>tag</i> 引数には、暗号マップを指定します。</li> <li>• <i>sequence</i> 引数には、暗号マップエントリに挿入するシーケンスを指定します。</li> <li>• <b>ipsec-isakmp</b> キーワードには、IKEv1 を使用する IPsec (ISAKMP) を指定します。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<p><b>set pfs</b> {group1   group2   group5   group14   group15   group16}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-isakmp)# set pfs 14</pre>	<p>IPSec SA ネゴシエーションの DH グループ ID を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルトではDHグループ1が使用されます。</li> <li>• <b>group1</b> : 768 ビット DH (非推奨)</li> <li>• <b>group2</b> : 1024 ビット DH (非推奨)</li> <li>• <b>group5</b> : 1536 ビット DH (非推奨)</li> <li>• <b>group14</b> : 2048 ビット DH グループを指定します。</li> <li>• <b>group15</b> : 3072 ビット DH グループを指定します。</li> <li>• <b>group16</b> : 4096 ビット DH グループを指定します。</li> </ul> <p>選択するグループは、ネゴシエーション中の IPsec キーを保護するため、十分強力（十分なビット数がある）である必要があります。一般に受け入れられているガイドラインでは、2013 年以降（2030 年まで）は 2048 ビット グループの使用が推奨されています。このガイドラインを満たすには、いずれかの <b>group14</b> を選択してください。より長期にわたるセキュリティ方式が必要であっても、楕円曲線暗号の使用が推奨されますが、<b>group15</b> と <b>group16</b> も検討できます。</p>

## IKE コンフィギュレーションの設定例

### 例：IKE ポリシーの作成

このセクションには、AES IKE ポリシーおよび 3DES IKE ポリシーの設定方法を示す次の例が含まれています。



#### Note

シスコでは、3DES の使用は推奨していません。代わりに、AES を使用してください。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

## 例 : 3DES IKE ポリシーの作成

この例では、2つのIKEポリシー（最大のプライオリティとしてpolicy 15、次のプライオリティとしてpolicy 20）を作成し、最小のプライオリティとして既存のデフォルトプライオリティを使用します。また、IPアドレスが192.168.224.33のリモートピアに、policy 20で使用する事前共有キーも作成します。

```
crypto isakmp policy 15
  encryption 3des
  hash md5
  authentication rsa-sig
  group 2
  lifetime 5000
!
crypto isakmp policy 20
  authentication pre-share
  lifetime 10000
!
crypto isakmp key 1234567890 address 192.168.224.33
```

この例では、暗号化DESのポリシーのデフォルト値は、暗号化アルゴリズムパラメータのデフォルト値のため、記述した設定には表示されません。

この設定で **show crypto isakmp policy** コマンドを発行すると、出力は次のようになります。

```
Protection suite priority 15
encryption algorithm:3DES - Triple Data Encryption Standard (168 bit keys)
hash algorithm:Message Digest 5
authentication method:Rivest-Shamir-Adleman Signature
Diffie-Hellman group:#2 (1024 bit)
lifetime:5000 seconds, no volume limit
Protection suite priority 20
encryption algorithm:DES - Data Encryption Standard (56 bit keys)
hash algorithm:Secure Hash Standard
authentication method:preshared Key
Diffie-Hellman group:#1 (768 bit)
lifetime:10000 seconds, no volume limit
Default protection suite
encryption algorithm:DES - Data Encryption Standard (56 bit keys)
hash algorithm:Secure Hash Standard
authentication method:Rivest-Shamir-Adleman Signature
Diffie-Hellman group:#1 (768 bit)
lifetime:86400 seconds, no volume limit
```

ライフタイムに「no volume limit」と出力されていますが、time ライフタイム（86,400秒など）だけは設定できます。volume limit ライフタイムは設定できません。

## 例 : AES IKE ポリシーの作成

次に、**show running-config** コマンドの出力例を示します。この例では、AES 256ビットキーが有効になっています。

```
Current configuration : 1665 bytes
!
version 12.2
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
```

```

!
hostname "Router1"
!
!
ip subnet-zero
!
!
no ip domain lookup
!
ip audit notify log
ip audit po max-events 100
!
crypto isakmp policy 10
  encryption aes 256
  authentication pre-share
  lifetime 180
crypto isakmp key cisco123 address 10.0.110.1
!
!
crypto ipsec transform-set aasset esp-aes 256 esp-sha-hmac
mode transport
.
.
.

```

## 例 : IKE 認証の設定

次の例は、2つの IPsec ピアの RSA 公開キーを手動で指定する方法を示しています。10.5.5.1 のピアは汎用キーを使用し、もう一方のピアは特殊な用途のキーを使用しています。

```

crypto key pubkey-chain rsa
  named-key otherpeer.example.com
  address 10.5.5.1
  key-string
    005C300D 06092A86 4886F70D 01010105
    00034B00 30480241 00C5E23B 55D6AB22
    04AEF1BA A54028A6 9ACC01C5 129D99E4
    64CAB820 847EDAD9 DF0B4E4C 73A05DD2
    BD62A8A9 FA603DD2 E2A8A6F8 98F76E28
    D58AD221 B583D7A4 71020301 0001
  quit
exit
addressed-key 10.1.1.2 encryption
  key-string
    00302017 4A7D385B 1234EF29 335FC973
    2DD50A37 C4F4B0FD 9DADE748 429618D5
    18242BA3 2EDFBDD3 4296142A DDF7D3D8
    08407685 2F2190A0 0B43F1BD 9A8A26DB
    07953829 791FCDE9 A98420F0 6A82045B
    90288A26 DBC64468 7789F76E EE21
  quit
exit
addressed-key 10.1.1.2 signature
  key-string
    0738BC7A 2BC3E9F0 679B00FE 53987BCC
    01030201 42DD06AF E228D24C 458AD228
    58BB5DDD F4836401 2A2D7163 219F882E
    64CE69D4 B583748A 241BED0F 6E7F2F16
    0DE0986E DF02031F 4B0B0912 F68200C4
    C625C389 0BFF3321 A2598935 C1B1

```

```
quit
exit
exit
```

## 次の作業

IKE ネゴシエーションを正常に設定したら、IPsec の設定を開始します。このタスクの実行についての詳細は、モジュール「Configuring Security for VPNs with IPsec」を参照してください。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』
セキュリティ コマンド : コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上の注意事項、および例	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
IPsec の設定	『Configuring Security for VPNs with IPsec』
IKE バージョン 2	『Configuring Internet Key Exchange Version 2 and FlexVPN』
CA から証明書を取得するように RSA キーを設定	PKI 内での RSA キーの展開
Suite-B の ESP トランスフォーム	『Configuring Security for VPNs with IPsec』
Suite-B 整合性アルゴリズムタイプのトランスフォームの設定	『Configuring Internet Key Exchange Version 2 and FlexVPN』
IPsec SA ネゴシエーションでの Suite-B の Elliptic Curve Diffie-Hellman (ECDH) のサポート	『Configuring Internet Key Exchange Version 2 and FlexVPN』
PKI の証明書登録のための Suite-B サポート	『PKI の証明書登録の設定』

関連項目	マニュアル タイトル
推奨される暗号化アルゴリズム	『 <a href="#">Next Generation Encryption</a> 』

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2408	『 <a href="#">Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP)</a> 』
RFC 2409	『 <a href="#">The Internet Key Exchange (IKE)</a> 』
RFC 2412	『 <a href="#">The OAKLEY Key Determination Protocol</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IPsec VPN の IKE 設定の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 264: IPsec VPN の IKE 設定の機能情報

機能名	リリース	機能情報
スタティック IPsec ピアの拡張認証を無効にする機能	12.2(4)T	この機能により、ルータ間 IPsec の事前共有キー設定中に Xauth を無効にできます。したがって、ルータによりピアのユーザ名およびパスワードは要求されません。これらは、VPN クライアント対 Cisco IOS IPsec の Xauth が発生するときに転送されます。  この機能により、次のコマンドが変更されました。 <b>crypto isakmp key.</b>
Advanced Encryption Standard (AES)	12.2(8)T	この機能により、新しい暗号化規格 AES に対するサポートが追加されます。AES は、DES の後継として開発された IPsec および IKE のプライバシー トランスフォームです。  この機能により、次のコマンドが変更されました。 <b>crypto ipsec transform-set, encryption (IKE policy), show crypto ipsec transform-set, crypto ipsec transform-set, show crypto isakmp policy.</b>
SEAL 暗号化	12.3(7)T	この機能により、IPsec での SEAL 暗号化に対するサポートが追加されました。  この機能により、次のコマンドが変更されました。 <b>crypto ipsec transform-set.</b>



機能名	リリース	機能情報
IOS SW の暗号化での Suite-B のサポート	15.1(2)T	<p>Cisco IOS で、パケットデータの認証および IKE プロトコルの整合性確認メカニズムの検証に使用される SHA-2 ファミリ (HMAC バリエーション) のハッシュアルゴリズムに、Suite-B のサポートが追加されました。HMAC は、追加レベルのハッシュを提供するバリエーションです。この機能により、IPsec SA ネゴシエーションに Elliptic Curve Diffie-Hellman (ECDH) のサポートも追加されました。</p> <p>Cisco IOS での Suite-B サポートについての詳細は、「Configuring Security for VPNs with IPsec」機能モジュールを参照してください。</p> <p>この機能により、次のコマンドが変更されました。 <b>authentication, crypto key generate ec keysize, crypto map, group, hash, set pfs.</b></p>





## CHAPTER 197

# 「Call Admission Control for IKE」

IKE 用コールアドミッション制御機能は、Cisco IOS ソフトウェアでのインターネットキーエクスチェンジ (IKE) プロトコルに対し、コールアドミッション制御 (CAC) を適用したものです。CAC は、IKE と IPsec セキュリティアソシエーション (SA) (つまり CAC へのコール) をルータが同時に確立できる数を制限します。

- [IKE 用コールアドミッション制御に関する前提条件, on page 2907](#)
- [IKE 用コールアドミッション制御に関する情報, on page 2907](#)
- [IKE 用コールアドミッション制御の設定方法, on page 2909](#)
- [IKE 用コールアドミッション制御の設定例, on page 2913](#)
- [その他の参考資料, on page 2913](#)
- [IKE 用コールアドミッション制御の機能情報, on page 2914](#)

## IKE 用コールアドミッション制御に関する前提条件

- このデバイスで IKE を設定します。

## IKE 用コールアドミッション制御に関する情報

### IKE セッション

デバイスが別のデバイスとの間で確立できるインターネットキーエクスチェンジ (IKE) セキュリティアソシエーション (SA) の数を制限する方法には、次の 2 つがあります。

- **crypto call admission limit** コマンドを入力して、IKE SA の絶対制限値を設定します。設定された制限値に達すると、デバイスは新しい IKE SA 要求をドロップします。
- **call admission limit** コマンドを入力して、システムリソース制限値を設定します。チャージ単位で設定されたレベルのシステムリソースが使用されている場合、デバイスは新しい IKE SA 要求をドロップします。

コールアドミッション制御 (CAC) は新しい SA のみ (つまり、ピア間に SA がまだ存在しないとき) に適用されます。既存の SA を保存するためにあらゆる処置が行われます。新しい SA 要求が拒否されるのは、システムリソースが不足しているか、あるいは設定された IKE SA 制限値に達したことが原因です。

## セキュリティ アソシエーション制限

SA (セキュリティ アソシエーション) は、2 つ以上のエンティティがセキュリティ サービスを使用して特定のデータフローのために安全に通信する方法を記述したものです。IKE は接続のパラメータを識別するために、必ず SA を使用します。IKE では、独自に SA をネゴシエーションして確立できます。IKE SA は、IKE だけで使用され、双方向です。IKE SA は、IPsec を制限できません。

IKE は、ユーザが設定した SA 制限値に基づいて SA 要求をドロップします。IKE SA 制限値を設定するには、**crypto call admission limit** コマンドを入力します。ピア ルータから新しい SA 要求があると、IKE はアクティブな IKE SA の数とネゴシエーション中の SA の数が、設定された SA 制限値を満たしているか、超えているかを判別します。この数が制限値より大きい、または等しい場合、新しい SA 要求は拒否され、syslog が生成されます。このログには、SA 要求の送信元および宛先 IP アドレスが含まれます。

**crypto call admission limit** コマンドの **ipsec sa number** および **ike sa number** キーワードと引数のペアには、確立された IPsec SA と IKE SA の数の制限値を設定します。

## ネゴシエーション時の IKE 接続数の制限

Cisco リリースに基づいて、デバイスで設定できる内部 IKE ネゴシエーション接続の数を制限できます。このタイプの IKE 接続は、認証および実際の確立前のアグレッシブ モード IKE SA またはメイン モード IKE SA を表します。IKEv2 の最大内部ネゴシエーション CAC のデフォルト値は 40 です。

**crypto call admission limit ike in-negotiation-sa number** コマンドを使用すると、IKE が新しい SA 要求の拒否を開始する前にデバイスが確立できるインターネット キー エクスチェンジ (IKE) と IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) の最大数を指定できます。

**crypto call admission limit** コマンドの **all in-negotiation-sa number** と **ike in-negotiation-sa number** のキーワードと引数のペアは、ネゴシエーション時のすべての SA とネゴシエーション時の IKE SA を制限します。

## システム リソースの使用状況

ルータの CPU サイクルまたはメモリ バッファが不足した場合に、IKE がそのことを認識できるように、CAC はグローバル情報リソース モニタをポーリングします。システムリソースの使用量レベルを表す制限値を 1 ~ 100000 までの範囲で設定できます。設定レベルのリソースが使用されると、IKE は SA 要求を廃棄します (新たに受け入れません)。システムリソース使用量の制限を設定するには、**call admission limit** コマンドを入力します。

新しい着信 SA 要求ごとに、ルータにかかる現在の負荷が数値に変換され、システムリソースの使用量レベルが表示されます。また、この数値と、**call admission limit** コマンドによって設定されたリソース制限値が比較されます。現在の負荷が、設定されたリソース制限値を超えると、IKE は新しい SA 要求を廃棄します。ルータの負荷には、アクティブな SA、CPU の使用量、および考慮される SA 要求が含まれます。

**call admission load** コマンドを実行すると、現在のシステムリソース使用量の倍率を表す 0 ~ 1000 の乗数値と 1 ~ 32 秒の負荷メトリックのポーリングレートが設定されます。システムリソースの使用量レベルの数値は、(倍率 \* 現在のシステムリソースの使用量) / 100 という式で計算されます。Cisco Technical Assistance Center (TAC) 技術者からの指示がないかぎり、**call admission load** コマンドを使用することは推奨しません。

## IKE 用コール アドミッション制御の設定方法

### IKE セキュリティ アソシエーション制限の設定

IKE SA の絶対制限値を設定するには、次の作業を実行します。制限値に達すると、ルータは新しい IKE SA 要求を廃棄します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto call admission limit** {*all in-negotiation-sa number* | *ipsec sa number* | **ike** {*in-negotiation-sa number* | *sa number*}}
4. **exit**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto call admission limit</b> { <i>all in-negotiation-sa number</i>   <i>ipsec sa number</i>   <b>ike</b> { <i>in-negotiation-sa number</i>   <i>sa number</i> }}	ネゴシエーション時の IKE SA の最大数、合計 SA 数、または IKE が新しい SA 要求を拒否し始める前

	Command or Action	Purpose
	<b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto call admission limit ike sa 25</pre>	に確立できる IKE SA または IPsec SA の最大数を指定します。IKEv1 の推奨 CAC 値は 40 です。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IKEv2 セキュリティ アソシエーション制限の設定

IKEv2 SA の絶対制限値を設定するには、次の作業を実行します。制限値に達すると、ルータは新しい IKE SA 要求を廃棄します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 limit** {**max-in-negotiation-sa limit** *number* | **max-sa limit** *number*}
4. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 limit</b> { <b>max-in-negotiation-sa limit</b> <i>number</i>   <b>max-sa limit</b> <i>number</i> }	コールアドミッション制御を次のようにイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>max-in-negotiation-sa limit</b> : ノード上での IKEv2 SA のネゴシエーションの受け入れの合計数を制限します。</li> <li>• <b>max-sa limit</b> : ノード上での IKEv2 SA の合計数を制限します。</li> </ul>
	<b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto ikev2 limit max-in-negotiation-sa 5000</pre>	

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## システム リソース制限の設定

システムリソースの制限値を設定するには、次の作業を実行します。負荷単位で設定されたレベルのシステムリソースが使用されている場合、ルータは新しいIKE SA 要求を廃棄します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **call admission limit** *charge*
4. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>call admission limit</b> <i>charge</i> <b>Example:</b> Router(config)# call admission limit 1000	システムリソースを使用する場合、システムリソースのレベルを設定して、IKE による新しい SA 要求の受け入れを停止します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>charge</i> : 有効な値は 1 ~ 100000 です。</li> </ul>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IKE の CAC の設定確認

IKE 設定の CAC を確認するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **show call admission statistics**
2. **show crypto call admission statistics**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

#### ステップ 1 show call admission statistics

このコマンドを使用して、グローバル CAC コンフィギュレーション パラメータおよび CAC の動作をモニタします。

##### Example:

```
Router# show call admission statistics
Total Call admission charges: 82, limit 1000
Total calls rejected 1430, accepted 0
Load metric: charge 82, unscaled 82%
```

#### ステップ 2 show crypto call admission statistics

このコマンドを使用して、暗号 CAC 統計情報をモニタします。

##### Example:

```
Router# show crypto call admission statistics
-----
Crypto Call Admission Control Statistics
-----
System Resource Limit:      111 Max IKE SAs:      0 Max in nego: 1000
Total IKE SA Count:         0 active:         0 negotiating:  0
Incoming IKE Requests:     0 accepted:     0 rejected:     0
Outgoing IKE Requests:     0 accepted:     0 rejected:     0
Rejected IKE Requests:     0 rsrc low:     0 Active SA limit: 0
                                           In-neg SA limit: 0

IKE packets dropped at dispatch:      0
Max IPSEC SAs:      111
Total IPSEC SA Count:      0 active:      0 negotiating:  0
Incoming IPSEC Requests:  0 accepted:  0 rejected:  0
Outgoing IPSEC Requests:  0 accepted:  0 rejected:  0
Phase1.5 SAs under negotiation:      0
```



# IKE 用コール アドミッション制御の設定例

## IKE セキュリティ アソシエーション制限値の設定例

次の例では、IKE が新しい SA 要求を拒否し始めるまでの SA の最大値を 25 に指定する方法を示します。

```
Router(config)# crypto call admission limit ike sa 25
```

## システム リソース制限値の設定例

次の例では、負荷単位で設定されたシステム リソースのレベルが 9000 に達したときに、IKE が SA 要求を廃棄するように指定する方法を示します。

```
Router(config)# call admission limit 9000
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>
IKE の設定	「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」
IKE コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Security Command Reference』</a>

### 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2409	『 <i>The Internet Key Exchange</i> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IKE 用コールアドミッション制御の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 265: IKE 用コール アドミッション制御の機能情報

機能名	リリース	機能情報
「Call Admission Control for IKE」	12.3(8)T 12.2(18)SXD1 12.4(6)T 12.2(33)SRA 12.2(33)SXH	<p>IKE 用コール アドミッション制御機能は、Cisco IOS ソフトウェアでのインターネット キー エクスチェンジ (IKE) プロトコルに対し、コール アドミッション制御 (CAC) を適用したものです。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release 12.3(8)T で導入されました。</p> <p>この機能は Cisco IOS Release 12.2(18)SXD1 に統合され、Cisco 6500 および Cisco 7600 ルータに実装されました。</p> <p>Cisco IOS Release 12.4(6)T では、ネゴシエーション時の IKE 接続数の制限を設定する機能が追加されました。</p> <p>この機能に関する詳細については、次の各項を参照してください。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>call admission limit</b>、 <b>clear crypto call admission statistics</b>、 <b>crypto call admission limit</b>、 <b>show call admission statistics</b>、 <b>show crypto call admission statistics</b>。</p>
IKEv1 の強化	15.1(3)T	<p>IKEv1 の強化機能とは、IKE 機能のコール アドミッション制御 (CAC) に対して行われた拡張機能を表します。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release 15.1(3)T で導入されました。</p> <p>この機能に関する詳細については、次の各項を参照してください。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto call admission limit</b>、 <b>show crypto call admission statistics</b>。</p>





## CHAPTER 198

# 証明書/ISAKMP プロファイルマッピング

証明書/ISAKMP プロファイルマッピング機能を使用すると、証明書内の任意のフィールドの内容に基づいて、ピアに Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイルを割り当てることができます。また、この機能では、ISAKMP プロファイルに割り当てられたピアにグループ名を割り当てることもできます。

- [証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの前提条件, on page 2917](#)
- [証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの制約事項, on page 2917](#)
- [証明書/ISAKMP プロファイルマッピングに関する情報, on page 2918](#)
- [証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの設定方法, on page 2919](#)
- [証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの設定例, on page 2922](#)
- [その他の参考資料, on page 2925](#)
- [証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの機能情報, on page 2926](#)

## 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの前提条件

- 証明書マップの設定を理解している必要があります。
- ISAKMP プロファイルの設定を理解している必要があります。

## 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの制約事項

証明書を交換しないで、Rivest、Shamir、Adelman (RSA) シグニチャまたは RSA 暗号化認証を使用する場合は、この機能を適用できません。ISAKMP ピアは、証明書を使用して RSA シグニチャまたは RSA 暗号化認証を実行するように設定する必要があります。

同じ認証局 (CA) サーバに登録された2つのトラストポイントを使用する IPsec はサポートされません。2つ以上の ISAKMP プロファイルがあり、各プロファイルが、同じ CA サーバに登録されているが異なるトラストポイントを持っている場合、応答側は最後のグローバルトラストポイントを選択します (トラストポイントは、グローバルに定義された順序と逆の順序で選択されます)。ピアが IPsec トンネルの確立を成功させるには、発信側が選択したトラストポ

イントは、応答側が選択したトラストポイントと一致する必要があります。トラストポイントが一致しない場合、他のすべての IPsec トンネルは、接続の確立に失敗します。

## 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングに関する情報

### 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの概要

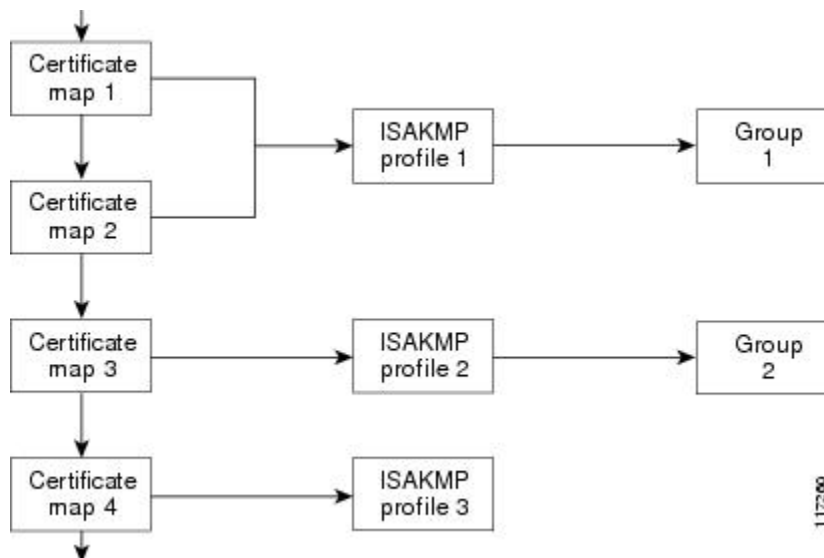
Cisco IOS Release 12.3(8)T 以前では、ピアを ISAKMP プロファイルにマッピングする方法は、次の方法だけでした。ISAKMP 交換の ISAKMP ID フィールドは、ピアを ISAKMP プロファイルにマッピングするために使用されていました。証明書が認証に使用される時、ISAKMP ID ペイロードに証明書からの所有者名が含まれていました。CA が、要求されたグループ値を証明書の最初の組織ユニット (OU) フィールドに表示しなかった場合、ISAKMP プロファイルをピアに割り当てることはできませんでした。

Cisco IOS Release 12.3(8)T でも、上記のように、ピアをマッピングできます。証明書/ISAKMP プロファイルマッピング機能を使用すると、証明書内の任意のフィールドの内容に基づいて、ピアに ISAKMP プロファイルを割り当てることができます。以前は、証明書の所有者名に基づいて ISAKMP プロファイルを割り当てるという方法しかありませんでした。また、この機能により、ISAKMP プロファイルが割り当てられたピアにグループを割り当てることができます。

### 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングのしくみ

次の図に、証明書マップを ISAKMP プロファイルに接続し、証明書マップにグループ名を割り当てる方法を示します。

Figure 101: プロファイルグループ割り当てにマッピングされる証明書マップ



ISAKMP プロファイルには複数の証明書マップを接続できますが、証明書マップは1つの ISAKMP プロファイルにしか接続できません。

証明書マップにより、証明書を指定の一連の基準と照合できるようになります。ISAKMP プロファイルは、自身を証明書マップにバインドできます。また、提示された証明書が ISAKMP プロファイル内に存在する証明書マップと一致した場合、ピアに ISAKMP プロファイルが割り当てられます。ISAKMP プロファイルにクライアント設定グループ名が含まれている場合、同じグループ名がピアに割り当てられます。この ISAKMP プロファイル情報により、ID\_KEY\_ID アイデンティティまたは証明書の最初の OU フィールドの情報が上書きされます。

## ピアへの ISAKMP プロファイルおよびグループ名の割り当て

証明書内の任意のフィールドに基づいて、ピアに ISAKMP プロファイルを割り当てるには、ISAKMP プロファイルを定義してから、**match certificate** コマンドを使用します。

ピアに割り当てられる ISAKMP プロファイルにグループ名を関連付けるのは、同様に ISAKMP プロファイルを定義してから、**client configuration group** コマンドを使用します。

## 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの設定方法

### 証明書/ISAKMP プロファイル マッピング

ISAKMP プロファイルに証明書をマッピングするには、次の手順を実行します。この設定により、証明書内の任意のフィールドの内容に基づいて、ピアに ISAKMP プロファイルを割り当てることができます。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp profile** *profile-name*
4. **match certificate** *certificate-map*

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。

## 証明書がマッピングされたことの確認

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp profile profile-name</b> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto isakmp profile vpnprofile	ISAKMP プロファイルを定義し、暗号 ISAKMP プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match certificate certificate-map</b> <b>Example:</b>  Router (conf-isa-prof)# match certificate map1	証明書マップの名前を受け入れます。

## 証明書がマッピングされたことの確認

次の **show** コマンドを使って、証明書マップの所有者名が正しく設定されているか確認できます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto ca certificates**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show crypto ca certificates</b> <b>Example:</b>  Router# show crypto ca certificates	証明書に関する情報を表示します。



## ピアへのグループ名の割り当て

ピアを ISAKMP プロファイルにマッピングするときにグループ名をピアに関連付けるには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp profile** *profile-name*
4. **client configuration group** *group-name*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b> Router (config)# crypto isakmp profile vpnprofile	ISAKMP プロファイルを定義し、ISAKMP プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>client configuration group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Router (conf-isa-prof)# client configuration group group1	この暗号 ISAKMP プロファイルにピアを割り当てるときに、そのピアに割り当てられるグループ名を受け入れます。

## 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングのモニタおよびメンテナンス

ISAKMP プロファイルマッピングに対応する証明書をモニターしメンテナンスするには、次の **debug** コマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug crypto isakmp**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug crypto isakmp</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto isakmp	証明書が、証明書マップの照合を経て、ISAKMP プロファイルと一致することを示す出力を表示します。  このコマンドは、ピアにグループが割り当てられたことを確認する場合にも使用できます。

## 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの設定例

## 任意のフィールドに基づいた ISAKMP プロファイルへの証明書のマッピング：例

次の設定例では、証明書に「ou = green」が含まれているときは必ず、ISAKMP プロファイル「cert\_pro」がピアに割り当てられる、ということを示します。

```
crypto pki certificate map cert_map 10
  subject-name co ou = green
!
!
crypto isakmp identity dn
crypto isakmp profile cert_pro
  ca trust-point 2315
  ca trust-point LaBcA
  initiate mode aggressive
  match certificate cert_map
```

## ISAKMP プロファイルに関連付けられたピアに割り当てられるグループ名の例

次の例は、グループ「some\_group」が、ISAKMP プロファイルが割り当てられたピアに関連付けられていることを示しています。

```
crypto isakmp profile id_profile
  ca trust-point 2315
```

```
match identity host domain cisco.com
client configuration group some_group
```

## ISAKMP プロファイルへの証明書のマッピング検証例

次の例は、ISAKMPプロファイルに証明書がマッピングされたことを示します。この例には、応答側および発信側の設定、証明書マップの所有者名が設定されたことを確認する **show command** 出力、および証明書が証明書マップの照合を経て ISAKMP プロファイルに一致したことを示す **debug** コマンド出力が含まれています。

### 応答側の設定

```
crypto pki certificate map cert_map 10
! The above line is the certificate map definition.
  subject-name co ou = green
! The above line shows that the subject name must have "ou = green."
!
crypto isakmp profile certpro
! The above line shows that this is the ISAKMP profile that will match if the certificate
of the peer matches cert_map (shown on third line below).
  ca trust-point 2315
  ca trust-point LaBCA
  match certificate cert_map
  initiate mode aggressive
```

### 発信側の設定

```
crypto ca trustpoint LaBCA
  enrollment url http://10.76.82.20:80/cgi-bin/openscep
  subject-name ou=green,c=IN
! The above line ensures that the subject name "ou = green" is set.
  revocation-check none
```

### 発信側の **show crypto ca certificates** コマンド出力

```
Router# show crypto ca certificates
Certificate
  Status: Available
  Certificate Serial Number: 21
  Certificate Usage: General Purpose
  Issuer:
    cn=blue-lab CA
    o=CISCO
    c=IN
  Subject:
    Name: Router1.cisco.com
    c=IN
    ou=green
! The above line is a double check that "ou = green" has been set as the subject name.
  hostname=Router1.cisco.com
Validity Date:
  start date: 14:34:30 UTC Mar 31 2004
  end   date: 14:34:30 UTC Apr 1 2009
  renew date: 00:00:00 UTC Jan 1 1970
Associated Trustpoints: LaBCA
```

### 応答側の debug crypto isakmp コマンド出力

```

Router# debug crypto isakmp
6d23h: ISAKMP (0:268435460): received packet from 192.0.0.2 dport 500 sport 500 Global
(R) MM_KEY_EXCH
6d23h: ISAKMP: Main Mode packet contents (flags 1, len 892):
6d23h:         ID payload
6d23h:         FQDN <Router1.cisco.com> port 500 protocol 17
6d23h:         CERT payload
6d23h:         SIG payload
6d23h:         KEEPALIVE payload
6d23h:         NOTIFY payload
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_MM_EXCH
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2):Old State = IKE_R_MM4 New State = IKE_R_MM5
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): processing ID payload. message ID = 0
6d23h: ISAKMP (0:268435460): ID payload
        next-payload : 6
        type          : 2
        FQDN name     : Router1.cisco.com
        protocol      : 17
        port          : 500
        length        : 28
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2):: peer matches *none* of the profiles
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): processing CERT payload. message ID = 0
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): processing a CT_X509_SIGNATURE cert
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): peer's pubkey isn't cached
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): OU = green
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): certificate map matches certpro profile
! The above line shows that the certificate has gone through certificate map matching
and that it matches the "certpro" profile.
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): Trying to re-validate CERT using new profile
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): Creating CERT validation list: 2315, LaBcA,
6d23h: ISAKMP:(0:4:HW:2): CERT validity confirmed.

```

## ピアに割り当てられたグループ名の検証例

次の設定およびデバッグ出力は、グループがピアに割り当てられたことを示します。

### 発信側の設定

```

crypto isakmp profile certpro
  ca trust-point 2315
  ca trust-point LaBcA
  match certificate cert_map
  client configuration group new_group
! The statement on the above line will assign the group "new_group" to any peer that
matches the ISAKMP profile "certpro."
  initiate mode aggressive
!

```

### 応答側の debug crypto isakmp プロファイル コマンド出力

次のデバッグ出力例は、ピアが「certpro」という ISAKMP プロファイルと照合され、「new\_group」というグループが割り当てられたことを示します。

```

Router# debug crypto isakmp profile
6d23h: ISAKMP (0:268435461): received packet from 192.0.0.2 dport 500 sport 500 Global

```

```

(R) MM_KEY_EXCH
6d23h: ISAKMP: Main Mode packet contents (flags 1, len 892):
6d23h:         ID payload
6d23h:         FQDN <Router1.cisco.com> port 500 protocol 17
6d23h:         CERT payload
6d23h:         SIG payload
6d23h:         KEEPALIVE payload
6d23h:         NOTIFY payload
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2):Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_MM_EXCH
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2):Old State = IKE_R_MM4 New State = IKE_R_MM5
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): processing ID payload. message ID = 0
6d23h: ISAKMP (0:268435461): ID payload
        next-payload : 6
        type          : 2
        FQDN name     : Router1.cisco.com
        protocol      : 17
        port          : 500
        length        : 28
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2):: peer matches *none* of the profiles
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): processing CERT payload. message ID = 0
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): processing a CT_X509_SIGNATURE cert
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): peer's pubkey isn't cached
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): OU = green
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): certificate map matches certpro profile
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): Trying to re-validate CERT using new profile
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): Creating CERT validation list: 2315, LaBcA,
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): CERT validity confirmed.
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2):Profile has no keyring, aborting key search
6d23h: ISAKMP: (0:5:HW:2): Profile certpro assigned peer the group named new_group

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
ISAKMP プロファイルの設定	VRF 認識 IPSec
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 266:** 証明書/ISAKMP プロファイルマッピングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
証明書/ISAKMP プロファイルマッピング	12.3(8)T 12.2(33)SRA 12.2(33)SXH	証明書/ISAKMP プロファイルマッピング機能を使用すると、証明書内の任意のフィールドの内容に基づいて、ピアに Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイルを割り当てることができます。また、この機能では、ISAKMP プロファイルに割り当てられたピアにグループ名を割り当てることもできます。  この機能は、Cisco IOS Release 12.3(8)T で導入されました。  この機能は、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。  この機能は、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。







## CHAPTER 199

# 「Encrypted Preshared Key」

暗号化事前共有キー機能を使用すると、プレーンテキストのパスワードをタイプ6（暗号化）形式で NVRAM に安全に保管できます。

- [暗号化事前共有キーの制約事項, on page 2929](#)
- [暗号化事前共有キーに関する情報, on page 2929](#)
- [暗号化事前共有キーの設定方法, on page 2931](#)
- [暗号化事前共有キーの設定例, on page 2940](#)
- [次の作業, on page 2941](#)
- [その他の参考資料, on page 2942](#)

## 暗号化事前共有キーの制約事項

- 古い ROM モニタ（ROMMON）およびブートイメージでは、新しいタイプ6パスワードが認識されません。そのため、旧来のROMMONから起動すると、エラーが発生します。
- Cisco 836 ルータでは、Advanced Encryption Standard（AES）を使用できるのは IP Plus イメージ上に限ります。

## 暗号化事前共有キーに関する情報

### 暗号化事前共有キーの使用によるパスワードのセキュアな保存

暗号化事前共有キー機能を使用すると、コマンドラインインターフェイス（CLI）から、プレーンテキストのパスワードをタイプ6形式でNVRAMへセキュアに保存できます。タイプ6のパスワードは暗号化されています。暗号化されたパスワード自体を、確認したり取得したりすることは可能ですが、それを復号化して実際のパスワードを特定することは困難です。**key config-key** コマンドを **password encryption aes** コマンドとともに使用すると、パスワードを設定してイネーブルにできます（キーの暗号化には対称キー暗号であるAESが使用されます）。**config-key password-encryption** コマンドを使用して設定されたパスワード（キー）は、ルータ内のその他すべてのキーを暗号化するマスター暗号キーとして使用されます。

**password encryption aes** コマンドを設定する際、同時に **key config-key** コマンドを設定しないと、**show running-config** コマンドや **copy running-config startup-config** コマンドなどが設定されている起動時や不揮発性生成（NVGEN）プロセス中に次のようなメッセージが出力されます。

```
"Can not encrypt password. Please configure a configuration-key with 'key config-key'"
```

## パスワードの変更

**key config-key password-encryption** コマンドを使用してパスワード（マスターキー）が変更された場合、または再暗号化された場合には、リストレジストリから、タイプ6暗号が使用されているアプリケーションモジュールへ、変更前のキーと変更後のキーが渡されます。

## パスワードの削除

**key config-key password-encryption** コマンドを使用して設定されたマスターキーがシステムから削除されると、タイプ6のパスワードすべてが使用不可になるという内容の警告が出力されます（同時に、確認用のプロンプトも表示されます）。セキュリティ対策として、暗号化されたパスワードは、ソフトウェアによって復号されることはなくなります。ただし、すでに説明したように、パスワードを再暗号化することはできません。




---

**Caution** **key config-key password-encryption** コマンドを使用して設定されたパスワードは、一度失われると回復できません。パスワードは、安全な場所に保存することを推奨します。

---

## パスワード暗号化の設定解除

**no password encryption aes** コマンドを使用してパスワード暗号化の設定を解除しても、既存のタイプ6パスワードはすべて変更されずに残されます。**key config-key password-encryption** コマンドを使用して設定したパスワード（マスターキー）があれば、アプリケーションで必要に応じてタイプ6パスワードを復号できます。

## パスワードの保存

（**key config-key password-encryption** コマンドを使用して設定された）パスワードは誰にも「判読」できないため、ルータからパスワードを取得する方法はありません。既存の管理ステーションでは、その内部にキーが格納されるよう強化されることで初めて、パスワードの内容を「知る」ことができます。その場合、パスワードは管理ステーション内部に安全に保存する必要があります。TFTP を使用して保存された設定は、スタンドアロンではないため、ルータにはロードできません。設定をルータにロードする前後には、（**key config-key password-encryption** コマンドを使用して）パスワードを手動で追加する必要があります。このパスワードは、保存された設定に手動で追加できますが、それによって設定内のすべてのパスワードを誰もが復号化できるようになるため、手動によるパスワードの追加は行わないことを推奨します。

## 新規パスワードまたは不明パスワードの設定

入力またはカット アンド ペーストした暗号文は、それがマスター キーに適合しない場合やマスター キーが存在しない場合でも、受理または保存されます。ただしこの場合にはアラートメッセージが出力されます。アラートメッセージの内容は次のとおりです。

```
"ciphertext>[for username bar] is incompatible with the configured master key."
```

マスターキーを新規に設定すると、プレーンテキストのキーはすべて暗号化され、タイプ6のキーになります。すでにタイプ6であるキーは暗号化されず、現在の状態が維持されます。

既存のマスターキーが失われた場合、またはその内容が不明の場合は、**no key config-key password-encryption** コマンドを使用してそのマスターキーを削除できます。**no key config-key password-encryption** コマンドを使用してマスターキーを削除しても、既存の暗号化パスワードは、暗号化された状態のままルータ設定内に保持されます。これらのパスワードは復号化されません。

## 暗号化事前共有キーのイネーブル化

**password encryption aes** コマンドを使用すると、暗号化されたパスワードを有効化できます。

## 暗号化事前共有キーの設定方法

### 暗号化事前共有キーの設定

暗号化事前共有キーを設定するには、次の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **key config-key password-encryption [text]**
4. **password encryption aes**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>key config-key password-encryption [text]</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# key config-key password-encryption</pre>	タイプ 6 の暗号キーをプライベート NVRAM に保存します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• (Enter キーを使用して) インタラクティブにキーボード操作を行う場合、暗号キーがすでに存在すれば、Old key、New key、Confirm key という 3 つのプロンプトが表示されます。</li> <li>• インタラクティブにキーボード操作を行う場合、暗号キーが存在しなければ、New key、Confirm key という 2 つのプロンプトが表示されます。</li> <li>• すでに暗号化されているパスワードを削除する場合は、次のプロンプトが表示されます。 「WARNING: All type 6 encrypted keys will become unusable. Continue with master key deletion? [yes/no]:」</li> </ul>
ステップ 4	<b>password encryption aes</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config)# password-encryption aes</pre>	暗号化事前共有キーのイネーブル化

## トラブルシューティングのヒント

「ciphertext >[for username bar>] is incompatible with the configured master key」という警告メッセージが表示された場合は、入力またはカットアンドペーストした暗号文がマスターキーに適合しないか、またはマスターキーが存在しないと判断できます（暗号文は受理または保存されます）。この警告メッセージを手掛かりにすれば、設定の不具合箇所を特定できます。

## 暗号化事前共有キーのモニタリング

暗号化事前共有キーに関するロギングを出力するには、次の手順を実行します。

1. **enable**
2. **password logging**

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **password logging**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>password logging</b> <b>Example:</b> Router# password logging	タイプ 6 パスワードの処理に関するデバッグ出力のログを表示します。

## 例

次に示すのは、**password logging** によるデバッグ出力の表示例です。ここでは、マスターキーが新規に設定された場合と、その新しいマスターキーを使用してそのキーが暗号化された場合が表示されています。

```
Router (config)# key config-key password-encrypt
New key:
Confirm key:
Router (config)#
01:40:57: TYPE6_PASS: New Master key configured, encrypting the keys with
the new master keypas
Router (config)# key config-key password-encrypt
Old key:
New key:
Confirm key:
Router (config)#
01:42:11: TYPE6_PASS: Master key change heralded, re-encrypting the keys
with the new master key
01:42:11: TYPE6_PASS: Mac verification successful
01:42:11: TYPE6_PASS: Mac verification successful
01:42:11: TYPE6_PASS: Mac verification successful
```

## 次の作業

次に示す作業を実行できます。これらの各作業は、互いに独立したものです。

## ISAKMP 事前共有キーの設定

ISAKMP 事前共有キーを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp key** *keystring* **address** *peer-address*
4. **crypto isakmp key** *keystring* **hostname** *hostname*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp key</b> <i>keystring</i> <b>address</b> <i>peer-address</i> <b>Example:</b> Router (config)# crypto isakmp key cisco address 10.2.3.4	事前共有認証キーを設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <i>peer-address</i> 引数には、リモートピアの IP アドレスを指定します。</li></ul>
ステップ 4	<b>crypto isakmp key</b> <i>keystring</i> <b>hostname</b> <i>hostname</i> <b>Example:</b> Router (config)# crypto isakmp key mykey hostname mydomain.com	事前共有認証キーを設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <i>hostname</i> 引数には、ピアの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。</li></ul>

#### 例

次に示すのは、暗号化事前共有キーが設定された場合の出力例です。

```
crypto isakmp key 6 _Hg[^^ECgLGGPF^RXTQfDDWQ][YAAB address 10.2.3.4
crypto isakmp key 6 `eR\eTRaKCUZPYyQfDgXRwi_AAB hostname mydomain.com
```

## ISAKMP キーリングの ISAKMP 事前共有キーの設定

IPSec 仮想経路フォワーディング (VRF) で使用される ISAKMP リングの ISAKMP 事前共有キーを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto keyring** *keyring-name*
4. **pre-shared-key address** *address* **key** *key*
5. **pre-shared-key hostname** *hostname* **key** *key*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto keyring</b> <i>keyring-name</i> <b>Example:</b> Router (config)# crypto keyring mykeyring	インターネット キー交換 (IKE) 認証で使用する暗号キーリングを定義し、キーリング コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>pre-shared-key address</b> <i>address</i> <b>key</b> <i>key</i> <b>Example:</b> Router (config-keyring)# pre-shared-key address 10.2.3.5 key cisco	IKE 認証に使用する事前共有キーを定義します。  • <i>address</i> 引数には、リモート ピアの IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<b>pre-shared-key hostname</b> <i>hostname</i> <b>key</b> <i>key</i> <b>Example:</b> Router (config-keyring)# pre-shared-key hostname mydomain.com key cisco	IKE 認証に使用する事前共有キーを定義します。  • <i>hostname</i> 引数には、ピアの FQDN を指定します。

## 例

次に示すのは、ISAKMP キーリングの暗号化された事前共有キーが設定された場合の **how-running-config** による出力例です。

```
crypto keyring mykeyring
pre-shared-key address 10.2.3.5 key 6 `WHCJYR_Z]GRPF^RXTQfDcfZ]GPAAB
pre-shared-key hostname mydomain.com key 6 aE_REHDcOfYCPF^RXTQfDJYVVNSAAB
```

## ISAKMP アグレッシブ モードの設定

ISAKMP アグレッシブ モードを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp peer ip-address ip-address**
4. **set aggressive-mode client-endpoint client-endpoint**
5. **set aggressive-mode password password**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp peer ip-address ip-address</b> <b>Example:</b> Router (config)# crypto isakmp peer ip-address 10.2.3.4	アグレッシブ モードのトンネル属性に関し、IP セキュリティ (IPSec) ピアによる認証、許可、アカウントティング (AAA) の IKE クエリーをイネーブルにし、ISAKMP ピア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set aggressive-mode client-endpoint client-endpoint</b> <b>Example:</b>	ISAKMP ピア設定内で、Tunnel-Client-Endpoint 属性を指定します。



	Command or Action	Purpose
	Router (config-isakmp-peer)# set aggressive-mode client-endpoint fqdn cisco.com	
ステップ 5	<b>set aggressive-mode password <i>password</i></b> <b>Example:</b> Router (config-isakmp-peer)# set aggressive-mode password cisco	ISAKMP ピア設定内で、Tunnel-Password 属性を指定します。

### 例

次に示すのは、ISAKMP アグレッシブモードで、暗号化された事前共有キーが設定された場合の **how-running-config** による出力例です。

```
crypto isakmp peer address 10.2.3.4
set aggressive-mode password 6 ^aKPIQ_KJE_PPF^RXTQfDTIaLNeAAB
set aggressive-mode client-endpoint fqdn cisco.com
```

## Unity サーバグループ ポリシーの設定

Unity サーバグループ ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp client configuration group *group-name***
4. **pool *name***
5. **domain name**
6. **key *name***

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Router# configure terminal	
ステップ 3	<b>crypto isakmp client configuration group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Router (config)# crypto isakmp client configuration group mygroup	定義するグループのポリシー プロファイルを指定し、ISAKMP グループコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>pool</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router (config-isakmp-group)# pool mypool	ローカル プール アドレスを定義します。
ステップ 5	<b>domain name</b> <b>Example:</b> Router (config-isakmp-group)# domain cisco.com	グループが属するドメインネームサービス (DNS) ドメインを指定します。
ステップ 6	<b>key</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router (config-isakmp-group)# key cisco	グループポリシー属性の定義に使用する IKE 事前共有キーを指定します。

### 例

次に示すのは、暗号化されたキーが Unity サーバグループポリシーに対して設定された場合の **show-running-config** による出力例です。

```
crypto isakmp client configuration group mygroup
  key 6 cZZgDZPOE\dDPF^RXTQfDTIaLNeAAB
  domain cisco.com
  pool mypool
```

## Easy VPN クライアントの設定

Easy VPN クライアントを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec client ezvpn** *name*
4. **peer** *ipaddress*
5. **mode client**
6. **group** *group-name* **key** *group-key*

## 7. connect manual

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec client ezvpn name</b> <b>Example:</b> Router (config)# crypto ipsec client ezvpn myclient	Cisco Easy VPN Remote コンフィギュレーションを作成し、Cisco Easy VPN Remote コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>peer ipaddress</b> <b>Example:</b> Router (config-isakmp-peer)# peer 10.2.3.4	VPN 接続に対して、ピアの IP アドレスを設定します。
ステップ 5	<b>mode client</b> <b>Example:</b> Router (config-isakmp-ezpvy)# mode client	ネットワーク アドレス変換 (NAT) またはピア アドレス変換 (PAT) を使用する Cisco Easy VPN クライアントモードでの動作にルータを自動設定します。
ステップ 6	<b>group group-name key group-key</b> <b>Example:</b> Router (config-isakmp-ezvpn)# group mygroup key cisco	VPN 接続に使用するグループ名およびキー値を指定します。
ステップ 7	<b>connect manual</b> <b>Example:</b> Router (config-isakmp-ezvpn)# connect manual	手動設定を指定して、Cisco Easy VPN Remote クライアントに対し、コマンドまたはアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) のコールを待機してから、Cisco Easy VPN リモート接続の確立を試行するよう指示します。

## 例

次に、Easy VPN クライアントが設定されていることを示す **show-running-config** の出力例を示します。このキーは暗号化されています。

```
crypto ipsec client ezvpn myclient
connect manual
group mygroup key 6 gdMI`S^[GIcPF^RXTQfDFKEO\RAAB
mode client
peer 10.2.3.4
```

# 暗号化事前共有キーの設定例

## 暗号化事前共有キー：例

次に示すのは、タイプ6の事前共有キーが暗号化された場合の設定例です。この中には、ユーザに対して表示されるプロンプトやメッセージも含まれています。

```
Router (config)# crypto isakmp key cisco address 10.0.0.2
Router (config)# exit
Router# show running-config | include crypto isakmp key
crypto isakmp key cisco address 10.0.0.2
Router#
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router (config)# password encryption aes

Router (config)# key config-key password-encrypt

New key:
Confirm key:
Router (config)#
01:46:40: TYPE6_PASS: New Master key configured, encrypting the keys with
the new master key
Router (config)# exit
Router # show running-config | include crypto isakmp key
crypto isakmp key 6 CXWdhVTZYB_Vcd^`cIHDOahiFTa address 10.0.0.2
```

## キーが存在しない場合の例

次の設定例には、以前のキーがありません。

```
Router (config)#
```

## キーが存在する場合の例

次の設定例には、キーがすでに存在しています。

```
Router (config)#  
Old key:  
Router (config)#
```

## キーが存在する状況でユーザがインタラクティブにキーを入力する場合の例

次の設定例では、ユーザは対話形式の入力を求めています、キーはすでに存在しています。**key config-key** コマンドを入力し、Enter キーを押して対話モードを開始すると、画面には Old key、New key、Confirm key という 3 つのプロンプトが表示されます。

```
Router (config)#  
Old key:  
New key:  
Confirm key:
```

## キーが存在しない状況でユーザがインタラクティブにキーを入力する場合の例

次に示すのは、キーが存在しない状況でユーザがインタラクティブにキーボード操作を行う場合の設定例です。対話モードを開始すると、画面には New key および Confirm key という 2 つのプロンプトが表示されます。

```
Router (config)#  
  
New key:  
Confirm key:
```

## パスワード暗号化の設定解除の例

次に示すのは、ユーザがパスワード暗号化の設定を解除する場合の設定例です。「WARNING: All type 6 encrypted keys will become unusable. Continue with master key deletion? [yes/no]:」というプロンプトが画面に表示されます（インタラクティブ モードの場合）。

```
Router (config)#  
WARNING: All type 6 encrypted keys will become unusable. Continue with master key deletion  
? [yes/no]: y
```

## 次の作業

その他の事前共有キーを設定します。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
パスワードの設定	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
なし	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>







## CHAPTER 200

# 識別名ベースのクリプトマップ

### 機能の履歴

リリース	変更内容
12.2(4)T	この機能が導入されました。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

この章では、Cisco IOS Release 12.2(4)T の識別名ベースの暗号マップ機能について説明します。次のセクションで構成されています。

- [機能の概要, on page 2945](#)
- [サポートされるプラットフォーム, on page 2946](#)
- [サポートされている規格 MIB および RFC, on page 2947](#)
- [前提条件, on page 2947](#)
- [設定作業, on page 2947](#)
- [設定例, on page 2950](#)

## 機能の概要

識別名ベースのクリプトマップ機能により、証明書（特に特定の識別名（DN）を持つ特定の証明書）を持つピアの選択された暗号化インターフェイスだけに、アクセスを制限するようにルータを設定できます。

以前まで、暗号化ピアからルータが証明書または共有秘密を受け入れる場合、Cisco IOS では暗号化ピアの IP アドレスによって制限する以外、暗号化されたインターフェイスとピアが通信するのを防ぐ方法がありませんでした。この機能により、ピアが自身の認証に使用した DN に基づいて、ピアが使用できるクリプトマップを設定し、特定の DN を持つピアがアクセスできる暗号化インターフェイスを制御できます。

## 利点

識別名ベースの暗号マップ機能では、暗号化インターフェイスを選択し、特定の証明書（なかでも特別な DN を持つ証明書）を持つピアがそのインターフェイスにアクセスしないよう、ルータに制限を設定できます。

## 機能制限

### システム要件

この機能を設定するには、ルータが IP セキュリティをサポートする必要があります。

### パフォーマンス上の影響

アクセスを制限する DN が多い場合、少数のアイデンティティセクションを参照する多数のクリプトマップを指定するよりも、多数のアイデンティティセクションを参照する少数のクリプトマップを指定することを推奨します。

## 関連資料

次のマニュアルには、識別名ベースのクリプトマップ機能の関連情報が記載されています。

- 『Cisco IOS Security Command Reference』
- 『Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity, Release 12.4T』
- [Next Generation Encryption](#) (NGE) ホワイトペーパー。

## サポートされるプラットフォーム

この機能は、次のプラットフォームでサポートされます。

- Cisco 1700 シリーズ
- Cisco 2600 シリーズ
- Cisco 3620
- Cisco 3640
- Cisco 3660
- Cisco 7100 シリーズ
- Cisco 7200 シリーズ
- Cisco uBR905 ケーブル アクセス ルータ
- Cisco uBR925 ケーブル アクセス ルータ

### Feature Navigator を使用したプラットフォーム サポートの判別

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## サポートされている規格 MIB および RFC

### 標準

なし

### MIB

なし

選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。

<http://www.cisco.com/go/mibs>

### RFC

なし

## 前提条件

DN ベースのクリプト マップを設定する前に、次の作業を実行する必要があります。

- ピアごとに IKE ポリシーを作成します。

IKE ポリシーの作成についての詳細は、『*Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity*』の「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」の章を参照してください。

- IPsec のクリプト マップ エントリを作成します。

暗号マップエントリの作成についての詳細は、『*Cisco IOS Security Configuration Guide: Secure Connectivity*』の「Configuring Security for VPNs with IPsec」の章を参照してください。

## 設定作業

クリプト マップ エントリの作成に関する詳細については、「IPsec VPN のセキュリティの設定」を参照してください。一覧内の各作業は、必須と任意に分けています。

- (DN によって認証された) DN ベースの暗号マップの設定, on page 2948 (必須)
- (ホスト名によって認証された) DN ベースの暗号マップの設定, on page 2948 (必須)

- DN ベースの暗号マップへの ID の適用, on page 2949 (必須)
- DN ベースの暗号マップの確認, on page 2950 (任意)

## (DN によって認証された) DN ベースの暗号マップの設定

DN によって認証されたピアだけが使用できる DN ベースのクリプトマップを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードの開始時に次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **crypto identity name**
2. Router(crypto-identity)# **dn name=string** [,name=string]

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>crypto identity name</b>	ルータの証明書内にある指定 DN リストを使用してルータのアイデンティティを設定し、暗号アイデンティティ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(crypto-identity)# <b>dn name=string</b> [,name=string]	ルータの証明書内にある DN に、ルータのアイデンティティを関連付けます。  <b>Note</b> ピアのアイデンティティは、交換された証明書のアイデンティティと一致する必要があります。

## (ホスト名によって認証された) DN ベースの暗号マップの設定

ホスト名によって認証されたピアだけが使用できる DN ベースのクリプトマップを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードの開始時に次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **crypto identity name**
2. Router(crypto-identity)# **fqdn name**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>crypto identity name</b>	ルータの証明書内にある指定 DN リストを使用してルータのアイデンティティを設定し、暗号アイデンティティ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(crypto-identity)# <b>fqdn name</b>	ピアの認証に使用したホスト名にルータのアイデンティティを関連付けます。  <b>Note</b> ピアのアイデンティティは、交換された証明書のアイデンティティと一致する必要があります。

## DN ベースの暗号マップへの ID の適用

(クリプトマップのコンテキスト内で) アイデンティティを適用するには、グローバル コンフィギュレーション モードの開始時に次のコマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. Router(config)# **crypto map map-name seq-num ipsec-isakmp**
2. Router(config-crypto-map)# **identity name**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Router(config)# <b>crypto map map-name seq-num ipsec-isakmp</b>	クリプトマップ エントリを作成または変更し、クリプトマップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(config-crypto-map)# <b>identity name</b>	クリプトマップに対して ID を適用します。  このコマンドを適用した場合、 <b>identity name</b> でリストされているコンフィギュレーションと一致するホストだけが、指定した暗号マップを使用できます。  <b>Note</b> 暗号マップ内に <b>identity</b> コマンドが表示されない場合は、暗号化ピアの IP アドレスを除き、暗号化接続に制約はありません。

## DN ベースの暗号マップの確認

この機能が適切に設定されているかを確認するには、EXECモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>show crypto identity</b>	設定したアイデンティティを表示します。

## トラブルシューティングのヒント

暗号化ピアが接続を確立しようと試み、それが DN ベースのクリプト マップ設定によってブロックされた場合、次のエラーメッセージが記録されます。

```
<time>: %CRYPTO-4-IKE_QUICKMODE_BAD_CERT: encrypted connection attempted with a peer
without the configured certificate attributes.
```

## 設定例

### DN ベースの暗号マップの設定例

次の例では、DN およびホスト名によって認証された DN ベースのクリプトマップを設定する方法を示します。間にコマンドを説明するためのコメントが含まれています。

```
! DN based crypto maps require you to configure an IKE policy at each peer.
crypto isakmp policy 15
  encryption aes
  hash sha
  authentication rsa-sig
  group 14
  lifetime 5000
crypto isakmp policy 20
  encryption aes
  hash sha
  authentication pre-share
  group 14
  lifetime 10000
crypto isakmp key 1234567890 address 171.69.224.33
!
! The following is an IPsec crypto map (part of IPsec configuration). It can be used
only
! by peers that have been authenticated by DN and if the certificate belongs to BigBiz.
crypto map map-to-bigbiz 10 ipsec-isakmp
  set peer 172.21.114.196
  set transform-set my-transformset
  match address 124
  identity to-bigbiz
!
crypto identity to-bigbiz
  dn ou=BigBiz
```

```
!  
!  
! This crypto map can be used only by peers that have been authenticated by hostname  
! and if the certificate belongs to little.com.  
crypto map map-to-little-com 10 ipsec-isakmp  
  set peer 172.21.115.119  
  set transform-set my-transformset  
  match address 125  
  identity to-little-com  
!  
crypto identity to-little-com  
  fqdn little.com  
!
```







## CHAPTER 201

# IPsec と Quality of Service

IPsec と Quality of Service 機能を使用すれば、Cisco IOS Quality of Service (QoS) ポリシーを、QoS グループに基づいて、IP Security (IPsec) パケットフローに適用できます。QoS グループは、現在の Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイルに適用できます。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

### プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェア イメージのサポート情報の検索

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォーム、および Cisco IOS ソフトウェア イメージの各サポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://tools.cisco.com/ITDIT/CFN/jsp/index.jsp> からアクセスできます。アクセスするには、Cisco.com のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合や、ユーザー名やパスワードを忘れた場合は、ログインダイアログボックスで **[Cancel]** をクリックし、表示される説明に従ってください。

- [IPsec と Quality of Service の前提条件, on page 2953](#)
- [IPsec と Quality of Service の制約事項, on page 2954](#)
- [IPsec と Quality of Service に関する情報, on page 2954](#)
- [IPsec と Quality of Service の設定方法, on page 2954](#)
- [IPsec と Quality of Service の設定例, on page 2956](#)
- [その他の参考資料, on page 2959](#)
- [IPsec と Quality of Service の機能情報, on page 2960](#)

## IPsec と Quality of Service の前提条件

- IPsec、および ISAKMP プロファイルの概念についての知識が必要です。
- Cisco IOS QoS の知識が必要です。

## IPsec と Quality of Service の制約事項

- この機能を適用できるのは ISAKMP プロファイルを介してだけです。QoS アプリケーションに対して使用できる QoS グループは 128 個までという制限はこの機能にも当てはまりません。
- IPsec QoS グループを適用できるのは、発信サービス ポリシーに対してだけです。
- QoS は、ソフトウェア暗号化に関してはサポートされません。

## IPsec と Quality of Service に関する情報

### IPsec と Quality of Service の概要

IPsec と Quality of Service 機能を使用すれば、QoS グループを ISAKMP プロファイルに追加することによって、トラフィック ポリシングおよびシェーピングなどの QoS ポリシーを QoS ポリシーに適用できます。QoS グループが追加されると、このグループの値が、QoS クラスマップ内で定義されたものと同じ QoS グループにマッピングされます。この QoS グループタグを利用している現在の QoS 方式はすべて、IPsec パケットフローに適用できます。パケットフローの共通グルーピングには、IPsec QoS グループを QoS メカニズムにとって使用可能にすることによって、特定のポリシークラスを適用できます。IPsec フローをマーキングすれば、QoS メカニズムを、特定のグループが使用可能な帯域幅の制限や特定のフロー上のタイプオブサービス (ToS) ビットのマーキングなどをサポート可能なトラフィックのクラスに適用できます。

ISAKMP プロファイルは、アイデンティティ照合基準方式によってデバイスを一意に識別できるプロファイルなので、QoS グループのアプリケーションは、ISAKMP プロファイルレベルで適用されます。これらの基準は、インターネットキー交換 (IKE) ID に基づいています。この ID は、受信 IKE 接続によって提供され、IP アドレス、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、およびグループ (つまり、バーチャルプライベートネットワーク [VPN] リモートクライアントグルーピング) などが格納されます。アイデンティティ照合基準の粒度によって、指定された QoS ポリシーの粒度に制約が課せられます。たとえば、「Engineering」という名前の VPN クライアントグループに所属するすべてのトラフィックを、「TOS 5」としてマーキングします。指定した QoS ポリシーの粒度に制約を課すその他の例としては、発信 WAN リンクの 30 パーセントをリモート VPN デバイスの特定のグループへ割り当てるなどがあります。

## IPsec と Quality of Service の設定方法

### IPsec と Quality of Service の設定

QoS ポリシーを ISAKMP プロファイルに適用するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp-profile** *profile-number*
4. **qos-group** *group-number*

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp-profile</b> <i>profile-number</i> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto isakmp-profile vpnprofile	ISAKMP プロファイルを定義し、IPsec ユーザ セッションを監査し、ISAKMP プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>qos-group</b> <i>group-number</i> <b>Example:</b>  Router(config-isa-prof)# qos-group 1	QoS グループ値を ISAKMP プロファイルに適用します。

## IPsec と Quality of Service セッションの確認

IPsec and QoS セッションを確認するには、次の手順を実行します。**show** コマンドは、任意の順序が互いに独立させて使用できます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto isakmp profile**
3. **show crypto ipsec sa**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show crypto isakmp profile</b> <b>Example:</b> Router# show crypto isakmp profile	QoS グループがプロファイルに適用されていることを表示します。
ステップ 3	<b>show crypto ipsec sa</b> <b>Example:</b> Router# show crypto ipsec sa	QoS グループが、IPsec セキュリティアソシエーション (SA) の特定のペアに適用されていることを表示します。

## トラブルシューティングのヒント

IPsec セッションおよび QoS セッションに問題が発生した場合、次が実行されているかどうかを確認します。

- 『Cisco IOS Quality of Service Solutions Command Reference』に記載されている QoS 専用コマンドを使用して、QoS の適用を QoS サービスごとに確認している。
- クラス マップ一致基準に指定されたものと同じ QoS グループと一致しているルータ上の QoS ポリシーを設定している。
- クリプト マップが適用されるものと同じインターフェイスにサービス ポリシーを適用している。

## IPsec と Quality of Service の設定例

## リモート ユーザの 2 つのグループに適用された QoS ポリシーの例

次に、特定の QoS ポリシーがリモート ユーザの 2 つのグループに適用されている例を示します。2 つのプロファイルが、IKE を介した最初の接続上でリモート ユーザが特定のプロファイルにマッピングされるように設定されています。そのプロファイルから、そのリモートに対して作成されたすべての IPsec SA が特定の QoS グループでマーキングされます。トラフィックが発信インターフェイスを出ると、QoS サービスによって、その発信インターフェイス上で適

用されているサービス ポリシーを構成するクラス マップ内で指定された QoS グループで IPsec 設定 QoS グループがマッピングされます。

```
version 12.3
!
aaa authentication login group group radius
aaa authorization network autho local
aaa accounting update periodic 1
aaa session-id common
ip subnet-zero
!
!
ip cef
no ip domain lookup
!
class-map match-all yellow
  match qos-group 3
class-map match-all blue
  match qos-group 2
!
!
policy-map clients
  class blue
    set precedence 5
  class yellow
    set precedence 7
!
!
crypto isakmp policy 1
  encr aes
  hash sha
  authentication pre-share
  group 14
  lifetime 300
!
crypto isakmp keepalive 10 periodic
crypto isakmp xauth timeout 20
!
crypto isakmp client configuration group blue
  key cisco
  dns 10.2.2.2 10.2.2.3
  wins 10.6.6.6
  pool blue
  save-password
  include-local-lan
  backup-gateway corkyl.cisco.com
!
crypto isakmp client configuration group yellow
  dns 10.2.2.2 10.2.2.3
  wins 10.6.6.5
  pool yellow
!
crypto isakmp profile blue
  match identity group cisco
  client authentication list autho
  isakmp authorization list autho
  client configuration address respond
  qos-group 2
crypto isakmp profile yellow
  match identity group yellow
  match identity address 10.0.0.11 255.255.255.255
  client authentication list autho
  isakmp authorization list autho
```

```

client configuration address respond
qos-group 3
!
!
crypto ipsec transform-set combo ah-sha-hmac esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set client esp-aes esp-sha-hmac comp-lzs
!
crypto dynamic-map mode 1
  set security-association lifetime seconds 180
  set transform-set client
  set isakmp-profile blue
  reverse-route
crypto dynamic-map mode 2
  set transform-set combo
  set isakmp-profile yellow
  reverse-route
!
crypto map mode 1 ipsec-isakmp dynamic mode
!
interface FastEthernet0/0
  ip address 10.0.0.110 255.255.255.0
  no ip redirects
  no ip proxy-arp
  no ip mroute-cache
  duplex half
  no cdp enable
  crypto map mode
  service-policy out clients
!
ip local pool yellow 192.168.2.1 192.168.2.10
ip local pool blue 192.168.6.1 192.168.6.6
no ip classless
!
radius-server host 10.0.0.13 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server key XXXXXX
radius-server vsa send accounting
radius-server vsa send authentication

```

## show crypto isakmp profile コマンドの例

次の出力では、QoS グループ「2」が ISAKMP プロファイル「blue」に適用され、QoS グループ「3」が ISAKMP プロファイル「yellow」に適用されていることを示しています。

```

Router# show crypto isakmp profile
ISAKMP PROFILE blue
  Identities matched are:
    group blue
  QoS Group 2 is applied
ISAKMP PROFILE yellow
  Identities matched are:
    ip-address 10.0.0.13 255.255.255.255
    group yellow
  QoS Group 3 is applied

```

## show crypto ipsec sa コマンドの例

次の出力では、QoS グループが IPsec SA の特定のペアに適用されていることを示しています。

```

Router# show crypto ipsec sa
interface: FastEthernet0/0
  Crypto map tag: mode, local addr. 10.0.0.110
  protected vrf:
  local ident (addr/mask/prot/port): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
  remote ident (addr/mask/prot/port): (10.12.12.0/255.255.255.0/0/0)
  current_peer: 10.0.0.11:500
    PERMIT, flags={}
    #pkts encaps: 0, #pkts encrypt: 0, #pkts digest: 0
    #pkts decaps: 0, #pkts decrypt: 0, #pkts verify: 0
    #pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
    #pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
    #pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
    #send errors 0, #recv errors 0
    qos group is set to 2

```

## その他の参考資料

ここでは、IPsec と Quality of Service 機能の関連資料について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IPSec	IPsec を使用した VPN のセキュリティの設定
QoS オプション	『Cisco IOS Quality of Service Solutions Configuration Guide』 (Cisco.com)
QoS コマンド	『Cisco IOS Quality of Service Solutions Command Reference』
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

### 標準

標準	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能でサポートが追加または変更された RFC はありません。	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IPsec と Quality of Service の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ



けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 267: IPsec と Quality of Service の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
IPsec と Quality of Service	Cisco IOS XE Release 3.9S	IPsec と Quality of Service 機能を使用すれば、Cisco IOS Quality of Service (QoS) ポリシーを、QoS グループに基づいて、IP Security (IPsec) パケットフローに適用できます。QoS グループは、現在の Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイルに適用できます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>qos-group</b> .





## CHAPTER 202

# VRF 認識 IPsec

VRF-Aware IPsec 機能には、マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) バーチャル プライベート ネットワーク (VPN) に対する IP Security (IPsec) トンネル マッピングが導入されています。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

- [VRF-Aware IPsec に関する制約事項, on page 2963](#)
- [VRF-Aware IPsec に関する情報, on page 2964](#)
- [VRF-Aware IPsec の設定方法, on page 2966](#)
- [VRF-Aware IPsec の設定例, on page 2984](#)
- [その他の参考資料, on page 2996](#)
- [VRF-Aware IPsec の機能情報, on page 2997](#)
- [用語集, on page 2998](#)

## VRF-Aware IPsec に関する制約事項

- クリプト マップ設定を使用して VRF-Aware IPsec 機能を設定し、Inside VRF (IVRF) が Front Door VRF (FVRF) とは異なる場合、ユニキャスト RPF (uRPF) がクリプト マップ インターフェイス上でイネーブルになっていると、この機能と uRPFの相互運用はできなくなります。ネットワークに URPFが必要な場合、クリプト マップではなく、IPsec の Virtual Tunnel Interface (VTI) を使用することを推奨します。
- VRF-Aware IPsec 機能では、VRF 間における IPsec トンネル マッピングはできません。たとえば、VRF vpn1 から VRF vpn2 への IPsec トンネル マッピングはできません。
- VRF-Aware IPsec 機能をクリプト マップと使用した場合、このクリプト マップではグローバル VRF を IVRF として使用し、非グローバル VRF を FVRF として使用することはできません。しかし、仮想トンネルインターフェイスに基づく設定にその制限はありません。

VTI またはダイナミック VTI (DVTI) を使用した場合、グローバル VRF を IVRF と使用すると同時に、非グローバル VRF を FVRF として使用できます。

- ISAKMP プロファイルとキーリング内で VRF と一緒にローカルアドレスを使用している場合は、**local-address** コマンドに VRF を含める必要があります。

## VRF-Aware IPsec に関する情報

### VRF インスタンス

VRF は、VPN ごとのルーティング情報リポジトリであり、プロバイダー エッジ (PE) ルータに接続されたカスタマーサイトの VPN メンバーシップが定義されています。VRF は、IP ルーティング テーブル、派生シスコ エクスプレス フォワーディング (CEF) テーブル、転送テーブルを使用するインターフェイスのセット、ルーティングテーブルに含まれる情報を制御するルールおよびルーティング プロトコル パラメータのセットで構成されています。各 VPN カスタマーに対して、別個の一連のルーティング テーブルおよび Cisco Express Forwarding (CEF) テーブルが維持されます。

### MPLS 配信 プロトコル

MPLS 配信プロトコルは、高性能のパケット転送テクノロジーであり、データリンク層スイッチングのパフォーマンスおよびトラフィック管理機能と、ネットワーク層ルーティングのスケラビリティ、柔軟性、およびパフォーマンスが統合されています。

### VRF-Aware IPsec 機能の概要

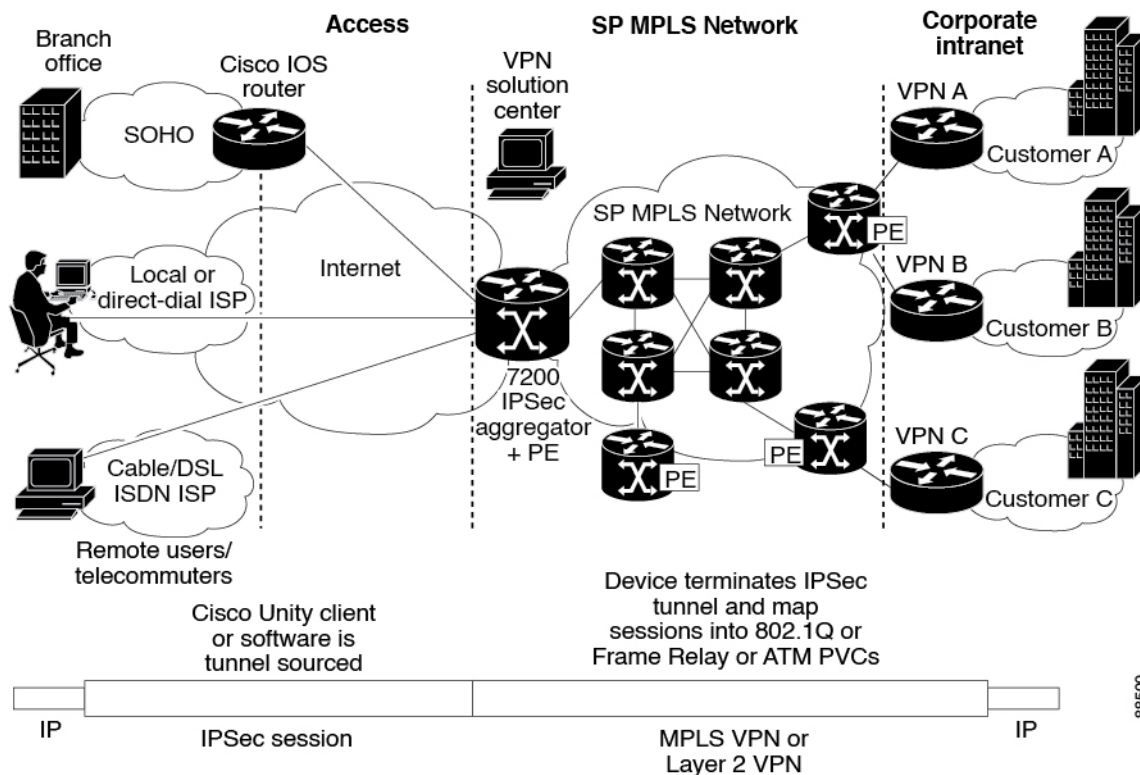
Front Door VRF (FVRF) と Inside VRF (IVRF) が、この機能を理解するうえで重要な概念となります。

各 IPsec トンネルは、2 つの VRF ドメインに関連付けられます。外部のカプセル化されたパケットは 1 つの VRF ドメイン (本マニュアルでは FVRF と呼びます) に所属し、内部の保護された IP パケットは IVRF と呼ばれる別のドメインに所属します。言い換えると、IPsec トンネルのローカルエンドポイントは FVRF に所属し、内部パケットの発信元および宛先アドレスは IVRF に所属します。

1 つ以上の IPsec トンネルを、単一のインターフェイス上で終了できます。これらのトンネルのすべての FVRF は同じものであり、そのインターフェイス上で設定されている VRF に設定されます。これらのトンネルの IVRF は異なる可能性があり、クリプト マップ エントリに付加された Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイル内で定義されている VRF に依存します。

次の図は、MPLS およびレイヤ 2 VPN に対する IPsec のシナリオを示しています。

Figure 102: MPLS およびレイヤ 2 VPN に対する IPsec



## IPsec トンネルへのパケット フロー

- VPN パケットが、サービス プロバイダー MPLS のバックボーン ネットワークから PE へ到着し、インターネット方向のインターフェイスを介してルーティングされます。
- パケットが Security Policy Database (SPD) と照合され、IPsec カプセル化されます。SPD には、IVRF とアクセス コントロール リスト (ACL) が格納されています。
- 次に、IPsec カプセル化パケットが、FVRF ルーティングテーブルによって転送されます。

## IPsec トンネルからのパケット フロー

- IPsec カプセル化パケットが、リモート IPsec エンドポイントから PE ルータに到着します。
- IPsec によって、セキュリティ パラメータ インデックス (SPI)、宛先、およびプロトコルのセキュリティ アソシエーション (SA) 検索が実行されます。
- パケットが、SA によってカプセル開放され、IVRF に関連付けられます。
- パケットが、IVRF ルーティングテーブルによって、さらに転送されます。

# VRF-Aware IPsec の設定方法

## 暗号化キーリングの設定

暗号化キーリングは、事前共有キーおよび Rivest, Shamir, and Adelman (RSA) 公開キーのリポジトリです。Cisco IOS ルータ上には、0 以上のキーリングを設定できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto keyring** *keyring-name* [**vrf** *fvrif-name*]
4. **description** *string*
5. **pre-shared-key** {**address** *address* [*mask*] | **hostname** *hostname*} **key** *key*
6. **rsa-pubkey** {**address** *address* | **name** *fqdn*} [**encryption** | **signature**]
7. **address** *ip-address*
8. **serial-number** *serial-number*
9. **key-string**
10. **text**
11. **quit**
12. **exit**
13. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto keyring</b> <i>keyring-name</i> [ <b>vrf</b> <i>fvrif-name</i> ] <b>Example:</b> Router (config)# crypto keyring VPN1	キーリングの名前として <i>keyring-name</i> を指定してキーリングを定義し、キーリング コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>vrf</b> キーワードおよび <i>fvrif-name</i> 引数は、キーリングが Front Door Virtual Routing and</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		Forwarding (FVRF) にバインドされることを意味します。ローカルエンドポイントがFVRF内にある場合、キーリング内のキーが検索されます。 <b>vrf</b> を指定しない場合、キーリングはグローバルにバインドされます。
ステップ 4	<b>description</b> <i>string</i> <b>Example:</b> <b>Example:</b> <pre>Router (config-keyring)# description The keys for VPN1</pre>	(任意) キーリングに関する 1 行の説明です。
ステップ 5	<b>pre-shared-key</b> { <b>address</b> <i>address</i> [ <i>mask</i> ]   <b>hostname</b> <i>hostname</i> } <b>key</b> <i>key</i> <b>Example:</b> <pre>Router (config-keyring)# pre-shared-key address 10.72.23.11 key VPN1</pre>	(任意) アドレスまたはホスト名によって、事前共有キーを定義します。
ステップ 6	<b>rsa-pubkey</b> { <b>address</b> <i>address</i>   <b>name</b> <i>fqdn</i> } [ <b>encryption</b>   <b>signature</b> ] <b>Example:</b> <pre>Router (config-keyring)# rsa-pubkey name host.vpn.com</pre>	(任意) アドレスまたはホスト名によって RSA 公開キーを定義し、 <b>rsa-pubkey</b> コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• オプションの <b>encryption</b> キーワードでは、キーが暗号化のために使用されることが指定されます。</li> <li>• オプションの <b>signature</b> キーワードでは、キーがシグニチャ用に使用されることが指定されます。デフォルトでは、キーはシグニチャ用に使用されます。</li> </ul>
ステップ 7	<b>address</b> <i>ip-address</i> <b>Example:</b> <pre>Router (config-pubkey-key)# address 10.5.5.1</pre>	(任意) RSA 公開キーの IP アドレスを定義します。
ステップ 8	<b>serial-number</b> <i>serial-number</i> <b>Example:</b> <pre>Router (config-pubkey-key)# serial-number 1000000</pre>	(任意) 公開キーのシリアル番号を指定します。値は 0 から始まり、無制限です。
ステップ 9	<b>key-string</b> <b>Example:</b>	公開キーを定義するためのテキストモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Router (config-pubkey-key)# key-string	
ステップ 10	<b>text</b> <b>Example:</b> Router (config-pubkey)# 00302017 4A7D385B 1234EF29 335FC973	公開キーを指定します。 <b>Note</b> この手順で追加できる公開キーは1つだけです。
ステップ 11	<b>quit</b> <b>Example:</b> Router (config-pubkey)# quit	公開キー コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 12	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router (config-pubkey)# exit	キーリング コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 13	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-keyring)# exit#	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## ISAKMP プロファイルの設定

ISAKMP プロファイルは、一連のピアのインターネット キー交換 (IKE) フェーズ 1 および IKE フェーズ 1.5 設定のリポジトリです。ISAKMP プロファイルでは、IKE フェーズ 1 および フェーズ 1.5 交換中に、キーペアライブ、トラストポイント、ピアの ID、および XAUTH AAA リストなどのアイテムが定義されます。Cisco IOS ルータ上には、0 以上の ISAKMP プロファイルを設定できます。



**Note** ルータから認証局 (CA) へのトラフィック (認証および登録用、または、証明書失効リスト (CRL) 取得用)、または Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーへのトラフィック (CRL 取得用) を VRF を介してルーティングする必要がある場合、トラストポイントに **vrf** コマンドを追加する必要があります。追加しない場合、トラフィックはデフォルトのルーティング テーブルを使用します。

- プロファイルに1つ以上のトラストポイントが指定されていない場合、ルータ内のすべてのトラストポイントが使用されて、ピアの証明書の確認が試行されます (IKE メインモードまたはシグニチャ認証)。1つ以上のトラストポイントが指定されている場合、それらのトラストポイントだけが使用されます。





**Note** IKEを開始するルータとIKE要求に応答するルータのトラストポイント設定は互いに対称的である必要があります。たとえば、RSAシグニチャ暗号化および認証を実行中の応答ルータ（IKEメインモード）では、CERT-REQペイロードの送信時に、グローバルコンフィギュレーション内で定義されたトラストポイントが使用されている場合があります。しかし、そのルータでは、証明書の確認のためにISAKMPプロファイル内で定義されたトラストポイントの制限リストが使用されている場合があります。ピア（IKEの発信側）が、トラストポイントが応答ルータのグローバルリスト内に存在するが、応答ルータのISAKMPプロファイル内には存在しない証明書を使用するように設定されている場合、その証明書は拒否されます（ただし、開始ルータによって、応答ルータのグローバルコンフィギュレーション内のトラストポイントが認識されていない場合は、その証明書は認証されます）。

&gt;

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp profile** *profile-name*
4. **description** *string*
5. **vrf** *ivrf-name*
6. **keepalive** *seconds* **retry** *retry-seconds*
7. **self-identity** {**address** *fqdn* | **user-fqdn** *user-fqdn*}
8. **keyring** *keyring-name*
9. **ca trust-point** {*trustpoint-name*}
10. **match identity** {**group** *group-name* | **address** *address* [*mask*] [*fvrf*] | **host** *host-name* | **host domain** *domain-name* | **user** *user-fqdn* | **user domain** *domain-name*}
11. **client configuration address** {**initiate** | **respond**}
12. **client authentication list** *list-name*
13. **isakmp authorization list** *list-name*
14. **initiate mode aggressive**
15. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto isakmp profile vpnprofile	Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイルを定義し、isakmp プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>description</b> <i>string</i> <b>Example:</b>  Router (conf-isa-prof)# description configuration for VPN profile	(任意) ISAKMP プロファイルの 1 行の説明を指定します。
ステップ 5	<b>vrf</b> <i>ivrf-name</i> <b>Example:</b>  Router (conf-isa-prof)# vrf VPN1	(任意) IPsec トンネルを Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスにマッピングします。  <b>Note</b> VRF は、Security Policy Database (SPD) の照合のためのマッチングのためのセクタにもなります。VRF が ISAKMP プロファイル内で指定されていない場合、IPsec トンネルの IVRF は、その FVRF と同じになります。
ステップ 6	<b>keepalive</b> <i>seconds</i> <b>retry</b> <i>retry-seconds</i> <b>Example:</b>  Router (conf-isa-prof)# keepalive 60 retry 5	(任意) ゲートウェイに対して、Dead Peer Detection (DPD) メッセージのピアへの送信を許可します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>定義しない場合、ゲートウェイではグローバル コンフィギュレーション値が使用されます。</li> <li><b>seconds</b> : DPD メッセージ間の秒数。指定できる範囲は 10 ~ 3600 秒です。</li> <li><b>retry</b> <i>retry-seconds</i> : DPD メッセージがエラーになった場合の、リトライ間の秒数指定できる範囲は 2 ~ 60 秒です。</li> </ul>
ステップ 7	<b>self-identity</b> { <i>address</i>   <i>fqdn</i>   <i>user-fqdn</i> <i>user-fqdn</i> } <b>Example:</b>  Router (conf-isa-prof)# self-identity address	(任意) ローカル IKE によって、リモートピアに対して IKE 自身を識別させるために使用される、ID を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>定義しない場合、IKE ではグローバルコンフィギュレーション値が使用されます。</li> <li><b>address</b> : 出力インターフェイスの IP アドレスを使用します。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>fqdn-</b> : ルータの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用します。</li> <li>• <b>user-fqdn</b> : 指定された値を使用します。</li> </ul>
ステップ 8	<b>keyring</b> <i>keyring-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# keyring VPN1</pre>	(任意) フェーズ 1 認証用に使用するキーリングを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• キーリングを指定しない場合、グローバルキー定義が使用されます。</li> </ul>
ステップ 9	<b>ca trust-point</b> { <i>trustpoint-name</i> } <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# ca trustpoint VPN1-trustpoint</pre>	(任意) Rivest、Shamir、Adelman (RSA) 証明書を確認するためのトラストポイントを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ISAKMP プロファイル内でトラストポイントが指定されていない場合、Cisco IOS ルータ上で設定されているすべてのトラストポイントが証明書の確認に使用されます。</li> </ul>
ステップ 10	<b>match identity</b> { <b>group</b> <i>group-name</i>   <b>address</b> <i>address</i> [ <i>mask</i> ] [ <i>fvr</i> ]   <b>host</b> <i>host-name</i>   <b>host domain</b> <i>domain-name</i>   <b>user</b> <i>user-fqdn</i>   <b>user domain</b> <i>domain-name</i> } <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# match identity address 10.1.1.1</pre>	照合されるクライアント IKE の ID を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>group</b> <i>group-name</i> : <i>group-name</i> と ID タイプ ID_KEY_ID を照合します。また、<i>group-name</i> と認定者名 (DN) の組織ユニット (OU) フィールドも照合します。</li> <li>• <b>address</b> <i>address</i> [<i>mask</i>] <i>fvr</i> : <i>address</i> と ID タイプ ID_IPV4_ADDR を照合します。<i>Mask</i> 引数を使用して、アドレスの範囲を指定できます。<i>fvr</i> 引数では、アドレスが Front Door Virtual Routing and Forwarding (FVRF) にあることを指定します。</li> <li>• <b>host</b> <i>hostname</i> : <i>hostname</i> と ID タイプ ID_FQDN を照合します。</li> <li>• <b>host domain</b> <i>domain-name</i> : <i>domain-name</i> を、ドメイン名が <i>domain-name</i> と同じ IP タイプ ID_FQDN と照合します。このコマンドを使用して、ドメイン内のすべてのホストを照合します。</li> <li>• <b>user</b> <i>username</i> : <i>username</i> と ID タイプ ID_USER_FQDN を照合します。</li> <li>• <b>user domain</b> <i>domainname</i> : ドメイン名が <i>domainname</i> と一致する ID タイプ ID_USER_FQDN を照合します。</li> </ul>

## 次の作業

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<b>client configuration address</b> {initiate   respond} <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# client configuration address initiate</pre>	(任意) モード設定交換を開始するか、モード設定要求に応答するかを指定します。
ステップ 12	<b>client authentication list</b> <i>list-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# client authentication list xauthlist</pre>	(任意) Extended Authentication (XAUTH) 交換中にリモートクライアントを認証するために使用する AAA (認証、許可、アカウントिंग)。
ステップ 13	<b>isakmp authorization list</b> <i>list-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# isakmp authorization list ikessaaalist</pre>	(任意) フェーズ 1 キーおよびその他の AV のペアを受信するためのネットワーク認証サーバ。
ステップ 14	<b>initiate mode aggressive</b> <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# initiate mode aggressive</pre>	(任意) アグレッシブ モード交換を開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>指定しない場合、IKE によって、メインモード交換が常に開始されます。</li> </ul>
ステップ 15	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router (conf-isa-prof)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## 次の作業

[暗号マップ上における ISAKMP プロファイルの設定, on page 2972](#) に進みます。

## 暗号マップ上における ISAKMP プロファイルの設定

ISAKMP プロファイルを、クリプトマップに適用する必要があります。ISAKMP プロファイル上の IVRF は、VPN トラフィックの照合時にセクタとして使用されます。ISAKMP プロファイル上に IVRF が存在しない場合、IVRF は FVRF と同じになります。クリプトマップ上の ISAKMP プロファイルを設定するには、次の作業を実行します。

**Before you begin**

クリプトマップ上で ISAKMP プロファイルを設定する前に、ルータに対して基本 IPsec の設定を行っておく必要があります。

**SUMMARY STEPS**

1. enable

2. **configure terminal**
3. **crypto map** *map-name* **isakmp-profile** *isakmp-profile-name*
4. **set isakmp-profile** *profile-name*
5. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map</b> <i>map-name</i> <b>isakmp-profile</b> <i>isakmp-profile-name</i> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto map vpnmap isakmp-profile vpnprofile	(任意) クリプト マップ セット用に Internet Key Exchange and Key Management Protocol (ISAKMP) プロファイルを指定し、クリプトマップコンフィギュレーション モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• ISAKMP プロファイルは、IKE 交換中に使用されます。</li> </ul>
ステップ 4	<b>set isakmp-profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b>  Router (config-crypto-map)# set isakmp-profile vpnprofile	(任意) トラフィックがクリプト マップ エントリと一致した際に使用する ISAKMP プロファイルを指定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router (config-crypto-map)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## IKE フェーズ 1 ネゴシエーション中に拡張認証を無視する設定

IKE フェーズ 1 ネゴシエーション中に XAUTH を無視するには、**no crypto xauth** コマンドを使用します。Unity クライアントの拡張認証が不要な場合、**no crypto xauth** コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `no crypto xauth interface`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no crypto xauth interface</b> <b>Example:</b> Router(config)# no crypto xauth ethernet0	インターフェイスの IP アドレスを宛先とする要求の XAUTH 提案を無視します。デフォルトでは、IKE によって、XAUTH 提案が処理されます。

## VRF-Aware IPsec の確認

VRF-Aware IPsec の設定を確認するには、次の **show** コマンドを使用します。これらの **show** コマンドによって、設定情報およびセキュリティ アソシエーション (SA) を表示できます。

## SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `show crypto ipsec sa [map map-name] address | identity | interface interface / peer [vrf vrf-name] address | vrf ivrf-name] [detail]`
3. `show crypto isakmp key`
4. `show crypto isakmp profile`
5. `show crypto key pubkey-chain rsa`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>show crypto ipsec sa</b> [ <b>map</b> <i>map-name</i>   <b>address</b>   <b>identity</b>   <b>interface</b> <i>interface</i> / <b>peer</b> [ <b>vrf</b> <i>fvr-f-name</i> ] <b>address</b>   <b>vrf</b> <i>ivrf-name</i> ] [ <b>detail</b> ] <b>Example:</b> Router# show crypto ipsec sa vrf vpn1	現在の SA によって使用される設定の表示を許可します。
ステップ 3	<b>show crypto isakmp key</b> <b>Example:</b> Router# show crypto isakmp key	すべてのキーリングおよびその事前共有キーを一覧表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>このコマンドを使用して、クリプトキーリング設定を確認します。</li></ul>
ステップ 4	<b>show crypto isakmp profile</b> <b>Example:</b> Router# show crypto isakmp profile	すべての ISAKMP プロファイルおよびその設定を一覧表示します。
ステップ 5	<b>show crypto key pubkey-chain rsa</b> <b>Example:</b> Router# show crypto key pubkey-chain rsa	ルータに保存されている、ピアの RSA 公開キーを表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>出力が、公開キーが所属するキーリングを表示するように拡張されます。</li></ul>

## セキュリティ アソシエーションのクリア

次の **clear** コマンドによって、SA をクリアできます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear crypto sa** [**counters** | **map** *map-name* | **peer**[**vrf** *fvr-f-name*] **address** | **spi** **address** {**ah** | **esp**} **spi** | **vrf** *ivrf-name*]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>clear crypto sa</b> [ <b>counters</b>   <b>map</b> <i>map-name</i>   <b>peer</b> [ <i>vrf</i> <i>fvrif-name</i> ] <i>address</i>   <b>spi</b> <i>address</i> { <b>ah</b>   <b>esp</b> } <i>spi</i>   <b>vrf</b> <i>ivrf-name</i> ] <b>Example:</b> Router# clear crypto sa vrf VPN1	IPsec SA をクリアします。

## VRF-Aware IPsec のトラブルシューティング

VRF-Aware IPsec のトラブルシューティングを行うには、次の **debug** コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug crypto ipsec**
3. **debug crypto isakmp**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug crypto ipsec</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto ipsec	IP セキュリティ（IPsec）イベントを表示します。
ステップ 3	<b>debug crypto isakmp</b> <b>Example:</b> Router(config)# debug crypto isakmp	IKE に関するメッセージを表示します。



## VRF-Aware IPsec のデバッグ例

次に、VRF-aware IPsec 設定のサンプル デバッグ出力を示します。

### IPsec PE

```
Router# debug crypto ipsec
Crypto IPSEC debugging is on
IPSEC-PE#debug crypto isakmp
Crypto ISAKMP debugging is on
IPSEC-PE#debug crypto isakmp d
04:31:28: ISAKMP (0:12): purging SA., sa=6482B354, delme=6482B354
04:31:28: ISAKMP: Unlocking IKE struct 0x63C142F8 for declare_sa_dead(), count 0
IPSEC-PE#debug crypto isakmp detail
Crypto ISAKMP internals debugging is on
IPSEC-PE#
IPSEC-PE#
IPSEC-PE#
04:32:07: ISAKMP: Deleting peer node by peer_reap for 10.1.1.1: 63C142F8
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 172.16.1.1 dst 10.1.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie 3123100B DC887D4E
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.68.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 49A60E88
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 172.16.1.1 dst 10.1.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie 3123100B DBC8E125
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.16.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 B4BDB5B7
04:32:55: ISAKMP (0:0): received packet from 10.1.1.1 dport 500 sport 500 Global (N) NEW
SA
04:32:55: ISAKMP: local port 500, remote port 500
04:32:55: ISAKMP: hash from 729FA94 for 619 bytes
04:32:55: ISAKMP: Packet hash:
64218CC0: B91E2C70 095A1346          9.,p.Z.F
64218CD0: 0EDB4CA6 8A46784F B314FD3B 00      .[L&.FxO.];.
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 0C07C670
04:32:55: ISAKMP: insert sa successfully sa = 6482B354
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing SA payload. message ID = 0
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing ID payload. message ID = 0
04:32:55: ISAKMP (0:13): peer matches vpn2-ra profile
04:32:55: ISAKMP: Looking for a matching key for 10.1.1.1 in default
04:32:55: ISAKMP: Created a peer struct for 10.1.1.1, peer port 500
04:32:55: ISAKMP: Locking peer struct 0x640BBB18, IKE refcount 1 for
crypto_ikmp_config_initialize_sa
04:32:55: ISAKMP (0:13): Setting client config settings 648252B0
04:32:55: ISAKMP (0:13): (Re)Setting client xauth list and state
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing vendor id payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID seems Unity/DPD but major 157 mismatch
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID is NAT-T v3
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing vendor id payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID seems Unity/DPD but major 123 mismatch
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID is NAT-T v2
04:32:55: ISAKMP (0:13) Authentication by xauth preshared
04:32:55: ISAKMP (0:13): Checking ISAKMP transform 1 against priority 1 policy
04:32:55: ISAKMP: encryption AES-CBC
04:32:55: ISAKMP: hash SHA
04:32:55: ISAKMP: default group 14
04:32:55: ISAKMP: auth XAUTHInitPreShared
04:32:55: ISAKMP: life type in seconds
04:32:55: ISAKMP: life duration (VPI) of 0x0 0x20 0xC4 0x9B
```

```

04:32:55: ISAKMP (0:13): atts are acceptable. Next payload is 3
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing vendor id payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID seems Unity/DPD but major 157 mismatch
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID is NAT-T v3
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing vendor id payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID seems Unity/DPD but major 123 mismatch
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID is NAT-T v2
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing KE payload. message ID = 0
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing NONCE payload. message ID = 0
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing vendor id payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID is DPD
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing vendor id payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID seems Unity/DPD but major 175 mismatch
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID is XAUTH
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing vendor id payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): claimed IOS but failed authentication
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing vendor id payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): vendor ID is Unity
04:32:55: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_AM_EXCH
04:32:55: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_READY New State = IKE_R_AM_AAA_AWAIT
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 11.1.1.1 dst 172.16.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 7AE6E1DF
04:32:55: ISAKMP:      isadb_post_process_list: crawler: 4 AA 31 (6482B354)
04:32:55:      crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:32:55:      crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:32:55: ISAKMP: got callback 1
04:32:55: ISAKMP (0:13): SKEYID state generated
04:32:55: ISAKMP: Unity/DPD ID: vendor_id_payload:
      next: 0xD, reserved: 0x0, len 0x14
04:32:55: ISAKMP: Unity/DPD ID payload dump:
63E66D70:      0D000014      ....
63E66D80: 12F5F28C 457168A9 702D9FE2 74CC0100 .ur.Eqh)p-.btL..
63E66D90: 00      .
04:32:55: ISAKMP: Unity/DPD ID: vendor_id_payload:
      next: 0xD, reserved: 0x0, len 0x14
04:32:55: ISAKMP: Unity/DPD ID payload dump:
63E66D90: 0D000014 AFCAD713 68A1F1C9 6B8696FC ..../JW.h!qIk..|
63E66DA0: 77570100 00      wW...
04:32:55: ISAKMP (0:13): constructed NAT-T vendor-03 ID
04:32:55: ISAKMP (0:13): SA is doing pre-shared key authentication plus XAUTH using id
type ID_IPV4_ADDR
04:32:55: ISAKMP (13): ID payload
      next-payload : 10
      type          : 1
      addr          : 172.16.1.1
      protocol      : 17
      port          : 0
      length        : 8
04:32:55: ISAKMP (13): Total payload length: 12
04:32:55: ISAKMP (0:13): constructed HIS NAT-D
04:32:55: ISAKMP (0:13): constructed MINE NAT-D
04:32:55: ISAKMP (0:13): sending packet to 10.1.1.1 my_port 500 peer_port 500 (R)
AG_INIT_EXCH
04:32:55: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_FROM_AAA, PRESHARED_KEY_REPLY
04:32:55: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_R_AM_AAA_AWAIT New State = IKE_R_AM2
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 172.16.1.1 dst 10.1.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie 3123100B D99DA70D
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.16.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 9C69F917
04:32:55: ISAKMP:      isadb_post_process_list: crawler: 5 21FF 1 (6482B354)
04:32:55:      crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:32:55:      crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 172.16.1.1 dst 10.1.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie 3123100B 00583224

```

```
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.16.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 C1B006EE
04:32:55: ISAKMP:          isadb_post_process_list: crawler: 5 21FF 1 (6482B354)
04:32:55:          crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:32:55:          crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:32:55: ISAKMP (0:13): received packet from 10.1.1.1 dport 500 sport 500 Global (R)
AG_INIT_EXCH
04:32:55: ISAKMP: hash from 7003A34 for 132 bytes
04:32:55: ISAKMP: Packet hash:
64218CC0:          D1202D99 2BB49D38          Q -.+4.8
64218CD0: B8FBB1BE 7CDC67D7 4E26126C 63          8{1>|\gWN&.lc
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing HASH payload. message ID = 0
04:32:55: ISAKMP:received payload type 17
04:32:55: ISAKMP (0:13): Detected NAT-D payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): recalc my hash for NAT-D
04:32:55: ISAKMP (0:13): NAT match MINE hash
04:32:55: ISAKMP:received payload type 17
04:32:55: ISAKMP (0:13): Detected NAT-D payload
04:32:55: ISAKMP (0:13): recalc his hash for NAT-D
04:32:55: ISAKMP (0:13): NAT match HIS hash
04:32:55: ISAKMP (0:13): processing NOTIFY INITIAL_CONTACT protocol 1
spi 0, message ID = 0, sa = 6482B354
04:32:55: ISAKMP (0:13): Process initial contact,
bring down existing phase 1 and 2 SA's with local 172.16.1.1 remote 10.1.1.1 remote port
500
04:32:55: ISAKMP (0:13): returning IP addr to the address pool
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.16.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 05D315C5
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 172.16.1.1 dst 10.1.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie 3123100B 041A85A6
04:32:55: ISAKMP (0:13): SA has been authenticated with 10.1.1.1
04:32:55: ISAKMP: Trying to insert a peer 172.16.1.1/10.1.1.1/500/, and inserted
successfully.
04:32:55: ISAKMP: set new node -803402627 to CONF_XAUTH
04:32:55: IPSEC(key_engine): got a queue event...
04:32:55: ISAKMP (0:13): sending packet to 10.1.1.1 my_port 500 peer_port 500 (R) QM_IDLE

04:32:55: ISAKMP (0:13): purging node -803402627
04:32:55: ISAKMP: Sending phase 1 responder lifetime 86400
04:32:55: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_AM_EXCH
04:32:55: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_R_AM2 New State = IKE_P1_COMPLETE
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.16.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 25EEF256
04:32:55: ISAKMP:          isadb_post_process_list: crawler: 9 27FF 2 (6482B354)
04:32:55:          crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:32:55:          crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:32:55: ISAKMP (0:13): Need XAUTH
04:32:55: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_INTERNAL, IKE_PHASE1_COMPLETE
04:32:55: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_XAUTH_AAA_START_LOGIN_AWAIT
04:32:55: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.16.1.1
04:32:55: ISAKMP cookie AA8F7B41 2CCFA491
04:32:55: ISAKMP:          isadb_post_process_list: crawler: B 27FF 12 (6482B354)
04:32:55:          crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:32:55:          crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:32:55: ISAKMP: got callback 1
04:32:55: ISAKMP: set new node -1447732198 to CONF_XAUTH
04:32:55: ISAKMP/xauth: request attribute XAUTH_USER_NAME_V2
04:32:55: ISAKMP/xauth: request attribute XAUTH_USER_PASSWORD_V2
04:32:55: ISAKMP (0:13): initiating peer config to 10.1.1.1. ID = -1447732198
04:32:55: ISAKMP (0:13): sending packet to 10.1.1.1 my_port 500 peer_port 500 (R)
CONF_XAUTH
04:32:55: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_FROM_AAA, IKE_AAA_START_LOGIN
04:32:55: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_XAUTH_AAA_START_LOGIN_AWAIT New State =
```

```

IKE_XAUTH_REQ_SENT
04:33:00: ISAKMP (0:13): retransmitting phase 2 CONF_XAUTH -1447732198 ...
04:33:00: ISAKMP (0:13): incrementing error counter on sa: retransmit phase 2
04:33:00: ISAKMP (0:13): incrementing error counter on sa: retransmit phase 2
04:33:00: ISAKMP (0:13): retransmitting phase 2 -1447732198 CONF_XAUTH
04:33:00: ISAKMP (0:13): sending packet to 10.1.1.1 my_port 500 peer_port 500 (R)
CONF_XAUTH
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie 3123100B 124D4618
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 B0C91917
04:33:03: ISAKMP: isadb_post_process_list: crawler: B 27FF 2 (6482B354)
04:33:03: crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03: crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie 3123100B 0E294692
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 091A7695
04:33:03: ISAKMP: isadb_post_process_list: crawler: B 27FF 2 (6482B354)
04:33:03: crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03: crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:03: ISAKMP (0:13): received packet from 10.1.1.1 dport 500 sport 500 Global (R)
CONF_XAUTH
04:33:03: ISAKMP: hash from 7292D74 for 92 bytes
04:33:03: ISAKMP: Packet hash:
64218CC0: 84A1AF24 5D92B116 .!/$].1.
64218CD0: FC2C6252 A472C5F8 152AC860 63 |,br$reX.*H`c
04:33:03: ISAKMP (0:13): processing transaction payload from 11.1.1.1. message ID =
-1447732198
04:33:03: ISAKMP: Config payload REPLY
04:33:03: ISAKMP/xauth: reply attribute XAUTH_USER_NAME_V2
04:33:03: ISAKMP/xauth: reply attribute XAUTH_USER_PASSWORD_V2
04:33:03: ISAKMP (0:13): deleting node -1447732198 error FALSE reason "done with xauth
request/reply exchange"
04:33:03: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_CFG_REPLY
04:33:03: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_XAUTH_REQ_SENT New State =
IKE_XAUTH_AAA_CONT_LOGIN_AWAIT
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 A1B3E684
04:33:03: ISAKMP: isadb_post_process_list: crawler: B 27FF 12 (6482B354)
04:33:03: crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03: crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:03: ISAKMP: got callback 1
04:33:03: ISAKMP: set new node 524716665 to CONF_XAUTH
04:33:03: ISAKMP (0:13): initiating peer config to 10.1.1.1. ID = 524716665
04:33:03: ISAKMP (0:13): sending packet to 10.1.1.1 my_port 500 peer_port 500 (R)
CONF_XAUTH
04:33:03: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_FROM_AAA, IKE_AAA_CONT_LOGIN
04:33:03: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_XAUTH_AAA_CONT_LOGIN_AWAIT New State =
IKE_XAUTH_SET_SENT
004:33:03: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie 3123100B 5C83A09D
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 2BEBEFD4
04:33:03: ISAKMP: isadb_post_process_list: crawler: B 27FF 2 (6482B354)
04:33:03: crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03: crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie 3123100B DA00A46B
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 FDD27773
04:33:03: ISAKMP: isadb_post_process_list: crawler: B 27FF 2 (6482B354)
04:33:03: crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03: crawler his_cookie E46E088D F227FE4D

```

```
04:33:03: ISAKMP (0:13): received packet from 10.1.1.1 dport 500 sport 500 Global (R)
CONF_XAUTH
04:33:03: ISAKMP: hash from 7292A34 for 68 bytes
04:33:03: ISAKMP: Packet hash:
64218CC0:          5034B99E B8BA531F          P49.8:S.
64218CD0: 6267B8BD F3006989 DC118796 63          bg8=s.i.\...c
04:33:03: ISAKMP (0:13): processing transaction payload from 11.1.1.1. message ID =
524716665
04:33:03: ISAKMP: Config payload ACK
04:33:03: ISAKMP (0:13):          XAUTH ACK Processed
04:33:03: ISAKMP (0:13): deleting node 524716665 error FALSE reason "done with transaction"
04:33:03: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_CFG_ACK
04:33:03: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_XAUTH_SET_SENT New State = IKE_P1_COMPLETE
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 E0BB50E9
04:33:03: ISAKMP:          isadb_post_process_list: crawler: 9 27FF 2 (6482B354)
04:33:03:          crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03:          crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:03: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_INTERNAL, IKE_PHASE1_COMPLETE
04:33:03: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_P1_COMPLETE New State = IKE_P1_COMPLETE
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie 3123100B 7794EF6E
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 C035AAE5
04:33:03: ISAKMP:          isadb_post_process_list: crawler: 9 27FF 2 (6482B354)
04:33:03:          crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03:          crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie 3123100B F1FCC25A
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 31744F44
04:33:03: ISAKMP:          isadb_post_process_list: crawler: 9 27FF 2 (6482B354)
04:33:03:          crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03:          crawler his_cookie E46E088D F207FE4D
04:33:03: ISAKMP (0:13): received packet from 10.1.1.1 dport 500 sport 500 Global (R)
QM_IDLE
04:33:03: ISAKMP: set new node -1639992295 to QM_IDLE
04:33:03: ISAKMP: hash from 7293A74 for 100 bytes
04:33:03: ISAKMP: Packet hash:
64218CC0:          9D7DF4DF FE3A6403          .}t~:d.
64218CD0: 3F1D1C59 C5D138CE 50289B79 07          ?..YEQ8NP(.y.
04:33:03: ISAKMP (0:13): processing transaction payload from 10.1.1.1. message ID =
-1639992295
04:33:03: ISAKMP: Config payload REQUEST
04:33:03: ISAKMP (0:13): checking request:
04:33:03: ISAKMP:          IP4_ADDRESS
04:33:03: ISAKMP:          IP4_NETMASK
04:33:03: ISAKMP:          IP4_DNS
04:33:03: ISAKMP:          IP4_DNS
04:33:03: ISAKMP:          IP4_NBNS
04:33:03: ISAKMP:          IP4_NBNS
04:33:03: ISAKMP:          SPLIT_INCLUDE
04:33:03: ISAKMP:          DEFAULT_DOMAIN
04:33:03: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_CFG_REQUEST
04:33:03: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_P1_COMPLETE New State =
IKE_CONFIG_AUTHOR_AAA_AWAIT
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 B02E0D67
04:33:03: ISAKMP:          isadb_post_process_list: crawler: C 27FF 12 (6482B354)
04:33:03:          crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03:          crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:03: ISAKMP: got callback 1
04:33:03: ISAKMP (0:13): attributes sent in message:
04:33:03:          Address: 10.2.0.0
```

```

04:33:03: ISAKMP (0:13): allocating address 10.4.1.4
04:33:03: ISAKMP: Sending private address: 10.4.1.4
04:33:03: ISAKMP: Sending DEFAULT_DOMAIN default domain name: vpn2.com
04:33:03: ISAKMP (0:13): responding to peer config from 10.1.1.1. ID = -1639992295
04:33:03: ISAKMP (0:13): sending packet to 10.1.1.1 my_port 500 peer_port 500 (R) CONF_ADDR

04:33:03: ISAKMP (0:13): deleting node -1639992295 error FALSE reason ""
04:33:03: ISAKMP (0:13): Input = IKE_MESG_FROM_AAA, IKE_AAA_GROUP_ATTR
04:33:03: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_CONFIG_AUTHOR_AAA_AWAIT New State =
IKE_P1_COMPLETE
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie 3123100B 881D5411
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 11.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 6FD82541
04:33:03: ISAKMP:      isadb_post_process_list: crawler: 9 27FF 2 (6482B354)
04:33:03:      crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03:      crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie 3123100B 8A94C1BE
04:33:03: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:03: ISAKMP cookie AA8F7B41 F3BA766D
04:33:03: ISAKMP:      isadb_post_process_list: crawler: 9 27FF 2 (6482B354)
04:33:03:      crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:03:      crawler his_cookie E46E088D F207FE4D
04:33:03: ISAKMP (0:13): received packet from 10.1.1.1 dport 500 sport 500 Global (R)
QM_IDLE
04:33:03: ISAKMP: set new node 17011691 to QM_IDLE
04:33:03: ISAKMP: hash from 70029F4 for 540 bytes
04:33:03: ISAKMP: Packet hash:
64218CC0:      AFBA30B2 55F5BC2D      /:02Uu<-
64218CD0: 3A86B1C9 00D2F5BA 77BF5589 07      :.1I.Ru:w?U..
04:33:03: ISAKMP (0:13): processing HASH payload. message ID = 17011691
04:33:03: ISAKMP (0:13): processing SA payload. message ID = 17011691
04:33:03: ISAKMP (0:13): Checking IPsec proposal 1
04:33:03: ISAKMP: transform 1, ESP_AES
04:33:03: ISAKMP:      attributes in transform:
04:33:03: ISAKMP:      encaps is 1
04:33:03: ISAKMP:      SA life type in seconds
04:33:03: ISAKMP:      SA life duration (VPI) of 0x0 0x20 0xC4 0x9B
04:33:03: ISAKMP:      SA life type in kilobytes
04:33:03: ISAKMP:      SA life duration (VPI) of 0x0 0x46 0x50 0x0
04:33:03: ISAKMP:      authenticator is HMAC-SHA
04:33:03: ISAKMP (0:13): atts are acceptable.
04:33:03: IPSEC(validate_proposal_request): proposal part #1,
(key eng. msg.) INBOUND local= 172.18.1.1, remote= 10.1.1.1,
local_proxy= 0.0.0.0/0.0.0.0/0/0 (type=4),
remote_proxy= 10.4.1.4/255.255.255.255/0/0 (type=1),
protocol= ESP, transform= esp-aes esp-sha-hmac,
lifedur= 0s and 0kb,
spi= 0x0(0), conn_id= 0, keysize= 0, flags= 0x2
04:33:03: IPSEC(kei_proxy): head = ra, map->ivrf = vpn1, kei->ivrf = vpn2
04:33:03: IPSEC(kei_proxy): head = ra, map->ivrf = vpn2, kei->ivrf = vpn2
04:33:03: IPSEC(validate_transform_proposal): transform proposal not supported for
identity:
{esp-aes esp-sha-hmac}
04:33:03: ISAKMP (0:13): IPsec policy invalidated proposal
04:33:03: ISAKMP (0:13): Checking IPsec proposal 2
04:33:03: ISAKMP: transform 1, ESP_AES
04:33:03: ISAKMP:      attributes in transform:
04:33:03: ISAKMP:      encaps is 1
04:33:03: ISAKMP:      SA life type in seconds
04:33:03: ISAKMP:      SA life duration (VPI) of 0x0 0x20 0xC4 0x9B
04:33:03: ISAKMP:      SA life type in kilobytes
04:33:03: ISAKMP:      SA life duration (VPI) of 0x0 0x46 0x50 0x0

```

```
04:33:03: ISAKMP:      authenticator is HMAC-SHA
04:33:03: ISAKMP (0:13): atts are acceptable.
04:33:03: IPSEC(validate_proposal_request): proposal part #1,
      (key eng. msg.) INBOUND local= 172.18.1.1, remote= 10.1.1.1,
      local_proxy= 0.0.0.0/0.0.0.0/0/0 (type=4),
      remote_proxy= 10.4.1.4/255.255.255.255/0/0 (type=1),
      protocol= ESP, transform= esp-aes esp-sha-hmac,
      lifedur= 0s and 0kb,
      spi= 0x0(0), conn_id= 0, keysize= 0, flags= 0x2
04:33:03: IPSEC(kei_proxy): head = ra, map->ivrf = vpn1, kei->ivrf = vpn2
04:33:03: IPSEC(kei_proxy): head = ra, map->ivrf = vpn2, kei->ivrf = vpn2
04:33:03: ISAKMP (0:13): processing NONCE payload. message ID = 17011691
04:33:03: ISAKMP (0:13): processing ID payload. message ID = 17011691
04:33:03: ISAKMP (0:13): processing ID payload. message ID = 17011691
04:33:03: ISAKMP (0:13): asking for 1 spis from ipsec
04:33:03: ISAKMP (0:13): Node 17011691, Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_QM_EXCH
04:33:03: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_QM_READY New State = IKE_QM_SPI_STARVE
04:33:03: IPSEC(key_engine): got a queue event...
04:33:03: IPSEC(spi_response): getting spi 2749516541 for SA
      from 172.18.1.1      to 10.1.1.1      for prot 3
04:33:03: ISAKMP: received ke message (2/1)
04:33:04: ISAKMP (13): ID payload
      next-payload : 5
      type          : 1
      addr          : 10.4.1.4
      protocol      : 0
      port          : 0
04:33:04: ISAKMP (13): ID payload
      next-payload : 11
      type          : 4
      addr          : 0.0.0.0
      protocol      : 0
      port          : 0
04:33:04: ISAKMP (0:13): sending packet to 10.1.1.1 my_port 500 peer_port 500 (R) QM_IDLE

04:33:04: ISAKMP (0:13): Node 17011691, Input = IKE_MSG_FROM_IPSEC, IKE_SPI_REPLY
04:33:04: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_QM_SPI_STARVE New State = IKE_QM_R_QM2
04:33:04: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:04: ISAKMP cookie 3123100B 93DE46D2
04:33:04: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:04: ISAKMP cookie AA8F7B41 088A0A16
04:33:04: ISAKMP:      isadb_post_process_list: crawler: 9 27FF 2 (6482B354)
04:33:04:      crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:04:      crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:04: ISAKMP cookie gen for src 172.18.1.1 dst 10.1.1.1
04:33:04: ISAKMP cookie 3123100B A8F23F73
04:33:04: ISAKMP cookie gen for src 10.1.1.1 dst 172.18.1.1
04:33:04: ISAKMP cookie AA8F7B41 93D8D879
04:33:04: ISAKMP:      isadb_post_process_list: crawler: 9 27FF 2 (6482B354)
04:33:04:      crawler my_cookie AA8F7B41 F7ACF384
04:33:04:      crawler his_cookie E46E088D F227FE4D
04:33:04: ISAKMP (0:13): received packet from 10.1.1.1 dport 500 sport 500 Global (R)
QM_IDLE
04:33:04: ISAKMP: hash from 7290DB4 for 60 bytes
04:33:04: ISAKMP: Packet hash:
64218CC0:      4BB45A92 7181A2F8      K4Z.q."x
64218CD0: 73CC12F8 091875C0 054F77CD 63      sL.x..u@.OwMc
04:33:04: ISAKMP: Locking peer struct 0x640BBB18, IPSEC refcount 1 for stuff_ke
04:33:04: ISAKMP (0:13): Creating IPsec SAs
04:33:04:      inbound SA from 10.1.1.1 to 172.18.1.1 (f/i) 0/ 2
      (proxy 10.4.1.4 to 0.0.0.0)
04:33:04:      has spi 0xA3E24AFD and conn_id 5127 and flags 2
04:33:04:      lifetime of 2147483 seconds
04:33:04:      lifetime of 4608000 kilobytes
```

```

04:33:04:      has client flags 0x0
04:33:04:      outbound SA from 172.18.1.1      to 10.1.1.1      (f/i) 0/ 2 (proxy
04:33:04:      0.0.0.0      to 10.4.1.4      )
04:33:04:      has spi 1343294712 and conn_id 5128 and flags A
04:33:04:      lifetime of 2147483 seconds
04:33:04:      lifetime of 4608000 kilobytes
04:33:04:      has client flags 0x0
04:33:04: ISAKMP (0:13): deleting node 17011691 error FALSE reason "quick mode done
(await)"
04:33:04: ISAKMP (0:13): Node 17011691, Input = IKE_MSG_FROM_PEER, IKE_QM_EXCH
04:33:04: ISAKMP (0:13): Old State = IKE_QM_R_QM2 New State = IKE_QM_PHASE2_COMPLETE
04:33:04: IPSEC(key_engine): got a queue event...
04:33:04: IPSEC(initialize_sas): ,
      (key eng. msg.) INBOUND local= 172.18.1.1, remote= 10.1.1.1,
      local_proxy= 0.0.0.0/0.0.0.0/0/0 (type=4),
      remote_proxy= 10.4.1.4/0.0.0.0/0/0 (type=1),
      protocol= ESP, transform= esp-aes esp-sha-hmac ,
      lifedur= 2147483s and 4608000kb,
      spi= 0xA3E24AFD(2749516541), conn_id= 5127, keysize= 0, flags= 0x2
04:33:04: IPSEC(initialize_sas): ,
      (key eng. msg.) OUTBOUND local= 172.18.1.1, remote= 10.1.1.1,
      local_proxy= 0.0.0.0/0.0.0.0/0/0 (type=4),
      remote_proxy= 10.4.1.4/0.0.0.0/0/0 (type=1),
      protocol= ESP, transform= esp-aes esp-sha-hmac,
      lifedur= 2147483s and 4608000kb,
      spi= 0x50110CF8(1343294712), conn_id= 5128, keysize= 0, flags= 0xA
04:33:04: IPSEC(kei_proxy): head = ra, map->ivrf = vpn1, kei->ivrf = vpn2
04:33:04: IPSEC(kei_proxy): head = ra, map->ivrf = vpn2, kei->ivrf = vpn2
04:33:04: IPSEC(rte_mgr): VPN Route Added 10.4.1.4 255.255.255.255 via 10.1.1.1 in vpn2
04:33:04: IPSEC(add mtree): src 0.0.0.0, dest 10.4.1.4, dest_port 0
04:33:04: IPSEC(create_sa): sa created,
      (sa) sa_dest= 172.18.1.1, sa_prot= 50,
      sa_spi= 0xA3E24AFD(2749516541),
      sa_trans= esp-aes esp-sha-hmac, sa_conn_id= 5127
04:33:04: IPSEC(create_sa): sa created,
      (sa) sa_dest= 10.1.1.1, sa_prot= 50,
      sa_spi= 0x50110CF8(1343294712),
      sa_trans= esp-aes esp-sha-hmac, sa_conn_id= 5128
04:33:53: ISAKMP (0:13): purging node -1639992295
04:33:54: ISAKMP (0:13): purging node 17011691

```

## VRF-Aware IPsec の設定例

### 例：静的 IPsec-to-MPLS VPN

次のサンプルでは、IPsec トンネルを MPLS VPN にマッピングするスタティック設定を示しています。この設定により、IPsec トンネルが MPLS VPN、「VPN1」および「VPN2」にマッピングされます。IPsec トンネルは両方とも、シングルパブリック方向インターフェイス上で終了します。

#### IPsec PE の設定

```

ip vrf vpn1
 rd 100:1
 route-target export 100:1
 route-target import 100:1

```



```
!  
ip vrf vpn2  
  rd 101:1  
  route-target export 101:1  
  route-target import 101:1  
!  
crypto keyring vpn1  
  pre-shared-key address 172.16.1.1 key vpn1  
crypto keyring vpn2  
  pre-shared-key address 10.1.1.1 key vpn2  
!  
crypto isakmp policy 1  
  encr aes  
  authentication pre-share  
  group 14  
!  
crypto isakmp profile vpn1  
  vrf vpn1  
  keyring vpn1  
  match identity address 172.16.1.1 255.255.255.255  
!  
crypto isakmp profile vpn2  
  vrf vpn2  
  keyring vpn2  
  match identity address 10.1.1.1 255.255.255.255  
!  
crypto ipsec transform-set vpn1 esp-aes esp-sha-hmac  
crypto ipsec transform-set vpn2 esp-aes esp-sha-hmac  
!  
crypto map crypmap 1 ipsec-isakmp  
  set peer 172.16.1.1  
  set transform-set vpn1  
  set isakmp-profile vpn1  
  match address 101  
crypto map crypmap 3 ipsec-isakmp  
  set peer 10.1.1.1  
  set transform-set vpn2  
  set isakmp-profile vpn2  
  match address 102  
!  
interface Ethernet1/1  
  ip address 172.17.1.1 255.255.0.0  
  tag-switching ip  
!  
interface Ethernet1/2  
  ip address 172.18.1.1 255.255.255.0  
  crypto map crypmap  
!  
ip route 172.16.1.1 255.255.255.255 172.18.1.2  
ip route 10.1.1.1 255.255.255.255 172.18.1.2  
ip route vrf vpn1 10.2.0.0 255.255.0.0 172.18.1.2 global  
ip route vrf vpn2 10.2.0.0 255.255.0.0 172.18.1.2 global  
!  
access-list 101 permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 10.2.0.0 0.0.255.255  
access-list 102 permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 10.2.0.0 0.0.255.255
```

### VPN1 用 IPsec Customer Provided Edge (CPE) 設定

```
crypto isakmp policy 1  
  encr aes  
  authentication pre-share  
  group 14  
crypto isakmp key vpn1 address 172.18.1.1
```

```

!
!
crypto ipsec transform-set vpn1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto map vpn1 1 ipsec-isakmp
  set peer 172.18.1.1
  set transform-set vpn1
  match address 101
!
interface FastEthernet1/0
  ip address 172.16.1.1 255.255.255.0
  crypto map vpn1
!
interface FastEthernet1/1
  ip address 10.2.1.1 255.255.0.0
!
access-list 101 permit ip 10.2.0.0 0.0.255.255 10.1.0.0 0.0.255.255
!

```

### VPN2 用 IPsec CPE 設定

```

crypto isakmp policy 1
  encr aes
  authentication pre-share
  group 14
!
crypto isakmp key vpn2 address 172.18.1.1
!
!
crypto ipsec transform-set vpn2 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto map vpn2 1 ipsec-isakmp
  set peer 172.18.1.1
  set transform-set vpn2
  match address 101
!
interface FastEthernet0
  ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
  crypto map vpn2
!
interface FastEthernet1
  ip address 10.2.1.1 255.255.0.0
!
access-list 101 permit ip 10.2.0.0 0.0.255.255 10.1.0.0 0.0.255.255

```

## 例：RSA 暗号化を使用した IPsec-to-MPLS VPN

次の例では、RSA 暗号化を使用した IPsec-to-MPLS VPN 設定を示します。

### PE ルータ設定

```

ip vrf vpn1
  rd 100:1
  route-target export 100:1
  route-target import 100:1
!
crypto isakmp policy 10
  authentication rsa-encr
!

```

```

crypto keyring vpn1
rsa-pubkey address 172.16.1.1 encryption
key-string
  305C300D 06092A86 4886F70D 01010105 00034B00 30480241 00DBF381 00DDECC8
  DC4AA490 40320C52 9912D876 EB36717C 63DCA95C 7E5EC02A 84F276CE 292B42D7
  D664F324 3726F4E0 39D33093 ECB81B95 482511A5 F064C4B3 D5020301 0001
quit
!
crypto isakmp profile vpn1
vrf vpn1
keyring vpn1
match identity address 172.16.1.1 255.255.255.255
!
crypto ipsec transform-set vpn1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto map crypmap 1 ipsec-isakmp
set peer 172.16.1.1
set transform-set vpn1
set isakmp-profile vpn1
match address 101
!
interface Ethernet1/1
ip address 172.17.1.1 255.255.0.0
tag-switching ip
!
interface Ethernet1/2
ip address 172.18.1.1 255.255.255.0
crypto map crypmap
!
ip route 172.16.1.1 255.255.255.255 172.18.1.2
ip route vrf vpn1 10.2.0.0 255.255.0.0 172.18.1.2 global
!
access-list 101 permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 10.2.0.0 0.0.255.255

```

## VPN1 用 IPsec CPE 設定

```

crypto isakmp policy 10
authentication rsa-encr
!
crypto key pubkey-chain rsa
addressed-key 172.18.1.1 encryption
key-string
  3082011B 300D0609 2A864886 F70D0101 01050003 82010800 30820103 0281FB00
  C90CC78A 6002BDBA 24683396 B7D7877C 16D08C47 E00C3C10 63CF13BC 4E09EA23
  92EB8A48 4113F5A4 8796C8BE AD7E2DC1 3B0742B6 7118CE7C 1B0E21D1 AA9724A4
  4D74FCEA 562FF225 A2B11F18 E53C4415 61C3B741 3A06E75D B4F9102D 6163EE40
  16C68FD7 6532F660 97B59118 9C8DE3E5 4E2F2925 BBB87FCB 95223D4E A5E362DB
  215CB35C 260080805 17BBE1EF C3050E13 031F3D5B 5C22D16C FC8B1EC5 074F07A5
  D050EC80 7890D9C5 EC20D6F0 173FE2BA 89F5B5F9 2EADC9A6 D461921E 3D5B60016
  ABB8B6B9 E2124A21 93F0E4AE B487461B E7F1F1C4 032A0B0E 80DC3E15 CB268EC9
  5D76B9BD 3C78CB75 CE9F68C6 484D6573 CBC3EB59 4B5F3999 8F9D0203 010001
quit
!
crypto ipsec transform-set vpn1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto map vpn1 1 ipsec-isakmp
set peer 172.18.1.1
set transform-set vpn1
match address 101
!
interface FastEthernet1/0
ip address 172.16.1.1 255.255.255.0
crypto map vpn1

```

```

!
interface FastEthernet1/1
 ip address 10.2.1.1 255.255.0.0
!
access-list 101 permit ip 10.2.0.0 0.0.255.255 10.1.0.0 0.0.255.255
!

```

## 例：RSA シグニチャを使用した IPsec-to-MPLS VPN

次のに、RSA シグニチャを使用した IPsec-to-MPLS VPN 設定を示します。

### PE ルータ設定

```

ip vrf vpn1
 rd 100:1
 route-target export 100:1
 route-target import 100:1
!
crypto ca trustpoint bombo
 enrollment url http://172.31.68.59:80
  crl optional
!
crypto ca certificate chain bombo
 certificate 03C0
  308203BF 308202A7 A0030201 02020203 C0300D06 092A8648 86F70D01 01050500
  . . .
 quit
 certificate ca 01
  30820379 30820261 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 05050030
  . . .
 quit
!
crypto isakmp profile vpn1
 vrf vpn1
  ca trust-point bombo
  match identity address 172.16.1.1 255.255.255.255
!
crypto ipsec transform-set vpn1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto map crypmap 1 ipsec-isakmp
 set peer 172.16.1.1
 set transform-set vpn1
 set isakmp-profile vpn1
 match address 101
!
interface Ethernet1/1
 ip address 172.31.1.1 255.255.0.0
 tag-switching ip
!
interface Ethernet1/2
 ip address 172.18.1.1 255.255.255.0
 crypto map crypmap
!
ip route 172.16.1.1 255.255.255.255 172.18.1.2
ip route vrf vpn1 10.2.0.0 255.255.0.0 172.18.1.2 global
!
access-list 101 permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 10.2.0.0 0.0.255.255
!

```

## VPN1 用 IPsec CPE 設定

```
crypto ca trustpoint bombo
  enrollment url http://172.31.68.59:80
  crl optional
  !
crypto ca certificate chain bombo
  certificate 03BF
    308203BD 308202A5 A0030201 02020203 BF300D06 092A8648 86F70D01 01050500
    . . .
  quit
certificate ca 01
  30820379 30820261 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 05050030
  . . .
  quit
!
crypto ipsec transform-set vpn1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto map vpn1 1 ipsec-isakmp
  set peer 172.18.1.1
  set transform-set vpn1
  match address 101
!
interface FastEthernet1/0
  ip address 172.16.1.1 255.255.255.0
  crypto map vpn1
!
interface FastEthernet1/1
  ip address 10.2.1.1 255.255.0.0
!
access-list 101 permit ip 10.2.0.0 0.0.255.255 10.1.0.0 0.0.255.255
!
```

## 例 : IPsec Remote Access-to-MPLS VPN

次に、IPsec Remote Access-to-MPLS VPN 設定を示します。この設定により、IPsec トンネルが MPLS VPN にマッピングされます。IPsec トンネルが、シングル パブリック方向インターフェイス上で終了します。

### PE ルータ設定

```
aaa new-model
!
aaa group server radius vpn1
  server-private 10.1.1.1 auth-port 1645 acct-port 1646 timeout 5 retransmit 3 key vpn1
!
aaa group server radius vpn2
  server-private 10.1.1.1 auth-port 1645 acct-port 1646 timeout 5 retransmit 3 key vpn2
!
aaa authorization network aaa-list group radius
!
ip vrf vpn1
  rd 100:1
  route-target export 100:1
  route-target import 100:1
!
ip vrf vpn2
  rd 101:1
  route-target export 101:1
```

```

route-target import 101:1
!
crypto isakmp profile vpn1-ra
  vrf vpn1
  match identity group vpn1-ra
  client authentication list vpn1
  isakmp authorization list aaa-list
  client configuration address initiate
  client configuration address respond
crypto isakmp profile vpn2-ra
  vrf vpn2
  match identity group vpn2-ra
  client authentication list vpn2
  isakmp authorization list aaa-list
  client configuration address initiate
  client configuration address respond
!
!
crypto ipsec transform-set vpn1 esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set vpn2 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map vpn1 1
  set transform-set vpn1
  set isakmp-profile vpn1-ra
  reverse-route
!
crypto dynamic-map vpn2 1
  set transform-set vpn2
  set isakmp-profile vpn2-ra
  reverse-route
!
!
crypto map ra 1 ipsec-isakmp dynamic vpn1
crypto map ra 2 ipsec-isakmp dynamic vpn2
!
interface Ethernet1/1
  ip address 172.17.1.1 255.255.0.0
  tag-switching ip
!
interface Ethernet1/2
  ip address 172.18.1.1 255.255.255.0
  crypto map ra
!
ip local pool vpn1-ra 10.4.1.1 10.4.1.254 group vpn1-ra
ip local pool vpn2-ra 10.4.1.1 10.4.1.254 group vpn2-ra
!

```

## Cisco Network-Based IPsec VPN Solution の旧バージョンからのアップデート

Cisco Network-Based IPsec VPN Solution リリース 1.5 における VRF-Aware IPsec 機能では、既存の設定を変更する必要があります。次のサンプル設定では、既存の設定に対して行う必要がある変更を示します。

### Site-to-Site 設定のアップグレード

次の設定では、旧バージョンの Network-Based IPsec VPN Solution から Cisco Network-Based IPsec VPN Solution リリース 1.5 への Site-to-Site 設定のアップグレードに必要な変更を示します。

## 旧バージョンの Site-to-Site 設定

```
crypto isakmp key VPN1 address 172.21.25.74
crypto isakmp key VPN2 address 172.21.21.74
!
crypto ipsec transform-set VPN1 esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set VPN2 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto map VPN1 10 ipsec-isakmp
set peer 172.21.25.74
set transform-set VPN1
match address 101
!
crypto map VPN2 10 ipsec-isakmp
set peer 172.21.21.74
set transform-set VPN2
match address 102
!
interface FastEthernet0/0.1
encapsulation dot1Q 1 native
ip vrf forwarding VPN1
ip address 172.21.25.73 255.255.255.0
crypto map VPN1
!
interface FastEthernet0/0.2
encapsulation dot1Q 2 native
ip vrf forwarding VPN2
ip address 172.21.21.74 255.255.255.0
crypto map VPN2
```

## 新バージョンの Site-to-Site 設定

次に、同じ Site-to-Site 設定の、Cisco Network-Based IPsec VPN Solution リリース 1.5 ソリューションへアップグレードされたバージョンを示します。



**Note** 2つのキーリングを変更する必要があります。VRF-Aware Upset 機能では、IKE ローカルエンドポイントが VRF 内に存在している場合、キーを VRF に関連付ける必要があります。

```
crypto keyring VPN1-KEYS vrf VPN1
pre-shared-key address 172.21.25.74 key VPN1
!
crypto keyring VPN2-KEYS vrf VPN2
pre-shared-key address 172.21.21.74 key VPN2
!
crypto ipsec transform-set VPN1 esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set VPN2 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto map VPN1 10 ipsec-isakmp
set peer 172.21.25.74
set transform-set VPN1
match address 101
!
crypto map VPN2 10 ipsec-isakmp
set peer 172.21.21.74
set transform-set VPN2
match address 102
!
```

```

interface FastEthernet0/0.1
encapsulation dot1Q 1 native
ip vrf forwarding VPN1
ip address 172.21.25.73 255.255.255.0
crypto map VPN1
!
interface FastEthernet0/0.2
encapsulation dot1Q 2 native
ip vrf forwarding VPN2
ip address 172.21.21.74 255.255.255.0
crypto map VPN2

```

## リモート アクセス設定のアップグレード

次の設定では、旧バージョンの Network-Based IPsec VPN Solution から Cisco Network-Based IPsec VPN Solution リリース 1.5 へのリモート アクセス設定のアップグレードに必要な変更を示します。

### 旧バージョンのリモート アクセス設定

```

crypto isakmp client configuration group VPN1-RA-GROUP
key VPN1-RA
pool VPN1-RA
!
crypto isakmp client configuration group VPN2-RA-GROUP
key VPN2-RA
pool VPN2-RA
!
crypto ipsec transform-set VPN1-RA esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set VPN2-RA esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map VPN1-RA 1
set transform-set VPN1-RA
reverse-route
!
crypto dynamic-map VPN2-RA 1
set transform-set VPN2-RA
reverse-route
!
!
crypto map VPN1 client authentication list VPN1-RA-LIST
crypto map VPN1 isakmp authorization list VPN1-RA-LIST
crypto map VPN1 client configuration address initiate
crypto map VPN1 client configuration address respond
crypto map VPN1 10 ipsec-isakmp dynamic VPN1-RA
!
crypto map VPN2 client authentication list VPN2-RA-LIST
crypto map VPN2 isakmp authorization list VPN2-RA-LIST
crypto map VPN2 client configuration address initiate
crypto map VPN2 client configuration address respond
crypto map VPN2 10 ipsec-isakmp dynamic VPN2-RA
!
interface FastEthernet0/0.1
encapsulation dot1Q 1 native
ip vrf forwarding VPN1
ip address 172.21.25.73 255.255.255.0
crypto map VPN1
!
interface FastEthernet0/0.2
encapsulation dot1Q 2 native
ip vrf forwarding VPN2

```



```
ip address 172.21.21.74 255.255.255.0
crypto map VPN2
```

## 新バージョンのリモートアクセス設定

次のインスタンスでは、アップグレードはありません。次の設定を変更することを推奨します。

```
crypto isakmp client configuration group VPN1-RA-GROUP
  key VPN1-RA
  pool VPN1-RA
!
crypto isakmp client configuration group VPN2-RA-GROUP
  key VPN2-RA
  pool VPN2-RA
!
crypto isakmp profile VPN1-RA
  match identity group VPN1-RA-GROUP
  client authentication list VPN1-RA-LIST
  isakmp authorization list VPN1-RA-LIST
  client configuration address initiate
  client configuration address respond
!
crypto isakmp profile VPN2-RA
  match identity group VPN2-RA-GROUP
  client authentication list VPN2-RA-LIST
  isakmp authorization list VPN2-RA-LIST
  client configuration address initiate
  client configuration address respond
!
crypto ipsec transform-set VPN1-RA esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set VPN2-RA esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map VPN1-RA 1
  set transform-set VPN1-RA
  set isakmp-profile VPN1-RA
  reverse-route
!
crypto dynamic-map VPN2-RA 1
  set transform-set VPN2-RA
  set isakmp-profile VPN2-RA
  reverse-route
!
crypto map VPN1 10 ipsec-isakmp dynamic VPN1-RA
!
crypto map VPN2 10 ipsec-isakmp dynamic VPN2-RA
!
interface FastEthernet0/0.1
  encapsulation dot1Q 1 native
  ip vrf forwarding VPN1
  ip address 172.21.25.73 255.255.255.0
  crypto map VPN1
!
interface FastEthernet0/0.2
  encapsulation dot1Q 2 native
  ip vrf forwarding VPN2
  ip address 172.21.21.74 255.255.255.0
  crypto map VPN2
```

## Site-to-Site とリモート アクセスの設定の組み合わせのアップグレード

次の設定では、旧バージョンの Network-Based IPsec VPN Solution から Cisco Network-Based IPsec VPN Solution リリース 1.5 への Site-to-Site およびリモート アクセス設定のアップグレードに必要な変更を示します。

### 旧バージョンの Site-to-Site およびリモート アクセスの設定

```

crypto isakmp key VPN1 address 172.21.25.74 no-xauth
crypto isakmp key VPN2 address 172.21.21.74 no-xauth
!
crypto isakmp client configuration group VPN1-RA-GROUP
key VPN1-RA
pool VPN1-RA
!
crypto isakmp client configuration group VPN2-RA-GROUP
key VPN2-RA
pool VPN2-RA
!
crypto ipsec transform-set VPN1 esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set VPN2 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec transform-set VPN1-RA esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set VPN2-RA esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map VPN1-RA 1
set transform-set VPN1-RA
reverse-route
!
crypto dynamic-map VPN2-RA 1
set transform-set VPN2-RA
reverse-route
!
crypto map VPN1 client authentication list VPN1-RA-LIST
crypto map VPN1 isakmp authorization list VPN1-RA-LIST
crypto map VPN1 client configuration address initiate
crypto map VPN1 client configuration address respond
crypto map VPN1 10 ipsec-isakmp
set peer 172.21.25.74
set transform-set VPN1
match address 101
crypto map VPN1 20 ipsec-isakmp dynamic VPN1-RA
!
crypto map VPN2 client authentication list VPN2-RA-LIST
crypto map VPN2 isakmp authorization list VPN2-RA-LIST
crypto map VPN2 client configuration address initiate
crypto map VPN2 client configuration address respond
crypto map VPN2 10 ipsec-isakmp
set peer 172.21.21.74
set transform-set VPN2
match address 102
crypto map VPN2 20 ipsec-isakmp dynamic VPN2-RA
!
interface FastEthernet0/0.1
encapsulation dot1Q 1 native
ip vrf forwarding VPN1
ip address 172.21.25.73 255.255.255.0
crypto map VPN1
!
interface FastEthernet0/0.2
encapsulation dot1Q 2 native

```

```
ip vrf forwarding VPN2
ip address 172.21.21.74 255.255.255.0
crypto map VPN2
```

## 新バージョンの Site-to-Site およびリモートアクセスの設定

この設定をアップグレードする必要があります。



**Note** Site-to-Site 設定に XAUTH が不要な場合、XAUTH 設定なしで ISAKMP プロファイルを設定します。リモートアクセス設定に XAUTH が必要な場合、XAUTH ありで ISAKMP プロファイルを設定します。

```
crypto keyring VPN1-KEYS vrf VPN1
pre-shared-key address 172.21.25.74 key VPN1
!
crypto keyring VPN2-KEYS vrf VPN2
pre-shared-key address 172.21.21.74 key VPN2
!
crypto isakmp client configuration group VPN1-RA-GROUP
key VPN1-RA
pool VPN1-RA
!
crypto isakmp client configuration group VPN2-RA-GROUP
key VPN2-RA
pool VPN2-RA
!
crypto isakmp profile VPN1
keyring VPN1-KEYS
match identity address 172.21.25.74 VPN1
!
crypto isakmp profile VPN2
keyring VPN2-KEYS
match identity address 172.21.21.74 VPN2
!
crypto isakmp profile VPN1-RA
match identity group VPN1-RA-GROUP
client authentication list VPN1-RA-LIST
isakmp authorization list VPN1-RA-LIST
client configuration address initiate
client configuration address respond
!
crypto isakmp profile VPN2-RA
match identity group VPN2-RA-GROUP
client authentication list VPN2-RA-LIST
isakmp authorization list VPN2-RA-LIST
client configuration address initiate
client configuration address respond
!
crypto ipsec transform-set VPN1 esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set VPN2 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec transform-set VPN1-RA esp-aes esp-sha-hmac
crypto ipsec transform-set VPN2-RA esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map VPN1-RA 1
set transform-set VPN1-RA
set isakmp-profile VPN1-RA
reverse-route
```

```

!
crypto dynamic-map VPN2-RA 1
set transform-set VPN2-RA
set isakmp-profile VPN2-RA
reverse-route
!
crypto map VPN1 10 ipsec-isakmp
set peer 172.21.25.74
set transform-set VPN1
set isakmp-profile VPN1
match address 101
crypto map VPN1 20 ipsec-isakmp dynamic VPN1-RA
!
crypto map VPN2 10 ipsec-isakmp
set peer 172.21.21.74
set transform-set VPN2
set isakmp-profile VPN2
match address 102
crypto map VPN2 20 ipsec-isakmp dynamic VPN2-RA
!
interface FastEthernet0/0.1
encapsulation dot1Q 1 native
ip vrf forwarding VPN1
ip address 172.21.25.73 255.255.255.0
crypto map VPN1
!
interface FastEthernet0/0.2
encapsulation dot1Q 2 native
ip vrf forwarding VPN2
ip address 172.21.21.74 255.255.255.0
crypto map VPN2

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
IPsec の設定作業	「Configuring Security for VPNs with IPsec」
IPsec コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
IKE フェーズ 1 とフェーズ 2、アグレッシブモード、およびメインモード	「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」
IKE DPD	「Easy VPN Server」
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

## 標準

標準	タイトル
なし	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、および フィーチャ セットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## VRF-Aware IPsec の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 268: VRF-Aware IPsec の機能情報

機能名	リリース	機能情報
VRF 認識 IPsec	12.2(15)T	<p>VRF-Aware IPsec 機能には、マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) に対する IP Security (IPsec) トンネル マッピングが導入されています。VRF-Aware IPsec 機能を使用すれば、シングルパブリック方向アドレスによって、VPN ルーティング/転送 (VRF) に対して IPsec トンネルをマッピングできます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release 12.2(15)T で導入されました。</p> <p>この機能に関する詳細については、次の各項を参照してください。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>address, ca trust-point, client authentication list, client configuration address, crypto isakmp profile, crypto keyring, crypto map isakmp-profile, initiate-mode, isakmp authorization list, keepalive (isakmp profile), keyring, key-string, match identity, no crypto xauth, pre-shared-key, quit, rsa-pubkey, self-identity, serial-number, set isakmp-profile, show crypto isakmp key, show crypto isakmp profile, vrf, clear crypto sa, crypto isakmp peer, crypto map isakmp-profile, show crypto dynamic-map, show crypto ipsec sa, show crypto isakmp sa, show crypto map (IPsec)。</b></p>
	15.1(1)S	この機能は、Cisco IOS Release 15.1(1)S に統合されました。

## 用語集

**CA** : Certification Authority (認証局)。CA はデジタル証明書を発行するエンティティ (特に X.509 証明書) で、証明書のデータ項目間のバインディングを保証します。

**CLI** : Command Line Interface (コマンドラインインターフェイス)。CLI は、ユーザが、コマンドおよびオプションの引数を入力することによって、オペレーティングシステムとやり取りをすることを可能にするインターフェイスです。UNIX オペレーティングシステムと DOS では、CLI が使用できます。

**client** : マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) ネットワーク内の UUT の対応する IPsec IOS ピア。

**dead peer** : 到達できなくなった IKE ピア。

**DN** : Distinguished Name (識別名)。オープンシステムインターコネクション (OSI ディレクトリ (X.500)) 内のエントリの、グローバルな権威ある名前です。

**FQDN** : Fully Qualified Domain Name (完全修飾ドメイン名)。FQDNは、単なるホスト名ではなく、システムにおける正式な名前です。たとえば、aldebaran はホスト名で、aldebaran.interop.com は FQDN です。

**FR** : Frame Relay (フレームリレー)。FRは、接続されたデバイス間におけるハイレベルデータリンク (HDLC) カプセル化を使用して、複数の仮想回線を処理するための、業界標準の、スイッチデータリンク層プロトコルです。フレームリレーは、一般的に置き代替可能と考えられているプロトコルである X.25 より効率的です。

**FVRF** : 前面扉 Virtual Routing and Forwarding (VRF) のリポジトリ。FVRFは、暗号化されたパケットをピアにルーティングするために使用される VRF です。

**IDB** : Interface Descriptor Block (インターフェイス記述子ブロック)。IDB サブブロックは、アプリケーションに対してプライベートとなっているメモリ領域です。この領域には、アプリケーションにとって IDB またはインターフェイスに関連付ける必要があるプライベート情報およびステータスが格納されます。アプリケーションによって IDB が使用されてポインタがそのサブブロックに登録されますが、サブブロック自体の内容には登録されません。

**IKE** : Internet Key Exchange (インターネット キー エクスチェンジ)。IKE によって、キーが必要なサービス (IPsec など) のための共有セキュリティ ポリシーおよび認証キーが確立されます。IPsec トラフィックを通過させる前に、ルータ、ファイアウォール、ホストそれぞれでピアの ID を検証する必要があります。それには、事前共有キーを両ホストに手動で入力するか、CA サービスを使用します。

**IKE keepalive** : IKE ピアの活性を判断するための双方向メカニズム。

**IPsec** : IP 用セキュリティプロトコル。

**IVRF** : Inside Virtual Routing and Forwarding。IVRFは、暗号化されていないテキストパケットの VRF です。

**MPLS** : Multiprotocol Label Switching (マルチプロトコル ラベル スイッチング)。MPLSは、ラベルを使用して IP トラフィックを転送するスイッチング方式です。このラベルによって、ネットワーク内のルータおよびスイッチが、事前に確立された IP ルーティング情報に基づくパケットの転送先を指示されます。

**RSA** : Rivest、Shamir、Adelman は、RSA 技術の発明者です。RSA 技術は、暗号化および認証に使用可能な公開キー暗号化システムです。

**SA** : Security Association (セキュリティ アソシエーション)。SAは、データフローに適用されるセキュリティ ポリシーおよびキー関連情報のインスタンスです。

**VPN** : Virtual Private Network (仮想プライベートネットワーク)。VPNを使用すると、ネットワーク間のトラフィックをすべて暗号化することにより、パブリック TCP/IP ネットワーク経由でも IP トラフィックをセキュアに転送できます。VPNは「トンネリング」を使用して、IP レベルですべての情報を暗号化します。

**VRF** : Virtual Route Forwarding (仮想ルーティングおよびフォワーディング)。VRFは、VPN ルーティングおよび転送インスタンスです。VRFは、IP ルーティング テーブル、取得されたルーティングテーブル、そのルーティングテーブルを使用する一連のインターフェイス、ルーティング テーブルに登録されるものを決定する一連のルールおよびルーティング プロトコル

で構成されています。一般に、VRFには、PEルータに付加されるカスタマーVPNサイトが定義されたルーティング情報が格納されています。

**XAUTH** : Extended Authentication (拡張認証)。XAUTHは、IKEフェーズ1とIKEフェーズ2の間における任意の交換です。XAUTHでは、ルータが、(ピアの認証ではなく)実際のユーザの認証試行において、追加の認証情報を要求します。





## CHAPTER 203

# IKE アグレッシブ モードの開始

IKE アグレッシブ モードの開始機能を使用すれば、IP Security (IPsec) ピアの RADIUS トンネル属性を指定して、トンネル属性とのインターネットキー交換 (IKE) アグレッシブ モード ネゴシエーションを開始できます。この機能は、暗号ハブアンドスポーク シナリオでの実装に最適です。これにより、スポークが、AAA サーバ上にトンネル属性として指定され保存されている事前共有キーを使用することによって、ハブとの IKE アグレッシブ モード ネゴシエーションを開始します。このシナリオは、事前共有キーが中央リポジトリ (AAA サーバ) に保管され、複数のハブルータと1つのアプリケーションによるキーの情報の使用が可能になるので、容易に拡張できます。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

- [IKE アグレッシブ モードの開始の前提条件, on page 3001](#)
- [IKE アグレッシブ モードの開始の制約事項, on page 3002](#)
- [IKE アグレッシブ モードの開始に関する情報, on page 3002](#)
- [IKE アグレッシブ モードの開始の設定方法, on page 3003](#)
- [IKE アグレッシブ モードの開始の設定例, on page 3005](#)
- [その他の参考資料, on page 3006](#)
- [IKE アグレッシブ モードの開始の機能情報, on page 3008](#)

## IKE アグレッシブ モードの開始の前提条件

IKE : アグレッシブモードの開始機能を設定する前に、次の作業を実行する必要があります。

- AAA の設定
- IPsec トランスフォームの設定
- 静的暗号マップの設定
- Internet Security Association and Key Management Protocol (ISAKMP) ポリシーの設定

- ダイナミック暗号マップの設定

## IKE アグレッシブ モードの開始の制約事項

### TED の制約事項

この機能は、トンネルセットアップを開始するために Tunnel Endpoint Discovery (TED) が使用されているダイナミック クリプト マップで使用するものではありません。TED は、各サイトにピアの事前共有キーを保管するための AAA サーバが必要なフルメッシュセットアップの設定に便利ですが、この設定をこの機能と共に使用するのは実用的ではありません。

### Tunnel-Client-Endpoint ID タイプ

この機能では次の ID タイプだけを使用できます。

- ID\_IPV4 (IPV4 アドレス)
- ID\_FQDN (「foo.cisco.com」などの完全修飾ドメイン名)
- ID\_USER\_FQDN (E メールアドレス)

## IKE アグレッシブ モードの開始に関する情報

### 概要

IKE : アグレッシブ モードの開始機能を使用すれば、IPSec ピアの RADIUS トンネル属性として IKE 事前共有キーを設定できます。これにより、ハブアンドスポーク トポロジ内で IKE 事前共有キーを拡張できます。

IKE 事前共有キーは理解しやすく、簡単に導入できるものですが、ユーザの数が増えると拡張が難しくなり、セキュリティ上の脅威が発生しやすくなります。ハブルータに事前共有キーを保管するのではなく、この機能を利用すれば、事前共有キーを、認証、許可、アカウントイング (AAA) サーバに保存し、またそこから取得することによって拡張できます。事前共有キーは、Internet Engineering Task Force (IETF) RADIUS トンネル属性として AAA サーバに保存され、ユーザがハブルータに「スピーク」を試行する際に取得されます。ハブルータによって AAA サーバから事前共有キーが取得され、スポーク (ユーザ) が、Internet Security Association Key Management Policy (ISAKMP) ピア ポリシー内に RADIUS トンネル属性として指定されている事前共有キーを使用して、ハブに対してアグレッシブ モードを開始します。

## RADIUS トンネル属性

IKE アグレッシブ モード ネゴシエーションを開始するには、Tunnel-Client-Endpoint (66) および Tunnel-Password (69) 属性を、ISAKMP ピア ポリシー内に設定する必要があります。

Tunnel-Client-Endpoint 属性は、該当する IKE ID ペイロード内で符号化されることによって、サーバに伝達されます。Tunnel-Password 属性は、アグレッシブ モード ネゴシエーション用 IKE 事前共有キーとして使用されます。

## IKE アグレッシブ モードの開始の設定方法

### RADIUS トンネル属性の設定

ISAKMP ピア設定内の Tunnel-Client-Endpoint および Tunnel-Password 属性を設定するには、次の手順を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map map-name isakmp authorization list list-name**
4. **crypto isakmp peer {ip-address ip-address | fqdn fqdn}**
5. **set aggressive-mode client-endpoint client-endpoint**
6. **set aggressive-mode password password**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map map-name isakmp authorization list list-name</b> <b>Example:</b>  Router (config)# crypto map testmap10 isakmp authorization list list ike	アグレッシブ モードで、トンネル属性に関する AAA の IKE クエリー生成をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>crypto isakmp peer {ip-address ip-address   fqdn fqdn}</b> <b>Example:</b>	アグレッシブ モードで、トンネル属性に関する AAA の IKE クエリー生成のための IPsec ピアを有効化し

	Command or Action	Purpose
	Router (config)# crypto isakmp peer ip address 10.10.10.1	て、ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>set aggressive-mode client-endpoint</b> <i>client-endpoint</i> <b>Example:</b> Router (config-isakmp)# set aggressive-mode client-endpoint user-fqdn user@cisco.com	ISAKMP ピア設定内で、Tunnel-Client-Endpoint 属性を指定します。
ステップ 6	<b>set aggressive-mode password</b> <i>password</i> <b>Example:</b> Router (config-isakmp)#set aggressive-mode password cisco123	ISAKMP ピア設定内で、Tunnel-Password 属性を指定します。

## RADIUS トンネル属性設定の確認

Tunnel-Client-Endpoint 属性および Tunnel-Password 属性が ISAKMP ピアポリシー内で設定されていることを確認するには、**show running-config** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

## トラブルシューティングのヒント

IKE : アグレッシブモードの開始機能のトラブルシューティングを行うには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug aaa authorization**
3. **debug crypto isakmp**
4. **debug radius**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>debug aaa authorization</b> <b>Example:</b>  Router# debug aaa authorization	AAA 認証の情報を表示します。
ステップ 3	<b>debug crypto isakmp</b> <b>Example:</b>  Router# debug crypto isakmp	IKE イベントに関するメッセージを表示します。
ステップ 4	<b>debug radius</b> <b>Example:</b>  Router# debug radius	RADIUS 関連の情報を表示します。

## IKE アグレッシブ モードの開始の設定例

### ハブの設定例

次に、アグレッシブ モードがサポートされているハブアンドスポーク トポロジのハブを、RADIUS トンネル属性を使用して設定する方法の例を示します。

```
!The AAA configurations are as follows:
aaa new-model
aaa authorization network ike group radius
aaa authentication login default group radius
!
! The Radius configurations are as follows:
radius-server host 10.1.1.1 auth-port 1645 acct-port 1646
radius-server key rad123
!
! The IKE configurations are as follows:
crypto isakmp policy 1
 authentication pre-share
!
! The IPsec configurations are as follows:
crypto ipsec transform-set trans1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map Dmap 10
 set transform-set trans1
!
crypto map Testtag isakmp authorization list ike
crypto map Testtag 10 ipsec-isakmp dynamic Dmap
!
interface FastEthernet0
 ip address 10.4.4.1 255.255.255.0
 crypto map Testtag
!
interface FastEthernet1
 ip address 10.2.2.1 255.255.255.0
```

## スポークの設定例

次に、アグレッシブモードがサポートされているハブアンドスポーク トポロジのスポークを、RADIUS トンネル属性を使用して設定する方法の例を示します。

```
!The IKE configurations are as follows:
crypto isakmp policy 1
 authentication pre-share
!
! The IPsec configurations are as follows:
crypto ipsec transform-set trans1 esp-aes esp-sha-hmac
 access-list 101 permit ip 10.3.3.0 0.0.0.255 10.2.2.0 0.0.0.255
!
! Initiate aggressive mode using Radius tunnel attributes
crypto isakmp peer address 10.4.4.1
 set aggressive-mode client-endpoint user-fqdn user@cisco.com
 set aggressive-mode password cisco123
!
crypto map Testtag 10 ipsec-isakmp
 set peer 10.4.4.1
 set transform-set trans1
 match address 101
!
interface FastEthernet0
 ip address 10.5.5.1 255.255.255.0
 crypto map Testtag
!
interface FastEthernet1
 ip address 10.3.3.1 255.255.255.0
```

## RADIUS ユーザ プロファイルの例

次に、Tunnel-Client-Endpoint および Tunnel-Password 属性がサポートされている RADIUS サーバ上のユーザ プロファイルの例を示します。

```
user@cisco.com Password = "cisco", Service-Type = Outbound
 Tunnel-Medium-Type = :1:IP,
 Tunnel-Type = :1:ESP,
 Cisco:Avpair = "ipsec:tunnel-password=cisco123",
 Cisco:Avpair = "ipsec:key-exchange=ike"
```

## その他の参考資料

次の項では、IKE アグレッシブ モードの開始機能に関連した関連資料を示します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』
認証の設定	「Configuring Authentication」

関連項目	マニュアル タイトル
IKE の設定	「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」
推奨される暗号化アルゴリズム	『 <a href="#">Next Generation Encryption</a> 』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
<ul style="list-style-type: none"> <li>• RFC 2409</li> <li>• RFC 2868</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• RFC 2409、 『<i>The Internet Key Exchange</i>』</li> <li>• RFC 2868、 『<i>RADIUS Attributes for Tunnel Protocol Support</i>』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## IKE アグレッシブ モードの開始の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 269: IKE アグレッシブ モードの開始の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IKE : アグレッシブ モードの開始	Cisco IOS XE Release 2.1	<p>IKE アグレッシブ モードの開始機能を使用すれば、IPsec ピアの RADIUS トンネル属性を指定し、トンネル属性での IKE アグレッシブ モード ネゴシエーションを開始できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto isakmp peer</b>、<b>set aggressive-mode client-endpoint</b>、<b>set aggressive-mode password</b>。</p>





## 第 **XXI** 部

# FlexVPN およびインターネット キー エクスチェンジ

- [FlexVPN の概要, on page 3011](#)
- [インターネット キー エクスチェンジ バージョン 2, on page 3015](#)
- [ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定 \(3051 ページ\)](#)
- [FlexVPN サーバーの設定, on page 3067](#)
- [FlexVPN クライアントの設定, on page 3099](#)
- [FlexVPN スポーク間の設定, on page 3117](#)
- [IKEv2 ロード バランサの設定, on page 3137](#)
- [IKEv2 フラグメンテーションの設定 \(3165 ページ\)](#)
- [IKEv2 再接続の設定 \(3177 ページ\)](#)
- [MPLS over FlexVPN の設定 \(3185 ページ\)](#)
- [IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定 \(3201 ページ\)](#)
- [IKEv2 認可変更のサポートの設定 \(3211 ページ\)](#)
- [集約認証の設定 \(3221 ページ\)](#)
- [付録：FlexVPN の RADIUS 属性, on page 3231](#)
- [付録：IKEv2 VPN および レガシー VPN, on page 3245](#)





## CHAPTER 204

### FlexVPN の概要

RFC 4306 に基づく次世代のキー管理プロトコルであるインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) は、IKE プロトコルの機能拡張です。IKEv2 は、相互認証を実行して SA を確立および管理するために使用します。

FlexVPN は、シスコによる IKEv2 標準の実装であり、サイト間アクセス、リモートアクセス、ハブ アンド スポーク トポロジ、および部分メッシュ (スポーク間ダイレクト) を組み合わせたユニファイド パラダイムと CLI を備えています。FlexVPN は、トンネルインターフェイス パラダイムを広範に使用し、かつ暗号マップを使用してレガシー VPN 実装との互換性を維持するシンプルなモジュラ フレームワークを提供します。

本書の構成は、次のとおりです。

- [インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 \(IKEv2\) および FlexVPN リモート アクセスの設定, on page 3011](#)
- [FlexVPN サーバーの設定, on page 3012](#)
- [FlexVPN クライアントの設定, on page 3012](#)
- [IKEv2 ロード バランサの設定, on page 3012](#)
- [IKEv2 フラグメンテーションの設定 \(3012 ページ\)](#)
- [IKEv2 再接続の設定 \(3012 ページ\)](#)
- [IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定 \(3012 ページ\)](#)
- [IKEv2 認可変更のサポートの設定 \(3013 ページ\)](#)
- [集約認証の設定 \(3013 ページ\)](#)
- [付録 : FlexVPN の RADIUS 属性, on page 3013](#)
- [付録 : IKEv2 VPN および レガシー VPN, on page 3013](#)

## インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) および FlexVPN リモート アクセスの設定

このモジュールでは IKEv2 CLI について説明します。このモジュールは、基本セクションと高度なセクションに分かれています。

基本セクションでは、基本の IKEv2 コマンドを紹介し、IKEv2 スマートデフォルトと FlexVPN リモート アクセスに必要な必須の IKEv2 コマンドについて説明します。このモジュールは、後続の章を理解するための前提条件です。

高度なセクションでは、グローバル IKEv2 コマンドについて説明します。また、デフォルト IKEv2 コマンドをオーバーライドする方法についても説明します。

## FlexVPN サーバーの設定

このモジュールでは、FlexVPN サーバーの機能、FlexVPN サーバーの設定に必要な IKEv2 コマンド、リモート アクセス クライアント、およびサポートされる RADIUS 属性について説明します。

## FlexVPN クライアントの設定

このモジュールでは、FlexVPN クライアント機能と FlexVPN クライアントに必要な IKEv2 コマンドについて説明します。

## IKEv2 ロード バランサの設定

このモジュールでは、IKEv2 ロード バランサ サポート機能と、IKEv2 ロード バランサの設定に必要な IKEv2 コマンドについて説明します。

## IKEv2 フラグメンテーションの設定

RFC 機能に準拠した IKE フラグメンテーションでは、IETF の **draft-ietf-ipsecme-ikev2-fragmentation-10** ドキュメントの提案に従って、インターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 (IKEv2) パケットのフラグメンテーションを実装しました。

## IKEv2 再接続の設定

AnyConnect 機能の AutoReconnect 機能の IOS IKEv2 サポートは、Cisco AnyConnect でユーザーが操作しない、IKEv2 ネゴシエーションの再確立に役立ちます。

## IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定

IKEv2 リモート アクセス認可変更 (CoA) のパケット オブ ディスコネクト機能は、シスコがサポートするデバイスのアクティブな暗号 IKEv2 セッションを停止します。

## IKEv2 認可変更のサポートの設定

FlexVPN - QoS および ACL 用 IKEv2 CoA 機能は、アクティブな IKEv2 暗号セッションでの RADIUS 認可変更 (CoA) をサポートしています。

## 集約認証の設定

FlexVPN RA - Cisco AnyConnect クライアントのサポートを拡張することで、AnyConnect 機能の集約認証サポートは、集約認証方式を実装します。このクライアントでは、独自の AnyConnect EAP 認証方式を使用し、Cisco AnyConnect クライアントと FlexVPN サーバー間にインターネットを介したセキュア トンネルを確立します。

## 付録：FlexVPN の RADIUS 属性

このモジュールでは、FlexVPN サーバーでサポートされる RADIUS 属性について説明します。

## 付録：IKEv2 VPN および レガシー VPN

このモジュールには、暗号化マップやインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) による DMVPN などのレガシー VPN の設定例が含まれています。





## CHAPTER 205

# インターネット キー エクスチェンジバージョン 2

このモジュールには、基本および高度なインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) の情報と設定手順が含まれています。このモジュールの IKEv2 のタスクおよび設定例は、次のように分類されます。

- 基本の IKEv2 : 基本の IKEv2 コマンド、IKEv2 スマート デフォルト、基本の IKEv2 プロファイル、および IKEv2 キー リングに関する情報が示されています。
- 高度な IKEv2 : グローバルな IKEv2 コマンドに関する情報と、IKEv2 スマート デフォルトのオーバーライド方法が示されています。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイト ペーパーを参照してください。

- [インターネット キー交換バージョン 2 の設定に関する前提条件, on page 3016](#)
- [インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 の設定に関する制約事項, on page 3016](#)
- [インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 に関する情報, on page 3016](#)
- [インターネット キー交換バージョン 2 の設定方法, on page 3022](#)
- [インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 の設定例, on page 3039](#)
- [次の作業, on page 3046](#)
- [インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 \(IKEv2\) のその他の関連資料, on page 3046](#)
- [インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 \(IKEv2\) の設定に関する機能情報, on page 3048](#)

# インターネット キー交換バージョン2の設定に関する前提条件

「Configuring Security for VPNs with IPsec」モジュールで説明している概念および作業を理解している必要があります。

## インターネット キー エクスチェンジバージョン2の設定に関する制約事項

特定のプラットフォーム上でサポートされないオプションを設定することはできません。たとえば、セキュリティプロトコルでハードウェアクリプトエンジンの機能が重要である場合、エクスポート可能でないイメージ内で Triple Data Encryption Standard (3DES) または Advanced Encryption Standard (AES) の各タイプの暗号化トランスフォームを指定できず、暗号エンジンでサポートされない暗号化アルゴリズムを指定できません。

## インターネット キー エクスチェンジバージョン2に関する情報

### IKEv2 のサポート対象規格

シスコでは、インターネット キー エクスチェンジバージョン2 (IKEv2) で使用するための IP セキュリティ (IPsec) プロトコル規格を実装しています。



**Note** DES または MD5 (HMAC バリエーションを含む) の使用は、現在推奨されていません。代わりに、AES および SHA-256 を使用してください。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

IKEv2 で実装されるコンポーネント技術は、次のとおりです。

- AES-CBC : 高度暗号化規格暗号ブロック連鎖 (AES-CBC)。
- SHA (HMAC バリエーション) : セキュア ハッシュ アルゴリズム (SHA)。
- Diffie-Hellman : 公開キー暗号法プロトコル。
- DES : データ暗号規格 (現在は推奨されていません)。



- MD5 (HMAC (ハッシュベースのメッセージ認証コード) バリエーション) : メッセージダイジェスト アルゴリズム 5 (現在は推奨されていません)。

サポートされる規格およびコンポーネント技術の詳細については、『*Internet Key Exchange for IPsec VPNs Configuration Guide*』の『*Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs*』モジュールにある「Supported Standards for Use with IKE」の項を参照してください。

## IKEv2 の利点

### デッド ピア検出とネットワーク アドレス変換トラバーサル

インターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 (IKEv2) にはデッド ピア検出 (DPD) とネットワーク アドレス変換トラバーサル (NAT-T) のサポートが組み込まれています。

### 証明書の URL

証明書はIKEv2 パケット内で送信されるのではなく URL とハッシュを通じて参照できるため、フラグメンテーションを回避できます。

### DoS 攻撃の復元力

IKEv2 は、要求者を確認するまで要求を処理しません。これにより、偽の場所から大量の暗号化 (高コスト) 処理を実行するようにスプーフィングされる可能性がある IKEv1 でのサービス妨害 (DoS) の問題にある程度対処しています。

### EAP のサポート

IKEv2 では認証に Extensible Authentication Protocol (EAP) を使用できます。

### 複数の暗号エンジン

ネットワークに IPv4 と IPv6 の両方のトラフィックがあり、複数の暗号エンジンがある場合、次のいずれかの設定オプションを選択します。

- 1 つのエンジンで IPv4 トラフィックを処理し、他方のエンジンで IPv6 トラフィックを処理する。
- 1 つのエンジンで IPv4 と IPv6 の両方のトラフィックを処理する。

### 信頼性と状態管理 (ウィンドウイング)

IKEv2 では、信頼性を提供するためにシーケンス番号と確認が使用され、エラー処理ロジックと共有状態管理が要求されます。

## インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 CLI の構成

### IKEv2 プロポーザル

インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) のプロポーザルは、IKE\_SA\_INIT 交換の一部としてインターネット キー エクスチェンジ (IKE) セキュリティ アソシエーション (SA) のネゴシエーションで使用されるトランスフォームのコレクションです。ネゴシエーションで使用されるトランスフォームのタイプは、次のとおりです。

- 暗号化アルゴリズム
- 整合性アルゴリズム
- Pseudo-Random Function (PRF) アルゴリズム
- デフィーヘルマン (DH) グループ

デフォルト IKEv2 プロポーザルについては、「IKEv2 スマート デフォルト」の項を参照してください。デフォルト IKEv2 プロポーザルをオーバーライドする方法および新しいプロポーザルを定義する方法については、高度な IKEv2 CLI 構造の設定に関する項を参照してください。

### IKEv2 ポリシー

IKEv2 ポリシーには、IKE\_SA\_INIT 交換での暗号化、整合性、PRF アルゴリズム、および DH グループのネゴシエーションに使用されるプロポーザルが含まれています。これには match 文を含めることができ、ネゴシエーション時にポリシーを選択するための選択基準として使用されます。

デフォルト IKEv2 ポリシーについては、「IKEv2 スマート デフォルト」の項を参照してください。デフォルト IKEv2 ポリシーをオーバーライドする方法および新しいポリシーを定義する方法については、高度な IKEv2 CLI 構造の設定に関する項を参照してください。

### IKEv2 プロファイル

IKEv2 プロファイルは、IKE SA のネゴシエーション可能でないパラメータ（ローカル ID またはリモート ID および認証方式）と、そのプロファイルと一致する認証相手を使用できるサービスのリポジトリです。IKEv2 プロファイルは、発信側の暗号マップまたは IPsec プロファイルのいずれかにアタッチされる必要があります。IKEv2 プロファイルは、応答側では必須ではありません。

### IKEv2 キー リング

IKEv2 キー リングは対称および非対称の事前共有キーのリポジトリであり、IKEv1 キー リングとは無関係です。IKEv2 キー リングは 1 つの IKEv2 プロファイルと関連付けられるため、その IKEv2 プロファイルに一致する一連のピアをサポートします。IKEv2 キー リングは、関連付けられた IKEv2 プロファイルから VPN ルーティングおよび転送 (VRF) コンテキストを取得します。

## IKEv2 スマート デフォルト

IKEv2 スマート デフォルト機能は、ほとんどの使用例に対応することで FlexVPN 設定を最小化します。IKEv2 スマート デフォルトは特定の使用例向けにカスタマイズできますが、これはお勧めしません。

デフォルト IKEv2 構造を変更する方法については、高度な IKEv2 CLI 構造の設定に関する項を参照してください。

次のルールが IKEv2 スマート デフォルト機能に適用されます。

1. デフォルト設定は、**default** をキーワードとして指定して引数を指定しない、対応する **show** コマンドで表示されます。たとえば、**show crypto ikev2 proposal default** コマンドではデフォルト IKEv2 プロポーザルが表示され、**show crypto ikev2 proposal** コマンドではユーザー設定されたプロポーザルと共にデフォルト IKEv2 プロポーザルが表示されます。
2. デフォルト設定は、**show running-config all** コマンドで表示されます。**show running-config** コマンドでは表示されません。
3. **show running-config all** コマンドで表示されるデフォルト設定を変更できます。
4. コマンドの **no** 形式 (**no crypto ikev2 proposal default** など) を使用して、デフォルト設定を無効にすることができます。無効化されたデフォルト設定はネゴシエーションで使用されませんが、設定は **show running-config** コマンドで表示されます。無効化されたデフォルト設定では、ユーザー変更が失われてシステム設定値が復元されます。
5. デフォルト設定は、コマンドのデフォルト形式 (**default crypto ikev2 proposal** など) を使用すると再度有効にすることができ、システム設定値が復元されます。
6. デフォルト トランスフォーム セットのデフォルト モードは、トランスポートです。その他すべてのトランスフォーム セットのデフォルト モードは、トンネルです。



**Note** MD5 (HMAC バリエーションを含む) や Diffie-Hellman (DH) グループ 1、2、および 5 の使用は、現在は推奨されていません。代わりに、SHA-256 および DH グループ 14 以降を使用してください。最新のシスコの暗号化の推奨事項の詳細については、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) のホワイト ペーパーを参照してください。

次の表に、IKEv2 スマート デフォルト機能によって有効化されるコマンドをデフォルト値と共に示します。

Table 270: IKEv2 コマンドのデフォルト

コマンド名	デフォルト値
<b>crypto ikev2 authorization policy</b>	Device# <b>show crypto ikev2 authorization policy default</b>  IKEv2 Authorization policy: default route set interface route accept any tag: 1 distance: 2

コマンド名	デフォルト値
<b>crypto ikev2 proposal</b>	<pre>Device# show crypto ikev2 proposal  IKEv2 proposal: default Encryption: AES-CBC-256 Integrity: SHA512 SHA384 PRF: SHA512 SHA384 DH Group: DH_GROUP_256_ECP/Group 19 DH_GROUP_2048_MODP/Group 14 DH_GROUP_521_ECP/Group 21 DH_GROUP_1536_MODP/Group 5</pre>
<b>crypto ikev2 policy</b>	<pre>Device# show crypto ikev2 policy default  IKEv2 policy: default Match fvrf: any Match address local: any Proposal: default</pre>
<b>crypto ipsec profile</b>	<pre>Device# show crypto ipsec profile default  IPSEC profile default Security association lifetime: 4608000 kilobytes/3600 seconds Responder-Only (Y/N): N PFS (Y/N): N Transform sets={ default: { esp-aes esp-sha-hmac }, }</pre>
<b>crypto ipsec transform-set</b>	<pre>Device# show crypto ipsec transform-set default  Transform set default: { esp-aes esp-sha-hmac } will negotiate = { Tunnel, },</pre>



**Note** デフォルト IPsec プロファイルを使用する前に、**tunnel protection ipsec profile default** コマンドを使用してトンネルインターフェイスで **crypto ipsec profile** コマンドを明示的に指定します。



**Note** 他の CLI への明示的なマッピングが必要な「デフォルト」キーワードは、YANG 設定で実行されているデバイスではサポートされていません。

## IKEv2 Suite-B サポート

Suite-B は、暗号の近代化プログラムの一環として国家安全保障局によって交付された一連の暗号化アルゴリズムです。インターネットキーエクスチェンジ (IKE) および IPsec の Suite-B は、RFC 4869 で定義されます。Suite-B のコンポーネントは、次のとおりです。

- IKEv2 プロポーザルで設定された Advanced Encryption Standard (AES) の 128 ビット キー および 256 ビット キー。データ トラフィックの場合、AES は、IPsec トランスフォーム セットに設定されるガロア カウンタ モード (GCM) で使用する必要があります。
- IKEv2 プロファイルに設定された楕円曲線デジタル署名アルゴリズム (ECDSA)。
- IKEv2 プロポーザルおよび IPsec トランスフォーム セットに設定されたセキュア ハッシュ アルゴリズム 2 (SHA-256 および SHA-384)。

Suite-B の要件は、IKE および IPsec で使用するために、暗号化アルゴリズムの 4 つのユーザー インターフェイススイートで構成されています。各スイートは、暗号化アルゴリズム、デジタル署名アルゴリズム、キー合意アルゴリズム、ハッシュまたはメッセージダイジェストアルゴリズムで構成されています。Cisco での Suite-B サポートに関する詳細については、『Configuring Security for VPNs with IPsec』機能モジュールを参照してください。

## AES-GCM のサポート

認証済みの暗号化アルゴリズムは、暗号化と整合性の組み合わさった機能を提供します。このようなアルゴリズムは、連結モードアルゴリズムと呼ばれます。IOS 上における IKEv2 暗号としての AES-GCM サポート機能では、ガロア/カウンタモードの Advanced Encryption Standard (AES-GCM) を追加することによって、IKEv2 プロトコルの暗号化メッセージに認証済みの暗号化アルゴリズムを使用できます。AES-GCM は、128 ビットおよび 256 ビットのキー サイズ (AES-GCM-128 および AES-GCM-256) をサポートします。



- 
- (注) 暗号化アルゴリズムが AES-GCM のみの場合、整合性アルゴリズムをプロポーザルに追加することはできません。
- 

## IKEv2 での自動トンネルモードのサポート

複数ベンダー シナリオで VPN ヘッドエンドを設定する場合は、ピアまたはレスポンドの技術的な詳細を認識しておく必要があります。たとえば、一部のデバイスは IPsec トンネルを使用しているが、他のデバイスは Generic Routing Encapsulation (GRE) または IPsec トンネルを使用している場合やトンネルが IPv4 または IPv6 の場合があります。最後のケースでは、インターネットキーエクスチェンジ (IKE) プロファイルと仮想テンプレートを設定する必要があります。

トンネルモード自動選択機能は、設定を容易にし、レスポンドの詳細の入手を支援します。この機能は、IKE プロファイルから仮想アクセスインターフェイスが作成されるとすぐに、トンネリングプロトコル (GRE または IPsec) とトランスポートプロトコル (IPv4 または IPv6) を自動的に仮想テンプレートに適用します。この機能は、Cisco AnyConnect VPN Client や Microsoft Windows 7 Client などのマルチベンダー リモートアクセスを集約しているデュアルスタック ハブ上で役に立ちます。



(注) トンネル モード自動選択機能は、レスポンドの設定のみを容易にします。トンネルはイニシエータに対して静的に設定する必要があります。

トンネル モードの自動選択機能は、IKEv2 プロファイル設定で **virtual-template** コマンドに **auto mode** キーワードを使用するとアクティブ化できます。

## インターネット キー交換バージョン2 の設定方法

### 基本のインターネット キー エクスチェンジバージョン2 CLI 構造の設定

暗号化インターフェイスで IKEv2 を有効にするには、インターネット キー エクスチェンジバージョン2 (IKEv2) プロファイルをそのインターフェイスに適用される暗号マップまたは IPsec プロファイルにアタッチします。IKEv2 応答側では、この手順は任意です。



**Note** IKEv1 と IKEv2 の違いは、IKEv1 はデバイス上のすべてのインターフェイスでグローバルに有効になっているため、個々のインターフェイスで IKEv1 を有効にする必要がないことです。

基本の IKEv2 構造を手動で設定するには、次のタスクを実行します。

#### IKEv2 キーリングの設定

このタスクは、ローカルまたはリモート認証方式が事前共有キーの場合に、IKEv2 キーリングを設定するために実行します。

IKEv2 キーリング キーは、ピア サブブロックを定義するピア コンフィギュレーション サブモードで設定する必要があります。IKEv2 キーリングには、複数のピアサブブロックを含めることができます。1つのピアサブブロックには、ホスト名、ID、および IP アドレスの任意の組み合わせで識別される1つのピアまたはピア グループ用の単一の対称または非対称キーペアが含まれています。

IKEv2 キーリングは IKEv1 キーリングと無関係です。主な違いは次のとおりです。

- IKEv2 キーリングは、対称事前共有キーと非対称事前共有キーをサポートします。
- IKEv2 キーリングは、Rivest、Shamir、および Adleman (RSA) 公開キーをサポートしません。
- IKEv2 キーリングは、IKEv2 プロファイル内で指定され、ロックアップされないため、事前共有キー認証方式をネゴシエートするために MM1 の受信時にキーがロックアップされる IKEv1 とは異なります。IKEv2 では、認証方式がネゴシエートされません。

- IKEv2 キーリングは、設定時に VPN ルーティングおよび転送 (VRF) と関連付けられません。IKEv2 キーリングの VRF は、そのキーリングを参照している IKEv2 プロファイルの VRF です。
- 複数のキーリングを指定できる IKEv1 プロファイルとは異なり、IKEv2 プロファイルでは1つのキーリングを指定できます。
- 同じキーが別々のプロファイルと一致するピア全体で共有されている場合は、1つのキーリングを複数の IKEv2 プロファイルで指定できます。
- IKEv2 キーリングは1つ以上のピアサブブロックとして構造化されます。

IKEv2 イニシエータでは、ピアのホスト名またはアドレスを使用してその順に IKEv2 キーリング キールックアップが実行されます。IKEv2 レスポンダでは、ピアの IKEv2 ID またはアドレスを使用してその順にキールックアップが実行されます。



**Note** 複数のピアで同じ ID を設定することはできません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 keyring** *keyring-name*
4. **peer** *name*
5. **description** *line-of-description*
6. **hostname** *name*
7. **address** {*ipv4-address* [*mask*] | *ipv6-address prefix*}
8. **identity** {**address** {*ipv4-address* | *ipv6-address*} | **fqdn domain** *domain-name* | **email domain** *domain-name* | **key-id** *key-id*}
9. **pre-shared-key** {**local** | **remote**} [**0** | **6**] *line hex hexadecimal-string*
10. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto ikev2 keyring</b> <i>keyring-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 keyring kyr1	IKEv2 キーリングを定義し、IKEv2 キーリング コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>peer</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-keyring)# peer peer1	ピアまたはピア グループを定義し、IKEv2 キーリング コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>description</b> <i>line-of-description</i> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-keyring-peer)# description this is the first peer	(任意) ピアまたはピア グループを記述します。
ステップ 6	<b>hostname</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-keyring-peer)# hostname host1	ホスト名を使用してピアを指定します。
ステップ 7	<b>address</b> { <i>ipv4-address</i> [ <i>mask</i> ]   <i>ipv6-address prefix</i> } <b>Example:</b> Device(config-ikev2-keyring-peer)# address 10.0.0.1 255.255.255.0	ピアの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または範囲を指定します。 <b>Note</b> この IP アドレスが IKE エンドポイントアドレスであり、ID アドレスとは別個のものです。
ステップ 8	<b>identity</b> { <b>address</b> { <i>ipv4-address</i>   <i>ipv6-address</i> }   <b>fqdn domain</b> <i>domain-name</i>   <b>email domain</b> <i>domain-name</i>   <b>key-id</b> <i>key-id</i> } <b>Example:</b> Device(config-ikev2-keyring-peer)# identity address 10.0.0.5	次の ID を使用して IKEv2 ピアを特定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子メール</li> <li>• 完全修飾ドメイン名 (FQDN)。</li> </ul> <b>Note</b> キーリング設定で、ピアを識別するために FQDN が使用されている場合は、FQDN とともにピアの IP アドレスを使用します。 <pre>crypto ikev2 keyring key1 peer headend-1 address 1.1.1.1 &gt;&gt;&gt;&gt;&gt;&gt;&gt;&gt; identity fqdn NFVIS-headend-1.cisco.com pre-shared-key Cisco123</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス</li> <li>• キー ID</li> </ul> <b>Note</b> ID は IKEv2 レスポンダ上のキー ルックアップにしか使用できません。
ステップ 9	<b>pre-shared-key</b> { <b>local</b>   <b>remote</b> } [ <b>0</b>   <b>6</b> ] <i>line hex hexadecimal-string</i>	ピアの事前共有キーを指定します。



	Command or Action	Purpose
	<b>Example:</b> Device(config-ikev2-keyring-peer)# pre-shared-key local key1	
ステップ 10	<b>end</b>  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-keyring-peer)# end	IKEv2 キーリング ピア コンフィギュレーション モードを終了して、特権EXECモードに戻ります。

## 次の作業

IKEv2 キーリングの設定後、IKEv2 プロファイルを設定します。詳細については、「IKEv2 プロファイルの設定（基本）」セクションを参照してください。

## IKEv2 プロファイルの設定（基本）

このタスクは、IKEv2 プロファイル用の必須コマンドを設定するために実行します。

IKEv2 プロファイルは、IKE セキュリティ アソシエーション（SA）（ローカル ID またはリモート ID と認証方式など）のネゴシエーション不能パラメータと、そのプロファイルと一致する認証されたピアが使用可能なサービスのリポジトリです。IKEv2 プロファイルは、設定して、IKEv2 イニシエータ上のクリプトマップと IPSec プロファイルのどちらかに関連付ける必要があります。プロファイルを暗号マップまたは IPSec プロファイルに関連付けるには、**set ikev2-profile profile-name** コマンドを使用します。プロファイルの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

次のルールが **match** ステートメントに適用されます。

- IKEv2 プロファイルには、**match identity** ステートメントまたは **match certificate** ステートメントを含める必要があります。そうしないと、プロファイルが不完全と見なされ、使用されません。IKEv2 プロファイルには、複数の **match identity** ステートメントまたは **match certificate** ステートメントを含めることができます。
- IKEv2 プロファイルには、単一の **match Front Door VPN routing and forwarding (FVRF)** ステートメントを含める必要があります。
- プロファイルを選択すると、同じタイプの複数の **match** ステートメントが論理的に OR され、違うタイプの複数の **match** ステートメントが論理的に AND されます。
- **match identity** ステートメントと **match certificate** ステートメントは、同じタイプのステートメントと見なされ、OR されます。
- 重複したプロファイルの設定は、設定ミスと見なされます。複数のプロファイルが一致した場合は、どのプロファイルも選択されません。

IKEv2 プロファイルを表示するには、**show crypto ikev2 profile profile-name** コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 profile** *profile-name*
4. **description** *line-of-description*
5. **aaa accounting** {**psk** | **cert** | **eap**} *list-name*
6. **authentication** {**local** {**rsa-sig** | **pre-share** [**key** {**0** | **6**} *password*]} | **ecdsa-sig** | **eap** [**gtc** | **md5** | **ms-chapv2**] [**username** *username*] [**password** {**0** | **6**} *password*]} | **remote** {**eap** [**query-identity** | **timeout** *seconds*] | **rsa-sig** | **pre-share** [**key** {**0** | **6**} *password*]} | **ecdsa-sig**}}
7. **dpd** *interval* *retry-interval* {**on-demand** | **periodic**}
8. **dynamic**
9. **identity local** {**address** {*ipv4-address* | *ipv6-address*} | **dn** | **email** *email-string* | **fqdn** *fqdn-string* | **key-id** *opaque-string*}
10. **initial-contact force**
11. **ivrf** *name*
12. **keyring** {**local** *keyring-name* | **aaa** *list-name* [**name-mangler** *mangler-name* | **password** *password* ] }
13. **lifetime** *seconds*
14. **match** {**address local** {*ipv4-address* | *ipv6-address* | **interface** *name*} | **certificate** *certificate-map* | **fvrf** {*fvrf-name* | **any**} | **identity remote address** {*ipv4-address* [*mask*] | *ipv6-address* *prefix*} | {**email** [*domain string*] | **fqdn** [*domain string*]} *string* | **key-id** *opaque-string*}
15. **nat keepalive** *seconds*
16. **pki trustpoint** *trustpoint-label* [**sign** | **verify**]
17. **virtual-template** *number* **mode auto**
18. **shutdown**
19. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 profile</b> <i>profile-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 profile profile1	IKEv2 プロファイルを定義し、IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>description</b> <i>line-of-description</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-profile)# description This is an IKEv2 profile</pre>	(任意) プロファイルを記述します。
ステップ 5	<b>aaa accounting</b> { <b>psk</b>   <b>cert</b>   <b>eap</b> } <i>list-name</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-profile)# aaa accounting eap list1</pre>	(任意) IPsec セッションの認証、認可、およびアカウントリング (AAA) アカウントリング方式リストを有効にします。 <b>Note</b> <b>psk</b> 、 <b>cert</b> 、または <b>eap</b> キーワードが指定されなかった場合は、ピア認証方式に関係なく、AAA アカウントリング方式リストが使用されます。
ステップ 6	<b>authentication</b> { <b>local</b> { <b>rsa-sig</b>   <b>pre-share</b> [ <b>key</b> { <b>0</b>   <b>6</b> } <i>password</i> ]}   <b>ecdsa-sig</b>   <b>eap</b> [ <b>gtc</b>   <b>md5</b>   <b>ms-chapv2</b> ] [ <b>username</b> <i>username</i> ] [ <b>password</b> { <b>0</b>   <b>6</b> } <i>password</i> ]}   <b>remote</b> { <b>eap</b> [ <b>query-identity</b>   <b>timeout</b> <i>seconds</i> ]   <b>rsa-sig</b>   <b>pre-share</b> [ <b>key</b> { <b>0</b>   <b>6</b> } <i>password</i> ]}   <b>ecdsa-sig</b> }} <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-profile)# authentication local ecdsa-sig</pre>	ローカルまたはリモートの認証方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>rsa-sig</b> : 認証方式として RSA-sig を指定します。</li> <li>• <b>pre-share</b> : 認証方式として事前共有キーを指定します。</li> <li>• <b>ecdsa-sig</b> : 認証方式として ECDSA-sig を指定します。</li> <li>• <b>eap</b> : リモート認証方式として EAP を指定します。</li> <li>• <b>query-identity</b> : ピアに EAP ID を問い合わせます。</li> <li>• <b>timeout</b> <i>seconds</i> : 最初の IKE_AUTH 応答を返してから次の IKE_AUTH 要求を受け取るまでの期間を秒単位で指定します。</li> </ul> <b>Note</b> ローカル認証方式は1つしか指定できませんが、リモート認証方式は複数指定できます。
ステップ 7	<b>dpd interval</b> <i>retry-interval</i> { <b>on-demand</b>   <b>periodic</b> } <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-profile)# dpd 30 6 on-demand</pre>	この手順は任意です。(任意) プロファイルと一致したピアの Dead Peer Detection (DPD; デッドピア検出) をグローバルに設定します。デフォルトでは、Dead Peer Detection (DPD; デッドピア検出) は無効化されています。

	Command or Action	Purpose
		<p><b>Note</b> この手順の例では、着信 ESP トラフィックがない場合、最初の DPD が 30 秒後に送信されます。6 秒間（指定された再試行間隔）待機した後、DPD 再試行が 6 秒間隔でアグレッシブに 5 回送信されます。そのため、合計 66 秒（<math>30 + 6 + 6 \times 5 = 66</math>）が経過すると、DPD によって暗号化セッションが切断されます。</p>
ステップ 8	<p><b>dynamic</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# dynamic</pre>	<p>ダイナミック IKEv2 プロファイルを設定します。このキーワードは、Cisco IOS XE 17.2.1 リリースで導入されました。</p> <p><b>Note</b> 動的プロファイルを設定する場合、コマンドラインインターフェイスを使用して、ローカルまたはリモートの認証とアイデンティティを設定することはできません。</p>
ステップ 9	<p><b>identity local {address {ipv4-address   ipv6-address}   dn   email email-string   fqdn fqdn-string   key-id opaque-string}</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# identity local email abc@example.com</pre>	<p>この手順は任意です。（任意）ローカル IKEv2 アイデンティティタイプを指定します。</p> <p><b>Note</b> ローカル認証方式が事前共有キーの場合は、デフォルトのローカル ID が IP アドレスになります。ローカル認証方式が Rivest、Shamir、および Adleman (RSA) 署名の場合は、デフォルトのローカル ID が識別名になります。</p>
ステップ 10	<p><b>initial-contact force</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# initial-contact force</pre>	<p>初期連絡先通知が IKE_AUTH 交換で受信されなかった場合に、初期連絡先処理を強制します。</p>
ステップ 11	<p><b>ivrf name</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# ivrf vrf1</pre>	<p>この手順は任意です。IKEv2 プロファイルがクリプトマップに適用されている場合に、ユーザー定義の VPN ルーティングおよび転送 (VRF) またはグローバル VRF を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IKEv2 プロファイルをトンネル保護に使用している場合は、トンネルインターフェイス上で内部 VRF (IVRF) を設定する必要があります。</li> </ul> <p><b>Note</b> IVRF は、クリアテキストパケット用の VRF を指定します。IVRF のデフォルト値は FVRF です。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 12	<p><b>keyring</b> {<b>local</b> <i>keyring-name</i>   <b>aaa</b> <i>list-name</i> [<b>name-mangler</b> <i>mangler-name</i>   <b>password</b> <i>password</i> ] }</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# keyring aaa keyring1 name-mangler mangler1</pre>	<p>ローカルまたはリモートの事前共有キー認証方式で使用する必要があるローカルまたは AAA ベースのキーリングを指定します。</p> <p><b>Note</b> 1つのキーリングしか指定することができません。ローカル AAA は AAA ベースの事前共有キーに対してサポートされません。</p> <p><b>Note</b> リリースによっては、<b>local</b> キーワードと <b>name-mangler</b> <i>mangler-name</i> キーワード引数ペアを使用する必要があります。</p> <p><b>Note</b> AAA を使用する場合、Radius アクセス要求のデフォルトパスワードは「cisco」です。パスワードを変更するには、<b>keyring</b> コマンド内で <b>password</b> キーワードを使用します。</p> <p><b>Note</b> IKEv2 プロファイルからキーリングを削除するには、<b>no keyring</b> {<b>aaa</b>   <b>local</b>   <b>ppk</b>} <i>keyring-name</i> コマンドを使用します。</p>
ステップ 13	<p><b>lifetime</b> <i>seconds</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# lifetime 1000</pre>	<p>IKEv2 SA のライフタイムを秒単位で指定します。</p>
ステップ 14	<p><b>match</b> {<b>address</b> <b>local</b> {<i>ipv4-address</i>   <i>ipv6-address</i>   <b>interface</b> <i>name</i>}   <b>certificate</b> <i>certificate-map</i>   <b>fvr</b> {<i>fvr-name</i>   <b>any</b>}   <b>identity</b> <b>remote</b> <b>address</b> {<i>ipv4-address</i> [<i>mask</i>]   <i>ipv6-address</i> <i>prefix</i>}   {<b>email</b> [<i>domain string</i>]   <b>fqdn</b> [<i>domain string</i>]} <i>string</i>   <b>key-id</b> <i>opaque-string</i>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# match address local interface Ethernet 2/0</pre>	<p>match ステートメントを使用して、ピア用の IKEv2 プロファイルを選択します。</p>
ステップ 15	<p><b>nat</b> <b>keepalive</b> <i>seconds</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# nat keepalive 500</pre>	<p>(任意) NAT キープアライブを有効にして、その期間を秒単位で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトでは、NATは無効になっています。</li> </ul>
ステップ 16	<p><b>pki</b> <b>trustpoint</b> <i>trustpoint-label</i> [<b>sign</b>   <b>verify</b>]</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# pki trustpoint tsp1 sign</pre>	<p>RSA 署名認証方式で使用する Public Key Infrastructure (PKI) トラストポイントを指定します。</p> <p><b>Note</b> <b>sign</b> または <b>verify</b> キーワードが指定されていない場合、トラストポイントは署名と検証に使用されます。</p>

	Command or Action	Purpose
		<b>Note</b> IKEv1 とは対照的に、証明書ベースの認証を成功させるためにトラストポイントを IKEv2 プロファイル内で設定する必要があります。このコマンドが設定内に存在しない場合は、グローバルに設定されたトラストポイントのフォールバックが存在しません。トラストポイント設定は IKEv2 イニシエータおよびレスポンスに適用されます。
ステップ 17	<b>virtual-template <i>number</i> mode auto</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-profile)# virtual-template 1 mode auto	この手順は任意です。仮想アクセスインターフェイス (VAI) のクローニング用の仮想テンプレートを指定します。  • <b>mode auto</b> : トンネルモード自動選択機能を有効にします。  <b>Note</b> IPsec ダイナミック仮想トンネルインターフェイス (DVTI) では、仮想テンプレートを IKEv2 セッションが開始されない IKEv2 プロファイル内で指定する必要があります。
ステップ 18	<b>shutdown</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-profile)# shutdown	(任意) IKEv2 プロファイルをシャットダウンします。
ステップ 19	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-profile)# end	IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 高度なインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 CLI 構造の設定

この項では、グローバル IKEv2 CLI 構造について説明します。また、IKEv2 のデフォルト CLI 構造をオーバーライドする方法についても説明します。IKEv2 スマートデフォルトは、ほとんどの使用例をサポートします。そのため、デフォルトで対応されない特定の使用例に必要な場合にのみ、デフォルトをオーバーライドすることをお勧めします。

高度な IKEv2 CLI 構造を設定するには、次のタスクを実行します。

### グローバル IKEv2 オプションの設定

この作業は、ピアに依存しないグローバル IKEv2 オプションを設定するために実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 certificate-cache *number-of-certificates***
4. **crypto ikev2 cookie-challenge *number***
5. **crypto ikev2 diagnose error *number***
6. **crypto ikev2 dpd *interval* *retry-interval* {*on-demand* | *periodic*}**
7. **crypto ikev2 http-url *cert***
8. **crypto ikev2 limit { *max-in-negotiation-sa limit* | *max-sa limit*}**
9. **crypto ikev2 nat keepalive *interval***
10. **crypto ikev2 window *size***
11. **crypto logging ikev2**
12. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 certificate-cache <i>number-of-certificates</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 certificate-cache 750	HTTP URL から取得した証明書を保存するためのキャッシュ サイズを定義します。
ステップ 4	<b>crypto ikev2 cookie-challenge <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 cookie-challenge 450	ハーフオープンセキュリティアソシエーション (SA) の数が設定された値を超えた場合にだけ、IKEv2 cookie チャレンジを有効にします。  • Cookie チャレンジは、デフォルトで無効化されています。
ステップ 5	<b>crypto ikev2 diagnose error <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 diagnose error 500	IKEv2 エラーの診断を有効にして終了パス データベースのエントリ数を定義します。  • IKEv2 エラー診断はデフォルトでは無効化されています。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>crypto ikev2 dpd interval retry-interval {on-demand   periodic}</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 dpd 30 6 on-demand	ピアを次のようにライブでチェックできるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dead Peer Detection (DPD : デッドピア検出) はデフォルトでは無効化されています。</li> </ul> <b>Note</b> この手順の例では、着信 ESP トラフィックがない場合、最初の DPD が 30 秒後に送信されます。6 秒間 (指定された再試行間隔) 待機した後、DPD 再試行が 6 秒間隔でアグレッシブに 5 回送信されます。そのため、合計 66 秒 (30 + 6 + 6 X 5 = 66) が経過すると、DPD によって暗号化セッションが切断されます。
ステップ 7	<b>crypto ikev2 http-url cert</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 http-url cert	HTTP CERT サポートを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• HTTP CERT は、デフォルトで無効化されています。</li> </ul>
ステップ 8	<b>crypto ikev2 limit { max-in-negotiation-sa limit   max-sa limit}</b> <b>Example:</b>	コネクション アドミッション制御 (CAC) を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• コネクション アドミッション制御はデフォルトで有効化されています。</li> </ul>
ステップ 9	<b>crypto ikev2 nat keepalive interval</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 nat keepalive 500	ネットワーク アドレス変換 (NAT) のキープアライブを有効にして、インターネットキーエクスチェンジ (IKE) ピア間に NAT がある場合に、任意のトラフィックが欠けることによる NAT の削除を防ぎます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• NAT キープアライブはデフォルトで無効化されています。</li> </ul>
ステップ 10	<b>crypto ikev2 window size</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 window 15	送信時に複数の IKEv2 要求と応答のピアを許可します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルトのウィンドウサイズは 5 です。</li> </ul>
ステップ 11	<b>crypto logging ikev2</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto logging ikev2	IKEv2 Syslog メッセージを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルトでは、IKEv2 syslog メッセージは無効化されています。</li> </ul>
ステップ 12	<b>end</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。



	Command or Action	Purpose
	Device (config)# end	

## IKEv2 フラグメンテーションの設定

このタスクを実行して、大規模な IKEv2 パケットのラグメンテーションを有効にします。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. crypto ikev2 fragmentation [ mtu mtu-size]
4. end

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 fragmentation [ mtu mtu-size]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 fragmentation mtu 100	IKEv2 フラグメンテーションを設定します。  • MTU の範囲は 96 ～ 1500 バイトです。デフォルトの MTU サイズは、IPv4 パケットでは 576 バイト、IPv6 パケットでは 1280 バイトです。  <b>Note</b> MTU のサイズは、IP または UDP でカプセル化された IKEv2 パケットを示します。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device (config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IKEv2 プロポーザルの設定

デフォルトの IKEv2 プロポーザルについては、「IKEv2 スマート デフォルト」の項を参照してください。

このタスクは、デフォルトプロポーザルを使用しない場合に、デフォルト IKEv2 プロポーザルをオーバーライドするか、手動でプロポーザルを設定するために実行します。

IKEv2 プロポーザルは、IKE\_SA\_INIT 交換の一部として IKEv2 SA のネゴシエーションに使用されるトランスフォームのセットです。IKEv2 プロポーザルは、少なくとも1つの暗号化アルゴリズム、整合性アルゴリズム、および Diffie-Hellman (DH) グループが設定されている場合にのみ、完全であるとみなされます。プロポーザルが設定されておらず、IKEv2 ポリシーにアタッチされていない場合は、デフォルト IKEv2 ポリシー内のデフォルト プロポーザルがネゴシエーションで使用されます。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

IKEv2 プロポーザルは **crypto isakmp policy** コマンドに似ていますが、IKEv2 プロポーザルには次のような違いがあります。

- IKEv2 プロポーザルを使用すると、各トランスフォームタイプに対して1つ以上のトランスフォームを設定できます。
- IKEv2 プロポーザルには関連付けられた優先順位はありません。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 proposal *name***
4. **encryption *encryption-type...***
5. **integrity *integrity-type...***
6. **group *group-type...***
7. **prf *prf-algorithm***
8. **end**
9. **show crypto ikev2 proposal [*name* | default]**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 3	<b>crypto ikev2 proposal name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 proposal proposal1	デフォルト IKEv2 プロポーザルをオーバーライドして、IKEv2 プロポーザル名を定義し、IKEv2 プロポーザルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>encryption encryption-type...</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-proposal)# encryption aes-cbc-128 aes-cbc-192	1 つまたは複数の暗号化タイプのトランスフォームを指定します。タイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>3des</b> (非推奨)</li> <li>• <b>aes-cbc-128</b></li> <li>• <b>aes-cbc-192</b></li> <li>• <b>aes-cbc-256</b></li> <li>• <b>aes-gcm-128</b></li> <li>• <b>aes-gcm-256</b></li> </ul>
ステップ 5	<b>integrity integrity-type...</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-proposal)# integrity sha1	次のように、整合性アルゴリズムタイプの 1 つ以上のトランスフォームを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>md5</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして MD5 (HMAC バリエント) を指定します。(非推奨)</li> <li>• <b>sha1</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして SHA-1 (HMAC バリエント) を指定します。</li> <li>• <b>sha256</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして SHA-2 ファミリ 256 ビット (HMAC バリエント) を指定します。</li> <li>• <b>sha384</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして SHA-2 ファミリ 384 ビット (HMAC バリエント) を指定します。</li> <li>• <b>sha512</b> キーワードは、ハッシュアルゴリズムとして SHA-2 ファミリ 512 ビット (HMAC バリエント) を指定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> 暗号化タイプとして Advanced Encryption Standard (AES) in Galois/Counter Mode (AES GCM) を指定した場合は、整合性アルゴリズムタイプを指定できません。</p>
ステップ 6	<b>group group-type...</b> <b>Example:</b>	Diffie-Hellman (DH) グループ ID を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルトの DH グループ識別子は、IKEv2 プロポーザル内のグループ 2 および 5 です。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	<pre>Device(config-ikev2-proposal)# group 14</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>1</b> : 768 ビット DH (非推奨)。</li> <li>• <b>2</b> : 1024 ビット DH (非推奨)。</li> <li>• <b>5</b> : 1536 ビット DH (非推奨)。</li> <li>• <b>14</b> : 2048 ビット DH グループを指定します。</li> <li>• <b>15</b> : 3072 ビット DH グループを指定します。</li> <li>• <b>16</b> : 4096 ビット DH グループを指定します。</li> <li>• <b>19</b> : 256 ビット Elliptic Curve DH (ECDH) グループを指定します。</li> <li>• <b>20</b> : 384 ビット ECDH グループを指定します。</li> <li>• <b>24</b> : 2048 ビット DH グループを指定します。</li> </ul> <p>選択するグループは、ネゴシエーション中の IPsec キーを保護するため、十分強力 (十分なビット数がある) である必要があります。一般に受け入れられているガイドラインでは、2013 年以降 (2030 年まで) は 2048 ビット グループの使用が推奨されています。このガイドラインを満たすために、グループ 14 とグループ 24 のどちらかを選択できます。より寿命の長いセキュリティ方式が必要な場合でも、楕円曲線暗号の使用をお勧めしますが、グループ 15 とグループ 16 も検討してください。</p>
ステップ 7	<p><b>prf</b> <i>prf-algorithm</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-proposal)# prf sha256 sha512</pre>	<p>次のように、1 つ以上の擬似ランダム関数 (PRF) アルゴリズムを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>md5</b></li> <li>• <b>sha1</b></li> <li>• <b>sha256</b></li> <li>• <b>sha384</b></li> <li>• <b>sha512</b></li> </ul> <p><b>Note</b> この手順は、暗号化タイプが AES-GCM : <b>aes-gmc-128</b> または <b>aes-gmc-256</b> の場合に必須です。暗号化アルゴリズムが AES-GCM でない場合は、PRF アルゴリズムが指定された整合性アルゴリズムと同じになります。ただし、必要に応じて、PRF アルゴリズムを指定できます。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-proposal)# end	IKEv2 プロポーザルコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	<b>show crypto ikev2 proposal</b> [ <i>name</i>   <b>default</b> ] <b>Example:</b> Device# show crypto ikev2 proposal default	(任意) IKEv2 プロポーザルを表示します。

## 次の作業

IKEv2 プロポーザルを作成した後、ポリシーと接続して、ネゴシエーションでプロポーザルを選択できるようにします。このタスクの完了について、詳細は「IKEv2 ポリシーの設定」セクションを参照してください。

## IKEv2 ポリシーの設定

デフォルトの IKEv2 ポリシーについては、「IKEv2 スマート デフォルト」の項を参照してください。

このタスクは、デフォルト ポリシーを使用しない場合に、デフォルト IKEv2 ポリシーをオーバーライドするか、手動でポリシーを設定するために実行します。

IKEv2 ポリシーには、完全だと考えられる 1 つ以上のプロポーザルを含める必要があり、ネゴシエーション用のポリシーを選択するための選択基準として使用される **match** ステートメントを含めることができます。初期交換中に、ネゴシエートする SA のローカルアドレス (IPv4 または IPv6) と Front Door VRF (FVRF) がポリシーと照合され、プロポーザルが選択されます。

次のルールが **match** ステートメントに適用されます。

- **match** ステートメントを含まない IKEv2 ポリシーは、グローバル FVRF 内のすべてのピアと一致します。
- IKEv2 ポリシーには、**match FVRF** ステートメントを 1 つしか含めることができません。
- IKEv2 ポリシーには、**match address local** ステートメントを 1 つ以上含めることができません。
- ポリシーを選択すると、同じタイプの複数の **match** ステートメントが論理的に OR され、違うタイプの **match** ステートメントが論理的に AND されます。
- タイプが異なる **match** ステートメントの優先順位はありません。
- 重複したポリシーの設定は、設定ミスと見なされます。複数のポリシーが一致した場合は、最初のポリシーが選択されます。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**

3. **crypto ikev2 policy** *name*
4. **proposal** *name*
5. **match fvrif** {*fvrif-name* | **any**}
6. **match address local** {*ipv4-address* | *ipv6-address*}
7. **end**
8. **show crypto ikev2 policy** [*policy-name* | **default**]

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 policy</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 policy policy1	デフォルト IKEv2 ポリシーをオーバーライドして、IKEv2 ポリシー名を定義し、IKEv2 ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>proposal</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-policy)# proposal proposal1	このポリシーで使用する必要があるプロポーザルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロポーザルは、一覧の順の優先順位になります。</li> </ul> <p><b>Note</b> 少なくとも1つのプロポーザルを指定する必要があります。各プロポーザルを別々のステートメントに分けた追加のプロポーザルを指定できます。</p>
ステップ 5	<b>match fvrif</b> { <i>fvrif-name</i>   <b>any</b> } <b>Example:</b> Device(config-ikev2-policy)# match fvrif any	(任意) ポリシーをユーザーが設定した FVRF または任意の FVRF に基づいて照合します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルトはグローバル FVRF です。</li> </ul> <p><b>Note</b> 任意の VRF と一致させるには、<b>match fvrif any</b> コマンドを明示的に設定する必要があります。FVRF には、IKEv2 パケットのネゴシエーションを行う VRF を指定します。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>match address local</b> { <i>ipv4-address</i>   <i>ipv6-address</i> } <b>Example:</b> Device(config-ikev2-policy)# match address local 10.0.0.1	(任意) ローカル IPv4 または IPv6 アドレスに基づいてポリシーを照合します。 • デフォルトは、設定済みの FVRF 内のすべてのアドレスと一致します。
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-policy)# end	IKEv2 ポリシー コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>show crypto ikev2 policy</b> [ <i>policy-name</i>   <b>default</b> ] <b>Example:</b> Device# show crypto ikev2 policy policy1	(任意) IKEv2 ポリシーを表示します。

## インターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 の設定例

### 基本のインターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 CLI 構造の設定例

#### 例：IKEv2 キー リングの設定

##### 例：複数のピア サーバブロックを持つ IKEv2 キー リング

次の例は、複数のピア サブブロックを持つインターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 (IKEv2) キー リングを設定する方法を示します。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
peer peer1
  description peer1
  address 209.165.200.225 255.255.255.224
  pre-shared-key key-1
peer peer2
  description peer2
  hostname peer1.example.com
  pre-shared-key key-2
peer peer3
  description peer3
  hostname peer3.example.com
  identity key-id abc
  address 209.165.200.228 255.255.255.224
  pre-shared-key key-3
```

**例：IP アドレスに基づく対称型事前共有キーを使用した IKEv2 キー リング****例：IP アドレスに基づく対称型事前共有キーを使用した IKEv2 キー リング**

次の例は、IP アドレスに基づく対称型事前共有キーを使用する IKEv2 キー リングの設定方法を示します。次は、発信側のキー リングです。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
 peer peer1
  description peer1
  address 209.165.200.225 255.255.255.224
  pre-shared-key key1
```

次は、応答側のキー リングです。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
 peer peer2
  description peer2
  address 209.165.200.228 255.255.255.224
  pre-shared-key key1
```

**例：IP アドレスに基づく非対称型事前共有キーを使用した IKEv2 キー リング**

次の例は、IP アドレスに基づく非対称型事前共有キーを使用する IKEv2 キー リングの設定方法を示します。次は、発信側のキー リングです。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
 peer peer1
  description peer1 with asymmetric keys
  address 209.165.200.225 255.255.255.224
  pre-shared-key local key1
  pre-shared-key remote key2
```

次は、応答側のキー リングです。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
 peer peer2
  description peer2 with asymmetric keys
  address 209.165.200.228 255.255.255.224
  pre-shared-key local key2
  pre-shared-key remote key1
```

**例：ホスト名に基づく非対称型事前共有キーを使用した IKEv2 キー リング**

次の例は、ホスト名に基づく非対称型事前共有キーを使用する IKEv2 キー リングの設定方法を示します。次は、発信側のキー リングです。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
 peer host1
  description host1 in example domain
  hostname host1.example.com
  pre-shared-key local key1
  pre-shared-key remote key2
```

次は、応答側のキー リングです。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
 peer host2
  description host2 in abc domain
```



```
hostname host2.example.com
pre-shared-key local key2
pre-shared-key remote key1
```

### 例：アイデンティティに基づく対称型事前共有キーを使用した IKEv2 キー リング

次の例は、アイデンティティに基づく対称型事前共有キーを使用する IKEv2 キー リングの設定方法を示します。

```
crypto ikev2 keyring keyring-4
peer abc
  description example domain
  identity fqdn example.com
  pre-shared-key abc-key-1
peer user1
  description user1 in example domain
  identity email user1@example.com
  pre-shared-key abc-key-2
peer user1-remote
  description user1 example remote users
  identity key-id example
  pre-shared-key example-key-3
```

### 例：ワイルドカード キーを使用した IKEv2 キー リング

次の例は、ワイルドカード キーを使用する IKEv2 キー リングの設定方法を示します。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
peer cisco
  description example domain
  address 0.0.0.0 0.0.0.0
  pre-shared-key example-key
```

### 例：キー リングの照合

次の例は、キー リングの照合方法を示します。

```
crypto ikev2 keyring keyring-1
peer cisco
  description example.com
  address 0.0.0.0 0.0.0.0
  pre-shared-key xyz-key
peer peer1
  description abc.example.com
  address 10.0.0.0 255.255.0.0
  pre-shared-key abc-key
peer host1
  description host1@abc.example.com
  address 10.0.0.1
  pre-shared-key host1-example-key
```

ここに示す例では、ピア 10.0.0.1 を照合するキーは最初にワイルドカード キー example-key と一致し、次にプレフィックス キー example-key と一致し、最後にホスト キー host1-example-key と一致します。最適な一致である host1-example-key が使用されます。

```
crypto ikev2 keyring keyring-2
peer host1
```

## 例：プロファイルの設定

```

description host1 in abc.example.com sub-domain
address 10.0.0.1
pre-shared-key host1-example-key
peer host2
  description example domain
  address 0.0.0.0 0.0.0.0
  pre-shared-key example-key

```

ここに示す例では、ピア 10.0.0.1 を照合するキーは最初にホストキー host1-abc-key と一致します。これが固有の一致であることから、これ以上の照合は実行されません。

## 例：プロファイルの設定

## 例：リモート ID で照合する IKEv2 プロファイル

次のプロファイルは、完全修飾ドメイン名 (FQDN) example.com を使用して自身を特定し、トラストポイントリモートを使用して RSA 署名で認証するピアをサポートします。ローカルノードは、keyring-1 を使用する事前共有キーでノード自体を認証します。

```

crypto ikev2 profile profile2
match identity remote fqdn example.com
identity local email router2@example.com
authentication local pre-share
authentication remote rsa-sig
keyring keyring-1
pki trustpoint trustpoint-remote verify
lifetime 300
dpd 10 5 on-demand
virtual-template 1

```

## 例：2つのピアをサポートする IKEv2 プロファイル

次の例は、異なる認証方式を使用する2つのピアをサポートする、IKEv2 プロファイルの設定方法を示します。

```

crypto ikev2 profile profile2
match identity remote email user1@example.com
match identity remote email user2@example.com
identity local email router2@cisco.com
authentication local rsa-sig
authentication remote pre-share
authentication remote rsa-sig
keyring keyring-1
pki trustpoint trustpoint-local sign
pki trustpoint trustpoint-remote verify
lifetime 300
dpd 10 5 on-demand
virtual-template 1

```

## 例：証明書および IKEv2 スマート デフォルトを使用するダイナミックルーティングによる FlexVPN の設定

次の例に、トンネルを介したダイナミックルーティングによるブランチデバイス（発信者側、スタティック仮想トンネルインターフェイス (sVTI) を使用) と中央デバイス（応答側、ダイナミック仮想トンネルインターフェイス (dVTI) を使用) との間の

接続を示します。この例では IKEv2 スマート デフォルトを使用し、認証は証明書（RSA 署名）を使用して実行されます。



**Note** 推奨される RSA モジュラス サイズは 2048 です。

ピアは IKEv2 ID として FQDN を使用し、応答側の IKEv2 プロファイルは ID FQDN のドメインと一致します。

発信側（ブランチ デバイス）での設定は、次のとおりです。

```
hostname branch
ip domain name cisco.com
!
crypto ikev2 profile branch-to-central
 match identity remote fqdn central.cisco.com
 identity local fqdn branch.cisco.com
 authentication local rsa-sig
 authentication remote rsa-sig
 pki trustpoint CA
!
crypto ipsec profile svti
 set ikev2-profile branch-to-central
!
interface Tunnel0
 ip address 172.16.0.101 255.255.255.0
 tunnel source Ethernet0/0
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel destination 10.0.0.100
 tunnel protection ipsec profile svti
!
interface Ethernet0/0
 ip address 10.0.0.101 255.255.255.0
!
interface Ethernet1/0
 ip address 192.168.101.1 255.255.255.0
!
router rip
 version 2
 passive-interface Ethernet1/0
 network 172.16.0.0
 network 192.168.101.0
 no auto-summary
```

応答側（中央ルータ）での設定は、次のとおりです。

```
hostname central
ip domain name cisco.com
!
crypto ikev2 profile central-to-branch
 match identity remote fqdn domain cisco.com
 identity local fqdn central.cisco.com
 authentication local rsa-sig
 authentication remote rsa-sig
 pki trustpoint CA
 virtual-template 1
!
interface Loopback0
 ip address 172.16.0.100 255.255.255.0
!
interface Ethernet0/0
```

```

ip address 10.0.0.100 255.255.255.0
!
interface Ethernet1/0
ip address 192.168.100.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
ip unnumbered Loopback0
tunnel source Ethernet0/0
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec profile default
!
router rip
version 2
passive-interface Ethernet1/0
network 172.16.0.0
network 192.168.100.0
no auto-summary

```

## 高度なインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 CLI 構造の設定例

### 例：プロポーザルの設定

例：各トランスフォーム タイプに対して 1 つのトランスフォームがある IKEv2 プロポーザル

次の例は、各トランスフォーム タイプに対して 1 つのトランスフォームがある IKEv2 プロポーザルの設定方法を示します。

```

crypto ikev2 proposal proposal-1
encryption aes-cbc-128
integrity sha1
group 14

```

例：各トランスフォーム タイプに対して複数のトランスフォームがある IKEv2 プロポーザル

次の例は、各トランスフォーム タイプに対して複数のトランスフォームがある IKEv2 プロポーザルの設定方法を示します。

```

crypto ikev2 proposal proposal-2
encryption aes-cbc-128 aes-cbc-192
integrity sha1
group 14

```



**Note** シスコは現在、3DES、MD5（HMAC バリエーション含む）、および Diffie-Hellman（DH）グループ 1、2、および 5 の使用は推奨していません。代わりに、AES、SHA-256、および DH グループ 14 以降を使用する必要があります。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

ここに示す IKEv2 プロポーザル proposal-2 では、次の組み合わせのトランスフォームの優先順位リストに変換されます。

- aes-cbc-128, sha1, 14
- aes-cbc-192, sha1, 14

### 例：発信側と応答側の IKEv2 プロポーザル

次の例は、発信側と応答側の IKEv2 プロポーザルの設定方法を示します。発信側のプロポーザルは次のとおりです。

```
crypto ikev2 proposal proposal-1
  encryption aes-cbc-192 aes-cbc-128
  integrity sha-256 sha1
  group 14 24
```

応答側のプロポーザルは次のとおりです。

```
crypto ikev2 proposal proposal-2
  encryption aes-cbc-128 aes-cbc-192
  peer
  integrity sha1 sha-256
  group 24 14
```

選択したプロポーザルは次のようになります。

```
encryption aes-cbc-128
integrity sha1
group 14
```

発信側と応答側に示されるプロポーザルでは、発信側と応答側では設定が競合します。この場合、発信側が応答側よりも優先されます。

## 例：ポリシーの設定

### 例：VRF およびローカルアドレスで照合する IKEv2 ポリシー

次の例は、IKEv2 ポリシーが VRF およびローカルアドレスで照合する方法を示します。

```
crypto ikev2 policy policy2
  match vrf vrfl
  match local address 10.0.0.1
  proposal proposal-1
```

### 例：グローバル VRF 内のすべてのピアを照合する複数のプロポーザルがある IKEv2 ポリシー

次の例は、複数のプロポーザルがある IKEv2 ポリシーがグローバル VRF 内のピアを照合する方法を示します。

```
crypto ikev2 policy policy2
  proposal proposal-A
  proposal proposal-B
  proposal proposal-B
```

例：任意の VRF 内のすべてのピアを照合する IKEv2 ポリシー

例：任意の VRF 内のすべてのピアを照合する IKEv2 ポリシー

次の例は、任意の VRF 内のピアを照合する IKEv2 ポリシーの方法を示します。

```
crypto ikev2 policy policy2
 match vrf any
 proposal proposal-1
```

例：ポリシーの照合

重複するポリシーは設定しないでください。一致する複数の可能性がポリシーにある場合、次の例に示すように、最適な照合が使用されます。

```
crypto ikev2 policy policy1
 match fvrf fvrf1
crypto ikev2 policy policy2
 match fvrf fvrf1
 match local address 10.0.0.1
```

fvrf1 という FVRF のプロポーザルと 10.0.0.1 というローカルピアは policy2 および policy2 と一致しますが、policy1 が最適な一致であるためにこちらが選択されます。

## 次の作業

IKEv2 の設定後、IPsec VPN の設定に進みます。詳細については、『Configuring Security for VPNs with IPsec』モジュールを参照してください。

# インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) のその他の関連資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List』</a> 、すべてのリリース

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
IPsec の設定	『Configuring Security for VPNs with IPsec』
Suite-B の ESP トランスフォーム	『Configuring Security for VPNs with IPsec』
Suite-B SHA-2 ファミリ (HMAC バリエーション) および Elliptic Curve (EC) キーペアの設定	『Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs』
IPsec SA ネゴシエーションでの Suite-B の Elliptic Curve Diffie-Hellman (ECDH) のサポート	『Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs』
PKI の証明書登録のための Suite-B サポート	『Configuring Certificate Enrollment for a PKI』
IKE での使用にサポートされている標準	『Internet Key Exchange for IPsec VPNs Configuration Guide』
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

## RFC

RFC	タイトル
RFC 4306	<i>Internet Key Exchange (IKEv2) Protocol</i>
RFC 4869	<i>Suite B Cryptographic Suites for IPsec</i>
RFC 5685	<i>Redirect Mechanism for the Internet Key Exchange Protocol Version 2 (IKEv2)</i>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 271:** インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPsec と IKEv2 に対する IPv6 のサポート		この機能によって、IPv6 アドレスを IPsec および IKEv2 プロトコルに追加できます。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>address (IKEv2 keyring)</b> , <b>identity (IKEv2 keyring)</b> , <b>identity local</b> , <b>match (IKEv2 policy)</b> , <b>match (IKEv2 profile)</b> , <b>show crypto ikev2 session</b> , <b>show crypto ikev2 sa</b> , <b>show crypto ikev2 profile</b> , <b>show crypto ikev2 policy</b> , <b>debug crypto condition</b> , <b>clear crypto ikev2 sa</b> .



機能名	リリース	機能情報
IOS ソフトウェア 暗号での Suite-B のサポート		<p>パケットデータの認証およびIKEv2プロポーザル設定の整合性確認メカニズムの検証に使用される SHA-2 ファミリ (HMAC バリエーション) のハッシュアルゴリズムに、Suite-B のサポートが追加されました。HMAC は、追加レベルのハッシュを提供するバリエーションです。</p> <p>Suite-B によって、RFC 4754 で定義されているように楕円曲線デジタル署名アルゴリズム (ECDSA) 署名 (ECDSA-sig) を IKEv2 の認証方式にすることもできます。</p> <p>Suite-B の要件は、暗号化アルゴリズムの 4 つのユーザー インターフェイススイートです。アルゴリズムは、RFC 4869 で説明されている IKE および IPsec で使用します。各スイートは、暗号化アルゴリズム、デジタル署名アルゴリズム、キー合意アルゴリズム、およびハッシュまたはメッセージダイジェストアルゴリズムで構成されています。Cisco IOS 上における Suite-B サポートの詳細については、『Configuring Security for VPNs with IPsec』モジュールを参照してください。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>authentication, group, identity (IKEv2 profile), integrity, match (IKEv2 profile).</b></p>
IOS 上における IKEv2 暗号としての AES-GCM のサポート		<p>IKEv2 機能の AES-GCM サポートでは、Galois/カウンタ モードの Advanced Encryption Standard (AES-GCM) の使用方法を説明します。インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) プロトコルの暗号化ペイロードと共に認証済みの暗号化アルゴリズムを使用することについても説明します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>encryption (IKEv2 proposal), prf, show crypto ikev2 proposal.</b></p>
トンネルモード自動選択		<p>トンネルモード自動選択機能は、設定を容易にし、レスポンドの詳細の入手を支援します。この機能は、IKE プロファイルから仮想アクセスインターフェイスが作成されるとすぐに、トンネリングプロトコル (GRE または IPsec) とトランスポートプロトコル (IPv4 または IPv6) を自動的に仮想テンプレートに適用します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>virtual-template (IKEv2 profile), show crypto ikev2 profile.</b></p>





## 第 206 章

# ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定

このモジュールでは、ポスト量子事前共有キー（PPK）を使用した量子安全暗号化について説明します。この機能により、PPK を使用した IKEv2 および IPsec パケットの量子安全暗号化のために、RFC 8784 および Cisco Secure Key Integration Protocol（SKIP）が実装されます。

- [ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する制約事項（3051 ページ）](#)
- [サポートされるプラットフォーム（3051 ページ）](#)
- [ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する情報（3052 ページ）](#)
- [ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定方法（3055 ページ）](#)
- [ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定例（3061 ページ）](#)
- [ポスト量子事前共有キーの設定の確認（3064 ページ）](#)
- [ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する追加情報（3064 ページ）](#)
- [ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する機能情報（3065 ページ）](#)

## ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する制約事項

- ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の機能は、GETVPN を除くすべての IKEv2 および IPsec VPN（FlexVPN（SVTI-DVTI）、DMVPN など）に適用できます。
- SKIP を使用して PPK を設定する場合、キー送信元は、16 進形式のキー形式を送信する必要があります。

## サポートされるプラットフォーム

ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の機能は、次のプラットフォームで使用できます。

Cisco IOS XE リリース 17.12.1a 以降	Cisco IOS XE リリース 17.11.1a 以降
Cisco 1000 シリーズ サービス統合型ルータ	Cisco Catalyst 8000V Edge ソフトウェア
Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォーム	Cisco Catalyst 8300 シリーズ エッジプラットフォーム
	Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーションサービスルータ

## ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する情報

以下のセクションでは、ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の機能に関する詳細情報を提供します。

### 量子コンピュータが暗号に与える影響

量子コンピュータは、現在普及している暗号アルゴリズムおよびプロトコルに深刻な課題をもたらします。量子コンピュータは、Diffie-Hellman (DH) および楕円曲線 Diffie-Hellman (ECDH) の問題を多項式時間で解決できるため、既存の IKEv2 システムのセキュリティが侵害される可能性があります。今日の VPN 通信を保存している中間者は、後で量子コンピュータが使用可能になると、それらを復号できます。

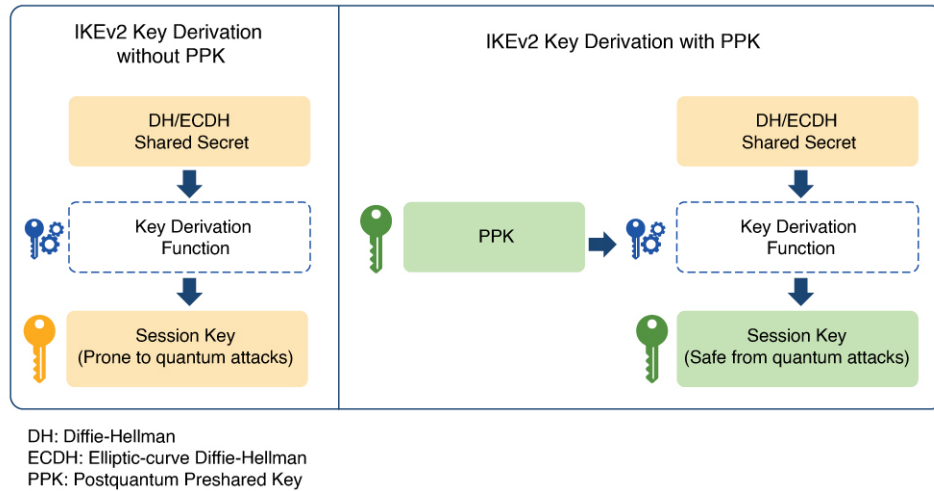
### ポスト量子事前共有キー

事前共有キーに十分なエントロピーがあり、疑似乱数関数 (PRF)、暗号化、および認証変換が量子セキュアである場合、事前共有キーに基づくセッションキーは、量子攻撃に対して脆弱ではありません。このようにして得られるシステムは、今日の古典的な攻撃者や量子コンピュータを使用する将来の攻撃者に対してセキュアであると考えられます。

RFC 8784 (ポスト量子セキュリティのための IKEv2 での事前共有キーの混合) には、「PPK」と呼ばれる事前共有キーを使用して量子コンピュータに対する耐性を実現する IKEv2 プロトコルの機能拡張が記述されています。この RFC では、PPK 機能のネゴシエーション、PPK ID の通信、セッションキー導出の追加入力としての PPK の混合、および非 PPK ベースのセッションへのオプションのフォールバックが定義されています。

図 1 に、PPK を使用する場合と使用しない場合の IKEv2 キーの導出を示します。

図 103: IKEv2 キーの導出 : PPK を使用する場合と使用しない場合



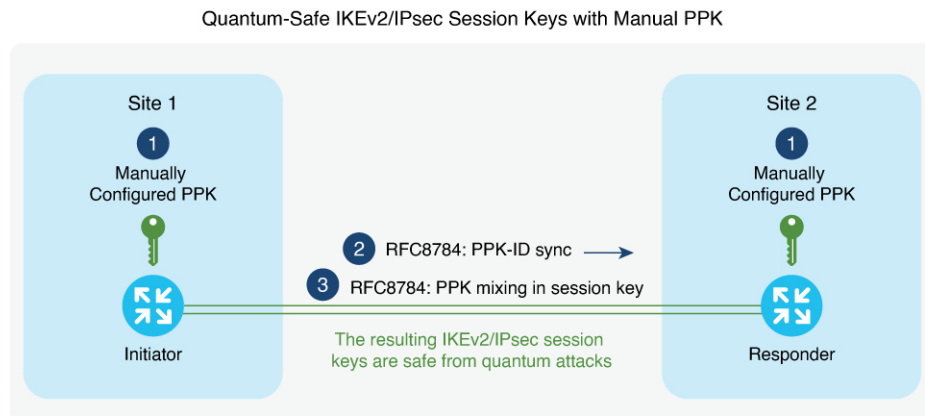
## 手動ポスト量子事前共有キー

IKEv2 および IPsec の発信側と応答側のペアで同じ PPK を提供する最も簡単なプロビジョニングメカニズムは、両側で PPK を手動で設定することです。手動で設定された PPK は、「手動 PPK」と呼ばれます。

手動 PPK の場合、管理者は、PPK のサイズとエントロピーが十分であり、頻繁にローテーションされることを確認する必要があります。

図 2 は、手動 PPK を使用した量子安全な IKEv2 および IPsec セッションキーを示しています。

図 104: 手動 PPK を使用した量子安全な IKEv2 および IPsec セッションキー



## Cisco Secure Key Integration Protocol およびダイナミックポスト量子事前共有キー

Cisco SKIP は、ルータなどの暗号化デバイスが外部キーソースから PPK をインポートすることを可能にする HTTPS ベースのプロトコルです。ダイナミック PPK と呼ばれる外部からインポートされた PPK は、自動プロビジョニングおよび更新と、PPK のエントロピーの向上という利点を提供します。

Cisco SKIP は、TLS1.2 と PSK-DHE 暗号スイートを使用して、SKIP プロトコルを量子安全にします。暗号化デバイスは SKIP クライアントを実装する必要があり、外部キーソースは SKIP サーバーを実装する必要があります。

外部キーソースを SKIP 準拠にするには、Cisco SKIP プロトコルを実装し、アウトオブバンド同期メカニズムを使用して、2つの暗号化デバイス（イニシエータとレスポンド）に同じ PPK を提供する必要があります。外部キーソースには、量子キー配布（QKD）デバイス、ソフトウェア、もしくはクラウドベースキーソースまたはサービスを使用できます。

外部キーソースは、SKIP に準拠するために次の要件を満たす必要があります。

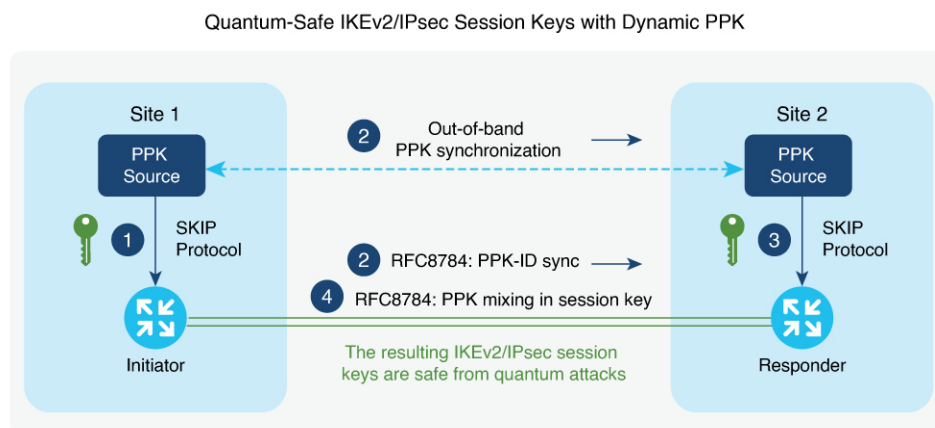
- Cisco SKIP 仕様で定義されているように、SKIP プロトコルまたは API を実装する必要があります。
- アウトオブバンド同期メカニズムを使用して、暗号化デバイスのペア（イニシエータとレスポンド）に同じ PPK を提供する必要があります。



(注) 主要なソースベンダー（QKD ベンダーなど）は、シスコの担当者に連絡して、Cisco SKIP プロトコルを実装する必要があります。

図 3 は、ダイナミック PPK を使用した量子安全な IKEv2 および IPsec セッションキーを示しています。

図 105: ダイナミック PPK を使用した量子安全な IKEv2 および IPsec セッションキー



IKEv2 イニシエータとレスポンドは、ローカルキーソースに接続され、キーソースの IP アドレスおよびポートと TLS1.2 セッションの事前共有キーを指定する SKIP クライアントで設定されます。PPK ソースは、ローカル キー ソース アイデンティティとピアキーソースのアイデンティティリストを含む SKIP パラメータを使用して設定されます。

次に、Cisco SKIP プロトコルの動作の概要を示します。

1. IKEv2 イニシエータは、そのキーソースに PPK を要求します。キーソースは、PPK と対応する PPK ID で応答します。
2. イニシエータ側のキーソースは、キーソースのタイプに固有のアウトオブバンドメカニズムを使用して、PPK をレスポンド側のキーソースに同期します。IKEv2 イニシエータは、RFC 8784 の機能拡張を使用して、IKEv2 経由で IKEv2 レスポンドに PPK ID を伝達します。
3. IKEv2 レスポンドは、そのキーソースに、IKEv2 イニシエータから受信した PPK ID に対応する PPK を要求します。キーソースは、PPK ID に対応する PPK で応答します。
4. IKEv2 イニシエータおよびレスポンドは、RFC 8784 で規定されているように、キー導出で PPK を混合します。結果として得られる IKEv2 および IPsec セッションキーは、量子安全です。

## ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定方法

以下のセクションでは、ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定に関連するプロセスについて説明します。

### 手動ポスト量子事前共有キーの設定

手動 PPK を設定するには、次の作業を実行します。

#### IKEv2 キーリングでの手動ポスト量子事前共有キーの設定

IKEv2 キーリングで1つ以上のピアまたはピアグループの手動 PPK を設定するには、次の手順を実行します。

##### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 keyring *keyring-name***
4. **peer *name***
5. 次のコマンドの1つを実行します。
  - **address {*ipv4-address mask* | *ipv6-address prefix*}**

- **identity** {**address** {*ipv4-address* | *ipv6-address*} | **fqdn domain** *domain-name* | **email domain** *domain-name* | **key-id** *key-id*}

## 6. **ppk manual id** *ppk-id* **key** [**0** | **6** | **hex**] *password* [**required**]

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 keyring</b> <i>keyring-name</i> 例： Device(config)# crypto ikev2 keyring keyring1	IKEv2 キーリングを定義し、IKEv2 キーリング コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>peer</b> <i>name</i> 例： Device(config-ikev2-keyring)# peer peer1	ピアまたはピア グループを定義し、IKEv2 キーリング コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	次のコマンドの 1 つを実行します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>address</b> {<i>ipv4-address mask</i>   <i>ipv6-address prefix</i>}</li> <li>• <b>identity</b> {<b>address</b> {<i>ipv4-address</i>   <i>ipv6-address</i>}   <b>fqdn domain</b> <i>domain-name</i>   <b>email domain</b> <i>domain-name</i>   <b>key-id</b> <i>key-id</i>}</li> </ul> 例： Device(config-ikev2-keyring-peer)# address 10.0.0.1 255.0.0.0  例： Device(config-ikev2-keyring-peer)# identity address 10.0.0.1	WAN IP アドレスまたは IKEv2 アイデンティティに基づいてリモート IKEv2 ピアを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>address</b> コマンドは、ピアまたはピアグループの IPv4 または IPv6 アドレスあるいは範囲を指定します。                 (注) この IP アドレスが IKE エンドポイントアドレスであり、ID アドレスとは別個のものです。</li> <li>• <b>identity</b> コマンドは、次のアイデンティティを使用して IKEv2 ピアを特定します。               <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子メール</li> <li>• 完全修飾ドメイン名 (FQDN)</li> <li>• IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス</li> <li>• キー ID</li> </ul> </li> </ul>



	コマンドまたはアクション	目的
		(注) <b>identity</b> コマンドは、IKEv2 レスポンド上のキールックアップにしか使用できません。
ステップ 6	<p><b>ppk manual id</b> <i>ppk-id</i> <b>key</b> [<b>0</b>   <b>6</b>   <b>hex</b>] <i>password</i> [<b>required</b>]</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-ikev2-keyring-peer)# ppk manual id ppk_id key cisco123</pre>	<p>特定されたピアの PPK ID および PPK を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ppk manual</b> : PPK ID と PPK が手動で設定されていることを示します。</li> <li>• <b>id</b> <i>ppk-id</i> : PPK ID を指定します。</li> <li>• <b>key</b> <i>password</i> : PPK を指定します。</li> <li>• <b>required</b> : PPK を使用した量子安全暗号化が必須であり、通常の IKEv2 または IPsec セッションへのフォールバックが存在してはならないことを示します。</li> </ul> <p>(注) <i>ppk-id</i> と PPK は、両方のピアで一致する必要があります。</p>

## IKEv2 プロファイルでの IKEv2 キーリングの設定

### 手順の概要

1. **crypto ikev2 profile** *profile-name*
2. **keyring ppk** *keyring-name*
3. **exit**
4. **exit**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>crypto ikev2 profile</b> <i>profile-name</i></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-ikev2-keyring-peer)# crypto ikev2 profile profile1</pre>	IKEv2 プロファイルを定義し、IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<p><b>keyring ppk</b> <i>keyring-name</i></p> <p>例 :</p>	手動または動的 PPK が設定されているキーリングを指定します。

## ダイナミックポスト量子事前共有キーの設定

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config-ikev2-profile)# keyring ppk keyring1	(注) IKEv2 プロファイルからキーリングを削除するには、 <b>no keyring {aaa   local   ppk} keyring-name</b> コマンドを使用します。
ステップ 3	<b>exit</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# exit	IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ダイナミックポスト量子事前共有キーの設定

ダイナミック PPK を設定するには、次の作業を実行します。

### Secure Key Integration Protocol クライアントの設定

SKIP クライアントの設定では、外部の SKIP 準拠キーソースとセキュアに通信し、そこから PPK を要求するために必要なパラメータを指定します。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto skip-client skip-client-name**
4. **server {ipv4 ipv4-address | ipv6 ipv6-address | fqdn domain-name} port port-number**
5. **psk id id-name key [0 | 6 | hex] password**
6. **exit**

#### 手順の詳細

##### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>crypto skip-client</b> <i>skip-client-name</i> 例： Device(config-crypto-skip-client)# crypto skip-client skip-client-cfg	SKIP クライアント設定ブロックの名前を指定し、SKIP クライアント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>server</b> { <b>ipv4</b> <i>ipv4-address</i>   <b>ipv6</b> <i>ipv6-address</i>   <b>fqdn</b> <i>domain-name</i> } <b>port</b> <i>port-number</i> 例： Device(config-crypto-skip-client)# server ipv4 10.10.0.3 port 9993	外部キーソースに接続する IP アドレスまたは FQDN とポートを指定します。
ステップ 5	<b>psk id</b> <i>id-name</i> <b>key</b> [ <b>0</b>   <b>6</b>   <b>hex</b> ] <i>password</i> 例： Device(config-crypto-skip-client)# psk id psk-id key 0 cisco123	SKIP TLS セッションの事前共有キーアイデンティティと事前共有キーを指定します。
ステップ 6	<b>exit</b> 例： Device(config-crypto-skip-client)# exit	SKIP クライアント コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## IKEv2 キーリングの Secure Key Integration Protocol クライアントの設定

IKEv2 キーリングで1つ以上のピアまたはピアグループの手動 PPK を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **crypto ikev2 keyring** *keyring-name*
2. **peer** *name*
3. 次のいずれかのコマンドを実行します。
  - **address** {*ipv4-address mask* | *ipv6-address prefix*}
  - **identity** {**address** {*ipv4-address* | *ipv6-address*} | **fqdn domain** *domain-name* | **email domain** *domain-name* | **key-id** *key-id*}
4. **ppk dynamic** *skip-client-name* [required]

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>crypto ikev2 keyring</b> <i>keyring-name</i> 例： Device(config)# crypto ikev2 keyring keyring1	IKEv2 キーリングを定義し、IKEv2 キーリング コンフィギュレーション モードを開始します。

## IKEv2 プロファイルでの IKEv2 キーリングの設定

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>peer name</b> 例 : Device(config-ikev2-keyring)# peer peer1	ピアまたはピアグループを定義し、IKEv2 キーリング コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>address</b> {<i>ipv4-address mask</i>   <i>ipv6-address prefix</i>}</li> <li>• <b>identity</b> {<b>address</b> {<i>ipv4-address</i>   <i>ipv6-address</i>}   <b>fqdn domain</b> <i>domain-name</i>   <b>email domain</b> <i>domain-name</i>   <b>key-id</b> <i>key-id</i>}</li> </ul> 例 : Device(config-ikev2-keyring-peer)# address 10.0.0.1 255.0.0.0 例 : Device(config-ikev2-keyring-peer)# identity address 10.0.0.1	WAN IP アドレスまたは IKEv2 アイデンティティに基づいてリモート IKEv2 ピアを指定します。 <b>address</b> コマンドは、ピアまたはピアグループの IPv4 または IPv6 アドレスあるいは範囲を指定します。 (注) この IP アドレスが IKE エンドポイント アドレスであり、ID アドレスとは別個のものであります。 <b>identity</b> コマンドは、次のアイデンティティを使用して IKEv2 ピアを特定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子メール</li> <li>• 完全修飾ドメイン名 (FQDN)</li> <li>• IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス</li> <li>• キー ID</li> </ul> (注) <b>identity</b> コマンドは、IKEv2 レスポンド上のキールックアップにしか使用できません。
ステップ 4	<b>ppk dynamic skip-client-name [required]</b> 例 : Device(config-ikev2-keyring-peer)# ppk dynamic skip-client1	ダイナミック PPK に使用する外部キーソースを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ppk dynamic</b> : PPK が外部キーソースから動的にインポートされることを示します。</li> <li>• <b>required</b> : PPK を使用した量子安全暗号化が必須であり、通常の IKEv2 または IPsec セッションへのフォールバックが存在してはならないことを示します。</li> </ul>

## IKEv2 プロファイルでの IKEv2 キーリングの設定

## 手順の概要

1. **crypto ikev2 profile** *profile-name*
2. **keyring ppk** *keyring-name*
3. **exit**

#### 4. exit

##### 手順の詳細

##### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>crypto ikev2 profile</b> <i>profile-name</i> 例： Device(config-ikev2-keyring-peer)# crypto ikev2 profile profile1	IKEv2 プロファイルを定義し、IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>keyring ppk</b> <i>keyring-name</i> 例： Device(config-ikev2-profile)# keyring ppk keyring1	手動または動的 PPK が設定されているキーリングを指定します。 (注) IKEv2 プロファイルからキーリングを削除するには、 <b>no keyring {aaa   local   ppk} keyring-name</b> コマンドを使用します。
ステップ 3	<b>exit</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# exit	IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードを開始します。

## ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化の設定例

以下のセクションでは、PPK を使用した量子安全暗号化の設定に関連する詳細な設定例を示します。

### 例：手動ポスト量子事前共有キーの設定

#### 例：イニシエータの設定

次に、イニシエータの PPK を手動で設定する例を示します。

```
conf t
hostname Router1
!
crypto ikev2 keyring ppk-keyring
peer 1
```

## 例：応答側の設定

```

address 10.10.0.1 255.255.255.0
ppk manual id ppk_id key cisco123
!
crypto ikev2 profile prof
match identity remote address 10.10.0.1
authentication local pre-share key cisco
authentication remote pre-share key cisco
keyring ppk ppk-keyring
!
crypto ipsec profile prof
set ikev2-profile prof
!
interface Tunnel0
ip address 10.10.0.1 255.255.255.0
tunnel source GigabitEthernet1
tunnel destination 10.10.10.1
tunnel protection ipsec profile prof
!
interface GigabitEthernet1
ip address 10.10.10.2 255.255.255.0
no shut
!

```

## 例：応答側の設定

次に、レスポンドの PPK を手動で設定する例を示します。

```

conf t
hostname Router2
!
crypto ikev2 keyring ppk-keyring
peer 1
address 10.10.0.1 255.255.255.0
ppk manual id ppk_id key cisco
!
crypto ikev2 profile prof
match identity remote address 10.10.0.1
authentication local pre-share key cisco
authentication remote pre-share key cisco
keyring ppk ppk-keyring
!
crypto ipsec profile prof
set ikev2-profile prof
!
interface Tunnel0
ip address 10.10.0.2 255.255.255.0
tunnel source GigabitEthernet1
tunnel destination 10.10.10.2
tunnel protection ipsec profile prof
!
interface GigabitEthernet1
ip address 10.10.0.1 255.255.255.0
no shut
!

```

## 例：ダイナミックポスト量子事前共有キーの設定

## 例：イニシエータの設定

次に、イニシエータのダイナミック PPK の設定方法の例を示します。

```
conf t
hostname Router1
!
crypto skip-client skip-client-cfg
server ipv4 10.10.0.4 port 9991
psk id psk-id1 key 0 cisco123
!
crypto ikev2 keyring ppk-keyring
peer 1
address 10.10.0.1 255.255.255.0
ppk dynamic skip-client-cfg
!
crypto ikev2 profile prof
match identity remote address 10.10.0.1
authentication local pre-share key cisco
authentication remote pre-share key cisco
keyring ppk ppk-keyring
!
crypto ipsec profile prof
set ikev2-profile prof
!
interface Tunnel0
ip address 10.10.0.2 255.255.255.0
tunnel source GigabitEthernet1
tunnel destination 10.10.10.1
tunnel protection ipsec profile prof
!
interface GigabitEthernet1
ip address 10.10.10.2 255.255.255.0
no shut
!
interface GigabitEthernet1
ip address 10.10.10.3 255.255.255.0
no shut
!
```

## 例：応答側の設定

次に、応答側のダイナミック PPK の設定方法の例を示します。

```
conf t
hostname Router2
!
crypto skip-client skip-client-cfg
server ipv4 10.10.0.4 port 9992
psk id vedge-sim-1 key 0 cisco123
!
crypto ikev2 keyring ppk-keyring
peer 1
address 10.10.0.1 255.255.255.0
ppk dynamic skip-client-cfg
!
crypto ikev2 profile prof
match identity remote address 10.10.0.1
authentication local pre-share key cisco
authentication remote pre-share key cisco
keyring ppk ppk-keyring
!
crypto ipsec profile prof
set ikev2-profile prof
!
interface Tunnel0
ip address 10.10.0.2 255.255.255.0
```

```

tunnel source GigabitEthernet1
tunnel destination 10.10.10.2
tunnel protection ipsec profile prof
!
interface GigabitEthernet1
ip address 10.10.10.1 255.255.255.0
no shut
!
interface GigabitEthernet1
ip address 10.10.10.4 255.255.255.0
!

```

## ポスト量子事前共有キーの設定の確認

現在の IKEv2 セキュリティ アソシエーションに関する情報を表示するには、**show crypto ikev2 sa detailed** コマンドを使用します。出力に表示される「Quantum Resistance Enabled」メッセージは、PPK ベースの量子安全暗号化が有効になっていることを示します。

次に、**show crypto ikev2 sa detailed** コマンドの出力例を示します。

```

IPv4 Crypto IKEv2 SA
Tunnel-id      Local              Remote              fvrf/ivrf          Status
-----
      3          <src IP>/SrcPort   <Dst IP>/DstPort   none/none          READY

Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:19,
Auth sign:
.
.
.
Initiator of SA : No
Quantum Resistance Enabled

```

## ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Command List</a> 』、すべてのリリース



関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
IPsec の設定	『Configuring Security for VPNs with IPsec』

## RFC

RFC	タイトル
RFC 8784	『Mixing Preshared Keys in the Internet Key Exchange Protocol Version 2 (IKEv2) for Postquantum Security』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 272: ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化	Cisco IOS XE リリース 17.11.1a	この機能により、ポスト量子事前共有キー (PPK) を使用した IKEv2 および IPsec パケットの量子安全暗号化のために、RFC 8784 および Cisco Secure Key Integration Protocol (SKIP) が実装されます。手動で設定された PPK は「手動 PPK」と呼ばれ、SKIP プロトコルを使用して外部キーソースからインポートされる PPK は「ダイナミック PPK」と呼ばれます。
ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化	Cisco IOS XE リリース 17.12.1a	この機能拡張により、次のプラットフォームに、ポスト量子事前共有キーを使用した量子安全暗号化のサポートが導入されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco 1000 シリーズ サービス統合型ルータ</li> <li>• Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォーム</li> </ul>



## CHAPTER 207

# FlexVPN サーバーの設定

このモジュールでは、FlexVPNサーバーの機能、FlexVPNサーバーの設定に必要な IKEv2 コマンド、リモートアクセスクライアント、およびサポートされる RADIUS 属性について説明します。



**Note** セキュリティに対する脅威は、そのような脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に、絶えず変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

- [FlexVPN サーバーの制限事項, on page 3067](#)
- [FlexVPN サーバーに関する情報, on page 3068](#)
- [FlexVPN サーバーの設定方法, on page 3079](#)
- [FlexVPN サーバーの構成例, on page 3091](#)
- [FlexVPN サーバーの設定に関する追加情報, on page 3096](#)
- [FlexVPN サーバーの設定の機能情報, on page 3096](#)

## FlexVPN サーバーの制限事項

### デュアルスタック トンネル インターフェイス および VRF 認識 IPsec

VPN ルーティングおよび転送（VRF）認識 IPsec シナリオでデュアルスタック トンネル インターフェイスを設定する場合、**ip vrf forwarding** コマンドを使用して内部 VPN ルーティングおよび転送（IVRF）インスタンスを設定することはできません。これは有効な設定ではないためです。トンネル インターフェイスの IVRF を定義するには **vrf forwarding vrf-name** コマンドを使用します。ここで、*vrf-name* 引数は、定義内に IPv4 および IPv6 アドレス ファミリーを指定した **vrf definition** コマンドを使用して定義されます。

#### SSO の制約事項

- ESP をリロードした場合（スタンバイ ESP なし）、SA シーケンス番号は 0 から再開されます。ピアルータは、予期されたシーケンス番号を持たないパケットをドロップします。

単一の ESP を使用するシステムで ESP のリロード後にこの問題を回避するには、IPSec セッションを明示的に再確立することが必要になる場合があります。このような場合、リロード中に IPSec セッションでトラフィックの中断が発生することがあります。

## FlexVPN 用仮想テンプレート インターフェイス 設定時の IP アドレス 割り当て

- IOS プラットフォームで FlexVPN 用の仮想テンプレート インターフェイス (VTI) を設定する場合は、IP アドレスの割り当てに **ip unnumbered** コマンドを使用する必要があります。静的 IP アドレスおよびサブネットマスクを仮想テンプレート インターフェイスに直接割り当てることはサポートされておらず、仮想アクセス (VA) インターフェイスでクローンエラーが発生する可能性があります。

正しい設定方法は次のとおりです。

```
interface Virtual-Template1 type tunnel
ip unnumbered <interface-ref>
```

## FlexVPN サーバーに関する情報

### EAP を使用するピア認証

FlexVPN サーバーは、Extensible Authentication Protocol (EAP : 拡張可能認証プロトコル) を使用するピア認証をサポートし、クライアントとバックエンド EAP サーバー間で EAP メッセージを中継するパススルー オーセンティケータとして動作します。EAP バックエンドサーバーは、通常、EAP 認証をサポートする RADIUS サーバーです。



**Note** FlexVPN クライアントは EAP を使用する FlexVPN クライアントを認証しますが、FlexVPN サーバーは証明書を使用して認証を受ける必要があります。

FlexVPN サーバーは、IKEv2 プロファイル設定モードの **authentication remote eap** コマンドによって、EAP を使用する FlexVPN クライアントを認証するように設定されています。FlexVPN クライアントは、IKE\_AUTH 要求内の AUTH ペイロードをスキップすることで、EAP を使用して認証します。

**query-identity** キーワードが設定されている場合、FlexVPN サーバーはクライアントからの EAP ID をクエリします。それ以外は、FlexVPN クライアントの IKEv2 ID が EAP ID として使用されます。ただし、**query-identity** キーワードが設定されておらず、FlexVPN クライアントの IKEv2 ID が IPv4 または IPv6 アドレスの場合、IP アドレスを EAP ID として使用できないため、セッションは終了します。

FlexVPN サーバーは、FlexVPN クライアントの EAP ID を EAP サーバーに渡すことで、EAP 認証を開始します。その後、FlexVPN サーバーは、認証が完了するまで、リモート アクセス

(RA) クライアントと EAP サーバー間の EAP メッセージを中継します。認証が成功すると、EAP サーバーでは、EAP 成功メッセージ内で認証された EAP の ID が FlexVPN サーバーに返されることが予想されます。

EAP 認証の後、IKEv2 設定に使用された EAP ID は、次の送信元から任意の順で取得されます。

- EAP 成功メッセージで EAP サーバーから提供される EAP ID。
- **query-identity** キーワードの設定時にクライアントからクエリされる EAP ID。
- EAP ID として使用される FlexVPN クライアントの IKEv2 ID。

次の図は、**query-identity** キーワードなしの EAP 認証に対する IKEv2 交換を示します。

Figure 106: **query-identity** キーワードなしの IKEv2 交換

IKEv2 RA client	IKEv2 RA server	RADIUS-EAP server
HDR, SAi1, KEi, Ni →		
	← HDR, SAr1, KEr, Nr, [CERTREQ]	
HDR, SK {IDi, [CERTREQ,] [IDr,] SAi2, TSi, TSr} →		
	RADIUS Access-Request/EAP-Message/EAP-Response/(EAP-ID(IKEv2-ID)) →	
		← RADIUS Access-Challenge/EAP-Message/EAP-Request/(EAP-method)
	← HDR, SK {IDr, [CERT,] AUTH, EAP(EAP-Request(EAP-method))}	
HDR, SK {EAP(EAP-Response(EAP-method))} →		
	RADIUS Access-Request/EAP-Message/EAP-Response/EAP-method) →	
		← RADIUS Access-Accept/EAP-Message/EAP-Success (other attributes)
	← HDR, SK {EAP (success)}	
HDR, SK {AUTH} →		
	← HDR, SK {AUTH, SAr2, TSi, TSr }	

201802

次の図は、**query-identity** キーワードありの EAP 認証に対する IKEv2 交換を示します。

Figure 107: query-identity キーワードありの IKEv2 交換

IKEv2 RA client	IKEv2 RA server	RADIUS-EAP server
HDR, SAi1, KEi, Ni →		
	← HDR, SAr1, KEr, Nr, [CERTREQ]	
HDR, SK {IDi, [CERTREQ,] [IDr,] SAi2, TSi, TSr} →		
	← HDR, SK {IDr, [CERT,] AUTH, EAP (EAP-request (Identity)) }	
HDR, SK {EAP(EAP-Response(Identity))} →		
	RADIUS Access-Request/ EAP-Message/EAP-Response/(EAP-ID) →	
		← RADIUS Access-Challenge/EAP-Message/ EAP-Request/(EAP-method)
	← HDR, SK {IDr, [CERT,] AUTH, EAP(EAP-Request(EAP-method))}	
HDR, SK {EAP(EAP-Response(EAP-method))} →		
	RADIUS Access-Request/EAP-Message/EAP-Response/EAP-method) →	
		← RADIUS Access-Accept/EAP-Message/EAP-Success (EAP-identity) (other attributes)
	← HDR, SK {EAP (success)}	
HDR, SK {AUTH} →		
	← HDR, SK {AUTH, SAr2, TSi, TSr }	

200141

## IKEv2 コンフィギュレーション モード

IKEv2 コンフィギュレーション モードで、IKE ピアは IP アドレスやルートなどの設定情報を交換できます。設定情報は、IKEv2 認証から取得されます。プルモデルとプッシュモデルの両方がサポートされます。プルモデルには、設定要求と応答の交換が含まれます。プッシュモデルには、設定セットと確認応答の交換が含まれます。

次の表に、発信側と応答側が異なる設定ペイロードタイプを送信するときの状況を示します。

Table 273: 設定ペイロードタイプ

設定ペイロードタイプ	送信元...	属性...
CFG_REQUEST	発信側	発信側が FlexVPN クライアントの場合。または、 <b>config-exchange request</b> コマンドが IKEv2 プロファイルで有効になっている場合。
CFG_REPLY	応答側	応答側が CFG_REQUEST を受信する場合。
CFG_SET	発信側と応答側	発信側： <b>config-exchange set send</b> コマンドが IKEv2 プロファイルで有効になっている場合。 応答側：CFG_REQUEST が受信されておらず、設定データを使用可能で、 <b>config-exchange set send</b> コマンドが IKEv2 プロファイルで有効になっている場合。
CFG_ACK	発信側と応答側	発信側： <b>config-exchange set accept</b> コマンドが IKEv2 プロファイルで有効になっている場合。 応答側： <b>config-exchange set accept</b> コマンドが IKEv2 プロファイルで有効になっている場合。



**Note** 設定要求と設定セットペイロードを送信するためのコマンドは、デフォルトで有効になっています。

ご使用のリリースに応じて、発信側が FlexVPN クライアントの場合に IKEv2 発信側がコンフィギュレーションモードをトリガーしたり、IKEv2 プロファイルで **config-mode** コマンドを有効にすることによって IKEv2 を発信するスタティック トンネルインターフェイスがコンフィギュレーションモードをトリガーすることができます。

IKEv2 FlexVPN サーバーは、次の標準 IPv4 設定属性をサポートします。

- INTERNAL\_IP4\_ADDRESS
- INTERNAL\_IP4\_NETMASK
- INTERNAL\_IP4\_DNS
- INTERNAL\_IP4\_NBNS
- INTERNAL\_IP4\_SUBNET

IKEv2 FlexVPN サーバーは、次の標準 IPv6 設定属性をサポートします。

- INTERNAL\_IP6\_ADDRESS
- INTERNAL\_IP6\_DNS
- INTERNAL\_IP6\_SUBNET




---

**Note** IPv6 設定属性は、Microsoft Windows IKEv2 クライアントによってのみサポートされます。

---

IKEv2 認証ポリシーで **route set** コマンドと **aaa attribute list** コマンドによって制御されている INTERNAL\_IP4\_SUBNET および INTERNAL\_IP6\_SUBNET 設定属性は、SVTI (スタティック仮想トンネルインターフェイス) -to-SVTI トンネルを設定する場合はサポートされません。このような場合、IKEv2 ベースのルート交換の代わりにスタティックルーティングまたはダイナミックルーティングを使用する必要があります。

IKEv2 FlexVPN サーバーは、次の標準共通設定属性をサポートします。

- APPLICATION\_VERSION




---

**Note** この属性は、Cisco AnyConnect および FlexVPN クライアントにのみ送信されます。

---

IKEv2 FlexVPN サーバーは、次の Cisco Unity 設定属性をサポートします。

- MODECFG\_BANNER
- MODECFG\_DEFDOMAIN
- MODECFG\_SPLITDNS\_NAME
- MODECFG\_BACKUPSERVERS
- MODECFG\_PFS
- MODECFG\_SMARTCARD\_REMOVAL\_DISCONNECT




---

**Note** Cisco Unity 属性は、Cisco AnyConnect および FlexVPN クライアントにのみ送信されます。

---

IKEv2 FlexVPN サーバーは、次の Cisco FlexVPN 設定属性をサポートします。

- MODECFG\_CONFIG\_URL
- MODECFG\_CONFIG\_VERSION





**Note** Cisco FlexVPN 属性は、Cisco FlexVPN クライアントにのみ送信されます。

INTERNAL\_IP4\_ADDRESS 属性値は、指定された順序で次の送信元から取得されます。

- AAA ユーザー認証で受信した Framed-IP-Address 属性。
- ローカル IP アドレス プール。
- DHCP サーバー。

DHCP サーバー（設定されている場合）は、ローカル IP アドレス プールが設定されていない場合にのみアドレスを割り当てます。ただし、ローカルプールから IP アドレスを割り当てるとエラーが発生する場合、その次のアドレス送信元の DHCP サーバーはアドレスの割り当てに使用されません。

INTERNAL\_IP4\_NETMASK 属性の値は、次から取得されます。

- IP アドレスが DHCP サーバーから取得される場合、ネットマスクも DHCP サーバーから取得されます。
- IP アドレスが AAA ユーザー認証の Framed-IP-Address 属性またはローカル IP アドレスプールのいずれかから取得される場合、ネットマスクはユーザー認証またはグループ認証で受信した IPv4 ネットマスク属性から取得されます。ネットマスクが使用できない場合、INTERNAL\_IP4\_NETMASK 属性は設定応答に含まれません。ネットマスクが使用可能な場合、INTERNAL\_IP4\_ADDRESS 属性が設定応答に含まれるときにのみ、INTERNAL\_IP4\_NETMASK 属性は含まれます。

IPv4 アドレスは、クライアントがアドレスを要求する場合にのみ割り当てられ、応答に含まれます。クライアントが複数の IPv4 アドレスを要求した場合、応答で送信される IPv4 アドレスは1つのみです。可能な場合は、クライアントが要求しなくても残りの属性が応答に含まれます。クライアントが IPv4 アドレスを要求して、FlexVPN サーバーがアドレスを割り当てることができない場合、INTERNAL\_ADDRESS\_FAILURE メッセージがクライアントに返されます。

ipv6 local pool 設定では常に、プレフィックス長に 128 を使用することをお勧めします。

たとえば、クライアント数が4の場合は、プレフィックス長として **ipv6 local pool pool1 afe0::/126 128** を設定する必要があります。クライアント数が16の場合は、プレフィックス長として **ipv6 local pool pool1 afe0::/124 128** を設定する必要があります。

## IKEv2 認証

IKEv2 認証は、AAA を使用して認証されるセッションに対するポリシーを提供します。このポリシーは、ローカルに定義するか RADIUS サーバーで定義できます。また、このポリシーにはローカルおよび/またはリモート属性が含まれています。認証用のユーザー名は、**name-mangler** キーワードを使用してピア ID から取得するか、コマンドで直接指定することができます。

IKEv2 認証は、ピアがコンフィギュレーション モードを介して IP アドレスを要求する場合にのみ必要です。

IKEv2 認証タイプは、次のとおりです。

- ユーザー認証：ユーザー認証を有効にするには、IKEv2 プロファイルで **aaa authorization user** コマンドを使用します。ユーザー認証は、fqdn-hostname などのピア IKE ID のユーザー固有の部分に基づいています。ユーザー認証の属性は、ユーザー属性と呼ばれます。
- グループ認証：グループ認証を有効にするには、IKEv2 プロファイルで **aaa authorization group** コマンドを使用します。グループ認証は、fqdn-domain などのピア IKE ID の汎用部分に基づいています。グループ認証の属性は、グループ属性と呼ばれます。
- 暗黙的ユーザー認証：暗黙的ユーザー認証を有効にするには、IKEv2 プロファイルで **aaa authorization user cached** コマンドを使用します。暗黙的認証は、EAP 認証の一部として実行されるか、AAA 事前共有キーの取得時に実行されます。暗黙的ユーザー認証の属性は、キャッシュ属性と呼ばれます。



**Note** ご使用のリリースに応じて、**aaa authorization user cached** コマンドが使用可能または使用不可能な場合があります。明示的ユーザー認証は、暗黙的ユーザー認証が属性を返さない場合または Framed-IP-Address 属性を持たない場合のみ実行されます。

### 属性のマージおよびオーバーライド

異なる送信元からの属性は、使用前にマージされます。マージ属性の優先順位は、次のとおりです。

- 重複する属性をマージする場合、属性の送信元の優先順位が高くなります。
- ユーザー属性およびキャッシュ属性をマージする場合、ユーザー属性の優先順位が高くなります。
- マージ済みのユーザー属性およびグループ属性をマージする場合、デフォルトではマージ済みのユーザー属性の優先順位が高くなります。ただし、この優先順位は **aaa author group override** コマンドを使用して逆にすることができます。

## IKEv2 認証ポリシー

IKEv2 認証ポリシーでは、ローカル認証ポリシーが定義され、ローカルおよび/またはリモート属性が含まれています。VPN ルーティングおよび転送 (VRF) や QOS ポリシーなどのローカル属性は、ローカルに適用されます。ルートなどのリモート属性は、コンフィギュレーション モードでピアにプッシュされます。ローカルポリシーを定義するには、**crypto ikev2 authorization policy** コマンドを使用します。IKEv2 認証ポリシーは、**aaa authorization** コマンドによって IKEv2 プロファイルから示されます。

## IKEv2 名前分割

IKEv2 名前分割は、IKEv2 認証用のユーザー名の取得およびピア IKE ID からの AAA 事前共有キーの取得に使用されます。

## IKEv2 マルチ SA

IKEv2 マルチ SA 機能によって、IKEv2 応答側の IKEv2 ダイナミック仮想トンネルインターフェイス (DVTI) セッションは複数の IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) をサポートできます。DVTIセッションあたりの IPsec SA の最大数は、AAA 認証から取得されるか IPsec プロファイルで設定されます。AAA からの値が優先されます。IPsec プロファイルでの *max-flow-limit* 引数への変更は現在のセッションには適用されませんが、後続のセッションに適用されます。IKEv2 マルチ SA 機能では、IPsec プロファイルでの IKEv2 プロファイルの設定は任意です。この任意設定によって、同じ仮想テンプレートを使用する IPsec DVTI セッションで異なる IKEv2 プロファイルを使用できるようになり、仮想テンプレート設定の数が削減されます。



**Note** IKEv2 マルチ SA 機能では、非 any-any プロキシを持つ複数の IPsec SA が許可されます。ただし、IPsec SA プロキシが any-any の場合は 1 つの IPsec SA が許可されます。

詳細については、『*Security for VPNs with IPsec Configuration Guide*』の『Multi-SA Support for Dynamic Virtual Tunnel Interfaces for IKEv2』モジュールを参照してください。

## AnyConnect プロファイルのダウンロード

FlexVPN AnyConnect プロファイルのダウンロード機能を使用すると、Cisco IOS XE ソフトウェアを実行しているデバイスが、Cisco AnyConnect セキュア モビリティ クライアントに IKEv2 プロトコルで接続してプロファイル情報をプッシュできます。

Cisco AnyConnect セキュア モビリティ クライアントには、VPN の設定に使用されるプロファイルが含まれています。このプロファイルは、手動で設定することも、ヘッドエンドからダウンロードすることもできます。ヘッドエンドは、Cisco AnyConnect セキュア モビリティ クライアントのすべてのユーザーにプロファイルをグローバルに展開するように設定できます。

VPN プロファイルを IKEv2 プロファイルと照合するには、**anyconnect profile** コマンドを使用します。



(注) AnyConnect プロファイルのダウンロード機能を設定する際、**crypto ssl profile** は必須ではありません。

## サポートされる RADIUS 属性

次のテーブルに、IKEv2 FlexVPN サーバーがサポートする RADIUS 属性を示します。

- [Scope] フィールドは、属性の方向と、FlexVPN サーバーまたはクライアントでの使用方法を定義します。
  - [Inbound] : FlexVPN サーバーから RADIUS
  - [Outbound] : RADIUS から FlexVPN サーバー
  - [Local] : FlexVPN サーバーによってローカルで使用される
  - [Remote] : FlexVPN サーバーによってクライアントにプッシュされる
- [Local configuration] フィールドは、FlexVPN サーバーでローカルに属性を設定するために使用される、IKEv2 認証ポリシー コマンドを指定します。
- Cisco AV ペアは、vendor-id が 9、vendor-type が 1 の Cisco ベンダー固有属性 (VSA) です。VSA は、RADIUS IETF 属性 26 のベンダー固有でカプセル化されます。Cisco AV ペアは、文字列形式「protocol:attribute=value」で指定されます。

例 :

```
cisco-avpair = "ipsec:ipv6-addr-pool=v6-pool"
```

次に、標準アクセス リストの Cisco AV ペアの例を示します。

```
cisco-avpair = "ipsec:route-set=access-list 99"
```

**Table 274:** 着信および双方向の IETF RADIUS 属性

属性	スコープ
User-Name	着信と発信 (双方向)
User-Password	着信
Calling-Station-Id	着信
Service-Type	着信
EAP-Message	双方向
Message-Authenticator	双方向

**Table 275:** 発信 IETF および Cisco AV ペアの RADIUS 属性

属性	タイプ	スコープ	ローカル設定
Tunnel-Type	IETF	Local	該当なし
Tunnel-Medium-Type	IETF	Local	該当なし

属性	タイプ	スコープ	ローカル設定
Tunnel-Password	IETF	Local	該当なし
ipsec:ikev2-password-local	Cisco AV ペア	Local	該当なし
ipsec:ikev2-password-remote	Cisco AV ペア	Local	該当なし
ipsec:addr-pool	Cisco AV ペア	Local	pool
ipsec:group-dhcp-server	Cisco AV ペア	Local	dhcp server
ipsec:dhcp-giaddr	Cisco AV ペア	Local	dhcp giaddr
ipsec:dhcp-timeout	Cisco AV ペア	Local	dhcp timeout
ipsec:ipv6-addr-pool	Cisco AV ペア	Local	ipv6 pool
ipsec:route-set=interface	Cisco AV ペア	Local	route set interface
ipsec:route-set=prefix	Cisco AV ペア	Local	該当なし
ipsec:route-accept	Cisco AV ペア	Local	route accept any
ip:interface-config	Cisco AV ペア	Local	aaa attribute list
ipsec:ipsec-flow-limit	Cisco AV ペア	Local	ipsec flow-limit
Framed-IP-Address	IETF	Remote	該当なし
Framed-IP-Netmask	IETF	Remote	netmask
ipsec:dns-servers	Cisco AV ペア	Remote	DNS
ipsec:wins-servers	Cisco AV ペア	Remote	wins
ipsec:route-set=access-list (注 1 を参照)	Cisco AV ペア	Remote	route set access-list (注 1 を参照)
ipsec:addrv6	Cisco AV ペア	Remote	n/a
ipsec:prefix-len	Cisco AV ペア	Remote	n/a
ipsec:ipv6-dns-servers-addr	Cisco AV ペア	Remote	ipv6 dns
ipsec:route-set=access-list ipv6	Cisco AV ペア	Remote	route set access-list ipv6
ipsec:banner	Cisco AV ペア	Remote	banner
ipsec:default-domain	Cisco AV ペア	Remote	def-domain
ipsec:split-dns	Cisco AV ペア	Remote	split-dns

属性	タイプ	スコープ	ローカル設定
ipsec:ipsec-backup-gateway	Cisco AV ペア	Remote	backup-gateway
ipsec:pfs	Cisco AV ペア	Remote	pfs
ipsec:include-local-lan	Cisco AV ペア	Remote	include-local-lan
ipsec:smartcard-removal-disconnect	Cisco AV ペア	Remote	smartcard-removal- disconnect
ipsec:configuration-url	Cisco AV ペア	Remote	configuration url
ipsec:configuration-version	Cisco AV ペア	Remote	configuration version

**Note**

- 1. IKEv2 FlexVPN サーバーでアクセス リストを設定するための RADIUS 属性は、標準アクセス リストのみをサポートします。拡張アクセス リストはサポートされていません。

## サポートされるリモート アクセス クライアント

FlexVPN サーバーは、Microsoft 7 IKEv2 クライアント、Cisco IKEv2 AnyConnect クライアント、および Cisco FlexVPN クライアントと相互運用されます。

### Microsoft Windows 7 IKEv2 クライアント

Microsoft Windows 7 IKEv2 クライアントは、インターネット キー エクスチェンジ (IKE) ID として IP アドレスを送信します。この ID は、Cisco IKEv2 FlexVPN サーバーが IKE ID に基づいてリモート ユーザーを分類するのを防ぎます。Windows 7 IKEv2 クライアントが電子メールアドレス (user@domain) を IKE ID として送信できるようにするには、KB975488

(<http://support.microsoft.com/kb/975488>) に記載されたホットフィックスを Windows 7 に適用し、電子メールアドレスの文字列を、プロンプトが表示された場合は [Username] フィールドまたは証明書の [CommonName] フィールドに、認証方式に応じて指定します。

証明書ベースの認証の場合は、次のように、FlexVPN サーバーと Microsoft Windows 7 クライアントの証明書に拡張キー使用法 (EKU) フィールドが含まれている必要があります。

- クライアント証明書では、EKU フィールド = クライアント認証証明書です。
- サーバー証明書では、EKU フィールド = サーバー認証証明書です。
- 証明書は、Microsoft の証明書サーバーまたは IOS CA サーバーから取得できます。

EAP 認証の場合は、Microsoft Windows 7 IKEv2 クライアントが他の EAP 要求の前に EAP ID 要求を待ちます。クライアントに EAP ID 要求を送信するには、IKEv2 FlexVPN サーバー上の IKEv2 プロファイル内で **query-identity** キーワードが設定されていることを確認してください。

## Cisco IKEv2 AnyConnect クライアント

証明書ベースの認証では、次のように FlexVPN サーバーと AnyConnect クライアントの証明書に拡張キー使用法 (EKU) フィールドが含まれている必要があります。

- クライアント証明書では、EKU フィールド = クライアント認証証明書です。
- サーバー証明書では、EKU フィールド = サーバー認証証明書です。

FlexVPN サーバーが証明書を使用して AnyConnect クライアントを認証する場合、サーバーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を含む FlexVPN サーバーの証明書に SubjectAltName の拡張子が必要です。また、**no crypto ikev2 http-url cert** コマンドを使用して、HTTP 認証 URL を FlexVPN サーバーで無効にしておく必要があります。

次の例では、AnyConnect クライアント プロファイルの IKEv2 セッションの EAP-MD5 認証に固有の XML タグを示します。

```
<PrimaryProtocol>IPsec
  <StandardAuthenticationOnly>true
    <AuthMethodDuringIKENegotiation>
      EAP-MD5
    </AuthMethodDuringIKENegotiation>
    <IKEIdentity>DEPT24</IKEIdentity>
  </StandardAuthenticationOnly>
</PrimaryProtocol>
```



**Note** 有効になっているすべてのフラップまたは FlexVPN トンネルについて、次のメッセージが表示されます。

```
*Jan 22 22:52:09.833: %SYS-5-CONFIG_P: Configured programmatically by process Crypto INT
  from console as console
*Jan 22 22:52:09.840: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Virtual-Access2,
  changed state to up
```

詳細については、次のリンクで AnyConnect クライアント 3.0 のドキュメントを参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/docs/security/vpn\\_client/anyconnect/anyconnect30/release/notes/anyconnect30m.html#wp1268255](http://www.cisco.com/en/US/docs/security/vpn_client/anyconnect/anyconnect30/release/notes/anyconnect30m.html#wp1268255)

## FlexVPN サーバーの設定方法

### FlexVPN サーバーの IKEv2 プロファイルの設定

このタスクでは、基本的な IKEv2 プロファイル コマンドに加えて、FlexVPN サーバーの設定に必要な IKEv2 プロファイル コマンドについて説明します。基本的な IKEv2 プロファイルの設定方法については、『*Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2)*』機能モジュールの「Configuring IKEv2 Profile (Basic)」タスクを参照してください。

このタスクは、FlexVPN サーバーの IKEv2 プロファイルを設定するために実行します。

## Procedure

### ステップ 1 enable

**Example:**

特権 EXEC モードを有効にします。

```
Device> enable
```

プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

### ステップ 2 configure terminal

**Example:**

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

```
Device# configure terminal
```

### ステップ 3 crypto ikev2 profile *profile-name*

IKEv2 プロファイル名を定義し、IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

**Example:**

```
Device(config)# crypto ikev2 profile profile1
```

### ステップ 4 aaa authentication eap *list-name*

**Example:**

```
Device(config-ikev2-profile)# aaa authentication eap list1
```

(任意) IKEv2 リモートアクセスサーバーの実装中に EAP 認証用の AAA 認証リストを指定します。

- **eap** : 外部 EAP サーバーを指定します。
- **list-name** : AAA 認証リスト名。

### ステップ 5 authentication {local {rsa-sig | pre-share [key {0 | 6} password]} | ecdsa-sig | eap [gtc | md5 | ms-chapv2] [ username username] [password {0 | 6} password]} | remote {eap [query-identity | timeout seconds] | rsa-sig | pre-share [key {0 | 6} password]} | ecdsa-sig}}

**Example:**

```
Device(config-ikev2-profile)# authentication local ecdsa-sig
```

ローカルまたはリモートの認証方式を指定します。

- **rsa-sig** : 認証方式として RSA-sig を指定します。
- **pre-share** : 認証方式として事前共有キーを指定します。
- **ecdsa-sig** : 認証方式として ECDSA-sig を指定します。
- **eap** : リモート認証方式として EAP を指定します。
- **query-identity** : ピアに EAP ID を問い合わせます。



- **timeout seconds** : 最初の IKE\_AUTH 応答を返してから次の IKE\_AUTH 要求を受け取るまでの期間を秒単位で指定します。

**Note** ローカル認証方式は1つしか指定できませんが、リモート認証方式は複数指定できます。

**ステップ 6** 次のいずれかまたは両方を実行します。

- **aaa authorization user {eap | psk} {cached | list aaa-listname [aaa-username | name-mangler mangler-name]}**
- **aaa authorization user cert list aaa-listname {aaa-username | name-mangler mangler-name}**

**Example:**

```
Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization user eap cached
```

**Example:**

```
Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization user cert list list1 name-mangler mangler1
```

ユーザー認可用の AAA 方式リストとユーザー名を指定します。

- **user** : ユーザー認可を指定します。
- **cert** : ピアは証明書を使用して認証を受ける必要があることを指定します。
- **eap** : ピアは EAP を使用して認証を受ける必要があることを指定します。
- **psk** : ピアは事前共有キーを使用して認証を受ける必要があることを指定します。
- **cached** : EAP 認証中に受信した属性または AAA 事前共有キーから取得した属性をキャッシュする必要があることを指定します。
- **aaa-listname** : AAA 方式リスト名。
- **aaa-username** : AAA 認可要求で使用する必要があるユーザー名を指定します。
- **name-mangler** : ピア ID から AAA 認可ユーザー名を抽出する name mangler を指定します。
- **mangler-name** : 使用する name mangler。

- Note**
- **psk** 認証方式と **eap** 認証方式では、**aaa-username** 引数または **name-mangler** キーワードの指定は任意で、指定しなかった場合は、ピア ID がユーザー名として使用されます。
  - **psk** 認証方式と **eap** 認証方式では、それぞれ、**cached** キーワードと **list** キーワードを使用して 2 つのユーザー認可用のバリエーションを同時に設定できます。
  - **cert** 認証ではタイプが識別名 (DN) のピア ID を使用できないため、**aaa-username** 引数または **name-mangler** キーワードの指定が必須です。

**ステップ 7** 次のいずれかまたは両方を実行します。

- **aaa authorization group [override] {eap | psk} list aaa-listname [aaa-username | name-mangler mangler-name]**
- **aaa authorization group [override] cert list aaa-listname {aaa-username | name-mangler mangler-name}**

**Example:**

```
Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization group override psk list list1
```

**Example:**

```
Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization group cert list list1 name-mangler mangler1
```

グループ認可用の AAA 方式リストとユーザー名を指定します。

- **group** : グループ認可を指定します。
- **override** : (任意) 属性のマージ中はグループ認可からの属性を優先する必要があることを指定します。デフォルトでは、ユーザー属性が優先されます。
- **cert** : ピアは証明書を使用して認証を受ける必要があることを指定します。
- **eap** : ピアは EAP を使用して認証を受ける必要があることを指定します。
- **psk** : ピアは事前共有キーを使用して認証を受ける必要があることを指定します。
- **aaa-listname** : AAA 方式リスト名。
- **aaa-username** : AAA 認可要求で使用する必要があるユーザー名。
- **name-mangler** : ピア ID から AAA 認可ユーザー名を抽出する name mangler を指定します。
- **mangler-name** : 使用する name mangler。

- Note**
- **psk** 認証方式と **eap** 認証方式では、**aaa-username** 引数または **name-mangler** キーワードの指定は任意で、指定しなかった場合は、ピア ID がユーザー名として使用されます。
  - **psk** 認証方式と **eap** 認証方式では、それぞれ、**cached** キーワードと **list** キーワードを使用して 2 つのユーザー認可用のバリエーションを同時に設定できます。
  - **cert** 認証ではタイプが識別名 (DN) のピア ID を使用できないため、**aaa-username** 引数または **name-mangler** キーワードの指定が必須です。

## ステップ 8 config-exchange {request | set {accept | send}}

### Example:

```
Device(config-ikev2-profile)# config-exchange set accept
```

(任意) 設定交換オプションを有効にします。

- **request** : 設定交換要求を有効にします。
- **set** : 設定交換要求セット オプションを有効にします。
- **accept** : 設定交換要求セットを受け入れます。
- **send** : 設定交換セットの送信を有効にします。

- Note**                      デフォルトで、request オプションと set オプションが有効になります。

## ステップ 9 end

### Example:

```
Device(config-ikev2-profile)# end
```

IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IKEv2 名前分割の設定

このタスクを実行して、IKEv2 名前分割を指定します。これを使用して認証要求の名前を生成し、AAA 事前共有キーを取得します。この名前は、リモート IKE ID または EAP ID の異なる形式の指定した部分から派生します。ここで指定した名前分割は、IKEv2 プロファイルに結び付けられます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 name-mangler *mangler-name***
4. **dn {common-name | country | domain | locality | organization | organization-unit | state}**
5. **eap {all | dn {common-name | country | domain | locality | organization | organization-unit | state} | prefix | suffix {delimiter {.|@|\}}}**
6. **email {all | domain | username}**
7. **fqdn {all | domain | hostname}**
8. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 name-mangler <i>mangler-name</i></b> <b>Example:</b> Device (config)# crypto ikev2 name-mangler mangler1	名前分割を定義し、IKEv2 名前分割コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>dn {common-name   country   domain   locality   organization   organization-unit   state}</b> <b>Example:</b> Device (config-ikev2-name-mangler)# dn state	DN（識別名）タイプのリモート ID で、次のフィールドのいずれかから名前が派生します。  • <b>common-name</b>  • <b>country</b>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>domain</b></li> <li>• <b>locality</b></li> <li>• <b>organization</b></li> <li>• <b>organization-unit</b></li> <li>• <b>state</b></li> </ul>
ステップ 5	<p><b>eap</b> {<b>all</b>   <b>dn</b> {<b>common-name</b>   <b>country</b>   <b>domain</b>   <b>locality</b>   <b>organization</b>   <b>organization-unit</b>   <b>state</b>}   <b>prefix</b>   <b>suffix</b>   <b>delimiter</b> {<b>.</b>   <b>@</b>   <b>\</b>}}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-name-mangler)# eap prefix delimiter @</pre>	<p>タイプが EAP (Extensible Authentication Protocol) のリモート ID から名前が派生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : EAP ID 全体から名前が派生します。</li> <li>• <b>dn</b> : DN タイプのリモート EAP ID の次のフィールドのいずれかから名前が派生します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>common-name</b></li> <li>• <b>country</b></li> <li>• <b>domain</b></li> <li>• <b>locality</b></li> <li>• <b>organization</b></li> <li>• <b>organization-unit</b></li> <li>• <b>state</b></li> </ul> </li> <li>• <b>prefix</b> : EAP ID のプレフィックスから名前が派生します。</li> <li>• <b>suffix</b> : EAP ID のサフィックスから名前が派生します。</li> <li>• <b>delimiter</b> {<b>.</b>   <b>@</b>   <b>\</b>} : プレフィックスとサフィックスを分割する、EAP ID のデリミタを指定します。</li> </ul>
ステップ 6	<p><b>email</b> {<b>all</b>   <b>domain</b>   <b>username</b>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-name-mangler)# email username</pre>	<p>電子メール タイプのリモート ID から名前が派生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : 電子メール タイプのリモート IKE ID 全体から名前が派生します。</li> <li>• <b>domain</b> : リモート IKE ID のドメイン部分から名前が派生します。</li> <li>• <b>username</b> : リモート IKE ID のユーザー名部分から名前が派生します。</li> </ul>
ステップ 7	<p><b>fqdn</b> {<b>all</b>   <b>domain</b>   <b>hostname</b>}</p> <p><b>Example:</b></p>	<p>タイプが FQDN (完全修飾ドメイン名) のリモート ID から名前が派生します。</p>

	Command or Action	Purpose
	Device(config-ikev2-name-mangler)# fqdn domain	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : FQDN タイプのリモート IKE ID 全体から名前が派生します。</li> <li>• <b>domain</b> : リモート IKE ID のドメイン部分から名前が派生します。</li> <li>• <b>hostname</b> : リモート IKE ID のホスト名部分から名前が派生します。</li> </ul>
ステップ 8	<b>end</b>  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-name-mangler)# end	IKEv2 名前分割コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IKEv2 認証ポリシーの設定

このタスクを実行して、IKEv2 認証ポリシーを設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 authorization policy** *policy-name*
4. **aaa attribute list** *list-name*
5. **backup-gateway** *string*
6. **banner** *banner-text*
7. **configuration url** *url*
8. **configuration version** *version*
9. **def-domain** *domain-name*
10. **dhcp** { **giaddr** *ip-address* | **server** {*ip-address* | *hostname*} | **timeout** *seconds*}
11. [**ipv6**] **dns** *primary-server* [*secondary-server*]
12. **include-local-lan**
13. **ipsec flow-limit** *number*
14. **netmask** *mask*
15. **pfs**
16. [**ipv6**] **pool** *name*
17. **route set** { **interface** *interface* | **access-list** {*access-list-name* | *access-list-number* | **ipv6** *access-list-name*}
18. **route accept any** [ **tag** *value*] [ **distance** *value*]
19. **route redistribute** *protocol* [ **route-map** *map-name*]
20. **route set remote** { **ipv4** *ip-address mask* | **ipv6** *ip-address/mask*}
21. **smartcard-removal-disconnect**
22. **split-dns** *string*
23. **session-lifetime** *seconds*
24. **route set access-list** {*acl-number* | [**ipv6**] *acl-name*}

25. wins primary-server [secondary-server]
26. end

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 authorization policy <i>policy-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 authorization policy policy1	IKEv2 認証ポリシーを指定して、IKEv2 認証ポリシー設定モードを開始します。
ステップ 4	<b>aaa attribute list <i>list-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# aaa attribute list list1	AAA 属性のリストを指定します。 <b>Note</b> このコマンドで参照されている AAA 属性リストは、グローバル コンフィギュレーションモードで定義する必要があります。
ステップ 5	<b>backup-gateway <i>string</i></b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# backup-gateway gateway1	最大 10 台のバックアップサーバー名を指定できます。このパラメータは、非標準 Cisco Unity コンフィギュレーション属性によってクライアントにプッシュされます。このパラメータは、クライアントが使用可能なバックアップサーバーを指定します。
ステップ 6	<b>banner <i>banner-text</i></b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# banner This is IKEv2	バナーを指定します。このパラメータは、非標準 Cisco Unity コンフィギュレーション属性によってクライアントに送信されます。
ステップ 7	<b>configuration url <i>url</i></b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# configuration url http://www.cisco.com	コンフィギュレーション URL を指定します。このパラメータは、非標準 Cisco FlexVPN コンフィギュレーション属性によってクライアントに送信されます。クライアントはこの URL を使用して、コンフィギュレーションをダウンロードできます。
ステップ 8	<b>configuration version <i>version</i></b> <b>Example:</b>	コンフィギュレーションバージョンを指定します。このパラメータは、非標準 Cisco FlexVPN コンフィギュレーション属性によってクライアントに送信さ

	Command or Action	Purpose
	Device(config-ikev2-author-policy)# configuration version 2.4	れます。このパラメータは、コンフィギュレーション URL と送信され、クライアントがダウンロードできるバージョンを指定します。
ステップ 9	<b>def-domain</b> <i>domain-name</i>  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# def-domain cisco	デフォルト ドメインを指定します。このパラメータは、非標準 Cisco Unity コンフィギュレーション属性によってクライアントに送信されます。このパラメータは、クライアントが使用可能なデフォルトドメインを指定します。
ステップ 10	<b>dhcp</b> { <b>giaddr</b> <i>ip-address</i>   <b>server</b> { <i>ip-address</i>   <i>hostname</i> }   <b>timeout</b> <i>seconds</i> }  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# dhcp giaddr 192.0.2.1	リモート アクセス クライアントに割り当てられる IP アドレスをリースする DHCP サーバーを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>giaddr</b> <i>ip-address</i> : ゲートウェイ IP アドレス (giaddr) を指定します。</li> <li>• <b>server</b> {<i>ip-address</i>   <i>hostname</i>} : DHCP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を指定します。ホスト名は、設定時に解決されます。</li> <li>• <b>timeout</b> <i>seconds</i> : DHCP サーバーからの応答待ち時間を秒単位で指定します。</li> </ul> <p><b>Note</b> 指定できる DHCP サーバーは1つのみです。DHCP サーバーはグローバル ルーティング テーブル経由で到達可能なことが前提であるため、DHCP パケットはグローバルルーティング テーブルに転送されます。</p>
ステップ 11	<b>[ipv6] dns</b> <i>primary-server</i> [ <i>secondary-server</i> ]  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# dns 198.51.100.1 198.51.100.100	設定応答でクライアントに送信される、プライマリおよびセカンダリドメイン名サービス (DNS) サーバーの IP アドレスを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ipv6</b> : (オプション) DNS サーバーの IPv6 アドレスを指定します。IPv4 アドレスを指定するには、このキーワードなしでコマンドを実行します。</li> <li>• <b>primary-server</b> : プライマリ DNS サーバーの IP アドレス。</li> <li>• <b>secondary-server</b> : (任意) セカンダリ DNS サーバーの IP アドレス。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 12	<b>include-local-lan</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# include-local-lan	ローカル LAN を含めます。このパラメータは、非標準Cisco Unity コンフィギュレーション属性によってクライアントに送信されます。
ステップ 13	<b>ipsec flow-limit number</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# ipsec flow-limit 12500	IKEv2 応答側の IKEv2 dVTI セッションが使用できる IPsec SAS の最大数を指定します。範囲は 0 ~ 50000 です。  デフォルトではコマンドは無効であり、dVTI セッションあたりの IPsec フローの数に制限はありません。値 0 では、IPsec SA は許可されません。
ステップ 14	<b>netmask mask</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# netmask 255.255.255.0	クライアントに IP アドレスを割り当てるサブネットのネットマスクを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>mask</b> : サブネット マスク アドレス。</li> </ul>
ステップ 15	<b>pfs</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# pfs	パスワード転送セキュリティ (PFS) を有効にします。このパラメータは、非標準Cisco Unity コンフィギュレーション属性によってクライアントに送信されます。このパラメータは、クライアントで PFS を使用する必要性を指定します。
ステップ 16	<b>[ipv6] pool name</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# pool abc	リモートアクセスクライアントに IP アドレスを割り当てるためのローカル IP アドレスプールを定義します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ipv6</b> : (オプション) IPv6 アドレス プールを指定します。IPv4 アドレスを指定するには、このキーワードなしでコマンドを実行します。</li> <li>• <b>name</b> : ローカル IP アドレス プールの名前。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>ip local pool</b> コマンドを使用してすでに定義されているローカル IP アドレス プールを使用する必要があります。</p>
ステップ 17	<b>route set { interface interface   access-list {access-list-name   access-list-number   ipv6 access-list-name}}</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-author-policy)# route set interface	コンフィギュレーションモードでピアに向かうルート設定パラメータを指定し、Border Gateway Protocol (BGP) over VPN などのルーティングプロトコルを実行できます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>interface</b> : ルート インターフェイスを指定します。</li> <li>• <b>access-list</b> : ルートアクセスリストを指定します。</li> </ul>



	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>access-list-name</i> : アクセス リストの名前。</li> <li>• <i>access-list-number</i> : 標準のアクセス リスト番号。</li> <li>• <b>ipv6</b>IPv6 アクセス リストを指定します。</li> </ul>
ステップ 18	<b>route accept any [ tag value ] [ distance value ]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-author-policy)# route accept any tag 10</pre>	ピアから受信したルートをフィルタリングし、それらのルートをインストールするためにタグとメトリック値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>any</b> : ピアから受信したすべてのルートを受け入れます。</li> <li>• <b>tag value</b> : (オプション) IKEv2 によって追加された静的ルートのタグ ID を指定します。範囲は 1 ~ 497777 です。</li> <li>• <b>distance value</b> : (オプション) IKEv2 によって追加された静的ルートの距離を指定します。範囲は 1 ~ 255 です。</li> </ul>
ステップ 19	<b>route redistribute protocol [ route-map map-name ]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-author-policy)# route redistribute connected</pre>	ピアから受信したルートをフィルタリングし、それらのルートをインストールするためにタグとメトリック値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>protocol</i> : ルートの再配布元のプロトコルです。<b>connected</b> または <b>static</b> のいずれかのキーワードを指定できます。</li> <li>• <b>route-map map-name</b> : (オプション) ソースルーティング プロトコルから別のルーティング プロトコルにルートをインポートするためにフィルタ処理する必要があるルートマップ。マップ名を指定しないと、すべてのルートが再配布されます。</li> </ul>
ステップ 20	<b>route set remote { ipv4 ip-address mask   ipv6 ip-address/mask }</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-author-policy)# route set remote ipv6 2001:DB8::1/32</pre>	内部ネットワークの IP アドレスを設定します。
ステップ 21	<b>smartcard-removal-disconnect</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-author-policy)# smartcard-removal-disconnect</pre>	スマートカードの取り外しと切断を有効にします。このパラメータは、非標準 Cisco Unity コンフィギュレーション属性によってクライアントに送信されません。このパラメータでは、スマートカードが取り

	Command or Action	Purpose
		外された場合に、クライアントがセッションを停止する必要があることを指定します。
ステップ 22	<b>split-dns string</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-author-policy)# split-dns abc1</pre>	最大 10 台の分割ドメイン名を指定できます。このパラメータは、非標準 Cisco Unity コンフィギュレーション属性によってクライアントに送信されます。このパラメータは、クライアントがプライベートネットワークに使用する必要があるドメイン名を指定します。
ステップ 23	<b>session-lifetime seconds</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-author-policy)# session-lifetime 1000</pre>	IKEv2 セッションのライフタイムを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>seconds seconds</b> : 範囲は 120 ~ 25920000 で、2 分間 ~ 300 日間に変換されます。</li> </ul>
ステップ 24	<b>route set access-list {acl-number   [ipv6] acl-name}</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-client-config-group)# route set access-list 110</pre>	コンフィギュレーション モードを介してリモートピアにプッシュされるサブネットを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>acl-number</b> : アクセス リスト番号 (ACL) 。 ACL 番号は IPv4 ACL にのみ指定できます。</li> <li>• <b>ipv6</b> : (オプション) IPv6 アクセスコントロール リスト (ACL) を指定します。IPv4 属性を指定するには、このキーワードなしでコマンドを実行します。</li> <li>• <b>acl-name</b> : アクセス リスト名。</li> </ul> <p><b>Note</b> IPv4 アドレスに標準の、シンプルなアクセス リストのみを指定できます。</p>
ステップ 25	<b>wins primary-server [secondary-server]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-author-policy)# wins 203.0.113.1 203.0.113.115</pre>	設定応答でクライアントに送信される、内部の Windows Internet Naming Service (WINS) サーバーアドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>primary-server</b> : プライマリ WINS サーバーの IP アドレス。</li> <li>• <b>secondary-server</b> : (任意) セカンダリ WINS サーバーの IP アドレス。</li> </ul>
ステップ 26	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-ikev2-author-policy)# end</pre>	IKEv2 認証ポリシー設定モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## FlexVPN サーバーの構成例

### 例：FlexVPN サーバーの設定

#### 例：EAP を使用してピアを認証するための FlexVPN サーバーの設定

この例では、EAP を使用してピアを認証するため、FlexVPN サーバーを設定する方法を示します。

```
aaa new-model
!
aaa group server radius eap-server
 server 192.168.2.1
!
aaa authentication login eap-list group eap-server
!
crypto pki trustpoint trustpoint1
 enrollment url http://192.168.3.1:80
 revocation-check crl
!
crypto ikev2 profile ikev2-profile1
 match identity remote address 0.0.0.0
 authentication local rsa-sig
 authentication remote eap query-identity
 pki trustpoint trustpoint1
 aaa authentication eap eap-list
 virtual-template 1
!
crypto ipsec transform-set transform1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile ipsec-profile1
 set transform-set trans transform1
 set ikev2-profile ikev2-profile1
!
interface Ethernet0/0
 ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
 ip unnumbered Ethernet0/0
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel protection ipsec profile ipsec-profile1
!
radius-server host 192.168.2.1 key key1
!
```

#### 例：グループ認証のための FlexVPN サーバーの設定（外部 AAA）

次の例は、グループ認証用に FlexVPN サーバーを設定する方法を示します。認証は RADIUS または TACACS サーバーである外部 AAA を通じて行います。

```
aaa new-model
!
aaa group server radius cisco-acs
 server 192.168.2.2
```

## 例：グループ認証のための FlexVPN サーバーの設定（ローカル AAA）

```

!
aaa authorization network group-author-list group cisco-acis
!
crypto pki trustpoint trustpoint1
  enrollment url http://192.168.3.1:80
  revocation-check crl
!
crypto pki certificate map certmap1 1
  subject-name co cisco
!
crypto ikev2 name-mangler group-author-mangler
  dn domain
!
crypto ikev2 profile ikev2-profile1
  match certificate certmap1
  authentication local rsa-sig
  authentication remote rsa-sig
  pki trustpoint trustpoint1
  aaa authorization group cert list group-author-list name-mangler group-author-mangler
  virtual-template 1
!
crypto ipsec transform-set transform1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile ipsec-profile1
  set transform-set trans transform1
  set ikev2-profile ikev2-profile1
!
interface Ethernet0/0
  ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
  ip unnumbered Ethernet0/0
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile ipsec-profile1
!
radius-server host 192.168.2.2 key key2
!

```

## 例：グループ認証のための FlexVPN サーバーの設定（ローカル AAA）

次の例は、グループ認証用に FlexVPN サーバーを設定する方法を示します。認証は、IKEv2 認証ポリシーを使用するローカル AAA を通じて行います。認証ポリシーでは、コンフィギュレーションモードでクライアントに送信する、標準の IPv4 および IPv6 属性、Cisco Unity、FlexVPN 属性を指定します。また、認証ポリシーは、ローカル使用に対して、**aaa attribute list** コマンドによってユーザー属性ごとに指定します。

```

aaa new-model
!
aaa authorization network local-group-author-list local
!
!
aaa attribute list attr-list1
  attribute type interface-config "ip mtu 1100"
  attribute type interface-config "tunnel key 10"
!

crypto pki trustpoint trustpoint1
  enrollment url http://192.168.3.1:80
  revocation-check crl
!
crypto pki certificate map certmap1 1

```

```
    subject-name co cisco
!
crypto ikev2 authorization policy author-policy1
  pool pool1
  dhcp server 192.168.4.1
  dhcp timeout 10
  dhcp giaddr 192.168.1.1
  dns 10.1.1.1 10.1.1.2
  route set access-list acl1
  wins 192.168.1.2 192.168.1.3
  netmask 255.0.0.0
  banner ^C flexvpn server ^C
  configuration url http://www.abc.com
  configuration version 10
  def-domain abc.com
  split-dns dns1
  split-dns dns2
  split-dns dns3
  backup-gateway gw1
  backup-gateway gw2
  backup-gateway gw3
  smartcard-removal-disconnect
  include-local-lan
  pfs
  aaa attribute list attr-list1
!
crypto ikev2 profile ikev2-profile1
  match certificate certmap1
  authentication local rsa-sig
  authentication remote rsa-sig
  pki trustpoint trustpoint1
  aaa authorization group cert list local-group-author-list author-policy1
  virtual-template 1
!
crypto ipsec transform-set transform1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile ipsec-profile1
  set transform-set trans transform1
  set ikev2-profile ikev2-profile1
!
interface Ethernet0/0
  ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
  ip unnumbered Ethernet0/0
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile ipsec-profile1
!
ip local pool pool11 192.168.2.10 192.168.2.100
!
ip access-list extended acl-1
  permit ip 192.168.3.10 192.168.4.100 any
  permit ip 192.168.10.1 192.168.10.100 any
!
```

## 例：ユーザー認証のための FlexVPN サーバーの設定

次の例は、ユーザー認証用に FlexVPN サーバーを設定する方法を示します。

```
aaa new-model
!
aaa group server radius cisco-acs
```

## 例 : IPv6 設定属性による IPv6 セッション用の FlexVPN サーバーの設定

```

server 192.168.2.2
!
aaa authorization network user-author-list group cisco-acis
!
crypto pki trustpoint trustpoint1
  enrollment url http:// 192.168.3.1:80
  revocation-check crl
!
crypto pki certificate map certmap1 1
  subject-name co cisco
!
crypto ikev2 name-mangler user-author-mangler
  dn common-name
!
crypto ikev2 profile ikev2-profile1
  match certificate certmap1
  authentication local rsa-sig
  authentication remote rsa-sig
  pki trustpoint trustpoint1
  aaa authorization user cert list user-author-list name-mangler user-author-mangler
  virtual-template 1
!
crypto ipsec transform-set transform1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile ipsec-profile1
  set transform-set trans transform1
  set ikev2-profile ikev2-profile1
!
interface Ethernet0/0
  ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
  ip unnumbered Ethernet0/0
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile ipsec-profile1
!
radius-server host 192.168.2.2 key key2
!

```

## 例 : IPv6 設定属性による IPv6 セッション用の FlexVPN サーバーの設定

次の例に、IPv6 ダイナミック仮想トンネルインターフェイス (dVTI) セッション用に FlexVPN サーバーを設定する方法を示します。この例では、IKEv2 認証ポリシーを使用するローカル AAA グループ認証を使用します。IPv6 設定属性は、IKEv2 認証ポリシーの下で設定されます。

```

aaa new-model
!
aaa authorization network local-group-author-list local
!
crypto pki trustpoint trustpoint1
  enrollment url http://192.168.3.1:80
  revocation-check crl
!
crypto pki certificate map certmap1 1
  subject-name co cisco
!
crypto ikev2 authorization policy author-policy1
  ipv6 pool v6-pool
  ipv6 dns 2001:DB8:1::11 2001:DB8:1::12
  ipv6 subnet-acl v6-acl
!
crypto ikev2 profile ikev2-profile1

```

```

match certificate certmap1
authentication local rsa-sig
authentication remote rsa-sig
pki trustpoint trustpoint1
aaa authorization group cert list local-group-author-list author-policy1
virtual-template 1
!
crypto ipsec transform-set transform1 esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile ipsec-profile1
set transform-set trans transform1
set ikev2-profile ikev2-profile1
!
interface Ethernet0/0
ipv6 address 2001:DB8:1::1/32
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
ipv6 unnumbered Ethernet0/0
tunnel mode ipsec ipv6
tunnel protection ipsec profile ipsec-profile1
!
ipv6 local pool v6-pool 2001:DB8:1::10/32 48
!
ipv6 access-list v6-acl
permit ipv6 host 2001:DB8:1::20 any
permit ipv6 host 2001:DB8:1::30 any
!

```

## 例 : AnyConnect プロファイルのダウンロードの設定

次の例は、FlexVPN AnyConnect プロファイルのダウンロード機能を設定する方法を示します。



**Note** AnyConnect クライアント マシン上のローカル ポリシー ファイルは変更しません。IKEv2 で AnyConnect プロファイルのダウンロード機能を設定すると、必要な XML プロファイルがクライアント デバイスに自動的にダウンロードされます。



**Note** プロファイルダウンロード機能に対して、HTTPS サーバー (ip http secure-server) または SSL ポリシー (crypto ssl policy) のいずれかを無効にする必要があります。これらの機能の両方が同時に有効になっている場合に、デバイスが着信 SSL VPN 接続を受信すると、デバイスがクラッシュする可能性があります。

```

no ip http secure-server
crypto ssl policy ssl-policy
pki trustpoint CA1 sign
ip address local 10.0.0.1 port 443
no shutdown
crypto ssl profile ssl_prof
match policy ssl-policy
crypto vpn anyconnect profile ANY-PROF bootflash:profile.xml
crypto ikev2 profile ikev2_profile
anyconnect profile ANY-PROF

```

## FlexVPN サーバーの設定に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
Cisco AnyConnect Secure Mobility Client	<a href="https://www.cisco.com/c/en/us/support/security/anyconnect-secure-mobility-client/tsd-products-support-series-home.html">https://www.cisco.com/c/en/us/support/security/anyconnect-secure-mobility-client/tsd-products-support-series-home.html</a>
IPsec の設定	『Configuring Security for VPNs with IPsec』
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## FlexVPN サーバーの設定の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ



けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 276: FlexVPN サーバーの設定の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
リモート アクセス クライアントの IKEv2 ヘッドエンド サポート	Cisco IOS XE Release 3.5S	この機能は、Anyconnect 3.0、FlexVPN ハードウェア クライアント、および VTI のマルチ SA サポートに対する IKEv2 をサポートします。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa attribute list, backup-gateway, banner, config-mode set, configuration url, configuration version, def-domain, dhcp, dns, include-local-lan, max flow limit, pfs, pool, route accept, route set interface, smartcard-removal-disconnect, split-dns, subnet-acl.</b>





## CHAPTER 208

# FlexVPN クライアントの設定

このモジュールでは、FlexVPN クライアント機能と FlexVPN クライアントの設定に必要なインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) コマンドについて説明します。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』(NGE) ホワイトペーパーを参照してください。

- [FlexVPN クライアントの制限事項, on page 3099](#)
- [FlexVPN クライアントに関する情報, on page 3100](#)
- [FlexVPN クライアントの設定方法, on page 3107](#)
- [FlexVPN クライアントの構成例, on page 3112](#)
- [FlexVPN クライアントの設定に関する追加情報, on page 3114](#)
- [FlexVPN クライアントの設定の機能情報, on page 3114](#)

## FlexVPN クライアントの制限事項

### ローカル認証方式としての EAP

- ローカル認証方式としての Extensible Authentication Protocol (EAP: 拡張可能認証プロトコル) は、IKEv2 発信側でのみサポートされます。リモート認証としては、IKEv2 応答側でのみサポートされます。
- EAP がローカル認証方式として指定されている場合、リモート認証方式は証明書ベースである必要があります。
- FlexVPN サーバーで **authentication remote eap query-identity** コマンドが設定されていないと、IP アドレスを EAP 認証方式のユーザー名として使用することはできないため、クライアントはローカル ID として IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを持つことはできません。

## デュアルスタック トンネル インターフェイス および VRF 認識 IPsec

VPN ルーティング および 転送 (VRF) 認識 IPsec シナリオでデュアルスタック トンネル インターフェイスを設定する場合、**ip vrf forwarding** コマンドを使用して内部 VPN ルーティング および 転送 (IVRF) インスタンスを設定することはできません。これは有効な設定ではないためです。トンネル インターフェイスの IVRF を定義するには **vrf forwarding vrf-name** コマンドを使用します。ここで、*vrf-name* 引数は、定義内に IPv4 および IPv6 アドレス ファミ리를指定した **vrf definition** コマンドを使用して定義されます。

### SSO の制約事項

- ESP をリロードした場合 (スタンバイ ESP なし)、SA シーケンス番号は 0 から再開されます。ピアルータは、予期されたシーケンス番号を持たないパケットをドロップします。単一の ESP を使用するシステムで ESP のリロード後にこの問題を回避するには、IPsec セッションを明示的に再確立が必要になる場合があります。このような場合、リロード中に IPsec セッションでトラフィックの中断が発生することがあります。

## FlexVPN クライアントに関する情報

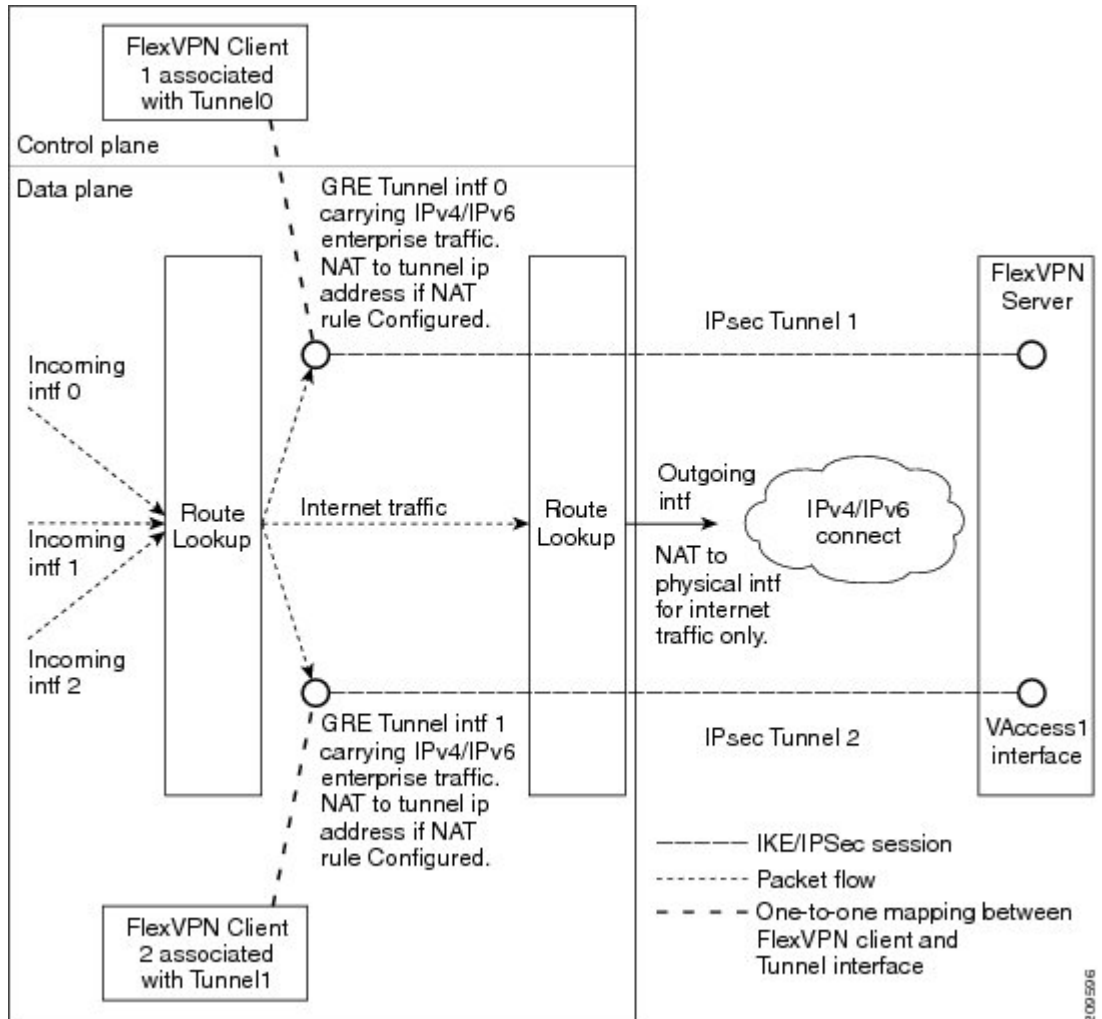
### IKEv2 FlexVPN クライアント

IKEv2 FlexVPN クライアント機能は、FlexVPN クライアントと FlexVPN サーバーの間にセキュアな IPsec VPN トンネルを確立します。IKEv2 FlexVPN クライアント機能の利点は、次のとおりです。

- トンネル インフラストラクチャの統合
- IPv4/IPv6 トランスポートを介した IPv4/IPv6 プロキシ サポート
- EasyVPN によってサポートされるいくつかの機能との下位互換性
- ダイナミック ルーティング プロトコルを実行するための柔軟性

各 FlexVPN クライアントは、一意のトンネル インターフェイスに関連付けられます。これは、特定の FlexVPN クライアントによって取得された IPsec セキュリティ アソシエーション (SA) がトンネル インターフェイスにバインドされていることを示します。次の図に、FlexVPN クライアントとトンネル インターフェイスとの間の関連付けを示します。

Figure 108: FlexVPN クライアントとトンネルインターフェイスの関連付け



動作のシーケンスは、次のとおりです。

- **ルーティング：** FlexVPN サーバーは、モード設定応答の一部としてネットワーク リストをプッシュします。クライアントは、これらのネットワークにトンネルインターフェイスのルートを追加します。コンフィギュレーションモード設定の一部として、クライアントはネットワークにルートを送信します。サーバーがクライアント側ネットワークにルートを追加できるように、IP アドレスがトンネルインターフェイスに設定されます。
- **NAT：** ネットワーク アドレス変換 (NAT) ルールは、ルートマップを使用して明示的に設定する必要があります。ルールが一致すると、FlexVPN クライアントの背後にあるホストはトンネルの IP アドレスに変換されます。この IP アドレスは、FlexVPN サーバーによるモード設定時にプッシュされる属性の 1 つとして取得できます。
- **カプセル化および暗号化：** Generic Routing Encapsulation (GRE) および IPSec カプセル化モードがサポートされます。GRE は、IPv4 と IPv6 の両方のトラフィックをサポートします。トンネルインターフェイスに到達するトラフィックは、GRE ヘッダーでカプセル化

され、その後に IPSec 保護が実行されます。その後、暗号化されたトラフィックは発信インターフェイスにルーティングされます。

FlexVPN クライアントによってサポートされる機能について、次の項で説明します。

## トンネル有効化

FlexVPN クライアントは、自動的にまたはユーザー操作によって手動で接続できます。FlexVPN 設定が完了すると、FlexVPN クライアントは、自動的にトンネルに接続します。トンネルでタイムアウトまたは障害が発生した場合、トンネルは自動的に再接続し、接続を無制限に再試行します。自動トンネル接続を設定するには、IKEv2 FlexVPN プロファイルで **connect** コマンドに **auto** キーワードを使用します。

手動接続では、FlexVPN クライアントは、接続を確立する前にコマンドを実行するユーザーの操作を待ちます。クライアントがタイムアウトするか、接続に失敗すると、後続の接続ではユーザーの操作が必要になります。手動接続を設定するには、特権 EXEC モードで、**crypto ikev2 client flexvpn connect** コマンドに *flexvpn-name* 引数を使用します。接続を終了するには、**clear crypto ikev2 client flexvpn connect** コマンドに *flexvpn-name* 引数を使用します。

### 追跡ベースのトンネル有効化

追跡ベースのトンネル有効化機能は、主にバックアップ シナリオで使用されます。FlexVPN クライアントは、オブジェクトの状態変更に関する通知を取得するため、追跡システムに登録されます。この通知はクライアントに、トンネル有効化のための適切なアクションを実行するよう要求します。**connect** コマンドの **track** キーワードによって、クライアントがオブジェクト番号で特定されるオブジェクトの追跡に関心があることを示す、追跡プロセスを通知します。次に、追跡プロセスはクライアントに、オブジェクトの状態がいつ変更されたかを通知します。

**connect** コマンドの **track** キーワードでトンネル有効化が設定されている場合、オブジェクトが起動すると、オブジェクトがアップ状態にあることを示す通知を受信したクライアントは、接続をトリガーします。**connect** コマンドの **track** キーワードでトンネル有効化が設定されている場合、オブジェクトが停止すると、オブジェクトがダウン状態にあることを示す通知を受信したクライアントは、接続をトリガーします。

## バックアップ機能

FlexVPN クライアントは、事前に決定された順序で複数のピアまたはサーバーに接続できます。ピアのリストはゲートウェイ リストまたはバックアップ ゲートウェイ リストと呼ばれ、次のリストを使用して作成されます。

- スタティック バックアップ ゲートウェイ リストまたはスタティック リスト
- ダウンロード バックアップ ゲートウェイ リストまたはダウンロード リスト

スタティック バックアップ ゲートウェイ リストは、シーケンス番号の付いたピアのリストを提供することによって FlexVPN プロファイルで設定されます。ダウンロード バックアップ ゲートウェイ リストは、動的にダウンロードされ、モード設定の応答時に取得されます。ダウンロード リストは、スタティック ゲートウェイ リストを補完してバックアップ ゲートウェイ

リストを作成します。ダウンロードリストは、リストがダウンロードされるピアの後に挿入されます。

ゲートウェイ リストのピアとの既存の接続がダウンすると、クライアントはゲートウェイ リストにある次のピアとの接続を確立しようとします。ダウンロードリストが使用可能でスタティック ピアとの接続に失敗すると、クライアントはダウンロードリストのピアと順番に接続しようとします。クライアントがダウンロードリストのすべてのピアとの接続の確立に失敗すると、クライアントはスタティック リストにある次のピアに接続を試みて、ダウンロード リストは削除されます。

## バックアップ ゲートウェイ

バックアップ ゲートウェイ リストにピアを追加するには、**peer** コマンドを使用します。バックアップ ゲートウェイ リストを削除するには、**no peer** コマンドを使用します。

ピアは、優先順に並べられています。シーケンス番号が小さいほど、優先順位が高くなります。

新しいピアとの接続が確立され、そのピアがダウンロードリストに含まれていない場合、ピアはバックアップ ゲートウェイ リストにダウンロードリストを追加し、既存のバックアップ ゲートウェイ リストが新しいリストに置き換えられます。

スタティック ピアを設定して、トラック オブジェクトにアタッチすることができます。ピアのトラック オブジェクトがアップ状態の場合、ピアは「可能なピア」になります。



**Note** ダウンロードリストのピアを含め、トラック オブジェクトにアタッチされていないピアは、これらのピアが常にアップ状態であるため「可能なピア」に分類されます。

ピアの選択プロセスは、次のように機能します。接続が確立されると、ゲートウェイリストが検索され、最初の可能なピアが選択されます。ピアは次のルールに従って選択されます。スタティック ピアは、希望するステータス（アップまたはダウン）のトラック オブジェクトに関連付けることができます。トラック オブジェクトのステータスが設定されたステータスと一致すると、ピアは「可能なピア」と呼ばれます。



**Note** ピアがドメインネームサービス (DNS) の名前または完全修飾ドメイン名 (FQDN) のいずれかによって識別される場合、名前は動的に解決されます。

ピアの選択プロセスの後に、新しいピアが選択されます。また、既存の条件が満たされない場合は、次のシナリオが発生します。

- アクティブなピアが、活性チェックに応答しなくなります。
- ピア名の DNS 解決が失敗します。
- ピアとの IKE ネゴシエーションが失敗します。
- ピアが「可能なピア」でなくなります（対応するトラック オブジェクトがダウンします）。



**Note** 複数の FlexVPN ピアを FlexVPN クライアントで設定したり、プライマリ ピアで IKEv2 SA をクリアすると、そのクリアによってクライアントでの新しいピアの選択がトリガーされます。

## プライマリ ピアの再アクティブ化

プライマリ ピアの再アクティブ化機能は、最高優先度のピアが常に接続されるようにします。最高優先度のピアのトラック オブジェクトがオブジェクト ステータスと一致する場合、優先度が低いピアがある既存の接続が切断され、最高優先度のピアへの接続が確立されます。この機能を有効にするには、**peer reactivate** コマンドを使用します。



**Note** トラック オブジェクトは、静的に設定されたピアに関連付ける必要があります。

## ダイヤルバックアップ (プライマリまたはバックアップ トンネル)

オブジェクトの状態の変化について通知を受けるように、FlexVPN クライアントを追跡システムに登録します。クライアントがオブジェクトを追跡したい追跡プロセス (オブジェクト番号で識別) について通知するには、**connect track** コマンドを使用します。追跡プロセスでは、このオブジェクトの状態が変わったときにクライアントに順番に通知されます。追跡しているオブジェクトの状態がアップまたはダウンの場合、この通知によってクライアントは、プライマリまたはバックアップ接続を開始または停止するために対処するよう促されます。

ダイヤルバックアップ機能は、次のように設定できます。

- プライマリおよびバックアップ トンネルの両方が FlexVPN トンネルの場合：
  - アクティブなトンネルは、一度に 1 つのみです。
  - 両方のクライアント プロファイルは **connect track** コマンドを使用して設定され、同じトラック オブジェクトを参照します。
  - オブジェクトがアップしているときにプライマリ トンネルがステータスを追跡する場合、セカンダリ トンネルはオブジェクトがダウンしているときにオブジェクトのステータスを追跡します。
- 1 つのトンネルが FlexVPN トンネルの場合：
  - 残りのトンネルは、セキュアな接続上に存在します。
  - プライマリ接続は FlexVPN ではなく、バックアップ接続が FlexVPN です。
  - クライアント プロファイルは、オブジェクトを指定した **connect track** コマンドを使用して設定され、プライマリ発信インターフェイスを介してプライマリ ピアに到達する能力をトレースします。

## バックアップ グループ

バックアップ グループ機能によって、FlexVPN クライアントは、グループに属する FlexVPN クライアントが同じピアとのセッションを確立しているときにピアを省略することができます。



す。グループに属している FlexVPN クライアントがピアとの接続を開始すると、FlexVPN クライアントは同じグループ内の別の FlexVPN クライアントが同じピアとのセッションを確立しているかどうかを確認します。接続が存在する場合、FlexVPN クライアントはこのピアを省いて、順番に次のピアを確認します。バックアップグループを設定するには、`group-number` 引数を指定して `backup group` コマンドを使用します。

## デュアル FlexVPN のサポート

デュアル FlexVPN サポート機能によって、同じ内部および外部インターフェイスを共有する 2 つの FlexVPN トンネルを設定することができます。2 つの FlexVPN トンネルは、ルートインジェクションを使用し、対応するトンネルインターフェイスを介して適切なトラフィックを送信します。トンネルがアップしているとき、トンネルはサーバーからネットワークリストを「学習」します。サーバーがネットワーク リストを転送すると、FlexVPN は特定のルートとそのルーティング テーブル内の宛先ネットワークにインストールし、トンネルインターフェイスからこれらのネットワークにトラフィックを送信します。



**Note** トンネルインターフェイスを介してデフォルトルートと確立できる FlexVPN 接続は、1 つのみです。

## スプリット DNS のサポート

スプリット DNS 機能では、FlexVPN クライアントはドメイン ネーム システム (DNS) プロキシとして動作できます。FlexVPN ネゴシエーションの間、DNS リストはモード設定中にダウンロードされます。このリストは、FlexVPN プロファイルと関連付けられた内部インターフェイスで、DNS ビュー リストとして設定されます。ビュー リストは、ドメイン名に基づいて要求と DNS クエリを照合し、一致した要求を DNS サーバーに転送するために使用されます。他の DNS クエリは、デフォルト ビュー (グローバル DNS 設定) を照合するために使用され、ISP DNS に転送されます。

FlexVPN クライアント プロファイル内に 内部インターフェイスについての記載がない場合、DNS ビューはすべてのインターフェイスに適用されますが、設定されたすべてのプロファイルのトンネルインターフェイスとトンネルソース インターフェイスを除きます。DNS クエリ要求が内部インターフェイスに受信されると、一致する DNS ビューが取得され、要求は DNS IP アドレスに転送されます。

## NAT

FlexVPN のネットワーク アドレス変換 (NAT) 機能では、トラフィックがルーティングされるインターフェイスに基づいて、トラフィックを IP アドレスに変換できます。パケットが、`ip nat inside` コマンドで設定された 1 つのインターフェイスで受信され、`ip nat outside` コマンドで設定された別のインターフェイスに送信される場合、そのパケットは 2 番目のインターフェイスで設定された IP アドレスに変換されます。

## サーバーのネットワーク リスト

企業トラフィックのルートは、トンネルインターフェイスを使用して、クライアントによってダイナミックインストールされます。このトラフィックは、発信する物理インターフェイス経由でデフォルトのルートをたどります。企業トラフィックはトンネルIPアドレスに変換され、インターネットトラフィックは外部の発信インターフェイス IP アドレスに変換されます。

## サーバーからのデフォルトルート リスト

デフォルト ルートは、トンネル インターフェイスを介してシーケンス番号がより高いデバイスで設定する必要があります。トンネル インターフェイスは **ip nat outside** コマンドで設定されます。また、トンネルインターフェイスの IP アドレスは、クライアントが送信した IP アドレスによって割り当てられます。内部インターフェイスからの企業トラフィックは、送信アドレスに変換されます。NAT は、ルート マップを使用して NAT ルールを設定することによって実現されます。ルートマップでは、発信インターフェイスに基づいてルールが定義されます。グローバルに設定された NAT ルールは、ルーティングに基づいて適用されます。

トンネルインターフェイスから送信された IPv4 トラフィックは、IPv4 送信アドレスに変換されます。



**Note** NAT が不要な場合、トンネルインターフェイスに関連付けられた NAT ルールを設定する必要はありません。

## FlexVPN クライアントのネットワーク リストの学習方法

FlexVPN クライアントは、次のいずれかの方法でピアの背後にあるネットワークのリストを学習します。

- **モード設定プッシュ** : FlexVPN サーバーは、ネットワーク属性のリストをコンフィギュレーション モードのパラメータとしてクライアントに送信します。FlexVPN クライアントは、メトリックが最も高いトンネルインターフェイスを介してこれらのネットワークにルートをインストールします。クライアントは、サーバーが仮想アクセスインターフェイスを介してそれらのルートを追加できるように、モード設定セットまたは確認応答 (SET/ACK) の交換でサーバーにそのネットワークを伝達します。
- **ルーティング プロトコルの実行** : FlexVPN クライアントおよびサーバーはトンネル インターフェイスを介してルーティング プロトコルを実行し、ネットワーク ルートを確立します。これによって、クライアントおよびサーバーは、既存のセッションを切断せずに柔軟にネットワークを追加または削除できます。トンネルアドレスは、ピアとのルートを確立するためにモード設定時に伝達されます。

## WINS NBNS およびドメイン名

モード設定中、FlexVPN サーバーはドメイン名、Windows Internet Naming Service (WINS)、または NetBIOS ネーム サーバー (NBNS) 属性をプッシュします。これらの属性は、FlexVPN クライアントで実行されている DHCP サーバーに、動的に更新されます。

## イベントトレース

イベントトレース機能は、デバッグのために使用されます。FlexVPN クライアントに通知されたイベントは記録され、その情報はデバッグに使用されます。イベントトレースは、バッファ領域に数バイトのトレース情報を記録する高速メカニズムと、デバッグデータを抽出および復号する表示メカニズムを組み合わせたものです。FlexVPN クライアントは、バッファを保持して、通常の動作時に有効にすることができます。

## ローカル認証方式としての Extensible Authentication Protocol

FlexVPN クライアントは、ローカル認証方式として EAP をサポートします。サポートされる EAP 認証方式は、Microsoft Challenge Handshake Authentication Protocol Version 2 (MSCHAPv2)、メッセージダイジェストアルゴリズム 5 (MD5)、および Generic Token Card (GTC : 汎用トークンカード) です。EAP 認証プロセスは、次のとおりです。

- EAP を使用して FlexVPN クライアントを認証するには、IKEv2 プロファイルコンフィギュレーション モードで **authentication local eap** コマンドを使用します。
- FlexVPN クライアントがピアから IKE\_AUTH 応答を受信した後、**crypto eap credentials** コマンドを入力します。
- EAP ID 要求を IKE\_AUTH 応答で受信した場合、EAP ユーザー名とパスワードを指定する必要があります。
- EAP ID 要求を IKE\_AUTH 応答で受信していない場合、ローカル IKEv2 ID をユーザー名として使用するため、パスワードのみを指定します。



### Note

ローカル認証方式としての EAP は FlexVPN クライアントと一緒に使用する必要がありますが、IKEv2 発信側では EAP を使用することもできます。EAP サーバーがサポートされていない認証方式を最初に指定すると、FlexVPN EAP 発信側は EAP 否定応答 (NAK) パケットで応答し、希望の認証方式として EAP-MSCHAPv2、EAP-MD5、または EAP-GTC を要求します。FlexVPN EAP 応答側で、いずれかの認証方式を選択します。

## FlexVPN クライアントの設定方法

### IKEv2 VPN クライアント プロファイルの設定

このタスクでは、FlexVPN クライアントの設定に必要な IKEv2 コマンドと基本の IKEv2 コマンドについて説明します。基本の IKEv2 プロファイルの設定については、『*Configuring Internet Key Exchange Version 2 (IKEv2)*』モジュールの「Configuring Basic Internet Key Exchange Version 2 CLI Constructs」タスクを参照してください。



**Note** IKEv2 プロファイルの認証リストに入力ミスがある場合は、自動的にデフォルトのリストに戻ります。

FlexVPN サーバーの IKEv2 プロファイル設定については、「FlexVPN クライアントの設定方法」の項を参照してください。

## トンネルインターフェイスの設定

このタスクを実行して、FlexVPN クライアントが参照するトンネルインターフェイスを設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface tunnel *number***
4. **ip address {*ipv4-address* | **negotiated**}**
5. **tunnel mode gre ip**
6. **tunnel mode ipsec ipv4**
7. **tunnel source {*ip-address* | *interface* | **dynamic**}**
8. **tunnel destination dynamic**
9. **tunnel protection ipsec-profile *profile-name***
10. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface tunnel <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# interface tunnel 1	トンネルインターフェイスを作成します。続いて、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip address {<i>ipv4-address</i>   <b>negotiated</b>}</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip address negotiated	(オプション) IPv4 アドレスをトンネルインターフェイスに割り当てます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>tunnel mode gre ip</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel mode gre ip	(オプション) トンネル インターフェイスの Generic Route Encapsulation (GRE) モードを有効にします。
ステップ 6	<b>tunnel mode ipsec ipv4</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel mode ipsec ipv4	(オプション) IPsec カプセル化を有効にします。
ステップ 7	<b>tunnel source {ip-address   interface   dynamic}</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel source 10.0.0.1	トンネルインターフェイスの送信元を指定します。
ステップ 8	<b>tunnel destination dynamic</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel destination dynamic	トンネルインターフェイスの宛先を指定します。
ステップ 9	<b>tunnel protection ipsec-profile profile-name</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# tunnel protection ipsec-profile ipsecprofile1	トンネルインターフェイスを IPsec プロファイルに関連付けます。
ステップ 10	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## FlexVPN クライアントの設定

**monitor event-trace flexvpn** コマンドを使用して、イベント トレースを有効にします。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 client flexvpn client-name**
4. **peer sequence {ipv4-address | ipv6-address | fqdn fqdn-name [dynamic | ipv6]} [ track track-number [up | down]]**
5. **connect {manual | auto | track track-number [up | down]}**
6. **client inside interface-type interface-number**
7. **client connect tunnel interface-number**
8. **source sequence-number interface-type interface-number track track-number**
9. **peer reactivate**
10. **backup group {group-number | default}**
11. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 client flexvpn <i>client-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 client flexvpn client1	IKEv2 FlexVPN クライアント プロファイルを定義し、IKEv2 FlexVPN クライアント プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>peer sequence {<i>ipv4-address</i>   <i>ipv6-address</i>   <b>fqdn fqdn-name</b> [<b>dynamic</b>   <b>ipv6</b>]} [ <b>track track-number</b> [<b>up</b>   <b>down</b>]]</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-flexvpn)# peer 1 10.0.0.1	IP アドレスまたはホスト名を使用して、静的ピアを定義します。
ステップ 5	<b>connect {<b>manual</b>   <b>auto</b>   <b>track track-number</b> [<b>up</b>   <b>down</b>]}]</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-flexvpn)# connect track 10 up	FlexVPN トンネルを接続します。 <b>Note</b> このコマンドに変更を加えると、アクティブなセッションが終了します。
ステップ 6	<b>client inside <i>interface-type interface-number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-flexvpn)# client inside GigabitEthernet 0/1	(オプション) 内部インターフェイスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>FlexVPN クライアント プロファイルには、複数の内部インターフェイスを指定できます。内部インターフェイスは、FlexVPN クライアント プロファイル全体で共有できます。</li> </ul> <b>Note</b> このコマンドに変更を加えると、アクティブなセッションが終了します。
ステップ 7	<b>client connect tunnel <i>interface-number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-flexvpn)# client connect tunnel 1	「トンネル インターフェイスの設定」タスクで作成したトンネル インターフェイスを、FlexVPN クライアントに割り当てます。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>FlexVPN クライアントプロファイルに対して、設定できるトンネルインターフェイスは1つのみです。</li> </ul> <p><b>Note</b> このコマンドに変更を加えると、アクティブなセッションが終了します。</p>
ステップ 8	<b>source</b> <i>sequence-number interface-type interface-number track track-number</i>  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-flexvpn)# source 1 GigabitEthernet 0/1 track 11	トンネルの送信元アドレスにシーケンス番号を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>トンネルの送信元アドレスには、トラック オブジェクト番号がアップ状態の最小シーケンス番号があります。</li> </ul> <p><b>Note</b> このコマンドに変更を加えると、アクティブなセッションが終了します。</p>
ステップ 9	<b>peer reactivate</b>  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-flexvpn)# peer reactivate	プライマリ ピア機能の再アクティベートを有効にします。
ステップ 10	<b>backup group</b> { <i>group-number</i>   <b>default</b> }  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-flexvpn)# backup group default	バックアップ グループにクライアントを割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトでは、すべてのクライアントがバックアップグループ 0 に属しています。</li> </ul> <p><b>Note</b> このコマンドに変更を加えると、アクティブなセッションが終了します。</p>
ステップ 11	<b>end</b>  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-flexvpn)# end	IKEv2 FlexVPN クライアントプロファイルコンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## ローカル認証方式としての EAP の設定

このタスクを実行して、FlexVPN クライアントのローカル認証方式として Extensible Authentication Protocol (EAP : 拡張可能認証プロトコル) を設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 profile** *profile-name*
4. **authentication local eap**

## 5. end

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 profile profile-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 profile profile1	IKEv2 プロファイルを定義し、IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>authentication local eap</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-profile)# authentication local eap	ローカル認証方式として EAP を指定します。  <b>Note</b> このコマンドは、IKEv2 の発信側でのみサポートされます。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-profile)# end	IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## FlexVPN クライアントの構成例

## 例：IKEv2 FlexVPN クライアント プロファイルの設定

次の例は、IKEv2 FlexVPN クライアント プロファイルを設定する方法を示します。

```
crypto ikev2 client flexvpn flex
  peer 1 10.0.0.1
  connect manual
  client connect Tunnel0
!
crypto ikev2 authorization policy flex
  subnet-acl 199
  route set interface
  route accept any
!
crypto ikev2 keyring key
  peer dvti
```



```
    address 0.0.0.0 0.0.0.0
    pre-shared-key cisco
    !
crypto ikev2 profile prof
match identity remote address 10.0.0.1 255.0.0.0
authentication local pre-share
authentication remote pre-share
keyring key
aaa authorization group psk list local-group-author-list flex
config-mode set
!
crypto ipsec transform-set trans esp-aes
!
crypto ipsec profile ipsecprof
set transform-set trans
set pfs group2
set ikev2-profile prof
!
interface Tunnel0
ip address negotiated
tunnel source Ethernet0/0
tunnel destination dynamic
tunnel mode ipsec ipv4
tunnel protection ipsec-profile ipsecprof
!
interface Ethernet0/0
ip address 172.16.0.1 255.240.0.0
ip virtual-reassembly in
!
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 2.2.2.2
access-list 199 permit ip 10.20.20.20 0.0.0.255 any
access-list 199 permit ip 10.30.30.30 0.0.0.255 any
```

## 例：ローカル認証方式としての EAP の設定

次の例は、EAP をローカル認証方式として設定する方法を示します。

```
crypto ikev2 profile profile1
authentication remote rsa-sig
authentication local eap
```

セッションが起動すると、次のように、EAP の認証情報を入力するプロンプトが表示されます。

```
Enter the command "crypto eap credentials profile1"
Device# crypto eap credentials profile1

Enter the Username for profile profile1: cisco
Enter the password for username cisco
```

## FlexVPN クライアントの設定に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
IPsec の設定	『Configuring Security for VPNs with IPsec』
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## FlexVPN クライアントの設定の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 277: FlexVPN クライアントの設定の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IKEv2 リモートアクセス ハードウェア クライアント		<p>IKEv2 リモートアクセスハードウェアクライアント機能は、モビリティ、NAT トラバーサル、およびサービス妨害 (DoS) 攻撃からの復元など、さまざまなソリューションのサポートに必要な、リモートアクセス接続と拡張機能をサポートします。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>backup group, client connect tunnel, client inside, connect, crypto ikev2 client flexvpn, interface, ip address, peer, peer reactivate, source tunnel destination, tunnel mode, tunnel protection, tunnel source.</b></p>
IPsec VPN の IPv6 リモートアクセス		<p>IPsec VPN の IPv6 リモートアクセス機能は、IPv6 サポートと、IKEv2 FlexVPN クライアントのローカル認証方式としての EAP をサポートします。</p> <p>次のコマンドが変更されました。 <b>authentication (IKEv2 profile), peer.</b></p>





## CHAPTER 209

# FlexVPN スポーク間の設定

最新版発行日：2014年3月28日

FlexVPN スポークツースポーク機能によって、FlexVPN クライアントは、仮想トンネルインターフェイス（VTI）、インターネットキー エクスチェンジバージョン2（IKEv2）、および Next Hop Resolution Protocol（NHRP）を活用して別の FlexVPN クライアントと直接の暗号トンネルを確立し、スポークツースポーク接続を構築することができます。

- [FlexVPN スポーク間の前提条件, on page 3117](#)
- [FlexVPN スポーク間に関する情報, on page 3117](#)
- [FlexVPN スポークツースポークの設定方法, on page 3120](#)
- [FlexVPN スポークツースポークの設定例, on page 3130](#)
- [FlexVPN スポーク間の設定に関する追加情報, on page 3135](#)
- [FlexVPN スポーク間の機能情報, on page 3135](#)

## FlexVPN スポーク間の前提条件

IKEv2、FlexVPN サーバー、および FlexVPN スポークを設定する必要があります。

## FlexVPN スポーク間に関する情報

### FlexVPN および NHRP

FlexVPN は、シスコによる IKEv2 標準の実装であり、サイトツーサイト、リモートアクセス、ハブアンドスポーク トポロジ、および部分メッシュ（スポークツースポーク ダイレクト）を組み合わせたユニファイドパラダイムと CLI を備えています。FlexVPN は、トンネルインターフェイス パラダイムを広範に使用し、かつ暗号マップを使用してレガシー VPN 実装との互換性を維持するシンプルなモジュラ フレームワークを提供します。

FlexVPN サーバーは、FlexVPN のサーバー側機能を提供します。FlexVPN クライアントは、FlexVPN クライアントと別の FlexVPN サーバーの間にセキュアな IPsec VPN トンネルを確立します。

NHRP は、Address Resolution Protocol (ARP) のようなプロトコルで、ノンブロードキャストマルチアクセス (NBMA) ネットワークの問題を軽減します。NHRP を使用すると、NBMA ネットワークに接続されている NHRP は、ネットワークの一部である他のエンティティの NBMA アドレスを動的に学習します。このため、これらのエンティティは、トラフィックに中間ホップを使用せずに直接通信できるようになります。

FlexVPN スポークツースポーク機能は、NHRP と FlexVPN クライアント (スポーク) を統合して、既存の FlexVPN ネットワークにある別のクライアントとの直接の暗号化チャネルを確立します。接続は、仮想トンネルインターフェイス (VTI) 、IKEv2、および NHRP を使用して構築されます。ここで、NHRP はネットワーク内の FlexVPN クライアントの解決に使用されません。

FlexVPN では、次のことが推奨されます。

- ルーティング エントリは、スポーク間で交換されません。
- 異なるプロファイルがスポークに使用され、**config-exchange** コマンドはスポーク用に設定されません。

FlexVPN IPv6 ダイレクト スポーク間機能は、FlexVPN スポークに対する IPv6 アドレスの使用をサポートします。IPv6 アドレスのサポートにより、IPv6 over IPv4、IPv4 over IPv6、および IPv6 over IPv6 の転送がサポートされます。

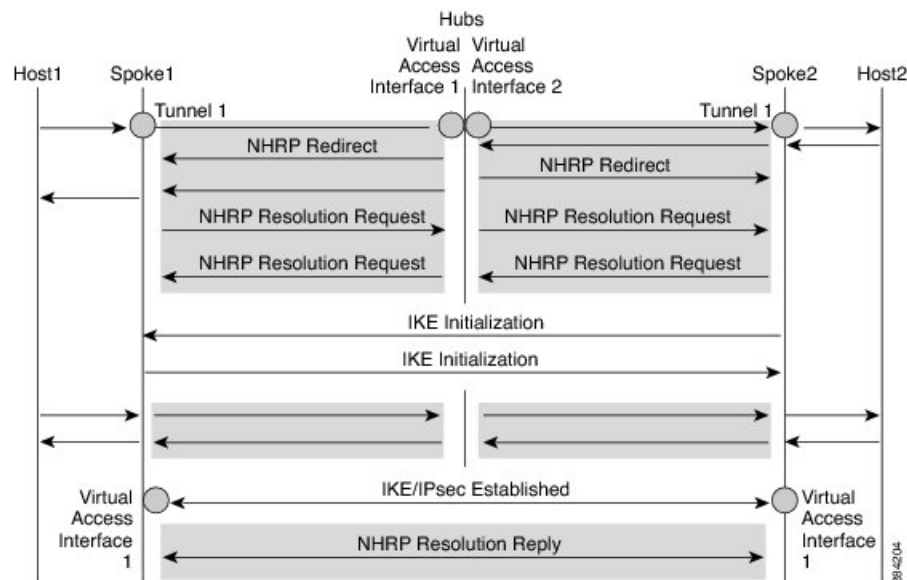


**Note** スポーク間 FlexVPN は、ダイナミック AAA 認証をサポートしていません。

## NHRP 解決要求と FlexVPN の応答

次の図は、NHRP 解決要求と FlexVPN の応答を示します。

Figure 109: NHRP 解決要求と応答



双方向のトラフィックにより、同様のイベントが、Spoke1、Spoke2、およびハブの両方向で発生します。明確にするために、Host1 から Host2 へのイベントについて説明します。Spoke1 と Spoke2 の背後にある別のネットワーク N2 (192.168.2.0/24) の後に、ネットワーク N1 (192.168.1.0/24) があると仮定します。2つのスポーク間のネットワークは、アクセスコントロールリスト (ACL) によって照合されます。これは、両方のスポークの IKEv2 ポリシーに ACL が適用されるためです。

両方のスポークからのプレフィックス情報と共に、ネットワークはIKEv2情報のペイロード交換によってハブに伝達されます。ハブのIKEv2によるルーティングテーブルへのルート追加が、次のように発生します。

- 192.168.1.0/24 : Virtual Access Interface1 から接続される
- 192.168.2.0/24 : Virtual Access Interface2 から接続される

このハブはIKEv2から両方のスポークへ集約ルートをプッシュし、スポークはそれらのルーティングテーブルにこのルートをインストールします。次のようになります。

- 192.168.0.0/16 : ネクスト ホップ <ハブのトンネル アドレス> - Interface Tunnel 1



---

**Note** また、ルーティング プロトコルは、ルーティング テーブルにルートを追加できます。

---

N1からN2へトラフィックが移動すると仮定すると、トラフィックフローは次のとおりです。

1. Host1 は、Host2 宛でのトラフィックを送信します。トラフィックは Spoke1 の LAN インターフェイスに到達し、ルートを検索し、集約ルートを見つけて、パケットを Interface Tunnel 1 にルーティングします。
2. トラフィックがハブの Virtual Access Interface1 に到達すると、トラフィックは、Virtual Access Interface2 から直接接続するか、ポイントツーポイントのトンネルインターフェイスを使用する、N2 のルート エントリ用のルート テーブルを検索します。
3. Host1 から Host2 へのトラフィックは、Virtual Access Interface1 と Virtual Access Interface2 を経由してハブを通過します。このハブは、入力インターフェイスおよび出力インターフェイス (Virtual Access Interface1 と Virtual Access Interface2) が同じ NHRP ネットワーク (両方のインターフェイスで設定されたネットワーク D) に属することを判断します。ハブは NHRP リダイレクトメッセージを Virtual Access Interface1 の Spoke1 に送信します。
4. リダイレクトを受信すると、Spoke1 は Host2 への解決要求をポイントツーポイントトンネルインターフェイス (リダイレクトを受信したのと同じインターフェイス) を経由して開始します。解決要求は、ルーティングパス (Spoke1-hub-spoke2) を通過します。解決要求を受信すると、Spoke2 は、それが出力点であり、その解決要求に応答する必要があることを判断します。
5. Spoke2 はトンネル インターフェイスの解決要求を受信し、トンネル インターフェイスから仮想テンプレート番号を取得します。仮想テンプレート番号を使用して、仮想アクセス インターフェイスを作成し、暗号チャネルを開始し、IKEv2 と IPSec のセキュリティアソシエーション (SA) を確立します。2つのスポーク間に暗号 SA が確立されると、Spoke2

は Spoke1 に必要な NHRP キャッシュ エントリとそのネットワークを、新しく作成した仮想アクセス インターフェイス以下に設置し、その仮想アクセス インターフェイスを介して解決の応答を送信します。

6. 仮想アクセス インターフェイスから解決要求を受信した後、Spoke1 は Spoke2 に必要なキャッシュ エントリとそのネットワークを設置します。また、Spoke1 は、ハブを示す一時キャッシュ エントリを削除し、Tunnel Interface1 以下のネットワークを解決します。
7. NHRP は、ネクスト ホップ上書き (NHO) または H ルートとしてショートカット ルートを追加します。ショートカット スイッチングの詳細については、「[DMVPN ネットワークにおける NHRP のショートカット スイッチング拡張](#)」を参照してください。

## FlexVPN スポークツースポークの設定方法

### FlexVPN サーバーの仮想トンネル インターフェイスの設定

#### Before you begin

FlexVPN サーバーとクライアントを設定する必要があります。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface virtual-template *number* type tunnel**
4. **ip unnumbered loopback *number***
5. 次のいずれかを実行します。
  - **ip nhrp network-id *number***
  - **ipv6 nhrp network-id *number***
6. **ip nhrp redirect [ timeout *seconds*]**
7. **exit**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 3	<b>interface virtual-template <i>number</i> type tunnel</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface virtual-template 1 type tunnel	仮想アクセス インターフェイスの作成時にダイナミックに設定および適用される仮想テンプレート インターフェイスを作成します。
ステップ 4	<b>ip unnumbered loopback <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip unnumbered loopback 0	既存インターフェイス（通常はループバック インターフェイス）の IP アドレスを仮想トンネル インターフェイスに割り当てます。
ステップ 5	次のいずれかを実行します。  • <b>ip nhrp network-id <i>number</i></b> • <b>ipv6 nhrp network-id <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nhrp network-id 1 <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 nhrp network-id 1	インターフェイスで NHRP を有効にします。
ステップ 6	<b>ip nhrp redirect [ <i>timeout seconds</i>]</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nhrp redirect	トラフィックが NHRP ネットワークで転送されている場合、リダイレクトトラフィック通知を有効にします。重複するリダイレクトを送信しないようにするには、 <b>timeout</b> キーワードと <i>seconds</i> 引数を使用して、作成したリダイレクトエントリの有効期限を指定します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーション モードに戻ります。

## FlexVPN スポークの NHRP ショートカットの設定

このタスクを実行して、FlexVPN スポークのトンネルインターフェイスで NHRP ショートカットを設定します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface tunnel *number***
4. 次のいずれかを実行します。
  - **ip nhrp shortcut *virtual-template-number***
  - **ipv6 nhrp shortcut *virtual-template-number***

## 5. exit

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface tunnel <i>number</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# interface tunnel 1	FlexVPN クライアント インターフェイスを設定し、 インターフェイス コンフィギュレーション モード を開始します。
ステップ 4	次のいずれかを実行します。  • <b>ip nhrp shortcut <i>virtual-template-number</i></b> • <b>ipv6 nhrp shortcut <i>virtual-template-number</i></b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nhrp shortcut 1 <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 nhrp shortcut 1	FlexVPN クライアントのトンネル インターフェイス で NHRP ショートカットを有効にします。これは、 スポーク間トンネルの確立に必要です。この設定で 指定する仮想テンプレート番号と、「 <a href="#">FlexVPN ス ポークの仮想トンネル インターフェイスの設定, on page 3122</a> 」 タスクで指定する仮想テンプレート番号は 同じにする必要があります。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モード を終了し、グローバル コンフィギュレーション モード に戻ります。

## FlexVPN スポークの仮想トンネル インターフェイスの設定

## SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. interface virtual-template *number* type tunnel
4. ip unnumbered tunnel *number*
5. 次のいずれかを実行します。
  - ip nhrp network-id *number*
  - ipv6 nhrp network-id *number*

6. 次のいずれかを実行します。
  - **ip nhrp shortcut virtual-template-number**
  - **ipv6 nhrp shortcut virtual-template-number**
7. **ip nhrp redirect [ timeout seconds]**
8. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface virtual-template number type tunnel</b> <b>Example:</b> Device(config)# interface virtual-template 1 type tunnel	仮想アクセス インターフェイスの作成時にダイナミックに設定および適用される仮想テンプレート インターフェイスを作成します。
ステップ 4	<b>ip unnumbered tunnel number</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip unnumbered tunnel 1	FlexVPN トンネル インターフェイスの IPv4 アドレスを仮想トンネル インターフェイスに割り当てます。
ステップ 5	次のいずれかを実行します。  • <b>ip nhrp network-id number</b> • <b>ipv6 nhrp network-id number</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nhrp network-id 1 <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 nhrp network-id 1	インターフェイスで NHRP を有効にします。
ステップ 6	次のいずれかを実行します。  • <b>ip nhrp shortcut virtual-template-number</b> • <b>ipv6 nhrp shortcut virtual-template-number</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nhrp shortcut 1 <b>Example:</b> Device(config-if)# ipv6 nhrp shortcut 1	インターフェイスで NHRP ショートカット スイッチングを有効にします。  <b>Note</b> 現在の仮想テンプレート番号を指定する必要があります。仮想テンプレート番号は、FlexVPN クライアント トンネル インターフェイスの設定と同じにする必要があります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>ip nhrp redirect</b> [ <i>timeout seconds</i> ] <b>Example:</b> Device(config-if)# ip nhrp redirect	仮想トンネルインターフェイスでNHRPのリダイレクトを有効化します。ネットワークがあるスポークから別のスポークに移動する場合は、これが便利です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重複するリダイレクトを送信しないようにするには、<b>timeout</b> キーワードと <i>seconds</i> 引数を使用して、作成したリダイレクトエントリの有効期限を指定します。</li> </ul>
ステップ 8	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。

## FlexVPN スポーク設定の確認

FlexVPN スポークの設定を確認するには、次のコマンドを使用します。

### 手順の概要

1. **show crypto ikev2 client flexvpn**
2. **show ipv6 route**
3. **show ipv6 nhrp**

### 手順の詳細

#### 手順

#### ステップ 1 show crypto ikev2 client flexvpn

例：

```
Device# show crypto ikev2 client flexvpn

Profile : flexblk
Current state:ACTIVE
Peer : 4001::2000:1
Source : Ethernet0/0
ivrf : IP DEFAULT
fvrf : IP DEFAULT
Backup group: None
Tunnel interface : Tunnel0
```

FlexVPN サーバーおよびクライアント間の FlexVPN 接続ステータスが表示されます。

#### ステップ 2 show ipv6 route

例：

```

Device# show ipv6 route

IPv6 Routing Table - default - 15 entries
Codes: C - Connected, L - Local, S - Static, U - Per-user Static route
       B - BGP, HA - Home Agent, MR - Mobile Router, R - RIP
       H - NHRP, I1 - ISIS L1, I2 - ISIS L2, IA - ISIS interarea
       IS - ISIS summary, D - EIGRP, EX - EIGRP external, NM - NEMO
       ND - ND Default, NDP - ND Prefix, DCE - Destination, NDR - Redirect
       l - LISP
       O - OSPF Intra, OI - OSPF Inter, OE1 - OSPF ext 1, OE2 - OSPF ext 2
       ON1 - OSPF NSSA ext 1, ON2 - OSPF NSSA ext 2
C 3001::/112 [0/0]
   via Tunnel0, directly connected
S 3001::1/128 [2/0], tag 1
   via 3001::1, Virtual-Access1 [Shortcut]
   via Virtual-Access1, directly connected
L 3001::2/128 [0/0]
   via Tunnel0, receive
S 3001::3/128 [2/0], tag 1
   via Tunnel0, directly connected
C 4001::2000:0/112 [0/0]
   via Ethernet0/0, directly connected
L 4001::2000:3/128 [0/0]
   via Ethernet0/0, receive
S 5001::/64 [2/0], tag 1
   via Tunnel0, directly connected
C 5001::2000:0/112 [0/0]
   via Loopback0, directly connected
L 5001::2000:1/128 [0/0]
   via Loopback0, receive
D 5001::3000:0/112 [90/28288000]
   via FE80::A8BB:CFFF:FE01:F400, Tunnel0
D 5001::4000:0/112 [90/28288000]
   via FE80::A8BB:CFFF:FE01:F400, Tunnel0
H 5001::4000:1/128 [250/1]
   via 3001::1, Virtual-Access1
C 5001::5000:0/112 [0/0]
   via Loopback1, directly connected
L 5001::5000:1/128 [0/0]
   via Loopback1, receive
L FF00::/8 [0/0]
   via Null0, receive

```

IPv6 ルートと Next Hop Resolution Protocol (NHRP) のマッピング情報が表示されます。

### ステップ 3 show ipv6 nhrp

例 :

```

Device# show ipv6 nhrp

3001::1/128 via 3001::1
  Virtual-Access1 created 00:01:52, expire 01:58:14
  Type: dynamic, Flags: router implicit rib nho
  NBMA address: 172.17.1.9
  (Claimed NBMA address: 172.16.2.1)
5001::4000:1/128 via 3001::1
  Virtual-Access1 created 00:00:56, expire 01:59:03
  Type: dynamic, Flags: router rib
  NBMA address: 172.17.1.9
  (Claimed NBMA address: 172.16.2.1)
5001::5000:1/128 via 3001::2
  Virtual-Access1 created 00:01:52, expire 01:58:14

```

```
Type: dynamic, Flags: router unique local
NBMA address: 172.17.2.10
```

例 :

```
Device# show ipv6 nhrp

3001::1/128 via 3001::1
  Virtual-Access1 created 00:01:52, expire 01:58:14
  Type: dynamic, Flags: router implicit rib nho
  NBMA address: 4001::2000:2
5001::4000:1/128 via 3001::1
  Virtual-Access1 created 00:00:56, expire 01:59:03
  Type: dynamic, Flags: router rib
  NBMA address: 4001::2000:2
5001::5000:1/128 via 3001::2
  Virtual-Access1 created 00:01:52, expire 01:58:14
  Type: dynamic, Flags: router unique local
  NBMA address: 4001::2000:3
```

NHRP キャッシュ エントリが表示されます。最初の例では、出力に、転送が IPv4 (NBMA アドレス) であることが示されます。リモート スポークは、要求された NBMA アドレス フィールドが示すとおり、ネットワーク アドレス変換 (NAT) 下にあります。このアドレスはリモート スポークの NAT 前アドレスです。また、キャッシュ エントリには、各スポークと関連付けられたフラグが表示され、ルーティング テーブルで各エントリに挿入されたルートの種類が示されます。ネクストホップ 上書き (NHO) は、ショートカット ルートを示します。*rib* フラグは、そのキャッシュ エントリに追加された NHRP H ルートを示します。2 番目の例は、転送が IPv6 (NBMA アドレス) であることを示します。要求されたアドレスが出力にないため、リモート スポークは NAT 下にはありません。

## FlexVPN スポーク設定のトラブルシューティングのヒント

FlexVPN スポーク設定をトラブルシューティングするいくつかのヒントを示します。

1. スポーク間の接続を確認します。
2. クライアント (スポーク) とサーバーの設定を確認します。
3. スポークの背後にあるリモート ホストの到達可能性を確認します。
4. ルートをアドバタイズするために使用される、ルーティング プロトコル設定を確認します。
5. IKEv2 と IPSec が正しく設定されていることを確認します。
6. スポークの NHRP ショートカット設定と、サーバー (ハブ) のリダイレクト設定を確認します。

問題	トラブルシューティングのヒント
スポークからハブへの接続は作成されません。	<p>ハブで作成された仮想アクセス インターフェイスがないことが原因で、接続が作成されない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• ハブとスポークの間の接続を確認します。</li><li>• <b>show crypto session</b> コマンドを使用して、ハブとスポークのセキュリティアソシエーション (SA) の状態を確認します。</li><li>• SA がアクティブ (<b>show crypto session</b> コマンドで表示される) の場合、スポークの FlexVPN の状態を、<b>show crypto ikev2 client flexvpn</b> コマンドの出力で確認します。</li></ul>

問題	トラブルシューティングのヒント
スポーク間トンネルは作成されません。	



問題	トラブルシューティングのヒント
	<p>トラフィックは、スポーク間トンネルを開始するため、ハブ経由でスポークからスポークに送られる必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ハブの設定で、NHRP リダイレクトが有効かどうかを確認します。</li> <li>• スポークの設定で、NHRP ショートカットが有効になっているかどうかを確認します。</li> <li>• <b>show ip [ipv6] nhrp traffic</b> コマンドを使用して、FlexVPN サーバー（ハブ）の設定で、ハブがトラフィック間接参照をスポークに送信するかどうかを確認します。</li> <li>• <b>show ip [ipv6] nhrp traffic</b> コマンドを使用して、スポークがトラフィックを受信して、解決要求を送信したことを確認します。</li> <li>• <b>show ip [ipv6] nhrp</b> コマンドを使用して、いずれかのスポークにリモート ホストとスポークの NHRP キャッシュ エントリがあることを確認します。</li> <li>• <b>show ip [ipv6] nhrp traffic</b> コマンドをリモート スポークで使用して、解決要求を受信したことを確認します。</li> <li>• <b>show crypto ikev2 sa</b> コマンドと <b>show crypto session</b> コマンドを使用して、スポークが解決要求を受信し、暗号セッションを開始したことを確認します。</li> <li>• <b>show ip [ipv6] interface brief</b> コマンドを使用して、仮想アクセス インターフェイスが両方のスポークにあることを確認します。</li> <li>• <b>show ip [ipv6] nhrp traffic</b> コマンドをスポークで使用して、解決応答が送信され、仮想アクセス インターフェイスのピアによって受信されたことを確認します。</li> <li>• <b>show ip [ipv6] nhrp</b> コマンドを使用して、リモート ホストのための完全な NHRP キャッシュ エントリがすべてのスポークに存在することを確認します。</li> <li>• <b>show ip [ipv6] route</b> コマンドを使用して、H ルートやネクストホップ上書き (NHO) ルートがあることを確認します。</li> </ul>

## FlexVPN スポークツースポークの設定例

### 例：FlexVPN スポーク間のスタティック ルーティングの設定

次の例では、FlexVPN サーバーおよび FlexVPN クライアントで IKE 伝播されるスタティック ルーティングを使用して、FlexVPN スポーク間を設定する方法を示します。次は、FlexVPN サーバーの設定です。

```
hostname hub
!
crypto ikev2 authorization policy default
  pool flex-pool
  def-domain cisco.com
  route set interface
  route set access-list flex-route
!
crypto ikev2 profile default
  match identity remote fqdn domain cisco.com
  identity local fqdn hub.cisco.com
  authentication local rsa-sig
  authentication remote rsa-sig
  pki trustpoint CA
  aaa authorization group cert list default default
  virtual-template 1
!
crypto ipsec profile default
  set ikev2-profile default
!
interface Loopback0
  ip address 172.16.1.1 255.255.255.255
!
interface Ethernet0/0
  ip address 10.0.0.100 255.255.255.0
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
  ip unnumbered Loopback0
  ip nhrp network-id 1
  ip nhrp redirect
  tunnel protection ipsec profile default
!
ip local pool flex-pool 172.16.0.1 172.16.0.254
!
ip access-list standard flex-route
  permit any
```

次は、最初の FlexVPN クライアントの設定です。

```
hostname spokel
!
crypto ikev2 authorization policy default
  route set interface
  route set access-list flex-route
!
crypto ikev2 profile default
  match identity remote fqdn domain cisco.com
  identity local fqdn spokel.cisco.com
  authentication local rsa-sig
```

```
authentication remote rsa-sig
pki trustpoint CA
aaa authorization group cert list default default
virtual-template 1
!
crypto ipsec profile default
set ikev2-profile default
!
interface Tunnel0
ip address negotiated
ip nhrp network-id 1
ip nhrp shortcut virtual-template 1
ip nhrp redirect
tunnel source Ethernet0/0
tunnel destination 10.0.0.100
tunnel protection ipsec profile default
!
interface Ethernet0/0
ip address 10.0.0.110 255.255.255.0
!
interface Ethernet1/0
ip address 192.168.110.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Template1 type tunnel
ip unnumbered Tunnel0
ip nhrp network-id 1
ip nhrp shortcut virtual-template 1
ip nhrp redirect
tunnel protection ipsec profile default
!
ip access-list standard flex-route
permit 192.168.110.0 0.0.0.255
```

次は、2 番目の FlexVPN クライアントの設定です。

```
hostname spoke2
!
crypto ikev2 authorization policy default
route set interface
route set access-list flex-route
!
crypto ikev2 profile default
match identity remote fqdn domain cisco.com
identity local fqdn spoke2.cisco.com
authentication local rsa-sig
authentication remote rsa-sig
pki trustpoint CA
aaa authorization group cert list default default
virtual-template 1
!
crypto ipsec profile default
set ikev2-profile default
!
interface Tunnel0
ip address negotiated
ip nhrp network-id 1
ip nhrp shortcut virtual-template 1
ip nhrp redirect
tunnel source Ethernet0/0
tunnel destination 10.0.0.100
tunnel protection ipsec profile default
!
interface Ethernet0/0
ip address 10.0.0.120 255.255.255.0
```

## 例：FlexVPN スポーク間の BGP を使用するダイナミック ルーティングの設定

```

!
interface Ethernet1/0
 ip address 192.168.120.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Templatel type tunnel
 ip unnumbered Tunnel0
 ip nhrp network-id 1
 ip nhrp shortcut virtual-template 1
 ip nhrp redirect
 tunnel protection ipsec profile default
!
ip access-list standard flex-route
 permit 192.168.120.0 0.0.0.255

```

## 例：FlexVPN スポーク間の BGP を使用するダイナミック ルーティングの設定

次の例では、FlexVPN サーバーおよび FlexVPN クライアントで BGP を使用する（ダイナミック ネイバー探索により）ダイナミックルーティングを、FlexVPN スポーク間で設定する方法を示します。次は、FlexVPN サーバーの設定です。

```

hostname hub
!
crypto ikev2 authorization policy default
 pool flex-pool
  def-domain cisco.com
  route set interface
!
crypto ikev2 profile default
 match identity remote fqdn domain cisco.com
 identity local fqdn hub.cisco.com
 authentication local rsa-sig
 authentication remote rsa-sig
 pki trustpoint CA
 aaa authorization group cert list default default
 virtual-template 1
!
crypto ipsec profile default
 set ikev2-profile default
!
interface Loopback0
 ip address 172.16.1.1 255.255.255.255
!
interface Ethernet0/0
 ip address 10.0.0.100 255.255.255.0
!
interface Virtual-Templatel type tunnel
 ip unnumbered Loopback0
 ip nhrp network-id 1
 ip nhrp redirect
 tunnel protection ipsec profile default
!
ip local pool flex-pool 172.16.0.1 172.16.0.254
!
router bgp 65100
 bgp router-id 10.0.0.100
 bgp log-neighbor-changes
 bgp listen range 172.16.0.0/24 peer-group spokes

```

```
neighbor spokes peer-group
neighbor spokes remote-as 65100
neighbor spokes transport connection-mode passive
neighbor spokes update-source Loopback0
!
address-family ipv4
  neighbor spokes activate
  neighbor spokes default-originate
  neighbor spokes prefix-list no-default in
exit-address-family
!
ip prefix-list no-default seq 5 deny 0.0.0.0/0
ip prefix-list no-default seq 10 permit 0.0.0.0/0 le 32
```

次は、最初の FlexVPN クライアントの設定です。

```
hostname spokel
!
crypto ikev2 authorization policy default
  route set interface
!
crypto ikev2 profile default
  match identity remote fqdn domain cisco.com
  identity local fqdn spokel.cisco.com
  authentication local rsa-sig
  authentication remote rsa-sig
  pki trustpoint CA
  aaa authorization group cert list default default
  virtual-template 1
!
crypto ipsec profile default
  set ikev2-profile default
!
interface Tunnel0
  ip address negotiated
  ip nhrp network-id 1
  ip nhrp shortcut virtual-template 1
  ip nhrp redirect
  tunnel source Ethernet0/0
  tunnel destination 10.0.0.100
  tunnel protection ipsec profile default
!
interface Ethernet0/0
  ip address 10.0.0.110 255.255.255.0
!
interface Ethernet1/0
  ip address 192.168.110.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Templatel type tunnel
  ip unnumbered Tunnel0
  ip nhrp network-id 1
  ip nhrp shortcut virtual-template 1
  ip nhrp redirect
  tunnel protection ipsec profile default
!
router bgp 65100
  bgp router-id 10.0.0.110
  bgp log-neighbor-changes
  neighbor hubs peer-group
  neighbor hubs remote-as 65100
  neighbor hubs update-source Tunnel0
  neighbor 172.16.1.1 peer-group hubs
!
address-family ipv4
```

## 例: FlexVPN スポーク間の BGP を使用するダイナミック ルーティングの設定

```

network 192.168.110.0
neighbor 172.16.1.1 activate
exit-address-family

```

次は、2 番目の FlexVPN クライアントの設定です。

```

hostname spoke2
!
crypto ikev2 authorization policy default
route set interface
route set access-list flex-route
!
crypto ikev2 profile default
match identity remote fqdn domain cisco.com
identity local fqdn spoke2.cisco.com
authentication local rsa-sig
authentication remote rsa-sig
pki trustpoint CA
aaa authorization group cert list default default
virtual-template 1
!
crypto ipsec profile default
set ikev2-profile default
!
interface Tunnel0
ip address negotiated
ip nhrp network-id 1
ip nhrp shortcut virtual-template 1
ip nhrp redirect
tunnel source Ethernet0/0
tunnel destination 10.0.0.100
tunnel protection ipsec profile default
!
interface Ethernet0/0
ip address 10.0.0.120 255.255.255.0
!
interface Ethernet1/0
ip address 192.168.120.1 255.255.255.0
!
interface Virtual-Templatel type tunnel
ip unnumbered Tunnel0
ip nhrp network-id 1
ip nhrp shortcut virtual-template 1
ip nhrp redirect
tunnel protection ipsec profile default
!
router bgp 65100
bgp router-id 10.0.0.120
bgp log-neighbor-changes
neighbor hubs peer-group
neighbor hubs remote-as 65100
neighbor hubs update-source Tunnel0
neighbor 172.16.1.1 peer-group hubs
!
address-family ipv4
network 192.168.120.0
neighbor 172.16.1.1 activate
exit-address-family

```

## FlexVPN スポーク間の設定に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
ショートカット スイッチングの強化	『Shortcut Switching Enhancements for NHRP in DMVPN Networks』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## FlexVPN スポーク間の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 278: FlexVPN スポーク間の機能情報

機能名	リリース	機能情報
FlexVPN スポーク間		<p>FlexVPN スポーク間機能では、FlexVPN クライアントは別の FlexVPN クライアントとの直接暗号チャネルを確立できます。この機能は VTI、IKEv2、および NHRP を利用して、スポーク間接続を構築します。</p> <p>この機能は、Cisco IOS Release 15.2(2)T で導入されました。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ip unnumbered loopback0, tunnel source, tunnel mode gre ip, nhrp network-id, ip nhrp redirect, ip nhrp shortcut.</b></p>
FlexVPN IPv6 ダイレクト スポーク間		<p>FlexVPN IPv6 ダイレクト スポーク間機能は、FlexVPN スポークに対する IPv6 アドレスの使用をサポートします。IPv6 アドレスのサポートにより、IPv6 over IPv4、IPv4 over IPv6、および IPv6 over IPv6 の転送がサポートされます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>ipv6 nhrp shortcut.</b></p>





## CHAPTER 210

# IKEv2 ロード バランサの設定

IKEv2 ロード バランサ機能は、FlexVPN ゲートウェイのクラスタを有効にするためのサポートを提供し、FlexVPN ゲートウェイ間で受信インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) の接続要求を配信します。この機能は、システムおよび暗号の負荷率に基づいて最も負荷の小さい FlexVPN ゲートウェイに受信 FlexVPN または AnyConnect クライアントの要求をリダイレクトします。

- [IKEv2 ロード バランサの前提条件, on page 3137](#)
- [IKEv2 ロードバランサに関する制約事項, on page 3137](#)
- [IKEv2 ロード バランサに関する情報, on page 3138](#)
- [IPv4 展開の IKEv2 ロードバランサの設定方法, on page 3144](#)
- [IPv4 展開の IKEv2 ロードバランサの設定例, on page 3151](#)
- [IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの設定方法, on page 3152](#)
- [IKEv2 ロードバランササポートのオプションパラメータの設定, on page 3157](#)
- [IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの設定例, on page 3159](#)
- [IKEv2 ロードバランサ設定の確認, on page 3160](#)
- [その他の参考資料, on page 3162](#)
- [IPv4 および IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの機能情報, on page 3163](#)

## IKEv2 ロード バランサの前提条件

- サーバー側の設定として、Hot Standby Router Protocol (HSRP) および FlexVPN サーバー (IKEv2 プロファイル) が設定されていること。
- クライアント側の設定として、FlexVPN クライアントが設定されていること。

## IKEv2 ロードバランサに関する制約事項

- Cisco IOS XE 17.13.1a リリースでは、IKEv2 ロードバランサは、C8500-12X プラットフォームでのみサポートされます。

- IKEv2 要求のリダイレクトは、FQDN（完全修飾ドメイン名）ではなく IP アドレスを使用する場合にのみサポートされます。
- クラスタで設定できるノード数の上限は 10 です。
- Cisco IOS XE 17.13.1a リリースでは、IPv6 展開で IKEv2 を設定する場合、IKEv2 ロードバランサは単一の VIP（仮想 IP アドレス）のみをサポートします。
- ヘッドエンドシステムの場合は、「オンデマンド」ベースで動作するように DPD を設定することをお勧めします。定期的な DPD チェックは、過剰なコントロールプレーントラフィックを生成し、CPU 使用率の増加やシステムの不安定化につながる可能性があるため、避ける必要があります。
- アイドルタイマーは、2つの IPSec SA ピア間にトラフィックがない場合に期限切れになるように設定されます。有効期限が切れると、システムはセッションを削除します。

## IKEv2 ロード バランサに関する情報

### IKEv2 ロード バランサの概要

IKEv2 ロード バランサ サポート機能は、リモート アクセス クライアントからの要求を、Hot Standby Router Protocol (HSRP) グループまたはクラスタ内の最低負荷ゲートウェイ (LLG) にリダイレクトすることで、クラスタロードバランシング (CLB) ソリューションを提供します。HSRP クラスタは、LAN またはエンタープライズ ネットワーク内のゲートウェイまたは FlexVPN サーバーのグループです。CLB ソリューションは、要求の HSRP クラスタ内 LLG へのリダイレクトにより、RFC 5685 で定義されたインターネットキーエクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) リダイレクトメカニズムと連携します。



---

**Note** クラスタネットワークを計画するには、ネットワークでホストされるクライアントの数を考慮し、クラスタヘッドエンドで許可される SA の最大数を定義することが重要です。

---

次の図は、IPv4 と IPv6 の両方の展開における IKEv2 クラスタのロードバランシングソリューションの仕組みを示します。

Figure 110: IPv4 展開の IKEv2 クラスタのロード バランシング ソリューション

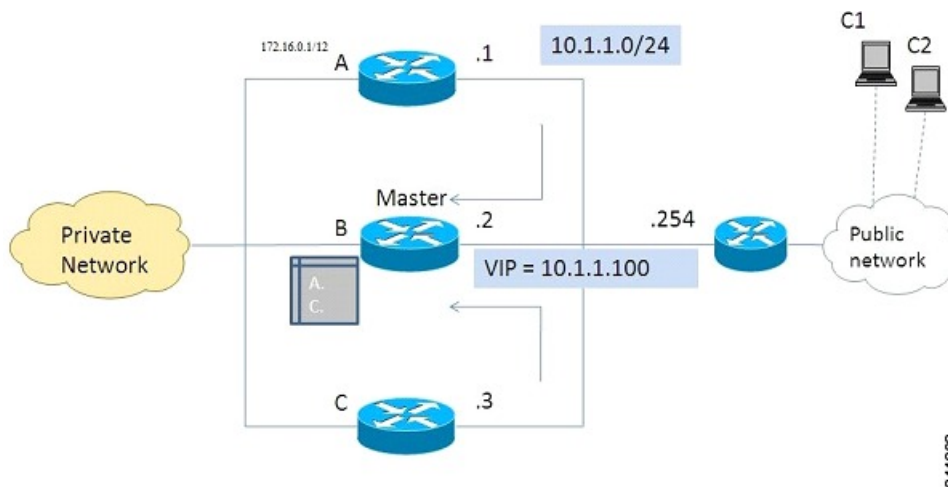
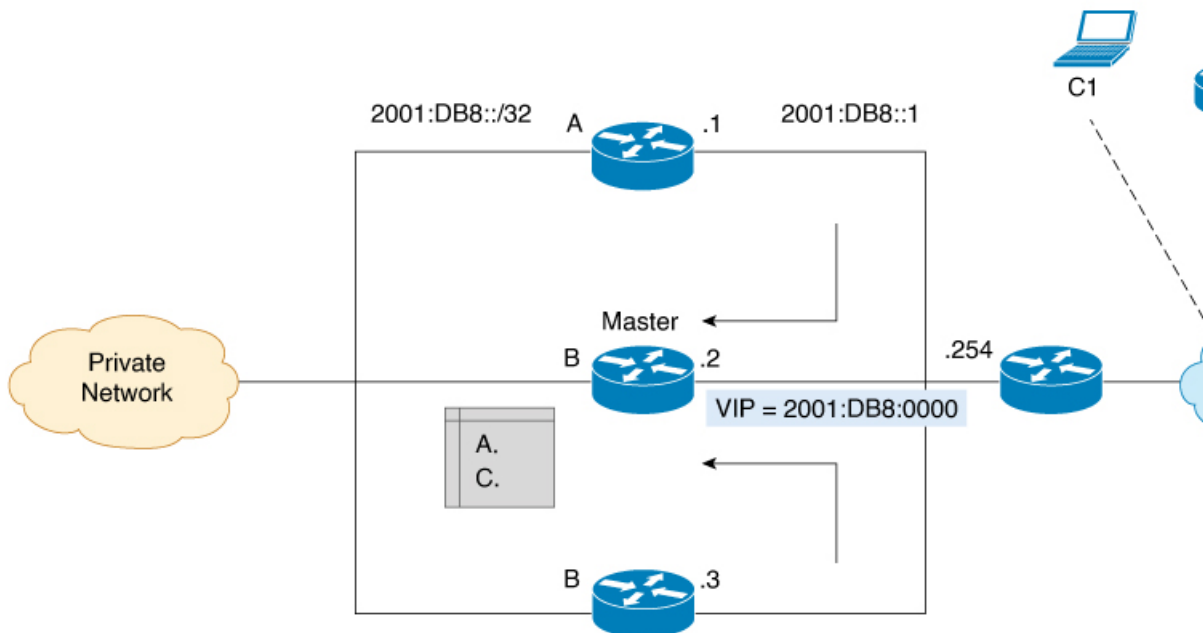


Figure 111: IPv6 展開の IKEv2 クラスタのロード バランシング ソリューション



1. アクティブ HSRP ゲートウェイは、HSRP グループのプライマリとして選択され、グループの仮想 IP アドレス (VIP) の所有権を取得します。プライマリはクラスタ内にゲートウェイのリストを保持して、各ゲートウェイの負荷を追跡し、FlexVPN クライアントの要求を LLG にリダイレクトします。
2. 残りのゲートウェイは従属と呼ばれ、負荷の更新をプライマリに定期的送信します。
3. IKEv2 クライアントが HSRP VIP に接続すると、要求はまずプライマリに到達し、クラスタ内の LLG に順番にリダイレクトされます。



**Note** IPv6 環境で IKEv2 クラスタロードバランシングを設定するには、WAN の VIP および IPv6 アドレスがクラスタの同じサブネットにある必要があります。

CLB ソリューションのコンポーネントは次のとおりです。

- HSRP
- CLB プライマリ
- CLB 従属
- CLB 通信
- IKEv2 リダイレクト メカニズム

### Hot Standby Router Protocol

Hot Standby Router Protocol (HSRP) は、プライマリ HSRP またはアクティブルータ (AR) を選択するために使用されます。専用デバイスを選択する HSRP では、グループ内の 1 つのデバイスに VIP を設定する必要があります。このアドレスは、グループ内の他デバイスによって学習されます。プライマリに割り当てられた IP アドレスは、グループの VIP として使用されません。HSRP アクティブルータ (「プライマリ CLB」とも呼ばれる) は IKEv2 要求を受信し、クラスタの LLG にこれらの要求をリダイレクトします。リダイレクトが IKEv2 プロトコルレベルで実行されると、以下を実行できるようになります。

- FlexVPN クライアントからのすべての要求は、VIP が FlexVPN クライアントで設定されると、プライマリ HSRP で受信される。FlexVPN クライアントが知る必要があるのは HSRP クラスタの VIP のみであるため、FlexVPN クライアントの設定は最小化される。
- プライマリ CLB はプライマリ HSRP と同じゲートウェイで実行されるため、すべての従属 CLB の負荷情報が維持される。プライマリ CLB では、要求の効率的なリダイレクトが可能のため、複数のリダイレクトやループを防ぐことができる。

### プライマリ CLB

プライマリ CLB は、プライマリ HSRP またはアクティブルータ (AR) 上で動作します。プライマリは、従属 CLB から更新を受信し、その負荷条件に基づいてそれらをソートし、負荷が最小のゲートウェイ (LLG) を計算します。プライマリは、LLG の IP アドレスを IKEv2 (FlexVPN サーバー上) に送信します。IP アドレスは、LLG との IKEv2 セッションを開始した発信側 (FlexVPN クライアント) に送信されます。プライマリは受信する IKEv2 クライアント接続を LLG にリダイレクトします。詳細については、[IKEv2 リダイレクト メカニズム, on page 3141](#) を参照してください。



**Note** プライマリルータの IKEv2 クラスタがシャットダウンされると、セカンダリルータの IKEv2 クラスタもシャットダウン状態になります。

### 従属 CLB

従属 CLB は、アクティブルータ（AR）上を除いた、HSRP グループ内のすべてのデバイスで動作します。従属は、サーバーに負荷更新を定期的送信します。従属 CLB は、プライマリ CLB に情報を提供する、フル機能の IKEv2 ゲートウェイです。更新以外にも、従属 CLB は活動管理のメッセージをプライマリ CLB に送信します。

### CLB 負荷管理メカニズム

CLB 負荷管理メカニズムは、プライマリ CLB と従属 CLB 間で動作する、TCP ベースのプロトコルです。CLB 負荷管理メカニズムは、プライマリ CLB に従属 CLB の負荷について情報を提供します。この情報に基づいて、プライマリ CLB は、新しく受信する各 IKEv2 接続のセッションを処理する LLG を選択します。



**Note** セカンダリノードは、クラスタ IP を定期的更新します。同期の問題を回避するために、ネットワーク管理ルーチン内でこれらの更新を適切に管理してください。

## IKEv2 ロード バランサの利点

- IKEv2 ロード バランサ サポート機能は、設定が簡単でコスト効率に優れています。
- FlexVPN クライアントは、クラスタ内のすべてのゲートウェイの IP アドレスを知る必要はありません。クライアントが知っておく必要があるのは、クラスタの仮想 IP アドレスのみです。
- すべての暗号化セッションは、クラスタ内のノードにリダイレクトされます。

## IKEv2 リダイレクト メカニズム

IKEv2 リダイレクト メカニズムによって、VPN ゲートウェイは負荷条件およびメンテナンス要件に基づいて FlexVPN クライアント要求を別の VPN ゲートウェイにリダイレクトできません。

IKEv2 リダイレクト メカニズムは、セキュリティアソシエーション（SA）の初期化（IKE\_SA\_INIT）と SA 認証（IKE\_AUTH）で実行されます。

### IKEv2 初期交換中のリダイレクト（SA 初期化）

FlexVPN クライアントまたは AnyConnect クライアントは、最初の IKE\_SA\_INIT 要求に REDIRECT\_SUPPORTED 通知メッセージを含めることで、インターネット キー エクスチェンジバージョン 2（IKEv2）リダイレクトメカニズムのサポートを示します。**crypto ikev2 redirect client** コマンドを使用して、クライアントのリダイレクトメカニズムを有効にします。**crypto ikev2 redirect gateway init** コマンドを使用して、ゲートウェイの IKE\_SA\_INIT でのリダイレクトを有効にします。

IKEv2 要求を別の新しいゲートウェイにリダイレクトするには、IKE\_SA\_INIT 要求を受信するゲートウェイが、暗号ロードバランサ (CLB) モジュールのサポートによって、新しいゲートウェイ (この場合は LLG) の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を選択します。このゲートウェイは、REDIRECT 通知メッセージを含む IKE\_SA\_INIT 応答で応答します。通知には、IKE\_SA\_INIT 要求内のペイロードからの新しいゲートウェイやナンス値などの情報が含まれます。IKE\_SA\_INIT 応答を受信したクライアントは、IKE\_SA\_INIT 要求で送信されたナンス値とリダイレクト通知で指定されたゲートウェイ情報を検証し、リダイレクト通知が設定のとおりかどうかを確認します。



**Note** ナンス値が一致しない場合、クライアントはその応答を破棄して別の応答を待って、発信側のサービス妨害 (DoS) 攻撃を防ぎます。IKE\_SA\_INIT 応答内に攻撃者が不正なリダイレクトペイロードが挿入すると、DoS 攻撃が発生する場合があります。

新しいゲートウェイとの IKE\_SA\_INIT 交換では、クライアント メッセージに REDIRECTED\_FROM 通知ペイロードが含まれます。REDIRECTED\_FROM 通知ペイロードは、クライアントにリダイレクトされる送信元 VPN ゲートウェイの IP アドレスで構成されています。IKEv2 交換は、送信元ゲートウェイでの処理と同じように処理されます。



**Note** 新しいゲートウェイもクライアントの目的を果たせない場合、クライアントは新しいゲートウェイによって再度リダイレクトされることがあります。クライアントでは、リダイレクト後の新しいゲートウェイとの IKE\_SA\_INIT 交換に、REDIRECT\_SUPPORTED ペイロードは再度含まれません。新しいゲートウェイとの IKE\_SA\_INIT 交換内に REDIRECTED\_FROM 通知ペイロードが存在することは、クライアントが IKEv2 リダイレクト メカニズムをサポートすることを、新しいゲートウェイに示します。

## IKE\_AUTH 交換中のリダイレクト (SA 認証)

詳細なセキュリティ分析によって、IKE\_AUTH 中のリダイレクトは IKE\_INIT 中のリダイレクトと比較してより安全でも危険でもないことが示されました。ただし、パフォーマンスと拡張性の理由により、シスコは IKE\_INIT 中のリダイレクトを推奨します。crypto ikev2 redirect gateway auth コマンドを使用して、ゲートウェイのリダイレクトメカニズムを有効にします。redirect gateway auth コマンドを使用して、選択した IKEv2 プロファイル認証時のリダイレクトを有効にします。

この方法では、クライアント認証ペイロードは、リダイレクト通知ペイロードを送信する前に検証されます。また、クライアントでも、リダイレクト通知に従って動作する前に、ゲートウェイ認証ペイロードが検証されます。任所ペイロードが交換され、正常に検証されると、IKEv2 セキュリティ アソシエーション (SA) が正常に検証され、要求のリダイレクトを決定する INITIAL\_CONTACT が処理されます。リダイレクトが有効な場合、ゲートウェイでは IKE SA が作成され、リダイレクト通知で IKE\_AUTH 応答が送信されます。

この方法では、子 SA は作成されません。IKE\_AUTH には、子 SA に関連するペイロードは含まれません。IKE\_AUTH 応答を受信すると、クライアントは、ゲートウェイ認証ペイロードを

検証し、削除通知を送信してそのゲートウェイがある IKEv2 SA を削除します。クライアントは、リダイレクト通知ペイロードに従って動作し、新しいゲートウェイとの接続を確立します。クライアントは、削除通知の確認応答を待たずに、新しいゲートウェイとの接続を確立します。IKE\_AUTH 交換で Extensible Authentication Protocol (EAP: 拡張可能認証プロトコル) 認証が呼び出される場合、ゲートウェイでは、リダイレクトペイロードの送信を最初と最後の IKE\_AUTH 応答のどちらで送信するかを選択します。リダイレクトごとに認証情報を指定する必要がないため、EAP 認証は最初の IKE\_AUTH 応答に含まれます。

## 互換性および相互運用性

IKEv2 リダイレクト メカニズムは、RFC 5685 に基づいています。ゲートウェイ (IKEv2 応答側) は、標準を実装するクライアント (IKEv2 発信側) と互換性があります。同様に、クライアント (発信側) の実装では、標準を実装しているサードパーティ製サーバー (応答側) との互換性が必要です。負荷管理メカニズムは Cisco 独自のもので、Cisco IOS デバイスでのみサポートされます。

## リダイレクト ループ処理

クライアント要求は、正しくない設定またはサービス妨害 (DoS) 攻撃を理由として、順番に複数回リダイレクトできます。場合によっては、クライアントを他のゲートウェイにリダイレクトする複数のゲートウェイによってクライアントがループに入り、その結果クライアントへのサービスが拒否されることがあります。これを防ぐには、**max-redirects number** キーワード/引数ペアを指定して **crypto ikev2 redirect client** コマンドを使用し、特定の IKEv2 セキュリティアソシエーション (SA) 設定について特定数を超えるリダイレクトを受け入れないようにクライアントを設定します。

## IKEv2 クラスタの再接続

IKEv2 クラスタの再接続機能によって、Cisco AnyConnect クライアントはクラスタ内のサーバーに再接続できます。**crypto ikev2 reconnect key** は、クライアントにプッシュされた不明瞭なデータを暗号化するためにサーバーに導入されています。障害を検出すると、クライアントは、認証クレデンシャルの入力を再度要求せずに新規または既存のサーバーと再接続します。

キー インデックス値は 2 つのみ (1 および 2) です。いずれかの時点で、これを使用して設定されたキーの 1 つがアクティブになります。IOS サーバーで再接続キーの CLI を使用して再接続キーが設定されている場合、Cisco IOS サーバーは再接続データを復号できます。これは、キーがバックアップ キーのみの場合にも当てはまります。

この機能は、**authentication** コマンドで IKEv2 プロファイルの認証方式として **anyconnect-eap** キーワードを指定した場合にはサポートされません。

# IPv4 展開の IKEv2 ロードバランサの設定方法

## ロードバランシングに対する HSRP グループの設定

Hot Standby Router Protocol (HSRP) は、プライマリ HSRP またはアクティブルータ (AR) を選択するために使用されます。専用デバイスを選択する HSRP では、グループ内の 1 つのデバイスに VIP を設定する必要があります。このアドレスは、グループ内の他デバイスによって学習されます。プライマリに割り当てられた IP アドレスは、グループの VIP として使用されません。HSRP アクティブルータ (「プライマリ CLB」とも呼ばれる) は IKEv2 要求を受信し、クラスタの LLG にこれらの要求をリダイレクトします。リダイレクトが IKEv2 プロトコルレベルで実行されると、以下を実行できるようになります。

- FlexVPN クライアントからのすべての要求は、VIP が FlexVPN クライアントで設定されると、プライマリ HSRP で受信される。FlexVPN クライアントが知る必要があるのは HSRP クラスタの VIP のみであるため、FlexVPN クライアントの設定は最小化される。
- プライマリ CLB はプライマリ HSRP と同じゲートウェイで実行されるため、すべての従属 CLB の負荷情報が維持される。プライマリ CLB では、要求の効率的なリダイレクトが可能のため、複数のリダイレクトやループを防ぐことができる。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface type number**
4. **ip address ip-address mask [secondary]**
5. **standby [group-number] priority priority**
6. **standby group-name**
7. **exit**
8. 手順 3 ~ 7 を繰り返して、別のクラスタに HSRP グループを設定します。

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b>  Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip address</b> <i>ip-address mask [secondary]</i> <b>Example:</b>  Device(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.255.255.0	インターフェイスのプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<b>standby</b> [ <i>group-number</i> ] <b>priority</b> <i>priority</i> <b>Example:</b>  Device(config-if)# standby 1 priority 110	HSRP 優先度を設定します。
ステップ 6	<b>standby</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b>  Device(config-if)# standby group1	HSRP スタンバイ グループの名前を指定します。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config-if)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 8	手順 3 ~ 7 を繰り返して、別のクラスタに HSRP グループを設定します。	—

## 負荷管理メカニズムの設定

### Before you begin



**Note** Cisco IOS XE 17.14.1a 以降では、負荷不足の正規化のデフォルト設定が 5 に更新されました。展開でカスタム設定が必要な場合を除き、ご使用の設定がこの新しいデフォルトに適合していることを確認してください。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 cluster**
4. **holdtime** *milliseconds*
5. **master** { **overload-limit** *percent* | **weight** { **crypto-load** *weight-number* | **system-load** *weight-number* } }
6. **port** *port-number*

7. **slave** { *hello milliseconds* | **max-session** *number* | **priority** *number* | **update** *milliseconds*}
8. **standby-group** *group-name*
9. **shutdown**
10. **exit**
11. **crypto ikev2 reconnect key** *key index active name*
12. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 cluster</b>  <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 cluster	IKEv2 クラスタ ポリシーを定義し、IKEv2 クラスタ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>holdtime milliseconds</b>  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-cluster)# holdtime 10000	(オプション) ピアからのメッセージを受信する時間をミリ秒単位で指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 設定された時間内にメッセージを受信しない場合、ピアは「死んでいる」と宣言されます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>master</b> { <b>overload-limit</b> <i>percent</i>   <b>weight</b> { <b>crypto-load</b> <i>weight-number</i>   <b>system-load</b> <i>weight-number</i> } }  <b>Example:</b> Device(config-ikev2-cluster)# master weight crypto-load 10	HSRP クラスタのプライマリの設定を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>overload-limit percent</b> : クラスタのしきい値負荷。デバイスがビジーなことを判断し、要求へのリダイレクトを無視するための負荷制限。</li> <li>• <b>weight</b> : 負荷属性の重みを指定します。範囲 : 0 ~ 100。デフォルトは 100 です。</li> <li>• <b>crypto-load weight-number</b> : IKE と IPSec のセキュリティアソシエーション (SA) の負荷。</li> <li>• <b>system-load weight-number</b> : システムとメモリの負荷。</li> </ul>
ステップ 6	<b>port port-number</b>  <b>Example:</b>	(任意) クラスタプライマリのリスンポートを指定します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config-ikev2-cluster)# port 2000	
ステップ 7	<p><b>slave</b> { <b>hello milliseconds</b>   <b>max-session number</b>   <b>priority number</b>   <b>update milliseconds</b> }</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# slave max-session 90</pre>	<p>HSRP グループの従属ゲートウェイ設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>hello milliseconds</b> : ミリ秒単位の従属ゲートウェイの Hello インターバル。</li> <li>• <b>max-session number</b> : 従属上で許可される SA の最大数。このキーワードは必須であり、スキップできません。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>max-session</b> キーワードを使用して SA の最大数を指定する場合は、暗号化セッションの一部のバッファをキー再生成および再送信として含む値を指定し、いくつかの追加セッションを作成します。これらのセッションは、削除されるまで、しばらく存在しつづけます。バッファを提供すると、マスターサーバーとセカンダリサーバー間の耐障害性もサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>priority number</b> : 従属の優先順位。</li> <li>• <b>update milliseconds</b> : 従属ゲートウェイ用の更新メッセージ間の、ミリ秒単位のインターバル。</li> </ul>
ステップ 8	<p><b>standby-group</b> <i>group-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# standby-group group1</pre>	<p>従属が含まれている HSRP グループを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>group-name</b> : グループ名は <i>group-name</i> 引数から派生します。これは、<b>standby name</b> コマンドで指定されます。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>shutdown</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# shutdown</pre>	<p>(オプション) IKEv2 クラスタ ポリシーを無効にします。</p>
ステップ 10	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# exit</pre>	<p>IKEv2 クラスタ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。</p>
ステップ 11	<p><b>crypto ikev2 reconnect key</b> <i>key index active name</i></p> <p><b>Example:</b></p>	<p>セッション再接続の IKEv2 不透明型データ サポートを有効にします。</p>

## ■ サーバーでの IKEv2 リダイレクト メカニズムの有効化

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# crypto ikev2 reconnect key 1 active test123	<b>Note</b> IKEv2 クラスタの再接続機能は、 <b>ikev2 reconnect key active name key-string</b> に <b>active</b> キーワードが含まれている場合にのみ、暗号化に対して有効になります。クラスタの再接続機能を有効にするには、 <b>active</b> キーワードは必須です。 <b>active</b> キーワードを指定せずに <b>ikev2 reconnect key key-name key-string</b> コマンドを使用すると、ヘッドエンドでは復号化のみが可能になります。
ステップ 12	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-cluster)# end	IKEv2 クラスタ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## サーバーでの IKEv2 リダイレクト メカニズムの有効化

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. crypto ikev2 redirect gateway init
4. end

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 redirect gateway init</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 redirect gateway init	SA 開始中に、ゲートウェイで IKEv2 リダイレクトメカニズムを有効にします。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# end	

## クライアントでの IKEv2 リダイレクト メカニズムの有効化

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. crypto ikev2 redirect client [max-redirects number]
4. end

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 redirect client [max-redirects number]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 redirect client max-redirects 15	FlexVPN クライアントで IKEv2 リダイレクト メカニズムを有効にします。  • <b>max-redirects number</b> : (オプション) リダイレクト ループ 検出に対して、FlexVPN クライアントで設定できるリダイレクトの最大数を指定します。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## デッドピア検出の設定

デッドピア検出を使用すれば、ルータに対し、そのインターネットキーエクスチェンジ (IKE) ピアの活性を定期的に照会するよう設定できます。DPDは一部の設定ではオプションですが、IKEv2 クラスタ機能には推奨され、すべての条件下でクラスタロードバランシング (CLB) に

は必須です。クラスタ設定をセットアップするときに、プライマリノードとセカンダリノードの両方で DPD が設定されていることを確認します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **dpd interval retry-interval {on-demand | periodic}**
4. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>dpd interval retry-interval {on-demand   periodic}</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 dpd 500 50 on-demand	ピアを次のようにライブでチェックできるようにします。  • <b>on-demand</b> : 着信データトラフィックがない場合のみキープアライブを送信するオンデマンドモードを指定し、データを送信する前にピアの活性をチェックします。DPD オンデマンドは、クラスタ設定のプライマリノードとセカンダリノードの両方で必要であり、IKEv2 クラスタ機能の適切な動作を確保するために不可欠です。  • <b>periodic</b> : 指定した間隔で定期的にキープアライブを送信する定期モードを指定します。DPD は、すべての条件下で、CLB が信頼性の高い状態とピアの可用性を維持するために必須です。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## IPv4 展開の IKEv2 ロードバランサの設定例

### 例：ロードバランシングに対する HSRP グループの設定

次の例では、プライオリティ 110 で Hot Standby Router Protocol (HSRP) グループのアクティブ ルータとして設定された RouterA を示します。デフォルトのプライオリティレベルは 100 です。この HSRP グループには、group1 のグループ名が割り当てられます。グループ名は、クラスタ ポリシーに記載されています。

```
Device(config)# hostname RouterA
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0
Device(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.255.255.0
Device(config-if)# standby 1 priority 110
Device(config-if)# standby group1
Device(config-if)# end
```

### 例：負荷管理メカニズムの設定

次の例は、IKEv2 で負荷管理メカニズムを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ikev2 cluster
Device(config-ikev2-cluster)# holdtime 10000
Device(config-ikev2-cluster)# master crypto-load 10
Device(config-ikev2-cluster)# port 2000
Device(config-ikev2-cluster)# slave priority 90
Device(config-ikev2-cluster)# standby-group group1
Device(config-ikev2-cluster)# shutdown
Device(config-ikev2-cluster)# end
```

### 例：リダイレクトメカニズムの設定

次の例は、クライアント上およびゲートウェイでの開始中にリダイレクトメカニズムを有効にする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ikev2 redirect client
Device(config)# crypto ikev2 redirect gateway init
Device(config)# end
```

### 例：クラスタ再接続キーの設定

次の例は、サーバーで再接続キーを有効にする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ikev2 reconnect key 1 active key
Device(config)# crypto ikev2 reconnect key 2 test
Device(config)# end
```

## IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの設定方法

### ロードバランシングに対する HSRP グループの設定



**Note** Cisco IOS XE 17.13.1a 以降、IPv6 トポロジでの IKEv2 クラスタのロードバランシングサポートが導入されました。IPv6 トポロジの設定手順で、IPv4 トポロジで使用されるキーワード `master` および `slave` に対応するキーワード `primary` および `secondary` を参照するようになりました。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `interface type number`
4. `ip address ip-address mask [secondary]`
5. `standby [group-number] priority priority`
6. `standby group-name`
7. `standbydelaymimimum [seconds]`
8. `standby version 2`
9. `exit`
10. 手順 3 ~ 7 を繰り返して、別のクラスタに HSRP グループを設定します。

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<code>configure terminal</code> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type number</i> <b>Example:</b>  Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>ip address</b> <i>ip-address mask [secondary]</i> <b>Example:</b>  Device(config-if)# ip address 10.0.0.1 255.255.255.0	インターフェイスのプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<b>standby</b> [ <i>group-number</i> ] <b>priority</b> <i>priority</i> <b>Example:</b>  Device(config-if)# standby 1 priority 110	HSRP 優先度を設定します。
ステップ 6	<b>standby</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b>  Device(config-if)# standby group1	HSRP スタンバイ グループの名前を指定します。
ステップ 7	<b>standbydelay</b> <i>mimumum [seconds]</i> <b>Example:</b>  Device(config-if)# standby delay minimum 120	HSRP 優先度を設定します。
ステップ 8	<b>standby version</b> 2 <b>Example:</b>  Device(config-if)# standby version 2	HSRP 優先度を設定します。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config-if)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	手順 3～7 を繰り返して、別のクラスタに HSRP グループを設定します。	—

## 負荷管理メカニズムの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 cluster**
4. **holdtime** *milliseconds*
5. **primary** { **overload-limit** *percent* | **weight** { **crypto-load** *weight-number* | **system-load** *weight-number* } }
6. **port** *port-number*

7. **secondary** { *hello milliseconds* | **max-session** *number* | **priority** *number* | **update** *milliseconds*}
8. **standby-group** *group-name*
9. **shutdown**
10. **exit**
11. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 cluster</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 cluster	IKEv2 クラスタ ポリシーを定義し、IKEv2 クラスタ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>holdtime milliseconds</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-cluster)# holdtime 10000	(オプション) ピアからのメッセージを受信する時間をミリ秒単位で指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>設定された時間内にメッセージを受信しない場合、ピアは「死んでいる」と宣言されます。</li></ul>
ステップ 5	<b>primary</b> { <b>overload-limit</b> <i>percent</i>   <b>weight</b> { <b>crypto-load</b> <i>weight-number</i>   <b>system-load</b> <i>weight-number</i> } } <b>Example:</b> Device(config-ikev2-cluster)# primary weight crypto-load 10	HSRP クラスタのプライマリの設定を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>overload-limit percent</b> : クラスタのしきい値負荷。デバイスがビジーなことを判断し、要求へのリダイレクトを無視するための負荷制限。</li><li><b>weight</b> : 負荷属性の重みを指定します。範囲 : 0 ~ 100。デフォルトは 100 です。</li><li><b>crypto-load weight-number</b> : IKE と IPsec のセキュリティ アソシエーション (SA) の負荷。</li><li><b>system-load weight-number</b> : システムとメモリの負荷。</li></ul>
ステップ 6	<b>port port-number</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-cluster)# port 2000	(任意) クラスタプライマリのリスンポートを指定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<p><b>secondary</b> { <b>hello</b> <i>milliseconds</i>   <b>max-session</b> <i>number</i>   <b>priority</b> <i>number</i>   <b>update</b> <i>milliseconds</i> }</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# slave max-session 90</pre>	<p>HSRP グループの従属ゲートウェイ設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>hello</b> <i>milliseconds</i> : ミリ秒単位の従属ゲートウェイの Hello インターバル。</li> <li>• <b>max-session</b> <i>number</i> : 従属上で許可される SA の最大数。このキーワードは必須であり、スキップできません。</li> <li>• <b>priority</b> <i>number</i> : 従属の優先順位。</li> <li>• <b>update</b> <i>milliseconds</i> : 従属ゲートウェイ用の更新メッセージ間の、ミリ秒単位のインターバル。</li> </ul> <p><b>Note</b> <b>max-session</b> キーワードを使用して SA の最大数を指定する場合は、暗号化セッションの一部のバッファをキー再生成および再送信として含む値を指定し、いくつかの追加セッションを作成します。これらのセッションは、削除されるまで、しばらく存在しつづけます。バッファを提供すると、マスターサーバーとセカンダリサーバー間の耐障害性もサポートされます。</p>
ステップ 8	<p><b>standby-group</b> <i>group-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# standby-group group1</pre>	<p>従属が含まれている HSRP グループを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>group-name</b> : グループ名は <i>group-name</i> 引数から派生します。これは、<b>standby name</b> コマンドで指定されます。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>shutdown</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# shutdown</pre>	<p>(オプション) IKEv2 クラスタ ポリシーを無効にします。</p>
ステップ 10	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# exit</pre>	<p>IKEv2 クラスタ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。</p>
ステップ 11	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(config-ikev2-cluster)# end</pre>	<p>IKEv2 クラスタ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。</p>

## サーバーでの IKEv2 リダイレクト メカニズムの有効化

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto ikev2 redirect gateway init`
4. `end`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 redirect gateway init</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 redirect gateway init	SA 開始中に、ゲートウェイで IKEv2 リダイレクト メカニズムを有効にします。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## クライアントでの IKEv2 リダイレクト メカニズムの有効化

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto ikev2 redirect client [max-redirects number]`
4. `end`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 redirect client [max-redirects number]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 redirect client max-redirects 15	FlexVPN クライアントで IKEv2 リダイレクトメカニズムを有効にします。  • <b>max-redirects number</b> : (オプション) リダイレクトループ検出に対して、FlexVPN クライアントで設定できるリダイレクトの最大数を指定します。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IKEv2 ロードバランササポートのオプションパラメータの設定

### アイドルタイマーの設定

指定した時間が経過した後には非アクティブなピアの SA をドロップするように IPSec SA アイドルタイマーを設定できます。この設定は、オプションです。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec security-association idle-time seconds**
4. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec security-association idle-time seconds</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ipsec security-association idle-time 600	IPsec SA アイドル タイマーを設定します。  seconds 引数では、アイドル タイマーが非アクティブ ピアによる SA の維持を許可する時間を秒単位で指定します。seconds 引数の有効な値の範囲は 60 ～ 86400 です。  <b>Note</b> アイドルタイマーを指定する場合は、着信トラフィックと発信トラフィックのレートを考慮し、それに応じてタイマーを設定することが重要です。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## デッドピア検出の設定

デッドピア検出を使用すれば、ルータに対し、そのインターネットキーエクスチェンジ (IKE) ピアの活性を定期的に照会するよう設定できます。DPD は一部の設定ではオプションですが、IKEv2 クラスタ機能には推奨され、すべての条件下でクラスタロードバランシング (CLB) には必須です。クラスタ設定をセットアップするときに、プライマリノードとセカンダリノードの両方で DPD が設定されていることを確認します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **dpd interval retry-interval {on-demand | periodic}**
4. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>dpd interval retry-interval {on-demand   periodic}</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 dpd 500 50 on-demand	ピアを次のようにライブでチェックできるようにします。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>on-demand</b> : 着信データトラフィックがない場合にのみキープアライブを送信するオンデマンドモードを指定し、データを送信する前にピアの活性をチェックします。DPD オンデマンドは、クラスタ設定のプライマリノードとセカンダリノードの両方で必要であり、IKEv2 クラスタ機能の適切な動作を確保するために不可欠です。</li><li><b>periodic</b> : 指定した間隔で定期的にキープアライブを送信する定期モードを指定します。DPD は、すべての条件下で、CLB が信頼性の高い状態とピアの可用性を維持するために必須です。</li></ul>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-if)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの設定例

## 例 : ロード バランシングに対する HSRP グループの設定

次の例では、プライオリティ 110 で Hot Standby Router Protocol (HSRP) グループのアクティブ ルータとして設定された RouterA を示します。デフォルトのプライオリティ レベルは 100 です。この HSRP グループには、group1 のグループ名が割り当てられます。グループ名は、クラスタ ポリシーに記載されています。

## 例：負荷管理メカニズムの設定

```

Device(config)# hostname RouterA
Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0
Device(config-if)# ip address 2001:DB8::1
Device(config-if)# standby 1 priority 110
Device(config-if)# standby group 1
Device(config-if)# standby version 1
Device(config-if)# end

```

## 例：負荷管理メカニズムの設定

次の例は、IKEv2 で負荷管理メカニズムを設定する方法を示します。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ikev2 cluster
Device(config-ikev2-cluster)# holdtime 10000
Device(config-ikev2-cluster)# primary crypto-load 10
Device(config-ikev2-cluster)# port 2000
Device(config-ikev2-cluster)# secondary priority 90
Device(config-ikev2-cluster)# standby-group group1
Device(config-ikev2-cluster)# shutdown
Device(config-ikev2-cluster)# end

```

## 例：リダイレクトメカニズムの設定

次の例は、クライアント上およびゲートウェイでの開始中にリダイレクトメカニズムを有効にする方法を示します。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ikev2 redirect client
Device(config)# crypto ikev2 redirect gateway init
Device(config)# end

```

## IKEv2 ロードバランサ設定の確認

インターネットキーエクスチェンジバージョン2 (IKEv2) クラスタポリシーの設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show crypto ikev2 cluster** コマンドを使用します。

次に、HSRP プライマリゲートウェイに関する **show crypto ikev2 cluster** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show crypto ikev2 cluster

Role           : CLB Primary
Status         : Up
CLB Secondary  : 2
Cluster IP     : 2001:DB8::10
Hold time      : 15000 msec
Overload limit : 80%
Codes         : '*' Least loaded, '-' Overloaded

```



```

Load statistics:
  Gateway          Role    Last-seen  Prio   Load    IKE    FQDN
-----
2001:DB8::1      Primary  --         100   26.6%   3996
2001:DB8::2      Second  00:01.452  100   26.6%   3999
2001:DB8::3      Second  00:00.271  100   26.6%   4006

```



**Note** セカンダリサーバーは、更新メッセージの設定に基づいて、暗号負荷とシステム負荷の詳細を共有します。これらの要素は、LLGの識別に役立ちます。これらの詳細は静的ではないため、負荷は均等または直線的に分散されません。

次に、HSRPセカンダリゲートウェイに関する **show crypto ikev2 cluster** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show crypto ikev2 cluster
```

```

Role           : CLB Secondary
Status        : Up
Cluster IP     : 1:1:1::100
Hold time     : 15000 msec
Hello-interval : 5000 msec
Update-interval: 6000 msec

```

```

Load statistics:
  Gateway          Last-Ack  Prio   Load    IKE    FQDN
-----
1:1:1::2          00:02.671  100   51.0%   2793

```

インターネットキーエクスチェンジバージョン2 (IKEv2) クラスタポリシーの設定と追加の詳細を表示するには、特権 EXEC モードで **show crypto ikev2 cluster details** コマンドを使用します。

```
Device# show crypto ikev2 cluster details
```

```

Gateway          Priority  In-neg   Crypto  CPU   Mem   Composite Prioritized
-----
1:1:1::6        100     2.5%    17.4%  43%  20%   43.0%    43.0%
1:1:1::3        100     0.0%    17.5%  39%  23%   39.0%    39.0%
1:1:1::2        100     0.0%    17.0%  40%  18%   40.0%    40.0%
1:1:1::5        100     0.0%    18.9%  43%  17%   43.0%    43.0%
1:1:1::1        100     0.0%    16.3%  40%  19%   40.0%    40.0%
1:1:1::4        100     0.0%    16.3%  42%  16%   42.0%    42.0%

```

インターネットキーエクスチェンジバージョン2 (IKEv2) セキュリティ アソシエーション (SA) の統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show crypto ikev2 cluster stats command** を使用します。

```
Device# show crypto ikev2 cluster stats
```

```

Gateway          Priority  In-neg   Crypto  CPU   Mem   Composite Prioritized
-----
1:1:1::6        100     2.5%    17.4%  43%  20%   43.0%    43.0%

```

1:1:1::3	100	0.0%	17.5%	39%	23%	39.0%	39.0%
1:1:1::2	100	0.0%	17.0%	40%	18%	40.0%	40.0%
1:1:1::5	100	0.0%	18.9%	43%	17%	43.0%	43.0%
1:1:1::1	100	0.0%	16.3%	40%	19%	40.0%	40.0%
1:1:1::4	100	0.0%	16.3%	42%	16%	42.0%	42.0%

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
HSRP コンフィギュレーション	『Configuring HSRP』
HSRP コマンド	『Cisco IOS First Hop Redundancy Protocols Command Reference』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 5685	Redirect Mechanism for the Internet Key Exchange Protocol Version 2 (IKEv2)

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IPv4 および IPv6 展開の IKEv2 ロードバランサの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 279: IKEv2 ロードバランサの機能情報

機能名	リリース	機能情報
AnyConnect のクラスタ再接続との IKEv2 高速コンバージェンス	15.6(1)T Cisco IOS XE リリース 3.17S	AnyConnect のクラスタ再接続との IKEv2 高速コンバージェンス機能では、Cisco AnyConnect クライアントはクラスタ内の任意のサーバーと再接続できます。  次のコマンドが導入または変更されました： <b>crypto ikev2 reconnect key</b>

機能名	リリース	機能情報
IKEv2 ロードバランサのサポート	Cisco IOS XE Release 3.8S	<p>IKEv2 ロードバランササポート機能は、要求を最低負荷ゲートウェイにリダイレクトすることで、FlexVPN クライアントから受信する IKEv2 要求を、IKEv2 FlexVPN サーバー間またはゲートウェイ間で分散します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>crypto ikev2 cluster, crypto ikev2 redirect, holdtime, primary (IKEv2), port (IKEv2), redirect gateway, subordinate (IKEv2), standby-group, show crypto ikev2 cluster, show crypto ikev2 sa.</b></p>
IPv6 展開での IKEv2 ロードバランサのサポート	Cisco IOS XE リリース 17.13.1a	<p>IPv6 展開での IKEv2 ロードバランサのサポートは、C8500-12X プラットフォーム用にのみ導入されました。</p>



## 第 211 章

# IKEv2 フラグメンテーションの設定

RFC 機能に準拠した IKE フラグメンテーションでは、IETF の **draft-ietf-ipsecme-ikev2-fragmentation-10** ドキュメントの提案に従って、インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) パケットのフラグメンテーションを実装しました。

- [IKEv2 フラグメンテーションの設定に関する情報 \(3165 ページ\)](#)
- [IKEv2 フラグメンテーションの設定方法 \(3169 ページ\)](#)
- [IKEv2 フラグメンテーションの設定例 \(3170 ページ\)](#)
- [IKEv2 フラグメンテーションの設定に関する追加情報 \(3174 ページ\)](#)
- [IKEv2 フラグメンテーションの機能情報 \(3175 ページ\)](#)

## IKEv2 フラグメンテーションの設定に関する情報

### IKEv2 フラグメンテーション

インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) フラグメンテーションプロトコルは、大きな IKEv2 メッセージを IKE フラグメント メッセージと呼ばれる一連の小さなメッセージに分割します。IKEv2 リモート アクセスのヘッドエンド機能によって Cisco IOS ソフトウェアに実装された IKEv2 フラグメンテーション方式は、シスコ独自の方法であり、シスコ以外のピアとの相互運用性は制限されます。フラグメンテーションは、暗号化された IKEv2 パケットでのみ実行されます。そのため、ピアがすべてのフラグメントを受信するまで、ピアはメッセージを復号したり認証することはできません。RFC に準拠した IKE フラグメンテーション機能は、フラグメンテーション後にパケットを暗号化することによって IETF **draft-ietf-ipsecme-ikev2-fragmentation-10** ドキュメントを実装し、シスコ独自のフラグメンテーション方式を引き続きサポートしながらシスコ以外のピアとの相互運用性を実現します。



(注) デフォルトでは、IKEv2 フラグメンテーションは無効になっていますが、`show run all` により、暗号 IKEv2 フラグメンテーション MTU が 576 B であることが示されます。

## ピア間のネゴシエーション

RFC 機能に準拠した IKE フラグメンテーションから有効。IETF 標準フラグメンテーション方式のサポートが通知ペイロードとして IKE\_SA\_INIT メッセージに追加されました。一方、シスコ独自のフラグメンテーション方式は、同じ IKE\_SA\_INIT メッセージ内で引き続きベンダー ID ペイロードを使用します。フラグメンテーションが有効な場合、両方の方式が **show crypto ikev2 sa detail** コマンドで適切と表示されます。最大伝送ユニット (MTU) はローカルで設定され、メッセージ間のネゴシエーションも交換も行いません。INIT 交換の後、いずれかの方式で設定されたネットワーク内のピアは、使用する必要がある認証方式と、AUTH メッセージをフラグメント化できるかどうかを認識します。

次に、デバッグが有効で、INIT 要求メッセージでのネゴシエーション機能を表している場合のデバイスからの出力例を示します。

```
*Oct 14 08:45:24.732: IKEv2:(SESSION ID = 0,SA ID = 1):Next payload: SA, version: 2.0
Exchange type: IKE_SA_INIT, flags: INITIATOR Message id: 0, length: 524
Payload contents:
SA Next payload: KE, reserved: 0x0, length: 144
...
Security protocol id: IKE, spi size: 0, type: NAT_DETECTION_DESTINATION_IP
NOTIFY(IKEV2_FRAGMENTATION_SUPPORTED) Next payload: VID, reserved: 0x0, length: 8
Security protocol id: Unknown - 0, spi size: 0, type: IKEV2_FRAGMENTATION_SUPPORTED
VID Next payload: NONE, reserved: 0x0, length: 20
```

上記の出力では、メッセージ内の IKEV2\_FRAGMENTATION\_SUPPORTED および VID 値によって、IETF 標準フラグメンテーション方式とシスコ独自のフラグメンテーション方式の両方をサポートすることを示す、発信側から応答側へのメッセージが INIT 要求に含まれます。

次に、デバッグが有効で、INIT 応答メッセージでのネゴシエーション機能を表している場合のデバイスからの出力例を示します。

```
*Oct 14 08:45:24.732: IKEv2:(SESSION ID = 0,SA ID = 1):Next payload: SA, version: 2.0
Exchange type: IKE_SA_INIT, flags: INITIATOR Message id: 0, length: 524
Payload contents:
SA Next payload: KE, reserved: 0x0, length: 144
last proposal: 0x0, reserved: 0x0, length: 140
...
NOTIFY(IKEV2_FRAGMENTATION_SUPPORTED) Next payload: VID, reserved: 0x0, length: 8
Security protocol id: Unknown - 0, spi size: 0, type: IKEV2_FRAGMENTATION_SUPPORTED
<----- Response, supporting both
VID Next payload: NONE, reserved: 0x0, length: 20 <----- Response, supporting both
```

上記の出力では、メッセージ内の IKEV2\_FRAGMENTATION\_SUPPORTED および VID 値によって、IETF 標準フラグメンテーション方式とシスコ独自のフラグメンテーション方式の両方をサポートすることを示す、応答側から発信側へのメッセージが応答要求に含まれます。

## 以前のリリースのフラグメンテーション サポート

シスコ独自のフラグメンテーション方式を使用する以前のリリースのフラグメンテーションサポートを保証するために、IKEv2 は IETF 標準フラグメンテーション方式の IKEv2 通知ペイロードタイプと共にベンダー ID を引き続き使用します。両方のフラグメンテーション方式がサポートされている場合、IKEv2 は IETF 標準フラグメンテーション方式を優先します。

次の表に、ピアの機能に基づいてフラグメンテーションのタイプを特定する方法を示します。CISCO はシスコ独自のフラグメンテーション方式を示し、STD は IETF 標準フラグメンテーション方式を示します。

ピア 1 の機能	ピア 2 の機能	セキュリティ アソシエーションでアクティブなフラグメンテーションタイプ
STD + CISCO	STD + CISCO	STD
STD	STD	STD
CISCO	CISCO	CISCO
CISCO	STD + CISCO	CISCO
STD	STD + CISCO	STD
STD	CISCO	なし
なし	なし、STD + CISCO、または STD または CISCO	なし

## フラグメントの暗号化、複合化、および再送信

### フラグメンテーションおよび暗号化

パケットは、**crypto ikev2 fragmentation** コマンドで指定された最大伝送ユニット (MTU) 値またはデフォルト MTU 値のいずれかに基づいてフラグメント化されます。暗号化されたペイロードのみを含む IKE メッセージがフラグメント化されます。アナウンス メッセージ内の新しいペイロードタイプ (暗号化および認証されたフラグメント) は、フラグメントの合計数以上のフラグメント番号を示します。このペイロードは SKF として注釈がつけられ、値は 53 です。

発信パケットを暗号化する前に、パケット長を確認します。確立済みのセキュリティ アソシエーションは、IETF 標準フラグメント方式で SA が有効になっているかどうかを確認します。次に、フラグメント化されたパケットの伝送が表示されるデバイスからの出力例を示します。

```
*Oct 16 10:31:22.221: IKEv2:(SESSION ID = 0,SA ID = 3):Next payload: SKF, version: 2.0
Exchange type: INFORMATIONAL, flags: INITIATOR Message id: 1, length: 244
Payload contents:
SKF Next payload: COOP, reserved: 0x90, length: 216
SKF Fragment number: 1 OF Total Fragments: 3
*Oct 16 10:31:22.222: IKEv2:(SESSION ID = 0,SA ID = 3):Next payload: SKF, version: 2.0
Exchange type: INFORMATIONAL, flags: INITIATOR Message id: 1, length: 244
Payload contents:
SKF Next payload: COOP, reserved: 0x90, length: 216
SKF Fragment number: 2 OF Total Fragments: 3
*Oct 16 10:31:22.222: IKEv2:(SESSION ID = 0,SA ID = 3):Next payload: SKF, version: 2.0
Exchange type: INFORMATIONAL, flags: INITIATOR Message id: 1, length: 244
Payload contents:
SKF Next payload: COOP, reserved: 0x90, length: 216
SKF Fragment number: 3 OF Total Fragments: 3
```

「SKF Next payload: COOP, reserved: 0x90, length: 216」 および 「SKF Fragment number: 1 OF Total Fragments: 3」 は、メッセージが3つのフラグメントにフラグメント化された協調キーサーバーのアナウンスメント (ANN) パケットであることを示します。

## 復号と最適化

応答側で受信フラグメントが受信されると、各フラグメントは復号されて一時的に保存されます。復号 (元のパックへのフラグメントのアセンブリ) 時に、重複するフラグメント、フラグメントの合計数以上のフラグメント番号、およびまったく別のフラグメント番号を持つフラグメントはドロップされます。フラグメントは、受信した順ではなくフラグメント番号の昇順で追加されます。そのため、パケットアセンブリが高速化します。ただし、順序どおりではないフラグメントも許可され、処理されます。各フラグメントは、メッセージに関係するすべてのフラグメントが受信されていることを確認するために検証されます。すべてのフラグメントが受信されると、パケットはフラグメントからアセンブリされ、新しく受信したメッセージとして処理されます。確認応答 (ACK) メッセージは、元のパケットがアセンブリされると送信されます。各フラグメントには送信されません。

## 再送信

IKEv2 再送信は、IKEv2 再送信タイマーから求められた場合に発生します。一度構成され最初に送信されたフラグメントは、リスト化され、再送信タイマーがトリガーされた場合に再送信できるよう準備されます。再送信要求を受信すると、IKEv2 は応答を再送信します。この応答は、最初のフラグメント (#1) 再送信が受信されると、再送信されます。残りのフラグメント番号は無視されるため、応答のより短時間での処理が可能になります。

## フラグメンテーションの有効化

セキュリティ アソシエーション (SA) ごとにフラグメンテーションをグローバルに有効にするには、**crypto ikev2 fragmentation** コマンドを使用します。両方のピアが各ピアでの INIT 交換の後に IKE\_AUTH 交換に使用されるフラグメンテーションのサポートを示している場合、フラグメンテーションは SA で有効になっています。



(注) このコマンドは、IKEv2 リモート アクセス ヘッドエンド機能によって導入され、変更されていません。

**mtu mtu-size** キーワード/引数のペアを使用して、最大伝送ユニット (MTU) をバイト単位で指定できます。MTU サイズは、IP または UDP カプセル化済みの IKEv2 パケットを示します。MTU の範囲は 68 ~ 1500 バイトです。デフォルトの MTU サイズは、IPv4 パケットでは 576 バイト、IPv6 パケットでは 1280 バイトです。

RFC 機能に準拠した IKE フラグメンテーションで有効な **crypto ikev2 fragmentation** コマンドは、次のように動作します。

- 将来の SA にのみ影響し、既存の古い SA には影響しません。



- シスコ独自のフラグメンテーション方式と IETF 標準のフラグメンテーション方式をサポートします。

**show crypto ikev2 sa detail** コマンドにより、以下の情報が表示されます。

- ピアで有効なフラグメンテーション方式。有効なフラグメンテーション方式が IETF 標準のフラグメンテーションの場合、出力には使用中の MTU が表示されます。
- フラグメンテーションが両方のピアで有効になっているか、ローカルピアでのみ有効になっているか。

## IPv6 のサポート

RFC 機能に準拠した IKE フラグメンテーションでは、IETF 標準フラグメンテーション方式を使用している場合の、IPv6 IKE エンドポイントでの IPv6 パケットの断片化のサポートを追加しました。デフォルトの MTU 値は 1280 バイトであり、**crypto ikev2 fragmentation** コマンドで MTU が指定されていない場合に使用されます。フラグメンテーションで使用される MTU は、**show crypto ikev2 sa detail** コマンドの出力に表示されます。

# IKEv2 フラグメンテーションの設定方法

## IKEv2 フラグメンテーションの設定

このタスクを実行して、大規模な IKEv2 パケットのフラグメンテーションを有効にします。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 fragmentation [ mtu mtu-size]**
4. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device# configure terminal	
ステップ 3	<b>crypto ikev2 fragmentation [ mtu mtu-size]</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 fragmentation mtu 100	IKEv2 フラグメンテーションを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• MTU の範囲は 96 ~ 1500 バイトです。デフォルトの MTU サイズは、IPv4 パケットでは 576 バイト、IPv6 パケットでは 1280 バイトです。</li> </ul> <b>Note</b> MTU のサイズは、IP または UDP でカプセル化された IKEv2 パケットを示します。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IKEv2 フラグメンテーションの設定例

### 例：設定された MTU の表示が有効な IETF フラグメンテーション

次は、IETF 標準フラグメンテーション方式が有効であることを示すサンプル出力です。このステートメントは、応答側が IETF 標準フラグメンテーション方式もサポートしている場合に表示されます。また、出力には、使用中の MTU も表示されます。

```
Device# show crypto ikev2 sa detail
```

```
IPv4 Crypto IKEv2 SA

Tunnel-id Local Remote fvrf/ivrf Status
1 10.0.8.3/848 10.0.9.4/848 none/none IN-NEG
Encr: Unknown - 0, PRF: Unknown - 0, Hash: None, DH Grp:0, Auth sign: Unknown - 0, Auth
  verify: Unknown - 0
Life/Active Time: 86400/0 sec
CE id: 0, Session-id: 0
Status Description: Initiator waiting for INIT response
Local spi: 2CD1BEADB7C20854 Remote spi: 0000000000000000
Local id: 10.0.8.3
Remote id:
Local req msg id: 0 Remote req msg id: 0
Local next msg id: 1 Remote next msg id: 0
Local req queued: 0 Remote req queued: 0
Local window: 1 Remote window: 1
DPD configured for 0 seconds, retry 0
IETF Std Fragmentation enabled.
IETF Std Fragmentation MTU in use: 272 bytes.
Extended Authentication not configured.
NAT-T is not detected
Cisco Trust Security SGT is disabled
Initiator of SA : Yes

IPv6 Crypto IKEv2 SA
```

## 例：発信側で設定される IETF 標準フラグメンテーション方式

次は、発信側で設定された IETF 標準フラグメンテーション方式を表示するサンプル出力です。応答側はシスコ独自のフラグメンテーション方式をサポートしています。

```
Device# show crypto ikev2 sa detail
```

```
IPv4 Crypto IKEv2 SA
```

```
Tunnel-id Local Remote fvrf/ivrf Status
1 10.0.8.3/848 10.0.9.4/848 none/none READY
Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:5, Auth sign: PSK, Auth
verify: PSK
Life/Active Time: 86400/59 sec
CE id: 1001, Session-id: 1
Status Description: Negotiation done
Local spi: 84350219051DB9E3 Remote spi: 52A8BB3898E8B5CF
Local id: 10.0.8.3
Remote id: 10.0.9.4
Local req msg id: 4 Remote req msg id: 0
Local next msg id: 4 Remote next msg id: 0
Local req queued: 4 Remote req queued: 0
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
IETF Std Fragmentation configured.
Extended Authentication not configured.
NAT-T is not detected
Cisco Trust Security SGT is disabled
Initiator of SA : Yes
```

```
IPv6 Crypto IKEv2 SA
```

次は、応答側の設定を表示するサンプル出力です。この出力では、シスコ独自のフラグメンテーション方式が構成されていますが、有効ではない点に注意してください。

```
Device# show crypto ikev2 sa detail
```

```
IPv4 Crypto IKEv2 SA
```

```
Tunnel-id Local Remote fvrf/ivrf Status
1 10.0.9.4/848 10.0.8.3/848 none/none READY
Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:5, Auth sign: PSK, Auth
verify: PSK
Life/Active Time: 86400/52 sec
CE id: 1001, Session-id: 1
Status Description: Negotiation done
Local spi: 52A8BB3898E8B5CF Remote spi: 84350219051DB9E3
Local id: 10.0.9.4
Remote id: 10.0.8.3
Local req msg id: 0 Remote req msg id: 4
Local next msg id: 0 Remote next msg id: 4
Local req queued: 0 Remote req queued: 4
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
Fragmentation configured.
Extended Authentication not configured.
NAT-T is not detected
Cisco Trust Security SGT is disabled
Initiator of SA : No
```

```
IPv6 Crypto IKEv2 SA
```

## 例：発信側で設定される IETF 標準フラグメンテーション方式

次は、発信側が IETF 標準フラグメンテーション方式をサポートし、応答側はフラグメンテーションをサポートしていない例を示します。この出力は、IETF 標準フラグメンテーション方式が構成されていますが、有効ではないことを示す点に注意してください。

```
Device# show crypto ikev2 sa detail
IPv4 Crypto IKEv2 SA

Tunnel-id Local Remote fvrf/ivrf Status
1 10.0.8.3/848 10.0.9.4/848 none/none READY
Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:5, Auth sign: PSK, Auth
verify: PSK
Life/Active Time: 86400/44 sec
CE id: 1004, Session-id: 2
Status Description: Negotiation done
Local spi: 03534703287D9CA1 Remote spi: 146E1CFA68008A92
Local id: 10.0.8.3
Remote id: 10.0.9.4
Local req msg id: 4 Remote req msg id: 0
Local next msg id: 4 Remote next msg id: 0
Local req queued: 4 Remote req queued: 0
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
IETF Std Fragmentation configured.
Extended Authentication not configured.
NAT-T is not detected
Cisco Trust Security SGT is disabled
Initiator of SA : Yes
```

次は、応答側の設定を表示するサンプル出力です。ステートメント「Fragmentation not configured.」に注意してください。

```
Device# show crypto ikev2 sa detail
IPv4 Crypto IKEv2 SA

Tunnel-id Local Remote fvrf/ivrf Status
1 10.0.9.4/848 10.0.8.3/848 none/none READY
Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:5, Auth sign: PSK, Auth
verify: PSK
Life/Active Time: 86400/23 sec
CE id: 1004, Session-id: 4
Status Description: Negotiation done
Local spi: 146E1CFA68008A92 Remote spi: 03534703287D9CA1
Local id: 10.0.9.4
Remote id: 10.0.8.3
Local req msg id: 0 Remote req msg id: 3
Local next msg id: 0 Remote next msg id: 3
Local req queued: 0 Remote req queued: 3
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
Fragmentation not configured.
Extended Authentication not configured.
NAT-T is not detected
Cisco Trust Security SGT is disabled
Initiator of SA : No
```

## 例：発信側で設定されない IETF 標準フラグメンテーション方式

次は、発信側で設定されるフラグメンテーション方式が表示されないサンプル出力です。

```
Device# show crypto ikev2 sa detail

IPv4 Crypto IKEv2 SA

Tunnel-id Local Remote fvrf/ivrf Status
2 10.0.8.3/848 10.0.9.4/848 none/none DELETE
Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:5, Auth sign: PSK, Auth
verify: PSK
Life/Active Time: 86400/28 sec
CE id: 1001, Session-id: 1
Status Description: Deleting IKE SA
Local spi: 1A375C00C1D157CF Remote spi: DB50F1BC58814FFA
Local id: 10.0.8.3
Remote id: 10.0.9.4
Local req msg id: 2 Remote req msg id: 4
Local next msg id: 4 Remote next msg id: 5
Local req queued: 2 Remote req queued: 4
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
Fragmentation not configured.
Extended Authentication not configured.
NAT-T is not detected
Cisco Trust Security SGT is disabled
Initiator of SA : No

IPv6 Crypto IKEv2 SA
```

## 例：フラグメンテーションの IPv6 サポート

次の例は、FlexVPN エンドポイント（ハブとスポーク）のフラグメンテーションを示します。次は、パケットのフラグメント化に 1300 の最大伝送ユニット（MTU）を設定したハブに関連する設定です。

```
Device# show crypto ikev2 sa detail

IPv4 Crypto IKEv2 SA

IPv6 Crypto IKEv2 SA

Tunnel-id fvrf/ivrf Status
1 none/none READY
Local 4001::2000:3/500
Remote 4001::2000:1/500
Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:5, Auth sign: PSK, Auth
verify: PSK
Life/Active Time: 86400/64 sec
CE id: 1001, Session-id: 1
Status Description: Negotiation done
Local spi: 45BA0D30D0EB5FFF Remote spi: 8D7B5A8389CEB8B3
Local id: R2.cisco.com
Remote id: R1.cisco.com
Local req msg id: 3 Remote req msg id: 0
Local next msg id: 3 Remote next msg id: 0
```

```

Local req queued: 3 Remote req queued: 0
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
IETF Std Fragmentation enabled.
IETF Std Fragmentation MTU in use: 1272 bytes.
Extended Authentication not configured.
NAT-T is not detected
Cisco Trust Security SGT is disabled
Initiator of SA : Yes
Remote subnets:
10.0.0.251 255.255.255.255
IPv6 Remote subnets:
3001::/112
5001::/64

```

次は、デフォルトの MTU を設定したスポークに関連する設定です。

```
Device# show crypto ikev2 sa detail
```

```

IPv4 Crypto IKEv2 SA

IPv6 Crypto IKEv2 SA

Tunnel-id fvrf/ivrf Status
1 none/none READY
Local 4001::2000:1/500
Remote 4001::2000:3/500
Encr: AES-CBC, keysize: 256, PRF: SHA512, Hash: SHA512, DH Grp:5, Auth sign: PSK, Auth
verify: PSK
Life/Active Time: 86400/58 sec
CE id: 1001, Session-id: 1
Status Description: Negotiation done
Local spi: 8D7B5A8389CEB8B3 Remote spi: 45BA0D30D0EB5FFF
Local id: R1.cisco.com
Remote id: R2.cisco.com
Local req msg id: 0 Remote req msg id: 3
Local next msg id: 0 Remote next msg id: 3
Local req queued: 0 Remote req queued: 3
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
IETF Std Fragmentation enabled.
IETF Std Fragmentation MTU in use: 1232 bytes.
Extended Authentication not configured.
NAT-T is not detected
Cisco Trust Security SGT is disabled
Initiator of SA : No
Remote subnets:
10.0.0.3 255.255.255.255

```

## IKEv2 フラグメンテーションの設定に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
IKEv2 フラグメンテーション	<i>draft-ietf-ipsecme-ikev2-fragmentation-10</i>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IKEv2 フラグメンテーションの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 280: IKEv2 フラグメンテーションの機能情報

機能名	リリース	機能情報
RFC に準拠した IKEv2 フラグメンテーション		RFC 機能に準拠した IKE フラグメンテーションでは、IETF の <b>draft-ietf-ipsecme-ikev2-fragmentation-10</b> ドキュメントの提案に従って、インターネットキーエクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) パケットのフラグメンテーションを実装しました。  <b>show crypto ikev2 sa</b> コマンドが変更されました。





## 第 212 章

# IKEv2 再接続の設定

AnyConnect 機能の AutoReconnect 機能の IOS IKEv2 サポートは、Cisco AnyConnect でユーザーが操作しない、IKEv2 ネゴシエーションの再確立に役立ちます。

- [IKEv2 再接続設定の前提条件 \(3177 ページ\)](#)
- [IKEv2 再接続設定の制限事項 \(3177 ページ\)](#)
- [設定された IKEv2 フラグメンテーションに関する情報 \(3178 ページ\)](#)
- [IKEv2 再接続の設定方法 \(3179 ページ\)](#)
- [IKEv2 再接続の設定例 \(3181 ページ\)](#)
- [IKEv2 再接続の設定に関する追加情報, on page 3181](#)
- [IKEv2 再接続の機能情報, on page 3182](#)

## IKEv2 再接続設定の前提条件

- <BypassDownloader> 値を true に設定して、AnyConnectLocalPolicy ファイルで BypassDownloader 関数を有効にする必要があります。デバイスで SSL がサポートされていない場合、BypassDownloader 関数は動作しないため、<BypassDownloader> 値を false に設定して、この関数を無効にする必要があります。そうしないと、接続が失敗します。

## IKEv2 再接続設定の制限事項

- 事前供給キー認証方式は、インターネットキーエクスチェンジバージョン2 (IKEv2) プロファイルでは設定できません。AnyConnect 機能の AutoReconnect 機能に対する IOS IKEv2 サポートでも事前共有キー認証方式を使用するため、同じ IKEv2 プロファイル上の事前共有キーの設定によって混乱が生じる可能性があります。
- **authentication local pre-share**、**authentication remote pre-share**、**keyring**、**aaa authorization group psk**、および **aaa authorization user psk** コマンドは、IKEv2 プロファイルでは設定できません。

# 設定された IKEv2 フラグメンテーションに関する情報

## IKEv2 および Cisco AnyConnect クライアントの再接続機能

Cisco AnyConnect クライアントの自動再接続機能によって、Cisco AnyConnect VPN クライアントは一定の期間セッションを記憶し、セキュアなチャネルの確立後に接続を再開することができます。Cisco AnyConnect クライアントはインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) と共に幅広く使用されるため、IKEv2 では Cisco IOS ソフトウェアでの自動再接続機能のサポートを AnyConnect の自動再接続機能に対する IOS IKEv2 サポートにまで拡大しています。

Cisco AnyConnect クライアントでの自動再接続は、次のシナリオで発生します。

- 中間ネットワークがダウンしています。Cisco AnyConnect クライアントは、中間ネットワークがアップするとセッションを再開しようとします。
- Cisco AnyConnect クライアント デバイスは、ネットワーク間で切り替わります。これによって送信元 IP またはポートが変わり、既存のセキュリティ アソシエーション (SA) がダウンします。そのため、Cisco AnyConnect クライアントは自動再接続機能を使用して SA を再開しようとします。
- Cisco AnyConnect クライアント デバイスは、スリープまたは休止モードから復帰した後に SA を再開しようとします。

### 自動再接続機能を使用する利点

- 元のセッションで使用されるコピー属性は、認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) サーバーに問い合わせることなく再使用されます。
- Cisco IOS ゲートウェイは、クライアントに再接続するために RADIUS サーバーに接続する必要はありません。
- セッションの再開時に、認証または認可のためのユーザーインタラクションは必要ありません。
- セッションを再接続する場合、認証方式は事前共有キーです。この認証方式は、他の認証方式 (Rivest, Shamir, および Adelman (RSA) 署名認証方式、楕円曲線デジタル署名アルゴリズム (ECDSA) 署名 (ECDSA-sig) 認証方式、および Extensible Authentication Protocol (EAP) 認証方式を含む) に比べて時間がかかりません。事前共有キー認証方式では、最小限のリソースで IOS ソフトウェアでセッションを再開できます。
- これによって、未使用のセキュリティアソシエーション (SA) が削除され、暗号化リソースが解放されます。

### 自動再接続および DPD

Dead Peer Detection (DPD : デッドピア検出) は、ピアにクエリを送信することによって送信されるピアの可用性を確認するように設定されます。ピアから応答がない場合、そのピアのために作成されたセキュリティアソシエーションは削除されます。両方の設定シナリオで目的は同じため、DPD が FlexVPN サーバーで設定された場合に再接続プロファイルに DPD を設定す

る必要はありません。ただし、機能が有効な場合、DPD は IKEv2 でオンデマンド DPD としてキューイングされ、SA の削除時にプラットフォーム固有のハンドルも格納します。

## Cisco IOS ゲートウェイと Cisco AnyConnect 間のメッセージ交換

Cisco AnyConnect クライアントは、セキュリティアソシエーション (SA) を確立するために、Cisco IOS ゲートウェイに問い合わせます。認証または AUTH 交換 (IKE\_AUTH 要求の CFGMODE\_REQ ペイロード) 中、IKEv2 は、**reconnect** コマンドを使用して、AnyConnect 機能の自動再接続機能に対する IOS IKEv2 サポートが IKEv2 プロファイルで有効かどうかを確認します。また、選択された IKEv2 プロファイルの IKEv2 ポリシーを選択し、セッション ID とセッション トークン属性を、IKE\_AUTH 応答の CFGMODE\_REPLY ペイロードで Cisco AnyConnect クライアントに送信します。認証方式は、SA 用のクライアントと Cisco IOS ソフトウェア間の事前共有キーです。

IKEv2 は、Dead Peer Detection (DPD : デッドピア検出) メッセージを Cisco AnyConnect クライアントに定期的に送信して、クライアントがアクティブかどうかを確認します。Cisco AnyConnect クライアントは、Cisco IOS ゲートウェイがアクティブクライアントとして解釈し、そのクライアントとセキュリティアソシエーション (SA) を作成する、DPD メッセージに応答します。ただし、クライアントがデフォルトの再接続タイムアウト期間である 30 分以内に再接続されない場合、Cisco IOS ゲートウェイはそのクライアントが非アクティブであるとみなし、そのクライアントの SA を削除します。Cisco AnyConnect クライアントは、新しい接続を開始する必要があります。

**show crypto ikev2 stats reconnect** コマンドを使用して接続の統計情報を表示し、**clear crypto ikev2 session** コマンドを使用してクライアントとの SA を削除します。

## IKEv2 再接続の設定方法

### IKEv2 再接続の有効化

このタスクを実行して、AnyConnect 機能の AutoReconnect 機能の IOS IKEv2 サポートを有効にします。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 profile** *profile-name*
4. **reconnect** [ *timeout seconds* ]
5. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 profile <i>profile-name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ikev2 profile profile1	IKEv2 プロファイルを定義し、IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>reconnect [ <i>timeout seconds</i>]</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-profile)# reconnect timeout 900	自動再接続機能の IKEv2 サポートを有効にします。
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-ikev2-profile)# end	IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## IKEv2 再接続設定のトラブルシューティング

AnyConnect 機能設定の AutoReconnect 機能の IOS IKEv2 サポートを確認またはクリアするには、次のコマンドを使用します。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **show crypto ikev2 stats reconnect**

## 手順の詳細

## 手順

## ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

例 :

```
Device> enable
```

## ステップ2 show crypto ikev2 stats reconnect

再接続の統計情報が表示されます。

例 :

```
Device# show crypto ikev2 stats reconnect

Total incoming reconnect connection:      10
Success reconnect connection:            10
Failed reconnect connection:              0
Reconnect capable active session count:   4
Reconnect capable inactive session count: 6
```

# IKEv2 再接続の設定例

## 例 : IKEv2 再接続の有効化

次の例は、AnyConnect 機能の AutoReconnect 機能の IOS IKEv2 サポートを有効にする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ikev2 profile profile1
Device(config-ikev2-profile)# reconnect timeout 600
Device(config-ikev2-profile)# end
```

## IKEv2 再接続の設定に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
Cisco AnyConnect VPN クライアントに関する情報	『Cisco AnyConnect VPN Client Administrator Guide, Release 2.4』

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IKEv2 再接続の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 281: IKEv2 再接続の機能情報

機能名	リリース	機能情報
AnyConnect の AutoReconnect 機能の IOS IKEv2 サポート		AnyConnect 機能の AutoReconnect 機能の IOS IKEv2 サポートは、Cisco AnyConnect でユーザーが操作しない、IKEv2 ネゴシエーションの再確立に役立ちます。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>clear crypto ikev2 stats, reconnect, show crypto ikev2 stats.</b>







## 第 213 章

# MPLS over FlexVPN の設定

最新版発行日：2014年3月28日

MPLS over FlexVPN 機能では、マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) を動的に確立された IPSec トンネルの上に実装し、それによって重複したアドレススペースをサポートします。

- [MPLS over FlexVPN の前提条件 \(3185 ページ\)](#)
- [MPLS over FlexVPN の設定に関する情報 \(3185 ページ\)](#)
- [MPLS over FlexVPN の設定方法 \(3189 ページ\)](#)
- [MPLS over FlexVPN の設定例 \(3190 ページ\)](#)
- [MPLS over FlexVPN の設定に関する追加情報, on page 3198](#)
- [MPLS over FlexVPN の設定の機能情報, on page 3199](#)

## MPLS over FlexVPN の前提条件

- インターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) および IPSec が設定されていること。
- MPLS が設定されていること。
- NHRP リダイレクトが設定されていること。

## MPLS over FlexVPN の設定に関する情報

### MPLS と FlexVPN

重複するアドレッシングスペースを持つネットワークドメインが、VPN ルーティングおよび転送 (VRF) を使用してトラフィックを分離するため、あるドメイン用のデータは別のドメインに入力されなくなります。プロバイダーエッジ (PE) デバイス間のデータセキュリティは、すべての VRF に IPSec 保護を使用するトンネルインターフェイスを定義することで実現されます。これによって、あらゆるドメインからのトラフィックが、対応する IPSec トンネルを通過するようになります。ただし、ドメインおよびノードのメンバーがネットワーク内で成長す

ると、すべての保護ドメインに個別の IPSec トンネルとインターフェイスが必要になるため、これではスケーラブルではなくなる可能性があります。

マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) が提供する機能は、VRF あたりまたはプレフィックスあたりでラベルを割り当て、データがルーティングする必要がある正確な VRF を特定します。これは、IPSec 保護と PE 間の単一の IPSec トンネルを持つ、単一の MPLS 認識型インターフェイスのみで実現できます。

MPLS over FlexVPN 機能が提供するソリューションは、Next Hop Resolution Protocol (NHRP) を使用してリモートのカスタマー ネットワークを動的に検出し、同時に IPSec を使用して PE デバイス間のデータ トラフィックを確保する必要がある場合、カスタマー ネットワーク内で重複するアドレス間の通信を実現します。お客様が MPLS ネットワークを導入し、その MPLS ネットワークを、セキュアな方法でインターネットを介して異なるリージョンに新しく設定したネットワーク (動的に判断される) に拡張する場合は、このソリューションを使用できます。

MPLS over FlexVPN ソリューションのコンポーネントは次のとおりです。

- IPSec : リモート スポークが動的に検出された後、スポークとハブの間、およびスポーク間のデータ トラフィックを確保します。
- インターネットキーエクスチェンジバージョン2 (IKEv2) : 静的ルートを、直接接続されたルートとして、ピアのトンネルオーバーレイアドレスに追加します。このルートは、ピアのトンネルオーバーレイアドレスのラベル情報ベース (LIB) に暗黙的な null ラベルを追加する結果になります。



(注) あらゆる LDP NAVER との TCP トンネルの確立に LDP が関係するため、IKEv2 は LDP の代わりに使用されます。LDP を有効化することで、LDP HELLO トラフィックによりスポーク間チャンネルをアクティブにし続け、スポーク間チャンネルが停止しないようにします。したがって、MPLS over FlexVPN 機能の設定時は、**mpls ip** コマンドをトンネルインターフェイスまたは仮想テンプレートで実行する必要があります。

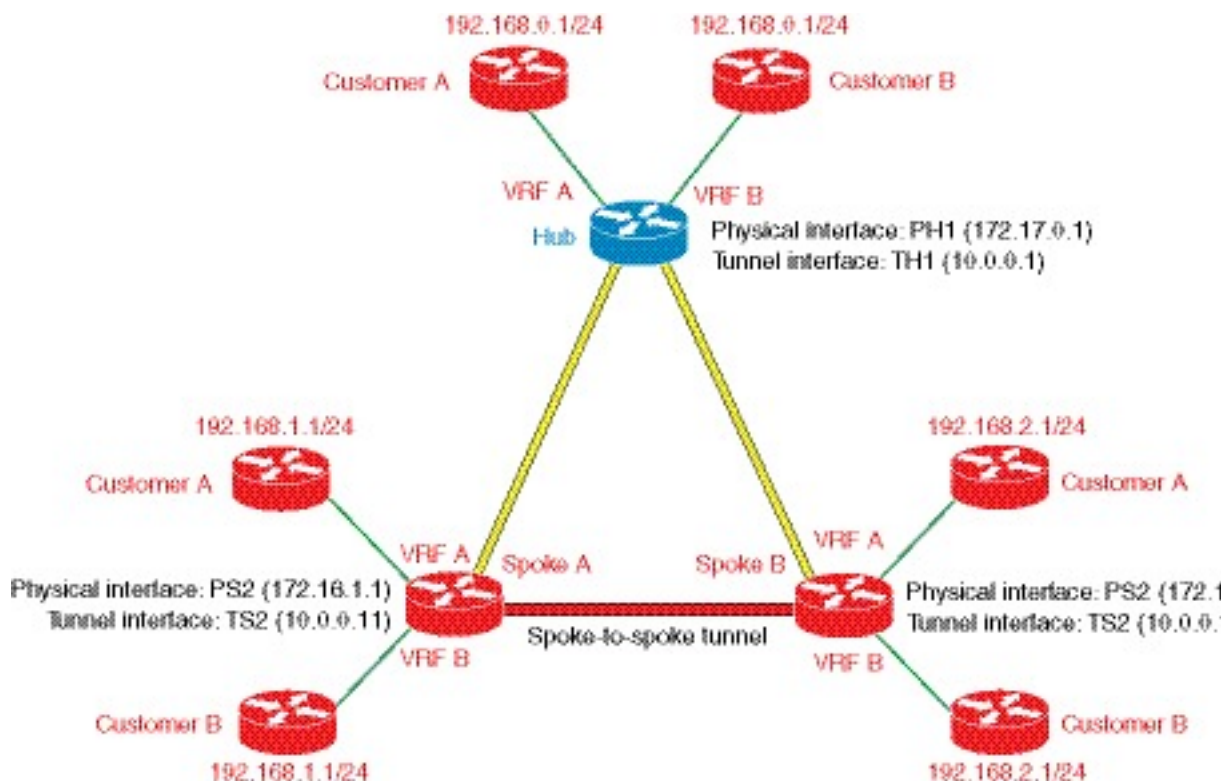
- NHRP : リモート オーバーレイ アドレスを解決し、セキュア トンネルの確立に必要なトランスポート エンドポイントを動的に検出するために使用されます。multipoint Generic Routing Encapsulation (GRE) インターフェイスを使用する場合、トンネルエンドポイント データベースに、オーバーレイと対応するノンブロードキャスト マルチアクセス (NBMA) アドレス間のマッピングを保存します。
- MPLS : データ パケットの MPLS タグ スイッチングを有効化します。LDP キープアライブはスポーク間のトンネルを維持し続けようとし、データ トラフィックが欠けた状態では望まれないため、デフォルトでは、Label Distribution Protocol (LDP : ラベル配布プロトコル) は有効ではなく、スポーク間でも有効ではありません。
- MPLS 転送インフラストラクチャ (MFI) : アプリケーションによってラベルを割り当て、リリースします。NHRP は MFI と呼ばれるラベル管理用のアプリケーションです。

- Multiprotocol BGP (MP-BGP) : オーバーレイ ラベルを異なる VRF のネットワークに分散します。

## MPLS over FlexVPN の作業

次の図と記述は、MPLS over FlexVPN ソリューションの作業を説明します。

図 112: スポーク~ハブ~スポークのトポロジ



MPLS over FlexVPN ソリューションには、次の前提条件があります。

- Multiprotocol BGP (MP-BGP) では、VPN ルーティングおよび転送 (VRF) あたりまたはプレフィックスあたりでラベルを配布できます。
  - ラベル 10 は、Hub から Spoke A に着信するパケット用 VRF A に割り当てられます。
  - ラベル 20 は、Hub から Spoke B に着信するパケット用 VRF A に割り当てられます。
  - ラベル 30 は、Spoke A から Hub に着信するパケット用 Hub の VRF A に割り当てられます。
  - ラベル 40 は、Spoke B から Hub に着信するパケット用 Hub の VRF B に割り当てられます。
1. IKEv2 と IPSec のセキュリティ アソシエーションは、各スポークからハブに確立されます。IKEv2 は、モード構成応答とモード構成セットで受信される、スポークのオーバーレイ アドレスに対して暗黙的 NULL ラベル値をインストールします。



(注) スポークとハブは、いつでもオーバーレイスペースで相互にネクストホップになるため、暗黙的の NULL ラベルがインストールされます。

2. MP-BGP は、VRF あたりのラベルまたはプレフィックスあたりのラベルを、すべての VRF と交換します。
3. ラベルとルートが交換された後は、データの転送が開始されます。192.168.2.1 宛ての最初のデータ パケットは、VRF A の Spoke A に到着すると、ハブに転送されます。パケットは Generic Routing Encapsulation (GRE) を使用してラベル カプセル化されますが、含まれるのはオーバーレイ ラベルのみであり、暗号化されます。
4. データ パケットは、物理 (仮想アクセス) インターフェイス (172.17.0.1) またはトンネル インターフェイス (10.0.0.1) のハブに到着すると、複合化されます。オーバーレイ ラベルがハブ内で検索され、パケットは GRE を使用してカプセル化され、暗号化されて Spoke B に送信されます。
5. NHRP リダイレクト パケットはハブから Spoke A に送信されます。ラベル 30 はデータ パケットが到着する VRF を示すように、VRF 情報は NHRP に伝達されます。
6. NHRP はリダイレクト パケットを処理し、NHRP 解決要求をトリガーします。NHRP マッピング エントリが作成され、VRF A が解決される必要があるプレフィックスに関連付けられます。
7. 解決要求はハブに送信されます。そこではオーバーレイ ラベルが検索され、解決要求は適切な宛先、この場合は Spoke B に送信されます。
8. NHRP 解決要求は Spoke B に到達し、Spoke B の仮想アクセス インターフェイスまたはマルチポイント GRE (mGRE) インターフェイスを作成します。
9. IKEv2 と IPSec のセッションは、Spoke B から Spoke A に開始され、Spoke A の仮想アクセス インターフェイスまたは mGRE インターフェイスが作成されます。NHRP では、新しく作成された仮想アクセス インターフェイスを経由する Spoke A トンネルの IP アドレスへのルートが追加されます。
10. Spoke B からの NHRP 解決応答には、スポーク間トンネル経由でデータを送信するために Spoke A が使用できるラベル値が含まれます。このため、NHRP は、MPLS 転送インスタンス (MFI) からラベルを割り当て、このラベル情報をスポーク間トンネルに使用する Spoke A に送信します。



(注) MFI はラベルを追跡します。ラベルがすでに割り当て済みで、特定の VRF の MP-BGP に指定されている場合、このラベルは NHRP に返されます。MFI はこの特定のラベルを使用してアプリケーションの数を追跡し、すべてのアプリケーションにラベルがリリースされている場合のみ、このラベルをプールに戻します。

11. また、NHRP 解決応答には、Spoke B の仮想アクセス インターフェイスまたは mGRE インターフェイスの IP アドレス用の暗黙的 NULL ラベルが含まれます。この例では、応答は「192.168.2.0/24, label 40, 10.0.0.12, 172.16.2.1, [implicit-NUL]」になります。

12. NHRP 解決応答は、Spoke A の仮想アクセス インターフェイスまたは mGRE インターフェイスで受信されます。応答パケット内の NHRP 要求 ID は、Spoke A によって最初に送信された要求の要求 ID と照合され、要求が送信される VRF が取得されます。NHRP キャッシュで NHRP エントリが検索され、このエントリは「Complete」と呼ばれます。NHRP は、ラベル情報がある VRF ルーティング テーブルにルートを挿入します。
13. Spoke A と Spoke B の間にルートとラベルが設定されます。データはここでラベルカプセル化され、スポーク間で動的に確立された Spoke A と Spoke B の間のトンネルを経由して暗号化されます。

## FlexVPN の IVRF サポート

FlexVPN の VPN ルーティングおよび転送 (IVRF) サポートでは、トンネルインターフェイスの IVRF 設定で、次の NHRP ルーティング操作を実行する機能が提供されます。

- ルート ルックアップの実行後に、NHRP 解決要求を送信する。
- ハブの NHRP 解決要求を転送する。
- ショートカット トンネルの作成時に、IVRF での H ルートまたはネクストホップ上書き (NHO) を作成する。
- ショートカット トンネルの削除時に、IVRF から H ルートまたは NHO を削除する。

## MPLS over FlexVPN の設定方法

### MPLS over FlexVPN の設定

このタスクを実行して、MPLS over FlexVPN を設定します。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface tunnel *number***
4. **mpls nhrp**
5. **end**
6. **show mpls forwarding-table**

#### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 :	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface tunnel number</b> 例： Device(config)# interface tunnel 1	FlexVPN クライアント インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>mpls nhrp</b> 例： Device(config-if)# mpls nhrp	Label Distribution Protocol (LDP: ラベル配布プロトコル) は有効にせず、MPLS タグ スイッチングを有効にします。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>show mpls forwarding-table</b> 例： Device# show mpls forwarding-table	マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) のラベル転送情報ベース (LFIB) に関する情報が表示されます。

## MPLS over FlexVPN の設定例

### 例：MPLS over FlexVPN の設定

次の例は、MPLS 機能を利用して FlexVPN で複数のカスタマー VRF を転送する方法を示します。次は、spoke 1 の設定です。

```
hostname R3-Spoke1
boot-start-marker
boot-end-marker
!
!
vrf definition cust1
 rd 1:1
  route-target export 1:1
  route-target import 1:1
!
 address-family ipv4
  exit-address-family
!
vrf definition cust2
 rd 2:2
  route-target export 2:2
  route-target import 2:2
!
```

```
address-family ipv4
exit-address-family
!
clock timezone CET 1 0
!
no ip domain lookup
ip domain name cisco.com
ip cef
no ipv6 cef
mpls ldp loop-detection
!
crypto pki trustpoint CA
enrollment url http://172.16.1.1:80
password
fingerprint E0AFEF7F08070BAB33C8297C97E6457
subject-name cn=R3-spoke.cisco.com,OU=FLEX,O=Cisco
revocation-check crl none
!
crypto pki certificate map mymap 10
subject-name co ou = flex
!
crypto pki certificate chain CA
certificate 03
certificate ca 01
crypto ikev2 authorization policy default
route set interface
!
crypto ikev2 profile default
match certificate mymap
identity local fqdn R3-Spoke.cisco.com
authentication local rsa-sig
authentication remote rsa-sig
pki trustpoint CA
dpd 60 2 on-demand
aaa authorization group cert list default default
!
!
!
!
crypto ipsec profile default
set ikev2-profile default
!
!
!
!
!
interface Tunnel0
ip address negotiated
mpls bgp forwarding
tunnel source Ethernet0/0
tunnel destination 172.16.0.1
tunnel protection ipsec profile default
!
interface Ethernet0/0
description WAN
ip address 172.16.1.103 255.255.255.0
!
interface Ethernet0/1
description LAN
no ip address
no ip unreachable
!
interface Ethernet0/1.10
```

```

encapsulation dot1Q 10
vrf forwarding cust1
ip address 192.168.113.1 255.255.255.0
!
interface Ethernet0/1.20
encapsulation dot1Q 20
vrf forwarding cust2
ip address 192.168.123.1 255.255.255.0
!
router bgp 100
  bgp log-neighbor-changes
  neighbor 10.0.0.1 remote-as 10
  neighbor 10.0.0.1 ebgp-multihop 255
  neighbor 10.0.0.1 update-source Tunnel0
  !
  address-family ipv4
    neighbor 10.0.0.1 activate
  exit-address-family
  !
  address-family vpnv4
    neighbor 10.0.0.1 activate
    neighbor 10.0.0.1 send-community both
  exit-address-family
  !
  address-family ipv4 vrf cust1
    redistribute connected
  exit-address-family
  !
  address-family ipv4 vrf cust2
    redistribute connected
  exit-address-family
  !
ip route 10.0.0.1 255.255.255.255 Tunnel0 name workaround
ip route 172.16.0.1 255.255.255.255 172.16.1.1 name FlexHUB

```

次は、spoke 2 の設定です。

```

hostname R4-Spoke
!
vrf definition cust1
  rd 1:1
  route-target export 1:1
  route-target import 1:1
  !
  address-family ipv4
  exit-address-family
!
vrf definition cust2
  rd 2:2
  route-target export 2:2
  route-target import 2:2
  !
  address-family ipv4
  exit-address-family
!
clock timezone CET 1 0
!
no ip domain lookup
ip domain name cisco.com
ip cef
no ipv6 cef
!
crypto pki token default removal timeout 0
!
crypto pki trustpoint CA

```



```
enrollment url http://172.16.1.1:80
password
fingerprint E0AFEF7F08070BAB33C8297C97E6457
subject-name cn=R4-Spoke.cisco.com,OU=Flex,O=Cisco
revocation-check crl none
!
crypto pki certificate map mymap 10
subject-name co ou = flex
!
crypto pki certificate chain CA
certificate 04
certificate ca 01
!
crypto ikev2 authorization policy default
route set interface
!
crypto ikev2 profile default
match certificate mymap
identity local fqdn R4.cisco.com
authentication local rsa-sig
authentication remote rsa-sig
pki trustpoint CA
dpd 60 2 on-demand
aaa authorization group cert list default default
virtual-template 1
!
crypto ipsec profile default
set ikev2-profile default
!
interface Loopback100
vrf forwarding cust1
ip address 192.168.114.1 255.255.255.0
!
interface Loopback101
vrf forwarding cust2
ip address 192.168.124.1 255.255.255.0
!
interface Tunnel0
ip address negotiated
mpls bgp forwarding
tunnel source Ethernet0/0
tunnel destination 172.16.0.1
tunnel protection ipsec profile default
!
interface Ethernet0/0
description WAN
ip address 172.16.1.104 255.255.255.0
!
interface Ethernet0/1
description LAN
ip address 192.168.104.1 255.255.255.0
!
router bgp 100
bgp log-neighbor-changes
neighbor 10.0.0.1 remote-as 10
neighbor 10.0.0.1 ebgp-multihop 255
neighbor 10.0.0.1 update-source Tunnel0
!
address-family ipv4
neighbor 10.0.0.1 activate
exit-address-family
!
address-family vpnv4
neighbor 10.0.0.1 activate
```

```

    neighbor 10.0.0.1 send-community both
  exit-address-family
  !
  address-family ipv4 vrf cust1
    redistribute connected
  exit-address-family
  !
  address-family ipv4 vrf cust2
    redistribute connected
  exit-address-family
  !
ip route 10.0.0.1 255.255.255.255 Tunnel0
ip route 172.16.0.1 255.255.255.255 172.16.1.1 name FlexHUB

```

次は、ハブの設定です。

```

hostname R1-HUB
aaa new-model
!
!
aaa authorization network default local
!
!
clock timezone CET 1 0
!
ip vrf cust1
  rd 1:1
  route-target export 1:1
  route-target import 1:1
!
ip vrf cust2
  rd 2:2
  route-target export 2:2
  route-target import 2:2
!
no ip domain lookup
ip domain name cisco.com
ip cef
no ipv6 cef
!
multilink bundle-name authenticated
mpls ldp loop-detection
!
crypto pki trustpoint CA
  enrollment url http://172.16.0.2:80
  password
  fingerprint E0AFEF7F08070BAB33C8297C97E6457
  subject-name CN=R1-HUB.cisco.com,OU=FLEX,OU=VPN,O=Cisco Systems,C=US,L=Linux
  revocation-check crl none
  rsa-keypair R1-HUB.cisco.com 2048
  auto-enroll 95
!
!
crypto pki certificate chain CA
  certificate 02
  certificate ca 01
!
redundancy
!
!
!
crypto ikev2 authorization policy default
  pool mypool
  banner ^C Welcome ^C
  def-domain cisco.com

```

```
!  
!  
!  
!  
crypto ikev2 profile default  
  match identity remote fqdn domain cisco.com  
  identity local dn  
  authentication local rsa-sig  
  authentication remote rsa-sig  
  pki trustpoint CA  
  dpd 60 2 on-demand  
  aaa authorization group cert list default default  
  virtual-template 1  
!  
  
crypto ipsec profile default  
  set ikev2-profile default  
!  
!  
!  
!  
!  
interface Loopback0  
  description VT source interface  
  ip address 10.0.0.1 255.255.255.255  
!  
interface Ethernet0/0  
  description WAN  
  ip address 172.16.0.1 255.255.255.252  
!  
interface Ethernet0/1  
  description LAN  
  ip address 192.168.100.1 255.255.255.0  
!  
interface Ethernet0/2  
  ip vrf forwarding cust1  
  ip address 192.168.110.1 255.255.255.0  
!  
interface Ethernet0/3  
  ip vrf forwarding cust2  
  ip address 192.168.111.1 255.255.255.0  
!  
interface Virtual-Template1 type tunnel  
  ip unnumbered Loopback0  
  ip nhrp network-id 1  
  ip nhrp redirect  
  mpls bgp forwarding  
  tunnel protection ipsec profile default  
!  
router bgp 10  
  bgp log-neighbor-changes  
  bgp listen range 0.0.0.0/0 peer-group mpls  
  bgp listen limit 5000  
  neighbor mpls peer-group  
  neighbor mpls remote-as 100  
  neighbor mpls transport connection-mode passive  
  neighbor mpls update-source Loopback0  
  !  
  address-family ipv4  
    redistribute static route-map global  
    neighbor mpls activate  
    neighbor mpls next-hop-self  
  exit-address-family
```

```

!
address-family vpnv4
  neighbor mpls activate
  neighbor mpls send-community both
exit-address-family
!
address-family ipv4 vrf cust1
  redistribute connected
  redistribute static route-map cust1
  default-information originate
exit-address-family
!
address-family ipv4 vrf cust2
  redistribute connected
  redistribute static route-map cust2
  default-information originate
exit-address-family
!
ip local pool mypool 10.1.1.1 10.1.1.254
ip forward-protocol nd
!
!
no ip http server
no ip http secure-server
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 172.16.0.2 name route_to_internet
ip route vrf cust1 0.0.0.0 0.0.0.0 Null0 tag 666 name default_originate
ip route vrf cust2 0.0.0.0 0.0.0.0 Null0 tag 667 name default_originate
!
route-map cust1 permit 10
  match tag 666
!
route-map cust2 permit 10
  match tag 667

```

次は、スプークからのサンプル出力です。

```

Device# show ip cef vrf cust1 192.168.110.1

192.168.110.0/24, epoch 0, flags rib defined all labels, RIB[B], refcount 5,
per-destination sharing
  sources: RIB
  feature space:
    IPRM: 0x00018000
    LFD: 192.168.110.0/24 0 local labels
        contains path extension list
  ifnums: (none)
  path EF36CA28, path list EF36DEB4, share 1/1, type recursive, for IPv4, flags
must-be-labelled
    MPLS short path extensions: MOI flags = 0x0 label 19
    recursive via 10.0.0.1[IPv4:Default] label 19, fib F0C5926C, 1 terminal fib,
v4:Default:10.0.0.1/32
    path EF36CBE8, path list EF36DFF4, share 1/1, type attached host, for IPv4
    MPLS short path extensions: MOI flags = 0x1 label implicit-null
    attached to Tunnel0, adjacency IP midchain out of Tunnel0 F0481718
    output chain: label 19 label implicit-null TAG midchain out of Tunnel0 F1D97A90 IP adj
out of Ethernet0/0, addr 172.16.1.1 F0481848
R4-Spoke#sh ip bgp vpnv4 all label
  Network      Next Hop      In label/Out label
Route Distinguisher: 1:1 (cust1)
  0.0.0.0      10.0.0.1      nolabel/18
  192.168.110.0 10.0.0.1      nolabel/19
  192.168.114.0 0.0.0.0      16/nolabel(cust1)
Route Distinguisher: 2:2 (cust2)
  0.0.0.0      10.0.0.1      nolabel/20

```

```

192.168.111.0    10.0.0.1    nolabel/21
192.168.124.0    0.0.0.0    17/nolabel(cust2)

```

次は、ハブからのサンプル出力です。

```

Device# show ip cef vrf cust1 192.168.113.1

192.168.113.0/24, epoch 0, flags rib defined all labels, RIB[B], refcount 5,
per-destination sharing
  sources: RIB, LTE
  feature space:
    IPRM: 0x00018000
    LFD: 192.168.113.0/24 1 local label
    local label info: other/25
      contains path extension list
      disposition chain 0xF1E1D9B0
      label switch chain 0xF1E1D9B0
    ifnums: (none)
    path F16ECA10, path list F16EDFBC, share 1/1, type recursive, for IPv4, flags
must-be-labelled
      MPLS short path extensions: MOI flags = 0x0 label 16
      recursive via 10.1.1.3[IPv4:Default] label 16, fib FOCCD6E8, 1 terminal fib,
v4:Default:10.1.1.3/32
        path F16ECE00, path list F16EE28C, share 1/1, type attached host, for IPv4
          MPLS short path extensions: MOI flags = 0x1 label implicit-null
          attached to Virtual-Access1, adjacency IP midchain out of Virtual-Access1 F04F35D8
          output chain: label 16 label implicit-null TAG midchain out of Virtual-Access1 F1E1DF60
          IP adj out of Ethernet0/0, addr 172.16.0.2 F04F3708
R1-HUB#sh ip bgp vpv4 all
BGP table version is 49, local router ID is 10.0.0.1
Status codes: s suppressed, d damped, h history, * valid, > best, i - internal,
               r RIB-failure, S Stale, m multipath, b backup-path, x best-external, f
RT-Filter, a additional-path
Origin codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete

      Network          Next Hop          Metric LocPrf Weight Path
Route Distinguisher: 1:1 (default for vrf cust1)
*> 0.0.0.0             0.0.0.0           0                32768 ?
*> 192.168.110.0       0.0.0.0           0                32768 ?
*> 192.168.113.0       10.1.1.3          0                 0 100 ?
*> 192.168.114.0       10.1.1.4          0                 0 100 ?
Route Distinguisher: 2:2 (default for vrf cust2)
*> 0.0.0.0             0.0.0.0           0                32768 ?
*> 192.168.111.0       0.0.0.0           0                32768 ?
*> 192.168.123.0       10.1.1.3          0                 0 100 ?
*> 192.168.124.0       10.1.1.4          0                 0 100 ?
Device# show ip bgp vpv4 all 192.168.113.1

BGP routing table entry for 1:1:192.168.113.0/24, version 48
Paths: (1 available, best #1, table cust1)
  Advertised to update-groups:
    3
  Refresh Epoch 1
  100
    10.1.1.3 from *10.1.1.3 (172.16.1.103)
      Origin incomplete, metric 0, localpref 100, valid, external, best
      Extended Community: RT:1:1
      mpls labels in/out 25/16
BGP routing table entry for 2:2:0.0.0.0/0, version 8
Paths: (1 available, best #1, table cust2)
  Advertised to update-groups:
    3
  Refresh Epoch 1
  Local

```

```
0.0.0.0 from 0.0.0.0 (10.0.0.1)
  Origin incomplete, metric 0, localpref 100, weight 32768, valid, sourced, best
  Extended Community: RT:2:2
  mpls labels in/out 20/aggregate(cust2)
```

## MPLS over FlexVPN の設定に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
推奨される暗号化アルゴリズム	『Next Generation Encryption』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 5586	<i>MPLS Generic Associated Channel</i>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## MPLS over FlexVPN の設定の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 282: MPLS over FlexVPN の設定の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
MPLS over FlexVPN		次のコマンドが導入または変更されました。 <b>clear ip nhrp, clear ipv6 nhrp, mpls nhrp, show dmvpn, show ip nhrp, show ipv6 nhrp.</b>







## 第 214 章

# IKEv2 パケット オブ ディスコネクト の設定

IKEv2 リモート アクセス認可変更 (CoA) のパケット オブ ディスコネクト機能は、シスコがサポートするデバイスのアクティブな暗号 IKEv2 セッションを停止します。

- [IKEv2 パケット オブ ディスコネクトに関する情報 \(3201 ページ\)](#)
- [IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定方法 \(3202 ページ\)](#)
- [IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定例 \(3204 ページ\)](#)
- [IKEv2 パケット オブ ディスコネクトに関する追加情報 \(3208 ページ\)](#)
- [IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの機能情報 \(3209 ページ\)](#)

## IKEv2 パケット オブ ディスコネクトに関する情報

### 切断要求

パケット オブ ディスコネクト (POD) は、RADIUS disconnect\_request パケットで、認証エージェントサーバーで暗号化セッションを切断する必要がある場合に使用することを目的としています。

#### POD が必要な場合

パケット オブ ディスコネクトは、次の状況で必要になります。

- 再認証の実行：セッションが非常に長い期間接続されている場合、ネットワーク管理者として、FlexVPN サーバー上のユーザーを解除して強制的に再認証する必要がある場合があります。
- 新しいポリシーの適用：クライアントが再接続する場合、ネットワーク管理者として、アクティブな暗号化セッションを終了して新しいポリシーをセッションに適用する必要がある場合があります。
- リソースの解放：セッションを終了して、リソースを解放し、キー再生成を終了する必要がある場合があります。

## IKEv2 パケット オブ ディスコネクト

IKEv2 リモート アクセスの認可変更 (CoA) : パケット オブ ディスコネクト機能は、RADIUS パケット オブ ディスコネクト (POD) 機能を使用して暗号化セッションを削除します。暗号化セッションは、VPN ユーザーを AAA サーバーの新しいユーザー ポリシーまたはグループ ポリシーに更新するために削除されます。

1. AAA は、RADIUS サーバーから提供される属性キー/値ペアのリストを IKEv2 に渡します。
2. IKEv2 はリストを解析して、キーとして監査セッション ID、Cisco AV ペアを検索し、ペア値を確認します。
3. IKEv2 はセッションを検索し、特定のセッションを削除します。
4. IKEv2 は AAA に通知し、AAA は RADIUS サーバーに通知します。
5. 監査セッション ID に関するセッションは削除されます。

### IKEv2 パケット オブ ディスコネクトのパラメータ

RFC 3576 は、IKEv2 パケット オブ ディスコネクトをサポートする次の POD コードを指定します。

- 40 : 切断要求
- 41 : 切断 ACK
- 42 : 切断 NAK

切断 ACK コードは、監査セッション ID 用にセッションが存在し、監査セッション ID に関するセッションが正常に終了されたことを示します。切断 NACK コードは、監査セッション ID に対応するセッションがないことを示します。ゲートウェイに応答メッセージは送信されません。

## IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの設定方法

### FlexVPN サーバーでの AAA の設定

IKEv2 リモート アクセス認可変更 (CoA) のパケット オブ ディスコネクト機能に対して、FlexVPN サーバーに必要な IKEv2 独自の設定はありません。FlexVPN サーバーでは、認可、およびアカウントिंग (AAA) のみを設定する必要があります。AAA の設定の詳細については、『』を参照してください。

#### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`

3. **aaa new-model**
4. **aaa server radius dynamic-author**
5. **client** {hostname | ip-address} [server-key string | vrf vrf-id]
6. **port number**
7. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> 例： Device(config)# aaa new-model	AAA をグローバルに有効にします。
ステップ 4	<b>aaa server radius dynamic-author</b> 例：	ローカル AAA サーバーでダイナミック認証サービスを設定し、ダイナミック認証ローカル サーバー コンフィギュレーション モードを開始します。  • このモードでは、RADIUS アプリケーション コマンドが設定されます。
ステップ 5	<b>client</b> {hostname   ip-address} [server-key string   vrf vrf-id] 例： Device(config-locsvr-da-radius)# client 192.168.0.5 server-key cisco	AAA サーバー クライアントの IP アドレスまたはホスト名を設定します。  • <b>server-key</b> キーワードと <i>string</i> 引数を使用して、クライアント レベルのサーバー キーを設定します。  (注) クライアント レベルでサーバー キーを設定すると、グローバル レベルで設定されたサーバー キーが上書きされます。
ステップ 6	<b>port number</b> 例： Device(config-locsvr-da-radius)# port 1812	UDP ポートを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<b>end</b> 例 : Device(config-locsvr-da-radius)# end	ダイナミック認証ローカル サーバー コンフィギュレーションモードを終了し、特権EXECモードに戻ります。

## IKEv2 パケット オブ ディスコネクト の 設定 例

### 例 : IKEv2 セッションの終了

次に、**show aaa sessions** コマンドの出力例を示します。終了する IKEv2 セッションを特定するには、このコマンドを実行する必要があります。

```
Device# show aaa sessions

Total sessions since last reload: 32
Session Id: 3
  Unique Id: 14
  User Name: *not available*
  IP Address: 0.0.0.0
  Idle Time: 0
  CT Call Handle: 0
Session Id: 30
  Unique Id: 41
  User Name: pskuser2.g1.engdt.com
  IP Address: 0.0.0.0
  Idle Time: 0
  CT Call Handle: 0
Session Id: 32
  Unique Id: 43
  User Name: pskuser4.g2.engdt.com
  IP Address: 0.0.0.0
  Idle Time: 0
  CT Call Handle: 0
```

上記の出力では、ID 41 および 43 が IKEv2 セッションに関するものです。必要に応じて、**show aaa user** コマンドを実行して、セッションの詳細な情報を表示することができます。

```
Device# show aaa user 41

Unique id 41 is currently in use.
No data for type 0
No data for type EXEC
No data for type CONN
NET: Username=(n/a)
  Session Id=0000001E Unique Id=00000029
  Start Sent=0 Stop Only=N
  stop_has_been_sent=N
  Method List=0
  Attribute list:
    7FBD9783CCF0 0 00000001 session-id(408) 4 30(1E)
    7FBD9783CD30 0 00000001 start_time(418) 4 Nov 04 2014 00:20:23
-----
```

```
No data for type CMD
No data for type SYSTEM
No data for type VRRS
No data for type RM CALL
No data for type RM VPDN
No data for type AUTH PROXY
No data for type DOT1X
No data for type CALL
No data for type VPDN-TUNNEL
No data for type VPDN-TUNNEL-LINK
IPSEC-TUNNEL: Username=pskuser2.g1.engdt.com
  Session Id=0000001E Unique Id=00000029
  Start Sent=1 Stop Only=N
  stop_has_been_sent=N
  Method List=7FBDA6E05A68 : Name = acctnt_prof
  Attribute list:
    7FBD9783CCF0 0 00000001 session-id(408) 4 30(1E)
    7FBD9783CD30 0 00000001 start_time(418) 4 Nov 04 2014 00:20:23
    7FBD9783CD70 0 00000082 formatted-clid(37) 13 192.168.202.2
    7FBD9783CDB0 0 0000008A audit-session-id(819) 37
L2L433010101ZO2L4COA8CA02ZH119404ZP37
    7FBD9783CDF0 0 00000081 isakmp-phase1-id(737) 21 pskuser2.g1.engdt.com
    7FBD9783BF80 0 00000002 isakmp-initiator-ip(738) 4 192.168.202.2
-----
  No data for type MCAST
  No data for type RESOURCE
  No data for type SSG
  No data for type IDENTITY
  No data for type ConnectedApps
Accounting:
  log=0x400018041
  Events recorded :
    CALL START
    ATTR REPLACE
    INTERIM START
    INTERIM STOP
    IPSEC TNL UP
  update method(s) :
    NONE
  update interval = 0
  Outstanding Stop Records : 0
  Dynamic attribute list:
    7FBD9783BF80 0 00000001 connect-progress(75) 4 No Progress
    7FBD9783BFC0 0 00000001 pre-session-time(334) 4 0(0)
    7FBD9783C000 0 00000001 elapsed_time(414) 4 341(155)
    7FBD9783C040 0 00000001 bytes_in(146) 4 0(0)
    7FBD9783C080 0 00000001 bytes_out(311) 4 0(0)
    7FBD9783CCF0 0 00000001 pre-bytes-in(330) 4 0(0)
    7FBD9783CD30 0 00000001 pre-bytes-out(331) 4 0(0)
    7FBD9783CD70 0 00000001 paks_in(147) 4 0(0)
    7FBD9783CDB0 0 00000001 paks_out(312) 4 0(0)
    7FBD9783CDF0 0 00000001 pre-paks-in(332) 4 0(0)
    7FBD9783BA20 0 00000001 pre-paks-out(333) 4 0(0)
Debug: No data available
Radi: No data available
Interface:
  TTY Num = -1
  Stop Received = 0
  Byte/Packet Counts till Call Start:
    Start Bytes In = 0           Start Bytes Out = 0
    Start Paks In = 0           Start Paks Out = 0
  Byte/Packet Counts till Service Up:
    Pre Bytes In = 0           Pre Bytes Out = 0
    Pre Paks In = 0           Pre Paks Out = 0
```

## 例: IKEv2 セッションの終了

```

Cumulative Byte/Packet Counts :
  Bytes In = 0           Bytes Out = 0
  Paks  In = 0           Paks   Out = 0
  StartTime = 00:20:23 IST Nov 4 2014
  AuthenTime = 00:20:23 IST Nov 4 2014
  Component = VPN IPSEC
Authen: service=NONE type=NONE method=NONE
Kerb: No data available
Meth: No data available
Preauth: No Preauth data.
General:
  Unique Id = 00000029
  Session Id = 0000001E
  Session Server Key = 1771D693
  Attribute List:
PerU: No data available
Service Profile: No Service Profile data.
Unkn: No data available
Unkn: No data available

```

上記の出力では、audit-session-id、L2L433010101ZO2L4C0A8CA02ZH119404ZP37 に注意してください。次の出力例は、RADIUS サーバーで開始されるアカウントリングセッションの開始時に、FlexVPN サーバーに表示されます。

```

Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 192.168.202.1 for
Radius-Server 9.45.15.144
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS(0000002C): Send Accounting-Request to 9.45.15.144:1813
id 1646/231, len 288
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  authenticator 29 63 0C 79 C1 5E F2 0E - F3 CA 36 DD
A3 55 C1 DE
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Acct-Session-Id      [44] 10 "00000021"
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Calling-Station-Id   [31] 15 "192.168.202.2"
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Vendor, Cisco       [26] 64
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Cisco AVpair        [1]  58
"audit-session-id=L2L433010101ZO2L4C0A8CA02ZH11941194Z3A"
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Vendor, Cisco       [26] 46
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Cisco AVpair        [1]  40
"isakmp-phase1-id=pskuser1.g1.engdt.com"
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Vendor, Cisco       [26] 40
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Cisco AVpair        [1]  34
"isakmp-initiator-ip=192.168.202.2"
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  User-Name           [1]  23 "pskuser1.g1.engdt.com"
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Vendor, Cisco       [26] 36
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Cisco AVpair        [1]  30 "connect-progress=No
Progress"
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Acct-Authentic      [45]  6 Local
[2]
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Acct-Status-Type    [40]  6 Start
[1]
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  NAS-IP-Address     [4]  6 192.168.202.1
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  home-hl-prefix     [151] 10 "D33648D8"
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS:  Acct-Delay-Time    [41]  6 0
Nov  4 00:26:49.908 IST: RADIUS(0000002C): Sending a IPv4 Radius Packet

```

次の出力は、特定の audit-session-id のセッションを切断すると、FlexVPN サーバーに表示されます。セッション終了要求はRADIUS クライアント経由でRADIUS サーバーに送信されます。この例では、audit-session-ID が

L2L433010101ZO2L4C0A8CA02ZH119404ZP37 のセッションは終了するため、出力には表示されません。

```

Nov 4 00:32:29.004 IST: RADIUS: POD received from id 216 9.45.15.144:50567, POD Request,
len 84
Nov 4 00:32:29.004 IST: POD: 9.45.15.144 request queued
Nov 4 00:32:29.004 IST: ++++++ POD Attribute List ++++++
Nov 4 00:32:29.004 IST: 7FBD9783D3A8 0 00000089 audit-session-id(819) 39
L2L433010101ZO2L4C0A8CA02ZH11941194ZN3B
Nov 4 00:32:29.004 IST:
Nov 4 00:32:29.004 IST: POD: Sending ACK from port 1812 to 9.45.15.144/50567

Nov 4 00:32:29.005 IST: IKEv2:(SESSION ID = 59,SA ID = 2):Check for existing active SA
Nov 4 00:32:29.006 IST: IKEv2:in_octets 0, out_octets 0
Nov 4 00:32:29.006 IST: IKEv2:in_packets 0, out_packets 0
Nov 4 00:32:29.006 IST: IKEv2:(SA ID = 2):[IKEv2 -> AAA] Accounting stop request sent
successfully
Nov 4 00:32:29.006 IST: IKEv2:(SESSION ID = 59,SA ID = 2):Delete all IKE SAs
Nov 4 00:32:29.010 IST: RADIUS/ENCODE(0000002D):Orig. component type = VPN IPSEC
Nov 4 00:32:29.010 IST: RADIUS(0000002D): Config NAS IP: 0.0.0.0
Nov 4 00:32:29.010 IST: RADIUS(0000002D): Config NAS IPv6: ::
Nov 4 00:32:29.010 IST: RADIUS(0000002D): sending
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS/ENCODE: Best Local IP-Address 192.168.202.1 for
Radius-Server 9.45.15.144
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS(0000002D): Send Accounting-Request to 9.45.15.144:1813
id 1646/246, len 356
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: authenticator 52 88 5E CB 8B FA 1E C1 - CC EF 73 75
89 73 CA 95
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Session-Id [44] 10 "00000022"
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Calling-Station-Id [31] 15 "192.168.202.2"
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 64
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Cisco AVpair [1] 58
"audit-session-id=L2L433010101ZO2L4C0A8CA02ZH11941194ZN3B"
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 46
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Cisco AVpair [1] 40
"isakmp-phase1-id=pskuser1.gl.engdt.com"
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 40
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Cisco AVpair [1] 34
"isakmp-initiator-ip=192.168.202.2"
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: User-Name [1] 23 "pskuser1.gl.engdt.com"
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Authentic [45] 6 Local
[2]
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 36
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Cisco AVpair [1] 30 "connect-progress=No
Progress"
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Session-Time [46] 6 56

Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Input-Octets [42] 6 0

Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Output-Octets [43] 6 0

Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Input-Packets [47] 6 0

Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Output-Packets [48] 6 0

Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Terminate-Cause[49] 6 none
[0]
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 32
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Cisco AVpair [1] 26 "disc-cause-ext=No Reason"
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Status-Type [40] 6 Stop
[2]
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: NAS-IP-Address [4] 6 192.168.202.1

Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: home-hl-prefix [151] 10 "E2F80C34"

```

## IKEv2 パケット オブ ディスコネクトに関する追加情報

```
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS: Acct-Delay-Time [41] 6 0
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS(0000002D): Sending a IPv4 Radius Packet
Nov 4 00:32:29.011 IST: RADIUS(0000002D): Started 5 sec timeout
```

次の出力は、特定の `audit-session-ID` で有効なセッションが存在しない場合に表示されます。これは、そのセッションがすでに終了していて、特定の `audit-session-id` に関連するセッションが存在しない場合に発生します。FlexVPN サーバーに 送り返されるメッセージに注意してください。

```
Nov 4 00:30:31.905 IST: RADIUS: POD received from id 131 9.45.15.144:52986, POD Request, len 84
Nov 4 00:30:31.905 IST: POD: 9.45.15.144 request queued
Nov 4 00:30:31.905 IST: ++++++ POD Attribute List ++++++
Nov 4 00:30:31.905 IST: 7FBD9783BA20 0 00000089 audit-session-id(819) 39
L2L433010101Z02L4C0A8CA02ZH11941194ZN3A
Nov 4 00:30:31.905 IST:
Nov 4 00:30:31.906 IST: POD: 9.45.15.144 Unsupported attribute type 26 for component
Nov 4 00:30:31.906 IST: POD: 9.45.15.144 user 0.0.0.0i sessid 0x0 key 0x0 DROPPED
Nov 4 00:30:31.906 IST: POD: Added Reply Message: No Matching Session
Nov 4 00:30:31.906 IST: POD: Added NACK Error Cause: Invalid Request
Nov 4 00:30:31.906 IST: POD: Sending NAK from port 1812 to 9.45.15.144/52986
Nov 4 00:30:31.906 IST: RADIUS: 18 21 4E6F204D61746368696E672053657373696F6E
Nov 4 00:30:31.906 IST: RADIUS: 101 6 00000194
```

## IKEv2 パケット オブ ディスコネクトに関する追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>
RADIUS パケット オブ ディスコネクト	『RADIUS Packet of Disconnect』 『RADIUS Packet of Disconnect』



## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 3576	<i>Dynamic Authorization Extensions to Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)</i>
RFC 5176	<i>Dynamic Authorization Extensions to Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS)</i>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 283: IKEv2 パケット オブ ディスコネクトの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IKEv2 リモート アクセス認可変更 (CoA) のパケット オブ ディスコネクト		<p>IKEv2 リモートアクセス認可変更 (CoA) のパケット オブ ディスコネクト機能は、シスコがサポートするデバイスのアクティブな暗号 IKEv2 セッションを停止します。</p> <p>この機能によって導入されたコマンドはありません。</p>





## 第 215 章

# IKEv2 認可変更のサポートの設定

FlexVPN - QoS および ACL 用 IKEv2 CoA 機能は、アクティブな IKEv2 暗号セッションでの RADIUS 認可変更 (CoA) をサポートしています。

- [IKEv2 認可変更のサポートの前提条件 \(3211 ページ\)](#)
- [IKEv2 認可変更サポートの制限事項 \(3211 ページ\)](#)
- [IKEv2 認可変更サポートに関する情報 \(3211 ページ\)](#)
- [IKEv2 認可変更サポートの設定方法 \(3213 ページ\)](#)
- [IKEv2 認可変更サポートの設定例 \(3217 ページ\)](#)
- [IKEv2 認可変更サポートに関する追加情報 \(3217 ページ\)](#)
- [IKEv2 認可変更のサポートの機能情報 \(3218 ページ\)](#)

## IKEv2 認可変更のサポートの前提条件

- IKEv2 は、Cisco AAA コンポーネントのレジストリ エントリからコンポーネントとして登録する必要があります。

## IKEv2 認可変更サポートの制限事項

- この機能では、RADIUS ベースの AAA サーバーから受信した認可変更 (CoA) パケットのみをサポートしています。

## IKEv2 認可変更サポートに関する情報

### RADIUS 許可の変更

RADIUS 認可変更 (CoA) 機能は、認証、認可、およびアカウンティング (AAA) セッションの属性を、セッション認証後に変更するためのメカニズムを提供します。AAA でユーザー、またはユーザー グループのポリシーに変更がある場合、管理者は Cisco Secure Access Control

Server (ACS) などの AAA サーバーから RADIUS CoA パケットを送信して認証を再初期化し、新しいポリシーを適用することができます。

標準 RADIUS インターフェイスは通常、ネットワークに接続しているデバイスから要求が送信され、クエリが送信されたサーバーが応答するプルモデルで使用されます。シスコのソフトウェアは、プッシュモデルで使用される RFC 5176 で定義された RADIUS CoA 要求をサポートしています。このモデルでは、要求は外部サーバーからネットワークに接続されたデバイスへ発信され、外部の認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) またはポリシー サーバーからの動的なセッション再設定が可能になります。

RADIUS CoA の詳細については、『*Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide, Cisco IOS Release 15M&T*』または『*Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide, Cisco IOS XE Release 3S*』を参照してください。

## IKEv2 認可変更の作業

FlexVPN - QoS および ACL 用 IKEv2 CoA 機能では、アクティブな IKEv2 暗号セッションの属性を変更して、新しい認証属性に適用できます。Cisco AAA コンポーネントは、AAA サーバーから認可変更 (CoA) パケットを受信して、受信した CoA パケットがそれに登録された任意のコンポーネント用かどうかを確認します。CoA パケットがそれ自体のために作成されたコンポーネントが確認した場合、以降の処理に進みます。CoA パケット内のフィールドに基づいて、パケットが IKEv2 などの任意のコンポーネントと関連している場合、そのパケットはそのコンポーネントによって使用されます。AAA はそのパケットを、リスト内の次のコンポーネントに転送しません。

この機能では、IKEv2 が CoA パケットを受信した後、IKEv2 では Cisco (AV) ペアに対してその CoA パケットを確認します。IKEv2 は、RADIUS サーバーにすでに保存されている audit-session-id に基づいてセッションを特定します。

CoA パケットに IKEv2 がサポートしていない属性が含まれる場合、IKEv2 はそのパケットを破棄し、CoA-NACK を AAA コンポーネントに送信します。

## IKEv2 認可変更でサポートされる AV ペア

FlexVPN - QoS および ACL 用 IKEv2 CoA 機能は、次の Cisco AV ペアをサポートしています。

- ip:interface-config
- ip:sub-policy-In
- ip:sub-policy-Out
- ip:sub-qos-policy-in
- ip:sub-qos-policy-out
- ipsec:inacl
- ipsec:outacl

# IKEv2 認可変更サポートの設定方法

## FlexVPN サーバーでの認可変更の設定

IKEv2 認可変更 (CoA) サポート機能に必要な、FlexVPN サーバーでの IKEv2 固有の設定はありません。FlexVPN サーバーでは、RADIUS 認可変更のみを設定する必要があります。AAA 設定の詳細については、『*Authentication, Authorization, and Accounting Configuration Guide, Cisco IOS Release 15M&T*』の「RADIUS Change of Authorization」機能モジュールを参照してください。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **aaa new-model**
4. **aaa server radius dynamic-author**
5. **client {ip-address | name [ vrf vrf-name]} server-key [0 | 7] string**
6. **port port-number**
7. **auth-type {any | all | session-key}**
8. **ignore session-key**
9. **ignore server-key**
10. **exit**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa new-model</b> 例： Device(config)# aaa new-model	認証、認可、アカウントिंग (AAA) をグローバルに有効化します。
ステップ 4	<b>aaa server radius dynamic-author</b> 例：	ダイナミック認可ローカル サーバー コンフィギュレーション モードを開始し、デバイスが認可変更

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>Device(config)# aaa server radius dynamic-authorization</code>	(CoA) を受け入れ、要求を取り外す RADIUS クライアントを指定します。デバイスを AAA サーバーとして設定し、外部ポリシー サーバーとの連携を可能にする。
ステップ 5	<b>client</b> { <i>ip-address</i>   <i>name</i> [ <i>vrf vrf-name</i> ]} <b>server-key</b> [ <i>0</i>   <i>7</i> ] <i>string</i>  例： <code>Device(config-locsvr-da-radius)# client 10.0.0.1</code>	RADIUS 鍵をデバイスと RADIUS クライアントとの間で共有されるように設定します。
ステップ 6	<b>port</b> <i>port-number</i>  例： <code>Device(config-locsvr-da-radius)# port 3799</code>	設定された RADIUS クライアントから RADIUS 要求をデバイスが受信するポートを指定します。  (注) パケット オブディスコネクトのデフォルトポートは 1700 です。ACS 5.1 と相互運用するためには、ポート 3799 が必要です。
ステップ 7	<b>auth-type</b> { <i>any</i>   <i>all</i>   <i>session-key</i> }  例： <code>Device(config-locsvr-da-radius)# auth-type all</code>	デバイスが RADIUS クライアントに使用する認可のタイプを指定します。クライアントは、認可用に設定された属性と一致していなければなりません。
ステップ 8	<b>ignore session-key</b>  例： <code>Device(config-locsvr-da-radius)# ignore session-key</code>	(オプション) セッション キーを無視するようにデバイスを設定します。
ステップ 9	<b>ignore server-key</b>  例： <code>Device(config-locsvr-da-radius)# ignore server-key</code>	(オプション) サーバー キーを無視するようにデバイスを設定します。
ステップ 10	<b>exit</b>  例： <code>Device(config-locsvr-da-radius)# exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## IKEv2 認可変更サポートの確認

次の show コマンドを使用して、Cisco デバイスでの認可変更 (CoA) の成功を確認します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show platform hardware qfp active feature qos all output all**

### 3. show platform hardware qfp active feature qos all input all

#### 手順の詳細

#### 手順

##### ステップ 1 enable

例 :

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

##### ステップ 2 show platform hardware qfp active feature qos all output all

例 :

```
Device# show platform hardware qfp active feature qos all output all
```

```
Interface: Virtual-Access1, QFP if_h: 14, Num Targets: 1
Target: Out, Num UIDBs: 1
  UIDB #: 0
  Hierarchy level: 0, Num matching iftgts: 1
  Policy name: aaa-out-policy, Policy id: 9679472
  Parent Class Idx: 0, Parent Class ID: 0
  IF Tgt#: 0, ifh: 14, member_ifh: 0, link_idx: 0
  PSQD specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593, Match index: 0
    Class name: class-default, Policy name: aaa-out-policy
    psqd[0-3]: 0x00000000 0x00000000 0x00000001 0x00000000
  ISQD specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593
    Class name: class-default, Policy name: aaa-out-policy
    isqd[0-3]: 0x88e78ec0 0x00000000 0x00000000 0x00000000
    (cache) isqd[0-3]: 0x88e78ec0 0x00000000 0x00000000 0x00000000
  Police specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593
    Class name: class-default, Policy name: aaa-out-policy
    Policer id: 0x20000002
    hw_policer[0-3]: 0x4000047e 0x00163ac8 0x00000000 0x00000000
    cache hw_policer[0-3]: 0x4000047e 0x00163ac8 0x00000000 0x00000000
    conform stats (paks/octets): 0x0000000000000000, : 0x0000000000000000
    exceed stats (paks/octets): 0x0000000000000000, : 0x0000000000000000
    violate stats (paks/octets): 0x0000000000000000, : 0x0000000000000000
    police_info: 0x00000000
    cache police_info: 0x00000000
  Queue specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593
    Class name: class-default, Policy name: aaa-out-policy
    No queue configured
  Schedule specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593
```

```
Class name: class-default, Policy name: aaa-out-policy
No schedule info (no queue configured)
```

CoA が成功したかどうかのプラットフォーム固有情報が表示されます。

### ステップ 3 show platform hardware qfp active feature qos all input all

例 :

```
Device# show platform hardware qfp active feature qos all input all
```

```
Interface: Virtual-Access1, QFP if_h: 14, Num Targets: 1
Target: In, Num UIDBs: 1
  UIDB #: 0
  Hierarchy level: 0, Num matching iftgts: 1
  Policy name: aaa-in-policy, Policy id: 980784
  Parent Class Idx: 0, Parent Class ID: 0
  IF Tgt#: 0, ifh: 14, member_ifh: 0, link_idx: 0
  PSQD specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593, Match index: 0
    Class name: class-default, Policy name: aaa-in-policy
    psqd[0-3]: 0x00000000 0x00000000 0x00000001 0x00000000
  ISQD specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593
    Class name: class-default, Policy name: aaa-in-policy
    isqd[0-3]: 0x88d49748 0x00000001 0x00000000 0x00000000
    (cache) isqd[0-3]: 0x88d49748 0x00000001 0x00000000 0x00000000
  Police specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593
    Class name: class-default, Policy name: aaa-in-policy
    Policer id: 0x20000003
    hw_policer[0-3]:      0x10000140 0x00113a29 0x00000000 0x00000000
    cache hw_policer[0-3]: 0x10000140 0x00113a29 0x00000000 0x00000000
    conform stats (paks/octets): 0x0000000000000000, : 0x0000000000000000
    exceed stats (paks/octets): 0x0000000000000000, : 0x0000000000000000
    violate stats (paks/octets): 0x0000000000000000, : 0x0000000000000000
    police_info:          0x00000000
    cache police_info:    0x00000000
  Queue specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593
    Class name: class-default, Policy name: aaa-in-policy
    No queue configured
  Schedule specifics:
    Target Index: 0, Num Classes: 1
    Class index: 0, Class object id: 1593
    Class name: class-default, Policy name: aaa-in-policy
    No schedule info (no queue configured)
```

機能のステータスが表示されます。



## IKEv2 認可変更サポートの設定例

### 例：認可変更のトリガー

次の出力例は、管理者が認可変更（CoA）をトリガーすると表示されます。セッションは、audit-session-idに基づいて特定されます。このIDは動的文字列で、ピアとのセッションについて、6 タプル情報の形式にエンコードされています。

IKEv2 は、RADIUS サーバーから認可変更（CoA）パケットを受信します。セッションは、audit-session-idに基づいて特定されます。

```
*Oct 6 23:38:55.250: RADIUS: COA received from id 125 10.106.210.176:58712, CoA Request,
len 257
*Oct 6 23:38:55.251: COA: 10.106.210.176 request queued
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: authenticator BD 97 5E BA B2 EB C1 C5 - 1A 14 51 3D C2
C8 66 3F
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 62
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Cisco AVpair [1] 56
"audit-session-id=L2L44D010102ZO2L44D010101ZI1F401F4ZO2"
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 52
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Cisco AVpair [1] 46
"ip:interface-config=service-policy input pol"
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 35
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Cisco AVpair [1] 29 "ip:sub-qos-policy-out=2M-IN"
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 36
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Cisco AVpair [1] 30 "ip:sub-qos-policy-in=aaa-pol"
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Vendor, Cisco [26] 52
*Oct 6 23:38:55.251: RADIUS: Cisco AVpair [1] 46
"ip:interface-config=service-policy output 2M"
*Oct 6 23:38:55.251: COA: Message Authenticator missing or failed decode

*Oct 6 23:38:55.251: ++++++ CoA Attribute List ++++++
*Oct 6 23:38:55.251: 421C9694 0 00000089 audit-session-id(819) 37
L2L44D010102ZO2L44D010101ZI1F401F4ZO2
*Oct 6 23:38:55.251: 421C9584 0 00000081 interface-config(222) 24 service-policy input
pol
*Oct 6 23:38:55.251: 421C95B8 0 00000081 sub-qos-policy-out(423) 5 2M-IN
*Oct 6 23:38:55.251: 421C95EC 0 00000081 sub-qos-policy-in(421) 7 aaa-pol
*Oct 6 23:38:55.251: 421C9620 0 00000081 interface-config(222) 24 service-policy output
2M
*Oct 6 23:38:55.251:
*Oct 6 23:38:55.251: COA: Added NACK Error Cause: Success
```

## IKEv2 認可変更サポートに関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Command List, All Releases』</a>

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## IKEv2 認可変更のサポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 284: IKEv2 認可変更のサポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
FlexVPN - QoS および ACL 用 IKEv2 CoA		<p>FlexVPN - QoS および ACL 用 IKEv2 CoA 機能は、アクティブな IKEv2 暗号セッションでの RADIUS 認可変更 (CoA) をサポートしています。</p> <p>この機能によって変更または更新されたコマンドはありません。</p>





## 第 216 章

# 集約認証の設定

FlexVPN RA - Cisco AnyConnect クライアントのサポートを拡張することで、AnyConnect 機能の集約認証サポートは、集約認証方式を実装します。このクライアントでは、独自の AnyConnect EAP 認証方式を使用し、Cisco AnyConnect クライアントと FlexVPN サーバー間にインターネットを介したセキュア トンネルを確立します。

- [集約認証の設定の前提条件 \(3221 ページ\)](#)
- [集約認証の設定に関する情報 \(3221 ページ\)](#)
- [集約認証の設定方法 \(3225 ページ\)](#)
- [集約認証の設定例 \(3227 ページ\)](#)
- [集約認証の設定に関する追加情報 \(3228 ページ\)](#)
- [集約認証の設定に関する機能情報 \(3228 ページ\)](#)

## 集約認証の設定の前提条件

- <BypassDownloader> 値を true に設定して、AnyConnectLocalPolicy ファイルで BypassDownloader 関数を有効にする必要があります。デバイスで SSL がサポートされていない場合、BypassDownloader 関数は動作しないため、<BypassDownloader> 値を false に設定して、この関数を無効にする必要があります。そうしないと、接続が失敗します。

## 集約認証の設定に関する情報

### Cisco AnyConnect および FlexVPN

VPN 接続を確立するには、VPN クライアントが Extensible Authentication Protocol (EAP : 拡張可能認証プロトコル)、拡張認証 (XAUTH) などの認証方式を使用してユーザー クレデンシャルを取得し、Access Control Server を接続するハブにユーザー クレデンシャルを転送する必要があります。Access Control Server は、外部データベースまたは Active Directory (AD) を送信してクレデンシャルを確認します。

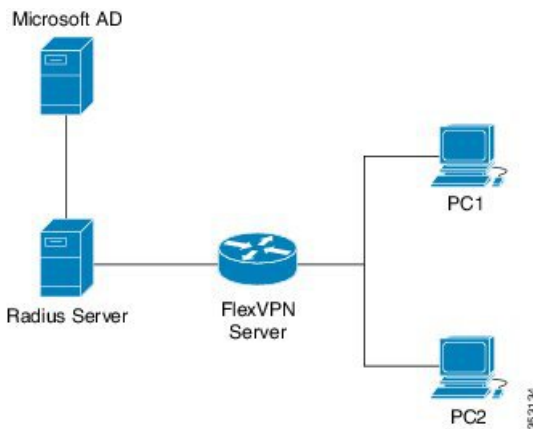
FlexVPN サーバーは（ハブとして）Cisco Secure Access Control Server と連動してユーザー クレデンシャルを確認し、VPN 接続を確立します。ただし、Cisco AnyConnect は EAP を使用してユーザー クレデンシャルを取得し、XAUTH をサポートしません。一方、Cisco Secure Access Control Server は外部データベース（ここでは AD）を使用する EAP-MD5 をサポートしません。これによって、Cisco Secure Access Control Server が EAP-MD5 をサポートする必要があるシナリオ、または FlexVPN が Cisco AnyConnect からの情報を個別に認証して、Cisco Secure Access Control Server に個別に接続する必要があるシナリオが生じます。FlexVPN は、集約認証方式を使用して、Cisco AnyConnect からの情報を認証できます。FlexVPN サーバーで集約認証方式を実装すると、Cisco IOS ソフトウェアにより多くの機能サポートを追加するためのウィンドウが提供されます。

FlexVPN RA : AnyConnect の集約認証サポート機能では、独自の AnyConnect EAP 認証方式を使用する Cisco AnyConnect クライアントのサポートを拡張することによって集約認証方式を実装し、Cisco AnyConnect サーバーや FlexVPN サーバーを使用してインターネット上にセキュアなトンネルを確立します。これは、サーバー固有の機能で、Cisco AnyConnect と連動します。

## 集約認証の動作

インターネットキーエクスチェンジバージョン2は、基本的な集約認証を実装することによって独自の AnyConnect EAP 認証方式を使用する Cisco AnyConnect をサポートします。ここでの認証は、リモート RADIUS サーバーを使用する認証、認可、およびアカウントティング（AAA）を介して実行されます。次に、Cisco IOS ソフトウェアでの集約認証の実装を説明するネットワーク トポロジの例を示します。

図 113: RADIUS サーバーに接続された FlexVPN サーバー



この図は、次のことを示しています。

- Cisco Secure Access Control Server は、認証用の RADIUS サーバーとして機能します。
- クレデンシャルは、認証用の Active Directory として機能する Microsoft Active Directory に格納されます。



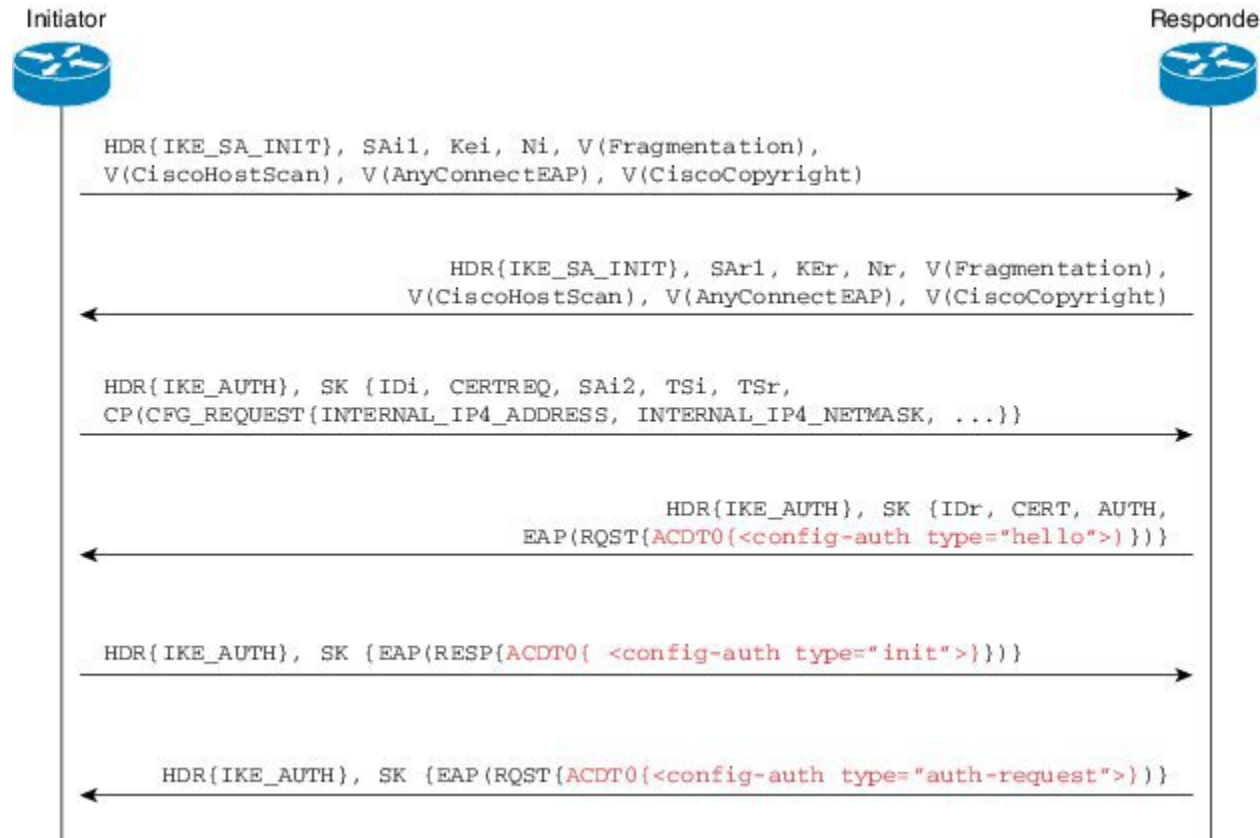
(注) Microsoft Active Directory は、単なる例です。クレデンシャルの格納場所は重要ではありません。

- シスコ デバイスは、FlexVPN サーバーとして機能します。
  - Windows 7 PC は、Cisco AnyConnect クライアントとして機能します。
1. VPN 接続を開始するために、Cisco AnyConnect クライアントは証明書を使用して FlexVPN サーバーを確認します。
  2. 証明書を確認した後、Cisco AnyConnect クライアントは Cisco AnyConnect EAP がロードしたメッセージを FlexVPN サーバーに送信します。
  3. FlexVPN サーバーが Cisco AnyConnect から Cisco AnyConnect EAP がロードしたメッセージを受信すると、FlexVPN サーバーはメッセージをダウンロードして EAP のメッセージを除去します。
  4. FlexVPN は認証用の RADIUS サーバーおよび認証用の Microsoft Active Directory (AD) との接続を確立して、除去されたメッセージを転送し、Cisco AnyConnect クライアントから提供されたクレデンシャルを確認します。
  5. クレデンシャルが RADIUS サーバーおよび Microsoft Active Directory (AD) によって確認されて承認されると、適切な応答が FlexVPN サーバーに送信され、Cisco AnyConnect に応答し、VPN 接続が確立されます。

## Cisco AnyConnect EAP を使用する IKE 交換

AnyConnect EAP を使用する IKE での認証は、RFC 3748 で説明されているように標準 EAP モデルのバリエーションです。AnyConnect EAP を使用すると、パブリック設定または認証 XML は EAP ペイロードを介して送信されます。次の図に、Cisco AnyConnect によって使用される一般的なメッセージフローを示します。

図 114: AnyConnect EAP を使用する IKE 交換



1. Cisco AnyConnect クライアントが、FlexVPN サーバーへの IKE 接続を開始します。クライアントは、一般的な IKE ペイロードに加えて、Cisco AnyConnect EAP のサポートを示すためのベンダー ID ペイロードを送信します。クライアントは、シスコの著作権ベンダー ID を含めることによって自身をシスコ製品として識別します。
2. サーバー ゲートウェイが、フラグメンテーションおよび AnyConnect EAP サポートを示すためのベンダー ID ペイロードを送信し、シスコの著作権ベンダー ID を含めることによって自身をシスコ製品として識別します。
3. 設定ペイロードで、トンネル設定が要求されます。クライアントは、このメッセージから AUTH ペイロードを省略することによって、Cisco AnyConnect EAP 認証の使用を希望していることを示します。
4. 集約認証および設定プロトコルが、EAP を介して伝送されます。
5. FlexVPN サーバーが、EAP の成功メッセージを送信します。
6. Cisco AnyConnect クライアントが、AUTH ペイロードを送信します。
7. FlexVPN サーバーが、AUTH ペイロードと Cisco AnyConnect クライアントが要求したトンネル設定属性を送信します。



## IKEv2 でのデュアルファクタ認証のサポート

Cisco IOS ソフトウェアでの集約認証の実装は、デュアルファクタ認証に拡張できます。二重認証は、デバイス証明書情報を交換し検証する集約認証中に、新しい AnyConnect EAP 交換を導入することで実行されます。「デバイス」と同様に「ユーザー」も認証するこのメカニズムは、「二重認証」と呼ばれます。



(注) AnyConnect EAP は、AnyConnect クライアント固有の認証方式であり、他クライアントには適用されません。

## 集約認証の設定方法

### 集約認証用の FlexVPN サーバーの設定

このタスクを実行して、FlexVPN サーバーの集約認証を設定します。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 profile *profile-name***
4. **aaa accounting anyconnect-eap *list-name***
5. **match identity remote key-id *opaque-string***
6. **authentication remote anyconnect-eap aggregate [cert-request]**
7. **authentication local rsa-sig**
8. **pki trustpoint *trustpoint-label***
9. **aaa authentication anyconnect-eap *list-name***
10. **aaa authorization group anyconnect-eap list *aaa-listname* name-mangler *mangler-name***
11. **aaa authorization user anyconnect-eap cached**
12. **aaa authorization user anyconnect-eap list *aaa-listname* name-mangler *mangler-name***
13. **end**
14. **show crypto ikev2 session detailed**

#### 手順の詳細

##### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 :	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 profile profile-name</b> 例： Device(config)# crypto ikev2 profile profile1	IKEv2 プロファイル名を定義し、IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>aaa accounting anyconnect-eap list-name</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# aaa accounting anyconnect-eap list1	IKEv2 リモート認証方式が AnyConnect EAP の場合、認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) のアカウントिंग方式リストを有効にします。
ステップ 5	<b>match identity remote key-id opaque-string</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# match identity remote key-id aggauth_user3@abc.com	リモートキーIDタイプのIDに基づいて、プロファイルを照合します。
ステップ 6	<b>authentication remote anyconnect-eap aggregate [cert-request]</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# authentication remote anyconnect-eap aggregate cert-request	Cisco AnyConnect EAP に集約認証を指定します。  • <b>cert-request</b> : 二重認証用に Cisco AnyConnect クライアントに証明書を要求します。
ステップ 7	<b>authentication local rsa-sig</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# authentication local rsa-sig	Rivest、Shamir、Adelman (RSA) 署名をローカル認証方式として指定します。
ステップ 8	<b>pki trustpoint trustpoint-label</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# pki trustpoint CA1	RSA 署名認証方式で使用する Public Key Infrastructure (PKI) トラストポイントを指定します。
ステップ 9	<b>aaa authentication anyconnect-eap list-name</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# aaa authentication anyconnect-eap list1	Cisco AnyConnect EAP 認証用に、認証、認可、およびアカウントिंग (AAA) 認証リストを指定します。  • <b>anyconnect-eap</b> : AAA AnyConnect EAP 認証を指定します。  • <b>list-name</b> : AAA 認証リスト名。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	<b>aaa authorization group anyconnect-eap list</b> <b>aaa-listname name-mangler mangler-name</b>  例 : <pre>Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization group anyconnect-eap list list1 name-mangler mangler1</pre>	リモート認証方式が AnyConnect EAP であり、名前分割が派生する場合、各グループポリシーに AAA 認証を指定します。
ステップ 11	<b>aaa authorization user anyconnect-eap cached</b>  例 : <pre>Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization user anyconnect-eap cached</pre>	リモート認証方式が AnyConnect EAP であり、AnyConnect EAP 認証からキャッシュした属性を使用する場合、各ユーザーポリシーに AAA 認証を指定します。
ステップ 12	<b>aaa authorization user anyconnect-eap list aaa-listname</b> <b>name-mangler mangler-name</b>  例 : <pre>Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization user anyconnect-eap list list1 name-mangler mangler1</pre>	リモート認証方式に AAA 方式リストを指定し、名前分割が派生します。
ステップ 13	<b>end</b>  例 : <pre>Device(config-ikev2-profile)# end</pre>	IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 14	<b>show crypto ikev2 session detailed</b>  例 : <pre>Device# show crypto ikev2 session detailed</pre>	アクティブなインターネット キー エクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) セッションのステータスを表示します。

## 集約認証の設定例

### 例：集約認証の設定

次の例は、FlexVPN サーバーで集約認証を設定する方法を示します。これによって、Cisco AnyConnect クライアントと FlexVPN サーバー間のセキュア トンネルの確立を有効にします。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ikev2 profile profile1
Device(config-ikev2-profile)# aaa accounting anyconnect-eap list1
Device(config-ikev2-profile)# match identity remote key-id aggauth_user1@example.com
Device(config-ikev2-profile)# authentication remote anyconnect-eap aggregate cert-request
Device(config-ikev2-profile)# authentication local rsa-sig
Device(config-ikev2-profile)# pki trustpoint CA1
Device(config-ikev2-profile)# aaa authentication anyconnect-eap list1
Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization group anyconnect-eap list list1
```

```

name-mangler mangler1
Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization user anyconnect-eap cached
Device(config-ikev2-profile)# aaa authorization user anyconnect-eap list list1 name-mangler
mangler1
Device(config-ikev2-profile)# end

```

## 集約認証の設定に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』
セキュリティコマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R』</li> <li>『Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z』</li> </ul>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 集約認証の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 285: 集約認証の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
IKEv2 でのデュアルファクタ認証のサポート		IKEv2 でのデュアルファクタ認証のサポートは、二重認証への Cisco AnyConnect クライアントからの証明書要求をサポートします。  <b>authentication (IKEv2 profile)</b> コマンドが変更されました。
FlexVPN RA - AnyConnect の集約認証サポート		FlexVPN RA - Cisco AnyConnect クライアントのサポートを拡張することで、AnyConnect 機能の集約認証サポートは、集約認証方式を実装します。このクライアントでは、独自の AnyConnect EAP 認証方式を使用し、Cisco AnyConnect クライアントと FlexVPN サーバー間にインターネットを介したセキュア トンネルを確立します。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa accounting (IKEv2 profile)</b> 、 <b>aaa authentication (IKEv2 profile)</b> 、 <b>aaa authorization (IKEv2 profile)</b> 、 <b>authentication (IKEv2 profile)</b> 、 <b>show crypto ikev2 profile</b> 、 <b>show crypto ikev2 session</b>





# CHAPTER 217

## 付録：FlexVPN の RADIUS 属性

この章では、FlexVPN サーバーでサポートされる RADIUS 属性について説明します。

- [FlexVPN RADIUS 属性, on page 3231](#)

### FlexVPN RADIUS 属性

次に、FlexVPN サーバーによって使用される RADIUS 属性カテゴリを示します。

- インバウンドおよび双方向 IETF RADIUS 属性
- アウトバウンド ローカル
- アウトバウンド リモート



**Note** 次のリストに含まれていない FlexVPN サーバーによって RADIUS に送信されるインバウンド属性では、値は AAA システムによって設定されます。

属性	User-Name
タイプ	IETF
書式	文字列
属性 ID	1

説明	<p>この属性は、FlexVPN サーバーによって RADIUS に送信され、次のように取得されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AAA ベースの事前共有キー：ピア IKEv2 ID</li> <li>• EAP 認証：ピア EAP ID</li> <li>• ユーザー認証またはグループ認証：name mangler の出力または IKEv2 プロファイル認証コマンドで指定された文字列。</li> <li>• アカウンティング：ピア EAP ID または IKEv2 ID。</li> </ul> <p>この属性は、正常な EAP 認証後に Access-Accept で RADIUS から受信されることもあります。また、認証済みのピア EAP ID を指定します。</p>
属性	User-Password
タイプ	IETF
書式	文字列
属性 ID	2
説明	<p>この属性は、FlexVPN サーバーによって RADIUS に送信され、次のように取得されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AAA ベースの事前共有キー：「cisco」</li> <li>• ユーザー/グループ認証：「cisco」</li> </ul>
属性	Calling-Station-ID
タイプ	IETF
書式	文字列
属性 ID	31
説明	<p>この属性は、FlexVPN サーバーによって RADIUS に送信され、次のように取得されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AAA ベースの事前共有キー：IKEv2 発信側アドレス</li> <li>• EAP 認証：IKEv2 発信側アドレス</li> <li>• ユーザー/グループ認証：IKEv2 発信側アドレス</li> </ul>
属性	Service-Type
タイプ	IETF



書式	文字列
属性 ID	6
説明	この属性は、FlexVPN サーバーによって EAP 認証に使用されており、この属性の値は「Login」に設定されています。

属性	EAP-Message
タイプ	IETF
書式	文字列
属性 ID	79
説明	この属性は、FlexVPN サーバーによって EAP 認証に使用されており、EAP サーバーとリモート アクセス クライアントの間で EAP パケットをリレーします。

属性	Message-Authenticator
タイプ	IETF
書式	文字列
属性 ID	80
説明	この属性は、FlexVPN サーバーによって EAP 認証用に送信されます。この属性の値は、AAA サブシステムによって設定されます。

属性	Framed-Pool
タイプ	IETF
書式	文字列
属性 ID	88
ローカル設定	pool name
RADIUS 設定	Framed-Pool= <i>pool-name</i>
説明	FlexVPN サーバーが IPv4 アドレスの割り当てに使用する IPv4 アドレスプールの名前を指定して、クライアントに割り当てます。割り当てられたアドレスは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_ADDRESS を介してクライアントにプッシュされます。

属性	ipsec:group-dhcp-server
タイプ	Cisco AV ペア

書式	文字列
ローカル設定	dhcp server { <i>ipaddr</i>   <i>host</i> }
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec: group-dhcp-server= <i>ipaddr</i> "
説明	FlexVPN サーバーが IPv4 アドレスのリースに使用する IPv4 DHCP サーバーを指定して、クライアントに割り当てます。リースされたアドレスは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_ADDRESS を介してクライアントにプッシュされます。

属性	ipsec:dhcp-giaddr
タイプ	Cisco AV ペア
書式	IPaddr
ローカル設定	dhcp giaddr <i>ipaddr</i>
RADIUS 設定	cisco-avpair="psec: dhcp-giaddr= <i>ipaddr</i> "
説明	FlexVPN サーバーが DHCP サーバーへの接続に使用する IPv4 DHCP ゲートウェイ IP アドレスを指定します。

属性	ipsec:dhcp-timeout
タイプ	Cisco AV ペア
書式	整数
ローカル設定	dhcp timeout <i>seconds</i>
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:dhcp-timeout= <i>seconds</i> "
説明	FlexVPN サーバーが DHCP サーバーからの応答をタイムアウトするのに使用する、IPv4 DHCP サーバーからの応答の待機時間を指定します。

属性	ipsec:ipv6-addr-pool
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	ipv6 <i>pool name</i>
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:ipv6-addr-pool= <i>pool-name</i> "

説明	FlexVPN サーバーが IPv6 アドレスの割り当てに使用する IPv6 アドレス プールの名前を指定して、クライアントに割り当てます。割り当てられたアドレスは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP6_ADDRESS を介してクライアントにプッシュされます。
属性	ipsec:route-set=prefix
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	該当なし
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:route-set=prefix <i>prefix/length</i> "
例	ipsec:route-set=prefix 192.168.1.0/24
説明	FlexVPN サーバーによって保護されるサブネットを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_SUBNET を介してクライアントにプッシュされます。  <b>Note</b> この AV ペアは、Cisco IOS リリース 15.2(2)T で導入されました。
属性	ipsec:route-set=interface
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	route set interface
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:route-set=interface"
説明	この属性はローカルに使用され、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_SUBNET を介したピアへの VPN インターフェイス IP アドレスの送信を有効にします。これによって、BGP over VPN などのルーティングプロトコルが実行されます。  <b>Note</b> Cisco IOS リリース 15.2(2)T で、「ipsec:route-set-interface」 AV ペアからこの AV ペアに置き換えられました。
属性	ipsec:route-accept
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	route accept any [tag <i>tag-id</i> ] [distance <i>distance</i> ]

RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:route-accept=any [tag:tag] [distance:distance]"
例	ipsec:route-accept=any tag=100
説明	<p>この属性はローカルに使用され、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_SUBNET を介してピアから受信されるサブネットのフィルタを指定します。この属性は、フィルタ処理されたサブネット用に IKEv2 よって追加されるルートのタグと距離も指定します。</p> <p><b>Note</b> Cisco IOS リリース 15.2(2)T で、AV ペア「ipsec:route-accept=accept acl:any」から「ipsec:route-accept=any」に置き換えられ、AV ペア「ipsec:route-accept=deny」から「ipsec:route-accept=none」に置き換えられました。</p>
属性	ipsec:ipsec-flow-limit
タイプ	Cisco AV ペア
書式	整数
ローカル設定	ipsec flow-limit <i>limit</i>
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:ipsec-flow-limit= <i>limit</i> "
説明	<p>この属性は FlexVPN サーバーによって使用され、IPSec dVTI セッションが使用可能な IPSec SA の最大数を指定します。デフォルトでは制限はありません。このパラメータは <b>crypto ipsec profile</b> コマンドおよび <b>set security-policy limit</b> コマンドと同様です。</p>
属性	ip:interface-config
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	aaa attribute list <i>list</i> attribute type interface-config <i>string</i>
RADIUS 設定	cisco-avpair="ip:interface-config=interface cmd string"
例	ip:interface-config=ip vrf forwarding red
説明	<p>この属性はローカルに使用され、セッションの仮想アクセス インターフェイスに適用される インターフェイス コンフィギュレーション モードのコマンド文字列を指定します。ローカル設定の場合、IKEv2 認証ポリシーは、interface-config 属性が必要な AAA 属性リストを示します。</p>
属性	Tunnel-Type

タイプ	IETF
書式	整数
属性 ID	64
RADIUS 設定	Tunnel-Type=type
説明	この属性は、トンネルタイプ (ESP、AH、GRE など) を指定し、FlexVPN サーバーが RADIUS サーバーからセッションの事前共有キーを取得するときに受信されます。

属性	Tunnel-Medium-Type
タイプ	IETF
書式	整数
属性 ID	65、
RADIUS 設定	Tunnel-Medium-Type=type
説明	この属性は、トンネル転送タイプ (IPv4、IPv6 など) を指定し、FlexVPN サーバーが RADIUS サーバーからセッションの事前共有キーを取得するときに受信されます。

属性	Tunnel-Password
タイプ	IETF
書式	文字列
属性 ID	69
RADIUS 設定	Tunnel-Password=string
説明	この属性は、対称の事前共有キーを指定し、FlexVPN サーバーが RADIUS サーバーからセッションの事前共有キーを取得するときに受信されます。

属性	ipsec:ikev2-password-local
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:ikev2-password-local=string"
説明	この属性は、ローカルの事前共有キーを指定し、FlexVPN サーバーが RADIUS サーバーからセッションの事前共有キーを取得するときに受信されます。

属性	ipsec:ikev2-password-remote
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:ikev2-password-remote= <i>string</i> "
説明	この属性は、リモートの事前共有キーを指定し、FlexVPN サーバーが RADIUS サーバーからセッションの事前共有キーを取得するときに受信されます。

属性	Framed-IP-Address
タイプ	IETF
書式	IPAddr
属性 ID	8
RADIUS 設定	Framed-IP-Address= <i>ipaddr</i>
説明	クライアントに割り当てられる IPv4 アドレスを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_ADDRESS を介してクライアントにプッシュされます。

属性	Framed-IP-Netmask
タイプ	IETF
書式	IPAddr
属性 ID	9
ローカル設定	netmask <i>mask</i>
RADIUS 設定	Framed-IP-Netmask= <i>mask</i>
説明	クライアントに割り当てられる IPv4 アドレスのサブネット マスクを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_NETMASK を介してクライアントにプッシュされます。

属性	ipsec:dns-servers
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	dns <i>primary</i> [ <i>secondary</i> ]
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:dns-servers= <i>primary secondary</i> "

説明	クライアントのプライマリ IPv4 DNS サーバーおよびセカンダリ IPv4 DNS サーバーを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_DNS を介してクライアントにプッシュされます。
属性	ipsec:wins-servers
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	wins <i>primary</i> [ <i>secondary</i> ]
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:wins-servers= <i>primary secondary</i> "
説明	クライアントのプライマリ IPv4 WINS サーバーおよびセカンダリ IPv4 WINS サーバーを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_NBNS を介してクライアントにプッシュされます。
属性	ipsec:route-set=access-list
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	route set access-list { <i>acl-name</i>   <i>acl-number</i> }
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:route-set=access-list { <i>acl-name</i>   <i>acl-number</i> }"
説明	FlexVPN サーバーによって保護される IPv4 サブネットを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_SUBNET を介してクライアントにプッシュされます。  <b>Note</b> Cisco IOS リリース 15.2(2)T で、「ipsec:inacl」AV ペアからこの AV ペアに置き換えられました。
属性	ipsec:addrv6
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:addrv6= <i>ipv6-addr</i> "
説明	クライアントに割り当てられる IPv6 アドレスを指定します。これは、最初の 16 バイトで IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP6_ADDRESS を介してクライアントにプッシュされます。
属性	ipsec:prefix-len

タイプ	Cisco AV ペア
書式	整数
ローカル設定	該当なし
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:prefix-len= <i>value</i> "
例	ipsec:prefix-len=24
説明	クライアントに割り当てられる IPv6 アドレスのプレフィックス長を指定します。これは、最後（17 番目）のバイトで IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP6_ADDRESS を介してクライアントにプッシュされます。

属性	ipsec:ipv6-dns-servers-addr
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	ipv6 dns <i>primary</i> [ <i>secondary</i> ]
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec: ipv6-dns-servers-addr= <i>ipaddr1</i> * <i>ipaddr2</i> "
説明	クライアントのプライマリ IPv6 DNS サーバーおよびセカンダリ IPv6 DNS サーバーを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP6_DNS を介してクライアントにプッシュされます。

属性	ipsec:route-set=access-list ipv6
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	route set access-list ipv6 <i>acl-name</i>
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:route-set=access-list ipv6 <i>acl-name</i> "
説明	FlexVPN サーバーによって保護される IPv6 サブネットを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP6_SUBNET を介してクライアントにプッシュされます。  <b>Note</b> Cisco IOS リリース 15.2(2)T で、「ipsec:ipv6-subnet-acl」AV ペアからこの AV ペアに置き換えられました。

属性	ipsec:banner
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列



ローカル設定	<code>banner text</code>
RADIUS 設定	<code>cisco-avpair="ipsec:banner=<i>text</i>"</code>
説明	バナーテキストを指定します。これは、Cisco Unity 属性の MODECFG_BANNER を介してクライアントにプッシュされます。
属性	<code>ipsec:default-domain</code>
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	<code>def-domain <i>name</i></code>
RADIUS 設定	<code>cisco-avpair="ipsec:default-domain=<i>name</i>"</code>
説明	デフォルト ドメインを指定します。これは、Cisco Unity 属性の MODECFG_DEFDOMAIN を介してクライアントにプッシュされます。
属性	<code>ipsec:split-dns</code>
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	<code>split-dns <i>name</i></code>
RADIUS 設定	<code>cisco-avpair="ipsec:split-dns=<i>name</i>"</code>
説明	スプリット DNS 名を指定します。これは、Cisco Unity 属性の MODECFG_SPLITDNS_NAME を介してクライアントにプッシュされます。最大 10 個のスプリット DNS 名を設定できます。
属性	<code>ipsec:ipsec-backup-gateway</code>
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	<code>backup-gateway <i>name</i></code>
RADIUS 設定	<code>cisco-avpair="ipsec:ipsec-backup-gateway=<i>name</i>"</code>
説明	バックアップ ゲートウェイを指定します。これは、Cisco Unity 属性の MODECFG_BACKUPSERVERS を介してクライアントにプッシュされます。最大 10 のバックアップ ゲートウェイを設定できます。
属性	<code>ipsec:pfs</code>

タイプ	Cisco AV ペア
書式	整数
ローカル設定	pfs
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:pfs= <i>value</i> "
説明	IPsec PFS (Perfect Forward Secrecy) の有効/無効を指定します。これは、Cisco Unity 属性の MODECFG_PFS を介してクライアントにプッシュされます。値は、無効の場合は 0、有効の場合は 1 にする必要があります。
属性	ipsec:include-local-lan
タイプ	Cisco AV ペア
書式	整数
ローカル設定	include-local-lan
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:include-local-lan= <i>value</i> "
説明	ローカル LAN の包含を有効または無効にします。これは、Cisco Unity 属性の MODECFG_INCLUDE_LOCAL_LAN を介してクライアントにプッシュされます。値は、無効の場合は 0、有効の場合は 1 にする必要があります。
属性	ipsec:smartcard-removal-disconnect
タイプ	Cisco AV ペア
書式	整数
ローカル設定	smartcard-removal-disconnect
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:smartcard-removal-disconnect = <i>value</i> "
説明	スマートカードが取り外されたときの切断を有効または無効にします。これは、Cisco Unity 属性の MODECFG_SMARTCARD_REMOVAL_DISCONNECT を介してクライアントにプッシュされます。値は、無効の場合は 0、有効の場合は 1 にする必要があります。
属性	ipsec:configuration-url
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	configuration url <i>url</i>
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:configuration-url= <i>url</i> "

説明	設定ダウンロードの URL を指定します。これは、Cisco FlexVPN 属性の MODECFG_CONFIG_URL を介してクライアントにプッシュされます。
属性	ipsec:configuration-version
タイプ	Cisco AV ペア
書式	整数
ローカル設定	configuration version <i>version</i>
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:configuration-version= <i>version</i> "
説明	ダウンロードする設定のバージョンを指定します。これは、Cisco FlexVPN 属性の MODECFG_CONFIG_VERSION を介してクライアントにプッシュされます。
属性	Route-set remote
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	route set remote {ipv4 ip-address mask   ipv6 ip-address/mask}
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:route-set=remote {ipv4 network subnet_mask   ipv6 network/subnet_mask}"
説明	FlexVPN サーバーによって保護されるサブネットを指定します。これは、IKEv2 標準設定属性の INTERNAL_IP4_SUBNET を介してクライアントにプッシュされます。ルートセットプレフィックスは 10 進数形式で表されたサブネットマスク (例: /24) で機能しますが、ルートセットリモートには標準のサブネットマスク表現 (例: 255.255.255.0) が必要です。 <b>Note</b> この AV ペアは、Cisco IOS リリース 3.10.0S で導入されました。
属性	Route-set local
タイプ	Cisco AV ペア
書式	文字列
ローカル設定	route set local {ipv4 ip-address mask   ipv6 ip-address/mask}
RADIUS 設定	cisco-avpair="ipsec:route-set=local {ipv4 network subnet_mask   ipv6 network/subnet_mask}"

説明	<p>この属性は、リモートデバイスから受信したルーティング情報を信頼する必要がないエクストラネットのシナリオで役立ちます。言い換えると、この AV ペアを使用して、リモートルートを拒否し、ルートの追加をローカルに制御できます。</p> <p><b>Note</b>           この AV ペアは、Cisco IOS リリース 3.10.0S で導入されました。</p>
----	---



## CHAPTER 218

# 付録：IKEv2 VPN および レガシー VPN

このモジュールでは、暗号マップ ベースの設定で IKEv2 を設定する例を示します。



**Note** 暗号マップは、レガシー設定の構造と見なされます。既存の暗号マップベースの設定を移行して、トンネル保護および仮想インターフェイスを使用することをお勧めします。

- 例：事前共有キー認証方式を使用する暗号マップベースの IKEv2 ピアの設定, [on page 3245](#)
- 例：証明書認証方式を使用する暗号マップベースの IKEv2 ピアの設定, [on page 3248](#)
- 例：暗号マップ ベースおよび dVTI ベースの IKEv2 ピアの設定, [on page 3252](#)
- 例：sVTI ベース IKEv2 ピアを使用した IPSec の設定, [on page 3254](#)
- 例：DMVPN ネットワークでの IKEv2 の設定, [on page 3257](#)

## 例：事前共有キー認証方式を使用する暗号マップベースの IKEv2 ピアの設定

次の例に、スタティック暗号マップ IKEv2 発信側とダイナミック暗号マップ IKEv2 応答側との間で事前共有キー認証方式を使用して、暗号マップに基づく IKEv2 ピアを設定する方法を示します。発信側の設定は次のとおりです。

```
crypto ikev2 proposal prop-1
  encryption aes-cbc-128
  integrity sha1
  group 14
!
crypto ikev2 policy pol-1
  match fvrf any
  proposal prop-1
!
crypto ikev2 keyring v2-kr1
  peer abc
  address 209.165.200.231 255.255.255.224
  pre-shared-key abc
!
```

例：事前共有キー認証方式を使用する暗号マップベースの IKEv2 ピアの設定

```

!
crypto ikev2 profile prof
  match fvrf any
  match identity remote fqdn dmap-responder
  identity local fqdn smap-initiator
  authentication local pre-share
  authentication remote pre-share
  keyring v2-kr1
!
!
crypto ipsec transform-set trans esp-aes-cbc-128 esp-sha-hmac
!
crypto map cmap 1 ipsec-isakmp
  set peer 209.165.200.225
  set transform-set trans
  set ikev2-profile prof
  match address ikev2list
!
interface Loopback0
  ip address 209.165.200.226 255.255.255.224
!
interface Ethernet0/0
  ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
  crypto map cmap
!
ip route 209.165.200.229 255.255.255.224 209.165.200.225
!
ip access-list extended ikev2list
  permit ip any any
!

```

応答側の設定は次のとおりです。

```

crypto ikev2 proposal prop-1
  encryption aes-cbc-128
  integrity sha1
  group 14
!
crypto ikev2 policy pol-1
  match fvrf any
  proposal prop-1
!
crypto ikev2 keyring v2-kr1
  peer abc
  address 209.165.200.228
  pre-shared-key abc
!
!
crypto ikev2 profile prof
  match fvrf any
  match identity remote fqdn smap-initiator
  identity local fqdn dmap-responder
  authentication local pre-share
  authentication remote pre-share
  keyring v2-kr1
  ivrf global
!
!
crypto ipsec transform-set trans esp-aes-cbc-128 esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map dmap 1
  set transform-set trans
  set reverse-route tag 222

```

```

set ikev2-profile prof
match address ikev2list
!
crypto map cmap 1 ipsec-isakmp dynamic dmap
!
interface Loopback0
 ip address 209.165.200.230 255.255.255.224
!
interface Ethernet0/0
 ip address 209.165.200.231 255.255.255.224
 crypto map cmap
!
ip route 209.165.200.233 255.255.255.224 209.165.200.228
!
ip access-list extended ikev2list
 permit ip any any
!

```

発信側と応答側との接続を開始するには、発信側の CLI で次のコマンドを入力します。

```

ping 209.165.200.230 source 209.165.200.226
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 209.165.200.230, timeout is 2 seconds:
Packet sent with a source address of 209.165.200.226
%IKEV2-5-OSAL_INITIATE_TUNNEL: Received request to establish an IPsec tunnel; local
traffic selector = Address Range: 209.165.200.226-209.165.200.226 Protocol: 1 Port Range:
 0-65535; remote traffic selector = Address Range: 209.165.200.230-209.165.200.230
Protocol: 1 Port Range: 0-65535
%IKEV2-5-SA_UP: SA UP
.!!!!
Success rate is 80 percent (4/5), round-trip min/avg/max = 8/11/12 ms

```

セッションの詳細を表示するには、次の **show** コマンドを入力します。

```

show crypto session
Crypto session current status
Interface: Ethernet0/0
Session status: UP-ACTIVE
Peer: 209.165.200.225 port 500
IKEv2 SA: local 209.165.200.228/500 remote 209.165.200.231/500 Active
IPSEC FLOW: permit ip 0.0.0.0/0.0.0.0 0.0.0.0/0.0.0.0
Active SAs: 2, origin: crypto map
show crypto ikev2 sa detail
Tunnel-id Local Remote fvr/ivrf Status
1 209.165.200.228/500 209.165.200.231/500 (none)/(none) READY
Encr: AES-CBC, Keysize: 128, Hash: SHA96, DH Grp:14, Auth sign: PSK, Auth verify:
PSK
Life/Active Time: 86400/21 sec
CE id: 1002, Session-id: 2
Status Description: Negotiation done
Local spi: 687752902752A6FD Remote spi: C9DCCFC65493D14F
Local id: smap-initiator
Remote id: dmap-responder
Local req msg id: 2 Remote req msg id: 0
Local next msg id: 2 Remote next msg id: 0
Local req queued: 2 Remote req queued: 0
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
NAT-T is not detected

```

## 例：証明書認証方式を使用する暗号マップベースの IKEv2 ピアの設定

次の例は、スタティック暗号マップ IKEv2 発信側、ダイナミック暗号マップ IKEv2 応答側、および CA サーバーの間で証明書認証方式を使用して、暗号マップに基づく IKEv2 ピアを設定する方法を示します。発信側の設定は次のとおりです。

```
crypto pki trustpoint ca-server
  enrollment url http://10.1.1.3:80
  revocation-check none
!
crypto pki certificate map cmap-1 1
  subject-name eq hostname = responder
!
crypto pki certificate chain ca-server
  certificate 02
    308201AF 30820118 A0030201 02020102 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
    14311230 10060355 04031309 63612D73 65727665 72301E17 0D313030 33313031
    32353132 355A170D 31313033 31303132 35313235 5A301A31 18301606 092A8648
    86F70D01 09021609 494E4954 4941544F 52305C30 0D06092A 864886F7 0D010101
    0500034B 00304802 4100A47E 8C58BA89 8CCDC5A4 5A63BD29 C331A2A5 393F4616
    6B43FD2E 5ED4C81A 913E3B13 33A9B2DC CFC30391 24BB0DC8 B28FD6F1 C008D101
    34C10062 30F88CF7 9D630203 010001A3 4F304D30 0B060355 1D0F0404 030205A0
    301F0603 551D2304 18301680 144871D9 002C66DF D85FACB8 45D1D25F EA357455
    91301D06 03551D0E 04160414 E77C74E7 183AB530 83DC531B 1DE3DA1D 914A925D
    300D0609 2A864886 F70D0101 04050003 81810042 21934B77 7E485E6F EE717D75
    6407B361 45190CEF E1A29CF2 6FA29E9A 5ECC1CEE B273533D 1453F6CE 1FDDA747
    7E701B4B 2A2AE53F D67C2345 952325BA 30950435 0706C5EE A7A8B414 CFEED7A2
    9CD46F8F 3F663268 A20C4CCF E75D61EF 03FBA85D EDD6B26E 63653F09 F97DAFA6
    6C76E44E C9CA3FDC 6CD85D30 169A1D9E 4E870B
  quit
  certificate ca 01
    30820201 3082016A A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
    14311230 10060355 04031309 63612D73 65727665 72301E17 0D313030 33313031
    32343933 385A170D 31333033 30393132 34393338 5A301431 12301006 03550403
    13096361 2D736572 76657230 819F300D 06092A86 4886F70D 01010105 0003818D
    00308189 02818100 DA4ECE09 B998F670 598F32C1 7E9FA920 1D217AC4 293B842E
    7563CE11 B2F0F822 23077930 636C8293 00F6CFDD F6C9B0F5 8348BE58 6478F631
    7D44152F 494AEBCC A507FA6B 408D6BBB FAAB0A7A 2E7546A8 CA70F9A6 0F7F6824
    554BD833 060D657D ABDF406C 69EEF449 7A4F9AFE 6F0852E7 05DEDAC1 D433191E
    712868C2 A94E642B 02030100 01A36330 61300F06 03551D13 0101FF04 05300301
    01FF300E 0603551D 0F0101FF 04040302 0186301F 0603551D 23041830 16801448
    71D9002C 66DFD85F ACB845D1 D25FEA35 74559130 1D060355 1D0E0416 04144871
    D9002C66 DFD85FAC B845D1D2 5FEA3574 5591300D 06092A86 4886F70D 01010405
    00038181 00AFC36B 8A917284 06BD51CB 83BDC4E8 9457A361 6CAAF416 3BBEF691
    04215AC5 EDBC5730 C071C2FB 8A6C90CF D6AB39C2 3BC2147F D35553D9 028B2155
    802E50DB 48CDE067 B3857447 89A1C733 D81EFEE7 1115480F 70ED2F22 F27E35A1
    F3BB597C 7C8F717B FAAD79D3 0F469702 DE9190E4 B1B0808E 46A118EB 887CEAEB
    DFE2900E D2
  quit
crypto ikev2 proposal prop-1
  encryption aes-cbc-128
  integrity sha1
  group 14
!
crypto ikev2 policy pol-1
  match fvrfrf any
```



```

proposal prop-1
!
crypto ikev2 profile prof
match fvrf any
match certificate cmap-1
identity local dn
authentication local rsa-sig
authentication remote pre-share
authentication remote rsa-sig
pki trustpoint ca-server
!
!
crypto ipsec transform-set trans esp-aes-cbc-128 esp-sha-hmac
!
crypto map cmap 1 ipsec-isakmp
set peer 209.165.200.225
set transform-set trans
set ikev2-profile prof
match address ikev2list
!
interface Loopback0
ip address 209.165.200.226 255.255.255.224
!
interface Ethernet0/0
ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
crypto map cmap
!
interface Ethernet1/0
ip address 209.165.200.228 255.255.255.224
!
ip route 209.165.200.229 255.255.255.224 209.265.200.231
!
ip access-list extended ikev2list
permit ip any any
!

```

応答側の設定は次のとおりです。

```

crypto pki trustpoint ca-server
enrollment url http://10.1.1.3:80
revocation-check none
!
!
!
crypto pki certificate map cmap-2 1
subject-name eq hostname = initiator
!
crypto pki certificate chain ca-server
certificate 03
308201AF 30820118 A0030201 02020103 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
14311230 10060355 04031309 63612D73 65727665 72301E17 0D313030 33313031
32353231 325A170D 31313033 31303132 35323132 5A301A31 18301606 092A8648
86F70D01 09021609 52455350 4F4E4445 52305C30 0D06092A 864886F7 0D010101
0500034B 00304802 4100B517 EB8E64E1 B58CB014 07B3A6AF E6B69577 87486367
9471B1DA BC66B847 DFA5073A 82121332 E787EA2D 3C433514 39033074 4095E7C7
67A387A1 EBD24692 A76F0203 010001A3 4F304D30 0B060355 1D0F0404 030205A0
301F0603 551D2304 18301680 144871D9 002C66DF D85FACB8 45D1D25F EA357455
91301D06 03551D0E 04160414 DFF2401C 53276D96 89DE8C0A 786CCA71 C9EA792B
300D0609 2A864886 F70D0101 04050003 8181002C 6E334273 CB832A95 3DDC6293
669E416C A134D543 20952BC3 14A5C0B0 03AE011C 963AF523 C7C5C935 4FE9B2A5
F24B3161 4D0D723A FA428BD1 85ADF172 B4007067 43C27D8A 1F74ED3D DEBE9F73
1F515355 E77E766C AEACC303 39457991 29AB090C 99E21B5B 60DCB2C8 780B4479
3EB3D46B B66C8C26 15311A7A B7A4ED97 32727C
quit

```

## 例：証明書認証方式を使用する暗号マップベースの IKEv2 ピアの設定

```

certificate ca 01
 30820201 3082016A A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
14311230 10060355 04031309 63612D73 65727665 72301E17 0D313030 33313031
32343933 385A170D 31333033 30393132 34393338 5A301431 12301006 03550403
13096361 2D736572 76657230 819F300D 06092A86 4886F70D 01010105 0003818D
00308189 02818100 DA4ECE09 B998F670 598F32C1 7E9FA920 1D217AC4 293B842E
7563CE11 B2F0F822 23077930 636C8293 00F6CFDD F6C9B0F5 8348BE58 6478F631
7D44152F 494AEBCC A507FA6B 408D6BBB FAAB0A7A 2E7546A8 CA70F9A6 0F7F6824
554BD833 060D657D ABDF406C 69EEF449 7A4F9AFE 6F0852E7 05DEDAC1 D433191E
712868C2 A94E642B 02030100 01A36330 61300F06 03551D13 0101FF04 05300301
01FF300E 0603551D 0F0101FF 04040302 0186301F 0603551D 23041830 16801448
71D9002C 66DFD85F ACB845D1 D25FEA35 74559130 1D060355 1D0E0416 04144871
D9002C66 DFD85FAC B845D1D2 5FEA3574 5591300D 06092A86 4886F70D 01010405
00038181 00AFC36B 8A917284 06BD51CB 83BDC4E8 9457A361 6CAAF416 3BBEF691
04215AC5 EDBC5730 C071C2FB 8A6C90CF D6AB39C2 3BC2147F D35553D9 028B2155
802E50DB 48CDE067 B3857447 89A1C733 D81EFEF7 1115480F 70ED2F22 F27E35A1
F3BB597C 7C8F717B FAAD79D3 0F469702 DE9190E4 B1B0808E 46A118EB 887CEAEB
DFE2900E D2
quit
crypto ikev2 proposal prop-1
  encryption aes-cbc-128
  integrity sha1
  group 14
!
crypto ikev2 policy pol-1
  match fvrf any
  proposal prop-1
!
crypto ikev2 profile prof
  match fvrf any
  match certificate cmap-2
  identity local dn
  authentication local rsa-sig
  authentication remote pre-share
  authentication remote rsa-sig
  pki trustpoint ca-server
!
!
crypto ipsec transform-set trans esp-aes-cbc-128 esp-sha-hmac
!
crypto dynamic-map dmap 1
  set transform-set trans
  set ikev2-profile prof
!
!
crypto map cmap 1 ipsec-isakmp dynamic dmap
interface Loopback0
  ip address 209.165.200.230 255.255.255.224
!
interface Ethernet0/0
  ip address 209.165.200.231 255.255.255.224
  crypto map cmap
!
interface Ethernet1/0
  ip address 209.165.200.232 255.255.255.224
!
ip route 209.165.200.233 255.255.255.224 209.165.200.228
!
ip access-list extended ikev2list
  permit ip host 209.165.200.231 host 209.165.200.228

```

CA サーバーの設定は次のとおりです。

```

crypto pki server ca-server
 grant auto
!
crypto pki trustpoint ca-server
 revocation-check crl
 rsakeypair ca-server
!
!
crypto pki certificate chain ca-server
 certificate ca 01
 30820201 3082016A A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
14311230 10060355 04031309 63612D73 65727665 72301E17 0D303930 33303831
36333335 395A170D 31323033 30373136 33333539 5A301431 12301006 03550403
13096361 2D736572 76657230 819F300D 06092A86 4886F70D 01010105 0003818D
00308189 02818100 99750598 EF4AF8B4 823DEF66 2F3BBA31 81C2DC5F D9B4040B
99FB6020 22243CD6 B9F24C84 A543D7DB DD0B3018 2E36208C D0FD4015 EAF0DA69
C1B0302B 87CEC34B 8646593F 0185AF02 0B86A3F3 5E5C3880 A992CD4A 79F13403
411CC61F 07CEB4D9 0E967CB2 FAE0A899 5A3B6C87 73111F06 128465DA A45291F8
F828C5DC 657487E7 02030100 01A36330 61300F06 03551D13 0101FF04 05300301
01FF300E 0603551D 0F0101FF 04040302 0186301F 0603551D 23041830 1680147B
D032BFB7 B3F70F1A 597B7C1E 1B42E472 5CCD6030 1D060355 1D0E0416 04147BD0
32BFB7B3 F70F1A59 7B7C1E1B 42E4725C CD60300D 06092A86 4886F70D 01010405
00038181 003838FA 628804EF E9FF69D9 3D5E299C 29074B2C AE33A563 8AF75976
78FB68D4 5EF1E27B 04936FDF 78A09432 5348849D F79E17F5 70B233C9 2C1535D0
506F0C35 99335012 84BBA3DC 050FD3C9 6E7B1D63 41ACC2B5 2B02432D BA2CC2CF
E379DEA0 A9C208AC 0EBEB2D8 E6488815 EB12F1E0 19072D55 D5D11A49 739144D8
271A842E ED
 quit
!
interface Ethernet1/0
 ip address 209.165.200.232 255.255.255.224
!
ip http server

```

CA およびデバイス証明書を取得するには、**crypto pki authenticate ca-server** コマンドおよび **crypto pki enroll ca-server** コマンドを入力します。発信側と応答側との接続を開始するには、発信側の CLI で次のコマンドを入力します。

```
ping 209.165.200.230 source 209.165.200.226
```

コマンドの出力は次のようになります。

```

Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 209.165.200.230, timeout is 2 seconds:
Packet sent with a source address of 209.165.200.226
%IKEV2-5-OSAL_INITIATE_TUNNEL: Received request to establish an IPsec tunnel; local
traffic selector = Address Range: 209.165.200.226-209.165.200.226 Protocol: 1 Port Range:
0-65535; remote traffic selector = Address Range: 209.165.200.230-209.165.200.230
Protocol: 1 Port Range: 0-65535
%IKEV2-5-SA_UP: SA UP
.!!!!
Success rate is 80 percent (4/5), round-trip min/avg/max = 8/11/12 ms

```

セッションの詳細を表示するには、応答側の CLI に次の **show** コマンドを入力します。

```

show crypto session
Crypto session current status
Interface: Ethernet0/0
Session status: UP-ACTIVE
Peer: 1.1.1.1 port 500

```

## 例：暗号マップ ベースおよび dVTI ベースの IKEv2 ピアの設定

```

IKEv2 SA: local 209.165.200.231/500 remote 209.165.200.227/500 Active
IPSEC FLOW: permit ip 0.0.0.0/0.0.0.0 host 209.165.200.226
  Active SAs: 2, origin: dynamic crypto map
show crypto ikev2 sa detailed
Tunnel-id Local Remote fvrfl/ivrf Status
1 209.165.200.231/500 209.165.200.227/500 (none)/(none) READY
Encr: AES-CBC, Keysize: 128, Hash: SHA96, DH Grp:14, Auth sign: RSA, Auth verify:
RSA
Life/Active Time: 86400/846 sec
CE id: 1001, Session-id: 1
Status Description: Negotiation done
Local spi: F79756E978ED41C7 Remote spi: 188FB9A119516D34
Local id: hostname=RESPONDER
Remote id: hostname=INITIATOR
Local req msg id: 0 Remote req msg id: 2
Local next msg id: 0 Remote next msg id: 2
Local req queued: 0 Remote req queued: 2
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
NAT-T is not detected

```

## 例：暗号マップ ベースおよび dVTI ベースの IKEv2 ピアの設定

次の例は、スタティック クリプト マップ IKEv2 発信側と dVTI に基づく IKEv2 応答側との間に事前共有キー認証方式を使用し、クリプトマップと dVTI ベースの IKEv2 ピアを設定する方法を示します。発信側の設定は次のとおりです。

```

crypto ikev2 proposal prop-1
 encryption aes-cbc-128
 integrity sha1
 group 14
!
crypto ikev2 policy pol-1
 match fvrfl any
 proposal prop-1
!
crypto ikev2 keyring v2-kr1
 peer abc
 address 0.0.0.0 0.0.0.0
 pre-shared-key abc
!
!
crypto ikev2 profile prof
 match fvrfl any
 match identity remote address 0.0.0.0
 authentication local pre-share
 authentication remote pre-share
 keyring v2-kr1
!
crypto ipsec transform-set trans esp-aes-cbc-128 esp-sha-hmac
!
crypto map cmap 1 ipsec-isakmp
 set peer 206.165.200.235
 set transform-set trans
 set ikev2-profile prof
 match address ikev2list

```

```
!  
interface Loopback0  
 ip address 206.165.200.226 255.255.255.224  
!  
interface Ethernet0/0  
 ip address 206.165.200.227 255.255.255.224  
 crypto map cmap  
!  
ip route 206.165.200.229 255.255.255.224 206.165.200.235  
!  
ip access-list extended ikev2list  
 permit ip host 206.165.200.227 host 206.165.200.235  
 permit ip 206.165.200.233 255.255.255.224 206.165.200.229 255.255.255.224
```

応答側の設定は次のとおりです。

```
crypto ikev2 proposal prop-1  
 encryption aes-cbc-128  
 integrity sha1  
 group 14  
!  
crypto ikev2 policy pol-1  
 match fvrf any  
 proposal prop-1  
!  
crypto ikev2 keyring v2-kr1  
 peer cisco  
 address 0.0.0.0 0.0.0.0  
 pre-shared-key cisco  
!  
!  
crypto ikev2 profile prof  
 match fvrf any  
 match identity remote address 0.0.0.0  
 authentication local pre-share  
 authentication remote pre-share  
 keyring v2-kr1  
 virtual-template 1  
!  
crypto ipsec transform-set set esp-aes-cbc-128 esp-sha-hmac  
!  
crypto ipsec profile vi  
 set transform-set set  
 set ikev2-profile prof  
!  
interface Loopback0  
 ip address 206.165.200.230 255.255.255.224  
!  
interface Ethernet0/0  
 ip address 206.165.200.235 255.255.255.224  
!  
interface Virtual-Templat1 type tunnel  
 ip unnumbered Ethernet0/0  
 ip mtu 1000  
 tunnel source Ethernet0/0  
 tunnel mode ipsec ipv4  
 tunnel protection ipsec profile vi  
!
```

発信側と応答側との接続を開始するには、発信側の CLI で次のコマンドを入力します。

```
ping 206.165.200.230 source 206.165.200.226
```

## 例 : sVTI ベース IKEv2 ピアを使用した IPSec の設定

```
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 206.165.200.230, timeout is 2 seconds:
Packet sent with a source address of 206.165.200.226
%IKEV2-5-OSAL_INITIATE_TUNNEL: Received request to establish an IPsec tunnel; local
traffic selector = Address Range: 206.165.200.226-206.165.200.226 Protocol: 1 Port Range:
0-65535; remote traffic selector = Address Range: 206.165.200.230-206.165.200.230
Protocol: 1 Port Range: 0-65535
%IKEV2-5-SA_UP: SA UP
.!!!!
Success rate is 80 percent (4/5), round-trip min/avg/max = 8/11/12 ms
```

次の **show** コマンドを Easy VPN サーバーに入力すると、セッションの詳細が表示されます。

```
show crypto session
Crypto session current status
Interface: Virtual-Access2
Session status: UP-ACTIVE
Peer: 206.165.200.227 port 500
IKEv2 SA: local 206.165.200.235/500 remote 206.165.200.227/500 Active
IPSEC FLOW: permit ip 206.165.200.229/255.255.255.224 206.165.200.233/255.255.255.224
Active SAs: 2, origin: crypto map

show crypto ikev2 sa detail
Tunnel-id Local Remote fvrf/ivrf Status
1 206.165.200.235/500 206.165.200.227/500 (none)/(none) READY
Encr: AES-CBC, Keysize: 128, Hash: SHA96, DH Grp: 14, Auth sign: PSK, Auth verify:
PSK
Life/Active Time: 86400/8 sec
CE id: 1001, Session-id: 1
Status Description: Negotiation done
Local spi: 305F610F57428834 Remote spi: D9D183B5689AEDCD
Local id: 206.165.200.235
Remote id: 206.165.200.227
Local req msg id: 0 Remote req msg id: 2
Local next msg id: 0 Remote next msg id: 2
Local req queued: 0 Remote req queued: 2
Local window: 5 Remote window: 5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
NAT-T is not detected

show crypto route
VPN Routing Table: Shows RRI and VTI created routes
Codes: RRI - Reverse-Route, VTI- Virtual Tunnel Interface
S - Static Map ACLs
Routes created in table GLOBAL DEFAULT
206.165.200.233/255.255.255.224 [1/0] via 206.165.200.227 tag 0
on Virtual-Access2 RRI
```

## 例 : sVTI ベース IKEv2 ピアを使用した IPSec の設定

次の例は、sVTI IKEv2 発信側と sVTI IKEv2 応答側との間に事前共有キー認証方式を使用する IPsec の設定方法を示します。発信側の設定は次のとおりです。

```
crypto ikev2 proposal prop-1
encryption aes-cbc-128
integrity sha1
group 14
!
crypto ikev2 policy pol-1
match fvrf any
proposal prop-1
```

```
!  
crypto ikev2 keyring v2-kr1  
peer abc  
address 209.165.200.225  
pre-shared-key abc  
!  
!  
crypto ikev2 profile prof  
match fvrf any  
match identity remote address 209.165.200.231 255.255.255.224  
authentication local pre-share  
authentication remote pre-share  
keyring v2-kr1  
!  
!  
crypto ipsec transform-set trans esp-aes-cbc-128 esp-sha-hmac  
!  
crypto ipsec profile ipsecprof  
set transform-set trans  
set ikev2-profile prof  
!  
interface Loopback0  
ip address 209.165.200.226 255.255.255.224  
!  
interface Tunnel0  
ip address 10.0.0.1 255.255.255.0  
tunnel source 209.165.200.231  
tunnel mode ipsec ipv4  
tunnel destination 209.165.200.225  
tunnel protection ipsec profile ipsecprof  
!  
interface Ethernet0/0  
ip address 209.165.200.231 255.255.255.224  
!  
ip route 209.165.200.229 255.255.255.224 Tunnel0  
!
```

応答側の設定は次のとおりです。

```
crypto ikev2 proposal prop-1  
encryption aes-cbc-128  
integrity sha1  
group 14  
!  
crypto ikev2 policy pol-1  
match fvrf any  
proposal prop-1  
!  
crypto ikev2 keyring v2-kr1  
peer abc  
address 209.165.200.231  
pre-shared-key abc  
!  
!  
crypto ikev2 profile prof  
match fvrf any  
match identity remote address 209.165.200.231 255.255.255.224  
authentication local pre-share  
authentication remote pre-share  
keyring v2-kr1  
!  
!
```

## 例：sVTI ベース IKEv2 ピアを使用した IPsec の設定

```

crypto ipsec transform-set trans esp-aes-cbc-128 esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile ipsecprof
 set transform-set trans
 set ikev2-profile prof
!
crypto map cmap 1 ipsec-isakmp dynamic dmap
!
interface Loopback0
 ip address 209.165.200.230 255.255.255.224
!
interface Tunnel0
 ip address 10.0.0.2 255.255.255.0
 tunnel source 209.165.200.225
 tunnel mode ipsec ipv4
 tunnel destination 209.165.200.231
 tunnel protection ipsec profile ipsecprof
!
interface Ethernet0/0
 ip address 209.165.200.231 255.255.255.224
!
ip route 209.165.200.233 255.255.255.224 Tunnel0

```

IKEv2 ピアの sVTI では、セッションは sVTI インターフェイスが有効なときにだけ開始されま  
す。つまり、セッションの開始のためにネットワークトラフィックは必要ありません。発信側  
と応答側との間のトラフィックを確認するには、発信側の CLI で次のコマンドを入力します。

```

ping 209.165.200.230 source 209.165.200.226
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 209.165.200.230, timeout is 2 seconds:
Packet sent with a source address of 209.165.200.226
%IKEV2-5-OSAL_INITIATE_TUNNEL: Received request to establish an IPsec tunnel; local
traffic selector = Address Range: 209.165.200.226-209.165.200.226 Protocol: 1 Port Range:
0-65535; remote traffic selector = Address Range: 209.165.200.230-209.165.200.23 Protocol:
1 Port Range: 0-65535
%IKEV2-5-SA_UP: SA UP
.!!!!
Success rate is 80 percent (4/5), round-trip min/avg/max = 8/11/12 ms

```

次の **show** コマンドを発信側の CLI に入力すると、セッションの詳細が表示されます。

```

show crypto session
Crypto session current status
Interface: Ethernet0/0
Session status: UP-ACTIVE
Peer: 209.165.200.225 port 500
IKEv2 SA: local 209.165.200.231/500 remote 209.165.200.225/500 Active
IPSEC FLOW: permit ip 0.0.0.0/0.0.0.0 0.0.0.0/0.0.0.0
Active SAs: 2, origin: crypto map
show crypto ikev2 sa detailed
Tunnel-id Local Remote fvr/ivrf Status
1 209.165.200.231/500 209.165.200.225/500 (none)/(none) READY
Encr: AES-CBC, Keysize: 128, Hash: SHA96, DH Grp: 14, Auth sign: PSK, Auth verify:
PSK
Life/Active Time: 86400/21 sec
CE id: 1002, Session-id: 2
Status Description: Negotiation done
Local spi: 687752902752A6FD Remote spi: C9DCCFC65493D14F
Local id: smap-initiator
Remote id: dmap-responder
Local req msg id: 2 Remote req msg id: 0
Local next msg id: 2 Remote next msg id: 0

```



```
Local req queued: 2           Remote req queued: 0
Local window:      5           Remote window:      5
DPD configured for 0 seconds, retry 0
NAT-T is not detected
```

## 例 : DMVPN ネットワークでの IKEv2 の設定

DMVPN は、IKEv1 と IKEv2 の間で同一のトンネル保護 CLI を使用します。DMVPN トンネルに適用される IPSec プロファイルは、IKEv2 プロファイルのみを参照します。DMVPN ハブの設定は次のとおりです。

```
crypto ikev2 keyring cisco-ikev2-keyring
peer dmvpn-node
address 0.0.0.0 0.0.0.0
pre-shared-key cisco123
!
crypto ikev2 profile cisco-ikev2-profile
keyring cisco-ikev2-keyring
authentication local pre-share
authentication remote pre-share
match identity remote address 0.0.0.0 0.0.0.0
!
crypto ipsec profile cisco-ipsec-ikev2
set transform-set cisco-ts
set ikev2-profile cisco-ikev2-profile
!
interface Tunnel 0
ip address 1.1.1.99 255.255.255.0
no ip redirects
ip nhrp network-id 99
ip nhrp authentication CISCO
ip nhrp map multicast dynamic
ip nhrp redirect
no ip split-horizon eigrp 1
tunnel source Ethernet0/0
tunnel mode gre multipoint
tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec
!
interface Tunnell
ip address 2.2.2.99 255.255.255.0
no ip redirects
ip nhrp network-id 100
ip nhrp authentication CISCO
ip nhrp map multicast dynamic
no ip split-horizon eigrp 1
tunnel source Ethernet0/1
tunnel mode gre multipoint
tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec-ikev2
```

IKEv2 の設定は次のとおりです。

```
crypto ikev2 profile cisco-ikev2-profile
keyring cisco-ikev2-keyring
authentication pre-shared
match local address 0.0.0.0
crypto ipsec profile cisco-ipsec-ikev2
set transform-set cisco-ts
set ikev2-profile cisco-ikev2-profile
interface Tunnell
```

## 例: DMVPN ネットワークでの IKEv2 の設定

```
ip address 2.2.2.11 255.255.255.0
no ip redirects
ip nhrp map 2.2.2.99 22.22.22.99
ip nhrp map multicast 22.22.22.99
ip nhrp network-id 100 ? Keep this same for all IKEv2 spokes for clarity
ip nhrp nhs 2.2.2.99 ? This points to the hub's IKEv2 facing interface
tunnel source Ethernet0/1
tunnel mode gre multipoint
tunnel protection ipsec profile cisco-ipsec-ikev2
```



## 第 **XXII** 部

### **Cisco Group Encrypted Transport VPN**

- [Cisco Group Encrypted Transport VPN, on page 3261](#)
- [GET VPN GM の削除とポリシー トリガー, on page 3367](#)
- [GET VPN の GDOI MIB サポート, on page 3383](#)
- [GET VPN の復元力, on page 3399](#)
- [GETVPN 復元力 GM - エラー検出, on page 3411](#)
- [GETVPN CRL チェック, on page 3417](#)
- [スイート B での GET VPN のサポート, on page 3427](#)
- [Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポート, on page 3465](#)
- [GETVPN GDOI バイパス \(3481 ページ\)](#)
- [GETVPN G-IKEv2 \(3489 ページ\)](#)
- [8K GM スケールの改善 \(3505 ページ\)](#)
- [GET VPN 相互運用性, on page 3511](#)
- [GETVPN の Perfect Forward Secrecy, on page 3529](#)





## CHAPTER 219

# Cisco Group Encrypted Transport VPN

Cisco Group Encrypted Transport VPN (GET VPN) は、Cisco IOS デバイス上で発生する、または Cisco IOS デバイス を経由するプライベート WAN 上の IP マルチキャストトラフィックグループまたはユニキャストトラフィックの安全を守るために必要な一連の機能です。GET VPN では、キーイングプロトコルであるグループドメインオブインタープリテーション (GDOI) と、IP セキュリティ (IPsec) 暗号化が組み合わされており、ユーザは、IP マルチキャストトラフィックやユニキャストトラフィックをセキュリティ保護するための効果的な方式を利用できます。GET VPN では、ルータによって、トンネル化されていない（つまり「ネイティブな」）IP マルチキャストおよびユニキャストパケットに対して暗号化を適用できるので、マルチキャストおよびユニキャストトラフィックを保護するためにトンネルを設定する必要がありません。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。シスコの暗号化に関する最新の推奨事項の詳細は、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

ここでは、Cisco GET VPN の設定、確認、およびトラブルシューティングの方法を説明します。

Cisco Group Encrypted Transport VPN には、次のような利点があります。

- データセキュリティおよびトランスポート認証が利用可能で、すべての WAN トラフィックを暗号化することによって、セキュリティ適合性および内部規則を満たすことが可能。
- 大規模なネットワークメッシュが可能であり、グループ暗号キーを使用した、複雑なピアツーピアのキー管理が不要。
- マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) ネットワークの場合でも、ネットワークインテリジェンス（フルメッシュ接続、ナチュラルルーティングパス、Quality of Service (QoS) など）を維持。
- 一元化されたキー サーバを使用してメンバーシップを簡単に管理可能。
- 中央集中型ハブを介した転送が不要な、サイト間におけるフルタイムの直接通信を実現することによって遅延とジッタの低減が可能。

- マルチキャスト トラフィックの複製にコア ネットワークを使用し、個々のピア サイトごとにおけるパケットの複製を不要にすることによって、宅内装置（CPE）およびプロバイダー エッジ（PE）暗号化デバイスの負荷を削減。
- [Cisco Group Encrypted Transport VPN の前提条件, on page 3262](#)
- [Cisco Group Encrypted Transport VPN の制約事項, on page 3262](#)
- [Cisco Group Encrypted Transport VPN に関する情報, on page 3266](#)
- [Cisco Group Encrypted Transport VPN の設定方法, on page 3312](#)
- [Cisco Group Encrypted Transport VPN の設定例, on page 3350](#)
- [Cisco Group Encrypted Transport VPN の追加の制約事項, on page 3360](#)
- [Cisco Group Encrypted Transport VPN の機能情報, on page 3361](#)
- [用語集, on page 3364](#)

## Cisco Group Encrypted Transport VPN の前提条件

- Cisco IOS XE リリース 2.3 以降を使用している必要があります。
- IPsec およびインターネット キー交換（IKE）に関する知識が必要です。
- Cisco IOS XE グローバル ルータにおけるマルチキャストおよびユニキャスト ルーティングの設定方法を知っている必要があります。
- IKE ポリシーを設定する際、IKE ライフタイムを最小値の 5 分に設定する必要があります。その結果、不要なリソースが、IKE セキュリティ アソシエーション（SA）のメンテナンスで無駄に使用されなくなります。登録 IKE SA が確立したら、キー再生成 SA が作成済みとなり、将来のキー再生成を受け入れるために使用されるので、登録 SA を維持する必要はなくなります。
- グループのキー再生成のライフタイムが 300 秒に設定され、ポリシーの変更による強制的なキー再生成が実行されると、ネットワークの問題が発生する可能性があります。この問題を解決するには、グループのキー再生成（KEK）に関して次のいずれかが推奨されます。
  - ライフタイムを、transform-set で設定された TEK ライフタイムの 3 倍に設定します。
  - グループのキー再生成のライフタイムをデフォルト値の 24 時間（86,400 秒）に設定します。
  - キー再生成のライフタイムを 7,200 秒（2 時間）に設定します。

## Cisco Group Encrypted Transport VPN の制約事項

- プライマリキーサーバー（KS）の暗号化ポリシーからアクセス制御エントリが削除されると、グループメンバー（GM）でのインバウンドおよびアウトバウンド方向の IPsec パケットのドロップが観測されます。

- カウンタベースのアンチリプレイ用に高パケットレートを暗号化する場合、ライフタイムを長く設定し過ぎないようにしてください。長く設定し過ぎると、シーケンス番号のラップに数時間かかってしまう可能性があります。たとえば、パケットレートが毎秒100キロパケットである場合、ライフタイムは、SAがシーケンス番号のラップ前に使用されるように11.93時間より短く設定する必要があります。
- 仮想PPPインターフェイスを備えたCisco ASR 1000シリーズアグリゲーションルータは、GETVPNグループメンバーとして設定できません。
- Cisco IOS XE ソフトウェアでは、ネットワークにアクセスするユーザの包含ポート範囲を **permit** コマンドを使用して拡張ACLと照合することはできません。
- ユニキャストトラフィックおよびカウンタベースのアンチリプレイでは、グループメンバーの1つが停止してから復帰した場合、シーケンス番号がグループメンバー間で同期されていない状態になる可能性があります。たとえば、グループメンバー1からグループメンバー2へのトラフィックが存在し、最後のシーケンス番号が $n$ になる場合です。Group Member 1が停止してから復帰します。グループメンバー1におけるSAのシーケンス番号は現在1で始まっていますが、グループメンバー2では、前のシーケンス番号から連続する番号( $n+1$ )と予測しています。このような状況の結果、Group Member 1のシーケンス番号が $n$ になるか、次のキー再生成まで、Group Member 1からの後続のトラフィックは停止します。
- 転送モードトラフィックセレクタを設定する際、転送モードをSAにすることが可能です。パケットサイズがMTUを超え、パケットが転送できなくなると、SAが発生します。
- 転送モードは、Group Encrypted Transport VPN Mode (GM) からGMへのトラフィックだけに使用してください。
- カプセル化されたパケットのIPヘッダー内のdon't fragment bit (df-bit)設定を上書きする場合、グローバルコンフィギュレーションモードで上書きコマンドを設定する必要があります。GET VPNでは、インターフェイスコンフィギュレーションは受け入れられません。この制限事項は、GET VPNにだけ当てはまります。IPsecでは、グローバルコンフィギュレーション専用上書きコマンドおよびインターフェイス専用上書きコマンドの両方が受け入れられます。
- カウンタベースのアンチリプレイは推奨できません。カウンタベースのアンチリプレイは、1つのグループ内に2つのグループメンバーが存在している時にだけ動作します。
- GET VPN時間ベースのアンチリプレイ機能では、Cisco ASR 1000シリーズアグリゲーションサービスルータとCisco 4330サービス統合型ルータのEncapsulating Security Payload (ESP) 転送モードがサポートされていません。
- Path MTU Discovery (PMTUD) は、GET VPNに対しては動作しないので、df-bitが設定されており、中間リンクのMTUがカプセル化されたパケットのサイズより小さい場合に、カプセル化されたパケットが廃棄される可能性があります。このようなイベントが発生した場合、パケットを廃棄するルータによってパケット上の発信元IPアドレスに対して通知が送信され、df-bitの設定のためにルータによるパケットのフラグメント化ができなかったために、パケットが廃棄されたことが通知されます。GET VPNではヘッダー保存機能があるため、このメッセージはカプセル化を行うエンドポイントを経由しないで、直接

データの発信元に送信されます。そのため、カプセル化を行うルータは、カプセル化の後で df-bit を設定する前により小さいサイズにパケットをフラグメント化しなければならないと判断できません。パケット上の df-bit 設定は継続され、中間ルータにおいて、それらのパケットは引き続き廃棄されます（これはトラフィックの Null ルーティングと呼ばれます）。

- Cisco IOS XE リリース 3.5S 以前のリリースでは、Cisco IOS XE イメージを使用してキーサーバを設定することはできません。これらは Cisco IOS T ベースまたはメインラインベース イメージを使用して設定する必要があります。これは、Cisco IOS XE リリース 3.6S 以降のリリースの制約ではありません。
- 暗号化エンジンの最適化のために、時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) のオーバーヘッドは 12 バイトではなく 16 バイトです。
- GET VPN は、TBAR Cisco Metadata Protocol を使用して TBAR 情報を伝送します。Cisco IOS ソフトウェアは 12 バイトのヘッダーを使用し、Cisco IOS XE は 16 バイトのヘッダーを使用します。GETVPN グループメンバーで設定され、アンチリプレイに TBAR を使用する Cisco IOS XE ソフトウェアでは、IPsec トラフィックの有効な MTU (「クリアテキスト MTU」) が、Cisco IOS ソフトウェアによって設定されるグループメンバーよりも 4 バイト小さくなります。GETVPN グループメンバーを Cisco IOS ソフトウェアから Cisco IOS XE ソフトウェアに移行する場合、4 バイトの減少により、予期しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
- Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータの GET VPN 設定で正常なトラフィック フローを保証するため、Cisco IOS XE リリース 3.12S 以前のリリース、Cisco IOS XE リリース 3.14S および Cisco IOS XE リリース 3.15S では 20 秒を超える TBAR ウィンドウサイズが推奨されます。Cisco IOS XE リリース 3.13S、Cisco IOS XE リリース 3.16S 以降のリリースでは、20 秒以内の TBAR ウィンドウ サイズが許可されます。
- 暗号マップは、トンネルインターフェイスとポートチャネルインターフェイス上でサポートされません。ただし、ルールの例外として、GDOI の暗号マップはトンネルインターフェイスでサポートされます。
- 暗号マップは VLAN インターフェイスではサポートされません。
- Mediatrace で使用される RSVP は、「ルータアラート」 IP オプションフラグを設定しません。Cavium N2 暗号アクセラレータは、IP オプションの使用をサポートしていません。そのため、Mediatrace は、Cavium N2 を搭載した ASR1000 での IPsec 暗号化に失敗します。Mediatrace は、Cavium N2 を搭載した ASR1000 での GETVPN 暗号化 (ヘッダーが維持される IPsec) に失敗します。
- 拒否 (deny) ステートメントは、ローカルでのみ GM に追加できます。許可 (permit) ステートメントは、ローカルに設定されたポリシーではサポートされません。競合が発生した場合、ローカルポリシーは、KS からダウンロードされたポリシーを上書きします。
- Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータでは、再登録に失敗した場合、実際の ACE の代わりにダミーの ACE がプッシュされるため、QFP からのアウトバウンドフローは削除されません。その結果、SA が期限切れになると、GM は、トラフィックをローカルにドロップするのではなく、期限切れの SPI を使用してアウトバウンドトラフィック



クを暗号化しつづけます。無効なSPI メカニズムが原因で、トラフィックは、最終的に受信側 GM でドロップされます。

- キーサーバーで IPv6 アクセスリストを設定しているときは、**permit** コマンドまたは **deny** コマンドで **ahp** オプションを使用しないでください。
- GETVPN グループメンバーとして動作している Cisco IOS XE プラットフォームは、1つの GETVPN-ipv4 グループ メンバー インスタンスと 1つの GETVPN-ipv6 グループ メンバー インスタンスのみをサポートできます。
- GETVPN グループメンバーは、ポートチャネルインターフェイスでの GETVPN 暗号マップをサポートしません。

#### • SSO の制約事項

- Cisco ASR 1000 シリーズルータは、Embedded Services Processor (ESP) スイッチオーバーでステートフル IPsec セッションをサポートします。ESP スイッチオーバー中は、すべての IPsec セッションがアップ状態のままになるので、IPsec セッションを維持するためにユーザーの操作は必要ありません。
  - ESP をリロードした場合 (スタンバイ ESP なし)、SA シーケンス番号は 0 から再開されます。ピアルータは、予期されたシーケンス番号を持たないパケットをドロップします。単一の ESP を使用するシステムで ESP のリロード後にこの問題を回避するには、IPsec セッションを明示的に再確立することが必要になる場合があります。このような場合、リロード中に IPsec セッションでトラフィックの中断が発生することがあります。
  - Cisco ASR 1000 シリーズルータは、現在、ルートプロセッサ (RP) でのステートフル スイッチオーバー (SSO) の IPsec セッションをサポートしていません。IPsec セッションはスイッチオーバーの開始時にダウンしますが、新しい RP がアクティブになるとアップ状態に戻ります。ユーザーの操作は必要ありません。セッションがアップ状態に戻るまでの間、スイッチオーバー中に IPsec セッションでトラフィックの中断が発生することがあります。
  - Cisco ASR 1000 シリーズルータは、IPsec セッションのステートフル ISSU をサポートしていません。ISSU を実行する前に、既存のすべての IPsec セッションまたはトンネルを明示的に終了し、ISSU の実行後に再確立する必要があります。具体的には、ISSU を実行する前に、ハーフオープンまたは確立途中の IPsec トンネルが存在しないことを確認します。これを行うには、トンネルセットアップを開始する可能性のあるインターフェイス (トンネルセットアップを開始するルーティングプロトコルなど)、キープアライブが有効になっているインターフェイス、または IPsec セッションの自動トリガーが存在するインターフェイスの場合は、インターフェイスをシャットダウンすることをお勧めします。この場合、ISSU の実行中に IPsec セッションでトラフィックの中断が発生します。
- #### • インターフェイス設定に関する制約事項
- IOS-XE ではインターフェイスごとに許可される IPv4 GETVPN グループは 1 つだけです。
  - 競合を回避し、GETVPN の効率的な動作を確保するために、同じインターフェイス上で 1 つの IPv4 GETVPN グループおよび 1 つの IPv6 GETVPN グループのみを設定することをお勧めします。

- サポートされない設定に関する制約事項
- 1つの暗号マップにおける複数の GETVPN グループは、IOS-XE ではサポートされません。このような設定を実装すると、予期しない動作が発生する可能性があるため、推奨されません。
- ベストプラクティスとして、暗号マップ内で単一の GETVPN グループを設定して、最適な機能を確保し、設定の問題を回避することをお勧めします。

## Cisco Group Encrypted Transport VPN に関する情報

### Cisco Group Encrypted Transport VPN の概要

音声やビデオなどのネットワークを利用するアプリケーションによって、即時に通信可能で各ブランチが相互接続された、QoS 対応 WAN の必要性が増しています。これらのアプリケーションは分散して配置されるため、スケーラビリティに対する要求も高まります。同時に、企業の WAN テクノロジーにおいては、QoS 対応ブランチ間相互接続と転送のセキュリティとの間でトレードオフが発生します。ネットワークセキュリティのリスクが増大し、適合認定が重要になりつつある中、次世代の WAN 暗号化テクノロジーである GETVPN を利用すれば、ネットワークのインテリジェント化とデータプライバシーとの間で折り合いをつける必要性を低下させることができます。

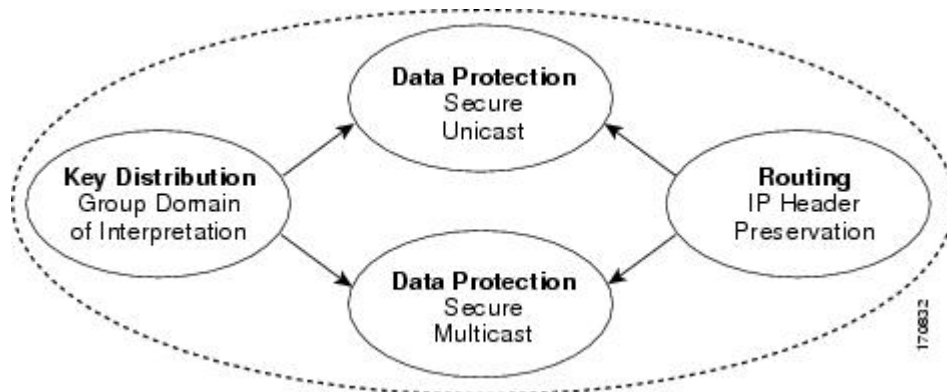
シスコでは、GET の導入に伴い、トンネルレス VPN を提供しており、これによりトンネルが不要になります。ポイントツーポイント トンネルの必要性をなくすことで、メッシュ ネットワークを大規模化すると同時に、音声やビデオの品質にとって重要なネットワークインテリジェンス機能を維持することが可能となっています。GET では、「信頼できる」グループメンバーというコンセプトを基にした、各種の標準規格に準拠したセキュリティモデルが用意されています。信頼できるメンバーのルータでは、ポイントツーポイント IPsec トンネル関係とは独立した共通のセキュリティ方式が使用されます。ポイントツーポイントトンネルではなく信頼できるグループを使用することによって、「any-any」ネットワークを大規模化すると同時に、音声やビデオの品質にとって重要なネットワークインテリジェンス機能（QoS、ルーティング、マルチキャストなど）を維持することが可能となっています。

GET ベースのネットワークは、IP や MPLS などを含む、さまざまな WAN 環境で使用できます。この暗号化テクノロジーを使用する MPLS VPN はスケーラビリティ、管理性、コストに優れており、政府によって義務付けられている暗号化要件が満たされます。GET は柔軟であるため、セキュリティを必要とする企業では、サービスプロバイダー WAN サービスにおいて独自のネットワークセキュリティを管理することも、暗号化サービスをプロバイダーに委託することもできます。GET によって、部分メッシュ接続または完全メッシュ接続を必要とする大規模なレイヤ 2 または MPLS ネットワークの保護が簡易化されます。

## Cisco Group Encrypted Transport VPN のアーキテクチャ

GET VPN は、マルチキャストキー再生、「ネイティブの」マルチキャストパケットの暗号化を可能にする手段、およびプライベート WAN を介したユニキャストキー再生を網羅するソリューションです。マルチキャストキー再生と GET VPN は、インターネット技術特別調査委員会 (IETF) の RFC 3547 で定義されている GDOI を基盤としています。また、ヘッダー保存および SA 検索の領域においては、IPsec と各種の共通点が存在します。IPsec SA の動的配信が追加され、IPsec のトンネルが重複する特性が削除されています。次の図に、GET VPN の各概念と、概念間の関係を示します。

Figure 115: GET VPN の概念と関係



### キー配布グループ ドメイン オブ インタープリテーション (GDOI)

#### GDOI

GDOI は、グループキー管理のための、Internet Security Association Key Management Protocol (ISAKMP) ドメインオブインタープリテーション (DOI) として定義されています。グループ管理モデルでは、GDOI プロトコルが、グループメンバーと、グループコントローラまたはキーサーバ (GCKS) との間で動作し、その結果、認証されているグループメンバー間での SA が確立されます。ISAKMP では、ネゴシエーションの 2 つのフェーズが定義されています。GDOI は、フェーズ 1 の ISAKMP セキュリティアソシエーションによって保護されます。フェーズ 2 の交換は、RFC 6407 によって定義されています。次の図に示したトポロジとそれに関する説明は、このプロトコルのしくみを説明したものです。

#### グループメンバー

グループメンバーは、グループと通信するために必要な IPsec SA または SA を取得するためのキーサーバに登録します。グループメンバーによって、そのグループの個別のポリシーおよびキーを取得するためのキーサーバにグループ ID が提供されます。これらのキーは、現在の IPsec SA が期限切れになる前に、定期的に更新されます。その結果、トラフィックのロスがなくなります。

`show crypto isakmp sa detail` コマンドの出力では、GET VPN のキー暗号化キー (KEK) キー再生成認証に RSA 署名が使用されるため、セキュリティアソシエーション (SA) 認証を「rsig」として表示します。

## キーサーバ

キーサーバの役割には、ポリシーの維持や、グループのキーの作成および維持などがあります。グループメンバーが登録されると、キーサーバによってこのポリシーおよびキーが、グループメンバーに対してダウンロードされます。また、キーサーバは、既存のキーの期限が切れる前にグループに対してキーの再生成を実行します。



**Note** Cisco IOS XE リリース 3.5S 以前のリリースでは、キーサーバは Cisco ASR 1000 シリーズルータではサポートされていません。これらは Cisco IOST ベースまたはメインラインベースイメージを使用して設定する必要があります。これは、Cisco IOS XE リリース 3.6S 以降のリリースの制限ではありません。

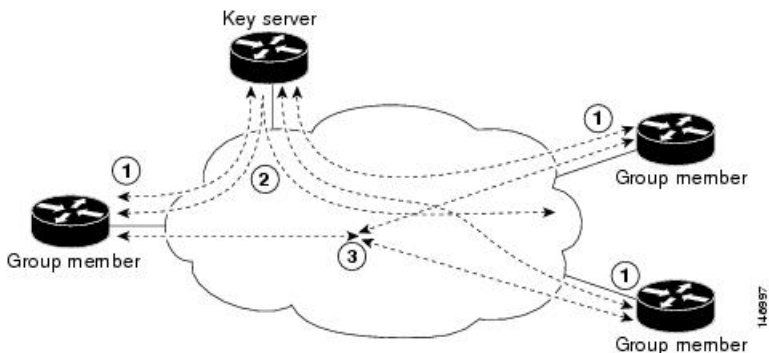
キーサーバには、登録要求の処理およびキーの再生成の送信という2つの機能があります。グループメンバーはいつでも登録可能で、最新のポリシーおよびキーを受信できます。グループメンバーがキーサーバに登録する場合、キーサーバによって、グループメンバーが参加を試みているグループ ID が確認されます。この ID が有効なグループ ID だった場合、キーサーバによって、SA ポリシーがグループメンバーに対して送信されます。ダウンロードされたポリシーを処理できることがグループメンバーによって確認されると、キーサーバから各キーがダウンロードされます。

キーサーバからダウンロードされるキーには、キー暗号キー (KEK) とトラフィック暗号キー (TEK) の2種類があります。TEK は、同じグループ内のグループメンバーどうしの通信で使用される IPsec SA になります。KEK は、キー再生成メッセージを暗号化します。

IPsec SA の期限切れが近づいた場合、またはキーサーバ上のポリシーが変更 (コマンドラインインターフェイス [CLI] を使用) された場合、GDOI サーバによってキー再生成メッセージが送信されます。CSCti89255 では、KEK タイマーが期限切れになる前に KEK のキー再生成が行われます。グループメンバーもタイマーを開始し、タイマーの期限が切れる前に更新されたキーを受け取ることを期待します。これらを受け取らない場合、グループメンバーは KEK の期限切れの前にジッタが生じた再登録を開始します。KEK ライフタイムが期限切れになると、KEK は削除されます。

パケット損失に備えて、キー再生成メッセージが定期的に送信される場合もあります。パケット損失が発生する原因としては、信頼できる転送を使用することなくキー再生成メッセージが送信されることなどが考えられます。キーの再生成メカニズムがマルチキャストである場合は、受信者がキーの再生成メッセージを受信できなかったことを示す有効なフィードバックメカニズムがないため、定期的に再送信することによってすべての受信者が最新の情報を受信できるようにします。キー再生成メカニズムがユニキャストである場合、受信元によって確認応答メッセージが送信されます。

Figure 116: グループメンバーがグループに参加するうえで必要なプロトコルフロー



上記のトポロジは、次のようにグループメンバーがグループに参加するうえで必要なプロトコルフローを示しています。

1. グループメンバーがキーサーバに登録されます。キーサーバによってグループメンバーが認証および許可され、グループメンバーが IP マルチキャストパケットを暗号化および復号化するうえで必要な IPsec ポリシーおよびキーがダウンロードされます。
2. 必要に応じて、キーサーバからグループメンバーに対してキーの再生成メッセージが「プッシュ」されます。キー再生成メッセージには、古い IPsec SA の期限が切れた際に使用される新しい IPsec ポリシーおよびキーが格納されています。常に有効なグループキーが使用できるように、キーの再生成メッセージは SA の期限が切れる前に送信されます。
3. 各グループメンバーは、キーサーバによって認証を受けてから、キーサーバから受信した IPsec SA を使用して、同じグループ内の他の認証済みグループメンバーと通信します。

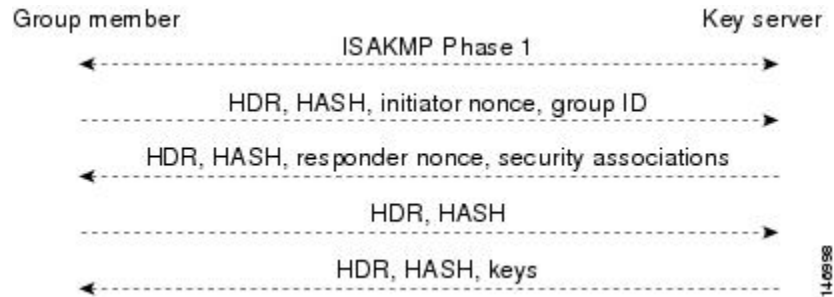
### Cisco ソフトウェアでのプロトコルメッセージの動作

マルチキャストキー再生では、グループのポリシーおよびキーを配信するために GDOI プロトコル (RFC 6407) が使用されます。GDOI プロトコルは、キーサーバとグループメンバーの間で使用されます。キーサーバによってポリシーとキーが作成および維持され、さらに、認証された各グループメンバーにダウンロードされます。

GDOI プロトコルは、ISAKMP フェーズ 1 交換によって保護されます。GDOI キーサーバと GDOI グループメンバーの ISAKMP ポリシーは同じである必要があります。このフェーズ 1 ISAKMP ポリシーは、そのポリシーに従う GDOI プロトコルを保護できる程度に強力なものである必要があります。GDOI プロトコルは、フェーズ 1 ISAKMP ポリシーに従う 4 メッセージ交換です。フェーズ 1 ISAKMP 交換は、メインモードまたはアグレッシブモードで発生する可能性があります。

次の図は、ISAKMP フェーズ 1 交換を示しています。

Figure 117: ISAKMP フェーズ 1 交換と GDOI 登録



上記メッセージ（ISAKMP フェーズ 1 メッセージと 4 つの GDOI プロトコル メッセージ）を GDOI 登録と呼びます。上に示した交換全体は、グループメンバーとキーサーバ間のユニキャスト交換です。

キー再生成メカニズムがマルチキャストである場合、登録中、グループメンバーによってマルチキャストグループのアドレスが受信され、そのグループメンバーが、マルチキャストキー再生成を受信するうえで必要なマルチキャストグループに登録されます。

GDOI プロトコルでは、ユーザデータグラム プロトコル (UDP) ポート 848 が使用されます (Network Address Translation-Traversal (NAT-T) が使用されている場合、ポートは 4500 まで変化します)。

## IPsec

IPsec は、IP レイヤのトラフィックのための各種セキュリティ サービスを提供するためのアーキテクチャが定義された、よく知られた RFC です。IETF RFC 2401 には、各種コンポーネントおよびそれらがどのように互いに組み合されて IP 環境を形成しているかが記述されています。

### IPsec SA を更新するためのキーサーバとグループメンバー間の通信フロー

キーサーバとグループメンバーは、GET VPN アーキテクチャを構成する 2 つのコンポーネントです。キーサーバには、グループ認証キーと IPsec SA が保存され、グループメンバーに対して提供されます。

グループメンバーでは、対象となるトラフィック（暗号化するに値し、IPsec によってセキュリティ保護されるトラフィック）に対して暗号化サービスが提供されます。

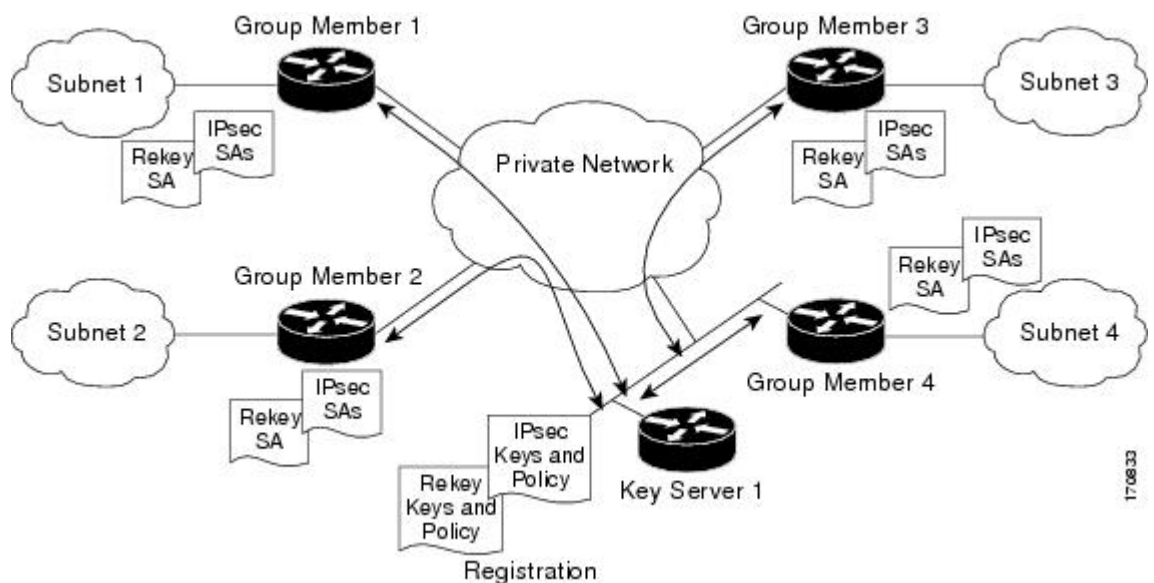
キーサーバとグループメンバー間における通信は暗号化およびセキュリティ保護されます。GDOI には、TEK と KEK という 2 つのキーがサポートされています。TEK は、キーサーバからすべてのグループメンバーにダウンロードされます。ダウンロードされた TEK は、グループメンバー間で安全に通信するためにすべてのグループメンバーで使用されます。このキーは、実質的には、すべてのグループメンバーによって共有されるグループキーとなります。グループポリシーおよび IPsec SA は、グループメンバーへの定期的なキーの再生成メッセージを使用して、キーサーバによってリフレッシュされます。KEK もキーサーバによってダウンロードされ、グループメンバーによって、キーサーバから受信するキーの再生成メッセージの復号化に使用されます。

キーサーバによって、GDOI グループのグループポリシーと IPsec SA が生成されます。キーサーバによって生成される情報には、複数の TEK 属性、トラフィック暗号化ポリシー、ライ

フタイム、送信元と宛先、各 TEK に関連付けられるセキュリティ パラメータ インデックス (SPI) ID、キーの再生成ポリシー (1 つの KEK) などがあります。

次の図に、グループ メンバーおよびキー サーバ間の通信フローを示します。キー サーバは、グループ メンバーからの登録メッセージを受信したあと、グループ ポリシーと新しい IPsec SA を含む情報を生成します。次に、新しい IPsec SA がグループ メンバーにダウンロードされます。キー サーバでは、グループごとに、各グループ メンバーの IP アドレスを含むテーブルが保持されます。グループ メンバーが登録されると、キー サーバはメンバーの IP アドレスを関連するグループのテーブルに追加します。これにより、キーサーバは、アクティブなグループ メンバーをモニタできるようになります。1 つのキーサーバで複数のグループをサポートできます。また、1 つのグループ メンバーは、複数のグループに属することができます。

Figure 118: グループ メンバーおよびキー サーバ間の通信フロー



17.08.33

## IPsec と ISAKMP タイマー

IPsec と ISAKMP SA は、次のタイマーによって維持されます。

- **TEK ライフタイム** : IPsec SA のライフタイムを決定します。TEK ライフタイムが終了する前に、キー サーバによってキー再生成メッセージが送信されます。このメッセージには、新しい TEK 暗号キーと変換、および既存の KEK 暗号キーと変換が格納されています。TEK ライフタイムはキーサーバ上でだけ設定します。ライフタイムは、GDOI プロトコルによって各グループ メンバーに対して「プッシュダウン」されます。TEK ライフタイムの値はネットワークのセキュリティ ポリシーによって異なります。**set security-association lifetime** コマンドが設定されていない場合、デフォルト値である 86,400 秒が有効になります。TEK ライフタイムを設定するには、「IPsec ライフタイムタイマーの設定」セクションを参照してください。
- **KEK ライフタイム** : GET VPN キー再生成 SA のライフタイムを決定します。ライフタイムが終了する前に、キーサーバによってキー再生成メッセージが送信されます。このメッセージには、新しい KEK 暗号キーと変換、および新しい TEK 暗号キーと変換が格納され

ています。TEK ライフタイムはキー サーバ上でだけ設定します。ライフタイムは、GDOI プロトコルによって各グループメンバーに対して動的にプッシュダウンされます。KEK ライフタイム値は、TEK ライフタイム値よりも大きい必要があります (KEK ライフタイム値は、TEK ライフタイム値の少なくとも 3 倍以上にすることが推奨されます)。 **rekey lifetime** コマンドが設定されていない場合、デフォルト値である 86,400 秒が有効になります。KEK ライフタイムを設定するには、「マルチキャスト キー再生成の設定」セクションを参照してください。

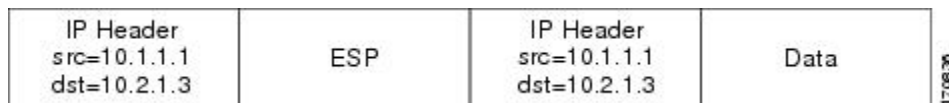
- **ISAKMP SA ライフタイム** : ISAKMP SA が期限切れになる前にどれだけの期間存在するべきかを定義します。ISAKMP SA ライフタイムは、グループメンバーおよびキーサーバ上で設定します。グループメンバーとキーサーバに連携可能なキーサーバがない場合、グループメンバーの登録が終了しても ISAKMP SA は使用されません。このような (連携可能なキーサーバがない) 場合、ISAKMP SA のライフタイムを短く設定できます (最小 60 秒)。連携可能なキーサーバが存在する場合は、連携可能なキーサーバの通信中に ISAKMP SA を「アップ」の状態に保つため、すべてのキーサーバのライフタイムを長く設定する必要があります。 **lifetime** コマンドが設定されていない場合、デフォルト値である 86,400 秒が有効になります。ISAKMP SA ライフタイムを設定するには、「ISAKMP ライフタイムタイマーの設定」セクションを参照してください。

## アドレス保存

ここでは、GET VPN でのアドレス保存について説明します。

以下の図に示すように、IPsec で保護されたデータ パケットでは、外側の IP ヘッダーで元の送信元と宛先が伝送されます。トンネルエンドポイントのアドレスには置換されません。この技術は、IPsec Tunnel Mode with Address Preservation と呼ばれています。

Figure 119: ヘッダー保存



GET VPN では、アドレスが維持されるため、コア ネットワーク内のルーティング機能を使用できます。アドレスの維持によって、ネットワーク内の、宛先アドレスへのルートを実体化する任意のカスタマー エッジ (CE) デバイスにパケットを配送するルーティングが可能となります。グループのポリシーに一致するすべての送信元および宛先は、同様に処理されます。アドレスの維持は、IPsec ピア間のリンクが利用できない状況では、トラフィックの「ルート不在」状況に対処するのに役立ちます。

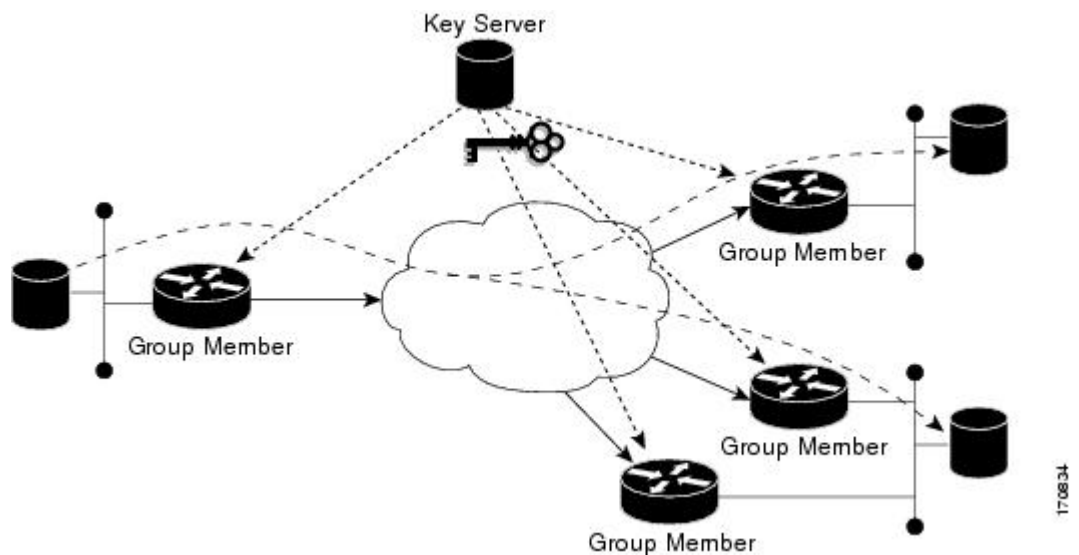
また、ヘッダーが維持されることによって、企業のアドレス空間全体および WAN においてルーティングの継続性が維持されます。その結果、キャンパスのエンドホストアドレスは WAN に公開されます (MPLS では、これは WAN のエッジに適用されます)。このため、GET VPN は、WAN ネットワークが「プライベート」ネットワークとして動作する場合にだけ適用できます (MPLS ネットワークなど)。



## セキュア データ プレーン マルチキャスト

マルチキャストの送信元では、キー サーバから取得される TEK が使用され、ヘッダーが保存されたマルチキャストデータ パケットが、スイッチングされる前に暗号化されます。マルチキャストパケットのレプリケーションが、マルチキャストパケット内に保持されている (S,G) ステートに基づいてコア内で実行されます。次の図に、このプロセスを示します。

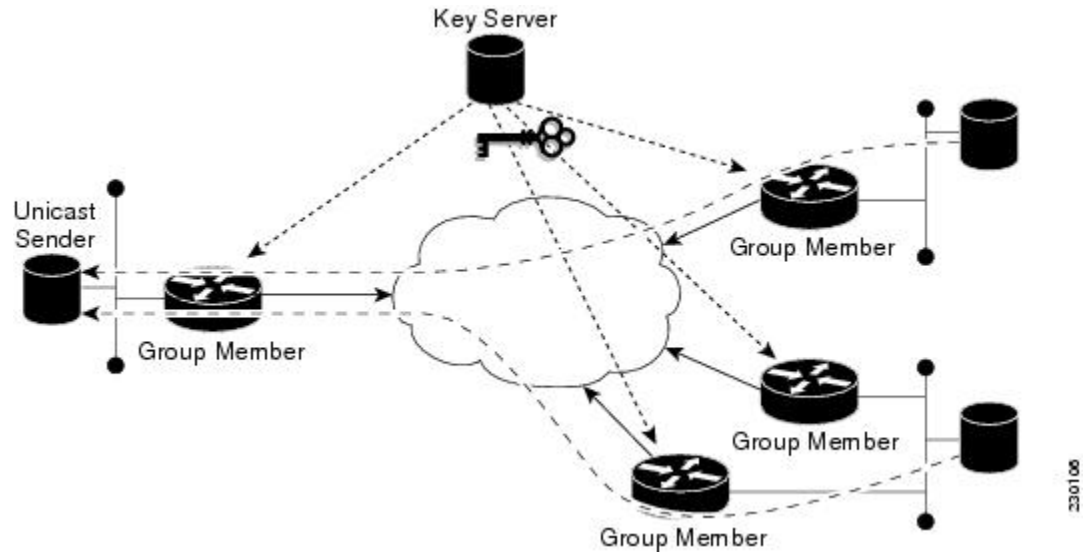
Figure 120: セキュア データ プレーン マルチキャスト プロセス



## セキュア データ プレーン ユニキャスト

ユニキャストの送信元では、キー サーバから取得される TEK が使用され、ヘッダーが保存されたユニキャストデータ パケットが、宛先にスイッチングされる前に暗号化されます。次の図に、このプロセスを示します。

Figure 121: セキュア データ プレーンユニキャスト プロセス



## Cisco Group Encrypted Transport VPN の機能

### キー再生成

キー再生成は IPsec SA を更新するために使用されます。IPsec SA またはキー再生成 SA の期限切れが近づくと、特定のグループの単一のキー再生成メッセージがキーサーバ上で生成されます。キー再生成の配信のために新しいIKEセッションが生成されることはありません。キー再生成メッセージは、キーサーバによって、既存のIKE SA を介して配信されます。

キー再生成では、マルチキャストメッセージまたはユニキャストメッセージを使用できます。GET VPN では、ユニキャストキー再生成とマルチキャストキー再生成の両方がサポートされています。

CSCti89255 では、KEK タイマーが期限切れになる前に KEK のキー再生成が行われます。グループメンバーもタイマーを開始し、タイマーの期限が切れる前に更新されたキーを受け取ることを期待します。これらを受け取らない場合、グループメンバーは KEK の期限切れの前にジッタが生じた再登録を開始します。KEK ライフタイムが期限切れになると、KEK は削除されます。これにより以下が確保されます。

- より安全な KEK の有効期限確認メカニズム
- より安全な KEK の再登録メカニズム
- 設定されたライフタイムを超える KEK の使用の回避

次のサブセクションではキー再生成の詳細情報を提供します。

## キー再生成のシーケンス番号

TEK/KEK ライフタイムが終了する前に、KS は、シーケンス番号を 1 つ増やしたキー再生成メッセージを送信します。ただし、最後のキー再生成メッセージの送信以降にセカンダリ KS がプライマリ KS になった場合、新しいプライマリ KS は、キー再生成メッセージのシーケンス番号を 10 ずつ増やします。

プライマリ KS とセカンダリ KS は、20 秒ごとにシーケンス番号を同期します。

次の例は、プライマリ KS (KS1) とセカンダリ KS (KS2) で構成される展開においてキー再生成メッセージのシーケンス番号がどのように変化するかを示しています。この例では、シーケンス番号の初期値が 1 であると想定されています。

また、展開に多数の GM があることと、KS がキー再生成メッセージの配信を再試行する必要がある場合があることも想定されています。シーケンス番号は、再試行ごとに 1 ずつ増加します。

1. キー再生成メッセージを送信する時間になると、KS1 はシーケンス番号を 2 に増やします。
2. すべての GM がメッセージを受信するように、KS1 がキー再生成メッセージを 3 回再送信するとします。再試行ごとに、シーケンス番号が 1 ずつ増加します。そのため、このキー再生成が終わったときのシーケンス番号の値は 5 です。
3. 次のキー再生成メッセージを送信する時間になると、KS1 がキー再生成メッセージを 1 回だけ送信するとします。そのため、この 2 回目のキー再生成が終わったときのシーケンス番号は 6 です。
4. 次のキー再生成メッセージが送信される前に、KS2 がプライマリ KS になるとします。
5. キー再生成メッセージを送信する時間になると、KS2 はシーケンス番号を 10 ずつ増やします。そのため、キー再生成メッセージはシーケンス番号 16 で送信されます。
6. すべての GM がメッセージを受信するように、KS2 がキー再生成メッセージを 2 回再送信するとします。再試行ごとに、シーケンス番号が 1 ずつ増加します。そのため、このキー再生成が終わったときのシーケンス番号の値は 18 です。
7. 次のキー再生成メッセージが送信される前に、KS1 がプライマリ KS になるとします。
8. キー再生成メッセージを送信する時間になると、KS1 はシーケンス番号を 10 ずつ増やします。そのため、キー再生成メッセージはシーケンス番号 28 で送信されます。KS1 がキー再生成メッセージを 1 回だけ送信するとします。キー再生成が終わったときのシーケンス番号は 28 です。
9. 次のキー再生成メッセージを送信する時間になると、KS1 はシーケンス番号を 1 ずつ増やします。KS1 がキー再生成メッセージを 1 回だけ送信するとします。キー再生成が終わったときのシーケンス番号は 29 です。

次の表に、各キー再生成動作でのシーケンス番号の変化の概要を示します。

キー再生成番号	1 (3 回の再試行)	2 (0 回の再試行)	3 (2 回の再試行)	4 (0 回の再試行)	5 (0 回の再試行)

シーケンス番号	2、3、4、5	6	16、17、18	28	29
---------	---------	---	----------	----	----

### キー再生成シーケンス番号のチェック

キー サーバとグループ メンバー間のキー再生成シーケンス番号のチェックは次のように行われます。

1. GROUPKEY-PUSH メッセージのアンチリプレーは RFC 6407 で規定されているように復元されます。
  - グループメンバーは、最後に受信したキー再生成メッセージのシーケンス番号以下の番号のキー再生成メッセージをすべてドロップします。
  - グループメンバーは、最後に受信したキー再生成メッセージのシーケンス番号より大きい番号のキー再生成メッセージをすべて（差がどれだけ大きくても）承認します。
2. シーケンス番号は、KEK 再生成メッセージ時ではなく、KEK 再生成キーの後の最初のキー再生成メッセージ時に 1 にリセットされます。

### マルチキャスト キー再生成

マルチキャスト キー再生成は、有効なマルチキャスト キー再生成が使用されて送信されます。登録が成功すると、グループ メンバーが特定のマルチキャスト グループに登録されます。グループに登録されているすべてのグループ メンバーによって、このマルチキャスト キー再生成が受信されます。マルチキャスト キー再生成は、キー サーバに設定されているライフタイムに基づいて定期的送信されます。IPsec またはキー再生成ポリシーがキー サーバ上で変更された場合もマルチキャスト キー再生成が送信されます。設定の変更によってトリガーされると、キー再生成によって、新しく更新されたポリシーが有効なマルチキャスト キー再生成を持つすべてのグループ メンバーに送信されます。

キー サーバによって、キー再生成の時間が次のようにプッシュバックされます。

1. TEK のタイムアウトが 300 秒の場合：

`tek_rekey_offset = 90` (300 < 900 のため)

再送信が設定されている場合、キー再生成タイマーがさらに戻されます。

3 つの再送信がすべて 10 秒の場合：3 \* 10

その結果、キー再生成が実際に発生するのは  $(300 - 90 - 30) = 180$  秒

2. TEK のタイムアウトが 3600 秒の場合：

`tek_rekey_offset = 3600 * 10% = 360` 秒

再送信が設定されている場合、キー再生成タイマーがさらに戻されます。

3 つの再送信がすべて 10 秒の場合：3 \* 10

その結果、キー再生成が実際に発生するのは  $(3600 - 360 - 30) = 3210$  秒

KEK の期限が切れ、転送モードがマルチキャストである場合、マルチキャスト KEK キー再生成が送信されます。マルチキャスト KEK が送信されると、グループ メンバーによって古い

KEK が新しい KEK に置き換えられます。これはマルチキャスト キー再生成であり、再送信が送信されるので、古い KEK は引き続き暗号化に使用されます。このような状況が発生するのは、グループ メンバーによって新しい KEK キー再生成が受信されていないためです。そのため、マルチキャスト キー再生成を受信したグループ メンバーには古い KEK は存在せず、それらの再送信は廃棄されます。

最初に KEK キーを受信せず、現在は KEK 再送信を受信して古い KEK を新しい KEK に置き換えているグループ メンバーの場合、後の再送信は廃棄されます。たとえば、5 つの再送信が設定されており、シーケンス番号が 1 のマルチキャスト KEK キー再生成がグループ メンバー 1 で受信される場合、グループ メンバーに古い KEK がないため、シーケンス番号が 2、3、4、5、6 である他のすべての再送信は廃棄されます。

グループ メンバー 2 によってシーケンス番号が 1 の KEK キー再生成が取得されず、シーケンス番号が 2 である再送信が受信された場合、他の再送信 3、4、5、6 は廃棄されます。

### マルチキャスト キー再生成の設定要件

グループ メンバーがキー サーバに登録するときは、データベースに KEK SA をインストールします。キー再生成の転送がマルチキャストのとき、グループ メンバーは IGMP を使用して、キーサーバによって定義されたマルチキャスト ストリームに参加します。IGMP 参加は、暗号マップを含むインターフェイスから送信されます。



**Note** IGMP トラフィックは、キー サーバで定義された ACL またはグループ メンバーのローカル拒否 ACL による暗号化から除外する必要があります。

暗号マップを使用して設定されたものと同じインターフェイス経由でキーサーバに到達できないときは、ストリームに手動で参加する必要があります。

### ユニキャスト キー再生成と SA

大型のユニキャスト グループでは、遅延問題を軽減するため、キー サーバによって一度にごく少数のグループ メンバーのキー再生成メッセージだけが生成されます。すべてのグループ メンバーによって、古い SA の期限が切れる前に新しい SA の同じキー再生成メッセージが受信されることが、キー サーバには保証されています。さらに、ユニキャスト グループでは、キー サーバからのキー再生成メッセージが受信された後、グループ メンバーによって、暗号化された確認応答 (ACK) メッセージが、キー再生成メッセージの一部として受信されたキーが使用されて、キーサーバに送信されます。キーサーバによって ACK メッセージが受信されると、その受信が関連するグループのテーブルに書き込まれ、次のことが実行されます。

- キー サーバにアクティブなグループ メンバーの最新リストが保管されます。
- キー サーバによって、アクティブなメンバーにだけキー再生成メッセージが送信されます。

さらに、ユニキャストグループでは、3 回連続したキー再生成が行われて ACK メッセージが 1 つもキー サーバによって受信されなかった場合、キーサーバによってアクティブ リストからグループ メンバーが削除され、その特定のグループ メンバーに対するキー再生成メッセー

ジの送信が停止されます。3回連続したキー再生成が行われて ACK メッセージが1つも受信されなくても、グループメンバーがキー再生成メッセージを受信する必要がある場合には、現在の SA が期限切れになった後には、グループメンバーはキーサーバに完全に再登録される必要があります。非応答グループメンバーのイジェクトは、キーサーバがユニキャストキー再生成モードで動作している場合にだけ行われます。マルチキャストキー再生成モードでは、キーサーバによるグループメンバーの排出は行われません。そのモードでは、グループメンバーが ACK メッセージを送信できないからです。

マルチキャストキー再生成におけるのと同様、再送信が設定されている場合、各キー再生成は、設定された回数再送信されます。

キー再生成転送モードおよび認証は、GDOI グループ下で設定できます。

ユニキャストキー再生成転送モードが定義されていない場合、デフォルトでマルチキャストが適用されます。

TEK キー再生成が受信されなかった場合、現在の IPsec SA が期限切れになる 60 秒前にグループメンバーがキーサーバに再登録されます。グループメンバーの再登録が発生する前に、キーサーバによってキー再生成が送信される必要があります。再送信が設定されていない場合、SA が期限切れになる前に、キーサーバによってキー再生成 `tek_rekey_offset` が送信されます。`tek_rekey_offset` は、設定されているキー再生成ライフタイムに基づいて算出されます。TEK キー再生成のライフタイムが 900 秒より短い場合、`tek_rekey_offset` は 90 秒に設定されます。TEK キー再生成のライフタイムが 900 秒を超えるように設定されている場合、`rekey_offset = (設定されている TEK キー再生成のライフタイム)/10` となります。再送信が設定されている場合、SA が期限切れになる 90 秒前に最新の再送信が送信されるように、`tek_rekey_offset` よりも前にキー再生成が発生します。

キーサーバでは、すべてのユニキャストグループメンバーに対するキー再生成の送信をいつ開始するか計算するために、次の例に示す数式が使用されます。キーサーバにおけるユニキャストキー再生成処理によって、1回のループで 50 のグループにおけるユニキャストグループメンバーに対してキー再生成が送信されます。このループ内でかかる時間は推定 5 秒です。

キーサーバによって、50 のグループのグループメンバーのキー再生成が行われます。これは 2 回のループに相当します。たとえば、グループメンバーの数が 100 の場合：

キー再生成ループの数 = (100 グループメンバー)/50 = 2 ループ：

- 1 回のループでのキー再生成にかかる時間（推定） = 5 秒
- 50 の 2 回ループにおける 100 グループメンバーに対するキー再生成にかかる時間：2 \* 5 秒 = 10 秒

そのため、キーサーバによって、キー再生成の時間が次のようにプッシュバックされます。

- TEK のタイムアウトが 300 の場合：300 - 10 = 290

ただし、開始は TEK が期限切れになるよりも前である必要があります（マルチキャストの場合と同じです）。

- 300 < 900 であるため、`tek_rekey_offset = 90`
- そのため、実際の TEK 時間から 90 秒を引いて、290 - `tek_rekey_offset` = 200 秒

再送信が設定されている場合、キー再生成タイマーがさらに戻されます。

- 3つの再送信がすべて10秒の場合： $200 - (3 * 10) = 170$
- TEKのタイムアウトが3600秒である場合： $3600 - 10 = 3590$

ただし、開始はTEKが期限切れになるよりも前である必要があります（マルチキャストの場合と同じです）。

- $3600 > 900$  であるため、 $\text{tek\_rekey\_offset} = 3600 * 10\% = 360$
- そのため、実際のTEK時間から360秒を引いて、 $3590 - \text{tek\_rekey\_offset} = 3230$  秒

再送信が設定されている場合、キー再生成タイマーがさらに戻されます。

- 3つの再送信がすべて10秒の場合： $3230 - (3 * 10) = 3200$  秒

数式  $\text{tek\_rekey\_offset}$  は、ユニキャストおよびマルチキャスト キー再生成に適用されます。

### ポリシー変更後のキー再生成の動作

次の表に、セキュリティポリシーの変更に対応したキー再生成の動作の一覧を示します。

**Table 286:** セキュリティポリシー変更後のキー再生成の動作

ポリシーの変更	キー再生成を送信するか	ポリシー変更後のキー再生成の動作
TEK : SA ライフタイム	No	古いSAは、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。新しいライフタイムは、次にスケジュールされたキー再生成の後に有効になります。
TEK : IPSEC トランスフォームセット	Yes	古いトランスフォームセットのSAは、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
TEK : IPSEC プロファイル	Yes	古いプロファイルのSAは、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
TEK : 一致する ACL	Yes	発信パケット分類では、即座に新しいアクセスコントロールリスト (ACL) が使用されます。古いSAはSAデータベース内に保存されたままになります。
TEK : リプレイ カウンタのイネーブル化	Yes	カウンタリプレイがない古いSAは、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。

ポリシーの変更	キー再生成を送信するか	ポリシー変更後のキー再生成の動作
TEK：リプレイカウンタの変更	No	新しいリプレイカウンタがあるSAは、次にスケジュールされたキー再生成時に送信されます。
TEK：リプレイカウンタのディセーブル化	Yes	カウンタリプレイがイネーブルになっている古いSAは、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
TEK：受信専用のイネーブル	Yes	受信専用モードは、キー再生成後ただちにアクティブになります。
TEK：受信専用のディセーブル	Yes	受信専用モードは、キー再生成後ただちに非アクティブになります。
KEK：SA ライフタイムの動作	No	変更は次のキー再生成時に適用されます。
KEK：認証キーの変更	Yes	変更は次のキー再生成時に適用されます。
KEK：暗号アルゴリズムの変更	Yes	変更は即時に適用されます。

ポリシーの変更を即時に有効にするには、次の手順に従います。

- キーサーバーで **clear crypto gdoi [group]** コマンドを使用します。
- すべてのグループメンバーで **clear crypto gdoi [group]** コマンドを使用します。



**Note** キーサーバーは管理者がコンフィギュレーションモードを終了するとポリシーの更新のためのキー再生成を送信し、適切な場合にキー再生成が送信されるようにします。



**Note** グループメンバーで双方向モードに変更する前のパッシブモードの動作は次のとおりです。

キーサーバーのSAモードを「no sa receive-only」に変更し、コンフィギュレーションモードを終了する場合、キー再生成はグループメンバーに送信され、「受信専用」から「発信オプション」にグループメンバーの状態が変化することを確認できます。組み込みタイマーによって設定されたインターバル（約5分）の後は「両方」に状態が変化します。

キーサーバーはこの状態をすぐに「両方」として示します。すべてのグループメンバーが更新される過程である可能性があるため、これは意図的に行われます。



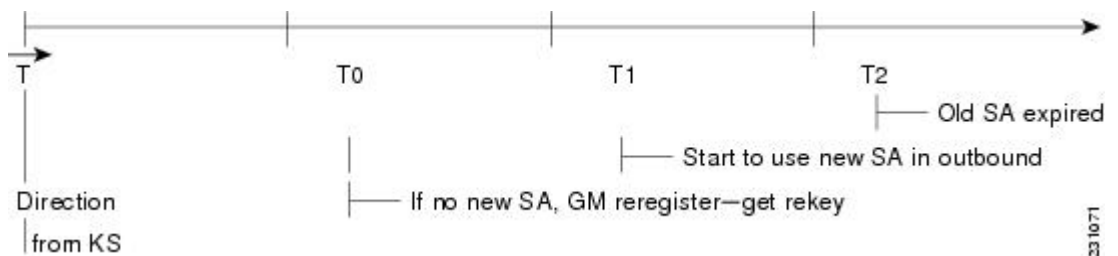
## グループメンバーにおけるIPsec SAの使用

グループメンバー上でキー再生成が受信され、処理されると、新しいIPsec SA (SPI) がインストールされます。古いIPsec SAと新しいIPsec SAが共に使用される期間が存在します。指定された一定期間の経過後に、古いIPsec SAは削除されます。この重複によって、すべてのグループメンバーが現在のキー再生成を受信し、新しいIPsec SAを追加できます。この動作は、キーサーバからのキー再生成のための転送モード（マルチキャストまたはユニキャストキー再生成転送）とは無関係です。

グループメンバー上では、古いSAが期限切れになる約30秒前に、グループメンバーによって、パケットを暗号化するために発信方向で新しいSAが使用されます。古いSAが期限切れになる約60秒前にキーサーバからのキー再生成を介して新しいSAがグループメンバー側で受信されていない場合、グループメンバーが登録されます。

次の図では、時間T2が古いSAが期限切れになる時間です。T1がT2の30秒前で、これは、グループメンバー（GM）によって発信方向で新しいSAの使用が開始される時間です。T0は、T2の30秒前です。T0の時点で新しいSAが受信されない場合、グループメンバーが登録される必要があります。Tは、T0の30秒前です。Tの時点でキーサーバによってキー再生成が送信される必要があります。

Figure 122: グループメンバーにおけるIPsec SAの使用



設定変更によってキーサーバごとのキー再生成のトリガーが可能



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

キーサーバ上の設定変更によって、キーサーバごとの再生成のトリガーが可能です。次のサンプル設定を参照し、サンプルに記述されたもののうち、キー再生成が発生する変更と発生しない変更を確認してください。

```
crypto ipsec transform-set gdoi-p esp-aes esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile gdoi-p
 set security-association lifetime seconds 900
 set transform-set gdoi-p
!
crypto gdoi group diffint
 identity number 3333
 server local
```

```

rekey algorithm aes 128
rekey address ipv4 121
rekey lifetime seconds 3600
no rekey retransmit
rekey authentication mypubkey rsa mykeys
sa ipsec 1
  profile gdoi-p
  match address ipv4 120
  replay counter window-size 3

```

次に示すキーサーバ上での設定変更では、キーサーバからのキー再生成がトリガーされます。

- TEK 設定におけるすべての変更（例の「sa ipsec 1」）。
  - ACL（上記例の「match address ipv4 120」）が変更された場合。ACL におけるすべての追加、削除、または変更がキー再生成の原因となります。
  - TEK リプレイがキーサーバ上でイネーブルまたはディセーブルになっている場合、キー再生成が送信されます。
  - TEK 内の IPsec プロファイルの削除または追加（例の「profile gdoi-p」）。
  - マルチキャストからユニキャスト転送への変更。
  - ユニキャストからマルチキャスト転送への変更。

次に示すキーサーバ上での設定変更は、キーサーバからのキー再生成のトリガーとはなりません。

- TEK 下におけるリプレイ カウンタ ウィンドウ サイズの変更（例の「sa ipsec 1」）。
- キー再生成再送信の設定または削除。
- キー再生成 ACL の削除または設定。
- TEK ライフタイムの変更（上記例の「set security-association lifetime seconds 300」）または KEK ライフタイムの変更（例の「rekey lifetime seconds 500」）。
- キー再生成アルゴリズムの追加、削除、または変更（例の「rekey algorithm aes 128」）。

## キー再生成をトリガーするコマンド

次の表は、GET VPN コマンドによる変更の包括的な一覧です。どのコマンドがキー再生成のトリガーとなり、どのコマンドがならないのかを示しています。各コマンドは、それらのコマンドが入力されるコンフィギュレーションモードに基づいて分類しています。表には、キー再生成のトリガーになるか否かを問わず、コマンドが有効になるタイミングも示しています。



**Note** GDOI グループで KEK ライフタイムが変更されると、現在の KEK が期限切れになり、新しい KEK が生成された場合にのみ変更が適用されます。キーサーバでキー再生成コマンドの **crypto gdoi ks rekey** を発行することにより、強制的に変更を適用できます。

Table 287: キー再生成をトリガーするコマンド

説明	コマンド	キー再生成のトリガーとなるか	トリガーするタイミング	変更が有効になるタイミング
Mode = (config)	<b>configure terminal</b>	—	—	—
GDOI グループ内で使用される ACL の変更または削除 (例: <b>rekey address ipv4 access-list-number[options]</b> )	<b>[no] access-list access-list-number[options]</b>	非対応	—	即時
IPsec プロファイルで使用される ACL の変更または削除 (例: <b>match address ipv4 access-list-id   name[options]</b> )	<b>[no] access-list access-list-number[options]</b>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	キーサーバー上での <b>show running-config</b> コマンドの出力は、ポリシーが不完全である、パケットがまだ既存の SA によって暗号化または復号されている、ダウンロードされた ACL は消去されたが <b>mtree</b> エントリがまだ存在している ( <b>show crypto ruleset</b> コマンドの出力を表示することによる)、および、新しい SA がダウンロードされず、古い SA が暗号化または復号でまだアクティブであることを示します。
ISAKMP 事前共有キー (任意のキー) の追加または削除	<b>crypto isakmp key address peer-address</b>	非対応	—	即時

説明	コマンド	キー再生成のトリガーとなるか	トリガーするタイミング	変更が有効になるタイミング
ISAKMP 事前共有キー (グループメンバーのキー) の追加または削除	<b>crypto isakmp key address</b> <i>peer-address</i>	非対応	—	Key Encryption Key (KEK) SA が期限切れになった後 (再登録)
IPsec プロファイルの追加	<b>crypto ipsec profile</b>	非対応	—	即時
ISAKMP ポリシーの追加または削除	<b>crypto isakmp policy</b> <i>priority</i>	非対応	—	即時
Mode = (ipsec-profile)	<b>crypto ipsec profile</b> <i>name</i>	—	—	—
(IPsec プロファイル内の) SA ライフタイムの変更	<b>set security-association lifetime</b> <i>seconds</i>	非対応	—	次のキー再生成
トランスフォームセットの変更	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	古いトランスフォームセットの SA は、ライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
Mode = (config-gdoi-group)	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i>	—	—	—
ID 番号の変更	<b>identity number</b> <i>number</i>	非対応	—	グループメンバー上でただちに設定する必要があります。他のグループメンバーでは、古いグループ ID の TEK および KEK が引き続き使用されます。
Mode = (gdoi-local-server)	<b>server local</b>	—	—	—
ユニキャストからマルチキャスト転送への変更	<b>rekey transport unicast</b>	Yes	即時	キー再生成がトリガーされた後

説明	コマンド	キー再生成のトリガーとなるか	トリガーするタイミング	変更が有効になるタイミング
マルチキャストからユニキャスト転送への変更	<b>[no] rekey transport unicast</b>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	キー再生成がトリガーされた後
キー再生成アドレスの変更	<b>rekey address ipv4</b> { <i>access-list-number</i>   <i>access-list-name</i> }	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	キー再生成がトリガーされた後 (ただし、ACL自体を変更してもマルチキャストキー再生成はトリガーされません)
キー再生成ライフタイムの変更	<b>rekey lifetime seconds</b> <i>number-of-seconds</i>	非対応	—	次のキー再生成。ただし、コマンドが発行される (現在のライフタイムがキー再生成と共に送信される) と、ライフタイムは減少を開始します。
キー再生成再送信のイネーブル化またはディセーブル化	<b>rekey retransmit</b> <i>number-of-seconds</i> <b>[number number-of-retransmissions]</b>	非対応	—	次のキー再生成
キー再生成認証のイネーブル化	<b>rekey authentication mypubkey rsa</b> <i>key-name</i>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	キー再生成がトリガーされた後
キー再生成認証のディセーブル化	<b>[no] rekey authentication</b>	非対応	—	即時

## キー再生成をトリガーするコマンド

説明	コマンド	キー再生成のトリガーとなるか	トリガーするタイミング	変更が有効になるタイミング
キー再生成認証キーの変更	<b>rekey authentication mypubkey rsa</b> <i>key-name</i>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	キー再生成がトリガーされた後
キー再生成暗号化の変更	<b>rekey algorithm</b> <i>type-of-encryption-algorithm</i>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	新しいアルゴリズムは即座に有効になります。
Mode = (gdoi-sa-ipsec)	<b>sa ipsec</b> <i>sequence-number</i>	—	—	—
プロファイルの変更	<b>profile</b> <i>ipsec-profile-name</i>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	ライフタイムが期限切れになるまで古いプロファイルの SA は有効のままです。
ACL の一致の変更	<b>match address</b> [options]	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	キー再生成がトリガーされた後
カウンタ リプレイのイネーブル化	<b>replay counter window-size</b> <i>seconds</i>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	ライフタイムが期限切れになるまでカウンタリプレイなしの古い SA は非アクティブになります。
リプレイ カウンタ値の変更	<b>replay counter window-size</b> <i>seconds</i>	非対応	—	次のキー再生成

説明	コマンド	キー再生成のトリガーとなるか	トリガーするタイミング	変更が有効になるタイミング
時間ベースのアンチリプレイのイネーブル化	<b>replay time window-size</b> <i>seconds</i>	Yes	コンフィギュレーションモードの終了時	時間ベースのアンチリプレイがイネーブルになった新しいSAが送信されますが、時間ベースのアンチリプレイがディセーブルになった古いSAは、ライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
時間ベースのアンチリプレイウィンドウの変更	<b>replay time window-size</b> <i>seconds</i>	非対応	—	新しい時間ベースのアンチリプレイウィンドウが有効になるのは、キーサーバーとグループメンバーの両方で <b>clear crypto gdoi</b> コマンドが入力された後だけです。
Mode = (gdoi-coop-ks-config)	<b>redundancy</b>	—	—	—
冗長性のイネーブル化	<b>redundancy</b>	非対応	—	他の各キーサーバ上でただちに設定する必要があります。
ローカルプライオリティの変更	<b>local priority</b> <i>number</i>	非対応	—	即時にですが、キーサーバに選択は強要しません。
ピアアドレスの追加または削除	<b>[no] peer address ipv4</b> <i>ip-address</i>	非対応	—	次の連携可能な (COOP) メッセージ

説明	コマンド	キー再生成のトリガーとなるか	トリガーするタイミング	変更が有効になるタイミング
冗長性のディセーブル化	<b>[no] redundancy</b>	非対応	—	他の各キーサーバ上でただちに設定する必要があります。

疑似時間同期によってタイムアウトが発生した場合、KEK タイマーまたは TEK タイマーのどちらかが次の 60 秒間に期限切れになるようにスケジュールされているかどうかをキーサーバによって確認されます。そのようにスケジュールされている場合、そのタイムアウトと疑似時間同期タイムアウトが結合されます。つまり、そのキー再生成は TEK キー再生成または KEK キー再生成と、疑似時間同期タイムアウト キー再生成の両方として動作します。疑似時間同期の詳細については、「時間ベースのアンチ リプレイ」セクションを参照してください。

## キー再生成の再送信

マルチキャスト キー再生成は、デフォルトで再送信されます。ユニキャスト キー再生成では、キーサーバが ACK を受信しない場合にキー再生成が再送信されます。どちらの場合も、キー再生成の再送信前に、次の 120 秒間にスケジュールされている TEK キー再生成または KEK キー再生成があるかどうかをキーサーバによって確認されます。ある場合、現在の再送信は停止され、スケジュールされたキー再生成が発生するまで待機します。

## グループメンバーアクセスコントロールリスト

GET VPN の場合、保護する必要があるトラフィックは、ACL によってキーサーバ上にスタティックに定義されます。グループメンバーによって、キーサーバから保護対象に関する情報が取得されます。この構造によって、キーサーバによる必要に応じたポリシーの動的な選択および変更が可能となっています。Secure Multicast では、キーサーバの ACL が包括的に定義されます。ACL には、暗号化する必要があるトラフィックだけが厳密に定義されているだけでなく、暗黙の拒否によって、他のすべてのトラフィックは暗号化されない状態で許可されるようになっています（つまり、許可がない場合、他のすべてのトラフィックは許可されます）。

GET VPN では、異なる考え方が採用されています。つまり、暗号化する必要のあるパケットの定義が独立して配信されます。GET VPN でサポートしているのはスタティックに定義されたトラフィック セレクタだけです。キーサーバ上で、拒否 ACL と許可 ACL の両方を使用してポリシーを定義できます。グループメンバー上で、手動で設定できるのは拒否 ACL だけです。キーサーバからダウンロードされるポリシーと、グループメンバー上で設定されるポリシーは結合されます。グループメンバー上で設定された ACL はすべて、キーサーバからダウンロードされたものよりも優先されます。

グループメンバーによってキーサーバから ACL が取得されると、グループメンバーによって、一時的な ACL が作成され、それがデータベースに挿入されます。何らかの理由によりグループメンバーが GDOI グループから削除されると、この ACL は削除されます。パケットが



ACL に一致しているが、そのパケット用に IPsec SA が存在していない場合、インターフェイスから出ていくパケットは、グループメンバーによって廃棄されます。

キー サーバによって一連のトラフィック セレクタが送信され、それらがグループメンバー上のグループメンバー ACL と正確には一致していない場合があります。このような違いが発生した場合、その違いを結合して解決する必要があります。グループメンバーは、キーサーバよりもトポロジを認識するので、ダウンロードされた ACL は、グループメンバー ACL の末尾に追加されます。グループメンバー ACL (暗黙の拒否を除く) が最初にデータベースに挿入され、次に、ダウンロードされたキーサーバ ACL が挿入されます。このデータベースは優先化され、一致したエントリが検出された時はいつでも、データベース検索は終了します。

グループメンバー ACL の設定方法については、「グループメンバー ACL の設定」セクションを参照してください。

## セキュリティ ポリシー変更時におけるグループメンバーの動作

キーサーバで ACL または他のポリシーが変更されると、グループメンバーの動作が変わります。次の3種類のシナリオで、グループメンバーの動作に対するポリシーの各種変更の影響を説明します。

### シナリオ 1

次の例では、ホスト A とホスト B を許可するように ACL が最初に設定されています。

```
ip access-list extended get-acl
permit ip host A host B
permit ip host B host A
```

次に、キーサーバで、ホスト C とホスト D を許可するように ACL が変更されます。

```
ip access-list extended get-acl
permit ip host C host D
permit ip host D host C
```

ACL の変更は、次の方法でグループメンバーの動作に影響を与えます。

- キーサーバによって、ただちに、すべてのグループメンバーに対してキー再生成が送信されます。
- キー再生成後ただちに、グループメンバーによって、ホスト A とホスト B 間のトラフィックが暗号化されていないテキストで送信されます。
- キー再生成後ただちに、グループメンバーによって、ホスト C とホスト D 間のトラフィックが暗号化されたテキストで送信されます。



#### Note

Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータと Cisco ISR G2 ルータの GETVPN グループメンバーは、キーサーバでの ACL の変更またはその他のポリシー変更続くキー再生成 (トリガーまたは定期的) の後に、異なる動作をします。Cisco ISR G2 ルータのグループメンバーは、完全な再登録なしで新しいポリシーをインストールしますが、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータのグループメンバーは、更新されたポリシーを取得するために再登録します。

## シナリオ 2

ポリシーによってトランスフォームセットが更新され、時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) の変更がキーサーバに対して行われると、グループメンバーの動作が変わります。

このシナリオでは、次のことが想定されています。

- トランスフォームセットが、ESP-3DES から ESP-AES へ変更されている。
- ポリシーの変更は、現在の TEK ライフタイムが期限切れになる 1000 秒前に発生する。

これらのポリシーの変更は、次のようにグループメンバーの動作に影響を与えます。

- キーサーバによって、古い SA (3DES) と新しい SA (AES) の両方のキー再生成が送信されます。
- グループメンバーでは、期限切れになるまでの 1000 秒間、古い SA (3DES) の使用が継続されます。
- 古い SA が期限切れになると、グループメンバーによって、新しい SA (AES) に自動的に切り替えられます。

## シナリオ 3

キーサーバで、ACL の変更と、トランスフォームセットや TBAR など他の変更の両方を含むその他のポリシーの更新が行われると、グループメンバーの動作が変わります。

このシナリオでは、次のことが想定されています。

- ACL がシナリオ 1 で指定されたとおりに更新されている。
- トランスフォームセットが、ESP-3DES から ESP-AES へ変更されている。
- ポリシーの変更は、現在の TEK ライフタイムが期限切れになる 1000 秒前に発生する。

ACL の変更とその他のポリシーの更新は、次のようにグループメンバーの動作に影響を与えます。

- キーサーバによって、古い SA (3DES) と新しい SA (AES) の両方で構成されているキー再生成が送信されます。
- キー再生成後ただちに、グループメンバーによって、ホスト A とホスト B 間のトラフィックが暗号化されていないテキストで送信されます。
- グループメンバーによって、TEK のライフタイムが期限切れにならない限り 1000 秒間、古い SA (3DES) を使用した、ホスト C とホスト D 間の暗号化されたトラフィックが送信されます。
- 古い SA (3DES) が期限切れになると、グループメンバーによる新しい SA への切り替えが自動的に行われ、AES におけるホスト C とホスト D 間のトラフィックが暗号化されます。

## 時間ベースのアンチリプレイ

アンチリプレイは、IPSec (RFC 2401) のようなデータ暗号化プロトコルにおいて重要な機能の1つです。アンチリプレイによって、第三者がIPsecカンバセーションを盗聴したり、パケットを盗んだり、さらにはそれらのパケットを後でセッションに挿入したりすることを防ぐことが可能です。時間ベースのアンチリプレイメカニズムを利用すれば、過去にすでに到着しているはずのリプレイパケットを検出することによって、無効なパケットを廃棄できます。

GET VPNでは、マルチセンダトラフィック用のアンチリプレイ保護を提供するために、同期アンチリプレイ (SAR) が使用されています。SARは、実社会のネットワークタイムプロトコル (NTP) クロックや、シーケンシャルカウンタメカニズム (パケットが送信順に受信されて処理されることを保証するメカニズム) とは独立しています。SARクロックは、ルール正しく進みます。このクロックによって追跡される時間は、疑似時間と呼ばれます。疑似時間はキーサーバ上で維持され、キー再生成メッセージ内で指定されているグループメンバーに対して、pseudoTimeStampというタイムスタンプフィールドとして定期的に送信されます。GET VPNでは、Metadataというシスコ独自のプロトコルによって、pseudoTimeStampをカプセル化しています。グループメンバーは、定期的にキーサーバの疑似時間に再同期される必要があります。キーサーバの疑似時間は、最初のグループメンバーが登録されたときから進み始めます。最初は、登録プロセス中に、キーサーバからグループメンバーに対して、キーサーバの現在の疑似時間の値およびウィンドウサイズが送信されます。時間ベースのリプレイ対応情報、ウィンドウサイズ、キーサーバの疑似時間などの新しい属性は、SAペイロード (TEK) で送信されます。

グループメンバーは、疑似時間を使用して次のようにリプレイを防止します。pseudoTimeStampには、送信者がパケットを作成したときの疑似時間の値が含まれています。受信者は、送信者の疑似時間の値と自身の疑似時間の値を比較して、パケットが再送されたパケットであるかどうかを判断します。受信元では、時間ベースのアンチリプレイ「ウィンドウ」を利用して、そのウィンドウ内のタイプスタンプ値が格納されたパケットを受信します。ウィンドウサイズは、キーサーバで設定されて、すべてのグループメンバーに送信されます。



**Note** グループメンバーとしてCisco VSAを使用している場合、時間ベースのアンチリプレイは使用しないでください。

次の図は、アンチリプレイウィンドウを示しています。値PTrは受信者のローカルの疑似時間を、Wはウィンドウサイズを示しています。

Figure 123: アンチリプレイウィンドウ



## クロック同期

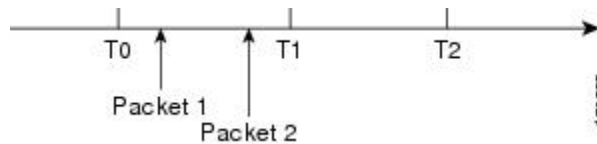
グループメンバーのクロックとキーサーバとの同期は、ずれたり失われたりする可能性があります。クロックの同期を維持するため、キーサーバの最新の疑似時間値が格納されたキー再生成メッセージ（マルチキャストがユニキャストかは状況に応じます）が（キー再生成メッセージで、あるいは、グループメンバーに対して最小で30分ごとに）定期的に送信されます。このアンチリプレイチェックでパケットにエラーが発生した場合、送信元および受信元の両方の疑似時間がプリントされ、エラーメッセージが生成され、カウンターの値が増分されます。

アンチリプレイの統計情報を表示するには、送信元および受信元デバイスの両方で **show crypto gdoi group group-name gm replay** コマンドを使用します。管理者がサイズ設定のリプレイ方法に影響を与えるような設定変更を行った場合、キーサーバによってキー再生成メッセージが発信されます。

## インターバル期間

ティックは、SAR クロックのインターバル期間です。この期間に送信された各パケットの `pseudoTimeStamp` は同じものになります。またティックは、キーサーバからの疑似時間と共にグループメンバーにダウンロードされます。たとえば、次の図に示すように、T0とT1の間で送信されたパケットの `pseudoTimeStamp` は同じT0になります。SARには、ルーズなアンチリプレイ保護が用意されています。リプレイされたパケットは、それらがウィンドウ内にリプレイされている場合は、受信されます。デフォルトのウィンドウサイズは100秒です。パケットのリプレイを最小限に抑えるため、ウィンドウサイズを小さく保つことを推奨します。

Figure 124: SAR クロックのインターバル期間



## アンチリプレイ設定

アンチリプレイ機能をキーサーバ上のIPsec SA下でイネーブルにするには、次のコマンドを使用します。

- **replay time window-size** : 非シーケンシャルまたは時間ベースモードがサポートされるリプレイ時間オプションをイネーブルにします。ウィンドウサイズは秒単位です。このモードは、1つのグループ内に3つ以上のグループメンバーが存在している場合にだけ使用します。
- **replay counter window-size** : シーケンシャルモードをイネーブルにします。このモードは、1つのグループ内に2つのグループメンバーだけが存在している場合に便利です。
- **no replay counter window-size** : アンチリプレイをディセーブルにします。

## コントロールプレーンの時間ベースのアンチリプレイ

### キー再生成疑似時間のチェック

キーサーバとグループメンバー間のキー再生成疑似時間のチェックは次のように行われます。

- グループメンバーがキーサーバと自身との疑似時間の許容差を計算します。データプレーンで設定された TBAR ウィンドウ サイズ、または 30 秒の小さい方となります。
- グループメンバーは自身より疑似時間が大きいすべてのキー再生成を受け入れ、自身の疑似時間をより大きい値に更新します。計算された疑似時間の許容差よりも差が大きい場合は、次の syslog メッセージも生成されます。

```
*Jul 28 22:56:37.503: %GDOI-3-PSEUDO_TIME_LARGE: Pseudotime difference between key server (20008 sec) and GM (10057 sec) is larger than expected in group GET. Adjust to new pseudotime
```

- グループメンバーが自身よりも疑似時間が小さいが許容差以内のキー再生成を受信した場合、グループメンバーはキー再生成を受け入れ、疑似時間値をそのキー再生成疑似時間値に更新します。
- グループメンバーが自身よりも疑似時間が小さいが許容差を超えているキー再生成を受信した場合、グループメンバーはキー再生成メッセージをドロップし、次の syslog メッセージを生成します。

```
*Jul 28 23:37:59.699: %GDOI-3-PSEUDO_TIME_TOO_OLD: Rekey received in group GET is too old and fail PST check: my_pst is 22490 sec, peer_pst is 10026 sec, allowable_skew is 30 sec
```

### セカンダリキーサーバでの ANN メッセージ疑似時間の処理

連携キーサーバ間のポリシーおよびグループメンバー情報の同期には、連携キーサーバ通知 (ANN) メッセージが使用されます。

セカンダリサーバキーは次のように ANN メッセージを処理します。

- セカンダリキーサーバが ANN メッセージの許容疑似時間を計算します。データプレーンで設定された TBAR ウィンドウ サイズの値、または 30 秒の小さい方となります。
- セカンダリキーサーバが疑似時間がより大きいプライマリキーサーバから ANN メッセージを受信した場合、次が行われます。
- 疑似時間をプライマリキーサーバの値に更新します。
- 疑似時間の差が許容差よりも大きい場合は、次の syslog メッセージが生成されます。

```
*Jul 28 23:48:56.871: %GDOI-4-GDOI_ANN_TIMESTAMP_LARGE: COOP_KS ANN received from KS 10.0.8.1 in group GET has pseudotime bigger than myself. Adjust to new pseudotime: my_old_pst is 23147 sec, peer_pst is 30005 sec
```

- セカンダリキーサーバが疑似時間がより小さいプライマリキーサーバから ANN メッセージを受信した場合、次のようになります。

- 差が許容範囲内の場合、セカンダリ キー サーバはそれを受け入れ、疑似時間をプライマリ キー サーバの値に更新します。
- 差が許容範囲を超える場合は、次の `syslog` メッセージが生成されます。

```
*Jul 28 23:42:12.603: %GDOI-4-GDOI_ANN_TIMESTAMP_TOO_OLD: COOP_KS ANN from KS 10.0.8.1
in group GET is too old and fail PST check:
my_pst is 22743 sec, peer_pst is 103 sec, allowable_skew is 10 sec
```

3つの再送信要求の後、セカンダリ キー サーバが有効な疑似時間の ANN メッセージを受信していない場合は、次のように、新しいグループメンバー登録のブロックが開始されます。

```
*Jul 28 23:38:57.859: %GDOI-5-COOP_KS_VALID_ANN_TIMER_EXPIRED: This sec-KS has NOT
received an ANN with valid pseudotime for an extended period in group GET. It will block
new group members registration temporarily until a valid ANN is received
*Jul 29 00:08:47.775: %GDOI-5-COOP_KS_BLOCK_NEW_GM_REGISTER: This key server temporarily
blocks group member with ip-addr 10.0.0.2 from registering in group GET as it has not
received an ANN with valid pseudotime for prolonged period
```

セカンダリ キー サーバは、次のいずれかが発生するとグループメンバー登録機能を再開します。

- プライマリ キー サーバから有効な疑似時間の ANN を受け取る。
- プライマリ キー サーバになる。
- `clear crypto gdoi group` コマンドはセカンダリキーサーバーで実行されます。

### プライマリ キー サーバでの ANN メッセージ疑似時間の処理

プライマリ サーバ キーは次のように ANN メッセージを処理します。

- ANN メッセージの許容疑似時間を計算します。データプレーンで設定された TBAR ウィンドウ サイズの値、または 30 秒の小さい方となります。
- 疑似時間が小さいが許容差以内のセカンダリ キー サーバ ANN メッセージは受け入れられます。
- 疑似時間が小さいが許容差を超えている ANN メッセージは拒否されます。

ネットワークのマージ中は、次の条件が適用されます。

- 新しいプライマリ キー サーバは 2 つのキー サーバ間で大きい方の疑似時間を常に選択します。
- 差が計算された疑似時間の許容差よりも大きい場合、新しいプライマリ キー サーバはキー再生成をすべてのグループメンバーに対して送信し、疑似時間を更新します。また、次の `syslog` メッセージも生成されます。

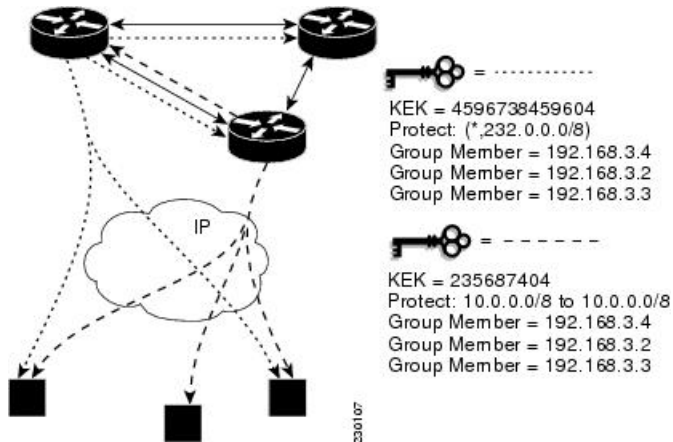
```
*Jul 28 23:42:41.311: %GDOI-5-COOP_KS_ELECTION: KS entering election mode in group GET
(Previous Primary = NONE)
*Jul 28 23:42:41.311: %GDOI-4-GDOI_ANN_TIMESTAMP_LARGE: COOP_KS ANN received from KS
10.0.9.1 in group GET has PST bigger than myself. Adjust to new pseudotime:
my_old_pst is 0 sec, peer_pst is 22772 sec
```

```
*Jul 28 23:43:16.335: %GDOI-5-COOP_KS_TRANS_TO_PRI: KS 10.0.8.1 in group GET transitioned
to Primary (Previous Primary = NONE)
*Jul 28 23:43:16.347: %GDOI-5-KS_SEND_UNICAST_REKEY: Sending Unicast Rekey for group GET
from address 10.0.8.1 with seq # 1
```

## 連携キー サーバ

次の図は、連携キーサーバのキー配布を示したものです。図の下のテキストで、連携キーサーバ機能について説明します。

Figure 125: 連携キー サーバのキー配布



連携キーサーバを利用すると、GET VPN に冗長性が与えられます。冗長性、高可用性、およびプライマリ キーサーバに障害が発生した場合の素早いリカバリを確保するために、複数のキーサーバが GET VPN によってサポートされます。複数の連携 GDOI キーサーバによって、共同でグループの GDOI 登録が管理されます。各キーサーバはアクティブなキーサーバであり、各グループメンバーからの GDOI 登録要求を処理します。キーサーバどうしで連携しているため、各キーサーバから、そのキーサーバに登録するグループメンバーに対して同じ状態が配信されます。それぞれの GDOI キーサーバによって、GDOI 登録の一部を処理できるので、ロードバランスが実現します。

プライマリ キーの役割は、グループポリシーの作成と配信です。連携キーサーバのキー配布が発生すると、1つのキーサーバが自身をプライマリとして宣言し、ポリシーを作成し、そのほかのセカンダリキーサーバにポリシーを送信します。セカンダリキーサーバは、ポリシーを取得して選択モードを終了すると、プライマリキーサーバをプライマリキーサーバとして宣言します。また、セカンダリキーサーバは、連携キーサーバのキー配布が進行している間、GM登録をブロックします。この変更により時間が短縮されるため、連携キーサーバの配布はより効率的になります。たとえば、配布時には次のようなsyslogの警告メッセージが表示されます。

```
00:00:16: %GDOI-5-COOP_KS_BLOCK_NEW_GM_REGISTER_ELECTION: This KS temporarily blocks GM
with ip-addr 10.0.4.1 from registering in group diffint as the KS election is underway
```

プライマリキーサーバによってグループ情報のアップデートが他のすべてのキーサーバに定期的に送信（またはブロードキャスト）され、その結果、これらのサーバどうしの同期が維持されます。何らかの理由によりセカンダリキーサーバがアップデートの受信に失敗した場合、

そのセカンダリ キー サーバは、プライマリ キー サーバにアクセスして、直接情報のアップデートを要求します。延長期間にアップデートが受信されない場合、セカンダリ キー サーバによって、プライマリ サーバが到達不能（つまり「dead」）としてマーキングされます。

新しいポリシーがプライマリ キーサーバで作成されると、グループメンバーが登録されるキーサーバがどのサーバかにかかわらず、プライマリ キーサーバの役割は、GDOI グループメンバーに対するキー再生成メッセージの配信となります。

連携キーサーバ設定では、キー再生成のシーケンス番号がプライマリおよびセカンダリ キーサーバ間で同期されます。

ネットワーク マージでは、キーサーバは両者の大きい方のキー再生成シーケンス番号が選択されます。

連携キーサーバーの設定で 300 を超えるグループメンバーをサポートしている場合、**buffers huge size** コマンドを使用してバッファサイズを増やす必要があります。

キーサーバーの GETVPN グループ設定で使用される登録インターフェイスがシャットダウンされると、ネットワークスピットが発生します。推奨設定であるループバックインターフェイスの場合のように、インターフェイスが転送インターフェイスでない場合、キー再生成はグループ内のすべての KS から GM に送信されます。インターフェイスをシャットダウンすることによってキーサーバーをオフにすることはできません。キーサーバーを安全にオフにするには、**no crypto gdoi group group name** コマンドを使用します。

次の例は、キーサーバーの GETVPN グループ設定で参照される登録インターフェイスを示しています。

```
crypto gdoi group groupA
identity number 111
server local
  sa ipsec 10
  profile groupA
  match address ipv4 groupA-crypto-policy
  no replay
  no tag
  address ipv4 a.b.c.d
  redundancy
  local priority 250
  peer address ipv4 a.b.c.d
  peer address ipv4 a.b.c.d
```

## 通知メッセージ

通知メッセージは IKE フェーズ 1 によってセキュリティ保護され、IKE 通知メッセージとして送信されます。IKE によって提供される認証および機密保持は、キーサーバ間のメッセージをセキュリティ保護するために使用されます。通知メッセージ内のシーケンス番号によって、アンチリプレイ保護が提供されます。通知メッセージは定期的にプライマリ キーサーバからセカンダリ キーサーバに送信されます。

通知メッセージには、現在の状態を維持するための次のコンポーネントが含まれます。



### キー サーバの送信元プライオリティ

この値は送信元のプライオリティを示します。CLIによって設定可能です。最も高いプライオリティを持つキー サーバがプライマリ キー サーバとなります。プライオリティの値が同じ場合、最も高い IP アドレスを持つキー サーバがプライマリ キー サーバになります。

### 送信元のロールの維持

同期期間中、各キー サーバが地理的に分散した場所にある場合、それらのキー サーバにネットワーク分割イベントが発生する可能性があります。ネットワーク分割イベントが発生した場合、一定の期間中、複数のキーサーバがプライマリ キーサーバになる可能性があります。ネットワークが再び正常に動作し、すべてのキー サーバが互いに検知したら、各キー サーバがそれぞれの正しいロールを維持できるように、それらのサーバに対して、送信元の現在のロールを通知する必要があります。

### リターンパケットフラグの要求

すべてのメッセージは一方方向のメッセージとして定義されています。必要に応じて、キーサーバによってピアから現在の状態を要求し、そのロールを検出するか、グループの現在の状態を要求するかを行うことができます。

### グループポリシー

グループポリシーは、任意のグループのために維持されるポリシーです。グループメンバーの情報、IPsec SA、およびキーなどがあります。

アンチリプレイ機能および組み込まれた連携通知メッセージがサポートされています。プライマリ キー サーバによって疑似時間値が更新され、その値がグループ内のすべてのセカンダリキーサーバに送信されます。セカンダリ キーサーバによって、それらのサーバの SAR クロックとこの更新された値とが同期されます。

### 連携キー サーバ間の ANN メッセージシーケンス番号のチェック

次に、連携キー サーバ間のシーケンス番号のチェックについて説明します。

- 連携キーサーバは、最後に受信した ANN メッセージのシーケンス番号以下の番号の ANN メッセージをすべてドロップします。
- ANN メッセージは、その差が大きくても、最後に受信したキー再生成メッセージよりシーケンス番号が大きい場合に承認されます。
- キーサーバがリロードされると、新しい IKE セッションがピア間に作成され、リロードされたキーサーバの ANN シーケンス番号はゼロから開始します。この場合、もう一方ではどのシーケンス番号の ANN メッセージも受け入れます。

## キー サーバのロールの変更

連携キーサーバのネットワークでは、プライマリ サーバが、選択時における最も高いプライオリティに基づいて選択されます。他のキーサーバのステータスはセカンダリになります。プ

プライマリキーサーバーが停止状態として検知されたり、そのロールが変更されたりした場合、**clear crypto gdoi ks coop role** コマンドを使用すれば、プライマリキーサーバーの連携ロールをリセットできます。

**clear crypto gdoi ks coop role** コマンドがセカンダリキーサーバー上で実行されると、選択がそのセカンダリキーサーバー上でトリガーされますが、すでに選択されているプライマリキーサーバーが存在しているため、たいていの場合そのサーバーはセカンダリキーサーバーのままとなります。しかし、**clear crypto gdoi ks coop role** コマンドがプライマリキーサーバー上で実行された場合、そのプライマリキーサーバーはセカンダリロールに再割り当てされ、その結果、すべてのキーサーバーが関わる新しい選択がトリガーされます。前のプライマリサーバーのプライオリティが（すべてのキーサーバーの中で）最も高い場合、そのサーバーが再びプライマリサーバーになります。前のプライマリサーバーがプライオリティの最も高いサーバーではない場合、プライオリティが最も高いサーバーが新しいプライマリサーバーとして選択されます。

## 受信専用 SA

マルチキャストトラフィックで GDOI プロトコルが使用されている場合、双方向 SA がインストールされます。受信専用機能を利用すれば、段階的な導入が可能となり、ネットワーク全体を稼働させる前にごく少数のサイトを確認できます。サイトをテストするには、グループメンバーの1つが他のすべてのグループメンバーに暗号化されたトラフィックを送信し、トラフィックを復号化してトラフィックを「暗号化せずに」転送させる必要があります。受信専用 SA モードでは、期間の受信方向のみで暗号化できます。（受信専用 SA プロセスの手順を参照してください）。キーサーバーで **sa receive-only** コマンドを設定する場合、ステップ 2 および 3 は自動的に発生します。

1. GDOI キーサーバー上で IPsec SA を「受信専用」としてマーキングします。

これにより、グループメンバーによる着信方向だけの SA のインストールが可能となります。受信専用 SA は、暗号グループの下で設定できます（「グループ ID、サーバタイプ、および SA タイプの設定」セクションを参照してください）。

1. GDOI TEK ペイロードを「受信専用」としてマーキングします。

**sa receive-only** コマンドが設定されている場合、このグループ下のすべての TEK は、グループメンバーへの送信時に、キーサーバーによって「受信専用」としてマーキングされます。

1. 一方向の IPsec フローのインストール

GDOI グループメンバーによって、「受信専用」としてマーキングされているキーサーバーからの IPsec SA が受信される度に、グループメンバーによって、着信方向と発信方向の両方ではなく、着信方向だけでこの IPsec SA がインストールされます。

1. 次のローカル変換コマンドを使用して個々のグループメンバーをテストします。
2. **crypto gdoi gm ipsec direction inbound optional**
3. **crypto gdoi gm ipsec direction both**

最初に、個々のグループメンバーを個別に **passive** モード（この変換により、発信チェックに対して有効な SA が存在することが通知されます）に変換してから、次に、双方向モードに変換します。

1. 「受信専用」から「受信および送信」にグローバルに変換します。

テスト フェーズが終了し「受信専用」SA を双方向 SA に変換しなければならない時には、次の方式を使用できます。

## グローバル変換

グループ下の **sa receive-only** コマンドを削除します。**sa receive-only** コマンドを削除すると、このグループの新しい IPsec SA が作成され、キー再生成が開始されます。受信と同時に、グループメンバーによって、双方向で SA が再インストールされ、その SA の **passive** モードでの使用が開始されます。SA が永続的に **passive** モードでいることはできないので、5 分間キー再生成がなかった場合、グループメンバーによって、これらの SA が受信モードまたは送信モードに変更されます。**passive** モードから双方向暗号化モードへの変換は自動で行われるので、管理者は何もする必要はありません。

## パッシブ SA

パッシブ SA 機能によって、グループメンバーを、永続的に **passive** モードにするように設定できます。パッシブ SA 機能を使用すれば、**crypto gdoi gm ipsec direction inbound optional** 特権 EXEC コマンドを使用する必要はなくなります。ただし、ルータのリロード後にこれが永続するわけではなく、キー再生成からのキーサーバー設定によって無効にできます。**passive** モードのグループメンバーがあると、GET VPN への移行中におけるネットワーク テストやデバッグに利点があります。移行中に完全な暗号化保護を利用できるからです。グループメンバーの **passive** モード設定は、キー サーバ設定よりも高いプライオリティを持ちます。**crypto gdoi gm ipsec direction inbound optional** 特権 EXEC コマンドは、グループメンバーとキーサーバーの設定を元に戻す次のキー再生成まで設定を無効にすることができます。

パッシブ SA 機能を設定するには、「パッシブ SA の設定」セクションを参照してください。

## 拡張ソリューションの管理性

機能の確認を支援するために、複数の **show** コマンドおよび **debug** コマンドがサポートされています。詳細については、「Fail-Close モードのアクティブ化」セクションを参照してください。

## VRF-Lite インターフェイスによるサポート

VRF-Lite アプリケーションでは、ルーティングテーブルをユーザグループ（または VPN）ごとに分離することによって、コントロールプレーンおよびフォワーディングプレーンでのトラフィックのセグメンテーションがサポートされています。また、各ユーザグループの関連インターフェイスまたは専用インターフェイス上のトラフィックが転送されます。

MPLS VPN ネットワークに接続されているリモートサイトによって、セグメンテーションをキャンパスから WAN へ拡張する導入シナリオがあります。このような拡張されたセグメンテーションの場合、CE（グループメンバーまたはキーサーバ）デバイス上の CE-PE インター

フェイスが、関連する Virtual Routing and Forwarding (VRF) に「バインド」されます。この VRF インターフェイスは、MPLS PE デバイスに接続されます。MPLS PE デバイスでは、VRF インターフェイスが関連するボーダー ゲートウェイ プロトコル (BGP) VRF プロセスにマッピングされています。このような場合、クリプト マップが VRF インターフェイスに適用されます。他の設定変更は必要ありません。

## GM 登録の認証ポリシー

GM は、事前共有キーまたは公開キー インフラストラクチャ (PKI) を使用して登録時にキーサーバに認証できます。事前共有キーは、展開が容易ですが、プロアクティブに管理する必要があります。シスコはネットワーク内のすべてのデバイスに対してデフォルトキー (0.0.0.0 のアドレスで定義されるキー) を定義するのではなく、ピアベースの事前共有キーを展開することをお勧めします。事前共有キーは定期的に更新する必要があります (数ヶ月ごと)。



**Note** キー再生成は KEK を使用してセキュリティが確保されるため、事前共有キーは暗号化データプレーンまたはコントロールプレーンに影響を与えずにキー サーバグループメンバー (KS-GM) ピアごとに更新できます。新しく割り当てられた事前共有キーを使用して、発注済みの一連のキー サーバごとに GM を再登録できるようにすることが重要です。

PKI では、事前共有キーを使用するときに直面するキー管理の困難を克服するためにインフラストラクチャを使用します。PKI インフラストラクチャは認証局 (CA) として機能し、ここでルータ証明書が発行され、維持されます。ただし、IKE 認証中に PKI を使用することは計算負荷が集中します。PKI の展開では、キーサーバのキャパシティ、設計、および配置が重要になります。

セキュリティを強化するため、GET VPN では事前共有キーまたは PKI を使用する GM 認証もサポートします。詳細については、「GET VPN 認証」セクションを参照してください。

## GET VPN GM 認証

GET VPN GM 認証は、事前共有キーまたは PKI を使用して実行できます。GET VPN 認証をオンにすることはベストプラクティスです。キーサーバが複数の GDOI グループに使用される際、あるグループの GM が別のグループからキーとポリシーを要求するのを防ぐには、キーサーバ認証が必要です。ISAKMP 認証では GM がキーサーバから GDOI 属性を要求できることが確認され、GDOI 認証では GM がキーサーバに設定された特定のグループから GDOI 属性を要求できることが確認されます。

GDOI 認証は、GM から送信された ISAKMP ID に基づきます。GM が ID として IP アドレスを送信すると、認証アドレスのみが認証に使用されます。GM が識別名 (DN) またはホスト名を送信すると、認証 ID が使用されます。ID として IP アドレスを使用すると、DN またはホスト名と照合する認証がバイパスされます。逆も同様です。特定の DN の GM だけが接続できる (別の ID を使用する GM が接続できない) ようにするには、認証アドレスで **deny any** を指定する必要があります。

### 事前共有キーを使用する GM 認証

事前共有キーを使用するとき、GET VPN では IP アドレスを使用する GM 認証がサポートされます。GM の WAN アドレス（またはサブネット）を照合する ACL は、GET VPN グループ設定に定義し、適用することができます。ACL と一致する IP アドレスを持つ GM は認証が成功し、キー サーバに登録できます。GM IP アドレスが ACL と一致しない場合、キー サーバは GM の登録要求を拒否します。

認証失敗の場合、次の syslog メッセージが生成されます。

```
%GDOI-1-UNAUTHORIZED_IPADDR: Group getvpn received registration from  
unauthorized ip address: 10.1.1.9
```

### PKI を使用する GM 認証

PKI を使用する場合、GET VPN では一般的に使用される DN または完全修飾ドメイン名（FQDN）を使用する GM 認証がサポートされます。GM 認証をアクティブにするには、**authorization identity** コマンドを使用します。GM 証明書の特定のフィールド（通常、組織ユニット（OU））と一致する暗号 ID は、GET VPN グループ設定に定義し、適用することができます。暗号 ID を定義するには、**crypto identity** コマンドを使用します。

証明書クレデンシャルが ISAKMP ID と一致する GM は認証され、キー サーバに登録できます。たとえば、すべての GM 証明書に OU=GETVPN が発行される場合、すべての GM が OU=GETVPN を持つ証明書を提示することをチェック（認証）するようにキー サーバを設定できます。GM が提示する証明書の OU がそれ以外に設定されている場合、GM のキー サーバへの登録は認証されません。

認証が失敗した場合、次の syslog メッセージが生成されます。

```
%GDOI-1-UNAUTHORIZED_IDENTITY: Group getvpn received registration from  
unauthorized identity: Dist.name: hostname=GroupMember-1, ou=TEST
```

## Protocol Independent Multicast-Sparse Mode でのキー再生成機能

マルチキャストキー再生成は、マルチキャストのすべてのモードで使用できます。継続するトラフィックが受信されないと PIM-SM Shortest Path Tree（SPT）が廃棄される可能性があるため、Protocol Independent Multicast-Sparse Mode（PIM-SM）を設定するときは必ず、**rekey retransmit** コマンドを使用する必要があります。トラフィックが再開すると、PIM-SM によって SPT が必ず確立されます。キー再生成パケットを再送信すると、PIM-SM による SPT の設定時にグループメンバーによってキー再生成が受信される可能性が高くなります。

## Fail-Close モード

グループメンバーがキー サーバに登録されないと、そのグループメンバーを通過するトラフィックが暗号化されません。この状態は「フェールオープン」と呼ばれます。グループメンバーが登録される前に暗号化されていないトラフィックがそのグループメンバーを通過することを防ぐには、Fail-Close 機能を設定します。この機能を設定すると、暗黙的な「permit ip any any」ポリシーがインストールされ、そのグループメンバーを通過する暗号化されていないトラフィックはすべて廃棄されます（この状態を Fail-Close モードと呼びます）。

Fail-Close 機能は、インターフェイス ACL を設定することによっても実現可能です。ただし、Fail-Close 機能は、ACL リストよりも管理しやすく、実装も簡単です。

Fail-Close 機能を設定している場合でも、**match address** コマンド (**match address {access-list-number | access-list-name}**) を設定することによって、特定の暗号化されていないトラフィックがグループメンバーを通過することを許可することが可能です。この明示的な「deny」ACL は、暗黙的な「permit ip any any」によって、拒否された（暗号化されていない）トラフィックがグループメンバーの通過を許可される前に追加されます。

グループメンバーの登録が正常終了したら、Fail-Close ポリシーが明示的であるか暗黙的であるかを問わず削除され、グループメンバーの動作が、Fail-Close 機能が設定される以前のものと同じになります。

### Fail-Close 機能の使用上の注意事項

Fail-Close モードで作業するためにクリプト マップを設定する場合、注意しなければならないことがあります。Fail-Close ACL を正しく定義しないと、自分自身をロックアウトしてしまう可能性があります。たとえば、セキュアシェル (SSH) を使用して暗号マップが適用されたインターフェイス経由でルータにログインする場合、**deny tcp any eq port host address** コマンドラインを Fail-Close ACL 下に含める必要があります。キーサーバーへのパスを検索する場合は、ルータが使用しているルーティングプロトコル (**deny ospf any any** など) も含める必要がある場合もあります。最初に Fail-Close とその ACL を設定し、次に **show crypto map gdoi fail-close map-name** コマンドを使用して Fail-Close ACL を確認します。Fail-Close ACL を確認し、それが正しいと確信したら、**activate** コマンドを設定して、Fail-Close モードで暗号マップを動作させることができます。**activate** コマンドを設定しない限り、Fail-Close はアクティブになりません。

Fail-Close ACL はグループメンバーの視点で設定します。Fail-Close ACL は、グループメンバー上で次のように設定されます。

```
access-list 125 deny ip host host1-ip-addr host2-ip-addr
```

Fail-Close モードでは、host1 から host2 へのすべての IP トラフィックが、Group Member 1 によって、暗号化されていないテキストで送信されます。さらに、着信ミラートラフィック（つまり、host2 から host1 への IP トラフィック）も、GM1 によって暗号化されていないテキストで受信されます。



**Note** deny エントリに一致するすべての IP トラフィックは、グループメンバーによって、暗号化されていないテキストで送信されます。

着信トラフィックは、ミラーアクセスリストに対応付けられます。

Fail-Close アクセスリストは、グループメンバーアクセスリストと同じルールに従います。詳細は、「グループメンバーアクセスコントロールリスト」のセクションを参照してください。

GDOI 登録を行うために **deny udp any eq 848 any eq 848** コマンドを設定する必要はありません。コード自体によって、そのコードの設定対象となっているキーサーバーからの、特定のグ

グループメンバーの GDOI パケットであるかどうか判断されます。そのグループメンバーの GDOI パケットだった場合、そのパケットは処理されます。ただし、キーサーバーがグループメンバー 1 の後になるシナリオでは、グループメンバー 1 がキーサーバーに正常に登録できない場合、グループメンバー 1 に対して明示的に **deny udp any eq 848 any eq 848** コマンドラインが設定されていない限り、他のグループメンバーも登録できなくなります。しかし、Fail-Close 機能が正しく設定されている場合は、グループメンバーがキーサーバーへの登録に失敗しても、望まないトラフィックが「暗号化されずに」出ていくことがないようにすることができます。ただし、他のグループメンバーからの登録パケットが、登録に失敗した場合でもグループメンバー 1 経由でキーサーバーに到達できる場合、指定されたトラフィックが暗号化されずに出ていくことを許可することができます。

Fail-Close モードの設定の詳細については、「Fail-Close モードのアクティブ化」セクションを参照してください。

Fail-Close モードがアクティブになっているか確認するには、**show crypto map gdoi fail-close** コマンドを使用します。

## フェールクローズ復帰

フェールクローズモードでは、フェールクローズモードで登録する前は、グループメンバーはそのローカルフェールクローズポリシーを適用し、それに応じてトラフィックを管理します。登録後は、グループメンバーはキーサーバーからダウンロードされたポリシーを適用し、それに応じてトラフィックを処理します。

キー再生成がない場合またはグループメンバーがキーサーバーに再登録できない場合、グループメンバーは、キーサーバーからダウンロードされた同じポリシーを使用します。暗号化または復号のためのキーがないため、パケットのドロップが発生します。フェールクローズ復帰により、グループメンバーは、フェールクローズモードに戻り、ダウンロードしたキーサーバーポリシーを削除することができます。これは、グループメンバーでフェールクローズ復帰が有効になっている場合にのみ発生します。

このフェールクローズ復帰は、すべてのアクティブな SA が期限切れになり、再登録のために到達できるキーサーバーがない場合にトリガーされます。**clear crypto sa** コマンドを使用して IPsec SA を手動でクリアすると、機能の意図した動作が得られません。ただし、キーサーバーに到達できない場合、**clear crypto gdoi** コマンドを使用するとフェールクローズモードに戻ります。

この機能の設定手順については、「フェールクローズ復帰の設定」のセクションを参照してください。

## GDOI 登録成功を追跡する MIB オブジェクトの作成

Null ルートを回避するため、GET VPN のルーティングプレーンと暗号プレーンは同期される必要があります。GET VPN Null ルートは、次の状況で発生します。

- アクティブな TEK がない KS に GM が登録できず、トラフィックを暗号化または復号化できない。
- GM TEK SA の期限が切れたがキー再生成または再登録によって KS から新しいキーを受け取っていない。

- GM は KS からキー再生成を受け取ったが、SA を暗号エンジンにインストールするときにエラーが発生する。

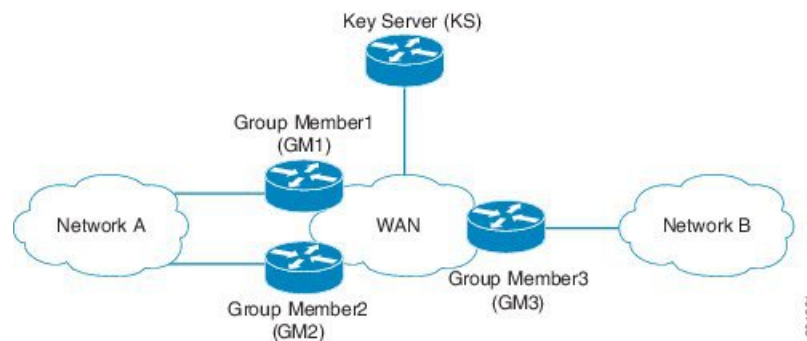
GDOI 登録成功を追跡する MIB オブジェクトの作成機能では、グループ内のアクティブな TEK 数を示すため、GDOI MIB に新しい MIB オブジェクトが導入されています。

## BGP の GET VPN ルーティング認識

Null ルートを回避するため、GET VPN のルーティングプレーンと暗号プレーンは同期する必要があります。グループメンバー (GM) がキーサーバ (KS) に正常に登録される場合、セキュリティポリシーまたはキーは GM にインストールされません。ただし、GM は他の GM に対して保護されたネットワークのルートをアドバタイズできます。

次の図は、Null ルートの生成について説明しています。

図 126: Null ルートの生成



1. グループメンバー1、グループメンバー2、グループメンバー3が起動し、WANとルーティングアジャセンシー関係を確立します。
2. グループメンバー1およびグループメンバー2は、ネットワークAのプレフィックスをWANにアドバタイズします。ネットワークBからネットワークAへのトラフィックの優先パスは、グループメンバー1経由です。
3. グループメンバー3はネットワークBをWANにアドバタイズします。トラフィックネットワークAからネットワークBへの優先パスは、グループメンバー1経由です。
4. KSは、ネットワークAとネットワークBの間のすべてのトラフィックを保護するためのセキュリティを定義します。
5. グループメンバー1とグループメンバー3（およびグループメンバー2）は正常にKSからセキュリティキーを取得し、ネットワークAとネットワークB間のすべてのトラフィックを保護します。
6. グループメンバー2およびグループメンバー3が正常にキーを取得する一方、グループメンバー1は更新されたキーまたはポリシーの受信に失敗し、KSへの再登録に失敗します。
7. ルーティングプロトコルは、ネットワークAとネットワークB間のすべてのトラフィックに対してグループメンバー1経由のパスを優先し続けます。



8. グループメンバー1は、ポリシーまたはキーが無効なため、ネットワーク A とネットワーク B の間に流れるトラフィックすべてをドロップします。

ネットワーク B のホストがネットワーク A のホストにトラフィックを送信する際、トラフィックはグループメンバー3によって暗号化され、グループメンバー1経由（優先パス）でネットワーク A に送信されます。ただし、グループメンバー1はトラフィックを復号するためのポリシーまたは現在のキーを持たないため、パケットをドロップします。その結果、トラフィックはドロップされ、Null ルートが生成されます。同様に、ネットワーク A のホストがネットワーク B のホストにトラフィックを送信する際、トラフィックはグループメンバー1（優先パス）に転送され、グループメンバー1にポリシーまたは現在のキーがないためにドロップされます。グループメンバー1にポリシーまたはキーがない場合、適切な動作としてトラフィックはグループメンバー2経由で転送および再ルーティングされます。

BGP の GET VPN ルーティング認識機能では、GETVPN GM の暗号化状態を追跡し、追跡情報を適用して GM で双方向条件付きルートフィルタリングを実行することにより、ルーティングが存在しない状態を回避します。

### 双方向条件付きルートフィルタリング

双方向条件付きルートフィルタリングでは、BGP、OSPF、EIGRP、RIPv2 などのさまざまなルーティングプロトコルをサポートしています。EOT は GET VPN GM 暗号化状態を追跡し、EOT 値に基づいて条件により特定のルートマップエントリを有効または無効にします。次に、GET VPN GM 暗号化状態をモニタする設定例を示します。

```
route-map bgp-policy-out permit 10
  match ip address register-int-Only
route-map bgp-policy-out permit 20
  match track 99
  match ip address orig_route_map_acl_out
route-map bgp-policy-out deny 30

route-map bgp-policy-in permit 10
  match ip address noc
route-map bgp-policy-in permit 20
  match track 99
  match ip address orig_route_map_acl_in
route-map bgp-policy-in deny 30

ip access-list standard noc
  permit 1.1.1.0 <---- NOC subnet with Keyserver (KS)
ip access-list standard register-int-Only
  permit 2.2.2.2 <---- registration interface ip of the
  GM itself
ip access-list standard orig_route_map_acl_in <---- original inbound route-map ACL

  permit a.b.c.d
  permit .....
ip access-list standard orig_route_map_acl_out <---- original outbound route-map
ACL
  permit e.f.g.h
  permit .....

router bgp 64600
  no synchronization
  bgp router-id xxxxxxxx
  bgp log-neighbor-changes
  network xxxxxxxxxx mask 255.255.255.255
```

```

network xxxxxxxxxx mask 255.255.255.252
neighbor xxxxxxxxxx remote-as 65000
neighbor xxxxxxxxxx description PE
neighbor xxxxxxxxxx route-map bgp-policy-in in
neighbor xxxxxxxxxx route-map bgp-policy-out out

```

上記の例では、GET VPN GM 暗号化状態をモニタするために **match track 99** コマンドが指定されています。GM が適切に機能する場合、**match track 99** コマンドは値 *true* を返し、GM は次のルートをアドバタイズまたは受信します。

- 発信：GM 登録インターフェイスに到達するルート、および着信ルートマップのアクセスコントロールリスト (ACL) 「orig\_route\_map\_acl\_out」によって許可されたルート。
- 着信：NOCに到達するルート、およびルーティングは、ピアから受信した発信ルートマップ ACL 「orig\_route\_map\_acl\_in」によって許可されたルート。

一方、GM が正しく機能しない場合、**match track 99** コマンドは値 *false* を返し、GM は次のルートのみをアドバタイズまたは受信します。

- 発信：GM 登録インターフェイスに到達するルート。
- 着信：NOC サブネットに到達するルート。

## Cisco Group Encrypted Transport VPN システム ログメッセージ

次の表に、GET VPN システム ログ (syslog と呼ばれます) メッセージと説明を示します。

**Table 288:** GET VPN システム ログメッセージ

メッセージ	説明
COOP_CONFIG_MISMATCH	プライマリ KS とセカンダリ KS 間の設定が一致しません。
COOP_KS_ADD	グループ内の連携 KS のリストに KS が追加されました。
COOP_KS_ELECTION	ローカル KS によってグループ内の選択プロセスが開始されました。
COOP_KS_REACH	設定済み連携 KS 間の到達可能性は回復しています。
COOP_KS_REMOVE	グループ内の連携 KS のリストから KS が削除されました。
COOP_KS_TRANS_TO_PRI	ローカル KS が、グループ内のセカンダリサーバからプライマリ ロールに移行しました。

メッセージ	説明
COOP_KS_UNAUTH	認証されていないリモートサーバーによって、グループ内のローカル KS へのアクセスが試行されました。敵対的なイベントの可能性がります。
COOP_KS_UNREACH	設定済み連携 KS 間の到達可能性が失われています。敵対的なイベントの可能性がります。
COOP_KS_VER_MISMATCH	各 KS が、異なるバージョンの Cisco IOS コードを実行しています。
COOP_PACKET_DROPPED	ドライババッファサイズに設定されたハード制限によって、このサイズ以上のパケットの送信はできません。
GDOI-3-GDOI_REKEY_SEQ_FAILURE	シーケンス番号のアンチリプレイチェックが失敗したため、キー再生成メッセージが拒否されています。
GDOI-3-GM_NO_CRYPT_ENGINE	リソースが不足しているかサポートされていない機能が要求されたために暗号化エンジンが検出できません。
GDOI-3-PSEUDO_TIME_LARGE	キー再生成に、計算された許容される疑似時間の差を超える大きな疑似時間があります。
GDOI-3-PSEUDO_TIME_TOO_OLD	キー再生成に、計算された許容される疑似時間の差を超える小さな疑似時間があります。
GDOI-4-GDOI_ANN_TIMESTAMP_LARGE	セカンダリ KS が、プライマリ KS から計算された許容される疑似時間の差を超える大きな疑似時間がある ANN を受信しています。
GDOI-4-GDOI_ANN_TIMESTAMP_TOO_OLD	セカンダリ KS が、プライマリ KS から計算された許容される疑似時間の差を超える小さな疑似時間がある ANN を受信しています。
GDOI-5-COOP_KS_BLOCK_NEW_GM_REGISTER	セカンダリ KS がプライマリ KS から有効な疑似時間を受信していないため、GM のグループへの登録を一時的にブロックしています。

メッセージ	説明
GDOI-5-COOP_KS_VALID_ANN_TIMER_EXPIRED	セカンダリ KS が 3 つの再送信後に無効な疑似時間のある ANN を受信し続けています。セカンダリ KS は有効な ANN が受信されるまで一時的に新しいグループメンバー登録をブロックします。
GDOI_ACL_NUM	ACL のエントリが多すぎます。GDOI は、指定された最初の 100 個の ACL エントリだけを受け入れます。
GDOI_REKEY_FAILURE	GDOI キー再生成中に、KS からのペイロード構文解析が、この GM 上で失敗しました。
GM_ACL_MERGE	GM と KS 間における ACL の違いは解決され、結合が実行されました。
GM_ACL_PERMIT	GM は「拒否」の ACL のみをサポートできます。「許可」エントリと一致するすべてのトラフィックがドロップされます。
GM_CLEAR_REGISTER	ローカル GM によって、 <b>clear crypto gdoi</b> コマンドが実行されました。
GM_CM_ATTACH	このローカル GM 用の暗号マップが追加されました。
GM_CM_DETACH	このローカル GM 用の暗号マップが削除されました。
GM_CONV_SA_DUPLEX	IPsec SA が、GM 上のグループ内で双方向モードに変換されました。
GM_CONV_SA_DUPLEX_LOCAL	CLI コマンドによって、GM 上のグループ内で、IPsec SA が双方向モードに変換されました。
GM_DELETE	グループ内の GM が KS から削除されました。
GM_ENABLE_GDOI_CM	GM に、KS を持つグループ内の GDOI 暗号マップ上のイネーブルにされた ACL があります。
GM_HASH_FAIL	GDOI 登録プロトコル中に KS によって送信されたメッセージに不具合があるか、ハッシュがありません。

メッセージ	説明
GM_INCOMPLETE_CFG	GDOI グループ設定で、グループ ID、サーバ ID、またはその両方が見つからないために、登録が完了できません。
GM_NO_IPSEC_FLOWS	IPsec フロー 制限に関するハードウェアの制限に達しました。IPsec SA をこれ以上作成できません。
GM_RE_REGISTER	あるグループのために作成された IPsec SA が期限切れか、消去された可能性があります。KS に再登録する必要があります。
GM_RECV_DELETE	GM を削除するために KS によって送信されたメッセージを受信しました。
GM_RECV_REKEY	キー再生成を受信しました。
GM_REGS_COMPL	Registration complete.
GM_REJECTING_SA_PAYLOAD	GDOI 登録プロトコル中に、KS によって送信された提案が、ローカル GM によって拒否されました。
GM_REKEY_NOT_REC'D	GM によって、グループ内の KS からのキー再生成メッセージを受信されませんでした。現在実装されていません。
GM_REKEY_TRANS_2_MULTI	GM が、ユニキャストキー再生成メカニズムの使用から、マルチキャストメカニズムの使用へと移行しました。
GM_REKEY_TRANS_2_UNI	GM が、マルチキャストキー再生成メカニズムの使用から、ユニキャストメカニズムの使用へと移行しました。
GM_SA_INGRESS	グループ内の KS からの受信専用 ACL が、GM によって受信されました。
GM_UNREGISTER	GM がグループから去りました。
KS_BAD_ID	GDOI 登録プロトコル中に、ローカル KS と GM との間で設定の不一致が発生しました。
KS_BLACKHOLE_ACK	KS が、GM からの Null ルートメッセージの状態になりました。敵対的なイベントの可能性あります。

メッセージ	説明
KS_CLEAR_REGISTER	ローカル KS によって、 <b>clear crypto gdoi</b> コマンドが実行されました。
KS_CONV_SAS_DUPLEX	IPsec SA が、グループ内で双方向モードに変換されました。
KS_CONV_SAS_INGRESS	IPsec SA が、グループ内で受信専用モードに変換されました。
KS_FIRST_GM, GDOI, LOG_INFO	ローカル KS がグループに参加している最初の GM を受信しました。
KS_GM_REJECTS_SA_PAYLOAD	GDOI 登録プロトコル中に、KS によって送信された提案が、GM によって拒否されました。
KS_GM_REVOKED	キー再生成プロトコル中に、認証されていないメンバーによるグループへの加入が試行されました。敵対的なイベントの可能性がります。
KS_GROUP_ADD	コンフィギュレーションコマンドが実行され、グループ内に KS が追加されました。
KS_GROUP_DELETE	コンフィギュレーションコマンドが実行され、グループから KS が削除されました。
KS_HASH_FAIL	GDOI 登録プロトコル中に GM によって送信されたメッセージに不具合があるか、ハッシュがありません。
KS_LAST_GM	最後の GM がローカル KS でグループを去りました。
KS_NACK_GM_EJECT	KS が、GM からの ACK メッセージを受信しない状態になり、イジェクトされました。
KS_NO_RSA_KEYS	RSA キーが作成されなかったか、失われています。
KS_REGS_COMPL	KS による、グループ内における登録が正常終了しました。
KS_REKEY_TRANS_2_MULTI	グループが、ユニキャストキー再生成メカニズムの使用から、マルチキャストメカニズムへと移行しました。

メッセージ	説明
KS_REKEY_TRANS_2_UNI	グループが、マルチキャストキー再生成メカニズムの使用から、ユニキャストメカニズムの使用へと移行しました。
KS_SEND_MCAST_REKEY	マルチキャストキー再生成を送信中です。
KS_SEND_UNICAST_REKEY	ユニキャストキー再生成を送信中です。
KS_UNAUTHORIZED	GDOI 登録プロトコル中に、認証されていないメンバーによるグループへの加入が試行されました。敵対的なイベントの可能性ががあります。
KS_UNSol_ACK	KS によって、過去の GM からの非送信請求 ACK メッセージが受信されたか、DoS 攻撃を受けています。敵対的なイベントの可能性ががあります。
PSEUDO_TIME_LARGE	GM によって、その GM の疑似時間とは大きく異なる値を持つ疑似時間が受信されました。
REPLAY_FAILED	GM または KS のアンチリプレイチェックが失敗しました。
UNAUTHORIZED_IDENTITY	登録要求が、要求を行っているデバイスがグループの参加を許可されなかったために廃棄されました。
UNAUTHORIZED_IPADDR	登録要求が、要求を行っているデバイスがグループの参加を許可されなかったために廃棄されました。
UNEXPECTED_SIGKEY	予期しないシグニチャキーが検出されました。このシグニチャキーを解除します。
UNREGISTERED_INTERFACE	未登録のインターフェイスからの登録を受信中です。処理を停止してください。
UNSUPPORTED_TEK_PROTO	予期しない TEK プロトコルです。

# Cisco Group Encrypted Transport VPN の設定方法

## キー サーバの設定

### 前提条件

GDOI グループを作成する前に、最初に IKE および IPsec トランスフォーム セットを設定してから、IPsec プロファイルを作成する必要があります。IKE と IPsec トランスフォーム セットの設定方法、および IPsec プロファイルの作成方法については、「その他の関連資料」セクションの「関連資料」の項を参照してください。

### キー再生成メッセージに署名するための RSA キーの設定



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイトペーパーを参照してください。

キー再生成メッセージに署名するために使用される RSA キーを設定するには、次の手順を実行します。キー再生成が使用中でない場合、このサブ作業はスキップしてください。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `crypto key generate rsa general-keys label name-of-key`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto key generate rsa general-keys label</b> <i>name-of-key</i>  <b>Example:</b>  Router(config)# crypto key generate rsa general-keys label mykeys	キー再生成メッセージに署名するために使用される RSA キーを生成します。生成されるキーの長さ（ビット単位）を確認するプロンプトが表示されます。2048 未満の長さを指定することは推奨されません。

### 次の作業

グループ ID、サーバタイプ、および SA タイプを設定します（「グループ ID、サーバタイプ、および SA タイプの設定」セクションを参照してください）。

## グループ ID、サーバタイプ、および SA タイプの設定

サイトが大量にある場合、特にあるサイトが Dual Multipoint VPN (DMVPN) のような他の暗号化ソリューションから移行する場合は、予防措置を取り、段階的に機能を追加する必要があります。たとえば、すべての CPE デバイスを、トラフィックが双方向で暗号化されるように設定するのではなく、1 つまたは少数のグループだけが暗号化されたトラフィックの送信を許可されるように、一方向の暗号化を設定することが可能です。その他のデバイスは暗号化されたトラフィックだけを受信することが許可されます。1 つまたは少数のメンバーに関する一方向の暗号化の検証が終わったら、すべてのメンバーに対して双方向の暗号化をオンにできます。この「着信専用」トラフィックは、暗号グループ下で **sa receive only** コマンドを使用して制御可能です。

グループ ID、サーバタイプ、および SA タイプを設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group** *group-name*
4. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number** *number*
  - **identity address ipv4** *address*
5. **server local**
6. **sa receive-only**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	Router> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group group-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto gdoi group gdoigroupname	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>identity number number</b></li><li>• <b>identity address ipv4 address</b></li></ul> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# identity number 3333 <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# identity address ipv4 209.165.200.225	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。
ステップ 5	<b>server local</b> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI キー サーバとして指定し、GDOI ローカル サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>sa receive-only</b> <b>Example:</b> Router(config-local-server)# sa receive-only	IPsec SA がグループ メンバーによって「着信専用」としてインストールされるように指定します。

## 次の作業

グループ メンバーが双方向の受信および送信モードで動作するように、キー サーバ上の受信専用設定を削除します。

## キー再生成の設定

ここでは、次のオプションの作業について説明します。

キー再生成は、グループのポリシーと IPsec SA を定期的に更新するために、キーサーバによってコントロールプレーンで使用されます。グループ メンバー側では、他の何らかの理由によりタイマーが満了するときに完全に登録するのではないので、キー再生成への登録の更新がより効率的になります。最初の登録は常にユニキャスト登録です。

キーサーバは、ユニキャストまたはマルチキャストモードでキー再生成を送信するように設定できます。キー再生成の転送モードは、キーサーバによって IP マルチキャストが使用されてキー再生成が配信できるかどうかによって決まります。マルチキャスト機能がカスタマーのネットワーク内に存在しない場合、キーサーバを、ユニキャストメッセージを使用してキー再生成を送信するように設定する必要があります。

キー再生成の追加オプションでは、**rekey authentication**、**rekey retransmit**、および **rekey address ipv4** コマンドを使用します。ユニキャスト転送モードが設定されている場合、このユニキャストキー再生成メッセージの送信元アドレスが指定されるように **source address** コマンドを指定する必要があります。

マルチキャストは、キー再生成メッセージのデフォルトの転送タイプです。次の箇条書きでは、キー再生成転送タイプにどのような場合にマルチキャストにするか、あるいはユニキャストにするかを説明します。

- グループ内のすべてのメンバーがマルチキャストに対応している場合は、**rekey transport unicast** コマンドを設定しません。マルチキャストキー再生成はデフォルトでオンになっているので、このグループ下でキー再生成転送タイプ「ユニキャスト」が過去に設定されていない場合、**no rekey transport unicast** コマンドは必要ありません。
- グループ内のすべてのメンバーがユニキャストである場合、**rekey transport unicast** コマンドを使用します。
- グループ内に混合されたメンバーがある場合（つまり、大多数がマルチキャストで、少数がユニキャスト）、**rekey transport unicast** コマンドは設定しません。キー再生成は、グループメンバーの大多数に対して、マルチキャストで配信されます。マルチキャストメッセージを受信しない残りのグループメンバー（ユニキャストグループメンバー）は、そのポリシーが期限切れになった時にキーサーバに再登録する必要があります。混合モード（つまり、ユニキャストとマルチキャストキー再生成モード）は現在サポートされていません。

**no rekey transport unicast** コマンドが使用されている場合、マルチキャストキー再生成メッセージを受信できない GDOI グループ内のメンバーを、最新のグループポリシーを取得するようにキーサーバに再登録する必要があります。再登録すると、デフォルトの転送タイプが強制的にマルチキャストになります。過去に転送タイプが設定されていない場合、マルチキャスト転送タイプがデフォルトで適用されます。

## 前提条件

**rekey authentication** コマンドを設定する前に、**crypto key generate rsa** コマンドおよび **general-keys** キーワードと **label** キーワードを使用して RSA キーが生成されるようにルータを設定しておく必要があります（例：「**crypto key generate rsa general-key label my keys**」）。

## ユニキャスト キー再生成の設定

次の設定作業表では、アドレス「**ipv4 10.0.5.2**」は、ユニキャストまたはマルチキャストキー再生成メッセージを送信するキーサーバ上のインターフェイスを示しています。このアドレスは、ユニキャストキー再生成では必須ですが、マルチキャストキー再生成では任意です。マ

ルチキャスト キー再生成の場合、キー サーバの送信元アドレスを、キー再生成 ACL から取得できます。

ユニキャスト キー再生成を設定するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group *group-name***
4. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number *number***
  - **identity address ipv4 *address***
5. **server local**
6. **rekey transport unicast**
7. **rekey lifetime *seconds number-of-seconds***
8. **rekey retransmit *number-of-seconds number number-of-retransmissions***
9. **rekey authentication mypubkey rsa *key-name***
10. **address ipv4 *ipv4-address***

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group <i>group-name</i></b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto gdoi group gdoigroupname	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。  • <b>identity number <i>number</i></b> • <b>identity address ipv4 <i>address</i></b>  <b>Example:</b>	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Router(config-gdoi-group)# identity number 3333</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-gdoi-group)# identity address ipv4 209.165.200.225</pre>	
ステップ 5	<p><b>server local</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-gdoi-group)# server local</pre>	デバイスを GDOI キーサーバとして指定し、GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<p><b>rekey transport unicast</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-local-server)# rekey transport unicast</pre>	グループメンバーに対するキー再生成メッセージのユニキャスト配信を設定します。
ステップ 7	<p><b>rekey lifetime seconds <i>number-of-seconds</i></b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# rekey lifetime seconds 300</pre>	<p>(任意) 任意の暗号キーが使用される秒数を制限します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドが設定されていない場合、デフォルト値の 86,400 秒が有効になります。</li> </ul>
ステップ 8	<p><b>rekey retransmit <i>number-of-seconds</i> <b>number</b> <i>number-of-retransmissions</i></b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# rekey retransmit 10 number 3</pre>	<p>(任意) キー再生成メッセージが再送信される回数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドが設定されていない場合、再送信は行われません。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>rekey authentication mypubkey rsa <i>key-name</i></b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# rekey authentication mypubkey rsa mykeys</pre>	<p>(任意) GDOI グループメンバーに対するキー再生成に使用されるキーを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キー再生成が不要な場合、このコマンドは任意です。キー再生成が必須の場合、このコマンドは必須です。</li> </ul>
ステップ 10	<p><b>address ipv4 <i>ipv4-address</i></b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# address ipv4 209.165.200.225</pre>	<p>(任意) ユニキャスト キー再生成メッセージの送信元情報を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キー再生成が不要な場合、このコマンドは任意です。キー再生成が必須の場合、このコマンドは必須です。</li> </ul>

## マルチキャスト キー再生成の設定

マルチキャスト キー再生成を設定するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group** *group-name*
4. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number** *number*
  - **identity address ipv4** *address*
5. **server local**
6. **rekey address ipv4** {*access-list-name* | *access-list-number*}
7. **rekey lifetime seconds** *number-of-seconds*
8. **rekey retransmit** *number-of-seconds* **number** *number-of-retransmissions*
9. **rekey authentication** {*mypubkey* | *pubkey*} **rsa** *key-name*
10. **exit**
11. **exit**
12. **access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} **udp** **host** *source* [*operator*[*port*]] **host** *source* [*operator*[*port*]]
13. **interface** *type* *slot/ port*
14. **ip igmp join-group** *group-address* [**source** *source-address*]

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i>  <b>Example:</b>  Router(config)# crypto gdoi group gdoigroupname	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。  • <b>identity number</b> <i>number</i> • <b>identity address ipv4</b> <i>address</i>  <b>Example:</b>	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>Router(config-gdoi-group)# identity number 3333</pre> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-gdoi-group)# identity address ipv4 209.165.200.225</pre>	
ステップ 5	<p><b>server local</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-gdoi-group)# server local</pre>	デバイスを GDOI キーサーバとして指定し、GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<p><b>rekey address ipv4</b> {<i>access-list-name</i>   <i>access-list-number</i>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# rekey address ipv4 121</pre>	登録するマルチキャストサブアドレス範囲グループメンバーを定義します。
ステップ 7	<p><b>rekey lifetime seconds</b> <i>number-of-seconds</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# rekey lifetime seconds 300</pre>	<p>(任意) 任意の暗号キーが使用される秒数を制限します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドが設定されていない場合、デフォルト値の 86,400 秒が有効になります。</li> </ul>
ステップ 8	<p><b>rekey retransmit</b> <i>number-of-seconds</i> <b>number</b> <i>number-of-retransmissions</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# rekey retransmit 10 number 3</pre>	<p>(任意) キー再生成メッセージが再送信される回数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドが設定されていない場合、再送信は行われません。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>rekey authentication</b> {<i>mypubkey</i>   <i>pubkey</i>} <b>rsa</b> <i>key-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# rekey authentication mypubkey rsa mykeys</pre>	<p>(任意) GDOI グループメンバーに対するキー再生成に使用されるキーを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キー再生成が不要な場合、このコマンドは任意です。キー再生成が必須の場合、このコマンドは必須です。</li> </ul>
ステップ 10	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(gdoi-local-server)# exit</pre>	GDOI サーバローカルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 11	<p><b>exit</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Router(config-gdoi-group)# exit</pre>	GDOI グループコンフィギュレーションモードを終了します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 12	<b>access-list</b> <i>access-list-number</i> {deny   permit} <b>udp</b> <b>host</b> <i>source [operator[port]]</i> <b>host</b> <i>source [operator[port]]</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# access-list 121 permit udp host 10.0.5.2 eq 848 host 239.0.1.2 eq 848</pre>	拡張 IP アクセス リストを定義します。
ステップ 13	<b>interface</b> <i>type slot/ port</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# interface gigabitethernet 0/0</pre>	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 14	<b>ip igmp join-group</b> <i>group-address [source source-address]</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config-if)# ip igmp join-group 232.2.2.2 source 10.1.1.1</pre>	指定したグループまたはチャンネルに参加するようにルータのインターフェイスを設定します。 <b>Note</b> 暗号マップが設定されているものと同じインターフェイスでキー サーバに到達できない場合に手動でストリームに参加するには、このコマンドを使用します。

## グループメンバー ACL の設定

deny エントリに一致するすべての IP トラフィックは、グループメンバーによって、暗号化されていないテキストで送信されます。着信トラフィックは、ミラー アクセス リストに対応付けられます。



**Note** グループメンバー ACL にエントリを追加または削除するために推奨の方法として、最初に既存のグループメンバー ACL のコピーを異なる名前で作成してから、この新しい ACL のエントリに追加または削除します。その後 GDOI 暗号マップ下の既存のグループメンバー ACL を新しく作成したグループメンバー ACL で置き換える必要があります。この推奨の方法に従わない場合、予期しない動作が発生する可能性があります。

グループメンバー ACL を設定するには、このタスクを実行します（グループメンバーのアクセス リストに拒否ステートメントが含まれている場合があることに注意してください）。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **access-list** *access-list-number* **deny ip** *host source* *host source*
4. **access-list** *access-list-number* **permit ip** *source*



## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>access-list</b> <i>access-list-number</i> <b>deny ip host source</b> <b>host source</b> <b>Example:</b>  Router(config)# access-list 101 deny ip host 10.0.0.1 host 10.0.0.2	拒否される IP アクセス リストを定義します。
ステップ 4	<b>access-list</b> <i>access-list-number</i> <b>permit ip source</b> <b>Example:</b>  Router(config)# access-list 103 permit ip 209.165.200.225 0.255.255.255 10.20.0.0 0.255.255.255	許可される IP アクセス リストを定義します。

## 次の作業

手順4で定義したアクセスリストは、SAの設定に使用する必要があるものと同じです。「IPsec SAの設定」のセクションを参照してください。

## IPsec ライフタイム タイマーの設定

プロファイルの IPsec ライフタイム タイマーを設定するには、次の手順を実行します。この設定作業を実行しない場合、デフォルトは最大 IPsec SA ライフタイムの3600秒になります。TEK ライフタイム値は900秒を超える値にする必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec profile** *name*
4. **set security-association lifetime** *seconds* *seconds*

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec profile name</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto ipsec profile profile1	2つの IPsec ルータ間における IPsec 暗号化で使用される IPsec パラメータを定義し、暗号化 IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set security-association lifetime seconds seconds</b> <b>Example:</b> Router(ipsec-profile)# set security-association lifetime seconds 2700	IPsec SA をネゴシエーションするときを使用されるグローバルライフタイム値を上書きします（特定のクリプト マップ エントリの場合）。

## 次の作業

IPsec SA を設定します。「IPsec SA の設定」のセクションを参照してください。

## ISAKMP ライフタイム タイマーの設定

ISAKMP ライフタイム タイマーを設定するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp policy priority**
4. **lifetime seconds**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp policy priority</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto isakmp policy 1	IKE ポリシーを定義し、ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>lifetime seconds</b> <b>Example:</b> Router(config-isakmp-policy)# lifetime 86400	IKE SA のライフタイムを指定します。

## IPsec SA の設定

時間ベースのアンチ リプレイがキー サーバ上で設定されているが、それに対応する機能がグループメンバーにない場合、GDOI-3-GM\_NO\_CRYPT0\_ENGINE syslog メッセージがグループメンバーに記録されます。システム エラー メッセージの一覧については、「Cisco Group Encrypted Transport VPN システム ロギング メッセージ」セクションを参照してください。



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイト ペーパーを参照してください。

IPsec SA を設定するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec transform-set transform-set-name transform [transform2...transform4]**
4. **crypto ipsec profile ipsec-profile-name**
5. **set transform-set transform-set-name**

6. **exit**
7. **crypto gdoi group** *group-name*
8. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number** *number*
  - **identity address ipv4** *address*
9. **server local**
10. **sa ipsec** *sequence-number*
11. **profile** *ipsec-profile-name*
12. **match address ipv4** {*access-list-number* | *access-list-name*}
13. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name</i> <i>transform</i> [ <i>transform2...transform4</i> ]  <b>Example:</b>  Router(config)# crypto ipsec transform-set gdoi-trans esp-aes esp-sha-hmac	トランスフォームセット (セキュリティプロトコルとセキュリティ アルゴリズムの受け入れ可能な組み合わせ) を定義します。
ステップ 4	<b>crypto ipsec profile</b> <i>ipsec-profile-name</i>  <b>Example:</b>  Router(config)# crypto ipsec profile profile1	IPsec プロファイルを定義し、暗号 ipsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i>  <b>Example:</b>  Router(ipsec-profile)# set transform-set transformset1	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。
ステップ 6	<b>exit</b>  <b>Example:</b>	IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。

	Command or Action	Purpose
	Router(ipsec-profile)# exit	
ステップ 7	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto gdoi group gdoigroupname	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	次のいずれかのコマンドを入力します。  • <b>identity number</b> <i>number</i> • <b>identity address ipv4</b> <i>address</i> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# identity number 3333 <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# identity address ipv4 209.165.200.225	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。
ステップ 9	<b>server local</b> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI キーサーバとして指定し、GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	<b>sa ipsec</b> <i>sequence-number</i> <b>Example:</b> Router(gdoi-local-server)# sa ipsec 1	GDOI グループに使用される IPsec SA ポリシー情報を指定し、GDOI SA IPsec コンフィギュレーションモードを開始する。
ステップ 11	<b>profile</b> <i>ipsec-profile-name</i> <b>Example:</b> Router(gdoi-sa-ipsec)# profile gdoi-p	GDOI グループ用の IPsec SA ポリシーを定義します。
ステップ 12	<b>match address ipv4</b> { <i>access-list-number</i>   <i>access-list-name</i> } <b>Example:</b> Router(gdoi-sa-ipsec)# match address ipv4 102	GDOI 登録の IP 拡張アクセスリストを指定します。
ステップ 13	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(gdoi-sa-ipsec)# end	GDOI SA IPsec コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 次の作業

リプレイを設定する必要があります。リプレイを設定しない場合、デフォルトはカウンタモードになります。

## GDOI グループ用の時間ベースのアンチリプレイの設定

GDOI グループ用の時間ベースのアンチリプレイを設定するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group** *group-name*
4. **identity number** *policy-name*
5. **server local**
6. **address** *ip-address*
7. **sa ipsec** *sequence-number*
8. **profile** *ipsec-profile-name*
9. **match address** {**ipv4** *access-list-number* | *access-list-name*}
10. **replay counter window-size** *seconds*
11. **replay time window-size** *seconds*

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto gdoi group gdoigroup1	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>identity number</b> <i>policy-name</i> <b>Example:</b>  Router(config-gdoi-group)# identity number 1234	GDOI グループ番号を指定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>server local</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# server local</pre>	デバイスを GDOI キーサーバとして指定し、GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>address ip-address</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-server-local)# address 209.165.200.225</pre>	送信元アドレスを設定します。このアドレスは、ローカルキーサーバによって送信されるパケットの送信元として使用されます。
ステップ 7	<b>sa ipsec sequence-number</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-server-local)# sa ipsec 1</pre>	IPsec SA を指定し、GDOI SA IPsec コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	<b>profile ipsec-profile-name</b> <b>Example:</b> <pre>Router(gdoi-sa-ipsec)# profile test1</pre>	GDOI グループ用の IPsec SA ポリシーを定義します。
ステップ 9	<b>match address {ipv4 access-list-number   access-list-name}</b> <b>Example:</b> <pre>Router(gdoi-sa-ipsec)# match address ipv4 101</pre>	GDOI 登録の IP 拡張アクセスリストを指定します。
ステップ 10	<b>replay counter window-size seconds</b> <b>Example:</b> <pre>Router(gdoi-sa-ipsec)# replay counter window-size 512</pre>	<p>1つのグループ内に2つのグループメンバーだけが存在している場合、GDOIを使用して、アクセスリスト内に定義されたトラフィックのカウンタベースのアンチリプレイ保護をオンにします。</p> <p><b>Note</b> このコマンドによる動作と <b>replay time window-size</b> コマンドによる動作は、相互に排他的な関係にあります。設定できるのはどちらか一方だけです。</p>
ステップ 11	<b>replay time window-size seconds</b> <b>Example:</b> <pre>Router(gdoi-sa-ipsec)# replay time window-size 1</pre>	<p>1つのグループ内に3つ以上のグループメンバーが存在している場合、GDOIを使用して、アンチリプレイ保護のウィンドウサイズを設定します。</p> <p><b>Note</b> このコマンドによる動作と <b>replay counter window-size</b> コマンドによる動作は、相互に排他的な関係にあります。設定できるのはどちらか一方だけです。</p>

## パッシブ SA の設定

(グループメンバーを passive モードにするために) パッシブ SA を設定するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group** *group-name*
4. **identity** *name*
5. **passive**
6. **server address ipv4** *{address | hostname}*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto gdoi group group1	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>identity</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# identity 2345	クリプト マップに対して ID を設定します。
ステップ 5	<b>passive</b> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# passive	グループメンバーを passive モードにします。
ステップ 6	<b>server address ipv4</b> <i>{address   hostname}</i> <b>Example:</b>	GDOI グループが到達しようとするサーバのアドレスを指定します。



	Command or Action	Purpose
	Router(config-gdoi-group)# server address ipv4 209.165.200.225	

## キー サーバのロールのリセット

プライマリ サーバの連携可能なロールをリセットするには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear crypto gdoi ks coop role**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>clear crypto gdoi ks coop role</b> <b>Example:</b> Router# clear crypto gdoi ks coop role	キー サーバの連携ロールをリセットします。

## グループメンバーの設定

グループメンバーを設定するには、次のサブ作業を実行します。

### グループ名、ID、キーサーバIPアドレス、およびグループメンバー登録の設定

グループ名、ID、キーサーバIPアドレス、およびグループメンバー登録を設定するには、次の手順を実行します。キーサーバアドレスは8個まで設定できます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group group-name**
4. 次のいずれかを実行します。
  - **identity number number**
  - **identity address ipv4 address**

5. `server address ipv4 address`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group group-name</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto gdoi group gdoigroupone	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>identity number number</b></li> <li><b>identity address ipv4 address</b></li> </ul> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# identity number 3333  <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# identity address ipv4 209.165.200.225	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。
ステップ 5	<b>server address ipv4 address</b> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# server address ipv4 209.165.200.225	GDOI グループが到達しようとするサーバのアドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>アドレスを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</li> </ul>

## 次の作業

クリプトマップを設定します。「暗号マップ エントリの作成」セクションを参照してください。

## 暗号マップ エントリの作成

クリプト マップ エントリを作成し、それに GDOI グループを関連付けるには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map** *map-name seq-num* **gdoi**
4. **set group** *group-name*

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map</b> <i>map-name seq-num</i> <b>gdoi</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto map mymap 10 gdoi	クリプト マップ コンフィギュレーション モードを開始して、クリプト マップ エントリを作成または変更します。
ステップ 4	<b>set group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b>  Router(config-crypto-map)# set group group1	GDOI グループをクリプト マップに関連付けます。

#### 次の作業

トラフィックを暗号化する必要があるインターフェイスにクリプトマップを適用します。「トラフィックを暗号化する必要があるインターフェイスへの暗号マップの適用」セクションを参照してください。

## トラフィックを暗号化する必要があるインターフェイスへの暗号マップの適用

トラフィックを暗号化する必要があるインターフェイスに暗号マップを適用するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type slot / port*
4. **crypto map** *map-name* **redundancy** *standby-group-name* **stateful**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface</b> <i>type slot / port</i> <b>Example:</b> Router(config)# interface gigabitethernet 0/0	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>crypto map</b> <i>map-name</i> <b>redundancy</b> <i>standby-group-name</i> <b>stateful</b> <b>Example:</b> Router(config-if)# crypto map map1	クリプトマップをインターフェイスに適用します。

## Fail-Close モードのアクティブ化

Fail-Close モードは、グループメンバーがキー サーバに登録される前に暗号されていないトラフィックがそのグループメンバーを通過しないようにします。

クリプトマップを Fail-Close モードで動作するように設定するには、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto map** *map-name* **gdoi fail-close**
4. **match address** {*access-list-number* | *access-list-name*}
5. **activate**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto map map-name gdoi fail-close</b> <b>Example:</b> Router(config)# crypto map map1 gdoi fail-close	暗号マップが Fail-Close モードで動作するように指定して暗号マップ Fail-Close コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>match address {access-list-number   access-list-name}</b> <b>Example:</b> Router(crypto-map-fail-close)# match address 133	(オプション) GDOI 登録用の ACL を指定します。
ステップ 5	<b>activate</b> <b>Example:</b> Router(crypto-map-fail-close)# activate	Fail-Close モードをアクティブ化します。

## フェールクローズ復帰の設定



**Note** フェールクローズ復帰機能では、フェールクローズモードをアクティブにする必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group group-name**
4. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number number**
  - **identity address ipv4 address**
5. **server address ipv4 address**

6. **client fail-close revert**
7. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group <i>group-name</i></b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto gdoi group gdoigroupone</pre>	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>identity number <i>number</i></b></li> <li>• <b>identity address ipv4 <i>address</i></b></li> </ul> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# identity number 3333</pre> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# identity address ipv4 10.2.2.2</pre>	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。
ステップ 5	<b>server address ipv4 <i>address</i></b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# server address ipv4 10.0.5.2</pre>	GDOI グループが到達しようとするサーバのアドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アドレスを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>client fail-close revert</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# client fail-close revert</pre>	クライアント フェール クローズ復帰機能を有効にします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# end</pre>	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## KEK の許容可能な暗号化アルゴリズムまたはハッシュ アルゴリズムの設定



**Note** セキュリティに対する脅威は、脅威からの保護に役立つ暗号化技術と同様に絶え間なく変化しています。最新のシスコの暗号化に関する推奨事項については、『[Next Generation Encryption](#)』（NGE）ホワイト ペーパーを参照してください。

GM によって許可される KEK の暗号化およびハッシュ アルゴリズムを設定するには、次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group** *group-name*
4. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number** *number*
  - **identity address ipv4** *address*
5. **server address ipv4** *address*
6. **client rekey encryption** *cipher* [... [*cipher*]]
7. **client rekey hash** *hash*
8. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto gdoi group gdoigroupone</pre>	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>identity number</b> <i>number</i></li> <li>• <b>identity address ipv4</b> <i>address</i></li> </ul> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# identity number 3333</pre> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# identity address ipv4 10.2.2.2</pre>	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。
ステップ 5	<b>server address ipv4</b> <i>address</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# server address ipv4 10.0.5.2</pre>	GDOI グループが到達しようとするサーバのアドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アドレスを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>client rekey encryption</b> <i>cipher</i> [... [ <i>cipher</i> ]] <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# client rekey encryption aes 128 aes 192 aes 256</pre>	KEK のクライアント受け入れ可能キー再生成暗号化を設定します。
ステップ 7	<b>client rekey hash</b> <i>hash</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# client rekey hash sha</pre>	KEK のクライアント受け入れ可能ハッシュを設定します。
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# end</pre>	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## TEK の受け入れ可能トランスフォームセットの設定

GM によって許可されるデータ暗号化または認証のために TEK が使用するトランスフォームセットを設定するには、次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**



2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec transform-set** *transform-set-name transform* [*transform2...transform4*]
4. **exit**
5. **crypto gdoi group** *group-name*
6. **client transform-sets** *transform-set-name1* [... [*transform-set-name6*]]
7. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name transform</i> [ <i>transform2...transform4</i> ] <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto ipsec transform-set g1 esp-aes 192 esp-sha-hmac</pre>	トランスフォームセット (セキュリティプロトコルおよびアルゴリズムの受け入れ可能な組み合わせ) を定義し、暗号化トランスフォーム コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(cfg-crypto-trans)# exit</pre>	暗号化トランスフォーム コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# crypto gdoi group gdoigroupone</pre>	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>client transform-sets</b> <i>transform-set-name1</i> [... [ <i>transform-set-name6</i> ]] <b>Example:</b> <pre>Router(config-gdoi-group)# client transform-sets g1</pre>	データの暗号化および認証のために TEK によって使用される受け入れ可能トランスフォームタグを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• トランスフォームセットタグは6個まで指定できます。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group)# end	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## グループメンバーの暗号状態の追跡

設定済みの拡張オブジェクト トラッカー (EOT) のスタブオブジェクト ID を使用してグループメンバー (GM) の暗号化状態を追跡するには、この作業を実行します。

### 始める前に

スタブオブジェクトを作成し、このオブジェクトにトラッキング ID を割り当てて GDOI MIB をモニタすることにより、拡張オブジェクト トラッキング (EOT) を設定する必要があります。次に、トラッキング ID 99 をスタブオブジェクトに割り当てる設定例を示します。

```
event manager applet test1
  event snmp oid <new GDOI MIB object> .....
  action 2.0 track set 99 state up

track 99 stub-object
  delay up 60
```

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group *group-name***
4. **client status active-sa track *tracking-number***
5. **exit**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group <i>group-name</i></b> 例 :	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config)# crypto gdoi group gdoigroupone	
ステップ 4	<b>client status active-sa track tracking-number</b> 例： Device(config-gdoi-group)# client status active-sa track 99	スタブオブジェクトの追跡を有効化します。この例では、GM がキー サーバ (KS) から有効なトラフィック暗号キー (TEK) を受信すると、スタブオブジェクト 99 の状態を「UP」に設定します。一方、登録失敗やキー再生成の前に TEK の期限が切れた場合などのエラーのために有効な TEK がない場合、GM はスタブオブジェクト 99 の状態を「DOWN」に設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Device(config-gdoi-group)# exit	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## GET VPN GM 認証の設定

GET VPN GM 認証は、事前共有キーまたは PKI を使用して実行できます。GET VPN 認証をオンにすることはベストプラクティスです。キー サーバが複数の GDOI グループに使用される際、あるグループの GM が別のグループからキーとポリシーを要求するのを防ぐには、キーサーバ認証が必要です。ISAKMP 認証では GM がキーサーバから GDOI 属性を要求できることが確認され、GDOI 認証では GM がキーサーバに設定された特定のグループから GDOI 属性を要求できることが確認されます。

GET VPN GM 認証を設定するには、次のいずれかのタスクを実行します。

### 事前共有キーを使用する GM 認証の設定

事前共有キーを使用する GM の認証を設定するには、次のステップを実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group** *group-name*
4. **server local**
5. **authorization address ipv4** { *access-list-name* | *access-list-number* }
6. **exit**
7. **exit**
8. **access-list** *access-list-number* [**dynamic** *dynamic-name* [**timeout** *minutes*]] {**deny** | **permit**} *protocol* *source source-wildcard destination destination-wildcard* [**precedence** *precedence*] [**tos** *tos*] [**time-range** *time-range-name*] [**fragments**] [**log** [*word*] | **log-input** [*word*]]
9. **exit**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Router(config)# crypto gdoi group getvpn	GDOI を指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>server local</b> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group) # server local	デバイスを GDOI キー サーバとして指定し、GDOI ローカル サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>authorization address ipv4</b> { <i>access-list-name</i>   <i>access-list-number</i> } <b>Example:</b> Router(gdoi-local-server) # authorization address ipv4 50	GDOI のアドレスのリストを指定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(gdoi-local-server) # exit	GDOI ローカル コンフィギュレーション モードを終了して GDOI グループ コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>exit</b> <b>Example:</b> Router(config-gdoi-group) # exit	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 8	<b>access-list</b> <i>access-list-number</i> [ <b>dynamic</b> <i>dynamic-name</i> ] [ <b>timeout</b> <i>minutes</i> ] { <b>deny</b>   <b>permit</b> } <i>protocol source source-wildcard destination destination-wildcard</i> [ <b>precedence</b> <i>precedence</i> ] [ <b>tos</b> <i>tos</i> ] [ <b>time-range</b> <i>time-range-name</i> ] [ <b>fragments</b> ] [ <b>log</b> [ <i>word</i> ]   <b>log-input</b> [ <i>word</i> ]]	許可される IP アクセス リストを定義します。 <ul style="list-style-type: none"><li>この例では、アクセス リスト番号 50 のアクセス リストが定義され、送信元 IP アドレス 209.165.200.225 から宛先 IP アドレス</li></ul>

	Command or Action	Purpose
	<b>Example:</b> <pre>Router(config)# access-list 50 permit ip 209.165.200.225 0.0.0.0 209.165.200.254 0.0.0.0</pre>	209.165.200.254 に送信されるパケットが許可されます。
ステップ 9	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>Router(config)# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## PKI を使用する GM 認証の設定

PKI を使用する GM の認証を設定するには、次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto isakmp identity {address | dn | hostname}**
4. **crypto pki trustpoint name**
5. **subject-name [x.500-name]**
6. **exit**
7. **crypto gdoi group group-name**
8. **server local**
9. **authorization identity name**
10. **exit**
11. **exit**
12. **crypto identity name**
13. **dn name=string [, name=string]**
14. **exit**
15. **crypto isakmp identity {address | dn | hostname }**
16. **crypto pki trustpoint name**
17. **subject-name [x.500-name]**
18. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto isakmp identity {address   dn   hostname}</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto isakmp identity dn	ルータがインターネットキー交換 (IKE) プロトコルに参加する際にルータが使用するアイデンティティを定義します。
ステップ 4	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto pki trustpoint GETVPN	ルータで使用するトラストポイントを宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>subject-name [x.500-name]</b> <b>Example:</b>  Router(ca-trustpoint)# subject-name OU=GETVPN	証明書要求の所有者名を指定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router(ca-trustpoint)# exit	CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	<b>crypto gdoi group group-name</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto gdoi group getvpn	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>server local</b> <b>Example:</b>  Router(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI キーサーバとして指定し、GDOI ローカルサーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 9	<b>authorization identity name</b> <b>Example:</b>  Router(gdoi-local-server)# authorization identity GETVPN_FILTER	GDOI グループのアイデンティティを指定します。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router(gdoi-local-server)# exit	GDOI ローカルサーバ コンフィギュレーション モードを終了して GDOI グループ コンフィギュレーション モードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router(config-gdoi-group)# exit	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 12	<b>crypto identity</b> <i>name</i> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto identity GETVPN_FILTER	ルータの証明書内にある指定 DN リストを使用してルータのアイデンティティを設定し、暗号アイデンティティ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<b>dn</b> <i>name=string</i> [, <i>name=string</i> ] <b>Example:</b>  Router(config-crypto-identity)# dn ou=GETVPN	ルータの証明書内にある DN に、ルータのアイデンティティを関連付けます。
ステップ 14	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Router(config-crypto-identity)# exit	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 15	<b>crypto isakmp identity</b> { <i>address</i>   <i>dn</i>   <i>hostname</i> } <b>Example:</b>  Router(config)# crypto isakmp identity dn	IKE プロトコルに参加する際にルータが使用するアイデンティティを定義します。
ステップ 16	<b>crypto pki trustpoint</b> <i>name</i> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto pki trustpoint GETVPN	ルータで使用するトラストポイントを宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 17	<b>subject-name</b> [ <i>x.500-name</i> ] <b>Example:</b>  Router(ca-trustpoint)# subject-name ou=getvpn	証明書要求の所有者名を指定します。
ステップ 18	<b>end</b> <b>Example:</b>  Router(ca-trustpoint)# exit	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、設定を保存して、特権 EXEC モードに戻ります。

## Cisco Group Encrypted Transport VPN 設定の確認とトラブルシューティング

GET VPN の設定を確認およびトラブルシューティングするには、次の作業を行います。これらの作業は任意であり、トラブルシューティング中に情報を収集するために行います。



**Note** CSCsi82594 では、時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) を有効にした場合、キー再生成の期間は 2 時間 (7200 秒) に設定されます。このシナリオでは、キーサーバは 2 時間 (7200 秒) ごとにグループメンバーに定期的にキー再生成を送信します。次の例では、トラフィック暗号キー (TEK) のライフタイムが 28800 秒 (8 時間) に設定されていますが、キー再生成タイマーは依然として 2 時間です。TBAR 情報を表示する show 出力の場合は、**show crypto gdoi gm replay** コマンドおよび **show crypto gdoi ks replay** コマンドを使用します。

```
crypto ipsec profile atm-profile
set security-association lifetime seconds 28800
!
crypto gdoi group ATM-DSL
server local
  sa ipsec 1
  !
  replay time window-size 100
```

## キーサーバ上のアクティブなグループメンバーの確認

キーサーバ上のアクティブなグループメンバーを確認するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto gdoi ks members**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show crypto gdoi ks members</b> <b>Example:</b> Router# show crypto gdoi ks members	キーサーバメンバーに関する情報を表示します。

## キー再生成関連統計情報の確認

キー再生成関連統計情報を確認するには、次の手順を実行します。



## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto gdoi ks rekey**
3. **show crypto gdoi [gm]**

## DETAILED STEPS

### Procedure

#### ステップ 1 enable

**Example:**

```
Device> enable
```

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

#### ステップ 2 show crypto gdoi ks rekey

**Example:**

```
Device# show crypto gdoi ks rekey
```

```
For group diffint (handle: 2147483650) server 10.0.8.1 (handle: 2147483650):
```

```
# of teks : 1 Seq num : 0
KEK POLICY (transport type : Unicast)
spi : 0xA8110DE7CC8B0FB201F2A8BFAAF2D90
management alg : disabled encrypt alg : 3DES
crypto iv length : 8 key size : 24
orig life(sec): 300 remaining life(sec): 296 <----- ticking down
sig hash algorithm : enabled sig key length : 94
sig size : 64
sig key name : mykeys
```

キーサーバ上でこのコマンドを実行すると、キーサーバから送信されるキー再生成に関する情報が表示されます。出力は、KEK の残りのライフタイムの経過を表示します。

#### ステップ 3 show crypto gdoi [gm]

**Example:**

```
Device# show crypto gdoi
GROUP INFORMATION
```

```
Group Name : diffint
Group Identity : 3333
Rekeys received : 0
IPSec SA Direction : Both
```

```
Group Server list : 10.0.8.1
```

```
Group member : 10.0.3.1 vrf: None
```

## グループメンバー上で GDOI によって作成された IPsec SA の確認

```

Version : 1.0.2
Registration status : Registered
Registered with : 10.0.8.1
Re-registers in : 93 sec <-----re-registration time for TEK or KEK
Succeeded registration: 1
Attempted registration: 1
Last rekey from : 0.0.0.0
Last rekey seq num : 0
Unicast rekey received: 0
Rekey ACKs sent : 0
Rekey Received : never
allowable rekey cipher: any
allowable rekey hash : any
allowable transformtag: any ESP

Rekeys cumulative
Total received : 0
After latest register : 0
Rekey Acks sents : 0

ACL Downloaded From KS 10.0.8.1:
access-list permit ip host 10.0.1.1 host 239.0.1.1
access-list permit ip host 10.0.100.2 host 238.0.1.1

KEK POLICY:
Rekey Transport Type : Unicast
Lifetime (secs) : 255 <-----lifetime ticking
Encrypt Algorithm : 3DES
Key Size : 192
Sig Hash Algorithm : HMAC_AUTH_SHA
Sig Key Length (bits) : 512

```

グループメンバー上でこのコマンドを実行すると、キーサーバから送信されるキー再生成に関する情報が表示されます。出力の「re-registers in」フィールドは、その後にグループメンバーが TEK または KEK に再登録する、より短い方の期間を表示します。

## グループメンバー上で GDOI によって作成された IPsec SA の確認

グループメンバー上で GDOI によって作成された IPsec SA を確認するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto gdoi group group-name ipsec sa**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。

	Command or Action	Purpose
	Router> enable	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show crypto gdoi group <i>group-name</i> ipsec sa</b> <b>Example:</b> Router# show crypto gdoi group diffint ipsec sa	グループメンバー上で GDOI によって作成された IPsec SA に関する情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>この場合、表示されるのは、グループ「diffint」に関する情報だけです。</li> <li>すべてのグループの IPsec SA に関する情報を表示するには、<b>group</b> キーワードおよび <i>group-name</i> 引数を省略します。</li> </ul>

## キーサーバ上で GDOI によって作成された IPsec SA の確認

キーサーバ上で GDOI によって作成された IPsec SA を確認するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. show crypto ipsec sa

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show crypto ipsec sa</b> <b>Example:</b> Device# show crypto ipsec sa	現在の SA によって使用されている設定を表示します。

## グループメンバーが最後にキーサーバから受信した TEK の確認

GM が最後に KS から受信した TEK を確認するには、GM で次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. show crypto gdoi

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show crypto gdoi</b> <b>Example:</b> Router# show crypto gdoi	現在の GDOI 構成、および KS からダウンロードされたポリシーを表示します。TEK は TEK POLICY セクションに表示されます。デバッグを有効にせずに、次のコマンドを使用することで、TEK が実際に最後に受信した GM を KS から IPsec コントロールプレーンにダウンロードした TEK ( <b>show crypto ipsec sa</b> コマンドを使用して表示可能) と比較できます。

## 連携キー サーバの状態と統計情報の確認

連携キーサーバーの状態と統計情報を確認するには、**debug** および **show** コマンドのうち1つまたは両方を使用して、次の手順を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **debug crypto gdoi ks coop**
3. **show crypto gdoi group group-name ks coop [version]**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>debug crypto gdoi ks coop</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto gdoi ks coop	連携キー サーバに関する情報を表示します。
ステップ 3	<b>show crypto gdoi group group-name ks coop [version]</b> <b>Example:</b>	グループ「diffint」に関する情報と、連携キー サーバに関するバージョン情報を表示します。

	Command or Action	Purpose
	Router# show crypto gdoi group diffint ks coop version	

## アンチリプレイ疑似時間関連の統計情報の確認

アンチリプレイ疑似時間関連の統計情報を確認するには、**clear**、**debug**、および **show** コマンドのうち1つまたはすべてを使用して、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **clear crypto gdoi group *group-name* replay**
3. **debug crypto gdoi replay**
4. **show crypto gdoi group *group-name***
5. **show crypto gdoi group *group-name* ks replay**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>clear crypto gdoi group <i>group-name</i> replay</b> <b>Example:</b> Router# clear crypto gdoi group diffint replay	リプレイ カウンタを消去します。
ステップ 3	<b>debug crypto gdoi replay</b> <b>Example:</b> Router# debug crypto gdoi replay	パケット内に格納されている疑似時間スタンプに関する情報を表示します。
ステップ 4	<b>show crypto gdoi group <i>group-name</i></b> <b>Example:</b> Router# show crypto gdoi group diffint	グループメンバーの現在の疑似時間に関する情報を表示します。  • このグループのアンチリプレイに関連する各種カウントも表示します。
ステップ 5	<b>show crypto gdoi group <i>group-name</i> ks replay</b> <b>Example:</b>	キーサーバの現在の疑似時間に関する情報を表示します。

	Command or Action	Purpose
	Router# show crypto gdoi group diffint ks replay	

## 暗号マップの Fail-Close モードの状態の確認

クリプトマップの Fail-Close モードの状態を確認するには、次の手順を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. show crypto map gdoi fail-close

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show crypto map gdoi fail-close</b> <b>Example:</b> Router# show crypto map gdoi fail-close	Fail-Close モードの状態に関する情報を表示します。

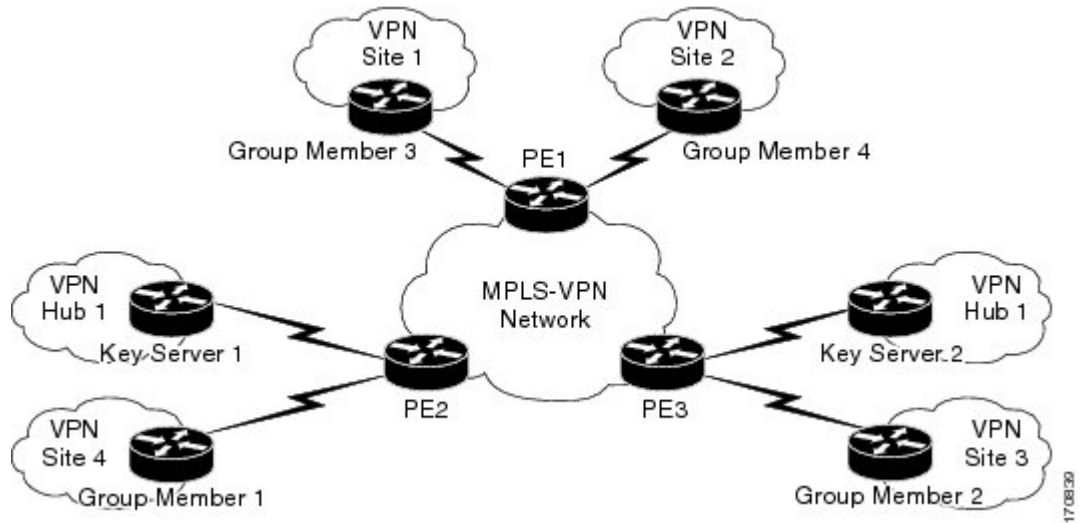
## Cisco Group Encrypted Transport VPN の設定例

### 例：キーサーバとグループメンバーのケーススタディ

次のケーススタディでは、MPLS VPN 環境における CE 間のトラフィックを暗号化します。

MPLS VPN コアによって、下図に示すとおり各 VPN サイトを相互接続します。Group Member 1 から Group Member 4 までの VPN サイト CPE を、これらのサイトがその一部となっている VPN と関連付けられた単一の GDOI グループにグループ化します。このシナリオは、インターネット VPN のシナリオです。すべてのキーサーバおよびグループメンバーは同じ VPN の一部です。Key Server 1 と Key Server 2 は連携キーサーバであり、VPN メンバーである Group Member 1 から Group Member 4 までがサポートされています。Key Server 1 はプライマリキーサーバであり、Key Server 2 はセカンダリキーサーバです。

Figure 127: キーサーバとグループメンバーのシナリオ



次の設定例は上図のケース スタディに基づいています。

## キーサーバ1の例

Key server 1 はプライマリ キー サーバです。

```

service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
service internal
!
hostname KS1
!
logging buffered 100000 debugging
no logging console
!
no aaa new-model
!
resource policy
!
clock timezone EST 0
ip subnet-zero
no ip domain lookup
ip domain name cisco.com
!
crypto isakmp policy 1
  encr 3des
  authentication pre-share
  group 2
  lifetime 400
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.13
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.9
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.1
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.5
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.21
!
crypto ipsec transform-set gdoi-trans-group1 esp-3des esp-sha-hmac
!

```

```

crypto ipsec profile gdoi-profile-group1
  set security-association lifetime seconds 1800
  set transform-set gdoi-trans-group1
!
crypto gdoi group group1
  identity number 1
  server local
    rekey lifetime seconds 86400
    rekey retransmit 10 number 2
    rekey authentication mypubkey rsa group1-export-general
    rekey transport unicast
  sa ipsec 1
    profile gdoi-profile-group1
    match address ipv4 101
    replay counter window-size 64
    address ipv4 209.165.200.225
  redundancy
    local priority 10
    peer address ipv4 209.165.200.225
!
interface Ethernet0/0
  ip address 209.165.200.225 255.255.255.252
!
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.1.1.18
!
access-list 101 permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 10.1.0.0 0.0.255.255
!
end

```

## キーサーバ2の例

Key Server 2はセカンダリ キーサーバです。

```

service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
service internal
!
hostname KS2
!
logging buffered 100000 debugging
no logging console
!
no aaa new-model
!
resource policy
!
clock timezone EST 0
ip subnet-zero
no ip domain lookup
ip domain name cisco
!
crypto isakmp policy 1
  encr 3des
  authentication pre-share
  group 2
  lifetime 400
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.9
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.1
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.5

```



```

crypto isakmp key cisco address 10.1.1.17
crypto isakmp key cisco address 10.1.1.13
!
crypto ipsec transform-set gdoi-trans-group1 esp-3des esp-sha-hmac
!
crypto ipsec profile gdoi-profile-group1
 set security-association lifetime seconds 1800
 set transform-set gdoi-trans-group1
!
crypto gdoi group group1
 identity number 1
 server local

 rekey lifetime seconds 86400
 rekey retransmit 10 number 2
 rekey authentication mypubkey rsa group1-export-general
 rekey transport unicast
 sa ipsec 1
 profile gdoi-profile-group1
 match address ipv4 101
 replay counter window-size 64
 address ipv4 10.1.1.21
 redundancy
 local priority 1
 peer address ipv4 10.1.1.17
!
interface Ethernet0/0
 ip address 209.165.200.225 255.255.255.252
!
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.1.1.22
!
access-list 101 permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 10.1.0.0 0.0.255.255
!
end

```

## 例：グループメンバー1の設定

Group Member 1 は、これらのサイトがその一部となっている VPN と関連付けられた GDOI グループの一部です。

```

service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname GM1
!
resource policy
!
clock timezone EST 0
ip subnet-zero
!
crypto isakmp policy 1
 encr aes
 authentication pre-share
 group 14
 lifetime 3600
crypto isakmp key cisco address 209.165.200.225
crypto isakmp key cisco address 209.165.201.1
!
crypto gdoi group group1

```

```

identity number 1
server address ipv4 209.165.200.225
server address ipv4 209.165.201.1
!
crypto map map-group1 10 gdoi
set group group1
!
interface Ethernet0/0
ip address 209.165.200.225 255.255.255.252
crypto map map-group1
!
router bgp 1000
no synchronization
bgp log-neighbor-changes
network 10.1.1.0 mask 255.255.255.0
neighbor 10.1.1.2 remote-as 5000
no auto-summary
!
ip classless
!
End

```

The same GDOI group cannot be applied to multiple interfaces. The following examples show unsupported cases:

### 例 1

```

crypto map map-group1
group g1
interface ethernet 1/0
crypto map map-group1
interface ethernet 2/0
crypto map map-group1

```

### 例 2

```

crypto map map-group1 10 gdoi
set group group1
crypto map map-group2 10 gdoi
set group group1
interface ethernet 1/0
crypto map map-group1
interface ethernet 2/0

```

## 例：グループメンバー2の設定

Group Member 2 は、これらのサイトがその一部となっている VPN と関連付けられた GDOI グループの一部です。

```

service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
!
hostname GM2
!
resource policy
!
clock timezone EST 0
ip subnet-zero
!

```

```
crypto isakmp policy 1
  encr aes
  authentication pre-share
  group 14
  lifetime 3600
crypto isakmp key cisco address 209.165.200.225
crypto isakmp key cisco address 209.165.201.1
!
crypto gdoi group group1
  identity number 1
  server address ipv4 209.165.201.1
  server address ipv4 209.165.200.225
!
crypto map map-group1 10 gdoi
  set group group1
!
interface Ethernet0/0
  ip address 209.165.200.225 255.255.255.252
  crypto map map-group1
!
router bgp 2000
  no synchronization
  bgp log-neighbor-changes
  network 10.1.2.0 mask 255.255.255.0
  neighbor 10.1.1.6 remote-as 5000
  no auto-summary
!
ip classless
!
end
```

## 例：グループメンバー3の設定

Group Member 3 は、これらのサイトがその一部となっている VPN と関連付けられた GDOI グループの一部です。

```
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname GM3
!
resource policy
!
clock timezone EST 0
ip subnet-zero
!
crypto isakmp policy 1
  encr aes
  authentication pre-share
  group 14
  lifetime 3600
crypto isakmp key cisco address 209.165.200.225
crypto isakmp key cisco address 209.165.201.1
!
crypto ipsec transform-set gdoi-trans-group1 esp-aes esp-sha-hmac
crypto gdoi group group1
  identity number 1
  server address ipv4 209.165.200.225
  server address ipv4 209.165.201.1
!
```

```

crypto map map-group1 10 gdoi
  set group group1
!
interface Ethernet0/0
  ip address 209.165.201.1 255.255.255.252
  crypto map map-group1
!
router bgp 3000
  no synchronization
  bgp log-neighbor-changes
  network 10.1.3.0 mask 255.255.255.0
  neighbor 10.1.1.10 remote-as 5000
  no auto-summary
!
ip classless
!
end

```

## 例：グループメンバー4の設定

Group Member 4 は、これらのサイトがその一部となっている VPN と関連付けられた GDOI グループの一部です。

```

service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
!
hostname GM4
!
clock timezone EST 0
ip subnet-zero
!
crypto isakmp policy 1
  encr aes
  authentication pre-share
  group 14
  lifetime 3600
crypto isakmp key cisco address 209.165.200.225
crypto isakmp key cisco address 209.165.201.1
!
crypto gdoi group group1
  identity number 1
  server address ipv4 209.165.200.225
  server address ipv4 209.165.201.1
!
crypto map map-group1 10 gdoi
  set group group1
!
interface Ethernet0/0
  ip address 209.165.201.1 255.255.255.252
  crypto map map-group1
!
router bgp 4000
  no synchronization
  bgp log-neighbor-changes
  network 10.1.4.0 mask 255.255.255.0
  neighbor 10.1.1.14 remote-as 5000
  no auto-summary
!
ip classless

```

```
!
end
```

## 例：グループメンバー5の設定

グループメンバーの複数のインターフェイスが同じGDOIグループの一部である場合、ループバックインターフェイスを使用して暗号化を行う必要があります。ループバックインターフェイスを使用しない場合、暗号化されたトラフィックが処理される各インターフェイスを個別にキーサーバに登録する必要があります。

キーサーバではこれらが別個の要求と判断されるので、同一のグループメンバーの複数のレコードが保管されます。これは、複数のキー再生成が送信されることも意味します。暗号化がループバックインターフェイスから行われる場合は、グループメンバーを一度だけキーサーバに登録します。

次の設定は、どのようにグループメンバーを一度だけキーサーバに登録するのかを示しています。

```
!

interface GigabitEthernet0/1
  description *** To AGG-1 ***
  crypto map dgvpn
!
interface GigabitEthernet0/2
  description *** To AGG-2 ***
  crypto map dgvpn
!
interface Loopback0
  ip address 209.165.201.1 255.255.255.255
!
  crypto map dgvpn local-address Loopback0
!
```

## 例：グループメンバーが最後にキーサーバから受信した TEK の確認

次の例は、現在の GDOI 構成、および KS からダウンロードされたポリシーを表示する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi

GROUP INFORMATION

      Group Name           : GETV6
      .
      .
      .
      KEK POLICY:
      .
      .
      .
      TEK POLICY for the current KS-Policy ACEs Downloaded:
      Ethernet2/0:
      IPsec SA:
      spi: 0x627E4B84(1652444036)
```

```

transform: esp-aes
sa timing:remaining key lifetime (sec): (3214)
Anti-Replay(Time Based) : 10 sec interval
tag method : cts sgt
alg key size: 24 (bytes)
sig key size: 20 (bytes)
encaps: ENCAPS_TUNNEL

```

## GROUP INFORMATION

```

Group Name          : GETV4
.
.
.
KEK POLICY:
.
.
.
TEK POLICY for the current KS-Policy ACEs Downloaded:
Ethernet2/0:
IPsec SA:
spi: 0xF6E6B597(4142314903)
transform: esp-aes
sa timing:remaining key lifetime (sec): (3214)
Anti-Replay : Disabled
tag method : cts sgt
alg key size: 24 (bytes)
sig key size: 20 (bytes)
encaps: ENCAPS_TUNNEL

```

TEK は TEK POLICY セクションに表示されます。デバッグを有効にせずに、次のコマンドを使用することで、TEK が実際に最後に受信した GM を KS から IPsec コントロールプレーンにダウンロードした TEK (**show crypto ipsec sa** コマンドを使用して表示可能) と比較できます。

タグメソッドフィールドは、GET VPN インラインタギングに使用するメソッドを示します。可能な値は cts sgt (Cisco TrustSec セキュリティグループタグ用) または無効です。alg キーサイズフィールドは、TEK ポリシーで設定されている暗号化アルゴリズムのキーの長さを示します。sig キーサイズフィールドは、TEK ポリシーで設定されている署名のキーの長さを示します。encaps フィールドは、TEK ポリシーで設定されている IPsec カプセル化のタイプ (トンネルまたはトランスポート) を示します。

このコマンドの出力は、TEK が KS から受け取った時刻から期限切れになったことを示す場合があります。

## パッシブ SA の例

次の例は、発信パケットに関する暗号化ルールに関する情報を示しています。

```

Router# show crypto ruleset
Ethernet0/0:
 59 ANY ANY DENY
 11 ANY/848 ANY/848 DENY
IP ANY ANY IPsec SA Passive
IP ANY ANY IPsec Cryptomap

```

次の例は、IPsec SA の方向モードを示しています。

```
Router# show crypto ruleset detail
Ethernet0/0:
 20000001000019  59 ANY ANY DENY -> 20000001999999
20000001000029  11 ANY/848 ANY/848 DENY -> 20000001999999
 20000001000035  IP ANY ANY IPsec SA Passive
 20000001000039  IP ANY ANY IPsec Cryptomap
```

## Fail-Close モードの例

次の例は、Fail-Close モードがすでにアクティブになっていて、グループメンバーが登録される前のアクセスリスト 102 からの暗号化されていないトラフィックが許可されていることを示しています。

```
crypto map map1 gdoi fail-close
 match address 102
 activate
crypto map map1 10 gdoi
 set group ksl_group
 match address 101
!
access-list 101 deny ip 10.0.1.0 0.0.0.255 10.0.1.0 0.0.0.255
access-list 102 deny tcp any eq telnet any
```

次の `show crypto map gdoi fail-close` コマンドの出力は、Fail-Close モードがすでにアクティブになっていることを示しています。

```
Router# show crypto map gdoi fail-close

Crypto Map: "svn"
  Activate: yes
  Fail-Close Access-List: (Deny = Forward In Clear, Permit = Drop)
    access-list 105 deny tcp any port = 23 any
    access-list 105 deny ospf any any
```

## 例：フェールクローズ復帰の確認

```
Device#show cry gdoi group GDOI_GROUP_1 | i Fail|Policy
Fail-Close Revert : Enabled
KS Policy Removal in : 697 sec
```

## Cisco Group Encrypted Transport VPN の追加の制約事項

### 標準

標準	タイトル
新しい標準または変更された標準はサポートされていません。また、既存の標準に対するサポートに変更はありません。	—

### MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-GDOI-MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### RFC

RFC	タイトル
RFC 2401	『 <i>Security Architecture for the Internet Protocol</i> 』
RFC 6407	『 <i>The Group Domain of Interpretation</i> 』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>



# Cisco Group Encrypted Transport VPN の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 289: Cisco Group Encrypted Transport VPN の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco Group Encrypted Transport VPN	Cisco IOS XE Release 2.3	Cisco Group Encrypted Transport VPN は、any-to-any の接続を必要とする大規模な IP または MPLS サイトに対する最適な暗号化ソリューションであり、コンバージェンスに要する時間が最短に抑えられ、処理、プロビジョニング、管理、トラブルシューティングの低いオーバーヘッドを実現しています。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>address ipv4 (GDOI)、clear crypto gdoi、crypto gdoi gm、debug crypto gdoi、local priority、peer address ipv4、redundancy、rekey address ipv4、rekey transport unicast、replay counter window-size、replay time window-size、sa receive-only、show crypto gdoi。</b>
GDOI 登録成功を追跡する MIB オブジェクトの作成	Cisco IOS XE リリース 3.12S	GDOI 登録成功を追跡する MIB オブジェクトの作成機能では、グループ内のアクティブな TEK 数を示すため、GDOI MIB に新しい MIB オブジェクトが導入されています。
GET VPN の強化	Cisco IOS XE Release 3.9S	この機能は GET VPN の復元力を改善します。復元力を強化することで、次のいずれかの方法を使用してデータトラフィックの中断を防止または最小化します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• トラフィックの中断の原因となる状態が検出された場合に修正を行います。</li> <li>• 障害が検出された場合に迅速に回復機能を実行します。</li> </ul> 次のコマンドが変更されました。 <b>show crypto gdoi、show crypto ipsec sa、show tech-support。</b>

機能名	リリース	機能情報
GET VPN IKEv1 の分離	Cisco IOS XE Release 3.11S	<p>この機能は、メンテナンスやトラブルシューティングに役立ちます。</p> <p>次のコマンドが変更されました。<b>show tech-support</b>、<b>show crypto gdoi</b>、および <b>show crypto ipsec sa</b>。</p>
GET VPN フェーズ 1.2	Cisco IOS XE Release 2.3	<p>これらの機能拡張には、次の機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• キー サーバのロールの変更 <p>この機能を使用すれば、キー サーバのロールをプライマリからセカンダリに変更できます。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。<b>clear crypto gdoi ks coop role</b></p> </li> <li>• Fail-Close モード <p>この機能によって、グループメンバーが登録される前に、暗号化されていないトラフィックがそのグループメンバーを通過することを防止できます。</p> <p>この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。<b>activate</b>、<b>crypto map</b>、<b>match address</b>、および <b>show crypto map</b>。</p> </li> <li>• パッシブ SA <p>この機能を使用すれば、グループメンバーを <b>passive</b> モードに永続的に設定できます。</p> <p>次のコマンドが導入されました：<b>passive</b></p> </li> </ul>
BGP 向けの GETVPN ルーティング対応	Cisco IOS XE リリース 3.13S	<p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>client status active-sa track</b>。</p>

機能名	リリース	機能情報
GET VPN の復元力	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>この機能は、エラーが発生したときのデータ トラフィックの中断が防止または最小化されるように GET VPN の復元力を向上します。</p> <p>この機能は、長い SA ライフタイムの機能を導入しています。これにより、キー暗号キーとトラフィック暗号キーのライフタイムを最大 24 時間から 30 日に延長して設定できます。また、この機能により、最後にスケジュールされたキー再生成の確認応答で応答しなかったグループ メンバーに、定期的にリマインダ キー再生成を送信し続けるようにキーサーバを設定することができます。</p> <p>長い SA ライフタイムを定期的なリマインダ キー再生成と組み合わせて使用することで、キーがロールオーバーする前にグループ メンバーがスケジュールされたキー再生成を行わない場合、キーサーバがグループ メンバーを効果的に同期できます。</p> <p>次のコマンドが変更されました。<b>rekey lifetime</b>、<b>rekey retransmit</b>、<b>set security-association lifetime</b>、<b>show crypto gdoi</b>。</p>
Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポート	Cisco IOS XE Release 3.9S	<p>Cisco TrustSec (CTS) は、認証時に取得したユーザとデバイスの ID 情報を使用して、ネットワークに進入するパケットを分類します。CTS では、CTS ネットワークへの進入時にセキュリティ グループ タグ (SGT) でパケットにタグを付けることで各パケットの分類が維持されます。これにより、パケットはデータパス全体を通じて識別され、セキュリティおよびその他のポリシー基準が適用されます。タグにより、スイッチやファイアウォールなどの中継ネットワークは分類に基づいてアクセス コントロール ポリシーを適用することができます。Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポート機能では、GET VPN インライン タギングを使用してプライベート WAN 経由で SGT 情報を伝送します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>show crypto gdoi</b>、<b>show crypto ipsec sa</b>、<b>tag cts sgt</b></p>
GET VPN 時間ベースのアンチリプレイ	Cisco IOS XE Release 2.3	時間ベースのアンチリプレイのサポートが Cisco VSA に追加されました。

機能名	リリース	機能情報
GET VPN のトラブルシューティング	Cisco IOS XE Release 3.8S	この機能では、エラー状態のログとそのトレースバック、および条件付きデバッグを保存（これはキーサーバから個々のグループメンバーをデバッグする機能を提供します）するために、デバッグレベル（これによりデバッグメッセージを機能ごとに有効にできます）、イベントロギング、トレース終了の機能の向上を提供します。条件付きデバッグ機能は、GM またはそのほかの連携キーサーバに基づいてフィルタリングできるように、キーサーバの条件付きデバッグを実行する能力を提供します。イベントロギング機能は、イベントの最後のセットを記録する機能を提供します。  次のコマンドが導入または変更されました。 <b>clear crypto gdoi</b> 、 <b>debug crypto condition unmatched</b> 、 <b>debug crypto gdoi</b> 、 <b>debug crypto gdoi condition</b> 、 <b>monitor event-trace gdoi</b> 、 <b>show crypto gdoi</b> 、および <b>show monitor event-trace gdoi</b> 。
Group Encrypted Transport VPN キーサーバ	Cisco IOS XE Release 3.6S	キーサーバとして Cisco IOS XE を実行するデバイスを設定するためのサポートが追加されました。  この機能は、Cisco IOS XE リリース 3.6S で Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータに導入されました。  Cisco IOS XE リリース 3.13S では、シスコクラウドサービス ルータ (CSR) 1000V シリーズのサポートが追加されました。
GET VPN の VSA サポート	Cisco IOS XE Release 2.3	Cisco VSA（高性能暗号化エンジン）サポートが、GDOI および GET VPN に対して追加されました。

## 用語集

**DOI** : Domain of Interpretation（ドメインオブインタープリテーション）。Internet Security Association Key Management Protocol (ISAKMP) の場合、キー管理メッセージが送信されるコンテキスト内に記述されるセキュリティアソシエーション (SA) のペイロード内の値です (IPsec または グループドメインオブインタープリテーション)。

**GDOI** : Group Domain of Interpretation（グループドメインオブインタープリテーション）。ISAKMP の場合、相互に信頼し合うシステムのグループのキーを配信および管理する手段です。

**group member** : グループに登録されるデバイス (Cisco IOS ルータ)。他のグループメンバーと通信するためにキーサーバによって制御されます。

**group security association** : グループ内のすべてのグループメンバーによって共有される SA です。

**IPsec** : IP security (IP セキュリティ)。一連の RFC (IETF RFC 2401 を参照) で定義されている IP パケット用データ暗号化プロトコル。

**ISAKMP** : Internet Security Association and Key Management Protocol。暗号キー管理プロトコルのためのフレームワークを提供するプロトコルです。

**KEK** : Key Encryption Key (キー暗号化キー)。キーサーバとグループメンバー間のキー再生成を保護するために使用されるキーです。

**key server** : グループメンバーに対してキーおよびポリシーを配信するデバイス (Cisco IOS ルータ)。

**MTU** : Maximum Transmission Unit (最大伝送単位)。通信プロトコルの特定のレイヤによって宛先に渡すことが可能な最大パケットまたはフレームサイズ (バイト単位) です。

**SA** : Security Association (セキュリティ アソシエーション)。グループ内のすべてのグループメンバーによって共有される SA です。

**Simple Network Management Protocol (SNMP)** : SNMP エージェントからの管理対象デバイスの外部モニタリングを可能にする、相互運用可能な標準ベースのプロトコルです。

**TEK** : Traffic Encryption Key (トラフィック暗号化キー)。グループメンバー間のキー再生成を保護するために使用されるキーです。





## CHAPTER 220

# GET VPN GM の削除とポリシー トリガー

GET VPN GM の削除とポリシー トリガー機能では、グループ暗号化トランスポート (GET) VPN ネットワークから不要なグループメンバー (GM) を簡単に削除できます。新しいセキュリティアソシエーション (SA) をインストールし、古い SA を削除するキー再生成トリガーの方法を提供します。また、デバイスがこれらの機能をサポートする GET VPN ソフトウェアのバージョンを実行しているかどうかを確認することができます。



**Note** GETVPN グループでの ACL の重複は禁止されています。VPN ネットワーク内のセキュリティ脆弱性や運用上の問題につながる可能性のある設定の問題を回避するには、このポリシーを明確に規定して適用することが不可欠です。

- GM の削除とポリシー トリガーに関する情報, [on page 3367](#)
- GET VPN GM 削除およびポリシー トリガーの設定方法, [on page 3372](#)
- GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーの設定例, [on page 3378](#)
- GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーのその他の参考資料, [on page 3381](#)
- GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーの機能情報, [on page 3382](#)

## GM の削除とポリシー トリガーに関する情報

### GET VPN のソフトウェア バージョン

GET VPN のソフトウェア バージョンは次の形式です。

*major-version.minor-version.mini-version*

値は次のとおりです。

- *major-version* は、すべての GET VPN デバイスの互換性を定義します。
- *minor-version* は、キー サーバ (KS) /KS 間 (連携キー サーバ) の関係と GM/GM 間の相互運用性に関する互換性を定義します。
- *mini-version* は、互換性に影響しない機能変更を追跡します。

たとえば、基本バージョン（以前のすべての GET VPN 機能）は 1.0.1 です。また、たとえば GM の削除機能とポリシー交換機能が含まれるバージョンは 1.0.2 である場合、これらの機能は（トリガーされるキー再生成でのこれらの機能の動作導入に関係なく）基本バージョンと完全な後方互換性があることを意味します。

GM はインターネット キー エクスチェンジ (IKE) フェーズ 1 ネゴシエーション (RFC 2408、『*Internet Security Association and Key Management Protocol [ISAKMP]*』で定義されています) の間にベンダー ID ペイロードで KS に GET VPN ソフトウェア バージョンを送信します。KS は、連携 KS 通知 (ANN) メッセージのバージョンフィールドで他の連携 KS にソフトウェア バージョンを送信します。連携 KS も、各 GM が使用しているバージョンのリストを同期します。

GM 削除機能とポリシー交換機能はそれぞれ、その機能をサポートしていないグループのデバイスを検出するために KS（またはプライマリ KS）で実行するコマンドを提供しています。

## GM の削除

GM の削除とポリシー交換機能がないとき、グループから不要な GM を削除するには、次の手順を実行する必要があります。

1. フェーズ 1 のクレデンシャル（たとえば、事前共有キーまたは 1 つ以上の PKI 証明書）を失効にします。
2. KS のトラフィック暗号キー (TEK) および Key Encryption Key (KEK) データベースをクリアします。
3. 各 GM で TEK および KEK データベースを個別にクリアし、強制的に各 GM を再登録します。

GET VPN グループが数千の GM にサービスを提供しているとき、機能させるとき、3 番目のステップには時間がかかります。また、実稼動ネットワークのグループ全体をクリアすると、ネットワーク中断を引き起こす可能性があります。GET VPN GM 削除機能とポリシートリガー機能では、KS（またはプライマリ KS）で入力したコマンドを使用して新たな一連の TEK および KEK キーを作成し、それらを GM に伝播することによって、このプロセスを自動化します。

## 他の GET VPN ソフトウェア バージョンとの GM 削除の互換性

GET VPN の GM 削除およびポリシートリガー機能は、GET VPN ネットワークのすべてのデバイスがこの機能をサポートする GET VPN ソフトウェア バージョンにアップグレードされた後にのみ使用する必要があります。そうしないと、古いソフトウェアを実行しているセカンダリ KS または GM が GM の削除メッセージを無視し、古い SA を使用してトラフィックの暗号化と復号化を続行します。この動作により、ネットワークトラフィックの中断が発生します。

この機能には、ネットワークのすべてのデバイスが GM の削除をサポートするバージョンを実行しているかどうかを確認するために KS（またはプライマリ KS）で使用するコマンドが用意されています。プライマリ KS が GM の削除をサポートしていないデバイスを含むネットワークの GM を削除しようとする、警告メッセージが表示されます。詳細については、「GM の



削除をサポートするソフトウェアバージョンを GM が実行していることを確認する」セクションを参照してください。

## 一時的な IPsec SA による GM の削除

GET VPN GM の削除とポリシー トリガー機能には、一時的な IPsec SA により GM の削除をトリガーするために KS（またはプライマリ KS）で使用するコマンドが用意されています。この動作により、すべての GM のキーのライフタイムが短縮され、キーの有効期限が切れる前に再登録します。GM の削除の間、ライフタイムが期限切れになるまで一時的な IPsec SA を使用してトラフィックの暗号化と復号化が継続されるため、ネットワーク中断は発生しません。詳細については、「一時的な IPsec SA による GM の削除」セクションを参照してください。

## 即時の IPsec SA 削除による GM の削除

GET VPN GM の削除とポリシー トリガー機能では、GM が強制的に古い TEK と KEK を（一時的な SA を使用せず）即座に削除し、再登録するために KS（またはプライマリ KS）で利用できるオプションのキーワードを提供します。ただし、この動作により、データプレーンに中断が引き起こされる可能性があります。そのため、重大なセキュリティ上の理由がある場合のみこの方式を使用する必要があります。詳細については、「GM の削除と IPsec SA の即座の削除」セクションを参照してください。

## ポリシーの交換とキー再生成のトリガー

GET VPN GM 削除およびポリシー トリガー機能では、古い SA を削除し、新しい SA をインストールするための新しいキー再生成トリガー方法を提供します。

## キー再生成をトリガーする TEK および KEK ポリシー変更に関する不整合

この機能なしでは、キー再生成をトリガーする TEK および KEK ポリシー変更に関して不整合があります。

- セキュリティ ポリシーの更新中に複数のキー再生成が送信される可能性があります。
- 一部のポリシー変更は（たとえば、トランスフォームセット、プロファイル、ライフタイム、およびアンチリプレイ）新しい SA を GM にインストールしますが、既存のポリシーからの SA はライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
- 一部のポリシー変更（たとえば、TEK のアクセスコントロールエントリ/アクセスコントロールリスト（ACE/ACL）の変更）は新しい SA を GM にインストールし、即座に有効になります。ただし、古い SA は各 GM のデータベースで維持されます（ライフタイムが期限切れになるまで `show crypto ipsec sa` コマンドを使用して表示できます）。

たとえば、KS が Data Encryption Standard（DES）から Advanced Encryption Standard（AES）にポリシーを変更する場合、GM がこのトリガーされたキー再生成を受け取ると、新しい SA（例：AES）がインストールされ、古い SA（例：DES）のライフタイムは短縮されます。GM は短縮されたライフタイムが期限切れになるまで古い SA を使用してトラフィックの暗号化と復号化を継続します。

次に、短縮されたライフタイムを計算する式を示します。

$$\text{TEK\_SLT} = \text{MIN}(\text{TEK\_RLT}, \text{MAX}(90\text{s}, \text{MIN}(5\%(\text{TEK\_CLT}), 3600\text{s})))$$

値は次のとおりです。

- TEK\_SLT は TEK の短縮されたライフタイムです。
- TEK\_RLT は TEK の残りのライフタイムです。
- TEK\_CLT は TEK の設定されたライフタイムです。

次の表は、キー再生成に関する不整合をまとめたものです。

**Table 290:** セキュリティ ポリシー変更後のキー再生成の動作

ポリシーの変更	キー再生成を送信するか	ポリシー変更後のキー再生成の動作
TEK : SA ライフタイム	No	古い SA は、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。新しいライフタイムは、次にスケジュールされたキー再生成の後に有効になります。 <b>clear crypto sa</b> コマンドを入力しても、古いライフタイムを使用して再登録され、古い SA が再度ダウンロードされます。
TEK : IPSEC トランスフォームセット	Yes	古いトランスフォームセットの SA は、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
TEK : IPSEC プロファイル	Yes	古いプロファイルの SA は、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
TEK : 一致する ACL	Yes	発信パケット分類ですぐに ACL が使用されます。ただし、古い SA は SA データベースに残ります ( <b>show crypto ipsec sa</b> コマンドを使用して表示できます)。
TEK : リプレイカウンタのイネーブル化	Yes	ただし、カウンタリプレイがない古い SA は、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
TEK : リプレイカウンタ値の変更	No	新しいリプレイカウンタがある SA は、次にスケジュールされたキー再生成時に送信されます。
TEK : リプレイカウンタのディセーブル化	Yes	ただし、カウンタリプレイがイネーブルになっている古い SA は、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。

ポリシーの変更	キー再生成を送信するか	ポリシー変更後のキー再生成の動作
TEK : TBAR の有効化	Yes	ただし、時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) が無効になった古い SA は、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
TEK : TBAR ウィンドウの変更	No	新しい TBAR ウィンドウがある SA は、次にスケジュールされたキー再生成時に送信されます。
TEK : TBAR の無効化	Yes	ただし、TBAR がイネーブルになっている古い SA は、そのライフタイムが期限切れになるまでアクティブのままになります。
TEK : 受信専用のイネーブル	Yes	受信専用モードは、キー再生成後ただちにアクティブになります。
TEK : 受信専用のディセーブル	Yes	受信専用モードは、キー再生成後ただちに非アクティブになります。
KEK : SA ライフタイムの動作	No	変更は次のキー再生成時に適用されます。
KEK : 認証キーの変更	Yes	変更は即時に適用されます。
KEK : 暗号アルゴリズムの変更	Yes	変更は即時に適用されます。

この機能では、一貫性を確保することで、これらの問題を解決します。この機能によって、GET VPN ポリシーの変更単独ではキー再生成がトリガーされなくなります。ポリシー（およびグローバルコンフィギュレーションモードの終了）を変更すると、ポリシーが変更され、キー再生成が必要であることを示す `syslog` メッセージがプライマリ KS に表示されます。この機能には、（実行コンフィギュレーションの最新のセキュリティポリシーに基づく）キー再生成を送信するために KS（またはプライマリ KS）で入力する新しいコマンドが用意されています。

この機能ではまた、古い TEK および KEK を即座に削除し、新しい TEK および KEK をインストールするようにキー再生成を受信する GM に強制する追加のキーワードを新しいコマンドに用意しています。そのため、新しいポリシーは古い SA ポリシーが期限切れになるのを待たずにただちに反映されます。（ただし、すべての GM が同時にキー再生成メッセージを受信しない場合があるため、このキーワードを使用すると、一時的なトラフィックの切断が発生する可能性があります）。

## ポリシーの交換およびキー再生成のトリガーの他の GET VPN ソフトウェアバージョンとの互換性

キー再生成のトリガーは、GET VPN ネットワーク内のすべてのデバイスをこの機能をサポートする GET VPN ソフトウェアバージョンにアップグレードしてから使用する必要があります。 **crypto gdoi ks** コマンドをまだサポートしていない古いバージョンを実行している GM では、プライマリ KS はソフトウェアバージョン管理機能を使用してこれらのバージョンを検出し、ポリシー交換のための命令を送信せずにキー再生成のトリガーのみ実行します。したがって、GM がキー再生成を受信すると、新しい SA をインストールしますが、古い SA の有効期間は短縮しません。（この動作は以前のキー再生成メソッドと同様であり、ポリシーの交換をサポートしないデバイスの後方互換性が確保されます。）

この機能は、ネットワークのすべてのデバイスがポリシーの交換をサポートするバージョンを実行しているかどうかを確認するために KS（またはプライマリ KS）で使用するコマンドを提供します。詳細については「GM がポリシーの交換をサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する」セクションを参照してください。

## GET VPN GM 削除およびポリシー トリガーの設定方法

### GM の削除をサポートするソフトウェアバージョンを GM が実行していることを確認する

GET VPN の GM 削除およびポリシー トリガー機能は、GET VPN ネットワークのすべてのデバイスがこの機能をサポートする GET VPN ソフトウェアバージョンにアップグレードされた後にものみ使用する必要があります。そうしないと、古いソフトウェアを実行しているセカンダリ KS または GM が GM 削除メッセージを無視して、古い SA を使用するトラフィックの暗号化および復号化を継続します。この動作により、ネットワーク トラフィックの中断が発生します。

ネットワーク内のすべてのデバイスが GM 削除をサポートしていることを確認するには、KS（またはプライマリ KS）でこの作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto gdoi feature gm-removal**
3. **show crypto gdoi feature gm-removal | include No**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>show crypto gdoi feature gm-removal</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature gm-removal	GET VPN ネットワーク内の各 KS および GM で実行されている GET VPN ソフトウェアのバージョンを表示し、そのデバイスが GM 削除をサポートしているかどうかを表示します。
ステップ 3	<b>show crypto gdoi feature gm-removal   include No</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature gm-removal   include No	(オプション) GM 削除をサポートしないデバイスのみ表示します。

## 一時的な IPsec SA による GM の削除

一時的な IPsec SA の GM の削除をトリガーするには、KS（またはプライマリ KS）でこの作業を実行します。

## SUMMARY STEPS

1. enable
2. clear crypto gdoi [group *group-name*] ks members

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>clear crypto gdoi [group <i>group-name</i>] ks members</b> <b>Example:</b> Device# clear crypto gdoi ks members	新しい TEK および KEK キーのセットを作成します。またこのコマンドは、すべての GM に古い TEK および KEK データベースをクリーンアップするための GM 削除メッセージも送信します。

**例**

KS に次のようにメッセージが表示されます。

```
Device# clear crypto gdoi ks members
```

```
% This GM-Removal message will shorten all GMs' key lifetimes and cause them to re-register before keys expiry.
```

```
Are you sure you want to proceed? ? [yes/no]: yes
```

```
Sending GM-Removal message to group GET...
```

各 GM が GM 削除メッセージを受信すると、次の syslog メッセージが各 GM に表示されます。

```
*Jan 28 08:37:03.103: %GDOI-4-GM_RECV_DELETE: GM received delete-msg from KS in group GET.
```

```
TEKs lifetime are reduced and re-registration will start before SA expiry
```

各 GM は KEK を即時削除し、次のように古い TEK のライフタイムを短縮します。

```
TEK_SLT = MIN(TEK_RLT, MAX(90s, MIN(5%(TEK_CLT), 3600s)))
```

```
TEK_SLT: TEK shortened lifetime
```

```
TEK_RLT: TEK Remaining LIfeTime
```

```
TEK_CLT: TEK Configured LIfeTime
```

また GM は、従来の再登録タイマーに従いジッター（ランダムな遅延）が適用された新しい TEK と KEK を取得するために KS への再登録を開始します。ジッターは、すべての GM が同時に再登録してキーサーバの CPU に過負荷を与えることを防ぎます。KS にインストールされた新しいクレデンシャルに基づいて認証を通す GM だけが新しい TEK と KEK を受信します。

トラフィックはライフタイムが期限切れになるまで一時的な IPsec SA を使用して暗号化と復号化を続けるため、GM 削除によってネットワークの中断が発生することはありません。

セカンダリ KS でこのコマンドを使用しようとすると、次のように拒否されます。

```
Device# clear crypto gdoi ks members
```

```
ERROR for group GET: can only execute this command on Primary KS
```

## GM の削除と IPsec SA の即時削除

古い TEK と KEK を即時削除して再登録するように GM に強制するには KS（またはプライマリ KS）でこの作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. clear crypto gdoi [group group-name] ks members now

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>clear crypto gdoi [group group-name] ks members now</b> <b>Example:</b> Device# clear crypto gdoi ks members now	新しい TEK および KEK キーのセットを作成します。またこのコマンドは、すべての GM に古い TEK および KEK データベースをクリーンアップするための GM 削除メッセージも送信します。 <b>Note</b> <b>now</b> キーワードの使用により、データプレーンにネットワーク中断が発生することがあります。セキュリティに関する問題が中断よりも重要である場合にのみ、GM 削除を進めます。

## 例

KS に次のようにメッセージが表示されます。

```
Device# clear crypto gdoi ks members now

% This GM-Removal immediate message will cleanup all GMs downloaded policies
% This will cause all GMs to re-register.
Are you sure you want to proceed? ? [yes/no]: yes
Sending GM-Removal message to group GET...
```

上記のコマンドの入力後、KS は、各 GM の次のアクションをトリガーするために「remove now」メッセージを各 GM に送信します。

1. ダウンロードされた TEK および KEK ならびにそのポリシーがすぐにクリーンアップされ、（明示的にフェールクローズ モードが設定されていない限り）フェールオープン モードに戻ります。
2. 設定されている TEK ライフタイムの 2 パーセント以内のランダムに選択された期間でタイマーを設定します。
3. ステップ 2 のタイマーの期限が切れると、GM は新しい TEK および KEK をダウンロードするために KS への再登録を開始します。

各 GM では、GM がランダムな期間内に再登録されることを示すために次の syslog メッセージが表示されます。

```
*Jan 28 08:27:05.627: %GDOI-4-GM_RECV_DELETE_IMMEDIATE: GM receive REMOVAL-NOW in group
```

GM がポリシーの交換をサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

```
GET to cleanup downloaded policy now. Re-registration will start in a randomly chosen
period of 34 sec
```

GM 削除をサポートしていないデバイスを含むネットワークの GM を削除しようとすると、警告メッセージが表示されます。

```
Device# clear crypto gdoi ks members now
```

```
% This GM-Removal immediate message will cleanup all GMs downloaded policies
```

```
% This will cause all GMs to re-register.
```

```
Are you sure you want to proceed? ? [yes/no]: yes
```

```
WARNING for group GET: some devices cannot support GM-REMOVAL and can cause network
disruption. Please check 'show crypto gdoi feature'.
```

```
Are you sure you want to proceed ? [yes/no]: no
```

## GM がポリシーの交換をサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

ネットワーク内のすべてのデバイスがポリシーの交換をサポートするかどうかを確認するには、KS（またはプライマリ KS）でこの作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. show crypto gdoi feature policy-replace
3. show crypto gdoi feature policy-replace | include No

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show crypto gdoi feature policy-replace</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature policy-replace	GET VPN ネットワーク内の各 KS および GM で実行されている GET VPN ソフトウェアのバージョンを表示し、そのデバイスがポリシーの交換をサポートしているかどうかを表示します。
ステップ 3	<b>show crypto gdoi feature policy-replace   include No</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature policy-replace   include No	（オプション）ポリシーの交換をサポートしないデバイスのみ検索します。これらのデバイスでは、プライマリ KS はポリシー交換に関する手順なしでトリガーされるキー再生成のみを送信します。したがって、GM がキー再生成を受信すると、新しい SA をインストールしますが、古い SA の有効期間は短



	Command or Action	Purpose
		縮みません。この動作は既存のキー再生成メソッドと同じであり後方互換性があります。

## キー再生成のトリガー

KS（またはプライマリ KS）でセキュリティポリシーを変更し（たとえば、DESからAES）、グローバル コンフィギュレーション モードを終了すると、ポリシーが変更され、キー再生成が必要であることを示す `syslog` メッセージが KS に表示されます。実行コンフィギュレーションの最新のポリシーに基づくキー再生成を送信するために、次のようにキー再生成をトリガーするコマンドを入力します。

キー再生成をトリガーするには KS（プライマリ KS）でこの作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `crypto gdoi ks [group group-name] rekey [replace-now]`

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<code>crypto gdoi ks [group group-name] rekey [replace-now]</code> <b>Example:</b>  Device# crypto gdoi ks group mygroup rekey	すべての GM のキー再生成をトリガーします。  オプションの <b>replace-now</b> キーワードは、各 GM の古い TEK および KEK を即時に置き換え、SA が期限切れになる前に新しいポリシーを有効にします。  <b>Note</b> <b>replace-now</b> キーワードを使用すると、一時的なトラフィックの不連続を引き起こすことがあります。

#### 例

KS に次のようにメッセージが表示されます。

```
Device# crypto gdoi ks rekey
Device#
*Jan 28 09:17:44.363: %GDOI-5-KS_SEND_UNICAST_REKEY: Sending Unicast Rekey with
policy-replace for group GET from address 10.0.8.1 with seq # 2
```

ポリシーの変更後、各 GM がこのトリガーされたキー再生成を受信すると、新しい SA（たとえば、AES 用）をインストールして、古い SA（たとえば、DES 用）のライフタイムを短縮します。各 GM はこの短縮されたライフタイムが期限切れになるまで古い SA を使用してトラフィックの暗号化および復号化を続けます。

セカンダリ KS のキー再生成をトリガーしようとする、次のようにコマンドが拒否されます。

```
Device# crypto gdoi ks rekey
ERROR for group GET: This command must be executed on Pri-KS
```

## GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーの設定例

### 例：GET VPN ネットワークからの GM の削除

GM の削除をサポートするソフトウェアバージョンを GM が実行していることを確認する

次の例は、ネットワーク内のすべてのデバイスが GM 削除機能をサポートしているかどうかを確認するために KS（またはプライマリ KS）で GET VPN ソフトウェアバージョン管理コマンドを使用する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature gm-removal

Group Name: GET
Key Server ID      Version  Feature Supported
-----
10.0.8.1           1.0.2   Yes
10.0.9.1           1.0.2   Yes
10.0.10.1          1.0.2   Yes
10.0.11.1          1.0.2   Yes
Group Member ID    Version  Feature Supported
-----
10.0.0.2           1.0.2   Yes
10.0.0.3           1.0.1   No
```

次の例は、GM の削除をサポートしていないデバイスのみを検索する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature gm-removal | include No

10.0.0.3           1.0.1   No
```

上記の例では、IP アドレス 10.0.0.3 の GM は（GM の削除をサポートしない）古いソフトウェアバージョン 1.0.1 を実行中であり、アップグレードする必要があることを示しています。

### 一時的な IPsec SA による GM の削除

次の例では、一時的な IPsec SA を使用する GM の削除をトリガーする方法を示します。KS（またはプライマリ KS）でこのコマンドを使用します。

```
Device# clear crypto gdoi ks members

% This GM-Removal message will shorten all GMs' key lifetimes and cause them to
re-register before keys expiry.
Are you sure you want to proceed? ? [yes/no]: yes
Sending GM-Removal message to group GET...
```

### GM の削除と IPsec SA の即時削除

次の例は、古い TEK と KEK を即座に削除して再登録するために GM を強制適用する方法を示しています。KS（またはプライマリ KS）でこのコマンドを使用します。

```
Device# clear crypto gdoi ks members now

% This GM-Removal immediate message will cleanup all GMs downloaded policies
% This will cause all GMs to re-register.
Are you sure you want to proceed? ? [yes/no]: yes
Sending GM-Removal message to group GET...
```

## 例：グループメンバーのキー再生成のトリガー

**GM がキー再生成のトリガーをサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する**

次の例は、GET VPN ネットワークのデバイスのソフトウェアのバージョンを表示し、またポリシー変更後のキー再生成のトリガーをサポートするかどうかを表示するために、KS（またはプライマリ KS）で GET VPN ソフトウェアバージョン管理コマンドを使用する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature policy-replace

Key Server ID      Version  Feature Supported
-----
 10.0.8.1           1.0.2   Yes
 10.0.9.1           1.0.2   Yes
 10.0.10.1          1.0.2   Yes
 10.0.11.1          1.0.2   Yes
Group Member ID    Version  Feature Supported
-----
 5.0.0.2            1.0.2   Yes
 9.0.0.2            1.0.1   No
```

次の例は、ポリシー交換後のキー再生成のトリガーをサポートしていないデバイスのみを検索する方法を示します。

例：グループメンバーのキー再生成のトリガー

```
Device# show crypto gdoi feature policy-replace | include No
          9.0.0.2          1.0.1          No
```

これらのデバイスでは、プライマリ KS はポリシー交換に関する手順なしでトリガーされるキー再生成のみを送信します。したがって、GM がキー再生成を受信すると、新しい SA をインストールしますが、古い SA の有効期間は短縮しません。

### キー再生成のトリガー

次の例では、ポリシー変更の実行後にキー再生成をトリガーする方法を示します。この例では、**profile gdoi-p2** コマンドで IPSec ポリシーの変更（たとえば、DES から AES）が発生します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group GET
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# sa ipsec 1
Device(gdoi-sa-ipsec)# no profile gdoi-p
Device(gdoi-sa-ipsec)# profile gdoi-p2
Device(gdoi-sa-ipsec)# end
Device#

*Jan 28 09:15:15.527: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Jan 28 09:15:15.527: %GDOI-5-POLICY_CHANGE: GDOI group GET policy has changed. Use
'crypto gdoi ks rekey' to send a rekey, or the changes will be send in the next scheduled
rekey
Device# crypto gdoi ks rekey
Device#
*Jan 28 09:17:44.363: %GDOI-5-KS_SEND_UNICAST_REKEY: Sending Unicast Rekey with
policy-replace for group GET from address 10.0.8.1 with seq # 2
```

次の例では、セカンダリ KS のキー再生成をトリガーしようとする则表示されるエラーメッセージを示します。

```
Device# crypto gdoi ks rekey

ERROR for group GET: This command must be executed on Pri-KS
```



**Note** 時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) が設定されると、キーサーバは2時間 (7200秒) ごとに定期的にキー再生成をグループメンバーに送信します。次の例では、有効期間が8時間 (28800秒) に設定されていますが、キー再生成タイマーは2時間に設定されています。

```
Device(config)# crypto ipsec profile atm-profile
Device(ipsec-profile)# set security-association lifetime seconds 28800
!
Device(ipsec-profile)# exit
Device(config)# crypto gdoi group ATM-DSL
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-sa-ipsec)# sa ipsec 1
!
Device(gdoi-sa-ipsec)# replay time window-size 100
```

**show crypto gdoi gm replay** コマンドおよび **show crypto gdoi ks replay** コマンドにより TBAR 情報が表示されます。

## GETVPN GM の削除とポリシーのトリガーのその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command References』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 291: GET VPN GM の削除とポリシーのトリガーの機能情報**

機能名	リリース	機能情報
GET VPN GM の削除とポリシー トリガー		<p>この機能は、GET VPN ネットワークから不要な GM を効率的に削除するコマンド、新しい SA をインストールして古い SA を削除するためにキー再生成をトリガーするコマンド、およびネットワーク デバイスがこれらの機能をサポートする GET VPN ソフトウェアのバージョンを実行しているかどうかを表示するコマンドを提供します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。<b>clear crypto gdoi, crypto gdoi ks, show crypto gdoi.</b></p>



## CHAPTER 221

# GET VPN の GDOI MIB サポート

暗号化された既存の MIB はインターネット キー エクスチェンジ (IKE) および IP Security (IPsec) MIB であり、Group Domain of Interpretation (GDOI) には不十分です。GET VPN の GDOI MIB サポート機能では、RFC 6407、『[The Group Domain of Interpretation](#)』に MIB のサポートが追加されます。GDOI MIB IETF 標準規格に関連するオブジェクトのみがサポートされます。GDOI MIB .my ファイルは SNMP 管理ステーションにインポートして解析することにより、テーブルオブジェクトと階層情報を取得することができます。

GDOI MIB は、(トラップと呼ばれていた) オブジェクトおよび通知で構成されます。これには、GDOI グループ、グループメンバー (GM) とキーサーバ (KS) のピア、および作成またはダウンロードされるポリシーに関する情報が含まれます。「get」操作のみが GDOI でサポートされます。

GET VPN の GDOI MIB のサポートを設定するには、「GET VPN の GDOI MIB サポートの設定」セクションを参照してください。

- [GET VPN の GDOI MIB サポートに関する情報, on page 3383](#)
- [GET VPN の GDOI MIB サポートの設定方法, on page 3389](#)
- [GET VPN 用の GDOI MIB サポートの設定例, on page 3394](#)
- [GET VPN 用の GDOI MIB サポートのその他の参考資料, on page 3395](#)
- [GET VPN 用の GDOI MIB サポートの機能情報, on page 3396](#)

## GET VPN の GDOI MIB サポートに関する情報

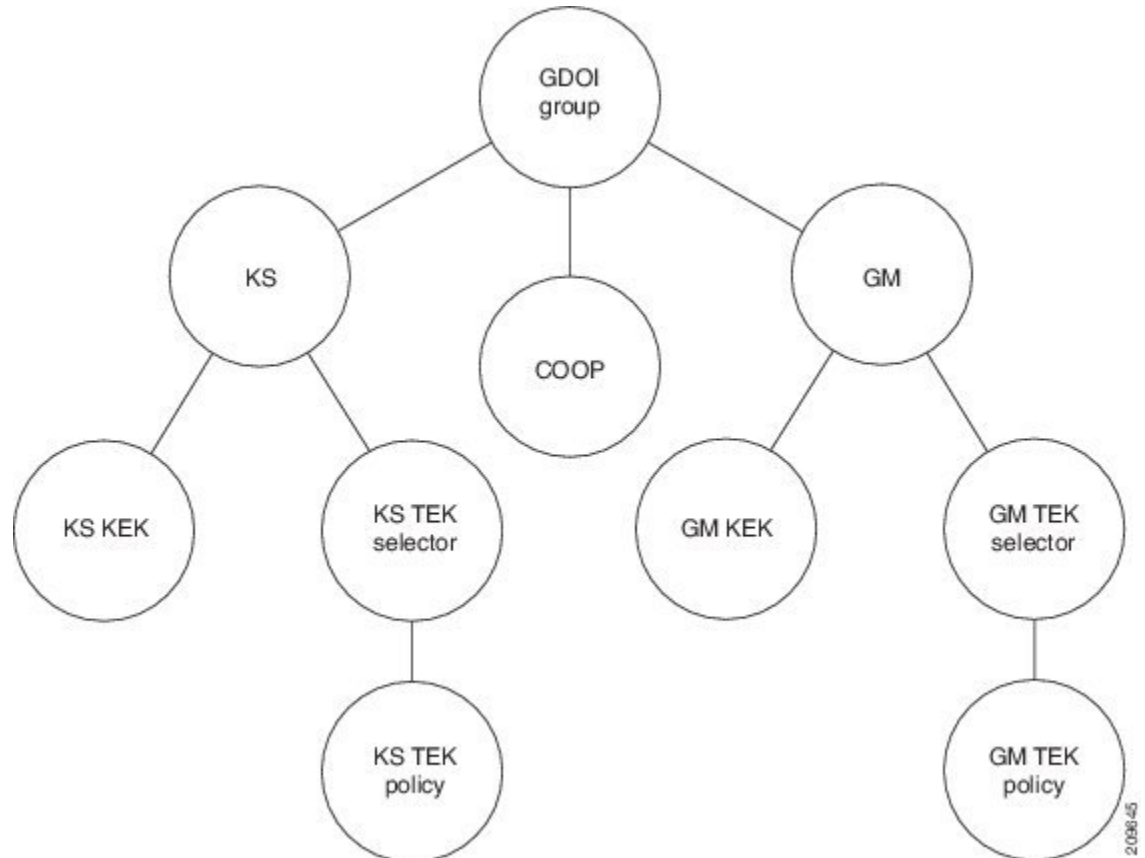
### 他の GET VPN ソフトウェアバージョンとの GDOI MIB の互換性

GET VPN の GDOI MIB サポート機能には、ネットワークのすべてのデバイスが GDOI MIB をサポートするバージョンを実行しているかどうかを確認するために KS (プライマリ KS) で使用するコマンドが用意されています。詳細については、「GDOI MIB をサポートするソフトウェアバージョンを GM が実行していることを確認する」セクションを参照してください。

## GDOI MIB テーブル階層

GDOI MIB オブジェクトは次の GDOI MIB テーブルで構成されます。次に、テーブル間の関係（階層）を示します。

Figure 128: GDOI MIB テーブル階層



## GDOI MIB テーブルオブジェクト

次は、MIB テーブルオブジェクトのリストです（グループごとにリスト）。

グループテーブルオブジェクト：

- Group ID type : グループ ID が IP アドレス、グループ番号、ホスト名などのいずれであるかを指定します。
- Group ID length : グループ ID 値のオクテット数。
- Group ID value : グループ番号、IP アドレス、またはホスト名。
- Group name : 文字列の値。
- Group member count : このグループに登録済みの KS 数を指定します。



- Group active peer KS count : このグループに対するアクティブな KS 数を指定します。
- Group last rekey retransmits : 最後のキー再生成操作の一部として送信されたキー再生成メッセージと再送信メッセージの累積数を指定します。
- Group last rekey time taken : 最後のキー再生成操作の完了に KS が費やした時間を指定します。

#### KS テーブル オブジェクト :

- KS ID type
- KS ID length
- KS ID value
- Active KEK : キー再生成メッセージを暗号化するために KS によって現在使用されている Key Encryption Key (KEK) の SPI。
- Last rekey sequence number : グループに KS から送信された最後のキー再生成番号。
- KS Role : プライマリまたはセカンダリ。
- Number of registered GMs : この KS に登録された GM の数。

#### COOP テーブル オブジェクト :

- COOP peer ID type
- COOP peer ID length
- COOP peer ID value
- COOP peer ID role : プライマリまたはセカンダリ
- COOP peer status : アライブ、デッド、または不明
- Number of registered GMs : この COOP ピアに登録された GM の数

#### GM テーブル :

- GM ID type
- GM ID length
- GM ID value
- Registered KS ID type : GM が登録されている KS の ID タイプ。
- Registered KS ID length
- Registered KS ID value
- Active KEK : キー再生成メッセージの復号化に GM が現在使用している KEK の SPI。
- Last rekey seq number : GM が受信した最後のキー再生成番号。

- Count of active TEKs : データプレーン トラフィックの暗号化/復号化/認証のために GM によって使用されるアクティブな TEK の数。

#### KS KEK テーブル :

- KEK index
- KEK SPI
- KEK source ID information : 送信元 ID のタイプ、ID の長さ、および ID の値。
- KEK source ID port : 送信元 ID に関連付けられたポート。
- KEK destination ID information : 宛先 ID のタイプ、ID の長さ、および ID の値。
- KEK destination ID port : 宛先 ID に関連付けられたポート。
- IP protocol ID : UDP または TCP。
- キー管理アルゴリズム (未使用)。
- 暗号化アルゴリズムとキーの長さ (ビット)
- SIG ペイロードハッシュ アルゴリズム、SIG ペイロード署名アルゴリズム、および SIG ペイロード キーの長さ (ビット)。
- ハッシュ アルゴリズム (IPsec MIB から再利用されます)
- Diffie-Hellman グループ
- KEK original lifetime (seconds) : KEK が有効である最長時間。
- KEK remaining lifetime (seconds)

#### KS TEK セレクタ テーブル (KS で GDOI グループ設定の IPsec SA の一部として設定された ACL に対応) :

- TEK selector index : トラフィック暗号キー (TEK) の整数のインデックス。
- TEK source ID information : 送信元 ID のタイプ、ID の長さ、および ID の値。
- TEK source ID port : 送信元 ID に関連付けられたポート。
- TEK destination ID information : 宛先 ID のタイプ、ID の長さ、および ID の値。
- TEK destination ID port : 宛先 ID に関連付けられたポート。
- TEK Security protocol : SA TEK ペイロードの GDOI\_PROTO\_IPSEC\_ESP プロトコル ID 値 (RFC 6407 を参照)。

#### KS TEK ポリシー テーブル :

- TEK policy index : 整数のインデックス。
- TEK SPI : 4 つのオクテット

- Encapsulation mode : トンネルまたは転送。
- 暗号化アルゴリズムとキーの長さ (ビット)
- 整合性および認証アルゴリズムとキーの長さ (ビット)
- TBAR window size (seconds)
- TEK original lifetime (seconds) : TEK が有効である最長時間。
- TEK remaining lifetime (seconds)
- TEK Status : 着信、発信、または不使用。

GM KEK テーブル :

- KEK index : 整数のインデックス。
- KEK SPI
- KEK source ID information : 送信元 ID のタイプ、ID の長さ、および ID の値。
- KEK source ID port : 送信元 ID に関連付けられたポート。
- KEK destination ID information : 宛先 ID のタイプ、ID の長さ、および ID の値。
- KEK destination ID port : 宛先 ID に関連付けられたポート。
- IP protocol ID : UDP または TCP。
- Key Management アルゴリズム (未使用)
- 暗号化アルゴリズムとキーの長さ (ビット)
- SIG ペイロード ハッシュ アルゴリズム、SIG ペイロード 署名 アルゴリズム、および SIG ペイロード キーの長さ (ビット)
- Hash algorithm
- Diffie-Hellman グループ
- KEK original lifetime (seconds) : KEK が有効である最長時間。
- KEK remaining lifetime (seconds)

GM TEK セレクタ テーブル (KS から TEK ポリシーの一部として GM にダウンロードされる ACL に対応) :

- TEK selector index : 整数のインデックス。
- TEK source ID information : 送信元 ID のタイプ、ID の長さ、および ID の値。
- TEK source ID port : 送信元 ID に関連付けられたポート。
- TEK destination ID information : 宛先 ID のタイプ、ID の長さ、および ID の値。
- TEK destination ID port : 宛先 ID に関連付けられたポート。

- TEK Security protocol : SA TEK ペイロードの GDOI\_PROTO\_IPSEC\_ESP プロトコル ID 値 (RFC 6407 を参照)。

GM TEK ポリシー テーブル :

- TEK policy index : 整数のインデックス。
- TEK SPI : 4 つのオクテット。
- Encapsulation mode : トンネルまたは転送。
- 暗号化アルゴリズムとキーの長さ (ビット)
- 整合性および認証アルゴリズムとキーの長さ (ビット)
- TBAR window size (seconds)
- TEK original lifetime (seconds) : TEK が有効である最長時間。
- TEK remaining lifetime (seconds)
- TEK Status : 着信、発信、または不使用。

## GDOI MIB 通知

GDOI MIB は次の表の Simple Network Management Protocol (SNMP) 通知をサポートしていません。GDOI MIB には、KS によって生成された通知と各 GM によって生成された通知の 2 種類の通知があります。任意の組み合わせの通知 (またはすべての通知) を有効にできます。

**Table 292: GDOI MIB にサポートされる SNMP 通知**

通知	説明
KS New Registration	KS が GM から最初に登録要求を受信した。
KS Registration Complete	GM が KS への登録を完了した。
KS Rekey Pushed	キー再生成メッセージが KS によって送信された。
KS No RSA Keys	RSA キーが見つからないために KS からエラー通知を受信された。
GM Register	GM が KS に最初の登録要求を送信した。
GM Registration Complete	GM が KS への登録を完了した。
GM Re-Register	GM が KS への登録プロセスを開始した。
GM Rekey Received	キー再生成メッセージが GM で受信された。
GM Incomplete Config	GM が設定の不足によるエラー通知を送信した。

通知	説明
GM Rekey Failure	GM がキー再生成の処理とインストールができないため、エラー通知を送信した。
KS Role Change	KS がプライマリとセカンダリ ロールを切り替えた。
KS GM Deleted	GM が KS から削除されると生成されます。
KS Peer Reachable	到達不能な COOP ピアが到達可能になると KS によって生成されます。
KS Peer Unreachable	到達可能な COOP ピアが到達不能になると KS によって生成されます。

詳細については、「GDOI MIB 通知の有効化」セクションを参照してください。

## GDOI MIB の制限

GDOI MIB には RFC 6407 にリストされているオブジェクトのみが含まれ、GDOI のシスコ実装に固有の機能のためのオブジェクトは含まれません。リストでは次の演算を使用します。

- 連携キー サーバ
- GM ACL
- 受信専用 SA
- Fail-Close またはフェール オープン
- 暗号マップ オブジェクト
- 他の Cisco GET VPN 固有の機能

## GET VPN の GDOI MIB サポートの設定方法

### GDOI MIB をサポートするソフトウェアバージョンを GM が実行していることを確認する

GET VPN ネットワーク内のすべてのデバイスが GDOI MIB をサポートすることを確認するには、KS（またはプライマリ KS）でこの作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `show crypto gdoi feature gdoi-mib`
3. `show crypto gdoi feature gdoi-mib | include No`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>show crypto gdoi feature gdoi-mib</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature gdoi-mib	ネットワーク内の各 KS および GM で実行されている GET VPN ソフトウェアのバージョンを表示し、そのデバイスが GDOI MIB をサポートしているかどうかを表示します。
ステップ 3	<b>show crypto gdoi feature gdoi-mib   include No</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature gdoi-mib   include No	(オプション) GDOI MIB をサポートしないデバイスのみ検索します。

## SNMP コミュニティのアクセスコントロールの作成

SNMP へのアクセスを許可するために、KS または GM 上の SNMP マネージャと SNMP エージェント間の関係を定義する SNMP コミュニティアクセス文字列を指定します。このコミュニティアクセス文字列は、デバイス上のエージェントへのアクセスを制御するパスワードのよう機能します。

コミュニティアクセス文字列を指定するにはこの作業を行います。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **snmp-server community** *community-string* [**view** *view-name*] [**ro** | **rw**] [**ipv6** *nacl*] [*access-list-number* | *extended-access-list-number* | *access-list-name*]
4. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>

	Command or Action	Purpose
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>snmp-server community community-string [view view-name] [ro   rw] [ipv6 nacl] [access-list-number   extended-access-list-number   access-list-name]</b> <b>Example:</b> Device(config)# snmp-server community mycommunity	コミュニティ アクセス文字列を指定します。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、設定を保存して、特権 EXEC モードに戻ります。

コミュニティ アクセス文字列の指定に関する詳細については、『[SNMP Configuration Guide](#)』の「Configuring SNMP Support」モジュールを参照してください。**snmp-server community** コマンドに関する詳細（シンタックスと使用方法に関するガイドラインを含む）については、『[Cisco IOS SNMP Support Command Reference](#)』を参照してください。

## SNMP マネージャとの通信の有効化

KS の SNMP エージェントまたは GM と SNMP マネージャ間の通信を有効にするには、このタスクを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. snmp-server host {hostname | ip-address} version {1 | 2c | 3} community-string
4. end

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>snmp-server host {hostname   ip-address} version {1   2c   3} community-string</b> <b>Example:</b> Device(config)# snmp-server host 209.165.200.225 version 2c mycommunity	ホストが SNMP 通知を受信するように指定します。  • 2c は通常 SNMP バージョンとして使用されます。
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、設定を保存して、特権 EXEC モードに戻ります。

SNMP マネージャとの通信を有効にする方法についての詳細は、『[SNMP Configuration Guide](#)』の「Configuring SNMP Support」モジュールを参照してください。**snmp-server host** コマンドに関する詳細（シンタックスと使用方法に関するガイドラインを含む）については、『[Cisco IOS SNMP Support Command Reference](#)』を参照してください。

## GDOI MIB 通知の有効化

KS または GM の GDOI MIB 通知を有効にするには、次の作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. snmp-server enable traps gdoi [notification-type]
4. end

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。



	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>snmp-server enable traps gdoi [notification-type]</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config)# snmp-server enable traps gdoi gm-registration-complete gm-rekey-rcvd ks-new-registration ks-reg-complete</pre>	有効にする特定の SNMP 通知を指定します。任意の順序で次の種類を組み合わせで指定できます。次のキーワードなしでコマンドを入力すると、すべての GDOI MIB 通知が有効になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>gm-incomplete-cfg</b> : 設定が見つからないため GM がエラー通知を送信しました。</li> <li>• <b>gm-re-register</b> : GM が KS で登録プロセスを開始しました。</li> <li>• <b>gm-registration-complete</b> : GM が KS への登録を完了しました。</li> <li>• <b>gm-rekey-fail</b> : キー再生成を正常に処理およびインストールできないため、GM がエラー通知を送信しました。</li> <li>• <b>gm-rekey-rcvd</b> : GM がキー再生成メッセージを受信しました。</li> <li>• <b>gm-start-registration</b> : GM が最初の登録要求を KS に送信しました。</li> <li>• <b>ks-new-registration</b> : KS が最初の登録要求を GM から受信しました。</li> <li>• <b>ks-no-rsa-keys</b> : RSA キーが見つからないため KS からのエラー通知を受信しました。</li> <li>• <b>ks-reg-complete</b> : GM が KS への登録を完了しました。</li> <li>• <b>ks-rekey-pushed</b> : KS からキー再生成メッセージが送信されました。</li> <li>• <b>ks-gm-deleted</b> : GM が KS によって削除されます。</li> <li>• <b>ks-peer-reachable</b> : 到達不能な COOP ピアが到達可能になります。</li> <li>• <b>ks-peer-unreachable</b> : 到達可能な COOP ピアが到達不能になります。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ks-role-change</b> : KS の役割がプライマリからセカンダリ（またはその逆）に変更されます。</li> </ul>
ステップ 4	<b>end</b>  <b>Example:</b>  Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、設定を保存して、特権 EXEC モードに戻ります。

## GET VPN 用の GDOI MIB サポートの設定例

### 例 : GDOIMIB をサポートするソフトウェアバージョンを GM が実行していることを確認する

次の例は、ネットワーク内のすべてのデバイスが GDOI MIB をサポートしているかどうかを確認するために KS（またはプライマリ KS）で GET VPN ソフトウェアバージョン管理コマンドを使用する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature gdoi-mib

Group Name: GET
Key Server ID      Version  Feature Supported
-----
10.0.8.1           1.0.2   Yes
10.0.9.1           1.0.2   Yes
10.0.10.1          1.0.2   Yes
10.0.11.1          1.0.2   Yes
Group Member ID    Version  Feature Supported
-----
10.0.11.2          1.0.2   Yes
10.0.11.3          1.0.1   No
```

次の例は、GDOIMIB をサポートしていないデバイスのみを検索する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature gdoi-mib | include No

10.0.11.3          1.0.1   No
```

### 例 : SNMP コミュニティのアクセスコントロールの作成

次の例では、SNMP へのアクセスを許可するために、KS または GM 上の SNMP マネージャと SNMP エージェント間の関係を定義するために mycommunity という名前の SNMP コミュニティ文字列を指定する方法を示します。

```
Device> enable
```

```
Device# configure terminal
Device(config)# snmp-server community mycommunity
Device(config)# end
```

## 例：SNMP マネージャとの通信の有効化

次に、SNMP マネージャとの通信を有効化する例を示します。この例では、すでに作成されている mycommunity という名前のコミュニティ文字列を使用します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# snmp-server host 209.165.200.225 version 2c mycommunity
Device(config)# end
```

## 例：GDOI MIB 通知の有効化

次に、GDOI MIB 通知を有効化する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# snmp-server enable traps gdoi gm-registration-complete gm-rekey-rcvd
ks-new-registration ks-reg-complete
Device(config)# end
```

## GET VPN 用の GDOI MIB サポートのその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command References』
SNMP の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>『SNMP Configuration Guide, Cisco IOS Release 15.2M&amp;T』の「Configuring SNMP Support」モジュール</li> <li>『Cisco IOS SNMP Support Command Reference』</li> </ul>

## MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-GDOI-MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## GET VPN 用の GDOI MIB サポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 293: GET VPN 用の GDOI MIB サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
GET VPN の GDOI MIB サポート		<p>この機能は、IETF RFC 6407 『<a href="#">The Group Domain of Interpretation</a>』用の MIB サポートを追加します。この機能は、GDOI MIB の IETF 標準に関連したオブジェクトのみをサポートします。またこの機能は、ネットワーク上のデバイスが GDOI MIB をサポートする GET VPN ソフトウェアのバージョンを実行しているかどうかを表示するコマンドも提供します。</p> <p>GDOI MIB は、GDOI グループ、GM と KS ピア、および作成またはダウンロードされたポリシーに関する情報が含まれるオブジェクトと通知から構成されます。</p> <p>次のコマンドが導入されました。 <b>snmp-server enable traps gdoi.</b></p>
XE 3.16 GETVPN GDOI/COOP MIBS		<p>次のコマンドが変更されました。 <b>snmp-server enable traps gdoi.</b></p>





## CHAPTER 222

# GET VPN の復元力

GET VPN の復元力機能では、Cisco Group Encrypted Transport (GET) VPN の復元力を改善し、エラーが発生したときのデータ トラフィックの中断を防止したり最小化したりします。

- [GET VPN の復元力の前提条件, on page 3399](#)
- [GET VPN の復元力の制約事項, on page 3399](#)
- [GET VPN の復元力に関する情報, on page 3400](#)
- [GET VPN の復元力の設定方法, on page 3402](#)
- [GET VPN 復元力の設定例, on page 3407](#)
- [GET VPN の復元力のその他の参考資料, on page 3409](#)
- [GET VPN の復元力の機能情報, on page 3410](#)

## GET VPN の復元力の前提条件

この機能を有効にするすべてのキー サーバ (KS) およびグループ メンバー (GM) で、GET VPN ソフトウェア バージョン 1.0.4 以降を実行している必要があります。この機能は、GET VPN ネットワーク内のすべてのデバイスをこの機能をサポートする GET VPN ソフトウェア バージョンにアップグレードしてから使用する必要があります。この機能は、ネットワークのすべてのデバイスがこの機能をサポートするバージョンを実行しているかどうかを確認するために KS (またはプライマリ KS) で使用するコマンドを提供します。詳細については「*GM* が長い SA ライフタイムをサポートするソフトウェア バージョンを実行していることを確認する」セクションを参照してください。

## GET VPN の復元力の制約事項

- すべてキーサーバ (KS) およびグループメンバー (GM) は、長い SA ライフタイム向けにアップグレードする必要があります。

# GET VPN の復元力に関する情報

## 長い SA ライフタイム

長いセキュリティアソシエーション (SA) ライフタイム機能では、Key Encryption Key (KEK) およびトラフィック暗号キー (TEK) の最大ライフタイムを 24 時間から 30 日に延長します。この機能により、スケジュールされた最後のキー再生成時に確認応答に回答しないグループメンバー (GM) に対して定期的なリマインダキー再生成を送信し続けるようにキーサーバ (KS) を設定することもできます。

定期的なリマインダキー再生成と長い SA ライフタイムを組み合わせて使用することにより、キーがロールオーバーする前にスケジュールされたキー再生成に失敗した場合、KS が効果的に GM を同期することができます。



**Note** 24 時間より長いライフタイムでは、暗号化アルゴリズムを、128 ビット以上の AES キーを使用する Advanced Encryption Standard-Cipher Block Chaining (AES-CBC) または Advanced Encryption Standard-Galois/Counter Mode (AES-GCM) にする必要があります。

長い SA ライフタイム機能は GETVPN スイート B 機能とともに使用すると、GCM-AES と GMAC-AES でカプセル化されたパケットのグループでトラフィック暗号キー (TEK) ポリシーがトランスフォームされるときに AES-GSM および Galois Message Authentication Code-Advanced Encryption Standard (GMAC-AES) を使用できます。

### 長い SA ライフタイムへの移行

長い SA ライフタイム機能 (1 日以上) に移行するときには、次のルールが適用されます。

- 長い SA ライフタイムが暗号 IPsec プロファイルに設定されているとき、GETVPN は非 Group Domain of Interpretation (GDOI) グループに対して IPsec プロファイルを使用しないように警告メッセージを表示します。
- グループメンバーが短い SA ライフタイムでキーサーバに登録され、キーサーバがポリシーを長い SA ライフタイムに変更する場合、GETVPN は **crypto gdoi ks rekey** コマンドを設定してポリシー変更を開始するときすべての GM のソフトウェアバージョンをチェックします。KS に登録されている GM が長い SA ライフタイムをサポートしていない場合、すべての GM がアップグレードされるまでポリシーの変更を推奨しないというメッセージが表示されます。
- 長い SA 機能が KS で有効になると、この機能をサポートしていない古い Cisco IOS リリースを実行している GM からの登録がブロックされます。



## クロック スキューの軽減

セキュリティアソシエーション (SA) のライフタイムが長いとき、グループメンバー (GM) は長期間、キーサーバから更新を受信しないことがあります。これにより、グループメンバーは Key Encryption Key (KEK) ライフタイム、トラフィック暗号キー (TEK) ライフタイム、および時間ベースアンチリプレイ (TBAR) 疑似時間の間クロック スキューを経験することができます。更新のキー再生成と新しい発信 IPsec SA へのロールオーバーによって GM はクロック スキューの問題を軽減することができます。

### 更新のキー再生成

トラフィック暗号キー (TEK) のライフタイムが2日以上の期間に設定され、時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) が無効である場合、キーサーバは 24 時間ごとに更新のキー再生成を送信し、すべてのグループメンバー (GM) の Key Encryption Key (KEK) ライフタイム、TEK ライフタイム、および TBAR 疑似時間を更新します。簡単に言うと、更新のキー再生成は、最後のユニキャスト確認応答 (ACK) の受信状態に関係ない、すべての GM への現在の KEK ポリシー、TEK ポリシー、および TBAR 疑似時間 (有効な場合) の再送信です。TBAR が有効な場合、更新のキー再生成は疑似時間を同期するために2時間ごとに送信され、追加の更新のキー再生成は必要ありません。

### 新しい発信 IPsec SA へのロールオーバー

長い SA ライフタイム (1日を超える) が設定されている場合、トラフィック暗号キー (TEK) の残りのライフタイムが、下限が 30 秒のライフタイムに設定された古い TEK の 1% に達し、古い TEK の残りのライフタイムの 30 秒でないとき、ロールオーバーが発生します。これにより、(他の GM が古い TEK を削除してから) 1 つの GM から新しい TEK 遅延にロールオーバーされるトラフィックが破棄されるまで、グループメンバー (GM) 間のより大きなクロック スキューが可能になります。これによって、長期間 GM が「オフライン」(KS からの切断) になり、クロック スキューを軽減するための更新のキー再生成を受信できない問題が緩和されます。

## 定期的なリマインダ同期キー再生成

キーサーバ (KS) の定期的なリマインダ同期キー再生成機能を使用すると、スケジュールされている直前のキー再生成時に確認応答 (ACK) に応答しないグループメンバー (GM) に対して定期的なリマインダキー再生成を送信できます。長い SA ライフタイム機能とこの機能の組み合わせは、キーのロールオーバーの前にスケジュールされたキー再生成に失敗した GM と KS が同期するために有効です。KS グループ設定で、キー再生成の再送信を設定するときの **rekey retransmit** コマンドに新しいキーワード **periodic** が追加されています。

キー再生成の再送信と同様に、定期的な再送信はそれぞれシーケンス番号を増加させます。スケジュールされた3回のキー再生成 (再送信ではない) で GM が ACK を送信しないと、GM は KS のデータベースから削除されます。

## 事前配置されたキー再生成

長い SA ライフタイム（1 日を超える）が設定されているとき、事前配置されたキー再生成機能を使用すると、キーサーバー（KS）は SA ライフタイムの半分の期間より先にキー再生成を送信できます。キー再生成の送信の通常な動作は短い SA ライフタイムに使用されます。グループメンバー（GM）はこの早いキー再生成を受信すると、新しい TEK が発信としてロールオーバーされるまで、引き続き古い TEK を発信として使用します。事前配置されたキー再生成機能と長い SA ライフタイム機能の組み合わせはキーのロールオーバーの安定性を向上させます。この機能により、定期的なリマインダキー再生成や同期キー再生成などのキー再生成エラーを回復するための十分な時間（KS）が確保されます。

## GET VPN の復元力の設定方法

### GM が長い SA ライフタイムをサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

長い SA ライフタイムは、GET VPN ネットワーク内のすべてのデバイスをこの機能をサポートする GET VPN ソフトウェアバージョンにアップグレードしてから使用する必要があります。

ネットワーク内のすべてのデバイスが長い SA ライフタイムをサポートしていることを確認するには、キーサーバ（またはプライマリ キーサーバ）でこの作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `show crypto gdoi feature long-sa-lifetime`
3. `show crypto gdoi feature long-sa-lifetime | include No`

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>enable</code> <b>Example:</b> Device> <code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<code>show crypto gdoi feature long-sa-lifetime</code> <b>Example:</b> Device# <code>show crypto gdoi feature long-sa-lifetime</code>	GET VPN ネットワーク内の各 KS および GM で実行されている GET VPN ソフトウェアのバージョンを表示し、そのデバイスが長い SA ライフタイムをサポートしているかどうかを表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>show crypto gdoi feature long-sa-lifetime   include No</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature long-sa-lifetime   include No	(オプション) 長い SA ライフタイムをサポートしないデバイスのみ表示します。

## 長い SA ライフタイムの設定

### TEK の長い SA ライフタイムの設定

トラフィック暗号キー (TEK) の長い SA ライフタイムを設定するには、次のステップを実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec profile *name***
4. **set security-association lifetime days *days***
5. **end**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec profile <i>name</i></b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ipsec profile gdoi-p	2 つの IPsec デバイス間における IPsec 暗号化で使用される IPsec パラメータを定義し、暗号化 IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>set security-association lifetime days <i>days</i></b> <b>Example:</b> Device(ipsec-profile)# set security-association lifetime days 15	セキュリティアソシエーション (SA) のライフタイムを 1 日に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大日数は 30 日です。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(ipsec-profile)# end	暗号 IPsec プロファイルピア コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## KEK の長い SA ライフタイムの設定

キー暗号キー (TEK) の長い SA ライフタイムを設定するには、次のステップを実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group *group-name***
4. **identity number *number***
5. **server local**
6. **rekey lifetime days *days***
7. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group <i>group-name</i></b> 例 : Device(config)# crypto gdoi group GET	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>identity number <i>number</i></b> 例 : Device(config-gdoi-group)# identity number 3333	GDOI グループ番号を指定します。
ステップ 5	<b>server local</b> 例 : Device(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI キー サーバとして指定し、GDOI ローカル サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>rekey lifetime days</b> <i>days</i> 例： Device(gdoi-local-server)# rekey lifetime days 20	KEK の日数または秒数を制限します。
ステップ 7	<b>end</b> 例： Device(gdoi-local-server)# end	GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 定期的なりマイнда同期キー再生成の設定

定期的なりマイнда同期キー再生成を設定するには、次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group** *group-name*
4. **identity number** *number*
5. **server local**
6. **rekey retransmit** *number-of-seconds* **periodic**
7. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gdoi group group1	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>identity number</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# identity number 3333	GDOI グループ番号を指定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group) # server local	デバイスを GDOI キー サーバとして指定し、GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>rekey retransmit number-of-seconds periodic</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server) # rekey retransmit 10 periodic	キー再生成メッセージが定期的に再送信される回数を指定します。  • このコマンドが設定されていない場合、再送信は行われません。
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server) # end	GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## GET VPN の復元力の確認とトラブルシューティング

### キーサーバの GET VPN の復元力の確認とトラブルシューティング

キーサーバー (KS) で実行されている設定を表示するには、**show running-config** コマンドと次のコマンドを使用します。

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto gdoi**
3. **show crypto gdoi ks rekey**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device# enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<b>show crypto gdoi</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi	現在の GDOI 構成、および KS からダウンロードされたポリシーを表示します。
ステップ 3	<b>show crypto gdoi ks rekey</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi ks rekey	KS から送信されるキー再生成に関する情報を表示します。

## グループメンバーの GET VPN の復元力の確認とトラブルシューティング

グループメンバー（GM）で実行されている設定を表示するには、**show running-config** コマンドと次のコマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto gdoi ks rekey**
3. **show crypto gdoi ks policy**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b> Device# <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show crypto gdoi ks rekey</b>  <b>Example:</b> Device# <b>show crypto gdoi ks rekey</b>	KS から送信されるキー再生成に関する情報を表示します。
ステップ 3	<b>show crypto gdoi ks policy</b>  <b>Example:</b> Device# <b>show crypto gdoi ks policy</b>	次のキー再生成までの時間を表示します。

## GET VPN 復元力の設定例

### 例：GMが長いSAライフタイムをサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

次の例は、各グループ内のすべてのデバイスが長い SA ライフタイムをサポートしているかどうかを確認するために KS（またはプライマリ KS）で GET VPN ソフトウェアバージョン管理コマンドを使用する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature long-sa-lifetime
```

```
Group Name: GETVPN
  Key Server ID      Version  Feature Supported
  10.0.5.2            1.0.4   Yes
  10.0.6.2            1.0.4   Yes
  10.0.7.2            1.0.3   No
```

## 例：長い SA ライフタイムの設定

10.0.8.2	1.0.2	No
Group Member ID	Version	Feature Supported
10.0.1.2	1.0.2	No
10.0.2.5	1.0.3	No
10.0.3.1	1.0.4	Yes
10.0.3.2	1.0.4	Yes

また、上記のコマンドは GM でも入力できます（その GM の情報を表示します。KS や他の GM には使用できません）。

次の例は、KS（プライマリ KS）で長い SA ライフタイムをサポートしていない GET VPN ネットワークのデバイスのみ検索するコマンドを入力する方法を示しています。

```
Device# show crypto gdoi feature long-sa-lifetime | include No
```

10.0.7.2	1.0.3	No
10.0.8.2	1.0.2	No
10.0.1.2	1.0.2	No
10.0.2.5	1.0.3	No

## 例：長い SA ライフタイムの設定

## 例：TEK の長い SA ライフタイムの設定

次に、トラフィック暗号キー（TEK）の長い SA ライフタイムの設定方法の例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ipsec profile gdoi-p
Device(ipsec-profile)# set security-association lifetime days 15
Device(ipsec-profile)# end
```

## 例：KEK の長い SA ライフタイムの設定

次に、キー暗号キー（KEK）の長い SA ライフタイムの設定方法の例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group GET
Device(config-gdoi-group)# identity number 3333
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# rekey lifetime days 20
Device(gdoi-local-server)# end
```

## 例：定期的なリマインダ同期キー再生成の設定

次に、定期的なリマインダ同期キー再生成の設定方法の例を示します。



```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group group1
Device(config-gdoi-group)# identity number 3333
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# rekey retransmit 10 periodic
Device(gdoi-local-server)# end

```

## GET VPN の復元力のその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands A to C</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands M to R</a>』</li> <li>『<a href="#">Cisco IOS Security Command Reference Commands S to Z</a>』</li> </ul>
エンタープライズ ネットワークの GET VPN の有効化のための基本的な導入ガイドライン	『 <a href="#">Cisco IOS GET VPN Solutions Deployment Guide</a> 』
GET VPN ネットワークの設計と実装	『 <a href="#">Group Encrypted Transport VPN (GETVPN) Design and Implementation Guide</a> 』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2401	『 <a href="#">Security Architecture for the Internet Protocol</a> 』
RFC 6407	『 <a href="#">The Group Domain of Interpretation</a> 』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## GET VPN の復元力の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 294: GET VPN の復元力の機能情報

機能名	リリース	機能情報
GET VPN の復元力		次のコマンドが導入または変更されました。 <b>rekey lifetime</b> , <b>rekey retransmit</b> , <b>set security-association lifetime</b> , <b>show crypto gdoi</b> .



## CHAPTER 223

# GETVPN 復元力 GM - エラー検出

GETVPN 復元力 - GM エラー検出機能では、無効なステートフル パケット インスペクション (SPI) または時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) エラーなど、各グループ ドメイン オブ インタープリテーション (GDOI) のデータプレーンで異常なパケットを検出します。これらのエラーは追跡され、パケットの外部送信元 IP アドレスが記録されます。

- [GETVPN の復元力 : GM のエラー検出に関する情報, on page 3411](#)
- [GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の設定方法, on page 3412](#)
- [GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の設定例, on page 3413](#)
- [GETVPN の復元力 : GM のエラー検出その他の参考資料, on page 3414](#)
- [GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の機能情報, on page 3414](#)

## GETVPN の復元力 : GM のエラー検出に関する情報

### エラー処理

エラー処理を機能させるには、GM と KS の両方で GETVPN の復元力 (GM のエラー検出の機能) を有効にする必要があります。KS は、SPI (セキュリティ パラメータ インデックス) のグループ情報をエンコードし、TEK ポリシーを介してそれを GM にダウンロードします。

GETVPN 復元力 - GM エラー検出機能によって障害が検出されると、異常なパケットの送信元 IP アドレスを示す syslog メッセージが生成されます。

```
*Feb 10 21:01:56.043:
%GDOI-4-TIMEBASED_REPLAY_FAILED: An anti replay check has failed in
group GETVPN from sourceip-address
100.0.0.9.
my_pseudotime is 600006.78 secs,
peer_pseudotime is 500033.34 secs, replay_window is 100
(second)
*Feb 10 21:01:56.043:
%CRYPTO-4-PKT_REPLAY_ERR: decrypt: replay check failed
connection id=29, sequence
number=11
```

**show crypto gdoi gm** コマンドは、直近の 50 個の時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) エラーの履歴を表示します。これらの送信元 IP アドレス レコードを使用すると、送信者グループメ

ンバー (GM) を突き止め、既存のハードウェアまたはソフトウェアの問題を調査することができます。次の統計情報もコマンドで利用できます。

- GM リカバリ機能のオン/オフ
- リカバリの間隔
- 適用される GM リカバリの再登録の数

エラーが発生すると、GM は次に使用可能なキー サーバ (KS) に再登録し、最新のポリシーとキーを取得し、登録が完了するまで以前にダウンロードされたすべてのグループポリシーとキーを維持します。

たとえば、連携キーサーバ (COOPKS) の分割が発生すると、レベルを上げられた各 KS が独自の Key Encryption Key (KEK) とトラフィック暗号化キー (TEK) を生成します。GM は、無効な SPI パケットを受信すると、それをデコードします (KS は SPI のグループ情報をエンコードし、TEK ポリシーを介してそれを GM にダウンロードします)。それが現在の GETVPN グループに属していることが判明した場合は、リカバリ登録を開始します。

無効な SPI は、次の 2 つのカテゴリのいずれかに属している可能性があります。

- 正の無効な SPI : 現在のグループに属しており、GM リカバリ登録が必要な、無効な SPI。
- 負の無効な SPI : リカバリ登録を必要としない無効な SPI。

正の無効な SPI の場合、リスト内の次のキーサーバ (KS) へのリカバリ登録が実行されます。このリカバリ登録は、リスト内の次の KS への各クライアントリカバリ間隔で、無効なステートフルパケットインスペクション (SPI) パケットまたは TBAR エラーごとに繰り返されます。リスト内のすべての KS が回復され、無効な SPI が含まれなくなると、その SPI は誤検出としてマークされ、それ以上のリカバリ登録は実行されません。KS は TBAR エラーに対して常にリカバリ登録を実行します。ただし、無効な SPI のために GM がリストのすべての KS を回復し、SPI がある KS がなくなると、その SPI は誤検出としてマークされ、その SPI のためにさらにリカバリ登録が実行されることはなくなります。

この GM リカバリの再登録機能がトリガーされたことを通知するため、syslog メッセージが生成されます。たとえば、GM が 300 秒ごとにコントロールプレーンのエラーをモニタするように設定している場合、リカバリ登録が発生すると、次の syslog が生成されます。

```
*Feb 23 19:06:28.600: %GDOI-5-GM_RECOVERY_REGISTER: received invalid GDOI packets; register to KS to refresh policy, keys, and PST.
```

## GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の設定方法

### GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の設定

#### SUMMARY STEPS

1. `crypto gdoi group group-name`
2. `identity number number`

3. **server address ipv4** *address*
4. **client recovery-check interval** *interval*
5. **exit**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# <b>crypto gdoi group</b> GETVPN	グループ ドメイン オブ インタープリテーション (GDOI) グループを作成し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>identity number</b> <i>number</i> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# <b>identity number</b> 1111	GDOI グループ番号を指定します。
ステップ 3	<b>server address ipv4</b> <i>address</i> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# <b>server address ipv4</b> 1.0.0.2	GDOI グループが到達しようとするサーバの IP アドレスを指定します。
ステップ 4	<b>client recovery-check interval</b> <i>interval</i> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# <b>client recovery-check interval</b> 300	コントロールプレーンを監視するクライアント グループ メンバー (GM) の時間間隔を設定します。
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# <b>exit</b>	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の設定例

### 例 : GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の設定

次の例は、グループメンバー (GM) が 300 秒ごとにコントロールプレーンのエラーを監視できるようにする方法を示します。

```
crypto gdoi group GETVPN
identity number 1111
```

```
server address ipv4 1.0.0.2
client recovery-check interval 300
```

## GETVPN の復元力 : GM のエラー検出その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command References』
エンタープライズ ネットワークの GET VPN の有効化のための基本的な導入ガイドライン	『Cisco IOS GET VPN Solutions Deployment Guide』
GET VPN ネットワークの設計と実装	『Group Encrypted Transport VPN (GETVPN) Design and Implementation Guide』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 6407	『The Group Domain of Interpretation』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 295: GETVPN の復元力 : GM のエラー検出の機能情報**

機能名	リリース	機能情報
GETVPN の復元力 : GM のエラー検出		各 GDOI グループのデータプレーンのエラー パケットを検出します。  次のコマンドが導入されました。 <b>client recovery-check interval</b> .







## CHAPTER 224

# GETVPN CRL チェック

Group Encrypted Transport VPN (GET VPN) プロセスの間、証明書は認証局 (CA) から受信され、アイデンティティの証明として使用されます。証明書は、キーのセキュリティ侵害や証明書の喪失など、さまざまな理由により失効する可能性があります。失効した証明書はリポジトリに定期的に発行される証明書失効リスト (CRL) に配置されます。このリストは設定済みの CRL ライフタイムで指定された期間、リポジトリに格納されます。数時間から数日の任意の期間にすることができます。

- [GETVPN CRL チェックに関する情報, on page 3417](#)
- [GETVPN CRL チェックの設定方法, on page 3418](#)
- [GETVPN CRL チェックの設定例, on page 3424](#)
- [GETVPN CRL チェックに関する追加情報, on page 3425](#)
- [GETVPN CRL チェックに関する機能情報, on page 3426](#)

## GETVPN CRL チェックに関する情報

インターネットキーエクスチェンジ (IKE) では、証明書は2台のピア間でセッションが確立されるときに検証されます。現在のセッションは証明書失効の影響を受けません。ただし、新しいセッションを確立することはできず、グループメンバーがキーサーバ (KS) に再登録しない限り証明書は再検証されません。

GETVPN CRL チェック機能では、設定されたトラストポイントで新しい CRL が利用可能なときに公開キー インフラストラクチャ (PKI) がグループ ドメイン オブ インタープリテーション (GDOI) KS に通知することができます。その後 KS は新しい Key Encryption Key (KEK) を作成し、グループメンバーデバイスに再認証メッセージを送信します。これにより、syslog メッセージが出力され、現在の KEK が削除され、KS に再登録されます。

## 連携キー サーバのプロトコル統合

連携キー サーバのプロトコル (COOP) は、VPN ネットワークに複数のキー サーバ (KS) を設定できるようにする GET VPN の機能です。KS 冗長性のために使用されます。

すべての KS でグループメンバー (GM) の再認証を有効にすることで、GETVPN CRL チェックは COOP と統合されます。ただし、連携 KS 間で一時的に接続が失われる場合、COOP 分割が発生する可能性は常にあります。

#### 再認証がトリガーされたときの COOP 分割なし

COOP 分割が発生しない場合、プライマリ GM デバイスはセカンダリ KS の Key Encryption Key (KEK) を削除し、GM に再認証メッセージを送信します。セカンダリ KS は GM が再登録を開始する前に現在のポリシーをプライマリ ポリシーと同期させます。すべての GM が使用可能な KS に再登録して再認証され、新しい KEK を受信します。

#### 再認証がトリガーされたときの COOP 分割

再認証がトリガーされる前に COOP 分割が発生し、2つのプライマリ KS しかない場合、両者が再認証メッセージを送信します。それぞれのプライマリ KS は異なる新しい KEK を作成します。GM は、メッセージを受信するとすぐに既存の KEK をすべて削除するため、受信する最初の再認証メッセージだけを理解します。GM は使用可能な KS に再登録し、CRL チェックが行われます。再登録のとき、GM が登録した KS に応じて GM は最初のプライマリの KEK または 2 番目のプライマリの KEK のいずれかを受け取ります。GM はその KEK をインストールし、そのプライマリ KS からのみ今後のキー再生成を受信します。COOP マージが発生すると、KS はポリシーを同期し、キー再生成を送信して、すべての GM が最新の KEK とトラフィック暗号キー (TEK) を持つようにします。

#### 異なる KEK の作成の回避

COOP 分割中に再認証がトリガーされる場合も、再認証と CRL チェックは依然として発生します。ただし、KS での異なる KEK の作成をトリガーすることは、再認証を遅らすことによって回避できます。プライマリ KS はすべての COOP KS に到達可能な (分割されない) 場合のみ、再認証を開始します。1つの COOP KS に到達できない場合、プライマリ KS はすべての COOP KS が到達可能になるまで再認証メッセージの送信を遅らせます。

## GETVPN CRL チェックの設定方法

GETVPN CRL チェック機能を有効にする前に、複数のコンポーネントを設定する必要があります。次の作業を行います。

- グループメンバーとキーサーバが PKI クライアントとなるために定義された公開キーインフラストラクチャ (PKI) 認証局 (CA) (証明書を取得するように登録する必要があります)。
- PKI での証明書失効リスト (CRL) チェックを有効にするように設定されたキーサーバ (KS)。
- CA で利用可能であり、最初に必要ときに CRL をダウンロードするように設定された KS。これは、新しい CRL が利用可能になった後に最初のグループメンバー (GM) 登録に続いて KS が CRL をダウンロードすることを意味します。「GETVPN CRL チェックのためのキーサーバの設定」セクションを参照してください。

- PKI のグループ メンバー デバイスで無効化された CRL チェック。「グループ メンバーでの CRL チェックの無効化」セクションを参照してください。
- 証明書に対して設定されたインターネットキーエクスチェンジ (IKE) 認証。「証明書の IKE 認証の設定」セクションを参照してください。

## GETVPN CRL チェックのためのキー サーバの設定

新しい CRL が認証局 (CA) で利用可能になった後に最初のグループ メンバー (GM) 登録が発生した場合にキー サーバ (KS) が証明書失効リスト (CRL) をダウンロードするように設定するには、次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **ip domain name** *name*
2. **ip http server**
3. **crypto pki trustpoint** *name*
4. **enrollment url** *url*
5. **revocation-check** *method*
6. **exit**
7. **crypto identity** *method*
8. **fqdn** *domain*
9. **fqdn** *domain*
10. **exit**
11. **crypto gdoi group** *group-name*
12. **server local**
13. **authorization identity** *name*
14. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>ip domain name</b> <i>name</i>  <b>Example:</b>  Device(config)# ip domain name cisco.com	Cisco IOS ソフトウェアが未修飾ホスト名 (ドット付き 10 進ドメイン名を含まない名前) を作成するときに使用するデフォルトのドメイン名を定義します。
ステップ 2	<b>ip http server</b>  <b>Example:</b>  Device(config)# ip http server	IP または IPv6 システム上の HTTP サーバを有効化します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto pki trustpoint mycert	デバイスで使用するトラストポイントを定義し、CA トラストポイント コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment url url</b> <b>Example:</b> Device(config-ca-trustpoint)# enrollment url http://10.1.3.1:80	CA の登録 URL を指定します。
ステップ 5	<b>revocation-check method</b> <b>Example:</b> Device(config-ca-trustpoint)# revocation-check crl	CRL による証明書チェックが行われることを確認します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-ca-trustpoint)# exit	CA トラストポイント コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 7	<b>crypto identity method</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto identity abcd	デバイスの証明書内にある指定の識別名 (DN) リストを使用してデバイスのアイデンティティを設定し、暗号アイデンティティ コンフィギュレーションモードを開始します。  <b>Note</b> 特定の証明書、特に特定の DN の証明書を使用して、ピアが指定された暗号化インターフェイスにアクセスしないようにするデバイス構成の制限を設定できます。
ステップ 8	<b>fqdn domain</b> <b>Example:</b> Device(config-crypto-identity)# fqdn ut01-unix5.cisco.com	GM の完全修飾ドメイン名 (FQDN) のリモートアイデンティティからネーム マングラーを取得します。
ステップ 9	<b>fqdn domain</b> <b>Example:</b> Device(config-crypto-identity)# fqdn ut01-unix6.cisco.com	次の GM の FQDN のリモートアイデンティティからネーム マングラーを取得します。
ステップ 10	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(config-crypto-identity)# exit	暗号アイデンティティ コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gdoi group gdoi-group1	グループ ドメイン オブ インタープリテーション (GDOI) グループを作成し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 12	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI キー サーバとして指定し、GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 13	<b>authorization identity name</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-local-server)# authorization identity abcd	識別名 (DN) または FQDN に基づいて GDOI グループの認証アイデンティティを指定します。
ステップ 14	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-local-server)# end	GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## グループメンバーでの CRL チェックの無効化

Public Key Infrastructure (PKI) のグループメンバー (GM) をチェックする証明書失効リスト (CRL) を無効にするには、次のステップを実行してください。

### SUMMARY STEPS

1. **ip domain name** *name*
2. **ip http server**
3. **crypto pki trustpoint** *name*
4. **enrollment url** *url*
5. **revocation-check** *method*
6. **exit**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>ip domain name</b> <i>name</i> <b>Example:</b> Device(config)# ip domain name cisco.com	Cisco IOS ソフトウェアが未修飾ホスト名 (ドット付き 10 進ドメイン名を含まない名前) を作成するときに使用するデフォルトのドメイン名を定義します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>ip http server</b> <b>Example:</b>  Device(config)# ip http server	IP または IPv6 システム上の HTTP サーバを有効化します。
ステップ 3	<b>crypto pki trustpoint name</b> <b>Example:</b>  Device(config)# crypto pki trustpoint mycert	デバイスで使用するトラストポイントを定義し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>enrollment url url</b> <b>Example:</b>  Device(config-ca-trustpoint)# enrollment url http://10.1.3.1:80	認証局 (CA) の登録 URL を指定します。
ステップ 5	<b>revocation-check method</b> <b>Example:</b>  Device(config-ca-trustpoint)# revocation-check none	GM の証明書チェックを無効にします。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(config-ca-trustpoint)# exit	CA トラストポイント モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

## 証明書の IKE 認証の設定

### SUMMARY STEPS

1. **crypto isakmp policy priority**
2. **no authentication pre-share**
3. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>crypto isakmp policy priority</b> <b>Example:</b>  Router(config)# crypto isakmp policy 1	インターネット キー エクスチェンジ (IKE) ポリシーを定義して、ISAKMP ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>no authentication pre-share</b> <b>Example:</b> Router(config-isakmp)# no authentication pre-share	IKE ポリシー内の認証方式をデフォルト値にリセットします。
ステップ 3	<b>end</b> <b>Example:</b> Router(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## キーサーバでの GETVPN CRL チェックの有効化

新しい証明書失効リスト (CRL) が設定されているトラストポイント認証局 (CA) で利用可能になったときに Public Key Infrastructure (PKI) がドメインオブインタープリテーション (GDOI) キーサーバ (KS) に通知するように設定するには、次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **crypto gdoi group** *group-name*
2. **server local**
3. **registration periodic crl trustpoint** *trustpoint-name*
4. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>crypto gdoi group</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gdoi group gdoi_group1	GDOI グループを作成し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI キーサーバとして指定し、GDOI ローカルサーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>registration periodic crl trustpoint</b> <i>trustpoint-name</i> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-local-server)# registration periodic crl trustpoint mycert	設定されている PKI トラストポイント認証局で新しい CRL が使用可能になったときに GDOI KS の定期的な登録を有効にします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-local-server)# end	GDOI ローカル サーバ モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## GETVPN CRL チェックの設定例

### 例：GETVPN CRL チェックの有効化

次の例は、すべての必須の事前設定を含めた、GETVPN CRL チェック機能を有効にする方法を示します。

#### 例：GETVPN CRL チェックのためのキー サーバの設定

次の例では、新しい CRL が mycert という名前のトラストポイントの認証局 (CA) で利用可能になった後に最初のグループメンバー登録が発生すると、キーサーバ (KS) が証明書失効リスト (CRL) をダウンロードするように設定されます。

```
ip domain name cisco.com
ip http server
crypto pki trustpoint mycert
  enrollment url http://10.1.3.1:80
  revocation-check crl

crypto identity abcd
  fqdn ut01-unix5.cisco.com
  fqdn ut01-unix6.cisco.com

crypto gdoi group gdoi-group1
  server local
  authorization identity abcd
```

#### 例：グループメンバーでの CRL チェックの無効化

次の例では、Public Key Infrastructure (PKI) のグループメンバー (GM) の CRL チェックが無効化されます。

```
ip domain name cisco.com
ip http server
crypto pki trustpoint mycert
  enrollment url http://10.1.3.1:80
  revocation-check none
```

#### 例：証明書の IKE 認証の設定

```
crypto isakmp policy 1
  no authentication pre-share
```



**例：キー サーバの GETVPN CRL チェックの有効化**

次の例では、新しい CRL が mycert という名前のトラストポイント CA で利用可能になると、PKI が group1 という名前の GDOI KS に通知するように設定されます。

```
Crypto gdoi group gdoi_group1
  Server local
  registration periodic crl trustpoint mycert
```

## GETVPN CRL チェックに関する追加情報

**関連資料**

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command References』
エンタープライズ ネットワークの GET VPN の有効化のための基本的な導入ガイドライン	『Cisco IOS GETVPN Solution Deployment Guide』
GET VPN ネットワークの設計と実装	『Group Encrypted Transport VPN (GETVPN) Design and Implementation Guide』

**標準および RFC**

標準/RFC	タイトル
RFC 2401	『Security Architecture for the Internet Protocol』
RFC 6407	『The Group Domain of Interpretation』

**シスコのテクニカル サポート**

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## GETVPN CRL チェックに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 296: GETVPN CRL チェックに関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
GETVPN CRL チェック		<p>新しい証明書失効リスト (CRL) が設定されているトラストポイントで利用可能になったときに Public Key Infrastructure (PKI) がドメインオブインタープリテーション (GDOI) キー サーバ (KS) に通知できるようにします。</p> <p>次のコマンドが導入されました。 <b>registration periodic crl trustpoint.</b></p>



## CHAPTER 225

# スイート B での GET VPN のサポート

スイート B での GET VPN のサポート機能では、Cisco Group Encrypted Transport (GET) VPN に対してスイート B の暗号方式セットのサポートが追加されます。スイート B は、Galois Counter Mode Advanced Encryption Standard (GCM-AES) を含む暗号化アルゴリズムとハッシュ、デジタル署名、キー交換用のアルゴリズムのセットです。

IP Security (IPsec) VPN のスイート B は、RFC 4869、『[Suite B Cryptographic Suites for IPsec](#)』でその使用が定義されている標準規格です。スイート B は Cisco IPsec VPN に包括的なセキュリティ拡張機能を提供し、大規模な展開に対して追加のセキュリティを有効にします。スイート B は、リモートサイト間のワイドエリア ネットワーク (WAN) に高度な暗号化セキュリティを必要とする組織に対して推奨されるソリューションです。

- [スイート B での GET VPN のサポートの前提条件, on page 3427](#)
- [スイート B での GET VPN のサポートの制約事項, on page 3428](#)
- [Suite B での GET VPN サポートに関してサポートされるプラットフォーム, on page 3428](#)
- [スイート B での GET VPN のサポートに関する情報, on page 3430](#)
- [スイート B での GET VPN のサポートの設定方法, on page 3438](#)
- [スイート B での GET VPN のサポートの設定例, on page 3457](#)
- [その他の参考資料, on page 3459](#)
- [スイート B での GET VPN のサポートの機能情報, on page 3460](#)

## スイート B での GET VPN のサポートの前提条件

この機能を有効にするすべてのキー サーバ (KS) およびグループ メンバー (GM) で、GET VPN ソフトウェア バージョン 1.0.4 以降を実行している必要があります。この機能は、GET VPN ネットワーク内のすべてのデバイスをこの機能をサポートする GET VPN ソフトウェア バージョンにアップグレードしてから使用する必要があります。この機能は、ネットワークのすべてのデバイスがスイート B をサポートするバージョンであるかどうかを確認するために KS (またはプライマリ KS) で使用するコマンドを提供します。詳細については「GM がスイート B をサポートするソフトウェア バージョンを実行していることを確認する」セクションを参照してください。

## スイート B での GET VPN のサポートの制約事項

これらが GCM ポリシーまたはガロアメッセージ認証コード (GMAC) トラフィック暗号キー (TEK) ポリシーを使用している場合、グループのすべての連携 KS で同一順序の同一の ACL エントリ (ACE) を持つアクセスコントロールリスト (ACL) を使用する必要があります。そうでない場合、別の KS に登録する GM は、ポリシーのダウンロード後は正しく暗号化および復号化することができません。これは、スイート B では、SPI (TEK に関連付けられているセキュリティパラメータインデックス ID) が各 ACL エントリに対して生成され、各 ACL エントリに対して一意であるためです。

既存の ACL のエントリの順序を変更することはできません。したがって、GCM または GMAC TEK ポリシーを使用していて、各 KS に同一順序の同一エントリを持つように各 KS の ACL を更新する必要がある場合は、各セカンダリ KS から ACL を削除し、プライマリ KS で新しい ACL を作成し、セカンダリ KS にそれをコピーしてから、プライマリ KS で `crypto gdoi ks rekey` コマンドを入力して GET VPN ネットワーク全体のキー再生成をトリガーする必要があります。

`ip access-list` コマンドの `no` 形式 (IPv6 を使用している場合は `ipv6 access-list` コマンドの `no` 形式) を使用して ACL を削除します。

## Suite B での GET VPN サポートに関してサポートされるプラットフォーム

次の表に、GET VPN の Suite B をサポートするプラットフォームと対応するモデルの詳細を、リリース別に整理して示します。

Table 297: Cisco IOS XE リリース 16.9.1 以降

プラットフォーム	モデル
Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーションサービス ルータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ASR1001-X</li> <li>• ASR1002-X</li> <li>• ASR1001-HX</li> <li>• ASR1002-HX</li> <li>• ESP100</li> <li>• ESP200</li> </ul>
Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ISR4461</li> <li>• ISR4451-X</li> <li>• ISR4431</li> </ul>

Table 298: Cisco IOS XE リリース 17.13.1a 以降

プラットフォーム	モデル
Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ	ASR1009-X + ESP200-X
Cisco Catalyst 8000V Edge ソフトウェア	C8000V
Cisco Catalyst 8200 シリーズ エッジプラットフォーム	C8200-1N-4T
Cisco Catalyst 8300 シリーズ エッジプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• C8300-2N2S-4T2X</li> <li>• C8300-1N1S-6T</li> </ul>
Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• C8500-12X</li> <li>• C8500-20X6C</li> </ul>

Table 299: Cisco IOS XE リリース 17.14.1a 以降

プラットフォーム	モデル
Cisco 1000 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ISR C111X</li> <li>• ISR C112X</li> <li>• ISR C1131</li> <li>• ISR C116X</li> </ul>
Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ	ASR1000-ESP100-X
Cisco Catalyst 8200 シリーズ エッジプラットフォーム	C8200L-1N-4T
Cisco Catalyst 8300 シリーズ エッジプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• C8300-1N1S-4T2X</li> <li>• C8300-2N2S-6T</li> </ul>
Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォーム	C8500-12X4QC
Cisco Catalyst 8500L シリーズ エッジプラットフォーム	C8500L-8S4X

# スイート B での GET VPN のサポートに関する情報

## スイート B

スイート B は国家安全保障局 (NSA) と国立標準技術研究所 (NIST) によって標準化されています。スイート B での GET VPN のサポート機能では、これらの暗号化アルゴリズムが GDOI および GET VPN とさまざまな方法 (SHA-2/HMAC-SHA-2 と AEC-GCM/AES-GMAC の使用など) で使用できるようにします。

セキュアハッシュアルゴリズム 2 (SHA-2) は、米国の連邦情報処理標準 (FIPS) として NSA により設計され、NIST によって公開された一連の暗号ハッシュ関数 (SHA-224、SHA-256、SHA-384、および SHA-512) です。SHA-2 には旧モデル SHA-1 からの多数の変更が含まれます。SHA-2 は 224、256、384、または 512 ビットのダイジェストを含む 4 つのハッシュ関数のセットで構成されます。

HMAC は反復暗号ハッシュ関数を使用するメッセージ認証のメカニズムです。HMAC-SHA-2 は、IPsec の秘密共有キーと組み合わせた SHA-2 バージョン (SHA-224、SHA-256、SHA-384 および SHA-512) 反復暗号ハッシュ関数と組み合わせて使用される HMAC です。これらの組み合わせにより、HMAC-SHA-224、HMAC-SHA-256、HMAC-SHA-384、HMAC-SHA-512 と呼ばれます。これらのアルゴリズムは、認証ヘッダー (AH) (ただし GET VPN でサポートされていません)、Encapsulating Security Payload (ESP)、IKE、および IKEv2 プロトコルのデータ発信元の認証および整合性の基礎として、および IKE および IKEv2 の Pseudo-Random Function (PRF) としても使用できます。

GCM を使用する AES (AES-GCM) は、IPsec の暗号化アルゴリズムです。Galois メッセージ認証コードを使用する AES (AES-GMAC) もまた、IPsec に使用されるメッセージの整合性アルゴリズムです。

## SHA-2 および HMAC-SHA-2

スイート B での GET VPN のサポート機能では、ハッシュおよび署名アルゴリズムとして SHA-2 および HMAC-SHA-2 (HMAC-SHA-256、384、および 512) を使用することができます。256、384、および 512 ビット キーによる SHA-2 および HMAC-SHA-2 は次に使用されます。

- RFC 6407、『[The Group Domain of Interpretation](#)』の [セクション 3.2](#) (KS と GM 間の認証) で説明されているハッシュアルゴリズムとして IKEv1 を使用する GDOI 登録。
- KS からのキー再生成メッセージの認証および GM からの確認応答メッセージの認証のためのキー再生成メッセージをハッシュ化する Key Encryption Key (KEK) キー再生成ポリシー。
- IPsec SA 整合性チェックのための HMAC-SHA-2 の TEK IPsec ポリシー。

## AES-GCM と AEC-GMAC

256、384、および 512 ビット キーによる AES-GCM (AES-GCM-128、192、および 256) および AES-GMAC (AES-GMAC-128、192、および 256) 暗号化アルゴリズムは、IPsec SA 暗号化および整合性アルゴリズムとして TEK IPsec ポリシーで使用されます。GCM は暗号化および整合性に使用され、GMAC は整合性のみに使用されます。

### スイート B に準拠する暗号化アルゴリズムのセット

RFC 4869 には IKE および IPsec を使用する 4 セットの暗号化アルゴリズムが定義されています。設定すると、これらのいずれかのセットがスイート B に準拠します。各セットは、暗号化アルゴリズム、デジタル署名アルゴリズム、キー アグリーメントアルゴリズム、およびハッシュまたはメッセージダイジェストアルゴリズムで構成されます。

- Suite-B-GCM-128 : 128 ビット AES-GCM を使用して ESP の整合性の保護と機密性を提供します (RFC 4106、『[The Use of Galois/Counter Mode \(GCM\) in IPsec Encapsulating Security Payload \(ESP\)](#)』を参照してください)。ESP の整合性の保護および暗号化が両方必要な場合はこのスイートまたは Suite-B-GCM-256 を使用します。
- Suite-B-GCM-256 : 256 ビット AES-GCM を使用して ESP の整合性の保護と機密性を提供します (RFC 4106、『[The Use of Galois/Counter Mode \(GCM\) in IPsec Encapsulating Security Payload \(ESP\)](#)』を参照してください)。ESP の整合性の保護および暗号化が両方必要な場合はこのスイートまたは Suite-B-GCM-128 を使用します。
- Suite-B-GMAC-128 : 128 ビット AES-GMAC を使用して ESP の整合性の保護を提供します (RFC 4543、『[The Use of Galois Message Authentication Code \(GMAC\) in IPsec ESP and AH](#)』を参照してください) が、機密性は提供しません。ESP 暗号化の必要がない場合にのみこのスイートまたは Suite-B-GMAC-256 を使用します。
- Suite-B-GMAC-256 : 256 ビット AES-GMAC を使用して ESP の整合性の保護を提供します (RFC 4543、『[The Use of Galois Message Authentication Code \(GMAC\) in IPsec ESP and AH](#)』を参照してください) が、機密性は提供しません。ESP 暗号化の必要がない場合にのみこのスイートまたは Suite-B-GMAC-128 を使用します。

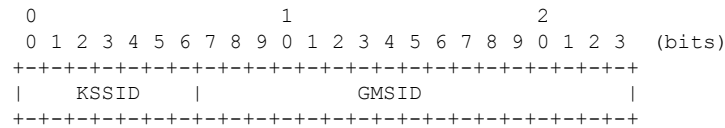
シスコのソフトウェアでは、これらのどのアルゴリズムも設定できます。スイート B での GET VPN のサポート機能では、GET VPN でこれらのアルゴリズムを使用できます。

## SID 管理

GET VPN のカウンタベースの動作モード (ESP-GCM-AES など) では、初期化ベクトル (IV) をグループ キーで再利用しない必要があります。そのため、この機能では KS が IV 作成のための一意の送信者 ID (SID) を各 GM (インターフェイスごと) に割り当てることのできる方法が提供されています。

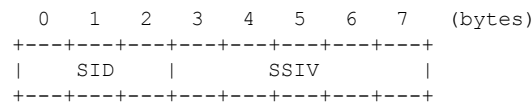
スイート B の IPsec SA 暗号化および整合性アルゴリズムとして使用される TEK IPsec ポリシーには、GM にこれらの一意の SID 値 (GMSID) を配布するため、KS で一意の SID 値のプールの管理が必要です。それぞれの連携 KS には割り当てる GMSID の個別のプールが必要です。各 KS はこれらの SID プールを設定するために一意の KS SID (KSSID) を設定します。

SID の領域は、KSSID 部と GMSID 部の 2 部に分けられます。したがって、SID は KSSID と GMSID の連結であり、KSSID は SID の KS 部、GMSID は SID の GM 部です。SID は次のビットによって形成されます。



この例では、各 KSSID (0 ~ 127) に  $2^{17}$  (131,072) の GMSID があり、登録する各 GM に動的に割り当てられます。

GM は GMSID を使用して、AES-GCM または AES-GMAC を使用するとき指定したキーで送信される各パケットに対して一意の 64 ビット IV を形成します。IV は次のバイトで形成されます。



送信者固有の IV (SSIV) は、パケットカウンタです。

## グループサイズ

グループサイズは、GM への配布のため KS に予約されている KSSID および GMSID の SID スペース割り当ての長さです。使用可能なグループサイズには、小 (8、12、または 16 ビット)、中 (24 ビット、デフォルト)、大 (32 ビット) があります。中は、ほぼすべてのネットワークに適しています。

大のグループサイズは、マニュアル『[Implementation Guidance for FIPS PUB 140-2 and the Cryptographic Module Validation Program](#)』のセクション A.5 「Key/IV Pair Uniqueness Requirements from SP 800-38D」の要件 (Suite B と組み合わせて使用される GET VPN に  $2^{32}$  以上の使用可能な固有の「モジュール名」 (SID) がある必要がある) に厳密に準拠する必要がある場合のみ使用する必要があります。このマニュアルは、NIST および Communications Security Establishment Canada (CSEC) によって発行および管理されています。

たとえば、KS 1 台の大のグループサイズで SID は 32 ビットであり、512 個の KSSID 値 (0 ~ 511 の範囲) があり、それぞれに GM の登録に配布する GMSID が 8,388,607 個あります。大のグループサイズでは、次の KSSID 割り当てのガイドラインを使用して、KSSID の範囲を設定します。

**Table 300:** グループサイズ大に推奨される KSSID 範囲

KS	1 台の KS (連携 KS なし)	2 台の連携 KS	3 台の連携 KS	4 台の連携 KS
KS1	0 - 511	0 - 255	0 - 127	0 - 63
KS2	—	256 - 511	128 - 255	64 - 127



KS	1 台の KS (連携 KS なし)	2 台の連携 KS	3 台の連携 KS	4 台の連携 KS
KS3	—	—	256 - 383	128 - 191
KS4	—	—	384 - 511	192 - 255
KS5	—	—	—	256 - 319
KS6	—	—	—	320 - 383
KS7	—	—	—	384 - 447
KS8	—	—	—	448 - 511

最初に元の KS を設定し、より多くの KS を含めるように連携 KS ネットワークを拡張する予定の場合、上の表の列にはネットワークで予想される KS の数を使用し、後で新しい KS を追加できるようにします。

小 (8、12、または 16 ビット) のグループサイズは、RFC 6054、『[Using Counter Modes with Encapsulating Security Payload \(ESP\) and Authentication Header \(AH\) to Protect Group Traffic](#)』に従って、8、12、および 16 ビットの SID 長さで厳格な相互運用性が要求される、よく理解されている状況でのみ使用する必要があります。このような相互運用性が必要な場合、グループごとの SID の数が厳しく制限される (これにより KS および GM の数が厳しく制限される) ため、ネットワークの設計時は注意が必要です。小グループ サイズの制限を次に示します。

Table 301: グループサイズ小の制限

SID 長さ	KSSID (合計 KS)	KSSID ごとの GMSID	GMSID (合計 GM)	KS 1 台に可能な GM 登録数 (すべての KS に KSSID を均等に割り当てた後)			
				1 KS	2 KS	4 KS	8 KS
—	—	—	—	1 KS	2 KS	4 KS	8 KS
8 ビット	2	128	255	320	96	—	—
12 ビット	4	1,024	4,095	3,840	1,792	768	—
16 ビット	16	4,096	65,535	64,512	31,744	15,360	7,168

## 連携キー サーバへの KSSID 割り当て

設定されたグループサイズ、KS の数、GM の数、KS ごとの GM の数、および KS または GM (または両方) の将来の拡張に基づいて、最初の GDOI KSID (KSSID) の数を各 KS に割り当てるよう前もって計画する必要があります。

GDOI グループに複数の連携 KS があるときは、各 KS が固有の KSSID 値のセットを持つようにして、登録する GM が、グループ内の登録する別の GM と同じ SID を受け取らないようにする必要があります。このため、連携 KS の数と、連携 KS を後で追加するかどうかを考慮しつつ、連携 KS 全体に KSSID をどのように割り当てるのかを前もって計画する必要があります。

す。何も追加しない場合、すべての KS で利用可能なすべての KSSID を割り当てることができます。連携 KS を追加する場合、一部の KSSID を予約し、それらの KS をネットワークに追加するときに割り当てする必要があります。

KSSID は再割り当てできます。ただし、GMSID を配布するために KS によってすでに使用されている KSSID を KS から削除する場合、グループはトラフィックを損失することなく再初期化されます（つまり、すべての GM が強制的に再登録を行い、TEK IPsec SA のキー再生成が行われて使用済みの KSSID がリセットされます）。このグループの再初期化を回避するには、（中のデフォルト グループ サイズを使用する）次の表のガイドラインを使用します。

Table 302: 連携 KS（グループサイズ中）の推奨される KSSID 割り当て範囲

	1 台の KS（連携 KS なし）	2 台の連携 KS	3 台の連携 KS	4 台の連携 KS
KS1	0 - 127	0 - 63	0 - 31	0 - 15
KS2	—	64 - 127	32 - 63	16 - 31
KS3	—	—	64 - 95	32 - 47
KS4	—	—	96 - 127	48 - 64
KS5	—	—	—	65 - 80
KS6	—	—	—	81 - 95
KS7	—	—	—	96 - 112
KS8	—	—	—	113 - 127

より多くの KS を含めるように連携 KS ネットワークを拡張する予定の場合、最初に元の KS を設定するときは、上の表の列には拡張したネットワークで予定される KS の数を使用し、後で新しい KS を追加できるようにします。

次に、KS に KSSID を割り当てるための追加のガイドラインを示します。

- KS 全体の KSSID の連続するブロックのみを設定します（例：KS1 = 0-9 + 40-49、KS2 = 10-19 + 50-59、KS3 = 20-29、KS4 = 30-39 など）。
- 任意の 1 台の KS には、（他の KS が GM 登録をすべて失敗した場合）グループからすべての GM 登録を受信するために十分な KSSID のスペースがある必要があります。
- グループの再初期化を回避するには、新しい KSSID の値または範囲だけを追加します。必要な場合を除き、これらは削除しないでください。
- ネットワーク分割（連携 KS 間の接続の損失）の間は、KSSID の割り当てを変更しないでください。これにより、マージ時（連携 KS 間の接続の回復時）に再初期化を引き起こす可能性がある KSSID の重複を防ぎます。
- グループが  $n$  とおりの分割（セカンダリ KS が計画されるがまだ設定されていないという意味）を開始する場合は、すべての KSSID をグループが分割されていないかのように設定します。

使用可能な KSSID の数は、次の表のように、グループ サイズの設定に依存します。

Table 303: グループ サイズに基づく使用可能な KSSID の範囲

設定されたグループサイズ	使用可能な KSSID の数
小 (8 ビット)	0 ~ 1
小 (12 ビット)	0 ~ 3
小 (16 ビット)	0 ~ 15
中	0 ~ 127
大	0 ~ 511

## グループの再初期化

グループの再初期化は、KSSID を廃棄するプロセスです。グループの再初期化は、すべての KS にわたって発生します（プライマリおよびセカンダリ）。どの KS もグループの再初期化をトリガーでき、次のときに発生します。

- 非 GCM から GCM に TEK ポリシーを変更する。
- グループ サイズを変更する。
- 以前に使用した KSSID を削除する。
- グループの KS が KSSID と GMSID の両方を使い果たした。
- 連携 KS によって検出された KSSID の重複が解決された。

再初期化では、すべての KS が使用済みの KSSID を古い（使用済みの）KSSID に移動します（それにより廃棄されます）。次に、再初期化によって新しい KEK と新しい TEK が作成され、既存の TEK ライフタイムが短くなり、既存の TEK が削除され、すべての GM が再登録します（**clear crypto gdoi ks members** コマンドによって決定される期間内）。この期間は残りのライフタイムの 5% であり、90 秒から 1 時間の間です。既存の TEK のライフタイムが期限切れになると、各 KS は古い（使用済み）KSSID をリセットするため、すべての KSSID が再度使用可能になります。

再初期化により GM でトラフィックが中断されることはありません。すべての GM は登録時に新しい TEK を含む新しい GMSID を受信します。

## スイート B の Cisco GET VPN システム ログメッセージ

次の表では、スイート B に関連する GET VPN システム ログ（syslog と呼ばれます）メッセージについて説明します。

Table 304: KS および連携 KS メッセージ

メッセージ	説明
%GDOI-5-KS_REINIT_GROUP: <i>reason</i> for group <i>group-name</i> and will re-initialize the group.	<p>KS はグループを再初期化します。表示される可能性のある <i>reason</i> の文字列は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• KS configured Suite-B transform requiring SIDs</li> <li>• KS configured Suite-B transform requiring SIDs during scheduled rekey</li> <li>• KS is running out of SIDs</li> <li>• KS changed Group Size</li> <li>• KS removed used KSSIDs</li> <li>• KS issued 'clear crypto gdoi ks members'</li> <li>• KS issued re-init test cmd</li> <li>• KSSID overlap was resolved</li> <li>• Pri KS peer changed used Group Size</li> <li>• Pri KS peer sent re-init request</li> <li>• Sec KS peer sent re-init request</li> </ul>
%GDOI-5-KS_REINIT_FINISH: Re-initialization of group <i>group-name</i> completed.	<p>グループの再初期化が完了しました。一部の操作は再初期化中（グループサイズの変更時や使用する KSSID の削除時など）にブロックされるため、再初期化がいつ完了したのかを確認するのに役立ちます。再初期化は、古い（使用した）TEK がクリアされるまで終了しません。これは、再初期化が再度チェックされるか（<b>show</b> コマンドの実行時、グループサイズまたは KSSID の設定時、または連携 KS の更新時など）、次の GM が登録するまで発生しないことがあります。</p>
%GDOI-3-KS_NO_SID_AVAILABLE: GMs for group <i>group-name</i> need SIDs but this KS has no KS SIDs configured or no more SIDs available.	<p>（GCM の使用時と GM が登録を開始した後）グループの GM は SID を必要としますが、KS に設定された KSSID が無いか、それ以上使用可能な SID がありません。</p>

メッセージ	説明
%GDOI-3-COOP_KS_KSSID_OVERLAP: Overlapping KS Sender Identifier(s) (KSSID) {KSSID KSSID-Range} with COOP-KS peer <i>ip-address</i> in group <i>group-name</i> blocking GM registration (MISCONFIG).	別のグループの連携 KS ピアと重複する KSSID または KSSID 範囲が GM 登録をブロックしています。重複する KSSID 設定は CLI によって連携 KS でブロックされますが、GET VPN ネットワークの分割シナリオ（1 つ以上の連携 KS が一時的に使用できなかったがオンラインに戻った場合）や保存済みの設定を使用するとこれが生じることがあります。
%GDOI-5-COOP_KS_KSSID_OVERLAP_RESOLVED: Resolved overlapping KS Sender Identifier(s) (KSSID) with COOP-KS peer allowing GM registrations once again.	連携 KS ピアと重複する KSSID が解決されました（GM 登録を再開できます）。

Table 305: GM メッセージ

メッセージ	説明
%GDOI-5-GM_IV_EXHAUSTED: GM for group <i>group-name</i> exhausted its IV space for interface <i>interface-name</i> and will re-register.	グループの GM が特定の SA の IV スペース（固有の IV のセットの意味）を使い尽くしたため、再登録します。
%GDOI-5-GM_REJECTING_SA_PAYLOAD: Registration: Policy in SA payload sent by KS <i>ip-address</i> rejected by GM in the group <i>group-name</i> reason: client rekey hash algorithm ( <i>kek-policy</i> ) is unacceptable by this GM.	クライアントのキー再生成ハッシュ アルゴリズム（指定された KEK ポリシー）が指定されたグループの GM によって承認されませんでした。登録時に GM が KEK ポリシーを拒否しました。
%GDOI-5-GM_REJECTING_SA_PAYLOAD: Registration: Policy in SA payload sent by KS <i>ip-address</i> rejected by GM in the group <i>group-name</i> reason : client rekey transform-sets ( <i>tek-policy</i> ) for data-protection are unacceptable by this GM.	データ保護のクライアントのキー再生成トランスフォームセット（指定された TEK ポリシー）が GM によって承認されませんでした。登録時に GM が TEK ポリシーを拒否しました。
%GDOI-5-GM_REKEY_TRANSFORMSET_CHECK_FAIL: The transform set ( <i>transform-set</i> ) for data protection in group <i>group-name</i> is unacceptable by this client.	グループのデータ保護のトランスフォームセットがクライアントによって承認されませんでした。GM がキー再生成を受け取り、TEK ポリシーを拒否しました。

メッセージ	説明
%GDOI-3-KS_REKEY_AUTH_KEY_LENGTH_INSUFFICIENT: Rejected rekey sig-hash algorithm change: using sig-hash algorithm HMAC_AUTH_SHAbits requires an authentication key length of at least <i>number-of-bits</i> bits ( <i>number-of-blocks</i> blocks in bytes) - current RSA key "360-bit" is only 45 blocks in bytes.	RSA キーのモジュラス長が十分 にないため、キー再生成のシグ ニチャ ハッシュ アルゴリズム の設定が拒否されました。 HMAC-SHA-384 は少なくとも 465 ビット (バイトの 59 ブロッ ク) のモジュラスを必要とし、 HMAC-SHA-512 は 593 ビット (バイトの 75 ブロック) のモ ジュラスを必要とします。

## スイート B での GET VPN のサポートの設定方法

スイート B での GET VPN のサポート機能セットの各機能は個別に設定可能です。しかし、スイート B の標準に準拠するため、特定の組み合わせでこれらの機能を設定する必要があります。これらの組み合わせの詳細については、RFC 4869、『[Suite B Cryptographic Suites for IPsec](#)』を参照してください。

## GM がスイート B をサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

GET VPN はグループに基づいた技術であるため、(プライマリ KS、連携 KS、および GM を含めた) 同じグループ内のすべてのデバイスは、機能を有効化するためにスイート B の機能をサポートする必要があります。グループの機能を有効にするには、グループ内のすべてのデバイスが GET VPN ソフトウェアの互換性のあるバージョンを実行していることを確認する必要があります。

GET VPN ネットワークのすべてのデバイスがスイート B をサポートしていることを確認するには、KS (またはプライマリ KS) で次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `show crypto gdoi feature suite-b`
3. `show crypto gdoi feature suite-b | include No`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show crypto gdoi feature suite-b</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature suite-b	ネットワーク内の各 KS および GM で実行されている GET VPN ソフトウェアのバージョンを表示し、そのデバイスがスイート B をサポートしているかどうかを表示します。
ステップ 3	<b>show crypto gdoi feature suite-b   include No</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gdoi feature suite-b   include No	(オプション) スイート B をサポートしないデバイスのみ検索します。

## GET VPN スイート B でのキー サーバの設定

## KEK の署名ハッシュ アルゴリズムの設定

KEK の署名ハッシュ アルゴリズムを設定するにはこの作業を行います。

## Before you begin

この作業には次の前提条件があります。

- デバイスに関連付けられている RSA キー ペアを使用するキー再生成認証が有効になっていることを確認します。これを行うには、**rekey authentication** コマンドを **mypubkey rsa key-name** キーワードと引数で使用します。
- RSA キー ペアに十分な長さのモジュラスがあることを確認します。HMAC-SHA-384 は少なくとも 465 ビット (バイトの 59 ブロック) のモジュラスを必要とし、HMAC-SHA-512 は 593 ビット (バイトの 75 ブロック) のモジュラスを必要とします。キー再生成の署名ハッシュ アルゴリズムが不十分なモジュラス長のキー ペアを使用する SHA-384 または SHA-512 に変更されると、設定拒否メッセージがコンソールに表示され、システム ログメッセージが生成されます。同様に、キー再生成の署名ハッシュ アルゴリズムがすでに SHA-384 または SHA-512 であり、キーペアが不十分なモジュラス長の 1 つに変更されると、同様のメッセージがコンソールに表示され、同じシステム ログメッセージが生成されます。
- キー再生成メッセージを受信した後の GM から KS への確認応答の認証に SHA-2/HMAC-SHA-2 を使用するには、GM へのキー再生成メッセージのユニキャスト配

信を有効にする必要があります。これを実行するには、**rekey transport unicast** コマンドを使用します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group [ipv6] group-name**
4. **server local**
5. **rekey sig-hash algorithm algorithm**
6. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group [ipv6] group-name</b> <b>Example:</b>  Device(config)# crypto gdoi group mygroup	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。  • データプレーン内で IPv6 で GET VPN を使用する場合は、 <b>ipv6</b> キーワードを使用する必要があります。
ステップ 4	<b>server local</b> <b>Example:</b>  Device(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI KS として指定し、GDOI ローカル サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>rekey sig-hash algorithm algorithm</b> <b>Example:</b>  Device(gdoi-local-server)# rekey sig-hash algorithm sha512	KEK の署名ハッシュ アルゴリズムを設定します。Suite B の場合は、 <b>sha256</b> 、 <b>sha384</b> 、または <b>sha512</b> を指定する必要があります。



	Command or Action	Purpose
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(gdoi-local-server)# end</pre>	GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## グループサイズの設定

このタスクはオプションです。ほぼすべての展開で、メディアのデフォルトグループサイズ（送信者識別子の長さ）が推奨されます。スイート B のグループサイズを設定するにはこの作業を行います。

スイート B（つまり ESP-GCM または ESP-GMAC）が設定され、スイート B のポリシーが生成された後で、連携 KS を使用するグループのグループサイズを変更する場合、プライマリ KS で変更する前にすべてのセカンダリ KS でグループサイズを変更する必要があります。

グループサイズを変更すると（新しい SID 長が使用できるように）グループが初期化されません。KS 全体で競合するグループサイズ設定があると GM 登録がブロックされます。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group [ipv6] group-name**
4. **server local**
5. **group size {small {8 | 12 | 16} | medium | large}**
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>Device# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group [ipv6] group-name</b> <b>Example:</b>	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	Device(config)# <code>crypto gdoi group mygroup</code>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データプレーン内で IPv6 で GET VPN を使用する場合は、<b>ipv6</b> キーワードを使用する必要があります。</li> </ul>
ステップ 4	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# <code>server local</code>	デバイスを GDOI KS として指定し、GDOI ローカルサーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>group size {small {8   12   16}   medium   large}</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# <code>group size small 16</code>	グループ サイズを設定します。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# <code>end</code>	GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## キーサーバ識別子の設定

スイート B では、それぞれの GM に固有の GMSID の割り当てが必要です。これは GM が以前同じキーに（その GM または別の GM が）使用した SID を再利用できないことを意味します。したがって、GET VPN が重複する SID 値を許可しないように設計されていても、KS ごとに固有のセットを持つように KS 間の KSSID 値を正しく設定する必要があります。（KS 間の KSSID が重複すると再初期化されます。）

KS に SID のプールを割り当てるには少なくとも 1 つの KSSID を設定する必要があります。TEK IPsec ポリシーとして GCM または GMAC を設定する前に KS でこれを行います。

この作業を行って KS に KSSID または KSSID の範囲を割り当てます。各 KS は、GCM または GMAC を使用する際には少なくとも 1 つの KSSID を割り当てる必要があります。単一の KSSID、KSSID の範囲、またはその両方を設定できます。メディアのデフォルトグループサイズとして、0 ~ 127 の範囲の 128 個の利用可能な KSSID 値があります。

KSSID 値は、GDOI ローカルサーバ ID コンフィギュレーション モードを終了するまで KS に割り当てられません（KS から使用もできません）。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group [ipv6] group-name**
4. **server local**
5. **identifier**

6. **range** *lowest-kssid - highest-kssid*
7. **value** *kssid*
8. **end**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group [ipv6] group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gdoi group mygroup	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• データプレーン内で IPv6 で GET VPN を使用する場合は、<b>ipv6</b> キーワードを使用する必要があります。</li> </ul>
ステップ 4	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI KS として指定し、GDOI ローカルサーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>identifier</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# identifier	GDOI ローカルサーバ ID コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>range lowest-kssid - highest-kssid</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server-id)# range 10 - 20	KSSID の範囲を割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• この範囲は、グループ全体で一意である必要があります。</li> </ul>
ステップ 7	<b>value kssid</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server-id)# value 0	KSSID を割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• この KSSID は、グループ全体で一意である必要があります。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>value 0</b> コマンドは、KSSID 値 0 で始まる SID のプールを KS に割り当てます（つまり 0x0 で始まり 0x1FFFF で終わる SID 値のプールが割り当てられます）。</li> </ul>
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(gdoi-local-server-id)# end</pre>	GDOI ローカル サーバ ID コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

すでに別の KSSID が割り当てられている KS に 1 つ以上の KS を設定しようとする（かつ連携 KS ネットワークが分割されていない）と、設定は拒否され、GDOI ローカル サーバ ID コンフィギュレーション モードを終了すると次のメッセージが表示されます。

```
% Key Server SID Configuration Denied:
% The following Key Server SIDs being added overlap:
% 2, 200-250 (COOP-KS Peer: 10.0.9.1)
```

連携 KS ネットワークが分割されている場合、重複する KSSID を設定する必要はありません。ネットワークのマージで KSSID の重複が検出されると、GM の登録は重複が解決するまでブロックされます。次のシステム ログ メッセージが両方の KS に表示されます。

```
%GDOI-3-COOP_KSSID_OVERLAP: Overlapping KS Sender Identifier(s) (KSSID) {2, 200-250}
with COOP-KS peer 10.0.9.1 in group diffint blocking GM registration (MISCONFIG)
```

KS が重複する KSSID を構成解除すると、グループはトラフィックを損失することなく再初期化します（つまり、すべての GM が再登録を強制され、TEK IPsec SA は使用された KSSID をリセットするためにキー再生成されます）。次のシステム ログ メッセージが KS に表示されます。

```
%SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
%GDOI-5-COOP_KSSID_OVERLAP_RESOLVED: Resolved overlapping KS Sender Identifier(s) (KSSID)
with COOP-KS peer allowing GM registrations once again
%GDOI-5-KS_REINIT_GROUP: KSSID overlap was resolved for group diffint and will
re-initialize the group.
%GDOI-5-KS_SEND_UNICAST_REKEY: Sending Unicast Rekey for group diffint from address
10.0.8.1 with seq # 11
%GDOI-4-GM_DELETE: GM 10.0.3.1 deleted from group diffint.
%GDOI-4-GM_DELETE: GM 10.65.9.2 deleted from group diffint.
```

%GDOI-5-KS\_SEND\_UNICAST\_REKEY システム ログ メッセージは、これがプライマリ KS である場合にのみ表示されます。KSSID が重複しているピア KS でも %GDOI-5-COOP\_KSSID\_OVERLAP\_RESOLVED システム ログ メッセージが表示されます。

## スイート B の IPsec SA の設定

スイート B の IPsec SA を設定するには、次のステップを実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec transform-set** *transform-set-name* {**esp-gcm** | **esp-gmac**} [**128** | **192** | **256**]
4. **crypto ipsec profile** *ipsec-profile-name*
5. **set transform-set** *transform-set-name*
6. **exit**
7. **crypto gdoi group** [**ipv6**] *group-name*
8. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number** *number*
  - **identity address ipv4** *address*
9. **server local**
10. **sa ipsec** *sequence-number*
11. **profile** *ipsec-profile-name*
12. **match address** {**ipv4** | **ipv6**} {*access-list-number* | *access-list-name*}
13. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b>  <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name</i> { <b>esp-gcm</b>   <b>esp-gmac</b> } [ <b>128</b>   <b>192</b>   <b>256</b> ]  <b>Example:</b>  Device(config)# crypto ipsec transform-set gl esp-gcm 192	トランスフォーム セット（セキュリティ プロトコル および アルゴリズム の受け入れ可能な組み合わせ）を定義し、暗号化 トランスフォーム コンフィギュレーション モードを開始します。  • スイート B では、ESP-GCM または ESP-GMAC を使用する トランスフォーム セット を指定する必要があります。（別の コマンド ライン に コマンド をもう一度入力して、複数の トランスフォーム セット を定義できます。）

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>オプションで 128、192、または 256 のキー サイズを指定できます。デフォルトのキーのサイズは 128 です。</li> </ul>
ステップ 4	<b>crypto ipsec profile</b> <i>ipsec-profile-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto ipsec profile profile1	IPsec プロファイル (2 つの IPsec ルータ間の IPsec 暗号化に使用されるパラメータ) を定義して、IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>set transform-set</b> <i>transform-set-name</i> <b>Example:</b> Device(ipsec-profile)# set transform-set transformset1	クリプト マップ エントリで使用可能なトランスフォーム セットを指定します。
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(ipsec-profile)# exit	IPsec プロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	<b>crypto gdoi group [ipv6]</b> <i>group-name</i> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gdoi group gdoigroupname	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>データプレーン内で IPv6 で GET VPN を使用する場合は、<b>ipv6</b> キーワードを使用する必要があります。</li> </ul>
ステップ 8	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>identity number</b> <i>number</i></li> <li><b>identity address ipv4</b> <i>address</i></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# identity number 3333 <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# identity address ipv4 209.165.200.225	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>identity number</b> <i>number</i> コマンドは IPv4 および IPv6 の構成に適用されます。</li> <li><b>identity address ipv4</b> <i>address</i> コマンドは、IPv4 構成のみに適用されます。</li> </ul>
ステップ 9	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI KS として指定し、GDOI ローカルサーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	<b>sa ipsec</b> <i>sequence-number</i> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# sa ipsec 1	GDOI グループに使用される IPsec SA ポリシー情報を指定し、GDOI SA IPsec コンフィギュレーション モードを開始する。

	Command or Action	Purpose
ステップ 11	<p><b>profile</b> <i>ipsec-profile-name</i></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(gdoi-sa-ipsec)# profile gdoi-p</pre>	GDOI グループ用の IPsec SA ポリシーを定義します。
ステップ 12	<p><b>match address</b> {<b>ipv4</b>   <b>ipv6</b>} {<i>access-list-number</i>   <i>access-list-name</i>}</p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(gdoi-sa-ipsec)# match address ipv4 102</pre>	<p>GDOI 登録の IP 拡張アクセスリスト (ACL) を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IPv4 グループに対しては <b>ipv4</b> キーワード、IPv6 グループに対しては <b>ipv6</b> キーワードを使用する必要があります。</li> <li>IPv6 構成には (番号付きではなく) 名前付きアクセスリストを使用する必要があります。</li> </ul> <p><b>Note</b> 必ずグループのすべての連携 KS の中で同一順序で同一エントリを持つ ACL を選択してください。そうでない場合、別の KS に登録する GM は、ポリシーのダウンロード後は正しく暗号化および復号化することができません。</p> <p><b>Note</b> IPv6 グループに IPv4 のポリシーを割り当てようとするると、アクセスリスト名が無効であるか、リストはすでに存在するが誤った種類であることを示すエラーメッセージが表示されます。</p> <pre>Access-list type conflicts with prior definition % ERROR: access-list-name is either an invalid name or the list already exists but is the wrong type.</pre>
ステップ 13	<p><b>end</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>Device(gdoi-sa-ipsec)# end</pre>	GDOI SA IPsec コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## GET VPN スイート B でのグループメンバーの設定

### スイート B の KEK の許容可能な暗号化アルゴリズムまたはハッシュアルゴリズムの設定

GM によって許可される KEK 用のスイート B 暗号化およびハッシュアルゴリズムを設定するには、次のステップを実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group [ipv6] group-name**
4. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number number**
  - **identity address ipv4 address**
5. **server address ipv4 address**
6. **client rekey encryption cipher [... [cipher]]**
7. **client rekey hash hash**
8. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group [ipv6] group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gdoi group gdoigroupone	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• データプレーン内で IPv6 で GET VPN を使用する場合、<b>ipv6</b> キーワードを使用する必要があります。</li> </ul>
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>identity number number</b></li> <li>• <b>identity address ipv4 address</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# identity number 3333 <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# identity address ipv4 10.2.2.2	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>server address ipv4</b> <i>address</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-gdoi-group)# server address ipv4 10.0.5.2</pre>	GDOI グループが到達しようとするサーバのアドレスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アドレスを無効にするには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>client rekey encryption</b> <i>cipher</i> [... [ <i>cipher</i> ]] <b>Example:</b> <pre>Device(config-gdoi-group)# client rekey encryption 3des-cbc aes 192 aes 256</pre>	KEK のクライアント受け入れ可能キー再生成暗号化を設定します。
ステップ 7	<b>client rekey hash</b> <i>hash</i> <b>Example:</b> <pre>Device(config-gdoi-group)# client rekey hash sha384</pre>	KEK のクライアント受け入れ可能ハッシュを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Suite B の場合は、<b>sha256</b>、<b>sha384</b>、または <b>sha512</b> のいずれかを指定する必要があります。</li> </ul>
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> <pre>Device(config-gdoi-group)# end</pre>	GDOI グループコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## スイート B の TEK の受け入れ可能トランスフォーム セットの設定

GM によって許可されるデータ暗号化または認証のために TEK が使用するトランスフォーム セットを設定するには、次のステップを実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ipsec transform-set** *transform-set-name* {**esp-gcm** | **esp-gmac**} [**128** | **192** | **256**]
4. **exit**
5. **crypto gdoi group** [**ipv6**] *group-name*
6. **client transform-sets** *transform-set-name1* [... [*transform-set-name6*]]
7. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
	Device> enable	
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b>  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ipsec transform-set</b> <i>transform-set-name</i> { <b>esp-gcm</b>   <b>esp-gmac</b> } [ <b>128</b>   <b>192</b>   <b>256</b> ] <b>Example:</b>  Device(config)# crypto ipsec transform-set g1 esp-gcm 192	トランスフォーム セット (セキュリティ プロトコル およびアルゴリズムの受け入れ可能な組み合わせ) を定義し、暗号化トランスフォーム コンフィギュレーション モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• スイート B では、ESP-GCM または ESP-GMAC を使用するトランスフォーム セットを指定する必要があります。</li> <li>• 別のコマンドラインにコマンドをもう一度入力して、複数のトランスフォーム セットを定義できます。</li> <li>• オプションで 128、192、または 256 のキー サイズを指定できます。デフォルトのキーのサイズは 128 です。</li> </ul>
ステップ 4	<b>exit</b> <b>Example:</b>  Device(cfg-crypto-trans)# exit	暗号化トランスフォーム コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>crypto gdoi group</b> [ <b>ipv6</b> ] <i>group-name</i> <b>Example:</b>  Device(config)# crypto gdoi group gdoigroupone	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• データプレーン内で IPv6 で GET VPN を使用する場合は、<b>ipv6</b> キーワードを使用する必要があります。</li> </ul>
ステップ 6	<b>client transform-sets</b> <i>transform-set-name1</i> [... [ <i>transform-set-name6</i> ]] <b>Example:</b>  Device(config-gdoi-group)# client transform-sets g1	データの暗号化および認証のために TEK によって使用される受け入れ可能トランスフォーム セット タグを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• トランスフォーム セット タグは 6 個まで指定できます。</li> </ul>
ステップ 7	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device(config-gdoi-group)# end	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

# スイート B での GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング

## キーサーバ上のスイート B での GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング

KS で実行されている設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **show crypto gdoi ks identifier [detail]**
2. **show crypto gdoi ks coop identifier [detail]**
3. **show crypto gdoi feature suite-b**
4. **show crypto gdoi ks policy**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

#### ステップ 1 **show crypto gdoi ks identifier [detail]**

##### Example:

```
Device# show crypto gdoi ks identifier detail

KS Sender ID (KSSID) Information for Group diffint:

  Transform Mode           : Counter (Suite B)
  reinitializing           : No
  SID Length (Group Size)  : 24 bits (medium)
  Current KSSID In-Use     : 0
  Last GMSID Used          : 1

  KSSID (or SIDS)Assigned  : 0-15
  KSSID (or SIDS)Used      : 0
  KSSID (or SIDS) Used (Old) : none
  Available KSSID (or SIDS): 1-15

REMAINING SIDS:
  KSSID to reinitialize at : 15
  GMSID to reinitialize at  : 6291456
  # of SIDS Remaining for Cur KSSID : 8388606
  # of SIDS Remaining until Re-init : 132120575
```

このコマンドは、スイート B の SID 管理の状態を表示します。Transform Mode フィールドは SID 管理およびスイート B のポリシーがグループ内で現在使用されているかどうかを確認するために非カウンタ（非スイート B）またはカウンタ（スイート B）のいずれかにできます。グループが現在再初期化（つまり、すべての GM が再登録を強制され、TEK IPsec SA がキー再生成されて使用済みの KSSID をリセットする）を行っている場合は、reinitializing フィールドに Yes が表示されます。SID Length (Group Size) フィールドは、グループで現在使用されているグループサイズを決定します。デフォルトは 24 ビット（中）です。

Current KSSID In-Use フィールドおよび Last GMSID Used フィールドは、次の登録 GM に分配される SID（または SIDS）に対応します。KSSID (or SIDS) Assigned フィールドは、連携 KS と同期した、ローカルに

設定されている KSSID に対応します。Available KSSID (or SIDS) フィールドは、最後の再初期化以降まだ使用されていない KSSID に対応します。新しい KSSID を使用するたびに KSSID (or SIDS) Used フィールドに追加され、再初期化時に、これらの使用された KSSID が KSSID (or SIDS) Used (Old) フィールドに移動されます。再初期化期間の終わりに、古い使用済みの KSSID がクリアされて再び Available KSSID プールに加えられます。

**Note** # of SIDs Remaining until Re-init フィールドの値が 0 に近づくと、GM が再登録を継続している場合はすぐに再初期化が発生します。再初期化によってトラフィックの中断やネットワークの問題が発生することはありませんが、すべての GM がの再登録が発生します。

## ステップ 2 show crypto gdoi ks coop identifier [detail]

### Example:

```
Device# show crypto gdoi ks coop identifier detail

COOP-KS Sender ID (SID) Information for Group diffint:

  Local KS Role: Primary   , Local KS Status: Alive
  Local Address           : 10.0.8.1
  Next SID Client Operation : NOTIFY
  reinitializing          : No
  KSSID Overlap           : No
  SID Length (Group Size) Cfg : 24 bits (medium)
  SID Length (Group Size) Used : 24 bits (medium)
  Current KSSID In-Use     : 0
  KSSID (or SIDS)Assigned  : 0-15
  KSSID (or SIDS)Used      : 0
  Old KSSID (or SIDS)Used  : none

  Peer KS Role: Secondary , Peer KS Status: Alive
  Peer Address           : 10.0.9.1
  Next SID Client Operation : NOTIFY
  reinitializing          : No
  KSSID Overlap           : No
  SID Length (Group Size) Cfg : 24 bits (medium)
  SID Length (Group Size) Used : 24 bits (medium)
  Current KSSID In-Use     : 16
  KSSID (or SIDS)Assigned  : 16-31
  KSSID (or SIDS)Used      : 16
  Old KSSID (or SIDS)Used  : none
```

このコマンドは、連携 KS 全体で同期化された SID のステータス情報を表示します。

KSSID Overlap フィールドに Yes が表示されると、KSSID の重複（ネットワークの分割時に発生することがあります）が解決するまで GM 登録がブロックされます。GM 登録を再開するには、1 つの連携 KS またはほかの KS から重複している KSSID を構成解除する必要があります。重複する KSSID が解決すると、再初期化が発生します。

グループサイズを変更すると（ほとんどの導入では推奨されません）、すべてのセカンダリ KS で最初に新しいグループサイズを設定する必要があります。次にプライマリ KS で、SID Length (Group Size) Cfg フィールドに、すべての連携 KS ピアの新しいグループサイズが表示されます。プライマリ KS で新しいグループサイズを設定したときのみ、すべての KS が新しいグループサイズの使用を開始し、SID Length (Group Size) Used フィールドを更新して新しいグループサイズを表示します。

**ステップ 3 show crypto gdoi feature suite-b****Example:**

```
Device# show crypto gdoi feature suite-b

Group Name: diffint
  Key Server ID      Version  Feature Supported
  10.0.8.1           1.0.4   Yes
  10.0.9.1           1.0.4   Yes

  Group Member ID    Version  Feature Supported
  10.0.3.1           1.0.4   Yes
  10.0.4.1           1.0.4   Yes
```

このコマンドは、KS および GM がスイート B 機能セット（つまり、AES-GCM、AES-GMAC、SHA-2、および HMAC-SHA2）を使用できるかどうかを表示します。Version フィールドが 1.0.4 またはそれ以上を表示し、Feature Supported フィールドが連携 KS グループ内のすべての KS、および登録されている GM について Yes を表示する必要があります。

**ステップ 4 show crypto gdoi ks policy****Example:**

```
Device# show crypto gdoi ks policy

Key Server Policy:
For group diffint (handle: 2147483650) server 10.0.8.1 (handle: 2147483650):

# of teks : 4  Seq num : 0
KEK POLICY (transport type : Unicast)
 spi : 0x80474E999FE8F60364B7F51809E28C84
 management alg : disabled  encrypt alg      : 3DES
 crypto iv length : 8      key size       : 24
 orig life(sec): 86400      remaining life(sec): 85586
 sig hash algorithm : enabled  sig key length  : 162
 sig size          : 128
 sig key name      : mykeys

TEK POLICY (encaps : ENCAPS_TUNNEL)
 spi : 0x9C666FA7
 access-list : gcm-acl
 Selector : permit ip host 10.0.1.1 host 239.0.1.1
 transform : esp-gcm
 alg key size : 20      sig key size : 0
 orig life(sec) : 900      remaining life(sec) : 87
 tek life(sec) : 900      elapsed time(sec) : 813
 override life (sec): 0      antireplay window size: 64

TEK POLICY (encaps : ENCAPS_TUNNEL)
 spi : 0x54E8D5D3
 access-list : gcm-acl
 Selector : permit ip host 10.0.100.2 host 238.0.1.1
 transform : esp-gcm
 alg key size : 20      sig key size : 0
 orig life(sec) : 900      remaining life(sec) : 87
 tek life(sec) : 900      elapsed time(sec) : 813
 override life (sec): 0      antireplay window size: 64
```

## GM 上のスイート B での GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング

```

TEK POLICY (encaps : ENCAPS_TUNNEL)
 spi                : 0xC8B4DE6D
 access-list       : gcm-acl
 Selector          : permit ip host 10.0.1.1 host 10.0.100.2
 transform         : esp-gcm
 alg key size      : 20          sig key size          : 0
 orig life(sec)    : 900        remaining life(sec)   : 87
 tek life(sec)     : 900        elapsed time(sec)    : 813
 override life (sec): 0        antireplay window size: 64

```

```

TEK POLICY (encaps : ENCAPS_TUNNEL)
 spi                : 0x1C908AF3
 access-list       : gcm-acl
 Selector          : permit ip host 10.0.100.2 host 10.0.1.1
 transform         : esp-gcm
 alg key size      : 20          sig key size          : 0
 orig life(sec)    : 900        remaining life(sec)   : 87
 tek life(sec)     : 900        elapsed time(sec)    : 813

```

このコマンドは、TEK および IPsec SA が ESP-GCM または ESP-GMAC の TEK ポリシーの access-list フィールド内の ACL から (Selector フィールドに表示される) ACE ごとに生成されているかどうかを表示します。またこのコマンドは、KEK ポリシーが署名ハッシュ アルゴリズムとして SHA-2/HMAC-SHA-2 を使用しているかどうかを表示します。

## GM 上のスイート B での GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング

GM で実行されている設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

### SUMMARY STEPS

1. **show crypto gdoi gm identifier [detail]**
2. **show crypto gdoi feature suite-b**
3. **show crypto gdoi**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

#### ステップ 1 show crypto gdoi gm identifier [detail]

##### Example:

```

Device# show crypto gdoi gm identifier detail

GM Sender ID (SID) Information for Group diffint:

Group Member: 10.65.9.2          vrf: None
Transform Mode                   : Counter (Suite B)

```

```

# of SIDs Last Requested      : 3

CURRENT SIDs:
  Shared Across Interfaces?   : Yes
  SID Length (Group Size)    : 24 bits (medium)
  # of SIDs Downloaded       : 3
  First SID Downloaded       : 0x08000007
  Last SID Downloaded        : 0x08000009

  CM Interface  B/W (Kbps)  MTU (B)  # Req # Rx  Installed SID Range
  =====
  Et2/0         10000       1500    1    3    0x08000007 - 0x08000009
  Et3/0         10000       1500    1    3    0x08000007 - 0x08000009
  Et4/0         10000       1500    1    3    0x08000007 - 0x08000009

NEXT SID REQUEST:
  TEK Lifetime           : 900 sec
  SID Length (Group Size) : 32 bits (LARGE)

```

このコマンドは、GM が GCM-AES または GMAC-AES を TEK IPsec SA ポリシーとして使用しているときに受信してインストールされた SID のステータスを表示します。Transform Mode フィールドでは、SID がダウンロードされ、インストールされているかどうか、およびスイート B のポリシーがグループで使用されているかどうかを確認するために、非カウンタ（非スイート B）またはカウンタ（スイート B）を表示できます。# of SIDs Last Requested フィールドは、主にこの登録されている（つまり、ローカルアドレスまたはクライアント登録インターフェイスを使用している）GM のために暗号マップが適用されるインターフェイスの数に依存します。SID は、ローカルアドレスを使用している場合は Shared Across Interfaces フィールドであり、各 CM の Installed SID Range フィールドも同じになります。このコマンドは、主に各 CM インターフェイスにインストールされている SID があることを確認するために使用します。

## ステップ 2 show crypto gdoi feature suite-b

### Example:

```
Device# show crypto gdoi feature Suite B
```

```

Version  Feature Supported
  1.0.4      Yes

```

このコマンドは、この GM がスイート B 機能セット（つまり、GCM-AES、GMAC-AES、SHA-2、および HMAC-SHA-2）を使用できるかどうかを表示します。Version フィールドが 1.0.4 またはそれ以上を表示し、Feature Supported フィールドが Yes を表示する必要があります。

## ステップ 3 show crypto gdoi

### Example:

```
Device# show crypto gdoi
```

```
GROUP INFORMATION
```

```

Group Name           : diffint
Group Identity       : 1234
Crypto Path          : ipv4
Key Management Path  : ipv4
Rekeys received     : 0

```

```

IPSec SA Direction      : Both

Group Server list      : 10.0.8.1

Group member           : 10.0.3.1          vrf: None
Version                : 1.0.4
Registration status    : Registered
Registered with        : 10.0.8.1
.
.
.
ACL Downloaded From KS 10.0.8.1:
access-list permit ip host 10.0.1.1 host 239.0.1.1
access-list permit ip host 10.0.100.2 host 238.0.1.1
access-list permit ip host 10.0.1.1 host 10.0.100.2
access-list permit ip host 10.0.100.2 host 10.0.1.1

KEK POLICY:
Rekey Transport Type   : Unicast
Lifetime (secs)       : 85740
Encrypt Algorithm      : 3DES
Key Size               : 192
Sig Hash Algorithm     : HMAC_AUTH_SHA256
Sig Key Length (bits) : 1024

TEK POLICY for the current KS-Policy ACEs Downloaded:
Ethernet3/0:
IPsec SA:
  spi: 0x318846DE(831014622)
  transform: esp-gcm
  sa timing:remaining key lifetime (sec): (86350)
  Anti-Replay(Counter Based) : 64

IPsec SA:
  spi: 0xF367AEA0(4083658400)
  transform: esp-gcm
  sa timing:remaining key lifetime (sec): (86350)
  Anti-Replay(Counter Based) : 64

IPsec SA:
  spi: 0xE583A3F5(3850609653)
  transform: esp-gcm
  sa timing:remaining key lifetime (sec): (86350)
  Anti-Replay(Counter Based) : 64

IPsec SA:
  spi: 0xE9AC04C(245022796)
  transform: esp-gcm
  sa timing:remaining key lifetime (sec): (86350)
  Anti-Replay(Counter Based) : 64

```

複数の IPsec SA のプレゼンスは、GCM または GMAC が設定されていることを示します（各 IPsec SA にはダウンロードした各 ACE の固有の SPI があることに注意してください）。TEK POLICY for the current KS-Policy ACEs Downloaded セクションの TEK POLICY に記載されている各 ACE に関して、このコマンドは、TEK ポリシーおよび IPsec SA が ACL Downloaded From KS に記載されている ACL からダウンロード（およびインストール）されているかどうかを表示します。またこのコマンドは、KEK ポリシーが署名ハッシュアルゴリズム（たとえば、HMAC\_AUTH\_SHA256）に SHA-2/HMAC-SHA-2 を使用しているかどうか也表示します。



## スイート B での GET VPN のサポートの設定例

### 例：GM がスイート B をサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

次の例は、各グループ内のすべてのデバイスがスイート B 暗号化をサポートしているかどうかを確認するために KS（またはプライマリ KS）で GET VPN ソフトウェアバージョン管理コマンドを使用する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature suite-b

Group Name: GETVPN
  Key Server ID      Version  Feature Supported
  10.0.5.2            1.0.4   Yes
  10.0.6.2            1.0.4   Yes
  10.0.7.2            1.0.3   No
  10.0.8.2            1.0.2   No

  Group Member ID    Version  Feature Supported
  10.0.1.2            1.0.2   No
  10.0.2.5            1.0.3   No
  10.0.3.1            1.0.4   Yes
  10.0.3.2            1.0.4   Yes
```

また、上記のコマンドは GM でも入力できます（その GM の情報を表示します。KS や他の GM には使用できません）。

次の例は、KS（プライマリ KS）でスイート B をサポートしていない GET VPN ネットワークのデバイスのみ検索するコマンドを入力する方法を示しています。

```
Device# show crypto gdoi feature suite-b | include No

  10.0.7.2            1.0.3   No
  10.0.8.2            1.0.2   No
  10.0.1.2            1.0.2   No
  10.0.2.5            1.0.3   No
```

### 例：GET VPN スイート B のキー サーバの設定

#### KEK の署名ハッシュ アルゴリズムの設定

次に、KEK の署名ハッシュ アルゴリズムを設定する方法の例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group mygroup
```

```
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# rekey sig-hash algorithm sha512
Device(gdoi-local-server)# end
```

### スイート B のグループ サイズの設定

メディアのデフォルトのグループサイズはほとんどの導入に十分であるため、スイート B のグループサイズの設定はオプションです。次の例は、スイート B にグループサイズを設定する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group mygroup
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# group size small 16
Device(gdoi-local-server)# end
```

### キー サーバ識別子の設定

次の例では、KS に KSSID および KSSID の範囲を割り当てる方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group mygroup
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# identifier
Device(gdoi-local-server-id)# range 10 - 20
Device(gdoi-local-server-id)# value 0
Device(gdoi-local-server-id)# end
```

### スイート B の IPsec SA の設定

次の例では、スイート B の IPsec SA を設定する方法を示します。この例では、アイデンティティアドレスではなくアイデンティティ番号を使用します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ipsec transform-set g1 esp-gcm 192
Device(config)# crypto ipsec profile profile1
Device(ipsec-profile)# set transform-set transformset1
Device(ipsec-profile)# exit
Device(config)# crypto gdoi group gdoigroupname
Device(config-gdoi-group)# identity number 3333
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# sa ipsec 1
Device(gdoi-sa-ipsec)# profile gdoi-p
Device(gdoi-sa-ipsec)# match address ipv4 102
Device(gdoi-sa-ipsec)# end
```

## 例：GET VPN スイート B のグループメンバーの設定

### スイート B の KEK の暗号化アルゴリズムまたはハッシュアルゴリズムの設定

次の例は、GM によって許可される KEK のスイート B 暗号化およびハッシュアルゴリズムの設定方法について説明します。この例では、アイデンティティアドレスを使用します（IPv4 データプレーン構成とのみ互換性）。代わりにアイデンティティ番号を使用できます（IPv4 および IPv6 データプレーン構成と互換性）。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group gdoigroupone
Device(config-gdoi-group)# identity address ipv4 10.2.2.2
Device(config-gdoi-group)# server address ipv4 10.0.5.2
Device(config-gdoi-group)# client rekey encryption 3des-cbc aes 192 aes 256
Device(config-gdoi-group)# client rekey hash sha384
Device(config-gdoi-group)# end
```

### スイート B の TEK の受け入れ可能トランスフォームセットの設定

次の例は、データ暗号化または認証のために TEK が使用する受け入れ可能トランスフォームセットを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto ipsec transform-set g1 esp-gcm 192
Device(cfg-crypto-trans)# exit
Device(config)# crypto gdoi group gdoigroupone
Device(config-gdoi-group)# client transform-sets g1
Device(config-gdoi-group)# end
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command References』
IKE および IKE ポリシーの設定作業 IPsec トランスフォームの設定作業	『Internet Key Exchange for IPsec VPNs Configuration Guide, Cisco IOS Release 15.2M&T』の「Configuring Internet Key Exchange for IPsec VPNs」モジュール

関連項目	マニュアル タイトル
エンタープライズ ネットワークの GET VPN の有効化のための基本的な導入ガイドライン	『Cisco IOS GET VPN Solutions Deployment Guide』

## 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
連邦情報処理標準 (FIPS) パブリケーション 140-2	『Security Requirements for Cryptographic Modules』
RFC 2401	『Security Architecture for the Internet Protocol』
RFC 4106	『The Use of Galois/Counter Mode (GCM) in IPsec Encapsulating Security Payload (ESP)』
RFC 4543	『The Use of Galois Message Authentication Code (GMAC) in IPsec ESP and AH』
RFC 4869	『Suite B Cryptographic Suites for IPsec』
RFC 6054	『Using Counter Modes with Encapsulating Security Payload (ESP) and Authentication Header (AH) to Protect Group Traffic』
RFC 6407	『The Group Domain of Interpretation』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## スイート B での GET VPN のサポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

**Table 306:** スイート B での GET VPN のサポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
スイート B での GET VPN のサポート		<p>スイート B での GET VPN のサポート機能では、Cisco Group Encrypted Transport (GET) VPN に対してスイート B の暗号方式セットのサポートが追加されます。スイート B は、Galois Counter Mode Advanced Encryption Standard (GCM-AES) を含む暗号化アルゴリズムとハッシュ、デジタル署名、キー交換用のアルゴリズムのセットです。IP Security (IPsec) VPN 用のスイート B は、RFC 4869 で使用法が定義されている標準です。スイート B は Cisco IPsec VPN に包括的なセキュリティ拡張機能を提供し、大規模な展開に対して追加のセキュリティを有効にします。スイート B は、リモートサイト間のワイドエリアネットワーク (WAN) に高度な暗号化セキュリティを必要とする組織に対して推奨されるソリューションです。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>client rekey hash, crypto key export ec, crypto key generate ec keysize, crypto key import ec, group size, identifier, rekey sig-hash algorithm, show crypto gdoi.</b></p>

機能名	リリース	機能情報
スイート B での GET VPN のサポート	Cisco IOS XE リリース 17.13.1a	<p>この機能拡張により、次のルータモデルで Suite B を使用した GET VPN サポートのサポートが導入されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーションサービスルータ <ul style="list-style-type: none"> <li>• ASR1009-X + ESP200-X)</li> </ul> </li> <li>• Cisco Catalyst 8000V Edge ソフトウェア</li> <li>• Cisco Catalyst 8200 シリーズ エッジプラットフォーム <ul style="list-style-type: none"> <li>• C8200-1N-4T</li> </ul> </li> <li>• Cisco Catalyst 8300 シリーズ エッジプラットフォーム <ul style="list-style-type: none"> <li>• C8300-2N2S-4T2X</li> <li>• C8300-1N1S-6T</li> </ul> </li> <li>• Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォーム <ul style="list-style-type: none"> <li>• C8500-12X</li> <li>• C8500-20X6C</li> </ul> </li> </ul>

機能名	リリース	機能情報
スイート B での GET VPN のサポート	Cisco IOS XE リリース 17.14.1a	<p>Cisco IOS XE 17.14.1a 以降、この機能拡張により、次のプラットフォームおよび対応するモデルで GET VPN を使用した Suite B 暗号のサポートが導入されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ : <ul style="list-style-type: none"> <li>• ESP100-X を搭載した ASR 1000</li> </ul> </li> <li>• Cisco Catalyst 8300 シリーズ エッジプラットフォーム : <ul style="list-style-type: none"> <li>• C8300-1N1S-4T2X</li> </ul> </li> <li>• Cisco Catalyst 8200 シリーズ エッジプラットフォーム : <ul style="list-style-type: none"> <li>• C8200L-1N-4T</li> </ul> </li> <li>• Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォーム : <ul style="list-style-type: none"> <li>• 8500-12X4QC</li> <li>• C8500L-8S4X</li> </ul> </li> <li>• Cisco 1000 シリーズ サービス統合型ルータ : <ul style="list-style-type: none"> <li>• C1131</li> <li>• C112X</li> <li>• C116X</li> <li>• C111X</li> </ul> </li> </ul>







## CHAPTER 226

# Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポート

Cisco TrustSec (CTS) アーキテクチャは、信頼できるネットワーク デバイスのドメインを確立することによってネットワークを保護します。ネットワーク デバイスがネットワークに認証されると、クラウド内のデバイス間のリンクを使用する通信は、暗号化、メッセージ整合性チェック、およびリプレイ保護メカニズムを組み合わせることで保護されます。

CTS は認証時に取得したユーザとデバイスの ID 情報を使用して、ネットワークに進入するパケットを分類します。CTS では、ネットワークへの進入時にセキュリティグループタグ (SGT) でパケットまたはフレームにタグを付けることで各パケットまたはフレームの分類が維持されます。これにより、パケットはデータパス全体を通じて識別され、セキュリティおよびその他のポリシー基準が適用されます。タグにより、スイッチやファイアウォールなどの中継ネットワークは分類に基づいてアクセス コントロール ポリシーを適用することができます。

Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポート機能では、GET VPN インライン タギングを使用してプライベート WAN 経由で SGT 情報を伝送します。

- [Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの前提条件, on page 3466](#)
- [Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの制約事項, on page 3466](#)
- [Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートに関する情報, on page 3466](#)
- [Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートの設定方法, on page 3468](#)
- [Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートの設定例, on page 3473](#)
- [Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートのその他の参考資料, on page 3476](#)
- [Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの機能情報, on page 3477](#)

## Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの前提条件

この機能を有効にするすべてのキー サーバ (KS) およびグループ メンバー (GM) で、GET VPN ソフトウェア バージョン 1.0.5 以降を実行している必要があります。この機能は、GET VPN ネットワーク内のすべてのデバイスをこの機能をサポートする GET VPN ソフトウェア バージョンにアップグレードしてから使用する必要があります。

この機能は、ネットワークのすべてのデバイスが Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートするバージョンを実行しているかどうかを確認するために KS (またはプライマリ KS) で使用するコマンドを提供します。詳細については「GM が Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートするソフトウェア バージョンを実行していることを確認する」セクションを参照してください。

## Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの制約事項

- この機能は、IPv6 トラフィックをサポートしません。
- この機能は、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ、または第 2 世代 シスコ サービス統合型ルータ (ISR G2) 用の Cisco VPN 内部サービス モジュールのトランスポート モードをサポートしません。

## Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートに関する情報

### セキュリティ グループ タギング機能のグループ メンバー登録

KS はグループ メンバー (GM) からセキュリティ アソシエーション (SA) 登録要求を受信するか、連携 KS から接続確立要求を受信すると、グループ SA が SGT インライン タギングを有効にしているかどうかを確認します。有効にしている場合、承認を得るためには、すべての GM と連携 KS が GET VPN ソフトウェア バージョン 1.0.5 以降を使用して登録する必要があります。そうでない場合、登録要求または確立要求は拒否され、KS はネットワーク管理者に通知する syslog メッセージを生成します。

## セキュリティ グループ タギングが有効な SA の作成

(`tag cts sgt` コマンドを使用して) グループ SA で IPsec インライン タギングの GET VPN サポートを有効にして、(`crypto gdoi ks rekey` コマンドを使用して) キー再生成をトリガーすると、KS は互換性のあるソフトウェアバージョンを使用しないグループ内の GM および連携 KS をチェックします。見つかると、警告メッセージが表示されます。

```
WARNING for group GETVPN: some devices cannot support SGT inline tagging. Rekey can cause
traffic disruption and GM registration failures. Please check 'show crypto gdoi feature
sgt'.
```

```
Are you sure you want to proceed ? [yes/no]:
```

## グループ メンバー データ プレーンのセキュリティ グループ タグの処理

出力トラフィックとは、GM の GDOI 保護インターフェイスから送信されるトラフィックです。次の表は、出力パスにおける GM の動作を示したものです。

**Table 307:** セキュリティ グループ タグの出力処理

セキュリティ グループ タギングが SA で有効	CTS が SGT を提供	GM データ プレーンの動作
対応	対応	SGT を Cisco メタデータに追加し、暗号化
対応	非対応	SGT なしで暗号化
非対応	対応	SGT なしで暗号化
非対応	非対応	SGT なしで暗号化

入力トラフィックとは、GM の GDOI 保護インターフェイスが受信するトラフィックです。次の表は、入力パスにおける GM の動作を示したものです。

**Table 308:** セキュリティ グループ タグの入力処理

セキュリティ グループ タギングが SA で有効	CTS が SGT を提供	GM データ プレーンの動作
対応	対応	CTS の SGT を復号して抽出
対応	非対応	SGT の処理なしで復号
非対応	対応	復号して SGT を無視
非対応	非対応	SGT の処理なしで復号

## セキュリティ グループ タギング使用時のパケットのオーバーヘッドとフラグメンテーション

各 GDOI パケットに SGT 情報を含む Cisco メタデータが追加されるため、SGT インライン タギングではパケットのオーバーヘッドが8バイト（または、時間ベースのアンチリプレイを有効にすると16バイト）増加します。

パケットが GDOI の暗号化の前に分割される場合、各フラグメントはそれに応じた SGT 情報とともにインライン タギングされます。パケットが GDOI 暗号化の後で分割される場合、最初のフラグメントのみが SGT 情報とともにインライン タギングされます。

2つの方法を使用してフラグメンテーションを処理できます。1つ目の方法は、Cisco メタデータを介した SGT 情報の伝達に使用される追加分のバイトを収容して暗号化を処理しているインターフェイスで `ip mtu` コマンドを使用することです。2つ目の方法は、GM の LAN インターフェイスで `ip tcp adjst-mss 1352` コマンドを使用することです。このコマンドにより、LAN セグメントの最終的な IP パケットは1392バイト未満となり、それによって SGT を伝送するための任意のオーバーヘッドと Cisco メタデータに対して108バイトが提供されます。

MTU の問題に関する設計の詳細については、『[Group Encrypted Transport VPN \(GETVPN\) Design and Implementation Guide](#)』の「Designing Around MTU Issues」のセクションを参照してください。

## Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートの設定方法

### GM が Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

Cisco TrustSec の IPsec インライン タギング機能は、GET VPN ネットワーク内のすべてのデバイスをこの機能をサポートする GET VPN ソフトウェアバージョンにアップグレードしてから使用する必要があります。

ネットワーク内のすべてのデバイスが Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートしていることを確認するには、KS（またはプライマリ KS）でこの作業を実行します。

#### SUMMARY STEPS

1. `enable`
2. `show crypto gdoi feature cts-sgt`
3. `show crypto gdoi feature cts-sgt | include No`

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b>  Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show crypto gdoi feature cts-sgt</b> <b>Example:</b>  Device# show crypto gdoi feature cts-sgt	GET VPN ネットワーク内の各 KS および GM で実行されている GET VPN ソフトウェアのバージョンを表示し、そのデバイスが Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートしているかどうかを表示します。
ステップ 3	<b>show crypto gdoi feature cts-sgt   include No</b> <b>Example:</b>  Device# show crypto gdoi feature cts-sgt   include No	(オプション) Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートしていないデバイスのみ表示します。

## Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの設定

Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングを設定するには、次のステップを実行します。

## SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group *group-name***
4. 次のいずれかのコマンドを入力します。
  - **identity number *number***
  - **identity address ipv4 *address***
5. **server local**
6. **sa ipsec *sequence-number***
7. **tag cts sgt**
8. **end**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gdoi group GET-SGT	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>identity number number</b></li> <li><b>identity address ipv4 address</b></li> </ul> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# identity number 3333 <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# identity address ipv4 10.2.2.2	GDOI グループ番号またはアドレスを指定します。
ステップ 5	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gdoi-group)# server local	デバイスを GDOI KS として指定し、GDOI ローカル サーバ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<b>sa ipsec sequence-number</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# sa ipsec 1	GDOI グループに使用される IPsec SA ポリシー情報を指定し、GDOI SA IPsec コンフィギュレーション モードを開始する。
ステップ 7	<b>tag cts sgt</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-sa-ipsec)# tag cts sgt	Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングを有効化します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	<b>end</b> <b>Example:</b> Device (gdoi-sa-ipsec) # <b>end</b>	GDOI SA IPsec コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

IPsec インライン タギングを有効にした後、キー再生成をトリガーする必要があります。詳細については「キー再生成のトリガー」セクションを参照してください。

## キー再生成のトリガー

KS（またはプライマリ KS）でセキュリティポリシーを変更し（たとえば、DES から AES）、グローバル コンフィギュレーション モードを終了すると、ポリシーが変更され、キー再生成が必要であることを示す syslog メッセージが KS に表示されます。実行コンフィギュレーションの最新のポリシーに基づくキー再生成を送信するために、次のようにキー再生成をトリガーするコマンドを入力します。

キー再生成をトリガーするには KS（プライマリ KS）でこの作業を実行します。

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **crypto gdoi ks [group group-name] rekey [replace-now]**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>crypto gdoi ks [group group-name] rekey [replace-now]</b> <b>Example:</b> Device# crypto gdoi ks group mygroup rekey	すべての GM のキー再生成をトリガーします。 オプションの <b>replace-now</b> キーワードは、各 GM の古い TEK および KEK を即時に置き換え、SA が期限切れになる前に新しいポリシーを有効にします。 <b>Note</b> <b>replace-now</b> キーワードを使用すると、一時的なトラフィックの不連続を引き起こすことがあります。

**例**

KS に次のようにメッセージが表示されます。

```
Device# crypto gdoi ks rekey
Device#
*Jan 28 09:17:44.363: %GDOI-5-KS_SEND_UNICAST_REKEY: Sending Unicast Rekey with
policy-replace for group GET from address 10.0.8.1 with seq # 2
```

ポリシーの変更後、各 GM がこのトリガーされたキー再生成を受信すると、新しい SA (たとえば、AES 用) をインストールして、古い SA (たとえば、DES 用) のライフタイムを短縮します。各 GM はこの短縮されたライフタイムが期限切れになるまで古い SA を使用してトラフィックの暗号化および復号化を続けます。

セカンダリ KS のキー再生成をトリガーしようとする、次のようにコマンドが拒否されます。

```
Device# crypto gdoi ks rekey
ERROR for group GET: This command must be executed on Pri-KS
```

## Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの確認とトラブルシューティング

GM で実行されている設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

SGT でタグ付けされたパケットの数を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
Device# show crypto ipsec sa detail

interface: Ethernet0/0
  Crypto map tag: GET, local addr 5.0.0.2
  protected vrf: (none)
  local ident (addr/mask/prot/port): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
  remote ident (addr/mask/prot/port): (0.0.0.0/0.0.0.0/0/0)
  Group: GET-SGT
  .
  .
  .
#pkts tagged (send): 0, #pkts untagged (rcv): 5
```

pkts tagged (send) フィールドは、アウトバウンド方向の SGT でタグ付けされたパケットを表示します。pkts untagged (rcv) フィールドは、インバウンド方向の SGT でタグ付けされていないパケットを表示します。



# Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポートの設定例

## 例 : GM が Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

次の例は、各グループ内のすべてのデバイスが Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートしているかどうかを確認するために KS (またはプライマリ KS) で GET VPN ソフトウェアバージョン管理コマンドを使用する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature cts-sgt

Group Name: GETVPN
  Key Server ID      Version  Feature Supported
  10.0.5.2            1.0.5   Yes
  10.0.6.2            1.0.5   Yes
  10.0.7.2            1.0.3   No
  10.0.8.2            1.0.2   No

  Group Member ID    Version  Feature Supported
  10.0.1.2            1.0.2   No
  10.0.2.5            1.0.3   No
  10.0.3.1            1.0.5   Yes
  10.0.3.2            1.0.5   Yes
```

また、上記のコマンドは GM でも入力できます (その GM の情報を表示します。KS や他の GM には使用できません)。

次の例は、KS (プライマリ KS) で Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングをサポートしていない GET VPN ネットワークのデバイスのみ検索するコマンドを入力する方法を示しています。

```
Device# show crypto gdoi feature cts-sgt | include No

  10.0.7.2            1.0.3   No
  10.0.8.2            1.0.2   No
  10.0.1.2            1.0.2   No
  10.0.2.5            1.0.3   No
```

## 例 : Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの設定

次に、単一の GDOI グループを提供する KS 用の IPsec SA の CTS SGT インライン タギングを設定する方法の例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
```

```

Device(config)# ip access-list extended ACL-SGT
Device(config-ext-nacl)# permit ip any any
Device(config-ext-nacl)# exit
Device(config)# crypto gdoi group GET-SGT
Device(config-gdoi-group)# identity number 1
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# sa ipsec 1
Device(gdoi-sa-ipsec)# tag cts sgt
Device(gdoi-sa-ipsec)# profile gdoi-p2
Device(gdoi-sa-ipsec)# match address ipv4 ACL-SGT
Device(gdoi-sa-ipsec)# replay time window-size 100
Device(gdoi-sa-ipsec)# end

```

次に、GET VPN バージョン 1.0.5 以降にアップグレードした GM を使用する（したがって CTS SGT インライン タギングをサポートしている）グループと、まだアップグレードしていない GM を使用するグループの、2つのグループを設定する方法の例を示します。アップグレード済みの GM は、グループ番号 1111（小さい暗号マップシーケンス番号）にグループ番号 2222（大きい暗号マップシーケンス番号）とともに登録します。アップグレードしていない GM はグループ番号 2222 にのみ登録します。

この例では、2つのサイト間のトラフィックに対して SGT タギングを設定します。**permit ip** コマンドは、2つのサイト間の通信を許可するアクセス制御リスト（ACL）にアクセス制御エントリ（ACE）を追加します。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip access-list extended ACL_NET_AB
Device(config-ext-nacl)# permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 10.2.0.0 0.0.255.255
Device(config-ext-nacl)# permit ip 10.2.0.0 0.0.255.255 10.1.0.0 0.0.255.255
Device(config-ext-nacl)# exit
Device(config)# ip access-list extended ACL_ALL
Device(config-ext-nacl)# permit ip any any
Device(config-ext-nacl)# exit
Device(config)# crypto gdoi group GET1
Device(config-gdoi-group)# identity number 1111
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# rekey authentication mypubkey rsa mykey
Device(gdoi-local-server)# rekey transport unicast
Device(gdoi-local-server)# sa ipsec 1
Device(gdoi-sa-ipsec)# tag cts sgt
Device(gdoi-sa-ipsec)# profile gdoi-p2
Device(gdoi-sa-ipsec)# match address ipv4 ACL_NET_AB
Device(gdoi-sa-ipsec)# replay time window-size 100
Device(gdoi-sa-ipsec)# exit
Device(gdoi-local-server)# exit
Device(config-gdoi-group)# exit
Device(config)# crypto gdoi group GET2
Device(config-gdoi-group)# crypto gdoi group GET2
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# rekey authentication mypubkey rsa mykey
Device(gdoi-local-server)# rekey transport unicast
Device(gdoi-local-server)# sa ipsec 1
Device(gdoi-sa-ipsec)# profile gdoi-p2
Device(gdoi-sa-ipsec)# match address ipv4 ACL_ALL
Device(gdoi-sa-ipsec)# replay time window-size 100
Device(gdoi-sa-ipsec)# end

```



**Note** GET VPN は、ACL あたり最大 100 の ACE をサポートします。

## 例：グループメンバーのキー再生成のトリガー

**GM** がキー再生成のトリガーをサポートするソフトウェアバージョンを実行していることを確認する

次の例は、GETVPN ネットワークのデバイスのソフトウェアのバージョンを表示し、またポリシー変更後のキー再生成のトリガーをサポートするかどうかを表示するために、**KS**（またはプライマリ **KS**）で **GET VPN** ソフトウェアバージョン管理コマンドを使用する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature policy-replace
```

Key Server ID	Version	Feature Supported
10.0.8.1	1.0.2	Yes
10.0.9.1	1.0.2	Yes
10.0.10.1	1.0.2	Yes
10.0.11.1	1.0.2	Yes
Group Member ID	Version	Feature Supported
5.0.0.2	1.0.2	Yes
9.0.0.2	1.0.1	No

次の例は、ポリシー交換後のキー再生成のトリガーをサポートしていないデバイスのみを検索する方法を示します。

```
Device# show crypto gdoi feature policy-replace | include No
```

9.0.0.2	1.0.1	No
---------	-------	----

これらのデバイスでは、プライマリ **KS** はポリシー交換に関する手順なしでトリガーされるキー再生成のみを送信します。したがって、**GM** がキー再生成を受信すると、新しい **SA** をインストールしますが、古い **SA** の有効期間は短縮しません。

### キー再生成のトリガー

次の例では、ポリシー変更の実行後にキー再生成をトリガーする方法を示します。この例では、**profile gdoi-p2** コマンドで IPsec ポリシーの変更（たとえば、DES から AES）が発生します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group GET
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# sa ipsec 1
Device(gdoi-sa-ipsec)# no profile gdoi-p
```

```

Device(gdoi-sa-ipsec)# profile gdoi-p2
Device(gdoi-sa-ipsec)# end
Device#

*Jan 28 09:15:15.527: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Jan 28 09:15:15.527: %GDOI-5-POLICY_CHANGE: GDOI group GET policy has changed. Use
'crypto gdoi ks rekey' to send a rekey, or the changes will be send in the next scheduled

rekey
Device# crypto gdoi ks rekey
Device#
*Jan 28 09:17:44.363: %GDOI-5-KS_SEND_UNICAST_REKEY: Sending Unicast Rekey with
policy-replace for group GET from address 10.0.8.1 with seq # 2

```

次の例では、セカンダリ KS のキー再生成をトリガーしようとする则表示されるエラーメッセージを示します。

```

Device# crypto gdoi ks rekey

ERROR for group GET: This command must be executed on Pri-KS

```



**Note** 時間ベースのアンチリプレイ (TBAR) が設定されると、キー サーバは 2 時間 (7200 秒) ごとに定期的にキー再生成をグループメンバーに送信します。次の例では、有効期間が 8 時間 (28800 秒) に設定されていますが、キー再生成タイマーは 2 時間に設定されています。

```

Device(config)# crypto ipsec profile atm-profile
Device(ipsec-profile)# set security-association lifetime seconds 28800
!
Device(ipsec-profile)# exit
Device(config)# crypto gdoi group ATM-DSL
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-sa-ipsec)# sa ipsec 1
!
Device(gdoi-sa-ipsec)# replay time window-size 100

```

**show crypto gdoi gm replay** コマンドおよび **show crypto gdoi ks replay** コマンドにより TBAR 情報が表示されます。

## Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートのその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command References』

関連項目	マニュアル タイトル
エンタープライズ ネットワークの GET VPN の有効化のための基本的な導入ガイドライン	『Cisco IOS GET VPN Solutions Deployment Guide』
Cisco TrustSec の設定	『Cisco TrustSec Configuration Guide, Cisco IOS Release 15M&T』
MTU の問題の迂回設計	『Group Encrypted Transport VPN (GETVPN) Design and Implementation Guide』

#### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 2401	『Security Architecture for the Internet Protocol』
RFC 6407	『The Group Domain of Interpretation』

#### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 309: Cisco TrustSec 用の IPsec インライン タギングの GET VPN のサポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポート		

機能名	リリース	機能情報
		<p>Cisco TrustSec (CTS) アーキテクチャは、信頼できるネットワーク デバイスのドメインを確立することによってネットワークを保護します。ネットワーク デバイスがネットワークに認証されると、クラウド内のデバイス間のリンクを使用する通信は、暗号化、メッセージ整合性チェック、およびリプレイ保護メカニズムを組み合わせることで保護されます。</p> <p>CTS は認証時に取得したユーザとデバイスの ID 情報を使用して、ネットワークに進入するパケットを分類します。CTS では、ネットワークへの進入時にセキュリティグループ タグ (SGT) でパケットまたはフレームにタグを付けることで各パケットまたはフレームの分類が維持されます。これにより、パケットはデータ パス全体を通じて識別され、セキュリティおよびその他のポリシー基準が適用されます。タグにより、スイッチやファイアウォールなどの中継ネットワークは分類に基づいてアクセスコントロールポリシーを適用することができます。</p> <p>Cisco TrustSec の IPsec インライン タギングの GET VPN サポート機能では、GET VPN インライン タギングを使用してプライベート WAN 経路で SGT 情報を伝送します。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。 <b>show crypto gdoi, show crypto ipsec sa, tag cts sgt.</b></p>







## 第 227 章

# GETVPN GDOI バイパス

GETVPNGDOIバイパス機能では、デフォルトのグループドメインオブインタープリテーション (GDOI) バイパス暗号化ポリシーの有効化と無効化をサポートします。また、有効にすると、デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの強化もサポートされます。

- [GETVPN GDOI バイパスの制約事項 \(3481 ページ\)](#)
- [GETVPN GDOI バイパスに関する情報 \(3481 ページ\)](#)
- [GETVPN GDOI バイパスの設定方法 \(3483 ページ\)](#)
- [GETVPN GDOI バイパスの設定例 \(3486 ページ\)](#)
- [GETVPN GDOI バイパスのその他の参考資料 \(3486 ページ\)](#)
- [GETVPN GDOI バイパスの機能情報 \(3487 ページ\)](#)

## GETVPN GDOI バイパスの制約事項

キーサーバ (KS) がグループメンバー (GM) の後ろに配置される場合は、ローカルの拒否アクセスコントロールリスト (ACL) を明示的に設定し、トランスポートプロトコルとして UDP を、送信元または宛先のいずれかとしてポート 848 を使用するトラフィック (UDP 848 トラフィック) が通過できるようにする必要があります。

## GETVPN GDOI バイパスに関する情報

### GDOI バイパス暗号化ポリシー

Cisco IOS の Group Encrypted Transport VPN (GETVPN) は、グループはキー管理プロトコルとしてグループドメインオブインタープリテーション (GDOI) を使用します。

グループメンバー (GM) は暗号化と復号を担当するデバイスです。つまり、GET VPN データプレーンを処理するデバイスです。

キーサーバ (KS) は、GETVPN コントロールプレーンを作成し、維持するデバイスです。トラフィック、暗号化プロトコル、セキュリティアソシエーション、キー再生成タイマーなどの

すべての暗号化ポリシーは KS で一元的に定義され、登録時にすべての GM にプッシュされます。

## デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効化と無効化

新しいグループメンバー (GM) 設定では、GM ローカルアクセスコントロールリスト (ACL) を明示的に設定することによって、ユーザはグループ ドメイン オブ インタープリテーション (GDOI) バイパス暗号化ポリシーを無効にし、トラフィックの例外を制御することができます。

## デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの強化

セキュリティを強化するため、デフォルトのグループ ドメイン オブ インタープリテーション (GDOI) バイパス暗号化ポリシーを適用する一方、次の変更が実施されています。

- デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーは、Group Encrypted Transport VPN (GETVPN) 保護インターフェイス (GDOI 暗号マップが適用されるインターフェイス) にのみインストールされます。登録またはキー再生成に使用するグループメンバー (GM) のアドレス宛ての UDP848 トラフィックのみが許可されます。
- GM VRF 認識型機能を使用して GDOI データプレーンとコントロールプレーンが異なる VRF にあることを指定する場合、デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの自動挿入は GDOI 保護インターフェイスに適用されません。
- UDP をトランスポートプロトコルとして、ポート 848 を送信元または宛先 (UDP 848 トラフィック) として使用するトラフィックが他の非 GDOI 保護インターフェイスに着信すると予想される場合は、非 GDOI 暗号マップの例外を明示的に設定する必要があります。
- 複数グループの暗号マップセットを設定する場合、インストールされる全体の GDOI バイパス暗号化ポリシーは、セキュリティアソシエーションデータベース (SADB) 内の各グループの GDOI バイパス暗号化ポリシーすべての統合です。

以下に説明する条件のいずれかにより、GETVPN 保護インターフェイスに適用されるデフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの再計算がトリガーされます。

- **no client bypass-policy** コマンドを使用して **client bypass-policy** 設定を削除。
- インターフェイスの GDOI バイパス暗号マップの適用または削除。
- 暗号マップセットの GDOI バイパス暗号マップの適用または削除。
- GDOI 保護インターフェイスの IP アドレスの変更 (**no client registration interface** が使用される場合)。
  - **client registration interface** が使用される場合、次の場合に GETVPN 保護インターフェイスに適用されるデフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの再計算がトリガーされます。
    - **no client registration interface** から **client registration interface** に変更

- クライアント登録インターフェイスに対する変更（たとえば、ループバック 0 からループバック 1）
- クライアント登録インターフェイス アドレスの変更

## GETVPN GDOI バイパスの設定方法

### デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効化

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group *group-name***
4. **client bypass-policy**
5. **end**

#### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group <i>group-name</i></b> 例： Device(config)# crypto gdoi group GETVPN	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>client bypass-policy</b> 例： Device(config-gdoi-group)# client bypass-policy	デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーを有効にします。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-gdoi-group)# end	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの無効化

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group *group-name***
4. **no client bypass-policy**
5. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group <i>group-name</i></b> 例： Device(config)# crypto gdoi group GETVPN	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>no client bypass-policy</b> 例： Device(config-gdoi-group)# no client bypass-policy	デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーを無効にします。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-gdoi-group)# end	GDOI グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効性と無効性の確認

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show crypto gdoi gm acl**
3. **show crypto gdoi gm acl**

## 手順の詳細

### 手順

---

#### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します（要求された場合）。

例：

```
Device> enable
```

#### ステップ 2 show crypto gdoi gm acl

デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効性を確認します。

(注) VRF は、非グローバルである場合にのみ表示されます。

例：

```
Device# show crypto gdoi gm acl

Group Name: GETVPN
ACL Downloaded From KS 10.0.0.2:
  access-list deny eigrp any any
  access-list permit ip any any
ACL Configured Locally:
ACL of default GDOI bypass policy:
  Ethernet1/0: deny udp host 10.0.0.9 eq 848 any eq 848 vrf RED*
```

#### ステップ 3 show crypto gdoi gm acl

デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの無効性を確認します。

例：

```
Device# show crypto gdoi gm acl

Group Name: GETVPN
ACL Downloaded From KS 10.0.0.2:
  access-list deny eigrp any any
  access-list permit ip any any
ACL Configured Locally:
ACL of default GDOI bypass policy: Disabled
```

---

## GETVPN GDOI バイパスの設定例

### 例：デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの有効化

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group getvpn
Device(config-gdoi-group)# client bypass-policy
Device(config-gdoi-group)# end
```

### 例：デフォルト GDOI バイパス暗号化ポリシーの無効化

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group getvpn
Device(config-gdoi-group)# no client bypass-policy
Device(config-gdoi-group)# end
```

## GETVPN GDOI バイパスのその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command References』
エンタープライズ ネットワークの GET VPN の有効化のための基本的な導入ガイドライン	『Cisco IOS GET VPN Solutions Deployment Guide』
GET VPN ネットワークの設計と実装	『Group Encrypted Transport VPN (GETVPN) Design and Implementation Guide』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 6407	『The Group Domain of Interpretation』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## GETVPN GDOI バイパスの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 310: GETVPN GDOI バイパスの機能情報

機能名	リリース	機能情報
GETVPN GDOI バイパス		次のコマンドが導入されました。 <b>client bypass-policy</b> および <b>show crypto gdoi gm acl</b> 。







## 第 228 章

### GETVPN G-IKEv2

Cisco Group Encrypted Transport VPN (GET VPN) には、シスコデバイス上で発生する、またはシスコデバイスを経由するエンタープライズプライベート WAN 上の IP マルチキャストトラフィックグループまたはユニキャストトラフィックの安全を守るために必要な一連の機能が含まれます。GETVPN G-IKEv2 機能は GETVPN にインターネットキーエクスチェンジバージョン 2 (IKEv2) プロトコルを実装するため、GETVPN は IKEv2 のメリットを享受できません。

- [GETVPN G-IKEv2 の制約事項 \(3489 ページ\)](#)
- [GETVPN G-IKEv2 に関する情報 \(3490 ページ\)](#)
- [GETVPN G-IKEv2 の設定方法 \(3497 ページ\)](#)
- [GETVPN G-IKEv2 のその他の参考資料 \(3502 ページ\)](#)
- [GETVPN G-IKEv2 の機能情報 \(3503 ページ\)](#)

### GETVPN G-IKEv2 の制約事項

- キーサーバ (KS) には Group Key Management (GKM) と Group Domain of Interpretation (GDOI) の両方を設定できますが、グループメンバー (GM) には GKM と GDOI のいずれかを設定できます。
- COOP 用の IKEv2 はサポートされていません。G-IKEv2 セットアップではキーサーバー間の COOP に IKEv1 を使用してください。
- EAP は現在、G-IKEv2 ではサポートされていません。
- GETVPN G-IKEv2 は IP-D3P をサポートしていません。G-IKEv2 を使用した IP-D3P は、引き続き GETVPN グループメンバー (GM) でサポートされています。

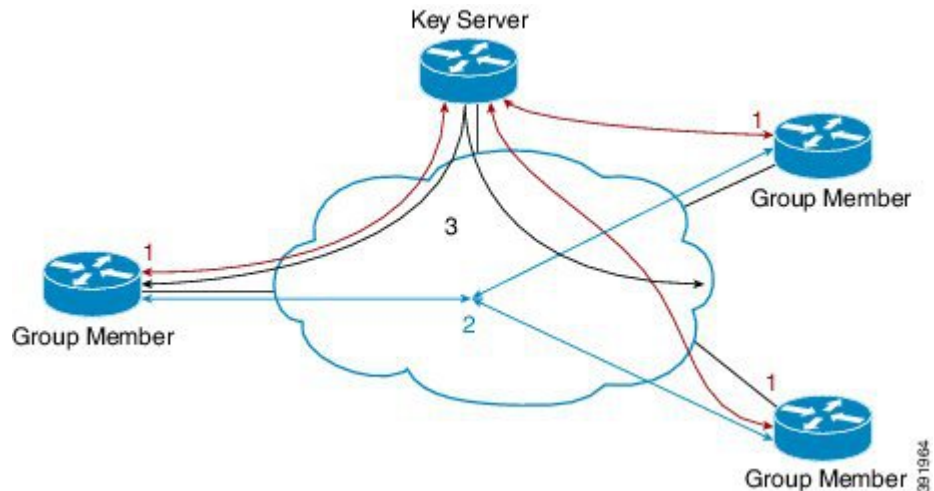
# GETVPN G-IKEv2 に関する情報

## GETVPN G-IKEv2 の概要

Cisco Group Encrypted Transport バーチャルプライベートネットワーク (GETVPN) アーキテクチャは、Group Domain of Interpretation (GDOI) プロトコルに基づいています。GETVPN では、Internet Security Exchange and Key Management Protocol (ISAKMP) を使用して、新しいグループメンバーの認証、暗号化ポリシーのダウンロード、およびグループメンバーへのトラフィック暗号キー (TEK) と Key Encryption Key (KEK) の配信を行います。ただし、インターネットキーエクスチェンジバージョン2 (IKEv2) は置き換えられます。IKEv2 は、ネットワーク遅延を軽減し、メッセージ交換の複雑さを軽減し、相互運用性と信頼性を向上させ、ハッシュ認証の暗号化の問題を修正します。GETVPN は IKEv2 プロトコルと IPsec を組み合わせ、GETVPN G-IKEv2 機能によって IP マルチキャストトラフィックまたはユニキャストトラフィックを保護する効果的な方法を提供します。この機能では、シスコのすべての VPN Technologies を利用して完全な IKEv2 ソリューションを提供します。

G-IKEv2 プロトコルは、グループメンバー (GM) に対し、キーサーバ (KS) からポリシーおよびキーをダウンロードするメカニズムを提供します。これらのポリシーおよびキーは、グループ内の GM 間の通信を保護するために使用されます。G-IKEv2 は、企業のプライベート WAN におけるリモートロケーション間のグループ通信を保護する新しいモデルです。次の図は、G-IKEv2 を使用して GM を KS に登録し、KS から GM にキーおよびポリシーをダウンロードする GETVPN の基本システムアーキテクチャを示しています。

図 129: G-IKEv2 プロトコルを使用する GETVPN アーキテクチャ



## インターネットキーエクスチェンジバージョン2 (IKEv2)

RFC 4306 に基づく次世代のキー管理プロトコルであるインターネットキーエクスチェンジバージョン2 (IKEv2) は、IKE プロトコルの機能拡張です。IKEv2 は、相互認証を実行して

SA を確立および管理するために使用します。IKEv2 の詳細については、『*FlexVPN and Internet Key Exchange Version 2 Configuration Guide*』を参照してください。

次の表では、IKE と IKEv2 間のトンネル パフォーマンスを比較します。

プロトコル	1 秒あたりのトンネル数	最大同時トンネル数
IKE	45	60
IKEv2	89	200

IKEv2 の利点は次のとおりです。

#### デッド ピア検出とネットワーク アドレス変換トラバーサル

インターネットキー エクスチェンジバージョン2 (IKEv2) にはデッドピア検出 (DPD) とネットワーク アドレス変換トラバーサル (NAT-T) のサポートが組み込まれています。

#### 証明書の URL

証明書はIKEv2 パケット内で送信されるのではなく URL とハッシュを通じて参照できるため、フラグメンテーションを回避できます。

#### DoS 攻撃の復元力

IKEv2 は、要求者を確認するまで要求を処理しません。これにより、偽の場所から大量の暗号化 (高コスト) 処理を実行するようにスプーフィングされる可能性がある IKEv1 でのサービス妨害 (DoS) の問題にある程度対処しています。

#### EAP のサポート

IKEv2 では認証に Extensible Authentication Protocol (EAP) を使用できます。

#### 複数の暗号エンジン

ネットワークに IPv4 と IPv6 の両方のトラフィックがあり、複数の暗号エンジンがある場合、次のいずれかの設定オプションを選択します。

- 1 つのエンジンで IPv4 トラフィックを処理し、他方のエンジンで IPv6 トラフィックを処理する。
- 1 つのエンジンで IPv4 と IPv6 の両方のトラフィックを処理する。

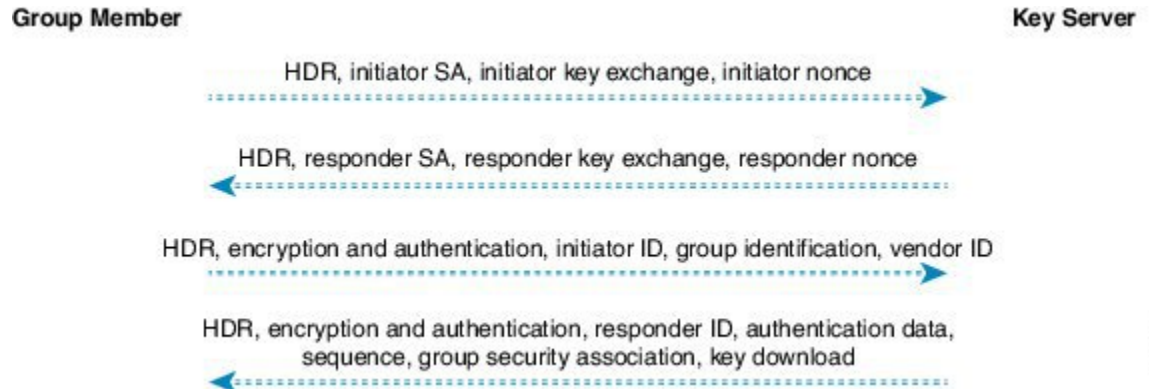
#### 信頼性と状態管理 (ウィンドウイング)

IKEv2 では、信頼性を提供するためにシーケンス番号と確認が使用され、エラー処理ロジックと共有状態管理が要求されます。

## GETVPN G-IKEv2 の交換

GM と KS 間のメッセージ交換は、IKEv2 の標準ドラフトを使用する Internet Engineering Task Force (IETF) のグループ キー管理に準拠しています。

図 130: G-IKEv2 メッセージ交換



1. グループメンバーは、優先される暗号化アルゴリズム (SAi ペイロード)、発信側のキー交換 (KE) フェーズ 1 ペイロードの Diffie-Hellman 公開番号、および発信側のナンス ペイロードの存在を保証するための乱数であるナンスを送信することによってキーサーバへの登録要求を開始します。
2. キーサーバはネゴシエート済みの暗号化アルゴリズム (応答側の SA フェーズ 1 ペイロード)、Diffie-Hellman 公開番号 (応答側の KE ペイロード)、ナンス (応答側のナンス ペイロード) を使用して応答します。オプションで、認証方式として Rivest、Shamir、Adleman (RSA) デジタル署名を使用するようにキーサーバが設定されている場合、キーサーバも証明書要求を送信します。
3. 登録要求に対するキーサーバの応答を受信すると、グループメンバーは SA<sub>r1</sub> ペイロードの暗号化アルゴリズムと Diffie-Hellman 値を使用してキーを作成し、キーサーバに送信されるメッセージを暗号化します。RSA デジタル署名が認証方式として使用される場合、暗号化されたメッセージには、発信側の ID と、オプションで証明書および証明書要求が含まれます。スイート B の実装の場合、Galois/Counter Mode (GCM) –Advanced Encryption Standard (AES) または Galois Message Authentication Code (GMAC) –Advanced Encryption Standard (AES) トランスフォームとともに使用される送信者 ID を要求するために通知ペイロードが送信されます。



(注) グループメンバーは、1日のライフタイムの間、インターフェイスに適用可能な一連の送信元 ID を要求します。登録 (長い SA ライフタイムの場合) またはキー再生成 (短い SA ライフタイムの場合) のメッセージでライフタイムを受け取ると、グループメンバーは将来の登録のため送信者 ID の数を計算するためにライフタイムを保存します。

4. グループマネージャの認証後、キーサーバはグループマネージャを登録する前にグループメンバーを承認します。登録後、キーサーバはグループマネージャにグループポリ

シー (GSA ペイロード) およびグループのキーイング マテリアル (KD ペイロード) を送信します。SEQ ペイロードはオプションであり、キーサーバでキー再生成メッセージの現在のシーケンス番号をグループ マネージャに通知する場合に送信されます。これらのペイロードは、GSA\_AUTH 応答メッセージに含まれます。

### グループ メンバーの通信

グループ メンバーは相互に IPsec トンネルを確立するのではなく、IPsec ポリシーおよびキーを使用してグループ内のグループ メンバー間の通信を保護します。

### 将来の登録

セキュアな登録チャンネルがグループ マネージャとキー サーバとの間に確立されると、そのほかのグループの追加のグループ メンバー登録は、確立されたセキュアな登録チャンネルを通じて行われます。そのようなシナリオでは、グループ メンバーはグループ ID (IDg) を含む GSA\_CLIENT\_SERVER 交換を使用して、キー サーバから Key Encryption Key (KEK) またはトラフィック暗号キー (TEK) のいずれかを要求します。

### キー サーバのキー再生成

キー サーバはユニキャストまたはマルチキャスト通信を介して G-IKEv2 グループ メンテナンス チャンネルを使用するグループ メンバーに新しいグループ キーを配布します。キー再生成は G-IKEv2 のオプションです。キー再生成を使用すると、KS はグループ メンバーにキー再生成メッセージを送信します。このメッセージはキーサーバの設定に応じてユニキャストまたはマルチキャストにできます。キーサーバでは、登録時にグループ メンバーに送信される KEK を使用してキー再生成メッセージを暗号化します。キー再生成メッセージを受信したら、グループ メンバーは、キー再生成メッセージの SEQ 番号が最後に受信した SEQ 番号より大きいことを確認する必要があります。グループ メンバーは、どちらが後でも、登録メッセージまたはキー再生成メッセージのいずれかから SEQ 番号を受け取っているはずです。GDOI (IKEv1) と G-IKEv2 の両方のグループとしてキー サーバグループが設定されている場合、マルチキャスト キー再生成のため、2つのキー再生成メッセージ (GDOI 用に1つと G-IKEv2 用に1つ) が送信されます。ユニキャスト キー再生成の場合、キー サーバはグループ メンバーのモードまたはタイプに応じて GDOI または G-IKEv2 のキー再生成のみを送信します。



(注) キー再生成がユニキャストの場合、グループ メンバーはキー サーバに確認応答を送信する必要があります。

## サポートされる機能と GKM のバージョン

GETVPN G-IKEv2 機能では、次のような既存の GETVPN 機能がサポートされています。

- キー再生成と再送信
- GM アクセス コントロール リスト (ACL)

- Fail-Close モード
- 受信専用モード
- アンチリプレイ
- グループ メンバー登録の認証ポリシー
- GDOI MIB
- VRF 認識型グループ メンバー
- グループ メンバーの削除とポリシー交換
- 連携キー サーバ
- GETVPN IPv6 データプレーン
- IPsec インライン タギングのサポート
- GETVPN の復元力のフェーズ 1 とフェーズ 2
- 連携通知メッセージの最適化

GETVPN G-IKEv2 機能は、GKM バージョン 1.0.12 以降のリリースでサポートされています。キーサーバでサポートされる GKM のバージョンは 1.0.13 で、グループメンバーでサポートされる GKM のバージョンは 1.0.12 です。キーサーバとグループメンバーのバージョンの違いは、GETVPN キーサーバでの IP D3P サポートと Cisco GETVPN キーサーバのインターネットドラフト ACK の機能が、1.0.13 以降のキーサーバでのみ使用できるためです。

## GDOI から G-IKEv2 への移行

長年にわたって、キーサーバとグループメンバーを G-IKEv2 にアップグレードして移行することを希望している場合があります。GETVPN グループ全体の GDOI から G-IKEv2 への移行には、慎重な計画が必要です。すべてのグループメンバーを同時に移行することはできません。移行では、GDOI グループメンバーと G-IKEv2 グループメンバーが、GDOI と G-IKEv2 の異なるコントロールプレーンプロトコルを使用する一方で、同じトラフィック暗号キー (TEK) を使用した通信を可能にする必要があります。GDOI から G-IKEv2 への移行の順番は次のとおりです。

- 後方互換性 : GETVPN G-IKEv2 機能を含む新しい Cisco IOS ソフトウェアイメージでは既存の GDOI 機能をサポートしている必要があり、Cisco IOS ソフトウェアの以前のリリースの GDOI 機能との互換性が必要です。
- サービスアップグレード : Cisco IOS ソフトウェアイメージを変更する推奨順序は、セカンダリ キーサーバ、プライマリ キーサーバ、およびグループメンバーです。
- サービスダウングレード : Cisco IOS ソフトウェアイメージを変更する推奨順序は、グループメンバー、セカンダリ キーサーバ、プライマリ キーサーバです。

### サービス アップグレード手順

1. 既存のキー サーバとグループ メンバーの GDOI 設定を保存します。詳細については、『*Managing Configuration Files Configuration Guide*』の「Configuration Replace and Configuration Rollback」機能モジュールを参照してください。
2. キー サーバの移行中のネットワーク分割およびマージを防ぐため、すべてのキー サーバで Key Encryption Key (KEK) とトラフィック暗号キー (TEK) のライフタイムを設定します。新しいライフタイムを設定するには、`crypto gdoi ks rekey` コマンドを使用します。
3. 新しい Cisco IOS ソフトウェア イメージにキー サーバをアップグレードします。上記の順序に従います。セカンダリ キー サーバから開始し、プライマリ キー サーバに続きます。キーワード `gdoi` を使用するすべての既存の設定がキーワード `gkm` に変換されます。たとえば、グローバル コンフィギュレーション コマンド `crypto gdoi group` は `crypto gkm group` コマンドに変換されます。ただし、再登録とキー再生成にはグループは引き続き GDOI を使用します。
4. キーサーバーで、GDOI および G-IKEv2 グループメンバーをサポートするグループに対してサーバーローカルコマンドの `gikev2` コマンドを実行します。
5. 新しい Cisco IOS ソフトウェア イメージにグループ メンバーをアップグレードします。キーワード「`gdoi`」を使用するすべての既存の設定がキーワード `gkm` に変換されます。たとえば、グローバル コンフィギュレーション コマンド `crypto gdoi group` と `crypto map gdoi` は、「`crypto gkm group`」と `crypto map gkm` にそれぞれ変換されます。これらのグループは再登録とキー再生成には GDOI を引き続き使用し、`client protocol gdoi` コマンドを含めます。
6. グループメンバーで G-IKEv2 を使用するには、`client protocol gikev2` コマンドを設定します。
7. GDOI グループメンバーへのサービスを停止するには、サーバーのローカルコマンドの `no gdoi` コマンドを設定します。

G-IKEv2 へのアップグレード後に GDOI を使用するグループメンバーに対して、グループメンバーグループ設定の `client protocol gdoi` コマンドを設定します。グループ メンバーは G-IKEv2 の代わりに GDOI を使用してキー サーバに再度登録します。



- 
- (注) グループ メンバーを変換する前に、グループ メンバーの登録先のキー サーバが GDOI ローカル サーバ コンフィギュレーション モードの `gdoi` コマンドで設定されていることを確認します。
- 

### サービス ダウングレード手順

以前に保存 (アップグレード手順の前に保存) した GDOI 設定を使用し、各グループメンバーの Cisco IOS ソフトウェアをダウングレードします。次に、キー サーバをダウングレードします。セカンダリ キー サーバから開始し、プライマリ キー サーバに続きます。詳細について

は、『*Managing Configuration Files Configuration Guide*』の「Configuration Replace and Configuration Rollback」機能モジュールを参照してください。

### 移行例

このセクションでは、GDOI から G-IKEv2 への移行の例を示します。次に、G-IKEv2 Cisco IOS ソフトウェア イメージにアップグレードした後に GDOI グループ g1 を GKM グループに変換する例を示します。Cisco IOS ソフトウェアのアップグレードの前のキーサーバ設定の例を次に示します。

```
crypto gdoi group g1
  identity 1111
  server local
  .
  .
  .
  sa ipsec 1
    profile getvpn_profile
    match address getvpn_acl
  .
  .
  .
  redundancy
  .
  .
  .
```

Cisco IOS ソフトウェアのアップグレードの後のキーサーバ設定の例を次に示します。この例では、コマンド **gdoi**、**no gikev2**、および **gikev2** が自動的に追加されます。**gikev2** コマンドは G-IKEv2 登録の受け入れを開始します。

```
crypto gkm group g1
  identity 1111
  server local
  gdoi
  no gikev2
  gikev2 ikev2_profile1
  .
  .
  .
  sa ipsec 1
    profile getvpn_profile
    match address getvpn_acl
  .
  .
  .
  redundancy
  .
  .
  .
```

Cisco IOS ソフトウェアのアップグレードの前のグループメンバー設定の例を次に示します。

```
crypto gdoi group g1
  identity 1111
  server address ipv4 ks1
  server address ipv4 ks2

crypto map GETVPN_CM 10 gdoi
```



```
set group g1

interface g0/0/0
  crypto map GETVPN_CM
```

Cisco IOS ソフトウェアのアップグレードの後のグループメンバー設定の例を次に示します。この例では、コマンド **client protocol gdoi** および **client protocol gikev2** が自動的に追加されます。**client protocol gikev2** コマンドは G-IKEv2 の使用を開始します。

```
crypto gkm group g1
  identity 1111
  server address ipv4 ks1
  server address ipv4 ks2
  client protocol gdoi
  client protocol gikev2 ikev2_profile1 ] - Configure this to start using G-IKEv2

crypto map GETVPN_CM 10 gdoi
  set group g1

interface g0/0/0
  crypto map GETVPN_CM
```

## GETVPN G-IKEv2 の設定

すべての GETVPN コマンド (EXEC およびグローバル コンフィギュレーション コマンド) にはキーワード **gdoi** が含まれます。G-IKEv2 にはドメイン オブ インタープリテーションが含まれていないため、登録およびキー再生成に GDOI と G-IKEv2 のいずれかのプロトコルを使用できるグループではグループキー管理を指す全般的な短縮形 **gkm** が使用されます。現時点では、**crypto gdoi** コマンドと **crypto gkm** コマンドの両方を使用できます。ただし、**GDOI** キーワードは廃止されるため、今後は **gkm** キーワードに置き換わります。たとえば、キーサーバーグループを設定する場合、GDOI コマンドは **crypto gdoi group group-name** ですが、GKM コマンドは **crypto gkm group group-name** になります。

## GETVPN G-IKEv2 の設定方法

### IKEv2 プロファイルの設定

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto ikev2 profile profile-name**
4. **authentication {local {rsa-sig | pre-share [key {0 | 6} password]} | ecdsa-sig | eap [gtc | md5 | ms-chapv2] [ username username] [password {0 | 6} password]} | remote {eap [query-identity | timeout seconds] | rsa-sig | pre-share [key {0 | 6} password]} | ecdsa-sig}**
5. **identity local {address {ipv4-address | ipv6-address} | dn | email email-string | fqdn fqdn-string | key-id opaque-string}**

6. **keyring** {**local** *keyring-name* | **aaa** *list-name* [**name-mangler** *mangler-name* | **password** *password* ] }
7. **match** {**address** **local** {*ipv4-address* | *ipv6-address* | **interface** *name*} | **certificate** *certificate-map* | **fvr** {*fvr-name* | **any**} | **identity** **remote** **address** {*ipv4-address* [*mask*] | *ipv6-address* *prefix*} | {**email** [*domain string*] | **fqdn** [*domain string*]} *string* | **key-id** *opaque-string* }
8. **pki** **trustpoint** *trustpoint-label* [**sign** | **verify**]
9. **end**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto ikev2 profile</b> <i>profile-name</i> 例： Device(config)# crypto ikev2 profile gkm-gikev2	IKEv2 プロファイルを定義し、IKEv2 プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>authentication</b> { <b>local</b> { <b>rsa-sig</b>   <b>pre-share</b> [ <b>key</b> { <b>0</b>   <b>6</b> } <i>password</i> ]}   <b>ecdsa-sig</b>   <b>eap</b> [ <b>gtc</b>   <b>md5</b>   <b>ms-chapv2</b> ] [ <b>username</b> <i>username</i> ] [ <b>password</b> { <b>0</b>   <b>6</b> } <i>password</i> ]} }   <b>remote</b> { <b>eap</b> [ <b>query-identity</b>   <b>timeout</b> <i>seconds</i> ]   <b>rsa-sig</b>   <b>pre-share</b> [ <b>key</b> { <b>0</b>   <b>6</b> } <i>password</i> ]}   <b>ecdsa-sig</b> } 例： Device(config-ikev2-profile)# authentication local ecdsa-sig	ローカルまたはリモートの認証方式を指定します。  • <b>rsa-sig</b> : 認証方式として RSA-sig を指定します。  • <b>pre-share</b> : 認証方式として事前共有キーを指定します。  • <b>ecdsa-sig</b> : 認証方式として ECDSA-sig を指定します。  • <b>eap</b> : リモート認証方式として EAP を指定します。  • <b>query-identity</b> : ピアに EAP ID を問い合わせます。  • <b>timeout seconds</b> : 最初の IKE_AUTH 応答を返してから次の IKE_AUTH 要求を受け取るまでの期間を秒単位で指定します。  (注) ローカル認証方式は 1 つしか指定できませんが、リモート認証方式は複数指定できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<p><b>identity local</b> {<b>address</b> {<i>ipv4-address</i>   <i>ipv6-address</i>}   <b>dn</b>   <b>email</b> <i>email-string</i>   <b>fqdn</b> <i>fqdn-string</i>   <b>key-id</b> <i>opaque-string</i>}</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# identity local email abc@example.com</pre>	<p>この手順は任意です。(任意) ローカル IKEv2 アイデンティティタイプを指定します。</p> <p>(注) ローカル認証方式が事前共有キーの場合は、デフォルトのローカル ID が IP アドレスになります。ローカル認証方式が Rivest、Shamir、および Adleman (RSA) 署名の場合は、デフォルトのローカル ID が識別名になります。</p>
ステップ 6	<p><b>keyring</b> {<b>local</b> <i>keyring-name</i>   <b>aaa</b> <i>list-name</i> [<b>name-mangler</b> <i>mangler-name</i>   <b>password</b> <i>password</i>] }</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# keyring aaa keyring1 name-mangler mangler1</pre>	<p>ローカルまたはリモートの事前共有キー認証方式で使用する必要があるローカルまたは AAA ベースのキーリングを指定します。</p> <p>(注) 1つのキーリングしか指定することができません。ローカル AAA は AAA ベースの事前共有キーに対してサポートされません。</p> <p>(注) リリースによっては、<b>local</b> キーワードと <b>name-mangler</b> <i>mangler-name</i> キーワード引数ペアを使用する必要があります。</p> <p>(注) AAA を使用する場合、Radius アクセス要求のデフォルトパスワードは「cisco」です。パスワードを変更するには、<b>keyring</b> コマンド内で <b>password</b> キーワードを使用します。</p>
ステップ 7	<p><b>match</b> {<b>address local</b> {<i>ipv4-address</i>   <i>ipv6-address</i>   <b>interface</b> <i>name</i>}   <b>certificate</b> <i>certificate-map</i>   <b>fvr</b> {<i>fvr-name</i>   <b>any</b>}   <b>identity remote address</b> {<i>ipv4-address</i> [<i>mask</i>]   <i>ipv6-address prefix</i>}   {<b>email</b> [<i>domain string</i>]   <b>fqdn</b> [<i>domain string</i>] } <i>string</i>   <b>key-id</b> <i>opaque-string</i>}</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# match address local interface Ethernet 2/0</pre>	<p><b>match</b> ステートメントを使用して、ピア用の IKEv2 プロファイルを選択します。</p>
ステップ 8	<p><b>pki trustpoint</b> <i>trustpoint-label</i> [<b>sign</b>   <b>verify</b>]</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-ikev2-profile)# pki trustpoint tsp1 sign</pre>	<p>RSA 署名認証方式で使用する Public Key Infrastructure (PKI) トラストポイントを指定します。</p> <p>(注) <b>sign</b> または <b>verify</b> キーワードが指定されていない場合、トラストポイントは署名と検証に使用されます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) IKEv1 とは対照的に、証明書ベースの認証を成功させるためにトラストポイントを IKEv2 プロファイル内で設定する必要があります。このコマンドが設定内に存在しない場合は、グローバルに設定されたトラストポイントのフォールバックが存在しません。トラストポイント設定は IKEv2 イニシエータおよびレスポンスに適用されます。
ステップ 9	<b>end</b> 例： Device(config-ikev2-profile)# end	IKEv2 プロファイルコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## キーサーバーでの GKM ポリシーの設定

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gkm group [ipv6] group-name**
4. **server local**
5. **gikev2 IKEv2-profile-name**
6. **end**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gkm group [ipv6] group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gkm group gkm-grp1	GKM ポリシーを設定し、GKM グループ コンフィギュレーションモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gkm-group)# server local	デバイスを GKM キーサーバーとして指定し、GKM ローカル サーバー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>gikev2 IKEv2-profile-name</b> <b>Example:</b> Device(gkm-local-server)# gikev2 gkm-gikev2	キーサーバーでの登録およびキー再生成のために G-IKEv2 プロファイルを有効にします。
ステップ 6	<b>end</b> <b>Example:</b> Device(gkm-local-server)# end	GKM ローカル サーバー コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## グループメンバーでの GKM ポリシーの設定

### SUMMARY STEPS

1. enable
2. configure terminal
3. crypto gkm group [ipv6] group-name
4. client protocol gikev2 gkm-gikev2
5. end

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gkm group [ipv6] group-name</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gkm group gkm-grp2	GKM ポリシーを設定し、GKM グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>client protocol gikev2 gkm-gikev2</b> <b>Example:</b> Device(config-gkm-group)# client protocol gikev2 gkm-gikev2	グループメンバーでの登録およびキー再生成のために G-IKEv2 プロファイルを有効にします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<b>end</b> <b>Example:</b>  Device (config-gkm-group) # end	GKM グループ コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## GETVPN G-IKEv2 のその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands D to L』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 4306	<i>Internet Key Exchange (IKEv2) Protocol</i>
IKEv2 を使用したグループ キー管理	『draft-yeung-g-ikev2-07』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## GETVPN G-IKEv2 の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 311 : GETVPN G-IKEv2 の機能情報

機能名	リリース	機能情報
GETVPN G-IKEv2		次のコマンドが導入または変更されました。 <b>client protocol</b> 、 <b>crypto gkm group</b> 、 <b>gikev2</b> 、 <b>show crypto gkm</b>







## 第 229 章

# 8K GM スケールの改善

8K GM スケールの改善機能では、グループメンバー（GM）の数を 8000 まで増やすことにより、Cooperative Protocol（COOP）通知メッセージの最適化をサポートします。

- [8K GM スケールの改善の前提条件（3505 ページ）](#)
- [8K GM スケールの改善に関する情報（3505 ページ）](#)
- [8K GM スケールの改善の設定方法（3506 ページ）](#)
- [8K GM スケールの改善の設定例（3507 ページ）](#)
- [GETVPN での IPSEC 暗号化および復号（3508 ページ）](#)
- [8K GM スケールの改善のその他の参考資料（3509 ページ）](#)
- [機能情報（3510 ページ）](#)

## 8K GM スケールの改善の前提条件

特定のプロトコルバージョンをアップグレードまたはダウングレードするには、グループメンバー（GM）間で中断のない通信を確保するため、同じポリシー、キー、および GM データベースを維持します。

## 8K GM スケールの改善に関する情報

### 8K GM スケールの改善

Cooperative Protocol Announcement（COOP ANN）メッセージには複数のクライアントがあり、各クライアントはプロトコルバージョンに関連付けられます。COOP ANN メッセージは、最大 8000 のグループメンバー（GM）を保留にし、続いて GM ヘッダーのプロトコルバージョンが上がるように最適化されています。

この機能はまた、GM ヘッダープロトコルバージョンのアップグレードとダウングレードもサポートします。

# 8K GM スケールの改善の設定方法

## グループメンバーヘッダーのプロトコルバージョンのアップグレードとダウングレード

### 始める前に

- すべてのキーサーバ (KS) が、ネットワークを 4000 GM 以上に拡張する前に「最適化」プロトコルバージョンにアップグレードされることを確認します。
- すべてのアップグレードされた KS が、最大で 4000 GM をサポートするネットワークに縮小する前に「基本」プロトコルバージョンにダウングレードされる必要があることを確認します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gdoi group *group-name***
4. **server local**
5. **redundancy**
6. **protocol version {base | optimize}**
7. **end**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gdoi group <i>group-name</i></b> 例： Device(config)# crypto gdoi group GETVPN	GDOI グループを指定し、GDOI グループ コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>server local</b> 例： Device(config-gdoi-group)# server local	ローカルに定義されているグループ サーバを特定し、GDOI のローカル サーバのコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>redundancy</b> 例： Device(gdoi-local-server)# redundancy	GDOICOOPKS コンフィギュレーション モードを開始します。  (注) ローカルサーバの送信元アドレスが定義されていることを確認します。
ステップ 6	<b>protocol version {base   optimize}</b> 例： Device(gdoi-coop-ks-config)# protocol version optimize	GM ヘッダーのプロトコルバージョンをアップグレードまたはダウングレードします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>base</b> : 4000 GM までの COOP ANN メッセージをサポートします。</li> <li>• <b>optimize</b> : 8000 GM までの COOP ANN メッセージをサポートします。</li> </ul>
ステップ 7	<b>end</b> 例： Device(gdoi-coop-ks-config)# end	COOPKS コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

## 8K GM スケールの改善の設定例

例：グループメンバーヘッダーのプロトコルバージョンのアップグレード

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gdoi group getvpn
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# redundancy
Device(gdoi-coop-ks-config)# protocol version optimize
Device(gdoi-coop-ks-config)# end
```

例：グループメンバーヘッダーのプロトコルバージョンのダウングレード

```
Device> enable
Device# configure terminal
```

```

Device(config)# crypto gdoi group getvpn
Device(config-gdoi-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# redundancy
Device(gdoi-coop-ks-config)# protocol version base
Device(gdoi-coop-ks-config)# end

```

## GETVPN での IPSEC 暗号化および復号

GETVPN IPsec フローでは、予期される IPsec フローレコーダで着信トラフィックが復号されない場合があります。復号されたトラフィックは、任意の IPsec SA に記録できます（使用可能な場合）。復号は、ランダムな IPsec フローレコーダで行われる可能性があります。次に、例を示します。

```

Device# ping vrf cust1 48.1.1.1 so 38.1.1.1
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 48.1.1.1, timeout is 2 seconds:
Packet sent with a source address of 38.1.1.1
!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 1/1/1 ms

Device# show crypto session ivrf cust1 detail | sec permit ip 38.0.0.0
IPSEC FLOW: permit ip 38.0.0.0/255.0.0.0 48.0.0.0/255.0.0.0
Active SAs: 2, origin: crypto map
Inbound: #pkts dec'ed 0 drop 0 life (KB/Sec) KB Vol Rekey Disabled/1 hours, 16
mins
Outbound: #pkts enc'ed 5 drop 0 life (KB/Sec) KB Vol Rekey Disabled/1 hours, 16
mins

Device# show crypto session ivrf cust1 detail | sec permit ip 48.0.0.0
IPSEC FLOW: permit ip 48.0.0.0/255.0.0.0 38.0.0.0/255.0.0.0
Active SAs: 2, origin: crypto map
Inbound: #pkts dec'ed 0 drop 0 life (KB/Sec) KB Vol Rekey Disabled/1 hours, 16
mins
Outbound: #pkts enc'ed 0 drop 0 life (KB/Sec) KB Vol Rekey Disabled/1 hours, 16
mins

Device# show crypto session ivrf cust1 detail | sec permit ip 45.0.0.0
IPSEC FLOW: permit ip 45.0.0.0/255.0.0.0 35.0.0.0/255.0.0.0
Active SAs: 2, origin: crypto map
Inbound: #pkts dec'ed 5 drop 0 life (KB/Sec) KB Vol Rekey Disabled/1 hours, 15
mins
Outbound: #pkts enc'ed 0 drop 0 life (KB/Sec) KB Vol Rekey Disabled/1 hours, 15
mins

```

上記の例では、フロー着信トラフィックは、予期される IPsec フローで復号されません。

この問題を解決し、暗号化されたパケットと復号されたパケットの数を表示するには、次の **show** コマンドを使用します。次に、**show** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show crypto gdoi group v6-cust-gdoi1 gm dataplane counters

Data-plane statistics for group v6-cust-gdoi1:
#pkts encrypt      : 1912  #pkts decrypt      : 1914
#pkts tagged (send) : 1841  #pkts untagged (rcv) : 1834
#pkts no sa (send)  : 0      #pkts invalid sa (rcv) : 0
#pkts encaps fail (send) : 0      #pkts decap fail (rcv) : 0
#pkts invalid prot (rcv) : 0      #pkts verify fail (rcv) : 0
#pkts not tagged (send) : 0      #pkts not untagged (rcv) : 0
#pkts internal err (send) : 0      #pkts internal err (rcv) : 0

```

## 8K GM スケールの改善のその他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS セキュリティ コマンド	『Cisco IOS Security Command References』
エンタープライズ ネットワークの GET VPN の有効化のための基本的な導入ガイドライン	『Cisco IOS GET VPN Solutions Deployment Guide』
GET VPN ネットワークの設計と実装	『Group Encrypted Transport VPN (GETVPN) Design and Implementation Guide』

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 6407	『The Group Domain of Interpretation』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## 機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 312: 機能情報

機能名	リリース	機能情報
8K GM スケールの改善		8K GM スケールの改善機能では、グループメンバー (GM) の数を 8000 まで増やすことにより、Cooperative Protocol (COOP) 通知メッセージの最適化をサポートします。 <b>protocol</b> コマンドが変更されました。



## CHAPTER 230

# GET VPN 相互運用性

GETVPN キーサーバーでの D3P サポートの機能、アクティブ化時間遅延の機能、および Cisco GETVPN キーサーバーの GDOI 相互運用 ACK の機能により、キーサーバーとグループメンバーの間の相互運用性が強化されます。

- [GET VPN 相互運用性の前提条件, on page 3511](#)
- [GET VPN 相互運用性に関する制約事項, on page 3511](#)
- [GET VPN 相互運用性に関する情報, on page 3512](#)
- [GET VPN 相互運用性の設定方法, on page 3517](#)
- [GET VPN 相互運用性の設定例, on page 3524](#)
- [GET VPN の相互運用性に関する追加情報, on page 3525](#)
- [GET VPN 相互運用性の機能情報, on page 3526](#)

## GET VPN 相互運用性の前提条件

- グループの機能を有効にするには、グループ内のすべてのデバイスで互換性のあるバージョンの Cisco IOS ソフトウェアおよび Group Domain of Interpretation (GDOI) が実行されている必要があります。
- Cisco GETVPN キーサーバーのインターネットドラフト ACK とアクティブ化時間遅延の機能を設定する前に、GDOI グループでユニキャストキー再生成機能を有効にします。

## GET VPN 相互運用性に関する制約事項

- GETVPN キーサーバー機能での IP-D3P サポートは、GETVPN の復元力 (GM のエラー検出および Cisco TrustSec 用の IPsec インラインタギングの GET VPN サポートの機能) と共存できません。後者の機能は、GET VPN キーサーバーで IP-D3P サポートを有効にする前に無効にする必要があります。また、GETVPN キーサーバーで GETVPN の復元力のサポートを有効にする前に IP-D3P を無効にする必要があります。
- アクティブ化時間遅延機能は、IPsec セキュリティ アソシエーションでのみサポートされます。複数の IPsec SA を設定しないでください。

- Cisco-Metdata と IP-D3P は共存できません。CMD 機能と IP-D3P を切り替える場合、キーサーバーは、すべての GM に対して **crypto gdoi ks rekey replace** を実行して、これら 2 つの機能が同時に有効になっていないことを確認する必要があります。
- ASR1K は、GETVPN IPv4 トンネルモードでのみ IP-D3P をサポートします。

## GET VPN 相互運用性に関する情報

### IP 配信遅延検出プロトコル (IP-D3P) の概要

IP データグラムは、ホストまたはゲートウェイが最新ではないデータグラムを受信する配信遅延攻撃の対象となる可能性があります。最新のデータグラムは、「プロトコルの以前のインタラクションから再生されたのではなく、最近生成されたデータグラム」として定義されます。IP-D3P データグラムは、ヘッダーと IP ペイロードで構成されます。IP-D3P ヘッダーには、パケットが最近生成されたかどうかを判断するためにパケットの受信者が使用するタイムスタンプが含まれています。受信者は、IP パケットで配信されたタイムスタンプをローカル時間と比較し、パケットを受け入れるかどうかを決定します。

IP-D3P は、グループメンバーのシステムクロックを使用して、IP-D3P データグラムのタイムスタンプを作成および確認します。ほとんどの場合、システムクロックは、送信者と受信者のシステムクロックを同期するために、Network Time Protocol (NTP) などの外部プロトコルから設定されます。

GETVPN キーサーバーでの D3P サポートの機能により、GET VPN での IP-D3P のサポートが有効になります。

### キーサーバーの IP-D3P サポート

GDOI ローカルサーバー コンフィギュレーション モードで新しいコンフィギュレーション コマンドの **d3p** を使用すると、キーサーバーで IP-D3P を有効にできます。D3P コマンドを有効にすると、プライマリキーサーバーは、D3P 属性を持つグループ関連ポリシー (GAP) ペイロードがあるすべてのグループメンバーにキー再生成を発行します。GAP ペイロードのキー再生成メッセージには次の属性が含まれます。

- D3P-TYPE : Portable Operating System Interface (POSIX) 時間 (ミリ秒単位)。
- D3P-WINDOWSIZE : IP-D3P ウィンドウサイズ (ミリ秒単位)。

**show crypto gkm ks** コマンドは、キーサーバーで有効になっている IP-D3P パラメータを表示します。

### 連携キーサーバーの IP-D3P サポート

GET VPN グループに複数のキーサーバーがある場合は、すべてのキーサーバーで IP-D3P を有効にする必要があります。プライマリキーサーバーは、アナウンスメッセージを介して、IP-D3P



属性を含む GAP ペイロードをセカンダリキーサーバーに送信します。これにより、すべての連携キーサーバーに、IP-D3P がグループ内で適用されるようになったことが通知されます。

GAP ペイロードを受信すると、連携キーサーバーは、IP-D3P 属性をグループ設定と照合します。不一致がある場合、連携キーサーバーは、次に示すように、ネットワーク管理者に誤った設定または不適切な設定を警告する Syslog メッセージを生成します。

```
%GDOI-3-COOP_CONFIG_MISMATCH: WARNING: IP-D3P configuration between Primary KS and
Secondary KS are mismatched
```

## グループメンバーの IP-D3P サポート

グループメンバーは、キー再生成メッセージに含まれる IP-D3P パラメータを受信します。グループメンバーは、新しい GAP ペイロード属性 (D3P-TYPE および D3P-WINDOWSIZE) を処理します。グループメンバーの IP-D3P で使用する必要があるウィンドウサイズは、GDOI グループ設定で **client d3p** コマンドを使用して上書きできます。たとえば、キーサーバーの設定が **d3p window msec 1000** であり、グループメンバーの設定が **client d3p window sec 50** である場合、グループメンバーは、次のパラメータを使用して、キーサーバーから受信したパラメータを上書きし、IP-D3P を有効にすることができます。

```
D3P-TYPE = POSIX-TIME-MSEC
D3P-WINDOWSIZE = 50000
```

グループメンバーの IP-D3P 設定と、発生した IP-D3P エラー (ある場合) を表示するには、**show crypto gdoi gm** コマンドを使用します。



**Note** IP-D3P は、キーサーバーから送信されたパラメータを使用する Cisco ASR 9000 シリーズ アグリゲーションサービスルータでは有効にできません。Cisco ASR 9000 シリーズ アグリゲーションサービスルータ上のキーサーバーから送信されたパラメータを表示するには、**show crypto gdoi group** コマンドを使用します。

## アクティブ化時間遅延

GETVPN は、アクティブ化時間遅延 (ATD) 機能をサポートします。この機能では、キーサーバーがグループメンバーに対して、トラフィック暗号化のための新しいセキュリティアソシエーション (SA) の使用を遅らせるように指示します。キーサーバーは、ユニキャストキー再生成メッセージをグループメンバーに送信するときに、グループ関連ポリシー (GAP) ペイロードに ATD 値を含めます。遅延時間の値は、ユーザーが設定できません。SA の有効期限が切れる 30 秒前に固定されています。ATD 値を計算する式は、次のとおりです。

$$ATD = \text{Max}((\text{Max}(\text{old-SA-remaining-lifetime\_sec}, 30\text{sec}) - 30\text{sec}), 1\text{sec})$$



**Note** ATD のサポートは、Cisco ASR 9000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータおよび非 Cisco デバイスで設定されているグループメンバーに限定されます。そのため、キーサーバーは、Cisco ASR 9000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータおよび非 Cisco デバイス以外のデバイスに ATD 情報を送信しません。

の「Configuring RAID Levels」の章を参照してください。

## キー再生成確認応答

キーサーバーが、グループのキーとポリシーを更新するために、グループメンバーにキー再生成メッセージを送信する場合、すべてのグループメンバーがキー再生成メッセージを受信して、新しいキーおよびポリシーが正常に処理され、インストールされ、応答されたかどうか分かることと便利です。

### シスコのユニキャストキー再生成確認応答メッセージ

ユニキャストキー再生成が設定されている場合、キーサーバーはキー再生成メッセージを送信し、グループメンバーはそれに対して確認応答キー再生成メッセージを送信することで応答します。



**Note** マルチキャストキー再生成が設定されている場合、確認応答メッセージは存在しません。

キーサーバーが、応答確認されていないユニキャストキー再生成をグループメンバーに3回連続して送信し、そのユニキャストキー再生成がそのグループメンバーによって確認応答されなかった場合、そのグループメンバーはキーサーバーのグループメンバー データベースから削除され、以降のユニキャストキー再生成はそのグループメンバーに送信されません。

### GDOI I-D キー再生成確認応答メッセージ

Cisco キーサーバーの GDOI 相互運用 ACK の機能は、シスコ製ではないグループメンバーとキーサーバーの間で、RFC-8263 (GROUPKEY-PUSH 確認応答メッセージ) で定義されているキー再生成確認応答メッセージの標準規格を実装します。

GDOI GROUPKEY-PUSH 確認応答メッセージ（「GDOI I-D キー再生成 ACK」と呼ばれる）では、シスコのユニキャストキー再生成確認応答メッセージとは異なり、グループメンバーがグループ内の任意のキーサーバーにキー再生成確認応答を送信するための相互運用可能な方式が定義されています。

### キーサーバーの GDOI I-D キー再生成 ACK サポート

**rekey acknowledgement** コマンドを使用すると、キーサーバーは、コマンドで選択されているキーワードに応じて、グループメンバーにキー再生成の確認応答を要求できます。

- **cisco** : シスコ独自のキー再生成 ACK (暗号化) メッセージを受け入れます。

- **interoperable** : 対応するインターネットドラフトに従って、キー再生成 ACK（暗号化されていない）メッセージを要求して受け入れます。
- **any** : グループキーメンバーのバージョンに基づいて、サポートされているすべての ACK メッセージを受け入れます。

**rekey acknowledgement** コマンドを有効にすると、キーサーバーは、新しいポリシー属性 **KEK\_ACK\_REQUESTED** を送信します。これは、登録およびキー再生成のためにキー暗号化キー（KEK）SA ペイロードに含まれる新しいポリシー属性です。

### 連携キーサーバーの GDOI I-D キー再生成 ACK サポート

GET VPN グループに複数のキーサーバーがある場合は、すべてのキーサーバーで **rekey acknowledgement** コマンドを設定する必要があります。プライマリキーサーバーがセカンダリキーサーバーにアナウンスメッセージを送信する場合、プライマリキーサーバーには、**KEK\_ACK\_REQUESTED** 属性を伝送する **KEK SA** ペイロードも含まれます。これにより、すべての連携キーサーバーに、それらの下に登録されているグループメンバーに **KEK\_ACK\_REQUESTED** 属性を送信するように通知されます。

**KEK\_ACK\_REQUESTED** 属性を持つ **KEK SA** ペイロードを受信すると、連携キーサーバーは、グループ設定を確認します。不一致がある場合、連携キーサーバーは、次に示すように、ネットワーク管理者に誤った設定または不適切な設定を警告するメッセージを生成します。

```
%GDOI-3-COOP_CONFIG_MISMATCH: WARNING: Interoperable Rekey ACK configuration between Primary KS and Secondary KS are mismatched
```



**Note** キー再生成メッセージを送信するのはプライマリキーサーバーであるため、キー再生成確認応答はプライマリキーサーバーにのみ送信されます。キー再生成確認応答は、連携キーサーバーがプライマリキーサーバーとして昇格され、古いプライマリキーサーバーがキー暗号化キー（KEK）またはトラフィック暗号化キー（TEK）ポリシーを作成しなかった場合にのみ、連携サーバーに送信されます。

### グループメンバーの GDOI I-D キー再生成サポート

グループメンバーが、KEK SA ペイロードに **KEK\_ACK\_REQUESTED** 属性を含むキー再生成メッセージを受信し、確認応答メッセージを介してキーサーバーに GDOI ID キー再生成 ACK を送信する場合、そのグループメンバーは、Cisco GETVPN キーサーバーのインターネットドラフト ACK の機能をサポートしていると見なされます。

### キーサーバーとグループメンバーの通信

キーサーバーが KEK SA ペイロードで **KEK\_ACK\_REQUESTED** 属性を送信すると、対応するキーサーバーから別の通知がないかぎり、グループメンバーは、後続のキー再生成メッセージに GDOI ID キー再生成 ACK で応答する必要があります。キーサーバーとグループメンバーの間の通信は、次のとおりです。

1. キーサーバーによって送信されるすべての GROUPKEY-PUSH メッセージに対して、グループメンバーは GROUP-PUSH-KEY ACK メッセージで応答する必要があります。
2. キーサーバーは、メッセージの形式とペイロードを検証して妥当性を確認します。検証に失敗すると、メッセージはドロップされます。
3. 検証に成功すると、キーサーバーは、SEQ ペイロードと ID ペイロードを処理して、ID に関連付けられたグループメンバーの最新の確認応答済みシーケンス番号を記録します。シーケンス番号は、最後に送信されたシーケンス番号と同じである必要があります。それ以外の場合、SEQ ペイロードと ID ペイロードは記録されません。



**Note** Cisco キーサーバーの場合、グループメンバーがキー再生成メッセージに対して 3 回連続して確認応答を送信しない場合、そのグループメンバーはデータベースから削除されます。グループメンバーにユニキャストキー再生成機能が設定されており、特定の KEK セキュリティパラメータ インデックス (SPI) に対して KEK\_ACK\_REQUESTED 属性が送信されない場合、グループメンバーは、Cisco ユニキャストキー再生成 ACK メッセージをキーサーバーに送信する必要があります。

次の表で、KEK SA ペイロードで送信される属性と、キーサーバーで設定された各確認応答オプションに対して送信される値について説明します。

**Table 313:** 各確認応答オプションの KEK SA ペイロード

確認応答オプション	新しいシスコグループメンバー	Cisco ASR 9000 グループメンバー	シスコ製以外のグループメンバー
Cisco	属性なし	属性なし	属性なし
相互運用可能	KEK_ACK_REQ REKEY_ACK_KEK_SHA256	KEK_ACK_REQ REKEY_ACK_KEK_SHA256	KEK_ACK_REQ REKEY_ACK_KEK_SHA256
いずれか	属性なし	KEK_ACK_REQ REKEY_ACK_KEK_SHA256	KEK_ACK_REQ REKEY_ACK_KEK_SHA256



**Note** **no rekey acknowledgement** コマンドを使用してキー再生成確認応答をデフォルト値の「Cisco」に設定すると、キーサーバーは、KEK SA ペイロードに KEK\_ACK\_REQUESTED 属性を含めません。

次の表で、キーサーバーにおいて **rekey acknowledgement** コマンドでキーワードを使用して設定された各確認応答タイプの確認手法について説明します。

Table 314: 確認応答の方法論

確認応答オプション	キーサーバーが I-DACK を受け入れる	キーサーバーが Cisco ACK を受け入れる
Cisco	いいえ (エラーになります)	対応
相互運用可能	対応	いいえ (エラーになります)
いずれか	対応	対応

## GET VPN 相互運用性の設定方法

### キーサーバー上の正しい GDOI バージョンの確認

#### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **show crypto gkm feature *feature name***
3. **show crypto gkm feature *feature-name* | include no**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

##### ステップ 1 enable

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

```
Device> enable
```

##### ステップ 2 show crypto gkm feature *feature name*

ネットワーク内の各キーサーバーおよびグループメンバーで実行されている GDOI バージョンと、デバイスが GET VPN 相互運用性機能 (つまり、GETVPN キーサーバーでの D3P サポートと Cisco GETVPN キーサーバーのインターネットドラフト ACK) をサポートしているかどうかに関する情報を表示します。

##### Example:

```
Device# show crypto gkm feature ip-d3p
Group Name: GET VPN1
  Key Server ID      Version  Feature Supported
  10.0.8.1           1.0.11  Yes
  10.0.9.1           1.0.10  No
Group Member ID     Version  Feature Supported
```

10.0.3.1	1.0.11	Yes
10.65.9.2	1.0.10	No

**Example:**

```
Device# show crypto gkm feature gdoi-interop-ack
Group Name: GET VPN2
  Key Server ID      Version  Feature Supported
  10.0.8.1           1.0.11   Yes
  10.0.9.1           1.0.10   No
  Group Member ID    Version  Feature Supported
  10.0.3.1           1.0.11   Yes
  10.65.9.2          1.0.10   No
```

**ステップ 3 show crypto gkm feature feature-name | include no**

(任意) 機能をサポートしていないデバイスを検索します。

**Example:**

```
Device# show crypto gkm feature gdoi-interop-ack | include no
```

## グループメンバー上の正しい GDOI バージョンの確認

**SUMMARY STEPS**

1. **enable**
2. **show crypto gkm feature feature name**

**DETAILED STEPS****Procedure****ステップ 1 enable**

特権 EXEC モードを有効にします。

- パスワードを入力します (要求された場合)。

**ステップ 2 show crypto gkm feature feature name**

ネットワーク内のグループメンバーで実行されている GDOI バージョンと、デバイスが GET VPN 相互運用性機能 (つまり、GETVPN キーサーバーでの D3P サポートと Cisco GETVPN キーサーバーのインターネットドラフト ACK) をサポートしているかどうかに関する情報を表示します。

**Example:**

```
Device# show crypto gkm feature ip-d3p
  Version  Feature Supported
  1.0.11   Yes
```

**Example:**

```
Device# show crypto gkm feature gdoi-interop-ack
Version      Feature Supported
1.0.10      No
```

## キーサーバーでの IP-D3P の有効化

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gkm group GETVPN**
4. **server local**
5. **sa d3p window {sec seconds | msec milliseconds}**
6. **exit**
7. **show crypto gkm ks replay**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gkm group GETVPN</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gkm group GETVPN	グループキー管理 (GKM) グループを設定し、GKM グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gkm-group)# server local	デバイスをキーサーバーとして指定し、GDOI ローカル サーバー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>sa d3p window {sec seconds   msec milliseconds}</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# sa d3p window msec 5000	グループ内のすべてのセキュリティアソシエーションで IP 配信遅延検出プロトコル (IP-D3P) を有効にします。  • <b>sec seconds</b> : ウィンドウサイズ (秒単位)。範囲は 1 ~ 100 です。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>msec milliseconds</b> : ウィンドウサイズ (ミリ秒単位)。範囲は 100 ~ 10000 です。</li> </ul>
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server) # exit	GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<b>show crypto gkm ks replay</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gkm ks replay	時間ベースのアンチリプレイのキーサーバーグループ情報を表示します。

### Example

次に、**show crypto gkm ks replay** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show crypto gkm ks replay
Anti-replay Information For Group GETVPN:
  IP-D3P: Type = POSIX-TIME-MSEC, Window-size = 5000 msec
```

## グループメンバーでの IP-D3P の有効化

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gkm group GET**
4. **client d3p window {sec seconds | msec milliseconds}**
5. **exit**
6. **show crypto gkm gm replay**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<b>crypto gkm group GET</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gkm group GETVPN	グループキー管理 (GKM) グループを設定し、GKM グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>client d3p window {sec seconds   msec milliseconds}</b> <b>Example:</b> Device(config-gkm-group)# client d3p window sec 50	クライアントが許容できる IP 配信遅延検出プロトコル (IP-D3P) を有効にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>sec seconds</b> : ウィンドウサイズ (秒単位)。範囲は 1 ~ 100 です。</li> <li>• <b>msec milliseconds</b> : ウィンドウサイズ (ミリ秒単位)。範囲は 100 ~ 10000 です。</li> </ul>
ステップ 5	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# exit	GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<b>show crypto gkm gm replay</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gkm gm replay	時間ベースのアンチリプレイのグループメンバー情報を表示します。

### Example

次に、**show crypto gkm gm replay** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show crypto gkm gm replay
Anti-replay Information For Group GET:
  IP-D3P:
    Posix-time-msec           : 502764.17
    Input Packets              : 5           Output Packets           : 5
    Input Error Packets       : 5           Output Error Packets     : 0

IP-D3P Error History (sampled at 10pak/min):
  xx:xx:xx.xxx PST Tue Feb 25 2014: src=5.0.0.2; my_time=502729.95; peer_time=33.46;
  win=10
  yy:yy:yy.yyy PST Tue Feb 25 2014: src=5.0.0.2; my_time=502723.95; peer_time=27.45;
  win=10
```

## キー再生成確認応答の有効化

### SUMMARY STEPS

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **crypto gkm group GET**
4. **server local**
5. **rekey acknowledgement {cisco | interoperable | any}**

6. `exit`
7. `show crypto gkm ks replay`

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>enable</b> <b>Example:</b> Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>crypto gkm group GET</b> <b>Example:</b> Device(config)# crypto gkm group GET	グループキー管理 (GKM) グループを設定し、GKM グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>server local</b> <b>Example:</b> Device(config-gkm-group)# server local	デバイスをキーサーバーとして指定し、GDOI ローカル サーバー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>rekey acknowledgement {cisco   interoperable   any}</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# rekey acknowledgment interoperable	グループメンバーがキー再生成を確認応答できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>cisco</b> : Cisco Rekey ACK (暗号化) メッセージを受け入れます。</li> <li>• <b>interoperable</b> : 相互運用可能なキー再生成 ACK (非暗号化) メッセージを要求して受け入れます。</li> <li>• <b>any</b> : グループキーメンバーのバージョンに基づいて、サポートされている ACK メッセージを受け入れます。</li> </ul>
ステップ 6	<b>exit</b> <b>Example:</b> Device(gdoi-local-server)# exit	GDOI ローカルサーバコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<b>show crypto gkm ks replay</b> <b>Example:</b> Device# show crypto gkm ks replay	キーサーバーでのキー再生成確認応答の設定を表示します。

**Example**

次に、キー再生成確認応答の設定を表示する **show** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show crypto gkm

GROUP INFORMATION
  Group Name           : GETVPN (Unicast)
  .
  .
  .
  Group Rekey Lifetime : 86400 secs
  Group Rekey
    Remaining Lifetime  : 44710 secs
    Time to Rekey       : 44485 secs
    Acknowledgement Cfg : {Cisco|Interoperable|Any}
  .
  .
  .

Device# show crypto gkm ks

Total group members registered to this box: 0
Key Server Information For Group GETVPN:
  Group Name           : GETVPN
  Group Name           : GETVPN (Unicast)
  .
  .
  .
  Group Members        : 0
  GDOI Group Members   : 0
  G-IKEv2 Group Members : 0
  Rekey Acknowledgement Cfg: {Cisco|Interoperable|Any}
  IPSec SA Direction   : Both
  .
  .
  .

Device# show crypto gkm ks rekey

Group GETVPN (Unicast)
  Acknowledgement Type In-Use      : {Cisco|Interoperable|Any}
  Number of Rekeys sent             : 20
  .
  .
  .

Device# show crypto gkm ks rekey

Group GETVPN (Multicast)
  Acknowledgement Type In-Use      : None
  Number of Rekeys sent             : 20
  .
  .
  .

Device# show crypto gkm ks policy

Key Server Policy:
For group diffint (handle: 2147483650) server 10.0.8.1 (handle: 2147483650):
# of teks : 2  Seq num : 7
KEK POLICY (transport type : Unicast)
spi : 0x7D32D2052B87CEFE14060B58B0176129
management alg      : disabled  encrypt alg      : AES
crypto iv length    : 16        key size         : 16
orig life(sec): 86400  remaining life(sec): 44699
```

```

time to rekey (sec): 44474
sig hash algorithm : enabled      sig key length   : 162
sig size           : 128
sig key name       : mykeys
acknowledgement   : {cisco|interoperable|any}

```

```
Device# show crypto gkm ks policy
```

```
Key Server Policy:
```

```
For group diffint (handle: 2147483650) server 10.0.8.1 (handle: 2147483650):
```

```
# of teks : 2  Seq num : 7
```

```
KEK POLICY (transport type : Multicast)
```

```
spi : 0x7D32D2052B87CEFE14060B58B0176129
```

```
management alg : disabled      encrypt alg      : AES
```

```
crypto iv length : 16          key size         : 16
```

```
orig life(sec): 86400          remaining life(sec): 44699
```

```
time to rekey (sec): 44474
```

```
sig hash algorithm : enabled      sig key length   : 162
```

```
sig size           : 128
```

```
sig key name       : mykeys
```

```
acknowledgement   : none
```

## GET VPN 相互運用性の設定例

### 例：キーサーバーでの IP-D3P の有効化

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gkm group GETVPN
Device(config-gkm-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# sa d3p window msec 5000
Device(gdoi-local-server)# exit

```

### 例：グループメンバーでの IP-D3P の有効化

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config-gkm-group)# client d3p window sec 50
Device(gdoi-local-server)# exit

```

### 例：キー再生成確認応答の有効化

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# crypto gkm group GET
Device(config-gkm-group)# server local
Device(gdoi-local-server)# rekey acknowledgment interoperable
Device(gdoi-local-server)# exit

```

## GET VPN の相互運用性に関する追加情報

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュリティ コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands A to C』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference Commands D to L』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands M to R』</li> <li>• 『Cisco IOS Security Command Reference: Commands S to Z』</li> </ul>
GET VPN の設定	<i>Cisco Group Encrypted Transport VPN</i>
ユニキャストキー再生成	GET VPN モジュールの「Unicast Rekeying」セクション

### 標準および RFC

標準/RFC	タイトル
draft-weis-delay-detection-00	『IP Delivery Delay Detection Protocol』
draft-weis-gdoi-rekey-ack-01	『GDOI GROUPKEY-PUSH Acknowledgement Message』
RFC 5374 - セクション 5.4 : グループ関連ポリシー	『Multicast Extensions to the Security Architecture for the Internet Protocol』
RFC 6407 - セクション 4.2.1 : アクティブ化時間遅延	『The Group Domain of Interpretation』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## GET VPN 相互運用性の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Table 315: GET VPN 相互運用性の機能情報

機能名	リリース	機能情報
GETVPN キーサーバーでの D3P サポート		GETVPN キーサーバーでの D3P サポートの機能は、GET VPN ネットワークでの IP-D3P のサポートを有効にします。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>client d3p</b> 、 <b>sa d3p</b> 、 <b>show crypto gkm gm replay</b> 、 <b>show crypto gkm ks replay</b>
Cisco GETVPN キーサーバーのインターネットドラフト ACK		Cisco GETVPN キーサーバーのインターネットドラフト ACK は、シスコ製ではないグループメンバーとキーサーバーの間で、GDOI GROUPKEY-PUSH 確認応答メッセージドラフトで定義されているキー再生成確認応答メッセージの標準規格を実装します。 次のコマンドが導入または変更されました。 <b>rekey acknowledgement</b> 、 <b>show crypto gkm</b> 。

機能名	リリース	機能情報
RFC 8263 ID Ack の実装		Group Domain of Interpretation (GDOI) には、現在の一連のデバイスに追加のセキュリティアソシエーションを提供するキーサーバーの機能が含まれています。たとえば、期限切れのセキュリティアソシエーションのキーを再生成できます。この機能により、グループデバイスがキー再生成メッセージの受信確認応答を返すように要求するキーサーバーの機能が追加され、確認応答の方式が指定されます。







## CHAPTER 231

# GETVPN の Perfect Forward Secrecy

グループメンバー (GM) が侵害された場合、攻撃者は保存された長期キーとメッセージにアクセスする可能性があります。GETVPN の Perfect Forward Secrecy (PFS) により、攻撃者はキーとメッセージを使用して過去または将来のセッションのキーを取得することができなくなります。そのため、攻撃者は、侵害されたトラフィック暗号化キー (TEK) を使用して現在のセッションの通信を復号することは可能ですが、録音された通信や将来の通信は復号できません。

- [GETVPN の PFS に関する機能情報 \(3529 ページ\)](#)
- [GETVPN の PFS に関する情報, on page 3530](#)

## GETVPN の PFS に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 316: GETVPN の PFS に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
GETVPN の Perfect Forward Secrecy	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1	次のコマンドが導入または変更されました。 <b>show crypto gkm feature pfs</b> 、 <b>pfs</b> 、 <b>show crypto gdoi</b> 、および <b>client pfs</b> 。

# GETVPN の PFS に関する情報

## GETVPN の PFS の概要

仮に、デバイスが侵害され、攻撃者が、デバイスに保存されている長期キーにアクセスしたとします。Perfect Forward Secrecy (PFS) では、攻撃者が長期キーを使用してキーを取得し、過去のセッションの記録された通信を復号することを防止します。関連するセキュリティ対策に、「Perfect Backward Secrecy (PBS)」と呼ばれるものがあります。PBS では、攻撃者が長期キーを使用してキーを取得し、将来のセッションの通信を復号することを防止します。

GMが侵害された場合、攻撃者は保存された長期キーとメッセージにアクセスする可能性があります。それにより、攻撃者は、Diffie-Hellman (DH) の結果および登録メッセージ、またはキー暗号化キー (KEK) と過去のキー再生成メッセージを取得する可能性があります。GETVPN の PFS では、攻撃者は、キーとメッセージを使用して過去のセッションの TEK を取得することができません。さらに、攻撃者は、KEK を使用して将来のキー再生成メッセージを復号できないため、将来のセッションの TEK を取得できません。そのため、攻撃者は、現在のセッションの TEK にのみアクセスできます。キーが侵害されても、記録された通信や将来の通信は安全なままです。

GETVPN の PFS には、次の変更点が含まれています。

- キー再生成プロセスが変更されています。GM 登録メカニズムは変更されていません。
- GETVPN の PFS を有効にすると、GM-KS IKEv2 チャネルのデフォルトのライフタイムが 1 日から 600 秒に変更されます。  
ただし、カスタマイズされたライフタイムを設定している場合は、GETVPN の PFS を有効にした後もライフタイムは変更されません。
- GETVPN の PFS をサポートするキーサーバー (KS) とグループメンバー (GM) には、新しいバージョン番号があります。このバージョン番号は、サードパーティの GM との後方互換性およびインタラクションをサポートします。

## GETVPN の PFS に関する制約事項

- キーサーバー (KS) とグループメンバー (GM) は、IKEv2 プロトコルを使用して通信する必要があります。KS と GM が IKEv1 プロトコルを使用して通信する場合、GETVPN の PFS はサポートされません。
- COOP 内のすべての KS で PFS を有効にしてください。GM では、PFS はデフォルトで有効になっています。
- スケジュールされたキー再生成と手動でトリガーされたキー再生成の両方によって、GM が KS に再登録されます。この再登録により、特に大規模な場合に、KS で顕著なオーバーヘッドが発生する可能性があります。

- キー再生成を強制すると、GM 間のキーの不一致が原因でトラフィックが失われる可能性があります。
- RSA キーサイズが 4096 の場合は、キーのサイズが大きいため、暗号化エンジンによるキー再生成の署名にかなりの時間がかかります。キー再生成の署名中に受信した登録要求が多すぎると、暗号化エンジンが過負荷状態になる可能性があります。オーバーロードされた暗号化エンジンは、次のエラーメッセージをログに記録します。

```
%ACE-3-TRANSERR: IOSXE-ESG(9): IKEa trans 0x11A8; opcode 0x23; param 0x0; error 0xC;
retry cnt 0
```

このエラーメッセージは、4096 の RSA キーサイズを使用しており、100 を超える GM があり、PFS が有効になっている GETVPN 展開において、より頻繁に表示される可能性があります。頻度が増加するのは、PFS が有効になっている場合、キー再生成のたびに再登録がトリガーされ、100 を超える GM では、暗号化エンジンがキー再生成の署名中に複数の登録要求を受信する可能性が高くなり、過負荷状態になる可能性があるためです。

同様に、そのような展開では、**crypto gdoi ks rekey replace-now** コマンドを繰り返し実行すると、このコマンドによってトリガーされる登録要求のために、このエラーメッセージがより頻繁に表示される可能性があります。

PFS が有効になっている GETVPN 展開では、2048 の RSA キーサイズを使用することをお勧めします。キー再生成メッセージには TEK/KEK キーが含まれないため、4096 の RSA キーサイズを使用する必要はありません。

## 変更されたキー再生成プロセス

GETVPN の PFS は、攻撃者が侵害された GM からの KEK を使用して過去または将来のキー再生成メッセージを復号できないようにします。そのため、攻撃者は、過去または将来の KEK や TEK を取得できません。この目的のために、GETVPN の PFS は、キー再生成メカニズムを変更して、キー再生成メッセージに KEK または TEK が含まれないようにします。キー再生成メッセージの内容は、キー再生成のタイプによって異なります。

### スケジュールされたキー再生成

1. KEK または TEK のキー再生成タイマーが切れると、KS はそれぞれ新しい KEK または TEK を生成します。
2. KS は、キー再生成メッセージの GSA ペイロードにプライベート属性を設定し、現在の KEK でメッセージを暗号化します。キー再生成メッセージには、新しい KEK または TEK は含まれません。KS は、GM にキー再生成メッセージを送信します。
3. GM は、キー再生成メッセージを受信し、現在の KEK を使用してメッセージを復号します。GM は、スケジュールされたキー再生成を識別し、0 ~ 6 秒の範囲のランダムな時間間隔で再登録タイマーを開始します。
4. 再登録タイマーが切れると、GM は KS への再登録を開始します。
5. 再登録後、KS は、IKEv2 チャンネルを介して KEK または TEK を GM に送信します。

6. 新しい KEK を受信すると、GM は、古い KEK を新しい KEK に置き換えます。
7. 新しい TEK を受信すると、GM は、TEK のアクティブ化時間遅延 (ATD) を確認します。ATD が 0 以外の場合、GM は、データプレーンに TEK をインストールする前にタイマーを開始して ATD を適用します。

ATD は、KS で次のように計算されます。

- a. 長い SA ライフタイムが設定されている場合、ATD タイマーは、次のように計算される秒単位の値に初期化されます。ATD = (古い TEK の残りのライフタイム) - (古い TEK の残りのライフタイムの 1%) - 75

新しい TEK は、(古い TEK の残りのライフタイムの 1%) 時にロールオーバーされません。

- b. 長い SA ライフタイムが設定されていない場合、ATD タイマーは、次のように計算される秒単位の値に初期化されます。ATD = (古い TEK の残りのライフタイム) - 75

新しい TEK は、古い TEK の有効期限が切れる 30 秒前にロールオーバーされます。

#### 同期キー再生成

1. KS は、pseudoTimeStamp (PST) 値のみを含むキー再生成メッセージを GM に送信します。このメッセージに KEK または TEK は含まれません。
2. キー再生成メッセージを受信すると、GM は、疑似時間値を更新し、再登録をトリガーしません。KS から受信した pseudoTimeStamp 値と GM で設定された 時間ベースアンチリプレイ (TBAR) ウィンドウに応じて、GM が Syslog メッセージを生成する場合があります。

#### 手動でトリガーされるキー

1. **crypto gdoi ks** または **clear crypto gdoi ks members** を使用してキー再生成動作をトリガーすると、KS は、キー再生成タイプに基づいて GAP/DELETE ペイロードを送信します。

- ポリシー変更のないキー再生成メッセージ

Table 317: ポリシー変更のないキー再生成メッセージの GAP/DELETE ペイロード

Type	KEK	TEK	キー再生成のプライベート属性	KD	GAP	DELETE
crypto gdoi ks rekey	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
crypto gdoi ks rekey replace-now	非対応	非対応	対応	非対応	ATD 1 秒	未対応
clear crypto gdoi ks members	非対応	非対応	非対応	非対応	ATD TEK の 5%	対応

Type	KEK	TEK	キー再生成のプライベート属性	KD	GAP	DELETE
clear crypto gdoi ks members now	非対応	非対応	対応	非対応	ATD 1 秒	対応

- ポリシー変更のある再生成メッセージ

**Table 318:** ポリシー変更のあるキー再生成メッセージの *GAP/DELETE* ペイロード

Type	KEK	TEK	キー再生成のプライベート属性	KD	GAP	DELETE
crypto gdoi ks rekey	非対応	非対応	対応	非対応	ATD TEK の 5%	未対応
crypto gdoi ks rekey replace-now	非対応	非対応	対応	非対応	ATD 1 秒	未対応
clear crypto gdoi ks members	非対応	非対応	非対応	非対応	ATD TEK の 5%	対応
clear crypto gdoi ks members now	非対応	非対応	対応	非対応	ATD 1 秒	対応

2. キー再生成メッセージを受信した GM は、KS への再登録を開始します。
3. 再登録の一環として、KS は、IKEv2 チャネルを介して KEK または TEK を GM に送信します。
4. GM は、古いキーのライフタイムを、KS から送信されたアクティブ化時間遅延 (ATD) 値に設定します。ATD の後、GM は、古いキーを削除し、新しいキーをインストールします。

#### Suite B のサポート

GM の初回登録時に、KS は、一意の送信者識別子 (SID) と初期化ベクトル (IV) 範囲を GM に割り当てます。GM がキー再生成メッセージに回答して KS に再登録する場合、GM は、KS が登録時に割り当てた SID を提供します。KS は、新しい SID または初期化ベクトル (IV) 範囲を GM に割り当てません。

## GETVPN の PFS の KS バージョンおよび GM バージョン

Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1 以降のリリースが GM にインストールされている場合、GETVPN の PFS はデフォルトで有効になります。コマンドラインインターフェイスを使用して、GETVPN の PFS を無効にできます。GM のバージョンは、次の表に示すように、PFS が有効になっているかどうかによって異なります。

	Suite B サポートなし	Suite B サポートあり	ASR 1000 シリーズ
PFS が無効	16	17	19
PFS が有効	21	22	20

Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1 以降のリリースが KS にインストールされている場合、GETVPN の PFS はデフォルトで無効になり、KS のバージョンは 1.0.18 です。CLI を使用して、GETVPN の PFS を有効にできます。GETVPN の PFS が有効になっている場合、KS のバージョンは 1.0.23 です。すべての連携 KS で GETVPN の PFS を有効にします。

KS は、GM のバージョンに基づいて、キー再生成メッセージを GM に送信します。

- GETVPN の PFS が無効になっており、1.0.17 や 1.0.19 などのバージョン番号を送信する GM に対して、KS は、KEK または TEK を含むキー再生成メッセージを送信します。

KS は、GETVPN の PFS が無効になっている GM およびシスコ以外の GM に、KEK または TEK を含むキー再生成メッセージを送信します。GETVPN の PFS が無効になっている GM は、1.0.17 や 1.0.19 などのバージョン番号を KS に送信します。シスコ以外の GM は、KS に不明なバージョン番号を送信します。

- KS は、GETVPN の PFS が有効になっている GM に、KEK または TEK を含まない、変更されたキー再生成メッセージを送信します。GETVPN の PFS が有効になっている GM は、1.0.20 や 1.0.22 などのバージョン番号を送信します。

## GETVPN の PFS の KS および GM の更新

GETVPN の PFS を有効にするには、ネットワーク内のすべての KS および GM で PFS を有効にします。GM で GETVPN の PFS を有効にしていない場合、GM が侵害されると、侵害されたキーにより、ネットワーク全体のセキュリティが妨げられる可能性があります。

次のように、ネットワーク内の KS をアップグレードします。



**Note** KEK と TEK の有効期限が切れるまでに十分な時間がある間に KS をアップグレードすることをお勧めします。

1. セカンダリ KS をアップグレードし、COOP の選択が完了するまで待ちます。
2. COOP の各セカンダリ KS について、手順 1 を繰り返します。

セカンダリ KS が再起動してプライマリ KS と同期し、セカンダリ KS の役割を担います。

3. プライマリ KS をアップグレードします。

セカンダリ KS の 1 つが新しいプライマリ KS として選択されます。アップグレードされた KS が再起動し、セカンダリ KS の役割を担います。

4. すべての KS で PFS を有効にします。

アップグレード後、KS は、GM が送信するバージョン番号に基づいてキー再生成メッセージを送信します。GM バージョン番号に基づいて、KS は、KEK または TEK を含むキー再生成メッセージか、KEK または TEK を含まない変更されたキー再生成メッセージを送信します。







## 索引

- A**
- aaa accounting resource stop-failure group コマンド [171](#)
  - aaa preauth コマンド [632](#)
  - aaa accounting resource start-stop group コマンド [171](#)
  - aaa authentication ppp コマンド [48](#)
    - 未定義の list-name [48](#)
    - (注意) [48](#)
  - AAA Double Authentication Secured by Absolute Timeout [97–99](#)
    - 概要 [98](#)
    - 制約事項 [98](#)
    - 前提条件 [97](#)
    - 適用方法 [98](#)
    - 例 [99](#)
  - AAA サーバとの PKI 統合 [1325](#)
    - 設定 [1325](#)
  - AAA 属性 [222](#)
    - 前提条件 [222](#)
  - AAA (認証、許可、アカウントティング) [2, 10, 13–15, 17–20, 22–24, 26–28, 31–33, 36, 53, 58, 88, 135–144, 147, 150–151, 153–155, 157, 159, 161–164, 166–167, 170–171, 173–174, 178, 259, 604, 630, 632, 924](#)
  - ARAP 認証 [20, 22–23](#)
    - TACACS+ [23](#)
    - ゲスト ログイン [22](#)
    - 認可済みゲスト ログイン [22](#)
    - 方式 (表) [20](#)
    - ラインパスワード [22](#)
    - ローカルパスワード [23](#)
  - DNIS [630](#)
  - enable default authentication、方式 (表) [28](#)
  - NASI 認証 [24, 26–27](#)
    - TACACS+ [27](#)
    - イネーブルパスワード [26](#)
    - 方法 [24](#)
    - ラインパスワード [26](#)
    - ローカルパスワード [26](#)
  - POD (パケット オブ ディスコネクト) [32, 58](#)
    - 設定 [32](#)
    - 例 [58](#)
  - PPP 認証 [17–18](#)
  - AAA (認証、許可、アカウントティング) (続き)
    - RADIUS [604](#)
      - アカウントティング [604](#)
      - 許可 [604](#)
      - 認証 [604](#)
    - アカウントティング [150–151, 153–155, 157, 159, 161–162, 164, 166–167, 170, 174](#)
    - AV ペア [166](#)
    - EXEC タイプ [157](#)
    - 有効化 [166](#)
    - 確認 [174](#)
    - コマンドタイプ [159](#)
    - システムタイプ [161](#)
    - 接続タイプ [159](#)
    - 設定 (例) [174](#)
    - タイプ [154, 159](#)
    - 中間レコード [167](#)
    - ネットワーク設定 (図) [151](#)
    - ネットワークタイプ [155](#)
    - ブロードキャストティング [164](#)
    - 方式 (表) [153](#)
    - 方式リスト (例) [150](#)
    - モニタリング [174](#)
    - リソースタイプ [162](#)
    - レコードの抑制 [167, 170](#)
  - 許可 [135, 137–144](#)
    - AV ペア [140](#)
    - RADIUS [137](#)
    - TACACS+ [137](#)
    - グローバルコンフィギュレーションコマンド [137, 141](#)
    - サーバグループ [138](#)
    - 設定 [140](#)
    - 設定 (例) [143–144](#)
    - 前提条件 [135](#)
    - タイプ [139](#)
    - ネットワーク設定 (図) [138](#)
    - リバース Telnet [142](#)
  - サーバグループ [2, 138, 164, 924](#)
    - TACACS+、設定 [924](#)
    - 許可 [138](#)
    - 認証 [2](#)

## AAA (認証、許可、アカウントティング) (続き)

サーバグループ (続き)

ブロードキャスト アカウントティング 164

事前認証 632

セッション MIB 164, 173, 178

SNMP 164

設定 173

例 178

認証 2, 10, 13, 15, 17, 20, 23–24, 27–28, 33, 36, 53, 259

ARAP 20, 23

NASI 24, 27

PPP 15, 17

サーバグループ 2

設定 53

(例) 53

デフォルト、イネーブル化 28

二重認証 33, 36

ネットワーク設定 (図) 2

方法 10

ログイン 10, 13, 259

ブロードキャスト アカウントティング 164

方式リスト 2, 136, 138, 147, 150

アカウントティング 150

許可 136, 138, 147

メッセージ バナー 31, 58, 88

failed-login バナー、設定 31

(例) 58, 88

ログイン バナー、設定 31

リソース アカウントティング 163, 171

設定 171

リソース失敗終了アカウントティング 162, 171

設定 171

ログイン認証 10, 13–15, 18–19, 23, 26–27

Kerberos 13

RADIUS 14, 18, 23, 26

TACACS+ 14–15, 18–19, 23, 27

イネーブル パスワード 13

方式 (表) 10

ラインパスワード 13

ローカルパスワード 14

access-list (encryption) コマンド 2171

access-list コマンド 496

AH (認証ヘッダー) 2163

## C

CHAP (Challenge Handshake Authentication Protocol) 46, 48, 50–51

共通パスワード 50

説明 46

認証 46, 50

CHAP (Challenge Handshake Authentication Protocol) (続き)

認証のイネーブル化 48

認証の遅延 51

認証要求の拒否 50

Cisco Group Encrypted Transport VPN 3262, 3306

システム メッセージ (付録 I) 3306

制約事項 3262

前提条件 3262

Cisco IOS Firewall 493

ダイナミック アクセス リスト 493

Cisco Group Encrypted Transport VPN に関する情報 3266

Cisco VRF-Aware IPSec の IPSec および IKE MIB サポート 2758

設定例 2758

clear access-template コマンド 503

CoA メッセージ 1124

crypto dynamic-map コマンド 2184

crypto ipsec transform-set コマンド 2173

crypto map コマンド 2181

## D

Delegated-IPv6-Prefix-Pool 222

DES (データ暗号規格) 2883

DH (Diffie-Hellman) 2883

IKE, Diffie-Hellman (DH) を参照 2883

DNIS (着信番号識別サービス) 631, 925

DNIS 番号 925

サーバー グループ、選択 631, 925

DNS-Server-IPv6-Address 222

## E

ESP (Encapsulating Security Payload) 2163

## F

Framed-Interface-Id 属性 222

Framed-IPv6-Prefix 属性 222

Framed-IPv6-Route 属性 222

## G

GET VPN GM 認証 3300

GET VPN GM 認証の設定 3339

GM 登録の認証ポリシー 3300

## H

HTTP : 送信元インターフェイスの選択 1558

発信 TCP 接続用の送信元インターフェイス 1558

- ICMP **480**
    - ホスト到達不能メッセージ **480**
  - IKE (インターネットキー交換) セキュリティプロトコル **2163, 2883, 2886–2887, 2889, 2897**
    - DH (Diffie-Hellman) **2883**
      - サポートされている標準 **2883**
      - 認証 **2887**
        - 方法 **2887**
      - ネゴシエーション **2886**
      - プロトコル **2163**
      - ポリシー **2886**
        - 目的 **2886**
        - 要件 **2886**
      - モードコンフィギュレーション **2889, 2897**
      - 要件 **2886–2887**
        - RSA 暗号化ナンス方式 **2887**
        - RSA シグニチャ方式 **2887**
        - ポリシー **2886**
  - IKE セキュリティアソシエーション制限の設定 **2909–2910**
  - Invalid Security Parameter Index Recovery **2655, 2657, 2668**
    - 確認 **2657**
    - 制約事項 **2655**
    - 前提条件 **2655**
    - その他の参考資料 **2668**
  - IP **494, 503**
    - アクセスリスト **503**
      - ダイナミック、削除 **503**
    - セキュリティ **494**
      - ロックアンドキーも参照してください。 **494**
  - IPoE セッション **2617**
    - 合法的傍受のサポート **2617**
  - IPoE セッションの合法的傍受サポート **2617**
    - 制約事項 **2617**
  - IPoE セッションの合法的傍受サポートの制約事項 **2617**
  - IPSec **2725**
    - IPSec、アクセスリスト\ **2166**
    - IPSec、暗号アクセスリスト[アクセスリスト **2166** zzz] **2166**
    - IPSec Dead Peer Detection 定期メッセージオプション **2671–2672, 2680**
      - 制約事項 **2672**
      - 前提条件 **2671**
      - その他の参考資料 **2680**
    - IPSec (IP Security) VPN モニタリング **2746, 2751–2752**
      - コマンドリファレンス **2752**
      - 制約事項 **2746**
      - その他の参考資料 **2751**
  - IPSec (IPSec ネットワークセキュリティプロトコル) **2162–2163, 2166, 2173, 2181, 2184, 2188**
    - NAT、設定 **2162**
    - SA **2166, 2173, 2181**
      - IKE ネゴシエーション **2166, 2181**
      - クリア **2173**
      - 手動ネゴシエーション **2166**
    - アクセスリスト **2166**
    - 機能のしくみ **2166**
    - サポートされている標準 **2163**
    - サポートされるカプセル化 **2166**
    - 制約事項 **2162**
    - トランスフォームセット **2166**
    - ネットワークサービス **2166**
    - プロトコル **2163**
    - 保護されたトラフィック、定義 **2166**
    - モニタリング **2184, 2188**
  - IPsec アンチリプレイウィンドウ **2637, 2647**
    - 拡張と無効化 **2637, 2647**
    - 設定例 **2637**
  - IPsec と Quality of Service **2953–2954, 2959**
    - 制約事項 **2954**
    - 前提条件 **2953**
    - その他の参考資料 **2959**
  - IPsec トンネルを使用する DF ビットオーバーライド機能 **2699, 2703**
    - [Restrictions (機能制限)] **2699**
    - 前提条件 **2699**
    - その他の関連資料 **2703**
  - IPv6 **221, 231, 533**
    - AAA 属性 **221, 231**
    - アクセスコントロールリスト **533**
  - IPv6 pool 属性 **222**
  - IPv6 prefix# 属性 **222**
  - IPv6 route 属性 **222**
  - IPv6-Pool 属性 **222**
  - IPv6 アクセスリスト **222**
  - IPv6 でのアクセスクラスフィルタリング **534**
  - ip access-group コマンド **500**
  - IP マルチキャストルーティング **2736**
    - MDS **2736**
    - パケット統計情報、表示 **2736**
  - ISAKMP **2883**
- ## K
- Kerberos **13, 17, 2575, 2577, 2579–2582, 2584–2585, 2587–2589**
    - 暗号化された Kerberos 対応 Telnet **2585**
    - 設定 **2580–2582, 2584–2585, 2587–2589**
      - KDC (キー発行局) **2580**
        - database **2580**

## Kerberos (続き)

## 設定 (続き)

- SRVTAB ファイル、コピー [2584](#)
- SRVTAB、作成 [2581](#)
- SRVTAB、抽出 [2582](#)
- インスタンス マッピング [2587](#)
- 認定証転送 [2585](#)
- ネットワーク アクセス サーバの通信 [2582](#)
- 必須の認証 [2587](#)
  - (例) [2588–2589](#)
- レルム [2582](#)
- 動作 [2577, 2579](#)
- 認証 [13, 17, 2584](#)
  - PPP [17](#)
    - ログイン [13](#)
- 保守 [2588](#)
- モニタリング [2588](#)
- 用語 (表) [2575](#)
- ルータに対する Telnet [2585](#)

## L

- Login-IPv6-Host 属性 [222](#)
- Login Password Retry Lockout [247–248, 252, 254](#)
  - 概要 [248](#)
  - 制約事項 [247](#)
  - 設定方法 [248](#)
  - 設定例 [252](#)
  - 前提条件 [247](#)
  - その他の参考資料 [252](#)

## M

- match address コマンド [2181, 2184](#)
- MD5 (Message Digest 5) アルゴリズム [2163, 2883](#)
- MS-CHAP (マイクロソフト チャレンジ ハンドシェイク 認証プロトコル) [51](#)
  - 機能概要 [51](#)

## N

- NAT、IPSec の設定 [2162](#)

## O

- Oakley キー交換プロトコル [2883](#)

## P

- PAP (Password Authentication Protocol) [46, 48–50](#)
  - 説明 [46](#)

## PAP (Password Authentication Protocol) (続き)

- 認証 [46, 50](#)
  - 認証のイネーブル化 [48](#)
  - 認証要求の拒否 [50](#)
  - 発信認証 [49](#)
- PKI を使用する GM 認証の設定 [3341](#)
- PKI を使用する GM 認証 [3300](#)
- POD (パケット オブ ディスコネクト) [32](#)
  - 「AAA」を参照、POD [32](#)
- PPP [48–49](#)
  - カプセル化の有効化 [48](#)
  - 着信認証 [49](#)
  - 発信認証 [49](#)
- Protocol Independent Multicast-Sparse Mode でのキー再生成機能 [3301](#)

## R

- RADIUS [14, 18, 23, 26, 137, 597, 600, 602–606, 608, 621, 631, 644, 777, 785, 849, 852](#)
  - Login-IP-Host [604](#)
  - アカウンティング [604](#)
  - 許可 [137, 604](#)
  - サーバ グループ [631, 644](#)
    - DNIS の選択 [631](#)
    - deadtime [644](#)
  - 事前認証プロファイル [600, 602–603](#)
    - callback [600](#)
    - 双方向認証 [603](#)
    - モデム管理 [600](#)
    - username [602](#)
  - 設定 [605–606, 608, 621, 631, 644](#)
    - DNIS サーバー グループの選択 [631](#)
    - IP アドレスのクエリ [606](#)
    - NAS ポート タイプ、表示 [608](#)
    - RADIUS Prompt [605](#)
    - サーバー グループ、DNIS の選択 [631](#)
    - サーバー グループ、デッドタイム [644](#)
    - サーバーの通信 [621](#)
    - スタティック ルートのクエリ [606](#)
    - 属性、ベンダー独自 [606](#)
    - 属性、ベンダー固有 [605](#)
  - 属性 [777, 785, 849, 852](#)
    - IETF [785](#)
    - アクセス要求 [849](#)
    - アクセス要求の例 [852](#)
  - 属性と値のペア [600](#)
  - 動作 [597](#)
  - 認証 [604](#)
  - ログイン認証 [14, 18, 23, 26](#)

RADIUS NAS-IP-Address 属性設定可能性 **898, 902–903, 905–906**  
 コマンドリファレンス **906**

概要 **902**

設定方法 **903**

設定例 **905**

その他の参考資料 **898, 905**

RADIUS 属性 104 **893–895, 897–898**

RADIUS プロファイルのトラブルシューティング **897**

概要 **894**

制約事項 **894**

設定例 **898**

前提条件 **893**

適用方法 **895**

radius-server attribute 44 include-in-access-req コマンド **18**

radius-server attribute 8 include-in-access-req コマンド **14**

RADIUS サーバー障害発生時 **720**

例 **720**

RADIUS サーバー障害発生時順序変更 **713–715, 717, 722**

RADIUS サーバーが停止中の場合 **715**

RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定 **715**

RADIUS サーバー障害発生時順序変更の動作方法 **714**

RADIUS サーバーの障害 **714**

制約事項 **714**

前提条件 **713**

その他の参考資料 **722**

モニタリング **717**

RADIUS サーバー障害発生時順序変更の設定 **715**

RADIUS 属性 **221**

RFC3162 で説明 **221**

RFC 1829、ESP DES-CBC トランスフォーム **2163**

RFC 1334、PPP 認証プロトコル **46**

RFC 1994、PPP CHAP **51**

RFC 5176 規定 **5, 72**

RSA (Rivest, Shamir, and Adelman) 暗号化ナンス **2883, 2887**

要件 **2887**

RSA (Rivest, Shamir, and Adelman) シグニチャ **2883, 2887**

要件 **2887**

IKE 設定 **2887**

## S

SA (セキュリティ アソシエーション) **2181**

IKE によって確立されたクリプト マップ エントリ、作成 **2181**

set peer コマンド **2181, 2184**

set pfs コマンド **2181**

set security-association level per-host コマンド **2181**

set security-association lifetime コマンド **2181, 2184**

set transform-set コマンド **2181, 2184**

SHA (Secure Hash Algorithm) **2163**

show access-lists コマンド **503**

Skeme キー交換プロトコル **2883**

## T

TACACS+ **14–15, 18–19, 23, 27, 919–920, 922–927, 943, 952**

AV ペア **927, 943, 952**

アカウントティング **952**

アカウントティング **927**

概要 **919**

許可 **926**

サーバグループ **924–925**

DNIS の選択 **925**

設定 **922–927**

DNIS、サーバー グループの選択 **925**

サーバグループ **924–925**

DNIS の選択 **925**

サーバー ホスト **922**

認証 **926**

認証キー **923**

(例) **927**

属性と値のペア **943**

「AV ペア」を参照 **943**

動作 **920**

認証 **14–15, 18–19, 23, 27**

NASI **27**

ログイン **14–15, 18–19, 23, 27**

ログイン入力時間、設定 **27**

TACACS+ サーバー上の Per VRF の設定 **936**

TCP Intercept **494**

## U

username コマンド **45**

## V

VPN ベースの合法的傍受 **2597**

VRF ごとの合法的傍受 **2597**

VSA **221, 231**

## あ

access-enable コマンド **500**

アクセス要求 **849–852**

RADIUS 属性 44 **851**

設定 **851**

RADIUS 属性 8 **849**

RADIUS 属性 **850, 852**

説明 **850**

例 **852**

アクセス リスト [503, 2166](#)

IKE も参照 [2166](#)

ダイナミック エントリ、削除 [503](#)

access-list (IP 拡張) コマンド [500](#)

暗号化事前共有キー [2929, 2931, 2942](#)

暗号化ナンス [2883](#)

RSA 暗号化ナンスを参照 [2883](#)

## い

有効化 [2931](#)

interface コマンド [500](#)

## か

カプセル化、IPSec 対応 [2166](#)

## き

逆ルート注入 [2831-2833](#)

概要 [2832](#)

制約事項 [2831](#)

設定方法 [2833](#)

## こ

合法的傍受 [2597](#)

VPN ベース (VRF ごと) [2597](#)

## さ

サーバ グループ [2, 138, 644, 924](#)

AAA 許可 [138](#)

AAA 認証 [2](#)

TACACS+、設定 [924](#)

デッドタイム、設定 [644](#)

サーバ グループ、AAA [164](#)

ブロードキャスト アカウンティング [164](#)

サーバ単位グループ レベルで指定された RADIUS 属性 5

(NAS-Port) フォーマット [909-910, 912](#)

概要 [910](#)

設定方法 [910](#)

設定例 [912](#)

前提条件 [909](#)

## し

事前共有キーを使用する GM 認証の設定 [3339](#)

事前共有キーを使用する GM 認証 [3300](#)

事前認証、設定 [636](#)

証明書 [2883](#)

## す

スケーラビリティ、設定 (例) [56](#)

## せ

静的 [1125](#)

制約事項 [2929](#)

セキュア コピー [301-302, 305, 308](#)

概要 [302](#)

設定方法 [302](#)

設定例 [305](#)

前提条件 [301](#)

用語集 [308](#)

SSH バージョン 2 [314, 325-326, 335](#)

show ip ssh コマンドを使用した確認 [325](#)

設定方法 [314](#)

モニタリングおよびメンテナンス [326](#)

設定方法 [2931](#)

## そ

その他の参考資料 [2942](#)

## ち

注意 [48, 496](#)

ppp、未定義の list-name によるディセーブル化 [48](#)

アクセス リスト [496](#)

ロック アンドキー [496](#)

## と

トレースバック [1124](#)

## な

ナンス [2883](#)

RSA 暗号化ナンスを参照 [2883](#)

## に

二重認証 [33-34, 36](#)

設定 [34, 36](#)

動作 [33](#)

ユーザ プロファイルへのアクセス [36](#)

認証 [43, 45, 493](#)

IKE、xtended authentication\ も参照して下さい。 [493](#)

## 認証 (続き)

非 AAA 方式 [43, 45](#)認証局での発信トラフィックの送信元インターフェイス選択  
[1557-1558, 1560-1561](#)エンティティを識別する証明書 [1557](#)設定 [1558](#)トラブルシューティング [1560](#)例 [1561](#)

## は

password コマンド [500](#)パラメータ化された QoS [1125](#)

## ひ

規格 [2883](#)IKE, サポート [2883](#)

## ふ

ブロードキャスト アカウンティング [164](#)

## へ

ベンダー固有属性 (VSA) [221, 231](#)

## ほ

方式リスト [2, 136, 138, 147, 150](#)AAA [2, 136, 138, 147, 150](#)アカウンティング [150](#)許可 [136, 138, 147](#)認証 [2](#)傍受 [2597](#)VPN トラフィック [2597](#)ポートマッピング [1109](#)

## め

メッセージ URL http [1110](#)[//tools.ietf.org/id/draft-wadhwa-gsmp-l2control-configuration-02.txt](http://tools.ietf.org/id/draft-wadhwa-gsmp-l2control-configuration-02.txt) [1110](#)

## も

モード [1108](#)レートアダプティブ [1108](#)

## ら

line vty コマンド [500](#)

## り

リバース SSH [297-298](#)設定例 [297](#)その他の参考資料 [298](#)

## れ

例 [3350-3353, 3356-3358](#)キー サーバ 1 [3351](#)キー サーバ 2 [3352](#)キー サーバとグループ メンバーのケース スタディ [3350](#)グループ メンバー 1 [3353](#)グループ メンバー 4 [3356](#)グループ メンバー 5 [3357](#)パッシブ SA [3358](#)

## ろ

ローカル AAA ユーザアカウントのロックアウト [248](#)login tacacs コマンド [500](#)ログイン ローカル コマンド [500](#)ロック アンド キー [493-497, 500, 502, 504](#)使用するケース [495](#)スプーフィング、のリスク [496](#)設定 [493, 500, 502, 504](#)検証 [502](#)前提条件 [493](#)(例) [504](#)パフォーマンスへの影響 [497](#)プロセス [495](#)保守作業 [497](#)利点 [494](#)ロック アンド キー認証 [493](#)zzz] [493](#)





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。